

中國謀略大典

中華國粹叢典





# 中國謀略大典

吳井田 主編



K203  
160

京新登字173号

**中国谋略大典**

吴井田 主编

\*

**国际文化出版公司** 出版

新华书店首都发行所发行

北京百花彩印有限公司印刷

787×1092毫米 16开本 66印张 1680千字

1993年8月第1版 1993年8月第1次印刷

印数：1—8000册

ISBN 7—80049—162—5/G·59 定价：68.00元

**130116**



## 中國國粹叢典編委會

主 編：謝善驍

編 委：孫以年 顧平旦 常 江  
李文合 丁建華 劉 科  
任 超 劉文武 尚 巾

總策劃：姚 政



# 《中国谋略大典》编、撰者

主编 吴井田

副主编 石翔 雷庆 顾铭新

分卷主编

一、总论卷 吕庆业

二、谋略思想卷 吕庆业

三、政治谋略卷 赵永春

四、军事谋略卷 雷庆 孙维义

五、经济谋略卷 张珉

六、外交与说辩谋略卷 于鹏翔

七、法律谋略卷 刘恩惠

八、教育谋略卷 张新海

九、用人谋略卷 刘恩惠

十、处世谋略卷 张新海

十一、历代谋略实例选萃卷 顾铭新 刘瑀石

十二、历代谋略人物卷 石翔

主要撰稿者(以姓氏笔划为序)

丁晓明	于鹏翔	王子屹	韦蔚	石翔	兰元
攸笛	刘畅	刘瑀石	刘璐	刘恩惠	刘玲玲
吕晓春	吕庆业	孙维义	李岩	佟学军	辛晓梅
张在义	张新海	张燕	张珉	陆玉文	陆玉芹
林澍	林鲜梅	赵永春	易行	郑吉萍	周越
孟令宝	杨艳梅	庞淑华	洪滋	赵永春	顾铭新
高粱红	寇文魁	雷庆			



# 序

吴井田

我们伟大的祖国，是世界文明发达最早的国家之一，至今已有近五千年的开化史。在中华民族的开化史上，谋略一直都是光彩耀眼的瑰宝。中国谋略是东方智慧的精华，在人类文明发展史上占有相当重要的地位。了解、研究和借鉴这些弥足珍贵的文化遗产，是历史赋予我们炎黄子孙的神圣使命。

谋略，在中国古代，最早是一个军事术语。《吴子兵法·图国第一》云：“谋者，所以远害就利也。”《六韬·文韬》指出：“事之而不穷者谋也。”《尉缭子·战权第十二》认为：“战权在乎道之所极。”《司马法·定爵第三》则强调：“大小、坚柔、参伍、众寡、凡两，是谓战权。”所有这些，论述的都是谋略在古代战争中的作用、性质、规律和技巧。一部古代战争史几乎就是战略史。对谋略的研究，从古至今，其著作虽已可以说是汗牛充栋，然而也大都集中在军事领域。这是并不奇怪的，因为战争的对抗性、激烈性和残酷性决定了它必然是谋略产生和发展的温床。

然而，中国谋略又是一个相当丰满、极其深奥的宝库。人类社会自阶级出现以后，竞争的领域是十分广阔和复杂的，绝非一二个领域所能涵盖。在中国历史上，有许多高明的谋略家，从不同的角度，不同的侧面，使用不同的方法表明自己对谋略的见解，并且逐渐形成了一个多元的、立体的谋略体系。产生于西周时期的《易》阐述了64卦和384爻的奥义，提出了“刚柔相推，变在其中”的通变观点，论证了“天地革而四时成”等变革的命题，涉猎的范围宽泛而宏大，包含着许多辩证的、科学的韬略。《六韬》则以姜太公与周文王、周武王的对话等方法，表达了对治理国家、对敌策略、指挥布阵等诸多问题的看法。《论语》通过孔子与其学生颜渊、子路等人对话的形式，阐述了孔子丰厚而完备的教育思想，然而古人又说“半部论语论天下”，反映了《论语》无以伦比的政治谋略的价值。《老子》一书博大精深，它所体现的御人、处世方面的谋略思想为世人从不同的角度所广泛接受，甚至被称为“不朽之术”。至于《二十五史》、《资治通鉴》等各种史书里所涉及到的政治、外交、经济、说辩等各方面的谋略，简直俯拾即是，虽如散珠碎玉，却永远放射着熠熠闪光的智慧的光彩。

由此，我们认识到有必要对中国谋略进行较为全面、系统的挖掘和研究，尽可能地将其丰满的全貌和其中的精华分门别类地加以梳理，呈现给广大读者。当然，这也只能是相对的，因为中国的谋略典籍大都是多义的、互相渗透的，有时甚至很难将其归类。我们从谋略思想、谋略名著、谋略实例和谋略人物四个方面，谋略名著又分为八个门类，上迄先秦下至晚清，主要依据信史这样一个总体框架出发，对中国古代谋略进行整理、探讨和研究，希望能够尽篇幅所可能地囊括要典，网罗群籍，浓缩事例，状写人物，展示中华优秀传统文化的精华，推动中国谋略的研究与弘扬，增强人们的爱国主义精神。惟兹事体大，遗珠之憾，疏讹之处，希望得到批评指正。

1992年9月10日



# 总 目 录

## 序

一	总论卷·····	( 1 )
二	谋略思想卷·····	( 21 )
三	政治谋略卷·····	(131)
四	军事谋略卷·····	(237)
五	经济谋略卷·····	(371)
六	外交与说辩谋略卷·····	(407)
七	法律谋略卷·····	(459)
八	教育谋略卷·····	(531)
九	用人谋略卷·····	(579)
十	处世谋略卷·····	(635)
十一	历代谋略实例选萃卷·····	(703)
十二	历代谋略人物卷·····	(847)

# 目 录

## 一、总论卷

中国谋略：人类文明和智慧的瑰宝 ..... 吕庆业 (1)

(一) 谋略的释义.....	(1)
(二) 谋略的价值.....	(3)
(三) 谋略的起源.....	(4)
(四) 谋略的发展.....	(7)
(五) 谋略的分类.....	(13)
(六) 谋略的运用.....	(17)
(七) 谋略的现实意义.....	(18)

## 二、谋略思想卷

引言.....	吕庆业 (21)
(一) 谋略的起源与发展.....	(24)
(二) 谋略的实质.....	(30)
(三) 谋略能力的构成.....	(34)
1、观察与思考力.....	(34)
2、远见与预测力.....	(38)
3、审时与应变力.....	(43)
4、采众长与借外力.....	(49)
5、严密性与系统性.....	(51)
6、主动性与灵活性.....	(56)
(四) 谋略的心智技能.....	(60)
(五) 谋略的原则.....	(65)
1、胸有全局.....	(65)
2、谨慎持重.....	(69)
3、因变制变.....	(72)
4、完善周全.....	(77)
5、奇正相生.....	(80)
(六) 谋略的功能.....	(83)

1、政治：博取民心，获得支持 .....	( 83 )
2、经济：促进生产，民富国强 .....	( 89 )
3、军事：增强战力，无往不胜 .....	( 93 )
4、外交：维护尊严，联友慑敌 .....	( 95 )
5、其他：治国御人，兴利除弊 .....	( 98 )
(七) 谋士的历史地位 .....	(101)
(八) 谋略家成功的奥秘 .....	(105)
1、博学多知，见多识广 .....	(105)
2、勇毅果决，有胆有识 .....	(109)
3、慎终如始，能谋善断 .....	(113)
4、宽宏大度，运巧自如 .....	(116)
5、思维敏捷，见解深刻 .....	(118)
6、富于创新，善于联想 .....	(121)
(九) 阴谋与阳谋的斗争 .....	(126)

### 三、政治谋略卷

引言 .....	赵永春 (131)
《周易》 .....	(137)
孔丘 《论语》 .....	(142)
老聃 《老子》 .....	(145)
管仲 《管子》 .....	(147)
商鞅 《商君书》 .....	(149)
孟轲 《孟子》 .....	(151)
墨翟 《墨子》 .....	(154)
韩非 《韩非子》 .....	(156)
贾谊 《治安策》 .....	(157)
刘向 《说苑》 .....	(162)
诸葛亮 《隆中对》 .....	(170)
诸葛亮 《便宜十六策》 .....	(171)
吴兢 《贞观政要》 .....	(174)
赵蕤 《长短经》 .....	(186)
柳宗元 《封建论》 .....	(199)
白居易 《策林》 .....	(201)
张居正 《陈六事疏》 .....	(207)
顾炎武 《郡县论》 .....	(210)
黄宗羲 《明夷待访录》 .....	(211)
唐甄 《潜书》 .....	(216)
洪仁玕 《资政新篇》 .....	(228)
俞樾 《封建郡县说》 .....	(229)



梁启超 《变法通议》	(230)
------------	-------

## 四、军事谋略卷

引言	雷庆、孙维义 (237)
吕尚 《六韬》	(239)
左丘明 《左传》	(245)
左丘明 《国语》	(247)
《逸周书》	(250)
孙武 《孙子》	(252)
司马穰苴 《司马法》	(259)
吴起 《吴子》	(264)
孙臆 《孙臆兵法》	(269)
尉繚 《尉繚子》	(281)
黄石公 《黄石公三略》	(285)
李靖 《李卫公问对》	(290)
赵蕤 《长短经》	(302)
何去非 《何博士备论》	(308)
陈规 《守城录》	(318)
戚继光 《纪效新书》	(319)
尹宾商 《兵畧》	(321)
刘基 《百战奇法》	(327)
唐顺之 《武编》	(346)
戚继光 《练兵实纪》	(351)
何良臣 《阵纪》	(352)
西湖逸士 《投笔肤谈》	(355)
宋祖舜 《守城要览》	(363)
王余佑 《乾坤大略》	(364)
朱逢甲 《间书》	(365)

## 五、经济谋略卷

引言	张珉 (371)
管仲 《管子》	(373)
商鞅 《商君书》	(381)
晁错 《论贵粟疏》	(386)
桓宽 《盐铁论》	(387)
《一条鞭法》	(391)
陈亮 《上孝宗皇帝第一书》	(394)
《摊丁入亩》	(396)
洪仁玕 《资政新篇》	(397)
谭嗣同 《财用》	(398)

康有为 《理财救国论》.....	(399)
------------------	-------

## 六、外交与说辩谋略卷

引言.....	于鹏翔 (407)
晏婴 《晏子春秋》.....	(409)
邓析 《邓析子》.....	(409)
鬼谷子 《鬼谷子》.....	(410)
韩非 《韩非子》.....	(412)
公孙龙 《公孙龙子》.....	(414)
吕不韦 《吕氏春秋》.....	(416)
《战国策》.....	(421)
刘向 《善谋》.....	(434)
诸葛亮 《诸葛亮集》.....	(438)
刘昼 《百子全书·刘子》.....	(439)
刘勰 《文心雕龙》.....	(441)
赵蕤 《长短经》.....	(442)
苏洵 《六国论》.....	(444)
曾纪泽 《曾纪泽遗集》.....	(445)
魏源 《海国图志》.....	(446)
唐才常 《唐才常集》.....	(448)

## 七、法律谋略卷

引言.....	刘恩惠 (459)
管仲 《管子》.....	(461)
《尚书》.....	(467)
商鞅 《商君书》.....	(469)
墨翟 《墨子》.....	(477)
慎到 《慎子》.....	(479)
申不害 《申子》.....	(482)
韩非 《韩非子》.....	(483)
桓谭 《新论》.....	(492)
诸葛亮 《便宜十六策》.....	(493)
张斐 《注律表》.....	(495)
葛洪 《用刑》.....	(497)
吴兢 《贞观政要》.....	(500)
柳宗元 《断刑论下》.....	(508)
白居易 《策林》.....	(509)
陈亮 《问答》.....	(512)
黎敬德 《朱子语类》.....	(515)
邱濬 《大学衍义补》.....	(516)

王守仁	《申行十家牌法》	(519)
黄宗羲	《明夷待访录》	(520)
顾炎武	《日知录》	(523)
洪仁玕	《资政新篇》	(524)
梁启超	《论立法权》	(526)
沈家本	《历代刑法考》	(528)

## 八、教育谋略卷

引言	张新海	(531)
孔丘	《论语》	(537)
孟轲	《孟子》	(542)
荀况	《荀子》	(554)
	《学记》	(566)
颜之推	《颜氏家训》	(568)
韩愈	《昌黎先生集》	(569)
王安石	《上仁宗皇帝言事书》	(571)
王夫之	《尚书引义》	(574)
刘开	《问说》	(576)
彭端淑	《为学一首示子侄》	(577)

## 九、用人谋略卷

引言	刘恩惠	(579)
墨翟	《墨子》	(581)
鬼谷子	《鬼谷子》	(582)
荀况	《荀子》	(586)
吕不韦	《吕氏春秋》	(589)
韩非	《韩非子》	(591)
王充	《论衡》	(593)
曹操	《“唯才是举”令》	(595)
诸葛亮	《便宜十六策》	(596)
刘劭	《人物志》	(597)
吴兢	《贞观政要》	(600)
陈子昂	《答制问事》	(604)
韩愈	《马说》	(606)
柳宗元	《六逆论》	(606)
赵蕤	《长短经》	(607)
白居易	《策林》	(612)
包拯	《择官》	(616)
王安石	《杂著》	(617)
陈亮	《中兴论》	(620)



顾炎武 《日知录》	(621)
唐甄 《潜书》	(623)
魏源 《默觚》	(627)
梁启超 《论科举》	(629)

## 十、处世谋略卷

引言	张新海	(635)
老聃 《老子》		(640)
孔丘 《论语》		(646)
庄周 《庄子》		(654)
荀况 《荀子》		(681)
《大学》		(693)
东方朔 《答客难》		(695)
马援 《诫兄子严敦书》		(697)
颜之推 《涉务》		(697)
苏轼 《留侯论》		(698)
魏源 《古微堂内集》		(699)

## 十一、历代谋略实例选萃卷

引言	顾铭新 刘瑀石	(703)
先秦谋略实例		
成汤修政纳贤设间灭桀		(704)
郑庄公假命伐宋		(705)
楚文王鹬蚌取利智取蔡、息		(706)
曹刿避锐击惰智退齐军		(706)
管仲示以欲伐不战而胜		(707)
荀息施戏垒卵阻君造台		(708)
秦穆公不咎既往重用亡臣		(708)
弦高随机应变假犒秦师		(709)
程婴施计换孩赵氏存孤		(710)
江乙深谋远虑为宠献策		(710)
楚庄王谜语不迷一鸣惊人		(711)
晏婴相机使巧二桃杀三士		(712)
楚庄王灭烛绝缨不辱下臣		(712)
勾践深谋计远卧薪尝胆		(713)
子贡巧使诸国一箭五雕		(714)
范雎远交近攻		(715)
西门豹擒贼擒王惩恶治邨		(715)
商鞅立木取信变法改革		(716)
邹忌比美喻王		(717)

孙臆围魏救赵 .....	(717)
张仪击中两面愚弄楚王 .....	(718)
田单火牛陷阵收复失地 .....	(719)
蔺相如叱咤秦王完璧归赵 .....	(719)
廉颇负荆请罪将相得和 .....	(720)
钟离春纳言宣王自荐为后 .....	(721)
墨子引申归谬止楚攻宋 .....	(722)
冯谖为君买义狡兔三窟 .....	(722)
信陵君窃符救赵瞒天过海 .....	(723)
李牧李代桃僵以怯诱敌 .....	(724)
秦始皇闻过则改广纳贤才 .....	(724)
优旃顺其所好指谏所要 .....	(725)
陈胜鱼狐兴兵 .....	(726)
项羽破釜沉舟钜鹿败章邯 .....	(726)
<b>两汉谋略实例</b>	
韩信明修栈道暗渡陈仓 .....	(727)
陈平设计反间智除范增 .....	(728)
刘邦随势俯仰冒险鸿门 .....	(728)
刘邦四面楚歌乌江败项羽 .....	(729)
萧何三策免危 .....	(730)
叔孙通献治国之计 .....	(730)
陈平施贿解高祖白登之围 .....	(731)
刘邦封赏释嫌 .....	(732)
张良谋助太子促君就范 .....	(732)
田子春计弄吕雉 .....	(733)
陈平智除诸吕 .....	(734)
汉文帝以柔克刚 .....	(735)
汉文帝不听逆言重用张敖尉 .....	(735)
李广智勇相生以患为利 .....	(736)
东方朔戏语退方士 .....	(737)
昭帝临朝辨忠奸 .....	(737)
龚遂巧治渤海郡 .....	(738)
司马相如夫妇“诈”财 .....	(739)
刘秀借刀除李轶 .....	(739)
刘秀昆阳败莽军 .....	(740)
耿弇一计得二城 .....	(741)
度诩增灶示强 .....	(741)
度尚焚营激军心 .....	(742)
杨修破字谜 .....	(743)
班超深入虎穴智勇结郅善 .....	(743)

## 三国谋略实例

王司徒巧使连环诛董卓 .....	(744)
吕布辕门射戟息争斗 .....	(745)
荀彧献计奉迎天子 .....	(746)
郭嘉“十胜十败”论曹、袁 .....	(746)
荀攸谋划猛进急攻擒吕布 .....	(747)
二荀官渡之战献良策 .....	(748)
徐庶试主 .....	(749)
曹操假手刘表除弥衡 .....	(748)
刘备三顾茅庐请诸葛 .....	(750)
曹操明退暗进北定乌桓 .....	(751)
诸葛亮茅庐谈大计 .....	(752)
诸葛亮激将说孙权 .....	(752)
周瑜巧用反间除隐患 .....	(753)
庞统巧授连环计 .....	(754)
鲁肃欢好抚之巩固联盟 .....	(755)
张飞假痴巧取瓦口隘 .....	(755)
吕蒙白衣渡江智胜关羽 .....	(756)
陆逊骄敌取荆州 .....	(757)
周鲂割发取信 .....	(758)
刘备白帝城托孤 .....	(758)
庞士元献策夺益州 .....	(759)
司马懿取印拜曹真 .....	(760)
满宠巧移城 .....	(761)
司马懿装病避曹爽 .....	(761)
司马昭兵困诸葛诞 .....	(762)
邓艾乘虚而入灭蜀国 .....	(763)
孙亮破屎知伪 .....	(764)
姜维用诈破敌 .....	(764)
张举焚猪验尸 .....	(765)

## 魏晋南北朝谋略实例

用计谋司马炎取王位 .....	(765)
攀皇亲贾充避远征 .....	(766)
马隆巧用定身法破敌 .....	(767)
贾皇后设计废太子 .....	(767)
李雄火光诱敌擒隗伯 .....	(768)
石勒智守襄国城 .....	(769)
石勒伪奉降表智取王浚 .....	(769)
温峤智醉脱身 .....	(771)
温峤激陶侃协力平叛贼 .....	(771)

陶侃厉行节约变废为宝 .....	(772)
江鹵出鸡制胜 .....	(773)
谢石激敌自退 .....	(773)
李崇以假破假洗冤案 .....	(774)
周访巧设疑兵退敌军 .....	(775)
孝文帝迁都有术 .....	(775)
宗慝假狮克真象 .....	(776)
拓跋焘引蛇出洞歼劲敌 .....	(777)
檀道济唱筹量沙巧撤军 .....	(778)
臧质激敌与战 .....	(779)
垣崇祖借水阻敌军 .....	(780)
高欢智逃虎穴 .....	(780)
高欢善用虚实 .....	(781)
高洋的韬光养晦之计 .....	(782)
杨侃献策扼险破敌 .....	(782)
贺若敦训马断降路 .....	(783)
高潜按图索骥 .....	(784)
尉迟运用火守门 .....	(784)
韦孝宽巧脱追骑 .....	(785)
<b>隋唐五代谋略实例</b>	
高颉献计先缓后速攻其不备 .....	(786)
李渊募兵假写诏书 .....	(786)
李靖放船请敌自降 .....	(787)
狄仁杰举贤举国不为私利 .....	(788)
李世民赏罚唯功不避亲疏 .....	(788)
唐太宗信任贤才疑人不用 .....	(789)
唐太宗对症下药药到病除 .....	(790)
窦公妙算 .....	(790)
张巡无中生有奇智应机 .....	(791)
李世民先不为战计败宗罗睺 .....	(792)
张守圭空城诱敌不战退兵 .....	(792)
长孙皇后含蓄讽喻 .....	(793)
蒋恒引蛇出洞巧拿凶手 .....	(794)
萧翼得之先予赚法帖 .....	(794)
桥上杀马和善突厥 .....	(795)
魏征择机纳谏 .....	(796)
武则天巧说是非告人以戒 .....	(796)
李白外文写诏一石三鸟 .....	(797)
苏无名缓治得贼 .....	(789)
李光弼一箭双雕智降二将 .....	(799)



窦女杀贼图报宿愿 .....	(799)
西藏使者解题显智为主得妻 .....	(800)
李白倒骑毛驴巧怒贪官 .....	(801)
郭子仪门庭大敞平居止饔 .....	(801)
李愬雪夜袭城 .....	(802)
钱传瓘巧用沙豆大败骄师 .....	(802)
才智超群 少年辨鼎 .....	(803)
<b>北宋、南宋谋略实例</b>	
宋太祖杯酒释兵权 .....	(804)
宋仁宗苦心育良才 .....	(804)
包拯灰圈断真伪 .....	(805)
向敏中智擒真凶洗冤情 .....	(806)
狄青掷钱 智励军心 .....	(807)
程颢两断假冒亲 .....	(808)
狄青易帜变号败敌军 .....	(809)
钟世衡巧施美人计 .....	(809)
钟世衡借刀杀人 .....	(810)
吕夷简深谋远虑安社稷 .....	(811)
张齐贤因势利导巧分财 .....	(812)
杨延昭设奇谋两败契丹军 .....	(812)
元昊示弱骄敌 .....	(813)
孟珙连施奇策破敌兵 .....	(814)
临危承重任 智勇破金兵 .....	(815)
陈埴施计除恶霸 .....	(816)
毕再遇智解楚州围 .....	(816)
十三郎机智脱身 .....	(817)
石抹也先诈取东京城 .....	(818)
魏胜善用兵 守城若金汤 .....	(819)
岳飞出奇制胜败金兵 .....	(820)
刘锜骄兵胜金师 .....	(820)
刘锜退兵有术 .....	(821)
韩世忠智平内乱 .....	(822)
吴革明察秋毫平冤案 .....	(822)
神偷施惠脱身 .....	(823)
铁木真巧施烟幕败王汗 .....	(824)
铁木真激将稳军心 .....	(824)
<b>元明清谋略实例</b>	
王著瞒天过海除佞臣 .....	(825)
买奴先发制人除奸 .....	(826)
朱元璋攻心服敌 .....	(827)

佯狂避祸 伺机而动 .....	(828)
朱元璋将计就计智取湖州 .....	(828)
朱元璋假斩徐达整军纪 .....	(829)
李文忠以逸待劳败元军 .....	(830)
袁凯装疯得活命 .....	(831)
铁铉诈降保济南 .....	(832)
朱棣父子巧破离间计 .....	(832)
解学士急智补错漏 .....	(833)
沈希仪设计除岑猛 .....	(833)
冯保无中生有排政敌 .....	(834)
釜底抽薪除奸雄 .....	(835)
海瑞智惩胡衙内 .....	(835)
海瑞智斗鄢懋卿 .....	(836)
戚继光智平倭寇 .....	(837)
阿丑演戏谏宪宗 .....	(838)
杨廷和蜜语惑江彬 .....	(838)
顺藤摸瓜捕窃贼 .....	(839)
李自成诱敌深入胜强敌 .....	(840)
李、罗设伏败明军 .....	(840)
祖大弼乔装充敌袭清军 .....	(841)
康熙计除权奸 .....	(842)
私访得民情乔装察真相 .....	(842)
林则徐巧施求雨计 .....	(842)
左宗棠殚精竭虑定新疆 .....	(843)
刘铭传扬长避短战法军 .....	(844)
曾国藩的驭人之术 .....	(845)

## 十二、历代谋略人物卷

引言 .....	石翔 (847)
先秦谋略人物	
姬 发 .....	(850)
姬 旦 .....	(851)
吕 尚 .....	(853)
管 仲 .....	(855)
孙 武 .....	(857)
重 耳 .....	(860)
晏 婴 .....	(862)
阖 庐 .....	(864)
伍子胥 .....	(866)
勾 践 .....	(868)

范 蠡 .....	(870)
司马穰苴 .....	(872)
吴 起 .....	(874)
商 鞅 .....	(876)
苏 秦 .....	(878)
张 仪 .....	(880)
冯 驩 .....	(882)
赵 奢 .....	(884)
王 翦 .....	(886)
白 起 .....	(888)
蔺相如 .....	(890)
范 雎 .....	(892)
田 单 .....	(894)
孙 臆 .....	(896)
李 斯 .....	(899)
蒯 彻 .....	(901)
范 增 .....	(903)

### 西汉三国两晋谋略人物

刘 邦 .....	(905)
萧 何 .....	(908)
张 良 .....	(910)
韩 信 .....	(912)
陈 平 .....	(914)
贾 谊 .....	(916)
晁 错 .....	(919)
周亚夫 .....	(920)
刘 彻 .....	(922)
桑弘羊 .....	(924)
霍去病 .....	(926)
刘 秀 .....	(928)
赵充国 .....	(930)
马 援 .....	(933)
邓 禹 .....	(935)
班 超 .....	(937)
荀 彧 .....	(939)
曹操 .....	(941)
荀 攸 .....	(943)
郭 嘉 .....	(945)
鲁 肃 .....	(948)
周 瑜 .....	(950)

吕 蒙 .....	(952)
司马懿 .....	(954)
诸葛亮 .....	(956)
孙 权 .....	(958)
陆 逊 .....	(961)
王 导 .....	(962)
王 猛 .....	(964)

### 隋唐两宋谋略人物

杨 素 .....	(966)
高 颀 .....	(968)
李 靖 .....	(970)
李 密 .....	(972)
李 勣 .....	(974)
李世民 .....	(976)
武则天 .....	(978)
狄仁杰 .....	(980)
李光弼 .....	(982)
张 巡 .....	(984)
刘 晏 .....	(986)
李 愬 .....	(989)
柴 荣 .....	(990)
赵 普 .....	(992)
赵匡胤 .....	(995)
寇 准 .....	(997)
韩世忠 .....	(1000)
刘 铸 .....	(1002)
岳 飞 .....	(1004)

### 元明清谋略人物

耶律楚材 .....	(1006)
刘秉忠 .....	(1009)
刘 基 .....	(1011)
李善长 .....	(1013)
徐 达 .....	(1014)
姚广孝 .....	(1016)
俞大猷 .....	(1018)
海 瑞 .....	(1020)
张居正 .....	(1022)
范文程 .....	(1024)
李自成 .....	(1026)
博尔济吉特氏 .....	(1028)



多尔袞 .....	(1030)
爱新觉罗·玄烨 .....	(1032)
岳钟琪 .....	(1034)
石达开 .....	(1036)

# 一、总论卷

## 中国谋略：人类文明和智慧的瑰宝

吕庆业

谋略一词，人们并不陌生。早在两千年前的西汉初期，淮南王刘安招致宾客和方术之士集体编写的《鸿烈》一书（即现在所传的《淮南子》），就开始使用它。其中的《兵略训》写道：“兵，止也。防敌之萌，皆在谋略。”意思是：兵，是用来制止战争的。防止敌人萌动战念，全在于运谋用略的高明。在这之后，不仅历代兵书中屡屡出现，就是其他方面的著作也时常提到。谋略成为人们修身、安邦、治国、平天下的重要武器。

进入当代社会以来，由于战争的频仍，外交的繁忙，政治的动荡，尤其是商业大战的激烈和人际交往的急需，运筹谋划已成为人人关心的问题。谋略得当与否，成为战争胜负、事业成败、人身安危、经商盈亏的关键。因此，谋略研究在沉寂了一段时间之后，又以飓风扫地般的姿态重新卷入了世界的各个领域，各个角落。它又似春风化雨，点点滴滴沁入心田，人们从现实生活需要出发，从新的思维角度考虑，仔细咀嚼，认真品味，反复学习，谨慎运用。谋略的神秘面纱已被揭去，其中的奥秘将被所有人掌握，变成人人手中运用自如的工具和武器。这大概就是东方以至全世界谋略热崛起的原因吧。

### （一）谋略的释义

谋略的内涵和外延是什么呢？谋略这个词尽管形成较晚，直到汉初才出现，但是谋略的概念及其外在表现却早就有了。从文字的形体上说，中国古文字中，古文里有“谋”字，籀文里有“谟”字。而在小篆里有计、议、筹、画、策、略、图、咨、询、算、讫、韬、虑等字。它们的词义虽然不能完全与谋略一词等同，但是谋略的外延却完全可以把它们囊括进去。所以这几个词在古代典籍中常常是交叉使用的，而且有时允许以此代彼，或以彼代此，可见它们虽不完全同义，却有许多共通之处。

“谋”的本义是咨询，《左传·襄公四年》：“咨事为谏，咨难为谋。”由遇到疑难向人征求意见引申为商议、考虑、谋划。《老子·七十三章》：“不争而善胜，不言而善应，不召而自来，倓然而善谋。”《论语·学而》：“为人谋而不忠乎？与朋友交而不信乎？传不习乎？”《左传·庄公十年》：“肉食者鄙，未能远谋。”这些例子中的“谋”都含有谋略的意思。“谟”的本义是谋划，《尚书》中有两篇用“谟”的篇名，即《皋陶谟》和《大禹谟》。《皋陶谟》记载的是帝舜朝，与大臣讨论政务，皋陶与禹论其慎身知人安民之谋，禹与舜论

其注重民生、君臣之道以及对待苗民之计。《尚书·伊训》写道：“圣谟洋洋，嘉言孔彰。”这些“谟”都是谋划的意思。由于“谟”与“谋”音义并近，后来“谋”就代替了“谟”。“计”的本义是计算数字，引申为计划、谋略。《孙子兵法》第一篇是《计篇》，其中写道：“故经之以五，校之以计，而索其情。”这里的“计”字，还是计算、估计的意思。后来就有了计议，筹划、庙算之义，成了“谋”的同义词。《墨子·尚同下》：“知者之事，必计国家百姓之所以治者而为之，必计国家百姓之所以乱者而辟（避）之。”《战国策·赵策》：“父母之爱子则为之计深远。”大到治国，小到亲子，都要运用计谋。“虑”的本义是思量、考虑问题，《墨子·亲士》：“非士无以虑国。”《荀子·荣辱》：“其虑之不深，其择之不慎。”《史记·淮阴侯列传》：“臣闻智者千虑，必有一失；愚者千虑，必有一得。”这里的“虑”也含有“谋”的意味。“图”的引申义之一就是谋划，《诗经·小雅·棠棣》：“是究是图，亶其然乎！”既深思又谋划，诚然如此了。《左传·僖公三十年》：“阙（缺）秦以利晋，唯君图之。”《吴子》中的“图”则是“谋”的同义语。“访”的本义是咨询，也就是向别人讨教主意，《尚书·洪范》：“惟十有三祀，王访于箕子。”《左传·僖公三十二年》：“穆公访诸蹇叔。”“访”还有商议之义，即同他人商讨策略，《国语·楚语上》：“教之令，使访物官（百官之事业）。”“询”是咨询，询问，《诗经·大雅·板》：“先民有言，询于刍蕘（草野之人）。”“諏”意为咨询，《诗经·小雅·皇皇者华》：“载驰载驱，周爰咨諏。”“议”的本义是谋虑、商议，《周易·节卦》：“君子以制数度，议德行。”“咨”的本义是征询、商量，《尚书·舜典》：“咨十有二牧（州长）。”注：“咨亦谋也。”“算”由计数引申为计谋，《列子·力命》：“自长非所增，自短非所损，算之所亡（无），若何？”“韬”即谋略，汉人采掇旧说，编成的古兵书，名为《六韬》，唐《李文饶集》诗：“不劳孙子法，自得太公韬。”“略”有谋

略义，《尚书·武成》：“敢祗承上帝，以遏乱略。”《荀子·王霸》：“乡（端正）方略，审劳佚，谨畜积，脩战备，鹾然（相合）上下相信，而天下莫之敢当。”“筹”由数码引申为谋划，《史记·高祖本纪》：“夫运筹帷帐之中，决胜于千里之外，吾不如子房（张良）。”“策”有谋略义，《礼记·仲尼燕居》：“田猎戎事失其策。”注：“策，谋也。”《吕氏春秋·简选》：“此胜之一策也。”注：“策，谋术也。”“画”有谋划、计策之义，《左传·哀公二十六年》：“使召六子曰：‘闻下有师，君请六子画。’”《史记·淮阴侯列传》：“言不听，画不用，故倍（背）楚而归汉。”谋划义的“画”现在写作了“划”。

随着汉语由单音词向双音词的发展，上述那些含有谋略意义的词，逐渐组合、凝聚成双音词，其所表达的意义更明确，分工更细微，原来二个单音词具有的动词和名词两种用法，经过组合多数词的词性变得单一，更便于运用了。比如：计略、计策、计画（计虑、谋划）、询谋（谋于众人）、谋略、谋画、谋猷（猷，计谋）、諏访、访问（询问）、画策（谋划）、策画、算计、筹略、筹画、筹策、筹算、筹议、咨询、咨访、韬略等等。

从上面列举的众多的单音词和双音词来看，古人尽管用词不同，但其表达谋略的思想是突出的，由用词的丰富，看出古人对谋略的重视，对谋略的深刻理解和自如运用。或自己出谋划策，或向他人咨询计谋，或众人一起谋划，都是为了寻求高超的、稳妥的谋略。单从词义的探求上，已看出古代谋略思想的博大精深。今天，我们在表达运筹思想时，主要使用谋略一词。这个词在现代汉语中主要用作名词，意思是计谋策略，指的是人们思维活动的最佳结果。但它也可以作为动宾词组来看待，“略”是“谋”的对象，指的是思维主体运用学识、智慧、才能进行谋划运筹的过程。

由此看来，谋略既是人类的高级思维劳动，是一种为谋取成功的心理活动，是将动

机转化为行动的关键，又是经过深思熟虑而获得的成果，是事先研究之后对下一步行动的指南，是经过帷幄运筹而决胜千里的韬略。

## （二）谋略的价值

中国古代谋略以其完整的理论、丰富的实践、独特的思维方式、高度的认识价值，在人类思想史、文明史中，占有极其重要的地位，并一代接一代的施以影响，转相传递。

中国古代谋略是中国古代各个时期人们社会意识的完整记录，也是人类历史文明的一翼。作为人类特有的一种社会意识形态，谋略通过特有的表现形式，反映了各个时代的生活、思想、矛盾、斗争、理想和愿望。它对于我们认识中国古代各方面的状况，对于研究人类社会发展史，都是不可缺少的宝贵资料。

中国古代谋略是一座富矿，蕴藏着丰富的宝藏，取之不尽，用之不竭，可供人们长久的开采，广泛的利用。这些丰富的资料，或汇之为专书论著，或分之为单篇散简，或蕴于正史之中，或藏于实录之内。至于野史轶闻，街谈巷议，五行八作，三教九流，无处不有设谋之迹，也无时不有用计之举。《十三经》是先秦时期儒家用谋的典籍，《大藏经》是佛家谋略的荟萃，《道藏》是道家谋略的集合。诸子百家争鸣诘驳，实际上都是在各呈其智，各运其谋。他们留下的富有哲理的著作，是一座又一座谋略宝库，可供我们含精咀华。《四库全书》、《四部备要》所搜集的经、史、子、集里，保存着更多的谋略思想、谋略方法，为我们提供了学习、借鉴、研究、运用的丰富资料。

谋略是经验的科学总结。历代统治者都非常注意总结历史上的经验教训，作为他们进行统治和制定方针大略的依据。唐太宗李世民说过：“夫以铜为镜，可以正衣冠；以古为镜，可以知兴替；以人为镜，可以明得失。

朕常保此三镜，以防己过”（《贞观政要·任贤》）。任何一项具体的实践活动，都可以进行理论上的概括，或总结出成功的经验，或归纳出失败的教训，进而从中提炼出谋略思想来。人类思想的历史就是一部既互相批判又互相继承的由低级到高级的发展史。人们不仅在物质生活的生产方面，有其一定的连续性和继承性，人们在精神生活的生产方面，后代对前代也有其不能割断的继承关系。而这些继承首先是在对前代各种经验总结的基础上进行的。中国古代谋略是古人对自然斗争和社会斗争的历史经验的科学总结。

悠久的历史，反复的实践，古人所总结出的谋略思想必然是深刻的，所总结出的谋略方法必然是多采的。《孙子》问世后，以其理论的深刻和很强的实用性，立即引起人们的重视，从曹操首注之后，注家蜂起。每一种注释，既都是对孙武军事思想的阐发，又都是那个时代用兵经验的总结。诸葛亮的《便宜十六策》，则是他根据一生在政治、军事、经济、外交诸方面的用谋经验，为蜀汉制定的治国方略。明代刘基所著的《百战奇略》，每一法都由两部分组成，前一部分是对用兵方法的理论阐述，后一部分引历代作战实例加以说明。这种战法加例证的总结方法，在此以前的唐代李靖的《李卫公问对》中就已运用。现在广为流行的无名氏《三十六计》，每一计都用四字短语加以概括，如“釜底抽薪”、“关门捉贼”、“瞒天过海”、“走为上计”等，由于其总结得凝炼、通俗，更易记、易用。

谋略思想对中国文化的发展有着卓越的贡献。中国古代谋略思想在形成和完善中，就不断丰富着哲学、政治学、经济学、军事学、法学的理论，为思想史、学术史的发展，做出了卓越的贡献。马克思说过：“人们自己创造自己的历史，但是他们并不是随心所欲地创造，并不是在他们选定的条件下创造，而是在直接碰到的、既定的、从过去继承下来的条件下创造。”（《马克思恩格斯选集》第

1卷,第603页)任何一个具体谋略的创造,都不是随心所欲的,都是特定历史条件下的产物,也都打上那一时代的印记。但是,当它经过人们的整理归纳,上升为谋略理论,则具有普遍意义,成为各种思想中不可缺少的一环。

《老子·五十八章》说:“祸兮福之所倚,福兮祸之所伏。”指出事物无不向它的对立面转化,事物往往会走向自己的反面。老子还比较系统地揭示出事物的存在是相互依存的,而不是孤立的。如美丑、难易、长短、高下、有无、前后、损益、刚柔、强弱、祸福、荣辱、智愚、大小、胜败、巧拙、攻守、进退、轻重、静躁等等,都是对立的统一。这些都对辩证法作出了重要贡献。像孔子、孟子、荀子、韩非子,也各在不同领域作出不同的贡献。

谋略理论具有广泛的应用价值。恩格斯曾经说过:“经济状况是基础,但是对历史斗争的进程发生影响并且在许多情况下主要是决定着这一斗争的形式的,还有上层建筑的各种因素”(《马克思恩格斯选集》第4卷,第477页)。中国古代谋略是上层建筑诸因素之一,一些重大谋略决策,都对历史斗争的进程发生过重大影响。一些握有国家重权的帝王将相,他们的谋略都以“诰”、“令”的形式颁诏天下,令百姓知晓、执行;一些谋臣策士则以“表”、“策”的形式进献君主,供其采纳接受。《尚书》中的《大诰》、《康诰》、《召诰》、《洛诰》和曹操颁布的众多的令,就属前者;贾谊的《治安策》、苏轼的《教战守策》、诸葛亮的前后《出师表》等则属后者。

谋略理论在发展过程中,错谬被淘汰,失误被纠正,缺陷被补充,而成为人类优秀思想的结晶,具有广泛的应用价值。明朝张居正制定的“一条鞭法”,是他经济改革谋略的重要内容,直到清朝初期都在实行。而在康熙末年开开始实行的“地丁合一”,即摊丁入亩,也是在一条鞭法基础上的改革。

### (三) 谋略的起源

人类谋略活动有着十分悠久的历史。人类一出现,就有了语言,有了思维,有了自觉的行为,能劳动,会制造工具,自然也就产生了谋略活动。原始人在极恶劣的环境中,用极简陋的工具顽强地改造着自然,同时也开始创造了人类最初的远古谋略。在远古时代的文化遗存中,除了石刀、石斧、骨镞、石纺锤等生产工具外,还有大量的陶器。这些陶器不仅种类繁多,造型优美,而且还彩绘着各种图画和图案。其中的一些几何条纹,来源于原始人对自然界的仔细观察和认真思考,但它又不是对客观事物具体形象的简单的、机械的模拟,而是经过一定的综合、抽象、概括的结果。这是人类智慧达到了相当高度的表现。

当然,智慧并不等于谋略,观察本身也还不是谋略,尽管谋略的创造离不开智慧,谋略的运筹也离不开观察,而且观察是运筹艺术之一,但是两者并不能等同。原始人为了自身的生存和求得温饱,发现了大自然中的火,并把它采集来用以取暖和烧烤食物。应该说,这还是属于智慧一类,而不是谋略,因为这仅仅是发现了火,利用了火。只有钻木取火之后,才可以说是有了谋略的萌芽,因为这是创造,是思维的飞跃,从善假于物升华到造物。原始人为了果腹,随意地、散乱地采集野果,这只是解决饥饿的本能,不能称作谋略,只有当他们有意识地先去采集远方的果实,而把近处的留待阴雨之日享用时,这种攻远守近的方法,才成为一种谋略。原始人一开始的农业劳动,是从自然界中的植物生长受到启发的。任意的种植,当然算不上谋略,只有对作物、品种、土质加以选择并合理配置的时候,才有了整体思想,有了系统性观念和谋略的运用。当野兽袭来,原始人或一窝蜂似地拥上去围追堵截,或一群人你推我挤地奔跑逃命,这当然也无谋略

可言。当他们为获取到猎物，有的在前面引逗，有的在后面攻击；或者把猛兽引诱到事先掘好的陷阱旁，而在逃跑时呈散形状态，或曲线退离，这些对付野兽的办法，才具备了谋略的性质，才从本能的对抗，发展到有谋略的斗争。因为维护生命的本能是任何生物都具备的，从单细胞的生物到会表演的海豚和大猩猩，它们的一举一动，看来尽管还有些灵性，但不能说它们具备了运用谋略的智能。谋略是人类进入到一定的历史阶段才能创造出来。人类从动物中分离出来，具备了语言和思维能力，成为人类区别于其他动物的重要标志，但不能说刚一摆脱动物属性，人类就会奇迹般地进行谋略。这期间实际上是有一个进化、完善过程的，而这个过程，应当说是相当漫长的。

在人类漫长的成长过程中，首先是人类同大自然所进行的艰苦卓绝的斗争，促进了人类对自然环境的认识，也增长了人类与天斗、与地斗、与狼虫虎豹斗的才干。谋略就是人类在与自然的斗争中产生的，可以说，与自然斗争的实践，是人类谋略的源头。

不过，动物的各种本能防卫，不是对人类丝毫没有启发。相反，人类在长期同形形色色的动、植物打交道的过程中，经常受到它们的启迪，甚至运用人类的智慧有意识的仿效一些动物和植物的本能反应，学习它们表现出的高超的“技巧”。蜥蜴在不同的季节、环境，会改变躯体的颜色，许多昆虫也都有变色的能力，刺猬遇到攻击，会团起身子散开利刺，乌龟遭遇强敌，会把头、足缩回到坚硬的甲壳里，乌贼在碰上强手的时候，会喷出墨汁，染黑海水，遮断对方的视线而趁机逃之夭夭，狐狸会装死，黄鼬会放臊，狡兔有三窟，大雁有“哨兵”，如此等等，举不胜举。许多植物也都会有一些维系生命和赖以传代的本能“技巧”。含羞草一触动它，叶子就会蜷缩起来，长青藤借助树干攀缘直上，蒲公英撑起毛茸茸的小伞，以求风吹向远方传种接代，苍耳的果实浑身长满尖刺，以便

人或动物把它们远远地带走，百花或以艳丽的色彩，或以浓郁的芳香，招来蜂蝶采花授粉。如此等等，不胜枚举。人类生活这样的环境里，手触目染，自然会受到启发，也自然会去借鉴。借用外力，是谋略的原则之一，这外力就包括自然力。从单纯的模仿自然，到把自然现象经过筛选、择优、抽象，达到理性的创造，就形成了谋略。

各种兵器的发明，劳动工具的制造，有许多都是借鉴于自然而创造出来的。有一个传说：鲁班有一次登山，不小心，手被一种齿状的草刮破流血。他仔细观察，认真思索，依据那草的形状，而创造了木锯，成为木匠的祖师。从锯的发明，可以看出谋略的作用。谋略已不再是简单的搬用外物，而是以外物为契机，加以创造。

人在同自然的斗争中，认识到自己有许多地方远远不如禽力、兽力，因而也幻想使自己具有鸢禽猛兽那样的力量，于是在各种神话中，就有诸如羽民国、谨头国和长臂国等故事。《山海经·海外南经》写道：“羽民国在其东南，其为人长头，身生羽。”“谨头国在其南，其为人人面有翼，鸟喙，方捕鱼。”“长臂国在其东，捕鱼水中，两手各操一鱼。”《博物志·外国》写道：“奇肱民善为机巧，以杀百禽，能为飞车，从风远行。”马克思在《政治经济学批判·导言》中曾经说过：“任何神话都是用想象和借助想象以征服自然力，支配自然力，把自然力加以形象化；因而，随着这些自然力之实际上被支配，神话也就消失了。”神话产生在人类生产力极为低下的幼年时期，但是为改变生存条件和生活条件所作出的幻想和想象，对于人类的进步和社会的发展是有巨大的、积极的作用的。谋略家成功的奥秘之一，就是富于创造，善于联想。人类的智力和思维水平发展到一定阶段时，就会通过想象和幻想的形式，表达企图征服自然力和支配自然力的愿望。而在这种愿望的背后，则隐含着创造谋略、运用谋略的心理机制。上述《山海经》记载的那些异人

异物的故事，虽然神灵怪异，荒诞不经，但都是出于原始人对减轻劳动强度，提高劳动生产率，克服某些自然障碍的向往。他们看到海鸟捕鱼，能够灵巧自如地在海面飞翔，用尖利鸟喙轻易地把鱼叼起来，因而生有羡慕之心。广阔的地域，险峻的高山，泥泞的池沼，行路的艰难，刺激着他们产生关于“飞车”的幻想。这些幻想无非是原始人通过对某些自然物长期观察而在强烈的渴望中创造出来的。这一切无疑都反映了原始人具备了创造谋略的能力。谋略离不开基于现实条件的想象，离不开对客观事物的熟悉和观察，离不开对大自然变化规律的掌握。

鲧、禹父子两代相继治理洪水的故事，是我国古代流传最广、内容最丰富的传说。这个故事在许多古籍中均有详略不同的记载，也经常为谋略家所引用。《山海经·海内经》、《拾遗记》、《水经注·河水》、《吴越春秋·越王无余传》、《吕氏春秋》、《史记·夏本纪》、《孟子·滕文公上》、《淮南子》佚文等，都从不同的角度加以叙述和评说。这个故事从正反两方面生动地说明了一个具体谋略运用的是否得当，往往决定一项具体事业的成功与失败。我们看看古书中一些记载片断：

洪水滔天，鲧窃帝之息壤以堙洪水，不待帝命。帝命祝融杀鲧于羽郊。鲧复（腹）生禹，帝乃命禹卒布土以定九州。（《山海经·海内经》）

禹凿龙关之山，亦谓之龙门，至一空岩，深数十里，幽暗不可复行，禹乃负火而进。……以平定水土。（《拾遗记》卷二）

禹治洪水，通轘辕山，化为熊。（《汉书·武帝本纪》颜师古注引《淮南子》佚文）

禹尽力沟洫，导川夷岳，黄龙曳尾于前，玄龟负青泥于后。（《拾遗记》卷二）

昔禹治洪水，破山以通河，三川既决，水流疏分。（《水经注·河水》）

除去这些故事上笼罩的灵光，揭开神话掩覆下的披纱，还其历史的本来面貌，我们不难看出这个故事反映的是远古人民与洪水斗争的事迹。这里深藏着先民同大自然斗智斗勇的深韬远略。鲧为了治服洪水，解救人民，从天帝那里窃来“息壤”。但是由于他对洪水的规律还了解不深，因而所施之谋不当，导之治水之法错误，造成失败。他采用的堵塞办法，解决不了洪水的泛滥，尽管他盗来的“息壤”是可以随风而长的神土。这就难以逃脱悲剧的下场。而禹则从父亲那里，接受了治水的经验和教训，重新制定谋略，一反过去的堵塞之法，采用疏导之策，终于制伏了水患。故事中说他化为熊也好，说他有黄龙、玄龟相助也好，都是通过神话的形式，说明他不再对洪水加以堵塞，而是加以疏导。他凿龙门，通轘辕山，尽力沟洫，导川夷岳。是凡阻塞洪水奔流的地方，他都给以开凿疏通，因而他成了最受人歌颂的胜利的英雄。大禹利用疏通洪涝的方法治水，这一办法何止只用于治理水患呢？堵塞不如疏导这一谋略，自古至今，始终被有识之士广泛采用。政治上、经济上、外交上、人际交往上都是疏导远胜于堵塞。善于疏导而取得成就的事例，古今中外比比皆是。而不懂疏导，只强调堵塞，而造成政策失误的情况，也屡见不鲜。《国语·周语》上记载的周厉王弭谤的故事，就很能说明这一点。邵公告诉厉王：“防民之口，甚于防川。川壅（堵塞）而溃，伤人必多，民亦如之。是故为川者决之使导，为（治）民者宣之使言……夫民虑之于心而宣之于口，成而行之，胡（何）可壅也？若壅其口，其与能几何？”但是厉王不听，终被流放



到薨地。

在我国古代氏族社会部族之间，常为争夺猎物、抢占领地，相互发生战争。这种激烈复杂的社会斗争，也为远古的谋略家提供了施谋的广阔舞台。《史记·五帝本纪》：“轩辕之时，神农氏世衰。诸侯相侵伐，暴虐百姓，而神农氏弗能征。于是轩辕乃习用干戈，以征不享（纳贡），诸侯咸来宾从。而蚩尤最为暴，莫能伐。炎帝欲侵陵诸侯，诸侯咸归轩辕。轩辕乃修德振兵，治五气（五行之气），艺（种植）五种，抚万民，度（察考）四方，教熊、罴、貔、貅、貙、虎（以此为图腾的各部落），以与炎帝战于阪泉之野。三战，然后得其志。蚩尤作乱，不用帝命。于是黄帝乃征师诸侯，与蚩尤战于涿鹿之野，遂禽（擒）杀蚩尤。而诸侯咸尊轩辕为天子，代神农氏，是为黄帝。天下有不顺者，黄帝从而征之，平者去之，披山通道，未尝宁居。”司马迁根据文献资料和亲身采访的有关传说综合剪裁写定的这篇传记，是研究中国远古历史的重要著述之一。通篇记载虽未必全部符合历史史实，而含有传说的成分，但文中所述当时各部族之间曾进行过激烈而频繁战争，却是可信的。作为中华民族共同的祖先，黄帝很懂得谋略的重要，他削平叛乱，统一四方，处处都闪耀着谋略的光芒。黄帝具有文韬武略，运用谋略的整体原则来治理国家。在政治上他修行德政，而得民心；在军事上他整治兵旅，而增强军力；在经济上他播种五谷，发展生产；在外交上联合诸侯，孤立强敌；在御民上他安抚百姓，取得支持。此外他还察考四方，了解民情，开山通道，发展交通。这一切作法，无一不是在用谋施计，无一不是智慧的结晶。至于晋虞喜的《志林》记载的黄帝“乃令风后法斗机作指南车，以别四方”这一传说，更说明只有人类的思维高度发展之后才能达到的。创造指南车这一谋略的萌动，当然是为了解决战争中以免迷路的需要。如同后来诸葛亮为克服蜀道运粮之难，而深思熟虑，潜心设计，制作出木牛

流马一样。

经过上面的阐述，可以得出这样的结论：谋略首先源于远古人类同自然的斗争，那时的谋略活动大都是简单的、粗浅的、低下的，原始性的。随着社会斗争的出现，适应部落战争的需要，谋略活动也渐趋复杂化，并且逐步进入自觉运用的阶段。由此我们可以说，部族之间日益尖锐的经常进行的社会斗争，是谋略产生的另一个源头。这两个源头有先后之分，也有主次之分，其存在形态也不是平衡的，不是并驾齐驱、分头并进的。初始，人类为了存活，发挥的完全是同自然斗争的谋略。此后，为解决社会争端，则把谋略主要运用于部落、集团、人际之间，并一直延用到今天。

## （四）谋略的发展

谋略产生之后，就以巨人长足之步迅猛发展。谋略思想从简单、朴素向复杂、辩证方面拓展，由单向谋略发展到对抗谋略，由粗浅谋略而步入深化谋略，由局部谋略而发展为整体谋略，由个人施谋发展为集体营谋，由谋略的随机性发展为谋略的系统性。

这里，文字的产生为谋略的发展提供了坚实的物质基础。此前，人类谋略活动的结果，只能保存在人的思想意识之中，用口耳相传的方式得以流传。文字产生之后，人类谋略活动的具体情况，人类谋略思想的精华，由于可以用文字加以记录，不仅得以保存，而且传播得更远。前人的用谋经验与教训，不因人亡而散失，同时代人的用谋之法，不因山河阻隔而不得闻。谋略有了交流与借鉴的机会，有了总结与提高的条件。古人把自己的韬略形诸文字，一代一代地充实到谋略宝库中，后人也是一代一代地从中受到启发，又把新的谋略补充进去，这自然就促进了谋略的发展，推动了用谋的进步。

社会各阶级、阶层、集团各方面的矛盾冲突，风云变幻、动荡不安的社会现实，是

促进谋略发展的另一个因素。自大禹传位给自己的儿子启，中国进入阶级社会以来，斗争加剧，战争不断。统治阶级内部为争夺最高统治权，玩弄权术，尔虞我诈，施毒暗杀，不一而足；侍臣们为取得尊崇的地位，倾轧排挤，你争我夺，进谗陷害，不择手段；其他政治集团为取天下而代之，发动战争，笼络人心，联友拒敌，以求全胜；广大奴隶和农民，为了能够活下去，仗义首难，发动起义，扩大队伍，南征北战。这一切都需要运智用谋，筹策施计。尤其是在朝代更替的时期，斗争更为尖锐，战争更为激烈，各种关系更为复杂，为了满足这一特定历史时期的需求，各个集团都需要谋略，也都在进行谋略活动，实质上是谋略之间的斗争。不论是阴谋还是阳谋，不论对他人有多大危害，只要与己、与本集团有利，就采纳，就施行。于是形形色色的谋略，花样翻新，一齐登场。谋略自然会在这样的条件下获得更大的发展。

社会生产力的不断提高，社会经济的飞速发展，促进社会的稳定，是推动谋略发展的又一因素。我们看看西汉的社会和经济策略，就足以明了这个问题。刘邦坐上皇帝的宝座之后，对于二世而亡的秦朝教训甚为警惕。他命谋士陆贾总结包括秦王朝在内的历代兴亡成败的经验教训，为他提供借鉴。陆贾根据黄老学说，又结合多年战乱之后新建国家的具体情况，针对社会萧条、家园残破、土地荒芜、经济凋敝的现实，写出十二篇文章，作为他运用谋略的对策，这就是后来刘邦命之为《新语》的谋略著作。这部书主要表达了这样的谋略思想：“事逾烦，天下逾乱；法逾滋，而奸逾炽；兵马益设，而敌人逾多。秦非不欲为治，然失之者乃举措暴众，而用刑太极故也。”（《新语·无为》）刘邦采纳了他的意见，并以此作为治国方略。人民因此得以休养生息，崩溃的经济逐步得以复苏，社会也因此而安定。这就是历史上有名的“无为而治”。文帝继位，又进一步调整了

刘邦时期的一些主要政策，使经济由恢复而发展。其中主要有：文帝采纳了谋略家晁错提出的“贵粟政策”。晁错在《论贵粟疏》中全面论述了贵粟的意义、原则和做法。这项政策的原则是“使民以粟为赏罚”，具体做法是“募天下入粟县官（天子），得以拜爵，得以除罪。”就是百姓也可以用粮食买爵位，也可以用粮食赎罪刑。如此，则国家有粮，“富人有爵，农民有钱”；如此，则“一曰主用足，二曰民赋少，三曰劝农功。”（上引均见《汉书·食货志》上）这个贵粟策略和“轻徭薄赋”、“复马令”（民家养马一匹，可以复免三人不充徭役），以及“开关梁，弛山泽之禁”（取消在关口桥渡盘查行人的制度，取消采樵、捕捞的禁令）等政策的实施，则是经济的繁荣，“文景之治”的出现。此外，贾谊上的《治安策》、晁错上的《削藩策》，也都是很有远见的谋略，它们的实施进一步加强了中央集权。汉武帝运用桑弘羊的谋略，把盐铁收归国家垄断经营，大大充实了国家财政。桑弘羊明确指出盐铁专营的意义，可谓深有远见卓识：“令意总一盐、铁，非独为利人也；将以建本利末，离朋党，禁淫侈，绝并兼之路也。”（《盐铁论·复古》）

谋略的发展，就其施谋内容来说，是由简单到复杂；就其施谋结构来说，是由单向到多向；就其施谋形式来说，是由静态到动态；就其施谋路线来说，是由直线到曲线；就其施谋速度来说，是由缓变到剧变；就其施谋质量来说，是由粗糙到精细；就其施谋数量来说，是由较少到渐多；就其施谋领域来说，是由自然到社会；就其施谋心理来说，是由自发到自觉；就其施谋态势来说，是由被动到主动；就其施谋艺术来说，是由笨拙到巧妙；就其施谋素养来说，是由低下到高超；就其施谋范围来说，是由局部到整体；就其施谋条理来说，是由散乱到系统；就其施谋手段来说，是由平稳到残酷；就其施谋广度来说，是由狭窄到广阔；就其谋略作用来说，是由较小到较大；就其谋略形成来说，

是由粗疏到严谨；就其施谋人数来说，是由个人到多数；就其施谋阶段来说，先是主体施谋，而后客体进谋，继之为主、客合谋，最后形成集体用谋。上面从不同的角度分析了谋略发展的种种情况，构成了谋略发展的总趋势。正确把握谋略发展的大趋势，把握谋略发展的方方面面，深入了解谋略的发展历程，全面熟悉谋略发展的规律，对于提高用计水平，运筹艺术，设谋方法，进而充分获取谋略的效益，都具有非同寻常的意义。

下面仅就谋略发展的几个阶段做些扼要的分析。当然，这几个阶段不是截然分开的，也不能完全分开。有许多时候，一个重大谋略的形成，一个重要决策的敲定，往往不是一个人的智慧能够承担得起来的，而是主体、客体、集体多方力量的聚合，多人智慧的结晶。

## 1. 主体施谋

主体在这里指的是权力至高无上的君王，一人之下万人之上的宰相，统兵在外的将帅，各级官府里的官员，以及握有部分权力能够发号施令的人，或在某种场合说了算的人。在漫长的奴隶社会和封建社会中，奴隶主和封建主处于统治地位，具有绝对的权威，握有巨大的权势，或掌握着整个国家的权柄，或控制着部分地区或部门的权力。由于在当时的条件下，生产资料归他们所有，只有他们才有接受教育的机会，因此他们具有较高的文化水平；由于他们处于上层，有权处理政事，因而对全局和整体就多所了解；由于当时缺少民主气氛，一旦权力到手，就养成了个人说了算的习惯；由于政事是他们要办的，战争是他们发动的，所以他们总要自己来决策。正是由于以上这些原因、环境和条件，掌权的主体成为了谋略的设计者和施控者。

施谋主体的思维水平的高低，学识的多少，经验结构是否完整，在很大程度上决定

着谋略设计与制定的正误，决定着谋略运用的得失，决定着事业的成败。由于运筹能力的差异，谋略水平的不同，对同一件事，往往会以不同的方式施行谋略活动，其结果也常常大相径庭。据《左传·隐公元年》，春秋初期，郑庄公同他的弟弟共叔段争夺郑国的最高统治权。共叔段得到了母亲姜氏的支持，先是共叔段扩大自己的都邑之城，大夫祭仲请求庄公加以制止，但是庄公没有答应。祭仲又请求改变共叔段的封邑，早点儿给他安排到另外的处所去，“无使滋蔓”，庄公也没有答应。共叔段贪得无厌，得寸进尺，让西部边界和北部边界同时听命于自己，进而收取两属的地方作为自己的封邑，在这过程中，许多人都要求庄公及时除掉共叔段，不然让他势力雄厚起来，将会得到众人的支持。庄公仍然没有答应。直到共叔段做好了各种军事准备，姜氏作为内应打算打开城门的时候，庄公才认为时机成熟，一举赶跑了共叔段。庄公对自己家庭的情况十分熟悉，对母子、兄弟的矛盾有深刻的了解，对人心的向背也知之甚多，因之他先任弟发展，让他的野心充分暴露，而自己以逸待劳、待条件具备才下手，可谓老谋深算。这种主体施谋取得成功的事例，打开二十五史，随处可见，代代皆有。

由于主体所占有的特殊地位，唯我独尊，大权在握，这就使他们常常只相信自己，不相信他人，认为只有自己所施之谋才是正确的，因而刚愎自用，独断专擅，拒听劝谏，一意孤行。在这种情况下制定出的谋略，不是碰壁就是失败。这是因为权势冲昏了他们的头脑，心理错觉占了上峰，看不到谋略的偏颇、缺陷、甚至失误。虽然他们也懂得“两利相权取其重，两害相比趋其轻”，但是由于前面谈到的原因，他们在利与害的判断上常常失误，因而在设谋施计上也必然导之失误。据《三国志·蜀书》记载：蜀汉名将马谡以荆州从事随刘备入蜀，曾担任过成都令、越雋太守、参军等军政要职，为蜀汉多

次立下过汗马功劳。但是在街亭一役中，他自恃饱读兵书，认为自己谙熟用兵之道，看不到自己的致命弱点，造成选择地形上的失误，把重兵屯扎在山上。又由于好自以为是，听不进偏将的正确建议，不肯改变错误的谋略，结果给司马懿留下可乘之机，失守街亭，全军覆没，落得个问罪处斩的下场。在中国历史上，施谋主体中，君王的拒谏专断更是为数众多，但也都没有好结果。

## 2. 客体进谋

客体是同主体相对而言，指处于主体从属地位的那些人，其中主要是侍臣、谋士、幕僚。在商、周时期，巫史卜筮之人，掌握占卜之事，又在君主身边，因而有进谋的机会。春秋以前，“学在官府”，只有少数贵族子弟才享有受教育的特权。春秋中叶以后，出现了所谓“礼崩乐坏”的局面，“天子失官，学在四夷”（《左传·昭公十七年》），私学代替了官学，大批人才涌现出来了，形成了“士”的阶层。这批人为了谋得官位，为了本阶级的利益，纷纷奔向各种舞台，主动地自觉地为各类掌权者进谋献计。孔子就是其中的典型之一。孔子五十岁任鲁国中都宰，以后相继任司空、司寇、摄相，与闻国政三月。后因不满鲁政腐败，所制定的谋略不得实行，就率弟子离鲁，先后周游齐、卫、曹、宋、郑、蔡、陈等国。向各国国君陈述自己的政治主张，治国方略。虽然孔子的学说与时代的脉搏不合拍，不被各国所采纳，但是孔子坚持自己的政治理想始终不渝，虽然“累累（疲惫的样子）若丧家之狗”（《史记·孔子世家》），仍然周游列国，四处游说，以挽救危局、拯救乱世为己任。但是由于他不完全支持新的事物，不赞成较为彻底的变革，也只好处处受冷遇。不过，孔子这种不畏艰苦、不怕碰壁的主动进谋精神，对后代产生了巨大影响，成为谋士学习的楷模。

进谏是进谋的主要内容和形式。“谏”是

规劝君主、尊长，使之改正过失和错误。因为是从主体的反面进谋，要求主体改变成命，推翻主体已经制定了的谋略，就更需要胆识、才力和技巧。客体所进的谋略要高于原谋主的计策，要更有利于谋主自身，要更有说服力和效益性。张良就很明白个中三昧。《史记·淮阴侯列传》所载：汉四年，韩信平定齐地，派人给刘邦送信说：“齐伪诈多变，反覆之国也。南边（靠近）楚。不为假王（临时代理的王）以镇之，其势不定。愿为假王便（有利）。”当时项羽正在荥阳包围了刘邦，刘邦处于艰难的处境，看到信后，当即大怒，骂曰：“吾困于此，旦暮望若（你）来佐我，乃欲自立为王！”这时正好张良、陈平在场，急忙踩了一下刘邦的脚，并附耳低语说：“汉方不利，宁（难道）能禁信之王乎！不如因（乘机）而立，善遇之，使自为守；不然，变生。”听了这个谋略，刘邦也恍然大悟了，接着又说道：“大丈夫定诸侯，即为真王耳，何以假为！”立即派遣张良前往齐地，立韩信为齐王，并征调韩信的军队，进击楚兵。张良、陈平敢于向“不能将兵，而善将将（统率将领）”的刘邦进谏，一方面因为他们同刘邦的关系亲密无间，另一方面他们深知当时的形势，胸有全局，权衡利弊，为取大利而舍小利。所以刘邦后来说：“运筹帷幄吾不如子房（张良）。”

进献谋略也常常用于主体还没有作出决策之前。当一件事需要处理，臣下具有高瞻远瞩的预测力，就积极提出谋略，供谋主采纳。这种谋略不仅用于己方，而且可以献之友方。《资治通鉴》六十五卷所写的诸葛亮为了改变刘备的困难处境，亲自去东吴劝说孙权联刘抗曹，就是极为生动的一例。诸葛亮在柴桑拜见孙权，直陈利害：“若能以吴越之众与中国（中原）抗衡，不如早与之绝；若不能，何不按兵束甲，北面而事（侍奉）之！今将军外托服从之名，而内怀犹豫之计，事急而不断，祸至无日矣。”孙权虽然不愿受制于曹操，但又担心刘备新败，抵挡不住曹操。

诸葛亮则全面细致地分析双方形势，以坚定孙权抗曹的决心：“豫州军虽败于长坂，今战士还者及关羽水军精甲万人，刘琦合江夏战士亦不下万人。曹操之众，远来疲敝，闻追豫州(刘备)，轻骑一日一夜行三百余里，此所谓‘强弩之末势不能穿鲁缟’者也。故《兵法》忌之，曰：‘必蹶(挫折)上将军’。且北方之人，不习水战；又，荆州之民附操者，偪(迫于)兵势耳，非心服也。今将军诚能命猛将统兵数万，与豫州协规同力，破操军必矣。操军破，必北还；如此，则荆、吴之势强，鼎足之形成矣。成败之机，在于今日！”由于诸葛亮谋略的正确，进谋的时机恰当，进谋的方式巧妙，一张一弛，夸张反激，终于使孙权采纳了孙刘联合的谋略。

### 3. 主、客合谋

主客合谋即君臣、尊卑、将士共同策划共商大计，一同作出决策。随着时代的发展，各种事态变化迅速，新的情况不断涌现，靠主体或靠客体单方进行运筹，往往会谋虑不周，而造成事业的失败。因为一个人的思维常常是就一个方面考虑，一个人的智力也是有限的。而二人合谋，谋略的质量、数量都会成倍的增长。同时，主体身居高位，对内部各方面都了若指掌，可以居高临下运谋，而且握有别人没有的权势，可以及时作出裁断。客体则博学多识，具有各种丰厚的知识，诸如天文、地理、人事，以及前人已用过的各种谋略，都藏于胸中，加之谋略职业的需要，又特别注意搜集各种信息，以备不时之需。萧何就是这样一个有心计的人。“沛公至咸阳，诸将皆争走金帛财物之府分之，何独先入收秦丞相、御史律令图书藏之。”(《史记·萧相国世家》)这就为后来制定汉律提供了借鉴。

主客合谋共计，所产生的能量往往不是一人的二倍，而是二人的数倍。能量经过互补，双方取长补短，就克服了各自的弱点，

弥补了各自的缺陷，扩充了各自的思路。在共谋过程中，又是主客相互探讨、研究、补充、纠正，这样制定出的谋略，其所含有的成功的因素就更多些，客体所承担的风险就更少一些。因此，这种谋略方式谋略家更愿意运用。

春秋时期曹刿论战的故事，几乎人所共知。公元前684年，齐桓公即位后，派兵攻打鲁国。这就是历史上有名的弱国打败强国、小国打败大国的鲁齐长勺之战。鲁庄公准备迎敌的时候，曹刿看到“肉食者鄙(眼光短浅)，未能远谋”，就前去进见，协助庄公共同谋划。

问：“何以战？”公曰：“衣食所安，弗敢专也，必以分人。”对曰：“小惠未徧(遍)，民弗从也。”公曰：“牺牲(祭祀用的猪牛羊)玉帛，弗敢加也，必以信。”对曰：“小信未孚，神弗福也。”公曰：“小大之狱(诉讼案件)，虽不能察，必以情。”对曰：“忠之属也，可以一战。战则请从。”(《左传·庄公十年》)

这一段对话，是曹刿与鲁庄公共同分析大战前的政治准备，从而做出可以迎战的决策。在作战过程中，君臣又共同商讨反攻和追击的时机。刚一交战，庄公认为可以出击了，就要击鼓进攻，曹刿认为“未可”。齐人三次击鼓进攻之后，曹刿懂得“夫战，勇气也。一鼓作气，再而衰，三而竭。”在彼竭我盈之时，才同意出击。齐师大败之后，庄公要驱车追击，曹刿认为时机不成熟。待他“视其辙乱，望其旗靡”之后，才赞成追击。这场战争的胜利，主要是曹刿的正确进谋，但没有庄公在场的及时协商、赞同，也是不行的。

主客共谋要建立在为了共同的事业彼此互相尊重、互相信任的基础之上。主体要有虚怀若谷的胸襟，肯于纳谏，愿意接受臣下的意见，甚至希望臣下超过自己；客体要有

冒死进言的胆魄，敢于直谏，并且了解、掌握主体的心理变化规律。如此，主客才能相辅相成，相得益彰。朱元璋和刘基的关系就是这样，《明史》载：朱对刘“敬而信之，用其宏谋。”陈友谅的江西守相胡廷瑞，在朱元璋攻占九江后，想投奔朱方，但又犹豫观望，以不改编自己的军队为条件，派使者前去商谈。朱元璋一时也难以下决心，刘基卓有远见，急忙示意他答应对方的要求。二人“心有灵犀一点通”，具有共识，成为“混一四海”的重要条件。

#### 4. 集体用谋

一、二人的谋略，毕竟太单薄，已远远不能适应风云突变的现实和复杂尖锐的社会斗争。商汤时的伊尹，周武王时的周公旦，主要是个人用谋，力量显得太弱，只适于那个时期的两个国家之间的斗争。到了春秋时期，诸侯割据，列国林立，原来的双边活动，变成了多边活动，各种矛盾纠葛在一起，互相牵扯，互相挟制，军事上、政治上、外交上的斗争，已不再是双向的，而是多向的，多元的。大批的谋臣、策士应运而生。到了战国时期，经过以前的战争和吞并，只剩下了十二个国家，其中有七个最为强盛，它们是齐、楚、燕、韩、赵、魏、秦。这些国家起初力求自身的强盛，继而谋求充当霸主的地位，最后则想消灭他国、统一天下。这就需要大批人才组织在一起，各尽其才，集体用谋。于是，施谋个体发展成为“智囊团”。

“智囊团”的成员，在战国时期，主要是由“士”构成的。这些“士”为了得到谋主的青睐、信赖和任用，纷纷投靠到握有实权的贵族门下，充当食客，以等待表现施用智谋的时机。“士”的成分很复杂。从出身说，有没落贵族，有无业游民，也有家境贫寒的读书人；从其才能来说，虽不乏平庸之辈，但都各具特长，有的可著书立说，有的能言善辩，有的会驾车马，有的懂得会计，有的可出使

四方，有的能制造兵器，有的叱咤风云、临危不惧，有的不惜一死，肝胆相照。就是那些鸡鸣狗盗之徒，也常常在紧要关头发挥出关键性的作用。秦昭襄王原想请孟尝君到秦国担任丞相，但听人说他是齐国贵族，会先替齐国打算，就软禁了他。孟尝君带到咸阳的一大批门客中会狗盗鸡鸣的两个人帮他平安地回到了齐国。可见任何门客都不能轻视。因此当时养士之风十分盛行，只要投奔来的，就全部收留、供养。其中战国四公子就以养士之多而闻名当世。《史记》一书有过详细的记述。《孟尝君列传》写道：“孟尝君在薛，招致诸侯，宾客及亡人有罪者，皆归孟尝君。孟尝君舍业厚遇之，以故倾天下之士。食客数千人，无贵贱，一与之等。”《魏公子列传》曰：“公子为人，仁而下士，士无贤不肖，皆谦而礼交之，不敢以其富贵骄士。士以此方数千里争往归之，致食客三千人。当是时，诸侯以公子贤，多客，不敢加兵谋魏十余年。”《平原君列传》说，平原君“喜宾客，宾客盖至者数千人。”《春申君列传》写道：“春申君既相楚，是时齐有孟尝君，赵有平原君，魏有信陵君，方争下士，招致宾客，以相倾夺辅国特权。……春申君为楚将，客三千余人，其上客皆躐（穿）珠履。”信陵君同门客谈论兵法，辑成一书，为《魏公子兵法》，二十一篇（见刘歆《七略》）。此外，《吕不韦列传》记载，吕不韦成为仲父、相国之后，为与六国争衡，“亦招贤士，厚遇之，至食客三千人。”“吕不韦乃使其客人人著所闻，集论以为八览、六论、十二纪，二十余万言。”这就是《吕氏春秋》。由于众士的谋略发挥了巨大的作用，养士者在国内具有举足轻重之势，外国也不敢随意加兵进犯。

如果说战国时期的“智囊团”是个松散的联合体，门客以分散的个别的谋略活动为谋主服务的话，那么，汉朝以后则出现了以献计献策为职责的政府官员组成的“智囊团”（类似今天的参谋部），同时，也存在着类似门客的幕僚，活动在各级官员的周围，只是

人数远远不能同战国时期相比。东汉时期，掌管兵事的太尉和掌管征伐的将军都设“府”，“府”下设“兵曹”、“贼曹”、“尉曹”、“金曹”、“仓曹”等下属机构分别主管用兵作战、搜集情报、交通运输、财务筹划、物资供应等事项。可以说是一个初具规模的参谋机构。三国时期，曹操挟天子以令诸侯，为了繁杂的战事的需要，他创立了参军制，在他的司空府、丞相府设“军师祭酒”、“军谋祭酒”、“军祭酒”等主管参谋的高级官员，其下又设“军师”、“参司空军事”、“参丞相军事”、“军谋掾”等各级参谋人员。唐朝在“天下兵马元帅”下设“行军参谋”，以提供谋略。其后各朝都有类似前代的参谋机构，只是名称不同而已。

## （五）谋略的分类

谋略作为人类智慧的结晶，是多层次、多属性、多角度、多方位和多样式的，可以说在人类的一切领域中无所不在，无所不用。由于谋略的复杂和浩瀚，在研究上必须加以划分类型，才便于条分缕析。

谋略是人类思维、意识、认知等多种心理机能的综合产物，从心理学角度研究它，可分为常规性谋略、利导式谋略、迂回式谋略、冲击式谋略等。从布局上划分，可分为全局谋略和局部谋略，用军事术语说，即战略和战役、战术。从时间上划分，可分为长期谋略、短期谋略和阶段谋略。从态势上划分，可分为进攻性谋略和防御性谋略。从功能上划分，可分为智胜谋略、力胜谋略、技胜谋略。从质和量上划分，可分为质胜谋略和量胜谋略。从层次上来划分，可分为宏观谋略、中观谋略和微观谋略。从外部特征划分，可分为仿生谋略、借外力谋略，用数谋略。从辩证方法上分，可分为奇正相生谋略、智力转化谋略、曲直转化谋略和趋利避害谋略。从施谋领域划分，可分为政治谋略、经济谋略、军事谋略、外交谋略、教育

谋略、竞技谋略、御人谋略、交际谋略等等。

以上从各个不同角度所作的谋略分类，还是很粗疏的，很简略的，只是为了提供研究的方便，才把它们划分开来。实际上，谋略的类型远不是上面粗略的分类所能包容得了的。就是上述的分类，在谋略实践中也存在着交叉和叠合。由于篇幅的限制，对于所分各类谋略，都没作具体分析，其实每一种谋略都包含着异常丰富的内容和运用技巧，而且每一种谋略的大项之下，还有许多小项，即属概念下尚有种概念，这里不赘述。下面从运谋领域方面，对各类谋略加以简要的分析，这不仅对当代人的实际生活更为有用，而且也有利于对谋略的继承和发展。

### 1. 政治谋略

政治谋略不是野心家、阴谋家、弄权者、职业政客的专利品，也不是窃国大盗、乱世枭雄的垄断物。政治谋略与玩弄权术不能等同，也不能把它同阴谋诡计混为一谈。政治谋略是一门人类在政治活动中决策和运筹的艺术。政治活动是人类各种活动中最复杂的，它充满了各种矛盾冲突，斗争也最尖锐、最激烈，需要运用最有效的谋略活动来解决各种棘手的纷争，需要用最合理的决策处理各种政治问题，需要采取最有效的手段协调各方面的关系。安邦治国是政治谋略首先要考虑的问题，治理社会问题需要它，维护阶级、阶层、集团的利益也需要它。研究政治谋略实属十分必要。

政治谋略要有公开性。政治是一项人人参与的活动，或主动施行谋略，或被动接受政策，因而本身就具有公开性的特点。把政治谋略公开，往往有利于施谋者开展各种活动。陈涉起义之时，明确提出“王侯将相宁有种乎！”广大农民也可取而代之。这一政治目标的公开把各阶层人士吸引到起义的队伍中来。决策也须公开。诸葛亮在隆中向刘备



提出的成就霸业兴复汉室的对策说：“若跨有荆、益，保其岩阻，西和诸戎，南抚夷越，外结好孙权，内修政理，天下有变，则命一上将，将荆州之军以向宛、洛，将军身率益州之众出于秦川，百姓孰敢不箪食壶浆以迎将军者乎？”（《三国志·诸葛亮传》）这一谋求鼎足之势的决策，刘备、孔明在荆州、在蜀地都曾反复向众人陈说过。政策也须公开。政策是发动、组织、规范百姓的有力武器，只有公开才易贯彻。曹操在诸侯争斗之时，曾先后发布了《求贤令》、《让县自明本志令》，公开宣示自己的志向和人才标准，为他得到大批贤才发挥了作用。把政策用命令的形式发表，向天下人宣告，也做到了宣传的公开化。

## 2. 军事谋略

在中国古代，谋略用得最多的是军事领域，多姿多彩、妙法纷呈的谋略，也多出自军事领域，才华横溢的谋略家也多在战争舞台上捭阖驰骋。军事谋略家留下的一部分军事著作，在中国谋略史上独放异彩，是古今中外研究最充分、谈论最多的内容。

中国古代的军事谋略思想、谋略原则、谋略方法，从雏形到完善，形成了完整的理论体系，而且在战争实践中经受了严峻的考验，后代人在运用过程中，既受益良多，同时又给以补充和完善。其核心思想是：

①以道为本。这里的“道”，指道义。得“道”与否，决定战争胜负。孟子曰：“得道者多助，失道者寡助。寡助之至，亲戚畔（叛）之；多助之至，天下顺之。以天下之所顺，攻亲戚之所畔，故君子有不战，战必胜矣。”（《孟子·公孙丑下》）

②伐谋为上。战争当然离不开攻伐，但是高妙的军事谋略是“不战而屈人之兵”，所以《孙子兵法·谋攻》说：“上兵伐谋，其次伐交，其次伐兵，下政攻城。”

③心战为高。如果战争不可避免，首先

要重视心战，用攻心之法扰乱敌军心理。刘邦大军包围项羽于垓下，“汉军四面皆楚歌，项王乃大惊。”由此可看出心战的作用。

④速胜为贵。古代生产力低下，交通工具落后，战前准备时间长，所以战争时间越长，对国力消耗越大，“久暴师则国力不足”。军事家都强调速胜，孙子曰：“兵贵胜（速胜），不贵久。”又曰：“夫兵久而国利者，未之有也。”

⑤重视地利。孟子曰：“天时不如地利，地利不如人和。”“人和”即上文所说的以“道”为本。地利包括优越的地理位置、富庶的经济环境、便利的交通条件等，谁占有地利，谁就具有优势。韩生曾建议项羽：“关中阻山带河，四塞之地。地肥饶，可都以霸。”但项羽没有采纳，却在四战之地的彭城建都，是一大失策，而刘邦占有关中、汉中，力量迅速壮大。军事谋略博大精深，不能一一评说。

## 3. 经济谋略

经济谋略的核心是促进生产发展，扩大商业贸易，增加财政积累，增强经济实力。经济谋略的制定，在历代王朝中，不仅大司农、户部官员要认真考虑，就是高明的政治家也都认真谋划，因为它可以强国富民，安定社会。卓越军事家也非常重视经济谋略，因为雄厚的经济基础是战争的强大后盾。中国古代经济谋略思想大约有以下几个方面：

①重农耕。中国历来是农业大国，而在古代，农业更占有特殊的地位。农业发达与否，是国力、兵力强盛与否的标志。虽然历代对农业的具体政策不同，但以农为本的谋略思想却贯彻始终。春秋时期，孔子提出“足食”思想。管仲曾向齐桓公献策：“垦草（荒地）入邑，辟土聚粟，多众尽地之利，臣不如宁戚，请立为大司田。”（《管子·小匡》）战国初期，法家创始人李悝为魏文侯制定了一项以“重农”为主的政策，称为《尽地力（利）

策略大典

之教》。他认为国家要奖励农民积极生产，以增加粮食的产量，提出：“农事害，则饥之本也。”其后吴起、商鞅的变法，都以发展农业作为主要内容，《荀子》、《韩非子》里有大量的重视农耕的论述。

②善平糴。国家在各地设置常平仓，平抑粮价。丰年，国家征购粮食，“使民适足，贾(价)平则止。”荒年，国家抛售粮食，“糴不贵而民不散，取有余以补不足也。”这就避免了“糴甚贵，伤民(土工商)；甚贱，伤农。民伤则离散，农伤则国贫。”这是李悝在《尽地力之教》中首先提出的，从而使魏国安定而强盛。汉武帝时也实行国家平抑物价的政策，即平准法。在主要城市设物价官吏，利用均官储存的物资，平抑市价，打击囤积居奇的行为。

③抑工商。春秋时期，出现了许多大商人，像郑国的弦高犒师制敌，越国的范蠡退隐经商，十九年“三致千金”。战国时期大商人更多，像吕不韦家有万金，资助子楚以为“奇货可居”。有些大商人勾结诸侯，干预朝政。所以君王多采用抑商政策。《商君书·垦草令》指出：“商贾少，则上费粟。”韩非子把工商之民列为五蠹之一。刘邦也制定了许多抑商政策，诸如商贾及其子孙不得为官吏，“不得名田”(拥有土地)，不得穿丝、葛、毛织品，不得乘车、马，还加倍征收算赋。整个封建社会商人的地位始终不高。

## 4. 外交谋略

外交谋略的运用，在于对外交往中，始终维护本国的利益，国家的尊严。《晏子春秋·内篇·杂下》记载，晏子使楚，楚王让人绑着一个人前来，说是齐人犯了盗窃罪。楚王曰：“齐人固善盗乎？”晏子回答说：“今民生长于齐不盗，入楚则盗，得无楚之水土使民善盗耶？”楚王想侮辱晏婴和他的国家，而晏婴的回击则维护了齐国的尊严，使楚国不敢轻视齐国。《战国策·魏策》载：战国末期

安陵是一个附属魏的小国，秦王设下“以五百里之地易安陵”的骗局，想通过外交上的威胁，不用一兵一卒诈取安陵，谋士唐且受安陵君的委派，出使秦国，在秦王寻衅威胁下，他不畏威势，针锋相对地斗争，宣称“若士必怒，伏尸二人，天下缟素，今日是也。”终于勇折秦王，不辱使命，使秦王认识到“安陵以五十里之地存者，徒以有先生也。”

为了谋求国家利益，也在多种途径上运用外交谋略，这里简要地介绍几种：

①伐交。即通过外交途径，分化瓦解敌人的盟国，迫使敌人陷于孤立，最后取得胜利。战国时期七雄并立，他们忽而合纵以抗秦，忽而连横以散纵，就是苏秦、张仪等纵横家运用伐交谋略的结果。东汉末期，皇权旁落，军阀割据，群雄并起，忽而结盟，忽而转目成仇，许多是外交人员穿梭其间造成的。吴蜀之间曾有较为巩固的联盟，在曹魏伐交谋略的进攻中，最后也遭到了破坏。

②结盟。中国古代外交斗争中，结盟之谋迭出，形式复杂多样，是外交谋略中最活跃最精彩的一幕。在几个对手同时存在的情况下，力求削弱和制胜自己的主要对手，保持或取得霸主地位。春秋中期的晋国存在六家实力较强的大夫，后来韩、赵、魏、智四家结成联盟，一举消灭了范氏、中行氏。公元前453年，赵、韩、魏三家又联合起来，消灭了智氏，并瓜分了其土地。公元前377年，三家“灭晋侯，而三分其地。”(《史记·晋世家》)成为中国历史上战国时代的开始。战国时期结盟外交更是活跃。公元前298年，齐、韩、魏联合击秦，攻入函谷关，齐成为关东各国的盟主。而秦则采取“远交近攻”的谋略，与齐结盟，攻伐韩魏。

③通商。运用商业手段，进行各国之间的经济交往，也是外交谋略的重要内容。这不但达到“宣威异域”、“示中国富强”的政治目的，而且发展了对外经济，活跃了本国市场。汉武帝两次派遣张骞出使西域，开辟丝绸之路，蚕丝、丝织品、铁器、漆器等运往

西亚和欧洲，同时也输入良马、香料等物产。唐朝与统一朝鲜半岛的新罗以及日本使者往来，贸易频繁。明朝三宝太监郑和七下西洋，宣示了国威，发展了贸易。这些都是外交谋略成功的范例。

④谈判。外交活动中的重要一环是谈判，它要求外交家具有高超的谋略修养和运筹艺术，要有胆有识，又要有灵活的应变力。秦昭王以十五城的虚假圈套要求换赵国的和氏之璧，后秦又要赵王赴渑池之会。蔺相如两次出使秦国，赢得完璧归赵和会谈的胜利。谈判用谋，庙算为先，蔺相如在出发前就分析了以城易璧的真实意图，谈判前又作了周密的安排，“三十日不还，则请立太子为王，以绝秦望”，并“盛设兵以待秦”，谈判中又善于应变，讨价还价，寸步不让，隐真示假，以退为进，能伸能屈，有理有节，显示了谈判技巧的高明，同赵王全胜而归。

## 5. 御人谋略

在中国漫长的封建社会中，帝王将相为保持稳固的统治地位，无不在御人方面费尽心思，施用谋略，加强统治。而作为最高统治者的帝王，为了防止功高震主、大权旁落、危及宝座，也运用多种多样的驭臣术，既使臣下尽忠用力，规规矩矩地效犬马之劳，又使臣下畏惧慑服，终日“战战兢兢，如履薄冰”。

①愚民术。愚昧的民众是最容易统治的。百姓拥有知识，就不会安分守己，就要生谋反作乱之心。所以历代统治者都实行愚民政策。夏、商、周都开办学堂，“夏曰校、殷曰庠，周曰序”，但是平民百姓没有资格入学，只有贵族子弟才有受教育的权利，即《周礼·地官·保氏》所说的“保氏以六艺教国子。”进入春秋，自孔子开办私学以来，虽然平民有了读书机会，但是孔子为统治者制定的御人谋略仍是“民可使知之，不可使由之。”老子提出：“古之善为道者，非以明民，

将以愚之。民之难治以其智多。故以智治国，国之贼；不以智治国，国之福。”隋朝创立科举以来，历代都以科举取士，实际上是把知识之士纳入统治者设立的牢笼之中。清朝大兴文字狱，焚毁禁书，则是愚民术的另一招法。

②恩威术。赏罚并用，德刑齐施，则是统治者惯用的御人谋略。一手用德行赏，一手示威施罚，两手相辅相成，使民趋利避害。《韩非子·二柄》一文开头就说：“明主之所导制其臣者，二柄而已。二柄者，刑德也。何谓刑德？曰：杀戮之谓刑，庆赏之谓德。为人臣者畏诛罪而庆利赏，故人主自用其刑德，则群臣畏其威而归其利矣。”韩非为君主设计的恩威术其前世其后代都为人广为应用。刘邦、曹操、李世民、朱元璋、康熙、乾隆，都以此术使臣民归服又不敢妄动。这是他们“功当其事，事当其言，则赏；功不当其事，事不当其言，则罚”的必然结果。

③分治术。“溥天之下，莫非王土；率土之滨，莫非王臣。”（《诗经·小雅·北山》）这诗说出了历代统治的基本情况。中国疆域辽阔，帝王不便于直接统治，就采用分土而治的谋略。这一谋略始于西周的“封诸侯，建藩卫”。它是以原始社会末期父系家长制演变而来的宗法制度为基础。当时把王畿以外的广大领土分封给周王同姓亲属、功臣等镇守疆土，拱卫王室。《荀子·儒教》说：周“立七十一国，姬姓独居五十三人。”秦始皇统一天下后，废除了分封制，但汉代以后鉴于秦的灭亡，仍然封王封侯，只是权力大小不同罢了。分治术的另一个内容是分权而治。古代帝王担心权力集中在少数人手里，容易尾大不掉，不利皇权，就把权力分在许多部门，以便互相挟制。分级而治是分治术的又一个内容。《左传·昭公七年》说：“天有十日，人有十等，下所以事上，上所以共神也。故王臣（统治）公，公臣大夫，大夫臣士，士臣皂，皂臣舆，舆臣隶，隶臣僚，僚臣仆，仆臣台。”皂以下都是奴仆，但也有等

级。元代把各民族划分为蒙古、色目、汉人、南人四个等级，制造民族矛盾，分而治之，以巩固其统治。

④限制术。君王为了达到长久统治的目的，稳坐龙椅，采取了形形色色的限制办法。首先是政权、军权集于皇帝一身，大权独揽，至高无上。自秦始皇始，历代承之。赵匡胤“杯酒释兵权”的故事，是运用这一谋略的最好说明。据《涑水纪闻》卷一，赵匡胤问：“吾欲息天下之兵，为国家建长久之计，其道何如？”赵普答曰：“唐季以来，战斗不息、国家不安者，其故非他，节镇太重，君弱臣强而已矣。今所以治之，无他奇巧也，惟稍夺其权，制其钱谷，收其精兵，天下自安矣。”于是赵匡胤置酒，告诉重臣：“汝曹何不释去兵权，择便好田宅市之……以终其天年，君臣之间两无猜嫌，上下相安，不亦善乎？”宿将重臣皆“请解军权”。限制臣下结党营私，以免君王孤立，是限制术之一。臣下互有矛盾，互相戒备，互为掣肘，君王则容易在他们之间游刃有余，任意摆布。宋朝谋略家欧阳修曾专门写过一篇《朋党论》，为范仲淹等人的改革辩护，指出治理国家必须“退小人之伪朋，用君子之真朋”。历代皇帝都设法割断宫闱与外界的联系，不能不说也是一种限制术的运用。诸如后妃不得问政，太监不得干政，嫔妃的亲属家人也不能任意入宫等等。清朝明文规定，太监私自出京要处以死罪。

此外，从运谋领域来看，法律、教育、处世、竞技等等，也都蕴藏着丰富的谋略宝藏，等待我们去挖掘、整理、继承，从而发扬光大之。

## （六）谋略的运用

研究中国古代谋略的目的，在于在当代社会的运用，在于提高人们的运谋能力，在于加强人们的谋略修养，以便更好地掌握运谋原则，从而创造出更富于活力的奇谋异略，

以利于个人、集体、国家各项事业的发展。如果对中国古代谋略的研究，只停留在学术性的探讨上，只停留在理论的切磋上，那么丰富的中国谋略，也只能睡在宝库里，使人们见不到它炫目的光彩。为了使谋略产生出更大的社会价值，我们有必要全面了解谋略运用中的一些实际问题。

### 1. 掌握运谋原则

恩格斯在《反杜林论》中指出：“原则不是研究的出发点，而是它的最终结果；这些原则不是被应用于自然界和人类历史，而是从它们中抽象出来的；不是人类和自然界去适应原则，而是只有在适应于自然界和历史的情况下才是正确的。”中国古代的谋略原则，是古人施谋活动的经验总结。为了使其更好地适应时代的特点和现实的客观情况，我们首先要加以继承并掌握。谋略活动是高级的思维活动，一个谋略的形成不仅有变化着的客观物质条件，而且尚有物质条件以外的许多看不见、摸不着，但又起着重要作用的东西。因此，对谋略原则的运用，不能照搬教条，而应当在掌握一般原则的基础上，加以灵活运用。

古人在政治、经济、军事、文化、御人等不同领域，虽然还各有不同的运谋原则，但是就总体来说，大约有如下一些原则，需要认真把握：注重谋势，胸有全局；因变制变，变中取胜；考虑整体，完善周密；谨慎持重，小心翼翼；奇正相生，出其不意，等等。

### 2. 加强谋略修养

一项事业、一项活动的成功与失败，关键在于运谋者谋略水平的高低。运谋者善运奇谋，妙计迭出，往往能转危为安，化险为夷，能使劣势变为优势，能使不利因素转化为有利因素，从而收到以弱胜强、以少胜多

之效，取得转劣为优、转败为胜之功。诸葛亮始出隆中、协助刘备转战四野之时，兵不过数百，将不过几员。但是他纵观天下大势，确定了联吴抗曹的大略，又以西蜀为根据地，平定西南少数民族的叛乱，消除了后顾之忧，而在大大小小的战役中，又匠心独运，屡设奇计，从而使蜀汉在强大的曹魏、孙吴之间得以生存。这一切都说明孔明有着高超的谋略水平和谋略修养。

谋略水平的高低，决定于谋略修养功夫的深浅。一个人要想在事业上立于不败之地，就要不断加强谋略修养，在运谋基本功上狠下工夫，进而提高运谋水平。大致说来，应从以下几个方面加强自己的谋略修养：识广才智多，智多才谋深，要修养博学多知、见多识广之功；有勇气和胆量才敢设奇谋，要修养勇毅坚韧、胆略过人之识；大意才失荆州，要修养能谋善断、慎终如始之力；胸襟狭小必拒逆耳忠言，要修养容人容言、宽宏大度之怀；笨拙肤浅是运谋的大忌，要修养富于创新、运巧敏捷之思，等等。

### 3. 培养运谋能力

运谋能力不是一朝一夕所能形成的，也不是花上累月之功、经年之力就能具备的。历史上众多的谋略家，尽其一生都在努力培养自己的运谋能力。唐太宗的文治武功备受称赞，多为后人所借鉴，而他对谋略能力的培养，可说是终生不懈。吴兢编著的《贞观政要》，很好地说明了唐太宗对政治谋略的探求，直至晚年仍孜孜不倦。李靖编著的《李卫公问对》，则生动地说明了唐太宗对军事谋略的研讨。他对前人用兵谋略的成败和自己一生征战中用谋的得失，十分重视。他的“问”，表示了虚心好学，不耻下问，目的是对已用过的军事谋略加以总结，以利自己运谋能力的进一步提高。

运谋能力是一种综合能力，是以谋略素养为基础而形成的实践才能。这种综合能力

如果加以分解，大致为：具有高深的预测力，则能高瞻远瞩；具有敏锐的观察力、思考力，则能明察善断；具有较强的应变力，则会审时度势；善于借助外力，则能博采众长，巧用天时、地利；具有灵活的筹划力，则能有主动性、严密性，等等。

### 4. 防止用谋失误

《史记·淮阴侯列传》中广武君曰：“智者千虑，必有一失；愚者千虑，必有一得。”无论多么高明的谋略家，也有计算不到、谋划不周的时候，世界上不打败仗的将军从未有过，这就是熟语所说的“人有失手，马有漏蹄”。这在历史上不乏其例，就拿三国时期来说，曹操没有深入了解敌情，而兵败赤壁；诸葛亮错用马谡，而失守街亭；关羽刚愎自用，而败走麦城；司马懿谨小慎微、优柔寡断，而失去进取西城的良机。种种失误，在陈寿的《三国志》里，可谓俯拾皆是。

前车之覆，后车之鉴。有成就的谋略家总是从失败中吸取教训，尽量减少运谋的失误，自己不出失策之举，也不纳败事之谋。造成运谋失误的原因很多，有客观的，也有主观的，大致有：小利障眼，失之远谋，《左传·僖公五年》所载晋献公假途灭虢，虞国亦亡即是一例；谋主专断，排谋拒谏，常常是造成失败的重要原因；意气用事，不能自己，必导致运谋失误，刘备只为解替关羽复仇的一时之愤，被陆逊火烧连营，并使蜀、吴联盟解体；听信谗言，宠信奸佞，则必贤士退，小人进，在邪说蒙蔽中用谋，十回当有十回误，吴王夫差听信伯嚭之言，国败身亡。

### (七) 谋略的现实意义

研究中国古代谋略有什么现实意义呢？它在当代生活中将发挥出怎样的作用呢？

中国古代谋略不是木乃伊，不是死的教

条，它具有无限丰富的内容和无穷的生命力。它的生命力就在于它必然随着社会历史的发展而不断发展。古人用流血的斗争，创造性的劳动，为我们提供了一个个生动活泼、有血有肉、切实具体、行之有效的谋略范例，我们应当在各自的实际工作、生活中学习它、运用它，并且根据社会现实的发展不断地丰富它、发展它。马克思和恩格斯说：“思辨终止的地方，即在现实生活面前，正是描述人们的实践活动和实际发展过程的真正实证的科学开始的地方。”（《马克思恩格斯全集》第3卷，第30—31页）科学开始于对客观实际的研究，谋略当然也是如此。谋略对人类的思维方式和实际生活所发生的影响，从来也没有像今天这样巨大和深远，虽然长期以来，人们对古人创造的谋略就加以继承和应用。复杂的国际斗争，活跃的国内生活，频繁的人际交往，都要求人们足智多谋，善施巧计，而一切有识之士都独具慧眼地把目光集中到中国古代谋略上。

首先说说国外。世界上许多国家对中国古代谋略的重视不自今日始。只拿《孙子兵法》来说，很早就在国外流传，日本翻译得最早，18世纪以后，相继在法、德、英、俄、捷克等国出现了译本。进入当代社会以来，尤其在东方各国，对中国古代谋略重视的程度更是前所未有。在工商企业界更是把含有运谋用计的著作当成圣典。据报章介绍，新加坡的商界强调《论语》加算盘。算盘这一中国古老的计算用具，仍在为现代化的商业服务，这里不去评论。就《论语》而言，新加坡人是在运用儒家的谋略思想从事经商办厂。据从日本访问归来的人说，日本不少企业主十分重视利用中国古代的谋略思想，他们把《孙子兵法》和《三国演义》发给全体员工，作为从业人员的必读书，从中汲取营养，以利企业的经营和发展。《孙子兵法》是兵书，主要讲军事，但是它注重从思想理论高度对谋略实践进行总结，注重对用谋本质规律作理性的概括，具有浓厚的哲理性，这是同时期

的西方军事思想所不可比拟的，因而具有更广阔的指导意义，这就是当今国际上重视中国古代谋略的原因之一。布什经常研读《孙子兵法》，从中得到教益，美国海军陆战队要求全体官兵再三研究《孙子兵法》。日本在本世纪50年代就开始把《孙子兵法》用于企业管理和企业竞争。日本的各级企业管理人员已把“管理”看成“谋略”的同义语。这在商场如战场、贸易之战如同军争之战的时代，国外重视中国古代谋略的研究和运用，是毫不奇怪的。美国一位学者，用围棋理论解释毛泽东的谋略思想。因为下围棋实际上是在斗智用谋。宋仁宗时有一位张靖，写了一部《棋经》，详尽地论述了围棋的战略、战术。这本书也模仿《孙子兵法》列为十三篇。海外对此书也颇为重视，而且不仅仅局限于棋界。

其次说说国内。在当今中国的经济、科技、文化、教育、体育等领域内的竞争中，由于“信息爆炸”带来的危机，使人们突破了“知识就是力量”的认识模式，意识到智慧比知识重要，而驾驭智慧的谋略能力，则更为重要。人们从来也没有像今天这样力图掌握谋略这一制胜的武器。毛泽东就十分注意古代谋略的继承与发展，他曾说过：“从孔夫子到孙中山都要加以研究”，这里当然包含着对这些人的谋略思想的研究。打开一部《毛泽东选集》，处处可以看到他对古代谋略自觉地灵活地运用，有许多则是直接引用古人运谋之语，如：“引而不发，跃如也”、“为渊驱鱼、为丛驱雀”、“以逸待劳”、“避其锐气、击其惰归”、“将欲取之，必先与之”、“知己知彼，百战不殆”、“以一当十”、“人而无信，不知其可”、“兼听则明，偏信则暗”、“攻其无备，出其不意”、“声东击西”、“兵不厌诈”、“凡事预则立，不预则废”、“偃旗息鼓”、“亡羊补牢，犹为未晚”、“鹬蚌相持，渔人得利”、“螳螂捕蝉，黄雀在后”、“文武之道，一张一弛”、“即以其人之道，还治其人之身”，等等。当然，毛泽东在运用古代谋略的过程中，有许多发挥和创造，而不拘于成法。古代兵

家向来强调在胜利的追击中，要“网开一面”，孙武也提出“归师勿遏”，“围师必阙（缺）”、“穷寇勿追”等思想，但是在中国人民解放军占领南京之后，毛泽东却一反古人用兵之道，大胆提出“宜将剩勇追穷寇，不可沽名学霸王”的战略思想，拒绝了国际上有人建议的划江而治的劝告，结果收复了整个大陆。

大至用兵，小至打球，处处都在运用古代谋略思想，用得好的皆大获全胜。多次获得世界冠军的庄则栋在《创与闯》一书中，在总结他打乒乓球的经验时，原原本本地用《三十六计》来讲自己的打球战术。在商战中运用古代谋略更是比比皆是。据新闻媒介传播：有一个厂家向香港出售葡萄酒。按着香港的规定，“土酒”征百分之百的税，“洋酒”征百分之三百的税。他们认为葡萄酒属“洋酒”，要征百分之三百的税。而厂家的一位负责人说，葡萄酒是地道的“土酒”，并引唐朝著名诗人王翰的《凉州词》里“葡萄美酒夜光杯，欲饮琵琶马上催”的诗句为证。香港的

海关人员无言以对，只能按“土酒”征税。王翰的《凉州词》可说是妇孺皆知，但是如果缺乏谋略意识则不会加以运用。

最后说说人际交往。简言之，人际交往就是交际。公元前三百多年，《孟子》一书就用了“交际”一词。进入20世纪80年代，人际交往更成了社会生活中的热门话题。人际交往中也需运用交际谋略，运筹艺术。有些人在社会竞争中如鱼得水，畅通无阻；有些人则处处捉襟见肘，步履艰难。这在很大程度上决定于他们交际艺术的巧与拙，谋略能力的高与低。目前书市上出现的众多的交际学一类书籍，实际上都是在讲人际交往谋略。这里不再详述。

有继承才能有发展，有借鉴才能有创造，有基础才能有开拓。中国古代谋略文化是如此的丰厚，如此的多采，让我们进入这个宝库，深深地挖掘，多多地采撷，从而创造出光辉灿烂的现代谋略文化。

## 二、谋略思想卷

### 引言

吕庆业

中国谋略思想源远流长。可以说，从人类诞生那一天起，随着人类为谋求生存、发展而展开的各种斗争，谋略活动就开始出现了。而在每一项谋略活动中，都蕴含着朴素的谋略思想。当然，早期的人类生活，由于活动地区的狭小，活动内容的单一，人际交往主要局限于家族或部族范围之内，伴随日出日落的活动，基本上是采集野果、猎捕野兽，因此人类的谋略思想还处于简单的、幼稚的初级阶段，只是为一时一事进行短期谋划，还远远没有形成有体系的谋略思想，当然更谈不到谋略的规律性、系统性和复杂性。

古代谋略思想可供今天借鉴、利用、仿效、研究，以至以此为基础加以创新、改造、活化，并运用到现代生活的方方面面，那是在人类创造了文字之后。谋略思想有了文字这个载体，各种施谋活动，用谋行为及其沉积的思想才得以保存和流传，推广和发展。此后，经过众多谋略家在实践中补充、完善、丰富，才逐步成熟起来，丰满起来，并形成了完整、深厚的理论体系。

中国谋略思想史上的第一个黄金时期是春秋战国时代。完整的谋略思想在这一时期形成、发展，并臻成熟。

从春秋到战国，这五百余年的历史时期，是我国古代社会历史上一个大变革的时代，

也是一个产生了空前光辉灿烂文化的时代。在这新的历史时期，生产力迅猛发展，经济全面繁荣，商业城市不断涌现。《战国策·齐策一》记载苏秦为赵合纵，游说齐宣王时说：

临淄甚富而殷，其民无不吹竽鼓瑟，击筑弹琴，斗鸡走犬，六博蹋鞠者。临淄之途，车毂击，人肩摩，连衽成帷，举袂成幕，挥汗成雨，家敦而富，志高而扬。

这虽然是为了政治目的而含有夸大的成分，但也可窥见当时生产繁荣之一斑。

社会生产力的发展，促进了社会生产关系的变化，并最终导致社会制度的变革，为奴隶社会向封建社会转变准备了条件。马克思说：“君主们在任何时候都不得不服从经济条件，并且从来不能向经济条件发号施令。无论是政治的立法或市民的立法，都是表明和记载经济关系的要求而已。”（马克思《哲学的贫困》）当时的一些谋略家如秦国的商鞅、魏国的李悝、楚国的吴起等为一系列变法所进行的活动，所提出的策略，实际上都是为满足这一经济条件的要求，在政治上的表现。在这场大变革中充满着阶级斗争和政治斗争。田氏篡齐，韩、赵、魏三家分晋，各诸侯国之间互相争夺土地和统治权的斗争，即大国兼并小国，小国反抗大国，以及



一部分国家时而联合、时而分裂的相互战争，无不迫切的需要谋略，需要智能之士。

斗争激烈的社会现实，要求与之相适应的运筹策划，充满各种社会矛盾和动乱的时代，呼唤着波诡云谲的谋略家。“士”的阶层自然就应运而生。随着各国兼并战争的日益激烈，政治角逐的日益尖锐，“士”这一阶层也迅速壮大起来。他们为了自身和本阶级的利益，有的自觉地拿起谋略这一武器，投入到风云变幻的斗争中，有的在各国统治者的罗致下，也纷纷走上政治、经济、军事、外交的大舞台，扮演各种角色，运用自己的学说，发挥超人的智慧，为统治者出谋献策。他们“言治乱之世，以干世主”（《汉书·艺文志》），或授徒讲学，或著书立说，或游说列国，或互相论战，或入相出将，或坐镇军帐运筹帷幄，或领兵挂帅亲自出征，在春秋战国时代的各个领域，各种场合里，都表现得十分活跃。其中的许多优秀之士，就是当时著名的思想家、政治家、军事家、经济学家、外交家和具有知识才能的学者，从他们提出的具有实践意义的谋略思想这一角度来看，当然也都是不可多得的优秀的谋略家。

时势造英雄，斗争出谋略。春秋战国时期，百家争鸣，诸子蜂起，各种谋略思想纷呈异彩，是同那个时代大动荡的历史潮流同步出现、形成的。而谋略思想的每一步发展并形成高峰，也无不与纷争的时代，战乱的环境密切相关。陈涉首举义旗，群雄逐鹿中原，其后的楚汉相争，角力斗智，给谋略家创造了纵横驰骋的广阔天地，范增、张良、韩信、萧何成为名传千古的一代智谋之士。黄巾大起义，张角提出“苍天已死，黄天当立”的政治口号，产生了巨大的凝聚力。其后各路诸侯纷纷割据，有的以四世三公作为政治资本，有的挟天子以令诸侯，有的以正统自居打出振兴汉室的旗号，有的占据优越的地理位置窥视天下。其中曹操不仅自己善出奇谋，而且广纳贤士，身边形成了一个庞大的智囊团，终于成就了一生为之谋划的伟业。

诸葛亮虽然“出师未捷身先死”，但由于博学多闻，用兵如神，造成了三足鼎立的局面，留下了“万古云霄一羽毛”的赞誉，成为智谋的化身。在隋末农民大起义的动荡之中，谋略运用的得当与否，成为各支队伍成败的关键。李渊、李世民父子之所以取得天下，与他们巧思善断分不开，也与周围有一批长孙无忌那样的谋士分不开。其后，宋、元、明、清各个时期，也都是在朝代更替之时，谋略家显得特别活跃，谋略思想有突飞猛进的发展。

当然，在太平时期，也并非不需要谋略思想，也并非不需要谋略家。事实上，在中国历史的每一个时期，每一个阶段，都有相应的谋略家出现，他们的思想都在丰富着谋略宝库。只是谋略思想不同于战乱时代而已，谋略家所处的地位，运谋的方式方法不同于瞬息万变的战争年代而已。历史上的文、景之治，贞观之治，开元盛世，乾嘉盛世，无一不闪耀着谋略的光彩。

中国谋略思想从孕育到成熟，经历了艰难的历史过程，其中有许多是用千百万的人头换来的。当然，其中有许多是散发着血腥气的。不过这些谋略思想形成之后，就成为中华思想宝库的一支奇葩，有自己独有的体系，独有的特点，有待于今天加以继承和发扬光大。

经过初步的归纳整理，我们认为中国的谋略思想，大致有以下几个特征：

1、实用性。谋略来自于斗争实践的需要，当然也服务于斗争实践。实用性是谋略思想的基本特征之一。无论是军事上、外交上的攻心斗智，还是政治上、经济上的施谋用计，无论是治国上、御人上的老谋深算，还是集团倾轧上的设诡置奇、人际交往上的心理沟通，都是从实用的目的出发的。如果“谋略”思想只浮于形式，流于空谈，毫无实用价值，中听不中用，经不住实际斗争的考验，严格地说，这就不是谋略，至多也只能算是无用之谋。战国时期赵国名将赵奢之子

赵括，年青时喜读兵书，好谈兵法，虽然父亲也难不倒他，但他并不懂得谋略的真谛。在他代替廉颇为将与秦军对抗时，运用的计策丝毫不管用，结果长平一役，自身死于箭下，40万部卒全部被俘而遭坑杀，在历史上留下了“纸上谈兵”的笑柄。

谋略的实用性可分为长期性和短时性两种。为了国家的长治久安所运用的建国方略，就具有长期效应。商鞅的耕战谋略，荀子的“法后王”思想，韩非子“法、权、术”并用的主张，贾谊的《治安策》，晁错的《削藩策》，曹操的《求贤令》，李世民关于“水能载舟，水亦能覆舟”的认识，赵匡胤的“杯酒释兵权”等，都在较长的历史时期中发挥了作用。

为了一战一役的胜利，一时一事的成功，上乘的谋略更是立竿见影，谋出功遂，显现出更大的效益性。据《三国志·武帝纪注引曹瞒传》载：曹操与袁绍对抗时，“外无救援而粮谷已尽”，他采纳谋士许攸的计谋，选精锐步骑，皆用袁军旗帜，取得了乌巢劫营烧粮的胜利。朱元璋攻克徽州后，采用儒生朱升的建议：“高筑墙，广积粮，缓称王”，为统一天下打下了基础。

2、学术性。中国的谋略思想，虽然从形成的那一天起，就是为某一个阶级、阶层服务，为某一个政治集团所用，为某一个帝王、诸侯效劳，但是这些一个一个的具体谋略，却都经过提炼、熔铸，升华到理论的高度，具有深厚的学术性。把它们分散开来，也许只是片言只语，一鳞一爪，然而却都是散金碎玉，字字珠玑，而把它们汇拢起来，或专著，或单篇，则又放射着理论的光芒，有着很高的学术价值。因此，中国谋略思想在中国学术思想史上占有极其重要的地位，给后代以极大的影响。

保存了孔子谋略思想、由其门徒编纂的《论语》一书，就是一部具有世界意义的学术著作。其深邃的学术思想，直到今天人们还在学习它，研究它，运用它，成为人类文明

史中的瑰宝。《论语》所内含的谋略，是博大精深的，它的哲学思想的深度和广度可以同西方古代的任何一部哲学著作相媲美。孔子要求君主广施仁政，任用贤才，重视礼教，讲究博爱，正定名分，实行中庸之道，继承传统文化，兴办教育事业，等等，每一个方面，都作了理论上的探讨，都有理性的阐述。其中的任何一个问题，后代都有人作了专门的论述，都成为学术研究的专门课题。作为儒家的鼻祖，儒学的创始人孔子，由于其思想具有高深的学术性，而被一代一代地继承下来。孟子作为儒家的重要继承人不仅继承了而且发展了孔子的思想，被后人称为“亚圣”。南宋朱熹把《大学》、《中庸》、《论语》、《孟子》汇编起来，写成《四书集注》，是作为学术著作加以研究的。然而，如果我们换一个角度去认识，就会发现它们同时又是十分丰富而精辟的谋略著作。

《汉书·艺文志·诸子略》提供的儒家、道家、阴阳家、法家、名家、墨家、纵横家、杂家、农家、小说家，其代表性人物的思想，无一不具有学术性，同时也具有较强的谋略思想价值。

3、多元性。长期以来，人们谈论某一个历史人物，某一部古代著作，常常约定俗成地指出其是某一方面的人物，某一领域的著作，就其总体来说，大致是不错的。但是如果我们从谋略思想的角度去认识，那情况就大不一样了。中国古代任何一部思想论著，都不是单一性的，而是多元性的典籍，其中都渗透着深广的谋略思想。比如又称之为“道德经”的《老子》一书，学者向来把它看作是道家的代表作，道教则把它奉作神圣的经典，不少人也只以为它阐发了“无为”思想，大都忽略了其具有谋略意义的思想核心，这样既缩小了其外延，又没有很好地把握其内涵。实际上，老子“以柔克刚”的思想，一直是兵家的重要谋略；“治大国，若烹小鲜”的主张，也是历代明君的治国方略。老子说：“古之善为道者，非以明民，将以愚之。民

之难治，以其智多。”(第六十五章)历代统治者所实行的愚民政策，也都是以此为理论根据的。老子谋略思想的多元性，当然远远不止这些。这里只是举例性的择其一二而已。二十五史是人们公认的信史，但其中的众多的奇谋妙计都具有多元性，可供各种人借鉴。

为某一件具体事情所进行的策划，当它具有理性色彩，成为谋略思想的时候，这一谋略就不再仅仅是为解决一个具体问题、作好一件具体事情的计策了，而是可以用来面对各种难题，解决诸多领域里问题的谋略了。《孙子兵法》是一部兵书，然而今天世界上许多政治家、外交家、企业家、教育家、运动员、供销员、教员、学员，甚至一个普通的工人、农民都在力图掌握它，而不仅仅是军事学院的教材。《三国志注》引用的曹操“望梅止渴”的事例，何止用于行军作战呢？它所显示的激励作用，诱导作用，互补作用，在许多方面都有用武之地。甚至在生理学上讲述巴甫洛夫的第二信号系统学说时也常常引以为例呢。

4、系统性。中国谋略思想成熟之后，逐渐形成了完整的体系和严密的系统。春秋战国时每一个学派，都有一条贯穿其整个思想的红线，而且众星捧月似地环绕着一个谋略核心。儒家以“仁”为中心；道家以“虚无”为主体；法家以法术为根本；阴阳家强调“敬顺昊天”，“敬授民时”；墨家主张贵俭、兼爱、非命、非攻；农家则要求“劝耕桑以足衣食”；就是杂家也不是杂乱无章、没有条理，而是“兼儒墨，合名法，知国体之有此，见王治之无不贯。”(《汉书·艺文志·诸子略》)《吕氏春秋》是杂家的代表作，它为秦王朝提供的统一天下的谋略思想是具有严谨的系统性的。无名氏的《三十六计》，可以说是一部体系完备的计谋大全。

中国古代的谋略典籍，每一部、每一篇大都有独立而完整的思想体系。周武王克殷，向箕子咨询治国之常道，箕子向武王陈

述了人主治国的大法，这就是《尚书·洪范》篇。箕子阐明的“一曰五行；二曰敬用五事；三曰农用八政；四曰协用五纪；五曰建用皇极；六曰乂用三德；七曰明用稽疑；八曰念用庶征；九曰向用五福，威用六极。”从九个方面四十三个具体作法，全面而系统地提出了治国纲要。《孙子兵法》十三篇，是一部用兵的百科全书，关于战略原则、战术原则、治军原则、用将原则、作战方针、作战指导、胜败因素、用间方法、地形地物的利用，虚实变化的作用等各方面，举凡战争中的问题，几乎没有一点不涉及。仅就其中的《谋攻篇》而言，虽然讲的是临战前进攻的计谋问题，但内容包括了全胜的意图，进攻的目标和作战的方法，战略指导关系，知胜的方法等等，体系的严密性和系统性令人叹为观止。

此外，规律性、渗透性、互补性等，也都是中国谋略思想的特性，由于篇幅所限，这里不再详细论述。

## (一) 谋略的起源 与发展

二十有八载，帝乃殂落<sup>①</sup>。百姓如丧考妣，三载，四海遏密八音<sup>②</sup>。月正元日，舜格于文祖<sup>③</sup>。询于四岳，辟四门，明四目，达四聪<sup>④</sup>。“咨，十有二牧<sup>⑤</sup>！”曰：“食哉惟时！柔远能迩，惇德允元，而难任人，蛮夷率服<sup>⑥</sup>。”舜曰：“咨，四岳！有能奋庸熙帝之载，使宅百揆亮采，惠畴<sup>⑦</sup>？”金曰：“伯禹作司空<sup>⑧</sup>。帝曰：“俞，咨！禹，汝平水土，惟时懋哉<sup>⑨</sup>！”禹拜稽首，让于稷、契暨皋陶<sup>⑩</sup>。帝曰：“俞，汝往哉<sup>⑪</sup>！”帝曰：“弃！黎民阻饥，汝后稷，播时百谷<sup>⑫</sup>。”帝曰：“契！百姓不亲，五品不逊，汝作司徒，敬敷五教，在宽<sup>⑬</sup>。”帝曰：“皋陶！蛮夷猾夏，寇贼奸宄，汝作士，五刑有服，五服三就<sup>⑭</sup>。五流有宅，五宅三居，惟明克允<sup>⑮</sup>。”帝曰：“畴若予工<sup>⑯</sup>？”金曰：

“垂哉<sup>⑮</sup>！”帝曰：“俞，咨，垂！汝共工<sup>⑯</sup>。”垂拜稽首，让于殳斯暨伯与<sup>⑰</sup>。帝曰：“俞，往哉！汝谐<sup>⑱</sup>。”帝曰：“畴若予上下草木鸟兽<sup>⑲</sup>？”金曰：“益哉<sup>⑳</sup>！”帝曰：“俞，咨，益！汝作朕虞<sup>㉑</sup>。”益拜稽首，让于朱虎、熊黑<sup>㉒</sup>。帝曰：“俞，往哉！汝谐。”帝曰：“咨，四岳！有能典朕三礼<sup>㉓</sup>？”金曰：“伯夷<sup>㉔</sup>。”帝曰：“俞，咨，伯！汝作秩宗，夙夜惟寅，直哉惟清<sup>㉕</sup>。”伯拜稽首，让于夔、龙<sup>㉖</sup>。帝曰：“俞，往钦哉！”帝曰：“夔！命汝典乐，教胄子<sup>㉗</sup>。直而温，宽而栗，刚而无虐，简而无傲<sup>㉘</sup>。诗言志，歌永言，声依永，律和声<sup>㉙</sup>。八音克谐，无相夺伦，神人以和<sup>㉚</sup>。”夔曰：“於！予击石拊石，百兽率舞<sup>㉛</sup>。”帝曰：“龙！朕翌谗说殄行，震惊朕师<sup>㉜</sup>。命汝作纳言，夙夜出纳朕命，惟允<sup>㉝</sup>！”帝曰：“咨，汝二十有二人，钦哉！惟时亮天功<sup>㉞</sup>。”三载考绩，三考黜陟幽明，庶绩咸熙<sup>㉟</sup>。

#### 《尚书·尧典》

##### 题解：

舜知人善任，使其各尽所能，在身边汇集了各种贤明之士，组成了一个二十二人的智囊团。

##### 注释：

①帝：指尧。殂(cú)落：死。②百姓：百官。考妣：父母。遏：断绝。密：静。八音：金石丝竹匏土革木。③月正：正月。元日：善日。格：至。文祖：尧太祖庙。④询：谋画。四岳：官名，主四方之祭，分管四方诸侯。四门：明堂的四门，明堂是古代行政之所。达：通达。聪：耳。⑤咨：嗟叹。牧：州长。⑥食：指民食。惟时：惟须务时。柔：安抚。能：亲善。惇德：亲厚有德之士。允元：信任善人。难：拒绝。任人：任人。蛮夷：少数民族。率服：遵循服从。⑦奋庸：进用。熙：推广。载：事业。宅：位居。百揆：官名。亮：领导。采：政事。惠：助词。畴：谁。⑧金(qiān)：全，都。伯禹：夏禹。司空：官名，主管建筑等。⑨帝：以下指舜。俞：然，是。时：嘉善。懋(mào)：勉励。⑩稽(qī)首：叩头至地。稷(jì)：名弃，周朝的始祖。契(xiè)：商朝

的始祖。暨(jì)：和，与。皋陶(gāo yáo)：大臣名。⑪汝：你。往：指往居此官。⑫黎：众。阻：困厄。后：主持。稷：农官。时：时，种。⑬五品：父母兄弟子。逊：恭顺。司徒：官名，主管教化。敷：传布。五教：五品之教，父义、母慈、兄友、弟恭、子孝。宽：宽厚。⑭猾夏：扰乱中国。奸宄(guǐ)：乱在外为奸，在内为宄。士：狱官之长。五刑：墨、劓、剕、宫、大辟。服：使用。三就：在三处执行。⑮五流：宽宥五刑，用以流放。宅：处所。三居：把全国按远近分为三处流放地。明：明察。克：能。允：信服。⑯若：管理。工：主管百工之官。⑰垂：臣名。⑱共工：官名，管理百工之事。⑲殳斯(shū qiāng)、伯与：二臣名。⑳谐：偕，一同。㉑上下：指山和泽。㉒益：臣名。㉓朕：我。虞：主管山泽之官。㉔朱虎、熊黑：二臣名。㉕典：主持。三礼：天事、地事、人事之礼。㉖伯夷：佐尧的大臣。㉗秩宗：官名，主管位次尊卑。夙：早。寅：敬，忠于职守。直：正直。清：清明。㉘夔、龙：二臣名。㉙乐：乐官。胄子：国子。㉚栗：坚定。简：简约。㉛永：咏。声：五声。律：六律六吕。㉜谐：和谐。夺伦：失掉次序。神人：神和人。㉝於(wū)：叹词。石：磬。拊：轻击。率：遵循。㉞翌(jì)：憎恶。殄行：贪暴的行为。师：众人。㉟纳言：官名，掌管出纳王命。允：诚实。㊱时：善于。天功：大事。㊲考绩：考核政绩。黜：废。陟：升。幽明：善恶，贤愚。庶绩：众功。熙：兴旺。

访予落止，率时昭考，於乎悠哉，朕未有艾<sup>①</sup>。将予就之，继犹判涣，维予小子，未堪家多难<sup>②</sup>。绍庭上下，陟降厥家，休矣皇考，以明保其身<sup>③</sup>。

#### 《诗经·周颂·访落》

##### 题解：

周成王临政，祭庙时与群臣相谋，筹划如何执政。

### 注释:

①访: 咨询。落: 始。止: 助词。率: 遵循。时: 此。昭考: 先王。於乎: 呜呼。艾: 数。

②犹: 道。判涣: 分散。堪: 经受起。③绍: 继承。陟: 升。厥家: 群臣。休: 美善。明: 明察。

嗟嗟臣工，敬尔在公，王釐尔成，来咨来茹<sup>①</sup>。嗟嗟保介，维莫之春，亦又何求，如何新畲，於皇来牟，将受厥明<sup>②</sup>。明昭上帝，迄用康年，命我众人，庀乃钱镛，奄观铎艾<sup>③</sup>。

### 《诗经·周颂·臣工》

#### 题解:

周公与诸侯、农官相谋，筹划农事，谋求丰收。

#### 注释:

①臣工: 农官。王: 往。釐: 告。成: 谷熟。咨: 谋。茹: 筹画。②保介: 农官。莫: 暮。新: 新田。畲(yú): 熟田。皇: 美。来: 小麦。牟: 大麦。明: 收成。③庀(zhì): 储备。钱: 铲子。镛(bó): 锄草器。铎(zhì): 镰刀。艾(yì): 收割。

天道下济而光明，地道卑而上行；天道亏盈而益谦，地道变盈而流谦；鬼神害盈而福谦，人道恶盈而好谦。谦，尊而光，卑而不可逾，君子之终也<sup>①</sup>。

### 《周易大传·谦象》

损上益下，民说无疆，自上下下，其道大光<sup>②</sup>。

益动而巽，曰进无疆。天施地生，其益无方。凡益之道，与时偕行<sup>③</sup>。

### 《周易大传·益象》

#### 题解:

骄满者人则恶之，谦逊者人则爱之，是社会的一般规律，也是谋略家对世界的认识。

#### 注释:

①下: 下行。济: 成万物。益: 增益。变: 毁。流: 增益。逾: 凌越。终: 结果。②损上益下: 减损君物，增益民物。说: 悦。自上下下: 君上听取民意。③益: 卦名。巽(xùn): 谦逊。

施: 施予。无方: 不分地域、物类。

天尊地卑，乾坤定矣；卑高以陈，贵贱位矣；动静有常，刚柔断矣；方以类聚，物以群分，吉凶生矣；在天成象，在地成形，变化见矣<sup>①</sup>。是故刚柔相摩，八卦相荡<sup>②</sup>。鼓之以雷霆，润之以风雨；日月运行，一寒一暑；乾道成男，坤道成女；乾知大始，坤作成物。乾以易知，坤以简能，易则易知，简则易从；易知则有亲，易从则有功；有亲则可久，有功则可大；可久则贤人之德，可大则贤人之业<sup>③</sup>。易简而天下之理得矣，天下之理得，而成位乎其中矣。

圣人设卦观象系辞焉，而明吉凶<sup>④</sup>。刚柔相推而生变化，是故吉凶者，失得之象也；悔吝者，忧虞之象也；变化者，进退之象也；刚柔者，昼夜之象也<sup>⑤</sup>。六爻之动，三极之道也，是故君子所居而安者，《易》之象也<sup>⑥</sup>。所乐而玩者，爻之辞也，是故君子居则观其象而玩其辞，动则观其变而玩其占，是以自天祐之，吉无不利<sup>⑦</sup>。

.....

《易》与天地准，故能弥纶天地之道<sup>⑧</sup>。仰以观于天文，俯以察于地理，是故知幽明之故<sup>⑨</sup>。原始反终，故知死生之说<sup>⑩</sup>；……与天地相似，故不违；知周乎万物，而道济天下，故不过；旁行而不流，乐天知命，故不忧；安土敦乎仁，故能爱<sup>⑪</sup>。范围天地之化而不过，曲成万物而不遗；通乎昼夜之道而知，故神无方而易无体<sup>⑫</sup>。

一阴一阳之谓道，继之者，善也，成之者，性也<sup>⑬</sup>。仁者见之谓之仁，知者见之谓之知，百姓日用而不知，故君子之道鲜矣<sup>⑭</sup>。显诸仁，藏诸用，故万物而不与圣人同忧，盛德大业至矣哉，富有之谓大业，日新之谓盛德<sup>⑮</sup>。生生之谓易，成象之谓乾，效法之谓坤，极数知来之谓占，通变之谓事，阴阳不测之谓神<sup>⑯</sup>。夫《易》广矣大矣，以言乎远则不御；以言乎迩则静而正；以言乎天地之间则备矣<sup>⑰</sup>。夫乾，其静也专，其动也直，是以大生焉；夫坤，其静也翕，其动也辟，

是以广生焉<sup>⑮</sup>。广大配天地，变通配四时，阴阳之义配日月，易简之善配至德<sup>⑯</sup>。

……

子曰：“知变化之道者，其知神之所为乎。《易》有圣人之道四焉：以言者尚其辞，以动者尚其变，以制器者尚其象，以卜筮者尚其占。”是以君子将有为也，将有行也，问焉而以言。其受命也如响，无有远近幽深，遂知来物，非天下之至精，其孰能与于此<sup>⑰</sup>。参伍以变，错综其数，通其变，遂成天下之文，极其数，遂定天下之象，非天下之至变，其孰能与于此<sup>⑱</sup>。

《周易大传·系辞上》

题解：

《周易》包罗万象，能启示人认识事物的矛盾与发展，善于运用它，可预见未来，趋吉避凶，兴利除害。

注释：

①以：已。位：立。常：规律。断：分。方：人之误。②摩：磨擦。荡：冲激。③知：为。易知：平常智巧。④设：创立。观象：观卦爻象。系辞：系卦辞、爻辞于卦、爻下。⑤悔：小不幸。吝：灾难。虞：惊。⑥三极：天、地、人。⑦玩：揣摩。祐：助。⑧准：齐等。弥纶：普遍包络。⑨幽：隐幽。⑩原：察。反：求。⑪济：成。过：过失。旁：正直。安土：安于所居。⑫范围：包括。曲：俱。成：容纳。知：智。⑬道：规律。⑭鲜：少。⑮诸：之于。⑯生生：孳息不绝。极：尽。⑰御：止。还：近。静：精审。⑱专：圆。翕(xi)：闭。辟：开。⑲易：平易。⑳响：回声。物：事。与：及。㉑参伍：三五，代表小而不定之数。成：定。

子谓颜渊曰：“用之则行，舍之则藏，惟我与尔有是夫<sup>①</sup>！”

子路曰：“子行三军，则谁与<sup>②</sup>？”

子曰：“暴虎冯河，死而无悔者，吾不与也<sup>③</sup>。必也临事而惧，好谋而成者也。”

《论语·述而》

题解：

勇而无谋，孔子都不同他共事，从反面提出了智谋的作用。

注释：

①舍：不用。②与：偕同。③暴虎：徒手搏虎。冯河：徒足涉河。

孝公平画，公孙鞅、甘龙、杜挚三大夫御于君，虑世事之变，讨正法之本，求使民之道<sup>①</sup>。

君曰：“代立不忘社稷，君之道也；错法务明主长，臣之行也<sup>②</sup>。今吾欲变法以治，更礼以教百姓，恐天下之议我也。”

公孙鞅曰：“臣闻之，‘疑行无成，疑事无功。’君亟定变法之虑，殆无顾天下之议之也。且夫有高人之行者，必见非于世；有独知之虑者，必见毁于民<sup>③</sup>。语曰：‘愚者暗于成事，智者见于未萌。民不可与虑始，而可与乐成。’郭偃之法曰：‘论至德者不和于俗，成大功者不谋于众。’法者，所以爱民也；礼者，所以便事也。是以圣人苟可以强国，不法其故；苟可以利民，不循于礼<sup>④</sup>。”

孝公曰：“善！”

甘龙曰：“不然！臣闻之，‘圣人不易民而教，智者不变法而治。’因民而教者，不劳而功成；据法而治者，吏习而民安<sup>⑤</sup>。今若变法，不循秦国之故，更礼以教民，臣恐天下之议君，愿熟察之！”

公孙鞅曰：“龙之所言，世俗之言也！夫常人安于故习，学者溺于所闻<sup>⑥</sup>。此两者，所以居官而守法，非所与论于法之外。三代不同礼而王，五霸不同法而霸。故智者作法，而愚者制焉；贤者更礼，而不肖者拘焉。拘礼之人不足与言事，制法之人不足与论变。君无疑矣！”

杜挚曰：“臣闻之，‘利不百，不变法；功不十，不易器。’臣闻法古无过，循礼无邪。君其图之！”

公孙鞅曰：“前世不同教，何古之法！帝王不相复，何礼之循！伏羲、神农教而不诛，黄帝、尧、舜诛而不怒，及至文、武，各当

时而立法，因事而制礼<sup>⑦</sup>。礼、法以时而定，制、令各顺其宜，兵甲器备各便其用。臣故曰：治世不一道，便国不法古。汤、武之王也，不循古而兴；夏、殷之灭也，不易礼而亡。然则复古者未可必非，循礼者未足多是也。君无疑矣！”

孝公曰：“善！吾闻穷巷多怪，曲学多辩；愚者笑之，智者哀焉；狂夫之乐，贤者丧焉，拘世以议，寡人不之疑矣<sup>⑧</sup>！”

于是遂出垦草令。

《商子·更法》

题解：

商鞅和甘龙、杜挚各陈谋略。

注解：

①御：侍。②错：措。③见：被。

④循：遵。⑤因：顺。⑥溺：淹没。⑦诛：罚。⑧曲学：浅陋的见解。

力不敌众，智不尽物，与其用一人，不如用一国，故智力敌而群物胜，揣中则私劳，不中则任过<sup>①</sup>。下君尽己之能，中君尽人之力，上君尽人之智。是以事至而结智，一听而公会，听不一则后悖于前，后悖于前则愚智不分；不公会则犹豫而不断，不断则事留<sup>②</sup>。自取一，则毋堕壑之累，故使之讽，讽定而怒，是以言陈之日，必有策籍<sup>③</sup>。结智者事发而验，结能者功见而谋成败，成败有征，赏罚随之，事成则君收其功，规败则臣任其罪<sup>④</sup>。君人者合符犹不亲，而况于力乎？事智犹不亲，而况于悬乎？故其用人也不取同，同则君怒<sup>⑤</sup>。使人相用则君神，君神则下尽，下尽，则臣上不因君，而主道毕矣<sup>⑥</sup>。

《韩非子·八经》

题解：

事前广泛听取臣下的言论，事后检验他们的谋略是否正确。

注释：

①揣：猜度。中(zhòng)：恰好符合。私劳：个人费精力。任：承担。②公会：集中众人议论。③怒：威严地责令。④规：谋划。

⑤同：意见相同。⑥神：神妙莫测。下尽：臣下竭尽智能。因：利用，指钻空子。毕：完备。

司马错与张仪争论于秦惠王前。司马错欲伐蜀，张仪曰：“不如伐韩。”王曰：“请闻其说！”对曰：“亲魏善楚，下兵三川，塞轘轲、緄氏之口，当屯留之道，魏绝南阳，楚临南郑，秦攻新城、宜阳，以临二周之郊，诛周主之罪，侵楚、魏之地。周自知不救，九鼎宝器必出。据九鼎，按图籍，挟天子以令天下，天下莫敢不听，此王业也<sup>①</sup>。今夫蜀，西辟之国，而戎狄之长也。弊兵劳众不足以成名，得其地不足以为利。臣闻：‘争名者于朝，争利者于市。’今三川、周室，天下之市朝也，而王不争焉，顾争于戎狄，去王业远矣<sup>②</sup>。”

司马错曰：“不然。臣闻之：欲富国者，务广其地；欲强兵者，务富其民；欲王者，务博其德。三资者备，而王随之矣，今王之地小民贫，故臣愿从事于易。夫蜀，西辟之国也，而戎狄之长也，而有桀、纣之乱。以秦攻之，譬如使豺狼逐群羊也。取其地，足以广国也；得其财，足以富民；缮兵不伤众，而彼已服矣。故拔一国，天下不以为暴；利尽西海，诸侯不以为贪。是我一举而名实两附，而又有禁暴正乱之名<sup>③</sup>。今攻韩劫天子，劫天子，恶名也，而未必利也，又有不义之名，而攻天下之所不欲，危。臣请谒其故：周，天下之宗室也；齐、韩，周之与国也<sup>④</sup>。周自知失九鼎，韩自知亡三川，则必将二国并力合谋，以因于齐、赵，而求解乎楚、魏；以鼎与楚，以地与魏，王不能禁，此臣所谓‘危’，不如伐蜀之完也<sup>⑤</sup>。”惠王曰：“善。寡人听子。”

卒起兵伐蜀，十月取之，遂定蜀。蜀主更号为侯，而使陈庄相蜀；蜀既属，秦益强富厚，轻诸侯。

《战国策·秦策》

### 题解:

张仪、司马错的目的相同,而主张各异。各陈己见,由秦王裁定。

### 注释:

①按:按,据有。②顾:反而。③附:得。④谒:告。与国:盟国。⑤完:万全。

帝置酒洛阳南宫。上曰:“通侯诸将,毋敢隐朕,皆言其情<sup>①</sup>。吾所以有天下者何?项氏之所以失天下者何?”高起、王陵对曰:“陛下慢而侮人,项羽仁而敬人。然陛下使人攻城略地,所降下者,因以与之,与天下同利也;项羽妒贤嫉能,有功者害之,贤者疑之,战胜而不与人功,得地而不与人利,此所以失天下也<sup>②</sup>。”上曰:“公知其一,未知其二。夫运筹帷幄之中,决胜千里之外,吾不如子房;镇国家,抚百姓,给饷馈,不绝粮道,吾不如萧何;连百万之众,战必胜,攻必克,吾不如韩信;三者,皆人杰,吾能用之,此吾所以取天下者也<sup>③</sup>。项羽有一范增而不能用,此所以为我擒也。”群臣悦服。

《史记·高祖本纪》

### 题解:

刘邦认为他取得天下,主要是有一批各有专长的谋士,而项羽却不能任用范增。

### 注释:

①情:真实情况。②慢:傲慢。降下:投降和攻下。③给:供应。饷馈:给养。

大夫曰:汉兴以来,修好,结和亲,所聘遗单于者甚厚。然不纪重质厚赂之故改节,而暴害滋甚<sup>①</sup>。先帝睹其可以武折而不可以德怀,故广将帅,招奋击,以诛厥罪;功勋粲然,著于海内,藏于记府。何命亡十获一乎?夫偷安者后危,虑近者忧远,贤者离俗,智士权行<sup>②</sup>。君子所虑,众庶疑焉;故民可与观成,不可与图始<sup>③</sup>。此有司所独见,而文学所不睹。

文学曰:往者,匈奴结和亲,诸夷纳贡,即君臣外内相信,无胡、越之患。当此之时,上求寡而易贖,民安乐而无事。耕田而食,桑麻而衣,家有数年之菑,县官余货财,闾

里耆老或及其泽<sup>④</sup>。自是之后,退文任武,苦师劳众,以略无用之地。立郡沙石之间,民不能自守,发屯乘城,挽辇而贍之<sup>⑤</sup>。愚窃见其亡,不睹其成。

大夫曰:匈奴以虚名市于汉而实不从,数为蛮貊所给,不痛之,何故也<sup>⑥</sup>?高皇帝仗剑定九州,今以九州而不行于匈奴。闾里常民尚有泉散,况万里之主与小国之匈奴乎?夫以天下之力勤何不权?以天下之士民何不服?今有帝名而威不信长城,反赂遗而尚踞敖,此五帝所不忍,三王所毕怒也<sup>⑦</sup>。

文学曰:汤事夏而卒服之,周事殷而卒灭之。故以大御小者王,以强凌弱者亡。圣人不困其众以兼国,良御不困其马以兼道。故造父之御不失和,圣人之治不倍德<sup>⑧</sup>。秦摄利衡以御宇内,执修篁以笞八极,骖服以罢而鞭策愈加,故有倾衡遗篁之变<sup>⑨</sup>。士民非不众,力勤非不多也,皆内倍外附而莫为用<sup>⑩</sup>。此高皇帝所以仗剑而取天下也。夫两主好合,内外交通,天下安宁,世世无患。士民何事,三王何怒焉?

大夫曰:伯翳之始封秦,地为七十里。穆公开霸,孝公广业。自卑至上,自小至大。故先祖基之,子孙成之。轩辕战涿鹿,杀两咩、蚩尤而为帝;汤、武伐夏、商,诛桀、纣而为王<sup>⑪</sup>。黄帝以战成功,汤、武以伐成孝。故手足勤,腹肠之养也。当世之务,后世之利也。今四夷内侵,不攘,万世必有此长患。先帝兴义兵以诛暴强,东灭朝鲜,西定冉駹,南擒百越,北挫强胡;李牧追匈奴以广北州,汤、武之举,蚩尤之兵也。故圣主斥地,非私其利,用兵,非徒奋怒也,所以匡难辟害,以为黎民远虑<sup>⑫</sup>。

文学曰:秦南禽劲越,北却强胡,竭中国以役四夷,人罢极而主不恤,国内溃而上不知。是以一夫倡而天下和,兵破陈涉,地夺诸侯,何嗣之所利?《诗》云:“雍雍鸣鴈,旭日始旦<sup>⑬</sup>。”登得前利,不念后咎;故吴王知伐齐之便,而不知干遂之患;秦知进取之利,而不知鸿门之难。是以知一而不知十



也。周谨小而得大，秦欲大而亡小。语曰：“前车覆，后车戒”，殷监不远，在夏后之世矣。

#### 《盐铁论·结和》

##### 题解：

西汉中期大夫与文学关于兴战和和亲的争论，是不同的对外谋略。

##### 注释：

①质：贄，礼品。②权行：通权达变。  
③图始：虑始。④稽：蓄。⑤乘：守。⑥给(dài)：欺哄。⑦踞：倨。⑧倍：背。  
⑨衡：车辕横木。⑩内：内心。⑪两眸：当为雨师。⑫斥：开辟。⑬鴈(àn)：雁。

夫参署者，集众思广忠益也<sup>①</sup>。若远小嫌，难相违复，旷阙损矣<sup>②</sup>。违复而得中，犹弃弊蹻而获珠玉<sup>③</sup>。然人心苦不能尽，惟徐元直处兹不惑；又董幼宰参署七年，事有不至，至于十反，来相启告<sup>④</sup>。苟能慕元直之十一，幼宰之殷勤，有忠于国，则亮可少过矣。

#### 《诸葛亮集》

##### 题解：

诸葛亮认为参谋军政大事要集思广益，反复商讨，可以少犯错误。

##### 注释：

①参署：参与计议。②违复：提出不同意见反复研究。③蹻(jué)：草鞋。④十反：多次反复。

高祖曰：“军志有之，善用兵者，如常山之蛇，首尾相应<sup>①</sup>。今我师既众，贼徒甚寡，应分贼兵势，以弱制强，何故聚其锋锐，令必死于我？”乃命诸将分处置兵。

#### 《陈书·高祖本纪上》

##### 题解：

陈霸先以首尾相应的蛇战之法，分处设军，击败侯景。

##### 注释：

①军志：兵书。

## (二) 谋略的实质

王若曰：“孟侯，朕其弟，小子封<sup>①</sup>。惟乃丕显考文王，克明德慎罚；不敢侮齔寡，庸庸，衎衎、威威、显民，用肇造我区夏，越我一二邦以修我西土<sup>②</sup>。惟时怙冒，闻于上帝，帝休，天乃大命文王<sup>③</sup>。殪戎殷，诞受厥命越厥邦厥民，惟时叙，乃寡兄勖<sup>④</sup>。肆汝小子封在兹东土<sup>⑤</sup>。”

王曰：“呜呼！封，汝念哉！今民将在祗遘乃文考，绍闻衣德言<sup>⑥</sup>。往敷求于殷先哲王用保乂民，汝丕远惟商考成人宅心知训<sup>⑦</sup>。别求闻由古先哲王用康保民<sup>⑧</sup>。宏于天，若德裕乃身，不废在王命<sup>⑨</sup>。”王曰：“呜呼！小子封，恫瘝乃身，敬哉<sup>⑩</sup>！天畏棗忱，民情大可见；小人难保，往尽乃心<sup>⑪</sup>。无康好逸豫，乃其乂民<sup>⑫</sup>。我闻曰：怨不在大，亦不在小，惠不惠，懋不懋<sup>⑬</sup>。已！汝惟小子，乃服惟宏王应保殷民，亦惟助王宅天命，作新民<sup>⑭</sup>。”

王曰：“呜呼！封，敬明乃罚<sup>⑮</sup>。人有小罪，非眚，乃惟终自作不典；式尔，有厥罪小，乃不可不杀<sup>⑯</sup>。乃有大罪，非终，乃惟眚灾；适尔，既道极厥辜，时乃不可杀<sup>⑰</sup>。”王曰：“呜呼！封，有叙时，乃大明服，惟民其勗懋和<sup>⑱</sup>。若有疾，惟民其毕弃咎；若保赤子，惟民其康乂<sup>⑲</sup>。非汝封刑人杀人，无或刑人杀人；非汝封又曰劓刵人，无或劓刵人<sup>⑳</sup>。”王曰：“外事，汝陈时臬司师，兹殷罚有伦<sup>㉑</sup>。”又曰：“要囚，服念五六日至于旬时，丕蔽要囚<sup>㉒</sup>。”王曰：“汝陈时臬事罚。蔽殷彝，用其义刑义杀，勿庸以次汝封<sup>㉓</sup>。乃汝尽逊曰时叙，惟曰未有逊事<sup>㉔</sup>。已！汝惟小子，未其有若汝封之心<sup>㉕</sup>。朕心朕德，惟乃知。……”

王曰：“封，爽惟民迪吉康，我时其惟殷先哲王德，用康乂民作求<sup>㉖</sup>。矧今民罔迪，不适，不迪，则罔政在厥邦<sup>㉗</sup>。”王曰：“封，予惟不可不监，告汝德之说于罚之行<sup>㉘</sup>。今

惟民不静，未戾厥心，迪屡未同，爽惟天其罚殍我，我其不怨<sup>②</sup>。惟厥罪无在大，亦无在多，矧曰其尚显闻于天<sup>③</sup>。”王曰：“呜呼！封，敬哉！无作怨，勿用非谋非彝蔽时忱<sup>④</sup>。丕则敏德，用康乃心，顾乃德，远乃猷，裕乃以；民宁，不汝瑕殄<sup>⑤</sup>。”

王曰：“呜呼！肆汝小子封，惟命不于常，汝念哉<sup>⑥</sup>！无我殄享，明乃服命，高乃听，用康乂民<sup>⑦</sup>。”王若曰：“往哉！封，勿替敬，典听朕告，汝乃以殷民世享<sup>⑧</sup>。”

#### 《尚书·康诰》

##### 题解：

武王死后，周公摄政，以成王之命平息了殷纣王之子武庚勾结管叔、蔡叔的叛乱，把武庚殷的领地余民封给武王的少弟康叔，作卫君。周公担心康叔年少，就授以治国谋略，教以御民之法，是为《康诰》。周公首言文王、武王崇德慎刑，为康叔树立榜样；次说尚德保民，不要苟安逸乐；又说谨用刑罚，视民如子；再说以德化民，安治殷人；后说须听教命，服从中央。

##### 注释：

①若：如此。孟侯：诸侯之长。封：康叔名。②丕显：大明。考：亡父。克：能。庸庸：用可用。祗(qí)：敬。威：畏。显：光显。肇：始。夏：中夏，今晋陕豫交接处。越：与。修：治。③时：是。怙冒：厚勉。休：嘉善。④殄(yì)：杀。戎：伐。诞：大。时叙：继承父王的事业。寡兄：大兄，指武王。勗(xù)：勉力。⑤肆：所以。⑥迺(yù)：遵循。绍：尽力。衣：殷。⑦敷：普遍。乂(yì)：治。丕：大。惟：思。希(gòu)：老寿。宅：度量。⑧由于。康：平安。⑨若：顺。裕：宽裕。在：哉。⑩恫瘝(guān)：痛病。指劳苦。⑪畏：威，德。棐(fěi)：辅佐。忱：诚信。⑫康：苟安。逸豫：安乐。⑬惠：顺。懋不懋：勉力不努力的。⑭乃：你。服：职事。宏：宽大。应保：受保。宅：顺适。⑮敬：慎重。⑯眚(shěng)：过失。终：经常。典：法。式尔：如此。厥：其。⑰适：如果。道：开导。极：极尽。辜：罪。

⑱叙：顺。时：是，此。服：诚服。勗：同救，诫。⑲毕：尽。咎：过错。赤子：婴孩。⑳劓(yì)：割鼻。刵(èr)：截耳。㉑外事：断案之事。臬(niè)：法。司：管理。师：士师，主狱讼之官。兹：则。伦：条理。㉒要囚：幽囚。服：思。丕：乃。蔽：判断。㉓蔽殷彝：用殷的常法断案。义：宜。庸：用。次：恣，放纵。㉔乃：如果。迺：顺。时叙：承顺。惟：宜，应该。㉕若：顺。㉖爽惟：助词。迪：教导。时：时时。惟：思。㉗矧(shěn)：况且。罔：不。适：向善。在：存。㉘监：监督。于：与。行：道。㉙静：安。戾(lì)：安定。同：和同。殍：诛。㉚尚：还。㉛非谋：不善之谋。非彝：不法之事。蔽：堵塞。㉜丕则：于是。敏德：勉行德教。乃：其。顾：顾念。猷：徭役。裕：足。以：用。瑕殄(tiān)：灭绝。㉝肆：努力。命：天命。不于常：不专佑。㉞殄：拒绝。享：劝告。明：勉力。服：执行。高：谨慎。㉟替：废。典：常。以：与。

无终子嘉父使孟乐如晋，因魏庄子纳虎豹之皮，以请和诸戎<sup>①</sup>。晋侯曰：“戎狄无亲而贪，不如伐之。”魏绛曰：“诸侯新服，陈新来和，将观于我。我德，则睦；否，则携贰<sup>②</sup>。劳师于戎，而楚伐陈，必弗能救，是弃陈也。诸华必叛。戎，禽兽也。获戎失华，无乃不可乎！夏训有之曰：‘有穷后羿——’”公曰：“后羿何如？”对曰：“昔有夏之方衰也，后羿自钅迁于穷石，因夏民以代夏政。恃其射也，不脩民事，而淫于原兽，弃武罗、伯因、熊髡、龙圉，而用寒浞……”

公曰：“然则莫如和戎乎？”对曰：“和戎有利焉：戎狄荐居，贵货易土，土可贾焉，一也<sup>③</sup>。边鄙不耸，民狎其野，穡人成功，二也<sup>④</sup>。戎狄事晋，四邻振动，诸侯威怀，三也<sup>⑤</sup>。以德绥戎，师徒不勤，甲兵不顿，四也<sup>⑥</sup>。鉴于后羿，而用德度，远至迓安，五也。君其图之！”公说，使魏绛盟诸戎。修民事，田以时。

#### 《左传·襄公四年》

### 题解:

魏绛列举五种和戎的利益,说服晋侯跟诸戎媾和。

### 注释:

- ①无终:山戎国名。②携貳:背离。  
③易:轻视。④耸:惧。⑤威怀:慑服。  
⑥顿:坏。

不利而利之,不如利而后利之之利也<sup>①</sup>。不爱而用之,不如爱而后用之之功也。利而后利之,不如利而不利者之利也。爱而后用之,不如爱而不用者之功也。利而不利也、爱而不用也者,取天下者也。利而后利之,爱而后用之者,保社稷者也。不利而利之,不爱而用之者,危国家者也。

《荀子·富国》

### 题解:

只取利不施利,则危害国家,得不到利益。

### 注释:

- ①不利:不给人民利益。利之:向人民取利。

荣辱之大分、安危利害之常体:先义而后利者荣,先利而后义者辱;荣者常通,辱者常穷;通者常制人,穷者常制于人,是荣辱之大分也<sup>①</sup>。材悷者常安利,荡悍者常危害;安利者常乐易,危害者常忧险;乐易者常寿长,忧险者常夭折,是安危利害之常体也<sup>②</sup>。……

材性知能,君子、小人一也。好荣恶辱,好利恶害,是君子、小人之所同也,若其所以求之之道则异矣。小人也者,疾为诞而欲人之信己也,疾为诈而欲人之亲己也,禽兽之行而欲人之善己也<sup>③</sup>。虑之难知也,行之难安也,持之难立也,成则必不得其所好,必遇其所恶焉<sup>④</sup>。故君子者,信矣,而亦欲人之信己也;忠矣,而亦欲人之亲己也;修正治辨矣,而亦欲人之善己也。虑之易知也,行之易安也,持之易立也,成则必得其所好,必不遇其所恶焉,是故穷则不隐,通则大明,身死而名弥白<sup>⑤</sup>。小人莫不延颈举踵而愿

曰:“知虑材性,固有以贤人矣!”夫不知其与自己无以异也,则君子注错之当,而小人注错之过也<sup>⑥</sup>。故熟察小人之知能,足以知其有余可以为君子之所为也。譬之越人安越,楚人安楚,君子安雅,是非知能材性然也,是注错习俗之节异也<sup>⑦</sup>。

《荀子·荣辱》

### 题解:

利害关系是普遍存在的,朴素谨慎则获得利益。好利恶害,君子和小人是相同的,只是谋求的方式不一样。

### 注释:

- ①分:界限。②材悷(què):谨慎。荡悍:放荡凶悍。③知:智。疾:尽力。诞:妄诞。  
④知:为,做。成:终,结果。⑤修正:身心修整。治辨:事业完成。白:彰著。⑥踵:脚跟。愿:羡慕。贤人:贤过于人。注错:措置。  
⑦安:习惯。雅:正。是:此。习俗:习惯。节:节制。

齐攻宋,宋使臧孙子南求救于荆,荆大说,许救之,甚劝,臧孙子忧而反<sup>①</sup>。其御曰:“索救而得,今子有忧色,何也?”臧孙子曰:“宋小而齐大,夫救小宋而恶于大齐,此人之所以忧也,而荆王说,必以坚我也<sup>②</sup>。我坚而齐敝,荆之所利也<sup>③</sup>。”臧孙子乃归。齐人拔五城于宋而荆救不至。

魏文侯借道于赵而攻中山,赵肃侯将不许<sup>④</sup>。赵刻曰:“君过矣,魏攻中山而弗能取,则魏必罢,罢则魏轻,魏轻则赵重<sup>⑤</sup>。魏拔中山,必不能越赵而有中山也。是用兵者魏也,而得地者赵也。君必许之。许之而大欢,彼将知君利之也,必将辍行,君不如借之道,示以不得已也<sup>⑥</sup>。”

《韩非子·说林上》

### 题解:

楚国答应救宋,赵国答应借道给魏,都是从本国的利益出发。

### 注释:

①劝: 起劲。反: 返。 ②坚我: 指坚定我们抗齐的决心。 ③敝: 破败。 ④许: 答应。 ⑤罢: 疲。 ⑥已: 停止。

仁于他物, 不仁于人, 不得为仁。不仁于他物, 独仁于人, 犹若为仁。仁也者, 仁乎其类者也。故仁人之于民也, 可以使之, 无不行也<sup>①</sup>。

神农之教曰: “土有当年而不耕者, 则天下或受其饥矣; 女有当年而不绩者, 则天下或受其寒矣<sup>②</sup>。”故身亲耕, 妻亲织, 所以见致民利也。

贤人之不远海内之路, 而时往来乎王公之朝, 非以要利也, 以民为务故也。人主有能以民为务者, 则天下归之矣。

王也者, 非必坚甲利兵选卒练士也, 非必隳人之城郭, 杀人之士民也<sup>③</sup>。

上世之王者众矣, 而事皆不同, 其当世之急, 忧民之利, 除民之害同<sup>④</sup>。

民寒则欲火, 暑则欲冰, 燥则欲湿, 湿则欲燥。寒暑燥湿相反, 其于利民一也<sup>⑤</sup>。利民岂一道哉? 当其时而已矣!

《吕氏春秋·爱类》

### 题解:

强调统治者要“以民为务”, “忧民之利, 除民之害”。

### 注释:

①便: 利。 ②绩: 纺织。 ③隳(huī): 毁坏。 ④事: 治。当: 处理。 ⑤一: 一样。

凡兵之用也, 用于利, 用于义。攻乱则脆, 脆则攻者利; 攻乱则义, 义则攻者荣<sup>①</sup>。荣且利, 中主犹且为之, 况于贤主乎!

故割地宝器, 卑辞屈服, 不足以止攻, 惟治为足。治则为利者不攻矣, 为名者不伐矣。凡人之攻伐也, 非为利则因为名也, 名实不得, 国虽强大者, 曷为攻矣? 解在乎史墨来而辍不袭卫, 赵简子可谓知动静矣<sup>②</sup>!

《吕氏春秋·应同》

### 题解:

凡是攻伐别国, 皆为牟利图名。

### 注释:

①脆: 脆弱易破。 ②辍: 停止。

大夫曰: 司马子言: “天下穰穰, 皆为利往<sup>①</sup>。赵女不择丑好, 郑姬不择远近, 商人不媿耻辱, 戎士不爱死, 力士不在亲, 事君不避其难, 皆为利禄也<sup>②</sup>。”儒、墨内贪外矜, 往来游说, 栖栖然亦未为得也<sup>③</sup>。故尊荣者士之愿也, 富贵者士之期也。方李斯在荀卿之门, 闻茸与之齐轸, 及其奋翼高举, 龙升骥騄, 过九轶二, 翱翔万仞, 鸿鹄华骝且同侣, 况跛牂燕雀之属乎<sup>④</sup>! 席天下之权, 御宇内之众, 后车百乘, 食禄万钟, 而拘儒布褐不完, 糟糠不饱, 非甘菽藿而卑广厦, 亦不能得已<sup>⑤</sup>。虽欲吓人, 其何已乎<sup>⑥</sup>!

《盐铁论·毁学》

### 题解:

各行各业之人不惜死、不避难, 皆以利益为根本。

### 注释:

①穰穰(ràng): 纷错的样子。 ②媿: 愧。 ③外矜: 表面上庄重。栖栖然: 忙碌不安的样子。 ④闻(tà)茸: 卑贱。轸(zhěn): 车。轶(yì): 超。华骝(liú): 良马。跛牂(bō zāng): 瘸母羊。 ⑤席: 掌握。菽藿(shú huò): 豆叶。 ⑥已: 以, 用。

然欲孤便尔委捐所典兵众, 以还执事, 归就武平侯国, 实不可也<sup>①</sup>。何者? 诚恐己离兵为人所祸也。既为子孙计, 又己败则国家倾危, 是以不得慕虚名而处实祸, 此所不得为也。前朝恩封三子为侯, 固辞不受, 今更欲受之, 非欲复以为荣, 欲以为外援为万安计。孤闻介推之避晋封, 申胥之逃楚赏, 未尝不舍书而叹, 有以自省也<sup>②</sup>。奉国威灵, 仗钺征伐, 推弱以克强, 处小而禽大, 意之所图, 动无违事, 心之所虑, 何向不济<sup>③</sup>? 遂荡平天下, 不辱主命, 可谓天助汉室, 非人力也。然封兼四县, 食户三万, 何德堪之! 江湖未静, 不可让位; 至于邑土, 可得而

辞<sup>④</sup>。今上还阳夏、柘、苦三县户二万，但食武平万户，且以分损谤议，少减孤之责也。

《魏武故事·让县自明本志令》

题解：

曹操在这篇文告里，直言不讳地宣称三个儿子接受封侯，是为万安计，位不可让，而食邑可让还，一切都是为了整体利益。

注释：

①委捐：放弃。典：主管。②介推：介子推。申胥：申包胥。③威灵：声威。济：成功。④江湖：天下。

### (三) 谋略能力的构成

#### 1. 观察与思考力

帝曰：“咨！四岳。朕在位七十载，汝能庸命，巽朕位<sup>①</sup>。”岳曰：“否德，忝帝位<sup>②</sup>。”曰：“明明，扬侧陋<sup>③</sup>。”师锡帝曰：“有齔在下，曰虞舜<sup>④</sup>。”帝曰：“兪！予闻，如何<sup>⑤</sup>？”岳曰：“瞽子。父顽，母嚚，象傲，克谐<sup>⑥</sup>。以孝烝烝，乂不格奸<sup>⑦</sup>。”帝曰：“我其试哉！女于时，观厥刑于二女<sup>⑧</sup>。”釐降二女于妫汭，嫔于虞<sup>⑨</sup>。”帝曰：“钦哉！”慎徽五典，五典克从<sup>⑩</sup>。纳于百揆，百揆时叙<sup>⑪</sup>。宾于四门，四门穆穆<sup>⑫</sup>。纳于大麓，烈风雷雨弗迷<sup>⑬</sup>。帝曰：“格！汝舜。询事考言，乃言底可绩。三载，汝陟帝位<sup>⑭</sup>。”舜让于德，弗嗣。

《尚书·尧典》

题解：

尧选用继承人的谋略，了解舜的品德，从女儿那里观察他的礼法，在各种政事中考核他的能力，作风，然后决定禅让帝位。

注释：

①朕：我。庸：用。巽(xùn)：践。②否(pi)德：鄙劣的品德。忝(tiǎn)：辱。③明明：察举贤能之士，上“明”字为明察；下“明”字指明德

之人。扬：举拔。侧陋：有才德而居于卑微地位的人。④师：众。锡：与，赐。齔(guān)：指疾苦之人。虞舜：传说中的古帝。⑤兪：然，是。

⑥瞽子：乐官瞽叟之子。顽：不依德义。嚚(yīn)：愚蠢。象：舜的异母弟。克：能。谐：和顺。

⑦烝烝(zhēng)：厚美。乂(yì)：治。格：至。奸：恶。⑧试：任用。女：嫁女。时：是，指舜。厥：他。刑：法。二女：尧的两个女儿，长曰娥皇，次曰女英。⑨釐：飭，命令。降：下嫁。妫汭(guī ruì)：妫水弯曲的地方，约在今山西永济县南，舜曾居此。嫔(pīn)：帝王女儿出嫁。

⑩慎徽：慎重完善。五典：五种常法，即父义、母慈、兄友、弟恭、子孝。从：顺从，指人民不违其教。⑪纳：纳入。百揆：百官。时叙：承顺。

⑫宾：引导宾客。四门：指明堂的四门。穆穆：肃敬恭谨。⑬大麓：山林之官。迷：误。⑭格：来。询：谋画。考：考核。乃：你。底(zhǐ)：致，使达到。绩：成。陟(zhì)：升。

辨莫大于分，分莫大于礼，礼莫大于圣王。圣王有百，吾孰法焉？故曰：文久而息，节族久而绝，守法数之有司极礼而褻<sup>①</sup>。故曰：欲观圣王之迹，则于其粲然者矣，后王是也<sup>②</sup>。彼后王者，天下之君也，舍后王而道上古，譬之是犹舍己之君而事人之君也。故曰：欲观千岁，则数今日；欲知亿万，则审一二；欲知上世，则审周道；欲知周道，则审其人，所贵君子<sup>③</sup>。故曰：以近知远，以一知万，以微知明。此之谓也。……

圣人何以不可欺？曰：圣人者，以己度者也<sup>④</sup>。故以人度人，以情度情，以类度类，以说度功，以道观尽，古今一也<sup>⑤</sup>。类不悖，虽久同理。故乡乎邪曲而不迷，观乎杂物而不惑，以此度之<sup>⑥</sup>。五帝之外无传人，非无贤人也，久故也；五帝之中无传政，非无善政也，久故也；禹、汤有传政而不若周之察也，非无善政也，久故也<sup>⑦</sup>。传者久则论略，近则论详。略则举大，详则举小。愚者闻其略而不知其详，闻其细而不知其大也。是以文久而灭，节族久而绝。

《荀子·非相》

### 题解:

只有善于观察,善于度量,才能由近知远,由一知万,由隐微知显著。

### 注释:

①分:上下亲疏之分。节:法度。族:衍文。礼:衍文。褻(chī):废弛。②粲然:明白的样子。③周道:周代的道术。④度:度量。⑤类:事类。说:意义。功:作用。尽:全面。⑥乡:面对。⑦察:详明。

观国之治乱臧否,至于疆易而端已见矣<sup>①</sup>。其候微支繇,其竟关之政尽察,是乱国已<sup>②</sup>。入其境,其田畴秽,都邑露,是贪主已<sup>③</sup>。观其朝廷,则其贵者不贤;观其官职,则其治者不能;观其便嬖,则其信者不恣:是暗主已。凡主相臣下百吏之俗,其于货财取与计数也,须孰尽察;其礼义节奏也,芒轲侵桡,是辱国已<sup>④</sup>。其耕者乐田,其战士安难,其百吏好法,其朝廷隆礼,其卿相调议,是治国已。观其朝廷,则其贵者贤;观其官职,则其治者能;观其便嬖,则其信者恣:是明主已。凡主相臣下百吏之属,其于货财取与计数也,宽饶简易;其于礼义节奏也,陵谨尽察,是荣国已<sup>⑤</sup>。贤齐则其亲者先贵;能齐则其故者先官;其臣下百吏,污者皆化而脩,悍者皆化而愿,躁者皆化而恣:是明主之功已<sup>⑥</sup>。

观国之强弱贫富有征验:上不隆礼则兵弱,上不爱民则兵弱,已诺不信则兵弱,庆赏不渐则兵弱,将率不能则兵弱<sup>⑦</sup>。上好功则国贫,上好利则国贫,士大夫众则国贫,工商众则国贫,无制数度量则国贫。下贫则上贫,下富则上富。故田野县鄙者财之本也,垣窳仓廩者财之末也;百姓时和、事业得叙者货之源也,等赋府库者货之流也。故明主必谨养其和、节其流、开其源、而时斟酌焉。潢然使天下必有余,而上不忧不足<sup>⑧</sup>。如是,则上下俱富,交无所藏之,是知国计之极也。故禹十年水,汤七年旱,而天下无菜色者,十年之后,年谷复熟,而陈积有余,是无它故焉,知本末源流之谓也。故田野荒

主而廩实,百姓虚而府库满,夫是之谓国蹶<sup>⑨</sup>。伐其本,竭其源,而并之其末,然而主相不知恶也,则其倾覆灭亡可立而待也<sup>⑩</sup>。以国持之而不足以容其身,夫是之谓至贪,是愚主之极也<sup>⑪</sup>。将以求富而丧其国,将以求利而危其身,古有万国,今九十数焉,是无它故焉,其所以失之一也。君人者,亦可以觉矣。

《荀子·富国》

### 题解:

国家的治乱好坏、贫弱强富,观察其方方面面就可得知。

### 注释:

①臧否(pǐ):好坏。易:埒,边境。②候:斥候,哨兵。微(jiào):巡逻。支繇:到达巡察。竟:境。③秽:荒芜。露:败坏。④便嬖(pián bì):左右宠信的人。信:亲信。恣(zì):诚谨。须孰:驯熟。芒:昧,不懂。轲(rèn):懒散。慢:慢。桡(kū):恶劣。⑤安难:不避艰难。调议:协调谋议。陵:严明。⑥脩:修,善。愿:谨慎。躁:狡猾。⑦渐:进。率:帅。⑧窳:窖。时和:以时耕作得自然之利。潢然:形容多。⑨菜色:饥色。蹶:倾覆。⑩并:聚。⑪贪:疑作“贫”。

智术之士,必远见而明察,不明察,不能烛私;能法之士,必强毅而劲直,不劲直,不能矫奸<sup>①</sup>。人臣循令而从事,案法而治官,非谓重人也<sup>②</sup>。重人也者,无令而擅为,亏法以利私,耗国以便家,力能得其君,此所为重人也<sup>③</sup>。智术之士明察,听用,且烛重人之阴情;能法之士劲直,听用,且矫重人之奸行<sup>④</sup>。故智术能法之士用,则贵重之臣必在绳之外矣,是智法之士与当涂之人,不可两存之仇也<sup>⑤</sup>。

当涂之人擅事要,则外内为之用矣<sup>⑥</sup>。是以诸侯不因,则事不应,故敌国为之讼;百官不因,则业不进,故群臣为之用;郎中不因,则不得近主,故左右为之匿;学士不因,则养禄薄礼卑,故学士为之谈也<sup>⑦</sup>。此四助者,邪臣之所以自饰也<sup>⑧</sup>。重人不能忠

主而，其仇，人主不能越四助而烛察其臣，故人主愈弊而大臣愈重<sup>⑨</sup>。

凡当涂者之于人主也，希不信爱也，又且习故<sup>⑩</sup>。若夫即主心，同乎好恶，固其所自进也，官爵贵重，朋党又众，而一国为之讼<sup>⑪</sup>。则法术之士欲干上者，非有所信爱之亲、习故之泽也，又将以法术之言矫人主阿辟之心，是与人主相反也，处势卑贱，无党孤特<sup>⑫</sup>。夫以疏远与近爱信争，其数不胜也；以新旅与习故争，其数不胜也；以反主意与同好恶争，其数不胜也；以轻贱与贵重争，其数不胜也；以一口与一国争，其数不胜也<sup>⑬</sup>。法术之士操五不胜之势，以岁数而又不得见；当涂之人乘五胜之资，而旦暮独说于前<sup>⑭</sup>。故法术之士奚道得进，而人主奚时得悟乎？故资必不胜而势不两存，法术之士焉得不危？其可以罪过诬者，以公法而诛之；其不可被以罪过者，以私剑而穷之<sup>⑮</sup>。是明法术而逆主上者，不僂于吏诛，必死于私剑矣<sup>⑯</sup>。朋党比周以弊主，言曲以便私者，必信于重人矣。故其可以功伐借者，以官爵贵之；其不可借以美名者，以外权重之<sup>⑰</sup>。是以蔽主上而趋于私门者，不显于官爵，必重于外权矣。今人主不合参验而行诛，不待见功而爵禄，故法术之士安能蒙死亡而进其说？奸邪之臣安肯乘利而退其身？故主上愈卑，私门益尊<sup>⑱</sup>。

《韩非子·孤愤》

#### 题解：

治国者要明察、“烛私”，以免结党营私者专权蔽主。

#### 注释：

①矫：矫正。②案：按。治官：履行职责。③得：控制。④听用：听取任用。⑤当涂：掌权。⑥要：关键。⑦因：依靠。⑧饰：掩饰。⑨弊：蔽。⑩希：稀。习故：亲昵熟悉。⑪讼：赞扬。⑫阿辟：邪僻。⑬数：常理。⑭数：计算。⑮私剑：刺客。⑯僂：戮。⑰比周：勾结。

凡人臣之所道成奸者有八术：一曰在同

床。何谓同床？曰：贵夫人，爱孺子，便僻好色，此人主之所惑也<sup>①</sup>。托于燕处之虞，乘醉饱之时，而求其所欲，此必听之术也。为人臣者内事之以金玉，使惑其主，此之谓“同床”<sup>②</sup>。二曰在旁。何谓在旁？曰：优笑侏儒，左右近习，此人主未命而唯唯，未使而诺诺，先意承旨，观貌察色以先主心者也<sup>③</sup>。此皆俱进俱退，皆应皆对，一辞同轨以移主心者也<sup>④</sup>。为人臣者内事之以金玉玩好，外为之行不法，使之化其主，此之谓“在旁”<sup>⑤</sup>。三曰父兄。何谓父兄？曰：侧室公子，人主之所亲爱也；大臣廷吏，人主之所与度计也<sup>⑥</sup>。此皆尽力毕议，人主之所必听也<sup>⑦</sup>。为人臣者事公子侧室以音声子女，收大臣廷吏以辞言，处约言事，事成则进爵益禄，以劝其心，使犯其主，此之谓“父兄”<sup>⑧</sup>。四曰养殃。何谓养殃？曰：人主乐美宫室台池，好饰子女狗马以娱其心，此人主之殃也<sup>⑨</sup>。为人臣者尽民力以美宫室台池，重赋敛以饰子女狗马，以娱其主而乱其心，从其所欲，而树私利其间，此谓“养殃”<sup>⑩</sup>。五曰民萌<sup>⑪</sup>。何谓民萌？曰：为人臣者散公财以说民人，行小惠以取百姓，使朝廷市井皆劝誉己，以塞其主而成其所欲，此之谓“民萌”<sup>⑫</sup>。六曰流行。何谓流行？曰：人主者，固塞其言谈，希于听论议，易移以辩说<sup>⑬</sup>。为人臣者求诸侯之辩士，养国中之能说者，使之以语其私。为巧文之言，流行之辞，示之以利势，惧之以患害，施属虚辞以坏其主，此之谓“流行”<sup>⑭</sup>。七曰威强。何谓威强？曰：君人者，以群臣百姓为威强者也<sup>⑮</sup>。群臣百姓之所善，则君善之；非群臣百姓之所善，则君不善之。为人臣者，聚带剑之客，养必死之士，以彰其威，明为己者必利，不为己者必死，以恐其群臣百姓而行其私，此之谓“威强”<sup>⑯</sup>。八曰四方。何谓四方？曰：君人者，国小则事大国，兵弱则畏强兵。大国之所索，小国必听；强兵之所加，弱兵必服。为人臣者，重赋敛，尽府库，虚其国以事大国，而用其威求诱其君；甚者举兵以聚

边境而制斂于内，薄者数内大使以震其君，使之恐惧，此之谓“四方”<sup>①</sup>。凡此八者，人臣之所以道成奸，世主所以壅劫，失其所有也，不可不察焉<sup>②</sup>。

明君之于内也，娱其色而不行其谒，不使私请<sup>③</sup>。其于左右也，使其身必责其言，不使益辞<sup>④</sup>。其于父兄大臣也，听其言也必使以罚任于后，不令妄举<sup>⑤</sup>。其于玩乐玩好也，必令之有所出，不使擅进擅退，不使群臣虞其意<sup>⑥</sup>。其于德施也，纵禁财，发坟仓，利于民者，必出于君，不使人臣私其德<sup>⑦</sup>。其于说议也，称誉者所善，毁疵者所恶，必实其能，察其过，不使群臣相为语<sup>⑧</sup>。其于勇力之士也，军旅之功无逾赏，邑斗之勇无赦罪，不使群臣行私财<sup>⑨</sup>。其于诸侯之求索也，法则听之，不法则距之<sup>⑩</sup>。所谓亡君者，非莫有其国也，而有之者皆非己有也。令臣以外为制于内，则是君人者亡也。听大国为救亡也，而亡亟于不听，故不听。群臣知不听，则不外诸侯，诸侯知不听，则不受臣之诬其君矣<sup>⑪</sup>。

《韩非子·八奸》

#### 题解：

揭露了内奸八种篡夺君权的阴谋手段，告诫君主不可不察。

#### 注释：

- ①孺子：美女。便(pián)僻：逢迎谄媚。  
②燕处：安居。虞：娱。③近习：宠幸的人。  
④移：改变。⑤化：影响。⑥度计：谋画。  
⑦毕：尽。⑧约：关键。⑨美：修饰。  
⑩从：顺从。⑪萌：氓。⑫塞：蒙蔽。⑬固雍：闭塞。⑭施属：编造。⑮以：靠。  
⑯彰：显扬。⑰内：纳。⑱劫：挟制。  
⑲谒：陈述。⑳益：扩大。㉑任：担保。  
㉒虞：猜度。㉓坟：大。㉔恶：憎。㉕逾：越。㉖距：拒。㉗亟(jì)：快。诬：欺骗。

事多似倒而顺，多似顺而倒；有知顺之为倒倒之为顺者，则可与言化矣；至长反短，至短反长，天之道也，荆庄王欲伐陈，使人视之，使者曰：“陈不可伐也！”庄王曰：“何

故？”对曰：“城郭高，沟洫深，蓄积多也<sup>①</sup>。”宁国曰：“陈可伐也，夫陈小国也，而蓄积多，赋斂重也，则民怨上矣！城郭高，沟洫深，则民力罢矣！兴兵伐之，陈可取也。”庄王听之，遂取陈焉。

《吕氏春秋·似顺论》

#### 题解：

对同一现象分析出两种不同的结果，关键在于善思。

#### 注释：

- ①洫(xù)：水沟。

使人大迷惑者，必物之相似也。玉人之所患，患石之似玉者。相剑者之所患，患剑之似吴干者；贤主之所患，患人之博闻辩言而似通者；亡国之主似智，亡国之臣似忠；相似之物，此愚者之所大惑，而圣人之所加虑也，故墨子见歧道而哭之<sup>①</sup>。

梁北有黎丘部，有奇鬼焉，喜效人之子侄昆弟之状；邑丈人有之市而醉归者，黎丘之鬼，效其子之状，扶而道苦之；丈人归，酒醒而诮其子，曰：“吾为汝父也，岂谓不慈哉！我醉，汝道苦我，何故？”其子泣而触地曰：“孽矣！无此事也！昔也往责于东邑人可问也<sup>②</sup>。”其父信之，曰：“嘻！是必夫奇鬼也，我固尝闻之矣！”明日端复饮于市，欲遇而刺杀之，明旦之市而醉，其真子恐其父之不能反也，遂逝迎之<sup>③</sup>。丈人望其真子，拔剑而刺之。

丈人智惑于似其子者，而杀其真子。夫惑于似士者，而失于真士，此黎丘丈人之智也。疑似之迹，不可不察，察必于其人也。

舜为御，尧为左，禹为右，入于泽而问牧童，入于水而问渔师，奚故也？其知之审也。

夫李子之相似者，其母常识之，知之审也。

《吕氏春秋·疑似》



### 题解:

事物常有像似之处,须仔细辨察,切莫被表面现象所迷惑而主观臆断。

### 注释:

- ①吴干:干将,名剑。②责:诘问。  
③逝:往。

孔子曰:“众善焉,必察之;众恶焉,必察之。”孟轲云:“尧、舜不胜其美,桀、纣不胜其恶。传言失指,图景失形<sup>①</sup>。”众口铄金,积毁消骨,久矣其患之也。是故乐正后夔有一足之论,晋师己亥渡河,有三豕之文,非夫大圣至明,孰能原析之乎<sup>②</sup>?论语:“名不正则言不顺。”易称:“失之毫厘,差以千里。”故纠其谬曰正失也。

《风俗通义·正失》

### 题解:

明察才能掌握真情,不听信传言,因为失之毫厘,则差以千里。

### 注释:

- ①指:原意。景:影。②己亥:古字与三豕相近。

鄙谚曰:“前事之不忘,后事之师也<sup>①</sup>。”是以君子为国,观之上古,验之当世,参之人事,察盛衰之理,审权势之宜,去就有序,变化因时,故旷日长久而社稷安矣<sup>②</sup>。

《贾谊集·新书·过秦下》

### 题解:

治理国家,要借鉴上古,参验当代,根据时势加以变化。

### 注释:

- ①鄙谚:谚语。②因:根据。旷日:长时间。

楚材奏:“凡州郡宜令长吏专理民事,万户总军政,凡所掌课税,权贵不得侵之。”又举镇海、粘合,均与之同事,权贵不能平。咸得卜以旧怨,尤疾之,潜于宗王曰:“耶律中书令率用亲旧,必有二心,宜奏杀之<sup>①</sup>。”宗王遣使以闻,帝察其诬,责使者,罢遣之<sup>②</sup>。

《元史·耶律楚材传》

### 题解:

元太宗并不听谗即信,而是明察之后才作出决定。

### 注释:

- ①谮(zèn):进谗言。②诬:说谎。

贪人廉,淫人洁,佞人直,非终然也,规有济焉尔<sup>①</sup>。王莽拜侯,让印不受,假僭皇命,得玺而喜,以廉济贪者也。晋王广求为冢嗣,管弦遏密,尘埃被之,陪扈未几,而声色丧邦,以洁济淫者也<sup>②</sup>。郑注开陈治道,激昂颜辞,君民翕然,倚以致平,卒用奸败,以直济佞者也<sup>③</sup>。呜呼!“知人则哲,惟帝其难也”,古今一也。

《临川先生文集》

### 题解:

阴谋家都善于伪装,所以要明察,要透过表面,知其本质。

### 注释:

- ①规:伪装。济:成功。②陪扈(yì):指皇帝座位。③翕(xi)然:一致。

余尝见明初逸史,明太祖训臣之语曰:“汝曹辄称尧、舜主,主苟非圣,何敢谏为圣?主已圣矣,臣愿已遂矣,当加以吁咈,自居皋、契之义<sup>①</sup>。朝见而尧舜之,夕见而尧舜之,为尧舜者,岂不亦厌于听闻乎?”又曰:“幸而朕非尧舜耳。朕为尧舜,乌有汝曹之皋、夔、稗、契哉<sup>②</sup>?其不为共工、驩兜,为尧舜之所流放者几希!”此真英主之言也。

《龚自珍全集·明良论二》

### 题解:

朱元璋训诫群臣切勿阿谀奉承,要他们提出不同意见,可谓明智。

### 注释:

- ①吁咈(xū fú):否定。②乌:何。

## 2. 远见与预测力

呜呼!皇天上帝改厥元子,兹大国殷之命<sup>①</sup>。惟王受命,无疆惟休,亦无疆惟恤<sup>②</sup>。呜呼!曷其奈何弗敬<sup>③</sup>?天既遐终大邦殷之

命，兹殷多先哲王在天，越厥后王后民，兹服厥命<sup>①</sup>。厥终，智藏瘝在<sup>②</sup>。夫知保抱携持厥妇子，以哀吁天，徂厥亡，出执<sup>③</sup>。呜呼！天亦哀于四方民，其眷命用懋，王其疾敬德<sup>④</sup>！相古先民有夏，天迪从子保；面稽天若，今时既坠厥命<sup>⑤</sup>。今相有殷，天迪格保，面稽天若，今时既坠厥命<sup>⑥</sup>。今冲子嗣，则无遗寿考，曰其稽我古人之德，矧曰其有能稽谋自天<sup>⑦</sup>？

呜呼！有王虽小，元子哉。其丕能诚于小民<sup>⑧</sup>。今休：王不敢后，用顾畏于民彝，王来绍上帝，自服于土中<sup>⑨</sup>。旦曰：“其作大邑，其自时配皇天，毖祀于上下，其自时中义；王厥有成命治民<sup>⑩</sup>。”今休：王先服殷御事，比介于我有周御事，节性惟日其迈<sup>⑪</sup>。

王敬作，所不可不敬德<sup>⑫</sup>。我不可不监于有夏，亦不可不监于有殷<sup>⑬</sup>。我不敢知曰：有夏服天命，惟有历年；我不敢知曰：不其延<sup>⑭</sup>。惟不敬厥德，乃早坠厥命。我不敢知曰：有殷受天命，惟有历年；我不敢知曰：不其延。惟不敬厥德，乃早坠厥命。今王嗣受厥命，我亦惟兹二国命，嗣若功<sup>⑮</sup>。王乃初服，呜呼！若生子，罔不在厥初生，自貽哲命<sup>⑯</sup>。今天其命哲，命吉凶，命历年；知今我初服，宅新邑，肆惟王其疾敬德<sup>⑰</sup>？王其德之用，祈天永命<sup>⑱</sup>。其惟王勿以小民淫用非彝，亦敢殄戮用乂民，若有功<sup>⑲</sup>。其惟王位在德元，小民乃惟刑用于天下，越王显<sup>⑳</sup>。上下勤恤，其曰我受天命，丕若有夏历年，式勿替有殷历年，欲王以小民受天永命<sup>㉑</sup>。

拜手稽首，曰：予小臣敢以王之隤民百君子越友民，保受王威命明德<sup>㉒</sup>。王末有成命，王亦显<sup>㉓</sup>。我非敢勤，惟恭奉币，用供王能祈天永命<sup>㉔</sup>。

《尚书·召诰》

题解：

周成王派武王旧臣召(shào)公营建洛邑。当成王和周公前来视察新邑时，召公向成王陈述当前之忧，并勉励他敬德恤民以光

显王业。召公之言，祈天永命，中心在德与民二字，是一篇谋深虑远的治国方略。文王、武王、周公治天下的大法，全在于此。

注释：

①改：变革。厥：其。元：首。兹：终止。  
②休：美。恤：忧。③敬：慎重。④遐：文。兹殷：此殷。越：助词。兹服：则受。⑤厥终：指纣之末年。瘝(guān)：病，指谗奸。⑥夫：人。徂：诅咒。⑦哀：怜悯。眷：眷顾。懋：转移。疾：速。⑧相：观察。迪：用。子：慈。面：勉力。稽：考求。天若：天意。坠：失掉。⑨格：嘉。⑩冲子：指成王。遗：多余。寿考(gòu)：老成人。曰：助词。矧(shèn)：况且。⑪丕：大。诚(xián)：和协。⑫休：美善。后：迟缓。鲁(yán)：险，困苦。绍：卜问。服：治。土中：洛邑。⑬旦：周公。其：庶几。时：是。毖：慎。上下：天神地祇。中：中心，指洛邑。乂(yì)：治。厥：助词。成命：不移之命。⑭先：重视。服：用。御事：治事之臣。比介：接近。节性：和谐之性。迈：进。⑮作：立为君。所：且。⑯监：借鉴。⑰服：受。历：多。延：长。⑱嗣：继。兹：此。⑲服：治事。生：教养。罔：无。貽：传。哲命：明哲之命。⑳命：给予。吉凶：吉。历年：永年。宅：建筑。肆：今。疾：速。㉑祈：祈求。㉒以：使。淫：过分。彝：法。殄(tiǎn)：灭。用：以。若：乃。㉓位：立。刑：效法。越：发扬。显：光显。㉔式：助词。替：废。以：与。㉕稽首：叩头至地。以：与。隤民：指殷的臣民。越：与。保：安。㉖末：终。成命：已定的天命。㉗币：礼品。供：进献。能：善。

其安易持，其未兆易谋；其脆易泮，其微易散；为之于未有，治之于未乱<sup>①</sup>。合抱之木，生于毫末；九层之台，起于累土；千里之行，始于足下<sup>②</sup>。民之从事，常于几成而败之<sup>③</sup>。慎终如始，则无败事。

《老子·六十四章》

### 题解:

重视祸患的根源,在祸乱发生之前,先有预见,先作预防。

### 注释:

①兆:事情发生前的迹象。泮:判,消解。

②累土:一堆土。③几:近。

君子以俭德辟难,不可荣以禄<sup>①</sup>。

《周易大传·否象》

君子以教思无穷,容保民无疆<sup>②</sup>。

《周易大传·临象》

君子以多识前言往行,以畜其德<sup>③</sup>。

《周易大传·大畜象》

日月得天而能久照,四时变化而能久成;圣人久于其道,而天下化成;观其所恒,而天地万物之情可见矣<sup>④</sup>。

《周易大传·恒象》

君子以顺德,积小以高大<sup>⑤</sup>。

《周易大传·升象》

### 题解:

设谋不能目光短浅,不可被利禄迷惑,而要遵循德行,掌握宇宙规律,教育关心民众,就会受用无尽。

### 注释:

①辟:避。荣:营,诱惑。②教:教育。

思:关心。容:包容。③识:记住。前言往行:古人的言行。畜:蓄。④观:考察。恒:永恒性。⑤顺:遵循。

楚文王伐申,过邓。邓祁侯曰:“吾甥也。”止而享之<sup>①</sup>。驺甥、聃甥、养甥请杀楚子。邓侯弗许。三甥曰:“亡邓国者,必此人也。若不早图,后君噬齐<sup>②</sup>。其及图之乎!图之,此为时矣。”邓侯曰:“人将不食吾余<sup>③</sup>。”对曰:“若不从三臣,抑社稷实不血食,而君焉取余<sup>④</sup>?”弗从。还年,楚子伐邓<sup>⑤</sup>。十六年,楚复伐邓,灭之。

《左传·庄公六年》

晋侯复假道于虞以代虢。宫之奇谏曰:“虢,虞之表也,虢亡,虞必从之<sup>⑥</sup>。晋不可启,寇不可翫<sup>⑦</sup>。一之谓甚,其可再乎?谚所谓‘辅车相依,唇亡齿寒’者,其虞虢之

谓也<sup>⑧</sup>。”

公曰:“晋,吾宗也,岂害我哉<sup>⑨</sup>?”对曰:“大伯、虞仲,大王之昭也;大伯不从,是以不嗣;虢仲、虢叔,王季之穆也;为文王卿士;勋在王室,藏于盟府<sup>⑩</sup>。将虢是灭,何爱于虞?且虞能亲于桓庄乎,其爱之也<sup>⑪</sup>?桓庄之族何罪,而以为戮?不唯倡乎<sup>⑫</sup>?亲以宠偪,犹尚害之,况以国乎<sup>⑬</sup>?”

公曰:“吾享祀丰絜,神必据我<sup>⑭</sup>。”对曰:“臣闻之:鬼神非人实亲,惟德是依……如是,则非德民不和,神不享矣。神所冯依,将在德矣<sup>⑮</sup>。若晋取虞,而明德以荐馨香,神其吐之呼<sup>⑯</sup>?”

弗听,许晋使。宫之奇以其族行,曰:“虞不腊矣<sup>⑰</sup>。在此行也,晋不更举矣。”冬,十二月丙子朔,晋灭虢,虢公丑奔京师。师还,馆于虞。遂袭虞,灭之。

《左传·僖公五年》

### 题解:

邓国的三甥预见到楚文王借伐申过邓之机灭邓的阴谋,虞国的宫之奇预见到晋献公假途伐虢必将灭虞的阴谋,邓侯、虞公不听,两国终遭覆灭。

### 注释:

①止:留。②齐:脐。噬脐:后悔。

③不食吾余:贱视唾弃。④血食:祭享。⑤还年:回国之年。⑥表:屏障。⑦翫(wán):放松警惕。⑧辅:面颊。车:牙床骨。⑨宗:同姓。⑩昭、穆:宗庙在左、右的位次。盟府:主管盟誓典策的部门。⑪桓庄:晋侯的同祖兄弟。⑫倡:通。⑬宠:在尊位。⑭絜:洁。⑮冯:凭。⑯荐:献。⑰腊:年终祭祀。

柯陵之会,单襄公见晋厉公视远步高。晋郤犇见其语犯;郤犇见,其语迂;郤至见,其语伐;齐国佐见,其语尽;鲁成公见,言及晋难及郤犇之潜<sup>①</sup>。

单子曰:“君何患焉!晋将有乱,其君与三郤其当之乎!”鲁侯曰:“寡人惧不免于晋,今君曰‘将有乱’,敢问天道乎,抑人故也?”对曰:“吾非瞽、史,焉知天道?吾见晋君之

容，而听三郤之语矣，殆必祸者也。夫君子目以定体，足以从之，是以观其容而知其心矣。目以处义，足以步目，今晋侯视远而足高，目不在体，而足不步目，其心必异矣<sup>②</sup>。目体不相从，何以能久？夫合诸侯，民之大事也，于是乎观存亡。故国将无咎，其君在会，步言视听，必皆无滴，则可以知德矣。视远，日绝其义；足高，日弃其德；言爽，日反其信；听淫，日离其名<sup>③</sup>。夫目以处义，足以践德，口以庇信，耳以听名者也，故不可不慎也。偏丧有咎，既丧则国从之。晋侯爽二，吾是以云。”

《国语·周语下》

#### 题解：

单子从晋厉公及其群臣的言行上，预见晋国将有乱。后来果然如此。

#### 注释：

①迁：诬人。伐：夸功。②义：宜。

③爽：贰。

有小人之辩者，有士君子之辩者，有圣人之辩者。不先虑，不早谋，发之而当，成文而类，居错，迁徙，应变不穷，是圣人之辩者也；先虑之，早谋之，斯须之言而足听，文而致实，博而党正，是士君子之辩者也<sup>①</sup>。听其言则辞辩而无统，用其身则多诈而无功，上不足以顺明王，下不足以和齐百姓；然而口舌之均，嚆唯则节，足以为奇伟、偃郤之属；夫是之谓奸人之雄<sup>②</sup>。圣王起，所以先诛也，然后盗贼次之。盗贼得变，此不得变也。

《荀子·非相》

#### 题解：

君子处事先虑早谋，并且善于从小人的言谈中预见其奸诈。

#### 注释：

①成文：合乎文理。类：完善。错：措置。

斯须：须臾。致实：緻密坚实。党：说，直言。

②统：系统。均：调和。嚆：詹，多言。唯：应答之词。节：中节。偃郤：骄傲的样子。

昔者齐桓公九合诸侯，一匡天下，为五

伯长，管仲佐之<sup>①</sup>。管仲老，不能用事，休居于家。桓公从而问之曰：“仲父家居有病，即不幸而不起此病，政安迁之？”管仲曰：“臣老矣，不可问也。虽然，臣闻之，知臣莫若君，知子莫若父。君其试以心决之。”君曰：“鲍叔牙何如？”管仲曰：“不可。鲍叔牙为人，刚愎而上悍<sup>②</sup>。刚则犯民以暴，愎则不得民心，悍则下不为用。其心不惧，非霸者之佐也。”公曰：“然则竖刁何如？”管仲曰：“不可。夫人之情莫不爱其身。公妒而好内，竖刁自豮以为治内<sup>③</sup>。其身不爱，又安能爱君？”公曰：“然则卫公子开方何如？”管仲曰：“不可。齐、卫之间不过十日之行，开方为事君，欲适君之故，十五年不归见其父母，此非人情也。其父母之不亲也，又能亲君乎？”公曰：“然则易牙何如？”管仲曰：“不可。夫易牙为君主味，君之所未尝食唯人肉耳，易牙蒸其子首而进之，君所知也。人之情莫不爱其子，今蒸其子以为膳于君，其子弗爱，又安能爱君乎？”公曰：“然则孰可？”管仲曰：“隰朋可。其为人也，坚中而廉外，少欲而多信<sup>④</sup>。夫坚中，则足以为表；廉外，则可以大任；少欲，则能临其众；多信，则能亲邻国。此霸者之佐也，君其用之。”君曰：“诺。”居一年余，管仲死，君遂不用隰朋而与竖刁<sup>⑤</sup>。刁莅事三年，桓公南游堂阜，竖刁率易牙、卫公子开方及大臣为乱。桓公渴馁而死南门之寝，公守之室，身死三日不收，虫出于户。故桓公之兵横行天下，为五伯长，卒见弑于其臣，而灭高名，为天下笑者，何也？不用管仲之过也。故曰：过而不听于忠臣，独行其意，则灭其高名为人笑之始也。

《韩非子·十过》

#### 题解：

谋士可使国兴，也可使国败。管仲对此有深刻的认识。

#### 注释：

①伯：霸。②上：尚。③内：女色。豮(fén)：阉割。④中：内心。⑤与：任用。

智所以相过，以其长见与短见也。今之

于古也，犹古之于后世也。今之于后世，亦犹今之于古也。故审知今则可知古，知古则可知后。古今前后一也，故圣人上知千岁，下知千岁也。

荆文王曰：“菟谿数犯我以义，违我以礼，与处则不安，旷之而不谷得焉<sup>①</sup>。不以吾身爵之，后世有圣人，将以非不谷。于是爵之五大夫。申侯伯善持养吾意，吾所欲则先我为之，与处则安，旷之而不谷丧焉。不以吾身远之，后世有圣人，将以非不谷。于是送而行之。”

申侯伯如郑，阿郑君之心，先为其所欲，三年而知郑国之政也，五月而郑人杀之，是后世之圣人使文王为善于上世也<sup>②</sup>。

晋平公铸为大钟，使工听之，皆以为调矣，师旷曰：“不调，请更铸之<sup>③</sup>。”平公曰：“工皆以为调矣。”师旷曰：“后世有知音者，将知钟之不调也，臣窃为君耻之。”至于师涓而果知钟之不调也。是师旷欲善调钟，以为后世之知音者也。

吕太公望封于齐，周公旦封于鲁；二君者，甚相善也。相谓曰：“何以治国？”太公望曰：“尊贤上功，”周公旦曰：“亲亲上恩，”太公望曰：“鲁自此削矣！”周公旦曰：“鲁虽削，有齐者，亦必非吕氏也！”其后齐日以大，至于霸，二十四世而田成子有齐国；鲁公以削，至于覲存，三十四世而亡<sup>④</sup>。

吴起治西河之外，王错谮之于魏武侯，武侯使人召之<sup>⑤</sup>。吴起至于岸门，止车而望西河，泣数行而下，其仆谓吴起曰：“窃观公之意，视释天下若释骰<sup>⑥</sup>。今去西河而泣，何也？”吴起拭泣而应之曰：“子不识，君知我而使我毕能西河可以王，今君听谗人之议，而不知我，西河之为秦取不久矣<sup>⑦</sup>！魏从此削矣！”吴起果去魏入楚；有间，西河毕入秦，秦日益大，此吴起之所先见而泣也<sup>⑧</sup>。

魏公叔座疾，惠王往问之，曰：“公叔之病甚矣，将奈社稷何？”公叔对曰：“臣之御庶子鞅，愿王以国听之也，为不能听，勿使出境<sup>⑨</sup>。”王不应，出而谓左右曰：“岂不悲哉！”

以公叔之贤，而今谓寡人必以国听鞅，悖也夫！”公叔死，公孙鞅西游秦，秦孝公听之，秦果用强，魏果用弱。非公叔座之悖也，魏王则悖也。夫悖者之患，固以不悖者为悖。

《吕氏春秋·长见》

### 题解：

未有远见，必有近忧。以五个历史事例阐述了“长见”思想。

### 注释：

- ①菟谿：人名。②如：往。阿：从。  
③调：和谐。④覲：仅。⑤谮(zèn)：加诬。  
⑥释：弃。骰(xī)：骰。⑦捫(mín)：拭。  
⑧有间：不久。⑨御庶子鞅：公孙鞅。

齐助楚攻秦，取曲沃。其后，秦欲伐齐，齐、楚之交善，惠王患之，谓张仪曰：“吾欲伐齐，齐、楚方懽，子为寡人虑之，奈何<sup>①</sup>？”张仪曰：“王其为臣约车并币，臣请试之<sup>②</sup>”。

张仪南见楚王曰：“弊邑之王所说甚者，无大大王；唯仪之所甚愿为臣者，亦无大大王；弊邑之王所甚憎者，无先齐王；唯仪之甚憎者，亦无大齐王<sup>③</sup>。今齐王之罪，其于弊邑之王甚厚，弊邑欲伐之，而大国与之懽，是以弊邑之王不得事令，而仪不得为臣也！大王苟能闭关绝齐，臣请使秦王献商於之地，方六百里。若此，齐必弱，齐弱则必为王役矣<sup>④</sup>。则是北弱齐，而德于秦，而私商於之地以为利也，则此一计而三利俱至。”

楚王大说，宣之于朝廷，曰：“不谷得商於之田，方六百里。”群臣闻见者毕贺，陈轸后见，独不贺。楚王曰：“不谷不烦一兵，不伤一人，而得商於之地六百里，寡人自以为智矣。诸士大夫皆贺，子独不贺，何也？”陈轸对曰：“臣见商於之地不可得，而患必至也，故不敢妄贺。”王曰：“何也？”对曰：“夫秦所以重王者，以王有齐也。今地未可得而齐先绝，是楚孤也，秦又何重孤国？且先出地后绝齐，秦计必弗为也。先绝齐后责地，且必受欺于张仪，受欺于张仪，王必惋之。是西生秦患，北绝齐交，则两国兵必至矣！”楚王不听，曰：“吾事善矣，子其弭口无言，以

待吾事<sup>⑤</sup>。”楚王使人绝齐，使者未来，又重绝之。

张仪反，秦使人使齐，齐、秦之交阴合。楚因使一将军受地于秦，张仪至，称病不朝，楚王曰：“张子以寡人不绝齐乎？”乃使勇士往詈齐王，张仪知楚绝齐也，乃出见使者曰：“从某至某，广从六里<sup>⑥</sup>。”使者曰：“臣闻六百里，不闻六里。”仪曰：“仪固以小人，安得六百里？”

使者反报楚王，楚王大怒，欲兴师伐秦。陈轸曰：“臣可以言乎？”王曰：“可矣。”轸曰：“伐秦非计也，王不如因而赂之一名都，与之伐齐，是我亡于秦而取偿于齐也，楚国不尚全乎？王今已绝齐，而责欺于秦，是吾合齐、秦之交也，国必大伤<sup>⑦</sup>。”楚王不听，遂举兵伐秦。秦与齐合，韩氏从之，楚兵大败于杜陵。

故楚之土壤士民非削弱，仅以救亡者，计失于陈轸，过听于张仪<sup>⑧</sup>。

《战国策·秦策》

**题解：**

楚怀王短视而兵败地削，陈轸富有远见，识破张仪的阴谋。

**注释：**

①懽：欢。②币：礼物。③大：超过。④弊：敝。⑤役：役使。⑥弭(mi)：止。⑦詈(lì)：骂。⑧责：追究。⑨过：错误。

时李子雄劝玄感速称尊号，玄感以问于密。密曰：“昔陈胜自欲称王，张耳谏而被外，魏武将求九锡，荀彧止而见疏<sup>①</sup>。今者密欲正言，还恐追踪二子，阿谀顺意，又非密之本图。何者？兵起已来，虽复频捷，至于郡县，未有从者。东都守御尚强，天下救兵益至，公当身先士众，早定关中。迺欲急自尊崇，何示不广也<sup>②</sup>！”玄感笑而止。

《隋书·李密列传》

**题解：**

李密对刘玄感直言正谏，劝其缓称尊号，而要有远大志向。

**注释：**

①外：疏远。②迺：乃。

### 3. 审时与应变力

周公拜手稽首曰：“朕复子明辟<sup>①</sup>。王如弗敢及天基命定命，予乃胤保大相东土，其基作民明辟；予惟乙卯，朝至于洛师<sup>②</sup>……俘来以图及献卜<sup>③</sup>。”王拜手稽首曰：“公不敢不敬天之休，来相宅，其作周匹，休<sup>④</sup>！公既定宅，俘来，来，视予卜，休恒吉，我二人共贞。公其以予万亿年敬天之休。拜手稽首海言<sup>⑤</sup>。”

周公曰：“王，肇称殷礼，祀于新邑，咸秩无文<sup>⑥</sup>。予齐百工，俘从王于周，予惟曰：‘庶有事<sup>⑦</sup>。’今王即命曰：‘记工，宗以功作元祀<sup>⑧</sup>。’惟命曰：‘汝受命笃弼，丕视功载，乃汝其悉自教工<sup>⑨</sup>。’孺子其朋，孺子其朋，其往<sup>⑩</sup>！无若火始焰焰，厥攸灼叙，弗其绝<sup>⑪</sup>。厥若彝及抚事如予，惟以在周工往新邑<sup>⑫</sup>。俘向即有僚，明作有功，惇大成裕，汝永有辞<sup>⑬</sup>。”公曰：“已！汝惟冲子，惟终<sup>⑭</sup>。汝其敬识百辟享，亦识其有不享；享多仪，仪不及物，惟曰不享；惟不役志于享，凡民惟曰不享，惟事其爽侮<sup>⑮</sup>。乃惟孺子颁，朕不暇听<sup>⑯</sup>。朕教汝于棗民彝，汝乃是不覆，乃时惟不永哉<sup>⑰</sup>！笃叙乃正父罔不若予，不敢废乃命<sup>⑱</sup>。汝往敬哉！兹予其明农哉！彼裕我民，无远用戾<sup>⑲</sup>。”王若曰：“公，明保予冲子。公称丕显德，以予小子扬文武烈，奉答天命，和恒四方民，居师；惇宗将礼，称秩元祀，咸秩无文<sup>⑳</sup>。惟公德明光于上下，勤施于四方，旁作穆穆，迓衡不迷<sup>㉑</sup>。文武勤教，予冲子夙夜毖祀<sup>㉒</sup>。”王曰：“公功棗迪，笃罔不若时<sup>㉓</sup>。”

王曰：“公，予小子其退，即辟于周，命公后<sup>㉔</sup>。四方迪乱未定，于宗礼亦未克教，公功迪将，其后监我士师工，诞保文武受民，乱为四辅<sup>㉕</sup>。”王曰：“公定，予往已。公功肃将祗欢，公无困哉<sup>㉖</sup>！我惟无毅其康事，公

勿替刑，四方其世享<sup>②</sup>。”周公拜手稽首曰：“王命予来，承保乃文祖受命民，越乃光烈考武王弘，朕恭<sup>③</sup>。孺子来相宅，其大惇典殷献民，乱为四方新辟，作周恭先<sup>④</sup>。曰：“其自时中乂，万邦咸休，惟王有成绩<sup>⑤</sup>。予旦以多子越御事笃前人成烈，答其师，作周孚先<sup>⑥</sup>。”考朕昭子刑，乃单文祖德<sup>⑦</sup>。俘来毖殷，乃命宁予以钅鬯二卣<sup>⑧</sup>。曰：“明禋，拜手稽首休享<sup>⑨</sup>。”予不敢宿，则禋于文王、武王<sup>⑩</sup>。”惠笃叙，无有遘自疾，万年厌于乃德，殷乃引考<sup>⑪</sup>。”“王俘殷乃承叙万年，其永观朕子怀德。””

### 《尚书·洛诰》

#### 题解：

周公劝导成王移居新建的洛邑主持政务，成王依据当时形势，要求周公治洛，以安定殷民。二人开诚谋划，团结无间，最后决定周公治洛。成王将此重大决策、经国方略，诏告天下，使殷民不敢妄动。

#### 注释：

①稽(qī)首：叩头至地。复：告白。子：指成王。明辟：明经营洛邑之法。②及：参预。基：谋。命：告。定命：命运。胤：继。保：指太保召公。相：视察。东土：洛邑。洛师：洛邑。③俘(bēng)：使。图：谋画。卜：卜兆。④休：善美。宅：居所。周：指镐京。匹：匹配之地。⑤休：高兴。共贞：共当其美。其：希望。⑥肇：始。称：举行。殷：盛大。咸：皆。秩：以次安排。文：紊。⑦齐：带领。百工：百官。惟：思。事：祀事。⑧宗：主礼乐者。以：率领。元：大。⑨惟：又。笃弼：监督辅助。丕：大。视：阅读。功载：记功之书。乃：于是。悉：尽。工：事。⑩朋：振奋。⑪焰焰：微小的样子。厥：其。攸：所。叙：续。⑫若：顺。彝：常。及：汲汲，急切。抚：主持。工：官。⑬向即：趋就。有僚：官职。明：勉力。惇大成裕：厚成大业。辞：赞美之辞。⑭已：叹词。冲：幼。惟：思。⑮百辟：诸侯。享：享礼。多仪：重视礼仪。役志：用心。爽侮：差错侮慢。⑯惟：思。颁：分任。⑰棐：辅助。彝：法。獲

(máng)：勉。时：年寿。⑱笃：考察。叙：升降。正父：官长。⑲明：勉。农：勉。裕：教导。无远：远方。用：因此。戾：至。⑳称：发扬。以：使。扬：继承。烈：业。和恒：和悦。师：洛邑。惇宗：重视。将：大。元：大。文：紊。㉑旁：滂。穆穆：美。迓衡：遭遇横逆。㉒毖：慎。㉓功：善。迪：教导。笃：信。若：顺承。㉔辟：君位。㉕乱：治。克：能。敕(mi)：完成。将：扶。监：监督。士、师、工：官。诞：大。保：安。文、武：文王、武王。四辅：辅佐大臣。㉖肃：速。将：进行。祗：敬。欢：和谐。㉗毅(yì)：松懈。替：废。㉘越：宣扬。考：亡父。恭：奉行。㉙其：基，谋。惇：厚。典：敬礼。献民：贤民。乱：助词。辟：法。恭：法。㉚时：此。乂：治。㉛旦：周公名。以：率领。多子：众卿大夫。越：与。御事：治事之臣。笃：经营。烈：业。答：合。师：众。孚：郭，城郭。㉜考：完成。昭：告。刑：法。单：光大。㉝毖：慰劳。宁：安。钅鬯(jù chāng)：祭祀用黑黍酒。卣(yǒu)：中型酒尊。㉞禋(yīn)：祭祀。休：庆。享：献。㉟宿：留宿。㊱惠：惟，助词。遘(gòu)：遇。自疾：罪病。厌：饱受。引考：长久成功。

齐将伐鲁。子墨子谓项子牛曰：“伐鲁齐之大过也。昔者吴王东伐越，栖诸会稽；西伐楚，葆昭王于随；北伐齐，取国子以归于吴<sup>①</sup>。诸侯报其仇，百姓苦其劳，而弗为用，是以国为虚戾，身为刑戮也<sup>②</sup>。昔者智伯伐范氏与中行氏兼三晋之地，诸侯报其仇，百姓苦其劳，而弗为用，是以国为虚戾，身为刑戮用是也。故大国之攻小国也，是交相贼也，过必反于国。”

### 《墨子·鲁问》

#### 题解：

大国伐小国也须慎之又慎，触怒众国，不顺民意，则会国败身死。

### 注释:

①葆:保。②虚戾:衰弱。

孔子谓老聃曰:“丘治《诗》、《书》、《礼》、《乐》、《易》、《春秋》六经,自以为久矣,孰知其故矣,以奸者七十二君,论先王之道而明周、召之迹,一君无所钩用<sup>①</sup>。甚矣!夫人之难说也?道之难明邪?”老子曰:“幸矣,子之不遇治世之君也!夫六经,先王之陈迹也,岂其所以迹哉!今子之所言,犹迹也<sup>②</sup>。夫迹,履之所出,而迹岂履哉!夫白鹄之相视,眸子不运而风化;虫,雄鸣于上风,雌应于下风而风化<sup>③</sup>。类自为雌雄,故风化。性不可易,命不可变,时不可止,道不可壅<sup>④</sup>。苟得于道,无自而不可;失焉者,无自而可。”孔子不出三月,复见,曰:“丘得之矣。乌鹊孺,鱼傅沫,细要者化,有弟而兄啼<sup>⑤</sup>。久矣,夫丘不与化为人!不与化为人,安能化人。”老子曰:“可,丘得之矣!”

《庄子·天运》

### 题解:

只有掌握了因时而变的大道,才能无所不通。

### 注释:

①老聃(dān):老子。孰:熟。故:事。周、召:周公旦、召公奭。钩:取。②迹:足迹。③白鹄(yì):一种水鸟。风化:孕育。④壅:塞。⑤孺:孵化生子。傅沫:以口沫受孕。细要:细腰,蜂。

晋栾书救郑,与楚师遇于绕角。楚师还。晋师遂侵蔡。楚公子申、公子成以申、息之师救蔡,御诸桑隧。赵同、赵括欲战,请于武子,武子将许之<sup>①</sup>。知庄子、范文子、韩献子谏曰:“不可。吾来救郑,楚师去我,吾遂至于此,是迁戮也<sup>②</sup>。戮而不已,又怒楚师,战必不克,虽克,不令<sup>③</sup>。成师以出,而败楚之二县,何荣之有焉?若不能败,为辱已甚,不如还也。”乃遂还。

于是军帅之欲战者众。或谓栾武子曰:“圣人与众同欲,是以济事,子盍从众?子为大政,将酌于民者也<sup>④</sup>。子之佐十一人,

其不欲战者,三人而已。欲战者可谓众矣。商书曰:‘三人占,从二人<sup>⑤</sup>。’众故也。”武子曰:“善钧从众<sup>⑥</sup>。夫善,众之主也。三卿为主,可谓众矣。从之,不亦可乎?”

《左传·成公六年》

### 题解:

栾武子顺应时势听取了少数人的正确意见,撤军而还。

### 注释:

①武子:栾书。②迁戮:指侵蔡。③令:善。④大政:执政大臣。酌:斟酌。⑤本句在今《周书·洪范》。占:占卜。⑥钧:均。

凡用兵,胜有三等:若兵未起则错法,错法而俗成,俗成而用具<sup>①</sup>。此三者必行于境内,而后兵可出也。行三者有二势:一曰辅法而法行,二曰举必得而法立<sup>②</sup>。故恃其众者谓之葺,恃其备饰者谓之巧,恃誉目者谓之诈<sup>③</sup>。此三者恃一,因其兵可禽也。故曰:强者必刚斗其意,斗则力尽,力尽则备,是故无敌于海内<sup>④</sup>。

治行则货积,货积则赏能重矣。赏一则爵尊,爵尊则赏能利矣<sup>⑤</sup>。故曰:兵生于治而异,俗生于法而万转,过势本于心而饰于备势<sup>⑥</sup>。三者有论,故强可立也。是以强者必治,治者必强;富者必治,治者必富;强者必富,富者必强。故曰:治强之道三,论其本也<sup>⑦</sup>。

《商子·立本》

### 题解:

确立法治,实行重赏,重视农战,积累充足的物资,才能无敌于海内。

### 注释:

①等:步骤。错:措,建立。②势:情况。得:得当。③葺(qì):用草盖物,指虽多而不坚。誉:虚名。④备:无往不利。⑤重:优厚。⑥万转:变化无穷。过势:压倒的优势。⑦论:弄明白。

天时不如地利,地利不如人和。

三里之城,七里之郭,环而攻之而不胜。夫环而攻之,必有得天时者矣。然而不胜者,



是天时不如地利也。城非不高也，池非不深也，兵革非不坚利也，米粟非不多也，委而去之，是地利不如人和也<sup>①</sup>。

故曰，域民不以封疆之界，固国不以山溪之险，威天下不以兵革之利<sup>②</sup>。得道者多助，失道者寡助。寡助之至，亲戚畔之<sup>③</sup>。多助之至，天下顺之。以天下之所顺，攻亲戚之所畔，故君子有不战，战必胜矣。

《孟子·公孙丑下》

#### 题解：

在战争中，“人和”具有重要作用。得助之多寡，决定了战争的胜负。

#### 注释：

①池：护城河。委：扔下。②域民：使人民定居。③畔：叛。

国者，天下之大器也，重任也，不可不善为择所而后错之，错险则危；不可不善为择道然后道之，涂萝则塞，危塞则亡<sup>①</sup>。彼国错者，非封焉之谓也，何法之道，谁子之与也<sup>②</sup>。故道王者之法，与王者之人为之，则亦王；道霸者之法，与霸者之人为之，则亦霸；道亡国之法，与亡国之人为之，则亦亡<sup>③</sup>，三者，明主之所以谨择也，而仁人之所以务白也<sup>④</sup>。

《荀子·王霸》

#### 题解：

治理国家必须慎重，谨慎地选择安邦之法，强国之路，选择不慎，就会危殆以至灭亡。

#### 注释：

①所：所向。错：措，措置。道之：行之。涂萝：途移，道路芜秽。②封：界，划分疆界。谁子之与：任用什么人。③道：行。与：同。④白：明白。

臣闻：“不知而言，不智；知而不言，不忠。”为人臣不忠，当死；言而不当，亦当死。虽然，臣愿悉言所闻，唯大王裁其罪<sup>①</sup>。

臣闻：天下阴燕阳魏，连荆固齐，收韩而成从，将西面以与强秦为难<sup>②</sup>。臣窃笑之。世有三亡，而天下得之，其此之谓乎！

臣闻之曰：“以乱攻治者亡，以邪攻正者亡，以逆攻顺者亡<sup>③</sup>。”今天下之府库不盈，困仓空虚，悉其士民，张军数十百万，其顿首戴羽为将军断死于前不至千人，皆以言死<sup>④</sup>。白刃在前，斧钺在后，而却走不能死也，非其士民不能死也，上不能故也，言赏则不与，言罚则不行，赏罚不信，故士民不死也。今秦出号令而行赏罚，有功无功相事也<sup>⑤</sup>。出其父母怀衽之中，生未尝见寇耳。闻战，顿足徒褐，犯白刃，蹈炉炭，断死于前者皆是也<sup>⑥</sup>。夫断死与断生者不同，而民为之者，是贵奋死也<sup>⑦</sup>。夫一人奋死可以对十，十可以对百，百可以对千，千可以对万，万可以克天下矣。今秦地折长补短，方数千里，名师数十百万。秦之号令赏罚，地形利害，天下莫若也。以此与天下，天下不足兼而有也<sup>⑧</sup>。是故秦战未尝不克，攻未尝不取，所当未尝不破。开地数千里，此其大功也。然而兵甲顿，士民病，蓄积索，田畴荒，困仓虚，四邻诸侯不服，霸王之名不成<sup>⑨</sup>。此无异故，其谋臣皆不尽其忠也。

臣敢言之：往者齐南破荆，东破宋，西服秦，北破燕，中使韩、魏，土地广而兵强，战克攻取。诏令天下<sup>⑩</sup>，齐之清济浊河，足以为限；长城巨防，足以为塞。齐，五战之国也，一战不克而无齐。由此观之，夫战者，万乘之存亡也。且臣闻之曰：“削株无遗根，无与祸邻，祸乃不存<sup>⑪</sup>。秦与荆人战，大破荆，袭郢，取洞庭、五渚、江南，荆王君臣亡走，东服于陈<sup>⑫</sup>。当此时也，随荆以兵，则荆可举；荆可举，则其民足贪也，地足利也，东以弱齐、燕，中以凌三晋。然则是一举而霸王之名可成也。四邻诸侯可朝也，而谋臣不为，引军而退，复与荆人为和。令荆人得收亡国，聚散民，立社稷主，置宗庙，令率天下西面以与秦为难。此固以失霸王之道一矣。天下又比周而军华下，大王以诏破之，兵至梁郭下<sup>⑬</sup>。围梁数旬，则梁可拔；拔梁，则魏可举；举魏，则荆、赵之意绝；荆、赵之意绝，则赵危；赵危而荆狐疑；东

以弱齐、燕，中以凌三晋。然则是一举而霸王之名可成也，四邻诸侯可朝也。而谋臣不为，引军而退，复与魏氏为和。令魏氏反收亡国，聚散民，立社稷主，置宗庙，令率天下西面以与秦为难。此固以失霸王之道二矣。前者穰侯之治秦也，用一国之兵而欲以成两国之功，是故兵终身暴露于外，士民疲病于内。霸王之名不成。此固以失霸王之道三矣。

赵氏，中央之国也，杂民所居也，其民轻而难用也，号令不治，赏罚不信，地形不便，下不能尽其民力。彼固亡国之形也，而不忧民萌，悉其士民军于长平之下，以争韩上党<sup>④</sup>。大王以诏破之，拔武安。当是时也，赵氏上下不相亲也，贵贱不相信也。然则邯郸不守。拔邯郸，管山东河间，引军而去，西攻修武，逾羊肠，降代、上党<sup>⑤</sup>。代三十六县，上党十七县，不用一领甲，不苦一士民，此皆秦有也。代、上党不战而毕为秦矣，东阳、河外不战而毕反为齐矣，中山、呼沱以北不战而毕为燕矣。然则是赵举，赵举则韩亡，韩亡则荆、魏不能独立，荆、魏不能独立，则是一举而坏韩、蠹魏、挟荆，东以弱齐、燕，决白马之口以沃魏氏，是一举而三晋亡，从者败也。大王垂拱以须之，天下编随而服矣，霸王之名可成<sup>⑥</sup>。而谋臣不为，引军而退，复与赵氏为和。夫以大王之明，秦兵之强，弃霸王之业，地曾不可得，乃取欺于亡国，是谋臣之拙也<sup>⑦</sup>。且夫赵当亡而不亡，秦当霸而不霸，天下固以量秦之谋臣一矣。乃复悉士卒以攻邯郸，不能拔也，弃甲兵弩，战竦而却，天下固已量秦力二矣<sup>⑧</sup>。军乃引而复，并于李下，大王又并军而至，与战不能克之也，又不能反，军罢而去，天下固量秦力三矣。内者量吾谋臣，外者极吾兵力。由是观之，臣以为天下之从，凡不难矣<sup>⑨</sup>。内者，吾甲兵顿，士民病，蓄积索，田畴荒，困仓虚；外者，天下皆比意甚固。愿大王有以虑之也。

且臣闻之曰：“战战栗栗，日慎一日，苟

慎其道，天下可有<sup>⑩</sup>。何以知其然也？昔者纣为天子，将率天下甲兵百万，左饮于淇溪，右饮于洹溪，淇水竭而洹水不流，以与周武王为难<sup>⑪</sup>。武王将素甲三千，战一日，而破纣之国，禽其身，据其地而有其民，天下莫伤。知伯率三国之众以攻赵襄主于晋阳，决水而灌之三月，城且拔矣，襄主钻龟筮占兆，以视利害，何国可降。乃使其臣张孟谈。于是乃潜行而出，反知伯之约，得两国之众，以攻知伯，禽其身，以复襄主之初。今秦地折长补短，方数千里，名师数十百万。秦国之号令赏罚，地形利害，天下莫如也。以此与天下，可兼而有也。臣昧死愿望见大王，言所以破天下之从，举赵，亡韩，臣荆、魏，亲齐、燕，以成霸王之名，朝四邻诸侯之道<sup>⑫</sup>。大王诚听其说，一举而天下之从不破，赵不举，韩不亡，荆、魏不臣，齐、燕不亲，霸王之名不成，四邻诸侯不朝，大王斩臣以徇国，以为王谋不忠者戒也<sup>⑬</sup>。

《韩非子·初见秦》

#### 题解：

分析天下形势，列举丧失战机的事例，揭露“谋臣”贻误统一事业，劝谏秦王审时度势，用战争统一天下。

#### 注释：

①裁：裁断。②阴：北。阳：南。荆：楚国。从：纵，合纵。③逆：倒行逆施。④困(qūn)：圆形谷仓。张：扩。戴羽：把羽毛系在头盔上作为将军标志。⑤斧钺(zhì)：腰斩的刑具。却：后退。⑥徒褐(xī)：脱上衣打赤膊。炉炭：烧红的炭。⑦奋死：奋战而死。⑧与：举，攻取。⑨顿：疲惫。索：尽。⑩使：驱使。⑪无与祸邻：不靠近祸害。⑫郢(yīng)：楚国都城。亡：逃。服：防守。⑬贪：占有。凌：侵犯。比周：紧密勾结。军：驻兵。⑭杂民：工商游食之民。民萌：民众。⑮管：封锁。逾：越过。降：降服。⑯呼沱(duò)：今滹沱河。蠹(dù)：破败。挟：挟制。沃：淹。垂拱：垂衣拱手。须：等待。⑰取欺：被欺。⑱以：已。量：估量。战竦：战栗。⑲罢：疲。极：毫尽。

几：差不多。②③苟：假如。道：原则。④淇溪：今淇水。洹(huán)溪：今安阳河。⑤昧：冒。亲：使靠拢。朝：使朝见。⑥徇(xùn)：巡行示众。

先王先顺民心，故功名成。夫以德得民心以立大功名者，上世多有之矣；失民心而立功名者，未之曾有也。

得民必有道。万乘之国，百户之邑，民无有不听，取民之所说，而民取矣，民之所说岂众哉！此取民之要也<sup>①</sup>。

昔者汤克夏而正天下，天大旱，五年不收，汤乃以身祷于桑林，曰：“余一人有罪，无及万夫，万夫有罪，在余一人，无以一人之不敏，使上帝鬼神伤民之命！”于是剪其发，髡其手，以身为牺牲，用祈福于上帝；民乃甚说，雨乃大至，则汤达乎鬼神之化，人事之传也<sup>②</sup>。

文王处岐事纣，冤侮雅逊，朝夕必时，上贡必适，祭祀必敬，纣喜，命文王称西伯，赐之千里之地，文王载拜稽首而辞曰：“愿为民请炮烙之刑<sup>③</sup>。”文王非恶千里之地，以为民请炮烙之刑，必欲得民心也；得民心则贤于千里之地。故曰：“文王智矣。”

越王苦会稽之耻，欲深得民心，以致必死于吴，身不安枕席，口不甘厚味，目不视靡曼，耳不听钟鼓<sup>④</sup>。三年苦身劳力，焦唇干肺，内亲群臣，下养百姓，以来其心。有甘脆，不足分，弗敢食；有酒，流之江，与民同之。身亲耕而食，妻亲织而衣，味禁珍，衣禁裘，色禁二；时出行路，从车载食，以视孤寡老弱之溃病困穷颜色愁悴不赡者，必身自食之<sup>⑤</sup>。于是属诸大夫而告之，曰：“愿一与吴徼天之衷<sup>⑥</sup>。今吴越之国，相与俱残，士大夫履肝肺，同日而死，孤与吴王接颈交臂而缢，此孤之大愿也。若此而不可得也，内量吾国不足以伤吴，外事之诸侯不能害之，则孤将弃国家，释群臣，服剑臂刃，变容貌，易姓名，执箕帚而臣事之，以与吴王争一旦之死；孤虽知要领不属，首足异处，四肢布裂，为天下戮，孤之志必将出焉<sup>⑦</sup>。”于是异

日果与吴战于五湖，吴师大败，遂大围王宫，城门不守，禽夫差，戮吴相，残吴二年而霸。此先顺民心也。

齐庄子请攻越，问于和子。和子曰：“先君有遗令曰：‘无攻越，越猛虎也。’”庄子曰：“虽猛虎也，而今已死矣。”和子因以告鴳子，鴳子曰：“已死矣，以为生。”故凡举事，必先审民心，然后可举<sup>⑧</sup>。

《吕氏春秋·顺民》

题解：

要顺民心，顺民心则功成名就，失民心则国破身亡。

注释：

①要：关键。②髡：剃，拷具。③雅：正。逊：顺。④靡曼：好色。⑤色：女色。⑥徼：求。衷：善。⑦枝：肢。⑧审：察清。

操行有常贤，仕宦无常遇。贤不贤，才也；遇不遇，时也。才高行洁，不可保以必尊贵；能薄操浊，不可保以必卑贱。或高才洁行，不遇退在下流；薄能浊操，遇在众上<sup>①</sup>。世各自有以取士，士亦各自得以进。进在遇，退在不遇。处尊居显，未必贤，遇也；位卑在下，未必愚，不遇也。

《论衡·逢遇篇》

题解：

机遇十分重要，善谋者要顺应时势，抓住时机。

注释：

①薄：弱。操浊：品行差。下流：卑贱地位。

管子生列国并立之世，而欲以区区之齐称霸于天下，则外交其不可不谨也。管子之外交，首在审天下之大势，观己国所处之位置何如，然后应之以施政策焉。其言曰：

强国众，合强以攻弱以图霸；强国少，合小以攻大以图王。强国众而言王势者，愚人之智也；强国少而施霸道者，败事之谋也。夫神圣视天下之形，知轻重之时，视先后之称，知祸福之门。强国众，先举者危，后举者利；强国少，先举者至，后举者亡。（霸言篇）

此管子泛论形势之言也。而当春秋之时代，则众强并立，势钧力敌。管子以为是当称霸道之时，故曰：

有制人者，有为人之所制者，有不能制人人亦不能制者。人众兵强，而不以其国造难生患，天下有大事，而好以其国后。如此者，制人者也。人不众，兵不强，而好以其国造难生患，恃与国，幸名利。如此者人之所制也。人进亦进，人退亦退，人劳亦劳，人佚亦佚。进退劳佚，与人相胥<sup>①</sup>。如此者不能制人人亦不能制也。（枢言）

管子既持此宗旨，故桓公初政，屡议征伐，而管子皆力沮之。凡不欲以其国先天下也。既知己矣，又当知彼。其知彼之术奈何？

游士八千人，奉之以车马衣裘，多其资粮财币，使出周游四方，以收求号召天下之贤士。饰玩好，使出周游四方，鬻之诸侯，以观其上下之所贵好<sup>②</sup>。（小匡）

凡此皆所以审敌情而谋对之之策也。然管子之制天下也，以商战而不以兵战，故观各国上下所贵好，为其最要之手段。其对外经济政策之所以能施者，皆以此也。

梁启超《管子评传》

#### 题解：

治国须审敌情，了解各国的情况。不审天下大势。难以制定谋对之策。

#### 注释：

①胥：须，待。 ②鬻：(yù)：卖。

## 4. 采众长与借外力

大战于甘，乃召六卿<sup>①</sup>。王曰：“嗟！六事之人，予誓告汝<sup>②</sup>：有扈氏威侮五行，怠弃三正<sup>③</sup>。天用剿绝其命，今予惟恭行天之罚<sup>④</sup>。左不攻于左，汝不恭命；右不攻于右，汝不恭命；御非其马之正，汝不恭命<sup>⑤</sup>。用命，赏于祖；弗用命，戮于社。予则孥戮汝<sup>⑥</sup>。”

《尚书·甘誓》

#### 题解：

禹在征伐前，宣布兴师之由和赏罚之法，以激励战士，可谓大有韬略。

#### 注释：

①大战：禹同本姓诸侯有扈氏交战。甘：地名，在今陕西户县西。六卿：六军之将。 ②六事之人：六卿所率将士。誓：告诫。 ③威侮：轻慢。五行：指国法。三正：正德、利用、厚生三大政事。 ④用：因此。恭行：奉行。 ⑤左、右：车左、车右。御：驾马者。攻：善理。恭命：奉命。非：违。正：事。 ⑥祖：祖主。社：土神之主。孥：罚为奴。

王曰：“格尔众庶，悉听朕言<sup>①</sup>。非台小子敢行称乱，有夏多罪，天命殛之<sup>②</sup>。今尔有众，汝曰‘我后不恤我众，舍我穡事而割正夏<sup>③</sup>。’予惟闻汝众言，夏氏有罪，予畏上帝，不敢不正<sup>④</sup>。今汝其曰：‘夏罪其如台<sup>⑤</sup>？’夏王率遏众力，率割夏邑<sup>⑥</sup>。有众率怠弗协，曰：‘时日曷丧？予及汝皆亡<sup>⑦</sup>。’夏德若兹，今朕必往<sup>⑧</sup>。尔尚辅予一人，致天之罚，予其大赉汝<sup>⑨</sup>！尔无不信，朕不食言。尔不从誓言，予则孥戮汝，罔有攸赦<sup>⑩</sup>。”

《尚书·汤誓》

#### 题解：

本节说明汤伐桀先宣示理由：夏多罪，天命诛，民怨恨，用战争的正义性激励士气，谋深略远。

#### 注释：

①王：指商汤。夏桀无道，汤兴师讨伐。格：来。众庶：众人。 ②台(yí)：我。称：举。有夏：夏国。殛：诛杀。 ③有众：众人。后：君主。穡事：农事。正：征。 ④惟：虽。 ⑤如台(yí)：如何。 ⑥率：助词。遏：竭，竭尽。割：剥削，残害。 ⑦时日：这个太阳，比喻桀。曷：何时。 ⑧兹：此。 ⑨尚：庶几。致：用。赉：赏赐。 ⑩罔：无。攸：所。

吴伐楚，阳句为令尹，卜战，不吉。司马子鱼曰：“我得上流，何故不吉？且楚故，司马令龟，我请改卜<sup>①</sup>。”令曰：“鲋也以其属死之，楚师继之，尚大克之，吉<sup>②</sup>。”战于长

岸，子鱼先死，楚师继之，大败吴师，获其乘舟余皇。使随人与后至者守之，环而堑之，及泉，盈其隧炭，陈以待命<sup>③</sup>。吴公子光请于其众，曰：“丧先王之乘舟，岂唯光之罪，众亦有焉。请藉取之以救死。”<sup>④</sup>众许之。使长鬣者三人潜伏于舟侧，曰：“我呼余皇，则对<sup>⑤</sup>。师夜从之。”三呼，皆迭对。楚人从而杀之。楚师乱，吴人大败之，取余皇以归。

《左传·昭公十七年》

#### 题解：

楚国子鱼命令重新占卜，为的是借助天命，结果大败吴军。

#### 注释：

①上流：上游。故：旧例。②魴(fáng)：子鱼名。③陈：列阵。④藉：借。⑤长鬣者：长壮之人。

造父者，天下之善御者也，无舆马则无所见其能；羿者，天下之善射者也，无弓矢则无所见其巧；大儒者，善调一天下者也，无百里之地则无所见其功<sup>①</sup>。舆固马选矣，而不能以至远一日而千里，则非造父也；弓调矢直矣，而不能以射远、中微，则非羿也；用百里之地，而不能以调一天下、制强暴，则非大儒也<sup>②</sup>。

《荀子·儒效》

#### 题解：

善御需车马，善射需弓箭，谋略则需借助外力。

#### 注释：

①调一：调治统一。②中：射中。

郑子产晨出，过东匠之间，闻妇人之哭，抚其御之手而听之，有间，遣吏执而问之，则手绞其夫者也<sup>①</sup>。异日，其御问曰：“夫子何以知之？”子产曰：“其声惧，凡人于其亲爱也，始病而忧，临死而惧，已死而哀，今哭已死，不哀而惧，是以知其有奸也<sup>②</sup>。”

或曰：子产之治，不亦多事乎！奸必待耳目之所及而后知之，则郑国之得奸者寡矣<sup>③</sup>。不任典成之吏，不察参伍之政，不明度量，恃尽聪明劳智虑而以知奸，不亦无术

乎？且夫物众而智寡，寡不胜众，智不足以遍知物，故因物以治物<sup>④</sup>。下众而上寡，寡不胜众者，言君不足以遍知臣也，故因人以知人<sup>⑤</sup>。是以形体不劳而事治，智虑不用而奸得。故宋人语曰：“一雀过羿，羿必得之，则羿诬矣，以天下为之罗，则雀不失矣<sup>⑥</sup>。”夫知奸亦有大罗，不失其一而已矣，不修其理，而以己之胸察为之弓矢，则子产诬矣，老子曰：“以智治国，国之贼也<sup>⑦</sup>。”其子产之谓矣。

《韩非子·难三》

#### 题解：

利用事物治理事物，依靠他人了解奸人。

#### 注释：

①绞：绞死。②奸：奸情。③得：查得。④典成：主管判案。⑤因：凭借。⑥罗：网。⑦胸察：主观臆断。

光武先在长安时同舍生强华，自关中奉“赤伏符”，曰：“刘秀发兵捕不道，四夷云集龙斗野，四七之际火为主。”众臣因复奏曰：“受命之符，人应为大，万里合信，不议同情，周之白鱼曷足比焉<sup>①</sup>！今上无天子，海内淆乱，符瑞之应，昭然著闻，宜答天神，以塞群望。”光武于是命有司设坛场于鄯南千秋亭五成陌<sup>②</sup>。六月己未，即皇帝位。

《后汉书·光武皇帝本纪》

#### 题解：

刘秀借助符瑞，假称上应天命，从而顺利地登上帝位。

#### 注释：

①符：祥瑞征兆。②有司：主管官吏。

初，钜鹿张角，自称大贤良师，奉事黄老道，畜养弟子，跪拜首过、符水呪说以疗病。病者颇愈，百姓信向之。角因遣弟子八人，使于四方，以善道教化天下，转相诳惑。十余年间，众徒数十万，连结郡国，自青、徐、幽、冀、荆、扬、兖、豫八州之人，莫不毕应。遂置三十六方，方犹将军号也。大方万余人，小方六七千，各立渠帅<sup>①</sup>。讹言

言“苍天已死，黄天当立，岁在甲子，天下大吉”。

《后汉书·皇甫嵩传》

**题解：**

黄巾军宣扬“苍天已死”，广聚义军。

**注释：**

①渠帅：魁首。

开元中，山东蝗。姚元崇奏请遣使分捕。上曰：“蝗虫，天灾也，由朕不德而致焉。卿请捕之，无乃违天乎？”崇曰：“大田之诗，秉畀炎火者，捕蝗之术也<sup>①</sup>。古人行之于前，陛下用之于后。行之所以安农除害，国之大事也，陛下孰思之<sup>②</sup>！”上曰：“事既古，用可救时，朕之心也。”遂行之。是时中外咸以为不可，上谓左右曰：“与贤相讨论，已定捕蝗之事，敢议者死。”自是所司结奏，捕蝗十分去四。

《唐语林·政事上》

**题解：**

姚元崇引用《诗经》说明古人放火烧蝗虫，坚定了唐玄宗捕蝗的决心。

**注释：**

①畀(bì)：付与。 ②孰：熟。

古云“胡虏无百年之运”，验之今日，信乎不缪<sup>①</sup>！当此之时，天运循环，中原气盛，亿兆之中，当降生圣人，驱逐胡虏，恢复中华，立纲陈纪，救济斯民<sup>②</sup>。今一纪于兹，未闻有济世安民者，徒使尔等战战兢兢，处于朝秦暮楚之地，诚可矜悯<sup>③</sup>！

《明实录·太祖洪武实录》

**题解：**

朱元璋在檄文中借用古语，提出口号，为推翻元朝大造舆论。

**注释：**

①验：察验。缪：谬。 ②斯民：百姓。

③纪：十二年。

揆一王尝大出兵攻赤嵌、鲲身，不利<sup>①</sup>。十一月，成功乘风纵火，烧其夹板，荷兰益困，犹死守王城。其城乱石叠砌，火煨成灰，融为石城，坚不受砲。有土人献计

曰：“城内无井，塞城外水源，三日必乱。”从之。且告之曰：“此地乃先人故土，珍宝不急之物听尔载归，土地仓库归我。”揆一王乃罢兵约降，以大舶迁其国<sup>②</sup>。成功以台湾平，祭告山川神祇，改为东都，置一府二县。

《小腆纪年附考》

**题解：**

郑成功采纳土人的计谋，堵塞水源，迫使荷兰侵略者投降，收复台湾。

**注释：**

①揆一王：荷兰总督。 ②舶：大船。

## 5. 严密与系统性

帝曰：“来，禹！汝亦昌言<sup>①</sup>。”禹拜曰：“都！帝，予何言？予思日孜孜<sup>②</sup>。”皋陶曰：“吁！如何？”禹曰：“洪水滔天，浩浩怀山襄陵，下民昏垫<sup>③</sup>。予乘四载，随山刊木，暨益奏庶鲜食<sup>④</sup>。予决九川距四海，浚畎浍距川<sup>⑤</sup>。暨稷播，奏庶艰食鲜食<sup>⑥</sup>。懋迁有无，化居<sup>⑦</sup>。烝民乃粒，万邦作乂<sup>⑧</sup>。”皋陶曰：“俞，师汝昌言<sup>⑨</sup>。”禹曰：“都！帝。慎乃在位。”帝曰：“俞！”禹曰：“安汝止，惟几惟康<sup>⑩</sup>。其弼直，惟动丕应<sup>⑪</sup>。徯志以昭受上帝，天其申命用休<sup>⑫</sup>。”帝曰：“吁！臣哉邻哉！邻哉臣哉！<sup>⑬</sup>”禹曰：“俞！”帝曰：臣作朕股肱耳目<sup>⑭</sup>。予欲左右有民，汝翼；予欲宣力四方，汝为<sup>⑮</sup>。予欲观古人之象，日、月、星辰、山、龙、华虫，作会；宗彝、藻、火、粉米、黼、黻，絺绣<sup>⑯</sup>。以五采彰施于五色，作服，汝明<sup>⑰</sup>。予欲六律五声八音，在治忽，以出纳五言，汝听<sup>⑱</sup>。予违，汝弼，汝无面从，退有后言<sup>⑲</sup>。钦四邻<sup>⑳</sup>。庶顽谗说，若不在时，侯以明之<sup>㉑</sup>。挾以记之，书用识哉，欲并生哉<sup>㉒</sup>。工以纳言，时而颺之，格则承之庸之，否则威之<sup>㉓</sup>。”禹曰：“俞哉！帝，光天之下，至于海隅苍生，万邦黎献，共惟帝臣，惟帝时举<sup>㉔</sup>。敷纳以言，明庶以功，车服以庸<sup>㉕</sup>。谁敢不让，敢不敬应？帝不时敷，同，日奏，罔功<sup>㉖</sup>。无若丹朱傲，惟慢游是好，傲虐是

作<sup>②⑦</sup>。罔昼夜颺颺，罔水行舟<sup>②⑧</sup>。朋淫于家，用殄厥世<sup>②⑨</sup>。予创若时<sup>③⑩</sup>。娶于涂山，辛壬癸甲<sup>③⑪</sup>。启呱呱而泣，予弗子，惟荒度土功<sup>③⑫</sup>。弼成五服，至于五千<sup>③⑬</sup>。州十有二师，外薄四海，咸建五长，各迪有功<sup>③⑭</sup>。苗顽弗率功，帝其念哉<sup>③⑮</sup>！帝曰：“迪朕德，时乃功，惟叙<sup>③⑯</sup>。皋陶方祗厥叙，方施象刑，惟明<sup>③⑰</sup>。”

#### 《尚书·益稷》

##### 题解：

禹同舜谋画治国方略：一要注重民生，调剂余缺；二要搞好君臣之道，君明臣贤；三要重视苗民，恩威兼施。

##### 注释：

①帝：指舜。昌言：美言。②都：叹美之词。日：昔日。孜孜：勤敏。③怀：包。裹。上。昏垫：没陷。④载：载人的工具。刊木：斫木作标记。暨(jì)：与。益：人名，伯益。奏：进献。庶：众人。⑤距：至。畎浍(quǎn kuài)：田间水沟。⑥稷：周朝的始祖。艰食：百谷。⑦懋迁：调剂。化居：迁徙居积之货。⑧烝：众。作乂(yì)：始治。⑨俞：然。师：当作斯，这。⑩止：心之所止。惟：思念。几：危。康：安。⑪弼：辅佐。丕：大。⑫徯(xí)：等待。志：德。昭：明显。申：重复。用：以。休：美善。⑬邻：四邻，左辅、右弼、前疑、后丞。⑭股肱：辅佐之臣。⑮左右：帮助。有：助词。翼：辅助。宜：用。为：辅助。⑯观：显示。象：衣服上的图象。华虫：五色之虫。会：绘。宗彝：虎雌。藻：水草。粉米：白米。黼(fǔ)：两斧相背之形。黻(fú)：两弓相背之形。絺(chī)绣：绣有彩纹的细葛。⑰于：为。明：明其等级。⑱六律：音律。五声：宫、商、角、徵、羽。八音：金、石、丝、竹、匏、土、革、木。在：察。忽：乱。出纳：进退。五言：五方的意见。⑲违：有过错。⑳钦：敬重。㉑顽：愚钝。说：媚。在：察。时：是，指股肱耳目之义。侯：射侯之礼。㉒记：警戒。识：记载。生：上进。㉓工：官。时：善。颺：称扬。格：正确。庸：用。威：罚。㉔海隅：海内。黎献：众贤。时举：善于选拔。㉕敷：普遍。庶：度。功：事。车服：车马衣服。

②⑥敷：分辨。同：混同。日奏：日日进用。罔：无。②⑦丹朱：尧之子。慢游：懒惰放荡。②⑧颺颺(e)：肆恶无休息。②⑨朋：群。用：以。殄(tiǎn)：断绝。指不得继尧位。③⑩创(chuāng)：心伤。时：是，指丹朱的恶行。③⑪涂山：国名。辛壬癸甲：指只用四天办婚事，即去治水。③⑫启：禹之子。子：爱。荒：忙。度：谋画。土功：治理水土。③⑬弼成：重新划定。五服：五种服役的地区。③⑭师：二千五百人。薄：至。咸：都、全。迪：领导。有功：工事。③⑮苗：三苗。即功：接受工役。念：考虑。③⑯迪：宣扬。时：依时。功：行事。惟叙：苗即顺从。③⑰祗：敬重。象刑：刻象之刑。惟明：苗事亦成。

子曰：“天下何思何虑？天下同归而殊涂，一致而百虑<sup>①</sup>。天下何思何虑？日往则月来，月往则日来，日月相推而明生焉；寒往则暑来，暑往则寒来，寒暑相推而岁成焉；往者屈也，来者信也，屈信相感而利生焉<sup>②</sup>。尺蠖之屈，以求信也；龙蛇之蛰，以存身也；精义入神，以致用也；利用安身，以崇德也；过此以往，未之或知也；穷神知化，德之盛也<sup>③</sup>。”

子曰：“非所困而困焉，名必辱；非所据而据焉，身必危。既辱且危，死期将至，妻其可得见耶？”

子曰：“隼者，禽也；弓矢者，器也；射之者，人也<sup>④</sup>。君子藏器于身，待时而动，何不利之有？动而不括，是以出而有获，语成器而动者也<sup>⑤</sup>。”

子曰：“小人不耻不仁，不畏不义，不见利不劝，不威不惩，小惩而大诫，此小人之福也<sup>⑥</sup>。善不积，不足以成名；恶不积，不足以灭身。小人以小善为无益而弗为也，以小恶为无伤而弗去也，故恶积而不可掩，罪大而不可解<sup>⑦</sup>。”

子曰：“危者，安其位者也；亡者，保其存者也；乱者，有其治者也。是故君子安而不忘危，存而不忘亡，治而不忘乱，是以身安而国家可保也。”

子曰：“德薄而位尊，知小而谋大，力少

而任重，鲜不及矣<sup>⑧</sup>。”

子曰：“知几，其神乎。君子上交不谄，下交不渎，其知几乎。几者，动之微，吉凶之先见者也。君子见几而作，不俟终日。介如石焉，宁用终日，断可识矣。君子知微知彰，知柔知刚，万夫之望<sup>⑨</sup>。”

子曰：“君子安其身而后动，易其心而后语，定其交而后求，君子修此三者，故全也<sup>⑩</sup>。危以动，则民不与也；惧以语，则民不应也；无交而求，则民不与也<sup>⑪</sup>。莫之与，则伤之者至矣。”

《周易大传·系辞下》

#### 题解：

设谋要考虑殊途同归，能屈能伸，行通无阻，出而有获，善小亦为，恶小必去，安不忘危，治不忘乱，存不忘亡，做到谨严而周密。

#### 注释：

①涂：途。一致：同至一处。②推：推移。信：伸。③尺蠖(huò)：曲伸虫。蛰(zhé)：潜藏。④隼(sǔn)：鹰。⑤括：阻塞。⑥劝：努力。威：刑威。惩：戒。诫：戒，警惕。⑦揜(yǎn)：掩盖。⑧知：智。鲜：少。及：及于祸。⑨几：隐微。渎：轻侮人。介：坚。宁：何。望：仰望。⑩易：平静。交：交谊之人。⑪与：助。

庄周游于雕陵之樊，睹一异鹊自南方来者，翼广七尺，目大运寸，感周之颡，而集于栗林<sup>①</sup>。庄周曰：“此何鸟哉！翼殷不逝，目大不睹<sup>②</sup>。”蹇裳躩步，执弹而留之<sup>③</sup>。睹一蝉方得美荫而忘其身。螳螂执翳而搏之，见得而忘其形；异鹊从而利之，见利而忘其真<sup>④</sup>。庄周怵然曰：“噫！物固相累，二类相召也。”捐弹而反走，虞人逐而诮之，庄周反入，三日不庭<sup>⑤</sup>。蔺且从而问之：“夫子何为顷间甚不庭乎？”庄周曰：“吾守形而忘身，观于浊水而迷于清渊<sup>⑥</sup>。且吾闻诸夫子曰：‘入其俗，从其令。’今吾游于雕陵而忘吾身，异鹊感吾颡，游于栗林而忘真。栗林虞人以吾为戮，吾所以不庭也<sup>⑦</sup>。”

#### 题解：

庄子从螳螂捕蝉、异鹊利之的现象中，悟出逐利忘形，必有后患。

#### 注释：

①樊：藩篱。运：纵长。感：触。颡：额。②殷：大。逝：往。③蹇(jiǎn)：拉起。躩(jué)步：小心提步。④执翳(yì)：半臂。⑤诮(suì)：责骂。不庭：不出门。⑥守形：守住物体，指捕鹊。⑦以：将。戮：辱。

孙子曰：凡用兵之法，全国为上，破国次之；全军为上，破军次之；全旅为上，破旅次之；全卒为上，破卒次之；全伍为上，破伍次之<sup>①</sup>。是故百战百胜，非善之善者也；不战而屈人之兵，善之善者也。

故上兵伐谋，其次伐交，其次伐兵，其下政攻城<sup>②</sup>。攻城之法，为不得已。修橰辘轳，具器械，三月而后成，距闾，又三月而后已<sup>③</sup>。将不胜其忿，而蚁附之，杀士三分之一，而城不拔者，此攻之灾也。故善用兵者，屈人之兵，而非战也；拔人之城，而非攻也；破人之国，而非久也。必以全争于天下。故兵不顿而利可全，此谋攻之法也<sup>④</sup>。

《孙子·谋攻》

#### 题解：

谋攻的最高原则是不战而获全胜。孙子所谓“全国”、“全军”的原则，实质是歼灭战的原则。他根据战争和政治的关系，提出了“伐谋”、“伐交”的战略思想。

#### 注释：

①全国：使敌人举国完整地降服。②伐谋：打破敌人的计谋。交：敌方的联盟。③橰：望楼。辘轳(fèn wēn)：攻城用的战车。距闾(yīn)：在敌城外堆积土山。④顿：挫伤。

冬十月，诸侯伐郑。季武子、齐崔杼、宋皇郈从荀偃、士匄门于剡门，卫北宫括、曹人、邾人从荀偃、韩起门于师之梁，滕人、薛人从栾黶、士魋门于北门，杞人、郕人从赵武、魏绛斩行栗<sup>①</sup>。甲戌，师于汜，令于诸侯曰：“修器备，盛候粮，归老幼，居



疾于虎牢，肆眚，围郑<sup>②</sup>。”

郑人恐，乃行成<sup>③</sup>。中行献子曰：“遂围之，以待楚人之救也，而与之战。不然，无成。”知武子曰：“许之盟而还师，以敝楚人<sup>④</sup>。吾三分四军，与诸侯之锐，以逆来者，于我未病，楚不能矣<sup>⑤</sup>。犹愈于战，暴骨以逞，不可以争。大劳未艾<sup>⑥</sup>。君子劳心，小人劳力，先王之制也。”诸侯皆不欲战，乃许郑成。十一月己亥，同盟于戏，郑服也。

《左传·襄公九年》

#### 题解：

通盘考虑，分兵对敌，以逸待劳，不死拼硬打，这就是知罃全面谋划的围郑击楚的谋略。

#### 注释：

①门：进攻门。行栗：路边的栗树。

②师：驻扎。餼(hóu)粮：干粮。疾：病人。肆眚(shèng)：宽免过错。③行成：求和。④敝：使疲劳。⑤病：疲。⑥愈：胜过。艾：止息。

以强去强者弱，以弱去强者强。国为善，奸必多<sup>①</sup>。国富而贫治，曰重富，重富者强；国贫而富治，曰重贫，重贫者弱<sup>②</sup>。兵行敌所不敢行，强；事兴敌所羞为，利。主贵多变，国贵少变<sup>③</sup>。国多物，削；主少物，强。千乘之国，守千物者削<sup>④</sup>。战事兵用曰强，战乱兵息而国削。

《商子·去强》

#### 题解：

要使国家富强，须从各个方面加以筹划。

#### 注释：

①善：善政。②重：更加。③多变：应变。④守：掌管。

齐桓，五伯之盛者也，前事则杀兄而争国；内行则姑、姊、妹之不嫁者七人，闺门之内，般乐、奢汰，以齐之分奉之而不足；外事则诈邾袭莒，并国三十五；其事行也若是其险污、淫汰也，彼固曷足称乎大君子之门哉<sup>①</sup>！

若是而不亡，乃霸，何也？曰：於乎！夫

齐桓公有天下之大节焉，夫孰能亡之？倏然见管仲之能足以托国也，是天下之大知也<sup>②</sup>。安忘其怒，出忘其讎，遂立以为仲父，是天下之大决也<sup>③</sup>。立以为仲父，而贵戚莫之敢妒也；与之高、国之位，而本朝之臣莫之敢恶也；与之书社三百，而富人莫之敢距也<sup>④</sup>。贵贱长少，秩秩焉，莫不从桓公而贵敬之，是天下之大节也。诸侯有一节如是，则莫之能亡也；桓公兼此数节者而尽有之，夫又何可亡也？其霸也，宜哉！非幸也，数也<sup>⑤</sup>。

《荀子·仲尼》

#### 题解：

用人的谋略要看全局、看整体，系统全面，才算得上大智大决。

#### 注释：

①伯：霸。兄：指子纠。内行：家中的情况。般：乐。汰：侈。分：赋税的一半。邾、莒：春秋时两国名。②倏(shū)：安然不疑。③讎：仇。④高、国：高子、国子，齐国上卿。书社：以社之户口书于版图。距：拒。⑤数：势数。

晋平公问叔向曰：“昔者齐桓公九合诸侯，一匡天下，不识臣之力也，君之力也？”叔向对曰：“管仲善制割，宾胥无善削缝，隰朋善纯缘，衣成，君举而服之<sup>①</sup>。亦臣之力也，君何力之有？”师旷伏琴而笑之。公曰：“太师奚笑也？”师旷对曰：“臣笑叔向之对君也。凡为人臣者，犹炮宰和五味而进之君，君弗食，孰敢强之也<sup>②</sup>？臣请譬之：君者，壤地也；臣者，草木也。必壤地美，然后草木硕大，亦君之力也，臣何力之有<sup>③</sup>？”

或曰：叔向、师旷之对，皆偏辞也，夫一匡天下，九合诸侯，美之大者也，非专君之力也，又非专臣之力也<sup>④</sup>。昔者宫之奇在虞，僖负羁在曹，二臣之智，言中事，发中功，虞、曹俱亡者，何也？此有其臣而无其君者也<sup>⑤</sup>。且蹇叔处干而干亡，处秦而秦霸，非蹇叔愚于干而智于秦也，此有君与无君也，向曰：“臣之力也”，不然矣<sup>⑥</sup>。昔者桓公宫中二市，妇闻二百，被发而御妇人，得管仲，

为五伯长；失管仲、得竖刁而身死，虫流出户而不葬<sup>⑦</sup>。以为非臣之力也，且不以管仲为霸；以为君之力也，且不以竖刁为乱。昔者晋文公慕于齐女而亡归，咎犯极谏，故使反晋国<sup>⑧</sup>。故桓公以管仲合，文公以舅犯霸，而师旷曰“君之力也”，又不然矣，凡五霸所以能成功名于天下者，必君臣俱有力焉，故曰：叔向、师旷之对，皆偏辞也<sup>⑨</sup>。

《韩非子·难二》

#### 题解：

治理国家君臣之力皆不可偏废，须通力合作。

#### 注释：

- ①制割：剪裁。纯(zhūn)缘：装饰衣边。  
②炮宰：厨师。③壤地：土地。④专：单独。  
⑤中(zhòng)：符合。发：行动。⑥不然：不对。  
⑦闾：里巷的门，指住处。御：玩弄。伯：霸。  
⑧慕：恋。亡：忘。反：返。⑨偏辞：片面说法。

圣人深虑天下，莫贵于生。夫耳目鼻口，生之役也。耳虽欲声，目虽欲色，鼻虽欲芬香，口虽欲滋味，害于生则止。在四官者不欲，利于生者则为。由此观之，耳目鼻口，不得擅行，必有所制，譬之若官职，不得擅为，必有所制，此贵生之术也<sup>①</sup>。……

子华子曰：“全生为上，亏生次之，死次之，迫生为下<sup>②</sup>。”故所谓尊生者，全生之谓；所谓全生者，六欲皆得其宜也；所谓亏生者，六欲分得其宜也，亏生则于其尊之者薄矣<sup>③</sup>！其亏弥甚者也，其尊弥薄；所谓死者，无有所知，复其未生也；所谓迫生者，六欲莫得其宜也，皆获其所甚恶者，服是也，辱是也<sup>④</sup>。

《吕氏春秋·贵生》

#### 题解：

耳目口鼻各有所欲，但害于生则止。做一切事情，都要从全局出发。

#### 注释：

- ①擅行：专行。②全生：生命得到完全自然的发展。亏：减损。迫生：迫促求于苟生。  
③六欲：生死耳目口鼻。尊之者：生命。④服是：服从于是。

忌数与齐诸公子驰逐重射<sup>①</sup>。孙子见其马足不甚相远，马有上、中、下辈<sup>②</sup>。于是孙子谓田忌曰：“君弟重射，臣能令君胜。”田忌信然之，与王及诸公子逐射千金。及临质，孙子曰：“今以君之下驷与彼上驷，取君上驷与彼中驷，取君中驷与彼下驷<sup>③</sup>。”既驰三辈毕，而田忌一不胜而再胜，卒得王千金。于是忌进孙子于威王。威王问兵法，遂以为师。

《史记·孙子吴起列传》

#### 题解：

孙臆作了结构上的调整，取得比赛优势，最终胜过对方。

#### 注释：

- ①驰逐：赛马。重射：下大赌注。②辈：等级。③质：比赛。

顷之，上行出中渭桥，有一人从桥下走，乘舆马惊。于是使骑捕之，属廷尉<sup>①</sup>。释之治问。曰：“县人来，闻跸，匿桥不久；以为行过，既出，见车骑，即走耳<sup>②</sup>。”释之奏当：“此人犯跸，当罚金<sup>③</sup>。”上怒曰：“此人亲惊吾马，马赖和柔，令他马，固不则伤我乎？而廷尉乃当之罚金！”释之曰：“法者，天子所与天下公共也。今法如是，更重之，是法不信于民也。且方其时，上使使诛之则已。今已下廷尉，廷尉，天下之平也，一倾，天下用法皆为之轻重，民安所措其手足<sup>④</sup>？唯陛下察之！”上良久曰：“廷尉当是也。”

《汉书·张释之传》

#### 题解：

张释之从全局出发，反对任意施行法律，维护了法的严肃性。

### 注释:

①属(zhù): 交付给。 ②蹕(bì): 帝王出行时开路清道。 ③当: 判罪。 ④轻重: 增减刑罚。

见善而怠, 时至而疑, 知非而处<sup>①</sup>。此三者, 道之所止也<sup>②</sup>。柔而静, 恭而敬, 强而弱, 忍而刚。此四者, 道之所起也<sup>③</sup>。”

《六韬·文韬·明传》

### 题解:

三种失败之路, 四种胜利之路, 谋略家不可不知。

### 注释:

①善: 有利条件。 ②止: 停滞, 灭亡。  
③起: 兴旺, 胜利。

臣又闻兵形象水, 水因地而制胜。蓊之地有三。平原广陌, 内地百里以南之形也<sup>①</sup>。半险半易, 近边之形也。山谷仄隘, 林薄蓊翳, 边外之形也<sup>②</sup>。寇入平原, 利车战。在近边, 利马战。在边外, 利步战。三者迭用, 乃可制胜。

《明史·戚继光传》

### 题解:

戚继光根据不同的地形, 采用不同的战略。谋划具有整体性、系统性。

### 注释:

①广陌: 广阔。 ②仄隘: 陡峭窄小。林薄: 草木。蓊翳(wēng yì): 茂盛。

时敌军已近寨, 枪声隆然, 寨中人踞伏不少动<sup>①</sup>。既而敌行益迳。三保见敌势可乘, 急挥帜, 曰:“开火!”开火者, 军中发枪之号也。于是众枪齐发, 敌人纷堕如落叶。及敌枪再击, 寨中人又踞伏矣。盖借寨墙为蔽也。攻一时, 敌退, 三保亦自喜。婉贞独戚然曰:“小敌去, 大敌来矣。设以炮至, 吾村不齑粉乎?”三保瞿然曰:“何以为计?”婉贞曰:“西人长火器而短技击。火器利袭远, 技击利巷战。吾村十里皆平原, 而与之竞火器, 其何能胜?莫如以吾所长攻敌所短, 操刀挟盾, 猱进鸢击, 或能免乎?”

《清稗类钞》

### 题解:

冯婉贞建议以我所长攻敌所短, 用技击与洋人交战。这一作战结构上的调整, 使战斗取得了胜利。

### 注释:

①踞(quán): 身体弯曲。 ②齑(jī)粉: 粉末。  
③瞿(jù)然: 吃惊。 ④猱(náo): 猴。鸢(zhì): 凶猛的鸟。

## 6. 主动与灵活性

天地交而万物通也, 上下交而其志同也, 内阳而外阴, 内健而外顺, 内君子而外小人, 君子道长, 小人道消也<sup>①</sup>

《周易大传·泰象》

天地不交而万物不通也, 上下不交而天下无邦也, 内阴而外阳, 内柔而外刚, 内小人而外君子, 小人道长, 君子道消也。

《周易大传·否象》

文明以健, 中正而应, 君子正也。唯君子为能通天下之志<sup>②</sup>。

《周易大传·同人象》

时止则止、时行则行, 动静不失其时, 其道光明<sup>③</sup>。

《周易大传·艮象》

险在前也, 刚健而不陷, 其义不困穷矣。

《周易大传·需象》

### 题解:

上下、内外、阴阳、消长、刚柔、行止, 动静等事物的两个方面, 要灵活掌握, 主动运用, 促其变化。

### 注释:

①上下: 君臣。交: 通达。内阳: 内有刚健之德。外阴: 外抱柔顺的态度。 ②以: 与。应: 应和。通: 辨察。 ③时止: 时宜止。

郑人患晋、楚之故, 诸大夫曰:“不从晋, 国几亡。楚弱于晋, 晋不吾疾也; 晋疾, 楚将辟之<sup>①</sup>。何为而使晋师致死于我, 楚弗敢敌, 而后可固与也。”子展曰:“与宋为恶, 诸侯必至, 吾从之盟。楚师至, 吾又从之, 则

晋怒甚矣。晋能骤来，楚将不能，吾乃固与晋<sup>②</sup>。”大夫说之，使疆场之司恶于宋<sup>③</sup>。宋向戌侵郑，大获。子展曰：“师而伐宋可矣。若我伐宋，诸侯之伐我必疾，吾乃听命焉，且告于楚。楚师至，吾乃与之盟，而重赂晋师，乃免矣。”夏，郑子展侵宋。

《左传·襄公十一年》

#### 题解：

夹在大国之间的郑国，运用子展的谋略，灵活周旋，得以生存。

#### 注释：

①疾：急需。辟：避。②骤：屡次。  
③场(yì)：边境。司：官员。

孔子行年五十有一而不闻道，乃南之沛见老聃。老聃曰：“子来乎？吾闻子，北方之贤者也！子亦得道乎？”孔子曰：“未得也。”老子曰：“子恶乎求之哉<sup>①</sup>？”曰：“吾求之于度数，五年而未得也。”老子曰：“子又恶乎求之哉？”曰：“吾求之于阴阳，十有二年而未得也<sup>②</sup>。”老子曰：“然，使道而可献，则人莫不献之于其君；使道而可进，则人莫不进之于其亲；使道而可以告人，则人莫不告其兄弟；使道而可以与人，则人莫不与其子孙，然而不可者，无佗也，中无主而不止，外无正而不行<sup>③</sup>。由中出者，不受于外，圣人不出；由外入者，无主于中，圣人不隐。名，公器也，不可多取<sup>④</sup>。仁义，先王之蘧庐也，止可以一宿而不可久处。觐而多责。古之至人，假道于仁，托宿于义，以游逍遥之墟，食于苟简之田，立于不贷之圃<sup>⑤</sup>。逍遥，无为也，苟简，易养也；不贷，无出也。古者谓是采真之游。以富为是者，不能让禄；以显为是者，不能让名<sup>⑥</sup>。亲权者，不能与人柄，操之则栗，舍之则悲，而一无所鉴，以窥其所不休者，是天之戮民也<sup>⑦</sup>。怨、恩、取、与、谏、教、生、杀八者，正之器也，唯循大变无所湮者为能用之<sup>⑧</sup>。故曰：正者，正也。其心以为不然者，天门弗开矣<sup>⑨</sup>。”

《庄子·天运》

#### 题解：

如果能遵循大道的变化规律，那么怨、恩、取、与、谏、教、生、杀等手段都可以利用。

#### 注释：

①之：往。沛：今江苏沛县。老聃(dān)：老子。恶乎：于何。②度数：制度条款。阴阳：阴阳变化之理。③使：假使。佗：他。中：内心。止：留。正：纯正的品质。④名：名誉。⑤蘧(qú)庐：旅店。觐(gòu)：交积。责：被指责。⑥采真：神采纯真。⑦栗：恐惧。鉴：觉察。⑧正之器：治理好天下的手段。湮(yān)：停滞。⑨天门：天道之门。

四战之国贵守战，负海之国贵攻战；四战之国，好举兴兵以距四邻者，国危<sup>①</sup>。四邻之国一兴事，而已四兴军，故曰国危。四战之国，不能以万室之邑舍巨万之军者，其国危，故曰：四战之国务在守战<sup>②</sup>。

守有城之邑。不知以死人之力与客生力战，其城拔<sup>③</sup>。若死人之力也，客不尽夷城，客无从入，此谓以死人之力与客生力战<sup>④</sup>。城尽夷，客若有从人，则客必罢，中人必佚矣<sup>⑤</sup>。以佚力与罢力战，此谓以生人力与客死力战<sup>⑥</sup>。皆曰：围城之患，患无不尽死而已。此三者，非患不足，将之过也<sup>⑦</sup>。

守城之道，盛力也。故有客，治薄檄。三军之多，分以客之候车之数<sup>⑧</sup>。三军：壮男为一军，壮女为一军，男女之老弱者为一军，此谓之三军也。壮男之军，使盛食厉兵，陈而待敌<sup>⑨</sup>。壮女之军，使盛食负垒，陈而待令；客至，而作土以为险阻及耕格阱，发梁撤屋，给徙徙之，不洽而燔之，使客无得以助攻备<sup>⑩</sup>。老弱之军，使牧牛马羊彘，草木之可食者，收而食之，以获其壮男女之食<sup>⑪</sup>。而慎使三军无相过。壮男过壮女之军，则男贵女，而奸民有从谋而国亡<sup>⑫</sup>。喜与，其恐有蚤闻，勇民不战<sup>⑬</sup>。壮男壮女过老弱之军，则老使壮悲，弱使强怜，悲怜在心，则使勇民更虑，而怯民不战。故曰，慎使三军无相过。此盛力之道。

## 《商子·兵守》

### 题解:

平时加强防御战的准备,战时以决死的军民战斗,用以逸待劳的战术灭敌,组织壮男、壮女、老弱三军。

### 注释:

①四战:四面受敌。②舍:驻扎。③死人:有决死之心的人。④夷:毁平。⑤罢:疲。⑥生人力:有生气力量。⑦过:过错。⑧候车:侦察车。⑨陈:列阵。⑩爨(rán):燃。⑪彘(zhì):猪。⑫从:纵,扰乱。⑬蚤:早。

临武君曰:“善!请问王者之军制。”

孙卿子曰:“将死鼓,御死辔,百吏死职,士大夫死行列<sup>①</sup>。闻鼓声而进,闻金声而退,顺命为上,有功次之;令不进而进,犹令不退而退也,其罪惟均<sup>②</sup>。不杀老弱,不猎禾稼,服者不禽,格者不舍,犇命者不获<sup>③</sup>。凡诛、非诛其百姓也,诛其乱百姓者也;百姓有扞其贼,则是亦贼也<sup>④</sup>。以故顺刃者生,苏刃者死,犇命者贡<sup>⑤</sup>。微子开封于宋;曹触龙断手军;殷之服民所以养生之者也无异周人;故近者歌讴而乐之,远者竭蹶而趋之,无幽闲辟陋之国,莫不趋使而安乐之,四海之内若一家,通达之属莫不从服,夫是之谓人师<sup>⑥</sup>。诗曰:‘自西自东,自南自北,无思不服<sup>⑦</sup>。’此之谓也。王者有诛而无战,城守不攻,兵格不击<sup>⑧</sup>。上下相喜则庆之。不屠城,不潜军,不留众,师不越时<sup>⑨</sup>。故乱者乐其政,不安其上,欲其至也。”

临武君曰:“善!”

## 《荀子·议兵》

### 题解:

用兵要针对敌情采取主动灵活的策略,攻守战退要视具体情况而为。

### 注释:

①死鼓:至死不让鼓声绝。②均:同。③猎:戮,践踏。禽:擒。犇命者:投顺者,犇:奔。④扞:藏匿。⑤顺刃:不战而走。苏刃:相向格斗。苏:傚,向。贡:置,赦免。⑥微子

开:商纣的庶兄,名启。断于军:斩首军前。服民:臣服之民。竭蹶(jué):匍匐。幽闲:地处荒僻。辟陋:国境褊小。⑦思:助词。《诗经·大雅·文王有声》。⑧兵格:敌军顽强抵抗。⑨留众:久留兵于外。时:一季度。

昔者戎王使由余聘于秦,穆公问之曰:“寡人尝闻道而未得目见之地,愿闻古之明主得国失国常何以!”由余对曰:“臣尝得闻之矣,常以俭得之,以奢失之<sup>①</sup>”。穆公曰:“寡人不辱而问道于子,子以俭对寡人,何也?”由余对曰:“臣闻昔者尧有天下,饭于土簋,饮于土铏<sup>②</sup>。其地南至交趾,北至幽都,东西至日月之所出入者,莫不宾服<sup>③</sup>。尧禅天下,虞舜受之,作为食器,斩山木而财之,削锯修其迹,流漆墨其上,输之于宫以为食器<sup>④</sup>。诸侯以为益侈,国之不服者十三。舜禅天下而传之于禹,禹作为祭器,墨染其外,而朱画其内,纁帛为茵,蒋席颇缘,觴酌有采,而樽俎有饰<sup>⑤</sup>。此弥侈矣,而国之不服者三十三。夏后氏没,殷人受之,作为大路,而建九旒,食器雕琢,觴酌刻镂,白壁絜墀,茵席雕文<sup>⑥</sup>。此弥侈矣,而国之不服者五十三。君子皆知文章矣,而欲服者弥少,臣故曰:俭其道也<sup>⑦</sup>。”由余出,公乃召内史廖而告之,曰:“寡人闻邻国有圣人,敌国之忧也。今由余,圣人也,寡人患之,吾将奈何?”内史廖曰:“臣闻戎王之居,僻陋而道远,未闻中国之声<sup>⑧</sup>。君其遗之女乐,以乱其政,而后为由余请期,以疏其谏,彼君臣有间而后可图也<sup>⑨</sup>。”君曰:“诺。”乃使内史廖以女乐二八遗戎王,因为由余请期。戎王许诺,见其女乐而说之,设酒张饮,日以听乐,终岁不迁,牛马半死<sup>⑩</sup>。由余归,因谏戎王,戎王弗听。由余遂去之秦。秦穆公迎而拜之上卿,问其兵势与其地形。既以得之,举兵而伐之,兼国十二,开地千里,故曰:耽于女乐,不顾国政,则亡国之祸也。

## 《韩非子·十过》

### 题解:

内史廖设计离间戎王与由余的关系，然后举兵而胜之。

### 注释:

①尝：曾经。②簋(guǐ)：器具。羹(xíng)：盛汤的用具。③宾服：臣服。④财，裁，制作。⑤茵：车上的垫席。蒋：草名。⑥路：辂，天子的车。擗(chī)：台阶。⑦文章：文彩。⑧僻陋：荒僻简陋。⑨间：隔阂。⑩张：帐。

上胡不法先王之法？非不贤也，为其不可得而法。先王之法经乎上世而来者也，人或益之，人或损之，胡可得而法？虽人弗损益，犹若不可得而法。

东夏之命，古今之法，言异而典殊；故古之命多不通乎今之言者，今之法多不合乎古之法者；殊俗之民，有似于此，其所欲同，其所为异；口偃之命不愉，若舟车衣冠滋味声色之不同，人以自是，反以相诽；天下之学者多辩，言利辞倒，不求其实，务以相毁，以胜为故<sup>①</sup>。先王之法胡可得而法？虽可得，犹若不可法。

凡先王之法，有要于时也，时不与法俱至，法虽今而至，犹若不可法，故择先王之法，而法其所以为法。

先王之所以为法者何也？先王之所以为法者，人也，而已亦人也，故察己则可以知人，察今则可以知古，古今一也，人与我同耳。有道之士，贵以近知远，以今知古，以益所见知所不见。

故审堂下之阴，而知日月之行，阴阳之变；见瓶水之冰，而知天下之寒，鱼鳖之藏也；尝一脔肉，而知一镬之味，一鼎之调也<sup>②</sup>。

荆人欲袭宋，使人先表澮水，澮水暴益，荆人弗知，循表而夜涉，溺死者千有馀人，军惊而坏都舍；向其先表之时可导也，今水已变而益多矣，荆人尚犹循表而导之，此其所以败也<sup>③</sup>。

今世之主，法先王之法也，有似于此。其时已与先王之法亏矣，而曰，此先王之法

也，而法之；以此为治，岂不悲哉！<sup>④</sup>

故治国无法则乱，守法而弗变则悖，悖乱不可以持国；世易时移，变法宜矣！譬之若良医，病万变，药亦万变；病变而药不变，向之寿民，今为殒子矣！故凡举事必循法以动，变法者因时而化，若此论则无过务矣<sup>⑤</sup>。

夫不敢议法者，众庶也；以死守者，有司也；因时变法者，贤主也；是故有天下七十一圣，其法皆不同，非务相反也，时势异也；故曰，良剑期乎断，不期乎镞鏑；良马期乎千里，不期乎骥骖<sup>⑥</sup>。夫功名者，此先王之千里也。

楚人有涉江者，其剑自舟中坠于水，遽契其舟曰：“是吾剑之所从坠也。”舟止，从其所契者入水求之<sup>⑦</sup>。舟已行矣，而剑不行，求剑若此，不亦惑乎！以此故法为其国，与此同。时已徙矣，而法不徙，以此为治，岂不难哉！

有过于江上者，见人方引婴儿而欲投之江中<sup>⑧</sup>。婴儿啼。人问其故，曰：“此其父善游！”其父虽善游，其子岂遽善游哉？此任物，亦必悖矣<sup>⑨</sup>。荆国之为政，有似于此。

《吕氏春秋·察今》

### 题解:

对一切事物都要灵活处理，否则无异于循表涉澮、刻舟求剑。

### 注释:

①东夏：东夷和诸夏。命：名称。偃：吻。愉：渝，改变。辞倒：言辞颠倒。②脔(luán)：小片肉。镬(huò)：大锅。③表：标记。而：如。都舍：都邑的房屋。④亏：诡，异。⑤过务：错事。⑥众庶：百姓。有司：官员。期：求。镞鏑：莫邪，名剑。骥、骖(ào)：千里马名。⑦遽(jù)：急速。契：刻。⑧引：拉着。⑨任物：处理事物。

武德末年，突厥至渭水桥，控弦四十万，太宗初亲庶政，驿召卫公问策<sup>①</sup>。时发诸州军未到，长安居人，胜兵不过数万。胡人精骑腾突挑战，日数十合，帝怒，欲击之。靖请倾府库赂以求和，潜军邀其归路<sup>②</sup>。帝从

其言，胡兵遂退。于是据险邀之，虏弃老弱而遁，获马数万匹，玉帛无遗焉。

《隋唐嘉话上》

**题解：**

在突厥大兵压境的形势下，李靖以财求和，然后潜军拦击，获得大胜。

**注释：**

①庶政：各种政务。 ②邀：拦击。

齐将鲁康祖、赵公政侵豫州之太仓口，肃令永击之。永量吴、楚兵好以斫营为事，又贼若夜来，必于渡淮之所以火记其浅处<sup>①</sup>。永既设伏，仍密令人以瓠盛火，渡南岸，当深处置之，教云：“若有火起，即亦燃之。”其夜，康祖、公政等果亲率领来斫营。东西二伏夹击之，康祖等奔趣淮水。火既竟起，不能记其本济，遂望永所置火争渡<sup>②</sup>。水深溺死，斩首者数千级，生禽公政。康祖人马坠淮，晓而获其尸，斩首并公政送京师。

《北史·傅永列传》

**题解：**

傅永巧设薪火使齐将士多被溺死。

**注释：**

①斫营：劫营。 ②本济：原来的渡河处。

## （四）谋略的心智技能

周公若曰：“君奭，弗弔天降丧于殷，殷既坠厥命，我有周既受<sup>①</sup>。我不敢知曰：厥基永孚于休<sup>②</sup>。若天棗忱，我亦不敢知曰：其终出于不祥<sup>③</sup>。呜呼！君已曰：‘时我，我亦不敢宁于上帝命，弗永远念天威越我民；罔尤违，惟人<sup>④</sup>。在我后嗣子孙，人弗克恭上下，遏佚前人光在家，不知天命不易，天难谌，乃其坠命，弗克经历<sup>⑤</sup>。嗣前人，恭明德，在今<sup>⑥</sup>。’予小子旦非克有正，迪惟前人光施于我冲子<sup>⑦</sup>。又曰：‘天不可信。’我道惟宁王德延，天不庸释于文王受命<sup>⑧</sup>。”

公曰：“君奭，我闻在昔成汤既受命，时则有若伊尹，格于皇天；在太甲，时则有若保衡；在太戊，时则有若伊陟，臣扈；格于

上帝；巫咸又王家；在祖乙，时则有若巫贤；在武丁，时则有若甘盘<sup>⑨</sup>。率惟兹有陈，保又有殷，故殷礼陟配天，多历年所<sup>⑩</sup>。天惟纯佑命，则商实百姓王人，罔不秉德明恤，小臣屏侯甸，矧咸奔走<sup>⑪</sup>。惟兹惟德称，用又厥辟，故一人有事于四方，若卜筮罔不是孚<sup>⑫</sup>。”公曰：“君奭，天寿平格，保又有殷，有殷嗣，天灭威<sup>⑬</sup>。今汝永念，则有固命，厥乱明我新造邦<sup>⑭</sup>。”

公曰：“君奭，在昔上帝割申劝宁王之德，其集大命于厥躬<sup>⑮</sup>？惟文王尚克修和我有夏；亦惟有若虢叔，有若闳夭，有若散宜生，有若泰颠，有若南宫括<sup>⑯</sup>。又曰：‘无能往来，兹迪彝教，文王蔑德降于国人<sup>⑰</sup>。’亦惟纯佑秉德，迪知天威，乃惟时昭文王迪见冒，闻于上帝，惟时受有殷命哉<sup>⑱</sup>。武王惟兹四人尚迪有禄；后暨武王诞将天威，咸刘厥敌<sup>⑲</sup>；惟兹四人昭武王惟冒，丕单称德。今在予小子旦，若游大川，予往暨汝奭其济；小子同未在位，诞无我责收，罔勖不及<sup>⑳</sup>。苟造德不降我则，鸣鸟不闻，矧曰其有能格<sup>㉑</sup>？”公曰：“呜呼！君肆其监于兹<sup>㉒</sup>！我受命无疆惟休，亦大惟艰<sup>㉓</sup>。告君，乃猷裕我，不以后人迷<sup>㉔</sup>。”

《尚书·君奭》

**题解：**

周朝初年，东土既定，朝内流行周朝得天下是天命决定的说法。辅佐大臣召公不同意此论，就言于周公。周公答之，赞成其说。周公强调事在人为，肯定了召公的非命之说，并广引史实加以证明，还勉励召公继续指导，共成文王之业。这是中国谋略史上十分重要的文献。

**注释：**

①若：如此。君：尊称。奭(shì)：召公名。弔：善。丧：乱。坠：失。②知：认为。厥：其。基：始。孚：付。休：美善。③若：顺。棗(fēi)：辅。忱：诚信。④时：特。宁：安。越：与。罔：无。尤：过失。⑤在：观察。克：能。上下：天与民。遏佚：绝失。不易：难得。谌：

信。经历：长久。⑥嗣：继。⑦有正：有所改正。迪：助词。施：延。冲子：幼子，后辈。⑧道：助词。宁王：文王。庸：用。释：舍去。⑨若：此。伊尹：汤臣。格：嘉。太甲：汤之孙。保：太保。衡：伊尹之名。太戊：太甲之孙。伊陟、臣扈、巫咸：贤臣。乂(yì)：治。祖乙：殷第七世贤王。巫贤：祖乙的贤臣。武丁：殷第十一世贤王。甘盘：贤臣。⑩率：助词。惟：以。兹：此。陈：道。陟(zhì)：帝王死。所：时。⑪纯佑：良左。命：教告。百姓：百官。王人：同姓之臣。恤：慎。屏：并。侯甸：近畿之地。矧(shěn)：亦。⑫称：拔举。乂：辅。辟：君。孚：信。⑬平格：正直。嗣：怠慢。⑭固：定。厥：助词。乱：治。⑮割：向。申：重。劝：勉。集：降下。躬：身。⑯修：治。有夏：中国。虢(guó)叔、若闳(hōng)夭、散宜生、泰颠、南宫括：文王的大臣。⑰又曰：有人说。兹：勉力。迪：倡导。彝：常。蔑：无。⑱秉：奉持。时：此。昭：辅助。迪见：诞的合音，大。冒：勉力。惟时：因此。受：承受。⑲四人：指虢叔等未死的四个人。迪：犹。有禄：活着。暨：与。诞：大。将：承奉。威：遇。刘：杀。⑳丕：大。单：尽。称：称扬。其：庶几。济：渡河。同未：惘昧，知识不全。诞：助词。责：责备。收：纠正。罔：无人。勛：(xùn)：勉励。㉑苟(gòu)：老。造：成，苟造德：指召公。降：下示。则：法则。鸣鸟：凤凰。矧：况且。格：嘉于皇天。㉒肆：今。监：监督。兹：此。㉓我：我国。休：嘉善。大惟艰：大有艰难。㉔猷裕：教导。以：使。迷：迷惑。

抑抑威仪，继德之隅，人亦有言，靡哲不愚，庶人之愚，亦职维疾，哲人之愚，亦维斯戾<sup>①</sup>。

无竞维人，四方其训之，有觉德行，四国顺之，讷谟定命，远犹辰告，敬慎威仪，维民之则<sup>②</sup>。

其在于今，兴迷乱于政，颠覆厥德，荒湛于酒，女虽湛乐从，弗念厥绍，罔敷求先王，克共明刑<sup>③</sup>。

肆皇天弗尚，如彼泉流，无沦胥以亡，

夙兴夜寐，洒扫廷内，维民之章，修尔车马，弓矢戎兵，用戒戎作，用遏蛮方<sup>④</sup>。

质尔人民，谨尔侯度，用戒不虞，慎尔出话，敬尔威仪，无不柔嘉，白圭之玷，尚可磨也，斯言之玷，不可为也<sup>⑤</sup>。

无易由言，无曰苟矣，莫扞朕舌，言不可逝矣，无言不讎，无德不报，惠于朋友，庶民小子，子孙绳绳，万民靡不承<sup>⑥</sup>。

视尔友君子，辑柔尔颜，不遐有愆，相在尔室，尚不愧于屋漏，无曰不显，莫予云覿，神之格思，不可度思，矧可射思<sup>⑦</sup>。

辟尔为德，俾臧俾嘉，淑慎尔止，不愆于仪，不僭不贼，鲜不为则，投我以桃，报之以李，彼童而角，实虹小子<sup>⑧</sup>。

荏染柔木，言缙之丝，温温恭人，维德之基，其维哲人，告之话言，顺德之行，其维愚人，覆谓我僭，民各有心<sup>⑨</sup>。

於呼小子，未知臧否，匪手携之，言示之事，匪面命之，言提其耳，借曰未知，亦既抱子，民之靡盬，谁夙知而莫成<sup>⑩</sup>。

昊天孔昭，我生靡乐，视尔梦梦，我心惨惨，诲尔谆谆，听我藐藐，匪用为教，覆用为虐，借曰未知，亦聿既耄<sup>⑪</sup>。

於乎小子，告尔旧止，听用我谋，庶无大悔，天方艰难，曰丧厥国，取譬不远，昊天不弔，回遹其德，俾民大棘<sup>⑫</sup>。

《诗经·大雅·抑》

#### 题解：

周大夫卫武公作以自儆，并告诫王室：大计定了即号召，远谋及时告国人；谨守法度，说话慎重；谆谆教导，耳提面命；听从计谋，终无大悔。

#### 注释：

①抑抑：缜密。隅：方正。靡：无。戾(lì)：罪。②无：莫。竞：强。觉：正直。讷(xū)：大。谟：谋。命：号召。犹：谋。辰：按时。则：典范。③兴：助词。厥：其。湛：沉湎。虽：惟。从：纵。绍：继承者。罔：不。敷：广。克：能。刑：法。④肆：于是。尚：佑助。沦胥：沉沦。章：表率。戎兵：武器。戎作：战争。遏



(ti): 治服。⑤质: 告诫。侯: 君。度: 法度。虞: 预料。柔: 安妥。圭(guī): 玉器。⑥易: 轻易。扞(mén): 执持。逝: 此指回来。讎: 应验。惠: 仁爱。绳绳(mǐn): 戒慎。承: 顺。⑦辑: 和。颜: 脸色。愆: 过错。相: 助。屋漏: 指神的所在。显: 光明。覿: 看见。格: 至。思: 助词。度: 测。矧(shěn): 况且。射: 厌。⑧辟: 以身作则。俾(bì): 使。臧: 善。止: 容止。僭(jiàn): 过分。童: 小羊。虹: 败坏。⑨荏染: 柔软的样子。言: 助词。缙(mín): 安弦线。⑩匪: 非。借: 假如。盈: 自满。莫: 暮。⑪昭: 明察。梦梦: 昏乱。藐藐: 疏远。覆: 反而。虐: 虐。耄(mào): 老。⑫旧: 旧章。忒: 过失。遁(yù): 邪僻。俾(bì): 使。棘: 危急。

故三军可夺气，将军可夺心。是故朝气锐，昼气惰，暮气归<sup>①</sup>。故善用兵者，避其锐气，击其惰归，此治气者也。以治待乱，以静待哗，此治心者也<sup>②</sup>。以近待远，以佚待劳，以饱待饥，此治力者也。无邀正正之旗，勿击堂堂之阵，此治变者也<sup>③</sup>。

《孙子·军争》

#### 题解:

掌握军队的士气、将军的心理，是谋略者要十分注意的。

#### 注释:

①归: 衰弱。②治心: 掌握心理的方法。③邀: 截击。

民之内事，莫苦于农，故轻治不可以使之<sup>①</sup>。奚谓轻治？其农贫而商富，故其食贱者钱重，食贱则农贫<sup>②</sup>。钱重者商富；末事不禁，则技巧之人利，而游食者众之谓也<sup>③</sup>。故农之用力最苦，而赢利少，不如商贾技巧之人。苟能令商贾技巧之人无繁，则欲国之无富不可得也<sup>④</sup>。故曰：欲农富其国者，境内之食必贵，而不农之征必多，市利之租必重<sup>⑤</sup>。则民不得无田，无田，不得不易其食。食贵则田者利，田者利则事者众<sup>⑥</sup>。食贵，余食不利，而又加重征，则民不得无去其商贾技巧而事地利矣，故民之力尽在于地利矣。

《商子·外内》

#### 题解:

重农抑商，提高农产品价格，把民力集中到农战上来。

#### 注释:

①内事: 对内应做的事。②食贱: 粮食贱。③技巧之人: 耍手艺的人。④繁: 多。⑤征: 税赋徭役。⑥事: 从事。

粟生而金死，粟死而金生<sup>①</sup>。粟本物贱，事者众买者少，农困而奸劝，其兵弱，国必削至亡<sup>②</sup>。金一两生于境内，粟十二石死于境外；金一两死于境外，粟十二石生于境内<sup>③</sup>。国好生金于境内，则金粟两死，仓府两虚，国弱；国好生粟于境内，则金粟两生，仓府两实，国强<sup>④</sup>。

强国知十三数：境内仓、口之数，壮男、壮女之数，老、弱之数，官、士之数以言说取食者之数，利民之数，马、牛、刍藁之数<sup>⑤</sup>。欲强国，不知国十三数，地虽利，民虽众，国愈弱至削。

国无怨民曰强国。兴兵而伐，则武爵武任必胜；按兵而农，粟爵粟任则国富；兵起而胜敌，按兵而国富者王<sup>⑥</sup>。

《商子·去强》

#### 题解:

治国要重视农业生产，要掌握国家的基本数据。

#### 注释:

①粟: 粮食。金: 金钱。②本物: 粮食。奸劝: 奸商得到鼓励。③生: 指输入。死: 指输出。④府: 钱库。⑤言说: 游说。取食: 谋生。刍藁(chú gǎo): 牲口饲料。⑥武爵武任: 按军功大小授爵位、任官职。

彼王者不然，仁眇天下，义眇天下，威眇天下<sup>①</sup>。仁眇天下，故天下莫不亲也。义眇天下，故天下莫不贵也。威眇天下，故天下莫敢敌也。以不敌之威，辅服人之道，故不战而胜，不攻而得，甲兵不劳而天下服，是知王道者也<sup>②</sup>。知此三具者，欲王而王，欲霸而霸，欲强而强矣<sup>③</sup>。

## 《荀子·王制》

### 题解：

谋略的心理原则之一是制上，是攻心，不战而胜，不攻而得。

### 注释：

①眇(miǎo)：远，推广。②道：道术。

③具：条件。

具具而王，具具而霸，具具而存，具具而亡。<sup>①</sup>用万乘之国者，威强之所以立也，名声之所以美也，敌人之所以屈也，国之所以安危、臧否也，制与在此亡乎人<sup>②</sup>。王霸、安存、危殆灭亡，制与在我亡乎人。夫威强未足以殆邻敌也，名声未足以县天下也，则是国未能独立也，岂渠得免夫累乎！天下胁于暴国，而党为吾所不欲于是者，日与桀同事同行，无害为尧；是非功名之所就也，非存亡安危之所堕也<sup>③</sup>。功名之所就，存亡安危之所堕，必将于愉殷赤心之所<sup>④</sup>，诚以其国为王者之所，亦王；以其国为危殆灭亡之所，亦危殆灭亡<sup>⑤</sup>。殷之日，案以中立无有所偏而为纵横之事，偃然案兵无动，以观夫暴国之相卒也；案平政教，审节奏，砥砺百姓，为是之日，而兵刳天下之劲矣；案然修仁义，伉隆高，正法则，选贤良，养百姓，为是之日，而名声刳天下之美矣<sup>⑥</sup>。权者重之，兵者劲之，名声者美之<sup>⑦</sup>，夫尧、舜者一天下也，不能加毫末于是矣！

权谋倾覆之人退，则贤良知圣之士案自进矣。刑政平，百姓和，国俗节，则兵劲城固，敌国案自诘矣<sup>⑧</sup>。务本事，积财物，而勿忘栖迟薛越也，是使群臣百姓皆以制度行，则财物积，国家案自富矣<sup>⑨</sup>。三者体此而天下服，暴国之君案自不能用其兵矣<sup>⑩</sup>。何则？彼无与至也<sup>⑪</sup>。彼其所与至者，必其民也；其民之亲我欢若父母，好我芳若芝兰，反顾其上则若灼黥，若仇讎；彼人之情性也虽桀、跖，岂有肯为其所恶贼其所好者哉！彼以夺矣<sup>⑫</sup>。故古之人，有以一国取天下者，非往行之也；脩政其所，天下莫不愿，如是而可以诛暴禁悍矣<sup>⑬</sup>。故周公南征而北国

怨。曰：何独不来也！东征而西国怨。曰：何独后我也！孰能有与是斗者与！安以其国为是者王<sup>⑭</sup>。殷之日，安以静兵息民，慈爱百姓，辟田野，实仓廩，便备用，安谨募选阅材伎之士；然后渐赏庆以先之，严刑罚以防之，择士之知事者使相率贯也，是以厌然畜积修饰而物用之足也<sup>⑮</sup>。兵革器械者，彼将日日暴露毁折之中原，我今将脩饰之，拊循之，掩盖之于府库。货财粟米者，彼将日日栖迟薛越之中野，我今将畜积并聚之于仓廩。材伎股肱、健勇爪牙之士，彼将日日挫顿竭之于仇敌，我今将来致之、并阅之、砥砺之于朝廷。如是，则彼日积敝，我日积完；彼日积贫，我日积富；彼日积劳，我日积佚。君臣上下之间者，彼将厉厉焉日日相离疾也，我今将顿顿焉日日相亲爱也，以是待其敝<sup>⑯</sup>。安以其国为是者霸。立身则从佣俗，事行则遵佣故，进退贵贱则举佣士，之所以接下之人百姓者则庸宽惠，如是者则安存<sup>⑰</sup>。立身则轻桎，事行则颺疑，进退贵贱则举佞兑，之所以接下之人百姓者则好取侵夺，如是者危殆<sup>⑱</sup>。立身则骄暴，事行则倾覆，进退贵贱则举幽险诈故，之所以接下之人百姓者，则好用其死力矣而慢其功劳，好用其籍敛矣而忘其本务，如是者灭亡<sup>⑲</sup>。此五等者，不可不善择也，王、霸、安存、危殆、灭亡之具也。善择者制人，不善择者人制之；善择之者王，不善择之者亡。夫王者之与亡者、制人之与人制也，是其为相县也亦远矣<sup>⑳</sup>。

## 《荀子·王制》

### 题解：

要遵循客观规律，要善于利用客观条件，注意效益性。

### 注释：

①具具：具备某种条件。②用：治。制：关键。与：举，皆。亡：不。③党：倘。④愉殷：优乐。⑤所：所为。⑥殷：强盛。卒：猝(cù)，互相争打。刳：专。⑦重：牢固。⑧诘：屈。⑨栖迟：分散遗弃。薛越：散乱。

⑩体：依照。⑪与：跟随。⑫灼：火烧。黥(qíng)：脸上刺字之刑。以：已。⑬行：夺取。⑭安：案，助词。⑮率贯：统率。⑯厉厉：仇视的样子。离疾：离弃憎恨。顿顿(zhùn)：诚恳的样子。⑰庸：庸，平常。故：成例。庸：用。⑱轻桡(kū)：轻率恶劣。黷疑：疑惑。佞兑：能说会道的小人。⑲侨：骄。幽：阴。故：诈伪。籍敛：搜括。本务：农桑。⑳县：悬，悬殊。

主上不神，下将有因；其事不当，下考其常<sup>①</sup>。若天若地，是谓累解；若地若天，孰疏孰亲？能象天地，是谓圣人<sup>②</sup>。欲治其内，置而勿亲；欲治其外，官置一人；不使自恣，安得移并？大臣之门，唯恐多人<sup>③</sup>。凡治之极，下不能得<sup>④</sup>。周合刑名，民乃守职；去此更求，是谓大惑<sup>⑤</sup>。猾民愈众，奸邪满侧<sup>⑥</sup>。故曰：毋富人而贷焉，毋贵人而逼焉，毋专信一人而失其都国焉<sup>⑦</sup>。腓大于股，难以趣走<sup>⑧</sup>。主失其神，虎随其后<sup>⑨</sup>。主上不知，虎将为狗。主不蚤止，狗益无已<sup>⑩</sup>。虎成其群，以弑其母<sup>⑪</sup>。为主而无臣，奚国之有？主施其法，大虎将怯；主施其刑，大虎自宁<sup>⑫</sup>。法刑苟信，虎化为人，复反其真<sup>⑬</sup>。

欲为其国，必伐其聚；不伐其聚，彼将聚众<sup>⑭</sup>。欲为其地，必适其赐；不适其赐，乱人求益。彼求我予，假仇人斧；假之不可，彼将用之以伐我<sup>⑮</sup>。黄帝有言曰：“上下一日百战<sup>⑯</sup>”。下匿其私，用试其上；上操度量，以割其下<sup>⑰</sup>。故度量之立，主之宝也；党与之具，臣之宝也。臣之所不弑其君者，党与不具也<sup>⑱</sup>。故上失扶寸，下得寻常<sup>⑲</sup>。有国之君，不大其都；有道之臣，不贵其家<sup>⑳</sup>。有道之君，不贵其臣；贵之富之，彼将代之<sup>㉑</sup>。备危恐殆，急置太子，祸乃无从起<sup>㉒</sup>。内索出圉，必身自执其度量<sup>㉓</sup>。厚者亏之，薄者靡之<sup>㉔</sup>。亏靡有量，毋使民比周；同欺其上<sup>㉕</sup>。亏之若月，靡之若热；简令谨诛，必尽其罚<sup>㉖</sup>。

毋弛而弓，一栖两雄<sup>㉗</sup>。一栖两雄，其斗嚙嚙，豺狼在牢，其羊不繁，一家二贵，

事乃无功。夫妻持政，子无适从<sup>㉘</sup>。

为人君者，数披其木，毋使木枝扶疏；木枝扶疏，将塞公闾，私门将实，公庭将虚，主将壅圉<sup>㉙</sup>。数披其木，无使木枝外拒；木枝外拒，将逼主处。数披其木，毋使枝大本小；枝大本小，将不胜春风；不胜春风，枝将害心<sup>㉚</sup>。公子既众，宗室忧吟，止之之道，数披其木，毋使枝茂。木数披，党与乃离，掘其根本，木乃不神，填其渊渊，毋使水清，探其怀，夺之威，主上用之，若电若雷<sup>㉛</sup>。

《韩非子·扬权》

### 题解：

发挥君权的威力，不断打击危害君权的势力，保持独尊的地位。

### 注释：

①因：凭借。②累(léi)解：平平。③移并：侵越职权。④极：顶点。⑤刑：形。⑥侧：左右。⑦都：城。⑧腓(fe i)：腿肚子。⑨虎：喻奸臣。⑩蚤：早。⑪母：君主。⑫奚：何。⑬反：返。⑭聚：朋党。⑮假：借。⑯战：冲突。⑰度量：法度。⑱党与：党羽。⑲扶：四寸。⑳大：扩大。㉑彼：指臣。㉒备：防备。㉓圉：御。㉔靡：增加。㉕比周：勾结。㉖诛：罚。㉗栖：鸟窝。㉘嚙嚙(yán)：叫声。㉙圉：包围。㉚本：指君主。㉛清：激，奔腾。

名正则治，名丧则乱；使名丧者，淫说也；说淫，则不可而然不然，是不是而非不非；故君子之说也，足以言贤者之实、不肖者之充而已矣，足以喻治之所悖、乱之所由起而已矣，足以知物之情、人之所获以生而已矣<sup>①</sup>。

凡乱者，刑名不当也；人主虽不肖，犹若用贤，犹若听善，犹若为可者，其患在乎所谓贤从不肖也，所为善从邪辟也，所谓可从悖逆也；是刑名异充，而声实异谓也，夫贤不肖，善邪辟，可悖逆，国不乱、身不危，奚待也<sup>②</sup>？

齐湣王是以知说士，而不知所谓土地，故尹文问其故而王无以应；此公玉丹之所以

见信，而卓齿之所以见任也；任卓齿而信公玉丹，岂非以自仇邪<sup>32</sup>？

《吕氏春秋·正名》

#### 题解：

名实要符、要相当，名与实的关系要正确，即谋略要符合客观实际。

#### 注释：

①淫：夸大。②刑：形，形体。邪辟：偏邪不正。③见：被。

邹忌脩八尺有余，身体昳丽<sup>①</sup>。朝服衣冠窥镜，谓其妻曰：“我孰与城北徐公美？”其妻曰：“君美甚，徐公何能及君也！”城北徐公，齐国之美丽者也。忌不自信，而复问其妾曰：“吾孰与徐公美？”妾曰：“徐公何能及君也！”明日，客从外来，与坐谈，问之客曰：“吾与徐公孰美？”客曰：“徐公不若君之美也！”明日，徐公来，孰视之，自以为不如；窥镜而自视，又弗如远甚<sup>②</sup>。暮寝而思之，曰：“吾妻之美我者，私我也；妾之美我者，畏我也；客之美我者，欲有求于我也<sup>③</sup>。”

于是入朝见威王，曰：“臣诚知不如徐公美。臣之妻私臣，臣之妾畏臣，臣之客欲有求于臣，皆以美于徐公。今齐地方千里，百二十城，宫妇左右，莫不私王；朝廷之臣，莫不畏王；四境之内，莫不有求于王；由此观之，王之蔽甚矣！”王曰：“善！”乃下令：“群臣吏民，能面刺寡人之过者，受上赏；上书谏寡人者，受中赏；能谤议于市朝，闻寡人之耳者，受下赏<sup>④</sup>。”

令初下，群臣进谏，门庭若市；数月之后，时时而间进；期年之后，虽欲言无可进者<sup>⑤</sup>。燕、赵、韩、魏闻之，皆朝于齐，此所谓战胜于朝廷<sup>⑥</sup>。

《战国策·齐策》

#### 题解：

邹忌从妻、妾、客称赞自己美的现象中思索出一条重要道理，从而进谏。

#### 注释：

①昳(yì)丽：美丽。②孰：熟，仔细。③私：偏爱。④面刺：当面指责。谤议：议论。⑤间进：断续进谏。期(jī)年：满一年。⑥朝：朝见。

## (五) 谋略的原则

### 1. 胸有全局

辑五瑞<sup>①</sup>。既月乃日，觐四岳群牧，班瑞于群后<sup>②</sup>。岁二月，东巡守，至于岱宗，柴<sup>③</sup>。望秩于山川，肆勤东后<sup>④</sup>。协时月正日，同律度量衡<sup>⑤</sup>。修五礼、五玉、三帛、二生一死贄，如五器，卒乃复<sup>⑥</sup>。五月，南巡守，至于南岳，如岱礼<sup>⑦</sup>。八月，西巡守，至于西岳，如初<sup>⑧</sup>。十有一月，朔巡守，至于北岳，如西礼<sup>⑨</sup>。归，格于艺祖，用特<sup>⑩</sup>。五载一巡守，群后四朝<sup>⑪</sup>。敷奏以言，明试以功，车服以庸<sup>⑫</sup>。肇十有二州，封十有二山，浚川<sup>⑬</sup>。象以典刑<sup>⑭</sup>。流宥五刑，鞭作官刑，扑作教刑，金作赎刑<sup>⑮</sup>。眚灾肆赦，怙终贼刑<sup>⑯</sup>。钦哉，钦哉，惟刑之恤哉<sup>⑰</sup>！流共工于幽州，放驩兜于崇山，窜三苗于三危，殛鲧于弱山<sup>⑱</sup>。四罪而天下咸服<sup>⑲</sup>。

《尚书·尧典》

#### 题解：

舜继任后，巡视四方，考核下属，制定法典，奖惩分明，因而天下大服。

#### 注释：

①辑：敛取。五瑞：诸侯执为符信的五制品。②月、日：指择月选日。觐(jìn)：会见。四岳：主管四方之祭的官名。牧：州长。班：分。后：君主。舜摄位后，辑敛诸侯的符信，无过错者，再发还给他们。③巡守：帝王巡行境内。岱宗：东岳泰山。柴：一种祭祀。④望秩：按尊卑次序祭祀。肆：遂。东后：东方的诸侯。⑤协：合。正：定。同：统一。律：音律。⑥五礼：诸侯朝聘之礼。五玉：即五瑞。二生一死：指活的羔、雁

和死的难。贄(zì): 初见尊长时所送的礼品。如: 而。五器: 即五瑞。卒乃复: 礼终而还。⑦南岳: 衡山。⑧西岳: 华山。⑨朔: 北方。北岳: 恒山。⑩格: 至。艺祖: 文祖之庙。特: 公牛。⑪四朝: 四面朝于方岳之下。⑫敷奏: 遍告, 指述职。试: 考核。功: 政绩。车服: 车和章服。庸: 表彰。⑬肇: 定界。封: 封土为坛而祭。浚: 疏通。⑭象: 在器物上刻画刑罚, 使民警戒。典刑: 常刑。⑮流: 流放。宥(yòu): 宽宥。五刑: 墨、劓、剕、宫、大辟。扑: 一种刑具, 由横树、荆条制成。赎刑: 赎罪用金。⑯眚(shěng)灾: 因过失而造成灾害。肆: 遂。怙终: 有所恃而终不改。贼: 通则。⑰钦: 慎重。恤: 通卹, 谨慎。⑱共工。驩兜、鲧(gǔn): 都是尧时的大臣。三苗: 三旌的苗裔。殛: 通极, 流放。⑲四罪: 把后裔流放到四方边邑。咸: 都。

君子体仁足以长人, 嘉会足以合礼, 利物足以和义, 贞固足以干事<sup>①</sup>。子曰: “不易乎世, 不成乎名, 遯世无闷, 不见是而无闷, 乐则行之, 忧则违之, 确乎其不可拔, 潜龙也<sup>②</sup>。”子曰: “龙, 德而正中者也。庸言之信, 庸行之谨, 闲邪存其诚, 善世而不伐, 德博而化<sup>③</sup>。”子曰: “君子进德修业, 忠信所以进德也; 修辞立其诚, 所以居业也<sup>④</sup>。知至至之, 可与言几也; 知终终之, 可与存义也<sup>⑤</sup>。是故居上位而不骄, 在下位而不忧。故乾乾因其时而惕, 虽危而无咎矣<sup>⑥</sup>。”子曰: “上下无常, 非为邪也; 进退无恒, 非离群也。君子进德修业, 欲及时也。”子曰: “同声相应, 同气相求; 水流湿, 火就燥; 云从龙, 风从虎; 圣人作而万物睹, 本乎天者亲上, 本乎地者亲下, 则各从其类也<sup>⑦</sup>。”子曰: “贵而无位, 高而无民, 贤人在下位而无辅, 是以动而有悔也。”

#### 《周易大传·乾文言》

##### 解题:

信卜行仁, 具有美德; 坚持正道, 德操坚定; 恪守中庸之道; 有诚心, 不自夸; 勤勉努力, 待时而动。是运筹不可缺少的。

##### 注释:

①体: 行。长人: 为人君之长。嘉会: 美德集中。贞固: 正而坚。②子: 伪托孔丘。遯(dùn): 隐避。违: 避。确: 坚定。③庸: 正中。闲: 防。伐: 夸。化: 感化人。④居业: 保有功业。⑤知至: 预知到某种地步。与: 以。几: 隐微。终: 结果。⑥乾乾: 勤勉努力。咎: 灾祸。⑦作: 出现。睹: 附著。本: 扎根。

子贡问政: 子曰: “足食, 足兵, 民信之矣。”

子贡曰: “必不得已而去, 于斯三者何先?” 曰: “去兵。”

子贡曰: “必不得已而去, 于斯二者何先?” 曰: “去食。自古皆有死, 民无信不立<sup>①</sup>。”

#### 《论语·颜渊》

##### 题解:

粮食充足, 军队充足, 百姓有信心, 是立国的三个重要条件, 但首要的是人民的信心。

##### 注释:

①立: 指国家站立。

秦景公使士雅乞师于楚, 将以伐晋, 楚子许之。子囊曰: “不可, 当今吾不能与晋争。晋君类能而使之, 举不失选, 官不易方, 其卿让于善, 其大夫不失守, 其士竞于教, 其庶人力于农穡, 商工皂隶不知迁业<sup>①</sup>。韩厥老矣, 知罃稟焉以为政; 范文子少中行偃而上之, 使佐中军; 韩起少于栾黶, 而栾黶士魋上之, 使佐上军; 魏绛多功, 以赵武为贤, 而为之佐<sup>②</sup>。君明、臣忠、上让、下竞。当是时也, 晋不可敌, 事之而后可, 君其图之。”

#### 《左传·襄公九年》

##### 题解:

士囊全面分析晋不可敌的情况。

##### 注释:

①竞: 努力。皂隶: 贱役。②稟: 敬。

国作一一岁, 十岁强; 作一十岁, 百岁强; 作一百岁, 千岁强, 千岁强者王<sup>①</sup>。威

以一取十，以声取实，故能为威者王<sup>②</sup>。能生不能杀，曰自攻之国，必削；能生能杀，曰攻敌之国，必强<sup>③</sup>。故攻官、攻力、攻敌，国用其二，舍一，必强，令用三者，威必王<sup>④</sup>。

十里断者国弱，五里断者国强。以日治者王，以夜治者强，宿治者削<sup>⑤</sup>。举口数，生者著，死民者削<sup>⑥</sup>。民众从不逃粟，野无荒草，则国富，国富者强<sup>⑦</sup>。

以刑去刑国治，以刑致刑国乱<sup>⑧</sup>。故曰：行刑重轻，刑去事成，国强；重重轻轻，刑至事生，国削<sup>⑨</sup>。刑生力，力生强，强生威，威生惠，惠生于力。举日以成勇战，战以成智谋。

《商子·去强》

#### 题解：

从耕战、政事、刑罚等几方面论述治国之法。

#### 注释：

①作一：专一从事农战。②声：声势。实：实力。③生：增长。杀：使用。自攻：自损。④攻：治。⑤宿治：过夜才处理。⑥举：登记。削：注销。⑦逃粟：逃避赋税。⑧致：招致。⑨重轻：加重刑于轻罪。

马骇舆，则君子不安舆；庶人骇政，则君子不安位。马骇舆，则莫若静之；庶人骇政，则莫若惠之。选贤良，举笃敬，兴孝弟，收孤寡，补贫穷。如是，则庶人安政矣。庶人安政，然后君子安位。传曰：“君者，舟也；庶人者，水也。水则载舟，水则覆舟。”此之谓也<sup>①</sup>。故君人者，欲安，则莫若平政爱民矣；欲荣，则莫若隆礼敬士矣；欲立功名，则莫若尚贤使能矣；是君人者之大节也。三节者当，则其余莫不当矣。三节者不当，则其余虽曲当，犹将无益也<sup>②</sup>。孔子曰：“大节是也，小节是也，上君也。大节是也，小节一出焉，一入焉，中君也。大节非也，小节虽是也，吾无观其余矣。”

《荀子·王制》

#### 题解：

御人要运用整体原则，注重全局性，重大关节都处理好。

#### 注释：

①弟：悌。则：能。②曲当：勉强适当。

水火有气而无生，草木有生而无知，禽兽有知而无义；人有气、有生、有知亦且有义，故最为天下贵也。力不若牛，走不若马，而牛马为用，何也？曰：人能群，彼不能群也。人何以能群？曰：分。分何以能行？曰：义。故义以分则和，和则一，一则多力，多力则强，强则胜物；故宫室可得而居也。故序四时，裁万物，兼利天下，无它故焉，得之分义也<sup>①</sup>。

故人生不能无群，群而无分则争。争则乱，乱则离，离则弱，弱则不能胜物；故宫室不可得而居也，不可少顷舍礼义之谓也。能以事亲谓之孝，能以事兄谓之弟，能以事上谓之顺，能以使下谓之君<sup>②</sup>。君者，善群也。群道当，则万物皆得其宜，六畜皆得其长，群生皆得其命。故养长时，则六畜育；杀生时，则草木殖<sup>③</sup>。政令时，则百姓一，贤良服。

《荀子·王制》

#### 题解：

要有全局观点，才能成就万物，兼利天下。

#### 注释：

①裁：成。②弟：悌。③杀生：斫杀种植。

韩事秦三十余年，出则为扞蔽，入则为席荐<sup>①</sup>。秦特出锐师取地而韩随之。怨悬于天下，功归于强秦。且夫韩人贡职，与郡县无异也。今臣窃闻贵臣之计，举兵将伐韩。夫赵氏聚士卒，养从徒，欲赘天下之兵，明秦不弱则诸侯必灭宗庙，欲西面行其意，非一日之计也。今释赵之患，而攘内臣之韩，则天下明赵氏之计矣。

夫韩，小国也，而以应天下四击，主辱臣苦，上下相与同忧久矣。修守备，戒强敌，

有蓄积，筑城池以守固。今伐韩，未可一年而灭，拔一城而退，则权轻于天下，天下摧我兵矣。韩叛，则魏应之，赵据齐以为原，如此，则以韩、魏资赵假齐以固其从，而以与争强，赵之福而秦之祸也<sup>②</sup>。夫进而击赵不能取，退而攻韩弗能拔，则陷锐之卒勤于野战，负任之旅罢于内攻，则合群苦弱以敌而共二万乘，非所以亡韩之心也<sup>③</sup>。均如贵臣之计，则秦必为天下兵质矣，陛下虽以金石相弊，则兼天下之日未也<sup>④</sup>。

今贱臣之愚计：使人使荆，重币用事之臣，明赵之所以欺秦者；与魏质以安其心，从韩而伐赵，赵虽与齐为一，不足患也。二国事毕，则韩可以移书定也。是我一举二国有亡形，则荆、魏又必自服矣。故曰：“兵者，凶器也。”不可不审用也。以秦与赵敌衡，加以齐，今又背韩，而未有以坚荆、魏之心，夫一战而不胜，则祸构矣<sup>⑤</sup>。计者，所以定事也，不可不察也。赵、秦强弱，在今年耳。且赵与诸侯阴谋久矣。夫一动而弱于诸侯，危事也；为计而使诸侯有意我之心，至殆也<sup>⑥</sup>。见二疏，非所以强于诸侯也。臣窃愿陛下之幸熟图之！攻伐而使从者间焉，不可悔也<sup>⑦</sup>。

《韩非子·存韩》

**题解：**

韩非向秦王政说明存韩的意义。

**注释：**

①扞：臂衣。蔽：车帷。②从：纵。③罢：疲。④质：靶。⑤衡：抗衡。⑥意：算计。⑦间：钻空子。

昔先圣王之治天下也，必先公，公则天下平矣，平得于公。尝试观于上志，有得天下者众矣，其得之以公，其失之必以偏，凡主之立也，生于公<sup>①</sup>。故《鸿范》曰：“无偏无党，王道荡荡，无偏无颇，遵王之义，无或作好，遵王之道，无或作恶，遵王之路<sup>②</sup>。”

天下非一人之天下也，天下之天下也。阴阳之和，不长一类，甘露时雨，不私一物，万民之主，不阿一人<sup>③</sup>。

伯禽将行，请所以治鲁，周公曰：“利而勿利也<sup>④</sup>。”荆人有遗弓者，而不肯索，曰：“荆人遗之，荆人得之，又何索焉？”孔子闻之曰：“去其荆而可矣！”老聃闻之曰：“去其人而可矣！”故老聃则至公矣<sup>⑤</sup>。天地大矣，生而弗子，成而弗有，万物皆被其泽，得其利，而莫知其所由始，此三皇五帝之德也<sup>⑥</sup>。……

夫相，大官也。处大官者，不欲小察，不欲小智，故曰：“大匠不斲，大庖不豆，大勇不斗，大兵不寇<sup>⑦</sup>。”

桓公行公去私恶，用管子而为五伯长；行私阿所爱，用竖刀而虫出于户<sup>⑧</sup>。

人之少也愚，其长也智。故智而用私，不若愚而用公。日醉而饰服，私利而立公，贪戾而求王，舜弗能为<sup>⑨</sup>。

《吕氏春秋·贵公》

**题解：**

制定政策要从整体出发，不能为利而影响大局。

**注释：**

①上志：古记。生：出。②党：袒护自己的同类。③阿：偏向。④利而勿利：利民而不自利。⑤至：大。⑥被：受。⑦豆(lóu)：剖，宰割。⑧竖刀：桓公宠幸的寺人。⑨饰服：整饬丧纪。

欲以敌国之民之所不安，正俗所……难敌国兵之所长，耗兵也。欲强多国之所寡，以应敌国之所多，速屈之兵也<sup>①</sup>。备固，不能难敌之器用，陵兵也<sup>②</sup>。器用不利，敌之备固，挫兵也。兵不……明者也。善阵，知背向，知地形，而兵数困，不明于国胜、兵胜者也<sup>③</sup>。民……兵不能昌大功，不知会者也<sup>④</sup>。兵失民，不知过者也。兵用力多功少，不知时者也。兵不能胜大患，不能合民心者也。兵多悔，信疑者也。兵不能见祸福于未形，不知备者也。兵见善而怠，时至而疑，去非而弗能居，止道也<sup>⑤</sup>。贪而廉，龙而敬，弱而强，柔而[刚]，起道也<sup>⑥</sup>。行止道者，天地弗能兴也。

《孙臧兵法·兵失》

### 题解:

充分了解作战失利的各种因素,努力掌握取得胜利规律。

### 注释:

①强多:勉强增加。屈:竭尽。②备:设防。陵:被欺凌。③数(shuò):困。④会:时机。⑤止道:灭亡之道。⑥起道:胜利之道。

或问:“天下何时太平?”飞曰:“文臣不爱钱,武臣不惜死,天下太平矣!”

师每休舍,课将士注坡跳壕,皆重铠以习之<sup>①</sup>。卒有取民麻一缕以束刍者,立斩以徇<sup>②</sup>。卒夜宿,民开门愿纳,无敢入者。军号“冻死不拆屋,饿死不掳掠”。卒有疾,亲为调药。诸将远戍,飞妻问劳其家;死事者,哭之而育其孤。有颁犒,均给军吏,秋毫无犯。

善以少击众。凡有所举,尽召诸统制,谋定而后战。故所向克捷,猝遇敌不动。故敌为之语曰:“撼山易,撼岳家军难。”张俊尝问用兵之术,飞曰:“仁、信、智、勇、严,阙一不可。”

《续资治通鉴》

### 题解:

岳飞治军,仁、智、信、勇、严五者具备。凡有战斗,则与众将共同谋划,因而所向无敌。

### 注释:

①休舍:休息。注坡:从坡上跑下。②徇:徇众。刍:饲草。徇:示众。

## 2. 谨慎持重

周公曰:“呜呼!继自今嗣王,则其无淫于观于逸于游于田,以万民惟正之供<sup>①</sup>。无皇曰:‘今日耽乐<sup>②</sup>。’乃非民攸训,非天攸若,时人不则则有愆<sup>③</sup>。无若殷王受之迷乱,酗于酒德哉<sup>④</sup>!”周公曰:“呜呼!我闻曰:古之人犹胥训告,胥保惠,胥教诲,民无或胥涛张为幻<sup>⑤</sup>。此厥不听,人乃训之,乃变乱先王之正刑,至于小大<sup>⑥</sup>。民否则厥

心违怨,否则厥口诅祝<sup>⑦</sup>。”

周公曰:“呜呼!自殷王中宗及高宗及祖甲及我周文王,兹四人迪哲<sup>⑧</sup>。厥或告之曰:‘小人怨汝詈汝’,则皇自敬德;厥愆,曰:‘朕之衍允若时’,不啻不敢含怒<sup>⑨</sup>。此厥不听,人乃或涛张为幻,曰小人怨汝詈汝,则信之,则若时;不永念厥辟,不宽绰厥心,乱罚无罪,杀无辜<sup>⑩</sup>。怨有同,是丛于厥身<sup>⑪</sup>。”周公曰:“呜呼!嗣王其监于兹<sup>⑫</sup>。”

《尚书·无逸》

### 题解:

周成王年壮执政之后,周公恐其安于逸乐,纵于酒色,荒废政事,就告诫成王,劝其不可逸豫。此段明确指出嗣王勤政之方。

### 注释:

①淫:放恣。观:闲览。逸:安逸。田:狩猎。以:使。正:正税。②皇:宽暇。耽:乐。③攸:所。训:顺。若:顺。时:是。丕则:于是。愆:过错。④受:纣。⑤胥:相。保:安。惠:顺。涛(zhōu)张:虚诞放肆。幻:诈惑。⑥听:听从。刑:法。小大:小法大法。⑦违怨:怨恨。否:不。诅祝:告神明请加殃咎。⑧中宗:一说指殷第五世贤主太戊;一说指七世贤主祖乙。高宗:殷十一世贤主武丁。祖甲:殷十二世贤主。迪哲:引导明智。⑨啻(li):骂。皇:益。厥愆:指出错误。允:确实。若时:如此。不啻(chi):不但。⑩辟:法。宽绰:宽裕。⑪有:尤。同:会同。丛:丛集。⑫监:考察。

敬之敬之,天维显思,命不易哉,无曰高高在上<sup>①</sup>。陟降厥士,日监在兹,维予小子,不聪敬止<sup>②</sup>。日就月将,学有缉熙于光明,佛时仔肩,示我显德行<sup>③</sup>。

《诗经·周颂·敬之》

### 题解:

周王戒勉自己:须谨慎,求聪明,勤学习,广见闻。



### 注释:

①敬: 慎重。显: 显明。易: 改变。 ②陟: 升。厥士: 群臣。聪: 听力好。止: 助词。  
③就、将: 长久, 指日积月累。缉熙: 渐积至广大。佛(bì): 辅佐。仔肩: 胜任。

君子终日乾乾, 夕惕若, 厉无咎<sup>①</sup>。

《周易·乾卦》

甘临, 无攸利, 既忧之, 无咎<sup>②</sup>。

《周易·临卦》

莫益之, 或击之, 立心无恒, 凶<sup>③</sup>。

《周易·益卦》

### 题解:

谋略家须勤勉努力、谨慎谋划; 不能用急政酷刑, 应以宽和施政; 若立心不恒, 守志不坚, 则事败功亏。

### 注释:

①乾乾: 勤勉努力。惕: 警惕。若: 助词。厉: 危险。咎: 灾祸。 ②甘临: 以严临民。攸: 所。忧: 宽和。 ③益: 辅助。击: 攻击。

楚子城陈、蔡、不羹。使弃疾为蔡公。王问于申无宇曰: “弃疾在蔡何如?” 对曰: “择子莫如父, 择臣莫如君。郑庄公城栎而寘子元焉, 使昭公不立。齐桓公城谷而寘管仲焉, 至于今赖之。臣闻五大不在边, 五细不在庭; 亲不在外, 羁不在内<sup>①</sup>。今弃疾在外, 郑丹在内, 君其少戒!” 王曰: “国有大城, 何如?” 对曰: “郑京、栎实杀曼伯, 宋萧、毫实杀子游, 齐渠丘实杀无知, 卫蒲、戚实出献公。若由是观之, 则害于国。未大必折, 尾大不掉, 君所知也。”

《左传·昭公十一年》

### 题解:

申无宇列举历史教训, 说明尾大不掉, 官高震主, 必须慎重对待。

### 注释:

①五大: 五种大人物。五细: 五种小人物。羁: 外国寄居之臣。

故用国者, 义立而王, 信立而霸, 权谋立而亡。三者明主之所谨择也, 仁人之所务白也<sup>①</sup>。挈国以呼礼义之而无以害之, 行一

不义, 杀一无罪, 而得天下, 仁者不为也, 拯然扶持心国且若是其固也! 之所与为之者, 之人则举义士也; 之所以为布陈于国家刑法者, 则举义法也; 主之所极然帅群臣而首乡之者, 则举义志也<sup>②</sup>。如是, 则下仰上以义矣, 是綦定也<sup>③</sup>。綦定而国定, 国定而天下定。仲尼无置锥之地, 诚义乎志意, 加义乎身行, 箸之言语, 济之日, 不隐乎天下, 名垂乎后世<sup>④</sup>。今亦以天下之显诸侯诚义乎志意, 加义乎法则度量, 箸之以政事, 案申重之以贵贱杀生, 使袭然终始犹一也<sup>⑤</sup>。如是, 则夫名声之部发于天地之间也, 岂不如日月雷霆然矣哉! 故曰: 以国齐义, 一日而白, 汤、武是也<sup>⑥</sup>。汤以亳, 武王以鄘, 皆百里之地也, 天下为一, 诸侯为臣, 通达之属, 莫不从服, 无它故焉, 以济义矣。是所谓义立而王也。德虽未至也, 义虽未济也, 然而天下之理略奏矣, 刑赏已诺信乎天下矣, 臣下晓然皆知其可要也<sup>⑦</sup>。政令已陈, 虽睹利败, 不欺其民; 约结已定, 虽睹利败, 不欺其与<sup>⑧</sup>。如是, 则兵劲城固, 敌国畏之; 国一綦明, 与国信之。虽在僻陋之国, 威动天下, 五伯是也<sup>⑨</sup>。非本政教也, 非致隆高也, 非綦文理也, 非服人之心也, 乡方略, 审劳佚, 谨畜积, 修战备, 鹾然上下相信, 而天下莫之敢当<sup>⑩</sup>。故齐桓、晋文、楚庄、吴阖闾、越句践, 是皆僻陋之国也, 威动天下, 强殆中国, 无它故焉, 略信也<sup>⑪</sup>。是所谓信立而霸也。挈国以呼功利, 不务张其义, 齐其信, 唯利之求, 内则不惮诈其民而求小利焉, 外则不惮诈其与而求大利焉, 内不修正其所以有, 然常欲人之有<sup>⑫</sup>。如是, 则臣下百姓莫不以诈心待其上矣。上诈其下, 下诈其上, 则是上下析也<sup>⑬</sup>。如是, 则敌国轻之, 与国疑之, 权谋日行, 而国不免危削, 綦之而亡, 齐闵、薛公是也。故用强齐, 非以修礼义也, 非以本政教也, 非以一天下也, 绵绵常以结引驰外为务<sup>⑭</sup>。故强, 南足以破楚, 西足以诎秦, 北足以败燕, 中足以举宋。及以燕赵起而攻之, 若振槁然, 而身死国亡,

为天下大戮，后世言恶，则必稽焉！是无他故焉，唯其不由礼义而由权谋也<sup>③</sup>。三者明主之所以谨择也，而仁人之所以务白也。善择者制人，不善择者人制之。

《荀子·王霸》

#### 题解：

要慎重选择治国之法。荀子所说“权谋立而亡”的观点则不足取。

#### 注释：

①白：明白。②挈：提举。呼：乎。栝(luò)然：形容石之坚固。举：皆。极然：形容行动敏捷。③綦：基，基本。④济：成功。⑤申重：重。袭然：形容合一。⑥部发：分布发扬。白：显扬。⑦亳(bó)：商汤的国都。鄩(hào)：周武王的国都。奏：凑，聚。要：约束。⑧与：友好国家。⑨伯：霸。⑩致：极。齧(zhuó)：牙齿上下相对。⑪略：获得。⑫惮：怕。⑬析：离散。⑭薛公：孟尝君。结引驰外：结纳盟国。⑮槁：枯叶。戮：耻辱。

爱臣太亲，必危其身；人臣太贵，必易主位；主妾无等，必危嫡子；兄弟不服，必危社稷<sup>①</sup>。臣闻千乘之君无备，必有百乘之臣在其侧，以徙其民而倾其国；万乘之君无备，必有千乘之家在其侧，以徙其威而倾其国<sup>②</sup>。是以奸臣蕃息，主道衰亡<sup>③</sup>。是故诸侯之博大，天子之害也；群臣之太富，君主之败也。将相之管主而隆家，此君人者所外也<sup>④</sup>。万物莫如身之至贵也，位之至尊也，主威之重，主势之隆也。此四美者，不求诸外，不请于人，议之而得之矣<sup>⑤</sup>。故曰：人主不能用其富，则终于外也。此君人者之所识也。

昔者纣之亡，周之卑，皆从诸侯之博大也；晋之分也，齐之夺也，皆以群臣之太富也。夫燕、宋之所以弑其君者，皆此类也。故上比之殷、周，中比之燕、宋，莫不从此术也<sup>⑥</sup>。是故明君之蓄其臣也，尽之以法，质之以备<sup>⑦</sup>。故不赦死，不宥刑，赦死宥刑，是谓威淫。社稷将危，国家偏威<sup>⑧</sup>。是故大臣之禄虽大，不得借威城市；党与虽众，不

得臣士卒。故人臣处国无私朝、居军无私交，其府库不得私贷于家。此明君之所以禁其邪。是故不得四从，不载奇兵，非传非遽，载奇兵革，罪死不赦，故明君之所以备不虞者也<sup>⑨</sup>。

《韩非子·爱臣》

#### 题解：

臣下权重危害甚大，君主必须保持高度警惕，慎重对待。

#### 注释：

①易：改变。主：王后。妾：妃。等：等级。②徙：夺取。倾：颠覆。③蕃息：滋长。④管：控制。隆：兴盛。外：排除。⑤诸：之于。议：义，措置适宜。⑥弑(shì)：臣杀君，子杀父。⑦质：正。备：措施。⑧有(yòu)：宽减。威淫：威势散失。偏威：君权旁落。⑨借：凭借。臣：使成臣属。四：驷。奇(jī)兵：任何兵器。传、遽：驿车，驿马。虞：预料。

夫得言不可以不察，数传而白为黑，黑为白，故狗似猿，猿似母猴，母猴似人，人之与狗则远矣！此愚者之所以大过也<sup>①</sup>。

闻而审则为福矣，闻而不审，不若无闻矣！齐桓公闻管子于鲍叔，楚庄闻孙叔敖于沈尹筮，审之也，故国霸诸侯也；吴王闻越王句践于太宰嚭，智伯闻赵襄子于张武，不审也，则国亡身死也<sup>②</sup>。

凡闻言必熟论，其于人必验之以理。宋之丁氏，家无井而出溉汲，常一人居外，及其家穿井，告人曰：“吾穿井得一人<sup>③</sup>。”有闻而传之者曰：“丁氏穿井得一人。”国人道之，闻之于宋君。宋君令人问之于丁氏，丁氏对曰：“得一人之使，非得一人于井中也！”求能之若此，不若无闻也；子夏之晋，过卫，有读史记者曰：“晋师三豕涉河！”子夏曰：“非也，是己亥也！”夫己与三相近，豕与亥相似<sup>④</sup>。至于晋而问之，则曰，“晋师己亥涉河”也。

辞多类非而是，多类是而非，是非之经，不可不分，此圣人之所慎也。然则何以慎？缘物之情及人之情以为所闻，则得之矣<sup>⑤</sup>！

**题解：**

对于传言要加以辨察，慎重对待。对其他事物也应取这种态度。

**注释：**

①猱(jué)：大母猴。母猴：沐猴。②市：审察。③溉汲：打水。④河：黄河。⑤经：界线。缘：遵循。

赵括自少时学兵法，言兵事，以天下莫能当<sup>①</sup>。尝与其父奢言兵事，奢不能难，然不谓善<sup>②</sup>。括母问奢其故，奢曰：“兵，死地也，而括易言之。使赵不将括即已，若必将之，破赵军者必括也<sup>③</sup>。”及括将行，其母上书言于王曰：“括不可使将。”

《史记·廉颇蔺相如列传》

**题解：**

赵括把用兵看得太容易，只会纸上谈兵，落得兵败身亡。

**注释：**

①当：匹敌。②难：诘难。③将括：使赵括为将。

然则何为而可？曰，纵而来归，杀之无赦。而又纵之，而又来，则可知为恩德之致尔<sup>①</sup>。然此必无之事也。若夫纵而来归而赦之，可偶一为之尔。若屡为之，则杀人者皆不死。是可为天下之常法乎？不可为常者，其圣人之法乎？是以尧、舜、三王之治，必本于人情，不立异以为高，不逆情以干誉<sup>②</sup>。

《欧阳文忠集·纵囚论》

**题解：**

对于罪犯不要轻易赦免，不要违背情理以求得美名。

**注释：**

①致：使来。②干：求取。

时高琪欲从言事者岁阅民田徵租，朝廷将从之。汝砺言：“臣闻治大国者若烹小鲜，最为政之善喻也<sup>①</sup>。国朝自大定通检后，十年一推物力<sup>②</sup>。惟其贵简静而重劳民耳。今言者请如河北岁括实种之田，计数徵敛，即是常时通检，无乃骇人视听，使之不安乎。

**题解：**

治理大国如同煎小鱼一样，不要常常扰动，对劳民之事要慎之又慎。

**注释：**

①小鲜：小鱼。②大定：金世宗年号。通检：普遍检定税额。物力：一种赋税。

(二年夏)六月戊子，上谓侍臣曰：“朕观《隋炀帝集》，文辞奥博，亦知是尧、舜而非桀、纣，然行事何其反也<sup>①</sup>？”魏征对曰：“人君虽圣哲，犹当虚己以受人，故智者献其谋，勇者竭其力。炀帝恃其俊才，骄矜自用，故口诵尧、舜之言，而身为桀、纣之行，曾不自知，以至覆亡也<sup>②</sup>。”上曰：“前事不远，吾属之师也。”

《通鉴纪事本末·贞观君臣论治》

**题解：**

魏征指出隋炀帝覆亡的原因，唐太宗把它作为前车之鉴。

**注释：**

①奥博：深奥丰富。②自用：一意孤行。

### 3. 因变制变

古者包牺氏之王天下也，仰则观象于天，俯则观法于地，观鸟兽之文与地之宜，近取诸身，远取诸物，于是始作八卦，以通神明之德，以类万物之情<sup>①</sup>……

《易》，穷则变，变则通，通则久，是以自天祐之，吉无不利……

《易》之为书也不可远，为道也屡迁，变动不居，周流六虚，上下无常，刚柔相易，不可为典要，唯变所适<sup>②</sup>。其出入以度外内，使知惧，又明于忧患与故<sup>③</sup>。无有师保，如临父母<sup>④</sup>。初率其辞而揆其方，既有典常，苟非其人，道不虚行<sup>⑤</sup>……

《易》之为书也，广大悉备，有天道焉，有人道焉，有地道焉，兼三材而两之，故六，六者非它也，三材之道也<sup>⑥</sup>……

夫乾，天下文至健也，德行恒易，以知险；夫坤，天下之至顺也，德行恒简，以知阻<sup>①</sup>。能说诸心，能研诸侯之虑，定天下之吉凶，成天下之亹亹者，是故变化云为，吉事有祥<sup>②</sup>。……凡《易》之情，近而不相得则凶，或害之，悔且吝<sup>③</sup>。将叛者，其辞惭；中心疑者，其辞枝；吉人之辞寡；躁人之辞多；诬善之人，其辞游；失其守者，其辞屈<sup>④</sup>。

#### 《周易大传·系辞》

##### 题解：

筹谋设略必通于事物的变化。《易》是讲变化的书，人们要善于体会运用，以便指导人事。人的心术不同，其语言亦不同，听其言可以知其人。

##### 注释：

①包牺：伏羲，传说中的部落酋长。神明：神妙明显。类：分类。②居：停。周流：周转流行。六虚：六爻之位。易：变化。典：经常。要：纲要。适：往。③度：计量。故：事故。④无：无，犹。师保：教育贵族子弟之官。⑤率：遵循。揆：度。方：义理。⑥三材：六爻象天地人三才。⑦易：平易。简：简约。⑧说：阅察。诸：之于。侯：候，指占策。亹亹(wēi)：勤勉不倦。云：说。为：作。⑨悔：小不幸。吝：灾祸。⑩惭：渐，伪诈。枝：歧。游：游移。守：操。

孔子西游于卫，颜渊问师金曰：“以夫子之行为奚如？”师金曰：“惜乎！而夫子其穷哉！”颜渊曰：“何也？”师金曰：“夫刳狗之未陈也，盛以篋衍，巾以文绣，尸祝齐戒以将之<sup>①</sup>。及其已陈也，行者践其首脊，苏者取而爨之而已<sup>②</sup>。将复取而盛以篋衍，巾以文绣，游居寝卧其下，彼不得梦，必且数眯焉，今而夫子亦取先王已陈刳狗，聚弟子游居寝卧其下<sup>③</sup>。故伐树于宋，削迹于卫，穷于商周，是非其梦邪？围于陈蔡之间，七日不火食，死生相与邻，是非其眯邪？夫水行莫如用舟，而陆行莫如用车<sup>④</sup>。以舟之可行于水也，而求推之于陆，则没世不行寻常。

古今非水陆与？周鲁非舟车与？今蘄行周于鲁，是犹推舟于陆也！劳而无功，身必有殃<sup>⑤</sup>。彼未知夫无方之传，应物而不穷者也。且子独不见夫桔槔者乎<sup>⑥</sup>？引之则俯，舍之则仰。彼，人之所引，非引人者也。故俯仰而不得罪于人<sup>⑦</sup>。故夫三皇五帝之礼义法度，不矜于同而矜于治，故譬三皇五帝之礼义法度，其犹狙梨橘柚邪！其味相反而皆可于口<sup>⑧</sup>。故礼仪法度者，应时而变者也。今取猿狙而衣以周公之服，彼必齧啮挽裂，尽去而后慊。观古今之异，犹猿狙之异乎周公也<sup>⑨</sup>。故西施病心而瞑其里。其里之丑人见之而美之，归亦捧心而瞑其里。其里之富人见之，坚闭门而不出；贫人见之，挈妻子而去走。彼知瞑美而不知瞑之所以美。惜乎，而夫子其穷哉<sup>⑩</sup>！”

#### 《庄子·天运》

##### 题解：

礼义法度应依时势相应的变化，否则将如丑妇效顰一样可笑。

##### 注释：

①刳狗：用茅草扎成的狗，用来祭神。衍：箬，圆形竹箱。齐：斋。②苏：割草。爨(cuàn)：烧。③眯(mì)：被惊吓。④削迹：绝迹。⑤蘄：企求。⑥桔槔(jié gāo)：汲水用具。⑦引：拉。⑧矜：珍重。狙(zhā)：楂。⑨猿狙(yuán jū)：猴子。齧啮(hé niè)：咬。慊(qiè)：满意。⑩瞑：顰，蹙额。

晋中行穆子败无终及群狄于大原，崇卒也<sup>①</sup>。将战，魏舒曰：“彼徒我车，所遇又阨，以什共车，必克<sup>②</sup>。困诸阨，又克。请皆卒，自我始。”乃毁车以为行，五乘为三伍。荀吴之嬖人不肯即卒，斩以徇<sup>③</sup>。为五陈以相离，两于前，伍于后，专为右角，参为左角，偏为前拒，以诱之；翟人笑之<sup>④</sup>。未陈而薄之，大败之<sup>⑤</sup>。

#### 《左传·昭公元年》

### 题解:

魏舒根据地形、敌情,改变常规的车战为步战,因而大败戎狄。

### 注释:

①无终:山戎国。卒:徒兵。 ②什:十卒。共:对付。 ③嬖(bì)人:宠臣。 ④两、伍、专、参、偏:皆阵名。翟:狄。 ⑤薄:迫近。

圣人不法古,不修今。法古则后于时,修今则塞于势<sup>①</sup>。周不法商,夏不法虞,三代异势,而皆可以王。故兴王有道,而持之异理。武王逆取而贵顺,争天下而上让,其取之以力,持之以义。今世强国事兼并,弱国务力守。上不及虞、夏之时,而下不修汤、武,汤、武塞。故万乘莫不战,千乘莫不守。此道之塞久矣,而世主莫之能废也,故三代不四。非明主莫有能听也,今日愿启之以效<sup>②</sup>。

《商子·开塞》

### 题解:

形势变化了,治国之法也应不同。

### 注释:

①塞:堵塞。 ②效:功效。

有生之气,有形之状,尽幻也。造化之所始,阴阳之所变者,谓之生,谓之死。穷数达变,因形移易者,谓之化,谓之幻<sup>①</sup>。造物者其巧妙,其功深,固难穷难终<sup>②</sup>。因形者其巧显,其功浅,故随起随灭<sup>③</sup>。知幻化之不异生死也,始可与学幻矣。

《列子·周穆王篇》

### 题解:

万物都在变化之中,变化无穷尽,重要的是掌握变化的规律。

### 注释:

①数:二仪之数。 ②固:故。 ③因:利用。

君子崇人之德,扬人之美,非谄谀也;正义直指,举人之过,非毁疵也;言己之光美,拟于舜、禹,参于天地,非夸诞也;与时屈伸,柔从若蒲苇,非慑怯也;刚强猛毅,靡所不信,非骄暴也<sup>①</sup>。以义变应,知当曲

直故也<sup>②</sup>。诗曰:“左之左之,君子宜之;右之右之,君子有之。”此言君子能以义屈信变应故也<sup>③</sup>。

《荀子·不苟》

### 题解:

依时伸缩,随机应变,是谋略的原则之一。

### 注释:

①信:伸。 ②当:因时。 ③《诗经·小雅·裳裳者华》。

王者之人,饰动以礼义,听断以类,明振毫末,举措应变而不穷,夫是之谓有原,是王者之人也<sup>①</sup>。

《荀子·王制》

### 题解:

明察秋毫,随机应变,不陷于穷竭,是谋略的根本。

### 注释:

①饰动:整饬行动。类:法。明振:明察。原:本。

不知治者,必曰:“无变古,毋易常<sup>①</sup>”。变与不变,圣人不听,正治而已。然则古之无变,常之毋易,在常古之可与不可。伊尹毋变殷,太公毋变周,则汤、武不王矣。管仲毋易齐,郭偃毋更晋,则桓、文不霸矣。凡人难变古者,惮易民之安也。夫不变古者,袭乱之迹;适民心者,恣奸之行也<sup>②</sup>。民愚而不知乱,上懦而不能更,是治之失也。人主者,明能知治,严必行之,故虽拂于民,必立其治<sup>③</sup>。说在商君之内而铁钺,重盾而豫戒也<sup>④</sup>,故郭偃之始治也,交公有官卒;管仲始治也,桓公有武车;戒民之备也。

《韩非子·南面》

### 题解:

变化要因时因地而宜,不拘一格。

### 注释:

①常:陈规。 ②恣:放纵。 ③拂:违背。 ④钺(shū):兵器。豫:预。

上古之世,人民少而禽兽众,人民不胜禽兽虫蛇。有圣人作,构木为巢以避群害,

而民悦之，使王天下，号曰有巢氏<sup>①</sup>。民食果蓏蚌蛤，腥臊恶臭而伤害腹胃，民多疾病，有圣人作，钻燧取火以化腥臊，而民说之，使王天下，号之曰燧人氏<sup>②</sup>。中古之世，天下大水，而鲧、禹决渚<sup>③</sup>。近古之世，桀、纣暴乱，而汤、武征伐<sup>④</sup>。今有构木钻燧于夏后氏之世者，必为鲧、禹笑矣；有决渚于殷、周之世者，必为汤、武笑矣<sup>⑤</sup>。然则今有美尧、舜、汤、武、禹之道于当今之世者，必为新圣笑矣。是以圣人不期修古，不法常可，论世之事，因为之备<sup>⑥</sup>。宋人有耕田者，田中有株，兔走触株，折颈而死，因释其耒而守株<sup>⑦</sup>。冀复得兔，兔不可复得，而身为宋国笑。今欲以先王之政，治当世之民，皆守株之类也。

古者丈夫不耕，草木之实足食也；妇人不织，禽兽之皮足衣也。不事力而养足，人民少而财有余，故民不争<sup>⑧</sup>。是以厚赏不行，重罚不用，而民自治<sup>⑨</sup>。今人有五子不为多，子又有五子，大父未死而有二十五孙<sup>⑩</sup>。是以人民众而货财寡，事力劳而供养薄，故民争，虽倍赏累罚而不免于乱。

尧之王天下也，茅茨不翦，采椽不斫；粢粢之食，藜藿之羹；冬日麕裘，夏日葛衣；虽监门之服养，不亏于此矣<sup>⑪</sup>。禹之王天下也，身执耒耜以为民先，股无胈，胫不生毛，虽臣虏之劳，不苦于此矣<sup>⑫</sup>。以是言之，夫古之让天子者，是去监门之养，而离臣虏之劳也，古传天下而不足多也<sup>⑬</sup>。今之县令，一日身死，子孙累世絮驾，故人重之，是以人之于让也，轻辞古之天子，难去今之县令者，薄厚之实异也<sup>⑭</sup>。夫山居而谷汲者，媵腊而相遗以水；泽居苦水者，买庸而决窦<sup>⑮</sup>。故饥岁之春，幼弟不饱；穰岁之秋，疏客必食，非疏骨肉爱过客也，多少之实异也<sup>⑯</sup>。是以古之易财，非仁也，财多也；今之争夺，非鄙也，财寡也；轻辞天子，非高也，势薄也；争士橐，非下也，权重也<sup>⑰</sup>。故圣人议多少、论薄厚为之政，故罚薄不为慈，诛严不为戾，称俗而行也，故事因于世，而

备适于事<sup>⑱</sup>。

古者文王处丰、镐之间，地方百里，行仁义而怀西戎，遂王天下<sup>⑲</sup>。徐偃王处汉东，地方五百里，行仁义，割地而朝者三十有六国，荆文王恐其害己也，举兵伐徐，遂灭之<sup>⑳</sup>。故文王行仁义而王天下，偃王行仁义而丧其国，是仁义用于古不用于今也。故曰世异则事异。当舜之时，有苗不服，禹将伐之，舜曰：“不可，上德不厚而行武，非道也<sup>㉑</sup>。”乃修教三年，执干戚舞，有苗乃服；共工之战，铁钺短者及乎敌，铠甲不坚者伤乎体，是干戚用于古不用于今也<sup>㉒</sup>。故曰：事异则备变。上古竞于道德，中世逐于智谋，当今争于气力<sup>㉓</sup>。齐将攻鲁，鲁使子贡说之，齐人曰：“子言非不辩也，吾所欲者土地也，非斯言所谓也<sup>㉔</sup>。”遂举兵伐鲁，去门十里以为界<sup>㉕</sup>。故偃王仁义而徐亡，子贡辩智而鲁削。以是言之，夫仁义辩智，非所以持国也，去偃王之仁，息子贡之智，循徐、鲁之力使敌万乘，则齐、荆之欲不得行于二国矣<sup>㉖</sup>。

夫古今异俗，新故异备，如欲以宽缓之政，治急世之民，犹无辔策而御驽马，此不知之患也<sup>㉗</sup>”。今儒、墨皆称先王兼爱天下，则视民如父母。何以明其然也？曰：“司寇行刑，君为之不举乐；闻死刑之报，君为流涕<sup>㉘</sup>。”此所举先王也。夫以君臣为如父子则必治，推是言之，是无乱父子也<sup>㉙</sup>。人之情性莫先于父母，皆见爱而未必治也，虽厚爱矣，奚遽不乱？今先王之爱民，不过父母之爱子，子未必不乱也，则民奚遽治哉？且夫以法行刑，而君为之流涕，此以效仁，非以为治也<sup>㉚</sup>。夫垂泣不欲刑者，仁也；然而不可不刑者，法也。先王胜其法，不听其泣，则仁之不可以为治亦明矣<sup>㉛</sup>。

《韩非子·五蠹》

#### 题解：

世异则事异，事异则备变，社会的一切政治措施，都要适应当时的情况。

### 注释:

①作: 出现。②藟(luó): 草果。③鯀(gǔn): 禹之父。浚(dùn): 河流。④暴: 残。⑤夏后氏: 夏代。⑥修: 效法。备: 措施。⑦释: 放下。⑧养: 给养。⑨自: 自然。⑩大父: 祖父。⑪茅茨(cí): 草屋顶。采: 栎, 栎木。粝粢(lì cǐ): 粗糙之粮。藜藿(lí huò): 野菜豆叶。⑫耜(chá): 铲。胫(bā): 大腿上的肌肉。⑬多: 称赞。⑭挈(xié)驾: 套马驾车。⑮媵(lóu)腊: 节日。宴: 渠。⑯穰(ráng): 丰收。⑰士橐: 做官附势。⑱戾(lì): 暴虐。称: 适应。⑲怀: 安抚。⑳汉: 汉水。㉑上: 尚。㉒干戚: 盾和斧。钺(xiàn): 一种兵器。㉓气力: 战争实力。㉔辩: 说得有理。㉕去: 离。㉖息: 止。㉗骍(hàn)马: 烈马。㉘司寇: 刑狱之官。㉙推: 推论。㉚效: 表示。㉛听: 顺。

夫以勇事人者, 以死也。未死而言死, 不论; 以, 虽知之与勿知同<sup>①</sup>。

凡智之贵也, 贵知化也。人主之惑者则不然, 化未至则不知, 化已至, 虽知之与勿知一贯也。

事有可以过者, 有不可以过者, 而身死国亡, 则胡可以过? 此贤主之所重, 惑主之所轻也; 所轻, 国恶得不危, 身恶得不困? 危困之道, 身死国亡, 在于不先知化也, 吴王夫差是也; 子胥非不先知化也, 谏而不听, 故吴为丘墟, 祸及阖庐<sup>②</sup>。

吴王夫差将伐齐, 子胥曰: “不可! 夫齐之与吴也, 习俗不同, 言语不通, 我得其地不能处, 得其民不得使。夫吴之与越也, 接土邻境, 壤交通属, 习俗同, 言语通, 我得其地能处之, 得其民能使之。越于我亦然。夫吴、越之势不两立。越之于吴也, 譬若心腹之疾也, 虽无作, 其伤深而在内也, 夫齐之于吴也, 疥癬之病也, 不苦其已也, 且其无伤也; 今释越而伐齐, 譬之犹惧虎而刺狼, 虽胜之, 其后患无央<sup>③</sup>!”

太宰嚭曰: “不可! 君王之令, 所以不行于上国者, 齐、晋也; 君王若伐齐而胜之,

徙其兵以临晋, 晋必听命矣! 是君王一举而服两国也, 君王之令必行于上国<sup>④</sup>。”

夫差以为然, 不听子胥之言, 而用太宰嚭之谋。

子胥曰: “天将亡吴矣, 则使君王战而胜; 天将不亡吴矣, 则使君王战而不胜。”夫差不听。子胥两袂高蹶而出于廷, 曰: “嗟乎! 吴朝必生荆棘矣<sup>⑤</sup>!”

夫差兴师伐齐, 战于艾陵, 大败齐师, 反而诛子胥。子胥将死曰: “与吾! 安得一目以视越人之入吴也!”乃自杀, 夫差乃取其身而流之江, 抉其目, 著之东门, 曰: “女胡视越人之入我也!”

居数年, 越报吴, 残其国, 绝其世, 灭其社稷, 夷其宗庙, 夫差身为擒; 夫差将死曰: “死者如有知也, 吾何面以见子胥于地下!”乃为帊以冒而死<sup>⑥</sup>。

夫患未至, 则不可告也; 患既至, 虽知之无及矣! 故夫差之知惭于子胥也, 不若勿知。

《吕氏春秋·知化》

### 题解:

客观事物是变化发展的, 运用谋略也要变化, 不能固守已知的表面。

### 注释:

①论: 辨别。以: 已。②丘墟: 空虚之地。③豮(jiān): 豮, 三岁猪。无央: 不止。④上国: 中原之国。临: 监视。⑤两袂高蹶: 两手举衣抬足踏地。⑥帊(mì): 覆面的黑布。冒: 蒙盖。

欲刚, 必以柔守之; 欲强, 必以弱保之<sup>①</sup>。积于柔必刚, 积于弱必强。观其所积, 以知祸福之乡<sup>②</sup>。强胜不若己, 至于若己者刚; 柔胜出于己者, 其力不可量<sup>③</sup>。

《淮南子·原道训》

### 题解:

刚柔、强弱是可以互相转化的, 创造由柔弱变刚强的条件, 则力不可量。

注释:

①保:保持。②积:积累。③刚:折。

于是兵皆出取麦,在者不能千人,屯营不固。太祖乃令妇人守陴,悉兵拒之<sup>①</sup>。屯西有大堤,其南树木幽深<sup>②</sup>。布疑有伏,乃相谓曰:“曹操多诡,勿入伏中。”引军屯南十余里。明日复来,太祖隐兵堤里,出半兵堤外。布益进,乃令轻兵挑战,既合,伏兵乃悉乘堤,步骑并进,大破之,获其鼓车,追至其营而还<sup>③</sup>。

《三国志注·引魏书》

题解:

曹操把一半兵力埋伏在堤里,引诱吕布上钩,随机应变而获全胜。

注释:

①陴:城上女墙。②堤:堤坝。③乘:登。

客谓物强者死徒,事穷者势反,固也。然不悟物之极也,固有所由极,故势之反也,亦有所由反。善保其强,则强者正所以常存;不善用其柔,则柔者乃所以速死。彼《周易》否泰之数,老氏雄雌之言,故圣智之妙用微权,而非不事事听其自至之谓也<sup>①</sup>。不事事而听其自至,此太甲所谓“自作孽不可逭”者耳,天固何尝为不织者减寒,为不耕者减饥也<sup>②</sup>!

严复《原强》

题解:

对立面可以互相转化,转化需要一定的条件,更需要主观努力。

注释:

①否(pǐ)泰:闭塞和亨通。②逭(huàn):逃脱。

## 4. 完善周全

周公曰:“呜呼!休兹知恤,鲜哉<sup>①</sup>!古之人迪惟有夏,乃有室大竞,吁俊尊上帝迪,知忱恂于九德之行<sup>②</sup>。乃敢告教厥后曰:拜手稽首后矣!曰:宅乃事,宅乃牧,宅乃准,

兹惟后矣<sup>③</sup>。谋面,用丕训德,则乃宅人,兹乃三宅无义民<sup>④</sup>。桀德,惟乃弗作往任,是惟暴德,罔后<sup>⑤</sup>。亦越成汤陟,丕釐上帝之耿命,乃用三有宅,克即宅,曰三有俊,克即俊<sup>⑥</sup>。严惟丕式,克用三宅三俊,其在商邑,用协于厥邑,其在四方,用丕式见德<sup>⑦</sup>。呜呼!其在受德,邑惟羞刑暴德之人,同于厥邦;乃惟庶习逸德之人,同于厥政<sup>⑧</sup>。帝钦罚之,乃伋我有夏,式商受命,奄甸万姓<sup>⑨</sup>。

“亦越文王、武王,克知三有宅心,灼见三有俊心,以敬事上帝,立民长伯<sup>⑩</sup>。立政:任人、准夫、牧作三事;虎賁、缀衣、趣马、小尹、左右携仆、百司庶府;大都小伯、艺人、表臣百司;太史、尹伯、庶常吉士;司徒、司马、司空、亚旅;夷、微、卢烝;三亳阪尹<sup>⑪</sup>。文王惟克厥宅心,乃克立兹常事司牧人,以克俊有德<sup>⑫</sup>。文王罔攸兼于庶言;庶狱庶慎,惟有司之牧夫是训用违;庶狱庶慎,文王罔敢知于兹<sup>⑬</sup>。亦越武王,率惟敕功,不敢替厥义德,率惟谋从容德,以并受此丕丕基<sup>⑭</sup>。

“呜呼!孺子王矣!继自今我其立政<sup>⑮</sup>。立事、准人、牧夫,我其克灼知厥若,丕乃俾乱<sup>⑯</sup>。相我受民,和我庶狱庶慎,时则勿有间之<sup>⑰</sup>。自一话一言,我则未惟成德之彦,以义我受民<sup>⑱</sup>。呜呼!予旦已受人之徽言咸告孺子王矣<sup>⑲</sup>。继自今文子文孙,其勿误于庶狱庶慎,惟正是义之<sup>⑳</sup>。自古商人亦越我周文王立政,立事、牧夫、准人,则克宅之,克由绎之,兹乃俾义,国则罔有<sup>㉑</sup>。立政用俭人,不训于德,是罔显在厥世<sup>㉒</sup>。继自今立政,其勿以俭人,其惟吉士,用勋相我国家<sup>㉓</sup>。今文子文孙,孺子王矣。其勿误于庶狱,惟有司之牧夫。其克诘尔戎兵以陟禹之迹,方行天下,至于海表,罔有不服<sup>㉔</sup>。以覲文王之耿光,以扬文王之大烈<sup>㉕</sup>。呜呼!继自今后王立政,其惟克用常人<sup>㉖</sup>。”周公若曰:“太史,司寇苏公式敬尔由狱,以长我王国<sup>㉗</sup>。兹式有慎,以列用中



罚<sup>⑩</sup>。”

### 《尚书·立政》

#### 题解：

周公还政于成王之后，告诫成王要重视选官任职之道。他指出了夏、商两朝立官的得失，文王、武王授职的原则，告诫成王任人授官，执掌政务的方法。

#### 注释：

①休：美善。兹：则。恤：慎。鲜：少。  
②迪：助词。有夏：夏朝。乃：其。有室：指卿大夫。竞：强。吁：呼吁。俊：长久。迪：启导。忱：诚信。③厥：其。后：君，此指诸侯。稽(qi)首：叩头至地。宅：度量。乃：你的。事：治事之官。牧：牧民之官。准：平法之官。惟：为。  
④谋面：以面貌取人。丕：不。训：依顺。宅人：任人唯亲。义民：贤人。⑤桀：夏代暴君。德：登帝位。乃：其。作：用。往任：往日任人之法。罔：无。罔后：指绝世。⑥越：及。陟(zhì)：登帝位。丕：大。釐(lí)：受。耿：明。三有宅：指事、牧、准三官。有，助词。克：能。即：就位。曰：与。三有俊：三宅的属官。⑦严：敬。惟：思。丕式：大法。协：协和。见：显扬。  
⑧受：纣王。瞽(mǐn)：强悍。羞刑：为刑所羞。同：聚。庶：众。习：亲幸。逸：失。政：正，官长。⑨钦：重。倅：使。夏：中国。式：氏。奄：抚。甸：治。⑩越：到了。灼：明。伯：官长。⑪政：正，官长。任人：治事之官。准夫：平法之官。作：为。虎贲：守王宫之官。缀：掌衣服之官。趣马：掌养马。小尹：僚属。拂：射人，射人、仆人均掌王之朝位。司：有司。府：主府藏之吏。大都小伯：三公、卿大夫之官。艺人：征税之官。表臣：外臣。太史：史官。尹伯：各官之长。常：祥。吉：善。司徒、司马、司空：三卿。亚旅：大夫。夷、微、卢：分别指东方、南方、西方之国。烝：君。三亳：殷的故都。阪(bǎn)：夏的故都。尹：长官。⑫克：其下蒙上文省“知”字。常事司牧人：指上述各官长。俊：大。  
⑬兼：包容。庶言：教令。狱：诉讼。慎：慎罚。之：与。用违：用或违。⑭率惟：助词。敕(mi)：完成文王之功。替：废。义：善。容：宽

容。丕丕：伟大。基：业。⑮孺子：指成王。⑯灼：明。若：善。丕：助词。俾(bì)：使。乱：治。⑰相：治。和：平。时：此。间：代。⑱末：终。彦：美士。⑲已受：以前。徽：美。⑳文：贤。正：长官。㉑由绎：诱掖，扶持。有：尤，过失。㉒俭(xiǎn)：奸佞。显：光显。在：终。㉓勗(mài)：勉力。㉔诒：治。戎：兵。戎服兵器。陟：步。方：普遍。表：外。㉕覲：显扬。大烈：大业。㉖惟：谋。常人：吉士。㉗太史：记言之官。苏公：苏忿生，周武王司寇。式：规定。尔：助词。由：用。长：延长。㉘兹：今兹。有：又。以：依据。列：条例。中罚：常行之法。

能以众正，可以王矣<sup>①</sup>。

《周易大传·师彖》

健而巽，刚中而志行，“乃亨<sup>②</sup>”。

《周易大传·小畜彖》

其德刚健而文明，应乎天而时行，是以“元亨<sup>③</sup>”。

《周易大传·大有彖》

说以先民，民忘其劳；说以犯难，民忘其死；说之大，民劝矣哉<sup>④</sup>。

《周易大传·兑彖》

#### 题解：

成就事业，要使民正直，使民乐意，自己要刚健、谦逊、文明，这些多方面的修养，要努力去创造。

#### 注释：

①以：使。王：成王业。②健：刚健。巽(xùn)：谦逊。刚中：正中之德。亨：亨通。③应：适应。时：以时。元亨：大而美。④说：悦。先：使前进。犯难：进攻。之：至。劝：奋勉努力。

晋人谋去故绛，诸大夫皆曰：“必居郇、瑕氏之地，沃饶而近盐，国利君乐，不可失也<sup>①</sup>。”韩献子将新中军，且为仆大夫<sup>②</sup>。公揖而入，献子从，公立于寝庭，谓献子曰：“何如？”对曰：“不可。郇、瑕氏土薄水浅，其恶易觐，易觐则民愁，民愁则垫隘，于是乎有沈溺重腿之疾<sup>③</sup>。不如新田，土厚水深，居

之不疾，有汾、浍以流其恶，且民从教，十世之利也<sup>①</sup>。夫山、泽、林、鹽，国之宝也。国饶，则民骄佚；近宝，公室乃贫，不可谓乐。”公说，从之。夏四月丁丑，晋迁于新田。

《左传·成公六年》

#### 题解：

经过反复论证，比较利弊，晋才确定了新都地址。

#### 注释：

①鹽(gǔ)：盐池名。②仆大夫：掌宫中之事。③覿(gòu)：遇见。垫隘：贫弱。沉溺：风湿病。重：肿。髓(zhuì)：足肿。④从教：习惯服从。

国以难攻，起一取十；国以易攻，起十亡百<sup>①</sup>。国好力曰以难攻，国好言曰以易攻<sup>②</sup>。民易为言，难为用。国法作民之所难，兵用民之所易，而以力攻者，起一得十；国法作民之所易，兵用民之所难，而以言攻者，出十亡百<sup>③</sup>。

刑生力，力生强，强生威，威生德，德生于刑。故刑多则赏重，赏少则刑重。民之有欲有恶也，欲有六淫，恶有四难。<sup>④</sup>从六淫，国弱；行四难，兵强。故王者刑于九而赏出一<sup>⑤</sup>。刑于九则六淫止，赏出一则四难行。六淫止则国无奸，四难行则兵无敌。

《商子·说民》

#### 题解：

如何实施刑罚和奖赏，要从强国强兵来考虑。

#### 注释：

①难：指实力。易：指空谈。②好(hào)：爱好。③作：使从事。④六淫：六种祸害。四难：指农、战等。⑤九：指刑重而多。

鱼，我所欲也；熊掌亦我所欲也。二者不可得兼，舍鱼而取熊掌者也。生，亦我所欲也；义，亦我所欲也。二者不可得兼，舍生而取义者也。生亦我所欲，所欲有甚于生者，故不为苟得也。死亦我所恶，所恶有甚于死者，故患有所不辟也<sup>①</sup>。如使人之所欲

莫甚于死者，则凡可以辟患者，何不用也？使人之所恶莫甚于生者，则凡可以得生者，何不为也？

《孟子·告子上》

#### 题解：

两者不能并有，就选取最重要的。

#### 注释：

①辟：避。

成侯、嗣公聚斂计数之君也，未及取民也；子产取民者也，未及为政也；管仲为政者也，未及修礼也<sup>①</sup>。故修礼者王，为政者强，取民者安；聚斂者亡。故王者富民、霸者富士，仅存之国富大夫，亡国富筐篋，实府库。筐篋已富，府库已实，而百姓贫，夫是之谓上溢而下漏；人不可以守，出不可以战，则倾覆灭亡可立而待也。故我聚之以亡，敌得之以强<sup>②</sup>。聚斂者，召寇、肥敌、亡国、危身之道也，故明君不蹈也。

《荀子·王制》

#### 题解：

治国需周密谋划，把握主要矛盾，切莫图小利而亡国危身。

#### 注释：

①成侯、嗣公：都是卫君。取民：得民心。

②篋(qiè)：小箱子。

明主，其务在周密，是以喜见则德偿，怒见则威分<sup>①</sup>。

故明主之言隔塞而不通，周密而不见。故以一得十者，下道也；以十得一者，上道也<sup>②</sup>。明主兼行上下，故奸无所失，伍、闾、连、县而邻，谒过赏，失过诛<sup>③</sup>。上之于下，下之于上，亦然。是故上下贵贱相畏以法，相诲以利，民之性，有生之实，有生之名，为君者有贤知之名，有赏罚之实，名实俱至，故福善必闻矣<sup>④</sup>。

《韩非子·八经》

#### 题解：

君主最紧要的事情，在于注意周密，深沉不露十分重要。

### 注释:

①见: 现。偿: 酬报。 ②下道: 揭露下面阴谋的办法。 ③伍、闾、连、县: 都是行政组织。而: 如。谒: 揭发。失: 不揭发。 ④诒: 劝说。

尹铎为晋阳, 下有请于赵简子, 简子曰: “往而夷夫垒, 我将往! 往而见垒, 是见中行寅与范吉射也!” 铎往而增之<sup>①</sup>。简子上之晋阳, 望见垒而怒曰: “嘻! 铎也欺我!” 于是乃舍于郊, 将使人诛铎也。

孙明进谏曰: “以臣私之, 铎可赏也, 铎之言固曰: ‘见乐则淫侈, 见忧则诤治, 此人之道也; 今君见垒念忧患, 而况群臣与民乎? 夫便国而利于主, 虽兼于罪, 铎为之!’ 夫顺令以取容者, 众能之, 而况铎欤! 君其图之<sup>②</sup>。”

简子曰: “微子之言, 寡人几过。” 于是乃以免难之赏赏尹铎。

人主太上喜怒必循理。其次不循理, 必数更, 虽未至大贤, 犹足以盖浊世矣; 简子当此<sup>③</sup>。

世主之患, 耻不知而矜自用, 好愎过而恶听谏, 以至于危, 耻无大乎危者<sup>④</sup>。

《吕氏春秋·似顺论》

### 题解:

尹铎故意增高晋阳遗垒, 使赵简子居安思危, 抓住了主要矛盾。

### 注释:

①夷: 平。垒: 壁垒。 ②取容: 取得好感。 ③当此: 与此相当。 ④愎过: 坚持错误。

御史曰: 水有獭獾而池鱼劳, 国有强御而齐民消<sup>①</sup>。故茂林之下无丰草, 大块之间无美苗。夫理国之道, 除秽锄豪, 然后百姓均平, 各安其宇。张廷尉论定律令, 明法以绳天下, 诛奸猾, 绝并兼之徒, 而强不凌弱, 众不暴寡<sup>②</sup>。丈夫各运筹策, 建国用, 笼天下盐铁诸利, 以排富商大贾, 买官赎罪, 损有余, 补不足, 以齐黎民。是以兵革东西征伐, 赋敛不增而用足; 夫损益之事, 贤者所睹, 非众人之所知也<sup>③</sup>。

《盐铁论·轻重》

### 题解:

运筹周密得当, 则民足国富。

### 注释:

①獭(biān): 獾属。 ②暴: 虐。 ③损益: 政策的利与害。

上与群臣论止盗。或请重法以禁之, 上哂之曰: “民之所以为盗者, 由赋繁役重, 官吏贪求, 饥寒切身, 故不暇顾廉耻耳<sup>①</sup>。朕当去奢省费, 轻徭薄赋, 选用廉吏, 使民衣食有余, 则自不为盗, 安用重法邪!” 自是数年之后, 海内升平, 路不拾遗, 外户不闭, 商旅野宿焉。

《资治通鉴·唐纪》

### 题解:

制止盗贼的关键是: 去奢省费, 轻徭薄赋, 选用廉吏, 使民衣食有余。

### 注释:

①哂(shěn): 微笑。

臣窃以和、战、守三者, 一理也。虽有高城深池, 弗能守也, 则何以战<sup>①</sup>? 虽有坚甲利兵, 弗能战也, 则何以和? 以守则固, 以战则胜, 然后其和可保。不务战守之计, 惟信讲和之说, 则国势益卑, 制命于敌, 无以自立矣<sup>②</sup>。

《三朝北盟会编·议国是》

### 题解:

李纲向南宋王朝提出立足于战以及战与守相结合的政策, 作为立国之本。

### 注释:

①池: 护城河。 ②卑: 弱。

## 5. 奇正相生

楚人伐宋以救郑。宋公将战, 大司马固谏曰: “天之弃商久矣, 君将兴之, 弗可赦也已<sup>①</sup>。”弗听。

冬十一月己巳朔, 宋公及楚人战于泓。宋人既成列, 楚人未既济。司马曰: “彼众我寡, 及其未既济也, 请击之。”公曰: “不可。”既济而未成列, 又以告。公曰: “未可。”既陈

而后击之，宋师败绩，公伤股，门官歼焉<sup>②</sup>。

国人皆咎公。公曰：“君子不重伤，不禽二毛<sup>③</sup>。古之为军也，不以阻隘也。寡人虽亡国之余，不鼓不成列<sup>④</sup>。”子鱼曰：“君未知战。勍敌之人，隘而不列，天赞我也；阻而鼓之，不亦可乎<sup>⑤</sup>？犹有惧焉。且今之勍者，皆吾敌也。虽及胡裔，获则取之，何有于二毛<sup>⑥</sup>？明耻、教战，求杀敌也。伤未及死，如何勿重？若爱重伤，则如勿伤，爱其二毛，则如服焉<sup>⑦</sup>。三军以利用也，金鼓以声气也。利而用之，阻隘可也，声盛致志，鼓儆可也<sup>⑧</sup>。”

《左传·僖公二十二年》

#### 题解：

用兵贵奇，子鱼的分析深刻透辟，宋公贻误战机，成为战争史上的笑柄。

#### 注释：

- ①商：即宋。②陈：列阵。③重：再。禽：擒。二毛：头发花白之人。④鼓：击。⑤勍(qíng)：强。⑥胡裔：(gòu)：老寿。⑦爱：怜惜。⑧儆(chán)：未列阵。

武侯问曰：“若敌众我寡，为之奈何？”起对曰：“避之于易，邀之于阨<sup>①</sup>。故曰：以一击十，莫善于阨；以十击百，莫善于险；以千击万，莫善于阻。今有少卒卒起，击金鸣鼓于阨路，虽有大众，莫不惊动<sup>②</sup>。故曰：用众者务易，用少者务隘。”

武侯问曰：“有师甚众，既武且勇，背大险阻，右山左水，深沟高垒，守以强弩，退如山移，进如风雨，粮食又多，难于长守，则如之何？”起对曰：“大哉问乎！此非车骑之力，圣人之谋也。能备千乘万骑，兼之徒步，分为五军，各军一衢<sup>③</sup>。夫五军五衢，敌人必惑，莫知所加。敌若坚守，以固其兵。急行间谍，以观其虑。彼听我说，解之而去；不听我说，斩使焚书。分为五战，战胜勿追，不胜疾归。如是佯北，安行疾斗，一结其前，一绝其后<sup>④</sup>。两军衔枚，或左或右，而袭其处。五军交至，必有其利。此击强之道也。”

《吴子·应变》

#### 题解：

设奇兵以胜强敌：或设兵于险，或用疑兵惑敌，或佯败诱敌。

#### 注释：

- ①邀：截击。②卒(cù)起：突然进攻。③衢：四通八达的道路。④佯北：假装败逃。

楚庄王莅政三年，无令发，无政为也<sup>①</sup>。右司马御座而与王隐曰：“有鸟止南方之阜，三年不翅，不飞不鸣，嘿然无声，此为何名？”王曰：“三年不翅，将以长羽翼；不飞不鸣，将以观民则，虽无飞，飞必冲天；虽无鸣，鸣必惊人，子释之，不谷知之矣<sup>②</sup>。”处半年，乃自听政，所废者十，所起者九，诛大臣五，举处士六，而邦大治<sup>③</sup>。举兵诛齐，败之徐州，胜晋于河雍，合诸侯于宋，遂霸天下，庄王不为小害善，故有大名；不蚤见示，故有大功<sup>④</sup>。故曰：“大器晚成，大音希声<sup>⑤</sup>。”

《韩非子·喻老》

#### 题解：

不鸣则已，一鸣惊人。楚庄王出其不意，称霸天下。

#### 注释：

- ①莅(lì)政：临政。②御座：侍座。隐：用谜语。阜(fù)：土山。嘿：默。释：放心。③处：停留。④蚤：早。见：现。⑤希：稀。

知不知，上矣。过者之患，不知而自以为知，物多类，然而不然，故亡国僇民无已<sup>①</sup>。

夫草有莘有藟，独食之则杀人，合而食之则益寿，万董不杀；漆淖水淖，合两淖则为蹇，湿之则为干；金柔锡柔，合两柔则为刚，燔之则为淖；或湿或干，或燔而淖，类固不必，可推知也？小方、大方之类也，小马、大马之类也，小智非大智之类也<sup>②</sup>。

义小为之则小有福，大为之则大有福。于祸则不然，小有之不若其亡也。射招者欲其中小也，射兽者欲其中大也。物固不必，安可推也？

高阳应将为室家，匠对曰：“未可也！木尚生，加涂其上，必将挠<sup>③</sup>。以生为室，今

虽善，后将必败。”高阳应曰：“缘子之言，则室不败也！木益枯则劲，涂益干则轻，以益劲任益轻不败。”匠人无辞以对，受令而为之。室之始成也善，其后果败。高阳应好小察，而不通乎大理也。

驥騄绿耳，背日而西走，至乎夕则日在其前矣；目固有不见也，智固有不知也，数固有不及也；不知其说所以然而然，圣人因而兴制，不事心焉④。

《吕氏春秋·别类》

#### 题解：

两种毒物相合，可发生特殊效用，可谓奇由正出，奇正相生。

#### 注释：

① 僇(lù)：辱。② 莘、藎(lěi)：草名。万：蜂。蜚(jīn)：毒药。淖(nào)：液体。蹇：强。③ 涂：泥。挠：曲。④ 驥、騄、绿耳：都是名马。

其明年，齐败魏兵于马陵，虏其太子申，杀将军庞涓。其明年，卫鞅说孝公曰：“秦之与魏，譬若人之有腹心疾，非魏并秦，秦即并魏。何者？魏居岭厄之西，都安邑，与秦界河，而独擅山东之利，利则西侵秦，病则东收地①。今以君之贤圣，国赖以盛。而魏往年大破于齐，诸侯畔之。可因此时伐魏②。魏不支秦，必东徙。东徙，秦据河山之固，东乡以制诸侯，此帝王之业也。”孝公以为然，使卫鞅将而伐魏。魏使公子卬将而击之。军既相距③，卫鞅遗魏将公子卬书曰：“吾始与公子驩，今俱为两国将，不忍相攻，可与公子面相见，盟，乐饮而罢兵，以安秦、魏④。”魏公子卬以为然。会盟已饮，而卫鞅伏甲士而袭虏魏公子卬，因攻其军，尽破之，以归秦。魏惠王兵数破于齐、秦，国内空，日以削，恐，乃使使割河西之地献于秦以和。而魏遂去安邑，徙都大梁。梁惠王曰：“寡人恨不用公叔痤之言也。”卫鞅既破魏，还。秦封之於、商十五邑，号为商君。

《史记·商君列传》

#### 题解：

商鞅设计，诈与魏会盟，俘虏魏公子卬，乘势大破魏军。

#### 注释：

① 病：不利。② 因：趁。③ 距：拒。④ 驩：欢。

田单乃收城中得千余牛，为绛缯衣，画以五彩龙纹，束兵刃于其角，而灌脂束苇于尾，烧其端①。凿城数十穴，夜纵牛，壮士五千人随其后。牛尾热，怒而奔燕军，燕军夜大惊。牛尾炬火，光明炫耀，燕军视之，皆龙纹，所触尽死伤。五千人因衔枚击之，而城中鼓噪从之，老弱皆击铜器为声，声动天地。燕军大骇，败走。齐人遂夷杀其将骑劫。燕军扰乱奔走，齐人追亡逐北，所过城邑皆叛燕而归。

《史记·田单列传》

#### 题解：

田单用火牛阵，出奇制胜。

#### 注释：

① 绛缯衣：深红色的丝绸被服。

东越攻南越，大行王恢救之。恢使番禺令唐蒙晓喻南越，南越人食有枸酱，蒙问所从①。曰：“牂柯来。”蒙亦以白帝。因上书曰：“南越地东西万里，名为外臣，实一州主。今以长沙、豫章往，水道多绝难行。窃闻夜郎精兵可得十万，若从番禺浮船牂柯，出其不意，此制越之一奇也。可通夜郎道，置吏主之。”帝乃拜蒙中郎将，发巴蜀兵千人，奉币帛见夜郎侯，喻以威德，为置吏②。

《华阳国志·南中志》

#### 题解：

唐蒙向汉武帝建议用浮船出奇兵进攻南越，出其不意，战而胜之。

#### 注释：

① 枸：树名，如桑。② 币帛：礼品。

公闻攸来，跣出迎之，抚掌笑曰：“子远，卿来，吾事济矣①！”既入坐，谓公曰：“袁氏军盛，何以待之？今有几粮乎？”公曰：“尚可支一岁。”攸曰：“无是，更言之！”又曰：“可支

半岁。”攸曰：“足下不欲破袁氏邪，何言之不实也！”公曰：“向言戏之耳<sup>②</sup>。其实可一月，为之奈何？”攸曰：“公孤军独守，外无救援而粮谷已尽，此危急之日也。今袁氏辎重有万余乘，在故市、乌巢，屯军无严备；今以轻兵袭之，不意而至，燔其积聚，不过三日，袁氏自败也<sup>③</sup>。”公大喜，乃选精锐步骑，皆用袁军旗帜，衔枚缚马口，夜从间道出，人抱束薪，所历道有问者，语之曰：“袁公恐曹操钞略后军，遣兵以益备。”闻者信以为然，皆自若<sup>④</sup>。既至，围屯，大放火，营中惊乱。大破之，尽燔其粮谷宝货。

《三国志注·引曹瞒传》

#### 题解：

曹操采纳谋士许攸之计，用精兵扮成袁绍军卒，在乌巢火烧其辎重，出其不意而不获全胜。

#### 注释：

①跣(xiǎn)：光着脚。济：成功。②向：先前。③辎(zī)重：行军时携带的物资。燔(fán)：烧。④钞：抄，走简捷的路。

自镇恶进路，扬声刘兖州上，毅谓为信然，不知见袭。镇恶自豫章口舍船步上，蒯恩军在前，镇恶次之。舸留一二人，对舸岸上竖六七旗，下辄安一鼓。语所留人：“计我将至城，便长严，令如后有大军状<sup>①</sup>。”又分队在后，令烧江津船舰。镇恶径前袭城，语前军：“若有问者，但云刘兖州至。”津戍及百姓皆言刘藩实上，晏然不疑。<sup>②</sup>

《宋书·王镇恶列传》

#### 题解：

王镇恶设奇兵迷惑敌人，烧己船，使敌将刘毅误认为本方战船被烧。

#### 注释：

①长严：大规模整饬军容。②晏：安。

道济都督征讨诸军事，北略地，转战至济上，魏军盛，遂克滑台<sup>①</sup>。道济时与魏军三十余战多捷，军至历城，以资运竭乃还<sup>②</sup>。时人降魏者具说粮食已罄，于是士卒忧惧，莫有固志。道济夜唱筹量沙，以所余少米散

其上<sup>③</sup>。及旦，魏军谓资粮有余，故不复追，以降者妄，斩以徇。

《南史·檀道济列传》

#### 题解：

檀道济在军资匮乏时，用唱筹量沙之法，迷惑了魏军，使之不敢追击。

#### 注释：

①略：夺取。②资：供应。③筹：计数的筹码。

## (六) 谋略的功能

### 1. 政治：博取民心，获得支持

曰若稽古<sup>①</sup>。皋陶曰：“允迪厥德，谟明弼谐<sup>②</sup>。”禹曰：“俞，如何<sup>③</sup>？”皋陶曰：“都！慎厥身，修思永<sup>④</sup>。惇叙九族，庶明励翼，迓可远，在兹<sup>⑤</sup>。”禹拜昌言曰：“俞<sup>⑥</sup>。”皋陶曰：“都！在知人，在安民。”禹曰：“吁！咸若时，惟帝其难之<sup>⑦</sup>。知人则哲，能官人<sup>⑧</sup>。安民则惠，黎民怀之<sup>⑨</sup>。能哲而惠，何忧乎驩兜？何迁乎有苗？何畏乎巧言令色孔壬<sup>⑩</sup>？”皋陶曰：“都！亦行有九德。亦言，其人有德，乃言曰，载采采<sup>⑪</sup>。”禹曰：“何？”皋陶曰：“宽而栗，柔而立，愿而恭，乱而敬，扰而毅，直而温，简而廉，刚而塞，强而义<sup>⑫</sup>。彰厥有常吉哉<sup>⑬</sup>！日宣三德，夙夜浚明有家；日严祗敬六德，亮采有邦<sup>⑭</sup>。翕受敷施，九德咸事，俊乂在官<sup>⑮</sup>。百僚师师，百工惟时，抚于五辰，庶绩其凝<sup>⑯</sup>。无教逸欲，有邦兢兢业业，一日二日万几<sup>⑰</sup>。无旷庶官，天工人其代之<sup>⑱</sup>。天叙有典，勅我五典五惇哉<sup>⑲</sup>！天秩有礼，自我五礼有庸哉！同寅协恭和衷哉<sup>⑳</sup>！天命有德，五服五章哉<sup>㉑</sup>！天讨有罪，五刑五用哉<sup>㉒</sup>！政事懋哉懋哉<sup>㉓</sup>！天聪明！自我民聪明<sup>㉔</sup>。天明畏，自我民明畏<sup>㉕</sup>。达于上下，敬哉有土<sup>㉖</sup>。”皋陶曰：“朕言惠可底行<sup>㉗</sup>？”禹曰：“俞！乃言底可绩<sup>㉘</sup>。”皋陶曰：“予未有知，思曰赞赞襄哉<sup>㉙</sup>！”

《尚书·皋陶谟》

题解:

帝舜与大臣讨论政务,皋陶与禹参与谋划,讨论了治国方略。

注释:

①曰若:语首动词。稽古:稽考古事。②皋陶(yáo):舜的大臣。允:诚信。迪:遵循。厥:其。谟:计谋,谋略。弼:辅佐之臣。③俞:然,是。④都:叹美之词。修:自修。⑤惇:敦厚。叙:和顺。庶:众。明:贤明之人。励:勉励。翼:辅助。迓:近。兹:此。⑥昌言:美言。⑦吁:惊叹。咸:都,全。时:是。帝:指尧。⑧哲:明。官:任用。⑨惠:仁爱。怀:归向。⑩驩兜:尧时四凶之一。巧言令色:用动听之言谄媚之态取悦于人。孔壬:甚佞。⑪亦:迹,检验。载:语首助词。采采:政事。⑫栗:坚定。愿:谨厚。乱:治。抚:驯服。塞:充实。⑬彰:显扬。常吉:祥善。⑭宣:宣扬。浚明:敬勉。严:矜庄。亮:佐助。⑮翕(xi):合。敷:普遍。俊乂(yì):有才德之人。⑯师师:相效法。工:官。惟时:思善。抚:顺从。五辰:北辰,喻国君。凝:成功。⑰教:效。逸欲:安闲无所用心。万几:变化万端。⑱旷:空设。庶官:众官。天工:天命之事。⑲叙:规定。典:常法。勅:同勅,告诫。五典:父义、母慈,兄友、弟恭、子孝。五惇:使五典敦厚。⑳秩:评定。礼:尊卑等级之制。自:用。五礼:天子,诸侯、卿大夫、士、庶民。庸:常。寅:敬。和衷:和善。㉑五服:天子、诸侯、卿、大夫、士之礼服。章:显扬。㉒五刑:墨、劓、剕、宫、大辟。㉓懋:勉励。㉔聪明:听力好,视力好。自:由。㉕明畏:赏罚。㉖达:通达。上:天。下:民。有土:有土之君。㉗惠:助词。底(zhì):致。㉘乃:你的。绩:成功。㉙曰:助词。赞赞:赞美。襄:宣扬。

有卷者阿,飘风自南,岂弟君子,来游来歌,以矢其音<sup>①</sup>。

佻尔游矣,优游尔休矣,岂弟君子,俾尔弥尔性,似先公酋矣<sup>②</sup>。

尔土宇畷章,亦孔之厚矣,岂弟君子,

俾尔弥尔性,百神尔主矣<sup>③</sup>。

尔受命长矣,弗禄尔康矣,岂弟君子,俾尔弥尔性,纯嘏尔常矣<sup>④</sup>。

有冯有翼,有孝有德,以引以翼,岂弟君子,四方为则<sup>⑤</sup>。

颙颙印印,如圭如璋,令闻令望,岂弟君子,四方为纲<sup>⑥</sup>。

凤凰于飞,翯翯其羽,亦集爰止,蔼蔼王多吉士,维君子使,媚于天子<sup>⑦</sup>。

凤凰于飞,翯翯其羽,亦傅于天,蔼蔼王多吉人,维君子命,媚于庶人。

……

《诗经·大雅·卷阿》

题解:

周成王选贤任能,产生了巨大的凝聚力,使国家繁荣兴盛。

注释:

①卷(quán):曲。阿:大土山。岂弟:快乐平易。矢:陈。②佻尔:逍遥闲散。俾(bì):使。弥:络。性:寿命。似:嗣。酋:久远。③土宇:封畿。畷(bān)章:法度大明。主:主宰。④弗:福。纯:大。嘏(gū):赐福。⑤冯:凭依。翼:辅佐。则:准则。⑥颙颙(yóng):温顺。印印(áng):繁盛。⑦翯翯(huì):众多。蔼蔼:众多。媚:爱。

季康子问:“使民敬、忠以劝,如之何?”子曰:“临之以庄,则敬;孝慈,则忠;举善而教不能,则劝<sup>①</sup>。”

《论语·为政》

题解:

执政者对待人民的事情严肃认真,人民对待他的政令也会严肃认真。

注释:

①敬:严肃认真。不能:能力弱的人。

郑子展卒,子皮即位。于是郑饥,而不及麦,民病。子皮以子展之命饷国人粟,户一钟,是以得郑国之民,故罕氏常掌国政,以为上卿。宋司城子罕闻之,曰:“邻于善,民之望也<sup>①</sup>。”宋亦饥,请于平公,出公粟以贷,使大夫皆贷。司城氏贷而不书,为大夫

之无者贷<sup>②</sup>。宋无饥人。叔向闻之，曰：“郑之罕，宋之乐，其后亡者也，二者其皆得国乎！民之归也。施而不德，乐氏加焉，其以宋升降乎<sup>③</sup>！”

《左传·襄公二十九年》

题解：

晋、宋皆借粮于民，而大得民心。

注释：

①邻：近。②不书：不写借约。③乐氏：子罕。加：高一筹。

凡人主之所以劝民者，官爵也；国之所以兴者，农战也。今民求官爵，皆不以农战，而以巧言虚道，此谓劳民<sup>①</sup>。劳民者其国必无力，无力者其国必削<sup>②</sup>。

善为国家者，其教民也，皆作一而得官爵，是故不官无爵。国去言则民朴，民朴则不淫<sup>③</sup>。民见上利之从一空出也，则作一；作一则民不偷营，民不偷营则多力，多力则国强<sup>④</sup>。今境内之民皆曰：“农战可避，而官爵可得也。”是故豪杰皆可变业，务学《诗》、《书》，随从外权，上可以得显，下可以求官爵；要靡事商贾，为技艺，皆以避农战<sup>⑤</sup>。具备，国之危也，民以此为教者，其国必削。

善为国者，仓廩虽满不偷于农，国大民众不淫于言，则民朴一<sup>⑥</sup>。民朴一，则官爵不可巧而取也。不可巧取则奸不生，奸不生则主不惑。今境内之民及处官爵者，见朝廷之可以巧言辩说取官爵也，故官爵不可得而常也<sup>⑦</sup>。是故进则曲主，退则虑私。所以实其私，然则下卖权矣<sup>⑧</sup>。夫曲主、虑私，非国利也，而为之者，以其爵禄也；下卖权，非忠臣也，而为之者，以末货也<sup>⑨</sup>。然则下官之冀迁者皆曰：“多货则上官可得而欲也。”曰：“我不以货事上而求迁者，则如以狸饵鼠尔，必不冀矣；若以情事上而求迁者，则如引诸绝绳而求乘枉木也，愈不冀矣<sup>⑩</sup>。二者不可以得迁，则我焉得无下动众取货以事上，而以求迁乎<sup>⑪</sup>？”百姓曰：“我疾农，先实公仓，收余以食亲，为上忘生而战，以尊主、安国也<sup>⑫</sup>。仓虚、主卑、家贫，然则不如索

官<sup>⑬</sup>。”亲戚交游合，则更虑矣<sup>⑭</sup>。豪杰务学《诗》、《书》，随从外权，要靡事商贾，为技艺，皆以避农战<sup>⑮</sup>。民以此为教，则粟焉得无少，而兵焉得无弱也<sup>⑯</sup>。

善为国者，官法明，故不任智虑；上作一，故民不营私，则国力抟<sup>⑰</sup>。国力抟者强，国好言谈者削<sup>⑱</sup>。故曰：农战之民千人，而有《诗》、《书》辩慧者一人焉，千人者皆怠于农战矣；农战之民百人，而有技艺一人焉，百人者皆怠于农战矣<sup>⑲</sup>。国待农战而安，主待农战而尊。夫民之不农战也，上好言而官失常也<sup>⑳</sup>。常官则国治，一务则国富。国富而治，王之道也。故曰：王道作外，身作一而已矣<sup>㉑</sup>。

今上论材能智慧而任之，则智慧之人希主好恶，使官制物，以适主心<sup>㉒</sup>。是以官无常，国乱而不一，辩说之人而无法也<sup>㉓</sup>。如此，则民务焉得无多，而地焉得无荒？《诗》、《书》、礼、乐、善、修、仁、廉、辩、慧，国有十者，上无使守战<sup>㉔</sup>。国以十者治，敌至必削，不至必贫。国去此十者，敌不敢至，虽至必却<sup>㉕</sup>。兴兵而伐必取，按兵不伐必富。国好力者以难攻，以难攻者必兴；好辩者以易攻，以易攻者必危<sup>㉖</sup>。故圣人明君者，非尽能其万物也，知万物之要也<sup>㉗</sup>。故其治国也，察要而已矣<sup>㉘</sup>。

今为国者多无要。朝廷之言治也，纷纷焉务相易也。是以其君昏于说，其官乱于言，其民情而不农<sup>㉙</sup>。故其境内之民，皆化而好辩、乐学，事商贾，为技艺，避农战<sup>㉚</sup>。如此则不远矣。国有事，则学民恶法，商民善化，技艺之民不用，故其国易破也<sup>㉛</sup>。夫农者寡而游食者众，故其国贫危。今夫螟、螽、蚘、蠋、春生秋死，一出而民数年乏食<sup>㉜</sup>。今一人耕而百人食之，此其为螟、螽、蚘、蠋亦大矣！虽有《诗》、《书》，乡一束，家一员，犹无益于治也，非所以反之之术也<sup>㉝</sup>。故先王反之于农战，故曰：百人农，一人居者王；十人农，一人居者强；半农半居者危<sup>㉞</sup>。故治国者欲民之农也。国不农，



则与诸侯争权，不能自持也，则众力不足也<sup>④</sup>。故诸侯挠其弱，乘其衰，土地侵削而不振，则无及已<sup>⑤</sup>。

圣人知治国之要，故令民归心于农。归心于农，则民朴而可正也，纷纷则易使也，信可以守战也<sup>⑥</sup>。一则少诈而重居，一则可以赏罚进也，一则可以外用也<sup>⑦</sup>。夫民之亲上死制也，以其旦暮从事于农<sup>⑧</sup>。夫民之不可用也，见言谈游士事君之可以尊身也，商贾之可以富家也，技艺之足以糊口也<sup>⑨</sup>。民见此三者之便且利也，则必避农。避农，则民轻其居<sup>⑩</sup>。轻其居，则必不为上守战也。凡治国者，患民之散而不可转也，是以圣人作一，转之也<sup>⑪</sup>。国作一一岁者，十岁强；作一十岁者，百岁强；修一百岁者，千岁强。千岁强者王。君修赏罚以辅一教，是以其教有所常，而政有成也<sup>⑫</sup>。

王者得治民之至要，故不待赏赐而民亲上，不待爵禄而民从事，不待刑罚而民致死<sup>⑬</sup>。国危主忧，说者成伍，无益于安危也。夫国危主忧也者，强敌、大国也。人君不能服强敌、破大国也，则修守备，便地形，转民力，以待外事，然后患可以去，而王可致也<sup>⑭</sup>。是以明君修政作一，去无用，止浮学，事淫之民，一之农，然后国家可富，而民力可转也<sup>⑮</sup>。

今世主皆忧其国之危而兵之弱也，而强听说者。说者成伍，烦言饰词，而无实用<sup>⑯</sup>。主好其辩，不求其实。说者得意，道路曲辩，辈辈成群<sup>⑰</sup>。民见其可以取王公大人也，而皆学之<sup>⑱</sup>。夫人聚党与，说议于国，纷纷焉，小民乐之，大人悦之<sup>⑲</sup>。故其民农者寡，而游食者众。游食者众则农者殆，农者殆则土地荒<sup>⑳</sup>。学者成俗，则民舍农，从事于谈说，高言伪议，舍农游食，而以言相高也<sup>㉑</sup>。故民离上，而不臣者成群。此贫国弱兵之教也。夫国庸民以言，则民不畜于农<sup>㉒</sup>。故惟明君知好言之不可以强兵、辟土也，惟圣人之治国作一，转之于农而已矣<sup>㉓</sup>。

《商子·农战》

### 题解：

重农重战是治国的要领，把尽可能多的民众集中到农战方面来。

### 注释：

- ①虚道：空论。 ②削：弱。 ③淫：放荡。  
④空：途径。 ⑤要靡(yào mǐ)：位低之人。  
⑥偷：苟且。 ⑦常：常规。 ⑧实：满足。  
⑨术：逐。 ⑩狸：猫。 ⑪焉：怎么。 ⑫疾：急，勉力。 ⑬索：求。 ⑭合：相同。 ⑮务：努力。 ⑯粟：粮食。 ⑰转(tuán)：集中。  
⑱言谈：巧言辩说。 ⑲辩慧：巧言而要小聪明。  
⑳常：正常途径。 ㉑作：当作“亡”。亡外：不是别的。 ㉒希：迎合。制物：处理政务。 ㉓无法：无视法令。 ㉔廉：顽固不化。 ㉕却：退。  
㉖攻：治理。 ㉗要：要领。 ㉘察：明察。  
㉙昏：不明。 ㉚化：变化。 乐学：乐于各种学问。 ㉛学民：游学之人。 化：货。 ㉜螟、螣(tè)、蚘蠋(hé zhú)：害虫。 ㉝一员：一卷。反之：从贫危反回富强。 ㉞居：闲居。 ㉟争权：抗衡。 ㊱挠：扰乱。乘：欺凌。 ㊲正：治理。纷纷：众多。 ㊳重居：看重田宅。 ㊴死制：为法效死。 ㊵尊：显贵。 ㊶轻其居：轻易离家外流。 ㊷一：专一。 ㊸一教：专一的教育。  
㊹至要：根本要领。致死：肯于效死。 ㊺便：熟识。 ㊻浮学：不切实际的学问。事淫：从事不正当职业。 ㊼烦：烦琐。 ㊽曲辩：巧辩。辈辈：一批批。 ㊾取：取悦。 ㊿党与：同伙。  
①殆：怠。 ②相高：互争高低。 ③庸：用。畜：停留。 ④辟：开辟。

用国者，得百姓之力者富，得百姓之死者强，得百姓之誉者荣。三得者具而天下归之，三得者亡而天下去之。天下归之之谓王，天下去之之谓亡。汤、武者，修其道，行其义，兴天下同利，除天下同害，天下归之<sup>①</sup>。故厚德音以先之，明礼义以道之，致忠信以爱之，赏贤使能以次之，爵服赏庆以申重之，时其事、轻其任以调齐之，潢然兼覆之，养长之，如保赤子<sup>②</sup>。生民则致宽，使民则綦理，辩政令制度，所以接天下之人<sup>③</sup>。百姓有非理者如豪末，则虽孤独鰥寡必不加焉。

是故百姓贵之如帝，亲之如父母，为之出死断亡而不偷者，无他故焉，道德诚明，利泽诚厚也<sup>④</sup>。

#### 《荀子·王霸》

君者，民之原也；原清则流清，原浊则流浊。故有社稷者而不能爱民、不能利民，而求民之亲爱己，不可得也。民不亲不爱，而求其为己用、为己死，不可得也。民不为己用、不为己死，而求兵之劲、城之固，不可得也。兵不劲，城不固，而求敌之不至，不可得也。敌至而求无危削，不灭亡，不可得也。危削灭亡之情举积此矣，而求安乐，是狂生者也。狂生者，不胥时而乐<sup>⑤</sup>。故人主欲强固安乐，则莫若反之民；欲附下一民，则莫若反之政；欲修政美俗，则莫若求其人<sup>⑥</sup>。彼或蓄积而得之者不世绝，彼其人者，生乎今之世而志乎古之道。以天下之王公莫好之也，然而子独好之；以天下之民莫为之也，然而子独为之。好之者贫，为之者穷，然而子犹将为之也，不为少顷辍焉<sup>⑦</sup>。晓然独明于先王之所以得之、所以失之，知国之安、危、臧、否若别白黑。则是其人也，大用之，则天下为一，诸侯为臣；小用之，则威行邻敌；纵不能用，使无去其疆域，则国终身无故<sup>⑧</sup>。故君人者，爱民而安，好士而荣，两者无一焉而亡。诗曰：“介人维藩，大师维垣”<sup>⑨</sup>。此之谓也。

#### 《荀子·君道》

##### 题解：

得民则得天下，欲得民则须爱民，这是设谋所须注意的。

##### 注释：

①汤：商汤。武：周武王。②先：倡导。赏：尚。潢(huáng)然：大水到来的样子。③生：养。綦(qí)：极。辩：辨。④豪：毫。不：衍文。⑤狂生：无知妄为的人。胥：须，等待。⑥反之民：反而求之于民。⑦辍：停止。⑧故：变故。⑨介人：善人。大师：大众。见《诗经·大雅·板》。

安术有七，危道有六<sup>①</sup>。

安术：一曰赏罚随是非，二曰祸福随善恶，三曰死生随法度，四曰有贤不肖而无爱恶，五曰有愚智而无非誉，六曰有尺寸而无意度，七曰有信而无诈<sup>②</sup>。

危道：一曰斫削于绳之内，二曰断割于法之外，三曰利人之所害，四曰乐人之所祸，五曰危人于所安，六曰所爱不亲、所恶不疏，如此，则人失其所以乐生，而忘其所以重死，人不乐生，则人主不尊；不重死，则令不行也<sup>③</sup>。

使天下皆极智能于仪表，尽力于权衡，以动则胜，以静则安<sup>④</sup>。治世使人乐生于为是，爱身于为非，小人少而君子多。故社稷常立，国家久安，奔车之上无仲尼，覆舟之下无伯夷<sup>⑤</sup>。故号令者，国之舟车也，安则智廉生，危则争鄙起，故安国之法，若饥而食，寒而衣，不令而自然也，先王寄理于竹帛，其道顺，故后世服<sup>⑥</sup>。今使人去饥寒，虽责、育不能行；废自然，虽顺道而不立，强勇之所不能行，则上不能安<sup>⑦</sup>。上以无厌责已尽，则下对“无有”；无有，则轻法，法所以为国也，而轻之，则功不立，名不成<sup>⑧</sup>。

闻古扁鹊之治其病也，以刀刺骨；圣人之救危国也，以忠拂耳<sup>⑨</sup>。刺骨，故小痛在体而长利在身；拂耳，故小逆在心而久福在国。故甚病之人利在忍痛，猛毅之君以福拂耳，忍痛，故扁鹊尽巧；拂耳，则子胥不失；寿安之术也<sup>⑩</sup>。病而不忍痛，则失扁鹊之巧；危而不拂耳，则失圣人之意。如此，长利不远垂，功名不久立<sup>⑪</sup>。

人主不自刻以尧而责人臣以子胥，是幸殷人之尽如比干；尽如比干，则上不失，下不亡，不权其力而有田成，而幸其身尽如比干，故国不得一安，废尧、舜而立桀、纣，则人不得乐所长而忧所短<sup>⑫</sup>。失所长，则国家无功；守所短，则民不乐生。以无功御不乐生，不可行于齐民<sup>⑬</sup>。如此，则上无以使下，下无以事上。

安危在是非，不在于强弱。存亡在虚实，不在于众寡。故齐，万乘也，而名实不称，

上空虚于国，内不充满于名实，故臣得夺主<sup>①</sup>。桀，天子也，而无是非；赏于无功，使谗谀以诈伪为贵；诛于无罪，使佞以天性剖背，以诈伪为是，天性为非，小得胜大<sup>②</sup>。

明主坚内，故不外失，失之近而不亡于远者无有，故周之夺殷也，拾遗于庭，使殷不遗于朝，则周不敢望秋毫于境，而况敢易位乎<sup>③</sup>？

明主之道忠法，其法忠心，故临之而治，去之而思，尧无胶漆之约于当世而道行，舜无置锥之地于后世而德结，能立道于往古，而垂德于万世者之谓明主<sup>④</sup>。

《韩非子·安危》

#### 题解：

君主要去“危道”而用“安术”，听得进逆耳忠言，注意搞好内政，就会产生向心力，国家就自然安定。

#### 注释：

①安术：安定的方法。危道：危乱的途径。  
②随：依据。非：诋。度(duó)：揣测。③绳：法。断割：任意裁决。④仪表：标准。⑤覆：翻。⑥鄙：贪鄙。理：法。⑦贲、育：孟贲、夏育，大力士。⑧责：索求。⑨拂：逆。⑩寿：长久。⑪垂：传留。⑫幸：幻想。⑬御：统治。⑭称(chèn)：符合。⑮佞(yū)：驼背。⑯易：改变。⑰胶漆：喻牢靠。

有金鼓所以一耳也，同法令所以一心也；智者不得巧，愚者不得拙，所以一众也<sup>①</sup>。勇者不得先，惧者不得后，所以一力也。故一则治，异则乱；一则安，异则危。

夫能齐万不同，愚智工拙，皆尽力竭能，如出乎一穴者，其唯圣人矣乎！

无术之智，不教之能，而恃强速贯习，不足以成也<sup>②</sup>。

《吕氏春秋·不二》

#### 题解：

统一百姓思想，集中众人智慧。

#### 注释：

①一：统一。②贲：惯。

大夫曰：伯夷以廉饥，尾生以信死。由小器而亏大体，匹夫匹妇之为谅也，经于沟渎而莫之知也<sup>①</sup>。何功名之有？苏秦、张仪智足以强国，勇足以威敌，一怒而诸侯惧，安居而天下息。万乘之主莫不屈体卑辞币请交，此所谓天下名士也。夫智不足与谋，而权不能举当世，民斯为下也<sup>②</sup>。今举亡而为有，虚而为盈，布衣穿履，深念徐行，若有遗亡，非立功成名之士，而亦未免于世俗也<sup>③</sup>。

《盐铁论·褒贤》

#### 题解：

善用谋则可以强国威敌。

#### 注释：

①谅：小信。经：缙。②权：权变。③穿履：破鞋。

时有胡贼何潘仁聚众于司竹园，自称总管，未有所属。公主遣家僮马三宝说以利害，潘仁攻鄯县，陷之。三宝又说群盗李仲文、向善志、丘师利等，各率众数千人来会。时京师留守频遣军讨公主，三宝、潘仁屡挫其锋<sup>①</sup>。公主掠地至螯屋、武功、始平，皆下之。每申明法令，禁兵士无得侵掠，故远近奔赴者甚众，得兵七万人。

《旧唐书·平阳公主传》

#### 题解：

平阳公主对各起义领导者晓以利害，把他们汇集到反隋的斗争中。

#### 注释：

①留守：官名。挫：折损。

李顺本味江王小博之妻弟。始，王小博反于蜀中，不能抚其徒众，乃共推顺为主。顺初起，悉召乡里富人大姓，令具其家所有财粟，据其生齿足用之外，一切调发，大赈贫乏，录用材能，存抚良善，号令严明，所至一无所犯<sup>①</sup>。时两蜀大饥，旬日之间，归之者数万人，所向州县，开门延纳，传檄所至，无复完垒。

题解:

宋初李顺起义,提出了均贫富的纲领,得到了广大贫苦农民的响应。

注释:

①生齿:人口。

## 2. 经济:促进生产,民富国强

晋侯归,谋所以息民<sup>①</sup>。魏绛请施舍,输积聚以贷<sup>②</sup>。自公以下,苟有积者,尽出之。国无滞积,亦无困人;公无禁利,亦无贪民<sup>③</sup>。祈以币更,宾以特牲,器用不作,车服从给<sup>④</sup>。行之期年,国乃有节<sup>⑤</sup>。三驾而楚不能与争<sup>⑥</sup>。

《左传·襄公九年》

题解:

把财物借给百姓,让货物流通,准许百姓牟利,厉行节约,经济就繁荣。

注释:

①息:休养生息。②输:转运。③利:牟利。④币:缗帛。宾:款待宾客。特牲:一种牲畜。从给:够用即可。⑤期(jī)年:一周年。⑥驾:出征。

贾宜则讎<sup>①</sup>。说在尽。(经)

尽也者尽去其所以不讎也。其所以不讎去则讎,击贾也<sup>②</sup>。宜、不宜、击——欲、不欲<sup>③</sup>。若败邦,鬻室、嫁子<sup>④</sup>。(说)

《墨经·下经》

题解:

物价适时就卖得出,关键是把卖不出的原因尽数去掉。

注释:

①贾:价。讎:售,卖出。击:正。③欲:正欲的权利。不欲:不欲的害处。④鬻(yù):卖。

无宿治,则邪官不及为私利于民,而百官之情不相稽,则农有余日;邪官不及为私利于民,则农不败<sup>①</sup>。农不败而有余日,则草必垦矣<sup>②</sup>。

訾粟而税,则上一而民平;上一则信,信则臣不敢为邪;民平则慎,慎则难变<sup>③</sup>。上信而官不敢为邪,民慎而难变,则下不非上,中不苦官。下不非上,中不苦官,则壮民疾农不变<sup>④</sup>。壮民疾农不变,则少民学之不休。少民学之不休,则草必垦矣<sup>⑤</sup>。

无以外权爵任与官,则民不贵学问,又不贱农。民不贵学则愚,愚则无外交,无外交,则国安不殆<sup>⑥</sup>;民不贱农,则勉农而不偷;国安不殆,勉农而不偷,则草必垦矣<sup>⑦</sup>。

禄厚而税多、食口众者,败农者也。则以其食口之数,赋而重使之,则辟淫游食之民无所于食;民无所于食则必农,农则草必垦矣<sup>⑧</sup>。

使商无得余,农无得粢。农无得粢,则窳惰之农勉疾;商不得余,则多岁不加乐<sup>⑨</sup>。多岁不加乐,则饥岁无裕利。无裕利则商怯,商怯则欲农。窳惰之农勉疾,商欲农,则草必垦矣<sup>⑩</sup>。

声服无通于百县,则民行作不顾,休居不听<sup>⑪</sup>。休居不听,则气不淫;行作不顾,则意必一。意一而气不淫,则草必垦矣<sup>⑫</sup>。

无得取庸,则大夫家长不建绪,爱子不惰食,惰民不窳,而庸民无所于食,是必农<sup>⑬</sup>。大夫家长不建绪,则农事不伤;爱子不惰食,惰民不窳,则故田不荒。农事不伤,庸民益农,则草必垦矣<sup>⑭</sup>。

废逆旅,则奸伪、躁心、私交、疑农之民不行;逆旅之民无以食,则必农。农则草必垦矣<sup>⑮</sup>。

一山泽,则恶农,慢惰、倍欲之民无所于食,无所于食,则必农。农则草必垦矣<sup>⑯</sup>。

贵酒肉之价,重其租,令十倍其朴。然则商贾少,农不能喜酣爽,大臣不为荒饱<sup>⑰</sup>。商贾少,则上不费粟;民不能喜酣爽,则农不慢;大臣不荒饱,则国事不稽,主无过举。上不费粟,民不慢农,则草必垦矣<sup>⑱</sup>。

重刑而连其罪,则褊急之民不斗,狠刚之民不讼,怠惰之民不游,费资之民不作,巧谀、恶心之民无变也;五民者不生于境

内，则草必垦矣<sup>⑩</sup>。

使民无得擅徙，则诛愚乱农之民无所于食而必农；愚心躁欲之民一意，则农民必静；农静，诛愚乱农之民必农，则草必垦矣<sup>⑪</sup>。

均出余子之使令，以世使之，又高其解舍，令有甬官食槩<sup>⑫</sup>。不可以辟役，而大官未可必得也，则余子不游事人，则必农，农则草必垦矣<sup>⑬</sup>。

国之大臣诸大夫，博闻、辩慧、游居之事，皆无得为，无得居游于百县，则农民无所闻变见方<sup>⑭</sup>。农民无所闻变见方，则智农无从离其故事，而愚农不知，不好学问。愚农不知，不好学问，则务疾农，智农不离其故事，则草必垦矣<sup>⑮</sup>。

令军市无有女子；而命其商，令人自给甲兵，使视军兴；又使军市无得私输粮者，则奸谋无所于伏<sup>⑯</sup>。盗输粮者不私稽，轻情之民不游军市。盗粮者无所售，送粮者不私稽，轻情之民不游军市，则农民不淫，国粟不劳，则草必垦矣<sup>⑰</sup>。

百县之治一形，则从，迁者不饰，代者不敢更其制，过而废者不能匿其过举<sup>⑱</sup>。过举不匿，则官无邪人。迁者不饰，代者不更，则官属少而民不劳。官无邪则民不敖，民不敖则业不败<sup>⑲</sup>。官属少，征不烦。民不劳，则农多日。农多日，征不烦，业不败，则草必垦矣。

重关市之赋，则农恶商，商有疑情之心。农恶商，商疑情，则草必垦矣。

以商之口数使商，令之厮、舆、徒、重者必当名，则农逸而商劳。农逸则良田不荒，商劳则去来赍送之礼而通于百县，则农民不饥，行不饰<sup>⑳</sup>。农民不饥，行不饰，则公作必疾，而私作不荒，则农事必胜。农事必胜，则草必垦矣。

令送粮无取餽，无得反庸，车牛舆重设必当名，然则往速来疾，则业不败农。业不败农，则草必垦矣<sup>㉑</sup>。

无得为罪人请于吏而饷食之，则奸民无

主，奸民无主，则为奸不勉<sup>㉒</sup>。为奸不勉，则奸民无朴。奸民无朴，则农民不败，农民不败，则草必垦矣<sup>㉓</sup>。

《商子·垦令》

### 题解：

商鞅提出了开垦荒地、促进农业生产、发展经济的二十条建议。

### 注释：

①宿：过夜。稽：延迟。②草：荒地。③訾(zī)：计算。④疾农：积极务农。⑤少：年青。⑥愚：不巧诈。⑦偷：苟且。⑧辟淫：放荡。⑨窳(yǔ)惰：懒惰。⑩勉疾：勤快。⑪声服：淫声侈物。⑫意：精神。⑬庸：佣。⑭益：增加。⑮逆旅：客店。⑯一：专。⑰爽(shi)：作乐。⑱慢：怠。⑲作：出现。⑳诛愚：愚昧。㉑甬官：粮官。㉒辟：避。㉓慧：狡诈。㉔故：旧。㉕伏：藏。㉖劳：损。㉗过：错。㉘敖：邀。㉙赍(ji)：赠。㉚餽(jiù)：运费。㉛饷食(sì)：给人吃。㉜朴：依附。

王者之法，等赋，政事，财万物，所以养万民也<sup>①</sup>。田野什一，关市几而不征，山林泽梁，以时禁发而不税。相地而衰政，理道之远近而致贡，通流财物粟米，无有滞留，使相归移也<sup>②</sup>。四海之内若一家，故近者不隐其能，远者不疾其劳，无幽闲隐僻之国，莫不趋使而安乐之<sup>③</sup>。夫是之谓人师，是王者之法也。

北海则有走马吠犬焉，然而中国得而畜使之。南海则有羽翮、齿革、曾青、丹干焉，然而中国得而财之<sup>④</sup>。东海则有紫紅鱼盐焉，然而中国得而衣食之<sup>⑤</sup>。西海则有皮革、文旄焉，然而中国得而用之。故泽人足乎木，山人足乎鱼，农夫不斫削、不陶冶而足械用，工贾不耕田而足菽粟。故虎豹为猛矣，然君子剥而用之。故天之所覆，地之所载，莫不尽其美，致其用，上以饰贤良、下以养百姓而安乐之。夫是之谓大神<sup>⑥</sup>。诗曰：“天作高山，大王荒之；彼作矣，文王康之<sup>⑦</sup>”。此之谓也。

## 《荀子·王制》

### 题解:

制定经济策略,要以发展生产力为准则,民富则国强。

### 注释:

①等赋:赋税有等。政:正。财:裁,成。  
②几:呵察奸人。相:视。衰(cuī):等差。政:征。理:度量。归移:转移输送。③幽闲:远隔。④翮(hé):大鸟羽。曾青:铜精。丹干:丹砂。⑤紫:绋,细麻布。絺(xī):绤,粗葛布。⑥大神:大治。⑦《诗经·周颂·天作》。

轻田野之税,平关市之征,省商贾之数,罕兴力役,无夺农时,如是则国富矣<sup>①</sup>。夫是之谓以政裕民。……

今之世而不然:厚刀布之敛以夺之财,重田野之税以夺之食,苛关市之征以难其事<sup>②</sup>。不然而已矣,有挾挈伺诈,权谋倾覆,以相颠倒,以靡敝之,百姓晓然皆知其污漫暴乱而将大危亡也<sup>③</sup>。是以臣或弑其君,下或杀其上,粥其城,倍其节,而不死其事者,无它故焉,人主自取之也<sup>④</sup>。诗曰:“无言不讎,无德不报<sup>⑤</sup>”。此之谓也。

兼足天下之道在明分。掩地表亩,刺土殖谷,多粪肥田,是农夫众庶之事也<sup>⑥</sup>。守时力民,进事长功,和齐百姓,使人不偷,是将率之事也<sup>⑦</sup>。高者不旱,下者不水,寒暑和节,而五谷以时孰,是天下之事也。若夫兼而覆之,兼而爱之,兼而制之,岁虽凶败水旱,使百姓无冻馁之患,则是圣君贤相之事也<sup>⑧</sup>。

## 《荀子·富国》

### 题解:

经济谋略只要正确,就能促进生产力的发展,从而使国家富强。

### 注释:

①罕:少。②刀布:钱币。难:阻碍。  
③不然:不仅如此。有:又。挾(ji)挈:指摘。靡敝:败坏。污漫:行为污秽。④粥:鬻,出卖。倍:背。⑤讎(chóu):应答。《诗经·大雅·

抑》。⑥少:草。刺:除。⑦偷:苟且。率:帅。⑧馁:餒。

李克治中山,苦陴令上计而人多<sup>①</sup>。李克曰:“语言辩,听之说,不度于义,谓之寃言,无山林泽谷之利而人多者,谓之寃货,君子不听寃言,不受寃货,子姑免矣<sup>②</sup>”。

或曰:李子设辞曰:“夫言语辩,听之说,不度于义者,谓之寃言<sup>③</sup>”。辩,在言者;说,在听者;言非听者也,所谓不度于义,非谓听者,必谓所听也<sup>④</sup>。听者,非小人,则君子也。小人无义,必不能度之义也;君子度之义,必不肯说也,夫曰“言语辩,听之说,不度于义”者,必不诚之言也<sup>⑤</sup>。人多之为寃货也,未可远行也,李子之奸弗蚤禁,使至于计,是遂过也<sup>⑥</sup>。无术以知而人多,人多者,穰也,虽倍人,将奈何?举事慎阴阳之和,种树节四时之适,无早晚之失、寒温之灾,则人多<sup>⑦</sup>。不以小功妨大务,不以私欲害人事,丈夫尽于耕农,妇人力于织纴,则人多。务于畜养之理,察于土地之宜,六畜遂,五谷殖,则人多<sup>⑧</sup>。明于权计,审于地形、舟车、机械之利,用力少,致功大,则人多;利商市关梁之行,能以所有致所无,客商归之,外货留之,俭于财用,节于衣食,宫室器械周于资用,不事玩好,则人多<sup>⑨</sup>。人多,皆人为也。若天事,风雨时,寒温适,土地不加大,而有丰年之功,则人多。人事、天功二物者皆人多,非山林泽谷之利也<sup>⑩</sup>。夫无山林泽谷之利人多,因谓之寃货者,无术之言也。

## 《韩非子·难二》

### 题解:

分析了国家增加收入的各种因素,为政者要善于利用。

### 注释:

①上计:向上级报告户口、钱粮。②辩:动听。说:悦。度:符合。寃(tiāo):不实。③设辞:提出论点。④所听:听到的话。⑤诚:可靠。⑥蚤:早。遂:成。⑦穰(ráng):丰收。慎:顺。⑧纴(rèn):纺织。遂:成长。

⑨权：权衡。计：计算。留：存放。周：合。

⑩若：至于。天事：自然情况。

《后稷》曰，所以务耕织者，以为本教也。

是故天子亲率诸侯耕帝籍田，大夫士皆有功业；是故当时之务，农不见于国，以教民尊地产也；后妃率九嫔蚕于郊，桑于公田，是以春秋冬夏皆有麻枲丝茧之功，以力妇教也；是故丈夫不织而衣，妇人不耕而食，男女贸功以长生，此圣人之制也；故敬时爱日，非老不休，非疾不息，非死不舍<sup>①</sup>。

故当时之务，不兴土功，不作师徒，庶人不冠弁、娶妻、嫁女、享祀、不酒醴聚众，农不上闻，不敢私籍于庸，为害于时也<sup>②</sup>。

凡民自七尺以上属诸三官，农攻粟，工攻器，贾攻货，时事不共，是谓大凶<sup>③</sup>。

夺之以土功，是谓稽，不绝忧唯，必丧其耜；夺之以水事，是谓篇，丧以继乐，四邻来虚；夺之以兵事，是谓厉，祸因胥岁不举铎艾<sup>④</sup>。数夺民时，大饥乃来。

《吕氏春秋·上农》

#### 题解：

天子、后妃带头耕作，不违农时，农工商齐发展。

#### 注释：

①枲(xī)：大麻。②弁(biàn)：皮帽。③三官：农工商。时：事。④稽：耽误农事。篇(yuè)：一种舞蹈。厉：凶。铎(zhì)：镰刀。艾：刈。

大夫曰：匈奴背叛不臣，数为寇暴于边鄙。备之，则劳中国之士；不备，则侵盗不止；先帝哀边人之久患，苦为虏所系获也，故修障塞，飭烽燧，屯戍以备之<sup>①</sup>。边用度不足，故兴盐铁，设酒榷，置均输，蕃货长财，以佐助边费<sup>②</sup>。今议者欲罢之，内空府库之藏，外乏执备之用，使备塞乘城之士饥寒于边，将何以贍之？罢之，不便也<sup>③</sup>。

古之立国家者，开本末之途，通有无之用。市朝以一其求，致士民，聚万货，农工商师各得所欲，交易而退<sup>④</sup>。《易》曰：“通其

变，使民不倦。”故工不出则农用乖，商不出则宝货绝<sup>⑤</sup>。农用乏则谷不殖，宝货绝则财用匱；故盐铁、均输，所以通委财而调缓急<sup>⑥</sup>。罢之，不便也。

《管子》云：“国有沃野之饶而民不足于食者，器械不备也；有山海之货而民不足于财者，商工不备也。”陇、蜀之丹漆旄羽，荆、扬之皮革骨象，江南之柁梓竹箭，燕、齐之鱼盐旃裘，兖、豫之漆丝絺纈，养生送终之具也<sup>⑦</sup>。待商而通，待工而成。故圣人作为舟楫之用以通川谷，服牛驾马以达陵陆；致远穷深，所以交庶物而便百姓。是以先帝建铁官以贍农用，开均输以足民财，盐铁、均输，万民所戴仰而取给者，罢之，不便也<sup>⑧</sup>。

《盐铁论·本议》

#### 题解：

桑弘羊论述了盐铁、酒类、贸易官营对发展生产的重要作用。

#### 注释：

①系获：俘虏掠夺。②盐铁、酒榷、均输：汉武帝推行的盐铁、酒类专卖和官营贸易政策。③便：利。④一：统一。⑤乖：违。⑥委：积。⑦旄：牦牛尾。象：象牙。旃(zhān)：毡。柁(nán)：楠木。絺(chī)：细葛布。纈(zhù)：苧麻布。⑧戴仰：拥护。取给：取得给养。

(至道二年)秋七月庚申太常博士直史馆陈靖上言曰：“先王之欲后生民而丰其食者，莫大于积谷而务农也。臣早任计司判官，每获进对，伏闻圣训，以为稼穡农耕政之本。苟能劝课田亩，康济黎元，则盐铁榷酤斯为末矣<sup>①</sup>。……望择大臣一人，有深识远略者，兼领大司农事，典领于中<sup>②</sup>。又于郎史中，选才智通明能抚民役众者为副，执事于外。自京东西，择其膏腴未耕之处，申以劝课。

《续资治通鉴长编》

#### 题解：

农耕是国政之本，必须选派智谋之士主管其事。

注释:

①课: 监督。榘: 专营。②典: 主管。

### 3. 军事: 增强战力, 无往不胜

北戎侵郑, 郑伯御之, 患戎师, 曰: “彼徒我车, 惧其侵轶我也<sup>①</sup>。”公子突曰: “使勇而无刚者, 尝寇而速去之, 君为三覆以待之<sup>②</sup>。戎轻而不整, 贪而无亲, 胜不相让, 败不相救<sup>③</sup>。先者见获, 必务进; 进而遇覆, 必速奔; 后者不救, 则无继矣; 乃可以逞<sup>④</sup>。”从之。

戎人之前遇覆者奔, 祝聃逐之, 衷戎师, 前后击之, 尽殪<sup>⑤</sup>。戎师大奔。十一月甲寅, 郑人大败戎师。

《左传·隐公九年》

题解:

公子突建议设三批伏兵待敌, 郑伯采纳其谋略, 大胜北戎。

注释:

①患: 担心。徒: 徒兵。车: 车兵。侵轶(yì): 从后超越来犯。②尝: 试探。覆: 埋伏之兵。③轻: 轻率。亲: 团结。④逞: 解忧患。⑤衷: 中, 中断。殪(yì): 死。

宋左师请赏, 曰: “请免死之邑。”公与之邑六十, 以示子罕。子罕曰: “凡诸侯小国, 晋、楚所以兵威之, 畏而后上下慈和, 慈和而后能安靖其国家, 以事大国, 所以存也。无威则骄, 骄则乱生, 乱生必灭, 所以亡也。天生五材, 民并用之, 废一不可, 谁能去兵<sup>①</sup>? 兵之设久矣, 所以威不轨而昭文德也。圣人以兴, 乱人以废。废兴、存亡、昏明之术, 皆兵之由也, 而子求去之, 不亦诬乎? 以诬道蔽诸侯, 罪莫大焉<sup>②</sup>。纵无大讨, 而又求赏, 无厌之甚也<sup>③</sup>。”削而投之<sup>④</sup>。左师辞邑。向氏欲攻司城<sup>⑤</sup>。左师曰: “我将亡, 夫子存我, 德莫大焉。又可攻乎?”

《左传·襄公二十七年》

题解:

圣人由于武力而兴起, 作乱的人由于武力而废弃, 军事的作用可谓大矣。

注释:

①五材: 金木水火土。②诬道: 诈骗术。③厌: 满足。④削: 削去简上之字。⑤司城: 指子罕。

凡战法必本于政胜, 则其民不争; 不争则无以私意, 以上为意<sup>①</sup>。故王者之政, 使民怯于私斗, 而勇于寇战<sup>②</sup>。民习以力攻难, 故轻死。见敌如溃, 溃而不止, 则免<sup>③</sup>。故兵法: 大战胜, 逐北无过十里; 小战胜, 逐北无过五里<sup>④</sup>。

兵起而程敌, 政不若者勿与战, 食不若者勿与久, 敌众勿为客<sup>⑤</sup>。敌尽不如, 击之勿疑。故曰: 兵大律在谨。论敌察众, 则胜负可先知也<sup>⑥</sup>。

王者之兵, 胜而不骄, 败而不怨。胜而不骄者, 术明也; 败而不怨者, 知所失也<sup>⑦</sup>。若兵敌强弱, 将贤则胜, 将不如则败。若其政出庙算者, 将贤亦胜, 将不如亦胜<sup>⑧</sup>。

政久持胜术者, 必强至王。若民服而听上, 则国富而兵胜, 行是必久王<sup>⑨</sup>。其过失, 无敌深入, 偕险绝塞, 民倦且饥渴, 而复遇疾, 此其道也<sup>⑩</sup>。故将使民, 若乘良马者, 不可不戒也<sup>⑪</sup>。

《商子·战法》

题解:

政治搞好了, 对军事胜利有决定作用; 要重视朝廷的统一决策。

注释:

①政胜: 政治搞得 好。②寇: 外敌。③免: 止。④北: 败。⑤程: 衡量。⑥律: 原则。⑦术: 道理。⑧庙算: 国君的决策。⑨行: 实行。⑩偕: 处。⑪齐: 谨慎。

用强者, 人之城守, 人之出战, 而我以力胜之也, 则伤人之民必甚矣<sup>①</sup>。伤人之民甚, 则人之民恶我必甚矣。人之民恶我甚, 则日欲与我斗。人之城守, 人之出战, 而我以力胜之, 则伤吾民必甚矣。伤吾民甚, 则



吾民之恶我必甚矣。吾民之恶我甚，则日不欲为我斗。人之民日欲与我斗，吾民日不欲为我斗，是强者之所以反弱也。地来而民去，累多而功少，虽守者益，所以守者损，是以大者之所以反削也<sup>②</sup>。诸侯莫不怀交接怨而不忘其敌，伺强大之间，承强大之敝，此强大之殆时也<sup>③</sup>。

知强大者不务强也，虑以王命全其力，凝其德<sup>④</sup>。力全则诸侯不能弱也，德凝则诸侯不能削也，天下无王霸主，则常胜矣。是知强道者也。

《荀子·王制》

#### 题解：

善谋可形成无形的战斗力。若只靠硬拼，国力反而招致衰退和削弱。

#### 注释：

①城守：设城守卫。 ②累：忧累。 ③间：空隙。承：迎。 ④凝：完成。

百里之国，足以独立矣。凡攻人者，非以为名，则案以为利也；不然，则忿之也。仁人之用国，将脩志意，正身行，伉隆高，致忠信，期文理<sup>①</sup>。布衣绌屨之士诚是，则虽在穷阎漏屋，而王公不能与之争名，以国载之，则天下莫之能隐匿也<sup>②</sup>。若是，则为名者不攻也。将辟田野，实仓廩，便备用，上下一心，三军同力。与之远举极战，则不可；境内之聚也保固，视可，午其军，取其将，若拔𦵏<sup>③</sup>。彼得之不足以药伤补败。彼爱其爪牙，畏其仇敌。若是，则为利者不攻也。将脩小大强弱之义以持慎之，礼节将甚文，珪璧将甚硕，货赂将甚厚，所以说之者必将雅文辩慧之君子也。彼苟有人意焉，夫谁能忿之！若是，则忿之者不攻也。为名者否，为利者否，为忿者否，则国安于盘石，寿于旗翼<sup>④</sup>。人皆乱，我独治；人皆危，我独安；人皆失丧之，我案起而制之。故仁人之用国，非特将持其有而已也，又将兼人<sup>⑤</sup>。诗曰：“淑人君子，其仪不忒，其仪不忒，正是四国<sup>⑥</sup>。”此之谓也。

《荀子·富国》

#### 题解：

上下一心，三军同利，国安人寿，关键在于正确的谋略。

#### 注释：

①伉：亢，极。 ②绌屨(xùn jù)：粗麻鞋。 ③午：触。𦵏(fēng)：蒲草。 ④旗：箕，箕、翼，皆星名。 ⑤兼人：胜人。 ⑥忒(tè)：差错。《诗经·曹风·尸鸠》。

李斯往诏韩王，未得见，因上书曰：“昔秦、韩戮力一意，以不相侵，天下莫敢犯，如此者数世矣<sup>①</sup>。前时五诸侯尝相与共伐韩，秦发兵以救之。韩居中国，地不能满千里，而所以得与诸侯班位于天下，君臣相保者，以世世相教事秦之力也<sup>②</sup>。先时五诸侯共伐秦，韩反与诸侯先为雁行以向秦军于关下矣。诸侯兵困力极，无奈何，诸侯兵罢。杜仓相秦，起兵发将以报天下之怨而先攻荆。荆令尹患之，曰：“夫韩以秦为不义，而与秦兄弟共苦天下。已又背秦，先为雁行以攻关<sup>③</sup>。韩则居中国、展转不可知。天下共割韩上地十城以谢秦，解其兵<sup>④</sup>。夫韩尝一背秦而国迫地侵，兵弱至今，所以然者，听奸臣之浮说，不权事实，故虽杀戮奸臣，不能使韩复强。

今赵欲聚兵士，卒以秦为事，使人来借道，言欲伐秦，其势必先韩而后秦<sup>⑤</sup>。且臣闻之：‘唇亡则齿寒。’夫秦、韩不得无同忧，其形可见。魏欲发兵以攻韩，秦使人将使者于韩。今秦王使臣斯来而不得见，恐左右袭曩奸臣之计，使韩复有亡地之患<sup>⑥</sup>。臣斯不得见，请归报，秦韩之交必绝矣。斯之来使，以奉秦王之欢心，愿效便计，岂陛下所以逆贱臣者邪？臣斯愿得一见，前进道愚计，退就菹戮，愿陛下有意焉<sup>⑦</sup>。今杀臣于韩，则大王不足以强，若不听臣之计，则祸必构矣。秦发兵不留行，而韩之社稷忧矣<sup>⑧</sup>。臣斯暴身于韩之市，则虽欲察贱臣愚忠之计，不可得已，边鄙残，国固守，鼓铎之声于耳，而乃用臣斯之计，晚矣<sup>⑨</sup>。且夫韩之兵于天下可知也，今又背强秦。夫弃城而败军，则反掖

之寇必袭城矣，城尽则聚散，聚散则无军矣<sup>⑩</sup>。城固守，则秦必兴兵而围王一都，道不通，则难必谋，其势不救，左右计之者不用，愿陛下熟图之，若臣斯之所言有不应事实者，愿大王幸使得毕辞于前，乃就更诛不晚也<sup>⑪</sup>。秦王饮食不甘，游观不乐，意专在图赵，使臣斯来言，愿得身见，因急于陛下有计也。今使臣不通，则韩之信未可知也。夫秦必释赵之患而移兵于韩，愿陛下幸复察图之，而赐臣报决<sup>⑫</sup>。

《韩非子·存韩》

题解：

李斯上书韩王，陈述利害，欲不战而使韩臣服。

注释：

①戮力：合力。②班：并力。③已：过后。④展转：反反复复。⑤卒：突然。⑥袭：重复。⑦脍(zū)：切成肉块。⑧留：停止。⑨铎：大铃。⑩反掖：内部谋叛。⑪毕辞：说完话。⑫报：答复。

大夫曰：王者包含并覆，普爱无私，不为近重施，不为远遗恩，今俱是民也，俱是臣也，安危劳佚不齐，独不当调耶<sup>①</sup>？不念彼而独计此，斯亦好议矣；缘边之民处寒苦之地，距强胡之难，烽燧一动，有没身之累<sup>②</sup>。故边民百战而中国恬卧者，以边郡为蔽扞也<sup>③</sup>。《诗》云“莫非王事，而我独劳”，刺不均也。是以圣王怀四方独苦，兴师推却胡、越，远寇国安灾，散中国肥饶之余以调边境<sup>④</sup>。边境强则中国安，国安则晏然无事，何求而不默也<sup>⑤</sup>？

《盐铁论·地广》

题解：

用兵边疆，可保护边民，使国家安定。

注释：

①佚：逸。②距：拒。没身：丧失生命。③恬：安然。蔽扞(hàn)：掩护保卫。④安灾：使灾民安定。⑤晏：安。

或问：兵以伐谋为上者，以其有屈人之易，而无血刃之难。伐兵攻城，为之次下明

矣。伐交之智，何异于伐谋之工，而又次之？

曰：破谋者不费而胜，破交者未胜而费。帷幄樽俎之间，而揣摩折冲，心战计胜其未形已成之策，不烦毫厘之费，而彼奔北降服之不暇者，伐谋之义也<sup>①</sup>。或遣使介，约车乘聘币之奏；或使间谍，出土地金玉之资<sup>②</sup>。张仪散六国之从，阴厚者数年；尉繚子破诸侯之援，出金三十万<sup>③</sup>。如此之类，费已广而敌未服。非加以征伐之劳，则未见全胜之功。宜乎次于晏婴、子房、寇恂、荀彧之智也<sup>④</sup>。

《孙子十家注遗说》

题解：

阻止敌人与别国联合的伐交远远比不上伐谋。

注释：

①樽俎(zūn zǔ)：喻宴席。折冲：击退敌军。北：败逃。②约：栓束。币：礼物。③从：纵。阴：暗中。④子房：张良。寇恂(xūn)：汉光武时的谋士。荀彧(yù)：曹操的谋士。

#### 4. 外交：维护尊严，联友偃敌

公输盘为楚造云梯之械，成，将以攻宋。子墨子闻之，起于鲁，行十日十夜而至于郢，见公输盘<sup>①</sup>。公输盘曰：“夫子何命焉为<sup>②</sup>？”子墨子曰：“北方有侮臣者，愿借子杀之。”公输盘不说。子墨子曰：“请献千金。”公输盘曰：“吾义固不杀人。”子墨子起，再拜，曰：“请说之。吾从北方闻子为梯，将以攻宋。宋何罪之有？荆国有余地而不足于民。杀所不足而争所有余，不可谓智；宋无罪而攻之，不可谓仁；知而不争，不可谓忠；争而不得，不可谓强；义不杀少而杀众，不可谓知类<sup>③</sup>。公输盘服。子墨子曰：“然，胡不已乎？”公输盘曰：“不可，吾既已言之王矣。”子墨子曰：“胡不见我于王<sup>④</sup>？”公输盘曰：“诺。”

子墨子见王，曰：“今有人于此，舍其文轩，邻有敝舆，而欲窃之；舍其锦绣，邻有短褐，而欲窃之；舍其粱肉，邻有糠糟，而

欲窃之<sup>⑤</sup>。此为何若人?”王曰:“必为有窃疾矣。”子墨子曰:“荆之地,方五千里,宋之地,方五百里,此犹文轩之与敝舆也。荆有云梦,犀兕麋鹿满之,江汉之鱼鳖鼃鼃为天下富,宋,所谓无雉兔鲋鱼者也,此犹梁肉之与糠糟也<sup>⑥</sup>。荆有长松文梓榱枿豫章,宋无长木,此犹锦绣之与短褐也<sup>⑦</sup>。臣以王之攻宋也,为与此同类。臣见大王之必伤义而不得。”王曰:“善哉!虽然,公输盘为我为云梯,必取宋。”

于是见公输盘。子墨子解带为城,以牒为械<sup>⑧</sup>。公输盘九设攻城之机变,子墨子九距之。公输盘之攻械尽,子墨子之守圉有余<sup>⑨</sup>。公输盘诎,而曰:“吾知所以距子矣,吾不言<sup>⑩</sup>。”子墨子亦曰:“吾知子之所以距我,吾不言。”楚王问其故。子墨子曰:“公输子之意,不过欲杀臣;杀臣,宋莫能守,乃可攻也。然臣之弟子禽滑厘等三百人,已持臣守圉之器,在宋城上而待楚寇矣。虽杀臣,不能绝也。”楚王曰“善哉!吾请无攻宋矣。”

《墨子·公输》

#### 题解:

墨子先从道义上论证楚国亏理,接着和他们较量实力,最后说明宋国已严阵以待,终于使公输和楚王折服。

#### 注释:

①郢(yīng):楚都。②命:吩咐。③争:诤。类:类推事理。④见(xiàn):引见。⑤文轩:彩饰的棚车。⑥兕(sì):雌犀牛。鼃(yuán):鳖类。鼃(tuó):鳄鱼类。鲋(fù):鲫鱼。⑦文梓:梓树。榱(pián):黄榱树。枿:楠。豫章:樟树。⑧牒(dié):木片。⑨圉(yǔ):阻挡。⑩诎(qū):败。距:拒。

晏子使楚。以晏子短,楚人为小门于大门之侧而延晏子<sup>①</sup>。晏子不入,曰:“使狗国者从狗门入;今臣使楚,不当从此门入。”俟者更道,从大门入<sup>②</sup>。

见楚王。王曰:“齐无人耶?”晏子对曰:“齐之临淄三百闾,张袂成阴,挥汗成雨,比肩继踵而在,何为无人<sup>③</sup>?”王曰:“然则子

何为使乎?”晏子对曰:“齐命使各有所主,其贤者使使贤主,不肖者使使不肖主。婴最不肖,故直使楚矣!”

《晏子春秋》

#### 题解:

晏子以敏捷的才思应对向导和楚王,维护了尊严,贬损了楚国。

#### 注释:

①延:迎接。②俟(bīn):向导。③袂(mèi):衣袖。

三十三年春,秦师过周北门,左右免胄而下,超乘者三百乘。王孙满尚幼,观之,言于王曰:“秦师轻而无礼,必败。轻则寡谋,无礼则脱,入险而脱,又不能谋,能无败乎<sup>①</sup>?”

及滑,郑商人弦高将市于周,遇之,以乘韦先,牛十二犒师,曰:“寡君闻吾子将步师出于敝邑,敢犒从者,不腆敝邑,为从者之淹,居则具一日之积,行则备一夕之卫<sup>②</sup>。”且使遽告于郑。

郑穆公使视客馆,则束载、厉兵、秣马矣。使皇武子辞焉,曰:“吾子淹久于敝邑,唯是脯资、饩牵竭矣,为吾子之将行也,郑之有原圃,犹秦之有具囿也,吾子取其麋鹿,以间敝邑,若何<sup>③</sup>?”杞子奔齐,逢孙、杨孙奔宋。

孟明曰:“郑有备矣,不可冀也,攻之不克,围之不继,吾其还也。”灭滑而还。

《左传·僖公三十三年》

#### 题解:

郑商弦高偶然发现秦军侵袭自己的国家,就主动前去犒师,说明本国已有准备,不战而退敌兵。

#### 注释:

①轻:轻佻。脱:疏略。②乘韦:四张熟牛皮。不腆:贫乏。积:刍米菜薪。③脯资:干肉粮食。饩(qì)牵:牲畜。

王夺之人,霸夺之与,强夺之地。夺之人者臣诸侯,夺之与者友诸侯,夺之地者敌诸侯<sup>①</sup>。臣诸侯者王,友诸侯者霸,敌诸侯

者危。……

彼霸者不然，辟田野，实仓廩，便备用，案谨募选阅材伎之士，然后渐庆赏以先之，严刑罚以纠之；存亡继绝，卫弱禁暴，而无兼并之心，则诸侯亲之矣<sup>②</sup>。修友敌之道以敬接诸侯，则诸侯说之矣<sup>③</sup>。所以亲之者，以不并也；并之见，则诸侯疏矣<sup>④</sup>。所以说之者，以友敌也；臣之见，则诸侯离矣。故明其不并之行，信其友敌之道，天下无王霸主，则常胜矣<sup>⑤</sup>。是知霸道者也。

《荀子·王制》

#### 题解：

善用谋略者，灵活地对待不同的国家，则会产生外交上的多变力。

#### 注释：

①与：与国。②阅：容蓄。渐：深厚。

③说：悦。④见：现。

韩、赵相与为难。韩子索兵于魏曰：“愿借师以伐赵。”魏文侯曰：“寡人与赵兄弟，不可以从。”赵又索兵以攻韩，文侯曰：“寡人与韩兄弟，不敢从。”二国不得兵，怒而反，已乃知文侯以构于己，乃皆朝魏<sup>①</sup>。……

韩咎立为君，未定也，弟在周，周欲重之，而恐韩咎不立也。綦毋恢曰：“不若以车百乘送之，得立，因曰为戒；不立，则曰来效贼也<sup>②</sup>。”……

荆王弟在秦，秦不出也，中射之士曰：“资臣百金，臣能出之。”因载百金之晋，见叔向，曰：“荆王弟在秦，秦不出也，请以百金委叔向。”叔向受金，而以见之晋平公曰：“可以城壶丘矣。”平公曰：“何也？”对曰：“荆王弟在秦，秦不出也，是秦恶荆也，必不敢禁我城壶丘。若禁之，我曰：‘为我出荆王之弟，吾不城也。’彼如出之，可以德荆；彼不出，是卒恶也，必不敢禁我城壶丘矣。”公曰：“善。”乃城壶丘。谓秦公曰：“为我出荆王之弟，吾不城也。”秦因出之。荆王大说，以炼金百镒遗晋<sup>③</sup>。

《韩非子·说林下》

#### 题解：

韩、魏、晋用谋略提高了本国地位。

#### 注释：

①构：和解。②贼：指韩咎弟。③炼金：纯金。

甘茂亡秦，且之齐。出关遇苏子，曰：“君闻夫江上之处女乎？”苏子曰：“不闻。”曰：“夫江上之处女，有家贫而无烛者，处女相与语，欲去之。家贫无烛者将去矣，谓处女曰：‘妾以无烛，故常先至，扫室布席，何爱余明之照四壁者？幸以赐妾，何妨于处女？妾自以有益于处女，何为去我？’处女相语以为然，而留之。今臣不肖，弃逐于秦而出关，愿为足下扫室布席，幸无我逐也！”苏子曰：“善；请重公于齐<sup>①</sup>。”

乃西说秦王曰：“甘茂，贤人，非恒士也<sup>②</sup>。其居秦累世重矣，自殽塞、谿谷，地形险易尽知之。彼若以齐约韩、魏，反以谋秦，是非秦之利也<sup>③</sup>。秦王曰：“然则奈何？”苏代曰：“不如重其贄、厚其禄以迎之<sup>④</sup>。彼来则置之槐谷，终身勿出，天下何以图秦<sup>⑤</sup>。”秦王曰：“善。”与之上卿，以相迎之齐。甘茂辞不往。苏秦伪谓王曰：“甘茂，贤人也，今秦与之上卿，以相迎之，茂德王之赐，故不往，愿为王臣<sup>⑥</sup>。今王何以礼之？王若不留，必不德王。彼以甘茂之贤，得擅用强秦之众，则难图也！”齐王曰：“善。”赐之上卿命而处之<sup>⑦</sup>。

《战国策·秦策》

#### 题解：

苏子强调甘茂的去留对齐秦两国的利害关系，巧妙地说动了两国之君。

#### 注释：

①重：使敬重。②恒士：平常之士。③反：回过头来。④贄(zhì)：礼物。⑤图：谋取。⑥德：感戴。⑦处：居留。

天祥见弘正于和平，大骂求死。越七日，至潮阳，踊跃请剑就死。弘范必欲以礼见，议相见礼，天祥曰：“吾不能跪，吾尝见伯颜、阿术惟长揖耳。”或曰：“奈何不拜？”天祥曰：

“吾能死，不能拜！”弘范亦不能强，遂以长揖相见<sup>①</sup>。

刘岳申《文丞相传》

**题解：**

文天祥被俘后，面对金朝统治者，大义凛然，临死不屈，不辱国格。

**注释：**

①强：勉强。

## 5. 其他：治国御人，兴革除弊

王曰：“多士，昔朕来自奄，予大降尔四国民命<sup>①</sup>。我乃明致天罚，移尔遐逝，比事臣我宗多逊<sup>②</sup>。”王曰：“告尔殷多士，今予惟不尔杀。予惟时命有申<sup>③</sup>。今朕作大邑于兹洛，予惟四方罔攸宾，亦维尔多士攸服奔走臣我多逊<sup>④</sup>。尔乃尚有尔土，尔乃尚宁干止<sup>⑤</sup>。尔克敬，天惟畀矜尔；尔不克敬，尔不啻不有尔土，予亦致天之罚于尔躬<sup>⑥</sup>。今尔惟时宅尔邑，继尔居；尔厥有干有年于兹洛<sup>⑦</sup>。尔小子乃兴，从尔迁。”王曰：“又曰时予，乃或言尔攸居<sup>⑧</sup>。”

《尚书·多士》

**题解：**

成周之邑建成之后，周王朝决定把参加武庚叛乱的殷之顽民，迁居此邑，但殷的大夫士不愿迁徙。周公以成王之命告此众士，宣布政策，指明前途。

**注释：**

①多士：众卿大夫士。降命：下令。四国：管、蔡、商、奄。②致：执行。遐逝(tì)：远方。比：近日。事臣：服事臣属。逊：顺。③时命：此令。有：又。④罔：无。攸：所。宾：朝贡。⑤宁干：安宁。止：助词。⑥克：能。畀(bì)：赐。矜：怜爱。啻(chì)：但。躬：身。⑦时：善。宅：安。年：丰收。⑧小子：子孙。时：承顺。或：能。攸：长。

吾生也有涯，而知也无涯。以有涯随无涯，殆已！已而为知者，殆而已矣<sup>①</sup>！为善无近名，为恶无近刑，缘督以为经，可以保

身，可以全生，可以养亲，可以尽年<sup>②</sup>。

《庄子·养生主》

**题解：**

养生的方法莫过于顺应自然，虽有消极之处，但也是一种谋略。

**注释：**

①涯：限。知：知识。随：追随。已而：如此而。为知：追求知识。②无：勿。近名：求名。近刑：遭受刑戮。缘：顺着。督：中，自然之道。经：常法。亲：身。年：寿命。

臣闻古之明君，错法而民无邪，举事而材自练，赏行而兵强<sup>①</sup>。此三者，治之本也。夫错法而民无邪者，法明而民利之也<sup>②</sup>。举事而材自练者，功分明，功分明则民尽力，民尽力则材自练<sup>③</sup>。行赏而兵强者，禄爵之谓也，禄爵者兵之实也<sup>④</sup>。以故人君之出禄爵也道明。道明则国日强，道幽则国日削<sup>⑤</sup>。故禄爵之所道，存亡之机也<sup>⑥</sup>。夫削国亡主，非无爵禄也，其所道过也；三王五霸，其所道不过爵禄，而功相万者，其所道明也<sup>⑦</sup>。是以明君之使其臣也，用必出于其劳，赏必加于其功。功赏明则民竞于功<sup>⑧</sup>。为国而能使其民尽力以竞于功，则兵必强矣<sup>⑨</sup>。

同列而相臣妾者，贫富之谓也；同实而相并兼者，强弱之谓也；有地而君或强或弱者，乱治之谓也<sup>⑩</sup>。苟有道里，地足容身，士民可致也；苟容市井，财货可聚也<sup>⑪</sup>。有土者不可以言贫，有民者不可以言弱。地诚任，不患无财；民诚用，不畏强暴<sup>⑫</sup>。德明教行，则能以民之有为己用矣。故明王者，用非其有，使非其民<sup>⑬</sup>。

明王之所贵，唯爵其实，爵其实而荣显之，不荣则民不急列位，不显则民不事爵<sup>⑭</sup>。爵易得也，则民不贵上爵。列爵禄赏，不道其门，则民不以死争位矣<sup>⑮</sup>。人生而有善恶，故民可治也。人君不可以不审好恶，好恶者赏罚之本也<sup>⑯</sup>。夫人情好爵禄而恶刑罚，人君设二者以御民之志，而立所欲焉<sup>⑰</sup>。夫民力尽而爵随之，功立而赏随之，人君能使其

民信于此如明日月，兵无敌矣<sup>⑮</sup>。

人君有爵行而兵弱者，有禄行而国贫者，有法立而乱者，此三者，国之患也<sup>⑯</sup>。故人君者先便请谒而后功力，则爵行而兵弱矣<sup>⑰</sup>。民不死犯难，而利禄可致也，则禄行而国贫矣<sup>⑱</sup>。法无度数，而事日烦，则法立而治乱矣<sup>⑲</sup>。是以明君之使其民也，使必尽力以规其功，功立而富贵随之，无私德也，故教流成<sup>⑳</sup>。如此，则臣忠君明，治著而兵强矣。故凡明君之治也，任其力不任其德，是以不忧不劳，而功可立也<sup>㉑</sup>。度数已立，而法可修。故人君者，不可不慎己也<sup>㉒</sup>。夫离朱见秋毫百步之外，而不能以明目易人；乌获举千钧之重，而不能以多力易人<sup>㉓</sup>。夫圣人之存体性，不可以易人，然而功可得者，法之谓也<sup>㉔</sup>。

#### 《商子·错法》

##### 题解：

建立法度，民众就不做坏事；兴办事业，就会培养出干练的人材；推行赏赐制度，军队就强大。

##### 注释：

- ①错：措，建立。材：人材。练：干练。  
②明：严明。③功分(fèn)：功绩大小。  
④实：实惠。⑤幽：不正确。⑥机：关键。  
⑦道：遵从。过：错误。⑧竞：争。⑨为国：治国。⑩同列：地位相等。⑪里：里居。  
⑫任：利用。⑬非其有：原不属于他。⑭事：追求。⑮道：由。⑯审：考察。⑰御：控制。⑱力尽：尽了力。⑲患：祸。⑳便(pián)：便辟。请谒：说情拜托。㉑死犯难：冒死做险事。㉒度数：标准。㉓规：谋求。教流：教化。㉔德：指私德。㉕修：行。㉖离朱：视力极好之人。乌获：大力士。㉗体性：特有的品质。

闻古之善用人者，必循天顺人而明赏罚，循天，则用力寡而功立；顺人，则刑罚省而令行；明赏罚，则伯夷、盗跖不乱<sup>①</sup>。如此，则白黑分矣。治国之臣，效功于国以履位，见能于官以受职，尽力于权衡以任事，人臣

皆宜其能，胜其官，轻其任，而莫怀余力于心，莫负兼官之责于君<sup>②</sup>。故内无伏怨之乱，外无马服之患<sup>③</sup>。明君使事不相干，故莫讼；使士不兼官，故技长；使人不同功，故莫争，争讼止，技长立，则强弱不殽力，冰炭不合形，天下莫得相伤，治之至也<sup>④</sup>。

释法术而心治，尧不能正一国；去规矩而妄意度，奚仲不能成一轮；废尺寸而差短长，王尔不能半中，使中主守法术，拙匠守规矩尺寸，则万不失矣，君人者能去贤巧之所不能，守中拙之所万不失，则人力尽而功名立<sup>⑤</sup>。

明主立可为之赏，设可避之罚，故贤者劝赏而不见子胥之祸，不肖者少罪而不见伍剖背，盲者处平而不遇深溪，愚者守静而不陷险危，如此，则上下之恩结矣<sup>⑥</sup>。古之人曰：“其心难知，喜怒难中也。”故以表示目，以鼓语耳，以法教心，君人者释三易之数而行一难知之心，如此，则怒积于上而怨积于下，以积怒而御积怨，则两危矣<sup>⑦</sup>。明主之表易见，故约立；其教易知，故言用；其法易为，故令行<sup>⑧</sup>。三者立而上无私心，则下得循法而治，望表而动，随绳而斫，因撙而缝，如此，则上无私威之毒，而下无愚拙之诛<sup>⑨</sup>。故上居明而少怒，下尽忠而少罪。

闻之曰：“举事无患者，尧不得也。”而世未尝无事也，君人者不轻爵禄，不易富贵，不可与救危国，故明主厉廉耻，招仁义<sup>⑩</sup>。昔者介子推无爵禄而义随文公，不忍口腹而仁割其肌，故人主结其德，书图著其名，人主乐乎使人以公尽力，而苦乎以私夺威；人臣安乎以能受职，而苦乎以一负二<sup>⑪</sup>。故明主除人臣之所苦，而立人主之所乐。上下之利，莫长于此，不察私门之内，轻虑重事，厚诛薄罪，久怨细过，长侮偷快，数以德追祸，是断手而续以玉也，故世有易身之患<sup>⑫</sup>。

人主立难为而罪不及，则私怨生；人臣失所长而奉难给，则伏怨结，劳苦不抚循，忧悲不哀怜；喜则誉小人，贤不肖俱赏；怒则毁君子，使伯夷与盗跖俱辱；故臣有叛

主<sup>⑬</sup>。

使燕王内憎其民而外爱鲁人，则燕不用而鲁不附，民见憎，不能尽力而务功；鲁见说，而不能离死命而亲他主<sup>⑭</sup>。如此，则人臣为隙穴。而人主独立，以隙穴之臣而事独立之主，此之谓危殆<sup>⑮</sup>。

释仪的而妄发，虽中小不巧；释法制而妄怒，虽杀戮而奸人不恐<sup>⑯</sup>。罪生甲，祸归乙，伏怨乃结。故至治之国，有赏罚而无喜怒，故圣人极；有刑法而死无螫毒，故奸人服<sup>⑰</sup>。发矢中的，赏罚当符，故尧复生，羿复立。如此，则上无殷、夏之患，下无比干之祸，君高枕而臣乐业，道蔽天地，德极万世矣<sup>⑱</sup>。

夫人主不塞隙穴而劳力于赭墜，暴雨疾风必坏<sup>⑲</sup>。不去眉睫之祸而慕贵、育之死，不谨萧墙之患而固金城于远境，不用近贤之谋而外结万乘之交于千里，飘风一旦起，则贵、育不及救，而外交不及至，祸莫大于此<sup>⑳</sup>。当今之世，为人主忠计者，必无使燕王说鲁人，无使近世慕贤于古，无思越人以救中国溺者，如此，则上下亲，内功立，外名成。

《韩非子·用人》

题解：

这是一篇御人术，讲用人原则。

注释：

①天：天道。 ②权衡：喻法。 ③伏怨：怀恨。 ④轂：角。 ⑤王尔：巧匠名。 ⑥偃(yǎn)：驼背。 ⑦御：统治。 ⑧表：标准。 ⑨鑽：钻。 ⑩厉：励。 ⑪负二：任二职。 ⑫偷：姑且。 ⑬抚循：抚慰。 ⑭说：悦。 ⑮隙穴：孔洞。 ⑯仪的：箭靶。 ⑰极：尽至。 ⑱蔽：充实。 ⑲赭墜(zhě è)：粉饰。 ⑳贵、育：孟贵、夏育，勇士。

达师之教也，使弟子安焉，乐焉，休焉，游焉，肃焉，严焉，此六者得于学，则邪辟之道塞矣，理义之术胜矣，此六者不得于学，则君不能令于臣，父不能令于子，师不能令于徒<sup>㉑</sup>。

人之情，不能乐其所不安，不能得于其所不乐。为之而乐矣，奚待贤者，虽不肖者犹若劝之。为之而苦矣，奚待不肖者，虽贤者犹不能久。反诸人情，则得所以劝学矣。

子华子曰：“王者乐其所以王，亡者亦乐其所以亡。故烹兽不足以尽兽，嗜其脯则几矣！然则王者有嗜乎理义也，亡者亦有嗜乎暴慢也<sup>㉒</sup>。所嗜不同，故其祸福亦不同。”

不能教者，志气不和，取舍数变，固无恒心，若晏阴喜怒无处，言谈日易，以恣自行；失之在己，不肯自非；愆过自用，不可证移；见权亲势及有富厚者，不论其材，不察其行，驱而教之，阿而谄之，若恐弗及<sup>㉓</sup>。弟子居处修洁，身状出伦，闻识疏达，就学敏疾，本业几终者，则从而抑之，难而悬之，妒而恶之。弟子去则冀终，居则不安，归则愧于父母兄弟，出则惭于知友邑里，此学者之所悲也，此师徒相与异心也<sup>㉔</sup>。人之情，恶异于己者，此师徒相与造怨尤也<sup>㉕</sup>。人之情，不能亲其所怨，不能誉其所恶，学业之败也，道术之废也，从此生矣<sup>㉖</sup>！

善教者则不然，视徒如己，反己以教，则得教之情也。所加于人，必可行于己，若此则师徒同体。人之情，爱同于己者，誉同于己者，助同于己者，学业之章明也，道术之大行也，从此生矣<sup>㉗</sup>！

不能学者，从师苦而欲学之功也，从师浅而欲学之深也。草木鸡狗牛马，不可谗诟遇之，谗诟遇之，则亦谗诟报人，又况乎达师与道术之言乎<sup>㉘</sup>！

故不能学者，遇师则不中，用心则不专，好之则不深，就业则不疾，辩论则不审，教人则不精；于师愠，怀于俗，羁神于世，矜势好尤，故湛于巧智，昏于小利，惑于嗜欲，问事则前后相悖，以章则有异心，以简则有相反，离则不能合，合则弗能离，事至则不能受，此不能学者之患也<sup>㉙</sup>。

《吕氏春秋·诬徒》

### 题解:

教育可以改变人的思想意识、精神面貌;教学要重视对象,针对实际。

### 注释:

①达:通达。安:乐。休:宽容。游:活泼。

②暴慢:暴虐傲慢。③晏:晴。处:常。驱:驰往。④冀终:希望终业。⑤尤:怨人。⑥道术:学术。⑦章明:大成。⑧谗诟:即谗诟(xi gòu):谗辱。⑨湛:安。简:篇简。

国之兴亡,兵之胜败,博学所至,幸讨论之。人帷幄之中,参庙堂之上,不能为主尽规以谋社稷,君子所耻也<sup>①</sup>。然而每见文士,颇读兵书,微有经略。若居承平之世,睥睨宫闱,幸灾乐祸,首为逆乱,诬误善良;如在兵革之时,构扇反复,纵横说诱,不识存亡,强相扶戴:此皆陷身灭族之本也<sup>②</sup>。诫之哉!诫之哉!

《颜氏家训·诫兵》

### 题解:

谋士应为国筹划,若平时阿谀,战时连结扇动,是自取灭亡。

### 注释:

①庙堂:朝廷。②睥睨(bì nì):占察。诬(guà):欺骗。扶戴:推奉。

虎之力,于人不啻倍也<sup>①</sup>。虎利其爪牙,而人无之,又倍其力焉。则人之食于虎也,无怪矣。

然虎之食人不恒见,而虎之皮人常寝处之,何哉?虎用力,人用智;虎自用其爪牙,而人用物,故力之用一,而智之用百;爪牙之用各一,而物之用百。以一敌百,虽猛必不胜。

故人之为虎食者,有智与物而不能用者也。是故天下之用力而不用智,与自用而不用人者,皆虎之类也。其为人获而寝处其皮也,何足怪哉?

《诚意伯文集》

### 题解:

善于用智、用物,是取胜的关键。

### 注释:

①啻(chì):只。

## (七)谋士的历史地位

周原既臯,莝荼如飴,爰始爰谋,爰契我龟,曰止曰时,筑室于兹<sup>①</sup>。

《诗经·大雅·绵》

### 题解:

周太王迁岐,计议策划,筑室定居,表明谋士的重要。

### 注释:

①臯(wú):美。莝:莝葵。荼:莝葵菜。始:谋。爰契我龟:灼龟问卜。

孟子曰:“舜发于畎亩之中,傅说举于版筑之间,胶鬲举于鱼盐之中,管夷吾举于士,孙叔敖举于海,百里奚举于市<sup>①</sup>。故天将降大任于是人也,必先苦其心志,劳其筋骨,饿其体肤,空乏其身,行拂乱其所为,所以动心忍性,曾益其所不能<sup>②</sup>。”

《孟子·告子下》

### 题解:

君主为了完成自己的大业,常常从贫寒低贱的庶民中选人才,作为自己的谋士。

### 注释:

①畎(quǎn)亩:田野。②拂:违背。乱:扰。

凡奸臣皆欲顺人主之心以取亲幸之势者也<sup>①</sup>。是以主有所善,臣从而誉之;主有所憎,臣因而毁之<sup>②</sup>。凡人之大体,取舍同者则相是也,取舍异者则相非也<sup>③</sup>。今人臣之所誉者,人主之所是也,此之谓同取;人臣之所毁者,人主之所非也,此之谓同舍。夫取舍合而相与逆者,未尝闻也,此人臣之所以取信幸之道也<sup>④</sup>。夫奸臣得乘信幸之势以毁誉进退群臣者,人主非有术数以御之也,非参验以审之也,必将以曩之合己信今之言,此幸臣之所以得欺主成私者也<sup>⑤</sup>。故主必欺



于上而臣必重于下矣，此之谓擅主之臣<sup>⑥</sup>。

国有擅主之臣，则群下不得尽其智力以陈其忠，百官之吏不得奉法以致其功矣<sup>⑦</sup>。何以明之？夫安利者就之，危害者去之，此人之情也<sup>⑧</sup>。今为臣尽力以致功，竭智以陈忠者，其身困而家贫，父子罹其害；为奸利以弊人主，行财货以事贵重之臣者，身尊家富，父子被其泽；人焉能去安利之道而就危害之处哉？治国若此其过也，而上欲下之无奸，吏之奉法，其不可得亦明矣<sup>⑨</sup>。故左右知贞信之不可以得安利也，必曰：“我以忠信事上，积功劳而求安，是犹盲而欲知黑白之情，必不几矣；若以道化行正理，不趋富贵，事上而求安，是犹聋而欲审清浊之声也，愈不几矣<sup>⑩</sup>。二者不可以得安，我安能无相比周，蔽主上，为奸私以适重人哉？”此必不顾人主之义矣。其百官之吏亦知方正之不可以安也，必曰：“我以清廉事上而求安，若无规矩而欲为方圆也，必不几矣；若以守法不朋党治官而求安，是犹以足搔顶也，愈不几也；二者不可以得安，能无废法行私以适重人哉？”此必不顾君上之法矣。故以私为重人者众，而以法事君者少矣。是以主孤于上而臣成党于下，此田成之所以弑简公者也<sup>⑪</sup>。

夫有术者之为人臣也，得效度数之言，上明主法，下困奸臣，以尊主安国者也<sup>⑫</sup>。是以度数之言得效于前，则赏罚必用于后矣。人主诚明于圣人之术，而不苟于世俗之言，循名实而定是非，因参验而审言辞<sup>⑬</sup>。是以左右近习之臣，知伪诈之不可以得安也，必曰：“我不去奸私之行，尽力竭智以事主，而乃以相与比周妄毁誉以求安，是犹负千钧之重陷于不测之渊而求生也，必不几矣<sup>⑭</sup>。”百官之吏亦知为奸利之不可以得安也，必曰：“我不以清廉方正奉法，乃以贪污之心枉法以取私利，是犹上高陵之颠堕峻溪之下而求生，必不几矣<sup>⑮</sup>。”安危之道若此其明也，左右安能以虚言惑主，而百官安敢以贪渔下？是以臣得陈其忠而不弊，不得守其职而不怨，此管仲之所以治齐，而商君之所以强秦

也<sup>⑯</sup>。

从是观之，则圣人之治国也，固有使人不得不爱我之道，而不恃人之以爱为我也。恃人之以爱为我者危矣，恃吾不可不为者安矣<sup>⑰</sup>。夫君臣非有骨肉之亲，正直之道可以得利，则臣尽力以事主；正直之道不可以得安，则臣行私以干上。明主知之，故设利害之道以示天下而已矣。夫是以人主虽不口教百官，不目索奸邪，而国已治矣。人主者，非目若离娄乃为明也，非耳若师旷乃为聪也，目必不任其数，而待目以为明，所见者少矣，非不弊之术也。耳必不因其势，而待耳以为聪，所闻者寡矣，非不欺之道也。明主者，使天下不得不为己视，天下不得不为己听。故身在深宫之中而明照四海之内，而天下弗能蔽弗能欺者，何也？暗乱之道废而聪明之势兴也。故善任势者国安，不知因其势者国危。古秦之俗，君臣废法而服私，是以国乱兵弱而主卑<sup>⑱</sup>。商君说秦孝公以变法易俗而明公道，赏告奸，困末作而利本事<sup>⑲</sup>。当此之时，秦民习故俗之有罪可以得免，无功可以得尊显也，故轻犯新法。于是犯之者其诛重而必，告之者其赏厚而信，故奸莫不得而被刑者众，民疾怨而众过日闻<sup>⑳</sup>。孝公不听，遂行商君之法。民后知有罪之必诛，而告私奸者众也，故民莫犯，其刑无所加。是以国治而兵强，地广而主尊。此其所以然者，匿罪之罚重而告奸之赏厚也。此亦使天下必为己视听之道也。至治之法术已明矣，而世学者弗知也<sup>㉑</sup>。

《韩非子·奸劫弑臣》

题解：

君主要运用自己的权势，防止奸谋之士由劫主发展到弑君。

注释：

①亲幸：宠幸。②毁：诋毁。③是：肯定。④逆：对立。⑤参验：验证。⑥擅：控制。⑦致：献出。⑧就：趋向。⑨过：过错。⑩几：近。⑪弑：下杀上。⑫度数：法术。⑬因：根据。⑭妄：胡乱。⑮枉法：违

反法令。⑮渔：侵夺。⑯恃：依仗。⑰服：用。⑱末作：工商业。本事：农耕。⑲必：坚决。过：责难。⑳至治：治理得最好。

于是乃摩燕乌集阙，见说赵王于华屋之下，抵掌而谈<sup>①</sup>。赵王大悦，封为武安君，受相印。革车百乘，锦绣千纯，白璧百双，黄金万溢，以随其后；约从散横，以抑强秦，故苏秦相于赵而关不通<sup>②</sup>。

当此之时，天下之大，万民之众，王侯之威，谋臣之权，皆欲决苏秦之策<sup>③</sup>。不费斗粮，未烦一兵，未战一士，未绝一弦，未折一矢，诸侯相亲，贤于兄弟<sup>④</sup>。夫贤人在而天下服，一人用而天下从。故曰：式于政，不式于勇；式于廊庙之内，不式于四境之外<sup>⑤</sup>。当秦之隆，黄金万溢为用，转毂连骑，炫燿于道，山东之国，从风而服，使赵大重<sup>⑥</sup>。且夫苏秦特穷巷掘门、桑户棬枢之士耳，伏轼搏衔，横历天下，廷说诸侯之王，杜左右之口，天下莫之能抗<sup>⑦</sup>。

《战国策·秦策》

题解：

苏秦失败时困窘，成功以后富贵尊荣，他时而连横，时而合纵，纵横捭阖，是当时谋士的写照。

注释：

①摩：经过。燕乌集阙：宫阙名。抵：抵(zhì)：击。②纯(tún)：匹、段。溢：镒，二十四两。③决：取决于。④贤于：胜过。⑤式：用。廊庙：朝廷。⑥炫燿(huáng)：显耀。⑦棬(quān)：弯木。搏(zūn)：控制。抗：匹敌。

臣之行也，固知必将有口，故献御书而行<sup>①</sup>。曰：“臣贵于齐，燕大夫将不信臣。臣贱，将轻臣。臣用，将多望于臣。齐有不善，将归罪于臣。天下不攻齐，将曰：善为齐谋。天下攻齐，将与齐兼弃臣。臣之所处者重卵也<sup>②</sup>。”王谓臣曰：“吾必不听众口与造言，吾信若犹鼈也<sup>③</sup>。大，可以得用于齐；次，可以得信；下，苟毋死。若无不为也。以孅自信，可；与言去燕之齐，可；甚者，与谋燕，

可。期于成事而已。”

《战国纵横家书》

题解：

苏秦为燕间仕于齐的艰难处境。

注释：

①有口：有闲话。②重卵：累卵。

③鼈：鼈，喻情投意合。

然秦国势便形利，权谋之士，咸先驰之。苏秦初欲横，秦弗用，故东合从<sup>①</sup>。及苏秦死后，张仪连横。诸侯听之，西向事秦。是故始皇因四塞之固，据崤函之阻，跨陇蜀之饶，听众人之策，乘六世之烈，以蚕食六国，兼诸侯，并有天下<sup>②</sup>。杖于谋诈之弊，终无信笃之诚<sup>③</sup>。

《战国策叙录》

题解：

苏秦、张仪或合纵或连横，在战国时期纵横捭阖，具有举足轻重之势。

注释：

①从：纵。②因：凭借。③杖：仗，凭依。

范蠡遂去，自齐遗大夫种书曰：“蜚鸟尽，良弓藏；狡兔死，走狗烹<sup>①</sup>。越王为人长颈鸟喙，可与共患难，不可与共乐，予何不去<sup>②</sup>？”种见书，称病不朝。人或谗种且作乱，越王乃赐种剑曰：“子教寡人伐吴七术，寡人用其三而败吴，其四在子，子为我从先王试之。”种遂自杀。

《史记·越王勾践世家》

题解：

君王建立政权后，对功高震主的将相，或收回权力，或加以杀害。

注释：

①蜚：飞。②鸟喙(huì)：鹰嘴鼻。

信数与萧何语，何奇之。至南郑，诸将行道亡者数十人。信度何等已数言上，上不我用，即亡<sup>①</sup>。何闻信亡，不及以闻，自追之。人有言上曰：“丞相何亡。”上大怒，如失左右手。

居一二日，何来谒上<sup>②</sup>。上且怒且喜，

骂何曰：“若亡，何也？”何曰：“臣不敢亡也，臣追亡者。”上曰：“若所追者谁？”何曰：“韩信也。”上复骂曰：“诸将亡者以十数，公无所追。追信，诈也<sup>③</sup>。”何曰：“诸将易得耳，至如信者，国士无双。王必欲长王汉中，无所事信；必欲争天下，非信无所与计事者。顾王策安所决耳<sup>④</sup>！”

《史记·淮阴侯列传》

题解：

萧何追韩信，说明了谋士的重要。刘邦由于开始不了解韩信的智谋而没有重用。韩信则是用则留，不用则去。

注释：

①度(duó)：忖度。②谒：拜见。③诈：说谎。④顾：只看。

贤良曰：管仲去鲁入齐，齐霸鲁削，非恃其众而归齐也。伍子胥挟弓干阖闾，破楚入郢，非负其兵而适吴也<sup>①</sup>。故贤者所在国重，所去国轻。楚有子玉得臣，文公侧席；虞有宫之奇，晋献不寐。夫臣所在，辟除开塞者亦远矣。故《春秋》曰：“山有虎豹，藟藿为之不采；国有贤士，边境为之不害也<sup>②</sup>。”

《盐铁论·崇礼》

题解：

谋士关系到国家的兴盛，政权的存亡，掌权者应充分重视。

注释：

①干：求。②藟藿(huò)：野菜。

太祖自统御海内，芟夷群丑，其行军用师，大较依孙、吴之法，而因事设奇，诡敌制胜，变化如神<sup>①</sup>。自作兵书十万余言，诸将征伐，皆以新书从事，临事又手为节度，从令者克捷，违教者负败。与虏对陈，意思安闲，如不欲战，然及至决机乘胜，气势盈溢，故每战必克，军无幸胜<sup>②</sup>。知人善察，难眩以伪，拔于禁、乐进于行陈之间，取张辽、徐晃于亡虏之内，皆佐命立功，列为名将；其余拔出细微，登为牧守者，不可胜数<sup>③</sup>。是以创造大业，文武并施，御军三十余年，手不舍书，昼则讲武策，夜则思经传

……攻城拔邑，得美丽之物，则悉以赐有功。勋劳宜赏，不吝千金，无功望施，分毫不与。四方献御，与群下共之<sup>④</sup>。

《三国志·武帝纪注引魏书》

题解：

曹操作为谋略家不仅自己善于谋略，而且十分重视谋士，拔擢了众多的将，也任用了众多的士，并且对他们肯于重赏，谋士也因此肯于用命。

注释：

①芟(shān)夷：削平。因：根据。诡：欺骗。②虏：敌人。陈：阵。③眩(xuàn)：迷乱。细微：卑微低贱。④御：进献。

常讨贼，廩谷不足，私谓主者曰：“如何<sup>①</sup>？”主者曰：“可以小斛以足之<sup>②</sup>。”太祖曰：“善。”后军中言太祖欺众，太祖谓主者曰：“特当借君死以厌众，不然事不解<sup>③</sup>。”乃斩之，取首题徇曰：“行小斛，盗官谷，斩之军门<sup>④</sup>。”其酷虐变诈，皆此类也。

《曹瞒传》

题解：

主管粮仓的小吏献计，解决了粮食不足的燃眉之急，最后竟被斩首。

注释：

①廩谷：仓中之粮。主者：主管人。②斛(hú)：量器，十斗一斛。③厌：压。④徇(xùn)：示众。

房玄龄，齐州临淄人也。初仕隋，为隰城尉。坐事，除名徙上郡。太宗徇地渭北，玄龄杖策谒于军门，太宗一见，便如旧识，署渭北道行军记室参军。玄龄既遇知己，遂罄竭心力。是时，贼寇每平，众人竞求金宝，玄龄独先收人物，致之幕府，及有谋臣猛将，与之潜相申结，各致死力<sup>①</sup>。……

十二年，太宗以诞皇孙，诏宴公卿，帝极欢，谓侍臣曰：“贞观以前，从我平定天下，周旋艰险，玄龄之功无所与让。贞观之后，尽心于我，献纳忠说，安国利人，成我今日功业，为天下所称者，惟魏征而已<sup>②</sup>。古之名臣，何以加也。”于是亲解佩刀以赐二人。

庶人承乾在春宫，不修德业。魏王泰崇爱日隆，内外庶僚，咸有疑议。太宗闻而恶之，谓侍臣曰：“当今朝臣，忠谏无如魏征，我遣傅皇太子，用绝天下之望<sup>③</sup>。”十七年，遂授太子太师，知门下事如故。征自陈有疾，太宗谓曰：“太子宗社之本，须有师傅，故选中正，以为辅弼。知公疹病，可卧护之。”

《贞观政要·任贤》

**题解：**

唐太宗对房玄龄、魏征十分赏识委以重任。魏征有病，可卧护太子。

**注释：**

①致：使到。 ②谏(dǎng)：正直。 ③谗(jiàn)：忠诚、正直。

愈曰：君子居其位，则思死其官；未得位，则思修其辞以明其道。我将以明道也，非以为直而加人也。且国武子不能得善人，而好尽言于乱国，是以见杀。<sup>①</sup>《传》曰：“惟善人能受尽言<sup>②</sup>。”谓其闻而能改之也。子告我曰：“阳子可以为有道之士也”，今虽不能及已，阳子将不得为善人乎哉<sup>③</sup>？

《韩昌黎全集·争臣论》

**题解：**

韩愈认为净臣应居其位尽其职，有道之人会接受率直的批评。

**注释：**

①国武子：名佐，春秋时齐国国卿。 ②传：指《国语》。 ③阳子：指阳城，唐德宗时召为谏议大夫。

增年已七十，合则留，不合则去。不以此时明去就之分，而欲依羽成功名，陋矣<sup>①</sup>！虽然，增，高帝之所畏也<sup>②</sup>。增不去，项羽不亡。呜呼，增亦人杰也哉！

《东坡文集·范增论》

**题解：**

范增是刘邦所害怕的人，他的出走，是项羽失败的重要因素之一。

**注释：**

①分：界限。 ②高帝：刘邦。

(唐太宗)叹曰：“以铜为鉴，可正衣冠；以古为鉴，可知兴替；以人为鉴，可明得失<sup>①</sup>。朕尝保此三鉴，内防己过。今魏征逝，一鉴亡矣<sup>②</sup>！”

《新唐书·魏征传》

**题解：**

唐太宗认为魏征的逝世是失掉了一面镜子，由此看出谋士的重要。

**注释：**

①鉴：镜子。替：度。 ②亡：失掉。

## (八) 谋略家成功的奥秘

### 1. 博学多知，见多识广

少知问于大公调曰：“何谓丘里之言<sup>①</sup>？”大公调曰：“丘里者，合十姓百名而以为风俗也，合异以为同，散同以为异<sup>②</sup>。今指马之百体而不得马，而马系于前者，立其百体而谓之马也。是故丘山积卑而为高，江河合水而为大，大人合并而为公<sup>③</sup>。是以自外入者，有主而不执；由中出者，有正而不距<sup>④</sup>。四时殊气，天不赐，故岁成；五官殊职，君不私，故国治；文武殊材，大人不赐，故德备；万物殊理，道不私，故无名<sup>⑤</sup>。无名故无为，无为而无不为。时有终始，世有变化，祸福淳淳，至有所拂者而有所宜，自殉殊面，有所正者有所差，比于大宅，百材皆度；观于大山，木石同坛。此之谓丘里之言<sup>⑥</sup>。”少知曰：“然则谓之道足乎？”大公调曰：“不然，今计物之数，不止于万，而期曰万物者，以数之多者号而读之也<sup>⑦</sup>。是故天地者，形之大者也；阴阳者，气之大者也；道者为之公<sup>⑧</sup>。因其大以号而读之则可也，已有之矣，乃将得比哉！则若以斯辩，譬犹狗马，其不

及远矣<sup>⑨</sup>。”

少知曰：“四方之内，六合之里，万物之所生恶起？”大公调曰：“阴阳相照相盖相治，四时相代相生相杀。欲恶去就，于是桥起<sup>⑩</sup>。雌雄片合，于是庸有。安危相易，祸福相生，缓急相摩，聚散以成<sup>⑪</sup>。此名实之可纪，精微之可志也。随序之相理，桥运之相使，穷则反，终则始，此物之所有。言之所尽，知之所至，极物而已。睹道之人，不随其所废，不原其所起，此议之所止。”少知曰：“季真之莫为，接子之或使。二家之议，孰正于其情，孰偏于其理<sup>⑫</sup>？”大公调曰：“鸡鸣狗吠，是人之所知。虽有大知，不能以言读其所自化，又不能以意其所将为<sup>⑬</sup>。斯而析之，精至于无伦，大至于不可围；或之使，莫之为，未免于物而终以为过<sup>⑭</sup>。或使则实，莫为则虚。有名有实，是物之居；无名无实，在物之虚<sup>⑮</sup>。可言可意，言而愈疏。未生不可忌，已死不可阻<sup>⑯</sup>。死生非远也，理不可睹。或之使，莫之为，疑之所假。吾观之本，其往无穷；吾求之末，其来无止<sup>⑰</sup>。无穷无止，言之无也，与物同理。或使莫为，言之本也，与物终始。道不可有，有不可无。道之为名，所假而行。或使莫为，在物一曲，夫胡为于大方<sup>⑱</sup>！言而足，则终日言而尽道；言而不足，则终日言而尽物。道，物之极，言默不足以载；非言非默，议有所极<sup>⑲</sup>。”

《庄子·则阳》

#### 题解：

大道不仅是抽象的、同一的，同时又反映在万物的各种具体变化、对立的现象之中，须有广博的知识才能驾驭。

#### 注释：

①少知、大公调：都是假设人名。丘里：泛指街巷。②合：其中。十姓百名：众人。③合并：容合众人。④执：固执。距：拒。⑤赐：偏与。⑥淳淳：茫昧难测的样子。徇：逐。面：向。度：分寸。⑦期：定。读：称。⑧公：共有。⑨辩：辨。⑩桥：桔槔。⑪片：通腓(pàn)，腓合：交配。⑫正：合。⑬意：猜

测。⑭斯：剖析。⑮居：所在。⑯忌：禁。

⑰假：凭借。⑱一曲：一个方面。大方：大道。

⑲载：传，传道。极：限。

子曰：“盖有不知而作之者，我无是也。多闻，择其善者而从之；多见而识之；知之次也<sup>①</sup>。”

《论语·述而》

#### 题解：

多听多看，择善而从。孔子提倡谋略家应具有这样的修养。

#### 注释：

①作：造作。识(zhì)：记住。次：次一等。

君子知夫不全不粹之不足以为美也，故诵数以贯之，思索以通之，为其人以处之，除其害者以持养之，使目非是无欲见也，使耳非是无欲闻也，使口非是无欲言也，使心非是无欲虑也<sup>①</sup>。及至其致好之也，目好之五色，耳好之五声，口好之五味，心利之有天下<sup>②</sup>。是故权利不能倾也，群众不能移也，天下不能荡也<sup>③</sup>。生乎由是，死乎由是，夫是之谓德操<sup>④</sup>。德操然后能定，能定然后能应<sup>⑤</sup>。能定能应，夫是之谓成人<sup>⑥</sup>。天见其明，地见其光，君子贵其全也<sup>⑦</sup>。

《荀子·劝学》

#### 题解：

善谋者深知孤陋寡闻难成大事，就诵读复习，思考探索，耳濡目染，口说心念，以广见博闻。

#### 注释：

①诵数：反复诵读。为：效法。处：处世。

持养：保持品德。②致：极点。③荡：动摇。

④由：循。是：此。⑤定：坚定。应：顺应。

⑥成人：有成就的人。⑦见：现。光：广。

不闻不若闻之，闻之不若见之，见之不若知之，知之不若行之。学至于行之而止矣。行之，明也，明之为圣人。圣人也者，本仁义，当是非，齐言行，不失豪厘，无它道焉，已乎行之矣<sup>①</sup>。故闻之而不见，虽博必谬；见之而不知，虽识必妄；知之而不行，

虽敦必困<sup>②</sup>。不闻不见，则虽当，非仁也，其道百举而百陷也。

《荀子·儒效》

题解：

广闻博见，多知厉行，才能立于不败之地。

注释：

①明：明达事理。豪：毫。已：止。②识(zhi)：记。敦：多而厚。

昔者智伯瑤率赵、韩、魏而伐范、中行，灭之<sup>①</sup>。反归，休兵数年，因令人请地于韩<sup>②</sup>。韩康子欲勿与，段规谏曰：“不可不与也<sup>③</sup>。夫知伯之为人也，好利而骜愎<sup>④</sup>。彼来请地而弗与，则移兵于韩必矣。君其与之。与之，彼狃，又将请地他国<sup>⑤</sup>。他国且有不听，不听，则知伯必加之兵。如是，韩可以免于患而待其事之变<sup>⑥</sup>。”康子曰：“诺。”因令使者致万家之县一于知伯<sup>⑦</sup>。知伯说，又令人请地于魏，宣子欲勿与，赵葭谏曰：“彼请地于韩，韩与之。今请地于魏，魏弗与，则是魏内自强，而外怒知伯也<sup>⑧</sup>。如弗予，其措兵于魏必矣<sup>⑨</sup>。不如予之。”宣子曰：“诺。”因令人致万家之县一于知伯。知伯又令人之赵请蔡、皋狼之地，赵襄子弗与<sup>⑩</sup>。知伯因阴约韩、魏将以伐赵<sup>⑪</sup>。襄子召张孟谈而告之曰：“夫知伯之为人也，阳亲而阴疏<sup>⑫</sup>。三使韩、魏而寡人不与焉，其措兵于寡人必矣。今吾安居而可？”张孟谈曰：“夫董阏于，简主之才臣也，其治晋阳，而尹铎循之，其余教犹存，君其定居晋阳而已矣<sup>⑬</sup>。”君曰：“诺。”乃召延陵生，令将车骑先至晋阳，君因从之<sup>⑭</sup>。君至，而行其城郭及五官之藏<sup>⑮</sup>。城郭不治，仓无积粟，府无储钱，库无甲兵，邑无守具<sup>⑯</sup>。襄子惧，乃召张孟谈曰：“寡人行城郭及五官之藏，皆不备具，吾将何以应敌？”张孟谈曰：“臣闻圣人之治，藏于民，不藏于府库，务修其教不治城郭<sup>⑰</sup>。君其出令，令民自遗三年之食，有余粟者人之仓；遗三年之用，有余钱者人之府；遗有奇人者使治城郭之缮<sup>⑱</sup>。”君夕出令，明日，

仓不容粟，府无积钱，库不受甲兵<sup>⑲</sup>。居五日而城郭已治，守备已具。君召张孟谈而问之曰：“吾城郭已治，守备已具，钱粟已足，甲兵有余。吾奈无箭何？”张孟谈曰：“臣闻董子之治晋阳也，公宫之垣皆以荻蒿桔楚墙之，有桔高至于丈<sup>⑳</sup>。君发而用之。”于是发而试之，其坚则虽菌簳之劲弗能过也<sup>㉑</sup>。君曰：“吾箭已足矣，奈无金何？”张孟谈曰：“臣闻董子之治晋阳也，公宫令舍之堂，皆以炼铜为柱、质<sup>㉒</sup>。君发而用之。”于是发而用之，有余金矣。号令已定，守备已具。三国之兵果至。至则乘晋阳之城，遂战。三月弗能拔。因舒军而围之，决晋阳之水以灌之。围晋阳三年。城中巢居而处，悬釜而炊，财食将尽，士大夫羸病，襄子谓张孟谈曰：“粮食匮，财力尽，士大夫羸病，吾恐不能守矣！欲以城下，何国之可下？”张孟谈曰：“臣闻之，亡弗能存，危弗能安，则无为贵智矣。君释此计者，臣请试潜行而出，见韩、魏之君。”张孟谈见韩、魏之君曰：“臣闻唇亡齿寒。今知伯率二君而伐赵，赵将亡矣。赵亡，则二君为之次<sup>㉓</sup>。”二君曰：“我知其然也。虽然，知伯之为人也，粗中而少亲。我谋而觉，则其祸必至矣。为之奈何？”张孟谈曰：“谋出二君之口而入臣之耳，人莫之知也。”二君因与张孟谈约三军之反，与之期日。夜遣孟谈入晋阳，以报二君之反。襄子迎孟谈而再拜之，且恐且喜。二君以约遣张孟谈，因朝知伯而出，遇智过于轘门之外。智过怪其色，因入见知伯曰：“二君貌将有变。”君曰：“何如？”曰：“其行矜而意高，非他时之节也，君不如先之<sup>㉔</sup>。”君曰：“吾与二主约谨矣，破赵而三分其地，寡人所以亲之，必不侵欺<sup>㉕</sup>。兵之著于晋阳三年，今旦暮将拔之而向其利，何乃将有他心？必不然<sup>㉖</sup>。子释勿忧，勿出于口。”明旦，二主又朝而出，复见智过于轘门。智过人见曰：“君以臣之言告二主乎？”君曰：“何以知之？”曰：“今日二主朝而出，见臣而其色动，而视属臣<sup>㉗</sup>。此必有变，君不如杀之。”君曰：“子置勿复言。”智过曰：“不可，

必杀之。若不能杀，遂亲之。”君曰：“亲之奈何？”智过曰：“魏宣子之谋臣曰赵葭，韩康子之谋臣曰段规，此皆能移其君之计<sup>②</sup>。君其与二君约，破赵国，因封二子者各万家之县一。如是，则二主之心可以无变矣。”知伯曰：“破赵而三分其地，又封二子者各万家之县一，则吾所得者少。不可。”智过见其言之不听也，出，因更其族为辅氏<sup>③</sup>。至于期日之夜，赵氏杀其守堤之吏而决其水灌知伯军。知伯军救水而乱，韩、魏翼而击之，襄子将卒犯其前，大败知伯之军而擒知伯。知伯身死军破，国分为三，为天下笑。故曰：贪愎好利，则灭国杀身之本也。

《韩非子·十过》

#### 题解：

张孟谈运用自己广博的知识，使赵襄子备足了利箭兵器，并巧施计谋，联合韩、魏两家击败了知伯。

#### 注释：

①智伯瑤：晋六卿之一。②反：返。  
③段规：韩康子的家臣。④骛：傲。愎(bì)：固执。⑤狙(niū)：习惯。⑥是：这样。  
⑦致：给。⑧自强：自恃强大。⑨措：加。  
⑩之：往。⑪阴：暗中。⑫阳：表面。  
⑬循：承袭。⑭将：率。⑮行：巡视。  
⑯粟：粮。⑰教：教化。⑱奇(jī)：余。  
⑲无积：堆不下。⑳桮(hù)：杆可做箭。㉑菌簪(lù)：硬竹。㉒质：础。㉓次：第二个。  
㉔节：气概。㉕亲：友好。㉖蕃：驻扎。向：享。㉗属：嘱，注意。㉘移：改变。㉙更：改姓。

管仲、隰朋从于桓公而伐孤竹，春往冬反，迷惑失道<sup>①</sup>。管仲曰：“老马之智可用也。”乃放老马而随之，遂得道。行山中无水，隰朋曰：“蚁冬居山之阳，夏居山之阴<sup>②</sup>。蚁壤一寸而仞有水。”乃掘地，遂得水。以管仲之圣而隰朋之智，至其所不知，不难师于老马与蚁。今人不知以其愚心而师圣人之智，不亦过乎？

《韩非子·说林上》

#### 题解：

老马能够识途，蚁穴之下有水，管仲、隰朋运用学识，把齐军引出绝境。

#### 注释：

①失道：迷路。②阳：山之南。

善学者，若齐王之食鸡也，必食其跖数千而后足，虽不足，犹若有跖<sup>①</sup>。物固莫不有长，莫不有短，人亦然。故善学者，假人之长以补短。故假人者，遂有天下。无丑不能，无恶不知；丑不能，恶不知，病矣；不丑不能，不恶不知，尚矣，虽桀、纣犹有可畏可取者，而况于贤者乎<sup>②</sup>！

故学士曰：辩议不可为不可不为，辩议而苟可为，是教大辩也，教大议也；辩议而不可为，是被褐而出，衣锦而入<sup>③</sup>。

戎人生乎戎，长乎戎，而戎言不知其所受之。楚人生乎楚，长乎楚，而楚言不知其所受之。今使楚人长乎戎，戎人长乎楚，则楚人戎言，戎人楚言矣。由是观之，吾未知亡国之主不可以为贤主也，其所生长者不可耳。故所生长不可不察也。

天下无粹白之狐，而有粹白之裘，取之众白也，夫取于众，此三皇五帝之所以大立功名也<sup>④</sup>。

凡君之所以立，出乎众也。立已定而舍其众，是得其末而失其本。得其末而失其本，不闻安居。故以众勇无畏乎孟贲矣，以众力无畏乎乌获矣，以众视无畏乎离娄矣，以众知无畏乎尧、舜矣<sup>⑤</sup>。夫以众者，此君人之大宝也。

田骈谓齐王曰：“孟贲庶乎患术，而边境弗患<sup>⑥</sup>。”楚、魏之王，辞言不说，而境内已修备矣，兵士已修用矣，得之众也<sup>⑦</sup>。

《吕氏春秋·用众》

#### 题解：

要虚心学习别人的长处，利用别人的长处，假人之长以补己之短。

### 注释:

①跣(zhǐ): 脚掌。②丑: 耻。恶: 过。  
③褐: 粗毛布。④粹: 纯粹。⑤孟贲: 勇士。  
乌获: 力士。离娄: 目力极好之人。⑥庶乎: 几  
乎。患术: 苦于无术。⑦辞言不说: 不以言辞为  
说。

亮答曰:“自董卓已来,豪杰并起,跨州  
连郡者不可胜数。曹操比于袁绍,则名微而  
众寡,然操遂能克绍,以弱为强者,非惟天  
时,抑亦人谋也<sup>①</sup>。今操已拥百万之众,挟  
天子而令诸侯,此诚不可与争锋。孙权据有  
江东,已历三世,国险而民附,贤能为之用,  
此可以为援而不可图也。荆州北据汉、沔,  
利尽南海,东连吴会,西通巴蜀,此用武之  
国,而其主不能守,此殆天所以资将军,将  
军岂有意乎?益州险塞,沃野千里,天府之土,  
高祖因之以成帝业<sup>②</sup>。刘璋闇弱<sup>③</sup>,张鲁在  
北,民殷国富而不知存恤,智能之士思得明  
君。将军既帝室之胄,信义著于四海,总揽  
英雄,思贤如渴,若跨有荆益,保其岩阻,  
西和诸戎,南扶夷越,外结好孙权,内脩政  
理,天下有变,则命一上将,将荆州之军以  
向宛、洛,将军身率益州之众出于秦川,百  
姓孰敢不箪食壶浆以迎将军者乎<sup>④</sup>?诚如是,  
则霸业可成,汉室可兴矣。”

《三国志·蜀书·诸葛亮传》

### 题解:

诸葛亮隆中隐居,而对天下大势了如指  
掌,正是博学多闻的表现。

### 注释:

①惟: 只。②因: 凭借。③闇弱: 昏庸  
懦弱。④胄: 后裔。

及之而后知;履之而后艰;乌有不行而  
知者乎<sup>①</sup>?披五岳之图,以为知山;不如樵  
夫之一足<sup>②</sup>。谈沧溟之广,以为知海;不如  
估客之一瞥<sup>③</sup>。疏八珍之谱,以为知味;不  
如庖丁之一啜<sup>④</sup>。

《魏源集·默觚上·学篇二》

### 题解:

只有亲自实践才能懂得作事的艰难,哪  
有不实践而获得知识的呢?

### 注释:

①及: 接近。履: 实行。②披: 披览。  
③沧溟: 海洋。④疏: 通观。啜(chuò): 尝。

## 2. 勇毅果决, 有胆有识

帝曰:“畴咨若时?登庸<sup>①</sup>。”放齐曰:“胤  
子朱,启明<sup>②</sup>。”帝曰:“吁!嚚讼可乎<sup>③</sup>?”帝  
曰:“畴咨若予采<sup>④</sup>?”驩兜曰:“都!共工方鸠  
倖功<sup>⑤</sup>。”帝曰:“吁!静言庸违,象恭滔天<sup>⑥</sup>。”  
帝曰:“咨!四岳<sup>⑦</sup>。”

汤汤洪水方割<sup>⑧</sup>,荡荡怀山襄陵<sup>⑨</sup>,浩  
浩滔天<sup>⑩</sup>。下民其咨,有能俾乂<sup>⑪</sup>?金曰:  
“於,鯀哉<sup>⑫</sup>!”帝曰:“吁!咈哉!方命圯  
族<sup>⑬</sup>。”岳曰:“异哉!试可乃已<sup>⑭</sup>。”帝曰:  
“往,钦哉<sup>⑮</sup>!”九载,绩用弗成<sup>⑯</sup>。

《尚书·尧典》

### 题解:

本节说明尧从大局出发选拔人才,自己  
的儿子妄言好争而不用,共工貌恭心肆亦不  
用,态度异常坚决。

### 注释:

①帝: 指尧。畴: 谁。咨: 语气词。若时: 善  
治四时。登庸: 升用。②放齐: 臣名。胤: 嗣。  
朱: 尧之子名丹朱。启明: 开明,明白政事。  
③吁: 惊异之词。嚚(yín)讼: 奸诈而好争讼。  
④予: 我。采: 事,指政事。⑤驩兜: 共工,尧  
时大臣。共工: 尧的水官。都,叹美之词。方:  
防。鳩: 救。倖(zhuàn): 具有。⑥静言: 巧  
言。庸: 常。违: 邪僻。象恭: 貌似恭谨。滔天:  
比喻横肆不敬之心弥漫充满,上极于天。⑦咨:  
嗟叹。四岳: 官名,主四方之祭。⑧汤汤  
(shāng): 大水急流的样子。方(páng)割: 普遍为  
害。⑨荡荡: 水奔突、冲击。怀: 包围。襄:  
上。⑩浩浩: 水盛大的样子。⑪俾: 使。乂  
(yì): 治。⑫金: 都。於(wū): 叹词。鯀  
(gǔn): 禹的父亲。⑬咈(fú): 违背。方命: 放



弃教命。圮(pǐ)族：毁坏同类。⑭异：举拔。  
试：任用。已：止。⑮钦：慎重。⑯绩：功用。

民亦劳止，汙可小康，惠此中国，以绥四方，无纵诡随，以谨无良，式遏寇虐，惇不畏明，柔远能迓，以定我王<sup>①</sup>。

民亦劳止，汙可小休，惠此中国，以为民逯，无纵诡随，以谨惇傲，式遏寇虐，无俾民忧，无弃尔劳，以为王休<sup>②</sup>。

民亦劳止，汙可小息，惠此京师，以绥四国，无纵诡随，以谨罔极，式遏寇虐，无俾作慝，敬慎威仪，以近有德<sup>③</sup>。

民亦劳止，汙可小偲，惠此中国，俾民忧泄，无纵诡随，以谨丑厉，式遏寇虐，无俾正败，戎虽小子，而式弘大<sup>④</sup>。

民亦劳止，汙可小安，惠此中国，国无有残，无纵诡随，以谨缙缃，式遏寇虐，无俾正反，王欲玉女，是用大谏<sup>⑤</sup>。

《诗经·大雅·民劳》

#### 题解：

周大夫勇敢劝谏厉王，勿听信奸佞、纵容小人，施行暴虐以劳民祸国。

#### 注释：

①汙(qì)：求。中国：指京师。诡随：诱诈之人。式：用。遏：止。惇：乃。明：权贵。柔：安。能：而。②逯：聚合。惇傲(hūn náo)：大乱。俾(bì)：使。劳：功。休：美善。③罔极：偏激。慝(tè)：奸邪。④偲：休息。泄：除去。丑：群凶。厉：作恶。正：政。戎：你。⑤缙缃(qiān quān)：纠缠。玉女：爱你。

往蹇来誉，王臣蹇蹇，匪躬之故；往蹇来反；往蹇来连；大蹇朋来；往蹇来硕<sup>①</sup>。

《周易·蹇卦》

震索索，视矍矍，震凶；震不于其躬于其邻，无咎<sup>②</sup>。

《周易·震卦》

#### 题解：

在谋略上敢于正言直谏，虽会遭到反对，抵赖，但终会有朋友来助，被众人采用。如外力突来就惊惶失措，征伐必凶。

#### 注释：

①蹇(jiǎn)：正言直谏。匪：非。躬：自身。反：反对。连：抵赖。来：来助。硕：采用。②震：巨雷。索索：迅疾。矍矍(jué)：惊惧四顾。咎：灾祸。

天行健，君子以自强不息<sup>①</sup>。

《周易大传·乾象》

君子以果行育德<sup>②</sup>。

《周易大传·蒙象》

君子以遏恶扬善，顺天休命<sup>③</sup>。

《周易大传·大有象》

君子以见善则迁，有过则改。

《周易大传·益象》

君子以慎辨物居方<sup>④</sup>。

《周易大传·未济象》

#### 题解：

自强不息，果行育德，抑恶扬善，辨物居方，见善则迁，有过则改，这些都是谋略家应有的修养。

#### 注释：

①行：道。健：刚健。②果：果敢决断。③遏：制止。休命：使命运美好。④辨物：分清事物。居方：审处方位。

季康子问：“仲由可使从政也与？”子曰：“由也果，于从政乎何有<sup>①</sup>？”

曰：“赐也可使从政也与？”曰：“赐也达，于从政乎何有<sup>②</sup>？”

曰：“求也可使从政也与？”曰：“求也艺，于从政乎何有<sup>③</sup>？”

《论语·雍也》

#### 题解：

能够果敢决断，通情达理，多才多艺，治理政事就没有困难。

### 注释:

①果:果敢决断。何有:有什么困难。

②达:通情达理。③艺:多才多艺。

管仲有病,桓公问之曰:“仲父之病病矣,可不讳云,至于大病,则寡人恶乎属国而可<sup>①</sup>?”管仲曰:“公谁欲与?”公曰:“鲍叔牙。”曰:“不可。其为人清廉,善士也;其于不己若者不比之;又一闻人之过,终身不忘。使之治国,上且钩乎君,下且逆乎民,其得罪于君也将弗久矣<sup>②</sup>!”公曰:“然则孰可?”对曰:“勿已则隰朋可。其为人也,上忘而下畔,愧不若黄帝,而哀不己若者<sup>③</sup>。以德分人谓之圣;以财分人谓之贤。以贤临人,未有得人者也;以贤下人,未有不得人者也。其于国有不闻也,其于家有不见也。勿已则隰朋可。”

《庄子·徐无鬼》

### 题解:

以鲍叔牙与隰朋对比,说明迷惑于自负的人,是不能治国的。

### 注释:

①属国:委任国政。②钩:违背。③上忘:对上无心窥察。下畔:对下亲善。

请问为政?曰:贤能不待次而举,罢不能不待须而废,元恶不待教而诛,中庸民不待政而化<sup>①</sup>。分未定也则有昭缪<sup>②</sup>。虽王公士大夫之子孙也,不能属于礼仪,则归之庶人。虽庶人之子孙也,积文学,正身行,能属于礼仪,则归之卿相士大夫<sup>③</sup>。故奸言、奸说、奸事、奸能、遁逃反侧之民,职而教之,须而待之,勉之以庆赏,惩之以刑罚,安职则畜,不安职则弃<sup>④</sup>。五疾,上收而养之,材而事之,官施而衣食之,兼覆无遗<sup>⑤</sup>。才行反时者死无赦<sup>⑥</sup>。夫是之谓天德,是王者之政也。

听政之大分:以善至者待之以礼,以不善至者待之以刑<sup>⑦</sup>。两者分别,则贤不肖不杂,是非不乱。贤不肖不杂则英杰至,是非不乱则国家治。若是,名声日闻,天下愿,令行禁止,王者之事毕矣<sup>⑧</sup>。凡听:威严猛

厉,而不好假道人,则下畏恐而不亲,周闭而不竭;若是,则大事殆乎弛,小事殆乎遂<sup>⑨</sup>。和解调通,好假道人,而无所凝止之,则奸言并至,尝试之说锋起,若是,则听大事烦,是又伤之也<sup>⑩</sup>。

《荀子·王制》

### 题解:

施政的策略是勇敢坚定,果断地任用贤人,罢免庸人,杀掉元凶。

### 注释:

①罢:疲。须:疑。中庸:中等平庸。政:指刑赏。②昭缪:昭穆,指尊卑上下。③属:至。④职:事。须:待。畜:养。⑤五疾:哑、聋、跛了脚,断了手、侏儒。材:根据能力。⑥反时:违背时势。⑦大分:要领。⑧闻:显著于世。愿:仰慕。⑨听:听政。假道:宽导。竭:举发。遂:坠。⑩凝:定。

谈说之术:矜庄以莅之,端诚以处之,坚强以持之,譬称以喻之,分别以明之,欣驩、芬苾以送之,宝之,珍之,贵之,神之,如是则说常无不受<sup>①</sup>。虽不说人,人莫不贵,夫是之谓为能贵其所贵<sup>②</sup>。传曰:“唯君子为能贵其所贵。”此之谓也。

《荀子·非相》

### 题解:

陈述谋略要庄严、诚挚、善喻,还要敢于坚持,善于引导。

### 注释:

①矜庄:庄严。驩:欢。苾:香。欣欢、芬香指和气。②说人:与人谈说。

申子曰:“慎而言也,人且知女;慎而行也,人且随女,而有知见也,人且匿女;而未知见也,人且意女,女有知也,人且威女;女无知也,人且行女<sup>①</sup>。故曰:惟无为可以规之。”……

齐宣王问弋于唐易子曰:“弋者奚贵?”唐易子曰:“在于谨廉<sup>②</sup>”。王曰:“何谓谨廉?”对曰:“鸟以数十目视人,人以二目视鸟,奈何不谨廉也!”故曰:“在于谨廉”也。王曰:“然则为天下何以为此廉?今人主以二目视一国,

一国以万目视人主，将何以自为廩乎？”对曰：“郑长者有言曰：‘夫虚静无为而无见也’。其可以为此廩乎<sup>①</sup>！”

《韩非子·外储说右上》

**题解：**

谨言慎行，谨慎地守护国家。

**注释：**

①意：算计。臧：藏，躲避。②弋(yì)：射鸟。廩：粮仓。③廩：喻国家。

范雎曰：“臣居山东，闻齐之内有田单，不闻其王；闻秦之有太后、穰侯、高陵、泾阳、华阳，不闻其有王。失擅国之谓王，能专利害之谓王，制杀生之威之谓王。今太后擅行不顾，穰侯出使不报，泾阳、华阳击断无讳，高陵进退不请，四贵备而国不危者，未之有也<sup>①</sup>。为此四者下，乃所谓无王已。然则权焉得不倾，而令焉得从王出乎？臣闻善为国者，内固其威，而外重其权。穰侯使者操王之重，决裂诸侯，剖符于天下，征敌伐国，莫敢不听<sup>②</sup>。战胜攻取，则利归于陶；国弊，御于诸侯；战败，则怨结于百姓，而祸归社稷。诗曰：‘木实繁者披其枝，披其枝者伤其心。大其都者危其国，尊其臣者卑其主。’淖齿管齐之权，缩闵王之筋，县之庙梁，宿昔而死。李兑用赵，减食主父，百日而饿死。今秦太后、穰侯用事，高陵、泾阳、华阳佐之，卒无秦王，此亦淖齿、李兑之类已。臣今见王独立于庙朝矣，且臣将恐后世之有秦国者，非王之子孙也<sup>③</sup>。”

秦王惧。于是乃废太后，逐穰侯，出高陵，走泾阳、华阳于关外，昭王谓范雎曰：“昔者齐公得管仲，时以为仲父，今吾得子，亦以为父<sup>④</sup>。”

《战国策·秦策》

**题解：**

范雎有胆有识，冒着极大风险，向秦昭王指出宣太后等人勾结在一起，危害秦国利益的情况。

**注释：**

①擅：专。报：禀告。击：杀。断：判决。②重：威权。剖：分。符：符信。③独立：孤立。庙朝：朝廷。④子：尊称。

令既具，未布。恐民之不信己，乃立三丈之木于国都市南门，募民有能徙置北门者，予十金<sup>①</sup>。民怪之，莫敢徙。复曰：“能徙者，予五十金。”有一人徙之，辄予五十金，以明不欺，卒下令<sup>②</sup>。

令行于民期年，秦民之国都言初令之不便者以千数。于是太子犯法<sup>③</sup>。卫鞅曰：“法之不行，自上犯之。”将法太子。太子，君嗣也，不可施刑<sup>④</sup>。刑其傅公子虔，黥其师公孙贾<sup>⑤</sup>。明日，秦人皆趋令。行之十年，秦民大说<sup>⑥</sup>。道不拾遗，山无盗贼，家给人足。民勇于公战，怯于私斗。乡邑大治<sup>⑦</sup>。秦民初言令不便者，有来言令便者。卫鞅曰：“此皆乱化之民也。”尽迁之于边城。其后，民莫敢议令<sup>⑧</sup>。

《史记·商君列传》

**题解：**

商鞅悬赏移木，又严惩太子的师、傅以代太子，迁徙乱化之民，表现出谋略家应有的胆识。

**注释：**

①募：广泛征求。徙：移动。②辄(zhé)：就。③期(jī)年：一周。④嗣：继承人。⑤傅：教导王子的人。⑥说：悦。⑦怯：畏惧。⑧莫：没有人。

卫灵公之时，蘧伯玉贤而不用，弥子瑕不肖而任事，卫大夫史鳅患之，数以谏灵公而不听。史鳅病且死，谓其子曰：“我即死，治丧于北堂<sup>①</sup>。吾不能进蘧伯玉而退弥子瑕，是不能正君也<sup>②</sup>。生不能正君者，死不当成礼。置尸北堂，于我足矣。”史鳅死，灵公往吊，见丧在北堂，问其故。其子具以父言对灵公。灵公蹴然易容，寤然失位，曰：“夫子生则欲进贤而退不肖，死者不懈，又以尸谏，可谓忠而不衰矣！<sup>③</sup>”于是乃召蘧伯玉而进之以为卿，退弥子瑕，徙丧正堂，成礼而

后返。卫国以治。史鳅，字子鱼，《论语》所谓“直哉史鱼”者也。

《新序·杂事》

题解：

为了让卫灵公任用好人，罢退坏人，史鳅生前多次进谏，死以尸谏。

注释：

①即：如果。②正君：改正人君的错误。

③蹶(cù)然：突然。寤然：惊惶的样子。

明于祸福之实者，不可以虚论惑也；察于治乱之情者，不可以华饰移也<sup>①</sup>。是故不疑之事，圣人不谋；浮游之说，圣人不听<sup>②</sup>。何者？计不背见实而更争言也。是以明君先尽人情，不独委夫良将，修己之备，无恃于人，故能攻必胜敌，而守必自全也。

《潜夫论·边议》

题解：

谋划事情必须有独立的主见，不为虚词浮说所迷惑。

注释：

①虚论：指虚说。华饰：虚饰不实。②浮游：虚浮。

### 3. 慎终如始，能谋善断

王曰：“尔惟旧人，尔丕克远省，尔知宁王若勤哉<sup>①</sup>！天闕嗟我成功所，予不敢不极卒宁王图事<sup>②</sup>。肆予大化诱我友邦君：天棐忱辞，其考我民，予曷其不于前宁人图功攸终<sup>③</sup>？天亦惟用勤嗟我民，若有疾，予曷敢不于前宁人攸受休毕<sup>④</sup>？”王曰：“若昔朕其逝，朕言艰日思<sup>⑤</sup>。若考作室，既底法，厥子乃弗肯堂，矧肯构<sup>⑥</sup>？”厥仑菑，厥子乃弗肯播，矧肯获<sup>⑦</sup>？厥考翼其肯曰：‘予有后弗弃基？肆予曷敢不越卬敕宁王大命<sup>⑧</sup>？’若兄考，乃有友伐厥子，民养其劝弗救<sup>⑨</sup>？”

王曰：“呜呼！肆哉，尔庶邦君越尔御事<sup>⑩</sup>。爽邦由哲，亦惟十人迪知上帝命越天棐忱，尔时罔敢易法，矧今天降戾于周邦<sup>⑪</sup>？惟大艰人诞邻胥伐于厥室，尔亦不知天命不

易<sup>⑫</sup>？”予永念曰：“天惟丧殷，若穡夫，予曷敢不终朕亩<sup>⑬</sup>？天亦惟休于前宁人，予曷其极卜？敢弗于从率宁人有指疆土？矧今卜并吉<sup>⑭</sup>？肆朕诞以尔东征。天命不僭，卜陈惟若兹<sup>⑮</sup>！”

《尚书·大诰》

题解：

周公东征，以实现文王大命、天命不可违的谋略，批驳了拒征的理由，可谓能谋善断。

注释：

①王：指周公。武王崩，周公摄政，三监及淮夷叛，周公旦一心为国，决计平乱，大诰邦君庶士，劝其出征。丕：大多。克：能。远省：远知过去。宁王：文王。若：如何。②闕(bi)：谨慎。嗟：告。极：亟，速。卒：终。图事：谋画的事业。③肆：今。化诱：劝导。棐(fěi)：辅导。忱辞：诚信之词，指吉卜。考：成就。曷：何。宁人：指文王。攸：猷，谋画。④嗟：劳。攸：所。休：善。毕：攘除疾疫。⑤逝：往。艰日思：艰难时日的想法。⑥考：父。底：定。堂：地基。矧(shēn)：况且。构：盖。⑦菑(zī)：开荒。⑧翼：或。基：基业。肆：故。越：于。卬：我。敕(mi)：完成。⑨兄：指武王。考：死。友：群。民养：指诸侯大臣。⑩肆：尽力。庶：众。越：与。御事：治事大臣。⑪爽：明。哲：哲人。迪：指导。时：是，这。罔：无。易法：易废，怠弃。戾(lì)：安定。⑫大艰人：大罪人，指作乱的管、蔡。诞：延。胥：相。易：改变。⑬永念：深思。穡夫：农夫。⑭惟：思。休：降美善。极卜：放弃吉人。于：前往。从：重新。率：遵循。有指：美好。⑮肆：故，所以。诞以：大用。僭(jiàn)：差错。卜陈：卜之所陈。若：顺从。兹：哉。

子张学干禄<sup>①</sup>。子曰：“多闻阙疑，慎言其余，则寡尤；多见阙殆，慎行其余，则寡悔<sup>②</sup>。言寡尤，行寡悔，禄在其中矣。”

《论语·为政》

### 题解:

谨慎地说出, 谨慎地实行, 就会减少错误, 减少懊悔。

### 注释:

①干: 求。禄: 官吏的俸给。②寡尤: 减少错误。阙殆: 阙疑。

持宠、处位、终身不厌之术: 主尊贵之, 则恭敬而傅; 主信爱之, 则谨慎而谦; 主专任之, 则拘守而详; 主安近之, 则慎比而不邪; 主疏远之, 则全一而不倍; 主损绌之, 则恐惧而不怨<sup>①</sup>。贵而不为夸; 信而不处谦; 任重而不敢专; 财利至则善而不及也, 必将尽辞让之义然后受; 福事至则和而理, 祸事至则静而理, 富则施广, 贫则用节; 可贵、可贱也, 可富、可贫也, 可杀而不可使为奸也: 是持宠、处位, 终身不厌之术也<sup>②</sup>。虽在贫穷徒处之执, 亦取象于是矣, 夫是之谓吉人<sup>③</sup>。诗曰: “媚兹一人, 应侯顺德。永言孝思, 昭哉嗣服<sup>④</sup>。”此之谓也。

《荀子·仲尼》

### 题解:

不论主上态度如何, 也不论本身通达还是困窘, 都要谨慎周详。

### 注释:

①处位: 居守官位。厌: 满足。傅: 搏, 卑退。谦: 谦。慎: 顺。倍: 背。绌: 黜。②夸: 奢侈。谦: 嫌。而: 如。和: 和悦。理: 处理。③徒处: 独处。执: 势。象: 法。④《诗经·大雅·下武》。一人: 国君。侯: 乃。服: 事业。

明主之所导制其臣者, 二柄而已矣<sup>①</sup>。二柄者, 刑德也。何谓刑德? 曰: 杀戮之谓刑, 庆赏之谓德。为人臣者畏诛罚而利庆赏, 故人主自用其刑德, 则群臣畏其威而归其利矣。故世之奸臣则不然, 所恶, 则能得之其主而罪之; 所爱, 则能得之其主而赏之。今人主非使赏罚之威利出于己也, 听其臣而行其赏罚, 则一国之人皆畏其臣而易其君, 归其臣而去其君矣。此人主失刑德之患也。夫虎之所以能服狗者, 爪牙也, 使虎释其爪牙而使狗用之, 则虎反服于狗矣。人主者, 以

刑德制臣者也, 今君人者释其刑德使臣用之, 则君反制于臣矣。故田常上请爵禄而行之群臣, 下大斗斛而施于百姓, 此简公失德而田常用之也, 故简公见弑<sup>②</sup>。子罕谓宋君曰: “夫庆赏赐予者, 民之所喜也, 君自行之; 杀戮刑罚者, 民之所恶也, 臣请当之。”于是宋君失刑而子罕用之。故宋君见劫<sup>③</sup>。田常徒用德而简公弑, 子罕徒用刑而宋君劫。故今世为人臣者兼刑德而用之, 则是世主之危甚于简公、宋君也。故劫杀拥蔽之主, 兼失刑德而使臣用之, 而不危亡者, 则未尝有也<sup>④</sup>。

人主将欲禁奸, 则审合刑名; 刑名者, 言与事也<sup>⑤</sup>。为人臣者陈而言, 君以其言授之事, 专以其事责其功。功当其事, 事当其言, 则赏; 功不当其事, 事不当其言, 则罚。故群臣其言大而功小者则罚, 非罚小功也, 罚功不当名也; 群臣其言小而功大者亦罚, 非不说于大功也, 以为不当名也害甚于有大功, 故罚。昔者韩昭侯醉而寝, 典冠者见君之寒也, 故加衣于君之上, 觉寝而说, 问左右曰: “谁加衣者?”左右对口: “典冠。”君因兼罪典衣与典冠<sup>⑥</sup>。其罪典衣, 以为失其事也; 其罪典冠, 以为越其职也。非不恶寒也, 以为侵官之害甚于寒。故明主之畜臣, 臣不得越官而有功, 不得陈言而不当。越官则死, 不当则罪。守业其官, 所言者贞也, 则群臣不得朋党相为矣<sup>⑦</sup>。

人主有二患: 任贤, 则臣将乘于贤以劫其君; 妄举, 则事沮不胜<sup>⑧</sup>。故人主好贤, 则群臣饰行以要君欲, 则是群臣之情不效; 群臣之情不效, 则人主无以异其臣矣<sup>⑨</sup>。故越王好勇而民多轻死; 楚灵王好细腰而国中多饿人; 齐桓公妒而好内, 故竖刁自宫以治内; 桓公好味, 易牙蒸其子首而进之; 燕子吟好贤, 故子之明不受国<sup>⑩</sup>。故君见恶, 则群臣匿端; 君见好, 则群臣诬能<sup>⑪</sup>。人主欲见, 则群臣之情态得其资矣。故子之托于贤以夺其君者也, 竖刁、易牙因君之欲以侵其君者也。其卒, 子吟以乱死, 桓公虫流出户

而不葬<sup>⑬</sup>。此其故何也？人君以情借臣之患也。人臣之情非必能爱其君也，为重利之故也。今人主不掩其情，不匿其端，而使人臣有缘以侵其主，则群臣为子之、田常不难矣<sup>⑭</sup>。故曰：“去好去恶，群臣见素。”群臣见素，则大君不蔽矣<sup>⑮</sup>。

《韩非子·二柄》

#### 题解：

君主只有独自掌握赏罚大权，才能驾驭臣下，并且不表露爱憎。

#### 注释：

①导制：控制。②见：被。③劫：劫杀。④捆：塞。⑤刑：形，事实。⑥典：主管。⑦贞：正，与事实相符。⑧沮：败坏。⑨要：迎合。⑩内：女色。⑪端：方面。⑫卒：结果。⑬缘：缘由。⑭见素：现出本色。

令出于主口，官职受而行之：日夜不休，宣通下究，熾于民心，遂于四方，还周复归，至于主所，圜道也<sup>①</sup>。

令圜，则不可、善不善无所壅矣。无所壅者，主道通也。故令者人主之所以为命也，贤不肖安危之所定也。

人之有形体四枝，其能使之也，为其感而必知也，感而不知，则形体四枝不使矣。人臣亦然，号令不感，则不得而使矣。有之而不使，不若无有！主也者、使非有者也，舜、禹、汤、武皆然<sup>②</sup>。

先王之立官也，必使之方；方则分定，分定则上下不相隐，尧、舜贤主也，皆以贤者为后，不肯与其子孙；犹若立官必使之方<sup>③</sup>。今世之人主，皆欲世勿失矣，而与其子孙。立官不能使之方，以私欲乱之也。何哉？其所欲者之远，而所知者之近也。

今五音之无不应也，其分审也。宫徵商羽角，各处其处，音皆调均，不可以相违，此所以无不受也<sup>④</sup>。贤主之立官，有似于此。百官各处其职，治其事，以待主，主无不安矣。以此治国，国无不利矣，以此备患，患无由至矣。

《吕氏春秋·圜道》

#### 题解：

设官立职，不可不慎。

#### 注释：

①熾(jian)：合。②非有：非其有。③方：正。④违：相离。受：应。

所谓诚其意者，毋自欺也。如恶恶臭，如好好色，此之谓自谦<sup>①</sup>。故君子必慎其独也。小人闲居为不善，无所不至，见君子而后厌然，揜其不善而著其善<sup>②</sup>。人之视己，如见其肺肝然，则何益矣？此谓诚于中，形于外。故君子必慎其独也。曾子曰：“十目所视，十手所指，其严乎！”

《礼记·大学》

#### 题解：

在独处时也能谨慎不苟，进行内心反省。

#### 注释：

①恶臭(è xiù)：坏气味。谦(qiè)：谦，满足。②厌然：躲藏。揜(yǎn)：掩盖。

鲍生又难曰：“夫天地之位，二气范物，乐阳则云飞，好阴则川处，承柔刚以率性，随四八而化生，各附所安，本无尊卑也<sup>①</sup>。君臣既立，而变化遂滋。夫獯多则鱼扰，鹰众则鸟乱，有司设则百姓困，奉上厚则下民贫，壅崇宝货，饰玩台榭，食则方丈，衣则龙章，内聚旷女，外多鰥男，採难得之宝，贵奇怪之物，造无益之器，恣不已之欲，非鬼非神，财力安出哉<sup>②</sup>？夫谷帛积，则民有饥寒之俭；百官备，则坐靡供奉之费；宿卫有徒食之众，百姓养游手之人，民乏衣食，自给已剧；况加赋敛，重以苦役，下不堪命，且冻且饥，冒法斯滥，于是乎在<sup>③</sup>。王者忧劳于上，台鼎颯颯于下，临深履薄，懼祸之及<sup>④</sup>。恐智勇之不用，故厚爵重禄以诱之；恐奸衅之不虞，故严城深池以备之。而不知禄厚则民匱而臣骄，城严则役重而攻巧<sup>⑤</sup>。

《抱朴子·诘鲍篇》

### 题解:

鲍敬言指出君臣制度的存在, 是许多社会弊病产生的原因, 从反面告诫君主施政须谨慎。

### 注释:

①二气: 阴阳二气。范: 铸造。四八: 四季和八个节气。②壅: 垄断。③靡: 消耗。④台鼎: 宰相。顰蹙(pín cù): 皱眉头。⑤骑: 当作骄。

常缚蒿为人, 衣以青布而射之。召诸蛮渠指示之曰: “卿等若作贼, 吾政如此相杀也<sup>①</sup>。”又北洧郡尝有虎害, 大眼搏而获之, 斩其头悬于穰市<sup>②</sup>。自是荆蛮相谓曰: “杨公恶人, 常作我蛮形以射之。又深山之虎尚所不免。”遂不敢复为寇盗。

《魏书·杨大眼传》

### 题解:

杨大眼射草人, 搏猛虎, 以其勇敢顽强, 使荆蛮受到震慑。

### 注释:

①蛮渠: 少数民族首领。政: 正。②穰(rǎng)市: 闹市。

庄宗好畋猎, 猎于中牟, 践民田<sup>①</sup>。中牟县令当马切谏, 为民请, 庄宗怒, 叱县令去, 将杀之。伶人敬新磨知其不可, 乃率诸伶走追县令, 擒至马前责之曰: “汝为县令, 独不知吾天子好猎邪? 奈何纵民稼穡以供税赋! 何不饥汝县民而空此地, 以备吾天子之驰骋? 汝罪当死!”因前请亟行刑, 诸伶共唱和之, 庄宗大笑, 县令乃得免去<sup>②</sup>。

《新五代史·伶官传》

### 题解:

伶人敬新磨有勇有谋, 以巧智谏止了后唐庄宗欲斩为民请命的县令。

### 注释:

①畋(tián): 猎。②亟(jí): 赶快。

虑天下者, 常图其所难, 而忽其所易; 备其所可畏, 而遗其所不疑<sup>①</sup>。然而祸常发于所忽之中, 而乱常起于不足疑之事。岂其虑之未周与? 盖虑之所能及者, 人事之宜然,

而出于智力之所不及者, 天道也<sup>②</sup>。

《深虑论》

### 题解:

困难的事情要认真谋划, 简单的事情也不能轻易忽略。

### 注释:

①图: 谋划。备: 防备。②宜: 应当。然: 如此。

## 4. 宽洪大度, 运巧自如

有孚在道, 以明何咎<sup>①</sup>。

《周易·随卦》

憧憧往来, 朋从尔思<sup>②</sup>。

《周易·咸卦》

大人虎变, 未占, 有孚; 君子豹变, 小人革面, 征凶<sup>③</sup>。

《周易·革卦》

弗过防之, 从或戕之, 凶<sup>④</sup>。

《周易·小过》

### 题解:

谋略家宽怀大度, 朋友才广相跟从, 往来不绝, 如果施政严苛, 必将受到惩罚。行罚贵明, 当罚乃罚。谋事注重事先防范, 放纵则遭祸。

### 注释:

①孚: 罚。道: 道路。明: 清明。咎: 灾祸。②憧憧: 往来不绝。朋从: 朋友相从。思: 助词。③虎变: 虎的花纹, 比喻施政威猛。占: 占卜。孚: 罚。革面: 面如皮革, 喻不知耻。④过: 行路有所误。防: 防范。从: 放纵。戕(qiāng): 杀害。

童观, 小人无咎, 君子吝<sup>①</sup>。

《周易·观卦》

得敌, 或鼓或罢, 或泣或歌<sup>②</sup>。

《周易·中孚》

大君有命, 开国承家, 小人无用<sup>③</sup>。

《周易·师卦》

### 题解:

筹画谋略,对于君子来说,见识短浅将难有所成。战胜有利也有害,战败则有害而无利,设谋者须深思。

### 注释:

①童观:见识短浅。咎:灾祸。吝:难有成。  
②得:俘获。鼓:击鼓。罢:疲。③有命:以爵命赏有功。开国:封为诸侯。承家:封为诸侯。

句践也以甲楯三千栖于会稽,唯种也能知亡之所以存,唯种也不知其身之所以愁<sup>①</sup>。故曰:鸱目有所适,鹤胫有所节,解之也悲<sup>②</sup>。故曰:风之过,河也有损焉;日之过,河也有损焉;请只风与日相与守河,而河以为未始其撓也,恃源而往者也<sup>③</sup>。故水之守土也审,影之守人也审,物之守物也审。故目之于明也殆,耳之于聪也殆,心之于徇也殆,凡能其于府也殆,殆之成也不给改<sup>④</sup>。祸之长也兹萃,其反也缘功,其果也待久<sup>⑤</sup>。而人以为己宝,不亦悲乎!故有亡国戮民无已,不知问是也。故足之于地也践,虽践,恃其所不蹶而后善博也;人之于知也少,虽少,恃其所不知而后知天之所谓也<sup>⑥</sup>。知大一,知大阴,知大目,知大均,知大方,知大信,知大定,至矣!大一通之,大阴解之,大目视之,大均缘之,大方体之,大信稽之,大定持之<sup>⑦</sup>。尽有天,循有照,冥有枢,始有彼,则其解之也似不解之者,其知之也似不知之也,不知而后知之<sup>⑧</sup>。其问之也,不可以有崖,而不可以无崖<sup>⑨</sup>。颉滑有实,古今不代,而不可以亏,则可不谓有大扬摧乎<sup>⑩</sup>!阖不亦问是已,奚惑然为<sup>⑪</sup>!以不惑解惑,复于不惑,是尚大不惑<sup>⑫</sup>。

《庄子·徐无鬼》

### 题解:

人都有局限性,不明此理就会逞能闯祸,应以宁静的态度对待万物变化。

### 注释:

①楯:盾。种:文种,越国大夫。②鸱(chī):猫头鹰。胫(jìng):小腿。③撓(yǎng):干扰。④徇:逐物。府:心脏。不给

改:不及改。⑤兹萃:滋聚。⑥蹶(niǎn):蹶。⑦稽:合。持:守。⑧冥:幽昧。枢:枢纽。解:解说。⑨崖:涯。⑩颉(xié)滑:错乱复杂的样子。实:核心。代:变换。扬摧(què):大体轮廓。⑪阖:何。⑫尚:庶几。

晋侯之弟杨干乱行于曲梁,魏绛戮其仆<sup>①</sup>。晋侯怒,谓羊舌赤曰:“合诸侯,以为荣也。杨干为戮,何辱如之<sup>②</sup>?必杀魏绛,无失也!”对曰:“绛无贰志,事君不辟难,有罪不逃刑,其将来辞,何辱命焉<sup>③</sup>?”言终,魏绛至,授仆人书,将伏剑。士魴、张老止之。公读其书,曰:“日君乏使,使臣斯司马<sup>④</sup>。臣闻‘师众以顺为武,军事有死无犯为敬’。君合诸侯,臣敢不敬?君师不武,执事不敬,罪莫大焉<sup>⑤</sup>。臣惧其死,以及杨干,无所逃罪。不能致训,至于用钺,臣之罪重,敢有不从以怒君心<sup>⑥</sup>?请归死于司寇。”公跳而出,曰:“寡人之言,亲爱也;吾子之讨,军礼也<sup>⑦</sup>。寡人有弟,弗能教训,使干大命,寡人之过也<sup>⑧</sup>。子无重寡人之过,敢以为请。”

晋侯以魏绛为能以刑佐民矣,反役,与之礼食,使佐新军。张老为中军司马,士富为候奄。

《左传·襄公三年》

### 题解:

晋侯对魏绛斩其弟之仆,先怒之,欲杀之,后承认错误,表现了宽广的胸怀。

### 注释:

①乱行:扰乱军行。仆:御者。②为戮:受辱。③辟:避。辞:说。④日:昔日。斯:司,担任。⑤不武:违犯军纪。⑥训:训告。⑦军礼:军法。⑧干:犯。大命:军令。

治气、养心之术:血气刚强,则柔之以调和;知虑渐深,则一之以易良;勇毅猛戾,则辅之以道顺;齐给便利,则节之以动止;狭隘褊小,则廓之以广大;卑湿重迟贪利,则抗之以高志;庸众驽散,则劫之以师友;怠慢僇弃,则炤之以祸灾;愚款端悖,则合之以礼乐,通之以思索<sup>①</sup>。凡治气、养心之



术，莫径由礼，莫要得师，莫神一好<sup>②</sup>。夫是之谓治气、养心之术也。

《荀子·修身》

**题解：**

理气养心有许多方面，其中之一是气量狭小的人，要用宽洪大量开导他。

**注释：**

①渐：潜。一：纠正。易：平易。齐给便利。迅捷。卑湿：卑鄙。重迟：迟钝。抗：进。劫：强迫。僂(piào)：轻捷。炤：昭，晓喻。款：诚。慙(què)：谨。②径：直接。神：神速。

靖郭君将城薛，客多以谏，靖郭君谓谒者：“无为客通<sup>①</sup>！”齐人有请者曰：“臣请三言而已矣，益一言，臣请烹！”靖郭君因见之。客趋而进曰：“海大鱼”，因反走，君曰：“客有于此。”客曰：“鄙臣不敢以死为戏！”君曰：“亡，更言之！”对曰：“君不闻海大鱼乎？网不能止，钩不能牵；荡而失水，则蝼蚁得意焉。今夫齐，亦君之水也；君长有齐阴，奚以薛为<sup>②</sup>？夫齐，虽隆薛之城到于天，犹之无益也<sup>③</sup>。”君曰：“善。”乃辍城薛。

《战国策·齐策》

**题解：**

以巧妙的比喻达到施谋的目的。

**注释：**

①城：筑城。②阴：荫，庇护。③隆：使高。

坚后率众，号百万，次于淮肥，京师震恐。加安征讨大都督。玄人问计，安夷然无惧色，答曰：“已别有旨。”既而寂然。玄不敢复言，乃令张玄重请。安遂命驾出山墅，亲朋毕集，方与玄围棋赌别墅。安常棋劣于玄，是日玄惧，便为敌手而又不胜。安顾谓其甥羊昙曰：“以墅乞汝<sup>①</sup>。”安遂游涉，至夜乃还，指授将帅，各当其任。玄等既破坚。有驿书至，安方对客围棋，看书既竟，便摄放床上，了无喜色，棋如故。

《晋书·谢安列传》

**题解：**

谢安在大战中、胜利后都沉着自如，冷静安详。

**注释：**

①乞汝：讨来给你。

## 5. 思维敏捷，见解深刻

帝尧曰放勋<sup>①</sup>，钦明文思安安<sup>②</sup>。允恭克让<sup>③</sup>，光被四表<sup>④</sup>，格于上下<sup>⑤</sup>。克明俊德<sup>⑥</sup>，以亲九族<sup>⑦</sup>。九族既睦<sup>⑧</sup>，平章百姓<sup>⑨</sup>。百姓昭明<sup>⑩</sup>，协和万邦<sup>⑪</sup>，黎民于变时雍<sup>⑫</sup>。

《尚书·尧典》

**题解：**

尧作为君主所具备的美德，作为谋略家应有的修养：思维敏捷。

**注释：**

①放勋：尧名。②钦：指敬事节用。明：指照临四方。文：指经纬天地。思：指虑事通敏。安安：温和的样子。③允：诚实。克：能。让：推贤尚善。④被：覆盖。四表：四方极远的地方。⑤格：量度。上下：指天地之事。⑥明：表明。俊德：大德。⑦亲：爱，团结。九族：一说自高祖至玄孙；一说父族四、母族三、妻族二。⑧既：已经。睦：和好，亲近。⑨平章：辨明。百姓：百官。⑩昭明：显明，光明。⑪协和：调和融洽。万邦：指四方诸侯。⑫黎民：众民。于变：递变。时雍：和善。

晏子将使楚。楚王闻之，谓左右曰：“晏婴，齐之习辞者也，今方来，吾欲辱之，何以也<sup>①</sup>？”左右对曰：“为其来也，臣请缚一人，过王而行，王曰，‘何为者也<sup>②</sup>？’对曰，‘齐人也。’王曰，‘何坐？’曰，‘坐盗。’”

晏子至，楚王赐晏子酒。酒酣，吏二缚一人诣王<sup>③</sup>。王曰：“缚者曷为者也？”对曰：“齐人也，坐盗。”王视晏子曰：“齐人固善盗乎？”晏子避席对曰：“婴闻之，橘生淮南则为橘，生于淮北则为枳，叶徒相似，其实味不同<sup>④</sup>。所以然者何？水土异也。今民生长于齐不盗，入楚则盗，得无楚之水土

使民善盗耶？”王笑曰：“圣人非所与熙也，寡人反取病焉<sup>⑤</sup>。”

《晏子春秋·内篇杂下》

题解：

晏子在楚王的侮辱面前，为了维护本人和齐国的尊严，不卑不亢，从容镇定，即以其人之道还治其人之身。

注释：

①习辞：善于辞令。②为：在。坐：犯罪。

③诣：到。④枳(zhǐ)：臭橘。实：果实。

⑤熙：嬉戏。病：困窘。

孝成王、临武君曰：“善！请问王者之兵设何道、何行而可<sup>①</sup>。”

孙卿子曰：“凡在大王，将率，末事也<sup>②</sup>。臣请遂道王者诸侯强弱存亡之效、安危之孰，君贤者其国治，君不能者其国乱；隆礼、贵义者其国治，简礼、贱义者其国乱。治者强，乱者弱，是强弱之本也。上足印则下可用也，上不足印则下不可用也<sup>③</sup>。下可用则强，下不可用则弱，是强弱之常也。隆礼、效功、上也；重禄、贵节，次也；上功、贱节，下也；是强弱之凡也<sup>④</sup>。好士者强，不好士者弱；爱民者强，不爱民者弱；政令信者强，政令不信者弱；民齐者强，民不齐者弱；赏重者强，赏轻者弱；刑威者强，刑侮者弱；械用兵革攻完便利者强，械用兵革窳楮不便利者弱；重用兵者强，轻用兵者弱；权出一者强，权出二者弱；是强弱之常也<sup>⑤</sup>。齐人隆技击，其技也，得一首者。则赐赎镒金，无本赏矣<sup>⑥</sup>。是事小敌彘则偷可用也，事大敌坚则涣焉离耳，若飞鸟然，倾侧反覆无日，是亡国之兵也，兵莫弱是矣，是其去赁市佣而战之几矣<sup>⑦</sup>。魏氏之武卒，以度取之，衣三属之甲，操十二石之弩，负服矢五十个，置戈其上，冠鞬带剑，赢三日之粮，日中而趋百里<sup>⑧</sup>。中试则复其户，利其田宅，是数年而衰而未可夺也，改造则不易周也，是故地虽大其税必寡，是危国之兵也<sup>⑨</sup>。秦人其生民也阨阨。其使民也酷烈，劫之以孰，隐之以阨，怵之以庆赏，饬之以

刑罚，使天下之民所以要利于上者，非斗无由也；阨而用之，得而后功之，功赏相长也；五甲首而隶五家，是最为众强长久，多地以正，故四世有胜，非幸也，数也<sup>⑩</sup>。故齐之技击不可以遇魏氏之武卒，魏氏之武卒不可以遇秦之锐士，秦之锐士不可以当桓、文之节制，桓、文之节制不可以敌汤、武之仁义，有遇之者，若以焦熬投石焉<sup>⑪</sup>。兼是数国者，皆干赏蹈利之兵也、佣徒鬻卖之道也，未有贵上、安制、綦节之理也，诸侯有能微妙之以节，则作而兼殆之耳！故招近募选，隆孰诈，尚功利，是渐之也；礼义教化，是齐之也<sup>⑫</sup>。故以诈遇诈，犹有巧拙焉；以诈遇齐，辟之犹以锥刀堕太山也，非天下之愚人莫敢试<sup>⑬</sup>。故王者之兵不试：汤、武之诛桀、纣也，拱挹指麾，而强暴之国莫不趋使，诛桀、纣若诛独夫<sup>⑭</sup>。故泰誓曰‘独夫纣’，此之谓也。故兵大齐则制天下，小齐则治邻敌，若夫招近募选，隆孰诈，尚功利之兵，则胜不胜无常，代翕代张，代存代亡，相为雌雄耳矣<sup>⑮</sup>。夫是之谓盗兵，君子不由也。故齐之田单，楚之庄跻，秦之卫鞅，燕之繆蚬，是皆世俗之所谓善用兵者也，是其巧拙强弱则未有以相君也，若其道一也，未及和齐也；倚契司诈，权谋倾覆，未免盗兵也<sup>⑯</sup>。齐桓、晋文、楚庄、吴阖闾、越句践是皆和齐之兵也，可谓入其域矣，然而未有本统也；故可以霸而不可以王，是强弱之效也”<sup>⑰</sup>。

《荀子·议兵》

题解：

只有深刻认识，全面了解，才能做出正确的谋略，战无不胜。

注释：

①设：用。②率：帅。③孰：势。

④印：仰。⑤效功：检验战功。上功：只贵战功。

⑥窳楮(yǔkǔ)：粗劣。⑦镒(zī)：八两。

⑧彘：脆，脆弱。偷：苟且。无日：等不到一天。

赁：雇用。市佣：市上的佣工。几：近。⑨度：规格。三属之甲：三片甲。服：簠，盛箭之器。

鞬：胄，头盔。赢：担负。⑩中试：考校合格。

复：免除徭役。改造：重新挑选。易：改变。周：循环。⑩阨阨：狭隘，指土地贫瘠。隐：劳苦。扭：扭，习惯。蜡(qiū)：裁制。要：求。数：必然趋势。⑪焦熬：摸热物。⑫近：延，引。渐：诈欺。⑬辟：譬。⑭挹：揖。⑮：代：时。翕(xi)：衰弱。⑯相君：谁比谁强。契：挈，持挈，撻拾。司：伺。⑰域：境地。本统：本源。

臣非非难言也，所以难言者：言顺比滑泽，洋洋纚纚然，则见以为华而不实；敦祗恭厚，鲠固慎完，则见以为掘而不伦；多言繁称，连类比物，则见以为虚而无用；总微说约，径省而不饰，则见以为判而不辩，激急亲近，探知人情，则见以为潜而不让；闳大广博，妙远不测，则见以为夸而无用；家计小谈，以具数言，则见以为陋；言而近世，辞不悖逆，则见以为贪生而谀上；言而远俗，诡躁人间，则见以为诞；捷敏辩给，繁于文采，则见以为史；殊释文学，以质信言，则见以为鄙；时称诗书，道法往古，则见以为诵<sup>①</sup>。此臣非之所以难言而重患也。

故度量虽正，未必听也；义理虽全，未必用也<sup>②</sup>。大王若以此不信，则小者以为毁訾诽谤，大者患祸灾害死亡及其身<sup>③</sup>。故子胥善谋而吴戮之，仲尼善说而匡围之，管夷吾实贤而鲁囚之。故此三大夫岂不贤哉？而三君不明也。上古有汤，至圣也；伊尹，至智也。夫至智说至圣，然且七十说而不受，身执鼎俎为庖宰，昵近习亲，而汤乃仅知其贤而用之<sup>④</sup>。故曰：以至智说至圣，未必至而见受，伊尹说汤是也；以智说愚必不听，文王说纣是也。故文王说纣而纣囚之；翼侯炙；鬼侯腊；比干剖心；梅伯醢；夷吾束縛；而曹羁奔陈；伯里子道乞；傅说转鬻；孙子臙脚于魏；吴起拔泣于岸门，痛西河之为秦，卒枝解于楚；公叔痤言国器反为悖，公孙鞅奔秦；关龙逢斩；苌弘分脰；尹子阱于棘；司马子期死而浮于江；田明辜射；宓子贱、西门豹不斗而死人手；董安于死而陈于市；宰予不免于田常；范雎折肋于魏<sup>⑤</sup>。

此十数人者，皆世之仁贤忠良有道术之士也，不幸而遇悖乱暗惑之主而死<sup>⑥</sup>。然则虽贤圣不能逃死亡避戮辱者，何也？则愚者难说也，故君子难言也<sup>⑦</sup>。且至言忤于耳而倒于心，非贤圣莫能听，愿大王熟察之也。

《韩非子·难言》

#### 题解：

这是一篇上韩王书，列举众谋士因向昏君进言而遭杀害的事实。

#### 注释：

①臣非：韩非自称。顺比：依顺。滑泽：流畅。纚纚(shǎi)：有条理。祗(zhī)：恭敬。鲠固慎完：耿直坚定认真周到。掘：拙。判：刺伤。②度量：原则。③訾(zǐ)：诋。④俎(zǔ)：砧板。⑤腊(xī)：干肉。醢(hǎi)：肉酱。拭(wēn)：拭泪。脰(chī)：裂腹剖肠。阱于棘：关进牢狱。辜射：分尸。折肋：打断肋骨。⑥暗惑：昏庸。⑦愚者：昏庸的君主。

天生阴阳、寒暑、燥湿，四时之化，万物之变，莫不为利，莫不为害。圣人察阴阳之宜，辨万物之利，以便生，故精神安乎形，而年寿得长焉。长也者，非短而续之也，毕其数也，毕数之务，在乎去害<sup>①</sup>。……

精气之集也，必有人也：集于羽鸟与为飞扬，集于走兽与为流行，集于珠玉与为精朗，集于树木与为茂长，集于圣人与为复明<sup>②</sup>。精气之来也，因轻而扬之，因走而行之，因美而良之，因长而养之，因智而明之<sup>③</sup>。流水不腐，户枢不蠹，动也，形气亦然，形不动则精不流，精不流则气郁<sup>④</sup>。

《吕氏春秋·尽数》

#### 题解：

认识掌握自然规律，以利生长。

#### 注释：

①务：事。②复(xiòng)：大。③因：依。④蠹：蠹。

大夫曰：然。为医以拙矣，又多求谢；为吏既多不良矣，又侵渔百姓<sup>①</sup>；长吏厉诸小吏，小吏厉诸百姓<sup>②</sup>。故不患择之不熟，而患求之与得异也；不患其不足也，患其贪

而无厌也<sup>③</sup>。

贤良曰：古之制爵禄也，卿大夫足以润贤厚士，足以优身及党，庶人为官者足以代其耕而食其禄；今小吏禄薄，郡国徭役远至三辅，粟米贵，不足相贍<sup>④</sup>。常居则匮于衣食，有故则卖畜粥业<sup>⑤</sup>。非徒是也，徭役相遣，官庭摄迫，小计权吏，行施乞贷，长吏侵渔，上府下求之县，县求之乡，乡安取之哉<sup>⑥</sup>？语曰：“货赂下流，犹水之赴下，不竭不止。”今大川江河饮巨海，巨海受之，而欲溪谷之让流潦，百官之廉，不可得也。夫欲影正者端其表，欲下廉者先之身；故贪鄙在率不在下，教训在政不在民也<sup>⑦</sup>。

《盐铁论·疾贫》

题解：

大夫认为贪污在于下级官吏；贤良认为在于领导，治贪要从上级作起，认识十分深刻。

注释：

①以：已。谢：谢礼。②厉：欺压。  
③熟：深思熟虑。④党：亲族。贍：供给。  
⑤粥(yù)业：卖掉产业。⑥摄迫：代为追索财用。⑦表：标杆。率：领导。

魏武行役失汲道，军皆渴<sup>①</sup>。乃令曰：“前有大梅林饶子，甘酸可以解渴<sup>②</sup>。”士卒闻之，口皆出水。乘此得及前源。

《世说新语·假谞》

题解：

曹操的机智善谋，在望梅止渴一事上也得到充分表现。

注释：

①汲道：取水之地。②饶子：果实多。

贞观十五年，太宗谓侍臣曰：“守天下难易？”侍中魏徵对曰：“甚难。”太宗曰：“任贤能、受谏诤，即可；何谓为难？”徵曰：“观自古帝王，在于忧危之间，则任贤受谏。及至安乐，必怀宽怠，言事者惟令兢惧，日陵月替，以至危亡<sup>①</sup>。圣人所以居安思危，正为此也。安而能惧，岂不为难？”

《贞观政要·君道第一》

题解：

因为守天下更难，所以更要居安思危。

注释：

①陵、替：衰落。

## 6. 富于创新，善于联想

惟十有三祀，王访于箕子<sup>①</sup>。王乃言曰：“呜呼！箕子，惟天阴鹭下民，相协厥居，我不知其彝伦攸叙<sup>②</sup>。”

箕子乃言曰：“我闻在昔，鲧殛洪水，汨陈其五行<sup>③</sup>。帝乃震怒，不畀洪范九畴，彝伦攸斁<sup>④</sup>。鲧则殛死，禹乃嗣兴。天乃锡禹洪范九畴，彝伦攸叙<sup>⑤</sup>。初一日五行；次二曰敬用五事；次三曰农用八政；次四曰协用五纪；次五曰建用皇极；次六曰乂用三德；次七曰明用稽疑；次八曰念用庶征；次九曰向用五福，威用六极<sup>⑥</sup>。

“一、五行：一曰水，二曰火，三曰木，四曰金，五曰土。水曰润下，火曰炎上，木曰曲直，金曰从革，土爰稼穡<sup>⑦</sup>。润下作咸，炎上作苦，曲直作酸，从革作辛，稼穡作甘<sup>⑧</sup>。

“二、五事：一曰貌，二曰言，三曰视，四曰听，五曰思。貌曰恭，言曰从，视曰明，听曰聪，思曰睿<sup>⑨</sup>。恭作肃，从作乂，明作哲，聪作谋，睿作圣<sup>⑩</sup>。

“三、八政：一曰食，二曰货，三曰祀，四曰司空，五曰司徒，六曰司寇，七曰宾，八曰师<sup>⑪</sup>。

“四、五纪：一曰岁，二曰月，三曰日，四曰星辰，五曰历数<sup>⑫</sup>。

“五、皇极：皇建，其有极<sup>⑬</sup>！敛时五福，用敷锡厥庶民，惟时厥庶民于汝极<sup>⑭</sup>。锡汝保极：凡厥庶民，无有淫朋，人无有比德，惟皇作极<sup>⑮</sup>。凡厥庶民，有猷有为有守，汝则念之<sup>⑯</sup>。不协于极，不罹于咎，皇则受之<sup>⑰</sup>。而康而色曰：予攸好德，汝则锡之福，时人斯其惟皇之极<sup>⑱</sup>。无虐茆独而畏高明，人之有能有为，使羞其行，而邦其昌<sup>⑲</sup>。凡

厥正人，既富方谷，汝弗能使有好于而家，时人斯其辜<sup>⑩</sup>。于其无好德，汝虽锡之福，其作汝用咎<sup>⑪</sup>。无偏无陂，遵王之义；无有作好，遵王之道；无有作恶，遵王之路<sup>⑫</sup>。无偏无党，王道荡荡；无党无偏，王道平平；无反无侧，王道正直<sup>⑬</sup>。会其有极，归其有极<sup>⑭</sup>。曰：皇，极之敷言是彝是训，于帝其训；凡厥庶民，极之敷言是训是行，以近天子之光<sup>⑮</sup>。曰：天子作民父母，以为天下王。

“六、三德：一曰正直，二曰刚克，三曰柔克<sup>⑯</sup>。平康正直，彊弗友刚克，彊友柔克<sup>⑰</sup>。沉潜刚克，高明柔克<sup>⑱</sup>。惟辟作福，惟辟作威，惟辟玉食<sup>⑲</sup>。臣无有作福作威玉食；臣之有作福作威玉食，其害于而家，凶于而国。人用侧颇僻，民用僭忒<sup>⑳</sup>。

“七、稽疑：择建立卜筮人，乃命卜筮……三人占，则从二人之言。汝则有大疑，谋及乃心，谋及卿士，谋及庶人，谋及卜筮。……

“八、庶征……

“九、五福……”

《尚书·洪范》

#### 题解：

介绍了九种人主治国大法，并用“访”、“谋”、“猷”等词强调谋略的重要，在谋略史上具有创造性。

#### 注释：

①祀：年。王：指周武王。访：咨询，谋画。箕子：纣的叔父。②阴翳(zhì)：荫覆安定。厥：其。彝伦：治民常理。攸：所。叙：规定。③鲧(gǔn)：禹之父。壅(yīn)：堵塞。汨(gū)：乱。陈：安排。五行：金木水火土五种物质。④畀：给。洪范：大法。畴：种、类。斁(dù)：败坏。⑤锡：赐。⑥农：勉，尽力。八政：八种政事之官。五纪：五种记时方法。皇极：君王之中道。乂(yì)：治。稽疑：卜筮考疑。庶征：各种征兆。向：勉励。威：畏。极：穷，不幸。从“初一”至“六极”共六十五字，相传为《洛书》九章。⑦从革：顺从变革。爰：曰。⑧作：生。

⑨明：视力好。聪：听力好。睿：通达。⑩哲(zhé)：明智。圣：贤明。⑪食、货、祀、司空、司徒、司寇、宾、师：分别为掌民食、财政、祭祀、建筑、教民、缉盗、朝覲、军旅之官。⑫历数：日月行天所历之数。⑬建：立官。⑭时：是，这。敷：遍。于：大，重视。⑮淫朋：邪党。比：勾结。⑯猷：谋略。⑰罹(lì)：陷。咎：恶。⑱康：安和。色：温润。攸：由，遵行。斯：乃。惟：思念。⑲载(qióng)独：鰥寡孤独。高明：权贵。羞：贡献。行：善行。⑳正人：为长之人。方：芳。好：善。辜：罪。㉑作：使。用：施行。㉒陂：不正。义：法。好：私好。㉓党：袒护同伙。荡荡：平坦开阔。反：反道。侧：倾侧。㉔会：会聚。㉕极之敷言：指“无偏”以下四十八字。彝：陈列。训：教训。是训是行：顺从。行：奉行。㉖刚克：偏于刚。㉗平康：中正和平。友：可亲。彊：谐和。㉘沉潜：抑制。高明：推崇。㉙辟：君主。作福：专庆赏。作威：专刑罚。玉食：美食。㉚侧：倾仄。颇僻：不正。用：因此。僭忒(jiàn tè)：踰越常规，心怀疑贰。

坤至柔而动也刚，至静而德方，后得主而有常，含万物而化光；坤道其顺乎，承天而时行<sup>①</sup>。积善之家必有余庆，积不善之家必有余殃。臣弑其君，子弑其父，非一朝一夕之故，其所由来者渐矣，由辩之不早辩也<sup>②</sup>。……君子敬以直内，义以方外，敬义立而德不孤，“直方，大不习，无不利，”则不疑其所行也<sup>③</sup>。阴虽有美，“含”之以从王事，弗敢成也；地道也，妻道也，臣道也；地道“无成”而代“有终”也<sup>④</sup>。天地变化，草木蕃；天地闭，贤人隐<sup>⑤</sup>。……君子“黄”中通理，正位居体，美在其中，而畅于四支，发于事业，美之至也<sup>⑥</sup>。阴疑于阳必“战”，为其嫌于无阳也，故称“龙”焉<sup>⑦</sup>。

《周易大传·坤文言》

#### 题解：

柔与刚，动与静，天与地，庆与殊，内与外，君与臣，阴与阳，都是对立的两方，并可互相转化。

### 注释:

①坤: 地。德: 道。后得主: 地后天而动, 自是得主。常: 规律。光: 广。时: 四时。②弑(shì): 下杀上。渐: 渐进。辩: 察。③直: 正直。方: 义。④阴: 指地、妻、臣。地顺天, 妻顺夫、臣顺君。⑤蕃: 茂。⑥黄: 喻内心美。支: 肢。⑦疑、嫌: 拟、均。

癸酉, 葬襄公。公薨之月, 子产相郑伯以如晋, 晋侯以我丧故, 未之见也<sup>①</sup>。子产使尽坏其馆之垣而纳车马焉。士文伯让之, 曰: “敝邑以政刑之不修, 寇盗充斥, 无若诸侯之属辱在寡君者何, 是以令吏人完客所馆, 高其闾閭, 厚其墙垣, 以无忧客使, 今吾子坏之, 虽从者能戒, 其若异客何<sup>②</sup>? 以敝邑之为盟主, 缮完葺墙, 以待宾客。若皆毁之, 其何以共命? 寡君使甸请命<sup>③</sup>。”对曰: “以敝邑褊小, 介于大国, 诛求无时。是以不敢宁居, 悉索敝赋, 以来会时事<sup>④</sup>。逢执事之不闲, 而未得见, 又不获闻命, 未知见时。不敢输币, 亦不敢暴露; 其输之, 则君之府实也, 非荐陈之, 不敢输也; 其暴露之, 则恐燥湿之不时而朽蠹, 以重敝邑之罪<sup>⑤</sup>。侨闻文公之为盟主也, 宫室卑庳, 无观台榭, 以崇大诸侯之馆, 馆如公寝; 库厩缮修, 司空以时平易道路, 圻人以时墁馆宫室; 诸侯宾至, 甸设庭燎, 仆人巡宫; 车马有所, 宾从有代, 巾车脂辖, 隶人、牧、圉各瞻其事; 百官之属各展其物; 公不留宾, 而亦无废事; 忧乐同之, 事则巡之; 教其不知, 而恤其不足<sup>⑥</sup>。宾至如归, 无宁菑患; 不畏寇盗, 而亦不患燥湿<sup>⑦</sup>。今铜鞮之宫数里, 而诸侯舍于隶人, 门不容车, 而不可踰越; 盗贼公行, 而天厉不戒; 宾见无时, 命不可知<sup>⑧</sup>。若又勿坏, 是无所藏币以重罪也。敢请执事: 将何所命之? 虽君之有鲁丧, 亦敝邑之忧也。若获荐币, 修垣而行, 君之惠也, 敢惮勤劳<sup>⑨</sup>!”文伯复命。赵文子曰: “信。我实不德, 而以隶人之垣以赢诸侯, 是吾罪也<sup>⑩</sup>。”使士文伯谢不敏焉。

晋侯见郑伯, 有加礼, 厚其宴、好而归

之<sup>⑪</sup>。乃筑诸侯之馆。叔向曰: “辞之不可以已也如是夫! 子产有辞, 诸侯赖之, 若之何其释辞也?”

《左传·襄公三十一年》

### 题解:

子产派人拆毁晋国宾馆的围墙, 迫使晋侯及时接见, 有礼有节的言辞, 富有创造性, 不愧为伟大的谋略家。

### 注释:

①薨(hōng): 死。②在: 存问。闾閭(hàn hóng): 门。③共命: 供给所求。甸(gai): 士文伯。④诛: 责。⑤输: 送。币: 礼物。暴(pù)晒。荐: 进。⑥侨: 子产名。庳(bì): 低。圻(wū)人: 瓦匠。墁(mì): 涂。庭燎: 火把。辖(xiá): 车轴上的小铁棍。圉(yù)、牧: 仆人。留: 滞留。巡: 抚。⑦菑(zì): 灾。⑧铜鞮(dì): 晋离宫。厉: 病, 疾疫。⑨荐: 进。⑩赢: 接待。⑪好: 好货。

为善使人不能得从, 此独善也; 为巧使人不能得从, 此独巧也, 未尽善巧之理。为善与众行之, 为巧与众能之, 此善之善者、巧之巧者也。所贵圣人之治, 不贵其独治, 贵其能与众共治。贵工倕之巧, 不贵其独巧, 贵其能与众共巧也<sup>①</sup>。今世之人, 行欲独贤, 事欲独能, 辩欲出群, 勇欲绝众。独行之贤, 不足以成化; 独能之事, 不足以周务。出群之辩, 不可为户说; 绝众之勇, 不可与征阵。凡此四者, 乱之所由生。是以圣人, 任道以夷其险, 立法以理其差。使贤愚不相弃, 能鄙不相遗<sup>②</sup>。能鄙不相遗, 则能鄙齐功。贤愚不相弃, 则贤愚等虑<sup>③</sup>。此至治之术也……

己是而举世非之, 则不知己之是; 己非而举世是之, 亦不知己所非。然则是非, 随众贾而为正, 非己所独了<sup>④</sup>。则犯众者为非, 顺众者为是。故人君处权乘势, 处所是之地, 则人所不得非也。

《尹文子·大道上》

### 题解：

谋略家不能只求本人完美，要使众人都完美，既要己正，又要顺从众人。

### 注释：

①倕(chuí)：尧时的巧工。 ②鄙：浅陋。

③等：相同。 ④贾(gǔ)：求取。

桓公问于管子曰：“楚者山东之强国也，其人民习战斗之道，举兵伐之，恐力不能过，兵弊于楚，功不成于周，为之奈何？”管子对曰：“即以战斗之道与之矣<sup>①</sup>。”公曰：“何谓也？”管子对曰：“公贵买其鹿。”桓公即为百里之城，使人之楚买生鹿。楚生鹿当一而八万。管子即令桓公与民通轻重，藏谷什之六。令左司马伯公将白徒而铸钱于庄山，令中大夫王邑载钱二千万，求生鹿于楚。楚王闻之，告其相曰：“彼金钱人之所重也，国之所以存，明王之所赏有功。禽兽者群害也，明王之所弃逐也。今齐以其重宝贵买吾群害，则是楚之福也。天且以齐私楚也<sup>②</sup>。子告吾民，急求生鹿，以尽齐之宝。”楚民即释其耕农而田鹿<sup>③</sup>。管子告楚之贾人曰：“子为我致生鹿二十，赐子金百斤，什至而金千斤也<sup>④</sup>。则是楚不赋于民而财用足也。”楚之男子居外，女子居涂。隰朋教民藏粟五倍。楚以生鹿藏钱五倍。管子曰：“楚可下矣。”公曰：“奈何？”管子对曰：“楚钱五倍，其君且自得而修谷。钱五倍，是楚强也。”桓公曰：“诺。”因令人闭关不与楚通使。楚王果自得而修谷。谷不可三月而得也。楚粟四百。齐因令人载粟处羊之南<sup>⑤</sup>。楚人降齐者十分之四。三年而楚服。

《管子·轻重戊篇》

### 题解：

管仲以重金收购楚国的活鹿，诱使楚国弃农猎鹿，使楚国的粮价大涨，最终使楚国归服。

### 注释：

①与：对付。 ②私：偏向。 ③田：猎。

④贾(gǔ)：商。 ⑤之：往。

国治，断家王，断官强，断君弱<sup>①</sup>。重

轻刑去，常官则治。省刑要保，赏不可倍也，有奸必告之，则民断于心<sup>②</sup>。上令而民知所以应，器成于家而行于官，则事断于家<sup>③</sup>。故王者刑赏断于民心，器用决于家。治明则同，治暗则异<sup>④</sup>。同则行，异则止。行则治，止则乱。治则家断，乱则君断<sup>⑤</sup>。治国者贵下断，故以十里断者弱，以五里断者强<sup>⑥</sup>。家断则有余，故曰日治者王；官断则不足，故曰夜治者强；君断则乱，故曰宿治者削<sup>⑦</sup>。故有道之国，治不听君，民不从官。

《商子·说民》

### 题解：

不能只由国君一人处理政事，应当让官员、基层、百姓都能以法自治。

### 注释：

①断家：决断于家。 ②要(yào)：约。倍：背。 ③行：采用。 ④同：统一。 ⑤君断：断于国君。 ⑥里：基层行政单位。 ⑦宿治：过夜才处理。

靡笄之役，韩献子将斩人，郤献子闻之，驾往救之，比至，则已斩之矣。郤子因曰：“胡不以徇<sup>①</sup>？”其仆曰：“曩不将救之乎？”郤子曰：“吾敢不分谤乎<sup>②</sup>？”

或曰：郤子言，不可不察也，非分谤也。韩子之所斩也，若罪人，则不可救，救罪人，法之所以败也，法败则国乱；若非罪人，则不可劝之以徇，劝之以徇，是重不辜也，重不辜，民所以起怨者也，民怨则国危<sup>③</sup>。郤子之言，非危则乱，不可不察也。且韩子之所斩若罪人，郤子奚分焉？斩若非罪人，则已斩之矣，而郤子乃至，是韩子之谤已成而郤子且后至也<sup>④</sup>。夫郤子曰“以徇”，不足以分斡人之谤，而又生徇之谤。是子言分谤也？昔者纣为炮烙，崇侯、恶来又曰斩涉者之胫也，奚分于纣之谤？且民之望于上也甚矣，韩子弗得，且望郤子之得之也；今郤子俱弗得，则民绝望于上矣<sup>⑤</sup>。故曰：郤子之言非分谤也，益谤也<sup>⑥</sup>。且郤子之往救罪也，以韩子为非也；不道其所以为非，而劝之“以徇”，是使韩子不知其过也，夫下使民望绝

于上，又使韩子不知其失，吾未得郤子之所以分谤者也。

《韩非子·难一》

**题解：**

阐明不赦罪人、不杀无辜的原则。郤献子的做法富有创造性。

**注释：**

①徇(xùn)：巡行示众。②分谤：分担非议。③重(chóng)：双重。④奚：何。⑤胫：小腿。⑥益：增加。

世之听者，多有所尤；多有所尤，则必听悖矣！所以尤者多故，其要必因人所喜，与因人所恶；东面望者不见西墙，南乡视者不睹北方，意有所在也<sup>①</sup>。

人有亡铁者，意其邻之子，视其行步，窃铁也，颜色，窃铁也，言语，窃铁也，动作态度，无为而不窃铁也；扣其谷而得其铁，他日复见其邻之子，动作态度，无似窃铁者<sup>②</sup>。其邻之子非变也，己则变矣。变也者无他，有所尤也。

邾之故法，为甲裳以帛，公息忌谓邾君曰：“不若以组，凡甲之所以为固者，以满窍也；今窍满矣，而任力者半耳；且组则不然，窍满则尽任力矣<sup>③</sup>。”邾君以为然。曰：“将何所以得组也？”公息忌对曰：“上用之，则民为之矣。”邾君曰：“善！”下令，令官为甲必以组。

公息忌知说之行也，因令其家皆为组。人有伤之者曰：“公息忌之所以欲用组者，其家多为组也。”邾君不说，于是复下令，令官为甲无以组<sup>④</sup>。此邾君之有所尤也。

为甲以组而便，公息忌虽多为组，何伤也？以组不便，公息忌虽无为组，亦何益也？为组与不为组，不足以察公息忌之说，用组之心，不可不察也<sup>⑤</sup>。

鲁有恶者，其父出而见商咄，反而告其邻曰：“商咄不若吾子矣<sup>⑥</sup>！”且其子至恶也，商咄至美也，彼以至美不如至恶，尤乎爱也。故知美之恶，知恶之美，然后能知美恶矣。鲁人可谓外有重矣<sup>⑦</sup>。解在乎齐人之

欲得金也，及秦墨者之相妒也，皆有所乎尤也。

《吕氏春秋·去尤》

**题解：**

要去掉局限，不要有主观偏见，思路要广阔。

**注释：**

①尤：圉，受蒙蔽。乡：向。②铁(fū)：大斧。颜色：脸色。扣(juè)：掘。谷：沟。③组：绳带。任力：负载力。④说：悦。⑤便：利。彘(lèi)：辱。⑥商咄：人名。⑦重：宝贵的。

令：自古受命及中兴之君，曷尝不得贤人君子与之共治天下者乎？及其得贤也，曾不出闾巷，岂幸相遇哉？上之人不求之耳。今天下尚未定，此特求贤之急时也。“孟公绰为赵、魏老则优，不可以为滕、薛大夫。”若必廉士而后可用，则齐桓其何以霸世？今天下得无有被褐怀玉而“钓于渭滨者”乎？又得无有盗嫂受金而未遇无知者乎？二三子其佐我明扬仄陋，惟才是举，吾得而用之<sup>①</sup>。

《曹操集·求贤令》

**题解：**

曹操认为贤才并不是一点缺点也没有的人，只要有真才就可举荐。

**注释：**

①明：察。扬：举。仄陋：僻陋。

张松寿为长安令，时昆明池侧有劫杀，奉敕十日内须获贼，如违，所由科罪<sup>①</sup>。寿至行劫处寻踪迹，见一老婆树下卖食，至以从骑驮来入县，供以酒食。经三日，还以马送旧坐处，令一腹心人看，有人共婆语，即捉来。须臾一人来问明府若为推逐，即披布衫笼头送县，一问具承，并赃并获<sup>②</sup>。时人以为神明。

《朝野僉载·卷五》

**题解：**

张松寿把一个卖食品的老太婆作为破案的线索，从而抓获了罪犯。



注释:

①科: 法律条文。 ②推: 追问。

## (九) 阴谋与阳谋 的斗争

王若曰: “格汝众, 予告汝训汝, 猷黜乃心, 无傲从康<sup>①</sup>。古我先王, 亦惟图任旧人共政<sup>②</sup>。王播告之修, 不匿厥指, 王用丕钦<sup>③</sup>。罔有逸言, 民用丕变<sup>④</sup>。今汝聒聒, 起信险肤, 予弗知乃所讼<sup>⑤</sup>。非予自荒兹德, 惟汝含德不惕予一人<sup>⑥</sup>。予若观火, 予亦拙谋作, 乃逸<sup>⑦</sup>。若网在纲, 有条而不紊; 若衣服田, 力穡乃亦有秋<sup>⑧</sup>。汝克黜乃心, 施实德于民, 至于婚友, 丕乃敢大言汝有积德<sup>⑨</sup>。乃不畏戎毒于远迹, 惰农自安, 不昏作劳, 不服田亩, 越其罔有黍稷<sup>⑩</sup>。汝不和吉言于百姓, 惟汝自生毒, 乃败祸奸宄, 以自灾于厥身<sup>⑪</sup>。乃既先恶于民, 乃奉其恫, 汝悔身何及<sup>⑫</sup>? 相时俭民, 犹胥顾于箴言, 其发有逸口, 矧予制乃短长之命<sup>⑬</sup>? 汝曷弗告朕, 而胥动以浮言, 恐沈于众<sup>⑭</sup>? 若火之燎于原, 不可向迩, 其犹可扑灭<sup>⑮</sup>? 则惟汝众自作弗靖, 非予有咎<sup>⑯</sup>。

“迟任有言曰: ‘人惟求旧, 器非求旧, 惟新<sup>⑰</sup>。’ 古我先王暨乃祖乃父胥及逸勤, 予敢动用非罚<sup>⑱</sup>? 世选尔劳, 予不掩尔善<sup>⑲</sup>。兹予大享于先王, 尔祖其从与享之<sup>⑳</sup>。作福作灾, 予亦不敢动用非德。予告汝于难, 若射之有志<sup>㉑</sup>。汝无侮老成人, 无弱孤有幼<sup>㉒</sup>。各长于厥居, 勉出乃力, 听予一人作猷<sup>㉓</sup>。无有远迩, 用罪伐厥死, 用德章厥善<sup>㉔</sup>。邦之臧, 惟汝众; 邦之不臧, 唯予一人有佚罚<sup>㉕</sup>。凡尔众, 其惟致告<sup>㉖</sup>! 自今至于后日, 各恭尔事, 齐乃位, 度乃口<sup>㉗</sup>。罚及尔身, 弗可悔。”

《尚书·盘庚上》

题解:

盘庚迁殷之时, 有些臣民眷恋故地而加以反对。盘庚从傲上、怀安、动以浮言三方面加以斥责, 并申明法度, 阐述自己的谋略, 而使臣民服从。

注释:

①王: 指盘庚, 商代第二十位君主。若: 如此。格: 来。猷: 图谋。黜: 降。从康: 怀安。  
②图: 谋画。 ③王: 先王。播告: 布告。修: 施行。厥: 其。指: 意旨。用: 因此。丕: 大。钦: 敬。 ④罔: 无。逸言: 错话。 ⑤聒聒: 拒善自用。信: 申说。险: 危害。肤: 虚浮。乃: 你。讼: 争辩。 ⑥荒: 废弃。兹: 此。含: 怀藏。惕: 施及。 ⑦谋作: 谋画。逸: 过错。 ⑧服: 治。穡: 耕稼。亦: 大。秋: 秋收。 ⑨克: 能。婚友: 姻亲僚友。丕乃: 于是。 ⑩乃: 若。戎毒: 大灾。昏: 勉力。越: 助词。 ⑪和: 宣布。乃: 即。奸: 在外作恶。宄(guǐ): 在内作恶。厥: 其。 ⑫乃: 若。先: 倡导。乃奉: 而承受。恫: 祸。 ⑬相: 看。时: 此。俭(xian)民: 小民。胥: 相。顾: 顾虑。逸口: 错话。矧(shen): 况且。 ⑭曷: 何。动: 煽动。恐沈: 恐吓迷惑。 ⑮向迩: 面向接近。 ⑯靖: 安定。咎: 过失。 ⑰迟任: 古代的贤史。 ⑱胥及逸勤: 劳逸与共。非罚: 不当之罚。 ⑲选: 数说。 ⑳享: 把祭品献给祖先、神明。 ㉑志: 标识。 ㉒侮老、弱孤: 轻忽。 ㉓长: 为之长。居: 所居之职。作猷: 进行谋画。 ㉔用: 以。伐: 击。死: 恶。章: 彰明。 ㉕臧: 善。佚: 失。 ㉖惟: 思。 ㉗齐: 急速。位: 布置。度: 闭塞。

楚武王侵随, 使选章求成焉, 军于瑕以待之, 随人使少师董成<sup>①</sup>。

斗伯比言于楚子曰: “吾不得志于汉东也, 我则使然, 我张吾三军, 而被吾我甲兵, 以武临之, 彼则惧而协以谋我, 故难间也<sup>②</sup>。汉东之国, 随为大; 随张, 必弃小国; 小国离, 楚之利也; 少师侈, 请羸师以张之<sup>③</sup>。”熊率且比曰: “季梁在, 何益<sup>④</sup>?”斗伯比曰: “以为后图, 少师得其君。”王毁军而纳少师。

少师归，请追楚师，随侯将许之。季梁止之，曰：“天方授楚，楚之羸，其诱我也。君何急焉？臣闻小之能敌大也，小道大淫；所谓道，忠于民而信于神也；上思利民，忠也；祝史正辞，信也<sup>⑤</sup>。今民馁而君逞欲，祝史矫举以祭，臣不知其可也<sup>⑥</sup>……今民各有心，而鬼神乏主；君虽独丰，其何福之有？君姑修政，而亲兄弟之国，庶免于难。”随侯惧而修政，楚不敢伐。

《左传·桓公六年》

#### 题解：

楚国大夫斗伯比企图隐藏精锐以诱惑随军，随国贤者季梁识破其阴谋。

#### 注释：

- ①选(wèi)章：楚官。董成：主持和谈。  
②斗伯比：楚大夫。张：扩大。被：具。间：离间。  
③张(zhàng)：自高自大。侈：骄傲。羸(léi)：瘦弱。  
④熊率且比：楚大夫。季梁：随国贤者。  
⑤小道大淫：小国有道，大国无度。信：诚。正辞：不虚美。  
⑥矫举：诈称功德。

宋人使乐婴齐告急于晋，晋侯欲救之。伯宗曰：“不可。古人有言曰：‘虽鞭之长，不及马腹。’天方授楚，未可与争。虽晋之强，能违天乎？谚曰：‘高下在心。’川泽纳污，山藪藏疾，瑾瑜匿瑕，国君含垢，天之道也<sup>①</sup>。君其待之。”乃止。

使解阳如宋，使无降楚，曰：“晋师悉起，将至矣。”郑人囚而献诸楚。楚子厚赂之，使反其言<sup>②</sup>。不许。三而许之。登诸楼车，使呼宋人而告之。遂致其君命。楚子将杀之，使与之言曰：“尔既许不谷，而反之，何故？非我无信，女则弃之，速即尔刑<sup>③</sup>！”对曰：“臣闻之，君能制命为义，臣能承命为信，信载义而行之，为利<sup>④</sup>。谋不失利，以卫社稷，民之主也。义无二信，信无二命，君之赂臣，不知命也<sup>⑤</sup>。受命以出，有死无貲，又可赂乎<sup>⑥</sup>？臣之许君，以成命也。死而成命，臣之禄也。寡君有信臣，下臣获考死，又何求<sup>⑦</sup>？”楚子舍之以归。

《左传·宣公十五年》

#### 题解：

楚国让晋国使者传布假命令，晋使借机宣告了真命令。

#### 注释：

- ①藪(sòu)：草泽。疾：毒虫猛兽。垢：耻辱。  
②反其言：把话反说。  
③不谷：国君。  
④承：奉行。  
⑤命：命令。  
⑥貲：限，废命。  
⑦考死：死得其所。

昔者晋献公欲假道于虞以伐虢<sup>①</sup>。荀息曰：“君其以垂棘之璧与屈产之乘，赂虞公，求假道焉，必假我道<sup>②</sup>。”君曰：“垂棘之璧，吾先君之宝也；屈产之乘，寡人之骏马也。若受吾币不假公道，将奈何<sup>③</sup>？”荀息曰：“彼不假我道，必不敢受我币。若受我币而假我道，则是宝犹取之内府而藏之外府也，马犹取之内厩而著之外厩也<sup>④</sup>。君勿忧。”君曰：“诺。”乃使荀息以垂棘之璧与屈产之乘赂虞公而求假道焉。虞公贪利其璧与马而欲许之。宫之奇谏曰：“不可许。夫虞之有虢也，如车之有辅<sup>⑤</sup>。辅依车，车亦依辅，虞、虢之势正是也。若假之道，则虢朝亡而虞夕从之矣。不可，愿勿许。”虞公弗听，遂假之道。荀息伐虢克之，还反处三年，兴兵伐虞，又克之<sup>⑥</sup>。荀息牵马操璧而报献公，献公说曰：“璧则犹是也，虽然，马齿亦益长矣<sup>⑦</sup>。”故虞公之兵殆而地削者，何也？爱小利而不虑其害。故曰：顾小利，则大利之残也。

《韩非子·十过》

#### 题解：

宫之奇识破晋献公借道的阴谋，但虞公贪图小利，终使其阴谋得逞。

#### 注释：

- ①假：借。  
②乘：指马。  
③币：礼物。  
④著：贮藏。  
⑤车：牙床。辅：面颊。  
⑥反：返。  
⑦益：增。

陈轸去楚之秦，张仪谓秦王曰：“陈轸为王臣，常以国情输楚；仪不能与从事，愿王逐之；即复之楚，愿王杀之<sup>①</sup>。”王曰：“轸安敢之楚也！”

王召陈轸告之曰：“吾能听子言，子欲何之？请为子车约<sup>②</sup>。”对曰：“臣愿之楚。”王曰：“仪以子为之楚，吾又自知子之楚。子非楚，且安之也！”轸曰：“臣出，必故之楚，以顺王与仪之策，而明臣之楚与不也<sup>③</sup>。楚人有两妻者，人诮其长者，长者詈之；诮其少者，少者许之<sup>④</sup>。居无几何，有两妻者死，客谓诮者曰：‘汝取长者乎？少者乎？’‘取长者’客曰：‘长者詈汝，少者和汝，汝何为取长者？’曰：‘居彼人之所，则欲其许我也；今为我妻，则欲其为我詈人也。’今楚王明主也，而昭阳贤相也<sup>⑤</sup>。轸为人臣，而常以国情输楚王，王必不留臣，昭阳将不与臣从事矣。以此明臣之楚与不。”

轸出，张仪入，问王曰：“陈轸果安之？”王曰：“夫轸天下之辨士也，孰视寡人曰：‘轸必之楚。’寡人遂无可奈何也<sup>⑥</sup>！寡人因问曰：‘子必之楚也，则仪之言果信矣<sup>⑦</sup>！’轸曰：‘非独仪之言也，行道之人皆知之。昔者子胥忠其君，天下皆欲以为臣；孝己爱其亲，天下皆欲以为子<sup>⑧</sup>。故卖仆妾不出里巷而取者，良仆妾也；出妇嫁于乡里者，善妇也<sup>⑨</sup>。臣不忠于王，楚何以轸为？忠尚见弃，轸不之楚，而何之乎<sup>⑩</sup>？’”

王以为然，遂善待之。

《战国策·秦策》

题解：

张仪诋毁陈轸，劝秦惠王杀之。陈轸巧譬善喻，使张仪排挤的阴谋未能得逞。

注释：

①之：往。输：送。即：假使。②车约：备车。③与：亲附。不：否。④诮(tiào)：逗引。詈(lì)：骂。⑤昭阳：楚国令尹。⑥孰视：仔细看着。⑦信：确实。⑧孝己：殷高宗之子。⑨出妇：被离弃的女人。⑩见：被。

人或传其书至秦，秦王见《孤愤》、《五蠹》之书，曰：“嗟乎，寡人得见此人与之游，死不恨矣！”李斯曰：“此韩非之所著书也。”秦因急攻韩。韩王始不用非，及急，乃遣非使秦。秦王悦之，未信用。李斯、姚贾害之，

毁之曰：“韩非，韩之诸公子也。今王欲并诸侯，非终为韩不为秦，此人之情也。今王不用，久留而归之，此自遗患也，不如以过法诛之<sup>①</sup>。”秦王以为然，下吏治非。李斯使人遗非药，使自杀。韩非欲自陈，不得见<sup>②</sup>。秦王后悔之，使人赦之，非已死矣。

《史记·韩非传》

题解：

李斯、姚贾嫉贤妒能，用阴谋手段害死韩非。秦王失去一个谋士。

注释：

①过法：犯法。②陈：表白。

三年四月，帝疾新愈，大会未央殿。卓朝服升车，既而马惊堕泥，还入更衣。其少妻止之，卓不从，遂行。乃陈兵夹道，自垒及宫，左步右骑，屯卫周匝，令吕布等扞卫前后<sup>①</sup>。王允乃与士孙瑞密表其事，使瑞自书诏以授布，令骑都尉李肃与布同心勇士十余人，伪著卫士服于北掖门内以待卓<sup>②</sup>。卓将至，马惊不行，怪惧欲还。吕布劝令进，遂入门。肃以戟刺之，卓衷甲不入，伤臂堕车<sup>③</sup>。顾大呼曰：“吕布何在？”布曰：“有诏讨贼臣。”卓大骂曰：“庸狗敢如是邪！”布应声持矛刺卓，趣兵斩之。主簿田仪及卓仓头前赴其尸，布又杀之。驰赍赦书，以令宫陛，内外士卒，皆称万岁<sup>④</sup>。

《后汉书·董卓传》

题解：

董卓大权在握，挟持天子。王允与士孙瑞共同谋划，策反吕布，铲除了祸国殃民的董卓。

注释：

①匝(zā)：环绕。扞：捍。②表：给皇帝上奏章。著(zhuó)：穿。③衷甲：内披衣甲。④赍(jī)：送给。

皇太子建成毒王，王病，举府危骇。房玄龄谓无忌曰：“祸隙已牙，败不旋踵矣<sup>①</sup>。夫就大计者遗细行，周公所以绌管、蔡也<sup>②</sup>。”遂俱入白王，请先事诛之，王未许。无忌曰：“大王以舜何如人？”王曰：“浚哲文

明，为子孝，为君仁，又何议哉<sup>③</sup>？”对曰：“向使浚井弗出，得为孝乎？涂廩弗下，得为仁乎？大杖避，小杖受，良有以也。”王未决。事益急，乃遣无忌阴召房玄龄、杜如晦定计<sup>④</sup>。无忌与尉迟敬德、侯君集、张公谨、刘师立、公孙武达、独孤彦云、杜君绰、郑仁恭、李孟尝讨难，平之。王为皇太子，授左庶子。即位，迁吏部尚书，以功第一，进封齐国公。帝以无忌皇后兄，又少相友，眷倚日厚，常出入卧内<sup>⑤</sup>。进尚书右仆射。

《新唐书·长孙无忌传》

题解：

皇太子李建成阴谋毒死秦王李世民。李世民在长孙无忌的建议下先发制人，平定了太子之难。

注释：

①牙：芽，端倪。踵（zhōng）：脚后跟。

②细行，小事小节。绌：黜，贬退。③浚（jùn）：俊，才智过人。④阴：暗中。⑤眷倚：：顾念倚重。



## 三、政治谋略卷

### 引言

赵永春

政治谋略主要是讲“治国、平天下”的理论、策略和方法，包括政治制度、思想统治、政策策略、统治者的素质以及如何处理君臣、君民关系等内容。在中国历史上，对于如何治国、平天下的问题，政治家们提出了许多引人深思的谋略主张，并具体地实施于各个不同历史时期的治国实践中，经受了历史实践的检验。政治家们的治国思想不同，策略和方法各异，在中国历史上，可以找到有关治国的各种权谋、策略和方法。一部中国古代史，可谓谋略的渊藪，智慧的宝库，给人们以极大的启迪。

政治家们在治理国家之时，首先要遇到如何对待“变通”的问题。孔子在《论语》一书中记载了“殷因于夏礼”、“周因于殷礼”的史实，赞美夏、商、周三代的统治，后世因以形成“法先王”的理论。《周易》则记载了“穷则变，变则通，通则久”的话，后世因以形成“变通”的理论。战国时商鞅积极倡导变法，他在《商君书》一书中，针对反对变革的思想指出：“三代不同礼而王，五霸不同法而霸”，“礼法以时而定，制令各顺其宜”，主张“治世不一道，便国不必法古。”为历代主张变法者所推崇。西汉董仲舒虽然认为西汉初年未臻善治的原因在于当更化而未更化，但又提出“天不变，道亦不变”的理论，为一些人“法先王”提供了理论根据。唐朝赵蕤在

《长短经》一书中提出了“革易时弊”的主张，认为治国之道，不能一成不变，随着时间的推移、形势的发展，原来的治国之道必将出现弊端，因此，他反对“时移而法不变，务易而事以古”的作法，主张“随时变通，不可执一。”宋代范仲淹在《答手诏条陈十事》疏中也指出“历代之政，久皆有弊”，“不可不更张以救之”。王安石则在《上仁宗皇帝言事书》中提出“法先王之政”，“当法其意”的谋略主张。明代张居正也主张“审几度势，更化宜民”（《陈六事疏》），积极倡导变法改革。清代唐甄在《潜书》中指出“君子行法，为从为更”，“行之而民悦，则行之”，“行之而民不悦，则不行”，应该依据百姓是否方便，“随时制法，因情制礼”。魏源也主张革新，要求变法，认为“五帝不袭礼，三王不沿乐”，法应该随时而变。变法要顺乎人情，体现民意，“人情所不便者变可复，人情所群变者变则不可复”。（《默觚》）太平天国时期的洪仁玕更积极主张学习西方的先进经验，著《资政新篇》，仿照西方制度，提出自己的治国主张。清末梁启超在《变法通议》一书中，进一步指出“变者，天下之公理”，“大势相迫”，“变亦变，不变亦变”，只有变法，才能“保国”、“保种”、“保教”。这种随着形势发展变化，及时改革统治政策的谋略主张，意义十分深远。

在实行何种政治体制方面，政治家们也作出了各种各样的谋划。西周实行的分封制，得到了一部分政治家的赞赏。秦朝废除分封制，实行郡县制，也得到一部分政治家的赞赏，同时也受到另一部分政治家的攻击。此后，围绕着分封制和郡县制的问题，政治家和学者们展开了激烈争论。西汉初年的政治家，以为秦朝迅速灭亡的原因之一，就是没有实行分封制，因而确立了郡国并行的政治体制，在实行郡县制的同时，部分实行了分封制。随着历史的发展，所封诸侯势力日益强大，构成了对中央统治的威胁。汉文帝时的贾谊在《治安策》中认真分析了当时国家的形势，认为诸侯王势力的发展，埋下了分裂割据的隐患，他指出，“天下之势，方病大瘡，一胫之大几如要（腰），一指之大几如股”，出现了本末倒置、尾大不掉之势。他认为“欲天下之治安，莫若众建诸侯而少其力。”只有如此，才能使“海内之势，如身之使臂，臂之使指，莫不制从”，以保证中央政权的集中统一。唐太宗曾认为“周封子弟，八百余年；秦罢诸侯，二世而灭；吕后欲危刘氏，终赖宗室获安”，准备分封亲贤。李百药和马周等当场反对，以为，周行分封，导致“春秋二百年间，略无宁岁”；汉行分封，导致吴楚七国之乱；晋行分封，出现“八王之乱”，“宇县崩离”（《贞观政要》），建议废除分封，“罢子弟及功臣世袭刺史”。赵蕤在《长短经》中指出，分封制和郡县制各有利弊，秦立郡县，“君有海内，而子弟为匹夫”，皇帝“孤制天下，独擅其利，身死之日，海内分崩”；分封制则不免“强者先反”之患。两相比较，他认为，郡县制虽非“致理之具，但经始困其多福，虑终取其少祸，故贵于五等（指分封制）耳”。柳宗元在《封建论》一文中指出，郡县制取代封建制是历史发展的必然趋势，秦朝速亡之失，“在于政，不在于制”，汉代以来“有叛国而无叛郡”，说明郡县制优于分封制。在中国古代，无论是分封制，还是郡县制，都属于君主专制政体。宋末元初

的邓牧在《伯牙琴》一书中，对这种君主专制的政治制度进行了批判，他认为，古代立君是为了人民，秦朝以后，违背初衷，皇位至高无上，皇帝为保住自己的权位，无恶不作，因此，他主张“废有司，去县令，听天下自为治乱安危”，倡导百姓“民主”自治。这虽然是一种不能实现的幻想，但较早地吹起了“民主”之风，仍然具有重要的意义。明末清初的顾炎武在《郡县论》一文中指出，分封制有一定弊端，主要是“其专在下”，因而，郡县制代替分封制是历史发展的必然。同时，他也指出，郡县制也有弊端，主要是“其专在上”，应该改革，要“寓封建之意于郡县之中”，采其所长，分封制和郡县制兼而行之。黄宗羲也认为分封制和郡县制各有优点和弊端，可以“并行不悖”。但他极力反对君主专制制度，认为君主是“天下之大害”，干尽了坏事，主张恢复“天下为主，君为客”的天下为公的社会（《明夷待访录》），倡导“民主”治国。清末的魏源亦认为封建制和郡县制各有利弊，“五伯（霸）者，三王之罪人，中夏之功臣”，“嬴秦者，罪在一时，功在万世”（《默觚》）。俞樾在《封建郡县说》一文中也主张“封建必以郡县之法行之，郡县必以封建之法辅之。两者并用，然后无弊。”建议在内地实行郡县制，在边地实行分封制。清末，随着“民主”思想的传播和资产阶级民主革命的兴起，封建制与郡县制的争论遂退出了历史舞台，代之而起的是君主制与民主制的争论。

关于“治国之道”，先贤先哲们也提出了许多谋略主张，有的主张以王道治国，有的主张以霸道治国，有的主张王霸并用，还有的主张“无为而治”等等，不一而足。关于这方面的谋略典籍，浩如烟海，这里仅选录其中的一小部分，简单作以介绍。“王道”，是中国古代关于以仁义道德治理国家的谋略，亦称为“仁政”、“德治”。春秋时期的孔子在《论语》一书中，明确提出以仁义道德治理天下的谋略主张，谓“为政以德，譬如北辰居

其所而众星共之”，主张以礼治国，认为国家要想长治久安，必须先正名分，严格保持“君君、臣臣、父父、子子”的等级秩序，讲究仁义道德。孟子继承了孔子的“仁”学思想，并发展为“仁政”学说，认为“不以仁政，不能平治天下”，“仁政”就是要统治者“以不忍人之心，行不忍人之政”，只有行“王道”，“以德服人”，才能使人“心悦而诚服也”。（《孟子》）墨子倡导“兼相爱，交相利”，并说这是“圣人之法，天下之治道也”，认为社会出现混乱和祸患的根源，在于人们彼此“不相爱”，损人害人以求自爱自利。因此，他主张“兼爱”，要人们都视人如己、爱人如己，相亲相爱，不受等级地位和地方区域的限制，以达到天下稳定的目的。“霸道”是中国古代关于以法治国的谋略主张。管仲在《管子》一书中提出了以法治国的理论，认为国家离法则不治。战国时期的商鞅亦认为法是治国的根本保证，主张治国要将“法”、“信”、“权”三者有机地结合起来，谓“法者君臣之所共操也，信者君臣之所共立也，权者君之所独制也。”认为要治好国家，就要推行法度，遵守信用，尤其要注意君权的运用。商鞅还主张，国君治国必须掌握“势”（即国君的权力）和“术”（即行使权力的方法），将“法”、“术”、“势”结合起来，就能治好国家。而仁义道德则“不足以制天下。”韩非在《韩非子》一书中，进一步阐述了“法”、“术”、“势”结合的学说，发展为君主的统治权术。此外，又有人提出了“无为而治”的谋略主张，《老子》一书记载了老子“不欲以静，天下将自定”的“无为而治”的思想，谓“我无为而民自化，我好静而民自正，我无事而民自害，我无欲而民自朴。”认为仁、义、礼、争、欲、乱，皆是人们欲望不止的恶果，因此，主张“绝圣弃智”、“绝仁弃义”、“绝巧弃利”、“见素抱朴、少私寡欲”，使老百姓“无知无欲”，则天下“无不治”。老子倡导“无为”，实质则是“无不为”。在古代政治家分别提出以“王道”、“霸道”、“无为”治国谋略的同时，也

有人主张，治国应该博采众家之长，兼容并蓄，王霸并用。春秋时期的郑国子产最早提出，只有德行高尚的人才能用宽政（即后人所说的王道）治国，德行较差的人不如用猛政（即后人说的霸道）治国，宽政和猛政交替使用，奠定了后来王霸并用谋略的基础。管仲主张以法治国，但不反对礼治，亦重视“四维”（礼、义、廉、耻）的教育和规范作用。后人进一步发展了这种博采众家之长的治国谋略，主张以“王道”治国者，多吸取“霸道”思想，主张以“霸道”治国者，亦吸取“王道”及“无为而治”的成份。西汉的贾谊在《治安策》中指出，“礼者禁于将然之前，而法者禁于已然之后”，主张“用刑罚以惩恶”，用“礼”绝恶于未萌，而起教于微眇”。刘向在《说苑》中亦指出，君主治国，应该“清静无为，务在博爱”，“王者”、“霸者”、“强者”之政，“各有所绝”，刑德各有所用，“德者，养善而进阙”，“刑者，惩恶而禁后”。《贞观政要》记载的唐太宗君臣亦主张治国要“礼”、“法”并用，认为“任法御人者，虽救弊于一时，败亡亦促”，“为国之道，必须抚之以仁义，示之以威信，因人之心，去其苛刻，不作异端，自然安静。”赵蕤在《长短经》一书中也指出，诸子百家的治国方略，各有利弊，不能偏执一家，要“繁简唯时，宽猛相济”，博采众家之长，掌握其中通变的奥妙，王霸并用，“以刑德成治”。由此看来，中国古代政治家和思想家分别提出以“王道”治国、“霸道”治国以及“无为而治”等谋略以后，统治阶级从未单一地施行过某种“治国之道”，而是博采众长，并加以改造，为己利用。在漫长的历史长河中，虽然不同时期曾确立以某种“治国之道”为主，实质都吸收了其他各家的有益成份。从总体上来说，一般以外儒（王道）内法为主，辅之以“无为而治”。并将此谋略逐步改进发展，日臻完善。

中国历史上的谋略家们，在如何对待人民的问题上，也做了各种各样的谋划，其中以“民本”思想影响最大。“民本”是指被统治



的广大人民是立国兴邦的根本,《尚书》最早记载了“民惟邦本,本固邦宁”的话,为历代谋略家们所继承和发展。孔子主张,治国必须首先“重民”,应该努力作到“足食、足兵、民信”,尤其是“民信”,最为重要,是立国的根本。他曾说过:“道千乘之国,敬事而信,节用而爱人,使民以时”(《论语》),反对对老百姓过重剥削。孟子进一步指出:“民为贵,社稷次之,君为轻”,民心向背直接关系到国家的治乱安危,“失其民也”,“失天下”;“得其民”者,“得天下”。孟子认为,要得其民,必须“省刑罚,薄税敛”,“不违农时,”使“黎民不饥不寒”,就会天下归心,从而保证社稷安宁。管仲也认为治国之本在于重民,他说,“政之所行,在顺民心;政之所废,在逆民心”。“凡治国之道,必先富民,民富则易治,民贫则难治”,“仓廩实则知礼节,衣食足则知荣辱”。为此,他反对过重地剥削人民,主张“宽百姓,薄赋敛”,认为“取于民有度,用之有止,国虽小必安;取于民无度,用之不止,国虽大必危。”(《管子》)《荀子》一书又记载了“君者,舟也;庶人者,水也。水则载舟,水则覆舟”的话,把“民惟邦本”的思想说得更加深刻。刘向在《说苑》一书中指出,“圣人之于天下百姓”,就像对待“赤子”一样,“饥者则食之,寒者则衣之。将之养之,育之长之,唯恐其不至于大也。”书中记载太公曾对武王说:“治国之道,爱民而已”。“民失其所务,则害之也;农失其时,则败之也;有罪者重其罪,则杀之也;重赋敛者,则夺之也;多徭役以罢民力,则苦之也;劳而扰之,则怒之也。”认为“善为国者,遇民如父母之爱子、兄之爱弟,闻其饥寒为之哀,见其劳苦为之悲。”一切以民为重,才能使国家长治久安。唐太宗对“民本”思想有更加深刻的认识,他认为,“君,舟也;人,水也。水能载舟,亦能覆舟。”要想治好国家,“必须先存百姓,若损百姓以奉其身,犹割股以啖腹,腹饱而身毙。”主张减轻对老百姓的剥削,关心人民

疾苦,以巩固国家之本。明代张居正也认为,治国之道,必须首重“邦本”,以“百姓安乐”为急务,停免一切“不急工程,无益征办”,与民休息,赋敛以适。(《陈六事疏》)清初唐甄在《潜书》中也提出了“厚本”的谋略主张,认为君主是“民之父母”,“民”是君主之“男女”,要作到“唯恐其衣食之不足,居处之不安,日夜念之不忘。”谭嗣同进一步发展了“君末民本”学说,认为“君”不过是“民”根据需要所共举出来的,如果“君主”不能为“民”办事,亦可共废之。(《仁学》)

在“民本”思想指导下,历史上的谋略家们对“御臣之术”进行了认真探讨,除了主张采用轻徭薄赋以笼络百姓以外,又提出了“教民”、“富民”、“愚民”等谋略主张。管子主张加强对老百姓的教育,谓“凡牧民者,使士无邪行,女无淫。士无邪行,教也;女无淫事,训也。教训成俗而刑法省,数(术)也。”管子主张,教育老百姓要从小事作起,“欲民之正,则微邪不可不禁也。微邪者,大邪之所生也。微邪不禁,而求大邪之无伤国,不可得也。凡牧民者,欲民之有义也。欲民之有义,则小义不可不行。小义不行于国,而求百姓之行大义,不可得也。凡牧民者,欲民之有廉也。欲民之有廉,则小廉不可不修也。小廉不修于国,而求百姓之行大廉,不可得也。凡牧民者,欲民之有耻也。欲民之有耻,则小耻不可不饰也。小耻不饰于国,而求百姓之行大耻,不可得也。凡牧民者,欲民之小礼、行小义、修小廉、饰小耻、禁微邪,治之本也。”管子还主张采取“富民”政策去统治人民。他说,“凡治国之道,必先富民,民富则易治,民贫则难治。”清初唐甄亦认为“富民”是一项重要的“御民之术”。他说,“立国之道无他,惟在于富”,特以“勤农丰谷,土田不荒芜”,“桑肥棉茂,麻苧勃郁”,“山林多材,池沼多鱼,园多果蔬,栏多羊豕”,“廩蓄不私敛,发济不失时”等为十八“善政”。孔子则主张通过愚民政策以控制老百姓,谓“民可使由之,不可使知

之。”老子也主张以愚民政策治国，认为“古之善为道者，非以明民，将以愚之。民之难治，以其智多。故以智治国，国之贼；不以智治国，国之福。”又指出，“不尚贤，使民不争；不贵难得之货，使民不为盗；不见可欲，使民心不乱。是以圣人之治，虚其心，实其腹，弱其志，强其骨。常使民无知无欲。使夫智者不敢为也。为无为，则无不治。”商鞅又以“弱民”为“御民之术”，他在《商君书》中说：“民弱国强，国强民弱。故有道之国，务在弱民。”其实，这种说法是不正确的，“民弱”和“国强”，并不是一种因果关系。实际上，只有“民强”，国家才能强大。想通过“弱民”使国家强大，不过是一种幻想罢了。

处理好君臣关系，也是国家稳定和发展的重要因素之一。因此，谋略家们十分重视对君臣之道的研究，提出了许多引人深思的谋略主张。孔子以为“为君难，为臣不易”，必须努力处理好君臣关系。他主张用“君使臣以礼，臣事君以忠”来调节君臣关系，共治国政。管子认为“为人君者，修官上之道，而不言其中；为人臣者，比官中之事，而不言其外”。指出，“有道之君者执本，相执要，大夫执法以牧其群臣，群臣尽智竭力以役其上”。君主要抓好制定政策和任免官吏等大事，以“德不当其位”，“功不当其禄”、“能不当其官”为君之三审；以“大德不至仁，不可以授国柄”；“见贤不能让，不可与尊位”；“罚避亲贵，不可使主兵”；“不好本事，不务地利，而轻赋敛，不可与都邑”为君之四慎。注意协调君臣关系，“君人者制仁，臣人者守信”，“则上下无邪矣”。荀子亦认为“明主好要，而暗主好详。主好要则百事详，主好详则百事荒。”君主靠抓大事带动各级官吏，共同治好国家。孟子亦强调，“欲为君，尽君道；欲为臣，尽臣道”，君臣忠于职守，国家即可安定。韩非则认为，“爱臣太亲，必危其身；人臣太贵，必易主位”，主张对地方诸侯及各级大臣严加控制，不让他们势力过大以危害中央。邹忌认为，君主深居宫

中，容易被左右蒙蔽，遂以两次“窥镜”及同妻、妾、客的问答，巧妙地劝说齐王纳谏，不愧为一种有智有谋之举。据《说苑》记载，师旷认为“人君之道，清静无为，务在博爱，趋在任贤，广开耳目，以察万方，不固溺于流俗，不拘系于左右，廓然远见，踔然独立，屡省考绩，以临臣下”。又记载说，臣下要善于“辨上下之宜，使得其理；制百官之序，使得其宜；作为辞令，可分布于四方。”臣下见君主有过失，要勇于谏诤，但要讲究策略，“三谏而不用则去”，否则，“固谏”必危其身，“危身而终不用，则谏亦无功矣。”以为“智者度君权时，调其缓急而处其宜，上不敢危君，下不以危身，故在国而国不危，在身而身不殆。”确是一种明智的谋略。三国时期的诸葛亮在《便宜十六策》中也指出，“君以施下为仁，臣以事上为义”，“君以礼使臣，臣以忠事君。君谋其政，臣谋其事。”上下相宜，和顺无邪，国家即可达到大治。唐太宗君臣认为，“君臣本同治乱，共安危”，君主治国，不能偏听偏信，要勇于纳谏；为臣者亦当“直辞正谏，论道佐时”，以“匡救其恶”，双方只有建立“君臣合契”的关系，共理政事，才能治好国家。唐朝赵蕤在《长短经》一书中指出，各级官僚大臣在治理国家活动中占有不容忽视的地位，他认为，“能够匡世辅政之臣，必先明于盛衰之道，通于成败之数，审于治乱之势，达于用舍之宜，然后临机而不惑，见疑而能断。”君主任用了这样的大臣，国家就会走向大治。白居易亦认为，要治好国家，必须作到君臣职权分明，各行其事，“建官施令者，君所执也；率职知事者，臣所奉也。”君主只是操其要而已。但君主仅靠自己的两耳两目，不能遍听遍视，要通过“纳谏”广泛了解下情。“用天下之耳听之，则无不聪也；用天下之目视之，则无不明也；用天下之心识思谋之，则无不圣神也。”这样，就会制订出比较正确的政策和策略。白居易还认为，君主必须掌握御臣之术，“量其功而限之以爵，审其罪而纠

之以法。”对待臣下，施以诚信，“使臣尽忠，人爱上”。“君视臣如股肱，则臣视君如元首。”上下一心，同治国政，国家无不治也。范仲淹认为，君主驾驭群臣，要严防贪污，倡导廉政。“养贤之方必先厚禄，厚禄然后可以责廉”。因此，他主张保证低级官吏的俸禄，以防止贪污。封建君主驾驭群臣，均希望臣下一心事上，而反对臣僚各为党派。毫无疑问，这是一种比较明智的御臣之术，为大多数谋略家所赞同。因此，“朋党”一词，成了君主最为忌讳的字眼。范仲淹为挽救北宋的统治危机，积极倡导“新政”，被“反新政派”攻击为搞“朋党”。欧阳修为了反击“反新政派”的进攻，写了《朋党论》一文，认为“朋党之说，自古有之”，但有“君子之党”与“小人之党”的区别，君主治国只能反对“小人之党”，不能反对“君子之党”，应该大量进用“君子之党”，以求天下大治。这种谋略主张不失为一种精通“权变”之术。明朝张居正主张，皇帝治国，要“奋乾刚之断，普高照之明，张法纪以肃群工，揽权纲而贞百度，刑赏予夺一归之公道而不必曲徇乎私情，政教号令必断于宸衷，而毋致纷更于浮议。”他认为，“君者主令”，必须作到令下必行。驾驭群臣，注意名实相符。黄宗羲反对加强皇帝的权力，认为专制君主是“天下之大害”，要求君主“以天下万民为事”，倡导恢复“天下为主、君为客”的君民关系，认为君臣之间，应为师友，官僚作事，应“为天下”，“为万民”，而“非为一姓也”。要求慎重选择宰相和百官，不应该罢废宰相以强化君主的权力。唐甄则认为“治天下者惟君，乱天下者惟君”，君主在治理国家活动中，占有极其重要的地位。“有明君，则有贤辅；有贤辅，不患有司之不良；有司良，不患政事之不达”。只要有了贤君，天下就会大治。魏源虽然倡导改革，但不反对独断，认为“有以兼听而得，有以兼听而失；有以独断而成，有以独断而败。”皆应以时以事而异。洪仁玕也主张加强中央的领导权，“自大至小，由上而下，

权归于一”，严禁“朋党之弊”。谭嗣同则极力宣传“君末民本”思想，认为“君臣”、“父子”、“夫妇”、“兄弟”皆为朋友，天下一家。康有为更希望取消君主，建立“天下为公，无有阶级，一切平等”的“大同”社会。可见，中国历史上的谋略家们对“为君之道”、“为臣之道”以及他们之间的关系探讨十分深入，大体上以初期强调君臣的不平等关系，逐步发展为“师友”关系和“朋友”关系，进而出现取消君主的主张，各种谋略都在发展变化，日益进步。

君主在阶级社会中地位最高，影响也最大，因此，谋略家们谋划最多的还是“为君之方”的问题。除了上面谈到的君主要以王道霸道治国、以民为本、轻徭薄赋、兼听、纳谏等问题以外，还有君主的修身、制欲、崇俭、防骄等问题，谋略家们都进行了充分的论述。孔子在《论语》一书中指出，统治者的表率作用十分重要，“其身正，不令而行；其身不正，虽令不从”。“子帅以正，孰敢不正？”如果统治者“不欲，虽赏之不窃”。孔子还认为，统治者治国，要“泰而不骄”“节用而爱人”，保证善始善终。在用术方面，孔子主张，为政“毋欲速，毋见小利。欲速，则不达；见小利，则大事不成。”老子主张治国要讲究谋略，“将欲夺之，必固与之”，让人们莫测其中奥妙。刘向在《说苑》中指出，贤君治国应该崇尚节俭，以“爱民”为先，“其吏不苛”，“其赋敛节，其自奉薄，不以私善害公法，赏赐不加于无功，刑罚不施于无罪”。注意反骄防满，以身作则，如果“禁之以制而身不先行”，则“民不肯止”；若能“与民共甘苦饥寒”，国家就能达到大治。他还认为，“圣王之举事，必先谘之于谋虑”，讲究正确的“权谋之术”，经过深思熟虑之后方可施行。诸葛亮亦认为，君主治国“务于多闻”，注意采纳“众下之谋”，“喜不可纵有罪，怒不可戮无辜”，“思近虑远”，“以教令为先，诛罚为后”。还要作到“先正其身，然后乃行其令”，群臣不得不听。唐太宗对君

主的修身、制欲、崇俭、防骄有着更为深刻的认识。他认为君主治国“必须先正其身”，“居安思危”，崇尚节俭，严防奢纵，“用保其终”。（《贞观政要》）谓“上不节心，则下多逸志。君不约己而禁人为非，是犹恶火之燃，添薪望止其焰；愤池之浊，挠浪欲澄其流，不可得也。”君主如果能作到“先正其身，则人不言而化矣。”（《帝范》）唐朝白居易认为“国家之患，患在臣之壅蔽。壅蔽之生，生于君之好欲。”因此，他主张皇帝要“推其诚，勤其政，慎其始，敬其终”，力戒“自骄自满”，严格限制私欲，以保证国家长治久安。（《策林》）宋末元初的邓牧和明末清初的黄宗羲，更加欣赏皇帝生活俭朴，关心下民，对皇帝奢望无度，“冶容诲淫”（《伯牙琴》）、“敲剥天下之骨髓，离散天下之子女，以奉我一人之淫乐”，（《明夷待访录》）进行了无情的鞭挞。清初唐甄以为，君主要治好国家，必须勤奋学习，加强自身修养。还要注意教育太子，抑制宦官，了解下情，带头节俭，谨防谗言，消除朋党，减少女御，慎终如始等。皇帝只有具备这些品德，精明强干，善于御众，才能治好国家。对“为君之方”的谋略作了总结。此后，反对君主专制的“民主”思想逐步兴起，谋略家们就不仅仅谈论“为君之方”的问题了，更重要的则是研究起统治者的统治之术来了，开始对统治阶级群体的“统治方法”进行谋划，提出要求。然其内容与“为君之道”大同小异。

中国历史上的谋略典籍浩如烟海，谋略思想十分丰富，这里仅选取其中在论述政治谋略方面有代表性的一些著作，以窥一斑，使读者对中国历史上的政治谋略大体上有所掌握，并以历史唯物主义和辩证唯物主义思想给予认真总结，批判继承，以使我们变得更加聪明，以实际行动谱写出更加光辉的谋略篇章。

## 《周易》

### 题解：

《周易》，亦称《易经》，又简称《易》，相传系周人所作，故名。内容包括《经》和《传》两个部分。《经》主要是64卦和384爻，卦、爻各有卦辞、爻辞予以说明，作为占卦之用。《传》是解释卦辞、爻辞的七种文辞，包括《彖》上下、《象》上下、《系辞传》上下、《文言》、《序卦》、《说卦》、《杂卦》十篇，统称《十翼》，旧传孔子作。据近人研究，大抵系战国或秦汉之际的作品。《周易》认为阴阳两种势力的相互作用是产生万物的根源，提出“刚柔相推，变在其中矣”的通变观点，在肯定事物运动变化永无穷尽的基础上，猜测到事物发展到一定程度，就要变为它的反面。提出“穷则变，变则通，通则久”和“天地革而四时成”等变革的命题，包含着高深的朴素唯物主义和许多辩证的、科学的韬略，对后世产生了极其深远的影响。

### 乾

䷀ 乾下乾上

乾<sup>①</sup>，元亨利贞<sup>②</sup>。

初九，潜龙勿用<sup>③</sup>。

九二，见龙在田，利见大人。

九三，君子终日乾乾，夕惕若，厉，无咎。

九四，或跃在渊，无咎。

九五，飞龙在天，利见大人。

上九，亢龙有悔。

用九，见群龙无首，吉。

彖曰<sup>④</sup>：大哉乾元<sup>⑤</sup>，万物资始，乃统天。云行雨施，品物流行，大明终始，六位时成，时乘六龙以御天。乾道变化，各正性命，保合太和，乃利贞。首出庶物，万国咸宁。

象曰<sup>⑥</sup>：天行健，君子以自强不息。

## 坤

䷁ 坤下坤上

坤<sup>⑦</sup>，元亨，利牝马之贞<sup>⑧</sup>。君子有攸往<sup>⑨</sup>，先迷后得主<sup>⑩</sup>，利，西南得朋，东北丧朋。安贞吉<sup>⑪</sup>。

初六，履霜，坚冰至。

六二，直方大，不习无不利。

六三，含章可贞，或从王事，无成有终。

六四，括囊，无咎无誉。

六五，黄裳，元吉。

上六，龙战于野，其血玄黄。

用六，利永贞。

## 屯

䷂ 震下坎上

屯<sup>⑫</sup>，元亨利贞，勿用有攸往，利建侯<sup>⑬</sup>。

初九，磐桓，利居贞，利建侯。

六二，屯如遭如，乘马班如，匪寇婚媾，女子贞不字<sup>⑭</sup>，十年乃字。

六三，即鹿无虞，惟入于林中，君子几，不如舍，往吝。

六四，乘马班如，求婚媾，往吉，无不利。

九五，屯其膏，小贞吉，大贞凶。

上六，乘马班如，泣血涟如。

## 蒙

䷃ 坎下艮上

蒙<sup>⑮</sup>，亨。匪我求童蒙<sup>⑯</sup>，童蒙求我。初筮告，再三渎，渎则不告，利贞。

初六，发蒙，利用刑人，用说桎梏，以往，吝。

九二，包蒙吉，纳妇吉，子克家。

六三，勿用取女，见金夫，不有躬，无攸利。

六四，困蒙，吝。

六五，童蒙，吉。

上九，击蒙，不利为寇，利御寇。

## 需

䷄ 乾下坎上

需，有孚，光亨，贞吉，利涉大川。

初九，需于郊，利用恒，无咎。

九二，需于沙，小有言，终吉。

九三，需于泥，致寇至。

六四，需于血，出自穴。

九五，需于酒食，贞吉。

上六，入于穴，有不速之客三人来，敬之终吉。

## 讼

䷅ 坎下乾上

讼，有孚窒惕中吉，终凶。利见大人，不利涉大川。

初六，不永所事，小有言，终吉。

九二，不克讼，归而逋，其邑人三百户，无眚。

六三，食旧德，贞厉，终吉，或从王事，无成。

九四，不克讼，复即命，渝安贞，吉。

九五，讼元吉。

上九，或锡鞶带，终朝三褫之。

## 师

䷆ 坎下坤上

师，贞<sup>⑰</sup>，丈人<sup>⑱</sup>，吉无咎。

初六，师出以律，否臧凶。

九二，在师中，吉无咎，王三锡命。

六三，师或舆尸，凶。

六四，师左次无咎。

六五，田有禽，利执言，无咎。长子帅师，弟子舆尸，贞凶。

上六，大君有命，开国承家，小人勿用。

## 比

䷇ 坤下坎上

比，吉。原筮元永贞，无咎。不宁方来，后夫凶。

初六，有孚，比之，无咎。有孚，盈缶，终来有它吉。

六二，比之自内，贞吉。

六三，比之匪人。

六四，外比之，贞吉。

九五，显比，王用三驱失前禽，邑人不诫，吉。

上六，比之无首，凶。

## 小畜

䷈ 乾下巽上

小畜，亨。密云不雨，自我西郊。

初九，复其道，何其咎，吉。

九二，牵复，吉。

九三，舆说辐，夫妻反目。

六四，有孚，血去惕出，无咎。

九五，有孚挛如，富以其邻。

上九，既雨既处，尚德载，妇贞厉，月几望，君子征凶。

## 履

䷉ 兑下乾上

履虎尾，不咥人，亨。

初九，素履，往无咎。

九二，履道坦坦，幽人贞吉。

六三，眇能视，跛能履，履虎尾，咥人，凶，武人为于大君。

九四，履虎尾，愬愬终吉。

九五，夬履，贞厉。

上九，视履考祥，其旋元吉。

## 泰

䷊ 乾下坤上

泰，小往大来，吉亨。

彖曰：泰，小往大来，吉亨。则是天地交而万物通也，上下交而其志同也。内阳而外阴，内健而外顺。内君子而外小人。君子道长，小人道消也。

## 否

䷋ 坤下乾上

否之匪人，不利君子贞，大往小来。

彖曰：否之匪人，不利君子贞。大往小来，则是天地不交，而万物不通也。上下不交，而天下无邦也。内阴而外阳，内柔而外刚，内小人而外君子，小人道长，君子道消也。

象曰：天地不交，否。君子以俭德辟难<sup>⑨</sup>，不可荣以禄。

## 同人

䷌ 离下乾上

同人于野，亨。利涉大川，利君子贞。

彖曰：同人，柔得位得中而应乎乾，曰同人。同人曰：同人于野，利涉大川，乾行也。文明以健，中正而应，君子正也。唯君子为能通天下之志。

## 谦

䷎ 艮下坤上

谦，亨，君子有终。

彖曰：谦亨。天道下济而光明，地道卑而上行。天道亏盈而益谦，地道变盈而流谦，鬼神害盈而福谦，人道恶盈而好谦。谦尊而光，卑而不可逾，君子之终也。

初六，谦谦君子，用涉大川，吉。

六四，无不利，撝谦<sup>⑲</sup>。

## 贲

䷖ 离下艮上

贲，亨。小利有攸往。

彖曰：贲亨，柔来而文刚，故亨。分刚上而文柔，故小利有攸往，天文也。文明以止，人文也。观乎天文以察时变，观乎人文以化成天下。

## 复

䷗ 震下坤上

复，亨。出入无疾，朋来无咎。反复其道，七日来复，利有攸往。

彖曰：复亨，刚反，动而以顺行，是以出入无疾，朋来无咎。反复其道，七日来复，天行也。利有攸往，刚长也。复其见天地之心乎！

## 大畜

䷙ 乾下艮上

大畜，利贞，不家食吉，利涉大川。

彖曰：大畜，刚健笃实辉光，日新其德。刚上而尚贤，能止健，大正也。不家食吉，养贤也。利涉大川，应乎天地。

象曰：天在山中，大畜，君子以多识前言往行，以畜其德。

## 咸

䷞ 艮下兑上

咸，亨利贞，取女吉。

彖曰：咸，感也。柔上而刚下。二气感应以相与。止而说，男下女，是以亨利贞，取女吉也。天地感而万物化生，圣人感人心而天下和平。观其所感，而天地万物之情可见矣。

象曰：山上有泽，咸。君子以虚受人。

## 晋

䷢ 坤下离上

晋<sup>㉑</sup>，康侯用锡马蕃庶<sup>㉒</sup>，昼日三接。

## 明夷

䷣ 离下坤上

明夷<sup>㉓</sup>，利艰贞<sup>㉔</sup>。

彖曰：明入地中，明夷。内文明而外柔顺，以蒙大难，文王以之。利艰贞，晦其明也。内难而能正其志，箕子以之。

## 家人

䷤ 离下巽上

家人，利女贞<sup>㉕</sup>。

彖曰：家人，女正位乎内，男正位乎外。男女正，天地之大义也。家人有严君焉，父母之谓也。父父子子兄兄弟弟夫夫妇妇，而家道正。正家而天下定矣。

象曰：风自火出，家人。君子以言有物而行有恒。

九五，王假有家，勿恤吉<sup>㉖</sup>。

象曰：王假有家，交相爱也。

## 革

䷰ 离下兑上

革<sup>㉗</sup>，己日乃孚<sup>㉘</sup>，元亨，利贞，悔亡。

彖曰：革，水火相息，二女同居其志不相得，曰革。己日乃孚，革而信之。文明以说，大亨以正，革而当，其悔乃亡。天地革而四时成，汤武革命，顺乎天而应乎人，革之时大矣哉。

象曰：泽中有火，革。君子以治历明时。

## 节

䷻ 兑下坎上

节<sup>②9</sup>，亨，苦节不可贞<sup>③0</sup>。

彖曰：节亨，刚柔分而刚得中。苦节不可贞，其道穷也。说以行险，当位以节，中正以通。天地节而四时成，节以制度，不伤财，不害民。

象曰：泽上有水，节。君子以制数度<sup>③1</sup>，议德行<sup>③2</sup>。

## 既 济

䷾ 离下坎上

九三，高宗伐鬼方，三年克之，小人勿用。

## 系辞传上

一阴一阳之谓道。继之者善也，成之者性也。仁者见之谓之仁，知者见之谓之知，百姓日用而不知，故君子之道鲜矣。

盛德大业至矣哉，富有之谓大业，日新之谓盛德。生生之谓易，成象之谓乾，效法之谓坤，报数知来之谓占，通变之谓事，阴阳不测之谓神。

子曰，君子居其室，出其言善，则千里之外应之，况其迩者乎！居其室，出其言不善，则千里之外违之，况其迩者乎！言出乎身，加乎民，行发乎迩，见乎远。言行，君子之枢机，枢机之发，荣辱之主也。言行，君子之所以动天地也，可不慎乎！同人先号咷而后笑，子曰，君子之道或出或处，或默或语，二人同心，其利断金，同心之言，其臭如兰。

君不密则失臣，臣不密则失身，凡事不密则害成，是以君子慎密而不出也。

阖户谓之坤，辟户谓之乾，一阖一辟谓之变，往来不穷谓之通。

法象莫大乎天地，变通莫大乎四时，悬象著明莫大乎日月，崇高莫大乎富贵。

天生神物，圣人则之。天地变化，圣人效之。天垂象，见吉凶，圣人象之。河出图，洛出书，圣人则之。

形而上者谓之道，形而下者谓之器，化而裁之谓之变，推而行之谓之通，举而错之天下之民，谓之事业。

## 系辞传下

八卦成列，象在其中矣。因而重之，爻在其中矣。刚柔相推，变在其中矣。系辞焉而命之，动在其中矣。吉凶悔吝者，生乎动者也。刚柔者，立本者也。变通者，趣时者也。吉凶者，贞胜者也。

穷则变，变则通，通则久，是以自天祐之，吉无不利。黄帝尧舜垂衣裳而天下治，盖取诸乾坤。剡木为舟，剡木为楫。舟楫之利，以济不通，致远以利天下，盖取诸涣。服牛乘马，引重致远以利天下，盖取诸随。重门击柝以待暴客，盖取诸豫。断木为杵，掘地为臼，臼杵之利，万民以济，盖取诸小过。弦木为弧，剡木为矢，弧矢之利，以威天下，盖取诸睽。上古穴居而野处，后世圣人易之以宫室，上栋下宇，以待风雨，盖取诸大壮。古之葬者，厚衣之以薪，葬之中野，不封不树，丧期无数，后世圣人易之以棺槨，盖取诸大过。上古结绳而治，后世圣人易之以书契，百官以治，万民以察，盖取诸夬。是故易者，象也；象也者，像也。彖者，材也。爻也者，效天下之动者也。是故吉凶生而悔吝著也。

善不积不足以成名，恶不积不足以灭身。小人以小善为无益而弗为也，以小恶为无伤而弗去也。故恶积而不可揜，罪大而不可解。

子曰，危者，安其位者也。亡者，保其存者也。乱者，有其治者也。是故君子安而不忘危，存而不忘亡，治而不忘乱，是以身



安而国家可保也。

子曰，知几其神乎，君子上交不谄，下交不渎，其知几乎。几者动之微，吉之先见者也。君子见几而作，不俟终日。

#### 注释：

①乾：卦名。②元：大。亨：即“享”。古人举行大享之祭，曾筮遇此卦。利贞：利占，指举事有利。元亨利贞：亦指春夏秋冬、仁义礼智等。③潜：藏。勿用：无所施行，无所作为。④彖曰：卦辞为“彖”，孔子解释卦辞的文字叫“彖传”。古本“彖传曰”，后世刻本删去“传”字，变为“彖曰”。⑤乾元：即乾之元。⑥象：指《象传》，有“大象”与“小象”之分。“大象”针对全卦而言，列在《象传》之后，“小象”解释爻辞，分别列于六爻爻辞之后。⑦坤：卦名。⑧利牝马之贞：即利牝马之占。⑨攸：所。⑩先迷后得主：先失道而后得主人以客礼相待。⑪安贞吉：占问安否，筮遇此卦，则吉。⑫屯：卦名。⑬建侯：建立诸侯。⑭不字：不生育。⑮蒙：卦名，以下同，不再另注。⑯蒙：即“瞤”，有眸子而失明。喻愚昧无知之人。⑰贞：正，指打仗的目的要正确。⑱丈人：才能、谋略、品德和事业都为大家所敬畏的人，此句是说打仗要选择这样的人做统帅。⑲俭德：收敛其德。辟：同“避”。⑳执谦：发挥谦德。㉑晋，卦名，与“进”同。㉒康侯：怀才抱势足以康民治国安天下之诸侯。锡：同“赐”。蕃：息。庶：多。㉓夷：伤。明夷：明入地中，就社会来说，是政治黑暗的时代。㉔利艰贞：知艰难而不失贞正。㉕贞：正。㉖此句是说家长以自身的模范行为感染他的家中人，使家中父父子子兄兄弟弟夫夫妇妇各安其分，以相敦睦，无须忧劳费力就可得吉。㉗革：卦名。变革旧的事物。㉘孚：信。㉙节：卦名。做的是当做的好事，而且已经做到相当充分的程度，却又善于节制，适可而止，不使过份。㉚贞：长久。㉛制数度：依人的尊卑贵贱等级制度所用宫室、冠服、车旗、器用等的多少大小，亦即制定礼数等差。㉜德：藏于内心为德。行：表现于外为行。

## 《论 语》

#### 题解：

《论语》是孔子弟子及其再传弟子关于孔子言行的记录，成书于战国初期。书中记录了孔子关于治国和教育等方面的谋略及其主张，其中，政治谋略影响最为深远。孔子主张“为政以德”，以礼治国，要想达到长治久安，必须先正名分，严格保持“君君、臣臣、父父、子子”的等级秩序。他认为，治国应该努力作到“足食、足兵、民信”，其中，取信于民最为重要，是立国的根本。因此，他反对对老百姓过重剥削，谓“道千乘之国，敬事而信，节用而爱人，使民以时”。他还认为，为政“毋欲速，毋见小利。欲速，则不达；见小利，则大事不成。”为实现远大目标，不能急于求成，要一步一个脚印，稳步前进。孔子还认为，要治好国家，统治者的表率作用十分重要，“其身正，不令而行；其身不正，虽令不从。”“子帅以正，孰敢不正？”如果统治者“不欲，虽赏之不窃。”孔子还认为，统治者以礼治国，仁爱为先，要保证善始善终。在君臣关系方面，他主张“君使臣以礼，臣事君以忠”，君臣共治国政。孔子这些治国谋略，受到历朝统治者重视，被视为儒家经典，一代一代传下来。

《论语》注本很多，新注有杨树达《论语疏证》、杨伯峻《论语译注》、刘俊田等《四书全译》等。

### 学而第一

子曰：“道千乘之国<sup>①</sup>，敬事而信<sup>②</sup>，节用而爱人，使民以时<sup>③</sup>。”

### 为政第二

子曰：“为政以德，譬如北辰<sup>④</sup>，居其所而众星共之<sup>⑤</sup>。”

子曰：“道之以政<sup>⑥</sup>，齐之以刑<sup>⑦</sup>，民免而无耻<sup>⑧</sup>；道之以德，齐之以礼，有耻且格<sup>⑨</sup>。”

### 八佾第三

定公问<sup>⑩</sup>：“君使臣，臣事君，如之何？”孔子对曰：“君使臣以礼，臣事君以忠。”

### 里仁第四

子曰：“能以礼让为国乎<sup>⑪</sup>？何有<sup>⑫</sup>？”不能以礼让为国，如礼何？”<sup>⑬</sup>

子游曰：“事君数，斯辱矣<sup>⑭</sup>；朋友数，斯疏矣<sup>⑮</sup>。”

### 雍也第六

子曰：“君子博学于文，约之以礼，亦可以弗畔矣夫<sup>⑯</sup>！”

子曰：“中庸之为德也，其至矣乎<sup>⑰</sup>！民鲜久矣<sup>⑱</sup>。”

### 泰伯第八

子曰：“恭而无礼则劳，慎而无礼则蒺<sup>⑲</sup>，勇而无礼则乱，直而无礼则绞<sup>⑳</sup>。君子笃于亲，则民兴于仁；故旧不遗，则民不偷<sup>㉑</sup>。”

子曰：“民可使由之，不可使知之。”

### 先进第十一

子路、曾皙、冉有、公西华侍坐。子曰：“以吾一日长乎尔，毋吾以也<sup>㉒</sup>。居则曰<sup>㉓</sup>：‘不吾知也！’如或知尔，则何以哉？”子路率尔而对曰：“千乘之国，摄乎大国之间，加之以师旅，因之以饥馑；由也为之，比及三年<sup>㉔</sup>，可使有勇，且知方也<sup>㉕</sup>。”夫子哂之。“求<sup>㉖</sup>！尔何如？”对曰：“方六七十<sup>㉗</sup>，如五六十<sup>㉘</sup>，求也为之，比及三年，可使足民。

如其礼乐，以俟君子。”“赤<sup>㉙</sup>！尔何如？”对曰：“非曰能之，愿学焉。宗庙之事，如会同，端章甫<sup>㉚</sup>，愿为小相焉<sup>㉛</sup>。”“点<sup>㉜</sup>！尔何如？”鼓瑟希<sup>㉝</sup>，铿尔，舍瑟而作<sup>㉞</sup>，对曰：“异乎三子者之撰<sup>㉟</sup>。”子曰：“何伤乎？亦各言其志也。”曰：“莫春者<sup>㊱</sup>，春服既成<sup>㊲</sup>，冠者五六人<sup>㊳</sup>，童子五六人，浴乎沂<sup>㊴</sup>，风乎舞雩<sup>㊵</sup>，咏而归。”夫子喟然叹曰：“吾与点也<sup>㊶</sup>！”三子者出，曾皙后。曾皙曰：“夫三子者之言何如？”子曰：“亦各言其志也已矣。”曰：“夫子何哂由也？”曰：“为国以礼，其言不让，是故哂之。”“唯求则非邦也与？”“安见方六七十如五六十而非邦也者？”“唯赤则非邦也与？”“宗庙会同，非诸侯而何？赤也为之小，孰能为之大？”

### 颜渊第十二

子贡问政。子曰：“足食，足兵，民信之矣。”子贡曰：“必不得已而去，于斯三者何先？”曰：“去兵。”子贡曰：“必不得已而去，于斯二者何先？”曰：“去食。自古皆有死，民无信不立。”

齐景公问政于孔子。孔子对曰：“君君，臣臣，父父，子子。”公曰：“善哉！信如君不君，臣不臣，父不父，子不子，虽有粟<sup>㊷</sup>，吾得而食诸？”

子张问政。子曰：“居之无倦<sup>㊸</sup>，行之以忠<sup>㊹</sup>。”

季康子问政于孔子。孔子对曰：“政者，正也。子帅以正，孰敢不正？”

季康子患盗，问于孔子。孔子对曰：“苟子之不欲，虽赏之不窃。”

季康子问政于孔子曰：“如杀无道，以就有道，何如？”孔子对曰：“子为政，焉用杀？子欲善，而民善矣。君子之德风，小人之德草，草上之风，必偃<sup>㊺</sup>。”

## 子路第十三

子路问政。子曰：“先之劳之<sup>①</sup>。”请益。曰：“无倦<sup>②</sup>。”

子路曰：“卫君待子而为政<sup>③</sup>，子将奚先？”子曰：“必也正名乎<sup>④</sup>！”子路曰：“有是哉，子之迂也！奚其正？”子曰：“野哉由也！君子于其所不知，盖阙如也<sup>⑤</sup>。名不正，则言不顺；言不顺则事不成；事不成，则礼乐不兴；礼乐不兴，则刑罚不中；刑罚不中，则民无所措手足。故君子名之必可言也，言之必可行也。君子于其言，无所苟而已矣<sup>⑥</sup>。”

子曰：“其身正，不令而行；其身不正，虽令不从。”

子曰：“善人为邦百年，亦可以胜残去杀矣<sup>⑦</sup>。诚哉是言也！”

子曰：“苟正其身矣，于从政乎何有？不能正其身，如正人何？”

定公问：“一言而可以兴邦，有诸？”孔子对曰：“言不可以若是其几也<sup>⑧</sup>，人之言曰：‘为君难，为臣不易。’如知为君之难也，不几乎一言而兴邦乎？”曰：“一言而丧邦，有诸？”孔子对曰：“言不可以若是其几也，人之言曰：‘予无乐乎为君，唯其言而莫予违也。’如其善而莫之违也，不亦善乎？如不善而莫之违也，不几乎一言而丧邦乎。”

子夏为莒父宰，问政。子曰：“毋欲速，毋见小利。欲速，则不达；见小利，则大事不成。”

## 季氏第十六

孔子曰：“求！君子疾夫，舍曰欲之，而必为之辞。丘也闻有国有家者，不患寡而患不均，不患贫而患不安。盖均无贫，和无寡，安无倾。夫如是，故远人不服，则修文德以来之。既来之，则安之。”

## 子张第十九

子夏曰：“君子信而后劳其民；未信，则以为厉己也。信而后谏；未信，则以为谤己也。”

## 尧曰第二十

谨权量<sup>①</sup>，审法度<sup>②</sup>，修废官，四方之政行焉。兴灭国，继绝世，举逸民，天下之民归心焉。

所重：民、食、丧、祭。

宽则得众，信则民任焉，敏则有功，公则说。

子张问于孔子曰：“何如斯可以从政矣？”子曰：“尊五美，屏四恶<sup>③</sup>，斯可以从政矣。”子张曰：“何为五美？”子曰：“君子惠而不费，劳而不怨，欲而不贪，泰而不骄，威而不猛。”子张曰：“何谓惠而不费？”子曰：“因民之所利而利之，斯不亦惠而不费乎？择可劳而劳之，又谁怨？欲仁而得仁，又焉贪？君子无众寡，无小大，无敢慢，斯不亦泰而不骄乎？君子正其衣冠，尊其瞻视，俨然人望而畏之，斯不亦威而不猛乎？”子张曰：“何谓四恶？”子曰：“不教而杀谓之虐；不戒视成谓之暴；慢令致期谓之贼；犹之与人也，出纳之吝谓之有司<sup>④</sup>。”

注释：

①道：治理。 乘(shèng)：表示兵车的量词。古代四匹马拉一辆兵车，称作“乘”。 ②敬：专心致志。 ③时：指农闲的时候。 ④北辰：北极星。 ⑤共：同“拱”，环抱，环绕。 ⑥道：同“导”。道之以政：用法律命令来引导老百姓。 ⑦齐：整齐，统一。 ⑧民免而无耻：老百姓苟免犯罪，但不知道犯罪是可耻的。 ⑨格：归服。 ⑩定公：即鲁定公。 ⑪让：不争。 为：治理。 ⑫何有：有何困难。 ⑬如果不用礼治国，讲礼不就成了空话吗？ ⑭数：次数频繁。此句的意思是说，侍奉君主，如果反复向其进谏，就会招来侮

斥。⑮此句意谓，如果反复向朋友提意见，就会和朋友疏远。⑯畔：同“叛”。⑰中：无过无不及，即不偏不倚的意思；庸：平常、不变。此句意为，中庸这种道德，该是极好的了。⑱鲜：少，缺乏。⑲憊(xi)：畏惧、胆怯的样子。⑳绞：尖刻。㉑偷：薄。㉒毋：不要。以：同“已”，止。㉓居：闲居，在家。㉔比(bì)及：等到。㉕知方：明白道理。㉖求：冉求，即冉有。㉗方六七十：方六七十里。㉘如：或者。㉙赤：即公西华。㉚端：古代礼服的名称；章甫：古代礼帽的名称。㉛相：赞礼人，即祭祀、会盟时当司仪的人。㉜点：曾点，即曾皙。㉝鼓：弹。希：同“稀”，指弹瑟的节奏逐渐稀疏。㉞舍：放下。作：站起来。㉟撰：具有，指所具有的本领。㊱莫：同“暮”。㊲春服既成：春天的服装已经穿定了。㊳冠者：成年人。古代男子二十岁行冠礼，表示已经成人。㊴沂：水名，在今山东曲阜南。㊵舞雩(yú)：地名，在今山东曲阜南。㊶与：赞许，同意。㊷粟：这里指官禄。㊸居之无倦：做官要始终如一，不肯怠慢。㊹行之以忠：执行政令要表里如一，忠心不二。㊺偃(yǎn)：仆倒。㊻先之：以身作则，给老百姓带头。㊼无倦：不要懒惰倦怠。㊽卫君：指卫出公。㊾正名：即正名分。㊿阙：空着。㉑苟：苟且，随便。㉒胜残：教化残暴的人，使其不再作恶。去杀：化民于善，可以不再用刑杀。㉓几(jī)：期，期望。㉔权：衡量。量：容量。㉕法度：指长度。㉖屏(bīng)：除。㉗出纳：这里是支出的意思。有司：管理某一具体事物的官僚机构称有司，这里指管理财务的小官。

## 《老子》

### 题解：

《老子》又名《道德经》，相传为春秋时人老聃(即李耳)所作。书中记述了老子以“道”为最高范畴的哲学思想及其政治、经济等治国谋略和主张。在政治谋略方面，老子主张“无为而治”，谓“我无为而民自化，我好静而

民自正，我无事而民自富，我无欲而民自朴。”“为无为，则无不治”，实质则是“无不为”。他认为治国亦要讲究权谋，“不尚贤”，“使民无知无欲”，“将欲夺之，必固与之”，如此，天下即可达到“无不治”。老子还主张，治国要“治之于未乱”，“千里之行，始于足下”，从一点一滴作起，不要过重地剥削老百姓，“慎终如始”，保证国家长治久安。老子希望建立“甘其食，美其服，安其居，乐其俗，邻国相望，鸡犬之声相闻，民至老死，不相往来”的“小国寡民”的社会，其实，这是不切合实际的。老子“无为而治”的谋略思想对后世影响很大，西汉初期即以“无为而治”作为统治阶级治国的指导思想。

此书收入《道藏》，1973年长沙马王堆三号汉墓出土文物中有《老子》抄写本。有关《老子》的注本很多，以1985年上海古籍出版社出版的任继愈译著的《老子新译》最为流行。

不尚贤，使民不争；不贵难得之货，使民不为盗；不见可欲<sup>①</sup>，使民心不乱。是以圣人之治，虚其心<sup>②</sup>，实其腹<sup>③</sup>，弱其志<sup>④</sup>，强其骨<sup>⑤</sup>，常使民无知无欲。使夫智者不敢为也<sup>⑥</sup>。为无为<sup>⑦</sup>，则无不治。

绝圣弃智<sup>⑧</sup>，民利百倍；绝仁弃义，民复孝慈；绝巧弃利，盗贼无有。此三者以为文不足<sup>⑨</sup>，故令有所属<sup>⑩</sup>：见素抱朴<sup>⑪</sup>，少私寡欲。

“曲则全，枉则直，洼则盈，敝则新，少则得，多则惑。”是以圣人抱一为天下式<sup>⑫</sup>。不自见，故明；不自是，故彰<sup>⑬</sup>；不自伐<sup>⑭</sup>，故有功；不自矜<sup>⑮</sup>，故长<sup>⑯</sup>。夫唯不争，故天下莫能与之争<sup>⑰</sup>。古之所谓“曲则全”者，岂虚言哉？诚全而归之<sup>⑱</sup>。

将欲取天下而为之<sup>⑲</sup>，吾见其不得已<sup>⑳</sup>。天下神器<sup>㉑</sup>，不可为也<sup>㉒</sup>。为者败之，执者失之。故，物或行或随<sup>㉓</sup>，或歔或吹<sup>㉔</sup>，或强或赢<sup>㉕</sup>，或挫或隳<sup>㉖</sup>。是以圣人去甚，去奢，去泰<sup>㉗</sup>。

将欲歛之<sup>⑳</sup>，必固张之<sup>㉑</sup>；将欲弱之，必固强之；将欲废之，必固兴之；将欲夺之，必固与之。是谓微明<sup>㉒</sup>，柔弱胜刚强。鱼不可脱于渊<sup>㉓</sup>，国之利器不可以示人。

以正治国<sup>㉔</sup>，以奇用兵，以无事取天下<sup>㉕</sup>。吾何以知其然哉？以此：天下多忌讳而民弥贫<sup>㉖</sup>；民多利器，国家滋昏<sup>㉗</sup>；人多伎巧，奇物滋起<sup>㉘</sup>；法令滋彰<sup>㉙</sup>，盗贼多有。故圣人云：“我无为而民自化，我好静而民自正，我无事而民自富，我无欲而民自朴<sup>㉚</sup>。”

其安易持<sup>㉛</sup>；其未兆易谋<sup>㉜</sup>；其脆易泮<sup>㉝</sup>；其微易散。为之于未有<sup>㉞</sup>，治之于未乱。合抱之木，生于毫末；九层之台<sup>㉟</sup>，起于累土<sup>㊱</sup>；千里之行，始于足下。为者败之<sup>㊲</sup>；执者失之。是以，圣人无为，故无败；无执，故无失。民之从事，常于几成而败之<sup>㊳</sup>。慎终如始，则无败事。是以圣人欲不欲<sup>㊴</sup>，不贵难得之货；学不学，复众人之所过<sup>㊵</sup>。以辅万物之自然而不敢为<sup>㊶</sup>。

古之善为道者，非以明民，将以愚之。民之难治，以其智多。故以智治国，国之贼<sup>㊷</sup>；不以智治国，国之福。知此两者亦稽式<sup>㊸</sup>。常知稽式，是谓玄德。玄德深矣，远矣，与物反矣。然后乃至大顺。

江海所以能为百谷王者，以其善下之<sup>㊹</sup>，故能为百谷王。是以，欲上民<sup>㊺</sup>，必以言下之<sup>㊻</sup>；欲先民<sup>㊼</sup>，必以身后之。是以圣人处上而民不重<sup>㊽</sup>；处前而民不害<sup>㊾</sup>。是以天下乐推而不厌。以其不争，故天下莫能与之争。

民不畏死，奈何以死惧之<sup>㊿</sup>？若使民常畏死，而为奇者，吾得执而杀之。孰敢<sup>㊽</sup>？常有司杀者杀。夫代司杀者杀，是代大匠斫，夫代大匠斫，希有不伤其手者矣。

民之饥，以其上食税之多，是以饥。民之难治，以其上之有为，是以难治。民之轻死<sup>㊿</sup>，以其上求生之厚，是以轻死。夫唯无以生为者<sup>㊽</sup>，是贤于贵生<sup>㊽</sup>。

小国寡民。使有什伯之器而不用<sup>㊽</sup>；使民重死而不远徙<sup>㊽</sup>；虽有舟舆，无所乘之；

虽有甲兵，无所陈之。使人复结绳而用之。甘其食，美其服，安其居，乐其俗，邻国相望，鸡犬之声相闻，民至老死，不相往来。

#### 注释：

①可欲：可以引起欲望的东西。②虚其心：简化人民的头脑。③实其腹：填饱人民的肚子。④弱其志：削弱人民的志气。⑤强其骨：强壮人民的筋骨。⑥使自作聪明的人不敢妄作主张。⑦为无为：依照“无为”的原则办事。⑧绝圣弃智：抛弃了聪明和智慧。⑨文：理论，原则。⑩故令有所属：所以要使人的认识有所从属。⑪见素抱朴：外表单纯、内心朴素。⑫一：即“道”。式：工具。⑬彰：是非昭彰。⑭伐：夸耀。⑮矜(jīn)：自高自大。⑯长：官长，领导。⑰莫能与之争：没有谁能争得赢他。⑱诚全而归之：实在能使人得到保全。⑲将欲取天下而为之：要想治理天下并有所作为。⑳不得已：不能达到罢了。㉑天下神器：“天下”这个怪东西。㉒不可为：不能勉强搞。㉓或行或随：有的前行，有的后随。㉔或歛或吹：有的轻歛，有的急吹。㉕羸(léi)：瘦弱。㉖隳(huī)：毁坏。㉗去甚、去奢、去泰：去掉极端的、奢侈的、过分的东西。㉘歛：收敛，收缩。㉙固：暂且。㉚微明：深沉的聪明。㉛脱：离开。㉜正：正规。㉝无事：无所作为。取：掌握。㉞忌讳：禁令。弥(mi)：更加，越。㉟滋：更加。㊱奇物：奇怪的物品，即新发明创造的产品。㊲彰：明白。㊳朴：淳朴。㊴持：维持，保持。㊵兆：苗头，征兆。㊶泮(pàn)：散，解。㊷为之于未有：要在事物未发生前把它办完。㊸台：古代建筑物，可供人们眺望。㊹累：堆积。㊺为者败之：谁去做，谁就把事情搞坏。㊻几：差不多，快要。㊼欲不欲：欲望是不欲。㊽复：补救，弥补。㊾辅：辅助，协助。㊿贼：伤害。㊽稽式：即法则。㊽善下之：善于处在下边。㊽上民：把自己摆在人民之上，即统治人民。㊽以言下之：用言辞对人民表示谦虚。㊽先民：站在人民前面，即领导人民。㊽重(zhòng)：压迫，负担。㊽害：妨害。㊽惧：吓唬。㊽孰敢：谁还敢再捣乱。㊽轻：

看轻，不重视。⑥无以生为者：不看重生命的人。⑦贤于贵生：比过分看重生命的人高明。⑧什伯之器：各种器具。⑨重：看重，重视。

## 《管子》

### 题解：

《管子》一书旧题春秋管仲(?——前645)撰，实为后人采拾管仲言行，附以他书汇集而成。书中记述了春秋战国时期管仲及其齐鲁政治家有关政治、法制、经济、军事等谋略思想及其主张。其中，关于政治谋略方面，提出了许多值得人们深思的问题。他们认为治国之本在于重民，“政之所行，在顺民心；政之所废，在逆民心。”“凡治国之道，必先富民，民富则易治，民贫则难治”，“仓廩实则知礼节，衣食足则知荣辱”。为此，他们反对过重地剥削人民，主张“宽百姓，薄赋敛”，认为“取于民有度，用之有止，国虽小必安；取于民无度，用之不止，国虽大必危。”他们还认为，治国之道，除了注重法制建设以外，还要注意礼、义、廉、耻的教育和规范作用，认为“国有四维，一维绝则倾，二维绝则危，三维绝则覆，四维绝则灭。”他们主张加强中央集权，“利出于一孔”。注意君臣和谐，共治国政，要作到“君以利和，臣以节信，则上下无邪矣。”他们还认为，治国政策不能一成不变，要“随时而变，因俗而动”，只有这样，才能适应形势，治好国家。《管子》一书的治国谋略，多为后世采用和借鉴。

此书收入《四库全书》、《四部丛刊》等丛书，有唐房玄龄注(今皆认为尹知章注)、清戴望《管子校正》和郭沫若《管子集校》等。

### 牧民

凡有地牧民者，务在四时，守在仓廩。国多财则远者来，地辟举则民留处<sup>①</sup>，仓廩实则知礼节，衣食足则知荣辱，上服度则六亲固<sup>②</sup>，四维张则君令行<sup>③</sup>。故省刑之要，

在禁文巧<sup>④</sup>；守国之度，在饬四维；顺民之经，在明鬼神、祗山川<sup>⑤</sup>、敬宗庙、恭祖旧。不务天时，则财不生；不务地利，则仓廩不盈；野荒旷<sup>⑥</sup>，则民乃荒；上无量，则民乃妄；文巧不禁，则民乃淫<sup>⑦</sup>；不障两原<sup>⑧</sup>，则刑乃繁；不明鬼神，则陋民不信<sup>⑨</sup>；不祗山川，则威令不闻；不敬宗庙，则民乃上校<sup>⑩</sup>；不恭祖旧，则孝悌不备。四维不张，国乃灭亡。

国有四维，一维绝则倾，二维绝则危，三维绝则覆，四维绝则灭。倾可正也，危可安也，覆可起也，灭不可复措也<sup>⑪</sup>。何谓四维？一曰礼，二曰义，三曰廉，四曰耻。礼不逾节，义不自进，廉不蔽恶，耻不从枉。故不逾节则上位安，不自进则民无巧诈，不蔽恶则行自全，不从枉则邪事不生。

政之所兴，在顺民心；政之所废，在逆民心。民恶忧劳，我逸乐之；民恶贫贱，我富贵之；民恶危坠<sup>⑫</sup>，我存安之；民恶灭绝，我生育之。能逸乐之，则民为之忧劳；能富贵之，则民为之贫贱；能存安之，则民为之危坠；能生育之，则民为之灭绝。故刑罚不足以畏其意，杀戮不足以服其心。故刑罚繁而意不恐，则令不行矣；杀戮众而心不服，则上位危矣。故从其四欲<sup>⑬</sup>，则远者自亲；行其四恶<sup>⑭</sup>，则近者叛之。故知予之为取者<sup>⑮</sup>，政之宝也。

措国于不倾之地，积于不涸之仓，藏于不竭之府，下令于流水之源，使民于不争之官<sup>⑯</sup>，明必死之路，开必得之门，不为不可成，不求不可得，不处不可久，不行不可复。措国于不倾之地者，授有德也；积于不涸之仓者，务五谷也；藏于不竭之府者，养桑麻育六畜也；下令于流水之源者，令顺民心也；使民于不争之官者，使各为其所长也；明必死之路者，严刑罚也；开必得之门者，信庆赏也；不为不可成者，量民力也；不求不可得者，不强民以其所恶也；不处不可久者，不偷取一时也；不行不可复者，不欺其民也。故授有德，则国安；务五谷，则食足；

养桑麻育六畜，则民富；令顺民心，则威令行；使民各为其所长，利用备<sup>②</sup>；严刑罚，则民远邪；信庆赏，则民轻难；量民力，则事无不成；不强民以其所恶，则诈伪不生；不偷取一时，则民无怨心；不欺其民，则下亲其上。

以家为乡，乡不可为也；以乡为国，国不可为也；以国为天下，天下不可为也。以家为家，以乡为乡，以国为国，以天下为天下。母曰不同姓，远者不听；母曰不同乡，远者不行；母曰不同国，远者不从。如地如天，何私何亲？如月如日，唯君之节<sup>③</sup>！

御民之辔，在上之所贵；导民之门，在上之所先；召民之路，在上之所好恶。故君求之则臣得之，君嗜之则臣食之，君好之则臣服之，君恶之则臣匿之。毋蔽汝恶，毋异汝度，贤者将不汝助。言室满室，言堂满堂，是谓圣王。

城郭沟渠，不足以固守；兵甲强力，不足以应敌；博地多财，不足以有众。唯有道者，能备患于未形也，故祸不萌。

天下不患无臣，患无君以使之；天下不患无财，患无人以分之。故知时者可立以为长，无私者可置以为政，审于时而察于用，而能备官者<sup>④</sup>，可奉以为君也。缓者后于事，吝于财者失所亲，信小人者失士。

## 权 修

欲为天下者，必重用其国；欲为其国者，必重用其民；欲为其民者，必重尽其民力。无以畜之，则往而不可止也；无以牧之，则处而不可使也。远人至而不去，则有以畜之也；民众而可一，则有以牧之也。

见其可也，喜之有征；见其不可也，恶之有形。赏罚信于其所见，虽其所不见，其敢为之乎？见其可也，喜之无征；见其不可也，恶之无形。赏罚不信于其所见，而求其所不见之为之化，不可得也。厚爱利足以亲之，明智礼足以教之，上身服以先之<sup>⑤</sup>，审

度量以闲之<sup>⑥</sup>，乡置师以导之。然后申之以宪令，劝之以庆赏，振之以刑罚。故百姓皆悦为善，则暴乱之行无由至矣。

地之生财有时，民之用力有倦，而人君之欲无穷。以有时与有倦，养无穷之君，而度量不生其间，则上下相疾也。是以臣有杀其君，子有杀其父者矣。故取于民有度，用之有止，国虽小必安；取于民无度，用之不止，国虽大必危。……

一年之计，莫如树谷；十年之计，莫如树木；终身之计，莫如树人。一树一获者，谷也；一树十获者，木也；一树百获者，人也。我苟种之，如神用之，举事如神，唯王之门。

凡牧民者，使士无邪行，女无淫事。士无邪行，教也；女无淫事，训也；教训成俗，而刑罚省，数也<sup>⑦</sup>。凡牧民者，欲民之正也。欲民之正，则微邪不可不禁也。微邪者，大邪之所生也。微邪不禁，而求大邪之无伤国，不可得也。凡牧民者，欲民之有礼也。欲民之有礼，则小礼不可不谨也。小礼不谨于国，而求百姓之行大礼，不可得也。凡牧民者，欲民之有义也。欲民之有义，则小义不可不行也。小义不行于国，而求百姓之行大义，不可得也。凡牧民者，欲民之有廉也。欲民之有廉，则小廉不可不修也。小廉不修于国，而求百姓之行大廉，不可得也。凡牧民者，欲民之有耻也。欲民之有耻，则小耻不可不饬也。小耻不饬于国，而求百姓之行大耻，不可得也。凡牧民者，欲民之谨小礼，行小义，修小廉，饬小耻，禁微邪，此厉民之道也<sup>⑧</sup>。民之谨小礼，行小义，修小廉，饬小耻，禁微邪，治之本也。

### 注释：

- ①辟举：开发。留处：安居下来。 ②上服度：君主遵守法度。 ③四维：指礼义廉耻。 ④文：华丽的服饰。巧：供玩赏的器物。 ⑤祗(zhī)：敬。 ⑥荒旷：荒废。 ⑦淫：放纵，违法。 ⑧两原：指君主荒废农业和聚敛无度。 ⑨陋民：小民。 ⑩校：同“较”，较量。 ⑪复

措：重新安置，这里有挽救的意思。⑫危坠：危险灾祸。⑬四欲：指上述“逸乐”、“富贵”、“存安”、“生育”四种欲望。⑭四恶：指上述“忧劳”、“贫贱”、“危坠”、“灭绝”四种厌恶的事。⑮予之为取：给予是为了索取。⑯官：这里指职业、行业。⑰用备：用品齐备。⑱节：准则。⑲备官：安排配置官吏。⑳身服：自身遵守。㉑度量：规定，限制；闲：防止，控制。㉒数：自然而然的道理。㉓厉：同“砺”，此处是教育的意思。

## 《商君书》

### 题解：

《商君书》亦称《商君》或《商子》，旧题战国商鞅（约前390——前338）撰，实为商鞅及其后学的著作合编。书中论述了商鞅等有关政治、农桑、军事、刑法等方面的谋略主张。在政治谋略方面，商鞅等人主张，治国要将“法”、“信”、“权”三者有机地结合起来，谓“国之所以治者三：一曰法，二曰信、三曰权。法者君臣之所共操也，信者君臣之所共立也，权者君之所独制也。”认为，要治好国家，就要推行法度，并遵守信用。而推行法度和遵守信用都在于君权的运用，所以，三个要素以权柄为关键。他们还主张，治国要注意“势”与“数”（术），“势”就是国君的权力；“术”是行使权力的方法。认为，国君能够掌握“势”与“术”，就可以明见千里，官吏不敢营私舞弊，人民不敢犯法。其主要方法是利用人与人之间的利害关系，使彼此互相保证，互相监视，互相揭发，一人有罪，邻里连坐。这样，就可以把统治权集中于君主，保证其统治权力的稳定。这些谋略思想及其主张，对后世影响很大，为历代统治阶级部分采用和借鉴。

此书收入《四库全书》、《四部备要》等丛书。注本颇多，主要有麦梦华《商君评传》、严可均校《商君书》、高亨《商君书注译》等。

## 修 权

国之所以治者三：一曰法；二曰信<sup>①</sup>；三曰权。法者君臣之所共操也<sup>②</sup>。信者君臣之所共立也。权者君之所独制也。人主失守则危。君臣释法任私必乱<sup>③</sup>。故立法明分，而不以私害法，则治。权制断于君则威。民信其赏，则事功成；信其刑，则奸无端<sup>④</sup>。惟明主爱权重信，而不以私害法。故上多惠言，而不克其赏，则下不用；数加严令，而不致其刑，则民傲死<sup>⑤</sup>。凡赏者文也，刑者武也。文武者法之约也。故明主任法。明主不蔽之谓明，不欺之谓察。故赏厚而信，刑重而必，不失疏远，不违亲近<sup>⑥</sup>，故臣不蔽主，而下不欺上。

世之为治者，多释法而任私议，此国之所以乱也。先王县权衡<sup>⑦</sup>，立尺寸，而至今法之，其分明也。夫释权衡而断轻重，废尺寸而意长短<sup>⑧</sup>，虽察，商贾不用为其不必也。故法者，国之权衡也。夫倍法度而任私议<sup>⑨</sup>，皆不知类者也<sup>⑩</sup>。不以法论知、能、贤、不肖者，惟尧；而世不尽为尧。是故先王知自议誉私之不可任也<sup>⑪</sup>，故立法明分，中程者赏之<sup>⑫</sup>，毁公者诛之。赏诛之法，不失其议<sup>⑬</sup>，故民不争。授官予爵，不以其劳，则忠臣不进。行赏赋禄<sup>⑭</sup>，不称其功<sup>⑮</sup>，则战士不用。

凡人臣之事君也，多以主所好事君。君好法，则臣以法事君。君好言，则臣以言事君。君好法，则端直之士在前<sup>⑯</sup>。君好言，则毁誉之臣在侧。公私之分明，则小人不疾贤<sup>⑰</sup>，而不肖者不妬功<sup>⑱</sup>。故尧、舜之位天下也，非私天下之利也，为天下位天下也，论贤举能而传焉，非疏父子亲越人也<sup>⑲</sup>，明于治乱之道也。故三王以义亲，五霸以法正诸侯，皆非私天下之利也，为天下治天下。是故擅其名而有其功，天下乐其政而莫之能伤也。今乱世之君臣，区区然皆擅一国之利<sup>⑳</sup>，而管一官之重<sup>㉑</sup>，以便其私，此国之



所以危也。故公私之交，存亡之本也。

夫废法度而好私议，则奸臣鬻权以约禄；秩官之吏<sup>②</sup>，隐下而渔民<sup>③</sup>。谚曰：“蠹众而木折，隙大而墙坏。”故大臣争于私而不顾其民，则下离上。下离上者，国之隙也。秩官之吏隐下以渔百姓，此民之蠹也。故有隙蠹而不亡者，天下鲜矣。是故明王任法去私而国无隙蠹矣。

## 君 臣

古者未有君臣上下之时，民乱而不治。是以圣人列贵贱，制爵位，立名号，以别君臣上下之义。地广，民众，万物多，故分五官而守之。民众而奸邪生，故立法制，为度量，以禁之。是故有君臣之义、五官之分、法制之禁。不可不慎也。处君位而令不行，则危。五官分而无常，则乱。法制设而私善行，则民不畏刑。君尊则令行，官修则有常事。法制明则民畏刑，法制不明，而求民之行令也，不可得也。民不从令，而求君之尊也，虽尧、舜之知<sup>④</sup>，不能以治。明王之治天下也，缘法而治，按功而赏。凡民之所疾战不避死者<sup>⑤</sup>，以求爵禄也。明君之治国也，士有斩首捕虏之功，必其爵足荣也，禄足食也。农不离廛者，足以养二亲，治军事，故军士死节，而农民不偷也<sup>⑥</sup>。

今世君不然，释法而以知，背功而以誉。故军士不战，而农民流徙。臣闻道民之门<sup>⑦</sup>，在上所先。故民，可令农战，可令游宦，可令学问，在上所与。上以功劳与，则民战；上以《诗》、《书》与，则民学问。民之于利也，若水之于下也，四旁无择也。民徒可以得利而为之者<sup>⑧</sup>，上与之也。瞋目扼腕而语勇者得；垂衣裳而谈说者得；迟日旷久、积劳私门者得。尊向三者<sup>⑨</sup>，无功而皆可以得。民去农战而为之，或谈议而索之，或事便辟而请之<sup>⑩</sup>，或以勇争之。故农战之民日寡，而游食者愈众。则国乱而地削，兵弱而主卑。此其所以然者，释法制而任名誉也。

故明主慎法制，言不中法者，不听也；行不中法者，不高也；事不中法者，不为也。言中法，则辩之<sup>⑪</sup>；行中法，则高之；事中法，则为之。故国治而地广，兵强而主尊，此治之至也。人君者，不可不察也。

## 禁 使

人主之所以禁使者，赏罚也。赏随功，罚随罪。故论功察罪，不可不审也。夫赏高罚下<sup>⑫</sup>，而上无必知，其道也与无道同也。凡知道者，势、数也<sup>⑬</sup>。故先王不恃其强，而恃其势；不恃其信，而恃其数。今夫飞蓬遇飘风<sup>⑭</sup>，而行千里，乘风之势也。探渊者知千仞之深，县绳之数也。故托其势者，虽远必至。守其数者，虽深必得。今夫幽夜<sup>⑮</sup>，山陵之大<sup>⑯</sup>，而离娄不见；清朝日皦<sup>⑰</sup>，则上别飞鸟，下察秋毫，故目之见也，托日之势也。得势之至，不参官而洁，陈数而物当<sup>⑱</sup>。今恃多官众吏，官立丞、监，夫置丞立监者，且以禁人之为利也。而丞、监亦欲为利，则何以相禁？故恃丞、监而治者，仅存之治也。通数者不然也。别其势<sup>⑲</sup>，难其道<sup>⑳</sup>，故曰：其势难匿者，虽跖不为非焉。故先王贵势。

或曰：“人主执虚后以应<sup>㉑</sup>，则物应稽验<sup>㉒</sup>，稽验则奸得。”臣以为不然。夫吏专制决事于千里之外，十二月而计书以定<sup>㉓</sup>，事以一岁别计，而主以一听，见所疑焉，不可蔽<sup>㉔</sup>，员不足<sup>㉕</sup>。夫物至，则目不得不见，言薄<sup>㉖</sup>，则耳不得不闻。故物至则变<sup>㉗</sup>，言至则论。故治国之制，民不得避罪，如目不能以所见遁心。今乱国不然，恃多官众吏。吏虽众，事同体一也。夫事同体一者相监不可。且夫利异而害不同者，先王所以为保也。故至治、夫妻交友不能相为弃恶盖非<sup>㉘</sup>。而不害于亲，民人不能相为隐。上与吏也，事合而利异者也<sup>㉙</sup>。今夫驺虞以相监<sup>㉚</sup>，不可，事合而利异者也<sup>㉛</sup>。若使马焉能言，则驺虞无所逃其恶矣，利异也。利合

而恶同者，父不能以问子，君不能以问臣。吏之与吏，利合而恶同也。夫事合而利异者，先王之所以为端也<sup>②</sup>。民之蔽主，而不富于盖<sup>③</sup>，贤者不能益，不肖者不能损，故遗贤去知，治之数也。

#### 注释：

①信：指执行法律决不改动，即法律上的信用。②操：守。③释：舍弃。④无端：无由萌生。⑤傲死：即轻视死刑。⑥违：回避。⑦县：悬；权：秤砣；衡：秤杆。⑧意：用心猜测。⑨倍：同“背”。⑩类：事类。⑪誉私：赞扬私人。⑫中：合。程：法式，程式。⑬议：同“仪”，准则。⑭赋：给与，授予。⑮称：配。⑯端：正。⑰疾：同“嫉”。⑱妬：同“妒”。⑲越人：疏远的人。⑳区区：小。㉑管：掌握。重：指“权”。㉒秩官：常设的官。㉓隐下：隐瞒下情。渔民：侵夺百姓的财利。㉔知：同“智”。㉕疾：急。㉖廛：民居区域之称。偷：懒惰。㉗道：通“导”，引导。㉘徒：只有。㉙向：以上。㉚便辟：辟，同“嬖”，古代称宠爱的小臣为便嬖。㉛辩之：认为他的议论高明。㉜高：臣民有功为高。下：有罪为下。㉝势：是国君的权力，也就是国君所凭借的客观形势。数：即“术”，是国君驾驭群臣的方法和手段。㉞蓬：一种草本植物，叶成线形而多，根细，秋风吹，往往拔根而飞起。飘风：旋风。㉟幽夜：黑夜。㊱陵：岭。㊲黜(tuàn)：明。㊳陈数：施展手段。㊴别其势：划分开官吏的职权。㊵难其道：使官吏难以找到营私的道路。㊶虚：胸无成见。后：走在人的后边。㊷稽：考。㊸计书：向国君呈报的文件。文件中罗列事实，并加统计，所以叫做计书。㊹蔽：断。㊺员：此指物证。㊻薄：迫。㊼变：同“辩”，明。㊽弃恶：不管别人做坏事。盖非：掩盖别人的罪过。㊾事合：国君任官以办事，官吏干事以得禄。利异：国君的利益是官吏不营私舞弊，官吏的利益是自己受贿徇情。㊿驹虞：此指养马的人。①异：当为“同”字。②端：当为“保”字。③盖：当为“监”字。

## 《孟子》

#### 题解：

《孟子》为战国时期儒家学派的代表人物孟轲(约前372——前289)所著，书中记录了孟子及其弟子万章、公孙丑等人关于修身、齐家、治国、平天下的谋略思想及其主张。在政治谋略方面，他们主张治国必施“仁政”，施“仁政”就是要作到“制民之产”，使民有“恒产”；要作到使民有“恒产”，“必自经界始”，使五口之家能有“五亩之宅”、“百亩之田”，保证人们安居乐业，“养生丧死无憾”。孟子关于“仁政”的谋略思想，以重民思想为基础，他提出：“民为贵，社稷次之，君为轻”，在三者当中，“民”最为重要，“失其民者”，“失天下”；“得其民”者，“得天下”。要得其民，首先要“得其心”，必须“省刑罚，薄税敛”，“不违农时”，使“黎民不饥不寒”，“菽粟如水火，而民安有不仁者乎？”他们还主张，治国必行“王道”，不能使用“霸道”，认为“以力服人者，非心服也”，只有“以德服人”，才能使人“心悦而诚服也”。他们还主张，治国必行“先王之道”，言“义”，不言“利”。“欲为君，尽君道；欲为臣，尽臣道”，忠于职守，以身作则，共治国政。这些谋略思想及其主张，对后世影响很大。《孟子》一书亦被列为儒家经典流传下来。

《孟子》注本很多，有东汉赵岐《孟子章句》、南宋朱熹《孟子集注》、清人焦循《孟子正义》等。今有1962年中华书局铅印近人杨伯峻撰《孟子译注》以及1988年贵州人民出版社出版的《四书全译》等版本。

### 梁惠王上

孟子见梁惠王<sup>①</sup>。王曰：“叟！不远千里而来，亦将有以利吾国乎？”

孟子对曰：“王！何必曰利？亦有仁义而已矣<sup>②</sup>。王曰，‘何以利吾国？’大夫曰，‘何以利吾家？’士庶人曰，‘何以利吾身？’上下交征利

而国危矣<sup>③</sup>。万乘之国，弑其君者，必千乘之家；千乘之国，弑其君者，必百乘之家<sup>④</sup>。万取千焉，千取百焉，不为不多矣。苟为后义而先利<sup>⑤</sup>，不夺不餍<sup>⑥</sup>。未有仁而遗其亲者也<sup>⑦</sup>，未有义而后其君者也。王亦曰仁义而已矣，何必曰利？”

孟子曰：“不违农时，谷不可胜食也<sup>⑧</sup>；数罟不入洿池<sup>⑨</sup>，鱼鳖不可胜食也；斧斤以时入山林，材木不可胜用也。谷与鱼鳖不可胜食，材木不可胜用，是使民养生丧死无憾也。养生丧死无憾，王道之始也。”

“五亩之宅，树之以桑，五十者可以衣帛矣。鸡豚狗彘之畜<sup>⑩</sup>，无失其时，七十者可以食肉矣。百亩之田，勿夺其时，数口之家可以无饥矣。谨庠序之教<sup>⑪</sup>，申之以孝悌之义，颁白者不负戴于道路矣<sup>⑫</sup>。七十者衣帛食肉，黎民不饥不寒<sup>⑬</sup>，然而不王者，未之有也。”

孟子对曰：“地，方百里而可以王。王如施仁政于民，省刑罚，薄税敛，深耕易耨<sup>⑭</sup>；壮者以暇日修其孝悌忠信，人以事其父兄，出以事其长上，可使制挺以挾秦楚之坚甲利兵矣。彼夺其民时<sup>⑮</sup>，使不得耕耨以养其父母。父母冻饿，兄弟妻子离散。彼陷溺其民，王往而征之，夫谁与王敌？故曰：‘仁者无敌。’王请勿疑！”

## 公孙丑上

孟子曰：“以力假仁者霸，霸必有大国；以德行仁者王，王不待大——汤以七十里，文王以百里。以力服人者，非心服也，力不赡也<sup>⑯</sup>；以德服人者，中心悦而诚服也，如七十子之服孔子也<sup>⑰</sup>。诗云：‘自西自东，自南自北，无思不服。’此之谓也。”

## 滕文公上

滕文公问为国。

孟子曰：“民事不可缓也。《诗》云：‘昼尔

于茅<sup>⑱</sup>，宵尔索綯<sup>⑲</sup>；亟其乘屋<sup>⑳</sup>，其始播百谷。’民之为道也，有恒产者有恒心，无恒产者无恒心。苟无恒心，放辟邪侈，无不为已。及陷乎罪，然后从而刑之，是罔民也。焉有仁人在位罔民而可为也？是故贤君必恭俭礼下，取于民有制。阳虎曰：‘为富不仁矣，为仁不富矣。’……”

使毕战问井地。

孟子曰：“子之君将行仁政，选择而使子，子必勉之！夫仁政，必自经界始<sup>㉑</sup>。经界不正，井地不钧<sup>㉒</sup>，谷禄不平，是故暴君污吏必慢其经界。经界既正，分田制禄可坐而定也。”

“夫滕，壤地褊小，将为君子焉<sup>㉓</sup>，将为野人焉。无君子，莫治野人；无野人，莫养君子。请野九一而助，国中什一使自赋。卿以下必有圭田<sup>㉔</sup>，圭田五十亩；余夫二十五亩。死徙无出乡，乡田同井，出入相友，守望相助，疾病相扶持，则百姓亲睦。方里而井，井九百亩，其中为公田。八家皆私百亩，同养公田；公事毕，然后敢治私事，所以别野人也。此其大略也；若夫润泽之，则在君与子矣。”

## 离娄上

孟子曰：“离娄之明<sup>㉕</sup>、公输子之巧<sup>㉖</sup>，不以规矩，不能成方圆；师旷之聪<sup>㉗</sup>，不以六律<sup>㉘</sup>，不能正五音<sup>㉙</sup>；尧舜之道，不以仁政，不能平治天下。今有仁心仁闻而民不被其泽，不可法于后世者，不行先王之道也。故曰，徒善不足以为政，徒法不能以自行。诗云，‘不愆不忘，率由旧章<sup>㉚</sup>。’遵先王之法而过者，未之有也。圣人既竭目力焉，继之以规矩准绳，以为方圆平直，不可胜用也；既竭耳力焉，继之以六律正五音，不可胜用也；既竭心思焉，继之以不忍人之政，而仁覆天下矣。故曰，为高必因丘陵，为下必因川泽；为政不因先王之道，可谓智乎？是以惟仁者宜在高位。不仁而在高位，是播其恶

于众也。上无道揆也<sup>①</sup>，下无法守也，朝不信道，工不信度<sup>②</sup>，君子犯义，小人犯刑，国之所存者幸也。故曰，城郭不完，兵甲不多，非国之灭也；田野不辟，货财不聚，非国之害也。上无礼，下无学，贼民兴，丧无日矣。诗曰：‘天之方蹶，无然泄泄。’泄泄犹沓沓也。事君无义，进退无礼，言则非先王之道者，犹沓沓也。故曰，责难于君谓之恭，陈善闭邪谓之敬，吾君不能谓之贼。”

孟子曰：“规矩，方员之至也<sup>③</sup>；圣人，人伦之至也。欲为君，尽君道；欲为臣，尽臣道。二者皆法尧舜而已矣。不以舜之所以事尧事君，不敬其君者也；不以尧之所以治民治民，贼其民者也。孔子曰：‘道二，仁与不仁而已矣。’暴其民甚<sup>④</sup>，则身杀国亡；不甚，则身危国削，名之曰‘幽’、‘厉’<sup>⑤</sup>，虽孝子慈孙，百世不能改也。诗云：‘殷鉴不远，在夏后之世。’此之谓也。”

孟子曰：“三代之得天下也以仁，其失天下也以不仁。国之所以废兴存亡者亦然。天子不仁，不保四海；诸侯不仁，不保社稷；卿大夫不仁，不保宗庙<sup>⑥</sup>；士庶人不仁，不保四体。今恶死亡而乐不仁，是犹恶醉而强酒<sup>⑦</sup>。”

孟子曰：“爱人不亲，反其仁；治人不治，反其智；礼人不答，反其敬——行有不得者皆反求诸己，其身正而天下归之。诗云：‘永言配命，自求多福。’”

孟子曰：“人有恒言，皆曰，‘天下国家’。天下之本在国，国之本在家，家之本在身。”

孟子曰：“桀纣之失天下也，失其民也；失其民者，失其心也。得天下有道：得其民，斯得天下矣；得其民有道：得其心，斯得民矣；德其心有道：所欲与之聚之，所恶勿施，尔也。民之归仁也，犹水之就下，兽之走圯也<sup>⑧</sup>。故为渊驱鱼者，獮也；为丛驱爵者<sup>⑨</sup>，鹬也<sup>⑩</sup>；为汤武驱民者，桀与纣也。今天下之君有好仁者，则诸侯皆为之驱矣。虽欲无王，不可得已。今之欲王者，犹七年之病求三年之艾也<sup>⑪</sup>。苟为不畜，终身不得。苟不

志于仁，终身忧辱，以陷于死亡。诗云，‘其何能淑<sup>⑫</sup>，载胥及溺<sup>⑬</sup>。’此之谓也。”

## 尽心上

孟子曰：“易其田畴<sup>⑭</sup>，薄其税敛，民可使富也。食之以时，用之以礼，财不可胜用也。民非水火不生活，昏暮叩人之门户求水火，无弗与者，至足矣。圣人治天下，使有菽粟如水火。菽粟如水火，而民焉有不仁者乎？”

## 尽心下

孟子曰：“不仁而得国者，有之矣；不仁而得天下者，未之有也。”

孟子曰：“民为贵，社稷次之，君为轻。是故得乎丘民而为天子<sup>⑮</sup>，得乎天子为诸侯，得乎诸侯为大夫。诸侯危社稷，则变置，牺牲既成，粢盛既絜，祭祀以时，然而旱乾水溢，则变置社稷。”

孟子曰：“诸侯之宝三：土地，人民，政事。宝珠玉者，殃必及身。”

注释：

①梁惠王：即魏惠王。②亦：这里是“只”的意思。③交征：互相争夺。④万乘、千乘、百乘：古代用四匹马拉一辆兵车叫一乘(shèng)。诸侯国的大小根据兵车的多少来衡量，据刘向《战国策·序》说，战国末期的万乘之国有韩、赵、魏、燕、齐、楚、秦七国，千乘之国有宋、卫、中山以及东周、西周。家：是指拥有封邑的卿大夫。⑤苟：假若，如果。⑥餍(yàn)：满足。⑦遗：遗弃，抛弃。⑧不可胜食：吃不完。⑨数(shuò)：细密。罟(gǔ)：鱼网。洿(wū)：指低凹之地、池塘等，这里用以修饰“池”，引申为大而深的意思。⑩豚(tún)：小猪。彘(zhì)：猪。⑪庠序：指古代的学校。⑫颁白者：须发花白的老人。⑬黎民：老百姓。⑭耨(nòu)：锄草。⑮彼：指秦、楚。⑯贍(shàn)：充足。⑰七子：指孔子七十弟子。⑱于茅：前去割草。

①索綯：搓绳子。 ②亟：急。乘：治，修。  
 ③经界：即古代井田的界划丈量。 ④钧：与“均”通。 ⑤为：有。 ⑥圭田：供祭祀用的田。  
 ⑦离娄：相传为黄帝时人，能在百步以外看到秋毫般细微的东西。 ⑧公输子：即公输班，春秋时鲁国人，所以又叫鲁班。 ⑨师旷：春秋时晋国乐师，目盲，善弹琴，辨别能力很强。 ⑩六律：指十二律中的六个阳律，即黄钟、太簇、姑洗(xiǎn)、蕤宾、夷则和无射(yì)。  
 ⑪五音：即宫、商、角、徵(zhǐ)、羽五个音级。 ⑫不愆(qiān)不忘，率由旧章：不犯过错，不要忘却，要遵循原有的规章。  
 ⑬揆：度量，估量。 ⑭度：指法度。 ⑮至：极。此处指“标准”。 ⑯暴其民甚：对老百姓残暴苛刻太厉害。 ⑰幽：昏暗乱常；厉：暴虐嗜杀。周朝的幽王和厉王，就是因其所为而得此恶谥。  
 ⑱宗庙：这里指采邑。 ⑲恶(wù)：怕，厌；强(qiǎng)：勉强。 ⑳圯：同“旷”，指辽阔原野。  
 ㉑爵：同“雀”。 ㉒鸛(zhān)：一种猛兽。 ㉓艾：多年生草本植物，开黄色小花，可供灸病之用。  
 ㉔淑：善。 ㉕胥：互相、相与。 ㉖易：治。田畴：耕治之田。 ㉗丘：众。

## 《墨子》

### 题解：

《墨子》的作者墨翟，是墨家学派的创始人，书中记录了其治国的谋略和主张。全书分尚贤、尚同、兼爱、非攻、节用、节葬、天志、明鬼、非乐、非命等篇，本文仅节录七患、兼爱部分篇章。墨子认为，轻视国防而重宫室、不睦邻国、滥用民力、君主专断、臣下不忠、赏罚不明、国库空虚是造成国家危亡的七种祸患。他认为社会出现混乱和祸患的根源，在于人们彼此“不相爱”、损人害人以求自爱自利。因此，他主张“兼爱”，要人们都视人如己、爱人如己，相亲相爱，不受等级地位和地方区域的限制。墨子认为，“兼相爱”，可以导致“交相利”的积极效果，极力倡导“兼相爱、交相利”，并把它说成是“圣王之法，天下之治道也”，认为君主

治国，提倡“兼相爱、交相利”，就会起到移风易俗、天下安泰的作用。墨子这种“兼爱”的谋略与主张，与孔子“仁”学思想一脉相承，其内容则更加广泛，对后世产生了深远影响。

## 七 患

子墨子曰：国有七患。七患者何？城郭沟池不可守而治宫室，一患也；边国至境<sup>①</sup>，四邻莫救，二患也；先尽民力无用之功，赏赐无能之人，民力尽于无用，财宝虚于待客<sup>②</sup>，三患也；仕者持禄<sup>③</sup>，游者爱佼<sup>④</sup>，君修法讨臣，臣慑而不敢拂<sup>⑤</sup>，四患也；君自以为圣智而不问事，自以为安强而无守备，四邻谋之不知戒，五患也；所信者不忠，所忠者不信，六患也；畜种菽粟不足以食之，大臣不足以事之，赏赐不能喜，诛罚不能威，七患也。

以七患居国<sup>⑥</sup>，必无社稷；以七患守城，敌至国倾。七患之所当，国必有殃。

## 兼 爱

圣人以治天下为事者也，必知乱之所自起，焉能治之；不知乱之所自起，则不能治。譬之如医之攻人之疾者然：必知疾之所自起，焉能攻之；不知疾之所自起，则弗能攻。治乱者何独不然？必知乱之所自起，焉能治之；不知乱之所自起，则弗能治。圣人以治天下为事者也，不可不察乱之所自起。

当察乱何自起？起不相爱。臣子之不孝君父，所谓乱也。子自爱，不爱父，故亏父而自利；弟自爱，不爱兄，故亏兄而自利；臣自爱，不爱君，故亏君而自利，此所谓乱也。虽父之不慈子，兄之不慈弟，君之不慈臣，此亦天下之所谓乱也。父自爱也，不爱子，故亏子而自利；兄自爱也，不爱弟，故亏弟而自利；君自爱也，不爱臣，故亏臣而自利。是何也？皆起不相爱。

虽至天下之为盗贼者亦然：盗爱其室，不爱其异室，故窃异室以利其室。贼爱其身，不爱人，故贼人以利其身。此何也？皆起不相爱。

虽至大夫之相乱家<sup>⑦</sup>，诸侯之相攻国者亦然：大夫各爱其家，不爱异家，故乱异家以利其家。诸侯各爱其国，不爱异国，故攻异国以利其国。天下之乱物，具此而已矣。察此何自此？皆起不相爱。

若使天下兼相爱，爱人若爱其身，犹有不孝者乎？视父兄与君若其身，恶施不孝？犹有不慈者乎？视弟子与臣若其身，恶施不慈？故不孝不慈亡有<sup>⑧</sup>。犹有盗贼乎？故视人之室若其室，谁窃？视人身若其身，谁贼？故盗贼亡有。犹有大夫之相乱家，诸侯之相攻国者乎？视人家若其家，谁乱？视人国若其国，谁攻？故大夫之相乱家，诸侯之相攻国者亡有。若使天下兼相爱，国与国不相攻，家与家不相乱，盗贼无有，君臣父子皆能孝慈，若此，则天下治。

故圣人以治天下为事者，恶得不禁恶而劝爱。故天下兼相爱则治，交相恶则乱。故子墨子曰：“不可以不劝爱人者，此也。”

子墨子言曰：“仁人之所以为事者，必兴天下之利，除去天下之害，以此为事者也。”然则天下之利何也？天下之害何也？子墨子言曰：“今若国之与国之相攻，家之与家之相篡，人之与人之相贼，君臣不惠忠<sup>⑨</sup>，父子不慈孝，兄弟不调，此则天下之害也。”然则崇此害亦何用生哉？以不相爱生邪？子墨子言：“以不相爱生。”今诸侯独知爱其国，不爱人之国，是以不惮举其国以攻人之国<sup>⑩</sup>。今家主独知爱其家，而不爱人之家，是以不惮举其家以篡人之家。今人独知爱其身，不爱人之身，是以不惮举其身，以贼人之身。是故诸侯不相爱则必野战，家主不相爱则必相篡，人与人不相爱则必相贼，君臣不相爱则不惠忠，父子不相爱则不慈孝，兄弟不相爱则不调。天下之人皆不相爱，强必执弱，富必侮贫，贵必敖贱<sup>⑪</sup>，诈必欺愚<sup>⑫</sup>。

凡天下祸篡怨恨其所以起者，以不相爱生也。是以仁者非之。

既以非之，何以易之？子墨子言曰：“以兼相爱、交相利之法易之。”然则兼相爱、交相利之法将奈何哉？子墨子言：“视人之国若视其国，视人之家若视其家，视人之身若视其身。”是故诸侯相爱则不野战，家主相爱则不相篡，人与人相爱则不相贼，君臣相爱则惠忠，父子相爱则慈孝，兄弟相爱则和调。天下之人皆相爱，强不执弱，众不劫寡<sup>⑬</sup>，富不侮贫，贵不敖贱，诈不欺愚。凡天下祸篡怨恨，可使毋起者，以相爱生也，是以仁者誉之。

然而今天下之士君子曰：“然，乃若兼则善矣。虽然，天下之难物于故也<sup>⑭</sup>。”子墨子言曰：“天下之士君子特不识其利、辩其故也。今若夫攻城野战，杀身为名，此天下百姓之所皆难也。苟君说之，则士众能为之。况于兼相爱、交相利，则与此异。夫爱人者人必从而爱之，利人者人必从而利之；恶人者人必从而恶之，害人者人必从而害之。此何难之有？特上弗以为政，士不以为行故也。”

故兼者圣王之道也<sup>⑮</sup>，王公大人之所以安也，万民衣食之所以足也。故君子莫若审兼而务行之。为人君必惠，为人臣必忠，为人父必慈，为人子必孝，为人兄必友，为人弟必悌。故君子莫若欲为惠君、忠君、慈父、孝子、友兄、悌弟，当若兼之不可不行也，此圣王之道，而万民之大利也。

#### 注释：

①边：当为“敌”字之误。 ②金银财宝因招待宾客而空虚无存。 ③担任官职的人只求保持俸禄和地位。 ④游谈未仕的人只顾结交朋友，图谋个人私利。 ⑤拂：争辩切谏。 ⑥居：当为“君”字。君国：治国。 ⑦相乱家：侵夺封邑。 ⑧亡：无。 ⑨惠忠：君对臣加恩惠，臣对君尽忠诚。 ⑩不惮：不怕，肆无忌惮。举其国：动用全国的力量。 ⑪敖：通“傲”。 ⑫诈：疑为“智”字之误。 ⑬劫：强迫。 ⑭难物：难行之事。

于故：迂腐而行不通的事。⑮兼：指视人如己。

## 《韩非子》

### 题解：

《韩非子》的作者韩非（约前280——前233），是先秦法家的集大成者。书中记述了他有关以法治国的思想和主张。他在政治谋略方面，认为国家安定之术有七，国家危亡之道有六。他认为，要治好国家就要加强法制建设，加强中央集权，确立君主的权威。他认为历史上出现的危及君主地位的事件，都是因为“诸侯之博大也”。因此，他极力主张对地方诸侯及各级大臣严加控制，不让他们势力过大以避免危害中央。他还主张，人君要以尧舜为表率，人臣要以比干为楷模，善于进谏，则“上不失，下不亡”。他还认为，要治好国家，必须把“法”、“术”、“势”三者结合起来，缺一不可。这些政治谋略及其主张，对秦始皇影响很大，基本上为秦始皇所采纳，亦被后来历代统治者所采用或借鉴。

本书较好的注本有王先谦的《韩非子集解》，另有1974年上海人民出版社出版的陈奇猷校注的《韩非子集释》本。

## 爱 臣

爱臣太亲，必危其身；人臣太贵，必易主位；主妾无等，必危嫡子；兄弟不服<sup>①</sup>，必危社稷。臣闻千乘之君无备，必有百乘之臣在其侧，以徙其民而倾其国；万乘之君无备，必有千乘之家在其侧<sup>②</sup>，以徙其威而倾其国。是以奸臣蕃息，主道衰亡。是故诸侯之博大，天子之害也；群臣之太富，君主之败也。将相之管主而隆国家<sup>③</sup>，此君人者所外也<sup>④</sup>。万物莫如身之至贵也，位之至尊也，主威之重，主势之隆也，此四美者不求诸外，不请于人，议之而得之矣<sup>⑤</sup>。故曰人主不能用其富<sup>⑥</sup>，则终于外也。此君人者之所识也。

昔者纣之亡，周之卑，皆从诸侯之博大也<sup>⑦</sup>；晋之分也<sup>⑧</sup>，齐之夺也<sup>⑨</sup>，皆以群臣之太富也。夫燕、宋之所以弑其君者<sup>⑩</sup>，皆以类也。故上比之殷、周，中比之燕、宋，莫不从此术也。是故明君之蓄其臣也，尽之以法，质之以备。故不赦死，不宥刑，赦死宥刑，是谓威淫<sup>⑪</sup>，社稷将危，国家偏威<sup>⑫</sup>。是故大臣之禄虽大，不得藉威城市；党与虽众，不得臣士卒。故人臣处国无私朝，居军无私交，其府库不得私贷于家，此明君之所以禁其邪。是故不得四从<sup>⑬</sup>，不载奇兵；非传非遽<sup>⑭</sup>，载奇兵革，罪死不赦。此明君之所以备不虞者也。

## 安 危

安术有七，危道有六。

安术：一曰、赏罚随是非；二曰、祸福随善恶；三曰、死生随法度；四曰、有贤不肖而无爱恶；五曰、有愚智而无非誉；六曰、有尺寸而无意度；七曰、有信而无诈。

危道：一曰、斫削于绳之内；二曰、断割于法之外；三曰、利人之所害；四曰、乐人之所祸；五曰、危人于所安；六曰、所爱不亲，所恶不疏。如此，则人失其所以乐生，而忘其所以重死，人不乐生则人主不尊，不重死则令不行也。

使天下皆极智能于仪表，尽力于权衡，以动则胜，以静则安。治世使人乐生于为是，爱身于为非。小人少而君子多，故社稷常立，国家久安。奔车之上无仲尼，覆舟之下无伯夷。故号令者，国之舟车也。安则智廉生，危则争鄙起。故安国之法，若饥而食，寒而衣，不令而自然也。先王寄理于竹帛<sup>⑮</sup>，其道顺，故后世服。今使人去饥寒，虽责、育不能行<sup>⑯</sup>，废自然，虽顺道而不立。强勇之所不能行，则上不能安。上以无厌责，已尽，则下对无有，无有则轻法，法所以为国也而轻之，则功不立、名不成。闻古扁鹊之治其病也<sup>⑰</sup>，以刀刺骨；圣人之救危国也，以忠

拂耳。刺骨，故小痛在体而长利在身；拂耳，故小逆在心而久福在国。故甚病之人利在忍痛，猛毅之君以福拂耳。忍痛，故扁鹊尽巧；拂耳，则子胥不失；寿安之术也。病而不忍痛，则失扁鹊之巧；危而不拂耳，则失圣人之意。如此，长利不远垂，功名不久立。

人主不自刻以尧而责人臣以子胥，是幸殷人之尽如比干，尽如比干则上不失、下不亡。不权其力而有田成，而幸其身尽如比干<sup>①</sup>，故国不得一安。废尧、舜而立桀、纣，则人不得乐所长而忧所短。失所长则国家无功，守所短则民不乐生，以无功御不乐生，不可行于齐民<sup>②</sup>。如此，则上无以使下，下无以事上。

安危在是非，不在于强弱。存亡在虚实，不在于众寡。故齐、万乘也，而名实不称，上空虚于国内，不充满于名实，故臣得夺主。杀天子也，而无是非，赏于无功；使谗谀，以诈伪为贵；诛于无罪，使佞以天性剖背<sup>③</sup>；以诈伪为是，天性为非，小得胜大。

明主坚内，故不外失。失之近而不亡于远者无有。故周之夺殷也，拾遗于庭，使殷不遗于朝，则周不敢望秋毫于境，而况敢易位乎。

明主之道忠法，其法忠心，故临之而法，去之而思。尧无胶漆之约于当世而道行，舜无置锥之地于后世而德结。能立道于往古，而垂德于万世者之谓明主。

#### 注释：

①兄弟不服：指君之兄弟不相从服。 ②家：君曰国，大夫曰家。 ③管：当为营之误，即“惑”的意思。 隆国家：当为隆家。 ④所外也：当疏外斥远之。 ⑤议之而得之：意谓使宜于君臣上下而为之，则四美得矣。 ⑥富：备。 ⑦从：以，由于。 ⑧晋之分也：即韩、赵、魏三家分晋。 ⑨齐之夺也：指田氏代齐。 ⑩指子罕劫宋，子之夺燕。 ⑪淫：游，即散于外。 ⑫偏威：指国家权势偏入大臣之手。 ⑬四：与“驷”通，即驷乘。从：即从车乘。 ⑭传：驿传。 遽：传车。 ⑮理：法纪。 竹帛：图籍。 ⑯贲：孟贲，卫人，

据说能生拔牛角。 育：夏育，卫人，据说力能举千钧。 ⑰其：当为“甚”字。 ⑱此句言人主当权其臣之力，使不得为田成，不当贵其臣之身使为比干。 ⑲齐民：平民百姓。 ⑳佞：驼背人。

## 《治安策》

### 题解：

《治安策》又名《陈政事疏》，作者是西汉著名政治家贾谊。

汉高祖刘邦建立西汉之初，认为秦朝灭亡的一个重要原因，是秦朝实行郡县制，而没有实行分封制，因此，秦末大乱之时，没有诸侯拱卫中央，导致秦朝迅速灭亡。为了惩秦之弊，汉高祖刘邦认真总结了郡县制和分封制的利弊，决定在吸取秦朝郡县制的同时，部分实行分封制，先后分封了一些异姓王和同姓王。但是，这些受封的诸侯王势力不断增长，逐渐形成对中央的威胁。汉文帝时，这种威胁已经显现出来，再加上匈奴贵族不断入侵、富商大贾奢侈浪费严重破坏经济等，社会矛盾日益发展，国家出现不安定因素。贾谊为了解决当时的社会矛盾，特撰《治安策》一文，提出治国安邦之重要谋略，上奏文帝。

在《治安策》中，贾谊认真分析了当时国家形势，认为诸侯王势力的发展，成为分裂割据之隐患，他指出“天下之势，方病大瘡，一胫之大几如要（腰），一指之大几如股”，已经出现本末倒置尾大不掉之势。他认为“欲天下之治安，莫若众建诸侯而少其力。力少则易使以义，国小则亡邪心。”只有这样，才能使“海内之势，如身之使臂，臂之使指，莫不制从。”以保证中央政权的集中统一。贾谊还认为，要保证国家治安，必须加强对太子的培养教育；重视以礼治国，他认为，“礼者禁于将然之前，而法者禁于已然之后”，注意用“刑罚以惩恶”固然重要，但以“礼”“绝恶于未萌，而起教于微眇”则更有意义。贾谊所建谋略，尤其是“众建诸侯



而少其力”的措施，对后世影响很大，为汉景帝时晁错、汉武帝时主父偃所继承和发展，为历代政治家所称道。此策见于《汉书·贾谊传》，收入1976年上海人民出版社编辑出版的《贾谊集》一书中。

臣窃惟事势，可为痛哭者一，可为流涕者二，可为长太息者六。若其它背理而伤道者，难遍以疏举。进言者皆曰天下已安已治矣，臣独以为未也。曰安且治者，非愚则谀，皆非事实知治乱之体者也。夫抱火厝之积薪之下而寝其上<sup>①</sup>，火未及燃，因谓之安，方今之势，何以异此！本末舛逆，首尾衡决，国制抢攘<sup>②</sup>，非甚有纪<sup>③</sup>，胡可谓治！陛下何不壹令臣得孰数之于前，因陈治安之策，试详择焉！

夫射猎之娱，与安危之机孰急？使为治，劳智虑，苦身体，乏钟鼓之乐，勿为可也。乐与今同，而加之诸侯轨道，兵革不动，民保首领，匈奴宾服，四荒乡风，百姓素朴，狱讼衰息，大数既得，则天下顺治，海内之气清和咸理，生为明帝，没为明神，名誉之类，垂于无穷。……臣谨稽天地<sup>④</sup>，验之往古，按之当今之务，日夜念此至孰也，虽使禹舜复生，为陛下计，亡以易此。

夫树国固<sup>⑤</sup>，必相疑之势<sup>⑥</sup>，下数被其殃，上数爽其忧<sup>⑦</sup>，甚非所以安上而全下也。今或亲弟谋为东帝<sup>⑧</sup>，亲兄之子西乡而击<sup>⑨</sup>，今吴又见告矣<sup>⑩</sup>。天子春秋鼎盛，行义未过，德泽有加焉，犹尚如是，况莫大诸侯，权力且十此者乎！然而天下少安，何也？大国之王幼弱未壮，汉之所置傅、相方握其事<sup>⑪</sup>。数年之后，诸侯之王大抵皆冠<sup>⑫</sup>。血气方刚，汉之傅、相称病而赐罢，彼自丞尉以上遍置私人，如此，有异淮南、济北之为邪！此时而欲为治安，虽尧舜不治。

黄帝曰：“日中必昃<sup>⑬</sup>，操刀必割。”今令此道顺而全安，甚易；不肯早为，已乃堕骨肉之属而抗列之<sup>⑭</sup>，岂有异秦之季世乎？夫以天子之位，乘今之时，因天之助，尚憊

以危为安，以乱为治；假设陛下居齐桓之处，将不合诸侯而匡天下乎？臣又知陛下有所必不能矣。假设天下如曩时<sup>⑮</sup>，淮阴侯尚王楚<sup>⑯</sup>，黥布王淮南<sup>⑰</sup>，彭越王梁，韩信王韩，张敖王赵，贯高为相，卢绾王燕，陈豨在代，令此六七公者皆无恙，当是时而陛下即天子位，能自安乎？臣有以知陛下之不能也。天下殽乱，高皇帝与诸公并起，非有仄室之势以豫席之也<sup>⑱</sup>。诸公幸者乃为中涓<sup>⑲</sup>，其次廛得舍人<sup>⑳</sup>，材之不逮至远也。高皇帝以明圣威武即天子位，割膏腴之地以王诸公，多者百余城，少者乃三四十县，德至渥也。然其后七年之间，反者九起<sup>㉑</sup>。陛下之与诸公，非亲角材而臣之也，又非身封王之也。自高皇帝不能以是一岁为安，故臣知陛下之不能也。

然尚有可诤者，曰疏，臣请试言其亲者。假令悼惠王王齐<sup>㉒</sup>，元王王楚<sup>㉓</sup>，中子王赵<sup>㉔</sup>，幽王王淮阳<sup>㉕</sup>，共王王梁<sup>㉖</sup>，灵王王燕<sup>㉗</sup>，厉王王淮南<sup>㉘</sup>，六七贵人皆亡恙，当是时陛下即位，能为治乎？臣又知陛下之不能也。若此诸王，虽名为臣，实皆有布衣昆弟之心，虑亡不帝制而天子自为者。擅爵人，赦死罪，甚者或戴黄屋<sup>㉙</sup>，汉法令非行也。虽行，不轨如厉王者，令之不肯听，召之安可致乎！幸而来至，法安可得加！动一亲戚，天下圜视而起。陛下之臣虽有悍如冯敬者，适启其口，匕首已陷其胸矣。陛下虽贤，谁与领此？故疏者必危，亲者必乱，已然之效也。其异姓负强而动者，汉已幸胜之矣，又不易其所以然。同姓袭是迹而动，既有征矣，其势尽又复然！殃祸之变，未知所移，明帝处之尚不能以安，后世将如之何！

屠牛坦一朝解十二牛，而芒刃不顿者，所排击剥割皆众理解也<sup>㉚</sup>。至于髡髀之所<sup>㉛</sup>，非斤则斧<sup>㉜</sup>。夫仁义恩厚，人主之芒刃也；权势法制，人主之斤斧也。今诸侯王皆髡髀也，释斤斧之用，而欲婴以芒刃，臣以为不缺则折。胡不用之淮南、济北？势不可也。

臣窃迹前事，大抵强者先反。淮阴王楚，

最强，则最先反；韩信倚胡，则又反；贯高因赵资，则又反；陈豨兵精，则又反；彭越用梁，则又反；黥布用淮南，则又反；卢绾最弱，最后反。长沙乃在二万五千户耳<sup>①</sup>，功少而最完，势疏而最忠，非独性异人也，亦形势然也。曩令樊、郢、绛、灌据数十城而王<sup>②</sup>，今虽已残，亡可也。令信、越之伦列为彻侯而居，虽至今存，可也。然则天下之大计可知已。欲诸王之皆忠附，则莫若令如长沙王；欲臣子之勿蒞醢，则莫若令如樊、郢等；欲天下之治安，莫若众建诸侯而少其力。力少则易使以义，国小则亡邪心。令海内之势，如身之使臂，臂之使指，莫不制从。诸侯之君不敢有异心，辐凑并进而归命天子。虽在细民，且知其安，故天下咸知陛下之明。割地定制，令齐、赵、楚各为若干国，使悼惠王、幽王、元王之子孙毕以次各受祖之分地，地尽而止，及燕、梁他国皆然。其分地众而子孙少者，建以为国，空而置之，须其子孙生者，举使君之。诸侯之地，其削颇入汉者，为徙其侯国及封其子孙也，所以数偿之。一寸之地，一人之众，天子亡所利焉，诚以定治而已，故天下咸知陛下之廉。地制一定，宗室子孙莫虑不王，下无倍畔之心<sup>③</sup>，上无诛伐之志，故天下咸知陛下之仁。法立而不犯，令行而不逆，贯高、利几之谋不生，柴奇、开章之计不萌，细民乡善，大臣致顺，故天下咸知陛下之义。卧赤子天下之上而安<sup>④</sup>；植遗腹<sup>⑤</sup>，朝委裘<sup>⑥</sup>，而天下不乱。当时大治，后世诵圣。一动而五业附<sup>⑦</sup>，陛下谁惮而久不为此？

天下之势方病大瘡<sup>⑧</sup>。一胫之大几如要<sup>⑨</sup>，一指之大几如股，平居不可屈信<sup>⑩</sup>，一二指搐，身虑无聊。失今不治，必为锢疾，后虽有扁鹊，不能为已。病非徒瘡也，又苦臛戾<sup>⑪</sup>。元王之子，帝之从弟也，今之王者，从弟之子也；惠王之子，亲兄子也，今之王者，兄子之子也。亲者或亡分地以安天下，疏者或制大权以逼天子。臣故曰：非徒病瘡也，又苦臛戾。可痛哭者，此病是也。

夫百人作之不能衣一人，欲天下亡寒，胡可得也？一人耕之，十人聚而食之，欲天下亡饥，不可得也。饥寒切于民之肌肤，欲其亡为奸邪，不可得也。国已屈矣，盗贼直须时耳，然而献计者曰“毋动”，为大耳。夫俗至大不敬也，至亡等也，至冒上也<sup>⑫</sup>，进计者犹曰“毋为”，可为长太息者此也。

商君遗礼义<sup>⑬</sup>，弃仁恩，并心于进取，行之二岁，秦俗日败。故秦人家富子壮则出分，家贫子壮则出赘。借父耒耜，虑有德色；母取箕帚，立而谇语<sup>⑭</sup>。抱哺其子，与公并倨；妇姑不相说，则反唇而相稽<sup>⑮</sup>。其慈子奢利，不同禽兽者亡几耳。然并心而赴时，犹曰蹶六国<sup>⑯</sup>，兼天下。功成求得矣，终不知反廉愧之节，仁义之厚。信并兼之法，遂进取之业，天下大败；众掩寡，智欺愚，勇威怯，壮陵衰，其乱至矣。是以大贤起之，威震海内，德从天下。曩之为秦者，今转而为汉矣。然其遗风余俗，犹尚未改。今世以侈靡相竞，而上亡制度，弃礼谊，指廉耻，日甚，可谓月异而岁不同矣。逐利不耳，虑非顾行也，今其甚者杀父兄矣。盗者剽寝户之帘<sup>⑰</sup>，搴两庙之器，白昼大都之中剽吏而夺之金。矫伪者出几十万石粟，赋六百余万钱，乘传而行郡国，此其亡行义之尤至者也。而大臣特以簿书不报，期会之间，以为大故。至于俗流失，世坏败，因恬而不知怪，虑不动于耳目，以为是适然耳。夫移风易俗，使天下回心而乡道，类非俗吏之所能为也。俗吏之所务，在于刀笔筐篋，而不知大体。陛下又不自忧，窃为陛下惜之。

夫立君臣，筹上下，使父子有礼，六亲有纪，此非天之所为，人之所设也。夫人之所设，不为不立，不植则僵，不修则坏。《管子》曰：“礼义廉耻，是谓四维；四维不张，国乃灭亡。”使管子愚人也则可，管子而少知治体，则是岂可不为寒心哉！秦灭四维而不张，故君臣乖乱，六亲殃戮，奸人并起，万民离叛，凡十三岁而社稷为虚。今四维犹未备也，故奸人几幸，而众心疑惑。岂如今

定经制，令君君臣臣，上下有差，父子六亲各得其宜，奸人亡所几幸，而群臣众信，上不疑惑！此业壹定，世世常安，而后有所持循矣。若夫经制不定，是犹度江河而维楫，中流而遇风波，船必覆矣。可为长太息者此也。

夏为天子，十有余世，而殷受之。殷为天子，二十余世，而周受之。周为天子，三十余世，而秦受之。秦为天子，二世而亡。人性不甚相远也，何三代之君有道之长，而秦无道之暴也？其故可知也。古之王者，太子乃生，固举以礼，使士负之，有司齐肃端冕，见之南郊，见于天也。过阙则下，过庙则趋，孝子之道也。故自为赤子而教固已行矣。昔者成王幼在襁抱之中，召公为太保，周公为太傅，太公为太师。保，保其身体；傅，傅之德义；师，道之教训：此三公之职也。于是为置三少，皆上大夫也，曰少保、少傅、少师，是与太子宴者也。故乃孩提有识，三公、三少固明孝仁礼义以道习之，逐去邪人，不使见恶行。于是皆选天下之端士，孝悌博闻有道术者，以卫翼之，使与太子居处出入。故太子乃生而见正事，闻正言，行正道，左右前后皆正人也。夫习与正人居之，不能毋正，犹生长于齐不能不齐言也；习与不正人居之，不能毋不正，犹生长于楚之地不能不楚言也。故择其所善，必先受业，乃得尝之；择其所乐，必先有习，乃得为之。孔子曰：“少成若天性，习贯如自然。”及太子少长，知妃色，则入于学。学者，所学之官也。《学礼》曰：“帝入东学，上亲而贵仁，则亲疏有序而恩相及矣；帝入南学，上齿而贵信，则长幼有差而民不诬矣；帝入西学，上贤而贵德，则圣智在位而功不遗矣；帝入北学，上贵而尊爵，则贵贱有等而下不逾矣；帝入太学，承师问道，退习而考于太傅，太傅罚其不则而匡其不及，则德智长而治道得矣。此五学者既成于上，则百姓黎民化辑于下矣。”及太子既冠成人，免于保傅之严，则有记过之史，彻膳之宰，进善之旌，诽谤

之木，敢谏之鼓。瞽史诵诗<sup>①</sup>，工诵箴谏<sup>②</sup>，大夫进谋，士传民语。习与智长，故切而不愧；化与心成，故中道若性。三代之礼：春朝朝日，秋暮夕月，所以明有敬也；春秋入学，坐国老，执酱而亲馈之，所以明有孝也；行以鸾和<sup>③</sup>，步中《采齐》，趣中《肆夏》，所以明有度也；其于禽兽，见其生不食其死，闻其声不食其肉，故远庖厨，所以长恩，且明有仁也。

夫三代之所以长久者，以其辅翼太子有此具也。及秦而不然。其俗固非贵辞让也，所上者告讦也；固非贵礼义也，所上者刑罚也。使赵高傅胡亥而教之狱，所习者非斩劓人，则夷人之三族也。故胡亥今日即位而明日射人，忠谏者谓之诽谤，深计者谓之妖言，其视杀人若艾草菅然<sup>④</sup>。岂惟胡亥之性恶哉？彼其所以道之者非其理故也。

鄙谚曰：“不习为吏，视已成事。”又曰：“前车覆，后车诫。”夫三代之所以长久者，其已事可知也<sup>⑤</sup>；然而不能从者，是不法圣智也。秦世之所以亟绝者，其辙迹可见也；然而不避，是后车又将覆也。夫存亡之变，治乱之机，其要在是矣。天下之命，具于太子；太子之善，在于早谕教与选左右。夫心未滥而先谕教，则化易成也；开于道术智谊之指，则教之力也。若其服习积贯，则左右而已。夫胡、粤之人，生而同声，嗜欲不异，及其长而成俗，累数译而不能相通，行者有虽死而不相为者，则教习然也。臣故曰选左右早谕教最急。夫教得而左右正，则太子正矣，太子正而天下定矣。《书》曰：“一人有庆，兆民赖之。”此时务也。

凡人之智，能见已然，不能见将然。夫礼者禁于将然之前，而法者禁于已然之后，是故法之所用易见，而礼之所为生难知也。若夫庆赏以劝善，刑罚以惩恶，先王执此之政，坚如金石，行此之令，信如四时，据此之公，无私如天地耳，岂顾不用哉？然而曰礼云礼云者，贵绝恶于未萌，而起教于微眇，使民日迁善远罪而不自知也。孔子曰：“听

讼，吾犹人也，必也使毋讼乎！”为人主计者，莫如先审取舍；取舍之极定于内，而安危之萌应于外矣。安者非一日而安也，危者非一日而危也，皆以积渐然，不可不察也。人主之所积，在其取舍。以礼义治之者，积礼义；以刑罚治之者，积刑罚。刑罚积而民怨背，礼义积而民和亲。故世主欲民之善同，而所以使民善者或异。或道之以德教，或驱之以法令。道之以德教者，德教洽而民气乐；驱之以法令者，法令极而民风衰。哀乐之感，祸福之应也。秦王之欲尊宗庙而安子孙，与汤武同，然而汤武广大其德行，六七百岁而弗失，秦王治天下，十余岁则大败。此亡它故矣，汤武之定取舍审而秦王之定取舍不审矣。夫天下，大器也。今人之置器，置诸安处则安，置诸危处则危。天下之情与器亡以异，在天子之所置之。汤武置天下于仁义礼乐，而德泽洽，禽兽草木广裕，德被蛮貊四夷，累子孙数十世，此天下所共闻也。秦王置天下于法令刑罚，德泽亡一有，而怨毒盈于世，下憎恶之如仇讎，祸几及身，子孙诛绝，此天下之所共见也。是非其明效大验邪！人之言曰：“听言之道，必以其事观之，则言者莫敢妄言。”今或言礼谊之不如法令，教化之不如刑罚，人主胡不引殷、周、秦事以观之也？

人主之尊譬如堂，群臣如陛，众庶如地。故陛九级上，廉远地，则堂高；陛亡级，廉近地，则堂卑。高者难攀，卑者易陵，理势然也。故方者圣王制为等列，内有公、卿、大夫、士，外有公、侯、伯、子、男，然后有官师小吏，延及庶人，等级分明，而天子加焉，故其尊不可及也。里谚曰：“欲投鼠而不忌器。”此善谕也。鼠近于器，尚惮不投，恐伤其器，况于贵臣之近乎！廉耻节礼以治君子，故有赐死而亡戮辱。是以黥劓之罪不及大夫，以其离主上不远也。礼不敢齿君之路马，蹴其刍者有罚；见君之几杖则起，遭君之乘车则下，入正门则趋；君之宠臣虽有过，刑戮之罪不加其身者，尊君之故也。

此所以为主上豫远不敬也，所以体貌大臣而厉其节也。今自王侯三公之贵，皆天子之所改容而礼之也，古天子之所谓伯父、伯舅也。而令与众庶同黥、劓、髡、刖、答、骂、弃市之法，然则堂不亡陛乎？被戮辱者不泰迫乎？廉耻不行，大臣无乃握重权，大官而有徒隶亡耻之心乎？夫望夷之事，二世见当以重法者，投鼠而不忌器之习也。

臣闻之，履虽鲜不加于枕，冠虽敝不以苴履。夫尝已在贵宠之位，天子改容而体貌之矣，吏民尝俯伏以敬畏之矣，今而有过，帝令废之可也，退之可也，赐之死可也，灭之可也；若夫束缚之，系继之，输之司寇，编之徒官，司寇小吏詈骂而榜笞之，殆非所以令众庶见也。夫卑贱者习知尊贵者之一旦吾亦乃可以加此也，非所以习天下也，非尊尊贵贵之化也。夫天子之所尝敬，众庶之所尝宠，死而死耳，贱人安宜得如此而顿辱之哉！……

主上遇其大臣如遇犬马，彼将犬马自为也；如遇官徒，彼将官徒自为也。顽顿亡耻，谄谀亡节，廉耻不立，且不自好，苟若而可，故见利则逝，见便则夺。主上有败，则因而挺之矣；主上有患，则吾苟免而已，立而观之耳；有便吾身者，则欺卖而利之耳。人主将何便于此？群下至众，而主上至少也，所论财器职业者粹于群下也。俱亡耻，俱苟安，则主上最病。故古者礼不及庶人，刑不至大夫，所以厉宠臣之节也。古者大臣有坐不廉而废者，不谓不廉，曰：“簠簋不饰”；坐汙秽淫乱男女亡别者，不曰污秽，曰：“帷薄不修”；坐罢软不胜任者，不谓罢软，曰：“下官不职”。故贵大臣定有其罪矣，犹未斥然正以呼之也，尚迁就而为之讳也。故其在大谴大何之域者，闻谴何则白冠牦纓，盘水加剑，造请室而请罪耳，上不执缚系引而行也。其有中罪者，闻命而自弛，上不使人颈戾而加也。其有大罪者，闻命则北面再拜，跪而自裁，上不使捽抑而刑之也，曰：“子大夫自有过耳！吾遇子有礼矣。”遇之有礼，故群

臣自喜；嬰以廉耻，故人矜节行。上设廉耻礼义以遇其臣，而臣不以节行报其上者，则非人类也。故化成俗定，则为人臣者，主耳忘身，国耳忘家，公耳忘私。利不苟就，害不苟去，唯义所在，上之化也。故父兄之臣诚死宗庙，法度之臣诚死社稷，辅翼之臣诚死君上，守圉捍敌之臣诚死城郭封疆。故曰：“圣人有金城”者，比物此志也。彼且为我死，故吾得与之俱生；彼且为我亡，故吾得与之俱存；夫将为我危，故吾得与之皆安。顾行而忘利，守节而仗义，故可以托不御之权，可以寄六尺之孤。此厉廉耻、行礼谊之所致也，主上何丧焉！此之不为，而顾彼之久行，故曰可为长太息者此也。

#### 注释

①厝(cuò)：安置。②抢攘：不安，纷乱。③纪：理。④稽：考。⑤树国：建立诸侯国。固：强大。⑥相疑(nǐ)：指诸侯国实力膨胀，在各方面都超过中央的规定而同中央政权相比拟、相对立。疑，通“拟”。⑦爽：忧伤。⑧亲弟：指汉文帝之弟、淮南厉王刘长。⑨亲兄之子：指济北王刘兴居。⑩吴：指吴王刘濞(bì)。⑪傅：朝廷派到诸侯王国的辅佐之官。相：朝廷派到诸侯王国的最高行政长官。⑫冠：成年。古时男子二十岁举行冠礼，表示长大成人的意思。天子、诸侯则在十二岁时加冠。⑬萑(wèi)：曝晒。⑭抗头(jīng)：杀头。⑮囊(nāng)：从前。⑯淮阴侯：韩信。⑰黥布：即英布。⑱仄(zè)室：非正妻所生之子。这里指亲属。豫：通“预”，预先。席：凭借。⑲中涓：皇帝近侍官员，这里指倚重的大臣。⑳廙(jìn)：通“仅”，才。㉑九起：指黥布、彭越、韩王信、卢绾、陈稀、韩信、贯高和藏荼、利几等九人叛汉事。㉒悼惠王：汉高祖长子刘肥。㉓元王：即楚元王，高祖弟刘交。㉔中子：即赵隐王，高祖第三子刘如意。㉕幽王：即赵幽王，高祖子刘友。㉖共(gōng)王：即赵共王，高祖子刘恢。㉗灵王：即燕灵王，高祖子刘健。㉘厉王：即淮南厉王，高祖子刘长。㉙黄屋：皇帝乘的车，车盖用黄绶做里。㉚理：肌肉纹理。解：四肢关

节，骨头之间的缝隙。⑳髀(kuān)：胯骨。髀(bì)：大腿骨。㉑斤：砍刀。㉒长沙：指长沙王吴芮(ruì)。㉓樊：樊哙。郾(lì)：郾商。绛(jiàng)：绛侯周勃。灌：颍阴侯灌婴。㉔倍畔：即“背叛”。㉕赤子：初生儿。这里指年幼的皇帝。㉖植：立。遗腹：遗腹子。㉗朝(cháo)：朝拜。委裘：指已故皇帝的衣裘。㉘五业：五项功业，指上文说的明、廉、仁、义、圣。㉙疽(zhōng)：脚肿病。㉚胫：小腿。要：通“腰”。㉛信：通“伸”。㉜蹠(zhí)：脚掌。戾(lì)：扭折。㉝冒：犯。㉞商君：指商鞅。㉟谇(suì)：责让。㊱稽：计，计较。㊲蹇(jué)：此处指拔而取之。㊳剽(chuò)：割取之意。㊴瞽：无目之人。㊵工：习乐者。㊶鸾和：车铃。㊷艾(yì)：通“刈”。菅(jiān)：茅。㊸已事：已往之事。

## 《说苑》

#### 题解：

西汉刘向撰。刘向为了给统治者提供治国谋略，特采摘春秋战国至汉代传记百家所载遗文轶事，撰成此书，“奏之，欲以为法戒”。全书分为君道、臣术、建本、立节、贵德、复恩、政理、尊贤、正谏、敬慎、善说、奉使、权谋、至公、指武、谈丛、杂言、辨物、修文、反质二十类，每类前首列总论，事后多加按语。所集遗文轶事，多为历代圣贤治国策略，刘向亦间加论述，提出自己的谋略主张。谓君主治国，应该“清静无为，务在博爱，趋在任贤，广开耳目”，“王者”、“霸者”、“强者”之政，“各有所施”，刑德各有所用，认为“德者，养善而进阙者也；刑者，惩恶而禁后者也。”还认为，贤君治国应该崇尚节俭，以“爱民”为先，“其吏不苛，其赋敛节，其自奉薄，不以私善害公法，赏赐不加于无功，刑罚不施于无罪”。还要根据形势发展变化，不断变更法令。君主治国要注意反骄防满，作出表率，如果，“禁之以制而身不先行”，则“民不肯止”。若

能“与民共甘苦饥寒”，则国家就能达到大治。刘向还认为，“圣王之举事，必先谛之于谋虑”，讲究正确的“权谋之术”，对于治国大有好处。因此，此书被看成是治国经验教训之集结，从政之谋略。对后世产生了一定影响。

《说苑》一书收入《四部丛刊》、《四库全书》等丛书，1959年刘文典为之作斟补，由云南人民出版社出版，本文即选自此书。

## 君 道

晋平公问于师旷曰：“人君之道如何？”对曰：“人君之道，清静无为，务在博爱，趋在任贤，广开耳目，以察万方，不固溺于流俗，不拘系于左右，廓然远见，踔然独立，屡省考绩，以临臣下，此人君之操也。”平公曰：“善”。

齐宣王谓尹文曰：“人君之事何如？”尹文对曰：“人君之事无为而能容下，夫事寡易从，法省易因，故民不以政获罪也。大道容众，大德容下，圣人寡为而天下理矣。书曰：‘睿作圣’，诗人曰：‘岐有夷之行，子孙其保之。’”宣王曰：“善”。

成王封伯禽为鲁公，召而告之曰：“尔知为人上之道乎？凡处尊位者必以敬下，顺德规谏，必开不讳之门，蹲节安静以藉之，谏者勿振以威，毋格其言，博采其辞，乃择可观。夫有文无武，无以威下；有武无文，民畏不亲；文武俱行，威德乃成。既成威德，民亲以服，清白上通，巧佞下塞，谏者得进，忠信乃畜。”伯禽再拜受命而辞。

陈灵公行僻而言失，泄冶曰：“陈其亡矣，吾骤谏君，君不吾听，而愈失威仪。夫上之化下，犹风靡草，东风则草靡而西，西风则草靡而东，在风所由而草为之靡，是故人君之动不可不慎也。夫树曲木者恶得直影，人君不直其行，不敬其言者，未有能保帝王之号，垂显令之名者也。《易》曰：‘夫君子居其室，出其言善，则千里之外应之，况其迹者

乎？居其室，出其言不善，则千里之外违之，况其迹者乎？言出于身，加于民；行发乎迹，见乎远。言行君子之枢机，枢机之发，荣辱之至，君子之所以动天地，可不慎乎！天地动而万物变化。《诗》曰：‘慎尔出话，敬尔威仪，无不柔嘉。’此之谓也。今君不是之慎而纵恣焉，不亡必弑。”灵公闻之，以泄冶为妖言而杀之，后果弑于征舒。

河间献王曰：“尧存心于天下，加志于穷民，痛万姓之罹罪，忧众生之不遂也，有一民饥，则曰：‘此我饥之也。’有一人寒，则曰：‘此我寒之也。’一民有罪，则曰：‘此我陷之也。’仁昭而义立，德博而化广。故不赏而民劝，不罚而民治，先恕而后教，是尧道也。当舜之时，有苗氏不服，其所以不服者，大山在其南，殿山在其北，左洞庭之波，右彭蠡之川，用此险也，所以不服。禹欲伐之，舜不许，曰：‘谕教犹未竭也。’究谕教焉，而有苗氏请服。天下闻之，皆非禹之义，而归舜之德。

明主者有三惧，一曰处尊位而恐不闻其过，二曰得意而恐骄，三曰闻天下之至言而恐不能行。何以识其然也？越王勾践与吴人战，大败之，兼有九夷，当是时也，南面而立，近臣三，远臣五，令群臣曰：‘闻吾过而不告者其罪刑。’此处尊位而恐不闻其过者也。昔者晋文公与楚人战，大胜之，烧其军，火三日不灭，文公退而有忧色，侍者曰：‘君大胜楚，今有忧色，何也？’文公曰：‘吾闻能以战胜而安者，其唯圣人乎？若夫诈胜之徒，未尝不危也，吾是以忧。’此得意而恐骄也。昔齐桓公得管仲、隰朋，辩其言，说其义，正月之朝，令具太牢，进之先祖，桓公西面而立，管仲、隰朋东面而立，桓公赞曰：‘自吾得听二子之言，吾目加明，耳加聪，不敢独擅，愿荐之先祖。’此闻天下之至言，而恐不能行者也。

## 臣 术

社稷之臣，能立社稷。辨上下之宜，使得其理；制百官之序，使得其宜；作为辞令，可分布于四方。

齐侯问于晏子曰：“忠臣之事其君何若？”对曰：“有难不死，出亡不送。”君曰：“裂地而封之，疏爵而贵之，吾有难不死，出亡不送，可谓忠乎？”对曰：“言而见用，终身无难，臣何死焉；谋而见从，终身不亡，臣何送焉。若言不见用，有难而死之，是妄死也；谏而不见从，出亡而送之，是诈为也。故忠臣者能纳善于君，而不能与君陷难者也。”

## 建 本

孔子曰：君子务本，本立而道生。夫本不正者未必隋，始不盛者终必衰。诗云：原隰既平，泉流既清，本立而道生。春秋之义，有正春者无乱秋，有正君者无危国。易曰：建其本而万物理，失之毫厘，差以千里。是故君子贵建本而重立始。

魏武侯问元年于吴子，吴子对曰：言国君必慎始也，慎始奈何？曰：正之；正之奈何？曰：明智。智不明何以见正，多闻而择焉，所以明智也，是故古者君始听治，大夫而一言，士而一见，庶人有谒未达，公族请问必语，四方至者勿距，可谓不壅蔽矣。分禄必及，用刑必中，君心必仁，思民之利，除民之害，可谓不失民众矣。君身必正，近臣必选，大夫不兼官，执民柄者，不在一族，可谓不权势矣。此皆春秋之意而元年之本也。

孔子曰：行身有六本，本立焉然后为君子。立体有义矣，而孝为本；处丧有礼矣，而哀为本；战阵有队矣，而勇为本；治政有理矣，而能为本；居国有礼矣，而嗣为本；生才有时矣，而力为本。置本不固，无务丰末，亲戚不悦，无务外交；事无终始，无务

多业；闻记不言，无务多谈；比近不说，无务修远。是以反本修迩，君子之道也。

河间献王曰：管子称仓廩实，知礼节，衣食足，知荣辱。夫谷者国家所以昌炽，士女所以姣好，礼义所以行，而人心所以安也。尚书五福，以富为始。子贡问为政，孔子曰：富之，既富乃教之也。此治国之本也。

## 贵 德

圣人之于天下百姓也，其犹赤子乎？饥者则食之，寒者则衣之，将之养之，育之长之，唯恐其不至于大也。《诗》曰：蔽芾甘棠，勿剪勿伐。召伯所茇。《传》曰：自陕以东者，周公主之，自陕以西者，召公主之。召公述职，当桑蚕之时，不欲变民事，故不入邑中，舍于甘棠之下，而听断焉。陕间之人，皆得其所，是故后世思而歌咏之、善之、故言之；言之不足，故嗟叹之；嗟叹之不足，故咏歌之。夫诗思然后积，积然后满，满然后发，发由其道而致其位焉，百姓叹其美而致其敬，甘棠之不伐也，政教恶乎不行。孔子曰：吾于甘棠见宗庙之敬也甚矣。思其人必爱其树；尊其人必敬其位。顺安万物，古圣之道几哉。

## 政 理

政有三品，王者之政化之，霸者之政威之，强者之政胁之。夫此三者，各有所施，而化之为贵矣。夫化之不变，而后威之；威之不变，而后胁之；胁之不变，而后刑之。夫至于刑者，则非王者之所贵也。是以圣王先德教而后刑罚，立荣耻而明防禁，崇礼义之节以示之，贱货利之弊以变之，修近理内，政檄机之礼，壹妃匹之际，则莫不慕义礼之荣，而恶贪乱之耻，其所由致之者，化使然也。

季孙问于孔子曰：“如杀无道，以就有道，何如？”孔子曰：“子为政，焉用杀，子欲善而



民善矣。君子之德风也，小人之德草也，草上之风必偃。言明其化而已也。治国有二机，刑德是也。王者尚其德而希其刑，霸者刑德并凑，强国先其刑而后德。夫刑德者，化之所由兴也。德者，养善而进阙者也；刑者，惩恶而禁后者也。故德化之崇者至于赏，刑罚之甚者至于诛。夫诛赏者，所以别贤不肖，而列有功与无功也。故诛赏不可以缪，诛赏缪则善恶乱矣。夫有功而不赏，则善不劝；有过而不诛，则恶不惧。善不劝而能以行化乎天下者，未尝闻也。《书》曰：“毕力赏罚”，此之谓也。

水浊则鱼困，令苛则民乱，城峭则必崩，岸竦则必阤。故夫治国譬若张琴，大弦急则小弦绝矣。故曰：急警衞者，非千里御也。有声之声，不过百里；无声之声，延及四海。故禄过其功者损，名过其实者削，情行合而民副之，祸福不虚至矣。《诗》云：“何其处也，必有与也；何其久也，必有以也。”此之谓也。

武王问于太公曰：“治国之道若何？”太公对曰：“治国之道，爱民而已。”曰：“爱民若何？”曰：“利之而勿害，成之勿败，生之勿杀，与之勿夺，乐之勿苦，喜之勿怒，此治国之道，使民之义也，爱之而已矣。民失其所务，则害之也；农失其时，则败之也；有罪者重其罚，则杀之也；重赋敛者，则夺之也；多徭役以罢民力，则苦之也；劳而扰之，则怒之也。故善为国者，遇民如父母之爱子、兄之爱弟，闻其饥寒为之哀，见其劳苦为之悲。”

武王问于太公曰：“贤君治国何如？”对曰：“贤君之治国，其政乎，其吏不苛，其赋敛节，其自奉薄，不以私善害公法，赏赐不加于无功，刑罚不施于无罪，不因喜以赏，不因怒以诛，害民者有罪，进贤举过者有赏，后宫不荒，女谒不听，上无淫慝，下不阴害，不幸宫室以费财，不多观游台池以罢民，不雕文刻镂以逞耳目，官无腐蠹之藏，国无流饿之民。此贤君之治国也。”武王曰：“善哉！”

武王问于太公曰：“为国而数更法令者何

也？”太公曰：“为国而数更法令者，不法法，以其所善为法者也。故令出而乱，乱则更为法。是以其法令数更也。”

成王问政于尹逸曰：“吾何德之行而民亲其上？”对曰：“使之以时，而敬顺之；忠而爱之，布令信而不食言。”王曰：“其度安至？”对曰：“如临深渊，如履薄冰。”王曰：“惧哉？”对曰：“天地之间，四海之内，善之则畜也，不善则仇也。夏殷之臣，反仇桀纣而臣汤武，夙沙之民，自攻其主，而归神农氏，此君之所明知也，若何其无惧也。”

仲尼见宋君，宋君问仲尼曰：“吾欲长有国，吾欲列都之得，吾欲使民安不惑，吾欲使士竭其力，吾欲使日月当时，吾欲使圣人自来，吾欲使官府治，为之奈何？”仲尼对曰：“千乘之君，万乘之主，问于丘者多矣，未尝有如主君问丘之术也。然而尽可得也。丘闻之，两君相亲，则长有国；君惠臣忠，则列都之得；毋杀不辜，毋释罪人，则民不惑；益士禄赏，则竭其力；尊天敬鬼，则日月当时；善为刑罚，则圣人自来；尚贤使能，则官府治。”宋君曰：“岂有不然哉？”

子产相郑，简公谓子产曰：“内政毋出，外政毋入。夫衣裳之不美，车马之不饰，子女之不洁，寡人之丑也；国家之不治，封疆之不正，夫子之丑也。”子产相郑，终简公之身，内无国中之乱，外无诸侯之患也。子产之从政也，择能而使之。冯简子善断事，子太叔善决而文，公孙挥知四国之为，而辨于其大夫之族姓，变而立至，又善为辞令，裨谌善谋，于野则获，于邑则否，有事乃载裨谌，与之适野，使谋可否，而告冯简子断之，使公孙挥为之辞令，成乃受子太叔行之，以应对宾客，是以鲜有败事也。

魏文侯使西门豹往治于邺，告之曰：“必全功成名布义。”豹曰：“敢问全功成名布义，为之奈何？”文侯曰：“子往矣，是无邑不有贤豪辩博者也，无邑不有好扬人之恶、蔽人之善者也。往必问豪贤者，因而亲之；其辩博者因而师之。问其好扬人恶、蔽人之善者，



因而察之，不可以特闻从事。夫耳闻之，不如目见之，目见之不如足践之，足践之不如手辨之。人始入官，如入晦室，久而愈明，明乃治，治乃行。”

宓子贱治单父，弹鸣琴，身不下堂而单父治。巫马期亦治单父，以星出，以星入，日夜不处，以身亲之，而单父亦治。巫马期问其故于宓子贱，宓子贱曰：“我之谓任人，子之谓任力。任力者固劳，任人者固佚。”人曰：宓子贱则君子矣，佚四肢，全耳目，平心气，而百官治，任其数而已矣。巫马期则不然，弊性事情，劳烦教诏，虽治犹未至也。

孔子谓宓子贱曰：“子治单父而众说，语丘所以为之者？”曰：“不齐父其父，子其子，恤诸孤而哀丧纪。”孔子曰：“善，小节也。小民附矣，犹未足也。”曰：“不齐也，所父事者三人，所兄事者五人，所友者十一人。”孔子曰：“父事三人，可以教孝矣；兄事五人，可以教弟矣；友十一人，可以教学矣。中节也，中民附矣，犹未足也。”曰：“此地民有贤于不齐者五人，不齐事之，皆教不齐所以治之术。”孔子曰：“欲其大者，乃于此在矣。昔者尧舜清微其身，以听观天下，务来贤人。夫举贤者，百福之宗也，而神明之主也。不齐之所治者小也，不齐所治者大，其与尧舜继矣。”

宓子贱为单父宰，辞于夫子，夫子曰：“毋迎而距也，毋望而许也。许之则失守，距之则闭塞。譬如高山深渊，仰之不可极，度之不可测也。”子贱曰：“善，敢不承命乎！”

宓子贱为单父宰，过于阳昼，曰：“子亦有以送仆乎？”阳昼曰：“吾少也贱，不知治民之术，有钓道二焉，请以送子。”子贱曰：“钓道奈何？”阳昼曰：“夫极纶错饵，迎而吸之者阳桥也，其为鱼也薄而不美；若存若亡，若食若不食者魴也，其为鱼也博而厚味。”宓子贱曰：“善”。于是，未至单父，冠盖迎之者交接于道，子贱曰：“车驱之，车驱之，夫阳昼之所谓阳桥者至矣。”于是至单父，请其耆老尊贤者，而与之共治单父。

孔子弟子有孔蔑者，与宓子贱皆仕，孔

子往过孔蔑，问之曰：“自子之任者，何得何亡？”孔蔑曰：“自吾仕者，未有所得，而有所亡者三：曰王事若蓂，学焉得习，以是学不得明也，所亡者一也；奉禄少，鬻鬻不足及亲戚，亲戚益疏矣，所亡者二也；公事多急，不得吊死视病，是以朋友益疏矣，所亡者三也。”孔子不说，而复往见子贱曰：“自子之仕，何得何亡？”子贱曰：“自吾之仕，未有所亡，而所得者三：始诵之文，今履而行之，是学日益明也，所得者一也；奉禄虽少，鬻鬻得及亲戚，是以亲戚益亲也，所得者二也；公事虽急，夜勤吊死视病，是以朋友益亲也，所得者三也。”孔子谓子贱曰：“君子哉若人！君子哉若人！鲁无君子也，斯焉取斯。”

晏子治东阿三年，景公召而数之曰：“吾以子为可，而使子治东阿，今子治而乱，子退而自察也，寡人将加大诛于子。”晏子对曰：“臣请改道易行，而治东阿，三年不治，臣请死之。”景公许之，于是明年上计，景公迎而贺之曰：“甚善矣，子之治东阿也。”晏子对曰：“前臣之治东阿也，属托不行，货赂不至，陂池之鱼，以利贫民，当此之时，民无饥者，而君反以罪臣。今臣后之治东阿也，属托行，货赂至，并会赋敛，仓库少内，便事左右，陂池之鱼，入于权家，当此之时，饥者过半矣，君乃反迎而贺臣，愚不能复治东阿，愿乞骸骨，避贤者之路。”再拜便僻。景公乃下席而谢之曰：“子强复治东阿，东阿者子之东阿也，寡人无复与焉。”

魏文侯问李克曰：“为国如何？”对曰：“臣闻为国之道，食有劳而禄有功，使有能而赏必行，罚必当。”文侯曰：“吾赏罚皆当，而民不与，何也？”对曰：“国其有淫民乎？臣闻之曰：夺淫民之禄，以来四方之士，其父有功而禄，其子无功而食之，出则乘车马、衣美裘、以为荣华，入则修竽瑟钟石之声，而安其子女之乐，以乱乡曲之教，如此者夺其禄以来四方之士，此之谓夺淫民也。”

齐桓公问于管仲曰：“国何患？”管仲对曰：“患夫社鼠。”桓公曰：“何谓也？”管仲对

曰：“夫社束木而涂之，鼠因往托焉。熏之则恐烧其木，灌之则恐败其涂，此鼠所以不可得杀者，以社故也。夫国亦有社鼠，人主左右是也。内则蔽善恶于君上，外则卖权重于百姓，不诛之则为乱，诛之则为人主所察据腹而有之，此亦国之社鼠也。人有酤酒者，为器甚洁清，置表甚长，而酒酸不售。问之里人其故，里人云：‘公之狗猛，人挈器而入，且酤公酒，狗迎而噬之，此酒所以酸而不售之故也。’夫国亦有猛狗，用事者是也，有道术之士，欲明万乘之主，而用事者迎而斡之，此亦国之猛狗也。左右为社鼠，用事者为猛狗，则道术之士不得用矣。此治国之所患也。”

齐侯问于晏子曰：“为政何患？”对曰：“患善恶之不分。”公曰：“何以察之？”对曰：“审择左右，左右善则百僚各得其所宜，而善恶分矣。”孔子闻之曰：“此言也信矣，善言进，则不善无由入矣；不进善舍，则善亦无由入矣。”

复犒之君朝齐，桓公问治民焉。复犒之君不对，而循口操衿抑心。桓公曰：“与民共甘苦饥寒乎？夫以我为圣人也，故不用言而谕。”因礼之千金。

晋文侯问政于舅犯，舅犯对曰：分熟不如分腥，分腥不如分地，割以分民而益其爵禄，是以上得地而民知富，上失地而民知贫，古之所谓致师而战者，其此之谓也。

齐之所以不如鲁者，太公之贤不如伯禽。伯禽与太公俱受封而各之国。三年，太公来朝，周公问曰：“何治之疾也？”对曰：“尊贤，先疏后亲，先义后仁也，此霸者之术也。”周公曰：“太公之泽及五世。”五年，伯禽来朝，周公问曰：“何治之难？”对曰：“亲亲者，先内后外，先仁后义也。此王者之迹也。”周公曰：“鲁之泽及十世。故鲁有王迹者仁厚也，齐有霸迹者武政也。齐之所以不如鲁也，太公之贤不如伯禽也。”

景公好妇人而丈夫饰者，国人尽服之。公使吏禁之曰：“女子而男子饰者裂其衣，断

其带。”裂衣断带相望而不止。晏子见，公曰：“寡人使吏禁女子而男子饰者，裂其衣，断其带相望而不止者何也？”对曰：“君使服之于内，而禁之于外，犹悬牛首于门，而求买马肉也。公胡不使内勿服，则外莫敢为也。”公曰：“善。”使内勿服，不旋月而国莫之服也。

禁之以制，而身不先行也，民不肯止；故化其心莫若教也。

《春秋》曰：四民均则王道兴而百姓宁。所谓四民者，士、农、工、商也，婚姻之道废，则男女之道悖，而淫佚之路兴矣。

## 正 谏

《易》曰：“王臣蹇蹇，匪躬之故。”人臣之所以蹇蹇为难而谏其君者，非为身也，将欲以匡君之过，矫君之失也。君有过失者，危亡之萌也。见君之过失而不谏，是轻君之危亡也。夫轻君之危亡者，忠臣不忍为也。三谏而不用则去，不去则身亡，身亡者仁人所不为也。是故谏有五：一曰正谏，二曰降谏，三曰忠谏，四曰戇谏，五曰讽谏。孔子曰：吾其从讽谏矣乎！夫不谏则危君，固谏则危身，与其危君宁危身，危身而终不用，则谏亦无功矣。智者度君权时，调其缓急而处其宜，上不敢危君，下不以危身，故在国而国不危，在身而身不殆。昔陈灵公不听泄冶之谏而杀之，曹羁三谏曹君，不听而去。春秋序义虽俱贤，而曹羁合礼。

## 敬 慎

存亡祸福，其要在身。圣人重诫，敬慎所忽。《中庸》曰：莫见乎隐，莫显乎微。故君子能慎其独也。谚曰：诫无诟，思无辱。夫不诫不思，而以存身全国者，亦难矣。诗曰：战战兢兢，如临深渊，如履薄冰。此之谓也。

昔成王封周公，周公辞不受，乃封周公

子伯禽于鲁，将辞去，周公戒之曰：“去矣，子其无以鲁国骄士矣，我文王之子也，武王之弟也，今王之叔父也，又相天子，吾于天下亦不轻矣，然尝一沐而三握发，一食而三吐哺，犹恐失天下之士，吾闻之曰：德行广大而守以恭者荣，土地博裕而守以俭者安，禄位尊盛而守以卑者贵，人众兵强而守以畏者胜，聪明睿智而守以愚者益，博闻多记而守以浅者广。此六守者，皆谦德也。夫贵为天子，富有四海，不谦者失天下，亡其身，桀纣是也，可不慎乎。故《易》曰：有一道大足以守天下，中足以守国家，小足以守其身，谦之谓也。夫天道毁满而益谦，地道变满而流谦，鬼神害满而福谦，人道恶满而好谦，是以衣成则缺衽，宫成则缺隅，屋成则加错，示不成者，天道然也。《易》曰：谦亨君子有终吉。《诗》曰：汤降不迟圣敬日跻其戒之哉，子其无以鲁国骄士矣。”

桓公曰：“金刚则折，革刚则裂，人君刚则国家灭，人臣刚则交友绝。夫刚则不和，不和则不可用，是故四马不和，取道不长；父子不和，其世破亡；兄弟不和，不能久同；夫妻不和，家室大凶。《易》曰：二人同心，其利断金，由不刚也。”

石碏曰：春秋有忽然而足以亡者，国君不可以不慎也。妃妾不一足以亡，公族不亲足以亡，大臣不任足以亡，国爵不用足以亡，亲佞近谗足以亡，举百事不时足以亡，使民不节足以亡，刑罚不中足以亡，内失众心足以亡，外慢大国足以亡。

夫福生于隐约，而祸生于得意，齐顷公是也。齐顷公，桓公之子孙也，地广民众，兵强国富，又得霸者之余尊，骄蹇怠傲，未尝肯出会同诸侯，乃兴师伐鲁，反，败卫师于新筑，轻小慢大之行甚。俄而晋鲁往聘，以使者戏，二国怒归，求党以助，得卫及曹，四国相辅，期战于鞍，大败齐师，获齐顷公，斩逢丑父。于是惧然大恐，赖逢丑父之欺，奔逃得归，吊死问疾，七年不饮酒，不食肉，外金石丝竹之声，远妇女之色，出会与盟，

卑下诸侯，国家内得行义，声问震乎诸侯，所亡之地，弗求而自为来，尊宠不武而得之，可谓能谄免变化以致之。故福生于隐约，而祸生于得意，此得失之效也。

孙叔敖为楚令尹，一国吏民皆来贺，有一老父衣粗衣冠白冠后来吊。孙叔敖正衣冠而出见之，谓老父曰：“楚王不知臣不肖，使臣受吏民之垢，人尽来贺，子独后来吊，岂有说乎？”父曰：“有说。身已贵而骄人者民去之，位已高而擅权者君恶之，禄已厚而不知足者患处之。”孙叔敖再拜曰：“敬受命，愿闻余教。”父曰：“位已高而意益下，官益大而心益小，禄已厚而慎不敢取。君谨守此三者，足以治楚矣。”

高上尊贤，无以骄人，聪明圣智，无以穷人，资给疾速，无以先人，刚毅勇猛，无以胜人。不知则问，不能则学，虽智必质，然后辩之，虽能必让，然后为之。故士虽聪明圣智，自守为愚；功被天下，自守以让；勇力距世，自守以怯；富有天下，自守以廉。此所谓高而不危，满而不溢者也。

## 权 谋

圣王之举事，必先谘之于谋虑，而后考之于蓍龟，白屋之士，皆关其谋，薊莠之役，咸尽其心，故万举而无遗筹失策。《传》曰：众人之智，可以测天。兼听独断，惟在一人，此大谋之术也。谋有二端，上谋知命，其次知事，知命者预见存亡祸福之原，早知盛衰废兴之始，防事之未萌，避难于无形，若此人者，居乱世则不害于其身，在乎太平之世，则必得天下之权，彼知事者亦尚矣，见事而知得失成败之分，而究其所终极，故无败业废功。孔子曰：可与适道，未可与权也。夫非知命知事者，孰能行权谋之术？夫权谋有正有邪，君子之权谋正，小人之权谋邪。夫正者其权谋公，故其为百姓尽心也诚。彼邪者好私尚利，故其为百姓也诈。夫诈则乱，诚则平，是故尧之九臣诚而兴于朝，其四臣

诈而诛于野。诚者隆至后世，诈者当身而灭。知命知事而能于权谋者，必察诚诈之原而处以身焉。则是亦权谋之术也。夫知者举事也，满则虑溢，平则虑险，安则虑危，曲则虑直，由重其豫，惟恐不及，是以百举而不陷也。

吴王夫差破越，又将伐陈，楚大夫皆惧曰：“昔阖庐能用其众，故破我于柏举。今闻夫差又甚焉。”子西曰：“二三子恤不相睦也，无患吴矣。昔阖庐食不贰味，处不重席，择不取费。在国，天有灾，亲戚乏困而供之；在军，食熟者半而后食，其所尝者，卒乘必与焉，是以民不罢劳，死知不旷。今夫差次有台榭陂池焉，宿有妃嬪嫔御焉。一日之行，所欲必成，玩好必从，珍异是聚。夫差先自败己，焉能败我。”

## 至 公

《书》曰：“不偏不党，王道荡荡。”言至公也。占有行大公者，帝尧是也，贵为天子，富有天下，得舜而传之，不私于其子孙也。去天下若遗，于天下犹然。况其细于天下乎？非帝尧孰能行之！孔子曰：巍巍乎惟天为大，惟尧则之。《易》曰：无首吉。此盖人君之公也，夫以公与天下，其德大矣。推之于此刑之于彼，万姓之所戴，后世之所则也。彼人臣之公，治官则不营私家，在公门则不言货利，当公法则不阿亲戚，奉公举贤则不避仇讎。忠于事君，仁于利下，推之以恕道，行之以不党，伊吕是也。故显名存于今，是之谓公。《诗》云：周道如砥，其直如矢，君子所履，小人所视，此之谓也。夫公生明，偏生暗，端慝生达，诈伪生塞，诚信生神，夸诞生惑，此六者君子之所慎也，而禹桀之所以分也。《诗》云：“疾威上帝，其命多僻，言不公也。”

## 谈 丛

王者知所以临下而治众，则群臣畏服矣；知所以听言受事，则不蔽欺矣；知所以安利万民，则海内必定矣；知所以忠孝事上，则臣子之行备矣。凡所以劫杀者，不知道术以御其臣下也，凡吏胜其职则事治，事治则利生，不胜其职则事乱，事乱则害成也。

士不以利移，不为患改，孝敬忠信之事立，虽死而不悔，智而用私，不如愚而用公。故曰巧伪不如拙诚。学问不倦，所以治己也；教诲不厌，所以治人也。所以贵虚无者，得以应变而合时也。

## 杂 言

贤人君子者，通乎盛衰之时，明乎成败之端，察乎治乱之纪，审乎人情，知所去就，故虽穷不处亡国之势，虽贫不受污君之禄，是以太公年七十而不自达，孙叔敖三去相而不自悔，何则？不强合非其人也。太公一合于周，而侯七百岁；孙叔敖一合于楚，而封十世。大夫种存亡越而霸勾践，赐死于前，李斯积功于秦，而卒被五刑，尽忠忧君，危身安国，其功一也。或以封侯而不绝，或以赐死而被刑，所慕所由异也。故箕子弃国而佯狂，范蠡去越而易名，智过去君弟而更姓，皆见远识微而仁能去富势以避萌生之祸者也。夫暴乱之君，孰能离繁以役其身而与于患乎哉。故贤者非畏死避害而已也，为杀身无益，而明主之暴也，比干死纣而不能正其行，子胥死吴而不能存其国，二子者强谏而死，适足明主之暴耳，未始有益如秋毫之端也。是以贤人闭其智，塞其能，待得其人然后合。故言无不听，行无见疑，君臣两与，终身无患，今非得其时，又无其人，直私意不能已，闵世之乱，忧主之危，以无贵之身，涉蔽塞之路，经乎谗人之前，造无量之主，犯不测之罪伤其天性，岂不惑哉？故文信侯

李斯天下所谓贤也，为国计揣微射隐，所谓无过策也；战胜攻取，所谓无强敌也。积功甚大，势利甚高，贤人不用，谗人用事，自知不用，其仁不能去，制敌积功，不失秋毫，避患去害，不见丘山，积其所欲，以至其所恶，岂不为势利惑哉！诗云：人知其一，莫知其他，此之谓也。

子石登吴山而四望，喟然而叹息曰：“呜呼，悲哉！世有明于事情不合于人心者，有合于人心不明于事情者。”弟子问曰：“何谓也？”子石曰：“昔者吴王夫差不听伍子胥尽忠极谏，抉目而辜。太宰嚭公孙雒偷合苟容以顺夫差之志而伐吴，二子沉身江湖，头悬越旗。昔者费仲、恶来、飞廉革长鼻决耳，崇侯虎顺纣之心，欲以合于意，武王伐纣，四子身死牧之野，头足异所。比干尽忠，剖心而死。今欲明事情，恐有抉目剖心之祸，欲合人心恐有头足异所之患，由是观之，君子之道狭耳。诚不逢其明主，狭道之中，又将险危闭塞，无可从出者。

## 反 质

齐桓公谓管仲曰：“吾国甚小，而财用甚少，而群臣衣服舆马甚汰，吾欲禁之，可乎？”管仲曰：“臣闻之，君尝之，臣食之；君好之，臣服之。今君之食也，必桂之浆，衣练紫之衣、狐白之裘，此群臣之所奢太也。诗云：不躬不亲，庶民不信。君欲禁之，胡不自亲乎。”桓公曰：“善”。于是更制练帛之衣，大白之冠，朝一年而齐国俭也。

晋文公合诸侯而盟曰：“吾闻国之昏，不由声色，必由奸利。好乐声色者淫也，贪奸者惑也。夫淫惑之国，不亡必残。自今以来，无以美妾疑妻，无以声乐妨政，无以奸情害公，无以货利示下。其有之者，是谓伐其根素，流于华叶。若此者有患无忧，有寇勿弭，不如言者盟示之。”于是君子闻之曰：“文公其知道乎？其不王者，犹无佐也。”

## 《隆中对》

### 题解：

诸葛亮的《隆中对》，亦名《草庐对》，载于《诸葛亮集·文集》卷一，《三国志》卷三十五《蜀志·诸葛亮传》亦有所载，内容大同小异。

东汉末年，诸葛亮隐居隆中（今湖北襄阳西），建安十二年（207），刘备三顾茅庐，亲自往访，虚心向诸葛亮求教。诸葛亮见刘备一片挚诚，便推心置腹地陈述了自己的政治谋略，史称《隆中对》。

诸葛亮在《隆中对》中提出占据荆、益两州，安抚西南各族，联合孙权，整顿内政，俟机从荆、益两路北伐曹操的谋略，以图统一中国。后来刘备大体根据这个谋略，建立了蜀汉政权。《隆中对》的谋略影响十分深远。

自董卓以来，豪杰并起，跨州连郡者不可胜数。操比于袁绍，则名微而众寡，然操遂能克绍，以弱为强者，非惟天时，抑亦人谋也。今操已拥百万之众，挟天子而令诸侯，此诚不可与争锋。孙权据有江东，已历三世，国险而民附，贤能为之用，此可以为援而不可图也。荆州北据汉、沔，利尽南海，东连吴会，西通巴、蜀，此用武之国，而其主不能守，此殆天所以资将军，将军岂有意乎？益州险塞，沃野千里，天府之土，高祖因之以成帝业。刘璋暗弱，张鲁在北，民殷国富而不知存恤，智能之士思得明君。将军既帝室之胄，信义著于四海，总揽英雄，思贤如渴，若跨有荆、益，保其岩阻，西和诸戎，南抚夷越，外结好孙权，内修政理，天下有变，则命一上将将荆州之军以向宛、洛，将军身率益州之众出于秦川，百姓孰敢不箪食壶浆以迎将军者乎？诚如是，则霸业可成，汉室可兴矣。

## 《便宜十六策》

### 题解：

诸葛亮所上《便宜十六策》，收入《诸葛亮集·文集》卷三，包括治国、君臣、视听、纳言、察疑、治人、举措、考黜、治军、赏罚、喜怒、治乱、教令、斩断、思虑、阴察十六个方面，对政治、军事、用人等多所策划，谋略深远，对后世有一定影响。诸葛亮在《便宜十六策》中摆出的政治谋略，内容十分广泛，他强调，“治国之政”，“务立其本”，本立则国安；在君臣关系方面，要求“君以施下为仁，臣以事上为义”，君臣和顺，共治国政；他认为，要治好国家，执政者“务于多闻”，注意采纳“众下之谋”，“举直措诸枉”，“喜不可纵有罪，怒不可戮无辜”，“思近虑远”，“以教令为先，诛罚为后”，还要作到“先正其身，然后乃行其令。”这些治国思想及其谋略，对于诸葛亮治蜀以及给予后人以启迪和智慧，都有十分重要的意义。

### 治 国

治国之政，其犹治家。治家者务立其本，本立则末正矣。夫本者，倡始也，末者，应和也。倡始者，天地也，应和者，万物也。万物之事，非天不生，非地不长，非人不成。故人君举措应天，若北辰为之主，台辅为之臣佐，列宿为之官属，众星为之人民。是以北辰不可变改，台辅不可失度，列宿不可错缪，此天之象也。故立台榭以观天文，郊祀、逆气以配神灵，所以务天之本也；耕农、社稷，山林、川泽，祀祠祈福，所以务地之本也；庠序之礼，八佾之乐，明堂辟雍，高墙宗庙，所以务人之本也。故本者，经常之法，规矩之要。圆凿不可以方枘，铅刀不可以砍伐，此非常用之事不能成其功，非常用之器不可成其巧。故天失其常，则有逆气，地失其常，则有枯败，人失其常，则有患害。经

曰：“非先王之法服不敢服。”此之谓也。

### 君 臣

君臣之政，其犹天地之象，天地之象明，则君臣之道具矣。君以施下为仁，臣以事上为义。二心不可以事君，疑政不可以授臣。上下好礼，则民易使，上下和顺，则君臣之道具矣。君以礼使臣，臣以忠事君。君谋其政，臣谋其事。政者，正名也，事者，劝功也。君劝其政，臣劝其事，则功名之道俱立矣。是故君南面向阳，著其声响，臣北面向阴，见其形景。声响者，教令也，形景者，功效也。教令得中则功立，功立则万物蒙其福。是以三纲六纪有上中下。上者为君臣，中者为父子，下者为夫妇，各修其道，福祚至矣。君臣上下，以礼为本；父子上下，以恩为亲；夫妇上下，以和为安。上不可以不正，下不可以不端。上枉下曲，上乱下逆。故君惟其政，臣惟其事，是以明君之政修，则忠臣之事举。学者思明师，仕者思明君。故设官职之全，序爵禄之位，陈璇玑之政，建台辅之佐，私不乱公，邪不干正，此治国之道具矣。

### 视 听

视听之政，谓视微形，听细声。形微而不见，声细而不闻，故明君视微之几，听细之大，以内和外，以外和内。故为政之道，务于多闻，是以听察采纳众下之言，谋及庶士，则万物当其目，众音佐其耳。故经云：“圣人无常心，以百姓为心。”目为心视，口为心言，耳为心听，身为心安。故身之有心，若国之有君，以内和外，万物昭然。观日月之形，不足以为明，闻雷霆之声，不足以为听，故人君以多见为智，多闻为神。夫五音不闻，无以别宫商，五色不见，无以别玄黄。盖闻明君者常若昼夜，昼则公事行，夜则私事兴。或有吁嗟之怨而不得闻，或有进善之忠而不

得信。怨声不闻，则枉者不得伸，进善不纳，则忠者不得信，邪者容其奸。故书云：“天视自我民视，天听自我民听。”此之谓也。

## 纳言

纳言之政，谓为谏诤，所以采众下之谋也。故君有诤臣，父有诤子，当其不义则诤之，将顺其美，匡救其恶。恶不可顺，美不可逆；顺恶逆美，其国必危。夫人君拒谏，则忠臣不敢进其谋，而邪臣专行其政，此为国之害也。故有道之国，危言危行；无道之国，危行言孙，上无所闻，下无所说。故孔子不耻下问，周公不耻下贱，故行成名著，后世以为圣。是以屋漏在下，止之在上，上漏不止，下不可居矣。

## 察疑

察疑之政，谓察朱紫之色，别宫商之音。故红紫乱朱色，淫声疑正乐。乱生于远，疑生于惑。物有异类，形有同色。白石如玉，愚者宝之；鱼目似珠，愚者取之；狐貉似犬，愚者蓄之；栝蒔似瓜，愚者食之。故赵高指鹿为马，秦王不以为疑；范蠡贡越美女，吴王不以为惑。计疑无定事，事疑无成功。故圣人不可以意说为明，必信夫卜，占其吉凶。书曰：“三人占，必从二人之言。”而有大疑者，“谋及庶人”。故孔子云，明君之治，不患人之不己知，患不知人也。不患外不知内，惟患内不知外；不患下不知上，惟患上不知下；不患贱不知贵，惟患贵不知贱。故士为知己者死，女为悦己者容，马为策己者驰，神为通己者明。故人君决狱行刑，患其不明。或无罪被辜，或有罪蒙恕，或强者专辞，或弱者侵怨，或直者被枉，或屈者不伸，或有信而见疑，或有忠而被害，此皆招天之逆气，灾暴之患，祸乱之变。惟明君治狱案刑，问其情辞，如不虚不匿，不枉不弊，观其往来，察其进退，听其声响，瞻其看视。形惧

声哀，来疾去迟，还顾吁嗟，此怨结之情不得伸也。下瞻盗视，见怯退还，喘息却听，沈吟腹计，语言失度，来迟去速，不敢反顾，此罪人欲自免也。孔子曰：“视其所以，观其所由，察其所安，人焉廋哉！人焉廋哉！”

## 喜怒

喜怒之政，谓喜不应喜无喜之事，怒不应怒无怒之物，喜怒之间，必明其类。怒不犯无罪之人，喜不从可戮之士，喜怒之际，不可不详。喜不可纵有罪，怒不可戮无辜，喜怒之事，不可妄行。行其私而废其功，将不可发私怒，而兴战必用众心，苟合以私忿而合战，则用众必败。怒不可以复悦，喜不可以复怒，故以文为先，以武为后，先胜则必后负，先怒则必后悔，一朝之忿，而亡其身。故君子威而不猛，忿而不怒，忧而不惧，悦而不喜。可忿之事，然后加之威武，威武加则刑罚施，刑罚施则众奸塞。不加威武，则刑罚不中，刑罚不中，则众恶不理，其国亡。

## 治乱

治乱之政，谓省官并职，去文就质也。夫绵绵不绝，必有乱结，纤纤不伐，必成妖孽。夫三纲不正，六纪不理，则大乱生矣。故治国者，圆不失规，方不失矩，本不失末，为政不失其道，万事可成，其功可保。夫三军之乱，纷纷扰扰，各惟其理。明君治其纲纪，政治当有先后，先理纲，后理纪；先理令，后理罚；先理近，后理远；先理内，后理外；先理本，后理末；先理强，后理弱；先理大，后理小；先理身，后理人。是以理纲则纪张，理令则罚行，理近则远安，理内则外端，理本则末通，理强则弱伸，理大则小行，理上则下正，理身则人敬，此乃治国之道也。

## 教 令

教令之政，谓上为下教也。非法不言，非道不行，上之所为，人之所瞻也。夫释己教人，是谓逆政，正己教人，是谓顺政。故人君先正其身，然后乃行其令。身不正则令不从，令不从则生变乱。故为君之道，以教令为先，诛罚为后，不教而战，是谓弃之。先习士卒用兵之道，其法有五：一曰，使目习其旌旗指麾之变，纵横之术；二曰，使耳习闻金鼓之声，动静行止；三曰，使心习刑罚之严，爵赏之利；四曰，使手习五兵之便，斗战之备；五曰，使足习周旋走趋之列，进退之宜；故号为五教。教令军陈，各有其道。左教青龙，右教白虎，前教朱雀，后教玄武，中央轩辕，大将军之所处，左矛右戟，前盾后弩，中央旗鼓。旗动俱起，闻鼓则进，闻金则止，随其指挥，五陈乃理。正陈之法，旗鼓为之主：一鼓，举其青旗，则为直陈；二鼓，举其赤旗，则为锐陈；三鼓，举其黄旗，则为方陈；四鼓，举其白旗，则为圆陈；五鼓，举其黑旗，则为曲陈。直陈者，木陈也；锐陈者，火陈也；方陈者，土陈也；圆陈者，金陈也；曲陈者，水陈也。此五行之陈，辗转相生，冲对相胜，相生为救，相胜为战，相生为助，相胜为敌。凡结五陈之法，五五相保，五人为一长，五长为一师，五师为一枝，五枝为一火，五火为一撞，五撞为一军，则军士具矣。夫兵利之所便，务知节度。短者持矛戟，长者持弓弩，壮者持旌旗，勇者持金鼓，弱者给粮牧，智者为谋主。乡里相比，五五相保，一鼓整行，二鼓习陈，三鼓起食，四鼓严办，五鼓就行。闻鼓听金，然后举旗，出兵以次第，一鸣鼓三通，旌旗发扬，举兵先攻者赏，却退者斩，此教令也。

## 思 虑

思虑之政，谓思近虑远也。夫人无远虑，

必有近忧，故君子思不出其位。思者，正谋也，虑者，思事之计也。非其位不谋其政，非其事不虑其计。大事起于难，小事起于易。故欲思其利，必虑其害，欲思其成，必虑其败。是以九重之台，虽高必坏。故仰高者不可忽其下，瞻前者不可忽其后。是以秦穆公伐郑，二子知其害；吴王受越女，子胥知其败；虞受晋璧马，宫之奇知其害；宋襄公练兵车，目夷知其负。凡此之智，思虑之至，可谓明矣。夫随覆陈之轨，追陷溺之后，以赴其前，何及之有？故秦承霸业，不及尧、舜之道。夫危生于安，亡生于存，乱生于治。君子视微知著，见始知终，祸无从起，此思虑之政也。

## 阴 察

阴察之政，譬喻物类，以觉悟其意也。外伤则内孤，上惑则下疑；疑则亲者不用，惑则视者失度；失度则乱谋，乱谋则国危，国危则不安。是以思者虑远，远虑者安，无虑者危。富者得志，贫者失时，甚爱太费，多藏厚亡，竭财相买，无功自专，忧事众者烦，烦生于怠。船漏则水入，囊穿则内空，山小无兽，水浅无鱼，树弱无巢，墙坏屋倾，堤决水漾，疾走者仆，安行者迟，乘危者浅，履冰者惧，涉泉者溺，遇水者渡，无楫者不济，失侣者远顾，赏罚者省功，不诚者失信。唇亡齿寒，毛落皮单。阿私乱言，偏听者生患。善谋者胜，恶谋者分，善之劝恶，如春雨泽。麒麟易乘，驽骀难习。不视者盲，不听者聋。根伤则叶枯，叶枯则花落，花落则实亡。柱细则屋倾，本细则末挠，下小则上崩。不辨黑白，弃土取石，虎羊同群。衣破者补，带短者续。弄刀者伤手，打跳者伤足。洗不必江河，要之却垢；马不必骐驎，要之疾足；贤不必圣人，要之智通。总之，有五德：一曰禁暴止兵，二曰赏贤罚罪，三曰安仁和众，四曰保大定功，五曰丰饶拒谗，此之谓五德。



## 《贞观政要》

### 题解:

《贞观政要》是唐朝吴兢(670——749)编著的一部治国谋略专著,主要记载了贞观年间(627——649)唐太宗与魏征、房玄龄、杜如晦等大臣讨论治国方略的问答、大臣的诤议和奏疏,以及政治上的设施等。全书十卷,分为君道、政体、任贤、求谏、纳谏、君臣鉴戒、择官、封建、太子诸王定分、尊敬师傅、教戒太子诸王、规谏太子、仁义、忠义、孝友、公平、诚信、俭约、谦让、仁恻、慎所好、慎言语、杜谗邪、悔过、奢纵、贪鄙、崇儒、文史、礼乐、务农、刑法、赦令、贡赋、辩兴亡、征伐、安边、行幸、畋猎、灾祥、慎终四十篇。在采用分封制还是郡县制的问题上,唐太宗曾以为“周封子弟,八百余年;秦罢诸侯,二世而灭;吕后欲危刘氏,终赖宗室获安,”准备分封亲贤,“以为子孙长久之道”。李百药和马周等不同意见实行分封,他们认为,周行分封,导致“春秋二百年间,略无宁岁”;汉行分封,导致吴楚七国之乱;晋行分封,出现八王之乱,“宇县崩离”,分封制亦有其弊端,建议废除分封,“罢子弟及功臣世袭刺史”,有力地加强了中央集权。在治国手段方面,贞观君臣主张“礼”、“法”并用,认为“任法御人者,虽救弊于一时,败亡亦促,”“为国之道,必须抚之以仁义,示之以威信,因人之心,去其苛刻,不作异端,自然安静。”贞观君臣们认为,要想治好国家,“必须先存百姓,若损百姓以奉其身,犹割股以啖腹,腹饱而身毙。”“君,舟也;人,水也。水能载舟,亦能覆舟。”主张减轻对老百姓的剥削,关心人民疾苦,国家才能长治久安。贞观君臣们还认为,君主治国,“必须先正其身”,不能偏听偏信,要多听大臣们的意见,勇于纳谏。要严格执法,不能因喜赏人,因怒杀人。要防骄破满,“居安思危”;崇尚节俭,严防奢纵,

“用保其终”。贞观君臣还认为,“君臣本同治乱,共安危”,“主纳忠谏,臣进直言”,为臣者“当直辞正谏,论道佐时”,以“匡救其恶”,双方只有建立“君臣合契”的关系,共理政事,才能治好国家。贞观君臣们的这些治国谋略,对于治好国家起到了重要作用,唐朝统治出现了历史上少有的“贞观之治”。对后世也产生了极其深远的影响,为历代统治阶级所赞赏、学习和借鉴。

### 君 道

贞观初,太宗谓侍臣曰:“为君之道,必须先存百姓,若损百姓以奉其身,犹割股以啖腹,腹饱而身毙。若安天下,必须先正其身,未有身正而影曲,上治而下乱者。朕每思伤其身者不在外物,皆由嗜欲以成其祸。若耽嗜滋味,玩悦声色,所欲既多,所损亦大,既妨政事,又扰生民。且复出一非理之言,万姓为之解体,怨讟既作,离叛亦兴。朕每思此,不敢纵逸。”谏议大夫魏征对曰<sup>①</sup>:“古者圣哲之主,皆亦近取诸身,故能远体诸物。昔楚聘詹何<sup>②</sup>,问其治国之要。詹何对以修身之术。楚王又问治国何如?詹何曰:‘未闻身治而国乱者。’陛下所明,实同古义。”

贞观二年,太宗问魏征曰:“何谓为明君暗君?”征曰:“君之所以明者,兼听也;其所以暗者,偏信也。《诗》云:‘先民有言,询于刳尧<sup>③</sup>。’昔唐、虞之理<sup>④</sup>,辟四门,明四目,达四聪<sup>⑤</sup>。是以圣无不照,故共、鲧之徒,不能塞也;靖言庸回<sup>⑥</sup>,不能惑也。秦二世则隐藏其身,捐隔疎贱而偏信赵高,及天下溃叛,不得闻也。梁武帝偏信朱异,而侯景举兵向阙,竟不得知也。隋炀帝偏信虞世基,而诸贼攻城剽邑,亦不得知也。是故人君兼听纳下,则贵臣不得壅蔽,而下情必得上通也。”太宗甚善其言。

贞观十年,太宗谓侍臣曰:“帝王之业,草创与守成熟难?”尚书左仆射房玄龄对曰:“天地草昧<sup>⑦</sup>,群雄竞起,攻破乃降,战胜

乃克。由此言之，草创为难。”魏征对曰：“帝王之起，必承衰乱。覆彼昏狡，百姓乐推，四海归命，天授人与，乃不为难。然既得之后，志趣骄逸，百姓欲静而徭役不休，百姓凋残而侈务不息，国之衰弊，恒由此起<sup>⑧</sup>。以斯而言，守成则难。”太宗曰：“玄龄昔从我定天下，备尝艰苦，出万死而遇一生，所以见草创之难也。魏征与我安天下，虑生骄逸之端，必践危亡之地，所以见守成之难也。今草创之难，既已往矣，守成之难者，当思与公等慎之。”

贞观十一年，特进魏征上疏曰：<sup>⑨</sup>

臣观自古受图膺运，继体守文，控御英雄，南面临下，皆欲配厚德于天地，齐高明于日月，本支百世，传祚无穷<sup>⑩</sup>。然而克终者鲜<sup>⑪</sup>，败亡相继，其故何哉？所以求之，失其道也。殷鉴不远，可得而言。

昔在有隋，统一寰宇，甲兵强锐，三十余年，风行万里，威动殊俗。一旦举而弃之，尽为他人之有。彼炀帝岂恶天下之治安，不欲社稷之长久，故行桀虐，以就灭亡哉！恃其富强，不虞后患。驱天下以从欲，罄万物而自奉，采域中之子女，求远方之奇异。宫苑是饰，台榭是崇，徭役无时，干戈不戢。外示严重，内多险忌，谗邪者必受其福，忠正者莫保其生。上下相蒙，君臣道隔，民不堪命，率土分崩。遂以四海之尊，殒于匹夫之手，子孙殄绝<sup>⑫</sup>，为天下笑，可不痛哉！

圣哲乘机，拯其危溺，八柱倾而复正，四维弛而更张<sup>⑬</sup>。远肃迩安，不逾于期月；胜残去杀，无待于百年。今宫观台榭，尽居之矣；奇珍异物，尽收之矣；姬姜淑媛<sup>⑭</sup>，尽待于侧矣。四海九州，尽为臣妾矣。若能鉴彼之所以失，念我之所以得，日慎一日，虽休勿休，焚鹿台之宝衣，毁阿房之广殿，惧危亡于峻宇，思安处于卑宫，则神化潜通，无为而治，德之上也。若成功不毁，即仍其旧，除其不急，损之又损。杂茅茨于桂栋，参玉砌以土阶，悦以使人，不竭其力，常念居之者逸，作之者劳，亿兆悦以子来，群生

仰而遂性，德之次也。若惟圣罔念，不慎厥终，忘締构之艰难<sup>⑮</sup>，谓天命之可恃，忽采椽之恭俭，追雕墙之靡丽，因其基以广之，增其旧而饰之，触类而长，不知止足，人不见德，而劳役是闻，斯为下矣。譬之负薪救火，扬汤止沸，以暴易乱，与乱同道，莫可测也，后嗣何观！夫事无可观则人怨，人怨则神怒，神怒则灾害必生，灾害既生，则祸乱必作，祸乱既作，而能以身名全者鲜矣。顺天革命之后，将隆七百之祚，貽厥子孙，传之万叶，难得易失，可不念哉！

是月，征又上疏曰：

臣闻求木之长者，必固其根本；欲流之远者，必浚其泉源；思国之安者，必积其德义。源不深而望流之远，根不固而求木之长，德不厚而思国之理，臣虽下愚，知其不可，而况于明哲乎！人君当神器之重<sup>⑯</sup>，居域中之大，将崇极天之峻，永保无疆之休。不念居安思危，戒奢以俭，德不处其厚，情不胜其欲，斯亦伐根以求木茂，塞源而欲流长者也。

凡百元首<sup>⑰</sup>，承天景命，莫不殷忧而道著，功成而德衰。有善始者实繁，能克终者盖寡，岂取之易而守之难乎？昔取之而有余，今守之而不足，何也？夫在殷忧，必竭诚以待下；既得志，则纵情以傲物。竭诚则胡越为一体，傲物则骨肉为行路。虽董之以严刑<sup>⑱</sup>，震之以威怒，终苟免而不怀仁，貌恭而不心服。怨不在大，可畏惟人，载舟覆舟，所宜深慎，奔车朽索，其可忽乎！

君人者，诚能见可欲则思知足以自戒，将有作则思知止以安人，念高危则思谦冲而自牧，惧满溢则思江海下百川，乐盘游则思三驱以为度<sup>⑲</sup>，忧懈怠则思慎始而敬终，虑壅蔽则思虚心以纳下，想谗邪则思正身以黜恶，恩所加则思无因喜以谬赏，罚所及则思无因怒而滥刑。总此十思，弘兹九德<sup>⑳</sup>，简能而任之，择善而从之。则智者尽其谋，勇者竭其力，仁者播其惠，信者效其忠。文武争驰，君臣无事，可以尽豫游之乐<sup>㉑</sup>，可以

养松、乔之寿<sup>②</sup>，鸣琴垂拱，不言而化<sup>③</sup>。何必劳神苦思，代下司职，役聪明之耳目，亏无为之大道哉！

太宗手诏答曰：

省频抗表，诚极忠款，言穷切至。披览忘倦，每达宵分<sup>④</sup>。非公体国情深，启沃义重<sup>⑤</sup>，岂能示以良图，匡其不及。朕闻晋武帝自平吴已后，务在骄奢，不复留心治政。何曾退朝谓其子劭曰：“吾每见主上不论经国远图，但说平生常语，此非貽厥子孙者，尔身犹可以免。”指诸孙曰：“此等必遇乱死。”及孙绥，果为淫刑所戮。前史美之，以为明于先见。朕意不然，谓曾之不忠其罪大矣。夫为人臣，当进思尽忠，退思补过，将顺其美，匡救其恶，所以共为治也。曾位报台司，名器崇重，当直辞正谏，论道佐时。今乃退有后害，进无廷诤，以为明智，不亦谬乎！危而不持，焉用彼相？公之所陈，朕闻过矣。当置之几案，事等弦、韦<sup>⑥</sup>。必望收彼桑榆，期之岁暮，不使康哉良哉，独美于往日，若鱼若水，遂爽于当今。迟复嘉谋，犯而无隐。朕将虚襟静志，敬伫德者。

贞观十五年，太宗谓侍臣曰：“守天下难易？”侍中魏征对曰：“甚难。”太宗曰：“任贤能，受谏诤，即可，何谓为难？”征曰：“观自古帝王，在于忧危之间，则任贤受谏。及至安乐，必怀宽怠，言事者惟令兢惧，日陵月替，以至危亡。圣人所以居安思危，正为此也。安而能惧，岂不为难？”

## 政 体

贞观初，太宗谓萧瑀曰：“朕少好弓矢，自谓能尽其妙。近得良弓十数，以示弓工。乃曰：‘皆非良材也。’朕问其故，工曰：‘木心不正，则脉理皆邪，弓虽刚劲而遣箭不直，非良弓也。’朕始悟焉。朕以弧矢定四方，用弓多矣，而犹不得其理。况朕有天下之日浅，得为理之意，固未及于弓，弓犹失之，而况于理乎？”自是诏京官五品以上，更宿中书内

省。每召见，皆赐坐与语，询访外事，务知百姓利害，政教得失焉。

贞观二年，太宗问黄门侍郎王珪曰：“近代君臣治国，多劣于前古，何也？”对曰：“古之帝王为政，皆志尚清静，以百姓之心为心。近代则唯损百姓以适其欲，所任用大臣，复非经术之士。汉家宰相，无不精通一经，朝廷若有疑事，皆引经决定，由是人识礼教，治致太平。近代重武轻儒，或参以法律，儒行既亏，淳风大坏。”太宗深然其言。自此百官中有学业优长、兼识政体者，多进其阶品，累加迁擢焉。

贞观三年，太宗谓侍臣曰：“中书、门下，机要之司。擢才而居，委任实重。诏敕如有不稳便，皆须执论。比来惟觉阿旨顺情，唯唯苟过，遂无一言谏诤者，岂是道理？若惟署诏敕、行文书而已，人谁不堪？何烦简择，以相委付？自今诏敕疑有不稳便，必须执言，无得妄有畏惧，知而寝默。”

贞观四年，太宗问萧瑀曰：“隋文帝何如主也？”对曰：“克己复礼，勤劳思政，每一坐朝，或至日昃，五品已上，引坐论事，宿卫之士，传餐而食，虽性非仁明，亦是励精之主。”太宗曰：“公知其一，未知其二。此人性至察而心不明。夫心暗则照有不通，至察则多疑于物。又欺孤儿寡妇以得天下<sup>⑦</sup>，恒恐群臣内怀不服，不肯信任百司，每事皆自决断，虽则劳神苦形，未能尽合于理。朝臣既知其意，亦不敢直言。宰相以下，惟即承顺而已。朕意则不然，以天下之广，四海之众，千端万绪，须合变通，皆委百司商量，宰相筹画，于事稳便，方可奏行。岂得以一日万机，独断一人之虑也。且日断十事，五条不中，中者信善，其如不中者何？以日继月，乃至累年，乖谬既多，不亡何待？岂如广任贤良，高居深视，法令严肃，谁敢为非？”因令诸司，若诏敕颁下有未稳便者，必须执奏，不得顺旨便即施行，务尽臣下之意。

贞观六年，太宗谓侍臣曰：“看古之帝王，有兴有衰，犹朝之有暮，皆为蔽其耳目，不

知时政得失，忠正者不言，邪谄者日进，既没见过，所以至于灭亡。朕既在九重，不能尽见天下事，故布之卿等，以为朕之耳目。莫以天下无事，四海安宁，便不存意。可爱非君，可畏非民。天子者，有道则人推而为主，无道则人弃而不用，诚可畏也。”魏征对曰：“自古失国之主，皆为居安忘危，处治忘乱，所以不能长久。今陛下富有四海，内外清晏，能留心治道，常临深履薄，国家历数，自然灵长。臣又闻古语云：‘君，舟也；人，水也。水能载舟，亦能覆舟。’陛下以为可畏，诚如圣旨。”

贞观六年，太宗谓侍臣曰：“古人云：‘危而不持，颠而不扶，焉用彼相？’君臣之义，得不尽忠匡救乎？朕尝读书，见桀杀关龙逢，汉诛晁错，未尝不废书叹息。公等但能正词直谏，裨益政教，终不以犯颜忤旨，妄有诛责。朕比来临朝断决，亦有乖于律令者。公等以为小事，遂不执言。凡大事皆起于小事，小事不论，大事又将不可救。社稷倾危，莫不由此。隋主残暴，身死匹夫之手，率土苍生，罕闻嗟痛。公等为朕思隋氏灭亡之事，朕为公等思龙逢、晁错之诛，君臣保全，岂不美哉！”

贞观八年，太宗谓侍臣曰：“隋时百姓纵有财物，岂得保此？自朕有天下已来，存心抚养，无有所科差，人人皆得营生，守其资财，即朕所赐。向使朕科唤不已，虽数资赏赐，亦不如不得。”魏征对曰：“尧、舜在上，百姓亦云‘耕田而食，凿井而饮’，含哺鼓腹，而云‘帝何力’于其间矣<sup>②8</sup>。今陛下如此含养，百姓可谓日用而不知。”又奏称：“晋文公出田，逐兽于场，入大泽，迷不知所出。其中有渔者，文公谓曰：‘我，若君也，道将安出？我且厚赐若。’渔者曰：‘臣愿有献。’文公曰：‘出泽而受之。’于是送出泽。文公曰：‘今子之所欲教寡人者，何也？愿受之。’渔者曰：‘鸿鹄保河海，厌而徙之小泽，则有矰丸之忧<sup>②9</sup>。鼃鼃保深渊，厌而出之浅渚，必有钓射之忧。今君出兽场，入至此，何行之太远

也？’文公曰：‘善哉！’谓从者记渔者名。渔者曰：‘君何以名？君尊天事地，敬社稷，保四国，慈爱万民，薄赋敛，轻租税，臣亦与焉。君不尊天，不事地，不敬社稷，不固四海，外失礼于诸侯，内逆民心，一国流亡，渔者虽有厚赐，不得保也。’遂辞不受。”太宗曰：“卿言是也。”

贞观九年，太宗谓侍臣曰：“往昔初平京师，宫中美女珍玩，无院不满。炀帝意犹不足，征求无已，兼东西征讨，穷兵黩武，百姓不堪，遂致亡灭。此皆朕所目见。故夙夜孜孜，惟欲清静，使天下无事。遂得徭役不兴，年谷丰稔，百姓安乐。夫治国犹如栽树，本根不摇，则枝叶茂荣。君能清静，百姓何得不安乐乎？”

太宗自即位之始，霜旱为灾，米谷踊贵，突厥侵扰，州县骚然。帝志在忧人，锐精为政，崇尚节俭，大布恩德。是时，自京师及河东、河南、陇右，饥馑尤甚，一匹绢才得一斗米。百姓虽东西逐食，未尝嗟怨，莫不自安。至贞观三年，关中丰熟，咸自归乡，竟无一人逃散。其得人心如此。加以从谏如流，雅好儒术，孜孜求士，务在择官，改革旧弊，兴复制度，每因一事，触类为善。初，息隐、海陵之党<sup>③0</sup>，同谋害太宗者数百千人，事宁，复引居左右近侍，心术豁然，不有疑阻。时论以为能断决大事，得帝王之体。深恶官吏贪浊，有枉法受财者，必无赦免。在京流外有犯赃者，皆遣执奏，随其所犯，置以重法。由是官吏多自清谨。制驭王公、妃主之家，大姓豪猾之伍，皆畏威屏迹，无敢侵欺细人。商旅野次，无复盗贼，圉圉常空，马牛布野，外户不闭。又频致丰稔，米斗三四钱，行旅自京师至于岭表，自山东至于沧海，皆不赍粮，取给于路。入山东村落，行客经过者，必厚加供待，或发时有赠遗。此皆古昔未有也。

## 求 谏

太宗威容俨肃，百僚进见者，皆失其举措。太宗知其若此，每见人奏事，必假颜色，冀闻谏诤，知政教得失。贞观初，尝谓公卿曰：“人欲自照，必须明镜；主欲知过，必藉忠臣。主若自贤，臣不匡正，欲不危败，岂可得乎？故君失其国，臣亦不能独全其家。至于隋炀帝暴虐，臣下钳口，卒令不闻其过，遂至灭亡，虞世基等，寻亦诛死。前事不远，公等每看事有不利于人，必须极言规谏。”

贞观元年，太宗谓侍臣曰：“正主任邪臣，不能致理；正臣事邪主，亦不能致理。惟君臣相遇，有同鱼水，则海内可安。朕虽不明，幸诸公数相匡救，冀凭直言鲠议，致天下太平。”谏议大夫王珪对曰：“臣闻木从绳则正，后从谏则圣。是故古者圣主必有争臣七人，言而不用，则相继以死。陛下开圣虑，纳刍蕘，愚臣处不讳之朝，实愿罄其狂瞽。”太宗称善，诏令自是宰相入内平章国计，必使谏官随入，预闻政事。有所开说，必虚己纳之。

贞观二年，太宗谓侍臣曰：“明主思短而益善，暗主护短而永愚。”……太宗曰：“……人君必须忠良辅弼，乃得身安国宁。炀帝岂不以下无忠臣，身不闻过，恶积祸盈，灭亡斯及。若人主所行不当，臣下又无匡谏，苟在阿顺，事皆称美，则君为暗主，臣为谀臣，君暗臣谀，危亡不远。朕今志在君臣上下，各尽至公，共相切磋，以成治道。公等各宜务尽忠说，匡救朕恶，终不以直言忤意，辄相责怒。”

贞观五年，太宗谓房玄龄等曰：“自古帝王多任情喜怒，喜则滥赏无功，怒则滥杀无罪。是以天下丧乱，莫不由此。朕今夙夜未尝不以此为心，恒欲公等尽情极谏。公等亦须受人谏语，岂得以人言不同己意，便即护短不纳？若不能受谏，安能谏人？”

贞观十七年，太宗问谏议大夫褚遂良曰：“昔舜造漆器，禹雕其俎<sup>①</sup>，当时谏者十有

余人。食器之间，何须苦谏？”遂良对曰：“雕琢害农事，纂组伤女工。首创奢淫，危亡之渐。漆器不已，必金为之。金器不已，必玉为之。所以诤臣必谏其渐，及其满盈，无所复谏。”太宗曰：“卿言是矣，朕所为事，若有不当，或在其渐，或已将终，皆宜进谏。比见前史，或有人臣谏事，遂答云‘业已为之’，或道‘业已许之’，竟不为停改。此则危亡之祸，可反手而待也。”

## 纳 谏

贞观八年，陕县丞皇甫德参上书忤旨，太宗以为訕谤。侍中魏征进言曰：“昔贾谊当汉文帝上书云云‘可为痛哭者一，可为长叹息者六。’自古上书，率多激切。若不激切，则不能起人主之心。激切即似訕谤，惟陛下详其可否。”太宗曰：“非公无能道此者。”令赐德参帛二十段。

## 君臣鉴戒

贞观十四年，特进魏征上疏曰：

臣闻君为元首，臣作股肱，齐契同心，合而成体，体或不备，未有成人。然则首虽尊高，必资手足以成体，君虽明哲，必藉股肱以致治。《礼》云：“民以君为心，君以民为体，心庄则体舒，心肃则容敬。”《书》云：“元首明哉，股肱良哉，庶事康哉。”“元首丛脞哉，股肱惰哉，万事堕哉。”然则委弃股肱，独任胸臆，具体成理，非所闻也。

夫君臣相遇，自古为难，以石投水，千载一合，以水投石，无时不有。其能开至公之道，申天下之用，内尽心膂，外竭股肱，和若盐梅，固同金石者，非惟高位厚秩，在于礼之而已。……孟子曰：“君视臣如手足，臣视君如腹心；君视臣如犬马，臣视君如国人；君视臣如粪土，臣视君如寇仇。”虽臣之事君无二志，至于去就之节，当缘恩之厚薄，然则为人主者，安可以无礼于下哉！

窃观在朝群臣，当主枢机之寄者，或地邻秦、晋，或业与经纶，并立事立功，皆一时之选，处之衡轴，为任重矣。任之虽重，信之未笃，则人或自疑。人或自疑，则心怀苟且。心怀苟且，则节义不立。节义不立，则名教不兴。名教不兴，而可与固太平之基，保七百之祚，未之有也。又闻国家重惜功臣，不念旧恶，方之前圣，一无所间。然但宽于大事，急于小罪，临时责怒，未免爱憎之心，不可以为政。君严其禁，臣或犯之，况上启其源，下必有甚，川壅而溃，其伤必多，欲使凡百黎元，何所措其手足！此则君开一源，下生百端之变，无不乱者也。《礼记》曰：“爱而知其恶，憎而知其善。”若憎而不知其善，则为善者必惧。爱而不知其恶，则为恶者实繁。《诗》曰：“君子如怒，乱庶遄沮。”然则古人之震怒，将以惩恶，当今之威罚，所以长奸，此非唐、虞之心也，非禹、汤之事也。《书》曰：“抚我则后，虐我则仇。”荀卿子曰：“君，舟也。民，水也。水所以载舟，亦所以覆舟。”故孔子曰：“鱼失水则死，水失鱼犹为水也。”故唐、虞战战栗栗，日慎一日。安可不深思之乎？安可不熟虑之乎？

夫委大臣以大体，责小臣以小事，为国之常也，为治之道也。今委之以职，则重大臣而轻小臣；至于有事，则信小臣而疑大臣。信其所轻，疑其所重，将求至治岂可得乎？又政贵有恒，不求屡易。今或责小臣以大体，或责大臣以小事，小臣乘非所据，大臣失其所守，大臣或以小过获罪，小臣或以大体受罚。职非其位，罚非其辜，欲其无私，求其尽力，不亦难乎？小臣不可委以大事，大臣不可责以小罪。任以大官，求其细过，刀笔之吏，顺旨承风，舞文弄法，曲成其罪。自陈也，则以为心不伏辜；不言也，则以为所犯皆实。进退惟谷，莫能自明，则苟求免祸。大臣苟免，则谄诈萌生。谄诈萌生，则矫伪成俗。矫伪成俗，则不可以臻至治矣！

又委任大臣，欲其尽力，每官有所避忌不言，则为不尽。若举得其人，何嫌于故旧。

若举非其任，何贵于疏远。待之不尽诚信，何以责其忠恕哉！臣虽或有失之，君亦未为得也。夫上之不信于下，必以为下无可信矣。若必下无可信，则上亦有可疑矣！《礼》曰：“上人疑，则百姓惑。下难知，则君长劳。”上下相疑，则不可以言至治矣。当今群臣之内，远在一方，流言三至而不投杼者<sup>③</sup>，臣窃思度，未见其人。夫以四海之广，士庶之众，岂无一二可信之人哉？盖信之则无不可，疑之则无可信者，岂独臣之过乎？夫以一介庸夫结为交友，以身相许，死且不渝，况君臣契合，寄同鱼水。若君为尧、舜，臣为稷、契，岂有遇小事则变志，见小利则易心哉！此虽下之立忠未有明著，亦由上怀不信，待之过薄之所致也。岂君使臣以礼，臣事君以忠乎？以陛下之圣明，以当今之功业，诚能博求时俊，上下同心，则三皇可追而四，五帝可俯而六矣。夏、殷、周、汉，夫何足数。

贞观十七年，太宗谓侍臣曰：“自古草创之主，至于子孙多乱，何也？”司空房玄龄曰：“此为幼主生长深宫，少居富贵，未尝识人间情伪，治国安危，所以为政多乱。”太宗曰：“公意推过于主，朕则归咎于臣。夫功臣子弟多无才行，藉祖父资荫遂处大官，德义不修，奢纵是好。主既幼弱，臣又不才，颠而不扶，岂能无乱？隋炀帝录宇文述在藩之功，擢化及于高位，不思报效，翻行弑逆。此非臣下之过欤？朕发此言，欲公等戒勸子弟，使无愆过，即家国之庆也。”太宗又曰：“化及与玄感，即隋大臣受恩深者子孙，皆反，其故何也？”岑文本对曰：“君子乃能怀德荷恩，玄感、化及之徒，并小人也。古人所以贵君子而贱小人。”太宗曰：“然”。

## 封建

贞观十一年，太宗以周封子弟，八百余年，秦罢诸侯，二世而灭，吕后欲危刘氏，终赖宗室获安，封建亲贤，当是子孙长久之

道。乃定制，以子弟荆州都督荆王元景、安州都督吴王恪等二十一人，又以功臣司空赵州刺史长孙无忌、尚书左仆射宋州刺史房玄龄等一十四人，并为世袭刺史。礼部侍郎李百药奏论驳世封事曰：

臣闻经国庇民，王者之常制；尊主安上，人情之大方。思阐治定之规，以弘长世之业，万古不易，百虑同归。然命历有賒促之殊，邦家有治乱之异。遐观载籍，论之详矣。咸云周过其数<sup>③</sup>，秦不及期<sup>④</sup>，存亡之理，在于郡国。周氏以鉴夏、殷之长久，遵皇王之并建，维城盘石，深根固本，虽王纲弛废，而枝干相持，故使逆节不生，宗祀不绝。秦氏背师古之训，弃先王之道，践华恃险，罢侯置守，子弟无尺土之邑，兆庶罕共治之忧，故一夫号呼而七属隳圯。……

然则得失成败，各有由焉。而著述之家，多守常辙，莫不情忘今古，理蔽浇淳，欲以百王之季，行三代之法，天下五服之内，尽封诸侯，王畿千里之间，俱为采地。是则以结绳之化行虞、夏之朝，用象形之典治刘、曹之末，纪纲弛紊，断可知焉。楔船求剑，未见其可；胶柱成文，弥多所惑。徒知问鼎请隧，有惧霸王之师；白马素车，无复藩维之援。不悟望夷之畔<sup>⑤</sup>，未堪羿、浞之灾<sup>⑥</sup>；既罹高贵之殃<sup>⑦</sup>，宁异申、缙之酷<sup>⑧</sup>。此乃钦明昏乱，自革安危，固非守宰公侯，以成兴废。且数世之后，王室浸微，始自藩屏，化为仇敌。家殊俗，国异政，强陵弱，众暴寡，疆场彼此，干戈侵伐。狐骀之役，女子尽鬻<sup>⑨</sup>；崤陵之师，支轮不反<sup>⑩</sup>。斯盖略举一隅，其余不可胜数。陆士衡方规规然云<sup>⑪</sup>：“嗣王委其九鼎，凶族据其天邑<sup>⑫</sup>，天下晏然，以治待乱。”何斯言之谬也！而设官分职，任贤使能，以循良之才，膺共治之寄，刺举分竹，何世无人。至使地或呈祥，天不爱宝，民称父母，政比神明。曹元首方区区然称<sup>⑬</sup>：“与人共其乐者人必忧其忧，与人同其安者人必拯其危。”岂容以为侯伯则同其安危，任之牧宰则殊其忧乐？何斯言之妄也！

封君列国，藉其门资，忘其先业之艰难，轻其自然之崇贵，莫不世增淫虐，代益骄侈。离宫别馆，切汉凌云，或刑人力而将尽，或召诸侯而共乐。陈灵则君臣悖礼，共侮征舒<sup>⑭</sup>；卫宣则父子聚麀，终诛寿、朔<sup>⑮</sup>。乃云为己思治，岂若是乎？内外群官，选自朝廷，擢士庶以任之，澄水镜以鉴之，年劳优其阶品，考绩明其黜陟。进取事切，砥砺情深，或俸禄不入私门<sup>⑯</sup>，妻子不之官舍<sup>⑰</sup>。班条之贵，食不举火<sup>⑱</sup>；剖符之重，居惟饮水<sup>⑲</sup>。南阳太守，弊布裹身<sup>⑳</sup>；莱芜县长，凝尘生甑<sup>㉑</sup>。专云为利图物，何其爽欤！总而言之，爵非世及，用贤之路斯广；民无定主，附下之情不固。此乃愚智所辨，安可惑哉？至如灭国弑君，乱常干纪，春秋二百年间，略无宁岁。次睢咸秩，遂用玉帛之君；鲁道有荡，每等衣裳之会。纵使西汉哀、平之际，东洛桓、灵之时，下吏淫暴，必不至此。为政之理，可以一言蔽焉。

伏惟陛下握纪御天，膺期启圣，救亿兆之焚溺，扫氛祲于寰区。创业垂统，配二仪以立德；发号施令，妙万物而为言。独照神衷，永怀前古。将复五军而修旧制，建万国以亲诸侯。窃以汉、魏以还，余风之弊未尽；勋、华既往，至公之道斯乖。况晋氏失驭，宇县崩离；后魏乘时，华夷杂处。重以关河分阻，吴、楚悬隔，习文者学长短纵横之术，习武者尽干戈战争之心，毕为狙诈之阶，弥长浇浮之俗。开皇在运<sup>㉒</sup>，因藉外家。驱御群英，任雄猜之数；坐移明运，非克定之功。年逾二纪，民不见德。及大业嗣立<sup>㉓</sup>，世道交丧，一时人物，扫地将尽。虽天纵神武，削平寇虐，兵威不息，劳止未康。……

中书舍人马周又上疏曰：

伏见诏书令宗室勋贤作镇藩部，貽厥子孙，嗣守其政，非有大故，无或黜免。臣窃惟陛下封植之者，诚爱之重之，欲其绪裔承守，与国无疆。何则？以尧、舜之父，犹有朱、均之子<sup>㉔</sup>？况下此以还，而欲以父取儿，恐失之远矣。倘有孩童嗣职，万一骄逸，则



兆庶被其殃，而国家受其败。政欲绝之也，则子文之治犹在<sup>⑤⑤</sup>；政欲留之也，而桀纣之恶已彰<sup>⑤⑥</sup>。与其毒害于见存之百姓，则宁使割恩于已亡之一臣，明矣。然则向之所谓爱之者，乃适所以伤之也。臣谓宜赋以茅土<sup>⑤⑦</sup>，畴其户邑，必有材行，随器方授，则翰翮非强，亦可以获免尤累。昔汉光武不任功臣以吏事，所以终全其世者，良由得其术也。愿陛下深思其宜，使夫得奉大恩，而子孙终其福祿也。

太宗并嘉纳其言。于是竟罢子弟及功臣世袭刺史。

## 教戒太子诸王

贞观十八年，太宗谓侍臣曰：“古有胎教世子，朕则不暇。但近自建立太子，遇物必有诲谕，见其临食将饭，谓曰：‘汝知饭乎？’对曰：‘不知。’曰：‘凡稼穡艰难，皆出人力，不夺其时，常有此饭。’见其乘马，又谓曰：‘汝知马乎？’对曰：‘不知。’曰：‘能代人劳苦者也，以时消息，不尽其力，则可以常有马也。’见其乘舟，又谓曰：‘汝知舟乎？’对曰：‘不知。’曰：‘舟所以比人君，水所以比黎庶，水能载舟，亦能覆舟。尔方为人主，可不畏惧！’见其休于曲木之下，又谓曰：‘汝知此树乎？’对曰：‘不知。’曰：‘此木虽曲，得绳则正，为人君虽无道，受谏则圣。此传说所言，可以自鉴。’”

## 仁 义

贞观元年，太宗曰：“朕看古来帝王以仁义为治者，国祚延长，任法御人者，虽救弊于一时，败亡亦促。既见前王成事，足是元龟，今欲专以仁义诚信为治，望革近代之浇薄也。”黄门侍郎王珪对曰：“天下雕丧日久，陛下承其余弊，弘道移风，万代之福。但非贤不理，惟在得人。”太宗曰：“朕思贤之情，岂舍梦寐！”给事中杜正伦进曰：“世必有才，

随时所用，岂待梦传说，逢吕尚，然后为治乎？”太宗深纳其言。

贞观二年，太宗谓侍臣曰：“朕谓乱离之后，风俗难移，比观百姓渐知廉耻，官民奉法，盗贼日稀，故知人无常务，但政有治乱耳。是以为国之道，必须抚之以仁义，示之以威信，因人之心，去其苛刻，不作异端，自然安静。公等宜共行斯事也！”

贞观四年，房玄龄奏言：“今阅武库甲仗，胜隋日远矣。”

太宗曰：“飭兵备寇虽是要事，然朕唯欲卿等存心理道，务尽忠贞，使百姓安乐，便是朕之甲仗。隋炀帝岂为甲仗不足，以至灭亡，正由仁义不修，而群下怨叛故也。宜识此心。”

贞观十三年，太宗谓侍臣曰：“林深则鸟栖，水广则鱼游，仁义积则物自归之。人皆知畏避灾害，不知行仁义则灾害不生。夫仁义之道，当思之在心，常令相继，若斯须懈怠，去之已远。犹如饮食资身，恒令腹饱，乃可存其性命。”王珪顿首曰：“陛下能知此言，天下幸甚！”

## 俭 约

贞观元年，太宗谓侍臣曰：“自古帝王凡有兴造，必须贵顺物情。昔大禹凿九山，通九江，用人力极广，而无怨谄者，物情所欲，而众所共有故也。秦始皇营建宫室，而人多谤议者，为徇其私欲，不与众共故也。朕今欲造一殿，材木已具，远想秦皇之事，遂不复作也。古人云：‘不作无益害有益。’‘不见可欲，使民心不乱。’固知见可欲，其心必乱矣。至如雕镂器物，珠玉服玩，若恣其骄奢，则危亡之期可立待也。自王公已下，第宅、车服、婚嫁、丧葬，准品秩不合服用者，宜一切禁断。”由是二十年间，风俗简朴，衣无锦绣，财帛富饶，无饥寒之弊。



## 慎所好

贞观二年，太宗谓侍臣曰：“古人云：‘君犹器也，人犹水也，方圆在于器，不在于水。’故尧、舜率天下以仁，而人从之；桀、纣率天下以暴，而人从之。下之所行，皆从上之所好。至如梁武帝父子志尚浮华，惟好释氏、老氏之教，武帝末年，频幸同泰寺，亲讲佛经，百寮皆大冠高履，乘车扈从，终日谈论苦空<sup>⑤</sup>，未尝以军国典章为意。及侯景率兵向阙，尚书郎已下，多不解乘马，狼狽步走，死者相继于道路。武帝及简文卒被侯景幽逼而死。孝元帝在于江陵，为万纽于谨所围，帝犹讲《老子》不辍，百寮皆戎服以听，俄而城陷，君臣俱被囚繫。庾信亦叹其如此，及作《哀江南赋》，乃云：‘宰衡以干戈为儿戏，缙绅以清淡为庙略。’此事亦足为鉴戒。朕今所好者，惟在尧、舜之道，周、孔之教，以为如鸟有翼，如鱼依水，失之必死，不可暂无耳。”

## 杜谗邪

贞观初，太宗谓侍臣曰：“朕观前代谗佞之徒，皆国之蠹贼也。或巧言令色，朋党比周；若暗主庸君，莫不以之迷惑，忠臣孝子所以泣血衔冤。故丛兰欲茂，秋风败之；王者欲明，谗人蔽之。此事著于史籍，不能具道。至如齐、隋间谗谮事，耳目所接者，略与公等言之。斛律明月<sup>⑥</sup>，齐朝良将，威震敌国，周家每岁斫汾河冰，虑齐兵之西渡，及明月被祖孝征谗构伏诛，周人始有吞齐之意。高颎有经国大才，为隋文帝赞成霸业，知国政者二十余载，天下赖以安宁。文帝惟妇言是听，特令摈斥，及为炀帝所杀，刑政由是衰坏。又隋太子勇抚军监国，凡二十年间，固亦早有定分。杨素欺主罔上，贼害良善，使父子之道一朝灭于天性。逆乱之源，自此开矣。隋文既混淆嫡庶，竟祸及其身，

社稷寻亦覆败。古人云‘世乱则谗胜’，诚非妄言。朕每防微杜渐，用绝谗构之端，犹恐心力所不至，或不能觉悟。前史云：‘猛兽处山林，藜藿为之不采；直臣立朝廷，奸邪为之寝谋。’此实朕所望于群公也。”魏征曰：“《礼》云：‘戒慎乎其所不睹，恐惧乎其所不闻。’《诗》云：‘恺悌君子，无信谗言。谗言罔极，交乱四国。’又孔子曰：‘恶利口之覆邦家’，盖为此也。臣尝观自古有国有家者，若曲受谗谮，妄害忠良，必宗庙丘墟，市朝霜露矣。愿陛下深慎之！”

## 奢纵

贞观十一年，侍御史马周上疏陈时政曰：臣历观前代，自夏、殷、周及汉氏之有天下，传祚相继，多者八百余年，少者犹四五百年，皆为积德累业，恩结于人心。岂无僻王，赖前哲以免尔！自魏、晋已还，降及周、隋，多者不过五六十年，少者才二三十年而亡，良由创业之君不务广恩化，当时仅能自守，后无遗德可思。故传嗣之主政教少衰，一夫大呼而天下土崩矣。今陛下虽以大功定天下，而积德日浅，固当崇禹、汤、文、武之道，广施德化，使恩有余地，为子孙立万代之基。岂欲但令政教无失，以持当年而已！且自古明王圣主虽因人设教，宽猛随时，而大要以节俭于身、恩加于人二者是务。故其下爱之如父母，抑之如日月，敬之如神明，畏之如雷霆，此其所以卜祚遐长而祸乱不作也。

今百姓承丧乱之后，比于隋时才十分之一，而供官徭役，道路相继，兄去弟还，首尾不绝，远者往来五六千里，春秋冬夏，略无休时。陛下虽每有恩诏，令其减省，而有司作既不废，自然须人，徒行文书，役之如故。臣每访问，四五年来，百姓颇有怨嗟之言，以陛下不存养之。昔唐尧茅茨土阶，夏禹恶衣菲食，如此之事，臣知不复可行于今。汉文帝惜百金之费，辍露台之役，集上书囊，

以为殿帷，所幸夫人衣不曳地。至景帝以锦绣纂组妨害女工，特诏除之，所以百姓安乐。至孝武帝虽穷奢极侈，而承文、景遗德，故人心不动。向使高祖之后，即有武帝，天下必不能全。此于时代差近，事迹可见。今京师及益州诸处营造供奉器物，并诸王妃主服饰，议者皆不以为俭。臣闻昧旦丕显，后世犹怠，作法于理，其弊犹乱。陛下少处民间，知百姓辛苦，前代成败，目所亲见，尚犹如此，而皇太子生长深宫，不更外事，即万岁之后，固圣虑所当忧也。

臣窃寻往代以来成败之事，但有黎庶怨叛，聚为盗贼，其国无不即灭，人主虽欲改悔，未有重能安全者。凡修政教，当修之于可修之时，若事变一起，而后悔之，则无益也。故人主每见前代之亡，则知其政教之所由丧，而皆不知其身之有失。是以殷纣笑夏桀之亡，而幽、厉亦笑殷纣之灭。隋帝大业之初，又笑周、齐之失国。然今之视炀帝，亦犹炀帝之视周、齐也。故京房谓汉元帝云：“臣恐后之视今，亦犹今之视古。”此言不可不戒也。

往者贞观之初，率土霜俭，一匹绢才得粟一斗，而天下帖然。百姓知陛下甚忧怜之，故人人自安，曾无谤讟。自五六年来，频岁丰稔，一匹绢得十余石粟，而百姓皆以陛下不忧怜之，咸有怨言，又今所营为者，颇多不急之务故也。自古以来，国之兴亡不由蓄积多少，唯在百姓苦乐。且以近事验之，隋家贮洛口仓，而李密因之；东京积布帛，王世充据之；西京府库亦为国家之用，至今未尽。向使洛口、东都无粟帛，即世充、李密未必能聚大众。但贮积者固是国之常事，要当人有余力，而后收之。若人劳而强敛之，竟以资寇，积之无益也。然俭以息人，贞观之初，陛下已躬为之，故今行之不难也。为之一日，则天下知之，式歌且舞矣。若人既劳矣，而用之不息，悦中国被水旱之灾，边方有风尘之警，狂狡因之窃发，则有不可测之事，非徒圣躬吁食晏寝而已。若以陛下之

圣明，诚欲励精为政，不烦远求上古之术，但及贞观之初，则天下幸甚。

太宗曰：“近令造小随身器物，不意百姓遂有嗟怨，此则朕之过误。”乃命停之。

## 辨兴亡

贞观初，太宗从容谓侍臣曰：“周武平纣之乱，以有天下，秦皇因周之衰，遂吞六国，其得天下不殊，祚运长短若此之相悬也？”尚书右仆射萧瑀进曰：“纣为无道，天下苦之，故八百诸侯，不期而会。周室微，六国无罪，秦氏专任智力，蚕食诸侯。平定虽同，人情则异。”太宗曰：“不然，周既克殷，务弘仁义；秦既得志，专行诈力。非但取之有异，抑亦守之不同。祚之修短，意在兹乎！”

## 慎终

贞观五年，太宗谓侍臣曰：“自古帝王亦不能常化，假令内安，必有外扰。当今远夷率服，百谷丰稔，盗贼不作，内外宁静。此非朕一人之力，实由公等共相匡辅。然安不忘危，治不忘乱，虽知今日无事，亦须思其终始。常得如此，始是可贵也。”魏征对曰：“自古已来，元首股肱不能备具，或时君称圣，臣即不贤；或遇贤臣，即无圣主。今陛下明，所以致治，向若直有贤臣，而君不思化，亦无所益。天下今虽太平，臣等犹未以为喜，惟愿陛下居安思危，孜孜不怠耳！”

贞观十二年，太宗谓侍臣曰：“朕读书见前王善事，皆力行而不倦，其所任用公辈数人，诚以为贤，然致理比于三、五之代，犹为不逮，何也？”魏征对曰：“今四夷宾服，天下无事，诚旷古所未有。然自古帝王初即位者，皆欲励精为政，比迹于尧、舜；及其安乐也，则骄奢放逸，莫能终其善。人臣初见任用者，皆欲匡主济时，追纵于稷、契；及其富贵也，则思苟全官爵，莫能尽其忠节。若使君臣常无懈怠，各保其终，则天下无忧

忧不理，自可超迈前古也。”太宗曰：“诚如卿言。”

贞观十三年，魏征恐太宗不能克终俭约，近岁颇好奢纵，上疏谏曰：

臣观自古帝王受图定鼎，皆欲传之万代，贻厥孙谋，故其垂拱岩廊，布政天下，其语道也必先淳朴而抑浮华，其论人也必贵忠良而鄙邪佞，言制度也则绝奢靡而崇俭约，谈物产也则重谷帛而贱珍奇。然受命之初，皆遵之以成治；稍安之后，多反之而败俗。其故何哉？岂不以居万乘之尊，有四海之富，出言而莫己逆，所为而人必从，公道溺于私情，礼节亏于嗜欲故也？语曰：“非知之难，行之惟难；非行之难，终之斯难。”所言信矣。

伏惟陛下，年甫弱冠，大拯横流，削平区宇，肇开帝业。贞观之初，时方克壮，抑损嗜欲，躬行节俭，内外康宁，遂臻至治。论功则汤、武不足方；语德则尧、舜未为远。臣自擢居左右，十有余年，每侍帷幄，屡奉明旨。常许仁义之道，守之而不失；俭约之志，终始而不渝。一言兴邦，斯之谓也。德音在耳，敢忘之乎？而顷年以来，稍乖曩志，敦朴之理，渐不克终。谨以所闻，列之如左：

陛下贞观之初，无为无欲，清静之化，远被遐荒。考之于今，其风渐坠，听言则远超于上圣，论事则未逾于中主。何以言之？汉文、晋武俱非上哲，汉文辞千里之马<sup>⑥</sup>，晋武焚雉头之裘<sup>⑦</sup>。今则求骏马于万里，市珍奇于域外，取怪于道路，见轻于戎狄，此其渐不克终，一也。

昔子贡问理人于孔子，孔子曰：“懔乎若朽索之驭六马。”子贡曰：“何其畏哉？”子曰：“不以道导之，则吾仇也，若何其无畏？”故《书》曰：“民惟邦本，本固邦宁。”为人上者奈何不敬？陛下贞观之始，视人如伤，恤其勤劳，爱民犹子，每存简约，无所营为。顷年已来，意在奢纵，忽忘卑俭，轻用人力，乃云：“百姓无事则骄逸，劳役则易使。”自古以

来，未有由百姓逸乐而致倾败者也，何有逆畏其骄逸，而故欲劳役者哉？恐非兴邦之至言，岂安人之长算？此其渐不克终，二也。

陛下贞观之初，损己以利物，至于今日，纵欲以劳人，卑俭之迹岁改，骄侈之情日异。虽忧人之言不绝于口，而乐身之事实切于心。或时欲有所营，虑人致谏，乃云：“若不为此，不便我身。”人情之情，何可复争？此直意在杜谏者之口，岂曰择善而行者乎？此其渐不克终，三也。

立身成败，在于所染，兰芷鲍鱼，与之俱化，慎乎所习，不可不思。陛下贞观之初，砥砺名节，不私于物，唯善是与，亲爱君子，疏斥小人。今则不然，轻褒小人，礼重君子。重君子也，敬而远之；轻小人也，狎而近之。近之则不见其非，远之则莫知其是。莫知其是，则不间而自疏；不见其非，则有时而自昵。昵近小人，非致理之道；疏远君子，岂兴邦之义？此其渐不克终，四也。

《书》曰：“不作无益害有益，功乃成；不贵异物贱用物，人乃足。犬马非其土性不畜，珍禽奇兽弗育于国。”陛下贞观之初，动遵尧、舜，捐金抵璧，反朴还淳。顷年已来，好尚奇异，难得之货，无远不臻；珍玩之作，无时能止。上好奢靡而望下敦朴，未之有也。末作滋兴，而求丰实，其不可得亦已明矣。此其渐不克终，五也。

贞观之初，求贤如渴，善人所举，信而任之，取其所长，恒恐不及。近岁已来，由心好恶，或众善举而用之，或一人毁而弃之，或积年任而用之，或一朝疑而远之。夫行有素履，事有成迹，所毁之人，未必可信于所举；积年之行，不应顿失于一朝。君子之怀，蹈仁义而弘大德；小人之性，好谗佞以为身谋。陛下不审察其根源，而轻为之臧否，是使守道者日疏，干求者日进，所以人思苟免，莫能尽力。此其渐不克终，六也。

陛下初登大位，高居深视，事惟清静，心无嗜欲，内除毕弋之物，外绝畋猎之源。数载之后，不能固志，虽无十旬之逸，或过

三驱之礼，遂使盘游之娱，见讥于百姓，鹰犬之贡，远及于四夷。或时教习之处，道路遥远，侵晨而出，入夜方还，以驰骋为欢，莫虑不虞之变，事之不测，其可救乎？此其渐不克终，七也。

孔子曰：“君使臣以礼，臣事君以忠。”然则君之待臣，义不可薄。陛下初践大位，敬以接下，君恩下流，臣情上达，咸思竭力，心无所隐。顷年已来，多所忽略，或外官充使，奏事入朝，思睹阙庭，将陈所见，欲言则颜色不接，欲请又恩礼不加，间因所短，诘其细过，虽有聪辩之略，莫能申其忠款，而望上下同心，君臣交泰，不亦难乎？此其渐不克终，八也。

傲不可长，欲不可纵，乐不可极，志不可满。四者，前王所以致福，通贤以为深诫。陛下贞观之初，孜孜不怠，屈己从人，恒若不足。顷年已来，微有矜放，恃功业之大，意蔑前王，负圣智之明，心轻当代，此傲之长也。欲有所为，皆取遂意，纵或抑情从谏，终是不能忘怀，此欲之纵也。志在嬉游，情无厌倦，虽未全妨政事，不复专心治道，此乐将极也。率土乂安，四夷款服，仍远劳士马，问罪遐离，此志将满也。亲狎者阿旨而不肯言，疏远者畏威而莫敢谏，积而不已，将亏圣德。此其渐不克终，九也。

昔陶唐、成汤之时，非无灾患，而称其圣德者，以其有始有终，无为无欲，遇灾则极其忧勤，时安则不骄不逸故也。贞观之初，频年霜旱，畿内户口并就关外，携负老幼，来往数年，曾无一户逃亡，一人怨苦。此诚由识陛下矜育之怀，所以至死无携贰。顷年已来，疲于徭役，关中之人，劳弊尤甚。杂匠之徒，下日恶留和雇；正兵之辈，上番多别驱使；和市之物不绝于乡间，递送之夫相继于道路。既有所弊，易为惊扰，脱因水旱，谷麦不收，恐百姓之心，不能如前日之宁帖。此其渐不克终，十也。……

若见诫而惧，择善而从，同周文之小心，追殷汤之罪己。前王所以致理者，勤而行

之；今时所以败德者，思而改之。与物更新，易人视听，则宝祚无疆，普天幸甚，何祸败之有乎？然则社稷安危，国家治乱，在于一人而已。当今太平之基，既崇极天之峻；九仞之积，犹亏一篑之功。千载休期，时难再得，明主可为而不为，微臣所以郁结而长叹者也。

#### 注释：

①谏议大夫：唐制，掌谏谕得失、侍从赞相之职。②詹何：楚詹尹之后，隐于钓。楚庄王闻其贤名，召聘而问。③刍尧：采薪之人。④唐：尧曰陶唐氏。虞：舜曰有虞氏。⑤：《虞书》赞颂舜的词语，谓开四方之门，以来天下之贤俊；广四方之视听，以决天下之壅蔽。⑥靖言庸回：《虞书》作“静言庸违”，谓静则能言，用之则不然也。⑦草：杂乱。昧：冥晦。⑧恒：常。⑨特进：汉世诸侯功德优盛，朝廷所敬异者，赐位特进，位在三公之下。唐制因之。⑩祚：禄位。⑪鲜：少。⑫殄：尽。⑬四维：指礼、义、廉、耻。施：废。⑭媛：美女。⑮缔：结。构：成。⑯神器：帝位。⑰元首：指君主。⑱董：督。⑲盘游：畋猎。三驱：围猎时，围合其三面，前开一路，使之可去，不忍尽物，好生之仁也。⑳九德：《虞书》皋陶曰：“亦行有九德，宽而栗，柔而立，愿而恭，乱而敬，扰而毅，直而温，简而廉，刚而塞，强而义。”㉑豫：乐；游：巡视。孟子曰：“一游一豫，为诸侯度。”言王者一游一豫，皆有惠及民，而诸侯所取法，不敢慢游以病民也。㉒松、乔：即赤松、王乔。传为古仙人之有寿者。㉓垂拱：垂衣拱手，无为而治。㉔宵分：夜半。㉕启：开；沃：灌溉。㉖兹：弓弦；韦：柔皮。韩子曰：“西门豹性急，佩韦以自缓。董安于性缓，佩弦以自急。”㉗隋文帝杨坚在周宣帝死后、静帝年幼时即位。㉘据说，尧时有老人击壤于路曰：“吾日出而作，日入而息，凿井而饮，耕田而食，帝何力于我哉？”㉙矰：矢。㉚息隐：即李建成。海陵：即李元吉。太宗李世民杀二人后，封建成为息王，谥曰隐；元吉为海陵王，谥曰刺。㉛俎：荐肉之器。㉜秦甘茂曾对秦王说：“鲁人有与曾参同姓名者杀人，人告其母，母织自若。三人告之，其

母投杼下机，逾墙而走。臣之贤不及曾参，王之信臣不如其母，疑臣者非特三人，臣恐大王之投杼也。”③周过其数：据说，成王卜世三十，卜年七百，后历三十七主，八百六十七年，过其数也。④秦不及期：秦始皇希望秦朝天下传二世、三世至于万世，后二世而亡，不及期也。⑤望夷之畔：秦赵高弑二世于望夷宫。⑥羿、浞之灾：夏朝太康时，东夷首领后羿夺取王位。后来羿耽于畋猎，信用寒浞，浞又杀羿自立为帝。后少康重新复国。⑦高贵：即魏高贵乡公曹髦。⑧申、缙之酷：周幽王宠爱褒姒，废申后，立褒姒子伯服而黜太子。申侯怒，与缙及犬戎杀幽王于骊山下。⑨塋(zhuā)：麻发合结。据《左传》载，襄公四年(公元前569)，邾人、莒人伐郕，威兹救郕、侵邾，败于狐骀。国人逆丧者皆塋，鲁于是乎塋而吊。⑩晋人及姜戎败秦师于殽，匹马支轮无返。⑪陆士衡：即晋人陆机，曾著《五等诸侯论》，崇尚分封制。⑫嗣王：指周惠王、襄王、悼王。委九鼎：指三王弃国出奔。凶族：指王子颓、王子带、王子朝。据天邑：指三子据国僭位。⑬曹元首：魏人，曾上《六代论》，感悟曹爽。⑭据《左传》载，陈灵公与孔宁、仪行父通于夏姬。一天，公与二人饮酒于夏氏，公谓行父曰：“征舒(夏姬之子)似汝。”对曰：“亦似君”。征舒病之，公出，自其廐而杀之。⑮麇：牝鹿。聚麇：无礼。卫宣公纳子伋之妻，是为宣姜，生寿及朔。朔与宣姜诉伋于公，公令伋之齐，使贼先待于隘而杀之。寿知之以告伋，伋曰：“君命也，不可逃。”寿窃其节先往，贼杀之。伋至曰：“君命杀我，寿何罪？”贼又杀之。此处寿、朔，当为伋、寿。⑯后汉杨秉为豫章太守，清廉，计日受禄，余俸不入私门。⑰后汉魏霸、何并，每之官，妻子不入官舍。⑱后汉左雄为冀州刺史，在任不举烟火，常食干饭。⑲晋邓攸为吴郡太守，载米居官，惟饮吴水而已。⑳后汉羊续为南阳太守，常敝衣薄食。㉑后汉范丹为莱芜县令，家贫，里歌曰：“甑中生尘范史云，釜中生鱼范莱芜”。㉒开皇：隋文帝年号。㉓大业：隋炀帝年号。㉔据说，尧子丹朱、舜子商均，皆不肖。㉕子文：楚令尹。其孙克黄使齐复命，自拘于司寇。王思子文之治，曰：“子文无后，何以劝善？”使复其官。

㉖栾黶(yǎn)：晋大夫武子之子。晋士鞅曰：“栾黶汰虐已甚，犹可以免。其在盈(黶之子)乎！黶死，武子所施没矣，而黶之怨实彰。后盈见逐。”㉗茅土：古者天子以五色土为坛，封诸侯取其方面，苴以白茅，授之，使立社于其国。㉘苦空：此处指佛教。㉙斛律明月：即斛律光。㉚汉文帝时，有献千里马者，诏还其马与道里费。㉛晋武帝时，太医司马程据献雉头裘，帝以奇技异服，典礼所禁，焚之于殿前。

## 《长短经》

### 题解：

《长短经》是唐朝赵蕤编撰的一部博采众家的古代谋略之书，全书分为大体、任长、品目、量才、变通等64篇，于治国之道、任人之术、用兵韬略、权变之谋、历代治乱得失以及策士游说人主之术等，无不详加论述。其中以政治谋略所占篇幅最多，用笔尤为精审。赵蕤认为君主治国之术应以“设官分职”、“委任责成”、“好谋无倦”、“宽以得众”、“含垢藏疾”为“大体”(《大体》)，提出建立和明确各项规章制度，是治国之本，“夫欲论长短之变，故应政道以为经焉”(《政体》)。他认为，诸子百家的治国方略，各有利弊，不能偏执一家，要“繁简唯时，宽猛相济”(《正论》)，博采众家之长，掌握其中通变的奥妙，王霸并用，“以刑德成治”(《君德》)。他还认为分封制和郡县制各有利弊，秦立郡县，“君有海内，而子弟为匹夫，功臣效勤，而干城无茅土，孤制天下，独擅其利，身死之日，海内分崩”(《七雄略》)；分封制则不免“强者先反”之患(《三国权》)。两相比较，他认为，郡县制虽非“致理之具，但经始图其多福，虑终取其少祸，故贵于五等(指分封制)耳”(《七雄略》)。在《适变》、《正论》、《时宜》等篇中，赵蕤提出“革易时弊”的主张，认为治国之道，不可一成不变，随着时间的推移、形势的发展，原来的治国之道必将出现弊端，因此，他反对“时移而法

不变，务易而事以古”，主张“随时变通，不可执一”。赵蕤还认为，各级官僚大臣在治理国家活动中占有不容忽视的地位，他认为大臣有“六正”和“六邪”之分。“能够匡世辅政之臣，必先明于盛衰之道，通于成败之数，审于治乱之势，达于用舍之宜，然后临机而不惑，见疑而能断”（《理乱》）。君主任用了这样的大臣，国家就会走向大治。赵蕤引用大量人物事例，详述了长短之术、正邪之道，阴阳之谋、明暗之法等谋略思想和主张，对后世影响很大。《长短经》一书被认为“讲王霸大略、经世之术、机权谋略的集大成之作”。

## 大 体

臣闻老子曰：“以正理国，以奇用兵，以无事取天下。”荀卿曰<sup>①</sup>：“人主者，以官人为能者也；匹夫者，以自能为能者也。”傅子曰：<sup>②</sup>“士大夫分职而听，诸侯之君分土而守，三公总方而议，则天子拱己而正矣。”

何以明其然耶？

当尧之时，舜为司徒，契为司马，禹为司空，后稷为田畴，夔为乐正，倕为工师，伯夷为秩宗，皋陶为理官，益掌驱禽。尧不能为一焉。奚以为君，而九子者为臣，其故何也？尧知九赋之事，使九子各授其事，皆胜其任以成九功，尧遂乘成功以王天下。汉高帝曰：“夫运筹策于帷幄之中，决胜于千里之外，吾不如子房<sup>③</sup>，镇国家，抚百姓，给饷馈，不绝粮道，吾不如萧何。连百万之军，战必胜，攻必取，吾不如韩信。三人者，皆人杰也，吾能用之，此吾所以有天下也。”故曰：知人者，王道也；知事者，臣道也。无形者，物之君也；无端者，事之本也。鼓不预五音<sup>④</sup>，而为五音主。有道者不为五官之事，而为理事之主。君守其道，官知其事，有自来矣。先王知其如此也，故用非其有己有之，通乎君道者也。

人主不通主道者则不然，自为之则不能任贤。不能任贤，则贤者恶之，此功名之所

以伤，国家之所以危。汤、武一日而尽有夏商之财，以其地封，而天下莫敢不悦服。以其财赏，而天下皆竞劝，通乎用非其有也。故称设官分职，君之体也；委任责成，君之体也；好谋无倦，君之体也；宽以得众，君之体也；含垢藏疾，君之体也。君有君人之体，其臣畏而爱之，此帝王所以成业也。

## 政 体

古之立帝王者，非以奉养其欲也，为天下之人，强掩弱诈欺愚，故立天子以齐一之。谓一人之明，不能遍照海内，故立三公九卿以辅翼之。为绝国殊俗，不得被泽，故立诸侯以教诲之。教诲之政，有自来矣。何以言之，管子曰：“措国于不倾之地，有德也”。积于不涸之仓，务五谷也；藏于不竭之府，养桑麻、育六畜也。下令于流水之原，以顺人心也。使士于不诤之官，使人各为其所长也。明必死之路，严刑罚也。开必得之门，信庆赏也。不为不可成，量人力也。不求不可得，不强人以其所恶也。不处不可久，不偷取一世宜也。知时者，可以立为长。审于时，察于用，而能备官者，可奉以为君。故曰：明版籍，审什伍，限夫田，定刑名，立君长，急农桑，去末作，敦学教，核才艺，简精悍，修武备，严禁令，信赏罚，纠游戏，察苛克，此十五者，虽圣人复起，必此言也。夫欲论长短之度，故立政道以为经焉。

## 君 德

夫三皇无言，化流四海，故天下无所归功。帝者，体天则地，有言有令，而天下太平，君臣让功，四海化行，百姓不知其所以然，故使臣不用礼赏功，美而无害。王者制人以道，降心服志。设矩备衰，有察察之政；兵甲之备，而无争战血刃之用。天下太平，君无疑于臣，臣无疑于主。国定主安，臣以义退，亦能美而无害。霸主制士以权，结士

以信，使士以赏。信衰士疏，赏毁士不为用。故曰：理国之本，刑与德也。二者相须而行，相待而成也。天以阴阳成岁，人以刑德成治。故虽圣人为政，不能偏用也。故任德多，用刑少者，五帝也；刑德相半者，三王也；仗刑多，任德少者，五霸也；纯用刑，强而亡者，秦也。

或曰：王霸之道，既闻命矣，敢问高光二帝，皆拔起垅亩，芟夷祸难，遂开王业。高祖豁达以大度，光武谨细于条目，名擅其羔，龙飞凤翔，故能拨乱庇人，拯斯涂炭。然比大德，方天威，孰为优劣乎？曹植曰：昔汉之初兴，高祖因暴秦而起，遂诛强楚，光有天下，功齐汤武，业流后嗣，帝王之元勋，人君之盛事也。然而名不继德，行不纯道，身没之后，崩亡之际，果令凶妇肆酷虐之心<sup>⑤</sup>，嬖妾被人彘之刑<sup>⑥</sup>，赵王幽囚，祸殃骨肉。诸吕专权，社稷几移。凡此诸事，岂非高祖寡计浅虑，以致斯哉。然其梟将画臣<sup>⑦</sup>，皆古今之所鲜，有历代之希睹。彼能任其才而用之，听其言而察之，故兼天下而有帝位也。世祖体乾灵之休德<sup>⑧</sup>，禀贞和之纯精，蹈黄中之妙理，韬亚圣之懿才，其为德也，聪达而多识，仁智而明恕，重慎而周密，乐施而爱人，值阳九无妄之世，遭炎精厄会之运，殷尔雷发，赫然神举，奋武略以攘暴，兴义兵以扫残，军未出于南京，莽已毙于西都<sup>⑨</sup>，尔乃庙胜而后动，众计定而后行师，故攻无不陷之垒，战无奔北之卒。宣仁以和众，迈德以来远，故窦融闻声而影附，马援一见而叹息。敦睦九族，有唐虞之称，高尚纯朴，有羲皇之素；谦虚纳下，有吐握之劳；留心庶事，有日昃之勤。是以计功则业殊，比隆则事异，旌德则靡慝<sup>⑩</sup>，言行则无秽，量事则势微，论辅则臣弱，卒能握乾图之休征，立不刊之遐迹，金石铭其休烈，诗书载其懿勋，故曰：光武其优也。

或曰：班固称周云成康，汉言文景，斯言当乎？虞南曰<sup>⑪</sup>：成康承文武遗迹，以周召为相，化笃厚之氓，因积仁之德，疾风偃

草，未足为喻。至江汉祖开基，日不暇给，亡赢之弊<sup>⑫</sup>，犹有存者。太宗体兹仁恕<sup>⑬</sup>，式遵玄默，涤秦项之酷烈<sup>⑭</sup>，反轩、昊之淳风<sup>⑮</sup>，几致刑厝，斯为难矣。若使不溺新垣之说，无取邓通之梦，懔懔乎庶几近于王道。景帝之拟周康，则尚有慙德。

或曰：“汉武帝雄才大略，可方前代何主？”虞南曰：“汉武承六世之业，海内殷富，又有高人之资，故能总揽英雄，驾御豪杰，内兴礼乐，外开边境，制度宪章，焕然可述，方于始皇，则为优矣。至于骄奢暴虐，可以相亚，并功有余而德不足。”

“昔周成以孺子继统，而有管蔡四国之变；汉昭幼年即位，亦有燕、盖、上官逆乱之谋。成王不疑周公，汉昭委任霍光，二主孰为先后？”魏文帝曰：“周成王体圣考之休气，禀贤妣之胎海，周邵为保傅，吕望为太师，口能言则行人称辞，足能履则相者导仪，目厌威容之美，耳饱德义之声，所谓沉湎玄流而沐浴清风矣。犹有咎悔，聆二叔之谤，使周公东迁，皇天赫怒，显明厥咎，然后乃寤。不亮周公之圣德，而信金縢之教言，岂不暗哉。夫汉昭父非武王，母非邑姜<sup>⑯</sup>，养惟盖主，相则桀、光<sup>⑰</sup>，保无仁孝之质，佐无隆平之治，所谓生于深宫之中，长于妇人之手。然而德与性成，行与礼并，在年二七，早知夙达，发燕书之诈，亮霍光之诚，岂将启金縢，信国史，而后乃寤哉。使成昭钩年而立，易世而化，贤臣而治，换乐而歌，则汉不独少，周不独多也。”

或曰：“汉宣帝政事明察，其光武之侔欤？”虞南曰：“汉宣帝起自闾阎，知人疾苦，是以留心听政，擢用贤良，原其循名责实，峻法严令，盖流出于申韩也。古语云：‘图王不成，弊犹足霸；图霸不成，弊将如何？’光武仁义，图王之君也，宣帝刑名，图霸之主也，今以相辈，恐非其侔。”

或曰：“汉元帝才艺温雅，其守文之良主乎？”虞南曰：“夫人君之才，在乎文德武功而已。文则经天纬地，词令典策；武则禁暴戢



兵，安人和众。此南面之宏图也。至于鼓瑟吹箫，和江度曲，斯乃伶官之职，岂天子之所务乎。”

或曰：“观伪新王莽，谦恭礼让，岂非一代之名士乎？至作相居尊，骄淫暴虐，何先后相背甚乎？”虞南曰：“王莽天姿惨酷，诈伪人也。未达之前，徇名求誉。得志之后，矜能傲物，饰情既尽，而本质存焉，愎谏自高，卒不改寤，海内冤酷，为光武之驱除焉。”

“夏少康、汉光武皆中兴之君，孰者为最？”虞南曰：“此二帝皆兴复先绪，光启王业，其名则同，其实则易。何者？光武之世，藉思乱之民，诛残贼之莽，取乱侮亡，为功差易。至如少康，则夏氏之灭已二代矣，藐然遗体，身在胎孕，母氏逃亡，生于他国，不及过庭之训，曾无强近之亲，遭离乱之难，庇身非所，而能崎岖于丧乱之间，遂成配天之业，中兴之君，斯为称首。”

“后汉衰乱，由于桓灵二主，凶德谁则为甚？”虞南曰：“桓帝赫然奋怒，诛灭梁冀，有刚断之节焉。然阉人擅命，党锢事起，中平乱阶，始于桓帝。古语曰：‘天下噉噉，新主之资也，’灵帝承疲民之后，易为善政，黎庶倾耳，咸冀中兴，而帝袭彼覆车，毒逾前辈，倾覆宗社，职帝之由天年厌世，为幸多矣。”

“自炎精不竞，禹县分崩，曹孟德挟天子而令诸侯，刘玄德凭蜀汉之阻，孙仲谋负江淮之固，三分天下，鼎足而立，皆肇开王业，光启霸图，三方之君，孰有优劣？”虞南曰：“曹公兵机智算，殆难与敌，故能肇迹开基，居中作相，实有英雄之才矣。然谄谀不常，雄猜多忌，至于杀伏后，鸩荀彧，诛孔融，戮崔琰，娄生毙于一言，桓劭劳于下拜，弃德任刑，其虐已甚，坐论西伯，实非其人。许邵所谓‘治世之能臣，乱世之奸雄，’斯言为当。刘公待刘璋以宾礼，委诸葛而不疑，人君之德，于斯为美。彼孔明者，命世之奇才，伊吕之俦匹，臣主同心，鱼水为譬，但以国小兵弱，斗绝一隅，支对二方，抗衡上

国，若使与曹公易地而处，骋其长算，肆关、张之武，尽诸葛之文，则霸王之业成矣。孙主因厥兄之资，用前朝之佐，介以天险，仅得自存，比于二人，理弗能逮。”

“晋宣帝雄谋妙算，诸葛亮冠世奇才，谁为优劣？”虞南曰：“宣帝起自书生，参佐帝业，济世危难，克清王道，文武之略，实有可称。而多杖阴谋，弗由仁义，猜忍诡伏，盈诸襟抱，至如示谬言于李胜，委鞠狱于何宴，愧心负理，君子不为，以此伪情，行之万物，若使力均势敌，俱会中原，以仲达之奸谋，当孔明之节制，恐非俦也。”

或曰：“晋景、文兄弟孰贤？”虞南曰：“何宴称‘唯深也，故能通天下之志，夏侯太初是也。惟几也<sup>①</sup>，故能成天下之务，司马子元是也<sup>②</sup>。’故知王佐之才，著于早日。及诛爽之际<sup>③</sup>，智略已宣。钦、俭称兵，全军独克<sup>④</sup>，此足见其英图也。虽道盛三分，而终身北面，威名振主而臣节不亏，侯服归全<sup>⑤</sup>，于斯为美。太祖嗣兴<sup>⑥</sup>，克宁祸乱，南定淮海，西平庸蜀，役不逾时，厥功为重，及高贵纂历，聪明夙智，不能竭忠协赞，拟迹伊周，遂乃伪谤士彦，委罪成济，自貽逆节，终享恶名，斯言之玷，不可磨也。”

“东晋自元帝以下，何主为贤？”虞南曰：“晋自迁都江左，强臣擅命，垂拱南面，政非己出，王敦以磐石之宗，居上流之要，负才矜地，志怀问鼎，非肃祖之明断，王导之忠诚，则晋祚其移于王氏矣。若使降年永久，仗任群贤，因漚涧之遗黎，乘刘石之衰运，则克复中原，不难图也。”

或曰：“伪楚桓玄有奇才远略，而遂至灭亡，何也？”虞南曰：“夫人君之量，必虚己应物，覆载同于天地，信誓拟于暄寒，然后万姓乐推而不厌也。彼桓玄者，盖有浮狡之小智，而无含宏之大德，值晋末衰乱，威不逮下，故玄得肆其爪牙，以侥幸之余，而逢神武之运，至于夷灭，固其宜也。”

“宋祖诛灭桓玄，再兴晋室，梁代裴子野优之于宣武<sup>⑦</sup>，其事云何？”虞南曰：“魏武，



曹腾之孙，累叶荣显，濯纓汉室，三十余年，及董卓之乱，乃与山东俱起，诛灭元凶，曾非己力。晋宣历任卿相，位极台鼎，握天下之图，居既安之势，奉明诏而诛逆节，建瓴为譬，未足喻也。宋祖以匹夫提剑，首创大业，旬月之间，重安晋鼎，居半州之地，驱一郡之卒，斩馘纵于庸蜀，禽姚绍于崤函，克慕容超于青部，枭卢循于岭外，戎旗所指，无往不捷，观其豁达，则汉祖之风；制胜胸襟，则光武之匹。昔其祚短，志未可量，此为优矣。”

“宋孝武、明帝，二人孰贤？”虞南曰：“二帝残忍之性，异体同心，诛戮贤良，割剪枝叶，内无平勃之相，外阙晋郑之亲，以斯大宝，委之昏稚，故使齐氏乘衅，宰制天下，未逾岁稔，遂移龟玉。緘滕虽固，适为大盗之资，百虑同失，可为长叹，鼎社倾沦，非不幸也。”

“齐建元、永明之间<sup>⑤</sup>，号为治世，诚有之乎？”虞南曰：“齐高创业之主，知稼穡之艰难，且立身俭素，务存简约。武帝则留意后庭，雕饰过度，然能委任王俭，宪章攸出，礼乐之盛，咸称永明，宰相得人，于斯为美。”

“宋齐二代，废主有五，并骄淫狂暴，前后如一，或身被贼杀，或倾坠宗社，岂厥性顽凶，自贻非命，将天之所弃，用亡大业乎？”虞南曰：“夫上智下愚，特禀异气，中庸之才，皆由训习，自宋齐已来，东宫师傅，备员而已，贵贱礼隔，规献无由，多以位升，罕由德进。此五君者，禀凡庸之性，无周召之师，远益友之箴规，狎宵人之近习，以斯下质，生而楚言，覆国亡身，理数然也。”

“梁元帝聪明才厚，克平祸乱，而卒致倾覆，何也？”虞南曰：“梁元聪明伎艺，才兼文武，杖顺伐逆，克雪家冤，成功遂事，有足称者。但国难之后，伤夷未复，信强寇之甘言，袭褊心于怀楚蕃，屏宗支自为仇敌，孤远悬僻，莫与同忧，身亡祚灭，生人涂炭，举鄢郢而弃之，良可惜也。”

“后齐文宣帝，狂悖之迹，桀纣之所不为，

而国富人丰，不至于乱亡，何也？”虞南曰：“昔齐桓奢淫亡礼，人伦所弃，假六翩于仲父，遂伯诸侯。宣武帝鄙稔忍虐，古今无比，委万机于遵彦，保全宗国，以其任用得才，所以社稷犹存者也。”

“陈武帝起自草莱，兴创帝业，近代以来，可方何主？”虞南曰：“武帝以奇才远略，怀匡复之志，龙跃海隅，豹变岭表，扫重氛于绛阙，复帝座于紫微，西抗周师，北夷齐寇，宏谋长算，动无遗册，实开基之令主，拨乱之雄才，比宋祖则不及，方齐高则优矣。”

“隋文帝起自布衣，光有神器，西定庸蜀，南平江表，比于晋武，可为侔乎？”虞南曰：“隋文因外戚之重，周室之微，负图作宰，遂膺宝命，留心政治，务从恩泽，故能绥抚新旧，缉宁遐迩，文武制置，皆有可观。及克定江淮，咸同书轨，率土黎献，企伫太平。自金陵灭后，王心奢汰，虽威加四海，而情堕万机，荆璧填于内府，吴姬满于下室，仁寿雕饰，事将倾宫，万姓力殫，中民产竭，加以猜忌心起，巫蛊事兴，戮爱子之妃，离上相之母，纲维已紊，礼教斯亡，牝鸡晨响，皇枝剿绝，废黜不辜，树立所爱。功臣良佐，诛翦无遗。季年之失，多于晋武。卜世不永，岂天亡乎？”

或曰：“王霸之略，请事斯语矣。敢问歿而作谥，及改正朔，易服色，以变人之耳目，其事奚象？”对曰：“古之立谥者，将以戒夫后代，随行受名，君亲无隐。今之臣子不论名实，务在尊崇，斯风替也久矣。昔季康子问五帝之德于孔子，孔子曰：天有五行，木火金水及土，分时化育以成物。其神为五帝纬。古之王者，易代改号，取法五行，五行更王，终始相生，亦象其义，故其生为明王者，而死配五行，是以太昊配木，炎帝配火，少昊配金，颛顼配水，黄帝配土。帝王改号，于五行之德，各有所尚，从其所王之德次焉。夏后氏以金德王而尚黑，殷人以水德王而尚白，周人以木德王而色尚赤，此三代之所以不同也。及汉之初，公孙臣、贾谊以为汉土

德，以五行之传，从所不胜，秦在水德，故谓汉据土而克之。刘向父子以为帝出于震，故庖牺氏始受木德，其后以母传子，终而复始，自神农黄帝，下历唐虞三代，而汉得火焉。故高祖始起，神母夜号，著赤帝之符，得天统矣。昔共工以水德间于木火，与秦同运，非其次，故皆不永也。以此观之，虽百代可知也。”

## 臣 行

夫人臣萌芽未动，形兆未见，昭然独见存亡之机，得失之要，豫禁乎未然之前，使主超然立乎显荣之处，如此者，圣臣也；虚心尽意，日进善道，勉主以礼义，谕主以长策，将顺其美，匡救其恶，如此者，大臣也；夙兴夜寐，进贤不懈，数称往古之行，以厉主意，如此者，忠臣也；明察成败，早防而救之，塞其隙，绝其源，转祸以为福，君终已无忧，如此者，智臣也；依文奉法，任官职事，不受赠遗，饮食节俭，如此者，贞臣也；国家昏乱，所为不谏，敢犯主之严颜，面言主之过失，如此者，直臣也。是谓“六正”。

安官贪禄，不务公事，与世沉浮，左右观望，如此者，具臣也；主所言皆曰善，主所为皆曰可，隐而求主之所好而进之，以快主之耳目，偷合苟容，与主为乐，不顾后害，如此者，谀臣也；中实险诐，外貌小谨，巧言令色，又心疾贤，所欲进则明其美、隐其恶，所欲退则彰其过、匿其美，使主赏罚不当，号令不行，如此者，奸臣也；智足以饰非，辩足以行说，内离骨肉之亲，外妒乱于朝廷，如此者，谗臣也；专权擅势，以轻为重，私门成党，以富其家，擅矫主命，以自显贵，如此者，贼臣也；谄主以佞邪，坠主于不义，朋党比周，以蔽主明，使白黑无别，是非无闻，使主恶布于境内，闻于四邻，如此者，亡国之臣也。是谓“六邪”。……

自“六正”至于问将，皆人臣得失之效

也。古语曰：禹以夏亡，桀以夏亡；汤以殷亡，纣以殷亡；阖庐以吴战胜无敌于天下，而夫差以见擒于越；穆公以秦显名尊号，而二世以劫于望夷。其所以君王者同，而功迹不等者，所任异也。是以成王处襁褓而朝诸侯，周公用事也；赵武灵王年五十而饿死于沙丘，任李兑也。故魏有公子无忌，削地复得；赵任藺相如，秦兵不敢出；楚有申包胥，而昭王反位；齐有田单，而襄王得国。因斯而谈，夫有国者，不能陶冶世俗，甄综人物，论邪正之得失，撮霸王之余议，有能立功成名者，未之前闻。

## 德 表

圣人导人理性，裁抑流宕，慎其所与，节其所偏。故《传》曰：“审好恶，理情性，而王道毕矣。”治性之道，必审己之所有余，而强其所不足。盖聪明疏通者，戒于太察；寡闻少见者，戒于拥蔽；勇猛刚强者，戒于太暴；任爱温良者，戒于无断；湛静安舒者，戒于后时；广心浩大者，戒于遗忘。《人物志》曰：“厉直刚毅，材在矫正，失在激讦；柔顺安恕，美在宽容，失在少决；雄悍桀健，任在胆烈，失在多忌；精良畏慎，善在恭谨，失在多疑；强楷坚劲，用在桢干，失在专固；论辩理绎，能在释结，失在流宕；普博周洽，崇在覆裕，失在濶浊；清介廉洁，节在俭固，失在拘局；休动磊砢，业在攀跻，失在疏越；沉静慈密，精在元微，失在迟懦；朴露径尽，质在中诚，失在不微；多智韬情，权在谓略，失在依违。”此拘亢之材，非中庸之德也。

《文子》曰：“凡人之道，心欲小，志欲大，智欲圆，行欲方，能欲多，事欲少。”所谓“心小”者，虑患未生，戒祸慎微，不敢纵其欲也；“志大”者，兼包万国，一齐殊俗，是非辐凑，中为之毂也；“智圆”者，终始无端，方流四远，深泉而不竭也；“行方”者，直立而不挠，素白而不污，穷不易操，达不肆志也；“能多”者，文武备具，动静中仪也；“事少”者，执

约以治广，处静以待躁也。夫天道极即反，盈则损。故聪明广智，守以愚；多闻博辩，守以俭；武力毅勇，守以畏；富贵广大，守以狭；德施天下，守以让。此五者，先王所以守天下也。《传》曰：“无始乱，无怙富，无恃宠，无违同，无傲礼，无骄能，无复怒，无谋非德，无犯非义。”此九言，古人所以立身也。

《玉铃经》曰：“夫以明示者浅，有过不自知者弊，迷而不反者流，以言取怨者祸，令与心乖者废，后令缪前者毁，怒而无威者犯，好众辱人者殃，戮辱所任者危，慢其所敬者凶，貌合心离者孤，亲佞远忠者亡，信谗弃贤者悞，私人以官者浮，女谒公行者乱，群下外恩者沦，凌下取胜者侵，名不胜实者耗，自厚薄人者弃，薄施厚望者不报，赏而忘贱者不久用，人不得其正者殆，为人择官者失，决于不仁者险，阴谋外泄者败，厚敛薄施者凋。”此自理之大体也。故《傅子》曰：“立德之本，莫尚乎正心”。心正而后身正，身正而后左右正，左右正而后朝廷正，朝廷正而后国家正，国家正而后天下正。故天下不正，修之家；家不正，修之朝廷；朝廷不正，修之左右；左右不正，修之身；身不正，修之心。所修弥近，所济弥远。禹汤罪己，其兴也勃焉，正心之谓也。

## 理 乱

夫明察“六主”，以观君德；审惟“九风”，以定国常。探其“四乱”，核其“四危”，则理乱可知矣。

何谓“六主”？荀悦曰：“体正性仁，心明志同，动以为人，不以为己，是谓‘王主’；克己恕躬，好问力行，动以从义，不以从情，是谓‘治主’；勤事守业，不敢怠荒，动以先公，不以先私，是谓‘存主’；悖逆交争，公私并行，一得一失，不纯道度，是谓‘衰主’；情过于义，私多于公，制度逾限，政教失常，是谓‘危主’；亲用谗邪，放逐忠贤，纵情逞欲，不顾礼度，

出入游放，不拘仪禁，赏赐行私，以越公用，愤怒施罚，以逾法理，遂非文过，而不知改，忠言拥塞，直谏诛戮，是谓“七主”。

何谓“九风”？君臣亲而有礼，百寮和而不同，让而不争，勤而不怨，唯职是司，此“礼国之风”也；礼俗不一，职位不重，小臣谗疾，庶人作议，此“衰国之风”也；君臣争明，朝廷争功，大夫争名，庶人争利，此“乖国之风”也；上多欲，下多端，法不定，政多门，此“乱国之风”也；以侈为博，以伉为高，以滥为通，遵礼谓之拘，守法谓之固，此“荒国之风”也；上下相疏，内外相疑，小臣争宠，大臣争权，此“危国之风”也；上不访下，下不谏上，妇言用，私政行，此“七国之风”也。

何谓“四乱”？《管子》曰：“内有疑妻之妾，此家乱也；庶有疑嫡之子，此宗乱也；朝有疑相之臣，此国乱也；任官无能，此众乱也。”

何谓“四危”？又曰：“卿相不得众，国之危也；大臣不和同，国之危也；兵主不足畏，国之危也；民不怀其产，国之危也。”此治乱之形也。

凡为人上者，法术明而赏罚必者，虽无言语而势自治；法术不明而赏罚不必者，虽曰号令，然势是乱。是故势理者，虽委之不乱；势乱者，虽勤之不治。尧舜拱己无为而有余，势理也；胡亥、王莽驰骛而不足，势乱也。故曰：善者求之于势，不责于人。是故明主审法度而布教令，则天下治矣。

论曰：夫能匡世辅政之臣，必先明于盛衰之道，通于成败之数，审于治乱之势，达于用舍之宜，然后临机而不惑，见疑而能断。为王者之佐，未有不由斯者矣。

## 适 变

昔先王当时而立法度，临务而制事。法宜其时则理，事适其务故有功。今时移而法不变，务易而事以古，是则法与时诡，而时与务易，是以法立而时益乱，务为而事益废，

故圣人之理国也，不法古，不修今，当时而立功，在难而能免。由是言之，故知若人者，各因其时而建功立德焉。

何以知其然耶？桓子曰：“三皇以道治，五帝用德化；三皇由仁义，五霸用权智。”五帝以上久远，经传无事，唯王霸二盛之美，以定古今之理焉。夫王道之治，先除人害，而足其衣食，然后教以礼仪，而威以刑诛，使知好恶去就。是故大化四溟，天下安乐。此王者之术。

霸功之大者，尊君卑臣，权统由一，政不二门，赏罚必信，法令著明，百官修理，威令必行。此霸者之术。

《道德经》曰：“我无为而人自化”。《文子》曰：“所谓无为者，非谓引之不来，推之不往。谓其循理而举事，因资而立功，推自然之势也。”故曰：汤武圣主也，而不能与越人乘舲舟、泛江湖；伊尹贤相也，而不能与胡人骑原马，服驹騊；孔、墨博通也，而不能与山居者入榛薄，出险阻。由是观之，人智之于物浅矣，而欲以照海内，存万方，不因道里之数，而专己之能，则其穷不远。故智不足以理，勇不足以强，明矣。

然而君人者，在庙堂之上，而知四海之外者，因物以识物，因人以知人也。

夫冬日之阳，夏日之阴，万物归之，而莫之使至。精之感，弗召自来。待目而昭见，待言而使令，其于理难矣。皋陶暗而为大理，天下无虐刑；师旷瞽而为太宰，晋国无乱政。不言之令，不视之见，圣人以为师。

此黄老之术也。

孔子闲居，谓曾参曰：“昔者明王内修七教，外行三至。七教修而可以守，三至行而可以征。明王之守也，则必折冲千里之外<sup>②6</sup>；其征也，还师衽席之上<sup>②7</sup>。”

曾子曰：“敢问七教？”孔子曰：“上敬老则下益孝；上敬齿则下益悌；上乐施则下益亮；上亲贤则下择交；上好德则下无隐；上恶贪则下耻争；上廉让则下知节。此之谓“七教”也。昔明王之治人也，必裂而封之，

分属而理之，使有司月省而时考之，进贤良，退不肖，哀鰥寡，养孤独，恤贫穷，诱孝悌，选才能。此七者修，则四海之内，无刑人矣。上之亲下也，如腹心；则下之亲上也，如幼子之于慈母矣。其于信也如四时，而人信之也，如寒暑之必验。故视远若迩，非道迩也，见明德也。是以兵革不动而威，用利不施而亲，此之谓“明王之守，折冲千里之外”者也。

曾子曰：“何谓三至？”孔子曰：“至礼不让，而天下理；至赏不费，而天下之士悦；至乐无声，而天下之人和。”何则？昔者明王必尽知天下良士之名，既知其名，又知其实。既知其实，然后因天下之爵以尊之，此谓“至礼不让而天下治”；因天下之禄，以富天下之士，此之谓：“至赏不费而天下之士悦”；如此则天下之明誉兴焉，此谓之“至乐无声而天下之人和。”故仁莫大于爱人，智者莫大于知贤，政者莫大于能官，有德之君，修此三者，则四海之内，供命而已矣，此之谓“折冲千里之外”；故曰明王之征，犹时雨之降，至则悦矣，此之谓“还师衽席之上”。故扬雄曰：“《六经》之理，贵于未乱；兵家之胜，贵于未战。”

此孔氏之术也。

墨子曰：古之人未知为宫室，就陵阜而居，穴而处。故圣王作，为宫室。为宫室之法，高足以避润湿，边足以圉风寒。宫墙之高，足以别男女之礼，谨此则止，不以为观乐也。故天下之人，财用可得而足也。当今之王为宫室，则与此异矣，必厚敛于百姓，以为宫室台榭曲直之望，青黄刻镂之饰。为宫室若此，故左右皆法而象之，是以其财不足以待凶饥，振孤寡，故国贫而难理也。为宫室不可不节。

古之人未知为衣服，时衣皮带茭，冬则不轻而暖，夏则不轻而清。圣王以为不中人之情，故圣人作，诲妇人，以为人衣。为衣服之法，冬则练帛，足以为轻暖；夏则絺绤，足以为轻清。谨此则止。非以荣耳目，观愚人也。是以前人用俭约而易治，其君用财节

## 正 论

而易贍也。当今之王，其为衣服，则与此异矣，必厚敛于百姓，以为文彩靡曼之衣，铸金以为钩，珠玉以为佩。由此观之，其为衣服，非为身体，此为观好也，是以其人淫僻而难治，其君奢侈而难谏。夫以奢侈之君，御淫僻之人，欲国无乱，不可得也。为衣服不可不节。

此墨翟之术也。

商子曰<sup>②③</sup>：法令者，人之命也，为治之本。一兔走，百人逐之，非以兔可分为百，由名分之未定也。卖兔满市，盗不敢取者，由名分之定也。故名分未定，虽尧舜禹汤，且皆加务而逐之。名分已定，则贫盗不敢取。故圣人之为法令也，置官也，置吏也，所以定分也。名分定则大诈贞信，巨盗愿悛，而各自治也。

申子曰<sup>②④</sup>：君如身，臣如手，君设其本，臣操其末。为人君者，操契以责其名。名者，天地之纲，圣人之符。张天地之纲，用圣人之符，则万物无所逃矣。动者摇，静者安，名自名也，事自定也。是以有道者，因名而正之，随事而定之。昔者尧之治天下也，以名。其名正则天下治；桀之治天下也，亦以名，其名倚而天下乱，是以圣人贵名之正也。

李斯书曰：韩子称慈母有败子<sup>②⑤</sup>，而严家无格虏者<sup>②⑥</sup>。何也？则罚之加焉必也。故商君之法，刑弃灰于道者。夫弃灰，薄罪也，而被刑重罚也。夫轻罪具督，而况有重罪乎？故人弗敢犯矣。今不务所以不犯，而事慈母之所以败子，则亦不察于圣人之论矣。

此商鞅、申、韩之术也。

由是观之，故知治天下者，有王霸焉，有黄老焉，有孔墨焉，有申商焉，此其所以异也。虽经纬殊致，救弊不同，然康济群生，皆有以矣。今议者或引长代之法，诘救弊之言，或引帝王之风，讥霸者之政，不论时变，而务以饰说，故事非之论，纷然作矣。言伪而辩，顺非而泽，此罪人也，故君子禁之。

孔子曰：“六艺于理一也。‘礼’以节人，‘乐’以发和，‘书’以导事，‘诗’以达意，‘易’以道化，‘春秋’以道义。”故曰，入其国，其教可知也。其为人也，温柔敦厚，“诗”教也；疏通知远，“书”教也；广博易良，“乐”教也；洁静精微，“易”教也；恭俭庄敬，“礼”教也；属辞比事，“春秋”教也。故“诗”之失愚；“书”之失诬；“乐”之失奢；“易”之失贼；“礼”之失烦；“春秋”之失乱。其为人也，温柔敦厚而不愚，则深于“诗”也；疏通知远而不诬，则深于“书”也；广博易良而不奢，则深于“乐”也；洁静精微而不贼，则深于“易”也；恭俭庄敬而不烦，则深于“礼”也；属辞比事而不乱，则深于“春秋”也。

自仲尼没而微言绝<sup>②⑦</sup>，七十子丧而大义乖，战国纵横，真伪分争，诸子之言，纷然散乱矣。

“儒家”者，盖出于司徒之官，助人君顺阴阳，明教化者也。游文于六经之中，留意于仁义之际，祖述尧舜，宪章文武，宗师仲尼，此其最高也。然惑者既失精微，而僻者又随时抑扬，违离道本，苟以哗众取宠，此僻儒之患也。

“道家”者，盖出于史官，历纪成败，秉要执本，清虚以自守，卑弱以自持，此君人南面者之术也。合于尧之“克让”<sup>②⑧</sup>，《易》之“谦谦”<sup>②⑨</sup>，此其所长也。及放者为之，则欲绝去礼乐，兼弃仁义，独任清虚，何以为治？此道家之弊也。

“阴阳家”者，盖出于羲和之官，敬顺昊天，历象日月星辰，敬授人时，此其所长也。及拘者为之，则牵于禁忌，泥于小数，舍人事而任鬼神，此阴阳之弊也。

“法家”者，盖出于理官<sup>②⑩</sup>，信赏必罚，以辅礼制，此其所长也。及刻者为之，则亡教化，去仁爱，专任刑法，而欲以致治，至于残贼至亲，伤恩薄厚，此法家之弊也。

“名家”者盖出于礼官，古者名位不同，礼亦异数，孔子曰：“必也正名乎”，此其所长也。及繁者为之，则苟钩铍析乱而已，此名家之弊也。

“墨家”者，盖出于清庙之官<sup>③</sup>，茅屋采椽，是以贵俭；养三老五更<sup>④</sup>，是以兼爱；选士大射，是以上贤；宗祀严父，是以右鬼<sup>⑤</sup>；顺四时而行，是以非命；以孝示天下，是以上同。此其所长也。及蔽者为之，见俭之利，因以非礼，推乐爱之意，而不知别亲疏，此墨家之弊也。

“纵横家”者，盖出于行人之官<sup>⑥</sup>，孔子曰：“使乎，使乎！”言当权事制宜，受命不受辞，此其所长也。及邪人为之，则上诈谖而弃其信，此纵横之弊也。

“杂家”者，盖出于议官<sup>⑦</sup>，兼儒墨，合名法，知国体之有此，见王理之无不贯，此其所长也。及荡者为之，则漫羨而无所归心，此杂家之弊也。

“农家”者，盖出于农稷之官<sup>⑧</sup>，播百谷，劝耕桑，以足衣食。孔子曰：“所重人食”。此其所长也。及鄙者为之，则欲君臣之并耕，諄上下之序，此农家之弊也。

文子曰：“圣人之从事也，所由异路而回归，秦、楚、燕、魏之歌，异转而皆乐；九夷八狄之哭<sup>⑨</sup>，异声而皆哀。夫歌者，乐之微也；哭者，哀之效也。愔愔于中而应于外，故在所以感之矣。

论曰：范晔称“百家之言政者尚矣，大略归乎宁固根柢，革易时弊也。而遭运无恒，意见偏杂，故事非之论，纷然相乖。”尝试论之，夫世非胥、庭<sup>⑩</sup>，人乖穀饮<sup>⑪</sup>，理迹万肇，情故萌生。虽周物之智，不能研其权变；山川之奥，未足况其纡险。则应俗适事，难以常条。何以言之？若夫元圣御代，则大同极轨，施舍之道，宜无殊典。而损益异运，文朴逆行，用明居晦，回穴于曩时，兴戈陈俎，参考于上世。及至戴黄屋，服绋衣，丰薄不齐，而致治则一。亦有宥公族，黥国仇，宽躁已隔，而防非必同。此其分波而共源，

百虑而一致者也。若乃偏情矫用，则枉直必过。故“葛屣履霜”，弊由崇俭；“楚楚衣服”，戒在穷奢。疏禁厚下，以尾大陵；弱敛威峻，法以苛薄，分崩。斯曹魏之刺，所以明乎国风；周秦末轨，所以彰于微灭。故用舍之端，兴败资焉。是以繁简唯时，宽猛相济，刑书镌鼎，事有可详；三章在令<sup>⑫</sup>，取贵能约。太叔致猛政之衰，国子流遗爱之涕。宣孟改冬日之和，平阳循画一之法。斯实驰张之宏致，庶可以征其统乎？

数子之言，当世失得，皆悉究矣。然多谬通方之训，好中一隅之说。贵清净者，以席上为腐议；束名实者，以柱下为诞辞；或推前王之风，可行于当年；有引救弊之规，宜流于长世。稽之笃论，将为蔽矣。由此言之，故知有法无法，因时为业，时止则止，时行则行。动不失其时，其道光明。非至精者，孰能通于变哉？

## 霸 图

范晔曰：自古丧大业，绝宗祿，其所以致削弱祸败者，盖渐有由矣。三代以嬖色取祸<sup>⑬</sup>，嬴氏以奢侈致灾<sup>⑭</sup>，西京自外戚失祚<sup>⑮</sup>，东都缘阹尹倾国<sup>⑯</sup>。成败之来，先史商之久矣。自秦汉迄于周隋，观其兴亡，虽亦有数，然大抵得之者，皆因得贤豪，为人兴利除害；其失之也，莫不因任用群小，奢汰无度。孔子曰：“以约失之者鲜矣。”又曰：“远佞人，去僻恶。”有旨哉。

## 七雄略

论曰：周有天下八百余年，后代衰微，而诸侯纵横矣。至末孙王赧降为庶人，犹能枝叶相持，名为天下共主。当是时也，楚人问鼎，晋侯请隧，虽欲阹周室，而见厄诸姬，夫岂无奸雄？赖诸侯以维持之也。故语曰：“百足之虫，至死不僵，扶之者众。”此之谓乎。及嬴氏擅场，惩周之失，废五等，立郡

县，君有海内，而子弟为匹夫，功臣效勤，而干城无茅土。孤制天下，独擅其利，身死之日，海内分崩。陈胜偏袒唱于前，刘季提剑兴于后<sup>⑤</sup>，虎啸龙睇，遂亡秦族。夫刘、陈诸杰，布衣也，无吴楚之势，立锥之地，然而驱白徒之众，得与天子争衡者，百姓思乱，无诸侯勤王之可惮也。故请曰：“夫乱政虐刑，所以资英雄而自速祸也。”此之谓矣。夫伐深根者难为功，摧枯朽者易为力。今五等，深根者也；郡县，枯朽者也。故自秦以下，迄于周隋，失神器者非侵弱，得天下者非持久，国势然也。呜呼！郡县而理，则生布衣之心；五等御代，则有纵横之祸。故知法也者，皆有弊焉。非谓侯伯无可乱之符，郡县非致理之具，但经始图其多福，虑终取其少祸，故贵于五等耳。圣人知其如此，是以兢兢业业，日慎一日，修德以镇之，择贤而使之，德修贤择，黎元乐业，虽有汤武之圣，不能兴矣。况于布衣之细，而敢偏袒大呼哉？不可不察。

### 三国权

论曰：臣闻昔汉氏不纲，网漏凶狡，袁本初虎视河朔<sup>⑥</sup>，刘景升鹄起荆州<sup>⑦</sup>，马超、韩遂雄据于关西，吕布、陈宫窃命于东夏。辽河、海岱，王公十数，皆阻兵百万，铁骑千群，合纵缔交，为一时之杰也。

然曹操“挟天子以令诸侯”，六七年间，夷灭者十八九，唯吴蜀蕞尔国也，以地图按之，才四州之土，不如中原之大都，人怯于公战，勇于私斗，轻走易北，不敌诸华之士。角长量大，比才称力，不若二袁、刘、吕之盛<sup>⑧</sup>，此二雄以新造未集之国，资逆上不侔之势，然能抚剑顾眄，与曹氏争衡，跃马指麾，而利尽南海，何哉？则地利不同，势使之然耳。故《易》曰：“王侯设险，以守其国。”古语曰：“一里之厚，而动千里之权者，地利也。”故曹丕临江，见波涛汹涌，叹曰：“此天所以限南北也。”刘资称南郑为“天狱”，斜谷

道为“五百里石穴”。稽诸前志，皆畏其深阻矣。虽云天道顺，地利不如人和，若使中材守之，而延期挺命可也，岂区区艾、浚<sup>⑨</sup>，得奋其长策乎？由是观之，在此不在彼。于戏，智者之虑，必杂于利害。故“不尽知用兵之害，则不能知用兵之利”，有自来矣。

论曰：《传》称“都城过百雉<sup>⑩</sup>，国之害也。”又曰：“大都偶国，乱之本。”古者诸侯不过百里，山海不以封，毋亲夷狄，良有以也，何者？贾生有言<sup>⑪</sup>，“臣窃迹前事，夫诸侯大抵强者先反，淮阴王楚最强，则最先反；韩信倚胡则又反；贯高因赵资则又反；陈豨兵精则又反；彭越因梁则又反；黥布用淮南则又反；卢绾最弱最后反。长沙乃在二万五千户耳<sup>⑫</sup>，功小而最完，势疏而最忠。非独性异人也，亦形势然也。曩令樊、鄢、郢、灌据数十城而王<sup>⑬</sup>，今虽以死亡可也；令信、越之伦<sup>⑭</sup>，列为彻侯而居，虽至今存可也。然则天下之大计亦可知己，欲诸王之皆忠附，则莫若令如长沙王；欲臣子之勿蒞醢，则莫若令如樊、鄢等；欲天下之治安，则莫若众建诸侯而少其力。以此观之，今专城者，皆提封千里，有人民焉，非特百里之资也，官以才居，属非肺腑，非特母亲之疏也。吴据江湖，蜀阻天险，非特山海之利也。跨州连郡，形束壤制，非别偶国之害也。若遭万世之变，有七子之祸<sup>⑮</sup>，则不可讳，有国者不可不察。

### 惧 诚

《易》曰：“汤武革命，顺乎天而应乎人。”《书》曰：“抚我则后，虐我则仇。”《尸子》曰：“昔周公反政，孔子非之曰：‘周公其不圣乎，以天下让，不为兆人也<sup>⑯</sup>。’”董生曰<sup>⑰</sup>：“虽有继体守文之君，不害圣人之受命。”古语曰：“穷鼠啮狸，匹夫奔万乘。”故黄石公曰<sup>⑱</sup>：“君不可以无德，无德则臣叛。”孙卿曰<sup>⑲</sup>：“能除患则为福，不能则为贼。”

天下者，非一人之天下也，天下之天下

也。所以，王者必通三统，明天命所受者博，非独一姓也。昔孔子论《诗》，至于“殷士肤敏，濯将于京<sup>⑤</sup>”，喟然叹曰：“富贵无常。不如是，王公其何以诫慎，民萌其何以劝勉<sup>⑥</sup>！”《易》曰：“安不忘危，存不忘亡。”是以身安而国家可保也。故知惧而思诫，乃有国之福者矣。

## 时 宜

夫事有趋同而势异者，非事诡也。时之变耳。何以明其然耶？

昔秦末，陈涉起薪，兵至陈，陈豪杰说涉曰：“……宜为王。”陈涉问陈余、张耳两人，两人对曰：“……今始至陈而王之，示天下以私，愿将军无王，急引兵而西，遣人立六国后，自为树党。如此野无交兵，诛暴秦，据咸阳以令诸侯，则帝业成矣。今独王陈，恐天下解也。”

及楚汉时，酈食其为汉谋挠楚权曰：“……陛下诚能复立六国后，此其君臣百姓，必皆戴陛下德，莫不向风慕义，愿为臣妾，德义以行，陛下南面称霸，楚必敛衽而朝。”汉王曰：“善”。张良曰：“诚用客之谋，陛下事去矣。”汉王曰：“何哉？”良因发八难：……时王方食，吐哺骂酈生曰：“竖儒，几败我事。”趣令销印。

此异形者也。

七国时，秦王谓陈轸曰：“韩魏相攻，期年不解。或曰救之便，或曰勿救便，寡人不能决，请为寡人决之。”轸曰：“昔卞庄子方刺虎，馆竖子止之曰：‘两虎方食牛，牛甘必争，争必斗，斗则大者伤，小者死，从伤而刺之，一举必有两虎之名。’今韩魏相攻，期年不解，必是大国伤，小国亡，从伤而伐之，一举必有两实，此卞庄刺虎之类也。”惠王曰：“善”。果如其言。

初诸侯之叛秦也，秦将章邯围赵王于巨鹿，楚怀王使项羽、宋义等北救赵，至安阳，留不进。羽谓义曰：“今秦军围巨鹿，疾引兵

渡河，楚击其外，赵应其内，破秦军必矣。”宋义曰：“不然，夫转牛之虻，不可以破虱。今秦攻赵，战胜则兵罢<sup>⑦</sup>，我承其弊，不胜则我引兵鼓行而西，必举秦矣。……”羽曰：“将军戮力而攻秦，久留不行。今岁饥民贫，士卒食半菽，军无见粮。乃饮酒高会，不引兵渡河。因赵食，与并力击秦，乃曰承其弊，夫以秦之强，攻新造之赵，其势必举赵，赵举而秦强，何弊之承？……”即夜入义帐中斩义，悉兵渡河，沉舟破釜，示士卒必死，无还心，大破秦军。

此异势者也。

韩信伐赵，军井陘，选轻骑二千人，人持一赤帜，从间道升山而望赵军，诫曰：赵见我走，必空壁逐我，若疾入赵壁，拔赵帜，立汉赤帜。信乃使万人先行，出背水阵。平旦，信建大将之旗，鼓行出井陘口，赵开壁击之，大战良久，于是信弃旗鼓，走水上军。水上军开入之，复疾战。赵空壁争汉旗鼓，逐韩信，韩信等已入水上军，军皆殊死战，不可败。信所出奇兵二千骑，共候赵空壁逐利，则驰入赵壁，皆拔赵旗，立汉赤帜二千。赵军已不能得信等，欲还归壁，皆汉赤帜而大惊，以为皆已得赵王将矣，遂乱，遁走，赵将虽斩之，不能禁也。于是汉兵乘击大破之，虏赵军。诸将效首虏，皆贺信，因问曰：“兵法右背山陵，前左水泽，今者反背水阵，然竟以胜，此何术也？”信曰：“兵法不曰：‘陷之死地而后生，置之亡地而后存’，且信非得素扶循士大夫也，此所谓驱市人而战之，其势非置之死地，使人人自为我，今与之生地皆走，宁尚可得而用之？”

又高祖劫五诸侯兵，入彭城，项羽闻之，乃引兵去齐，与汉大战睢水上，大破汉军，多杀士卒，睢水为之不流。

此异情者也。

汉王在汉中，韩信说曰：“今士卒皆山东人，跂而望归。及其锋，东向可以争天下。”后汉光武北至蒯，闻邯郸兵到，世祖欲南归，召官属计议。耿弇曰：“今兵从南来，不可南



行。渔阳太守彭宠，公之邑人，上郡太守即弇父也。发此两郡，控弦万骑，邯郸不足虑也。”世祖官属不从，遂南驰，官属各分散。

后汉李傕等追困天子于曹阳，沮授说袁绍曰：“将军累叶台辅，世济忠义，今朝廷播越，宗庙残毁，观诸州郡，虽外托义兵，内实相图，未有忧在社稷，恤人之意，且今州城粗定，兵强士附，西迎大驾，即宫邨都，挟天子而令诸侯，畜士马以讨不庭，谁能御之？若不早定，必有先之者。夫权不失机，功不厌速，愿其图之。”绍不从，魏武果迎汉帝，绍遂败。梁武帝萧衍初起义，杜思冲劝帝迎南康王都襄阳，正尊号。帝不从。张弘策曰：“今以南康置人手中，彼挟天子以令诸侯，节下前去，为人所使，此岂岁寒之计耶？”帝曰：“若前途大事不捷，故自兰艾同焚，若功业克建，谁敢不从？岂是碌碌受人处分于江南？立新野郡，以集新附哉。”不从。遂进兵克建邨，而有江左。

此情与形势之异者也。

随时变通，不可执一矣。

## 用无用

古人有言曰：得鸟者，罗之一目，然张一目之罗，终不能得鸟矣。鸟所以能远飞者，六翮之力也，然无众毛之助，则飞不能远矣。以是推之，无用之为用也大矣。故惠子谓庄子曰：“子言无用矣。”庄子曰：“知无用而始可与言用矣。夫天地非不广且大也，人之所用容足耳，然则削足而垫之至黄泉，人尚有用乎？”惠子曰：“无用。”庄子曰：“然则无用之为用也，亦明矣。”……原其无用，亦所以为用也，而惑者忽不践之地，賒无用之功，至乃消谗“远术”，贱斥“国华”<sup>⑥</sup>，不亦过乎？

## 大私

管子曰：“知与之为取，政之宝也。”《周书》曰：“将欲取之，必故与之。”何以征其然

耶？黄石公曰：“得前勿有，立而勿取，为者则已，有者则士，焉知利之所在？彼为诸侯，己为天子，使城自存，令士自取。”王者之道也。尸子曰：“尧养无告，禹爱辜人，此先王之所以安危而怀远也。圣人于大私之中也为无私。”汤曰：“朕身有罪，无及万方；万方有罪，朕身受之。”汤不私其身而私万方。文王曰：“苟有仁人，何必周亲？”文王不私其亲而私万国。

先王非“无私”也，所私者与人不同，此知大私者也。由是言之，夫唯不私，故能成其私，不利而利之，乃利之大者矣。

注释：

①荀卿：即荀子。②傅子：即傅玄，西晋大臣，著有《傅子》一书。③子房：即张良，字子房。汉高祖刘邦的重要谋臣。④五音：即宫、商、角、徵、羽。⑤凶妇：指吕后。汉高祖之妻，名雉。⑥嬖妾：指戚夫人。据说，戚夫人被吕后斩去手足，挖目聋耳割舌，置于厕中，号为“人彘”。⑦画臣：智谋之臣。⑧世祖：指汉光武帝刘秀。⑨莽：即王莽。⑩靡憾：没有过错。⑪虞南：唐初大臣虞世南。⑫嬴：指秦朝。秦始皇，嬴姓。⑬太宗：指汉文帝。⑭秦项：即秦朝和西楚霸王项羽。⑮反：恢复。轩昊：即传说中的轩辕、太昊。⑯邑姜：周武王之妻。⑰桀：上官桀。光：霍光。⑱几：指机敏多智。⑲司马子元：即晋景帝司马师。⑳爽：即曹爽。249年，司马懿等人与曹爽争夺政权，发动高平陵之变，杀曹爽。㉑司马师派文钦、毋丘俭领兵拒吴将诸葛恪围城，获胜。㉒侯服：古代称离王城一千里以外，方五百里的地区为侯服。㉓太祖：即晋文帝司马昭。㉔宣武：指晋宣帝司马懿和魏武帝曹操。㉕建元：齐高帝萧道成年号，479年—482年。永明：齐武帝萧赜年号，483年—493年。㉖折冲：击败敌人。㉗衽席：朝堂上宴享时所设的席位。此句指军队凯旋而归。㉘商子：即商鞅。㉙申子：即申不害。㉚韩子：即韩非。㉛格虏：俘仆。㉜仲尼：即孔子。㉝克让：信恭能让。㉞谦谦：谦让。㉟理官：管理刑法的官。㊱清庙之官：管理宗庙

祭祀的官。③三老五更：相传古代设三老五更之位以养老人。④右鬼：信鬼神。⑤行人之官：外交官。⑥议官：谏议之官。⑦农稷之官：主管农业的官。⑧九夷八狄：泛指各少数民族。⑨胥庭：即赫胥氏、大庭氏，古帝王名，传说其世古朴，人民含哺而嬉，鼓腹而游。⑩穀：幼鸟，幼鸟待母哺食而足，喻无心而自足。⑪三章：指汉高祖刘邦入咸阳“约法三章”，“杀人者死，伤人及盗抵罪。”⑫三代：指夏、商、周。⑬嬴氏：指秦朝。⑭西京：指西汉。⑮东都：指东汉。⑯刘季：即刘邦。⑰袁本初：袁绍。⑱刘景升：刘表。⑲二袁：袁术、袁绍；刘：刘表；吕：吕布。⑳艾：邓艾；浚：王浚。㉑雉：计算城墙的面积单位，一雉之墙，长三丈，高一丈。㉒贾生：即贾谊。㉓长沙：指长沙王吴芮。㉔樊：樊哙；酈：酈商；绛：绛侯周勃；灌：灌婴。㉕信：韩信；越：彭越。㉖七子之祸：指汉景帝时吴楚七国之乱。㉗兆人：老百姓。㉘董生：即董仲舒。㉙黄石公：秦时隐士。㉚孙卿：即荀卿，荀子。㉛殷士肤敏，灌将于京：殷诸侯美好敏捷，在周京实行祭祀之礼。㉜民萌：老百姓。㉝罢(pi)：同“疲”。㉞国华：指怀道的隐逸之士。

## 《封建论》

### 题解：

本文作者柳宗元是唐朝著名的政治家和文学家，他积极主张改革，参加“永贞革新”，永贞革新失败后，被贬为永州司马，后死于柳州。中国古代自商周以来，实行分封制，秦统一以后废除分封制，实行专制主义中央集权制。秦亡以后，一些政治家认为秦朝速亡，是因为没有实行分封制，因此，他们大力推崇封建制而贬低郡县制。柳宗元站在历史发展的高度，指出郡县制的形成，是由形势发展所决定的，不是出于圣人之意。他以周、秦、汉、唐四代史实作依据，论证了封建制的缺失：裂土分封，常形成“末大不掉”的局面；“继世而理”，贤、不肖往往倒置；

世大夫世食禄邑，堵塞贤者发挥才能的机会，世为独立王国，易于叛乱而造成国家分裂，远不如中央集权制优越。他认为秦朝速亡之失，“在于政，不在于制”，汉代以来“有叛国而无叛郡”，充分说明郡县制优于分封制。因此，他为统治者谋划策略，应该实行郡县制，不能实行分封制。此文在中国历史上影响很大。收入《柳河东集》。

天地果无初乎？吾不得而知之也。生人果有初乎？吾不得而知之也。然则孰为近？曰：有初为近。孰明之？由封建而明之也<sup>①</sup>。彼封建者，更古圣王尧、舜、禹、汤、文、武而莫能去之<sup>②</sup>。盖非不欲去之也，势不可也。势之来，其生人之初乎？不初，无以有封建；封建，非圣人意也。

彼其初与万物皆生，草木榛榛<sup>③</sup>，鹿豕豨豨<sup>④</sup>，人不能搏噬，而且无毛羽，莫克自奉自卫；荀卿有言：必将假物以为用者也<sup>⑤</sup>。夫假物者必争，争而不已，必就其能断曲直者而听命焉。其智而明者，所伏必众；告之以直而不改，必痛之而后畏；由是君长刑政生焉。故近者聚而为群；群之分，其争必大，大而后有兵有德。又有大者，众群之长又就而听命焉，以安其属。于是有诸侯之列，则其争又有大者焉。德又大者，诸侯之列又就而听命焉，以安其封。于是有方伯、连帅之类<sup>⑥</sup>，则其争又有大者焉。德又大者，方伯、连帅之类又就而听命焉，以安其人，然后天下会于一。是故有里胥而后有县大夫<sup>⑦</sup>，有县大夫而后有诸侯，有诸侯而后有方伯、连帅，有方伯、连帅而后有天子。自天子至于里胥，其德在人者，死必求其嗣而奉之。故封建非圣人意也，势也。

夫尧、舜、禹、汤之事远矣，及有周而甚详。周有天下，裂土田而瓜分之，设五等<sup>⑧</sup>，邦群后<sup>⑨</sup>，布履星罗，四周于天下，轮运而辐集；合为朝觐会同<sup>⑩</sup>，离为守臣捍城。然而降于夷王，害礼伤尊，下堂而迎觐者。历于宣王，挟中兴复古之德，雄南征北

伐之威，卒不能定鲁侯之嗣。陵夷迄于幽、厉，王室东徙，而自列为诸侯矣。厥后问鼎之轻重者有之，射王中肩者有之，伐凡伯、诛莒弘者有之。天下乖盪<sup>⑪</sup>，无君君之心。余以为周之丧久矣，徒建空名于公侯之上耳！得非诸侯之盛强，末大不掉之咎欤？遂判为十二<sup>⑫</sup>，合为七国，威分于陪臣之邦，国殄于后封之秦，则周之败端，其在乎此矣。秦有天下，裂都会而为之郡邑，废侯卫而为之守宰，据天下之雄图，都六合之上游<sup>⑬</sup>，摄制四海，运于掌握之内，此其所以为得也。不数载而天下大坏，其有由矣：亟役万人<sup>⑭</sup>，暴其威刑，竭其货贿；负锄挺镬戍之徒<sup>⑮</sup>，圜视而合从，大呼而成群；时则有叛人而无叛吏，人怨于下，而吏畏于上，天下相合，杀守劫令而并起。咎在人怨，非郡邑之制失也。汉有天下，矫秦之枉，徇周之制，剖海内而立宗子，封功臣。数年之间，奔命扶伤之不暇，困平城<sup>⑯</sup>，病流矢<sup>⑰</sup>，陵迟不救者三代<sup>⑱</sup>；后乃谋臣献画，而离削自守矣<sup>⑲</sup>。然而封建之始，郡邑居半，时则有叛国而无叛郡，秦制之得，亦以明矣。继汉而帝者，虽百代可知也。唐兴，制州邑，立守宰，此其所以为宜也。然犹桀猾时起<sup>⑳</sup>，虐害方域者，失不在于州，而在于兵，时则有叛将而无叛州，州县之设，固不可革也。

或者曰：“封建者，必私其土，子其人，适其俗，修其理<sup>㉑</sup>，施化易也。守宰者，苟其心，思迁其秩而已，何能理乎？”余又非之。周之事迹断可见矣：列侯骄盈，黷货事戎<sup>㉒</sup>，大凡乱国多，理国寡；侯伯不得变其政，天子不得变其君，私土子人者，百不有一。失在于制，不在于政，周事然也。秦之事迹亦断可见矣：有理人之制，而不委郡邑是矣；有理人之臣，而不使守宰是矣；郡邑不得正其制，守宰不得行其理；酷刑苦役，而万人侧目。失在于政，不在于制，秦事然也。汉兴，天子之政行于郡，不行于国；制其守宰，不制其侯王。侯王虽乱，不可变也；国人虽病，不可除也；及夫大逆不道，然后掩捕而

迁之，勒兵而夷之耳。大逆未彰，奸利浚财，怙势作威，大刻于民者，无如之何；及夫郡邑，可谓理且安矣。何以言之？且汉知孟舒于田叔<sup>㉓</sup>，得魏尚于冯唐<sup>㉔</sup>，闻黄霸之明审<sup>㉕</sup>，靚汲黯之简靖；拜之可也，复其位可也，卧而委之以辑一方可也。有罪得以黜，有能得以赏，朝拜而不道，夕斥之矣；夕受而不法，朝斥之矣。设使汉室尽城邑而侯王之，纵令其乱人，威之而已。孟舒、魏尚之术莫得而施，黄霸、汲黯之化莫得而行。明谴而导之，拜受而退已违矣；下令而削之，缔交合从之谋，周于同列，则相顾裂眦，勃然而起；幸而不起，则削其半，削其半，民犹瘁矣。曷若举而移之以全其人乎？汉事然也。今国家尽制郡邑，连置守宰，其不可变也固矣。善制兵，谨择守，则理平矣。

或者又曰：“夏、商、周、汉封建而延，秦郡邑而促。”尤非所谓知理者也。魏之承汉也，封爵犹建，晋之承魏也，因循不革；而二姓陵替，不闻延祚。今矫而变之，垂二百祀，大业弥固，何系于诸侯哉？

或者又以为：“殷、周，圣王也，而不革其制，固不当复议也。”是大不然。夫殷周之不革者，是不得已也。盖以诸侯归殷者三千焉，资以黜夏，汤不得而废；归周者八百焉，资以胜殷，武王不得而易。徇之以为安，仍之以为俗，汤、武之所不得已也。夫不得已，非公之大者也，私其力于己也，私其卫于子孙也。秦之所以革之者，其为制，公之大者也，其情，私也，私其一己之威也，私其尽臣畜于我也。然而公天下之端自秦始。

夫天下之道，理安斯得人者也。使贤者居上，不肖者居下，而后可以理安。今夫封建者，继世而理<sup>㉖</sup>；继世而理者，上果贤乎？下果不肖乎？则生人之理乱，未可知也。将欲利其社稷，以一其人之视听，则又有世大夫世食禄邑，以尽其封略，圣贤生于其时，亦无以立于天下，封建者为之也。岂圣人之制使至于是乎？吾固曰：“非圣人之意也，势也。”

### 注释:

①封建:指封国土,建诸侯。②更:经历。③榛榛:草木芜杂貌。④狴(pi)狴:兽类成群行动貌。⑤假物为用:谓凭藉外物自奉自卫,得以生存。⑥方伯:商周时一州诸侯的领袖。连帅:十国诸侯的领袖。⑦里胥:里长。县大夫:县的长官。⑧五等:指公、侯、伯、子、男五等爵位。⑨邦群后:分封诸侯。⑩朝覲(jìn):会同:周代诸侯朝见天子,春见曰朝,秋见曰覲,时见曰会,众见曰同。⑪盭(lì):同“戾”,反常。乖盭:背离,反常。⑫判:分。十二:指春秋时的鲁、齐、晋、秦、楚、宋、卫、陈、蔡、曹、郑、燕等十二国。⑬六合:上下四方,此指天下。⑭亟(qi)役万人:一再役使万民。⑮挺(tīng):木棍。⑯困平城:汉高祖刘邦在平城(今山西大同东)被匈奴围困七日。⑰病流矢:公元前196年,淮南王英布反,汉高祖亲往镇压,为流矢所中。归途中因矢伤而发病,次年死亡。⑱陵迟:衰微。三代:指汉惠帝、文帝、景帝三代。⑲离削自守:使诸侯势力分散,土地削减,无力反抗中央,仅能自守。⑳桀猾时起:此处指安史乱后的各地藩镇。㉑修其理:修明国家的政治。㉒黷货:贪污财货。事戎:用兵好战。㉓汉知孟舒于田叔:汉高祖时,云中郡太守孟舒因郡地受匈奴劫掠惨重,被免官。文帝即位,召见云中郡太守田叔问曰:“公知天下长者乎?”田叔答曰:“故云中守孟舒,长者也。”文帝便重召孟舒任云中太守。㉔得魏尚于冯唐:汉文帝时,魏尚爱护士兵,守土有功。一次上报战绩时,多报了六颗首级,被削爵罚劳役。后经冯唐代为辩白,才得以恢复原职。㉕闻黄霸之明审:汉宣帝时听说黄霸执法公平,召为廷尉正。㉖继世而理:谓世世承袭以治理所封国土。

## 《策林》

### 题解:

《策林》,唐朝白居易(772—846)撰,是一部有关治国谋略的策论文章。在政治谋略方面,白居易认为分封制和郡县制各有利弊,

国家灭亡,并不在乎实行分封制或郡县制,而在于“法坏政荒,亲离贤弃,王泽竭于上,人心叛于下。”因此,他主张,治国要以“敦睦亲族”、“优劝劳逸”、“尊贤宠德”、“安抚黎元”为重。白居易还主张,“仁圣之本,在乎制度”,制度是“先王所以下均地财,中立人极,上法天道者也。”他还认为,要治好国家,要作到君臣职权分明,各行其事,“建官施令者,君所执也;率职知事者,臣所奉也。”君主只是操其要而已。君主还要掌握御臣之术,“量其功而限之以爵,审其罪而纠之以法。”对待臣下,施以诚信,“使臣尽忠,人爱上”,“君视臣如股肱,则臣视君如元首。”白居易还认为,官吏清廉对于治国十分重要,要“使官吏清廉”,最好采取“厚其禄,均其俸”的办法,可以通过“省官”、“并俸”,来增加官吏的俸禄。白居易还认为,天子仅靠自己的两耳两目,不能遍听遍视,要通过“纳谏”,广泛了解下情,以便制订出正确的政策和策略,因此,他极力主张“决壅蔽”,认为“国家之患,患在臣之壅蔽。壅蔽之生,生于君之好欲。”因此,他主张皇帝要“推其诚、勤其政,慎其始,敬其终”,力戒“自骄自满”,以保证国家长治久安。这些谋略思想及其主张,对后人有较大启迪。

本文选自《白居易集》。

### 美谦让

臣闻:王者之有天下也:自谓之理,非理也;自谓之乱,非乱也;自谓之安,非安也;自谓之危,非危也。何者?盖自谓理且安者,则自骄自满,虽安必危。自谓乱且危者,则自戒自强,虽乱必理。理之又理,安之又安,则盛德大业,斯不远矣。伏惟陛下,嗣建皇极,司牧苍生,夙兴以忧人,夕惕而修己。以今日之理,陛下视朝廷未以为理;以今日之安,陛下视海内未以为安。而又思酌下言,乐闻上失,弊无不革,利无不兴。今则严禋郊庙,犹谓敬之不至。爱养黎庶,

犹谓惠之不弘。省罢进献，犹忧人之困穷。蠲免逋租，犹虑农之勤匮。搜扬俊乂，犹畏贤之遗逸。涤荡罪戾，犹念狱之非辜。底定兵戈，犹惧其未戢。怀柔夷狄，犹恐其未宾。大化参乎阴阳，犹惭之以寡德。重光并乎日月，犹让之以不明。斯乃陛下劳谦之心，合天运之不息也；勤恤之德，合地道之无疆也。

### 塞人望，归众心

夫欲使人望塞，众心归者，无他焉，在陛下慎初之所致耳。臣闻：天子动则左史书之，言则右史书之。言动不书，非盛德也；书而不法，后嗣何观焉？若王者言中伦，动中度；则千里之外应之，百代之后歌之，况其迳者乎？若言非宜，动非礼；则千里之外违之，百代之后笑之，况其迳者乎？是以古之天子，口不敢戏言，身不敢妄动；动必三省，言必再思。况陛下初嗣祖宗，新临兆庶；臣伏见天下之目，专专然以观陛下之动也；天下之耳，颀颀然以听陛下之言也。则陛下出一言，不终日而达于朝野；动一事，不浹辰而闻于华夷。盖是非之声，无翼而飞矣。损益之名，无胫而走矣。陛下得不慎之哉？伏惟观于斯，察于斯，使一言一动，无所苟而已矣。言动不苟，则天下之望塞焉，天下之心归焉。

### 政必成，化必至

夫欲使政必成，化必至者，无他焉，在陛下敬始慎终之所致耳。臣闻：先王之训，不徒言也；先王之教，不虚行也。浅行之则小理，深行之则大和。浅深小大之应，其犹影响矣。然则天下至广，王化至大，增减损益，难见其形。是以政之损者，虽不见其日损，必有时而乱也。教之益者，虽不见其日益，必有时而理也。陛下但推其诚，勤其政，慎其始，敬其终，日用而不知自臻其极；此

先王终日所务者也，终日所行者也。不可月会其教化之深浅，岁计其风俗之厚薄焉。臣又闻：《易》曰：“圣人久于其道，而天下化成。”《诗》曰：“靡不有初，鲜克有终。”此言王者之教，待久而成也；王者之化，待终而至也。陛下诚能久而终之，则何虑政不成而化不至乎？

### 致和平，复雍熙

臣闻：政不念今，则人心不能交感；道不思古，则王化不能流行。将欲感人心于和平，则在乎念今而已。伏惟陛下：知人安之至难也，则念去烦扰之吏。爱人命之至重也，则念黜苛酷之官。恤人力之易罢也，则念省修葺之劳。忧人财之易匮也，则念减服御之费。惧人之有馁也，则念薄麦禾之税。畏人之有寒也，则念轻布帛之征。虑人之有愁苦也，则念节声乐之娱。恐人之有怨旷也，则念损嫔嬙之数。故念之又念之，则人心交感矣。感之又感之，则天下和平矣。将欲致王化于雍熙，则在乎思古而已。伏惟陛下：仰羲轩之道也，则思兴利而除害。侔唐虞之圣也，则思明目而达聪。师夏禹之德也，则思泣辜而恤人。法殷汤之仁也，则思祝网而爱物。鉴汉之盛也，则思罢露台而海内流化。观周之兴也，则思葬枯骨而天下归心。弘贞观之理也，则思闻房、杜之谏议以致升平。嗣开元之政也，则思得姚、宋之嘉谋而臻富寿。故思之又思之，则王泽流行矣。行之又行之，则天下雍熙矣。

### 王泽流，人心感

夫欲使王泽旁流，人心大感，则在陛下恕己及物而已。夫恕己及物者无他，以心度心，以身观身，推其所为以及天下者也。故己欲安，则念人之重扰也。己欲寿，则念人之嘉生也。己欲逸，则念人之惮劳也。己欲富，则念人之恶贫也。己欲温饱，则念人之

冻馁也。已欲声色，则念人之怨旷也。陛下念其重扰，则烦暴之吏退矣。念其嘉生，则苛虐之官黜矣。念其惮劳，则土木之役轻矣。念其恶贫，则服御之费损矣。念其冻馁，则布帛麦禾之税轻矣。念其怨旷，则妓乐嫔嬙之数省矣。推而广之，念一知十。盖圣人之道也，始则恕己以及人，终则念人而反己。故恕之又恕之，则王泽不得不流矣。念之又念之，则人心不得不感矣。泽流心感，而天下不太平者，未之闻也。

## 立制度

臣闻：天有时，地有利，人有欲。能以三者与天下共者，仁也，圣也。仁圣之本，在乎制度而已。夫制度者，先王所以下均地财，中立人极，上法天道者也。且天之生万物也，长之以风雨，成之以寒燠；圣人之牧万人也，活之以衣食，济之以器用。若风雨淫，寒燠甚，则反伤乎物之生焉。若衣食奢，器用费，则反伤乎人之生焉。故作四时八节，所以时寒燠，节风雨，不使之过差为沴也。圣人制五等十伦，所以伦衣食，等器用，不使之逾越为害也。此所谓法天而立极者也。然则地之生财有常力，人之用财有常数：若羨于上，则耗于下也；有余于此，则不足于彼也。是以地力人财，皆待制度而均也；尊卑贵贱，皆待制度而别也。大凡爵禄之外，其田宅栋宇、车马仆御、器服饮食之制，暨乎宾婚祠葬之度，自上而下，皆有数焉。若不节之以数，用之以伦，则必地力屈于僭奢，人财消于嗜欲。而贫困冻馁，奸邪盗贼，尽生于此矣。圣王知其然，故天下奢则示之以俭，天下俭则示之以礼。俾乎贵贱区别，贫富适宜；上下无羨耗之差，财力无消屈之弊。而富安温饱、廉耻礼让，尽生于此矣。然则制度者，出于君而加于臣，行于人而化于天下也。是以君人者，莫不唯欲是防，唯度是守。守之不固，则外物攻之。故居处不守其度，则峻宇崇台攻之；饮食不守其度，

则殊滋异味攻之；衣服不守其度，则奇文诡制攻之；视听不守其度，则妍声艳色攻之；喜怒不守其度，则僭赏淫刑攻之；玩好不守其度，则妨行之货、荡心之器攻之；献纳不守其度，则谗谄之言、聚敛之计攻之；道术不守其度，则不死之方、无生之法攻之。夫然，则安得不内固其守，甚于城池焉；外防其攻，甚于寇戎焉。将在乎寝食起居，必思其度；思而不已，则其下化之。《诗》曰：“仪刑文王，万邦作孚。”此之谓也。

## 达聪明，致理化

夫欲达聪明，致理化，则在乎奉成式，不必乎创新规也。臣闻：尧之所以神而化者，聪明文思也；舜之所以圣而理者，明四目、达四聪也。盖古之理化，皆由聪明出也。自唐虞以降，斯道寝衰；秦汉以还，斯道大丧。上不以聪接下，下不以明奉上。聪明之道，既阻于上下，则讹伪之俗，不得不流于内外也。国家承百王已弊之风，振千古未行之法；于是始立匭使，始加谏员，始命待制官，始设登闻鼓。故遗补之谏人，则朝廷之得失所由知也。匭使之职举，则天下之壅蔽所由通也。待制之官进，则众臣之谋猷所由展也。登闻之鼓鸣，则群下之冤滥所由达也。此皆我烈祖所创，累圣所奉；虽尧舜之道，无以出焉。故贞观之大和，开元之至理，率由斯而驯致矣。自贞元以来，抗疏而谏者，留而不行；投书于匭者，寝而不报；待制之官，经时而不见于一问；登闻之鼓，终岁而不闻一声。臣恐众臣之谋猷，或未尽展；朝廷之得失，或未尽知；壅蔽者有所未通，冤滥者有所未达。今幸当陛下践祚体元之始，施令布和之初；则宜申明旧章，条举废事；使列圣之述作不坠，陛下之聪明惟新，以初为常，今其时矣！时不可失，惟陛下惜而行之；则尧舜之化，祖宗之理，可得而致矣。臣故曰：达聪明，致理化，在乎奉成式，不必乎创新规也。

## 决壅蔽

臣闻：国家之患，患在臣之壅蔽也。壅蔽之生，生于君之好欲也。盖欲见于此，则壅生于彼；壅生于彼，则乱作其间：历代有之，可略言耳。昔秦二代好佞，赵高饰谄谀之言以壅之。周厉好利，荣夷公陈聚敛之计以壅之。殷辛好音，师涓作靡靡之乐以壅之。周幽好色，褒人纳艳妻以壅之。齐桓好味，易牙蒸首子以壅之。虽所好不同，同归于壅矣；所壅不同，同归于乱也。故曰：人君无见其意，将为下饵；盖谓此矣。然则明王非无欲也，非无壅也；盖有欲则节之，有壅则决之。节之又节之，以至于无欲也；决之又决之，以至于无壅也。其所然者，将在乎静思其故，动防其微。故闻甘言，则虑赵高之谀进于侧矣。见厚利，则虑荣夷公之计陈于前矣。听新声，则虑师涓之音诱于耳矣。顾艳色，则虑褒氏之女惑于目矣。尝异味，则虑易牙之子入于口矣。夫如是，安得不昼夜虑之，寤寐思之；立则见其参于前，行则想其随于后。自然兢兢业业，日慎一日，使左不知其所欲，右不知其所好；虽欲壅蔽，其可得乎？此明王节欲决壅之要道也。

## 君不行臣事

臣闻：建官施令者，君所执也。率职知事者，臣所奉也。臣行君道则政专，君行臣道则事乱：专与乱，其弊一也。然则臣道者，百职至众，万事至繁，诚非一人方寸所能尽也。故王者但操其要，择其人而已。将在乎分务于群司，各令督责其课，受成于宰相，不以勤倦自婴；然后谨殿最而赏罚焉，审幽明而黜陟焉，则万枢之要毕矣。故失君道者，虽多夕惕若厉之虑，而彝伦未必序也。行臣事者，虽多日昃不食之勤，而庶绩未必凝也。得其要，逸而有终；非其宜，劳而无功故也。臣又闻：坐而论道，三公之任也。作而行之，

卿大夫之职也。故陈平不肯知钱谷，邴吉不问死伤者，此有司之职也，非宰相之任也。夫以宰相尚不可侵有司之职，况人君可侵宰相之任乎？可侵百执事之事乎？臣又闻：宰相之任者，上代天工，下执人柄：群职由之而理乱，庶政由之而弛张。君之心膺，待宰相而启沃；君之耳目，待宰相而聪明。设其位，不可一日非其人；得其人，不可一日无其宠。疑则勿用，用则勿疏。然后能欣合其心，驯致其道。盖先王所以端拱凝旒，而天下大理者，无他焉：委务于有司也，仰成于宰相也。

## 使官吏清廉

臣闻为国者，皆患吏之贪，而不知去贪之道也；皆欲吏之清，而不知致清之由也。臣以为去贪致清者，在乎厚其禄，均其俸而已。夫衣食阙于家，虽严父慈母不能制其子，况君长能检其臣吏乎？冻馁切于身，虽巢由夷齐不能固其节，况凡人能守其清白乎？臣伏见今之官吏，所以未尽贞廉者，由禄不均而俸不足也。不均者，由所在课料重轻不齐也；不足者，由所在官长侵刻不已也。其甚者，则有官秩等而禄殊，郡县同而俸异。或削夺以过半，或停给而弥年。至使衣食不充，冻馁并至。如此，则必冒白刃、蹈水火而求私利也。况可使抚人字物，断狱均财者乎？夫上行则下从，身穷则心滥。今官长日侵其吏，而望吏之不日侵于人，不可得也。盖所谓渴马守水，饿犬护肉；则虽日用刑罚，不能惩贪而劝清必矣。陛下今欲革时之弊，去吏之贪，则莫先于均天下课料重轻，禁天下官长侵刻，使天下之吏，温饱充于内，清廉形于外。然后示之以耻，纠之以刑。如此，则纵或为非者，百无一二也。

## 省官，并俸，减使职

臣闻：古者计人而置官，量赋而制禄。

故官之省置，必稽人户之众寡；禄之厚薄，必称赋入之多少。俾乎官足以理人，人足以奉吏。吏有常禄，财有常征；财赋吏员，必参相得者也。顷以兵戎屡动，荒沴荐臻，户口流亡，财征减耗；则宜量其官而省之，并其禄而厚之。故官省则事简，事简则人安；禄厚则吏清，吏清则俗阜；而天下所由理也。然则知清其吏，而不知厚其禄；则饰诈而不廉矣。知厚其禄，而不知省其官；则财费而不足矣。知省其官，而不知选其能；则事壅而不理矣。此三者，迭为表里，相须而成者也。伏惟陛下详而行之。臣又见：兵兴以来，诸道使府，或因权宜而置职，一置而不停；或因暂劳而加俸，一加而无减。至使职多于郡县之吏，俸优于台省之官。积习生常，烦费滋甚。今若量其职员，审其禄秩；使众寡有常数，厚薄得其中。故禄得其中，则费不广，而下无侵削之患矣。职有常数，则事不烦，而人无劳扰之弊矣。此又利害相悬远者。伏惟陛下念而救之。

## 御功臣之术

臣闻：明王之御功臣也，量其功而限之以爵，审其罪而纠之以法。限之以爵，故爵加而知荣矣；纠之以法，故法行而知恩矣。恩荣并加，畏爱相济，下无贰志，上无疑心；此明王所以念功劳而全君臣之道也。若不限之以爵，则无厌之心生矣；虽极人臣之位，而不知荣也。若不纠之以法，则不忌之心启矣；虽竭人主之宠，而不知恩也。恩荣不知，畏爱不立，而望奉上之心尽，念功之道全，或难矣。故《传》曰：“报者倦矣，施者未厌。”此由爵无限而法不行之然也。

## 议封建，论郡县

臣闻：封建之废久矣，是非之论多矣。异同之要，归于三科。或曰：周人制五等，封亲贤；其弊也，诸侯擅战伐，陪臣执国命。

故闻蚕食瓜剖，以至于衰灭也。而李斯、周青之议，由是兴焉。又曰：秦皇废列国，弃子弟；其败也，万民无定主，九族为匹夫。故鱼烂土崩，以至于覆亡也。而曹同、士衡之论，由是作焉。又曰：汉氏侯功臣，王同姓；其失也，爵号太尊，土宇太广。故鸱张瓦解，以至于悖乱也。而晁错、主父之计，由是行焉。然则秦惩周之弊也，既以亡而易衰；汉鉴秦之亡也，亦矫枉而过正。历代之说，无出于此焉。以臣所观，窃谓知其一，未知其二也。何者？臣闻王者将欲家四海，子兆人，垂无疆之休，建不拔之业者，在乎操理柄，立人防，导化源，固邦本而已矣。是故刑行德立，近悦远安，恩信推于中，惠化流于外；如此，则四夷为臣妾，况海内乎？虽置守罢侯，亦无害也。若法坏政荒，亲离贤弃，王泽竭于上，人心叛于下；如此，则九族为仇敌，况天下乎？虽废郡建邦，又何益也？故臣以为周之衰灭者，上失其道，天厌其德，非为封建之弊也。秦之覆亡者，君流其毒，人离其心，非唯郡县之咎也。汉之祸乱者，宠而失教，立不选贤，非独强大之故也。由是观之，苟固其本，导其源；虽郡与国，俱可理而安矣。苟逾其防，失其柄；虽侯与守，俱能乱且危矣。伏惟陛下：虑远忧近，鉴古观今，以敦睦亲族为先，不以封王为急；以优劝劳逸为念，不以建侯为思；以尊贤宠德为心，不以开国为意；以安抚黎元为事，不以废郡为谋；则无疆之休，不拔之业，在于此矣。况国家之制，垂二百年；法著一王，理经十圣；变革之议，非臣敢知。

## 纳 谏

臣闻：天子之耳，不能自聪，合天下之耳听之，而后聪也。天子之目，不能自明，合天下之目视之，而后明也。天子之心，不能自圣，合天下之心思之，而后圣也。若天子唯以两耳听之，两目视之，一心思之；则十步之内，不能闻也；百步之外，不能见也；



殿廷之外，不能知也；而况四海之大，万枢之繁者乎？圣王知其然，故立谏诤讽议之官，开献替启沃之道；俾乎补察遗阙，辅助聪明。犹惧其未也，于是设敢谏之鼓，建进善之旌，立诽谤之木；工商得以流议，士庶得以传言；然后过日闻而德日新矣。是以古之圣王，由此途出焉。臣又闻：不弃死马之骨，然后良骥可得也；不弃狂夫之言，然后佳谋可闻也。苟臣管见之中，有可取者，陛下取而行之；苟臣刍言之中，有可采者，陛下采而用之；则闻之者必曰：如某之言，如某之见，犹且不弃；况愈于某之徒欤？则天下谋猷之士，得不比肩而至乎？天下謇谔之臣，得不继踵而来乎？故览其谋猷，则天下之利病，如悬于握中矣。纳其謇谔，则朝廷之得失，如指诸掌内矣。所谓用天下之耳听之，则无不聪也；用天下之目视之，则无不明也；用天下之心识思谋之，则无不圣神也。圣神启于上，聪明达于下：如此，则何壅蔽之有耶？灭绝之有耶？臣又尝观历代人君，有愚有贤，举事非尽失也。人臣者有能有否，出言非尽得也。然则先王勤勤恳恳，劝从谏，诫自用者，又何哉？岂不以自古以来，君虽有得，未有愎见而理者也；况其有失乎？臣虽有失，未有从谏而私者也，况其有得乎？勤恳劝诫之义，在于此矣。

## 使臣尽忠，人爱上

夫欲使臣节尽忠，人心爱上，则在乎明报施之道也。《传》曰：“美恶周必复。”又曰：“其事好还。”然则复与还，皆报施之谓也。夫日月不复，则昼夜不生；阴阳不复，则寒暑不行；善恶不复，则君臣不成。昔者五帝接其臣以道，故臣致其君以德也。三王使其臣以礼，故其臣事君以忠也。秦汉以降，任其臣以利，故其臣奉君以贾道。贾道者，利则进，不利则退。故君昏，寡救恶之士；国危，鲜致命之臣。是以其君独安独危，其臣亦独忧独乐。君臣之道，既阻于上；则兆庶

之心，不得不离于下也。故曰：君视臣如股肱，则臣视君如元首。君待臣如犬马，则臣待君如路人。君爱人如赤子，则人爱君如父母。君视人如土芥，则人视君如寇讎。孔子云：“审吾之所以适人，知人之所以来我也。”则尽忠爱上之来，在于此不在于彼矣。

## 养 老

臣闻：昔者西伯善养老，而天下归心。善养者，非家至户见，衣而食之，盖能为其立田里之制，以安其业；导树畜之产，以厚其生。使生有所养，老有所终，死有所送也。近代之主，以为老者，非帛不暖，非肉不饱；而特颁其布帛肉粟之赐，则为养老之道，尽于是矣。臣以为此小惠也，非大德也。何则？赐之以布帛，仁则仁矣；不若劝其桑麻之业，使天下五十者可以衣帛矣。赐之以肉粟，惠则惠矣；不若教其鸡豚之畜，使天下七十者可以食肉矣。然后牧以仁贤，慎其刑罚；虽不与之年，而老者得以寿矣。不夺其力，不扰其时；虽不与之财，而老者得以富矣。使幼者事长，少者敬老；虽不与之爵，而老者得以贵矣。此三代盛王，所以不遗年而兴孝者，用此道也。

## 典章禁令

臣闻：典章不能自举，待教令而举；教令不能自行，待诚信而行。今百王之典具存，列圣之法明备；而禁未甚止，令未甚行者，臣愚以为待陛下诚信以将之。昔宓贱行化，德及泉鱼；非言行所致也，推其诚而已。鲁恭为理，仁及春翟，非猛政所驱也，委其信而已。今以陛下上至之资，仁惠之力，令行禁止之势，万万于一邑一宰也，何虑教不敷而化不治乎？臣又闻：周公之理也，周年而变，三年而化，五年而定。陛下苟能勤教令以抚之，推诚信以奉之，则三年化成，五年理定，臣窃未以为迟矣。伏惟陛下少垂意而

待焉。

## 《陈六事疏》

### 题解：

本疏作者为张居正。明朝中叶，社会矛盾日益激化，出现统治危机。张居正出任内阁首辅以后，积极谋划改革以挽救社会危机，因上此疏。在此疏中，张居正提出省议论、振纪纲、重诏令、核名实、固邦本、饬武备六项改革措施，认为“欲为一事，须审之于初，务求停当，及计虑已审，即断而行之。”主张皇帝治国必“振纪纲”，皇上要“奋乾刚之断，普离照之明，张法纪以肃群工，揽权纲而贞百度，刑赏予夺一归之公道而不必曲徇乎私情，政教号令必断于宸衷，而毋致纷更于浮议。”“君者主令”，令下必行。驾驭群臣，注意名实相符。又认为，治国之道，必须首重“邦本”，以“百姓安乐”为急务，与民休息，赋敛以适。还指出，国家要安定，必须“加意武备”，“重于边防”，以保证社稷常存。张居正这些“谋略”，成为其改革纲领，后来改革时相继实行。此疏收入《张文忠公全集》、《张太岳集》等书中。

臣闻帝王之治天下，有大本有急务，正心修身建极以为臣民之表率者，图治之大本也；审几度势更化宜民者，救时之急务也。大本虽立而不能更化以善治，譬之琴瑟不调不解而更张之不可鼓也。恭惟我皇上践祚以来，正身、修德、讲学、勤政、倦倦以敬天法祖为心，以节财爱民为务，图治之大本既以立矣。但近来风俗人情积习生弊，有颓靡不振之渐，有亟重难反之几，若不稍加改易，恐无以新天下之耳目，一天下之心态。臣不揣愚陋，日夜思惟谨就今时之所宜者，条为六事间款上请用备圣明采择。

一省议论。臣闻天下之事，虑之贵详，行之贵力，谋在于众，断在于独。汉臣申公云：为治不在多言，顾力行何如耳。臣窃见

顷年以来，朝廷之间议论太多，或一事而甲可乙否，或一人而朝由暮跲，或前后不觉背驰，或毁誉自为矛盾，是非淆于唇吻，用舍决于爱憎，政多纷更，事无统纪。又每见督抚等官初到地方，即例有条陈一疏，或漫言数事，或更置数官，文藻兢工，览者每为所眩，不曰此人有才，即曰此人任事。其实莅任之始，地方利病岂尽周知，属官贤否岂能洞察，不过采听于众口耳。读其词藻虽若烂然，究其指归茫未有效，比其久也，或并其自言者而忘之矣。即如昨年，皇上以虏贼内犯，特敕廷臣集议防虏之策，当其时，众言盈廷，群策毕举，今又将一年矣。其所言者果尽举行否乎！其所行者果有实效否乎！又如苏镇之事，初建议者曰：吾欲云云。当事者亦曰：吾欲云云。曾无几何，而将不相能，士哗于伍，异论繁兴，讹言踵至。于是议罢练兵者又纷纷矣。臣窃以为，事无全利亦无全害，人有所长亦有所短，要在权利害之多寡、酌长短之所宜，委任责成，庶克有济。今始则计虑未详，既以人言而遽行；终则执守靡定，又以人言而遽止。加之爱恶交攻，意见横出，谗言微中，飞语流传，寻之莫究其端，听者不胜其眩，是以人怀疑贰，动见涛张，虚旷岁时，成功难睹。语曰多指乱视，多言乱听，此最当今大患也。伏望皇上自今以励精治理，主宰化机，扫无用之虚词，求躬行之实效。欲为一事，须审之于初，务求停当，及计虑已审，即断而行之，如唐宪宗之讨淮蔡，虽百方阻之而终不为之摇。欲用一人须慎之于始，务求相应，既得其人则信而任之，如魏文侯之用乐羊，虽谤书盈篋而终不为之动。再乞天语叮咛部院等衙门，今后各宜仰体朝廷省事尚实之意，一切章奏务从简切，是非可否，明白直陈，毋得彼此推诿，徒托空言。其大小臣工亦各宜秉公持正，以诚心直道相与，以勉修职业为务，反薄归厚，尚质省文，庶治理可兴，而风俗可变也。……

一振纪纲。臣闻人主以一身而居乎兆民

之上，临制四海之广，所以能使天下皆服从其教令，整齐而不乱者，纪纲而已。纲如网之有绳，纪如丝之有总。诗曰：勉勉我王，纲纪四方。此人主太阿之柄，不可一日而倒持者也。臣窃见近年以来，纪纲不肃，法度不行，上下务为姑息，百事悉从委徇，以模棱两可，谓之调停，以委曲迁就谓之善处。法之所加，唯在于微贱，而强梗者，虽坏法干纪，而莫之谁何。礼之所制，反在于朝廷，而为下者，或越理犯分，而恬不知畏，陵替之风渐成，指臂之势难使。贾谊所谓跋扈者，深可虑也。然人情习玩已久，骤一振之，必将曰：此拂人之情者也。又将曰：此务为操切者也。臣请有以解之，夫徇情之与顺情，名虽同而实则异；振作之与操切，事若近而用则殊。盖顺情者，因人情之所同欲者而施之，《大学》所谓：“民之所好，好之；民之所恶，恶之”者也。若徇情则不顾理之是非，事之可否，而惟人情之是便而已。振作者谓整齐严肃，悬法以示民而使之不敢犯。孔子所谓道之以德，齐之以礼者也。若操切则为严刑峻法，虐使其民而已。故情可顺而不可徇，法宜严而不宜猛。伏望皇上奋乾刚之断，普离照之明，张法纪以肃群工，揽权纲而贞百度，刑赏予夺一归之公道而不必曲徇乎私情，政教号令必断于宸衷，而毋致纷更于浮议。法所当加，虽贵近不宥；事有所枉，虽疏贱必申。仍乞敕下都察院，查照嘉靖初年所定宪纲事理，再加申饬，秉持公论，振扬风纪，以佐皇上明作励精之治，庶体统正、朝廷尊、而下有法守矣。伏乞圣裁。

一重诏令。臣闻君者主令者也，臣者行君之令而致之民者也，君不主令则无威，臣不行君之令而致之民则无法，斯大乱之道也。臣看得旧规，凡各衙门章奏奉旨有某部看了来说者必是紧关事情，重大机务，有某部知道者虽若稍缓亦必合行事务，或关系各地方民情利病，该衙门自宜参酌缓急，次第题覆，至于发自圣衷，特降敕谕者，又与泛常不同，尤宜上禁奉行，事乃无壅，盖天子

之号令，譬之风霆，若风不能动而霆不能击则造化之机滞而乾坤之用息矣。臣窃见近日以来，朝廷诏旨多废格不行，抄到各部概从停阁或已题奉钦依一切视为故纸禁之不止，令之不从，至于应勘应报奉旨行下者各地方官尤属迟慢，有查勘一事而十数年不完者。……敕下部院等衙门，凡大小事务既奉明旨，须数日之内即行题复，若事理了然、明白易见者，即宜据理剖断，毋但谄之抚按议处以致耽延，其有合行议勘问奏者，亦要酌量事情缓急，道里远近，严立限期，责令上紧奏报，该部置立号簿，登记注销，如有违限不行奏报者，从实查参，坐以违制之罪。吏部即以此考其勤惰以为贤否，然后人思尽职而事无壅滞也。伏乞圣裁。

一核名实。臣闻人主之所以取其臣者，赏罚用舍而已。欲用舍赏罚之当，在于综核名实而已。臣每见朝廷欲用一人，当事者辄有乏才之叹，窃以为古今人才不甚相远，人主操用舍予夺之权以奔走天下之士何求而不得而曰世无才焉，臣不信也。惟名实之核，拣择之不精，所用非其所急，所取非其所求，则上之爵赏不重而人怀侥幸之心，牛驥以并驾而俱疲，工拙以混吹而莫辨，才恶得而不乏，事恶得而有齐哉！臣请略言其概，夫器必试而后知其利钝，马必驾而后知其驽良。今用人则不然，称人之才不必试之以事，任之以事不必更考其成，及至债事之时，又未必明正其罪，惟鲁少文者以无用见讥，而大言无当者以虚声窃誉；倜傥伉直者以忤时难合，而脂韦逢迎者以巧宦易容。其才虽可用也，或以卑微而轻忽之；其才本无取也，或以名高而尊礼之。或因一事之善而终身借之以为资，或以一动之差而众口訾之以为病。加以官不久任，事不责成，更调太繁，迁转太骤，资格太拘，毁誉失实，且近来又有一种风尚，士大夫务为声称，舍其职业而出位，是思建白条陈连编累牍，至核其本等职业反属茫昧，主钱谷者不对出纳之数，司刑名者未谙律例之文，官守既失，事何由举，凡此

皆所谓名与实爽者也。如此则真才实能之士何由得进，而百官有司之职何由得举哉。故臣妾以为世不患无才，患无用之之道，如得其道，则举天下之士，唯上之所欲为无不应者。臣愿皇上慎重名器，爱惜爵赏，用人必考其终，授任必求其当。有功于国家，即千金之赏、通侯之印亦不宜吝，无功国家，虽哂笑之微、敝袴之贱亦勿轻予。仍乞敕下吏部，严考课之法，审名实之归，遵照祖宗旧制，凡京官及外官三六年考满，毋得概引复职，滥给恩典，须明白开具称职，平常不称职以为殿最，若其功过未大显著，未可遽行黜陟者，乞将诰敕勋阶等项酌量裁与稍加差等以示激励，至于用舍进退一以功实为准，毋徒眩于声名，毋尽拘于资格，毋摇之以毁誉，毋杂之以爱憎，毋以一事概其平生，毋以一眚掩其大节，在京各衙门佐贰官，须量其才器之所宜者授之，平居则使之讲究职业，赞佐长官，如长官有缺，即以佐贰代之，不必另索，其属官有谄练故事尽心官守者，九年任满亦照吏部升授京职，高者即转本衙门堂上官，小九卿、堂官品级相同者不必更相调用，各处巡抚官果与地方相宜，久者或就彼加秩，不必又迁他省布、按二司官，如参议，久者即可升参政，金事久者即可升副使，不必互转数易以滋劳扰。如此则人有专职，事可责成，而人才亦不患其缺乏矣。……

一固邦本。臣闻帝王之治，欲攘外者必先安内。《书》曰：民为邦本，本固邦宁。自古虽极治之时不能无夷狄盗贼之患，唯百姓安乐，家给人足，则虽有外患而邦本深固自可无虞，唯是百姓愁苦思乱，民不聊生，然后夷狄盗贼乘之而起。盖安民可与行义而危民易与为非，其势然也。恭惟皇上嗣登大宝，首下蠲恤之诏，黎元忻忻，方切更生，独昨岁以元年蠲赋一半，国用不足，又边费重大，内帑空乏，不得已差四御史分道督赋，三都御史清理屯盐，皆一时权宜以佐国用之急，而人遂有苦其搜括者。臣近日访之，外论皆称不便，缘各御史差出，目睹百姓穷苦亦无

别法清查，止将官库所储尽行催解以致各省库藏空虚，水旱灾伤视民之死而不能赈，两广用兵供饷百出而不能支，是国用未充而元气已耗矣。臣窃认为，天之生财在官在民止有此数，譬之于人禀赋强弱自有定分，善养生者唯樽节爱惜不以嗜欲戕之，亦皆足以却病而延寿。昔汉昭帝承武帝多事之后，海内虚耗，霍光佐之，节俭省用，与民休息，行之数年，百姓阜安，国用遂足。然则与其设法征求索之于有限之数以病民，孰若加意节俭取之于自足之中以厚下乎。仰惟皇上即位以来，凡诸斋醮土木淫侈之费悉行停革，虽大禹之克勤克俭不是过矣。然臣窃以为矫枉者必过其正，当民穷财尽之时，若不痛加省节，恐不能救也。伏望皇上轸念民穷，加惠邦本，于凡不急工程、无益征办一切停免，敦尚俭素以为天下先。仍乞敕下吏部慎选良吏牧养小民，其守令贤否殿最惟以守己、端洁、实心、爱民乃与上考称职，不次擢用。若但善事上官干理簿书而无实政及于百姓者，虽有才能干局止与中考。其贪污显著者严限追赃，押发各边自行输纳完日发遣发落，不但惩贪，亦可以为实边之一助。再乞敕下户部悉心讲求财用之所以日匮者，其弊何在，今欲措理，其道何由。今风俗侈靡，官民服舍俱无限制，外之豪强兼并，赋役不均，花分诡寄，恃顽不纳田粮，偏累小民；内之官府造作侵欺冒破奸徒罔利，有名无实，各衙门在官钱粮，漫无稽查，假公济私，官吏滋弊，凡此皆耗财病民之大者，若求其害财者而去之则亦何必索之于穷困之民以自耗国家之元气乎。前项催督御史，事完之后宜即令回京，此后不必再差，重为地方之病。其屯盐各差都御史应否取回别用，但责成于该管抚按使之悉心清理。亦乞敕下该部从长计议，具奏定夺，以后上下唯务清心省事，安静不扰，庶民生可遂而邦本获宁也。……

一饬武备。臣惟当今之事，其可虑者莫重于边防，庙堂之上所当日夜图画者亦莫急于边防。迩年以来，虏患日深，边事久废，

比者屡蒙圣谕严饬边臣，人心思奋，一时督抚将领等官颇称得人，目前守御似亦略备矣。然臣以为，虏如禽兽，然不一创之其患不止，但战乃危事，未可易言，须从容审图以计胜之耳。今之上策莫如自治，而其机要所在，惟在皇上赫然奋发，先定圣志，圣志定而怀忠蕴谋之士得效于前矣。今谭者皆曰：吾兵不多，食不足，将帅不得其人。臣以为此三者皆不足患也。夫兵不患少而患弱，今军伍虽缺而粮籍具存，若能按籍征求，清查影占，随宜募补，着实训练，何患无兵。捐无用不急之费并其财力以抚养战斗之士，何患无财。悬重赏以劝有功，宽文法以伸将权则忠勇之夫孰不思奋，又何患于无将。臣之所患，独患中国无奋励激发之志，因循怠玩姑务偷安，则虽有兵食良将亦恐不能有为耳。故臣愿皇上急先自治之图，坚定必为之志，属任谋臣修举实政，不求近功，不忘有事，熟计而审行之，不出五年，虏可图矣。至于目前自守之策，莫要于选择边吏，团练乡兵，并守墩堡，令民收保时简精锐出其空虚以制之，虏即入犯，亦可不至太失。此数者昨虽已经调部议行，臣愚犹恐人心玩愒日久，尚以虚文塞责。伏乞敕下兵部申饬各边督抚务将前事着实举行，俟秋防毕日严查有无实效，大行赏罚，庶沿边诸郡在在有备而虏不敢窥也。再照祖宗时京营之兵数十万，今虽不足，尚可得八九万人，若使训练有方，亦岂尽皆无用，但士习骄惰，法令难行，虽春秋操练，徒具文耳。臣考之古礼及我祖宗故事，俱有大阅之礼，以习武事而戒不虞，今京城内外守备单弱，臣常以为忧。伏乞敕下戎政大臣，申严军政，设法训练，每岁或间岁季冬农隙之时，恭请圣驾亲临校阅，一以试将官之能否，一以观军士之勇怯，有技艺精熟者分别赏赉，老弱不堪者即行汰易。如此，不惟使輶轂之下常有数万精兵，得居重驭轻之道，且此一举动传之远近皆知皇上加意武备，整饬戎事，亦足以伐狂虏之谋，销未萌之患，诚转弱为强之一机也。

## 《郡县论》

### 题解：

《郡县论》为明末清初著名思想家和政治家顾炎武所作。全文共分九个部分，这里选录其第一、五、六、七等四个部分。《郡县论》是针对历史上实行的分封制和当时实行的专制主义中央集权制度的弊端而作，他认为封建制（即分封制）有一定弊端，主要是“其专在下”，因此，郡县制（即专制主义中央集权制）代替封建制是历史发展的必然。但郡县制也有弊端，主要是“其专在上”，君主“尽四海之内为我郡县犹不足也，人人而疑之，事事而制之”，其“弊已极”，必须改革。在如何改革的问题上，顾炎武所谋划的策略是，不能将郡县制重新变回封建制，只能“寓封建之意于郡县之中”，采其所长，封建、郡县兼而行之。这在当时的条件下，不失为一种颇有见地的主张，此文收入《亭林文集》，1959年中华书局将顾炎武的文集、诗集重新点校，定名为《顾亭林诗文集》出版。本文即选自《顾亭林诗文集》。

### 郡县论一

知封建之所以变而为郡县，则知郡县之敝而将复变。然则将复变而为封建乎？曰，不能。有圣人起，寓封建之意于郡县之中，而天下治矣。盖自汉以下之人，莫不谓秦以孤立而亡。不知秦之亡，不封建亡，封建亦亡；而封建之废，固自周衰之日而不自于秦也。封建之废，非一日之故也，虽圣人起，亦将变而为郡县。方今郡县之敝已极，而无圣人出焉，尚一一仍其故事，此民生之所以日贫，中国之所以日弱而益趋于乱也。何则？封建之失，其专在下；郡县之失，其专在上。古之圣人，以公心待天下之人，胙之土而分之国；今之君人者，尽四海之内为我郡县犹不足也，人人而疑之，事事而制之，科条文

簿日多于一日，而又设之监司，设之督抚，以为如此，守令不得以残害其民矣。不知有司之官，凜凜焉救过之不给，以得代为幸，而无肯为其民兴一日之利者，民乌得而不穷，国乌得而不弱？率此不变，虽千百年，而吾知其将与乱同事，日甚一日者矣。然则尊令长之秩，而予之以生财治人之权，罢监司之任，设世官之奖，行辟属之法，所谓寓封建之意于郡县之中，而二千年以来之敝可以复振。后之君苟欲厚民生，强国势，则必用吾言矣。

## 郡县论五

天下之人各怀其家，各私其子，其常情也。为天子为百姓之心，必不如其自为，此在三代以上已然矣。圣人者固而用之，用天下之私，以成一人之公而天下治。夫使县令得私其百里之地，则县之人民皆其子姓，县之土地皆其田畴，县之城郭皆其藩垣，县之仓廩皆其困窳。为子姓，则必爱之而勿伤；为田畴，则必治之而勿弃；为藩垣困窳，则必缮之而勿损。自令言之，私也，自天子言之，所求乎治天下者，如是焉止矣。一旦有不虞之变，必不如刘渊、石勒、王仙芝、黄巢之辈，横行千里，如入无人之境也。于是有效死勿去之守，于是有合从缔交之拒，非为天子也，为其私也。为其私，所以为天子也。故天下之私，天子之公也。公则说，信则人任焉。此三代之治可以庶几，而况乎汉、唐之盛，不难致也。

## 郡县论六

今天下之患，莫大乎贫。用吾之说，则五年而小康，十年而大富。且以马言之：天下驿递往来，以及州县上计京师，白事司府，迎候上官，递送文书，及庶人在官所用之马，一岁无虑百万匹，其行无虑万万里。今则十减六七，而西北之马羸不可胜用矣。以文册言之：一事必报数衙门，往复驳勘必数次，

以及迎候、生辰、群贺之用，其纸料之费率诸民者，岁不下巨万。今则十减七八，而东南之竹箭不可胜用矣。他物之称是者，不可悉数。且使为令者得以省耕敛，教树畜，而田功之获，果蔬之收，六畜之孳，材木之茂，五年之中必当倍益。从是而山泽之利亦可开也。夫采矿之役，自元以前，岁以为常，先朝所以闭之而不发者，以其召乱也。譬之有窖金焉，发于五达之衢，则市人聚而争之；发于堂室之内，则唯主人有之，门外者不得而争也。今有矿焉，天子开之，是发金于五达之衢也；县令开之，是发金于堂室之内也。

## 郡县论七

法之敝也，莫甚乎以东州之饷，而给西边之兵，以南郡之粮，而济北方之驿。今则一切归于其县，量其衡斛，衡其繁简，使一县之用，常宽然有余。又留一县之官之禄，亦必使之溢于常数，而其余者然后定为解京之类。其先必则壤定赋，取田之上中下，列为三等或五等，其所入悉委县令收之。其解京曰贡、曰赋；其非时之办，则于额赋支销，若尽一县之人用之而犹不足，然后以他县之赋益之，名为协济。此则天子之财，不可以为常额。然而行此十年，必无尽一县之人用之而犹不足者也。

## 《明夷待访录》

### 题解：

《明夷待访录》是明末清初著名思想家和政治家黄宗羲的主要著作之一。全书分为原君、原臣、原法、置相、学校、取士、建都、方镇、田制、兵制、财计、胥吏、奄宦等十几个部分，其中以谋划治国的政治方略最为重要。他总结历史经验，力陈君主专制主义的危害，指出：“天下之大害者，君而已矣。”指斥封建君主为了争权夺利，不顾人民

死活，“以其未得之也，屠毒天下之肝脑，离散天下之子女，以博我一人之产业”；“其既得之也，敲剥天下之骨髓，离散天下之子女，以奉我一人之淫乐”。要求君主“以天下万民为事”，倡导恢复人民本来的权力，颠倒封建专制主义的君民关系，认为君臣之间，应为师友，官僚作事，应“为天下”，“为万民”，而“非为一姓也”。主张恢复“天下为主，君为客”的天下为公的社会。还主张治好天下，要慎重选择宰相和百官，不应罢废宰相。注意建都之地，减少宫中人员以避免宦官之祸。认为分封制和郡县制各有优点和弊端，可以“并行不悖”。这些政治谋略确有自己的见解，实开近代民主思想及其政治之先河。

此书名称来自《周易》“箕子之明夷”一语。箕子是商朝比较开明的政治家，因反对纣王荒淫无道而被囚禁。武王灭商以后，向他请教治国之术，箕子讲了九项“大法”，称为“洪范九畴”。黄宗羲自比箕子，摆出了许多改造社会、治理国家的谋略，等待开明君主来访，故名《明夷待访录》。

## 原 君

有生之初，人各自私也，人各自利也，天下有公利而莫或兴之，有公害而莫或除之。有人者出，不以一己之利为利，而使天下受其利，不以一己之害为害，而使天下释其害。此其人之勤劳必千万于天下之人。夫以千万倍之勤劳，而已又不享其利，必非天下之人情所欲居也。故古之人君量而不欲入者，许由、务光是也<sup>①</sup>；入而又去之者，尧、舜是也；初不欲入而不得去者，禹是也。岂古之人有所异哉？好逸恶劳，亦犹夫人之情也。

后之为人君者不然，以为天下利害之权皆出于我，我以天下之利尽归于己，以天下之害尽归于人，亦无不可。使天下之人不敢自私，不敢自利，以我之大私为天下之大公，始而惭焉，久而安焉，视天下为莫大之产业，

传之子孙，受享无穷。汉高帝所谓“某业所就，孰与仲多”者<sup>②</sup>，其逐利之情，不觉溢之于辞矣。此无他，古者以天下为主，君为客，凡君之所毕世而经营者，为天下也。今也以君为主，天下为客，凡天下之无地而得安宁者，为君也。是以其未得之也，屠毒天下之肝脑，离散天下之子女，以博我一人之产业，曾不惨然！曰：“我固为子孙创业也。”其既得之也，敲剥天下之骨髓，离散天下之子女，以奉我一人之淫乐，视为当然，曰：“此我产业之花息也<sup>③</sup>。”然则为天下之大害者，君而已矣。向使无君，人各得自私也，人各得自利也。呜呼，岂设君之道固如是乎！

古者天下之人爱戴其君，比之如父，拟之如天，诚不为过也。今也天下之人，怨恶其君，视之如寇仇<sup>④</sup>，名之为独夫，固其所也。而小儒规规焉以君臣之义无所逃于天地之间<sup>⑤</sup>，至桀、纣之暴，犹谓汤、武不当诛之，而妄传伯夷、叔齐无稽之事<sup>⑥</sup>，使兆人万姓崩溃之血肉，曾不异夫腐鼠。岂天地之大，使兆人万姓之中，独私其一人一姓乎！是故武王圣人也，孟子之言，圣人之言也。后世之君欲以如父如天之空名，禁人之窥伺者，皆不便于其言，至废孟子而不立，非导源于小儒乎<sup>⑦</sup>！

虽然，使后之为君者，果能保此产业，传之无穷，亦无怪乎其私之也。既以产业视之，人之欲得产业，谁不如我？摄缄縢、固扃鐍<sup>⑧</sup>，一人之智力不能胜天下欲得之者之众，远者数世，近者及身，其血肉之崩溃在其子孙矣。昔人愿世世无生帝王家<sup>⑨</sup>，而毅宗之语公主亦曰<sup>⑩</sup>：“若何为生我家！”痛哉斯言！回思创业时，其欲得天下之心，有不废然摧沮者乎<sup>⑪</sup>！是故明乎为君之职分，则唐虞之世，人人能让，许由、务光非绝尘也；不明乎为君之职分，则市井之间，人人可欲，许由、务光所以旷后世而不闻也。然君之职分难明，以俄顷淫乐不易无穷之悲，虽愚者亦明之矣。



## 原 臣

有人焉，视于无形，听于无声<sup>⑫</sup>，以事其君，可谓之臣乎？曰：“否”。杀其身以事其君，可谓之臣乎？曰：“否”。夫视于无形，听于无声，资于事父也；杀其身者，无私之极则也。而犹不足以当之，则臣道如何而后可？曰：缘夫天下之大，非一人之所能治，而分治之以群工<sup>⑬</sup>。故我之出而仕也，为天下，非为君也；为万民，非为一姓也。吾以天下万民起见，非其道，即君以形声强我，未之敢从也，况于无形无声乎！非其道，即立身于其朝，未之敢许也，况于杀其身乎！不然，而以君之一身一姓起见，君有无形无声之嗜欲，吾从而视之听之，此宦官宫妾之心也；君为己死，而为己亡，吾从而死之亡之，此其私昵者之事也<sup>⑭</sup>。是乃臣不臣之辨也。

世之为臣者，昧于此义，以谓臣为君而设者也。君分吾以天下而后治之，君授吾以人民而后牧之，视天下人民为人君橐中之私物<sup>⑮</sup>。今以四方之劳扰，民生之憔悴，足以危吾君也，不得不讲治之牧之之术。苟无系于社稷之存亡，则四方之劳扰，民生之憔悴，虽有诚臣，亦以为纤芥之疾也<sup>⑯</sup>。夫古之为臣者，于此乎，彼乎？

盖天下之治乱，不在一姓之兴亡，而在万民之忧乐。是故桀、纣之亡，乃所以为治也；秦政、蒙古之兴，乃所以为乱也；晋、宋、齐、梁之兴亡，无与于治乱者也。为臣者轻视斯民之水火，即能辅君而兴，从君而亡，其于臣道固未尝不背也。夫治天下犹曳大木然，前者唱邪，后者唱许。君与臣，共曳木之人也，若手不执绋<sup>⑰</sup>，足不履地，曳木者唯嬉笑于曳木者之前，从曳木者以为良，而曳木之职荒矣。

嗟乎！后世骄君自恣，不以天下万民为事。其所求乎草野者<sup>⑱</sup>，不过欲得奔走服役之人。乃使草野之应于上者，亦不出夫奔走服役；一时免于寒饿，遂感在上之知遇，不

复计其礼之备与不备，跻之仆妾之间，而以为当然。万历初，神宗之待张居正，其礼稍优，此于古之师傅，未能百一。当时论者骇然居正之受无人臣礼。夫居正之罪，正坐不能以师傅自待，听指使于仆妾，而责之反是，何也？是则耳目浸淫于流俗之所谓臣者以为鹄矣<sup>⑲</sup>！又岂知臣之与君，名异而实同耶？

或曰：臣不与子并称乎？曰：非也。父子一气，子分父之身而为身。故孝子虽异身，而能日近其气，久之无不通矣；不孝之子，分身而后，日远日疏，久之而气不相似矣。君臣之名，从天下而有之者也。吾无天下之责，则吾在君为路人。出而仕于君也，不以天下为事，则君之仆妾也；以天下为事，则君之师友也。夫然，谓之臣，其名累变。夫父子固不可变者也。

## 置 相

有明之无善治，自高皇帝罢丞相始也<sup>⑳</sup>。

原夫作君之意，所以治天下也。天下不能一人而治，则设官以治之；是官者，分身之君也。孟子曰：“天子一位，公一位，侯一位，伯一位，子男同一位，凡五等。君一位，卿一位，大夫一位，上士一位，中士一位，下士一位，凡六等。”盖自外而言之，天子之去公，犹公、侯、伯、子、男之递相去；自内而言之，君之去卿，犹卿、大夫、士之递相去。非独至于天子遂截然无等级也。昔者伊尹、周公之摄政，以宰相而摄天子，亦不殊于大夫之摄卿，士之摄大夫耳。后世君骄臣谄，天子之位始不列于卿、大夫、士之间，而小儒遂河汉其摄位之事，以至君崩子立，忘哭泣衰经之哀，讲礼乐征伐之治，君臣之义未必全，父子之恩已先绝矣。不幸国无长君，委之母后，为宰相者，方避嫌而处，宁使其决裂败坏，貽笑千古。无乃视天子之位过高所致乎？

古者君之待臣也，臣拜，君必答拜。秦



汉以后，废而不讲，然丞相进、天子御座为起，在舆为下。宰相既罢，天子更无与为礼者矣。遂谓百官之设，所以事我，能事我者，我贤之；不能事我者，我否之。设官之意既讹，尚能得作君之意乎？古者不传子而传贤，其视天子之位，去留犹夫宰相也。其后天子传子，宰相不传子。天子之子不皆贤，尚赖宰相传贤足相补救，则天子亦不失传贤之意。宰相既罢，天子之子一不贤，更无与为贤者矣，不亦并传子之意而失者乎？

或谓后之人阁办事，无宰相之名，有宰相之实也。曰：不然。入阁办事者，职在批答，犹开府之书记也。其事既轻，而批答之意又必自内授之而后拟之，可谓有其实乎？吾以谓有宰相之实者，今之宫奴也。盖大权不能无所寄，彼宫奴者，见宰相之政事坠地不收，从而设为科条，增其职掌，生杀予夺出自宰相者，次第而尽归焉。有明之阁下，贤者贷其残膏剩馥，不贤者假其喜笑怒骂，道路传之，国史书之，则以为其人之相业矣。故使宫奴有宰相之实者，则罢丞相之过也。阁下之贤者，尽其能事则曰：“法祖”，亦非为祖宗之必足法也。其事位既轻，不得不假祖宗以压后王，以塞宫奴。祖宗之所行未必皆当，宫奴之黠者，又复条举其疵行，亦曰：“法祖”，而法祖之论荒矣。使宰相不罢，自得以前圣哲王之行摩切其主，其主亦有所畏而不敢不从也。

宰相一人，参知政事无常员。每日便殿议政，天子南面，宰相、六卿、谏官东西面以次坐。其执事皆用士人。凡章奏进呈，六科给事中主之，给事中以白宰相，宰相以白天子，同议可否。天子批红。天子不能尽，则宰相批之，下六部施行。更不用呈之御前，转发阁中票拟，阁中又缴之御前，而后下该衙门，如故事往返，使大权自宫奴出也。

宰相设政事堂，使新进士主之，或用待诏者。唐张说为相，列五房于政事堂之后：一曰吏房，二曰枢机房，三曰兵房，四曰户房，五曰刑礼房，分曹以主众务，此其例也。

四方上书言利弊者及待访之人皆集焉，凡事无不得达。

## 建都

或问：北都之亡忽焉，其故何也？曰：亡之道不一，而建都失算，所以不可救也。夫国祚中危，何代无之！安禄山之祸，玄宗幸蜀；吐蕃之难，代宗幸陕；朱泚之乱，德宗幸奉天；以汴京中原四达，就使有急而行势无所阻。当李贼之围京城也，毅宗亦欲南下，而孤悬绝北，音尘不贯，一时既不能出，出亦不能必达，故不得已而身殉社稷。向非都燕，何遽不及三宗之事乎！

或曰：自永乐都燕，历十有四代，岂可以一代之失，遂议始谋之不善乎？曰：昔人之治天下也，以治天下为事，不以失天下为事者也。有明都燕，不过二百年，而英宗狩于土木，武宗困于阳和，景泰初京城受围，嘉靖二十八年受围，四十三年边人阑入，崇祯间京城岁岁戒严。上下精神毙于寇至，日以失天下为事，而礼乐政教犹足观乎？江南之民命竭于输挽，太府之金钱靡于河道，皆都燕之为害也。

或曰：有王者起，将复何都？曰：金陵。或曰：古之言形胜者，以关中为上，金陵不与焉。何也？曰：时不同也。秦、汉之时，关中风气会聚，田野开辟，人物殷盛；吴、楚方脱蛮夷之号，风气朴略，故金陵不能与之争胜。今关中人物不及吴、会久矣，又经流寇之乱，烟火聚落，十无二三，生聚教训，故非一日之所能移也。而东南粟帛，灌输天下，天下之有吴、会，犹富室之有仓库匱篋也。今夫千金之子，其仓库匱篋必身亲守之，而门庭则以委之仆妾。舍金陵而勿都，是委仆妾以仓库匱篋；昔日之都燕，则身守夫门庭矣。曾谓治天下而智不千金之子若与？

## 方 镇

今封建之事远矣，因时乘势，则方镇可复也。自唐以方镇亡天下，庸人狙之，遂为厉阶。然原其本末则不然。当太宗分制节度，皆在边境，不过数府，其带甲十万，力足以控制寇乱。故安禄山、朱泚皆凭方镇而起，乃制乱者亦藉方镇。其后析为数十，势弱兵单，方镇之兵不足相制，黄巢、朱温遂决裂而无忌。然则唐之所以亡，由方镇之弱，非由方镇之强也。是故封建之弊，强弱吞并，天子之政教有所不加。郡县之弊，疆场之害苦无已时。欲去两者之弊，使其并行不悖，则沿边之方镇乎！

宜将辽东、蓟州、宣府、大同、榆林、宁夏、甘肃、固原、延绥俱设方镇，外则云、贵，亦依此例，分割附近州县属之。务令其钱粮兵马，内足自立，外足捍患；田赋商税，听其征收，以充战守之用；一切政教张弛，不从中制；属下官员，亦听其自行辟召，然后名闻。每年一贡，三年一朝，终其世兵民辑睦，疆场宁谧者，许以嗣世。

凡此则有五利：今各边有总督、有巡抚、有总兵、有本兵，有事复设经略，事权不一，能者坏于牵制，不能者易于推委，枝梧旦夕之间，掩饰章奏之上，其未至溃决者，直须时耳。统帅专一，独任其咎，则思虑自周，战守自固，以各为长子孙之计，一也。国家有一警急，常竭天下之财，不足供一方之用。今一方之财自供一方，二也。边镇之主兵常不如客兵，故常以调发致乱，天启之奢酋、崇祯之来围是也。今一方之兵自供一方，三也。治兵措饷，皆出朝廷，常以一方而动四方。既各有专地，兵食不出于外，即一方不宁，他方宴如，四也。外有强兵，中朝自然顾忌，山有虎豹，藁藿不采，五也。

## 奄宦(下)

奄宦之如毒药猛兽，数千年以来，人尽知之矣。乃卒遭其裂肝碎首者，曷故哉？岂无法以制之与？则由于人主之多欲也。夫人主受命于天，原非得已。故许由、务光之流，实见其以天下为桎梏而掉臂去之。岂料后世之君，视天下为娱乐之具。崇其宫室，不得不以女谒充之；盛其女谒，不得不以奄寺守之。此相因之势也。

其在后世之君，亦何足责。而郑玄之注《周礼》也，乃谓女御八十一人当九夕，世妇二十七人当三夕，九嫔九人当一夕，三夫人当一夕，后当一夕，其视古之贤王与后世无异，则是《周礼》为海淫之书也。孟子言“侍妾数百人，我得志弗为也”。是时齐、梁、秦、楚之君，共为奢侈，东西二周且无此事。若使为周公遗制，则孟子亦安为固然。“得志弗为”，则是以周公为舛错矣。苟如玄之为言，王之妃百二十人，妃之下又有侍从，则奄之守卫服役者，势当数千人。后儒以寺人隶于冢宰，谓周官深得治奄之法，夫刑余之人，不顾礼义，凶暴是闻，天下聚凶暴满万，而区区以系属冢宰，纳之铃键，有是理乎？且古今不贵其能治，而贵其能不乱。奄人之众多，即未及乱，亦厝火积薪之下也。

吾意为人主者，自三宫以外，一切当罢。如是，则奄之给使令者，不过数十人而足矣。议者窃忧其嗣育之不广也。夫天下何常之有！吾不能治天下，尚欲避之，况于子孙乎！彼鳃鳃然唯恐后之有天下者不出于其子孙，是乃流俗富翁之见。故尧、舜有子，尚不传之。宋徽宗未尝不多子，止以供金人之屠醢耳。

### 注释：

①许由：相传尧要把君位让给许由，他逃至箕山下，农耕而食。尧又请他做九州长官，他逃到颍水边洗耳，表示不愿听到。 务光：相传汤想把天下让给务光，务光不肯接受。 ②汉高帝：即汉

高祖刘邦。仲：指刘邦的二哥。据《史记》载，最初，刘邦的父母认为刘邦搞农业生产不如他二哥。刘邦得天下后，问他的父亲说：“我所成就的家业多，还是二哥的家业多？”③花息：利息。④寇仇：仇敌。⑤规规焉：见识狭小的样子。⑥伯夷、叔齐：传为殷贵族孤竹君之子，反对武王伐纣。商亡后，隐居首阳山，不食周粟而饿死。⑦废孟子而不立：明太祖朱元璋反对孟子“民贵君轻”思想，下令毁掉孔庙里的孟子牌位。又下诏将《孟子》中有关民本思想的章节予以删除。⑧撮：结紧；滕(téng)：绳索；扃(jiōng)：插关；鐍(jué)：箱子上的安锁的环状物。据《庄子》载，为了防盗，把箱子捆紧，把锁加固。大盗却连箱子一起盗走。⑨昔人愿世世无生帝王家：据《南史·王敬则传》载，南朝宋顺帝被迫出宫时，“泣而弹指，惟愿后生生世世不复与王作因缘。”⑩毅宗：即明代崇祯皇帝朱由检。⑪摧沮：沮丧。⑫视于无形，听于无声：语出《礼记·曲礼上》，意思是，儿子应当从无形、无声中体察父亲的心意。⑬群工：指百官。⑭私昵：个人偏好。⑮橐(tuó)：袋子。⑯纤芥：谓细微不足道。⑰绋(fú)：绳索。⑱草野：指不在朝廷作官的人。⑲浸淫：逐渐习染。鹄：箭靶，这里有标准之意。⑳高皇帝：即明太祖朱元璋。

## 《潜 书》

### 题解：

本书为清初著名思想家唐甄所撰。原名为《衡书》，后改名为《潜书》。全书分上篇上、上篇下、下篇上、下篇下四个部分，共九十七目。体例仿照王充《论衡》，自心性、治术，以至处世淑身等谋略，无不具列，而以政治谋略为主。唐甄认为，“治天下者惟君，乱天下者惟君。”贤君国治，“儒君蓄乱，辟君生乱，暗君召乱，暴君激乱”，君主在治理国家活动中，占有极其重要地位。君主要治好国家，必须勤奋学习。勤奋学习，首先必须选择好老师。还要注意教授太子，抑制宦官，了解下情，勇于纳谏，省官增禄，带头节俭，

慎用刑法，唯重治官，消除朋党，减少女御等。唐甄还认为，治理国家，必须“厚本”，应以“富民”为先，“立国之道无他，惟在于富”，特提出以“勤农丰谷，土田不荒芜”，“桑肥棉茂，麻苧勃郁”，“山林多材，池沼多鱼，园多果疏，栏多羊豕”，“廩蓄不私敛，发济不失时”等为十八“善政”。唐甄还认为，“君子行法，为从为更”，“行之而民悦，则行之”，“行之而民不悦，则不行”，应该“随时制法，因情制礼”，倡导变法改革。唐甄所提谋略，与治国大有裨益。他在担任长子知县时期，曾试行他的这些谋略。

### 鲜 君

治天下者惟君，乱天下者惟君。治乱非他人所能为也，君也。小人乱天下，用小人者谁也？女子、寺人乱天下<sup>①</sup>，宠女子寺人者谁也？奸雄盗贼乱天下，致奸雄盗贼之乱者谁也？反是于有道<sup>②</sup>，则天下治，反是于有道者谁也？师尹、皇父无罪<sup>③</sup>；勃、貂、骊姬无罪<sup>④</sup>，后羿、寒浞无罪<sup>⑤</sup>。何云无罪？毒药杀人，不能杀不饮者。伊尹周公无功。何云无功？良药生人，不能生不饮者。一贤人进则望治，一小人进则忧乱，皆浅识近见，不知其本者也。海内百亿万之生民，握于一人之手，抚之则安居，置之则死亡。天乎君哉，地乎君哉！

上观古昔，尧舜禹启，治世惟久。夏殷西周西汉，治多于乱。治世多者，虽有昏主，赖前王以安也。其余一代之中，治世十一二，乱世十八九。前帝泽薄，无以保其后故也。君之无道也多矣，民之不乐其生也久矣，其如彼为君者何哉！

天之生贤也实难。博征都邑，世族贵家，其子孙鲜有贤者，何况帝室富贵，生习骄恣，岂能成贤！是故一代之中，十数世有二三贤君，不为不多矣。其余非暴即阉<sup>⑥</sup>，非阉即辟，非辟即懦。此亦生人之常，不足为异。惟是儒君蓄乱，辟君生乱，阉君召乱，暴君

激乱，君罔救矣，其如斯民何哉！呜呼！君之多辟，非人之所能为也，天也。天无所为者也，非天之所为也，人也。人之无所不为也，不可以有为也，此古今所同叹，则亦莫可如何也已矣。

匡君治国之才，何世蔑有；世无知者，其才安施！虽使皋夔稷契生于其时，穷而在下，亦不过为田市之匹夫；达而在位<sup>⑦</sup>，亦不过为将承之庸吏。世无君矣，岂有臣乎！然则三代以下，君子之所学不皆废乎？是不然。君有明昏，世有治乱，学无废兴。善事父母，宜尔室家，学达于人伦；寒暑推迁，景新可悦，学达于四时；薄天而翔，腾山而游，学达于鸟兽；山麓蔚如，海隅苍生，学达于草木。吾于尧舜之道，未有毫厘之亏也；奚必得君行道，乃为不废所学乎！惟是贤君不易得，乱世无所逃，坐视百姓之疾苦而不能救，君子伤之矣！

## 抑 尊

圣人定尊卑之分，将使顺而率之，非使亢而远之。为上易骄，为下易谀；君日益尊，臣日益卑。是以人君之贱视其臣民，如犬马出虫蚁之不类于我；贤人退，治道远矣。

太山之高，非金玉丹青也<sup>⑧</sup>，皆土也；江海之大，非甘露醴泉也，皆水也；天子之尊，非天帝大神也，皆人也。是以尧舜之为君，茅茨不翦，饭以土簋<sup>⑨</sup>，饮以土杯。虽贵为天子，制御海内，其甘菲食<sup>⑩</sup>，暖粗衣，就好辟恶，无异于野处也，无不与民同情也。

善治必达情，达情必近人。陈五色于室中，灭烛而观之则不见；奏五音于堂下，掩耳而听之则不闻。人君高居而不近人，既已瞽于官，聋于民矣；虽进之以尧舜之道，其如耳目之不辨何哉！

人君之于父母，异宫而处，朝见有时，则曰天子之孝与庶人异。人君之于子孙，异宫而处，朝见有时，则曰天子之慈与庶人异。人君之于妻，异宫而处，进御有时，则曰天

子之匹与庶人异。骨肉之间，骄亢袭成，是以养隆而孝衰，教疏而恩薄。谗人间之，废嗣废后，易于反掌。不和于家，乱之本也。亲虽至昵，亦有难谏；友虽至私，亦有难语；师虽善诱，亦有难教；而况君乎！

人君之尊，如在天上，与帝同体。公卿大臣罕得进见；变色失容，不敢仰视；跪拜应对，不得比于严家之仆隶。于斯之时，虽有善鸣者，不得闻于九天；虽有善烛者，不得照于九渊<sup>⑪</sup>。臣日益疏，智日益蔽；伊尹、傅说不能海，龙逢、比干不能谏<sup>⑫</sup>，而国亡矣。

蜀人之事神也必冯巫，谓巫为端公；禳则为福，诅则为殃。人不知神所视听，惟端公之畏，而不惜货财以奉之。若然者，神不接于人，人不接于神，故端公得容其奸。人君之尊，其犹土神乎！权臣嬖侍，其犹端公乎！无闻无见，大权下移。诛及伯夷，赏及盗跖；海内怨叛，寇及寝门，宴然不知。岂人之能蔽其耳目哉？势尊自蔽也。

直言者，国之良药也，直言之臣，国之良医也。除肤疡，不除症结者，其人必死；称君圣，谄百官过者<sup>⑬</sup>，其国必亡。所贵乎直臣者，其上，攻君之过；其次，攻宫闱之过<sup>⑭</sup>。其下焉者，攻帝族，攻后族，攻宠贵，是疡医也；君何赖乎有此直臣，臣何贵乎有此直名！是故国有直臣，百官有司莫不畏之；畏之自天子始。

昔者明显帝食<sup>⑮</sup>，庖人进鳖<sup>⑯</sup>。显帝食而甘之，舍箸而问曰<sup>⑰</sup>：“吾闻刘光缙禁蝉鳖之属，安所得此鳖也？”左右对曰：“取之远郊。”显帝曰：“自今勿复进此，恐犯御史禁也。”以万乘之尊，下畏御史，可以为帝王师矣。

位在十人之上者，必处十人之下；位在百人以上者，必处百人之下；位在天下之上者，必处天下之下。古之贤君，不必大臣，匹夫匹妇皆不敢陵；不必师傅，郎官博士皆可受教；不必圣贤，闾里父兄皆可访治。尊贤之朝，虽有佞人，化为直臣；虽有奸人，

化为良臣；何贤才之不尽，何治道之不闻！是故殿陛九仞<sup>⑮</sup>，非尊也；四译来朝<sup>⑯</sup>，非荣也。海唯能下，故川泽之水归之；人君唯能下，故天下之善归之；是乃所以为尊也。

## 得 师

太甲违师保之训<sup>⑰</sup>，多行不义，商之天下且危矣。处于桐宫，深自怨悔，敬承伊尹之训，克终厥德<sup>⑱</sup>。此皇天之所以佑商也。武王崩，成王幼，不知周公之功，以流言疑公，周之天下且危矣。天降烈风疾雷，成王惧，启《金縢》之书<sup>⑲</sup>，乃知周公之忠，迎公而服其训，卒为贤君。此皇天之所以佑周也。二君一昏、一孺，何速变若是哉？先有得于学也。

太甲之嗣位也，伊尹陈三风十愆之戒<sup>⑳</sup>，谓有一必亡；德，无大必兴；不德，无小必坠。太甲知之矣，然狎于习而忽之。及其去宫室之安而处于陵墓之野，声色之好绝，左右便习不从。困苦忧思，自悔其过。以为师保既放我，群臣不悦，百姓不服，天下必且叛我，乃自咎往背师保之训以至于此也。是太甲之改德，由学致也。成王嗣位于冲年<sup>㉑</sup>，周公无日不以君臣父子长幼之道训于王。其戒愆之言，具于《诗》、《书》。成王闻之熟矣，以其幼也而忽之。及殷人叛，庶孽流言<sup>㉒</sup>，周公辟于东都，天降疾威。成王是时稍长矣；良弼不在<sup>㉓</sup>，天怒人叛，如履渊冰。及追思周公训戒之言，我不能用，以至此危难罔救也。是成王之改德，亦由学也。

二君幼知学，又困于忧患，乃克自反以明心。故知君德必成于学，而学必得师保。然必先知学，乃可以得师保。……继世之君，身处尊富，狃于近习，不能周知天下之务。又无大患；即有大患，亦不能忧困愤发，撤其心蔽。其心不明，岂能识大贤于众人之中！且末世学者不纯，中无真得，好为大言，自信以为皋夔；人主瞽乱不察<sup>㉔</sup>，遽委社稷而命之，其不至于覆亡者鲜矣。……是故治天

下必先用贤，用贤必先得师，得师必先辨贤，辨贤必先克私，克私必先浚心<sup>㉕</sup>，浚心必先好学。此自尧舜以来相传之道，得之则治，失之则乱；治乱之效立见，不可不痛自省也。

天子之学与士同；曰不同者，郭言也<sup>㉖</sup>。天子斋居静存，与陋室同；诵诗读书，与士牖同；身有贵贱，心无贵贱。亦有不同者，居位如天帝，失位不如农夫。是故天子学同于士；惧而笃学，当百十于士。伊尹未得，先师咎单；傅说未得，先师甘盘；周公未得，先师史佚。即无此三贤，列士献诗，瞽献曲，史献书，师箴<sup>㉗</sup>，瞽赋<sup>㉘</sup>，矇诵<sup>㉙</sup>，百工谏，庶人传语，近臣尽规，皆可师也。丹雘不施<sup>㉚</sup>，苑囿不广，珠玉不御，貂锦不服，无有溺其心者。既多受益，又无溺心。譬镜久昏，不能辨形，石以磨之，汞以发之，无形不受，无形不辨。心既明，则是非无易主，善恶无匿情，大贤大奸并进于前，不察而别。以是求师，而后师可得，岂有荣公专利，皇父厉民之患乎！

或谓：“君既明矣，可以进退天下之贤不肖，虽无师亦可。”如若所云，虽舜亦不能。舜以天下之明为明，以天下之聪为聪，故能进退天下之贤不肖。然何以明天下之明，聪天下之聪？非一人能遍察之也；舜之聪明所以能遍天下者，以得禹宅百揆也。禹宅百揆以总内众职<sup>㉛</sup>，内众职总牧伯，牧伯总都邑之吏<sup>㉜</sup>，递相稽也<sup>㉝</sup>，如衣有领，如网有纲。舜则恭己正南面，而天下在其耳目中矣。由太甲、成王、高宗、大舜观之，吾未见君不明而可以得师，不得师而可以治天下者也。

## 太 子

自昔有言：教太子必择贤师傅。其在于今，则为罔上之言。公卿之家，千金之子，且轻师傅，何况太子！使师傅教太子，如使弱羊牵大车。然则太子孰教之？天子自教之。天子能教太子，即师傅有益于太子；天

子不能教太子，即百伊尹百周公亦无益于太子。太子故尊，必处于卑；故藏，必周于外；故骄，必纳于约。

凡教太子，勿南面临师傅。进而讲学，师西向坐<sup>③</sup>，傅东向坐，太子北向坐<sup>④</sup>。始讲，则曰：“愿受教”；讲已，则曰：“谨受教”。勿命进退，进退惟命；勿命饮食，饮食惟命；勿命坐作，坐作惟命。公卿有疾，则使问之；有丧，则使吊之；有庆，则使贺之；出使，则使送之；反命，则使劳之；人，则降阶迎之；拜，则趋左答之；进规，则再拜而受之。

凡教太子，春使视耕，夏使视耘，秋使视获，冬使视藏。毋多从，毋盛卫，毋辟人。亲其妇子，知其生养；入其庐舍，知其居处；尝其饮食，知其滋味；揽其衣服，知其寒燠。农民者，王后之本；土茅者，殿陛之本；糟糠者，肥甘之本；布帛者，冕服之本。不知其本，必丧其末。

凡教太子，观于桑，则知衣服所自出；观于牧，则知服乘所自出；观于牢，则知鼎俎所自出；观于泽，则知鱼鳖所自出；观于圃，则知果蔬所自出；观于山，则知材木所自出；观于肆，则知器用所自出。

凡教太子，过市，则见贩鬻之劳；在途，则见负担之劳；行道，则见征役之劳；止舍，则见羁旅之劳<sup>⑤</sup>。

凡教太子，有过必挞。臣待师傅，亢不受命，则挞之；不敬大臣，不礼群臣，则挞之；今日闻言，明日不能行，则挞之；出而荒游，不知农事，则挞之；出而荒游，不知民穷，则挞之；出而荒游，不知物土，则挞之；出而荒游，不知人劳，则挞之。盖不习牛羊之性者，不可使牧牛羊；不知百姓之生者，不可使治百姓。

凡教太子，勿异宫而处，勿异庖而食，勿异笥而衣。异则专主自恣，莫知所为。艳女贼体，阴寺贼性，众佞贼智。虽三朝三问，礼严文备，如优饰然，何有于教！天子视朝之余，太子事师之余，不离左右。慈以笑语，严以海责。三贼不近，一习常安。

凡教太子，先去女蛊。庶民一妇，晏寝不谨，且以致疾，且以夭命。乃别宫曲房，美女充之；如置膏泽于冶火之中，如置胶革于淫雨之中，岂有幸哉！自秦以来，人君恒不寿，五十六为上寿，四十为中寿，三十为下寿。上寿十一，中下十九，皆女之由。是故处太子，少不近女，婚不多御。奉巾帚，浣衣裳，毋择容，毋自置，毋敢嫖。

凡教太子，必除奄蛊<sup>⑥</sup>。启阖，洒扫，振衣，释袜，进簋，执壶，布衣数人，供使而止。虽老成历事三世者，使之谨调护，省疾病，视饮食，率群情，惟是之责。言宫中之事，则杀之；言朝廷之事，则杀之；言百官之事，则杀之；言《诗》、《书》之文，则杀之。

凡教太子，有不教之教。天子身自为制，是谓不教之教。天子之宫，广于大都；妃妾不得不备，奄奴不得不多。宫大人众，将以奚为？将以宫墙为城乎？将使妃妾守陴乎<sup>⑦</sup>？将使奄奴御寇乎？必大乃尊，必众乃光，是尧舜茅茨，不主四方；桀纣宫台，实为盛王。宫室有损无益；妃妾有损无益；奄奴有损无益。日损，岁损，世损，太子之生，不见宫室之侈，不见奄妾之盛，不见珍异之供，不见珠玉之器。其朴不雕，其志不淫，是以教易行而学易成。

## 存 言

生养之道，三年可就，五年可足，十年可富，政之常也。清兴，五十余年矣。四海之内，日益困穷，农空、工空、市空、仕空。谷贱而艰于食，布帛贱而艰于衣，舟转市集而货折货<sup>⑧</sup>，居官者去官而无以为家，是四空也。金钱，所以通有无也。中产之家，尝旬日不睹一金，不见缗钱。无以通之，故农民冻饿，百货皆死，丰年如凶。良贾无算；行于都市，列肆焜耀，冠服华舄<sup>⑨</sup>。入其家室，朝则熄无烟，寒则蜎体不申<sup>⑩</sup>。吴中之民，多鬻男女于远方；男之美者为优，恶者

为奴，女之美者为妾，恶者为婢，遍满海内矣。困穷如是，虽年谷屡丰，而无生之乐。由是风俗日偷，礼义绝灭，小民攘利而不避刑，士大夫殉财而不知耻。谄媚谄淫<sup>⑤</sup>，相习成风，道德不如优偶，文学不如博弈，人心陷溺，不知所底。此天下之大忧也。

征之在昔，天下既定，苟无害民之政，未有一二十年而民不丰殖者。今也天子宽仁而恤民，兵革偃息，国家无事，享国岁久，勤于庶政，而困穷若此，是公卿之过也。

立国之道无他，惟在于富。自古未有国贫而可以为国者。夫富在编户，不在府库。若编户空虚，虽府库之财积如丘山，实为贫国，不可以为国矣。国家五十年以来，为政者无一人以富民为事，上言者无一人以富民为言。至于为家，则营田园，计子孙，莫不求富而忧贫。何其明于家而昧于国也！

## 权 实

天下奚治？令行则治；天下奚不治？令不行则不治。令不行者，文牒榜谕，充塞衢宇，民若罔闻，吏委如遗<sup>⑥</sup>。民吏相匿，交免以文，格而不达，举而易废。……夫国有善政，而德泽不加于民者，政虽善，未常人民也。……十口之家，主人虽贤，然令不行于子，则博弈败趋；令不行于仆，则析汲不勤；令不行于妾，则壶餐不治；令不行于童子，则庭粪不除。以此为家，其家必索，况天下之大乎！骏马病蹇，不如驽马之疾驰；勇士折肱，不如女子之力举；是以圣人贵能行也。

群臣奏人，下于有司；公卿集议，复奏行之。其所行者，著为故事，因时增易，百职准以决事。自汉以来皆然，舍是无以为政。然有治不治者，以实则治，以文则不治。若徒以文也，譬之优偶之戏，衣冠言貌，陈事辨理，无不合度，而岂其实哉！……主臣一心，夜思蚤谋，无谋不行，无行不达。三月必达，终岁必效，三年必成，五年必治，十年必富，此实也。苟无其实，则谨守成法

者，败治之公卿也；明习律令者，败治之有司也；工于文辞，嫫于言貌者，败治之侍臣也。三者非不美也；而专尚焉，则表暴日厚，忠信日薄。察于内外，称职常多；核其行事，无过可举；问其治功，则无一事之善成，无一民之得所。上下相蒙而成苟免之风，虽有志之士，亦将靡然而不得自尽其情，此治化之所以不行也。……

权者，圣人之所藉以妙其用者也。……官有万职，君惟一身。贤君之用官，如大将之御众。以一用十，以十用百，以百用千，以千用万，是则君之用者有万，而凭之者惟十。约而易操，近而能烛。夫尊卑次属，职之恒也，而奚有异？盖不善用之，则万职之利，转而奉之于十；善用之，则十职之修，转而布之于万。十职能修，泽及海内，其功大；功大者赏厚。十职不正，毒及海内，其罪大；罪大者刑重。此舜所以诛四凶也。……

善为政者，刑先于贵，后于贱；重于贵，轻于贱；密于贵，疏于贱；决于贵，假于贱；则刑约而能威。反是，则贵必市贱，贱必附贵。是刑者，交相为利之物也，法安得行，民安得被其泽乎！恩义之大，莫如君臣。亲臣为腹心，政臣为股肱，疆臣为拇指，庶臣为毛发，戎臣为衣履。是以仁君之待其臣，安富同乐，疾病同戚，厚之至也。声色不和，贫劳不恤，犹为亢而少恩，况加之以刑罚乎！此以待良臣也。若夫专利，蔽主，徇私，党邪，是民之仇，国之贼也，若之何不刑！爱德为祥，爱杀人之人，斯为爱乎？忍德为凶，忍于杀人之人，斯为忍乎？刑不可为治也，而亦有时乎为之者，以刑狐鼠之官，以刑豺狼之官，而重以刑匿狐鼠养豺狼之官。国有常刑，有变刑。常刑者，律刑也；有司议之，人主不敢私。变刑者，雷霆之威也；英主神之，群臣不得与。常刑以齐小民，变刑以治元恶。元恶之臣，多援要誉，其罪难见。察之而不得其罪，质之而不得其罪，逮之狱而不得其罪；非雷霆之用，何以治之！德外无治，不言德而言刑者，犹医之治寒疾也。不

郤穀而饮药，其人必危。疾愈，郤药而反穀也不远矣。

## 远 谏

臣不敢谏，虽谏不直，直亦不尽。君不纳谏，虽纳不从，从亦不改。当其世之臣，虽有伊尹周公之告，若不闻知；虽有龙逢比干之忠，徒杀其身。吾今有言于百世以上，训百世以下之为君者，以代其臣之不敢直。诵吾之言，有不惊心丧魄，手战股栗者，非君也。

天下之大可恃乎？甲兵之多可恃乎？君惟不义无道于民，虽九州为宅，九州为防，九山为阻，破之如椎雀卵也；虽尽荆蛮之金以为兵，尽畿省之籍以为卒，推之如蹶弱童也。昔者桀为不道，身死于三畎之国；纣为不道，身死于烈焰之中；太康不道，后羿逐之；厉王不道，国人流之。自夏以后，二十一代之失天下者，其祸类然也。迹其所以亡者，奄妾蛊志，权奸蔽聪，滥赏淫刑，善恶倒置，似亦庸君之常，未足大异。然有一于此，虽不即亡，祸成于渐，不及其身，在其子孙。天命已去，臣叛人散，死亡奔流，如四君者，一朝为烈矣。

川流溃决，必问为防之人；比户延烧，必罪失火之主。至于破家亡国，流毒无穷，孰为之而孰主之？非君其谁乎！世之腐儒，拘于君臣之分，溺于忠孝之论，厚责其臣而薄责其君。彼乌知天下之治，非臣能治之也；天下之乱，非臣能乱之也。使舜内惟二妃之听从，外舍皋夔而用四凶；虽有皋夔，舜之天下必乱。使纣不听妲己之言，舍佞臣而用比干、胶鬲；虽有佞臣，纣之天下必治。治乱在君，于臣何有！

人无贤不贤，贤不贤惟君；政无善不善，善不善为惟君。君惟有道，虽恒才常法，可以为治；君惟不道，虽有大贤良法，亦以成乱。是故明哲之君，无所为恃，必责于己。知天子于民庶，过及十一，祸倍百千。战战

兢兢，如临深渊，如履薄冰。亦有嬖妾，南威西子，身之蛊也；亦有便侍，竖貂、勃鞞，家之蠹也；亦贵所好，巧言令色，朝之贼也；亦贱所恶，良药铤石<sup>④7</sup>，国之宝也。若反其道，则上祸祖父，下灭子孙，血流海内，屠及百年。

吾为此惧，于百世之上，训百世以下之为君者。若闻吾言，惧而知改，虽中才之主，可以保天下。其有暴君，终于不省，乐祸不悛<sup>④8</sup>，则有如前之所言者。是谓远谏，亦谏之一法乎！

## 省 官

官多，则禄不得不薄，禄薄，则侵上而虐下，为盗臣，为民贼。故养民之道，必以省官为先务焉。今夫富人家，百羊为群，以一人牧之，足矣。主人虑其不周也，既立之牧，又为之监，司刍有人，司菽有人。欲厚其廩食，而羊息不足以供之；薄其廩食，则必窃刍与菽，而羊且瘦而多耗矣。多官害民，亦犹是也。

## 制 禄

官省，则吏役亦省；禄厚，则廩食亦厚，可从而定已。

凡人之性，上者有义无利，其次见利思义，其下见利忘义。上下少而次者多，厚其禄，所以兴义也。上者不听而忠；其次德而后忠；其下虽德不忠。上下少而次者多，厚其禄，所以劝忠也。兴义劝忠，所以厚民生也。

有患此者，谓国用不足，百官之禄，骤增十五倍，将焉取给？是殆不然。君臣骄奢，民生殍亡，太仓之粟非其粟，府库之财非其财，而奚啻于百官之禄！君臣恭俭，民生富庶，太仓之粟不可胜食，泉府之钱不可胜用，而何有于百官之禄！



## 达 政

有明君，则有贤辅；有贤辅，不患有司之不良；有司良，不患政事之不达。反是，则政虽善不达。凡政之大者在黜陟。何以为黜，何以为陟？责饱者必炊饭，责暖者必缝衣，责治者必养民。

养民之善政，十有八焉：勤农丰谷，土田不荒芜，为上善政一。桑肥棉茂，麻苧勃郁，为上善政一。山林多材，池沼多鱼，园多果蔬，栏多羊豕，为上善政一。廩蓄不私敛，发济不失时，水旱蝗蝻不为灾<sup>④</sup>，为上善政一。犯其父母必诛，兄弟相残必诛，为上善政一。阐幽发潜，彰孝举节，为上善政一。独骑省从，时行乡里，入其茅屋，抚其妇子，民不以为官，无隐不知，为中善政一。强不陵弱，富能周贫，为中善政一。除强暴奸伪，不为民害，为中善政一。居货不欺，商贾如归，为中善政一。省刑轻杖，民自畏服，为中善政一。察奸发隐，四境无盗，为中善政一。学校殿庑常新，春秋享祀必敬，为下善政一。城隍、道路、桥梁、庐舍修治，为下善政一。纳赋有方，致期不烦，为下善政一。选勇力智谋，具戈甲干楯，教之骑射，以卫四境，为下善政一。天灾流行，疫疠时作，使医疗治，为下善政一。蔬食布衣，燕宾必俭，为下善政一。

上善政六，中善政六，下善政六，凡十八善政，以课县令。重其权，厚其禄。其牧守，但行考绩，不得专制；待以宾礼，不行跪拜。凡有兴革，唯其所为。三年考绩，无功有过者黜；无过无功者，以其品秩致仕。三考，有上善政者受上赏；有中善政者受中赏；有下善政者受下赏；其升迁以是为差。十八善政皆备，九年之间，民昔贫而今富，昔好犯而今知礼，治化大行，斯为上功。唯不受国，封为侯伯。厚其廩禄，冕服舆马，比于古之诸侯。公卿缺，则举用之；或老而归田，予以爵禄终其身，录其子孙，以崇报

功。如是，则有位知劝，咸自兢勉，何治功之不成！

## 匪 更

于其所当正而正之，则职尽；于其所当省而省之，则官清；厚其禄，则臣劝；专其养，则民安；通其穷，则财用足。如是，则上下同欲，民心大悦，自然之理，岂变之为乎！君子行法为从为更，何常之有！行之而民悦，则行之；从其所欲也。行之而民不悦，则不行；更其所不欲也。

且衰世习行之政，有必不可仍者。古人有言曰：“圣人之兴也，不相袭而王；夏殷周之衰也，不易礼而灭。”盖礼之既坏，如美木积久而有蠹朽，不可以为宫室。是故圣人之兴也，随时制法，因情制礼，岂有不宜者！

《诗》云：“缁衣之宜兮，敝，予又改为兮。”物无敝而不改者。缁衣始制，亦尝美矣；及其敝也，衿倾祛错<sup>⑤</sup>，四垂纣离<sup>⑥</sup>，非复缁衣矣；犹复服之，以为不改其旧，可乎？及其改为之，其衿其祛，已非故缁。自缁七人<sup>⑦</sup>，出入新染。观其色，揽其度<sup>⑧</sup>，宛然故缁之初加于体也。以为改其旧，可乎？季世所行之政，昔尝以致治矣。及其既久，国家无事，君臣宴安，丧志成鄙，未能远谋。官守不明，惠泽不行，名存而实亡，文饰益美，不顾百姓之便利。于斯之时，犹为谨守旧章，不敢逾越，是服敝缁衣也。

有有为之君臣，奋兴在位；去因仍之旧法，殚制作之精思，慎虑时宜，讲论典礼，审量法度，归于百姓之便利，以发四海之尘蒙。于斯之时，官堕其职守，民之苦于敝法久矣。一朝弃其旧而新是图，宜民宜俗，安之如固有之，是服新缁衣也。

然则陈晦纆裂<sup>⑨</sup>，已属委弃，取而服之，是谓变常。灿灿在身，不易其制，委蛇合度<sup>⑩</sup>，是谓从旧。新旧之故，从变之宜，唯精义者为能通天下之故，类民物之情。人君不明，执政不敏，司牧不勤，谨守旧制。恶

政令之不行，飞牒文示，遍于天下，制为斩流之刑以惧之。卒之民玩坐废，斩流亦不行，朝廷亦不复问，谓之无官无政可也。《诗曰》：“不愆不忘，率由旧章”，其予言之谓矣！

## 梏 政<sup>⑤</sup>

天下难治。人皆以为民难治也；不知难治者，非民也，官也。凡兹庶民，苟非乱人，亦唯求其所乐，避其所苦，曷尝好犯上法以与上为难哉！论政者不察所由，以为法令之不利于行者，皆梏于民之不良，释官而罪民。此所以难与言治也。

以诏令之尊威，上驰于下，下复于上，不待旬月而遍于海内矣。人见其遍于海内，吾见其未尝出于门庭也。盖遍于海内者，其文也；未尝出于门庭者，其实也。虽有仁政，百姓耳闻之而未尝身受之。此非有司之故而奚故哉！溪谷阻车，蒺藜阻足；今之有司，皆溪谷蒺藜也。

若有司之尽乃心，如佣之事其主，则善矣。佣何善乎？主人督之不使即于惰，而亦不肯自惰，虑不当于主人之意而逐我也。计一日之工必无负于一日之酒食，计终岁之工必无负于终岁之廩粟。是以禾稼丰，畜牧蕃，而主人坐获其利焉。是主人之法令行于佣，而佣能不梏于其所行。何有司则不然邪？岂爵位不足以为荣邪？禄虽至薄，岂禄外自然之利不足以厚其家邪！何不若佣之忠于其主也？……

政不行于天下，岂徒无益，必有大害。谚曰：“官屋漏，官马瘦。”推而广之，田园庐舍，一官屋也；父兄子弟，一官马也。心不在民，虽田园荒芜，庐舍倾倒，而不一顾也；虽父兄冻饿，子弟死亡，而莫之恤也。凡为官者，视为故然。虽无不肖攘民之事，而视民若忘，等于草茅。夫攘民之害小，忘民之害大。攘民者不多人，忘民者遍天下，是举天下之民委弃之也。疾不救者日深，至于四海困穷，民无以为生。有天下者其危矣哉！

然则治民先治官乎！三代既远，仕不由学，官焉而失其官也久矣，将何以治之？治之以赏罚乎？赏罚者，圣人善世之大权，然而难言之矣。圣人之赏，使天下之不善者皆悦其赏而迁于善；圣人之罚，使天下之善者亦兢兢焉恐入于罚而益修于善。此君子之所学以待用者也；然非所望于后世之赏罚也。世之降也，官之为善者不必赏，为不善者不必罚，孰慕不可必之赏而畏不可必之罚乎！于是有术焉，能使赏不出于朝廷而出于我。悦于上官，悦于大臣，悦于近臣，是其术也。悦于上官者，一秩之赏至<sup>⑦</sup>；悦于大臣者，超迁之赏至<sup>⑧</sup>；悦于近臣者，不次之赏至<sup>⑨</sup>。赏自我操，罚焉能及！由是言之，赏罚不可以治官也明矣。

然则官终不可治乎？是盖斯民之不幸，上天之不祐，非人之所能为也，则亦莫可如何也已矣。辗转思之，不释于心。不得大成，且求小补；不能善利，且图少济。设为说之之言曰：“君之贵，非君赐乎？”必曰“然”。“君之用，非出于民力乎？”必曰“然”。“吾愿君之有以报君赐而勿忘民力也。今夫受人壶餐，必有以酬之；而况受人富贵，且以遗子孙乎！食粟，衣帛，必念所自，况今薄禄之时，官之衣食，非取于农而实资于农乎！仁者居其位，受其福，所以兢兢业业不敢自安者也。损人以益己，必不可为者也；损己以益人，亦不可为者也；有益于己，无伤于人，斯则可为者也。居今世而不悦于人，不但失官，且以得罪，诚不可以直道而行。曷若量己之力，以其半交人，以其半勤民事，察农桑，筑圩防，计丰凶，除奸慝<sup>⑩</sup>，则民亦少害矣。夫忠君爱民，无失其本心；保身远害，又不失于自利；斯两得之道也。内省有咎，孰若无咎？百姓诅之，孰若百姓祝之？乡党非之，孰若乡党称之？其请择于斯焉！”

## 除 党

党者，国之危疾，不治必亡。……昔者

明之为党，邪者缘卿相，缘奄奴；正者缘气节，缘道学。如南濠之市，货别为行，惟贾所投。凡人之求显名厚禄者，不入其党，不得也。当是时也，党之为势，固于人心，蔓于海内，若亡人之国而不与之俱亡者。及大清之有天下也，党人之长老犹有存者。后生习闻其术，攘臂而起，如草枯而根萌，木斩而蘖生。郡邑之间，往往百十为群，更立社名，宴饮缔交，亦尝远近响应矣。然究则兽逸鸟散，莫之禁而自废者，其故何也？名者，党之招也；势者，党之帅也。今之将相功臣，其耳目心思与明俗异。名誉不足以动之，其权势又不得假而为我用，是无招无帅也。无招，则党不聚；无帅，则党不立；百官有司，救过保位之不暇，何党之能为！此所以不禁而自废也。昔之雄辩如锋者，今之杜口无言者也；昔之攻人必胜者，今之自守不足者也；未尝不拊掌大笑而称快也。然则治党之道无他，在绝其缘而已。绝其缘，则邪党不伐而自破，正党不解而自散。请悉其说：

用相者，天下之大事也。昔者明之季世，有免相者，众为行一二十万金，辄得复相。凡相必有所由致。袁萃曰：“为相必赂内侍，如树之托根然。”则相者，非国家之相，内侍之私人，众人之霸主也。人君虽庸，曷思其故：斯人也，何以得相乎？必使之行政而政举，任官而官治，而后从而用之也。何以免相乎？必使之行政而政不举，任官而官不治，而后从而免之也。《传》曰：“虽有高世之名，无尺寸之功者不赏。”左右虽善毁，不能毁有功以为无功；左右虽善誉，不能誉无功以为有功。岂以无征之巧言遽决用舍哉！君能以相用相，不以左右用相；相能以人用人，不能以朋类用人。天下之士，皆知由党者不必得富贵，得富贵者不必由党，人亦何乐于为党乎！曷观之聚而为盗者乎！以贫戾之徒，一夕相亲，厚于兄弟者，岂以义固哉？将以取人之财也。若为主人者，峻墙垣，谨防御，不与以钻窬之便，虽驱之使为盗，不可得矣。此治邪党之法也。

直节之臣，国之宝也；道德之臣，王者之师也。匡君为直，攻人非直；让能为贤，争名非贤；是不可以不察也。有人焉，直谅之声震天下，当国任职之臣，一有过失，非与于政之兴坏，非与于天下之安危，必欲攻而去之。其气如战，其志如刃，其言如讼；视其鸣镝所向<sup>①</sup>，群起射之而不敢后。此党人之雄也。若是者，不必加戮也；戮之，适以坚其死而成其名。人君当谈笑而视之曰：“此竖子无知也。”上书若不闻其言，在朝若不见其人。始轻之，渐远之，徐废之，岁月之之间，并其丑类沦淅而销亡矣。天下有行于今必如行于古者，有行于古必不可行于今者。必如行于古者，学也；必不可行于今者，聚众以讲学也。聚众讲学，其始虽无党心，其渐必成党势。气节之争，由此而起；小人之敌，由此而立。若不以道学号世，不以气节凌人，小人无所于蹙，亦不成党，甚为易制。人君将欲风天下，勿畏非圣之谤，勿窃尊儒之名；当心法孔孟，不可口法孔孟。于视朝之时，明言以告群臣曰：“我不喜道学；有以道学进者，我必廷辱之。”则貌孔孟者望风沮丧，不敢蚁引而进以窃位惑世。第讲于乡，教于里，虽非真学，其亦无害于天下。若夫身退而去，寓书京师，制黜陟之权；处士苍居，公卿就而决是非，访贤不肖。此道学之大贼，法所必诛者也。明主处此，不谋于群臣，不按于法律，驱而斩之于市，而以徇于天下曰：“吾欲使士为士，大夫为大夫；仕者尽其职，致仕者安于家。有不在其位而谋其政者，视此矣。”此治正党之法也。……

赏善刑恶，人主之柄也。刑赏由己，孰敢不服！若臣下窃以行私，则互相仇报，天下必乱。……夫君失其为君，则致乱之衅，百出难料，不独党也。

## 贱 奴

凡奄人，小患七，大患三。小患乱国，大患灭国；小患难除，大患易除。请先为之

譬：凡人之居室者，以妾为妻，此患之大者也；爱妾之色，听妾之言，此患之小者也。父命曰：“毋爱妾之色，毋听妾之言！”虽严父不能得之于顺子。曰：“毋以妾为妻！”虽悍子不敢逆慈父矣。盖法所不及，则不可禁，法之所及，则易禁也。

凡奄人，道君以酒色<sup>②</sup>，道君以荒游，道君以侈御，道君以恶见正人。权臣因之，上隐无不闻，下巧无不达，国之大柄下移矣。明示以便进之门，邪曲进，贤正沮矣。金人则死罪生，求拂则有功死；刑不中，罚不中矣。此七患者，其患小。然刚明之君，或中其一二，法制无可加，诫训无所益，祖虽神圣，盖亦莫之如何也已矣。儿畜公卿，奴使百司，狗奔将帅，天子孤矣；豕屠忠良，草刈善类，朝廷空矣；囚禁天子，羊驱天子，干戈起矣。是三患者，其患大，斩灭宗社而后已。然绝之甚易也，如拔茅根焉。

凡为国之道，善后有定制，乱制有定刑。明法不置丞相，其后孰敢言置之！譬之受室于祖，桷腐则改斫之，堊蚀则改镬之，户不便则改辟之；其栋其楹，百年不改也。夫小法时改，大法不时改。凡政皆然，奄人居其一焉。

自公卿以下，凡有品秩者，皆助外治者也；凡左右之奄人，皆奴也。自后妃以下，凡有品秩者，皆助内治者也；凡宫中之女子，皆婢也。请著为典曰：“凡奄人，不授官，不任事，不衣黄，不服袞。后世入臣，有言立奄人之职司及使视戎事者，凌迟无赦<sup>③</sup>。”今士庶人家，师至，友至，则敬而礼之。有童子者，奉壶餐而进，舍壶餐而坐，主人将云何，师将云何，友将云何？三公者，天子师也；九卿者，天子友也；奈何使奔走之奴与师友抗乎！请著为典曰：“凡奄人，传命于朝，见宰相，跪而致言，跪而受言，不得立焉。传命于堂，见九卿，立而致言，立而受言，不得坐焉。遇百官于道，见而下马，过而上马，不得乘焉。抗公卿者斩；抗百官者流；大臣不言者死；小臣不言者革。”

## 去 奴

魏叔子曰：“用奄人始于周，夏商以前无闻焉。唐昭宗尽诛宦官，其出监诸务者，皆令方镇杀之。至庄宗即位<sup>④</sup>，乃复求宦官。则此二十年间，不用宦官亦明矣。然则奄人固未始不可革也。奄人既革，宫中之事，选粗健女子充之，以给力役，备非常。若出纳命令，则于内外各设一庐，男子给事于外，女子给事于内。又于内外之间，选寡妇年五六十者居之，以司出纳。如是，则奄人可革也。”

唐子曰：叔子之言善矣哉！奄人不革，则小人必逞，君子必灾，家必内败，天下必亡，去之不待转计者也。蜀人谚曰：“斩草不除根，萌芽依旧生。”除根若何？不用奄人，则无自宫以幸进者。此除根之道也，非奄人得志而后谋去之，乃谓之除根也。……

吾思之，叔子之策，不可以行于继世之君<sup>⑤</sup>，而可以行于开国之主。开国之时，去奄人如去草，除奄人之萌如除草之萌，固甚易也。何以决其然也？开国之主，起于贫贱。当其贫贱之时，围十堵，覆百榱，身析薪，妻执爨<sup>⑥</sup>。当是之时，若有一奴一婢以供使令，已过望矣。即起于侯服，亦不过巨室之家耳。及其得天下，入亡国之宫，睹宫室之广大，观器玩妇女之众多，目则眩焉，心则移焉。其远虑之臣，当进言曰：“此天下之所以亡也，不可处也。”于是废其土以为民居，撤其埳堦楹桷以散于百姓，量吾之所处而因其材以构焉。损亡宫之万亿，加故室之百十，亦已足矣。

若新建京邑，创营宫室，亦可规焉。何以决其然也？城埤之固，甲兵之多，以御寇也；宫中其何御乎？庶司之繁，百官之众，以行政也；宫中其奚行乎？降及末世，宫中女子常数千人，多至万人。力役非常之事，非女子所能为，故不得不用奄人。女御奄人之多如此，吾不知其何有于国家也！

然则宫中无以多人为也，贵为天子，亦可以庶人之夫妇处之。缝紉庖厨，数妾足以供之；洒扫粪除，数婢足以供之。人则农夫，出则天子，内则茅屋数椽，外则锦壤万里，南面而临天下，何损于天子之尊，而吾以为益显天子之尊也。且约身以处，益可以达于政事，何也？内外无远，出入甚便，贤人君子，不时接见，如左右手之相将也，何治不闻乎！春省耕，秋省敛，入庐舍，尝麦菽，如赤子之在怀抱也，何隐不达乎！尚何籍于奄奴之出纳哉！

帝尝立四妃，帝尧因之；舜不告而娶，不立正妃；夏增以九女，为十二人；殷增以二十七人，为三十九人；周增以八十一人，为百二十人。唐虞夏商女御少，故不用奄人；周女御多，故用奄人。不从周，从夏商；且不从夏商，从唐虞。时有古今，人无古今；人有古今，治无古今；无不可为者。

夫女御少，则宫室小；宫室小，则奄人无用。以此治家治天下，其道已全，不独去奄人而奄人从可去也。是故开国之去奄人，乃斩草除根之时，不可失也。

## 厚 本

天下之乱有二：内贼、外寇是也。虐政亟行，厚敛日加；又遇凶岁，米麦不登，家室罄悬，民无所顾赖。始则一人为窃，既而十人为盗；继则望风蜂起，千百为贼，剽掠乡聚；久则数万人为军，称帅称王，攻城杀吏，而乱成矣。若使茅屋之中，有数石粟，数匹布，妇子饱暖，相为娱乐，孰能诱之蹈不测之祸以为奸雄之资哉！盖内贼之起，皆由于国家空虚也。虐政亟行，厚敛日加；又遇凶岁，米麦不登；边境萧条，饷馈不继；戍卒逃亡，将帅贰心；于是四夷日夜窥伺中国，以国获利。始则小侵，驱掠牛羊；既而深入，猎子女玉帛；久则转战中原，攻围京师，而乱成矣。若治国有道，政事修明，农贾乐业，衣食滋殖，德治中国，抚有四夷，

则蛮貊不得我衅，必且奉贡和好，长为外藩矣。盖外寇之入，皆由于国家空虚也。

内外绎骚，君臣忧惧，博求智谋之士，勇武之夫。于是穰苴之属乃至矣；拜为上将，受命而出。秘谋奇计，出入鬼神。诛贼于内，以次扫除；御寇于外，一月三捷。献俘告庙，君臣相贺。宗庙社稷，危而复安。若非得良将而用之，何以有此功烈哉！然当是时，父兄子弟，肝脑涂地；舆尸载伤，哭声满野；城堡毁堕，田土荒芜；百千里之间，不闻鸡犬之声。国家之福，百姓之祸也；朝廷之所贺，仁人之所吊也。勿谓乱已，其乱方大；勿谓疾平，其疾方深。然则是良将者，不祥之人也；尊良将者，不祥之朝也；非君子之所愿也。

是故明德之君，不侈其尊富强大也。以为我实民之父母，民实我之男女，唯恐其衣食之不足，居处之不安，日夜念之不忘。其大臣必用忠厚之人；其外牧必用慈惠之人；与我同忧，与我同爱。劝农功，课桑麻，厚蓄积，惩奢靡。虽有凶年，民不知菑。谷不可胜食，财不可胜用，而天下大富矣。衣食足而知廉耻，廉耻生而尚礼义，而治化大行矣。然而明主不自满也。既厚之以生养，又承之以节俭；卑前殿，陋后宫，布衣，蔬食，陶器，素舆，犹歉然不敢自安，恐厉民以自养也。于是富日益富，安日益安。中国之民，和乐相忘；远夷之君，慕义永服。继世之子孙，苟非不肖，谨守成宪，虽千百世无变可也。当是之时，甲兵藏于武库，良马仅供服乘。虽有穰苴之将，无所用之。以此养生，以此治天下，皆长久之道也。

## 室 语

（唐子）曰：“大清有天下，仁矣。自秦以来，凡为帝王者皆贼也。”妻笑曰：“何以谓之贼也？”曰：“今也有负数匹布，或担数斗粟而行于途者，或杀之而有其布粟，是贼乎，非贼乎？”曰：“是贼矣。”

唐子曰：“杀一人而取其匹布斗粟，犹谓之贼；杀天下之人而尽有其布粟之富，而反不谓之贼乎！三代以后，有天下之善者莫如汉。然高帝屠城阳，屠颍阳；光武帝屠城三百。使我而事高帝，当其屠城阳之时，必痛哭而去之矣；使我而事光武帝，当其屠一城之始，必痛哭而去之矣。吾不忍为之臣也。”

妻曰：“当大乱之时，岂能不杀一人而定天下？”唐子曰：“定乱岂能不杀乎！古之王者，有不得已而杀者二：有罪，不得不杀；临战，不得不杀。有罪而杀，尧舜之所不能免也；临战而杀，汤武之所不能免也；非是，奚以杀为！若过里而墟其里，过市而窜其市，入城而屠其城，此何为者！大将杀人，非大将杀之，天子实杀之；偏将杀人，非偏将杀之，天子实杀之；卒伍杀人，非卒伍杀之，天子实杀之；官吏杀人，非官吏杀之，天子实杀之。杀人者众手，实天子为之大手。天下既定，非攻非战，百姓死于兵与因兵而死者十五六。暴骨未收，哭声未绝，目皆未乾，于是乃服袞冕，乘法驾，坐前殿，受朝贺，高宫室，广苑囿，以贵其妻妾，以肥其子孙。彼诚何心，而忍享之！若上帝使我治杀人之狱，我则有以处之矣。匹夫无故而杀人，以其一身抵一人之死，斯足矣；有天下者无故而杀人，虽百其身不足以抵其杀一人之罪。是何也？天子者，天下之慈母也，人所仰望以乳育者也。乃无故而杀之，其罪岂不重于匹夫！”

#### 注释：

①寺人：古代宫廷内供使令的小臣。寺，通“侍”。②反是于有道：和无道相反，走上有道的正轨。③师尹：据说周幽王的太师尹氏为政不平；皇父：周幽王时为卿士。王宠褒姒，皇父与家伯、仲允等七人朋党乱政。④勃：即勃鞞，春秋时晋献公的宦官，曾奉命去杀重耳（晋文公）；貂：即竖貂，春秋时齐桓公的宦官，桓公死，持宠争权，引起齐国内乱；骊姬：晋献公夫人，欲立己子奚齐为太子，杀害太子申生等。⑤后羿：夏朝夷族首领，据说他乘太康沉湎游乐之机，起兵推翻其统治；

寒浞：为后羿宠臣，后杀羿自立。⑥阍：即“暗”。⑦达：引进。⑧丹青：可作颜料的两种矿物。⑨土簋：土碗。⑩菲食：粗劣的食物。⑪九渊：深渊，这里比喻民间。⑫龙逢（péng）：夏桀的臣子，因谏被杀；比干：商纣王的叔父，因谏被杀。⑬谪（zhé）：指责，谴责。⑭宫闱（wéi）：后妃居住的地方，这里指后妃。⑮明显帝：即明神宗朱翊钧。⑯庖（páo）人：厨师。⑰舍箸：放下筷子。⑱殿陛：泛指宫殿。陛，宫殿的台阶。⑲四译：指四方边远的国家。⑳师保：古代担任教导贵族子弟的官。㉑克终厥德：终于能有品德。克，能。厥，代词，犹“其”。㉒《金縢（téng）》：周公为武王祈祷所作之书。㉓三风十愆：据《尚书·伊训》载，三风指巫风、淫风、乱风。巫风包括舞、歌，淫风包括货、色、游、畋，乱风包括侮圣言、逆忠真、违誓德、比顽童等，合为十愆。㉔冲年：幼年。㉕庶孽：即“庶子”，旧指妾媵所生之子。这里指周公之弟管叔、蔡叔、霍叔等人。㉖良弼：贤良的辅臣，这里指周公。㉗瞀（mào）乱：精神错乱。㉘浚心：疏通心胸，即心胸开朗。㉙郛（fú）言：大而无当的话。㉚师：少师，乐官名；箴，箴言，劝戒的文章。㉛瞶：眼里没有瞳孔的人叫“瞶”。㉜瞶：有瞳孔而看不见东西的人叫“瞶”。㉝丹雘（huò）：红色的涂漆。㉞宅：任职。禹宅百揆（kuí）：禹任百揆职务。㉟牧伯：州牧与方伯的合称，此指各地诸侯与地方长官。㊱递相稽也：依次互相考核。㊲西向坐：面向西坐。古代以西向为主，东向为宾。㊳北向坐：面向北坐。古代以南向为尊、为帝王之位，北向为臣属之位。这里要求太子北向坐，表示对师傅的尊敬。㊴羁旅：长久寄居他乡。㊵奄：同阍，即宦官。奄蛊：宦官的诱惑。㊶陴（pī）：城上的女墙。㊷折（shé）货（zī）：亏了本钱。㊸华胥（wú）：光华美丽。㊹蜎（juān）体：指像蚊的幼虫那样，蜷曲着身体。㊺恣（tāo）淫：怠惰纵乐。㊻吏委如遗：官吏把文告抛出去，就像丢失了一样。㊼纛石：石针，古时用以治病。㊽悛（quān）：悔改。㊾螽：即螽（zhōng）斯，一种吃庄稼的害虫。㊿衿（jīn）倾祛（qū）错：衣襟歪斜，袖口破烂。衿，同襟；祛，袖口。①四垂

纒(pi)离:四边已破烂披散。⑤②自纒(geng)七人:用绳吊染多次。自,用;纒,绳索。⑤③揽其度:量它的尺寸。⑤④陈晦惨(cǎn)裂:这里指陈旧退色而又破烂了的衣服。⑤⑤委蛇(yí):曲折的样子。委蛇合度:长短大小都合适。⑤⑥梏(nì)政:阻碍政令的推行。梏,阻止。⑤⑦秩:官阶,品级。⑤⑧超迁:超级提升。⑤⑨不次:不受等级限制,破格提升。⑥⑩奸慝(tè):邪恶不正的坏人。⑥⑪鸣镝:古代的响箭。⑥⑫道:同“导”,诱导,引诱。⑥⑬凌迟:剐刑。⑥⑭庄宗:五代时后唐庄宗李存勖。⑥⑮继世:犹继位,即继父位而为君。⑥⑯执爨(cuàn):烧火煮饭。

## 《资政新篇》

### 题解:

《资政新篇》是太平天国时期洪仁玕提出的治国谋略及其主张。在政治谋略方面,洪仁玕主张“审时度势”,以“变通为律”,注意学习西方先进经验,对于“其事大关世道人心,如纲常伦纪、教养大典,则宜立法以为准”;对于一些风俗习惯,“革之而民不愿,兴之而民不从”,“习俗所蔽,难以急移者”,不能用行政命令的办法去改变,要以统治者的喜好、表率去引导,“以风风之,自上化之”。洪仁玕主张加强中央领导权,“自大至小,由上而下,权归于一”;严禁“朋党之弊”;普设乡官乡兵,建立省、郡、县钱谷库和市镇公司,加强对地方的控制;主张设置地位独立的“新闻官”,专收中外报纸呈缴,以备天王阅览;禁止私门请谒,杜绝卖官鬻爵等。这是先进的中国人较早学习西方、发展资本主义的谋略主张,在历史上影响很大。

夫事有常变,理有穷通,故事有今不可行而可豫定者,为后之福;有今可行而不可永定者,为后之祸。其理在于审时度势,与本末强弱耳。然本末之强弱适均,视乎时势之变通为律,则自今而至后,自小而至大,自省而至国,自国而至万邦,亦无不可行矣。

其要在于因时制宜,审势而行而已。……

一禁朋党之弊。朝廷封官设将,乃以护国卫民、除奸保良者也。倘有结盟联党之事,是下有自固之术,私有倚恃之端,外为假公济私之举,内藏弱本强末之弊。为兵者行此,而为将之军法难行;为臣者行此,而为君之权谋下夺,良民虽欲深倚于君,无奈为所隔绝,是不可以不察也。倘欲真知其为朋奸者,每一人犯罪,必多人保护隐瞒,则宜潜消其党,勿露其形。或如唐太宗之责尉迟恭以汉高故事,或如汉文之责吴不会而赐杖以愧之,亦保全之一道也。若发泄而不能制,反遭其害,貽祸不浅矣。倘至兵强国富,俗厚风淳之日,又有朝发夕至之火船火车,又有新闻篇以泄奸谋,纵有一切诡弊,难逃太阳之照矣。

夫所谓“以风风之”者,谓革之而民不愿,兴之而民不从,其事多属人心蒙昧,习俗所蔽,难以急移者,不得已以风风之,自上化之也。如男子长指甲,女子喜缠脚,吉凶军宾,琐屑仪文,养鸟斗蟀,打鹌赛胜,戒箍手镯,金玉粉饰之类,皆小人骄奢之习。诸如此类,难以枚举。禁之不成广大之体,民亦未必凛遵,不禁又为败风之渐,惟在上者以为可耻之行,见则鄙之忽之,遇则怒之撻之,民自厌而去之,是不刑而自化,不禁而自弭矣。倘民有美举,如医院、礼拜堂、学馆、四民院、四疾院等,主则亲临以隆其事,以奖其成,若无此举,则诏谕宣行,是厚风俗之法也。如毁谤谗妒等弊,皆由风俗未厚,见识未广,制法未精,是以人心虞拟不平而鸣矣。又如演戏斗剧、庵寺和尼,凡此等弊,则立牧司教导官,亲身教化之,怜悯之,又怒之,务去其心之惑以拯其迷也。中地素以骄奢之习为宝,或诗画美艳,金玉精奇,非一无可取,第是宝之下者也。夫所谓上宝者,以天父上帝、天兄基督、圣神爷之风三位一体为宝。一敬信间,声色不形,肃然有律,诚以此能格其邪心,宝其灵魂。



化其愚蒙，宝其才德也。中宝者，以有用之物为宝，如火船、火车、钟鏢、电火表、寒暑表、风雨表、日晷表、千里镜、量天尺、连环枪、天球、地球等物，皆有探造化之巧，足以广闻见之精，此正堂堂之技，非妇儿掩饰之文，永古可行者也。

要自大至小，由上而下，权归于一，内外适均而敷于众也。又由众下而达于上位，则上下情通，中无壅塞弄弊者，莫善于准卖新闻篇或暗柜也。

禁私门请谒，以杜卖官鬻爵之弊。凡子臣弟友，各有分所当为，各有奉值，各有才德，各宜奋力上进，致令闻外著，岂可攀援以玷仕途。即推举者亦是为国荐贤，亦属份内之事，既得俸值，何可贪赃。审实革职，二罪俱罚。

兴乡官。公义者司其任，以理一乡民情曲直吉凶等事，乡兵听其铺调。

兴乡兵。大村多设，小村少设，日间管理各户，洒扫街渠，以免秽毒伤人，并拿打架攘窃，及在旁证见之人，到乡官处处决，妄证者同罪。夜于该管之地有失，惟守者是问。若力不足而呼救不及，不干守者之事。被伤者生则医，死则瘞，有妻子者议恤。

兴各省新闻官。其官有职无权，性品诚实不阿者。官职不受众官节制，亦不节制众官，即赏罚亦不准众官褒贬。专收十八省及万方新闻篇有招牌图记者，以资圣鉴，则奸者服栗存诚，忠者清心可表，于是一念之善，一念之恶，难逃人心公议矣。人岂有不善，世岂有不平哉！

兴省郡县钱谷库，以司文武官员俸值公费。立官司理，每月报销。除俸值外，有妄取民贿一文者议法。

兴市镇公司。立官严正，以司工商水陆关税。每礼拜呈缴省郡县库存贮，或市镇公务支用，有为己私抽者议法。

## 《封建郡县说》

### 题解：

本文是清末俞樾(1821——1907)提出的有关国体的谋略文章，选自《皇朝经世文编续编》卷12《治本·治法上》。

治理国家应该实行何种政治体制？自秦始皇废分封、立郡县以后，一直争论不休。有的政治谋略家主张实行郡县制，加强中央集权；有的则主张裂土分封，以拱卫中央。俞樾则认为，郡县制和分封制各有利弊，主张“封建必以郡县之法行之，郡县必以封建之法辅之。两者并用，然后无弊。”认为秦始皇“罢侯置守未失也，其失在乎专用郡县而不复存封建之制”，主张在内地实行郡县制，在边地实行分封制，认为这样才是“有天下者之长计也”。此种建策亦不失为一种政治谋略主张。

自秦废封建，以郡县治之，遂为万世不易之法。论者以为如冬裘夏葛之各适其时耳。吾谓封建必以郡县之法行之，郡县必以封建之法辅之，两者并用，然后无弊。古者天子畿内，其地千里，千里之中有六乡六遂之制，即郡县之法也。其外以八州之地，为一千六百八十国，五国则有长，十国则有帅，三十国则有正，二百一十国则有伯，凡八百五十六正，一百六十八帅，三百三十六长，分而属于天子之老二人，曰二伯。此其大小相制，内外相维，亦即郡县之法也。自齐桓、晋文兴，而诸侯以力相胜，其地大、其国强，则遂为之长，天下之诸侯，聚而听命乎盟主，而属长连帅之制，荡然无存。自此天下之势，散而无纪，至秦而同归于尽。吾固曰封建必以郡县之法行之，然后无弊。虽然郡县之世，亦岂可以废封建乎哉？世以罢侯置守为始皇罪，夫罢侯置守未失也，其失在乎专用郡县而不复存封建之制。方秦初并天下，李斯言置诸侯不便，丞相绾等言燕齐地远宜置王。



而始皇曰，廷尉议是。夫使始皇取诸与斯之议而兼用之，内地置守、尉、监，而远地置王，则夫陈胜者，安能起陇亩之中而乱天下哉？且亦何畏乎匈奴，而竭天下之力以筑长城也哉！是故郡县亦必以封建之法辅之，而后无弊也。呜呼！宋之已事，可以观矣。宋太祖既有天下，以为中国之患，莫大乎藩镇，于是罢节度使，而以文臣领郡，为强干弱枝之斗。然而河东之折氏、灵武之李氏则犹许其世袭如故也。其后议者以世袭不便，移李氏于陕西，而灵武之失不旋踵矣。然则内地郡县而边地封建，固有天下者之长计也。世之论者自唐以前皆是封建而非郡县，自唐以后皆右郡县而左封建，胥一偏之见而已矣。

## 《变法通议》

### 题解：

《变法通议》是梁启超在清末维新运动期间所作，全书七万余字，分自序、论不变法之害、论变法不知本原之害、学校总论、论科举、论学会、论师范、论女学、论幼学、学校余论、论译书、论变法必自平满汉之界始、论金银涨落、论变法后安置守旧大臣之法等14篇。前11篇先后发表于光绪二十二年（1896）至光绪二十三年上海《时务报》上，后3篇为变法失败后所作。光绪二十年（1894），中日甲午战争爆发，中国战败。次年，清政府和日本签订《马关条约》，丧权辱国，割地赔款，举国震动。于是，康有为，梁启超等发起“公车上书”，要求清帝“拒和”、“迁都”、“变法”，兴起一场变法维新运动。梁启超为了谋划和指导变法，特著此文，提出了自己政治改革之谋略，认为“变者，天下之公理”，“大势相迫”，“变亦变，不变亦变！”只有变法，才能“保国”、“保种”、“保教”。在如何变法的问题上，主张“变法之本，在育人才；人才之兴，在开学校；学校之立，在变科举；而一切要其大成，在变官制。”

## 自序

法何以必变？凡在天地之间者，莫不变。昼夜变而成日，寒暑变而成岁；大地肇起，流质炎炎，热熔冰迁，累变而成地球；海草螺蛤，大木大鸟，飞鱼飞龟，袋兽脊兽，彼生此灭，更代迭变，而成世界；紫血红血，流注体内，呼炭吸养，刻刻相续，一日千变，而成生人。藉曰不变，则天地人类，并时而息矣。故夫变者，古今之公理也。贡助之法变为租庸调，租庸调变为两税，两税变为一条鞭。井乘之法变为府兵，府兵变为彍骑，彍骑变为禁军。学校升造之法变为荐辟，荐辟变为九品中正，九品变为科目。上下千岁，无时不变，无事不变，公理有固然，非夫人之为也。为不变之说者，动曰“守古，守古”，庸诎知自太古、上古、中古、近古以至今日，固已不知万百千变。今日所目为古法而守之者，其于古人之意，相去岂可以道里计哉！今夫自然之变，天之道也，或变则善，或变则敝。有人道焉，则智者之所审也。语曰：“学者上达，不学下达。”惟治亦然：委心任运，听其流变，则日趋于敝；振刷整顿，斟酌通变，则日趋于善。吾揆之于古，一姓受命，创法立制，数叶以后，其子孙之所奉行，必有以异于其祖父矣。而彼君民上下，犹侗焉以为吾今日之法吾祖<sup>①</sup>，前者以之治天下而治，茫然守之<sup>②</sup>，因循不察，渐移渐变，百事废弛，卒至疲敝，不可收拾。代兴者审其敝而变之，斯为新王矣。苟其子孙达于此义，自审其敝而自变之，斯号中兴矣。汉唐中兴，斯固然矣。《诗》曰：“周虽旧邦，其命维新。”言治旧国必用新法也。其事甚顺，其义至明：有可为之机，有可取之法，有不得不行之势，有不容少缓之故。为不变之说者，犹曰“守古，守古”，坐视其因循废弛，而漠然无所动于中。呜呼，可不谓大惑不解者乎！《易》曰：“穷则变，变则通，通则久。”伊尹曰：“用其新，去其陈，病乃不存。夜不

炳烛则昧，冬不御裘则寒，渡河而乘陆车者危，易证而尝旧方者死。”今专标斯义，大声疾呼，上循土训、诵训之遗<sup>③</sup>，下依蒙诰、鼓谏之义<sup>④</sup>，言之无罪，闻者足兴。为六十篇，分类十二。知我罪我，其无辞焉。

## 论不变法之害

今有巨厦，更历千岁，瓦墁毁坏<sup>⑤</sup>，榱栋崩折<sup>⑥</sup>，非不枵然大也<sup>⑦</sup>，风雨猝集，则倾圯必矣。而室中之人，犹然酣嬉鼾卧，漠然无所闻见；或则睹其危险，惟知痛哭，束手待毙，不思拯救；又其上者，补苴罅漏<sup>⑧</sup>，弥缝蚁穴，苟安时日，以觊有功。此三人者，用心不同，漂摇一至，同归死亡。善居室者，去其废坏，廓清而更张之，鸠工庀材<sup>⑨</sup>，以新厥构。图始虽艰，及其成也，轮焉奂焉，高枕无忧也。惟国亦然：由前之说罔不亡，由后之说罔不强。

印度，大地最古之国也，守旧不变，夷为英藩矣。突厥地跨三洲，立国历千年，而守旧不变，为六大国执其权分其地矣。非洲广袤，三倍欧土，内地除沙漠一带外，皆植物饶衍，畜牧繁盛，土人不能开化，拱手以让强敌矣。波兰为欧西名国，政事不修，内讧日起，俄、普、奥相约，择其肉而食矣。中亚洲回部，素号骁悍，善战斗而守旧不变，俄人鲸吞蚕食，殆将尽之矣。越南、缅甸、高丽，服属中土，渐染习气，因仍弊政，荼靡不变，汉官威仪，今无存矣。今夫俄宅苦寒之地，受蒙古钤辖，前皇残暴，民气凋丧，岌岌不可终日；自大彼得游历诸国<sup>⑩</sup>，学习工艺，归而变政，后王受其方略，国势日盛，辟地数万里也。今夫德列国分治，无所统纪，为法所役，有若奴隶；普人发愤，兴学练兵，遂厥强法，霸中原也。今夫日本幕府专政，诸藩力征，受俄、德、美大创，国几不国；自明治维新，改弦更张，不三十年，而夺我琉球，割我台湾也。又如西班牙、荷兰，三百年前，属地遍天下；而内治稍弛，遂即陵

弱，国度夷为四等。暹罗处缅甸之间，同一绵薄，而稍自振厉，则岿然尚存。记曰：“不知来，视诸往。”又曰：“前车覆，后车戒。”大地万国，上下百年间，强盛弱亡之故，不爽累黍，盖其几之可谓如此也。

中国立国之古等印度，土地之沃迈突厥，而因沿积弊，不能振变，亦伯仲于二国之间。以故地利不辟，人满为患：河北诸省，岁虽中收，犹道殣相望；京师一冬，死者千计；一有水旱，道路不通，运赈无术，任其填委，十室九空；滨海小民，无所得食，逃至南洋、美洲诸地，鬻身为奴，犹被驱迫，丧斧以归，驯者转于沟壑，黠者流为盗贼；教匪、会匪，蔓延九州，伺隙而动。工艺不兴，商务不讲，土货日见减色；而他人投我所好，制造百物，畅销内地，漏卮日甚，脂膏将枯。学校不立，学子于帖括外，一物不知；其上者考据词章，破碎相尚，语以瀛海，瞠目不信；又得官甚难，治生无术，习于无耻，懵不知怪。兵学不讲，绿营防勇，老弱癯烟，凶悍骚扰，无所可用；一旦军兴，临事募集，半属流勾<sup>⑪</sup>；器械麻苦<sup>⑫</sup>，餉糈微薄<sup>⑬</sup>；偏裨以上，流品猥杂，一字不识，无论读图，营例不谙，无论兵法；以此与他人学问之将、纪律之师相遇，百战百败，无待交绥。官制不善，习非所用，用非所习，委权胥吏，百弊猬起；一官数人，一人数官，牵制推诿，一事不举；保奖蒙混，鬻爵充塞，朝为市侩，夕登显秩；宦途壅滞，候补窘悴，非钻营奔竞，不能疗饥；俸廉微薄，供亿繁浩，非贪污恶鄙，无以自给；限年绳格，虽有奇才，不能特达，必俟其筋力既衰，暮气将深，始任以事；故肉食盈廷，而乏才为患。法弊如此，虽敌国外患，晏然无闻，君子犹或忧之，况于以一羊处群虎之间，抱火厝之积薪之下而寝其上者乎！

孟子曰：“国必自伐，然后人伐之。”又曰：“未闻以千里畏人者也。”又曰：“能治其国家，谁敢侮之。”中国户口之众，冠于大地，幅员式廓，亦俄英之亚也；矿产充溢，积数千年

未经开采；土地沃衍，百植并宜；国处温带，其民材智；君权统一，欲有兴作，不患阻挠。此皆欧洲各国之所无也。夫以旧法之不可恃也如彼，新政之易为功也又如此，何舍何从，不待智者可以决矣。

难者曰：“今日之法，匪今伊昔，五帝三王之所递嬗，三祖八宗之所诒谋，累代率由，历有年所，必谓易道乃可为治，非所敢闻。”释之曰：不能创法，非圣人也；不能随时，非圣人也。上观百世，下观百世，经世大法，惟本朝为善变：入关之初，即下剃发之令，顶戴翎枝，端罩马褂，古无有也，则变服色矣；用达海创国书，借蒙古字以附满洲音，则变文字矣；用汤若望、罗雅谷作宪书，参用欧罗巴法，以改大统历，则变历法矣；圣祖皇帝，永免滋生人口之赋，并人地赋——自商鞅以来计人之法，汉武以来课丁之法无有也——则变赋法矣；举一切城工河防，以及内廷营造，行在治躋<sup>⑭</sup>，皆雇民给直——三王于农隙使民，用民三日，且无有也——则变役法矣；平民死刑，别为二等，曰情实，曰缓决，犹有情实而不予勾者<sup>⑮</sup>，仕者罪虽至死，而子孙考试入仕如故——如前代所沿夷三族之刑、发乐籍之刑、言官受廷杖、下镇抚司狱之刑，更无有也——则变刑法矣。至于国本之说，历代所重，自理密亲王之废<sup>⑯</sup>，世宗创为密缄之法<sup>⑰</sup>，高宗至于九降纶音<sup>⑱</sup>，编为储贰金鉴为世法戒，而懵儒始知大计矣。巡幸之典，谏臣所争，而圣祖、高宗皆数幸江南，木兰秋狝，岁岁举行，昧者或疑之，至仁宗贬谪松筠，宣示讲武习劳之意，而庸臣始识苦心矣。汉、魏、宋、明，由旁支入继大统者，辄议大礼，断断争讼<sup>⑲</sup>；高宗援据《礼经》，定本生父母之称，取葬以士、祭以大夫之义。圣人制礼，万世不易，观于醇贤亲王之礼，而天下翕然称颂矣。凡此皆本朝变前代之法，善之又善者也。至于二百余年，重熙累洽，因时变制，未易缕数。数其荦荦大者：崇德以前，以八贝勒分治所部，太宗与诸兄弟，朝会则共坐，饷用则均

出，俘虏则均分；世祖入关，始严天泽之分，裁抑诸王骄蹇之习，遂壹寰宇，诒谋至今矣。累朝用兵，拓地数万里，膺阃外之寄<sup>⑳</sup>，多用满蒙；逮文宗而兼用汉人，辅臣文庆，力赞成之，而曾、左诸公，遂称名将矣。八旗劲旅，天下无敌，既削平前三藩后三藩，乾隆中屡次西征，犹复简调前往，朝驰羽檄，夕报捷书，逮宣宗时，而知索伦兵不可用；三十年来，歼荡流寇，半赖召募之勇以成功，而同治遂号中兴矣。内而治寇，始用坚壁清野之法，一变而为长江水师，再变而为防河圈禁矣。外而交邻，始用闭关绝市之法，一变而通商者十数国，再变而命使者十数国矣。此又以本朝变本朝之法者也。吾闻圣者虑时而动，使圣祖、世宗生于今日，吾知其变法之锐，必不在大彼得、威廉第一、睦仁之下也。记曰：“法先王者法其意。”今泥祖宗之法，而戾祖宗之意，是乌得为善法祖矣乎！

中国自古一统，环列皆小蛮夷，但虞内忧，不患外侮。故防弊之意多，而兴利之意少；怀安之念重，而虑危之念轻。秦后至今，垂二千年，时局匪有大殊，故治法亦可不改。国初因沿明制，稍加损益，税敛极薄，征税几绝；取士以科举，虽不讲经世，而足以扬太平；选将由行伍，虽未尝学问，然足以威萑苻；任官论资格，虽不得异材，而足以止奔竞；天潢外戚，不与政事，故无权奸僭恣之虞；督抚监司，互相牵制，故无藩镇跋扈之患。使能闭关画界，永绝外敌，终古为独立之国，则墨守斯法，世世仍之，稍加整顿，未尝不足以治天下，而无如其忽与泰西诸国相遇也。泰西诸国并立，大小以数十计，狡焉思启，互相猜忌，稍不自振，则灭亡随之矣。故广设学校，奖励学会，惧人才不足，而国无与立也；振兴工艺，保护商业，惧利源为人所夺，而国以穷蹙也；将必知学，兵必识字，日夜训练，如临大敌，船械新制，争相驾尚，惧兵力稍弱，一败而不可振也。自余庶政，罔不如是。日相比较，日相磨厉，故其人之才智，常乐于相师，而其国之盛强，

常足以相敌。盖舍是不能图存也。而所谓立之国者，目未见大敌，侈然自尊，谓莫己若；又欺其民之驯弱而凌虐之<sup>①</sup>，虐其民之才智而束缚之，积弱陵夷，日甚一日。以此遇彼，犹以敝痈当千钧之弩，故印度、突厥之覆辙，不绝于天壤也。

难者曰：“法固因时而易，亦因地而行。今子所谓新法者，西人习而安之，故能有功，苟迁其地则弗良矣。”释之曰：泰西治国之道，富强之原，非振古如兹也，盖自百年以来焉耳。举官新制，起于嘉庆十七年；民兵之制，起于嘉庆十七年，工艺会所，起于道光四年；农学会，起于道光二十八年；国家拨款以兴学校，起于道光十三年；报纸免税之议，起于道光十六年；邮政售票，起于道光十七年；轻减刑律，起于嘉庆二十五年；汽机之制，起于乾隆三十四年；行海轮船，起于嘉庆十二年；铁路起于道光十年；电线起于道光十七年；自余一切保国之经，利民之策，相因而至，大率皆在中朝嘉道之间。盖自法皇拿破仑倡祸以后，欧洲忽生动力，因以更新，至其前此之旧俗，则视今日之中国无以远过；惟其幡然而变，不百年间，乃勃然而兴矣。然则吾所谓新法者，皆非西人所故有，而实为西人所改造。改而施之西方，与改而施之东方，其情形不殊，盖无疑矣，况蒸蒸然起于东土者，尚明有因变致强之日本乎！

难者曰：“子言辩矣。然伊川被发，君子所叹。用彝变夏，究何取焉？”释之曰：孔子曰：“天子失官，学在四彝。”春秋之例：彝狄进至中国，则中国之。古之圣人，未尝以学于人为惭德也。然此不足以服吾子，请言中国：有土地焉，测之、绘之、化之、分之，审其土宜，教民树艺，神农、后稷，非西人也；度地居民，岁杪制用，夫家众寡，六畜牛羊，纤悉书之，《周礼·王制》，非西书也；八岁入小学，十五就大学，升造爵官，皆俟学成，庠序学校，非西名也；谋及卿士，谋及庶人，国疑则询，国迁则询，议郎博士，

非西官也；流宥五刑，疑狱众共，轻刑之法，陪审之员，非西律也；三老嗇夫，由民自推，辟署功曹，不用他郡，乡亭之官，非西秩也；尔无我叛，我不强贾，商约之文，非西史也；交邻有道，不辱君命，绝域之使，非西政也；邦有六职，工与居一，国有九经，工在所劝，保护工艺，非西例也；当宁而立<sup>②</sup>，当康而立<sup>③</sup>，礼无不答，旅揖士人，《礼经》所陈，非西制也；天子巡狩，以观民风，皇王大典，非西仪也；地有四游，地动不止，日之所生为星，眇纬雅言，非西文也；腐水离木，均发均县，临鉴立景，蜕水谓气，电缘气生，墨翟、亢仓、关尹之徒，非西儒也。故夫法者天下之公器也，征之域外则如彼，考之前古则如此。而议者犹曰“彝也，彝也”而弃之，必举吾所固有之物，不自有之，而甘心以让诸人，又何取耶！

难者曰：“子论诚当，然中国当败衄之后，穷蹙之日，虑无余力克任此举；强敌交迫，眈眈思启，亦未必能吾待也。”释之曰：日本败于三国，受迫通商，反以成维新之功；法败于普，为城下之盟，偿五千兆福兰格，割奥斯、鹿林两省，此其痛创过于中国今日也；然不及十年，法之盛强，转逾畴昔。然则败衄非国之大患，患不能自强耳。孟子曰：“国家闲暇，及是时，明其政刑，虽大国，必畏之矣。”又曰：“国家闲暇，及是时，般乐怠傲，是自求祸也。”泰西各国，磨牙吮血，伺于吾旁者固属有人；其顾惜商务，不欲发难者，亦未始无之。徒以我晦盲太甚，厉阶孔繁，用启戎心，亟思染指。及今早图，示万国以更新之端，作十年保太平之约，亡羊补牢，未为迟也。

天下之为说者动曰“一劳永逸”，此误人家国之言也。今夫人一日三食，苟有持说者曰，“一食永饱”，虽愚者犹知其不能也。以饱之后历数时而必饥，饥而必更求食也。今夫立法以治天下，则亦若是矣。法行十年，或数十年，或百年而必敝，敝而必更求变，天之道也。故一食而求永饱者必死，一劳而

求永逸者必亡。今之为不变之说者，实则非真有见于新法之为民害也——夸毗成风，憚于兴作；但求免过，不求有功；又经世之学，素所未讲，内无宗主，相从吠声。听其言论，则日日痛哭；读其词章，则字字孤愤；叩其所以图存之道，则眙然无所为对，曰：“天心而已，国运而已，无可为而已。”委心袖手，以待覆亡。噫，吾不解其用心何在也！

而要论之：法者，天下之公器也；变者，天下之公理也。大地既通，万国蒸蒸，日趋于上，大势相迫，非可阂制。变亦变，不变亦变！变而变者，变之权操诸己，可以保国，可以保种，可以保教；不变而变者，变之权让诸人，束缚之，驰骤之。呜呼，则非吾之所敢言矣！是故变之途有四：其一，如日本，自变者也；其二，如突厥，他人执其权而代变者也；其三，如印度，见并于一国而代变者也；其四，如波兰，见分于诸国而代变者也。吉凶之故，去就之间，其何择焉？《诗》曰：“嗟我兄弟，邦人诸友，莫肯念乱，谁无父母？”《传》曰：“嫠妇不恤其纬，而忧宗周之赏，为将及焉。”此固四万万人之所同也。彼犹太之种，迫逐于欧东；非洲之奴，充斥于大地。呜呼，夫非犹是人类也欤！

## 论变法不知本原之害

难者曰：“中国之法，非不变也。中兴以后，讲求洋务，三十余年，创行新政，不一而足，然屡见败衄，莫克振救。若是乎新法之果无益于人国也。”释之曰：前此之言变者，非真能变也，即吾向者所谓“补苴罅漏，弥缝蚁穴，漂摇一至，同归死亡”。而于去陈用新，改弦更张之道，未始有合也。昔同治初年，德相毕士麻克语人曰②：“三十年后，日本其兴，中国其弱乎？日人之游欧洲者，讨论学业，讲求官制，归而行之；中人之游欧洲者，询某厂船炮之利，某厂价值之廉，购而用之。强弱之原，其在此乎？”呜呼！今虽不幸而言中矣，惩前毖后，亡羊补牢，有

天下之责者，尚可以知所以也。今之言变法者，其荦荦大端，必曰练兵也，开矿也，通商也。斯固然矣，然将率不由学校，能知兵乎？选兵不用医生，任意招募，半属流丐，体之羸壮所不知，识字与否所不计，能用命乎？将俸极薄，兵饷极微，伤废无养其终身之文，死亡无恤其家之典，能洁己效死乎？图学不兴，阂塞不知，能制胜乎？船械不能自造，仰息他人，能如志乎？海军不游弋他国，将率不习风波，一旦临敌，能有功乎？如是则练兵如不练。矿务学堂不兴，矿师乏绝，重金延聘西人，尚不可信，能尽利乎？机器不备，化分不精，能无弃材乎？道路不通，从矿地运至海口，其运费视原价或至数倍，能有利乎？如是则开矿如不开。商务学堂不立，罕明贸易之理，能保富乎？工艺不兴，制造不讲，土货销场，寥寥无几，能争利乎？道路梗塞，运费笨重，能广销乎？厘卡满地，抑勒逗留，胥膏削脂，有如虎狼，能劝商乎？领事不报外国商务，国家不护侨寓商民，能自立乎？如是则通商如不通。其稍进者曰，“欲求新政，必兴学校”，可谓知本矣；然师学不讲，教习乏人，能育才乎？科学不改，聪明之士，皆务习帖括，以取富贵，趋舍异路，能俯就乎？官制不改，学成而无所用，投闲置散，如前者出洋学生故事，奇才异能，能自安乎？既欲省府州县皆设学校，然立学诸务，责在有司，今之守令，能奉行尽善乎？如是则兴学如不兴。自余庶政，若铁路，若轮船，若银行，若邮政，若农务，若制造，莫不类是。盖事事皆有相因而至之端，而万事皆同出于一本原之地，不挈其领而握其枢，犹治丝而棼之，故百举而无一效也。今之言变法者，其蔽有二：其一，欲以震古铄今之事，责成于肉食官吏之手；其二，则认为黄种之人，无一可语，委心异族，有终焉之志。夫当急则治标之时，吾固非谓西人之必不当用；虽然，则乌可以久也！中国之行新政也，用西人者，其事多成，不用西人者，其事多败。询其故，则曰西人明达，

华人固陋，西人奉法，华人营私也。吾闻之：日本变法之始，客卿之多，过于中国也；十年以后，按年裁减，至今一切省署，皆日人自任其事，欧洲之人，百不一存矣。今中国之言变法，亦既数十年，而犹然借材异地，乃能图成，其可耻孰甚也！夫以西人而任中国之事，其爱中国与爱其国也孰愈，夫人而知之矣。况吾所用之西人，又未必为彼中之贤者乎！

若夫肉食官吏之不足任事，斯固然矣。虽然，吾固不尽为斯人咎也。帖括陋劣，国家本以此取之，一旦而责以经国之远猷，乌可得也？捐例猥杂，国家本以此市之，一旦而责以奉公之廉耻，乌可得也！一人之身，忽焉而责以治民，忽焉而责以理财，又忽焉而责以治兵，欲其条理明澈，措置悉宜，乌可得也！在在防弊，责任不专，一事必经数人，互相牵制，互相推诿，欲其有成，乌可得也！学校不以此教，察计不认此取，任此者弗赏，弗任者弗罚，欲其振厉黾勉图功，乌可得也！途壅俸薄，长官层累，非奔竞末由得官，非贪污无以谋食，欲其忍饥寒、蠲身家以从事于公义，自非圣者，乌可得也！今夫人之智、愚、贤、不肖，不甚相远也。必谓西人皆智，而华人皆愚；西人皆贤，而华人皆不肖，虽五尺之童，犹知其非。然而西官之能任事也如彼，华官之不能任事也如此。故吾曰：不能尽为斯人咎也，法使然也。立法善者，中人之性可以贤，中人之才可以智；不善者反是：塞其耳目而使之愚，缚其手足而驱之为不肖，故一旦有事，而无一人可为用也。不此之变，而颺颺然效西人之一二事，以云自强，无惑乎言变法数十年，

而利未一见，弊已百出，反为守旧之徒抵其隙而肆其口也。

吾今为一言以蔽之曰：变法之本，在育人才；人才之兴，在开学校；学校之立，在变科举；而一切要其大成，在变官制。

#### 注释：

- ①闲(xiàn)：原意为胸襟宽广，此处意为心安理得。 ②茷(èr)：原为花茂盛貌，此处意为安于现状。 ③土训：周代官名，职责是向君王反映地理情况；诵训：周代官名，职责是反映各方的历史情况。 ④蒙讽、鼓谏：蒙与鼓都是失明的乐官，他们可以通过演唱讽谏君主。 ⑤墁(màn)：墙上的涂饰或地上的铺饰。 ⑥櫨(cuī)：屋椽、桷的统称。 ⑦枵(xiāo)然：空虚。此处指阔大。 ⑧补苴(jù)罅(xià)漏：补缀漏洞。 ⑨鸠工庀(pǐ)材：召集工匠和准备材料。 ⑩大彼得：即俄国彼得大帝。 ⑪流勾：勾，与丐字同。即流氓、乞丐。 ⑫窳(yǔ)苦：原为麻糍。意为器物粗劣。 ⑬餼糈(xǔ)：即粮饷。 ⑭行在：古代封建皇帝所在的地方，初指京城，后专指皇帝行幸所至地方。 ⑮治辟(bì)：指为帝王出行而开路清道、整备车驾一类的活动。 ⑯勾：同勾，此处指“勾决”，即古时执行死刑的司法程序。 ⑰理密亲王：名允弼，康熙第二子，曾立为太子，两立两废。此后，清朝皇帝再不宣布立太子。 ⑱密缄：雍正即位后，密书继位者弘历(乾隆)的名字，缄藏于乾清宫“正大光明”匾额之后，留待自己病危时宣布。 ⑲纶音：皇帝的诏旨。 ⑳斲斲(yín)：争辩貌。 ㉑闕外：郭门之外，后以称军事领导职务。 ㉒凌怙(gù)：压迫和束缚。 ㉓宁(zhù)：古代宫殿的门和屏风之间的地方，帝王上朝时站立于此。 ㉔扆(yǐ)：宫殿上设在门户和窗户之间的屏风。 ㉕毕士麻克：即俾斯麦。



## 四、军事谋略卷

### 引言

雷 庆 孙维义

谈到中国的军事谋略，当然离不开中国古代兵书。军事谋略大都从兵书中反映出来。学习和运用军事谋略，必须对古代兵书有一个全面正确的了解，并且要深入加以研究和探讨。

在中华民族浩如烟海的文化典籍中，中国古代兵书，占有重要的地位，是别具风格、纷呈异彩的瑰宝奇珍。其时代之久远、数量之繁多、内容之丰富、思想之精深，在世界军事科学史上是首屈一指的。

蕴含着丰硕军事谋略成果的中国古代兵书，萌芽于殷商，形成于西周，成熟于春秋战国。而春秋战国和明清是我国兵学研究最热烈、兵学著述最繁多的两个时期。据专家统计，我国现存兵书约有3380余部，23500余卷，如果再加上已经散佚的，恐怕有4千余部，3万卷左右，为当今世界各国之最。不仅如此，在我国古代的经、史、子、集各种典籍之中，乃至在诗词、小说、文集、家训等著作之中，也有相当多军事史料的记载和军事谋略的论述。中国的军事思想和军事资料，确实是一个博大精深的民族思想文化宝库。

中国古代兵书，不仅数量繁多，而且内容丰富，各具特色，从不同角度，以不同方式，全面论述和阐释军事思想和军事谋略。既有全面系统论述战争问题的，如《孙子兵

法》、《吴子兵法》、《尉繚子》等，也有就某些具体军事问题进行专门论述的，如《六韬》、《百战奇法》、《纪效新书》等。有些兵书是身经百战、屡建战功的历代名将，总结作战经验著述而成，如《孙子兵法》、《吴子兵法》、《李卫公问对》等；有些兵书是文人参阅历史经验，加以辑录阐释而成，如《投笔肤谈》、《武编》、《何博士备论》等。兵书的内容，囊括了有关战争和军队的全部理论：战争的性质和基本规律，指导战争的准备和实施的战略战术，国防建设和军队建设，后勤保障和辅助战争行动的各种专门知识，军事天文和军事地理，历代用兵得失的经验教训和历代名将事略，军队法规和军队建制等。有的在理论上加以论述，有的引用战例加以分析，有的记录实战和训练的方式方法加以说明。这些内容经过千百年战争实践的检验，经过历代谋略家的总结与阐发不断得到补充和发展，形成了一整套完善、系统、丰富、精辟的军事理论和军事谋略体系。概括起来讲，中国古代兵书的军事谋略思想，主要有以下几个方面：

第一，关于战争的性质。在中国古代近四千年的历史长河中，不知发生了多少不同性质、不同类型的战争，为了赢得战争的胜利，战争指导者和军事谋略家们努力探索致胜的各种因素。早在春秋战国时期，他们便



从政治上加以考察,朴素地认识到战争是关系国家生死存亡的大事,战争的政治性质是关系战争胜负的首要因素。《孙子兵法》上说:“兵者,国之大事,死生之地,存亡之道,不可不察也。”《尉繚子》认为,“兵者,所以诛暴乱,禁不义也。”还进一步把战争区分为“义兵”与“不义之兵”、“得道之兵”与“失道之兵”。并且,对战争与政治的关系也加以深刻的阐释,明确提出战争从属于政治的观点。《尉繚子》说:“兵者,以武为植,以文为种,武为表,文为里”。就是说,军事较之与政治,是从属的,是现象;政治较之与军事,是主导,是内容。至于战争与经济、战争与人心向背的关系,许多兵书都做了深入讨论。认为国家的根本在于耕战,国富则兵强,兵强则战胜。指出:政治清明,得人心,军事力量就会强大,从而能够取得战争的胜利;政治不清明,不得人心,上下离心离德,军事上就会削弱,从而必然导致战争的失败。

第二,关于战略战术。这是中国古代兵书中内容最丰富、讨论最集中、阐述最深刻的部分,也可以说是历代兵书的精华。它所揭示的许多军事规律和军事谋略,至今仍是战争、战役、战斗指挥上所必须遵守的。古人说:孙子尚智,孙臆尚势。智就是高明的指挥,势就是充分发挥主观能动作用所创造的有利作战态势,这实际上就是军事谋略。中国古代兵书上提出的许多军事谋略言论,已经成为军事格言和军事指导者的座右铭。如“知己知彼,百战不殆”、“攻其无备,出其不意”、“以众击寡”、“兵贵神速”、“有备无患”、“避实就虚”等等,不胜枚举。

对于军事谋略,众多兵书作者各抒己见,各论其道,互相补充,不断深化,阐述得淋漓尽致,丰富多彩。有“尽敌为上”、“殄灭为期”务求全歼的思想;有“兵贵先”、“宁我薄人,无人薄我”先发制人的思想;有“先计后战”、“上兵伐谋,其次伐交,其次伐兵,其下攻城”慎于计谋的思想;有“兵贵胜,不

贵久”速战速决,反对劳师袭远和久拖不决的思想;有“贵制人而不制于人”力争主动的思想;有“先为不可测”用奇示形的思想;有“兵贵其和,和则一心”集中兵力的思想;有“攻其无备,出其不意”、“以正和,以奇胜”出奇制胜的思想;有“因众、因地、因敌令阵”一切从实际出发的思想;有“无时不谨”常备不懈的思想;有“我专敌分”个个击破的思想等等。此外,许多兵书还对作战中相互对立的问题如主客、攻防、进退、虚实、强弱、奇正等进行了精辟的论述和分析。

中国古代兵书所揭示的军事谋略,与现代战争的战略战术,如“知己知彼,因势制敌”、“集中优势兵力,个个击破”、“主动、灵活、准备、迅速、团结、协同、瓦解敌军”等,不仅在基本精神上是一致的,而且在语言表述上也有明显的渊源联系。所不同的是,随着现代科学技术的发展和战争手段的变化,其具体内容已极大地丰富发展了,但其主要的军事谋略思想却是不断地因袭下来的。研究古代军事谋略,无疑具有重大的现实意义。

第三,关于军队建设和部队训练谋略。中国古代兵书治军和训练的谋略思想和主张,经过历代政治家和军事家的继承、总结、丰富和发展,形成了一套完整、系统的原则和方法,至今仍有参考价值。在治军方面,主张常备不懈,如《左传》中说:“居安思危,思则有备,有备无患”,被誉为国家和平时期必须保持战备的格言;主张精兵主义,《吴子兵法》强调“简募良才”,提倡把五种不同特长的人分别编组,训练成为精锐的“练锐”,并认为“有此三千人,内出可以决围,外人可以屠城”,这种精兵主张,历代政治家、军事家无不大力倡导,从而形成兵贵精、不贵多的传统思想;主张治军要纪律严格、赏罚分明,要“教诫为先”,要亲卒爱兵。在部队训练方面,以明代抗倭名将戚继光的《纪效新书》为最典型。戚继光从实践出发,有的放矢,目的明确,把部队训练的原则和

方法阐述得非常全面,非常具体,文字通俗易懂,易于被士兵接受,非常实用。他提出的由步法到伍法,由伍法到阵法的训练原则,极有借鉴价值。许多兵书还提出了步战、骑战、水战、山战、火攻、守御、进退等训练内容。

第四,关于朴素的唯物论和辩证法。许多兵书阐述的军事谋略,比较充分地体现了朴素唯物论观点和辩证思维,形成了独具特色的中国古典军事哲学,在中国哲学史上占有一席之地。许多进步的政治家和军事家都是无神论者,他们反对天命,注重人事。明确指出,要取得战争的胜利,必须依靠“明君贤将”。如《孙臆兵法》中说:“间于天地之间,莫贵于人”。他们还把人的能动作用和战争的客观条件结合起来进行分析,要求战争指导者必须依据敌我双方各种客观条件去探索胜负之情,运筹谋略。如《孙子兵法》强调“不可取于鬼神,不可象于事,不可验于度,必取于人”。要求战争指导者“知己知彼,知天知地”。认为战争双方力量众寡、大小、强弱,在一定条件下是可以互相转化的。还从战争历史经验中总结出一系列军事斗争中矛盾统一的概念,如攻守、进退、虚实、劳逸、利害、奇正、分合等,并作了辩证的论述,从而把军事斗争的各种谋略提高到哲学的高度,这是中国古代兵书的光辉成就之一,在世界军事科学史上是独树一帜的。

此外,中国古代兵书对将帅才能、军事法规、军事地理、兵器器械、后勤储备、历代军制、名将事略等也有比较深刻的阐述。

中国古代兵书所反映出来的军事谋略,为历代政治家和军事家学习研究,并运用于实践,对于培养将帅、统帅军队、指导战争发生过重大作用。军事谋略在社会上广为流传,被人们推崇备至,运用军事谋略而出奇致胜的典型战例和历代名将事略,被人们誉为美谈,可见其影响之大。历代典籍记载的战无不胜、功勋卓著的名将,都“熟读兵书,谙熟兵法”,这是他们之所以成为名将的一

个重要原因。他们在历史上创造了许多以劣胜优、以少胜多、转危为安、转败为胜的光辉战例,深入分析这些战例成功的原因。大都是活用兵法谋略的结果。军事谋略对战争的胜败乃至推动社会历史的发展,产生过不可低估的影响,对现代军事科学的研究也有着一定的指导意义。

中国古代兵书及其军事谋略思想,不仅在我国发生重大影响,而且在世界上也久负盛誉,受到各国军事家的重视和赞赏。有的国家把《孙子兵法》作为军事院校的教科书,作为军人的必修课。《孙子兵法》等兵学经典,被译成日、俄、德、英、法等多种文字版本流传世界。有消息报道说,在海湾战争中,美国要求其指挥官在战场上学习《孙子兵法》,运用《孙子兵法》。有些军界人士,更把“知己知彼,百战不殆”、“攻其无备,出其不意”作为现代指导战争的谋略灵魂。

在这里还必须指出,中国古代军事谋略,既是战争的大谋略,又是人生的大智慧。军事谋略所反映的深刻哲理和深邃思想,绝不仅仅局限于军事和战争,而是涉及到社会生活的方方面面。当今,它已被成功地运用到政治、经济、文化、外交、商战、管理、公关、人际交往等各个领域。人们从古代军事谋略中吸取理论营养,加以提炼和升华,去指导社会生活,颇有收获。有人认为《孙子兵法》是“外交教科书,亦是人事百般座右铭”;企业界则把《孙子兵法》当作管理和竞争的教科书;许多外交家则把“合纵连横”的思想作为国际政治斗争的原则和处理国际关系的方法。可以说中国古代军事谋略,对于指导战争实践,培养将帅人才,训练外交能力,丰富社交活动,提高管理水平,揭示人生真谛,都具有指导作用。

## 《六韬》

题解:

《六韬》又称《太公六韬》,相传为西周时

期的太公吕尚所著，亦有些学者认为是后人假托太公之名而作。现存6卷60篇，近2万字，计有文、武、龙、虎、豹、犬六韬。“文韬”论述在作战之前，如何充实国力和作好战争准备；“武韬”论述对敌作战的策略；“龙韬”论述军事指挥和军事部署；“虎韬”讲在宽阔地带作战应注意的问题；“豹韬”讲在狭隘地带作战应注意的问题；“犬韬”讲步兵、车兵、骑兵在作战中相互配合的问题。

《六韬》的军事谋略大都集中在“武韬”和“龙韬”两卷之中，基本上以对话形式来阐明其谋略观点。如在“武韬”中的“文伐第十五”中深入阐明了运用文攻倾覆敌国的谋略，亦即运用间谍从敌国内部瓦解它的谋略，並提出了文攻的12种方法；还在“三疑第十七”中进一步阐明了“攻强、离亲、散众”的因势利导、谋虑周密、资财贿赂的文伐谋略。又如在“龙韬”的“奇兵第二十七”中深入讨论了“神势”，即神妙计谋所造成的作战态势的运用，提出27种神势及其战术的运用。《六韬》的军事谋略对后世有很大影响，曾被后人列为武学经典。

## 文 韬

### 文师第一

文王将田，史编布卜曰：“田于渭阳，将大得焉，非龙非螭，非虎非黑，兆得公侯。天遗汝师，以之佐昌，施及三王。”文王曰：“兆致是乎？”史编曰：“编之太祖史畴为舜占，得皋陶，兆比于此。”文王乃斋三日，乘田车，驾田马，田于渭阳，卒见太公，坐茅以渔。

文王劳而问之曰：“子乐渔耶？”太公曰：“君子乐得其志，小人乐得其事，今吾渔甚有似也。”文王曰：“何谓其有似也？”太公曰：“钓有三权：禄等以权，死等以权，官等以权。夫钓以求得也，其情深可以观大矣。”

文王曰：“愿闻其情。”太公曰：“源深而水流，水流而鱼生之，情也；根深而木长，木长而实生之，情也；君子情同而亲合，亲

合而事生之，情也。言语应对者，情之饰也；言至情者，事之极也。今臣言至情不讳，君其恶之乎？”文王曰：“惟仁人能受正谏，不恶至情，何为其然？”太公曰：“缗微饵明<sup>①</sup>，小鱼食之；缗稠饵香<sup>②</sup>，中鱼食之；缗隆饵丰<sup>③</sup>，大鱼食之。夫鱼食其饵，乃牵于缗，人食其禄，乃服于君，故以饵取鱼，鱼可杀，以禄取人，人可竭，以家取国，国可拔，以国取天下，天下可毕。

“呜呼！曼曼绵绵<sup>④</sup>，其众必散，嘿嘿昧昧<sup>⑤</sup>，其光必远，微哉圣人之德，诱乎独见<sup>⑥</sup>，乐哉圣人之虑，各归其次，而树敛焉。”文王曰：“树敛若何而天下归之？”太公曰：“天下非一人之天下，乃天下之天下也，同天下之利者则得天下，擅天下之利者则失天下。天有时，地有财，能与人共之者，仁也，仁之所在，天下归之；免人之死，解人之难，救人之患，济人之急者，德也，德之所在，天下归之；与人同忧同乐、同好同恶者，义也，义之所在，天下赴之；凡人恶死而乐生，好德而归利，能生利者，道也，道之所在，天下归之。文王再拜曰：“允哉！敢不受天之诏命乎！”乃载与俱归，立为师。

### 兵道第十二

武王问太公曰：“兵道何如？”太公曰：“凡兵之道，莫过乎一，一者，能独往独来<sup>⑦</sup>。黄帝曰：‘一者，阶于道<sup>⑧</sup>，几于神。’用之在于机，显之在于势，成之在于君，故圣王号兵为凶器，不得已而用之。今商王知存而不知亡，知乐而不知殃。夫存者非存，在于虑亡，乐者非乐，在于虑殃，今王已虑其源，岂忧其流乎？”武王曰：“两军相遇，彼不可来，此不可往，各设固备，未敢先发，我欲袭之，不得其利，为之奈何？”太公曰：“外乱而内整，示饥而实饱，内精而外钝，一合一离，一聚一散，阴其谋，密其机，高其垒，伏其锐，士寂若无声，敌不知我所备，欲其西，袭其东。”武王曰：“敌知我情，通我谋，为之奈何？”太公曰：“兵胜之术，密察敌人之机，而速乘其利，复疾击其不意。”

## 武 韬

### 发启第十三

文王在酈<sup>⑨</sup>，召太公曰：“呜呼！商王虐极，罪杀不辜，公尚助予，忧民如何？”太公曰：“王其修德以下贤，惠民以观天道，天道无殃，不可先倡；人道无灾，不可先谋。必见天殃，又见人灾，乃可以谋；必见其阳，又见其阴，乃知其心；必见其外，又见其内，乃知其意；必见其疏，又见其亲，乃知其情。

“行其道，道可致也；从其门<sup>⑩</sup>，门可入也；立其礼，礼可成也；争其强，强可胜也。

“全胜不斗，大兵无创，与鬼神通，微哉！微哉！

“与人同病相救，同情相成，同恶相助，同好相趋，故无甲兵而胜，无冲机而攻，无沟堑而守。

“大智不智，大谋不谋，大勇不勇，大利不利。利天下者，天下启之<sup>⑪</sup>；害天下者，天下闭之<sup>⑫</sup>。天下者，非一人之天下，乃天下之天下也。取天下者，若逐野兽，而天下皆有分肉之心；若同舟而济，济则皆同其利，败则皆同其害；然则皆有以启之，无有以闭之也。

“无取于民者，取民者也<sup>⑬</sup>。无取于国者，取国者也；无取于天下者，取天下者也。无取民者，民利之；无取国者，国利之；无取天下者，天下利之。故道在不可见，事在不可闻，胜在不可知，微哉！微哉！

“鸷鸟将击，卑飞敛翼；猛兽将搏，弭耳俯伏；圣人将动，必有愚色。

“今彼有商，众口相惑，纷纷渺渺<sup>⑭</sup>，好色无极，此亡国之征也。吾观其野，草菅胜谷；吾观其众，邪曲胜直，吾观其吏，暴虐残贼，败法乱刑，上下不觉，此亡国之时也。

“大明发而万物皆照；大义发而万物皆利；大兵发而万物皆服。大哉圣人之德，独

闻独见，乐哉！”

### 文伐第十五

文王问太公曰：“文伐之法奈何？”太公曰：“凡文伐有十二节：

一曰，因其所喜，以顺其志，彼将生骄，必有奸事，苟能因之，必能去之。

“二曰，亲其所爱，以分其威。一人两心，其中必衰，廷无忠臣，社稷必危。

“三曰，阴赂左右，得情甚深，身内情外，国将生害。

“四曰，辅其淫乐，以广其志，厚赂珠玉，娱以美人，卑辞委听，顺命而合，彼将不争，奸节乃定<sup>⑮</sup>。

“五曰，严其忠臣，而薄其赂，稽留其使，勿听其事。亟为置代<sup>⑯</sup>，遗以诚事，亲而信之，其君将复合之，苟能严之，国乃可谋。

“六曰，收其内，间其外。才臣外相，敌国内侵，国鲜不亡。

“七曰，欲锢其心<sup>⑰</sup>，必厚赂之。收其左右忠爱，阴示以利，令之轻业而蓄积空虚。

“八曰，赂以重宝，因与之谋，谋而利之，利之必信，是谓重亲；重亲之积，必为我用，有国而外，其地必败。

“九曰，尊之以名，无难其身；示以大势，从之必信，致其大尊；先为之荣，微饰圣人，国乃大偷<sup>⑱</sup>。

“十曰，下之必信，以得其情，承意应事，如与同生，既以得之，乃微收之，时及将至，若天丧之。

“十一曰，塞之以道。人臣无不重贵与富，恶危与咎，阴示大尊，而微输重宝，收其豪杰；内积甚厚，而外为乏；阴内智士，使图其计；内勇士使高其气，富贵甚足，而常有繁滋。徒党已具，是谓塞之，有国而塞，安能有国？

“十二曰，养其乱臣以迷之，进美女淫声以惑之，遗良犬马以劳之，时与大势以诱之，上察而与天下图之。

“十二节备，乃成武事，所谓上察天，下察地，征已见，乃伐之。”

### 三疑第十七

武王问太公曰：“予欲立功，有三疑，恐力不能攻强、离亲、散众，为之奈何？”太公曰：“因之慎谋用财，夫攻强必养之使强，益之使张，太强必折，太张必缺，攻强以强，离亲以亲，散众以众。”

“凡谋之道，周密为宝，设之以事<sup>①</sup>，玩之以利，争心必起。”

“欲离其亲，因其所爱，与其宠人，与之所欲，示之所利，因以疏之，无使得志，彼贪利甚喜；遗疑乃止。”

“凡攻之道，必先塞其明，而后攻其强，毁其大<sup>②</sup>，除民之害。淫之以色，陷之以利<sup>③</sup>，养之以味，娱之以乐。”

“既离其亲，必使远民，勿使知谋，扶而纳之，莫觉其意，然后可成。”

“惠施于民，必无爱财，民如牛马，数喂食之，从而爱之。”

“心以启智，智以启财，财以启众，众以启贤，贤之有启，以王天下。”

## 龙 韬

### 论将第十九

武王问太公曰：“论将之道奈何？”太公曰：“将有五材十过。”武王曰：“敢问其目？”太公曰：“所谓五材者，勇、智、仁、信、忠也。勇则不可犯，智则不可乱，仁则爱人，信则不欺，忠则无二心。”

“所谓十过者：有勇而轻死者，有急而心速者，有贪而好利者，有仁而不忍人者，有信而喜信人者，有廉洁而不爱人者，有智而心缓者，有刚毅而自用者，有懦而喜任人者。”

“勇而轻死者可暴也，急而心速者可久也，贪而好利者可遗（赂）也，仁而不忍人者可劳也，智而心怯者可窘也<sup>④</sup>，信而喜信人者可诳也，廉洁而不爱人者可侮也，智而心缓者可袭也，刚毅而自用者可事也，懦而喜任人者可欺也。”

“故兵者，国之大事，存亡之道，命在于将。将者，国之辅，先王之所重也。故置将不可不察也。故曰：兵不两胜，亦不两败。兵出逾境，期不十日，不有亡国，必有破军杀将。”武王曰：“善哉。”

### 选将第二十

武王问太公曰：“王者举兵欲简练英权<sup>⑤</sup>，知士之高下，为之奈何？”

太公曰：“夫士外貌不与中情相应者十五：有贤而不肖者，有温良而为盗者，有貌恭敬而心慢者，有外廉谨而内无至诚（恭敬）者，有精精而无情者<sup>⑥</sup>，有湛湛而无诚者<sup>⑦</sup>，有好谋而无决者，有果敢而不能者，有恹恹而不信者<sup>⑧</sup>，有恍恍惚惚而反忠实者，有诡激而有功效者<sup>⑨</sup>，有外勇而内怯者，有肃肃而反易人者<sup>⑩</sup>，有嚆嚆而反静恇者<sup>⑪</sup>，有势虚形劣而外出无所不至、无所不遂者。天下所贱，圣人所贵，凡人莫知，非有大明，不见其际，此士之外貌不与情相应者也。”

武王曰：“何以知之？”太公曰：“知之有八征：一曰问之，以言以观其详；二曰穷之以辞，以观其变；三曰与之间谍，以观其诚；四曰明白显问，以观其德；五曰使之以财，以观其廉；六曰试之以色，以观其贞；七曰告之以难，以观其勇；八曰醉之以酒，以观其态。八征皆备，则贤不肖别矣。”

### 将威第二十二

武王问太公曰：“将何以为威？何以为明？何以为禁止而令行？”

太公曰：“将以诛大为威，以赏小为明，以罚审为禁止而令行。故杀一人而三军震者，杀之；赏一人而万人说者，赏之。杀贵大，赏贵小。杀及当路贵重之臣，是刑上极也；赏及牛豎、马洗、厮养之徒，是赏下通也。刑上极，赏下通，是将威之所行也。”

### 励军第二十三

武王问太公曰：“吾欲令三军之众，攻城争先登，野战争先赴，闻金声而怒，闻鼓声而喜，为之奈何？”

太公曰：“将有三胜。”武王曰：“敢问其

目。”太公曰：“将冬不服裘，夏不操扇，雨不张盖，名曰礼将；将不身服礼，无以知士卒之寒暑。出隘塞，犯泥涂，将必先下步，名曰力将。将不身服力，无以知士卒之劳苦。军皆定次，将乃就舍，炊者皆熟，将乃就食，军不举火，将亦不举，名曰止欲将。将不身服止欲，无以知士卒之饥饱。将与士卒共寒暑、劳苦、饥饱，故三军之众，闻鼓声则喜，闻金声则怒。高城深池，矢石繁下，士争先登；白刃始合，士争先赴。士非好死而乐伤也，为其将知寒暑、饥饱之审，而见劳苦之明也。”

#### 军势第二十六

武王问太公曰：“攻伐之道奈何？”太公曰：“势因敌家之动，变生于两阵之间，奇正发于无穷之源。故至事不语，用兵不言。且事之至者，其言不足听也；兵之用者，其状不定见也。倏而往，忽而来，能独专而不制者，兵也。”

“夫兵闻则议，见则图，知则困，辨则危。故善战者，不待张军；善除患者，理于未生；善胜敌者，胜于无形；上战无与战。故争胜于白刃之前者，非良将也；设备于已失之后者，非上圣也；智与众同，非国师也；技与众同，非国工也。事莫大于必克，用莫大于玄默，动莫神于不意，谋莫善于不识。夫先胜者，先见弱于敌，而后战者也，故事半而功倍焉。”

“圣人征于天地之动，孰知其纪。循阴阳之道而从其候；当天地盈缩因以为常；物有死生，因天地之形。故曰：未见形而战，虽众必败。善战者，居之不挠，见胜则起，不胜则止。故曰：‘无恐惧，无犹豫。用兵之害，犹豫最大；三军之灾，莫过狐疑。善战者，见利不失，遇时不疑，失利后时，反受其殃。故智者从之而不释，巧者一决而不犹豫，是以疾雷不及掩耳，闪电不及瞑目，赴之若惊，用之若狂，当之者破，近之者亡，孰能御之？’

“夫将有所不言而守者，神也；有所不

见而视者，明也。故知神明之道者，野无衡敌，对无立国。”武王曰：“善哉！”

#### 奇兵第二十七

武王问太公曰：“凡用兵之法，大要何如？”太公曰：“古之善战者，非能战于天上，非能战于地下，其成与败，皆由神势，得之者昌，失之者亡。”

“夫两阵之间，出甲陈兵，纵卒乱行者，所以为变也；深草蓊翳者，所以循逃也；溪谷险阻者，所以止车御骑也；隘塞山林者，所以少击众也；坳泽窈冥者<sup>①</sup>，所以匿其形也；清明无隐者，所以战勇力也；疾如流矢，击如发机者，所以破精微也；诡伏设奇，远张诳诱者，所以破军擒将也；四分五裂者，所以击圆破方也；因其惊骇者，所以一击十也；因其劳倦幕舍也，所以十击百也；

“奇技者，所以越深水渡江河也；强弩长兵者，所以逾水战也；长关远候，暴疾谬遁者<sup>②</sup>，所以降城服邑也；鼓行喧嚣者，所以行奇谋也；大风甚雨者，所以搏前擒后也；伪称敌使者，所以绝粮道也；谬号令与敌同服者，所以备走北也；战必以义者，所以励众胜敌也；尊爵重赏者，所以劝用命也；严刑重罚者，所以进罢怠也；一喜一怒，一与一夺，一文一武，一徐一疾者，所以调和三军、制一臣下也；处高敞者，所以警守也；保险阻者，所以为固也；山林茂秽者，所以默往来也；深沟高垒，积粮多者，所以持久也。”

“故曰：不知战攻之策，不可以语敌<sup>③</sup>；不能分移<sup>④</sup>，不可以语奇；不通治乱，不可以语变。”

“故曰：将不仁，则三军不亲；将不勇，则三军不锐；将不智，则三军大疑；将不明，则三军大倾；将不精微，则三军失其机；将不常戒，则三军失其备；将不强力，则三军失其职。故将者，人之司命，三军与之俱治，与之俱乱。得贤将者，兵强国昌；不得贤将者，兵弱国亡。”武王曰：“善哉！”

## 虎 韬

### 疾战第三十三

武王问太公曰：“敌人围我，断我前后，绝我粮道，为之奈何？”

太公曰：“此天下之困兵也。暴用之则胜，徐用之则败。如此者，为四武冲陈，以武车骁骑<sup>②</sup>，惊乱其军，而疾击之，可以横行。”

武王曰：“若已出围地，欲因以为胜，为之奈何？”太公曰：“左军疾左，右军疾右，无与敌人争道。中军迭前迭后，敌人虽众，其将可走。”

### 动静第三十七

武王问太公曰：“引兵深入诸侯之地，与敌之军相当，两陈相望，众寡强弱相等，未敢先举，吾欲令敌人将帅恐惧，士卒心伤，行陈不固，后陈欲走，前陈数顾，鼓噪而乘之，敌人遂走，为之奈何？”

太公曰：“如此者，发我兵去寇十里而伏其两旁，车骑百里而越其前后，多其旌旗，益其金鼓。战合，鼓噪而俱起，敌将必恐，其军惊骇，众寡不相救，贵贱不相待，敌人必败。”

武王曰：“敌之地势，不可以伏其两傍，车骑又无以越其前后，敌知我虑，先施其备，我士卒心伤，将帅恐惧，战则不胜，为之奈何？”

太公曰：“微哉，王之间也！如此者，先战五日，发我远候，往视其动静，审候其来，设伏而待之，必于死地，与敌相避。远我旌旗，疏我行陈，必奔其前，与敌相当。战合而走，击金无止，三里而还，伏兵乃起，或陷其两旁，或击其前后，三军疾战，敌人必走。”武王曰：“善哉！”

## 豹 韬

### 敌强第四十五

武王问太公曰：“引兵深入诸侯之地，与敌人冲军相当，敌众我寡，敌强我弱，敌人夜来，或攻吾左，或攻吾右，三军震动，吾欲以战则胜，以守则固，为之奈何？”

太公曰：“如此者，谓之震寇。利以出战，不可以守。选吾材士强弩，车骑为之左右，疾击其前，急攻其后，或击其表，或击其里，其卒必乱，其将必骇。”

武王曰：“敌人远遮我前，急攻我后，断我锐兵，绝我材士，吾内外不得相闻，三军扰乱，皆败而走，士卒无斗志，将吏无守心，为之奈何？”

太公曰：“明哉，王之间也！当明号审令，出我勇锐冒将之士，人操炬火，二人同鼓，必知敌人所在，或击其表里，微号相知，令之灭火，鼓音皆止，中外相应，期约皆当，三军疾战，敌必败云。”武王曰：“善哉！”

### 敌武第四十六

武王问太公曰：“引兵深入诸侯之地，卒遇敌人，甚众且武，武车骁骑，绕我左右，吾三军皆震，走不可止，为之奈何？”

太公曰：“如此者，谓之‘败兵’。善者以胜，不善者以亡。”

武王曰：“为之奈何？”太公曰：“伏我材士强弩，武车骁骑，为之左右，常去前后三里，敌人逐我，发我车骑，冲其左右，如此，则敌人扰乱，吾走者自止。”

武王曰：“敌人与我，车骑相当，敌众我少，敌强我弱，其来整治精锐，吾陈不敢当，为之奈何？”

太公曰：“先我材士强弩，伏于左右，车骑坚阵而处，敌人过我伏兵，积弩射其左右，车骑锐兵，疾击其军，或击其前，或击其后，敌人虽众，其将必走。”武王曰：“善哉！”

## 犬 韬

### 武锋第五十二

武王问太公曰：“凡用兵之要，必有武车骁骑，驰陈选锋，见可则击之。如何则可击？”

四变，：“夫欲击者，当审察敌人十四变，变见则击之，敌人必败。”“武王曰：“十四变可得闻乎？”

太公曰：“敌人新集可击，人马未食可击，天时不顺可击，地形未得可击，奔走可击，不戒可击，疲劳可击，将离士卒可击，涉长路可击，济水可击，不暇可击，阻难狭路可击，乱行可击，心怖可击。”

注释：

①缗(mín)：钓丝；微：细小。②纲：适中。③隆：粗。④曼曼绵绵：形容草木的枝叶延布广远，这里用来比喻和暗指商王朝。⑤嘿嘿：同默默，不声不响；昧昧：昏暗不明。此句意为暗中准备。隐指商王朝。⑥诱乎独见：诱：诱导；乎：于。意思是，用独特见解将人心诱导使归于周。⑦独往独来：意谓自由行事。⑧阶：基，由来之道。以此为基，逐步掌握规律。⑨鄆：地名，今西安市西南。鄆(fèng)。⑩门：门径。⑪启：开，欢迎。⑫闭：关闭，拒。⑬取：前一个“取”意为掠夺，后一个“取”意为获得。⑭纷纷渺渺：混乱貌。⑮奸节：奸与忠。定：判定。⑯亟为置代：指极力促使对方改派使节代替。⑰纲：禁，控制。⑱偷：懈怠，荒废。⑲设：指约许，用事物(贿赂物)收买。⑳大：指其国家机器。㉑啗(dàn)：引诱。㉒窘：胁迫，窘迫。㉓简练：简选、选拔。㉔精精：精细之极貌。无情：没有内在的才情。㉕湛湛：深朴浑厚。㉖恻恻：诚恳，老实。㉗诡激：诡诈善辩。㉘肃肃：严正。㉙囁囁(xiào)：严厉。静恣(què)：冷静，诚实。㉚坳泽窈冥：低湿幽暗。㉛暴疾谲遁：行动迅捷，进退诡诈。㉜语敌：谈论对敌作战。㉝分移：机动使用兵力。㉞骁(xiāo)：勇猛矫健。

## 《左 传》

题解：

《左传》又称《春秋左氏传》、《左氏春秋》，是我国编年体史书的名著，儒家经典之一，为春秋时代鲁国太史左丘明著。

春秋时代在我国历史上是战争极为频繁和激烈的时代。作为史书，《左传》当然要记述战争的过程和场面。在许多记述战争的篇章当中，反映出比较丰富的军事谋略。诸如：强调军队的团结协作、上下一心在战斗中的重要作用，使用精锐部队突袭消极待援而无斗志的敌军，临敌当机立断、重视战机，注重战场情况实地调查，在敌强我弱的情况下，采取后发制人的战术等。

## 斗廉论战

楚屈瑕将盟贰、轸。郢人军于蒲骚，将与随、绞、州、蓼伐楚师。莫敖患之。

斗廉曰：“郢人军其郊，必不诫<sup>①</sup>，且日虞四邑之至也<sup>②</sup>。君次于郊郢以御四邑<sup>③</sup>。我以锐师宵加于郢，郢有虞心而恃其城，莫有斗志。若败郢师，四邑必离。”莫敖曰：“盍请济师于王？”<sup>④</sup>对曰：“师克在和，不在众。商，周之不敌，君之所闻也。成军以出，又何济焉？”莫敖曰：“卜之。”对曰：“卜以决疑，不疑何卜？”

遂败郢师于蒲骚，率盟而还。

## 曹刿论战

十年春，齐师伐我。公将战。曹刿请见。其乡人曰：“肉食者谋之，又何间焉？”<sup>①</sup>刿曰：“肉食者鄙，未能远谋。”乃入见。

问何以战。公曰：“衣食所安，弗敢专也，必以分人。”<sup>②</sup>对曰：“小惠未遍，民弗从也。”公曰：“牺牲玉帛，弗敢加也，必以信。”<sup>③</sup>对曰：“小信未孚，神弗福也。”<sup>④</sup>公曰：“小大之狱，虽不能察，必以情。”<sup>⑤</sup>对曰：“忠之属也，可以一战，战则请从。”

公与之乘，战于长勺。公将鼓之。刿曰：“未可。”齐人三鼓，刿曰：“可矣。”齐师败绩。公将驰之，刿曰：“未可。”下视其辙，登轼而望之，曰：“可矣。”遂逐齐师。

既克，公问其故。对曰：“夫战，勇气也。



盈，故气，再而衰，三而竭。彼竭我盈，故克之。夫大国，难测也，惧有伏焉。吾视其辙乱，望其旗靡，故逐之。”

### 臧文仲论慎战

邾人以须句故出师。公卑邾，不设备而御之。臧文仲曰：“国无小，不可易也。无备，虽众不可恃也。《诗》曰：‘战战兢兢，如临深渊，如履薄冰。’又曰：‘敬之敬之，天惟显思’，命不易哉！”先王之明德，犹无不难也，无不惧也，况我小国乎！君其无谓邾小。蜂虿有毒，而况国乎？”弗听。

八月丁未，公及邾师战于升陞。我师败绩。邾人获公胄，悬诸鱼门。

### 子鱼论战

冬十一月己巳朔，宋公及楚人战于泓。宋人既成列，楚人未既济。司马曰：“彼众我寡，及其未既济也<sup>①</sup>，请击之。”公曰：“不可。”既济而未成列，又以告。公曰：“未可。”既陈而后击之，宋师败绩。公伤股，门官歼焉。

国人皆咎公。公曰：“君子不重伤，不禽二毛<sup>②</sup>。古之为军也<sup>③</sup>，不以阻隘也。寡人虽亡国之余，不鼓不成列。”<sup>④</sup>

子鱼曰：“君未知战。勍敌之人<sup>⑤</sup>，隘而不列，天赞我也；阻而鼓之，不亦可乎？犹有惧焉。且今之勍者，皆吾敌也。虽及胡耆<sup>⑥</sup>，获则取之，何有于二毛？明耻、教战，求杀敌也。伤未及死，如何勿重？若爱重伤，则如勿伤；爱其二毛，则如服焉<sup>⑦</sup>。三军以利用也，金鼓以声气也。利而用之，阻隘可也；声盛致志<sup>⑧</sup>，鼓儆可也。”<sup>⑨</sup>

### 申叔时郤至论战

楚子救郑，司马将中军，令尹将左，右尹子辛将右。过申，子反入见申叔时，曰：“师

其何如？”

对曰：“德、刑、详、义、礼、信，战之器也<sup>⑩</sup>。德以施惠，刑以正邪，详以事神，义以建利，礼以顺时，信以守物。民生厚而德正，用利而事节<sup>⑪</sup>，时顺而物成。上下和睦，周旋不逆，求无不具，各知其极。……是以神降之福，时无灾害，民生敦庞，和同以听，莫不尽力以从上命，致死以补其阙<sup>⑫</sup>。此战之所由克也。今楚内弃其民，而外绝其好，渎齐盟，而食话言，奸时以动，而疲民以逞。民不知信，进退罪也。人恤所底，其谁致死？子其勉之！吾不复见子矣。”姚句耳先归，子驷问焉。对曰：“其行速，过险而不整。速则失志<sup>⑬</sup>，不整丧列。志失列丧，将何以战？楚惧不可用也。”

### 子罕论弭兵

宋向戌善于赵文子，又善于令尹子木。欲弭诸侯之兵以为名。如晋，告赵孟。赵孟谋于诸大夫。韩宣子曰：“兵，民之残也，财用之蠹，小国之大菑也<sup>⑭</sup>。将或弭之，虽曰不可，必将许之。弗许，楚将许之，以召诸侯，则我失为盟主矣。”晋人许之。如楚，楚亦许之。如齐，齐人难之。陈文子曰：“晋楚许之，我焉得已？且人曰弭兵，而我弗许，则固携吾民矣<sup>⑮</sup>！将焉用之？”齐人许之。告于秦，秦亦许之。皆告于小国，为会于宋。……

宋左师请赏。曰：“请免死之邑。”公与之邑六十。以示子罕，子罕曰：“凡诸侯小国，晋、楚所以兵威之。畏而后上下慈和，慈和而后能安靖其国家，以事大国，所以存也。无威则骄，骄则乱生，乱生必灭，所以亡也。天生五材，民并用之，废一不可，谁能去兵？兵之设久矣，所以威不轨而昭文德也<sup>⑯</sup>。圣人以兴，乱人以废，废兴存亡昏明之术，皆兵之由也。而子求去之，不亦诬乎？以诬道蔽诸侯，罪莫大焉。纵无大讨，而又求赏，无厌之甚也！”削而投之<sup>⑰</sup>。左师辞邑。

## 荀吴论攻鼓

晋荀吴帅师伐鲜虞，围鼓。鼓人或请以城叛。穆子弗许。左右徒曰：“师徒不勤，而可以获城，何故不为？”穆子曰：“吾闻诸叔向曰：‘好恶不愆<sup>①</sup>，民知所适，事无不济。’或以吾城叛，吾所甚恶也。人以城来，吾独何好焉。赏所甚恶，若所好何？若其弗赏，是失信也，何以庇民？力能则进，否则退，量力而行。吾不可以欲城而迹奸<sup>②</sup>，所丧滋多。”使鼓人杀叛人而缮守备。围鼓三月，鼓人或请降。使其民见，曰：“犹有食色，姑修而城。”军吏曰：“获城而弗取，勤民而顿兵，何以事君？”穆子曰：“吾以事君也。获一邑而教民怠<sup>③</sup>，将焉用邑？邑以贾怠，不如完旧<sup>④</sup>。贾怠无卒，弃旧不祥。鼓人能事其君，吾亦能事吾君。率义不爽<sup>⑤</sup>，好恶不愆，城可获而民知义所，有死命而无二心，不亦可乎！”

鼓人告食竭力尽，而后取之。克鼓而反，不戮一人，以鼓子鸢鞞归。

## 伍员论伐越

吴王夫差败越于夫椒，报槁李也。遂入越。越子以甲楯五千保于会稽，使大夫种因吴大宰嚭以行成。吴子将许之。伍员曰：“不可。臣闻树德莫如滋<sup>①</sup>，去疾莫如尽。……勾践能亲而务施，施不失人，亲不弃劳；与我同壤而世为仇讎。于是乎克而弗取，将又存之，违天而长寇讎，后虽悔之，不可食已；姬之衰也，日可俟也。介在蛮夷而长寇讎，以是求伯<sup>②</sup>，必不行矣。”弗听。退而告人曰：“越十年生聚而十年教训，二十年之外，吴其为沼乎！”……

### 注释

①诫：警戒。 ②虞：望，盼望。 ③次：停留 ④济：益，增加。 ⑤间：参与 ⑥安：享受。 ⑦信：信诚，说真话。 ⑧孚：遍及。

⑨情：忠诚。 ⑩显：显明；明察。思：按。 ⑪既：尽，全部。济：渡。 ⑫禽：通“擒”。 ⑬为军：治军、交兵。 ⑭鼓：攻击 ⑮勍(qíng)敌之人：劲敌，强有力的敌人。 ⑯胡耆(gōu)：年纪很大的人。 ⑰如：应当 ⑱致志：使斗志高昂。 ⑲儻(chàn)：不整齐。 ⑳详：通“祥”，用心精诚。 ㉑用：作为，举动。事节：事倍功半。 ㉒阙：通“缺”，缺失。 ㉓矢志：思考不周密。 ㉔菑：同“灾”。 ㉕携：携贰，不亲附，有离心。 ㉖不轨：不守法度，越出常轨。 ㉗厌：满足。 ㉘愆：(qiān)：过，不适当。 ㉙迹：近。 ㉚教民怠：因轻易得到好处，会使人民怠惰。 ㉛完旧：保持原来的。 ㉜率：终，结果。爽：差错。 ㉝滋：增多。 ㉞伯：通“霸”，霸主或霸业。

## 《国语》

### 题解：

《国语》是我国最早的国别体史书，21卷，分国纪事，纪言为主，传为春秋时左丘明著。《国语》作为史书，也有一些涉及军事谋略的论述，诸如重视人民在战争中的作用，强调政治好坏对军事胜败的重大意义，认为亲附人民和修明政治是取得战争胜利的基础；提出“后则用阴，先则用阳，近则用柔，远则用刚”的灵活运用阴阳柔刚的原则，提出“后无阴蔽，先无阳察”的防止片面性的观点，主张“尽其阳节，盈吾阴节而夺之”的以柔弱胜刚强的制胜之道等。

## 王孙满观秦师

二十四年，秦师将袭郑，过周北门。左右皆免胄而下拜，超乘者三百乘<sup>①</sup>。王孙满观之，言于王曰：“秦师必有谪。”王曰：“何故？”对曰：“师轻而骄，轻则寡谋，骄则无礼。无礼则脱<sup>②</sup>，寡谋自陷。入险而脱，能无败乎？秦师无谪，是道废也。”

是行也，秦师还，晋人败诸崤，获其三帅丙、术、视。

## 单襄公论郤至

晋既克楚于鄢，使郤至告庆于周。未将事<sup>③</sup>，王叔简公饮之酒，交酬好货皆厚，饮酒宴语相说也<sup>④</sup>。

明日，王叔子誉诸朝。郤至见邵桓公，与之语。邵公以告单襄公曰：“王叔子誉温季，以为必相晋国，相晋国，必大得诸侯。劝二三子必先导焉，可以树<sup>⑤</sup>。今夫子见我，以晋国之克也，为已实谋之，曰：‘微我，晋不战矣！楚有五败，晋不知乘，我则强之。背宋之盟，一也；德薄而以地赂诸侯，二也；弃壮之良而用幼弱，三也；建立卿士而不用其言，四也；夷、郑从之，三陈而不整，五也。罪不由晋，晋得其民；四军之帅，旅力方刚<sup>⑥</sup>；卒伍治整，诸侯与之<sup>⑦</sup>。是有五胜也；有辞，一也；得民，二也；军帅强御<sup>⑧</sup>，三也；行列治整，四也；诸侯辑睦，五也。有一胜犹足用也，有五胜以伐五败，而避之者，非人也；不可以不战。栾、范不欲，我则强之。战而胜，是吾力也。且夫战也微谋<sup>⑨</sup>。吾有三伐<sup>⑩</sup>：勇而有礼，反之以仁。吾三逐楚军之卒，勇也；见其君必下而趋，礼也；能获郑伯而赦之，仁也。若是而知晋国之政，楚、越必朝。’

“吾曰：‘子则贤矣。抑晋国之举也，不失其次，吾惧政之未及子也。’谓我曰：‘夫何次之有？昔先大夫荀伯自下军之佐以政，赵宣子未有军行而以政，今栾伯自下军往。是三子也，吾又过于四之无不及。若佐新军而升为政，不亦可乎？将必求之。’是其言也，君以为奚若？”

襄公曰：“人有言曰：‘兵在其颈。’其郤至之谓乎！君子不自称也，非以让也，恶其盖人也<sup>⑪</sup>。……晋之克也，天有恶于楚也，故敝之以晋<sup>⑫</sup>。而郤至佻天之功以为己力<sup>⑬</sup>，不亦难乎？佻天不祥，乘人不义。不祥则天弃之，不义则民叛之。且郤至何三伐之有？夫仁、礼、勇，皆民之为也。以义死

用谓之勇，奉义顺则谓之礼，畜义丰功谓之仁<sup>⑭</sup>。奸仁为佻，奸礼为羞，奸勇为贼。夫战，尽敌为上；守，和同顺义为上<sup>⑮</sup>。故制戎以果毅，制朝以序成。叛战而擅舍郑君，贼也；弃毅行容，羞也；叛国即讎<sup>⑯</sup>，佻也。有三奸以求替其上，远于得政矣。以吾观之，兵在其颈，不可久也。……”

## 范文子论战

鄢之役，晋伐郑，荆救之。大夫欲战，范文子不欲，曰：“吾闻之，君人者刑其民，成而后振武于外，是以内和而外威。今吾司寇之刀锯日弊，而斧钺不行。内犹有不刑，而况外乎？夫战，刑也，刑之过也。过由大，而怨由细，故以惠诛怨，以忍去过。细无怨而大不过，而后可以武，刑外之不服者。今吾刑外乎大人，而忍于小民，将谁行武？武不行而胜，幸也。幸以为政，必有内忧。且唯圣人能无外患，又无内忧；诎非圣人<sup>⑰</sup>，必偏而后可以<sup>⑱</sup>。偏而在外，犹可救也；疾自中起，是难。盍姑释荆与郑以为外患乎。”

## 申包胥论战

楚申包胥使于越。越王勾践问焉，曰：“吴国为不道，求残我社稷宗庙，以为平原，弗使血食<sup>⑲</sup>。吾欲与之徼天之衷<sup>⑳</sup>，唯是车马、兵甲、卒伍既具，无以行之。请问战奚以而可？”<sup>㉑</sup>包胥辞曰：“不知。”王固问焉，乃对曰：“夫吴，良国也，能博取于诸侯。敢问君王之所以与之战者？”

王曰：“在孤之侧者，觞酒、豆肉、箪食，未尝敢不分也。饮食不致味<sup>㉒</sup>，听乐不尽声，求以报吴。愿以此战。”包胥曰：“善则善矣，未可以战也。”王曰：“越国之中，疾者吾问之，死者吾葬之，老其老，慈其幼，长其孤，问其病，求以报吴。愿以此战。”包胥曰：“善则善矣，未可以战也。”王曰：“越国之中，吾宽民以子之<sup>㉓</sup>，忠惠以善之。吾修令宽刑，

施民所欲，去民所恶，称其善，掩其恶，求以报吴。愿以此战。”包胥曰：“善则善矣，未可以战也。”王曰：“越国之中，富者吾安之，贫者吾与之，救其不足，裁其有余，使贫富皆利之，求以报吴。愿以此战。”包胥曰：“善则善矣，未可以战也。”王曰：“越国南则楚，西则晋，北则齐，春秋皮币、玉帛、子女以宾服焉，未尝敢绝，求以报吴。愿以此战。”

包胥曰：“善则善矣，蔑以加矣<sup>②</sup>，然犹未可以战也。夫战，智为始，仁次之，勇次之。不智，则不知民之极<sup>③</sup>，无以铨度天下之众寡<sup>④</sup>；不仁，则不能与三军共饥劳之殃；不勇，则不能断疑以发大计<sup>⑤</sup>。”越王曰：“诺。”

## 越王勾践与五大夫论战

越王勾践乃召五大夫，曰：“……吾问于王孙包胥，既命孤矣<sup>⑥</sup>，敢访诸大夫，问战奚以而可，勾践愿诸大夫言之，皆以情告<sup>⑦</sup>，无阿孤<sup>⑧</sup>，孤将以举大事。”

大夫后庸乃进对曰：“审赏则可以战乎？”<sup>⑨</sup>王曰：“圣。”大夫苦成进对曰：“审罚则可以战乎？”王曰：“猛。”大夫种进对曰：“审物则可以战乎？”<sup>⑩</sup>王曰：“辩。”<sup>⑪</sup>大夫蠡进对曰：“审备则可以战乎？”王曰：“巧。”大夫皋如进对曰：“审声则可以战乎？”王曰：“可矣。”

## 范蠡论用兵

越王勾践即位三年而欲伐吴。范蠡进谏曰：“夫国家之事，有持盈，有定倾，有节事。”王曰：“为三者，奈何？”对曰：“持盈者与天<sup>⑫</sup>，定倾者与人<sup>⑬</sup>，节事者与地。王不问，蠡不敢言。天道盈而不溢，盛而不骄，劳而不矜其功。夫圣人随时以行，是谓守时。天时不作，弗为人客<sup>⑭</sup>；人事不起，弗为之始。今君王未盈而溢，未盛而骄，不劳而矜其功；

为之不作而先为人客，人事不起而创为之始。此逆于天而不和于人。王若行之，将妨于国家，靡王躬身<sup>⑮</sup>。”王弗听。

范蠡进谏曰：“夫勇者，逆德也；兵者，凶器也；争者，事之末也。阴谋逆德<sup>⑯</sup>，好用凶器，始于人者，人之所卒也；淫佚之事<sup>⑰</sup>，上帝之禁也，先行此者，不利。”王曰：“无是贰言也，吾已断之矣！”果兴师而伐吴，战于五湖，不胜，栖于会稽。……

范蠡曰：“臣闻古之善用兵者，赢缩以为常<sup>⑱</sup>，四时以为纪，无过天极<sup>⑲</sup>，究数而止。天道皇皇，日月以为常。明者以为法<sup>⑳</sup>，微者则是行。阳至而阴，阴至而阳；日困而还<sup>㉑</sup>，月盈而匡。古之善用兵者，因天之常，与之俱行。后则用阴，先则用阳；近则用柔，远则用刚。后无阴蔽，先无阳察，用人无艺<sup>㉒</sup>。往从其所，刚强以御；阳节不尽，不死其野。彼来从我，固守勿与<sup>㉓</sup>。若将与之，必因天地之灾，又观其民之饥饱劳逸以参之。尽其阳节，盈吾阴节而夺之。宜为人客，刚强而力疾；阳节不尽，轻而不可取。宜为人主，安徐而重固；阴节不尽，柔而不可迫。凡陈之道<sup>㉔</sup>，设右以为牝<sup>㉕</sup>，益左以为牡，蚤晏无失。必顺天道，周旋无穷。今其来也，刚强而力疾，王姑待之。”

### 注释：

- ①超：跳跃乘车。 ②脱：简脱，疏略。  
③将：行。 ④说：通“悦”。 ⑤树：培植。  
⑥旅力：体力，能力。 ⑦与：亲附。 ⑧强御：强大有力。 ⑨微谋：语意未明。 ⑩伐：功。  
⑪盖：掩盖，遮蔽。 ⑫敝(jǐng)：警戒。  
⑬佻：窃取。 ⑭畜义：即“积义”。 ⑮和同顺义：和睦同心，依循道义。 ⑯即：亲近。 ⑰讎：仇敌。 ⑱诘：苟，如果。 ⑲偏：偏于一端。  
⑳血食：受祭祀。 ㉑微天之衷：争取天降之福。  
㉒奚以：以何，凭借什么。 ㉓不致味：不要求五味俱全。 ㉔子之：以之为子。 ㉕蔑：无。  
㉖极：内心。 ㉗铨度：估量、衡量。 ㉘发：展开。 ㉙命：告，教导。 ㉚情：实。 ㉛阿：迎合。 ㉜审：明志，深刻了解。 ㉝物：旌旗徽志。

之类。③辩：通“辨”。④持盈：保守已成之业。⑤定倾：安定倾危之势。⑥客：进攻者。⑦靡：损，损害。⑧逆德：即“勇”。⑨淫佚：放荡。⑩羸缩：增长缩短。⑪天极：天道的准则，限度。⑫明者：贤明之人。⑬困：穷，尽头。⑭艺：常。⑮勿与：不和它作战。⑯陈：同“阵”。⑰牝：鸟兽雌性为牝。

## 《逸周书》

### 题解：

《逸周书》是我国最早的一部史书。原名叫《周书》，经后代学者考定为先秦典籍。书中多数篇章是战国时拟周代诰誓辞命之作。书中有些篇章谈及军事，包含比较丰富的军事谋略思想，仁义之师和安抚怀柔是其最突出者。就仁义之师而言，认为武力的功能是“助义、正违、顺天行”，主张要讨伐昏庸之君，救民于水火，实行德政，推行仁义，吸引人们归附。就安抚怀柔而言，认为应采取争取民心的政策，“命吏禁掠，无敢侵暴”，主张废除苛政，使百姓安居乐业。在军事谋略方面，最重视把握好时机，书中说：“时至而不迎，大遽乃迁，延之而不道，行事乃困”，“临权而疑，必离（罹）其灾”。这就是当断不断，反受其乱的意思。还提出了设疑兵以迷惑敌人，离间敌人以瓦解其军心，防止中埋伏，团结和争取友邦等军事谋略。

### 武 称

大国不失其威，小国不失其卑，敌国不失其权。拒衿伐夷<sup>①</sup>，并小夺乱，□强攻弱，而袭不正，武之经也。伐乱，伐疾<sup>②</sup>，伐疫，武之顺也。贤者辅之，乱者取之，作者劝之<sup>③</sup>，怠者沮之，恐者惧之，欲者趣之<sup>④</sup>，武之用也。美男破老，美女破舌，淫图破国，淫巧破时，淫乐破正<sup>⑤</sup>，淫言破义，武之毁也。赦其众，遂其咎<sup>⑥</sup>，抚其□，助其囊<sup>⑦</sup>，武之闲也。饵敌以分，而照其储<sup>⑧</sup>，以伐辅

德，追时之权，武之尚也。春违其农<sup>⑨</sup>，秋伐其穡，夏取其麦，冬寒其（衣）服<sup>⑩</sup>，春秋欲舒，冬夏欲亟，武之时也。长胜短，轻胜重，直胜曲，众胜寡，强胜弱，饱胜饥，肃胜怒，先胜后，疾胜迟，武之胜也。追戎无恪<sup>⑪</sup>，穷寇不格，力倦气竭乃易克，武之追也。既胜人，举旗以号，命吏禁掠，无敢侵暴，爵位不谦<sup>⑫</sup>，田宅不亏，各宁其亲，民服如化<sup>⑬</sup>，武之抚也。百姓咸服，偃兵兴德，夷厥险阻，以毁其武；四方畏服，奄有天下，武之定也<sup>⑭</sup>。

### 允 文

思静振胜，允文维纪<sup>⑮</sup>。昭告周行<sup>⑯</sup>，维旌所在。收戎释贿，无迁厥里。官校属职，因其百吏。公货少多，振赐穷士<sup>⑰</sup>；救瘠补病，赋均田（布）〔市〕。命夫复服，用（损）〔捐〕忧耻。孤寡无告，获厚咸喜。咸问外戚，书其所在。选同氏姓，位之宗子。率用十五<sup>⑱</sup>，绥用士女<sup>⑲</sup>。教用显允，若得父母。宽以政之<sup>⑳</sup>，孰云不听？听言靡悔<sup>㉑</sup>，遵养时晦，晦明遂语，于时允武。死思复生，生思复所。人知不弃，爱守正户<sup>㉒</sup>。上下和协，靡敌不下。执彼玉珪，以居其宇。庶民咸耕，童壮无辅<sup>㉓</sup>；无拂其取<sup>㉔</sup>，通其疆土<sup>㉕</sup>。民之望兵，若待父母。是故天下，一旦而定，奄有四海。

### 大 武

武有七制：政、攻、侵、伐、陈、战、斗<sup>㉖</sup>。善政不攻，善攻不侵，善侵不伐，善伐不陈，善陈不战，善战不斗，善斗不败。政有九因，因有四戚、五和。攻有九开，开有四凶、五良。侵有七酌，酌有四聚、三敛。伐有七机，机有四时、三兴。陈有七来，来有三哀、四（赦）〔教〕。战有十一振，振有六厉、五卫。斗有十一客，客有六广、五虞。

四戚：一内姓，二外婚，三友朋，四同里。五和：一有天无恶，二有人无邻，三同好相固，四同恶相助，五远宅不薄。凡此九者，政之因也②。

四凶：一攻天时，二攻地宜，三攻人德，四攻行利。五良：一取仁，二取智，三取勇，四取材，五取艺。凡此九者，攻之开也。

四聚：一酌之以仁③，二怀之以乐，三旁聚封人④，四设围以信。三斂：一男女比⑤，二工〔受〕次，三祗人死⑥。凡此七者，侵之酌也。

四时：一春违其农，二夏食其谷，三秋取其刈，四冬冻其葆。三兴：一政以和时，二伐乱以治，三伐饥以饱。凡此七者，伐之机也。

三哀：一要〔不〕〔羸〕〔羸〕，二丧〔民〕人，三殡厥亲。四〔赦〕〔教〕：一胜人必羸，二取〔威〕〔戚〕信〔复〕〔人〕，三〔人〕乐生身〔复〕，四赦民所恶⑦。凡此七者，陈之来也。

六厉：一仁厉以行，二智厉以道，三武厉以勇，四师厉以士⑧，五校正厉御，六射师厉伍。五卫：一明仁怀怨，二明智辅谋，三明武摄勇，四明材摄士，五明艺摄官。凡此十一者，战之振也。

六广：一明令，二明丑，三明赏，四明罚，五利兵，六竞竞。五虞⑨：一鼓走疑，二备从来，三佐车举旗，四采虞人谋，五后动撙之。凡此十一者，斗之客也⑩。

无竞惟害，有功无败。

## 大明武

畏严大武⑪，曰维四方畏威，乃宁。天作武，修戎兵，以助义、正违，顺天行。五官官候厥政，〔谓〕〔谒〕有所亡。城廓沟渠，高厚是量。既践戎野，备慎其殃。敬其严君，乃战赦。

十艺必明，加之以十因，靡敌不荒。陈若云布，侵若风行。轻车翼卫，在戎二方。我师之穷，靡人不刚。十艺：一大援，二〔明

从〕〔萌〕徒〕，三余子，四长兴，五〔伐〕〔戍〕人，六刑余⑫，七三疑，八间书，九用少，十兴怨。十因：一树仁，二胜欲，三宾客，四通旅，五亲戚，六无告，七同事，八程巧，九□能，十利事。艺、因代用，是谓强辅。

应天顺时，时有寒暑，风雨饥疾，民乃不处，移散不〔败〕〔取〕⑬，农乃商贾。委以淫乐，赂以美女，主人若〔杖〕〔伏〕。□至城下，高堙临内，日夜不解⑭，方陈并功，云何能御？虽易必敬，是谓明武。

城高难平，湮之以土，开以走路，俄傅器檣。因风行火，障水水下。惠用元元，不侮其寡。旁隧外权，隳城湮溪⑮，老弱单处，其谋乃离。既克和服，使众咸宜，竟其金革，是谓大夷。

## 小明武

凡攻之道，必得地势，以顺天时，观之以今，稽之以古⑯。攻其逆政，毁其地阻。立之五教，以惠其下。矜寡无告⑰，实为之主。五教允中，枝叶代兴。

国为伪巧，后宫饰女，荒田逐兽，田猎之所，游观崇台，泉池在下。淫乐无既，百姓辛苦。上有困令，乃有极□。上困下腾，戎迁其野，敦行王法，济用金鼓。降以列陈，无挽怒□；按道攻巷，无袭门户。无受货赂，攻用弓弩。上下祷祀，靡神不下。具行衡梯，振以长旗，怀戚思终⑱，左右愤勇。无食六畜，无聚子女。群振若雷⑲，造于城下，鼓行〔参〕〔桑〕呼⑳，以正什伍。上有轩冕，斧钺在下。胜国若化，故曰明武。

### 注释

- ①峻：高险。夷：平坦。②疾：暴虐。③作者：振作之人。劝：勉励。④趣：通“促”。⑤正：雅正的音乐。⑥遂：除去。⑦囊：收藏的钱粮。⑧照：通“灼”。⑨违：离开。⑩寒其服：打开他收藏的东西。⑪恪：通“遐”。⑫谦：通“减”。⑬化：教化得以实行。⑭奄：覆盖、包括。⑮维：为。⑯周行：大路。

①振：救济。②率：一律、一概。③绥：用士女；安抚士女。④政：通“正”。⑤靡：不。⑥守正户：不逃亡。⑦辅：通“通”。⑧拂：逆。取：意向。⑨通：即“彻”。⑩政：通“征”。⑪因：凭借。⑫酌：取。⑬封：通“邦”。⑭比：合。⑮抵：恭敬。⑯赦：舍弃。⑰士：通“事”。⑱虞：预料。⑲客：寄托。⑳畏：通“威”。㉑刑余：受过肉刑之人。㉒取：通“聚”。㉓解：通“懈”。㉔隳：毁坏。㉕稽：考察。㉖矜：通“鯨”。㉗威：警惕。㉘振：通“震”。㉙噪：通“噪”。

## 《孙子》

### 题解：

《孙子》又称《孙子兵法》，是我国现存最早的古代军事名著，产生于春秋末期。据史书记载，是我国古代大军事家孙武所著。孙武字长卿，陈国公子完的后裔，生于齐国乐安（今山东惠民），后入吴。以《兵法》十三篇见吴王，受封为将，曾率军西破强楚，北威齐晋。《孙子》全书13篇，论述了“计”、“作战”、“谋攻”、“形”、“势”、“虚实”、“军争”、“九变”、“行军”、“地形”、“九地”、“火攻”、“用间”等军事问题，是春秋末期及以前的战争经验的比较全面的总结，对我国古代军事思想的发展，曾产生过重大影响，在哲学史上也占有相当地位。

《孙子》揭示出的一些具有普遍意义的军事谋略，至今仍有其重要的科学价值。“知己知彼，百战不殆”，就是孙子在历史上第一次精辟概括出来的具有普遍指导意义的军事规律，是《孙子》军事谋略的精华，为历代军事指挥者所延用，被奉为军事座右铭。同时，《孙子》还揭示了诸多行之有效、为实践所验证的高超军事谋略。如：“攻其无备，出其不意”；“兵贵胜，不贵久”；“避实击虚”。还有先知敌情，取胜无形；克服缺点，造成优势；集中兵力，分散敌人；转变虚实，陷敌被动；示形饵敌，设计疲敌；多方误敌，

用间分敌；奇正交发，循环无穷；分合变化，动静疾徐等军事谋略，几乎涉及到战争的所有方面，可谓集军事谋略之大成。《孙子》所阐述的军事谋略，在国内外有广泛的影响。

## 计篇第一

孙子曰：兵者，国之大事。死生之地，存亡之道，不可不察也。

故经之以五事……一曰道<sup>①</sup>，二曰天，三曰地，四曰将，五曰法。道者，令民与上同意也<sup>②</sup>，故可与之死，可与之生，而民不危也。天者，阴阳、寒暑，时制也。地者，远近、险易、广狭、死生也。将者，智、信、仁、勇、严也。法者，典制、官道、主用也。凡此五者，将莫不闻，知之者胜，不知者不胜。

故校之以计，而索其情。曰：主孰有道？将孰有能？天地孰得？法令孰行？兵众孰强？士卒孰练？赏罚孰明？吾以此知胜负矣。

将听吾计，用之必胜，留之；将不听吾计，用之必败，去之。

计利以听，乃为之势；以佐其外。势者，因利而制权也。

兵者，诡道也。故能而示之不能<sup>③</sup>，用而示之不用，近而示之远，远而示之近，利而诱之，乱而取之，实而备之，强而避之，怒而挠之<sup>④</sup>，卑而骄之<sup>⑤</sup>，佚而劳之<sup>⑥</sup>，亲而离之。攻其无备，出其不意。此兵家之胜，不可先传也。

夫未战而庙算胜者<sup>⑦</sup>，得算多也<sup>⑧</sup>，未战而庙算不胜者，得算少也。多算胜，少算不胜。而况于无算乎！吾以此观之，胜负见矣。

## 作战篇第二

凡用兵之法，驰车千驷，革车千乘<sup>⑨</sup>，带甲十万，千里馈粮；则内外之费<sup>⑩</sup>，宾客之用<sup>⑪</sup>，胶漆之材，车甲之奉，日费千金，

然后十万之师举矣。

其用战也贵胜；久则钝兵挫锐，攻城则力屈，久暴师则国用不足。夫钝兵挫锐、屈力殫货<sup>⑮</sup>，则诸侯乘其弊而起，虽有智者，不能善其后矣。

故兵闻拙速，未睹巧之久也。夫兵久而国利者，未之有也。故不尽知用兵之害者，则不能尽知用兵之利也。

善用兵者，役不再籍，粮不三载，取用于国，因粮于敌。故军食可足也。

国之远于师者远输，远输则百姓贫。近于师者贵卖，贵卖则公家财竭，财竭则急于丘役。力屈、财竭，中原内虚于家。百姓之费，十去其七；公家之费，破车罢马，甲冑弓矢，戟楯蔽橰，丘牛大车，十去其六。

故智将务食于敌。食敌一钟<sup>⑯</sup>，当吾二十钟；苴秆一石<sup>⑰</sup>，当吾二十石。

故杀敌者，怒也；取敌之货者，赏也。

故车战得十乘已（“已”通“以”，解详《计篇》）上，赏其先得者，而更其旌旗，车杂而乘之，卒善而养之，是谓胜敌而益强。

故兵贵胜，不贵久。……

### 谋攻篇第三

凡用兵之法：全国为上，破国次之；全军为上，破军次之；全旅为上，破旅次之；全卒为上，破卒次之；全伍为上，破伍次之；是故百战百胜，非善之善者也；不战而屈人之兵，善之善者也。

故上兵伐谋<sup>⑱</sup>，其次伐交<sup>⑲</sup>，其次伐兵，下政攻城。攻城之法，为不得已。修蔽橰轂<sup>⑳</sup>，具器械，三月而后成；距堙<sup>㉑</sup>，又三月而后已。将不胜其忿而蚁附之，杀士卒三分之一，而城不拔者，此攻之灾也。

故善用兵者，屈人之兵，而非战也，拔人之城，而非攻也，毁人之国，而非久也。必以全策争于天下。故兵不顿而利可全<sup>㉒</sup>，此谋攻之法也。

故用兵之法：十则国之，五则攻之，倍

则分之，敌则能战之<sup>㉓</sup>，少则能逃之<sup>㉔</sup>，不若则能避之。故小敌之坚<sup>㉕</sup>，大敌之擒也。

夫战胜攻取而不修其功者凶，命曰费留。故明主虑之，良将修之，非利不动，非得不用，非危不战。主不可以怒而兴师，将不可以愠而致战；合于利而动，不合于利而止。怒可以复喜，愠可以复悦，亡国不可以复存，死者不可以复生。故明主慎之，良将警之，此安国全军之道也。

夫将者，国之辅也，辅周则国必强，辅隙则国必弱<sup>㉖</sup>。故知兵之将，民之司命，国家安危之主也。

故君之所以患于军者三<sup>㉗</sup>：不知三军之不可以进，而谓之进；不知三军之不可以退，而谓之退，是谓縻军<sup>㉘</sup>。不知三军之事，而同三军之政者，则军士惑矣。不知三军之权，而同三军之任者<sup>㉙</sup>，则军士疑矣。三军既惑且疑，则诸侯之难至矣，是谓乱军引胜。

故知胜有五：知可以战与不可以战者，胜。识众寡之用者，胜。上下同欲者，胜。以虞待不虞者<sup>㉚</sup>，胜。将能而君不御者，胜。此五者，知胜之道也。

故曰：知彼知己，百战不殆<sup>㉛</sup>；不知彼而知己，一胜一负；不知彼不知己，每战必殆。

### 形篇第四

昔之善战者，先为不可胜，以待敌之可胜。不可胜在己，可胜在敌。故善战者，能为不可胜，不能使敌之可胜，故曰：“胜可知，而不可为。”

不可胜者，守也；可胜者，攻也。守则不足，攻则有余。善守者，藏于九地之下，善攻者，动于九天之上<sup>㉜</sup>，故能自保而全胜也。

见胜不过众人之所知，非善之善者也，战胜而天下曰善，非善之善者也。故举秋毫不为多力，见日月不为明目，闻雷震不为聪耳。古之所谓善战者……胜易胜者也。故善



战者之胜也，无智名，无勇功，故其战胜不忒<sup>③⑩</sup>；不忒者，其所措必胜<sup>③⑪</sup>，胜已败者也。故善战者，立于不败之地，而不失敌之败也。是故胜兵先胜而后求战<sup>③⑫</sup>，败兵先战而后求胜。善用兵者，修道而保法，故能为胜败之政<sup>③⑬</sup>。

兵法：一曰度，二曰量<sup>③⑭</sup>，三曰数，四曰称<sup>③⑮</sup>，五曰胜。地生度，度生量，量生数，数生称，称生胜。故胜兵若以镒称铢。败兵若以铢称镒。胜者之战人也，若决积水于千仞之谿者，形也<sup>③⑯</sup>。

## 势篇第五

凡治众如治寡者，分数是也<sup>③⑰</sup>。斗众如斗寡者，形名是也<sup>③⑱</sup>，三军之众，可使必受敌而无败者<sup>③⑲</sup>，奇正是也。兵之所加，如以礲投卵者，虚实是也。

凡战者，以正合，以奇胜。故善出奇者，无穷如天地，不竭如江河。终而复始，日月是也。死而复生，四时是也。声不过五，五声之变，不可胜听也。色不过五，五色之变，不可胜观也。味不过五，五味之变，不可胜尝也。战势不过奇正，奇正之变，不可胜穷也。奇正相生，如循环之无端<sup>④⑰</sup>，孰能穷之？

激水之疾，至于漂石者，势也；鸢鸟之疾，至于毁折者，节也<sup>④⑱</sup>。是故善战者，其势险，其节短，势如彍弩<sup>④⑲</sup>，节如发机。

纷纷纍纍，斗乱而不可乱；浑浑沌沌，形圆而不可败<sup>④⑳</sup>。

乱生于治，怯生于勇，弱生于强。治乱，数也；勇怯，势也；强弱，形也。故善动敌者，形之<sup>④⑴</sup>，敌必从之；予之，敌必取之；以利动之，以卒待之。

故善战者，求之于势，不责<sup>④⑵</sup>于人。故能择人而任势，任势者，其战人也，如转木石。木石之性，安则静，危则动，方则止，圆则行。故善战人之势，如转圆石于千仞之山者，势也。

## 虚实篇第六

凡先处战地而待敌者佚，后处战地而趋战者劳。故善战者，致人而不致于人<sup>④⑶</sup>，能使敌人自至者，利之也；能使敌人不得至者，害之也。故敌佚能劳之，饱能饥之，安能动之。

出其所不趋，趋其所不意。行千里而不劳者，行于无人之地也；攻而必取者，攻其所不守也；守而必固者，守其所不攻也。故善攻者，敌不知其所守；善守者，敌不知其所攻。微乎微乎，至于无形，神乎神乎，至于无声，故能为敌之司命。

进而不可御者，冲其虚也；退而不可追者，速而不可及也。故我欲战，敌虽高垒深沟，不得不与我战者，攻其所必救也；我不欲战，画地而守之，敌不得与我战者，乖其所之也<sup>④⑷</sup>。

故形人而我无形，则我专而敌分；我专为一，敌分为十，是以十共其一也，则我众而敌寡；能以众击寡者，则吾之所与战者，约矣<sup>④⑸</sup>。

吾所与战之地不可知，不可知，则敌所备者多；敌所备者多，则吾所与战者，寡矣。故备前则后寡，备后则前寡，备左则右寡，备右则左寡，无所不备，则无所不寡。寡者，备人者也；众者，使人备己者也。故知战之地，知战之日，则可千里而会战；不知战地，不知战日，则左不能救右，右不能救左，前不能救后，后不能救前。而况远者数十里，近者数里乎？

以吾度之，越人之兵虽多，亦奚益于胜败哉？故曰：胜可为也。敌虽众，可使无斗<sup>④⑹</sup>。

故策之而知得失之计；作之而知动静之理<sup>④⑺</sup>，形之而知死生之地；角之而知有余不足之处。

故形兵之极，至于无形；无形，则深间不能窥，智者不能谋。因形而措胜于众<sup>④⑻</sup>，

众不能知。人皆知我……胜之形<sup>⑤2</sup>，而莫知吾所以制胜之形。故其战胜不复，而应形于无穷。

夫兵形象水，水之形，避高而趋下；兵之形，避实而击虚。水因地而制流，兵因敌而制胜。故兵无常势，水无常形，能因敌变化而取胜者，谓之神。故五行无常胜，四时无常位，日有短长，月有死生。

## 军争篇第七

凡用兵之法，将受命于君，聚众合军，交和而舍<sup>⑤3</sup>，莫难于军争。军争之难者，以迂为直，以患为利。故迂其途而诱之以利，后人发，先人至，此知迂直之计者也。

故军争为利，军争为危。举军而争利，则不及；委军而争利<sup>⑤4</sup>，则辎重捐<sup>⑤5</sup>。

是故卷甲而趋，日夜不处，倍道兼行，百里而争利，则擒三将军<sup>⑤6</sup>，劲者先，罢者后，其法十一而至。五十里而争利，则蹶上将军<sup>⑤7</sup>，其法半至。三十里而争利，则三分之二至。以是知军争之难。

是故军无辎重则亡，无粮食则亡，无委积则亡<sup>⑤8</sup>。

是故不知诸侯之谋者，不能豫交<sup>⑤9</sup>，不知山林，险阻、沮泽之形者，不能行军；不用乡导者，不能得地利。此九者，一不知，非霸王之兵也。

夫霸王之兵，伐大国，则其众不得聚；威加于敌，则其交不得合。是故不争天下之交，不养天下之权，信己之私，威加于敌，故其城可拔，其国可蹙。

故兵以诈立，以利动，以分合为变者也。

故其疾如风，其徐如林，侵掠如火，难知如阴；不动如山，动如雷霆。

掠乡分众，廓地分利<sup>⑥0</sup>，悬权而动。先知迂直之计者，胜；此军争之法也。

《军政》曰：“言不相闻，故为金鼓，视不相见，故为旌旗。”夫金鼓，旌旗者，所以一民之耳目也；民既专一，则勇者不得独进，

战多火得独退，此用众之法也。故夜战多火……，昼战多旌旗，所以变民之……目也<sup>⑥1</sup>。

故三军可夺气，将军可夺心，是故朝气锐，昼气惰，暮气归。故善用兵者，避其锐气，击其惰归，此治气者也。以治待乱，以静待哗，此治心者也。以近待远，以佚待劳，以饱待饥，此治力者也。无要正正之旗<sup>⑥2</sup>，勿击堂堂之阵，此治变者也。

故用兵之法：高陵勿向，背丘勿逆，佯北勿从<sup>⑥3</sup>。锐卒勿攻，饵兵勿食，归师勿遇，围师必阙，穷寇勿迫！此用兵之法也。

## 五变篇第八

凡用兵之法：……途有所不由，军有所不击，城有所不攻，地有所不争，君命有所不受。

故将通于五变之利者，知用兵矣；将不通于五变之利者，虽知地形，不能得地之利矣；治兵不知五变之术者，虽知五变之利，不能得人之用矣。

是故智者之虑，必杂于利害。杂于利，而务可信也<sup>⑥4</sup>；杂于害，而患可解也。

是故屈诸侯者以害，役诸侯者以业<sup>⑥5</sup>，趋诸侯者以利<sup>⑥6</sup>。

故用兵之法，无恃其不来，恃吾有以待也；无恃其不攻，恃吾有所不可攻也。

故将有五危：必死可杀<sup>⑥7</sup>，必生可虏<sup>⑥8</sup>，忿速可侮<sup>⑥9</sup>，廉洁可辱，爱民可烦。凡此五者，将之过也，用兵之灾也。覆军杀将，必以五危，不可不察也。

## 行军篇第九

凡处军相敌之法：绝山依谷，视生处高<sup>⑦0</sup>，战隆无登，此处山之军也。

绝水必远水；客绝水而来，勿迎之于水汭，令半渡而击之，利；欲战者，无附于水而迎客；视生处高，无迎水流，上雨，水沫至，欲涉者，待其定也，此处水上之军也。

绝斥泽<sup>⑦</sup>，惟亟去无留<sup>⑧</sup>；若交军于斥泽之中，必依水草而背众树，此处斥泽之军也。

平陆处易<sup>⑨</sup>，而右背高<sup>⑩</sup>，前死后生<sup>⑪</sup>，此处平陆之军也。

凡此四军之利，黄帝之所以胜四帝也。

凡军好高而恶下，贵阳而贱阴，养生处实，军无百疾，是谓必胜。丘陵堤防，必处其阳，而右背之。此兵之利，地之助也。

凡地有绝涧：过天井、天牢、天罗、天陷、天隙，必亟去之，勿近也。吾远之，敌近之，吾迎之，敌背之。

军行有险阻、潢井、葭苇、林木、蓊荟者<sup>⑫</sup>，必谨复索之，此伏奸之所也。

敌近而静者，恃其险也；远而挑战者，欲人之进也；其所居易者，利也。

众树动者，来也；众草多障者，疑也；鸟起者，伏也；兽骇者，覆也<sup>⑬</sup>。

尘高而锐者，车来也；卑而广者<sup>⑭</sup>，徒来也；散而条达者<sup>⑮</sup>，采樵也；少而往来者，营军也。

轻车先出居其侧者，陈也；奔走而陈兵车者，期也；半进半退者，诱也。

辞卑而益备者，进也；辞诡而强进驱者，退也；无约而请和者，谋也；来委谢者<sup>⑯</sup>，欲休息也<sup>⑰</sup>。

倚仗而立者，饥也；汲而先饮者，渴也；见利而不进者，劳也。

鸟集者，虚也；夜呼者，恐也。

军扰者，将不重也；旌旗动者，乱也；吏怒者，倦也。

杀马食肉者，军无粮也；军无悬缶，不返其舍者，穷寇也。

诋诃翕翕，徐言人人者，失众也；数赏者，窘也；数罚者，困也；先暴而后畏其众者，不情之至也。

兵怒而相迎，久而不合，又不相去，必谨察之！

兵非贵益多，惟无武进<sup>⑱</sup>，足以并力、料敌，取人而已。夫惟无虑而易敌者<sup>⑲</sup>，必

擒于人。

卒未亲附而罚之，则不服，不服则难用也；卒已亲附而罚不行，则不可用也。故令之以文，齐之以武<sup>⑳</sup>，是谓必取。令素信以教其民，则民服；令素不信以教其民，则民不服。令素信著者，与众相得也<sup>㉑</sup>。

## 地形篇第十

地形有通者，有挂者<sup>㉒</sup>，有支者<sup>㉓</sup>，有隘者<sup>㉔</sup>，有险者，有远者。

我可以往，彼可以来，曰通；通形者，先居高阳，利粮道，以战则利。

可以往，难以返，曰挂；挂形者，敌无备，出而胜之；敌若有备，出而不胜，难以返，不利。

我出而不利，彼出而不利，曰支；支形者，敌虽利我，我无出也。引而去之，令敌半出而击之，利。

……隘行者，我先居之，以盈之以待敌；若敌先居之，盈而勿从，不盈而从之。

……险形者，我先居之，必居高阳以待敌；若敌先居之，引而去之，勿从也。

……远形者，势均，难以挑战，战而不利。

凡此六者，地之道也；将之至任，不可不察也。

故兵有走者，有弛者，有陷者，有崩者，有乱者，有北者，凡此六者，非地之灾，将之过也。

夫势均，以一击十，曰走。卒强吏弱，曰弛。吏强卒弱，曰陷。大吏怒而不服，遇敌怼而自战<sup>㉕</sup>，将不知其能，曰崩。将弱不严，教道不明，吏卒无常<sup>㉖</sup>，陈兵纵横，曰乱。将不能料敌，以少合众，以弱击强，兵无选锋，曰北。

凡此六者，败之道也，将之至任，不可不察也。

夫地形者，兵之助也。料敌制胜，计险阨远近，上将之道也。知此而用战者必胜；

不知此而用战者必败。

故战道必胜<sup>⑩</sup>，主曰无战，必战可也。战道不胜，主曰必战，无战可也。故进不求名，退不避罪，惟民是保，而利合于主，国之宝也。

视卒如婴儿，故可与之赴深溪；视卒如爱子，故可与之俱死。爱而不能令，厚而不能使，乱而不能治，譬如骄子不可用也。

知吾卒之可以击，而不知敌之不可击，胜之半也；知敌之可击，而不知吾卒之不可以击，胜之半也；知敌之可击，知吾卒之可以击，而不知地形之不可以战，胜之半也。故知兵者，动而不迷，举而不穷<sup>⑪</sup>。故曰：“知彼知己，胜乃不殆；知地知天，胜乃可全。”。

## 九地篇第十一

凡用兵之法：有散地，有轻地，有争地，有交地，有衢地，有重地，有圯地，有围地，有死地。诸侯自战其地者，为散地。入人之地而不深者，为轻地。我得则利，彼得亦利者，为争地。我可以往，彼可以来者，为交地。诸侯之地三属<sup>⑫</sup>，先至而得天下之众者，为衢地。入人之地深，背城邑多者，为重地。山林、险阻，沮泽，凡难行之道者，为圯地。所由入者隘，所从归者迂，彼寡可以击吾之众者，为围地。疾战则存，不疾战则亡者，为死地。

是故散地，吾将一其志；轻地，吾将使其属；争地，吾将趋其后；交地，吾将谨其守；衢地，吾将固其结；重地，吾将继其食；圯地，吾将进其途；围地，吾将塞其阙；死地，吾将示之以不活。

是故政举之日，夷关折符，无通其使；厉于廊庙之上<sup>⑬</sup>，以诛其事<sup>⑭</sup>。敌人开阖，必亟入之。先其所爱，微与之期<sup>⑮</sup>。践墨随敌，以决战事。是故始如处女，敌人开户；后如脱兔，敌不及拒。

凡为客之道：深入则专，主人不克；掠于饶野，三军足食；谨养而勿劳，并气积力；

运兵计谋，为不可测。投之无所往，死且不北；死焉不得，士人尽力。兵士甚陷则不惧，无所往则固，入深则拘<sup>⑯</sup>，不得已则斗。是故其兵不修而戒，不求而得，不约而亲，不令而信<sup>⑰</sup>，禁详去疑<sup>⑱</sup>，至死无所之。吾士无余财，非恶货也；无余命，非恶寿也。令发之日，士卒坐者，涕沾襟，偃卧者，涕交颐<sup>⑲</sup>。投之无所往，……诸刳之勇也。

古之善用兵者，能使敌人前后不相及，众寡不相恃，贵贱不相救，上下不相扶，卒离而不集，兵合而不齐。合于利而动，不合于利而止。或问：“敌众整而将来，待之若何？”曰：“先夺其所爱，则听矣。”兵之情主速，乘人之不及，由不虞之道<sup>⑳</sup>，攻其所不戒也。

故善用兵者，譬如率然。率然者，常山之蛇也。击其首则尾至，击其尾则首至，击其中（中·《御览》作腹。）则首尾俱至。或问：“兵可使如率然乎？”曰：“可。”夫吴人与越人相恶也，当其同舟而济，遇风，其相救也如左右手。是故方马埋轮<sup>㉑</sup>，未足恃也；齐勇若一，政之道也<sup>㉒</sup>；刚柔皆得，地之理也。

故善用兵者，携手若使一人，不得已也。施无法之赏，悬无政之令，犯三军之众，若使一人。犯之以事，勿告以言；犯之以利，勿告以害。投之亡地，然后存；陷之死地，然后生。夫众陷于害，然后能为胜败。故为兵之事，在顺详敌之意，并敌一向，千里杀将，此谓巧能成事者也。

将军之事，静以幽，正以治。能愚士卒之耳目，使之无知。易其事，革其谋，使人无识；易其居，迂其途，使人不得虑。帅与之期<sup>㉓</sup>，如登高而去梯；帅与之深入诸侯之地，而发其机，若驱群羊，驱而往，驱而来，莫知所之。聚三军之众，投之于险，此谓将军之事也。

九地之变，屈伸之利，人情之理，不可不察也。

## 火攻篇第十二

曰火攻有五：一曰火人，二曰火积，三曰火辎，四曰火库，五曰火队<sup>①</sup>。

行火必有因<sup>②</sup>，烟火必素具。发火有时，起火有日。时者，天之燥也；日者，月在箕、壁、翼、轸也，凡此四宿者，风起之日也。

凡火攻，必因五火之变而应之。火发于内，则早应之于外。火发而其兵静者，待而勿攻，极其火力，可从而从之，不可从而止。火可发于外，无待于内，以时发之。火发上风，无攻下风。昼风久，夜风止。凡军必知……五火之变，以数守之<sup>③</sup>。

故以火佐攻者明<sup>④</sup>，以水佐攻者强。水可以绝，火可以夺。

## 用间篇第十三

凡兴师十万，出征千里，百姓之费，公家之奉，日费千金；内外骚动，怠于道路，不得操事者，七十万家。相守数年，以争一日之胜，而爱爵禄金宝<sup>⑤</sup>，不知敌之情者，不仁之至也，非人之将也，非主之佐也，非胜之主也。故明君，贤将，所以动而胜人，成功出于众者，先知也。先知者，不可取于鬼神，不可象于事，不可验于度，必取于人，知敌之情者也。

故用间有五：有乡间，有内间，有反间，有死间，有生间。五间俱起，莫知其道，是为神纪<sup>⑥</sup>，人君之宝也。乡间者，因其乡人而用之。内间者，因其官人而用之<sup>⑦</sup>。反间者，因其敌间而用之。死间者，为诳事于外<sup>⑧</sup>，令吾间知之，而传于敌。生间者，反报也。

故三军之事，莫亲于间，赏莫厚于间，事莫密于间，非圣智不能用间，非仁义不能使间，非微妙不能得间之实。微哉！微哉！无所不用间也。间事未发，而先闻者，间与所告者皆死。

凡军之所欲击，城之所欲攻，人之所欲杀，必先知其守将，左右、谒者、门者，舍人之姓名，令吾间必索知之。

必索敌间之来间我者，因而利之，导而舍之<sup>⑨</sup>，故反间可得而用也。因是而知之，故乡间，内间可得而使也。因是而知之，故死间为诳事，可使告敌。因是而知之，故生间可使如期。五间之事，主必知之，知之必在于反间，故反间不可不厚也。

昔殷之兴也，伊挚在夏；周之兴也，吕牙在殷。故惟明君、贤将，能以上智为间者，必成大功。此兵之要，三军之所恃而动也<sup>⑩</sup>。

### 注释：

①经之以五事：指从道、天、地、将、法五个方面分析研究战争胜负的可能性。经，量度，文中指分析研究的意思。②令民与上同意：使民众与国君意愿相一致。③示：示形，文中为伪装的意思。④怒而挠之：挠，挑逗。指对于易怒的敌将，要用挑逗的办法激怒他，使其失却理智，轻举妄动。⑤卑而骄之：对于鄙视我方的敌人，要设法使其更加骄傲，然后寻机击破。⑥佚而劳之：佚，通“逸”。意即对于休整得充分的敌人，要设法使其疲劳。⑦庙算：古代兴师作战，要在庙堂谋划大计，预计战争胜负，这就叫“庙算”。⑧得算多：指计算周密，胜利条件多。⑨革车：载运粮秣、军械、装具等辎重的兵车。⑩内外：前方后方。⑪宾客之用：指与各诸侯国使节往来的费用。⑫殫货：殫，枯竭；货，财货，文中指经济。⑬钟：容量单位，每钟六十四斗。⑭萑秆：饲草。萑(qi)，豆秸。⑮上兵伐谋：最好的用兵方法是以谋伐敌。⑯伐交：通过外交途径，分化瓦解敌人的盟国。⑰辘轳(fén wēn)：古代攻城用的四轮车。⑱距堙(yīn)：用以攻城而堆积的土山。⑲顿：通“钝”，这里指疲惫、受挫的意思。⑳敌：文中指势均力敌。㉑逃：脱离，摆脱。㉒坚：坚守。㉓隙：漏洞，缺陷。㉔患：危害，貽害。㉕縻(mi)：羁縻、束缚。㉖同：共同，文中是参与、干涉的意思。任：指挥。㉗虞：备，文中指准备的意思。㉘殆

(dài): 危险。②九: 古人掌用来表示数的极点。③不忒: 无疑误, 确有把握的意思。忒(tè), 差错, 疑误。④措: 措置, 处置。⑤先胜: 先创造取胜的条件。⑥政: 主其事叫做政, 这里引申为决定、主宰。⑦量: 容纳的限度, 这里指战场容量。⑧称: 权衡, 这里指双方力量的对比。⑨形: 文中指的是军事实力。⑩分数: 指军队的组织编制。⑪形名: 指古时军队使用的旌旗、金鼓等指挥工具, 文中引申为指挥。⑫必: 即使, 一旦。⑬循环之无端: 顺着圆环旋转, 没有尽头, 比喻事物的变化无穷。⑭节: 节奏。⑮弘(guō): 把弓拉满的意思。⑯形圆: 指阵势部署得四面八方都能应付自如。⑰形: 示形, 即以假象欺骗敌人。⑱责: 责备, 苛求。⑲致: 引来, 文中是调动的意思。⑳乖: 违背, 背离, 文中是改变的意思。㉑之: 文中作“往”字讲。㉒约: 少而弱的意思。㉓可使无斗: 可以使敌人兵力分散而无法用全力与我交战。㉔作: 动作, 文中是挑动的意思。㉕措: 放置。㉖形: 形态, 文中指作战的方式方法。㉗交和而舍: 指两军营垒对峙的意思。和: 和门, 即军门; 舍: 驻扎。㉘委军: 指丢弃笨重物资器械, 轻装前进的意思。委: 丢弃。㉙捐: 损失。㉚擒三将军: 三军将领可能被俘, 即全军覆没的意思。㉛厥(jué): 挫败。㉜委积: 指物资储备。㉝徯: 通“与”, 参与的意思。㉞廓: 开拓的意思。㉟变: 适应。㊱要, 同“邀”, 迎击, 截击的意思。㊲佯: 假装; 北: 败北, 失败。㊳信: 通“伸”, 伸行、发展的意思。㊴业: 指危险的事情。㊵趋: 归附, 依附。㊶必死: 文中指有勇无谋, 只知拼死。㊷必生: 临阵畏怯, 贪生怕死。㊸忿(fèn)速: 急躁易怒。㊹视生: 向阳的意思。㊺斥泽: 指盐碱沼泽地带。㊻惟: 宜。㊼易: 平坦。㊽右: 上的意思。㊾死: 文中是低的意思, 生: 文中是高的意思。㊿藋荟: 草木长得很茂盛。①覆: 覆盖, 文中指敌军大举来袭。②卑而广: 飞尘低而宽广。③条达: 指飞尘分散而细长。④委谢: 敌方托词派使者来谈判的意思。⑤休息: 这里指休兵息战。⑥武进: 恃勇轻进, 即冒进的意思。⑦易: 轻视。⑧文: 指政治、道

义。武: 指军纪、军法。⑨相得: 相投合, 即相互信任的意思。⑩挂: 文中指地形复杂, 即易进难退的地形。⑪支: 文中指敌对双方据险对峙, 谁先出战就对谁不利的地形。⑫隘: 指两山之间狭窄的通路。⑬怨(duì): 怨恨, 这里含有义气用事的意思。⑭常: 常法、法纪。⑮战道: 指战场实情。⑯举: 采取措施。⑰三属: 指敌我和其它诸侯国连接的地区。⑱厉: 反复计议的意思, 磨励。⑲诛: 治, 这里引申为研究决定的意思。⑳微: 相当于“无”。㉑拘: 束缚, 这里指人心专一而不涣散。㉒信: 信守, 服从。㉓祥: 妖祥, 这里指占卜等迷信活动。㉔顾: 面颊。㉕虞: 预料。㉖方: 并列, 指系在一起的意思。㉗政: 正, 这里指治理、统率的意思。㉘之: 指军队。㉙队(suì): 通“隧”, 道路的意思, 文中指运输设施。㉚因: 条件。㉛数: 文中指已提及的五项火攻条件。㉜明: 显, 指效果显著。㉝爱: 吝啬。㉞纪: 道。㉟因: 凭借、根据, 这里引申为利用。㊱逛(kuáng): 迷惑、欺骗。㊲舍: 释放。㊳恃: 依靠。

## 《司马法》

### 题解:

《司马法》是我国古老的经过后代学者修补的兵书。相传为司马穰苴撰写。司马穰苴是春秋时齐国人, 本姓田, 名穰苴, 因为他曾是齐国主管军事的大司马, 后世子孙以司马为氏, 故后人称之为司马穰苴。司马穰苴是春秋时的名将, 治军有方, 用兵有谋, 屡建战功, 威慑诸侯。他死后大约150年左右, 齐威王令齐国大夫追论以前的司马兵法, 并将穰苴的兵法附于其中, 定名为《司马穰苴兵法》。可见, 《司马法》并非司马穰苴专著, 而是齐国诸臣论述古兵法的汇编本。

《司马法》现存只有5篇, 即: 仁本、天子之义、定爵、严位、用众。每篇的篇名也不是专门的篇名, 只是摘取每篇的第一句话用作篇名。其军事谋略的核心是治军要以仁、义、礼、让为本, 也论述了诸多统率军

队和指挥作战的谋略，如“凡战，击其微静，避其强静；击其劳倦，避其闲窵；击其大惧，避其小惧”的避实击虚、根据敌情灵活用兵的谋略等。

## 卷 上

### 仁本第一

古者，以仁为本、以义治之之谓正<sup>①</sup>。正不获意，则权<sup>②</sup>；权出于战，不出于中（人）。是故杀人安人，杀之可也；攻其国，爱其民，攻之可也；以战止战，虽战可也。

故仁见亲，义见说<sup>③</sup>，智见恃<sup>④</sup>，勇见方<sup>⑤</sup>，信见信。内得爱焉，所以守也；外得威焉，所以战也。

战道：不违时，不厉<sup>⑥</sup>民病；所以爱吾民也；不加丧，不因凶，所以爱夫其民也；冬夏不兴师，所以兼爱其民也。

故国虽大，好战必亡；天下虽安，忘战必危。天下既平，天子大恺<sup>⑦</sup>，春蒐秋猕<sup>⑧</sup>，诸侯春振旅，秋治兵，所以不忘战也。

古者逐奔不过百步，纵绥<sup>⑨</sup>不过三舍，是以明其礼也；不穷不能<sup>⑩</sup>，而哀怜伤病，是以明其仁也；成列而鼓，是以明其信也；争义不争利，是以明其义也；又能舍服，是以明其勇也；知终知始，是以明其智也。六德以时合教，以为民纪之道也，自古之政也。

先王之治：顺天之道，设地之宜；官民之德，而正名治物；立国辨职，以爵分禄。诸侯说怀，海外来服；狱弭而兵寝；圣德之至也。

其次，贤王制礼乐法度，乃作五刑；兴甲兵以讨不义，巡狩省方<sup>⑪</sup>，会诸侯，考不同。其有失命、乱常、背德、逆天之时、而危有功之君，邇造于诸侯，彰明有罪。乃告于皇天上帝、日月星辰，禱于后土、四海神祇、山川冢社，乃造于先王。然后冢宰<sup>⑫</sup>徵师於诸侯曰：“某国为不道，征之以某年月

日，师至于某国，会天子，正刑。”

冢宰与百官布令于军曰：“人罪人之地，无暴神祇，无行田猎，无毁土功，无燔墙屋，无伐林木，无取六畜、禾黍、器械。见其老幼，奉归勿伤。虽遇壮者，不校勿敌。敌若伤之，医药归之。”既诛有罪，王及诸侯，修正其国，举贤立明，正复厥职。

王霸之所以治诸侯者六：以土地形诸侯，以政令平诸侯，以礼信亲诸侯，以材力说诸侯，以谋人维诸侯，以兵革服诸侯。同患同利，以合诸侯；比小事大<sup>⑬</sup>，以和诸侯。

会之以发禁者九：凭弱犯寡者则眚之<sup>⑭</sup>，贼贤害民则伐之，暴内陵外则坛之<sup>⑮</sup>，野荒民散则削之，负国不服则侵之，贼杀其亲则正之，放弑其君则残之<sup>⑯</sup>，犯令陵政则杜之，外内乱，禽兽行，则灭之。

### 天子之义第二

天子之义，必纯取法天地，而观于先圣。士庶之义，必奉于父母，而正于君长。故虽有明君，士不先教，不可用也。古之教民，必立贵贱之伦经，使不相陵<sup>⑰</sup>。德义不相踰，材技不相掩，勇力不相犯，故方同而意和也。

古者，国容不入军<sup>⑱</sup>，军容不入国，故德义不相踰。上贵不伐之士<sup>⑲</sup>；不伐之士，上之器也；苟不伐，则无求，无求则不争。国中之听<sup>⑳</sup>，必得其情；军旅之听，必得其宜；故材技不相掩。从命为士，上赏；犯命为士，上戮<sup>㉑</sup>；故勇力不相犯。既致教其民，然后谨选而使之。事极修，则百官给矣，教极省，则民兴良矣；习惯成，则民礼俗；教化之至也。

古者逐奔不远，纵绥不及，不远则难诱，不及则难陷。以礼为固，以仁为胜，既胜之后，其教可复；是以君子贵之也。

有虞氏戒于国中，欲民体其命也；夏后氏誓于军中，欲民先成其虑也<sup>㉒</sup>；殷誓于军门之外，欲民先意<sup>㉓</sup>，以待事也；周将交刃而誓之<sup>㉔</sup>，以致民志也。

兵后氏正其德也，未用兵之刃，故其兵不杂；殷义也，始用兵之刃矣；周力也，尽用兵之刃矣。

夏赏于朝，贵善也；殷戮于市，威不善也；周赏于朝，戮于市，劝君子惧小人也。三王彰其德一也。

兵不杂，则不利；长兵以卫，短兵以守。太长，则难犯；太短，则不及；太轻，则锐，锐，则易乱；太重，则钝，钝则不济。

戎车：夏后氏曰钩车，先正也<sup>②5</sup>；殷曰寅车，先疾也；周曰元戎，先良也。

旗：夏后氏玄，首人之势也；殷白，天之义也；周黄，地之道也。

章<sup>②6</sup>：夏后氏以日月，尚明也；殷以虎，尚威也；周以龙，尚文也。

师多务威，则民讙<sup>②7</sup>；少威，则民不胜。上使民不得其义，百姓不得其叙，技用不得其利，牛马不得其任，有司凌之，此谓多威，多威则民讙。上不尊德而任诈慝，不尊道而任勇力，不贵用命而贵犯命，不贵善行而贵暴行。凌之有司，此谓少威，少威则民不胜。

军旅以舒为主，舒则民力足。虽交兵致刃，徒不驱，车不驰，逐奔不踰列，是以不乱。军旅之固，不失行列之政，不绝人马之力，迟速不过减命<sup>②8</sup>。

古者国容不入军，军容不入国。军容入国，则民德废；国容入军，则民弱。故在国言文而语温，在朝恭以逊；修己以待人，不召不至，不问不言，难进易退。在军抗而立<sup>②9</sup>，在行（遂）而果<sup>③0</sup>，介者不拜，兵车不式，城上不趋，危事不齿<sup>③1</sup>。故礼与法表里也，文与武左右也。

古者贤王明民之德，尽民之善；故无废德，无简民；赏无所生，罚无所试。有虞氏不赏不罚，而民可用，至德也；夏赏而不罚，至教也；殷罚而不赏，至威也；周以赏罚，德衰也。

赏不踰时，欲民速得为善之利也；罚不迁列，欲民速睹，为不善之害也。大捷不赏，上下皆不伐善；上苟不伐善，则不骄矣；下

苟不伐善，必亡等矣<sup>③2</sup>。上下不伐善若此，相让之至也。大败不诛，上下皆以不善在己；上苟以不善在己，必悔其过；下苟以不善在己，必远其罪。上下分恶，若此，让之至也。

古者戍兵，三年不典<sup>③3</sup>，睹民之劳也。上下相报，若此，和之至也。得意则凯歌，示喜也。偃伯灵台<sup>③4</sup>，答民之劳，示休也。

## 卷 中

### 定爵第三

凡战：定爵位，著功罪；收游士，申教诏；讯厥众<sup>③5</sup>，求厥技；方虑极物<sup>③6</sup>，〔辨〕嫌推疑；养力索巧，因心之动。

凡战：固众相利，治乱，进止，服正，成耻约法省罚；小罪乃杀，小罪胜，大罪因<sup>③7</sup>。

顺天，阜财、怵众<sup>③8</sup>、利地、右兵，是谓五虑。顺天，奉时；阜财，因敌<sup>③9</sup>，怵众，勉弱<sup>④0</sup>；利地，守隘险阻；右兵，弓矢御，受矛守，戈戟助。凡五兵，五当；长以卫短，短以救长。

迭战则久，皆战则强。见物与侔<sup>④1</sup>，是谓两〔支〕<sup>④2</sup>。主固勉若，视敌而举。

将心，心也；众心，心也；马、牛、车、兵、佚、饱，力也。教，惟豫；战，惟节。将军，身也；卒，支也；五指，拇也。

凡战，权也；斗，勇也；阵，巧也。用其所欲，行其所能，废其不欲不能；于敌反是。

凡战：有天，有财，有善。时且不迁，龟胜微行<sup>④3</sup>，是谓有天；众有有，因生美，是谓有财；人习阵利，极物以豫，是谓有善。

人勉及任，是谓乐人。大军以固，多力以烦，堪物简治<sup>④4</sup>，见物应卒<sup>④5</sup>，是谓行豫。轻车轻徒，弓矢固御，是谓大军。密静多内力，是谓固阵。因是进退，是谓多力。上暇



人教，是谓烦阵。然有以职<sup>④⑧</sup>，是谓堪物。因是堪物，是谓简治。

称众，因地，因敌，令阵；攻战守，进退止，前后序，车徒因；是谓战参<sup>④⑨</sup>，不服、不信、不和、怠、疑、厌、慑、枝、柱、诎、烦、肆、崩、缓；是谓战患。

骄骄、懞懞、吟旷<sup>④⑩</sup>，虞惧、事悔，是谓毁折。

大小、坚柔、参伍<sup>④⑪</sup>，众寡、凡两<sup>④⑫</sup>，是谓战权。

凡战：间远，观迹；因时，因财；贵信，恶疑。

作兵义，作事时，使人惠，见敌静，见乱暇，见危难，无忘其众。居国惠以信，在军广以武，刃上果以敏。居国和，在军法，刃上察。居国见好，在军见方，刃上见信。

凡阵，行惟疏，战惟密，兵惟杂。人教厚，静乃治，威利章。相守义，则人勉；虑多成，则人服；时中服<sup>④⑬</sup>，厥次治。物既章，目乃明；虑既定，心乃强；进退无疑。见敌，无谋听诛，无诳其名，无变其旗。

凡事善则长，因古则行；誓作章，人乃强；灭厉祥<sup>④⑭</sup>，灭厉〔祥〕之道：一曰义，被之以信，临之以强。成〔其〕基，一天下之形，人莫不说，是谓兼用其人。一曰权，成其溢，夺其好，我自其外，使自其内。

一曰人，二曰正，三曰辞，四曰巧，五曰火，六曰水，七曰兵，是谓七政。荣、利、耻、死，谓之四守。容色积威，不过改意，凡此道也。

唯仁有亲；有仁无信，反败厥身。人人：正正；辞辞；火火。

凡战之道：既作其气，因发其政；假之以色，道之以辞；因惧而戒，因欲而事；蹈敌制地，以职命之；是谓战法。

凡人之形<sup>④⑮</sup>，由众之求；试以名行，必善，行之。若行不行，身以将之，若行而行，因使勿忘；三乃成章，人生之宜，谓之法。

凡治乱之道：一曰仁，二曰信，三曰直，四曰一，五曰义，六曰变，七曰专。立法：

一曰受，二曰法，三曰立，四曰疾，五曰御其服，六曰等其色，七曰百官宜，无淫服。

凡军：使法在己曰专，与下畏法曰法；军无小听；战无小利；日成，行微；曰道。

凡战：正不行，则事专；不服，则法；不相信，则一。若怠，则动之；若疑，则变之；若人不信上，则行其不复；自古之政也。

## 卷 下

### 严位第四

凡战之道：位欲严，政欲栗，力欲究，气欲闲，心欲一。

凡战之道：等道义，立卒伍，定行列，正纵横，察名实，立进俯，坐进跪<sup>④⑯</sup>，畏则〔密〕，危则坐。远者视之则不畏，迹者勿视则不散<sup>④⑰</sup>。位，下左右，下甲<sup>④⑱</sup>，坐，誓徐行之<sup>④⑲</sup>。位逮徒甲，筹以轻重，振马躁<sup>④⑳</sup>，徒甲畏亦密之。跪坐、坐伏则膝行，而宽誓之。起噪，鼓而进，则以铎止之。啣枚誓<sup>④㉑</sup>，糗坐，膝行而推之。执戮禁顾<sup>④㉒</sup>，噪以先之；若畏太甚，则勿戮杀，示以颜色，告之所生，循省其职。

凡三军：人戒分日，人禁不息<sup>④㉓</sup>，不可以分食；方其疑惑，可师，可服。

凡战，以力久，以气胜，以固久，以危胜。本心固，新气胜，以甲固，以兵胜。凡车以密固，徒以坐固，甲以重固，兵以轻胜。

人有胜心，惟敌之视；人有畏心，惟畏之视。两心交定，两利若一；两为之职<sup>④㉔</sup>，惟权视之。

凡战，以轻行轻则危，以重行重则无功，以轻行重则败。以重行轻则战；故战，相为轻重。

舍，谨兵甲；行，慎行列；战，谨进止。

凡战，敬则谦<sup>④㉕</sup>，率则服；上烦，轻；上暇，重；奏鼓轻，舒鼓重；服肤轻，服美

重。

凡马车坚，甲兵利，轻乃重。

上同无获<sup>⑤4</sup>，上专多死，上生多疑，上死不胜。

凡人，死爱，死怒，死威，死义，死利。凡战之道。教约人轻死，道约人正死。

凡战，若胜若否、若天若人。

凡战，三军之戒，无过三日，一卒之警，无过分日；一人之禁，无过瞬息。

凡大善用本，其次用末；执略守微，本末唯权，战也。

凡胜，三军一人，胜。

凡鼓，鼓旌旗、鼓车、鼓马、鼓徒、鼓兵、鼓首、鼓足，七鼓兼齐。

凡战，既固勿重，重进勿尽，凡尽危。

凡战，非阵之难，使人可阵难；非使可阵难，使人可用难；非知之难，行之难。

人，方有性，性州异；教成俗，俗州异，道化俗。

凡众寡，若胜若否，兵不告利，甲不告坚，车不告固，马不告良；众不自多，未（乃）获道。

凡战胜，则与众分善。若将复战，则重赏罚。若使不胜，取过在己，复战则誓己，居前，无复先术，胜负勿反；是谓正则。

凡民，以仁救，以义战，以智决，以勇斗，以信专，以利劝，以功胜。故心中仁，行中义；堪物智也，堪大勇也，堪久信也。

让以和，人自治；自予以不循，争贤以为人，说其心，效其力。

凡战，击其微静，避其强静；击其倦劳，避其闲窳；击其大惧，避其小惧，自古之政也。

## 用众第五

凡战之道，用寡固，用众治；寡利烦，众利正。用众进止，用寡进退。众以合寡，则远裹而阙之，若分而迭击。寡以待众，若众疑之，则自用之。擅利则释旗，迎而反之。

敌若众，则相众而受裹。敌若寡若畏，则避之开之。

凡战，背风，背高，右高左险；历沛历圯<sup>⑤5</sup>，兼舍环龟<sup>⑤6</sup>。

凡战，设而观其作，视敌而举。待则循而勿鼓，待众之作；攻则屯而伺之。

凡战，众寡以观其变，进退以观其固，危而观其惧，静而观其怠，动而观其疑，，袭而观其治。击其疑，加其卒<sup>⑤7</sup>，致其屈，袭其规。因其不避，阻其图，夺其虑，乘其慑。

凡从奔勿息<sup>⑤8</sup>，敌人或止于路，则虑之。凡近敌都，必有进路，退必有反虑。

凡战，先则弊，后则慑；息则怠，不息亦弊，息久亦反其慑。

书亲绝<sup>⑤9</sup>，是谓绝顾之虑；选良次兵，是谓益人之强；弃任节食<sup>⑥0</sup>，是谓开人之意；自古之政也。

### 注释：

①正：通“政”。 ②权：权威。 ③说：通“悦”。 ④恃：依恃。 ⑤方：效法。一说向往。 ⑥历：选择。 ⑦恺：通“凯”，和悦众心。 ⑧蒐（sōu）狝（xiǎn）：春秋两季出猎，相当于军事演习。 ⑨纵绥：纵马驰骋。纵，放松；绥，缰绳。一说“纵绥”为跟踪追击之义，纵，通“踪”。 ⑩能：耐。 ⑪省：视察。 ⑫冢宰：百官之长。 ⑬比小事大：比，亲近；事，事奉。 ⑭胄（shèng）：削弱之义。 ⑮坛：同埽，清除空地，引申为废除。 ⑯残：毁灭。 ⑰陵：侵犯。 ⑱国：城市，都城。容：指礼仪。 ⑲伐：矜夸。 ⑳听：听取。 ㉑戮：制裁。 ㉒成其虑：预先有成熟的考虑。 ㉓欲民先意：欲使民先了解其意（作战意图）。 ㉔交刃：交锋。 ㉕先正：指首先要注意车行平稳。 ㉖章：纹饰；标志。 ㉗拙：同屈，压抑。 ㉘诫命：告诫与命令。 ㉙抗而立：昂首直立。 ㉚遂而果：遂，顺遂；果，果决。 ㉛不齿：不足挂齿。 ㉜亡等：亡，通无；等，等同。 ㉝典：籍，此指名册。 ㉞灵台：此指祭祀和誓师的高台。 ㉟厥，其。 ㊱方虑极物：方，比较；虑，思虑；极物，穷究事物本质。 ㊲因：因循。

③⑧悻(yì): 悦服。③⑨阜财, 因敌: 缴获敌人资财, 丰富自己。因, 凭藉。④⑩若: 顺从。④⑪见物与侔: 侔, 等同。此句指见到敌人各种新装备, 要设法仿效。④⑫两支: 两相对峙。④⑬龟胜微行: 龟卜获得吉兆, 预示秘谋可以实行。胜, 吉利。微, 隐蔽; 秘密。④⑭堪物简治: 堪, 胜任。物, 事物。简, 选拔。④⑮卒: 通“猝”。④⑯然有以职: 然, 许诺。职, 主持。可成。一说逐日完成任务。④⑰战参: 临战参详。④⑱吟吁: 呻吟吵闹。④⑲参伍: 指队列编制。三人为参, 五人为伍。④⑳两: 对; 双。㉑时中: 窥测敌情恰好符合实际。时, 通“伺”。㉒厉祥: 厉, 恶鬼。祥, 含正反两义, 正义为瑞, 反义为妖, 这里用反义。㉓形: 通“型”, 此指规范、准则。㉔立: 立阵。坐: 坐阵。㉕勿视: 视而不见。不散: 指精力不分散。㉖下甲: 屯兵不进。㉗誓: 此处指军令。㉘振马躁: 车子震动, 使马躁动。㉙啍枚: 口含树枝, 避免发声。㉚戮: 此指战俘。㉛人戒、人禁: 军中专用术语。戒, 指守候之处。禁, 指绝密禁区。㉜职: 主。㉝慊(qiè): 满足。㉞同: 附和。㉟沛: 沼泽。圯: 崩塌之地。㊱环龟: 四周有险可守, 中间较高的地形。㊲卒: 通“猝”。㊳从: 通“踪”, 意为追逐。㊴书亲绝: 断绝与亲人的通信。㊵任: 装备。

## 《吴子》

### 题解:

《吴子》也称《吴子兵法》, 是中国古代兵学的奠基之作。它不仅对春秋时期及其以前的军事谋略思想进行了精深的概括和提炼, 而且总结了诸多实战经验, 是继《孙子》之后倍受推崇的军事谋略经典。作者吴起, 卫国左氏(今山东陶西)人, 为战国中期著名的政治家、军事家。曾在鲁、魏任将, 后入楚为令尹, 助楚悼王变法改革, 并统军取得一系列胜利。楚悼王死后, 吴起遭谗遇害。《汉书·艺文志》记载《吴子》48篇, 但流传下来仅3卷6篇, 经整理、校定为上下两卷6篇。即: 图国第一、料敌第二、治兵第三为上

卷; 论将第四、应变第五、励士第六为下卷。

《吴子》的军事谋略, 在战略上主张“内修文德, 外治武备”, 对于如何修好“文德”, 提出“先教百姓而亲万民”; 对于如何加强“武备”, 提出在强大的常备军的基础上组建一支精悍的骨干队伍。在治军上强调“以治为胜”, “教戒为先”。在作战指挥上, 提出许多有价值的军事谋略, 具有代表性的是“审敌虚实, 因形用权”。非常注重了解、判断周围邻国的敌情变化, 从分析敌国总的形势出发, 来决定本国的谋略和对策, 根据情况变化灵活应变, 不可拘泥成法。

### 图国第一

吴起儒服以兵机见魏文侯。

文侯曰: “寡人不好军旅之事。”

起曰: “臣以见占隐, 以往察来, 主君何言与心违? 今君四时使斩离皮革, 掩以朱漆, 画以丹青, 烁以犀象。冬日衣之则不温, 夏日衣之则不凉。为长戟二丈四尺, 短戟一丈二尺。革车庵户, 纒轮笼毂, 观之于目则不丽, 乘之以田则不轻, 不识主君安用此也? 若以备进战退守, 而不求能用者, 譬犹伏鸡之搏狸、乳犬之犯虎, 虽有斗心, 随之死矣。昔承桑氏之君, 修德废武, 以灭其国。有扈氏之君, 恃众好勇, 以丧其社稷。明主鉴兹, 必内修文德。外治武备。故当敌而不进, 无逮于义矣<sup>①</sup>; 僵尸而哀之, 无逮于仁矣。”

于是文侯身自布席, 夫人捧觞, 醺吴起于庙<sup>②</sup>, 立为大将, 守西河。与诸侯大战七十六, 全胜六十四, 馀则钧解。辟土四面, 拓地千里, 皆起之功也。

吴子曰: “昔之图国家者, 必先教百姓而亲万民。有四不和: 不和于国, 不可以出军; 不和于军, 不可以出陈; 不和于陈, 不可以进战; 不和于战, 不可以决胜。是以有道之主, 将用其民, 先和而造大事。不敢信其私谋, 必告于祖庙, 启于元龟<sup>③</sup>, 参之天

时，吉乃后举。民知君之爱其命，惜其死，若此之至，而与之临难，则士以进死为荣，退生为辱矣。”

吴子曰：“夫道者，所行反本复始。义者，所以行事立功。谋者，所以违害就利。要者，所以保业守成。若行不合道，举义不合，而处大居贵，患必及之。是以圣人绥之以道，理之以义，动之以礼，抚之以仁。此四德者，修之则兴，废之则衰。故成汤讨桀而夏民喜悦，周武伐纣而殷人不非。举顺天人，故能然矣。”

吴子曰：“凡制国治军，必教之以礼，励之以义，使有耻也。夫人有耻，在大足以战，在小足以守矣。然战胜易，守胜难。故曰，天下战国，五胜者祸，四胜者弊，三胜者霸，二胜者王，一胜者帝。是以数胜得天下者稀，以亡者众。”

吴子曰：“凡兵之所起者有五：一曰争名，二曰争利，三曰积恶，四曰内乱，五曰因饥。其名又有五：一曰义兵，二曰强兵，三曰刚兵，四曰暴兵，五曰逆兵。禁暴救乱曰义，恃众以伐曰强，因怒兴师曰刚，弃礼贪利曰暴，国乱人疲、举事动众曰逆。五者之服，各有其道，义必以礼服，强必以谦服，刚必以辞服，暴必以诈服，逆必以权服。”

武侯问曰：“愿闻治兵、料人、固国之道。”

起对曰：“古之明王，必谨君臣之礼，饰上下之礼，安集吏民，顺俗而教，简募良材，以备不虞。昔齐桓募士五万，以霸诸侯。晋文召为前行四万，以获其志。秦繆置陷陈三万，以服邻敌。敌强国之君，必料其民。民有胆勇气力者，聚为一卒。乐以进战效力、以显其忠勇者，聚为一卒。能逾高超远、轻足善走者，聚为一卒。王臣失位而欲见功于上者，聚为一卒。弃城去守、欲除其丑者，聚为一卒。此五者，军之练锐也。有此三千人，内出可以决围，外人可以屠城矣。”

武侯问曰：“愿闻陈必定、守必固、战

必胜之道。”

起对曰：“立见且可，岂直闻乎！君能使贤者居上，不肖者处下，则陈已定矣。民安其田宅，亲其有司，则守已固矣。百姓皆是吾君而非邻国，则战已胜矣。”

武侯尝谋事，君臣莫能及，罢朝而有喜色。起进曰：“昔楚庄王尝谋事，群臣莫能及，退朝而有忧色。申公问曰：‘君有忧色，何也？’曰：‘寡人闻之，世不绝圣，国不乏贤，能得其师者王，能得其友者霸。今寡人不才，而群臣莫及者，楚国其殆矣。’此楚庄王之所忧，而君说之，臣窃惧矣。”于是武侯有惭色。

## 料敌第二

武侯谓吴起曰：“今秦胁吾西，楚带吾南，赵冲吾北，齐临吾东，燕绝吾后，韩据吾前。六国兵四守，势甚不便，忧此奈何？”

起对曰：“夫安国家之道，先戒为宝。今君已戒，祸其远矣。臣请论六国之俗：夫齐陈重而不坚，秦陈散而自斗，楚陈整而不久，燕陈守而不走，三晋陈治而不用。

“夫齐性刚，其国富，君臣骄奢而简于细民，其政宽而禄不均，一陈两心，前重后轻，故重而不坚。击此之道，必三分之，猎其左右，胁而从之，其陈可坏。秦性强，其地险，其政严，其赏罚信，其人不让，皆有斗心，故散而自战。击此之道，必先示之以利而引去之，士贪于得而离其将，乘乖猎散，设伏投机，其将可取。楚性弱，其地广，其政骚，其民疲，故整而不久。击此之道，袭乱其屯，先夺其气。轻进速退，弊而劳之，勿与战争，其军可败。燕性恣<sup>④</sup>，其民慎，好勇义，寡诈谋，故守而不走。击此之道，触而迫之，陵而远之，驰而后之，则上疑而下惧，谨我车骑必避之路，其将可虏。三晋者，中国也，其性和，其政平，其民疲于战、习于兵<sup>⑤</sup>、轻其将、薄其禄、士无死志，故治而不用。击此之道，阻陈而压之，众来则

拒之，去则追之，以倦其师。

“此其势也。

“然则一军之中，必有虎贲之士<sup>④</sup>；力轻扛鼎，足轻戎马，搴旗斩将，必有能者。若此之等，选而别之，爱而贵之，是谓军命。其有工用五兵、材力健疾、志在吞敌者，必加其爵列，可以决胜。厚其父母妻子，劝赏畏罚，此坚陈之忠士，可以持久。能审料此，可以击倍”。

武侯曰：“善！”

吴子曰：“凡料敌有不卜而与之战者八：一曰疾风大寒，早兴寤迁，刊木济水，不憚艰难，二曰盛夏炎势，晏兴无间，行驱饥渴，务于取远；三曰师既淹久，粮食无有，百姓怨怒，妖祥数起，上不能止；四曰军资既竭，薪芻既寡，天多阴雨，欲掠无所；五曰徒众不多，水土不利，人马疾疫，四邻不至；六曰道远日暮，士众劳惧，倦而未食，解甲而息；七曰将薄吏轻，士卒不固，三军数惊，师徒无助；八曰陈而未定，舍而未毕，行坂涉险，半隐半出。诸如此者，击之勿疑。

“有不占而避之者六：一曰土地广大，人民富众；二曰上爱其下，惠施流布；三曰赏信刑察，发必得时<sup>⑦</sup>；四曰陈功居列，任贤使能；五曰师徒之众，兵甲之精；六曰四邻之助，大国之援。凡此不如敌人，避之勿疑。所谓见可而进，知难而退也。”

武侯问曰：“吾欲观敌之外以知其内，察其进以知其止，以定胜负，可得闻乎？”

起对曰：“敌人之来，荡荡无虑，旌旗烦乱，人马数顾，一可击十，必使无措。诸侯未会，君臣未和，沟垒未成，禁令未施，三军匈匈，欲前不能，欲去不敢，以半击倍，百战不殆。

武侯问敌必可击之道。

起对曰：“用兵必须审敌虚实而趋其危。敌人远来新至，行列未定可击，既食未设备可击，奔走可击，勤劳可击，未得地利可击，失时不从可击，旌旗乱动可击，涉长道后行未息可击，涉水半渡可击，险道狭路

可击，阵数移动可进击，将离士卒可击，心怖可击。凡若此者，选锐冲之，分兵继之，急击勿疑。”

### 治兵第三

武侯问曰：“进兵之道何先？”

起对曰：“先明四轻、二重、一信。”

曰：“何谓也？”

对曰：“使地轻马，马轻车，车轻人，人轻战。明知险易，则地轻马。刍秣以时，则马轻车。膏铜有余，则车轻人。锋锐甲坚，则人轻战。进有重赏，退有重刑。行之以信。审能达此，胜之主也。”

武侯问曰：“兵何以为胜。”

起对曰：“以治为胜。”

又问曰：“不在众寡？”

对曰：“若法令不明，赏罚不信，金之不止<sup>⑧</sup>，鼓之不进，虽有百万，何益于用。所谓治者，居则有礼，动则有威，进不可当，退不可追，前却有节，左右应麾，虽绝成陈，虽散成行。与之安，与之危，其众可合而不可离，可用而不可疲。投之所往，天下莫当，名曰父子之兵。”

吴子曰：“凡行军之道，无犯进止之节，无失饮食之适，无绝人马之力。比三者，所以任其上令。任其上令，则治之所由生也。若进止不度，饮食不适，马疲人倦而不解舍，所以不任其上令。上令既废，以居则乱，以战则败。

吴子曰：“凡兵战之场，立尸之地。必死则生，幸生则死。其善将者，如坐漏船之中，伏烧屋之下，使智者不及谋，勇者不及怒，受敌可也。故曰，用兵之害，犹豫最大；三军之灾，生于狐疑。”

吴子曰：“夫人常死其所不能，则其所不便。故用兵之法，教戒为先。一人学战，教成十人。十人学战，教成百人。百人学战，教成千人。千人学战，教成万人。万人学战，教成三军。以近待远，以佚待劳，以饱带饥。

圆而方之，坐而起之，行而止之，左而右之，前而后之，分而合之，结而解之。每变皆习，乃授其兵。是为将事。”

吴子曰：“教战之令，短者持矛戟，长者持弓弩，强者执旌旗，勇者持金鼓，弱者给厮养<sup>⑨</sup>，智者为谋主。乡里相比，什伍相保。一鼓整兵，二鼓习阵，三鼓趋食，四鼓严辨，五鼓就行。闻鼓声合，然后举旗。

武侯问曰：“三军进止，岂有道乎？”

起对曰：“无当天灶，无当龙头。天灶者，大谷之口。龙头者，大山之端。必左青龙，右白虎，前朱雀，后玄武，招摇在上，从事于下。将战之时，审候风所从来。风顺致呼而从之，风逆坚陈以待之。

武侯问曰：“凡畜车骑，岂有方乎？”

起对曰：“夫马，必安其处所，适其水草，节其饥饱。冬则温厩，夏则凉庑。刻剔毛鬣，谨落四下。戢其耳目，无令惊骇。习其驰逐，闲其进止。人马相亲，然后可使。车骑之具，鞍、勒、衔、轡，必令完坚。凡马不伤于未，必伤于始。不伤于饥，必伤于饱。日暮道远，必数上下。宁劳于人，慎无劳马。常令有馀，备敌覆我。能明此者，横行天下。”

## 论将第四

吴子曰：“夫总文武者，军之将也。兼刚柔者，兵之事也。凡人论将，常观于勇。勇之于将，乃数分之一尔。夫勇者必轻合，轻合而不知利，未可也。故将之所慎者五：一曰理，二曰备，三曰果，四曰戒，五曰约。理者，治众如治寡。备者，出门如见敌。果者，临敌不怀生。戒者，虽克如始战。约者，法令省而不烦。受命而不辞，敌破而后言返，将之礼也。故师出之日，有死之荣，无生之辱。

吴子曰：“凡有兵四机：一曰气机，二曰地机，三曰事机，四曰力机。三军之众，百万之师，张设轻重，在于一人，是谓气机。路狭道险，名山大塞，十夫所守，千夫不过，

是谓地机。善行间谍，轻兵往来，分散其众，使其君臣相怨，上下相咎，是谓事机。车坚管辖<sup>⑩</sup>，舟利橹楫，士习战陈，马闲驱逐，是谓力机。知此四者，乃可为将。然其威、德、仁、勇，必足以率下安众，怖敌决疑。施令而下不敢犯，所在而寇不敢敌。得之国强，去之国之。是谓良将。”

吴子曰：“夫鞶鼓金铎<sup>⑪</sup>，所以威耳。旌旗麾帜，所以威目。禁令刑罚，所以威心。耳威于声，不可不清。目威于色，不可不明。心威于刑，不可不严。三者不立，虽有其国，必败于敌。故曰，将之所麾，莫不从移；将之所指，莫不前死。”

吴子曰：“凡战之要，必先占其将而察其才。因形用权，则不劳而功举。其将愚而信人，可诈可诱；贪而忽名，可货可赂；轻变无谋，可劳而困。上富而骄，下贫而怨，可离而间。进退多疑，其众无依，可震而走。士轻其将而有归志，塞易开险，可邀而取。进道易，退道难，可来而前<sup>⑫</sup>。进道险，退道易，可薄而击。居军下湿，水无所通，霖雨数至，可灌而沉。居军荒泽，草楚幽秽，风飙数至，可焚而灭。停久不移，将士懈怠，其军不备，可潜而袭<sup>⑬</sup>。

武侯问曰：“两军相望，不知其将，我欲相之，其术如何？”

起对曰：“令贱而勇者，将轻锐以尝之。务于北，无务于得，观敌之来，一坐一起<sup>⑭</sup>，其政以理，其追北佯为不及，其见利佯为不知，如此将者，名为智将，勿与战矣。若其众谨哗<sup>⑮</sup>，旌旗烦乱，其卒自行自止，其兵或纵或横，其追北恐不及，见利恐不得，此为愚将，虽众可获。”

## 应变第五

武侯问曰：“车坚马良，将勇兵强，卒遇敌人<sup>⑯</sup>，乱而失行，则如之何？”

吴起对曰：“凡战之法，昼以旌旗幡麾为节，夜以金鼓笳笛为节。麾左而左，麾右

而右。鼓之则进，金之则止。一吹而行，再吹而聚，不从令者诛。三军服威，士卒用命，则战无强敌，攻无坚陈矣。”

武侯问曰：“若敌众我寡，为之奈何？”

起对曰：“避之于易，邀之于阨<sup>⑦</sup>。故曰，以一击十，其善于阨；以十击百，莫善于险；以千击万，莫善于阻。今有少卒卒起，击金鸣鼓于阨路，虽有大众，莫不惊动。故曰，用众者务易，用少者务隘。”

武侯问曰：“有师甚众，既勇且武；背大阻险，右山左水；深沟高垒，守以强弩；退如山移，进如风雨，粮食又多。难与长守，则如之何？”

起对曰：“大哉问乎！此非车骑之力，圣人之谋也。能备千乘万骑，兼之徒步，分为五军，各军一衢。夫五军五衢，敌人必惑，莫之所加。敌人若坚守以固其兵，急行间谍以观其虑，彼听吾说，解之而去。不听吾说，斩使焚书，分为五战。战胜勿追，不胜疾归。如是佯北，安行疾斗，一结其前，一绝其后。两军衔枚，或左或右，而袭其处。五军交至，必有其利。此击强之道也。”

武侯问曰：“敌近而薄我，欲去无路，我众甚惧，为之奈何？”

起对曰：“为此之术，若我众彼寡，各分而乘之。彼众我寡，以方从之<sup>⑧</sup>。从之无息，虽众可服。”

武侯问曰：“若遇敌于谿谷之间，傍多险阻，彼众我寡，为之奈何？”

起对曰：“遇诸丘陵、林谷、深山、大泽、疾行亟去，勿得从容。若高山深谷，卒然相遇，必先鼓噪而乘之。进弓与弩，且射且虏。审察其政，乱则击之勿疑。”

武侯问曰：“左右高山，地甚狭迫，卒遇敌人，击之不敢、去之不得，为之奈何？”

起对曰：“此为谷战，虽众不用。募吾材士与敌相当，轻足利兵以为前行，分车列骑隐于四旁，相去数里，无见其兵，敌必坚陈，进退不敢。于是出旌列旆，行出山外营之，敌人必惧。车骑挑之，勿令得休，此谷

战之法也。”

武侯问曰：“吾与敌相遇大水之泽，倾轮没轂，水薄车骑，舟楫不设，进退不得，为之奈何？”

起对曰：“此谓水战，无用车骑，且留其傍。登高四望，必得水情。知其广狭，尽其浅深，乃可为奇以胜之<sup>⑨</sup>。敌若绝水，半渡而薄之。”

武侯问曰：“天久连雨，马陷车止，四面受敌，三军惊骇，为之奈何？”

起对曰：“凡用车者，阴湿则停，阳燥则起；贵贱高下，驰其强车；若进若止，必从其道。敌人若起，必逐其迹。”

武侯问曰：“暴寇卒来，掠吾田野，取吾牛羊，则如之何？”

起对曰：“暴寇之来，必虑其强，善守勿应。彼将暮去，其装必重，其心必恐，还退务速，必有不属<sup>⑩</sup>。追而击之，其兵可覆。”

吴子曰：“凡攻敌围城之道，城邑既破，各入其宫。御其禄秩<sup>⑪</sup>，收其器物。军之所至，无刊其木、发其屋，取其粟、杀其六畜、燔其积聚，示民无残心。其有请降，许而安之。”

## 励士第六

武侯问曰：“严刑明赏，足以胜乎？”

起对曰：“严明之事，臣不能悉。虽然，非所恃也。夫发号布令而人乐闻，兴师动众而人乐战，交兵接刃而人乐死。此三者，人主之所恃也。”

武侯曰：“致之奈何？”

对曰：“君举有功而进饗之<sup>⑫</sup>，无功而励之。”

于是武侯设坐庙廷为三行饗士大夫。上功坐前行，肴席兼重器、上牢。次功坐中行，肴席器差减<sup>⑬</sup>。无功坐后行，肴席无重器。饗毕而出，又颁赐有功者父母妻子于庙门外，亦以功为差。有死事之家，岁遣使者劳赐其

父母，著不忘于心。

行之三年，秦人兴师，临于西河，魏士闻之，不待吏令，介冑而奋击之者以万数。

武侯召吴起而谓曰：“子前日之教行矣。”

起对曰：“臣闻人有短长，气有盛衰。君试发无功者五万人，臣请率以当之。脱其不胜，取笑于诸侯。失权于天下矣。今使一死贼伏于旷野，千人追之，莫不眙视狼顾。何者？忌其暴起而害己。是以一人投命<sup>③</sup>，足惧千夫。今臣以五万之众，而为一死贼，率以讨之，固难敌矣。”

于是武侯从之，兼车五百乘，骑三千，而破秦五十万众，此励士之功也。

先战一日，吴起令三军曰：“诸吏士当从受敌。车骑与徒，若车不得车，骑不得骑。徒不得徒，虽破军皆无功。”故战之日，其令不烦而威震天下。

#### 注释：

①逮：及，达到的意思。 ②醺(音叫)：古代斟酒敬神或主人向客人敬酒，不要回敬称醺。  
③启：陈告。 ④慤：朴实，质朴，忠厚老实。  
⑤习：狎，鄙视，厌恶。 ⑥虎贲：贲，同奔。象老虎一样地奔逐。古代对勇士的称呼。 ⑦发：举动，文中指行赏和处罚。 ⑧金：指金属制的打击乐器，也叫钲，古代军队用它的敲击声作为指挥军队停止的信号。 ⑨厮养：泛指勤杂兵。厮，指养马的人；养，指做饭的人。 ⑩管辖：战车的轴管和车轴的插销。 ⑪鞞(音皮)：军中小鼓。  
⑫前：通翦，翦灭，消灭。 ⑬潜：悄悄地。  
⑭坐：停止，停留。起：前进。 ⑮讙哗：喧哗，说话声嘈杂。 ⑯卒：同悴，突然。 ⑰阨：通隘，地形险隘。 ⑱方：集合，靠拢。 ⑲奇：古代军语，与“正”相对的战法。 ⑳属(音主)：相连接，相统属的意思。 ㉑御：驾御，控制。 ㉒饗：宴请，盛宴款待。 ㉓差(音疵)减：依次减少。  
㉔投命：不顾性命。投，抛丢。

## 《孙臆兵法》

### 题解：

《孙臆兵法》是我国古代受到推崇的重要军事著作，战国齐人孙臆及其后学所著。此书汉后失传，在失传千余年后，于1972年在山东临沂银雀山汉墓中出土，为竹简，经整理编纂成为上下两编各15篇，计30篇。

孙臆是我国两千多年前一位著名的军事家，辅佐齐威王改革军事，胜利地组织和指挥了一些重大战役，使齐国一度威震天下，“诸侯东朝齐”。他还注意军事谋略的研究和战争经验的总结，所著《孙臆兵法》就是继《孙子》之后的又一部较为完整、颇有影响的军事谋略著作。孙臆在军事上的成就及在军事理论上的著述，使他在我国古代军事史上占有重要地位。《孙臆兵法》的军事谋略非常丰富，某些方面较孙武又有所发展。不仅反映了当时战争的特点，也反映了一些具有共性的战争规律。他主张通过战争实现封建统一，但也反对轻率用兵，对战争持慎重态度。提出因地、因敌、因情况之不同，灵活地使用兵力，出其不意，以奇制胜。尤其是他创造的“围魏救赵”的战法，更为历代兵家所熟知并惯用。主张对敌分散其兵力，对己则集中兵力，发挥我之优势，改变我之劣势，打破敌我均势，把握作战主动权，克敌制胜。还提出了战争中一系列矛盾对立的概念，如敌我、主客、攻守、进退、众寡、强弱、奇正、积疏、佚劳、险易等，论述了它们在战争中的关系。

### 擒庞涓

昔者，梁君将攻邯郸，使将军庞涓带甲兵八万至于荏丘<sup>①</sup>。齐君闻之，使将军忌子带甲八万至……竟<sup>②</sup>。庞子攻卫□□□，将军忌(子)……□卫□□救与……曰：“若不救卫，将何为？”孙子曰：“请南攻平陵。平陵其



城小而县大，人众甲兵盛，东阳战邑，难攻也。吾将示之疑。吾攻平陵，南有宋，北有卫，当途有市丘，是吾粮途绝也，吾将示之不知事。”于是徙舍而走平陵<sup>③</sup>。……〔□□〕陵，忌子召孙子而问曰：“事将何为？”孙子曰：“都大夫孰为不识事？”曰：“齐城、高唐。”孙子曰：“请取所□□□□□□□□□□二大夫□以□□□臧□□都横卷四达环涂□横卷所□阵也。环涂被甲之处也<sup>④</sup>。吾末甲劲<sup>⑤</sup>，本甲不断。环涂击被其后，二大夫可杀也。”于是段齐城、高唐为两<sup>⑥</sup>，直将蚁傅平陵<sup>⑦</sup>。夹邕环涂夹击其后，齐城、高唐当术而大败。将军忌子召孙子问曰：“吾攻平陵不得而亡齐城、高唐，当术而败<sup>⑧</sup>。事将何为？”孙子曰：“请遣轻车西驰梁郊，以怒其气。分卒而从之，示之寡。”于是为之。庞子果弃其辎重，兼取舍而至<sup>⑨</sup>。孙子弗息而击之桂陵，而擒庞涓。故曰，孙子之所以为者尽矣。…

## 见威王

孙子见威王，曰：“夫兵者，非士恒势也。此先王之传道也。战胜，则所以在亡国而继绝世也。战不胜，则所以削地而危社稷也<sup>⑩</sup>，是故兵者不可不察。然夫乐兵者亡<sup>⑪</sup>，而利胜者辱。兵非所乐也，而胜非所利也。事备而后动。故城小而守固者，有委也<sup>⑫</sup>；卒寡而兵强者，有义也。夫守而无委，战而无义，天下无能以固且强者。尧有天下之时，黜王命而弗行者七，夷有二，中国四，……素佚而致利也。战胜而强立，故天下服矣。昔者，神农战斧遂；黄帝战蜀禄；尧伐共工；舜伐鬻□□而并三苗，□□……管；汤放桀；武王伐纣；帝奄反，故周公浅之。故曰，德不若五帝，而能不及三王，智不若周公，曰我将欲积仁义<sup>⑬</sup>，式礼乐<sup>⑭</sup>，垂衣裳<sup>⑮</sup>，以禁争夺。此尧舜非弗欲也，不可得，故举兵绳之<sup>⑯</sup>。”

## 威王问

齐威王问用兵孙子，曰：“两军相当，两将相望，皆坚而固，莫敢先举，为之奈何？”孙子答曰：“以轻卒尝之<sup>⑰</sup>，贱而勇者将之，期于北，毋期于得。为之微阵以触其侧。是谓大得。”威王曰：“用众用寡有道乎？”孙子曰：“有。”威王曰：“我强敌弱，我众敌寡，用之奈何？”孙子再拜曰：“明王之问。夫众且强，犹问用之，则安国之道也。命之曰赞师<sup>⑱</sup>。毁卒乱行<sup>⑲</sup>，以顺其志，则必战矣。”威王曰：“敌众我寡，敌强我弱，用之奈何？”孙子曰：“命曰让威，必臧其尾，令之能归。长兵在前，短兵在□，为之流弩，以助其急者。□□毋动，以待敌能<sup>⑳</sup>。”威王曰：“我出敌出，未知众少，用之奈何！”孙子：“命曰……威王曰：“击穷寇奈何？”孙子……可以待生计矣。”威王曰：“击均奈何？”<sup>㉑</sup>孙子曰：“营而离之<sup>㉒</sup>，我并卒而击之，毋令敌知之。然而不离，按而止，毋击疑。”威王曰：“以一击十，有道乎？”孙子曰：“有。攻其无备，出其不意。”威王曰：“地平卒齐，合而北者，何也？”孙子曰：“其阵无锋也。”威王曰：“令民素听，奈何？”孙子曰：“素信。”威王曰：“善哉！言兵势不穷。”

田忌问孙子曰：“患兵者何也？困敌者何也？壁延不得者何也？失天者何也？失地者何也？请问此六者有道乎？”孙子曰：“有。患兵者地也，困敌者险也。故曰，三里沮洳将患军……涉将留大甲。故曰，患兵者地也，困敌者险也，壁延不得者湍寒者也，□……奈何？”孙子曰：“鼓而坐之<sup>㉓</sup>，十而擒之<sup>㉔</sup>。”田忌曰：“行阵已定，动而令士必听，奈何？”孙子曰：“严而示之利。”田忌曰：“赏罚者，兵之急者耶？”孙子曰：“非。夫赏者，所以喜众，令士忘死也。罚者，所以正乱<sup>㉕</sup>，令民畏上也。可以益胜，非其急者也。”田忌曰：“权、势、谋、诈，兵之急者耶？”孙子曰：“非也。夫权者，所以聚众也。势者，所以令士必斗

也。谋者，所以令敌无备也。诈者，所以困敌也。可以益胜，非其急者也。”田忌忿然作色：“此六者，皆善者所用，而子大夫曰非急者也。然则其急者何也？”孙子曰：“料敌计险，必察远近，……将之道也。必攻不守，兵之急者也。□……骨也。”田忌问孙子曰：“张军毋战有道？”孙子曰：“有。倅险增垒<sup>②⑥</sup>，净戒毋动，毋可□□毋可怒。”田忌曰：“敌众且武，必战有道乎？”孙子曰：“有。埤垒广志<sup>②⑦</sup>，严正辑众<sup>②⑧</sup>，避而骄之，引而劳之，攻其不备，出其不意，必以为久。”田忌问孙子曰：“锥行者何也？雁行者何也？选卒力士者何也<sup>②⑨</sup>？劲弩趋发者何也？飘风之阵者何也？众卒者何也？”<sup>②⑩</sup>孙子曰：“锥行者，所以冲坚毁锐也，雁行者，所以触侧应□[也]。选卒力士者，所以绝阵取将也。劲弩趋发者，所以甘战持久也。飘风之阵者，所以回□[□□也]。众卒者，所以分工有胜也。”孙子曰：“明主、知道之将，不以众卒几功。”孙子出而弟子问曰：“威王、田忌臣主之问何如？”孙子曰：“威王问九，田忌问七，几知兵矣，而未达于道也。吾闻素信者昌，立义……用兵无备者伤，穷兵者亡。齐三世其忧矣。”

……善则敌为之备矣。”孙子曰……  
……孙子曰：“八阵已陈……  
……□孙子……  
……险成，险成敌将为正，出为三陈，  
一□……  
……倍人也，按而止之，盈而待之，然  
而不□……  
……无备者困于地，不□者□□……  
……□士死□而傅……

## 陈忌问垒

田忌问孙子曰：“吾卒□□……不禁，为之奈何？”孙子曰：“明将之问也。此者人之所过而不急也。此□之所以疾……志也。”田忌曰：“可得闻乎？”曰：“可。用此者，所以应猝蹇处隘塞死地之中也。是吾所以取庞[□]而

擒太子申也。”田忌曰：“善。事已往而形不见。”孙子曰：“蒺藜者<sup>③①</sup>，所以当沟池也<sup>③②</sup>。车者，所以当垒[也]。[□□者]，所以当堞也<sup>③③</sup>。发者<sup>③④</sup>，所以当俾堞也<sup>③⑤</sup>。长兵次之，所以救其隋也。纵次之者，所以为长兵[□]也。短兵次之者，所以难其归而邀其衰也<sup>③⑥</sup>。弩次之者，所以当投机也<sup>③⑦</sup>。中央无人，故盈之以□……卒已定，乃具其法。制曰：以弩次蒺藜，然后以其法射之。垒上弩戟分。法曰：见使谍来言而动□……□去守五里置侯，令相见也。高则方之，下则圆之。夜则举鼓，昼则举旗。”

……田忌问孙子曰：“子言晋邦之将荀息、孙轸之于兵也，未□……

……无以军恐不守。”忌子曰：“善。”田忌问孙子曰：“子言晋邦之将荀息、孙[轸]……  
……也，劲将之阵也。”孙子曰：“士卒……

……田忌曰：“善。独行之将也。……  
……言而后中。”田忌请问……  
……人。”田忌请问兵情奈何？……  
……见弗取。”田忌服问孙……  
……□彙□□□焉。”孙子曰：“兵之□……  
……□应之。”孙子曰：“伍□……  
……孙子曰：“□……  
……□见之。”孙子……  
……以也。”孙……  
……将战书孤<sup>③⑧</sup>，所以哀正也。诛□规旗，所以严后也。善为阵者，必□□贤……  
……明之吴越，言之于齐。曰知孙氏之道者，必合于天地。孙氏者……  
……求其道，国故长久。”孙子……  
……□问知道奈何。”孙子……  
……而先知胜不胜之谓知道。□战而知其所……

……所以知敌，所以曰智。故兵无……。

## 选 卒

孙子曰：“兵之胜在于选卒，其勇在于制<sup>③</sup>，其巧在于势，其利在于信，其德在于道，其富在于亟归，其强在于休民，其伤在于数战。孙子曰：德行者，兵之厚积也，信者，兵明赏也。恶战者，兵之王器也。取众者，胜□□□也。孙子曰：“恒胜有五：得主专制<sup>④</sup>，胜。知道，胜。得众，胜。左右和，胜。量敌计险，胜。孙子曰：恒不胜有五：御将，不胜。不知道，不胜。乖将<sup>⑤</sup>，不胜。不用间，不胜。不得众，不胜。孙子曰：“胜在尽□……明赏，选卒，乘敌……之□。是谓太武之葆。孙子曰：不得主弗将也……

……□□令，一曰信，二曰忠，三曰敢。安忠？忠王。安信？信赏。安敢？敢去不善。不忠于王，不敢用其兵。不信于赏，百姓弗德。不敢去不善，百姓弗畏。

## 月 战

孙子曰：间于天地之间，莫贵于人。战□□□□不单。天时、地利、人和，三者不得，虽胜有殃。是以必付与而□战，不得已而后战。故抚时而战<sup>⑥</sup>，不复使其众。无方而战者小胜以付磨者也<sup>⑦</sup>。孙子曰：十战而六胜，以星也。十战而七胜，以日者也。十战而八胜，以月者也。十战而九胜，月有……〔十战〕而十胜，将善而生过者也。一单……

……所不胜者也五，五者有所壹，不胜。故战之道，有多杀人而不得将卒者，有得将卒而不得舍者，有得舍而不得将军者，有覆军杀将者。故得其道，则虽欲生不可得也。

## 八 阵

孙子曰：智不足，将兵，自恃也。勇不足，

将兵，自广也。不知道，数战不足<sup>⑧</sup>，将兵，幸也。夫安万乘国，广万乘王，全万乘之民命者，唯知道。知道者，上知天之道，下知地之理，内得其民之心，外知敌之情，阵则知八阵之经，见胜而战，弗见而诤<sup>⑨</sup>，此王者之将也。

孙子曰：用八阵战者，因地之利，用八阵之宜。用阵三分，海阵有锋<sup>⑩</sup>，海锋有后，皆待令而动。斗一，守二。以一侵敌，以二收。敌弱以乱，先其选卒以乘之。敌强以治，先其下卒以诱之。车骑与战者，分以为三，一在于右，一在于左，一在于后，易则多其车，险则多其骑，厄则多其弩。险易必知生地、死地，居生击死<sup>⑪</sup>。

## 地 葆

孙子曰：凡地之道，阳为表，阴为里，直者为纲，术者为纪<sup>⑫</sup>。纪纲则得，阵乃不惑。直者毛产，术者半死。凡战地也，日其精也，八风将来，必勿忘也。绝水、迎陵、逆流、居杀地、迎众树者<sup>⑬</sup>，均举也<sup>⑭</sup>，五者皆不胜。南阵之山，生山也。东阵之山，死山也。东注之水，生水也。北注之水，死水。不流，死水也。五地之胜曰：山胜陵，陵胜阜，阜胜陈丘，陈丘胜林平地。五草之胜曰：藩、棘、楮、茅、莎。五壤之胜：青胜黄，黄胜黑，黑胜赤，赤胜白，白胜青。五地之败曰：谿、川、泽、斥。五地之杀曰：天井、天宛、天离、天隙、天招。五墓，杀地也，勿居也，勿□也。春毋降，秋毋登。军与阵皆毋政前右<sup>⑮</sup>，右周毋左周<sup>⑯</sup>。

## 势 备

孙子曰：夫含齿戴角，前爪后距，喜而合，怒而斗，天之道也，不可止也。故无天兵者自为备，圣人之事也。黄帝作剑，以阵象之<sup>⑰</sup>。羿作弓弩，以势象之。禹作舟车，以变象之。汤武作长兵，以权象之。凡此四者，

兵之用也。何以知剑之为阵也？旦暮服之<sup>⑤1</sup>，未必用也。故曰，阵而不战，剑之为阵也。剑无锋，虽孟贲<sup>⑤2</sup>（之勇），不敢□□□。阵无锋，非孟贲之勇也敢将而进者，不知兵之至也。剑无首铤<sup>⑤3</sup>，虽巧士不能进（□）□。阵无后，非巧士敢将而进者，不知兵之情者。故有锋有后，相信不动，敌人必走。无锋无后，……□券不道、何以知弓弩之为势也，发于肩膊之间，杀人百步之外，不识其所道至<sup>⑤4</sup>。故曰，弓弩势也。何以（知舟车）之为变也？高则……何以知长兵之（为）权也？击非高下非……□卢毁肩。故曰，长兵权也。凡此四……中之近……也，视之近，中之远。权者，昼多旗，夜多鼓，所以送战也<sup>⑤5</sup>。凡此四者，兵之用也。□皆以为用，而莫彻其道。……□功。凡兵之四道：曰阵，曰势，曰变，曰权。察此四者，所以破强敌，取猛将也。

……之有锋者，迭阵□也，爵……

……□得四者生，失四者死，□□□□……

## 兵 情

孙子曰：若欲知兵之情，弩矢其法也。矢，卒也。弩，将也。发者，主也<sup>⑤6</sup>。矢，金在前，羽在后，故犀而善走<sup>⑤7</sup>。前……□令治卒则后重而前轻，阵之则辨<sup>⑤8</sup>，趣之敌则不听，人治卒不法矢也。弩者，将也。弩张柄不正，偏强偏弱而不和，其两洋之送矢也不壹，矢虽轻重得，前后适，犹不中（招也）<sup>⑤9</sup>。……□□□将之用心不和……得，犹不胜敌也。矢轻重得，前（后）适，而弩张正，其送矢壹，发者非也，犹不中招也。卒轻重得，前……兵□□□□□□□犹不胜敌也。故曰，弩之中彀合于四<sup>⑥0</sup>，兵有功……将也，卒也，□也。故曰，兵胜敌也，不异于弩之中招也。此兵之道也。

……所循以成道也。知其道者，兵有功，主有名。

## 行 选

孙子曰：用兵移民之道<sup>⑥1</sup>，权衡也。权衡，所以选贤取良也。阴阳，所以聚众合敌也<sup>⑥2</sup>。正衡再累……既忠，是谓不穷<sup>⑥3</sup>。称乡悬衡<sup>⑥4</sup>，虽其宜也。私公之财壹也。夫民有不足于寿而有余于货者，有不足于货而有余于寿者，唯明王、圣人知之，故能留之。死者不毒<sup>⑥5</sup>，夺者不愠。此无穷……□□□□民皆尽力，近者弗则远者无能。货多则辨<sup>⑥6</sup>，辨则民不德其上。货少则□，□则天下以为尊。然则为民贼也<sup>⑥7</sup>。吾所以为贼也，此兵之久也。用兵之……

## 杀 士

孙子曰：明爵禄而……

……杀士则士□□□□□……

……知之。知士可信，毋令人离之。必胜乃战，毋令人知之。当战毋忘旁毋……

……必审而行之，士死……

## 延 气

孙子曰：合军聚众，（务在激气）<sup>⑥8</sup>。复徙合军，务在治兵利气<sup>⑥9</sup>。临境近敌，务在厉气。战日有期，务在断气<sup>⑦0</sup>。今日将战，务在延气<sup>⑦1</sup>。……以威三军之士，所以激气也。将军令……其令，所以利气也。将军乃……短衣絮裘，以劝士志，所以厉气也。将军令，令军人人为三日粮，国人家为……（所以）断气也。将军召将卫人者而告之曰：饮食毋……（所）以延气……也。延气。

……营也<sup>⑦2</sup>。以易营之<sup>⑦3</sup>，众而贵武，敌必败。气不利则拙，拙则不及，不及则失利，失利……

……气不厉则慑，慑则众□，众……

……□而弗救，身死家残。将军召使而勉之，击……

## 官 一

孙子曰：凡处卒利阵体甲兵者<sup>②6</sup>，立官则以身宜，贱令以采章<sup>②7</sup>，乘削以伦物<sup>②8</sup>，序行以[ ] [ ]，制卒以州闾<sup>②9</sup>，授正以乡曲<sup>③0</sup>，辨疑以旌舆<sup>③1</sup>，申令以金鼓，齐兵以从迹<sup>③2</sup>，庵结以人雄<sup>③3</sup>，邈军以索阵，茭肆以囚逆<sup>③4</sup>，陈师以危[ ]，射战以云阵<sup>③5</sup>，御果以羸渭<sup>③6</sup>，取喙以阖燧<sup>③7</sup>，即败以包[ ]，奔救以皮傅<sup>③8</sup>，燥战以错行<sup>③9</sup>，用[ ]以正[ ]，用轻以正散，攻兼用行城<sup>④0</sup>，[ ]地[ ] [ ]用方，迎陵而阵用刳，险[ ] [ ] [ ]用圜，交易武退用兵<sup>④1</sup>，[ ] [ ]陈临用方翼，汜战接盾用喙逢<sup>④2</sup>，囚险解谷以[ ]远，草豨沙荼以阳削<sup>④3</sup>，战胜而阵以奋国，而……为畏以山胠<sup>④4</sup>，秦拂以逶迤，便罢以雁行<sup>④5</sup>；险厄以杂管<sup>④6</sup>，还退以蓬错<sup>④7</sup>，绕山林以曲次<sup>④8</sup>，袭国邑以水则，辨夜退以明简<sup>④9</sup>，夜警以传节<sup>⑤0</sup>，厝入内寇以棺士<sup>⑤1</sup>，迂短兵以必舆<sup>⑤2</sup>，火输积以车<sup>⑤3</sup>，阵刃以锥行<sup>⑤4</sup>，阵少卒以合杂。合杂<sup>⑤5</sup>，所以御果也。修行连削<sup>⑤6</sup>，所以结阵也。云折重杂<sup>⑤7</sup>，所权趣也<sup>⑤8</sup>。森凡振陈<sup>⑤9</sup>，所以乘疑也。隐匿谋诈，所以钓战也。龙隋陈伏<sup>⑥0</sup>，所以山斗也。[ ] [ ]乖举，所以压津也。[ ] [ ]卒，所以[ ] [ ]也。不意待卒<sup>⑥1</sup>，所以昧战也<sup>⑥2</sup>。遏沟[ ]陈，所以合少也。疏削明旗，所以疑敌也。剽阵辒车<sup>⑥3</sup>，所以从遗也<sup>⑥4</sup>。椎下移师<sup>⑥5</sup>，所以备强也。浮沮而翼<sup>⑥6</sup>，所以燧斗也。裨祛簪避<sup>⑥7</sup>，所以莠桑<sup>⑥8</sup>也。简练剽便<sup>⑥9</sup>，所以逆喙也<sup>⑦0</sup>。坚阵敦[ ]，所以攻槽也。揆断藩薄<sup>⑦1</sup>，所以眩疑也。伪遗小亡，所以魄敌也。重害，所以茭[ ]也。顺明到声，所以夜军也。佰奉离积<sup>⑦2</sup>，所以利胜也。刚者，所以御劫也。更者，所以过[ ]也。[ ]者，所以御[ ]也。[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]。[ ]者，所以厌[ ]也。胡退[ ]人<sup>⑦3</sup>，所以解困也。

……[ ]令以金……

……云阵，御果……

……胠，秦拂以逶迤，便罢……

……夜退以明简，，夜警……

……舆，火输积以车，阵……

……龙隋陈……

……也。简练[ ]便，所以逆……

……断藩薄，所以眩……

……所以魄敌也，重害，所……

……奉离积，所以利……

## 强兵

……威王问孙子曰：“[ ] [ ] [ ]……[ ]齐士教寡人强兵者，皆不同道。……〔有〕教寡人以政教者，有教寡人以……〔有教〕寡人以散粮者，有教寡人以静者，……之教[ ] [ ]行之教奚……〔孙子曰〕：“……皆非强兵之急者也。”威〔王〕……[ ] [ ]。孙子曰：“富国。”威王曰：“富国……[ ]厚威王、宣王以胜诸侯，至于……

……将胜之，此齐之所以大败燕……

……众乃知之，此齐人所以大败楚人反……

……大败赵……

…[ ]人于智桑而擒汜皋也。

……擒唐[ ]也。

……擒[ ]罟……

## 十 阵

凡阵有十：有方阵，有元阵，有疏阵，有数阵，有锥行之阵，有雁行之阵，有勾行之阵，有玄襄之阵，有火阵，有水阵。此皆有所利。方阵者，所以刳也<sup>⑦4</sup>。元阵也，所以转也。疏阵者，所以吴也。数阵者，为不可掇。锥行之阵者，所以决绝也<sup>⑦5</sup>。雁行之阵者，所以接射也<sup>⑦6</sup>。勾行之阵者，所以变质易虑也<sup>⑦7</sup>。玄襄之阵者，所以疑众难故也。火阵者，所以拔也。水阵者，所以伥固也。

方阵之法，必薄中厚方，居阵在后<sup>⑦8</sup>。

中之薄也，将以吴也。重□其□，将以刳也。居阵在后，所以□……

元阵之法……

疏阵之法，其甲寡而人之少也，是故坚之。武者在旌旗，是人者在兵。故必疏钜间<sup>②</sup>，多其旌旗羽旄，砥刃以为旁。疏而不可蹙，数而不可军者，在于慎。车毋弛，徒人毋趋。凡疏阵之法，在为数丑<sup>③</sup>，或进或退，或击或殒，或与之征<sup>④</sup>，或要其衰<sup>⑤</sup>。然则疏可以取锐矣。

数阵之法，毋疏钜间，戚而行首<sup>⑥</sup>，积刃而信之，前后相保，变□□□，甲恐则坐<sup>⑦</sup>，以声坐□，往者弗送，来者弗止，或击其迂，或辱其锐，笄之而无间，轹山而退。然则数不可掇也。

锥行之阵，卑之若剑<sup>⑧</sup>，末不锐则不入，刃不薄则不刳，本不厚则不可以列阵。是故未必锐，刃必薄，本必鸿<sup>⑨</sup>。然则锥行之阵可以决绝矣。

〔雁行之阵〕……中。此谓雁阵之任<sup>⑩</sup>。前列若鹢，后列若狸，三……□□□阙罗而自存。此之谓雁阵之任。

勾行之阵，前列必方，左右之和必勾。三声既全，五采必具，辨吾号声，知五旗。无前无后，无……

玄襄之阵，必多旌旗羽旄，鼓罪罪庄，甲乱则坐，车乱则行，已治者□，檣檣啐啐，若从天下，若从地出，徒来而不屈<sup>⑪</sup>，终日不拙。此之谓玄襄之阵。

火战之法，沟垒已成，重为沟堑，五步积薪，必均疏数，从役有数，令人为属枇，必轻必利，风辟……□火既自覆，与之战弗克，坐行而北。火战之法，下而衍以殄<sup>⑫</sup>，三军之士无所出泄<sup>⑬</sup>。若此，则可火也。陵薮蒋苻，薪堯既积，营窟未谨。如此者，可火也。以火乱之，以矢雨之，鼓噪敦兵，以势助之。火战之法。

水战之法，必众其徒而寡其车，令之为勾楷从祖貳辑□绛皆具。进则必遂，退则不蹙，方蹙从流<sup>⑭</sup>，以敌之人为招<sup>⑮</sup>。水战之

法，便舟以为旗，弛舟以为使，敌往则遂，敌来则蹙，推攘因慎而饬之，移而革之<sup>⑯</sup>，阵而□之，规而离之。故兵有误车有御徒<sup>⑰</sup>，必察其众少，击舟殒津<sup>⑱</sup>，示民徒来。水战之法。

## 十 问

兵问曰：“交和而舍<sup>⑲</sup>，粮食均足，人兵敌衡<sup>⑳</sup>，客主两惧。敌人圆阵以胥<sup>㉑</sup>，因以为固。击〔之奈何？曰〕：击此者，三军之众分而为四五，或傅而佯北<sup>㉒</sup>，而示之惧。彼见我惧，则遂分而不顾<sup>㉓</sup>。因以乱毁其固。鼙鼓同举，五队俱傅。五队俱至，三军同利。此击圆之道也。

交合而舍，敌富我贫，敌众我少，敌强我弱，其来有方，击之奈何？曰：击此者，□阵而□之，规而离之，合而佯北，杀将其后，勿令知之。此击方之道也。

交和而舍，敌人既众以强。劲捷以刚，锐阵以胥，击之奈何？击此者，必三而离之，一者延而衡，二者〔□□□□□〕恐而下惑，上下既乱，三军大北。此击锐之道也。

交和而舍，敌既众以强，延阵以衡，我阵而待之，人少不能，击之奈何？击此者，必将三分我兵，练我死士，二者延阵长鬯，一者材士练兵，期其中极<sup>㉔</sup>。此杀将击衡之道也。

交和而舍，我人兵则众，车骑则少，敌人十倍，击之奈何？击此者，当保险带隘，慎避广易。故易则利车，险则利徒。此击车之道也。

交和而舍，我车骑则众，人兵则少，敌人十倍，击之奈何？击此者，慎避险阻，决而导之，抵诸易<sup>㉕</sup>。敌虽十倍，使我车骑，三军可击。此击徒人之道也。

交和而舍，粮食不属，人兵不足恃，绝根而攻，敌人十倍，击之奈何？曰：击此者，敌人既□而守阻，我……反而害其虚。此击争□之道也。

交和而舍，敌将勇而难惧，兵强人众自固，三军之士皆勇而无虑。其将则威，其兵则武，而吏强粮接，诸侯莫之或待。击之奈何？曰：击此者，告之不敢，示之不能，坐拙而待之，以骄其意，以惰其志，使敌弗识。因击其不□，攻其不御，压其怠，攻其疑。彼既贵既武，三军徙舍，前后不相睹，故中而击之，若有徒与。此击强众之道也。

交和而舍，敌人保山而带阻，我远则不接，近则无所，击之奈何？击此者，彼敛阻移□□□□□则危之。攻其所必救，使离其固，以揆其虑，施伏设爰，击其移庶。此击保固之道也。

交和而舍，客主两阵，敌人形箕，计敌所愿，欲我陷覆，击之奈何？击此者，渴者不饮，饥者不食，三分用其二，期于中极，彼既□□，材士练兵，击其两翼，□彼□喜□□三军大北。此击箕之道也。

## 略 甲

略甲之法，敌之人方阵□□无□……

……欲击之，其势不可，夫若此者，下之□……

……□以国章，欲战若狂，夫若此者，少阵……

……□反，夫若此者，以众卒从之，选卒因之，必将……

……选卒因之，必……

……左右旁伐以相趋，此谓钐勾击。

……之气不藏于心，三军之众□循之知不……

……将分□军以修□□□□寡而民……

……□威□□其难将之□也。分其众，乱其……

……阵不厉，故列不……

……□远掄之，敌倦以远……

……治，孤其将，荡其心，击……

……其将勇，其卒众□……

……彼大众将之……

……卒之道……

## 客主人分

兵有客之分，有主人之分。客之分众，主人之分少。客倍主人半，然可敌也。负……定者也。客者，后定者也。主人安地抚势以胥<sup>⑤</sup>。夫客犯隘逾险而至，夫犯隘……退敢刎颈，进不敢拒敌，其故何也？势不便，地不利也。势便地利则民自□□……自退。所谓善战者，便势利地者也。带甲数十万，民有余粮弗得食也，有余……居兵多而用兵少也，居者有余而用者不足。带甲数十万，千千而出，千千而□之□……万万以遗我。所谓善战者，善剪断之，如□会挽者也。能分人之兵，能按人之兵，则锱〔铢〕而有余。不能分人之兵，不能按人之兵，则数倍而不足。众者胜乎？则投算而战耳。富者胜乎？则量粟而战耳。兵利甲坚者胜乎？则胜易知矣。故富未居安也，贫未居危也；众未居胜也，少〔未居败也〕。以决胜败安危者，道也。敌人众，能使之分离而不相救也，受敌者不得相……以为固，甲坚兵利不得以为强，士有勇力不得以卫其将，则胜有道矣。故明主、知道之将必先□，可有功于未战之前，故不失；可有之功于已战之后，故兵出而有功，人而不伤，则明于兵者也。

……焉。为人客则先人作□……

……兵曰：主人逆客于境，□……

……客好事则□……

……使劳，三军之士可使毕失其志，则胜可得而据也。是以按左扶右<sup>⑥</sup>，右败而左弗能救；按右扶左，左败而右弗能救。是以兵坐而不起，避而不用，近者少而不足用，远者疏而不能……

## 善 者

善者，敌人军□人众，能使分离而不相救也，受敌而不相知也。故沟深垒高不得以

力而不车坚兵利不得以为威，士有勇力而不得以为强。故善者制险量阻<sup>⑤</sup>，敦三军<sup>⑥</sup>，利屈伸，敌人众能使寡，积粮盈军能使饥，安处不动能使劳，得天下能使离，三军和能使柴。故兵有四路、五动：进，路也；退，路也；左，路也；右，路也。进，动也；退，动也；左，动也；右，动也；默然而外，亦动也。善者四路必彻，五动必工。故进不可迎于前，退不可绝于后，左右不可陷于阻，默（然而处，□□）于敌之人。故使敌四路必穷，五动必忧。进则傅于前，退则绝于后，左右则陷于阻，默然而处，军不免于患。善者能使敌卷甲趋远<sup>⑦</sup>，倍道兼行，倦病而不得息，饥渴而不得食。以此薄敌，战必不胜矣。我饱食而待其饥也，安处以待其劳也，正静以带其动也。故民见进而不见退，蹈白刃而不还踵。

## 五名五恭

兵有五名：一曰威强；二曰轩骄<sup>⑧</sup>，三曰刚至，四曰助忌<sup>⑨</sup>，五曰重柔。夫威强之兵，则屈软而待之；轩骄之兵，则恭敬而久之；刚至之兵，则诱而取之；助忌之兵，则薄其前，噪其旁，深沟高垒而难其粮；重柔之兵，则噪而恐之，振而捅之，出则击之，不出则回之<sup>⑩</sup>。五名

兵有五恭五暴。何谓五恭？入境而恭，军失其常。再举而恭，军无所粮。三举而恭，军失其事。四举而恭，军无食。五举而恭，军不及事。入境而暴，谓之客。再举而暴，谓之华。三举而暴，主人惧。四举而暴，卒士见诈<sup>⑪</sup>。五举而暴，兵必大耗。故五恭、五暴，必使相错也<sup>⑫</sup>。五恭

## 兵 失

欲以敌国之民之所不安，正俗所……难敌国兵之所长，耗兵也。欲强多国之所寡<sup>⑬</sup>，以应敌国之所多，速屈之兵也。备固，不能

难敌之器用，陵兵也<sup>⑭</sup>。器用不利，敌之备固，挫兵也。兵不……□者也。善阵，知背向，知地形，而兵数困，不明于国胜兵胜者也。民□……兵不能昌大功，不知会者也<sup>⑮</sup>。兵失民，不知过者也。兵用力多功少，不知时者也。兵不能胜大患，不能合民心者也。兵多悔，信疑者也。兵不能见福祸于未形，不知备者也。兵见善而怠，时至而疑，去非而弗能居，止道也<sup>⑯</sup>。贪而廉，龙而敬<sup>⑰</sup>，弱而强，柔而……起道也。行止道者，天地弗能兴也。行起道者<sup>⑱</sup>，天地……

……之兵也。欲以国……

……□，内疲之兵也。多费不固□……

……□□见敌难服，兵尚淫天地……

……□而兵强国□□□……

……□兵不能……

## 将 义

将者不可以不义，〔不〕义则不严，〔不严〕则不威，〔不威〕则卒弗死<sup>⑲</sup>。故义者，兵之首也。将者不可以不仁，不仁则军不克，军不克则军无功。故仁者，兵之腹也。将者不可以无德，无德则无力，无力则三军之力不得。故德者，兵之手也。将者不可以不信，不信则令不行，令不行则军不转，军不转则无名<sup>⑳</sup>。故信者，兵之足也。将者不可以不智胜，不智胜……则军无□。故决者<sup>㉑</sup>，兵之尾也。将义

## 将 德

……赤子，爱之若狡童<sup>㉒</sup>，敬之若严师，用之若土芥，将军……

……不失，将军之智也。不轻寡，不劫于敌<sup>㉓</sup>，慎终若始<sup>㉔</sup>，将军……

……而不御，君令不入军门，将军之恒也。入军……

……将不两生，军不两存，将军之……

……□将军之惠也。赏不逾日，罚不还



面，②不维其人③，不何……

……外辰，此将军之德也。

## 将 败

将败：一曰不能而自能。二曰骄。三曰贪于位。四曰贪于财。(五曰□)。六曰轻。七曰迟。八曰寡勇。九曰勇而弱。十曰寡信。十一(曰)……十四曰寡决。十五曰缓。十六曰怠。十七曰□。十八曰贼④。十九曰自私。廿曰自乱⑤。多败者多失。

## 将 失

将失：一曰，失所以往来⑥，可败也。二曰，收乱民而还用之，止北卒而还斗之，无资而有资⑦，可败也。三曰，是非争，谋事辩讼⑧，可败也。四曰，令不行，众不壹，可败也。五曰，下不服，众不为用，可败也。六曰，民苦其师，可败也。七曰，师老⑨，可败也。八曰，师怀⑩，可败也。九曰，兵遁，可败也。十曰，兵□不□，可败也。十一曰，军数惊，可败也。十二曰，兵道足陷，众苦，可败也。十三曰，军事险固，众劳，可败也。十四(曰，□□)□备，可败也。十五曰，日暮路远，众有至气，可败也。十六曰，……可败也。十七(曰)，……众恐，可败也。十八曰，令数变，众偷⑪，可败也。十九曰，军淮⑫，众不能其将吏，可败也。廿曰，多幸⑬，众怠，可败也。廿一曰，多疑，众疑，可败也。廿二曰，恶闻其过，可败也。廿三曰，舆不能，可败也。廿四曰，暴露伤志⑭，可败也。廿五曰，期战心分⑮，可败也。廿六曰，恃人之伤气⑯，可败也。廿七曰，事伤人，恃伏诈，可败也。廿八曰，军舆无□，(可败也。廿九曰，□)下卒，众之心恶，可败也。卅曰，不能以成阵，出于夹道，可败也。卅一曰，兵之前行后行之兵，不参齐于阵前，可败也。卅二曰，战而忧前者后虚，忧后者前虚，忧左者右虚，忧右者

左虚。战而有忧，可败也。

## 雄牝城

城在淖泽之中⑰，无亢山名谷⑱，而有付丘于其四方者，雄城也，不可攻也。军食流水，(□□□，不可攻)也。城前名谷，背亢山，雄城也，不可攻也。城中高外下者，雄城也，不可攻也。城中有付丘者，雄城也，不可攻也。营军取舍⑲，毋回名水⑲，伤气弱志，可击也。城背名谷，无亢山其左右，虚城也。可击也。(□)尽烧者，死壤也，可击也。军食汜水者，死水也，可击也。城在发泽中，无名谷付丘者，牝城也，可击也。城在亢山间，无名谷付丘者，牝城也，可击也。城前亢山，背名谷，前高后下者，牝城也，可击也。

## 五度九夺

……□矣。救者至，又重败之。故兵之大数⑲，五十里不相救也。况近(□□□□□)数百里，此程兵之极也⑲。故兵曰：积弗如，勿与持久，众弗如，勿与接和。(□弗如，勿与□□。□弗如，勿)与□长。习弗如⑲，毋当其所长。五度既明，兵乃横行。故兵……趋敌数。一曰取粮。二曰取水。三曰取津。四曰取途。五曰取险。六曰取易。七曰(取□。八曰取□。九)曰取其所独贵。凡九夺，所以趋敌也。

## 积 疏

……(积)胜疏，盈胜虚，径胜行⑲，疾胜徐，众胜寡，佚胜劳。积故积之⑲，疏故疏之，盈故盈之，虚(故虚之，径故径)之，行故行之，疾故疾之，(徐故徐之，众故众)之，寡故寡之，佚故佚之，劳故劳之。积疏相为变，盈虚(相为变，径行相为)变，疾徐相为变，众寡相(为变，佚劳相)为变。毋以

积当积，毋以疏当疏，毋以盈当盈，毋以虚当虚，毋以疾当疾，毋以徐当徐，毋以众当众，毋以寡当寡，毋以佚当佚，毋以劳当劳。积疏相当<sup>③⑨</sup>，盈虚相[当，径行相当，疾徐相当，众寡]相当，佚劳相当。敌积故可疏，盈故可虚，径故可行，疾[故可徐，众故可寡，佚故可劳]。……

## 奇 正

天地之理，至则反<sup>②⑩</sup>，盈则败，□□是也。代兴代废<sup>②⑪</sup>，四时是也。有胜有不胜，五行是也。有生有死，万物是也。有能有不能，万生是也。有所有余，有所不足，形势是也。故有形之徒，莫不可名。有名之徒<sup>②⑫</sup>，莫不可胜。故圣人以万物之胜胜万物，故其胜不屈<sup>②⑬</sup>。战者，以形相胜者也。形莫不可以胜，而莫知其所以胜之形。形胜之变，与天地相蔽而不穷。形胜，以楚、越之竹书之而不足。形者，皆以其胜胜者也。以一形之胜胜万形，不可。所以制形壹也，所以胜不可壹也。故善战者，见敌之所长，则知其所短；见敌之所不足，则知其所有余。见胜如见日月。其错胜也<sup>②⑭</sup>，如以水胜火。形以应形，正也；无形而制形，奇也。奇正无穷，分也。分之以奇数，制之以五行，斗之以□□。分定则有形矣，形定则有名[矣。□□□□□□□□]，同不足以相胜也，故以异为奇。是以静为动奇，佚为劳奇。饱为饥奇，治为乱奇，众为寡奇。发而为正，其未发者奇也。奇发而不报，则胜矣。有余奇者，过胜者也。故一节痛<sup>②⑮</sup>，百节不用<sup>②⑯</sup>，同体也。前败而后不用，同形也。故战势，大阵□断，小阵□解。后不得乘前，前不得蹙后。进者有道出，退者有道入。赏未行，罚未用，而民听令者。其令，民之所能行也。赏高罚下<sup>②⑰</sup>，而民不听其令者，其令，民之所不能行也。使民虽不利，进死而不旋踵，孟贲之所难也，而责之民，是使水逆流也。故战势，胜者益之<sup>②⑱</sup>，败者代之，劳者息之，饥者食之。故

民见□人而未见死，蹈白刃而不旋踵。故行水得其理，漂石折舟<sup>②⑲</sup>；用民得其性，则令行如流。

### 注释：

①带甲：军队。②竟：通“境”。③徙舍：拔营，开赴。④铍：通“彼”。⑤末甲：前锋部队。⑥段：借为断。⑦蚁附：古代攻城方法之一。⑧术：谋略计划。⑨兼取舍：急行军。⑩社：土神。稷：谷神。⑪乐兵：好战。⑫委：物资储备。⑬积：求，取。⑭式：用。⑮垂衣裳：不进行战争。⑯绳：纠正。⑰尝：试探。⑱赞师：寻敌决战的部队。⑲毁卒乱行：使阵列显得混乱，以诱惑敌人。⑳能：同“疲”。㉑击均：攻击势均力敌的敌人。㉒营：迷惑。㉓鼓而坐之：用进攻来挫败敌人。㉔揄：引，挑动。㉕正乱：整饬军纪。㉖倅：通“萃”。㉗埤：通“碑”，城垛。㉘正：通“政”。㉙篡：取也。㉚众卒：一般士卒。㉛蒺藜：带刺的障碍物。㉜沟池：护城河。㉝堞：城墙上的矮墙。㉞发：即盾。㉟埤垝(pì ni)：城垛。㊱微：通“邀”，截击。衰：疲惫。㊲投机：投射。㊳柎：古人在其上面写字用的多棱的木条。㊴制：制度、法纪。㊵得主专制：将帅得到君主的信任，有指挥作战的全权。㊶乖：离异。㊷抚：按。㊸方：原则，规律之义。磨：西周时对奴隶、俘虏的称呼。㊹数战不足：没有打过几次战。㊺净：即静。㊻锋：本文指先锋部队。㊼生：本文指有利地形。死：指不利地形。㊽术：本文指分歧曲折的道路。㊾绝水：渡水。迎陵：面向高山。杀地：极不利的地形。㊿均：通“均”。举：攻战。①政：通“正”，面向。②右：古人以右为上，故“上”之义。周：周匝环绕。③象：象征、比喻。④服：佩带。⑤首铤：剑的把柄。⑥道：由。⑦送战：指挥军队向前与敌交战。⑧发者：指发射的人。⑨犀：锐利。⑩辨：同办。⑪招：箭靶。⑫毅：箭靶。⑬移：归附。⑭合敌：同敌人交战。⑮是谓不穷：义为左右逢源，没有办不到的事。⑯称乡悬衡：称：选拔。乡：本文指赏赐。衡：天平。⑰毒：痛恨。⑱辨：本文指

任意挥霍。⑥⑨：本文指积聚财富。⑦⑩：激气：激发士气。⑦⑪：利气：增强士气。⑦⑫：断气：使士卒果敢，有决心。⑦⑬：延气：继续保持高昂的士气。⑦⑭：营：迷惑。⑦⑮：易：轻视。⑦⑯：处卒：本文指配置军队。体甲兵：指统帅军队。⑦⑰：令：尊长。采章：彩色的旗帜、章服。⑦⑱：乘：升。削：贬。伦：比较。物：职事。⑦⑲：州间：州里。⑧⑩：正：长。⑧⑪：旌舆：绘有鸟纹的旗。⑧⑫：齐兵：整齐队伍。从迹：紧随前行的步伐。⑧⑬：结：集结。人雄：勇武过人的人。⑧⑭：囚：本文指防止。逆：乱。⑧⑮：射战：用弓矢作战。云陈：一种蜿蜒曲折的横队。⑧⑯：御：抵御。裹：包围。谓：布置。⑧⑰：喙：鸟嘴。阖：封闭，阻塞。燧：通“遂”，道路。⑧⑱：奔：急驰。皮：包在外边。傅：迫近。⑧⑲：燥战：火战。⑨⑩：兼：本文为坚固之义。⑨⑪：交易：在平原地作战。武退：急速撤退。⑨⑫：逢：担任。⑨⑬：阳削：开辟道路。⑨⑭：畏：有戒心。⑨⑮：便罢：暂时停留。⑨⑯：杂管：集中兵力。⑨⑰：蓬：本文为隐蔽之义。错：交错进行。⑨⑱：曲：部曲、编制。次：次序。⑨⑲：简：文书。⑩⑩：节：符节。⑩⑪：厝人内寇：突入的敌人。⑩⑫：必：通“秘”，兵器的柄。舆：车。⑩⑬：输积：运输中的物资。⑩⑭：陈刃：陈势的前锋。⑩⑮：合杂：本文指集中兵力。⑩⑯：修行连削：整顿行列，联接队伍。⑩⑰：折：曲。重杂：重迭。⑩⑱：权：权衡、应付。纒：同“躁”，指紧急情况。⑩⑲：蒺风振陈：比喻部队勇猛神速。⑪⑩：龙：山势。隋：垂下。陈伏：布置伏兵。⑪⑪：不意待卒：让身边的士卒也料想不到。⑪⑫：昧：本文指保守机密。⑪⑬：棧车：快速的战车。⑪⑭：从遗：追击逃跑的敌人。⑪⑮：椎：打击。移师：转移军队。⑪⑯：沮：低湿的地方。⑪⑰：禅括：单衣光头。即不甲不冑。⑪⑱：莠桑：引诱敌人追击。⑫⑩：简练：挑选训练。剽便：行动敏捷。⑫⑪：逆：抵抗。喙：敌人的前锋部队。⑫⑫：揆断藩薄：揆断：故意拆断。藩薄：草木构成的屏障。⑫⑬：佰奉离积：控制敌国境内各地的储备物资。⑫⑭：胡退：远远摆脱敌人。⑫⑮：刳(zhuān)：本文指粉碎敌人。⑫⑯：决绝：突破而分割之。⑫⑰：接射：便利之义。⑫⑱：质：目的、企图。虑：指作战的方针、计划。⑬⑩：居阵：暂不动用的军队。

⑬⑪：同“距”。⑬⑫：数丑：几个小群。⑬⑬：征：惧怕。⑬⑭：要：截击。⑬⑮：戚：近。行：行列。⑬⑯：坐：本文指稳定陈势。⑬⑰：卑：借为譬。⑬⑱：本：指剑身，本文指主力部队。鸿：大。⑭⑩：任：作用。⑭⑪：徒：步兵。屈：穷尽。⑭⑫：衍：低而平坦的地形。⑭⑬：无所出泄：无处逃脱。⑭⑭：从流：顺着流向。⑭⑮：招：箭靶。⑭⑯：革：改变。⑭⑰：误：同悞。⑭⑱：津：渡口。⑭⑲：交和而舍：两军相对，准备交战。⑭⑲：敌：相当。⑭⑲：胥：等待。⑭⑲：傅：借为溥，迫近、接触。⑭⑲：遂：借为队。⑭⑲：期其中极：集中兵力进行中央突破。⑭⑲：抵诸易：在平坦地形上与敌作战。⑭⑲：抚势以胥：凭借良好地形，严陈以待。⑭⑲：按左扶右：牵制敌人之左翼，而攻击其右翼。⑭⑲：制险量阻：能判断地形，利用险阻。⑭⑲：敦：督促。屈伸：进、退。⑭⑲：卷甲趋远：卷起铠甲，向远方急进。⑭⑲：轩骄：高傲骄横。⑭⑲：助忌：本文贪婪之义。⑭⑲：回：围。⑭⑲：见诈：受骗。⑭⑲：相错：交替使用。⑭⑲：强多：勉强增加。⑭⑲：陵兵：被压制的军队。⑭⑲：会：集中兵力会合。⑭⑲：止道：走向灭亡的道路。⑭⑲：龙而敬：骄傲的能使之谨慎。⑭⑲：起道：兴旺发达，走向胜利的道路。⑭⑲：卒弗死：士卒不肯效死。⑭⑲：传：专制、统一。名：功名、功绩。⑭⑲：决：果断。⑭⑲：狡：年少而美好可爱。⑭⑲：不劫于敌：不为强大敌人所逼迫。⑭⑲：慎终若始：意谓自始至终都谨慎行事。⑭⑲：还面：转过脸。⑭⑲：不维其人：有功当天赏。⑭⑲：贼：残暴。⑭⑲：自乱：即朝令夕改自己制造混乱。⑭⑲：失所以往来：意谓军队行动漫无目的，当往不往，当来不来。⑭⑲：无资而有资：本无实力而自以为有实力。⑭⑲：谋事辩讼：在谋划大事时，总是辩论争吵不休，不能作出决定。⑭⑲：师老：士卒长期出征在外，不得休息。⑭⑲：师怀：士卒有所挂念。⑭⑲：偷：苟且敷衍。⑭⑲：军准：军心离散。⑭⑲：幸：偏爱、不公平。⑭⑲：暴露伤志：士卒长期在国外，挫伤了士气。⑭⑲：期战心分：临战之前军心涣散。⑭⑲：恃人之伤气：意谓所凭借的是敌人的斗志消沉。⑭⑲：津泽：低洼的沼泽。⑭⑲：名：大。⑭⑲：取舍：行军。⑭⑲：回：环绕。名水：大江大河。⑭⑲：大数：大要。⑭⑲：程：衡量。⑭⑲：习：训练。⑭⑲：径：小

路。行：大道。①⑨积故积之：该集中的就使其集中。①⑩积疏相当：集中和分散相对。②⑪至：发展到了尽头。盈：圆满。②⑫代：更替。②⑬有名之徒：能认识的事物。②⑭屈：穷尽。②⑮错：同“措”，措置。②⑯故一节痛：意谓身上有一处病痛。②⑰百节不用：全身就都不灵活、舒服。②⑱赏高罚下：本文是赏罚高下，即不论赏罚轻重的意思。②⑲益：增。②⑳漂石折舟：《孙子·势》“激水之疾，至于漂石者，势也。”

## 《尉繚子》

### 题解：

《尉繚子》是战国时期成书的古老军事谋略著作。相传为战国时尉繚所著。由于尉繚其人其事无史书记载，有人便断定《尉繚子》是伪书。1972年银雀山汉墓出土了《尉繚子》残简，证明此书在西汉前期已流传于世，成书当在西汉以前。

《尉繚子》现存24篇，近万字。其军事谋略可概括为“分本末，别宾主，明赏罚”。论述了对战争的总的看法，支持正义战争，反对非正义战争；论述了战争和政治、经济的关系，提出“以武为植，以文为种；武为表，文为里”的观点，强调只有民富国强，才能本固兵坚。这是就战略上讲的。在作战谋略上，也提出许多有价值的观点，如：“先料敌而后动，是以击虚夺之也”的侦察敌情、避实击虚的谋略；“故战者，必本乎率身以励众士，如心之使四肢也”的协调一致、上下齐心的谋略；“胜兵似水”的以柔克刚的谋略等等。

## 兵谈第二

量土地肥硇而立邑、建城。以城称地，以地称人，以人称粟。三相称，则内可以固守，外可以战胜。战胜于外，备主于内，胜备相用，犹合符节，无异故也。

治兵者，若秘于地，若邃于天，生于无。

开塞③，大不窕，小不恢。明乎禁舍开塞④，民流者亲之，地不任者任之。夫土广而任，则国富；民众而制，则国治。富治者，民不发轹，甲不出暴，而威制天下。故曰兵胜于朝廷。不暴甲而胜者，主胜也；陈而胜者，将胜也。

兵起，非可以忿也。见胜则兴，不见胜则止。患在百里之内，不起一日之师；患在千里之内，不起一月之师；患在四海之内，不起一岁之师。

将者，上不制于天，下不制于地，中不制于人；宽不可激而怒，清不可事以财。

夫心狂、耳聋、目盲，以三悖率人者，难矣。

兵之所及，羊肠亦胜，锯齿亦胜，缘山亦胜，入谷亦胜，方亦胜，圆亦胜。重者如山如林，如江如河；轻者如炮如燔，如垣压之，如云覆之，令人聚不得以散，散不得以聚；左不得以右，右不得以左。兵如总木，弩如羊角；人人无不腾陵张胆，绝乎疑虑，堂堂决而去。

## 制谈第三

凡兵，制必先定。制先定则士不乱，士不乱则形乃明①。金鼓所指，则百人尽斗；陷行乱阵，则千人尽斗；覆军杀将，则万人齐刃。天下莫能当其战矣。

古者士有什伍，车有偏列。鼓鸣旗麾，先登者未尝非多力国土也，先死者亦未尝非多力国土也。损敌一人而损我百人，此资敌而损我甚焉，世将不能禁②。征役分军而逃归，或临战自北，则逃伤甚焉，世将不能禁。杀人于百步之外者弓矢也。杀人于五十步之内者矛戟也。将已鼓，而士卒相噉，拗矢③、折矛、抱戟，利后发。战有此数者，内自败也，世将不能禁。士失什伍，车失偏列，奇兵[捐]将而走，大众亦走，世将不能禁。夫将能禁此四者，则高山陵之，深水绝之，坚阵犯之。不能禁此四者，犹亡舟楫绝江河，

不可得也。

民非乐死而恶生也，号令明，法制审，故能使之前。明赏于前，决罚于后，是以发能中利，动则有功。令百人一卒，千人一司马，万人一将，以少诛众，以弱诛强。试听臣言其术，足使三军之众，诛一人无失刑。父不敢舍子，子不敢舍父，况国人乎。

一武夫仗剑击于市，万人无不避之者。臣谓非一人之独勇，万人皆不肖也。何则？必死与必生，固不侔也，听臣之术，足使三军之众为一死，贼莫敢当其前，莫敢随其后，而能独出独入焉。独出独入者，王霸之兵也。

有提十万之众而天下莫当者谁？曰：桓公也。有提七万之众而天下莫敢当者谁？曰：吴起也。有提三万之众而天下莫当者谁？曰：武子也。今天下诸侯国土，所率无不及二十万之众，然不能济功名者，不明乎禁、舍、开、塞也。明其制，一人胜之，则十人亦以胜之也；十人胜之，则百千万人亦以胜之也。故曰：使吾器用，养吾武勇，发之如鸟击，如赴千仞之溪。

今国被患者，以重币出聘，以爱子出质，以地界出割，得天下助卒，名为十万，其实不过数万尔。其兵来者，无不谓将曰：“无为人下先战。”其实不可得而战也。

量吾境内之民，无伍莫能正矣<sup>④</sup>。经制十万之众，而王必能使之衣吾衣，食吾食。战不胜、守不固者，非吾民之罪，内自致也。天下诸国助我战，犹良驥驂耳之馭，彼駑马警兴角逐，何能绍吾气哉<sup>⑤</sup>！

吾用天下之用为用，吾制天下之制为制。修吾号令，明吾刑赏，使天下非农无所得食，非战无所得爵，使民扬臂争出农战而天下无敌矣。故曰：发号出令，信行国内。民言有可以胜敌者，毋许其空言，必试其能战也。视人之地而有之，分人之民而畜之，必能内有其贤者也。不能内有其贤而欲有天下，覆军杀将。如此，虽战胜，而国益弱；得地，而国益贫；由国中之制弊也。

## 战威第四

凡兵有以道胜，有以威胜，有以力胜。讲武料敌，使敌之气失而师散，虽刑全而不为之用，此道胜也；审法制，明赏罚，便器用，使民有必战之心，此威胜也；破军杀将，乘堙发机，溃众夺地，成功乃返，此力胜也。王侯知此，所以三胜者毕矣。

夫将之所以战者，民也；民之所以战者，气也。气实则斗，气夺则走。

刑未加，兵未接，而所以夺敌者五：一曰庙胜之论，二曰受命之论，三曰逾垠之论，四曰深沟高垒之论，五曰举阵加刑之论。此五者，先料敌而后动，是以击虚夺之也。

善用兵者，能夺人而不夺于人。夺者心之机也。令者一众心也，众不审，则数变；数变，则令虽出，众不信矣。故令之之法：小过无更，小疑无中。故上无疑令，则众不二听；动无疑事，则众不二志。未有不信其心而能得其力者也，未有不能得其力而能致其死战者也。

故国必有礼信亲爱之义，则可以饥易饱；国必有孝慈廉耻之俗，则可以死易生。古者率民，必先礼信而后爵禄，先廉耻而后刑罚，先亲爱而后律其身。

故战者，必本乎率身以励众士；如心之使四肢也。志不励，则士不死节；士不死节，则众不战。励士之道：民之生，不可不厚也；爵列之等，死丧之亲，民之所营，不可不显也。必也因民所生而制之，因民所营而显之。田禄之实，饮食之亲，乡里相劝，死丧相救，兵役相从；此民之所励也。使什伍如亲戚，卒伯如朋友；止如堵墙，动如风雨；车不结轂，士不旋踵；此本战之道也。

地所以养民也，城所以守地也，战所以守城也。故务耕者，民不饥；务守者，地不危；务战者，城不围；三者先王之本务也。本务者兵最急，故先王专于兵有五焉：委积不多，则士不行；赏禄不厚，则民不劝；武

不壮；，则众不强；器用不备，则力不壮；刑赏不中，则众不畏。务此五者。静能守其所固，动能成其所欲。

夫以居攻出，则居欲重，陈欲坚，发欲毕，斗欲齐。

王国富民，霸国富士，仅存之国富大夫，亡国富仓府，所谓上满下漏，患无所救。故曰：举贤任能，不时日而事利；明法审令，不卜筮而获吉；贵功养劳，不祷祠而得福。又曰，天时不如地利，地利不如人和。圣人所贵，人事而已。

夫勤劳之师，将必先[已]。暑不张盖，寒不重衣，险必下步。军井成而后饮，军食熟而后饭，军垒成而后舍。劳逸以身同之。如此，师虽久，而不老，不弊。

## 攻权第五

兵以静胜，国以专胜；力分者弱，心疑者背。夫力弱，故进退不豪，纵敌不禽。将吏士卒。动静一身。心既疑背，则计决而不动，动决而不禁。异口虚言，将无修容，卒无常试，发攻必衄<sup>⑥</sup>，是谓疾陵之兵<sup>⑦</sup>，无足与斗。将帅者，心也；群下者，支节也。其心动以诚，则支节必力；其心动以疑，则支节必背。夫将不心制，卒不节动，虽胜，幸胜也，非攻权也。

夫民无两畏也。畏我侮敌，畏敌侮我；见侮者败，立威者胜。凡将能其道者，吏畏其将也；吏畏其将者，民畏其吏也；民畏其吏者，敌畏其民也。是故知胜败之道者，必先知畏侮之权。夫不爱说其心者，不我用也；不严惩其心者，不我举也，爱在下顺，威在上立；爱故不二，威故不犯。故善将者，爱与威而已。

战不必胜，不可以言战；攻不必拔，不可以言攻。不然，刑赏不足信也；信在期前，事在未兆。

故众已聚，不虚散；兵已出，不徒归。求敌若求亡子，击敌若救溺人。分险者无战

心，挑战者无全气，斗战者无胜兵。

凡挟义而战者，贵从我起。争私结怨，应不得已。怨结虽起，待之贵后。故争必当待之，息必当备之。

兵有胜于朝廷，有胜于原野，有胜于市井。斗则得，服则失，幸以不败，此不意彼惊惧而曲胜之也。曲胜，言非全也。非全胜者无权名。故明主战攻之日，合鼓合角，节以兵刃，不求胜而胜也。

兵有去备撤威而胜者，以其有法故也，有器用之蚤定也。其应敌也周，其总率也极。故五人而伍，十人而什，百人而卒，千人而率，万人而将，已周已极。其朝死则朝代，暮死则暮代。权敌审将，而后举兵。

故凡集兵，千里者旬日，百里者一日。必集敌境，卒聚将至，深入其地，错绝其道，栖其大城大邑。使之登城逼危，男女数重，各逼地形而攻要塞。据一城邑而数道绝，从而攻之，敌将帅不能信，吏卒不能和，刑有所不从者，则我败之矣。敌救未至，而一城已降。

津梁未发，要塞未修，城险未设，渠答未张<sup>⑧</sup>；则虽有城，无守矣。远堡未入，戍客未归；则虽有人，无人矣。六畜未聚，五谷未收，财用未敛；则虽有资，无资矣。夫城邑空虚而资尽者，我因其虚而攻之。法曰：“独出独入，敌人不接刃而致之<sup>⑨</sup>。”此之谓也。

## 武议第八

凡兵不攻无过之城，不杀无罪之人。夫杀人之父兄，利人之财货，臣妾人之子女，此皆盗也。故兵者，所以诛暴乱、禁不义也。兵之威在不变，惠在于因时，机在于应事，战在于治气，攻在于意表，守在于外饰，无过在于度，无困在于豫备，慎在于畏小，智在治大，除害在于敢断，得众在于下人，悔在于任疑，孽在于屠戮，偏在于恶闻己过，不度在于竭民财，不明在于受间，不实在于

害在于固陋在于离贤，祸在于好利，害在于亲小人，亡在于无所守，危在于无号令。兵之所加者，农不离其田业，贾不离其肆宅，士大夫不离其官府，由其武议在于一人，故兵不血刃而天下亲焉。

万乘农战，千乘救守，百乘事养。农战不外索权，救守不外求助，事养不外索资。夫出不足战，人不足守者，治之以市。市者，所以给战守也。万乘无千乘之助，必有百乘之市。

凡诛者，所以明武也。杀一人而三军震者，杀之；杀一人而万人喜者，杀之。杀之贵大，赏之贵小。当杀而虽贵重，必杀之，是刑上究也；赏及牛童马圉者，是赏下流也。夫能刑上究、赏下流，此将之武也。故人主重将。夫将，提鼓挥枹<sup>⑩</sup>，临难决战，接兵角刃，鼓之而当，则赏功立名；鼓之而不当，则身死国亡。是兴亡安危，应在枹端，奈何无重将也。夫提鼓挥枹，接兵角刃，君以武事成功者，臣以为非难也。

古人曰：“无蒙冲而攻<sup>⑪</sup>，无渠答而守，是谓无善之军。”视不见，听无闻，由国无市也。夫市也者，百货之官也。市贱卖贵，以限士人。人食粟一斗，马食菽三斗，人有饥色，马有瘠形。何也？市有所出，而官无主也。夫提天下之节制，而无百货之官，无谓其能战也。

起兵直使甲冑生虬虱者，必为吾所效用也。鸢鸟逐雀，有袭人之怀，入人之室者，非出生也，后有惮也。

太公望年七十，屠牛朝歌，卖食盟津。过七十余而主不听，人人谓之狂夫也。及遇文王，则提三万之众，一战而天下定，非武议安能此合也？故曰：良马有策，远道可致；贤士有合，大道可明。

武王伐纣，师渡盟津，右旄左钺，死士三百，战士三万。纣之臣亿万，飞廉、恶来身先戟斧，陈开百里。武王不罢士民，兵不血刃，而克商诛纣，无祥异也，人事修不修而然也。今世将考孤虚<sup>⑫</sup>，占咸池，合龟兆，

立功，，观星辰风云之变，欲以成胜立功，臣以为难。

夫将者，上不制于天，下不制于地，中不制于人。故兵者，凶器也；争者，逆德也；将者，死官也；故不得已而用之。无天于上，无地于下，无主于后，无敌于前。一人之兵，如狼如虎，如风如雨，如雷如电，震震冥冥，天下皆惊。

胜兵似水。夫水，至柔弱者也，然所以触丘陵必为之崩，无异也，性专而触诚也。今以莫邪之利，犀兕之坚，三军之众，有所奇正，则天下莫当其战矣。故曰：举贤用能，不时日而事利；明法审令，不卜筮而获吉；贵功养劳，不祷祠而得福。又曰：天时不如地利，地利不如人和。古之圣人，谨人事而已。

吴起与秦战，舍不平陇亩，朴檄盖之，以蔽霜露。如此何也？不自高人故也。乞人之死不索尊，竭人之力不责礼。故古者介冑之士不拜，示人无已以烦也。夫烦人而欲乞其死，竭其力，自古至今，未尝闻矣。

将受命之日忘其家，张军宿野忘其亲，援枹而鼓忘其身。

吴起临战，左右进剑。起曰：“将专主旗鼓尔，临难决疑，挥兵指刃，此将事也；一剑之任，非将事也。”

三军成行，一舍而后成三舍，三舍之余，如决川源，望敌在前，因其所长而用之，敌白者垓之，赤者赭之。

吴起与秦战，未合，一夫不胜其勇，前获双首而还。吴起立斩之。军吏谏曰：“此材士也，不可斩。”起曰：“材士则是矣，非吾令也。”斩之。

## 战权第十二

兵法者：千人而成权<sup>⑬</sup>，万人而成武。权先加人者，敌不力交；武先加人者，敌无威接；故兵贵先。胜于此，则胜彼矣；弗胜于此，则弗胜彼矣。

为我往，则彼来；彼来，则我往；相为胜败。此战之理然也。夫精诚在乎神明，战权在乎道之所极。有者无之，无者有之，安所信之？

先王所传闻者，任正去诈，存其慈顺，决无留刑。

故知道者，必先图不知止之败，恶在乎必往有功？轻进而求战，敌复图止，我往而敌制胜也。故兵法曰：“求而从之，见而加之，主人不敢当而陵之，必丧其权。”

凡夺者无气<sup>①</sup>，恐者不可守，败者无人。兵无道也，意往而不疑，则从之；夺敌而无前，则加之；明视而高居，则威之。兵道极矣。

其言无谨，偷失；其陵犯无节，破矣；水溃雷击，三军乱矣。必安其危，去其患，以智决之。高之以廊庙之论，重之以受命之论，锐之以踰垠之论，败敌国可不战而服。

## 兵令上二十三

兵者，凶器也；争者，逆德也；[事]必有本，故王者伐暴乱本仁义焉。战国[则]以立威抗敌，相图而不能废兵也。

兵者，以武为植，以文为种；[以]武为表，[以]文为里。能审此二者，知胜败矣。文所以视利害，辨安危；[武]所以犯强敌，力攻守也。

专一则胜，离散则败；陈以密则固，锋以疏则达。卒畏将甚于敌者，胜；卒畏敌甚于将者，败。所以知胜败者，称将于敌也，敌与将犹权衡焉。

安静则治，暴疾则乱。出卒陈兵，有常令；行伍疏数<sup>②</sup>，有常法；先后之次，有适宜。常令者，非追北袭邑攸用也<sup>③</sup>，前后不次则失也<sup>④</sup>。乱先后斩之。[常]陈皆向敌，有内向，有外向，有立陈，有坐陈。夫内向，所以顾中也；外向，所以备外也；立陈，所以行也；坐陈，所以止也。立坐之陈，相参进止。将在其中，坐之兵，剑、斧；立之兵，

先合，；将亦居中。善御敌者，正兵先合，而后扼之<sup>⑤</sup>，此必胜之术也。

陈之斧钺，饰之旗章；有功必赏，犯令必死。存亡死生，在抱之端。虽天下善兵者，莫能御此矣。矢[弩]未交，长刃未接，前噪者谓之虚，后噪者谓之实，不噪者谓之秘。虚实者，兵之体也<sup>⑥</sup>。

注释：

①形：通“刑”。 ②世将：缺乏才能的平庸将领。 ③拗：用手折断。 ④正：同“征”，征调。 ⑤绍：继续。 ⑥衄(nù)：挫折。 ⑦疾陵：联绵词，相当于陵迟、陵夷，意为凌乱、颓废。 ⑧渠答：铁蒺藜，古代守城工具。 ⑨敌人：与人相敌。 ⑩抱：鼓槌。 ⑪蒙冲：一种攻城的车。 ⑫考孤虚：指古人根据年、月、日、时的不同而考查吉凶的方法。 ⑬权：势。 ⑭存：谓士气削弱。 ⑮数(促)：密。 ⑯攸：所。 ⑰次：次序。 ⑱扼：控制。 ⑲体：根本。

## 《黄石公三略》

题解：

《黄石公三略》是在国内外享有盛誉的军事谋略经典。关于作者和成书时间，说法颇多，较为可信者，认为是西汉末年精通兵法的隐士，因袭“太公”等兵家思想，参阅汉张良事迹，借用黄石公的名义编纂而成。该书分上略、中略、下略三卷，主要是论述战略问题。从战略高度来阐释军事思想的兵书，在西汉以前还不曾出现。因而该书形成了自己的思想体系，有自己的新见解，是区别于其他兵书、具有特色的军事谋略专著。

《黄石公三略》主要是讲政治战略和军事战略。其政治战略的核心是收揽人心，其军事战略的重点是控制战略要地。在军事谋略方面，主张恩威并用，赏罚必信。重视将帅的选拔和使用，坚持将士并重，书中说：“夫



统军持势者，将也；制胜破敌者，众也。”该书包含丰富的军事哲学思想，在论述士与民、将与众、德与威、仁与法、柔与刚、弱与强等关系时，注意到对立事物的两个方面，在一定程度上避免了片面性。应该说这些论述是更高深的军事谋略，也是《黄石公三略》的军事谋略能够超越前人的一个重要原因。

## 上 略

夫主将之法，务揽英雄之心，赏禄有功，通志于众。故与众同好，靡不成；与众同恶，靡不倾。治国安家，得人也。亡国破家，失人也。含气之类<sup>①</sup>，咸愿得其志。

《军谡》曰：“柔能制刚，弱能制强。”柔者，德也。刚者，贼也<sup>②</sup>。弱者人之所助，强者怨之所攻。柔有所设，刚有所施，弱有所用，强有所加，兼此四者而制其宜。

端末未见，人莫能知。天地神明<sup>③</sup>，与物推移。变动无常，因敌转化。不为事先，动而辄随。故能图制无疆，扶成天威，匡正八极，密定九夷。如此谋者，为帝王师。

故曰，莫不贪强，鲜能守微，若能守微，乃保其生。圣人存之，动应事机，舒之弥四海，卷之不盈怀，居之不以室宅，守之不以城郭，藏之胸臆，而敌国服。

《军谡》曰：“能柔能刚，其国弥光。能弱能强，其国弥彰。纯柔纯弱，其国必削。纯刚纯强，其国必亡。”

夫为国之道，恃贤与民。信贤如腹心，使民如四肢，则策无遗。所适如支体相随<sup>④</sup>，骨节相救，天道自然，其巧无间。

军国之要，察众心，施百务。危者安之，惧者欢之，叛者还之，冤者原之，诉者察之，卑者贵之，强者抑之，敌者残之，贪者丰之，欲者使之，畏者隐之，谋者近之，谗者覆之<sup>⑤</sup>，毁者复之<sup>⑥</sup>，反者废之，横者挫之，满者损之，归者招之，服者居之，降者脱之。

获固守之，获厄塞之，获难屯之；获城割之，获地裂之，获财散之。

敌动伺之，敌近备之，敌强下之，敌佚去之，敌陵待之<sup>⑦</sup>，敌暴绥之，敌悖义之，敌睦携之<sup>⑧</sup>。顺举挫之，国势破之；放言过之，四网罗之。

得而勿有，居而勿守，拔而勿久，立而勿取，为者则己，有者则土，焉知利之所在，彼为诸侯，己为天子，使城自保，令士自取。

世能祖祖，鲜能下下<sup>⑨</sup>。祖祖为亲，下下为君。下下者，务耕桑，不夺其时；薄赋敛，不匮其财；罕徭役，不使其劳，则国富而家娖<sup>⑩</sup>，然后选士以司牧之。夫所谓士者，英雄也。故曰，罗其英雄，则敌国穷。英雄者，国之干；庶民者，国之本。得其干，收其本，则政行而无怨。

夫用兵之要，在崇礼而重禄。礼崇则智士至，禄重则义士轻死。故禄贤不爱财，赏功不逾时，则下力并，敌国削。夫用人之道，尊以爵，赡以财，则士自来。接以礼，励以义，则士死之。

夫将帅者，必与士卒同滋味而共安危，敌乃可加，故兵有全胜，敌有全因<sup>⑪</sup>。昔者，良将之用兵，有馈箪醪者，使投诸河，与士卒同流而饮。夫一箪之醪<sup>⑫</sup>不能味一河之水，而三军之士思为致死者，以滋味之及己也。《军谡》曰：“军井未达，将不言渴；军幕未办，将不言倦；军灶未炊，将不言饥。冬不服裘，夏不操扇，雨不张盖。”是谓将礼。与之安，与之危，故其众可合而不可离，可用而不可疲，以其恩素蓄，谋素和也<sup>⑬</sup>。故曰：蓄恩不倦，以一取万。

《军谡》曰：“将之所以为威者，号令也。战之所以全胜者，军政也。士之所以轻战者，用命也。”故将无还令，赏罚必信，如天如地，乃可御人。士卒用命，乃可越境。

夫统军持势者，将也；制胜破敌者，众也。故乱将不可使保军<sup>⑭</sup>，乖众不可使伐人<sup>⑮</sup>。攻城则不拔，图邑则不废，二者无功，则士力疲弊。士力疲弊，则将孤众悖，以守则不固，以战则奔北，是谓老兵。兵老则将威不行，将无威则士从轻刑，士从轻刑则军

失伍，军失伍则士卒逃亡，士卒逃亡则敌乘利，敌乘利则军必丧。

《军谏》曰：“良将之统军也，恕己而治人，推惠施恩，士力日新，战如风发，攻如河决”。故其众可望而不可当，可下而不可胜。以身先人，故其兵为天下雄。

《军谏》曰：“军以赏为表，以罚为里。”赏罚明，则将威行；官人得，则士卒服；所任贤，则敌国震。

《军谏》曰：“贤者所适，其前无敌。”故士可下而不可骄，将可乐而不可忧，谋可深而不可疑。士骄则下不顺，将忧则内外不相信，谋疑则敌国奋，以此攻伐，则致乱。

夫将者，国之命也。将能制胜，则国家安定。

《军谏》曰：“将能清、能静、能平、能整、能受谏、能听讼、能纳人、能采言、能知国俗、能图山川<sup>⑮</sup>、能表险难<sup>⑯</sup>、能制军权。”故曰，仁贤之智，圣明之虑，负薪之言<sup>⑰</sup>，廊庙之语<sup>⑱</sup>，兴衰之事，将所宜闻。

将者，能思士如渴，则策从焉<sup>⑲</sup>。夫将拒谏，则英雄散。策不从，则谋士叛。善恶同，则功臣倦。专己，则下归咎。自伐，则下少功。信谗，则众离心。贪财，则奸不禁。内顾，则士卒淫。将有一，则众不服。有二，则军无式。有三，则下奔北。有四，则祸及国。

《军谏》曰：“将谋欲密，士众欲一，攻敌欲疾”。将谋密，则奸心闭；士众一，则军心结；攻敌疾，则备不及设。军有此三者，则计不夺。将谋泄，则军无势；外窥内，则祸不制；财入营，则众奸会。将有此三者，军必败。

将无虑，则谋士去。将无勇，则吏士恐。将妄动，则军不重。将迁怒，则一军惧。《军谏》曰：“虑也，勇也，将之所重；动也，怒也，将之所用。”此四者，将之明诚也。

《军谏》曰：“军无财，士不来。军无赏，士不往。”《军谏》曰：“香饵之下，必有悬鱼。重赏之下，必有死夫。”故礼者，士之所归；

赏者，刹之所婉。招其所归，示其所死，则所求者至。故礼而后悔者士不止；赏而后悔者士不使。礼赏不倦，则士争死。

《军谏》曰：“兴师之国，务先隆恩。攻取之国，务先养民。以寡胜众者，恩也。以弱胜强者，民也。”故良将之养士，不易于身，故能使三军如一心，则其胜可全。

《军谏》曰：“用兵之要，必先察敌情。视其仓库，度其粮食，卜其强弱，察其天地，伺其空隙。故国无军旅之难而运粮者，虚也；民菜色者，穷也。千里馈粮<sup>⑳</sup>，士有饥色。樵苏后爨<sup>㉑</sup>，师不宿饱。夫运粮千里，无一年之食；二千里，无二年之食；三千里，无三年之食，是国虚。国虚则民贫，民贫则上下不亲。敌攻其外，民盗其内，是谓必溃。”

《军谏》曰：“上行虐，则下急刻。赋敛重数，刑罚无极，民相残贼，是谓亡国。”

《军谏》曰：“内贪外廉，诈誉取名，窃公为恩，令上下昏；饰躬正颜，以获高官，是谓盗端。”

《军谏》曰：“群吏朋党，各进所亲；招举奸枉，抑挫仁贤；背公立私，同位相讪<sup>㉒</sup>，是谓乱源。”

《军谏》曰：“强宗聚奸，无位而尊，威无不震；葛藟相连<sup>㉓</sup>，种德立恩，夺在位权；侵侮下民，国内哗喧，臣蔽不言，是谓乱根。”

《军谏》曰：“世世作奸，侵盗县官，进退求便，委曲弄文，以危其君，是谓国奸。”

《军谏》曰：“吏多民寡，尊卑相若，强弱相虏，莫适禁御，延及君子，国受其咎<sup>㉔</sup>。”

《军谏》曰：“善善不进，恶恶不退<sup>㉕</sup>，贤者隐蔽，不肖在位，国受其害。”

《军谏》曰：“枝叶强大，比周居势，卑贱陵贵，久而益大，上下忍废，国受其败。”

《军谏》曰：“佞臣在上，一军皆讼。引威自与，动违于众；无进无退，苟然取容；专任自己，举措伐功<sup>㉖</sup>，诽谤盛德，诬述庸庸；无善无恶，皆与己同；稽留行事，命令不通；造作苛政，变古易常。君用佞人，必受祸殃。”

《军谏》曰：“奸雄相称，障蔽主明；毁誉

并兴，壅塞主聪；各阿所私<sup>②⑧</sup>，令主失忠。

故主察异言，乃睹其萌；主聘儒贤，奸雄乃遁；主任旧齿<sup>②⑨</sup>，万事乃理；主聘岩穴<sup>③⑩</sup>士乃得实；谋及负薪，功乃可述；不失人心，德乃洋溢。

## 中 略

夫三皇无言而化流四海，故天下无所归功。

帝者，体天则地，有言有令，而天下太平。君臣让功，四海化行，百姓不知其所以然。故使臣不待礼赏，有功美而无害。

王者，制人以道，降心服志，设矩备衰，四海会同<sup>③⑪</sup>，王职不废。虽有甲兵之备，而无斗战之患。君无疑于臣，臣无疑于主，国定主安，臣以义退，亦能美而无害。

霸者，制士以权，结士以信，使士以赏。信衰则士疏，赏亏则士不用命。

《军势》曰：“出军行师，将在自专。进退内御，则功难成。”

《军势》曰：“使智、使勇、使贪、使愚。智者乐立其功，勇者好行其志，贪者邀趋其利，愚者不顾其死。因其至情而用之。此军之微权也。”

《军势》曰：“无使辩士谈说敌美，为其惑众。无使仁者主财，为其多施而附于下。”

《军势》曰：“禁巫祝，不得为吏士卜问军之吉凶。”

《军势》曰：“使义士不以财。故义者，不为不仁者死；智者，不为暗主谋。”

主，不可以无德，无德则臣叛；不可以无威，无威则失权。臣，不可以无德，无德则无以事君；不可以无威，无威则国弱，威多则身蹶。

故圣王御世，观盛衰，度得失，而为之制。故诸侯二师<sup>③⑫</sup>，方伯三师<sup>③⑬</sup>，天子六师。世乱，则叛逆生。王泽竭，则盟誓相诛伐。德同势敌，无以相倾，乃揽英雄之心，与众同好恶，然后加之以权变。故非计策，无以

决嫌定疑；非谲奇，无以破奸息寇；非阴谋，无以成功。

圣人体天，贤者法地，智者师古。是故《三略》为衰世作。“上略”设礼赏，别奸雄，著成败。“中略”差德行，审权变。“下略”陈道德，察安危，明贼贤之咎。故人主深晓“上略”，则能任贤擒敌；深晓“中略”，则能御将统众；深晓“下略”，则能明盛衰之源，审治国之纪。人臣深晓“中略”，则能全功保身。

夫高鸟死，良弓藏；敌国灭，谋臣亡。亡者，非丧其身也，谓夺其威废其权也。封之于朝，极人臣之位，以显其功。中州善国，以富其家。美色珍玩，以悦其心。

夫人众一合而不可卒离，威权一与而不可卒移。还师罢军，存亡之阶。故弱之以位，夺之以国，是谓霸者之略。故霸者之作。其论驳也。存社稷罗英雄者，“中略”之势也。故世主秘焉。

## 下 略

夫能扶天下之危者，则据天下之安；能除天下之忧者，则享天下之乐；能救天下之祸者，则获天下之福。故泽及于民<sup>③⑭</sup>，则贤人归之；泽及昆虫<sup>③⑮</sup>，则圣人归之。贤人所归，则其国强；圣人所归，则六合同。求贤以德，致圣以道。贤去，则国微。圣去，则国乖。微者危之阶，乖者亡之征。

贤人之政，降人以体。圣人之政，降人以心。体降可以图始，心降可以保终。降体以礼，降心以乐。所谓乐者，非金石丝竹也。谓人乐其家，谓人乐其族，谓人乐其业，谓人乐其都邑，谓人乐其政令，谓人乐其道德。如此君人者，乃作乐以节之，使不失其和。故有德之君，以乐乐人。无德之君，以乐乐身。乐人者，久而长。乐身者，不久而亡。

释近谋远者，劳而无功。释远谋近者，佚而有终。佚政多忠臣<sup>③⑯</sup>，劳政多怨民。故曰，务广地者荒，务广德者强，能有其有者安，贪人之有者残。残灭之政，累世受患。

造作过制，虽成必败。

舍己而教人者逆，正己而化人者顺。逆者乱之招，顺者治之要。

道德仁义礼，五者一体也。道者人之所蹈，德者人之所得，仁者人之所亲，义者人之所宜，礼者人之所体，不可无一焉。故夙兴夜寐，礼之制也；讨贼报仇，义之决也；惻隐之心，仁之发也；得己得人，德之路也；使人均平，不失其所，道之化也。

出君下臣，名曰命；施于竹帛，名曰令；奉而行之，名曰政。夫命失则令不行，令不行则政不正，政不正则道不通，道不通则邪臣胜，邪臣胜则主威伤。

千里迎贤其路远，致不肖其路近<sup>①</sup>。是以明王舍近而取远，故能全功尚贤，而下尽力。

废一善则众善衰，赏一恶则众恶归。善者得其祐，恶者受其诛，则国安而众善至。

众疑无定国，众惑无治民。疑定惑还，国乃可安。

一令逆则百令失，一恶施则百恶结。故善施于顺民，恶加于凶民，则令行而无怨。使怨治怨，是谓逆天。使仇治仇，其祸不救。治民使平，致平以清，则民得其所，而天下宁。

犯上者尊，贪鄙者富，虽有圣王，不能致其治。犯上者诛，贪鄙者拘，则化行而众恶消。

清白之士，不可以爵禄得；节义之士，不可以威刑胁。故明君求贤，必观其所以而致焉。致清百之士，修其礼；致节义之士，修其道。而后士可致，而名可保。

夫圣人君子，明盛衰之源，通成败之端，审治乱之机，知去就之节。虽穷不处亡国之位，虽贫不食乱邦之禄。潜名抱道者，时至而动，则极人臣之位。德合于己，则建殊绝之功。故其道高而名扬于后世。

圣王之用兵，非乐之也，将以诛暴讨乱也。夫以义诛不义，若决江河而溉燭火<sup>②</sup>，临不测而挤欲墮，其克必矣。所以优游恬淡

而不进者<sup>③</sup>，重伤人物也。夫兵者，不祥之器，天道恶之；不得已而用之，是天道也。夫人之在道，若鱼之在水，得水而生，失水而死。故君子者常畏惧而不敢失道。

豪杰秉职<sup>④</sup>，国威乃弱。杀生在豪杰，国势乃竭。豪杰低首，国乃可久。杀生在君，国乃可安。四民用虚，国乃无储。四民用足，国乃安乐。

贤臣内，则邪臣外。邪臣内，则贤臣毙。内外失宜，祸乱传世。

大臣疑主，众奸集聚。臣当君尊，上下乃昏。君当臣处，上下失序。

伤贤者，殃及三世。蔽贤者，身受其害。嫉贤者，其名不全。进贤者，福流子孙。故君子急于进贤，而美名彰焉。

利一害百，民去城郭。利一害万，国乃思散。去一利百，人乃慕泽。去一利万，政乃不乱。

#### 注释：

- ①含气之类：泛指一切有生命的，文中指人。②贼：寇贼。文中指祸害、灾难。③神明：精灵怪异，文中作奥妙。④支：同肢。四肢。⑤覆：审察。⑥复：告，文中作警告。⑦陵：上升，文中作士气旺盛。⑧携：离，文中作离间。⑨下：指民众，名词用作动词，文中作爱护。⑩嬉(xī)：玩乐、欢乐。⑪因：即湮，作湮没讲。⑫醪(láo)：酒。⑬谋：心，心思，文中作意志讲。⑭乱将：软弱少威，号令不明，指挥素乱的将帅。参阅《孙子·地形篇》：“将弱不严，教道不明，吏卒无常，陈兵纵横，曰乱。”⑮乖众：不和谐的部众，即纪律松弛的军队。⑯图：绘图，文中是掌握的意思。⑰表：表白，文中是明察的意思。⑱负薪：背柴，指地位低微的人，文中指民众。⑲廊庙：朝廷。⑳丛焉：聚集在他的周围。焉：兼词，在他的周围。㉑饷：送。㉒樵苏后爨：现打柴草现做饭。樵，打柴。苏，打草。爨(cuàn)，烧饭。㉓汕(shàn)：毁谤。㉔葛藟(lěi)：葛藤。葛，植物名。藟，藤。㉕咎：灾祸，灾殃。㉖恶恶：厌恶邪恶的人。第一个“恶”读 wù，作厌恶。第二个“恶”读 è。

作恶人。②⑦伐功：夸耀自己的功劳。②⑧阿：庇护。②⑨旧齿：老臣。③⑩岩穴：山洞，文中指隐居的贤士。③⑪会同：古代诸侯朝见天子的通称。③⑫师：文中作军。③⑬方伯：一方诸侯之长。《礼·王制》：“千里之外设方伯。”③⑭泽：雨露，引申为恩德。③⑮昆虫：虫类，文中指万物。③⑯佚政：指使人民休养生息的政治。佚，通逸。③⑰不肖：不贤。③⑱燭火：小火炬。③⑲优游恬淡：犹豫不决，安静闲适。④⑩豪杰：文中指依仗权势横行不法的豪强权臣。

## 《李卫公问对》

### 题解：

《李卫公问对》又称《唐太宗李卫公问对》，是一部以传统的问答体记述唐太宗与李卫公谈论战争问题的军事谋略著作，为唐代李靖著。李靖在唐初辅李渊父子两朝，任大将30余年，屡建战功，被封为卫国公，有丰富的指挥作战经验，为唐代名将。《李卫公问对》就是他戎马生涯和用兵谋略的总结。

《李卫公问对》全书分上中下3卷，共98次问对，共1.03万字。涉猎较广，但其中心内容则是论述作战和训练两个方面的谋略。在作战方面，李卫公较多地论述了攻防原则，他说：“夫攻者，不只攻其城击其阵而已，必有攻其心之术焉；守者，不只完其壁而坚其阵而已，必也守吾气以有待焉”。这里“攻其心之术”就是讲的打破敌人的企图的方法，思想可谓精深。李卫公还充分论述了奇正相变之术，他说：“善用兵者，无不正，无不奇，使敌莫测，故正亦胜，奇亦胜。”这一著名论断，对《孙子》“凡战者，以正合，以奇胜”的观点又有新的发展。同时还注意到奇正和虚实的关系，指出作战必须先知攻守两齐之法，然后知奇正；先知奇正相变之术，然后知虚实。《李卫公问对》的军事谋略对后世影响很大，被列为军事经典著作之一。

## 卷 上

### (一)

太宗曰：“高丽数侵新罗，朕遣使谕<sup>①</sup>，不奉诏，将讨之，如何？”

靖曰：“探知盖苏文自恃知兵，谓中国无能讨，故违命。臣请师三万擒之。”

太宗曰：“兵少地遥，以何术临之？”

靖曰：“臣以正兵。”

太宗曰：“平突厥时用奇兵，今言正兵，何也？”

靖曰：“诸葛亮七擒孟获，无他道也，正兵而已矣。”

太宗曰：“晋马隆讨凉州，亦是依八阵图，作偏箱车。地广，则用鹿角车营；路狭，则为木屋施于车上，且战且前。信乎，正兵古人所重也！”

靖曰：“臣讨突厥，西行数千里。若非正兵，安能致远？偏箱、鹿角，兵之大要：一则治力<sup>②</sup>，一则前拒，一则束部伍，三者迭相为用。斯马隆所得古法深矣！”

### (二)

太宗曰：“朕破宋老生，初交锋，义师少却。朕亲以铁骑自南原驰下，横突之，老生兵断后，大溃，遂擒之。此正兵乎，奇兵乎？”

靖曰：“陛下天纵圣武，非学而能。臣按兵法：自黄帝以来，先正而后奇，先仁义而后权谲<sup>③</sup>。且霍邑之战，师以义举者，正也；建成坠马，右军少却者，奇也。”

太宗曰：“彼时少却，几败大事，曷谓奇邪？”

靖曰：“凡兵，以前向为正，后却为奇。且右军不却，则老生安致之来哉？《法》曰：‘利而诱之，乱而取之’。老生不知兵，恃勇急进，不意断后，见擒于陛下。此所谓以奇为正

也。”

太宗曰：“霍去病暗与孙、吴合，诚有是夫！当右军之者也，高祖失色，及朕奋击，反为我利。孙、吴暗合，卿实知言。”

### (三)

太宗曰：“凡兵却皆谓之奇乎？”

靖曰：“不然。夫兵却，旗参差而不齐，鼓大小而不应，令喧嚣而不一，此真败者也，非奇也。若旗齐鼓应，号令如一，纷纷纭纭，虽退走，非败也，必有奇也。《法》曰‘佯北勿追’，又曰‘能而示之不能’，皆奇之谓也。”

太宗曰：“霍邑之战，右军少却，其天乎？老生被擒，其人乎？”

靖曰：“若非正兵变为奇，奇兵变为正，则安能胜哉？故善用兵者，奇正在人而已。变而神之，所以推乎天也。”

太宗俯首。

### (四)

太宗曰：“奇正素分之欤，临时制之欤？”

靖曰：“按《曹公新书》曰：‘己二而敌一，则一术为正，一术为奇；己五而敌一，则三术为正，二术为奇。’此言大略耳。唯孙武云：‘战势不过奇正，奇正之变，不可胜穷。奇正相生，如循环之无端，孰能穷之？’斯得之矣，安有素分之邪？若士卒未习吾法，偏裨未熟吾令，则必为之二术；教战时，各认旗鼓，迭相分合，故曰‘分合为变’。此教战之术耳。教阅既成，众知吾法，然后如驱群羊，由将所指，孰分奇正之别哉？孙武所谓‘形人而我无形’，此乃奇正之极致。是以素分者，教阅也；临时制变者，不可胜穷也。”

太宗曰：“深乎，深乎！曹公必知之矣。但《新书》所以授诸将而已，非奇正本法。”

### (五)

太宗曰：“曹公云‘奇兵旁击’，卿谓若何？”

靖曰：“臣按曹公注《孙子》曰：‘先出合战为正，后出为奇。’此与旁击之说异焉。臣愚，谓大众所合为正，将所自出为奇；乌有先后旁击之拘哉？”

太宗曰：“吾之正，使敌视以为奇；吾之奇，使敌视以为正；斯所谓‘形人者’欤？以奇为正，以正为奇，变化莫测，斯所谓‘无形者’欤？”

靖再拜曰：“陛下神圣，迥出古人，非臣所及。”

### (六)

太宗曰：“分合为变者，奇正安在？”

靖曰：“善用兵者，无不正，无不奇，使敌莫测。故正亦胜，奇亦胜。三军之士，止知其胜，莫知其所以胜。非变而能通，安能至是哉？分合所出，唯孙武能之。吴起而下，莫可及焉。”

太宗曰：“吴术若何？”

靖曰：“臣请略言之。魏武侯问吴起两军相向，起曰：‘使贱而勇者前击，锋始交而北，北而勿罚，观敌进取。一坐一起，奔北不追，则敌有谋矣；若悉众追北，行止纵横，此敌人不才，击之勿疑’。臣谓吴术大率多此类，非孙武所谓以正合也。”

太宗曰：“卿舅韩擒虎尝言，卿可与论孙、吴，亦奇正之谓乎？”

靖曰：“擒虎安知奇正之极，但以奇为奇，以正为正耳！曾未知奇正相变，循环无穷者也。”

### (七)

太宗曰：“古人临阵出奇，攻人不意，斯

亦相变之法乎？”

靖曰：“前代战斗，多是以小术而胜无术，以片善而胜无善，斯安足以论兵法也？若谢玄之破苻坚，非谢玄之善也，盖苻坚之不善也。”

太宗顾待臣检《谢玄传》，阅之曰：“苻坚甚处是不善？”

靖曰：“臣观《苻坚载记》曰：秦诸军皆溃败，唯慕容垂一军独全。坚以千余骑赴之，垂子宝劝垂杀坚，不果。此有以见秦师之乱。慕容垂独全，盖坚为垂所陷明矣。夫为人所陷而欲胜敌，不亦难乎？臣故曰无术焉，苻坚之类是也。”

太宗曰：“《孙子》谓多算胜少算，少算无算。凡事皆然。”

## (八)

太宗曰：“黄帝兵法，世传《握奇文》，或谓为《握机文》，何谓也！”

靖曰：“奇，音机，故或传为机，其义则一。考其词云：‘四为正，四为奇，余奇为握机。’奇，余零也，因此音机。臣愚，谓兵无不是机，安在乎握而言也？当为余奇则是。夫正兵受之于君，奇兵将所自出。《法》曰：‘令素行以教其民，则民服’。此受之于君者也。又曰：‘兵不豫言，君命有所不受’。此将所自出者也。凡将，正而无奇，则守将也；奇而无正，则斗将也；奇正皆得，国之辅也。是故握机、握奇，本无二法，在学者兼通而已。”

## (九)

太宗曰：“阵数有九，中心零者，大将握之，四面八向，皆取准焉。阵间容阵，队间容队；以前为后，以后为前。进无速奔，退无遽走。四头八尾，触处为首；敌冲其中，两头皆救。数起于五，而终于八，此何谓也？”

靖曰：“诸葛亮以石纵横布为八行，方阵

之法即此图也。臣尝教阅，必先此阵。世所传《握机文》，盖得其粗也。”

太宗曰：“天、地、风、云，龙、虎、鸟、蛇，斯八阵何义也？”

靖曰：“传之者误也。古人秘藏此法，故诡设八名尔。八阵本一也，分为八焉。若天、地者，本乎旗号；风、云者，本乎幡名；龙、虎、鸟蛇者，本乎队伍之别。后世误传，诡设物象，何止八而已乎？”

太宗曰：“数起于五，而终于八，则非设象，实古制也。卿试陈之。”

靖曰：“臣按黄帝始立丘井之法，因以制兵。故井分四道，八家处之，其形井字，开方九焉。五为阵法，四为闲地，此所谓数起于五也；虚其中，大将居之，环其四面，诸部连绕，此所谓终于八也。及乎变化制敌，则纷纷纭纭，斗乱而法不乱；混混沌沌，形圆而势不散；此所谓散而成八，复而为一者也。”

太宗曰：“深乎，黄帝之制兵也！后世虽有天智神略，莫能出其阃阈<sup>④</sup>。降此，孰有继之者乎？”

靖曰：“周之始兴，则太公实缮其法：始于岐都，以建井亩；戎车三百辆，虎贲三千人，以立军制；六步七步，六伐七伐，以教战法。陈师牧野，太公以百夫致师，以成武功，以四万五千人胜纣七十万众。周《司马法》，本太公者也。太公既没，齐人得其遗法。至桓公霸天下，任管仲，复修太公法，谓之节制之师。请侯毕服。”

太宗曰：“儒者多言管仲霸臣而已，殊不知兵法乃本于王制也。诸葛亮王佐之才，自比管、乐，以此知管仲亦王佐也。但周衰时，王不能用，故假齐兴师尔。”

靖再拜曰：“陛下神圣，知人如此，老臣虽死，无愧昔贤也。臣请言管仲制齐之法：三分齐国，以为三军；五家为轨，故五人为伍；十轨为里，故五十人为小戎；四里为连，故二百人为卒；一连为乡，故二千人为旅；五乡一师，故万人为军。亦犹《司马法》一师

五旅，一旅五卒之义焉。其实皆得太公之遗法。”

太宗曰：“《司马法》，人言穰苴所述，是欤，否也？”

靖曰：“按《史记·穰苴传》：齐景公时，穰苴善用兵，败燕晋之师，景公尊为司马之官，由是称司马穰苴，子孙号司马氏。至齐威王，追论古司马法，又述穰苴所学，遂有《司马穰苴书》数十篇。今世所传兵家者流，又分权谋、形势、阴阳、技巧四种，皆出《司马法》也。”

## (十)

太宗曰：“汉张良、韩信序次兵法，凡百八十二家，删取要用，定著三十五家。今失其传，何也？”

靖曰：“张良所学，太公《六韬》、《三略》是也。韩信所学，穰苴、孙武是也。然大体不出三门四种而已。”

太宗曰：“何谓‘三门’？”

靖曰：“臣按：《太公谋》八十一篇，所谓阴谋，不可以言穷；《太公言》七一篇，不可以兵穷；《太公兵》八十五篇，不可以财穷。此三门也。”

太宗曰：“何谓‘四种’？”

靖曰：“汉任宏所论是也。凡兵家者流，权谋为一种，形势为一种，及阴阳、技巧二种，此四种也。”

太宗曰：“《司马法》首序蒐狩<sup>⑤</sup>，何也？”

靖曰：“顺其时而要之以神<sup>⑥</sup>，重其事也。《周礼》最为大政：成有岐阳之蒐，康有酆宫之朝，穆有涂山之会，此天子之事也。及周衰，齐桓有召陵之师，晋文有践土之盟，此诸侯奉行天子之事也。其实用九伐之法以威不恪，假之以朝会，因之以巡狩，训之以甲兵。言无事兵不妄举，必于农隙，不忘武备也。故首序蒐狩，不其深乎！”

## (十一)

太宗曰：“春秋楚子二广之法云：‘百官象物而动，军政不戒而备。’此亦得周制欤？”

靖曰：“按左氏说，楚子乘广三十乘，广有一卒，卒偏之两。军行右辕，以辕为法，故挟辕而战，皆周制也。臣谓百人曰卒，五十人曰两，此是每车一乘，用士百五十人，此周制差多尔。周一乘步卒七十二人，甲士三人。以二十五人为一甲，凡三甲，共七十五人。楚山泽之国，车少而人多。分为三队，则与周制同矣。”

太宗曰：“春秋荀吴伐狄，毁车为行，亦正兵欤，奇兵欤？”

靖曰：“荀吴用车法尔，虽舍车而法在其中焉。一为左角，一为右角，一为前拒，分为三队，此一乘法也。千万乘皆然。臣按《曹公新书》云：攻车七十五人，前拒一队，左右角二队；守车一队，炊子十人，守装五人，厮养五人，樵汲五人，共二十五人。攻守二乘，凡百人。兴兵十万，用车千乘，轻重二千，此大率荀吴之旧法也。又观汉魏之间军制：五车为队，仆射一人；十车为师，率长一人；凡车千乘，将吏二人。多多仿此。臣以今法参用之：则跳荡，骑兵也；战锋队，步骑相半也；驻队，兼车乘而出也。臣西讨突厥，越险数千里，此制未尝敢易。盖古法节制，信可重也。”

## (十二)

太宗幸灵州回，召靖赐坐曰：“朕命道宗及阿史那社尔等讨薛延陀，而铁勒诸部乞置汉宫，朕皆从其请。延陀西走，恐为后患，故遣李勣讨之。今北荒悉平，然诸部蕃汉杂处，以何道经久，使得两全安之？”

靖曰：“陛下敕自突厥至回纥部落<sup>⑦</sup>，凡置驿六十六处，以通斥侯，斯已得策矣。然臣愚以谓，汉戍宜自为一法<sup>⑧</sup>，蕃落宜自为



一法，教习各异，勿使混同。或遇寇至，则密敕主将，临时变号易服，出奇击之。”

太宗曰：“何道也？”

靖曰：“此所谓‘多方以误之’之术也。蕃而示之汉，汉而示之蕃，彼不知蕃汉之别，则莫能测我攻守之计矣。善用兵者，先为不可测，则敌乖其所之也。”

太宗曰：“正合朕意，卿可密敕边将。只以此，蕃汉便见奇正之法矣。”

靖再拜曰：“圣虑天纵，闻一知十，臣安能极其说哉！”

### (十三)

太宗曰：“诸葛亮言：‘有制之兵，无能之将，不可败也；无制之兵，有能之将，不可胜也。’朕疑此谈非极致之论。”

靖曰：“武侯有所激云尔。臣按《孙子》有曰：‘教道不明，吏卒无常，陈兵纵横，曰乱。’自古乱军引胜，不可胜纪。夫教道不明者，言教阅无古法也；吏卒无常者，言将臣权任无久职也；乱军引胜者，言己自溃败，非敌胜之也。是以武侯言，兵卒有制，虽庸将未败；若兵卒自乱，虽贤将危之，又何疑焉？”

太宗曰：“教阅之法，信不可忽。”

靖曰：“教得其道，则士乐为用；教不得法，虽朝督暮责，无益于事矣。臣所以区区古制皆纂以图者，庶乎成有制之兵也。”

太宗曰：“卿为我择古阵法，悉图以上。”

### (十四)

太宗曰：“蕃兵唯劲马奔冲，此奇兵欤？汉兵唯强弩犄角，此正兵欤？”

靖曰：“按《孙子》云：‘善用兵者，求之于势，不责于人，故能择人而任势。’夫所谓择人者，各随蕃汉所长而战也。蕃长于马，马利乎速斗；汉长于弩，弩利乎缓战。此自然各任其势也，然非奇正所分。臣前曾述蕃汉必变号易服者，奇正相生之法也。马亦有正，

弩亦有奇，何常之有哉！”

太宗曰：“卿更细言其术。”

靖曰：“先形之，使敌从之，是其术也。”

太宗曰：“朕悟之矣！《孙子》曰：‘形兵之极，至于无形。’又曰：‘因形而措胜于众，众不能知。’其此之谓乎？”

靖再拜曰：“深乎！陛下圣虑，已思过半矣。”

### (十五)

太宗曰：“近契丹、奚皆内属，置松漠、饶乐二都督，统于安北都护。朕用薛万彻，如何？”

靖曰：“万彻不如阿史那社尔及执失思力、契苾何力，此皆蕃臣之知兵者也。臣尝与之言松漠、饶乐山川道路，蕃情逆顺，远至于西域部落十数种，历历可信。臣教之以阵法，无不点头服义。望陛下任之勿疑。若万彻，则勇而无谋，难以独任。”

太宗笑曰：“蕃人皆为卿役使！古人云，以蛮夷攻蛮夷，中国之势也。卿得之矣。”

## 卷 中

### (一)

太宗曰：“朕观诸兵书，无出孙武。孙武十三篇，无出虚实。夫用兵者，识虚实之势，则无不胜焉。今诸将中，但能言避实击虚，及其临敌，则鲜识虚实者，盖不能致人，而反为敌所致故也。如何？卿悉为诸将言其要。”

靖曰：“先教之以奇正相变之术，然后语之以虚实之形可也。诸将多不知以奇为正，以正为奇，且安识虚是实，实是虚哉？”

太宗曰：“策之而知得失之计，作之而知动静之理，形之而知死生之地，角之而知有余不足之处。”此则奇正在我，虚实在敌欤。”

靖曰：“奇正者，所以致敌之虚实也。敌实，则我必以正；敌虚，则我必以奇。苟将不知奇正，则虽知敌虚实，安能致之哉？臣奉诏，但教诸将以奇正，然后虚实自知焉。”

太宗曰：“以奇为正者，敌意其奇，则吾正击之；以正为奇者，敌意其正，则吾奇击之。使敌势常虚，我势常实。当以此法授诸将，使易晓尔。”

靖曰：“千章万句，不出乎‘致人而不致于人’而已。臣当以此教诸将。”

## (二)

太宗曰：“朕置瑶池都督，以隶安西都护。蕃汉之兵，如何处置？”

靖曰：“天之生之，本无蕃汉之别。然地远荒漠，必以射猎而生，由此常习战斗。若我恩信抚之，衣食周之，则皆汉人矣。陛下置此都护，臣请收汉戍卒，处之内地，减省粮饷，兵家所谓治力之法也。但择汉吏有熟蕃情者，散守堡障，此足以经久。或遇有警，则汉卒出焉。”

太宗曰：“《孙子》所言治力何如？”

靖曰：“以近待远，以佚待劳，以饱待饥，此略言其概尔。善用兵者，推此三义而有六焉：以诱待来，以静待躁，以重待轻，以严待懈，以治待乱，以守待攻。反是，则力有弗逮。非治力之术，安能临兵哉！”

太宗曰：“今人习《孙子》者，但诵空文；鲜克推广其义。治力之法，宜遍告诸将。”

## (三)

太宗曰：“旧将老卒，凋零殆尽，诸军新置，不经阵敌。今教以何道为要？”

靖曰：“臣尝教士，分为三等：必先结伍法，伍法既成，授之军校，此一等也；军校之法，以一为十，以十为百，此一等也；授之裨将，裨将乃总诸校之队，聚为阵图，此一等也。大将军察此三等之教，于是大阅，

稽考制度，分别奇正，誓众行罚。陛下临高观之，无施，不可。”

太宗曰：“伍法有数家，孰者为要？”

靖曰：“臣按《春秋左氏传》云，先偏后伍；又《司马法》曰，五人为伍；《尉繚子》有束伍令；汉制有尺籍伍符。后世符籍，以纸为之，于是失其制矣。臣酌其法，自五人而变为二十五人，自二十五人而变为七十五人。此则步卒七十二人，甲士三人之制也。舍车用骑，则二十五人当八马，此则五兵五当之制也。是则诸家兵法，唯伍法为要。小列之五人，大列之二十五人，参列之七十五人。又五参其数，得三百七十五人。三百人为正，六十人为奇。此则百五十人分二正，而三十人分为二奇，盖左右等也。穰苴所谓五人为伍，十伍为队，至今因之，此其要也。”

## (四)

太宗曰：“朕与李勣论兵，多同卿说，但勣不究出处尔。卿所制六花阵法，出何术乎？”

靖曰：“臣所本诸葛亮八阵法也。大阵包小阵，大营包小营，隅落钩连，曲折相对。古制如此，臣为图因之。故外画之方，内环之圆，是成六花，俗所号尔。”

太宗曰：“内圆外方，何谓也？”

靖曰：“方生于正，圆生于奇。方所以矩其步，圆所以缀其旋。是以步数定于地，行缀应于天。步定缀齐，则变化不乱。八阵为六，武侯之旧法焉。”

太宗曰：“画方以见步，点圆以见兵，步教足法，兵教手法，手足便利，思过半矣。”

靖曰：“吴起云：‘绝而不离，却而不散。’此步法也。教士犹布棋于盘，若无画路，棋安用之？孙武曰：‘地生度，度生量，量生数，数生称，称生胜。胜兵若以镒称铢，败兵若以铢称镒。’皆起于度量方圆也。”

太宗曰：“深乎，孙武之言！不度地之远近，形之广狭，则何以制其节乎？”

靖曰：“庸将罕能知其节者也。‘善战者，其势险，其节短，势如彀弩，节如发机。’臣修其术：凡立队，相去各十步；驻队去前队二十步；<sup>⑨</sup>每隔一队，立一战队<sup>⑩</sup>。前进以五十步为节。角一声，诸队皆散立，不过十步之内。至第四角声，笼枪跪坐。于是鼓之，三呼三击，三十步至五十步以制敌之变。马军从背出，亦五十步临时节止。前正后奇，观敌如何。再鼓之，则前奇后正，复邀敌来，伺隙捣虚。此六花大率皆然也。”

### (五)

太宗曰：“《曹公新书》云：‘作阵对敌，必先立表，引兵就表而阵<sup>⑪</sup>。一部受敌，余部不进救者斩。’此何术乎？”

靖曰：“临敌立表，非也。此但教战时法尔。古人善用兵者，教正不教奇，驱众若驱群羊，与之进，与之退，不知所之也。曹公骄而好胜，当时诸将奉《新书》者，莫敢攻其短。且临敌立表，无乃晚乎？臣窃观陛下所制破阵乐舞，前出四表<sup>⑫</sup>，后缀八幡，左右折、旋、趋、步，金鼓各有其节，此即八阵图四头八尾之制也。人间但见乐舞之盛，岂有知军容如斯焉！”

太宗曰：“昔汉帝定天下，歌云：‘安得猛士兮守方。’盖兵法可以意授，不可以语传。朕为破阵乐舞，唯卿已晓其表矣，后世其知我不苟作矣。”

### (六)

太宗曰：“方色五旗为正乎？幡麾折冲为奇乎？分合为变，其队数曷为得宜？”

靖曰：“臣参用古法：凡三队合，则旗相倚而不交；五队合，则两旗交；十队合，则五旗交。吹角，开五交之旗，则一复散而为十；开二交之旗，则一复散而为五；开相倚不交之旗，则一复散而为三。兵散，则以合为奇；合，则以散为奇。三令五申，三散三

合，然复归于正，四头八尾乃可教焉。此队法所宜也。”

太宗称善。

### (七)

太宗曰：“曹公有战骑、陷骑、游骑，今马军何等比乎？”

靖曰：“臣按《新书》云：战骑居前，陷骑居中，游骑居后。如此则是各立名号，分为三类尔。大抵骑队八马，当车徒二十四人<sup>⑬</sup>；二十四骑，当车徒七十二人。此古制也。车徒常教以正，骑队常教以奇。据曹公，前后及中，分为三覆，不言两厢<sup>⑭</sup>，举一端言也。后人不晓三覆之义，则战骑必前于陷骑、游骑，如何使用？臣熟用此法，回车转阵，则游骑当前，战骑当后，陷骑临变而分，皆曹公之术也。”

太宗笑曰：“多少人为曹公所惑！”

### (八)

太宗曰：“车、步、骑三者一法也，其用在人乎？”

靖曰：“臣按春秋鱼丽阵，先偏后伍，此则车步无骑，谓之左右拒，言拒御而已，非取出奇胜也。晋荀吴伐狄，舍为为行，此则骑多为便，唯务奇胜，非拒御而已。臣均其术：凡一当三人，车步称之，混为一法，用之在人。敌安知吾车果何出，骑果何来，徒果何从哉？或潜九地，或动九天，其知如神，唯陛下有焉，臣何足以知之？”

### (九)

太宗曰：“太公书云：地，方六百步，或六十步，表十二辰。其术如何？”

靖曰：“画地，方一千二百步，开方之形也。每部占地二十步之方，横以五步立一人，纵以四步立一人。凡二千五百人，分五方，

空地四处，所谓阵间容阵者也。武王伐纣，虎贲各掌三千人，每阵六千人，共三万之众。此太公画地之法也。”

太宗曰：“卿六花阵，画地几何？”

靖曰：“太阅：地方千二百步者，其义六阵，各占地四百步，分为东西两厢，空地一千二百步，为教战之所。臣尝教士三万，每阵五千人，以其一为营法，五为方、圆、曲、直、锐之形，每阵五变，凡二十五变而止。”

太宗曰：“五行阵如何？”

靖曰：“本因五方色立此名。方、圆、曲、直、锐，实因地形使然。凡军不素习此五者，安可以临敌乎？兵，诡道也，故强名五行焉，文之以术数相生相克之义。其实兵形象水，因地制流，此其旨也。”

## (十)

太宗曰：“李勣言：‘牝牡、方圆伏兵法，古有是否？’

靖曰：“牝牡之法，出于俗传，其实阴阳二义而已。臣按范蠡云：‘后则用阴，先则用阳。尽敌阳节，盈吾阴节而夺之。’此兵家阴阳之妙也。范蠡又云：‘设右为牝，益左为牡，早晏以顺天道。’此则左右早晏，临时不同，在乎奇正之变者也。左右者，人之阴阳；早晏者，天之阴阳；奇正者，天人相变之阴阳。若执而不变，则阴阳俱废。如此，守牝牡之形而已。故形之者，以奇示敌，非吾正也；胜之者，以正击敌，非吾奇也。此谓奇正相变，兵伏者，不止山谷草木伏藏，所以为伏也，其正如山，其奇如雷，敌虽对面，莫测吾奇正所在。至此，夫何形之有焉？”

## (十一)

太宗曰：“四兽之阵，又以商、羽、徵、角象之，何道也？”

靖曰：“诡道也。”

太宗曰：“可废乎？”

靖曰：“存之，所以能废之也。若废而不用，诡愈甚焉。”

太宗曰：“何谓也？”

靖曰：“假之以四兽之名，及天、地、风、云之号，又加商金、羽水、徵火、角木之配，此皆兵家自古诡道。存之，则余诡不复增矣；废之，则使贪使愚之术从何而施哉？”

太宗良久曰：“卿宜秘之，无泄于外。”

## (十二)

太宗曰：“严刑峻法，使人畏我而不畏敌，朕甚惑之。昔光武以孤军当王莽百万之众，非有刑法临之，此何由乎？”

靖曰：“兵家胜败，情状万殊，不可以一事推也。如陈胜、吴广败秦师，岂胜、广刑法能加于秦乎？光武之起，盖顺人心之怨莽也，况又王寻、王邑不晓兵法，徒夸兵众，所以自败。臣按《孙子》曰：‘卒未亲附而罚之，则不服；已亲附而罚不行，则不可用。’此言凡将先有爱结于士，然后可以严刑也。若爱未加而独用峻法，鲜克济焉。”

太宗曰：“《尚书》言：‘威克厥爱，允济；爱克厥威，允罔功。’何谓也？”

靖曰：“爱设于先，威设于后，不可反是也。若威加于前，爱救于后，无益于事矣。《尚书》所以慎戒其终，非所以作谋于始也。故《孙子》之法万代不刊<sup>⑤</sup>。”

## (十三)

太宗曰：“卿平萧铣，诸将皆欲籍伪臣家以赏士卒，独卿不从，以谓蒯通不戮于汉，既而江汉归顺。朕由是思古人有言曰：‘文能附众，武能威敌。’其卿之谓乎？”

靖曰：“汉光武平赤眉，入贼营中案行。贼曰：‘萧王推赤心于人腹中。’此盖先料人情本非为恶，岂不像虑哉！臣顷讨突厥，总蕃汉之众，出塞千里，未尝戮一杨干，斩一庄

贾，亦推赤诚存至公而已矣。陛下过听，擢臣以不次之位，若于文武则何敢当！”

#### (十四)

太宗曰：“昔唐俭使突厥，卿因击而败之，人言卿以俭为死间，朕至今疑焉。如何？”

靖再拜曰：“臣与俭比肩事主，料俭说必不能柔服，故臣因纵兵击之，所以去大恶不顾小义也。人谓以俭为死间，非臣之心。按《孙子》，用间最为下策，臣尝著论其末云：水能载舟，亦能覆舟。或用间以成功，或凭间以倾败。若束发事君，当朝正色，忠以尽节，信以竭诚，虽有善间，安可用乎？唐俭小义，陛下何疑？”

太宗曰：“诚哉！非仁义不能使间，此岂纤人所为乎⑤？周公大义灭亲，况一使人乎？灼无疑矣！”

#### (十五)

太宗曰：“兵贵为主，不贵为客；贵速，不贵久。何也？”

靖曰：“兵，不得已而用之，安在为客且久哉？《孙子》曰：‘远输则百姓贫。’此为客之弊也。又曰：‘役不再籍，粮不三载。’此不可久之验也。臣较量主客之势，则有变客为主、变主为客之术。”

太宗曰：“何谓也？”

靖曰：“因粮于敌”，是变客为主也；‘饱能饥之，佚能劳之’，是变主为客也。故兵不拘主客迟速，唯发必中节，所以为宜。”

太宗曰：“古人有诸？”

靖曰：“昔越伐吴，以左右二军鸣鼓而进，吴分兵御之。越以中军潜涉不鼓，袭败吴师，此变客为主之验也。石勒与姬澹战，澹兵远来，勒遣孔苕为前锋，逆击澹军，孔苕退而澹来追，勒以伏兵夹击之，澹军大败，此变劳为佚之验也。”古人如此者多。”

太宗曰：“铁蒺藜、行马，太公所制，是

乎？”

靖曰：“有之，然拒敌而已。兵贵致人，非欲拒之也。太公《六韬》言守御之具尔，非攻战所施也。”

### 卷 下

#### (一)

太宗曰：“太公云：‘以步兵与车骑战者，必依丘墓险阻。’又孙子云：‘天隙之地，丘墓故城，兵不可处。’如何？”

靖曰：“用众在乎心一；心一在乎禁祥去疑①⑦。倘主将有所疑忌，则群情摇；群情摇，则敌乘衅而至矣。安营据地，便乎人事而已。若涧、井、陷、隙之地，及如牢如罗之处，人事不便者也，故兵家引而避之，防敌乘我。丘墓故城，非绝险处，我得之为利，岂宜反去之乎？太公所说，兵之至要也！”

太宗曰：“朕思，凶器无甚于兵者。行兵苟便于人事，岂以避忌为疑？今后诸将有以阴阳拘忌失于事宜者，卿当丁宁诫之。”

靖再拜谢曰：“臣按《尉繚子》云：‘黄帝以德守之，以刑伐之，是谓刑德，非天官时日之谓也。然诡道可使由之，不可使知之。后世庸将泥于术教，是以多败，不可不诫也。陛下圣训，臣即宣告诸将。”

#### (二)

太宗曰：“兵，有分有聚，各遗适宜。前代事迹，孰为善此者？”

靖曰：“苻坚总百万之众，而败于淝水，此兵能合不能分所致也。吴汉讨公孙述，与副将刘尚分屯，相去二十里，述来攻汉，尚出合击，大破之，此兵分而能合所致也。太公云：‘分不分，为麋军；聚不聚，为孤旅。’”

太宗曰：“然。苻坚初得王猛，实知兵，

遂取中原；及猛卒，坚果败。此縻军之谓乎？  
吴汉为光武所任，兵不遥制，故汉果平蜀。  
此不陷孤旅之谓乎？得失事迹，足为万代鉴！”

### (三)

太宗曰：“朕观千章万句，不出乎‘多方以误之’一句而已。”

靖良久曰：“诚如圣语。大凡用兵，若敌人不误，则我师安能克哉？譬如弈棋，两敌均焉，一着或失，竟莫能救。是古今胜败，率由一误而已，况多失者乎！”

### (四)

太宗曰：“攻守二事，其实一法欤？《孙子》言：‘善攻者，敌不知其所守；善守者，敌不知其所攻。’即不言敌来攻我，我亦攻之；我若自守，敌亦守之。攻守两齐，其术奈何？”

靖曰：“前代似此相攻相守者多矣，皆曰：‘守则不足，攻则有余。’便谓不足为弱，有余为强，盖不悟攻守之法也。臣按《孙子》云：‘不可胜者，守也；可胜者，攻也。’谓敌未可胜，则我且自守；待敌可胜，则攻之尔。非以强弱为辞也。后人不晓其义，则当攻而守，当守而攻。二役既殊，故不能一其法。”

太宗曰：“信乎，有余不足，使后人惑其强弱？殊不知守之法，要在示敌以不足；攻之法，要在示敌以有余也。示敌以不足，则敌必来攻，此是敌不知其所攻者也；示敌以有余，则敌必自守，此是敌不知其所守者也。攻守之法，敌与我分为二事。若我事得，则敌事败；敌事得，则我事败。得失成败，彼我之事分焉。攻守者，一而已矣，得一者百战百胜。故曰：‘知彼知己，百战不殆。’其知一之谓乎？”

靖再拜曰：“深乎，圣人之法也！攻是守之机，守是攻之策，同归乎胜而已矣。若攻不知守，守不知攻，不惟二其事，抑又二其官，虽口诵《孙》、《吴》，而心不思妙，攻守

两齐之说，其孰能知其然哉？”

### (五)

太宗曰：“《司马法》言：‘国虽大，好战必亡；天下虽安，忘战必危。’此亦攻守一道乎？”

靖曰：“有国有家者，曷尝不讲乎攻守也？夫攻者，不止攻其城、击其阵而已，必有攻其心之术焉；守者，不止完其壁、坚其阵而已，必也守吾气而有待焉。大而言之，为君之道；小而言之，为将之法。夫攻其心者，所谓知彼者也；守吾气者，所谓知己者也。”

太宗曰：“诚哉！朕尝临阵，先料敌之心与己之心孰审，然后彼可得而知焉；察敌之气与己之气孰洽，然后我可得而知焉。是以知彼知己，兵家大要。今之将臣，虽未知彼，苟能知己，则安有失利者哉！”

靖曰：“孙武所谓‘先为不可胜’者，知己者也；‘以待敌之可胜’者，知彼者也。又曰：‘不可胜在己，可胜在敌。’臣斯须不敢失此诚。”

### (六)

太宗曰：“《孙子》言三军可夺气之法：‘朝气锐，昼气惰，暮气归。善用兵者，避其锐气，击其惰归。’如何？”

靖曰：“夫含生禀血，鼓作斗争，虽死不省者，气使然也。故用兵之法，必先察吾士众，激吾胜气，乃可以击敌焉。吴起‘四机’，以气机为上，无他道也，能使人人自斗，则其锐莫当。所谓朝气锐者，非限时刻而言也，举一日始末为喻也。凡三鼓而敌不衰不竭，则安能必使之惰归哉？盖学者徒诵空文，而为敌所诱。苟悟夺之亡理，则兵可任矣。”

### (七)

太宗曰：“卿尝言李勣能兵法，久可用否？”

然非朕控御，则不可用也，他日太子治若何御之？”

靖曰：“为陛下之计，莫若黜勳，令太子复用之，则必感恩图报，于理何损乎？”

太宗曰：“善！朕无疑矣。”

太宗曰：“李勳若与长孙无忌共掌国政，他日如何？”

靖曰：“勳，忠义臣。可保任也。无忌佐命大功，陛下以肺腑之亲，委之辅相，然外貌下士，内实嫉贤。故尉迟敬德面折其短，遂引退焉；侯君集恨其忘旧，因以犯逆。皆无忌致其然也。陛下询及臣，臣不敢避其说。”

太宗曰：“勿泄也，朕徐思其处置。”

## (八)

太宗曰：“汉高祖能将将，其后韩、彭见诛，萧何下狱，何故如此？”

靖曰：“臣观刘、项皆非将将之君。当秦之亡也，张良本为韩报仇，陈平、韩信皆怨楚不用，故假汉之势，自为奋尔。至于萧、曹、樊、灌，悉由亡命，高祖因之以得天下。设使六国之后复立，人人各怀其旧，则虽有能将将之才，岂为汉用哉？臣谓汉得天下，由张良借箸之谋，萧何漕挽之功也。以此言之，韩、彭见诛，范增不用，其事同也。臣故谓刘、项皆非将将之君。”

太宗曰：“光武中兴，能保全功臣，不任以吏事，此则善于将将乎？”

靖曰：“光武虽藉前构<sup>⑧</sup>，易于成功，然莽势不下于项籍，寇、邓未越于萧、曹，独能推赤心，用柔治，保全功臣，贤于高祖远矣！以此论将将之道，臣谓光武得之。”

## (九)

太宗曰：“古者出师命将，斋三日，授之以钺，曰：‘从此至天，将军制之。’又授之以斧，曰：‘从此至地，将军制之。’又推其轂，

曰：‘进退唯时。’既行，军中但闻将军之令，不闻君命。朕谓此礼久废，今欲与卿参定遣将之仪，如何？”

靖曰：“臣窃谓圣人制作，致斋于庙者，所以假威于神也；授斧钺又推其轂者，所以委寄以权也。今陛下每有出师，必与公卿议论，告庙而后遣，此则邀以神至矣！每有任将，必使之便宜从事，此则假以权重矣！何异于致斋推轂邪？尽合古礼，其义同焉，不须参定。”

上曰：“善！”乃命近臣书此二事，为后世法。

## (十)

太宗曰：“阴阳术数，废之可乎？”

靖曰：“不可。兵者，诡道也，托之以阴阳术数，则使贪使愚，兹不可废也。”

太宗曰：“卿尝言，天官时日，明将不法，暗者拘之。废亦宜然。”

靖曰：“昔纣以甲子日亡，武王以甲子日兴。天官时日，甲子一也，殷乱周治，兴亡异焉。又宋武帝以往亡日起兵，军吏以为不可，帝曰‘我往彼亡’，果克之。由此言之，可废明矣。然而田单为燕所围，单命一人为神，拜而祠之。神言‘燕可破’，单于是以火牛出击燕，大破之。此是兵家诡道。天官时日，亦由此也。”

太宗曰：“田单托神怪而破燕，太公焚蓍龟而灭纣<sup>⑨</sup>，二事相反，何也？”

靖曰：“其机一也，或逆而取之，或顺而行之，是也。昔太公佐武王，至牧野遇雷雨，旗鼓毁折，散宜生欲卜吉而后行，此则因军中疑惧，必假卜以问神焉。太公以谓腐草枯骨无足问，且以臣伐君，岂可再乎？然观散宜生发机于前，太公成机于后，逆顺虽异，其理致则同。臣前所谓术数不可废者，盖存其机于未萌也，及其成功，在人事而已。”

## (十一)

太宗曰：“当今将帅，唯李勣、道宗、薛万彻，除道宗以亲属外，孰堪大用？”

靖曰：“陛下尝言勣、道宗用兵，不大胜亦不大败；万彻若不大胜，即须大败。臣愚思圣言，不求大胜亦不大败者，节制之兵也；或大胜或大败者，幸而成功者也。故孙武云：‘善战者，立于不败之地，而不失敌之败。’节制在我云尔。”

## (十二)

太宗曰：“两阵相临，欲言不战，安可得乎？”

靖曰：“昔秦师伐晋，交绥而退。《司马法》曰：‘逐奔不远，纵绥不及。’臣谓绥者，御辔之索也。我兵既有节制，彼敌亦正行伍，岂敢轻战哉？敌有出而交绥，退而不逐，各防其失败者也。孙武云：‘无邀正正之旌，勿击堂堂之阵。’若两阵体均势等，苟一轻肆，为其所乘，则或大败，理使然也。是故兵有不战，有必战；夫不战者在我，必战者在敌。”

太宗曰：“不战在我，何谓也？”

靖曰：“孙武云：‘我不欲战者，画地而守之，敌不得与我战者，乘其所之也。’敌有人焉，则交绥之间未可图也。故曰不战在我。夫必战在敌者，孙武云：‘善动敌者，形之，敌必从之；予之，敌必取之；以利动之，以本待之。’敌无人焉，则必来战，吾得以乘而破之，故曰必战者在敌。”

太宗曰：“深乎，节制之兵，得其法则昌，失其法则亡。卿为纂述历代善于节制者，具图来上，朕当择其精微，垂于后世。”

靖曰：“臣前所进黄帝、太公二阵图，并《司马法》、诸葛亮奇正之法，此已精悉。历代名将，用其一二而成功者亦众矣。但史官鲜克知兵，不能纪其实迹焉。臣敢不奉诏，当纂述以闻。”

## (十三)

太宗曰：“兵法孰为最深者？”

靖曰：“臣尝分为三等，使学者当渐而至焉。一曰道，二曰天地，三曰将法。夫道之说<sup>②</sup>，至微至深，《易》所谓聪明睿智神武而不杀者是也。夫天之说，阴阳，地之说，险易。善用兵者，能以阴夺阳，以险攻易，孟子所谓天时地利者是也。夫将法之说，在乎任人利器，《三略》所谓得士者昌，管仲所谓器必坚利者，是也。”

太宗曰：“然。吾谓不战而屈人之兵者上也，百战百胜者中也，深沟高垒以自守者下也。以是较量，孙武著书，三等皆具焉。”

靖曰：“观其文，迹其事，亦可差别矣。若张良、范蠡、孙武，脱然高引，不知所往，此非知道，安能尔乎？若乐毅、管仲、诸葛亮，战必胜，守必固，此非察天时地利，安能尔乎？其次，王猛之保秦，谢安之守晋，非任将择才，缮完自固，安能尔乎？故习兵之学，必先由下以及中，由中以及上，则渐而深矣。不然，则垂空言，徒记诵，无足取也。”

太宗曰：“道家忌三世为将者，不可妄传也，亦不可不传也，卿其慎之！”

靖再拜出，尽传其书与李勣。

注释：

①谕：该文特指皇帝诏令。②治力：语出《孙子·军争篇》：“以近待远，以逸待劳，以饱待饥，此治力者也。”③权谲：权宜机变。④阊闾(kūn yù)：门槛，引申为范围、边界。⑤蒐狩(sōu shòu)：田猎。⑥要：通“邀”。⑦敕：告诫。⑧戍：驻守边防的士卒。⑨驻队：停止前进的部队。⑩战队：战锋队。⑪表：标帜。⑫表：旌旗。⑬车徒：配属兵车的步卒。⑭两厢：左右两翼。⑮不刊：无可改易。⑯纤人：人格卑下的人。⑰祥：吉凶的预兆。⑱前构：前人成就的事业。⑲蓍龟：占卜用具。⑳道：规律、规则。



## 《长短经》

题解：

《长短经》，唐赵蕤著。全书9卷，64篇。是一部集谋略之大成而独具特色的谋略巨著。其谋略既包括治国平天下的政治战略，也包括治军用兵的机权智谋，内容十分丰富。从选才用才到领导统御，从为君之道到人臣之德，从政令的权变到外交的纵横，从做人的原则到做事的变通，都有明确的观点，是经事致用的谋略学经典。

《长短经》的军事谋略，主要集中在第九卷的《兵权》中。作者对军事谋略的阐发，既有理论上的论述，又有实际战例的分析，深刻精当，很有借鉴价值。作者强调将帅的作用，认为将帅必备“勇智仁信”；重视谍报和用间，提出发挥间谍作用和使用反间计的原则和方法；强调客观全面地考察敌情，因敌情变化而灵活应变；主张军事攻心，认为“心胜为上，兵胜为下”等。作者还深刻论述了奇正的关系，认为作战的形式不过奇正而已，然而奇正的变化无穷无尽，奇正相互转化，就象圆环一样，无始无终。还提出了设伏、掩护、偷袭的作战方法。

### 出军第一

夫兵者，凶器也；战者，危事也。兵战之场，立尸之所，帝王不得已而用之矣。故曰：救乱诛暴，谓之义兵，兵义者王。敌加于己，不得已而用之，谓之应兵，应兵者胜。争恨小故，不胜愤怒者，谓之忿兵，兵忿者败。利人土地宝货者，谓之贪兵，兵贪者破。恃国之大，矜人之众，欲见威于敌，谓之骄兵，兵骄者灭。是知圣人之用兵也，非好乐之，将以诛暴讨乱。夫以义而诛不义，若决江河而溉萤火，临不测之渊而欲堕之，其克之必也。所以必优游恬泊者何？重伤人物<sup>①</sup>。故曰：远人不服，则修文德以来之。

不以德来，然后命将出师矣。夫将者，国之辅也，人之司命也，故曰：将不知兵，以其主与敌也；君不择将，以其国与敌也。……

### 道德第四

夫兵不可出者三：不和于国，不可以出军；不和于军，不可以出阵；不和于阵，不可以出战。故孙子曰：一曰道，道者，令人与上同意者也。故可与之死，可与之生，而人不畏危。黄石公曰：军井未达，将不言渴；军幕未办，将不言倦。冬不服裘，夏不操扇，是谓礼将，与之安，与之危，故其众可合而不可离，可用而不可疲。接之以礼，励之以辞，则士死之。是以含蓼问疾<sup>②</sup>，越王霸于诸侯；吮疽恤士<sup>③</sup>，吴起凌于敌国；阳门恸哭，胜三晋之兵；单醪投河，感一军之士。勇者为之斗，智者为之忧，视死若归，计不旋踵者<sup>④</sup>，以其恩养素畜<sup>⑤</sup>、策谋和同也。故曰：畜恩不倦，以一取万。语曰：积恩不已，天下可使。此道德之略也。

### 禁令第五

孙子曰：卒未专亲而罚之<sup>⑥</sup>，则不服，不服则难用。卒已专亲而罚不行，则不可用矣。故曰：视卒如婴儿，故可与之赴深溪；视卒如爱子，故可与之居死地。厚而不能使，爱而不能令，乱而不知理，譬若骄子，不可用也。经曰：“兵以赏为表，以罚为里。”又曰：“令之以文，齐之以武，是谓必取。”故武侯之军禁有七：一曰轻；二曰慢；三曰盗；四曰欺；五曰背；六曰乱；七曰误。此治军之禁也。若期会不到，闻鼓不行，乘宽自留<sup>⑦</sup>，回避务止，初近而后远，唤名而不应，军甲不具，兵器不备，此谓轻军。受令不传，传之不审，以惑吏士，金鼓不闻，旌旗不睹，此谓慢军。食不廩粮，军不部兵，赋赐不均，阿私所亲，取非其物，借贷不还，夺人头首，以获功名，此谓盗军。若变易姓名，衣服不

鲜，金鼓不具，兵刃不磨，器械不坚，矢不著羽，弓弩无弦，主者吏士，法令不从，此谓欺军。闻鼓不行，叩金不止，按旗不伏，举旗不起，指麾不随，避前在后，纵发乱行<sup>⑧</sup>，折兵弩之势，却退不斗，或左或右，扶伤与死<sup>⑨</sup>，因托归还，此谓背军。出军行将，士卒争先，纷纷扰扰，军骑相连，咽塞道路，后不得前，呼唤喧嘩，无所听闻，失行乱次，兵刃中伤，长将不理，上下纵横，此谓乱军。屯营所止，问其乡里，亲近相随，共食相保，呼召不得，越入他位，干误次第<sup>⑩</sup>，不可呵止，度营出入，不由门户，不自启白<sup>⑪</sup>，奸邪所起，知者不告，罪同一等，合人饮食，阿私所受，大言惊语，疑惑吏士，此谓误军。斩断之后，万事乃理，所以乡人盗笠，吕蒙先涕而后斩，马逸犯麦，曹公割发而自刑。故太公曰：刑上极<sup>⑫</sup>，赏下通。孙子曰：法令孰行，赏罚孰明。吾以此知胜此之谓也。

## 五间第十

《周礼》曰：“巡国传谍者，反间也。”吕望云：“间构飞言，聚为一卒<sup>⑬</sup>。”是知用间之道，非一日也。故间有五间：有因间，有内间，有反间，有生间，有死间。五间俱起，莫知其道。因间者，因其乡人而用之者也；内间者，因其官人而用之者也；反间者，因敌间而用之者也；生间者，反报者也；死间者，为诳事于外，令吾间知之，而待于敌间者也。昔汉西域都护班超，初为将兵长史，悉发诸国步骑二万五千击莎车<sup>⑭</sup>，莎车求救龟兹<sup>⑮</sup>，龟兹王遣左将军发温宿姑墨尉头，合五万人助之，超召部曲及于阗、疏勒王议曰：“兵少不敌，计莫如各解散去。于阗从此东，长吏亦从此西归。夜半闻鼓声便发。”众皆以为然。乃阴缓擒得生口<sup>⑯</sup>，生口归，以超言告龟兹。龟兹闻之喜，使左将军将万骑于西界遮超，温宿王将八千骑于东界遮于阗王。人定后，超密令诸司马，勒兵励士，至鸡鸣，驰赴莎车军营，掩覆之，胡皆惊走，斩首五

千级，莎车遂降。又耿弇讨张步，步闻之，乃使其大将费邑军历下，又分兵屯祝阿，别于太山钟城列营数十以待弇。弇渡河先击祝阿，拔之，故开围一角，令其众得奔钟城。钟城人闻祝阿已溃，大惧，遂空壁亡去。费邑分遣其弟敢守巨里，弇进兵先胁巨里，多伐树木，扬言填塞坑塹。数日有降者，言邑闻弇欲攻巨里，谋来救之，弇乃严令军中趣治攻具<sup>⑰</sup>，后三日当悉攻巨里，阴缓生口，令得亡归。归者以弇期告邑，邑至日果自来救之。弇喜谓诸将曰：“吾所修攻具者，欲诱致邑耳，今来适吾所求也！”即分三千人守巨里，自引精兵上岗坂，乘高合战，大破之，临阵斩邑。此用因间之势也。晋时，益州牧罗尚遣隗伯攻李雄于隗城，迭有胜负<sup>⑱</sup>，雄乃募武都人朴泰，鞭之见血，使谲罗尚，欲为内应，以火为期。尚信之，悉出精兵遣隗伯等率领从泰。李雄先使李骧于道设伏，泰以长梯倚城而举火，伯军见火起，皆争缘梯，泰又以绳汲上尚军百余人，皆斩之，雄因放兵，内外击之，大破尚军。此用内间之势也。郑武公欲伐胡，先以其子妻胡<sup>⑲</sup>，因问群臣曰：“我欲用兵，谁可伐者？”大夫关其思曰：“胡可伐。”武公怒而戮之，曰：“胡，兄弟之国，子言伐之，何也！”胡君闻之，以郑为亲己而不备郑，郑袭胡取之。此用死间之势也。陈平以金纵反间于楚军，间范增，楚王疑之。此用反间者也。故知三军之亲<sup>⑳</sup>，莫亲于间，赏莫厚于间，事莫密于间，非圣智莫能用间，非密微莫能得间之实。此三军之要，唯贤将之所留意也。

## 将体第十一

《万机论》曰：“虽有百万之师，临时吞敌，在将也。”《吴子》曰：“凡人之论将，恒观之于勇，勇之于将，乃万分之一耳。”故《六韬》曰：“将不仁则三军不亲，将不勇则三军不为动。”《孙子》曰：“将者，勇智仁信必也。”勇则不可犯，智则不可乱，仁则爱人，信则不欺人，

必则无二心，此所谓五才也。三军之众，百万之师，张设轻重，在于一人，谓之气机<sup>①</sup>。道峡路险，名山大塞，十人所守，千人不过，是谓地机。善行间谍，分散其众，使君臣相怨，是谓事机。车坚舟利，士马闭习<sup>②</sup>，是谓力机。此所谓四机者也。夫将可乐而不可忧，谋可深而不可疑。将忧则内疑，谋疑则敌国奋，以此征伐，则可致乱。故将能清能静，能平能整，能受谏，能纳人，能采善言，能知国俗，能图山川，能裁阨难<sup>③</sup>，能制军权，危者安之，惧者欢之，叛者还之，冤者原之，诉者察之，卑者贵之，强者抑之，敌者残之，贪者丰之，欲者使之，畏者隐之，谋者近之，谗者覆之<sup>④</sup>，毁者复之<sup>⑤</sup>，反者暖之，横者挫之，服者活之，降者说之，获城者割之，获地者裂之，获国者守之，获阨塞之，获堆屯之，获财散之，敌动伺之，敌强下之，敌凌假之，敌暴安之，敌勃义之，敌睦携之，顺举挫之，因势破之，放言过之，网网罗之<sup>⑥</sup>。此为将之道也。故将拒谏则英雄散，策不从则谋士叛，善恶同则功臣倦，将专己则下归咎，将自臧则下少功，将受谗则下有离心，将贪财则奸不禁，将内顾则士卒淫<sup>⑦</sup>。将有一则众不服，有二则军无试，有三则军乖背，有四则祸及国。《军志》曰：“将谋欲密，士众欲一，攻敌欲疾。”将谋密则奸心闭，士众一则群心结，攻敌疾则诈不及设。军有此之者，则计不夺。将谋泄则军无势，以外窥内则祸不制，财入营则众奸会。将以此之者，军必败。将无虑则谋士去，将无勇则吏士恐，将迁怒则军士惧。虑也谋也，将之所重，勇也怒也，将之所用意。故曰：必死可杀也，必生可虑也，忿速可侮也，廉洁可辱也，爱人可烦也。此五者，将军之过，用兵之灾。故凡战之要，先占其将而察其才，因刑用权<sup>⑧</sup>，则不劳而功兴也。其将愚而信人，可谋而诈；贪而忽名，可货而赂；轻变可劳而困，上富而骄，下贫而桀，可离而间；将怠士懈，可潜而袭。智而心缓者，可追也；勇而轻死者，可暴也；急而心速者，可诱也；

贪而喜利者，可袭也；可遗也；仁而不忍于人者，可劳也；信而喜信于人者，可诳也；廉洁而不爱人者，可侮也；刚毅而自用者，可事也；懦心喜用于人者，可使人欺也。此皆用兵之要、为将之略也。

## 料敌第十二

夫两国治戎，交和而合刀<sup>①</sup>，以冥冥决事，必先探于敌情，故孙子曰：“胜兵先胜而后战。”又曰：“策之而知得失之计，候之而知动静之理，因形而作胜于众，用兵之要也。”若欲先知敌将，当令贱而勇者，将轻锐以当之。观敌之来，一起一坐，其政以理，其追北佯为不及<sup>②</sup>，其见利佯为不知，如此者，将必有智，勿与轻战。若其众欢旗乱，其卒自止自行，其兵或纵或横，其追北恐不及，见利恐不得，如此者，将必无谋，虽众可获。故曰：敌近而静者，恃其险也；敌远人而挑人者，欲人之进也。众树动者，来也；众草多障者，疑也；鸟起者，伏也；禽骇者，覆也；尘卑而广者，徒来也；散而条远者，薪来也<sup>③</sup>；少而往来者，营军也；辞卑而益备者，进也；辞强而进驱者，退也；无约而请和者，谋也；半进半退者，诱也；杖而立者，饥也；汲而先饮者，渴也；见利不进者，劳也；鸟集者，虚也；夜呼者，恐也；军扰者，将不重也；旗动者，乱也；吏怒者，倦也；粟马食肉，军无悬湫<sup>④</sup>，不及其舍者，穷寇也；淳淳翕翕，徐言入入者，失其众也；数赏者，害也；数罚者，困也；数顾者，失其群也；来委谢者，欲休息也；兵怒而相近，久而不合，又不相去，必谨察之；敌来新到，行阵未定，可击也；阵虽定，人马未食，可击也；涉长道，后行未息，可击也；行坂涉险，半隐半出，可击也；涉水半渡，可击也；险道狭路，可击也；旌旗乱动，可击也；阵数动移，可击也；人马数顾，可击也；凡见此者，击之而勿疑。然兵者诡道也，能而示之不能，用而示之不用，故匈奴示弱，汉祖

有平城之围，石勒藏锋，王浚有幽州之陷，即其效也，可不慎哉！

### 势略第十三

孙子曰：“勇怯，势也；强弱，形也。”又曰：“水之弱至于漂石者，势也。”何以明之？昔曹公征张鲁定汉中，刘晔说曰：“明公以步卒五千，讨诛董卓，北破袁绍，南征刘表九州百郡，十并其八，威震天下，势溜海外，今举汉中，蜀人望风，破胆失守，推此而前，蜀可传檄而定也。刘备，人杰也，有智而迟，得蜀日浅，蜀人未恃，今破汉中，蜀人震恐，其势自倾，以公之神明，因其倾而压之，无不克也。若小缓之，诸葛亮明于理而为相，关羽、张飞，勇冠三军而为将，蜀人既定，据险守要，则不可犯也，今不取，必为后忧。”曹公不从，居七日，蜀降者说蜀中一日数十惊，备斩之而不能禁也，曹公延问晔曰：“今尚可击否？”晔曰：“今已小定，未可击也。”又太祖征吕布至下邳，布败，固守城，攻不拔，太祖欲还，荀攸曰：“吕布勇而无谋，今三军皆北，其锐气衰，三军以将为主，主衰则军无奋意，夫陈宫有智而迟，今及布气之未复，宫谋之未定，进急攻之，布可收也。”乃引沂泗灌城，城溃，生擒布。以此观之，当是时，虽诸葛之智，陈宫之谋，吕布之勇，关张之劲，无所用矣。此谓勇怯势也，强弱形也。救兵有三势，善战者恒求之于势。势之来也，食其缓颊<sup>③</sup>，下齐七十余城；谢石渡淝，摧秦百万之众。势之去也，项羽有拔山之力，空泣虞姬；田横有负海之强，终然刎颈。故曰：战胜之威，人百其倍，败兵之卒，没世不复。故水之弱至于漂石，此势略之要也。

### 攻心第十四

孙子曰：“攻心为上，攻城为下。”何以明之？战国时有说齐王曰：“凡伐国之道，攻心为上，攻城为下，心胜为上，兵胜为下。是

故圣人之伐国攻敌也，务在先服其心。何谓攻其心？绝其所恃，是谓攻其心也。今秦之所恃为心者，燕、赵也，当收燕、赵之权，勿虚言空辞，必将以实利，以迥其心，所谓攻其心者也。沛公西入武关，欲以二万人击秦峽关下军，张良曰：“秦兵尚强，未可轻也，臣闻其将屠子贾竖，易动以利，愿沛公且留壁，使人先行，为五万人具食，益张旗帜诸山之上，为疑兵；令酈食其持重宝啗秦将。”<sup>④</sup>秦等果欲连和，俱西袭咸阳，沛公欲听之。良曰：“此独其将欲叛，士卒恐不从，不从必厄，不如因其懈击之。”沛公乃引兵击秦军，大破之，此“攻心”者之。

### 伐交第十五

孙子曰：“善用兵者，使交不得合。”何以明之？昔楚莫敖将盟贰轸<sup>⑤</sup>，郢人军于蒲骚，将以随绞州蓼伐楚军<sup>⑥</sup>。莫敖患之。斗廉曰：“郢人军于其郊，必不诫，且日虞四邑之至<sup>⑦</sup>。君次于郊郢以御四邑，我以说师宵加于郢。郢有虚心而将其城，莫有斗志。若败郢师，四邑必离。”

莫敖从之。遂败郢师于蒲骚。

汉宣帝时，先零于罕开羌解仇<sup>⑧</sup>，合党为寇。帝命赵充国先诛罕开。充国守便宜，不从，上书曰：“先零羌虏欲为背叛，故于罕开解仇。然其私心不能亡，恐汉兵至而罕开背之也。臣愚以为其计常欲赴罕开之急，以坚其约。先击罕羌，先零必助之。今虏马肥，粮方饶，击之恐不能伤害，适使先零得施德于罕羌也，坚其约，合其党，虏交坚党合，诛之用力数倍。臣恐国家忧累，由此十数年，不一二岁而已。先诛先零，则罕开之属，不烦兵服矣。”帝从之，果如策。

魏太祖初伐关中，贼每一部到，太祖辄喜。贼破之后，诸将问其故，太祖曰：“关中道远，若各依险阻，征之不一二年，不可定也。今皆来集，众虽多，莫能相服，军无适主。一举可灭，为攻差易<sup>⑨</sup>，吾是喜。”语曰：

“连鸡不俱棲，可离而解。”曹公得之矣，此伐交者也。

## 格行第十六

孙子曰：“安能动之。”又曰：“攻其所必趋。”何以明之？昔楚子围宋，宋公使如晋告急。晋狐偃曰：“楚始得曹而新婚与卫，若伐曹卫，楚女救之，则齐宋免矣。”果如是计。魏伐赵。赵急请教与齐。齐威王以田忌为将，以孙臆为师。居辎车中为计谋。

田忌欲引兵之赵，孙子曰：“夫解杂乱纷纠者不控拳。救斗者不搏械，批亢捣虚，形格势禁，则自为解耳。今梁赵相攻，轻兵锐卒，必竭于外，老弱于内，君不若引兵疾走大梁，据其街路，横其方虚，彼必释赵而自救，是我一举解赵之围，而收弊于魏也。”田忌从之，魏果去邯郸。

又曹操为东郡太守，治东武阳军，顿丘黑山贼于毒等攻东武阳，太祖欲引兵西入山攻毒本屯。诸将皆以为当还自救，曹操曰：“昔‘孙臆救赵’而‘攻魏’，耿弇欲走西安攻临菑，使贼闻我西而还，则武阳自解；不还，我能破虏家。虏不能拔武阳必矣。”乃行，毒闻之，果弃武阳还，曹操要击大破之。

初关羽围樊襄阳，曹操以汉帝在许近贼，欲徙都。司马宣王及蒋济说曹操曰：“刘备孙权，外亲内疏，关羽得志，权必不愿也。可遣人劝蹙其后，许割江南以封权，则樊围自解。”曹操从之，羽遂见擒，此言攻其所爱则动矣。是以善战者无知名，无勇功，不争白刃之前，不备已失之后。此之谓矣。

## 围师第十九

孙子曰：“围师必阙。”何以明之？

黄巾贼韩忠据宛，朱儁、张超围之，结垒起土山以临城。因鸣鼓攻其西南，贼悉众赴之，乃掩其东北，乘城而入。忠退保小城，乞降。诸将欲听之。儁曰：“兵有形同而势异

者。昔秦项之际，民无定主，故赏附以劝来耳。今海内一统，唯黄巾造寇。纳降无以劝善；讨之足以惩恶。今若受之，更开逆意，贼利则进战，钝则乞降。纵敌长寇，非良计也。”因急攻击，不克。

儁登土山，顾谓张超曰：“吾知之矣！贼今外围周固，连营逼急，乞降不受，欲出不得，所以死战也。万人一心，犹不可当，况十万乎！其害甚矣，不如撤围，并兵入城。忠见解围，势必自出，出则意散，易破之道也。”既而解围，忠果出战，遂破忠等。

魏太祖围壶关，下令曰：“城拔皆坑之！”<sup>⑨</sup>连月不下。曹仁言于太祖曰：“围城必示之门，能以开其生路也。今公许之必死，将人人自为守。且城固而粮多，攻之则士卒伤，守则引日持久。今顿兵坚城之下，以攻必死之虏，非良计也。”太祖从之，城降。

北围师之道也。<sup>⑩</sup>

## 变通第二十

孙子曰：“善动敌者形之，敌必从之。”何以明之？

魏与赵攻韩，齐田忌为将而救之，直走大梁。魏将庞涓去韩而归。齐军已过而西矣。孙臆谓田忌曰：“被三晋之兵，素悍勇而轻齐，齐号为怯。善用兵者，因其势而利导之。兵法曰：‘百里而趋利者，蹶上将军’<sup>⑪</sup>。使齐军入魏地为十万灶，明日为五万灶，明日为二万灶。”涓喜曰：“吾固知齐卒怯也，入吾地三日，士卒亡已过半。”乃弃其步兵，与轻锐倍日并行逐之<sup>⑫</sup>。

臆度其墓至马陵。通狭而多险，可伏兵。乃斫大树白书之曰：“庞涓死此树下。”令善射者万弩，夹道而伏，期日，见火举而发。涓夜至斫木下，见白书，乃鑽火烛之，读书，齐军万弩俱发，魏军大乱。涓乃自刭曰：“果成竖子之名也！”

虞诩为武都郡，羌率众遮诩于陈仓峭谷<sup>⑬</sup>。诩令吏士各作两灶，日增倍之，羌不

敢逼。或问曰：“孙子减灶而君增之，兵法日行三十里以戒不虞<sup>④</sup>，今且行二百里，何也？”谢曰：“虏众既多，吾徐行则易为所及，疾行则彼不测之。且虏见吾灶多，谓群兵来。至孙子见弱吾示强，势不同也。”

故曰，料敌在心，察机在目。因形而作，腾于众善之善者矣。此“变通之理”也。

## 利害第二十一

孙子曰：“陷之死地而后生，投之亡地而后存。”又曰：“杂于利而务可伸；杂于害而患可解。”何以明之？

汉将韩信攻赵。赵盛兵井陘口，信乃引兵未至井陘口三十里止舍。夜半传发，选轻骑二千人持一赤帜，从间道萆山而望见赵军<sup>⑤</sup>，诫之曰：“赵见我走，必空壁逐我，若疾入赵壁，拔赵帜立汉赤帜。”令其裨将传餐曰<sup>⑥</sup>：“今日破赵会食！”诸将皆莫信，佯名曰：“诺！”信谓军吏曰：“赵已先据便地为壁，且彼未见我大将旗鼓，未肯击前行，恐吾至阻险而还。”信乃使万人行，出涿水阵，赵军望见，大笑之。

平旦，信建大将之旗鼓，鼓行出井陘口。赵开壁击之。大战良久。于是，信与张耳弃旗鼓，走水上。水上军开壁入之，复疾战，赵空壁争汉旗鼓，逐韩信、张耳。韩信、张耳已入水上军，军皆殊死战，不可败。

信所出奇兵二千骑，共候赵空壁逐利<sup>⑦</sup>，则驰入赵壁，皆拔赵帜，立汉赤帜二千。赵军不得信等，欲还归壁，壁皆汉赤帜而大惊。以为汉皆已得赵主将矣，遂乱遁走。赵将虽击斩之，不能禁也。于是汉兵夹击大破之，斩成安军泚水上，擒赵王歇。诸将效首虏休，毕贺。因问信曰：“兵法右背山陵，前左水泽。今者将军令臣等反背水阵，曰：‘破赵会食，’时臣等不服，然竟以胜，此何术也？”信曰：“此在兵法中，顾诸不察耳。兵法不曰，‘陷之死地而后生，置之亡地而后存’。且信非得素抚循士大夫也，所谓驱市人而战<sup>⑧</sup>。

其势非置之死地，使人人自为战，今与之生地皆走，宁尚可得而用之乎？”诸将曰：“善，非所及也。”

魏太祖征张绣。一朝引军退之，贾诩曰：“不可追也。”绣不从，果败而还。诩谓绣曰：“促更追之，战必胜。”收散卒，赴太祖，战果胜。还问诩曰：“绣以精兵退军，而公曰必败退。以败卒击胜兵，而公曰必克，皆如公之言。何其反而皆验也？”诩曰：“此易知耳。军势百途，事不一也。将军虽善用兵，非曹公敌也。魏军新退，曹公必自断其后。追兵虽精，将既不敌，彼士亦锐，故知必败。曹公攻将军无失策，力未尽而还，必国内有故也。既破将军，必轻军速进，留诸将断后。诸将虽勇，亦非将军敌也，故虽用败兵而胜也。”绣乃服其能。

此利害之变。故曰：“陷之死地而后生”、“杂于害而患可解”，此之谓也。

## 奇正第二十二

太公曰：“不能分移，不可语奇。”孙子曰：“兵以正合，事以奇胜。”何以明之？

魏王豹反汉，汉王以韩信为左丞相击魏。魏王盛兵蒲坂，塞临晋。信乃益为疑兵，陈船欲渡临晋，而伏兵从夏阳以木罌渡军袭安邑。<sup>⑨</sup>

魏王豹惊，引兵迎信，信遂虏豹，定魏为河东郡，是知奇正者，兵之要也。经曰：“战胜不过奇正。奇正之变，不可胜穷。如环之无端，孰能穷之？”此之谓矣。

注释：

- ①重伤人物：伤害人民和财物。 ②含蓼问疾：蓼为一种苦药。口含苦药慰问患病士兵。  
③吮疽：吮吸疮脓。 ④旋踵：左右前后踏步，不勇敢前进。 ⑤畜：爱护、培养 ⑥专亲：亲附。  
⑦宽：宽松、自由。 ⑧纵发乱行：前后乱跑。  
⑨扶伤舆死：装着扶伤救死的样子。 ⑩干误次第：座位次第不分。 ⑪不自启白：不自报姓名。  
⑫刑上极：刑罚能够及于最上层。 ⑬聚为一卒：

编为一队。⑭莎车：西域国名。⑮龟兹：西域国名。⑯生口：俘虏。⑰趣治攻具：抓紧时间修整攻城器具。⑱迭有胜负：互有胜负。⑲以其子妻胡：子，女儿，把女儿嫁给胡人。⑳亲：亲近，爱护。㉑气机：掌握士气的关键。㉒士马闭习：士兵和马匹训练得适于战斗。㉓阨难：艰险危难。㉔谗者覆之：对谗言不相信。㉕毁者复之：对诽谤的话要反复核查。㉖四网罗之：四面包围消灭它。㉗内顾：指好色。㉘因刑用权：刑当为形，根据敌情采取权变的方法。㉙合刀：交兵打仗，战斗。㉚追北：追击败军。㉛薪来也：敌人在砍柴。㉜军无悬饘：饘音tuò，一簋之食。军中缺粮。㉝食其缓颊：食其，音yí jī，指郾食其，汉将。郾食其张张嘴巴。㉞啗秦将：诱惑秦将。㉟貳軫：二古国名。㊱随绞州蓼：春秋时四个古国名。㊲先零：汉时西羌之一。㊳为攻差易：比一个个去征讨他们容易。㊴城拔皆坑之：攻下城池将城中的人都活埋。㊵北围师之道也：原书之误，当为“此围师之道也”。㊶蹶上将军：蹶，跌倒，挫折。会使前军将领受到挫败。㊷逐之：追逐他。㊸遮：阻截。㊹兵法日行三十里以戒不虞：兵法指兵法上说。㊺革：音bì，革山，地名。㊻令其裨将传餐：命令偏将去传达军队用饭的命令。㊼共候赵空壁逐利：等到赵军空营出去追逐战利品时。㊽驱市人而战：指挥一群普通百姓去作战。㊾木罌：木桶、木罐、葫芦等可资渡河的器具。

## 《何博士备论》

题解：

《何博士备论》，北宋何去非著，计4卷28篇（今佚2篇）。

该书是一部战史评论性著作，书中以历代兴亡成败为借鉴，“极论用兵利害”，剖析了众多战例和军事历史人物。在军事谋略方面，作者强调战略决策要考虑根本利害，确定攻守要全面分析形势，指挥作战要“出奇应变”，运用兵法要“不以法为守，而以法为用”。作者还主张要严格治军，正确选将，

善于捕捉战机等。

## 六国论

秦得所以并天下之形，而天下遂至于必可并，六国有可以拒秦之势，而秦遂至于不可拒者，岂秦为工于毙六国耶！其祸在乎六国之君，自战其所可亲，而忘其所可仇故也。秦之为国一而已矣，而关东之国六焉，计秦之地居六国五之一，校秦之兵当六国十之一，以五一之地十一之兵<sup>①</sup>，而常擅其雄强，以制天下之命者，由其据形便之居，俯扼天下之吭，而蹈其膺背于足股之下故也。使六国之君知夫社稷之实祸在秦，而相与致诚缔交，戮力以摈秦，即秦诚巧于攻斗，则亦何能鞭笞六国，使之骈首西向而事秦哉！又况得以一二而夷灭之也，盖其不知虑此，凡所以早朝而晏罢者，皆其自相屠毙之谋，此秦所以得收其敝而终为所擒也。盖六国之势，莫利于为从<sup>②</sup>，莫害于为衡<sup>③</sup>，从合则安，衡成则危，必然之势也。方其为从于苏秦也，秦人不敢窥兵函谷关者十五年。已而为衡于张仪，而山东诸侯岁被秦祸，日割地以求事秦之欢，卒至于地尽而国为墟。六国固尝收合从之利矣，然而终败于为衡之害者，其祸在乎自战其所可亲，而忘其所可仇故也。所谓战所可亲，忘所可仇者，秦人稍蚕食六国而并夷之，则关东诸侯皆与国也，宜情亲势合，以谋抗秦。然而齐楚自恃其强，有并吞燕赵韩魏之志，而缓秦之祸，燕赵韩魏自惩其弱，有疑恶齐楚之心，而胁秦之威。是以衡人得而因之，散败从约，秦以气恐而势喝之，故人人震迫，争入购秦，唯恐其独后之也。曾不知齐楚虽强，不足以致秦之畏，而其所甚忌者独在乎韩魏也。韩魏者，实诸侯之西蔽也，势能限秦而使之无东。秦苟有以越之，我得以制其后，此秦之所忌也。使齐楚燕赵审夫社稷之实祸在秦，而知韩魏之为蔽于我，委国重而收亲之，固守从约，并力一志，以饕虎狼之秦，使其一下兵于六国，则六国之

师悉合而从之，则秦甲不敢轻越函谷，而山东安矣。或曰：“韩魏者秦之错壤也，秦兵之加韩魏也，战于百里之内，其加于四国也，战于千里之外；韩魏之致秦兵，近在乎一日之间，而其待诸侯之救，乃在乎三月之外。秦攻韩魏既归而休兵，则四国之乘微者尚未及知也。今徒执虚契以役韩魏，则秦人固将疾攻而力蹙<sup>④</sup>之，是使二国速被实祸，而齐楚燕赵反居齿寒之忧，非至计也”。噫！齐楚燕赵之民，裹粮荷戟以应秦敌者无虚岁也，然终不能纾秦患于一日。四国诚能岁更各国之一军，命一偏将提之，以合戍韩魏，而佐其势，则是六国之师日萃于韩魏之郊，仰关而伺秦，诚勇者虽日辱而招之，固不轻出，而以腹背支敌矣。夫苏秦张仪虽其为术生，于揣摩辨说之巧，人皆贱之。然其策画之所出，皆足以为诸侯之利害而成败之，盖苏秦不获终见信于六国，而张仪之志独行于秦，此六国之所以见并于秦也。嗟乎！使关东之国裂而为六者，岂天所以终相秦乎，向使关东之地合而为一，以与秦人决机于韩魏之郊，则胜负之势盖未可知。使齐能因其资而遂并燕赵，楚能因其资而遂并韩魏，则鼎足之势可成。以其为国者六，是以秦人得以间其欢而离其交，终於一二而夷灭之，悲夫！

## 秦 论

兵有攻有守，善为兵者，必知夫攻守之所宜。故以攻则克，以守则固。当攻而守，当守而攻，均败之道也。

方天下交臂相与而事秦之强也，秦人出甲以攻诸侯，盖将取之也。图攻以取人之国者，所谓兼敌之师也。及天下攘袂相率而叛秦之乱也，秦人合卒以拒诸侯，盖将却之也。图拒以却人之兵者，所谓救败之师也。兼敌之师利于转战，救败之师利于固守，兵之常势也。

秦人据崤函之阻以临山东，自繆公以来常雄诸侯，卒至于并天下而王之。岂其君世

贤耶？亦以得乎形使之据故也。一世之乱，天下相与起而攻秦，不意秦亦足以亡。然则使并诸侯而攻之山东，严兵拒关为自救之计，虽以无道行之，而山西千里之区犹可岁月保也。不知虑此，乃空国之师以属章邯、李由之徒，远二千里以搏寇，而为向日堂堂兼敌之师，亦已悖矣。方陈胜之首事，而天下豪杰争西向而诛秦也，盖振臂一呼而带甲者百万，竿麾一号而下城者数千。又类皆山林崛起之匹夫，共存亡胜败之机取决于一战，其锋至锐也。而章邯之徒不知固守，其所以老其师。乃畏孤军，弃大险，渡漳逾洛，左驰右騖，以婴其四合之锋，卒至于败。而沛公之众，扬袖而下空函关。虽二世之乱足以覆宗，天下之势足以夷秦，而其亡遂至于如此之亟者，用兵之罪也。

夫秦役其民以从事于天下之日久矣，而其民被二世之毒未深，其勇于公斗、乐于上之风声气俗犹在也。而章邯之为兵也，以攻则不足，以守则有余。周文类率百万之师傅于城下矣，章邯三击而一走之，卒系周文。使其不遂纵以搏敌，而坐关固守为救败之师，关东之士虽已分裂，而全秦未溃也。故曰：“七国之反汉也，议者归罪于吴楚，以为不知杜成皋之口，而汉将一旦过成皋者数十卒，遂至于败亡。今豪杰之叛秦，而罪二世之越关搏战何也？”嗟夫！务论兵者，不记三逆顺之情与夫利害之势，则为兵亦疏矣。夫秦有可亡之形，而天下之众亦锐于亡秦。是以豪杰之起者因民志也，关东非为秦役矣。汉方可叛之鲜，而天下之民为志于反汉，则七国之起非民志矣，天下皆为汉役者也。以今观秦役之关东，则二世安得即其地而诛其君？以方为汉役之天下，则汉安得不趋其地而诛其君？此战守之所以异本也。

昔者，贾谊、司马迁皆谓“使子婴有庸主之材，仅得中佐，则山西之地可全而有”。卒取失言之机于后世。彼二子者，固非愚于事机者也，亦惜夫秦有可全之势耳。虽然，



彼徒知秦有可全之势，而不知至于子婴而秦之事去矣，虽有太公之佐，其如秦何哉！

## 楚汉论

王天下者，其资有三：有以德得之，有以力并之，有以智取之。得之以德者三代是也，并之以力者秦人是也，取之以智者刘汉是也。盖以力则不若智之腾，以智则不若德之全。至于项羽之争天下也，其所执者为何资耶？德非羽之所得言者矣，其于智力之资，又皆两亡焉。而后世之议，乃曰项羽其亦不幸遇敌于汉，而遂失之。嗟夫！虽微汉高帝<sup>⑤</sup>，则羽之于天下固将失之也。汉王之于智盖疎矣，以其能得真智之所在，此所以王。项羽之于力尝强矣，以其不知真力之所在，此所以亡。彼项羽以百战百胜之气，盖于一时，手裂天下，以王豪杰而宰制之，自以天下莫能抗也。观其所赖以资，盖有类乎力者矣。虽然彼之所谓力者，内恃其身之勇，叱咤震怒，足以威匹夫；外恃其众之劲，搏拚决战，足以吞敌人而已。至于阻河山，据形便，俯首东瞰，临制天下，保王业之固，遗后世之强，所谓真力者，彼固莫之或知也。是以轻捐关中天险之势，燔烧屠戮，以逞其暴，卒举而遗之二三降将，反怀区区之故楚，而甚荣其归，乃曰：“富贵不归故乡，如衣绣夜行，谁能知者。”此特浅丈夫之量，安足为志天下者道哉。后之数羽之罪者，皆曰夺汉王之关中，负信义于天下，此所以亡。嗟夫！使项氏无意于王而徒夺汉王之关中，则谓其得罪于区区之信义可也。如其有意于王而夺之是得计也。惟其知夺而不知有，此所以亡耳。古者创业造邦之君，而为是之为者，可胜罪哉。韩信未释垓下之甲，而高祖夺其兵，不旋踵而又夺其齐，然而智者不非，而义者不罪者，以其为天下者重，而负人者轻故也。是以不顾意气之微恩，而全社稷之大计也。汉高帝挟其在己之智术，固无足以定天下而王之。然天下卒归之者，盖能收人之智，而

任之不疑也。夫能因人之智而任之不疑，则天下之智皆其资也。此所谓真智者也。又其所负者帝王之度，故于其西迁也，则曰吾亦欲东耳，安能怏怏久居此乎<sup>⑥</sup>，此其与项羽异矣。虽然，使无智术之士以主其谋，则天下之事亦去矣。方其入关，乃封秦府藏，还军霸上，其画婉矣，乃休于妄议。一旦拒关，无纳东兵，以逆其众，集之锋几，不免于项氏之暴，使遂卑而骄之，当能徐徐拱揖以得项羽之欢心，奠枕而王关中，抚循其众，徐为后图，则天下不足定矣。幸而犹获汉中之迁，因思归之士，并三秦，定齐赵，收信越，以与项王亲角者数岁，仅乃得之。向使项羽据关而王，驱以东出，使与韩彭田黥之徒分疆错壤，以弱其势，则关东之士，尚可得兼哉。信乎，王者之兴，固有所谓驱除者也。

## 汉武帝论

兵有所必用，虽虞舜太王之不欲，固当举之。有所不必用，虽蚩尤秦始皇之不厌，固当戢之。古之人君，有忘战而恶兵，其敝天下，皆得以陵之，故其势蹙，于弱而不能振。有乐战而穷兵，其敝天下，皆得以乘之，故其势蹙，于强而不知屈。然则兵于人之国也，有以用而危，亦有以不用而殆矣。西汉之兴，历五君而至于孝武，自高帝之起匹夫，诛强秦，蹙暴楚<sup>⑦</sup>，已而平反乱，征不服，迄终其世，而天下伏尸流血者二十余年。吕后惠文乘天下初定，与民休息，深持柔仁不拔之德，其于兵也，固憚言而厌用之也，可谓知天下之势矣。孝景之于汉也，盖威可抗而兵可形之时也，然而即位未几，卒然谨于七国之变，故其志气创艾，亦姑安天下之无事，未暇为天下之势虑也，然其为汉之势，亦浸以趋弱矣。孝武帝以雄才大略，承三世涵育之泽，知夫天下之势，将就弱而不振，所当济之以威强，而抗武节之时也。方是时也，内无奸变之臣，外无强逼之国，而世为汉患者，独匈奴耳。夫匈奴自楚汉之起，乘

秦之乱，复践河南之地，而其势始强。高帝曾以三十万之众，困于白登之围，盖士不食者七日，已解而归，不思有以复之，而和亲始议矣。高后被其嫚书之辱，临朝而震怒矣。终之以婉辞顺礼，慰适其桀骜之情。凡此者，皆欲与民息肩，姑置外之而不校也。孝文之立，其所以顺悦输遗者，甚至饰遣宗女以固其欢，盖送车未返而胡已大举深入，侯骑达于雍甘泉矣。其后乍亲乍绝，益为寇患，至于近严霸上、棘门、细柳之屯，以卫京都。以孝文之宽仁慎静，摄衣发愤，亲驾而驱之者，再乃至乎辍饭搏髀，而思颇、牧之良将也。孝景之世，其所以悦奉之情，与夫遗给之数，又加至矣。然则寇侵之暴狃然，其不止也。由是观之，汉之于匈奴，非深惩而大治之，则其为后患也，可胜备哉。是以孝武抗其英特之气，选徒习骑，择命将帅，先发而昌诛之。盖师行十年，斩刈殆尽，名王贵人，俘获百数，单于捧首穷遁漠北，遂收两河之地，而郡属之。刷四世之侵辱，遗后嗣之安强。至于宣元成哀之世，单于顿颡臣顺，谒期听令以朝，位次比内诸侯。虽曰劳师匮财，而功烈之被远矣。使微孝武，则汉之所以世被胡患，其戍役转饷，以忧累县官者，可得而预计哉！甚矣，昧者之议，不知求乎天下之势、强弱之任所当然者，而猥曰文景为是，慈俭爱民，而武帝黷于兵师祈祀<sup>③</sup>，至与秦皇同日而非诋之，岂不痛哉。使孝武不溺于文成五利之奸，以重耗天下，攘虏之役止于卫霍之既死，而不穷贰师之兵，则其功烈与周宣比隆矣。

## 汉光武论

师不必众也，而效命者克，士无皆勇也，而致死者胜。古之人有以众而败，有以寡而胜者。王寻王邑以百万而败于三千之光武，曹公以八十万而败于三万之周瑜，苻坚以百万而败于八千之谢玄是也。夫率师百万，以临数千之军者，必胜之军也，然有时而至于

败者，骄吾所以必胜，而以轻敌败也。提卒数千，以当百万之众者，必败之道也，然有时而至于胜者，奋吾所以必败，而以致死胜也。夫兵多在敌者，智将之所贪，而愚将之所惧也。兵寡在我者，愚将之所危，而智将之所安也。多固可惧，而我贪之，恃吾有以覆其骄也。少固可危，而我安之，恃吾有以激其奋也。提数千之兵以抗大敌，使之人人自致其死，而忘其为数千之弱者，易能也。连百万之众，以临小敌，使之人人各效其命，而忘其为百万之强者，难能也。何者？弱则思奋，而强则易懈故也。弱而奋，则奋者其气也。强而懈，则懈者其情也。于气则易乘，于情则难率，因易乘之气而激之，故有以寡而胜者矣。就难率之情而驱之，故有以多而败者矣。是以古之善论将者，必知其所以胜任之多寡，苟非所胜任，虽多而累矣。韩信以高祖之所胜将者，十万耳，而其自谓，则虽多而益辨也。是以古之善将者，其用百万如役一人，分数既定，形名既饰，节制素明，威赏素著，有术以用其锋故也。赵括一用赵人四十万，束手而就长平之坑者，败于众也。王翦必用秦军六十万，然后取胜于荆者，辨于多也。汉高祖尝一大用其军矣，劫五诸侯之兵，合六十万，以攻楚也。而项羽逡巡以二万之锐，起而覆之濉水，为之不流，此将逾其分而韩信之所忧也。曹公之于兵也，巧譎奇变，离合出没，其应无穷，白首于兵，未尝不以少敌众也。卒丧赤壁之师而成刘备周瑜之名者，骄荆州之胜，恃水陆之众，而败于懈也。方寻邑百万之众以厌昆阳，其视孤城之内者，皆几上肉也。然而光武合数千之卒，申之以必死之誓，激之以求生之奋，身先而搏之，则其反视寻邑之众者，皆几上肉也，是以胜。虽然是役也，人以其为光武之能事，而莫知其所以为能事也。唯诸将观其生平，见小敌怯见大敌勇也，皆窃怪之。而不知光武为是勇怯者，乃所谓能事而皆以求胜也。夫怯于小敌者，其真情也，勇于大敌者，其权术也。敌小而怯，怯而戒，戒而

励，胜之道也。敌大而勇，勇而决，决而奋，亦胜之道也。於敌之小而示之其真情，是以不易胜之也，于敌之大而用其权术，是以不畏胜之也。光武非特能以少败众也，固又至于多而益辨也。呜呼！光武之于取天下者，亦何独不出于真情之与权术歟！顾人莫之测耳。……

## 魏论上

昔者东汉之微，豪杰并起而争天下，人各操其所争之资。盖二袁以势，吕布以勇，而曹公以智，刘备、孙权各挟乎智勇之微而不全者也。夫兵以势举者，势倾则溃；战以勇合者，勇竭则擒。唯能应之以智，则常以全，强而制其二者之敝。是以袁吕皆失，而曹公收之，刘备、孙权仅获自全于区区之一隅也。方二袁之起，藉其世资以撼天下。绍举四州之众，南向而逼官渡；术据南阳以援江淮，遂窃大号；吕布骁勇，转斗无前，而争兖州。方是之时，天下之窥曹公，疑不复振，而人之所以争附而乐赴者袁吕而已。而曹公逡巡独以其智起而应之，奋盈万之旅，北摧袁绍而定燕冀，合三县之众，东擒吕布而收济兖。灭袁术于淮左，徬徨无归遂以奔死。而曹公智画之出，常若有余，而不少困。彼之所谓势与勇者，一旦溃败，皆不胜支，然后天下始服曹公之为无敌，而以袁吕为不足恃也。至于彼之任势与力，及夫各挟智勇之不全者，亦皆知曹公之独以智强而未易敌也，故常内惮而共蹙之<sup>⑨</sup>。唯曹公自恃其智之足，以鞭笞天下而服役之也，故常视敌甚轻为无足虞。于其东征刘备也，袁绍欲蹙之于其官渡之相持也，孙权欲袭之于其北征乌桓也。刘备欲乘之三役者，皆所以致兵招寇，而窥伺间隙者所起之时也。然而曹公晏然不为之深忧而易计者，亦失于负智轻敌之亡已甚，是以数乘危而徼倖也。虽然于势不得不起者，盖刘备在所必征袁绍，在所必拒然，又其近在于徐州之与官渡，使其人之谋我而

我亦将有以应之，未有乎颠沛也。至于乌桓之役，则其轻敌速寇而苟免祸败者，固无殆于此时也。夫袁绍虽非曹公之敌，亦所谓一时之豪杰，横大河之北，奄四州之上，南向而争天下。一旦摧败，卒以忧死，而其二子孱弱不肖，曹公折策而驱之，北走乌桓，以苟岁月之命，虽未就梟戮，亦可知其无能为矣。方是之时，中土未安，幽冀新附，而孙权刘备觊伺其后，独未得其机以发之耳。而操方穷其兵力远即塞北，以从事于三郡，乌桓为不急之役，徼倖于一决。呜呼！可谓至危矣。使刘表少辨事机，而备之谋得逞，举荆州之众卷甲而乘许下之虚，则魏之本根拔矣。曹公虽还，而大河之南，非复魏有矣。然则操之数为此举，而蔑复顾者，恃其智之足以逆制于人，而易之也。夫官渡徐州之役，在势有不得不应，虽易之可也。今提兵万里，后皆寇仇，而前向夷虏，且甚易之而不顾者，亦已大失计矣。刘备之不得举者，天所以相魏耳。嗟乎！人唯智之难能，苟惟获乎难能之智，加审处而慎用之，则无所不济。今乃恃之以易人，则其与不智者何异？曹公所以屡蹈祸机而幸免者，天实全之耳。后之人无求祖乎曹公，而谓天下之可易也矣。

## 魏论下

言兵无若孙武，用兵无若韩信曹公。武虽以兵为书，而不甚见于其所自用，韩信不自为书，曹公虽为而不见于后世，然而传称二人者之学，皆出于武。是以能神于用而不穷窃尝究之。武之十三篇，天下之学兵者所通诵也。使其皆知所以用之，则天下孰不为韩曹也。以韩曹未有继于后世，则凡得武之书，伏而读之者未必皆能辨于战也。武之书，韩曹之术，皆在焉。使武之书不传，则二人者之为兵固不戾乎。武之所欲言者，至其所以因事设奇，用而不穷者。虽武之言有所未能尽也，驱市人白徒而置之死地，惟若韩信者，然后能斩陈余遏其归师。而与之死地战，

惟若曹公者，然后能克张绣。此武之所以寓其妙，固有待乎韩曹之俦也。谲众图胜而人莫之能知，既胜而复谲以语人，人亦从而信之不疑，此韩信曹公无穷之变诈，不独用于敌，而亦自用于其军也。盖军之所恃者将，将之所恃者气，以屡胜之将，持必胜之气，以临三军，则三军之士气定而情安，虽有大敌故尝吞而胜之……

故以伪喜伪安示之众，恃公之所喜与安也。则畏心不生而勇亦自倍，此所以胜之也。故用兵之妙，不独以诈敌，而又以愚吾士卒之耳目也。昔者创业造邦之君，盖莫盛于汉之高皇。考其平日之智勇，实无以逮其良平信越之佐，然其崛起，曾不累年，诛秦覆楚，遂奄天下而王之。曹公之资机警，挟汉以令天下，其行兵用师，决机合变，当日无与其儔也<sup>①</sup>。然卒老于军，不能平一吴蜀，此其故何也？议者以其持法严忍，诸将计画有出于己右者，皆以法夷之，故人旧怨无一免者，此所以不济。嗟夫！曹公残刻少恩，必报睚眦之怨，真有之矣。至若谋夫策士，收揽听任，固亦不遗，未尝深负之也。盖尝自诡以帝王之志，业期有以欺眩后世，然稽其才略，盖亦韩信之等。夷而其遇天下之变，无以异于刘项之际。刘备孙权，皆以人豪，因时乘变，保据一隅，而公之诸将皆非其敌。至于鞭笞中原，以基大业，皆公自为之，而老期迫矣，此其为烈与汉异也。

## 吴 论

古之豪杰，有功业之大志，其才力虽足有以取济，而无谋夫策士合奇集智，以更辅其不迫，使无失乎事机之会，则往往功败业去，而为徒发者，皆是也。昔东汉董卓之变，豪杰相视而起于中州者，若袁曹刘吕，皆负其奸豪之资，求因时乘变以济所欲。特孙坚激于忠勇，投袂特起于区区之下郡，奋以诛卓。虽卓亦独惮而避之，惜乎三失大机，而功业不就，卒以轻敌，遂殒其身。由无谋夫

策士以发其智虑之所不及故也。始坚以义从之士起于长沙，北至南阳众已数万，南阳太守不时调给，坚责以稽停义师，按军律而诛之，人大震服。南阳民籍且数百万，兵强食阜，而坚不遂据之，以治军整卒。命一偏将西趋武关，以震三辅，身扼成皋，而定巩洛，迎天子而奉之，仗顺讨逆以济其志，乃反弃去。而袁术得以起，而收于羈旅之中，以为已资，遂以骄肆。此坚之一失也。夫董卓之强，天下畏之。袁绍曹公相与歃血，而起者凡十一，将皆拥据州郡，众合数万，然无敢先发以向卓者。独曹公与其偏将遇，遂以败北。而坚独以其兵趋之，合战阳人，大破其军，枭其锐将，卓深震悼，乃遣腹心诣坚和亲，咸令疏其子弟胜刺史郡守者，悉表用之。向使坚阳合而阴图之，差其宗亲苟胜军事者，皆列疏与焉，使得各据土，权兵以大其势，徐四起而蹙之，则其取卓，易于反掌。不知出此，乃怒辱其使，誓必诛卓，使之愤惧，遂残汙洛阳，劫持天子西引入关，以避其锋，而穷其毒。此坚之二失也。夫兵以义动者，其势足以特立，则何至于附人。苟唯不能，而有所附，必其德义足以为天下之所归往者，然后从之。袁术徒膺藉世资<sup>②</sup>，以役天下，其骄豪不武，非托身之主也。坚已驱卓而修复雒阳之残坏，不能阻山河之固，因形势之便以观天下之变，乃还军鲁阳，听役于术，为之崎岖转战，以搏黄祖，卒殒其身于襄汉之间，无异士伍。此坚之三失也。夫一举事而三失随之，则其功业违矣。孙策壮武，术略过于其父，又有周瑜鲁肃之俦以辅其起，惜乎坚之不喜基也，使其不得奋于中原以竞天下。然策一举而收江东，为鼎足之资，使之不死当为魏之大患。策之不得起于中原，非其智力之不逮。盖袁绍已据河北，曹公已收河南，独无隙以投之故也。以刘备之间关转战，至于白首不获中州一块之壤，以寓其足，而策乃能以敝兵千余，渡江转斗，不数岁而席卷江东，此其过备远矣。权之勇决进取无以逮其父兄，然审机察变，持保江东，

于权有焉。夫三国之形，虽号鼎足，而其雌雄强弱固有所在。魏虽不能遂并天下，盖不失其为雄强。吴蜀虽能各据其国，然不免为雌弱。权惟能知乎是，以内加抚循而外加备御而已。时有出师动众，以示武警敌者，北不逾合肥，而西不过襄阳，未尝大举轻发，以求微倖于魏。而魏人之加于我，亦尝有以拒之，未尝困折。是以终权之世而江东安。由是观之，则权之为谋审于诸葛武侯之用蜀矣。

## 蜀 论

或曰刘备之争天下也，不因中原而西入巴蜀，此所以据非其地，而卒以不振欤，曰有之也。备非特委中原而趋巴蜀也，亦争之不可得，然后委之而西入耳。备之西者，由智穷力惫，盖晚而后出，于其势之不得已也。方其豪杰并起，而备已与之周旋于中原矣。始得徐州而吕布夺之，中得豫州而曹公夺之，晚得荆州而孙权夺之。备将兴复刘氏之大业，其志未尝一日而忘中州也。然卒无以暂寓其足，委而西入者，有曹操孙权之兵轧之也。备之既失豫州，而南依刘表也，始得孔明于羈穷困蹙之际，而孔明始导之以取荆取益，而自为资。孔明岂以中州为不足起，而以区区荆益之一隅足以有为耶？亦以魏制中原，吴擅江左，天下之未为吴魏者，荆益而已。顾备不取此则无所归者故也。是以一败曹公而遂收荆州，继逐刘璋而遂取益州者，孔明之略也。虽然孔明之于二州也，得所以取之，而失所以用之，至于遂亡荆州，而劳用蜀民，功业亦以不就，良有以也。夫荆州之壤，界于吴蜀之间，而二国之所必争者也。自其势而言之，以吴而争荆则近而顺，以蜀而争荆则远而艰。蜀之不能有荆，犹魏之不能有汉中也。是以先主朝得益州，而孙权暮求其荆州。权之求之也，非以备之得蜀而无事乎荆也，亦以其自蜀而争之不若乎吴之全故也。故直求之者，所以示吾有以收之也。

盖备一不听，而权已夺其三郡。备无以争，而中分界之，以分裂不全之荆州，而有孙权之窥听其后为之，镇抚则安，动复则危。亮不察此，而恃关羽之勇，使举其众以北侵魏之襄阳，故孙权起蹶其后<sup>⑬</sup>，枭羽而尽争其荆州。此孔明失于所以用荆也。然后备之所有，独岷益耳。虽然地僻而固，魏人不敢轻加之兵，而鼎足之形遂成。使备之不西，而唯徘徊於中州，则亦不知所以税驾矣。备之既死，举国而属之孔明。孔明有立功之志，而无成功之量，有合众之仁，而无用众之智。故尝数动其众，而亟于立功，功每不就，而众已疲。此孔明失于所以用蜀也。夫蜀之为国，严僻而固，非图天下者之所必争，然亦未尝不忌其动，以其有以窥天下之变，出而乘之也。虽然蜀之与魏，其为大小强弱之势，盖可见也。曹公虽死，而魏未有变，又有司马仲达以制其兵。孔明于此不能因备之亡，深自抑弱以盈息，其心使其无意于我，励兵储粟，伺其一旦之变，因河渭之上流，裹粮卷甲，起而乘之，则莫不得志。乃以区区新造之蜀，倡为仁义之师，强天下以思汉，日引而北，以求吞魏，而复刘氏。故常千里负粮，以邀一日之战，不以败还，即以饥退，此其亟于有功，而亡其量以待之也。善为兵者，攻其所必应，击其所不备，而取胜也，皆出于奇。孔明连岁之出，而魏人每雍容不应，以老其师，遂至于徒归。而又以吾小弱而向强大，未尝出于可胜之奇……而孔明之不务此也，此锐于动众，而无其智以用之也。……

## 晋论上

神器之重，有以自归而后收之，有以力取而后得之。自归而后收之者，三代之上是也。力取而后得之者，秦汉而下是也。夫归我而收之与夫我取而得之，固有间矣。而其所以取之之道，又有甚异者焉。然则享天下者，亦观夫所取之道何如耳。魏之取汉，异

于汉之所以取秦；晋之取魏，异于魏之所以取汉，魏视晋以所取汉之迹<sup>⑩</sup>，晋袭魏以所取魏之权，是晋之取魏者，魏启之也。晋将蹈迹而取魏也，是以汲汲而求执魏之权，魏徒见权之去我，而在晋犹昔之去汉而在魏也。是以安其所取，而以天下输之，乃自谓所当然者。故晋于得魏之迹，无以异于魏得汉。而于所以取魏之道，最为无名，盖有类夫王莽之盗汉也。虽然晋室之祸，亦魏有以遗之。呜呼！岂亦天意者邪。昔者秦为无道，天下之民惟恐秦不亡也。是以豪杰相与起而诛秦，秦亡而汉得之，是汉无所负于秦也。东汉自董卓之乱，天下痛其祸汉之深，相与建议，歃血起而诛卓者，几以为汉也。卓既诛矣，而曹操二袁乃始连兵相噬，以争天下，而求代汉。曹操先得挟汉之策以令天下，终于汉不自亡，而操取之，是魏犹有负于汉也。汉之亡也，非天下亡之，是操取之也。虽然微曹操则汉之天下不得不亡，以其有二袁之窃取之也。操收天下于二袁窃取之中，是汉尝亡天下矣，而操收之，则魏犹为有名也。故曰魏之取汉，异乎汉之取秦也。至于晋也则不然，自司马仲达，已韬藏祸奸于操之世，操尝悟之，而不自决也。以授之于丕，而丕昏弱，加全佑而倚任之，故其于操之亡，乃稍假<sup>⑪</sup>以立其盗权之功，遂收其权而私执之……

## 晋论下

天下之祸，不患其有可睹之迹而发于近，而患其无可窥之形而发于迟者。有迹之可睹，虽甚愚怯，必加所警备，而发于近者其毒常浅；无形之可窥，虽甚智勇，亦忽于防闲，而发于迟者其毒常深。昔者五胡之祸晋室，其起非一朝之故也。探其基而积之，乃在于数百岁之淹缓，国更三世，而历君者数十。平居常日不见其有可窥之形，是以一发而莫之能支。夫非无形也，盖为祸之形，常隐于福，为福之形，常隐于祸。人见其为今

日之祸福而已，不就其所隐而逆窥之，是以于其未发，皆莫睹其昭然之形。此其为祸至于不可胜救之也。先王之制夷狄于要荒也，甚恶其猾夏而乱华，未尝不欲驱攘而摈外之。周公朝诸侯于明堂，夷蛮戎狄之君立于四门之外，使无与夫备物盛礼之观，后世之君幸其衰敝而乐其向服也。因内徙而亲之，其事肇于汉之孝宣，渐于世祖，而盛于魏武。或空其国而罢徼塞之警，或籍其兵而为寇敌之扞。夫既去其侮而又役其力，可谓世主之大欲，国家之盛福矣。不知积之既久，而大祸之所伏，一旦洶然，若决防水，莫之能遏。晋为不幸而适当之，以其平居常日不睹其昭然之形故也……

由晋而下，自武帝之平一吴会，遍抚天下，固无籍乎夷狄之助矣。苟于此时有能探其所伏之祸，而逆制焉，因其怀返之情，加之恩意以导其行，为之假建名号，而廩资之，使各以其种族而还之旧土，彼将乐引轻去，而惟恐其后也。然后严斥障塞，使有华夷内外之限，后虽有警，则无至乎发于肘腋之间而被不可胜言之祸矣。虽然自非明智英果之主，为子孙后世之虑，则不能决于有为以救其未发之深祸。彼晋武自平一吴会，方以侈欲形于天下，其能有及于此邪！虽郭钦抗疏江统著论，其言反覆切至，皆恬不为省。方抱虎而熟寐尔。嗟乎！为天下者，无恃其为平日之福而忽所隐之祸也哉！

## 杨素论

战必胜攻必取者，将之良能也。良将之所挟，亦曰智勇而已。徒智而无勇，则遇勇而挫；徒勇而无智，则遇智而蹶。智足以役勇，勇足以济智，然后以战必胜，以攻必取，天下其孰能当之。昔者杨素之于隋，可谓一代之名将矣。而贺若弼评之谓其特猛将耳，非所谓谋将也。甚哉，弼之过于自负而轻于议人也。隋自平陈之后，素已为统帅矣。其克敌斩虏，功策为多。既俘陈主，而江湖海

俗群盗蜂起，大者数万，小者数千，而素专阃外之权，转战万里，穷越岭海，无向不灭。已而突厥犯塞，宗室称兵，而社稷危矣。素之授钺专征，其所摧陷者，不可胜计。遂空虜廷而清内难，然素之兵未尝小衄<sup>⑤</sup>，隋功臣无比肩者，其为烈亦至矣。而弼犹不以谋将处之，特曰猛而已。夫目之以猛而不许之以谋，盖所为徒勇而无智者矣。考素之功烈如此，苟其智之不逮，则凡所以决机取胜者，其谁之谋也。自隋文平一天下，所谓名将者，独韩擒虎、贺若弼、史万岁与素耳。擒、弼自平陈之后，不获立尺寸之效，独史万岁从素征讨，以骁勇称。而弼乃以大将自处，而目是三人者，皆不能尽其材，亦见其不知量而务以其私言动世主也。素之驭戎，严整而喜诛。每战必求士之过失者斩之。以令常至百辈，而先以数百人赴敌陷阵，不能而还却者，悉斩之。复进以数百人，期必陷阵而止，是以士皆必死，前无坚敌，此弼之所以得目之为猛也。嗟乎！素非有忍于士也，以为士之必死者，乃所以决生必生者，乃所以决死故也。唐之善于兵者，无若李靖，其为书曰：“畏我者不畏敌，畏敌者不畏我”，是以古之名将，十卒而杀其三者，威振于敌国，杀其一者，令行于三军。靖岂以卒为不足爱哉。以为杀一而百奋，则奋者可期于胜也。纵一而百惰，则惰者可期于败也。奋而克敌与夫惰而为敌所克，则是杀者乃所以生之，爱者乃所以害之也。善为将者，能审乎此，则无恶乎其苟忍也。虽然在素之术，有足以致胜，未足以为胜之工也……

## 唐 论

据天下之势必有所以制天下之权，盖权待势而立，势待权而固。有是之势而其权不足以固之，则其势日就倾弱，而天下莫能安强。是以人主之于权也，不可一日使之去己而分于人。凡物之去己者，犹可收；分者，犹可全也。至于权也，一去而不可复收，一

分而不可复全，而所据之势随之，可不慎哉！昔者唐之太宗，以神武之略起，定祸乱以王天下，威加四海矣。然所谓固天下之势以遗诸子孙者，盖未立也。于是乎籍兵于府，置将于卫，据关而临制之。处兵于府则将无内专之权，处将于卫则兵无外擅之患。然犹以为未也，乃大诛四夷之侵侮者，破突厥、夷吐浑、平高昌、灭焉耆<sup>⑥</sup>，皆俘其王，亲驾辽左，而残其国。凡此者，非以黩武也，皆所以立权而固天下之势者也。武后以女主专制，挟唐以令天下，图移神器。天下之人莫不屏息重足，从其制命。彼得天下之权而逆持之，然犹若此，况以顺守者哉。明皇以英果之气，起平内难，遂袭大统，可谓谊主矣。然狃于承平晏安之久，府卫之制一切废坏，尽推其权以假边将。禄山虎视幽蓟，横制千里，而军中之吏凡三千人，故范阳之变一起，天下大震，徒驱市人以婴其锋。使微肃宗召号忠义，驾馭豪武，奋不顾身，与之从事，则两都不复矣。虽能再造王室，然其所赖以收天下者，皆为方镇矣。天下之权已分于下而不全矣。至于代宗，仅夷残盗，乃瓜裂河朔，以帅寇党，遂相为背腹，世袭不禁陵夷。至于大历正元之间，两河方镇日以强肆，而当时之君，畏缩摧抑，常若抱虎，包羞含垢，媚妩不暇，以苟旦暮之无事。而陵犯益至，虽内设禁军，统以阉尹，然亦不足以待天下之变。故泾师之乱，而神策六军召之无一至者，从奉天之幸者，四百士耳。及章武之兴，天下之为方镇者五十县，官赋入止于东南八道而已。而章武乃能振激武烈，期于不赦，排斥众议，而大治之。于是擒刘辟于剑南，执李锜于浙西，缚卢从史于昭义，服王承宗于镇冀，诛李师道淄青五世之袭，平吴元济淮西三世之叛，可谓盛烈矣。然其至于后世，益以不振在内之权，而阉尹执之，在外之权而方镇执之，浸微浸削，而遂至于亡焉。盖唐以权夺势，倾而亡天下。然其亡不在乎僖昭之世，而在乎天宝之载焉。以其丧所以制天下之权者，实兆乎此故也。故其后世之君，



若章武者，仅能自立不为之深屈而已，况其非章武者乎。嗟夫！后之为天下者，苟无意于所执之权，而为人执之，则视唐可知也矣。

## 五代论

唐以陵夷蹙弱，遂亡天下，而真主未兴，五代之君遂相攘取，朝获暮失，合其世祀，不数十年。自古有国成败得丧，未有如此之亟者。然窃观之，莫不皆有所以必至之理也。梁祖起于宛朐群盗之党，已而挟听命之唐，鞭笞天下，以收神器，亦可谓一时之奸雄。然及其衰暮，而河汾李氏基业已大固，当气吞而志灭之矣。借使不遂及于子祸，则其后嗣有足以为庄宗之抗哉。此梁之亡不待旋踵也。后唐武皇假平仇之忠义，发迹阴山，转战千里，奄践汾晋。及其子庄宗以兵威霸，遂夷梁室，而王天下，可谓壮矣。然天下略定，强臣骄卒，遂至不制。一倡而叛之，不及反顾，而天下遂归于明宗。至于末帝，所以失天下者，犹庄宗也。夫以新造未安之业，而有强臣骄兵，以乘其失政，其能自立于天下乎。晋人挟震主之威，乘衅而起，君父契丹，假其兵力，以收天下，易若反掌。一朝嗣主孱昏肆易，而戎人骄功恃强，殫耗天下不足以充其要取之欲，乃负反之，及其所以蒙祸辱者，不可胜言。观其所以自托而起者如此，则晋安得而后亡哉。汉祖承戎虏扰践之余，生灵无所制命，起视天下，复无英雄，慨然投袂而作者，乃建号而应之，而天下之人无所归往，亦皆俛首听役于汉。然一旦委裘，而强臣巨室已不为幼子下矣。故不胜其忿，起而图之，侥幸于一决，而周人抗命，卒以御之而至于亡。周之太祖世宗，皆所谓一时之雄，而世宗英特之姿，有足以居天下而自立者。然降年不永，孺子不足当天之眷命，而真人德业日隆，已为天下之所归戴，则其重负安得而不释哉。由是观之，自梁以迄于周，其兴亡得丧世祀如此，安足怪哉，皆有所以必至之理也。又尝究之，若唐之庄

宗与末帝，皆以雄武壮决，转斗无前，摧夷强敌，卒收天下而王之，非夫孱昏不肖者也<sup>①</sup>，然明宗之旅变于邺下，晋祖之甲倡于并门，彼二主者，乃低摧悸迫，儿女悲涕，垂头拱手，以需死期，无复平日万分之一者，何也？有强臣骄兵以制其命，唯至于此，始悟其身之孤弱，无以自救之也。夫以功就天下者，常有强臣，以力致天下者，常有骄兵。臣非故强也，恃勋赏之积，而卒至于强。兵非故骄也，恃战役之勤，而卒至于骄。故古者拨乱定倾之主，不忧天下大计之不集，而深虞大臣之或强战士之或骄。故常先事而董治之，使其操制常在于我，是以天下既集，而国家安强。举而遗之冲人，弱息而变故不作。彼以乱继乱者则不然，方其图天下之即集也，日责功于将而责战于士，责功之亟，则凡所以酬将者，未尝恤其或至于强；责战之切，则凡所以抚士者，未尝病其或至于骄。是以天下略定，强臣倚骄兵而睥睨<sup>②</sup>，骄兵挟强臣而冀望。一旦相与起而迫之，反视其身徬徨孤立，而大事且去。则虽有平日壮决之气持是而安归哉。此唐之庄宗末帝所以失天下者由此故也。嗟乎！图天下于亟集而不计其既集之利害者，终亦亟亡而已矣。

### 注释：

- ①五一，十一：即五分之一，十分之一。  
②从：指合纵。③衡：指连横。④蹙：即蹙，跌倒，比喻挫折、失败。⑤微：此为没有之意。⑥悒：音yì，愁闷，不安。⑦蹙：音cù，紧迫。⑧黠：即黠，随随便便，不郑重。⑨憚：恐惧、害怕。⑩儻：即伧，相对。⑪膺：音yīng，承受，接受。⑫蹑：音niè，追随。⑬魏视晋人以所取汉之迹：此句应为原书之误，当为“晋视魏以所取汉之迹”。⑭骛：马跑得很快的样子。⑮衄：音nù，鼻子出血，此指被杀伤。⑯突厥、吐浑、高昌、焉耆：皆唐时少数民族国家。⑰孱昏：：软弱无能的人。⑱睥睨：眼睛斜着向旁边看。



## ·《守城录》

### 题解:

《守城录》，计4卷，南宋陈规著。

该书是我国军事史上一部重要的守城专著，书中反映了作者主张改革守城制度、改变作战方法以及“守中有攻”的谋略思想。该书记述了陈规于绍兴二年(1132年)研制“长竹竿火枪”的史事二十余条，这是中外最早的管形火器，在科技史上占有重要地位。该书对当时和后世影响颇大，宋孝宗曾将其颁行天下，以为守边将领遵循。

### 靖康朝野佥言后序

凡攻守之械，害物最重，其势可畏者，莫甚于炮<sup>①</sup>。然亦视人之能用与不能用耳。若攻城人能用，而守城人不能御之，则攻城人可以施其能。若守城人能用，则攻城人虽能者亦难施設。窃闻金人用炮攻城，守御人于城上亦尝用炮。城面地步不广，必然难安大炮，亦难容数多。虽有炮台，炮台地步亦不甚广。又炮才欲施放，敌人在外先见，必须以众炮来击。又城上炮亦在高位，自然招城外敌人用炮，可以直指而击之。以此观当时守御之人，其不能用炮也明矣。假令当时于城里脚下立炮，仍于每座炮前埋立小木为衣<sup>②</sup>，敌人在外不见立炮所在，虽有能用炮者，何由施設？或谓炮在城里，炮手不能见得城外事，无由取的<sup>③</sup>。每一座炮别用一人于城上，专管城里一座，外照物所在，里照炮梢与外物相对，即令施放。少偏，则令炮手略少那脚<sup>④</sup>；太偏，则就令拽炮人抬转炮座；放过，则令减人或用炮稍大者；不及，则令添人或用炮稍小者。照料得一炮打中，后炮少有不中。又城里立炮，可置数多。守御人用炮若止能如此，则攻城人用炮何能为也？

敌人初到城下，观其攻械，势恐难遏。

宜便于城里脚下，取土为深阔里壕。去壕数丈，再筑里城一重。对旧城门更不作门，却于新筑城下，缘里壕入三二里地新城上开门。使人人得大城直行不得，须于里壕垠上、新城脚下<sup>⑤</sup>，缭绕行三二里方始入门。若此，则假使敌善填壕，止不过填得外壕，必不能填得里壕。若由门入城，须行新城脚下、里壕垠上。新城上人，直下临敌，何物不可施用？正是敌人死地，必不敢入。由正门入城尚且不敢，则岂肯用命打城？但只如此为备，则敌兵虽多，攻械百种，诚可谈笑以待之矣。又况京师旧城亦自可守，若逐急措置，便可使势如金汤，有不可犯之理。兼京城之内，军兵百姓，金银粟帛，计以亿兆之数，亦莫能尽。若令竭力修作，不独添筑一城一壕可不日而成，假令添筑城壕数重亦不劳而办。重城重壕既备，然后招敌人入城议事，彼若见之必不攻而自退。俗谚云，求人不如求己。古人云，上策莫如自治，又事贵制人不贵制于人，皆此之谓也。

京城周围地约一百二十里，闻当时敌在城外，诸门多闭，有以土实者，止开三两门通人出入。如此，乃是自闭生路，而为敌开其生路也。为守之计，不独大启诸门，仍于两门之间更开三两门，使周围有门数十座。齐开于城内运土出外，填壕作路，使战兵出入无至自碍。城上观望敌人空隙<sup>⑥</sup>，稍得便处，即遣兵击杀，或夜出兵。使敌在外所备处多，昼夜备战，无有休息，彼自不能久攻。兼既城内创开城门，自运土填壕，欲为出兵计，则其在外填壕欲入之计，不攻自破。然所以敢自创开城门出填壕者，非谓敌兵可欺，盖恃其自于城内设险已备，引敌人城而敌必死耳。

故事贵乎仍旧，而人惮于改作，皆不可必者。古人所谓“利不百者不变法，功不十者不易器”。以今城池之制观之，虽利不至于百，功不至于十，然其间有须更改者，不可不更改也。自古圣人之法未尝有一定之制，可则因，否则革也。<sup>⑦</sup>

夫守城者，每见敌人设一攻械，而无数策以拒之者，未之思也。……惟在乎守城之人于敌未至之前，精加思索，应变之术预为之备耳。

注释：

①炮：指古代用机械发射的石炮。②仍：乃，而且。③的：箭靶，这里指攻城的金兵。④那：通“挪”，移动。⑤垠：边际。⑥觊：窥看。⑦否：穷，行不通。

## 《纪效新书》

题解：

《纪效新书》是一部集中讲训练军队的原则和方法的兵书，计18卷，为明代著名抗倭将领戚继光著。作者在自序中解释书名说：“夫曰‘纪效’，明非口耳空言；曰‘新书’，所以明其出于法而不泥于法，合时措之宜也”。书中论述全是有的放矢，都经过实战检验，很有实用价值。文字通俗，深入浅出，明白如话，图文并茂。

《纪效新书》的军队训练谋略，强调训练部队既要有严明的法令，又要使法令为部队所信服，这样才能练就一支“法信于众而令可申”的精干部队。在论述训练的18项内容中，详尽明确，毫不含糊，易于被部队接受。强调训练部队要从实战出发，根据形势变化而改换训练方法，不拘泥于成法，不搞花架子，不生搬硬套军事理论。强调严明军纪，至亲好友也不例外。书中说：“若犯军令，便是我的亲子侄也要依法施行。”后来戚继光的亲侄儿临阵动摇，果然被戚继光斩首示众。

### 纪效或问

或问<sup>①</sup>曰：“平时官府面前所用花枪、花刀、花棍、花叉之法，可否用于敌否？子所教有是歟<sup>②</sup>？”光<sup>③</sup>曰：“开大阵，对大敌，比场中较艺、擒捕小贼不同。堂堂之阵，千百人列队而前，勇者不得先，怯者不得后。丛

枪戳来<sup>④</sup>，丛枪戳去，乱刀砍来，乱杀还他，只是一齐拥进，转手皆难，焉能容得左右动跳。一人回头，大众同疑，一人转移寸步，大众亦要夺心，焉能容得或进或退。平日十分武艺，临时如用得五分出，亦可成功；用得八分天下无敌。未有临阵用尽平日十分本事而能从容活泼者也”。

或问：“祖宗自设官军<sup>⑤</sup>，至今操练二百年矣，比子之操一二年者孰为习士？官军亦有阵法，场中演习而皆不裨时用<sup>⑥</sup>，何也？”光曰：“且如一学生，平日窗下讲习的是五经四书，解义策论，一旦入场，试官出来题目，就是经书上的，便可中得个举子来。若平日虽是手不释卷，却读些杂说诗词，作些歌赋传奇。一旦入场，要作经义策论中选，所习非所用，如何可得，就是好学的也徒然耳。今之军士，设使平日所习所学的号令、营艺都是照临阵的一般，及至临阵，就以平日所习者用之，则于操一日必有一日之效，一件熟便得一件之利，况二百年耶，况自幼而为武士者耶。奈今所学所习通是一个虚套<sup>⑦</sup>，具临阵的真法真令真营真艺原无一字相合，及其临阵又出一番新法令，却与平日耳目闻见无一相同，如此就操一千年，便有何用？临时还是生的。且如各色器技营阵杀人的勾当<sup>⑧</sup>，岂是好看的。今之阅者看武艺，但要周旋左右，满片花草；看营阵，但要周旋华彩，视为戏局套数。谁曾按图对士，一摺一字考问操法以至于终也<sup>⑨</sup>。此是花法胜而对手功夫渐迷，武艺之病也。虚文张而真营却废，制阵之病也。就其器技营阵之中，间一花而不可用<sup>⑩</sup>，况异教耶？教与不教同，况不习耶？司阅者可不端明双目，以任习服之人为较量之衡耶？”

### 束伍篇第一

原选兵

兵之贵选尚矣，而时有不同，选难拘一。若草昧之初，招徕之势<sup>⑪</sup>，如春秋战国，用

武日久，则自是一样选法。方今天下承平，编民忘战<sup>⑫</sup>，车书混同，卒然之变<sup>⑬</sup>，自是一样选法。大端创立之选，势在广揽，分拣等率，均有所用。天下一家，边腹之变，将有章程，兵有数额，饷有限给<sup>⑭</sup>，其法唯在精。第一切忌，不可用城市游滑之人，但看面目光白，形动伶俐者是也。奸巧之人，神色不定，见官府藐然无忌者是也。第一可用只是乡野老实之人。所谓乡野老实之人者，黑大粗壮，能耐辛苦，手面皮肉坚实，有土作之色，此为第一。然有一等司选人之柄者，或专取于丰伟，或专取于武艺，或专取于力大，或专取于伶俐，此不可以为准，何则？丰大而胆不充，则缓急之际脂重不能疾趋，反为肉累，此丰伟不可恃也；艺精而胆不充，则临事怕死，手足仓卒，至有倒执矢戈，尽乃失其故态，常先众而走，此艺精不可恃也；伶俐而胆不充，则未迂之先，爱择便宜，未阵之际，预思自全之路，临事之际，除己欲先奔犹之可也，又复以利害恐人，使诈他辈为己避罪之地，此伶俐不可恃也；力大而胆不充，则临时足软眼花，呼之不闻，推之不动，是力大不可恃也。

## 操令篇第二

窃观古今名将用兵，未有无节制号令，不用金鼓旗幡<sup>⑮</sup>，而浪战百胜者<sup>⑯</sup>。但今新集生兵，春讯逼近，一切战阵法令，若逐次教来，何时是熟。今时紧要，必不可缓，各便宜简明号令，合行刊给，各于长夜，每队相聚一处，识字者自读，不识字者就叫本队识字之人教诵解说，务要记熟。凡操练对敌，决是字字依行。各读记之后，听本府点背。若一条不记打一板，若各兵有犯小过该责打之事，能背一条者免打一板。临阵军法不在此例。

## 临阵连坐军法篇第三

凡临阵的好汉，只有数人，每斩获首级，常是数十百人丛来报功，再不想你一起人退来报功，使众兵相望，误认是败走，大家都走了。况一个贼首数十人报功，若斩数十贼首，就该数百人来报，不知这一阵上能有几个数百人，反是自误了性命。此临阵第一禁约。

凡战间贼遗财宝金银布帛器械之类，此诱我兵争财，彼得乘机冲杀，往往堕此套中<sup>⑰</sup>。今后临阵遇有财帛，每队止留队中一人收拾看守，待贼平照队收拾之多寡，各给本队兵均分，百哨队长加一倍。必不许他官扣留及后进次到队伍仍留人浑赖。此正是贼当穷败之际，各兵照常奋勇前进，务要加力百倍，庶贼可灭<sup>⑱</sup>。如违令图财，致兵陷没，或贼冲突得脱，抢财物之兵，不分首从，总哨官俱以军法斩。

凡伏兵遇贼不起及起早者，领伏兵队长通斩，各兵扣工食给恤，仍通捆打。如正兵见奇兵伏兵已起，不即回应者同例。

## 谕兵紧要禁令篇第四

凡军中要紧的第一件，只是不许喧哗说话，凡欲动止进退，自有旗帜金鼓，若无令许说话，但开口者都要着实重处，夜间尤是切禁。千万千万<sup>⑲</sup>。

凡立成营盘，即是人家墙垣屋舍一般，若人家不谨门户及容人墙上扒走的事，有也没有？但向营出入者，不拘何官何人，定年由门奉号令方准放出照人，决容不得各处才进才出。如行路时，决不容别人兵马闲人穿路与同路混行，倘是贼般的，却不被诈劫了营盘，此一节又至紧重紧。

## 教官兵法禁约篇第五

凡将领官哨队长，不相和协，倾陷妒忌，煽惑妖言，妄传军令，因而误事者斩。

我一人，你们三四千，一句说话如何传得遍知。我有事要分付<sup>②①</sup>，只是传于把总、哨官，把总、哨官须要一一传说与哨队长，哨队长须要一一传说与兵勇。若是分付去一时记不全了，还许来问我，我再说去分付他。若传说不明，或忘了不来再问，听我候於队内抽取数兵来问<sup>②②</sup>，若问称不知，挨查队长，队长不知，挨查哨长，以次挨到把总。各传不明军法重治。

## 比较武艺赏罚篇第六

凡人之血气，用则坚，怠惰则脆。劳其筋骨，饿其体肤，君相亦然<sup>②③</sup>，况于兵乎。但不宜过于太苦，是谓练兵之力。

凡平时各兵须学趋跑，一气跑得一里不气喘才好。如古人足囊以沙，渐渐加之，临敌去沙<sup>②④</sup>，自然轻便，是练足之力。

凡平时习战，人必重甲，荷以重物，勉强加之，庶临战身轻，进退自速，是谓练身之力。

## 行营野营军令禁约篇第七

凡旁哨后哨见有乏弱人马，不能前进或在路旁潜藏者，随即收送中军，不许私自纵放。

凡军行在路，遗落器械什物，见者许即收带，至止宿处送中军招人认领失物。得物之人照格赏罚，隐匿不报者治罪，亦不许私相交割。

注释：

①或问：有人问。 ②或：文言助词，表示疑问。 ③光：指戚继光。 ④丛：聚集，许多事物凑在一起，此处指兵器多。 ⑤祖宗：本书专指

明朝开国之君。 ⑥裨：音bì，补助。 ⑦奈：奈何。 ⑧勾当：口语，事情。 ⑨摺：即折，此文意为用纸折叠起来的小本子。 ⑩间：音jiàn，此文为中间插入之意。 ⑪招徕：把人招来。 ⑫编：应为遍。 ⑬卒：同猝，突然。 ⑭给：音jǐ，给养，军队中主副食、燃料，以及牲畜饲料等物资的统称。 ⑮金：指锣，军中鸣锣收兵。 ⑯浪：放纵。 ⑰套：口语，圈套。 ⑱庶：将近，差不多。 ⑲千万千万：口语，特别强调的意思。 ⑳分付：即吩咐。 ㉑候：音shù，极快地，忽然。 ㉒君相：皇帝宰相。 ㉓去：去掉，拿掉。

## 《兵 罟》

题解：

《兵罟》是一部依类分条论述治军用兵的军事谋略著作。作者尹宾商，字亦庚，别名白毫子，因此《兵罟》又称《白毫子兵罟》。成书于明代。全书共7卷30篇，附战例300余个。该书“语必折精，事必徵实”，吸取以前历代军事谋略的精华，加以论证和分析，阐述了许多有价值的军事谋略。

《兵罟》军事谋略的核心是用诈，着眼点是贵在出奇。主张示假隐真出奇制胜。提出声东击西、佯攻战术、示弱于敌等欺骗谋略，造成敌方失误的误敌疲敌谋略等。强调设谋必须十分精巧隐密，不落俗套，贵在一个“奇”字。认为只有出奇才能“误人而不误于人”，只有出奇才能增强战术行动的突然性，达到出其不意、攻其无备的目的。尹宾商还主张战术上的灵活机动，提出避实就虚，出奇致胜，以我之长，击敌之短等战术方法。

## 卷 一

声

解纷者不控拳<sup>①</sup>，救斗者不搏撻<sup>②</sup>。批亢捣虚<sup>③</sup>，形格势禁<sup>④</sup>，则自为解。盖东西

有坎离也，南北有震兑也。形神不并往，主客不共位<sup>⑤</sup>，虚实不同势，强弱不衡立，精慵不具陈<sup>⑥</sup>，疾徐不预定，坚瑕不先设。有声者，有声声者，声者，可知；声声者，不可得而知也。敌将狙于声<sup>⑦</sup>，而盲于所以声，而盲于所以声，则是我之所攻者，乃敌人所不守也。法曰：“善攻者，敌不知其所守。”

## 煦

视卒如婴儿，故可与之赴深谿；视卒如爱子，故可与之俱死。昔秦穆公享食骏之报<sup>⑧</sup>，唐太宗获吮血之益<sup>⑨</sup>。人君且然，而况于将乎？故古之良将，贤者，礼而禄之；勇者，赏而劝之；饥者，给食而饲之；寒者，解衣而衣之；有难则以身先之，有功则以身后之；伤者，泣而抚之；死者，哀而葬之；军井未汲，将不言渴；军米未炊，将不言饥；军火未燃，将不言寒；军幕未拽，将不言热；夏不操扇，冬不披裘，雨不张盖，财不私己，劳必共众，凡以拊循士卒而致其死命也<sup>⑩</sup>。经曰：能爱人之生者，可使人舍生而赴死，能亲人之身者，能使人捐身以犯难。

## 整

善行师行军者必整<sup>⑪</sup>。整者，居则有礼，动则有威；进不可御，退不可追；前后应节，左右应麾。与之安，不与之危。其众可合而不可离，可用而不可疲也。是故不整而器，郤至料其必克<sup>⑫</sup>，旗靡辙乱，曹刿决其可逐。兵顾不可整耶<sup>⑬</sup>？夫一人之身举百万之众，俛首伏喙<sup>⑭</sup>，束肩[敛]息，而莫敢仰视，法制整也。故匹夫忽操兵权，申之以法令，威之以赏罚，人未敢有逆其命者。整之时义大矣哉。

## 先

兵家惟其先人，故能有夺人之心。关中

之王，在于先人；北山之胜，在于先据。古之善战者，先为不可胜，以待敌之可胜，未有不先处战地而待敌者也。是故治气则先，治心则先，治力则先，治变则先；隘则先居之，险则先去之，爱则先夺之。盖先胜而后战，非先战而后胜也。弈<sup>⑮</sup>，小数耳<sup>⑯</sup>，犹曰自始至终着着求先，况兵乎哉！

## 迅

疾雷暇掩耳乎？掣电暇瞬目乎<sup>⑰</sup>？时不再来，机不可失，则速攻之，速围之，速逐之，速捣之，靡有不胜。军谡曰<sup>⑱</sup>：攻敌欲疾，是脱兔之说也。智者不能为之谋，勇者不及为之怒也。

## 羸

鸷鸟之击也，必匿其爪；猛兽之[搏]也，必潜其形。两军对垒，不宜夸矜见其所长，当匿其壮士肥马，而示以羸骀老弱<sup>⑲</sup>，见短伏奇，以争一击之利。昔冒顿围高帝于白登<sup>⑳</sup>。当是时也，汉兵盖三十余万，军非不众也，使者觐匈奴以十辈，侦非不详也。而七日之耻，千古难雪，微曲逆几断送乃公矣<sup>㉑</sup>。故羸为制敌之一奇也。

## 佯

两军相值，未谙敌情，必伺敌先动，俟其有变，乃用计以应之。盖兵刃甫接<sup>㉒</sup>，胜负攸分，未可造次，以尝试也。急则血气用事，将逞于一击，而太刚者折；缓则神气不张，将局于守株，而太柔者弛。若夫表缓急，剂刚柔，伪为不胜以求胜，其法在佯。佯者，暂然而不必然，似败而实不败也。其追北也，佯为不及。其见利也，佯为不知。吴起曰<sup>㉓</sup>：“务于北，无务于得”。知言哉，精子佯者乎。

## 卷 二

### 乘

夫必胜之术，合变之形，妙在于乘。乘者，乘人之不及，攻其所不戒焉耳。猛虎失势，童子曳戟而逐之，乘其急也；猩猩被酒，山樵扼其颡而刺其血<sup>②</sup>，乘其醉也。制敌亦然，骄可乘，劳可乘，懈可乘，饥可乘，渴可乘，乱可乘，疑可乘，怖可乘，困可乘，险可乘。可乘者，敌也。揣其可乘而乘之，善制敌者也。

### 静

兵，武事也，而以静为主。静则无形，动则有形。动而有形，必为之擒。虎豹不动，不入陷阱；麋鹿不动，不罹罟罟<sup>③</sup>；飞鸟不动，不挂网罗；鱼鳖不动，不覆唇喙<sup>④</sup>，物未有不以动而制者也。是故圣人贵静，静则不躁，而后能应躁。俟彼有死形，因而制之。《尉缭子》曰：“兵以静胜。”甚哉，兵之不可轻动也，况妄动乎？

### 集

天下无粹白之狐，而有粹白之裘，集之众白也。人莫不有长，莫不有短。善为将者，假人之长以补其短。集众人之明，无畏乎离娄矣<sup>⑤</sup>；集众人之勇，无畏乎孟贲矣<sup>⑥</sup>；集众人之力，无畏乎乌获矣<sup>⑦</sup>。

### 因

夫兵，贵其因也。因也者，因敌之险以为固，因敌之胜以为尅，因敌之乱以为[暇]，因敌之来以为往，因敌之谋以为事。故曰：能审因而加胜，则不可穷也。三代所宝<sup>⑧</sup>，

莫如因。舜因民之心，禹因水之力，汤武因人之欲<sup>⑨</sup>。凡因则无敌。

### 突

徐而操戈矛，则勇士争交刃矣；徐而谈诗书，则文士争鼓舌矣。若乃勃然而起，忽然而至，如豕之奔，蚤之螫，狸之[搏]<sup>⑩</sup>，兔之脱，谁能御之？今夫壮夫之力百倍婴儿，藉令婴儿抱其踵而直前撞之<sup>⑪</sup>，则壮夫立仆。何也？猝而不及持也。故曰：力贵突。

### 捭

敌各有情而吾逆料之<sup>⑫</sup>，其法曰“捭”<sup>⑬</sup>。或捭而出之，或捭而内之<sup>⑭</sup>。察阴阳之理，类万物之情，观众生之先，见变化之朕，而守司其门户。倭柔、倭刚、倭弛、倭张，审定虚实，与其牝牡<sup>⑮</sup>。忤合<sup>⑯</sup>，贵得其[蹊]<sup>⑰</sup>。无所不出，出所不入，天所不可。

## 卷 三

### 诳

庄子之文，汪洋变幻，无一语雕实<sup>⑱</sup>，圣于用虚者乎？而后世至尊之以为经，曰：以其虚虚天下之实也<sup>⑲</sup>。兵法有虚有实，实而示之以虚，虚而示之以实。故有余示之不足，不足示之有余，若环之无端，若水之无痕，若鬼之无[迹]。

### 肆<sup>⑳</sup>

兵法有千章万语，不出乎“多方以误之”一句而已。精于误者，能误人而不误于人。有误者存。

## 信

天地之大，四时之化，犹不能以不信成物，而况兵乎！古之王者不欺四海，霸者不欺四邻。善为国者，不欺其民；善为家者，不欺其亲，是故君子以信为大宝也。若夫贼臣必欺君，逆子必欺其父，傲弟必欺其兄，格虏必欺其主<sup>①</sup>。上不信下，下不信上，上下离心以至于败。所利不足以药其所伤，所获不足以偿其所亡，岂不哀哉！昔齐桓不背曹沫之盟<sup>②</sup>，晋文不渝<sup>③</sup>伐原之信<sup>④</sup>，魏文不愆虞人之期<sup>⑤</sup>，秦孝不愆徙木之赏<sup>⑥</sup>，千古随之。夫可与为始、可与为终、可与尊通、可与卑穷者，其惟信乎？信而又信，重袭于身，乃通于天。以此治兵，则无敌矣。

## 必

待人者不至，望人者不来。凡在己者可必，在人者则不可必也。良将必其在己者，不必其在人者。故执不可胜之术，以遇不胜之敌。则攻其爱，敌必从；捣其虚，敌必随；多其方<sup>①</sup>，敌必分；疑其事，敌必备。非必之彼也，必之我而已。

## 镇

兵如飞鸟，莫有宁心。易器，易悸，易涣，易讹。器，难收也<sup>①</sup>；悸，难持也；涣，难聚<sup>②</sup>也；讹，难解也。其法莫如镇，镇则定。有矫情而镇之者，有晰理而镇之者，有审势而镇之者，有量力而镇之者，有迎机而镇之者，有无可奈何而镇之者。

## 异

人情每安其所常见，诧其所不常见。渔人执螭<sup>①</sup>，妇女把蚕，绝米有一毫恒惧者，安之以为常故也。设若牛鬼蛇神突而相值，

其不惊心骇目、颓然而反走者，罕矣。

## 持

两军相见，兵刃将接，我亦不敢先，彼亦不敢先，妙在托为俾以处后<sup>①</sup>，其法曰“持”。持者，见可而进，观衅而动，迫而后起，不得已而后应，若弓之注矢<sup>②</sup>，持满而不即发也。

## 卷 四

## 诛

严家必有怒笞，而后无格虏；强国必有重典，而后无奸民。矧兵杀人之人也<sup>①</sup>，战又杀人之事也。聚杀人之人，而习夫杀人之事，其必犷悍，猛鸷、桀骜，而不可人置一喙矣。古之名将伏钺临众，必诛杀以示威武。杀一人而三军震者，杀之；杀一人而万人喜者，杀之。当杀，虽甚贵幸而有可听之援，勿赦；当杀，虽甚亲昵而有可恋之情，勿赦；当杀，虽甚勇敢而有可怜之才，勿赦。

## 制

未有使人无智者，有使人不能用其智于我者也；未有使人无力者，有使人不能施其力于我者也，其法曰“制”。玄龟咽蜥，黄要伏虎<sup>①</sup>。[螂]蛆噉龙<sup>②</sup>，[粮]狙<sup>③</sup>蓄鹤<sup>④</sup>，岂非以小制大乎？苦酒泥玉，鸟芋碎铜，驼脂屑金，鹄髓化石，岂非以柔制刚乎？古之用兵者，胜于樽俎之间，不于疆场之内；胜于帷幄之中，不于矢石之际，人皆知敌之为吾所制，而毕竟不知吾之所以制。

## 变

良将用兵，若良医疗病。病万变，药亦

万变。病变而药不变，厥疾弗能瘳也<sup>④</sup>。孙子曰：“能因敌变化而取胜者，谓之神。”善为将者，杀机在心，治局在臆，每自运方略，其法皆不同；非务相反也，时异势殊耳。故运用之妙，存乎一心。捷于矢，不袭其镞；铍于剑<sup>⑤</sup>。不刻其舟<sup>⑥</sup>。若赵括读父书而不知变，其覆军擒将，为天下万世笑，非不幸也。

## 卷 五

### 袭

堂堂之阵弗可击也，正正之旗弗可邀也<sup>①</sup>，法当用诡道胜之。敌备其牡，吾击其牝；敌警其狐，吾扶其虚；敌侦其首，吾箠其足<sup>②</sup>；敌防其凸，吾叩其凹；敌遏其夷，吾掩其险。况攻坚则瑕者亦坚<sup>③</sup>，攻瑕则坚者亦瑕。莫若由不虞之道而攻于所不戒也。

### 合

虎豹至趯健也<sup>④</sup>，熊罴至多力也。然而人食其肉而席其革者，不能合其势而一其力也。故曰：吾指之更弹，不如控拳之一挫。甚哉乎！兵之贵合也。合则势张，合则力强，合则气旺，合则心坚。

### 待

兵事主于虓阚<sup>①</sup>，而亦有时乎？选悞则不敢为客<sup>②</sup>，而为主不敢虚僭，而恃气如处女然，如木鸡然，其几微矣<sup>③</sup>。非至勇不敢待也，非至慎不可待也，非至智不能待也<sup>④</sup>。夫为将当有怯弱时，曹孟德之言，岂欺我哉。

### 独

独，非自负其勇，自用其智，自恃其众

也，真见最胜之所在而亟趋之。盖有数解：嘿运方略<sup>①</sup>，偏裨罔闻<sup>②</sup>，是为独见；发言盈庭，片语折衷，是为独断；躬冒矢石，屹然不动，是为独立；单骑前进，尽屏驺从<sup>③</sup>，是为独往。独见者，见人所不见；独断者，断人所不断；独立者，立人所难立；独往者，往人所难往。呜呼！非老于兵、精于兵、神于兵者，其孰能与于斯。

## 谲

忠信薄而后有礼，道德废而后刑，仁义衰而后有兵。兵以正出而谲用之，求胜而已。晋文公谲而不正，而哀然五霸之雄也<sup>①</sup>。兄齐桓而弟秦穆，诸侯王称最胜焉。何必正哉？

### 纤

疾行无善步，疾歌无媚音，疾书无劲画，疾嗽无余甘。天下事，固有急之而缓，缓之而急者，不可不察也。缓则其神必困，神困则其气必定，气定则其谋必密，谋密则其发必锐。兼此四者，全胜之道也。

## 卷 六

### 果

猛虎之犹豫，不如蜂虿之必螫；孟贲之首鼠<sup>①</sup>，不如妇孺之横奔。故曰：需者，事之贼也。是以进兵贵果，果而勿矜，果而勿伐，果而勿懈，果而勿怠。果之为言，断也。断而敢行，鬼神且避之。天下无坚敌矣。

### 分

善战者，使所常专，使敌常分。我专为一，敌分为十，则此众彼寡，我所与战者约



矣<sup>⑦</sup>。我之战地，常使不可知，则敌所备者多矣。所备者多，则我所与战者，又寡矣。

## 扼

人之有吭，呼吸通焉，性命系焉。或其吭则扼，五官不灵，安能掉运？四体不仁，安能展布？鲜有不僵者矣。吾与敌旗鼓相闻，审其何处为背<sup>⑧</sup>，何处为吭，因拊而扼之，敝敌之善策也。

## 寡

兵贵精，不贵多，此常言，实至言也。夫以隆准公之天授<sup>⑨</sup>，而淮阴止许其将十万<sup>⑩</sup>，则取众之难岂不然乎？曹孟德以八十万败于周郎，刘先主以七十万败于陆逊，符坚以百万败于谢玄，众不足恃，果然矣。寡则势易联也，寡则心易合也，寡则力易并也，寡则械易具也，寡则饷易庀也，寡则动易聚也，寡则归易同也。班以三十六人定三十六国<sup>⑪</sup>，斯善用寡者之神手也。

## 疑

疑事天名，疑行天功，天下未有疑而不败者也。狐疑必化为狼疾<sup>⑫</sup>，狼疾必化为鼠窜，鼠窜必化为鱼烂<sup>⑬</sup>。彼自化也。孰使之化？有府疑者也<sup>⑭</sup>。疑之久而认为真，疑之极而执以为然。虽欲不败，不可得已。

## 託

自玄女授书，黄帝师之以殄蚩尤，而神道设教，兵家遂尊用为奇计矣。奇则不泥常，而出于非常。非常者，常人之所骇而走也。小说载：孔明五出祁山，令关兴结束扮天蓬神像，手执七星皂旛，步行军前，典午氏詫其作怪<sup>⑮</sup>。盖赤壁鏖兵时，孔明尝披发跣足，祭风于南屏山上。自古英雄惯作此伎俩矣，

宁独隆中龙哉<sup>⑯</sup>？

## 卷 七

## 微

沛公斗智，曲逆出奇，高出九天，深藏九地。阴计成功，群策绌力。策莫密于间，算妙于间。凡遣间，指纵必极幽隐，虽死弗得漏吾密，虽黠弗得测吾妙。是故辘轳箕斗，吐欬风云<sup>⑰</sup>，驱使鬼神，燭擘英雄<sup>⑱</sup>。易曰“精义入神”。庸詎知神之所以不神乎？庸詎知不神之所以神乎<sup>⑲</sup>？嗟夫，水以载舟，亦以覆舟；药能生人，亦能杀人。微哉！微哉！非圣智不能用也。

### 注释：

- ①不控拳：不插手或不把拳头伸出去。  
②不搏搢：不直接使用兵器。搢(jì)，击刺，意思是用手执戟去刺别人。  
③批亢捣虚：亢，咽喉。指抓住敌人的要害乘虚而入。  
④形格势禁：格，变革、阻碍。指情况发生变化，敌人的攻势被阻止。  
⑤主客：指主人和客军。主人，指在本国境内作战的军队；客军，指在国外作战的军队。  
⑥精拙：精细和粗疏。拙(cū)。  
⑦狙(niú)：习以为常；拘泥。  
⑧食骏之报：指秦穆公宽容原谅那些杀吃他骏马的人，结果在自己危难之时受到报答。  
⑨吮血之益：指唐太宗为部下吮吸伤口的血，得到激励全军英勇作战的好处。  
⑩拊循：抚慰，安抚。  
⑪整：严整军容。  
⑫郤至：春秋时晋国大夫。  
⑬顾：难道，岂。  
⑭俛首伏喙：俛(miǎn)，喙(huì)。意思是低着头不敢说话。  
⑮弈：下棋。  
⑯数：技术，方术。  
⑰《淮南子·兵略训》：“疾雷不及塞耳，疾霆不暇掩目。”  
⑱军谶(chèn)：古兵书的一种。  
⑲羸蒯(léi zì)：羸，瘦弱困顿之状。蒯，瘦，瘦肉。  
⑳冒顿(mò dú)：秦末汉初匈奴单于，(?——前174年)。  
㉑微：作“非”、“无”解释。曲逆：本为战国时中山国地名，因汉高祖由此经过，封陈平为曲逆侯。所以，这里指代陈平。  
㉒甫：开始。  
㉓吴起(约公元前440年——前381

年): 战国前期著名政治家、军事家, 法家学派的代表人物。 ②④颡(kàng): 颈项, 咽喉。同“亢”。 ②⑤罝罟(jū fú): 捕兽的网。 ②⑥贯(guān, 又读 huàn): 贯, 穿。 ②⑦离娄: 古代传说中的人名, 亦作“离朱”。《孟子·离娄上》: “离娄之明”。 ②⑧孟贲: 战国时的勇士。 ②⑨乌获: 战国时秦国的力士。 ③⑩三代: 一般认为夏、商、西周为三代。这里的三代, 指下文提到的舜、禹和汤武。 ③⑪汤武: 指商汤和周武王。 ③⑫搏: “搏”字之误。 ③⑬藉(jiè): 假托, 凭借, 假使。 ③⑭逆料: 预料, 预测。逆: 预先猜度。 ③⑮揅(bāi): 两手排击; 通“擘”, 分开, 拨动。引申为分析判断。在这里意思是以开合即拨动闭藏的办法来分析判断敌人动向, 以对症下药, 克敌致胜。 ③⑯内(nà): 同“纳”。 ③⑰牝牡(pìn mǔ): 指雌雄, 阴阳等。 ③⑱忤合: 相违与相符, 离合, 趋合倍反。 ③⑲窾: 即窾(kuà); 法: 空。 ④⑩蹠(zhí): 践, 踩。本文用作践, 引申为根据。 ④⑪第二个“虚”字用作动词, 意思是概括和抽象。 ④⑫肄: 劳苦。 ④⑬格虏: 桀骜不驯的奴仆。 ④⑭曹沫之盟: 曹沫, 春秋时鲁人。齐桓公伐鲁, 鲁庄公请和, 公盟于柯。曹沫持匕首相从, 以匕首扶持齐桓公与鲁订立盟约, 并全部归还侵占鲁国的土地。 ④⑮渝(yú): 变, 指感情或态度发生变化。 ④⑯伐原之信: 指晋文公攻原, 不改变自己的诺言, 与军中约定十天, 但十天未能攻下, 于是罢兵而去。 ④⑰虞人之期: 与虞人的约会。虞人, 指掌管山林的小吏。 ④⑱恹(lín)同“吝”。 ④⑲多其方: 对敌实施多方向的攻击。 ⑤⑩敕(mǐ): 安抚, 安定。 ⑤⑪彘(zhù): 控制的意思。 ⑤⑫螭(shàn): 同“蟠”。蚯蚓的别称, 又名蜿蟺曲蟺。 ⑤⑬鐃(chún): 古代军乐器名, 又叫“鐃于”、“淳于”。在这里鐃同鼓一样用作指挥军队进退的音响信号工具。 ⑤⑭注: 投, 击。 ⑤⑮矧(shěn): 况。。 ⑤⑯黄要: 兽名。又名黄腰, 蟪蛄。 ⑤⑰螂蛆: 螂为“螂”之误。螂蛆, 蜈蚣别名。 ⑤⑱狼狽: 似为狼豺或狼狽。动物名。 ⑤⑲齧(niè): 咬, 啃。 ⑥⑩厥(jué)其, 那个。 ⑥⑪铦(xiān): 锋利。 ⑥⑫“不刻其舟”是借用了“刻舟求剑的典故。 ⑥⑬邀: 同“要”(yāo)。截击。 ⑥⑭箠(chuí): 原指马鞭, 木棍, 文中指捶击、打击。 ⑥⑮语见《管子·制分第二十

九》: “攻坚则瑕者坚, 乘瑕则坚者瑕。” ⑥⑯趯(qiáo): 便捷、善走、武健。 ⑥⑰虓阚(xiāo hàn): 勇猛强悍, 比喻将士震怒。虓阚, 虎怒吼的样子。 ⑥⑱恢: (nuò) 同“懦”。 ⑥⑲几微: 与作幾微。幾与“机”通, 微指幽微。幾微当为事机幽微, 深不可测。 ⑦⑩瞽(chá): 同“察”。 ⑦⑪嘿(mò): 闭口不说话。同“默”。 ⑦⑫偏裨: 偏指偏将, 裨指裨将。偏裨为将佐的通称。 ⑦⑬驺从: 指侍从。驺(zōu) ⑦⑭衰(póu): 聚集, 引申为众多; 减少, 削除。按文章意思, 似为“衰”(cuī) 字之误, 意思是次第, 指晋文公次第作了春秋五霸霸主之一。 ⑦⑮纡(yū): 屈曲、曲折; 屈抑。此似为“紆”(shū) 字之误。紆: 舒缓, 延缓; 解除。 ⑦⑯首鼠: 老鼠生性胆小多疑, 出穴时进退不定。古时常用以比喻迟疑不决, 进退不定。 ⑦⑰约: 简单, 简略, 少。 ⑦⑱审: 仔细观察、研究。 ⑦⑲隆准: 高鼻。隆准公: 指汉高祖刘邦。 ⑧⑩淮阴: 指汉代淮阴侯韩信。 ⑧⑪三十六国: 指西域诸城国, 大部在今新疆维吾尔自治区境内。 ⑧⑱狼疾: 比喻昏愤。 ⑧⑲鱼烂: 鱼烂自内发, 比喻由内乱而覆亡。 ⑨⑩有府: “百官所居曰府”, 泛指官府; “有”作助词。在文中指军事决策机关。 ⑨⑪典午氏: 指司马懿父子。典午, “司马”的隐语。典和司同义, 都是掌管的意思; 午在十二属相中是马; 典午暗指司马氏, 即晋朝最高统治者。 ⑨⑱隆中龙: 即上文的孔明。孔明年青时隐居隆中, 人称卧龙, 所以又称他为隆中龙。 ⑨⑲吐欬: 吐出吮进。欬(hé)吮进。 ⑨⑳燔(xún): 煮肉以热水脱毛, 再于汤中煮熟。 ⑨㉑庸讎: 怎么, 何以。

## 《百战奇法》

### 题解:

《百战奇法》又称《百战略》, 相传为明代著名军事家刘基著, 是一部内容丰富独具特色的军事谋略著作。全书10卷, 每卷10篇, 共百篇, 收集从先秦到五代共1600多年间散见于史籍中的重要军事资料, 对作战原则和作战方法进行了比较通俗的论述, 同时引用大量战争实例加以注释。

《百战奇法》阐述的军事谋略, 涵盖面很

广，几乎涉及到了战争的所有指挥原则和作战方法，是集中和专门讲战争谋略的兵书。书中许多谋略很有价值，很有影响。诸如：强调从战争的客观实际出发，因敌情变化而灵活用兵，书中说：“凡兵家之法，要在应变”；从战略高度阐述了使用间谍和实施战术侦察在战争中的重要作用；提出“惊前掩后，冲东击西”的出奇制胜、使敌人无从防备的巧妙战法；提出“设饵诱敌”和“巧设伏兵”的作战方法；强调争取战场主动权，调动敌人，不为敌人调动的灵活战术；强调在进袭敌人时，要采取“丛聚草木，多张旗帜”的办法来伪装自己、迷惑敌人的设置疑阵的谋略等等。《百战奇法》是为后世倍加赞誉的古代重要军事谋略专著。

## （一）计 战

凡用兵之道，以计为首。未战之时，先料将之贤愚，敌之强弱，兵之众寡，地之险易，粮之虚实。计料已审，然后出兵，无有不胜。法曰：“料敌制胜，计险阨远近，上将之道也。”

汉末，刘先主在新野，三往求计于诸葛亮。亮曰：“自董卓以来，豪杰并起，跨州连郡者不可胜数。曹操比于袁绍，则名微而众寡，然操遂能克绍，以弱为强者，非惟天时，抑亦人谋也。今操已拥百万之众，挟天子以令诸侯，此诚不可与争锋。孙权据有江东，已历三世，国险而民附，贤能为之辅，此可以为援而不可图也。荆州北据汉、沔，利尽南海，东连吴、会，西通巴蜀，此用武之国，而其主不能守<sup>①</sup>。此殆天所以资将军，将军岂有意乎？益州险塞，沃野千里，天府之土，高祖因之以成帝业。刘璋暗弱，张鲁在北，民阜国富，不知存恤，智能之士思得明君。将军既帝室之胄，信义著于四海，总览英雄，思贤如渴，若跨有荆、益，保其岩阻，西和诸戎，南抚夷越<sup>②</sup>，外结好孙权，内修政治；天下有变，则命一上将将荆州之

军以向宛、洛，将军身帅益州之众出于秦川，百姓孰敢不箪食壶浆以迎将军者乎？诚如是，霸业可成，汉室可兴矣。”先主曰：“善。”后果如其计。

## （二）谋 战

凡敌始有谋，我从而攻之，使彼计衰而屈服。法曰：“上兵伐谋。”

春秋时，晋平公欲伐齐，使范昭往观齐国之政。齐景公觴之。酒酣，范昭请君之樽酌。公曰：“寡人之樽进客。”范昭已饮，晏子彻樽，更为酌。范昭佯醉，不悦而起舞，谓太师曰：“能为我奏成周之乐乎？吾为舞之。”太师曰：“瞑臣不习。”范昭出。景公曰：“晋，大国也。来观吾政，今子怒大国之使者，将奈何？”晏子曰：“范昭非陋于礼者，且欲惭吾国，臣故不从也。”太师曰：“夫成周之乐，天子之乐也，惟人主舞之。今范昭人臣，而欲舞天子之乐，臣故不为也。”范昭归报晋平公曰：“齐未可伐，臣欲辱其君，晏子知之；臣欲犯其礼，太师识之。”仲尼〔闻之〕曰：“不越樽俎之间，而折冲千里之外<sup>③</sup>，晏子之谓也。”

## （三）间 战

凡欲征伐，先用间谍，觇敌之众寡、虚实、动静，然后兴师，则大功可立，战无不胜。法曰：“无所不用间也。”

周将韦叔裕，字孝宽，以德行守镇玉壁。孝宽善于抚御，能得人心，所遣间谍人齐者，皆为尽力。亦有齐人得孝宽金货者<sup>④</sup>，遥通书疏。故齐动静，朝廷皆知之。齐相斛律光，字明月，贤而有勇，孝宽深忌之。参军曲严颇知卜筮<sup>⑤</sup>，谓孝宽曰：“来年东朝必大相杀戮。”孝宽因令严作谣歌曰：“百升飞上天，明月照长安。”百升，斛也。又言：“高山不推自隤，榦木不扶自立。”令谋人多赍此文<sup>⑥</sup>，遗之于邺。祖孝征与光有隙，既闻

更润色之，明月卒以此诛。周武帝闻光死，赦其境内，后大举兵，遂灭齐。

#### (四) 选 战

凡与敌战，须要选拣勇将、锐卒，使为先锋，一则壮其志，一则挫敌威。法曰：“兵无选锋曰北。”

建安十二年，袁尚、熙奔上谷郡<sup>⑦</sup>，[引]乌桓数入塞为害。曹操征之。夏五月，至无终；秋七月，大水，傍海道路不通。田畴请为乡导，公从之，率兵出卢龙塞<sup>⑧</sup>，水潦，道不通，乃堑山堙谷五百余里，经白檀，历平刚、鲜卑庭，东陷柳城。未至二百里，虏方知之。尚、熙与蹋顿、辽西单于楼班、右北平单于能臣抵之等将数万骑逆军。八月，登白狼山，卒于虏遇，众甚盛。公辎重在后，被甲者少，左右皆惧。公登高，望虏阵不整，乃纵兵击之，使张辽为先锋，虏众大溃，斩蹋顿及名王以下，胡、汉降者二十余万口。

#### (五) 步 战

凡步兵与车骑战者，必依丘陵、险阻、林木而战则胜。若遇平易之道，须用拒马枪为方阵<sup>⑨</sup>，步兵在内。马军、步兵中分为驻队、战队。驻队守阵，战队出战；战队守阵，驻队出战。敌攻我一面，则我两哨出兵，从旁以掩之；敌攻我两面，我分兵从后以捣之；敌攻我四面，我为圆阵，分兵四出以奋击之。敌若败走，以骑兵追之，步兵随其后，乃必胜之方。法曰：“步兵与车骑战者，必依丘陵、险阻，如无险阻，令我士卒为行马、蒺藜。”

《五代史》：晋将周德威为卢龙节度使<sup>⑩</sup>，恃勇不修边备，遂失榆关之险。契丹每刍牧于营<sup>⑪</sup>、平之间，陷新州，德威复取不克，奔归幽州。契丹围之二百日，城中危困。李嗣源闻之，约李存审步骑七万，会于易州救之，乃自易州北行，逾大房岭，循涧

而东。嗣源以养子从珂将三千骑为先锋，进至山口，契丹以万骑遮其前，将士失色；嗣源以百骑先进，免胄扬鞭，胡语谓契丹曰：“汝无故犯我疆场，晋王命我将百万骑众，直抵西楼，灭汝种族。”因跃马奋挝，三人其阵，斩契丹酋长一人。后军齐进，契丹兵却，晋兵始得出。李存审命步兵伐木为鹿角阵，人持一枝以成寨。契丹环寨而过，寨中发万弩齐射之，流矢蔽日，契丹人马死伤塞路。将至幽州，契丹列阵待之。存审命步兵阵于后，戒勿先动，令羸兵曳柴、燃草而进，烟尘蔽天，契丹莫测其多少；因鼓入战，存审乃趋后阵，起而乘之，契丹大败，席卷其众自北山口遁去，俘斩万计，遂解幽州之围。

#### (六) 骑 战

凡骑兵与步兵战者，若遇山林、险阻、陂泽之地，疾行急去，是必败之地，勿得与战。欲战者，须得平易之地，进退无碍，战则必胜。法曰：“易地则用骑。”

《五代史》：唐庄宗救赵，与梁军<sup>⑫</sup>相拒于柏乡五里<sup>⑬</sup>，营于野河北<sup>⑭</sup>。晋兵少，梁将王景仁所将兵虽多<sup>⑮</sup>，而精锐者亦少。晋军望之色动。周德威勉其众曰：“此汴、宋佣贩耳<sup>⑯</sup>。”退而告之。庄宗曰：“吾提孤兵出千里，利在速战，今不乘势而急击之，使敌知我众寡，则计无所施矣。”德威曰：“不然，赵人皆[长于]守城而不能野战；吾之取胜，利在骑兵，平原旷野，骑兵之所长也。今吾军于河上，迫近营门，非吾用长之地也。”庄宗不悦，退卧帐中，诸将无敢入见者。德威乃谓监军张承业曰<sup>⑰</sup>：“王怒老将不速战者，非怯也。且吾兵少而临贼营门，所恃者一水隔耳。使梁得舟筏渡河，吾无类矣。不如退军郾邑，诱敌出营，扰而劳之，可以策胜也。”承业入言曰：“德威老将知兵，愿无忽其言。”庄宗遽起曰：“吾方思之尔。”已而，德威获梁游兵，问景仁何为？曰：“治舟数百，将以为浮梁。”德威乃与俱见。

庄宗笑曰：“果如公所料。”乃退军鄴邑。德威乃遣骑三百扣梁营挑战，自以劲兵三千继之。景仁怒，悉以其军出，与德威转斗数十里，至于鄴南，两军皆阵。梁军横亘六、七里。庄宗策马登高望而喜曰：“平原浅草，可前可却，真吾制胜之地也。”乃使人告德威曰：“吾当与战。”德威谏曰：“梁军轻出而远来，与吾转战，其来既速，必不暇赍粮糗；纵其能赍，有不暇食，不及日午，人马饥渴，其军必退。退而击之，必获胜焉。”至申时，梁军中尘起，德威鼓噪而进，梁军大败。

## (七)舟 战

凡与敌战于江湖之间，必有舟楫，须居上风、上流。上风者，顺风，用火以焚之；上流者，随势，使战舰以冲之，则战无不胜。法曰：“欲战者，无迎水流。”

春秋，吴子伐楚，楚令尹卜战，不吉。司马子鱼曰<sup>⑧</sup>：“我得上流，何故不吉？”遂战，吴师败绩。

## (八)车 战

凡与步、骑战于平原旷野，必须用偏箱、鹿角车为方阵，以战则胜。所谓一则治力，一则前拒，一则整束部伍也。法曰：“广地则用军车。”

晋梁州刺史杨欣失羌戎之和，为虜所没。河西断绝，帝每有西顾之忧<sup>⑨</sup>，临朝而叹曰：“谁能为我通凉州讨此虜者乎？”朝臣莫对。司马督马隆进曰：“陛下若能任臣，臣能平之。”帝曰：“若能灭贼，何为不任？顾卿方略如何耳！”隆曰：“陛下若能任臣，当听臣自任。”帝曰：“云何？”对曰：“臣请募勇士三千人，无问所从来，率之鼓行而西，禀陛下威德，丑类何足灭者！”帝许之，乃以隆为武威太守。隆募腰开弩三十六钧，立标拣试，自旦至日中，得三千五百人。隆曰：

“足矣。”隆于是率其众西渡温水，虜木机能等以众万骑<sup>⑩</sup>，或乘险以遏隆前，或设伏以截隆后。隆依八阵图作偏箱车，地广用鹿角车，路狭则为木屋施于车上，且战且前，弓矢所及，应弦而倒。转战千里，杀伤以千数。隆到武威，虜大人猝跋韩且万能等率万余众归，隆前后诛杀及降附者数万。又率善戎没骨能等与木机能等战，斩之，凉州遂平。

## (九)信 战

凡与敌战，士卒蹈万死一生之地，而无悔惧之心者，皆信令使然也。上好信以任诚，则下用情而无疑，故战无不胜。法曰：“信则不欺。”

三国魏明帝自征蜀，归长安，遣司马懿督张郃诸军，雍、凉劲卒三十万，潜军密进，窥向剑阁。蜀相诸葛亮时在祁山，旌旗利器，守在险要，十二更下，在者八万。时魏军始阵，幡兵适交，参佐咸以贼众强盛，非力不制，宜权停下兵一月，以并声势。亮曰：“吾统武行师，以大信为本，‘得原失信’古人所惜；去者速装以待期，妻子鹄立而计日，虽临征难，义所不废。”皆催令去。于是，去者皆悦，愿留一战；住者奋勇，思致死命。相谓曰：“诸葛公之恩，死犹未报也。”临战之日，莫不拔剑争先，以一当十，杀张郃，却司马懿，一战大克，信之由也。

## (一〇)教 战

凡欲兴师，必先教战。三军之士<sup>⑪</sup>，素习离、合、聚、散之法，备谙坐、作、进、退之令，使之遇敌，视旌麾以应变，听金鼓而进退。如此，则战无不胜。法曰：“以不教民战，是谓弃之。”

战国时，魏将吴起曰：“夫人常死其所不能，败其所不便。故用兵之法，教戒为先。一人学战，教成十人；十人学战，教成百人；百人学战，教成千人；千人学战，教成万人；

万人学战，教成三军。以近待远，以佚待劳，以饱待饥，圜而方之，坐而起之，行而止之，左而右之，前而后之，分而合之，结而解之。每变教习，乃授其兵，是为将事。”

### (一一)众 战

凡战，若敌众我寡，不可战于险阻之间，须要平易宽广之地。闻鼓则进，闻金则止，无有不胜。法曰：“用众进止。”

晋太元时，秦苻坚进屯寿阳，列阵淝水，与晋将谢玄相拒。玄使谓苻融曰：“君远涉吾境，而临水为阵，是不欲速战。请君少却，众将士得周旋，仆与君缓轡而观之，不亦乐乎！”坚众皆曰：“宜阻淝水，莫令得上。我众彼寡，势必万全。”坚曰：“但却军，令得过，而我以铁骑数十万向水，逼而杀之。”融亦以为然。遂麾兵使却，众因乱而不能止。于是，玄与谢琰、桓伊等，以精锐八千渡淝水，石军拒张蚝，小退。玄、琰仍进兵大战淝水南，坚众大溃。

### (一二)寡 战

凡战，若以寡敌众，必以日暮，或伏于深草，或邀于隘路，战则必胜。法曰：“用少者务隘。”

《北史》：西魏大统三年，东魏将高欢渡河<sup>②</sup>，逼华州，刺史王黑严守，乃涉洛，军于许原西。西魏遣将宇文泰拒之<sup>③</sup>。泰至渭南，集诸州兵，未会。诸将以众寡不敌，请且待欢更西以观之。泰曰：“欢若至咸阳，人皆转搔扰。今其新至，可击之。”即造浮桥于渭南，军士赍三日粮，轻骑渡渭，輜重自渭南夹渭而西。十月壬辰<sup>④</sup>，至沙苑，距齐军六十余里。高欢率兵来会。候骑告齐兵至，泰召诸将议。李弼曰：“彼众我寡，不可争也，宜置阵。此东十里，有渭曲，可据以待之。”遂进至渭曲，背水东西为阵，李弼为右拒，赵贵为左拒，命将士皆偃戈于葭

芦之中，闻鼓声而起。日晡<sup>⑤</sup>，齐军至，望见军少，争进，卒乱而不成列。兵将交，泰鸣鼓，士卒皆起。于谨等以大军与之合战，李弼等率铁骑横击之，绝其军为二，遂大破之。

### (一三)爱 战

凡与敌战，士卒宁进死，而不肯退生者，皆将恩惠使然也。三军知在上之人爱我如子之至，则我之爱上也如父之极。故陷危亡之地，而无不愿死以报上之德。法曰：“视民如爱子，故可与之俱死。”

战国魏将吴起为西河守<sup>⑥</sup>，与士卒最下者同衣食。卧不设席，行不乘骑，亲裹赢粮，与士卒分劳苦。卒有病疽者，起为吮之。卒母闻而哭之。或曰：“子，卒也，而将军自吮其疽，何哭为？”母曰：“非然也。往年吴公吮其父，其父战不旋踵，遂死于敌。吴公今又吮其子，妾不知其死所矣。是以哭之。”文侯以吴起用兵廉平，得士卒心，使守西河，与诸侯大战七十六，全胜六十四。

### (一四)威 战

凡与敌战，士卒前进而不敢退后，是畏我而不畏敌也。若敢退而不敢进者，是畏敌而不畏我也。将使士卒赴汤蹈火而不违者，是威严使然也。法曰：“威克厥爱允济<sup>⑦</sup>。”

春秋齐景公时，晋伐阿、鄆，而燕侵河上，齐师败绩。〔景公患之〕。晏婴乃荐田穰苴，曰：“穰苴虽田氏庶孽，然其人文能附众，武能威敌，愿君试之。”景公乃召穰苴，与语兵事，大悦之，以为将军，将兵捍燕、晋之师。穰苴曰：“臣素卑贱，君擢之闾伍之中，加之大夫之上，士卒未附，百姓不亲，人微权轻，愿得君之宠臣，国之所尊，以监军，乃可。”于是，景公许之，使庄贾往。穰苴既辞，与庄贾约：旦日日中会军门。穰苴先驰至军中，立表下漏待贾<sup>⑧</sup>。贾素骄贵，

以为将己之军而已为监，不甚急，亲戚左右送之，留饮。日中而贾不至。穰苴则仆表决漏入，行军勒兵，申明约束，既定。夕时，贾乃至。穰苴曰：“何为后期？”贾对曰：“不佞<sup>②</sup>，大夫亲戚送之，故留。”穰苴曰：“将受命之日则忘其家，临阵约束则忘其亲。援桴鼓之急则忘其身。今敌国深侵，邦内骚动，士卒暴露于境，君寝不安席，食不甘味，百姓之命皆垂于君，何谓相送乎？”召军正问曰：“军法期而后至者云何？”对曰：“当斩。”贾惧，使人驰报景公，请救。既往，未及返，于是遂斩庄贾以徇三军。三军皆震栗。久之，景公遣使持节救贾，驰入军中。穰苴曰：“将在军，君命有所不受。”问军正曰：“军中不驰，今使者云何？”对曰：“当斩。”使者大惧。穰苴曰：“君之使不可杀之，乃杀其仆、车之左骖、马之左骖，以徇三军。遣使者还报，然后行事。士卒次舍、井灶、饮食、问疾、医药，身自拊循之。悉取将军之资粮，以享士卒，〔身与士卒〕平分粮食。最比其羸弱者，三日而后勒兵。病者皆求行，争奋出为之赴战。晋师闻之，〔为〕罢去；燕师闻之，渡河而解。于是，穰苴乃率众追击之，遂取所亡邦内故境，率兵而归。

### (一五)赏 战

凡高城深池，矢石繁下，士卒争先登；白刃始合，士卒争先赴者，必诱之以重赏，则敌无不克焉。法曰：“重赏之下，必有勇夫。”

汉末大将曹操，每攻城破邑，得靡丽之物，则悉以赏有功者。若勋劳宜赏，不吝千金。无功妄施，分毫不与。故能每战必胜。

### (一六)罚 战

凡战，使士卒遇敌敢进而不敢退，退一寸者，必惩之以重刑，故可以取胜也。法曰：“罚不迁列。”

隋大将杨素，御戎严整，有犯军令者，立斩之，无所宽贷。每将对敌，辄求人过失而斩之，多者百余人，少者不下十数人。流血盈前，言笑自若。及其对阵，先令三百人赴敌，陷阵则已，如不能陷阵而还者，无问多少，悉斩之。又令二三百人复进，还如向者，将士股栗，有必死之心，由是战无不胜。

### (一七)主 战

凡战，若彼为客，我为主，不可轻战。为吾兵安，士卒顾家，当集人聚谷，保城备险，绝其粮道。彼挑战不得，转输不至，候其困敝击之，必胜。法曰：“自战其地为散地。”

《晋书》：后魏武帝亲征后燕慕容德于邺城<sup>③</sup>，前军大败绩。德又欲攻之，别驾韩淖进曰：“古人先决胜庙堂，然后攻战。今魏不宜击者四，燕不宜动者三。”德曰：“何故？”淖曰：“魏垂军远入<sup>④</sup>，利在野战，一不可击也。深入近畿<sup>⑤</sup>，致其死地，二不可击也。前锋既败，后阵必固，三不可击也。彼众我寡，四不可击也。官军自战其地，一不宜动。动而不胜，众心难固，二不宜动。城隍未修，敌来无备，三不宜动。此皆兵家所忌，不如深沟高垒，以佚待劳。彼千里馈粮，野无所掠，久则三军靡费，则士卒多毙，师老衅生，起而图之，可以捷也。”德曰：“淖别驾之言，真良、平策也。”

### (一八)客 战

凡战，若彼为主，我为客，唯务深入。深入，则为主者不能胜也。谓客在重地，主在散地故耳。法曰：“深入则专。”

汉韩信、张耳以兵数万，欲东下井陘击赵。赵王及成安君陈馥聚兵井陘口，众号二十万。广武君李左车说成安君曰：“闻汉韩信涉西河，虏魏豹，擒夏悦，新喋血阙与<sup>⑥</sup>。

今乃辅以张耳，议欲以下赵，此乘胜而去国远斗，其锋不可当。臣闻千里馈粮，士有饥色，樵苏后爨<sup>③</sup>，师不宿饱。今井陉之道，车不得方轨<sup>④</sup>，骑不得成列，〔行数百里〕其势粮食必在其后。愿足下假臣奇兵三万人，从间道绝其辎重；足下深沟高垒勿与战。彼前不能进，退不能还，野无所掠，不十日，两将之头可悬麾下。愿君留意，否则，必为所擒。”成安君自以为义兵，不听，果被杀。

## （一九）强 战

凡与敌战，若我众强，可伪示怯弱以诱之，敌必轻来与我战，吾以锐卒击之，其军必败。法曰：“能而示之不能。”

战国赵将李牧，常居代雁门，备匈奴，以便宜置吏，市租皆输入幕府，为士卒费。日击数牛享士，习骑射，谨烽火，多间谍，厚遇战士，约曰：“匈奴入盗，急入收保，有敢扑虏者斩。”匈奴每入盗，辄入收保，不与战。如是数岁，无所亡失。然匈奴以李牧为怯，虽赵边兵亦以为吾将怯。赵王让李牧，李牧如故。赵王召之，使人代牧将。岁余，匈奴来，每出战，数不利，失亡多，边不得田畜。于是，复请牧。牧称疾，杜门不出，赵王乃复强起使将兵。牧曰：“若用臣，臣如前，乃敢奉命。”王许之。李牧遂往，至，如故约。匈奴来无所得，终以为怯。边士日得赏赐不用，皆愿一战。于是，乃具选车，得一千三百乘，选骑得一万三千匹，百金之士五万人，控弦者十万人，悉勒兵习战，大纵畜牧，人民满野。匈奴来，佯败不胜，以数千人委之<sup>⑤</sup>。单于闻之，大率众来入。李牧多为奇阵，张左右翼以击之，大破之，杀匈奴十余万骑。单于奔走，其后十余岁，匈奴不敢犯赵边。

## （二〇）弱 战

凡战，若敌众我寡，敌强我弱，须多

设旌旗，倍增火灶，示强于敌，使彼莫能测我众寡、强弱之势，则敌必不轻与我战，我可速去，则全军远害。法曰：“强弱，形也。”

后汉，羌胡反，寇武都，邓太后以虞诩有将帅之略<sup>⑥</sup>，迁武都太守。羌乃率众数千，遮诩于陈仓、嶓谷<sup>⑦</sup>，诩即停车不进，而宣言上书请兵，须到当发。羌闻之，乃分抄傍县。诩因其兵散，日夜倍道兼行，日行百余里。令吏士各作两灶，日增倍之，羌不敢逼。或问曰：“孙臆减灶，而君增之，兵法曰行不过三十里，而今日且行百里，何也？”诩曰：“虏众多，吾兵少。虏见吾灶日增，必谓郡兵来迎。众多行速，必惮追我。孙臆见弱，吾今示强，势有不同故也。”

## （二一）骄 战

凡敌人强盛，未能必取，须当卑词厚礼，以骄其志，候其有衅隙可乘，一举可破。法曰：“卑而骄之。”

蜀将关羽北伐，擒魏将于禁，围曹仁于樊。吴将吕蒙在陆口称疾，诣建业，陆逊往见之，谓曰：“关羽接境，如何远下，后不堪忧也！”蒙曰：“诚如来言，然我病笃。”逊曰：“羽矜其骄气，凌轹于人<sup>⑧</sup>。始有大功，意骄志逸。又相闻病，必益无备。今出其不意，自可擒制。下见至尊，宜好为计。”蒙至都，权问：“卿病，谁可代者？”蒙对曰：“陆逊虑思深长，才堪负重，观其规虑<sup>⑨</sup>，终可大任。而未有远名，非羽所忌，无复是过。若用之，当令外自韬隐，内察形便，然后可克。”权乃召逊，拜偏将军都督代蒙。逊至陆口，书与羽曰：“前承观衅而动，以律行师，小举大克，一何巍巍！敌国败绩，利在同盟，闻庆抚节，想遂席卷，共奖王纲。某不敏，受任来西，延慕光尘，思禀良规。”又曰：“于禁等见获，遐迩欣叹，以为将军之勋足以长世，虽昔晋文城濮之师，淮阴拔赵



之路，蔑以尚之。闻徐晃等步骑驻旌，窥望麾葆。操猾虏也，忿不思难，恐潜增众，以逞其心。虽云师老，犹有骁悍。且战捷之后，常苦轻敌，古术军胜弥警，愿将军广为方针，以全独党。仆书生疏迟，忝所不堪，嘉邻威德，乐自倾尽，虽未合策，犹可怀也。”羽览书，有谦下自托之意，遂大安，无复所嫌。逊具启状，陈其可擒之要。权乃潜军而上，使逊与吕蒙为前部，至即克公安、南郡。

## (二二)交 战

凡与敌战，傍与邻国，当卑词厚赂结之，以为已援。若我攻敌人之前，彼倚其后，则敌人必败。法曰：“衢地则合交。”

三国蜀将关羽，围魏曹仁于樊，魏遣左将军于禁等救之，会汉水暴起，羽以舟兵虏禁等步骑三万送江陵。是时，汉帝都许昌，魏武以为近贼，欲徙河北，以避其锋。司马懿谏曰：“禁等为水所没，非战守之所失，于国家大计未有损失，而便迁都，既示敌以弱，又淮、沔之人俱不安矣。孙权、刘备，外亲而内疏，羽今得意，权必不愿也。可谕权，令倚其后，则樊围自解。”魏武从之，遣使结权，遂遣吕蒙西袭公安，拔之，羽果弃樊而去。”

## (二三)形 战

凡与敌战，若彼众多，则设虚形以分其势，彼不敢不分兵以备我。敌势既分，其兵必寡；我专为一，其卒自众。以众击寡，无有不胜。法曰：“形人而我无形。”

汉末，建安五年，曹操与袁绍相拒于官渡。绍遣郭图、淳于琼、颜良攻曹将东郡太守刘延于白马<sup>①</sup>，绍率兵至黎阳<sup>②</sup>，将渡河。夏四月，曹操北救延。荀攸说操曰：“今兵少不可敌，若分其势乃可。公到延津，若将渡河向其后，绍必西应之。然后轻兵袭白马，掩其不备，颜良可擒也。”操从之。绍闻兵

渡，即分兵西应之。操乃率军兼行趋白马，未至十余里，良大惊，来迎战。操使张辽、关羽前登，击破之，斩良，遂解白马之围。

## (二四)势 战

凡战，所谓势者，乘势也。因敌有破灭之势，则我从而迫之，其军必溃。法曰：“因势破之。”

晋武帝密有灭吴之计，而朝议多违，惟羊祜、杜预，张华与帝意合。祜病，举预自代。及祜卒，拜预镇南大将军，都督荆州诸军事。既至镇，缮兵甲，耀威武，遂拣精锐，袭破吴西陵都督张政，乃启请伐吴之期。帝报待明年方欲大举。预上表曰：“凡事当以利害相较，今此举十有八九之利，而其害一二，止于无功耳。朝臣言破败之形，亦不可得，直是计不出己，功不在身，各耻其前言之失，故守之耳。昔汉宣帝议赵充国所上事效之后，责诸议者，皆叩头而谢，以塞异端也。自秋以来，讨贼之形颇露之。若今中止，孙皓怖而生计，或徙都武昌，更添修江南诸城，远其居人，城不可攻，野无所掠，积大船于夏口，则明年之计或无所及矣。”时帝与张华围棋，而预表适至。华推枰敛手曰：“陛下圣明神武，国富兵强，吴王淫虐，诛杀贤能，当今讨之，可不劳而定。”帝乃许之。预陈兵江陵，遣周旨、伍巢等率兵泛舟夜渡，以袭乐乡，多张旗帜，起火巴山，出于要害之地，以夺贼心。遂虏吴都督孙歆，既平上流，于是湘江以南，至于交、广，吴之州郡，望风归附，预仗节宣诏而抚绥之。时诸将会议，或曰：“百年之寇，未能尽克。今大暑，水潦方降，疾疫将起，宜伺来冬，更为大举。”预曰：“昔乐毅藉济西一战，以并强齐。今兵威已振，譬如破竹，数节之后，皆迎刃而解，无复着手处也。”遂指授群帅，径造秣陵，所过城邑，莫不束手，遂平孙皓。

## (二五)昼 战

凡与敌昼战，须多设旌旗以为疑兵，使敌莫能测其众寡，则胜。法曰：“昼战多旌旗。”

春秋晋侯伐齐，齐侯登山以望晋师。晋人使斥山泽之险<sup>⑬</sup>，虽所不至，必旆而疏陈之<sup>⑭</sup>，使乘车者左实右伪，以旆先，輿曳柴而从之<sup>⑮</sup>。齐侯见之，畏其众也，遂逃归。

## (二六)夜 战

凡与敌夜战，须多用火鼓，所以变乱敌之耳目，使其不知所以备我之计，则胜。法曰：“夜战多火鼓。”

春秋越伐吴，吴人御之笠泽，夹水而阵。越为左右二军，乘夜或左或右，鼓噪而进；吴分兵御之。越为中军潜涉，当吴中军而鼓之，吴师大乱，遂败之。

## (二七)备 战

凡出师征讨，行则备其邀截，止则御其掩袭，营则防其偷盗，风则恐其火攻。若此设备，有胜而无败。法曰：“有备不败。”

三国魏大将吴懿征南，兵到精湖，魏将满宠帅诸军在前，与敌夹水相对。宠谓诸将曰：“今夕风甚猛，敌必来烧营，宜为之备”。诸将皆惊。夜半，敌果遣十部来烧营，宠掩击破之。

## (二八)粮 战

凡与敌垒相对持，两兵胜负未决，有粮则胜。若我之粮道，必须严加守护，恐为敌人所抄。若敌人饷道，可分遣锐兵以绝之。敌既无粮，其兵必走，击之则胜。法曰：“军无粮食则亡。”

汉末，曹操与袁绍相持于官渡，(绍)遣

军粮使淳于琼等五人将兵万余人送之，宿绍营北四十里。绍谋臣许攸贪财，绍不能足，奔归操，因说操曰：“今袁绍有辎重万余乘，而乏严备，今以轻兵袭之，燔其积聚，不过三日，袁氏自败矣。”左右(疑之)，荀攸、贾诩劝操。操乃留曹洪守，自将步骑五千人，皆用袁军旗帜，衔枚缚马口，夜从间道出，人负束薪，所历道有问者，语之曰：“袁公恐曹操抄掠后军，遣兵以益备，闻者信以为然，皆自若。既至，围屯，大放火，营中大乱，大败之，绍弃甲而遁。

## (二九)导 战

凡与敌战，山川之夷险，道路之迂直，必用乡人引而导之，乃知其利，而战则胜。法曰：“不用乡导者，不能得地利。”

汉武帝时，匈奴比岁入寇，所杀掠甚众。元朔五年春<sup>⑯</sup>，令卫青将三万骑出塞，匈奴右贤王以为汉兵不能至此，遂醉卧帐中。汉兵夜至，围右贤王，虏大惊，独与其爱妾一人、骑兵数百，溃围夜逃北去。汉遣轻骑校尉郭成等追四百里，弗及，得虏裨将十余人，男女万五千余口，畜数十百万。于是，青率兵而还。至塞，天子使使者持大将军印，即军中拜青为大将，诸将皆以兵属，立号而归。皆用校尉张骞以尝使大夏留匈奴久<sup>⑰</sup>，导军，善知水草处，军得以无饥渴。

## (三〇)知 战

凡兴兵伐敌，所战之地，必预知之；师至之日，能使敌人如期而来，与战则胜。知战地，知战日，则所备者专，所守者固。法曰：“知战之地，知战之日，则可千里而会战。”

战国魏与赵攻韩，韩告急于齐。齐用田忌将而往，直走大梁。魏将庞涓闻之，去韩而归魏。孙臆谓田忌曰：“彼三晋之兵，素悍勇而轻齐，齐号为怯，善战者因其势而利

导之。兵法：‘百里而趣利者蹶上将，五十里而趣利者军半至’，使齐军入魏地为十万灶，明日为五万灶，又明日为三万灶。”涓追三日，大喜，曰：“我固知齐军怯，入吾地三日，士卒亡者过半矣。”乃弃其步军，与精锐骑兵倍道兼行逐之。孙臏度其行，暮当至马陵。〔马陵〕道狭，而旁多阻隘，可伏兵，乃斫大木白而书之曰：“宠涓死此树下”。于是，令齐军善射者万弩，夹道而伏砍木下。涓追至，见白书，乃钻火烛之。读其书未毕，齐军万弩俱发，魏军大乱，涓自知智穷，兵败乃自刎。

### (三一)斥 战

凡行兵之法，斥堠为先。平易用骑，险阻用步。每五人为甲，人持一白旗，远则军前后左右，接续候望。若见贼兵，以次递转，告白主将，令众预为之备。法曰：“以虞待不虞者胜。”

汉宣帝时，先零诸羌叛，犯边塞，攻城邑，杀长吏。时后将军赵充国，年七十余，上老之，使问谁可将者，充国曰：“百闻不如一见。兵难预度，臣愿驰至金城<sup>④</sup>，图上方略。然羌戎小夷，逆天背叛，灭亡不久，愿陛下属之老臣，勿以为忧。”上笑曰：“诺。”充国至金城，须兵满万骑，欲渡河，恐为虏所遮，即夜遣三校<sup>⑤</sup>，衔枚先渡，渡辄营阵，会明，遂以次尽渡。虏数十百骑来，出入军傍。充国曰：“吾士马新至，困倦不可驰逐。此皆骁骑难制，又恐其为诱兵也。击虏以殄灭为期，小利不足贪。”令军中勿击。遣骑候四望狭中<sup>⑥</sup>，亡虏。夜半兵至洛都，召诸校司马，谓曰：“吾知羌虏不能为矣。使虏发数千人守杜四望狭中，兵众岂得入来！”充国常以远斥堠为务，行必为战备，止必坚营壁，尤能持重，爱士卒，先计而后战。遂平先零。

### (三二)泽 战

凡出军行师，或遇沮泽圯毁之地，宜倍道兼行速过，不可稽留也。若不得已，与不能出其地，道远日暮，宿师与其中，必就地形之环龟，都中高四下为圆营，四面受敌。一则防水潦之厄，一则备四围之寇。法曰：“历沛圯，坚环龟<sup>①</sup>。”

唐调露元年，突厥阿史德温傅反，诏吏部尚书、右卫大将军裴行俭为定襄道行军大总管讨之。军次单于界北，暮已立营，塹壕既周，行俭更命徙营高岗。吏曰：“吏士安堵，不可扰。”不听，徙之。比夜，风雨雷霆暴至，前设营所，水深丈余，莫不骇叹，因问何以知风雨也，行俭笑曰：“自令但依我节制，毋问我所由知也。”

### (三三)争 战

凡与敌战，若有形势便利之处，宜争先据之，以战则胜。若敌人先至，我不可攻，候其有变则击之，乃利。法曰：“争地勿攻。”

三国魏青龙二年，蜀将诸葛亮出斜谷，并田于兰坑。是时，魏将司马懿屯渭南，郭淮策亮必争北原，宜先据之，议者多谓不然。淮曰：“若亮跨渭登原，连兵北山，隔绝陇道，摇荡民心，此非国之利也。懿善之，淮遂屯北原。塹垒未成，蜀兵大至，淮遂逆击之。后数日，亮盛兵西行，淮将皆以为欲攻西围，淮独以亮见形于西，欲使兵众应之，必攻东耳。其夜，果攻阳遂，有备不败。”

### (三四)地 战

凡与敌战，三军必要得其地利，则可以寡敌众，以弱胜强，所谓知敌之可击，知吾卒之可以击，而不知地利，胜之半也。此言既知彼又知己，但不得地利之助，则亦不全

胜。法曰：“天时不如地利。”

晋安帝讨南燕，慕容超召群臣议拒晋师。公孙五楼曰<sup>⑤</sup>：“晋师劲果，所利在速战，初锋勇锐，不可击也，宜据大岨，使不得入，旷日延时，沮其锐气。可徐拣精兵二千骑，循海而南，绝其粮道；别遣段晖率诸州之军，缘山东下，腹背击之，此上策也。各命守宰依险自固，较其资储之外，余悉焚荡，芟除粟苗，使敌来无所资，坚壁清野，以待其衅，中策也。纵贼入岨，出城迎战，下策也。”超曰：“京都富盛，户口众多，非可以一时入守。青苗布野，非可卒芟。设使芟苗守城，以全性命，朕所不能也。据五州之强<sup>⑥</sup>，带山河之固，战车万乘，铁马万群，纵今过岨，至于平地，徐以精兵蹂之，必成擒也。”慕容镇曰：“若如圣旨，必须平原十里而军，军垒成，用马为便，宜出岨逆战，而不胜，犹可退守。不宜纵敌入岨，自贻窘逼。昔成安君不守井陉之险，终屈于韩信，诸葛瞻不守马阁之险，卒擒于邓艾。臣以天时不如地利也，阻守大岨，策之上也。超又不从。而摄莒、梁父二戍，修城隍，拣士马，蓄锐以待之。其夏，晋师已次东莞，超遣其左军段晖等步骑五万，进据临朐。俄而，晋师渡岨，慕容超惧，率兵四万就段晖等于临朐，战败，超奔广固，数日而拔，燕地悉平。

### (三五)山 战

凡与敌战，或居山林、或在平陆，须居高阜，恃于形势，顺于击刺便于奔冲，以战则胜。法曰：“山上之战不仰其高。”

战国秦伐韩，韩求救于赵。王召廉颇而问曰：“可救否？”曰：“道远路狭，难救。”又召乐乘而问曰：“可救否？”乐乘对如颇言。又召赵奢问，奢曰：“道远路狭，譬如两鼠斗于穴中，将勇者胜。”王乃令奢将，救之。兵去赵国都三十里，垒不进，而令军中曰：“有以军事谏者死。”秦军武安<sup>④</sup>，有一人谏，奢立斩之。坚壁，留二十八日不行，

复益增垒。秦间来入，赵奢善食而遣之。间以报秦将，秦将大喜，曰：“夫去国三十里而军不行，乃增垒，非赵地也。”赵奢既遣秦间，乃卷甲而趋之，二日一夜至。秦闻之，悉甲而至。军士许历请入谏，赵奢内之。许历曰：“秦人不意赵师至此，其来气盛，将军必厚集其阵以待之。不然，必败。”奢曰：“请受教。”历曰：“请受刑。”奢曰：“须后令至邯郸<sup>⑤</sup>。”历复请曰：“先据北山者胜，后至者败。”赵奢曰：“诺。”即发万人趋之。秦兵后至，争山不得上，奢纵兵击之，大破秦军，遂解其围。

### (三六)谷 战

凡行军越过山险而阵，必依附山谷，一则利水草，一则附险固，以战则胜。法曰：“绝山依谷。”

后汉将马援为陇西太守，参狼羌与塞外诸种为寇，杀长吏。援将四千余人击之。至氏道县。羌在山上，援军据便地，夺其水草，不与战，羌遂穷困，豪帅数十万户亡出塞外，诸种万余人悉降。羌不知依谷之利，而取败焉。

### (三七)攻 战

凡战，所谓攻者，知彼者也。知彼有可破之理，则出兵以攻之，无有不胜。法曰：“可胜者，攻也。”

三国魏曹公遣朱光为庐江太守，屯皖，大开稻田，又令间人招诱鄱阳贼帅，使作内应。吴将吕蒙曰：“野田肥，若一收熟，彼众必增，如是数岁，操难制矣。宜早除之。”乃具陈其状。于是，孙权亲征，一朝夜至，问诸将计策，诸将皆劝作高垒。蒙曰：“治垒必历日乃成，彼城备已修，外救必至，不可图也。且乘雨水以入，若淹留经日，必须尽还，还道艰难，蒙窃危之。今观此城，不甚固，以三军锐气，四面攻之，不移时可拔，

及水未涨而归，全胜之术也。”吴主权从之。蒙乃荐甘宁为外城都督，率攻其前，蒙以精锐继之。侵晨进攻<sup>⑤</sup>，蒙手执枹鼓，士卒皆腾踊自升，食时破之。既而，张辽至夹石，闻城已拔，乃退。权嘉蒙功，即拜庐江太守。

### (三八) 守 战

凡战，所谓守者，知己者也。知己有未可胜之理，则我且固守，待敌有可胜之理，则出兵以攻之，无有不胜。法曰：“知不可胜，则守。”

汉景帝时，吴、楚七国反，以周亚夫为太尉，东击吴、楚七国。因自请于上曰：“楚兵剽轻，难与争锋，愿以梁委之，绝其食道，乃可制也。”上许之。亚夫自会兵荥阳，吴方攻梁，梁急，请救于亚夫。亚夫率兵东北走昌邑坚壁而守。梁王使使请亚夫，亚夫守便宜，不往救。梁上书于景帝，帝诏亚夫救梁。亚夫不奉诏，坚壁不出，而使弓高侯等，将轻骑绝吴、楚兵后食道。吴、楚兵乏粮，饥，欲退，数挑战，终不出。夜，亚夫军中惊乱，自相攻击至于帐下。亚夫坚卧不起，顷之，自定。吴奔壁东南隅，亚夫使备西北。已而，吴灭果奔西北，不得入。吴楚兵饥，乃引兵退。亚夫出精兵追击，大破之。吴王濞奔其军，与壮士数千人亡走，保于江南丹徒。汉兵因乘胜追击，尽虏之，降其郡县。亚夫下令曰：“有得吴王者，赏千金。”月余，越人斩首以告，凡相攻守三月，而吴、楚悉平。

### (三九) 先 战

凡与敌战，若敌人初来，阵势未定，行阵未整，先以兵急击之，则胜。法曰：“先人有夺人之心。”

春秋，宋襄公及楚人战于泓，宋人既成列，楚人未既济，司马子鱼曰：“彼众我寡，及其未既济，请急击之。”公弗许。既济未

成列，子鱼复请，公复未之许。及成列而战，宋师败绩。

### (四〇) 后 战

凡战，若敌人行阵整而且锐，未可与战，宜坚壁待之，候其阵久气衰，起而击之，无有不胜。法曰：“后于人以待其衰。”

唐武德中，太宗围王世充于东都，窦建德悉众来救。太宗守武牢以拒之<sup>⑥</sup>。建德阵汜水东，弥亘数里，诸将皆有惧色。太宗将数骑登高以观之，谓诸将曰：“贼起山东，未见大敌。今渡险而嚣，是军无政令；逼城而阵者，有轻我之心也。我按兵不动，待彼气衰阵久卒饥，必将自退，退而击之，何往不克！”建德列阵，自辰至午时，卒饥倦，皆列坐，又争饮水。太宗令宇文士及率三百骑<sup>⑦</sup>，经贼阵之西，驰而南，戒曰：“贼若不动，正宜退归，如觉其动，宜率东出。士及才过，贼众果动。太宗曰：“可击矣。”乃命骑将建旗列阵，自武陟乘高，入南山，循谷而东，以掩贼背。建德遽率其陈，却止东原，未及整列，太宗轻骑击之，所向披靡。程咬金等众骑缠幡而入，直突出贼阵后，齐张旗帜，表里俱奋，贼众大溃，生擒建德。

### (四一) 奇 战

凡战，所谓奇者，攻其无备，出其不意也。交战之际，惊前掩后，冲东击西，使敌莫知所备。如此，则胜。法曰：“敌虚，则我必为奇。”

三国魏景元四年，诏诸军征蜀，大将军司马文王指授节度，使邓艾与蜀将姜维相缀连；雍州刺史诸葛绪邀维，令不得归。艾遣天水太守王颀等直攻维营，陇西太守牵弘邀其前，金城太守杨欣诣甘松。维闻诸军钟会已入汉中，退还。欣等蹶于强川口，大战，维败走。闻雍州已塞道屯桥头，从孔函谷入北道，欲出雍州后。诸葛绪闻之，却还三十

里，维入北道三十里，闻绪军却，还，从桥头过，绪趣截维，较一日不及。维遂东还守剑阁。钟会攻维，未能克。艾上言：“今贼摧折，宜遂从阴平由邪径经汉德阳亭趣涪<sup>②</sup>，去剑阁西百里，去成都三百余里，奇兵冲其腹心。剑阁之守必还赴涪，则会方轨而进；剑阁之军不还，则应涪之兵寡矣。军志曰：‘攻其无备，出其不意’。今掩其空虚，破之必矣。艾自阴平道行无人之地七百余里，凿山通道，造作桥阁，山高谷深，而甚艰难，粮运将匮，频至危殆。艾以毡自裹，推转而下，将士皆攀木缘崖，鱼贯而进。先登至江油，蜀守将马邈降。蜀卫将军诸葛瞻自涪还绵竹，列阵待艾。艾遣其子惠唐亭侯忠等出其右，司马师纂等出其左。忠、纂战不利，并退还，曰：‘贼未可胜。’艾怒，曰：‘存亡之分，在此一举，何不可之有？’乃叱忠、纂等，将斩之。忠、纂驰还更战，大破斩瞻，进军到雒。刘禅遣使请降，遂灭蜀。

## （四二）正 战

凡与敌战，若道路不能通，粮饷不能进，推计不能诱，利害不能惑，须用正兵<sup>④</sup>。正兵者，拣士卒，利器械，明赏罚，信号令，且战且前，则胜矣。法曰：“非正兵，安能致远。”

宋檀道济为高祖北伐<sup>⑤</sup>，前锋至洛阳，凡拔城破垒，俘四千人。议者谓应戮以为京观。道济曰：“伐罪吊民，正在今日。”王师以正为律，何必杀人。”皆释而遣之，于是戎夷感悦<sup>⑥</sup>，相率归之者众。

## （四三）虚 战

凡与敌战，若我势虚，当伪示以实形，使敌莫能测其虚实所在，必不敢轻与我战，则我可以全师保军。法曰：“敌不敢与我战者，乖其所之也。”

三国蜀将诸葛亮在阳平道，魏延诸将并

兵东下，亮惟留万余守城。魏司马懿率二十万众拒亮，与延军错道，径前，当亮军六十里，侯还白懿云亮城中兵少力弱。亮亦知懿军垂至，恐与己相遇，欲赴延军，相去又远，势不能及，将士失色，莫知其计。亮意气自若，敕命军中皆偃旗卧鼓，不得妄出；又令大开四门，扫地却洒。懿尝谓亮持重，而复见以示弱，疑其有伏兵。于是，率众北趋山。明日食时，亮与参佐拊手大笑曰：“司马必谓吾怯，将有强伏，循山走矣。”侯还白，如亮言。懿后知之，深以为恨。

## （四四）实 战

凡与敌战，若敌人势实，我当严兵以备之，则敌人必不轻动。法曰：“实而备之。”

三国蜀先主为汉中王，拜关羽为前将军，假节钺<sup>③</sup>，屯江陵。是岁，羽留兵屯公安、南郡，以备吴，而率兵攻魏将曹仁于樊。曹公遣于禁救仁。秋，大雨，汉水汎滥，禁所督七军皆没，禁降羽，庞德被诛。梁、郾、陆浑群盗或遥受羽印号<sup>④</sup>，为支党，羽威震华夏。

## （四五）轻 战

凡与敌战，必须料敌详审而后出兵。若不计而进，不谋而战，则必为敌人所败矣。法曰：“勇者必轻合，轻合而不知利。”

春秋晋文公与楚战，知楚将子玉刚忿褊急<sup>⑤</sup>，文公遂执其使宛春以挠之。子玉怒，遂乘晋军，楚军大败。

## （四六）重 战

凡与敌战，须务持重，见利则动，不见利则上，慎不可轻举也。若此，则必不陷于死地。法曰：“不动如山。”

春秋晋将栾书伐楚，将战，楚晨压晋军而阵，军吏患之，裨将范丐趋进曰：“塞井

夷灶，阵于军中，而疏行首<sup>⑥</sup>。”书曰：“楚师轻佻，吾持重固垒以待之，三日必退，退而击之，必获全胜。”终败楚师。

### (四七)利 战

凡与敌战，其将愚而不知变，可诱之以利。彼贪利而不知害，可设伏兵以击之，其军可败。法曰：“利而诱之。”

春秋楚伐绞，莫敖屈瑕曰：“绞小而轻<sup>⑦</sup>，轻则寡谋，请无捍采樵者以诱之。”从之，绞获三十人<sup>⑧</sup>。明日，绞人争出，驱楚徒于山中。楚人坐其北门，而伏山下，大败之。

### (四八)害 战

凡与敌各守疆界，若敌人寇抄我境，以扰边民，可于要害处设伏兵，或筑障塞以邀之，敌必不敢轻来。法曰：“能使敌人不得至者，害之也。”

唐时，朔方(军)总管沙吒忠义为突厥所败<sup>⑨</sup>，诏张仁愿摄御史大夫代之。既至，贼已出，率兵蹶击，夜掩其营破之。始朔方军与突厥以河为界，北崖有拂云祠，突厥每犯边，必先谒祠祷祀，然后引兵渡而南。时默啜悉兵西击突骑施沙葛，张仁愿请乘虚取漠南，〔于〕河北筑三受降城<sup>⑩</sup>，绝虜南寇路。唐休璟以为西汉以来，皆北守河，今筑城虜腹中，终为〔贼虜〕所有。仁愿固请，中宗许之。表留岁满〔镇兵〕以助其功。〔时〕咸阳人二百逃归，仁愿擒之尽斩城下，军中股票，役者尽力，六旬而三城就。以拂云为中城<sup>⑪</sup>，南直朔方；西城南直灵武；东城南直榆林，三垒相距各四百余里。其北皆大碛也，斥地三百里远。又于牛头朝那山北置烽堠千八百所，自是突厥不敢逾山牧马，朔方复无寇，岁省费亿计，减镇兵数万。

### (四九)安 战

凡敌人远来气锐，利于速战；我深沟高垒，安守勿应，以待其敝。若彼以事扰我求战，亦不可动。法曰：“安则静。”

三国蜀将诸葛亮率众十余万出斜谷，垒于渭水之南。魏遣大将司马懿拒之，诸将欲往渭北以待之，懿曰：“百姓积聚皆在渭南，此必争之地也。”遂率军而济，背水为垒。因谓诸将曰：“亮若勇者，当出武功，依山而东。若西上五丈原，则诸军无事矣。”亮果上五丈原。会有长星坠亮之垒，懿知其必败。时朝廷以亮率军远入，利在急战，每命懿持重，以俟其变。亮数挑战，懿不出，因遗懿以巾帼妇人之饰，懿终不出。懿弟孚书问军事，懿复曰：“亮志大而不见机，多谋少决，好兵而无权，虽持兵十万，已堕吾画中，破之必矣。”与之对垒百余日。会亮病卒，诸将烧营遁走，百姓奔告，懿出兵追之。亮长史杨仪反旗鸣鼓，若将向懿者。懿以归师不之迫，于是杨仪结阵而去。经日<sup>⑫</sup>，行其营垒，观其遗事，获其图书<sup>⑬</sup>，粮食甚众。懿审其必死，曰：“天下奇才也！”辛毗以为尚未可知。懿曰：“军家所重，军书密计、兵马粮食，今皆弃之，岂有人损其五脏而可以生乎？宜急追之。”关中多蒺藜，懿使军士二千人着软材平底木屐前行，蒺藜著屐，然后马步俱进。追到赤岸，乃知亮已死。时百姓为之谚曰：“死诸葛走生仲达。”懿笑曰：“吾能料生，不能料死故也。”

### (五〇)危 战

凡与敌战，若陷在危亡之地，当激励将士决死而战，不可怀生，则胜。法曰：“兵士甚陷，则不惧。”

后汉将吴汉<sup>⑭</sup>讨公孙述<sup>⑮</sup>，进入犍为界<sup>⑯</sup>。诸县皆城守。汉攻广都，拔之。遣轻骑烧成都市桥，武阳以东诸小城皆降。帝戒

汉曰：“成都十余万众，不可轻也。但坚据广都，待其来攻，勿与争锋。若不敢来，公须转营迫之，须其力疲，乃可击也。”汉不听，乘利遂自将步骑二万余人进逼成都，去城十余里，阻江北为营，作浮桥，使别将刘尚将万余人屯于江南，相去二十余里。帝大惊，责汉曰：“比敕公千条万端，何意临事悖乱？既轻敌深入，又与尚别营，事有缓急，不复相及。贼若出兵缀公，以大众攻尚，尚破，公即破矣。幸无他者，急率兵还广都。”诏书未到，述果遣其将谢丰、袁吉将众十余万出攻汉；使别将〔将〕万余人劫刘尚，令不得相救。汉与大战一日，兵败走入壁，丰围之。汉召诸将历之曰：“吾与诸将逾越险阻，转战千里，所在斩获，遂深入敌地，今至城下，而与尚二处受围，势既不接，其祸难量。欲潜师就尚于江南御之。若能同心协力，人自为战，大攻可立；如其不然，败必无余。成败之机，在此一举。”诸将皆曰：“诺。”于是，殄士秣马，闭营三日不出，乃多立幡旗，使烟火不绝，夜衔枚引兵与尚合军。丰等不觉，明旦至晡，遂大败之，斩谢丰，袁吉。于是，率兵还广都，留刘尚拒述，具以状闻，而深自遣责。帝报曰：“公还广都，甚得其宜，述必不敢略尚而击公。若先攻尚，公从广都五十里悉步骑赴之，适当值其危困，破之必矣。于是，汉与述战于广都、成都之间，八战八克，遂军于郭中。述自将数万人出城大战，汉护军高午，唐邯将锐卒数万击之。述兵败走，高午奔阵刺述，杀之。旦日城降，斩述首传送洛阳。蜀遂平。

### （五一）死 战

凡敌人强盛，吾士卒疑惑，未肯用命，须置之死地<sup>⑦</sup>，告令三军，亦不获已。杀牛燔车，以享战士，烧弃粮食，填夷井灶，焚舟破釜，绝去其生虑，则必胜。法曰：“必死则生<sup>⑧</sup>。”

秦将章邯已破楚将项梁军，以为楚地兵

不足忧，乃渡河击赵，大破之。当此时，赵歇为王，陈馥为将，张耳为相，兵败皆走入巨鹿城。章邯令王离、涉闲围巨鹿，章邯军其南，筑甬道而输之粟。楚怀王以宋义为上将，项羽为次将，范曾为裨将，救赵。诸别将皆属焉。宋义行至安阳，留四十余日不进，遣其子宋襄相齐，自送之无盐，饮酒高会<sup>⑨</sup>。项羽曰：“今国兵新破，王坐不安席，扫境内而专诸将军，国家安危，在此一举。今不恤士卒而循其私，非社稷之臣。”项羽晨朝宋义，即其帐中，斩之，下令军中曰：“宋义与齐谋反，楚王阴令羽诛之。”是时，诸将皆慑服，莫敢支吾，皆曰：“首立楚者，将军家也。今将军诛叛乱。”即共立羽为假上将军。使人追宋义子襄，及之齐，杀之。使桓楚报命于楚怀王，因命项羽为上将军。当阳君，蒲将军皆属焉。项羽以杀宋义、威震楚国，名闻诸侯。乃遣当阳君、蒲将军率二万众渡河救巨鹿。战少利，陈馥复请兵，项羽乃悉兵渡河，沉舟，破釜，烧庐，持三日粮，以示士卒必死，无还心。〔于是至〕则围王离，与秦军遇，九战，绝其甬道，大破之，杀苏角，虏王离。当是时，〔楚兵冠诸侯〕，诸侯救巨鹿下者十余壁，莫敢纵兵。〔及〕楚兵击秦军，诸侯皆从壁上观。楚战士无不以一当十。楚兵呼声动天地，诸侯人人惶恐。于是，大破秦军。

### （五二）生 战

凡与敌战，若地利已得，士卒已阵，法令已行，奇兵已设，要当割弃性命而战则胜。若为将临阵畏怯，欲要生，反为所杀。法曰：“幸生则死。”

春秋时，楚子伐郑，晋师救之，与战于敖、郕之间。晋赵婴齐使其徒先具舟于河，欲败而先济，故将士懈，卒不可胜。



### (五三) 饥 战

凡兴兵征讨，深入敌地，当粮乏阙<sup>⑧</sup>，必须分兵抄掠，据其仓廩，夺其蓄积，以继军饷，则胜。法曰：“因粮于敌，故军食可足也<sup>⑨</sup>。”

《北史》：北周将贺若敦率兵渡江取陈湘州。陈将侯瑱讨之。秋水泛滥，江路遂断。粮援既绝，人怀危惧。敦于是分兵抄掠，以充资费。恐瑱等知其粮少，乃于营内多聚土，覆之以米。召侧近村人，佯有访问，随即遣之。瑱等闻之，以粮为实。敦又修营垒，造庐舍，示以持久。湘、罗之间，遂废农业。瑱等无如之何。初，土人乘轻船，载米粟及笼鸡鸭以饷瑱军。敦患之，乃伪为土人船，伏兵甲于中。瑱军望见，谓饷船至，逆水争取。敦甲士遂擒之。又敦军数有叛者乘马投瑱，瑱辄纳之。敦乃取一马，牵以趣船，令船中人于以鞭鞭之。如是者再，马畏船不敢上。后伏兵于岸，使人乘畏船马诈投瑱军，瑱即遣兵迎接，争来牵马。马既畏船不上，伏兵发，尽杀之。后实有馈饷及亡奔瑱者，犹恐敦设诈，兵不敢受。相持岁余，瑱不能制。

### (五七) 胜 战

凡与敌战，若我胜彼负，不可骄傲，当日夜严备以待之。敌人虽来，有备无害。法曰：“既胜若否<sup>⑩</sup>。”

秦二世时，项梁使沛公、项羽别攻城阳，屠之。西破秦军濮阳东，秦收兵入濮阳。沛公、项羽乃攻定陶，因西略地至雍丘，大破秦军，斩李由<sup>⑪</sup>，还攻外黄。项梁益轻秦，有骄色。宋义进谏于梁曰：“战胜而将骄卒惰者败。今兵少惰矣，而秦兵日益，臣为君畏之。”梁弗听。而使宋义于齐。道遇齐使者高陵君显<sup>⑫</sup>，曰：“公将见武信君乎<sup>⑬</sup>？”曰：“然。”曰：“今武信君必败。”公徐行即

免死，疾行则及祸。”秦果悉兵益章邯击楚军，大败之，项梁死。秦果悉兵益章邯击楚军，大败之，项梁死。

### (五八) 败 战

凡与敌战，若彼胜我负，未可畏怯，须思害中之利，当整励器械，激扬士卒，候彼懈怠而击之，则胜。法曰：“因害而患可解也。”

晋末，河间王颙在关中，遣张方讨长沙王乂，率众自函谷入屯河南。惠帝遣左将军皇甫商拒之，方潜军破商，遂入洛阳。乂奉帝命讨方于城内，方军望见乘舆<sup>⑭</sup>，于是少却，方止之不可得，众遂大败，杀伤满衢巷。方退壁于十三里桥，人情挫衄<sup>⑮</sup>，无复固志，多劝方夜遁。方曰：“兵之利钝是常事<sup>⑯</sup>，贵因败以为成耳。我更前作垒，出其不意，此兵法之奇也。”乃夜潜进逼洛阳城七里。乂既新捷，不以为意，忽闻方垒成，乃击战，遂大败而还。

### (六七) 缓 战

凡攻城之法，最为下策，不得已而为之。所谓三月修器械，三月成距堙者<sup>⑰</sup>、六月也。谓戒为己者，忿躁不待攻具而令士卒蚁附，恐伤人之多故也。若彼城高池深，多人而少粮，外无救援，可羁縻取之<sup>⑱</sup>，则利。法曰：“其徐如林。”

十六国前燕将慕容恪击段龛于广固，围之。诸将请恪急攻，恪曰：“军势有宜缓以克敌，〔有宜急而取之〕。若彼我势均，外有强援，恐有腹背之患，则攻之不得不速。若我强彼弱，外无救援，当羁縻守之，以待其敝。兵法十围五攻，正谓此也。龛党尚众，未有离心。今凭阻坚城，上下戮力<sup>⑲</sup>，尽锐攻之，数旬可拔，然杀吾士卒必多矣。当持久以取耳。”乃为壁垒以守之，终克广固。

## (六八)速 战

凡攻城围邑，若敌粮多人少，外有救援，可以速攻，则胜。法曰：“兵贵拙速。”

三国蜀将孟达降魏，遂领新城太守，未几，夏连吴附蜀以叛魏。司马懿潜军进讨，诸将言达与蜀交结，宜观望而后可。懿曰：“达无信义，此其相疑之时，当及其未定，促而决之<sup>⑧</sup>。”乃倍道兼行，至新城下。吴、蜀各遣将救达，懿乃分拒之。初，达与诸葛亮书曰：“宛去洛八百里，去吾一千二百里，闻吾举事，表上天子，比相往反时，一月间也，则吾城已固，诸将足办。吾所在深险，司马公必不自来；诸将来，吾无患矣。”及兵到，达又告亮曰：“吾举事八日，而兵至城下，何其神速也。”上庸城三面阻水，达于外为木栅以自固。懿渡水，破其栅，直造城下，旬有六日，李辅等斩达首，开门以降。

## (七一)分 战

凡与敌战，若我众敌寡，当择平易宽广之地以胜之。若五倍于敌，则三术为正，二术为奇；三倍于敌，二术为正，一术为奇。所谓一以当其前，一以攻其后。法曰：“分不分为縻军。”

梁将陈霸先、王僧辨讨侯景，军于张公洲。高旗巨舰，截江蔽空，乘潮顺流。景登石头，望之不悦，曰“彼军士有如是之气，不可易也。”帅铁骑万人，鸣鼓而前。霸先谓僧辨曰：“善用兵者，如常山之蛇，首尾相应。贼今送死，欲为一战。我众彼寡，宜分其势。”僧辨从之，以劲弩当其前，轻锐蹂其后，大陈冲其中。景遂大溃，弃城而走。

## (七二)合 战

凡兵散则势弱，聚则势强，兵家之常情也。若我兵分屯数处，敌若以众攻我，当合

军以击之。法曰：“聚不聚为孤旅。”

开元时，吐蕃入寇，报新城之役，晨压官军，众寡不敌，〔师人皆惧焉〕。王忠嗣策马而进，左右驰突，如此无不辟易<sup>⑨</sup>，出而复合，杀数百人，贼众遂乱。三军翼而击之，吐蕃大败。

## (七七)不 战

凡战，若敌众我寡，敌强我弱，兵势不利，彼或远来，粮饷不绝，皆不可与战，宜坚壁持久以敝之<sup>⑩</sup>，则敌可破。法曰：“不战在我。”<sup>⑪</sup>

唐武德中，太宗帅兵渡河东讨刘武周。江夏王李道宗时年十七，从军，与太宗登玉壁城观贼阵，顾谓道宗曰：“贼恃其众，来邀我战，汝谓如何？”对曰：“群贼锋不可当，易以计屈，难以力争。今深沟高垒，以挫其锋，乌合之徒，莫能持久，粮运将竭，当自离散，可不战而擒也。”太宗曰：“汝见识与我相合。”果后食尽夜遁，迫入介州，一战败之。

## (七八)必 战

凡兴师深入敌境，若彼坚壁不与我战，欲老我师，当攻其君主，捣其巢穴，截其归路，断其粮草，彼必不得已而须战，我以锐卒击之，可败。法曰：“我欲战，敌虽深沟高垒，不得不与我战者，攻其所必救也。”

三国魏明帝景初二年，召司马懿于长安，使将兵往辽东讨公孙渊。帝曰：“四千里征伐，虽云用奇，亦当任力，不当稍计役费。度渊以何计得策？”懿曰：“弃城预走，上计也；拒大军，其次也；坐守襄平，此成擒耳。”曰：“三者何出？”懿曰：“唯明君能量彼我，预有所弃，此非渊所及也。”曰：“往还几日？”对曰：“往百日，还百日，攻百日，以六十日为休息，一年足矣。”遂进兵。渊遣将帅步骑数万屯辽隧<sup>⑫</sup>，围堑二十余里。

诸将欲击之，懿曰：“此欲老吾兵，攻之正堕其计。此王邑所以耻过昆阳也。彼大众在此，巢穴空虚，直抵襄平，出其不意，破之心矣。”乃多张旗帜，欲出其南，贼尽锐赴之。懿潜济以出其北，弃贼直趋襄平；贼将战败，懿围襄平。诸将请攻之，懿不听。陈珪曰：“昔攻上庸，旬日之半破坚城，斩孟达。今日远来，而更安缓，愚窃惑之。”懿曰：“达众少而食支一年；吾将士四倍于达而粮不淹月<sup>⑦</sup>，以一月较一年，安可不速？以四击一，正令失半而克，犹当为之。是以不计死伤，而计粮也。况贼众我寡，贼饥我饱，而雨水乃尔，攻具不设，促之何为？自发京师，不忧贼攻，但忧贼走。今贼粮垂尽，而围落未合，掠其牛马，抄其樵采，此故驱之走也。夫兵者诡道，善因事变。贼凭恃其众，故虽饥困，不肯束手，当示无能以安之。若求小利而惊之，非计也。”既而雨霁<sup>⑧</sup>，造攻具攻之，矢石如雨，粮尽窘急，人相食，乃使其将王建、柳甫（乞降）请解围，当君臣面缚，懿皆斩之。渊突围而走，懿复追及深水上杀之，辽地悉平。

## （八五）天 战

凡欲兴师动众，伐罪吊民<sup>⑨</sup>，必在天时，非孤虚向背也。乃君暗政乱，兵骄民困，放逐贤人，诛杀无辜，旱蝗冰雹，敌国有此，举兵攻之，无有不胜。法曰：“顺天时而制征讨。”

东齐后主纬隆化三年，擢用邪佞陆令萱、和士开、高阿那肱、穆提婆、韩长鸾等宰制天下，陈德信、邓长颙、何洪珍参预机权。各领亲党，开擢非次，官由财进，狱以赂成，乱政害人，使旱蝗、水潦、寇盗并起；又猜嫌诸王，皆无罪受损，丞相斛律光及弟荆山公羡，并无罪受诛。渐见伏弱之萌，俄观土崩之势。周武帝乘此一举而灭之。

## （八六）人 战

凡战，所谓人者，推人士而破妖祥也<sup>⑩</sup>，行军之际，或枭集牙旗<sup>⑪</sup>，或杯酒变血，或麾竿毁折，惟主将决之。若以顺讨逆，以直伐曲，以贤击愚，皆无疑也。法曰：“禁邪去疑，至死无所之。”

唐武德六年，辅公柝反，诏赵郡王李孝恭等讨之。将发，与将士宴集，命取水，水变为血，在座皆失色，孝恭自若，曰：“毋疑，诸君，此乃公柝授首之征也<sup>⑫</sup>。”饮而尽之，众心为安。先是，贼将拒险邀战，孝恭坚壁不动以奇兵绝其粮道，贼饥，夜薄李孝恭，孝恭坚卧不动。明日，以羸兵扣贼营挑战，别选骑阵以待。俄而羸却，贼追北且器，遇祖尚，薄战遂败<sup>⑬</sup>。赵郡王乘胜破其别阵，辅公柝穷走，追骑生擒之。

## （九一）疑 战

凡与敌对垒，我欲袭敌，须丛聚草木，多张旗帜，以为人屯，使敌备东，而我击其西，则必胜。或我欲退<sup>⑭</sup>，伪为虚阵，设留而退，敌必不敢追我。法曰：“众草多障者，疑也。”

《北史》：周武帝东讨，以宇文宪为前锋守雀鼠谷，帝亲临围晋州，〔齐主闻晋州〕被围，亦自来援。时陈王纯屯千里径，大将军永昌公椿屯鸡栖原，大将军宇文盛守汾水关，并受宪节度。〔宪〕密谓椿曰：“兵者、诡道。汝今为营，不须张幕，可伐柏为庵<sup>⑮</sup>，示有处所。兵去之后，贼犹致疑。”时齐主分兵向千里径，又遣众出汾水关，自帅大军与椿对。椿告齐兵急，宪自往救之。会军败，齐追还师，夜引还，齐人果以柏庵为帐幕之备，遂不敢进。翌日始悟。

## (九二) 穷 战

凡战，如我众敌寡，彼必畏我军势，不战自遁，切勿追之，盖物极则反也。宜整兵缓追。则胜。法曰：“穷寇勿迫。”

汉赵充国讨先零羌，羌见充国兵至，羌虏在所久屯聚，懈弛，望见大军，弃辎重，渡湟水。道隘狭，充国徐行驱之。或曰：“逐利行迟。”①②充国曰：“此穷寇不可迫也。缓之则走不顾，急之则还死战。”诸校曰：“善。”虏赴水溺死者数百，余皆奔溃。

注释：

①其主：即荆州之主刘表。②越：我国古代对长江中下游以南地区的总称。③折冲：冲，通“撞”，古代战车名；折冲，意谓抵御敌人。④金货者：马本作“金贺还”，显误。今从汪本。唐本作“金币”，亦通。⑤参军：古代军队官名。汉末曹操以丞相总揽军政大权，其僚属往往用参丞相军事的名义。此后直至南北朝，凡诸王及将军成立府署，皆置参军作为重要幕僚参谋军事。⑥赍：(jì)谓携带。⑦上谷郡：郡名。战国燕置。⑧卢龙塞：古代关塞名，今河北喜峰口一带。⑨拒马枪：古代作战时使用的一种防御敌骑兵突击的障碍物。⑩周德威：五代后唐前身晋的名将。⑪刍牧：割草放牧。⑫梁军：即后梁朱温的军队。⑬柏乡：即河北省柏乡。⑭野河：槐河的别名。源于今河北赞皇县西南之赞皇山。⑮王景仁：后梁合肥人，淮南招讨使。⑯此汴、宋佣贩耳：“佣贩”，雇佣来的商贩为兵。汴，汴州。宋，宋州。⑰张承业：唐僖宗时宦官。⑱司马子鱼：司马，官名。西周始置，主管军政和军赋。子鱼，即楚公子魋。⑲帝：指西晋武帝司马炎。⑳木机能：当时羌族一个部落首领。㉑三军：春秋时期，大国多设三军，如晋国设上、中、下三军，以中军之将为三军之统帅。文中“三军”是为全军的统称。㉒高欢：一名贺六浑，鲜卑化的汉人。他执魏政十六年，死后，追尊欢为神武帝。㉓宇文泰：一名黑獺，鲜卑族，代郡武川人。专制西魏朝政，死后追尊泰为文帝。㉔十月壬辰：即西魏大统三年

(公元537年)十月初一。㉕日晡：申时，即十五至十七时。㉖西河：郡名。辖境当今陕西东部黄河西岸地区。㉗威克厥爱兄济：语出《尚书·胤政篇》。㉘立表下漏：表，古代测日影时立的标竿；漏，古代计时的漏壶。此句意思是，立标竿以测日影，设漏壶以记时间。㉙不佞(nìng)：犹言不才，自谦之词。㉚慕容德：十国时期，南燕的建立者。㉛垂军：犹悬军，指远离本土而深入敌境作战的部队。㉜近畿：指京都附近地区。㉝阙与：古邑名。战国韩地，后属赵，今山西和顺。㉞樵苏后爨：樵苏，打柴割草。爨(cuàn)，烧火煮饭。㉟方轨：两车并行。㊱委之：即弃之。㊲邓太后：东汉和帝刘肇之皇后。㊳陈仓：古县名，秦置，今陕西宝鸡市东。㊴凌轹：轹(lì)亦作“陵轹”、“稜轹”，意为倾轧、欺压。㊵规虑：谓器识。㊶白马：古县名。在今河南滑县东。㊷黎阳：古津渡名。在今河南浚县东黄河北岸。㊸延津：古津渡名。在河南汲县东的古黄河渡口。㊹斥：谓侦察、探测。㊺必旆而疏陈之：旆(pèi)，大旗。文中意思是：山泽险要地方，虽然军队不到，也一定树起大旗而稀疏地布设假目标以为疑兵。㊻輿曳柴而从之：輿，车。曳，牵引，拖。意思是用车拖着树枝跟在大旗之后，以迷惑敌人。㊼元朔五年：元朔，汉武帝年号。元朔五年，即公元前124年。㊽大夏：中亚古国，所辖地区在今阿富汗北部。㊾金城：郡名。汉昭帝元始六年置，今甘肃永靖西北。㊿三校：校，古代军队编制单位。文中可理解为三支部队。①四望狭：狭谷名，今青海乐都县西。②环龟：即四周低中间高形似龟背之地。③公孙五楼：南燕大将。④五州：南燕分其境为幽、并、青、徐、兖五州。⑤秦军武安：谓秦军进至武安。⑥须后令：谓待后令。⑦侵晨：天刚亮。⑧武牢：即虎牢。因唐讳虎，故改虎牢为武牢。故址在今河南荥阳县汜水镇。⑨宇文士及：武川(今河南南阳北)人，隋炀帝之婿。⑩涪：今四川省涪县。⑪正兵：经过选拔、装备精良、训练有素的，采取“且战且前”，步步推进的正规作战的部队。⑫宋檀道济：宋，即南北朝时期的南朝宋。檀道济：南朝宋将。⑬戎夷：指对秦人的诬称。⑭假节钺：假，授

予。节钺，符节和斧钺。古代以节钺授予将军，作为加重权力的标志。⑥群盗：是对人民起义者的诬称。⑦褊急：褊(biǎn)。褊急，谓气量狭窄，性情急躁。⑧疏行首：行首，即行道。疏行首，即将行阵间的战道拉宽，以利出战、击刺。⑨绞：春秋时诸侯国之一，位于今湖北郢县西北。⑩三十人：汪本作“三千人”，显误。⑪沙吒忠义：唐中宗时少数民族将领，曾任朔方军总督。⑫三受降城：即东、中、西三受降城。东受降城，位今内蒙古托克托东南；中受降城，位今内蒙古包头市西之黄河北岸；西受降城，位今内蒙古乌拉特中后联合旗西南之黄河北。⑬拂云：即拂云祠，今内蒙古乌拉特旗西北。⑭经日：指过一日。⑮图书：作战地图和文书。⑯吴汉：东汉大将。⑰公孙述：扶风茂陵(今陕西兴平)人，王莽时期任蜀郡太守。⑱犍为：郡名，西汉置。⑲死地：《孙子兵法》术语。意即：迅速奋勇作战就能生存，否则，就只有死亡的地区，叫做“死地”。⑳必死则生：语出《吴子·治兵第三》。这句意思是，只有抱定必死的决心去奋战，才能求得生存。㉑饮酒高会：谓召会高爵者举行盛大酒宴。㉒刍粮乏阙：刍(chú)，喂牲口的草；阙，通“缺”。意谓粮草缺乏。㉓语出《孙子兵法·作战篇》。这句意思是，粮草靠在敌国补充，这样军队的粮秣供应就充足了。㉔既胜若否：语出《司马法·严位第四》。㉕李由：李斯之子。㉖高陵君显：显，名也，封于高陵，故称高陵君。㉗武信君：即项梁自号。㉘乘舆：旧指帝王乘坐的车子。本文指晋惠帝乘坐的车子。㉙挫衄(nù)：损伤，挫败。㉚利钝：本文指胜败。㉛距堙：即在攻城作战中，环城而堆筑的土山，以为窥察敌城内情况或登城之用。㉜羈縻：犹言束缚、牵制，本文作围困解。㉝戮力：谓努力，尽力。㉞促：通“趋”，急速。㉟辟易：谓惊退。㊱敝：即备。㊲不战在我：语出《唐太宗李卫公问对》卷下。但原文为“夫不战者，在我”，意思是不同敌人决战的主动权在我所掌握。㊳辽隧：县名。在今辽宁海城西北。㊴淹月：滞留一月或经历一月。㊵霁(jì)：谓雨止。㊶伐罪吊民：讨伐罪魁祸首，拯救受难百姓。㊷推人士：推举堪当任事的人。妖祥：本文

指妖灾怪异等不吉利的现象。㊸泉：常以喻恶人或不祥之兆。牙旗：古代将帅之旗。㊹授首：谓被杀。㊺薄：逼近、靠近。㊻退：通“遁”。㊼庵：小草屋。㊽逐利行迟：追逐敌人利于行动迅速，现在行动太迟缓了。

## 《武 编》

### 题解：

《武编》，明唐顺之编。分前后两集，共10卷。前集6卷，论述战争中有关将士、行阵、器用、军需等54个问题；后集4卷，引证古事，论述料敌、抚士、坚壁、摧标等97个问题。

《武编》是一部以录述前人言论和引证古事为主的军事谋略著作。所录述都是历史上的军事家的谋略言论，如孙武、吴起、司马穰苴、李靖等；所引证都是历史上的著名战例，并加以分析，对经过实践检验而又行之有效的军事谋略进行了深入论述。虽然其军事谋略没有脱离前人的范畴，但经过作者的分析评论，使以前历代主要军事谋略思想得到深化和拓展，同时，唐顺之也曾指挥过军事行动，他的评论多由阅历所得，颇有见地。

### 将

李筌曰：“夫人柔顺安恕，失于决断，可与循节，难与权宜；强悍强猛，失于猜忌，可与涉难，难与持盈；真良畏慎，失于狐疑，可与乐成，难与始谋；清介廉洁，失于局执，可与立节，难与通变；韬晦沉静，失于迟邈，可与深虑，难与应捷。夫聪明秀出谓之英，胆气过人谓之雄，英者，智也；雄者，力也。英不能果敢，雄不能智谋，故英得雄而行英，雄得英而成。……”

兵家之法，战则败，不战则胜；兵家之秘，有战则有败，不战则无败；兵非果不事夫战也，战则胜负势均矣。兵，危事也；战，死道也；胜负可听于自然耶？夫斗胜负于死

生之场者，谓之战；知其必胜而后战者，谓之谋。伐谋者，孙子谓之上兵，而攻城伐兵之策皆为次下……。夫邀整整之旗，击堂堂之阵者，战也，士卒之事也；立于不败之地而不失敌之败者，不战也，将帅之事也。以将帅之事而责士卒，固不可，况以士卒之事而责将帅哉？今之将帅所以动辄败衄者<sup>①</sup>，皆专学战而未得夫不战之妙也。学战易，学不战难……。孙子以不战而屈人之兵为善之善，舍是之外，虽百战百胜，亦所不取。不得已则斗，未有得已而斗者也。欲望严饬诸军，将帅招致谋夫策士请求不战之一法，若夫斗智角力于胜负未分之地，臣所不取。”

## 士

李纲曰：“世之危乱，民之失业与夫兵之溃散者多聚而为盗贼，诛之则不可胜诛，而力有所不给，惟因而招纳之以为我用。其利有五：以弭内患<sup>②</sup>，一也；以御外敌，二也；善良胁从者，可散而归田亩，三也；强猾勇敢者，可藉以备行阵，四也；以盗贼攻寇仇，胜则享其功，败则不足惜，五也。……则用贼盗有五难：已尝放肆，而欲收其愤戾之心，一难也；已尝虏掠，而欲窒其贪婪之志，二难也；易置将帅则怀疑，三难也；异之部曲则易叛，四难也；恩过则骄，威胜则怨，而反以为患，五难也。惟善驾驭者，恩威得所、宽猛得中，内得其心，外得其力，使之视杀敌如仇人，取敌资如虏掠，虽易将帅而不疑，虽异部曲而不叛，与正军相为表里，而无骄怨之患，则其难也，将转而为易。……”

李筌曰：“有深沉谋虑出人意表者，名曰智囊之士；有辞纵横横，飞箱掉阖，能移人之性、夺人之心者，名曰辩说之士；有得敌国君臣门间请渴之术者，名曰间谍之士；有知山泉、水井、次舍、道路迂直者，名曰乡导之士；有制造五兵攻守利器，奇变谲诡者，名曰伎巧之士；有引五石之弓，矢贯重铠，戈矛剑钺便于利用，陆搏犀兕，水攫鼋鼉，

挑身捕虏，搴旗撼鼓者，名曰猛毅之士；有立乘奔马，左右超忽，踰越城堡，出入庐舍，而无痕迹者，名曰趯捷之士<sup>③</sup>；有往返三百里不及夕者，名曰疾足之士；有力负三百六十斤，行五十步者，名曰巨力之士；有步五行、运三式，多言天道谲说阴阳者，名曰伎术之士。……”

## 制

班固曰：“春秋之后，灭弱吞小，并为战国，稍增讲武之礼，以为戏乐，用相夸视，而秦更名‘角抵’，先王之礼没于淫乐中矣。椎桀之士，因势辅时，作为权诈，以相倾覆，吴有孙武，齐有孙臆，魏有吴起，秦有商鞅，皆禽敌立胜，垂著篇籍。当此之时，合从连衡，转相攻伐，代为雌雄，齐愍以技击强，魏惠以武卒奋，秦昭以锐士胜。世方争于功利，而驰说者，以孙、吴为宗，时惟荀卿明于王道，而非之曰：“彼孙吴者，上势利而贵变诈，施于暴乱昏嫚之国，君臣有间，上下离心，政谋不良，故可变而诈也。夫仁人在上，为下所仰，犹子弟之卫父兄，若手足之扞头目，何可当也！邻国望我，欢若亲戚，芬若椒兰，顾视其上，犹焚灼仇仇，人情岂肯为其所恶而攻其所好哉？故以桀攻桀，犹有巧拙，以桀诈尧，若卵投石，夫何幸之有？《诗》曰：‘武王载旆，有虔秉钺，如火烈烈，则莫我敢遏。’言以仁义绥民者，无敌于天下也。若齐之技击得一首则受赐金，事小敌脆，则偷可用也；事钜敌坚，则涣然离矣。是亡国之兵也。魏士武卒衣三属之甲，操十二石之弩，负矢五十个，置戈其上，冠胄带剑，赢三日之粮，日中而趋百里，中试则复其户，利其田宅，如此则其地虽广，其税必寡，其气力数年而衰，是危国之兵也。秦人其生民也阨阨<sup>④</sup>，其使民也酷烈，劫之以势，隐之以阨，徇之以赏庆<sup>⑤</sup>，导之以刑罚，使民所以要利于上者，非战无由也。巧赏相长五甲首而隶五家，是最为有数，故能四世有

胜于天下然。皆干赏蹈利之兵、庸能鬻卖之道耳，未有安制矜节之理也，故虽地广兵强，鳃鳃常恐天下之一合而共轧已也<sup>⑥</sup>。至于齐桓晋文之兵，可谓入其域而有节制矣，然犹未本仁义之统也。故齐之技击不可以遇魏之武卒，魏之武卒不可以直秦之锐士，秦之锐士不可以当桓文之节制，桓文之节制不可以敌汤武之仁义。故曰：善师者不陈，善陈者不战，善战者不败，善败者不亡。”

## 令

李筌曰：“夫国有乱军者，士卒怯弱、器械朽钝、政令不一、赏罚不明不预焉。所谓乱军者，豪家权臣阉寺嬖妃<sup>⑦</sup>，为之军吏、权军之势、擅将之威、公政私门、公谒上废、谋下阻义、上令不申、下令不行、猛如虎、狠如狼、贪如羊，不可制也，是为乱军，皆可诛也。孔子诛少正卯于两观而鲁国清，田穰苴斩庄贾于表下而军容肃，魏绛戮杨干而诸侯服，项籍斩宋义而天下怖。夫诛豪者益其威，戮强者增其权，在于豪强之身而不在于士卒之庸。豪强有材者，驾而驭之，教而导之，如畜鸢鸟，如养猛虎，必节其饥渴，剪其爪牙，绊其足，御其舌，呼之则随，嗾之则走，牢笼其心，使驯吾之左右。豪强无材，则长其恶，积其凶，从其心，横其志，使祸盈于三军，怨结于万人，然后诛之，以壮吾气。故曰：不善人者善人之资，为将帅为国，不诛豪强何以成军之威也。”

李靖曰：“古之善为将者，必能十卒而杀其三，次者十杀其一。三者威振于敌国，一者令行于三军，是知畏我者不畏敌，畏敌者不畏我。如曰尽忠益时，轻利重节者，虽仇必赏；犯法怠惰，败事贪财者，虽亲必罚；服罪输情，质直敦素者，虽重必捨；游辞巧说，饰伪狡诈者，虽轻必戮。善无微而不赞，恶无纤而不贬，斯乃励众劝功之要术……故须劝之以重赏，威之以严刑，随时而与之移，因机而与之施，可谓不滥矣。凡人耳目，不

可以视千里之外，因人耳目而视听之，既无善不闻，无恶不见。故目贵明、耳贵聪、心贵知，三者并进则明不可蔽。如能赏罚不欺，明于察听，则千里之外隐微之事，莫不阴变而为忠信。若赏罚在于耳目之前而不闻见者，谁肯用命哉。故上无疑令，则下不二听；动无疑事，则众不二志。由是言之，则将军之急务，莫大于赏罚矣。诸有功合赏，不得踰时；有罪合罚，限三日内。遇非时赐赏及诸受获，随时支散，不得过时及减落。不如元数，改换色额，散而不均，必有怨生。”

## 料

管子曰：“天时地利，其数多少，其要必出于计数。故凡攻伐之为道也，计必定于内，然后兵出乎境。计未定而出兵，是则战之自毁也。故不明敌人之攻不能加也，未可加兵；不明敌人之积不能约也，未可约誓；不明敌人之将不先军；不明敌人之士不先阵，是故以众击寡，以治击乱，以富击贫，以能击不能，以教卒练士击欧众白徒，故百战百胜也”。又曰：“善攻者料众以攻众，量吾众寡彼众寡，然后攻馀。仿此料食以攻食，料备以攻备。以众攻众，众存不攻，彼众存则我不能亡之也，故不攻。以食攻食，食存不攻；以备攻备，备存不攻。释实而攻虚，知其宜避之；释坚而攻羸，释难而攻易。夫国搏不在敦古，在于合今时宜，搏聚也。治世不在善政，在于权宜；霸王不在曲成，在于全大体。”

李纲曰：“善用兵以料敌为巧，非谓料其强弱虚实而已，能料敌之情而势必至，于此之为巧也。孙臆为齐救赵，而引兵以趋大梁，知魏之数轻齐也，故减灶以诱之。魏将庞涓果弃其大军，与轻锐并，倍日并行，以逐臆。此未为巧，而能度其行，暮当至马陵，伏万弩夹道，期见火举俱发，而破魏军，遂杀庞涓，此为至巧。韩信击赵，引兵东下井陘，

知赵军未见大将旗鼓，未肯战也。故使万人先行，背水阵而弃旗鼓，趋水上军以诱之，赵军果争汉旗鼓而逐信。此未为巧，而能度其空壁逐利，先出奇兵二千骑狙，伺驰入赵壁，拔赵旗帜，立汉赤帜，而破赵军，遂斩成安君泚水上，此为至巧。寇恂之降高峻，遣军师皇甫文出谒，辞礼不屈。恂怒将诛之，请将谏以为不可，恂不听，遂斩之，而遣其副归报曰：‘军师无礼，已戮之矣，欲降急降，不欲固守。’峻惶恐，即日开城降。诸将皆贺，因曰：‘敢问杀其使而降其城何也？’恂曰：“皇甫文峻之腹心，其所取计者也。今来辞意不屈，必无降心，全之则文得其计，杀之则峻亡其胆，是以降”。若恂者其料敌可谓巧矣。李光弼之降高晖李日越也，逐史思明壁野，水度至夕，还师，留牙将雍希颢守，曰：‘贼将高晖李日越万人敌也，贼必使劫我，尔留此，贼至勿与战，若降与偕来’。左右窃怪语无伦。是日思明果召日越，使以铁骑劫取光弼，不然无归。日越至光弼已去，遂请降，希颢与俱至，厚待之，高晖闻亦降。或问：‘公降二将何易也？’光弼曰：‘思明再败，闻我野次，命将来袭，必许之以死。希颢无名，不足以为功，日越惧死，不降何待。降者见遇，贰者得不思奋乎！’若光弼者其料敌可谓巧矣。惟其料敌之巧如此，故足以立奇功。两军相持，不能料其强弱虚实者，未有能制胜者也。战功曰多以多算胜，而少算不胜。然则不计强弱虚实而浪战，欲无败难矣，况能立奇功哉！”

## 料 敌

汉高帝时黥布反，帝召薛公以问。对曰：“使布出于上计，东取吴，西取楚，并齐取鲁，传檄燕赵，固守其所，山东非汉之有也；出中计，东取吴，西取楚，并韩取魏，据敖仓之粟，塞成皋之险，胜败之数未可知也；出下计，东取吴，西取下蔡，归重于越，身归长沙，陛下高枕而卧，汉无事矣”。上曰：“是，

计将安出”？对曰：“必出下计。布故酈山之徒也，自致万乘之主，此皆为身，不顾后为百姓万世虑者也，故出下计。”果如薛公揣之，东击荆，荆王刘贾败死，汉终破布。

梁侯景作乱，遣宋子仙袭，陷郢州。景乘胜西上，号二十万，联旗千里，江左以来，水军之盛未之有也。元帝闻之，谓御史中丞宗慄，曰：“若贼分守巴陵，鼓行西上，荆郢殆危，此上策也；身频长沙，徇地零桂，运粮以至，洞庭非吾有，此中策也；拥众江口，连攻巴陵，锐气尽于坚城，士卒饥于半菽，此下策也。吾安枕而卧，无所多忧。”及次巴陵王僧辨沈船卧鼓，若将已遁。景遂围城，元帝遣平北将军胡僧祐与居士陆法和大破之。西魏边将于谨讨梁，元帝绎于江陵，长孙俭问谨曰：“为绎之计，欲如何？”谨曰：“耀兵汉沔，席卷渡江，直据丹阳，是其上策；移郭内居民，退保子城，峻其陴堞<sup>⑧</sup>，以待援至，是其中策；若难于移动，据守罗郭，是其下策。”俭曰：“揣绎定出何策？”谨曰：“必用其下。”俭曰：“彼弃上而用下，何也？”对曰：“萧氏保据江南，绵历数纪，属中原多故，未遑外略。又以我有齐氏之患，必谓力不能分。且绎懦而无谋，多疑少断，愚人难与虑始，皆恋城邑，既恶迁移，当保罗郭，所以用下策也。”谨乃令中山公护及大将军杨忠等率精骑先据江津，断其走路，梁人立木栅于外城，广轮六十里。寻而谨至，众悉围之，梁主屡遣兵于城南出战，辄为谨所破。旬有六日，外城遂陷。梁主退保子城，翌日率其太子以下面缚出降，寻杀之。

## 抚 土

春秋时楚师伐宋围萧，萧溃，楚大夫申公巫臣曰：“师人多寒。”楚子于是巡三军，抚而勉之。三军之士皆如挟纊。秦缪公尝出而亡其骏马，自往求之，见人已杀其马，方共食其肉。缪公谓曰：“是吾骏马也。”诸人皆惧而起，缪公曰：“吾闻食骏马肉，不饮酒



者杀人，即以次饮之酒，杀马者皆惭而去。居三年，晋攻秦繆公围之，往时食马肉者相谓曰：“可以出死报食马得酒之恩矣。”遂溃围繆公卒，得以解难，胜晋获惠公以归。此德出而福反也。

后汉段颍为破羌将军，征西羌。行军仁爱士卒，疾病者亲自瞻省，争为裹创。在边十余年，未尝一日蓐寝，身与士卒同甘苦，故皆乐为死战。

后汉皇甫规为中郎将，持节监讨零吾等羌。会军中大疫，死者十三四，规亲入庵庐<sup>⑨</sup>，巡视将士，三军感悦，东羌遂乞降。

宋吴玠素不为威仪，除宣抚副使，简易如故。常负手步出，与军士立语，幕客请曰：“今大敌不远，安知无刺客，万一或有意外，岂不上负朝廷，下孤军民之望哉。”玠谢曰：“诚如君言，然玠意不在此，国家不知玠之不肖，使为宣抚，玠欲不出，恐军民之冤抑而无告者，为门吏所隔，无由自达，某所以屡出者，为此也。”幕客乃服。

唐马燧讨田悦，先战，燧誓军中曰：“战胜请以家财行赏。”既胜，尽出其私财以颁将士，德宗嘉之，诏度支出钱五万贯行赏，还燧家财赏。

## 信

晋文公围原，命三日之粮，原不降，命去之。谍出曰：“原将降矣。”军吏曰：“请待之。”公曰：“信，国之宝也，人之所庇也，得原失信，何从庇之。”所亡滋多，退一舍而原降。

魏明帝自征蜀，至长安，遣张郃领劲卒四十余万向剑阁。诸葛亮有战士万二千，更番归者八千。时魏军临阵，番兵适交，亮参佐咸以敌众强多，非力所制，请留下兵以并声势。亮曰：“吾闻用武行师，以大信为本，得原失信古人所惜。”去者束装以待期，妻子企踵而计日，乃敕速遣。于是去者感悦，愿留一战。住者愤跃，咸思致命。临阵之日，

莫不拔刃争先，以一当十，杀张郃，却司马懿，一战大克之，由信也夫。

## 勇

春秋时晋师伐福阳，荀偃、士匄帅师攻福阳，亲受矢石。梁萧衍举兵指建康，至新林，杨公则自越城移屯，领军府垒北楼，与南掖门相对<sup>⑩</sup>。尝登楼望贼，城中遥见麾盖，纵神锋弩射之，矢贯胡床，左右皆失色。公则曰：“虏几中吾足。”谈笑如初。东昏夜选勇士攻公则，栅中军惊扰，公则坚卧不起，徐命击之。东昏军乃退。公则所领，皆湘州人，素号怯懦，城中轻之，每出荡辄先犯公则垒，公则奖励士卒，克获更多。

唐崔义元为婺州刺史，属睦州。女子陈硕真举兵反，遣其党童文宝领徒四千人，掩袭婺州。义元将督兵拒战，时百姓讹言硕真当升天，犯其兵马者，无不灭门，众皆恟惧。司功参军崔元藉言于义元曰：“起兵伏顺，犹且不成，此乃妖讹，岂能得久”。义元以为然，因命元藉为先锋，义元率兵继进，至下淮戍擒其间谍二十余人。诘朝进击，身先士卒，左右以楯蔽箭<sup>⑪</sup>，义元曰：“刺史尚欲避箭，谁肯致死。”由是士卒戮力，斩首数百级。

## 严

汉文帝时，匈奴入边，以周亚夫军细柳营。帝至军，吏被甲锐金刃，控弓弩持满；天子先驱至，不得入。曰：“军中闻将军令，不闻天子诏。”帝使持节诏曰：“吾欲劳军。”亚夫传言开壁门，士请车骑，曰：“将军约，军中不得驱驰。”天子按辔徐行，至营中，为动容式车。曰：“真将军也。”

魏平寇将军徐晃，既破关羽，诸军皆集。太祖按行诸营，士卒咸离阵而观，独晃营齐整，将士驻阵不动，太祖曰：“徐将军可谓有周亚夫之风矣。”

唐长武城使高崇文统神策军讨刘辟，崇

文在长武练卒五千人，常若寇至。及中使至，郊时宣命，辰时出师，兵仗军需，无不备具。

## 罚

吴将吕蒙，围关羽定南郡，尽得羽将士家属，皆抚慰之。约令军中，不得干历人家，有所求取。蒙麾下士汝南人，取民家一笠以覆官铠，官铠虽公物，蒙犹以为犯军令，不可以乡里故而废法，遂垂涕斩之。

唐高崇文，宪宗初为右神策行营节度，统诸镇兵讨西川刘辟，至兴元，军中有折逆旅之匕箸者，斩以徇<sup>①</sup>。初辟陷东川，擒节度使李康。及崇文克梓州，乃归康求雪已之罪，崇文以康败军失守斩之。

唐范希朝，为振武节度界上，有党项室常交居。蕃落之俗，有长帅至，必效奇骑名马。虽廉者犹曰当从俗，以致其欢。希朝一无所受，积十四年，皆保塞不敢暴蕃，虽狗窃鼠偷，必杀无赦，蕃落深惮之。

### 注释：

- ①徇：音 nù，鼻子流血。指被杀伤。  
②弭：音 mǐ，止，息。 ③趯：音 qiáo，行动轻捷矫健。 ④阨阨：即狭窄，不宽阔，指地方窄小。 ⑤扭：音 niǔ，因袭，拘泥。 ⑥鳃。鱼的呼吸器官。此指谨小慎微恐惧害怕的样子。 ⑦阉寺嬖妃：阉为看门人，寺为出家人，嬖为帝王宠幸的人，妃为帝王的配偶。此皆指帝王宠信的近人。  
⑧障堞：城垛子。 ⑨庵庐：茅草屋。此指战场上搭起的临时住处。 ⑩掖门：边门。 ⑪播：即盾。 ⑫徇：同殉。

## 《练兵实纪》

### 题解：

《练兵实纪》，明戚继光著。全书有正文9卷，杂集6卷，共约10万字，附插图近60幅。其中除《登坛口授》为戚继光讲授，由胡守仁、李超辑录外，其余均为戚继光自撰。

该书与《纪效新书》异曲同工，“字字责

实”，力去“花法”，唯求“实用”。其宗旨在于论述同“数十万”之敌作战，打“堂堂正正”之阵的军事谋略。在组织指挥、战略战术、火器运用等方面的阐述，都比《纪效新书》前进一步。该书还特别对将领指挥作战提出了诸多谋略，如深入了解敌我之情，利用地形地物，善于倾听意见，爱士卒，励士气等。同时，认为“练兵之安在先练将”，主张根据“真战”实效“量才擢用”将领，这一思想颇为可贵。

## 刚愎害

坚志而勇为，谓之刚。刚，生人之德也。恃强而自用不回，谓之愎。愎，刚德之贼也。吾人患其不刚固然矣，刚而愎，又不如不刚之为愈也<sup>①</sup>。故为将者，一有自用之心，士情不问，人人解体；敌情不得，耳目瞽瞍<sup>②</sup>；忘身败家<sup>③</sup>，可立而待矣。善将者，凡于古今名将成败之政，一时山川形势之殊，敌情我军微隐之变，必广询博访，集众思，屈群策<sup>④</sup>，虽不挠于非礼而转环于听纳<sup>⑤</sup>。人之有技，如己有之，即其人不足取而言可采，略其人而取其言，师其言而不必用其人。使吾人言行固皆尽善当理，岂无一、二之讹？宜忘其尽善当理之美，而急求吾一、二之讹，改过就中，行之以强健不息之志。如此，庶刚为吾之德<sup>⑥</sup>，而通下情，知敌变，采众善，成功业，转凶为福矣。

## 爱士卒

将者，腹心也；士卒者，手足也。将诚勇以力相敌，不过数人极矣。数十万之众，非一人可当；必赖士卒誓同生死，奋勇当锋。兵法：“爱士如婴儿。故可与之赴深谿”。古人吮士之疽<sup>⑦</sup>，杀爱妾以飧士<sup>⑧</sup>，投醪于河以共滋味<sup>⑨</sup>，此何等作为！如今将领不惟不如此推恩，而且使之肩輿<sup>⑩</sup>，使之供爨<sup>⑪</sup>，使之厮役，死亡不恤，冻馁不问，甚

至敛科财物<sup>⑫</sup>，克成月粮。到处先择好歇处安眠，将领已熟睡，而士卒尚有啼饥号寒于通衢者；将士夜卧美榻，甚乃伴以妓女，而士卒终夜眠人檐下，枵腹而宿者种种<sup>⑬</sup>，不可枚举。如此而欲人共性命，人谁肯哉！夫士卒虽愚，最易感动。死生虽大，有因一言一缕之恩而甘死不辞者，却是将领头目，千思百虑，负义忘恩何也？愚卒心歧尚少<sup>⑭</sup>，又有军法驱之，易就善路故也。第士卒之众<sup>⑮</sup>，吾岂能人人而惠之，惟我真有是心，自然人相观感。故不必其人人及之，人人受千金之惠、再生之德，而后谓之爱，而后得其感耳。爱行思竭，力齐气奋，万人一心，何敌不克？功成名立，捷如影响。

## 严节制

兵有二用，数十百人，随意野战，风雨之势，非罚所加，非法所管，可以一语传呼而止，无节制可也。虽然，此即节制也。若用数万之众，堂堂原野之间，法明令审，动止有则，使强者不得独进，弱者不得独退，峙如山岳不可撼摇，流如江河不可阻遏，虽乱犹整，百战不殆，握定胜算以制全敌，舍节制必不能军。节制者何？譬如竹之有节，节节而制之，故竹虽虚抽数丈之笋<sup>⑯</sup>，而直立不屈；故军士虽众，统百万之夫如一人。夫节制工夫，始于士伍以至队哨，队哨而至部曲，部曲而至营阵，营阵而至大将，一节相制一节，节节分明，毫不可干。金鼓各有所用，音不相杂；旗麾各有所用，色不相杂。人人明习，人人恪守<sup>⑰</sup>，宁使此身可弃，此令不可不守；此命可拼，此节不敢不重。视死为易，视令为尊。如此必收万人一心之效，必为堂堂无敌之师，百战百胜。用之塞上，则外摧强敌；用之域中，则内清叛乱。万里无危，万战无失。岂直日百里趋利已哉，将见天下莫当此兵矣。

## 注释：

- ①愈：较好，胜过。 ②瞽聩：眼瞎耳聋。  
③忘：同“亡”。 ④屈：竭，穷。 ⑤虽：通“唯”。 转环：即转圜，比喻从顺而不停滞。 听纳：听取和采纳。 ⑥庶：庶几，差不多。  
⑦吮：用口含吸。 疽：毒疮。 ⑧餼：用酒食款待人。 ⑨醪：酒也。 ⑩輿：此处指轿子。  
⑪爨：烧火煮饭。 ⑫敛科：聚敛科税。 ⑬枵：空腹饥饿。 ⑭心歧尚少：思想不复杂。 ⑮第：但，只。 ⑯虚抽：指竹子中空而细长。 ⑰恪：谨慎而恭敬。

## 《阵纪》

### 题解：

《阵纪》，明何良臣著，计4卷66篇，约3万余字。

该书根据《孙子》、《吴子》、《尉缭子》等古兵法的军事谋略思想，结合历代用兵得失，并针对明代的实际情况，广泛论述了诏军、用兵的原则和方法，提出不少有价值的观点。如，积极主张革新军制，变通古法，反对墨守陈规，要求“固敌制胜”，“固形用权”，这种谋略思想颇为可取。

## 节 制

臣谓：非分合无能众也，非奇正不能斗众也。节制行则分合自闲，分合闲则奇正自变，故节制之兵，或不能大胜，亦不能大败何也？解结不挽越，凌翼各轻利，左右角犄，前后顾应，曲直方员，无不绳正，动静生死，系乎旗鼓，离合聚散，不失行伍，似勇而不勇，似怯而不怯，似治而不治，似乱而不乱，纷纭浑沌，驻足成阵，面面受敌，威无不振。所以有制之兵，勇者不可独先也，怯者不敢私后也，祇以大角幢幡为变化密号耳<sup>①</sup>。故其进也，使敌不可遏；其退也，使敌不可阻；其分合也，使敌不可测；其攻掠也，使敌不可防。此又节制而任战势者也。

孙子曰：“善战者，立于不败之地，而不失敌之败也”。恐非节制无能立于不败之地。又曰：“无邀正正之旗<sup>②</sup>，无击堂堂之阵。”堂堂正正者，节制之师也。节制之师，孙子且畏，况今之时将乎。

兵法师合而交绥<sup>③</sup>，师退而不逐者，谓两军各有节制重防失覆者也。虑其佯北所诱，故奔逐不百步；恐为敌计所陷，故纵绥不三舍。所以知战道者，必先图不知止之败，恶在乎必往，故势欲必往也。须翼我进衢，而闲我军退，谨束前后，胜乃不溃。孙子曰：“避其朝锐，击其惰归，此治气者也。”以治待乱，以静待哗，此治心者也，以近待远，以佚待劳，以饱待饥，此治力者也，治心治气治力，三者固用兵之切要，然非节制素行，则治字无处著落矣。

使有明将而得精兵，教阅经年，销尽武场套子，如出猎行营，登山涉水，寝食晦明之际，每习至精，率然遇警，必能使其驻足成阵，举手便战，施不尽之号，出无穷之变，或伏或起，或正或奇，曲折相连，首尾顾应，绝而不离，却而不散，似整非整，似乱不乱，所谓合亦成阵，散亦成阵，行亦成阵，坐亦成阵，敌固不知我之所以退，抑不识我之所以进，是为有制之兵也。将震惊天下，使智者亦不得窥测我之所以来，况山海之寇乎。惜乎四合之徒，万人万心，既无良将制练，且多中制挠之，将未得兵之情，而兵未达将之令，辄欲驱之赴死，战而不曷者，未之有也。故云：扰十数余年，寇虽殄灭，而民亦竭矣。于是而知兵不在多而在精，兵精而无节制，战未可恃也；将不贵勇而贵良，将良而上不信任，事未可为也。

## 战 机

得战之机者，藏形于无，游心于虚，故圣人常务静以待敌之有形。所以放乎九天之上，蟠乎九渊之下<sup>④</sup>，以其无形可见也。深间不能窥，智者不能谋，以其无隙可乘也。

不袭堂堂之阵，不击正正之旗，欲待其形之先见也。见敌之有形矣，乃任我之气势，或击其先动，或乘其露生<sup>⑤</sup>。敌将坚壁，我则突其未成，急趋其可攻；敌欲冲我，我则绝其必返，先备其所从。敌长则截之，敌乱则惑之，敌薄则击之，敌疑则惧之，敌恃则夺之，敌疏则袭之。若惊鸟之忽起，若飓风之陡发，倏忽上下，莫知止遏。如雷霆之震击，如暴雨之倾注，左右前后，莫知所御。是故有风雨之行，故能威绝域之民；有飞鸟之举，故能服恃固之国；有雷电之战，故能独行而无敌。是以善战者，必以盛而乘衰，以实而击虚，以疾而掩迟，以饱而制饥。应之以不穷，投之以不测，飘飘忽忽，莫如所之，独出与独入，莫知所谋。其合如云，其变如龙，若从天降，若出地中，犹水之扑火无不息，汤之沃雪无不溶。既其退也，敌不知我之所守；其进也，敌不知我之所攻。且夫水性至柔，而能触崩丘陵，性专而触成也。市台脆而能必胜劲敌以死而易生也。苟能指士卒之进退如驱群羊，麾偏裨之赴战如纵鹰犬，使其上云颠而不知其为高，入丛林而不知其为碍，蹈重渊而不知其为深者，乃可称将兵。

深入敌境，而无一人动静者，必有埋伏，绝我归也。须令劲勇为搜捕，继强弩以翼之，发轻骑以应之，急守粮道设犄角，坚整大阵，数出奇兵，振其先声，为左右逐掠。敌若空虚，急乘我之机势。地势相远，彼此力均，不可挑战，恐费奔趋之劳。敌或有隙，必速压之，无使其复备也。我可以往，彼可以来之地，必先居高，通饷其势乃佚<sup>⑥</sup>，其战则利。孙子谓：先处战地而待敌者佚，后处战地而趋战者劳。所为善战者，能致人而不为人所致。尉子谓：敌地大而城小者，必先收其地；城大而地窄者，必先攻其城；地广而人寡者，则先绝其阨；地窄而人众者，则筑大堙以临之<sup>⑦</sup>。故作战必因地势之便。猝与敌遇，乃因地而发令焉。而复用其险阻山林水泉丘墓之利也。地易远旷，以车骑相因；草木蒙蔽，以步卒接战；长林茂陵，以奇伏

迭出；深峡隘口，止众用少；逾水涉涧，益以火弩；高下相悬，未可逼近；昼多旌旗，夜多火鼓，风雨雪雾，变以笳角。以寡击众，务于隘塞，必于暮夜，伏于丛茂，要于险阻；以众击寡，务于广漫，利于旦辰，分守要津，绝彼运道。若驱水火，须知护后搏前；偶际晦冥，必识相机邀袭，与敌分险相拒，犹当塞谷备衢，广我战道。处山之左，急备山之右；处山之右，急备山之左。我地险悖，动有挂碍，可以往不便于返者，当谨我归路。敌若无备，分兵击之；敌若有备，不可出也。壁以武刚，随以踵卒，续发哨探，密遣埋伏，务得虚实远近众寡之情，然后可为致胜之策。哨探埋伏，必选精锐诚实，抑非庸卒可使然。致胜诡谲，情状万端，若指以山谷蒙翳处伏藏之伏，为伏不过寻常之伏耳，是岂能应命于不穷哉。故善伏者，敌虽巧智，无能测识我之所伏也。是以用伏之微<sup>⑧</sup>，非神化乎兵术者，未可与语伏。

淮南子谓：敌躁我静，必罢其力，敌先我动，必观其形，别其邪正，以制其命，审其所处，或极其因，敌或反静，先出我奇，敌谨后节，即与推移，敌有所积，必有所亏，敌若左转，覆其右陂。故能先弱敌而后战者，费不半而功自倍。

管子曰：“不明于敌人之将，不先军也；不明于敌人之士，不先阵也。”士卒未附，教习未精，敌情未得，不可以言战也。是故文王不能使不附之民，先轸不能战不教之卒，王良造父不能以敝车弩马疾趋而致远，后羿逢蒙不能以枉矢弱弓射远而中微。所以善兵者，必使其兵利也、甲坚也、力治也、令信也、机得也，乃量彼已之势，而后握必胜之权。故士卒倚其必胜而自轻斗。

## 因 势

得机略者，不逼人之穷，不攻人之锐，不启人之未及。必因其盛而致之驰，击其虚而待其疲，取其无备而疾袭其迟。是以用兵

之术，惟因字最妙。或因敌之险以为己固，或因敌之谋以为己计，或因其因而复变用其因；或审其因而急乘其所因。则用因而致胜者，不可言穷矣。敌虽有智，必知其不能逃我之所因也。《吴子》谓“占将察才，因形用权，则不劳而功举。”故敌处高燥，不利水草，因而困之。敌便水草，已处卑下，因而灌之。敌居不便，出入艰难，粮道远绝，因而凌之。敌地广大，食匮兵少，四守失隘，因而急之。敌将贪利忽名，可贿可陷<sup>⑨</sup>。上骄下怨，可间可离。愚昧轻信，可慑可诱。喧嚣不整，可薄可欺。乘劳附利，可袭可击。虑进疑退，众必失依。人有归志，将不能禁。开险塞易，其军必迷。若夫敌人疲惫饥渴惊疑，前队未营，后军未涉，偶值晦冥，风雨忽作，故可因敌之势以致胜也。我勇且谋，士卒死战，进如骤雨，发如飘风，故可因我之气以决胜也。阙山狭路，大阜深涧，龙蛇盘踞，羊肠狗门，险堕飞鸟，守在一人，故可因地之利以必胜也。三者得一，敌已挫亡，俱得用者，所向莫当。所以善兵者，必因敌而用变也，因人而异施也，因地而作势也，因情而措形也，因制而立法也。故曰能者用其自为用也，不能者用其为己用也。用其自为用，则天下莫不可用，用其为己用，则所得者鲜矣。

举不轻，势不逆。以一匹夫而能施德义，协人心，信刑赏，新政令，使人不敢逆其命令而必为之致用者，惟伊尹、吕望、孙武、穰苴、管仲、吴起、韩信、孔明之辈能之。且轻举者必败也，逆势者必亡也。善兵者当窥识数子之不逆势、不轻举，而又能致人于必用之处，是得用“因”之根本矣。所谓因人之势以伐恶，则黄帝不能与争威；因人之力以决图，则汤、武不能与争胜。故能得其因而乘其因者，则万军之将可擒，四海之英雄可制也。言兵者，动辄夸淮阴能驱市人、用乌合，谓其致胜也有神术焉。此不通乎用兵之本甚矣。淮阴所处之时，有可驱之势，有可合之机，故因其时、顺其势而鼓舞之，迂误之，激烈之，率然之，死陷之。使人无不

怒目攘臂、齐勇皆战者何也？盖六国恨秦仇之深，万姓怨秦法之惨，嗷然而若焦热，倾焉若苦烈，鸡犬不相宁，贵贱不相缪。不独人之去秦，而天亦厌秦久矣。忽兵起山东，项刘继峙。淮阴适际其时，辄握其略，独开《孙子·九地》之窍，乃因势而驱之计，握机而死致之，是易于启发耳。假使彭、黥而亦识此窍，则淮阴又未可恃以必能也。臣是以知淮阴生于斯世，欲废兵本、外节制、抗监司、驱市合，以战而必胜，以攻而必取，吾断未敢为之许。所以，因时顺势而利导之者，能者之事也；悖人逆天而抗时势者，妄者之事也。信固得其时、顺其势而为能者之事矣。学兵之士，当究其时事之可、否、难、易，幸勿为豪杰所欺笑焉。《孙子》曰：“胜可为也。敌众，可使无斗。”“策之而知得失之计，作之而知动静之理，形之而知生死之地，角之而知有余不足之处。”故策者，欲因其得失也；作者欲因其动静也；形者欲因其死生也；角者欲因其有余不足也；使“深间不能窥”，故因其间以为我用也；“智者不能谋”，故因其谋以为我计也；“勇者不能斗”，故因其勇以为我力也。所以，能因敌转化用敌于无穷，因形措胜用形于不竭。

#### 注释：

①祇：即只，仅仅，唯一。②邀：遮阻、迎击。③交绥：敌对双方军队刚一接触就各自退却。④蟠：盘曲而伏。⑤雩：即衅。⑥佚：即逸。⑦埋：土山。⑧微：此指微妙。⑨啗：啖的异体字。引诱，利诱。

## 《投笔肤谈》

#### 题解：

《投笔肤谈》是成书于明朝末期的重要军事谋略著作。全书分上下两卷，上卷6篇，下卷7篇，共13篇。每篇都按题解、原文、注解、注音、批评五个部分行文，条理清晰，阐释明白，独树一帜，是历代兵书中颇具特色的一部。作者隐其姓氏，仅著“西湖逸士”，

研究者认为西湖逸士即明朝万历年间浙江解元何守法。

《投笔肤谈》以孙子的战争理论为指导，总结了我国历代战争的经验教训，分析了战争指导原则的各个侧面，按所述问题在战争指导中的地位，依次排列，具有较强的内在联系，形成了独具特色的军事理论体系。作者认为战略谋划的目的是掌握战争主动权，主张在指挥战争中要掩盖自己的真实意图，制造假象，欺敌误敌，诱敌就范，强调在指挥策略上必须掌握“用兵之机括”，示形造势，以“虚实藏势，向背藏机”，控制战场主动权。作者还提出了利用科学与科学技术为战争服务的观点，介绍了“连鸡纵火，封鸽代谋，训猕劫营，驱兽突重”等利用“飞潜动植”参与战斗的方法，这些是该书区别于其他军事谋略著作的一个鲜明特点。

## 上 卷

### 本谋第一

凡兵之兴，不得已也。国乱之是除，民暴之是去，非以残民而生乱也。

自古明君贤将，谋之于未战之先者，岂专谋敌求胜哉，亦冀保民而康国耳。

故知害之害者，知利之利。知危之危者，知安之安。知亡之亡者，知存之存。得胜算者，不先料敌而料己。料敌者疏，料己者密。料敌者知敌之势，料己者知己之情。

是以民劳而兴兵者疲，民贫而兴兵者匮，民玩而兴兵者散，内有谗臣而兴兵者殆<sup>①</sup>，天灾流行而兴兵者乱，有内难而兴兵者疑，上下离心而兴兵者亡。

军需不备，取败之道也。行伍不充，取败之道也。备军需、充行伍而灾及吾民，以败致败之道也。

故国不富不可以兴兵，民不和不可以合战。兴兵而不计成败之算，危急际也。合战

而不审存亡之机，大难时也。

兵之所以妨民者五，司国计者，不可不知焉。三时弛务，妨民之农<sup>②</sup>。隶籍充伍，妨民之业。军需輜重，妨民之财。擐甲冠冑<sup>③</sup>，妨民之力。鼓行搏斗，妨民之生。此五者，圣王之所不免也。

故将之为国谋者，曰：士出何籍，马出何牧，粮出何税，财出何赋，器用出于何供，推挽出于何力。是以不难于战胜，而难于不为斯民病；不难于杀敌，而难于不貽患于国。兵以销兵，然后兴兵；战以止战，然后合战。期于遏敌之锋，而非期于敌之尽也。

夫将有必胜之术<sup>④</sup>，而无必不战之术。有不败之道，而无必败敌之道。攻围战守御五者，因敌以制变，斯胜矣。故拔敌之城而非攻也，致敌之降而非围也，寝于庙堂之上而非战也，散于原野之间而非守御也。如不得已而必至于用兵，则不多旅，不久师，不暴卒，不角力，惟谋以为之本。则吾民之病<sup>⑤</sup>，其少瘳乎<sup>⑥</sup>。

夫兵，莫大于握其枢，兵之枢，名义而已。我执其名而加敌以恶名，我仗其义而加敌以不义，则三军之出，烈烈炎炎，上洞于天<sup>⑦</sup>，下彻于泉，中横乎四表<sup>⑧</sup>，旌之所麾，士气奋而敌威摧矣。

## 家计第二

用兵之道，难保其必胜，而可保其必不败。不立于不败之地，而欲求以胜人者，此侥幸之道也，而非得算之多也。

夫兵有营阵，有战守，有攻御，有彼己。善用兵者，审虚实之势，校轻重之权，量缓急之宜，度先后之节。不虚营而实阵，不重战而轻守，不缓御而急攻，不先彼而后己。

故行虑其邀，居虞其薄<sup>⑨</sup>，进思其退，外顾其中<sup>⑩</sup>。我攻敌左，防敌袭右，我攻敌右，防敌袭左，而前后之变可知也。

深入敌疆，以客为主，相持旷日，防敌出奇。是以敌虽寡，我亦举众以待之。敌虽

弱，我亦坚阵以迎之。其未战也若见敌，已会也若不胜，既胜也若初会。故杀敌者，常整其兵；追奔者，不过其舍。由是观之，不惟败防敌，胜亦防敌也。

是以我未可战，则谨守弗失，待敌之敝而胜之。故宁不胜，毋或陷众；宁久持，毋或欺敌。陷众欺敌，未有不败者也。

凡敌诱吾以利者，我思其灾<sup>⑪</sup>。激吾以怒者，我思其变。此以有虞待不虞，不徒从人而忘自备也。

敌若有衅，机不可失，则警吾之备而乘之。兵备未警，不先从敌，此得算之多者也。

夫兵不贵分，分则力寡；兵不贵远，远则势疏。是不惟寡弱在我。而强众在敌也，虽我强我众，亦防敌之乘我也。苟能审势而行，因机而变，则敌亦焉能乘我哉？

且天下之乘，不在敌，则在我；不在我，则在敌。故己可以乘人，而人亦可以乘己者，不可以不防。人或有所以谋己，而己亦可以谋人者，不可以不知。此兵之至计，不可不察也。

## 达权第三

凡兵出于国，民和于野，固当以必死为节，必克为志，尤先于达权<sup>⑫</sup>。

不可听淫言，不可信讖纬，不可拘风占，不可惑物异。

居常虑变，处易备卒。屯营者，务持重。临敌者，贵合谋。接战者，先示形。纳降者，须防伪。袭人者，顾本营。伏兵者，视地利。攻众者，解其心。陷坚者，孤其势。远征者，警其赴救。追奔者，防其分兵。突进者，矢石在前。无粮者，乘饱以战。卒遇敌者，不可妄动。见异物者，不可辄发。过险阻者，不可不速。遣间谍者，不可不密。凡此皆宜达之以权也。

故知兵者，必先自备其不虞<sup>⑬</sup>，然后能乘人之不备。乘疑可间，乘劳可攻，乘饥可困，乘分可图，乘虚可惊，乘乱可取，乘其

未至可挠，乘其未发可制，乘其既胜可劫，乘其既败可退。故兵贵乘人，不贵人所乘也。

惟善与敌相持者，识众寡之用，明刚柔之宜，达进退之机，知顺逆之势。

强敌不可怒，弱敌不可侮。怒强敌者殆，侮弱敌者悔。故敌能者备之，不能者扰之。扰之而未见其可攻者，我未善也。备之而见其可攻者，我之得算多也。

委敌以货而胜之者，货在我者也。贪敌之货而败焉者，货在敌者也。

谓我无可生者，激吾众也。谓敌不足畏者，安吾民也。布疑言于人耳者，使人惑也。置赤心于人腹者，使人信也。

可使敌兵知吾之仁<sup>⑭</sup>，而不可使吾兵知敌之仁。可使吾兵知敌之暴，而不可使敌兵知吾之暴。使吾兵知敌之仁者，散吾之众也。使敌兵知吾之暴者，坚吾之敌也<sup>⑮</sup>。

若夫临敌而刑以惕众，将战而杀以震威者，忍人也。足以失士之心而激之变，非所以令众庶见也。

故兵无他术，察仁暴，明备乘，而权以行之，胜斯生矣。然胜败亦无常也。战虽胜，骄矜持之者死。兵虽败，精专谋之者生。

## 持衡第四

凡以守待敌者佚，以攻待敌者劳，劳佚之相乘，而利归于守也。攻则力合而难敌，守则势分而难救，分合之相乘，而利归于攻也。守之顺者攻之逆，攻之易者守之难，攻守之相乘，而胜负之机不定也。故欲低昂之，不可不如持衡然。

衡之不持，顿兵坚城之下，暴卒风雨之中，野掠之不获，而先登之不入，此攻之灾也。兵不称其城，粮不称其兵，救援之不达，而犄角之失势，此守之灾也。

是以善用兵者，违其灾而乘其利<sup>⑯</sup>。用之以攻则守无术，用之以守则攻无策。此之谓持衡也。

是故善攻者，噪以动之。善守者，静以待之。善攻者，屡出扰之而使乱，多方误之而使虚。善守者，主气蓄之而使锐，客气尽之而使衰。

善攻者，破其所恃则势孤，执其所爱则计失，解其腹心则体溃，告以兵威则胆裂，示以俘囚则气夺。俟其既困然后举兵以从之，而敌之城可拔也。善守者，塞其险阻以遏之，清其原野以待之，绝其粮道以饥之，劫其营垒以挠之，捣其巢穴以牵之。伺其既归，然后出以袭之，而敌之帅可擒也。

夫攻贵于人，攻城而入其所攻，犹非善攻者也。守贵于出，突围而出其所突，犹非善突者也。惟示之以攻，而入其所不攻；示之以突，而出其所不突。此攻守之妙也。

且亡奴多至降虏，必有泄机之灾，攻之当虑也。奸民易于导寇，此为室中之患，守之当防也。

故攻者惧突兵，守者惧久困，攻者惧敌和，守者惧围阙。突兵则不虞，久困则力尽，敌和则难取，围阙则易散。此兵之变，不可不图者，舍衡何以也。

然此特论其形与机变耳，攻守实要于无形也。攻者攻其心，守者守其气，则不滞于形，而神于机变，此持衡之至要也。

## 谍间第五

凡为将者，握三军之权，司万人之命，以与敌对，逐于原野，相持而不知其情，是木偶也<sup>⑰</sup>，相制而不制以术，是猛兽也<sup>⑱</sup>。

是故伐人以其主，贤于以己伐之也。谋人以其臣，贤于以己谋之也<sup>⑲</sup>。散人之交而合其斗，贤于以己斗之也。

譬之虎也者，噬人者也<sup>⑳</sup>。鬬虎之牙，无不噬矣。委虎以肉，无不噬矣。荷戈逐虎<sup>㉑</sup>，无不噬矣。弹虎以石，无不噬矣。故使人鬬其牙，而我不自鬬。委人以为肉，而我不自委。使人荷戈逐之。而我不自逐。我伏其身以弹虎，而使人当其怒。凡若此者，



皆伐人之以其主，谋人之以其臣，散人之交而合其斗者也。然非谍何以索其情，非间何以投其术哉？

故欲得敌情而间之者，当先采物价之腾平，察风俗之好尚，明人事之喜怒，覘上下之乖和。然后因隙间亲，因佞间忠，因利间争，因疑间废，诳其语言，乱其行止，离其腹心，散其交与，间谍之妙也。

是故间敌国者，在先得其情。欲得敌情者，必不惜千金。吝千金而失间之心者，败也。捐千金而得敌之情者，胜也。此胜败之机，不可不察也。

凡间谍之人，或望敌之风，而传伪于我，或被敌之虐，而泄情于彼，此皆覆败之所关也。

故谍为敌擒而得归者，勿听其言。如得实情，则颠倒而用之。敌之谍者，为我所得，欲灭其迹，则杀之囚之。欲用反间，则厚之脱之。此必胜之方，兵之要也。

故间谍可用而不可恃，用之者智也，恃之者愚也。

## 敌情第六

凡两军相拒，匪我谋敌，敌亦谋我。于此不得其情而浪战，是朦瞶也<sup>②</sup>，其何以因机致胜哉。夫敌情有可得而窥者，有不可得而窥者，多方之变无穷也。

是故风驰电击者，势也。火列星屯者，形也。五人为伍，极于二千五百人为一军者，制也。三才<sup>③</sup>、五行、六花<sup>④</sup>、八阵者<sup>⑤</sup>，名也。此可得而窥也。

若夫合而守、分而屯者，奇正也。大营处易、小营据险者，犄角也。冥行林麓者，伏也。潜越草莽者，覆也。鼓行观兵者，将无能也。临敌易将者，兵有变也。

易衣而行、变徽而出者，用寡也。列阵以战、分道而攻者，用众也。我取其有而不较者，害之也。彼弃其有而不惜者，利之也。

强而示之弱者，致我也。弱而示之强者，

畏我也。以强为强者，搏我也。以弱为弱者，误我也。铃鼓旌幡、衣服号令，或效吾之制者，乱我也。以是而效强兵者，弱也。以是而效弱兵者，强也。

鸣鼓树帜于林谷，扬尘聚烟于山野者，疑也，非所以为战也，所以走我而彼亦不来也。设是而后至者，虚也。设是而诱我之至者，实也。

激我射而不发者，尽吾矢也。激我战而不出者，惰吾气也。两军相薄<sup>⑥</sup>，势如风雨，我进而敌不动者，恃其有弓弩、礮石也；我退敌亦不追者，惧吾有奇伏或诱或劫而中伤之也。

凡此皆敌之情，非详察之不可得也。

故我进敌亦进者，战；我退而敌亦退者，散；我退而敌进者，或伏吾前；我进而敌退者，当防其奸。是以败而乱行，分兵逐之；败而不乱，敛兵勿追；未败而逃，勿为所欺；既败而复，必谨察之。此敌之情，胜败之机也。

如得敌情，乘而勿失。不得其情，形之乃知。能形敌而得其情者，兵之妙也。

夫敌不示我以情，亦犹我不以情示敌也。故兵之所忌者，未必其可畏。而可畏者，或出于所忌之外。兵之所忽者，未必其可易，而可易者，或出于所忽之中。苟能真知可畏与可易，然后可以语敌矣。

## 下 卷

### 军势第七

将之用兵，实则胜，虚则败。虚实之分，胜败之机也。实而虚，虚而实，实实而虚虚，不与焉。实实虚虚，战道也，非所以言军势也。军之势，亦观于强弱而已。然强不期实而自实，弱不期虚而自虚。故即强弱而虚实可知也，即虚实而胜败可判也。

且三军之势，如人一身。大将，心也；

## 兵机第八

士众，四体百骸也。军需輜重，饮食也。教练纪律，体悉赏罚，所以培植元气、振励精神也。是三军之势，莫重于将，选将之道，不可不慎也。

夫将有儒将，有武将，有大将。儒将者，决胜庙堂者也。武将者，折冲千里者也<sup>②7</sup>。大将者，深明天地、兼资文武者也。凡此三者，国之柱石，民之司命，而非偏裨之选也。

圣王之选将也，必择是材而用之。苟得其人，授之专阃，不中制，不外监，不分权，不信谗。故养兵者，主也；治兵者，将也。兵之权，不握于主而握于将，然后将得以尽其才。

凡兵，甲冑之不坚，袒裼也；器械之不利，徒手也，其法三不当一。枵腹以待敌，犹病体也；羸马以入阵，犹病足也，其法五不当一。手足之不便，犹繫缚也；行阵之不闲，犹荆棘也，其法十不当一。上不爱下，下不亲上，厚赏之不激，而苛罚之不畏，是犹心乱而肢痿也，其法百不当一。

故能教戒于先，则挺可格刃，以一当十之兵也。使民亲其上、死其长，则心雄敌忾，以一当百之兵也。一当五，一当三，未何言哉！

是以其道可数焉。足其刍粮，备其铠器，习其击刺，熟其进止，明其分数，谙其旗技，正其体统，严其号令。未已也，又恤其饥寒，忧其疾苦，别其功过，公其赏罚，均其劳佚，释其疑贰。则三军之势不伤，而日渐强实矣。

然兵不可使骄，骄则难制。不可使玩<sup>②8</sup>，玩则难用。故善用兵者，体备上十四事而时出之。先之以身而非褻也，浹之以和而非懦也，抚之以仁而非姑息也，断之以刑而非残忍也，励之以义而不赏自劝也，教之以礼而不怒自威也。夫然后骄玩不作。三军之势，如山之重、如火之烈、如雷霆之迅速、如江汉之不竭者，强实也。

凡用兵之法，主客无常态，战守无常形，分合无常制，进退无常度，动静无常期，伸缩无常势，出没变化，敌不可测，此之谓兵机。

故以奇为奇，以正为正者，胶柱调瑟之士也。以奇为正，以正为奇者，临书模画之徒也。我奇而示敌以正，我正而示敌以奇者，知胜者也。我奇而敌不知其为奇，我正而敌不知其为正者，知胜之胜者也。凡兵之所交，阵之所向，胜负决于斯须，存亡辨于顷刻间，无非奇正形之也。

故善制敌者，愚之使敌信之，诳之使敌疑之，韬其所长而使之玩，暴其所短而使之惑，谬其号令而使之聋，变其旗章而使之瞽，秘其所忌以疏其防，投其所欲以昏其志，告之以情以款其谋，惕之以威以夺其气。

故敌之实，我虚之；我之实，敌不可得而虚也。敌之虚，我乘之；我之虚，敌不可得而乘也。我实其实，将以从敌也。我虚其虚，将以疑敌也。我其实虚，将以违敌也。我虚其实，将以致敌也。虚实之机，变生于敌，渊微之妙，鬼神莫知，然后能徇敌而成功。

夫敌兵强而骤进者，气之暴也。师老而遽退者，罢之极也。舍而不我逼者，虑有巧也。去而不我追者，惧有谋也。分兵以战，中军潜突而敌不悟者，迷于害也。合战少却，左右掩击而敌不虞者，汨于利也。累挫之敌，不烦顿旅，示之以旌而可遁者，余威之所震也。故伤弓之鸟，可以虚下，决蹢之兽，可以惊奔。

其藏机误敌之妙，使之履危蹈险而不觉，诚如投于水火中。故敌欲战而不能胜也，欲守而不能固也，欲分而不能散也，欲合而不能集也，欲进而不能前也，欲退而不能去也，欲动而不能奋也，欲静而不能安也，欲伸而不能张也，欲缩而不能敛也。以我较之，无

分于主客，有机存焉。则彼虽众，亦何虑其不敌哉？

是以善用兵者，无时不能为之挠，地形不能为之阻，惟能因机而制变，择利以行权，则电雾风雪为之资，险易广狭为之用。

## 战形第九

夫兵有战之形，有所以战之形。鼓行旌指，兵刃相搏，战之形也。虚实藏势，向背隐机，所以战之形也。故知战之形非难，而能知所以战之形为难。能知所以战之形，则能因形以措胜。因形以措胜者，上智也。

战有必胜之形者五：得天之时者胜，得地之利者胜，得敌之情者胜，得士之心者胜，得事之机者胜。此五胜者，虚实之势也。将之用其形者，得其一，胜之基；得其二，胜可期；得其三，胜可必；得其四，民乃归；得其五，天下无敌。

战有必败之形者五：谋人而使人知者败，诈人而使人识者败，间人而使人反者败，乘人而使人觉者败，攻人而使人袭者败。此五败者，向背之机，用其形者之失也。五者之中，若有其一，敌无人焉，犹或庶几，敌如有人，败复何疑？

故知兵之士，审其虚实，察其向背，以我量敌，以敌量我。敌得胜之形，我虽无败之形，难保其不败也。敌有败之形，我虽无胜之形，可冀其能胜也。况胜在敌而败在我，败在敌而胜在我哉！吾两持度之，胜负可知矣。

是以因形而推之以制战。敌饱我饥，则掠不容缓。敌众我寡，则险不容失。敌强我弱，则谋不可以不急。敌攻我守，则备不可以不周。敌佚我劳，则锐不可以不蓄。敌动我静，则变不可以不图。此不惟知胜之形，而且知制胜之术者也。

明乎此者<sup>②</sup>，虽未合战，而胜之形已在于目中。不明乎此，而强以战，徒多杀兵耳。

## 方术第十

兵也者，以巧取胜者也。故通小术者，可以集大事；精小艺者，可以成大功。术不厌卑陋，艺不厌微贱，惟兵为然也。

彼刻木为鸟，束藁为人，树栅为城，结草为阵者，所以形敌而使疑也。

川流可引，山陵可通，丘阜可移，桥梁可易者，所以违害而邀利也。

发机转车，激轮行舟，裂布悬幢，燃火飞枪者，所以利吾之用也。

连鸡纵火，封鸽代谋，驯猕劫营<sup>③</sup>，驱兽突重者，所以因物之利也。

洒水冻涂，浮尘蔽淖，机桥陷马，阙地罗兵者，所以设害敌也。

火焚舟楫，水灌都城，飞石撞垣，掷钩取物者，所以达兵之不及也。

联牛以导水，拜井以求泉，积冰以成垣，列桩以缓浪，所以济兵之穷也。

火可以动机，水可以运轴，物可以变迁，人可以出没者，所以愚敌而使之不测也。

故兵可为妖，可为怪，可为神灵，可为鬼魅。

是以狐鸟告祥，鬼灾告异，神甲昼见，魔兵夜出，所以骇其耳目，乱其心志，使之奔走惶惑，而不能与我战也。

甚至风可以祭而得，雨可以祷而求，云雾雷电可以术而致。千变万化无穷者，莫非所以佐吾之胜也。

若夫幻妄之术，亦世之不能无者。敌或借之以为用，而我犹不可以不知，故谍之所告，心当预明。

彼百步之外，数里之内，忽焉而有营屯之壮丽，兵马之浩瀛，近听不闻鏖甲之声。远听不闻钲鼓之震者，幻也。

壁垒之上，乌爵不飞，甲兵之覆，众且骇窜，突然而有猛兽毒蛇，入我营阵，能狂奔踉跄，不能搏击吞噬者，幻也。

山陵川原，自有定位。忽焉高山峻岭，

塞阻路歧，巨浪洪涛，望洋无际，林木森布，火焰四张，土人所不及知，乡导所不能辨者，幻也。

至驾芦为云，剪纸为马，抛石扬沙，驱雷走电，乘草龙以入阵，飞宝剑以击人者，幻也。

夫方术之术，实理也。幻妄之术，妖邪也。御方术者以机权，破幻妄者以刚正，则我有以胜敌，而敌无以胜我矣。

## 物略第十一

天下之物理，有相生者，有相克者，有相感者，有相成者，有相制者，有相胜者，有言其性体者，有言其声气者，有言其形势者，有言其作用者。杂然并撰<sup>①</sup>，分类别行<sup>②</sup>，凡有利于兵之事者，不可胜穷也，姑举大略言之。

圆者易转，方者易置，敲者易仆，直者易植，窍者易浮，锐者易刺，牝者易变，牡者易入，刚者易折，柔者易曲。此皆物理之常，无足为异。

金火相守则流。

火木相得则炎。

以金击石则火，以木钻木则燃。

又若火遇风则炽，遇水则灭。水遇寒则结，遇火则竭。

火虚则不燃，实则易烬<sup>③</sup>。水流则不腐，止则易温。

下火既炎，则上火益焰。下流既远，则上流自缓。

此五行之本体然也。

故以火焚石者，激之而后裂。以水灌城者，决之而后倾。

是以备水攻者，当防其上流。御火攻者，当断其上风。

盖火可扑也，亦可煽也。水可壅也，亦可导也。此水火者所以济攻而非专攻，所以攻人亦虑人之反攻也。

天下之物，犹有人火不焚者，入水则沉，

入水不溺者，入火则化。欲制其用者，亦不可不利导之也。

向日窥林者暗，背月窥林者明，此光影之相乘也。故备夜战者，以火烛敌，常使我隐而敌见也。

顺风而飞则翼张，逆风而行则肩竦，此顺逆之相反也。故惊尘突烟，借施之，虽百万之众可奔也。

甃口藏声，室隙传响，此声闻之相通也。故谷中语如附耳，山头语如对面。而山谷之应声，亦可资之以助兵威也。

脩见谿旱<sup>④</sup>，鹊呼多晴，鸠暮鸣则雨，鸢朝戾则风，半体之鱼虽死，悬其波可以知海潮，之信者。此气之相感也。

磁石引针，贡汁镕锡<sup>⑤</sup>，鼈脂得火则销铁，柏膏遇焰则烁石，梓木燃灯遇风不灭，樟脑熟火近衣不焚者，此性之自然也。

火晶向日则燃艾，锻石入井则起雷，火焚鸡羽而风飏生，铁入蛟潭而雷雨至，此形之相击，而理亦相通者也。

金杯注酒，遇鸩则焰生<sup>⑥</sup>。银箸尝食，遇毒则色变。饮酒入瘴乡，则烟岚不染<sup>⑦</sup>。列炬过深涧，则阴气不侵。此物相胜也。

角烟弥山，可怖山兽。鞠烟覆水，可制水蛭<sup>⑧</sup>。野葛之毒<sup>⑨</sup>，解于薤菜。鸩羽之毒，解于犀角。此物之相制也。

肉可晒之以作糗<sup>⑩</sup>，谷可庾之以为粮，鱼可干之以备羹，乳可取之以供酪。在山有榛栗之实，在水有菱芡之米，皆可采之以济饥者。此物之有用也。

社狸之足<sup>⑪</sup>，可制锋革<sup>⑫</sup>。牦牛之尾，可著旌竿。牛马之胞，可作浮具。狼、驼之粪，可备烽烟。此以无用为有用也。

妖狐巨狸之迹，踵之可以渡河水。野马黄羊之踪，循之可以得水道。以至驼足之所据，蚁垤之所筑者，可即之而知伏泉。此因物之灵以为用也。

是以知兵之士，察物之理，究物之用，总括其利，不遗微小，则虽百万之众无所穷，千里之远无所困。

## 地纪第十二

凡地之大势有六：一曰要地，二曰营地，三曰战地，四曰守地，五曰伏地，六曰邀地。

要地者，山川之上游，水陆之都会，可以跨据控引者也。

营地者，背高而面下，进阔而退平，利水草，可依傍者也。

战地者，平原广野之冲，草浅土坚之处，可驰骋突击者也。

守地者，川流环抱之区，山坂峻险之塞，相为联络而不断者也。

伏地者，层山广谷之中，茂林蓊翳之所，可以藏匿诱引者也。

邀地者，间道歧路之乡，关塞要津之扼，可阻绝而横击之者也。

此六者，兵家之善地也。得之者胜，失之者败。得失之机，将当先知也，而地之利害不与焉。

故山陵川泽者，地之所有也。广隘、夷、险、易、阻者，地之自然之形也。趋、避、向、背者，人之用地之利也。凿山、穿陵、引川、涸泽者，变地之形以为之利也。

故苟得其利，则虽彼强而我弱，彼众而我寡，轻重之势，若不可支，足以抗之而取捷也；彼佚而我劳，彼饱而我饥，虚实之势，若不可变，足以徂之而无损也；彼车而我骑，彼骑而我徒，侵軼之势，如山如风，足以当之而莫毒也。

是以知兵之士，按舆图之纪，采乡导之言，察去取之实，以为临敌之用，则地之利害可尽知矣。

故建城邑者，择沃塞<sup>⑨</sup>。襟江河者，占上流。处林麓者，求水泉。屯洲渚者，备樵采。近草楚者，防火攻。依谷口者，忌水激。居湾下者，警决灌。傍冈阜者，虞窃窥。战平易者，设险于其间。值迂隘者，陈兵于其外。

然犹有一定者。山围水绕，不败之规

也。居高视下，可胜之基也。绝涧峭峰，必危之方也。卑湿沮淖，丧生之域也。

盖彼利则我害，我利则被害，利害相悬，困难与敌。然彼利而致之，则其险可夺。被害而促之，则其众可歼。我利而守之，则彼不得逞。我害而反喝之，则彼亦疑而不敢逼也。

夫得利者，不可怠其心。失利者，不可挫其气。不怠其心，警师是也。不挫其气，激众是也。警吾师，则敌不得以乘其隙。激吾众，则士知必死，而皆毕力以奋争矣。

## 天经第十三

寒暑推迁者，运也。日月星辰者，象也。风云雨雪，阴雾雷电者，化也。孤虚旺相者，数也。

推步、测候、风角、鸟占者，皆能稽考之<sup>⑩</sup>，以为惑世诬民之术。故天文可以佐吾之用兵，而非可恃以为必胜也。

夫运有通塞，象有盈亏，化有盛衰，数有休咎。或以为灾，或以为祥，或以利我，或以害敌，皆以达其用也。

彼可以疲耗人之气者，寒暑也。可以挫奋人之志者，星辰也。可以劳毙人之力者，雨雪也。可以骇乱人之心者，雷电也。可以迷障人之目者，阴雾也。

又如雨可以资水攻，风可以助火势。月夜阴夜，大雾大雪，时日之孤虚，支干之旺相，皆可以乘人而亦防人之乘我也。此实将之当熟谙者。

凡将三军，不可使人心疑畏。将三军而重其疑畏，未有能济者也。

故警惑于偶然之变，震惊于卒然之异者，惟当决之以理。可使吾民知其祥，而不可使其知其灾，可使吾民见其利，而不可使其见其害。夫不使知、不使见者，非能塞人之耳目也，诡之而已矣。

故祥而归之我，灾当归之敌，利而归之我，害当归之敌。任其运之通塞，象之盈亏，

化之盛衰，数之休咎，而皆有变通之方。

故虽斗蚀彗孛，不能为吾妖。疾雷走电，不能为吾惧。凄风苦雨，不能为吾忧。寒暑雾雪之异常，甲子往亡之忌日，不能为吾阻。若此者，所以反其灾害而为祥利，定民之疑，顺事之机，以制吾之胜者也。

虽然，此乃人谋也，亦有自然之天命焉。战于睢水而风大起，渡于滹沱而冰乍合，马涉混同而水及腹，兵驻江沙而潮不至。则又天命之不可违，而非人谋之所能为也。善兵者，尽吾人谋之可为，以听天命之不可违而已。至于成败利钝，有所不计也。

注释：

①殆：危险。②妨：害也。③擐，披之于身也。冑，盔也。④术：法之巧也。⑤病：犹害也。⑥瘳：愈也。⑦洞：清空无碍也。⑧横：无远不屈也。⑨薄：大众逼垒也。⑩中：国内也。⑪灾：害也。⑫权：称锤也。⑬虞：意料。⑭仁：如汉高之约法三章。暴：如项羽之所过残灭。⑮坚敌：则天下诸侯共灭楚，而各战其地以自效。⑯违：去也。⑰木偶：有人形而无知识。⑱猛兽：逞狂跳而乏机智。⑲贤：犹愈也。⑳噬：吃，吞。㉑荷(hè)：持。㉒朦瞶：目不明也。㉓三才：天地人。㉔六花：左右虞侯各一，左右一箱各一，左右二箱各一，其形六出，乃李靖所制。㉕八阵：天、地、风、云、龙飞、虎翼、鸟翔、蛇蟠，乃风后所制。㉖薄：逼近也。㉗冲：旗竿也。㉘玩：废时藐视也。㉙此：文中指上述六事皆制胜之术。㉚猕：猴也。㉛撰：具也。㉜类，相同也。行，等列也。㉝烬：焚尽之余也。㉞修：修螭，状如黄蛇，鱼翼，出人有光，见则大旱。㉟汞汁：即今之水银。㊱鸩：毒鸟，食蛇，以羽画酒，饮之即死。㊲烟岚：山之毒气。㊳蜃：巨虚，兽名一曰蜃蛻也。㊴野葛：蔓草，根有毒。㊵糗：干糒也。㊶社狸：野猫也。㊷脩革：其皮可饰轡也。㊸沃：膏腴也。塞：险固也。㊹稽：考。

## 《守城要览》

题解

《守城要览》，明末宋祖舜撰，计4卷，94章，约2.3万字。

该书较为系统地论述了守城作战的一般谋略，详细介绍了各种冷兵器和各种火器的制造及使用方法，是我国军事史上论述守城作战谋略的重要著作。作者对于城市防御主张以战代守、守中有攻、攻守结合，这种思想颇有借鉴价值。

### 守城总论

兵法曰，守城之道，“无恃其不来，恃吾有以待之；无恃其不攻，恃吾有所不可攻”。故“善守者，敌不知其所攻”。非独为城高、池深、卒强、粮足而已，必在乎智虑周密，计谋变幻。或彼不来攻而我守，或彼不挑战而我击，或多方以挠彼师，或屡出以振我师，或彼求斗而我不出，或彼欲去而惧我袭。若此者，皆古人所以坐而役使敌国之道也。此虽得御攻之计，然尤要必审可守之利害。凡守城之道有五败：一曰壮夫寡小弱众；二曰城大而人少；三曰粮寡而人众；四曰畜货积于外；五曰豪强不用命。加之外水高而城内低，土脉疏而池湟浅<sup>①</sup>，守具未足，薪水不供，虽有高城亦不能守。有五全：一曰城隍修<sup>②</sup>；二曰器械具；三曰人少而粟多；四曰上下相亲；五曰刑严赏重。加之得大山之下，广川之上，高不近旱而水用足，下不近水而沟防省，因天时，就地利，土坚水流，险阻可恃。兼此形势，守则有余。故兵法曰：“城有不可攻”，又曰：“善守者，藏于九地之下”，皆谓此也。凡守之道，敌来逼城，静默而待，无辄出拒，候其矢石可及，则以术破之。若遇主将自临，度其便利，以强弩丛射，飞石并击毙之，则军声阻丧，其势必遁。若得敌人称降及和，切勿弛备，当益加守御，

防其诈我。若敌攻已久，不拔而去，此为疲师，可蹶而袭之<sup>③</sup>，必破。此又寄之明哲<sup>④</sup>，见利而行，不可拘以常格也。

## 出奇解围

城内器械已备，守御已得，当出奇用诈，以战代守，以击解围。先为暗门，或因贼初至，营阵未整；或暮夜乘贼不觉；或贼攻城初息；或贼围久已息，潜出精骑，衔枚击之<sup>⑤</sup>。击败不必远袭。或我兵已出，贼突门而入，则自城上向里连下巨石击压，以断其人。又或于起更时悬一高灯，上书“出城劫寨”四字，不时击鼓数通，如出战之状，使贼一夜不得安稳。而我预诫城中之人，守垛者照旧守垛，睡觉者各自睡觉，将我逸而彼劳，不久自退。

注释：

①湟：低洼积水之处。 ②陞：没有水的护城壕。 ③蹶：追踪。 ④明哲：明智，指能正确处置战场情况。 ⑤衔枚：口中含枚。枚，外形如箸，两端有带，可系于颈上，古代进军袭击敌人时，常令士兵衔在口中，以防喧哗。

## 《乾坤大略》

题解：

《乾坤大略》，明末清初学者王余佑著，共10卷，约6万字。

该书主要论述了以下十个重要战略问题：兵起先知所向，兵进必有奇道，初起之兵遇敌以决战为上，决战之道在于出奇设伏，乘胜略地莫过于招降，功取必于要害，据守必审形势，立国在有规模，兵聚必资屯田，克敌在勿欲速。作者坚持反清立场，其著此书目的在于“致中兴，赞大业”，“求古今帝王得失成败之机”，给当时或后世起兵反清者提供作战谋略。该书的特点是不“谈兵”（指战术），只“谈略”（指战略）。

## 兵起先知所向

兵之未起，其说甚长，不必详矣。已起矣，贵进取，贵疾速。进取则势张，疾速则机得。呼吸间耳，成败判焉，此之不可不知所向也。而所向又以敌之强弱为准。敌弱或可直冲其腹，敌强断宜傍翦其支<sup>①</sup>，此定理也。翦其支者云何？曰避实而击虚也，乘胜而趋利也。避实击虚，则敌骇不及图，如自天而下；乘势趋利，则我义声大振，而远近向风。不观唐太宗之趋咸阳乎？进乃胜矣；不观黥布之归长沙乎？退乃败矣。微乎！其不可以一瞬失也。霸王大略，此其首矣，故不惜备录之。知其说者，夫固无余蕴焉耳<sup>②</sup>。若夫一时之利钝，一事之坚瑕<sup>③</sup>，又何足云！

## 初起之兵遇敌以决战为上

兵之进也，固有所过城邑不及下者矣，必以战乎？曰非我乐战也，不得已而与敌遇，非战无以却之。盖兵既深入，则敌必并力倾国，以图蹂荡我气，恐我声势之成。此而不猛战疾斗，一为所乘，鱼散鸟惊，无可救矣。诚能出其不意，一战以挫其锐，则敌众丧胆，我军气信，志定威立，而后可攻取以图敌。古所谓一战而定天下，其在斯乎！汉光武之于昆阳，唐太宗之于霍邑，可以观也。昔沈田子以千余人遇姚泓数万之众于青泥，其言曰：兵贵用奇，不必在众，今众寡不敌，势不两立，若彼围既固，则我无所逃，不如击之，遂败泓兵。此深机要旨，百虑不易之道也。

注释：

①支：指其本义去竹之枝。翦其支，即剪断其枝叶。 ②余蕴：更深奥的道理。 ③坚瑕：强弱。

## 《间 书》

### 题解:

朱逢甲字莲生，清代华亭(今上海市松江)人，累试不第，弃文习武，曾参加镇压黔贵一带的农民及少数民族起义。

朱逢甲从古代典籍中搜集间谍史料，于咸丰5年(1855)写成《间书》。书中历举始于夏代的少康使女浇间尧之事，以及商代的伊尹、战国时期的孔子弟子子贡、汉代的酈食其、三国时期吴国的俞赞、唐代的唐俭和阡能等历史人物都是间谍。书中对“间谍”一词作了考证，对古代军事名著中的间谍论作了印证、说明，根据清朝国内状况，指出了使用间谍的时机，强调了间谍活动在战争中促使敌对双方力量消长的独特作用，从军事谋略的角度，说明了间谍的战略及战术意义。书中以具体可信的历史事件，论证了《孙子》中乡间、内间、反间、死间、生间等“五间”以及《李卫公兵法》中间亲、间能、间助、间邻、间左右等兵家权谋的效用，评价了古来战争中用间的得失，对间谍的种种使用方法，进行全面的分析和概述。

《间书》涉猎广博，史料详尽，论说精恰，有极高的研究价值。作者著书的用意，是为了向清廷献策，以提高朝廷军队的战斗力，镇压农民起义，其目的是不可取的。而作为一部中国古代间谍史，在我国军事思想史上，则占有一定的地位。它是研究古代间谍活动以及军事谋略理论的系统重要参考资料。

圣门高弟如子贡，尝用间以成功矣。

《李卫公兵法》云<sup>①</sup>：子贡、史鰌、陈轸、苏秦、张仪、范雎等，皆凭此术以成功。

按：子贡用间事见《论语》。

《论语·屈节解》云：孔子在卫，闻田常将欲为乱<sup>②</sup>，而惮高、国、鲍、晏<sup>③</sup>，因欲移其兵以伐鲁。孔子闻之，

会诸弟子而告之曰：“夫鲁，坟墓所处，父母之国，不可不救。今吾欲屈节于田常以救鲁，二三子谁为使？”子贡请行，孔子许之。遂行，至齐。说田常曰：“夫鲁者，难伐之国，而君伐之，过矣。”田常曰：“鲁何难伐也！”子贡曰：“其城薄以卑，其地狭以泄，其君愚而不仁，其大臣伪而无用，其士民又恶甲兵之事，此不可与战。君不若伐吴。夫吴，城高而厚，池广以深，甲坚以新，士选以饱，重器精兵尽在其中，又使明大夫守之，此易伐也。”田常忿然作色曰：“子之所难，人之所易，子之所易，人之所难。而以教常，何也？”子贡曰：“臣闻之：夫忧在内者，攻疆。忧在外者，攻弱。今君忧在内，吾闻君三封而三不成者，大臣有不听者也。今君又欲破鲁以广齐，战胜以骄主，破国以尊臣，而君之功不与焉。则交日疏于主。是君上骄主心，下恣群臣，求以成大事，难矣。夫上骄则恣，下恣则争。是君上与主有却，下与大臣交争也。如此，则君之立于齐，危矣。故曰：‘不如伐吴。’伐吴不胜，民人外死，大臣内空，是君上无疆臣之敌，下无民人之过，孤主制齐者，唯君也。”田常曰：“善。虽然，吾兵业已加鲁矣。去而之吴，大臣疑我，奈何？”子贡曰：“若缓师，吾请往见吴王，令之救鲁而伐齐，君因以兵迎之。”田常许诺。子贡遂南见吴王曰：“臣闻之：王者不绝世，霸者无疆敌，千钧之重，加铢两而移。今以万乘之齐，而私千乘之鲁，与吴争疆，甚为王患之。且夫救鲁，显名也。伐齐，大利也。以抚泗上诸侯<sup>④</sup>，威暴齐而服疆晋，利莫大焉。名存亡鲁，实困疆齐，愿王不疑也。”吴王曰：“善。虽然，吾尝与越战，栖之会稽<sup>⑤</sup>，越王今苦身养士，有报吴之心，待我伐越然后可。”子贡曰：“越之劲不过鲁，吴之疆不过齐，王置齐而伐越，则齐必私鲁矣。且王方以存



亡继绝为名，夫伐小越而畏疆齐，非勇也。夫勇者不避难，仁者不穷约<sup>⑥</sup>，智者不失时，义者不绝世。今存越，示诸侯以仁；救鲁伐齐，威加晋国。诸侯必相率而朝吴，霸业成矣。若王必恶越，臣请东见越君，令出兵以从，此实空越，名从诸侯以伐也。”吴王大悦。乃使子贡之越。越王除道、郊迎，身御至舍而问。子贡曰：“今者吾说吴王以救鲁伐齐，其志欲之，而心畏越。曰：‘待我伐越然后可。’如此则破越必矣。且夫无报人之志，而令人疑之，拙也；有报人之意，而令人知之，殆也；事未发而先闻者，危也。三者：举事之大患也。”越王顿首再拜曰：“孤少失前人，内不自量<sup>⑦</sup>，乃与吴战，困于会稽，痛入于骨髓，日夜焦唇干舌，欲与吴王接踵而死，孤之愿也。”遂问子贡，子贡曰：“吴王为人暴猛，群臣不堪；国家敝于数战，士卒弗忍；百姓怨上，大臣内变；子胥以谏死<sup>⑧</sup>，太宰嚭用事<sup>⑨</sup>，顺君之过，以安其私，此则报吴王之时也。今王诚发士卒佐之，以徼其志，重宝以悦其心，卑辞以尊其礼，其伐齐必矣。彼战不胜，王之福矣。战胜，必以兵临晋，请北见晋君，令共攻之。吴锐兵尽于齐，重甲困于晋，而王制其敝<sup>⑩</sup>，此灭吴必矣。圣人所谓屈节，以求伸者也。”越王大悦。许诺。送子贡金百镒<sup>⑪</sup>，剑一，良矛二。子贡不受，遂行报吴。后五日，越王尽境内之兵，使大夫种<sup>⑫</sup>，顿首言于吴王曰：“东海役臣勾践使者臣种：敢修下吏，问于左右。今闻大王将兴大义，诛暴救弱，困暴齐而抚周室，请尽起境内士卒三千人，孤请自被坚执锐，以先受矢石，因越贱臣种，奉先人藏器甲二十领，铁<sup>⑬</sup>屈卢<sup>⑭</sup>之矛，步光之剑，以贺军吏。”吴王大悦。以告子贡曰：“越王欲身从寡人伐齐，可乎？”子贡曰：“不可。夫空人之国，悉人之众，又从其君，

不义，君受其币许其师，而辞其君。”吴王许诺。乃谢越王。于是吴王乃遂发九郡之兵以伐齐，子贡因去之晋，谓晋君曰：“臣闻之：虑不先定不可以应卒，兵不先办不可以胜敌。今夫齐与吴将战，彼战而不胜，越乱之必矣。与齐战而胜，必以其兵临晋。”晋君大恐，曰：“为之奈何？”子贡曰：“修兵休卒以待之。”晋君许诺。子贡去而之鲁。吴王果与齐人战于艾陵，大破齐师，获七将军之兵而不归，果以兵临晋，与晋人相遇黄池之上。吴、晋争疆。晋人击之，大败吴师。越王因之涉江袭吴，去城七里而军。吴王闻之，去晋而归，与越战于五湖。三战不胜，城门不守，越遂围王宫，杀夫差而戮其相。破吴三年，东向而霸。故子贡一出，存鲁，乱齐，破吴，强晋而霸越。

按：此子贡用间事。《国语》、《越绝书》、《吴越春秋》、《史记》皆载之，与《家语》所载，大略相同。子贡之间，即《孙子》“五间”之“生间”也。其间齐、吴、越、晋即《李卫公兵法》“间邻”之法也。而其策特妙，其辨尤精。

古兵书若《孙子》、《吴子》皆重用间。必用间，乃能先知敌情。必用间，乃能离散敌众也。

《孙子·用间篇》云：明君贤将，所以动而胜人，成功出于众者，先知也。先知者，不可取于鬼神，不可象于事，不可验于度，必取于人而知敌之情者也。非圣者，不能用间。非微密者，不能得间之实。《吴子》云：善行间谍，轻兵往来，分散其众，使其上下相咎，是谓事机。

古名将若李牧、信陵、韩信、李光弼之伦，亦皆重用间。

《史记·廉颇传》云：李牧者，赵之良将也。常居代雁门，备匈奴。谨烽火<sup>⑮</sup>。多间谍。

《史记·信陵君传》云：魏公子信陵君，与魏王博<sup>⑯</sup>，而北境传举烽，言赵

寇至，且入界。魏王释博，欲召大臣谋。公子止王曰：“赵王田猎耳，非为寇也。”复博如故。王恐，心不在博。居顷，复从北方来传言曰：“赵王猎耳，非为寇也”。魏王大惊曰：“公子何以知之？”公子曰：“臣之客有能探得赵王阴事者。赵王所为，客辄以报臣。臣以此知之。”

按：用兵贵知己知彼。而欲知彼，则必用间乃能知。且知，贵知之于事先。敌将至得为备，敌非至得毋恐。《孙子·用间篇》云：明君贤将，所以动而胜人，成功出于众者先知也。信陵用客为间，能先知赵猎非寇，倘赵寇非猎，信陵亦必先知也。信陵长于用间。与《孙子》之言，“英雄所见略同。”考《史记》信陵所著有《魏公子兵法》。其书言用间必精，今《孙子》十三篇传，而《魏公子兵法》不传，可惜也。且信陵善间，而后魏王中秦间，信陵竟以间废，亦可慨矣。

《史记·淮阴侯传》云：韩信兵欲东下井陘击赵。赵王成安君聚兵井陘口，号二十万。广武君李左车说成安君曰：“韩信远斗，臣闻千里馈粮<sup>①</sup>，士有饥色。今井陘之道，车不得方轨<sup>②</sup>，骑不得成列，其势粮必在后。愿假臣奇兵三万人，从间道绝其辎重<sup>③</sup>。足下坚营，勿与战。彼前不得斗，退不得还。吾奇兵绝其后，不至十日，两将之头可致于戏下”<sup>④</sup>。成安君不听，广武君策不用。韩信使人间视，知其不用。还报，大喜，乃敢引兵遂下。大破赵军，斩成安君，禽赵王歇。

按：韩信使间往视，知广武策不用，乃进击，自是要着。使用而进，则为擒矣；不用而不进，则失机矣。进退之当，全在使间一视。今之军行进止，可不间视哉。

《唐书·李光弼传》云：饶阳贼五千至九门，光弼谍知之，提轻兵欽旗鼓，伺贼方饭，袭杀之且尽。

按：信陵以间而按兵，光弼以间而锐进，惟先知虚实也。欲知虚实，在先用间。

白名将之遇名将也，用间者胜。若秦白起之与赵廉颇遇，皆名将也，秦用间，则秦胜矣。秦王翦之与李牧遇，亦皆名将也，秦又用间，则秦又胜矣。

《史记·廉颇传》云：秦与赵兵相距长平，赵使廉颇将，固壁不战，秦数挑战，廉颇不肯。赵王信秦之间。秦之间言曰：“秦独畏马服君赵奢之子赵括为将耳”。赵王因以括为将代廉颇。赵括既代廉颇，悉更约束，易置军吏。秦将白起闻之，纵奇兵佯败走，而绝其粮道，分断其军为二，士卒离心。四十余日，军饿，赵括出锐卒自搏战，秦军射杀赵括。括军败，数十万之众遂降秦，秦悉阬之<sup>①</sup>。

又云：秦使王翦攻赵，赵使李牧、司马尚御之。秦多与赵王宠臣郭开金，为反间。言李牧、司马尚欲反。赵王乃使赵葱及齐将颜聚代李牧。李牧不受命，赵使人微捕得李牧，斩之。废司马尚。后三月王翦因急击赵，杀赵葱，虏赵王迁及其将颜聚，遂灭赵。

按：廉颇、李牧，皆赵将。皆为秦所间。牧为郭开间死，颜后又为郭开间废。《史记》云：赵王思复廉颇，使使视尚可用否。廉颇之仇郭开多与使者金，令毁之。使者既见廉颇。颇为之一饭斗粟，肉十斤，被甲上马，以示可用。使还报王曰：廉将军虽老，尚善饭。然与臣坐，顷之三遗矢矣<sup>②</sup>。赵王以为老。遂不召。以一郭开，而间二良将，后之为三军者，尚其勿轻听细人之言哉。

论用间之法，《孙子》所言之五间，最为精微详尽。

《孙子》云：用间有五：有乡间、有内间、有反间、有死间、有生间。五间俱起，莫知其道，是为神纪<sup>③</sup>。

五间一曰乡间：因其乡人为间也。

《孙子》云：乡间者，因其乡人而用之。注云：因敌乡人知敌表里虚实之情，故就而用之，可使伺候也。

二曰内间：因其党羽为间也。

《孙子》云：内间者，因其官人而用之。注云：因其在官失职者，若刑戮之子孙，与受罚之家，因其有隙，就而用之。

按：即寇之党羽伪官而用为间，为内间；即其城中受害之民而用为间，亦内间也。

三曰反间：即用敌间而反间之也。

《孙子》云：反间者，因其敌间而用之者也。注云：敌使间来视我，我知之，因厚赂重许，反使为我间也。萧世诚《孙子》注云：言敌使人来候我，我佯不知而示以虚事，前却期会，使师相语<sup>④</sup>，是曰反间。

《李卫公兵法》云：若敌使人来欲推虚实，察我动静，觇知事计而行其间者。当佯为不觉，舍其厚利而善啖之。微以我伪言诳事，示以前却期会，即我之所须，为彼之所失者。因其有间而反间之，彼若将我虚以为实，我即承其弊而得其志矣。

四曰死间：以罪人为间，死其间以行吾之间也。

《孙子》云：死间者，为诳事于外，令吾间知之。而传于敌间者也。注云：作诈诳之事于外，佯漏泄之，使吾间知之，吾间至敌中，为敌所得。必以诳事谕敌，敌从而备之，吾所行不然，间则死矣。又云：敌间来，闻我诳事，以持归，然皆非所图也。二间皆不能知幽隐深密，故曰死间也。

萧世诚《孙子》注云：所获敌人及已叛亡军士，有重罪系者，故为贷免，相敕勿泄。佯不秘密，令敌间窃闻之。吾因纵之使亡，亡必归，敌必信焉，往必死，故曰死间。

五曰生间：以智者为间，间既行，而生还报我也。

《孙子》云：生间者，反报者也。注

云：择已有贤才智谋，能自开通于敌之亲贵，察其动静，知其事计，彼所为已知其实还报，故曰生间。

五间相济成，而以反间为乡间、内间、生间、死间之本。

《孙子》云：凡军之所欲击，城之所欲攻，必先知其守将、左右谒者、门者、舍人之姓名。注云：谒告也，主告事者也。门者，守门者。舍人，守舍之人。先知之，有急则呼之。不见呵止，亦因此知敌之情。令吾间必索知之。敌之间来间我者，因而利之，导而舍之。注云：舍，居止也。令吾人遗以重利，复导而舍止之，则可令诡其辞。故反间可得而用也。因是而知之，故乡间、内间可得而使也。注云：因敌反间而知敌情，乡间、内间者，皆可得使。因是而知之，故死间为诳事，可使告敌。因是而知之，故生间可使如期。五间之事，主必知之。注云：人主当知五间之用，厚其禄，丰其财。知之必在于反间，故反间不可不厚也。注云：反间，五间之本，事之要也，故当在厚待。

秘密以神其用，厚赏以结其心，始可以用间。

《孙子》云：三军之亲，莫亲于间。注云：若不亲抚，重以禄赏，则反为敌用，泄我情实。赏莫厚于间。注云：厚赏之赖其用。事莫密于间。注云：间事不密，则为己害。间事未发，而先闻其间者，与所告者皆死。

《李卫公兵法》云：凡间皆须隐密，重之以赏，密之又密，始可行焉。

按：《史记》言：秦求晋鄙客间信陵也，行金万金。汉使陈平间楚也，出黄金四万斤，听所为。盖非重金，不能行间也。今饷既匮矣，万不能以如许金行间。然过吝金，亦间不行。莫若汰兵练而选锐。锐选则饷减，而以所减饷金之半，行间。斯两得之矣。至于行间贵密，则《大易》言之矣：“机事不密则害

成”。兵机皆贵密，不独用间为然也。而用间尤宜密。

不密则楚建之事可为鉴。

《左传·哀公十六年》云：楚太子建辟华氏之乱于郑，郑人甚善之。又适晋，与晋人谋袭郑，乃求复焉。郑人复之如初。晋人使谍于子木请行而期焉。注云：请行袭郑之期。子木即建也。子木暴虐于其私邑，邑人诉之，郑人省之，得晋谍焉。遂杀子木。

不厚则苏辙之言可为戒。

苏辙云：太祖用将备边，皆厚之以关市之征，饶之金帛之赐。是以死力之士，贪其金钱，捐躯命冒患难，深入敌国，刺其阴计而效之，至于饮食动静无不毕见。每有人寇，辄先知之。故其所备者寡，而兵力不分。今则不然，所谓公使钱，多者不过数千缗<sup>⑤</sup>。百须在焉。监司又伺其出入，而绳之以法。至于用间，则曰官给茶绿<sup>⑥</sup>。夫百饼之茶，数束之绿，其不足以易人死也明矣。是以今之为间者，皆不足恃。听传闻之言，采疑似之事，其行不过于出境，而所闻不过于熟户，敌情不可得。臣愿陛下择任将帅而厚之以财。使多养间谍之士，以为耳目。虽有强敌，不敢辄近。

《李卫公兵法》所言五间，与《孙子》相表里。一曰因邑人，即乡间也。二曰因任子，即内间也。三曰因敌使，即反间也。四曰择贤能，即生间也。五曰缓罪戾，即死间也。

《李卫公兵法》云：间之道有五：有因其邑人，使潜伺察而致词焉。有因其任子，故泄虚假令告示焉。有因敌之使，矫其事而返之焉。有审择贤能，覘彼向背虚实，而归说之焉。有佯缓罪戾，微漏我伪情浮计，使亡报之焉。

卫公论间，又有间亲、间能、间助、间邻、间左右诸间法。

《李卫公兵法》云：夫战之取胜，此岂求之于天地，在乎因人以成之。历观

古人之用间，有间其君者，有间其亲者，有间其能者，有间其助者，有间其邻好者，有间其左右者，有间其纵横者<sup>⑦</sup>。

按：间君，若子贡之于吴越是也。间亲，若秦间之于信陵是也。

间能，若苏厉之于白起是也。

《战国策》云：苏厉谓周君曰：“败韩、魏，杀犀武，攻赵，取蔺、离石、祁者，皆白起。是故用兵，又有天命也。今攻梁，梁必破，破则周危，君不若止之”。谓白起曰：“楚有养由基，善射，百发百中。有一人过曰：‘善射可以教射矣’。养由基曰：‘人皆善，子乃曰可教射。子何不代我射之也’。客曰：‘百发百中，而不以善息，少焉气力卷，弓拨矢钩，一发不中，前功尽矣’。今公之功甚多，今公又以秦兵过两周，践韩攻梁，一攻而不得，前功尽灭，公不若称疾不出也”。

间助，若张孟谈之于韩、魏是也。

《战国策》云：智伯<sup>⑧</sup>、韩、魏三国之兵，乘赵之晋阳城。赵王之臣张孟谈阴见韩、魏之君曰：“臣闻唇亡则齿寒，今智伯帅二国之君伐赵，赵将亡矣。则二君为之次矣”。二君曰：“为之奈何？”张孟谈曰：“谋出二君之口，人臣之耳，人莫之知也”。二君即与张孟谈阴约三军为之期，杀守隄之吏<sup>⑨</sup>，而决水灌智伯军，禽智伯。

间邻，若张仪之于楚王是也。

《战国策》云：秦欲伐齐，齐楚之交善，惠王患之。谓张仪曰：“奈何？”张仪曰：“臣请试之。”南见楚王曰：“齐王之罪，其于敝邑之王甚厚，敝邑欲伐之，而大国与之欢。是以敝邑之王，不得事令。而仪不得为臣也。大王苟能闭关绝齐，臣请使秦王，请商于之地方六百里。若此齐必弱，齐弱则必为王役矣。则是北弱齐，西德于秦，而私商于之地以为利也。则此一计而三利俱至。楚王大悦。使使绝齐。齐秦之交阴合。楚使受地。张仪曰：“从某至某广从六里”。<sup>⑩</sup>

楚王大怒伐秦，秦与齐合，韩氏从之，楚兵大败。

间左右，若秦间之于郭开是也。

间纵横，若燕人之于苏秦是也。

方今于间能、间助、间邻诸间法，正可神明变化而用之。

卫公又言：敌之腹心，傍诱以间之。

《李卫公兵法》云：若敌有宠嬖<sup>①</sup>任以腹心者。我当使间遗其珍玩，恣其所欲，因而诱之。

按：敌之宠嬖、腹心，傍诱以间。若张仪以厚币事楚怀王之用事靳尚，而设诡辩于怀王之宠姬郑袖是也。

敌之失势，利啗以间之<sup>②</sup>。

《李卫公兵法》云：敌有失势，不满其志者，我则啗以重利，诡相亲附，探其情实而致之。

夸诞者，尊奉以间之。

《李卫公兵法》云：敌有多词夸诞，好论利害者，我则使间，曲情尊奉，厚遗珍宝，揣其所间而反间之。

稽留者<sup>③</sup>，潜听以间之。

《李卫公兵法》云：稽留其使，令人与之共处，矫致殷勤，伪相亲暱，朝夕慰谕，倍供珍玩，观其辞色而察之。仍

旦暮令使独与己伴居，我遣聪耳者潜于复壁中听所闻使。既迟违，恐被怪责。必是窃心事。我知事计，遣而用之。

然此诸间法，犹非用间之深焉者也。尝考古今用间，以成大功者，千变万化，微乎其微，略举其尤著者言之。

注释：

①李卫公：唐代李靖，善用兵。②田常：春秋时齐国大臣。③高、国、鲍、晏：高张、国夏、鲍书牙、晏婴，春秋时齐国大夫。④泗：泗河。⑤栖：息止。⑥穷约：毁约。⑦内：自己。⑧子胥：伍子胥，春秋时吴国大夫。⑨太宰：古官名。𦡔𦡔(pǐ 否)：伯𦡔，春秋时吴王夫差任为太宰，喜逢迎。⑩敝：弊。⑪鎰(shì 市)：古代重量单位。⑫种：文种，春秋宋越国大夫。⑬铁(fū 肤)：斧。⑭屈卢：矛名。⑮谨：小心。⑯博：局戏。⑰愧：供给。⑱方轨：两车并行。⑲輜(zī 资)重：军中粮草、器械等。⑳戏(huī 灰)下：同麾下。㉑阬：同坑，活埋。㉒矢：屎。㉓纪：道。㉔师：回到自己军中。㉕缙(mín 民)：串钱的绳子。㉖茶缘：茶叶与綵帛。㉗纵横者：纵横家。㉘智伯：战国时晋国人。㉙隄：堤。㉚广从(zòng 纵)：纵横。㉛宠嬖(pì 毕)：宠爱。㉜啗(dàn 淡)：引诱；利诱。㉝稽留：逗留，滞留。

## 五、经济谋略卷

### 引言

张 珉

中国是具有数千年历史的文明古国，中国古代素称发达的农业和手工业，有文字可考的商业可以上溯到商周时代，在唐宋时期，中国就已出现了资本主义经济的萌芽。中国古代经济的繁荣与发达，为经济谋略思想的产生与发展创造了有利的条件。在几千年的中国历史上，不少人既是著名的政治家、军事家、外交家；同时又是杰出的理财家、经济学家。他们有实践、有理论。他们的经济谋略思想，至今仍有值得研究、学习和借鉴之处。

管仲为春秋时期的大政治家，又是杰出的经济谋略家。他曾于公元685年被齐桓公任命为卿，相齐40年。管仲在改革齐国内政之初，就明确提出“仓廩实而知礼节，衣食足而知荣辱”的思想，把物质生产和物质生活作为政治和伦理观念的基础。由此出发，他认为要使农业生产必须不滥用民力，不夺农时，不夺民富；按耕地的土质好坏征收差额赋税，使农耕者的租赋负担趋于合理，劳动者与土地的结合就会趋于稳定，劳动者就不会再逃亡。管仲还认为，仅有农业的发展是不够的。根据齐国的地理环境和经营工商业的传统，他认为必须发挥工商业在国家物质生产和财富积累中的作用。努力发展盐业和渔业，发展手工制造业。为此，他主张对工商业实行不征税收的政策，以鼓励商人经

商，山川湖泽等自然资源应由国家运用轻重之术进行调节；对“士农工商”实行四民分业，使“士之子恒为士”、“工之子恒为工”，“商之子恒为商”、“农之子恒为农”，以收分工固定化之效。在他的谋划下，齐国“通货积财，富国强兵”，国力空前强盛，成为春秋时期第一个称霸中原的大国。

《管子》一书，虽非管仲所作而托名管仲，但显然反映的是管仲的思想。这部书内容极为丰富，涉及政治、经济、军事、哲学以及自然科学等领域，在我国历史上曾产生过积极影响。这部书有不少篇章是专论经济谋略的，对后世的影响很大，其后历代谈论经济政策的人几乎无不祖述管仲。

商鞅是战国中期的政治家、改革家、法家学派的代表人物。他出身卫国公族，原姓公孙，名鞅，后因功受封于商地，尊为商君，故称为商鞅。在秦孝公下令求贤时，他应招入秦，向孝公讲强国的谋略，提出变法主张，被孝公任用。在秦两次实行变法，前后达20年之久。秦孝公利用变法作为推动社会向前发展的谋略手段，获得了成功。两次变法，加速了社会经济变革和集权政体的形成，调动了广大农民的积极性，使秦国很快富强起来。为秦统一中国奠定了基础。

《商君书》原有29篇，现存24篇。商鞅在这部书的不少篇中，都论述了他重农抑商发

展经济的谋略思想。“垦令”篇集中论述重农政策的具体办法二十种。此外，在“算地”、“屯言”、“薪令”、“外内”诸篇中，也都是论述重农、抑商、重战、抑儒谋略思想。总之，商鞅的改革、经济谋略思想对后世的影响也是很大的。

晁错生活在匈奴不断侵扰和封建经济基础薄弱的西汉前期。他曾任太子家令、御史大夫等职。他也是我国历史上著名的经济谋略家。他的经济对策思想主要表现在重农贵粟和移民实边两方面。晁错从生活的现实出发，认为要使国家富强起来就必须重农抑商，而实现这一目标仅靠法律是无效的。晁错认为，现在要用法律低商人的社会地位，可商人的地位已经很高了；要提高农人的地位，农夫已经贫贱了。在此种情况下，只有采取提高粮食及农业生产在国家经济生活中的地位（即“贵粟”）的方法抑商。他主张富人向国家多交纳谷物可以拜爵捐官，也可以免除徭役，减征赋税。这样，人们就会努力发展农业，增产粮食，从而使民有衣食、国力强盛。移民实边，就是把百姓迁移到边地安家落户。晁错认为，为使移民“相慕而劝往”并能够在那里安居乐业，必须妥善解决他们在生产和生活中遇到的困难，尤其解决他们的食、衣、住、医以及婚配问题。这样，就有利于抗击匈奴的侵扰，有利于巩固边防，也有利于开发边疆，增加生产。晁错的上述谋略，对当时和以后的中国封建社会经济政策发生了一定的影响，他的贵粟谋略在当时的实践中取得了显著的成效。

桑弘羊是西汉时期杰出的理财家。他是洛阳人，出身于商人家庭，历任大农丞、治粟都尉。御史大夫等要职，执掌中央财政大权长达30余年。汉武帝即位后，为抗击匈奴军事侵扰，在财政上需要相当大的支出，而当时有关国计民生的冶铁、煮盐、铸钱等重要经济行业，却依然控制在富商大贾和地方豪强之手。在这种情况下，桑弘羊竭力主张，有关国家经济命脉的盐铁业须由官营，酒应

由政府专卖，铸币权也应归属中央，在流通领域中国家必须掌握大量物资、运输手段和人力，并设立专门的机构，当市场价格过低时收购同类商品，反之则抛售同类商品，以此调剂供求，稳定物价。桑弘羊上述这些经济谋略、理财主张，正是“盐铁会议”上争论的焦点，也是《盐铁论》中所反映的重要内容。

陈亮是南宋思想家，著名理财家。婺州永康人（今浙江永康）。他毕生主张抗金斗争，多次上书请求改革弊政。针对宋朝财权高度集中于中央的现实，他坚决主张分财权于各郡县，这便是陈亮的财政分权论。在《上孝宗皇帝第一书》中，陈亮建议：停止收聚地方之利以充实国库的做法，留给郡县一部分财政收入，任其自用。虽然陈亮的这一建议连同其它主张均未被采纳，但他关于分财权于地方以充分发挥地方财权职能的思想，在高度集权的中国封建社会里，是难能可贵的。

明朝万历九年（1581年），内阁首辅张居正将一条鞭法推行全国。一条鞭法的实施，结束了中国历史上赋、役平行征收的形式，使税制化繁为简，并役于赋，使徭役中的人身强制和依附关系得以松弛；实物税改为货币税后，促进了中国货币经济的发展。这些经济谋略思想都有利于减轻农民的赋役负担，有利于政府的财政收入，也有利于促进社会经济的发展。

“摊丁入亩”，为清代赋役制度的重大改革。清初的赋役制度沿用明朝的一条鞭法，人丁仍然负担一定赋税。在社会经济恢复和发展的条件下，雍正元年（1733年）清政府接受直隶巡抚李维钧的建议，颁发“摊丁入亩”的诏令。摊入田亩之银额，各省各地参差不齐，多者亩加二三钱，少者一二厘。四川、湖南等省以粮为单位计算，多者加八钱，少者一毫。因守旧势力的反对，各省各地实施并非平衡，改革历时半个多世纪，乾隆后期基本完成。这种经济谋略思想的实施，从此，

取消了两千年征税的双重标准，实行单一的土地税，在一定程度上减轻了人民的负担，有利于社会经济的发展。

鸦片战争打开了中华帝国的大门，西方资本主义国家开始侵入中国，中国社会开始变为半殖民半封建社会。深重的民族灾难，刺激着一些有识之士向西方学习，寻求富国强兵的谋略。太平天国后期洪仁玕根据他自己接受的西方资本主义思想，撰写了《资政新篇》，主张学习西方科学技术，革新政治，发展资本主义经济的种种谋略，标志着中国经济谋略思想由古代开始向近代转化。

十九世纪八、九十年代，资本主义列强掀起瓜分中国的狂潮，经过中法战争与中日甲午战争，中国社会危机更加严重。此时，维新派发动了变法运动。康有为、梁启超、谭嗣同等人力主变法图强，向西方学习先进的科学技术，发展资本主义经济，以救中国。变法运动虽然失败了，但变法派向西方学习的主张，企图用发展资本主义经济的谋略思想，拯救中国的精神并没有死。其中康有为1913年发表的《理财救国论》，在如何发展资本主义经济方面，论述尤为详尽。康文说：“以吾此说行之，先定国民银行，以集中央银行之资本公债，而发行纸币于上；各省县乡有组合银行以交通国民于中；有劝业兴业银行、股票交通所以裕民于下；有正金银行以平通汇兑，借贷外债于外；有特权银行以辟富源，佐边用于边，数者并举，而中国犹患贫者，未之有也”。尽管康有为的经济谋略主张在当时的条件下难以实施，但他极力主张学习西方先进科学技术，先进管理方法，主张办银行，制纸币，设股票交易所等，无疑对中国发展资本主义经济是有益的。

从根本上来说，几千年来中国封建社会的思想家、政治家发展社会经济的谋略大都是“重农抑商论”，又称崇本抑末论或重农轻商论。即提高农业在国民经济中的地位，抑制工商业发展。在先秦思想家看来，农业和与之相结合的家庭手工业为“本”业；而奢侈

品的生产与流通则是“末”业（后来末业的范围又扩大至整个工商业，西汉以后则更多的是商业）。他们认为，农业稳定与发展是朝廷征收赋税、保证兵源和保持社会秩序稳定的基础；而从事“末作奇巧者，一日作而五日食”，相对农田耕作具有力微利重的特点，因而对农业劳动力吸引力很强，是瓦解农业经济稳定性的危险因素。有鉴于此，从管仲、商鞅、韩非时代起，直至中国封建社会末期，在参政的文人，学者和谋士中，大都把重农抑商思想作为其经济谋略的重要组成部分。其经济主张和经济政策分为重农和抑商两个部分。重农包括劝农措施，颁布重农诏令；以奖励和免除徭役为手段提倡农耕；实行纳粟赏官，纳粟赎罪办法；减轻赋税、徭役以刺激农业发展。抑商包括贬低商人的社会地位，规定他们不得仕宦为官，并规定一有市籍，三代不许做官，以商人作为谪戍的主要对象；在经济上“重租税以困辱之”，采取禁榷制度，对盐铁等关系国计民生的重要产品实行国家专卖，专营等等。重农抑商论反映了在自然经济占统治地位的条件下，封建思想家重视农业，轻视及要求限制工商业的治国主张。这一谋略思想，对巩固新兴的封建制度起了积极的作用。重农的主张在今天也有一定的积极意义，但也有阻碍商品经济发展的一面。因此，要批判地继承和汲取。

## 《管子》

### 题解：

管仲（？—前645），名夷，春秋时期的政治家，颖上人（安徽颍上）。少时经商，公元前685年被齐桓公任命为卿，相齐40年。管仲在改革齐国内政之初，明确提出“仓粟实而知礼节，衣食足而知荣辱”的思想，把物质生产和物质生活作为政治和伦理观念的基础。由此出发，他认为要使农业生产发展必须不滥用民力，不夺农时，不夺民富；按耕地的土质好坏征收差额赋税，使农耕者的租



赋负担趋于合理,劳动者与土地的结合也更趋于稳定,因而劳动者便不会再逃亡。

《管子》一书,涉及经济领域的内容,在我国历史上曾产生过积极影响。为了发展封建经济,书中强调了实行“重本抑末”的经济谋略。这里所说的本、末关系,是指农业和商业的关系。这部书不少篇章有所专论如何发展经济。其中《国蓄》是具有代表性的经济专论。作者着重论述“利出一孔”的方针和实行“轻重”之术的重要。它的主要内容是:一、“利出一孔”是巩固中央集权制经济基础的重要保证。“利出一孔”则“其国无敌”,利出多孔则“其国必亡”,故必须控制粮食和货币;二,“轻重”之术,是实现“利出一孔”方针的必要手段。“岁有凶穰”,“物有轻重”,国家如不进行调节,就会使富商大贾“乘民之不给,百倍其本”。因此,国家必须运用其政治经济力量,调剂供给,平衡物价,掌握流通领域。三、“大贾蓄家”是贯彻执行“利出一孔”方针的主要打击对象。经济专论《治国》,着重论述实行“重农抑商”对促进农业发展,富国强兵的重要意义。《乘马数》是阐述经济政策的短文。文章着重从农业方面提出一些具体的经济谋略和措施。作者主张,依据年景的好坏,“岁藏三分”,保证国家有充足的粮食储备;根据农民的生产能力,制定相应的财政经济政策(“持流”),防止商人富豪在下面操纵,使国家财经计划落空;运用粮食的价格,控制“万物”价格的涨落;按照土地的好坏,规定租税的数额(“相壤定籍”),使农民安于农业生产。《乘马》篇,作者着重从经济角度提出治理国家的五条施政原则,其中特别就土地和赋税制度提出了一系列的改革主张和措施。《海王》篇,是论述盐铁专卖政策的短文。盐铁是关系到国计民生的重要物资。但是,长期以来,山海资源大都为工商大贾所把持,因此,作者主张“官山海”,实行盐铁官营政策,这也是“重农抑商”政策的体现,这对于加强中央集权,发展封建经济,是有积极意义的。总之,管仲和《管子》

一书,所体现的经济谋略思想是很可贵的。

## 立政篇

一曰,山泽不救于火,草木不植成,国之贫也<sup>①</sup>;二曰,沟渎不遂于隘,障水不安其藏,国之贫也<sup>②</sup>;三曰,桑麻不植于野,五谷不宜其地,国之贫也<sup>③</sup>;四曰,六畜不育于家,瓜瓠荤菜百果不备具,国之贫也;五曰,工事兢于刻镂,女事繁于文章,国之贫也<sup>④</sup>。故曰,山泽救于火,草木殖成,国之富也;沟渎遂于隘障,水安其藏,国之富也;桑麻植于野,五谷宜其地,国之富也;六畜育于家,瓜瓠荤菜百果备具,国之富也;工事无刻镂,女事无文章,国之富也。

脩火宪<sup>⑤</sup>,敬山泽林藪积草,夫财之所出,以时禁发焉,使民于宫室之用,薪蒸之所积,虞师之事也<sup>⑥</sup>。决水潦、通沟渎、修障防,安水藏,使时水虽过度,无害于五谷。岁虽凶旱,有所粉穫<sup>⑦</sup>,司空之事也<sup>⑧</sup>。相高下,视肥境,观地宜,明诏期前后,农夫以时均脩焉,使五谷桑麻皆安其所,申田之事也<sup>⑨</sup>。行乡里,视宫室,观树艺,简六畜,以时钧脩焉,劝勉百姓使力作毋偷,怀乐家室,重去乡里,乡师之事也。论百工,审时事<sup>⑩</sup>,办功苦,上完利<sup>⑪</sup>,监壹五乡,以时钧脩焉,使刻镂文采,毋敢造于乡,工师之事也<sup>⑫</sup>。

## 五辅篇

田畴垦而国邑实,朝廷闲而官府治,公法行而私曲止,仓廩实而囹圄空,贤人进而奸民退,其君子上中正而下谄谀,其士民贵武勇而贱得利,其庶人好耕农而恶饮食,于是,财用足而饮食薪菜饶,是故,上必宽裕而有解舍,下必听从而不疾怨,上下和同而有礼义,故处安而动成,战胜而守固,是以一战而正诸侯。不能为政者,田畴荒而国邑虚,朝廷凶而官府乱,公法废而私曲行,仓

廩虚而囷圉实，贤民退而奸民进，其君子上谄而下中正，其士民贵得利而贱武勇，其庶人好饮食而恶耕农，于是，财用匮而饮食薪菜乏，上弥残苛而无解舍，下愈覆鸷而不听从，上下交引而不和同，故处不安而动不威，战不胜而守不固，是以小者兵挫，而地削。大者身死而国亡，故以此观之，则政不可不慎也。德有六兴，义有七体，礼有八经，法有五务，权有三度。所谓六兴者何？曰，辟田畴，利坛宅，修树艺，劝士民，勉稼穡，修墙屋，此谓厚其生，发伏利，输滞积，修道途，便关市，慎将宿，此谓输之以财，导水潦，利陂沟，决潘渚，溃泥滞，通鬱闭，慎津梁，此谓遗之以利。

## 八观篇

行其田野，视其耕耘，计其农事，而饥饱之国可以知也。其耕之不深，芸之不慎，地宜不任，草田多秽，耕者不必肥，荒者不必烧，以人猗计其野<sup>③</sup>，草田多而辟田少者<sup>④</sup>，虽不水旱，饥国之野也。若是而民寡，则不足以守其地；若是而民众，则国贫民饥；以此遇水旱，则众散而不收。彼民不足以守者，其城不固；民饥者不可以使战；众散而不收<sup>⑤</sup>，则国为丘墟。故曰，有地君国而不务耕耘，寄生之君也。故曰：行其田野，视其耕耘，计其农事，而饥饱之国可知也。

行其山泽，观其桑麻，计其六畜之产，而贫富之国可知也。夫山泽广大，则草木易多也；壤地肥饶，则桑麻易植也；荐草多衍，则六畜易繁也。山泽虽广，草木毋禁；壤地虽肥，桑麻毋数；荐草虽多，六畜有征；闭货之门也<sup>⑥</sup>。故曰，时货不遂，金玉虽多，谓之贫国也。故曰：行其山泽，观其桑麻，计其六畜之产，而贫富之国可知也。

课凶饥<sup>⑦</sup>，计师役<sup>⑧</sup>，观台榭，量国费，而实虚之可知也。凡田野万家之众，可食之地方五十里<sup>⑨</sup>，可以为足矣；万家以上，则

就山泽可矣；万家以下，则去山泽可矣。彼野悉辟而民无积者，国地小而食地浅也；田半垦而民有余食而粟米多者，国地大而食地博也；国地大而野不辟者，君好货而臣好利者也；辟地广而民不足者，上赋重、流其藏者也。故曰，粟行于三百里，则国毋一年之积；粟行于四百里，则国毋半年之积；粟行于五百里，则众有饥色。其稼亡三之一者，命曰小凶<sup>⑩</sup>，小凶三年而大凶，大凶则众有遗殍矣<sup>⑪</sup>。什一之师，什三毋事，则稼亡三之一。稼亡三之一，而非有故积也，则道有捐瘠矣；什之一师，三年不解，非有余食也，则民有鬻子矣。故曰，山林虽近，草木虽美，宫室必有度，禁发必有时。是何也？曰，大木不可独伐也，大木不可独举也，大木不可独运也，大木不可加之薄墙之上。故曰，山林虽广，草木虽美，禁发必有时；国虽充盈，金玉虽多，宫室必有度；江海虽广，池泽虽博，鱼鳖虽多，网罟必有正<sup>⑫</sup>。船网不可一财而成也。非私草木爱鱼鳖也，恶废民于生谷也。故曰，先王之禁山泽之作者，专民于生谷也。彼民非谷不食，谷非地不生，地非民不动，民非作力，毋以致财。天下之所生，生于用力；力之所生，生于劳身。是故主上用财毋已，是民用力毋休也。故曰，台榭相望者，其上下相怨也。民毋余积者，其禁不必止；众有遗殍者，其战不必胜；道有捐瘠者，其守不必固。故令不必行，禁不必止，战不必胜，守不必固，则危亡陡其后矣。故曰：课凶饥，计师役，观台榭，量国费，而实虚之国可知也。

## 事语篇

桓公问管子，曰：事之至数可闻乎？管子对曰，何谓至数？桓公曰：秦奢教我曰，惟盖不修，衣服不众，则女事不泰，俎豆之理不致牲，诸侯太牢，大夫少牢，不若此则六畜不育，非高其台榭，美其宫室，则群材不散，此言何如，管子曰，非数也。桓公曰，

何谓非数，管子对曰：此定壤之数也，彼天子之制，壤方千里，齐诸侯，方百里，负海，子七十里，男五十里，若胸臂之相使也，故准徐疾赢不足，虽在下也，不为君忧，彼壤狭而欲举，与大国争者，农夫寒耕暑芸，力归于上，女勤于缉绩徽织，功归于府者，非怨民心，伤民意也，非有积蓄，不可以用人，非有积财，无以劝下，泰奢之数，不可用于危隘之国，桓公曰：善。

彼善为国者，壤僻举则民留处，仓廩实则知礼节，且无委致圉，城脆致冲，夫不定内不可以持天下，佚田之言非也，管子曰：岁藏一，十年而十也；岁藏二，五年而十也；谷十而守五，绌素满之，五在上，故视岁而藏，县时积岁，国有十年之蓄，富胜贫。

## 海王篇

桓公问管子曰：“吾欲籍于台榭<sup>①</sup>，何如<sup>②</sup>？”管子对曰：“此毁成也。”“吾欲籍于树木。”管子对曰：“此伐生也。”“吾欲籍于六畜。”管子对曰：“此杀生也。”“吾欲籍于人，何如？”管子对曰：“此隐情也<sup>③</sup>。”桓公曰：“然则吾何以为国？”管子对曰：“唯官山海为可耳<sup>④</sup>。”桓公曰：“何为官山海？”管子对曰：“海王之国<sup>⑤</sup>，谨正盐策。”桓公曰：“何谓正盐策？”管子对曰：“十口之家，十人食盐；百口之家，百人食盐。终月大男食盐五升少半，大女食盐三升少半，吾子食盐二升少半，此其大历也。盐百升而釜。令盐之重，升加分缗，釜五十也；升加一缗，釜百也；升加二缗，釜二百也。钟二千，十钟二万，百钟二十万，千钟二百万。万乘之国，人数开口千万也，偶策之，适日二百万，十日二千万，一月六千万。万乘之国，正人百万也，月人三十钱之籍，为钱三千万。今吾非籍之诸君吾子，而有二国之籍者六千万。使君施令曰：‘吾将籍于诸君吾子’，则必嚣号。今夫给之盐策<sup>⑥</sup>，则自倍归于上，人无以避此者，数也。”

“今铁官之数曰：一女必有一针、一刀，若其事立；耕者必有一耒、一耜、一铤，若其事立<sup>⑦</sup>；行服连轺辇者，必有一斤、一锯、一锥、一凿，若其事立。不尔而成事者，天下无有。令针之重加一也，三十针一人之籍。刀之重加六，五六三十，五刀一人之籍也。其余轻重皆准此而行。然则举臂胜事，无不服籍者。”桓公曰：“然则国无山海不王乎？”管子曰：“因人之山海假之，命有海之国售盐于吾国，釜五十吾受而官出之以百。我未与其本事也，受人之事以重相推<sup>⑧</sup>，此用人数也。”

## 国蓄篇

国有十年之蓄，而民不足于食，是皆以其技能望君之禄也。君有山海之金<sup>①</sup>，而民不足于用，是皆以其事业交接于君上也。故人君挟其食，守其用，据有余而制不足。故民无不累于上也。

五谷粟米，民之司命也。黄金刀币，民之通施也。故善者执其通施以御其司命<sup>②</sup>，故民力可得而尽也。夫民者亲信而死利<sup>③</sup>，海内皆然。民予则喜，夺则怒，民情皆然。先王知其然，故现予之形，不现夺之理，故民爱可洽于上也。征籍者，所以强求也，租税者，所虑而请也。王霸之君，去其所以强求，废其所虑而请，故天下乐从也。

利出于一孔者，其国无敌；出二孔者，其兵半屈；出三孔者，不可以举兵；出四孔者，其国必亡。先王知其然，故塞民之羨<sup>④</sup>，隘其利途<sup>⑤</sup>，故予之在君，夺之在君，贫之在君，富之在君，故民之戴上知日月，亲君若父母。

凡将为国，不通于轻重<sup>⑥</sup>，不可为笼以守民；不能调通民利，不可以语制为大治。是故万乘之国有万金之贾<sup>⑦</sup>，千乘之国有千金之贾。然者何也？国多失利，则臣不尽其忠，士不尽其死矣。岁有凶穰<sup>⑧</sup>，故谷有贵贱；令有缓急，故物有轻重。然而人君不能

治，故使蓄贾游市，乘民之不给，百倍其本。分地若一，强者能守；分财若一，智者能收。智者有十倍人之功，愚者有不赙本之事。然而人君不能调，故民有相百倍之生也。

夫民富则不可以禄使也，贫则不可以罚威也。法令之不行，万民之不治，贫富之不齐也。且君引锱量用<sup>③</sup>，耕田发草土得其数矣；民人所食，人有若干步亩之数矣。计本量委则足矣。然而民有饥饿不食者何也？谷有所藏也。人君铸钱立币<sup>④</sup>，民庶之通施也，人有若干百千之数矣。然而人事不及用不足者何也？利有所并也。然则人君非能散积聚，均羨不足，分并财而调民事也，则君虽强本趣耕，而自为铸币而无已，乃今使民下相役耳，恶能以为治乎？

岁适美则市粟无予，而狗彘食人食<sup>⑤</sup>；岁适凶则市粟釜十缗<sup>⑥</sup>，而道有饥民。然则岂壤力固不足而食固不赡也哉<sup>⑦</sup>？夫往岁之粟贱，狗彘食人食，故来岁之民不足也。物适贱，则半分而无予。民事不偿其本<sup>⑧</sup>；物适贵，则十倍而不可得，民失其用。然则岂财物固寡而本委不足也哉？夫民利之时失而物利之不平也。故善者委施于民之所不足，操事于民之所有余。夫民有余则轻之，故人君敛之以轻；民不足则重之，故人君散之以重。敛积之以轻，散行之以重，故君必有十倍之利，而财之扩可得而平也<sup>⑨</sup>。

凡轻重之大利，以重射轻，以贱泄贵。万物之满虚随时，准平而不变，衡绝则重见。人君知其然，故守之以准平。使万室之都必有万钟之藏<sup>⑩</sup>，藏缗千万；使千室之都必有千钟之藏，藏缗百万。春以奉耕，夏以奉耘，耒耜械器，种穰粮食<sup>⑪</sup>，毕取贍于君，故大贾蓄家不得豪夺吾民矣。然则何？君养其本谨也。春赋以敛缗帛，夏贷以收秋实，是故民无废事，而国无失利也。

凡五谷者，万物之主也，谷贵则万物必贱，谷贱则万物必贵，两者为敌则不俱平<sup>⑫</sup>。故人君御谷物之秩相胜，而操事于其不平之间。故万无籍而国利归于君也。夫以室庀

籍<sup>⑬</sup>，谓之毁成；以六畜籍，谓之止生；以田亩籍，谓之禁耕；以正人籍<sup>⑭</sup>，谓之离情；以正户籍，谓之养羸。五者不可毕用，故王者偏行而不尽也。故天子籍于币，诸侯籍于食。中岁之谷，粟石十钱。大男食四石，月有四十之籍，大女食三石，月有三十之籍；吾子食二石，月有二十之籍。岁凶谷贵，粟石二十钱，则大男有八十籍，大女有六十之籍，吾子有四十之籍<sup>⑮</sup>。是人君非发号令收畜而户籍也，彼人君守其本委谨，而男女诸君吾子无不服籍者也<sup>⑯</sup>。

一人廩食，十人得余；十人廩食，百人得余；百人廩食，千人得余。夫物多则贱，寡则贵，散则轻，聚则重。人君知其然，故视国之羨不足而御其财物。谷贱则以币予食<sup>⑰</sup>，布帛贱则以币予衣，视物之轻重而御之以准，故贵贱可调，而君得其利。

前有万乘之国而后有千乘之国，谓之抵国<sup>⑱</sup>。前有千乘之国而后有万乘之国，谓之距国<sup>⑲</sup>。壤正方四面受敌，谓之衢国<sup>⑳</sup>。以百乘衢处谓之托食之君，千乘衢处壤削太半，万乘衢处壤削少半。何谓百乘衢处托食之君也？夫以百乘衢处，危懼围阻千乘万乘之间，大国之君不相中，举兵而相攻，必以为扞扞蔽圉之用。有功利不得殫，大臣死于外，分壤而功，列阵系累获虏，分禄而赏，是壤地尽于功赏，而税藏殫于继孤也，是特名罗于为君耳。无壤之有，号有百乘之守，而实无尺壤之用，故谓托食之君。

然则大国内款<sup>㉑</sup>，小国用尽，何以反此？曰：百乘之国，官赋轨符<sup>㉒</sup>，乘四时之朝夕，衡之以轻重之准，然后百乘可及也。千乘之国，封天财之所殖<sup>㉓</sup>，械器之所出，财物之所生，视岁之满虚而轻重其准，然千乘可足也。万乘之国，守岁之满虚，乘民之缓急，正其号令而御其大准，然后万乘可资也。

玉起于禺氏<sup>㉔</sup>，金起于汝汉，珠起于赤野，东西南北距周七千八百里，水绝壤断，舟车不能通。先王为其途之远，其至之难，故托用于其重，以珠玉为上币，以黄金为中

币，以刀布为下币。三币握之则非有补于暖也，食之非有补于饱也，先王以守财物，以御民事，而平天下也。今人君籍求于民，令曰十日而具，则财物之价十去一；令曰八日而具，则财物之价十去二；令曰五日而具，则财物之价十去半；朝令而夕具，则财物之价十去九。先王知其然，故不求于万民，而籍于号令也。

## 治国篇

凡治国之道<sup>①</sup>，必先富民，民富则易治也，民贫则难治也。奚以知其然也？民富则安乡重家，安乡重家则敬上畏罪，敬上畏罪则易治也；民贫则危乡轻家，危乡轻家则敢凌上犯禁，凌上犯禁则难治也。故治国常富，而乱国常贫。是以善为国者，必先富民，然后治之。

昔者，七十九代之君<sup>②</sup>，法制不一，号令不同，然俱王天下者，何也？必国富而粟也。夫富国多粟生于农，故先王贵之。凡为国之急者，必先禁末作文巧<sup>③</sup>。末作文巧禁则民无所游食，民无所游食则必事农，民事农则田垦，田垦则粟多，粟多则国富。国富者则兵强，兵强者战胜，战胜者地广。是以先王知众民、强兵、广地、富国之必生于粟也，故禁末作、止奇巧而利农事。今为末作奇巧者，一日作而五日食；农夫终岁之作，不足以自食也。然则民舍本事而事末作。舍本事而事末作<sup>④</sup>，则田荒而国贫矣。

凡农者月不足而岁有余者也，而上征暴急无时，则民倍贷以给上之征矣；耕耨者有时，而泽不必足，则民倍贷以取庸矣；秋采以五，春采以束，是又倍贷也；关市之租，府库之征，十一之粟<sup>⑤</sup>，厮舆之事<sup>⑥</sup>，此四时亦当一倍贷矣。故以上之征，而倍取于民者四。夫以一民养四主，故逃徙者刑而上不能止者，粟少而民无积也。

常山之东<sup>⑦</sup>，河汝之间，早生而晚杀，五谷之所蕃熟也，四种而五获。中年亩二石，

一夫为粟二百石。今也仓廩虚而民无积，农夫以鬻子者<sup>⑧</sup>，上无术以均之也。故先王使农、士、商、工四民交能易作<sup>⑨</sup>，终岁之利无道相过也，是以民作一而得均。民作一则田垦，奸巧不生。田垦则粟多，粟多则国富，奸巧不生则民治。富而治，此王之道也。

不生粟之国亡，粟生而死者霸，粟生而不死者王。粟也者，民之所归也；粟也者，财之所归也；粟也者，地之所归也。粟多则天下之物尽至矣。故舜一徙成邑，二徙成都，参徙成国。舜非严刑罚重禁令，而民归之矣。去者必害，从者必利也。先王者善为民除害兴利，故天下之民归之。所谓兴利者，利农事也。所谓除害者，禁害农事也。农事胜则人粟多，人粟多则国富，国富则安乡重家，安乡重家则虽变俗易习，驱众移民，至于杀之而民不恶也。此务粟之功也。上不利农则粟少，粟少则人贫，人贫则轻家，轻家则易去，易去则上令不能必行，上令不能必行则禁不能必止，禁不能必止则战不必胜，守不必固矣。夫令不必行，禁不必止，战不必胜，守不必固，命之曰寄生之君。此由不利农少粟之害也。粟者，王之本事也，人主之大务，有人之途，治国之道也。

## 乘马数篇

桓公问管子曰：“有虞策马已行矣<sup>⑩</sup>，吾欲立策乘马<sup>⑪</sup>；为之奈何？”管子对曰：“战国修其城池之功，故其国常失其地用；王国则以时行也。”桓公曰：“何谓以时行？”管子对曰：“出准之令，守地用人策，故开阖皆在上<sup>⑫</sup>，无求于民。霸国守分，上与下游于分之间而用足。王国守始，国用一不足，则加一焉；国用二不足，则加二焉；国用三不足，则加三焉；国用四不足，则加四焉；国用五不足，则加五焉；国用六不足，则加六焉；国用七不足，则加七焉；国用八不足，则加八焉；国用九不足，则加九焉；国用十不足，则加十焉。人君之守高下，岁藏三分<sup>⑬</sup>，十

年则必有三年之余。若岁凶旱水溢，民失本事，则修宫室台榭，以前无狗后无彘者为佣。故修宫室台榭，非丽其乐也，以平国策也。今至于其亡策乘马之君，春秋冬夏不知时，终始作功起众，立宫室台榭，民失其本事，君不知其失诸春策<sup>⑭</sup>，又失诸夏秋之策数也，民无檀卖子数也<sup>⑮</sup>。猛毅之人淫暴，贫病之民乞请，君行律度焉，则民被刑戮而不从于主上。此策乘马之数亡也。乘马之准，与天下齐准。彼物轻则见泄，重则见射，此斗国相泄，轻重之家相夺也。至于王国，则持流而止矣。”桓公曰：“何谓持流？”管子对曰：“有一人耕而五人食者，有一人耕而四人食者，有一人耕而三人食者，有一人耕而二人食者，此齐力而功地。田策相圆<sup>⑯</sup>，此国策之时守也<sup>⑰</sup>。君不守以策，则民且守于下，此国策流已。”

桓公曰：“乘马之数，尽于此乎？”管子对曰：“布织财物，皆立其贵。财物之贵与币高下，谷独贵独贱。”桓公曰：“何谓独贵独贱？”管子对曰：“谷重而万物轻，谷轻而万物重。”桓公曰：“践策乘马之数奈何？”管子对曰：“郡县上腴之壤守之若干<sup>⑱</sup>，间壤守之若干，下壤守之若干，故相壤定籍而民不移。赈贫补不足，下乐上。故以上壤之满，补下壤之虚。章诸四时，守诸开阖，民之不移也，如废方于地。此之谓策乘马之数也。”

## 乘马篇

凡立国都，非于大山之下，必于广川之上<sup>⑲</sup>。高毋近旱而水用足，下毋近水而沟防省。因天材，就地利，故城郭不必中规矩，道路不必中准绳。

无为者帝，为而无以为者王，为而不贵者霸。不自以所贵，则君道也；贵而不过度，则臣道也。

地者政之本也，朝者义之理也，市者货之准也，黄金者用之量也，诸侯之地千乘之国者器之制也。五者其理可知也，为之有

道。

地者政之本也，是故地可以正政也。地不平均和调，则政不可正也。政不正则事不可理也。春秋冬夏，阴阳之推移也；时之短长，阴阳之利用也；日夜之易，阴阳之化也。然则阴阳正矣，虽不正，有余不可损，不足不可益也，天也，莫之能损益也。然则可以正政者地也，故不可不正也。正地者，其实必正。长亦正，短亦正，小亦正，大亦正，长短大小尽正。正不正则官不理，官不理则事不治，事不治则货不多。是故何以知货之多也？曰事治；何以知事之治也？曰货多。货多事治，则所求于天下者寡矣，为之有道。

朝者义之理也。是故爵位正而民不怨，民不怨则不乱，然后义可理。不正则不可以治，而不可不理也。故一国之人不可以皆贵，皆贵则事不成而国不利也；为事之不成国之不利也，使无贵者则民不能自理也。是故辨于爵列之尊卑<sup>⑳</sup>，则知先后之序，贵贱之义矣，为之有道。

市者货之准也。是故百货贱则百利不得，百利不得则百事治，百事治则百用节矣。是故事者生于虑，成于务，失于傲，不虑则不生，不务则不成，不傲则不失。故曰市者可以知治乱，可以知多寡，而不能为多寡，为之有道。

黄金者用之量也。辨于黄金之理则知侈俭，知侈俭则百用节矣。故俭则伤事，侈则伤货。俭则金贱，金贱则事不成，故伤事。侈则金贵，金贵则货贱，故伤货。货尽而后知不足，是不知量也；事已而后知货之有余，是不知节也。不知量，不知节，不可谓之有道。

天下乘马服牛，而任之轻重有制。有一宿之行，道之远近有数矣。是知诸侯之地千乘之国者，所以知器之小大也，所以知任之轻重也。重而后损之，是不知任也；轻而后益之，是不知器也。不知任，不知器，不可谓之有道。

地之不可食者，山之无木者，百而当一。

涸泽，百而当一。地之无草木者，百而当一。楚棘杂处，民不得入焉，百而当一。藪，镰纆得入焉，九而当一。蔓山，其木可以为材，可以为轴，斤斧得入焉，九而当一。巩山，其木可以为棺，可以为车，斤斧得入焉，十而当一。流水，网罟得入焉，五而当一。林，其木可以为棺，可以为车，斤斧得入焉，五而当一。泽，网罟得入焉，五而当一。命之曰地均以实数。

方六里命之曰暴，五暴命之曰部，五部命之曰聚。聚者有市，无市则民乏。五聚命之曰某乡，四乡命之曰方，官制也。官成而立邑：五家而伍，十家而连，五连而暴，五暴而长，五长命之曰某乡，四乡命之曰都，邑制也。邑成而制事：四聚为一离，五离为一制，五制为一田，二田为一夫，三夫为一家，事制也。事成而制器：方六里为一乘之地也。一乘者，四马也，一马，其甲七，其蔽五。一乘，其甲二十有八，其蔽二十，白徒三十人奉车辆，器制也。

方六里，一乘之地也；方一里，九夫之田也。黄金一镒，百乘一宿之饩也。无金则用其绢，季绢三十三制当镒。无绢则用其布，絺暴布百两当一镒。一镒之金，食百乘之一宿。则所市之地六步一斗，命之曰中。岁有市，无市则民乏矣。

方六里名之曰社，有邑焉，名之曰央，亦关市之赋。黄金百镒为一篋，其货一谷笼为十篋，其商苟在市者三十人，其正月、十二月，黄金一镒，命之曰正分，春曰书比，夏曰月程，秋曰大稽，与民数得亡。

三岁修封，五岁修界，十岁更制，经正也。十仞见水不大潦，五尺见水不大旱。十一仞见水轻征，十分去一，二则去二，三则去三，四则去四，五则去半，比之于山。五尺见水，十分去一，四则去二，三则去三，二则去四，尺而见水，比之于泽。

距国门以外，穷四境之内，丈夫二犁，童五尺一犁，以为三日之功。正月令农始作，服于公田农耕。及雪释，耕始焉，耘卒焉。

士闻见、博学、意察而不为君臣者，与功而不与分焉。贾知价之贵价。日至于市而不为官贾者，与功而不与分焉。工治容貌功能，日至于市而不为官工者，与功而不与分焉。不可使而为工，则视货离之实而出夫粟。

是故智者知之，愚者不知，不可以教民。巧者能之，拙者不能，不可以教民。非一令而民服之也，不可以为大善；非夫人能之也，不可以为大功。是故非诚贾不得食于贾，非诚工不得食于工，非诚农不得食于农，非信士不得立于朝。是故官虚而莫敢为之请，君有珍车珍甲而莫之敢有，君举事臣不敢诬其所不能。君知臣，臣亦知君知己也，故臣莫敢不竭力，俱操其诚以来。

道曰均地分力，使民知时也。民乃知时日之早晏，日月之不足，饥寒之至于身也。是故夜寝早起，父子兄弟不忘其功，为而不倦，民不惮劳苦，故不均之为恶也，地利不可竭，民力不可惮。不告之以时，而民不知；不道之以事，而民不为。与之分货则民知得正矣，审其分则民尽力矣，是故不使，而父子兄弟不忘其功。

圣人之所以为圣者，善分民也。圣人不能分民，则犹百姓也。于己不足，安得名圣？是故有事则用，无事则归之于民。唯圣人为善托业于民。

民之生也，辟则愚，闭则类。上为一，下为二。

时之处事精矣，不可藏而舍也。故曰：今日不为，明日亡货，昔之日已往而不来矣。

上地方八十里，万室之国一，千室之都四。中地方百里，万室之国一，千室之国四。下地方百二十里，万室之国一，千室之都四。以上地方八十里，与下地方百二十里，通于中地方百里。

#### 注释：

①以上三句意思是：一是山泽不能防止火灾，草木不能生长成熟，国家就会贫困。②以上三句意思是：二是沟渠不畅通，堤防不牢固，水泛滥成灾，国家就会贫困。③以上三句意思是：三是田



野不栽种桑麻，不能因地制宜种植五谷，国家就会贫困。④以上三句意思是：五是工匠只是在雕刻上比高低，妇女纺织刺绣只是在文饰花样上下功夫，国家就会贫困。⑤修火宪：制定防火法令。⑥虞师：主管山泽的官吏。⑦粉穫：收获。⑧司空：即司工，主管水利、建筑工程的官吏。⑨中田：即司田，主管农业的官吏。⑩审时事：明确各个季节的生产项目。⑪上完利：提倡生产坚固适用的产品。⑫工师：主管手工业的官吏。⑬猥计：总计。⑭辟田：指熟地。⑮众散而不收：人民流离失所，收拢不回来。⑯闭货之门：堆塞货源。⑰课凶饥：考察了解灾荒。⑱师役：兵役和劳役。⑲可食之地：指产粮地。⑳小凶：小荒年。㉑殍：饿死在路上的人。㉒网罟必有正：网眼的大小必须有一定的规格。㉓籍：征税。台榭：楼台民阁，这里指房屋。㉔以上二句意思是：我想征收房屋税，你看怎样？㉕隐情：禁止情欲，指影响人口的生育。㉖官山海：官营盐和铁。这句意思是：只有国家掌管盐铁才可以治理好国家。㉗海王之国：指依靠海洋资源而兴旺起来的国家。㉘给之盐策：利用盐的专卖政策。㉙耒：古代农具，相当于犁柄。耜：相当于铧。铙：古代的一种大钟。㉚受人之事：指收买别国的产品。㉛山海之金：大量的钱财。㉜通施：交易手段，货币流通。㉝死利：为了利益豁出生命。㉞塞民之羨：防止臣民有多余的钱财。㉟隘其利途：限制获利的途径。㊱轻重：轻，物价低；重，物价高。这里指商品流通规律。㊲万乘之国有万金之贾：指有万辆兵车的大国，有巨财的大商人。㊳山穰：丰收。㊴铍：古代计算用的筹码。㊵铸钱立币：铸造和发行货币。㊶彘：猪。㊷余釜十缗：余，买粮；釜，古代容量单位，一釜约合六斗四升；缗，穿线的绳，这里是货币数量单位：十缗，十串钱。㊸壤力：土地和人力。㊹民事：指农事。㊺财之橛：货物价格。㊻万钟之藏：指拥有雄厚的粮食储备。㊼种穰：指各类种子。㊽两者为敌则不俱平：指物与谷处于对立的地位，粮价与物价不能一同涨落。㊾以室庖籍：按房屋收税。㊿以正人籍：按人口征税。①吾子：小孩。②无不服籍者：

没有不纳税的。③以币予食：用钱买粮。④抵国：指被大国当犄角来用的国家。⑤距国：指被大国当作爪子来利用的国家。⑥衢国：指被大国当作交通要道和战场的国家。⑦内款：内部空虚。⑧官赋轨符：国家发放借款借物的法定证卷。⑨天财之所殖：出产天然资源的地方。⑩禹氏：即月支。⑪道：原则。⑫七十九代之君：泛指历代君主。⑬末作文巧：指妨碍农业的工商业；文巧指奢侈品的生产。⑭舍：放弃。本事：农业生产。⑮十一之粟：按十分之一的比例向农民征收的农业税。⑯厮与之事：徭役。⑰常山：即恒山。⑱鬻子：卖儿卖女。⑲交能易作：指改变职业。⑳有虞：虞国；策：计划，筹划；乘：古代兵车一车四马为一乘。乘马：指军赋、税收、财经。㉑策乘马：指筹划解财经问题。㉒开阖：收放，出入。㉓藏三分：每年储藏三成。㉔失诸春策：失掉了春天的农事计划。㉕檀：稠粥。㉖相圆：相辅相成。㉗时守：时刻掌握好。㉘腴：肥沃。㉙广川：大河。㉚爵列：爵位。

## 《商君书》

### 题解：

《商君书》为商鞅撰写，其中不少篇章体现了商鞅重农抑商发展经济的谋略思想。“垦令”篇集中说明重农政策的具体办法二十种，其中有地税制度、有商品税制度、有徭役制度、有刑罚制度。此外有取消贵族特权，防止官吏贪污，抑制商人，制裁奢侈游惰等等办法。商鞅主张通过二十种办法，来督促人民积极耕垦土地。“算地”篇，是说治国要计算地利和人力，分配每个农民五百亩田（小亩），每方百里出战士一万人，实行重农重战两个政策，使人民集中力量于农战，从农战上得名得利，并且抑制不从事农战的学士、手工业者和商人，以赏罚为手段，来贯彻这些政策，那末，国家就可以富强了。“壹言”篇，是论述要以赏罚为主要手段，来推行重农、重战、压抑儒生、压抑工商各项



政策。这种主张不仅是古代所无，而且是当时(战国时代)所无，所以商鞅强调“不法古、不循今”。“靳令”篇，乃取篇首二字做为篇名，不足以代表全篇的主题。主要内容是说明以赏赐爵禄为手段，推行重农重战的政策。作者指出，国君必须把爵禄给予在农业方面有成绩。在战争方面有功劳的人。让人民出粮谷捐官爵，用战功取禄位。这样人民才肯为国君出力拼命，国家才能有强大的实力，能够兼并别国的土地以至统一中国。为了使人民集中力量于农战，作者反对礼乐、诗书、仁义等儒教，认为这些都是有害于国的虱子；又反对高谈阔论的儒生、说客，强调不要把爵禄给予这些人。“外内”篇，论述重战、重农、抑制儒生、压抑工商四个政策。重战为了对外，重农在于对内，所以用外内二字作为篇名。商鞅认为统治者要使人民积极从事农业生产，必须提高农产品的价格，加重对商人和手工业者的赋税和徭役，使他们不能富裕。

## 垦令篇

无宿治<sup>①</sup>，则邪官不及为私利于民，而百官之情不相稽。则农有余日。邪官不及为私利于民，则农不败。农不败而有余日，则草必垦矣。

警粟而税<sup>②</sup>，则上壹而民平。上壹则信，信则臣不敢为邪。民平则慎，慎则难变。上信而官不敢为邪，民慎而难变，则下不非上，中不苦官。下不非上，中不苦官，则壮民疾农不变<sup>③</sup>。壮民疾农不变，则少民学之不休。少民学之不休，则草必垦矣。

无以外权爵任与官<sup>④</sup>，则民不贵学问，又不贱农。民不贵学问则愚，愚则无外交，无外交，则国勉农而不偷，民不贱农，则国安不殆。则国安而不殆，民不贱农，则勉农而不偷。国安不殆，勉农而不偷，则草必垦矣。

禄厚而税多，食口众者<sup>⑤</sup>，败农者也。

则以其食口之数，贱而重使之。则辟淫游惰之民无所于食。民无所于食则必农，农则草必垦矣。

使商无得余，农无得耒<sup>⑥</sup>。农无得耒，则窳惰之农勉疾。商不得余，则多岁不加乐。多岁不加乐，则饥岁无裕利。无裕利则商怯。商怯则裕农。窳惰之农勉疾，商欲农，则草必垦矣。

声服无通于百县，则民行作不顾，休居不听。休居不听，则气不淫。行作不顾，则意必壹。意壹而气不淫，则草必垦矣。

无得取庸<sup>⑦</sup>，则大夫家长不建缮<sup>⑧</sup>，爱子不惰食惰民不窳，而庸民无所于食，是必农。大夫家长不见缮，则农事不伤。爱子惰民不窳，则故田不荒。农事不伤，农民益农，则草必垦矣。

废逆旅<sup>⑨</sup>，则奸伪、躁心、私交、疑农之民不行，逆旅之民无所于食，则必能。农则草必垦矣。

壹山泽，则恶农，慢惰、倍欲之民无所于食。无所于食，则必农。农则草必垦矣。

贵酒肉之价，重其租，令十倍其朴，然则商贾少，农不能喜酣爽，大臣不为荒饱。商贾少，则上不费粟。民不能喜酣爽，则农不慢。大臣不荒，则国事不稽，主无过举。上不费粟，民不慢民，则草必垦矣。

重刑而连其罪，则褊急之民不斗，很刚之民不讼，怠惰之民不游，费资之民不作，巧谀、恶心之民无变也，五民者不生于境内，则草必垦矣。

使民无得擅徙，则诛愚乱农农民，无所于食，而必农，愚心躁欲之民壹意，则农民必静。农静诛愚，则草必垦矣。

均出余子之使令，以世使之，又高其解舍，令有甬官食槩<sup>⑩</sup>，不可以辟役，而大官未可必得也，则余子不游事人，则必农。农则草必垦矣。

国之大臣诸大夫，博闻、辩慧、游居之事，皆无得为，无得皆游于百县，则农民无所闻变见方。农民无所闻变见方，则知农无

从离其故事，而愚农不知，不好学问。愚农不知，不好学问，则务疾农。知农不离其故事，则草必垦矣。

令军市无有女子；而命其商人自给甲兵，使视军兴；又使军市无得私输粮者，则奸谋无所于伏，盗输粮者不私稽，轻情之民不游军市。盗粮者无所售，送粮者不私，轻情之民不游军市，则农民不谣，国粟不劳，则草必垦矣。

百县之治一形，则从，迂者不敢更其制，过而废者不能匿其举。过举不匿，则官无邪人。迂者不饰，代者不更，则官属少而民不劳。官无邪则民不敖。民不敖则业不败。官属少，征不烦。民不劳，则农多日。农多日，征不烦，业不败，则草必垦矣。

重关市之赋<sup>⑩</sup>，则农恶商，商有疑情之心。农恶商，商疑情，则草必垦矣。

以商之口数使商，令之廛、舆、徒、重者必当名，则农逸而商劳。农逸则良田不荒。商劳则去来赍送之礼，元通于百县，则农民不饥，行不饰。农民不饥，行不饰，则公作必疾，而私作不荒，则农事必胜。农事必胜，则草必垦矣。

令送粮无取僦，无得反庸，车牛舆重设必当名，然则往速徠疾，则业不败农。业不败农，则草必垦矣。

无得为罪人请于吏而饷食之，则奸民无主。奸民无主，则为奸不勉。农民不伤为奸不勉，则奸民无朴。奸民无朴，则农民不败。农民不败，则草必垦矣。

## 农战篇

凡人主之所以劝民者，官爵也。国之所以兴者，农战也。今民求官爵，皆不以农战，而以巧言虚道，此谓劳民。劳民者其国必无力。无力者其国必削<sup>⑪</sup>。

善为国者，其教民也，皆作壹而得官爵<sup>⑫</sup>，是故不官无爵。国去言则民朴。民朴则不谣。民见上利之从壹空出也，则作壹。

作壹则民不偷营。民不偷营，则多力。多力则国强。今境内之民皆曰：“农战可避，而官爵可得也”。是故豪杰皆可变业，务学诗、书，随从外权，上可以得显，下可以求官爵；要靡事商贾，为技艺，皆以避农战。具备，国之危也。民以此为教者，其国必削。

善为国者，仓廩虽满<sup>⑬</sup>，不偷于农，国大民众，不淫于言，则民朴壹。民朴壹，则官爵不可巧而取也。不可巧取，则奸不生。奸不生，则主不惑。今境内之民及处官爵者，见朝廷之可以巧言辩说取官爵也，故官爵不可得而常也。是故进则曲主<sup>⑭</sup>，退则虑私所以实其私，然则下卖权矣。夫曲主虑私，非国利也，而为之者，以其爵禄也。下卖权，非忠臣也，而为之者，以末货也。然则下官之冀迁者，皆曰：“多货，则上官可得而欲也。”曰：“我不以货事上而求迁者，则如以狸饵鼠尔<sup>⑮</sup>，必不冀矣。若以情事上而求迁者，则如引诸绝绳而乘枉木也，愈不冀矣，二者不可以得迁，则我焉得无下动众取货以事上，而以求迁乎？”百姓曰：“我疾农，先实公仓，收余以食亲，为上忘生而战，以尊主安国也。仓虚，主卑，家贫。然则不如索官。”亲戚交游合，则更虑矣<sup>⑯</sup>。豪杰务学诗、书，随从外权；要靡事商贾，为技艺，皆以避农战。民以此为教，则粟焉得无少，而兵焉得无弱也！

善为国者，官法明，故不任知虑；上作壹，故民不偷营，则国力搏。国力搏者强。国好言谈者削。故曰：农战之民千人，而有诗、书辩慧者一人焉，千人者皆怠于农战矣。农战之民百人，而有技艺者一人焉，百人者皆怠于农战矣。国待农战而安。主持农战而尊。夫民之不农战也，上好言而官失常也。常官则国治<sup>⑰</sup>。壹务则国富。国富而治，王之道也。故曰：王道作外<sup>⑱</sup>，身作壹而已矣。

今为国者多无要。朝廷之言治也，纷纷焉务相易也<sup>⑲</sup>。是以其君悞于说，其官乱于

言，其民惰而不农。故其境内之民，皆化而好辩乐学，事商贾，为技艺，避农战。如此则不远矣。国有事，则学民恶法，商民善化，技艺之民不用，故其国易破也。夫农者寡而游食者众，故其国贫危。今夫螟、螽、蚘、蠃春生秋死，一出而民粒年不食。今一人耕而百人食之，此其为螟、螽、蚘、蠃亦大矣。虽有诗、书、乡一束，家一员，（独）〔犹〕无益于治也，非所以反之之术也<sup>①</sup>，故先王反之于农战。故曰：百人农，一人居者王。十人农，一人居者强。半农半居者危。故治国者欲民之农也。国不农则与诸侯争权，不能自持也，则众力不足也。故诸侯挠其弱，乘其衰<sup>②</sup>，土地侵削而不振，则无及已。圣人知治国之要，故令民归心于农。归心于农，则民朴而可正也，纷纷则易使也，信可以守战也。壹则少诈而重居<sup>③</sup>，壹则可以赏罚进也，壹则可以外用也。夫民之亲上死制也，以其旦暮从事于农。夫民之不可用也，见言谈游士事君之可以尊身也，商贾之可以富家也，技艺之足以饷口也。民见此三者之便且利也，则必避农。避农，则民轻其居。轻其居，则必不为上守战也。凡治国者，患民之散而不可搏也，是以圣人作壹，搏之也。国作壹一岁者，十岁强；作壹十岁者，百岁强；作壹百岁者，千岁强，千岁强者王。君修赏罚以辅壹教，是以教育所常，而政有成也。王者得治民之至要，故不待赏赐而民亲上，不待爵禄而民从事，不待刑罚而民致死。国危主忧，说者成伍，无益于安危也。夫国危主忧也者，强敌大国也。人君不能服强敌、破大国也，则修守备，便地形，搏民力，以待外事，然后患可以去，而王可致也。是以明君修政作壹，去无用，止浮学事淫之民，壹之农，然后国家可富，而民力可搏也。

今世主皆忧其国之危而兵之弱也，而强听说者。说者成伍，烦言饰辞<sup>④</sup>，而无实用。主好其辩，不求其实。说者得意，道路曲辩，辈辈成群。民见其可以取王公大人也，而皆学之。夫人聚党与<sup>⑤</sup>，说议于国纷纷焉，小

民乐之，大人说之。故其民农者寡，而游食者众。众则农者殆。农者殆则土地荒<sup>⑥</sup>。学者成俗，则民舍农，从事于谈说，高言伪议，舍农游食，而以言相高也。故民离上，而不臣者成群。此贫国弱兵之教也。夫国庸民所言，则民不畜于农。故惟明君知好言之不可以强兵辟土地<sup>⑦</sup>，惟圣人之治国作壹，搏之于农而已矣。

## 算地篇

凡世主之患，用兵者不量力，治草莱者不度地<sup>⑧</sup>。故有地狭而民众者，民胜其地。地广而民少者，地胜其民。民胜其地务开。地胜其民者事徠<sup>⑨</sup>。开则行倍。民过地，则国功寡而兵力少<sup>⑩</sup>。地过民，则山泽财物不为用。夫棄天物、遂民淫者，世主之务过也，而上下事之，故民众而兵弱，地大而力小。故为国任地者，山林居什一，藪泽居什一<sup>⑪</sup>，谿谷流水居什一，都邑蹊道居什四，此先生王之正律也。故为国分田，数小亩五百，足待一役，此地不任也。方土百里，出战卒万人者，数小也。此其垦田足以食其民，都邑遂路足以处其民，山林藪泽谿谷足以供其利，藪泽隄防足以畜，故兵出粮给而财有余，兵休民作而畜长足<sup>⑫</sup>，此所谓任地待役之律也。

今世主有地方数千里，食不足以待役实仓，而兵为邻敌。臣故为世主患之。夫地大而不垦者，与无地同。民众而不用者，与无民同。故为国之数，务在垦草。用兵之道，务在壹赏。私利塞于外，则民务属于农；属于农则朴；朴则畏令。私赏禁于下，则民力搏于敌；搏于敌则胜。奚以知其然也？夫民之情，朴则生劳而易力，穷则生知而权利；易力则轻死而乐用，权利则畏罚而易苦；易苦则地利尽，乐用则兵力尽。

夫治国者，能尽地利而致民死者，名与利交至。民之性，饥而求食，劳而求佚，苦则索乐，辱则求荣，此民之情也。民之求利，

失礼之法；求名，失性之常。奚以论其然也？今夫盗贼上犯君上之所禁，而下失臣民之礼，故名辱而身危；犹不止者，利也。其上世之士，衣不煖肤，食不满肠，苦其志意，劳其四肢，伤其五脏，而益裕广耳，非生之常也，而为之者，名也。故曰：名利之所凑，则民道之。主操名利之柄，而能致功名者，数也。圣人审权以操柄，审数以使民。数者臣主之术，而国之要也。故万乘失数而不危，臣主失术而不乱者，未之有也。今世主欲辟地治民，而不审数；臣欲尽其事，而不立术，故国有不服之民，<sup>〔生〕〔主〕</sup>有不令之臣。故圣人之为国也，入令民以属农，出令民以计战。夫农，民之所苦；而战，民之所危也。犯其所苦，行其所危者，计也。故民生则计利，死则虑名。名利之所出，不可不审也。利出于地，则民尽力。名出于战，则民致死。入使民尽力，则草不荒。出使民致死，则胜敌。胜敌而草不荒，富强之功可坐而致也。

今则不然。世主之所加务者，皆非国之急也。身有尧、舜之行，而功不及汤、武之略者，此执柄之罪也。臣请语其过。夫治国舍势而任说说，则身脩而功寡。故事诗、书谈说之士，则民游而轻其君；事处士，则民远而非其上；事勇士，则民竞而轻其禁；技艺之士用，则民剽而易徙；商贾之士佚且利，则民缘而议其上。故五民加于国用，则田荒而兵弱。谈说之士资在于口；处士资在于意；勇士资在于气；技艺之士资在于手；商贾之士资在于身。故天下一宅，而鬻身资。民资重于身，而偏托势于外，挟重资，归偏家，尧、舜之所难也；故汤武禁之，则功立而名成。圣人非能以世之所易胜其所难也；必以其所难胜其所易。故民愚，则知可以以胜之；世知，则力可以胜之。臣愚，则易力而难巧；世巧，则易知而难力。故神农教耕，而主天下，师其知也。汤、武致强，而征诸侯，服其力也。今世巧而民淫，方效汤、武之时；而行神农之事，以随世禁，故千乘惑乱，此其所加务者过也。

民之生，度而取长，称而取重，权而索利。明君慎观三者，则国治可立，而民能可得。国之所以求民者少，而民之所以避求者多。入使民属于农，出使民壹于战。故圣人之治也，多禁以止能，任力以穷诈，两者偏用，则境内之民壹，壹则农，农则朴，朴则安居而恶出。故圣人之为国也，民资藏于地，而偏托危于外。资〔藏〕于地则朴，托危于外则惑。民入则朴，出则惑，故其农勉而战戢也。民之农勉则资重，战戢则邻危。资重则不可负而逃，邻危则不归于。无资归危外托，狂夫之所不为也。故圣人之为国也，观俗立法则治，祭国事本则宜。不观时俗，不察国本，则其法立而民乱，事剧而功寡。此臣之所谓过也。

## 靳令篇

民泽毕农则国富<sup>③</sup>。六虱不用，则兵民毕竟劝，而乐为主用，其竟内之民<sup>④</sup>，争以为荣，莫以为辱。

## 外内篇

民之内事，莫苦于农，故轻治不可以使之。奚谓轻治？其农贫而商富，故其食贱者钱重<sup>⑤</sup>，食贱者则农贫，钱重则商富，末事不禁<sup>⑥</sup>，则技巧之人利，而游食者众之谓也。故农之用力最苦，而赢利少，不如商贾、技巧之人。苟能令商贾、技巧之人无繁，则欲国之无富，不可得也。故曰：欲农富其国者，境内之食必贵，而不农之征必多，市利之租必重。则民不得无田，无田不得而易其食<sup>⑦</sup>。食贵则田者利。田者利则事者众。食贵，余食不利，而又加重征，则民不得无去其商贾、技巧，而事地利矣。故民之力尽在于地利矣。

### 注释:

①无宿治:即拖延积压之意。此言朝廷有事,马上就办。②訾粟而税:即计算之意。③壮民疾农不变:积极从事之意。④无以外权爵任与官:外权“外国”势力。爵,给予爵位。任,任用。与官,给予官职。战国时代,说客们多游说诸侯,假借此国的势力,求得彼国的官爵。⑤食口众者:指不劳动吃闲饭的人。⑥使商无得粢,农无得糗:“粢,市谷也。糗,出谷也。”商人不得卖米,就无法从中取利,农民不得买米,就必须努力耕田。⑦无得取庸:取佣即雇用佣工。⑧建缮:建筑、修缮。⑨逆旅:客舍也,今称为客店或旅馆;逆,迎也;旅,客也;旅馆迎接旅客,所以古人叫做逆旅。⑩令有甬官食槩:甬,佣也,役也。甬官,掌管徭役的官。食是给人吃。槩疑当作槩,槩古餼字,供给役人或客人的粮米叫做餼。食餼,即拿出粮米给役人吃。⑪关市之赋:在关口市场征收商人的商品税。⑫无力者其国必削:国土被人侵略。⑬作壹:工作专务一项,即专务农战。⑭仓廩满:廩(音凛),仓也。⑮曲主:曲意逢迎国君。⑯狸餌鼠尔:狸,猫也;餌,诱也。即诱以食物之意。⑰更虑矣:更虑,另作考虑,改变计划之意。⑱常官:任用官吏有常规。⑲王道作外:是说王道不是身外之事。作字疑当作非,形似而误。⑳纷纷焉务相也:纷纷,杂乱貌。相易,互相改易。㉑反之之术也:反,指反贫为富,反危为安。㉒乘其衰:乘,凌也,即欺凌之意。㉓壹则少诈而重居:重视原来的住处,不愿迁移。㉔烦言饰辞:烦多也;饰,巧也。㉕聚党与:党与,同党伙伴。㉖农者殆则土地荒:殆作怠,殆怠二字古通用。怠,懒惰,意思是农民懒惰土地就荒芜。㉗强兵辟土也:辟,借为闢,开拓,扩展。㉘莱:秽草。㉙地胜其民者事徕:即招引别国人民到本国来。㉚则国功寡而兵力少:人民超过土地;则有些民力没处可用,就游荡好闲,或做儒生、商人、手工业者,不参加农战,国家的工业、军队的力量都从而减少了。㉛藪:大泽也。㉜而畜长足:畜地读为蓄,指积蓄的财物。㉝民泽毕农则国富:毕,尽也;民择业尽在于农,则国富。㉞竟借为境。㉟粮食和钱币的价格互为消

长。粮食贱就是钱币贵,粮食贵就是钱币贱。

㊱末事:指商业和手工业。㊲意即不耕田的人不得不买粮米。

## 《论贵粟疏》

### 题解:

《论贵粟疏》为晁错所写。晁错(约公元前200—前154),颍川(今河南禹县)人,曾任太子家令,御史大夫等职。他的经济谋略思想主要表现在重农贵粟抑商。晁错生活在匈奴不断侵扰和封建经济基础薄弱的西汉前期。晁错从当时的现实出发,认为要使国家富强起来就必须重农抑商,而实现这一目标仅靠法律是无效的。要用法律压低商人的社会地位,可商人的地位已经很高了;要提高农人的地位,农夫已经贫贱了。在这种情况下,只有采取提高粮食及农业生产在国家经济生活中的地位(即“贵粟”)的方法抑商。他主张富人向国家多交纳谷物可以拜爵捐官,也可以免除徭役,减征赋税。这样,人们就会努力发展农业,增产粮食,从而使民有衣食,国力强盛。晁错的这些主张,对当时和以后的中国封建社会经济政策发生了一定的影响,他的贵粟论在当时的实践中还取得了显著的成效。

圣王在上而民不冻饥者,非能耕而食之<sup>①</sup>、织而衣之也<sup>②</sup>,为开其资财之道也。故尧、禹有九年之水,汤有七年之旱,而国亡捐瘠者<sup>③</sup>、以畜积多而备先具也。今海内为一,土地人民之众不避汤禹,加以亡天灾数年之水旱,而畜积未及者,何也?地有遗利,民有馀力;生谷之土未尽垦,山泽之利未尽出也,游食之民未尽归农也。民贫,则奸邪生。贫生于不足,不足生于不农,不农则地不著,不地著则离乡轻家<sup>④</sup>,民如鸟兽,虽有高城深池,严法重刑,犹不能禁也。

夫寒之于衣,不待轻暖;饥之于食,不待甘旨;饥寒至身,不顾廉耻。人情,一日

不再食则饥，终岁不制衣则寒。夫腹饥不得食，肤寒不得衣，虽慈父不能保其子，君安能以有其民哉！明主知其然也，故务民于农桑，薄赋敛，广畜积，以实仓廩，备水旱，故民可得而有也。民者，在上所以牧之，趋利如水走下，四方亡择也<sup>(b)</sup>。夫珠玉金银，饥不可食，寒不可衣，然而重贵之者，以上用之故也。其为物轻微易藏，在于把握，可以周海内而亡饥寒之患。此令臣轻背其主，而民易去其乡，盗贼有所劝，亡逃者得轻资也。粟米布帛生于地，长于时，聚于力，非一日可成也；数石之重，中人弗胜，不为奸邪所利，一日弗得而饥寒至。是故明君贵五谷而贱金玉。

今农夫五口之家，其服役者不下二人，其农耕者不过百亩，百亩之收不过百石。春耕夏耘，秋收冬藏，代薪樵，治官府，给徭役；春不得避风尘，夏不得避暑热，秋不得避阴雨，冬不得避寒冻；四时之间，亡日休息；又私自送往迎来，吊死问疾，养孤长幼在其中。勤苦如此，尚复被水旱之灾，急政暴虐，赋敛不时，朝令而暮改，当具，有者半贾而卖<sup>⑦</sup>，亡者取倍称之息。于是有卖田宅、鬻子孙以偿债者矣。而商贾大者积贮倍息，小者坐列贩卖，操其奇赢，日游都市，乘上之急，所卖必倍。故其男不耕耘，女不蚕织，衣必文采，食必粱肉，忘农夫之苦，有仟伯之得。因其富厚，交通王侯，力过吏势，以利相倾；千里游敖，冠盖相望，乘坚策肥，履丝曳縠。比商人所以兼并农人，农人所以流亡者也。

今法律贱商人，商人已富贵矣；尊农夫，农夫已贫贱矣。故俗之所贵，主之所贱也；吏之所卑，法之所尊也。上下相反，好恶乘违，而欲国富法立，不可得也。方今之务，莫若使民务农而已矣。欲民务农，在于贵粟；贵粟之道，在于使民以粟为赏罚。今募天下入粟县官，得以拜爵，得以除罪。如此，富人有爵，农民有钱，粟有所渫<sup>⑧</sup>。夫能入粟以受爵，皆有余者也。取于有余以供上用，

则贫民之赋可损，所谓损有余补不足，令出而民利者也。顺于民心，所补者三：一曰主用足，二曰民赋少，三曰劝农功。今令民有车骑马一匹者，复卒三人。车骑者，天下武备也，故为复卒<sup>⑨</sup>。

神农之教曰：“有石城十仞，汤池百步，带甲百万，而亡粟<sup>⑩</sup>，弗能守也。”以是观之，粟者，王者大用，政之本务。令民人粟受爵至五大夫以上，乃复一人耳。此其与骑马之功相去远矣。爵者，上之所擅，出于口而亡于穷；粟者，民之所种，生于地而不乏。夫得高爵与免罪，人之所甚欲也。使天下人粟于边以受爵、免罪，不过三岁，塞下之粟必多矣。

#### 注释：

①耕而食之：食字，音寺，给人吃，称做食；耕而食之，是说亲自去种了田来给人吃。②织而衣之：衣字，读做去声，织而衣之，是说亲自去织了布来，给人做衣服穿。③捐瘠：捐，是抛弃的意思；瘠：，是说瘦弱害病的意。④不避汤禹：不避，是说不是胜不过；不避汤禹，是说不是胜不过汤王禹王时候的太平天下。⑤地著：著字，音着，久住在这地方，称做地著。⑥趋利如水走下，四方亡择也：是说人心跟着势利，好似水向低处流一般，是不分东西南北四方的。贪利的人，见利便来，不分这利的来处正不正的。亡择，是说不分别的。⑦半贾：贾字，和价字通用。半贾，是说得到一半的价值。⑧有所渫：渫字，音泻。是说散去的意思。⑨复卒：复，是免去的意思；复卒，是说免去当兵的差使。⑩亡粟：亡字和无字通用。亡粟，是说没有粮草。

## 《盐铁论》

#### 题解：

《盐铁论》是在汉宣帝时根据盐铁会议的记录写成的。作者桓宽，字次公，汝南（今河南汝南县）人。他致力于儒家著作《公羊春秋》的研究，是个儒生。汉宣帝时被推举为郎（皇帝的侍从官），以后曾任庐江太守丞。

他写《盐铁论》的目的，据《汉书》记载，是“欲以究治乱，成一家之法焉”。《盐铁论》，全书共60篇，第一至第四十一篇，写的是盐铁会议上的辩论，相当于会议发言纪要；第四十二至第五十九篇，写的是儒法双方对“未尽事项”的余论；第六十篇是作者的后序。书中出现的人物：一方是大夫（御史大夫桑弘羊）、御史、丞相史；另一方是六十多个儒生贤良、文学、丞相田千秋。

会议一开始，双方就展开了论战。在《错币》篇，桑弘羊根据币制混乱，提出要统一货币，官营铸钱的主张。铸币权的统一，一定程度上制止了货币流通领域的混乱状态，从经济上加强了中央集权统治。《禁耕》篇，是关于盐铁的官营还是私营的争论。桑弘羊坚决主张官营，正是由于盐铁的官营，发展了铁器生产，促进了农业生产的发展。此外，在“轻重”、“园池”、“贫富”等篇中，都体现了桑弘羊发展封建经济中的谋略思想。

## 错币第四

大夫曰：“交币通施<sup>①</sup>，民事不给，物有所并也。计本量委<sup>②</sup>，民有饥者，谷有所藏也。智者有百人之功，愚者有不更本之事，人君不调，民有相妨之富也。此其所以或储百年之余，或不厌糟糠也。民大富，则不可以禄使也；大强，则不可以罚威也。非散聚均利者不齐。故人主积其食，守其用，制其有余，调其不足，禁溢羨<sup>③</sup>，厄利涂，然后百姓可家给人足也。”

大夫曰：“汤、文继衰，汉兴乘弊。一质一文<sup>④</sup>，非苟易常也。俗弊更法，非务变古也，亦所以救失扶衰也。故教与俗改，弊与世易。夏后以玄贝<sup>⑤</sup>，周人以紫石，后世或金钱刀布。物极而衰，终始之运也。故山泽无征则君臣同利，刀币无禁则奸贞并行。夫臣富相侈，下专利则相倾也。”

大夫曰：“文帝之时，纵民得铸、冶铁、煮盐。吴王擅鄣海泽<sup>⑥</sup>，邓通专西山<sup>⑦</sup>，山

东奸猾咸聚吴国，秦、雍、汉、蜀因邓氏，吴、邓钱布天下。故有铸钱之禁。禁御之法立而奸伪息，奸伪息则民不期于妄得而各务其职，不反本何为？故统一，则民不二也；币由上，则下不疑也。”

## 禁耕第五

大夫曰：“家人有宝器，尚函匣而藏之，况人主之山海乎？夫权利之处，必在深山穷泽之中，非豪民不能通其利。异时盐铁未笼，布衣有胸郛<sup>⑧</sup>，人君有吴王一皆盐铁初议也。吴王专山泽之饶，薄赋其民，赈赡穷乏，以成私威。私威积而逆节之心作。夫不蚤绝其源而忧其末，若决吕梁，沛然，其所伤必多矣。太公曰：“一家害百家，百家害诸侯，诸侯害天下，王法禁之。今放民于权利，罢盐铁以资暴强，遂其贪心，众邪群聚，私门成党，则强御日以不制<sup>⑨</sup>，而并兼之徒奸形成也。”

大夫曰：“山海有禁而民不倾，贵贱有平而民不疑。县官设衡立准<sup>⑩</sup>，人从所欲，虽使五尺童子适市，莫之能欺。今罢去之，则豪民擅其用而专其利。决市闾巷，高下在口吻，贵贱无常，端坐而民豪，是以养强抑弱而藏于跖也。强养弱抑，则齐民消，若众秽之盛而害五谷。一家害百家不在胸郛，如何也？”

## 非鞅第七

大夫曰：“昔商君相秦也，内立法度，严刑罚，饬政教，奸伪无所容。外设百倍之利，收山泽之税，国富民强，器械完饰，蓄积有余。是以征敌伐国，攘地斥境，不赋百姓而师以贍。故利用不竭而民不知，地尽西河而民不苦。盐铁之利，所以佐百姓之急，足军旅之费，务蓄积以备乏绝，所给甚众，有益国，无害于人。百姓何苦尔，而文学何忧也？”

大夫曰：“言之非难，行之为难。故贤者

处实而效功，亦非徒陈空文而已。昔商君明于开塞之术，假当世之权，为秦致利成业，是以战胜攻取，并近灭远，乘燕、赵，陵齐、楚，诸侯敛衽<sup>⑪</sup>，西面而向风。其后蒙恬征胡，斥地千里，逾之河北，若坏朽折腐。何者？商君之遗谋，备饰素循也<sup>⑫</sup>。故举而有利，动而有功。夫畜积筹策，国家之所以强也。故弛废而归之民，未睹巨计而涉大道也。”

大夫曰：“淑好之人<sup>⑬</sup>，感施之所妒也<sup>⑭</sup>。贤知之士，阉茸之所恶也<sup>⑮</sup>。是以上官大夫短屈原于顷襄，公伯寮诉子路于季孙。夫商君起布衣，自魏入秦，期年而相之，革法明教，而秦人大治。故兵动而地割，兵休而国富。孝公大说，封之於、商之地方五百里。功如丘山，名传后世。世人不能为，是以相与嫉其能而庇其功也。”

### 园池第十三

大夫曰：“诸侯以国为家，其忧在内。天子以八极为境<sup>⑯</sup>，其虑在外。故宇小者用菲<sup>⑰</sup>，功巨者用大。是以县官开园池，总山海，致利以助贡赋，修沟渠，立诸农，广田牧盛苑囿。太仆、水衡、少府、大农<sup>⑱</sup>，岁课诸人，田牧之利，池籓之假，及北边置任田官以贍诸用，而犹未足。今欲罢之，绝其原，杜其流，上下俱殫，困乏之应也。虽好省事节用，如之何其可也？”

### 轻重第十四<sup>⑲</sup>

御史进曰：“昔太公封于营丘，辟草莱而居焉。地薄人少，于是通利末之道，极女工之巧。是以邻国交于齐，财畜货殖，世为强国。管仲相桓公，袭先君之业，行轻重之变，南服强楚而霸诸侯。今大夫君修太公、桓、管之术，总一盐铁，通山川之利而万物殖。是以县官用饶足，民不困乏，本末并利，上下俱足。此筹计之所致，非独耕桑农业也。”

御史曰：“水有獭獭而池鱼涖，国有强御而齐民消。故茂林之下无丰草，大块之间无美苗。夫理国之道，除秽锄豪，然后百姓均平，各安其宇。张廷尉论定律令，明法以绳天下，诛奸猾，绝并兼之徒，而强不凌弱，众不暴寡。大夫君运筹策建国用，笼天下盐铁诸利，以排富商大贾，买官赎罪，损有余，补不足，以齐黎民。是以兵革东西征伐，赋敛不增而用足。夫损益之事，贤者所睹，非众人之所知也。”

御史曰：“周之建国也，盖千八百诸侯。其后强吞弱，大兼小，并为六国。六国连兵结难数百年，内拒敌国，外攘四夷<sup>⑳</sup>。由此观之，兵甲不休，战伐不乏，军旅外奉，仓库内实。今以天下之富，海内之财，百郡之贡，非特齐、楚之畜，赵、魏之库也。计委量入，虽急用之，宜无乏绝之时。顾大农等以术体躬稼，则后稷之烈，军四出而用不继，非天之财少也。用针石调，均有无，补不足，亦非也。上大夫君为治粟都尉管领大农事<sup>㉑</sup>，炙刺稽滞，开利百脉，是以万物流通，而县官富实。当此之时，四方征暴乱，车甲之费，克获之赏，以亿万计，皆贍大司农。此皆扁鹊之力，而盐铁之福也。”

### 未通第十五

御史曰：“内郡人众，水泉荐草不能相贍，地势温湿，不宜牛马。民黽来而耕，负檐而行，劳罢而寡功。是以百姓贫苦而衣食不足，老弱负轭于路，而列卿大夫或乘牛车。孝武皇帝平百越以为园圃，却羌、胡以为苑囿。是以珍怪异物充于后宫，驹騊𪐖隄实于外厩，匹夫莫不乘坚良，而民间厌橘柚。由此观之，边郡之利亦饶矣，而曰‘何福之有’，未通于计也。”

御史曰：“古者制田百步为亩，民井田而耕，什而借一。义先公而后己，民臣之职也。先帝哀怜百姓之愁苦，衣食不足，制田二百四十步而一亩，率三十而税一。墮民不务田



作，饥寒及已，固其理也。其不耕而欲播，不种而欲获，盐铁又何过乎？”

御史曰：“古者诸侯争强，战国并起，甲兵不休，民旷于田畴，什一而借，不违其职。今赖陛下神灵，甲兵不动久矣，然则民不齐出于南亩，以口率被垦田而不足，空仓廩而赈贫乏，侵益日甚，是以愈惰而仰利县官也。为斯君者亦病矣，反以身劳民，民犹背恩弃义而远流亡，避匿上公之事。民相仿效，田地日荒，租赋不入，抵扞县官。君虽欲足，谁与之足乎？”

御史曰：“古者十五入大学，与小役；二十冠而成人<sup>②</sup>，与戎事，五十以上血脉溢刚，曰艾壮<sup>③</sup>。《诗》曰：‘方叔元老，克壮其犹’。故商师若乌，周师若荼。今陛下哀怜百姓，宽力役之政，二十三始傅，五十六而免，所以辅耆壮而息老艾也<sup>④</sup>。丁者治其田里，老者修其唐园<sup>⑤</sup>，俭力趣时，无饥寒之患。不治其家而讼县官，亦悖矣。”

## 贫富第十七

大夫曰：“余结发束脩，年十三，幸得宿卫，给事辇毂之下，以至卿大夫之位，获禄受赐，六十有余年矣。车马衣服之用。妻子仆养之费，量入为出，俭节以居之，奉禄赏赐，一二筹策之，积浸以致富成业。故分土若一，贤者能守之；分财若一，智者能筹之。夫白圭之废著<sup>⑥</sup>，子贡之三至千金，岂必赖之民哉？运之方寸<sup>⑦</sup>，转之息耗，取之贵贱之间耳！”

大夫曰：“山岳有饶，然后百姓赡焉。河海有润，然后民取足焉。夫寻常之污，不能溉陂泽，丘阜之木，不能成宫室。小不能苞大，才不能赡多。未有不能自足而能足人者也。未有不能自治而能治人者也。故善为人者能自为者也，善治人者能自治者也。文学不能治内，安能理外乎？”

大夫曰：“道悬于天，物布于地，智者以衍<sup>⑧</sup>，愚者以困。子贡以著积显于诸侯，陶

朱公以货殖尊于当世。富者交焉，贫者赡焉。故上自人君，下及布衣之士，莫不载其德，称其仁。原宪、孔级，当世被饥寒之患，颜回屡空于穷巷，当此之时，迫于窟穴，拘于缁袍<sup>⑨</sup>，虽欲假财信奸佞，亦不能也。”

## 水旱第三十六

大夫曰：“禹、汤圣主，后稷、伊尹贤相也，而有水旱之灾。水旱、天之所为，饥穰、阴阳之运也，非人力故。太岁之数在阳为旱，在阴为水。六岁一饥，十二岁一荒。天道然，殆非独有司之罪也。”

大夫曰：“议者贵其辞约而指明，可于众人之所，不至繁文稠辞多言，害有司化俗之计。而家人语陶朱为生，本末异径，一家数事，而治生之道乃备<sup>⑩</sup>。今县官铸衣器，使民务本，不营于末，则无饥寒之累。盐铁何害而罢？”

大夫：“卒徒工匠以县官日作公事，财用饶，器用备。家人合会，徧于日而勤于用，铁力不销炼，坚柔不和。故有司请总盐铁，一其用，平其贾，以便百姓公私。虽虞、夏之为治，不易于此。吏明其教，工致其事，则刚柔和，器用便。此则百姓何苦，而农夫何疾？”

### 注释：

①交币通施：钱币流通，交换有无。②计本量委：根据农业收入，计量支出。③溢美：“羡”，盈余。即过分的盈利。④一质一文：一衰一兴的意思。⑤玄：黑色。⑥吴王：刘濞，西汉初期诸侯王，沛人。汉高祖刘邦的侄子。为了谋反朝廷，他在封国内大量采铜铸钱，煮海水制盐，并招纳各地逃亡的人，培植私人势力。⑦邓通：西汉南安（今四川夹江县西北）人，汉文帝时受宠，官至上大夫，汉文帝将四川严道（今荣经县）铜山赐给他。邓通私人铸钱，因此大富。一时邓氏铸的钱通行全国。汉景帝时邓被罢官。⑧胸邴：即曹邴氏，以经营冶铁成为富商。因他是胸地人，故又称胸邴。⑨强御：指豪强。⑩设衡立准：设立

量具，规定公平标准。⑪敛衽：整理衣服，表示敬服。⑫素循：即经常很好地执行。⑬淑：美好。⑭戚施：指相貌丑陋驼背的人。⑮阉茸：本指小门、小草，这里指猥琐无能的人。⑯八极：八方极远的地方。指全国的疆域。⑰宇：上下四方，这里指管辖的地方。⑱太仆、水衡、少府、大农：都是汉时官名，属于九卿之列。⑲轻重：古代的一种经济理论。⑳四夷：古时对四方少数民族的称呼。㉑治粟都尉：汉时主管钱粮事务的官。这里指桑弘羊。㉒二十冠：古代贵族男子年满二十加冠，由父亲在宗庙里主持仪式，表示成人。㉓艾：指五十岁的人。“艾壮”，老壮年。㉔耆：指六十岁以上的老人。㉕唐园：菜园。㉖白圭：战国时的大商人。废著：指出卖和贮积。㉗方寸：指人的心脏，这里比作心计的意思。㉘衍：富足。㉙緼：乱麻。“緼袍”，以乱麻为絮的袍子。㉚治生之道：即治理生活的办法。

## 《一条鞭法》

### 题解：

《明史·食货志》记载：“一条鞭法者，总计一州一县之赋役，量地计丁，丁粮毕输于官；一岁之役，官为僉募。力差则计其工食之费，量为增减，银差则计其交纳之费，加以增耗。又额办、派办、京库、岁需，与存留供亿诸费，以及土贡方物，悉并为一条。皆计亩征银，折办于官，故为之一条鞭，立法颇为简捷。嘉靖间屡行屡止，至万历九年乃尽行之”。此法为明嘉靖十年(1531)，由御史傅汉臣首倡。这是中国明代后期赋役制度的一项重要改革。明代中期以后，朝廷的经济、财政处于空前的危机之中。田赋由征收米、麦、丝麻等实物，改征银两后，各种附加税层出不穷，征收手续也十分复杂，各级官吏从中贪污，克扣的现象愈来愈严重。同时，名目繁多的徭役，摊派也使人民苦不堪言，躲避徭役的逃亡现象越来越多。万历九年(1581年)，内阁首辅张居正在完成全国土地清丈及其它准备工作之后，将一条鞭法推

行全国。一条鞭法结束了中国历史上赋、役平行征收的形式，使税制化繁为简；并役于赋，使徭役中的人身强制和依附关系得以松弛；将实物税改为货币税后，促进了中国货币经济的发展。这些既有利于减轻农民的赋役负担，又有利于政府的财政收入，也有利于促进资本主义萌芽发展的经济谋略思想是有进步意义的，也值得后人借鉴的。

## 一条鞭法

一条鞭法者，总括一州县之赋役，量地计丁，丁粮毕输于官。一岁之役，官为僉募。力差，则计其工食之费，量为增减；银差，则计其交纳之费，加以增耗。凡额办<sup>①</sup>、派办<sup>②</sup>、京库岁需与存留、供亿<sup>③</sup>诸费，以及土贡方物，悉并为一条，皆计亩征银，折办于官，故谓之一条鞭。立法颇为简便，嘉靖间，数行数止，至万历九年(1581年)乃尽行之。

凡役民，自里甲正办外，如粮长、解户、马船头、祗候、弓兵、皂隶、门禁、厨斗为常役。后又有斫薪、抬柴、佟河、佟仓、运料、接递、站铺、牯浅夫之类、因事编僉，岁有增益。嘉、隆后，行一条鞭法，通计一省丁粮、均派一省徭役。于是均徭、里甲与两税为一，小民得无扰，而事亦易集。然粮长、里长，诸役卒至，复僉农民。一条鞭法行十余年，規制顿紊，不能尽遵也。

至嘉靖末，大工营缮之务岁也，祷祠斋醮之事无虚同，经巨费不赀。大臣放滥于卖官鬻狱，次者居间，而民俗益胥于淫侈。其后倭夷作乱，而苏松两浙骚然烦费；盗起湖广、江闽毒焉；虏往往入躏山西畿甸，而边费日博。河决徐兗山东淮徐，苦筑塞开浚，而沃土为墟，国用益耗殫。终未尝额外加派，即户工部不时有所需，而民里甲均徭上下之费，日浮于旧。而征一法、一条鞭、十段锦、纲银，诸于在所异名而同贯。

其征一法，都御史欧阳铎抚南畿，督十

郡粮储，曰：“吾不虞他七郡，独虞苏、松、常，而最甚者苏。夫苏漕粮当天下半，当如国计何？厥田虽有上下，独伯季耳<sup>④</sup>，季仅五升，而伯倍至十五，奈何？”乃令府州县各总其亩之额，而丈量田，以正亩括其征米征银之凡，而计亩均输之。乃奏请于天子，上可其言，而科则不易乎旧，但比其最重者与最轻者，稍以耗损益推移之。重而不能尽损者，为递减耗米，派轻资折除之，以为阴见轻；轻而不能加益者，为征本色递增耗米加乘之<sup>⑤</sup>，以阴见重。诸推收田者，从圩不从户。田为母，人为子，奸巧稍莫能容。又令民岁以田出缗钱雇役，毋得仍前十年之旧，而天下行之者大半。

其纲银法者，举民间应役岁费，丁四粮六总征之。在官法易知不繁，犹网有纲一举而尽也。

一条鞭法者，通府州县十岁中税粮，存留、起运额若干，均徭、里甲、土贡、雇募加银额若干，通为一条，总征而均支之也。其征收不轮甲，通一处丁粮均派之，而下帖于民，备载所应纳之数于帖。而岁分限纳之官，其起运、完输若给寡，皆官府自支拨。盖轮甲则递年。十甲，充一岁之役。条鞭则合一处丁粮，充一年之役也。轮甲则十年一差出，骤多易困，条鞭令每年出办，条出少易输。诸役钱分给主之官，承募人势不得复取赢于民，而民如限输钱讫，闭户卧，无复追呼之扰，民称便。北方行之，如金科玉律焉。

又均徭法者，通州县徭银数不可得减，而各甲丁粮多寡势不能皆齐，丁粮多则其年派数加轻，丁粮少则其年派数加重，固已不均，两所当之差，有编银一两止纳一两者，有加二、加三、加四、五、六者，有倍纳四五以至相什百，虽名为均徭，实不均甚。乃合民间加纳之银，俱入官正派之数，均轻重，通苦乐于一县十甲之中。役人不损直而徭户不苦难，行之亦称便。

十段锦者，计每岁银力差各若干，总计

十甲之田，派为定例。如一甲有余，则留二甲，用不足，则提二甲补之。凡免田十年止免一年，一年之内止本户。若寄庄及原籍已免，不再免。如金银库革定各徭编之旧，照司府例纳银，为人工食费，止令巡守，弗支收。……若诸法，皆都御史庞鹏、周如斗、刘光济、参政王宗沐前后条上者，上辄从之，遂随地行之不衰。

伏承尊谕，以条鞭便否下询，仰见虚怀咨諏之诚，可胜悚服。不肖迂腐书生<sup>⑥</sup>，暗于世故，然少居闾里，颇从父老闻赋役之大略矣。盖所谓条鞭者，自万历初年，敝邑（山东东阿）旧尹白君始议行之，至今且二十年，邑士民皆称其便，而他邑则有谓不便者。此有故焉。请先言条鞭之名，后言敝邑之所谓便，他邑之所谓不便，而后及其法之当否。惟台下择之。

夫条鞭者，一切之名，而非一定之名也。如粮不分廩口<sup>⑦</sup>，总收分解，亦谓之条鞭。差不分户则，以丁为准，亦谓之条鞭。粮差合而为一，皆出于地，亦谓之条鞭。丁不分上下，一体出银，此丁之条鞭。地不分上下，一体出银，此地之条鞭。其名虽相同，而其实不相盖也。敝邑所谓条鞭者，税粮不分廩口，总收起解，差役则除去三等九则之名<sup>⑧</sup>，止照地编派，丁不论贫富，每丁出银若干，地不论厚薄，每亩出银若干，上柜征收，召募应役，而里甲之银附焉。此敝邑条鞭之略也。

然而有便、有不便者，其说何居？旧时差役之法，如夫役一名，该银若干，各金上八则人一户，谓之头役，而以九则花户贴之，别有闲名代当，给领由帖，自向头役打讨，如数受成，使其取偿于贴户。而所谓贴户者，人数众多，居有远近，所贴银数，或以钱计，或以分计，头役不能遍讨，甘于包贴<sup>⑨</sup>。而代当之人亦不能纯得银，大率尺布斗粟，皆昂其值以予之，故两受其负。自条鞭法行，差银上柜，按季给银，代当者得本色银钱，无折准之苦，应差者照地丁出银，无包帖之

累，此不坐头役之便也。旧时征派税粮，预选殷实之家，金充大户，列肆自收，完日各照廩口给批自解，当其收时，钱银入手，未免妄费，及至解纳，侵渔已多，势必陪偿，甚有鬻产质田，尽室流徙者。自条鞭法行，粮银上柜征收，但金一柜头守之，只知投入，不晓镗两，无从侵牟，亦免贴补，此不金大户之便也。旧时里甲之役，十年一轮，谓之见年，一切买办支应，俱出其手，九年之息，不足以当一年之费。今将里甲银数并入产银，官吏支销，里牌胥徒不知有轮当之苦矣，此不应里甲之便也。旧时丁均徭，分为九则，三年一审，置产多者则下升上，弃产多者则自上擦下，故里书造册有诡寄之弊，士大夫居间有请托之弊，里老供报有贿买之弊，官吏受财有轻重之弊。自条鞭法行，均徭受审，而此弊尽除矣。此不审均徭之便也。盖敝邑所以称便者如此。

旧法编派均徭，有丁银、门银而无地银<sup>⑩</sup>，则总括其资产而为之高下也。今去其门银，而以地银易之，惟计其产，不科其资，则田家偏累，而卖贩之流握千金之资，无陇亩之田者，征求不及焉，此农病而逐末者利也。上八则人户旧有丁银、门银，今去其门银，令丁银与上八则等，而易以地银，是下户病而中人以上利也。滨海斥鹵之地如济之东北<sup>⑪</sup>，荒弃不耕之地如兗之东南<sup>⑫</sup>，故皆一望无际，颗粒不收，平时夏秋税粮犹累里牌包纳，若更加地差，则里牌亦不能支矣。是成垦之田利，而荒弃之田不便也。盖他邑所称不便者如此。

综之敝邑所谓称便者在四弊之除，而地无荒弃也，以我之便而谓彼之不便，以彼之不便而夺我之便，岂其情哉！今东省州邑百有八城，有如敝邑之称便者，不可知其几何，必其无荒田者也，有如他邑之不便者，皆如敝邑之称便，则不必照地，亦自可行。何以实之？粮银上柜，则可不金大户，不必差之照地与否也。差银上柜，即可不金头役，不必出于地而后可上柜也。里甲并入均徭，即

可不当见年，不必出于地然后可并也。惟差不照地，则均徭当审耳。然欲不审均徭，而一切照地，亦自有处。丁之贫富，地之厚薄，或相倍蓰，或相千万，其来久矣。富而一丁之徭，不啻贫民千百，而丁银无差等，何以服丁之贫者！上田一亩之价，有至二、三两者，下田一亩，不能数铢，而地银无差等，何以服地之瘠者！诚以丁存九则之名，田有三等之别，而于工贾市肆之流，稍有以裁之，则照地编差，亦可通行无弊矣。

然又有说，天下有治人，无治法。敝邑所以至今称便者，以十余年来长吏皆得其人，能润色而损益之也。设或不然，岂能元弊！何者？大户不金矣，倘即使柜头称收，则有大户之侵欺，或别金富民征解，则有大户之赔补，是大户之苦固在也。至于不坐头役，亦有流弊。盖差有头役，代当之人自以其便取之于民，虽有折准，缓急可济。今使待哺于官，必及期而后领。当其未及，势必称贷以济急需。及其已得，则钱出官柜，即入债家之手，加息重贷，子数日增，展转再三，各抱空质。于是头役之苦不在民间，而在代当之人矣。此但就中少加调停，易为力也。然此就其利病而言耳，至于溯本穷源，因名核实，则条鞭之法，于古今旧制，实有不合者。请直陈之。

物惟不齐而思以齐之，分惟不均而思以均之。我朝成法所以分三等九则者，正以其不齐不齐而使之均也。今不分三等，不分九则，凡丁与地而一之，此所谓一切之法也，于我朝之旧制亦少更矣。又不但此，古之制赋，虽沿革不常，名目各异，大要不出租庸调之法，我朝润色而用之。所谓丁银者，即有身之庸也。所谓门银者，即有家之调也。所谓税银者，即有田之租也。今田既有税粮，而益之以地差，差出于门丁，而去其门银，是田不止于租，而家可无调也，非法古之意矣。又不但此，有户有口，自上古以来未之有改，今不分三等九则，而但以丁起差，则按图而披，不知某为某门，是有口而无户也。条鞭

之法，其善如彼，而名义之间，乃有谬于古而悖于今者，则何以策之而可乎？统论此法，便于南者多，便于北者少，便于粮者多，便于差者少，而其所谓便不便者，前所陈之四弊，而不论其照地与否也。诚于头役大户里甲均徭四事，如敝邑之法行之，则照地便，不照地亦便。设使四弊之名尚存，则地银与门银无以分也。惟台下擦之。

闻以敝省赋役，集众属讲求其便，此必见法之有未宜于土俗者，思恤民瘼，甚大惠也，然求便之方，莫如查复旧规。盖祖宗立法简当，上易知而下易从，如田赋，每亩起科五升三合三勺，妇人童子知之。其坐派仓有轻重，上户纳重，下户纳轻，妇人童子亦知之。此虽书手欲为上下<sup>⑩</sup>，人人得而穷诘，万世不可易之法也。后不知何故，变为一条鞭法，无复斗升之数、仓口之别，及又以黄蜡颜料柴炭等项加派于中。岁岁不同，则虽官府，亦不能纤悉查算，乡人何从知之？只听书手道其多少而已。

窃谓穷民之田皆鬻卖，所余之瘠薄，非沙即碱，亩收不过斗升，且多有不毛者，比于富民粪治之田，不能什一，一概纳粮，岂能取给乎？不给则佣身以办，何其苦也。而又加之黄蜡等项，其又何堪？逃亡相踵，逋负累积，转相包赔，牵连俱走，一里绝烟者无数也。可怜哉！计上户得减三之一，而下乃加倍之三，夫立法固欲便穷民也，而适病之，然守为经常，岂可乎？如防士夫得轻，亦当别限以法，不以并累下户宽减富民可也。若下户得派轻粮，更不加差于中，则省力可办。至于逃粮得轻，则虽令人包赔，费亦不多。粮草易完，人又何故逃乎？古人取譬，谓“大弦急而小弦绝”，言小之不能随大也。故一切之法，非所以施于九等之户也。

或谓周文襄曾以此均苏松，然水土异齐，天渊之势，岂可比而同乎？往闻柴炭等项，俱于均徭内出办，极贫者免，似为得之。盖北方土瘠，正粮外一毫不可加也，见今地日益荒，卖无所售，甚至白与人，亦无肯应承

者，农人至此，亦诚可哀而念之也。往在部已尝具疏得允，未见施行，兹目击民艰，惨不可忍，因便敢复及。

#### 注释：

- ①额办：又名岁办。是指皇家每年所需用品、物料等由户，工部按规定数量分派于各地。  
②派办：又称坐办，即于额办外的临时性需用物料，随时派于各地，征取上解。  
③供亿：指州县每年需用的供应官员往来、办公费用等项支出。  
④伯季：原指兄弟行辈中长次排行的次第。这里引申为指土地肥瘠的差别。  
⑤耗米：是指正粮外加派之米。  
⑥不肖：于慎行（人名，隆庆进士，与张居正同时）的谦称。  
⑦廩：即仓。  
⑧三等九则：户有三等，门丁均徭分为九则。  
⑨包贴：即包赔，头役为各散户预先贴垫役钱叫包贴。  
⑩门银：又称户银，认各编户资产高下定则征收。  
⑪济：指今山东济南。  
⑫兗：今山东兗州。  
⑬书手：指明代里甲之内负责造报鱼鳞图册、黄册以及摊算各户应纳粮钱杂役的雇员，也称里书。

## 《上孝宗皇帝第一书》

#### 题解：

陈亮（1143—1194）字同甫，婺州永康（今浙江永康）人，南宋思想家。他毕生坚持抗金斗争，多次上书请求改革弊政。针对宋朝财权高度集中于中央的现实，他坚决主张分财权于各郡县。他认为，中央的财权太多，而郡县的财权太少，这就无法推行各项政策，结果是各郡县往往以各种附加税的方式（租税加耗等）补救其财政困难，这样反而加重了百姓的负担，致使国力削弱，民不聊生。在《上孝宗皇帝第一书》中，陈亮建议：停止收聚地方之利以充实国库的做法，留给郡县一部分财政收入，任其自用。虽然陈亮的这一建议连同其它主张均未被采纳，但他关于分财权于地方（财政分权论）以充分发挥地方财政职能的谋略思想，在高度集权的中国封建社会里，是难能可贵的。

然夷狄遂得以猖狂恣睢，与中国抗衡，俨然为南北两朝，而头目手足混然无别。微澶洲一战，则中国之势浸微，根本虽厚而不可立矣。故庆历增币之事，富弼认为朝廷之大耻，而终身不取自论其劳。盖夷狄征令，是主上之操也；天主供贡，是臣下之礼也。夷狄之所以卒胜中国者，其积有渐也。立国之初，其势固必至此。故我祖宗常严庙堂而尊大臣，宽郡县而重守令；于文法之内未尝折困天下之富商巨室，于格律之外有以容奖天下之英伟奇杰；皆所以助立国之势，而为不虞之备也。庆历诸臣亦尝愤中国之势不振矣。而其大要，则使群臣争进其说，更法易令，而庙堂轻矣；严按察之权，邀功生事，而郡县又轻矣。岂惟于立国之势无所助，又从而朘削之。虽徽章象陈执中以排沮其事，亦安得而不自沮哉！独其破去旧例，以不次用人，而劝农桑，务宽大，为有合于因革之宜，而其大要已非矣。此所以不能洗夷狄平视中国之耻，而卒发神宗皇帝之大愤也。王安石以正法度之说，首合圣意。而其实则欲籍天下之兵尽归于朝廷，别行教阅以为强也；括郡县之利尽入于朝廷，别有封椿以为富也。青苗之政，惟恐富民之不振也。罪无大小，动辄兴狱，而士大夫缄口畏事矣；西北两边，至使内臣经画，而豪杰耻于为役矣。徒使神宗皇帝见兵财之数既多，锐然南征北伐，卒乖圣意，而天下之势实未尝振也。彼盖不知朝廷立图之势，正患文为之太密，事权之太分，郡县太轻于下而委琐不足恃，兵财太关于上而重迟不易举。祖宗惟用前四者以助其势，而安石竭之不遗余力。不知立国之本末者，真不足以谋国也。元祐、绍圣，一反一覆，而卒为夷狄侵侮之资，尚何望其振中国以威夷狄哉！

南渡以来，大抵遵祖宗之旧，虽微有因革增损，不足为轻重有无。如赵鼎诸臣，固已不究变通之理。而况秦桧尽取而沮毁之，忍耻事仇，饰太平于一隅以为欺，其罪可胜诛哉！陛下愤王业之屈于一隅，励志复仇，

而不免籍天下之兵以为强，括郡县之利以为富。加惠百姓，而富人无五年之积；不重征税，而大商无巨万之藏；国势日以困竭。臣恐尺籍之法，府库之财，不足以支一旦之用也。陛下早朝宴罢，以冀中兴日月之功，而以绳墨取人，以文法蒞事。圣断裁制中外，而大臣充位；胥吏坐行条令，而百司逃责；人才日以阛茸。臣恐程文之士，资格之官，不足以当度外之用也。艺祖皇帝经画天下之大略，太宗皇帝不能尽用，臣不敢尽具之纸墨。今其遗意，岂无望于陛下也！陛下苟推原其意而行之，可以开社稷数百年之基，而况于复故物乎！不然，维持之具既穷，臣恐祖宗之积累亦不足恃也。陛下试幸令臣毕陈于前，则今日大有为之略，必知所处矣。

夫吴蜀，天地之偏气也；钱塘，又吴之一隅也。当唐之衰，而钱镠以閭巷之雄起王其地，自以不能独立，常朝事中国以为重。及我宋受命，俶以其家人京师而自献其土。故钱塘终始五代被兵最少，而二百年之间，人物日以繁盛，遂甲于东南。及建炎、绍兴之间，为六飞所驻之地，当时论者固已疑其不可以张形势而事恢复也。秦桧又从而备百司庶府以讲礼乐于其中，其风俗固已华靡；士大夫又从而治园囿室榭以乐其生于干戈之余，上下宴安，而钱塘为乐国矣。一隙之地，本不足以容万乘，而镇压且五十年，山川之气盖亦发泄而无余矣。故谷粟桑麻丝鼈之利岁耗于一岁，禽兽龟泉草木之生日微于一日，而上下不以为异也。公卿将相大抵多江浙、闽、蜀之人，而人才亦日以凡下；场屋之士以十万数，而文墨小异已足以称雄于其间矣。陛下据钱塘已耗之气，用闽浙日衰之士，而欲鼓东南习安脆弱之众，北向以争中原，臣是以知其难也。

荆襄之地，在春秋时，楚用以虎视齐晋，而齐晋不能屈也；及战国之际，独能与秦争帝。其后三百余年，而光武起于南阳，同时共事，往往多南阳故人。又二百余年，遂为三国交据之地。诸葛亮由此起辅先生，荆楚

之士从之如云，而汉氏赖以复存于蜀。周瑜、鲁肃、吕蒙、陆逊、陆抗、邓艾、羊祜，皆以其地显名。又百余年，而晋氏南渡，荆雍常雄于东南，往往倚以为强，梁竟以此代齐。及其气发泄无余，而隋唐以来，遂为偏方下州；五代之际，高氏独常臣事诸国。本朝二百年之间，降为荒落之邦，北连许汝，民居稀少，土产卑薄，人才之能通姓名于上国者，如晨星之相望。况至于建炎、绍兴之际，群盗出没于其间，而被祸尤极。以迄于今，虽南北分画交据，往往又置于不足用，民食无所从出，而兵不可繇此而进。议者或以为忧，而不知其势之足用也。其地虽要为偏方，然未有偏方之气五六百年而不发泄者。况其东通吴会，西连巴蜀，南极湖湘，北控关洛，左右伸缩，皆足为进取之机。今诚能开垦其地，洗濯其人，以发泄其气而用之，使足以接关洛之气，则可以争衡于中国矣。是亦形势消长之常数也。陛下慨然移都建业，百司庶府，皆从章创，军国之仪，皆从简略。又作行宫于武昌，以示不敢宁居之意。常以江淮之师为虏人侵軼之备，而精择一人之沈鸷有谋、开豁无他者，委以荆襄之任，宽其文法，听其发置，抚摩振厉于三数年之间，则国家之势成矣。至于相时弛张以就形势者，有非书之所能尽载也。

## 《摊丁入亩》

题解：

“摊丁入亩”为清代赋役制度的重大改革。王庆云撰《熙朝纪政》有详细记载。王庆云(1798—1862)，字家骥，号雁汀，福建闽县人。道光进士，由翰林官至四川总督，卒谥文勤。王氏留心当时财政经济问题，著有《熙朝纪政》，又名《石渠纪馀》，清代史料笔记，以叙述财政制度为主，大抵取材实录、会典。

清初的赋役制度沿用明朝的一条鞭法，人丁仍然负担一定赋税。在社会经济恢复和

发展的条件下，康熙五十一年(1712)清政府宣布“滋生人丁，永不加赋”，丁银已成定额。次年，默许广东、四川二省将丁银摊入田亩征收。雍正元年(1733)，清政府接受直隶巡抚李维钧的建议，颁发“摊丁入亩”的诏令。摊入田亩之银额，各省各地参差不齐，多者亩加二三钱，少者一二厘。四川、湖南等省以粮为单位计算，多者石加八钱，少者一毫。因守旧势力的反对，各省实施程度不一，或一省之内，各府、州、县亦不相同。改革历时半个多世纪，乾隆后期基本完成。从此，取消了两千年征税的双重标准，实行单一的土地税。在一定程度上既减轻了人民的负担，又有利于经济发展的经济谋略思想具有一定的进步意义，也值得后人研究、借鉴。

## 摊丁入亩

丁口之输赋也，其来旧矣。至我朝雍正间，因各疆吏奏请以次摊入地亩，于是输纳徵解，通谓之地丁，或曰丁随地起，是古来夫布之征，口率之赋，一切取之农夫，而户册所谓富农、市民者，拥货千万，食指千人，不服田亩，即公家一丝一粟无与焉。臣以为此势之所趋，不得已也。昔杨炎併租庸调为两税<sup>①</sup>，而丁口之庸钱併入焉。明嘉靖后行一条鞭，均徭、里甲与两税为一。丁随地起，非权与於今日<sup>②</sup>，亦曰通其变，使民不倦而已。我朝丁徭素薄，自康熙五十年定丁额之后，滋生者皆无赋之丁。凡旧时额丁之开除既难，必本户适有新添可补，则转移除补，易至不公，惟均之於田，可以无额外之多取，而催科易集。其派丁多者，必其田多者也；其派丁少者，亦必有田者也。保甲无减匿，里户不逃亡，贫穷免敲扑，一举而数善备焉。所不便者，独家止数丁而田连阡陌者耳。然使丁地分徵，则富户又将贿脱而委之贫民，欲编审之均平，顾可得乎？故自康熙末年，四川、广东等省先已行之。田载丁而输纳，丁随田而卖买，公私称便。至雍正初，畿辅



踵而行之，次及各省惟奉天<sup>③</sup>、贵州，以户籍无定，仍旧分徵，山西亦於乾隆元年以后，陆续摊派。前后百数十年，时历三圣<sup>④</sup>，其减除重则缺额者<sup>⑤</sup>，史不绝书，经营衰益<sup>⑥</sup>，然后法制大定。乃知唐之庸钱，不得不归於两税；明之均徭，不得不改为条鞭；皆势之所趋，不得已也。惟是米谷者，田之所产；银者，商贾之所流通。地粮犹兼输米，丁赋名兼米豆，实则皆银。故古之伤农者一，谷贱是也，今之伤农者二，曰谷贱也，银贵也。银贵则谷愈贱实亦一也。抑臣读前史，宋用唐之两税，庸钱在其中矣，而复令百姓岁输身丁钱米。明中叶以后，条编名存实亡，隆庆总括户口租庸，正额之外，复多杂巡，作法於凉<sup>⑦</sup>，其弊犹食如此。我朝定制百余年矣，地丁之外，分毫无取焉，后之谋国者，亦善守成规焉可矣。

#### 注释：

①杨炎：(727—781)，唐代政治家，德宗时制定两税法。②权与：开始。③奉天：指奉天府。④三圣：指顺治、康熙、雍正三帝。⑤则：指田赋征收标准过高。则，等级。⑥衰益：增减。⑦凉：薄、少。

## 《资政新篇》

#### 题解：

书名。洪仁玕著。洪仁玕(1822—1864)，字益谦，号吉甫。广东花县人，洪秀全族弟。少学经史，屡试不第。道光二十三年(1843)参与创立拜上帝会。金田起义后，应召赴广西浔州(今桂平)，未赶上太平军，中途折回，此后逗留香港、上海等地。咸丰九年(1859)到达天京(今南京)，受封为干王，总理政事。他根据自己接受的西方资本主义思想，向洪秀全提出《资政新篇》，提出一整套以学习西方为中心的经济谋略，主张学习西方科学技术，革新政治、发展资本主义经济。书中提出要建立一个新的国家，关键“在乎设法用人之得当”，应该从三方面入手：第

一，“以风风之”，即以新风俗代替旧的生活习俗；第二，“以法法之”，即仿效资本主义国家，通过立法，实行新的社会和经济政策，发展民办的近代工矿业和交通业；办银行、设邮局、立报馆、奖励发明和对外通商等；第三，“以刑刑之”，即采用新的刑法制度，惩办奸徒。这是个在农民革命的基础上企图发展资本主义的经济谋略纲领，具有进步意义。但当时缺乏实现的社会条件和阶级基础，加之战事频多，未能付诸实现。

……倘中邦人不自爱惜，自暴自弃，则鹬蚌相持，转为渔人之利，那时始悟兄弟不和外人欺，国人不和外邦欺，悔之晚矣。曷不乘此有为之日，奋为中地倡，以顶天父天兄纲常，太平一统江山万万年也。

一、兴车马之利，以利便轻捷为妙。倘有能造如外邦火轮车，一日夜能行七八千里者，准自专其利，限满准他人仿做。若彼愿公于世，亦禀准遵行，免生别弊。先于二十一省通二十一条大路，以为全国之脉络，通则国家无病焉。通省者阔三丈，通郡者阔二丈五尺，通县及市镇者阔二丈，通大乡村者阔丈余。差役时领犯人修茸崩破之处。二十里立一书信馆，愿为者请饷而设，以为四方耳目之便，不致上下梗塞，君民不通也。信资计文书轻重，每二十里该钱若干而收。其书要在某处交递者，车上车下各先束成一捆，至即互相交讫，不能停车俄顷。因用火用气用风之力大猛也，虽三四千里之遥，亦可朝发夕至，纵有小寇窃发，岂能漏网乎！

一、兴舟楫之利，以坚固轻便捷巧为妙。或用火用气用力用风，任乎智者自创。首创至巧者，赏以自专其利，限满准他人仿做。若愿公于世，亦禀明发行。兹有火船气船，一日夜能行二千余里者，大商则搭客运货，国家则战守缉捕，皆不数日而成功，甚有裨于国焉。若天国兴此技，黄河可疏通其沙而流入于海，江、淮可通有无而缓急相济，要隘可以防患，凶旱水溢可以救荒，国内可



保无虞，外国可通和好，利莫大焉。

一、兴银行。倘有百万家财者，先将家资契式禀报入库，然后准颁一百五十万银纸，刻以精细花草，盖以国印图章，或银货相易，或纸银相易，皆准每两取息三厘。或三四富民共请立，或一人请立，均无不可也。此举大利于商贾士民，出入便于携带，身有万重而人不觉，沉于江河则损于一己而益于银行，财宝仍在也。即遇贼劫，亦难骤然拿去也。

一、兴器皿技艺。有能造精奇利便者，准其自售，他人仿造，罪而罚之。即有法人而生巧者，准前造者收为己有，或招为徒焉。器小者赏五年，大者赏十年，益民多者年数加多，无益之物有责无赏。限满他人仿做。

一、兴宝藏。凡金、银、铜、铁、锡、煤、盐、琥珀、蚝壳、琉璃、美石等货，有民探出者准其禀报，爵为总领，准其招民采取。总领获十之二，国库获十之二，采者获十之六焉。倘宝有丰歉，则采有多少，又当视所出如何，随时增减，不得匿有为无也。此为天财地宝，虽公共之物，突亦枕近者之福，小则准乡，大则准县，尤大者准省及省外之人来采也。有争斗抢夺他人之所先者，准总领及地方官严办，务须设法妥善焉。……

## 《财 用》

### 题解：

本篇选自《谭嗣同全集》中《壮飞楼治事十篇》<sup>①</sup>。谭嗣同(1865—1898)，字复生，号壮飞，自署东海蓑冥氏，湖南浏阳人。他是19世纪90年代改良主义变法运动中最激进的人。他出身于封建官僚家庭，父继洵，官至湖北巡抚。1894年，嗣同三十岁，正值中日甲午战争，他感到国家的危亡，思想上发生剧变，抛弃旧学，发愤提倡新学，号召变法。著有《仁学》，为变法制造舆论。1897年，33岁时，写下了《壮飞楼治事十篇》。并与陈宝箴、黄遵宪、熊希龄在长沙创办时务学堂，

办南学会，是湖南变法维新的骨干力量。1898年4月奉诏入京，任军机处章京，参与“百日维新”。变法失败后，被顽固派杀害。《壮飞楼治事》十篇，分十个方面论述了他的变法思想与谋略，《财用》一篇，以创办维新团体所应从事的经济活动为重点，阐述了他的经济谋略，实质是要变封建自然经济为资本主义经济。

《易》曰：“何以聚人曰财。”记又曰：“有人此有土，有土此有财。”人之与财，其，相需如其急也。夫离群索居，则咨嗟太息，无以发舒其抱负。临深陟高，山川满目，我于人两元所裨，即两不相关。既而闻声争附，见影相趋，学会成矣，人才出矣。又安可不筹理财之事哉？

袁世言利之臣，大率以民为圈豕中之牛豕<sup>②</sup>，日夺其食，腴其脂，绝其生命，而苟焉以自救。否亦屯密云之膏<sup>③</sup>，遏流根之泽，以吝啬闭藏为报国耳。持此理财，财安得不日益竭？

今日所谓学会，民以其学来会也，则言理财，悉以养民为主义。众寡舒疾<sup>④</sup>，互研其理，农矿工商，各精其术，斯固然矣。有善堂者亦会之义也<sup>⑤</sup>，苟尽取而并之于学会，或督其成，或分其役。费合而力始巨，事公而效愈睹。鰥寡孤独废疾有养<sup>⑥</sup>，则益使习为工艺，自食其力，加以变人力而为机器，化腐臭而为神奇<sup>⑦</sup>。岂患天既生之乃不能养之耶？他若辟道路以通货殖，联商会以课厘捐。今之厘金局不废去，则商务日坏，民生日棘，诚无能为矣。故言理财，必自废厘金始。或虞格于成例，不能避免，莫若以学会及商会中人办理厘金之事，庶几可也。阻力既去，新利自生，成效既昭，募资亦易。然后溥施善政，概振困穷，以会计为任恤，以任恤为丰阜。更由学会自设警部，则省去公家之兵费，而足以靖地方矣。由学会公定祀典，则省去赛神之民财，而庙宇足变为会产矣。而且衣服宴乐，居处仪文，由学会定一

简易易从之准则，由是凡可以资小民之生计而制其用者，无不可以进议之矣。于是无变制度之名，而有变制度之实。

#### 注释：

①壮飞楼：本篇《浏阳二杰遗文》卷一作《治事篇》。分第一《释名》、第二《辨实》等。今据《谭嗣同全集》，壮飞楼，谭嗣同《三十自纪》说“中外虎争，文无所用”，表示要放弃文学从事维新运动，“由是自名壮飞”，称居处叫壮飞楼。②圈茆：牲畜棚。③屯密云之膏：屯，积。《易·小畜》：“密云不雨”。膏：泽。指不降雨水。④众寡舒疾：《大学》：“生财有大道：生之者众，食之者寡，为之者疾，用之者舒。则财恒足矣。”⑤善堂：办理社会救济的机构。⑥鰥寡孤独废疾有养：鰥：老而无妻；寡：老而无夫；孤：幼而无父；独：老而无子；废疾：残疾；残废。韩愈《原道》：“鰥寡孤独废疾者有养也”。⑦化腐臭而为神奇：《庄子·知北游》：“腐臭复化为神奇”。

## 《理财救国论》

#### 题解：

本文录自《不忍》杂志第一册，1913年2月出版；《康南海文集汇编》曾收入。

本文前言谓“数年前撰《理财救国论》，久未公布”；他1908年冬写的《金主币救国议》也说“吾《理财救国论》且有待焉”。是此文撰述较早，而正式刊布，则在辛亥革命以后。

本文作者康有为，字广厦，号长素，后改更生，广东南海人。出身于官僚地主家庭，生长在遭受西方资本主义侵略和接触西方资本主义文化最早的地区。受过严格的儒家教育。光绪五年（1879）游历香港，接触西方资本主义，认识到“西人治国有法度，不得以古旧之夷狄视之”。中法战争，清政府战败求和，认识到中国有亡国灭种危险，必须进行变法。主张，认为中国如果实行变法，则“富强可致”。光绪二十一年（1895），曾发动“公车上书”，吁请拒和、迁都、变法、练

兵。此后，在北京和上海分别组织强学会，创刊《万国公报》、《中外纪闻》和《强学报》，进行维新变法鼓动。接着，不断上书光绪皇帝，对政治、经济、军事、文教各方面提出一整套向西方学习，以发展经济为中心的资本主义谋略。

变法运动虽然失败了，但康有为还是坚持向西方学习的主张，企图用发展资本主义的谋略，拯救中国。1913年在《不忍》杂志上公开发表的《理财救国论》，就是以经济为中心，论述如何发展资本主义的谋略思想。康文说：“以吾此说行之，先定国民银行，以集中央银行之资本公债，而发行纸币于上；各省县乡有组合银行以交通国民于中；有劝业兴业银行、股票交易所裕民于下；有正金银行以平通汇兑，借贷外债于外；有特权银行以辟富源、佐边用于边，数者并举，而中国犹患贫者，未之有也”。尽管康有为的经济谋略主张在当时的社会历史条件下难以实现，但他极力主张学习西方先进科学技术，先进管理方法，主张办银行、制纸币、发行公债、设股票交易所等一系列发展资本主义的谋略，无疑对中国发展资本主义经济是有益的。就是当今仍有研究、借鉴之必要。

夫欧洲各小国，如荷兰、比利时，仅当吾一二府地，人民四五百万，国岁入逾二万万，小民生计摊匀，人四百磅余；如丹墨、那威，人口百余万耳，仅当吾一大县，而亦财政雍容，岁入数千万；德之汉堡市，地二十九里，人口未百万，而岁入几二万万。是岂从天降地出者哉，盖得理财之道耳。理财之道无他，善用银行而已。

善用银行者，无而能为有，虚而能为盈，约而能为泰，必有实金而不以实金行，而善能以虚纸运。其行纸也，交互递代，不以直而以曲，不以单而以复。夫纸者至贱而出之无穷，行之有道，则国以富强，民以饶足。嗟乎！使前清得而用之，国可不亡，至今共和国民困敝，而日仰借外债，以延性命，犹

不知理财，乞得实金，仍如旧法而直行用之，随得立尽，又复乞借。夫以岁不足者三万万，军债及旧纸币，约三万万，即不计纸票及铜元之凌乱，就借得六万万，又复立尽也。今虽借者，合各省几千万万矣，尽之久矣或有知借债者，宜用于生利之业，则以为铁道实业宜若可矣，然而于经国育民之大计，尚无一文及之，是终无以立国之本也，而负债之金如其巨，民何能负担之。假令今者外人不索监理，而见借此六万万也，适促吾国之亡而已。今因索监理得激国民之愤耻，而免兹重担，俾缓危亡，或未始非不幸中之幸事耶。虽然，有人有土此有财，安有以万里之大国、四万万之人民，而患贫一至于此哉，无术甚矣。苟得理财之法，国计不患于困乏也，民生不忧其匱绝也，且以吾之广土众民，土产博而佣工薄，四者皆万国无有，苟得其道而善用之，一年而规模立，三年而成效著，五年而国计民生裕，十年而富力无敌于天下矣。

夫所谓理财之道者，妙用银行以为枢，通流至虚之币公债以为用，搜藏至实之金银以为备，铸行划一之金币以为符而已。

夫古者理财仅用实金则有限，今之理财者，善用虚金则无穷，然而乃虚为虚，无所丽则不能行，行必依于实，以实为实，无所拓则不能滋，故必运于虚。故无实不立，无虚不行，实者阳也，一也，守藏其一，惟恐不实，虚者阴也，偶也，两阖辟而相除，惟恐不虚。一者金质也，偶者其纸币与公债乎，以一为体，以二为用，一则主守而不动，二则手足行持。互济而无穷，一可生二而由于一，合二为一，凡三而千万生焉，改得一而存，得二而化，国为法人耶。托国库于银行，金银块其形，而纸币为其影也，影可大于形。公债者，其拓影也，而银行为之神，银行以金为本作其准备，而发纸币焉。国家以公债票与之银行，而银行以纸币与之国家，而买公债，银行得公债，以作纸币之保证准备，可出纸而易实金焉。然而国家之国库，即在

银行，则金块在银行，支用纸币亦在银行，故银行之与国家，是一是二，如身形神之异，而不相离，乃以运转于无穷，而大生广生焉。

苟能善是，以纸币代金币，不忧其不行，改金主币以收银币，不忧不能一，视公债如贮金，不忧其不能消。凡今昔病民之铜元军债票，不患其不能廓清也，苟能善是，则术同点金，无而为用，虚而为盈，约而为泰，裕国富民，文明安乐矣。

第一，妙用银行为枢也。人其国焉，银行得法，盛大繁多，其国之富实可知也。人其国焉，银行无法，寡少枯槁，其国之贫乏可知也。行于中国突厥之都鄙，哀其贫弱，则银行无法，而寡少枯槁乎。虽然，银行有道，有专独之国家银行焉，有分立之国民银行焉。欧洲各国，皆以国家银行为理财之母，纸币听其发行，公债付其销售，以操全国金融之高下多寡而调剂之，一切统焉，国家之国库托焉，收支者付银行，其有不足，亦惟银行是资。昔法大败于普，偿款十五万万佛郎，三年而毕，则国家银行之力也。惟美则无国家银行，先是有州立银行，听自出纸币，故滥发有至九倍者，此如吾今之银号钱庄矣。今墨西哥犹行州立银行法，限以出三倍纸币。及一九六三年，美南北战时，军饷缺乏，乃发公债三万万元，令全国民间银行，各以资本之一买公债票，国家许其出纸币；至一八九〇年，减为四之一，号为国立银行。日本初未有国家银行，亦师美制，明治五年，发行国民银行，令民间银行纳资本银十之八以买公债票，许其如数纸币，至明治十九年，开国家银行，乃罢国民银行焉。

夫以国家银行能操全国之金融多寡高下而调和之，上之资国，下之济民，中之对外，无一不宜。欧土各国土地，无两日之程，呼吸灵便，故各国从之，学者莫不主其说，为理之极轨也。惟吾中国固当立国家银行，惟地大比全欧，而道路未开，交通阻滞，路隔数月，欲以一银行调和润膈于一千五百县之中，又有余力及于蒙、藏，必无能行者也。

故专主欧制，但立一国家银行者，中国未可也，然则如之何？

美之国民银行，能令全国之民发育增长，各适其宜，施之中国，地大相若，最为合宜。且吾交通不便，远过于美，故各省府县市，自古以来，各有银号钱庄，各自发达，各自出钞，以应其地之所需，盖已暗合美之国民银行之制矣。但国无公债票，无期票，无股票，及公司股票，以为保证准备以增长发育之。又政府纯行放任，绝不检制，不责准备，听其滥出纸币，致多倒挞，所以不如美也。惟美之为制，则财权散而不聚，全国金融之高下多寡孰宜，莫能知而操纵之，故对内外皆不得宜，以致累银行大倒闭之祸，亦其一因也。故专用美制，但行国民银行者，亦于中国未可也，然则如之何？

何以先行国家银行也？凡各国发行纸币之权，皆由国家操之，其听民间银行发行者，必经财政部之许可，与通货监督官之画押，与银行总理之签名，然后能行。若我国之银号钱庄，各自发行纸币，任其自由，上无国家之监核，中无现金之准备，下无人名之画押，一旦倒闭，无可追偿。昔英伦苏格兰百年前银行破产亦由此，而后禁改今，吾近年银号钱庄倒闭多，银根紧，商务益凋，民不信用，于是殷富多放资于外国银行，而全国空虚。军兴后，人皆避地托庇于外人，放资于外国银行者，闻五六万万，尚不计也。夫金融者，国民之性命，国家万不能不监核而操其大权，若放任自由，一难收拾，二难综核，则国与民同血枯而倒毙矣，是谓有国民银行，而无国家银行。

凡银行领有公债者，许出纸币如其数，领有中央股本者，皆可为保证准备，可出纸币，亦可转售之。其有积立金银，则纸期票俟组合银行成后，皆可作为保证准备，出纸币若干成，如美十之一，或百之二五。其有亏闭者，国家为填若干成，俾人信用，其不

领公债票者，不得发行纸币。倒债者，法官不受告，其旧私发纸币，定期一律禁行。

吾国各地，皆有钱业公所、汇业公所，或银行会馆，否则当行会馆，一电令其集议缴款，公债则分三月买毕，中央股本则以十日为上期，二十日为中期，一月为下期缴定，盖一月数千万之大款立集，中央银行股本立兴矣。其无公所之地，有司与局绅分别告之，一月亦可缴定矣。各银行分二十之一以充中央银行资本，中央银行成立，即能出纸币，而操全国金融高下之权，各银行远之可分多数之溢利，近之可得资本之流通，一也。其中央银行资本之股票，与其公债可为保证准备，而可出纸币，可押可售，是有大利而无少损也。出资金买公债，即可自出纸币，是取之内府而藏之外府，几与未出一文同，而可坐得实股，尤为大利，三也。夫国家得公债款，即可用于中央银行之资本，何必强各银行出二十之一以为本乎？此不独非强迫而已，实欲使全国之银行与中央银行呼吸灵通，关系深切。中央银行溢利，即各银行之溢利，则其助中央银行者倍切，情以深于爱国，利亦厚于为己，言私其纵，献肩于公，公私两利，岂非法之最良乎。夫民国者，民之公国也，银行资本家者，民之富民也，选才民以共治办国会，合富民以共办国家银行，共负担之，同其忧戚，岂非义之至耶。四也。且中央银行有出纸币之权，而苦于无准备之现金，不能昭中外之信用，故令中央银行以搜蓄现金为第一要义，所以特令各银行预中央银行之股本二十之一者，欲其助中央银行之搜现金也。虽今者国人现金，放于外国银行数万万，内地现金盖极少矣，然惟其极少，则搜出愈难，惟银行成略存焉。盖近者银行汇兑不通，反能稍保现银也，次则当押金银店略存焉，庶可以易搜现金，且二十取一，亦可以觐全国银行之资本若干，又可考现金若干，以渐为搜藏之地，舍此无他术矣。所以并当押金银店，而并令其预股也。故国民银行之法，以救今日之困急，国与民交利，

未有逾此，国家得公借款后之大用。

何以必立中央国家银行也？国家银行，实为一切银行之母，为银行之银行，操纵一国金融之权，而发行纸币，托以国库，国用不足则助之。以吾国之广土众民，应定股本额为一万万两，以大昭信用。其银行部只与上中级之组合银行及银行之大者交接，由各省大市组合银行公举人为董事，就中举通银行学者为总理、副总理，国家但派监督为稽核指导而已。如此则合全国之银行为一大银行，联其关系，合力既大，信用益昭，无所为而不可矣。……

何为立组合银行也，今银行最新完备法，莫如组行银行，自加拿大创为也。各地都邑城市有银行若干家以上者，各出资本十之若干，以成一银行团，是为组合银行，各银行公选人任其事，以时公议之。凡金融之高下、物价之腾落，皆考求之。各银行资本准备之厚薄，商务与需要之多寡，皆报知之。各银行须增减其币，以应时需者，请求纸币于中央银行而发与者，皆由组合银行代发而监督之。其有亏败，则组合银行分偿其若干成，如其资本之数，以其分偿也，将累及组合银行，故组合银行之监督各银行甚密，而其资助各银行，亦甚得其宜。自立此法，加拿大银行之倒闭者甚少，民间之受益其多，美国慕其法之美而意之良，各市亦多师其制，争立组合银行焉。合各市有银行十家，其资本在五百万以上，得立组合银行。吾中国土地既大，道路不通，京师之与边壤既远隔，边县之与省会又远隔。各地银行之与中央银行也，欲呼吸交通，以时应其需，其道无由，其发达亦无由。今若于各省府大城市之有银行、银号、钱庄若干家以上，令其按照资本额出十之若干，以为信用组合银行，照银行通例，实收半数，虽号收四成者，实二成也。略分三级，省会组合百家，资本百万以上者，为上级组合银行，其小省边僻不及格者，亦得附列为上级。其虽非省会，而能组合百家，资本百万以上者，亦列上级。其各府县城市，

组合十家资本十万以上者，为中级组合银行。其乡市组合五家资本二万以上，为下级组合银行，其当押店，亦为乡僻金融所关，许加入焉。上级组合银行，求发纸币，买卖公债，行用币制，搜购金银块，亦可直接中央银行，而中央银行稽核之。中级银行远地，则与各上级组合银行交接，以便转输直速。若下级组合银行，地近上级组合银行，地近上级组合银行者，于求发纸币，买卖公债，行用纸币，搜购金银块，亦可直接上级组合银行，而皆受其稽核。其远地者，则与中级组合银行交接，而受其稽核。其组合银行于各本店，尤得稽核之。凡各级组合银行，皆以其资本金十之一充中央国家银行资本，或以其十之一充正金银行资本，或以其十之若干买公债票，以为保证准备，其有放款则纸贮款股份票期票，得为保证准备，应其限度，以十之七或十之三发以纸币焉。

各组合银行可常贷与各银行本店，其可信者，务优助之，各如其资本之数。或增数倍而稽核之，其不足而需款者。随时补之，以应其急，其有亏败倒闭者，则组合银行，偿其若干成焉。其组合银行之股票，可作准备，可分押，可分售，但押售后，其本银行所贷原本之币，与其权利失否，由各组合银行相机定之，不能议定，而必有情面存焉。

或虑信用组合之法虽佳，而近于强迫则不可，是大不然。夫各小银行以一资本可化增为组合银行，一利也；又可化增中央国家银行，二利也；民间贷回纸币，多如其所出之本，或过优之，则运转不亏，三利也。时需缓急，他人不能信用假借，而已所分出之组合银行。易假贷以应急，四利也；银行亏败倒闭，吾国所深患，故人多托款于外国银行，有组合银行以偿其若干成，则人间易于昭信，五利也；组合银行势力大而信用著，易获溢利，各本银行可分得之，尤为意外之溢获，六利也；中央国家银行操全国之财权，立于不败之地，可出保证纸币，大利不可思议，而民间各银行，可与组合银行，间接而

为股本，其溢利则分于组合银行，仍分与各本银行，七利也；民间不费一文，但一转移间，而为中央银行及各省县之组合银行股本，与国家省县，大生关系，八利也；中国银号钱庄，资本薄弱，人难昭信，最为银行之忌。且分店多，则用工人多，亦为虚糜之费，故美、日国民银行，皆限其资本额，其村乡三千人以下者，至少在二万五千元以上，即今日本银行家议论，尚日劝各银行之合并，而合并银行之事，亦日有闻。今骤观吾国人以合并银号钱庄，其事至难，以人民为银号钱庄者，多非合股，但一二家赖以生，势难一旦公之于众也，惟今倒闭者多，人情亦畏其难矣，若有组合银行，则信用大而资本厚，各小银号钱庄，势难与争，自渐即于沙汰，是不啻各小银行之皆合并也，大利九也；可以代收国税、地方税、乡税，代募公债，既增体面，尤有大利，孰不争组合之，大利十也。有此十利，人之所乐，亦何劳于强迫哉。以上专就各小银行之利言之，若今吾国中央银行，最要首在发纸币、售公债、搜买金银、购回旧纸币，然皆难下达，况国土广莫，假之吏手，则凡百作弊，何况金银。……

何以设宅地抵当银行以兴农工也，吾国四海困穷，民贫极矣，加军兴后母财乏绝，民不聊生，欲复本业而无资，况于更兴业乎。且今为物质竞争、机器繁兴之世，若物质不讲，工业不起，机器不盛，永无与各国竞争之时，则暗为各工商国所奴灭矣。吾国人多价贱，物产繁多，实为农工之国，然民贫已极，非国家奖助，欲兴农工，其道无由。……我将欲富国，必先足民，否则虽设各种银行，厚其资本，仍不能遍逮穷民，且无以为奖励农工之计也。吾国近者，知奖实业，而商工之公司，实非国家所宜为也，不知为土地抵当银行，以补助人民之母财，而终日仰屋，言兴实业，亦无由也。以法之土地人民，仅当吾十之一，而押逾百万万。吾土地至大，若以地宅押贷，不知若干千万万之价，乃与法比，今乃以无一土地抵押银行之故，

吾人民虽富有田宅，而除鬻卖外，得金无术，即欲为工商，欲整耕稼，亦惟有仰屋自嗟而已。是吾国抚有万里之土地，无限之家宅，不以为本而坐弃之，吾民亦资本皆无，惟有田宅而无以抵押，则百业不兴，生齿坐困，无术甚矣。夫有土此有财，安有坐自暴弃，而致以困穷为人奴灭哉。……

夫市街宅地之抵押，尤为兴起国富之要图，建筑愈多，则地价愈涨，人民坐增其富源，农工商矿亦随之而盛长，于是国富大增焉。盖各国之算国富也，以不动产之屋地为主。夫木石泥沙，满地皆是，至无用也。然伐木石于山野，而树之为壁栋，融泥沙于河滨，而陶之为砖瓦，文以丹青，妙其雕刻，不过工匠一转手耳。而值逾巨万，或百数十万，国富即增，化无用以为大用，孰有过此。然且屋基愈大，园林愈多，占地愈广，电车愈通，荒地愈辟，则地价随屋址电车之所至而增价焉。……吾国第宅虽劣，而都市甚多，土地甚大，比法国为例，应值一万万万零二万万，即不能尔，岂不能比日本乎？虽今全国宅地之台帐，未加核算，然屋地实为国富之本，土地抵押，实为起民资本之由，而于吾国之民贫尤切，不可不留意也。

夫人民理财之法，侈食为下，侈衣为中，侈器为上，盖饮食者，只有虚糜，一出而无复原者也，故为最侈，宜尚俭以救之。衣虽旧，可再染，敝或改为纸，然所还原有用者寡矣。虽非全虚糜，然亦为侈，惟以中国产也，于商有利焉，则听之，器者难坏而可久，精美之器，可厉工作，而竞于物质，其器保存，亦可展转人间，在个人有之，急时可售，非尽虚糜，在公众尚之，得奖伎艺，竞工巧，为今世之宜矣。故侈器宜尚，有益于公众也，在个人为侈，在公不得以为侈矣。若屋者，非一人一家之私物，而一国之公物也，以一人必不能久占者也。流通于国民之间，愈多愈侈，则流通之值愈多，民愈饶，国愈富，俗愈文明，所关至大矣。故欧、美人奖导之，美人月工所入，而屋租费其半，既盛宫室，

又益卫生，花木扶疏绕其外，毡毯纱帘华其内，中人之宅，过吾公卿，岂故为是奢侈而不知禁哉，诚以其可积国富，即可裕民生故也。即或在个人勉强支持华屋，或稍苦之，而在一国之公债与文明，实大利矣。既国民之公利，则非侈矣。吾国人不知此新法，徒泥于尚俭之义，以饮食衣服一例并视之，以茅屋土阶为美，故吾国人苦如牛宫马磨，屋亦等于马厩牛栏，徒令外人诮为野蛮，此知一个人之私德，而不知公众富美之义也，故国富民生无藉也。欲求富美文明，奖民美屋为上，美器次之，衣服为下，若饮食则为奢侈，宜厉禁之，国民明乎此义，则富源有基矣。……今吾国经破坏后，民尤贫，地宅尤贱，不能比昔时，若善为劝业银行补助于上，大奖兴业银行鼓行于下，以不动产为抵押，广兴电车、电厂、铁路、轮船、自来水、煤气灯、排泄渠及开河渠、修马路之业，以业生业，以富生富，但起本有赖，一年之间，举国变色，三年而规模有效，五年而民生足，十年而农工商矿之业，霸于大地矣。

何以设股票交易所也？吾国商务不振，资本乏绝，今人人政策，皆知不昌实业不能富国矣，然实业出于资本，资本有实有虚，各国股票日日出售，商店人家可借抵押，银行可以为保证准备，于是纸币可以多出，盖与公债同一妙用焉，皆以为增资本之法。若股票不日售，而为私人定质，则商店抵押无物，银行无以为保证准备，而纸币不能多出，即资本不能大增，故以金为商务公司资本同，而股票流通，则为生产物，股票不流通，则为不生产物。股票流通，则可化一为万，股票不流通，则以一为一，止是不生而无用矣。同有金钱资本，而善用焉与不善用，相去如此其远也。吾国商务，股票皆一二人一二家之私业定质而不能流通，别为生产，商店不能抵押，银店不能以为保证准备，欲多行纸币，其道无由，虽欲增资本，孰从而增资本，孰从而增，盖无股票交易所以为之流通故也。且股票交易之法，非止为增保证准备，

多出纸币而已，又有非常大利存焉。欧、美公司之法，股票散之市，有注名者，有不注名者，其购得公司之股票者，其望收得公司之溢利者少，望日以其股票售之市场，而获利者尤多且大也。盖商务之溢利，吾国必一年乃计而分之，股票交易之溢利，则日日可得，且有骤涨。夫岁分溢利，与日分溢利，相距以三百六十倍计，则至相远也。入纽约之股票交易所，开于晨九时，散于午十二时，购客列坐，争呼于楼，主者高声算画于下，数时之间，商务交易，以二十万万计，有大赢者，大赢有至万万者，于是倾动国产焉，片时片纸，画诺飞电而毕矣。夫以二十万万之贸易，若运致金钱而彼此数之，懋迁商货而论价移货，费千夫之力，十日之工，以市易数百万者，恐未易集事也。若加数百倍而为二十万万，恐吾中国之大，人民之众，终岁商贾之劳动，亦不及此也，然不过纽约半日早市之交易耳。纽约市易，固日日有此，则一市而当吾全国三百六十倍之交易也。夫交易大而多者，工商盛而资本繁，市易少者，工商少者，工商少而资本少，即可以其倍数计之，此吾国所以极贫，举四万万人之富力，而不足当欧、美市场之一吸也。夫贫富之竞，十则下之，百则奴之，千则灭之，当商争之世而若此，能不为奴灭乎？或者曰：“此投机也，得无富民。”然以纽约计之，就购股票者均计得失，胜者七十五，败者二十五，以多数取决，则从其胜者所谓两害相形，则取其轻，两利相形，则取其重也。……

今令各通商大市，开股票交易所，以渐推行于内，又晓令各公司商店，以商业注册，制为股票以出售，各报推发之，则股票流通，商店可以抵押，银行可以为保证准备，纸币可为多出，而后资本可计日大增也。若虑投机不稳，则政府可随时禁限之，然投机之业，今未能开，即开之亦止可本国自为竞争，而万不可与外竞。去年橡树之亏，可为殷监，盖以瓜皮小艇而与四万吨之铁舰竞走，未有可能任其浪者，是则可戒也。

以吾此说行之，先定国民银行，以集中  
央银行之资本公债，而发行纸币于上；各省  
县乡有组合银行以交通国民于中；有劝业兴  
业银行、股票交易所以裕民于下；有正金银

行以平通汇兑，借贷外债于外；有特权银行  
以辟富源、佐边用于边，数者并举，而中国  
犹患贫者，未之有也。





# 六、外交与说辩谋略卷

## 引言

于鹏翔

外交是主权国家之间为实现各自对外政策而进行的活动。但在中国古代，它却有着与现代外交不同的内涵与外延。当中国处于一统时，它主要指中央与少数民族政权之间、中国与周边国家之间的关系，当中国处于分裂时，它主要指各割据政权之间或中央与割据政权之间的关系。中国历史上这种合而分、分而合局面的多次出现，为中国古代外交谋略思想的发展和创新提供了丰腴的土壤，并规定了不同时期外交谋略思想的特征与重点。

在中国古代，外交与说辩是密切结合在一起的，说辩是外交的主要工具之一，任何外交谋略的实现都离不开说辩，所谓“折冲樽俎，决胜于疆场之外”说的就是这种情况。甚至可以说，外交活动是说辩谋略的发源地和试验场。二者的相互依赖与相辅相成，在春秋战国时期得到了充分的体现。

春秋战国时期诸国争霸，互相攻伐，进行激烈的兼并战争。生于此时的士大夫，周游天下，穿梭于各国之间，运筹帷幄，纵横捭阖，设计出高超的外交谋略，施展杰出的说辩才能，导演了一幕幕精彩剧目，谱写出生动的外交篇章，使这个时期的历史异彩纷呈，波澜壮阔。邓析最早提出说辩之术，他认为说辩对智者、博者、辩者、贵者、富者、贫者、勇者、愚者应因人而异，采取不同的方

略。楚人鬼谷先生，则崇尚黄老，而侧重心术，阐发捭阖反应、钩籍之术，提出“事贵制人，而不贵制于人”的著名的外交与说辩的根本原则。为苏秦、张仪所师，成为纵横家之祖。韩非则提出“说难”命题，为游说之士提供借鉴。《吕氏春秋》中《顺说》等七篇，专门阐发说辩的基本技巧和应注意事项。《战国策》则是我国古代外交与说辩谋略之绝唱，它极大地丰富了我国谋略思想宝库，对谋略学的发展，影响深远，作用巨大。

秦王朝的建立，使中国归于统一。古代特定意义的外交业已退色。秦始皇北击匈奴，南伐百越，依仗的是军事攻伐，此时的外交与说辩谋略暗淡无光。汉初，高祖刘邦对匈奴的政策与秦始皇如出一辙，但招致“平城之围”，谋臣施计救出刘邦，始有“和亲”之谋略。两汉派使出访西域，加深了同西域人民的友谊。此时的思想家，也撰写了一些重要篇章，丰富了我国外交谋略思想宝库。贾谊的《过秦论》在总结秦兴盛原因的同时，曾论证秦外交方略的正确，导致其“拱手而取西河之地”。刘向则采录古史百家之书，论述汉以前的人物事迹，叙述了管仲、虞卿、酈食其等人杰出的外交谋略和雄辩的论说才能。但此时的谋略多因循先秦时期的思想，少有创新。

三国两晋南北朝时期，其间虽有晋的短

暂统一，但诸国分立则是主要现象。这种时代特点再一次造就出杰出的外交人物，产生出一些深刻的谋略思想。诸葛亮则是这个时期的突出代表。他气周瑜，战群儒，令古今称道。在《草庐对》和《后出师表》中，他提出了“西和诸戎，南抚百越，外结好孙权，内修政理”的外交方略，对三国鼎足之势作了深刻的分析。他坚决反对与东吴断交“以绝盟好”的主张，认为外交应从全局出发，“应权通变、弘思远益”。我国文学评论的开山之祖刘勰在其代表作《文心雕龙》中专篇阐述“论说”，对论说的内涵、基本性质和要求做了高度的理论概括。认为“凡说之枢要，必使时利而义贞，进有契于成务，退无阻于荣身，自非谄敌，则唯忠与信。”主张“说之本”应“披肝胆以献祖，正文敏以济辞”。对战国争雄中辩士的作用予以充分肯定：“一人之辩，重于九鼎之宝；三寸之舌，强于百万之师”。北齐之刘孔昭在其《审名》篇中，认为言语是“人之文也”，“人文失则必有伤身之祸”，谆谆告诫说辩之士，牢牢把住言语之门户，出言为善，应“贵言”、“慎言”。

隋唐，是我国封建社会发展的全盛时期。因其大一统，外交活动虽不是非常频繁。但同高丽、日本等国，以及国内的民族关系却有发展。这一时期问世的被称为中国纵横术大全的《长短经》，是一部包含外交与说辩等内容的重要著作。作者赵蕤除论述了古代外交谋略的重大成果外，又罗列了孔子、荀子、韩非子、尸子和荀悦等人关于“为语之难”的诸多论述，探讨了驾驭说辩的技巧和原则。他主张说者必须使用以物钓情、以言钓情、以事钓情、以志钓情、以视钓情、以贤钓情和以色钓情等诸多手段，来揣透君主之心，以说人主采纳自己的主张。这是对我国古代说辩谋略的最高概括。

宋代的外交关系较之前代略微复杂，宋与辽、金、西夏、蒙古汗国等并立，采取了“守内虚外”的外交方略，结果导致积弱积贫的恶果。苏洵有感于此，撰文予以针砭。他

认为战国时六国的破灭，不是武器装备不好，也不是仗打得不好，而是外交太软弱，错误在“赂秦”，赂秦而力亏，“破灭之道也”。提出“以赂秦之地封天下之谋士，以事秦之心，礼天下之奇才，并力西向，”恐秦王食而不得下咽。元朝的大统一，使我国古代的外交概念又进一步发生变化，随着中西文化交流的发展，元朝十分重视商业贸易，忽必烈曾说“往来互市，各从所欲”。

明代是封建专制主义延续和资本主义萌芽时期。西方殖民主义势力已开始东侵。李善长最早主张对东西洋诸国“无有远弥，一视同仁。”明成祖制定“夷人慕义远来”，“与（其）民互市”的方略，派郑和七下西洋。发展了同亚非人民的友谊。

清代是我国封建社会的入海口，清中叶以后，渐行闭关锁国方略，对外熟视无睹，致使有国无交，结果日益落后，处于被动挨打的局面。鸦片战争后，国难日深。一些仁人志士开始总结历史教训，寻找拯救危机的办法。魏源受林则徐之托，据《四洲志》等译稿，参考中国历代史志，撰成《海国图志》。叙述了世界各国地理，介绍了西方科学技术，分析其富国强兵之因。批判了清王朝对外“非战既款，非款既战”的策略，提出了“善守”的谋略。主张以守为战，提出“攻夷之策”：“调夷之仇国以攻夷；师夷之长技以制夷。”倡言“款夷之策”：“听互市各国以款夷；持鸦片初约以通市。”著名外交家曾纪泽在出使英、法、俄等国的外交活动中，不断总结外交谋略，提出外交应以“情理酌之”，不应“自恃中华上国而欺凌远人”，认为军事实力是外交的重要基础。清末唐才常怀着强烈的爱国心，冷静地分析了国际形势，专著《外交论》等多种外交书籍，批判“闭关谢使”，主张以国际公法为依据，据理进行交涉，提出利用矛盾，开展外交工作。对外交人员的培养、选拔、职权等做了专门的论述。将我国古代外交谋略发展到最高峰。

总之，辛亥革命前我国外交与说辩谋略

思想的发展曾出现两个高峰：春秋战国时期和鸦片战争后的近代时期，呈现出马鞍型的发展图示。前者主要是国内各族或同一民族的不同政权的外交与说辩的谋略思想，后者则是我们今天意义上的外交。尽管具体对象不同，但其谋略则是相似的，丰富多彩的。给我们留下了宝贵的历史遗产，有待于我们整理、发掘和借鉴。

## 《晏子春秋》

### 题解：

旧题为晏婴所撰。婴为春秋时齐国夷维（今山东高密）人。任齐国正卿，历仕灵、庄、景三朝，执政五十余年。劝戒景公多关心民事，注意改革政治。善辞令，长于从现实出发，例举音乐、饮食等生活小事，表述“相反相济”深奥哲理来。后人收集其言行，编成《晏子春秋》。总二篇，八卷、二百一十五章。反映他对“礼治”衰落深感惋惜的态度，预感齐国末日即将来临。从学派关系上看，《内篇》多孔子称许晏子之语，而《外篇》多晏子抨击孔子之语。其中晏子使楚等三章，记述了晏子出使楚国之遗事，展示了他高超的外交与说辩艺术。他机智敏锐，以杰出的说辩才能，捍卫国格，保卫人格，御侮克敌，反客为主，陷对方以被动。正确地把握了外交中有理、有利、有节的尺度。以机智的说辩赢得主动的外交，是古代两种谋略成功结合的光辉范例，由此体现了二者完美的统一。

晏子使楚，以晏子短，楚人为小门于大门之侧而延晏子。晏子不入，曰：“使狗国者，从狗门入，今臣使楚，不当从此门入。俟者更道，从大门入见楚王。楚王曰：“齐无人耶？”晏子对曰：“临淄三百闾，张袂成阴<sup>①</sup>，挥汗成雨，比肩继踵而在，何为无人？”王曰：“然则子何为使乎？”晏子对曰：“齐命使各有

所主，其贤者使使贤王，不肖者使使不肖王，婴最不肖，故直使楚矣。”

晏子将使楚，楚王闻之，谓左右曰：“晏婴，齐之习辞者也，今方来，吾欲辱之。何以也？”左右对曰：“为其来也，臣请缚一人过王而行，王曰：‘何为者也？’对曰：‘齐人也。’王曰：‘何坐？’曰：‘坐盗。’”晏子至。楚王赐晏子酒。酒酣，吏二缚一人诣王，王曰：“缚者曷为者也？”对曰：“齐人也，坐盗。”王视晏子曰：“齐人固善盗乎？”晏子避席对曰：“婴闻之：橘生淮南则为橘，生于淮北则为枳。”叶徒相似，其实味不同，所以然者何？水土异也。今民生长于齐不盗，入楚则盗，得无楚之水土，使民善盗耶！”王笑曰：“圣人非所与熙也，寡人反取病焉。”

景公使晏子于楚，楚王进橘置削，晏子不剖而并食之。楚王曰：“橘当去剖。”晏子对曰：“臣闻之，赐人主前者，瓜桃不削，橘柚不剖。今者万乘无教令，臣故不敢剖。不然，臣非不知也。”

### 注释：

①袂：衣袖。

## 《邓析子》

### 题解：

邓析撰。析为春秋末法家先驱、名家。郑国人，做过郑国大夫。曾创办私学，以所作《竹刑》教人，宣扬法治。传说因其数难子产之政，子产戮之。其《无厚》篇，倡言“天于人无厚也，君于民无厚也，父与子无厚也，兄与弟无厚也”，论之者谓先申韩而鸣。在《转辞》篇中对说辩谋略多有论述。他认为说辩应该因人而异，只有对智者、博者、辩者、贵者、富者、贫者、勇者和愚者采取不同的策略，才能达到说辩的真正目的。同时应注意“恶言不出口，苟话不留耳”，非所宜言勿言，非所宜为勿为，以避其危。当他论及说辩谋略产生的机制时，提出“心安静则心策生，虑深远则计成”的重要思想。论者

谓其“通练精深之言真可与申商并垂不朽。”收入《百子全书》中。

## 转辞篇

世间悲哀喜乐，嗔怒忧愁，久惑于此，今转之。在己为哀，在他为悲，在己为乐，在他为喜，在己为嗔，在他为怒，在己为愁，在他为忧，在己若扶之与携，谢之与议，故之与右，诺之与己，相去千里也。夫言之术，与智者言依于博，与博者言依于辩，与辩者言依于安，与贵者言依于势，与富者言依于豪，与贫者言依于利，与勇者言依于敢，与愚者言依于说，此言之术也。不用在早图，不穷在早稼，非所宜言勿言，非所宜为勿为，以避其危。非所取勿取，以避其咎。非所宜争勿争，以避其声。一声而非，驷马勿追；一言而急，驷马不及，故恶言不出口，苟语不留耳，此谓君子也。夫任臣之法，阖则不任也；慧则不从也；仁则不亲也；勇则不近也；信则不信也；不以人用人，故谓之神。怒出于不怒，为出于不为，视于无有，则得其所见；听于无声，则得其所闻。故无形者有形之本，无声者有声之母。循名责实，实则极也。按实定名。名之极也。参以相平，转而相成，故得之形名。

心欲安静，虑欲深遂。心安静则心策生，虑深远则计成。心不欲躁，虑不欲浅，心躁则精神滑，虑浅则百事倾。

## 《鬼谷子》

### 题解：

相传为鬼谷子著，作者系战国时楚国人，姓名籍贯已不可考，因隐居颍川阳城（今河南登封县东南）之鬼谷，故号鬼谷子或鬼谷先生。其生平事迹，亦众说不一，有人说他是兵家之祖师，是修鞋业、眼镜店、卜筮算卦的先祖；也有人说他是一位心理学家、权谋家和哲学家。该书总为一卷，十二篇，其

思想主题大抵崇尚黄老而侧重心术，运用阴阳之道论世御人，阐反捭阖反应、钩箝揣摩之术，强调“事贵制人，而不贵见制于人”，为纵横家提供理论基础，实为古代政治心理学开山之作。后世兵家以为是兵书。该书也包含了大量的说辩谋略思想，其思辩风格“奇变诡伟”，“有得于阖闾翕张之外”。在其《捭阖》篇中倡言纵横驰骋，大开大合，以浩博心襟，万千气象游说于人主，主张“捭阖”为天地之道，“道之大化，说之变也，必预审其变化。”而实施“捭阖”的法则，必以阴阳之言去试探测知。若能把握此法则，则可做到无所不出，无所不入，无所不可。可游说于人，游说于家，游说于国，游说于天下。此为“说人之法”，“万事之先”，是“天地之门”。在《反应》篇中，则提出对后世有深远影响“钓言之道”：“因其言，听其辞”，言有不合者，反而求之，“其应必出”，“以无形求有声，其钓语合事，得人实也。”在说辩中，要把握对方，必须“欲闻其声反默，欲张反敛，欲高反下，欲取反与。”如此，才能了解真情。当然，该书有更广阔的文化意蕴，而仅就其说辩谋略来说也是十分丰富的。

## 捭阖第一

粤若稽古，圣人之在天地间也<sup>①</sup>。为众生之先，观阴阳之开阖以命物。知存亡之门户。筹策万类之终始，达人心之理，见变化之朕焉，而守司其门户。故圣人之在天下也，自古之今，其道一也。变化无穷，各有所归。或阴或阳，或柔或刚，或开或闭，或驰或张。是故圣人一守司其门户，审察其所先后，度权量能，校其伎巧短长。

夫贤不肖、智愚、勇怯、仁义有差。乃可捭，乃可阖，乃可进，乃可退，乃可贱，乃可贵，天为以牧之。审定有无，以其实虚，随其嗜欲，以见其志意。微排其所言，而捭反之，以求实。贵得其指，阖而捭之，以求其利。或开而示之，或阖而闭之。开而示之

者，同其情也；阖而闭之者，异其诚也。可与不可，审明其计谋，以原其同异。离合有守，先从其志。

既欲捭之贵周，既欲阖之贵密。周密之贵，微而与道相追<sup>②</sup>。捭之者，料其情也；阖之者，结其诚也。皆见其权衡轻重，乃为之度数，圣人因而为之虑。其不中权衡度数，圣人因而自为之虑。故捭者，或捭而出之，或捭而纳之；阖者，或阖而取之，或阖而去之。

捭阖者，天地之道。捭阖者，以变动阴阳，四时开闭以化万物。纵横、反出、反复、反忤，必由此矣。捭阖者，道之大化，说之变也，必预审其变化。口者，心之门户也；心者，神之主也。志意、喜欲、思虑、智谋，此皆由门户而出。故关之捭阖，制之以出入。捭之者，开也、言也、阳也；阖之者，闭也、默也、阴也。阴阳其和，终始其义。故言长生、安乐、富贵、尊荣、显名、爱好、财利、得意、喜欲为阳，曰始<sup>③</sup>。故言死（亡）、忧患、贫贱、苦辱、弃损、亡利、失意、有害、刑戮、诛罚为阴，曰“终”<sup>④</sup>。诸言法阳之类者，皆曰“始”，言善以始其事者，诸言法阴之类者，皆曰“终”，言恶以终为谋。

捭阖之道，以阴阳试之，故与阳言者依崇高，与阴言者依卑小。以下求小，以高求大。由此言之，无所不出，无所不入，无所不可。可以说人，可以说家，可以说国，可以说天下。为小无内，为大无外。益损、去就、倍反，皆以阴阳御其事<sup>⑤</sup>。阳动而行，阴动而藏；阳动而出，阴随而入。阳还终始，阴极反阳。以阳动者，德相生也；以阴静者，形相成也。以阳求阴，苞以德也；以阴结阳，施以力也。阴阳相求，由捭阖也。此天地阴阳之道，而说人之法也。为万事之先，是谓“圆方”之门户<sup>⑥</sup>。

## 反应第二

古之大化者，乃与无形俱生。反以观往，复以验来；反以知古，复以知今；反以知彼，复以知己。动静、虚实之理，不合来今，反古而求之。事有反而得复者，圣人之意也。不可不察。

人言者动也，已默者静也。因其言听其辞。言有不合者，反而求之，其应必出。言有象，事有比。其有象比，以观其次。象者，象其事，比者比其辞也。以无形求有声，其钓话合事，得人实也。其张置网而取兽也，多张其会而司之。道合其事，彼自出之，此钓人之网也。常持其网驱之，其方无比，乃为之变。以象动之，以报其心，见其情随而牧之。已反往，彼复来，万事不失其辞。圣人所诱愚智，事皆不疑。

古善反听者，乃变鬼神以得其情。其变当也，而牧之审也<sup>⑦</sup>。牧之不审，得情不明。得情不明，定基不审。变象比，必有反辞，以还听之<sup>⑧</sup>。欲闻其声反默，欲张反敛，欲高反下，欲取反与。欲开情者，象而比之，以牧击辞，同声相呼，实理同归。或因此，或因彼；或以事上，或以牧下。此听真伪，知同异得其情诈也<sup>⑨</sup>。动作言默，与此出入，喜怒由此见其式<sup>⑩</sup>。皆以先定为其法则。以反求复。观其所托，故用此者。已欲平静，以听其辞，察其事，论万物，别雄雌。虽非其事，见微知类。若探人而居其内，量其能，射其意也。符应不失，如螭蛇之所指，若羿之引矢。

故知之始己，自知而后知人也。其相知也，若比目之鱼；见形也，若光之与影也。其察言不失也，若磁石之取针，舌之取燔骨<sup>⑪</sup>。其与人也微，其见情也疾，如阴与阳，如阳与阴，如圆与方，如方与圆。未见形，圆以道之；既形，方以事之。进退左右，以是司之。已不先定，牧人不正。事用不巧，是谓忘情失道。已审先定，以牧人策，而无

形容，莫见其门，是谓天神<sup>⑫</sup>。

#### 注释：

①粤：语首助词。若，顺；稽，考。谓顺考古道而行之。 ②相追：相伴相随之意。 ③显名：荣显名誉。 ④故言死：某本有“亡”字。 ⑤倍反：意指背叛与复归。 ⑥圆方：天地，古人以为天圆地方。 ⑦当：适合，恰当；牧：察；审：结密周详。 ⑧此句意谓在辩论中，若对方讲话的外在形貌与所引用的则例发生变化，一定要紧随着发生诘难，然静默地听他应对。 ⑨听：用耳朵感受声音。 ⑩默：不语；式：规格、规范。 ⑪燔：燃烧。 ⑫天神：《荀子·儒效篇》谓“尽善挟洽之谓神”。

## 《韩非子》

#### 题解：

战国时韩非撰，总二十卷，五十五篇。韩非为韩国人，出身贵族，战国后期杰出的思想家，与李斯同师事于荀子，因屡次规劝韩王实施法治，不被采纳而入秦。不久遭谗言下狱而死。作者喜刑名法术之学，而归于黄老。提出“以法为主”，“法”、“术”、“势”三者结合的政治理论，集法家思想之大集。其第十二篇《论说》，集中阐述了说辩的谋略思想。他认为游说的真正目的，必须使游说对象能够接受自己的学说与主张。而欲此，必须要知道对象的心。如果对方是一个好名的人，就不可以“致厚利”说动他，若此，反而被认为志节凡庸，受到鄙弃而被疏远。反之，如果对方是一个好实利之人，就不可以“高名”说之，若此，自己反被认为不切实际，故作高远，不是真心，一定不会接受自己的意见，达不到游说的目的。人们在设计游说谋略时，一定要注意不要涉及人主所保密的事，所忌讳的事，所不想办的事，不要道破人主想独居其功的事，不要制止一定要办的事。进言有艰难性：与之论大臣，有离间之嫌；与之论近习小人，有“卖重”之感；与之论宠臣，有“藉资”之言；与之论所憎之人，

又有被误认为以此试探自己之疑。略言其事，被认为胆小怯懦；广为陈说，被认为鄙野而无礼貌。游说有逆顺之机，也有随之而来的福祸之局。游说真是太难了，说辩之士不可不察，不可不知。

## 说 难

凡说之难，非吾知之，有以说之之难也；又非吾辩之，能明吾意之难也；又非吾敢横失，而能尽之难也。凡说之难，在知所说之心，可以吾说当之。所说出于为名高者也，而说之以厚利，则见下节而遇卑贱，必弃远矣。所说出于厚利者也，而说之以名高，则见无心而远事情，必不收矣。所说阴为厚利而显为名高者也，而说之以名高，则阳收其身而实疏之，说之以厚利，则阴用其言显弃其身矣。此不可不察也。

夫事以密成，语以泄败，未必其身泄之也，而语及所匿之事，如此者身危。彼显有所出事，而乃以成他故，说者不徒知所出而已矣，又知其所以为，如此者身危。规异事而当，知者揣之外而得之，事泄于外，必以为己也，如此者身危。周泽未渥也，而语极知，说行而有功则德忘<sup>①</sup>，说不行而有败则见疑，如此者身危。贵人有过端，而说者明言礼义以挑其恶，如此者身危。贵人或得计而欲自以为功，说者与知焉，如此者身危。强以其所不能为，止以其所不能已，如此者身危。故与之论大人则以为间己矣，与之论细人则以为卖重，论其所爱则以为藉资，论其所憎则以为尝己也<sup>②</sup>。径省其说则以为不智而拙之<sup>③</sup>，米盐博辩则以为多而交之<sup>④</sup>。略事陈意则曰怯懦而不尽，虑事广肆则曰草野而倨侮。此说之难，不可不知也。

凡说之务，在知饰所说之所矜而灭其所耻。彼有私急也，必以公义示而强之。其意有下也，然而不能已，说者因为之饰其美而少其不为也。其心有高也，而实不能及，说者为之举其过而见其恶而多其不行也。有欲

矜以智能，则为之举异事之同类者，多为之地，使之资说于我，而佯不知也以资其智。欲内相存之言<sup>⑤</sup>，则必以美名明之，而微见其合于私利也。欲陈危害之事，则显其毁诽而微见其合于私患也。誉异人与同行者，规异事与同计者。有与同汙者，则必以大饰其无伤也；有与同败者，则必以明饰其无失也。彼自多其力，则毋以其难概之也；<sup>⑥</sup>自勇其断，则无以其谄怒之；自智其计，则毋以其败穷之。大意无所拂悟，辞言灭所系縻，然极骋智辩焉，此道所得亲近不疑而得尽辞也。伊尹为宰，百里奚为虑，皆所以干其上也，此二人者，皆圣人也，然犹不能无役身以尽，如此其汙也。今以吾言为宰虑，而可以听用而振世<sup>⑦</sup>，此非能仕之所耻也。夫旷日离久，而周泽既渥，深计而不疑，引争而不罪，则明割利害以致其功，直指是非以饰其身，以此相持，此说之成也。

昔者郑武公欲伐胡，故先以其女妻胡君以娱其意。因问于群臣：“吾欲用兵，谁可伐者？”大夫关其思对曰：“胡可伐。”武公怒而戮之，曰：“胡，兄弟之国也，子言伐之何也？”胡君听之，以郑亲己，遂不备郑，郑人袭胡，取之。宋有富人，天雨墙坏，其子曰：“不筑，必将有盗。其邻人之父亦云。暮而果大亡其财，其家甚智其子，而疑邻人之父。此二人说之皆当也，厚者为戮，薄者见疑，则非知之难也，处知之难也。故绕朝之言当矣，其为圣人于晋，而为辱于秦也。此不可不察。

昔者弥子瑕有宠于卫君，卫国之法，窃驾君车者罪刖<sup>⑧</sup>。弥子瑕母病，人闲往夜告弥子，弥子矫驾君车以出<sup>⑨</sup>，君闻而贤之曰：“孝哉，为母其故，忘其刖罪。”异日，与君游于果园，食桃而甘，不尽，以其半啗君，君曰：“爱我哉？忘其口味，以啗寡人。”及弥子色衰爱弛，得罪于君，君曰：“是固尝矫驾吾车，又尝啗我以余桃。”故弥子之行未变于初也，而以前所以见贤，而后获罪者，爱憎之变也。故有爱于主则智当而加亲，有憎于主则智不当见罪而加疏。故谏说谈论之士，

不可不察爱憎之主而后说焉。夫龙之为虫也，柔可狎而骑也，然其喉下有逆鳞径尺，若人有婴之者则必杀人。人主亦有逆鳞，说者能无婴人主之逆鳞则几矣。

## 问 辩

或问曰：“辩安生乎？”对曰：“生于上之不明也。”问者曰：“上之不明因生辩也，何哉？”对曰：“明主之国，令者，言最贵也，法者，事最适者也。言无二贵，法不两适，故言行而不轨于法令者必禁。若其无法令而可以接诈应变生利揣事者，上必采其言而责其实，言当则有大利，不当则有重罪，是以愚者畏罪而不敢言，智者无以讼，此所以无辩之故也。乱世则不然，主有令，而民以文学非之，官府有法民以私行矫之，人主顾渐其法令，而尊学者之智行，此世之所以多文学也。夫言行者，有功用为之的毅者也。夫砥砺杀矢而以妄发，其端未尝不中秋毫也，然而不可谓善射者，无常仪的也。设五寸之的，引十步之远，非羿、逢蒙不能必中者，有常也。故有常则羿、逢蒙以五寸的为巧，无常则以妄发之中秋毫为拙。今听言观行，不以功用为之的毅，言虽至察，行虽至坚，则妄发之说也。是以乱世之听言也，以难知为察，以博文为辩；其观行者，以离群为贤，以犯上为抗，人主者说辩察之言，尊贤抗之行，故夫作法术之人，立取舍之行，别辞争论，而莫为之正。是以儒服带剑者众，而耕战之士寡，坚白无厚之辞章，而宪令之法息。故曰：上不明，则辩生焉。”

### 注释：

- ①忘：通亡。②尝：试。③径：直。  
④米盐：细杂。⑤内：读作纳。⑥概：为感，感为憾，故概为恨。⑦振：救。⑧刖：作“阴”。⑨矫：擅。



## 《公孙龙子》

### 题解:

公孙龙撰。龙字子秉，战国中后期赵国人。曾为赵国平原君食客，为之出谋划策，并好“形名”之学，所著《公孙龙子》，原书十四篇，现存六篇，着重从逻辑学上研究名实关系，其思想宗旨在于“正名实而化天下”。其《白马论》，论证白马非马，白马非白，要求在说辩时严格区别事物的差别性；《坚白论》强调坚、白同石分离，可以独立自藏；《名实论》要求名实相符，强调概念的明确性、固定性，要求在设计说辩谋略时，立辞不得自相矛盾，必须遵守同一律和矛盾律；《指物论》论述“物莫非指，而指非指”，指出共相并非具体事物，但可概括许多特殊事物，要求人们在论辩时严格区分共相和殊相，又要注意二者的联系。公孙龙的著作，不仅是说辩技巧的突出表现，也提出了不少重要的说辩谋略原则，这些原则主要表现在对说辞的逻辑设计上，是应予肯定的，但其诡辩和客观唯心主义则不可取。

### 白马论

白马非马，可乎？曰：可。曰：何哉？曰：马者，所以命形也；白者，所以命色也。命色者非命形也。故曰白马非马。曰有白马不可谓无马也。不可谓无马者非马也。无有白马为有白马之非马何也？曰：求马，黄、黑马皆可致，求白马，黄黑马不可致。使白马乃马也，是所求一也。所求一者，白马不异马也。所求不异如黄黑马<sup>①</sup>。有可有不可，何也？可与不可，其相非明，故黄黑马一也。而可以应有马，而不可以应有白马，是白马之非马审矣。曰以马之有色为非马，天下非有无色之马也，天下无马可乎？曰：马固有色，故有白马，使马无色，有马如已耳<sup>②</sup>，安取白马？故白者非马也。白马者，

马与白也，马与白马也，故曰白马非马也。曰：马未与白为马，白未与马为白，合马与白，复名白马，是相与以不相与，为名未可，故曰白马非马未可。曰：以有白马为有马，谓有白马为有黄马，可乎？曰：未可。曰：以有马为异有黄马，是异黄马于马也。异黄马于马，是以黄马为非马。以黄马为非马，而以白马为有马，此飞者入池，而棺槨异处，此天下之悖言乱辞也。曰：有白马不可谓无马者，离白之谓也，是离者有白马，不可谓有马也。故所以为有马者，独以马为有马耳，非以白马为有马，故其为有马也。不可谓白马也。曰：白者不定所白，忘之而不可也。白马者言马，定所白也。定所白者，非白也。马者无去取于色，故黄黑皆所以应。白马者有去取于色，黄黑马皆所以色去，故唯白马独可以应耳。无去者非有去也，故曰白马非马。

### 指物论

物莫非指，而指非指。天下无指，物无可以谓物。非指者，天下而物，可谓指乎。指也者，天下之所无也。物也者，天下之所有也。以天下之所有，为天下之所无未可。天下无指，而物不可谓指也。不可谓指者非指也。非指者，物莫非指也。天下无指，而物不可谓指者，非有非指者。非有非指者，物莫非指也。物莫非指者，而指非指也。天下无指者，生于物之各有名，不为指也。不为指而谓之指是兼不为指以有不为指。以有不为指之无不为指，未可。且指者，天下之所兼。天下无指者，物不可谓无指也。不可谓无指者，非有非指者也。非有非指者，物莫非指，指非非指也。指与物非指也。使天下无物指，谁径谓非指。天下无物，谁径谓指。天下有指无物指，谁径谓非指。径谓无物非指。且夫指固自为非指，奚待于物而乃与为指。

## 通变论

曰二有一乎？曰二无一。曰二有右乎？曰二无右。曰二有左乎？曰二无左。曰右可谓二乎？曰不可。曰左可谓二乎？曰不可。曰左与右可谓二乎？曰可。曰谓变非不变，可乎？曰可。曰右有与可谓变乎？曰可。曰变双，曰右，为曰右苟变，安可谓右？苟不变，安可谓变？曰二苟无左又无右，二者左与右奈何？羊合牛非马，牛合羊非鸡，曰何哉？曰羊与牛唯异，羊有齿，牛无齿。而牛之非羊也，羊之非牛也，未可。是不俱有而或类焉。羊有角，牛有角，牛之而羊也，羊之而牛也，未可。是俱有而类之不同也。羊牛有角，马无角，马有尾，羊牛无尾，故曰羊合牛非马也。非马者无马也。无马者羊不二，牛不二，而羊牛二，是而羊而牛，非马可也。若举而以是，犹类之不同，若左右犹是举，牛羊有毛，鸡有羽，谓鸡足一，数足二，二而一，故三。谓牛羊足一，数足四，四而一，故五。牛羊足五，鸡足三，故曰牛合羊非鸡。非有以非鸡也。与马以鸡，蜜马材不材，其无以类审矣。举是谓乱名，是狂举。曰他辩曰，青以白非黄，白以青非碧，曰何哉？曰青白不相与，而相与反对也。不相邻而相邻，不害其方也。不害其方者，反而对，各当其所，左右不驱，故一与青不可，一与白不可，恶乎其有黄矣哉。黄其正矣，是正举也。其有君臣之于国焉，故强寿矣。而且青驱乎白，而白不胜也。白足之胜矣。而不胜是木贼金也。木贼金者碧，碧则非正举。青白不相与而相与，不相胜则两明也。争而明其色碧也。以其碧蜜黄，黄其马也。其与类乎。碧其鸡也。其与暴乎？暴则君臣争两明也。两明者昏不明，非正举也。非正举者，名实无当，驱色章焉。故曰两明也。两明而道丧，其无有以正焉。

## 坚白论

坚白石三，可乎？曰不可。曰二，可乎？曰可。曰何哉？曰无坚得白，其举也二。无白得坚，其举也二。曰得其所白，不可谓无白，得其所坚，不可谓无坚。而之石也，之于然也，非三也。曰视不得其所，坚而得其所白者，无坚也。拊不得其所白，而得其所坚，得其所坚也。无白也。曰天下无白不可以视石，天下无坚不可以谓石，坚白石不相外，藏三可乎？曰有自藏也，非藏而藏也。曰其白也，其坚也，而石必得以相盛盈，其自藏奈何？曰得其白，得其坚，见与不见离，不见离一，一不相盈，故离。离也者藏也。曰石之白，石之坚，见与不见，二与三，若广修而相盈也。其非举乎。曰白马不定其所白，物坚马不定其所坚，不定者，兼恶乎其石也。曰循石非彼无石，非石无所取乎白石，不相离者，固乎然其无已<sup>③</sup>。曰于石一也，坚白二也，而在于石，故有知焉。有不知焉，有见焉，有不见焉，故知与不知相与离，见与不见相与藏，藏故孰谓之不离。曰目不能坚，手不能白，不可谓无坚，不可谓无白。其异任也。其无以代也。坚白域于石<sup>④</sup>，恶乎离。曰坚未与石为坚而物兼，未与为坚而坚必坚。其不坚石物而坚，天下未有若坚而坚藏。白固不能自白，恶能白石物乎。若白者必白，则不白物而白焉。黄黑与之然。石其无有，恶取坚白石乎，故离也。离也者固是。力与知果，不若因是。且犹白以目以火见而火不见，则火与目不见而神见，神不见而见离。坚以手而手以捶，是捶与手知而不知，而神与不知神乎。是之谓离焉<sup>⑤</sup>。离也者，天下故独而正。

## 名实论

天地与其所产焉，物也。物以物其所物，而不过焉，实也。实以实其所实，不旷焉位

也。出其所位，非位。位其所位，正也。以其所正，正其所不正，疑其所正。其正者，正其所实也。正其所实者，正其名也。其名正，则唯乎其彼此焉。谓彼而彼不唯乎彼，则彼谓不行。谓此而行不唯乎此，则此谓不行。其以当不当也，不当而乱也。故彼彼当乎彼，则唯乎其谓行。彼此此当乎此，则唯乎其谓行。此其以当为当也，以当而当正也。故彼彼止于彼，此此止于此可。彼此而彼且此，此彼而此且彼，不可。夫名实，谓也。知此之非也，知此之不在此也，则不谓也。知彼之非彼也，知彼之不在彼也。则不谓也。至矣哉，古之明王，审其名实，慎其所谓。至矣哉，古之明王。

注释：

①如：通“而”字。②如已：即而已。  
③其无已：无解。④域：通圉。⑤此处有脱落。

## 《吕氏春秋》

题解：

吕不韦使门客撰著而成。不韦为战国末年卫国濮阳(今河南濮阳西南)人，原为阳翟富商，后游说华阳夫人，拥立襄王，出任相国，封为文信君。嬴政继位初，专政于朝，尊称“仲父”，始皇亲政，因罪免职，自杀于迁往蜀郡之途中。其门下编有《吕氏春秋》，为杂家之代表作。总二十六卷，分为八览、六论、十二纪，有着十分丰富的内容。其《顺说》等八篇，对说辩有明显的谋略指导意义。其《顺说》篇，论述了顺说在说辩谋略中的重要地位，“因人之力自为力，因其来而与来，因其往而与往”，这就是要善于揣摩君主的心理，顺其思路，投其所好，然后因势利导，以达到自己的目的。《审应》旨在劝说君主重言，反对淫辞辩说，论述了君主的说辩谋略：“人唱我和，人先我随，以其出为之人，以其言为之名，取其实以责其名，”如此，君主在论辩中就能“执其要”了。《重言》与《精谕》

篇论述君主说话应该慎重，应做到“不鸣则已，一鸣惊人”，只有重言，才能“言无遗者”。如何才能重言？“圣人听于无声，视于无形”，人们的心理可以通过“容貌音声”、“行步气志”表现出来，君主对此应认真观察，即“圣人相谕不待言”，最后得出“至言去言”的重要谋略原则。在《离谓》、《淫辞》、《不屈》诸篇中，对说辩谋略亦间有论及。在《应言》篇中，作者则主张人们在出言应对中要善于抓住对方的矛盾之处予以反击，使之理屈辞穷。总之，以上诸篇是此期说辩谋略的重要作品。

## 顺说

五曰：

善说者若巧士，因人之力以自为力，因其来而与来，因其往而与往，不设形象，与生与长，而言之与响，与盛与衰，以之所归。力虽多，材虽劲，以制其命。顺风而呼，声不加疾也；际高而望，目不加明也。所因便也。

惠盎见宋康王，康王蹠足髻颊<sup>①</sup>，疾言曰：“寡人之所说者，勇有力也，不说为仁义者。客将何以教寡人？”惠盎对曰：“臣有道于此，使人虽勇，刺之不入；虽有力，击之弗中。大王独无意邪？”王曰：“善！此寡人所欲闻也。”惠盎曰：“夫刺之不入，击之不中，此犹辱也。臣有道于此，使人虽有勇，弗敢刺；虽有力，不敢击。大王独无意邪？”王曰：“善！此寡人之所欲知也。”惠盎曰：“夫不敢刺，不敢击，非无其志也。臣有道于此，使人本无其志也。大王独无意邪？”王曰：“善！此寡人之所愿也。”惠盎曰：“夫无其志也，未有爱利之心也。臣有道于此，使天下丈夫女子莫不欢然皆欲爱利之。此其贤于勇有力也，居四累之上，大王独无意邪？”王曰：“此寡人所欲得。”惠盎对曰：“孔、墨是也。孔丘、墨翟无地为君，无官为长。天下丈夫女子莫不延颈举踵，而愿安利之。今大王万乘

之主也，诚有其志，则四境之内皆得其利矣。其贤于孔、墨也远矣。”宋王无以应。惠盎趋而出，宋王谓左右曰：“辨矣！客之以说服寡人也。”宋王，俗主也，而心犹可服，因矣。因则贫贱可以胜富贵矣，小弱可以制强大矣。

田赞衣补衣而见荆王，荆王曰：“先生之衣，何其恶也！”田赞对曰：“衣又有恶于此者也。”荆王曰：“可得而闻乎？”对曰：“甲恶于此<sup>②</sup>。”王曰：“何谓也？”对曰：“冬日则寒，夏日则暑，衣无恶乎甲者。赞也贫，故衣恶也。今大王万乘之主也，富贵无敌，而好衣民以甲，臣弗得也。意者为其义邪？甲之事，兵之事也，刈人之颈，剖人之腹，隳人之城郭，刑人之父子也。其名又甚不荣。意者为其实邪？苟虑害人，人亦虑必害之；苟虑危人，人亦必虑危之。其实人则甚不安。之二者，臣为大王无取焉。”荆王无以应。说虽未大行，田赞可谓能立其方矣。若夫偃息之义，则未之识也。

管子得于鲁，鲁束缚而槛之，使役人载而送之齐，皆讴歌而行。管子恐鲁之止而杀己也，欲速至齐，因谓役人曰：“我为汝唱，汝为我和。”其所唱适宜走，役人不倦，而取道甚速。管子可谓能因矣。役人得其所欲，己亦得其所欲，以此术也。是用万乘之国，其霸犹少，桓公则难与往也。

## 审 应

人主出声应容，不可不审。凡主有识，言不欲先。人唱我和，人先我随，以其出为之人，以其言为之名，取其实以责其名，则说者不敢妄言，而人主之所执其要矣。

孔思请行，鲁君曰：“天下主亦犹寡人也，将焉之？”孔思对曰：“盖闻君子犹鸟也，骇则举。”鲁君曰：“主不肖而皆以然也，违不肖，过不肖，而自以为能论天下之主乎？凡鸟之举也，去骇从不骇，去骇从不骇，未可知也。去骇从骇，则鸟何为举矣？”孔思之对鲁君也，

亦过矣。

魏惠王使人谓韩昭侯曰：“夫郑乃韩氏亡之也，愿君封其后也。此所谓存亡继绝之义。君若封之，则大名。”昭侯患之，公子食我曰：“臣请往对之。”公子食我至于魏，见魏王，曰：“大国命弊邑封郑之后，弊邑不敢当也。弊邑为大国所患。昔出公之后声氏为晋公，拘于铜鞮，大国弗怜也，而使弊邑存亡继绝，弊邑不敢当也。”魏王渐曰：“固非寡人之志也，客请勿复言。”是举不义以行不义也。魏王虽无以应，韩之为不义，愈益厚也。公子食我之辩，适足以饰非遂过。

魏昭王问于田拙曰：“寡人之在东宫之时，闻先生之议曰：‘为圣易。’有诸乎？”田拙对曰：“臣之所举也。”昭王曰：“然则先生圣于？”<sup>④</sup>田拙对曰：“未有功而知其圣也，是尧知舜也；待其功而后知其舜也，是市人之知圣也。今拙未有功，而王问拙曰‘若圣乎’，敢问王亦其尧邪？”昭王无以应。田拙之对，昭王周非曰“我知圣也”耳，问曰“先生其圣乎”，已因以知圣对昭王。昭王有非其有，田拙不察。

赵惠王谓公孙龙曰：“寡人事偃兵十余年矣，而不成，兵不可偃乎？”公孙龙对曰：“偃兵之意，兼爱天下之心也。兼爱天下，不可以虚名也，必有其实。今藺、离石入秦，而王缟素布总<sup>⑤</sup>；东攻齐得城，而王加膳置酒。秦得地而王布总，齐亡地而王加膳，所非兼爱之心也。此偃兵之所以不成也。”今有人于此，无礼慢易而求敬，阿党不公而求令，烦号数变而静，暴戾贪得而求定，虽黄帝犹若困。

卫嗣君欲重税以聚粟，民弗安，以告薄疑曰：“民甚愚矣。夫聚粟也，将以为民也。其自藏之与在于上，奚择？”薄疑曰：“不然。其在于民而君弗知，其不如在上也；其在上而民弗知，其不如在民也。”凡听必反诸己，审则令无不听矣。国久则固，固则难亡。今虞、夏、殷，周天存者，皆不知反诸己也。

公子沓相周，申向说之而战。公子沓臂

之曰：“申子说我而战，为吾相也夫？”申向曰：“向则不肖，虽然公子年二十而相，见老者而使之战，请问孰病哉？”公子杳无以应。战者，不习也；使人战者，严狙也<sup>⑥</sup>。意者恭节而人犹战，任不在贵者矣。故人虽时有自失者，犹无以易恭节。自失不足以难，以严狙则可。

## 重 言

二曰：

人主之言，不可不慎。高宗，天子也，即位，谅闇三年不言。卿大夫恐惧，患之。高宗乃言曰：“以余一人正四方，余唯恐言之不类也，兹故不言。”古之天子，其重言如此，故言无遗者。

成王与唐叔虞燕居，援梧叶以为珪，而援唐叔虞曰：“余以此封女。”叔虞喜，以告周公。周公以请曰：“天子其封虞邪？”成王曰：“余一人与虞戏也。”周公对曰：“臣闻之，天子无戏言。天子言，则史书之，工诵之，士称之。”于是遂封叔虞于晋。周公旦可谓善说矣，一称而令成王益重言，明爱弟之义，有辅王室之固。

荆庄王立三年，不听而好谗<sup>⑦</sup>。成公贾入谏，王曰：“不谷禁谏者，今子谏，何故？”对曰：“臣非敢谏也，愿与君王谗也。”王曰：“胡不谏不谷矣？”对曰：“有鸟止于南方之阜，三年不动不飞不鸣，是何鸟也？”王射之，曰：“有鸟止于南方之阜，其三年不动，将以定志意也；其不飞将以长羽翼；其不鸣，将以览民则也。是鸟虽不飞，飞将冲天；虽无鸣，鸣将骇人。贾出矣，不谷知之矣。”明日朝，后进者五人，所退者十人。群臣大说，荆国之众相贺也。故《诗》曰：“何其久也，必有以也。何其处也，必有与也。”其庄公之谓邪？成公贾之谗也，贤于太宰嚭之说也。太宰嚭之说也，听乎夫差，而吴国为墟；成公贾之谗，喻乎荆王，而荆国以霸。

齐桓公与管仲谋伐莒，谋未发而闻于国，

桓公怪之，曰：“与仲父谋伐莒，谋未发而闻于国，其故何也？”管仲曰：“国必有圣人也。”桓公曰：“嘻！日之役者，有执蹠蹠而上视者<sup>⑧</sup>，意者其是邪！”乃令复役，无得相代。少顷，东郭牙至。管仲曰：“此必是已。”乃令宾者延之而上，分级而立。管子曰：“子邪言伐莒者？”对曰：“然。”管仲曰：“我不言伐莒，子何故言伐莒？”对曰：“臣闻君子善谋，小人善意，臣窃意之也。”管仲曰：“我不言伐莒，子何以意之？”对曰：“臣闻君子有三色：显然喜乐者、钟鼓之色也；湫然清静者，衰经之色也；艴然充盈<sup>⑨</sup>、手足矜者，兵革之色也。日者臣望君之在台上也，艴然充盈、手足矜者，此兵革之色也。君哇而不喙<sup>⑩</sup>，所言者‘莒’也；君举臂而指，所当者莒也。臣窃以虑诸侯之不服者，其惟莒乎！臣故言之。”凡耳之闻，以声也。今不闻其声，而以其容与臂，是东郭牙不以耳听而闻也。桓公、管仲虽善匿，弗能隐也矣。故圣人听于无声，视于无形。詹何、田子方、老聃是也。

## 精 谕

三曰：

圣人相谕不待言，有先言言者也。

海上之人有好蜃者，每居海上，从蜃游，蜃之至者百数而不止，前后左右尽蜃也，终日玩之而不去。其父告之曰：“闻蜃皆从女居，取而来，吾将玩之。”明日之海上，而蜃无至者矣。

胜书说周公旦曰：“廷小人众，徐言则不闻，疾言则人知之。徐言乎，疾言乎？”周公旦曰：“徐言。”胜书曰：“有事于此，而精言之而不明，勿言之而不成。精言乎，勿言乎？”周公旦曰：“勿言。”故胜书能以不言说，而周公旦能以不言听。此之谓不言之听。不言之谋，不闻之事，殷虽恶周，不能疵也矣。口噤不言，以精相告，纣虽多心，弗能知矣。目视于无形，耳听于无声，商闻虽众，弗能

窥矣。同恶同好，志皆有欲，虽为天子，弗能离矣。

孔子见温伯雪子，不言而出。子贡曰：“夫子之欲见温伯雪子好矣，今也见之而不言，其故何也？”孔子曰：“若夫人者，目击而道存矣，不可以容声矣。”故未见其人而知其志，见其人而心与志皆见，天符同也。圣人之相知，岂待言哉？

白公问于孔子曰：“人可与微言乎？”孔子不应。白公曰：“若以石投水，奚若？”孔子曰：“没有能取之。”白公曰：“若以水投水，奚若？”孔子曰：“淄、渑之合者，易牙尝而知之。”白公曰：“然则人不可与微言乎？”孔子曰：“胡为不可？唯知言之谓者为可耳。”白公弗得也。知谓则不以言矣。言者谓之属也。求儒者濡，争兽者趋，非乐之也。故至言去言，至为无为。浅智者之所争则未矣，此白公之所以死于法室。

齐桓公合诸侯，卫人后至。公朝而与管仲谋伐卫，退朝而入，卫姬望见君，下堂再拜，请卫君之罪。公曰：“吾于卫无敌，子曷为清？”对曰：“妾望君之人也，足高气强，有伐国之至也。见妾而有动色，伐卫也。”明日君朝，揖管仲而进之。管仲曰：“君舍卫乎？”公曰：“仲父安识之？”管仲曰：“君之揖朝也恭，而言也徐，见臣而有惭色，臣是以知之。”君曰：“善。仲父治外，夫人治内，寡人知终不为诸侯笑矣。”桓公之所以匿者不言也，今管子乃以音貌容声，夫人乃以行步气志。桓公虽不言，若暗夜而烛燎也。

晋襄公使人于周曰：“弊邑寡君寝疾，卜以守龟，曰：‘三涂为祟。’弊邑寡君使下臣愿藉途而祈福焉。”天子许之，朝，礼使者事毕，客出。裒弘谓刘康公曰：“夫祈福于三涂，而受礼于天子，此柔嘉之事也，而客武色，殆有他事，愿公备之也。”刘康公乃敝戎车卒士以待之。晋果使祭事先，因令杨子将卒十二万而随之，涉于棘津，袭聊、阮、梁蛮氏，灭三国焉。此形名不相当，圣人之所察也，裒弘则审矣。故言不足以断小事，唯知言之

谓者可为。

## 离 谓

四曰：

言者以谕意也。言意相离，凶也。乱国之俗，甚多流言，而不顾其实，务以相毁，务以相誉，毁誉成党，众口熏天，贤不肖不分。以此治国，贤主犹惑之也，又况乎不肖者乎？惑者之患，不自以为惑，故惑惑之中有晓焉，冥冥之中有昭焉。亡国之主，不自以为惑，故与桀、纣、幽、厉皆也。然有亡者国，无二道矣。

可不可无辩，而以赏罚，其罚愈疾，其乱愈疾。此为国之禁也。故辩而不当理则伪，知而不当理则诈。诈伪之民，先王之所诛也。理也者，是非之宗也。

夫辞者，意之表也。鉴其表而弃其意，悖。故古之人，得其意则舍其言矣。听言者以言观意也，听言而意不可知，其与桥言无择。

## 淫 辞

五曰：

非辞无以相期<sup>①</sup>从辞则乱。乱辞之中又有辞焉，心之谓也。言不欺心，则近之矣。凡言者以谕心也。言心相离，而上无以参之，则下多所言非所行也，所行非所言也。言行相诡，不祥莫大焉。

空雄之遇<sup>②</sup>，秦、赵相与约，约曰：“自今以来，秦之所欲为，赵助之；赵之所欲为，秦助之。”居无几何，秦兴兵攻魏，赵欲救之。秦王不说，使人让赵王曰<sup>③</sup>：“约曰：秦之所欲为，赵助之；赵之所欲为，秦助之。”今秦欲攻魏，而赵因欲救之，此非伪也。”赵王以告平原君，平原君以告公孙龙，公孙龙曰：“亦可以发使而让赵王曰：‘赵欲救之，今秦王独不救赵，此非约也。’”

孔穿、公孙龙相与论于平原君所，深而

辩，至于藏三牙<sup>④</sup>，公孙龙言藏之三牙甚辩。孔穿不应，少选<sup>⑤</sup>，辞而出。明日，孔穿朝，平原君谓孔穿曰：“昔者公孙龙之言甚辩。”孔穿曰：“然。几能令藏三牙矣。虽然难。愿得有向于君；谓藏三牙甚难而实非也，谓藏两牙甚易而实是也。不知君将从易而是者乎，将从难而非者乎？”平原君不应。明日，谓公孙龙曰：“公无与孔穿辩。”

荆柱国庄伯令其父视曰，日“在天”；视其奚如，曰“正圆”；视其时，日“当今”。令谒者驾，曰“无马”。令涓人取冠，“进上”。问马齿，圉人曰：“齿十二与牙三十”。人有任臣不亡者，臣亡，庄伯决之，任者无罪。

惠子为魏惠王为法。为法已成，以示诸民人，民人皆善之。献之惠王，惠王善之，以示翟翦，翟翦曰：“善也。”惠王曰：“可行邪？”翟翦曰：“不可。”惠王曰：“善而不可行，何故？”翟翦对曰：“今举大木者，前呼舆澇<sup>⑥</sup>，后亦应之，此其与举大木者善矣。岂无郑、卫之音哉？然不若此其宜也。夫国亦木之大者也。”

## 不 屈

察士以为得道则未也，虽然，其应物也，辞难穷矣。辞虽穷，其为祸福犹未可知。察而自达理明义，则察为福矣；察而以饰非惑愚，则察为祸矣。古者之贵善御也，以逐暴禁邪也。

匡章谓惠子于魏王之前曰：“蝗螟，农夫得而杀之，奚故？为其害稼也。今公行，多者数百乘，步者数百人；少者数十乘，步者数十人。此无耕而食者，其害稼亦甚矣。”惠王曰：“惠子施也难以辞与公相应，虽然，请言其志。”惠子曰：“今之城者，或者操大筑乎城上，或负耜而赴乎城下，或操表掇以善睇望<sup>⑦</sup>。若施者，其操表掇者也。使工女化而为丝，不能治丝；使大匠化而为木，不能治木；使圣人化而为农夫，不能治农夫。施而治农夫者也，公何事比施于螳螟乎？”惠子之

治魏为本，其治不治。当惠王之时，五十战而二十败，所杀者不可胜数，大将、爱子有禽者也。大术之愚，为天下笑，得举其讳。乃请令周太史更著其名。围邯郸三年而弗能取，士民罢潞，国家空虚，天下之兵四至，众庶诽谤，诸侯不誉。谢于翟翦，而更听其谋，社稷乃存。名宝散出，土地四削，魏国从此衰矣。仲父，大名也；让国，大实也。说以不听不信。听而若此，不可谓工矣。不工而治，贼天下莫大焉。幸而独听于魏也。以贼天下为实，以治之为名，匡章之非，不亦可乎！

## 应 言

七曰：

白圭谓魏王曰：“市丘之鼎以烹鸡，多泊之则淡而不可食，少泊之则焦而不熟，然而视之螭焉美，无所可用。惠子之言，有似于此。”惠子闻之，曰：“不然。使三军饥而居鼎旁，适为之飫，则莫宜之此鼎矣。”白圭闻之，曰：“无所可用者，意者徒加其飫邪？”白圭之论自悖，其少魏王大甚，以惠子之言螭焉美，无所可用，是魏王以言无所可用者为仲父也，是以言无所用者为美也。

公孙龙说燕昭王以偃兵，昭王曰：“甚善。寡人愿与客计之。”公孙龙曰：“窃意大王之弗为也。”王曰：“何故？”公孙龙曰：“日者大王欲破齐，诸天下之士其欲破齐者，大王尽养之；知齐之险阻要塞、君臣之际者，大王尽养之；虽知而弗欲破者，大王犹若弗养。其卒果破齐以为功。今大王曰：我甚取偃兵。诸侯之士在大王之本朝者，尽善用兵者也。臣是以知大王之弗为也。”王无以应。

司马喜难墨者师于中山王前以非攻，曰：“先生之所术非攻夫？”墨者师曰：“然。”曰：“今王兴兵而攻燕，先生将非王乎？”墨者师对曰：“然则相国是攻之乎？”司马喜曰：“然。”墨者师曰：“今赵兴兵而攻中山，相国将是之乎？”司马喜无以应。

路说谓周颇曰：“公不爱赵，天下必从。”周颇曰：“固欲天下之从也。天下从，则秦利也。”路说应之曰：“然则公欲秦之利夫？”周颇曰：“欲之。”路说曰：“公欲之，则胡不为从矣？”

魏令孟印割絳、窐、安邑之地以与秦王。王喜，令起贾为孟印求司徒于魏王。魏王不说，应起贾曰：“印，寡人之臣也。寡人宁以臧为司徒，无用印。愿大王之更以他人谄之也。”起贾出，遇孟印于廷。曰：“公之事何如？”起贾曰：“公甚贱于公之主。公之主曰：‘宁用臧为司徒，无用公。’”孟印入见，谓魏王曰：“秦客何言？”王曰：“求以女为司徒。”孟印曰：“王应之谓何？”王曰：“宁以臧，无用印也。”孟印太息曰：“宜矣王之制于秦也！王何疑秦之善臣也？以絳、窐、安邑令负牛书与秦，犹乃善牛也。印虽不肖，独不如牛乎？且王令三将军为臣先，曰‘视印如身’，是重臣也。令二轻臣也，令臣责，印虽贤，固能乎？”居三日，魏王乃听起贾。凡人主之与其大官也，为有益也。今割国之锱铢矣，而因得大官，且何地以给之？大官，人臣之所欲也。孟印令秦得其所欲，秦亦令孟印得其所欲，责以欲矣，尚有何责？魏虽强，犹不能责无责，又况于弱？魏王之令乎孟印为司徒，以弃其责，则拙也。

秦王立帝，宜阳令许綰诞魏王，魏王将入秦。魏敬谓王曰：“以河内孰与梁重？”王曰：“梁重。”又曰：“梁孰与身重？”王曰：“身重。”又曰：“若使秦求河内，则王将与之乎？”王曰：“弗与也。”魏敬曰：“河内，三论之下也；身，三论之上也。秦索其下而王弗听，索其上而王听之，臣窃不取也。”王曰：“甚然。”乃辍行。秦虽大胜于长平，三年然后决，士民倦，粮食<sup>⑩</sup>。当此时也，两周全，其北存，魏举陶胡卫，地方六百，有之势而入，大蚤，奚待于魏敬之说也？夫未可以入而入，其患有将可以入而不入。入与不入之时，不可不熟论也。

#### 注释：

- ①蹠足：顿足。蹠：qǐng kǎi；咳嗽。  
②甲：铠甲。③公子食我：人名。④于：乎。  
⑤布总：以布束发，是古人服丧时的一种装束。  
⑥严驂：严厉骄横。⑦谑：隐语。⑧蹠：当指可以用足踏的末。⑨蹠然：恼怒的样子。矜：奋、挥动。⑩呿：张口。噤：闭口。⑪相期：互相交往。期，会合。⑫空雄：当作“空雒”。遇：盟会。⑬让：责备。⑭藏三牙：当作“藏三耳”。“藏”即“臧”之借字，“臧”通“牂”，母羊。⑮少选：一会儿。⑯輿：他书或作“邪许”“邪所”，抬举重物时所唱的号子声。⑰表：他书或作“表纆”，本指用来表示分界的挂有毛皮的直木，引申为楷模、标志等义。睇望：远望，观望。⑱粮食：后当脱一字。

## 《战国策》

#### 题解：

相传为战国时史官或策士辑录。通行本三十三卷。西汉末年，刘向曾进行过校对，订为三十三篇。北宋时佚去十一篇，曾巩重为订补，分为东周、西周、秦、齐、楚、赵、魏、韩、燕、宋、卫、中山，计十二策，四百八十六章。记春秋末至秦二百四十余年史事。对当时各国的外交活动，尤其是对纵横家的游说情况作了详细的记载。该书开篇之《秦兴师临周而求九鼎》章，就记载了颜率精心设计的为保住九鼎而周旋于秦齐两大国之间的谋略，许九鼎于齐，借齐兵以退秦，破除了秦对周的威胁；然后又设法使齐无法迁走九鼎。这就收到了既退去秦兵，又保住九鼎的最佳效果，颜率真可谓东周杰出的外交谋略家。在秦策中，又分别记载纵横家苏秦和张仪的外交活动，从中体现了他们卓越的谋略思想。苏秦初说秦王不成，头悬梁，锥刺骨，发奋研读太公阴符之书，奠定雄厚的游说基础，铺陈磅礴，气势万千，说赵王于华屋之下。赵王大悦，封为武安君，挂六国相印，约从散横，以抑强秦。张仪继苏秦



之后游说秦王，为其制定了“举赵亡韩、臣荆魏，亲齐燕，以成伯王之名，朝四邻诸侯之道”的战略，终被秦王所采纳，收到了巨大的社会效果。由此闪现出他们光辉的谋略思想，展示出杰出的外交与说辩才华。《战国策》一书，页页有谋，章章有策，是我国古代外交与说辩谋略之绝唱，它极大地丰富了谋略思想宝库，对外交与说辩谋略的发展影响深远，作用巨大。

## 秦兴师临周而求九鼎

秦兴师临周而求九鼎<sup>①</sup>，周君患之，以告颜率，颜率曰：“大王勿忧，臣请东借于齐。”颜率至齐，谓齐王曰：“夫秦之为无道也，欲兴兵临周而求九鼎，周之君臣内自尽计，与秦不若归之大国<sup>②</sup>。夫存危国，美名也；得九鼎，厚宝也。愿大国图之。”齐王大悦，发师五万人，使陈臣思将以救周，而秦兵罢。齐将求九鼎，周君又患之。颜率曰：“大王勿忧，臣请东解之。”颜率至齐，谓齐王曰：“周赖大国之义，得君臣父子相保也，愿献九鼎，不知大国何途之从而致之齐<sup>③</sup>？”齐王曰：“寡人将寄经于梁。”颜率曰：“不可。夫梁之君臣，欲得九鼎，谋之晖台之下，少海之上<sup>④</sup>，其日久矣。鼎入梁，必不出。”齐王曰：“寡人将寄经于楚。”对曰：“不可，楚之君臣，欲得九鼎，谋之于叶庭之中，其日久矣。若入楚，鼎必不出。”王曰：“寡人终何途从之而致之齐？”颜率曰：“弊邑固窃为大王患之。夫鼎者，非效醯壶酱瓿耳<sup>⑤</sup>，可怀挟提挈以至齐者，非效鸟集乌飞兔兴马逝漓然止于齐者<sup>⑥</sup>。昔周之伐殷，得九鼎，凡一鼎而九万人挽之，九九八十一万人，士卒师徒器械被具，所以备者称此。今大王纵有其人，何途之从而出？臣窃为大王私忧之。”齐王曰：“子之数来者，犹无与耳！”颜率曰：“不敢欺大国，疾定所从出，弊邑迁鼎以待命。”齐王乃止。

## 秦攻宜阳

秦攻宜阳，周君谓赵累曰<sup>⑦</sup>：“子以为何如？”对曰：“宜阳必拔也。”君曰：“宜阳城方八里，材士十万，粟支数年；公仲之军二十万<sup>⑧</sup>，景翠以楚之众<sup>⑨</sup>，临山而救之，秦必无功。”对曰：“甘茂羁旅也<sup>⑩</sup>，攻宜阳而有功，则周公旦也；无功则削迹于秦。秦王不听群臣父兄之议，而攻宜阳。宜阳不拔，秦王耻之。臣故曰拔。”君曰：“子为寡人谋，且奈何？”对曰：“君为景翠曰：‘公爵为执圭，官为柱国，战而胜则无加焉矣；不胜，则死。不如背秦援宜阳。公进兵，秦恐公之乘其弊也，必以宝事公，公中慕公之为己乘秦也<sup>⑪</sup>，亦必进其宝。’”秦拔宜阳，景翠果进兵。秦惧，遽效煮枣，韩氏果以效重宝。景翠得城于秦，受宝于韩，而德东周。

## 秦假道于周以伐韩

秦假道于周以伐韩，周恐借之而恶于韩，不假而恶于秦。史厌谓周君曰<sup>⑫</sup>：君何不令人谓韩公叔曰：‘秦敢绝塞而伐韩者，信东周也。公何不与周地。发重使使之楚，秦必疑，不信周，是韩不伐也。’又谓秦王曰：‘韩强与周也，将以疑周于秦，寡人不敢弗受。’秦必无辞，而令周弗受，是得地于韩而听于秦也。”

## 或谓周最谓金投

或为周最谓金投曰<sup>⑬</sup>：“秦以周最之齐疑天下，而又知赵之难子齐人战<sup>⑭</sup>，恐齐韩之合必先合于秦。秦、齐合，则公之国虚矣。公不如救齐，因佐秦而伐韩、魏，上党长子赵之有。公东收宝于秦，南取地于韩，魏因以因，徐为之东，则有合矣。”

周最谓金投曰：“公负令秦与强齐战，战胜，秦且收齐而封之，使无多割，而听天下

之战；不胜，国大伤，不得不听秦。秦尽韩魏之上党、太原，西土秦之有已。秦地，天下之半也，制齐、楚、三晋之命，复国且身危，是何计之道也？”

### 三国隘秦

三国隘秦，周令其相之秦，以秦之轻也，留其行。有人谓相国曰：“秦之轻重，未可知也。秦欲知三国之情，公不如遂见秦王曰：‘请谓王听东方之处。’秦必重公。是公重周，重周以取秦也。齐重故有周，而已取齐，是周常不失重国之交也。”

### 昌他亡西周之东周

昌他亡西周之东周<sup>⑮</sup>，尽输西周之情于东周。东周大大喜，西周大怒。冯且曰：“臣能杀之。”君予金三十斤。冯且使人操金与书，间遗昌他书曰：“告昌他乃可成，勉成之；不可成，亟亡来亡来！事久且泄，自令身死。”因使人告东周之侯曰：“今夕有奸人当人者矣。”侯得而献东周，东周立杀昌他。

### 薛公以齐为韩魏攻楚

薛公以齐为韩魏攻楚<sup>⑯</sup>，又与韩魏攻秦，而藉兵乞食于西周。韩庆为西周谓薛公曰<sup>⑰</sup>：“君以齐为韩魏攻楚，九年而取宛叶以北，以强韩魏。今又攻秦而益之。韩魏南无楚忧，西无秦患，则地广而益重，齐必轻矣。夫本末更盛，虚实有时，窃为君危之。君不如令弊邑阴合于秦，而君无攻，又无藉兵乞食。君临函谷，而无攻，令弊邑以君之情谓秦王曰：‘薛公必破秦，以张韩魏，所以进兵者，欲王令楚割东国以与齐也。’秦王出楚王以为和，君令弊邑以此惠秦，秦得无破而以楚之东国自免也，必欲之。楚王出，必德齐，齐得东国而益强，而薛世世无患。秦不大弱，而处之三晋之西，三晋必重齐。”薛

公曰：“善。”因令韩庆于秦，而使三国无攻秦，而使不藉兵乞食于西周。

### 秦攻魏将犀武军于伊阙

秦攻魏将犀武军于伊阙<sup>⑱</sup>，进兵而攻西周。为周最谓李兑曰：“君不如禁秦之攻周。赵之上计，莫如令秦魏复战。今秦攻周而得之，则众必多伤矣。秦欲待周之得，必不攻魏；秦若攻周而不得，前有胜魏之劳，后有攻周之败，又必不攻魏。今君禁之，而秦未与魏讲也。而全赵令其止，必不敢不听，是君却秦而定周也。秦去周，必复攻魏，魏不能支，必因君而讲，则君重矣。若魏不讲，用疾支之，是君存周而战秦魏也。重亦尽在赵。”

### 苏厉谓周君

苏厉谓周君曰<sup>⑲</sup>：“败韩魏，杀犀武，攻赵取蔺、离石、祁者，皆白起。是攻用兵，又有天命也。今攻梁，梁必破，破则周危，君不若止之。谓白起曰：‘楚有养由基也，善射，去柳叶者，百步而射之，百发百中。左右皆曰，善。有一人过曰，善射，可教射也矣。养由基曰，人皆善，子乃曰可教射，子何不代我射之也？’客曰，我不能教子支左屈右。夫射柳叶者，百发百中，而不已善息，少焉气力倦，弓拨矢钩，一发不中，前功尽也。今公破韩魏，杀犀武，而北攻赵取蔺、离石、祁者、公也，公之功甚多。今公又以秦兵出塞，过两周践韩而以攻梁，一攻而不得，前功尽灭，公不若称病不出也。”

### 宫他谓周君合赵以备秦

宫他谓周君曰<sup>⑳</sup>：“宛恃秦而轻晋，秦饥而宛亡。郑恃魏而轻韩，魏攻蔡而郑亡。邾莒亡于齐，陈蔡亡于楚，此皆恃援国而轻近敌也。今君恃韩魏而轻秦，国恐伤矣。君不

如使周最阴合于赵以备秦，则不毁。”

## 苏秦始将连横

苏秦始将连横<sup>①</sup>，说秦惠王曰：“大王之国，西有巴、蜀、汉中之利，北有胡貉、代马之用，南有巫山、黔中之限，北有肴、函之固。田肥美，民殷富，战车万乘，奋击百万，沃野千里，蓄积饶多。地势形便，此所谓天府，天下之雄国也。以大王之贤，士民之众，车骑之用，兵法之教，可以并诸侯，吞天下，称帝而治。愿大王少留意，臣请奏其效。”秦王曰：“寡人闻之，毛羽不丰满者，不可以高飞，文章不成者，不可以诛罚，道德不厚者，不可以使民，政教不顺者，不可以烦大臣。今先生俨然不远千里而庭教之，愿以异日。”

苏秦曰：“臣故疑大王之不能用也。昔者神农伐补遂<sup>②</sup>，黄帝伐涿鹿而禽蚩尤，尧伐驩兜<sup>③</sup>，舜伐三苗，禹伐共工，汤伐有夏，文王伐崇<sup>④</sup>，武王伐纣，齐桓任战而伯天下。由此观之，恶有不战者乎？古者使车毂击驰，言语相结，天下为一；约从连横，兵革不藏；文士并饬，诸侯乱惑；万端俱起，不可胜理；科条既备，民多伪态；书策稠浊，百姓不足；上下相愁，民无所聊；明言章理，兵甲愈起；辩言伟服，战攻不息；繁称文辞，天下不治；舌弊耳聋，不见成功；行义约信，天下不亲。于是乃废文任武，厚养死士，缀甲厉兵，效胜于战场。夫徒处而致利，安坐而广地，虽古五帝、三王五伯，明主贤君，常欲坐而致之，其势不能，故以战续之。宽相两军相攻，迫则杖戟相撞，然后可建大功。是故兵胜于外，义强于内；威立于上，民服于下。今欲并天下，凌万乘，诎敌国，制海内，子元元，臣诸侯，非兵不可。今之嗣主，忽于至道，皆惘于教，乱于治，迷于言，惑于语，沈于辩，溺于辞，以此论之，王固不能行也。”

说秦王书十上而说不行。黑貂之裘弊，

黄金百斤尽，资用乏绝，去秦而归。羸滕履屨<sup>⑤</sup>，负书担橐，形容枯槁，面目黧黑，状有归色。归至家，妻不下紝，嫂不下炊，父母不与言。苏秦喟叹曰：“妻不以我为夫，嫂不以我为叔，父母不以我为子，是皆秦之罪也。”乃夜发书，陈箴数十，得太公阴符之谋，伏而诵之，简练以为揣摩。读书欲睡，引锥自刺其股，血流至足。曰：“安有说人主不能出其金玉锦绣，取卿相之尊者乎？”期年，揣摩成，曰：“此真可以说当世之君矣！”

于是乃摩燕鸟集阙，见说赵王于华屋之下，抵掌而谈。赵王大悦，封为武安君。受相印，革车百乘，锦绣千纯，白璧百双，黄金万镒，以随其后，约从散横，以抑强秦。故苏相于赵而关不通。当此之时，天下之大，万民之众，王侯之威，谋臣之权，皆欲决苏秦之策。不费斗粮，未烦一兵，未战一士，未绝一弦，未折一矢，诸侯相亲，贤于兄弟。夫贤人在天下服，一人用而天下从。故曰：“式于政不式于勇，式于廊庙之内，不式于四境之外。”当秦之隆，黄金万镒为用，转毂连骑，炫煌于道，山东之国，从风而服，使赵大重，且夫苏秦特穷巷掘门桑户枢之士耳<sup>⑥</sup>，伏轼搏衔，横历天下，廷说诸侯之王，杜左右之口，天下莫之能抗。

将说楚王，路过洛阳，父母闻之，清宫除道，张乐设饮，郊迎三十里。妻侧目而视，倾耳而听；嫂蛇行匍伏，四拜自跪而谢。苏秦曰：“嫂何前倨而后卑也？”嫂曰：“以季子之位尊而多金。”苏秦曰：“嗟乎！贫穷则父母不子，富贵则亲戚畏惧。人生世上，势位富贵，盖可忽乎哉！”

## 张仪说秦

张仪说秦王曰<sup>⑦</sup>：“臣闻之，弗知而言，为不智；知而不言，为不忠。为人臣不忠，当死，言不审，亦当死。虽然，臣愿悉言所闻，大王裁罪。臣闻天下阴燕阳魏，连荆固齐，收余韩成从，将西南以与楚为难。臣窃

笑之，世有三亡，而天下得之，其此之谓乎！臣闻之曰：‘以乱攻治者亡，以邪攻正者亡，以逆攻顺者亡。’今天下之府库不盈，困仓空虚，悉其士民，张军数千百万，白刃在前，斧质在后，而皆去走，不能死。罪其百姓不能死也，其上不能杀也。言赏则不与，言罚则不行，赏罚不行，故民不死也。

“今秦出号令而行赏罚，有功无功，相事也。出其父母怀衽之中，生未尝见寇也，闻战顿足徒裼<sup>②</sup>，犯白刃，蹈煨炭，断死于前者，比是也。其断死与断生也不同，而民为之者，是贵奋也。一可以胜十，十可以胜百，百可以胜千，千可以胜万，万可以胜天下矣。今秦地形断长继短，方数千里，名师数百万，秦之号令赏罚，地形利害，天下莫如也。以此与天下，天下不足兼而有也。是知秦战未尝不胜，攻未尝不取，所当未尝不破也。开地数千里，此甚大功也。然而甲兵顿，士民病，蓄积索，田畴荒，困仓空，四邻诸侯不服，伯王之名不成，此无异故，谋臣皆不尽其忠也。

“臣敢言往昔：昔者齐南破荆，中破宋，西服秦，北破燕，中使韩魏之君。地广而兵强，战胜攻取，诏令天下，济清河浊，足以为限，长城钜防，足以为塞。齐五战之国也，一战不胜而无齐。故由此观之，夫战者，万乘之存亡也。且臣闻之曰：‘削株掘根，无与祸邻，祸乃不存。’秦与荆人战，大破荆，袭郢，取洞庭五都江南，荆王亡奔走东伏于陈。当是之时，随荆以兵，则荆可举。举荆则其民足贪也，地足利也。东以弱齐燕，中陵三晋，然则是一举而伯王之名，可成也，四邻诸侯可朝也。而谋臣不为，引军而退，与荆人和。今荆人收亡国，聚散民立社主，置宗庙，令帅天下西面以与秦为难，此固已无伯王之道一矣。天下有比志而军华下，大王以诈破之，兵至梁郭，围梁数旬，则梁可拔。拔梁则魏可举，举魏则荆赵之志绝。荆赵之志绝，则赵危。赵危而荆孤。东以弱齐燕，中陵三晋，然则是一举而伯王之名，可

成也，四邻诸侯可朝也。而谋臣不为，引军而退，与魏氏和。令魏氏收亡国聚散民，立社主，置宗庙，此固已无伯王之道二矣。前者穰侯之治秦也，用一国之兵，面欲以成两国之功。是故兵终身暴灵于外，士民谿病于内，伯王之名不成，此固以无伯王之道三矣。

“赵氏中央之国也，杂民之所居也，其民轻而难用，号令不治，赏罚不信，地形不便，上非能尽其民力。彼固亡国之形也，而不忧民氓，悉其士民，军于长平之下，以争韩之上党，大王以诈破之，拔武安。当是时，赵氏上下，不相亲也，贵贱不相信，然则是邯郸不守，拔邯郸，定河间，引兵而去，西攻修武，逾羊肠，降代上党。代三十六县，上党十七县，不用一领甲，不苦一民，皆秦之有也。代上党不战而已为秦矣，东阳河外，不战而为齐矣，中呼池以北，不战而已为燕矣。然则是举赵则韩必亡，韩亡则荆魏不能独立。荆魏不能独立，则是一举而坏韩魏，挟荆以东弱齐燕，决白马之口以流魏氏<sup>③</sup>。一举而三晋亡，从者败。大王拱手以须天下，遍随而伏，伯王之名可成也。而谋臣不为，引军而退，与赵氏为和。以大王之明，秦兵之强，伯王之业，地尊不可得，乃取欺于亡国，是谋臣之拙也。且夫赵当亡不亡，秦当伯不伯，天下固量秦之谋臣一矣。乃复悉卒，攻邯郸，不能拔也，弃甲兵，怒战慄而却，天下固量秦力二矣。军乃引退，并于李下<sup>④</sup>，大王又并军而致与战，非能厚胜之也，又交罢却，天下固量秦力三也。内者量我谋臣，外者极我兵力。由是观之，臣以天下之从，岂其难矣。内者吾甲兵顿，士民病，蓄积索，田畴荒，困仓虚；外者天下比志甚固。愿大王有以虚之也。

“且臣闻之：‘战战慄慄，日慎一日。’苟慎其道，天下可有也。何以知其然也？昔者纣为天子，帅天下将甲百万，左饮于淇谷，右饮于洹水，淇水竭而洹水流。以与周武为难，武王将素甲三千领，战一日，破纣之国，禽其身，据其地而有其民，天下莫不伤。智

伯帅三国之众，以攻赵襄主于晋阳，决水灌之。三年城且拔矣，襄主错龟数策占兆，以观利害，何国可降？而使张孟谈于是潜行而出，反智伯之约，得两国之众，以攻智伯之战，禽其身，以成襄子之功。今秦地断长取知，方数千里，名师数百万，秦国号令赏罚，地形利害，天下莫如也。以此与天下，天下可兼而有也。

“臣昧死望见大王，言所以举，破天下之从，举赵亡韩臣荆魏，亲齐燕，以成伯王之名，朝四邻诸侯之道。大王试听说，一举而天下之从不破，赵不举，韩不亡，荆魏不臣，齐燕不亲，伯王之名不成，四邻诸侯不朝，大王斩臣以徇其国，以臣为谋不忠者。”

### 司马错与张仪争论于秦惠王前

司马错与张仪争论于秦惠王前<sup>①</sup>。司马错欲伐蜀，张仪曰：“不如伐韩。”王曰：“请闻其说。”

对曰：“亲魏善楚，下兵三川，塞轘轲<sup>②</sup>、緤氏之口<sup>③</sup>，当屯留之道，魏绝南阳，楚临南郑，秦攻新城宜阳，以临二周之郊，诛周主之罪，侵楚魏之地。周自知不救，九鼎宝器必出。据九鼎，按图籍，挟天子以令天下，天下莫敢不听，此王业也。今夫蜀，西辟之国而戎狄之长也，弊兵劳众，不足以成名，得其地不足以为利。臣闻：‘争名者于朝，争利者于市。’今三川周室，天下之市朝也，而王不争焉，顾争于戎狄，去王业远矣。”司马错曰：“不然。臣闻之：‘欲富国者，务广其地；欲强兵者，务富其民；欲王者，务博其德。三资者备，而王随之矣。’今天之地小民贫，故臣愿从事于易。夫蜀，西辟之国也，而戎狄之长也，而有桀纣之乱，以秦攻之，譬如使豺狼逐群羊也。取其地足以广国也；得其财足以富民；缮兵不伤众，而彼已服矣。故拔一国，而天下不以为暴；利尽西海，诸侯不以为贪。是我一举而名实两附，而又有禁暴正乱之名。今攻韩劫天子，劫天

子，恶名也，而未必利也，又有不义之名，而攻天下之所不欲，危！臣请竭其故：周，天下之宗室也，齐，韩国之与国也。周自知失九鼎，韩自知亡三川，则必将二国并力合谋，以因于齐赵而求解乎楚魏。以鼎与楚，以地与魏，王不能禁。此臣所谓危，不如伐蜀之完也。”惠王曰：“善！寡人听子。”

卒起兵伐蜀，十月取之，遂定蜀，蜀主更号为侯，而使陈庄相蜀。蜀既属，秦益强富厚轻诸侯。

### 陈轸去楚之秦

陈轸去楚之秦。张仪谓秦王曰：“陈轸为王臣，常以国情输楚，仪不能与从事，愿王逐之，即复之楚，愿王杀之。”王曰：“轸安敢之楚也？”王召陈轸告之曰：“吾能听子言，子欲何之？请为子车约。”对曰：“臣愿之楚。”王曰：“仪子为之楚，吾又自知子之楚，子非楚，且安之也？”轸曰：“臣出，必故之楚，以顺王与仪之策，而明臣之楚与不也。楚人有两妻者，人挑其长者，置之；挑其少者，少者许之。居无几何，有两妻者死。客谓挑者曰：‘汝取长者乎？少者乎？’‘取长者。’客曰：‘长者置汝，少者和汝，汝何为取长者？’曰：‘居彼人之所，则欲其许我也。今为我妻，则欲其为我置人也。’今楚王明主也，而昭阳贤相也。轸为人臣，而常以国输楚王，王必不留臣，昭阳将不与臣从事矣。以此明臣之楚与不。”

轸出，张仪入问王曰：“陈轸果安之？”王曰：“夫轸天下之辩士也，熟视寡人曰：‘臣必之楚。’寡人遂无可奈何也。寡人因问曰：‘子必之楚也，则仪之言果信矣！’轸曰：‘非独仪之言也，行道之人皆知之。昔者子胥忠其君，天下皆欲以为臣；孝己爱其亲，天下皆欲以为子。故卖仆妾，不出里巷而取者，良仆妾也；出妇嫁于乡里者，善妇也。臣不忠于王，楚何以轸为？忠尚见弃，轸不之楚，而何之乎？’”王以为然，遂善待之。

## 齐助楚攻秦

齐助楚攻秦，取曲沃。其后秦欲伐齐，齐楚之交善，惠王患之，谓张仪曰：“吾欲伐齐，齐楚方欢，子为寡人虑之，奈何？”张仪曰：“王其为臣约车并币，臣请试之。”张仪南见楚王曰：“弊邑之王所说甚者，无大大王<sup>③</sup>；唯仪之所甚愿为臣者，亦无大大王。弊邑之王甚所憎者，亦灭先齐王；唯仪之甚憎者，亦无大齐王。今齐之罪，其于弊邑之王甚厚，弊邑欲伐之，而大王与之欢，是以弊邑之王不得事令，而仪不得为臣也。大王苟能闭关绝齐，臣请使秦王献商于之地方六百里。若此，齐必弱，齐弱则必为王役矣。则是北弱齐，西德于秦，而私商于之地以为利也。则此一计而三利俱至。”

楚王大悦，宣言之于朝廷曰：“不谷得商于田方六百里。”<sup>④</sup>群臣闻之者皆贺，陈轸后见，独不贺。楚王曰：“不谷不烦一兵，不伤一人，而得商于之地六百里，寡人自以为智矣。诸士大夫皆贺，子独不贺，何也？”陈轸对曰：“臣见商于之地不可得而患必至矣。故不敢妄贺。”王曰：“何也？”对曰：“夫秦所以重王者，以王有齐也。今地未可得而齐先绝，是楚孤也，秦又何重孤国？且先出地绝齐，秦计必弗为也，先绝齐，后责地，且受欺于张仪。受欺于张仪，王必惋之。是西出秦患，北绝齐交，则两国兵必至矣。”楚王不听，曰：“吾事善矣，子其弭口无言，以待吾事。”楚王使人绝齐，使者未来，又重绝之。

张仪反秦<sup>⑤</sup>，使人使齐，齐秦之交阴合。楚因使一将军受地于秦。张仪至，称病不朝。楚王曰：“张子以寡人不绝齐乎？”乃使勇士往晋齐王。张仪知楚绝齐也，乃出见使者曰：“从某至某，广从六里。”使者曰：“臣闻六百里，不闻六里。”仪曰：“仪固以小人，安得六百里？”使者反报楚王，楚王大怒，欲兴师伐秦。陈轸曰：“臣可以言乎？”王曰：“可

矣。”轸曰：“伐秦非计也，王不如因而赂之一名都，与之伐齐，是我亡于秦而取偿于齐也。楚国不尚全事？王今已绝齐，而责欺于秦，是吾合齐秦之交也，固必大伤。”楚王不听，遂举兵伐秦。秦与齐合，韩氏从之，楚兵大败于杜陵。故楚之土壤士民非削弱，仅以救亡者，计失于陈轸，过听于张仪。

## 范雎至

范雎至<sup>⑥</sup>，秦王庭迎，谓范雎曰：“寡人宜以身受令久矣。今者义渠之事急，寡人自请太后。今义渠之事已，寡人乃得以身受命。躬窃闵然不敏，敬执宾主之礼。”范雎辞让。是日见范雎见者，无不变色易容者。秦王屏左右，宫巾虚无人。秦王跪而请曰：“先生何以幸教寡人？”范雎曰：“唯唯。”有间，秦王复请，范雎曰：“唯唯”。若是者三。

秦王跽曰：“先生不幸教寡人乎？”范雎谢曰：“非敢言也。臣闻始时姜尚之遇文王也，身为渔父而钓于渭阳之滨耳，若是者交疏也。已一说而立为太师，载与俱归者，其言深也。故文王果收归于吕尚，卒擅天下，而身立为帝王。即使文王疏吕望而弗与深言，是周无天子之得，而文武无与成其王也。今臣羁旅之臣也，教疏于王而所愿陈者，皆匡君之事。处人骨肉之间，愿以陈臣之陋忠而未知王心也。所以王三问而对者是也。臣非有所畏而不敢言也，知今日言之于前，而明日伏诛于后，然臣弗敢畏也。大王信行臣之言，死不足以为臣患，亡不不足以为臣忧，漆身而为厉，被发而为狂，不足以为臣耻。五帝之圣而死，三王之仁而死，五伯之贤而死，乌获之力而死<sup>⑦</sup>，奔、育之勇焉而死<sup>⑧</sup>。死者，人之所不免也。处必然之势，可以少有补于秦，此臣之所大愿也，臣何患乎？伍子胥橐载而出昭关，夜行而昼伏，至于菱水，无以饵其口，坐行蒲服，乞食吴市，卒兴吴国，阖庐为霸。使臣得进谋如伍子胥，加之以幽囚，终身不见，是臣说之行也，臣何忧

乎？箕子接輿漆身而为厉，被发而为狂，无益于殷楚。使臣得同行于箕子接輿，漆身可以补所贤之王，是臣之大荣也，臣又何耻乎？臣之所恐者，独恐臣死之后，天下见臣尽忠而身戮也，是以杜口裹足，莫肯即秦耳。足下上威太后之严，下惑奸臣之态；居深宫之中，不离保傅之手，终身暗惑，无与照奸，大者宗庙灭复，小者身以孤危。此臣之所深恐耳！若夫穷辱之事，死亡之患，臣弗敢畏也。臣死而秦治，贤于生也。”

秦王跽曰：“先生是何言也，夫秦国僻远，寡人愚不肖，先生乃幸至此，此天以寡人溷先生<sup>⑩</sup>，而存先王之庙也。寡人得受命于先生，此天所以幸先王，而不弃其孤也。先生奈何而言若此！事无大小，上极太后，下至大臣，愿先悉以教寡人，无疑寡人也。”范雎再拜，秦王亦再拜。范雎曰：“大王之国，北有甘泉谷口，南带泾渭，右陇、蜀，左关、阪，战车千乘，奋击百万。以秦卒之勇，车骑之多，以当诸侯，譬若驰韩卢而逐蹇兔也<sup>⑪</sup>，霸王之业可致。今反闭而不敢窥山东者，是穰侯为国谋不忠，而大王之计有所失也。”

王曰：“愿闻所失计。”雎曰：“大王越韩魏而攻强齐，非计也。少出师则不足以伤齐；多之则害于秦。臣意王之计，欲少出师，而悉韩魏之兵，则不义矣。今见与国之不可亲，越人之国而攻，可乎？疏于计也！昔者，齐人伐楚，战胜破军杀将，再辟千里。肤寸之地无得者，岂齐不欲地哉！形弗能有也。诸侯见齐之罢露，君臣之亲，举兵而伐之，主辱军破为天下笑。所以然者，以其伐楚而肥韩魏也。此所谓藉贼兵而资盗食者也。王不知远交而近攻，得寸则王之寸，得尺亦王之尺也。今舍此而远攻，不亦缪乎？且昔者中山之地方五百里，越独擅之，功成名立利附则天下莫能害。今韩魏，中国之处而天下枢也。王若欲霸必亲中国而以为天下枢，以威楚赵。赵疆则楚附，楚强则赵附。楚赵附则齐必惧，惧必卑辞重币以事秦，齐附而韩

魏可虚也。”王曰：“寡人欲亲魏，魏多变之国也，寡人不能亲。请问亲魏奈何？”范雎曰：“卑辞重币以事之？不可！削地面赂之？不可！举兵而伐之！”于是举兵而攻邢兵，邢丘拔，而魏请附。曰，秦汉地形，相错如绣，秦之有韩，若木之有蠹，人之病心腹。天下有变，为秦害者，莫大于韩。王不如收韩。”王曰：“寡人欲收韩，不听，为之奈何？”范雎曰：“举兵而攻荥阳，则成皋之路不通；北斩太行之道，则上党之兵不下，一举而攻荥阳，则其国断而为三。韩魏见必亡，焉得不听？韩听而霸事可成也。”王曰：“善。”

范雎曰：“臣居山东，闻齐之内有田单，不闻其王。闻秦之有太后、穰侯、泾阳、华阳，不闻其有王。夫擅国之谓王，能专利益之谓王，制生杀之威之谓王。今太后擅行不行，穰侯出使不报，泾阳、华阳击断不讳，四贵备而国不危者，未之有也。为此四者，下乃所谓无王已。然则，权焉不得倾，而令焉得从王出乎？臣闻善为国者，内固其威而外重其权。穰侯使者操王之重，决裂诸侯，剖符于天下，征敌伐国，莫敢不听。战胜攻取，则利归于陶，国弊，御于诸侯；战败，则怨结于百姓而祸社稷。诗曰：‘木实繁者披其枝，披其枝者伤其心。大其都者危其国，尊其臣者卑其主。’淖齿管齐之权<sup>⑫</sup>，缩闵王之筋<sup>⑬</sup>，县之庙梁，宿昔而死。李兑用赵，减食主父<sup>⑭</sup>，百日而饿死。今秦太后穰侯用事，高陵、泾阳佐之，卒无秦王，此亦淖齿、李兑之类已。臣今见王独立于庙朝矣，且臣将恐后世之有秦国者，非王之子孙也。”秦王惧，于是乃废太后，逐穰侯，出高陵，走泾阳于关外。昭王谓范雎曰：“昔者齐公得管仲，时以为仲父。今吾得子，亦以为父！”

## 天下之士合从

天下之士合从，相聚于赵，而欲攻秦。秦相应侯曰：“王勿忧也，请令废之。秦与天下之士非有怨也，相聚而攻秦者，以己欲富

贵耳。王见大王之狗，卧者卧，起者起，行者行，止者止，毋相与斗者，投之一骨，轻起相牙者，何则？有争意也。”于是唐雎载音乐予之五十金，居武安高会相分饮<sup>⑤</sup>，谓邯郸人谁来取者？于是其谋者固未可得予也，其可得与者，与之昆弟矣。“公与秦计功者，不问金之所之，金尽者功多矣。今令人复载五十金随公。”唐雎行，行至武安，散不能三千金，天下之士，大相与斗矣。

### 秦王欲见顿弱

顿弱曰：“山东战国有六，威不掩于山东，而掩于母，臣窃为大王不取也。”秦王曰：“山东之建国可兼与？”顿子曰：“韩，天下之咽喉；魏，天下之胸腹，王资臣万金而游，听之韩魏，入其社稷之臣于秦，即韩魏从。韩魏从，而天下可图也。”秦王曰：“寡人之国贫，恐不能给也。”顿子曰：“天下未尝无事也，非从即横也。横成，则秦帝；从成，即楚王。秦帝，即以天下恭养；楚王，即王虽有万金，弗得私也。”秦王曰：“善！”乃资万金，使东游韩魏，入其将相，北游于燕赵，而杀李牧。齐王入朝，四国必从，顿子之说也。

### 苏秦为赵合从说齐宣王

苏秦为赵合从说齐宣王曰：“齐南有太山，东有琅玕，西有清河，北有渤海，此所谓四塞之国也。齐地方二千里，带甲数十万，粟如丘山。齐车之良，五家之兵，疾如锥矢，战如雷电，解如风雨<sup>⑥</sup>。即有军役，未尝倍太山绝清河涉渤海也。临淄之中七万户，臣窃度之，下户三男子，三七二十一万，不待发于远县，而临淄之卒固以二十一万矣。临淄甚富而实，其民无不吹竽鼓瑟，击筑弹琴，斗鸡走犬，六博蹴鞠者<sup>⑦</sup>；临淄之途，车毂击，人肩摩，连衽成帷，举袂成幕，挥汗成雨，家敦而富，志高而扬。夫以大王之贤，

与齐之强，天下不能当。今乃西面事秦，窃为大王羞之。

“且夫韩魏之所以畏秦者，以与秦接界也。兵出而相当，不至十日战胜存亡之机决矣。韩魏战而胜秦，则兵半折，四境不守；战而不胜，以亡随其后。是故韩魏之所以重与秦战，而轻为之臣也。今秦攻齐则不然，倍韩魏之地，至闾阳晋之道，径亢父之险，车不得方轨。马不得并行，百人守险，千人不能过也。秦虽欲深入，则狼顾，恐韩魏之议其后也。是故恫疑虚喝，高跃而不敢进，则秦不能害齐，亦已明矣。夫不深料秦之不奈我何也，而欲西面事秦，是群臣之计过也。今无臣事秦之名，而有强国之实，臣固愿大王之少留计。”齐王曰：“寡人不敏，今主君以赵王之教诏之，敬奉社稷以从。”

### 张仪为秦连横

张仪为秦连横，齐王曰：“天下强国，无过齐者，大臣父兄殷众富乐，无过齐者。然而为大王计者，皆为一时说而不顾万事之利。从人说大王者，必谓齐西有强赵，南有韩魏，负海之国也。地广人众，兵强士勇，虽有百秦，将无奈我何！大王览其说而不察其至实。夫从人朋党比周，莫不以从为可。臣闻之，齐与鲁三战而鲁三胜，国已危，亡随其后，虽有胜名而有亡之实，是何故也？齐大而鲁小。今赵之与秦也，犹齐之于鲁也。秦赵战于河漳之上，再战而再胜秦；战于番吾之下，再战而再胜秦。四战后，赵亡卒数十万，邯郸仅存，虽有胜秦之名而国破矣！是何故也？秦强而赵弱也。今秦楚嫁子取妇，为昆弟之国；韩献宜阳，魏效河外，赵入朝澠池，割河间以事秦。大王不事秦，秦驱韩魏攻齐之南地，悉赵涉河关，指博关，临淄、郡墨非王之有也。国一日被攻虽欲事秦，不可得也。是故愿大王熟记之。”齐王曰：“齐僻陋隐居，托于东海之上，未尝闻社稷之长利。今大客幸而教之，请奉社稷以事



秦。”献鱼盐之地三百里于秦也。

## 秦攻赵长平

秦攻赵长平，齐燕救之。秦计曰：“齐燕救赵，亲则将退兵，不亲则且遂攻之。”赵无以食，请粟于齐，而齐不听。苏秦谓齐王曰：“不如听之，以却秦兵；不听，则秦兵不却。是秦之计中，而齐燕之计过矣。且赵之于燕齐隐蔽也。齿之有唇也，唇亡则齿寒。今日亡赵，则明日及齐燕矣。且夫救赵之务，宜若奉漏瓮，沃焦釜。夫救赵高义也；却秦兵，显名也。义救亡赵，威却强秦，兵不务为此而务爱粟，则为国计者过矣。”

## 国子曰

国子曰<sup>④</sup>：秦破马服君之师<sup>⑤</sup>，围邯郸，齐魏亦佐秦伐邯郸，齐取淄鼠，魏取伊是。公子无忌为天下循便计，杀晋鄙，率魏兵以救邯郸之围，使秦弗有而失天下。是齐入于魏而救邯郸之功也。安邑者，魏之柱国也；晋阳者，赵之柱国也；鄢、郢者，楚之柱国也。故三国欲与秦壤界，秦伐魏取安邑，伐赵取晋阳，伐楚取鄢、郢矣。福三国之军<sup>⑥</sup>，兼二周之地，举韩氏取其地，且天下之半。今又劫赵魏，疏中国，封卫之东野，兼魏之河南，绝赵之东阳，则赵魏亦危矣。赵魏危，则非齐之利也。韩、魏、赵、楚之志，恐秦兼天下而臣其军，故专兵一志，以逆秦。三国之于秦壤界而患急，齐不与秦壤界而患缓。是以天下之势，不得不事齐也。故秦得齐则权重于中国；赵魏楚得齐，则足以敌秦。故秦、赵、魏得齐者重，失齐者轻。齐有此势，不能以重于天下者何也？其用者过也。”

## 孟尝君为从

孟尝君为从。公孙弘谓孟尝君曰：“君不

以使人先观秦王，意者秦王帝王之主也<sup>⑦</sup>，君恐不得为臣，奚暇从以难之？意者秦王不肖之主也，君从以难之未晚。”孟尝君曰：“善，愿因请公往矣。”公孙弘敬诺，以车十乘之秦。昭王闻之，而欲丑之以辞。公孙弘见，昭王曰：“薛公之地，大小几何？”公孙弘对曰：“百里。”昭王笑而曰：“寡人地数千里，犹未敢以有难也。今孟尝之地方百里，而因欲难寡人，犹可乎？”公孙弘对曰：“孟尝君好人，大王不好人。”昭王曰：“孟尝君好人也奚如？”公孙弘曰：“义不臣乎天子，不友乎诸侯。得志不惭为人主，不得志不肯为人臣，如此者三人，而治可为管、商之师。说义听行，能致其如此者五人。万乘之严主也，辱其使者，退而自刎，必以其血污其衣，如臣者十人。”昭王笑而谢之曰：“客胡为如此？寡人直与客论耳！”<sup>⑧</sup>寡人善孟尝君欲客之，必输寡人之志也！”公孙弘曰：“敬诺。”公孙弘可谓不侵矣。昭王大国也，孟尝君千乘也。立乘之义，而不可陵，可谓足使矣。

## 苏秦说齐闵王

苏秦说齐闵王曰：“臣闻用兵而喜先天下者忧，约结而喜主怨者孤。夫后起者藉也，而远怨者时也。是以圣人从事，必藉于权而务兴于时。夫权藉者，万物之率也；而时势者，百事之长也。故无权藉倍时势而能事成者寡矣。”

“今虽干将、莫邪<sup>⑨</sup>，非得人力，则不能割剡矣。坚箭利金，不得弦机之利，则不能远杀矣。矢非不铍，而剑非不利也，何则？权藉不在焉。何以知其然也？昔者赵氏袭卫，车舍不休，传卫国、城割平。卫八门士而二门堕矣，此亡国之形也。卫君跣行告愬于魏。魏王身被甲底剑，挑赵索战。邯郸之中惊，河山之间乱。卫得是藉也，亦收余甲而北面，残刚平，堕中牟之郭。卫非强于赵也，譬之卫矢而魏弦机也，藉力魏而有河东之地。赵氏惧，楚人救赵而伐魏，战于州西，

出梁门，军舍林中，马饮于大河。赵得是藉也，亦袭魏之河北，烧棘沟坠黄城。故刚平之残也，中牟之堕也，黄城之坠也，棘沟之烧也，此皆非赵魏之欲也。然二国劝行之者，何也？卫明于时权之藉也。今世之为国者不然矣，兵弱而好敌强，国罢而好众怨，事败而好鞠之，兵弱而憎人下也，地狭而好敌大，事败而好长诈。行此六者而求伯，则远矣。

“臣闻善为国者，顺民之意，而料兵之能，然后从于天下。故约不為人主怨，伐不為人挫强。如此则兵不费，权不轻、地可广，欲可成也。昔者齐之与韩魏伐秦楚也，战非甚疾也，分地又非多韩魏也，然而天下独归咎于齐者，何也？以其为韩魏主怨也。且天下遍用兵矣，齐燕战而赵氏兼中山，秦楚战韩魏不休，而宋越专用其兵。此十国者，皆以相敌为意，而独举心于齐者，何也？约而好主怨，伐而好挫强也。

“且夫强大之祸，常以王人为意也；夫弱小之祸，常以谋人为利也。是以大国危，小国灭也。大国之计，莫若后起而重伐不义。夫后起之籍，与多而兵劲，则事以众强适罢寡也，兵必立也。事不塞天下之心，则利必附矣。大国行此，则名号不攘而至，伯王不为而立矣。小国之情，莫如仅静而寡信诸侯。仅静则四邻不反；寡信诸侯则天下不卖。外不卖，内不反，则槟祸朽腐而不用，币帛矫蠹而不服矣。小国道此，则不祠而福矣，不货而见足矣。故曰：‘祖仁者王，立义者伯，用兵穷者亡’。何以知其然也？昔吴王夫差以强大为天下先，强袭郢而栖越，身从诸侯之君，而卒身死国亡，为天下戮者，何也？此夫差平居而谋王，强大而喜先天下之祸也。昔者莱莒好谋，陈蔡好诈，莒恃越而灭，蔡恃晋而亡，此皆内长诈外信诸侯之殃也。由此观之，则强弱大小之祸，可见于前事矣。

“臣之所闻，攻战之道非师者，虽有百万之军；比之堂上；虽有阖闾、吴起之将，禽之户内；千丈之城，拔之尊俎之间；百尺

之冲，折之衽席之上。故钟、鼓、竽、瑟之音不绝，地可广而欲可成；和乐倡优，侏儒之笑不之，诸侯可同日而致也。故名配天地不为尊，利制海内不为厚。故夫善为王业者，在劳天下而自佚，乱天下而自安，诸侯成谋则其国无宿忧也。何以知其然？佚治在我，劳乱在天下，则王之道也。锐兵来则拒之，祸至则趋之，使诸侯无成谋，则其国无宿忧矣。何以知其然矣？昔者魏王拥土千里，带甲三十六万，其强而拔邯郸，西围定阳，又从十二诸侯朝天子以西谋秦。秦王恐之，寝不安席，食不甘味，令于境内，尽堞中为战具，竟为守备，为死士置将，以待魏氏。卫鞅谋于秦王曰：‘夫魏氏，其功大，而令行于天下，有十二诸侯而朝天子，其与必众。故以一秦而敌大魏，恐不如，王何不使臣见魏王，则臣请必北魏矣。’秦王许诺。卫鞅见魏王曰：‘大王之功大矣，令行于天下矣。今大王之所从十二诸侯，非宋卫也，则邹、鲁、陈、蔡，此固大王之所以鞭箠使也不足以王天下<sup>④</sup>，大王不若北取燕，东伐齐，则赵必从矣；西取秦，南伐楚，则韩必从矣。大王有伐齐楚心，而从天下之志，则王业见矣。大王不若先行王服，然后图齐楚。’魏王说于卫鞅之言，故身广公宫，制丹衣柱，建九旂<sup>⑤</sup>，从七星之旗<sup>⑥</sup>。此天子之位也，而魏王处之。于是齐楚怒，诸侯奔齐，齐人伐魏，杀其太子，复其十万之军。魏王大恐，跣行按兵于国，而东次于齐，然后天下乃舍之。当是时，秦王垂拱受河西之外，而不以德魏王。故曰：卫鞅之始与秦王计也，谋约不下席，言于尊俎之间，谋成于堂上，而魏将以禽于齐矣；冲櫓未施，而西河之外入于秦矣。此臣之所谓北之堂上，禽将户内，拔城于尊俎之间，折冲席上者也。”

## 五国约以伐齐

五国约以伐齐。昭阳谓楚王曰：<sup>⑦</sup>“五国以破齐，秦必南图楚。”王曰：“然则奈何？”

对曰：“韩氏辅国也，好利而恶难。好利，可营也；恶难，可惧也。我赂之以利，其心必营。我悉兵以临之，其心必惧我。彼惧我兵而营我利，五国之事必可败也。约绝之后，虽勿与地可。”楚王曰：“善。”乃命大公事之韩，见公仲曰：“夫牛阑之事，马陵之难，亲王之所见也。王苟以五国之兵，请效列城五，请悉楚国之众也，以墙于齐。”齐之反赵魏之后，而楚果弗与地，则五国之事困也。

### 韩公叔有齐魏

韩公叔有齐魏<sup>⑤</sup>，而太子有楚秦，以争国。郑申为楚使于韩，矫以新城、阳人予太子。楚王怒，将罪之。对曰：“臣矫予之，以为国也。臣为太子得新城、阳人，以与公叔争国而得之。齐魏必伐韩。韩氏急，必悬命于楚，又何新城、阳人之敢求？太子不胜，然而不死，今将倒冠而至，又安敢言地？”楚王曰：“善。”乃不罪也。

### 苏秦为赵合从说楚威王

苏秦为赵合从，说楚威王曰：“楚，天下之强国也。大王，天下之贤王也。楚地，西有黔中、巫郡，东有夏州、海阳，南有洞庭、苍梧，北有汾、涇之塞、郃阳。地方五千里，带甲百万，车千乘，骑万匹，粟支十年，此霸王之资也。夫以楚之强，与大王之贤，天下莫能当也。今乃欲西面而事秦，则诸侯莫不西面而朝于章台之下矣。秦之所害于天下莫如楚，楚强则秦弱，楚弱则秦强，此其势不两立。故为王至计，莫如从亲以孤秦。太王不从亲，秦必起两军：一军出武关；一军下黔中。若此则鄢郢动矣。臣闻治之其未乱，为之其未有也；患至而后忧之，则无及已。故愿大王早计之。”

“大王诚能听臣，臣请令山东之国，奉四时之献，以承大王之明制，委社稷宗庙，练士厉兵，在大王之所用之。大王诚能听臣

之愚计，则韩、魏、齐、燕、赵、卫之妙音美人必充后宫矣。赵代良马橐他<sup>⑥</sup>，必实于外厩。故从合则楚王，横成则秦帝。今释霸王之业，而有事人之名，臣窃为大王不取也。夫秦虎狼之国也，有吞天下之心。秦天下之仇讎也，横人皆欲割诸侯之地以事秦，此所谓养仇而奉讎者也。夫为人臣而割其主之地，以外交强虎狼之秦，以侵天下，卒有秦患，不顾其祸。夫外挟强秦之威以内劫其主，以求割地，大道不忠，无过此者。故从亲诸侯割地以事楚；横合则楚割地以事秦。此两策者，相去远矣，有亿兆之数。二者大王何居焉？故弊邑赵王使臣效愚计，奉明约，在大王命之。”

楚王曰：“寡人之国，西与秦接境，秦有举巴蜀并汉中之心。秦虎狼之国不可亲也。而韩魏迫于秦患，不可以深谋，恐反人以入于秦，故谋未发而国已危矣。寡人自料以楚当秦，未见胜焉。内与群臣谋不足恃也。寡人卧不安食不甘味，心摇摇如悬旌，而无所终薄。今君欲一天下，安诸侯，存危国，寡人谨奉社稷以从。”

### 张仪为秦破从连横说楚王

张仪为秦破从连横，说楚王曰：“秦地半天下，兵敌四国，被山带河，四塞以为固。虎贲之士百余万，车千乘，骑万疋，粟如丘山。法令既明，士卒安难乐死。主严以明，将知以武。虽无出兵甲，席卷常山之险，折天下之脊，天下后服者先亡。且夫为从者，无以异于驱群羊而攻猛虎也。夫虎之与羊，不格明矣。今大王不与猛虎而与群羊，窃以为大王之计过矣。”

“凡天下强国，非秦而楚，非楚而秦。两国相侔交争，其势不两立。而大王不与秦，秦下甲兵据宜阳，韩之上地不通；下河东，取成皋，韩必入臣于秦。韩入臣，魏则从风而动。秦攻楚之西，韩魏攻击北，社稷岂得无危哉？且夫约从者，聚群弱而攻至强也。

夫以弱攻强，不料敌而轻战，国贫而骤举兵，此危亡之术也。臣闻之：‘兵不如者，勿与挑战；粟不如者，勿与持久。’夫从人者饰辩虚辞，高主之节行，言其利而不言其害，卒有楚祸，无及为已，是故愿大王之熟计之也。秦西有巴蜀，方船积粟，起于汶山，循江而下，至郢三千余里。舫船载卒，一舫载五十人与三月之粮，下水而浮，一日行三百余里；里数虽多，不费马汗之劳，不至十日而拒扞关；扞关惊，则从竟陵已东，尽城守矣，黔中巫郡，非王之有已。秦举甲出之武关，南面而攻，则北地绝。秦兵之攻楚也，危难在三月之内。而楚恃诸侯之救，在半岁之外，此其势不相及也。夫恃弱国之救，而忘强秦之祸，此臣之所以为大之患也。且大王尝与吴人五战三胜而亡之，阵卒尽矣，有偏守新城而居民苦矣。臣闻之：‘攻大者易危，而民弊者怨于上。’夫守易危之功，而逆强秦之心，臣窃为大王危之。

“且夫秦之所以不出甲于函谷关十五年以攻诸侯者，阴谋有吞天下之心也。楚尝与秦构难，战于汉中。楚人不胜，通侯执珪死者七十余人，遂亡汉中。楚王大怒，兴师袭秦，战于兰田，又却。此所谓两虎相搏者也。夫秦楚相弊，而韩魏以全制其后，计无过于此者矣，是故愿大王熟计也。秦下兵攻卫阳晋，必开扞天下之匈，大王悉起兵以攻宋，不至数月而宋可举。举宋而东指，则泗上十二诸侯，尽王之有已。凡天下所信约从亲坚者苏秦，封为武安君而相燕，即阴与燕王谋破齐，共分其地。乃佯有罪出走入齐，齐王因受而相之。居两年而觉，齐王大怒，车裂苏秦于市。夫以一诈伪反复之苏秦，而欲经营天下，混一诸侯，其不可成亦明矣。

“今秦之于楚也，接境壤界，固形亲之国也。大王诚能听臣，臣请秦太子入质于楚，楚太子入质于秦，请以秦女为大王箕帚之妾，效万家之都，以为汤沐之邑。长为昆弟之国，终身无相攻击。臣以为计无便于此者。故敝邑秦王使使臣献书大王之从车下风，须以次

事。”

楚王曰：“楚国僻陋，托东海之上，寡人年幼，不习国家之长计。今上客幸教以明制，寡人闻之，敬以国从。”乃遣使者百乘献鸡骇之犀夜光之璧于秦王。

## 张仪相秦

张仪相秦，谓昭睢曰：“楚无鄢、郢、汉中，有所更得乎？”曰：“无有。”曰：“无昭睢、陈轸，有所更得乎？”曰：“无所更得。”张仪曰：“为仪谓楚王逐昭睢、陈轸，请复鄢、郢、汉中。”昭睢归报楚王，楚王说之。

有人谓昭睢曰：‘甚矣，楚王不察于争名者也。韩求相工陈轸而周不听<sup>①</sup>；魏求相蔡母恢<sup>②</sup>。而周不听，何以也？周是列县畜我也<sup>③</sup>。今楚，万乘之强国也；大王，天下之贤主也。今仪曰逐君与陈轸而王听之，是楚自行不如周，而仪重于韩魏之王也。欲为攻于魏，必南伐楚。故攻有道，外绝其交，内逐其谋臣矣。今君能用楚之众，故亦逐之，则楚众不用矣。此所谓内功之者也，而王不知察。今君何不见臣于王，请为王使齐交不绝。齐交不绝，仪闻之，其效鄢、郢、汉中必缓矣。是昭睢之言不信也，王必薄之。’

### 注释：

- ①九鼎：传说夏禹铸九鼎，后世被视为权利的象征和传国的宝器。 ②大国：强大的国家。 ③何途之从：从何途。 ④少海：一作沙海，今河北开封北。 ⑤醢：醋；瓶，小口坛子。 ⑥滴：水急流。 ⑦赵累：周人。 ⑧公仲：韩相国，名侈。 ⑨景翠：楚将。 ⑩甘茂：下蔡人。 ⑪公中：一本作公仲。 ⑫史廛：即史庆。 ⑬金投：赵臣。 ⑭子：应作予，通与。 ⑮昌他：他，音(tuó)，一作宫他，西周臣。 ⑯薛公：孟尝君，名田文。 ⑰韩庆：西周臣。 ⑱犀武：魏将，死于伊阙之战。 ⑲苏厉：苏秦之弟。 ⑳宫他：周臣。 ㉑苏秦：据考苏秦说六国合纵之说全不可信。 ㉒补遂：一作辅遂，古国名。 ㉓驩兜：尧时司徒。 ㉔崇：即崇侯虎。 ㉕羸：包扎；滕：

缠腿布；屨：麻鞋。②⑥掘门：掘通窟，凿墙而居；棖枢：曲木做的门。②⑦张仪：魏国人。②⑧褻：脱去上衣。②⑨白马：白马津，在今河南滑县。③⑩李下：地名，城在今河南温县。③⑪司马错：秦人，官为司马，后来以官为氏。③⑫轘轳：山名，有十二道山路，连环往复。在今河南偃师。③⑬猋氏：古地名。嵩山口。③⑭大：超过。③⑮不谷：君王谦抑自称。③⑯阴合：暗地结盟。③⑰范雎至：范雎曾做魏大夫须贾的家臣，后逃至秦国。③⑱乌获：周武时的力士。③⑲奔：孟奔；育：夏育。为战国时的勇士。④⑩濶：烦劳。④⑪韩卢：韩国名犬。④⑫管：专擅。④⑬闵王：齐湣王。湣齿专权，将其悬挂在庙梁上，数说他的罪行，并抽他的筋。④⑭主父：赵灵王。④⑮武安：在今邯郸西部。④⑯此句谓行动神速。④⑰踳踳：踳，通蹙，踳通鞠。④⑱国子：齐大夫。④⑲马服君：赵括。⑤⑩福：应作复，消灭。⑤⑪意者：或者。⑤⑫直：只。⑤⑬干将、莫邪：剑名。⑤⑭卖：叛。⑤⑮九旂：缀在旗边上九条飘带。⑤⑯七星之旗：行军或战争中士兵所使用的一种旗。⑤⑰楚王：顷襄王。⑤⑱韩公叔：疑指韩国公叔伯婴。⑤⑲橐他：骆驼。⑥⑩工陈籍：即《东周策》中之工师籍。⑥⑪蔡母恢：见《西周策》。⑥⑫畜我：待我如畜。

## 《善 谋》

### 题解：

刘向撰。向字子政，本名更生，西汉沛（今江苏沛县）人。皇族楚元王（刘交）四世孙。官至散骑宗正，给事中。用阴阳灾异推论时政得失，屡次上书劾奏外戚专权。曾领校秘书，对古籍的整理与保存，起了重要作用。著有《新序》等书。《新序》现十卷，一百六十六条，分杂事、刺奢、节士、义勇、善谋五类。采录古史百家之书，叙载舜、禹迄汉初历史人物事迹，与《左传》、《国语》、《战国策》、《史记》颇有出入，可补诸史之不足。其中《善谋》类，对外交与说辩谋略多有阐述，管仲反对江国、黄国入盟之谋，荀息破灭虞、虢之策，烛之武退秦师之智，司马侯“晋

不顿一战，而楚人自亡”之计，伍子胥击败楚国而成霸道之举，虞卿、酈食其等人杰出的外交谋略和雄辩的论说才能，是书记载甚详，是为谋略学之佳作。

齐桓公时，江国、黄国，小国也，在江淮间。近楚。楚，大国也，数侵伐，欲灭取之；江人黄人患楚。齐桓公方存亡继绝，救危扶倾；尊周室，攘夷狄，为阳穀之会<sup>①</sup>，贯泽之盟<sup>②</sup>，与诸侯方伐楚。江人、黄人慕桓公之义，来会盟于贯泽。管仲曰：“江、黄远齐而近楚，楚为利之国也，若伐而不能救，无以宗诸侯，不可受也。”桓公不听，遂与之盟。管仲死，楚人伐江灭黄，桓公不能救，君子闵之。是后桓公信坏德衰，诸侯不附，遂陵迟不能复兴。夫仁智之谋，即事有渐，力所不能救，未可以受其质，桓公之过也，管仲可谓善谋矣。诗云：“曾是莫听，大命以倾。”此之谓也。

虞、虢，皆小国也。虞有夏阳之阻塞，虞、虢共守之，晋不能禽也。故晋献公欲伐虞、虢，荀息曰：“君胡不以屈产之乘<sup>③</sup>，与垂棘之璧<sup>④</sup>，假道于虞？”公曰：“此晋国之宝也，彼受吾璧，不借吾道，则如之何？”荀息曰：“此小国之所以事大国也，彼不借吾道，必不敢受吾币。受吾币而借吾道，则是我取之中府，置之外府；取之中廄，置之外廄。”公曰：“宫之奇存焉，必不使受也。”荀息曰：“宫之奇知固知矣，虽然，其为人也，通心而懦，又少长于君，通心则言之略，懦则不能强谏，少长于君，则君轻之，且夫玩好在耳目之前，而患在一国之后。中知以上，乃能虑之，臣料虞君中知之下也。”公遂借道而伐虢。宫之奇谏曰：“晋之使者，其币重，其辞微，必不便于虞。语曰：‘唇亡则齿寒矣。’故虞、虢相救，非相为赐也。今日亡虢，而明日亡虞矣。”公不听，遂受其币而借之道，旋归。四年，反取虞。荀息牵马抱璧而前曰：“臣之谋如何？”献公曰：“璧则犹是，而吾马

之齿加长矣。”晋献公用荀息之谋，而禽虞，虞不用宫之奇而亡，故荀息非霸王之佐，战国并兼之臣也。若宫之奇则可谓忠臣之谋也。

晋文公、秦穆公共围郑，以其无礼而附于楚，郑大夫佚之狐言于郑君曰：“若使烛之武见秦君，围必解。”郑君从之，召烛之武，使之，辞曰：“臣之壮也，犹不如人，今老矣，无能为也。”郑君曰：“吾不能蚤用子<sup>⑤</sup>，今急而求子，是寡人之过也。然郑亡，子亦不利焉。”烛之武许诺。夜出见秦君曰：“秦晋围郑，郑知亡矣，若亡郑而有益于君，敢以烦执事。郑在晋之东，秦在晋之西，越晋而取郑，君知其难也，焉用亡郑以倍晋。晋，秦之邻也，邻之强，君之忧也。若舍郑以为东道主，行李之往来，共资粮，亦无所害。且君立晋君，晋君许君焦瑕<sup>⑥</sup>，朝得人，夕设版而画界焉，君之所知也。夫晋何厌之有，既东取郑，又欲广其西境，不阙秦将焉取之？阙秦而利晋，愿君图之。”秦君说，引兵而还。晋咎犯清击之，文公曰：“不可，微夫人之力不能弊郑，因人之力以弊，不仁；失其所与，不知；以乱易整，不武。吾其还矣。”亦去郑，郑国遂解。烛之武可谓善谋，一言而存郑安秦。郑君不蚤用善谋，所以削国也，困而觉焉，所以得存。

楚灵王即位，欲为霸，五会诸侯，使椒举如晋求诸侯。椒举致命曰：“寡君使举曰：君有惠，赐盟于宋。曰：‘晋、楚之从，交相见也。’以岁之不易，寡人愿结欢于三君。使举请问，君苟无四方之虞，则愿假宠以请于诸侯。”晋君欲勿许。司马侯曰：“不可，楚王方侈，天其或者欲盈其心，以厚其毒而降之罚，未可知也。其使能终，亦未可知也。唯天所相，不可与争，况诸侯乎？若适淫虐，楚将弃之，吾谁与争？”公曰：“晋有三不殆，其何敌之有？国险而多马，齐、楚多难，有是三者，何向而不济？”对曰：“恃马与险，而

虞郑之难，是三殆也。四岳三塗，阳城大室，荆山终南，九州之险也，是不一姓，冀之北，马之所生也，无兴国焉。恃险与马，不足以为固也，从古以然，是先王务德音以享神人，不闻其务险与马也，邻国之难不可虞也。或多难以固其国，或无难以丧其国，失其守宇，若何虞难？齐有仲孙之难而获桓公，至今赖之；晋有里克之难而获文公，是以为盟主。卫、邢无难，狄亦丧之，故人之难不虞也。特此三者不修政德，亡于不暇，有何能济，君其许之。纣作淫虐，文王惠和，殷是以贯，周是以兴，夫岂争诸侯哉？”乃许楚灵王，遂为申之会，与诸侯伐吴，起章华之台，为乾谿之役，百姓罢劳怨怒于下，群臣倍畔于上，公子弃疾作乱，灵王亡逃，卒死于野。故曰：“晋不顿一戟，而楚人自亡。”司马侯之谋也。

楚平王杀伍子胥之父，子胥出亡，挟弓而干闾闾，闾闾曰：“大之甚，勇之甚。”为是而欲兴师伐楚。子胥谏曰：“不可，臣闻之，君子不为匹夫兴师，且事君犹事父也，亏君之义，复父之仇，臣不为也。”于是止。蔡昭公朝于楚，有美裘，楚令尹囊瓦求之，昭公不予，于是拘昭公于郢。数年而后归之，昭公济濮水，沈璧曰：“诸侯有伐楚者，寡人请为前列。”楚人闻之怒，于是兴兵伐蔡，蔡求救于吴，子胥谏曰：“蔡非有罪也，楚人无道也，君若有忧中国之心，则若此时可矣。”于是兴兵伐楚，遂败楚人于柏举而成霸道，子胥之谋也。故春秋美而褒之。

楚使黄歇于秦，秦昭王使白起攻韩、魏，韩、魏服事秦，秦王方令白起与韩、魏共伐楚。黄歇至，闻其计，是时秦已使白起攻楚数悬，楚顷襄王东从。黄歇上书于秦昭王，欲使秦远交楚而攻韩、魏以解楚。其书曰：“天下莫强于秦楚，今闻王欲伐楚，此犹两虎相斗，两虎相斗，而弩犬受其弊也，不如善楚。臣请言其说：臣闻之，物至则反，冬夏是也；致高则危，累基是也。今大国之地

偏天下，有其二垂，此从生民以来，万乘之地，未尝有也。今王使盛桥守事于韩，盛桥以其地入秦，是王不用申不信威，而得百里之地也，王可谓能矣。王又举申而攻魏，杜大梁之门，举河内，攻燕、酸枣、虚、桃、人邢，魏之兵云翔而不敢救，王之功多矣。王休甲息众，二年而复之，有取满、衍、首、垣，以临仁、平丘、黄、济阳、甄城，而魏氏服，王又割濮、历之北，注之齐、秦之要，绝韩、赵之脊，天下五合六聚而不敢相救，王之威亦单矣。王若能恃功守威，挟战功之心，而肥仁义之地，使无后患，三王不足四，五伯不足六也。王若负人徒之众，兵革之强，乘毁赵之威，而欲以力臣天下之王，臣恐其有后患也。诗曰：“靡不有动，鲜克有终”。易曰：“狐涉水，濡其尾”。此言始之易终之难也。何以知其然也。智伯见伐赵之利，不知榆次之祸；吴见伐齐之便，而不知干隧之败。此二国者，非无大功也，没利于前，而易患于后也。吴之亲越也，从而伐齐，既胜齐人于艾陵，还为越人所禽于三渚之浦。智伯之信韩、魏也，从而伐赵晋阳之城，胜有日矣，韩、魏畔之，杀智伯瑤于凿台之上。今王妬楚之不毁也，而忘毁楚之强韩、魏也，臣为王虑而不取也。诗曰：“大武远宅而不涉。”从此观之，楚国，援也；邻国，敌也。诗曰：“跃跃兔，遇犬获之，他人有心，予忖度之。”今王中道而信韩、魏之善王也，此吴之亲越也。臣闻之，敌不可假，时不可失。臣恐韩、魏卑辞除患，而实欺大国也。何则，王无重世之德于韩、魏，而有累世之怨焉。夫韩、魏父子兄弟，接踵而死于秦者，将十世矣，本国残，社稷坏，宗庙隳，刳腹绝肠，折颡摺颈，身首分离，暴骨草泽，头胪僵仆，相望于境，系臣束子为群虏者，相及于路，鬼神潢洋无所食，民不聊生，族类离散，流亡为仆妾者，遍海内矣，故韩、魏之不亡，秦社稷之忧也。今王赉之与攻楚，不亦过乎！且王攻楚，将恶出兵？王将藉路于仇雠之韩、魏乎？出兵之日，而王忧其不反也，

是王以兵资于仇雠之韩、魏也。王若不藉路于仇雠之韩、魏，必攻随水右壤，随水右壤，此皆广川大水，山林谿谷，不食之地也。王虽有之，不为得地，是王有毁楚之名，而无得地之实也。且王攻楚之日，四国必悉起兵以应王，秦之兵构而不离，韩、魏氏将出兵而攻留、方、与铎、胡陵、碭、萧、相，故宋必尽。齐人南面，泗水必举，此皆平原四达膏腴之地也，而使独攻。王破楚以肥韩、魏于中国而劲齐。韩、魏之强，足以校于秦，齐南以泗水为境，东负海，北倚河而无后患。天下之国，莫强于齐、魏，齐、魏得地保利而详事下吏，一年之后，为帝未能，其于禁王之为帝有余矣。夫以王壤土之博，人徒之众，兵革之强，一举事而树怨于楚，出令韩、魏归帝重于齐，是王失计也。臣为主虑，莫若善楚，秦、楚合为一而以临韩，韩必拱手，王施之以东山之险，带以曲河之利，韩必为关内之侯，若是而王以十万伐郑，梁氏心寒，许、郢陵、婴城，而上蔡、召陵不往来也，如此魏亦关内侯矣。王一善楚而关内两万乘之主，注入地于齐，齐右壤可拱手而取也。王之地一极两海，要均天下，是燕、赵无齐、楚；齐、楚无燕、赵，然后危动燕、赵，直摇齐、楚，此四国者，不待痛而服也。”昭王曰：“善。”于是乃止白起，谢韩、魏，发使赂楚，约为与国。黄歇受约归楚，解楚之祸，全强秦之兵，黄歇之谋也。

秦、赵战于长平，赵不胜，亡一都尉。赵王召楼昌与虞卿曰：“军战不胜，尉复死，寡人将束甲而赴之。”楼昌曰：“无益也，不如发重使而为构。”虞卿曰：“昌言构者，以为不构，军必破也，而制构者在秦，且王之论秦也，欲破王之军乎？不邪？”王曰：“秦不遗余力矣，必且破赵军。”虞卿曰：“王听臣发使，出重宝以附楚、魏，楚、魏欲王之宝，必内吾使，吾使人楚、魏，秦必疑天下，恐天下合从必一心，如此，则构乃可为也。”赵王不听，与平原君为构，发郑朱入秦，秦内之。



赵王召虞卿曰：“寡人使平原君为构秦，秦已内郑朱矣，虞卿以为如何？”对曰：“王不得构，军必破矣！天下之贺战胜者皆在秦。郑朱，贵人也。而入秦，秦王与应侯必显重以示天下，楚、魏以赵为构，必不救王。秦知天下不救王，则构不可得也。”应侯果显郑朱以示天下，贺战胜者终不肯构，长平大败，遂围邯郸，为天下笑，不从虞卿之谋也。

秦既解围邯郸，而赵王入朝，使赵郝约事于秦，割六县而构。虞卿谓赵王曰：“秦之攻王也，倦而归乎？亡其力尚能进之，爱王而不攻乎？”王曰：“秦之攻我也，不遗余力矣，必以倦归也。”虞卿曰：“秦以力攻其所不能取，倦而归，王又攻其力之所不能取以送之，是助秦自攻也。来年秦复攻王，王无救矣。”王以虞卿之言告赵郝，赵郝曰：“虞卿能量秦力之所至乎？诚知秦力之所不能进，此弹丸之地不与，令秦年来复攻于王，王得无割其内而构乎？”王曰：“清听子割矣，子能必来年秦之不复攻乎？”赵郝曰：“此非臣之所敢任也。他日三晋之交于秦相若也，今秦善韩、魏而攻王，王之所以事秦者，必不如魏、韩也。今臣之为足下解负亲之攻，开关通弊，齐交韩、魏，至来年而独取攻于秦，王之所以事秦，必在韩、魏之后也，此非臣之所敢任也。”

王以告虞卿，虞卿对曰：“郝言‘不构，来年，秦复攻王，王得无复割其内而构乎’。今构，郝又不能必秦之不复攻也，虽割何益？来年复攻，又割其力之所不能取以构，此自尽之术也，不如无构。秦虽善攻，不能取六县，赵虽不能守，亦不失六城，秦倦而归，兵必疲，我以六县收天下以攻罢秦，是我失之于天下，而取偿于秦也。吾国尚利，孰与坐而划地，自弱以强秦？今郝曰：‘秦善韩、魏而攻赵者，必王之事秦不如韩、魏。’是使王岁以六城事秦也，坐以地尽，来年，秦复来割，王将予之乎？不予，是弃前功而挑秦祸也，予之，即无地而给之。语曰：‘强者善

攻，而弱者不能守。’今坐而听秦，秦兵不弊而多得地，是强秦而弱赵也，以益强之秦，而割愈弱之赵，其计固不止矣。且王之地有尽，而秦之求无已，以有尽之地，给无已之求，其势必无赵矣。”计未定，楼缓从秦来，赵王与楼缓计之曰：“秦地与无予，孰吉？”缓辞让曰：“此非臣之所能知也。”王曰：“虽然，试言公之私。”楼缓对曰：“亦闻夫公父文伯母乎，公父文伯仕于鲁，病死，女子为自杀于房中者二人，其母闻之，不肯哭也。其相室曰：‘焉有子死而不哭者乎？’其母曰：‘孔子，贤人也，逐于鲁，而是人不随也。今死而妇人为自杀者二人，若是者必其于长者薄，而于妇人厚也。’故从母言，是为贤母，从妻言，是必不免为妬妇。故其言一也，言者异则人心变矣。今臣新从秦来而言勿予，则非计也；言予之，恐王以臣为秦也，故不敢对。使臣得为大王计，不如予之。”王曰：“诺。”

虞卿闻之曰：“此饰说也，王慎勿予。”楼缓闻之，往见王，王又以虞卿之言告楼缓，楼缓对曰：“不然，虞得其一，不得其二。夫秦、赵构难天下皆说，何也？曰：‘吾且因强而乘弱矣。’今赵兵困于秦，天下之贺战者，必尽在于秦矣，故不如亟割地为和，以疑天下而慰秦之心。不然，天下将因秦之怒，乘赵之弊而瓜分之，赵见亡，何秦之图乎？故曰虞卿得其一不得其二，愿王以此决之，勿复计也。”虞卿闻之，往见王曰：“危哉！楼子之所以为秦者，是愈疑天下，而何慰秦之心哉？独不言示天下弱乎？且臣言勿予，非固勿予而已也。秦索六城于王，而王以六城赂齐。齐，秦之深仇也。得王之六城，并力而西击秦，齐之听王，不待辞之毕也。则是王失之于齐，而取偿于秦也。而齐、赵之仇可以报矣，而示天下有能为也。王以此为发声，兵未窥于境，臣见秦之重赂，而反构于王。从秦为构，韩、魏闻之，必尽重王，重王，必出重宝以先于王，则是王一举而结三国之亲，而与秦易道也。”赵王曰：“善。”即发虞卿来见齐王，与之谋秦。虞之谋行而赵霸，此



存亡之枢机，枢机之发，间不不及旋踵，是故虞卿一言，而秦之震惧趁风驰指而请备，故善之臣，其于国岂不重哉？微虞卿，赵以亡矣。

魏请为从，赵孝成王，召虞卿谋，过平原君。平原君曰：“愿卿之论从也。”虞卿入见。王曰：“魏请为从。”对曰：“魏过。”王曰：“寡人固未之许。”对曰：“王过。”王曰：“魏请从，卿曰魏过；寡人未之许，又曰寡人过，然则从终不可邪？”对曰：“臣闻小国之与大国从事也，有利，大国受福；有败，小国受祸。今魏以小请其祸，而王以大辞其福，臣故曰王过，魏亦过。窃以为从便。”王曰：“善。”乃合魏为从。使虞卿久用于赵，赵必霸。会虞卿以魏齐之事，弃侯捐相而归，不用，赵旋亡。

酈食其号酈生，说汉王曰：“臣闻之，知天之日者，王事可成；不知天之日者，王事不可成。王者以民为天，而民以食为天。夫敖仓，天下转输久矣，臣闻其下乃有藏粟甚多。楚人拔荥阳，不坚守敖仓，乃引而东，令谿过卒分守成皋，此乃天所以资汉。方今楚易取而汉反却，自夺其便，臣窃以为过矣。且两雄不俱立，楚、汉久相持不决，百姓骚动，海内摇动，农夫释耒，工女下机，天下之心，未有所定也。愿陛下急复进兵收取荥阳，据敖仓之粟，塞成皋之险，杜太行之路，距蜚狐之口，守白马之津，以示诸侯形制之势，则天下知所归矣。”汉王曰：“善。”乃从其计划，复守敖仓，卒粮食不尽，以擒项氏。其后吴、楚反，将军窦婴，周亚夫复据敖仓，塞成皋如前，以破吴、楚。皆酈生之谋也。

#### 注释：

- ①阳穀：在今山东聊城县西南。 ②贯泽：在今山东曹县南。 ③在今山西省石楼县东南，出良马。 ④垂棘：春秋晋地，出美玉。 ⑤蚤：早。 ⑥焦瑕：晋河外五成之二邑也。

## 《诸葛亮集》

#### 题解：

三国时期蜀国诸葛亮撰。亮字孔明，琅玕阳都（今山东沂南）人。东汉末，隐居邓县隆中（今湖北襄阳西），人称卧龙。汉建安十二年为刘备军师，后任丞相。刘备死，又长期主持军国大政，是三国时期杰出的政治家军事家。有《诸葛亮集》十一卷，二十四篇。包括《文集》、《附录》、《故事》三个部分。《文集》中的《草庐对》、《后出师表》、《绝盟好议》等篇，制定了蜀汉的外交政策，阐述了一些重要的外交谋略。早在蜀汉建立之前，作者高瞻远瞩，设计了西进取蜀，三分天下，鼎足并立的战略态势，表现出卓越的谋略思想。蜀汉建立后，提出了“西和诸戎，南抚百越，外结好孙权，内修政理”的方略，使蜀汉获得了较好的周边环境。在蜀汉后期，以睿智的目光，敏锐地觉察到“王业”难成，“不伐贼，王业亦亡，惟坐待亡，孰与伐之！”制定了北伐中原的战略。又反对有人提出的与东吴断交，“以绝盟好”的主张，阐述了蜀汉之所以“略其畔情”，实为“求犄角之援”的思想。主张外交应从全局出发，“应权通变，弘思远益”，如此，才符合国家的根本利益。

### 后出师表

先帝虑汉、贼不两立，王业不偏安，故托臣以讨贼也。以先帝之明，量臣之才，故知臣伐贼才弱敌强也；然不伐贼，王业亦亡，惟坐待亡，孰与伐之？是故托臣而弗疑也。臣受命之日，寝不安席，食不甘味，思惟北征，宜先入南，故五月渡泸，深入不毛，并日而食。臣非不自惜也，顾王业不得偏全于蜀都，故冒危难以奉先帝之遗意也，而议者谓为非计。今贼适疲于西，又务于东，兵法乘劳，此进趋之时也。谨陈其事如左：高帝明并日月，谋臣渊深，然涉险被创，危然后

安。今陛下未及高帝，谋臣不如良、平，而欲以长计取胜，坐定天下，此臣之未解一也。刘繇、王朗各据州郡，议安言计，动引圣人，群疑满腹，众难塞满，今岁不战，明年不征，使孙策坐大，遂并江东，此臣之未解二也。曹操智计殊绝于人，其用兵也，仿佛孙、吴，然困于南阳，险于乌巢，危于祁连，逼于黎阳，几败北山，殆死潼关，然后伪定一时耳，况臣才弱，而欲以危而定之，此臣之未解三也。曹操五攻昌霸不下，四越巢湖不成，任用李服而李服图之，委夏侯而夏侯败亡，先帝每称操为能，犹有此失，况臣弩下，何能必胜？此臣之未解四也。自臣到汉中，中间暮年耳，然丧赵云、阳群、马玉、阎芝、丁立、白寿、刘郃、邓铜等及曲长屯将七十余，突将、无前、賁叟、青羌、散骑、武骑一千余人，此皆数十年之内所纠合四方之精锐，非一州之所有；若复数年，则损三分之二也，当何以图敌？此臣之未解五也。今民穷兵疲，而事不可息，事不可息，则住与行劳费正等，而不及今图之，欲以一州之地与贼持久，此臣之未解六也。夫难平者，事也。昔先帝败军于楚，当此时，曹操拊手，谓天下已定。然后先帝东连吴、越，西取巴蜀，举兵北征，夏侯授首。此操之失计而汉事将成也。然后吴更违盟，关羽毁败，秭归蹉跌，曹丕称帝。凡事如是，难可逆见。臣鞠躬尽力，死而后已，至于成败利钝，非臣之明所能逆见也。

### 绝盟好议

权有僭逆之心久矣，国家所以略其衅情者，求犄角之援也。今若加显绝，雠我必深，便当移兵东伐，与之角力，须并其上，乃议中原。彼贤才尚多，将相缉穆，未可一朝定也。顿兵相持，坐而须老，使北贼得计，非算之上者。若孝文卑辞匈奴，先帝优与吴盟，皆应权通变，弘思远益，非匹夫之为忿者也。今议者咸以权利在鼎足，不能并力，且志望以满，无上岸之情，推此，皆似是而非也。

何者？其智力不侔，故限江自保；权之不能越江，犹魏贼之不能渡汉，非力有余而利不取也。若大军致讨，彼高当分裂其地以为后规，下当略民广境，示武于内，非端坐者也。若就其不动而睦于我，我之北伐，无东顾之忧，河南之众不得尽西，此之为利，亦已深矣。权僭之罪，未宜明也。

## 《百子全书·刘子》

### 题解：

北齐刘昼撰。《四库全书总目》对其作者考辨未定，根据余嘉锡《四库提要辨证》确为刘昼所撰，《百子全书》中记其字为孔昭，余无记叙，故而生平事迹不详。该书内容有知人、荐贤、通塞、遇不遇、清神、防欲、去情、韬光、九流、正赏、命相、风俗、大质、观量、审名、慎言、贵言等五十五篇，大抵为黄老家言，偶有诋佛之说，实则杂糅儒道思想。其中审名、慎言、贵言三篇，则集中地论述了说辩问题，涉及到游说谋略的一些原则。作者主张“言以译理，理为言本”，“名以定实，实为名源。”这是辩论所要遵循的根本原则，也是论辩谋略产生的思想基础。虽然“理由言明”，但并非所有的言都反映了理，“实由名辩”，并非所有的名都完全辨明了实。欲使理言同一，名实相合，必须论辩。而论辩的谋略原则是“课言以寻理，不遗理而著言；执名以责实，不弃实而存名”。在《慎言》篇中，作者则集讨论进言谋略的慎重原则。“言语者，人之文也。”人文失必有伤身之祸。口舌，是“祸害之官，亡灭之府”，语言是性命之所属，“而形骸之所系”。言出患人，话失身亡。言犹风，无足而行，无翼而飞，不可更易。因而伟大的人“当言而惧，发言而忧，”如履薄冰，如临深渊。游说者设计进言方略时，慎之，慎之！《善言》篇的中心，虽然不是讨论游说之士的说辞权谋，但亦间有这方面的谋略思想。提出“人性虽敏，必藉善言以成德行”的观点，从另一侧面告诫

游说之士在制定说辩策略时，必须择善言以进。“轩璧之与田邑，岂能与善言齐价哉！”

## 审 名

言以译理，理为言本。名以定实，实为名源。有理无言，则理不可明。有实无名，则实不可辨。理由言明，而言非理也。实由名辨，而名非实也。今信言以弃理，非得理者也。信名而略实，非得实者也。而言非理也。实由名辨，而名非实也。今信言以弃理，非得理者也。信名而略实，非得实者也。故明者课言以寻理，不遗理而著言。执名以责实，不弃实而存名。然则言理兼通，而名实俱正。世人传言，皆以小成大，以非为是，传弥广，理逾乖，名弥假，实逾反，则迴犬似人，转白成黑矣。今指犬似人，转白似黑，则不类矣。转以类推，以此象彼，谓犬似猿，猿似狙，狙似人，则犬似人矣。谓白似缁，缁似黄，黄似朱，朱似紫，紫似绀，绀似黑，则白成黑矣。黄轩四面，非有八目，夔之一足，必有独胫。周人玉璞，其实死鼠。楚人凤凰，乃是山鸡，愚谷智叟而像顽称，黄公美女乃得丑名。鲁人缝掖实非儒行，东郭吹竽而不知音，四面一足，本非真实，玉璞凤凰，不是定名，鲁人东郭，空滥美称，愚谷黄公，横受恶名。由此观之，传闻丧真，翻转名实，美恶无定称，贤愚无正目。

## 慎 言

日月者，天之文也；山川者，地之文者；言说者，人之文也。天文失则有滴蚀之变，地文失必有崩竭之灾，人文失必有伤身之患。故口者，言语之门户，舌者门户之关钥。关钥动则门户开，门户开则言语出。出言之善，则千里应之；出言之恶，则千里违之。言失于己，不可遏于人。情发于近，不可止于远。是以君子慎其关钥以密言语。言语在口，譬含锋刃，不可动也。动锋刃者，必伤

喉舌。言之害，非唯锋刃，其所伤者，不惟喉舌，故夫有卷舌之星，人有缄口之铭。所以警惕言<sup>①</sup>，防口讪也<sup>②</sup>。口舌者，祸害之官，亡灭之府也。语言者，性命之所属，而形骸之所系也。言出患入，语失身亡。身亡不可复存，言非不可复追。其犹射也。悬机未发，则犹可止，矢一离弦，虽欲反之，弗可得也。易诫枢机，待刺言玷，斯言一玷，非磁磻所磨。枢机既发，岂骇电所追。皆前圣之至慎，后人之珽谔。明者慎言，故无失言。闇者轻言，自致害灭。昔知伯失言于水灌，韩魏蹶其肘足，魏武漏语于英雄，玄德遗其七筋，是以头为秽器，师驰徐州，地分二晋，土割岷蜀，亡败长衅，为天笑，不慎言也。韩昭侯与棠谿公谋，而终身独寝，虑梦言露于妻妾也。孔光不对温室之树，恐言之泄于左右也。言者风也，无足而行，无翼而飞，不可易也。是以圣人当言而惧，发言而忧，如蹈水火临危险也。礼然后动，则动春风，人不厌其动。时然后言，则言如金石，人不厌其声。故身无失行，口无过言也。

## 贵 言

越剑性锐，必託槌砧以成纯钩，楚柘质劲，必资榜檠<sup>③</sup>，以成淳弓。人性虽敏，必藉善言以成德行。故槌砧者夷不平也，榜檠者矫不正也，善言者正不善也。人目短于自见，故借镜以观形，发拙于自理，必假栢以修束，心闇于自炤，则假言以荣行。面之所以形，明镜之力也。发之所以理，假栢之功也。行之所以荣，善言之益也。镜栢理形，其惠轻也。善言成德，其惠重也。人皆悦镜之明己形，而慕士之明己心。人欲栢之理其发，不愿言之理其情。是弃重德而採轻功，不亦倒乎？为衣冠者，己手不能制则之越乡借人以制之。至于理身，而不知借言以修其行，是处其身轻而于冠重，不亦谬乎？君子重正言之惠，贤于轩璧之赠，乐闻其过，胜于德义之名。故楚庄王轻于千乘之国，而重

申叔一言。范献贱万亩之田，以贵舟人片说。季路抱五慎之诫，赵孟佩九言之箴。由此观之，轩壁之与田邑，岂能与善言齐价哉！夫桓侯不采越人之说，卒成骨髓之疾，吴王不听枚乘之言，终受夷灭之祸。夫人之将疾者，必不甘鱼肉之味。身不将败者，必不纳忠谏之言。故临死者谓无良医之弊，将败者谓无直谏之臣，而不听善言。是耳聋也，非其耳之有塞，善言不入耳乎。

注释：

①恍：轻言。②说：过。③榜槩：造弓之具。

## 《文心雕龙》

题解：

南朝刘勰撰。十卷。勰字彦和，东莞莒县（今山东）人，官至东宫通事舍人。该书上编除《原道》、《中经》等五篇带有绪论性质外，其它诸篇着重论述各种体裁作品的特征、历史演变。分类相从，条理明晰。下编诸篇，则探讨了创造的原则和方法、文学与时代的关系等。全书论述了文质应并重；文章的发展演变与时代相关等重大理论问题，从而把文学理论批评推向新阶段。在其论说篇中，作者则分别讨论了论与说的定义，举出不同的论说和体裁，同时列举历代名作、简略地予以评价，并对论说谋略作了阐述。作者主张，人们在立论时，事先一定要做到胸中有数，遇到坚牢难破的事物要设法钻通，所论之事若含藏过深，一定要设法钩引出来，文辞必须与内心思维一样精密，使敌方不知怎样对付。而说必须使人感到愉悦，但一定要把握尺度，若使人愉悦过分，倒使对方感到这是假话，认为这是谗言惑众。说要有擒有纵，有张有弛，要顺风使舵，见机行事，贵在投合机缘，举出正当理由，使对方深信不疑，无可反驳，从而收到说的真正目的。说的根本是披肝沥胆献给君主，发挥敏慧来充实文辞。若能真正把握论说的这些方略，进

则与君主意志相合，荣华富贵，能使所说得到成功，失败了也不会妨碍自己的荣贵。作者对春秋战国时辩士的作用给予充分的肯定，“一人之辩，重于九鼎之宝；三寸之舌，强于百万之师。”该书是我国这个时期研究说辩谋略的重要著作。

## 论 说

圣哲彝训曰经<sup>①</sup>，述经叙理曰论。论者，伦也。伦理无爽<sup>②</sup>，则圣意不坠。昔仲尼微言，门人追记，故仰其经目，称为《论语》。盖群论立名，始于兹矣。

自《论语》已前，经无论字。《六韬》二论，后人追题乎！详观论体，条流多品；陈政，则与议论合契；释经，则与传注参体；辨史，则与赞评齐行；铨文，则与序引共纪。故议者宜言；说者说语；传者转师；注者主解；赞者明意；评者平理；序者次事；引者胤辞。八名区分，一揆宗论。论也者，弥纶群言，而研精一理者也。

是以庄周《齐物》，以论为名；不韦《春秋》，六论昭列<sup>③</sup>。至石渠论艺、白虎通讲，聚述圣言通经，论家之正体也。及班彪《王命》、严尤《三将》，敷述昭情，善入史体。魏之初霸，术兼名法。傅嘏、王粲，校练名理。迄至正始，务欲守文；何晏之传，始盛玄论。于是聃、周当路<sup>④</sup>，与仲尼争涂矣<sup>⑤</sup>。

详观兰石之《才性》<sup>⑥</sup>，仲宣之《去代》<sup>⑦</sup>，叔夜之《辨声》，太初之《本玄》，辅嗣之“两例”<sup>⑧</sup>，平叔之“二论”<sup>⑨</sup>，并师心独见，锋颖精密。盖人伦之英也<sup>⑩</sup>。至如李康《运命》，同《论衡》而过之，陆机《辨亡》，效《过秦》而不及，然亦其美矣。

次及宋岱、郭象<sup>⑪</sup>，锐思于几神之区；夷甫、裴頠<sup>⑫</sup>，交辨于有无之域；并独步当时，流声后代。然滞有者全系于形用；贵无者专守于寂寥；徒锐偏解，莫诣正理<sup>⑬</sup>；动极神源，其般若之绝境乎！逮江左群谈，唯玄是务，虽有世新，而多抽前绪矣。

至如张衡《讥世》，韵似俳说，孔融《孝廉》，但谈嘲戏。曹植《辨道》，体同书抄；言不持正，论如其己。

原夫论之为体，所以辨正然否，勇于有数，追于无形，迹坚求通，钩深取极；乃百虑之筌蹄，万事之权衡也。故其义贵圆通，辞忌枝碎，必使心与理合。弥缝莫见其隙；辞共心密，敌人不知所乘；斯其要也。是以论如析薪，贵能破理，斤利者越理而横断；辞辨者反义而取通；览文虽巧，而检迹如妄。惟君子能通天下之志；安可以曲论哉！

若夫注释为词，解散论体。杂文虽异，总会是同。若秦延君之注《尧典》，十余万字；朱普之解《尚书》，三十万言，所以通人恶烦，羞学章句，若毛公之训《诗》，安国之传《书》，郑君之释《礼》，王弼之解《易》，要约明畅，可为式矣。

说者，悦也。兑为口舌，故言咨悦恻<sup>①</sup>。过悦必伪，故舜惊谗说。说之善者，伊尹以论味隆殷，太公以辨钓兴周。及烛武行而纾郑，端木出而存鲁，亦其美也。

暨战国争雄，辩士云踊；纵横参谋，长短角势，转丸骋其巧辞，飞钳伏其精术。一人之辩，重于九鼎之宝；三寸之舌，强于百万之师。六印磊落以佩，五都隐赈而封。至汉定秦楚，辩士弭节，酈君既斃于齐镬<sup>②</sup>，蒯子几入乎汉鼎<sup>③</sup>。虽复陆贾籍甚，张释附会，杜钦文辨，楼护唇舌，颌頔万乘之阶，抵嘘公卿之席<sup>④</sup>，并顺风以托势，莫能逆波而泝洄矣<sup>⑤</sup>。

夫说贵抚会<sup>⑥</sup>，弛张相随<sup>⑦</sup>，不专缓怏<sup>⑧</sup>，亦在刀笔。范雎之言事，李斯之止逐客，并烦情入机，动言中务，虽批逆鳞，而功成计合，此上书之善说也。至于邹阳之说吴梁，喻巧而理至，故虽危而天咎矣。敬通之说鲍邓，事缓而文繁，所以历聘而罕遇也。

凡说之枢要，必使时利而义贞<sup>⑨</sup>，进有契于成务，退无阻于荣身，自非谄敌，则唯忠与信。披肝胆以献祖，飞文敏以济辞，此说之本也。而陆氏直称说“炜晔以谄诳”，何

哉！

赞曰：理形于言，叙理成论。词深人天，致远方寸。阴阳莫贰，鬼神靡遯。说尔飞钳，呼吸沮劝。

#### 注释：

①彝训：常训。②无爽：无差错。③六论：《吕氏春秋》中有《开春》、《慎行》等六论。④聃、周：老聃、庄周。⑤尼父：孔子。⑥兰石：傅嘏字。⑦去代：为“去伐”之误。⑧辅嗣：王弼字。⑨平叔：何晏字。⑩人伦：有作“人论”。⑪宋岱：著有《周易论》；郭象：著有《庄子注》。⑫夷甫：王衍字。⑬诣：到。⑭该句见《周易·说卦》。⑮酈君：一称酈生。⑯蒯子：蒯彻。⑰抵嘘：嘲戏。⑱泝：逆水上行。⑲抚会：投合机缘。⑳张弛：擒纵。㉑缓颊：婉言劝解。㉒贞：正。

## 《长短经》

#### 题解：

唐赵蕤著。蕤字太宾，梓州人。博学韬铃，长于经世，善为纵横学，夫妇俱有节操，开元中召之不赴，隐居鄞县长平山安昌岩，潜心著述。著书曰《长短经》，总十卷。该书对治国之道，任人之术、用兵之韬、权变谋略、历代治乱得失之经验，以及策士游说人主之术，游说应对之辞等，都详加论述。其中第二十二篇《钓情》，详细地讨论了游说的诸种谋略。他引用孔子、荀子和尸子的语言，论述了说辩者应察言观色，取得对方信任后再进言，进言和静默都要恰到好处，进言之前要识透人情，引起对方的重视和注意，如此，才能收到说辩的最佳效果。又引证韩非子和东汉史学家荀悦之言，论证了进言的二难性，并引用大量历史事例予以说明，理论与实践相结合，增强了人们对此的立体感受。说辩之难，难在难以识透人主之真心，因此游说之士在进言之前，必须先行试探，彻底了解对方的人情所好。为此，必须采取田婴以“物”钓情之略；申不害以“言”钓情之

谋，文种以“事”钓情之例，淳于髡以“志”钓情之策，张孟谈以“视”钓情之法，殷浩以“贤”钓情之方，《铃经》中以“色”钓情之则，来摸透对方真意所在，然后投其所好，就可以让对方采纳自己的学说和主张，达到进言的目的。

## 钓 情

孔子曰：“未见颜色而言，谓之瞽。”又曰：“未信，则以为谤己。”孙卿曰：“语而当，智也；默而当，知也。”尸子曰：“听言耳目不惧，视听不深，则善言不往焉”。是知将语者，必先钓于人情，<sup>①</sup>自古然矣。故韩子曰：“夫说之难也，在所知说之心，可以吾说当之，说之以厚利，则见下节而遇卑贱，必弃远矣。说之以名高，则见无心而远事情，必不收矣。事以密成，语以泄败，而说及其所匿之事，如是者身危。贵人有过端，而说者明言善议以推其恶者，身危。贵人得计而欲自以为功，说者以知焉，则身危。强之以其所不为，止之以其所不能已者，身危。”又曰：“与之论大人，则以为间己，与之论细人则以为粥权<sup>②</sup>，论其所爱，则以为借资，论其所惜，则以为尝己，顺事陈意，则曰怯懦而不尽，虑事广肆，则曰草野而倨侮，此不可不知也。彼自知其计，则无以其失穷之，自勇其断，则无以其敌怒之。”荀悦曰：“夫臣下之所以难言者，何也？言出乎身，则咎悔及之矣。故曰：举过揭非，则有干忤之咎；劝厉教诲，则有侠上之讥。言而当，则耻其胜己也；言而不当，则贱其愚也。先己而同，则恶其夺己明也；后己而同，则以为从顺也。违下从上，则以为谄谀也；违上从下，则以为雷同也。与众共言，则以为顺负也；违众独言，则以为专美也。言而浅露，则简而薄之；深妙宏远，则不知而非之。特见独智，则众恶其盖之也，虽是而不见称；与众同智，则以为附随也，虽得之不以为功。谦让不争，则以为易穷。言而不尽，则以为怀隐。进说竭情，

则以为不知。量言而不效，则受其怨责。言而事效，则以为固当。利于上，不利于下。或便于左，则不便于右。或合前而忤于后，此下情所以常不通。仲尼发愤称‘予欲无言’者，盖为语之难也。”何以明其难也？昔有富人，天雨墙坏，其子曰：“不筑且有盗。”其邻人亦云。墓而果大亡。其家智其子而疑邻人之父。郑武公欲伐胡，乃以其子妻之，因问群臣：“吾欲用兵，谁可伐者？”关其思曰：“胡可。”乃戮关其思曰：“胡，兄弟之国也。子言伐之，何也？”胡君闻之，以郑为亲己而不备郑。郑人袭胡取之。此二说者，其智皆当矣，然而甚者为戮，薄者见疑，非智之难也。处智则难，卫人迎新妇，妇上车，问：“骖马谁马也？”御曰：“御借之。”新妇谓仆曰：“拊骖无苦服车至门拔教逆灭檣将失火，入室见曰：‘徙牖下，妨往来者。’”主人大笑之。此三言皆要言也。然而不免为笑者，早晚之时失矣。此说之难也。说者知其难也，故语必有钓，以取人情，可以明之。昔齐王后死，欲置后而未定，使群臣议。薛公田婴欲中王之意，因献十珥而美其一，旦日，因问美耳所在，因劝立以为王后。齐王大悦，遂重薛公。此情可以物钓也。申不害始合于韩，然未知王之所欲，恐言而未必中于王也。王问申子曰：“吾谁与而可？”对曰：“此安危之要，国家之大事也，臣请深惟而苦思之”。乃微谓赵卓韩晁曰：“子皆国之辩士也，夫为人臣者，言何必用，尽忠而已矣。”二人各进议于王前以事。申子微视王之所言，以言于王，王大悦之。此情可以言钓也。吴伐越，越栖于会稽，句践喟然叹曰：“吾终此乎。”大夫种说：“汤系夏台，文王囚羑里，重耳奔翟，齐小白奔莒，其卒霸王。由是观之，何遽为福乎？句践及得免务报吴，大夫种曰：“臣观吴王政骄矣，请尝之，乃贷粟以卜其事。子胥谏句与，王遂与之。子胥曰：“王不听谏，后三年，吴其墟矣。太宰嚭闻之，谗曰：伍员貌忠而实忍人，吴遂杀子胥。此事可以事钓也。客以淳于髡见梁惠王，惠王屏左右，再见之，终无

言，惠王怪之，让客，客谓淳于髡，髡曰：“吾前见王，王志在驰逐，后复见王，王志在音声，是以默然。客具以报王，王大骇曰：‘淳于先生、诚圣人也。前有献善马，寡人未及试。会生来，后有献讴者，未及试，又会生来，寡人虽屏人，然私心在彼。’此情可以志钓也。智伯从韩魏之君伐赵，韩魏用赵臣张孟谈之计，阴谋叛智伯。张孟谈因朝智伯，遇智果于辕门之外，智果人见智伯曰：‘二主殆将有变，臣遇张孟谈，察其志矜而行高，见二君色动而变，必背君矣。’智伯不从，智果出，遂更其姓为辅氏。张孟谈入见赵襄之曰：‘臣遇智果于辕门之外，其视有疑臣之心，人见智伯而更其族，今暮不系，必后之矣。’襄子曰：‘诺’。因与魏韩杀守隄之吏，决水灌智伯军，此情可以视钓也。殷浩仕晋有盛名，时人观其出处，以卜江左兴亡。此情可以贤钓也。铃经曰：‘喜色洒然以出，怒色熙然以侮，欲色姬然以愉，惧色惴然以下，忧色惧然以静，此情可以色钓也。由是观之，夫人情必见于物，能知此者，可以纳说于人主矣。

**注释：**

①钓情：诱获真实情况。。 ②粥权：卖弄权势。

## 《六国论》

**题解：**

苏洵撰。洵字明允，号老泉。宋眉州眉山（今属四川）人。官秘书省校书郎，参修《太常因革礼》，为著名古文家，成就卓著。文章简劲质朴，擅长策论。著有《六国论》等，颇具影响。作者对北宋政府守内虚外的政策强烈不满，故写该文以针砭之。作者认为战国时期六国的相继破灭，不是武器不精良，也不是仗打得不好，而是外交策略的失误，对秦太软弱，“弊在赂秦，赂秦而力亏，破灭之道也。”不赂者以赂者丧，致使其失去强援，不能独立。秦在攻取之外所得，较之战

胜所得，其实百倍。诸侯之所亡，较之战败而亡者，其实亦百倍。作者提出假设改变策略，以赂秦之地，封天下之谋士，以事秦之心，礼天下之奇才，并力抗秦，恐秦食之而不得下咽。作者告诫北宋政府，改变外交策略，勿蹈六国之覆辙，收入《嘉佑集》中。

六国破灭，非兵不利，战不善，弊在赂秦。赂秦而力亏，破灭之道也。或曰：“六国互丧，率赂秦耶？”曰：“不赂者以赂者丧。盖失强援，不能独完。故曰：‘弊在赂秦’也！”

秦以攻取之外，小则获邑，大则得城。较秦之所得，与战胜而得者，其实百倍。诸侯之所亡，与战胜而亡者，其实亦百倍。则秦之所大欲，诸侯之所大患，固不在战矣。思厥先祖父，暴霜露，斩荆棘，以有尺寸之地。子孙视之不甚惜，举以与人，如弃草芥。今日割五城，明日割十城，然后得一夕安寝。起视四境，而秦兵又至矣。然则，诸侯之地有限，暴秦之欲无厌。奉之弥繁，侵之愈急。故不战而强弱胜负已判矣。至于颠覆，理固宜然。古人云：“以地事秦，犹抱薪救火，薪不尽，火不灭。”此言得之。

齐人未尝赂秦，终继五国迁灭<sup>①</sup>，何哉？与嬴而不助五国也。五国既丧，齐亦不免矣。燕赵之君，始有远略，能守其土，义不赂秦。是故燕虽小国而后亡，斯用兵之效也。至丹以荆卿为计，始速祸焉。赵尝五战于秦，二败而三胜。后秦击赵者再，李牧连却之。洎牧以谗诛<sup>②</sup>，邯郸为郡，惜其用武而不终也。且燕赵处秦革灭殆尽之际，可谓智力孤危，战败而亡，城不得已。向使三国各爱其地，齐人勿附于秦，刺客不行，良将犹在，则胜负之数，存亡之理，当与秦相较，或未易量。

呜呼！以赂秦之地，封天下之谋臣，以事秦之心，礼天下之奇才，并力西向，则吾恐秦人食之不得下咽也。悲夫！有如此之势，而为秦人积感之所劫，日削月割，以趋



于亡。为国者无使为积威之所劫哉！

夫六国与秦皆诸侯，其势弱于秦，而犹有可以不赂而胜之之势。苟以天下之大，而从六国破亡之故事，是又在六国下矣！

注释：

①迁灭：灭亡。 ②洎：及，到。

## 《曾纪泽遗集》

题解：

曾纪泽撰。纪泽字颉刚，清湖南湘乡人。1878—1885年间曾任出使英、法大臣，后又兼任使俄大臣。为收回伊犁与俄国进行了艰苦的谈判，1881年2月签订《伊犁条约》收回伊犁和特克斯河地区。1885年归国，帮办海军事务，旋任兵部左侍郎，命在总理衙门行走。撰有《曾纪泽遗集》，总十七卷，包括奏疏、文集、诗集、日记四个部分。是研究其政治思想和外交理论的重要史料。在其奏疏和文集中，对当时的中国外交谋略作了阐述。作者认为，此时的西洋诸国，诚与“岛夷、社番、苗獠獠獠，情势判然”，提出外交要“以情理酌之”，不应自恃“中华上国而欺凌远人”。认为军事实力是外交的重要条件。惟有经武整军，凛然有不可犯之势，敌方或心怀“震叠”，“潜遏乱萌”，然后由使者与之和平商议，可收外交之效。在《伦敦复左中堂》书中，作者对李鸿章“柔”、“忍”、“让”的外交方略极为愤慨，提出利用舆论，摇惑绅民，“倾其执政”以取得主动的策略。作者系近代外交家，其谋略带有明显的具体性和可操作性。这是他外交谋略的特点。

### 巴黎复陈俊臣中丞

西洋诸国，越海无量由旬，以与吾华交接，此亘古未有之奇局。中国士民或畏之如神明，或鄙之为禽兽，皆非也。以势较之，如中国已能自强，则可似汉、唐之取匈奴、西域、吐蕃、回纥；若尚未能自强，则直如

如春秋国之晋、楚、齐、秦鼎而相角，度长而挈大耳。彼诸邦者，咸自命为礼义教化之国。平心而论，亦诚与岛夷、社番、苗獠獠獠，情势判然，又安可因其礼义教化之不同，而遽援尊周攘夷之陈言以鄙之耶？礼义教化虽有不同，然事之不在情理中者，则虽僻在数万里外之国，亦不能经行而无滞。弟愚以为办洋务并非别有奥安，遇事仍宜以吾华之情理酌之。理之所在，百折不回，不可为威力所拙。理有不足，则见机退让，不自恃中华上国而欺凌远人。可许者开口即许，不可许者始终不移，庶交涉之际，稍有把握。夫彼此风俗既异，刑律亦殊，西国官绅辩论情理，诚未必纤悉必合。然在位者若肯细询彼国风俗、刑律所以致异之源，亦不难详论婉商，折衷一是也。

### 巴黎复郭筠仙丈

法人阴怀吞并越南之心，阳借通商红江为词。若吾华将开通富良通商各国之举，毅然引为己任，可以收越南之权，延各国之誉，而夺法人之口实。且猛虎临门，拒之不可，投一羊以斗猛虎，未必非策之中者，纪泽持此论久矣。

### 森比德堡再致越南王

法兰西之心存在覬觎也，匪伊朝夕。谋国之臣，经商之客，未尝一日忘之。然而犹迟迟至于今日者，则以其国内而君、民两党交讧，外与德、意、奥三国不和，时虞强邻之窥伺，劳师袭远，力有未逮。近乃存行险侥幸之心，希冀毋庸多费兵饷，可底于成，商人以是耸其执政，执政以是愚其议绅，然而一二有识之士，未尝不于议院显斥其非，无如利令智昏，实繁有徒，故欲罢而未能也。此时而出以含容，彼族必且益肆其志，虽使者之唇焦舌敝，恐未易言挽回。惟有经武整军，凛然有不可犯之势，彼或心怀震叠，潜



遇乱萌，然后由使者与之和平商议，庶几其有济耳。且夫兵者，实事也，虚张恫喝，益长其骄。所宜外示和平，内存准备，使彼暗窥事势，相喻于不言，则不必血刃而其气自沮矣。

## 伦敦复左中堂

李相与法使议越南之事，闻尚未有头绪。此案每下愈况，始终误于三字：曰柔，曰忍，曰让。吾华早示刚严，则法人必不敢轻于举发。既屡下越城而有倖心，又自丧其良将而有怒气，则法人虽欲缩手而不能。吾华兵力不足御敌，既无把握，则虽欲不让而不得。纪泽不见礼于敌廷久矣，一腔愤血，何处可洒！刻下无他伎能，惟向英、法绅民及新报馆以口舌表我之情理，张我之声威，冀以摇惑法绅，倾其执政。政府如换新人，商事或当稍易，所谓无聊之极思也。无才消弭此患，而望借敌廷之内讧以乘机了事，又岂能有把握者！

## 伦敦复陈俊臣中丞

法越之事，虽强邻蓄意已久，然实由吾华示弱太甚，酝酿而成，目前相持不下，日在危机，我诚危矣，彼亦未尝不危。若我能坚持不让之心，一战不胜，则谋再战，再战不胜，则谋屡战。此彼之所甚畏也。越国鄙远，以争地于数万里之外，谓之不危，得乎？十余年前墨西哥之役，即彼国前车之鉴也。今彼所冀倖者，谓我器械不备，训练不精，必无再接再厉之力，故欲轻于一试，将以战舰十余艘，土客兵万余人，遂羁东方。我若为彼所慑，遽如其愿，岂非亘古一大恨事？且非一让即了也，各国之垂涎他处者，势将接踵而起，何以御之？内乱如法，孤立如法，且不能制，况英、俄诸强国乎？此次不振，则吾华永无自强之日，思之愤叹。

## 伦敦复李香严

夫纪泽所谓备战者，特欲吾华实筹战备，示以形势，令彼族知难而退。即使终归无济，而法人办理此事尚有寸寸节节阻难之势，则他国之生心于吾华属国属地者，不至接踵而起，此区区之苦衷也。至于不欲启衅之心，未尝不与合肥同也。惜备战稍迟，法人增兵略地，获利已多，譬诸骑虎，势难复下。吾华以惧战过甚，反酿成不得不战之势，此可为太息者也。

## 《海国图志》

### 题解：

魏源撰。源原名远达，字默深。清湖南邵阳人。五十岁中进士，曾任江苏东台、兴化等县知县、高邮知州等。积极参加过反抗英国侵略军的斗争，后参与攻打太平天国农民起义军。早年潜心王阳明心学，后研究《公羊春秋》，注重经世致用，与龚自珍齐名，晚年归入佛学。著有《海国图志》等书。该书总一百卷，系受林则徐嘱托，据《四洲志》等译稿，参考中国历代史志，于道光二十一年撰成。叙述世界各国历史地理，介绍西方科学技术，分析其富国强兵之道。传至日本，竟为翻译，图文并茂，论述兼长。其《筹海篇》对外交谋略多有阐述。作者开篇列举了自鸦片战争以来我国对外政策的两个极端：“非战即款”、“非款即战”，惟独没有以“守”为基点而设计外交谋略者。作者着力研究“战”、“款”、“守”三者的关系，认为“守”应是外交谋略的出发点，提出不能守何以战、不能守何以款的反问，在深刻分析相互关系的基础上，设计出全新的外交谋略蓝图。倡言“以守为战”、“以夷攻夷”；“以守为款”，“以夷款夷”。攻夷之策为“调夷之仇国以攻夷，师夷之长技以制夷”；款夷之策为“听互市各国以款夷，持鸦片初约以通市”。这是对闭关锁

国方略的批判和否定，读来令人耳目一新。

## 筹海篇一

自夷变以来，韩幄所擘画，疆场所经营，非战即款，非款即战，未有专主守者，未有善言守者。不能守，何以战？不能守，何以款？以守为战，而后外敌服我调度，是谓以夷攻夷；以守为款，而后外夷范我驰驱，是谓以夷款夷。自守之策二：一曰守外洋不如守海口，守海口不如守内河；二曰调客兵不如练士兵，调水师不如练水勇。攻夷之策二：一曰调夷之仇国以攻夷；师夷之长技以制夷。款夷之策二：一曰听互市各国以款夷；持鸦片初约以通市。

## 筹海篇三

内守既固，乃御外攻。岳飞曰：“以官军攻水贼则难，以水贼攻水贼则易。”攻江湖之盗且如是，何况数万里海外之寇。以海夷攻海夷之法如何？筹夷事必先知夷情，知夷情必先知夷形，请先陈思形势：英夷所惮之仇国三：一曰俄罗斯，二曰佛兰西，三曰弥利坚。所惮我属国四：一曰廓尔喀，二曰缅甸，三曰暹罗，四曰安南。其攻之法：一曰陆攻，二曰海攻。陆攻之法在印度，……乃英夷调印度兵艘入犯中国，深恐俄罗斯乘其虚以捣温都斯坦；又传闻俄夷使者，已自比革特起程入中国，惴惴惧其犄角。盖康熙中用荷兰以款俄罗斯，又联俄罗斯以逼准噶尔，故英夷之惧俄罗斯者，不在国都而在印度，此机之可乘者一。廓尔喀者亦在后藏之西，与东印度偏处<sup>①</sup>。方乾隆中，我师往廓夷时，英夷印度兵船亦乘势攻其东境。故上年英夷罢市后，廓夷亦即禀驻藏大臣愿出兵攻击印度。当时若许英夷扰其东，俄罗斯捣其西，则印度有瓦解之势，寇艘有内顾之虞，此机之可乘者二。故可乘而不乘，非外夷之不可用也，需调度外夷之人也。

海攻之法，莫如佛兰西与弥利坚。佛兰西国逼近英夷，止隔一海港，弥利坚与英夷则隔大海。自明季国初之际，佛兰西开垦弥利坚东北地，置城邑，设市埠，英夷突攻击之，于是佛夷与英夷深仇，及后英夷横征暴敛，于是弥利坚十三部起义驱逐之，兼约佛兰西为援。三国兵船数百艘，水陆数十万，不解甲者数载。弥利坚断其饷道，英军饥困，割地请和，弥利坚遂复故地二十七部，英夷之守东北角四部，不敢再犯。……此机之可乘者三。……而佛兰西于英夷再次败盟之后，是冬有兵头兵船至广东，求面见将军，密禀军务，自携能汉语之二僧，请屏去通使，自言愿代赴江、浙与英夷议款，必能折服，不致无厌之求，倘英夷不从，亦可藉词与之交兵。乃自正月与大帅晤，始则不许代奏，及奏又支离其词，反以叵测疑佛兰西。延自六月，闻浙江奏请款抚，始许其行。时英夷兵船已深入长江，犯江宁。于是佛兰西船至上海，请我舟导其入江，而上海官吏又往返申请稽时，迨佛兰西易舟入江，则款事已定数日，尽饱溪壑，佛兰西怅然而返，此机之可乘四。故可乘而不乘，非外夷之不可用，需调度外夷之人也。

今日之事，苟有议征用西洋兵船者，则必曰借助外夷恐示弱；及一旦示弱数倍于此，则甘而不辞。使有议置造船械师夷长技者，则曰糜费；及一旦糜费十倍于此，则又谓权宜救急而不足惜。苟有议翻夷书、刺夷事者，则必曰多事；及一旦有事，则或询英夷国都与俄罗斯国都相去远近，或询英夷何路可通回部，甚至廓夷效顺，请攻印度而拒之，佛兰西、弥利坚愿助战舰、愿代请款而疑之。以通市二百年之国，竟莫知其方向，莫悉其离合，尚可谓留心边事者乎？汉用西域攻匈奴；唐用吐蕃攻印度，用回纥攻土番；圣祖用荷兰夹板船攻台湾，又联络俄罗斯以逼准噶尔。占之驭外夷者，惟防其协冠以谋我，不防其协我而攻冠也；止防中华情事之泄于外，不闻禁外国情形之泄于华也。

然则欲制外夷者，必先悉夷情始；欲悉夷情者，必先立译馆翻夷书始；欲造就边才者，必先用留心边事之督抚始。

问曰：“既款之后，如之何？”曰：武备之当振，不系乎夷之款与不款。既款以后，夷瞰我虚实，藐我废弛，其所以严武备、绝狡启者，尤当倍急于未款之时。所以惩其文，饰善后者，尤当倍甚于承平之日。未款之前，则宜以夷攻夷；既款之后，则宜师夷长技以制夷。夷之长技三：一战舰，二火器，三养兵、练兵之法。

**注释：**

①倂：逼字的异体字。

## 《唐才常集》

**题解：**

唐才常撰。才常字轂丞，后改佛生，自号讲癖子。清湖南浏阳人。甲午战争后，致力于各国政治研究。参与办算学馆、时务学堂、编报纸，倡新学，主张君主立宪。戊戌政变后，逃亡日本。后归国组织自立会自立军，召开中国国会并任总干事。自立军起事失败，被捕就义。著作辑有《唐才常集》，收录他自1890至1900年间的重要政治论文及带有政治主张的书简近九十篇，并分类编次。较全面地反映了他的变法、立宪、设议会等政治主张和哲学思想。其中《外交论》等十篇，专门论述其外交主张，蕴含着一些重要的外交谋略。作者怀着强烈的爱国心，对清末的国际形势作了冷静的分析，设计了一些理智的外交策略。他主张，在外交上一定要利用各国之间的矛盾，掌握他们互相猜忌的情况，了解他们“不暇暇图我”，积极主动地开展外交，以图自强。作者批判了清政府错误的“闭关谢使”的外交对策，主张要认真面对现实，掌握外交上的主动，争取一个好的国际环境。在“教务”、“界务”等诸多交涉中，主张以国际公法为依据，据理力争。对清末外交人员的选拔、培养、使用、职权等

方面，都作了专门的探讨，制定出一些重要方略。该集是清末有关外交谋略的佳作。

## 拟自造各种机器遏洋货利权议

瓮牖迂拘之士，动自机器为淫巧，曰无益民用。不知机器者，天之假手西人，将宏脑气之用于地球，面积阿屯姆力以开新运者也。虽圣人复生，亦当因其自然而利道之，以予民自存之业。岂能随世俗傲很之习，如西土所谓沛根者哉！

西人以机器兴利，华人但痛恨机器，而用则洋钱，服则洋布，一切钟表玩好之具，无一非洋，而不问其出自为何物，是日顽种。无怪外洋一二不费工力之机器，掇取中国之元气殆尽，而中国方浓睡未醒也。其好为大言者，曰是但闭关谢使，令其勿来已耳。呜呼！以子阳井中之见，咫尺不覩，迅雷不闻；而惟力遏开利源、操利权之机器，勿使中国有富强之会，谁之咎欤？谁咎欤？则至今日而欲通其血轮宏其涨力摄力，诚非制造各种机器不可。

而议者曰：机器以水火之力代人力，如用机器，则人力将无所施，而此千万食力之民，必尽为游手以乱天下。不思机局一开，则人亦不患无职业。方今湖北设有织造局，而傭力其中者二三千人，假以二三千人分作他工，正不知冻馁几何矣。夫德国克虏伯厂，每岁工匠曰五六万人，余厂亦不下二三万人。如各省及州县皆设此局，则人岂有冻馁者；况矿务、农务、商务、次第毕举，在在需人，夫何者舍业以嬉耶？

议者曰：中国自造机器，终不如西人之巧，恐事事落其后尘，徒见嗤耳。是则不然。昔者西国政学，多源埃、希，而埃、希反瞠乎其後。百年来英、法、德、意，辄相师法，而机巧日竞而日新。近日日人又步武西人，二十余年，称雄亚东。青出于蓝而胜于蓝，冰出水而寒于水，安见中国之心思才力，远出西人下耶？

议者曰：中国自造机器，洵可夺外洋之利，如外洋又贱价争售，将奈何？是又不然。外洋人工甚贵，必不能过贱其值。中国物力并贱，如推行既广，自可日贱其值，以争洋货之权矣。

议者曰：中国官商不相信，此时必难集商民之股而踊跃以成。然中国如果铁政、民厂、邮政，一一施行，安在斯民不知其利，而不思所以挽回之！况今日本已有遍地设机器之条款，而西人动以利益均沾为词，则将来遍中国皆外洋机器，不十年间，无可措手矣。是以自造机器之急于燎原也。一言以蔽之曰：机器广，斯爱力绵；爱力绵，斯国力固；国力固，斯涨力摄力足以离吸各国而毋为所蚀。

## 交涉甄微

数十年来之主持清议，相厉以忠议奋发者，不曰“用夏变夷”，即曰“闭关谢使”，且动以本朝海禁之开相诟詈<sup>②</sup>。呜呼！是何言欤？夫国于地球之上，必欲子焉而独立，微独今所不能，亦且古无此理。（公法家亦云从古无独立之国。）彼守旧家事事以古制相绳，庸未知《周孔》掌邦交之事，如怀方氏、合方氏、形方氏及大行人所识，与夫春秋之会盟宴享，谊例森然，果何为者？况孔子言为命之要，自草创以至润色，慎重周详，迥逾常格。而《左氏》言各国交涉之宜，隐推郑侨为最，故国虽小，而能久持于强大之间。若夫《公羊》内外夷夏之说，随时变通，期于拨乱世反之正。是故《公羊》为公法家言，而《左氏》其条例约章也。（《公羊》改制之书，为今学派；《左氏》胪列故实，为古学派。明其派别，矛盾之见自融。必谓《左氏》悉刘歆伪撰之书，似可不必。）

今之列国环峙，兵戎玉帛，杂遝五洲，明明一春秋局。儒者狃于故常，耳目所触，动致警疑。或至芥豆之微，酿成大变，貽朝廷宵旰之忧，吏亦瞠目咋舌，策无所出。窃

怪平时著述《周孔》、《春秋》家说，累牍连篇，及责以通径致用之效，贸然茫然。学术之蔽，受之人才，可为呜咽！尝览《三洲游记》等书，凡红人、黑人之属，一见黄白种类，涩鼻褰髻，狐疑狼顾。彼原教化所不到之区，无怪其然。今试问澳洲、斐洲、美洲之上番，十存二、三乎？其存焉者，犹能不改故辙乎？奈何以堂堂中国，于一切交涉之务，褻如充耳！其有一二讲求弭兵结好之宜者，反予若辈以群矢之的。呜呼！不其恫欤！

今夫不谙公法律例之学，其病二：一则如前异视远人之弊；一则动为西人恫喝，凡章程条约，事事予以便宜。如西国税则，轻出口而重入口。（有值百抽二十者，有值百抽四十、五十者，有值百抽百者，轻重之间，颇寓权衡。）中国不谙西法，于议进口税之始，凡洋人日用等物，多从豁免，（见英《通商章程》第二款）余仅值百抽五，或二两五钱不等，贻误至今，几成铁案。（现李中堂议加税则，未蒙各国允准。）若夫商民居何国何地，即受治其地之有司，本地球万国之公法。（公法凡疆内产业植物动物居民，无论生斯土者，自外来者，按理皆当归地方律法管辖。）中国不谙律例，许洋人治以洋法，华人治以华法。有时华人洋人同犯一罪，而华人受重法，洋人受轻法，已觉不平。（两律虽人命无抵偿例。同治间汉阳民彭尚会为洋人炉礼士枪毙，明系故杀，而领事多方狡展，仅罚洋四百元，乃南汇民张淮金刀毙法国巡捕巴陇，与前案同，而以华律论，即拟斩。）且各国领事，于案情稍重者，即以送往西贡、澳门审讯为词，而华人无论何省何县，立地可以治其罪。《诗》曰：“不平谓何，丧乱弘多，”斯之谓矣。至于交涉必明界务，尤《周礼》职方之遗。乃曩者俄人来索旧地，而黑龙江以南，乌苏里河以东，勘地一误，蹙境数千里；甚至胁我属国，移我界碑而不觉，岂古人仕学相关之理，而忍若此！夫吾中国所以首出万邦者，纲常名教之严耳，然徒执纲常名教以骄外人曰：尔无君臣，尔无父子，则试问数

十年来，逞忿教堂之举，屡见叠出，其中固多会匪煽之，而播绅之士，以腾蜚说而构衅成羞者，亦往往而然。孔子曰：“一朝之忿，忘其身以及其亲。”以此言之，君父安在？善夫日本人所著《海防臆测》曰：“我邦知防异教诱民之害，而不知备枪礮舟舰力攻之祸。”又曰：“近代泰西吞噬邻邦，大都以兵不以教。盖国俗之极蠢遇者，已为彼所并，其存者智思阙，兵备严，非可以异教荧惑而取也。”异哉，此言距今存六十年，而深知灼见如此。然则今之君子，与其鸣孤愤，奋空拳，貽君父羞，何如请求交涉应付之宜，折衡樽俎，使君父享无穷之益也？孰先孰后，孰顺孰逆，必有能辩之者。

或曰：万国公法，虽西人性理之书，然弱肉强食，今古所同。如英之墟印度，俄之灭波兰，日本之夺琉球、乱朝鲜，但以权势，不以性理，然则公法果可恃乎？曰：公法家言，多西人布衣下士，凭空谈立以性法，其后执政渐因用之，而律法遂为专科。荷兰之果鲁西亚士、宾克舍，日耳曼之雷部逆此、乌兰富、海富达，美之吐利、庚德、惠顿，英之费利摩罗巴德，其最名家者也。虽万事万物之蕃变纷赜，不能强人人以必从，然其发明天然之理，制定律意之原，国与君之何以相属，教与政之何以相关，管理人物之何以分内外、辖制河海之何以判公私，与夫通商得土之章程，遣使和战之机要，贩卖黑奴为五洲之厉禁，诛治海盗为万国之公权，委曲周详，大成《春秋》而乱贼惧之意。近百年来之恃为调人以弭兵息祸、存弱定倾者，亡虑数十百事。此春秋家之所以宜明公法欤？

或曰：子以公法通《春秋》，毋乃僭欤？曰：《春秋》为素王改制之书，上本天道，中用王法，下理人情，治通三统，礼存四代。今环球各国，散无友纪。（从前罗马教皇雄视欧洲，凡各国立君行政，皆须禀命，然后施行。其后各国日精格致，而致富强，而教皇因仍故辙，其权浸衰，大类中国衰周之局。今则罗马故都，已为意灭。英、法、俄、德、

狎主齐盟，初非有一统摄欧洲之国，如从前罗马情形。）公法家以空理相维，颇有称天而治之意。古者谓《春秋》为圣人刑书，又云《春秋》为正名之书，温城董君则以谓礼仪之大宗。余谓能本《春秋》之意，治公法学，必有视惠顿诸人之更精者，孔教真派，庶几显明于世。何则？素王改制垂世之公心，经权互用，不以古今中外而有阂也。

或曰：西国设立公法律例专科，于古有徵否？曰：《汉书·艺文志》曰：“法家（者）流，盖出于理官。倍赏必罚，以辅礼制。”曰：“名家（者）流，盖出于礼官。……孔子曰‘必也正名乎’！”今公法家言凡国之立，必由各国公认，始名为国，否则曰盗。（如美之自主，巴西之改君主为民主，皆迟之又久，而后为各国公认。）此名家之说也。其律法之权，不在君相，而在律师，有如孟子所云，皋陶为士，虽舜不能少假者。（案《曲台记》有大士职，注云：殷制。而左氏坐狱之法，亦有大士，与今西人审判堂合，可见古时虽无延请师之文，而《王制》：刑人（於市），与众弃之。意同）此法家之精意也。汉制明律得试为吏，胡于西人而疑之？（今如算学、光学、重学、地学，动援诸书相证，若法律为交涉要义，而谓其于吾圣人之道无合焉者，吾不信也。）

或曰：约章以洋法治洋人，以华法治华人，欲变通之，其策安在？曰：是在立中西条例馆，斟酌律意，以渐剂其平。税务司赫德谓华法案件，宜定一通行之讯法，通行之罪名，乃能经久无弊。薛叔耘亦云宜参用中西律例，详细约核，如犹不能行，即专用洋法亦可。何也？华洋交涉之事，本与中国自治之法不同。以洋法治华人，所以使华人避重就轻也；以洋法治洋人，所以使洋人难逃法外也。余谓无论中西律例，急以开条例馆、设法律科为要。日本维新以来，于大学中设立文科，使诸生研求律例，一经考录，充作律师，榜其门曰代言事务人。由是遇与西人交涉案件，每能援东西律例，断断与之争辩，故近来美国与日本订约，许复其自主

之权。(中国即此一事,久失自主之权,而不能复,何论其余?噫!)今中国人往泰西学律,考授律师者,如英如法如美皆有之,惟一人中国,即属无用,是可浩叹。即同文馆总教习丁韪良,亦著名法家,其所翻译之书,多法家言(如《英国律例》等书)。是故条例馆之开、律法科之设,非教习无人也,非探索无书也,是在当事者一主持之耳。(案泰西律例,多沿拿破仑改政之迹。拿破仑雄武冠世,为欧洲构一极大乱象,却为欧洲闢一极大治机,结局虽与吴王夫差同,而人心思恋,不以威虎掩其政迹,亦其律例便民故耳。又案美国总统起家法律者,十居五六,西人之重法律如此。)

## 外交论

春秋之世,由据乱而升平,而太平。世愈乱,文愈治,纬家附会为汉制作,非也。宣尼教法,治万世也,治西人所谓二十周以后之地球也,乃今始句萌矣。孟氏,孔氏真派也,重睦邻,称法家,斥争战之贼臣,权君民之轻重。李斯,孔氏孽派也,夜郎其国也,土番其民,而纡聪塞明之祸析至今也。

今膺环球之地之种之教,亚、欧、美、非、澳也,黄、白、红、黑、樱也,孔、佛、耶、希、回也。通万千年之肩镬,启大一统之机铃,意在斯乎!意在斯乎!然群雄环立,讥牙肆应,大役小,强捕弱,智吞愚。公使顶事杂遘五洲,听其言,彼此相助,同我太平;窥其国,争权拓利,炊剑渐矛,靡明靡晦。昔者中国方盛,英人惴惴,恐为支那有。我之创海军也,日本译议制御之策,惟一佞倭大臣曰:中国易与耳。曾几何时,而情见形拙若此。虽然,有以强弱,土耳其是;有以强亡,拿破仑是;有以弱存,希腊是;有以弱强,法、德、日本是。中国之弱,不弱于法、德、日本受创时,而各国之弱中国而谁猜异往时,则薪胆其中,而玉帛其外,是一生死肉骨之机也。

或曰:事急矣。柔以处之,而远东近东两病夫之言,耳之而佛也;刚以处之,而狡焉思逞,如瓜剖非洲者,繁有徒也。刚柔两难,一切交涉受亏之处,虽有圣智,未从挽回。譬有奇忧者,被酒而卧,栩栩然忘其身也。迨一警觉而忧且剧也。曾侯“先睡后醒”之论之益滋多虑也。

余曰:不然。今天下危机烈矣,欲窺其深者,不徒一国之交涉,务知各国之猜疑。夫英、俄力征经营而忘其为蚌鹬也。英之言曰:俄不得志土耳其、阿富汗及波斯海湾,乃构西伯利亚不冰海口。又因辽东之役,得允修东三省铁路之约,而中人人其彀中,而昂乎执亚东之牛耳,而骎骎有太平洋全权<sup>③</sup>、以副其大彼得临终之欲。俄之言曰:英人之亡印度以商,今又以饵中国也。其语言通行五洲,潜执五洲之大权。英、俄之雄猜如此。故合肥相国之贺俄加冕也,各国报馆以其携密约而往也,而德敬之,英伎之。各报之言曰:非敬中国也,敬俄也;非伎中国也,伎俄国也。若夫日本,昵英以强者也。其忍搆衅中国也,值俄铁路未成时,试兵威以自立也。然其高丽也,为俄俵也。吾闻之,披其枝者伤其心。中国若此,非日本之福也。法、德世仇,又不喜于英,埃及之役,牴牾几启端,遂折而入俄。德恐俄、法之犄角德也,亦昵俄以自固。然毕世马克尚在,沈机观变。全局瞭然,虽有振作,不露端倪。若有事之时,必且联盟于英也。意因得罗马,与法不合,必将昵德。奥、德争主欧洲中原,有夙衅,然奥弱于德,无如德何;但恐附俄以谋德,乃必就德而虞奥。然德与俄无怨,奥未遽颺预若此也<sup>④</sup>。比利时、西班牙则昵法,荷兰则昵英,希腊则昵俄。余如瑞典、挪威、丹马、葡萄牙、赛士兰,绿马尼,有中立者,有偏助者,盖随各国盛衰为向背也。土耳其孱弱甚,而残忍好战。其阿拉伯教益仇西教,争战之祸,无岁无之。自希腊脱羁縻后,塞尔维亚等国效之,近因格拉脱岛与希构兵,势且不支。或曰:希实俄主之,将

来俄欲甘心于上，黑海之战，乃其覆辙。而英于上、于波斯、于阿富汗。肩重任三而无时释也。美守局外之例，养兵不逾数万，然中、日之祸，曾助款于日以覆中国，抑何心哉？夫必明各国猜忌之深，知其不暇亟图我，不能协谋我，而我处可为之日，鬱自强之机，久矣。

若吾交涉最棘手者，莫英、俄、法、德、日本，若界务、商务、税务、教务，靡不稍纵即逝。说者以中俄三百年来未启兵端，深为可倚，近且联襟牵裾，交谊日密。独坐空山，放虎自卫，识者危之。英思由缅甸修铁路至云南，法思由安南修铁路至广西，蓄谋久矣。今涎俄之直轨东三省也，其谋奈何而不急也？夫以铁路阡陌之阴谋，四方而至，而懵于应付之宜者，不思展拓局势，研练人才，广铁路轮船之利相抵制，而曰吾羞吾西人，足周墙圯，犹坏其户而寝息也。而或恃有关中之雄，巴蜀之险，边警虽急，而兔窟迁营，是穴其室而堙其肉，盗且从而土之而骷骸我也。德与中向称亲睦，然中、日之役，英拟劝和，而德拒之，不仁甚矣！然今日联英悉俄，联俄悉英，联法、德，斗英、俄，而我徐收其利，虽仪、秦之辩，贲、育之勇，无所用之。而为寻雠日本之议，如昭烈之不忍孙吴者，尤为失策。何者？两瞽相遇，而仇道不修；两瘡相持，而色然以怒。吾见排解者之援以为功，而所丧滋多矣。故英、俄、法、德、日本，俱当开诚布公，与之交际；而吾之所争者，祇在智其民、强其学、富其本，不在挟忿寻仇之举也。

且惟至人为能忧盛危明、忠辱负重也。昔日本未变法以前，亦建议锁国者也，逮为荷兰学者极力通之，以有今日。然今律法更而约章改，利权横溢于五洲，外船绝迹于港汊，则是通塞塞通也。中国通亦通，不通亦通，与其通于人而失自主之权，何如通于己而扩小民之利。且吾民之耳目心思，非通未由新也；吾民之农商工艺，非通未由师也。而况天搆一英、俄交忌、莫敢先发之局，乃

冤吾痛痠未雨之桑根也；天搆一法、德、日本政学维新之局，乃道吾驰骋康庄之先路也。吾诚痛痠未雨，驰骋康庄，安知吾神明之裔，衣冠之族，不践宣尼太平之约，收二十周大同之轨也！吾犹汶汶阊阊，佻佻倪倪，疹疹集集，则大地溶溶而成江河，星球迸裂而为铁石，千万年皇王之旧国，四百兆轩辕之贵种，岂可恃哉？岂可恃哉？今之为交涉学者，不深洞其猜疑，不曲明其要害，以因应于无形，及时而自奋；而但斤斤成案，琐琐约章，犹之桎梏于囹圄，局促涕泣，不清讼源而图平反，而冀狱吏之一缓颊也。

## 通塞塞通论

中国奚以至今隔膜也？曰：中国受病之源，难更仆终也。中国从前之疆吏，以谓汉于匈奴，天上也；蜀于南人，天威也。张皇纡缪，苛索抑勒，上期朝廷，下遇士庶，以贻忧于今日也。西人渐知其情伪，乃以通非、澳者通中国，而中国不悟也。今之条约章程，屏中国于友邦外，凡有人心，罔不毗裂；而不知我屏西人于异类之时，其为西人痛恨者，弥历年岁也。

至于不谙交涉之律，办理过激者，如乾隆癸巳，澳门华民遇害猝死，讹言为英人肆阁所杀，阁适在葡署，华官索之出、事无左证，遽杀之，西人冤之。

若遣使修好，怀柔有经，或藩属，或友邦，仪文所在，不得自欺欺人。乃乾隆五十七年壬子，英遣使臣马甘尼、斯当冬来，请通商宁波、舟山、天津。乙卯，以国书至。疆吏美之曰入贡，礼官书之曰入贡。夫西国除属部外，虽小邦举平行，无人贡例。迨粤中移文责其入贡，英为愕然。

西人习知中国大吏，惟以兵胁，始俯首贴耳，就其圈豎。于是每一兴师，增一利益；一国沾利，诸国尾之，逐举中国前此疆吏之抑勒其人者，抑勒中国而不止。向使道咸以前诸臣，埒知通商利益，与其公法律例、政



俗风上，与之从容计议，约定章程，何至纠缠受亏若此<sup>15</sup>？鱼以烦烹致碎，熊以嗜饮为禽，苛勒贪鄙，遂梗历阶。此中国之愈塞愈通，扃其户而破其闼也。或且咎前人之未痛惩之以绝其覬觎也，今略举中西积愤之深如此，将中国之威福未施于西人耶？抑钳束张皇之自致溃裂耶？且彼时经营粤海，不过一二大班、数十散商，非有豪杰纵横之士也。夫冰洋之险也，地心之火也，星球之阻也，尚凿之通之不已，能独任中国庞然闭关耶？夫鼓之厉也空其中，虫之生也腐其质，中国尚能守卧榻鼾睡之鼾言，骄其士而愚其民耶？故不明前此傲很虚懦之所失，则乌能愤排于一隅，转圜于后日矣；不明前此西人之屡经摧抑，百折不回，则乌知我今日之受其摧抑者，当有坚忍沈毅之力持之矣。由前之说，去其骄心固心；由后之说，去其畏心怠心。而后代圣祖仁宗中外一家之至意无间焉。《诗》曰：“不競不綌，不剛不柔”。庶几哉！

## 通种说

夫人世界之有，不过五千余年，而其中之由简而繁，由粗而精，由野蛮而文明者，已若是纷纭蕃变，不可遏抑。则又安能谓西人之制作度数后于中国，必不足以陵驾中国，而铲我种类耶？况乃大地之运，先起者厥，后起者胜，错综参伍，莫知其由。又安能以千万年皇王之国，四百兆轩辕之种，庞然自大，以谓言种学者奚为挈彼犬羊之族类相等伦耶？

今夫世俗之子，荣古而虐今，贵耳而贱目，尊旧而卑新，比比然矣。西人则以新学、新国、新世界相夸耀，而鄙吾支那为旧国，为老国，为天弃之国。吾支那之人，则亦自安于旧，而老而天弃，夷然弗之耻。由是以言，则不大改其政治学术、列于公法之邦，会盟之国，欲求通种，且不可得，况乃以通种为谬说而从而低之耶？

## 使学要言

(中国遣使，其蔽有五)席此五蔽，抗彼方张，犹丛神与奕秋博，无著不差，无子不死，重性她缪<sup>16</sup>，以有今日，尚可言哉！尚可言哉！欲拯其蔽，厥端有十：一、王公大臣，首应遍游欧洲，以祛其惑。二、总署军机大臣，必曾充任公使，习中西律法者，其司员必曾任参赞随员者。三、充公使、领事、参赞、随员，必由学堂出身，给予文凭，先散秩，后实授，非此不得滥竽。四、公法律例，宜设专科，考验实，乃派往欧洲学习。五、由欧洲业成归，或派总署章京司员，或分遣各学堂主讲。六、华洋交涉处，宜急立律师，假以崇衔，予以便法。七、中西交涉事件，毋涉机心，毋逞私意，毋萌骄矜，毋始激烈、终畏葸。八、办理交涉者，任之终身，俾憔悴颠沛，谋图足而联外交。九、外国政学院，宜广选英儒，与之考试比较。马眉叔有言：“华人与西人交涉，时被欺蒙，非华人智短才疏也，名不扬而学不彰，则不足以服之。”十、内而总署军机大臣及司员，宜与公使、领事、参赞、随员随时互换。噫！此十策者，所以匡五蔽良药也。顾此中层累曲折之故，非一言能罄，不辞固陋，略举其要者著于篇：先命使根原，次选使新法，次奉使权分，次公使例略。

## 命使根原

或曰：今之欲明交涉学者，必谨诸史籍，权其得失异同，及天津、人律之何以应通不应塞，应睦邻不应构衅，应公权于国不应绝国于民，其故安在？且泰西之法，萌于何时？厄于何时，易于何时？

曰：人与人交涉，国与国交涉，乃天地自然之理。老子曰：“民各甘其食，美其服，安其俗，乐其业，至老死不相往来。”此上古之陋俗，公法家所云野蛮无文教者也。



今夫天之生人，无域无界。善承天者，必先融界域之见，始能治国平天下。佛家云大地山河了了到眼，又有三千世界，恒河沙数世界，每世界一佛主之。夫佛者，觉也。子與氏曰：“先知觉后知，先觉觉后觉。”盖吾华世界，不知经几先觉，报榛芜，拨云雾，始有政教开明之化。今则彼苍苍者，益大拓规模，任后天者之致其心思才力，通其塞，文其陋，驯至凡有血气莫不尊亲之境。恍所云千载一时，非欤？顾其开通之键，必自讲求交涉始。

由是言之，欧洲战祸，非交涉不平；交涉要义，非平等不仁。不平不仁，乌用使臣？故公法一书，所以平万国之等，而仁上帝之心也。惜乎大义虽明，群雄方竞，英惹俄，法惹英、惹德，俄、德外和而内携，英又不能于德，日本呢英毒俄相犄角，德、意、奥合纵局坏，不忧俄之乘其敝。之数雄国者，方鹰麟虎视，砺牙含涎，将伺隙动，择肥食。识者谓自时厥后，兵祸既旃，非维也纳、柏林之会所能平。而中国于俄，适为战国之韩，隐忧尤钜。则所以研练使才者，更不能须臾缓。及此不储，则火燎于原，薪穷于突，徒日就蹉跎，为天下后世增一泥古不通今之龟鉴耳，可不谓大哀乎！

## 抡使新法

欧洲各国办理外务，用才之例不一。有内外隔绝者，外为使臣参赞等员，内为外部总办，往往白首终于一事，故能收因熟生巧之效；然内外不能互调，即不免唐初内重外轻、唐季外重内轻，渐生轩轻之嫌。嫌则事滞，滞则弊滋，非策之得也。更有出使大臣可以内调，而参赞随员永无互换之期，其法亦未为平。惟英国新例，其外部大小司员，与出使之随员，及二三等参赞，可由领外部大臣，斟酌互换。则内外俱资研炼，消息繁灵，深得血轮流沙之妙。中国似宜参此法以

操纵使才，庶腹心布于环球，而指掌交资为用矣。

然则今日欲收使臣之效，其策安在？曰：其大纲已见总说所陈十端矣。其层累曲折之故，则虽京师有同文馆、大学堂，犹必先立使学堂为初基，择使学堂之卒业而铮铮者，升入同文馆以淬厉之。又国家必特设使学科，如法部新章，悬其约以自为之招，而后一夫善射，百夫决拾，不烦董劝，已如蛾趋焰，如蚁附膻，坐收得人之效。

董子有言：“素不养士而欲求贤，犹不琢玉而求文采也。”夫以西国之素重使才，而屈指百年间，自毕士马克、大意郎、加且高弗、巴未斯东寥寥数人外，犹难其选。而谓中国从不与外国相通，即一仪度、一语言，显然冰炭，而欲其与政教风俗之本末，深知灼见而损益之，乌可得邪？昔汉武出使绝域之诏，与将相并称，实三代下一大创举，惜未立使学以培植之，故武功文德，不能两盛。且其时匈奴役西域，不过野蛮土番之雄耳。今则全球万国，盱目环伺，各修其政，淬其学，以相觝制，折衡决胜，徂内辑外，机牙四出，百心莫照，此岂不学之徒所能任其万一哉？盛宣怀曰：“泰西各国来华使臣，类能尊主庇民，克举厥职，虽凭借国势，要其才行多有本原。中国遣使交邻，时逾廿载，阅历不为不广，然犹有乏才之叹者，毋亦孔孟义理之学，未植其本；中外政法之故，未通其大，虽熟嫻其语言文字，仅同小小道可观，而不足以致远也。”愚谓此最平情酌理之言。视彼先以词章考据科目之见横梗胸中，及与西人周旋，在在存一远不如我之心，一旦决裂，则曰：彼凭权藉势，非口舌所能挽回，而犹拘然以天使自居者，奚翅倍蓰！故欲言交涉，非特立使学科不可；欲立使学科，非预设使学堂不可。

## 奉使权分

或曰：使臣应守职分与其权力，《星轺指掌》已详哉言之，而今日中使所尤为当务之急者安在？曰：

一、宜与各国政府暨各国使臣水乳交融也。

一、宜与彼中贤士闻人切磨以学术也。

一、西国凡有盛举，宜勿恤糜费，勿辞猥琐，与之周旋也。

一、宜于使馆兼设西字日报，以维持公论也。

一、宜遴选中西条例者为随员也。

一、宜枕藉其新政诸书，<sup>⑦</sup>为中国变通之鹄也。

一、宜于华人流寓最多处，辟学堂以教育之也。

## 各国猜忌实情论证

呜呼！今之洞瞩时艰者，莫不曰：搏搏坤舆，尘尘苦海，一相争相妒相鱼肉之世界也。于此有人焉，舍权利而言忠信，舍智力而言仁让，舍疆舍而言胞与，壹以《春秋》太平世之法治之，以谓是交涉起点最初之义。又曰：斯世杀机，惟佛法可以已之。陈义未为不高，然以处今日群雄峙立之秋，能乎否乎？曰：不能。曰：然则一切兵学、商学、税学、界学、政治学、格致学，所以自存于相争相妒相鱼肉之世界，而为交涉根原者，乌可以已矣。今夫忠信、仁让胞与之实，无兵、商、税、界、政治、格致之学翼之而行，尚致齟齬，而况既无其实，又无其辅，而欲弱管操觚，远步向栩之《孝经》，台城之梵语，不值识者一粲耳。

今世士夫，不务所以自存于争妒鱼肉之秋，但一言外交，则攘成臂诟詈，涕唾交颐。吾不如彼其攘臂诟詈、涕唾交颐，遂能使彼数十雄国，畏我骄，厌我惰，相帅而去焉否

也？抑仍将讲求交涉应付之学，以通其隔阂也？既而曰：今日交涉之学昌乎？曰：未也。曰：何以故？曰：吾与各国交涉之以智不以仁，以力不以德知之。

孟子曰：“人则无法家拂士，出则无敌国外患者，国恒亡。”又曰：“生于忧患，死于安乐。”吾震旦之儒，发篋肱囊<sup>⑧</sup>，神明科目，诚安乐矣；如西人之忧患何？且夫忧患，非徒忧患之而已。一国核兵数，报即驰至五洲矣；一人出新理，名即播诸环球矣；一炸药，一枪炮，朝变旧式，暮乃群厂纷然矣；一比肩之国，得以租界，一游历之士，觅一新地，一格致之徒，采一佳矿，俄而蚁附羶趋，如狂如醉，沙漠而膏壤矣，穷荒而殷闾矣。故彼得（教徒名，非俄主）、路德之以兼爱易天下，奈端、哥白尼之以新法牖天下，来福、克虏伯、哈乞开斯之以利器毒天下，心力所至，混沌欲死。今其睚眦相向<sup>⑨</sup>，而祸机伏于眉睫，巢幕危于旦名，将使太平洋为血战场，四万万人为黑奴续者，尤谈交涉者所宜霍然梦觉也。呜呼！酷矣！难矣！然诚知其酷且难，而思变计焉，可不亡也。谓予不信，清析言之。

虽然，吾观数十年来徒以清议相持者，则不然。人之富强，弗问也，己之贫弱，弗知也，彼与吾同为含生负气之伦，弗顾也。但一言外交，则曰夷耳夷耳。不知我夷彼，而彼且夷我于三等土蛮也。昔曾湘乡，以旋转乾坤之力，勋施烂然，而天津一案，见轳清流，至今为诟。郭筠仙郎自海外归来，偶言泰西立国有本末，都人译载，万矢丛集，赍恨以终。自余丁禹生中丞有洋奴之称，李相国有倭奸之目。中日事起，朝野沸腾，至乃以勾引外人、赘壅日本为齐东野人所不屑道之澜言，登诸奏牍。其羌繆无稽，不值西人一笑，无责耳矣；而无识者尚隐然以疾风劲草相推许。呜呼！遍中国皆如是，后来肯从事交涉者，伊何人矣！则试问方今世局，能凭盛气、奋空拳，孤注君父以求一逞也。抑仍将缔好结盟，通商惠工，徐观其后耶？

噫！吾知之矣。平日以交涉一涂，未曾梦见，或时露其鄙夷非笑之心，自翹异于人；有事则指撻素所嫉妒一二人为诿过地<sup>10</sup>，且市忠愤名于天下。于是而人人汲黯，在在文山矣。虽然，吾窃悲政学之晦，至于此极，而一、二洞明中外、勉拯危局者，终被恶名而无济于时，犹不若蔽聪塞明之得肆觚排，而身名俱泰。《诗》曰：“天之方蹶，无然泄泄。”又曰：“天之沃沃，乐子之无知。”沈痛悲切，抑郁欲死，尚可言哉？尚可言哉？

洪辩子曰：是乃争妒鱼肉之私，横梗胸臆，祇知己不知人者也。公法家有言：人与人交涉，始相观而善；国与国交涉，始同臻上理。故公法主平权，主尚同，为性法最初之理，合人己、家国、中外而交致其功者也。今之昧政懵学者，与人己交涉，尚以争妒鱼肉之心处之，遑能以争妒鱼肉责外人者乎？夫其心之私、见之左，不特如上所云也。即以学言，儒、释有争，汉、宋有争，朱、陆有争，素王改制与非改制有争。驯至村学庸师，神明其人比五言之业，夜半无人，私相授受，一遇钻研政学，留心时局者，恐于其平日羣比之席相妨害，乃谄谄以异端贼愕，幸遇弄汨没他人子若弟，而末吾绳焉。

其或学会渐开，民智乍启，人人悟深固闭绝之非，则又一说曰：彼特树党沽名，以邀世用耳。又其甚者，于中外故实，稍知一二，乃枵然曰：彼言新学，吾亦言新学，彼之笔于报端，见诸论说者，吾既已知之矣，奚喋喋为？由是一切洞原西政之谈，瞠目不睹，辄偶刺欧、亚十数国名，船炮若干种名，与夫声、光、化、电等字，池池距人千里外。荀子曰：“人之异于禽兽者，以其能群也。”今挟其疾恶猜忌之心，与接为搆，则同此食息起居之伦若敌国然。小群既涣，大群斯亡。西人纵不协以谋我，我已有自溃之势。而况火燎于原，薪穷于突，枝叶未有害，本实先拔，尚何外交之足言！

夫西国政府，诚亦不能无争妒鱼肉之私，然彼亦争妒而益致力政学，为交涉之本；我

则只知争妒，而并友朋交涉之义去之，以沦于无文教之野人，若之何不穷且蹶也？故欲言交涉，自士始；欲士之言交涉，自平心静气，群其学于人类始。

## 论中国宜与英日联盟

有执古义规规绳于唐才常曰：齐襄公复九世之仇，子公羊子发其微曰：“上无天子，下无方伯，缘恩者何也。”记有之：“父母之仇，不共戴天，兄弟之仇，不反兵。”然则复仇之律，乃古事公法欤？故少康复后羿之仇，句践复夫差之仇，子胥复平王之仇，当时黻之，后世师之。

乃者，普、法世仇，忿争不已，公法家亦无由执其短长而评之、而释之。伟矣哉！复仇刷耻，直竖尽古今、横尽六合，无可比例之天经地义！甲午之役，日本藉衅朝鲜，僭我诮船，踏我陆军，割我膏腴，如天际饥鹰，掇身拳爪；又如穷山恶虎，伺人便食。中国不国，奄然待毙，以有今日，日本为之也；而英实尸子。今忘君父之大仇，而渙浚行成，又连而与之盟保岁塞，将贾肩睫斯须安乎？抑蚀骨之疽，终溃裂不可疗治也？毋宁北入俄，南入法，拱手德人，瓜分豆剖，所甘心焉，奚抗颜英日而以盟为？

唐才常曰：子知肱篋探囊发匮之盗而仇之，仇之诚是也。然而钜盗也，乃宅尔宅，田尔田，仆尔仆，子尔子，孙尔孙，尸尔囊，肩尔篋，发尔匮，而不尔谋，不尔斗。乃知向之肱篋探囊发匮者，犹警尔慢藏，撼尔剽睡，俾尔惺然于睇眦尔旁之有大盗在也。则是肱篋探囊发匮者，祇睚眦之怒；而其百倍睚眦之怒者。方矢注镞决尔心胸而命悬丝缕也。以悬丝缕之命，而犹阴血周作，张豚愤兴，修怨睚眦，必无幸焉矣。

今夫俄之蓄而谋亚、欧也，自其大彼德临终之言，已吼狂狮吼澡乱天下也。泊不得志土耳其、阿富汗、波斯海湾，折西搆西伯利亚铁路不冰海口，东向而争利便，遂因割

辽东一役，外饵甘言，内痛腐骨，于是狼牙密厉，魑毒潜吹，安坐而昂我四万万人之身家性命，而莫敢谁何。悲夫悲夫！宅尔宅，田尔田，仆而仆，子而子，孙尔孙，其阴谋狡毒，券我支那者，所谓司马昭之心，路人皆知也。

俄而东三省铁路归其掌握矣，俄而一纸索大连湾、旅顺，煽乱全球矣。视天梦梦，伊胡有域。不知联俄之策，出自何人，涎何利益，而仰鼻息于亡种亡国之大盗而父母之、帝天之，重愴地谬，一至斯极！《诗》曰：“谁生厉阶，至今为梗。”又曰：“鲜民之生，不如死之久矣。”吾恨不能起石晋桑维翰而刃之，而责某托庇牢固，奚以致出帝之诟辱踉跄也。

吾今纵览全球大势，而借箸筹之：英屡胜而老，日本新盛而惧，德、法相持而衅，俄可胜可败而横。何者？英属地遍五洲，商埠环瀛海，举事一不当，则鞭长莫及，全局互解，故持盈保泰其本心，而首相沙士勃雷侯又保党魁，其睥睨兵祸，莫能先发制人，不俟烦言决矣。日本席新胜之威，而购船置械，如嫫人入市，皇皇不贯米贯刀；惟敌德有余，敌俄则不足。牛瘠豚豚，唇亡寒齿，溢曰至遇，尚犹知之，况乃聪明洞瞩如日人者乎？德、法争昵俄以自固，其自为谋得矣，然天轰地颶<sup>①</sup>，面靺澜翻，以狼随虎，其利几何？俄负北冰洋而国，无议其后者，胜固胜，败亦胜，其必出而争衡者一；天刚淳涵，君权肆横，恒恃武功，以震压其国力，其必出而争衡者二；君权既重，民气益烈，希利尼人纵横犖鞞，亟思得华实上腴，以置党人而靖民变，其必出而争衡者三；打牲旧习，彼得雄心，择弱而欺，择肥而噬，蝼蚁人命，其何恤焉，其必出而争衡者四。而胜算四，而诸国无一焉，而中国衡焉，天乎人乎，至斯烈乎！

然吾以知英、日之必不坐视吾中国之斩焉渐灭也，彼非有爱于中国也，中国亡则虞虢之势成，而刺牀以肤矣。亦非不欲印度、

缅甸、波斯、琉球吾中国也，既商战吾国，则郡之县之，狝之薙之，其缓图矣。故今日欲医中国，条目千万，反复百千言莫能尽也。然脉证案决，周见切著，请妄立药可乎？曰治标，曰固本。固本之方、吾不敢骤陈；治标者，即联盟、曰之谓。而当轴诸公所吐弃与夫自命为忠义者所攘臂而争者也。英乌乎联？联以曰，曰乌乎联？联以学。中国而不欲图存则已，苟欲图存，则不如学矣；中国而求实学则已，苟求实学，则不如假途于日矣。

且夫兵也、商也、工也、农也、矿也、铁路也、皆学也。学既可通，则筹款兴办之事亦可通；款既可通，则整军御侮之事亦可通；军既可通，则休戚存亡之理亦可通。故以通学者通日，通日者通英，合中、日、英之力，纵横海上，强俄虽狡，必不敢遽肆于东封之志。法、德虽名附俄，岂能仇英、日而犯五洲之不韪？

才常尝太息譬之曰：中日搆衅，如两瞽相遇，而争道不休；两瘡相怒，而色然以斗，伺其傍者，或攫取其衣冠去，莫之觉，此可谓大愚不灵者矣。今日人既愿联盟我，且愿密联中、英相犄角，且愿性死生相扶持，千载一遇，何幸如之！何快如之！且夫以日联英，诚亦不敢洞其无弊，然商战之祸，熟如兵战之祸；阿富汗之胁，孰如卡肯特之胁；印度之惨，孰如波兰之惨。且吾不知波斯、土耳其之至今岌然者，英存之乎？俄存之乎？吾不知呼号割执于屠伯之乎，与觅方问药于同病之夫，肉我亲乎？骨我肉乎？系属我邻乎？雄猜我怨乎？夫联俄则然眉噬脐，旦夕即成异类；联日以联英，则皮肤之癣，犹可补抹于将来。夫害、两也，弊、两也，而权之衡之，吾宁取其轻焉耳。

#### 注释：

①瓮牖：简陋的门户，贫困的人。②詈詈：骂。③駉駉：马跑得很快。④顛预：糊涂。⑤纰缪：错误。⑥愴：谬误；地，同地；缪，同谬。⑦牀：枕。⑧篋：小箱子。祛，在一旁撬。

开。 ⑨睇睇：疾视。 ⑩撻：揭发。 ⑪翻：剖开。

# 七、法律谋略卷

## 引言

刘恩惠

在漫长的历史长河中，我们的先人对法律不断地进行探索，提出许多闪耀时代精神的谋略，对当时的政治和历史发展都产生了深刻影响。

远在西周时期，西周统治者总结商朝实行严刑酷法的教训，提出“明德慎刑”的主张，这是我国法律史上的一个具有深远影响的谋略。它强调用“常典”和“正刑”治民，不要滥用刑罚。在司法过程中，要区别故意和过失，一贯和偶犯。修正了商朝的“罚人以族”。开始注意对人们的教化。

春秋战国时期，社会发生巨大的变革，学术上出现“百家争鸣”的局面。各家对法律进行了激烈的争论。形成了以商鞅、申不害和韩非为代表的法家。他们主张“法治”，认为“禁奸止过，莫若重刑。”强调“不务德，而务法。”提出“以刑去刑”。韩非提出了“法”、“势”、“术”相结合的“法治”谋略。即实行“法治”必须“以法为本”，因为法律是人们行为的规范，衡量是非的标准，进行赏罚的依据。所以必须树立法律的绝对权威，而贯彻法律的手段是赏罚。为了立法和行赏罚，君主必须掌握权势，集大权于一身。同时必须做到“法”与“术”相结合，就是君主必须掌握驾驭臣下的方法，“藏于胸中，以偶众端，而潜御群臣”。荀子使儒法思想相结合，提出“治之经，礼与刑”的谋略，既“隆礼”又“重

法”。并对“人治”予新的解释，“有治人，无治法”。即法律不能离开人而立，人是起决定作用的。有了良法，还要靠人来贯彻执行，否则便成一纸具文。

西汉初年，封建统治者以秦为鉴，奉行黄老思想，实行“约法省禁”的政策。东汉时期，由于社会矛盾激化，桓谭从维护封建统治阶级利益出发，主张“威德更兴”，交替使用文和武、德和威的统治方法。强调刑不“二门”，选拔能执法的官吏。

三国两晋南北朝时期，战乱不断，封建统治阶级内部矛盾，阶级矛盾和民族矛盾错综复杂，严酷的社会现实使人们一定程度地冲破儒家“人治”思想的束缚，更加重视“法治”。诸葛亮主张“吾令威之以法，法行则知恩”，“治世以大德，不以小惠”。张斐总结历代的法律实践，提出“律者，当慎其变，审其理”，“随事轻重取法”等法律谋略，并阐发了司法中的刑、理、情三者的关系。而且对所谓故、失、谩、诈、不敬等二十种罪的基本概念，作出清楚的说明。葛洪总结历史的教训，提出“刑之为物，国之神器，君所自执，不可假人”的观点。并把“仁”和“刑”看作是维护封建统治阶级利益的两种工具，“仁”是为“脂粉”，“刑”是御世“警策”，并强调在乱世“刑”具有超越“仁”的重要作用。

隋唐时期，法律谋略又有新的发展。唐

太宗李世民“鉴前代成败，以为元龟”。以“安人宁国”作为立法的指导思想，提出“用法务在宽简”、“恤刑慎杀”、“一断以律”的立法和司法谋略，并注意法律的相对稳定，他强调“法令不可数变”，“诏令格式，若不常定，则人心多惑，奸诈益生。”著名政治家魏征认为“刑赏之本，在乎劝善惩恶”、“作法贵其宽平”，执法“必本所犯之事以为主，不严讯，不旁求，不贵多端”。柳宗元从提高封建司法工作效率出发，强调“赏罚务速”，对善恶行为要做出积极反应，这样就会使为善者积极地从事善行，从而减少犯罪，少用刑罚。诗人白居易提出“刑礼迭相为用”的法律谋略，认为刑礼都是治国不可缺少的手段，各有不同的作用，不可互相代替，两者设有固定不变的先后主次之分。确定刑礼先后顺序，应以“理乱之深浅”为转移。行拨乱之政应以刑为先，治平世则隆礼省刑。强调法律要“宽猛适宜”，疏密适当，司法中要“理大罪，赦小过”。主张要“悬法学为上科”，提高法学的地位，重视法官的选任。他认为“天下之人贫困思邪而多罪”，解决犯罪问题的关键在于治本。

辽宋金元时期，阶级矛盾和民族矛盾尖锐复杂，因此法律领域讨论的主要课题是如何加强封建法制。朱熹主张实行重刑，以“惩其一以戒百”要“严其始而使之无犯”。陈亮则从“义利双行”的观点出发，论述了君主制定赏罚并没有离开“利”，但君主不能以自己的喜怒之私控制天下，而要“以法为”。他主张轻刑，极力反对恢复肉刑。

明朝中叶，封建统治阶级更加腐朽，社会危机四伏。一些政治家在主张加强法治的同时，极力要振兴封建伦理道德。邱濬主张法律应该“本之经典”，把礼和法结合起来，形成“礼教刑辟，交相为用”的礼法体系，选拔明经知礼的人任司法官员，要加强对法律的宣教，为此法律条文要浅显易懂。由于土地兼并的激烈，为解决土地的争讼，提出建立图册制度，认为只要“严佐证，按图本，

则讼平矣。”王守仁提倡用保甲、乡约贯彻礼法，以十家为一甲，发现可疑者要立即报告官府，一家隐瞒，十家同罪，并选“年高有德”者，分赴乡间，进行教化。

明朝中叶以后，由于资本主义萌芽的出现，法律领域又出现新的异彩，提出具有时代特点的法律谋略。黄宗羲主张法律应当是“天下之公器”，成为维护“全民”利益的武器。必须废除“一家之法”，立“天下之法”，有了天下人的公平之法，才能实行法治，使天下太平。主张改变让胥吏立法和执法的制度，改为由农民轮流“值年”。让士大夫和知识分子担任司法工作。为让士大夫和知识分子参加议政，主张把学校变成议政机关。主张加强地方的自主性，实行地方分治。顾炎武猛烈地抨击了封建专制主义法律，主张取消封建专制主义之法，建立公天下之法。还主张对官吏实行法制，用州里“清议”来约束官吏。“官职之升沉，本于乡评之与夺”。这些主张在当时的历史条件下，具有一定的进步意义，它给中国古代法律谋略注入了新的成分。

清朝后期，随着中国社会的急剧转变，而使法律谋略也发生了巨大的变化。当时，中国人民为反对帝国主义、封建主义和适应民族资本主义发展的需要，不断向西方寻求自然与社会科学的理论，因而也引进一些西方资产阶级革命时期的法律思想，作为救亡图存的武器。洪仁玕考察了西方资本主义的政治、经济和文化，借鉴中外历史经验，在《资政新篇》中提出治国的关键是“用人”和“设法”。主张立法的重点从三方面进行。即“以风风之”；“以法法之”；“以刑刑之”。而关键是“以法法之”，主要是主张实行西方资本主义国家的政治经济制度，发展科学技术。强调立法之人必须“洞悉天人性情，熟谙各国风教，大小上下，源委重轻，无不了然于胸中者。”他主张“恩威并济”，要严肃认真地奉法、执法、行法，“下有不法，上不可无刑”。同时强调要给犯人“改过自新”的机

会，“为人上者，不可不亲身教导之”。做为资产阶级改良派的代表人物梁启超，认为“变法维新”是“救亡图存”的必由之路。要“因事势，从民欲，而立志改度，以利国民。”他鉴于“今日一奏，明日下一谕”发表一些纸上空文，而无济于事的现实，企图仿照西方资本主义国家的议会制，主张设置立法部制定法律，实行立法权和行政权分立，从而为中国的法律谋略增添了带有近代性质的新库藏。

总观中国的法律谋略，内容极为丰富，凝结着先人的智慧，是一份珍贵的历史遗产。

## 《管子》

### 题解：

相传为春秋时期齐国管仲著。实为后人托于他名的作品，共24卷，86篇，今存76篇。其中《版法》、《法法》、《重令》、《法经》、《明法》、《任法》、《法禁》等篇，论述了法治谋略。书中强调法律是治国的根本，法立后政事才有常规。所谓“不法法则事毋常”，“以法治国，则举措而已”。故“圣君任法而任智”。法要由君主制定，臣下执法，百姓只能守法。为实行法治，必须重“势”，即君主应紧紧地掌握权势。所谓“凡人君之所以为君者，势也。故人君失势则臣制之矣。势在下则君制于臣，势在上则臣制于君。”权柄不可下移。君主操纵的权柄有六项，即“生之杀之，富之贫之，贵之贱之。”书中强调法律的稳定性，所谓“法不可不恒也”，法有恒不变才可以守。执法首先要从君主做起，不可以徇私情，指出“爱人不私赏也，恶人不私罚也，置仪设法以度量断者，上主也；爱人而私赏之，恶人而私罚之，倍大臣，离左右，专以心断者中主也；臣有所爱而为私赏之，有所恶而为私罚之，倍其公法，损其正心，专听大臣，危主也。”并主张厚赏重罚，认为“赏薄则民不利，禁轻则邪人不畏。”所以“赏不足劝则士民不为用，刑罚不足畏则暴人轻

犯禁。”《管子》虽是后人假托之作，但其中有些思想源于管仲。

## 版 法

凡将立事，正彼天植<sup>①</sup>，风雨无违，远近高下各得其辞，三经既飭，君乃有国。喜无以赏，怒无以杀，喜以赏怒以杀，怨乃起，令乃废，骤令不行，民心乃外。外之有徒<sup>②</sup>，祸乃始芽，众之所忿，寡不能图。举所美必观其所终，废所恶必计其所穷。庆勉敦敬以显之，富禄有功以劝之，爵贵有名以休之。兼爱无遗，是谓君心，心先顺教，万民向风，旦暮利之，众乃胜任。取人以己，成事以质<sup>③</sup>。审用财，慎施报<sup>④</sup>，察称量。故用财不可以啬<sup>⑤</sup>，用力不可以苦，用财啬则费，用力苦则劳。民不足，令乃辱，民苦殃，令不行，施报不得，祸乃始昌，祸昌不寤，民乃自图。正法直度，罪杀不赦，杀戮必信，民畏而惧，武威既明，令不再行。顿挫怠倦以辱之，罚罪宥过以惩之<sup>⑥</sup>，杀戮犯禁以振之。植固不动，奇衰乃恐<sup>⑦</sup>，奇草衰化，令往民移。法天合德，象地无亲，参于日月，伍于四时。能以所不利利人，能以所不有予人。悦民有爱施，有众在废私，召远在修近，闭祸在除怨，修长在乎任贤，高安在乎同利。

## 法 经

法，古之法也。有生法，有守法，有法于法。贵不能威<sup>⑧</sup>，富不能禄<sup>⑨</sup>，贱不能事<sup>⑩</sup>，近不能亲<sup>⑪</sup>，美不能淫。禁胜于身则令行于民<sup>⑫</sup>。私议立则主道卑<sup>⑬</sup>。法不可不恒也。上无固植，下有疑心，国无常经，民力必竭。宪律制度必法道<sup>⑭</sup>，号令必著明<sup>⑮</sup>，赏罚必信密，此正民之经也。令重于宝，社稷先于亲戚，法重于民，威权贵于爵禄。常令不审则百匿胜，官爵不审则奸吏胜，符节不审则奸民胜，刑法不审则盗贼胜，国之四经败，人君泄泄，危。治人如治水潦<sup>⑯</sup>，养人如养



六畜，用人如用草木。明君者，事断者也。亏令者死，益令者死，不行令者死，留令者死，不从令者死，令重而民恐。赦出则民不敬，惠行则过日益，邪莫如早禁之。君人者制人，臣人者守信。德侵则君危，论侵则有功者危<sup>①</sup>，令侵则官危，刑侵则百姓危，明君者审禁淫侵者也。令人而不出，谓之蔽，令出而不入，谓之壅，令出而不行，谓之牵，令人而不至，谓之假。请人而不出谓之灭<sup>②</sup>，出而不入谓之绝，人而不至谓之侵，出而道止谓之壅。贤人不至谓之蔽，忠臣不用谓之塞，令而不行谓之障，禁而不止谓之逆。

## 法 法

不法法则事毋常<sup>③</sup>，法不法则令不行。令而不行，则令不法也，法而不行，则修令者不审也，审而不行，则赏罚轻也，重而不行，则赏罚不信也，信而不行，则不以身先之也。故曰，禁胜于身则令行于民矣。

君有三欲于民，三欲不节则上位危，三欲者何也，一曰求，二曰禁，三曰令。求必欲得，禁必欲止，令必欲行，求多者其得寡，禁多者其止寡。令多者其行寡，求而不得则威日损，禁而不止则刑罚侮。令而不行则下陵上<sup>④</sup>。故未有能多求而多得者也。未有能多禁而多止者也。未有能多令而多行者也。何故，曰，上苛则下不听，下不听而强以刑罚，则为人上者众谋矣，为人上而众谋之，虽欲无危不可得也。号令已出又易之，礼义已行又止之，度量已制又迁之，刑罚已措又移之。如是则庆赏虽重，民不劝也，杀戮虽繁，民不畏也。故曰，上无固植，下有疑心，国无常经，民力必竭，数也。

令未布而民或为，为而赏从之，则是上妄予也。上妄予则功臣怨，功臣怨而愚民操事于妄作。愚民操事于妄作，则大乱之本也，令未布而罚及之，则是上妄诛也。上妄诛则民轻生，民轻生则暴人兴，曹党起而乱贼作矣。令已布而赏不从，则是使民不劝勉，不

行制，不死节，民不劝勉不行制不死节，则战不胜守不固，战不胜而守不固，则国不安矣。令已布而罚不及，则是教民不听。民不听则强者立，强者立则主位危矣。故曰，宪律制度必法道，号令必著明，赏罚必信密，此正民之经也。

国无以小与不幸而削亡者，必主与大臣之德行失于身也，官职法制政教失于国也，诸侯之谋虑失于外也，故地削而国危矣。国无以大与幸而有功名者，必主与大臣之德行得于身也，官职法制政教得于国也，诸侯之谋虑得于外也，然后功立而名成。然则国何可无道，人何可无求。得道而导之，求贤而使之，将有所大期于兴利除害。期于兴利除害，莫急于身，而君独甚。令之伤也必先自失，人主失令而蔽，已蔽而劫而弑<sup>⑤</sup>。

明君在上位，民毋敢立私议自贵者，国无怪征<sup>⑥</sup>，无杂俗，无异礼，士毋私议，倨傲易令<sup>⑦</sup>，错仪画制作议者尽诛，故强者折，锐者挫，坚者破。引之以绳墨，绳之以诛僇<sup>⑧</sup>，故万民之心皆服而从上，推之而往，引之而来，彼下有立其私议自贵分争而退者，则令自此不行矣。况主倨傲易令，错仪画制，变易风俗，诡服殊俗犹立。故曰，私议立则主道卑矣。上不行君令，下不合于乡里，变更自为，易国之成俗者，命之曰不牧之民。不牧之民，绳之外也<sup>⑨</sup>，绳之外诛。

民无重罪，过不大也。民无大过，上毋赦也。上赦小过则民多重罪，积之所生也。故赦出则民不敬，惠行则过日益，惠赦加于民，囹圄虽实，杀戮虽繁而奸不胜矣，故曰，邪莫如早禁之。赦过遗善则民不励，有过不赦，有善不遗，励民之道于此乎用之矣，故曰，明君者事断者也。

凡赦者，小利而大害者也。故久而不胜其祸，毋赦者，小害而大利者也，故久而不胜其福，故赦者奔马之委轡，毋赦者痤疽之矿石也。文有三脩<sup>⑩</sup>，武无一赦，惠者多赦者也。先易而后难，久而不胜其祸。法者先难而后易，久而不胜其福。故惠者民之仇讎

也，法者民之父母也。

## 重 令

凡君国之重器，莫重于令。令重则君尊，君尊则国安，令轻则君卑，君卑则国危。故安国在乎尊君，尊君在乎行令，行令在乎严罚。罚严令行则百吏皆恐，罚不严令不行，则百吏皆喜。故明君察于治民之本，本莫要于令，故曰亏令者死，益令者死，不行令者死，留令者死，不从令者死，五者死而无赦，惟令是视。故曰令重而下恐。

为上者不明，令出虽自上，而论可与不可者在下，令出而论可与不可者在官，是威下分也。夫倍上令以为威，则行恣于己以为私，百吏奚不喜之有，且夫令出虽自上，而论可与不可者在下，是威下系于民也。威下系于民而求上之毋危，不可得也。令出而留者无罪，则是教民不敬也。令出而不行者无罪，行之者有罪，是皆教民不听也。益损者无罪，则是教民邪途也。如此则巧令之人将以此成为私交，比周之人将以此阿党取与，贪利之人将以此收货聚财，懦弱之人将以此阿贵事富，便辟伐矜之人将以此买誉成名。故令一出，示民邪途五衢，而求上之毋危下之毋乱，不可得也。

凡人君之所以为君者，势也<sup>②</sup>。故人君失势则臣制之矣，势在下则君制于臣矣，势在上则臣制于君矣。故君臣之易位，势在下也，在臣期年，臣虽不忠，君不能夺也，在子期年，子虽不孝，父不能服也，故春秋之记，臣有弑其君者，子有弑其父者矣。故曰，堂上远于百里，堂下远于千里，门庭远于万里，今步者一日，百里之情通矣，堂上有事，十日而君不闻，此所谓远于百里也，步者十日，千里之情通矣，堂上有事，一月而君不闻，此所谓远于千里也，步者百日，万里之情通矣，门庭有事，期年而君不闻<sup>③</sup>，此所谓远于万里也。故请人而不出谓之灭，出而不入谓之绝，入而不至谓之侵，出而道止谓之壅。

灭绝侵壅之事君者，非杜其门而守其户也，为政之有所不行也。故曰，令重于宝，社稷先于亲戚，法重于民，威权贵于爵禄。故不为重宝轻号令，不为亲戚后社稷，不为爱民枉法律，不为爵禄分威权。故曰，势非所以予人也。

凡人君之德行威严，非独能尽贤于人也。曰人君也，故从而贵之，不敢论其德行之高卑。有故为其生杀急于司命也。富人贫人使人相畜也，贵人贱人使人相臣也，人主操此六者以畜其臣。人臣亦望此六者以事其君。君臣之会，六者为之谋，六者在臣期年，臣不忠君不能夺，在子期年，子不孝父不能夺。故《春秋》之记，臣有弑其君者，子有弑其父者，得此六者而君父不知也。六者在臣则主蔽矣，主蔽者失其令也。故曰，令人而不出谓之蔽，令出而不入谓之壅，令出而不行谓之牵，令人而不至谓之假。牵假蔽壅之事君者，非敢杜其门而守其产也，为令之有所不行也。此其所以然者，由贤人不至而忠臣不用也，故人主不可以不慎其令，令者人主之大宝也。贤人不至谓之蔽，忠臣不用谓之壅，令而不行谓之障，禁而不止谓之逆。蔽壅障逆之君者，不敢杜其门而守其户也，为贤者之不至令之不行也。

凡大国之君尊，小国之君卑。大国之君所以尊者，何也？曰，为之用者众也。小国之君所以卑者，何也？曰，为之用者寡也。然则为之用者众则尊，为之用者寡则卑，则人主安能不欲民之众为己用也。使民众为己用奈何！曰，法立令行，则民之用者众矣。法不立令不行，则民之用者寡矣。故法之所立令之所行者多，而所废者寡，则民不诽议，民不诽议则听从矣，法之所立令之所行与其所废者钧，则国无常经，国无常经则民妄行矣。法之所立令之所行者寡，而其所废者多，则民不听，民不听则暴人起而奸邪作矣。

凡民之从上也，不从口之所言，从情之所好者也，上好勇则民轻死，上好仁则民轻财，故上之所好，民必甚焉。是故明君知民

之必以上为心也，故置法以自治，立仪以自正也，故上不行则民不从，彼民不服法死制，则国必乱矣。是以有道之君，行法修治，先民服也。

明王在上，道法行于国，民皆舍所好而行所恶。故善用民者，轩冕不下拟而斧钺不上因。计上之所以爱民者，为用之爱之也。为爱民之故，不难毁法亏令，则是失所谓爱民矣。夫以爱民用民，则民之不为用明矣。夫至用民者杀之危之劳之苦之饥之渴之。用民将致之此极也，而民无可与虑害己者，如是则贤者劝而暴人止。贤者劝而暴人止，则功名立其后矣。蹈白刃受矢石入水火以听上令，上令尽行禁尽止。引而使之，民不敢转其力。推而战之，民不敢爱其死。不敢转其力然后有功，不敢爱其死然后无敌。进无敌退有功，是以王者之众皆得保其首领，父母其子完安于内。故民未尝可与虑始而可与乐成功，是故仁者智者有道者不与人虑始。

凡先王治国之器三，攻而毁之者六。明王能胜其攻，故不益于三者而自有国正天下。乱王不能胜其攻，故亦不损于三者而自有天下而亡。三器者何也？曰，号令也，斧钺也<sup>⑩</sup>，禄赏也。六攻者何也？曰亲也，贵也，货也，色也，巧令也，玩好也。三器之用何也？曰，非号令无以使下，非斧钺无以威众，非禄赏无以劝民。六攻之败何也？曰，虽不听而可以得存者，虽犯禁而可以得免者，虽无功而可以得富者。

凡国有不听而可以得存者，则号令不足以使下。有犯禁而可以得免者，则斧钺不足以威众。有无功而可以得富者，则禄赏不足以劝民。

号令不足以使下，斧钺不足以威众，禄赏不足以劝民，若此则民毋为自用。民毋为自用，则战不胜。战不胜而守不固，守不固则敌国制之矣。

然则先王将若之何？曰，不为六者变更于号令，不为六者疑措于斧钺，不为六者益损于禄赏。若比则远近一心，远近一心则众

寡同力。众寡同力则战可以必胜，守可以必固，非以并兼攘夺也，以为天下政治也，此正天下之道也。

## 明 法

所谓治国者，主道明也，所谓乱国者，臣术胜也。夫尊君卑臣，非计亲也，以势胜也。百官计职，非惠也，刑罚必也。故君臣共道则乱，专授则失。夫国有四亡，令求不出谓之灭，出而道留谓之塞，下情求不上通谓之壅，下情上而道止谓之侵，故夫灭侵塞壅之所生，从法之不立也。

是故先王之治国也，不淫意于法之外，不为惠于法之内也。动无非法者，所以禁过而外私也。威不两错，政不二门，以法治国，则举措而已。

是故有法度之制者不可巧以诈伪，有权衡之称者不可欺以轻重，有寻丈之数者不可差以长短。今主释法，以誉进能，则臣离上而下比周矣，以党举官，则民务交而不求用矣，是故官之失其治也。是主以誉为赏以毁为罚也，然则喜赏恶罚之人，离公道而行私术矣。比周以相为匿，是忘主死交以进其誉，故交众者誉多，外内朋党虽有大奸，其蔽主多矣。是以忠臣死于非罪，而邪臣起于非功，所死者非罪所起者非功也。然则为人臣者，重私而轻公矣。十至私人之门，不一至于廷，百虑其家，不一图国，属数虽众，非以尊君也；百官虽具，非以任国也，此之谓国无人。

国无人者，非朝臣之衰也，家与家务于相益，不务尊君也。大臣务相贵而不任，小臣持禄养交，不以官为事，故官失其能。是故先王之治国也，使法择人，不自举也，使法量功，不自度也，故能匿而不可蔽，败而不可饰也，誉者不能进而诽者不能退也。然则君臣之间明别，明别则易治也，主虽不身下为，而守法以为之可也。

夫君臣者，天地之位也，民者众物之象也。各立其所职以待君令，群臣百姓安得各

用其心而立私乎。故遵主令而行之，虽有伤败无罚，非主令而行之，虽有功利罪死，是故下之事上也，如响之应声也。臣之事主也，如影之从形也。故上令而下应，主行而臣从，此治之道也。夫非主令而行，有功利因赏之，是教民妄举也。遵主令而行，有伤败而罚之，是使民虑利害而离法也。群臣百姓，人虑利害而以其私心举措，则法制毁而令不行矣。

## 任 法

圣君任法而不任智，任数而不任说，任公而不任私，任大道而不任小物，然后身佚而天下治。失君则不然，舍法而任智，故民舍事而好誉，舍数而任说，故民舍实而好言，舍公而好私，故民离法而妄行，舍大道而任小物，故上劳烦下迷惑而国家不治。圣君则不然，守道要，处佚乐，驰骋弋猎，钟鼓竿瑟，宫中之乐无禁圉也。不思不虑，不忧不图，利身体，便形躯，养寿命，垂拱而天下治。是故人主有能用其道者，不事心，不劳意，不动力，而土地自辟，囷仓自实，蓄积自足，甲兵自强，群臣无诈伪，百官无奸邪，奇术技艺之人，莫敢高言孟行以过其情以遇其主矣。

昔者尧之治天下也，犹埴之在埴也<sup>①</sup>，唯陶之所以为。犹金之在矿也，恣冶之所以铸。其民引之而来，推之而往，使之而成，禁之而止。故尧之治也，善明法禁之令而已矣。黄帝之治天下也，其民不引而来，不推而往，不使而成，不禁而止，故黄帝之治也。置法而不变，使民安其法者也。所谓仁义礼乐者，皆出于法，此先圣之所以一民者也。……故曰法不可不恒也，存亡治乱之所从出，圣君所以为天下大仪也，君臣上下贵贱皆发焉，故曰法古之法也。

世无请谒任举之人，无间识博学辩说之士，无伟服，无奇行，皆囊于法以事其主。故明王之所恒者二：一曰明法而固守之，二曰禁民私而收使之，此二者主之所恒也。夫

法者，上之所以一民使下也。私者，下之所以侵法乱主也，故圣君制仪设法而固守之。然故谋材习士间识博学之人，不可乱也，众强富贵私勇者不能侵也，信近亲爱者不能离也，珍奇怪物不能惑也，万物百事非在法之中者不能动也。故法者天下之至道也，圣君之实用也。

今天下则不然，皆有善法而不能守也，然故谋材习士间识博学之士，能以其智乱法惑上；众强富贵私勇者，能以其威犯法侵陵；邻国诸侯能以其权置子立相；大臣能以其私附百姓，翦公财以禄私士；凡如是而求法之行国之治，不可得也。圣君则不然，卿相不得翦其私，群臣不得辟其所亲爱。圣君亦明其法而固守之，群臣修通辐凑以事其主，百姓辑睦听令道法以从其事。故曰，有生法，有守法，有法于法，夫生法者君也，守法者臣也，法于法者民也。君臣上下贵贱皆从法，此之谓大治。

故主有三术，夫爱人不私赏也，恶人不私罚也，置仪设法以度量断者，上主也；爱人而私赏之；恶人而私罚之，倍大臣，离左右，专以其心断者，中主也；臣有所爱而为私赏之，有所恶而为私罚之，倍其公法，损其正心，专听其大臣者，危主也。故为人主者，不重爱人，不重恶人。重爱曰失德，重恶曰失威，威德皆失，则主危也。

故明王之所操者六：生之杀之，富之贫之，贵之贱之，此六柄者主之所操也。主之处者四：一曰文，二曰武，三曰威，四曰德，此四位者主之处也。藉人以其所操，命曰夺柄。藉人以其所处，命曰失位。夺柄失位而求令之行，不可得也，法不平令不全，是亦夺柄失位之道也，故有为枉法，有为毁令，此圣君之所以自禁也。故曰，贵不能威，富不能禄，贼不能事，近不能亲，美不能淫也。

植固而不动，奇邪乃恐，奇革而邪化，令往而民移。故圣君秩度量，置仪法，如天地之坚，如列星之固，如日月之明，如四时

之信，然故令往而民从之。而失君则不然，法立而还废之，令而后反之，枉法而从私，毁令而不全，是贵能威之，富能禄之，贱能事之，近能亲之，美能淫之也。此五者不禁于身，是以群臣百姓，人挟其私而幸其主。彼幸而得之则主日侵，不幸而不得则怨日产。夫日侵而产怨，此失君之所宜慎也。凡为主而不得用其法，不适其意，顾臣而行，离法而听贵臣，此所谓贵而威之也。富人用金玉事主而来焉，主离法而听之，此所谓富而禄之也。贱人以服约卑敬悲色告诉其主，主因离法而听之，此所谓贱而事之也。近者以逼近亲爱，有求其主，主因离法而听之，此所谓近而亲之也。美者以巧言令色请其主，主因离法而听之，此所谓淫之也。治世则不然，不知亲疏远近贵贱美恶，以度量断之，其杀戮人者不怨也，其赏赐人者不德也，以法制行之，如天地之无私也，是以官无私论，士无私议，民无私说，皆虚其匈以听于上，上以公正论，以法制断，故任天下而不重也。今乱君则不然，有私视也，故有不见也，有私听也，故有不闻也。有私虑也，故有不知也。夫私者壅蔽失位之道也，上舍公法而听私说，故群臣百姓皆设私立方以教于国，群党比周以立其私，请谒任举以乱公法，人用其心以幸于上，上无度量以禁之，是以私说日益而公法日损，国之不治从此产矣。

## 法 禁

法制不议则民不相私<sup>③</sup>，刑杀毋赦则民不偷于为善<sup>④</sup>，爵禄毋假则下不乱其上<sup>⑤</sup>，三者藏于官，则为法，施于国则成俗，其余不强而治矣。君壹置其仪，则百官守其法。上明陈其制，则下皆会其度矣。君之置其仪也不一，则下之倍法而立私理者必多矣。是以人用其私，废上之制而道其所闻，故下与官列法，而上与官分威，国家之危必自此始矣。

昔者圣王之治其民也，不然，废上之法制者必负以耻。财厚博惠以私亲于民者，正

经而自正矣。乱国之道，易国之常，赐赏恣于己者，圣王之禁也。圣王既歿，受之者衰。君人而不能知立君之道以为国本，则大臣之赘下而射人心者必多矣，君不能审立其法以为下制，则百姓之为私理而径于利者必重矣。

昔者圣王之治人也，不贵其人博学也，欲其人之和同以听令也，《泰誓》曰，“纣有臣亿万人，亦有亿万之心，武王有臣三千而一心，故纣以亿万之心亡，武王以一心存，故有国之君，苟不能同人心，一国威，齐士义，通上之治以为下法，则虽有广地众民，犹不能以为安也。君失其道，则大臣比权重以相举于国，小臣必循例以相就也。故举国之士以为亡党，行公道以为私惠。进则相推于君，退则相誉于民，各便其身而忘社稷，以广其居，聚徒成群，上以蔽君，下以索民，此皆弱君乱国之道也。故国之危也，擅国权以深系于民者，圣王之禁也；其身毋任于上者，圣王之禁也；进则受禄于君，退则藏禄于室，毋事治职，但力事属私，王官私，君事去，非其人而人尚私行者，圣王之禁也。

修行则不以亲为本，治事则不以官为主，举无能进无功者，圣王之禁也；交人则以为己赐，举人则以为己劳，仕人则与分其禄者，圣王之禁也；交于利通而获于贫穷，轻取于其民而重致于其君，削上以附下，枉法以求于民者，圣王之禁也；用不称其人，家富于其列，其禄甚寡而资财甚多者，圣王之禁也。

拂世以为行，非上以为名，常反上之法制以成群于国者，圣王之禁也；饰于贫穷而发于勤劳，权于贫贱，身无职业，家无常产，列上下之间，议言为民者，圣王之禁也；壅士以为亡资，修田以为亡本，亡则生之，养私不死，然后失矫以深与上为市者，圣王之禁也。

审饰小节以示民，时言大事以动上，远交以逾群，假爵以临朝者，圣王之禁也；卑身杂处，隐行辟倚，侧人远仰，遁上而遁民者，圣王之禁也；诡俗异礼，大言决行，难

其所为而高自错者，圣王之禁也；守委间居，博分以致众，勤身遂行，悦人以货财，济人以买誉，其身甚静而使人求者，圣王之禁也。

行僻而坚，言诡而辩，术非而博，顺恶而泽者，圣王之禁也；以朋党为友，以蔽恶为仁，以数变为智，以重敛为忠，以遂忿为勇者，圣王之禁也；固国之本，其身务后于上，而深附于诸侯者，圣王之禁也。

圣王之身，治世之时，德行必有所是，道义必有所明。故士莫敢诡俗异礼以自见于国，莫敢布惠缓行，修上下之交以和亲于民，莫敢超等逾官渔利苏功以取顺其君。圣王之治民也，进则使无由得其所利，退则使无由避其所害，必使反手安其位乐其群务其职荣其名而后止矣。故逾其官而离其群者，必使有害；不能其事而失其职者，必使有耻。是故圣王之教民也，以仁措之，以耻使之，修其能致其所成而止。故曰，绝而定，静而治，安而尊，举错而不变者，圣王之道也。

#### 注释：

①天植：心。 ②徒：党徒。 ③成事：成就一事。以质：重实质。 ④施：上逮之下。报：下之从上。 ⑤嗇：小气。 ⑥宥：宽容，饶恕。 ⑦褻：“邪”的异体字。 ⑧威：擅其威。 ⑨禄：侈其禄。 ⑩事：巧而事。 ⑪亲：怙其亲。 ⑫禁：禁令。 ⑬主：君主。 ⑭宪：宪令。律：法律。制：规制。度：量度。法道：合于道。 ⑮著名：明确易懂。 ⑯潦：积水。 ⑰论：互相谘论。 ⑱请：臣民有所陈请。不出：答令不出。 ⑲灭：湮灭。 ⑳常：常轨。 ㉑陵：凌侮。 ㉒弑：臣杀君主。 ㉓怪征：怪异之征象，怪政。 ㉔倨：傲慢。 ㉕缪：同“戮”。 ㉖绳：法。 ㉗三侑：一曰不识，二曰过失，三曰遗忘。 ㉘衢：大路。 ㉙势：权势。 ㉚期年：一整年。 ㉛斧钺：刑罚。 ㉜埴：粘土。埴：边远之地。 ㉝不相私：无私议。 ㉞不偷：不阴行私惠。 ㉟毋假：不敢违法徇私。

## 《尚 书》

#### 题解：

原称《书》，战国以来儒家尊称《书经》，西汉始用今名。相传由孔子编订，由商周战国时期的文献资料汇集而成。其中《康诰》、《吕刑》等篇，讲西周时期的法律思想和谋略。西周统治者总结商朝灭亡的教训，提出“明德慎刑”的主张，强调用“常典”和“正刑”治民，不要滥用刑罚；在司法过程中，注意区别故意和过失，一贯和偶犯。故意和一贯，小罪也要重罚。过失和偶犯，虽大罪也可减刑；缩小株连面，修正了商朝的“罚人以族”。开始注意教化，所谓“勿庸杀之，姑惟教之”。

### 康 诰

惟乃丕显考文王<sup>①</sup>，克明德慎罚<sup>②</sup>，不敢侮齔寡，庸庸<sup>③</sup>、衿衿<sup>④</sup>、威威<sup>⑤</sup>、显民。用肇造我区夏<sup>⑥</sup>。越我一二邦，以修我西土。惟时怙冒<sup>⑦</sup>，闻于上帝。帝休<sup>⑧</sup>天乃大命文王，殪戎殷<sup>⑨</sup>，诞受厥命，越厥邦厥民。

王曰：“呜呼，小子封<sup>⑩</sup>！恫寡乃身<sup>⑪</sup>，敬哉！天畏棗忱<sup>⑫</sup>，民情大可见，小人难保。往尽乃心，无康好逸豫，乃其乂民<sup>⑬</sup>。我闻曰：‘怨不在大，亦不在小，惠不惠，懋不懋<sup>⑭</sup>。’已！汝惟小子，乃服惟弘王<sup>⑮</sup>，应保殷民，亦惟助王宅天命<sup>⑯</sup>，作新民。”

王曰：“呜呼，封！敬明乃罚。人有小罪，非眚<sup>⑰</sup>，乃惟终，自作不典<sup>⑱</sup>，式尔<sup>⑲</sup>，有厥罪小，乃不可不杀。乃有大罪，非终<sup>⑳</sup>，乃惟眚灾<sup>㉑</sup>，适尔<sup>㉒</sup>，既道极厥辜时乃不可杀<sup>㉓</sup>。”

王曰：“呜呼，封！有叙时<sup>㉔</sup>，乃大明服<sup>㉕</sup>，惟民其勑懋和<sup>㉖</sup>。若有疾，惟民其毕弃咎<sup>㉗</sup>。若保赤子，惟民其康乂<sup>㉘</sup>。非汝封刑人杀人，无或刑人杀人；非汝封又曰剿刳人，无或剿刳人。”

王曰：“外事<sup>㉙</sup>，汝陈时臬司<sup>㉚</sup>，师兹殷

罚有伦<sup>①</sup>。”

凡民自得罪，寇攘奸宄<sup>②</sup>，杀越人于货，  
譬不畏死<sup>③</sup>，罔弗憝<sup>④</sup>。

元恶大憝，矧惟不孝不友。子弗祗服厥  
父事，大伤厥考心；于父不能字厥子<sup>⑤</sup>，乃  
疾厥子。于弟弗念天显<sup>⑥</sup>，乃弗克恭厥兄；  
兄亦不念鞠子哀，大不友于弟。惟吊兹，不  
于我政人得罪<sup>⑦</sup>，天惟与我民彝大泯乱，曰：  
乃其速由文王作罚，刑兹无赦。

不率大戛<sup>⑧</sup>，矧惟外庶子训人<sup>⑨</sup>，惟厥  
正人越小臣诸节。乃别播敷，造民大誉<sup>⑩</sup>。  
弗念弗庸，瘵厥君<sup>⑪</sup>，时乃引恶，惟朕憝。  
已！汝乃其速由兹义率杀。

王曰：“封！敬哉，无作怨，勿用非谋非  
彝<sup>⑫</sup>，蔽时忱，丕则敏德。用康乃心，顾乃  
德，远乃猷<sup>⑬</sup>裕，乃以宁民，不汝瑕殄<sup>⑭</sup>。”

王曰：“呜呼！肆汝小子封<sup>⑮</sup>，惟命不于  
常，汝念哉！无我殄享<sup>⑯</sup>。”

## 吕 刑

皇帝清问下民，鳏寡有辞于苗。德威惟  
畏，德明惟明。乃命三后<sup>⑰</sup>，恤功于民，伯  
夷降典，折民惟刑<sup>⑱</sup>。

士制百姓于刑之中，以教祗德。穆穆在  
上<sup>⑲</sup>，明明在下<sup>⑳</sup>。灼于四方，罔不惟德之  
勤。故乃明于刑之中，率义于民棐彝<sup>㉑</sup>。典  
狱非讫于威，惟讫于富。

两造具备<sup>㉒</sup>，师听五辞。五辞简孚<sup>㉓</sup>，  
正于五刑。五刑不简，正于五罚。五罚不服，  
正于五过<sup>㉔</sup>。五过之疵，惟官、惟反，惟内，  
惟货，惟来<sup>㉕</sup>。其罪惟钧，其审克之<sup>㉖</sup>。五  
刑之疑有赦，五罚之疑有赦，其审克之。简  
孚有众，惟貌有饬无简不听<sup>㉗</sup>，具严天威。

墨辟疑赦，其罚百锾<sup>㉘</sup>，阅实其罪。劓  
辟疑赦，其罚惟倍，阅实其罪。剕辟疑赦，  
其罚倍差，阅实其罪。宫辟疑赦，其罚六百  
锾，阅实其罪。大辟疑赦，其罚千锾，阅实  
其罪。

上下比罪<sup>㉙</sup>无僭乱辞，勿用不行，惟察  
惟法<sup>㉚</sup>其审克之。上刑适轻下服<sup>㉛</sup>，下刑适  
重上服，轻重诸罚有权。刑罚世轻世重<sup>㉜</sup>惟  
齐非齐，有伦有要。罚惩非死，人极于病。  
非佞折狱<sup>㉝</sup>，惟良折狱。罔非在中<sup>㉞</sup>察辞于  
差，非从惟从。哀敬折狱<sup>㉟</sup>，明启刑书；胥  
占<sup>㊱</sup>，咸庶中正。其刑其罚，其审克之。狱  
成而孚<sup>㊲</sup>输而孚。其刑上备<sup>㊳</sup>有并两刑<sup>㊴</sup>。

### 注释：

①丕：大。显：明。考：父。②克：能。明德慎刑：务崇德惠，慎用刑罚。③庸庸：勤劳。④祗祗：敬谨。⑤威威：畏敬天命。⑥肇造我区夏：始兴我小邦周。⑦惟时怙冒：怙恃文王之道为政，而功被四方。⑧休：嘉美。⑨殄(yi)：杀。戎：征伐。⑩封：康叔名。⑪恫瘝：忧惧。⑫天畏棐忱：天畏不可信。⑬义：治。⑭憝不憝：使不努力的人努力。⑮弘王：弘大王道。⑯宅：顺。⑰皆：过失。⑱典：法。⑲式尔：故意。⑳非终：能改过。㉑眚灾：过失犯罪。㉒适尔：偶然。㉓既道极厥辜：以断狱之道，穷极其罪。㉔有叙时：政有次序。㉕乃大明服：治理明而民众服。㉖勑：劳。㉗弃咎：弃恶从善。㉘康义：安治。㉙外事：听讼断狱之事。㉚集：刑法。㉛有伦：合理。㉜攘：盗。㉝譬：强横。㉞罔弗憝：没有不该把他杀死的。㉟字：爱。㊱天显：天理。㊲致人：执政的人。㊳率：遵循。夏：常法。㊴外庶子、训人：周代官名。㊵造民大誉：骗取荣誉。㊶瘵：病。㊷非谋非彝：不善之谋，非常之法。㊸猷：谋划。㊹不汝瑕殄：不责问你的罪过。㊺肆：今。㊻殄享：断绝祭祀。㊼三后：伯夷、禹、后稷。㊽折：制度。㊾穆穆在上：君主在上庄穆敬德。㊿明明在下：臣在下明察下情。㉑棐彝：非法。㉒两造具备：诉讼双方到齐。㉓简孚：信实。㉔过：过失。㉕来：请托。㉖克：核实。㉗无简不听：未经核实不论罪。㉘锾：重量单位。㉙上下比罪：按罪的轻重定刑。㉚惟察惟法：明察案情，以法定刑。㉛上刑适轻下服：重刑可减的，服减等的刑。㉜刑罚世轻世重：刑罚



随社会情况的变化，有时从轻，有时从重。⑥③非佞折狱：不靠巧言善辩断狱。⑥④中：公正。⑥⑤哀敬折狱：怀怜悯之心断狱。⑥⑥胥占：存细揣度。⑥⑦孚：信实。⑥⑧其刑上备：两罪俱发。⑥⑨有并两刑：轻罪并入重罪，不再判轻罪。

## 《商君书》

### 题解：

战国时期商鞅及其后学者的著作的合编。该书阐明了商鞅主张变法，实行法治的基本谋略思想。商鞅认为古代帝王“各当时而立法，因事而制礼；礼法以时而定，制令各顺其宜”。所以“治世不一道，便国不必法古”，并提出“不法古，不修今”的口号。认为效法古代则落后于时代，保守现状则跟不上形势的发展。法律应随时代的发展而变化，既不能复古，也不能保守，从历史观上为变法革新和实行法治提供了有力的依据。要治理好国家，就必须实行以赏罚为后盾的法治，一切都“垂法而治”，主张“壹赏”、“壹刑”、“壹教”。所谓“壹赏”，就是指赏赐只能施于有功农战的人，对不从事农战和不利农战的人给以打击。所谓“壹刑”，就是“刑无等级，自卿相将军以至大夫庶人，有不从王令、犯国禁、乱上制者，罪死不赦”。这是法令能否贯彻，法治能否实行的关键。所谓“壹教”，就是指一切不合法令，不利于农战的思想皆要取缔。用法令来统一思想。为推行法治，他提出了一套方法，就是必须具备法、信、权要素。所谓“法”，是指必须“立法明分”，使法令成为判断是非功过和行使赏罚的公平标准，“法者，国之权衡也。”为此要坚决反对君臣抛弃法度而以个人的好恶来进行判断、尤其是君主更应严格遵守法度。为使法令成为判断是非的标准和人们必须遵守的行为规范，他主张颁布成文法。所谓“信”，是指“信赏必罚”，即按照法令的规定，该赏的一定赏，该罚的一定要罚。只有这样才能取信于民，收到“民信其赏，则事

功成；信其刑，则奸无端”的效果。为此商鞅又主张“厚赏而信，刑重而必”。所谓“权”，是指君主要集权于一身。他认为要顺利地推行法令，就必须“尊君”，因为“君尊则令行”。而要“君尊令行”，君主就必须掌握大权，所谓“权制断于君则威”。他意识到推行法令要靠国家政权做后盾，故强调只有掌握行赏施罚的大权，才能“垂法而治”。他还主张“重刑”，理由是“重罚轻赏，则上爱民，民死上；重赏轻罚，则上不爱民，民不死上”。其方法是加重对轻罪的刑罚，认为这样就可“以刑去刑，刑去事成”。他尤其反对重罪轻刑，因为“罪重刑轻，刑至事生，此谓以刑致刑，其国必削”。为此他公开提出“以杀去杀，虽杀可也；以战去战，虽战可也；以刑去刑，虽重刑可也。”用严刑峻法打击阻挠变法的贵族。以此为借口残酷镇压广大劳动人民。

## 更 法

孝公平画<sup>①</sup>，公孙鞅、甘龙、杜摯三大夫御于君，虑世事之变<sup>②</sup>，讨正法之本<sup>③</sup>，求使民之道。

君曰：“代立不忘社稷<sup>④</sup>，君之道也；错法务明主长<sup>⑤</sup>，臣之行也。今吾欲变法以治，更礼以教百姓，恐天下之议我也。”

公孙鞅曰：“臣闻之，‘疑行无成<sup>⑥</sup>，疑事无功’。君亟定变法之虑<sup>⑦</sup>，殆无顾天下之议也<sup>⑧</sup>。且夫有高人之行者，固见负于世；有独知之虑者<sup>⑨</sup>，必见訾于民<sup>⑩</sup>。语曰：‘愚者闻于成事<sup>⑪</sup>，知者见于未萌。民不可与虑始，而可与乐成。’郭偃之法曰：‘论至德者不和于俗，成大功者不谋于众’。法者，所以爱民也；礼者，所以便事也。是以圣人苟可以强国，不法其故；苟可以利民，不循其礼。”

孝公曰：“善！”

甘龙曰：“不然！臣闻之，‘圣人不易民而教，知者不变法而治。’因民而教者，不劳而功成；据法而治者，吏习而民安。今若



变法，不循秦国之故，更礼以教民，臣恐天下之议君，愿孰察之<sup>⑬</sup>！”

公孙鞅曰：“龙之所言，世俗之言也！夫常人安于故习，学者溺于所闻：此两者，所以居官而守法，非所与论于法之外也。三代不同礼而王<sup>⑭</sup>，五霸不同法而霸<sup>⑮</sup>。故知者作法，而愚者制焉；贤者更礼，而不肖者拘焉<sup>⑯</sup>。拘礼之人不足与言事，制法之人不足与论变。君无疑矣！”

杜挚曰：“臣闻之，‘利不百，不变法；功不十，不易器。’臣闻法古无过，循礼无邪。君其图之！”

公孙鞅曰：“前世不同教，何古之法！帝王不相复<sup>⑰</sup>，何礼之循！伏羲、神农教而不诛，黄帝、尧、舜诛而不怒，及至文、武，各当时而立法，因事而制礼。礼、法以时而定，制、令各顺其宜，兵甲器备各便其用。臣故曰：‘治世不一道，便国不法古。汤、武之王也，不循古而兴；殷、夏之灭也，不易礼而亡。然则复古者未必可非，循礼者未足多是也。君无疑矣！’”

孝公曰：“善！吾闻穷巷多怪，曲学多辨<sup>⑱</sup>。愚者笑之，知者哀焉；狂夫之乐，贤者丧焉。拘世以议，寡人不之疑矣！”于是遂出垦草令<sup>⑲</sup>。

## 开 塞

天地设而民生之<sup>⑳</sup>。当此之时也，民知其母而不知其父，其道亲亲而爱私<sup>㉑</sup>。亲亲则别<sup>㉒</sup>，爱私则险，民众而以别、险为务，则民乱。当此时也，民务胜而力征。务胜则争，力征则讼。讼而无正，则莫得其性也。故贤者立中正，设无私，而民说仁。当此时也，亲亲废，上贤立矣。

凡仁者以爱利为务，而贤者以相出为道。民众而无制，久而相出为道，则有乱。故圣人承之<sup>㉓</sup>，作为土地、货财、男女之分。分定而无制，不可，故立禁<sup>㉔</sup>；禁立而莫之司<sup>㉕</sup>，不可，故立官；官设而莫之一，

不可，故立君。既立君，则上贤废而贵贵立矣<sup>㉖</sup>。

然则上世亲亲而爱私，中世上贤而说仁，下世贵贵而尊官。上贤者，以相出为道也；而立君者，使贤无用也。亲亲者，以私为道也；而中正者，使私无行也。此三者，非事相反也，民道弊而所重易也，世事变而行道异也。故曰：王道有绳<sup>㉗</sup>。

夫王道一端<sup>㉘</sup>，而臣道亦一端，所道则异，而所绳则一也。故曰：民愚则知可以王<sup>㉙</sup>，世知则力可以王<sup>㉚</sup>。民愚则力有余而知不足，世知则巧有余而力不足。民之生，不知则学，力尽而服。故神农教耕而王天下，师其知也；汤、武致强而征诸侯，服其力也。夫民愚，不怀知而问；世知，无余力而服。故以知王天下者并刑<sup>㉛</sup>，力征诸侯者退德。

圣人不法古，不脩今。法古则后于时，脩今则塞于势。周不法商，夏不法虞，三代异势，而皆可以王。故兴王有道，而持之异理。武王逆取而贵顺，争天下而上让，其取之以力，持之以义。今世强国事兼并，弱国务力守，上不及虞、夏之时，而下不修汤、武。汤、武塞<sup>㉜</sup>，故万乘莫不战<sup>㉝</sup>，千乘莫不守。此道之塞久矣，而世主莫之能废也<sup>㉞</sup>，故三代不四。非明主莫能听也，今日愿启之以效<sup>㉟</sup>。

古之民朴以厚，今之民巧以伪。故效于古者，先德而治；效于今者，前刑而法：此俗之所惑也。今世之所谓义者，将立民之所好，而废其所恶；此其所谓不义者，将立民之所恶，而废其所乐也。二者名贸实易<sup>㊱</sup>，不可不察也。立民之所乐，则民伤其所恶；立民之所恶，则民安其所乐。何以知其然也？夫民忧则思，思则由度<sup>㊲</sup>；乐则淫，淫则生佚<sup>㊳</sup>。故以刑治则民威，民威则无奸，无奸则民安其所乐；以义教则民纵，民纵则乱，乱则民伤其所恶。吾所谓刑者，义之本也；而世所谓义者，暴之道也。夫正民者：以其所恶，必终其所好；以其所好，必败其所恶。

治国，刑多而赏少，故王者刑九而赏一，削国赏九而刑一。夫过有厚薄，则刑有轻重；善有大小，则赏有多少。此二者，世之常用也。刑加于罪所终，则奸不去；赏施于民所义，则过不止。刑不能去奸而赏不能止过者，必乱。故王者刑用于将过，则大邪不生；赏施于告奸，则细过不失。治民能使大邪不生、细过不失，则国治，国治必强。一国行之，境内独治；二国行之，兵则少寝；天下行之，至德复立。此吾以杀刑之反于德，而义合于暴也。

古者，民藁生而群处<sup>③</sup>，乱，故求有上也<sup>④</sup>。然则天下之乐有上也，将以为治也。今有主而无法。其害与无主同；有法不胜其乱，与不法同。天下不安无君，而乐胜其法，则举世以为惑也。夫利天下之民者，莫大于治；而治莫康于立君；立君之道，莫广于胜法；胜法之务，莫急于去奸；去奸之本，莫深于严刑<sup>⑤</sup>。故王者以赏禁，以刑劝<sup>⑥</sup>，求过不求善，藉刑以去刑<sup>⑦</sup>。

## 画 策

昔者昊英之世<sup>⑧</sup>，以伐木杀兽，人民少而木、兽多。黄帝之世，不羈不卵<sup>⑨</sup>，官无供备之民，死不得用椁<sup>⑩</sup>。事不同。皆王者，时异也。神农之世，男耕而食，女织而衣，刑政不用而治，甲兵不起而王。神农既没，以强胜弱，以众暴寡。故黄帝作为君臣上下之义，父子兄弟之礼，夫妇妃匹之合，内行刀锯<sup>⑪</sup>，外用甲兵<sup>⑫</sup>，故时变也。由此观之，神农非高于黄帝也，然其名尊者，以适于时也。故以战去战，虽战可也；以杀去杀，虽杀可也；以刑去刑，虽重刑可也。

昔之能制天下者<sup>⑬</sup>，必先制其民者也；能胜强敌者，必先胜其民者也。故胜民之本在制民，若治于金、陶于土也。本不坚，则民如飞鸟禽兽，其孰能制之？民本<sup>⑭</sup>，法也。故善治者塞民以法，而名、地作矣。

名尊地广以至王者，何故？战胜者也。

名卑地削以至于亡者，何故？战罢者也。不胜而王、不败而亡者，自古及今未尝有也。民勇者战胜；民不勇者战败。能壹民于战者，民勇；不能壹民于战者<sup>⑮</sup>，民不勇。圣王见王之致于兵也，故举国而责之于兵。入其国，观其治，民用者强。奚以知民之见用者也<sup>⑯</sup>？民之见战也，如饿狼之见肉，则民用矣。凡战者，民之所恶也，能使民乐战者王。强国之民，父遗其子，兄遗其弟，妻遗其夫，皆曰：“不得<sup>⑰</sup>，无返。”又曰：“失法离令，若死，我死。”乡治之，行间无所逃<sup>⑱</sup>，迁徙无所入。行间之治连以五<sup>⑲</sup>，辨之以章，束之以令，拙无所处，罢无所生。是以三军之众，从令如流，死而不旋踵。

国之乱也，非其法乱也，非法不用也。国皆有法，而无使奸邪盗贼必得之法。为奸邪盗贼者死刑，而奸邪盗贼不止者，不必得<sup>⑳</sup>；必得而尚有奸邪盗贼者，刑轻也。刑轻者，不得诛也<sup>㉑</sup>；必得者，刑者众也。故善治者，刑不善而不赏善，故不刑而民善。不刑而民善，刑重也。刑重者，民不敢犯，故无刑也，而民莫敢为非，是一国皆善也。故不赏善而民善。赏善之不可也，犹赏不盗。故善治者，使跖可信<sup>㉒</sup>，而况伯夷乎？不能治者，使伯夷可疑，而况跖乎？势不能为奸，虽跖可信也；势得为奸，虽伯夷可疑也。

国或重治，或重乱。明主在上，所举必贤，则法可在贤。法可在贤<sup>㉓</sup>，则法在下，不肖不敢为非，是谓重治。不明主在上，所举必不肖，国无明法，不肖者敢为非，是谓重乱。兵或重强，或重弱。民固欲战，又不得不战，是谓重强。民固不欲战，又得无战，是谓重弱。

明主不滥富贵其臣。所谓富者，非粟米珠玉也；所谓贵者，非爵位官职也。废法作私，爵禄之，富贵之，滥也。凡人主德行非出人也<sup>㉔</sup>，知非出人也，勇力非过人也。然民虽有圣知，弗敢我谋；勇力，弗敢我杀；虽众，不敢胜其主。虽民至亿万之数，县重

赏而民不敢争<sup>⑤</sup>，行罚而民不敢怨者，法也。国乱者，民多私义；兵弱者，民多私勇。则削国之所以取爵禄者多涂<sup>⑥</sup>，亡国之所以贱爵轻禄。不作而食，不战而荣，无爵而尊，无禄而富，无官而长，此之谓奸民。所谓“治主无忠臣，慈父无孝子”，欲无善言，皆以法相司也，命相正也。不能独为非，而莫与人为非。

所谓富者，人多而出寡。衣服有制，饮食有节，则出寡矣；女事尽于内，男事尽于外，则人多矣。

所谓明者，无所不见，则群臣不敢为奸，百姓不敢为非。是以人主处匡床之上，听丝竹之声，而天下治。所谓明者，使众不得不为。

所谓强者，天下胜<sup>⑦</sup>。天下胜，是故合力。是以勇强不敢为暴，圣知不敢为诈，而虚用兼天下之众，莫敢不为其所好，而辟其所恶<sup>⑧</sup>。所谓强者，使勇力不得不为己用。其志足，天下益之；不足，天下说之。恃天下者，天下去之；自恃者，得天下。得天下者，先自得者也。能胜强敌者，先自胜者也。

圣人知必然之理，必为之时势，故为必治之政，战必勇之民，行必听之令。是以兵出而无敌，令行而天下服从。黄鹄之飞，一举千里，有必飞之备也；丽丽巨巨<sup>⑨</sup>，日走千里，有必走之势也；虎豹熊黑，鸷而无敌，有必胜之理也。

圣人见本然之政，知必然之理，故其制民也，如以高下制水，如以燥湿制火。故曰：“仁者能仁于人，而不能使人仁；义者能爱于人，而不能使人爱。是以知仁义之不足以治天下也，圣人有必信之性，又有使天下不得不信之法。所谓义者，为人臣忠，为人子孝，少长有礼，男女有别；非其义也，饿不苟食，死不苟生；此乃有法之常也。圣王者不贵义而贵法，法必明，令必行，则已矣。

## 错 法

臣闻古之明君，错法而民无邪<sup>⑩</sup>，举事而材自练，赏行而兵强。此三者，治之本也。夫错法而民无邪者，法明而民利之也。举事而材自练者，功分明<sup>⑪</sup>，功分明则民尽力，民尽力则材自练。行赏而兵强者，爵禄之谓也，爵禄者兵之实也。是故人君之出爵禄也道明；道明则国日强，道幽则国日削。故爵禄之所道，存亡之机也。夫削国亡主，非无爵禄也，其所道明也；三王五霸，其所道不过爵禄，而功相万者，其所道明也。是以明君之使其臣也，用必出于其劳，赏必加于其功。功赏明则民竞于功。为国能使其民尽力以竞于功，则兵必强矣。

同列而相臣妾者<sup>⑫</sup>，贫富之谓也；同实而相并兼者，强弱之谓也；有地而君或强或弱者，乱治之谓也。苟有道理，地足容身，士民可致也。苟容市井<sup>⑬</sup>，财货可众也。有土者不可以言贫，有民者不可以言弱。地诚任，不患无财；民诚用，不畏强暴。德明教行，则能以民之有为己用矣。故明主者，用非其有，使非其民。

明王之所贵，惟爵其实，爵其实而荣显之。不荣则民不急列位<sup>⑭</sup>，不显则民不事爵。爵易得也，则民不贵上爵。列爵禄赏，不道其门，则民不以死争位矣。人生而有善恶，故民可治也。人君不可以不审好恶，好恶者赏罚之本也。夫人情好爵禄而恶刑罚，人君设二者以御民之志<sup>⑮</sup>，而立所欲焉。夫民力尽而爵禄随之，功立而赏随之，人君能使其民信于此如明日月，则兵无敌矣。

人君有爵行而兵弱者，有禄行而国贫者，有法立而乱者，此三者，国之患也。故人君者先便请谒而后功力，则爵行而兵弱矣。民不死犯难，而利禄可致也，则禄行而国贫矣。法无度数，而事日烦，则法立而治乱矣。是以明君之使其民也，使必尽力以规其功，功立而富贵随之，无私德也，故教流成。如此，

则臣忠君明，治著而兵强矣。故凡明君之治也，任其力不任其德，是以不忧不劳，而功可立也。度数已立<sup>②</sup>，而法可修。故人君者，不可不慎己也。夫离朱见秋毫百步之外<sup>③</sup>而不能以明目易人；乌获举千钧之重<sup>④</sup>，而不能以多力易人。夫圣人之存体性，不可以易人，然而功可得者，法之谓也。

## 定 分

公问于公孙鞅曰：“法令以当时立之者，明且，欲使天下之吏民皆明知而用之，如一而无私<sup>⑤</sup>，奈何？”

公孙鞅曰：“为法令置官吏。朴足以知法令之谓者<sup>⑥</sup>，以为天下正，则奏天子。天子则各主法令之。皆降受命，发官。各主法令之民，敢忘行主法令之所谓之名，各以其所忘之法令名罪之。至法令之吏，有迁徙物故，辄使学读法令所谓，为之程式，使日数而知法令之所谓。不中程<sup>⑦</sup>，为法令以罪之。有敢剽定法令<sup>⑧</sup>，损益一字以上，罪死不赦。诸官吏及民有问法令之所谓也于主法令之吏，皆各以其故所欲问之法令之名，以告吏民。主法令之吏不告，及之罪，而法令之所谓也，皆以吏民之所问法令之罪，各罪主法令之吏。即以左券予吏之问法令者。主法令之吏，谨藏其右券木柙<sup>⑨</sup>，以室藏之，封以法令之长印。即后有物故，以券书从事。

法令皆副置<sup>⑩</sup>，一副天子之殿中，为法令为禁室，有键钥为禁而以封之，内藏法令。一副禁室中，封以禁印。有擅发禁室印，及入禁室视禁法令，及剽禁一字以上，罪皆死不赦。一岁受法令以禁令，天子置三法官；殿中置一法官，御史置一法官及吏，皆此奉一法官。郡县诸侯，一受宝来之法令学问并所谓<sup>⑪</sup>。

吏民知法令者，皆问法官。故天下之吏民，无不知法者。吏明知民知法令也，故吏不敢以非法遇民<sup>⑫</sup>，民不敢犯法以干法官

也。遇民不修法，则问法官，法官即以法之罪告之，民即以法官之言正告之吏。吏知其如此，故吏不敢以非法遇民，民又不敢犯法。如此，天下之吏民，虽有贤良辩慧，不能开一言以枉法；虽有千金，不能以用一铢<sup>⑬</sup>。故知诈贤能者<sup>⑭</sup>，皆作而为善，皆务自治奉公。民愚则易治也，此所生于法明白易知而必行。

法令者，民之命也，为治之本也，所以备民也。为治而去法令，犹欲无饥而去食也，欲无寒而去衣也，欲东而西行也，其不凡亦明矣。一兔走，百人逐之，非以兔可分以为百，由名分之未定也<sup>⑮</sup>。夫卖兔者满市，而盗不敢取，由名分已定也。故名分未定，尧、舜、禹、汤且皆如骛焉而逐之；名分已定，贪盗不敢。今法令不明，其名不定，天下之人得议之；其议，人异而无定。人主为法于上，下民议之于下，是法令不定，以下为上也<sup>⑯</sup>。此所谓名分之不定也。夫名分不定，尧、舜犹将皆折而奸之，而况众人乎？此令奸恶大起，人主夺威势，亡国灭社稷之道也。今先圣人为书，而传之后世，必师受之，乃知所谓之名；不师受之，而人以其心意见之，至死不能知其名与其意。故圣人必为法令置官也，置吏也，为天下师，所以定名分也。名分定，则大诈贞信<sup>⑰</sup>，民皆愿悫<sup>⑱</sup>，而各自治也。故夫名分定，势治之道也；名分不定，势乱之道也。故势治者不可乱，势乱者不可治。夫势乱而治之愈乱，势治而治之则治。故圣王治治不治乱。

夫微妙意志之言，上知之所难也。夫不待法令绳墨而无不正者<sup>⑲</sup>，千万之一也。故圣人以千万治天下。故夫知者而后能知之，不可以为法，民不尽知；贤者而后知之，不可以为法，民不尽贤。故圣人为法，必使之明白易知，愚、知遍能知之。为置法官，置主法之吏，以为天下师，令万民无陷于险危。故圣人立天下而无刑死者，非不刑杀也；行法令，明白易知，为置法官。吏为之师，以道之知，万民皆知所避就，避祸就福，而皆

以自治也。故明主因治而终治之，故天下大治也。

## 赏 刑

圣人之为国也，壹赏<sup>⑧</sup>、壹刑、壹教。壹赏则兵无敌，壹刑则令行，壹教则下听上。夫明赏不费，明刑不戮，明教不变，而民知于民务，国无异俗。明赏之犹至于无赏也，明刑之犹至于无刑也，明教之犹至于无教也。

所谓壹赏者，利禄、官爵皆出于兵，无有异施也。夫固知愚、贵贱、勇怯、贤不肖，皆尽其胸臆之知，竭其股肱之力，出死而为上用也。天下豪杰贤良，从之如流水，是故兵无敌而令行于天下，万乘之国不敢苏其兵中原；千乘之国不敢捍城。万乘之国若有苏其兵中原者，战将覆其军；千乘之国若有捍城者，攻将凌其城<sup>⑨</sup>。战必覆人之军，攻必凌人之城，尽城而有之<sup>⑩</sup>，尽宾而致之<sup>⑪</sup>，虽厚庆赏，何匮之有矣。昔汤封于赞茅<sup>⑫</sup>，文王封于岐周<sup>⑬</sup>，方百里。汤与桀战于鸣条之野<sup>⑭</sup>，武王与纣战于牧野之中<sup>⑮</sup>，大破九军，卒裂土封诸侯；士卒坐陈者<sup>⑯</sup>，里有书社<sup>⑰</sup>；车休息不乘，从马华山之阳，从牛于农泽，从之老而不收。此汤武之赏也。故曰：赞茅岐周之粟，以赏天下之人，不人得一升；以其钱赏天下之人，不人得一钱。故曰：百里之君，而封侯其臣，大其旧；自士卒坐陈者，里有书社；赏之所加，宽于牛马者，何也？善因天下之货，以赏天下之人。故曰：明赏不费。汤、武既破桀、纣，海内无害，天下大定。筑五库<sup>⑱</sup>，藏五兵<sup>⑲</sup>，偃武事，行文教，倒载干戈，播笏作为乐<sup>⑳</sup>，以申其德。当此时也，赏禄不行，而民整齐。故曰：明赏之犹至于无赏也。

所谓壹刑者，刑无等级，自卿相、将军以至大夫、庶人，有不从王令、犯国禁、乱上制者，罪死不赦。有功于前，有败于后，不为损刑；有善于前，有过于后，不为方

法。忠臣孝子有过，必以其数断。守法守职之吏，有不行王法者，罪死不赦，刑及三族。周官之人，知而诃之上者，自免于罪，无贵贱，尸袭其官长之官爵、田禄。故曰：重刑连其罪，则民不敢试。民不敢试，故无刑也。夫先王之禁，刺杀、断人之足、黥人之面，非求伤民也，以禁奸止过也。故禁奸止过，莫若重刑。刑重而必得，则民不敢试，故国无刑民。国无刑民，故曰：明刑不戮。晋文公将欲明刑，以亲百姓，于是合诸侯大夫于侍千官<sup>㉑</sup>。颠颉后至<sup>㉒</sup>，吏请其罪，君曰：“用事焉。”吏遂断颠颉之脊以殉。晋国之士，稽焉皆惧，曰：“颠颉之有宠也，断以殉，况于我乎！”举兵伐曹、五鹿<sup>㉓</sup>及反郑之埤<sup>㉔</sup>，东卫之亩，胜荆人于城濮。三军之士，止之如斩足，行之如流水。三军之士，无敢犯禁者。故一假道重轻于颠颉之脊而晋国治<sup>㉕</sup>。昔者周公旦杀管叔，流霍叔曰：“犯禁者也。”天下众皆曰：“亲昆弟有过不违，而况疏远乎！”故天下知用刀锯于周庭，而海内治，故曰：明刑之犹至于无刑也。

所谓壹教者，博闻、辩慧、信廉、礼乐、修行、群党任誉清浊，不可以富贵，不可以评刑，不可独立私议以陈其上。坚者破，锐者挫。虽曰圣知，巧佞、厚朴，则不能以非功罔上利。然富贵之门，要存战而已矣。彼能战者，践富贵之门；强梗焉<sup>㉖</sup>，有常刑而不赦。是父兄、昆弟、知识、婚姻、合同者，皆曰：“务之所加，存战而已矣。”夫故当壮者务于战，老弱者务于守；死者不悔，生者务劝。此臣所谓壹教也。民之欲富贵也，共阖棺而后止。而富贵之门，必出于兵。是故民闻战而相贺也，起居饮食所歌谣者，战也。此臣之所谓明教之犹至于无教也。

此臣所谓叁教也。圣人非能通，知万物之要也。故其治国，举要以致万物，故寡教而多功。圣人治国也，易知而难行也。是故圣人不必加，凡主不必废，杀人不为暴，赏人不为仁者，国法明也。圣人以功授官予爵，故贤者不忧；圣人不宥过<sup>㉗</sup>，不赦刑，故奸

无起。圣人治国也，审壹而已矣。

## 勒 令

勒令则治不留<sup>⑩</sup>，法平则吏无奸。法已定矣，不以善言害法。任功则民少言<sup>⑪</sup>，任善则民多言。行治曲断<sup>⑫</sup>，以五里断者王，以十里断者强，宿治者削<sup>⑬</sup>。以刑治，以赏战，求过不求善。故法立而不革，则显民变计，计变诛上，贵齐殊使，百都之尊爵厚以自伐。国无奸民，则都无奸市。物多末众，农弛奸胜，则国必削。民有余粮，使民以粟出官爵，官爵必以其力，则农不怠。四寸之管无当<sup>⑭</sup>必不满也。授官予爵，出禄不以功，是无当也。

国贫而务战，毒生于敌，无六虱，必强，国富而不战，偷生于内，有六虱，必弱。国以功授官予爵，比谓以盛知谋，以盛勇战。以盛知谋，以盛勇战，其国必无敌。国以功授官予爵，则治省言寡，此谓以法去法，以言去言。国以六虱授官予爵，则治烦言生，此谓以治致治，以言致言，则君务于说言，官乱于治邪，邪臣有得志，有功者日退，此谓失。守十者乱，守壹者治。法已定矣，而好用六虱者亡。民泽毕农，则国富。六虱不用，则兵民毕竟劝，而乐为主用；其境内之民争以为荣，莫以为辱。其次，为赏劝罚沮；其下，民恶之，忧之，羞之，修容而以言，耻食以上交，以避农战。外交以备，国之危也。有饥寒死亡，不为利禄之故战，此亡国之俗也。

六虱：曰礼，乐，曰《诗》、《书》，曰修善、曰孝弟，曰诚信、曰贞廉，曰仁、义，曰非兵、曰羞战。国有十二者，上无使农战，必贫至削。十二者成群，此谓君之治不胜其臣，官之治不胜其民，此谓六虱胜其政也。十二者成朴，必削。是故兴国不用十二者，故其国多力，而天下莫能犯也。兵出必取，取必能有之；按兵而不攻，必富。朝廷之吏，少者不毁也，多者不损也，效功而取官爵，

虽有辩言，不能以相先也。此谓以数治。以力攻者，出一取十，以言攻者，出十亡百。国好力，此谓以难攻。国好言，此谓以易攻。

重刑少赏，上爱民，民死赏。重赏轻刑，上不爱民，民不死赏。利出一空者其国无敌。利出二空者国半利。利出十空者其国不守。重刑明大制，不明者六虱也。六虱成群，则民不用，是故兴国罚行则民亲，赏刑则民利。行罚重其轻者，轻其重者，轻者不至，重者不来，此谓以刑去刑，刑去事成。罪重刑轻，刑至事生，此谓以刑致刑，其国必削。圣君知物之要，故其治民有至要。故执赏罚以壹辅仁者，心之续也。圣君之治人也，必得其心，故能用力。力生强，强生威，威生德，德生于力。圣君独有之，故能述仁义于天下。

## 去 强

以强去强者弱，以弱去强者强。国为善，奸必多。国富而贫治，曰重富，重富者强；国贫而富治，曰重贫，重贫者弱。兵行敌所不敢行，强；事兴敌所羞为，利。主贵多变，国贵少变。国少物，削；主多物，强。千乘之国，守千物者削<sup>⑮</sup>。战事兵用曰强，战乱兵息而国削。

农、商、官三者，国之常官也。三官者生虱官者六：曰岁、曰食、曰美、曰好、曰志、曰行。六者有朴必削<sup>⑯</sup>。三官之朴三人，六官之朴一人。以法治者强，以政治者削。常官治者迁官。治大，国小；治小，国大。强之重削，弱之重强。夫以强攻强者亡，以弱攻强者王。国强而不战，毒输于内，礼乐虱官生，必削。国遂战，毒输于敌，国无礼乐虱官，必强。举荣任功曰强，虱官生必削。农少、商多，贵人贫、商贫、农贫，三官贫，必削。

国有礼、有乐、有《诗》、有《书》、有善、有修、有孝、有弟、有廉、有辩，国有十者，上无使战，必削至亡；国无十者，上

有使战，必兴至王。国以善民治奸民者，必乱至削；国以奸民治善民者，必治至强。国用《诗》、《书》、礼、乐、孝、弟、善、修治者，敌至必削国，不至必贫国。不用八者治，敌不敢至，虽至必却；兴兵而伐必取，取必能有之；按兵而不攻必富。国好力曰以难攻，国好言曰以易攻。国以难攻者，起一得十；国以易攻者，出十亡百。

重罚轻赏，则上爱民，民死上<sup>①</sup>；重赏轻罚，则上不爱民，民不死上。兴国行罚，民利且畏；行赏，民利且爱。国无力而行知巧者必亡。怯民使以刑必勇，勇民使以赏则死。怯民勇，勇民死，国无敌者强，强必王。贫者使以刑则富，富者使以赏则贫。治国能令贫者富，富者贫，则国多力，多力者王。王者刑九赏一，强国刑七赏三，削国刑五赏五。

国作壹一岁，十岁强；作壹十岁，百岁强；作壹百岁，千岁强，千岁强者王。威以一取十，以声取实，故能为威者王。能生不能杀，曰自攻之国，必削；能生能杀，曰攻敌之国，必强。故攻官、攻力、攻敌；国用其二，舍其一，必强；令用三者，威必王。

十里断者国弱，五里断者国强。以日治者王<sup>②</sup>，以夜治者强，以宿治者削。举民众口数，生者著，死者削。民不逃粟，野无荒草，则国富，国富者强。

以刑去刑国治，以刑致刑国乱。故曰：行刑重轻，刑去事成，国强；重重而轻轻，刑至事生，国削。刑生力，力生强，强生威，威生惠，惠生于力。举力以成勇战，战以成知谋。

金生而粟死<sup>③</sup>，金死而粟生。本物贱，事者众，买者少，农困而奸劝，其兵弱，国必削至亡。金一两生于境内，粟十二石死于境外；粟十二石生于境内，金一两死于境外。国好生金于境内，则金粟两死，仓府两虚，国弱；国好生粟于境内，则金粟两生，仓府两实，国强。

强国知十三数：境内仓、口之数，壮

男、壮女之数，老、弱之数，官、士之数，以言说取食者之数，利民之数，马、牛、刍藁之数<sup>④</sup>。欲国强，不知国十三数，地虽利，民虽众，国愈弱至削。

国无怨民曰强国。兴兵而伐，则武爵武任必胜；按兵而农，粟爵粟任则国富。兵起而胜敌，按兵而国富者王。

#### 注释：

①平画：筹划治国的方法。 ②世事：当时的形势。 ③正：制定。 ④代立：继承君位。  
⑤错：同“措”。务明主长：力求显示君主的明智。  
⑥疑：犹豫。 ⑦亟：急速。 ⑧殆：似乎。  
⑨独知之虑：独特见解。 ⑩警：诽谤。 ⑪间：同“暗”。 ⑫孰察：仔细考虑。 ⑬三代：夏、商、周。 ⑭五霸：指齐桓公、晋文公、楚庄王、吴王阖闾、越王勾践。 ⑮拘：拘泥、约束。  
⑯复：重复。 ⑰曲学：谬说。 ⑱垦草令：开垦荒地的命令。 ⑲开地设：开天辟地。 ⑳亲亲：爱自己的亲人。 ㉑别：区别亲疏。 ㉒承：接着。 ㉓禁：禁令、法律。 ㉔司：掌管。 ㉕贵贵：尊重贵人。 ㉖绳：标准。 ㉗一端：一头。  
㉘知：同“智”，指有才智的人。 ㉙力：有力量的人。 ㉚并：同“屏”，排除。 ㉛汤、武塞：指汤王、武王“致强而征诸侯”的王道被堵塞了。 ㉜万乘：有万辆兵车的大国。 ㉝废：借为“发”字，打通。 ㉞启：说通。 ㉟名实易：名称和实际被颠倒。 ㊱由度：遵守法度。 ㊲佚：过失。  
㊳藁：同“丛”，聚集。 ㊴上：首领。 ㊵深：重。 ㊶劝：劝导。 ㊷藉：同“借”。 ㊸昊英：传说中的帝王。 ㊹驩(mi)：小鹿。不卵：不取鸟蛋。 ㊺椁：棺材外的套棺。 ㊻刀锯：刑具。  
㊼甲兵：军队。 ㊽制：控制。 ㊾民本：制服民众的根本。 ㊿壹：专一。 ①奚以：凭什么。  
②不得：不胜。 ③行间：行伍之间。 ④连以五：指五人为一伍，实行连坐法。 ⑤不必得：不一定能捉到。 ⑥不得诛：没得到应有的处罚。  
⑦跖：柳下跖。 ⑧法可重贤：法令掌握在贤人手里。 ⑨出：超出。 ⑩县：同“悬”。 ⑪涂：同“途”。 ⑫天下胜：用天下的力量取胜。 ⑬辟：同“避”。 ⑭丽巨巨：良马名。 ⑮错：施行。

⑥功分明：功绩大小分明。 ⑥幽：暗，不正确。  
 ⑥同列：地位相等。 ⑥市井：做买卖的地方。  
 ⑦列位：各级爵位。 ⑦御：驾驭。 ⑦度数：标准。  
 ⑦离朱：传说黄帝时人，听力极好。 ⑦乌获：战国时的力士。 ⑦如一：天下吏民执行法令如一个人。 ⑦朴：资质，才能。 ⑦不中程：不合规格要求。 ⑦剟(duō)：删改。 ⑦桯(xiá)：同“匣”。 ⑦副置：设置副本。 ⑦宝来：保存法令禁室的名称。 ⑦遇民：对待民众。  
 ⑧铢：重量单位，二十四铢为一两。 ⑧知诈贤能：搞邪门歪道的人。 ⑧名分：归谁的名下所有  
 ⑧以下为上：以百姓的议论代替君主的法令。  
 ⑧大诈贞信：奸诈的人也会变为忠实的人。 ⑧愿悉：老实听话。 ⑧绳墨：准则。 ⑧壹：统一。  
 ⑧凌：攻破。 ⑧尽城：所有顽抗的城。 ⑧宾：归服。 ⑧赞茅：地名，在今河南修武县北。  
 ⑧岐：山名，在今陕西岐县。 ⑧鸣条：地名，在今山西安邑县北。 ⑧牧野：地名，在今河南汲县、淇县间。 ⑧陈：古“阵”字。 ⑧书社：二十五家为一里，每里立一社，把社人的姓名写在名册上，故名书社。 ⑧五库：兵库、车库、祭器库、乐库、宴库。 ⑧五兵：戈、殳、戟、酋矛、弓矢。  
 ⑧播：插。 ⑧侍千宫：官名。 ⑧顓頊：晋国大夫。 ⑧五鹿：地名。 ⑧埤：城墙上的小墙垛。  
 ⑧假道：借道。 ⑧梗：顽固。 ⑧宥：饶恕。  
 ⑧勒令：坚决执行命令。 ⑧任功：任用有功的人。 ⑧行治曲断：推行法治要由下层断决。  
 ⑧宿治：隔宿处理政事。 ⑧当：底。 ⑧守：掌管。 ⑧朴：依靠。 ⑧民死上：民为君主效死。  
 ⑧日治：当天的政事当天处理完。 ⑧金生而粟死：卖掉粮食换金钱。 ⑧刍藁：牲口饲料。

## 《墨子》

### 题解：

战国时期墨翟(约公元前468—前376)撰。墨子从“兼相爱、交相利”的主张出发，极为重视“法”的作用。在《法仪》、《尚同》等篇中，他充分地阐述了自己的法律谋略思想。他认为无论从事任何工作，都必须有

“法”。犹如百工的“为方以矩，为圆以规，直以绳，正以悬”一样，否则将一事无成。一切都必须顺法而行，故治理国家更应该有“法”。但以什么为“法”呢？他提出了“尚同”的主张，要求各级官员直到天子必须“壹同天下之义”。即用“兼相爱，交相利”来统一思想，作为区别是非，善恶的标准。为充分发挥法律的威力和作用，他主张“赏必当贤，罚必当暴。”否则，赏就起不到“劝善”的作用，罚也就起不到“止暴”的作用。并且强调法律和舆论必须一致，互相之间要紧密配合。如果法律上的赏罚和社会舆论的排誉不一致，“上之所赏则众之所非”，或“上之所罚则下之所誉”，也不可能起到“劝善”、“止暴”的作用。他还提出既要奖励荐贤，又要打击匿奸。即“若见爱利天下以告者，亦犹爱利天下者也，上得则赏之”；“若见恶贼天下不以告者，亦犹恶贼天下者也，上得则罚之”。他认为这样就可使法律迅速见效，切实做到“赏当贤、罚当暴。”

## 法 仪

子墨子曰：天下从事者，不可以无法仪。无法仪而其事能成者无有也。虽至士之为将相者，皆有法。虽至百工从事者，亦皆有法。百工为方以矩，为圆以规，直以绳，正以悬<sup>①</sup>，无巧工不巧工<sup>②</sup>，皆以此五者为法。巧者能中之，不巧者虽不能中，放依以从事<sup>③</sup>，犹逾己<sup>④</sup>。故百工从事，皆有法所度。今大者治天下，其次治大国，而无法所度，此不若百工辩也<sup>⑤</sup>。然则奚以为治法而可，当皆法其父母奚若<sup>⑥</sup>？天下之为父母者众，而仁者寡，若皆法其父母，此法不仁也。法不仁不可以为法。当皆法其学奚若？天下之为学者众，而仁者寡，若皆法其学，此法不仁也。法不仁不可以为法。当皆法其君奚若？天下之为君者众，而仁者寡，若皆法其君，此法不仁也。法不仁不可以为法。故父母、学、君三者，莫可以为治法。然则奚以



为治法而可？故曰：莫若法天。天之行广而无私，其施厚而不德<sup>⑦</sup>，其明久而不衰，故圣王法之。既以天为法，动作有为，必度于天。天之所欲则为之，天所不欲则止。然而何欲何恶者也？天必欲人之相爱相利，而不欲人之相恶相贼也。奚以知天之欲人之相爱相利，而不欲人之相恶相贼也？以其兼而爱之、兼而利之也。奚以知天兼而爱之、兼而利之也？以其兼而有之、兼而食之也<sup>⑧</sup>。今天下无大小国，皆天之邑也；人无幼长贵贱，皆天之臣也。此以莫不犒羊豢犬猪<sup>⑨</sup>，絮为酒醴粢盛<sup>⑩</sup>，以敬事天。此不为兼而有之、兼而食之邪！天苟兼而有、食之，夫奚说以不欲人之相爱、相利也！故曰：爱人利人者，天必福之；恶人贼人者，天必祸之。曰：杀不辜者，得不祥焉。夫奚说人为其相杀而天与祸乎？是以知天欲人相爱相利，而不欲人相恶相贼也。昔之圣王禹、汤、文、武，兼爱天下之百姓，率以尊天事鬼，其利人多，故天福之，使立为天子，天下诸侯皆宾事之；暴王纣、桀、幽、厉，兼恶天下之百姓，率以诟天侮鬼，其贼人多，故天祸之，使遂失其国家，身死为牖于天下<sup>⑪</sup>，后世子孙毁之，至今不息。

## 尚同上

子墨子言曰：古者民始生，未有刑政之时，盖其语人异义。是以一人则一义，二人则二义，十人则十义，其人兹众<sup>⑫</sup>，其所谓义者亦兹众。是以人是其义，以非人之义，故交相非也。是以内者父子兄弟作怨恶，离散不能相和合，天下之百姓，皆以水火毒药相亏害，至有馀力不能以相劳，腐朽余财不以相分<sup>⑬</sup>，隐匿良道不以相教，天下之乱，若禽兽然。夫明乎天下之所以乱者，生于无政长，是故选择天下之贤可者，立以为天子。天子立，以其力为未足，又选择天下之贤可者，置立之以为三公。天子三公既已立，以天下为博大，远国异土之民，是非利害之辩，

不可一二而明知，故画分万国，立诸侯国君。诸侯国君既已立，以其力为未足，又选择其国之贤可者，置立之以为正长。正长既已具，天子发政于天下之百姓，言曰：“闻善而不善，皆以告其上。上之所是，必皆是之；所非，必皆非之。上有过则规谏之，下有善则傍荐之<sup>⑭</sup>，上同而不下比者，此上之所赏而下之所誉也。意若闻善而不善，不以告其上，上之所是弗能是，上之所非弗能非，上有过弗规谏，下有善弗傍荐，下比不能上同者，此上之所罚而百姓所毁也。”上以此为赏罚，甚明察以审信。是故里长者，里之仁人也。里长发政里之百姓，言曰：“闻善而不善，必以告其乡长。乡长之所是，必皆是之；乡长之所非，必皆非之。去若不善言，学乡长之善言；去若不善行，学乡长之善行。”则乡何说以乱哉！察乡之所以治者何也？乡长唯能壹同乡之义，是以乡治也。乡长者，乡之仁人也。乡长发政乡之百姓，言曰：“闻善而不善者，必以告国君。国君之所是，必皆是之；国君之所非，必皆非之。去若不善言，学国君之善言；去若不善行，学国君之善行。”则国何说以乱哉！察国之所以治者何也？国君唯能壹同国之义，是以国治也。国君者，国之仁人也。国君发政国之百姓，言曰：“闻善而不善，必以告天子。天子之所是，皆是之；天子之所非，皆非之。去若不善言，学天子之善言；去若不善行，学天子之善行。”则天下何说以乱哉！察天下之所以治者何也？天子唯能壹同天下之义，是以天下治也。天下之百姓皆上同于天子而不上同于天，则菑犹未去也<sup>⑮</sup>。今若天飘风苦雨，溱溱而至者<sup>⑯</sup>，此天之所以罚百姓之不上同于天者也。是故子墨子言曰：古者圣王为五刑，请以治其民，譬若丝缕之有纪，罔罟之有纲<sup>⑰</sup>，所连收天下之百姓不尚同其上者也。

## 尚同中

今天下之人曰：方今之时，天下之正长犹未废乎天下也，而天下之所以乱者，何故之以也？子墨子曰：方今之时之以正长，则本与古者异矣，譬之若有苗之以五刑然。昔者圣王制为五刑，以治天下。逮至有苗之制五刑，以乱天下。则此岂刑不善哉？用刑则不善也。……古者上帝鬼神之建设国都、立正长也，非高其爵、厚其禄、富贵佚而错之也<sup>①</sup>，将以为万民兴利除害、富贵贫寡、安危治乱也。故古者圣王之为若此。今王公大人之为刑政则反此，政以为便譬<sup>②</sup>，宗于父兄故旧，以为左右，置以为正长。民知上置正长之非正以治民也，是以皆比周隐匿，而莫肯尚同其上。是故上下不同义。若苟上下不同义，赏誉不足以劝善，而刑罚不足以沮暴。何以知其然也？曰：上唯毋立而为政乎国家，为民正长，曰：人可赏吾将赏之。若苟上下不同义，上之所赏，则众之所非，曰：人众与处于众得非，则是虽使得上之赏未足以劝乎。上唯毋立而为政乎国家，为民正长，曰：人可罚吾将罚之。若苟上下不同义，上之所罚，则民之所誉，曰：人众与处于众得誉，则是虽使得上之罚，未足以沮乎。若立而为政乎国家，为民正长，赏誉不足以劝善，而刑罚不沮暴，则是不与乡吾本言“民始生未有正长之时”同乎！若有正长与无正长之时同，则此非所以治民一众之道。故古者圣王唯而审以尚同，以为正长，是故上下情请为通。上有隐事遗利，下得而利之。下有蓄怨积害，上得而除之。是以数千万里之外，有为不善者，其室人未遍知，乡里未遍闻，天子得而罚之。是以举天下之人，皆恐惧振动慄慄，不敢为淫暴，曰：天子之视听也神。先王之言曰：非神也，夫唯能使人之耳目，助己视听；使人之吻<sup>③</sup>，助己言谈；使人之心，助己思虑；使人之股肱，助己动作。助之视听者众，则其所闻见者远矣；助之言谈

者众，则其德音之所抚循者博矣；助之思虑者众，则其谈谋度速得矣；助之动作者众，即其举事速成矣。故古者圣人之所以济事成功，垂名于后世者，无他故异物焉，曰：唯能以尚同为政者也。……古者国君诸侯之闻见善与不善也，皆驰驱以告天子，是以赏当贤，罚当暴，不杀不辜，不失有罪。

## 尚同下

上之为政，得下之情则治，不得下之情则乱。何以知其然也？上之为政，得下之情，则是明于民之善非也。若苟明于民之善非也，则得善人而赏之，得暴人而罚之也。善人赏而暴人罚，则国必治。……若苟义不同者有党，上以若人为善，将赏之。若人唯使得上之赏，而辟百姓之毁，是以为善者，必未可使劝，见有赏也；上以若人为暴，将罚之，若人唯使得上之罚，而怀百姓之誉，是以为暴者，必未可使沮，见有罚也。故计上之赏誉不足以劝善，计其毁罚不足以沮暴，此何故以然？则义不同也。

### 注释：

- ①悬：测量垂直的工具。 ②不：不论。  
③放：同“仿”。 ④逾己：胜过自己。 ⑤辩：治。 ⑥当：尝试。 ⑦德：同“得”。 ⑧食：同“饲”，养育。 ⑨犒(chù)：用铡碎的草料喂牛羊。 ⑩絮：即“洁”。醴：甜酒。粢盛：装在祭器里的谷物。 ⑪缪：同“戮”。 ⑫兹：增多。 ⑬朽(xiù)：腐烂。 ⑭榜：同“访”。 ⑮菑(zì)：灾。 ⑯淦(zhēn)：众盛貌。 ⑰罟(gǔ)：网的总称。 ⑱错：举措。 ⑲政：同“正”。 ⑳吻：口舌。

## 《慎子》

### 题解：

战国时期慎到(公元前390—前315)撰。慎到，赵国人。全书共42篇，今仅存《威德》、《因循》、《民杂》等7篇。慎子主张法治，认为

“定赏分财必由法”，君主如果能“事断于法”，就能够“怨不生而上下和”，“法虽不善犹愈于无法”。在尚法的同时，他又提出重势。就是要实行法治，则必须掌握使法令得以贯彻的权势。只有君主“权重位尊”，才能做到“令行禁止”。同时，他又强调君主必须“事断于法”。并且要在“事断于法”的前提下应尽量让臣下去作具体的工作，发挥臣下的才能，就会“事无不治”。

## 威 德

天有明，不忧人之暗也；地有财，不忧人之贫也；圣人有德，不忧人之危也。天虽不忧人之暗，辟户牖必取己明焉<sup>①</sup>，则天无事也。地虽不忧人之贫，伐木刈草必取己富焉，则地无事也。圣人虽不忧人之危，百姓准上而比于下<sup>②</sup>，其必取己安焉，则圣人无事也。故圣人处上，能无害人，不能使人无己害也，则百姓除其害矣。圣人之有天下也，受之也，非取之也。百姓之于圣人也，养之也，非使圣人养己也，则圣人无事矣。

毛嫱、西施，天下之至姣也，衣之以皮俱<sup>③</sup>，则见者皆走；易之以元纁<sup>④</sup>，则行者皆止。由是观之，则元纁色之助也，姣者辞之，则色厌矣<sup>⑤</sup>。走背跋踰<sup>⑥</sup>，穷谷野，走十里，药也<sup>⑦</sup>。走背辞药则足废。故腾蛇游雾，飞龙乘云，云罢雾霁，与蚯蚓同，则失其所乘也。故贤而屈于不肖者，权轻也；不肖而服于贤者，位尊也。尧为匹夫，不能使其邻家；至南面而王，则令行禁止。由此观之，贤不足以服不肖，而势位足以屈贤矣。故无名而断者<sup>⑧</sup>，权重也；弩弱而矜高者<sup>⑨</sup>，乘于风也；身不肖而令行者，得助于众也。故举重越高者，不慢于药；爱赤子者，不慢于保；绝险历远者，不慢于御<sup>⑩</sup>。此得助则成，释助则废矣。夫三王五伯之德，参与天地，通于鬼神，周于生物者，其得助博也。

古者，工不兼事，士不兼官。工不兼事则事省，事省则易胜。士不兼官则职寡，职

寡则易守。故士位可世<sup>⑪</sup>，工事可常。百工之子，不学而能者，非生巧也，言有常事也。今也，国无常道，官无常法，是以国家日缪<sup>⑫</sup>。教虽成，官不足；官不足则道理匮；道理匮则慕贤智；慕贤智，则国家之政要，在一人之心矣。

古者立天子而贵之者，非以利一人也。曰：天下无一贵，则理无由通，通理以为天下也。故立天子以为天下，非立天下以为天子也；立国君以为国，非立国以为君也；立官长以为官，非立官以为长也。法虽不善，犹愈于无法<sup>⑬</sup>，所以一人心也。

夫投钩以分财<sup>⑭</sup>，投策以分马，非钩策为均也，使得美者不知所以德，使得恶者不知所以怨，所以塞愿望也。故蓍龟所以立公识也<sup>⑮</sup>，权衡所以立公正也，书契所以立公信也，度量所以立公审也，法制礼籍所以立公义也。凡立公，所以弃私也。

明君动事分功必由慧，定赏分财必由法，行德制中必由礼。故欲不得干时，爱不得犯法，贵不得逾亲，禄不得逾位。士不得兼官，工不得兼事，以能受事，以事受利。若是者，上无羡赏，下无羡财<sup>⑯</sup>。

## 因 循

天道因则大<sup>⑰</sup>，化则细<sup>⑱</sup>。因也者，因人之情也。人莫不自为也<sup>⑲</sup>，化而使之为我，则莫可得而用矣。是故先王见不受禄者不臣，禄不厚者不与人难<sup>⑳</sup>。人不得其所以自为也，则上不取用焉。故用人之自为，不用人之为我，则莫不可得而用矣。此之谓因。

## 民 杂

民杂处而各有所能，所能者不同，此民之情也。大君者，太上也，兼畜下者也。下之所能不同，而皆上之用也。是以大君因民之能为资，尽包而畜之，无能去取焉<sup>㉑</sup>。是故不设一方以求于人<sup>㉒</sup>，故所求者无不足

也。大君不择其下，故足。不择其下，则易为下矣。易为下，则莫不容，莫不容故多下，多下之谓太上<sup>②③</sup>。

君臣之道：臣事事而君无事，君逸乐而臣任劳。臣尽智力以善其事，而君无与焉<sup>②④</sup>，仰成而已。故事无不治，治之正道然也。人君自任而务为善以先下，则是代下负任蒙劳也<sup>②⑤</sup>，臣反逸矣。故曰君人者好为善以先下，则下不敢与君争为善以先君矣。皆私其所知以自覆掩，有过则臣反责君，逆乱之道也。君之智，未必最贤于众也。以未最贤而欲以善尽被下，则不贍矣<sup>②⑥</sup>。若使君之智最贤，以一君而尽贍下则劳，劳则有倦，倦则衰，衰则复反于不贍之道也。是以人君自任而躬事，则臣不事事，是君臣易位也，谓之倒逆。倒逆则乱矣。人君苟任臣而勿自躬，则臣皆事事矣。是君臣之顺，治乱之分，不可不察也。

## 知 忠

乱世之中，亡国之臣，非独无忠臣也。治国之中，显君之臣<sup>②⑦</sup>，非独能尽忠也。治国之人，忠不偏于其君<sup>②⑧</sup>；乱世之人，道不偏于其臣。然而治乱之世，同世有忠道之人。臣之欲忠者不绝世，而君未得宁其上。无遇比干、子胥之忠，而毁瘁主君于闾墨之中<sup>②⑨</sup>，遂染溺灭名而死。由是观之，忠未足以救世，而适足以重非<sup>②⑩</sup>。何以识其然也？曰：父有良子而舜放瞽叟<sup>②⑪</sup>，桀有忠臣而过盈天下。然则孝子不生慈父之家，而忠臣不生圣君之下。故明主之使其臣也，忠不得过职，而职不得过官。是以过修于身，而下不敢以善骄矜。守职之吏，人务其治，而莫敢淫偷其事<sup>②⑫</sup>。官正以敬其业，和顺以事其上。如此，则至治已。

亡国之君，非一人之罪也；治国之君，非一人之力也。将治乱在乎贤使任职，而不在于忠也。故智盈天下，泽及其君；忠盈天下，害及其国。故桀之所以亡，尧不能以为

存。然而尧有不胜之善，而桀有运非之名，则得人与失人也。故廊庙之材，盖非一木之枝也；粹白之裘，盖非一狐之皮也；治乱、安危、存亡、荣辱之施，非一人之力也。

## 德 立

立天子者，不使诸侯疑焉<sup>③⑬</sup>；立诸侯者，不使大夫疑焉；立正妻者，不使嬖妾疑焉；立嫡子者，不使庶孽疑焉。疑则动<sup>③⑭</sup>，两则争<sup>③⑮</sup>，杂则相伤。害在有与<sup>③⑯</sup>，不在独也。故臣有两位者，国必乱；臣两位而国不乱者，君在也；恃君而不乱矣，失君必乱。子有两位者，家必乱；子两位而家不乱者，父在也；恃父而不乱矣，失父必乱。臣疑其君，无不危之国；孽疑其宗，无不危之家。

## 君 人

君人者，舍法而以身治，则诛赏予夺从君心出矣。然则受赏者虽当，望多无穷；受罚者虽当，望轻无已。君舍法而以心裁轻重，则同功殊赏，同罪殊罚矣，怨之所由生也。是以分马者之用策，分田者之用钩。非以钩策为过于人智也，所以去私塞怨也。故曰大君任法而弗躬<sup>④⑰</sup>，则事断于法矣。法之所加，各以其分蒙其赏罚<sup>④⑱</sup>，而无望于君也，是以怨不生而上下和矣。

## 君 臣

为人君者不多听，据法倚数<sup>④⑲</sup>，以观得失。无法之言，不听于耳；无法之劳<sup>④⑳</sup>，不图于功；无劳之亲，不任于官。官不私亲，法不遗爱<sup>④㉑</sup>，上下无事，唯法所在。

注释：

- ①牖(yǒu)：窗户。 ②准上：效法君主。  
③皮俱：古时打鬼驱邪时戴的假面具。 ④元纁：细布帽子。 ⑤仄：掩。 ⑥走背：背着东西走路。跋踖：跋涉。 ⑦药：捆扎。 ⑧名：身份。

⑨矰(zēng): 系有丝绳射鸟的箭。 ⑩御: 驾车。  
 ⑪世: 世代相继。 ⑫缪: 同“谬”。 ⑬愈: 胜过。 ⑭投钩: 拈阄。 ⑮蓍龟: 龟甲, 古代占卜工具。 ⑯美: 泛滥。 ⑰因: 因循。 ⑱化: 变化。 ⑲自为: 为自己着想。 ⑳入难: 担任艰难的工作。 ㉑无能去取: 不要有所取舍。 ㉒一方: 唯一标准。 ㉓太上: 君主。 ㉔无与: 不参与。 ㉕代下: 臣下。 ㉖贍(shàn): 胜任。 ㉗显君之臣: 使君主显赫的臣子。 ㉘偏: 普遍。 ㉙毁瘁: 损害。 阍墨: 黑暗。 ㉚重非: 危害更多。 ㉛瞽(gǔ)叟: 舜的父亲。 ㉜淫: 过分。 ㉝偷: 怠惰。 ㉞疑: 同“拟”, 相等。 ㉟动: 对抗。 ㊱两: 权势对等。 ㊲有与: 有相对的对手。 ㊳躬: 亲自做具体工作。 ㊴分: 差别。 ㊵倚数: 凭借规则。 ㊶劳: 功劳。 ㊷法不遗爱: 执法不宽容亲近的人。

## 《申 子》

### 题解:

战国时期申不害(约公元前395—前337)撰。申不害郑国京(今河南荥阳县东南)人。韩灭郑后, 韩昭侯任他为相, 进行改革, 使韩“国治兵强”。所著《申子》原为二篇(一说六篇), 今仅存《大体》以及一些佚文。他主张“法治”, 强调君主必须集权于一身, 把立法、任免、赏罚等大权掌握在手中, 防止“一臣专君, 群臣皆蔽”现象的出现。为解决君臣之间的矛盾, 提出君主主要掌握驾御臣下的权术, 做到“藏于无事”, “示天下无为”。使臣下觉察不到君主的意图, 无从投其所好, 这样君主就能掌握住大权。

### 大 体

夫一妇擅夫, 众妇皆乱; 一臣专君, 群臣皆蔽。故妒妻不难破家也, 而乱臣不难破国也。是以明君使其臣, 并进辐凑<sup>①</sup>, 莫得专君焉。今人君之所以高为城郭而谨门闾之闭者, 为寇戎盗贼之至也。今夫弑君而取国

者, 非必踰城郭之险而犯门闾之闭也。蔽君之明, 塞君之聪, 夺之政而专其令, 有其民而取其国矣。今使乌获、彭祖负千钧之重<sup>②</sup>, 而怀琬琰之美; 令孟贲、成荆带干将之剑卫之<sup>③</sup>, 行乎幽道, 则盗犹偷之矣。令人君之力, 非贤乎乌获、彭祖, 而勇非贤乎孟贲、成荆也。其所守者, 非特琬琰之美, 千金之重也。而欲勿失, 其可得耶。明君如身, 臣如手, 君若号, 臣如响。君设其本, 臣操其末; 君治其要, 特行其详; 君操其柄, 臣事其常。为人臣者操契以责其名。名者, 天地之纲, 圣人之符。张天地之纲, 用圣人之符, 则万物之情, 无所逃之矣。故善为主者, 倚于愚<sup>④</sup>, 立于不盈, 设于不敢, 藏于无事, 窜端匿疏<sup>⑤</sup>, 示天下无为。是以近者亲之, 远者怀之。示人有余者, 人夺之; 示人不足者, 人与之。刚者折, 危者覆, 动者摇, 静者安。名自正也, 事自定也。是以有道者, 自名而正之, 随事而定之也。鼓不与于五音<sup>⑥</sup>, 而为五音主; 有道者不为五官之事, 而为治主。君知其道也, 官人知其事也。十言十当<sup>⑦</sup>, 百为百当者, 人臣之事也, 非君人之道也。昔者尧之治天下也, 以名。其名正, 则天下治。桀之治天下也, 亦以名。其名倚, 而天下乱。是以圣人贵名之正也。主处其大, 臣处其细。以其名听之, 以其名视之, 以其名命之。镜设精无为, 而美恶自备; 衡设平无为, 而轻重自得。凡因之道, 身与公无事, 无事而天下自极也。

### 君 臣

明君治国, 而晦晦<sup>⑧</sup>, 而行行<sup>⑨</sup>, 而止止<sup>⑩</sup>。三寸之机运而天下定<sup>⑪</sup>, 方寸之基正而天下治<sup>⑫</sup>。一言正而天下定, 一言倚而天下靡。

### 注释:

①辐: 车轮的辐条。 ②乌获、彭祖: 皆是古代的力士。 ③孟贲、成荆: 古代的勇士。 ④倚于愚: 装聋作哑。 ⑤窜端匿疏: 不露形迹。

⑥与：参与。 ⑦当：亲临。 ⑧晦晦：应该隐晦的就隐晦。 ⑨行行：应该进行的就进行。 ⑩止止：应该停止的就停止。 ⑪三寸：三寸之舌。 ⑫方寸：心。

## 《韩非子》

### 题解：

战国时期韩非（约公元前280—前233）撰。他用“法与时转则治”的历史观、“人民众而货财寡”的人口论和“皆挟自为心”的人性来论证实行“法治”的历史必然性和必要性，提出了一系列法律谋略。他认为人口的增长快于生活资料的增长，而人的本性又是自私自利的，所以为维护社会秩序，就必须用法律来“禁暴”、“止乱”，要求君主“不养恩爱之心，而增威严之势”。他把法律的产生看成是历史发展的产物，并企图从物质生活方面来说明产生的原因，这在当时的确不失为一种有深刻意义的见解。但他用人多物少来解释实际是阶级斗争不可调和的争夺以及法律的起源是错误的。他在总结前期法家“法”、“势”、“术”的基础上，提出更为完备的“法治”方法，就是必须“以法为本”使“法”、“势”、“术”三者结合起来。他认为实行“法治”就必须“以法为本”，因为法是人们行为的规范，是衡量人们的“自为心”是否有利于国家的标准，也是进行赏罚的依据。如果不重视“法”，国家的利益就要受到损害。所以他主张“明法”，并指出“明法者强，慢法者弱”。为此要树立法律的绝对权威，使其成为判断言行是非的唯一标准。而且要制定成文法公布于众。他提出贯彻法律的有效手段是用赏罚，称为“二柄”。他特别强调法令的无私，要求“法不阿贵”。指出法律主要不在于对赏罚对象的报复，而在于扩大社会影响。他特别推崇重势的思想，认为君主的立法和行赏罚，都必须以掌握权势为前提，必须集权于一身。在强调“法”不能离开“势”的同时，也强调“势”不能离开“法”，如果有“势”而无

“法”，也就不是“法治”。他提出“法”与“术”必须结合起来。所谓“术”就是君主驾御臣下的方法。主要是指任免和考核臣下的方法；另外是“藏于胸中，以偶众端，而潜御群臣”，即用权术暗中试探臣下。但也反对“徒术而无法”，因释法而用术就失去了判断标准。

### 有 度

国无常强，无常弱。奉法者强则国强，奉法者弱则国弱。……其国乱弱矣，又皆释国法而私其外<sup>①</sup>，则是负荆而救火也，乱弱甚矣！

故当今之时，能去私曲<sup>②</sup>，就公法者，则民安而国治；能去私行、行公法者，则兵强而敌弱。故审得失有法度之制者，加以群臣之上，则主不可欺以诈伪；审得失有权衡之称者，以听远事，则主不可欺以天下之轻重。今若以誉进能，则臣离上而下比周<sup>③</sup>。若以党举官，则民务交而不求用于法，故官之失能者，其国乱。以誉为赏，以毁为罚也，则好赏恶罚之人释公行，行私术，比周以相为也。忘主外交，以进其与，则其下所以为上者薄矣。交众与多，外内朋党，虽有大过，其蔽多矣。故忠臣危死于非罪，奸邪之臣安利于无功。忠臣危死而不以其罪，则良臣伏矣。奸邪之臣安利不以动，则奸臣进矣。此亡之本也。若是则群臣废法而行私重、轻公法矣。数至能人之门，不壹至主上之廷；百虑私家之便，不壹图主之国。属数虽多，非所以尊君也；百官虽具，非所以任国也。然则主有人主之名，而实托于群臣之家也。故臣曰：亡国之廷无人焉。廷无人者，非朝廷之衰也；家务相益，不务厚国；大臣务相尊，而不务尊君；小臣奉禄养交，不以官为事。此其所以然者，由主之不上断于法，而信下为之也。故明主使法择人，不自举也；使法量功，不自度也。能者不能弊，败者不能饰。誉者不能进，非者弗能退。则君臣之间明辩而易治，故主讎法则可也<sup>④</sup>。

夫人臣之侵其主也，如地形焉，即渐以往，使人主失端<sup>⑤</sup>，东西易面而不自知。故先王立司南以端朝夕<sup>⑥</sup>。故明主使其群臣不游意于法之外，不为惠于法之内，动无非法。法所以凌过游外私也，严刑所以遂令惩下也。威不贰错，制不二门<sup>⑦</sup>。威、制共则众邪彰矣。法不信则君行危矣。刑不断则邪不胜矣。故曰：巧匠目意中绳<sup>⑧</sup>，然必以规矩为度；上智捷举中事，必以先王之法为比<sup>⑨</sup>。故绳直而枉木斲<sup>⑩</sup>，准夷而高科削<sup>⑪</sup>，权衡县而重益轻，斗石设而多益少。故以法治国，举措而已矣<sup>⑫</sup>。法不阿贵<sup>⑬</sup>，绳不挠曲<sup>⑭</sup>。法之所加，智者弗能辞，勇者弗敢争。刑过不避大臣，赏善不遗匹夫。故矫上之失、诘下之邪<sup>⑮</sup>、治乱决缪<sup>⑯</sup>、绌羨齐非<sup>⑰</sup>、一民之轨，莫如法。厉官威民、退淫殆、止诈伪，莫如刑。刑重则不敢以贵易贱，法审则上尊而不侵。上尊而不侵，则主强而守要，故先王贵之而传之。人主释法用私，则上下不别矣。

## 二 柄

明主之所道制其臣者，二柄而已矣。二柄者，刑、德也。何谓刑、德？曰：杀戮之谓刑，庆赏之谓德。为人臣者畏诛罚而利庆赏<sup>⑱</sup>，故人主自用其刑德，则群臣畏其威而归其利矣<sup>⑲</sup>。故世之奸臣则不然：所恶则能得之其主而罪之，所爱则能得之其主而赏之。今人主非使赏罚之威利出于己也，听其臣而行其赏罚，则一国之人皆畏其臣而易其君<sup>⑳</sup>，归其臣而去其君矣。此人主失刑德之患也。夫虎之所以能服狗者，爪牙也。使虎释其爪牙而使狗用之，则虎反服狗矣。人主者，以刑德制臣者也。今君人者释其刑德而使臣用之，则君反制于臣矣。……

人主将欲禁奸，则审合刑名。刑名者，言与事也。为人臣者陈而言<sup>㉑</sup>，君以其言授之事，专以其事责其功。功当其事，事当其言，则赏；功不当其事，事不当其言，则罚。

故群臣其言大而功小者则罚，非罚小功也，罚功不当名也。群臣其言小而功大者亦罚，非不说于大功也，以为不当名之害，甚于有大功，故罚。昔者韩昭侯醉而寝，典冠者见君之寒也，故加衣于君之上。觉寝而说，问左右曰：“谁加衣者？”左右对曰：“典冠”。君因兼罪典衣与典冠。其罪典衣，以为失其事也；其罪典冠，以为越其职也。非不恶寒也，以为侵官之害甚于寒。故明主之畜臣：臣不得越官而有功，不得陈言而不当。越官则死，不当则罪。守业其官，所言者贞也<sup>㉒</sup>，则群臣不得朋党相为矣。

## 饰 邪

故镜执清而无事，美恶从而比焉，衡执正而无事，轻重从而载焉。夫摇镜则不得为明，摇衡则不得为正，法之谓也。故先王以道为常，以法为本，本治者名尊，本乱者名绝。……禁主之道，必明于公私之分，明法制，去私恩。夫令必行，禁必止，人主之公义也；必行其私，信于朋友，不可为赏劝，不可为罚沮<sup>㉓</sup>，人臣之私义也。私义行则乱，公义行则治，故公私有分。

## 难 三

法者，编著之图籍，设之于官府，而布之于百姓者也。术者，藏之于胸中，以偶众端<sup>㉔</sup>，而潜御群臣者也<sup>㉕</sup>。故法莫如显，而术不欲见。是以明主言法，则境内卑贱莫不闻知也，不独“满于堂”；用术，则亲爱近习莫之得闻也，不得“满于室”。而管子犹曰：“言于室满室，言于堂满堂。”非法术之言也。

## 难 势

慎子曰：“飞龙乘云，腾蛇游雾，云罢雾霁，而龙蛇与螾蜃同矣<sup>㉖</sup>，则失其所乘也。贤人而诎于不肖者<sup>㉗</sup>，则权轻位卑也；不肖

而能服于贤者，则权重位尊也。尧为匹夫，不能治三人；而桀为天子，能乱天下。吾以此知势位之足恃而贤智之不足慕也。夫弩弱而矢高者，激于风也；身不肖而令行者，得助于众也。尧教于隶属，而民不听；至于南面而王天下，令则行，禁则止。由此观之：贤智未足以服众，而势位足以诎贤者也。”

应慎子曰：飞龙乘云，腾蛇游雾，吾不以龙蛇为不托于云雾之势也。虽然，夫不择贤而专任势，足以为治乎？则吾未得见也。夫有云雾之势而能乘游之者，龙蛇之材美也；今云盛而螭弗能乘也，雾醖而蜃不能游也<sup>②</sup>，夫有盛云醖雾之势而不能乘游者，螭蜃之材薄也。今桀、纣南面而王天下，以天子之威为之云雾，而天下不免乎大乱者，桀、纣之材薄也。且其人以尧之势以治天下也，其势何以异桀之势，其势乱天下也。夫势者，非能必使贤者用之而不肖者不用之也。贤者用之则天下治，不肖者用之则天下乱。人之情性，贤者寡而不肖者众；而以威势之利济乱世之不肖人，则是以势乱天下者多矣，以势治天下者寡矣。夫势者，便治而利乱者也。故《周书》曰：“毋为虎傅翼，将飞人邑，择人而食之”。夫乘不肖人于势，是为虎傅翼也。桀、纣为高台深池以尽民力，为炮烙以伤民性，桀、纣得成肆行者，南面之威为之翼也。使桀、纣为匹夫，未始行一而身在刑戮矣。势者，养虎狼之心而成暴乱之事者也。此天下之大患也。势之于治乱本末（一说作末）有位也，而专言势之足以治天下者，则其智之所至者浅矣。夫良马固车，使臧获御之<sup>③</sup>，则为人笑；王良御之，而日取千里。车马非异也，或至乎千里，或为人笑，则巧拙相去远矣。今以国位为车，以势为马，以号令为辔衔，以刑罚为鞭策，使尧舜御之则天下治，桀纣御之则天下乱，则贤不肖相去远矣。夫欲追速致远，不知任王良；欲进利除害，不知任贤能，此不知类之患也。夫尧、舜亦治民之王良也。

复应之曰：其人以势为足恃以治官，客

曰必待贤乃治，则不然矣。夫势者，名一而变无数者也。势必于自然，则无为言于势矣。吾所为言势者，言人之所设也。夫尧、舜生而在上位，虽有十桀、纣不能乱者，则势治也；桀、纣亦生而在上位，虽有十尧、舜而亦不能治者，则势乱也。故曰：势治者则不可乱，而势乱者则不可治也。……夫贤之为道也，不可禁；而势之为道也，无不禁。以不可禁之贤，与无不禁之势，此矛盾之说也。夫贤、势之不相容，亦明矣。且夫尧、舜、桀、纣，千世而一出，是比肩踵踵而生也；世之治者不绝于中<sup>④</sup>，吾所以为言势者中也。中者，上不及尧、舜，而下亦不为桀、纣。抱法处势则治，背法去势则乱。今废法而待尧、舜，尧、舜至乃治，是千世乱而一治也；抱法处势而待桀、纣，桀、纣至乃乱，是千世治而一乱也。……夫弃隐栝之法<sup>⑤</sup>，去度量之数，使奚仲为车<sup>⑥</sup>，不能成一轮；无庆赏之劝、刑罚之威，释势委法，尧、舜户说而人辩之，不能治三家。夫势之足用亦明矣，而曰：“必待贤”，则亦不然矣。且夫百日不食，以待粱肉，饿者不活；今待尧、舜之贤，乃治当世之民，是犹待粱肉而救饿之说也。

## 定 法

问者曰：“申不害、公孙鞅，此二家之言，孰急于国？”

应之曰：“是不可程也<sup>⑦</sup>。人不食十日则死，大寒之隆不衣亦死，谓之衣食孰急于人？则是不可一无也，皆养生之具也。今申不害言术而公孙鞅为法。术者，因任而授官，循名而责实，操生杀之柄，课群臣之能者也<sup>⑧</sup>。此人主之所执也。法者，宪令著于官府，刑罚必于民心，赏存乎慎法，而罚加乎奸令者也<sup>⑨</sup>。此臣之所师也。君无术则弊于上，臣无法则乱于下，此不可一无，皆帝王之具也。”

问者曰：“徒术而无法，徒法而无术，其不可，何哉？”



## 说 疑

故有道之主，远仁义，去智能，服之以法。是以誉广而名威，民治而国安，知用民之法也。凡术也者，主之所执也；法也者，官之所以师也。然使郎中日闻道于郎门之外<sup>③</sup>，以至于境内曰见法<sup>④</sup>，又非其难者也。……圣王明君则不然，内举不避亲，外举不避仇。是在焉，从而举之；非在焉，从而罚之。是以贤良遂进而奸邪并退，故一举而能服诸侯。

## 诡 使

圣人之所以为治道者三：一曰利，二曰威，三曰名。夫利者所以得民也；威者所以行令也；名者上下之所同道也。非此三者，虽有，不急矣<sup>⑤</sup>。今利非无有也，而民不化上；威非不存也，而下不听从；官非无法也，而治不当名。三者非不存也，而世一治一乱者，何也？夫上之所贵与其所以为治，相反也。夫立名号，所以为尊也，今有贱名轻实者，世谓之高。设爵位，所以为贱贵基也，而简上不求见者<sup>⑥</sup>，世谓之贤。威利，所以行令也，而无利轻威者，世谓之重。法令，所以为治也，而不从法令、为私善者，世谓之忠。官爵，所以劝民也，而好名义，不进仕者，世谓之烈士。刑罚，所以擅威也，而轻法不避刑戮死亡之罪者，世谓之勇夫。民之急名也，甚其求利也。如此，则士之饥饿乏绝者，焉得无岩居苦身以争名于天下哉<sup>⑦</sup>？故世之所以不治者，非下之罪，上失其道也。常贵其所以乱而贱其所以治，是故下之所欲，常与上之所以为治相诡也。今下而听其上，上之所急也。而悖恣纯信、用心怯言，则谓之褻<sup>⑧</sup>；守法固，听令审，则谓之愚；敬上畏罪，则谓之怯；言时节，行中适，则谓之不肖；无二心、私学，听吏从教者，则谓之陋。……凡国之所以治者，刑罚也，今有私

对曰：“申不害，韩昭侯之佐也。韩者，晋之别国也。晋之故法未息，而韩之新法又生；先君之令未收，而后君之令又下。申不害不擅其法，不一其宪令，则奸多。故利在故法前令则道之，利在新法后令则道之。故、新相反，前、后相悖<sup>③</sup>，则申不害虽十使昭侯用术，而奸臣犹有所谲其辞矣<sup>④</sup>。故托万乘之劲韩十七年，而不至于霸王者，虽用术于上，法不勤饰于官之患也。公孙鞅之治秦也，设告相坐而责其实<sup>⑤</sup>，连什伍而同其罪，赏厚而信，刑重而必。是以其民用力劳而不休，逐敌危而不却，故其国富而兵强。然而无术以知奸，则以其富强也资人臣而已矣。及孝公、商君死，惠王即位，秦法未败也，而张仪以秦殉韩、魏；惠王死，武王即位，甘茂以秦殉周；武王死，昭襄王即位，穰侯越韩、魏而东攻齐，五年而秦不益尺寸之地，乃成其陶邑之封；应侯攻韩八年，成其汝南之封。自是以来，诸用秦者，皆应、穰之类也。故战胜则大臣尊，益地则私封立，主无术以知奸也。商君虽十饰其法，人臣反用其资。故乘强秦之资数十年，而不至于帝王者，法虽勤饰于官，主无术于上之患也。”

问者曰：“主用申子之术，而官行商君之法，可乎？”

对曰：“申子未尽于法，商君未尽于术也。申子言：‘治不逾官，虽知弗言’。治不逾官，谓之守职也可；知而弗言，是不谒过也<sup>⑥</sup>。人主以一国目视，故视莫明焉；以一国耳听，故听莫聪焉。今知而弗言，则人主尚安假借矣<sup>⑦</sup>？商君之法曰：‘斩一首者爵一级，欲为官者为五十石之官；斩二首者爵二级，欲为官者为百石之官。’官爵之迁与斩首之功相称也。今有法曰：‘斩首者令为医、匠’，则屋不成而病不已<sup>⑧</sup>。夫匠者手巧也，而医者齐药也<sup>⑨</sup>，而以斩首之功为之，则不当其能，今治官者，智能也；而斩首者，勇力之所加也。以勇力之所加而治智能之官，是以斩首之功为医、匠也。故曰：二子之于法术，皆未尽善也。”

行义者尊。社稷之所以立者，安静也，而躁险谗谀者任。四封之内所以听从者<sup>④</sup>，信与德也，而陂知倾覆者使<sup>⑤</sup>。令之所以行，威之所以立者，恭俭听上也，而岩居非世者显。仓廩之所以实者，耕农之本务也，而綦组锦绣刻画为末作者富<sup>⑥</sup>。名之所以成，地之所以广者，战士也。今死士之孤饥饿乞于道，而优笑酒徒之属乘车衣丝。赏禄，所以尽民力、易下死也<sup>⑦</sup>。今战胜攻取之士劳而赏不沾，而卜筮、视手理、狐蛊为顺辞于前者曰赐。上握度量，所以擅生杀之柄也。今守度奉量之士欲以忠婴上而不得见<sup>⑧</sup>，巧言利辞、行奸轨以幸偷世者数御。据法直言，名刑相当，循绳墨，诛奸人，所以为上治也，而愈疏远。谄施顺意从欲以危世者近习<sup>⑨</sup>，……上以此为教，名安得无卑，位安得无危！夫卑名危位者，必下之不从法令，有二心私学、反世者也。而不禁其行，不破其群，以散其党，又从而尊之，用事者过矣。……

夫立法令者，以废私也，法令行而私道废矣。私者，所以乱法也，而士有二心私学，岩居窅路<sup>⑩</sup>，托伏深虑<sup>⑪</sup>，大者非世，细者惑下；上不禁，又从而尊之以名，化之以实<sup>⑫</sup>，是无功而显，无劳而富也。如此，则士之有二心私学者，焉得无深虑勉知，相与诽谤法令，以求索与世相反者也？凡乱上反世者，常士有二心私学者也。故《本言》曰：“所以治者法也，所以乱者私也，法立则莫得为私矣。”故曰：道私者乱，道法者治。上无其道，则智者有私词，贤者有私意。上有私惠，下有利欲，圣智成群，造言作辞，以非法令于上，上不禁塞，又从而尊之，是教下不听上、不从法也。是以贤者显名而居，奸人赖赏而富。贤者显名而居，奸人赖赏而富，是以上不胜下也。

## 六 反

夫弹痤者痛<sup>⑬</sup>，饮药者苦，为苦急之故不弹痤饮药，则身不活、病不已矣。今上下

之接，无子父之泽<sup>⑭</sup>，而欲以行义禁下，则交必有郅矣<sup>⑮</sup>。且父母之于子也，产男则相贺，产女则杀之。此俱出父母之怀衽，然男子受贺、女子杀之者，虑其后便，计之长利也。故父母之于子也，犹用计算之心以相待也，而况无父子之泽乎！今学者之说人主也，皆去求利之心，出相爱之道，是求人主之过于父母之亲也，此不熟于论恩，诈而诬也，故明主不受也。圣人之治也，审于法禁，法禁明著则官治；必于赏罚，赏罚不阿，则民用。民用官治则国富，国富则兵强，而霸王之业成矣。霸王者，人主之大利也。人主挟大利以听治，故其任官当能，其赏罚无私。使士民明焉：尽力致死，则功伐可立，而爵禄可致，爵禄致而富贵之业成矣。富贵者，人臣之大利也。人臣挟大利以从事，故其行危至死<sup>⑯</sup>，其力尽而不望<sup>⑰</sup>。此谓君不仁、臣不忠，则可以霸王矣。

夫奸必知则备，必诛则止；不知则肆，不诛则行。夫陈轻货于幽隐，虽曾、史可疑也；悬百金于市，虽大盗不取也。不知，则曾史可疑于幽隐；必知，则大盗不取悬金于市。故明主之治国也，众其守而重其罪，使民以法禁而不以廉止。母之爱子也倍父，父令之行于子者十母<sup>⑱</sup>；吏之于民无爱，令之行于民也万父。母积爱而令穷，吏用威严而民听从，严、爱之策亦可决矣<sup>⑲</sup>。且父母之所以求于子也，动作则欲其安利也；行身则欲其远罪也。君上之于民也，有难则用其死，安平则尽其力。亲以厚爱，关于于安利，而不听；君以无爱利，求民之死力，而令行。明主知之，故不养恩爱之心，而增威严之势。故母厚爱处，子多败，推爱也；父薄爱教笞，子多善，用严也。

今家人之治产也，相忍以饥寒，相强以劳苦，虽犯军旅之难、饥谨之患，温衣美食者，必是家也。相怜以衣食，相惠以佚乐，天饥岁荒，嫁妻卖子者，必是家也。故法之为道：前苦而后利；仁之为道：偷乐而后穷。圣人权其轻重，求其大利，故用法之相

忍，而弃仁人之相怜也。学者之言皆曰“轻刑”，此乱亡之术也。凡赏罚之必者，劝禁也。赏厚则所欲之得也疾，罚重则所恶之禁也急。夫欲利者必恶害，害者利之反也。反于所欲，焉得无恶？欲治者必恶乱，乱者治之反也。是故欲治甚者，其赏必厚矣；其恶乱甚者，其罚必重矣。……且夫重刑者，非为罪人也，明主之法揆也<sup>⑤</sup>。杀贼，非治所杀也，治所杀也者，是治死人也；刑盗，非治所刑也，治所刑也者，是治胥靡也。故曰：重一奸之罪，而止境内之邪，此所以为治也。重罚者，盗贼也；而悼惧者，良民也。欲治者奚疑于重刑！若夫厚赏者，非独赏功也，又劝一国。受赏者甘利，未赏者慕业，是报一人之功而劝境内之众也，欲治者何疑于厚赏！今不知治者皆曰：“重刑伤民。轻刑可以止奸，何必于重哉？”此不察于治者也。夫以重止者，未必以轻止也；以轻止者，必以重止矣。是以上设重刑而奸尽止，奸尽止则此奚伤于民也！所谓重刑者，奸之所利者细，而上之所加焉者大也；民不以小利加大罪，故奸必止也。所谓轻刑者，奸之所利者大，上之所加焉者小也；民慕其利而傲其罪，故奸不止也。故先圣有谚曰：“不蹶于山而蹶于垤<sup>⑥</sup>。”山者大，故人顺之<sup>⑦</sup>；垤微小，故人易之也。今轻刑罚，民必易之；犯而不诛，是驱国而弃之也<sup>⑧</sup>；犯而诛之，是为民设陷也。是故轻罪者，民之垤也。是以轻罪之为道也，非乱国也，则设民陷也<sup>⑨</sup>，此则可谓伤民矣。

## 五 蠹

上古之世，人民少而禽兽众，人民不胜禽兽虫蛇。有圣人作，构木为巢以避群害，而民悦之，使王天下，号之曰有巢氏。民食果蓏蚌蛤<sup>⑩</sup>，腥臊恶臭而伤害腹胃，民多疾病。有圣人作，钻燧取火，以化腥臊，而民悦之，使王天下，号之曰燧人氏。中古之世，天下大水，而鲧禹决渚<sup>⑪</sup>。近古之世，桀纣

暴乱，而汤武征伐。今有构木钻燧于夏后氏之世者，必为鲧禹笑矣；有决渚于殷周之世者，必为汤武笑矣。然则今有美尧、舜、鲧、禹、汤、武之道于当今之世者，必为新圣笑矣。是以圣人不期修古<sup>⑫</sup>，不法常可<sup>⑬</sup>，论世之事，因为之备。宋人有耕田者，田中有株，兔走触株，折颈而死，因释其耒而守株<sup>⑭</sup>，冀复得兔。兔不可复得而身为宋国笑。今欲以先王之政，治当世之民，皆守株之类也。

古者丈夫不耕，草木之实足食也；妇人不织，禽兽之皮足衣也。不事力而养足，人民少而财有余，故民不争。是以厚赏不行，重罚不用，而民自治。今人有五子不为多，子又有五子，大父未死而有二十五孙。是以人民众而货财寡，事力劳而供养薄，故民争，虽倍赏累罚而不免于乱。

尧之王天下也，茅茨不翦<sup>⑮</sup>，采椽不斲<sup>⑯</sup>，粢粢之食<sup>⑰</sup>，藜藿之羹<sup>⑱</sup>，冬日麇裘<sup>⑲</sup>，夏日葛衣<sup>⑳</sup>，虽监门之服养，不亏于此矣。禹之王天下也，身执耒耜以为民先，股无胈，胫不生毛，虽臣虏之劳不苦于此矣<sup>㉑</sup>。以是言之，夫古之让天子者，是去监门之养，而离臣虏之劳也。故传天下而不足多也。今之县令，一曰身死，子孙累世絮驾<sup>㉒</sup>，故人重之。是以人之于让也，轻辞古之天子、难去今之县令者，薄厚之实异也。夫山居而谷汲者，媮腊而相遗以水<sup>㉓</sup>；泽居苦水者，买庸而决窦<sup>㉔</sup>。故饥岁之春，幼弟不饷；穰岁之秋，疏客必食。非疏骨肉、爱过客也，多少之实异也。是以古之易财，非仁也，财多也；今之争夺，非鄙也，财寡也。轻辞天子，非高也，势薄也；重争土橐，非下也，权重也。故圣人议多少、论薄厚，为之政。故罚薄不为慈，诛严不为戾，称俗而行也。故事因于世，而备适于事。

古者文王处丰、镐之间，地方百里，行仁义而怀西戎，遂王天下。徐偃王处汉东，地方五百里，行仁义，割地而朝者三十有六国。荆文王恐其害己也，举兵伐徐，遂灭之。

故文王行仁义而王天下，偃王行仁义而丧其国，是仁义用于古而不用于今也。故曰：世异则事异。当舜之时，有苗不服，禹将伐之，舜曰：“不可。上德不厚而行武，非道也。”乃修教三年，执干戚舞<sup>85</sup>，有苗乃服。共工之战，铁铉巨者及乎敌<sup>86</sup>，铠甲不坚者伤乎体，是干戚用于古不用于今也。故曰：事异则备变。上古竞于道德，中世逐于智谋，当今争于气力。齐将攻鲁，鲁使子贡说之。齐人曰：“子言非不辩也。吾所欲者土地也，非斯言所谓也。”遂举兵伐鲁，去门十里以为界。故偃王仁义而徐亡，子贡辩智而鲁削。以是言之，夫仁义辩智，非所以持国也。去偃王之仁，息子贡之智，循徐鲁之力使敌万乘，则齐荆之欲不得行于二国矣。

夫古今异俗，新故异备。如欲以宽缓之政，治急世之民，犹无辔策<sup>87</sup>，而御驽马，此不知之患也。今儒墨皆称先王兼爱天下，则视民如父母。何以明其然也？曰：“司寇行刑，君为之不举乐；闻死刑之报，君为流涕。”此所举先王也。夫以君臣为如父子则必治，推是言之，是无乱父子也。人之性情莫先于父母，父母皆见爱而未必治也。君虽厚爱，奚遽不乱？今先王的爱民，不过父母之爱之，子未必不乱也，则民奚遽治哉？且夫以法行刑，而君为之流涕，此以效仁，非以为治也。夫垂泣不欲刑者，仁也；然而不可不刑者，法也。先王胜其法，不听其泣，则仁之不可以为治亦明矣。且民者固服于势，寡能怀于义。仲尼，天下圣人也，修行明道以游海内，海内说其仁，美其义，而为服役者七十人，而仁义者一人。鲁哀公，下主也，南面君国，境内之民莫敢不臣。民者固服于势，势诚易以服人。故仲尼反为臣，而哀公顾为君。仲尼非怀其义，服其势也。故以义，则仲尼不服于哀公；乘势，则哀公臣仲尼。今学者之说人主也。不乘必胜之势，而务行仁义则可以王，是求人主之必及仲尼，而以世之凡民皆如列徒，此必不得之数也。

今有不才之子，父母怒之弗为改，乡人

谏之弗为动<sup>88</sup>，师长教之弗为变。夫以父母之爱，乡人之行，师长之智，三美加焉，而终不动，其胫毛不改。州部之吏操官兵，推公法，而求索奸人，然后恐惧，变其节，易其行矣。故父母之爱不足以教子，必以待州部之严刑者，民固骄于爱，听于威矣。故十仞之城，楼季弗能逾者<sup>89</sup>，峭也；千仞之山，跛牂易牧者<sup>90</sup>，夷也。故明王峭其法，而严其刑也。布帛寻常<sup>91</sup>，庸人不释；铄金百溢<sup>92</sup>，盗跖不掇。不必害，则不释寻常；必害乎，则不掇百溢，故明主必其诛也。是以赏莫如厚而信，使民利之；罚莫如重而必，使民畏之；法莫如一而固，使民知之。故主施赏不迁，行诛无赦，誉辅其赏，毁随其罚，则贤不肖俱尽其力矣。

今则不然。以其有功也爵之，而卑其士官也；以其耕作也赏之，而少其家业也；以其不收也外之，而高其轻世也；以其犯禁也罪之，而多其有勇也。毁誉赏罚之所加者相与悖缪也，故法禁坏而民愈乱。今兄弟被侵必攻者，廉也；知友被辱随仇者，贞也。廉贞之行成，而君上之法犯矣。人主尊贞廉之行，而忘犯禁之罪，故民程于勇<sup>93</sup>，而吏不能胜也。不事力而衣食，则谓之能；不战功而尊，则谓之贤。贤能之行成，而兵弱而地荒矣。人主说贤能之行，而忘兵弱地荒之祸，则私行立而公利灭矣。

儒以文乱法，侠以武犯禁，而人主兼礼之，此所以乱也。夫离法者罪<sup>94</sup>，而诸先生以文学取；犯禁者诛，而群侠以私剑养。故法之所非，君之所取；吏之所诛，上之所养也。法、取、上、下，四相反也，而无所定，虽有十黄帝不能治也。故行仁义者非所誉，誉之则害功；工文学者非所用，用之则乱法。楚之有直躬，其父窃羊而谒之吏。今尹曰：“杀之。”以为直于君而曲于父，报而罪之。以是观之，夫君之直臣，父之暴子也。鲁人从君战，三战三北。仲尼问其故，对曰：“吾有老父，身死莫之养也。”仲尼以为孝，举而上之。以是观之，夫父子孝子，君之背

臣也。故令尹诛，而楚奸不上闻；仲尼赏，而鲁民易降北。上下之利若是其异也，而人主兼举匹夫之行，而求致社稷之福，必不几矣<sup>⑤</sup>。古者苍颉之作书也，自环者谓之私，背私谓之公。公、私之相背也，乃苍颉固以知之矣。今以为同利者，不察之患也。然则为匹夫计者，莫如修仁义而习文学。仁义修则见信，见信则受事；文学习则为明师，为明师则显荣，此匹夫之美也。然则无功而受事，无爵而显荣，有政如此，则国必乱，主必危矣。故不相容之事，不两立也。斩敌者受赏，而高慈惠之行；拔城者受爵禄，而信兼爱之说；坚甲厉兵以备难，而美荐绅之饰；富国以农，距敌恃卒，而贵文学之士；废敬上畏法之民，而养游侠私剑之属，举行如此，治强不可得也。国平养儒侠，难至用介士，所利非所用，所用非所利。是故服事者简其业<sup>⑥</sup>，而游学者日众，是世之所以乱也。

且世之所谓贤者，贞信之行也；所谓智者，微妙之言也。微妙之言，上智之所难知也。今为众人法而以上智之所难知，则民无从识之矣。故糟糠不饱者，不务粱肉；短褐不完者，不待文绣。夫治世之事，急者不得，则缓者非所务也。今所治之政，民间之事，夫妇所明知者不用，而慕上知之论，则其于治反矣。故微妙之言，非民务也。若夫贤贞信之行，必将贵不欺之士；贵不欺之士者，亦无不欺之术也。布衣相与交，无富厚以相利，无威势以相惧也，故求不欺之士。今人主处制人之势，有一国之厚，重赏严诛，得操其柄，以修明术之所烛<sup>⑦</sup>，虽有田常、子罕之臣不敢欺也，奚待于不欺之士？今贞信之士不盈于十，而境内之官以百数。必任贞信之士，则人不足官。人不足官，则治者寡而乱者众矣。故明主之道，一法而不求智，固术而不慕信。故法不败，而群官无奸诈矣。

今人主之于言也，说其辩，而不求其当焉；其用于行也，美其声，而不责其功焉。

是以天下之众，其谈言者务为辩而不周于用。故举先王、言仁义者盈廷，而政不免于乱；行身者竞于为高，而不合于功。故智士退处岩穴，归禄不受，而兵不免于弱。兵不免于弱，政不免于乱，此其故向也？民之所誉，上之所礼，乱国之术也。今境内之民皆言治，藏商<sup>⑧</sup>、管之法者家有之<sup>⑨</sup>，而国愈贫，言耕者众，执耒者寡也；境内皆言兵，藏孙<sup>⑩</sup>、吴之书者家有之<sup>⑪</sup>，而兵愈弱，言战者多，被甲者少也。故明主用其力，不听其言；赏有功，必禁无用。故民尽死力以从其上。夫耕之用力也劳，而民为之者，曰：可得以富也。战之为事也危，而民为之者，曰：可得以贵也。今修文学、习言谈，则无耕之劳而有富之实，无战之危而有贵之尊，则人孰不为也！是以百人事智，而一人用力。事智者众则法败，用力者寡则国贫，此世之所以乱也。故明主之国无书简之文，以法为教；无先王之语，以吏为师；无私剑之捍，以斩首为勇。是境内之民，其言谈者必轨于法，动作者归之于功，为勇者尽之于军。是故无事则国富，有事则兵强，此之谓王资。既畜王资而承敌国之釁<sup>⑫</sup>，超五帝、侔三王者，必此法也。

今则不然。士民纵恣于内，言谈者为势于外，外内称恶，以待强敌，不亦殆乎！故群臣之言外事者，非有分于从衡之党<sup>⑬</sup>，则有仇雠之忠，而借力于国也。从者，合众弱以攻一强也；而衡者，事一强以攻众弱也；皆非所以持国也。今人臣之言衡者皆曰：“不事大则遇敌受祸矣。”事大未必有实，则举图而委，效玺而请兵矣。献图则地削，效玺则名卑。地削则国削，名卑则政乱矣。事大为衡，未见其利也，而亡地乱政矣。人臣之言从者皆曰：“不救小而伐大则失天下，先天下则国危，国危而主卑。”救小未必有实，则起兵而敌大矣。救小未必能存，而敌大未必不有疏，有疏则为强国制矣。出兵则军败，退守则城拔。救小为从，未见其利，而亡地败军矣。是故事强则以外权士官于内，救小则

以内重求利于外。国利未立，封土厚禄至矣；主上虽卑，人臣尊矣；国地虽削，私家富矣。事成则以权长重，事败则以富退处。人主之听说于其臣，事未成则爵禄已尊矣，事败而弗诛，则游说之士，孰不为用饕餮之说①，而侥幸其后？故破国亡主，以听言谈者之浮说。此其故何也？是人君不明乎公私之利，不察当否之言，而诛罚不必其后也。皆曰：“外事，大可以王，小可以安。”夫王者，能攻人者也，而安则不可攻也。强则能攻人者也，治则不可攻也。治强不可责于外，内政之有也。今不行法术于内，而事智于外，则不至于治强矣。鄙谚曰：“长袖善舞，多钱善贾。”此言多资之易为工也。故治强易为谋，弱乱难为计。故用于秦者，十变而谋希失；用于燕者，一变而计希得。非用于秦者必智，用于燕者必愚也，盖治乱之资异也。故周去秦为从，期年而举②；卫离魏为衡，半岁而亡。是周灭于从，卫亡于衡也。使周卫缓其从衡之计，而严其境内之治，明其法禁，必其赏罚，尽其地力以多其积，致其民死以坚其城守，天下得其地则其利少，攻其国则其伤大。万乘之国莫敢自顿于坚城之下，而使强敌裁其弊也。此必不亡之术也。舍必不亡之术，而道必灭之事，治国者之过也。智困于内而政乱于外，则亡不可振也。

民之政计，皆就安利如辟危穷。今为之攻战，进则死于敌，退则死于诛，则危矣。弃私家之事而必汗马之劳，家困而上弗论，则穷矣。穷危之所在地，民安得勿避？故事私门而完解舍③，解舍完则远战，远战则安。行货赂而袭当涂者则求得④，求得则私安，私安则利之所在，安得勿就？是以公民少而私人众矣。

夫明王治国之政，使其商工游食之民少而名卑，以趣本务而外末作⑤。今世近习之请行⑥，则官爵可买。官爵可买则商工不卑也矣。奸财货贾得用于市，则商人不少矣。聚斂倍农，而致尊过耕战之士，则耿介之士寡，而商贾之民多矣。

是故乱国之俗，其学者则称先王之道以籍仁义，盛容服而饰辩说，以疑当世之法，而贰人主之心。其言谈者为设诈称，借于外力以成其私，而遗社稷之利。其带剑者，聚徒属，立节操，以显其名，而犯五官之禁⑦。其患御者积于私门⑧，尽货赂而用重人之谒⑨，退汗马之劳。其商工之民，修治苦窳之器，聚沸靡之财⑩，蓄积待时，而侔农夫之利⑪。此五者，邦之蠹也。人主不除此五蠹之民⑫，不养耿介之士，则海内虽有破亡之国，削灭之朝，亦勿怪矣。

## 心 度

圣人之治民，度于本，不从其欲，期于利民而已。故其与之刑，非所以恶民，爱之本也。刑胜而民静，赏繁而奸生。故治民者，刑胜，治之首也；赏繁，乱之本也。夫民之性，喜其乱而不亲其法。故明主之治国也，明赏则民劝功，严刑则民亲法。劝功则公事不犯，亲法则奸无所萌。故治民者禁奸于未萌⑬，而用兵者服战于民心。禁先其本者治，兵战其心者胜。圣人之治民也，先治者强，先战者胜。夫国事务先而民心专，举公而私不从⑭，赏告而奸不生，明法而治不烦。能用四者强，不能用四者弱。夫国之所以强者政也，主之所以尊者权也。故明君有权有政，乱君亦有权有政，积而不同⑮，其所以立，异也。故明君操权而上重，一政而国治。故法者，王之本也；刑者，爱之自也。

夫民之性，恶劳而乐佚。佚则荒，荒则不治，不治则乱，而赏刑不行于天下者必塞。故欲举大功而难致而力者，大功不可几而举也。欲治其法而难变其故者⑯，民乱不可几而治也。故治民无常⑰，唯治为法。法与时转则治，治与世宜则有功。故民朴而禁之以名则治，世知而维之以刑则从。时移而治不易者乱，能众而禁不变者削⑱。故圣人之治民也，法与时移而禁与能变。

### 注释:

①外: 法律之外。②私曲: 偏私。③比周: 勾结。④讎法: 依法。⑤失端: 迷失方向。⑥司南: 指南的仪器。⑦制不二门: 法令不出于二门。⑧意: 测度。⑨比: 比照。⑩枉: 弯曲。斲: 砍。⑪准: 测平仪器。夷: 平。⑫举措: 举权衡, 措斗石。比喻治国并不复杂。⑬阿: 曲从。⑭挠: 弯曲。⑮诘: 穷究。⑯缪: 同“谬”。⑰绌: 同“黜”, 贬退。⑱利: 贪图。⑲归其利: 怀其惠。⑳易: 轻视。㉑而: 同“其”。㉒贞: 正直。㉓沮(jǔ): 阻。㉔偶: 通“耦”, 合, 通。㉕潜御: 暗中驾驭。㉖螾: 同“蚓”。螳: 同“蚁”。㉗诘: 屈。㉘陟: 同“浓”。㉙臧获: 奴婢。㉚中: 中材。㉛隐括: 矫正曲木的工具。㉜奚仲: 古代巧匠, 精于造车。㉝程: 估计。㉞课: 考核。㉟奸令: 犯法。㊱悖(bèi): 抵触。㊲诤(zhèng): 诡诈。㊳告: 告奸。㊴谒: 告发。㊵假借: 凭借。㊶已: 愈。㊷齐: 调理。㊸郎中: 官名。郎门: 走廊。㊹日见法: 一天之内听到法令。㊺不急: 不急的事务。㊻简: 轻慢。见: 任用。㊼岩居: 隐居而不仕。㊽窶(jiù): 朴素居缩。㊾四封: 四境。㊿被知: 偏私之见。①素组: 杂色的丝织品。②易下死: 换得下属的效死尽忠。③婴上: 犯上。④近习: 君主周围亲近的人。⑤窟: 深坑。⑥托伏: 假隐。⑦化: 同“货”。⑧弹座: 用砭针治病。⑨泽: 恩泽。⑩郄: 同“隙”, 裂痕。⑪危至: 冒险。⑫望: 怨。⑬十母: 十倍于母。⑭策: 同策。⑮揆: 准则。⑯蹶(zhì): 绊倒。垤(dié): 小土堆。⑰顺: 慎。⑱是驱国而弃之: 使全国人放弃法律。⑲陷: 陷井。⑳果: 木本植物的果实。㉑麻: 草本植物果实。蜂: 同“蚌”。㉒鲧(gūn): 禹的父亲。㉓修古: 遵守古制。㉔常可: 不变的法规。㉕耒(lěi): 农具。㉖茅茨: 用茅草盖的房顶。㉗斲(zhuō): 砍。㉘粝粝: 粗粮。㉙藜藿(lí huò): 野菜。㉚麋(ní): 小鹿。㉛葛衣: 粗麻布衣服。㉜臣虏: 奴隶。㉝絮驾: 系马乘车。㉞媵(lón): 古代楚国在二月祭

祀饮食神的节日。㉟买庸: 雇用佣工。决谿: 挖水道。㊱干: 盾牌。戚: 大斧。㊲铁铉: 兵器。㊳警策: 马鞭。㊴谯: 训斥。㊵楼季: 魏文侯之弟, 善于跳高。㊶跛牂: 跛足的母羊。㊷寻常: 古代长度单位, 八尺为一寻, 二寻为一常。㊸溢: 同“镒”, 重量单位, 二十两为一镒。㊹程: 同“逞”。㊺离: 同“罹”, 触犯。㊻几: 希望。㊼简: 懈怠。㊽烛: 明察。㊾商: 商鞅。㊿管: 管仲。①孙: 孙武。②吴: 吴起。③量: 同“鲜”, 间隙。④从衡: 即“纵横”。⑤矰缴之说: 求取名利的言论。⑥期年: 一整年。⑦解舍: 免除赋役。⑧当涂者: 当权者。⑨趣: 趋。末作: 指工、商。⑩近习: 亲近熟悉的人。请: 请托。⑪五官: 司徒、司马、司空、司士、司寇。⑫患御: 逃兵役。⑬重人: 权贵。⑭沸靡: 奢侈无用。⑮侔: 同“牟”, 取。⑯蠹: 蛀虫。⑰萌: 发生。⑱举公: 举人以公。⑲积: 聚, 集权于一身。⑳故: 旧习旧法。㉑常: 不变的方法。㉒能众: 智巧多端。禁不变: 禁令的内容一成不变。

## 《新 论》

### 题解:

东汉桓谭(公元前24—56)撰, 共29篇, 早佚, 今本为后人辑录。其中《王霸》、《谴韩》等篇对法律谋略颇有论述。他总结秦王朝灭亡的教训, 提出“王霸”并用, “威德更兴”的主张。认为只有交替使用文和武, 德和威的统治方法, 才能巩固自己的统治。而且要做到刑不“二门”, “法度明正”, 也就是要有统一的法度。要保证法律的贯彻, 必须选用贤吏执法。所谓“贤吏正士, 为上处事, 持法宜如丹青。”他的主张当时未被当权者采纳, 反而遭到诽谤, 在“意忽忽不乐”中死去。

## 王 霸

夫上古称三皇五帝, 而次有三王五霸, 此天下君之冠首也。故言三皇以道治, 而五



帝用德化；三王由仁义，五霸用权智。其说之曰：无制令刑罚，谓之皇；有制令而无刑罚，谓之帝；赏善诛恶，诸侯朝事，谓之王；兴兵众，约盟誓，以信义矫世<sup>①</sup>，谓之霸。王者往也，言其惠泽优游<sup>②</sup>，天下归往也。五帝以上久远，经传无事。唯王霸二盛之义，以定古今之理焉。夫王道之治，先除人害，而足其衣食；然后教以礼义，使知善恶去就；是故大化四溟<sup>③</sup>，天下安乐，此王者之术。霸功之大者，尊君卑臣，权统由一，政不二门，赏罚必信，法令著明，百官修理，威令必行，此霸者之术。王道纯粹，其德如彼；霸道驳杂，其功如此，俱有天下，而君万民，垂统子孙，其实一也。

## 遭 非

灾异变怪者，天下所常有，无世而不然；逢明主贤臣智士仁人，则修德、善政、省职、慎引以应之，故咎殃消亡而祸转为福焉。……故《周书》曰：天子见怪则修德；诸侯见怪则修政；大夫见怪则修职；士庶见怪则修身；神不能伤道，妖亦不能害德。及衰世薄俗，君臣多淫骄失政，士庶多邪心恶行，是以数有灾异变怪；又不能内自省视，畏天威，而反外考谤议，求问厥故；惑于佞愚而以自诿误<sup>④</sup>，而令患祸得就，皆违天逆道者也。

或言往者公卿重臣缺，而众人咸豫部署云甲乙当为之，后果然。彼何以处知而又能与上同意乎？孔子谓子贡亿则屡中<sup>⑤</sup>，今众人能与子贡等乎？余应曰：世之在位人率同辈，相去不甚胶著，其脩善少愈者，固上下所昔闻知也。夫明殊者视异，智均者虑侔<sup>⑥</sup>，故群下之隐，常与上同度也。如昔汤<sup>⑦</sup>、武之用伊<sup>⑧</sup>、吕<sup>⑨</sup>。高宗之取傅说，桓<sup>⑩</sup>、穆之授管宁<sup>⑪</sup>、由奚<sup>⑫</sup>，岂众人所识知哉！彼群下虽好意措，亦焉能责斯以可居大臣辅相者乎？国家设理官制刑辟<sup>⑬</sup>，所以定奸邪，又内量中丞御史以正齐轂下，故常用明习

者。

……或著能立事而恶劣弱之谤，是以役以箠楚<sup>⑭</sup>，舞文成恶，及事成狱毕，虽使皋陶听之，犹不能闻也。至于言语小故，陷致人于族灭，事诚可悼痛焉！……夫贤吏正士为上处事，持法宜如丹青矣！是故言之当，必可行也；罪之当，必可刑也。如何苟欲阿指乎？如遭上忽略，不宿留，而听行其事，则当受强死也。哀帝时，待诏伍客，以知星好方言，数[见]诏。后坐(帝)事下狱，狱穷讯，得其宿与人言：汉朝当生勇怒子如武帝者。刻暴以为先帝为怒子非所宜言，大不敬。夫言语之时，过差失误，乃不足被以刑诛，及诋欺事，可无于不至罪。《易》言大人虎变，君子豹变。即以是论谕人主，宁可谓曰何为比我禽兽乎？如称君之圣明与尧舜同，或可怒，何故比我于死人乎？世主既不通，而辅佐执事者，复随而听之，顺成之，不亦重为蒙蒙乎<sup>⑮</sup>！

注释：

- ①矫世：矫正世俗的过失。 ②优游：优厚。 ③四溟：四方会合。 ④诿误：贻误。 ⑤亿：猜想。 ⑥侔：相等。 ⑦汤：商汤王。 ⑧武：周武王。伊：伊尹。 ⑨吕：吕尚。 ⑩桓：齐桓公。 ⑪穆：秦穆公。管宁：管仲。 ⑫由奚：由余、百里奚。 ⑬刑辟：法律。 ⑭箠：木棍。 ⑮蒙蒙：模糊不明。

## 《便宜十六策》

题解：

三国时期诸葛亮(181—234)撰，收入《诸葛亮集》。其中的《赏罚》、《教令》、《斩断》等策，阐明了自己的法律主张。他认为赏可以兴功，罚可以禁奸。行赏罚的关键是要做到公平，“赏赐不避怨讎”，“诛罚不避亲戚”。要使“教令”严明，首先君主要正其身，“身不正则令不从，令不从则生变乱”。故为君之道以教令为先，诛罚为后。军队不从教令者，施以斩断之法。其法有七：“一曰轻、二曰慢、



三曰盗、四曰欺、五曰背、六曰乱、七曰误”。对触犯军法者，必须依法惩罚，严明军纪。

## 赏 罚

赏罚之政，谓赏善罚恶也。赏以兴功，罚以禁奸，赏不可不平，罚不可不均。赏赐知其所施，则勇士知其所死；刑罚知其所加，则邪恶知其所畏。故赏不可虚施，罚不可妄加，赏虚施则劳臣怨<sup>①</sup>，罚妄加则直士恨<sup>②</sup>，是以羊羹有不均之害，楚王有信谗之败。夫将专持生杀之威，必生可杀，必杀可生，忿怒不详，赏罚不明，教令不常，以私为公，此国之五危也。赏罚不明，教令有不从。必杀可生，众奸不禁；必生可杀，士卒散亡；贫怒不详，威武不行；赏罚不明，下不劝功；政教不当，法令不从；以私为公，人有二心。故众奸不禁，则不可久；士卒散亡，其众必寡；威武不行，见敌不起；下不劝功，上无强辅；法令不从，事乱不理；人有二心，其国危殆。故防奸以政，救奢以俭，忠直可使理狱，廉平可使赏罚。赏罚不曲，则人死服。路有饥人，厩有肥马，可谓亡人而自存，薄人而自厚。故人君先募而后赏，先令而后诛，则人亲附。畏而爱之，不令而行。赏罚不正，则忠臣死于非罪，而邪臣起于非功。赏赐不避怨讎<sup>③</sup>，则齐桓得管仲之力；诛罚不避亲戚，则周公有杀弟之名。书云：“无偏无党，王道荡荡，无党无偏，王道平平。”此之谓也。

## 教 令

教令之政，谓上为下教也。非法不言，非道不行，上之所为，人之所瞻也。夫释己教人，是谓逆政，正己教人，是谓顺政。故人君先正其身，然后乃行其令。身不正则令不从，令不从则生变乱。故为君之道，以教令为先，诛罚为后，不教而战，是谓弃之。先习士卒用兵之道，其法有五：一曰，使目

习其旌旗指麾之变，纵横之术；二曰，使耳习闻金鼓之声，动静行止；三曰，使心习刑罚之严，爵赏之利；四曰，使手习五兵之便，斗战之备；五曰，使足习周旋走趋之列，进退之宜；故号为五教。教令军陈，各有其道。左教青龙，右教白虎，前教朱雀，后教玄武，中央轩辕，大将军之所处，左矛右戟，前盾后弩，中央旗鼓。旗动俱起，闻鼓则进，闻金则止，随其指挥，五陈乃理<sup>④</sup>。正陈之法，旗鼓为之主：一鼓，举其青旗，则为直陈；二鼓，举其赤旗，则为锐陈；三鼓，举其黄旗，则为方陈；四鼓，举其白旗，则为圆陈；五鼓，举其黑旗，则为曲陈。直陈者，木陈也；锐陈者，火陈也；方陈者，土陈也；圆陈者，金陈也；曲陈者，水陈也。此五行之陈，辗转相生，冲对相胜，相生为救，相胜为战，相生为助，相胜为敌。凡结五陈之法，五五相保，五人为一长，五长为一师，五师为一枝，五枝为一火，五火为一撞，五撞为一军，则军士具矣。夫兵利之所便，务知节度。短者持矛戟，长者持弓弩，壮者持旌旗，勇者持金鼓，弱者给粮牧，智者为谋主。乡里相比，五五相保，一鼓整行，二鼓习陈，三鼓起食，四鼓严办，五鼓就行。闻鼓听金，然后举旗；出兵以次第，一鸣鼓三通，旌旗发扬，举兵先攻者赏，却退者斩，此教令也。

## 斩 断

斩断之政，谓不从教令之法也。其法有七，一曰轻，二曰慢，三曰盗，四曰欺，五曰背，六曰乱，七曰误，此治军之禁也。当断不断，必受其乱，故设斧钺之威<sup>⑤</sup>，以待不从令者诛之。军法异等，过轻罚重，令不可犯，犯令者斩。期会不到，闻鼓不行，乘宽自留，避回自止，初近后远，唤名不应，车甲不具，兵器不备，此为轻军，轻军者斩。受令不传，传令不审，迷惑吏士，金鼓不闻，旌旗不睹，此谓慢军，慢军者斩。食不禀粮，

军不省兵，赋赐不均，阿私所亲，取非其物，借贷不还，夺人头首，以获其功，此谓盗军，盗军者斩。变改姓名，衣服不鲜，旌旗裂坏，金鼓不具，兵刃不磨，器仗不坚，矢不著羽，弓弩无铉，法令不行，此谓欺军，欺军者斩。闻鼓不进，闻金不止，按旗不伏，举旗不起，指挥不随，避前向后，纵发乱行，折其弓弩之势，却退不斗，宜左或右，扶伤举死，自托而归，此谓背军，背军者斩。出军将行，士卒争先，纷纷扰扰，车骑相连，咽塞路道，后不得先，呼唤喧哗，无所听闻，失乱行次，兵刃中伤，长短不理，上下纵横，此谓乱军，乱军者斩。屯营所止，问其乡里，亲近相随，共食相保，不得越次，强入他伍，干误次第，不可阿止，度营出入，不由门户，不自启白，奸邪所起，知者不告，罪同一等，合人饮酒，阿私取受，大言警语，疑惑吏士，此谓误军，误军者斩。斩断之后，此万事乃理也。

注释：

①劳臣：有功劳的人。②直士：正直的人。③讎：仇。④陈：古“阵”字。⑤斧钺：刑法。

## 《注律表》

题解：

西晋张斐撰。此表为张斐任明法掾注释《秦始律》以后，给晋武帝上书的要点。该文对西晋颁行律令的立法原则、司法谋略和律文适用等方面作了阐述。提出法律的制定是皇帝独有的权力，臣下须无条件执行，律令的核心是“礼乐”，三者之间的关系是“相须而成”融为“一体”。又对所谓故、失、谩、诈、不敬、斗、戏、贼、过失、不道、恶逆、戕、造意、谋、率、强、略、群、盗、赃等二十种罪的基本概念，作了清楚的说明。在执法过程中，强调对于罪行和罪行之间，过失和过失之间，故意和过失之间，常存在细微的差别，要审慎地加以辨识，究其深理。他在司法原理上，还提出了刑、理、情这三

个相关概念。主张立法、执法，要在“变通”，从而达到“提纲而大道清，举略而王法齐”的目的。在法律的作用上提出了一个理想的境界，即“通天下之志唯忠也；断天下之疑唯文也；切天下之情唯远也；弥天下之务唯大也；变无常之体唯理也。”

律始于《刑名》者，所以定罪制也；终于《诸侯》者，所以毕其政也<sup>①</sup>。王政布于上，诸侯奉于下，礼乐抚于中，故有三才之义焉<sup>②</sup>，其相须而成，若一体焉。

《刑名》所以经略罪法之轻重，正加減之等差，明发众篇之多义，补其章条之不足，较举上下纲领。其犯盗贼、诈伪、请赇者，则求罪于此，作役、水火、畜养、守备之细事，皆求之作本名。告讯为之心舌，捕系为之手足，断狱为之定罪，名例齐其制。自始及终，往而不穷，变动无常，周流四极，上下无方，不离于法律之中也。

其知而犯之谓之故，意以为然谓之失，违忠欺上谓之谩，背信藏巧谓之诈，亏礼废节谓之不敬，两讼相趣谓之斗，两和相害谓之戏，无变斩击谓之贼，不意误犯谓之过失，逆节绝理谓之不道，陵上僭贵谓之恶逆，将害未发谓之戕，唱首先言谓之造意<sup>③</sup>，二人对议谓之谋，制众建计谓之率，不和谓之强，攻恶谓之略<sup>④</sup>，三人谓之群，取非其物谓之盗，货财之利谓之赃；凡二十者，律义之较名也。

夫律者，当慎其变，审其理。若不承用诏书，无故失之刑，当从赎。谋反之同伍，实不知情，当从刑。此故失之变也。卑与尊斗，皆为贼。斗之加兵刃水火中，不得为戏，戏之重也。向人室庐道径射，不得为过，失之禁也。都城人众中走马杀人，当为贼，贼之似也。过失似贼，戏似斗，斗而杀伤傍人，又似误。盗伤缚守似强盗<sup>⑤</sup>，呵人取财似受赇，囚辞所连似告劾，诸勿听理似故纵<sup>⑥</sup>，持质似恐猲。如此之比，皆为无常之格也。

五刑不简<sup>⑦</sup>，正于五罚，五罚不服，正

于五过<sup>③</sup>，意善功恶，以金赎之。故律制，生罪不过十四等，死刑不过三，徒加不过六<sup>④</sup>，囚加不过五，累作不过十一岁，累笞不过千二百，刑等不过一岁，金等不过四两。月赎不计日，日作不拘月，岁数不疑闰。不以加至死<sup>⑤</sup>，并死不复加。不可累者，故有并数，不可并数，乃累其加。以加论者，但得其加，与加同者，连得其本<sup>⑥</sup>。不在次者<sup>⑦</sup>，不以通论。以人得罪与人同，以法得罪与法同<sup>⑧</sup>。侵生害死，不可齐其防，亲疏公私，不可常其教。礼乐崇于上，故降其刑；刑法闲于下<sup>⑨</sup>，故全其法。是故尊卑叙，仁义明，九族亲，王道平也。

律有事状相似而罪名相涉者；若加威势下手取财为强盗，不自知亡为缚守<sup>⑩</sup>，将中有恶言为恐喝<sup>⑪</sup>，不以罪名呵为呵人<sup>⑫</sup>，以罪名呵为受賂，劫召其财为持质。此六者，以威势得财而名殊者也。即不求自与为受求；所监求而后取为盗赃，输入呵受为留难，敛人财物积藏于官为擅赋，加欧击三为戮辱。诸如此类，皆为威势得财而罪相似者。

夫刑者，司理之官；理者，求情之机；情者，心神之使。心感则情动于中，而形于言，畅于四支，发于事业<sup>⑬</sup>。是故奸人心愧而面赤，内怖而色夺。论罪者务本其心，审其情，精其事，近取诸身，远取诸物，然后乃可以正刑。仰手似乞，俯手似夺，捧手似谢，拟手似诉，拱臂似自首，攘臂似格斗，矜庄似威，怡悦似福，喜怒忧欢，貌在声色。奸真猛弱，候在视息<sup>⑭</sup>。出口有言当为告，下手有禁当为贼，喜子杀怒子当为戏，怒子杀喜子当为贼。诸如此类，自非至精不能极其理也。

律之名例，非正文而分明也。若八十，非杀伤人，他皆勿论，即诬告谋反者反坐。十岁，不得告言人；即奴婢捍主，主得渴杀之。贼燔人庐舍积聚，盗赃五匹以上，弃市；即燔官府积聚盗，亦当与同。欧人教令者与罪同，即令人欧其父母，不可与行者同得重也。若得遗物强取强乞之类，无还赃法随例

界之文<sup>⑮</sup>。法律中诸不敬，违仪失式，及犯罪为公为私，赃入身不入身，皆随事轻重取法，以例求其名也。

夫理者，精玄之妙，不可以一方行也；律者，幽理之奥，不可以一体守也。或计过以配罪，或化略以循常，或随事以尽情，或趣舍以从时，或推重以立际，或引轻而就下。公私废避之宜，除削重轻之变，皆所以临时观衅，使用法执论者幽于未制之中<sup>⑯</sup>，采其根牙之微，致之于机格之上<sup>⑰</sup>，称轻重于豪铢，考辈类于参伍，然后乃可以理直刑正。

夫奉圣典者若操刀执绳，刀妄加则伤物，绳妄弹则侵直。梟首者恶之长，斩刑者罪之大，弃市者死之下，髡作者刑之威，赎罚者误之诫。王者立此五刑，所以宝君子而逼小人，故为救慎之经。皆拟《周易》有变通之体焉。欲令提纲而大道清，举法而王法齐，其旨远，其辞文，其言曲而中，其事肆而隐。通天下之志唯忠也，断天下之疑唯文也，切天下之情唯远也，弥天下之务唯大也，变无常体唯理也。非天下之贤圣，孰能与于斯！

夫形而上者谓之道，形而下者谓之器，化而财之谓之格。刑杀者是冬震曜之象，髡罪者似秋彫落之变，赎失者是春阳悔吝之疵<sup>⑱</sup>。五刑成章，辄相依准，法律之义焉。

#### 注释：

- ①毕其政：统治秩序有了完备的规定。  
②三才：天、地、人。③造意：教唆犯。  
④略：侵夺。⑤缚守：细缚看守的人。⑥勿听理：不受理。⑦不简：不核实。⑧五过：五种过失，即依仗权势、报复、走内线、行贿、请托。  
⑨徒加：刑徒的加罪。⑩不以加至死：本罪不应处死，加罪不许加至为死罪。⑪其本：指本罪。  
⑫不在次者：不在这次揭发范围的问题。⑬以法得罪与法同：指合于文的，依据文法判罪。⑭闲于下：管束百姓。⑮不自知亡：没发觉犯人逃跑。⑯喝：同“喝”，恐吓。⑰呵：喝叱。  
⑱事业：此处指行为。⑲视息：眼神和呼吸。  
⑳随例界之文：按案例办理。㉑论：解释，未制：法律条文中没有规定。㉒机格：指主体。

②③悔吝：过失。

## 《用 刑》

题解：

两晋时期葛洪(283—363)撰，收入所著《抱朴子》一书中。他鉴于混乱的现实，把“仁”和“刑”看作是维护封建统治的两种工具，并特别强调“刑”的作用。认为“仁”是为政的“脂粉”，“刑”是御世的“讐策”。法律可以起到“诛一以振万，损少以成多”的作用，这好比开刀割痼疽，虽然流点血，有些痛，但可祛除疾病，使身体康复。他还认为“刑之为物，国之神器，君所自执，不可假人”。这好象“长剑不可倒提”一样。为让君主能有效地“自执”刑法，他明确提出“识因革之随时”的主张。

### 用 刑

抱朴子曰：莫不贵仁而无能纯仁以致治也；莫不贱刑而无能废刑以整民也。

或云：明后御世<sup>①</sup>，风向草偃，道洽化醇，安所用刑？

余乃论之曰：夫德教者，黼黻之祭服也<sup>②</sup>；刑罚者，捍刃之甲冑也。若德教治狡暴，犹以黼黻御剡锋也<sup>③</sup>；以刑罚施平世，是以甲冑升庙堂也。故仁者，养物之器；刑者，惩非之具。我欲利之而彼欲害之<sup>④</sup>，加仁无悛，非刑不止。刑为仁佐，于是可知也。

譬存玄、胎息、呼吸、吐纳、含景、内视、熊经、鸟伸者<sup>⑤</sup>，长生之术也。然艰而且迟为者，尠成能得之者，万而一焉。病笃、痛甚、身困、命危，则不得不攻之以针石，治之以毒烈；若废和、鹊之方，而慕松、乔之道，则死者众矣！

夫仁之为政，非为不美也；然黎庶巧伪、趋利忘义，若不齐之以威，纠之以刑，远羨羲、农之风<sup>⑥</sup>，则乱不可振，其祸深大！以杀止杀，岂乐之哉？八卦之作，穷理尽性，

明罚用狱，著于《噬嗑》<sup>⑦</sup>，系以徽纆，存乎习《坎》<sup>⑧</sup>。然用刑其来尚矣。

逮于轩辕，圣德尤高，而躬亲征伐至于百战，殪尸涿鹿，流血阪泉，犹不能使时无叛逆。载戢干戈，亦安能使百姓皆良民，不犯罪而不治者，未之有也。

唐、虞之盛，象天用刑<sup>⑨</sup>，窜、殛、放、流，天下乃服。

汉文元默<sup>⑩</sup>，比隆成、康，犹断四百<sup>⑪</sup>，鞭死者多。

匠石不舍绳墨，故无不直之本；明主不废戮罚，故无陵迟之政也！

盖天地之道，不能纯仁。故青阳阐陶育之和<sup>⑫</sup>，素秋厉肃杀之威；融风扇则枯瘁撻藻<sup>⑬</sup>，白露凝则繁英彫零。是以品物阜焉<sup>⑭</sup>，岁功成焉。温而无寒，则蛰动不蛰<sup>⑮</sup>，根植冬荣；宽而无严，则奸宄并作<sup>⑯</sup>，利器长守！故明赏以存正，必罚以闲邪。劝沮之器，莫此之要，观民设教，济其宽猛。使懦不可狎，刚不伤恩，五刑之罪，至于三千，是绳不可曲也；司寇行刑，君为不举，是法不可废也。绳曲则奸回萌矣，法废则祸乱滋矣。亡国非无令也，患于令烦而不行；败军非无禁也，患于禁设而不止。故众愿弥蔓而下黷其上。夫赏，贵当功而不必重；罚，贵得罪而不必酷也。

鞭扑废于家，则僮仆怠惰；征伐息于国，则群下不虔。爱，待敬而不败，故作礼以崇之；德，须威而久立，故作刑以肃之。班倭不委规矩<sup>⑰</sup>，故方圆不戾于物<sup>⑱</sup>；明君不释法度，故机诈不肆其巧。唐、虞其仁如天而不原四罪；姬公友于兄弟而不赦二叔<sup>⑲</sup>；仲尼之诛正卯，汉武之杀外甥。垂泪惜法，盖不获已也！

故诛一以振万，损少以成多。方之栲发<sup>⑳</sup>，则所利者众；比于割疽，则所全者大。是以灸刺惨痛而不可止者以痊病也；刑法凶丑而不可罢者以救弊也。

六军如林，未必皆勇；排锋陷火，人情所惮。然恬颜以劝之则投命者尠；断斩以威

之则莫不奋击。故役欢笑者，不及叱咤之速；用诱悦者，未若刑戮之齐。是以安于感深谷而严其法，卫子疾弃灰而峻其辟<sup>②</sup>。夫以其所畏，禁其所翫。峻而不犯，全民之术也。

明病之术者，杜未生之疾；达治乱之要者，遏将来之患。若乃以轻刑禁重罪，以薄法卫厚利，陈之滋章，而犯者弥多。有似穿阱以当路，非仁人之用怀也。善为政者，必先端此以率彼，治亲以整疏。不曲法以行意，必有罪而无赦，若石碣之割爱以威亲<sup>③</sup>，晋文之忍情以斩颡。

故仁者，为政之脂粉；刑者，御世之箠策。脂粉非体中之至急，而箠策须臾不可无也！肃恭少怠，则慢惰已至；威严暂弛，则群邪生心；当怒不怒，奸臣为虎；当杀不杀，大贼乃发；水久坏河，山起咫尺；寻木千丈，始于毫末；钻燧之火，勺水可灭。鹄卵未孚，指掌之所靡，及其乘冲飏而燎巨野，奋六羽以凌朝霞，则虽智勇不能制也！故明君治难于其易，去恶于其微。不伐善以长乱，不操柯而犹豫焉。

然则刑之为物，国之神器，君所自执，不可假人：犹长剑不可倒捉，巨鱼不可脱渊也。乃崇替之所由，安危之源本也！田常之夺齐，六卿之分晋，赵高之弑秦，王莽之篡汉，履霜逮冰，由来渐矣！或永叹于海滨<sup>④</sup>，或拊心乎望夷<sup>⑤</sup>，祸延宗祧，作戒将来者，由乎慕虚名于往古，忘实祸于当已也！

或曰：刑辟之兴，盖存叔世；立人之道，唯仁与义。我清静而民自正；我无欲而民自朴。烹鲜之戒，不欲其烦；宽以爱人则得众，悦以使人则下附。故孟子以体仁为安，杨子云谓申、韩为屠宰。夫繁策急箠，非造父之御<sup>⑥</sup>；严刑峻罚，非三五之道<sup>⑦</sup>。故有虞手不指挥，口不烦言，恭己南面，而治化雍熙矣。宓生政以率俗，弹琴咏诗，身不下堂而渔者宵肃矣。必能厚惠薄敛，救乏擢滞，举贤任才，劝穡省用，招携以礼，怀远以德，陶之以成，均治之以庠序，化上而兴善者，

必若靡草之逐惊风，洗心而革面者，必若清波之涤轻尘。朝有德让之群后，野无犯礼之轨躅。圉土可以虚荒，楚革可以永格，何必赏罚可以为国乎！

抱朴子答曰：《易》称“明罚敕法”；《书》有“哀矜折狱”。爵人于朝，刑人于市，有自来矣，岂徒叔世？多仁则法不立；威寡则下侵上。夫法不立，则庶事汨矣；下侵上，则逆节萌矣。至醇既浇于三代，大朴又散于秦汉。道衰于畴昔，俗薄乎当今。而欲结绳以整奸欺，不言以化狡猾，委辔策而乘奔马于险涂，舍柁橹而泛舟以凌波，盘旋以逐走盗，揖让以救灾火，斩晁错以却七国，舞干戈以平赤眉，未见其可也！

盖三皇步而五帝骤，霸、王以来，载驰载骛。当其弊也，吏欺民巧，寇盗公行。髡钳不足以惩无耻，族诛不能以禁凯觎，重目以广视，累耳以远听，抗烛以理滞事，焦心以息奸源，而犹市朝有呼嗟之音，边鄙有不闻之枉。作威作福者，或发乎瞻视之下，凶家害国者，或构乎萧墙之内，而欲以太昊之道，治偷薄之俗，以画一之歌，救鼎沸之乱，非识因革之随时，明损益之变通也！所谓刻舟以摸遗剑，参天而射五步，擗犀兕之甲以涉不测之渊，矜却寒之裘以御郁隆之暑，踵之解结<sup>⑧</sup>，颐之搔背<sup>⑨</sup>，其为愤愤，莫此之剧矣！但当先令而后诛，得情而勿喜，使伯氏无怨于失邑，虞芮知耻而无讼耳。若强暴掩容，操绳而不憚，诱于含垢，草蔓而不除，侍藏疾之大言，忘膏肓之近急，何异焦喉之渴切身，而遥指沧海于万里之外，滔天之水已及，而方造舟于长洲之林，安得免夸父之祸，脱沦水之害哉！

世人薄申、韩之实事，嘉老、庄之诞谈。然而为政，莫能错刑。杀人者，原其死；伤人者，赦其罪，所谓土拌瓦馘<sup>⑩</sup>，无救朝饥者也。

道家之言，高则高矣，用之则弊。辽落迂阔，譬犹干将不可以缝线，巨象不可使捕鼠，金舟不能凌阳侯之波，玉马不任骋千里

之迹也。若行其言，则当燔桎梏、隳圜墙、罢有司、灭刑书、铸干戈、平城池、散府库、毁符节、撤关梁、掊衡量、胶离朱之目<sup>⑩</sup>。塞子野之耳<sup>⑪</sup>，泛然不系，反乎天牧，不训不营，相忘江湖，朝廷阒尔若无人，民则至死不往来。可得而论，难得而行也！

俗儒徒闻周以仁兴，秦以严亡，而不觉周所以得之不纯仁，而秦所以失之不独严也。昔周用肉刑，刖足、劓鼻；盟津之令，后至者斩；毕力赏罚，誓有孥戮。考其所为，未尽仁也。及其叔世，罔法翫文，人主苛虐，号令不出宇宙，礼乐征伐不复由己。群下力竞，还为长蛇，伐木塞源，毁冠裂冕，或沈之于汉，或流之于彘，失柄之败，由于不严也。秦之初兴，官人得才：卫鞅、由余之徒，式法于内；白起、王翦之伦，攻取于外。兼弱攻昧，取威定霸，吞噬四邻，咀嚼群雄，拓地攘戎，龙变虎视，实赖明赏必罚，以基帝业。降及杪季，骄于得意，穷奢极泰，加之以威虐：筑城万里，离宫千余，钟鼓女乐不徙，而具骊山之役，太半之赋，闾左之戍，坑儒之酷，北击獫狁，南征百越，暴兵百万，动数十年，天下有生离之哀，家户怀怨旷之叹，白骨成山，虚祭布野！徐福出而重号咷之仇，赵高入而屯豺狼之党。天下欲反，十室九空，其所以亡，岂由严刑？此为秦以严得之，非以严失之也。

且刑犹刃也：巧人以自成，拙者以自伤。为治国有道而助之以刑者，能令慝伪不作，凶邪改志。若纲绝网紊，得罪于天，用刑失理，其危必速。亦犹水火者，所以活人亦所以杀人。存乎能用之与不能用。

夫症瘕不除而不修越人之术者，难图老、彭之寿也；奸党实繁而不严弹违之制者，未见其长世之福也。但当简于、张之徒，任以法理；选赵、陈之属，委以案劾。明主留神于上，忠良尽诚于下，见不善则若鹰鹯之搏鸟雀，睹乱萌则若薙田之芟芜萝。庆赏不谬加，而诛戮不失罪，则太平之轨不足迪，令而不犯，可庶几废刑致治，未敢谓然也。

或曰：然则刑罚果所以助教兴善、式遏轨武也，若夫古之肉刑亦可复与？

抱朴子曰：曷为而不可哉。昔周用肉刑，积祀七百；汉氏废之，年代不如。至于改以鞭笞，大多死者。外有轻刑之名，内有杀人之实也。及于犯罪，上不足以至死，则其下唯有徒、谪、鞭、杖，或遇赦令，则身无损。且髡其更生之发，挝其方愈之创，殊不足以惩次死之罪。今除肉刑，则死罪之下，无复中刑在其间，而次死罪不得止于徒、谪、鞭、杖，是轻重不得适也。

又犯罪者希而时有耳。至于杀之则恨重，而鞭之则恨轻，犯此者为多。今不用肉刑，是次死之罪，常不见治也。

今若自非谋反大逆，恶于君亲及用军临敌犯军法者，及手杀人者，以肉刑代其死，则亦足以惩示凶人，而刑者犹任坐役，能有所为，又不绝其生类之道。而终身残毁，百姓见之，莫不寒心，亦足使未犯者肃栗，以彰示将来，乃过于杀人。杀人非不重也，然辜之三曰，行埋弃之，不知者众，不见者多也；若夫肉刑者之为惩戒也多。

昔魏世数议此事，诸硕儒达学洽通殷理者，咸谓宜复肉刑，而意异者驳之皆不合也。魏武帝亦以为然，直以二陞未宾<sup>⑫</sup>，远人不能统至理者，卒闻中国刖人肢体，割人耳鼻，便当望风，谓为酷虐，故且权停，以须四方之并耳。通人扬子云，亦以为肉刑宜复也。但废之来久矣，坐而论道者，未以为急耳。

注释：

①明后：英明的君主。②黼黻(fu-fu)：古代礼服上的花纹。③剡：锐利。④俊：悔改。⑤譬存玄……鸟伸者：皆为道家修炼的方法。⑥羲、农：伏羲、神农。⑦《噬嗑》：《易》的篇名，为六十四卦之一。⑧《坎》：《易》的篇名，为六十四卦之一。⑨象天用刑：以天为法式用刑。⑩元默：指崇尚黄老无为之术。⑪犹断四百：指汉文帝废肉刑，代之以笞刑。⑫青阳：春天。⑬摅：舒展。藻：植物繁茂。⑭品物阜焉：万物生长。⑮蠕动：蠕动。⑯奸宄：犯法作乱。

①班：鲁班。倕：尧时的巧匠。 ②不戾：不出错。 ③二叔：管叔、蔡叔，周公的两个弟弟。 ④栉：梳头发。 ⑤卫子：商鞅。疾弃灰：恨当街弃灰者处以刑罚。 ⑥石碣：春秋时期卫国大夫。 ⑦海滨：指齐相田和迁齐康公于海上。 ⑧望夷：指赵高杀秦二世。 ⑨造父：古代善御者。 ⑩三五：三皇、五帝。 ⑪踵之解结：用脚跟解绳结。 ⑫颐之搔背：用下巴给背搔痒。 ⑬土样：以上为盘。瓦裁：以瓦为肉。 ⑭离朱：古代传说中眼力好的人。 ⑮子野：古代传说中脚力好的人。 ⑯二陲未宾：指孙权和刘备未被征服。

## 《贞观政要》

### 题解：

唐代史学家吴兢(670—749)撰，其中的《公平》、《刑法》、《赦令》等篇，记述了唐太宗君臣吸取隋亡的教训，在立法和司法方面的谋略主张。他们从安人宁国的需要出发，在立法方面确定了力求宽简的原则。所谓“国家法令，惟须简约，不可一罪作数种条。格式既多，官人不能尽记，更生奸诈。”而且主张去重从轻，即“死者不可再生，用法务在宽简”。並强调要保持法律的相对稳定，不可“数变”，“不可轻出诏令”。“诏令格式，若不常定，则人心多惑，奸诈益生”。对立法或修改法律，应该持慎重态度，不能朝令夕改，轻易变更法律。在司法过程中，主张据律论罪，“恤刑慎杀”。认为单靠严刑峻法，不能从根本上解决问题，只有兴仁义之政，“恤刑慎杀”，才能使人们知廉耻，官民奉法。尤其对死刑的处理，更应采取审慎态度，应规定严格的判决、推勘、复核程序。执法中应不分亲疏贵贱，一断以律。所谓“法者非朕一人之法，乃天下之法，何得以无忌国之亲戚，便欲挠法耶？”为防止“刑滥”，强调执法官吏判案要以事实为根据，既不能夸大也不能缩小，不得严刑逼供。“不严讯、不旁求，不贵多端。”这些谋略成为唐太宗加强封建法制的重要政策。

## 公 平

太宗初即位，中书令房玄龄奏言：“秦府旧左右未得官者，并怨前宫及齐府左右处分之先己。”太宗曰：“古称至公者，盖谓平恕无私。丹朱、商均、子也，而尧、舜废之。管叔、蔡叔，兄弟也，而周公诛之。故知君人者，以天下为公，无私子物。昔诸葛孔明，小国之相，犹曰‘吾心如称’<sup>①</sup>，不能为人作轻重，况我今理大国乎？朕与公等衣食出于百姓，此则人力已奉于上，而上恩未被于下，今所以择贤之者，盖为求安百姓也。用人但问堪否，岂以新故异情？凡一面尚且相亲，况旧人而顿忘也！才若不堪，亦岂以旧人而先用？今不论其能不能，而直言其嗟怨，岂是至公之道耶？”

贞观元年，有上封事者，请秦府旧兵并授以武职，追入宿卫。太宗谓曰：“朕以天下为家，不能私于一物，惟有才行是任，岂以新旧为差？况古人云：‘兵犹火也，弗戢将自焚。’汝之此意，非益政理”。

贞观元年，吏部尚书长孙无忌尝被召，不解佩刀入东上阁门，出阁门后，监门校尉始觉。尚书右仆射封德彝议，以监门校尉不觉，罪当死，无忌误带刀入，徒二年，罚铜二十斤。太宗从之。大理少卿戴胄驳曰：“校尉不觉，无忌带刀入内，同为误耳。夫臣子之于尊极，不得称谓，准律云：‘供御汤药、饮食、舟船，误不如法者，皆死。’陛下若录其功，非宪司所决；若当据法，罚铜未为得理。”太宗曰：“法者非朕一人之法，乃天下之法，何得以无忌国之亲戚，便欲挠法耶？”更令定议。德彝执议如初，太宗将从其议，胄又驳奏曰：“校尉缘无忌以致罪，于法当轻，若论其过误，则为情一也，而生死顿殊，敢以固请。”太宗乃免校尉之死。

是时，朝廷大开选举，或有诈伪阶资者，太宗令其自首，不首，罪至于死。俄有诈伪者事泄，胄据法断流以奏之。太宗曰：“朕初



下敕，不首者死，今断从法，是示天下以不信矣。”胄曰：“陛下当即杀之，非臣所及，既付所司，臣不敢亏法。”太宗曰：“卿自守法，而令朕失信耶？”胄曰：“法者国家所以布大信于天下，言者当时喜怒之所发耳！陛下发一朝之忿，而许杀之，既知不可，而置之以法，此乃忍小忿而存大信，臣窃为陛下惜之。”太宗曰：“朕法有所失，卿能正之，朕复何忧也？”

贞观二年，太宗谓房玄龄等曰：“朕比见隋代遗老，咸称高颉善为相者，遂观其本传，可谓公平正直，尤识治礼，隋室安危，击其存没。炀帝无道，枉见诛夷，何尝不想见此人，废书欷歔！又汉、魏已来，诸葛亮为丞相，亦甚平直，尝表废廖立、李严于南中，立闻亮卒，泣曰：‘吾其左衽矣！’严闻亮卒，发病而死。故陈寿称‘亮之为政，开诚心，布公道，尽忠益时者，虽讎必赏<sup>②</sup>；犯法怠慢者，虽亲必罚。’卿等岂可不企慕及之？朕今每慕前代帝王之善者，卿等亦可慕宰相之贤者，若如是，则荣名高位，可以长守。”玄龄封曰：“臣闻理国要道，在于公平正直，故《尚书》云：‘无偏无党，王道荡荡。无党无偏，王道平平。’又孔子称‘举直错诸枉，则民服’。今圣虑所尚，诚足以极政教之源，尽至公之要，囊括区宇，化成天下。”太宗曰：“此直朕之所怀，岂有与卿等言之而不行也？”

长乐公主，文德皇后所生也。贞观六年将出降，敕所司资送倍于长乐公主。魏征奏言：“昔汉明帝欲封其子，帝曰：‘朕子岂得同子先帝子乎？可半楚、淮阳王。’前史以为美谈。天子姊妹为长公主，天子之女为公主，既加长字，良以尊于公主也，情虽有殊，义无等别。若令公主之礼有过长公主，理恐不可，实愿陛下思之。”太宗称善。乃以其言告后，后叹曰：“尝闻陛下敬重魏征，殊未知其故，而今闻其谏，乃能以义制人主之情，真社稷臣矣！妾与陛下结发为夫妻，曲蒙礼敬，情义深重，每将有言，必俟颜色，尚不敢轻犯威严，况在臣下，情疏礼隔？故韩非谓之说难，东方朔称其不易，良有以也。忠言逆

耳而利于行，有国有家者深所要急，纳之则世治，杜之则政乱，诚愿陛下详之，则天下幸甚！”因请遣中使赍帛五百匹，诣征宅以赐之。

刑部尚书张亮坐谋反下狱，诏令百官议之，多言亮当诛，惟殿中少监李道裕奏亮反形未具<sup>③</sup>，明其无罪。太宗既盛怒，竟杀之。俄而刑部侍郎有阙，令宰相妙择其人，累奏不可。太宗曰：“吾已得其人矣，往者李道裕议张亮云‘反形未具’，可谓公平矣。当时虽不用其言，至今追悔。”遂授道裕刑部侍郎。

贞观初，太宗谓侍臣曰：“朕今孜孜求士，欲专心政道，闻有好人，则抽擢驱使。而议者多称‘彼者皆宰臣亲故’，但公等至公，行事勿避此言，便为形迹。古人‘内举不避亲，外举不避讎’，而为举得其真贤故也。但能举用得才，虽是子弟及有讎嫌，不得不举。”

贞观十一年，时屡有阉宦充外使，妄有奏，事发，太宗怒。魏征进曰：“阉竖虽微，狎近左右，时有言语，轻而易信，浸润之譖，为患特深。今日之明，心无此虑，为子孙教，不可不杜绝其源。”太宗曰：“非卿，朕安得闻此语？自今已后，充使宜停。”魏征因上疏曰：

臣闻为人君者，在乎善善而恶恶，近君子而远小人。善善明，则君子进矣；恶恶着，则小人退矣。近君子，则朝无秕政；远小人，则听不私邪。小人非无小善，君子非无小过。君子小过，盖白玉之微瑕；小人小善，乃铅刀之一割。铅刀一割，良工之所不重，小善不足以掩众恶也；白玉微瑕，善贾之所不弃，小疵不足以妨大美也。善小人之小善，谓之善善，恶君子之小过，谓之恶恶，此则蒿兰同臭，玉石不分，屈原所以沉江，卞和所以泣血者也。既识玉石之分，又辨蒿兰之臭，善善而不能进，恶恶而不能去，此郭氏所以为墟，史鱼所以遗恨也。

陛下聪明神武，天姿英睿，志存泛爱，引纳多涂，好善而不甚择人，疾恶



而未能远佞。又出言无隐，疾恶太深，闻人之善或未全信，闻人之恶以为必然。虽有独见之明，犹恐理或未尽。何则？君子扬人之善，小人讦人之恶。闻恶必信则小人之道长矣，闻善或疑则君子之道消矣。为国家者急于进君子而退小人，乃使君子道消，小人道长，则君臣失序，上下否隔，乱亡不邇，将何以治乎？且世俗常人，心无远虑，情在告讦，好言朋党。夫以善相成谓之同德，以恶相济谓之朋党，今则清浊共流，善恶无别，以告讦为诚直，以同德为朋党，以之为朋党，则谓事无可信；以之为诚直，则谓言皆可取。此君恩所以不结于下，臣忠所以不达于上。大臣不能辨正，小臣莫之敢论，远近承风，混然成俗，非国家之福，非为治之道。适足以长奸邪，乱视听，使人君不知所信，臣下不得相安。若不远虑，深绝其源，则后患未之息也。今之幸而未败者，由乎君有远虑，虽失之于始，必得之于终故也。若时逢少隳，往而不返，虽欲悔之，必无所及。既不可以传诸后嗣，复何以垂法将来？且夫进善黜恶，施于人者也，以古作鉴，施于己者也。鉴貌在乎止水，鉴己在乎哲人。能以古之哲王，鉴于己之行事，则貌之妍丑宛然在目，事之善恶自得于心，无劳司过之史，不假芻蕘之议，巍巍之功日着，赫赫之名弥远。为人君者可不务乎？

臣闻道德之厚，莫尚于尧、唐；仁义之隆，莫彰于舜、禹。欲继尧、唐之风，将追舜、禹之迹，必镇之以道德，弘之以仁义，举善而任之，择善而从之。不择善任能，而委之俗吏，既无远度，必失大体，惟奉三尺之律，以绳四海之人，欲求垂拱无为，不可得也。故圣哲君临，移风易俗，不资严刑峻法，在仁义而已。故非仁无以广施，非义无以正身。惠下以仁，正身以义，则其政不严

理理，其教不肃而成矣。然则仁义，理之本也；刑罚，理之末也。为理之有刑罚，犹执御之有鞭策也，人皆从化，而刑罚无所施；马尽其力，则有鞭策无所用。由此言之，刑罚不可致理，亦已明矣。故潜夫论曰：“人君之治莫大于道德教化也。民有性、有情、有化、有俗。情性者，心也，本也；化俗者，行也，末也。是以上君抚世，先其本而后其末，顺其心而履其行。心情苟正，则奸慝无所生，邪意无所载矣。是故上圣无不务治民心，故曰‘听讼，吾犹人也，必也使无讼乎？’道之以礼，务厚其性而明其情。民相爱，则无相伤害之意；动思义，则无畜奸邪之心。若此，非律令之所理也，此乃教化之所致也。圣人甚尊德礼而卑刑罚，故舜先敕契以敬敷五教<sup>④</sup>，而后任咎繇以五刑也<sup>⑤</sup>。凡立法者，非以司民短，而诛过误也，乃以防奸恶，而救祸患，检淫邪，而内正道。民蒙善化，则人有士君子之心；被恶政，则人有怀奸乱之虑。故善化之养民，犹工之为曲豉也。六合之民，犹一萌也，黔首之属<sup>⑥</sup>，犹豆麦也，变化云为，在将者耳！遭良吏，则怀忠信而履仁厚；遇恶吏，则怀奸邪而行浅薄。忠厚积，则致太平；浅薄积，则致危亡。是以圣帝明王，皆敦德化而薄威刑也。德者，所以循己也，威者，所以治人也。民之生也，犹铄金在炉，方圆薄厚，随熔制耳！是故世之善恶，俗之薄厚，皆在于君。世之主诚能使六合之内，举世之人，感忠厚之情而无浅薄之恶，各奉公正之心，而无奸险之虑，则醇醪之俗，复见于兹矣。”后王虽未能遵，专尚仁义，当慎刑卹典，哀敬无私，故管子曰：“圣君任法不任智，任公不任私。”故王天下，理国家。

贞观之初，志存公道，人有所犯，一一于法。纵临时处断或有轻重，但见

臣下执论，无不忻然受纳。民知罪之无私，故甘心而不怨；臣下见言无忤，故尽力以效忠。顷年以来，意渐深刻，虽开三面之网，而察见渊中之鱼，取舍在于爱憎，轻重由乎喜怒。爱之者，罪虽重而强焉之辞；恶之者，过虽小而深探其意。法无定科，任情以轻重；人有执论，疑之以阿伪。故受罚者无所控告，当官者莫敢正言。不服其心，但穷其口，欲加之罪，其无辞乎？又五品已上有犯，悉令曹司闻奏。本欲察其情状，有所哀矜；今乃曲求小节，或重其罪，使人攻击惟恨不深。事无重条，求之法外所加，十有六七，故顷年犯者惧上闻，得付法司，以为多幸。告讦无已，穷理不息，君私于上，吏奸于下，求细过而忘大礼，行一罚而起众奸，此乃背公平之道，乖泣辜之意，欲其人和讼息，不可得也。

故《体论》云：“夫淫佚盗窃，百姓之所恶也，我从而刑罚之，虽过乎当，百姓不以我为暴者，公也。怨旷饥寒，亦百姓之所恶也，遁而陷之法，我从而宽宥之，百姓不以我为偏者，公也。我之所重，百姓之所憎也；我之所轻，百姓之所怜也。是故赏轻而劝善，刑省而禁奸。”由此言之，公之于法，无不可也，过轻亦可。私之于法无可也，过轻则纵奸，过重则伤善。圣人之于法也公矣，然犹惧其未也，而救之以化，此上古所务也。后之理狱者则不然：未讯罪人，则先为之意，及其讯之，则驱而致之意，谓之能；不探狱之所由，生为之分，而上求人主之微旨以为制，谓之忠。其当官也能，其事上也忠，则名利随而与之。驱而陷之，欲望道化之隆，亦难矣。

凡所讼理狱，必原父子之亲，立君臣之义，权轻重之序，测浅深之量。悉其聪明，致其忠爱，疑则与众共之。疑则从轻者，所以重之也，故舜命咎繇曰：“汝作士，惟刑之恤。”又复加之以三

讯<sup>①</sup>，众所善，然后断之。是以为法，参之人情。故《传》曰：“小大之狱，虽不能察，必以情。”而世俗拘愚苛刻之吏，以为情也者取货者也，立爱憎者也，有亲戚者也，陷怨讎者也。何世俗小吏之情，与夫古人之悬远乎？有司以此情疑之群吏，人主以此情疑之有司，是甘臣上下通相疑也，欲其尽忠立节，难矣。

凡理狱之情，必本所犯之事以为主，不严讯，不旁求，不贵多端，以见聪明，故律正其举劾之法，参伍其辞，所以求实也，非所以饰实也。但当参伍明听之耳，不使狱吏锻炼饰理成辞于手。孔子曰：“古之听狱，求所以生之也；今之听狱，求所以杀之也。”故析言以破律，任案以成法，执左道以必加也。又淮南子曰：“泮水之深十仞，金铁在焉，则形见于外。非不深且清，而鱼鳖莫之归也。”故为上者以苛为察，以功为明，以刻下为忠，以讦多为功，譬犹广革，大则大矣，裂之道也。夫赏宜从重，罚宜从轻，君居其厚，百王通制。刑之轻重，恩之厚薄，见思与见疾，其可同日言哉！且法，国之权衡也，时之准绳也。权衡所以定轻重，准绳所以正曲直，今作法贵其宽平，罪人欲其严酷，喜怒肆志，高下在心，是则舍准绳以正曲直，弃权衡而定轻重者也。不亦惑哉？诸葛孔明，小国之相，犹曰：“吾心如秤，不能为人作轻重。”况万乘之主<sup>②</sup>，当可封之日，而任心弃法，敢怨于人乎？

又时有小事，不欲人闻，则暴作威怒，以弭谤议。若所为是也，闻于外，其何伤？吾所为非也，虽掩三，何益？故谚曰：“欲人不知，莫若不为；欲人不闻，莫若勿言。”为之而欲人不知，言之而欲人不闻，此犹捕雀而掩目，盗钟而掩耳者，只以取消，将何益乎？臣又闻之，无常乱之国，无不可理之民者。夫君之善恶由乎化之薄厚，故禹、汤以之

理，桀、纣以之乱；文、武以之安，幽、厉以之危。是以古之哲王，尽己而不以尤人，求身而不以责下。故曰：“禹、汤罪己，其兴也勃焉；桀、纣罪人，其亡也忽焉。”为之无已，深乖侧隐之情，实启奸邪之路。温舒恨于曩日<sup>⑨</sup>，臣亦欲惜不用，非所不闻也。臣闻尧有敢谏之鼓，舜有诽谤之木，汤有司过之史，武有戒慎之铭。此则听之于无形，求之于未有，虚心以待下，庶下情之达上，上下无私，君臣合德者也。魏武帝云：“有德之君乐闻逆耳之言、犯颜之诤。亲忠臣，厚谏士，斥谗慝，远佞人者，诚欲全身保国，远避灭亡者也。”凡百君子，膺期统运，纵未能上下无私，君臣合德，可不全身保国，远避灭亡乎？然自古圣哲之君，功成事立，未有不资同心，予违汝弼者也。

昔在贞观之初，侧身励行，谦以受物。盖闻善必改，时有小过，引纳忠规，每听直言，喜形颜色。故凡在忠烈，咸竭其辞。自顷年海内无虞，远夷慑服，志意盈满，事异厥初。高谈疾邪，而喜闻顺旨之说；空论忠谏，而不悦逆耳之言。私嬖之径渐开，至公之道日塞，往来行路，咸知之矣。邦之兴衰，实由斯道。为人上者，可不勉乎？臣数年以来，每奉明旨，浑惧群臣莫肯尽言。臣切思之，自比来人或上书，事有得失，惟见述其所短，未有称其所长。又天居自高，龙鳞难犯，在于造次，不敢尽言，时有所陈，不能尽意，更思重竭，其道无因。且所言当理，未必加于宠秩，意或乖忤，将有耻辱随之，莫能尽节，实由于此。难左右近侍，朝夕阶墀，事或犯颜，咸怀顾望。况疏远不接，将何以极其忠款哉？又时或宣言云：“臣下见事，只可来道，何因所言，即望我用？”此乃拒谏之辞，诚非纳忠之意。何以言之？犯主严颜，献可替否，所以成主之美，匡主之

过。若主听则惑，事有不行，使其尽忠说之言，竭股肱之力，犹恐临时恐惧，莫肯效其诚款。若如明诏所道，便是许其面从，而又责其尽言，进退将何所据？欲必使乎致谏，在乎好之而已。故齐桓好服紫，而合境无异色；楚王好细腰，而后宫多饿死。夫以耳目之玩，人犹死而不违，况圣明之君求忠正之士，千里斯应，信不为难。若徒有其言，而内无其实，欲其必至，不可得也。

太宗手诏曰：

省前后讽谕，皆切至之意，固所望于卿也。朕昔在衡门，尚惟童幼，未渐师保之训，罕闻先达之言。值隋主分崩，万邦涂炭，僭僭黔黎，底身无所。朕自二九之年，有怀拯溺，发愤投袂，便提干戈，蒙犯霜露，东西征伐，日不暇给，居无宁岁。降苍昊之灵，稟庙堂之略，义旗所指，触向平夷。弱水、流沙，并通轺轩之使<sup>⑩</sup>；被发左衽，皆为衣冠之域。正朔所班，无远不届。及恭承宝历，寅奉帝国，垂拱无为，氛埃靖息，于兹十有余年。斯盖股肱罄帷幄之谋，爪牙竭熊黑之力，协德同心，以致于此。自惟寡薄，厚享斯休，每以抚大神器，忧深责重，常惧万机多旷，四聪不达，战战兢兢，坐以待旦。询于公卿，以至隶皂，推以赤心。庶几明赖，一动以钟石；淳风至德，永传于竹帛。克播鸿名，常为称首。朕以虚薄，多惭往代，若不任舟楫，岂得济彼巨川？不藉盐梅，安得调夫五味？赐绢三百匹。

## 刑 法

贞观元年，太宗谓侍臣曰：“死者不可再生，用法务在宽简。古人云，鬻棺者，欲岁之疫，非疾于人，利于棺售故耳。今法司核理一狱，必求深刻，欲成其考课<sup>⑪</sup>。今作何法，得使平允？”谏议大夫王珪进曰：“但选公

直良善人，断狱允当者，增秩赐金，即奸伪自息。”诏从之。太宗又曰：“古者断狱，必讯于三槐、九棘之官<sup>⑫</sup>，今三公、九卿，即其职也。自今以后，大辟罪，皆令中书、门下四品已上及尚书九卿议之，如此，庶免冤滥。”由是至四年，断死刑，天下二十九人，几致刑措。

贞观二年，太宗谓侍臣曰：“比有奴告主谋逆，此极弊法，特须禁断。假令有谋反者，必不独成，终将与入计之；众计之事，必有他人论之，岂藉奴告也。自今奴告主者，不须受，尽令斩决。”

贞观五年，张蕴古为大理丞。相州人李好德素有风疾，言涉妖妄，诏令鞠其狱<sup>⑬</sup>。蕴古言：“好德癫病有征<sup>⑭</sup>，法不当坐。”太宗将许宽宥，蕴古密报其旨，仍引与博戏。持书侍御史权万纪劾奏之，太宗大怒，令斩于东市。既而悔之，谓房玄龄曰：“公等食人之禄，须忧人之忧，事无巨细，咸当留意。今不问则不言，见事都不谏诤，何所辅弼？如蕴古身为法官，与囚博戏，漏泄朕言，此亦罪状甚重，若据常律，未至极刑。朕当时盛怒，即令处置，公等竟无一言，所司又不覆奏，遂即决之，岂是道理。”因诏曰：“凡有死刑，虽令即决，皆须五覆奏。”五覆奏，自蕴古始也。又曰：“守文定罪，或恐有冤。自今以后，门下省覆，有据法令合死而情可矜者，宜录奏闻。”

蕴古，初以贞观二年自幽州总管府记室兼直中书省，表上大宝箴，文义甚美，可为规诫。其词曰：

今来古往，俯察仰观；惟辟作福<sup>⑮</sup>，为君实难。宅普天之下，处王公之上；任土贡其所有，具僚和其所唱。是故恐惧之心日弛，邪僻之情转放。岂知事起乎所忽，祸生乎无妄。固以圣人受命，拯溺亨屯；归罪于己，推恩于民。大明无偏照，至公无私亲；故以一人治天下，不以天下奉一人。礼以禁其奢，乐以防其佚。左言而右事，出警而入蹕<sup>⑯</sup>。四

时调其惨舒，三光同其得失。故身为之度，而声为之律。勿谓无知，居高听卑；勿谓何害，积小成大。乐不可极，极乐成哀；欲不可纵，纵欲成灾。壮九重于内<sup>⑰</sup>，所居不过容膝；彼昏不知，瑶其台而琼其室<sup>⑱</sup>。罗八珍于前，所食不过适口；惟狂罔念，丘其糟而池其酒。勿内荒于色，勿外荒于禽；勿贵难得之货，勿听亡国之音。内荒伐人性，外荒荡人心；难得之物侈，亡国之声淫。勿谓我尊而傲贤侮士，勿谓我智而拒谏矜己。闻之夏后，据馈频起；亦有魏帝，牵裾不止。安彼反侧，如春阳秋露；巍巍荡荡，推汉高大度。抚兹庶事，如履薄临深；战战栗栗，用周文小心。

《诗》云：“不识不知。”《书》曰：“无偏无党。”一彼此于胸臆，捐好恶于心想。众弃而后加刑，众悦而后命赏。弱其强而治其乱，伸其屈而直其枉。故曰：如衡如石，不定物以数，物之悬者，轻重自见；如水如镜，不示物以形，物之鉴者，妍蚩自露。勿浑浑而浊，勿皎皎而清，勿汶汶而暗，勿察察而明。虽冕旒蔽目而视于未形，虽黈纚塞耳而听于无声。纵心乎湛然之域，游神于至道之精。扣之者，应洪纤而效响；酌之者，随浅深而皆盈。故曰：天之清，地之宁，王之贞。四时不言而代序，万物无为而受成；岂知帝有其力，而天下和平。吾王拨乱，戡以智力；人惧其威，未怀其德。我皇抚运，扇以淳风；民怀其始，未保其终。爰述金镜，穷神尽性。使人以心，应言以行。包括理体，抑扬其令。天下为公，一人有庆。开罗起祝，援琴命诗；一日二日，念兹在兹。惟人所召，自天佑之。争臣司直，致告前疑。

太宗嘉之，赐帛三百段，仍授以大理寺丞。

贞观五年，诏曰：“在京诸司，比来奏决死囚，虽云三覆，一日即了，都未暇审思，三奏何益？纵有追悔，又无所及。自今后，

在京诸司奏决死囚，宜二日中五覆奏，天下诸州三覆奏。”又手诏敕曰：“比来有司断狱，多据律文，虽情在可矜而不敢违法，守文定罪，或恐有冤。自今门下省复有据法合死，而情在可矜者，宜录状奏闻。”

贞观九年，盐泽道行军总管、岷州都督高甑生坐违李靖节度，又诬告靖谋逆，减死徙边。时有上言者曰：“甑生旧秦府功臣，请宽其过。”太宗曰：“虽是藩邸旧劳，诚不可忘，然理国守法，事须画一；今若赦之，使开侥幸之路。且国家建义太原，元从及征战有功者甚多，若甑生获免，谁不觊觎<sup>⑨</sup>，有功之人，皆须犯法。我所以必不赦者，正为此也。”

贞观十一年，特进魏征上疏曰：

臣闻《书》曰：“明德慎罚”，“惟刑恤哉！”《礼》云：“为上易事，为下易知，则刑不烦矣。上人疑则百姓惑，下难知则君长劳矣。”夫上易事，则下易知，君长不劳，百姓不惑。故君有一德，臣无二心，上播忠厚之诚，下竭股肱之力，然后太平之基不坠，“康哉”之咏斯起。当今道被华戎，功高宇宙，无思不服，无远不臻。然言尚于简文，志在于明察，刑赏之用，有所未尽。夫刑赏之本，在乎劝善而惩恶，帝王之所以与天下为画一，不以贵贱亲疏而轻重者也。今之刑赏，未必尽然。或屈伸在乎好恶，或轻重由乎喜怒。遇喜则矜其情于法中，逢怒则求其罪于事外，所好则钻皮出其毛羽，所恶则洗垢求其瘢痕。瘢痕可求，则刑斯滥矣；毛羽可出，则赏因谬矣。刑滥，则小人道长，赏谬，则君子道消。小人之恶不惩，君子之善不劝，而望治安刑措，非所闻也。

且夫暇豫清谈，皆敦尚于孔、老；威怒所至，则取法于申、韩<sup>⑩</sup>直道而行，非无三黜，危人自安，盖亦多矣。故道德之旨未弘，刻薄之风已扇。夫刻薄既扇，则下生百端，人竞趋时，则宪章不一，稽之王度，实亏君道。昔州犁上下

其手，楚国之法遂差；张汤轻重其心，汉朝之刑以弊。以人臣之颇僻，犹莫能申其欺罔，况人君之高下，将何以措其手足乎！以睿圣之聪明，无幽微而不烛，岂神有所不达，智有所不通哉？安其所安，不以恤刑为念；乐其所乐，遂忘先笑之变。祸福相倚，吉凶同域，惟人所召，安可不思？顷者责罚稍多，威怒微厉，或以供帐不贍，或以营作差违，或以物不称心，或以人不从命，皆非致治之所急，实恐骄奢之攸渐。是知“贵不与骄期而骄自至，富不与侈期而侈自来”，非徒语也。

且我之所代，实在有隋，隋氏乱亡之源，圣明之所临照。以隋氏之府藏譬今日之资储，以隋氏之甲兵况当今之士马，以隋氏之户口校今时之百姓，度长比大，曾何等级？然隋氏以富强而丧败，动之也；我以贫穷而安宁，静之也。静之则安，动之则乱，人皆知之，非隐而难见也，非微而难察也。然鲜蹈平易之涂，多遵覆车之辙，何哉？在于安不思危，治不念乱，存不虑亡之所致也。昔隋氏之未乱，自谓必无乱；隋氏之未亡，自谓必不亡。所以甲兵屡动，徭役不息，至于将受戮辱，竟未悟其灭亡之所由也，可不哀哉！

夫鉴形之美恶，必就于止水；鉴国之安危，必取于亡国。故《诗》曰：“殷鉴不远，在夏后之世。”又曰：“伐柯伐柯，其则不远。”臣愿当今之动静，必思隋氏以为殷鉴，则存亡治乱，可得而知。若能思其所以危，则安矣；思其所以乱，则治矣；思其所以亡，则存矣。知存亡之所在，节嗜欲以从人，省游畋之娱，息靡丽之作，罢不急之务，慎偏听之怒。近忠厚，远便佞，杜悦耳之邪说，甘苦口之忠言。去易进之人，贱难得之货，采尧、舜之诽谤，追禹、汤之罪己，惜十家之产，顺百姓之心。近取诸身，恕

以待物，思劳谦以受益，不自满以招损。有动则庶类以和，出言而千里斯应，超上德于前载，树风声于后昆。此圣哲之宏规，而帝王之大业，能事斯异，在乎慎守而已。

夫守之则易，取之实难。既能得其所以难，岂不能保其所以易？其或保之不固，则骄奢淫佚动之也。慎终如始，可不勉欤！《易》曰：“君子安不忘危，存不忘亡，治不忘乱，是以身安而国家可保也。”诚哉斯言，不可以不深察也。伏惟陛下欲善之志，不减于昔时；闻过必改，少亏于曩日。若以当今之无事，行畴昔之恭俭，则尽善尽美矣，固无得而称焉。

太宗深嘉而纳用。

贞观十四年，戴州刺史贾崇以所部有犯十恶者，被御史劾奏。太宗谓侍臣曰：“昔陶唐大圣，柳下惠大贤，其子丹朱甚不肖，其弟盗跖为巨恶。夫以圣贤之训，父子兄弟之亲，尚不能使陶染变革，去恶从善。今遣刺史，化被下人，咸归善道，岂可得也。若令缘此皆被贬降，或恐递相掩蔽，罪人斯失。诸州有犯十恶者，刺史不须从坐，但令明加纠访科罪，庶可肃清奸恶。”

贞观十六年，太宗谓大理卿孙伏伽曰：“夫作甲者欲其坚，恐人之伤；作箭者欲其锐，恐人不伤。何则？各有司存，利在称职故也。朕常问法官刑罚轻重，每称法纲宽于往代。仍恐主狱之司，利在杀人，危人自达，以钓声价，今之所忧，正在此耳！深宜禁止，务在宽平。”

## 赦 令

贞观七年，太宗谓侍臣曰：“天下愚人者多，智人者少，智者不可为恶，愚人好犯宪章。凡赦宥之恩，惟及不轨之辈。古语云：‘小人之幸，君子之不幸。’‘一岁再赦，善人暗哑。’凡养稂莠者伤禾稼，惠奸宄者贼良人，

昔‘文王作罚，刑兹无赦。’又蜀先主尝谓诸葛亮曰：‘吾周旋陈元方，郑康成之间，每见启告治乱之道备矣，曾不语赦。’故诸葛亮治蜀十年不赦，而蜀大化。梁武帝每年数赦，卒至倾败。夫谋小仁者，大仁之贼，故我有天下已来，绝不放赦。今四海安宁，礼义兴行，非常之恩，弥不可数。将恐愚人常冀侥幸，惟欲犯法，不能改过。”

贞观十年，太宗谓侍臣曰：“国家法令，惟须简约，不可一罪作数种条。格式既多，官人不能尽记，更生奸诈，若欲出罪即引轻条，若欲入罪即引重条。数变法者，实不益道理，宜令审细，毋使互文。”

贞观十一年，太宗谓侍臣曰：“诏令格式，若不常定，则人心多惑，奸诈益生。《周易》称‘涣汗其大号’，言发号施令，若汗出于体，一出而不复也。《书》曰：‘慎乃出令，令出惟行，弗为反。’且汉祖日不暇给，萧何起于小吏，制法之后，犹称画一。今宜详思此义，不可轻出诏命，必须审定，以为永式。”

长孙皇后遇疾，渐危笃<sup>①</sup>。皇太子启后曰：“医药备尽，今尊体不瘳，请奏赦囚徒并度人入道，冀蒙福佑。”后曰：“死生有命，非人力所加。若修福可延，吾素非为恶者；若行善无效，何福可求？赦者国之大事，佛道者，上每示存异方之教耳。常恐为理体之弊，岂以吾一妇人而乱天下法？不能依汝言。”

### 注释：

①称：同“秤”。 ②讎：仇。 ③反形未具：谋反罪证不足。 ④契：舜臣名。五教：父子有亲，君臣有义，夫妇有别，长幼有序，朋友有信。 ⑤五刑：墨刑、劓刑、剕刑、宫刑、大辟。 ⑥黔首：秦朝称民为“黔首”。 ⑦三讯：一曰讯群臣，二曰讯群吏，三曰讯万民。 ⑧万乘之主：古时天子出车万乘，故称“万乘之主”。 ⑨温舒：西汉人，尝上书言狱吏之害。 ⑩辎：轻车。 ⑪考课：古代考核官吏政绩的制度。 ⑫三槐、九棘之官：外朝听狱之所。 ⑬鞠：审讯。 ⑭征：征验。 ⑮辟：君主。 ⑯警：天子出称警。蹕：天子入称蹕。 ⑰九重：古代宫门九重。 ⑱瑶台：夏桀

筑。琼台：商纣筑。①觊觎：非分的企图。  
②申：申不害。韩非。③永式：永久的法令。  
④危笃：病重。

## 《断刑论下》

### 题解：

唐代柳宗元(773—819)撰，收入《柳河东集》。他从提高封建司法工作效率出发，在该文中强调“赏罚务速”的谋略。他认为赏罚的目的是为了劝善惩恶，为此赏罚必须及时得当。如果赏罚处理的不及，该赏的不及赏，该罚的不及时罚。不但不能达到预期的目的，还会产生消极的效果，善者就怠，不善者就懈，就等于驱使人犯罪。如果对善恶的行为给予及时的赏罚，就会鼓励为善者积极地做善事，从而减少犯罪行为，少用刑罚。这样有利于发挥刑赏的教化作用，从而达到“刑之所以措而化之所以成”的目的。

### 断刑论下

余既为断刑论，或者以释刑复于余，其辞云云，余不得已而为之一言焉，夫圣人之为赏罚者非他，所以惩劝者也<sup>①</sup>，赏务速而后有劝，罚务速而后有惩。必曰“赏以春夏，而刑以秋冬”，而谓之至理者伪也。使秋冬为善者，必俟春夏而后赏，则为善者必怠；春夏为不善者，必俟秋冬而后罚，则为不善者必懈。为善者怠，为不善者懈，是驱天下之人而入于罪也。驱天下之人入于罪，又缓而慢之，以滋其懈怠，此刑之所以不措也。必使为善者不越月逾时而得其赏，则人勇而有劝焉；为不善者不越月逾时而得其罚，则人惧而有惩焉。为善者日以有劝，为不善者月以有惩，是驱天下之人而从善远罪也。驱天下之人而从善远罪，是刑之所以措，而化之所以成也。或者务言天而不言人，是惑于道者也。胡不谋之人心，以熟吾道<sup>②</sup>？吾道之尽而人化矣，是知苍苍者焉能与吾事<sup>③</sup>！

而暇知之哉。果以为天时之可得顺，大和之可得致<sup>④</sup>，则全吾道而得之矣；全不吾道而不得者，非所谓天也，非所谓大和也，是亦必无而已矣。又何必枉吾之道，曲顺其时，以谄是物哉。吾固知顺时之得天，不如顺人顺道之得天也。何也？使犯死者自春而穷其辞<sup>⑤</sup>，欲死不可得，贯三木<sup>⑥</sup>，加连锁，而致之狱吏，大暑者数月，痒不得搔，痹不得摇<sup>⑦</sup>，痛不得摩，饥不得时而食，渴不得时而饮，目不得瞑，支不得舒，怨号之声闻于里人<sup>⑧</sup>。如是而大和之不伤；天时之不逆，是亦必无而已矣。彼其所宜得者死而已也，又若是焉何哉？或者，乃以为：“雪霜者天之经也，雷霆者天之权也，非常之罪不时可以杀，人之权也；当刑者必须时而杀，人之经也。”是又不然。夫雷霆雪霜者，特一气耳，非有心于物者也。圣人有心于物者，春夏之有雷霆也，或发而震，破巨石，裂大木，木石岂为非常之罪也哉。秋冬之有霜雪也，举草木而残之，草木岂有非常之罪也哉？彼岂有怨于物也哉？彼无所惩，则效之者惑也，果以为仁必知经，智必知权，是又未尽于经权之道也。何也？经也者常也，权也者达经者也，皆仁智之事也。离之滋惑矣。经非权则泯，权非经则悖，是二者强名也。曰当，斯尽之矣。当也者，大中之道也<sup>⑨</sup>；离而为名者，大中之器用也。知经而不知权，不知经者也；知权而不知经，不知权者也。偏知而谓之智，不智者也；偏守而谓之仁，不仁者也。知经者不以异物害吾道，知权者不以常人拂吾虑<sup>⑩</sup>，合之于一而不疑者，信于道而已者也。且古之所以言天者，盖以愚蚩蚩者耳<sup>⑪</sup>，非为聪明睿智设也<sup>⑫</sup>，或者之未达，不思之甚也。

### 注释：

- ①惩劝：惩恶和劝善。②熟：使……合理。  
③苍苍者：天。④大和：风调雨顺，天下太平。  
⑤辞：口供。⑥三木：套在犯人脖子和手上的刑具。⑦痹：麻木。⑧里人：唐代一百家为一里，此指同里的人。⑨大中之道：适当。

⑩拂：违反。 ⑪蚩蚩：百姓。 ⑫睿：智慧。

## 《策 林》

### 题解：

唐白居易(772—846)撰，收入《白居易集》。其中的《号令》、《刑、礼、道》、《止狱措刑》等篇，是他为扭转中唐国势衰微的局势，在维护封建法制方面提出的谋略。他认为“刑”和“礼”应当“循环表里，迭相为用”。根据不同形势，各有侧重，有时以“礼”为先，有时以“刑”为先。“刑”、“礼”皆是治国的重要手段。礼的作用在于通过教化，使“人知耻格”。刑的作用在于“纠人恶”，使“人知劝惧”。他提出为使刑法适中，达到“上施畏爱之道，下有悦服之心”，就要在立法和司法中执行“理大罪，赦小过”的原则。只有严惩大的犯罪，才能使人心“畏而服之”。而对小的过错，给予宽容，将使天下人“爱而悦之”。关于产生犯罪的原因，他提出“贫困思邪而多罪”的犯罪论。认为官吏横征暴敛，造成百姓贫困，这是犯罪的根源。所谓“刑之繁省，系于罪之众寡也；教之兴废，系于人之贫富也。圣王不患刑之繁，而患罪之众；不患教之废，而患人之贫。故人苟富，则教斯兴矣；罪苟寡，则刑斯省矣”。解决犯罪问题的关键在于治本，使百姓有衣穿、有饭吃。他还认为，法要靠人来执行，没有好的司法官员，单有好的法也不会起作用，为此主张“悬法学为上科”，通过科举考试选拔明习法律的人任法官。

### 号令(令一则行，推诚则化)

问：号令者，所以齐其俗，一其心，故圣人专之慎之。然则号令既出，而俗犹未齐者，其故安在？令既行而心犹未一者，其失安归？欲使下令如风行，出言如响应，导之而人知劝，防之而人不逾，将致于斯，岂无其要？

臣闻：王者发号施令，所以齐其俗，一其心。俗齐则和，心一则固，人于是乎可任使也。《传》曰：“人心不同，如其面焉。”故一人一心，万人万心，若不以令一之，则人人之心各异矣。于是积异以生疑，积疑以生惑，除乱莫先乎令者也，故圣王重之。然则令者，出于一人，加于百辟<sup>①</sup>，被于万姓，渐于四夷：如风行，如雨施，有往而无返也。其在《周易》涣汗之义<sup>②</sup>，言号令如汗涣然，一出而不可复也，故圣王慎之。然则令既出，而俗犹未齐者，由令不一也。〔令不一者〕非独朝出夕改，晨行暮止也。盖谨于始、慢于终，则不一也。张于近、弛于远，则不一也。急于贱、宽于贵，则不一也。行于疏、废于亲，则不一也。且人之心，犹不可以不一而理；况君之令，其可二三而行者乎？然则令既一，而天下之心犹未悦随者，由上之不能行于己、推于诚者也。凡下之从上也，不从口之言，从上之所好也。不从力之制，从上之所为也。盖行诸己也诚，则化诸人也〔速。求诸己也至，则感诸人也〕深。若不推之于诚，虽三令五申，而令不明矣。苟不行之于己，虽家至日见，而人不信矣。圣王知其如此，故以礼自修，以法自理，慎其所好，重其所为，有诸己者而后求诸人，责于下者必先禁于上。是以推之而往，引之而来，导之斯行，禁之斯止。使天下之心，颀颀然唯望其令<sup>③</sup>、听其言而已。故言出则千里之外应如响，令下则四海之内行如风。故曰：禁胜于身，则令行于人者矣。又曰：下令如流水发源，盖是谓也。如此，则何虑乎海内之令，不如身之使臂，臂之使指者哉？

### 议肉刑(可废，不可用)

问：肉刑者，其来尚矣，其废久矣，前贤之论，是非纷然。今欲弃而不行，法或乖于稽古；若举而复用，义恐失于随时。取舍之间，何者为可？

臣伏以汉除肉刑，迨今千有余祀<sup>④</sup>，其



间博闻达识之士，议其是非者多矣。其欲废之者，则曰：刻肌肤，断肢体，人主忍而用之；则恺悌惻隐之心乖矣<sup>⑤</sup>。此缙紫所谓虽欲改过自新，则道亡由者也。其欲复之者，则曰：任箠令，用鞭刑，酷吏倚而行之；则专杀滥死之弊作矣。此班固所谓以死罔人，失本惠者也。臣以为：议事者宜征其实，用刑者宜酌其情；若以情实言之，则可废而不可复也。何者？夫肉刑者，盖刖劓刵剕之类耳，《书》所谓五虐之刑也。昔苗人始淫为之，而天既降咎。及秦人又虐用之，而天下亦离心。夫如是，则岂无滥死者耶？汉文帝始除去之，而刑罰以请。我太宗亦因而弃之，而人用不犯。夫如是，则岂有罔人者耶<sup>⑥</sup>？此臣所谓征其实者也。臣又闻：圣人之用刑也，轻重适时变，用舍顺人情；不必乎反今之宜，复古之制也。况肉刑废之久矣，人莫识焉。今一朝卒然用之，或绝筋，或折骨，或伤面，则见者必痛其心，闻者必骇其耳；又非圣人适时变，顺人情之意也。征之于实既如彼，酌之于情又如此；可否之验，岂不明哉？《传》曰：“君之为政，贵因循而重改作。”又曰：“利不百不变法。”臣以为复之有害而无利也，其可变而改作乎？

## 刑、礼、道(迭相为用)

问：圣王之致理也，以刑纠人恶，故人知劝惧；以礼导人情，故人知耻格；以道率人性，故人反淳和；三者之用，不可废也。意者：将偏举而用耶？将并建而用耶？从其宜，先后有次耶？成其功，优劣有殊耶？然则相今日之所宜，酌今日之所急，将欲致理，三者奚先？

臣闻：人之性情者，君之土田也。其荒也，则薙之以刑<sup>⑦</sup>；其辟也，则蒔之以礼<sup>⑧</sup>；其植也，则获之以道。故刑行而后礼立，礼立而后道生。始则失道而后礼，中则失礼而后刑，终则修刑以复礼，修礼以复道。故曰：刑者，礼之门；礼者，道之根。知其门，守

其根，则王化成矣。然则王化之有三者，犹天之有两曜，岁之有四时，废一不可也；并用亦不可也；在乎举之有次，措之有伦而已。何者？夫刑者，可以禁人之恶，不能防人之情；礼者，可以防人之情，不能率人之性；道者，可以率人之性，又不能禁人之恶。循环表里，迭相为用。故王者观理乱之深浅，顺刑礼之先后，当其惩恶抑淫，致人于劝惧，莫先于刑。划邪窒欲<sup>⑨</sup>，致人于耻格莫尚于礼。反和复朴，致人于敦厚，莫大于道。是以衰乱之代，则弛礼而张刑；平定之时，则省刑而弘礼；清静之日，则杀礼而任道，亦如祁寒之节，则疏水而附火；徂暑之候，则远火而狎水。顺岁候者，适水火之用；达时变者，得刑礼之宜。适其用，达其宜，则天下之理毕矣，王者之化成矣。将欲较其短长，原其始终，顺其变而先后殊，备其用而优劣等。离而言之则导致，合而理之则同功。其要者，在乎举有次，措有伦，适其用，达其宜而已。方今华夷有截，内外无虞<sup>⑩</sup>，人思休和，俗已平泰；是则国家杀刑罰之日，崇礼乐之时。所以文易化成，道易驯致者，由得其时也。今其时矣，伏惟陛下惜而不失焉。

## 止狱措刑(在富而教之)

问：成康御宇<sup>⑪</sup>，囹圄空虚；文、景继统，刑罰不用；太宗化下，而人不犯。成此功者，其效安在？桀、纣在上，比屋可诛；秦氏为君，赭衣满道。致此弊者，其故安在？今欲鉴桀、纣、秦氏之弊，继周、汉、太宗之功，使人〔有〕耻再格，刑措不用。备详本末，著之于篇。

臣闻仲尼之训也，既庶矣，而后富之；既富矣，而后教之。《管子》亦云：仓廩实，知礼节；衣食足，知荣辱。然则食足财丰，而后礼教所由兴也。礼行教立，而后刑罰所由措也。盖前事之不忘，后事之元龟<sup>⑫</sup>。臣请以前事明之。当成、康之时，天下富寿，

人知耻格；故囹圄空虚四十余年。当汉文、景之时，节用劝农，海内殷实，人人自爱，不犯刑法；故每岁决狱，仅至四百。及我太宗之朝，勤俭化人，人用富庶，加以德教，致于升平；故一岁断刑，不满三十。虽则明圣慎刑，贤良恤狱之所致也；虽亦由天下之人，生厚德正而寡过也。当桀、纣之时，暴政仇敛，万姓穷苦，有怨无耻，奸宄并兴；故是时也，比屋可戮。及秦之时，厚赋以竭人财，远役以殫人力<sup>⑬</sup>；力殫财竭，尽为寇贼，群盗满山，赭衣塞路；故每岁断罪，数至十万。虽则暴君淫刑，奸吏弄法之所致也，虽亦由天下之人，贫困思邪而多罪也。由是观之，刑之繁省，系于罪之众寡也；教之兴废，系于人之贫富也。圣王不患刑之繁，而患罪之众；不患教之废，而患人之贫。故人苟富，则教斯兴矣；罪苟寡，则刑斯省矣。是以财产不均，贫富相并，虽尧、舜为主，不能息忿争而省刑狱也。衣食不充，冻馁并至，虽皋陶为士，不能止奸宄而去盗贼也。若失之于本，求之于末，虽圣贤并生，臣窃以为难矣。至若察小大之狱，审轻重之刑，定加減于科条，得情伪于察色，此有司平刑之要也，非王者恤刑之德也。至若尽软恤之道，竭哀矜之诚，使生者不怨，死者不恨；此王者恤刑之法也，非圣人措刑之道也。必欲端影于表，澄流于源，则在乎富其人，崇其教，开其廉耻之路，塞其冤滥之门；使人内乐其生，外畏其罪，则必过犯自省，刑罚自措。斯所谓致群心于有耻，立大制于不严。古者有画衣冠、异章服<sup>⑭</sup>，而人不犯者，由此道素行也。

### 论刑法之弊(升法科，选法吏)

问：今之法，贞观之法；今之官，贞观之官，昔何为而大和？今何为而未理？事同效异，其故何哉？将刑法不便于时耶？而官吏不得其人耶？

臣伏以今之刑法，太宗之刑法也；今之

天下，太宗之天下也。何乃用于昔，而俗以宁壹？行于今，而人未休和？臣以为非刑法不便于时，是官吏不循其法也。此由朝廷轻法学，贱法吏；故应其科与补其吏者，率非君子也，其多小人也。盖刑法者，君子行之，则诚信而简易。简易则人安。小人习之，则诈伪而滋彰<sup>⑮</sup>。滋彰则俗弊。此所以刑一而用二，法同而理殊者也。矧又律令尘蠹于棧阁<sup>⑯</sup>，制敕堆盈于案几；官不编睹，法无定科。今则条理轻重之文，尽询于法直：是使国家生杀之柄，假手于小人。小人之心，孰不可忍？至有黠货贿者矣，有祐亲爱者矣，有陷仇怨者矣，有畏权豪者矣，有欺贱弱者矣。是以重轻加減，随其喜怒；出入比附，由乎爱憎。官不察其所由，人不知其所避。若然，则虽有贞观之法，苟无贞观之吏，欲其刑善，无乃难乎？陛下诚欲申明旧章，划革前弊；则在乎高其科，重其吏而已。臣谨按：汉制以四科辟士，其三曰明习律令，足以决狐疑<sup>⑰</sup>，能按章覆问，文中御史者，辟而用之。伏惟陛下：悬法学为上科，则应之者必俊乂也<sup>⑱</sup>；升法直为清列，则授之者必贤良也。然后考其能，奖其善；明察守文者，擢为御史；软恤用情者，迁为法官。如此，则仁恕之诚，廉平之气，不散于简牒之间矣。摭刻之心，舞文之弊，不生于刀笔之下矣<sup>⑲</sup>。与夫愚诈小吏，窃而弄之者，功相万也。臣又闻：管仲夺伯氏之邑，没无怨言；季羔刑门者之足，亡而获宥；孔明黜廖立之位，死而垂泣；三子者，可谓能用刑矣。臣伏思之，亦何代无其人哉？在乎求而用之，考而奖之而已。伏惟陛下再三察焉。

### 使人畏爱悦服，理大罪，赦小过

问：政不可宽，宽则人慢；刑不可急，急则人残。故失于恢恢<sup>⑳</sup>，则漏网而为弊；务于察察<sup>㉑</sup>，则及泉而不祥。将使宽猛适宜，疏密合制，上施畏爱之道，下有悦服之心：刑政之中，何者为得？

臣闻：圣人在上，使天下畏而爱之，悦而服之者：由乎理大罪，赦小过也。《书》曰：“宥过无大，况小者乎？刑故无小，况大者乎？”故宥其小者，仁也。仁以容之，则天下之心，爱而悦之矣。刑其大者，义也。义以纠之，则天下之心，畏而服之矣。臣窃见国家用法，似异于是。何则？纠察之政。急于朝官，而宽于外官，惩戒之刑，加于小吏，而纵于长吏<sup>①</sup>。是则权轻而过小者，或反绳之；寄重而罪大者，或反舍之。臣复思之，恐非先王宥过刑政之道也。然则小大之喻，其犹鱼耶？鱼之在泉者，小也，察之不祥；鱼之吞舟者，大也，漏之不可。刑烦犹水浊，水浊则鱼喁<sup>②</sup>；政宽犹防决，防决则鱼逝。是以善为理者，举其网，疏其网，网举则所罗者大矣，网疏则所漏者小也。伏惟陛下：举其纲于长吏，疏其网于朝官；舍小过以示仁，理大罪而明义：则畏爱悦服之化，闾然而日彰于天下矣。

### 去盗贼(在举德选能，安业厚生)

臣闻：圣王之去盗贼也，有二道焉。始则举有德，选有能，使教化大行；奸宄者去。次又安其业，厚其生，使廉耻大兴，贪暴者息。故舜举皋陶，不仁者远；晋用士会，盗奔于秦：此举德选能之效也。成、康阜其俗，礼让兴行；文、景富其仁，盗贼衰息：此安业厚生之马也。由是观之，则俗之贪廉，盗之有无，系于人之劳逸，吏之贤否也。方今禁科虽严，桴鼓未静<sup>③</sup>；夺攘者时闻于道路，穿窬者或纵于乡闾<sup>④</sup>。无乃陛下之人，有多穷困冻馁者乎？无乃陛下之吏，有非循良明白者乎？伏惟陛下大推爱人之诚，广喻称善之旨；厚其生业，使俗知耻格；举以贤德，使国无幸人；自然廉让风行，奸滥日息。则重门罕闻于击柝，外户庶见于不扁者矣。

### 议赦

臣谨案：《书》曰：“眚灾肆赦”又《易》曰：“雷雨作解君子以赦过宥罪。”斯则赦之不可废也必矣。《管子》曰：“赦者，奔马之委轡也；不赦者，座疽之礪石也。”又谚曰：“一岁再赦，妇儿暗哑<sup>⑤</sup>。”斯又赦之不可数也明矣。然则赦之为用，用必有时：数既失之，废亦未为得也。何者？赦之为大德矣，为贼亦甚矣。大凡王者践祚改元之初，一用之，则为德也；居常致理之际，数用之，则为贼也。故践祚而无赦，则布新之义缺，而好生之德废矣；居常而数赦，则惠奸之路启，而召乱之门开矣。由此而观，盖赦者，可疏而不可数也，可重而不可废也。用舍之要，其在兹乎？

#### 注释：

- ①百辟：百官。 ②涣：流。 ③颙颙：景仰。 ④祀：年。 ⑤恺悌：和易近人。 ⑥罔人：罔陷其人。 ⑦薙：除草。 ⑧蒔：移栽。 ⑨划邪窒欲：除邪禁欲。 ⑩无虞：没有贻误。 ⑪御宇：治理天下。 ⑫元龟：大龟，引申为借鉴。 ⑬殫：竭尽。 ⑭画衣冠，异章服：在犯人衣服上画不同的图形表示惩罚。 ⑮滋彰：明显增多。 ⑯尘蠹：尘污蛀蚀。 ⑰狐疑：犹豫不决。 ⑱俊乂：贤能的人。 ⑲摛刻：聚敛贪狠。 ⑳刀笔：掌管文书的小吏。 ㉑恢恢：宽广。 ㉒察察：明辨。 ㉓纵：放纵。 ㉔桴鼓：战鼓。 ㉕穿窬：盗窃行为。 ㉖暗哑：哑巴，意为默不作声。

### 《问答》

#### 题解：

宋陈亮(1143—1193)撰，以问答方式阐发自己的政治主张，收入《龙川文集》。亮字同甫，号龙川，婺州永康(今属浙江)人。少怀抗金复国大志，多次上书孝宗。在《问答》中，他从“义利双行”的观点出发，论述了自

古以来君主制定赏罚并没有离开“利”，但是君主不能以自己的喜怒之私控制天下，而要“以法为公”。他认为赏罚本身就包含着“利”和“义”的统一，离开“利”，赏罚也就起不了作用。他主张实行轻刑，极力反对恢复肉刑，认为“刑者，圣人爱民之具，而非以戕民也。”这是进步的主张。

## 问答上(一)

三代以仁义取天下，本于救斯民，而非以位为乐也。齐(威)(桓)挟尊周以自私，败商、周之常经，而开争夺篡(杀)(弑)之祸，其流既惨矣。秦合天下以奉一人，恣其所欲为；陈涉因斯民之不忍，徒手大呼，而刘、项借之以起。沛公号为宽大长者，三章之约，足以动天下而入其心，宜本于为民而起矣。方其穷时，纵观秦皇帝，叹曰：“大丈夫当如此！”其意出于为民耶？天下既定，周防曲虑<sup>①</sup>，如一家私物，此其三代公天下之法耶？唐太宗与刘文靖之谋似矣；与其父谋所以免祸，而迫胁以从之，何其舛也<sup>②</sup>！尊隋之举，代王之立，殆若濯泥于水，而明白洞达之事，仅能以九锡归诸有司耳。其所以守之者，又密于汉，则其义岂足自附于三代乎？然而国祚之久长，斯民之爱戴，曾不减于夏、商，何也？民不可欺，则其取守之道必有可言者矣。

昔者生民之初，类聚群分，各相君长。其尤能者，则相率而听命焉<sup>③</sup>，曰皇曰帝。盖其才能德义足以为一代君师，听命者不之焉则不厌也<sup>④</sup>。世改而德衰，则又相率以听命于才能德义之特出者。天生一世之人，必有出乎一世之上者以主之，岂得以世次而长有天下哉<sup>⑤</sup>！以至于尧，而天下之情伪日起<sup>⑥</sup>，国家之法度亦略备矣。君臣有定位，听命有常所，非天下之人所得而自制也。朱、均之不肖，非如桀、纣之足以亡天下，而尧以为非天子之贤圣，不宜在此位，岂以法度定天下之心而私诸不肖之子哉！取舜、

禹于无所闻知之人而历试以事，以与天下共之，然后举而加诸天下之上。彼其心固以天下为公，而其道终不可常也。禹以为苟未得非常之人，则立与子之法以定天下心；子孙之不能皆贤，则有德者一起而定之，不必其在我，固无损于天下之公也。汤以为天下既已听命于一家，而吾之子孙不择其可与之者，而使不肖者或得以自肆于民上，则非所以仁天下也。故或世或及<sup>⑦</sup>，惟其贤而已。不幸而与之不当其人，则天下之公议，终不以私之吾家也。武王、周公合天下之诸侯，使之小大相承，而方伯实总之以听命于天子，天子不能以一人之私而制天下也。故定立嫡之法以塞觊觎争夺之门，而君臣之定分，屹然如天地之不可干矣<sup>⑧</sup>。此岂一世之故哉！

秦以智力兼天下而君之，不师古始，而欲传之万世，使天下疾视其上，翻然欲夺而取之。势力一去，则田野小夫皆有南面称孤之心。竞智角力，卒无有及沛公者，而其德义又真足以君天下，故刘氏得以制天下之命，使刘氏不有以大异乎天下之姓氏，则君臣之分犹可干，而三代之统绪未可继也。周防曲虑，岂将以私天下哉！定于一而已。曹孟德一有私天下之心，而天下为之分裂者十余世。及李氏之兴，则犹刘氏之旧也。彼其崛起之初，眇然一亭长耳<sup>⑨</sup>。其盛者不过一少年子弟，安知天下之大虑，而勃然有以拯民于涂炭之心！三章之法，非萧何所能教；而定天下之乱，又岂刘文靖之所能发哉！彼其初心，未有以异于汤、武也。而其臣凡下，无以辅相之，虽或急于天位，随事变迁，而终不失其救民之心，则大功大德固已暴著于天下矣。

孔、孟以天下之贤圣，而适当春秋战国之乱，卒不得行其道以拯民于涂炭者，无其位也。易曰：“天地之大德曰生，圣人之大宝曰位。”又曰：“垂象著明莫大乎日月<sup>⑩</sup>。崇高莫大乎富贵。”苟减其人而欲得其位者，其心犹可察也。使汉、唐之义不足以接三代之统绪，而谓三四百年之基业可以智力而扶持者，

皆后世儒者之论也。世儒之论不破，则圣人之道无时而明，天下之乱无时而息矣，悲夫！

### 问答下(七)

义利之分，孟子辨之详矣。而赏以劝善，刑以惩恶，圣人所以御天下之大权者，犹未离于利乎？有所利而为善，有所畏而不为善，则其人人也亦浅矣<sup>①</sup>。尧、舜之治天下，不赏而民劝，不怒而民威。故“罪疑惟轻，功疑惟重。”岂亦知其效人人之浅乎？然皋陶之陈谟，以典礼赏罚同出于天，而非有轻重之别也。苟无所事乎其用，则赏罚亦自外来耳，安在其为天乎？三代之用赏罚，大概犹法唐、虞，而记礼者载其先后之用甚详，又以为至周而穷。岂世变之极，而赏罚之用始重乎，抑其出于天，而三代始赖其用也？《春秋》圣人经世之志<sup>②</sup>，而独以代天子之赏罚。则圣人起而治天下，必不能以易此矣，亦何怪于汉宣帝之专恃赏罚以为治乎？“惟辟作福<sup>③</sup>，惟辟作威，”《洛书》之所明载，而儒者终以为治天下者不取必于赏罚，亦知夫劝惩之效浅也。谓赏罚不取必于劝惩，则无以御天下；谓其为劝惩而设，则赏罚亦利耳。利者，人道之未也，则皋陶之所谓天者岂诬乎？

耳之于声也，目之于色也，鼻之于臭也，口之于味也，四肢之于安佚也，性也，有命焉。出于性，则人之所同欲也，委于命，则必有制之者而不可违也。富贵尊荣，则耳目口鼻之与肢体皆得其欲；危亡困辱则反是。故天下不得自徇其欲也<sup>④</sup>，一切惟君长之为听。君长非能自制其柄也，因而欲恶而为之节而已。叙五典<sup>⑤</sup>，秩五礼，以与天共之。其能行之者，则富贵尊荣之所集也；其违之者，则危亡困辱之所并也。君制其权，谓之赏罚；人受其报，谓之劝惩。使为善者得其所同欲，岂以利而诱之哉！为恶者受其所同恶，岂以威而惧之哉！得其性而有以自勉，失其性而有以自戒。此典礼刑赏所以同出于天，而车服刀锯非人君之所自为也<sup>⑥</sup>。天下

以其欲恶而听之人君，人君乃以其喜怒之私而制天下，则是以刑赏为吾所自有，纵横颠倒而天下皆莫吾违。善恶易位，而人（先）〔失〕其性，犹欲执区区之名位以自尊，而不知天下非名位之所可制也。孔子之作《春秋》，公赏罚以复人性而已。后世之用赏罚，执为己有以驱天下之人而已。非赏人人之浅，而用之者其效浅也。故私喜怒者，亡国之赏罚也；公欲恶者，王者之赏罚也。外赏罚以求君道者，迂儒之论也；执赏罚以驱天下者，霸者之术也。

### 问答下(八)

肉刑之兴，说者以为起于苗民，而尧参取而用之。“报虐以威”，盖将以戒小人，而非出于圣人之本心也。故舜多为之涂以出民于刑，祇以施诸怙终者<sup>⑦</sup>；而稷王之训刑为尤详。然则虽圣人欲去之久矣，安在其为孝文姑息之仁也？而世儒之道古者，必以为井田、封建、肉刑皆圣人之大经大法，不可废也。治天下而不用肉刑，徒以启小人犯法之心耳。故曰：“肉刑之刑，刑也。”汉、魏之际，往往数议复之而不果，以至于本朝，而刑轻于三代矣，法家者流，以仁恕为本，惟学道之君子始惓惓于肉刑焉，何其用心之相反也？推之天理，验之人事，而要议古今之变，究其所以始，极其所由终，必有至当之说。

昔者圣人别人类于禽兽之中，而去其争夺戕杀之患。盖必执生杀之权，而后谓之刑政也。则肉刑固已草具，而未有其法耳。苗民始多为戕人之具以淫用之。尧惧其为世训也，故取而次第品节之<sup>⑧</sup>，使必若苗民者然后罹此刑耳。故曰：“报虐以威”，舜又多为之法以出之，而夏于赎刑为尤详。商人执刑罪以督奸，伤肌肤以惩恶，盖严其所当用者耳。夫既多为之涂以出之，用不严其所当用者，是教人以轻犯法也，岂圣人制刑之本意哉！文、武尤谨于庶刑，而成、康措而不用，至于四十余年。穆王毫荒<sup>⑨</sup>，而训刑以诘四

方，使知刑者圣人爱民之具，而非以戕民也。汉兴，承秦之余烈，先王之法度尽废，而肉刑块然独存，文帝感一女子之言而慨然除之，于是可与语通变之道矣。

井田封建，自黄帝以来，极十数圣人之思虑，所以维持而奉行者，惟恐其一事之不详而一目之不精也。至于肉刑，则多为之涂以出之，惟恐其或用耳，岂可同日而语哉！圣人之恐其一事之不详而一目之不精者，今既废而不可复兴举矣，独惓惓于圣人之恐其或用者，纵使可用，无乃颠倒其序乎！使民有耻，则今法足矣；民不赖生，虽日用肉刑，犹为无法也。礼节民心，乐和民声，政以行之，刑以防之。四达而不悖，则王道成矣。吾闻诸圣人如此。

#### 注释：

①周防曲虑：防备周密，反复谋划。②舛：错误。③相：选择。④不厌：不服。⑤世次：跨越世代。⑥情伪：弊病。⑦世：世袭。⑧干：冒犯。⑨眇：微小。⑩垂象：悬象。⑪人人：赏罚对人的作用。⑫经世之志：治理天下的准则。⑬辟：帝王。⑭自徇其欲：为所欲为。⑮五典：五常之教，即父义、母慈、兄友、弟恭、子孝。⑯车服：指赏赐。刀锯：指刑罚。⑰怙终：以恃而终不改悔。⑱次第：等次。品节：等级。⑲耄：年甚老。荒：大。

## 《朱子语类》

#### 题解：

南宋黎敬德编，140卷。是朱熹言论的汇编。朱熹既没，门人各记其所闻之语，遂成是书。其中《论治道》、《论刑》、《法制》等篇，记录了朱熹的法律主张和谋略。他认为“大抵立法必有弊，未有无弊之法，其要只在得人”。如果任人不当，虽然法律完善，亦于事无益。因而主张要“精择其人”。他还鼓吹实行重刑。认为“今人说轻刑者，只见所犯之人为可悯，而不知被伤之人尤可念也。如劫盗杀人者，人多为之求生，殊不念

死者之为无辜，是为盗贼计，而不为良民地也。”所以要重刑，以“惩其一以戒百”，要“严其始而使之无犯。”

## 论治道

治道别无说，若使人主恭俭好善，有言逆于心，必求诸道；有言孙于志<sup>①</sup>，必求诸非道，如何会不治！……

天下事有大根本，有小根本。正君心是大根本。其余万事各有一根本，如理财以养民为本，治兵以择将为本。

大抵立法必有弊，未有无弊之法，其要只在得人。若是个人，则法虽不善，亦占分数多了。若非其人，则有善法，亦何益于事。

居今之世，若欲尽除今法，行古之政，则未见其利，而徒有烦扰之弊。又事体重大，阻格处多，决然难行。要之因祖宗之法而精择其人，亦足以治。

今世士大夫惟以苟且逐旋挨去为事，挨得过时且过，上下相咻<sup>②</sup>，以勿生事，不要十分明理会事。且凭鹘突才理会得分明<sup>③</sup>，便做官不得。有人少负能声，及少经挫抑，却悔其太惺惺了了<sup>④</sup>。一切刻方为圆<sup>⑤</sup>，且凭随俗苟且，自道是年高见识长进。当官者，大小上下，以不见吏民不治事为得策。曲直在前，只不理睬，庶几民自不来，以此为止讼之道。民有冤抑无处伸诉，只得忍遏。便有讼者，半年周岁，不见消息，不得了决，民亦只得休和，居官者遂以为无讼之可听。俗风如此，可畏可畏。

古人立法，只是大纲。下之人得自为。后世法皆详密，下之人只是守法。法之所在，上之人亦进退下之人不得。

今世有二弊：法弊、时弊。法弊，但一切更改之，却甚易；时弊，则皆在人。人皆以私心为之，如何变得。嘉祐间法，可谓弊矣，王荆公未几尽变之，又别起得许多弊，以人难变故也……

今日之法，君子欲为其事以拘于法而不

得聘，小人却徇其私，敢越于法而不之顾。

号令既明，刑罚亦不可弛。苟不用刑罚，则号令徒挂墙壁尔。与其不遵以梗吾治，曷若惩其一以戒百？与其核实检察于其终，曷若严其始而使之无犯？做大事，岂可以小不忍为心！

或问为政者当以宽为本，而以严济之。曰：某谓当以严为本，而以宽济之。《曲礼》谓“泄官行法，非礼威严不行。”须是令行禁止。若曰令不行，禁不止，而以是为宽，则非也。

古人为政，一本于宽，今必须反之以严。盖必如是矫之而后有以得其当。今人为宽，至于事无统纪，缓急予夺之权，皆不在我，下梢却是奸蒙得志，平民既不蒙其惠，又反受其殃矣。

今人说宽政，多是事事不管。某谓坏了这“宽”字。

## 论 刑

今人说轻刑者，只见所犯之人为可悯，而不知被伤之人尤可念也。如劫盗杀人者，人多为之求生，殊不念死者之为无辜，是知为盗贼计，而不为良民地也。若如酒税伪会子<sup>⑥</sup>，及饥荒窃盗之类，犹可以情原其轻重大小而处之。

今之法家，惑于罪福报应之说，多喜出入人罪以求福报。夫使无罪者不得直，而有罪者得幸免，是乃所以为恶尔。何福报之有？《书》曰：“钦哉！钦哉！惟刑之恤哉”。所谓软恤者，欲其详审曲直，令有罪者不得免，而无罪者不得滥刑也。今之法官，惑于软恤之说，以为当宽人之罪而出其死。故凡罪之当杀者，必多为可出之途，以俟奏裁，则率多减等。当斩者配，当配者徒，当徒者杖，当杖者笞。是乃卖弄条贯，舞法而受赇者耳，何软恤之有？罪之疑者从轻、功之疑者从重。所谓疑者，非法令之所能决，则罪从轻而功从重，惟此一条为然耳，非谓凡罪皆可

以从轻，而凡功皆可以从重也。今之律令，亦有此条，谓法所不能决者，则俟奏裁。今乃明知其罪之当死，亦莫不为可生之途。以上之惟寿皇不然，其情理重者皆杀之。

李公晦问：“恕字，前辈多作爱人意思说，如何？”曰：毕竟爱人之意思多。因云，人命至重，官司何故斩之于市？盖为此人曾杀那人，不斩他，则那人之冤无以伸。这爱心便归在被杀者一边了。然古人罪疑惟轻，与其杀不辜，宁失不经，虽爱心只在被杀者一边，却又溢出这一边些子。

## 法 制

今之法，大概用唐法。

问：“今三代之法，或可见于律中否？”曰：“律自秦汉以来，历代修改，皆不可得而见矣，如汉津文简奥，后代修改，今亦不可见矣。”

律是历代相传，敕是太祖时修<sup>⑦</sup>。律轻而敕重，如敕中刺面编配，律中无之，只是流若干里，即今之白面编管是也。敕中上刑重而下刑轻，如律中杖一百，实有一百，敕中则折之为二十（五折一），今世断狱只是敕，敕中无方用律。

因言律极好。后来敕令格式，罪皆太重不如律。乾道、淳熙新书，更是杂乱，一时法官不识法制本意，不合于理者甚多，又或有是计囑妄立条例者。如母已出嫁，欲卖产业，必须出母著押之类，此皆非理。必是当时有计囑而创此条也。……

注释：

- ①孙：通“逊”，顺的意思。 ②咻：嘘气声。  
③鹵突：糊涂。 ④惺惺：聪明。了了：清楚。  
⑤剗：削。 ⑥会子：南宋的一种纸币 ⑦敕：宋代的一种法律形式。

## 《大学衍义补》

### 题解:

明代邱濬(1420—1495)撰。他官至礼部尚书、文渊阁大学士,精熟典籍。为挽救明朝统治危机,对历代法律制度加以评注,开创我国古代比较法学研究的先声。提出要在立法和司法的过程中,把礼和法结合起来,形成“礼教刑辟,交相为用”的礼法体系,为此又主张选拔明经知礼之士任司法官员,不用小人。他非常重视法律宣教,主张法律条文应当浅显易懂。“不简科条,不饰文义,惟直书其事,用世俗浅近之言,显委曲详尽之义”,“使天下共见共闻,粗知文义者,开卷即了,则民知趋避,不陷于机穽矣。”他还认为司法工作要尽“好生之德”。“用狱之际,养得一好生之德,自此发将去,方能尽得君德。”为此要做到“原情定罪”。“因情求法者,必备两造之辞,合众人之听,核其实,审其疑。”他还提出一系列的司法谋略:明确司法职权,“在内之狱,专任司刑之职;在外之狱,分命牧守之任”,要法律画一,反对“破律生端,意为轻重”。他的经济思想更为突出。为解决财产土地的争讼,强调只要“严佐证,按图本,则讼平矣”。他提议建立图册制度。图册详记地名、亩段、四界、价值、租税,盖上印章,“官府稽其图册,民庶执其凭由”,这样地讼就可以平息了。

## 总论制刑之义

盖狱以明照为主,必先得其情实,则刑不滥。然非震以动之<sup>①</sup>,则无有威断。非艮以止之<sup>②</sup>,则轻于用刑。惟中孚一卦<sup>③</sup>,则取于巽兑<sup>④</sup>。先儒谓中孚体全似离<sup>⑤</sup>,互体有震艮。盖用狱必明以照之,使人无隐情;震以威之,使人无拒意;而又当行而行,当止而止,不过于用其明而恣其威也。夫然后兑以议之,巽以缓之,原情定罪,至再至三,详之以十议,原之以三宥。王听之,司寇听之,三公听之,旬而职听,三旬而职听,三月而上之。求其出而不可得,然后入之。求

其生而不可得,然后死之。在我有诚心,则在人无遗憾矣。圣人作经垂世立教,惓惓于刑狱之事如此。

先儒谓立政,周公说不可误于“庶狱庶慎。”到此又说狱者,盖狱者天下之命,收聚人心,感召和气,皆是狱。离散人心,感召乖气,亦是狱。故三代之得天下,只在不嗜杀人。秦之所以亡,亦只是狱不谨。用狱之际,养得一好生之德,自此发将去,方能尽得君德。夫狱慎之事,择人以用,不间小人,委心以用,不误以己私。在内之狱,专任司刑之职;在外之狱,分命牧守之任。用命者,则申教之使益虔;违命者,则戒约之使不肆。非惟不敢误,且不敢兼之。

《吕刑》,周穆王所作,然必有所传授,非虚言也。夫伯夷礼官所降者典,而折民惟刑。皋陶刑官,所制者刑,而教民祇德。可见有虞为治,礼教刑辟,交相为用如此。

刑乃不详之器,而古人谓之祥刑者,盖除去不善以安夫善;其器若不详,而意则大祥也。但用人而不择,用刑而不敬,逮人而妄及非辜,乃成之祥之器耳。苏轼谓罪非己造,为人所累日及。秦汉之间谓之逮,狱吏以不遗支党为忠,以多逮广系为利。汉大狱有逮万人者,国之安危,运祚长短,咸寄于此。噫!汉狱之逮最多者,皆在末造之世。使当高、文、光武、明、章之世,得张释之、于定国辈为廷尉,无此也。穆王设为三问而三答之,其要尤在于择人,得其人必能敬刑,能敬刑则不妄逮矣。

先儒谓无赦则民不至于犯罪,尽心则吏不至于滥刑。此民所以畏法而亲上也。

今者求所以杀之,古者求所以生之。请合而言之曰:听狱者当于杀之中求其生,求其生而不得,然后杀之。有可生之路,则请减焉,罪疑从轻,则无冤死之鬼矣。

光武时,群臣上言:古者肉刑严重,则人畏法令。今宪令轻薄,故奸轨不胜,宜增科禁以防其源。杜林奏曰:古之明王,深识远虑,动居其厚,不防侈辟。周之五刑,不



过三千；大汉初兴，详览得失，破矩为圆，斲雕为朴，蠲除苛政，更立疏网，海内欢欣，人怀宽德。及至其后，渐以滋章，吹毛索疵，诋欺无限，果桃菜茹之类，集以成赃；小事无妨于义，以为大戮。故国无廉士，家无全行，至于法不能禁，令不能止，上下相循，为敝弥深。臣愚以为宜如旧制。帝从之。

臣按：卓茂有云，律设大法，礼顺人情。若岁时交饷，皆以为赃；寻常举动，皆坐以罪，礼义何自而兴哉？杜林之议，所谓微物成赃，小事大戮，自汉以后，皆有此弊。

## 定律令之制

三代未有律之名，而所谓禁者，制于未然，已具律之意矣。然非徇以木铎<sup>⑥</sup>，书于门闾，则蚩蚩之民，何以知其为禁而不犯哉！

虞廷罚不及嗣，周室罪人不孥。秦汉，一人有罪，并坐其室家。仁暴既殊，国祚所以分长短也。文帝即位之初，即除秦苛法，汉祚之延，几于三代，未必不基于此。

后世律文深晦，故比拟之际，彼此可通，舞智之吏，得以轻重其罪，……制律者当何如？亦曰，浅易其语，显明其义，使人易晓，避而不犯，可也。

成帝诏曰：甫刑云，五刑之属三千，大辟之罚，其属二百。今大辟之刑，千有余条，律令烦多，百余万言，奇请它比，日以益滋。其令中二千石，二千石博士，及明习律令者议减死刑，及可蠲除，务约省，令较然易知。条奏。书不云乎，惟刑之恤哉！其审核之，务准古法。朕将尽心览焉。

臣按奇请，谓常文之外，别有说以定罪也；它比，谓引它类以比附之，不主正律也。破律生端，意为轻重，上不知其奸，下莫测其故，此民所以手足无措，刑繁而犯愈多也。我朝律文，比前代为省约。特所谓例者，出于一时之建请，权宜以救时弊，积累日久，未暇折衷去取。乞将洪武至成化年间事例，取其可通行者，节繁文，载要语，分类条例，

与律并行。其成化以后，有建请者，别为一书，以俟他日之裁择。如此，则民知所遵守，吏不能为奸矣。

汉去古未远，论事主经义，而言刑必与礼并。盖原于《吕刑》，伯夷降典，折民以刑也。陈宠论刑，必欲大辟耐罪以下，并为三千以合于礼，固似乎泥，然其所平定，取应经合义者，则百世定律之至言要道也。至其学所奏请，尤有补于世教，可谓克肖其父矣。

（唐）高宗时赵冬曦言，立法贵下人尽知，则天下不敢犯。何必饰其文义，简其科条哉？夫科条省，则下人难知而暗陷机阱；文义深，则法吏得便而比附行私。臣请律令格式，直书其事，无假文饰，其以准加减，比附量情，及举轻以明重，不应为而为之之类，皆勿用之。使愚夫愚妇皆知，则相率而远之。故曰法明则人信，法一则主尊。

臣按不简科条，不饰文义，惟直书其事，用世俗浅近之言，显委曲详尽之义。所谓以准加减等文，皆明著曰：该得某罪，该杖几十，所加何罪，所减几何？使天下共见共闻，粗知文义者，开卷即了，则民知趋避，不陷于机阱矣。

法者百世之典，例者一时之宜。有时异势殊，不得尽如法者，则引法与例，取裁于上可也。宋臣请取前后所用例，以类编修，与法有妨者去之。在今日亦宜然。

## 详听断之法

民之讼，争是非也。地之讼，争疆界也。严证佐，按图本，则讼平矣。窃惟承平日久，生齿日繁，地力不足以给人食。故地讼最多，有累数十年不决者。所费数倍于所争，废业破产，甚至聚徒劫夺拒捕构乱，此非小故也。此由疆界不明，质约不真之故<sup>⑦</sup>。请遇大造之年，敕户部定为版籍式样，县册须详，府次之，布政司又次之。其进呈者，略举大纲可也。县册，必开其地名、亩段、四界、价值、租税画为图本，备细填注。又请如国初

户部给散民间户由之制，每户给与户由一纸<sup>⑧</sup>，将户口人丁田产，开具无遗。县为校勘申府，府申布政司，用印铃盖<sup>⑨</sup>，发下民间执照。事虽烦琐，然十年一度，各县使民自为，亦不为扰。官府稽其图册，民庶执其凭由，地讼庶其息乎。……

争讼之初，彼此有辩。以两造听之<sup>⑩</sup>，而无所偏受，则不直者自反，而民讼自禁矣。及其成狱，彼此各具券书而质于公，以两剂听之<sup>⑪</sup>，而无所偏信，则不直者自反，而民狱自禁矣。入束矢<sup>⑫</sup>，明其直也。入钧金<sup>⑬</sup>，明其变也。既受钧金，又延三日，先王不轻受民讼，致民于刑也。……

先儒谓古者因情而求法，故有不可入之刑。后世移情而合法，故无不可加之罪。因情求法者，必备两造之辞，合众人之听，核其实，审其疑。刑有疑则正于罚，罚有疑则正于过，必其有疑者无疑，乃赦之。其审克之者如此。

先儒谓哀矜勿喜，即此哀敬也。哀则不忍，敬则不忽。人君存哀敬以折狱，则典狱之官，不敢不尽其心。人臣存哀敬以典狱，则受刑之人，不敢不服其罪。……

治狱有定期，以地之远近为差，期内则听，期外不听者。民有急遽之患，速达则受患不深，证佐易见，连逮不多。苟迁延岁月，则必为之委曲掩蔽，累及多人矣。

#### 注释：

①震：威严。《易·震》“象曰：游雷，震，君子以恐惧脩省。”游：重复。连继打雷为威严。

②艮：《易·艮》“象曰：艮，上也。”本卦象含有止义，但止必适应其时。

③中孚：六十四卦之一，兑上巽下。《易·中孚》“象曰：泽上有风，中孚。君子以议狱缓死。”意为施德教于民，宜减刑罚。教而不改，然后再杀。

④则取于巽兑：指中孚，兑下巽上。有中止之道，顺天而应人的意思。

⑤离：六十四卦之一。《易·说卦》：“离也者，明也，万物皆相见，南方之卦也。”

⑥木铎：木舌的铃。

⑦质约：契约。

⑧户由：户籍。

⑨铃：锁。

⑩两造：诉讼的双方。

⑪两剂：双方的契券。

⑫束矢：一束箭。

⑬钧：重量单位，一钧三十斤。

## 《申行十家牌法》

### 题解：

明代王守仁(1472—1528)撰，收入《王文成公全书》。王守仁，字伯安，世称阳明先生，余姚(今属浙江)人。进士及第，历任巡抚，左佥都御史、南京兵部尚书等职。他生活在明朝中叶，为维护封建制度免于灭亡，提出《申行十家牌法》，用保甲制度贯彻封建礼法。规定十家为一甲，如果发现可疑即行报官，如果一家隐瞒，十家同罪。並要选出所谓“年高有德，众所信服”的人，分赴乡间巡访劝谕，进行教化。他认为“不知教化为先，徒恃刑驱势迫，由其无爱民之心”。推崇孟子的“善政不如善教之得民也。”

### 申行十家牌法

凡立十家牌，专为止息盗贼；若使每甲各自纠察，甲内之人，不得容留贼盗；右甲如此，左甲复如此，城郭乡村无不如此；以至此县如此，彼县复如此，远近州县，无不如此；则盗贼亦何自而生。夫以一甲之人，而各自纠察十家之内，为力甚易。使一甲而容一贼，十甲即容十贼，百甲即容百贼，千甲即容千贼矣；聚贼至于千百，虽起一县之兵而剿除之，为力固已甚难。今有司往往不严十家之法，及至盗贼充斥，却乃兴师动众，欲于某处屯兵，某处截捕，不治其本，而治其末，不为其易，而为其难，皆由平日怠忽因循，未尝思念及此也。自今务令各甲各自纠举，甲内但有平日习为盗贼者，即行捕送官司，明正典刑<sup>①</sup>；其或过恶未稔尚可教戒者，照依牌谕，报名在官，令其改化自新，官府时加点名省谕，又逐日督令各家轮流沿门晓谕，觉察如此，则奸伪无所容，而盗贼自可息矣。

大抵法立弊生，必须人存政举，若十家牌式，徒尔编置张挂，督劝考较之法，虽或暂行，终归废弛。仰各该县官，务于坊里乡都之内，推选年高有德，众所信服之人，或三四十人，或一二十人，厚其礼貌，特示优崇，使之分投巡访劝谕，深入穷谷必至，教其不能，督其不率，面命耳提，多方化导；或素习顽梗之区，亦可间行乡约；进见之时，咨询民瘼<sup>②</sup>，以通下情，其于邑政，必有裨补；若巡访劝谕著有成效者，县官备礼亲造其庐，重加奖励，如此，庶几教化兴行<sup>③</sup>风俗可美。后之守令，不知教化为先，徒恃刑驱势迫，由其无爱民之实心；若使果然视民如己子，亦安忍不施教诲劝勉，而辄加箠楚鞭撻。孟子云：“善政不如善教之得民也。”况非善政乎？守令之有志于爱民者，其盍思之！

注释：

①明正典刑：依法处决。 ②瘼：病。 ③庶几：将近，差不多。

## 《明夷待访录》

题解：

明末清初的启蒙思想家黄宗羲(1610—1695)撰。他在其中的原法、胥吏等篇中，提出了带有民主主义色彩的法律谋略思想。强调法律应当是“天下之公器”，要把法律作为维护“全民”利益的武器。而三代以后的法律，是“一家之法而非天下之法也”。一家之法是天下动乱的根源，是“非法之法”。所以必须废除一家之法，立天下之法。只有把天下作为天下人的天下，有了天下人的公平之法，才能实行法治，使天下太平。为寻求“公平”执法的司法程序，他主张改变让胥吏立法和执法的制度。认为胥吏“创为文网，以济其私”。因此“天下有吏之法，无朝廷之法。”造成胥吏弄法之害。为此应取消胥吏，改为由农民轮流“值年”。中央和地方掌簿书的胥吏，由进士、监生、弟子员担任，也就是让士大夫知识分子担任司法工作。为让士

大夫和知识分子参加议政，他提出把学校变成议政机关。在中央，每朔日，天子临幸太学，百官随之，由太学祭酒讲学，直言不讳，评论政事的得失。在郡县，朔望日开大会，由学官讲学，地官也要入弟子的行列，互相质疑、郡县官政事缺失，“小则纠绳，大则伐鼓号于众”。为了削弱限制君权，他把唐代的“方镇”看成为封建制的一种形式，主张加强地方的独立性和自主性，实行地方分治。

## 原 法

三代以上有法，三代以下无法。何以言之？二帝、三王知天下之不可无养也，为之授田以耕之；知天下之不可无衣也，为之授地以桑麻之；知天下之不可无教也，为之学校以兴之；为之婚姻之礼以防其淫；为之卒乘之赋以防其乱<sup>①</sup>；此三代以上之法也，固朱尝为一己而立也。后之人主，既得天下，唯恐其祚命之不长也，子孙之不能保有也，思患于未然以为之法。然则其所谓法者，一家之法而非天下之法也。是故秦变封建而为郡县，以郡县得私于我也；汉建庶孽<sup>②</sup>，以其可以藩屏于我也；宋解方镇之兵，以方镇之不利于我也；此其法何曾有一毫为天下之心哉，而亦可谓之法乎？

三代之法，藏天下于天下者也；山泽之利不必其尽取，刑赏之权不疑其旁落，贵不在朝廷也，贱不在草莽也。在后世方议其法之疏，而天下之人不见上之可欲，不见下之可恶，法愈疏而乱愈不作，所谓无法之法也。后世之法，藏天下于筐箠者也；利不欲其遗于下，福必欲其敛于上；用一人焉则疑其自私，而又用一人以制其私；行一事焉则虑其可欺，而又设一事以防其欺。天下之人共知其筐箠之所在，吾亦颺颺然曰唯筐箠之是虞<sup>③</sup>，故其法不得不密，法愈密而天下之乱即生于法之中，所谓非法之法也。

论者谓一代有一代之法，子孙以法祖为

孝。失非法之法，前王不胜其利欲之私以创之，后王或不胜其利欲之私以坏之；坏之者固足以害天下，其创之者亦未始非害天下者也。乃必欲周旋于此胶彼漆之中以博宪章之余名，此俗儒之剿说也<sup>④</sup>。即论者谓天下之治乱不系于法之存亡。夫古今之变，至秦而一尽，至元而又一尽，经此二尽之后，古圣王之所惻隐爱人而经营者荡然无具，苟非为之远思深览，一一通变，以复井田、封建、学校、卒乘之旧，虽小小更革，生民之戚戚终无已时也<sup>⑤</sup>。即论者谓有治人无治法，吾以谓有治法而后有治人。自非法之法桎梏天下人之手足，即有能治之人，终不胜其牵挽嫌疑之顾盼；有所设施，亦就其分之所得，安于苟简，而不能有度外之功名。使先王之法而在，莫不有法外之意存乎其间；其人非也，则可以无不行之意；其人非也，亦不至深刻罗网，反害天下。故曰有治法而后有治人。

## 学 校

学校，所以养士也。然古之圣王，其意不仅此也，必使治天下之具皆出于学校，而后设学校之意始备。非谓班朝，布令，养老，恤孤，讯馘<sup>⑥</sup>，大师旅则会将士<sup>⑦</sup>，大狱讼则期吏民<sup>⑧</sup>，大祭祀则享始祖，行之自辟雍也<sup>⑨</sup>。盖使朝廷之上，闾阎之细，渐摩濡染，莫不有诗书宽大之气；天子之所是未必是，天子之所非未必非，天子亦遂不敢自为非是而公其非是于学校。是故养士为学校之一事，而学校不仅为养士而设也。

三代以下，天下之是非一出于朝廷。天子荣之，则群趋以为是；天子辱之，则群挺以为非。簿书、期会、钱谷、戎(讼)狱，一切委之俗吏。时风众势之外，稍有人焉，便以为学校无当于缓急之习气。而其所谓学校者，科举鬻争，富贵熏心，亦遂以朝廷之势利一变其本领；而士之有才能学术者往往自拔于草野之间，于学校初无与也，究竟养士一事亦失之矣。

于是学校变而为书院；有所非也，则朝廷心以为是而荣之，有所是也，则朝廷必以为非而辱之。伪学之禁，书院之毁，必欲以朝廷之权与之争胜。其不仕者有刑，曰：“此率天下士大夫而背朝廷者也。”其始也，学校与朝廷无与，其继也，朝廷与学校相反，不特不能养士，且至于害士，犹然循其名而立之，何与？

东汉太学三万人，危言深论，不隐豪强，公卿避其贬议；宋诸生伏阙撻鼓；请起李纲；三代遗风，惟此犹为相近。使当日之在朝廷者，以其所非是为非是，将见盗贼奸邪慑心于正气霜雪之下，君安而国可保也。乃论者目之为衰世之事；不知其所以亡者，收捕党人，编管陈、欧<sup>⑩</sup>，正坐破坏学校所致，而反咎学校之人乎！

嗟乎！天之生斯民也，以教养托之于君；授田之法废，民买田而自养，犹赋税以扰之；学校之法废，民蚩蚩而失教，犹势利以诱之。是亦不仁之甚，而以其空名跻之曰：“君父，君父”，则吾谁欺！

郡县学官，毋得出自选除<sup>⑪</sup>；郡县公议，请名儒主之。自布衣以至宰相之谢事者，皆可当其任，不拘已仕未仕也。其人稍有干于清议，则诸生得共起而易之，曰：“是不可以吾师也”。其下有五经师，兵法、历算、医、射各有师，皆听学官自择。凡邑之生童皆裹粮从学，离城烟火聚落之处士人众多者，亦置经师。民间童子十人以上，则以诸生之老而不仕者充为蒙师。故郡邑无无师之士；而士之学行成者，非主六曹之事，则主分教之务，亦无不用之人。

学官以外，凡在城在野寺观庵堂，大者改为书院，经师领之；小者改为小学，蒙师领之；以分处诸生受业。其寺产即隶于学，以贍诸生之贫者。二氏之徒<sup>⑫</sup>，分别其有学行者，归之学官，其余则各还其业。

大学祭酒，推择当世大儒，其重与宰相等，或宰相退处为之。每朔日，天子临幸太学，宰相、六卿、谏议皆从之。祭酒南面讲

学，天子亦就弟子之列。政有缺失，祭酒直言无讳。

天子之子年至十五，则与大臣之子就学于太学，使知民之情伪，且使之稍习于劳苦。毋得闭置宫中，其所闻见不出宦官宫妾之外，妄自崇大也。

郡县朔望<sup>③</sup>，大会一邑之缙绅士子。学官讲学，郡县官就弟子列，北面再拜，师弟子各以疑义相质难。其以簿书期会不至者罚之。郡县官政事缺失，小则纠绳<sup>④</sup>，大则伐鼓号于众。其或僻郡下县，学官不能骤得名儒，而郡县官之学行过之者，则朔望之会，郡县官南面讲学可也。若郡县官少年无实学，妄自压老儒而上之者，则士子诤而退之。

民间吉凶，一依《朱子家礼》行事。庶民未必通谳，其丧服的制度，木主之尺寸，衣冠之式，宫室之制，在市肆工艺者，学官定而付之。离城聚落，蒙师相其礼以革习俗。……故人其境，有违礼之祀，有非法之服，市悬无益之物，土留未掩之丧，优歌在耳，鄙语满街，则学官之职不修也。

## 胥吏

古之胥吏者一，今之胥吏者二。古者府吏胥徒，所以守簿书，定期会者也；其奔走服役，则以乡户充之。自王安石改差役为雇役，而奔走服役者亦化而为胥吏矣。故欲除奔走服役吏胥之害，则复差役；欲除簿书期会吏胥之害，则用士人。

何谓复差役？宋时差役，有衙前、散从、承符、弓手、手力、耆长、户长、壮丁、色目；衙前以主官物，今库子解户之类；户长以督赋税，今坊里长；耆长、弓手、壮丁以逐捕盗贼，今弓兵、捕盗之类；承符、手力、散从以供驱使，今皂隶、快手、承差之类。凡今库子、解户、坊里长皆为差役，弓兵、捕盗、皂隶、快手、承差则雇役也。余意坊里长值年之后，次年仍出一人以供杂役。盖吏胥之敢于为害者，其故有三：其一，

恃官司之力，乡民不敢致难；差役者，则知我之今岁致难于彼者，不能使彼之来岁不致难于我也。其二，一为官府之人，一为田野之人，既非同类，自不相顾；差役者，则侪辈尔汝<sup>⑤</sup>，无所畏忌。其三，久在官府，则根株窟穴牢不可破；差役者，伎俩生疏，不敢弄法。是故坊里长同勾当于官府，而乡民之于坊里长不以为甚害者，则差与雇分也。治天下者亦视其势。势可以为恶，虽禁之而有所不止；势不可以为恶，其止之有不待禁也。差役者，固势之不可以为恶者也。议者曰：自安石变法，终宋之世欲复之而不能，岂非以人不安于差役与？曰：差役之害，唯有衙前，故安石以雇募救之。今库子，解户且不能不仍于差役，而其无受害者顾反不可复乎？宋人欲复差役，以募钱为害；吾谓募钱之害小，而胥吏之害大也。

何谓用士人？六部院寺之吏<sup>⑥</sup>，请以进士之观政者为之，次及任子，次及国学之应仕者；满调则出官州县<sup>⑦</sup>，或历部院属官，不能者落职。郡县之吏，各设六曹，请以弟子员之当廩食者充之；满调则升之国学，或即补六部院寺之吏，不能者终身不听出仕。郡之经历、照磨、知事，县之丞、簿、典史，悉行汰去。行省之法，一如郡县。盖吏胥之害天下，不可枚举，而大要有四：其一，今之吏胥，以徒隶为之，所谓皇皇求利者；而当可以为利之处，则亦何所不至，创为文网以济其私。凡今所设施之科条，皆出于吏，是以天下有吏之法，无朝廷之法。其二，天下之吏，既为无赖子所据，而佐贰又为吏之出身，士人目为异途，羞与为伍；承平之世，士人众多，出仕之途既狭，遂使有才者老死丘壑，非如孔孟之时，委吏，乘田，抱关，击柝之皆士人也。其三，各衙门之佐贰，不自其长辟召，一一铨之吏部，即其名姓且不能遍，况其人之贤不尚乎！故铨部化为签部，貶笑千古。其四，京师权要之吏，顶首皆数千金，父传之子，兄传之弟，其一人丽于法而后继一人焉，则其子若弟也，不然，则其

传衣钵者也；是以今天下无封建之国，有封建之吏。诚使吏胥皆用士人，则一切反是，而害可除矣。且今各衙门之首领官与郡县之佐贰，在汉则为曹掾之属，其长皆得自辟，即古之吏胥也。其后选除出自吏部，其长复自设曹掾以为吏胥；相沿至今，曹掾之名既去，而吏胥之实亦亡矣。故今之吏胥，乃曹掾之重出者也。吾之法，亦使曹掾得其实，吏胥去其重而已。

#### 注释：

①卒乘之赋：军赋。②庶孽：古代妾媵之子。此指汉初封诸子为王。③鰥鰥：恐惧的样子。④剿说：窃他人之说为己言。⑤戚戚：忧惧。⑥馘：古代杀敌以割左耳为凭证计功。⑦大师旅则会将士：古代出征前，天子在学校会集将士，研究攻敌计划。⑧期吏民：召集官吏和百姓。⑨辟雍：西周设的太学，东汉后为祭祀之地。⑩编管：流放的犯人在当地注册户籍。⑪选除：选派。⑫二氏：指佛教和道教。⑬朔望：夏历每月初一和十五。⑭纠绳：纠正错误。⑮侖：等。⑯院寺：古代官衙的别称。⑰满调：任期满后迁调。

## 《日知录》

#### 题解：

明末清初顾炎武(1613—1682)撰。是顾炎武的随笔录，他每论一事，总贯穿经史，参验亲身见闻，穷极根底，积累三十余年，整理成书。在《法制》、《清议》等篇中，他猛烈抨击封建专制主义法律。认为封建专制主义“皆人主自为之”，“法愈多而弊愈多”。结果束缚人们的思想，不能使人尽其才。主张取消封建专制主义之法，建立公天下之法。他主张对官吏实行法制，用州里“清议”来约束官吏，“官职之升沉，本于乡评之与夺”。他的这些谋略主张在当时的历史条件下，具有进步意义。

## 法 制

法制禁令，王者之所不废，而非所以为治也，其本在正人心，厚风俗而已。故曰居敬而行简，以临其民。周公作《立政》之书曰：“文王罔攸兼于庶言，庶狱庶慎。”又曰：“庶狱庶慎<sup>①</sup>，文王罔敢知于兹。”其丁宁后人之意，可谓至矣。秦始皇之治，天下之事，无大小皆决于上，上至于衡石量书，日夜有呈，不中呈不得休息，而秦遂以亡。太史公曰，其天下之纲尝密矣，然奸伪萌起，其极也。上下相循，至于不振，然则法禁之多，乃所以为趣亡之具，而愚暗之君，犹以为未至也。杜子美诗曰：“舜举十六相，身尊道何高；秦时任商鞅，法令如牛毛。”又曰：“君看灯烛张，转使飞蛾密。”其切中近朝之事乎？汉文诏置三老、孝弟、力田常员，令各率其意以道民焉。夫三老之卑，而使之得率其意，此文景之治，所以至于移风易俗，黎民醇厚，而上拟于成康之盛也。诸葛孔明开诚心，布公道，而上下之交，人无间言，以蕞尔之蜀<sup>②</sup>犹得小康。魏操吴权，任法术以御其臣，而篡逆相仍，略无宁岁。天下之事，固非法之所能防也。

叔向与子产书曰：“国将亡，必多制。”夫法制繁，则巧猾之徒，皆得以法为市，而虽有贤者，不能自用，此国事之所以日非也。善乎杜元凯之解左氏曰：“法行则人从法，法败则法从人。”

前人立法之初，不能详究事势，豫为变通已之地。后人承其弊，拘于旧章，不能更革，而复立一法以救之，于是法愈繁而弊愈多。天下之事，日至于丛脞<sup>③</sup>其究也眊而不行<sup>④</sup>。上下相蒙，以为无失祖制而已。此莫甚于有明之世，如勾军、行钞二事，立法以救法，而终不善者也。

宋叶适言：“国家因唐五代之极弊，收敛藩镇之权，尽归于上，一兵之籍，一财之源，一地之守，皆人主自为之也。欲专大利，而

无受其大害，遂废人而用法，废官而用吏，禁防纤悉，特与古异，而威柄最为不分，虽然，岂有是哉。故人才衰乏，外削中弱，以天下之大而畏人，是一代之法度，又有以使之矣。”又曰：“今内外上下，一事之小，一罪之微，皆先有法以待之，极一世之人志虑之所周浹<sup>⑤</sup>，忽得一智，自以为甚奇，而法固已备矣，是法之密也。然而人之才不获尽，人之志不获伸，昏然俯首。一听法度，而事功日堕，风俗日坏；贫民愈无告，奸人愈得志，此天下之所同患，而臣不敢诬也。”又曰：“万里之远，嘽呻动息，上皆知之。虽然，无所寄任，天下泛泛然而已<sup>⑥</sup>。百年之忧，一朝一患，皆上所独当，而群臣不与也。夫万里之远，皆上所制命。则上诚利矣。百年之忧，一朝一患，皆上所独当，而其害如何？此外寇所凭陵而莫御，仇耻所以最甚而莫报也。”陈亮上孝宗书曰：“五代之际，兵财之柄，倒持于下，艺祖皇帝束之于上，以定祸乱，后世不原其意，束之不已，故群县空虚，而本末俱弱。”

洪武六年九月丁未，命有司庶务，更月报为季报，以季报之数，类为岁报。凡府州县，轻重狱囚，即依律断决，不须转发，果有违枉，从御史按察纠劾，令出，天下便之。

## 清 议

古之哲王，所以正百辟者<sup>⑦</sup>，既已制官刑做于有位矣，而又为之立闾师，设乡校，存清议于州里<sup>⑧</sup>，以佐刑罚之穷，移之郊遂<sup>⑨</sup>载在礼经，殊厥井疆，称于《毕命》。两汉以来，犹循此制，乡举里选，必先考其生平，一玷清议<sup>⑩</sup>，终身不齿。君子有怀刑之惧，小人存耻格之风；教成于下，而上不严；论定于乡，而民不犯。降及魏晋，而九品中正之设，虽多失实，遗意未亡。凡被纠弹付清议者，即废弃终身，同之禁锢<sup>⑪</sup>。

天下风俗最坏之地，清议尚存，犹足以维持一二；至于清议亡，而干戈至矣。

洪武十五年，八月乙酉，礼部议，凡十恶，奸盗诈伪，干名犯义，有伤风俗，及赃至徒者，书其名于申明亭，以示惩戒。有私毁亭舍，涂抹姓名者，监察御史，按察司官，以时按视，罪如律。制可。十八年四月辛丑，命刑部录内外诸司官之犯法罪状明著者，书之申明亭。此前代乡议之遗意也，后之人视为文具。风纪之官但以刑名为事，而于弼教新民之意，若不相关，无惑乎江河之日下已。

### 注释：

- ①庶狱庶慎：断狱要谨慎。 ②藐尔：小貌。  
③丛脞：细碎。 ④眊：眼睛失神。 ⑤周浹：遍及。  
⑥泛泛：浮浅。 ⑦百辟：朝中的大官。  
⑧清议：公正的评议。 ⑨郊遂：城外。 ⑩玷：玉上的斑点，指过失。  
⑪禁锢：不准做官。

## 《资政新篇》

### 题解：

洪仁玕(1822—1864)撰。洪仁玕号益谦，别字吉甫，广东花县人。他在《法法类》、《刑刑类》中，强调立法要得当，要“因时制宜、度势行法”，即法律要不断“更新”。实行法治必须得贤人。他提出法要“恩威并济”，“下有不法，上不可无刑”。为了加强对外国的交往，主张要制定一定的章程、“一定之礼法”。

## 法 法 类

所谓“以法法之”者，其事大关世道人心，如纲常伦纪、教养大典，则宜立法以为准焉。是下有所趋，庶不陷于僻矣。然其不陷于僻而登于道者，必又教法兼行。如设书信馆，以通各省郡县市镇公文；设新闻馆，以收民心公义，及各省郡县货价低昂，事势常变。上览之，得以资治术；士览之，得以识变通；商农览之，得以通有无。昭法律，别善恶，励廉耻，表忠孝，皆借此以行其教也。教行则法著，法著则知恩，于以民相劝戒，

才德日生，风俗日厚矣。此立法善而施法广，积时久而持法严，代有贤智以相维持，民自固结而不可解，天下永垂不朽矣。然立法之人，必先经磨炼，洞悉天人性情，熟谙各国风教，大小上下，源委轻重，无不了然于胸中者，然后推而出之，乃能稳惬人情也。若恐其久而有差，更当留一律，以便随时损益小纪，彰明大纲也。盖律法者，无定而有定，有定而无定，如水之软，如铁之硬，实如人心之有定而无定，世事之无定而有定，此立法所以难也，此生弊所以易也。然则如何而后可以立法？盖法之质，在乎大纲，一定不易；法之文，在乎小纪，每多变迁。故小人坏法，常窥小者无备而掠为己有，常借大者之公以护掩己私。然此又在奉法执法行法之人有以主之，有以认真耳。至立法一则，阅下自可心领神会，而法在其中矣。

以上略述各邦大势，足见纲常大典，教养大法，必先得贤人，创立大体，代有贤能继起，而扩充其制，精巧其技，因时制宜，度势行法，必永远不替也。倘中邦人不自爱惜，自暴自弃，则鹬蚌相持，转为渔人之利，那时始悟兄弟不和外人欺，国人不和外邦欺，悔之晚矣。曷不乘此有为之日，奋为中地倡，以顶天父天兄纲常，太平一统江山万万年也。

## 刑刑类

一、善待轻犯。宜给以饮食号衣，使修街渠道路，炼其一足，使二三相连，以差人执鞭刃掌管。轻者移别县，重者移郡移省，期满释回，一以重其廉耻，一以免生他患，庶回时改过自新，此恩威并济之法也。

一、议第六天条曰：“勿杀”。盖谓天父有赏罚于来生，人无生杀于今世。然天王为天父所命以主理世人，下有不法，上不可无刑。是知遭刑者非人杀之，是彼自缚以求天父罚之耳。虽然，为人上者，不可不亲身教导之也。

一、议大罪宜死者，置一大架圈其颈，立其足，升至桅杆顶，则去其足下之板，以吊死焉。先彰其罪状并日期，则观者可以股慄自儆，又少符勿杀之圣诫焉。

一、《十款天条》治人心恶之未形者，制于萌念之始。诸凡国法治人身恶之既形者，制其滋蔓之多。必先教以天条，而后齐以国法，固非不教而杀矣，亦必有耻且格<sup>①</sup>。

一、与番人并雄之法。如开店二间，我无租值，彼有租值，我工人少，彼工人多，我价平卖，彼价贵卖，是我受益而彼受亏，我可永盛，彼当即衰，彼将何以久居乎？况我已有自固之策，若不失信义二字足矣，何必拘拘不与人交接乎？是浅量者之所为也。虽然，亦必有一定之章程，一定之礼法，方不致妄生别议。但前之中国不如是焉，毫无设法，修葺补理，以致全体闭塞，血脉不通，病其深矣。今之人心风俗，皆非古昔厚重之体，欲清其病源，既不可得，即欲（俊）（峻）补，其可得乎！

此皆为邦大略，小弟于此类凡涉时势二字，极深思索，故于古所无者兴之，恶者禁之，是者损益之。大率法外辅之以法而入于德，刑外化之以德而省于刑也。又因揣知圣心图治（大）（太）急，得策则行，小弟诚恐前后致有不符之迹，故恭录（已）（己）所窥见之治法，为前古罕有者，汇成小卷，以资圣治，以广圣闻。愿自今而后，可断则断，不宜断者付小弟掌率六部等议定再献<sup>②</sup>，不致自负其咎，皆所以重尊严之圣体也。或更立一无情面之谏议在侧，以辅圣聪不逮。诸凡可否，有宜于后，不宜于今者，愿留为圣鉴，准以时势二字推行，则顶起天父、天兄纲常，太平一统江山万万年矣。

注释：

①有耻且格：让百姓有廉耻，而且人心归服。

②掌率：太平天国官名，负责处理中央机要事宜。



## 《论立法权》

题解：

梁启超(1873—1929)撰。梁启超字卓如，号任公，广东新会人，幼读经史，从学于康有为。是清末变法维新运动的主要领导人和宣传家。本文即是他就法律谋略而撰著的文章。文中，他论述了立法行政司法诸权分立的问题。他认为，立法是国家的意志，因此要设立立法部，“因事势，从民欲，而立志改度，以利国民”，根据“事势”的变化不断修改法度。主张立法权和行政权要分立。立法部议定法律，经元首批准，由行政官执行。如果行政官要有所变更，必须陈其意见于立法部，得到议准，乃可施行。他强调立法的重要，认为“立法则政治之本原也，”直接关系到“国民之能得幸福与否”。

### 论立法部之不可缺

国家者人格也，有人之资格谓之人格，凡人必有意志然后有行为，无意志而有行为者，必疯疾之人也，否则其梦呓时也<sup>①</sup>。国家之行为何，行政是已。国家之意志何，立法是已。……立法之业，益为政治上第一关键，观国家之盛衰强弱者，皆于此焉虽其立法权之附属，及其范围之广狭，各国不同，而要之上自君相，下及国民，皆知此事为立国之大本大原，则一也。

耗矣哀哉，吾中国建国数千年，而立法之业，曾无一人留意者也。周官一书，颇有立法之意，岁正悬法象魏，使民读之。虽非制之自民，犹有与民同之之意焉。汉兴萧何制律，虽其书今佚，不知所制者为何如。然即汉制之散见于群书者观之，其为因沿秦旧，无大损益，可断言也。魏明帝时，曾议大集朝臣，审定法制，亦不果行。北周宇文时，苏绰得君，斐然有制度老文之意，而所务惟在皮毛，不切实用。盖自周公迄今三千余年，

惟王荆公创设制置条例三司，能别立法于行政，自为一部，实为吾中国立法权现影一瞥之时代。惜其所用非人，而顽固虚骄之徒，又群焉掣其肘，故斯业一坠千年，无复过问者。呜呼，荀卿有治人无治法一言，误尽天下。遂使吾中华数千年，国为无法之国，民为无法之民，并立法部而无之。而其权之何属，更靡论也。并法而无之，而法之善不善，更靡论也。

夫立法者，国家之意志也。就一人论之，昨日之意志，与今日之意志，今日之意志，与明日之意志，常不能相同，何也？或内界之识想变迁焉，或外界之境遇殊别焉，人之不能以数年前或数十年前之意志以束缚今日，甚明也。惟国亦然，故必须常置立法部，因事势，从民欲，而立志改度，以利国民。名国之有议会也，或年年开之，或间年开之，诚以事势日日不同，故法度亦屡屡修改也。乃吾中国，则今日之法，沿明之法也；明之法，沿唐宋之法也；唐宋之法，沿汉之法也；汉之法，沿秦之法也。秦之距今，二千年矣，而法则犹是，是何异三十壮年，而被之以锦綳之服<sup>②</sup>，导之以象勺之舞也<sup>③</sup>。此其弊皆生于无立法部，君相既因循苟且，惮于改措，复见识隘陋，不能远图。民间则不在其位，莫敢代谋，如涂附涂，日复一日，此真中国特有之现象，而腐败之根原所从出也。

彼祖述荀卿之说者曰，但得其人可矣，何必断断于立法<sup>④</sup>。不知一人之时代甚短，而法则甚长；一人之范围甚狭，而法则甚广；待人而不恃法者，其人亡则其政息焉。法之能立，贤智者固能神明于法以增公益，愚不肖者亦束缚于法以无大尤，靡论吾中国之乏才也；即使多才，而二十余省之地，一切民生国计之政务，非百数十万人不能分任也。安所得百数十万之贤智而治之，既无人焉，又无法焉，而欲事之举，安可得也。夫人之将营一室也，犹必先绘其图，估其材，然后从事焉。曾是一国之政，而顾一室之不若乎。近年以来，吾中国变法之议屡兴，而

效不睹者，无立法部故也。及今不此之务，吾知更阅数年数十年，而效之不可睹仍如故也。今日上一奏，明日下一谕，无识者欢欣鼓舞，以为维新之治，可以立见，而不知皆纸上空文，羌无故实<sup>⑤</sup>不宁惟是，条理错乱，张脉偪兴<sup>⑥</sup>，宜存者革，宜革者存，宜急者缓，宜缓者急，未见其利，先受其敝，无他，徒观夫西人政效之美，而不知其所以成其美者，有本原在也。本原维何，曰立法部而已。

## 论立法行政分权之理

立法行政分权之事，泰西早已行之，及法儒孟德斯鸠<sup>⑦</sup>，益阐明其理，确定其范围，各国政治，乃益进化焉。二者之宜分不宜合，其事本甚易明，人之有心魂以司意志。有官肢以司行为，两各有职而不能混者也，彼人格之国家，何独不然，虽然其利害所存，犹不止此。……吾中国之官制，亦最讲牵制防弊之法，然皆同其职而掣肘之，非能厘其职而均平之，……皆以防侵越相牵制也。而不知徒相掣肘，相推诿，一事不举，而弊亦卒不可防。西人不然，凡行政之事，每一职必专任一人，授以全权，使尽其才以治其事，功罪悉以属之。夫是谓有责任之政府，若其所以防之者，则以立法司法两权相为犄角，立法部议定之法律，经元首裁可，然后下诸所司之行政官，使率循之。行政官欲有所兴作，必陈其意见于立法部，得其决议，乃能施行。其有于未定之法而任意恣行者，是谓侵职，侵职罪也。其有于已定之法而奉行不力者，是谓溺职，溺职亦罪也。但使立法之权确定，所立之法善良，则行政断无可以病国厉民之理。所谓其源洁者其流必澄，何必一一而防之。故两者分权，实为制治最要之原也。

吾中国本并立法之事而无之，则其无分权，更何待言。然古者犹有言，坐而论道，谓之三公；作而行之，谓之有司；亦似稍知两权之界限者然。汉制有议郎，有博士，专

司讨论，但其秩抑末，其权抑微矣。所谓分立者，必彼此之权，互相均平，行政者不能强立法者以从我，若宋之制置条例司，虽可谓之有立法部，而未可谓之有立法权也。何也，其立法部不过政府之所设，为行政官之附庸。而分权对峙之态度，一无所存也。唐代之给事中，常有封还诏书之权。其所以对抗于行政官，使不得专其威柄者，善矣美矣。然所司者非立法权，仅能撙拾一二小故，救其末流，而不能善其本也。若近世遇有大事，亦常下大学士六部九卿翰詹科道督抚将军会议，然各皆有权，名皆无权，既非立法，亦非行政，名实混淆，不可思议。故今日欲兴新治，非划清立法之权而注重之，不能为功也。

## 论立法权之所属

立法权之不可不分，既闻命矣。然则此权当谁属乎，属于一人乎，属于众人乎，属于吏乎，属于民乎，属于多数乎，属于少数乎，此等问题，当以政治学之理论说明之。

英儒边沁之论政治也<sup>⑧</sup>，谓当以求国民最多数之最大幸福为正鹄<sup>⑨</sup>，此论近世之言政学者多宗之。夫立法则政治之本原也，故国民之能得幸福与否，得之者为多数人与否，皆不可不于立法决定之。夫利己者，人之性也。故操有立法权者，必务立其有利于己之法，此理势所不能免者也。然则使一人操其权，则所立之法必利一人；使众人操其权，则所立之法必利众人。吏之与民亦然，少数之与多数亦然，此事固非可以公私论善恶也。一人之自利固私，众人之自私亦何尝非私。然而善恶判焉者，循所谓最多数最大幸福之正鹄，则众人之利重于一人，民之利重于吏，多数之利重于少数，昭昭明甚也。夫诽谤偶语者弃市，谋逆者夷三族，此不问而知为专制君主所立之法也。妇人可有七出<sup>⑩</sup>，一夫可有数妻，此不问而知为男子所立之法也；奴隶不入公民，农佣随田而鬻，

此不问而知为贵族所立之法也；信教不许自由，祭司别有权利，此不问而知为教会所立之法也。以今日文明之眼视之，其为恶法，固无待言。虽然，亦不过立法者之自愿顾其利益而已，若今世所称文明之法，如人民参政权，服官权，言论结集出版迁移信教各种之自由权等，亦何尝非由立法人自顾其利益而来。而一文一野，判若天渊者，以前之私利，与政治正鹄相反，而后者之私利，与政治正鹄相合耳。故今日各文明国皆以立法权属于多数之国民。

然则虽以一二人操立法权，亦岂必无贤君哲相，忘私利而求国民之公益者，曰斯固然也。然论事者语其常不语其变，恃此千载一遇之贤君哲相，其不如民之自恃也明矣。且记不云乎，代大匠斲者必伤其手<sup>①</sup>，即使有贤君哲相以代民为谋，其必不能如民之自谋之尤周密而详善，有断然也。且立法权属于民，非徒为国民个人之利益而已，而实为国家本体之利益。何则，国也者，积民而成，国民之幸福，即国家之幸福也。国多贫民，必为贫国；国多富民，必为富国。推之百事，莫不皆然。故多数人共谋其私，而大公出焉矣。合多数人私利之法，而公益之法存焉矣。

立法者国家之意志也。昔以国家为君主所私有，则君主之意志，即为国家之意志，其立法权专属于君主固宜。今则政学大明，知国家为一国人之公产矣，且内外时势，浸逼浸剧<sup>②</sup>，自今以往，彼一人私有之国家，终不可以立优胜劣败之世界。然则今日而求国家意志之所在，舍国民奚属哉。况以立法权畀国民，其实于君主之尊严，非有所损也，英国、日本，是其明证也。君主依国家之尊严，国家依国民之幸福而得幸福。故今日之君主，不特为公益计，当畀国民以立法权，即为私利计，亦当尔尔也<sup>③</sup>。苟不畀之，而民终必有知此权为彼所应有之一日，及其自知之而自求之，则法王路易第十六之覆辙，可为寒心矣。此欧洲日本之哲后，所以汲汲

焉此之为务也。

#### 注释：

①梦呓：梦话。 ②锦綳之服：华丽的束身服装。 ③象勺之舞：古代儿童学习的一种舞。 ④断断：争辩。 ⑤羌无故实：没有出处。 ⑥张脉偾兴：紧张、兴奋。 ⑦孟德斯鸠：法国启蒙思想家、法学家。 ⑧边沁：英国法学家。 ⑨正鹄：箭靶，引申为正确目标。 ⑩七出：旧时休弃妻子的理由，指无子、不事舅姑、口舌、盗窃、妒忌、恶疾。 ⑪斲：砍。 ⑫浸逼浸剧：愈益激烈。 ⑬尔尔：是是。

## 《历代刑法考》

#### 题解：

清末沈家本(1840—1913)撰。他长期主管司法工作，特别强调“以法治国”。认为“世末有无法之国而能长治久安”。但有法必须执法，“有法而不循法，法虽善与无法等”。並指出执法的关键是人，“有其法者，尤贵其人”，“用法得其人，法即严厉，亦能施其仁于法之中；用法失其人，法即宽平，亦能逞其暴于法之外。”他注重对历代刑法的考证，对各朝刑法的“轻”与“重”给予评论，表明他立法从轻，用法从宽的思想。他抨击了“刑有等级”的思想，主张法不应有贵贱等级之分。

### 刑制总考一

唐虞以前刑制无闻，舜典所纪刑制，乃舜摄位时事，其时尧犹在位，尚书大传象刑属之唐虞，而其文则在唐传以其时尚在唐也，慎子及汉人称引专言有虞者，以其事出诸舜也，今总标曰唐虞，庶时与事胥统之矣。

象刑之义，汉人旧说皆同，文帝诏，有虞时画衣冠、异章服，而民不犯(刑法制)武帝诏，昔在唐虞，画象而民不犯，(武纪元光元)俱以象刑为画象，慎子周人其说同于尚书大传，荀子正论篇亦云：世俗之为说者

曰：治古无肉刑，而有象刑其言与慎子大略相同，是自周至汉相承之师说也。荀子独谓象刑非生于治古，起于乱今，盖其立言之意，以轻刑为非，故訾象刑为俗说<sup>①</sup>，班固采其说八刑法志，……其后马融伪孔传以及宋儒诸家，皆不取象刑之说，朱子自为一说<sup>②</sup>，而又云或谓画为五刑之状亦可，似又不废旧说矣。窃谓古义相传，究不可废，荀子盖习见七国民伪浇漓<sup>③</sup>，谓非重刑不可，而未思上古敦庞之世<sup>④</sup>，固不可同年而语也。

后来刑法，其宗旨悉出于舜，罚弗及嗣<sup>⑤</sup>，即文王罪人不孥之法也，有过无大，刑故无小，即康诰非眚惟终、非终惟眚之意也，罪疑惟轻，即吕刑刑疑有赦，罚疑有赦之制也。与其杀不辜，宁失不经<sup>⑥</sup>，二语尤为用刑者之所当寻绎推求太密每涉于苛，会得此旨，庶归平恕，近来泰西之法，颇与此旨暗合。知圣人之言其包蕴宏矣，舜之称皋陶曰：明于五刑以弼五教<sup>⑦</sup>，吕刑曰：士制百姓于刑之中，以教祗德，是刑者，非威民之具，而以辅教之不足者也。

### 刑制总考三

梁武用法急黎庶而缓权贵，虽因秣陵老人之谏思有以宽黎庶而终不能改也……凡人皆同类，其人而善也者，茂林翘秀也<sup>⑧</sup>；其人而恶也者，丛拔荒芜也。法之及不及，但分善恶而已，乌得有士族匹庶之分，士族之恶者戮之苟当其罪何至使人离心，匹庶之善者戮之苟不当其罪其嗟叹岂少也哉。若谓士族之恶者亦茂林之翘秀，匹庶之善者亦丛拔荒芜，是使人但知士族匹庶之分，而不复知善恶之分矣，此大乱之道也。……世或惩梁氏疏简之失，而谓法不可轻，此又非探本之论，梁之弊在法废不在刑轻，法立而不行与无法等。世未有无法之国而能长安久治者也。

论曰甚矣，有国家者非立法之难而用法之难也，隋文帝除枭磔之惨刑，灭流徙之年

限，以轻代重，化死为生，后来唐律多本于隋唐律，固世所称为得古今之平者也，隋之立法可谓善矣，乃观于隋之用刑何其异哉，史言高祖性猜忌，素不悦学，既任智而获大位，因以文法自矜<sup>⑨</sup>，明察临下，恒令左右规视内外，有小过失则加以重罪。又患令史赃汙因私使人以钱帛遗之，得犯立斩……史于文帝之淫刑以逞详述之也，如此何其与修律之旨大相径庭也，然则有法而不循法，法虽善与无法等。志又言炀帝即位以高祖禁网深刻又敕修律令，降从轻典者二百余条，后帝乃外征四夷，内穷嗜欲兵革岁动赋敛滋繁，有司皆临时迫胁苟求济事，宪章遐弃，贿赂公行，穷人无告聚为盗贼，帝乃更立严刑敕天下，……天下大溃，观于炀帝先轻刑而后淫刑与文帝如出一辙，文淫刑而身被弑，炀淫刑而国遂亡，盖法善而不循法法亦虚器而已。世无无法之国而能长久者，世多以隋与秦并称，秦乎，隋乎其淫刑者之龟鉴乎。

### 刑制总考四

古今刑法，隋以前书多散失，惟唐律独存，完全无阙，论者咸以唐法为得其中<sup>⑩</sup>，宋以后皆遵用，虽间有轻重，其大段固本于唐也。夫法之善者，仍在有用法之人，苟非其人徒法而已，观于唐室开创之初，布宽大削烦峻，贞观四年，天下断死罪三十九人，刑轻而犯者少，何其盛也。迨武氏肆虐<sup>⑪</sup>，毒流宇内，初未改唐之律令，而用法者为周兴，来俊臣之徒，遂使朝士宗亲咸罹冤酷，玄宗开元年间，号称治平，人罕犯法，二十五年刑部所断天下死罪五十八人，迨李林甫用事，信任罗希奭、吉温之徒，复起大狱，以诬陷所杀数十百人，如韦坚、李邕等皆一时名臣，天下冤之，益可知有其法者，尤贵有其人矣，大抵用法者得其人，法即严厉，亦能施其仁于法之中，用法者失其人，法即宽平，亦能逞其暴于法之外，此其得失之故，实筦乎宰治者之一心<sup>⑫</sup>，为仁为暴，朕兆甚

微，若空言立法，则方策具在，徒虚器耳。

史称：自高祖太宗除隋虐乱，治以宽平，民乐其安，重于犯法，致治之美，几乎三代之盛时，考其推心惻物，其可谓仁矣，斯言非溢美也。后代治律之士莫不以唐为法，世轻世重皆不能越其范围，然则今之议刑者，其亦可定厥宗旨乎。

以上各项皆洪武时峻法也，见大诰迨洪武三十年以后，太祖亦悟严刑之不足以化民，此等峻法不复用矣，梟令者斩首示众，明律无此名，问刑条例乃有之是当日亦因事用之，初不以此为死罪之等差，入国朝后乃以此为

死罪之一级，迨失其本意，断手刖足等项乃古之肉刑，洪武中偶一用之，常枷号令，即今法永远枷号之权與此等在明代本非常法，兹录于此，见重刑之无效，治世之道当探其源也。

#### 注释：

①訾：毁谤。 ②朱子：朱熹。 ③浇漓：浇薄。 ④敦庞之世：敦厚昌盛之世。 ⑤嗣：子孙。 ⑥宁失不经：宁可错也不遵守定法。 ⑦弼：辅佐。 ⑧茂林翘秀：出类拔萃的人。 ⑨自矜：自以为贤能。 ⑩得其中：适中。 ⑪武氏：武则天。 ⑫箠：“管”的异体字。

## 八、教育谋略卷

### 引言

张新海

教育是国家的重要职能之一。国家要稳固，社会要繁荣，民族要富强，教育是必由之路。要想使无知的头脑变得聪明，使平庸的品德变得高尚，使穷乏的内心变得富有，只有通过学习这一途径。《礼记·学记》中说：“统治者发布施政意图和国家成法，依靠宗亲贵族中品行端好的人辅佐治理国家，必定会招致一些声誉，但不可能使更多的人拥戴自己；礼贤下士，施恩德于远方的国家，必定会取得较多的人拥戴，但还不能使天下百姓乐于遵从。统治者若要感化万民，形成良好的社会风习，就必须先从教育做起。”中国古代一些贤明帝王意识到教育在治国安民方面的重要作用，将它提升到基本国策的高度，念念不忘而且推行不懈。古代许多有识之士认为，国家统治的关键在于政治、伦理、道德等思想的统一，统一的思想得力于施政者的影响、教化。对施政者有计划的培养教育是当务之急。璞玉不经雕琢，不会成为名贵的玉器；人不经过学习，不会懂得高深的道理。即使有上好的菜肴，不品尝便不知道它的美味；即使有最正确的道理，不学习便不明白它的益处。要想取得应有的教育成果，完成对受教育者的改造，除了懂得教育的作用，有明确的教育目的外，还必须追求一种正确的教育策略和恰当的教学方法。

中国是世界上最早出现教育机构的国

家。大约在公元前3000年以前的黄帝时代，史官仓颉对原始象形文字加以整理，创立了“会意”文字。由这种文字记录下来那段历史时期的“成均”和“序”，就是中国古代最早的学校。到了夏、商两朝，又出现了“序”、“校”、“学”等分级教育组织，已有了专职的掌教者，称为“父师”、“少师”。这时的教育内容，已经很丰富，既有政治、礼仪制度，又有军事文化知识，以及武、乐等技艺。从现存的文献资料中，可以看出当时的统治者对教育的重视：子弟入学前，一定要占卜吉期，祭祀祖先，以求赐福。开学的时候，还要由君主亲自主持隆重的典礼。西周时期，新兴的奴隶主集团为了培养自己的继承者，使之成为有文化教养、有道德威仪、有政治军事知识和才能的人，大力提倡教育、设立学校。在周天子的国都，设有小学、大学两级的国学，以礼、乐、书、数、御、射等六艺为基本教育内容。在各诸侯国的疆域内，还设有小学程度的地方教育机关，称乡学。乡学的规模，因地区大小而异。12500家为乡，设有“庠”；2500家为州，设有“序”；500家为党，设有“校”；25家为间，设有“塾”。乡学以德、行、艺为教育内容，六艺的教育，重点放在御、射、书、数方面。这时的学校教育，已经有了较完整的体系，内容丰富，而且有了成文的教科书。按照当时

教育制度的规定，庶民没有接受学校教育的权力，庶民的子弟，只能在劳动生产实践中培养和掌握技能。就是在上层统治者内部，因地位的不同，子弟入学升级的年龄也要受到严格的限制。

私学的创设，是中国古代教育史上的重大变革。公元前八世纪七十年代，西周王朝被迫东迁，史称“东周”，由此开始了中国历史上的春秋战国时期。在诸侯国间的相互吞并掠夺中，在诸侯国内部的政权争夺中，整个社会各阶层的地位发生了激烈的变化。经济与政治生活的动荡，冲击着古代文化生活，以往在天子、诸侯身边任职的专业知识分子，开始流落民间，并把统治者独占的知识和文化带到民间，在新兴地主、商人、小生产者当中，滋长了一批知识分子——“士”。一些执政者为了在兼并战争中保存自己的政权，便采取“养士”的办法，罗致、培养人才，发挥着学校的作用，同时也刺激了学校的发展。在原有官学日渐衰微的情况下，为了适应新兴地主阶级培育政治、军事人才的需要，及商人掌握文化的要求，一部分“士”结合自己的政治抱负，在参与政治、经济等社会生活的同时，聚众授徒，设立私学。孔子是首创私学的伟大教育家，他率先提出“有教无类”的主张，凡是能够交一点学费的人，无不悉心授业。由于教育对象不受出身、地位、年龄、区域的限制，使新兴地主、商人、农民和手工业者的子弟有了均等的接受教育的机会。孔子认为，一个人口众多的国家，必须让百姓丰衣足食，在解决温饱问题的基础上，还要对民众实行教化。他认为“不教而杀谓之虐”，“以不教民战，是谓弃之”。首先肯定了“为政”与“教民”之间的谋略关系。战国后期，儒家学者孟轲与荀况对孔子的思想加以继承和发展，扩大了儒家思想学说的影响，使它成为秦代以后的占统治地位的正统思想。两千多年来，除了秦代实行商鞅的愚民政策，采用韩非“以法为教，以吏为师”的主张，不提倡学校教育之外，历代

封建统治者始终将学校教育作为统治的重要手段。汉代接受秦代覆亡的教训，提倡教化，制定发展学校教育的立国政策。汉儒董仲舒提出“罢黜百家，独尊儒术”的主张，汉武帝对儒学又大加推崇，在政治上确立了儒学独尊的文化教育政策。从此，孔子作为儒家学说的创始人，被尊为中国古代思想史上的宗师，历朝帝王并且给孔子以崇高的称号，唐代封孔子为“文宣王”，宋代封“至圣文宣王”，元代封“大成至圣文宣王”，明代尊为“至圣先师”，清代尊为“大成至圣先师”。儒家所提倡的三纲（君臣、父子、夫妇）五常（仁、义、礼、智、信）以及六经（诗、书、礼、乐、易、春秋）成为历代教育奉行不变的教条。

从远古教育意识的产生，到系统而完备的教育理论的形成，在数千年的历史进程中，出现了许多享有盛名的教育家。他们为了实现自己的政治理想，以教育为天职，以诲人不倦的精神，致力于传道、授业、解惑的事业。他们总结自己的亲身体会，结合前人的成功经验，提出并且施行了许多极好的教育策略和教学法则，为后世的教育留下了丰富而宝贵的遗产。

教育的作用和目的，是中国古代教育的重要课题。中国古代教育家都很重视教育的社会作用。孔子认为，治理好一个国家，先要使它的人口兴旺昌盛，然后要使百姓富足，最后要实施教化。这三者是治国的根本条件。“道之以政，齐之以刑，民免而无耻。道之以德，齐之以礼，有耻且格。”（《论语·为政》）孔子认为执政者不得已时宁可舍去粮食、武备，也不能放弃信义。而取信于民，要通过道德伦礼的传扬才能做到，这比政令、刑罚的压制更有效。他认为，孝顺父母，友爱兄弟，用这种德行去影响从政的人，这也就是从政。在他看来，教育本身正是政治的一部分。孟子进一步强调教育的社会作用，认为治国的关键在得民心，教育是得民心的根本措施。“以力服人者，非心服也，

力不赡也；以德服人者，中心悦而诚服也，如七十子之服孔子也。”（《孟子·尽心上》）他由此得出“善政不如善教之得民”（同上）的结论。荀子也肯定教育的“固国齐民”的重要作用，认为“不教诲，不调一，则人不可以守，出不可以战。教诲之，调一之，则兵强城固，敌国不能撓也。”（《荀子·强国》）春秋战国时期的儒家关于教育的社会作用的思想，在《礼记·学记》中被概括总结为“建国君民，教学为先”、“化民成俗，其必由学”。北宋王安石更加系统地论述了教育的作用：“诚能使天下人材众多，然后在位者方可以择其人而取足矣。在位者得其才矣，然后稍视时势之可否，而因人情之患苦，变更天下之弊法，以趋先王之意，甚易也。”（《上皇帝言事书》）鉴于“人材不足”的状况，他提出了急待解决的人材培养问题：“方今之急，在于人材而已。”（同上）

人性及其与教育的关系，是中国古代教育家普遍注意的问题。孔子首先提出“性相近也，习相远也”，（《论语·阳货》）认为人生来本没有太大的差别，后天的善恶、智愚，是教育与影响的结果，肯定了教育对人的发展的决定作用。在孔子人性观点的基础上，孟子提出“性善论”，认为不良环境的影响破坏了人的先天善性，若要存养这种善性，必须通过教育加以恢复。“学问之道无他，求其放（散逸）心而已矣。”（《孟子·告子上》）只要努力学习，恢复固有善性，“人皆可以为尧舜”。（《孟子·告子下》）荀子以“性恶论”为前提，认为“人之性恶，其善者伪（人为）也。”（《荀子·性恶》）认为人先天具有好利、嫉恶、好声色等性情，后天为善是努力学习的结果。只要加强教育，“涂之人皆可以为禹”。（《荀子·性恶》）孟、荀二人各持“善”、“恶”一端，却都阐明了教育对人性的决定作用，分别从内在的自我修养和外在的教化熏陶两方面讨论了教育和学习的过程，阐发了孔子的思想。

明确教育目的，对教育的性质、内容和

方法有决定性的意义。教育是有目的地对受教育者施以影响的有计划的活动。国家有明确的教育目的，就可以制定出正确的指导教育发展的政策。教育家明确了教育目的，才能避免教育活动中的盲目和偏差。中国古代教育家对教育目的问题极为重视。孔子以“仁”为前提，阐述了他的教育目的论。为了实现他的最高政治理想，实现“天下为公”的大同世界，他强调教育最终要培养“修己以安人”、“修己以安百姓”（《论语·子路》）的士、君子、贤人。孟子具体地指出教育是为了“明人伦”，“人伦明于上，则小民亲于下。”（《孟子·滕文公上》）后世的教育家对教育目的多有阐发，但基本上是以孔孟思想为依据，以培养治国人才和提高个人的修养为主体。

中国古代教育家在长期的教学实践中，积累和总结了丰富的教学经验，针对教学中的成败得失，提出了许多关于教学原则、方法的精当的见解与谋略。

教育对象的禀赋各不相同，人的爱好、心性、知识水平、接受能力、求学条件必然存在着差异，无选择地追求进度、灌输学习内容，就无法达到教学的预期效果。孔子最早实施了因材施教的教学原则。据《论语》中记载，子路问孔子：“听到一个道理，马上去做可以吗？”孔子说：“有父兄在，怎可说做就做呢？”而冉有来问同一个问题，孔子却说：“听到了就该去做。”另一名弟子公西华对此不理解，孔子解释说：“冉有生性懦弱，做事总是犹疑不决，所以要鼓励他。子路生性刚强好胜，做事偏于鲁莽，所以要约束他。”因此宋代朱熹说：“夫子教人，各因其材。”孟子也强调因材施教，并且采取了多样的教学方式：“有如时雨化之者，有成德者，有达财（材）者，有答问者，有私淑艾者。”（《孟子·尽心上》）荀子根据教育对象心性的不同，提出了“治气养心之术”：“对于血气刚强的人，要调理他的性情，使他变得柔和；对于心机过深近乎险诈的人，要让他始终坚持平易善良的原则；对于勇猛凶横的人，要用诱导的方式，



使他不越正轨；对于机灵好动的人，对他的动止要加以节制；对于心地狭窄、目光短浅的人，要用大势、全局开阔他的胸襟和眼界；对于意志卑劣、思维迟钝、贪图私利的人，要用高尚的志向和节操鞭策他；对于平庸散漫的人，要让良师益友去约束他；对于举止怠慢轻浮而又自暴自弃的人，要借助于灾祸使他警醒；对于忠厚老实质朴拘谨的人，要用礼仪、音乐来弥补他的不足，启发他的思维使他变得通达。”（《荀子·修身》）《学记》对前代的思想加以总结，归纳为“长善救失”。在学生学习过程中，有许多影响其成功的原因，而教师的任务，就是观察学生的学习过程，找到这些原因，这样才能挽救学习中的失败，也就是补不足，损有余，这与良医诊病、对症下药的道理是一样的。

在教学过程中，教师起着主导作用，可是还需学生的自觉主动相配合。传授知识是教学的主要任务，但必须与学生智力、思维的发展相辅相成。

《学记》批评了当时教学中普遍存在的不良现象：“现在的教师，总是照本宣科，让学生死记教材内容，上课满堂灌，急于赶进度，却不考虑学生能否消化理解，提问时不动调学生的积极性，指导时也不能充分发挥学生的聪明才智，所采取的措施已不符合教学原则，却对学生提出一些不切实际的要求。这样下去，学生由此厌恶所学的功课，并且埋怨他的教师，只知学习的艰难不易，根本不明白它对自身的益处。结果虽然结业了，所学的内容很快就会遗忘。教育不能振兴，也就是这种错误的教学方法造成的。”《学记》的作者在此指出了注入式教学给学生以及教师带来的灾害，充分肯定了启发诱导这一教学原则。孔子最早提出了启发式教学。他说：“倘若学生思考问题没有达到百思不得以至于气愤的地步，我不会教给他方法；倘若学生阐述道理没有达到话在口边却苦于无法说出的程度，我不会告诉他答案。比如我举出室内的一角，他若不能想到其余的三个角，

就不再继续谈论那个课题了。”（《论语·述而》）在实际教学中，孔子始终重视对学生的启发诱导，而且特别强调学生要积极思考，举一反三。颜回是孔子的最得意的弟子，他对孔子的思想尊奉不疑，孔子批评他说：“颜回可不是有助于我的人，他对我之道无不心悦诚服，不加任何质疑。”（《论语·先进》）而德行不及颜回的子夏，与孔子探讨《诗经》中的诗句，以绘画喻礼，提出先修德后学礼的见解，则得到了孔子的赞扬，他认为子夏启发了自己。子贡在孔子的启发下有了心得，孔子高兴地说：“赐（子贡姓端木名赐）也，始可与言诗矣，告诸往而知来者。”（《论语·学而》）孟子形象地把启发式喻为“引而不发，跃如也。”将教师的启发比作开满的弓，将学生的思考比作跃跃欲试一触即发的箭。他特别强调学生的思考能力和钻研兴趣。“君子深造之以道，欲其自得之也。自得之，则居之安；居之安，则资之深；资之深，则取之左右逢其源。”（《孟子·离娄下》）而教师的作用，犹如“梓匠轮舆，能与人规矩，不能使人巧。”（《孟子·尽心下》）教学效果的好坏，取决于能否充分调动学生的积极性。荀子进一步认为，不待提问便讲出道理，则失于急躁；问一而告二，则失于强灌。急躁与强灌都是错误的，一名好教师，回答问题应该向回声一样适当，既不急切，也不过分。《学记》对启发式教学作了极好的阐发：“君子之教，喻（启）也。道而弗牵，强而弗抑，开而弗达。道而弗牵则和，强而弗抑则易，开而弗达则思。和易以思，可谓善喻矣。”《学记》强调鼓励学生思考、提问，同时认为教师应该讲究对待提问的策略方法：“善待问者如撞钟，叩之以小者则小鸣，叩之以大者则大鸣，待其从容，然后尽其声。”认为仅能记诵经籍、被动而且盲目回答学生提问的人，不够做教师的资格。作为一名优秀的教师，一定要仔细倾听学生的提问，根据具体问题斟酌回答。有时学生没有能力提问，可以由教师讲解。如果讲解之后学生仍不明白，即便舍弃这个

问题也是可以的。《论语·子罕》中记载了颜回接受启发诱导的体验：“夫子循循然善诱人，博我以文，约我以礼，欲罢不能，既竭吾才。”启发诱导与因材施教是密切相关的，它的根本目的是使学生保持一种主动的活跃的思维状态。答问是启发诱导的基本方法，但不是唯一的方法。

中国古代教育家普遍重视循序渐进的原则。在教学过程中，课程、教材、教学步骤等要素之间，因受知识本身内在联系和系统的制约，存在着必然的次序性。学生的年龄、学识、思维能力等条件，对教学的次序性起着决定作用。知识的传授，必须遵循由浅入深、由少到多的规律。孔子是“循循然善诱人”（《论语·子罕》）的师表，他往往根据教学的内容、德行与智力发展的顺序，兼顾到学生各自的接受能力与原有基础，一步步地诱导，使学生由易而难、由近及远、由一般的士到情操高尚的君子，有步骤地学习，在顺应自然的前提下合理学习、发展。《论语》中记载，子贡告诉孔子：“我不愿别人那样对待我的事，我也不拿来对待别人。”这句话包含了对孔子“己所不欲，勿施于人”的忠恕之道的理解，是许多人都难以达到的道德修养的至高境界。子贡在孔子弟子中并不以德行见长，他实际是做不到这一点的。孔子知道子贡有些好高骛远了，于是提醒他说：“赐啊，这对你来说还不是时候啊。”有个少年替人送信给孔子，见面时表现得很老成，有人问孔子道：“这就是要求上进的人吧？”孔子说：“我见他立在成年人的位列里，告别时与长者并肩而行，他并非要求上进的人，而是急于求成的人啊。”孟子把教学比做流水，应当不分昼夜地前进，遇到阻碍时，必须一次次地等到盈满、充分。“盈科而后进”，才能“放乎四海”。（《孟子·离楼下》）“不积跬步，无以至千里；不积小流，无以成江海。”（《荀子·劝学》）倘若放弃循序渐进的原则，必然导致学无所得，教无所成。《学记》中对教学程序作了明确规定：“比年入学，中年考

校：一年视离经辨志，三年视敬业乐群，五年视博习亲师，七年视论学取友，谓之小成。九年知类通达，强立而不反，谓之大成。”特别强调年纪小的学生认真听讲，不必发问，为的是“学不躐等”，因为他们的接受能力是有限的，需要有一个逐渐提高的过程。

两千多年前的中国古代教育学文献《学记》，在阐述了教育纲领之后，突出强调了尊师重道的深远意义：“凡学之道，严师为难。师严然后道尊，道尊然后民知敬学。是故君之所不臣于其臣者二：当其为尸，则弗臣也；当其为师，则弗臣也。大学之礼，虽诏于天子无北面，所以尊师也。”天子作为一国至尊，在庄严隆重的祭祖仪式中，对代替先祖受祭的大臣，不能论君臣之间的尊卑关系。当大臣充任大学教师的时候，同样不能按君臣尊卑关系对待他。甚至教师平日受天子诏见，也不必北面称臣。这就给了教师以崇高的尊严地位。尊师的目的是为了重道，是为了“民知敬学”，是为了有利于“化民易俗，近者悦服而远者怀之”。将尊师重道的教育原则，纳入了实现王道乐土的治国谋略之中。荀子在《修身》一篇中说明了尊师对个人发展的意义：“礼仪是用来端正身心的，教师是用来端正礼仪的。没有礼仪，怎么去端正身心呢？没有教师，又怎知礼仪的正确必要呢？恪守礼仪的要求，就会如同天性一样心安理得。遵循教师的思想，便会拥有象教师一样的智慧。行必循礼，言必从师，就可以成为圣人。”他在《礼论》中称教师为礼之三本之一，最先将教师地位提高到天地、先祖、君王等至尊之列。对教师的地位越是推崇，说明对教师所寄的希望就越高。但是无论国家政策，还是教学规则，都不能完全地赋予教师的尊严，只能起到承认和维护作用。真正德高望重，令人心悦诚服，关键取决于授教者自身的修养。道貌岸然，品格低下，人们不会敬重他。皓首穷经，毫无主见，不能思辨阐发，无咎无誉的人，人们也无从佩服他。教师首先要以身作则，为人表率。

“其身正，不令而行。其身不正，虽令不从。”（《论语·子路》）“苟正其身矣，于从政乎何有。不能正其身，如正人何？”（《论语·子路》）榜样的力量是无穷的，就以身作则而言，从政与授教的道理是相同的。为人不修德，做事不依理，就是在家门之内也行不通，又怎能影响人、教育人呢？教师的传教方法和技能，以及对教育理论的理解通晓，也是至关重要的。《学记》中说：“君子既知教之所由兴，又知教之所由废，然后可以为人师也。”“知至学之难易，而知其美恶，然后能博喻；能博喻，然后能为师；能为师，然后能为长；能为长，然后能为君。故师也所以学为君也。”进而提出“择师不可不慎”的观点。荀子提出了做教师的四项原则：“尊严而令人敬畏，可以为师；六十、七十岁而能坚守信义，可以为师；讲说经义，不躐等、不悖理，可以为师；精于哲理并能阐发，可以为师。”而不把博闻强记包括在内。为了切实奉行尊师重道的原则，古代的教育家，往往采取易子而教的措施，以达到尊道敬学的目的。据《论语》中记载，陈亢问孔鲤：“夫子向你亲传了什么？”孔鲤说：“有一次父亲在庭院中站着，我从跟前走过，问我学诗没有，告诉我：‘不学诗无以言。’我回去后就开始学诗。还有一次，父亲叫住我，问我学礼没有，告诉我：‘不学礼，无以立。’就这么两件事，再没听说过别的。”陈亢听后，高兴地说：“我今天有了三个收获：知道了不学诗无以言，知道了不学礼无以立，还知道了君子不亲自教育自己的儿子。”后来孟子的弟子公孙丑问孟子道：“君子不亲自教育儿子，是为什么呢？”孟子解释说：“情势行不通啊。教育一定要用正道，用正道行不通，接下来就是发脾气了。说不听就发火，则反而伤了父子感情，背离了爱子则教子的初衷。那时儿子会说：‘您用正道要求我，可您的行为却不是出自正道呢。’这就是父子间伤感情了。父子间感情不合，就会导致相互厌恶怨恨。古人易子而教，父子之间就不必责求善行。责求善行将导致父子间

的疏远，没有比这种疏远更可怕的事了。”北朝时的颜之推对此又做了补充：“《诗》有讽刺之辞，《礼》有嫌疑之诫，《书》有悖乱之事，《春秋》有邪僻之讥，《易》有备物之象，皆非父子之所通言，故不亲授耳。”

孟子说：“予不屑之教诲也者，是亦教诲之而已矣。”这是一种很特别的教育方法。《论语·阳货》中记载了孔子将坏学生拒之门外的故事。孺悲曾向孔子学习士大夫的丧葬礼仪，由于他不能用学得的礼仪约束自己的言行，孔子发觉后，心里很不高兴，认为象孺悲这种言行不一致的人，是不配学习礼仪的。当孺悲又一次去拜见孔子时，孔子吩咐看门人说：“告诉他，我病了，不能起来见他。”看门人去后，孔子便弹起琴来，而且高声唱歌，故意让孺悲听见。这种不教而教的做法，是希望受教者从此发奋改悔，成为好人。而这成为好人的结果，却正是因为不屑教诲的原故。学习应该与思、行相结合，宰予白昼里酣睡，孔子骂他是一段不堪雕琢的朽木，曾参被父亲用大棒打得昏死过去，孔子恨他太过刻板，竟挺着挨打，便生气地对弟子们说：“曾参来，别让他进门！”孔子认为，光是向人传授常识性的知识，算不上教师。优秀的教师，不光要“授业、解惑”，而且要“传道”。道是需要奉行的，不能修身的人，既不能行道，也就无法得道。那些诲人不倦的教育家，可以不欣赏“道不同”的人，但决不会放弃对人的教诲。

中国古代教育家在指导学生学习修养方面，提出过很多极好的谋略。孔子主张学与思要结合。他说：“学而不思则罔，思而不学则怠。”荀子则认为：“吾尝终日而思矣，不如须臾之所学也。”（《荀子·劝学》）“君子之学也，入乎耳，著乎心，布乎四体，形乎动静。端而言，蠕而动，一可以为法则。小人之学也，入乎耳，出乎口。口耳之间，则四寸耳，曷足以美七尺之躯哉？”（《劝学》）孟子认为，人欲得道，必须主动求道。“夫道若大路然，岂难知哉？人病不求耳。”（《孟子·告子下》）

“求则得之，舍则失之，是求有益于得也。求在我者也。”（《孟子·尽心上》）孟子认为学习心须专心致志。他举例说：“今夫弈之为数，小数也，不专心致志，则不得也。弈秋，通国之善弈者也。使弈秋诲二人弈：其一人专心致志，惟弈秋之为听；一人虽听之，一心以为有鸿鹄将至，思援弓缴而射之，虽与之俱学，弗若之矣。”（《告子上》）荀子认为学习必须持之以恒，坚持不懈。“骐骥一跃，不能十步；驽马十驾，功在不舍。锲而舍之，朽木不折；锲而不舍，金石可镂。”（《劝学》）学与习是相互促进的。孔子说：“学而时习之，不亦说（悦）乎！”（《论语·学而》）曾子也将复习老师传授的课业作为每日三省之一。《学记》中说：“良冶之子，必学为裘；良弓之子，必学为箕，始驾马者反此，车在马前。君子察于此三者，可以有志于学矣。”反复温习，不仅可以巩固所学，而且可以通过“慎思”以达到触类旁通的境界。古代教育家特别强调课外自修对功课的促进作用。《礼记》中说：“大学之教也，时教必有正业，退息必有居学。不学操缦，不能安弦；不学博依，不能安诗；不学杂服，不能安礼。不兴其艺，不乐其学。”只有“正业”与“居学”并重，发展正当的业余爱好，才能“安其学而亲其师，乐其友而信其道”，即使离开了老师的指导，志向也不会动摇。古代教育家很早就注意到教与学之间的促进关系。《学记》中说：“虽有嘉肴，弗学不知其旨也；虽有至道，弗学不知其善也。是故学然后知不足，教然后知困。知不足，然后能自反也；知困，然后能自强也。故曰：教、学相长也。”老师教授的知识和道理再好，学生若不自己品味思考，也不会知道它的好处。在向学层层讲解的过程中，教师也可以发现自己学问上的不足。师生一齐努力去弥补各自的欠缺，教学水平与学习成绩也就共同提高了。

孟子说：“教亦多术矣。”兵无常势，水无常形，运用之妙，存乎一心。教育的谋略又何尝不是如此呢？作为一项对受教者施以影

响的活动，它有强烈的计划性与目的性。措施得当与否，直接关系到教育的得失成败。施教与受教之间，就如同军事进攻与获胜一样，有需要解决的困境，有需要克服的矛盾。教育的成功，仅仅依赖正确而又高明的决策、规则是不够的，授教者还必须在教学实践中凭借自己的智慧理解和巧妙地运用这些策略。中国古代教育思想中，有很强的谋略意识，然而他们在许多个人的著述中，往往就某些局部的教育问题加以阐发提示，或因过于笼统而不够详尽，并不是专门的著作。我们将那些分散的典籍、篇章加以集中，全局的谋略思想便因此而显得明晰、完备了。

## 《论 语》

### 题解：

《论语》是反映孔子政治思想的一部著作，也是一部教育名言集。

孔子是中国教育史上极负盛名的教育家。他的思想和学说，不仅深深地影响了两千多年的中国封建教育及日本、朝鲜等东方国家。而且对西方世界也有深远的影响。

孔子的教育思想是以“仁”为核心的，它的施行原则便是“忠恕”。孔子从多种角度给“仁”下过定义。

通过艰苦的努力，培养自己的德能，以恢复周礼，这是对“仁”的最高层的解释，是孔子对得意弟子颜回的殷切期望，也是他自己的平生志愿。

博爱，是“仁”的基本含义，是对仁人君子的最起码的要求。以己推人，“己欲立而立人，己欲达而达人”，“己所不欲，勿施于人”，这就是“爱人”。

孝悌，是“仁”的根本。怎样才算是孝顺父母、尊敬兄长呢？孝不仅仅是赡养，悌不仅仅是畏惧。人们精心喂养禽畜绝不是孝，畏惧山林中的猛兽绝不是悌。质朴而不循规蹈矩，如动物未加驯化，孔子称之为“野”；循规蹈矩而缺乏质朴的天性，如整日抄抄写

写毫无主见的小吏，孔子称之为“史”。

《论语》中所阐述的教育主旨，就是用学识来修饰人、约束人，使之与良善的天性相互调和。“首孝悌，次谨信，泛爱众，而亲仁，行有余力，则以学文。”这就是孔子的施教方针。“有教无类”，“因材施教”，启发诱导，以身作则，学、思、行相结合，是孔子最先提出的教学方法。

《论语》一书，是考查孔子生平事迹的可信资料，宋代教育家朱熹将它与《大学》、《中庸》、《孟子》合为《四书》，定为科举必修教材。而《论语》中有关教育的阐述，被后世的教育家以及授教者视为完善教学、发展教育的策略依据。《论语》中的许多关于教学的成语、格言，至今仍然闪烁着睿智的光辉。

为了便于集中阅读，这里对《论语》的篇章作了专类节选，与教育无关的，尽量略去。有些章节，虽然字面上未涉及教与学，但可以验证或说明教育的方法、策略、智慧，因此予以保留。

## 学而篇<sup>①</sup>

子曰：“学而时习之，不亦说乎<sup>②</sup>！有朋自远方来，不亦乐乎！人不知而不愠<sup>③</sup>，不亦君子乎！”

有子曰：“其为人也孝弟<sup>④</sup>，而好犯上者，鲜矣；不好犯上，而好作乱者，未之有也。君子务本，本立而道生。孝弟也者，其为仁之本与<sup>⑤</sup>！”

曾子曰：“吾日三省吾身<sup>⑥</sup>：为人谋而不忠乎？与朋友交而不信乎？传不习乎？”

子曰：“道千乘之国<sup>⑦</sup>，敬事而信，节用而爱人，使民以时。”

子曰：“弟子入则孝，出则弟，谨而信，泛爱众，而亲仁。行有余力，则以学文。”

子夏曰：“贤贤易色<sup>⑧</sup>；事父母，能竭其力；事君，能致其身；与朋友交，言而有信。虽曰未学，吾必谓之学矣。”

子曰：“君子不重则不威；学则不固<sup>⑨</sup>；

主忠信，无友不如己者；过则勿惮改。”

子曰：“君子食无求饱，居无求安，敏于事而慎于言，就有道而正焉<sup>⑩</sup>，可谓好学也已。”

子贡曰：“贫而无谄，富而无骄，何如？”子曰：“可也，未若贫而乐、富而好礼者也。”子贡曰：“《诗》云，‘如切如磋，如琢如磨。’其斯之谓与？”子曰：“赐也，始可与言《诗》已矣，告诸往而知来者。”

子曰：“不患人之不己知，患不知人也。”

## 为政篇

子曰：“《诗》三百，一言以蔽之<sup>⑪</sup>，曰：‘思无邪’。”

子曰：“吾十有五而志于学，三十而立，四十而不惑，五十而知天命，六十而耳顺，七十而从心所欲，不逾矩。”

子曰：“温故而知新，可以为师矣。”

子曰：“君子不器<sup>⑫</sup>。”

子曰：“学而不思则罔<sup>⑬</sup>，思而不学则殆<sup>⑭</sup>。”

子曰：“攻乎异端，斯害也已。”

子曰：“由<sup>⑮</sup>！诲女<sup>⑯</sup>，知之乎？知之为知之，不知为不知，是知也。”

季康子问：“使民敬、忠以劝<sup>⑰</sup>，如之何？”子曰：“临之以庄<sup>⑱</sup>，则敬；孝慈，则忠；举善而教不能，则劝。”

## 八佾篇

子夏问曰：“‘巧笑倩兮，美目盼兮，素以为绚兮<sup>⑲</sup>。’何谓也？”子曰：“绘事后素。”曰：“礼后乎？”子曰：“起予者商也！始可与言《诗》矣。”

子曰：“《关雎》乐而不淫，哀而不伤。”

## 里仁篇

子曰：“朝闻道，夕死可矣。”

子曰：“士志于道，而耻恶衣恶食者，未足与议也。”

子曰：“君子喻于义，小人喻于利。”

子曰：“见贤思齐焉，见不贤而内自省也。”

## 公冶长篇

子贡问曰：“赐也何如？”子曰：“女，器也。”曰：“何器也？”曰：“瑚琏也<sup>②③</sup>。”

或曰：“雍也仁而不佞<sup>②④</sup>。”子曰：“焉用佞？御人以口给<sup>②⑤</sup>，屡憎于人。不知其仁，焉用佞？”

子使漆雕开仕，对曰：“吾斯之未能信。”子说<sup>②⑥</sup>。

子曰：“道不行，乘桴浮于海<sup>②⑦</sup>，从我者其由与！”子路闻之喜。子曰：“由也好勇过我，无所取材。”

宰予昼寝。子曰：“朽木不可雕也，粪土之墙不可圻也<sup>②⑧</sup>，于予与何诛<sup>②⑨</sup>？”子曰：“始吾于人也，听其言而信其行；今吾于人也，听其言而观其行。于予与改是。”

子曰：“吾未见刚者。”或对曰“申枨<sup>②⑩</sup>。”子曰：“枨也欲，焉得刚？”

子贡曰：“我不欲人之加诸我也，吾亦欲无加诸人。”子曰：“赐也，非尔所及也。”

子贡曰：“夫子之文章，可得而闻也，夫子之言性与天道，不可得而闻也。”

子路有闻，未之能行，唯恐有闻<sup>②⑪</sup>。

子贡问曰：“孔文子何以谓之‘文’也？”子曰：“敏而好学，不耻下问，是以谓之‘文’也。”

季文子三思而后行。子闻之，曰：“再，斯可矣。”

子曰：“宁武子，邦有道则知；邦无道则愚。其知可及也，其愚不可及也。”

子曰：“伯夷、叔齐不念旧恶，怨是用希<sup>②⑫</sup>。”

颜渊、季路侍。子曰：“盍各言尔志<sup>②⑬</sup>？”子路曰：“愿车马衣裘，与朋友共，敝之而无憾。”颜渊曰：“愿无伐善，无施劳<sup>②⑭</sup>。”子路曰：

“愿闻子之志。”子曰：“老者安之，朋友信之，少者怀之。”

子曰：“已矣乎！吾未见能见其过而内自讼者也<sup>②⑮</sup>。”

子曰：“十室之邑<sup>②⑯</sup>，必有忠信如五者焉，不如丘之好学也。”

## 雍也篇

哀公问：“弟子孰为好学？”孔子对曰：“有颜回者，好学，不迁怒，不贰过<sup>③⑰</sup>。不幸短命死矣。今也则亡，未闻好学者也。”

冉求曰：“非不说子之道，力不足也。”子曰：“力不足者，中道而废，今汝画<sup>③⑱</sup>。”

子为子夏曰：“女为君子儒，无为小人儒。”

子曰：“质胜文则野<sup>③⑲</sup>，文胜质则史<sup>③⑳</sup>。文质彬彬<sup>③㉑</sup>，然后君子。”

子曰：“知之者不如好之者，好之者不如乐之者。”

子曰：“中人以上，可以语上也<sup>③㉒</sup>；中人以下，不可以语上也。”

樊迟问知<sup>④⑰</sup>。子曰：“务民之义，敬鬼神而远之，何谓知矣。”问仁，曰：“仁者先难而后获<sup>④⑱</sup>，可谓仁矣。”

子曰：“知者乐水，仁者乐山。知者动，仁者静。知者乐，仁者寿。”

## 述而篇

子曰：“述而不作<sup>④⑲</sup>，信而好古，窃比于我老彭<sup>④⑳</sup>。”

子曰：“默而识之，学而不厌，诲人不倦，何有于我哉<sup>④㉑</sup>？”

子曰：“德之不修，学之不讲，闻义不能徙<sup>④㉒</sup>，不善不能改，是吾忧也。”

子曰：“自行束脩以上<sup>④㉓</sup>，吾未尝无诲焉。”

子曰：“不愤不启<sup>④㉔</sup>，不悱不发<sup>④㉕</sup>。举一隅不以三隅反<sup>④㉖</sup>，则不复也。”

子曰：“加我数年，五十以学《易》，可以无大过矣。”

叶公问孔子于子路，子路不对。子曰：“女奚不曰<sup>⑤</sup>：其为人也，发愤忘食，乐以忘忧，不知老之将至云尔。”

子曰：“我非生而知之者，好古敏以求之者也。”

子曰：“三人行，必有我师焉。择其善者而从之，其不善者改之。”

子以四教：文、行、忠、信。

子曰：“圣人吾不得而见之矣，得见君子者，斯可矣。”子曰：“善人吾不得而见之矣，得见有恒者，斯可矣。亡而为有<sup>⑥</sup>，虚而为盈，约而为泰<sup>⑦</sup>，难乎有恒矣。”

子曰：“盖有不知而作之者，我无是也。多闻，择其善者而从之，多见而识之，知之次也。”

互乡难与言<sup>⑧</sup>。童子见，门人惑。子曰：“与其进也<sup>⑨</sup>，不与其退也，唯何甚！人洁己以进，与其洁也，不保其往也。”

子曰：“若圣与仁，则吾岂敢！抑为之不厌，诲人不倦，则可谓云尔已矣。”公西华曰：“正唯弟子不能学也。”

## 泰伯篇

子曰：“兴于《诗》，立于礼，成于乐。”

子曰：“三年学，不至于谷<sup>⑩</sup>，不易得也。”

子曰：“笃信好学，守死善道，危邦不入，乱邦不居。天下有道则见，无道则隐。邦有道，贫且贱焉，耻也；邦无道，富且贵焉，耻也。”

子曰：“学如不及，犹恐失之。”

## 子罕篇

子罕言利，与命与仁。

达巷党人曰<sup>⑪</sup>：“大哉孔子！博学而无所成名<sup>⑫</sup>。”子闻之，谓门弟子曰：“吾何执<sup>⑬</sup>？执御乎？执射乎？吾执御矣。”

子绝曰：“毋意<sup>⑭</sup>，毋必<sup>⑮</sup>，毋固<sup>⑯</sup>，毋我<sup>⑰</sup>。”

大宰问于子贡曰：“夫子圣者与？何其多能也？”子贡曰：“固天纵之将圣，又多能也。”子闻之，曰：“太宰知我乎？吾少也贱，故多能鄙事。君子多乎哉？不多也。”

牢曰：“子云：‘吾不试<sup>⑱</sup>，故艺。’”

子曰：“吾有知乎哉？无知也。有鄙夫问于我，空空如也。我叩其两端而竭焉<sup>⑲</sup>。”

颜渊喟然叹曰：“仰之弥高，钻之弥坚；瞻之在前，忽焉在后。夫子循循然善诱人，博我以文，约我以礼，欲罢不能，既竭吾才，如有所立卓尔<sup>⑳</sup>，虽欲从之，未由也已。”

子曰：“譬如为山，未成一簣，止，吾止也。譬如平地，虽覆一簣，进，吾往也。”

子曰：“苗而不秀者有矣夫！秀而不实者有矣夫！”

子曰：“后生可畏，焉知来者之不如今也？四十、五十而无闻焉，斯亦不足畏也已。”

子曰：“法语之言<sup>㉑</sup>，能无从乎？改之为贵。巽与之言<sup>㉒</sup>，能无说乎？绎之为贵<sup>㉓</sup>。说而不绎，从而不改，吾未如之何也已矣。”

子曰：“可与共学，未可与适道<sup>㉔</sup>；可与适道，未可与立<sup>㉕</sup>；可与立，未可与权<sup>㉖</sup>。‘唐棣之华，偏其反而，岂不尔思，室是远而<sup>㉗</sup>。’”子曰：“未之思也<sup>㉘</sup>，夫何远之有？”

## 先进篇

子曰：“先进于礼乐<sup>㉙</sup>，野人也<sup>㉚</sup>；后进于礼乐，君子也。如用之，则吾从先进。”

子曰：“回也非助我者也，于吾言无所不说<sup>㉛</sup>。”

季路问事鬼神。子曰：“未能事人，焉能事鬼？”曰：“敢问死。”曰：“未知生，焉知死？”

子贡问：“师与商也孰贤？”子曰：“师也过，商也不及。”曰：“然则师愈与？”<sup>㉜</sup>子曰：“过犹不及。”

子张问善人之道。子曰：“不践迹<sup>㉝</sup>，亦不入于室。”

子路问：“闻斯行诸？”子曰：“有父兄在，如之何其闻斯行之？”冉有问：“闻斯行诸？”子曰：“闻斯行之。”公西华曰：“由也问‘闻斯行诸？’子曰‘有父兄在’；求也问‘闻斯行诸？’子曰‘闻斯行之’。赤也惑，敢问。”子曰：“求也退<sup>⑦⑧</sup>，故进之<sup>⑨</sup>；由也兼人<sup>⑩</sup>，故退之。”

## 卫灵公篇

子曰：“吾尝终日不食，终夜不寝，以思，无益，不如学也。”

子曰：“当仁不让于师。”

子曰：“有教无类<sup>⑪</sup>。”

## 季氏篇

孔子曰：“生而知之者，上也；学而知之者，次也；困而学之，又其次也；困而不学，民斯为下矣。”

陈亢问于伯鱼曰<sup>⑫</sup>：“子亦有异闻乎？”对曰：“未也。尝独立，鲤趋而过庭。曰：‘学《诗》乎？’对曰：‘未也。’‘不学《诗》，无以言。’鲤退而学《诗》。他日，又独立，鲤趋而过庭。曰：‘学礼乎？’对曰：‘未也。’‘不学礼，无以立。’鲤退而学礼。闻斯二者。”陈亢退而喜曰：“问一得三，闻《诗》，闻礼，又闻君子之远其子也。”

## 阳货篇

子曰：“性相近也，习相远也。”

子曰：“唯上知与下愚不移。”

子之武城，闻弦歌之声。夫子莞尔而笑曰：“割鸡焉用牛刀？”子游对曰：“昔者偃也闻诸夫子曰<sup>⑬</sup>：‘君子学道则爱人，小人学道则易使也。’”子曰：“二三子，偃之言是也。前言戏之尔。”

子曰：“由也，女闻六言六蔽矣乎<sup>⑭</sup>？”对曰：“未也。”“居！吾语女。好仁不好学，其蔽也愚<sup>⑮</sup>；好知不好学，其蔽也荡<sup>⑯</sup>；好信

不好学，其蔽也贼<sup>⑰</sup>；好直不好学，其蔽也绞<sup>⑱</sup>；好勇不好学，其蔽也乱<sup>⑲</sup>；好刚不好学，其蔽也狂<sup>⑳</sup>。”

子曰：“小子何莫学夫《诗》？《诗》，可以兴<sup>㉑</sup>，可以观<sup>㉒</sup>，可以群<sup>㉓</sup>，可以怨<sup>㉔</sup>。迩之事父，远之事君，多识于鸟兽草木之名。”

子谓伯鱼曰：“女为《周南》、《召南》矣乎？人而不为《周南》、《召南》，其犹正墙面面而立也与！”

子曰：“礼云礼云，玉帛云乎哉<sup>㉕</sup>？乐云乐云，钟鼓云乎哉？”

子曰：“予欲无言。”子贡曰：“子如不言，则小子何述焉？”子曰：“天何言哉？四时行焉，百物生焉。天何言哉？”

孺悲欲见孔子，孔子辞以疾。将命者出户，取瑟而歌，使之闻之。

子曰：“饱食终日，无所用心，难矣哉！不有博弈者乎？为之，犹贤乎已。”

## 子张篇

子夏曰：“日知其所亡，月无忘其所能，可谓好学也已矣。”

子夏曰：“博学而笃志，切问而近思，仁在其中矣。”

子夏曰：“百工居肆以成其事，君子学以致其道。”

子夏曰：“仕而优则学，学而优则仕。”

注释：

①《论语》中的篇名，取每篇第一句中的两三个字。②说：通“悦”字。③愠：怨、怒。④弟：通“悌”字，敬长为悌。⑤与：通“欤”字，虚词，表示语气。⑥省：反省。⑦道：同“导”，此处有治理之义。⑧易色：轻视女色。⑨固：蔽塞不通。⑩正：规正、修正。⑪蔽：概括。⑫器：器具。即象器具一样只有某一方面的专长。⑬罔：同“惘”，迷惑而没有心得。⑭殆：疑惑不解。⑮由：子路名仲由。⑯女：通“汝”。⑰劝：劝勉，因受到鼓励而努力。⑱临：对待。⑲倩：动人的笑容。盼：眼珠黑白分明。绚：华丽



多彩。②瑚璉：古代祭祀时盛粮食的器具，华丽而贵重。③佞：善辩。④御：抵御。口给(jì)：口利善辩。⑤说：同“悦”。⑥桴：木筏。⑦圻：涂饰，粉刷。⑧与：语气词。诛：谴责。⑨申枵：孔子弟子。⑩有闻：又听到(孔子的话)。有，同“又”。⑪怨是用希：怨恨因此少了。是用：因此。⑫盍：何不。⑬伐：夸耀。施：表白。⑭内：内心。讼：责备。⑮邑：小的村落。⑯貳：重复。⑰画：划定界限，阻止自己前进。⑱质：内在品质。文：文采。野：粗鲁。⑲史：言辞浮华。⑳彬彬：既有文彩，又很朴实。㉑中人：智能平常的人。语上：说大道理。㉒知：通“智”。㉓先难：先做出艰苦努力。㉔述：传述。作：创新。㉕老彭：据传是“好述古事”的殷商时代的贤大夫。㉖何有于我：对我来说有什么困难呢？㉗徙：迁移，靠近。㉘束脩(xiū修)：古代仪礼的一种。脩：干肉。束脩：即十条干肉。后来代称学生送给老师的学费。㉙愤：苦思苦想仍恼恨于不能领会。㉚悱：想说却说不明白。㉛隅：室内角落。㉜女：同“汝”。奚：为何。㉝亡：同“无”。㉞秦：奢。㉟互乡：地名。㊱与：赞许。㊲谷：谷米，借指俸禄，此处喻致仕。㊳达巷：地名。党人：乡人。㊴成名：以专长著称。㊵执：执事，做事。㊶意：同臆，猜想。㊷必：刻板。㊸固：蔽塞。㊹我：自私，私欲。㊺试：被任用。㊻叩：询问。两端：事物的正反、本末、终始两方面。竭：穷尽物理。㊼卓尔：高大貌。㊽法：周礼规则。㊾巽与之言：顺耳称心的话。巽：谦逊。㊿绎：分辨。①适：往，达。②立：坚守。③权：权变。④室：住所。⑤思：思考。⑥进：指学习。⑦野人：在野的隐逸之士。⑧说：同“悦”，心悦诚服。⑨愈：强，胜。⑩践迹：踩着前人的足迹走。⑪退：退缩。⑫进：鼓励。⑬兼人：刚强不肯让人。⑭有：虚词。教：教育。类：族类，即贫富尊卑的界限。⑮伯鱼：孔子的儿子。⑯偃：子游姓言名偃。⑰六言：六字。蔽：弊病。⑱愚：愚笨。⑲荡：轻浮放荡。⑳贼：害己。㉑绞：言辞尖刻。㉒乱：犯上作乱。

①狂：狂妄。②兴：激发心志。③观：洞察事物。④群：联络群体。⑤怨：对朝政的批评。⑥礼中所指的，难道仅仅是玉帛一类的器具吗？

## 《孟子》

### 题解：

《孟子》是儒家重要经典之一，孟子及其门人所著，书中记载了孟子的政治活动、学说与教育思想。

《孟子》一书，透彻地阐述了孟子的教育谋略，其中关于教育目的、教育方法的阐发，对后世影响极大。

根据孔子“性相近，习相远”的学说，孟子提出了“性善”的观点。他认为“恻隐、羞恶、辞让、是非”是人的固有本性，是“仁、义、礼、智”的起点。

以性善论为基础，孟子强调了环境影响与正确教育的重要作用。认为恶劣环境中的长期习染破坏了人的固有善性，必须通过教育加以挽救，使之寻回迷失了的心性。恢复固有善性，须从“孝(爱亲)”、“悌(敬长)”入手，以达到善性的最高境界——“仁”与“义”。因此教育的最终目的便是为了“明人伦”。

孟子以培养与锻炼为首要的教育方法。他主张“养心”与“养气”，以“寡欲”屏绝外界的诱惑，以固心志，培养出“充塞天地”的“浩然之气”，以奠定“大丈夫”的人格基础。他认为人要想担负得起“天降大任”，必须经过困苦和磨难，“苦其心志，劳其体肤”，这样方能完善“富贵不能淫，贫贱不能移，威武不能屈”的大丈夫的人格。

在指导学生学习方面，孟子主张自求自得，经过刻苦思辨，以通于心，这样才能在致用时左右逢源。他强调专心致志的必要性，认为一心不可二用，学习必须有恒，不可半途而废。

《孟子》是对《论语》一书的析解阐发，是探索《论语》以及孔子思想学说的门径。孟子被后世尊为“亚圣”，与孔子并称。而载着“孔

孟之道”的《孟子》一书，与《论语》一样，对中国两千余年的文化教育造成了深刻的影响。

## 公孙丑上<sup>①</sup>

公孙丑问曰：“夫子当路于齐<sup>②</sup>，管仲、晏子之功<sup>③</sup>，可复许乎<sup>④</sup>？”

孟子曰：“子诚齐人也，知管仲、晏子而已矣。或问乎曾西曰：‘吾子与子路孰贤？’曾西蹴然曰<sup>⑤</sup>：‘吾先子之所畏也<sup>⑥</sup>。’曰：‘然则吾子与管仲孰贤？’曾西赧然不悦，曰：‘尔何曾比予于管仲<sup>⑦</sup>？管仲得君如彼其专也<sup>⑧</sup>，行乎国政如彼其久也，功烈如彼其卑也<sup>⑨</sup>。尔何曾比予于是？’”曰：“管仲，曾西之所不为也，而子为我愿之乎<sup>⑩</sup>？”

曰：“管仲以其君霸，晏子以其君显。管仲、晏子犹不足为与？”

曰：“以齐王，由反手也。”

曰：“若是，则弟子之惑滋甚。且以文王之德，百年而后崩，犹未洽于天下<sup>⑪</sup>；武王、周公继之，然后大行。今言王若易然，则文王不足法与？”

曰：“文王何可当也？由汤至于武丁，贤至之君六、七作<sup>⑫</sup>，天下归殷久矣，久则难变也。武丁朝诸侯，有天下，犹运之掌也。纣之去武丁未久也，其故家遗俗，流风善政，犹有存者；又有微子、微仲、王子比干、箕子、胶鬲（gé 隔）皆贤人也，相与辅相之，故久而后失之也。尺地，莫非其有也；一民，莫非其臣也；然而文王犹方百里起，是以难也。

“齐人有言曰：‘虽有智慧，不如乘势，虽有镃基<sup>⑬</sup>，不如待时。’今时则易然也。夏后、殷、周之盛，地未有过千里者也，而齐有其地矣；鸡鸣狗吠相闻，而达乎四境，而齐有其民矣。地不改辟矣，民不改聚矣，行仁政而王，莫之能御也。且王者之不作，未有疏于此时者也；民之憔悴于虐政，未有甚于此时者也。饥者易为食，渴者易为饮。孔

子曰：‘德之流行<sup>⑭</sup>，速于置邮而传命<sup>⑮</sup>。’当今之时，万乘之国行仁政，民之悦之，犹解倒悬也。故事半古之人，功必倍之，惟此时为然。”

公孙丑问曰：“夫子加齐之卿相<sup>⑯</sup>，得行道焉，虽由此霸王，不异矣。如此，则动心否乎？”

孟子曰：“否。我四十不动心。”

曰：“若是，则夫子过孟贲远矣。”

曰：“是不难，告子先我不动心。”

曰：“不动心有道乎？”

曰：“有。北宫黝之养勇也：不肤桡<sup>⑰</sup>，不目逃<sup>⑱</sup>，思以一豪挫于人<sup>⑲</sup>，若挞之于市朝；不受于褐宽博<sup>⑳</sup>，亦不受于万乘之君；视刺万乘之君，若刺褐夫；无严诸侯<sup>㉑</sup>，恶声至，必反之。孟施舍之所养勇也，曰：‘视不胜犹胜也；量敌而后进，虑胜而后会，是畏三军者也。舍岂能为必胜哉？能无惧而已矣。’孟施舍似曾子，北宫黝似子夏。夫二子之勇，未知其孰贤，然而孟施舍守约也<sup>㉒</sup>。昔者曾子谓子襄曰：‘子好勇乎？吾尝闻大勇于夫子矣：自反而不缩<sup>㉓</sup>，虽褐宽博，吾不耄焉；自反而缩，虽千万人，吾往矣。’孟施舍之守气，又不如曾子之守约也。”

曰：“敢问夫子之不动心与告子之不动心，可得闻与？”

“告子曰：‘不得于言，勿求于心；不得于心，勿求于气。’不得于心，勿求于气，可；不得于言，勿求于心，不可。夫志，气之帅也。气，体之充也。夫志至焉，气次焉。故曰：‘持其志，无暴其气<sup>㉔</sup>。’”

“既曰‘志至焉，气次焉’，又曰‘持其志，无暴其气’，何也？”

曰：“志壹则动气<sup>㉕</sup>，气壹则动志也。今夫蹶者趋者<sup>㉖</sup>，是气也，而反动其心。”

“敢问夫子恶乎长？”

曰：“我知言，我善养吾浩然之气<sup>㉗</sup>。”

“敢问何谓浩然之气？”

曰：“难言也。其为气也，至大至刚，以直养而无害，则塞于天地之间。其为气也，

配义与道；无是，馁也<sup>②⑧</sup>。是集义所生者，非义袭而取之也<sup>②⑨</sup>。行有不慊于心，则馁矣。我故曰，告子未尝知义，以其外之也<sup>③①</sup>。必有事焉，而勿正<sup>③②</sup>；心勿忘，勿助长也。无若宋人然；宋人有闵其苗之不长而揠之者，芒芒然归<sup>③③</sup>谓其人曰：‘今日病矣<sup>③④</sup>！予助苗长矣！’其子趋而往视之，苗则槁矣。天下之不助苗长者寡矣。以为无益而舍之者，不耘苗者也；助之长者，揠苗者也，非徒无益，而又害之。”

“何谓知言？”

曰：“波辞知其所蔽<sup>③⑤</sup>，淫辞知其所陷<sup>③⑥</sup>，邪辞知其所离<sup>③⑦</sup>，遁辞知其所穷<sup>③⑧</sup>。生于其心，害于其政；发于其政，害于其事。圣人复起，必从吾言矣。”

“宰我、子贡善为说辞，冉牛、闵子、颜渊善言德行。孔子兼之，曰：‘我于辞命<sup>③⑨</sup>，则不能也。’然则夫子既圣矣乎？”

曰：“恶<sup>④①</sup>！是何言也！昔者子贡问于孔子曰：‘夫子圣矣乎？’孔子曰：‘圣则吾不能，我学不厌而教不倦也。’子贡曰：‘学不厌，智也；教不倦，仁也。仁且智，夫子既圣矣。’夫圣，孔子不居。——是何言也？”

“昔者窃闻之：子夏、子游、子张皆有圣人之一体<sup>④②</sup>，冉牛、闵子、颜渊则具体而微<sup>④③</sup>。敢问所安。”

曰：“姑舍是。”

曰：“伯夷、伊尹何如？”

曰：“不同道。非其君不事，非其民不使；治则进，乱则退，伯夷也。何事非君，何使非民；治亦进，乱亦进，伊尹也。可以仕则仕，可以止则止，可以久则久，可以速则速，孔子也。皆古圣人也，吾未能有行焉；乃所愿，则学孔子也。”

“伯夷、伊尹于孔子，若是班乎<sup>④④</sup>？”

曰：“否。自有生民以来，未有孔子也。”

曰：“然则有同与？”

曰：“有。得百里之地而君之，皆能以朝诸侯，有天下；行一不义，杀一不辜，而得天下，皆不为也。是则同。”

曰：“敢问其所以异。”

曰：“宰我、子贡、有若，智足以知圣人，汙不至阿其所好<sup>④⑤</sup>。宰我曰：‘以予观于夫子，贤于尧、舜远矣。’子贡曰：‘见其礼而知其政，闻其乐而知其德，由百世之后，等百世之王，莫之能违也。自生民以来，未有夫子也。’有若曰：‘岂惟民哉？麒麟之于走兽，凤凰之于飞鸟，太山之于丘垤<sup>④⑥</sup>，河海之于行潦<sup>④⑦</sup>，类也。圣人之于民，亦类也。出于其类，拔乎其萃，自生民以来，未有盛于孔子也。’”

孟子曰：“仁则荣，不仁则辱。今恶辱而居不仁，是犹恶湿而居下也。如恶之，莫如贵德而尊士，贤者在位，能者在职；国家闲暇，及是时，明其政刑，虽大国必畏之矣。《诗》云：‘迨天之未阴雨<sup>④⑧</sup>，彻彼桑土，绸繆牖户<sup>④⑨</sup>。’今此下民，或敢侮予？”孔子曰：“为此诗者，其知道乎！能治其国家，谁敢侮之？”今国家闲暇，及是时，般乐怠敖<sup>⑤①</sup>，是自求祸也。祸福无不自己求之者。《诗》云：‘永言配命，自求多福。’《太甲》曰：‘天作孽，犹可违；自作孽，不可活。’此之谓也。”

孟子曰：“尊贤使能，俊杰在位，则天下之士皆悦，而愿立于其朝矣；市，廛而不征<sup>⑤②</sup>，法而不廛<sup>⑤③</sup>，则天下之商皆悦，而愿藏于其市矣；关，讥而不征<sup>⑤④</sup>，则天下之旅皆悦，而愿出于其路矣；耕者，助而不税<sup>⑤⑤</sup>，则天下之农皆悦，而愿耕于其野矣；廛<sup>⑤⑥</sup>，无夫里之布<sup>⑤⑦</sup>，则天下之民皆悦，而愿为之氓矣<sup>⑤⑧</sup>。信能行此五者，则邻国之民仰之若父母矣。率其子弟，攻其父母，自有生民以来未有能济者也。如此，则无敌于天下。无敌于天下者，天吏也。然而不王者，未之有也。”

孟子曰：“人皆有不忍人之心<sup>⑤⑨</sup>。先王有不忍人之心，斯有不忍人之政矣。以不忍人之心，行不忍人之政，治天下可运之掌上。所以谓人皆有不忍人之心者，今人乍见孺子将入于井，皆有怵惕惻隐之心——非所以内交于孺子之父母也，非所以要誉于乡党朋友

也<sup>⑤</sup>，非恶其声而然也。由是观之：无惻隐之心，非人也；无是非之心，非人也。惻隐之心，仁之端也；羞恶之心，义之端也；辞让之心，礼之端也；是非之心，智之端也。人之有是四端也，犹其有四体也。有是四端而自谓不能者，是贼者也；谓其君不能者，贼其君者也。凡有四端于我者，知皆扩而充之矣，若火之始然<sup>⑥</sup>，泉之始达<sup>⑦</sup>。苟能充之，足以保四海；苟不充之，不足以事父母。”

孟子曰：“矢人岂不仁于函人哉<sup>⑧</sup>？矢人惟恐不伤人，函人惟恐伤人。巫、匠亦然<sup>⑨</sup>。故术不可不慎也<sup>⑩</sup>。孔子曰：‘里仁为美<sup>⑪</sup>。择不处仁，焉得智？’夫仁，天之尊爵也，人之安宅也。莫之御而不仁，是不智也。不仁、不智、无礼、无义，人役也。人役而耻为役，由弓人而耻为弓，矢人而耻为矢也。如耻之，莫如为仁。仁者如射：射者正己而后发；发而不中，不怨胜己者，反求诸己而已矣。”

孟子曰：“子路，人告之以有过，则喜。禹闻善言，则拜。大舜有大焉<sup>⑫</sup>，善与人同<sup>⑬</sup>，舍己从人，乐取于人以为善。自耕稼、陶、渔以至为帝，无非取于人者。取诸人以为善，是与人为善者也。故君子莫大乎与人为善。”

孟子曰：“伯夷，非其君，不事；非其友，不友。不立于恶人之朝，不与恶人言；立于恶人之朝，与恶人言，如以朝衣朝冠坐于涂炭。推恶恶之心，思与乡人立，其冠不正，望望然去之<sup>⑭</sup>，若将浼焉<sup>⑮</sup>。是故诸侯虽有善其辞命而至者，不受也。不受也者，是亦不屑就已。柳下惠不羞污君，不卑小官；进不隐贤，必以其道；遗佚而不怨，厄穷而不悯。故曰：‘尔为尔，我为我，虽袒裼裸裎于我侧<sup>⑯</sup>，尔焉能浼我哉？’故由由然与之偕而不自失焉<sup>⑰</sup>，援而止之而止。援而止之而止者，是亦不屑去已。”孟子曰：“伯夷隘<sup>⑱</sup>，柳下惠不恭<sup>⑲</sup>。隘与不恭，君子不由也。”

## 公孙丑下第四

孟子曰：“天时不如地利，地利不如人和。三里之城，七里之郭，环而攻之而不胜。夫环而攻之，必有得天时者矣；然而不胜者，是天时不如地利也。城非不高也，池非不深也，兵革非不坚利也，米粟非不多也；委而去之<sup>①</sup>，是地利不如人和也。故曰：域民不以封疆之界，固国不以山谿之险<sup>②</sup>，威天下不以兵革之利。得道者多助，失道者寡助。寡助之至，亲戚畔之；多助之至，天下顺之。以天下之所顺，攻亲戚之所畔；故君子有不战，战必胜矣。”

孟子将朝王，王使人来曰：“寡人如就见者也<sup>③</sup>，有寒疾，不可以风<sup>④</sup>。朝将视朝，不识可使寡人得见乎？”

对曰：“不幸而有疾，不能造朝。”

明日，出吊于东郭氏。公孙丑曰：“昔者辞以病，今日吊，或者不可乎？”

曰：“昔者疾，今日愈，如之何不吊？”

王使人问疾，医来。

孟仲子对曰：“昔者有王命，有采薪之忧<sup>⑤</sup>，不能造朝。今病小愈，趋造于朝，我不识能至否乎？”

使数人要于路，曰：“请必无归，而造于朝！”

不得已而之景丑氏宿焉。

景子曰：“内则父子，外则君臣，人之大伦也。父子主恩，君臣主敬。丑见王之敬子也，未见所以敬王也。”

曰：“恶！是何言也！齐人无以仁义与王言者，岂以仁义为不美也？其心曰‘是何足与言仁义也’云尔，则不敬莫大乎是。我非尧舜之道不敢以陈于王前，故齐人莫如我敬王也。”

景子曰：“否，非此之谓也。礼曰：父召无诺<sup>⑥</sup>，君命召，不俟驾<sup>⑦</sup>。固将朝也，闻王命而遂不果，宜与夫礼若不相似然。”

曰：“岂谓是与？曾子曰：‘晋、楚之富，

不可及也。彼以其富，我以吾仁；彼以其爵，我以吾义；吾何谦乎哉<sup>⑦</sup>？夫岂不义而曾子言之？是或一道也。天下有达尊三<sup>⑧</sup>：爵一，齿一<sup>⑨</sup>，德一。朝廷莫如爵，乡党莫如齿，辅世长民莫如德<sup>⑩</sup>。恶得有一以慢其二哉？故将大有为之君，必有所不召之臣，欲有谋焉，则就之。其尊德乐道不如是，不足与有为也。故汤之于伊尹，学焉而后臣之，故不劳而王；桓公之于管仲，学焉而后臣之，故不劳而霸。今天下地丑德齐<sup>⑪</sup>，莫能相尚<sup>⑫</sup>，无他，好臣其所教，而不好臣其所受教。汤之于伊尹，桓公之于管仲，则不敢召，管仲且犹不可召，而况不为管仲者乎？”

陈臻问曰：“前日于齐，王馈兼金一百而不受<sup>⑬</sup>；于宋馈七十镒而受；于薛，馈五十镒而受。前日之不受是，则今日之受非也；今日之受是，则前日之不受非也。夫子必居一于此矣。”

孟子曰：“皆是也。当在宋地，予将有远行，行者必以赍<sup>⑭</sup>，辞曰：‘赍赍。’予何为不受？当在薛也，予有戒心，辞曰：‘闻戒，故为兵赍之。’予何为不受？若于齐，则未有处也<sup>⑮</sup>。无处而赍之，是货之也<sup>⑯</sup>。焉有君子而可以货取乎？”

孟子之平陆，谓其大夫曰：“子之持戟之士，一日而三失伍<sup>⑰</sup>，则去之否乎？”

曰：“不待三。”

“然则子之失伍也亦多矣。凶年饥岁，子之民老羸转于沟壑、壮者散而之四方者，几千人矣。”

曰：“此非距心之所得为也<sup>⑱</sup>。”

曰：“今有受人之牛羊而为之牧之者，则必为之求牧与刍矣。求牧与刍而不得，则反诸其人乎？抑亦立而视其死与？”

曰：“此则距心之罪也。”

他日，见于王，曰：“王之为都者，臣知五人焉。知其罪者，惟孔距心。”为王诵之<sup>⑲</sup>。

王曰：“此则寡人之罪也。”

孟子谓蚳蛙曰：“子之辞灵丘而请士师，

似也，为其可以言也。今既数月矣，未可以言与？”

蚳蛙谏于王而不用，致为臣而去<sup>⑳</sup>。

齐人曰：“所以为蚳蛙则善矣；所以自为，则吾不知也。”

公都子以告。

曰：“吾闻之也：有官守者<sup>㉑</sup>，不得其职则去；有言责者，不得其言则去。我无官守，我无言责也，则吾进退，岂不绰绰然有余裕哉？”

孟子为卿于齐，出吊于滕，王使盖大夫王欢为辅行。王欢朝暮见，反齐滕之路<sup>㉒</sup>，未尝与之言行事也。

公孙丑曰：“齐卿之位，不为小矣，齐滕之路，不为近矣，反之而未尝与言行事，何也？”

曰：“夫既或治之<sup>㉓</sup>，予何言哉？”

孟子自齐葬于鲁<sup>㉔</sup>，反于齐，止于嬴。

充虞请曰：“前日不知虞之不肖，使虞敦匠事<sup>㉕</sup>，严，虞不敢请。今愿窃有请也：木若以美然<sup>㉖</sup>。”

曰：“古者棺槨无度，中古棺七寸，槨称之<sup>㉗</sup>。自天子达于庶人，非直为观美也，然后尽于人心。不得，不可以为悦<sup>㉘</sup>；无财，不可以为悦。得之为有财<sup>㉙</sup>，古之人皆用之，吾何为独不然？且比化者无使土亲肤<sup>㉚</sup>，于人心独无悦乎<sup>㉛</sup>？吾闻之也：君子不以天下俭其亲<sup>㉜</sup>。”

沈同以其私问曰<sup>㉝</sup>：“燕可伐与？”

孟子曰：“可。子哙（kuài 快）不得与人燕<sup>㉞</sup>。子之不得受燕于子哙<sup>㉟</sup>。有仕于此<sup>㊱</sup>，而子悦之，不告于王而私与之吾子之禄爵；夫士也，亦无王命而私受之于子，则可乎？——何以异于是？”

齐人伐燕。

或问曰：“劝齐伐燕，有诸？”

曰：“未也。沈同问：‘燕可伐与？’吾应之曰：‘可。’彼然而伐之也。彼如曰：‘孰可以伐之？’则将应之曰：‘为天吏<sup>㊲</sup>，则可以伐之。’今有杀人者，或问之曰：‘人可杀与？’则将应

之曰：‘可。’彼如曰：‘孰可以杀之？’则将应之曰：‘为士师<sup>⑩</sup>，则可以杀之。’今以燕伐燕，何为劝之哉？”

燕人畔。王曰：“吾甚惭于孟子。”

陈贾曰：“王无患焉。王自以为与周公孰仁且智？”

王曰：“恶！是何言也！”

曰：“周公使管叔监殷，管叔以殷畔。知而使之，是不仁也；不知而使之，是不智也。仁智，周公未之尽也，而况于王乎？贾请见而解之。”

见孟子，问曰：“周公何人也？”

曰：“古圣人也。”

曰：“使管叔监殷，管叔以殷畔也，有诸？”

曰：“然。”

曰：“周公知其将畔而使之与？”

曰：“不知也。”

“然则圣人且有过与？”

曰：“周公，弟也；管叔，兄也。周公之过，不亦宜乎？且古之君子，过则改之；今之君子，过则顺之。古之君子，其过也，如日月之食<sup>⑪</sup>，民皆见之。及其更也，民皆仰之。今之君子，岂徒顺之，又从为之辞。”

孟子致为臣而归。王就见孟子，曰：“前日愿见而不可得，得待同朝，甚喜。今又弃寡人而归，不识可以继此而得见乎？”

对曰：“不敢请耳，固所愿也。”

他日，王谓时子曰：“我欲中国而授孟子室，养弟子以万钟，使诸大夫国人皆有所矜式<sup>⑫</sup>。子盍为我言之！”

时子因陈子而以告孟子，陈子以时子之言告孟子。

孟子曰：“然，夫时子恶知其不可也。如使予欲富，辞十万而受万，是为欲富乎？季孙曰：‘异哉子叔疑！使己为政，不用，则亦已矣，又使其子弟为卿。’人亦孰不欲富贵？而独于富贵之中有私龙断焉<sup>⑬</sup>！古之为市也，以其所有易其所无者，有司者治之耳。有贱丈夫焉，必求龙断而登之，以左右望，而罔市利<sup>⑭</sup>。人皆以为贱，故从而征之。征

商自此贱丈夫始矣。”

孟子去齐，宿于昼<sup>⑮</sup>。有欲为王留行者，坐而言，不应，隐几而卧。

客不悦曰：“弟子齐宿而后敢言<sup>⑯</sup>，夫子卧而不听，请勿复敢见矣。”

曰：“坐！我明语子。昔者鲁缪公无人乎子思之侧，则不能安子思<sup>⑰</sup>；泄柳、申详无人乎缪公之侧，则不能安其身。子为长者虑，而不及子思。子绝长者乎？长者绝子乎？”

孟子去齐。尹士语人曰：“不识王之不可以为汤、武，则是不明也；识其不可，然且至，则是干泽也<sup>⑱</sup>。千里而见王，不遇故去，三宿而后出昼，是何濡滞也<sup>⑲</sup>？士则兹不悦。”

高子以告。

曰：“夫尹士恶知予哉？千里而见王，是予所欲也；不遇故去，岂予所欲哉？予不得已也。予三宿而出昼，于予心犹以为速。王庶几改之，王如改诸，则必反予。夫出昼而王不予追也，予然后浩然有归志<sup>⑳</sup>。予虽然，岂舍王哉？王由足用为善<sup>㉑</sup>。王如用予，则岂徒齐民安，天下之民举安。王庶几改之，予日望之！予岂若是小丈夫然哉？谏于其君而不受则怒，悻悻然见于其面，去则穷日之力而后宿哉？”

尹士闻之，曰：“士诚小人也。”

孟子去齐。充虞路问曰：“夫子若有不豫色然。前日虞闻诸夫子曰：‘君子不怨天，不尤人。’”

曰：“彼一时，此一时也。五百年必有王者兴，其间必有名世者。由周而来，七百有余岁矣。以其数，则过矣；以其时考之，则可矣。夫天未欲平治天下也，如欲平治天下，当今之世，舍我其谁也？吾何为不豫哉？”

孟子去齐，居休<sup>㉒</sup>。公孙丑问曰：“仕而不受禄，古之道乎？”

曰：“非也。于崇<sup>㉓</sup>，吾得见王，退而有去志，不欲变，故不受也。继而有师命<sup>㉔</sup>，不可以请。久于齐，非我志也。”

## 滕文公上第五

滕文公为世子，将之楚，过宋而见孟子。  
孟子道性善，言必称尧舜。

世子自楚反，复见孟子。孟子曰：“世子疑吾言乎？夫道一而已矣。成覿（jiàn 见）谓齐景公曰：‘彼，丈夫也，我，丈夫也，吾何畏彼哉？’颜渊曰：‘舜，何人也，予，何人也，有为者亦若是。’公明仪曰：‘文王，我师也，周公岂欺我哉？’今滕，绝长补短，将五十里也，犹可以为善国。《书》曰：‘若药不瞑眩<sup>①</sup>，厥疾不瘳<sup>②</sup>。’”

滕定公薨，世子谓然友曰：“昔者孟子尝与我言于宋，于心终不忘。今也不幸至于大故，吾欲使子问于孟子，然后行事。”

然友之邹问于孟子。

孟子曰：“不亦善乎！亲丧，固所自尽也<sup>③</sup>。曾子曰：‘生，事之以礼，死，葬之以礼，祭之以礼，可谓孝矣。’诸侯之礼，吾未之学也。虽然，吾尝闻之矣。三年之丧，齐疏之服，饘粥之食<sup>④</sup>，自天子达于庶人，三代共之。”

然友反命，定为三年之丧。父兄百官皆不欲，曰：“吾宗国鲁先君莫之行，吾先君亦莫之行也，至于子之身而反之，不可。且《志》曰：‘丧祭从先祖’。”

曰：“吾有所受之也。”

谓然友曰：“吾他日未尝学问，好驰马试剑。今也父兄百官不我足也，恐其不能尽于大事。子为我问孟子。”

然友复之邹问孟子。

孟子曰：“然，不可以他求者也。孔子曰：‘君薨，听于冢宰，歠粥<sup>⑤</sup>，面深墨<sup>⑥</sup>，即位而哭<sup>⑦</sup>，百官有司，莫敢不哀，先之也。’上有好者，下必有甚焉者矣。‘君子之德，风也，小人之德，草也。草尚之风，必偃。’是在世子。”

然友反命。

世子曰：“然，是诚在我。”

五月居庐<sup>⑧</sup>，未有命戒<sup>⑨</sup>。百官族人可，谓曰知。及至葬，四方来观之，颜色之戚，哭泣之哀，吊者大悦。

滕文公问为国。

孟子曰：“民事不可缓也。《诗》云：‘昼尔于茅<sup>⑩</sup>，宵尔索綯<sup>⑪</sup>，亟其乘屋<sup>⑫</sup>，其始播百谷。’民之为道也<sup>⑬</sup>——有恒产者有恒心，无恒产者无恒心。苟无恒心，放辟邪侈，无不为已。及陷乎罪，然后从而刑之，是罔民也。焉有仁人在位罔民而可为也？是故贤君必恭俭礼下，取于民有制。阳虎曰：‘为富不仁矣，为仁不富矣。’

“夏后氏五十而贡<sup>⑭</sup>，殷人七十而助，周人百亩而彻，其实皆什一也。彻者，彻也<sup>⑮</sup>；助者，藉也<sup>⑯</sup>。龙子曰：‘治地莫善于助，莫善于贡。’贡者，按数岁之中以为常<sup>⑰</sup>。乐岁，粒米狼戾<sup>⑱</sup>，多取之而不为虐，则寡取之；凶年，粪其田而不足，则必取盈焉。为民父母，使民盼盼然<sup>⑲</sup>，将终岁勤动，不得以养其父母，又称贷而益之<sup>⑳</sup>，使老稚转乎沟壑，恶在其为民父母也？夫世禄，滕固行之矣。《诗》云：‘雨我公田，遂及我私。’惟助为有公田。由此观之，虽周亦助也。

“设为庠、序、学、校以教之。庠者，养也；校者，教也；序者，射也。夏曰校，殷曰序，周曰庠，学则三代共之，皆所以明人伦也。人伦明于上，小民亲于下。有王者起，必来取法，是为王者师也。《诗》云：‘周虽旧邦，其命惟新。’文王之谓也。子力行之，亦以新子之国。”

使毕战问井地<sup>㉑</sup>。

孟子曰：“子之君将行仁政，选择而使子，子必勉之！夫仁政，必自经界始<sup>㉒</sup>。经界不正，井地不钧，谷禄不平，是故暴君污吏必慢其经界。经界既正，分田制禄可坐而定也。

“夫滕，壤地褊小，将为君子焉，将为野人焉。无君子，莫治野人；无野人，莫养君子。请野九一而助，国中什一使自赋。卿以下必有圭田<sup>㉓</sup>，圭田五十亩，余夫二十五

亩。死徙无出乡，乡田同井，出入相友，守望相助，疾病相扶持，则百姓亲睦。方里而井，井九百亩，其中为公田。八家皆私百亩，同养公田；公事毕，然后敢治私事，所以别野人也。此其大略也；若夫润泽之，则在君与子矣。”

有为神农之言者许行，自楚之滕，踵门而告文公曰：“远方之人闻君行仁政，愿受一廛而为氓。”文公与之处<sup>⑭</sup>。其徒数十人，皆衣褐，捆屨织席以为食。

陈良之徒陈相与其弟辛，负耒耜而自宋之滕，曰：“闻君行圣人之政，是亦圣人也，愿为圣人氓。”

陈相见许行而大悦，尽弃其学而学焉。

陈相见孟子，道许行之言曰：“滕君，则诚贤君也；虽然，未闻道也。贤者与民并耕而食，饔飧而治<sup>⑮</sup>。今也，滕有仓廩府库，则是厉民而以自养也<sup>⑯</sup>，恶得贤？”

孟子曰：“许子必种粟而后食乎？”

曰：“然。”

“许子必织布而后衣乎？”

曰：“否。许子衣褐。”

“许子冠乎？”

曰：“冠。”

曰：“奚冠？”

曰：“冠素<sup>⑰</sup>。”

曰：“自织之与？”

曰：“否。以粟易之。”

曰：“许子奚为不自织？”

曰：“害于耕。”

曰：“许子以釜甑爨<sup>⑱</sup>，以铁耕乎<sup>⑲</sup>？”

曰：“然。”

“自为之与？”

曰：“否。以粟易之。”

“以粟易械器者，不为厉陶冶；陶冶亦以其械器易粟者，岂为厉农夫哉？且许子何不为陶冶，舍皆取诸其宫中而用之<sup>⑳</sup>？何为纷纷然与百工交易？何许子之不惮烦？”

曰：“百工之事，固不可耕且为也。”

“然则治天下独可耕且为与？有大人之

事，有小人之事。且一人之身而百工之所为备，如必自为而后用之，是率天下而路也<sup>㉑</sup>。故曰：或劳心，或劳力。劳心者治人，劳力者治于人；治于人者食人<sup>㉒</sup>，治人者食于人——天下之通义也。

“当尧之时，天下犹未平，洪水横流，泛滥于天下；草木畅茂，禽兽繁殖，五谷不登<sup>㉓</sup>，禽兽逼人，兽蹄鸟迹之道，交于中国。尧独忧之，举舜而敷治焉。舜使益掌火<sup>㉔</sup>，益烈山泽而焚之<sup>㉕</sup>，禽兽逃匿。禹疏九河，濬（yuè 月）济、漯而注诸海；决汝、汉，排淮、泗而注之江。然后，中国可得而食也。当是时也，禹八年于外，三过其门而不入，虽欲耕，得乎？”

“后稷教民稼穡，树艺五谷；五谷熟而民人育。人之有道也：饱食暖衣，逸居而无教，则近于禽兽。圣人有忧之，使契为司徒，教以人伦——父子有亲，君臣有义，夫妇有别，长幼有叙，朋友有信。放勋曰：‘劳之来之<sup>㉖</sup>，匡之直之<sup>㉗</sup>，辅之翼之<sup>㉘</sup>，使自得之，又从而振德之<sup>㉙</sup>。’圣人之忧民如此，而暇耕乎？”

“尧以不得舜为己忧、舜以不得禹、皋陶为己忧。夫以百亩之不易为己忧者<sup>㉚</sup>，农夫也。分人以财谓之惠，教人以善谓之忠，为天下得人谓之仁。是故以天下与人易，为天下得人难。孔子曰：‘大哉，尧之为君！惟天为大，惟尧则之，荡荡乎，民无能名焉<sup>㉛</sup>！’‘君哉，舜也！巍巍乎，有天下而不与焉！’尧、舜之治天下，岂无所用其心哉？亦不用于耕耳。”

“吾闻用夏变夷者，未闻变于夷者也。陈良，楚产也<sup>㉜</sup>，悦周公、仲尼之道，北学于中国。北方之学者，未能或之先也，彼所谓豪杰之士也。子之兄弟事之数十年，师死而遂倍之<sup>㉝</sup>。昔者，孔子没，三年之外，门人治任将归<sup>㉞</sup>，入揖于子贡，相向而哭，皆失声，然后归。子贡反，筑室于场，独居三年，然后归。他日，子夏、子张、子游以有若似圣人，欲以所事孔子事之，强曾子<sup>㉟</sup>。



曾子曰：‘不可。江、汉以濯之<sup>⑦</sup>，秋阳以暴之<sup>⑧</sup>，皓皓乎不可尚已<sup>⑨</sup>！’今也，南蛮鴟舌之人<sup>⑩</sup>，非先王之道；子倍子之师而学之，亦异于曾子矣！吾闻‘出于幽谷，迁于乔木’者，未闻下乔木而入于幽谷者。《鲁颂》曰：‘戎、狄是膺<sup>⑪</sup>，荆、舒是惩<sup>⑫</sup>。’周公方且膺之，子是之学，亦为不善变矣！”

“从许子之道，则市贾不贰<sup>⑬</sup>，国中无伪；虽使五尺之童适市，莫之或欺。布帛长短同，则贾相若；麻缕丝絮轻重同，则贾相若；五谷多寡同，则贾相若；屨大小同，则贾相若。”

曰：“夫物之不齐，物之情也——或相倍蓰<sup>⑭</sup>，或相什百<sup>⑮</sup>，或相千万。子比而同之<sup>⑯</sup>，是乱天下也。巨屨小屨同贾，人岂为之哉？从许子之道，相率而为伪者也，恶能治国家？”

墨者夷之因徐辟而求见孟子<sup>⑰</sup>。孟子曰：“吾固愿见，今吾尚病，病愈，我且往见，夷子不来。”

他日，又求见孟子。孟子曰：“吾今则可以见矣。不直<sup>⑱</sup>，则道不见，我且直之。吾闻夷子墨者，墨之治丧也，以薄为其道也<sup>⑲</sup>。夷子思以易天下<sup>⑳</sup>，岂以为非是而不贵也？然而夷子葬其亲厚，则是以所贱事亲也。”

徐子以告夷子。

夷子曰：“儒者之道，古之人若保赤子<sup>㉑</sup>。此言何谓也？之则以为爱无差等，施由亲始。”

徐子以告孟子。

孟子曰：“夫夷子信以为人之亲其兄之子为若亲其邻之赤子乎？彼有取尔也：赤子匍匐将入井，非赤子之罪也。且天之生物也，使之一本<sup>㉒</sup>，而夷子二本故也。盖前世尝有不葬其亲者，其亲死，则举而委之于壑。他日过之，狐狸食之，蝇蚋姑嘬之<sup>㉓</sup>，其颡有泚<sup>㉔</sup>，睨而不视<sup>㉕</sup>。夫泚也，非为人泚，中心达于面目。盖归反藁槨而掩之<sup>㉖</sup>。掩之诚是也，则孝子仁人之掩其亲，亦必有道矣。”

徐子以告夷子。夷子怍然<sup>㉗</sup>，为间<sup>㉘</sup>，曰：“命之矣<sup>㉙</sup>。”

## 滕文公下

陈代曰：“不见诸侯，宜若小然<sup>㉚</sup>。今一见之，大则以王，小则以霸，且《志》曰：‘枉尺而直寻<sup>㉛</sup>’，宜若可为也。”

孟子曰：“昔齐景公田，招虞人以旌<sup>㉜</sup>，不至，将杀之。志士不忘在沟壑<sup>㉝</sup>，勇士不忘丧其元<sup>㉞</sup>。孔子奚取焉？取非其招不往也。如不待其招而往，何哉？且夫枉尺而直寻者，以利言也。如以利，则枉寻直尺而利，亦可为与？昔者赵简子使王良与嬖奚乘<sup>㉟</sup>，终日而不获一禽。嬖奚反命曰：‘天下之贱工也<sup>㊱</sup>。’或以告王良。良曰：‘请复之。’强而后可，一朝而获十禽。嬖奚反命曰：‘天下之良工也。’简子曰：‘我使掌与女乘。’谓王良。良不可，曰：‘吾为之范我驰驱<sup>㊲</sup>，终日不获一；为之诡遇<sup>㊳</sup>，一朝而获十。《诗》云：‘不失其驰，舍矢如破<sup>㊴</sup>。’我不贯与小人乘，请辞。’御者且羞与射者比；比而得禽兽，虽苦丘陵，弗为也。如枉道而从彼，何也？且子过矣：枉己者，未有能直人者也。”

景春曰：“公孙衍、张仪岂不诚大丈夫哉？一怒而诸侯惧，安居而天下熄<sup>㊵</sup>。”

孟子曰：“是焉得为大丈夫乎？子未学礼乎？丈夫之冠也<sup>㊶</sup>，父命之；女子之嫁也，母命之，往送之门，戒之曰：‘往之女家<sup>㊷</sup>，必敬必戒，无违夫子<sup>㊸</sup>！’以顺为正者，妾妇之道也。居天下之广居，立天下之正位，行天下之大道；得志，与民由之，不得志，独行其道；富贵不能淫，贫贱不能移，威武不能屈，此之谓大丈夫。”

周霄问曰：“古之君子仕乎？”

孟子曰：“仕。传曰：‘孔子三月无君，则皇皇如也<sup>㊹</sup>，出疆必载质<sup>㊺</sup>。’公明仪曰：‘古之人三月无君，则吊<sup>㊻</sup>。’”

“三月无君则吊，不以急乎？”

曰：“士之失位也，犹诸侯之失国家也。《礼》曰：‘诸侯耕助，以供粢盛<sup>㊼</sup>；夫人蚕缫<sup>㊽</sup>，以为衣服。牺牲不成<sup>㊾</sup>，粢盛不絜<sup>㊿</sup>，

衣服不备，不敢以祭。惟士无田<sup>①</sup>，则亦不祭。牲杀、器皿、衣服不备，不敢以祭，则不敢以宴，亦不足吊乎？”

“出疆必载质，何也？”

曰：“士之仕也，犹农夫之耕也；农夫岂为出疆舍其耒耜哉？”

曰：“晋国亦仕国也，未尝闻仕如此其急。仕如此其急也，君子之难仕，何也？”

曰：“丈夫生而愿为之有室<sup>②</sup>，女子生而愿为之有家；父母之心，人皆有之。不待父母之命、媒妁之言<sup>③</sup>，钻穴隙相窥，踰墙相从，则父母国人皆贱之。古之人未尝不欲仕也，又恶不由其道。不由其道而往者，与钻穴隙之类也。”

彭更问曰：“后车数十乘，从者数百人，以传食于诸侯，不以泰乎<sup>④</sup>？”

孟子曰：“非其道，则一簞食不可受于人；如其道，则舜受尧之天下，不以为泰，子以为泰乎？”

曰：“否，士无事而食，不可也。”

曰：“子不通功易事<sup>⑤</sup>，以羨补不足<sup>⑥</sup>，则农有余粟，女有余布；子如通之，则梓、匠、轮、舆皆得食于子。于此有人焉，人则孝，出则悌，守先王之道，以待后之学者，而不得食于子，子何尊梓、匠、轮、舆而轻为仁义者哉？”

曰：“梓、匠、轮、舆，其志将以求食也。君子之为道也，其志亦将以求食与？”

曰：“子何以其志为哉？其有功于子，可食而食之矣。且子食志乎？食功乎？”

曰：“食志。”

曰：“有人于此，毁瓦画墁<sup>⑦</sup>，其志将以求食也，则子食之乎？”

曰：“否。”

曰：“然则子非食志也，食功也。”

万章问曰：“宋，小国也，今将行王政，齐、楚恶而伐之，则如之何？”

孟子曰：“汤居亳<sup>⑧</sup>，与葛为邻。葛伯放而不祀。汤使人问之曰：‘何为不祀？’曰：‘无以供牺牲也。’汤使遗之牛羊<sup>⑨</sup>。葛伯食之，

又不以祀。汤又使人问之曰：‘何为不祀？’曰：‘无以供粢盛也。’汤使亳众往为之耕，老弱馈食。葛伯率其民，要其有酒食黍稻者夺之，不授者杀之。有童子以黍肉饷<sup>⑩</sup>，杀而夺之。《书》曰：‘葛伯仇饷<sup>⑪</sup>。’此之谓也。为其杀是童子而征之，四海之内皆曰：‘非富天下也，为匹夫匹妇复讎也<sup>⑫</sup>。’‘汤始征，自葛载<sup>⑬</sup>。’十一征而无敌于天下。东面而征，西夷怨；南面而征，北狄怨，曰：‘奚为后我？’民之望之，若大旱之望雨也，归市者弗止，芸者不变<sup>⑭</sup>，诛其君，吊其民，如时雨降，民大悦。《书》曰：‘徯我后，后来其无罚<sup>⑮</sup>。’‘有攸不惟臣<sup>⑯</sup>，东征，绥厥士女<sup>⑰</sup>。匪厥玄黄<sup>⑱</sup>，绍我周王见休<sup>⑲</sup>，惟臣附于大邑周<sup>⑳</sup>。’其君子实玄黄于匪以迎其君子，其小人箠食壶浆以迎其小人。救民于水火之中，取其残而已矣<sup>㉑</sup>。《太誓》曰：‘我武惟扬，侵于之疆，则取于残，杀伐用张<sup>㉒</sup>，于汤有光<sup>㉓</sup>。’不行王政云尔，苟行王政，四海之内皆举首而望之，欲以为君；齐、楚虽大，何畏焉？”

孟子谓戴不胜曰：“子欲子之王之善与？我明告子。有楚大夫于此，欲其子之齐语也，则使齐人傅诸？使楚人傅诸？”

曰：“使齐人傅之。”

曰：“一齐人傅之，众楚人咻之<sup>㉔</sup>，虽日挞而求其齐也，不可得矣；引而置之庄岳之间数年<sup>㉕</sup>，虽日挞而求其楚，亦不可得矣。子谓薛居州，善士也，使之居于王所。在于王所者，长幼卑尊皆薛居州也，王谁与为不善？在王所者，长幼卑尊皆非薛居州也，王谁与为善？一薛居州，独如宋王何？”

公孙丑问曰：“不见诸侯何义？”

孟子曰：“古者不为臣不见。段干木踰垣而辟之<sup>㉖</sup>，泄柳闭门而不内<sup>㉗</sup>，是皆已甚；迫<sup>㉘</sup>，斯可以见矣。阳货欲见孔子而恶无礼。大夫有赐于士，不得受于其家，则往拜其门。阳货瞰孔子之亡也<sup>㉙</sup>，而馈孔子蒸豚；孔子亦瞰其亡也，而往拜之。当是时，阳货先，岂得不见？曾子曰：‘胁肩谄笑<sup>㉚</sup>，病于夏畦<sup>㉛</sup>。’子路曰：‘未同而言，观其色赧

赧然<sup>④</sup>，非由之所知也。’由是观之，则君子之所养，可知已矣。”

戴盈之曰：“什一，去关市之征，今兹未能，请轻之，以待来年，然后已，何如？”

孟子曰：“今有人日攘其邻之鸡者<sup>⑤</sup>，或告之曰：‘是非君子之道。’曰：‘请损之<sup>⑥</sup>，月攘一鸡，以待来年，然后已。’——如知其非义，斯速已矣，何待来年？”

公都子曰：“外人皆称夫子好辩，敢问何也？”

孟子曰：“予岂好辩哉？予不得已也！天下之生久矣，一治一乱。当尧之时，水逆行，泛滥于中国，蛇龙居之，民无所定；下者为巢，上者为营窟<sup>⑦</sup>。《书》曰：‘洚水警余<sup>⑧</sup>。’洚水者，洪水也。使禹治之。禹掘地而注之海，驱蛇龙而放之菹<sup>⑨</sup>；水由地中行，江、淮、河、汉是也。险阻既远，鸟兽之害人者消，然后人得平土而居之。

“尧舜既没，圣人之道衰，暴君代作，坏宫室以为污池，民无所安息，弃田以为园囿，使民不得衣食。邪说暴行又作，园囿、污池、沛泽多而禽兽至。及纣之身，天下又大乱。周公相武王诛纣，伐奄三年讨其君，驱飞廉于海隅而戮之<sup>⑩</sup>。灭国者五十，驱虎、豹、犀、象而远之，天下大悦。《书》曰：‘丕显哉<sup>⑪</sup>，文王谟<sup>⑫</sup>！丕承者，武王烈<sup>⑬</sup>！佑启我后人，咸以正无缺<sup>⑭</sup>。’

“世衰道微，邪说暴行有作，臣弑其君者有之，子弑其父者有之。孔子惧，作《春秋》。《春秋》，天子之事也。是故孔子曰：‘知我者其惟《春秋》乎！罪我者其惟《春秋》乎！’

“圣王不作，诸侯放恣，处士横议<sup>⑮</sup>，杨朱、墨翟之言盈天下。天下之言不归杨，则归墨。杨氏为我，是无君也；墨氏兼爱，是无父也。无父无君，是禽兽也。公明仪曰：‘庖有肥肉，厩有肥马，民有饥色，野有饿莩，此率兽而食人也！’杨墨之道不息，孔子之道不著，是邪说诬民，充塞仁义也。仁义充塞，则率兽食人，人将相食。吾为此惧，闲先圣之道<sup>⑯</sup>，距杨墨<sup>⑰</sup>，放淫辞<sup>⑱</sup>，邪说者不得作。

作于其心，害于其事；作于其事，害于其政。圣人复起，不易吾言矣。

“昔者禹抑洪水而天下平；周公兼夷狄，驱猛兽而百姓宁；孔子成《春秋》而乱臣贼子惧。《诗》云：‘戎狄是膺，荆舒是惩，则莫我敢承。’无父无君，是周公所膺也。我亦欲正人心，息邪说，距诐行<sup>⑲</sup>，放淫辞，以承三圣者。岂好辩哉？予不得已也。能言距杨、墨者，圣人之徒也。”

匡章曰：“陈仲子岂不诚廉士哉？居於陵，三日不食，耳无闻，目无见也。井上有李，蠹食实者过半矣<sup>⑳</sup>，匍匐往，将食之，三咽，然后耳有闻目有见。”

孟子曰：“于齐国之士，吾必以仲子为巨擘焉<sup>㉑</sup>。虽然，仲子恶能廉？充仲子之操，则蚓而后可者也。夫蚓，上食槁壤，下饮黄泉。仲子所居之室，伯夷之所筑与？抑亦盗跖之所筑与？所食之粟，伯夷之所树与？抑亦盗跖之所树与？是未可知也。”

曰：“是何伤哉？彼身织屦，妻辟纆<sup>㉒</sup>，以易之也。”

曰：“仲子，齐之世家也；兄戴，盖禄万钟；以兄之禄为不义之禄而不食也，以兄之室为不义之室而不居也，辟兄离母，处于於陵。他日归，则有馈其兄生鹅者，己频顾曰<sup>㉓</sup>：‘恶用是觝觝者为哉<sup>㉔</sup>？’他日，其母杀是鹅也，与之食之。其兄自外至，曰：‘是觝觝之肉也。’出而哇之<sup>㉕</sup>。以母则不食，以妻则食之；以兄之室则弗居，以於陵则居之，是尚为能充其类也乎？若仲子者，蚓而后充其操者也。”

#### 注释：

- ①《孟子》取篇首两三字为篇名。 ②当路：当权。 ③功：功业。 ④许：兴。 ⑤蹷然：不安的样子。 ⑥先子：对已故尊长的称呼。此处曾西是在称呼自己的父亲曾参。畏：敬服。 ⑦曾（zēng 增）：竟。 ⑧得君：得到君上的信任。专：专注，专一。 ⑨功烈：功业。 ⑩为：认为。 ⑪治：周遍，普及。 ⑫作：兴起。 ⑬磁基：锄头。 ⑭德：德政。 ⑮置、邮：传达政令、信函。

的驿使。⑩加：通“居”。⑪不肤挠：不因体肤受创伤而退缩。挠：挠。⑫不目逃：（刀剑）刺向眼睛也不躲避。⑬豪：同“毫”。⑭褐宽博：穿着宽大粗布衣的穷人。受：受辱。⑮严：畏惧。⑯守约：得法。⑰缩：理直。⑱暴：损害。⑲查：通“窒”，阻塞不畅。⑳蹶、趋：因走得急而跌跌撞撞。㉑浩然：盛大的样子。㉒馁：空虚无力。㉓袭：承接。㉔外之：当作内心之外的手段。㉕正：同“止”。㉖芒芒然：很疲倦的样子。㉗病：劳累。㉘波：偏激。㉙淫：过份的。陷：失误。㉚离：离经叛道。㉛遁：隐讳。㉜命：令。㉝恶（wū 乌）：惊叹词。㉞一体：一部分。㉟具体而微：具有全体，规模较小。㊱班：等同。㊲汙：低下。㊳丘垤（diè 叠）：小土堆。㊴行潦：路上积水。㊵殆：趁。㊶绸缪：修补。牖：窗。㊷般（pán 盘）乐：玩乐。怠：怠惰。敖：同“遨”，四处旅乐。㊸廛：储货场地。此处指提供储货场地。征：征税。㊹法而不廛：国家作出规定价格收买货物不让它积压。㊺讥：盘查。㊻税：实行税亩制。㊼廛：百姓居所。㊽夫、里之布：夫役、宅税。㊾氓：从他国迁来的居民。㊿不忍：不忍伤害。①要：同“邀”。②然：借作“燃”。③达：涌。④矢人：造箭矢的工匠。函人：造铠甲的工匠。⑤巫、匠：给人治病的巫医和做棺木的木匠（希望人们患病、死亡）。⑥术：职业。⑦里仁：自居于仁。里：居住。⑧有：同“又”。⑨善：行善事。⑩望望然：不高兴的样子。⑪浼（měi 每）：沾污。⑫袒裼：露臂。裸程：露身。⑬由由然：高兴的样子。⑭隘：狭隘，气量小。⑮恭：严肃慎重。⑯委弃。⑰谿：同“溪”，指河流。⑱就见：前去会面。⑲风：受风着凉。⑳采薪之忧：代指疾病。㉑诺：漫应。㉒俟：等待。驾：马车。㉓慊：恨，不满。㉔达尊：共同尊崇的。㉕齿：年龄。㉖长民：为民之长。㉗丑：相当，等同。㉘尚：胜过。㉙兼金：质优价高的金。㉚赍：礼金。㉛处：因由。㉜货：收买。㉝失伍：旷职。伍：班次。㉞距心：平陆大夫，姓孔名距心。㉟诵：复述。㊱致为臣：依礼辞官。

③官守：官职。④反：往返。⑤既或治之：既然他已把事情办完了。⑥自齐葬于鲁：孟子到齐国，孟母同往，死在齐国，孟子送回鲁国安葬。⑦敦匠事：请木匠做棺材。严：紧急。⑧木若以美然：棺木象是过于讲究了吧。以：太，过。⑨称之：与之相当。⑩悦：心安，痛快。⑪为：与。⑫比：那。化者：死者。古人称死为物化。亲肤：接近尸体。⑬校：快慰。⑭天下：指天下人的非议。俭其亲：在父母的葬礼上节省钱财。⑮私：私人身份。⑯子晦：燕国国君，禅位于燕相子之。⑰子之：燕国宰相，后受禅为燕国国君。⑱仕：通“士”。⑲天吏：周王的官吏。⑳士师：司法官吏。㉑食：蚀。㉒矜式：尊崇效法。㉓龙断：独立的绝冈。意为独占利益。㉔罔：同“网”。包揽。㉕昼：齐地名。㉖齐宿：提前一天斋戒。㉗安：留住。㉘干泽：求恩泽。㉙濡滞：迟留。㉚浩然：水流盛大不可遏止的样子。㉛由：同“犹”。足用：足以。㉜休：地名。㉝崇：地名。㉞师命：犹“命师”，战事。㉟瞑眩：令人头昏眼花。㊱瘳：愈。㊲自尽：自己尽心。㊳饔（zhān）：稠粥。㊴馔（chuò）饮。㊵深墨：面色阴沉。㊶位：丧礼的位次。㊷庐：守孝的房舍。㊸戒：训导，指令。㊹尔：虚词。于茅：去割草。㊺索绹：搓绳。㊻亟：急。乘屋：上房顶修理。㊼为：有。㊽贡：贡赋。下文的“助”、“彻”也有此义。㊾彻：收缴。㊿藉：凭借。①校：同“校”，核算。②狼戾：狼藉，形容多而散乱。③盼盼：形容勤苦不息。④称：举。称贷：借贷。益：凑足。⑤井地：井田。⑥经界：井田的疆界，代指井田制度。⑦圭田：祭田。⑧处：住所。⑨饔飧：早饭、晚饭。饔飧以治：一面自己做饭，一面治理国家。⑩厉：损害。⑪素：用生丝织成的绢。⑫甑（zèng）：瓦制饮具。爨（cuàn）：生火煮饭。⑬铁：铁器。⑭宫：室。⑮路：赶路，奔走。⑯食：供养。⑰登：谷物成熟。⑱益：人名。⑲烈：燃火。⑳劳：犒劳。来：同“徕”，招抚。㉑匡：匡正。直：纠正。㉒翼：保护。㉓振：同“赈”。德：施恩。㉔易：治。㉕名：名状，形容。㉖产：

出生。①⑥倍：同“背”，叛。①⑨治任：收拾行李。①⑥强：力劝。①⑦濯：洗。①⑦暴：同“爆”，晒。①⑦皓皓：洁白貌。尚：超越。①⑦鸱古：伯劳鸟的鸣叫。喻人言恶毒。①⑦戎、狄：边地少数民族。膺：攻打。①⑦荆、舒：楚国及其属国。惩：惩罚。①⑦贾：同“价”价格、价钱。①⑦蓰：五倍。①⑦什百：十倍、百倍。①⑦比：并列。①⑦墨：墨家学派。①⑦直：直言、直说。①⑦薄：指薄葬。①⑦易：变化、改变。①⑦赤子：婴儿。①⑦本：本源、本体。①⑦囓(zuō)：咬、噬。①⑦颞：额头。①⑦睨：斜视。①⑦藁(léi)：古代盛土的器具。①⑦怏然：惆怅失意的样子。①⑦为间：有间、有空。①⑦命：受命、领教。①⑦宜若：似乎、好象。①⑦枉：弯曲。①⑦旌：用羽毛装饰的旗帜。①⑦忘：疑为“忌”字。忌：怕、畏惧。①⑦元：首、头。①⑦赵简子：即赵鞅，春秋末年晋掌权的四卿之一。①⑦工：车夫。①⑦范：作动词，使……就范。①⑦诡遇：不按规矩驾车。①⑦舍：放出，射。①⑦熄：同“息”，平息。①⑦冠：加冠。①⑦女：汝、你。①⑦夫子：丈夫。①⑦皇皇：同“惶惶”不安。①⑦质：通“贄”(zhì 治)，古代初次见面时必赠的礼物。①⑦吊：这里指慰问不幸的人。①⑦粢(zī)：谷类总称。粢成：盛在祭器内的谷物。①⑦缫(sāo)：把蚕茧抽成丝。①⑦牺牲：祭祀用的牲畜，成：长大、肥壮。①⑦絜：同：“洁”。①⑦田：田地俸禄。①⑦室：妻室。①⑦媒妁：媒人。①⑦泰：过分。①⑦功：这里通“工”，事。①⑦羨：余，多出。①⑦墁：新粉刷的墙。①⑦亳(bó)：古地名，今河南商丘北部。①⑦遗：同“馈”，赠与。①⑦饔：送饭。①⑦仇饔：仇视送饭的人。①⑦讎(chóu)：同“仇”。①⑦载：开始。①⑦芸：同“耘”，除草。①⑦以上两句为《尚书》逸文。文字有出入。①⑦有：词头。有攸：即攸国，当时国名。惟：为。①⑦绥：安抚。士女：即男女。①⑦匪：同“筐”(fēi 匪)，盛物的竹器，这里用作动词。玄黄：黑黄相间的织物。①⑦绍：介绍。见 xiàn)：表达美好的心意。①⑦大邑周：对周武王的尊称。①⑦取：除去。残：暴君。①⑦于：邦国。邦，以下于字同此。张：舒展。①⑦现在流传的伪《尚书·泰誓中》

篇，也用以上五句，文字有出入。①⑦咻：喧哗。①⑦庄岳：庄是街名，岳是里名，都在齐都临淄城内。①⑦辟：通“避”。①⑦内：同“纳”，接纳，接待。①⑦迫：接近。①⑦瞰：偷看。之：指不在家。①⑦胁肩：耸起肩膀。谄：谄媚。①⑦病：动词，这里指受难。夏：夏天。畦：菜园。这里做动词。①⑦赧赧然，固羞愧而脸红。①⑦攘：偷。①⑦损：减。①⑦背：围绕，相连。①⑦泽：大。①⑦菹：水草丛生的沼泽地。①⑦隅(yú 鱼)：角落、边。戮：杀。①⑦丕：句首语气词。①⑦谲：谋略。①⑦承：继承。烈：功绩。①⑦咸：都，皆。①⑦处士：居家未做官的“士”。这里指儒以外的各学派人物。①⑦闲：防御、抵挡。①⑦距：同“拒”，拒绝、抵制。①⑦放：驱除，摒弃。①⑦该行：偏激的行为。①⑦螬：即蛴螬，金龟子的幼虫。①⑦巨擘：大拇指。①⑦辟：把麻搓成线，紵：把麻漂洗干净。①⑦频颞：鹅叫声。①⑦鹄鹄：鹅叫声。①⑦哇：吐。

## 《荀子》

### 题解：

荀子(公元前313—前238)名况，又称荀卿、孙卿，赵国人，战国后期思想家、教育家，与孟子并称为儒家的大师。

在教育思想上，荀子以“性恶论”为出发点，与孟子的“性善论”完全对立。他认为人天生好利，若顺着这一本性发展，定会产生争夺，辞让的美德也就不复存在了；人生来痛恨所讨厌的事，若顺着这一本性发展，定会导致相互残害，忠信的美德也就不复存在了；人生来有耳目之欲，喜欢声色，若顺着这一本性发展，定会导致荒淫暴乱，礼义的秩序约束也就不复存在了。荀子以此为依据，提出了教育与学习的重要，认为只有教育才能矫正人的恶性。

荀子认为，人是通过感官和心认识事物的，感官可以接受但不能辨别，心能审察但不能感受，两者各司其职，不能相互替代。他把这种认识论应用到教育上，认为“不闻

不若闻之，闻之不若见之，见之不若知之，知之不若行之。”

在教学方法上，荀子特别强调学习的诚心，认为“不问而告”或“问一告二”必定导致教学的失败。他特别强调教师的地位与作用，同时对教师提出了严格的要求。

《荀子》一书兼采众家，以儒学为源泉却不是纯粹的儒学著作，因此它未被列入儒学经典之中。但它对后世的影响，却仅次于《论语》、《孟子》，其中的《劝学》一篇，更是为历代所颂习的教育谋略的绝世之作影响尤为深远。

## 劝 学

君子曰：学不可以已<sup>①</sup>。青，取之于蓝，而青于蓝；冰，水为之，而寒于水。木直中绳<sup>②</sup>，揉以为轮<sup>③</sup>，其曲中规，虽有槁暴<sup>④</sup>，不复挺者，揉使之然也。故木受绳则直，金就砺则利<sup>⑤</sup>，君子博学而日参省乎己，则知明而行无过矣<sup>⑥</sup>。

故不登高山，不知天之高也；不临深渊，不知地之厚也；不闻先王之遗言，不知学问之大也。干越、夷貉之子<sup>⑦</sup>，生而同声，长而异俗，教使之然也。《诗》曰：“嗟尔君子，无恒安息<sup>⑧</sup>。靖共尔位<sup>⑨</sup>，好是正直<sup>⑩</sup>。神之听之<sup>⑪</sup>，介尔景福<sup>⑫</sup>。”神莫大于化道，福莫长于无祸。

吾尝终日而思矣，不如须臾之所学也；吾尝跂而望矣<sup>⑬</sup>，不如登高之博见也。登高而招，臂非加长也，而见者远；顺风而呼，声非加疾也，而闻声彰。假舆马者<sup>⑭</sup>，非利足也，而致千里；假舟楫者，非能水也，而绝江河。君子生非异也，善假于物也。

南方有鸟焉，名曰蒙鸠，以羽为巢，而编之以发，系之苇苕，风至苕折，卵破子死。巢非不完也，所系者然也。西方有木焉，名曰射干，茎长四寸，生于高山之上，而临百仞之渊。木茎非能长也，所立者然也。蓬生麻中，不扶而直；白沙在涅<sup>⑮</sup>，与之俱黑。

兰槐之根是为芷<sup>⑯</sup>，其渐之涂<sup>⑰</sup>，君子不近，遮人不服<sup>⑱</sup>。其质非不美也，所渐者然也。故君子居必择乡，游必就士，所以防邪僻而近中正也。

物类之起，必有所始；荣辱之来，必象其德<sup>⑲</sup>。肉腐出虫，鱼枯生蠹。怠慢忘身，祸灾乃作。强自取柱<sup>⑳</sup>，柔自取束<sup>㉑</sup>。邪秽在身，怨之所构<sup>㉒</sup>。施薪若一，火就燥也；平地若一，水就湿也。草木畴生<sup>㉓</sup>，禽兽群焉，物各从其类也。是故质的张而弓矢至焉，林木茂而斧斤至焉，树成荫而众鸟息焉，醯酸而蚋聚焉<sup>㉔</sup>。故言有召祸也，行有招辱也，君子慎其所立乎！

积土成山，风雨兴焉；积水成渊，蛟龙生焉；积善成德，而神明自得，圣心备焉。故不积跬步<sup>㉕</sup>，无以至千里；不积小流，无以成江海。骐驎一跃，不能十步；弩马十驾<sup>㉖</sup>，功在不舍。锲而舍之，朽木不折；锲而不舍，金石可镂。螾无爪牙之利<sup>㉗</sup>，筋骨之强，上食埃土，下饮黄泉，用心一也；蟹六跪<sup>㉘</sup>而二螯，非蛇、蟪之穴无可寄托者<sup>㉙</sup>，用心躁也。是故无冥冥之志者，无昭昭之明；无惛惛之事者，无赫赫之功。行衢道者不至，事两君者不容。目不能两视而明，耳不能两听而聪。螭蛇无足而飞<sup>㉚</sup>，跼鼠五技而穷<sup>㉛</sup>。《诗》曰：“尸鸠在桑，其子七兮。淑人君子，其仪一兮。其仪一兮，心如结兮。”故君子结于一也。

昔者瓠巴鼓瑟而沈鱼出听<sup>㉜</sup>，伯牙鼓琴而六马仰秣<sup>㉝</sup>。故声无小而不闻，行无隐而不形。玉在山而草木润，渊生珠而崖不枯。为善不积邪，安有不闻者乎？

学恶乎始<sup>㉞</sup>？恶乎终？曰：其数则始乎诵经，终乎读礼；其义则始乎为士，终乎为圣人。真积力久则入，学至乎没而后止也。故学数有终，若其义则不可须臾舍也。为之，人也；舍之，禽兽也。故《书》者，政事之纪也；《诗》者，中声之所止也；《礼》者，法之大分，类之纲纪也，故学至乎《礼》而止矣。夫是之谓道德之极。《礼》之敬文也<sup>㉟</sup>，《乐》之中

和也，《诗》、《书》之博也，《春秋》之微也<sup>③⑥</sup>，在天地之间者毕矣。

君子之学也，入乎耳，箸乎心<sup>③⑦</sup>，布乎四体，形乎动静；端而言<sup>③⑧</sup>，蠕而动，一可以以为法则。小人之学也，入乎耳，出乎口。口、耳之间则四寸耳，曷足以美七尺之躯哉？古之学者为己，今之学者为人。君子之学也，以美其身；小人之学也，以为禽犊<sup>③⑨</sup>。故不问而告谓之傲<sup>④⑩</sup>，问一而告二谓之囋<sup>④⑪</sup>。傲，非也；囋非也；君子如向矣<sup>④⑫</sup>。

学莫便乎近其人。《礼》、《乐》法而不说，《诗》、《书》故而不切，《春秋》约而不速。方其人之习君子之说，则尊以遍矣，周于世矣。故曰，学莫便乎近其人。

学之经莫速乎好其人<sup>④⑬</sup>，隆礼次之。上不能好其人，下不能隆礼，安特将学杂识志、顺《诗》、《书》而已耳<sup>④⑭</sup>，则末世穷年，不免为陋儒而已！将原先王，本仁义，则礼正其经纬、蹊径也。若挈裘领，诎五指而顿之<sup>④⑮</sup>，顺者不可胜数也。不道礼、宪<sup>④⑯</sup>，以《诗》、《书》为之，譬之犹以指测河也，以戈春黍也，以锥凵壶也<sup>④⑰</sup>，不可以得之矣。故隆礼，虽未明，法士也；不隆礼，虽察辩，散儒也。

问诘者<sup>④⑱</sup>，勿告也；告诘者，勿问也；说诘者，勿听也；有争气者，勿与辩也。故必由其道至，然后接之，非其道则避之。故礼恭，而后可与言道之方；辞顺，而后可与言道之理；色从，而后可与言道之致。故未可与言而言谓之傲，可与言而不言谓之隐，不观气色而言谓之瞽，故君子不做、不隐、不瞽，谨顺其身。《诗》曰：“匪交匪舒<sup>④⑲</sup>，天子所予。”此之谓也。

百发失一，不足谓善射；千里蹞步不至，不足谓善御；伦类不通，仁义不一，不足谓善学。学也者，固学一之也。一出焉，一人焉，涂巷之人也；其善者少，不善者多，桀、纣、盗跖也；全之尽之，然后学者也。

君子知夫不全不粹之不足以为美也，故诵数以贯之，思索以通之，为其人以处之，除其害者以持养之，使目非是无欲见也，使

耳非是无欲闻也，使口非是无欲言也，使心非是无欲虑也。及至其致好之也，目好之五色，耳好之五声，口好之五味，心利之有天下。是故权利不能倾也，群众不能移也，天下不能荡也。生乎由是，死乎由是，夫是之谓德操。德操然后能定，能定然后能应。能定能应，夫是之谓成人。天见其明，地见其光，君子贵其全也。

## 修身

见善，修然必以自存也；见不善，愀然必以自省也；善在身，介然必以自好也；不善在身，菑然必以自恶也<sup>⑤①</sup>。故非我而当者，吾师也；是我而当者，吾友也；谄谀我者，吾贼也。故君子隆师而亲友，以致恶其贼。好善无厌，受谏而能诚，虽欲无进，得乎哉？小人反是：致乱，而恶人之非己也；致不肖，而欲人之贤己也；心如虎狼，行如禽兽，而又恶人之贼己也。谄谀者亲，谏争者疏，修正为笑，至忠为贼，虽欲无灭亡，得乎哉？《诗》曰：“嘒嘒咎咎<sup>⑤②</sup>，亦孔之哀<sup>⑤③</sup>。谋之其臧<sup>⑤④</sup>，则具是违<sup>⑤⑤</sup>；谋之不臧，则具是依。”此之谓也。

扁善之度<sup>⑤⑥</sup>：以治气养生，则身后彭祖；以修身自强，则名配尧、禹。宜于时通，利以处穷，礼信是也<sup>⑤⑦</sup>。凡用血气、志意、知虑，由礼则治通，不由礼则勃乱提侵<sup>⑤⑧</sup>；饮食、衣服、居处、动静，由礼则和节，不由礼则触陷生疾；容貌、态度、进退、趋行，由礼则雅，不由礼则夷固僻违，庸众而野。故人无礼则不生，事无礼则不成，国家无礼则不宁。诗曰：“礼仪卒度<sup>⑤⑨</sup>，笑语卒获<sup>⑥⑩</sup>。”此之谓也。

以善先人者谓之教，以善和人者谓之顺；以不善先人者谓之谄，以不善和人者谓之谀。是是、非非谓之知，非是、是非谓之愚。伤良曰谗，害良曰贼。是谓是、非谓非曰直。窃货曰盗，匿行曰诈，易言曰诞，趣舍无定谓之无常，保利弃义谓之至贼。多闻

曰博，少闻曰浅。多见曰闲<sup>④</sup>，少见曰陋。难进曰倨<sup>⑤</sup>，易忘曰漏。少而理曰治，多而乱曰耗<sup>⑥</sup>。

治气、养心之术：血气刚强，则柔之以调和；知虑渐深，则一之以易良；勇毅猛戾，则辅之以道顺；齐给便利<sup>⑦</sup>，则节之以动止；狭隘褊小，则廓之以广大；卑湿重迟贪利，则抗之以高志；庸众驽散，则劫之以师友；怠慢僇弃<sup>⑧</sup>，则炤之以祸灾；愚款端悫，则合之以礼乐，通之以思索。凡治气、养心之术，莫径由礼，莫要得师，莫神一好。夫是之谓治气、养心之术也。

志意修则骄富贵<sup>⑨</sup>，道义重则轻王公；内省而外物轻矣。传曰：“君子役物，小人役于物。”此之谓矣。身劳而心安，为之；利少而义多，为之；事乱君而通，不如事穷君而顺焉。故良农不为水旱不耕，良贾不为折阅不市<sup>⑩</sup>，士君子不为贫穷怠乎道。

体恭敬而心忠信，术礼义而情爱人，横行天下，虽困四夷，人莫不贵；劳苦之事则争先，饶乐之事则能让，端悫诚信，拘守而详，横行天下，虽困四夷，人莫不任。体倨固而心执诈<sup>⑪</sup>，术顺墨而精杂污<sup>⑫</sup>，横行天下，虽达四方，人莫不贱；劳苦之事则偷儒转脱<sup>⑬</sup>，饶乐之事则佞兑而不曲<sup>⑭</sup>，辟违而不悫，程役而不录<sup>⑮</sup>，横行天下，虽达四方，人莫不弃。

行而供翼<sup>⑯</sup>，非渍淖也；行而俯项，非击戾也；偶视而先俯，非恐惧也。然夫士欲独修其身，不以得罪于比俗之人也。

夫骥一日而千里，弩马十驾则亦及之矣。将以穷无穷、逐无极与？其折骨、绝筋终身不可以相及也；将有所止之，则千里虽远，亦或迟、或速、或先、或后，胡为乎其不可以相及也？不识步道者将以穷无穷、逐无极与？意亦有所止之与？夫“坚白”“同异”“有厚无厚”之察，非不察也，然而君子不辩，止之也；倚魁之行<sup>⑰</sup>，非不难也，然而君子不行，止之也。故学曰：“迟彼止而待我，我行而就之，则亦或迟、或速、或先、或后，

胡为乎其不可以同至也？”故蹞步而不休，跛鳖千里；累土而不辍，丘山崇成；厌其源，开其渎，江河可竭；一进一退，一左一右，六骥不致。彼人之才性之相县也<sup>⑱</sup>，岂若跛鳖之与六骥足哉？然而跛鳖致之，六骥不致，是无他故焉，或为之或不为尔！道虽迩，不行不至；事虽小，不为不成。其为人也多暇日者，其出人不远矣。

好法而行，士也；笃志而体，君子也；齐明而不竭，圣人也。人无法则伥伥然<sup>⑲</sup>，有法而无志其义则渠渠然<sup>⑳</sup>，依乎法而又深其类然后温温然。

礼者，所以正身也；师者，所以正礼也。无礼，何以正身？无师，吾安知礼之为是也？礼然而然，则是情安礼也；师云而云，则是知若师也。情安礼，知若师，则是圣人也。故非礼，是无法也；非师，是无师也。不是师法，而好自用，譬之是犹以盲辨色，以聋辨声也，舍乱妄无为也。故学也者，礼法也；夫师以身为正仪，而贵自安者也。《诗》云：“不识不知，顺帝之则。”此之谓也。

端悫顺弟<sup>㉑</sup>，则可谓善少者矣；加好学逊敏焉，则有钧无上，可以为君子者矣。偷儒惮事，无廉耻而嗜乎饮食，则可谓恶少者矣；加怙悍而不顺，险贼而不弟焉，则可谓不详少者矣，虽陷刑戮可也。

老老，而壮者归焉；不穷穷，而通者积焉；行乎冥冥而施乎无报，而贤、不肖一焉；人有此三行，虽有大过，天其不遂乎。

君子之求利也略，其远害也早，其避辱也惧，其行道理也勇。

君子贫穷而志广，富贵而体恭，安燕而血气不惰，劳倦而容貌不枯，怒不过夺，喜不过予。君子贫穷而志广，隆仁也；富贵而体恭，杀势也；安燕而血气不惰，柬理也<sup>㉒</sup>；劳倦而容貌不枯，好文也；怒不过夺，喜不过予，是法胜私也。《书》曰：“无有作好，遵王之道；无有作恶，遵王之路。”此言君子之能以公义胜私欲也。



## 儒效

大儒之效：武王崩，成王幼，周公屏成王而及武王以属天下，恶天下之倍周也<sup>①</sup>。履天子之籍，听天下之断，偃然如固有之，而天下不称贪焉；杀管叔，虚殷国，而天下不称戾焉；兼制天下，立七十一国，姬姓独居五十三人，而天下不称偏焉。教诲、开导成王，使谕于道，而能揜迹于文、武<sup>②</sup>。周公归周，反籍于成王，而天下不辍事周，然而周公北面而朝之。天子也者，不可以少当也，不可以假摄为也。能则天下归之，不能则天下去之。是以周公屏成王而及武王以属天下，恶天下之离周也。成王冠，成人，周公归周反籍焉，明不灭主之义也。周公无天下矣乡有天下<sup>③</sup>，今无天下，非擅也<sup>④</sup>；成王乡无天下，今有天下，非夺也；变孰次序节然也。故以枝代主而非越也，以弟诛兄而非暴也，君臣易位而非不顺也。因天下之和，遂文武之业，明枝主之义，抑亦变化矣，天下厌然犹一也<sup>⑤</sup>。非圣人莫之能为，夫是之谓大儒之效。

秦昭王问孙卿子曰：儒无益于人之国？孙卿子曰：儒者法先王，隆礼义，谨乎臣子而致贵其上者也。人主用之，则孰在本朝而宜；不用，则退编百姓而恣；必为顺下矣。虽穷困、冻饿<sup>⑥</sup>，必不以邪道为贪；无置锥之地，而明于持社稷之大义，噪呼而莫之能应<sup>⑦</sup>，然而通乎财万物，养百姓之经纪<sup>⑧</sup>。孰在人上，则王公之材也；在人下，则社稷之臣，国君之宝也。虽隐于穷阎漏屋，人莫不贵，贵道诚存也。

仲尼将为司寇，沈犹氏不敢朝饮其羊，公慎氏出其妻，慎溃氏踰境而徙，鲁之粥牛马者不豫贾<sup>⑨</sup>，必蚤正以待之也<sup>⑩</sup>。居于阙党，阙党之子弟，罔不必分<sup>⑪</sup>，有亲者取多，孝弟以化之也。儒者在本朝则美政，在下位则美俗。儒之为人下如是矣。

王曰：然则其为人上何如？孙卿曰：其

为人上也，广大矣！志意定乎内，礼节修乎朝，法则、度量正乎官，忠、信、爱、利形乎下。行一不义，杀一无罪，而得天下，不为也。此君义信乎人矣，通于四海，则天下应之如灌<sup>⑫</sup>。是何也？则贵名白而天下愿也<sup>⑬</sup>。故近者歌讴而乐之，远者竭蹶而趋之。四海之内若一家，通达之属<sup>⑭</sup>，莫不从服，夫是之谓人师。《诗》曰：“自西自东，自南自北，无思不服。”<sup>⑮</sup>此之谓也。夫其为人下也如彼，其为人上也如此，何谓其无益于人之国也！昭王曰：善！

先王之道，仁之隆也，比中而行之。曷谓中？曰：礼义是也。道者，非天之道，非地之道，人之所以道也<sup>⑯</sup>，君子之所道也。

君子之所谓贤者，非能遍能人之所能之谓也；君子之所谓知者，非能遍知人之所知之谓也；君子之所谓辩者，非能遍辩人之所辩之谓也；君子之所谓察者，非能遍察人之所察之谓也：有所止矣。相高下，视埒肥<sup>⑰</sup>，序五种，君子不如农人；通财货，相美恶，辩贵贱，君子不如贾人；设规矩，陈绳墨，便备用<sup>⑱</sup>，君子不如工人。不恤是非、然不然之情，以相荐擢<sup>⑲</sup>，以相耻作，君子不若惠施、邓析。若夫谄德而定次<sup>⑳</sup>，量能而授官，使贤不肖皆得其位，能不能皆得其官，万物得其宜，事变得其应，慎、墨不得进其谈，惠施、邓析不敢窜其察。言必当理，事必当务，是然后君子之所长也。

凡事行，有益于理者，立之；无益于理者，废之：夫是之谓中事。凡知说，有益于理者，为之；无益于理者，舍之：夫是之谓中说。事行失中谓之奸事，知说失中谓之奸道。奸事、奸道，治世之所弃而乱世之所从服也。若夫充虚之相施易也<sup>㉑</sup>，“坚白”、“同异”之分隔也，是聪耳之所不能听也，明目之所不能见也，辩士之所不能言也，虽有圣人之知，未能倮指也<sup>㉒</sup>。不知，无害为君子；知之，无损为小人。工匠不知，无害为巧；君子不知，无害为治。王公好之则乱法；百姓好之则乱事。而狂惑、戇陋之人，乃始率

其群徒，辩其谈说，明其辟称<sup>⑩</sup>，老身长子，不知恶也。夫是之谓上愚<sup>⑪</sup>，曾不如相鸡狗之可以为名也。《诗》曰：“为鬼、为蜮，则不可得；有觌面目，视人罔极。作此好歌，以极反侧。”此之谓也。

我欲贱而贵，愚而智，贫而富，可乎？曰：其唯学乎！彼学者：行之，曰士也；敦慕焉<sup>⑫</sup>，君子也；知之，圣人也。上为圣人，下为士君子，孰禁我哉！乡也，混然涂之人也<sup>⑬</sup>，俄而并乎尧、禹，岂不贱而贵矣哉！乡也，效门室之辨<sup>⑭</sup>，混然曾不能决也，俄而原仁义，分是非，图回天下于掌上而辨白黑，岂不愚而知矣哉！乡也，胥靡之人<sup>⑮</sup>，俄而治天下之大器举在此，岂不贫而富矣哉！今有人于此，屑然藏千溢之宝，虽行或而食<sup>⑯</sup>，人谓之富矣。彼宝也者：衣之，不可衣也；食之，不可食也；卖之，不可倖售也<sup>⑰</sup>。然而人谓之富，何也？岂不大富之器诚在此也？是杆杆亦富人已<sup>⑱</sup>，岂不贫而富矣哉！

故君子无爵而贵，无禄而富，不言而信，不怒而威，穷处而荣，独居而乐：岂不至尊、至富、至重、至严之情举积此哉！故曰：贵名不可以比周争也<sup>⑲</sup>，不可以夸诞有也，不可以执重胁也<sup>⑳</sup>，必将诚此然后就也。争之则失，让之则至，遵道则积，夸诞则虚。故君子务修其内而让之于外，务积德于身而处之以遵道。如是，则贵名起如日月，天下应之如雷霆。故曰：君子隐而显，微而明，辞让而胜。《诗》曰：“鹤鸣于九皋<sup>㉑</sup>，声闻于天。”此之谓也。

鄙夫反是：比周而誉俞少；鄙争而名俞辱，烦劳以求安利其身俞危。《诗》曰：“民之无良，相怨一方。受爵不让，至于已斯亡。”此之谓也。

故能小而事大，辟之是犹力之少而任重也，舍粹折无适也<sup>㉒</sup>。身不肖而诬贤<sup>㉓</sup>，是犹偃身而好升高也，指其顶者愈众。故明主满德而序位，所以为不乱也；忠臣诚能然后敢受职，所以为不穷也。分不乱于上，能不

穷于下，治辩之极也<sup>㉔</sup>。《诗》曰：“平平左右，亦是率从。”是言上下之交不相乱也。

以从俗为善，以货财为宝，以养生为己至道，是民德也。行法志坚，不以私欲乱所闻，如是，则可谓劲士矣。行法志坚，好修正其所闻，以桥饰其情性<sup>㉕</sup>：其言多当矣，而未谕也；其行多当矣，而未安也；其知虑多当矣，而未周密也；上则能大其所隆，下则能开道不已若者；如是，则可谓笃厚君子矣。修百王之法，若辨白黑；应当时之变，若数一二；行礼要节而安之，若生四枝<sup>㉖</sup>；要时立功之巧<sup>㉗</sup>，若诏四时<sup>㉘</sup>；平正和民之善<sup>㉙</sup>，亿万之众而转若一人<sup>㉚</sup>；如是，则可谓圣人矣。

井井兮其有理也。严严兮其能敬己也。介介兮其有终始也。猷猷兮其能长久也<sup>㉛</sup>。乐乐兮其执道不殆也<sup>㉜</sup>。炤炤兮其用知之明也<sup>㉝</sup>。修修兮其用统类之行也<sup>㉞</sup>。绥绥兮其有文章也<sup>㉟</sup>。熙熙兮其乐人之藏也<sup>㊱</sup>。隐隐兮其恐人之不当也<sup>㊲</sup>。如是，则可谓圣人矣，此其道出乎一。

曷谓一？曰：执神而固。曷谓神？曰：尽善挟治之谓神<sup>㊳</sup>。万物莫足以倾之之谓固。神固之谓圣人。圣人也者，道之管也<sup>㊴</sup>。天下之道管是矣，百王之道一是矣；故《诗》、《书》、《礼》、《乐》之道归是矣。《诗》言是，其志也；《书》言是，其事也；《礼》言是，其行也；《乐》言是，其和也；《春秋》言是，其微也。故《风》之所以为不逐者<sup>㊵</sup>，取是以节之也；《小雅》之所以为《小雅》者，取是而文之也；《大雅》之所以为《大雅》者，取是而光之也；《颂》之所以为至者，取是而通之也。天下之道毕是矣。乡是者减，倍是者亡。乡是如不减，倍是如不亡者，自古及今，未尝有也！

客有道曰：孔子曰：“周公其盛乎！身贵而愈恭，家富而愈俭，胜敌而愈戒。”应之曰：是殆非周公之行，非孔子之言也。武王崩，成王幼，周公屏成王而及武王，履天子之籍，负扆而坐<sup>㊶</sup>，诸侯趋走堂下。当是时也，夫又谁为恭矣哉！兼制天下，立七十一国，姬

姓独居五十三人焉；周之子孙，苟不狂惑者，莫不为天下之显诸侯。孰谓周公俭哉！武王之诛纣也，行之日以兵忌，东面而迎太岁，至汜而泛，至怀而坏，至共头而山隧<sup>⑬</sup>。霍叔惧曰：“出三日而五灾至，无乃不可乎？”周公曰：“剡比干而囚箕子，飞廉、恶来知政，夫又恶有不可焉！”遂选马而进，朝食于戚，暮宿于百泉，厌旦于牧之野。鼓之而纣卒易乡<sup>⑭</sup>，遂乘殷人而诛纣。盖杀者非周人，因殷人也。故无首虏之获，无蹈难之赏，反而定三革，偃无兵，合天下，立声乐，于是《武》、《象》起而《韶》、《护》废矣。四海之内，莫不变心易虑以化顺之。故外闾不闭，跨天下而无薪<sup>⑮</sup>。当是时也，夫又谁为戒矣哉！

造父者，天下之善御者也，无舆马则无所见其能；羿者，天下之善射者也，无弓矢则无所见其巧；大儒者，善调一天下者也，无百里之地则无所见其功。舆固马选矣，而不能以至远一日而千里，则非造父也；弓调矢直矣，而不能以射远、中微，则非羿也；用百里之地，而不能以调一天下、制强暴，则非大儒也。

彼大儒者，虽隐于穷阎漏屋，无置锥之地，而王公不能与之争名；用百里之地，而千里之国莫能与之争胜；笞捶暴国，齐一天下，而莫能倾也：是大儒之征也。其言有类，其行有礼，其举事无悔，其持险、应变曲当；与时迁徙，与世偃仰，千举万变，其道一也：是大儒之稽也。其穷也，俗儒笑之；其通也，英杰化之，嵬琐逃之，邪说畏之，众人媿之<sup>⑯</sup>。通则一天下，穷则独立贵名。天不能死，地不能埋，桀、跖之世不能汙，非大儒莫之能立，仲尼、子弓是也。

故有俗人者，有俗儒者，有雅儒者，有大儒者：不学问，无正义，以富利为隆，是俗人者也。逢衣浅带<sup>⑰</sup>，解果其冠<sup>⑱</sup>，略法先王而足乱世；术缪学杂，不知法后王而一制度，不知隆礼义而杀《诗》《书》；其衣冠行伪已同于世俗矣<sup>⑲</sup>，然而不知恶者，其言议谈说已无以异于墨子矣，然而明不能别；呼

先王以欺愚者而求衣食焉，得委积足以揜其口<sup>⑳</sup>，则扬扬如也；随其长子<sup>㉑</sup>，事其便辟，举其上客，惇然若终身之虏而不敢有他志<sup>㉒</sup>：是俗儒者也。法后王，一制度，隆礼义而杀《诗》《书》；其言行已有大法矣，然而明不能齐法教之所不及、闻见之所未至，则知不能类也；知之曰知之，不知曰不知，内不自以诬，外不自以欺，以是尊贤畏法而不敢怠傲：是雅儒者也。法先王，统礼义，一制度，以浅持博，以古持今，以一持万，苟仁义之类也，虽在鸟兽之中，若别白黑；倚物怪变<sup>㉓</sup>，所未尝闻也，所未尝见也，卒然起一方，则举统类而应之，无所僇<sup>㉔</sup>，张法而度之，则皦然若合符节<sup>㉕</sup>：是大儒者也。故人主用俗人，则万乘之国亡；用俗儒，则万乘之国存；用雅儒，则千乘之国安；用大儒，则百里之地，久而后三年，天下为一，诸侯为臣；用万乘之国，则举错而定<sup>㉖</sup>，一朝而伯<sup>㉗</sup>。

不闻不若闻之，闻之不若见之，见之不若知之，知之不若行之。学至于行之而止矣。行之，明也，明之为圣人。圣人也者，本仁义，当是非，齐言行，不失豪厘，无它道焉，已乎行之矣。故闻之而不见，虽博必谬；见之而不知，虽识必妄；知之而不行，虽敦必困。不闻不见，则虽当，非仁也，其道百举而百陷也。

故人无师无法而知，则必为盗；勇，则必为贼；云能，则必为乱；察，则必为怪；辩，则必为诞。人有师有法而知，则速通；勇，则速威；云能，则速成；察，则速尽；辩，则速论。故有师法者，人之大宝也；无师法者，人之大殃也。

人无师法，则隆性矣；有师法，则隆积矣<sup>㉘</sup>；而师法者，所得乎情，非所受乎性，不足以独立而治。性也者，吾所不能为也，然而可化也；情也者，非吾所有也，然而可为也。注错习俗<sup>㉙</sup>，所以化性也；并一而不二，所以成积也。习俗移志，安久移质。并一而不二，则通于神明，参于天地矣。

故积土而为山，积水而为海，旦暮积谓之岁，至高谓之天，至下谓之地，宇中六指谓之极，涂之人百姓，积善而全尽谓之圣人。彼求之而后得，为之而后成，积之而后高，尽之而后圣。故圣人也者，人之所积也。人积耨耕而为农夫，积斫削而为工匠，积反货而为商贾⑤，积礼义而为君子。工匠之子莫不继事，而都国之民安习其服⑥。居楚而楚，居越而越，居夏而夏：是非天性也，积靡使然也⑦。

故人知谨注错，慎习俗，大积靡，则为君子矣；纵性情而不足问学，则为小人矣。为君子则常安荣矣，为小人则常危辱矣。凡人莫不欲安荣而恶危辱，故唯君子为能得其所好，小人则日徼其所恶⑧。《诗》曰：“维此良人，弗求弗迪⑨；维彼忍心，是顾是复。民之贪乱，宁为荼毒。”此之谓也。

人论：志不免于曲私，而冀人之以己为公也；行不免于污漫⑩，而冀人之以己为修也；甚愚陋沟瞽⑪，而冀人之以己为知也：是众人也。志忍私然后能公，行忍情性然后能修，知而好问然后能才，公、修而才，可谓小儒矣。志安公，行安修，知通统类，如是则可谓大儒矣。大儒者，天子三公也。小儒者，诸侯大夫士也；众人者，工、农、商贾也。礼者，人主之所以为群臣寸、尺、寻、丈检式也。人伦尽矣。

君子言有坛宇⑫，行有防表⑬，道有一隆。言道德之求，不下于安存；言志意之求，不下于士；言道德之求，不二后王。道过三代谓之荡⑭，法二后王谓之不雅。高之、下之，小之、臣之，不外是矣，是君子之所以聘志意于坛宇、宫廷也。故诸侯问政，不及安存，则不告也；匹夫问学，不及为士，则不教也；百家之说，不及后王，则不听也；夫是之谓君子言有坛宇，行有防表也。

## 礼 论

礼起于何也？曰：人生而有欲，欲而不

得，则不能无求，求而无度量分界，则不能不争。争则乱，乱则穷。先王恶其乱也，故制礼义以分之，以养人之欲，给人之求。使欲必不穷乎物，物必不屈于欲，两者相持而长，是礼之所起也。

故礼者，养也。刍豢稻粱，五味调香，所以养口也；椒兰芬苾⑮，所以养鼻也；雕琢刻镂黼黻文章⑯，所以养目也；钟鼓管磬琴瑟竿笙，所以养耳也；疏房椽貌越席床第几筵⑰，所以养体也。故礼者，养也。

君子既得其养，又好其别。葛谓别？曰：贵贱有等，长幼有差，贫富轻重皆有称者也。故天子大路越席⑱，所以养体也；侧载翠芷，所以养鼻也；前有错衡，所以养目也；和鸾之声，步中《武》、《象》，趋中《韶》、《护》，所以养耳也；龙旗九旂⑲，所以养信也；寝兕、持虎、蛟韞、丝末、弥龙⑳，所以养威也；故大路之马必信至教顺然后乘之㉑，所以养安也。孰知夫出死要节之所以养生也㉒！孰知夫出费用之所以养财也！孰知夫恭敬辞让之所以养安也！孰知夫礼义文理之所以养情也！故人苟生之为见㉓，若者必死；苟利之为见，若者必害；苟怠情偷懦之为安，若者必危；苟情说之为乐㉔，若者必灭。故人一之于礼义，则两得之矣；一之于情性，则两丧之矣。故儒者将使人两得之者也，墨者将使人两丧之者也，是儒、墨之分也。

礼有三本：天地者，生之本也；先祖者，类之本也；君师者，治之本也。无天地，恶生？无先祖，恶出？无君师，恶治？三者偏亡，焉无安人㉕。故礼，上事天，下事地，尊先祖而隆君师，是礼之三本也。

故王者天太祖㉖，诸侯不敢坏，大夫士有常宗，所以别贵始。贵始，得之本也㉗。郊止乎天子，而社止于诸侯，道及士大夫，所以别尊者事尊，卑者事卑，宜大者臣，宜小者小也。故有天下者事七世，有一国者事五世，有五乘之地者事三世，有三乘之地者事二世，持手而食者不得立宗庙，所以别积厚者流泽广，积薄者流泽狭也。

大飨<sup>⑭</sup>，尚玄尊<sup>⑮</sup>，俎生鱼<sup>⑯</sup>，先大羹<sup>⑰</sup>，贵食饮之本也。飨<sup>⑱</sup>，尚玄尊而用酒醴，先黍稷而饭稻粱；祭<sup>⑲</sup>，齐大羹而饱庶羞<sup>⑳</sup>，贵本而亲用也。贵本之谓文，亲用之谓理，两者合而成文，以归大一<sup>㉑</sup>，夫是之谓大隆。故尊之尚玄酒也，俎之尚生鱼也，豆之先大羹也<sup>㉒</sup>，一也<sup>㉓</sup>。利爵之不醕也<sup>㉔</sup>，成事之俎不尝也<sup>㉕</sup>，三臭之不食也<sup>㉖</sup>，一也。大昏之未发齐也<sup>㉗</sup>，太庙之未入尸也<sup>㉘</sup>，始卒之未小敛也，一也。大路之素末也<sup>㉙</sup>，郊之麻纁也<sup>㉚</sup>，丧服之先散麻也<sup>㉛</sup>，一也。三年之丧，哭之不反也，《清庙》之歌，一唱而三叹也，县一钟，尚拊髀<sup>㉜</sup>，朱絃而通越也<sup>㉝</sup>，一也。

凡礼，始乎悦<sup>㉞</sup>，成乎文，终乎悦校<sup>㉟</sup>。故至备，情文俱尽；其次，情文代胜；其下，复情以归大一也。天地以合，日月以明，四时以序，星辰以行，江河以流，万物以昌；好恶以节，喜怒以当，以为下则顺，以为上则明，万变不乱，贰之则丧也。礼岂不至矣哉！立隆以为极，而天下莫之能损益也。本末相顺，终始相应，至文以有别，至察以有说。天下从之者治，不从者乱；从之者安，不从者危；从之者存，不从者亡。小人不能测也。

礼之理诚深矣，“坚白”“同异”之察人焉而溺；其理诚大矣，擅作典制辟陋之说人焉而丧；其理诚高矣，暴慢恣睢轻俗以为高之属人焉而队<sup>㊱</sup>。故绳墨诚陈矣，则不可欺以曲直；衡诚县矣，则不可欺以轻重；规矩诚设矣，则不可欺以方圆；君子审于礼，则不可欺以诈伪。故绳者，直之至；衡者，平之至；规矩者，方圆之至；礼者，人道之极也。然而不法礼，不足礼，谓之无方之民；法礼，足礼，谓之有方之士。礼之中焉能思索，谓之能虑；礼之中焉能勿易，谓之能固。能虑，能固，加好之者焉，斯圣人矣。故天者，高之极也；地者，下之极也；无穷者，广之极也；圣人者，道之极也。故学者，固学为圣人也，非特学为无方之民也。

礼者，以财物为用，以贵贱为文，以多

少为异，以隆杀为要。文理繁，情用省，是礼之隆也。文理省，情用繁，是礼之杀也。文理情用相为内外表里，并行而杂，是礼之中流也。故君子上致其隆，下尽其杀，而中处其中。步骤驰骋厉鹜不外是矣<sup>㊲</sup>，是君子之坛宇宫廷也。人有是，士君子也；外是，民也；于是其中焉，方皇周挟<sup>㊳</sup>，曲得其次序，是圣人也。故厚者，礼之积也；大者，礼之广也；高者，礼之隆也；明者，礼之尽也。《诗》曰：“礼仪卒度，笑语卒获。”此之谓也。

礼者，谨于治生死者也。生，人之始也；死，人之终也。终始俱善，人道毕矣。故君子敬始而慎终。终始如一，是君子之道，礼义之文也。夫厚其生而薄其死，是敬其有知而慢其无知也，是奸人之道而倍叛之心也。君子以倍叛之心接臧谷<sup>㊴</sup>，犹且羞之，而况以事其所隆亲乎！故死之为道也，一而不可得再复也，臣之所以致重其君，子之所以致重其亲，于是尽矣。故事生不忠厚，不敬文，谓之野；送死不忠厚，不敬文，谓之瘠。君子贱野而羞瘠，故天子棺槨十重，诸侯五重，大夫三重，士再重，然后皆有衣衾多少厚薄之数，皆有罍萋文章之等<sup>㊵</sup>，以敬饰之，使生死终始若一，一足以为人愿，是先王之道，忠臣孝子之极也。天子之丧动四海，属诸侯。诸侯之丧动通国，属大夫。大夫之丧动一国，属修士。修士之丧动一乡，属朋友。庶人之丧，合族党，动州里。刑余罪人之丧，不得合族党，独属妻子，棺槨三寸，衣衾三领，不得饰棺，不得昼行，以昏殓<sup>㊶</sup>，凡缘而往埋之，反无哭泣之节，无衰麻之服，无亲疏月数之等，各反其平，各复其始，已葬埋，若无丧者而止，夫是之谓至辱。

礼者，谨于吉凶不相厌者也。絇纩听息之时<sup>㊷</sup>，则夫忠臣孝子亦知其闵<sup>㊸</sup>已，然而殡敛之具，未有求也；垂涕恐惧，然而幸生之心未已，持生之事未辍也；卒矣，然后作具之。故虽备家必踰日然后能殡，三日而成服。然后告远者出矣，备物者作矣。故殡久

不过七十日，速不损五十日。是何也？曰：远者可以至矣，百求可以得矣，百事可以成矣；其忠至矣，其节大矣，其文备矣。然后月朝卜日，月夕卜宅，然后葬也。当是时也，其义止，谁得行之！其义行，谁得止之！故三月之葬，其额以生设饰死者也<sup>⑩</sup>，殆非直留死者以安生也，是致隆思慕之义也。

丧礼之凡：变而饰，动而远，久而平。故死之为道也，不饰则恶，恶则不哀；尔则玩<sup>⑪</sup>，玩则厌，厌则忘，忘则不敬。一朝而丧其严亲，而所以送葬之者不哀不敬，则嫌于禽兽矣，君子耻之。故变而饰，所以灭恶也；动而远，所以遂敬也；久而平，所以优生也。

礼者，断长续短，损有余，益不足，达爱敬之文，而滋成行义之美者也。故文饰、粗恶，声乐、哭泣，恬愉、忧戚，是反也，然而礼兼而用之，时举而代御。故文饰、声乐、恬愉，所以持平奉吉也；粗衰、哭泣、忧戚，所以持险奉凶也。故其立文饰也，不至于寃治<sup>⑫</sup>；其立粗恶也，不至于瘠弃；其立声乐恬愉也，不至于流淫惰慢；其立哭泣哀戚也，不至于隘慢伤生。是礼之中流也。

故情貌之变，足以别吉凶、明贵贱亲疏之节，期止矣；外是，奸也；虽难，君子贱之。故量食而食之，量要而带之。相高以毁瘠，是奸人之道也，非礼义之文也，非孝子之情也，将以有为者也。故说豫婉泽<sup>⑬</sup>，忧戚萃恶<sup>⑭</sup>，是吉凶忧愉之情发于颜色者也。歌谣谯笑<sup>⑮</sup>，哭泣涕号<sup>⑯</sup>，是吉凶忧愉之情发于声音者也。刍豢稻粱酒醴饔飧<sup>⑰</sup>，鱼肉菽藿酒浆，是吉凶忧愉之情发于饮食者也。卑纁、黼黻、文织，资粗、衰经、菲纁、菅屨<sup>⑱</sup>，是吉凶忧愉之情发于衣服者也。疏房棖额越席床第几筵，属茨倚庐席薪枕块<sup>⑲</sup>，是吉凶忧愉之情发于居处者也。两情者，人生固有端焉。若夫断之继之，博之浅之，益之损之，类之尽之，盛之美之，使本末终始莫不顺比纯备，足以为万世则，则是礼也。非顺孰修为之君子，莫之能知也。

故曰：性者，本始材朴也；伪者<sup>①</sup>，文理隆盛也。无性则伪之无所加，无伪则性不能自美。性伪合，然后成圣人之名，一天下之功于是就也。故曰：天地合而万物生，阴阳接而变化起，性伪合而天下治。天能生物，不能辨物也；地能载人，不能治人也；宇中万物、生人之属，待圣人然后分也。《诗》曰：“怀柔百神，及河乔岳。”此之谓也。

丧礼者，以生者饰死者也，大象其生以送其死也。故如死如生，如亡如存，终始一也。始卒，沐浴鬻体饭含<sup>②</sup>，象生执也。不沐则濡栲三律而止，不浴则濡巾三式而止。充耳而设瑱，饭以生稻，含以槁贝，反生术矣。设袞衣，袞三称，缙绅而无钩带矣。设掩面儼目<sup>③</sup>，鬻而不冠笄矣。书其名，置于其重<sup>④</sup>，则名不见而枢独明矣。荐器则冠有鍤而毋纁<sup>⑤</sup>，瓮庑虚而不实<sup>⑥</sup>，有簟席而无床第，木器不成斲<sup>⑦</sup>，陶器不成物，薄器不成用，笙竽具而不和，琴瑟张而不均，輿藏而马反，告不用也。具生器以适墓，象徙道也。略而不尽，貌而不功<sup>⑧</sup>，趋輿而藏之，金革鬻鞞而不入<sup>⑨</sup>，明不用也。象徙道，又明不用也。是皆所以重哀也。故生器文而不功，明器貌而不用。凡礼，事生，饰欢也；送死，饰哀也；祭祀，饰敬也；师旅，饰威也。是百王之所同，古今之所一也，未有知其所由来者也。故圜塋，其额象室屋也；棺槨，其额象版盖斯象拂也<sup>⑩</sup>；无帙丝黻缕<sup>⑪</sup>，其额以象菲帷幘尉也<sup>⑫</sup>；抗折，其额以象椁茨番闾也<sup>⑬</sup>。故丧礼者，无它焉，明死生之义，送以哀敬而终周藏也。故葬埋，敬藏其形也；祭祀，敬事其神也；其铭诔系世，敬传其名也。事生，饰始也；送死，饰终也。终始具而孝子之事毕，圣人之道备矣。

刻死而附生谓之墨<sup>⑭</sup>，刻生而附死谓之惑，杀生而送死谓之贼。大象其生以送其死，使死生终始莫不称宜而好善，是礼义之法式也，儒者是矣。

三年之丧，何也？曰：称情而立文，因

以饰群，别亲疏贵贱之节，而不可益损也。故曰：无适不易之术也。创巨者其日久，痛甚者其愈迟，三年之丧，称情而立文，所以为至痛极也。齐衰，苴杖<sup>②</sup>，居庐，食粥，席薪，枕块，所以为至痛饰也。三年之丧，二十五月而毕，哀痛未尽，思慕未忘，然而礼以是断之者，岂不以送死有已，复生有节也哉？凡生乎天地之间者，有血气之属必有知，有知之属莫不爱其类。今夫大鸟兽则失亡其群匹，越月踰时，则必反<sup>③</sup>；过故乡，则必徘徊焉，鸣号焉，踯躅焉，踟蹰焉，然后能去之也。小者是燕爵犹有啁噍之顷焉<sup>④</sup>，然后能去之。故有血气之属莫知于人，故人之于其亲也，至死无穷。将由夫愚陋淫邪之人与？则彼朝死而夕忘之；然而纵之，则是曾鸟兽之不若也，彼安能相与群居而无乱乎！将由夫修饰之君子与？则三年之丧，二十五月而毕，若驷之过隙，然而遂之，则是无穷也。故先王圣人安为之立中制节，一使足以成文理，则舍之矣。

然则何以分之？曰：至亲以期断。是何也？曰：天地则已易矣，四时则已遍矣，其在宇中者莫不更始矣，故先王案以此象之也。然则三年何也？曰：加隆焉，案使倍之，故再期也。由九月以下，何也？曰：案使不及也。故三年以为隆，缌、小功以为杀<sup>⑤</sup>，期、九月以为间。上取象于天，下取象于地，中取则于人，人所以群居和一之理尽矣。故三年之丧，人道之至文者也。夫是之谓至隆，是百王之所同，古今之所一也。

君之丧所以取三年，何也？曰：君者，治辨之主也，文理之原也，文理之原也，情貌之尽也，相率而致隆之，不亦可乎？《诗》曰：“恺悌君子<sup>⑥</sup>，民之父母。”彼君子者，固有为父母之说焉。父能生之，不能养之；母能食之，不能教诲之；君者，已能食之矣，又善教诲之者也，三年毕矣哉！乳母，饮食之者也，而三月；慈母，衣被之者也，而九月；君，曲备之者也，三年毕乎哉！得之则治，失之则乱，文之至也。得之则安，失之则危，

情之至也。两至者俱积焉，以三年事之犹未足也，直无由进之耳！故社，祭社也；稷，祭稷也；郊者，并百王于上天而祭祀之也。

三月之殓，何也？曰：大之也，重之也，所致隆也，所致亲也，将举错之，迁徙之，离宫室而归丘陵也，先王恐其不文也，是以繇其期<sup>⑦</sup>，足之日也。故天子七月，诸侯五月，大夫三月，皆使其须足以容事，事足以容成，成足以容文，文足以容备，曲容备物之谓道矣。

祭者，志意思慕之情也。憊诡悒悒而不能无时至焉<sup>⑧</sup>。故人之欢欣和合之时，则夫忠臣孝子亦憊诡而有所至矣。彼其所至者，甚大动也<sup>⑨</sup>；案屈然已<sup>⑩</sup>，则其于志意之情者惘然不慊<sup>⑪</sup>，其于礼节者阙然不具。故先王案为之立文，尊尊亲亲之义至矣。故曰：祭者，志意思慕之情也，忠信爱敬之至矣，礼节文貌之盛矣，苟非圣人，莫之能知也。圣人明知之，士君子安行之，官人以为守，百姓以成俗。其在君子，以为人道也；其在百姓，以为鬼事也。故钟鼓管磬，琴瑟竿笙，《韶》、《夏》、《护》、《武》、《洎》、《桓》、《箭》、《象》<sup>⑫</sup>，是君子之所以为憊诡其所喜乐之文也。齐衰，苴杖，居庐，食粥，席薪，枕块，是君子之所以为憊诡其所哀痛之文也。师旅有制，刑法有等，莫不称罪，是君子之所以为憊诡其所敦恶之文也。卜筮视日，斋戒修涂，几筵饔饩告祝，如或飨之。物取而皆祭之，如或尝之。毋利举爵，主人有尊，如或觴之。宾出，主人拜送，反易服，即位而哭，如或去之。哀夫！敬夫！事死如事生，事亡如事存，状乎无形影，然而成文。

#### 注释：

- ①已：停止。 ②中绳：符合木工的墨线。  
③揉：通“揉”。 ④樛：自然风干。暴：晒。  
⑤砺：磨刀石。 ⑥知：通“智”。 ⑦干越：两古国名，在今江浙一带。夷貉：当时居于东方和北方的两个部族。 ⑧恒：常。安息：安逸。 ⑨靖：安宁。共：同“恭”，肃敬谦逊。 ⑩好：易于。  
⑪神、听：治理政事。 ⑫介：助。景：大。



⑬跂: 踮起脚。 ⑭假: 借助。 ⑮涅: 黑土。  
⑯芷: 代指香草。 ⑰滫: 臭水。 ⑱服: 佩带。  
⑲象: 依顺。 ⑳取柱: 被用作支柱。 ㉑取束:  
被用作束带。 ㉒构: 结。 ㉓畴生: 丛生。  
㉔醢(xi): 肉汁。 ㉕螭: 蚊虫。 ㉖颀: 同“跬”, 半  
步。 ㉗驽马: 劣马。 十驾: 十天的里程。  
㉘螭: 同“蚓”。 ㉙脆: 蟹脚。 ㉚螭: 蟾鱼。  
㉛螭蛇: 传说中龙的一种。 ㉜颀(shi)鼠: 梧  
鼠。 ㉝沈: 通“沉”。 ㉞仰秣: 扬起吃草的头。  
㉟恶: 疑问词。 ㊱敬文: 恭敬而文雅。 ㊲微:  
微言大义。 ㊳箸: 同“著”。 ㊴端: 详审。  
㊵禽饔: 礼物。 ㊶傲: 急躁。 ㊷喷: 唠叨。  
㊸向: 通“响”。 ㊹经: 途径。 ㊺安: 则。  
㊻拙: 屈。 ㊼道: 躬行。 ㊽以锥飧壶: 用锥子  
代替筷子吃饭。 飧: 同“餐”。 ㊾拮(hù): 指不正当  
的事。 ㊿交: 急切。 舒: 怠慢。 ㉑菑: 同  
“缙”。 ㉒嚙嚙(xi): 相附和。 ㉓咎咎(zì)相诋毁。  
㉔孔: 大。 ㉕藏: 善。 ㉖违: 背弃。 ㉗扁:  
遍。 ㉘信: 真。 ㉙勃: 同“悖”。 ㉚慢: 同“慢”。  
㉛卒度: 完全符合法度。 ㉜获: 时宜。 ㉝闲:  
熟习。 ㉞倏(tí): 迟缓。 ㉟耗: 同“眊”, 昏昧。  
㊱齐给: 敏捷。 便利: 轻快。 ㊲僇弃: 轻佻自暴  
自弃。 ㊳修美好、完善。 ㊴折阅: 亏本。  
㊵执: 同“势”。 ㊶墨: 贪鄙。 精: 性情。 ㊷偷  
懦: 懦弱怕事。 转脱: 取巧逃避。 ㊸佞: 口才伶  
俐。 兑: 通“锐”, 行动迅速。 曲: 谦让。 ㊹辟  
违: 邪恶背理。 程役: 逞欲。 录: 检点。 ㊺供  
翼: 恭敬。 ㊻倚魁: 同“奇傀”, 怪异。 ㊼县:  
通“悬”。 ㊽伥伥(chāng): 迷茫不知所措。 ㊾渠  
渠: 局促不安。 ㊿弟: 同“悌”, 敬长。 ㉑束:  
择。 ㉒倍: 通“背”。 ㉓揜(yān)迹: 承先人之  
业。 ㉔乡: 借作“向”, 往昔。 ㉕擅: 通“禅”。  
㉖厌然: 安宁貌。 ㉗倭: 同“悛”。 ㉘噪: 通  
“叫”。 ㉙经纪: 纲纪。 ㉚豫贾: 漫天要价。  
㉛蚤正: 预先纠正。 蚤: 通“早”。 ㉜罔: 借作  
“网”。 不: 借作“罟(fu)”。 代指捕获的鱼兽。  
㉝灌: 通“喧”。 ㉞白: 明显。 愿: 敬仰。 ㉟通  
达: 水陆可通。 ㊱思: 语助词。 ㊲道: 行。  
㊳烧: 贫瘠的土地。 ㊴备用: 器用。 ㊵荐: 连  
续, 反复。 搏: 挫抑。 ㊶谟: 断定。 ㊷施:

移。 ㊸倭指: 屈指可数。 ㊹辟: 借作“譬”。  
称: 援引。 ㊺上: 极。 ㊻敦慕: 勤勉力行。  
㊼涂之人: 普通百姓。 ㊽效: 验证。 ㊾胥靡:  
空无所有。 ㊿行或: 乞讨。 ㉑倭: 借作“屨”,  
多。 ㉒朽朽: 广大。 ㉓比周: 结党营私。  
㉔胁: 挟。 ㉕九皋九曲沼泽。 ㉖粹: 通“碎”。  
㉗诬: 枉称。 ㉘辩: 通“辨”, 治理。 ㉙桥: 通  
“矫”。 ㉚枝: 通“肢”。 ㉛要时: 不失时。  
㉜诏: 通“绍”, 连续。 ㉝正: 通“政”。 ㉞传: 统  
一治理之意。 ㉟猷猷(yān): 恢恢, 安静和乐貌。  
㊱乐乐: 落落, 坚定。 殆: 通“怠”。 ㊲炤炤: 昭  
昭。 ㊳修修: 条条。 用: 衍文, 无义。 统类: 纲  
纪。 ㊴绥绥: 安泰貌。 ㊵熙熙: 和乐貌。 减:  
善。 ㊶隐隐: 忧虑不安。 ㊷挟: 通“浹”, 周  
洽。 ㊸管: 枢要。 ㊹逐: 顺乎潮流。 ㊺度  
(yì): 古代宫殿上门窗之间的屏风, 为天子朝见诸  
侯站立之所。 ㊻隧: 通“坠”, 山崩。 ㊼乡: 通  
“向”。 ㊽薪: 通“圻”, 疆界。 ㊾媿: 同“愧”。  
㊿逢: 大。 浅: 宽松。 ㉑解果: 即瓠羹, 中间高  
两旁低。 ㉒伪: 通“为”。 ㉓揜其口: 糊口。  
㉔长子: 显贵人物。 ㉕德然: 心安理得的样子。  
德, 当是“亿”字。 ㉖倚: 通“奇”。 ㉗慨恁: 疑  
滞惭作。 慨: 通“疑”。 恁: 通“作”。 ㉘晦: 通  
“奄”。 ㉙错: 通“措”。 ㉚伯: 同“霸”。 ㉛积:  
积学。 ㉜注错: 措置。 ㉝反: 借作“販”。  
㉞服: 职业。 ㉟积靡: 长期积习。 ㊱微: 通  
“邀”。 ㊲迪: 启用。 ㊳污漫: 污秽。 ㊴沟瞽  
(mào)愚昧无知。 ㊵坛宇: 界限。 ㊶防表: 标  
准。 ㊷荡: 渺茫难凭。 ㊸苾: 香。 ㊹黼黻  
(fǔfú): 古代礼服上的花纹。 ㊺疏房: 敞亮的居  
室。 榱貌: 深邃的庙堂。 第(zì): 竹制床席。  
㊻路: 通“辂”。 大辂: 古代天子专用的车。 ㊼旂  
(yòu): 旗上的飘带。 ㊽寝兕: 伏着的独角犀。  
持(shì)虎: 蹲着的虎。 蛟鞬(xiān)蛟皮做的马肚  
带。 末(mi): 古代车上遮挡风沙的装置。 弥龙: 车  
内两边可以倚靠处所画的龙。 ㊿信至: 非常驯  
服。 ㉑要(yào): 求。 ㉒苟生之为见: 若只求偷  
生。 ㉓说: 同“悦”。 ㉔焉: 则。 ㉕天太祖:  
以始祖配天。 ㉖得: 通“德”。 ㉗大殯: 在太庙  
合祭列祖。 ㉘玄尊: 盛有清水的酒杯。 ㉙俎



(zū)生鱼：俎里盛着生鱼。俎：盛祭品的器皿。  
 ①⑥大(tài)羹：未调味的肉汁。①⑦飨：同“享”，四季祭祖活动。①⑧祭：每月的祭祖活动。①⑨齐：跻，先献。庶羞：多种嘉肴。①⑩大(tài)一：太古时代。①⑪豆：古代食器。①⑫一：指以上三种情况都合于古礼。①⑬利爵：佐食者所献的酒。醑：尽。①⑭成事：哭祭的仪式。①⑮臭(yòu)：席间助兴劝食。①⑯昏：通“婚”。发：举行。齐(diàn)：古代婚礼仪式。①⑰尸：古代祭祀用以代表死者受祭的活人。①⑱素末：即丝末。①⑲纁：帽。①⑳散麻：小殓时主人将散麻系在腰间。㉑拊、鬲：古代乐器。㉒通越：瑟底通了孔，使乐声迟重。㉓柝(tuō)：疏略。㉔悦校：愉快。㉕队：通“坠”。㉖厉：疾飞。骛：驰骋。㉗方皇：彷徨。：浹。周：遍。㉘臧：奴仆。谷：小孩。㉙蓍蓍(shàjiè)：古代棺木上的白饰。㉚殓(jìn)：掩埋。㉛纆紼：将棉絮置于死者鼻侧(看其是否断气)。㉜阼：垂危。㉝貌：古“貌”字。㉞尔(èr)：同“迹”。㉟窈冶：妖美。㊱说：悦。豫：乐。婉媚。㊲萃恶：憔悴。㊳讟：戏谑。㊴涕：通“啼”。㊵𩚑：同“饘”。𩚒：同“粥”。㊶资粗：粗布。衰经(cuī dié)：丧服。菲纼：又薄又疏的布。菅屨：草鞋。㊷属次：以草结顶的房子。倚庐：守丧者搭盖的简陋木房。㊸伪：人为。㊹髻(kuò)：束发。体：剪指甲等。饭含：将米放在死者口中。㊺倮：同“还”，绕。㊻重(chóng)：木制，暂代神主牌。㊼纁(shì)：包头发的丝织物。㊽庀(wū)：盛物的陶器。㊾不成斲：不加工。㊿貌：古“貌”字。①①鞶(yin)：系在车轴上的皮带。①②版、盖、斯、拂：古代车上的组成部分。①③无(hū)：即“幬”字。幬：同“褚”。幬、褚都是棺饰。丝觞：其义不详。缕髻：即“蓍蓍”。①④菲：可能是指草帘。尉：即尉：网状帷帐。①⑤抗折：葬具。椁(mǎn)：刷抹墙壁或屋顶。茨(cí)：用茅草盖房子。藩(藩)：篱笆。闑(è)：遮挡风尘的门户。①⑥刻：消损。附：增益。墨：蔽塞。①⑦苴(jū)：枯竹。①⑧铅：同“沿”。①⑨爵：同“雀”。啁噍(zhōu jiù)：即“啁啾”，鸟叫声。①⑩杀(shài)：减等。①⑪恺悌：和易可亲。①⑫繇：推迟。①⑬悻：变。诡：异。呶悒：心情郁

闷不畅。①⑭动：感动。①⑮案：语助词。屈然：空落落地。①⑯慊(qiè)：满意。①⑰箛(shuò)：舞曲名。

## 《学 记》

### 题解：

《学记》是《礼记》中的一篇，相传为战国后期孟子弟子所作，是一部完整的教育论文。《学记》系统地阐述了儒家的教育宗旨和教育谋略，对教育计划、教学方法、教育的准则及尊严地位、受教育者的必备素质、教育与政治的关系等方面都作了精当的论述。

《学记》的作者，承袭了思孟学派的传统，也明显地受到了荀况观点的影响。文中以“性善论”为前提，肯定了教育的必要性与可能性；从历史和实践经验中，总结了教育的谋略方法和得失；由治国安民的政治目的出发，阐述了政略与教育谋略的关系，指出了教育的根本作用——“化民成俗”。而这一切又都是为了实现教育家与执政者的最终理想——“近者悦服而远者怀之”。

《学记》中有关教育的最早的启蒙观点，在中国教育史上的地位是相当重要的。在当时，它是一部指导性的文献，对于后世而言，它更是一份宝贵的文化遗产。

## 学 记

发虑宪<sup>①</sup>，求善良，足以谗闻<sup>②</sup>，不足以动众；就贤体远，足以动众，未足以化民。君子如欲化民成俗，其必由学乎！

玉不琢，不成器；人不学，不知道。是故古之王者，建国君民，教学为先。《兑命》曰：“念终始典于学”，<sup>③</sup>其此之谓乎！

虽有嘉肴，弗食不知其旨也；虽有至道，弗学不知其善也。是故学然后知不足，教然后知困。知不足，然后能自反也；知困，然后能自强也。故曰：教学相长也。《兑命》曰：“学学半”，<sup>④</sup>其此之谓乎！

古之教者，家有塾，党有庠，术有序，国有学<sup>⑤</sup>。

比年入学<sup>⑥</sup>，中年考校：一年视离经辨志<sup>⑦</sup>，三年视敬业乐群，五年视博习亲师，七年视论学取友，谓之小成。九年知类通达<sup>⑧</sup>，强立而不反<sup>⑨</sup>，谓之大成。夫然后足以化民易俗，近者说服而远者怀之<sup>⑩</sup>。此大学之道也。《记》曰：“蛾子时术之”<sup>⑪</sup>，其此之谓乎！

大学始教，皮弁祭菜<sup>⑫</sup>，示敬道也。《宵雅》肄三<sup>⑬</sup>，官其始也<sup>⑭</sup>。入学鼓箠<sup>⑮</sup>，孙其业也<sup>⑯</sup>。夏楚二物<sup>⑰</sup>，收其威也。未卜筮不视学<sup>⑱</sup>，游其志也。时观而弗语，存其心也。幼者听而弗问，学不躐等也。此七者，教之大伦也。《记》曰：“凡学，官先事，士先志”，其此之谓乎！

大学之教也，时教必有正业，退息必有居学。

大学操缦<sup>⑲</sup>，不能安弦；不学博依<sup>⑳</sup>，不能安《诗》；不学杂服<sup>㉑</sup>，不能安礼。不兴其艺，不能乐学。

故君子之于学也，藏焉修焉<sup>㉒</sup>，息焉游焉。夫然，故安其学而亲其师，乐其友而信其道，是以虽离师辅而不反也。《兑命》曰：“敬孙务时敏，厥修乃来”<sup>㉓</sup>，其此之谓乎！

今之教者，呻其占毕<sup>㉔</sup>，多其讯言<sup>㉕</sup>，及于数进<sup>㉖</sup>，而不顾其安，使人不由其诚，教人不尽其材，其施之也悖，其求之也佛<sup>㉗</sup>。夫然，故隐其学而疾其师，苦其难而不知其益也，虽终其业，其去之必速，教之不刑<sup>㉘</sup>，其此之由乎！

大学之法，禁于未发之谓豫，当其可之谓时，不陵节而施之谓孙<sup>㉙</sup>，相观而善之谓摩。此四者，教之所由兴也。

发然后禁，则扞格而不胜<sup>㉚</sup>；时过然后学，则勤苦而难成；杂施而不孙，则坏乱而不修；独学而无友，则孤陋而寡闻。燕朋逆其师，燕辟废其学<sup>㉛</sup>。此六者，教之所由废也。

君子既知教之所由兴，又知教之所由废，

然后可以为人师也。故君子之教，喻也：道而弗牵<sup>㉜</sup>，强而弗抑<sup>㉝</sup>，开而弗达<sup>㉞</sup>。道而弗牵则和，强而弗抑则易，开而弗达则思。和、易、以思，可谓善喻矣。

学者有四失，教者必知之。人之学也，或失则多<sup>㉟</sup>，或失则寡，或失则易，或失则止。此四者，心之莫同也。知其心，然后能救其失也。教也者，长善而救其失者也。

善歌者，使人继其声。善教者，使人继其志。其言也，约而达，微而臧，罕譬而喻，可谓继志矣。

君子知至学之难易，而知其美恶，然后能博喻；能博喻，然后能为师；能为师，然后能为长；能为长，然后能为君。故师也者，所以学为君也。是故择师不可不慎也。《记》曰：“三王四代唯其师”，此之谓乎！

凡学之道，严师为难。师严然后道尊，道尊然后民知敬学。是故君之所不臣于其臣者二：当其为尸<sup>㊱</sup>，则弗臣也；当其为师，则弗臣也。大学之礼，虽诏于天子无北面，所以尊师也。

善学者，师逸而功倍，又从而庸之<sup>㊲</sup>。不善学者，师勤而功半，又从而怨之。善问者如攻坚木，先其易者，后其节目，及其久也，相说以解<sup>㊳</sup>。不善问者反此。善待问者如撞钟，叩之以小者则小鸣，叩之以大者则大鸣，待其从容，然后尽其声。不善答问者反此。此皆进学之道也。

记问之学，不足以为人师，必也其听语乎。力不能问，然后语之，语之而不知，虽舍之可也。

良冶之子<sup>㊴</sup>，必学为裘；良弓之子，必学为箕；始驾（马）者反之，车在马前。君子察于此三者，可以有志于学矣。

古之学者，比物丑类<sup>㊵</sup>。鼓无当于五声<sup>㊶</sup>，五声弗得不和；水无当于五色，五色弗得不章；学无当于五官，五官弗得不治；师无当于五服<sup>㊷</sup>，五服弗得不亲。

君子曰：大德不官，大道不器，大信不约，大时不齐<sup>㊸</sup>。察于此四者，可以有志于

本矣。三王之祭川也，皆先河而后海，或源也，或委也<sup>④</sup>，此之谓务本。

#### 注释：

①发：发布。虑宪：政令。②洩(xiǎo)闻：小有名声。③念：思虑。典：主管。学：教育。④学学半：前一学字意为教育。教是学的一半。⑤家：二十五家的闾。党：五百家为党。术(suì)：通“遂”，一万二千五百家为遂。国：天子及诸侯的京都。塾、庠、序：学校。学：太学。⑥比年：每年。⑦离经：分析篇章结构和断句。辨志：考察学生的兴趣爱好。⑧知类：明白事物间的道理。⑨强立：信念坚定。不反：不违师教。⑩说：通“悦”。⑪蛾子：蚊的幼虫。术之：向成蚊学习。⑫皮弁：天子的朝服。祭菜：供奉先圣先师的蔬菜。⑬《宵雅》：《小雅》。肄：学习。三：指《小雅》中《鹿鸣》、《四牡》、《皇皇者华》三首诗。⑭官：做官的道理。⑮鼓篋(qiè)：击鼓集众，開箱取书。⑯孙：通“逊”，恭顺。⑰夏楚：体罚用的杖条。⑱卜筮：大祭前占卜。⑲纛：杂乐。⑳博依：多种譬喻。㉑杂服：各式服装。㉒藏：怀、抱。㉓敬孙务时敏：恭敬、谦顺、专心、及时、敏捷。厥：他的。㉔呻：诵读。占、毕：指课本。㉕讯言：灌输知识。㉖及：求得。数：通“速”。安：适应。㉗佛：通“拂”，违背。㉘刑：成功。㉙孙：通“逊”。㉚扞格：抵触。㉛燕：轻慢不正的。辟：言行。㉜道：通“导”。牵：强拉。㉝强：勉励。抑：压制。㉞开：启发。达：指出答案。㉟则：于。㊱尸：古代祭祖时代死者位祭的人。㊲庸：功。此指归功。㊳说：通“悦”。㊴冶：指冶铸金属的工匠。㊵丑：比。㊶当：相当，等于。㊷五服：五和级别的丧服，因血亲关系远近而不同。㊸大时：天时。齐：一律等同。㊹委：末端，众水所聚之处，即海。

## 《颜氏家训》

#### 题解：

颜之推(531—591)字介，琅玕临沂(今属山东)人，南北朝时著名学者，孔子弟子颜回的后代。所著《颜氏家训》一书，述立身

治家之法，评议时俗，训戒子孙，辞质义直，行于后世。

《教子》一篇，在《家训》序言之后，以孔子“少成若天性，习惯如自然”为依据，并对此加以发挥，强调了对子女的早期教育的必要性。引证古事，评论时俗，论证了教子的成败与失策的原因。指出适时教育与正确引导，可以关系到子女的一生。文中对《论语》“君子之远其子”一句做了浅易详尽的解释，并以此说明父子之间尤须讲究教育策略，这样才不至于因严苛或溺爱造成不应有的偏差。

后世对《颜氏家训》一书评价很高，宋代学者认为书中所涉及的博大精深的学术造诣，不在《广雅》、《世说新语》等盖世名作之下，明代学者认为颜之推的贡献，不仅能助人理解领悟先秦诸儒的劝世学说，而且足以当作世人的治家准则，因此《家训》的意义也就不止限于“颜氏”一家而已。

## 教 子

上智不教而成，下愚虽教无益，中庸之人，不教不知也。古者，圣王有胎教之法：怀子三月，出居别宫，目不邪视，耳不枉听，音声滋味，以礼节之。书之玉版<sup>①</sup>，藏诸金匱<sup>②</sup>。生子咳唼<sup>③</sup>，师保固明孝仁义导习之矣<sup>④</sup>。凡庶纵不能尔<sup>⑤</sup>，当及婴稚，识人颜色，知人喜怒，便加教诲，使为则为，使止则止。比及数岁，可省笞罚<sup>⑥</sup>。父母威严而有慈，则子女畏慎而生孝矣。吾见世间，无教而有爱，每不能然<sup>⑦</sup>。饮食运为，恣其所欲，宜戒翻奖<sup>⑧</sup>，应诃反笑<sup>⑨</sup>，至有识知，谓法常尔<sup>⑩</sup>。骄慢已习，方复制之，捶撻至死而无威，忿怒日隆而增怨。逮于成长<sup>⑪</sup>，终为败德。孔子云：“少成若天性，习惯如自然”是也。俗谚曰：“教妇初来，教儿婴孩。”诚哉斯语！

凡人不能教子女者，亦非欲陷其罪恶。但重于诃怒，伤其颜色，不忍楚撻惨其肌

肤耳<sup>⑫</sup>。当以疾病为谕：安得不用汤药针艾救之哉？又宜思勤督训者，可愿苟虐于骨肉乎？诚不得已也。

王大司马母魏夫人，性甚严正。王在湓城时<sup>⑬</sup>，为三千人将，年踰四十，少不如意，犹捶撻之，故能成其勋业。梁元帝时，有一学士，聪敏有才，为父所宠，失于教义。一言之是，遍于行路，终年誉之；一行之非，掩藏之饰<sup>⑭</sup>，冀其自改。年登婚宦，暴慢日滋，竟以言语不择，为周逖抽肠斲鼓云<sup>⑮</sup>。

父子之严，不可以狎；骨肉之爱，不可以简。简则慈孝不接，狎则怠慢生焉。由命士以上，父子异宫<sup>⑯</sup>，此不狎之道也；抑搔痒痲，悬衾篋枕<sup>⑰</sup>，此不简之教也。或问曰：“陈亢喜闻君子之远其子<sup>⑱</sup>，何谓也？”对曰：“有是也，盖君子之不亲教其子也。《诗》有讽刺之辞，《礼》有嫌疑之诫，《书》有悖乱之事，《春秋》有褒僻之讥<sup>⑲</sup>，《易》有备物之象<sup>⑳</sup>，皆非父子之所通言，故不亲授耳<sup>㉑</sup>。”

齐武成帝子琅邪王，太子母弟也，生而聪慧，帝及后并笃爱之，衣服饮食，与东宫相准。帝每面称之曰：“此黠儿也<sup>㉒</sup>，当有所成。”及太子即位，王居别宫，礼数优僭<sup>㉓</sup>，不与诸王等<sup>㉔</sup>。太后犹谓不足，常以为言。年十许岁，骄恣无节，器服玩好，必拟乘舆<sup>㉕</sup>。常朝南殿，见典御进新冰，钩盾献早李<sup>㉖</sup>，还索不得，遂大怒，询曰<sup>㉗</sup>：“至尊已有，我何意无？”不知分齐<sup>㉘</sup>，率皆如此。识者多有叔段、州吁之讥<sup>㉙</sup>。后嫌宰相，遂矫诏斩之，又惧有救，乃勒麾下军士，防守殿门。既无反心，受劳而罢，后竟坐此幽薨。

人之爱子，罕亦能均。自古及今，此弊多矣。贤俊者自可赏爱，顽鲁者亦当矜怜。有偏宠者，虽欲以厚之，更所以祸之。共叔之死，母实为之。赵王之戮，父实使之。刘表之倾宗覆族，袁绍之地裂兵亡，可为灵龟明鉴也。

齐朝有一士大夫，尝谓吾曰：“我有一儿，年已十七，颇晓书疏<sup>㉚</sup>。教其鲜卑语及弹琵琶，稍欲通解。以此伏事公卿<sup>㉛</sup>，无不宠爱，

亦要事也。”吾时俯而不答<sup>㉜</sup>。异哉！此人之教子也！若由此业，自致卿相，亦不愿汝曹为之<sup>㉝</sup>。

注释：

- ①玉版：玉制简策，为帝王记事之用。  
②匱：同“拒”。③咳唼：指出生三个月的婴儿。  
④固：理所当然。⑤凡庶：寻常人家。⑥省：懂。⑦然：赞同。⑧翻：反而。⑨诃：同“呵”，叱责。⑩谓：以为。法常：依照平常。常：平日。⑪逮：及。⑫楚：惨；意谓撻痛。  
⑬湓城：地名。⑭文饰：以堂皇理由作解释。  
⑮斲(xuì)鼓：用血涂抹战鼓。⑯异宫：意同分居。⑰悬衾篋(qiè)枕：意同叠被铺床。⑱陈亢：孔子时人，曾问孔鲤是否得到父亲的私授，因而盛赞孔子“远其子”。⑲褒：古“邪”字。⑳备物：备物致用。㉑此句谓书中涉及的内容不正，父子间不能论说。㉒黠(xiá)：聪明。㉓僭(jiàn)：超越本分。㉔等：等同。㉕拟：比。乘舆：代指皇帝用物。㉖典御、钩盾：负责宫内饮食、购物的侍宦。㉗询(gòu)：骂。㉘分齐：本分齐限。㉙叔段：共叔段，春秋时郑庄公之弟，因受母宠，谋叛被逐。州吁之事略同。㉚疏：注解。㉛伏：同“服”。㉜俯：俯首。喻低头不语。㉝汝曹：你们。指颜氏子弟。

## 《昌黎先生集》

题解：

韩愈(768—824)字退之，河南南阳(今河南孟县西)人，世称昌黎先生。韩愈年幼时处境极苦，3岁父母亡故，13岁兄死，由寡嫂抚育成人。他自幼读书刻苦，发奋自学，“日记数千言”，研习六经，对百家书籍无不通晓。25岁及进士第，渐入仕途。他曾只身招服叛乱军队，在平淮西的军事活动中献过制敌良策，曾冒死谏阻宪宗皇帝迎佛骨。“才高数黜”，而不改其操守。他先后任过推官、县令、刺史、侍郎，数次入为博士，教授学业。死时57岁，赐谥号为“文”。后世因此又称他为韩文公。

韩愈尊崇儒家思想学说，以捍卫儒家思想为己任，极力排斥佛教与道教。他是唐代“古文运动”的主要倡导者，对先秦、汉两代的古文加以创新和发展，形成了气势雄健的散文风格，被列为“唐宋八大家”之首。

韩愈十分重视人才的教育培养和选拔，在潮州任刺史时，捐薪创设乡学，聘师讲学，教导当地子弟，推广和传播教化主张。受他指导过的“韩门弟子”中，以李翱、李汉、皇甫湜最为有名。

韩愈的著作，由门人李汉等编为《昌黎先生集》，从其中的《进学解》、《师说》等篇中，可以看出他的教育谋略思想。在《进学解》中，韩愈阐发了教学的正确方法，强调对学生平时的勉励、教授时重点的把握和因材施教。尤其是他要求教师对学生必须象木工处理木材一样，长短大小，各尽其用，毫无遗弃，而教师本身则必须具备丰富的学识，就象良医储备各种药材，可以随时备用。在《师说》中，指出了教师的职责：“传道、授业、解惑”，具备了这种能力的人，才可以为师。这二篇文论对后世的教育、教学都有很大的指导意义，产生了极为深远的影响。

## 进学解

国子先生晨入太学<sup>①</sup>，招诸生立馆下，诲之曰<sup>②</sup>：“业精于勤荒于嬉，行成于思毁于随<sup>③</sup>。方今圣贤相逢<sup>④</sup>，治具毕张<sup>⑤</sup>。拔去凶邪，登崇俊良<sup>⑥</sup>。占小善者率以录，名一艺者无不庸<sup>⑦</sup>。爬罗剔抉<sup>⑧</sup>，刮垢磨光。盖有幸而获选，孰云多而不扬<sup>⑨</sup>？诸生业患不能精，无患有司之不明；行患不能成，无患有司之不公。”

言未既，有笑于列者曰：“先生欺余哉？弟子事先生，于兹有年矣。先生口不绝吟于六艺之文，手不停披于百家之编；纪事者必提其要，纂言者必钩其玄<sup>⑩</sup>；贪多务得，细大不捐；焚膏油以继晷，恒兀兀以穷年。先生之业，可谓勤矣。抵排异端，攘斥佛老；

补苴罅漏，张皇幽眇<sup>⑪</sup>；寻坠绪之茫茫，独旁搜而远绍<sup>⑫</sup>；障百川而东之，回狂澜于既倒。先生之于儒，可谓有劳矣。沉浸醲郁<sup>⑬</sup>，含英咀华。作为文章，其书满家。上规姚姒<sup>⑭</sup>，浑浑无涯，周诒殷盘，佶屈聱牙<sup>⑮</sup>，《春秋》谨严，左氏浮夸<sup>⑯</sup>，《易》奇而法<sup>⑰</sup>，《诗》正而葩<sup>⑱</sup>，下逮《庄》《骚》<sup>⑲</sup>，太史所录<sup>⑳</sup>，子云、相如，同工异曲。先生之于文，可谓宏其中而肆其外矣。少始知学，勇于敢为；长通于方，左右具宜。先生之于为人，可谓成矣。然而公不见信于人，私不见助于友，跋前踖后<sup>㉑</sup>，动辄得咎。暂为御史，遂窜南夷。三年博士，冗不见治<sup>㉒</sup>。命与仇谋，取败几时<sup>㉓</sup>。冬暖而儿号寒，年丰而妻啼饥。头童齿豁，竟死何裨？不知虑此，而反教人为<sup>㉔</sup>！”

先生曰：“吁！子来前，夫大木为杗，细木为桷，榑栌侏儒，根闾店楔，各得其宜，施以成室者，匠氏之工也<sup>㉕</sup>。玉札丹砂，赤箭青芝，牛溲马勃，败鼓之皮，俱收并蓄，待用无遗者，医师之良也<sup>㉖</sup>。登明选公，杂进巧拙，纡余为妍，卓犖为杰，校短量长，唯器是适者，宰相之方也<sup>㉗</sup>。昔者孟轲好辩，孔道以明，辙环天下，卒老于行；荀卿守正，大论是宏，逃谗于楚，废死兰陵。是二儒者，吐辞为经，举足为法，绝类离伦，优入圣域，其遇于世何如也！今先生学虽勤而不由其统，言虽多而不要其中，文虽奇而不济于用，行虽修而不显于众。犹且月费俸钱，岁糜廩粟；子不知耕，妇不知织；乘马从徒，安坐而食；踵常途之促促，窥陈编以盗窃。然而圣主不加诛，宰臣不见斥，兹非其幸欤<sup>㉘</sup>？动而得谤，名亦随之，投闲置散，乃分之宜<sup>㉙</sup>。若夫商财贿之有亡，计班资之崇庳，忘己量之所称，指前人之瑕疵，是所谓诤匠氏之不以杙为榼，而訾医师以昌阳引年，欲进其豨苓也<sup>㉚</sup>。”

## 师 说

古之学者必有师。师者，所以传道、受业、解惑也<sup>①</sup>。人非生而知之者，孰能无惑？惑而不从师，其为惑也，终不解矣。生乎吾前，其闻道也，固先乎吾，吾从而师之；生乎吾后，其闻道也，亦先乎吾，吾从而师之。吾师道也，夫庸知其年之先后生于吾乎？是故无贵无贱，无长无少，道之所存，师之所存也。

嗟乎！师道之不传也久矣，欲人之无惑也难矣。古之圣人，其出人也远矣，犹且从师问焉；今之众人，其下圣人也亦远矣，而耻学于师。是故圣益圣，愚益愚。圣人之所以为圣，愚人之所以为愚，其皆出于此乎？爱其子，择师而教之，于其身也，则耻师焉，惑矣。彼童子之师，授之书，而习其句读者<sup>②</sup>，非吾所谓传其道，解其惑者也。句读之不知，惑之不解，或师焉，或不焉。小学而大遗<sup>③</sup>，吾未见其明也。巫医乐师百工之人，不耻相师。士大夫之族，曰师曰弟子云者，则群聚而笑之。问之，则曰：“彼与彼年相若也，道相似也。位卑则足羞，官盛则近谀<sup>④</sup>。”呜呼，师道之不复，可知矣。巫医乐师百工之人，君子不齿。今其智乃反不能及，其可怪也欤！

圣人无常师。孔子师郯子、苌弘、师襄、老聃。郯子之徒，其贤不及孔子。孔子曰：“三人行，则必有我师。”是故弟子不必不如师，师不必贤于弟子。闻道有先后，术业有专攻，如是而已。

李氏子蟠，年十七，好古文，六艺经传，皆通习之。不拘于时<sup>⑤</sup>，学于余。余嘉其能行古道，作《师说》以贻之<sup>⑥</sup>。

### 注释：

①国子先生：国子博士，韩愈自称。 ②海：教导。 ③随：不严格。 ④圣贤：圣主、贤臣。 ⑤治具：法、形。毕：完全。张：举，开始行使。 ⑥登崇：提拔、推崇。 ⑦庸：录用。 ⑧爬：梳

理。罗：搜寻。剔：挑选。抉：选择。 ⑨多：人才众，学问博。扬：显扬。 ⑩钩：探索。玄：深远的含义。 ⑪苴(jū)：鞋衬。罅(xià)：裂。张皇：发扬光大。幽眇：深邃细微。 ⑫坠绪：前人未竟之业。绍：继述。 ⑬醖：通“浓”。 ⑭姚、姒：舜、禹的姓。 ⑮周诰、殷盘：《周书》、《尚书》中的篇名。佶偃聱牙：喻文句艰涩，不顺口。 ⑯左氏：指《左传》。浮夸：夸张。 ⑰奇：变化奇妙。法：规则。 ⑱葩(bà)：花。喻华美。 ⑲逮：及。《庄》：《庄子》。 ⑳太史：司马迁。 ㉑跋：践踏。蹊：绊。 ㉒冗：闲散。治：业绩。 ㉓仇：仇敌。谋：相遇。 ㉔头童：头发脱光。童：光赤。裨：补。 ㉕茱(máng)：梁。桷(jué)：方椽。搏(bó)：壁柱。栌：柱上的方木。侏儒：梁上短柱。椳(wei)：门臼。闑(niè)：门中央所立的短柱。扂(diàn)：门臼。楔(xiè)：门两侧的木柱。 ㉖玉札、丹砂、赤箭、青芝：中药名，很贵重。牛溲、马勃、败鼓之皮：中药名，都是贱药。 ㉗纤余：委琐。妍：俊美。卓犖(luò)：卓越。 ㉘兹：这。欤：语气助词。 ㉙分：名分。 ㉚商：计较。财贿：俸禄。亡：无。班资：品次。庳(bēi)：同“卑”。杙(yì)：小木。楹：大柱。訾(zǐ)：责难。昌阳：即昌蒲，古代认为是延年之药。豨苓：一种泻药。 ㉛所以：用来。 ㉜句读(dòu)：标点断句。 ㉝遗：遗失。 ㉞谀：阿谀。 ㉟拘：限，受束服。 ㊱贻：赠送。

## 《上仁宗皇帝言事书》

### 题解：

王安石(1021—1086)字介甫，号半山，北宋政治家、文学家、思想家，抚州临川(今属江西抚州市)人。庆历年间及进士第，先后任过县令、参知政事和宰相，是中国历史上著名的改革家，“唐宋八大家”之一，有《临川集》传世。封荆国公，世称荆公。

王安石在政治思想上反对因循守旧，强调“权时之变”，主张应按现实存在的情况制定出合理的治国方针。在教育思想上与此一脉相承，主张结合治国改新，制定并切实施行相应的教育策略。

宋仁宗嘉祐三年(1058),王安石向仁宗皇帝上万言书,主张改革政治。他把教育作为推行新政的一种手段,极力提倡并实行教育改革。他认为国家必须培育学以致用的人才,“苟不可以为天下国家之用,则不教也。苟可以为天下国家之用者,则无不在于学。此教之之道也。”他认为对人才的“陶冶之道”,不外乎“教之、养之、取之、任之有其道而已。”其中以“教”为根本,“养”是“教”的继续,“取”、“任”是“教”的效用。

王安石认为当时的教育仅以“讲说章句”应付科试为目的,有名无实,不足以担负培养人才的任务。士子白首于庠序而不知经济。国家用人之际,委以治国大事,这些人用非所学,便“茫然不知其方”,不能胜任。因此,他主张广设学校,慎选师资,讲授实学,以便为新法服务。关于教育,王安石强调“尚实用”、“求专门”、“兼文武”,并以改革科举制、创设专科学校、统一大学用书为三个实施步骤。

王安石的教育改革思想,是为政治服务的。他虽然不是实际从事教育工作的人,但是他对教育的看法及主张,是在总结历史与现实情况的得失基础上提出的,而且他将教学这件事提升到治国谋略的高度,这对后世的教育目的与方针的制定,有着极宝贵的借鉴意义。

……夫人才乏于上,则有沉废伏匿在下<sup>①</sup>,而不为当时所知者矣。臣又求之于闾巷草野之间<sup>②</sup>,而亦未见其多焉。岂非陶冶而成之者非其道而然乎?臣以谓方今在位之人才不足者,以臣使事之所及,则可知矣。今以一路数千里之间,能推行朝廷之法令,知其所缓急,而一切能使民以修其职事者甚少,而不才、苟简、贪鄙之人,至不可胜数。其能讲先王之意以合当时之变者,盖闾郡之间<sup>③</sup>,往往而绝也。朝廷每一令下,其意虽善,在位者犹不能推行,使膏泽加于民。而吏辄缘之为奸,以扰百姓。臣故曰:在位之

人才不足,而草野闾巷之间,亦未见其多也。夫人才不足,则陛下虽欲改易更革天下之事,以合先王之意,大臣虽有能当陛下之意而欲领此者,九州之大,四海之远,孰能称陛下之指<sup>④</sup>,以一一推行此,而人人蒙其施者乎<sup>⑤</sup>?臣故曰:其势必未能也。孟子曰:“徒法不能以自行<sup>⑥</sup>”,非此之谓乎?然则方今之急,在于人才而已。诚能使天下人才众多,然后在位之才可以择其人而取足焉。在位者得其才矣,然后稍视时势之可否,而因人情之患苦,变更天下之弊法,以趋先王之意,甚易也。今之天下,亦先王之天下。先王之时,人才尝众矣,何至于今而独不足乎?故曰:陶冶而成之者,非其道故也。

商之时,天下尝大乱矣。在位贪毒祸败<sup>⑦</sup>,皆非其人。及文王之起,而天下之才尝少矣。当是时,文王能陶冶天下之士,而使之皆有士君子之才,然后随其才之所有而官使之。《诗》曰:“岂弟君子,遐不作人<sup>⑧</sup>?”此之谓也。及其成也,微贱免置之人<sup>⑨</sup>,犹莫不好德,免置之诗是也,又况于在位之人乎?夫文王惟能如此,故以征则服,以守则治。《诗》曰:“奉璋峨峨,髦士攸宜<sup>⑩</sup>。”又曰:“周王于迈,六师及之<sup>⑪</sup>。”言文王所用,文武各得其才,而无废事也。及至夷、厉之乱<sup>⑫</sup>,天下之才,又尝少矣。至宣王之起,所与图天下之事者,仲山甫而已。故诗人叹之曰:“德輶如毛,维仲山甫举之,爱莫助之<sup>⑬</sup>。”盖闵人才之少<sup>⑭</sup>,而山甫之无助也。宣王能用仲山甫,推其类以新美天下之士,而后人才复众。于是内修政事,外讨不庭<sup>⑮</sup>,而复有文、武之境土。故诗人美之曰:“薄言采芑,于彼新田,于此菑亩<sup>⑯</sup>。”言宣王能新美天下之士,使之有可用之才,如农夫新美其田,而使之有可采之芑也。由此观之,人之才,未尝不自人主陶冶而成之者也。……

所谓教之之道,何也?古者天子、诸侯,自国至于乡、党皆有学,博置教导之官而严其选。朝廷礼乐刑政之事,皆在于学。学士所观而习者,皆先王之法言德行治天下之意,

其材亦可以为天下国家之用。苟不可以为天下国家之用，则不教也。苟可以为天下国家之用者，则无不在于学。此教之之道也。

方今州县虽有学，取墙壁具而已<sup>①</sup>，非有教导之官，长育人才之事也。唯太学有教导之官，而亦未尝严其选。朝廷礼乐刑政之事，未尝在于学。学者亦漠然自以礼乐刑政为有司之事，而非己所当知也。学者之所教，讲说章句而已。讲说章句，固非古者教人之道也。而近岁乃始教之以课试之文章。夫课试之文章，非博诵强学、穷日之力则不能。及其能工也，大则不足以用天下国家，小则不足以为天下国家之用。故虽白首于庠序，穷日之力以师上之教<sup>②</sup>，及使之从政，则茫然不知其方者，皆是也。

盖今之教者，非特不能成人之才而已，又从而困苦毁坏之，使不得成才者，何也？夫人之才，成于专而毁于杂。故先王之处民才：处工于官府，处农于畎田<sup>③</sup>，处商贾于肆，而处士于庠序，使各专其业而不见异物，惧异物之足以害其业也。所谓此者，又非特使之不得见异物而已，一示之以先王之道，而百家诸子之异说，皆屏之而莫敢习者焉。今士之所宜学者，天下国家之用也。今悉使置之不教，而教之以课试之文章，使其耗精疲神，穷日之力以从事于此。及其任之以官也，则又悉使置之，而责之以天下国家之事。夫古之人，以朝夕专其业于天下国家之事，而犹才有能有不能，今乃移其精神，夺其日力，以朝夕从事于无补之学。及其任之以事，然后卒然责之以为天下国家之用<sup>④</sup>。宜其才之足以有为者少矣。臣故曰：非特不能成人之才，又从而困苦毁坏之，使不得成才也。

又有甚害者，先王之时，士之所学者，文武之道也。士之才，有可以为公卿大夫，有可以为士。其才之大小、宜不宜则有矣，至于武事，则随其才之大小，未有不学者也。故其大者，居则为六官之卿，出则为六军之将也；其次则比、闾、族、党之师，亦皆卒、两、师、旅之帅也。故边疆、宿卫，皆

得士大夫为之，而小人不得奸其任。今之学者，以为文武异事，吾知治文事而已，至于边疆、宿卫之任，则推而属之于卒伍——往往天下奸悍无赖之人。苟其才行足以自托于乡里者，未有肯去亲戚而从召募者也。边疆、宿卫，此乃天下之重任，而人主之所当慎重者也。故古者教士，以射、御为急，其他技能，则视其人才之所宜，而后教之，其才之所不能，则不强也。至于射，则为男子之事。苟人之生，有疾则已，苟无疾，未有去射而不学者也。在庠序之间，固常从事于射也。有宾客之事则以射，有祭祀之事则以射，别士之行同能偶则以射<sup>⑤</sup>。于礼乐之事，未尝不寓以射，而射亦未尝不在于礼乐、祭祀之间也。《易》曰：“弧矢之利，以威天下。”先王岂以射为可以习揖让之仪而已乎？固以为射者武事之尤大，而威天下、守国家之具也。居则以是习礼乐，出则以是从战伐。士既朝夕从事于此而能者众，则边疆、宿卫之任，皆可以择而取也。夫士尝学先王之道，其行义尝见推于乡党矣，然后因其才而托之以边疆、宿卫之事，此古之人君，所以推干戈以属之人<sup>⑥</sup>，而无内外之虞也<sup>⑦</sup>。今乃以夫天下之重任，人主所当至慎之选，推而属之奸悍无赖、才行不足自托于乡里之人，此方今所以谔谔然常抱边疆之忧<sup>⑧</sup>，而虞宿卫之不足恃以为安也。今孰不知边疆、宿卫之士不足恃以为安哉？顾以为天下学士以执兵为耻，而亦未有能骑射、行阵事者，则非召募之卒伍，孰能任其事者乎？夫不严其教，高其选，则士之以执兵为耻，而未尝有能骑射、行阵之事，固其理也。凡此皆教之非其道也。

方今取士，强记博诵而略通于文辞，谓之茂才异等、贤良方正。茂才异等、贤良方正者，公卿之选也。记不必强，诵不必博，略通于文辞，而又尝学诗赋，则谓之进士。进士之高者，亦公卿之选也。夫此二科所得之技能，不足以为公卿，不待论而后可知，而世之议者，乃以为吾常以此取天下之士，



而才之可以为公卿者，常出于此，不必法古之取人然后得士也。其亦蔽于理矣。先王之时，尽所以取人之道，犹惧贤者之难进，而不肖者之杂于其间也。今悉废先王所以取士之道，而驱天下之才士，悉使为贤良、进士，则士之才可以为公卿者，固宜为贤良、进士，而贤良、进士亦固宜有时而得才之可以为公卿者也。然而不肖者，苟能雕虫篆刻之学，以此进至乎公卿；才之可以为公卿者，困于无补之学，而以此绌死于岩野<sup>②⑤</sup>，盖十八九矣。夫古之人有天下者，其所慎择者，公卿而已。公卿既得其人，因使推其类以聚于朝廷，则百司庶府<sup>②⑥</sup>，无不得其人也。今使不肖之人幸而至乎公卿，因得推其类聚之朝廷，此朝廷所以多不肖之人，而虽有贤智，往往困于无助，不得行其意也。且公卿之不肖，即推其类以聚于朝廷；朝廷之不肖，又推其类以备四方之任使；四方之任使者，又各推其不肖以布于州郡，则虽有同罪举官之科，岂足恃哉？适足以为不肖者之资而已。其次九经、五经、学究、明法之科。朝廷固已尝患其无用于世，而稍责之以大义矣。然大义之所得，未有以贤于故也<sup>②⑦</sup>。今朝廷又开明经之选，以进经术之士。然明经之所取，亦记诵而略通于文辞者，则得之矣。彼通先王之意，而可以施于天下国家之用者，顾未必得与于此选也。其次则恩泽子弟，庠序不教之以道艺，官司不考问其才能，父兄不保任其行义，而朝廷辄以官予之，而任之以事。武王数纣之罪，则曰：“官人以世<sup>②⑧</sup>。”夫官人以世，而不计其才行，此乃纣之所以乱亡之道，而治世之所无也。又其次曰流外<sup>②⑨</sup>。朝廷固已挤之于廉耻之外，而限其进取路矣，顾属之以州县之事，使之临士民之上。岂所谓以贤治不肖者乎？以臣使事之所及，一路数千里之间，州县之吏出于流外者，往往而有，可属任以事者，殆无二三，而当防闲其奸者，皆是也。盖古者有贤不肖之分，而无流品之别。故孔子之圣，而尝为季氏吏，盖虽为吏，而亦不害其为公卿。及后世有流品

之别，则凡在流外者，其所成立<sup>③⑩</sup>，固尝自置于廉耻之外，而无高人之意矣。夫以近世风俗之流靡，自虽士大夫之才，势足以进取，而朝廷尝奖之以礼义者，晚节末路，往往怵而为奸<sup>③⑪</sup>，况又其素所成立，无高人之意，而朝廷固已挤之于廉耻之外，限其进取者乎？其临人亲职，放僻邪侈，固其理也。

#### 注释：

- ①沉废：埋没。伏匿：隐藏。②求：寻找。间巷：里巷。草野：乡村。③闾：全部。郡：古代行政区的名称。④孰：谁。指：同“旨”，旨意。⑤蒙：承受。具：具体。⑥徒：仅仅。⑦贪毒祸败：贪婪残暴，祸国殃民。⑧岂弟(tì)：同“恺悌”，平易和乐。遐：为什么。⑨兔置(jū)之人：猎兔的人。置：扑兽的网。⑩奉：捧着。璋：玉器。⑪迈：行。及之：紧紧跟上他。⑫夷、厉：周夷王、周厉王。⑬牺：轻。⑭闵：怜悯。⑮不庭：诸侯不朝贡天子。⑯芑：一种野菜。新田：耕过二年的田。菑亩：耕过一年的田。⑰取墙壁具而已：仅有校舍罢了。⑱师：遵循。⑲畎亩：田间。畎：田间的沟。⑳卒然：突然。㉑行：品行。能：能力。同、偶：相同，一样。㉒干戈：兵器，引申为军队。㉓虞：忧虑。㉔谄谀(xi)：畏惧。㉕绌死：屈死。岩野：深山荒野，指民间。㉖百司庶府：指朝廷的一切部门。㉗故：过去。㉘官人以世：根据家世任用官吏。㉙流外：品级之外。㉚成立：立身处世。㉛怵：引诱。

## 《尚书引义》

#### 题解：

王夫之(1619—1692)字而农，号薑斋，衡阳(在今湖南境内)人，明末思想家。晚年居石船山，也称船山先生。

王夫之的父亲、叔父都从事教育和学术研究，他幼承家训，聪明过人，7岁便读完了十三经，10岁在父亲指导下读五经经义，14岁中秀才，24岁中崇祯进士。由于战事纷扰，逃入南岳隐居读书。清兵南下后，参加

抗清活动，与另一抗清志士在衡山举兵，因寡不敌众，逃入南明。后因与奸佞不合，辞去所仕官职，在石船山造庐著述，达40年之久，终生不肯剃发。

王夫之与黄宗羲、顾炎武并称为明末三大思想家，著作有《周易外传》、《尚书引义》、《读四书大全说》等七十余种，统称《船山遗书》。他的哲学思想，被视为中国古典唯物主义发展的顶峰。

宋、明两代的教育思想，受程朱理学和王守仁唯心认识的强烈影响，主观与世界被分离，认识与实践被割裂，致使教育的导向产生偏差，往往陷于佛教以认识为终点的歧途，使接受这种教育的人或者苦学难成，或者养成空论虚谈的习尚，学与用不易结合，教育的应有目的反遭轻视。王夫之在《尚书引义·说命》中深刻地批判了宋明理学和唯心主义，对“知之非艰，行之惟艰”加以论述发挥，反对朱熹的“先知后行”和王守仁的“知行合一”，强调“行”的重要，认为“行可兼知，知不可兼行”。这些观点，不仅对“知行说”有所贡献，而且对后世的教育思想、教育实践均有指导意义，它是近代教育家论证教育方针、策略的重要依据。

## 说 命

诡于君子之道<sup>①</sup>，以淫于异端之教者<sup>②</sup>，其为言也，恒与其所挟之知见相左<sup>③</sup>，而缪为浮游之说以疑天下<sup>④</sup>。其所挟之知见，则已陷于彼邪而贼道<sup>⑤</sup>；乃其所言者，虽不深切著明，显道之藏，立学之准，而固未尝尽非也。君子之辨之，不诛其心，而亟矫其言，则抑正堕其机，而导学者以失据，故知言难也。宋诸先儒，欲折陆、杨知行合一、知不先行不后之说，而曰：“知先行后”，立一划然之次序，以困学者于知见之中，且将荡然以失据，则已异于圣人之道矣。

《说命》曰：“知之非艰，行之惟艰。”千圣复起，不易之言也。夫人近取之而自喻其

甘苦者也。子曰：“仁者先难。”明艰者必先也。先其难而易者从之，易矣。先其易而难者在后，力弱于中衰，情疑于未艾，气骄于已得，矜觉悟以遗下学<sup>⑥</sup>，其不倒行逆施于修途者鲜矣。知非先，行非后，行有余力而求知，圣言决矣，而孰与易之乎？若大陆子静、杨慈湖、王伯安之为言也，吾知之矣。彼非谓知之可后也，其所谓知者非知，而行者非行也。知者非知，然而犹有其知也，亦恍然若有所见也<sup>⑦</sup>。行者非行，则确乎其非行，而以其所知为行也。以知为行，则以不行为行，而人之伦、物之理，若或见之，不以身心尝试焉。浮屠之言曰<sup>⑧</sup>：“知有是事便休。”彼直以恍然之知为息肩之地<sup>⑨</sup>，而顾诡其辞以疑天下曰：“吾行也，运水搬柴也，行住坐卧也，大用赅乎此矣<sup>⑩</sup>！”是其销行以归知，终始于知，而杜足于履中蹈和之节文<sup>⑪</sup>。本汲汲于先知以废行也，而顾诎先知之说<sup>⑫</sup>，以塞君子之口而疑天下。其诡秘也如是，如之何为其所罔<sup>⑬</sup>，而曰“知先行后”，以堕其术中乎？

夫知之方有二，二者相济也，而抑各有所从。博取之象数<sup>⑭</sup>，远征之古今，以求尽乎理，所谓格物也。虚以生其明，思以穷其隐，所谓致知也。非致知，则物无所裁，而玩物以丧志；非格物，则知非所用，而荡智以入邪。二者相济，则不容不各致焉。今辟异学之非，但奉格物以为宗，则中材以下，必溺焉以丧志，为异学所非，而不能不为之诎。若奉致知以为人德之门，乃所以致其知者，非力行而自喻其惟艰，以求研几而精义，则凭虚以索恍恍之觉悟，虽求异于异学，而逮乎行之齟齬不相应以适用<sup>⑮</sup>，则亦与异学均矣。夫异学者，无患乎齟齬也，齟齬则置之耳。君子之学，仰事天，俯治物，臣以事君，子以事父，内以定好恶之贞淫，外以感民物之应违，而敢恃恍恍之罔光<sup>⑯</sup>，若有覲焉<sup>⑰</sup>，奉以周旋而无疚恶乎？由此思之，先所知者与后所行者，求无齟齬而行焉皆顺者，十不得五也。若夫无孝、悌、谨、信之大

节，或粗有其质，而行之不力，乃舍旃<sup>⑮</sup>，以穷年矻矻于章句之雌黄、器服之象法<sup>⑯</sup>，若朱门后学寻行数墨<sup>⑰</sup>，以貽异学之口实，夷考其内行之醇疵<sup>⑱</sup>、出处之得失、义利之从违，无可表见者。行后之误人，岂浅鲜哉！惮行之艰，利知之易，以托足焉，朱门后学之失，与陆、杨之徒异尚而同归。志于君子之道者，非所敢安也。……

且夫知也者，固以行为功者也；行也者，不以知为功者也。行焉，可以得知之效也；知焉，未可以得行之效也。将为格物穷理之学，抑必勉勉孜孜，而后择之精、语之详，是知必以行为功也。行于君民亲友、喜怒哀乐之间，得而信，失而疑，道乃益明，是行可有知之效也。其力行也，得不以为歆<sup>⑳</sup>，失不以为恤<sup>㉑</sup>，志壹动气<sup>㉒</sup>，惟无审虑却顾<sup>㉓</sup>，而后德可据，是行不以知为功也。冥心而思，观物而辨，时未至，理未协，情未感，力未赡<sup>㉔</sup>，俟之他日而行乃为功，是知不得有行之效也。

行可兼知，而知不可兼行。下学而上达，岂达焉而始学乎？君子之学，未尝离行以为知也必矣。离行以为知，其卑者则训诂之末流<sup>㉕</sup>，无异于词章之玩物而加陋焉；其高者，瞑目据梧<sup>㉖</sup>，消心而绝物，得者或得，而失者遂叛道以流于恍惚之中。异学之贼道也，正在于此。而不但异学为然也，浮屠之参悟者此耳。抑不但浮屠为然也，黄冠之炼己沐浴，求透帘幕之光者亦此耳<sup>㉗</sup>。皆先知后行，划然离行以为知者也。而为之辞曰：“知行合一”，吾滋惧矣。惧夫沈溺于行墨者之徒为异学哂也，尤惧夫浮游于徜徉者之偕异学以迷也<sup>㉘</sup>。“行之惟艰”，“先难”者尚知所先哉！

#### 注释：

①诡：违背。②淫：陷溺。③相左：相反。④缪：通“谬”。⑤波（bī）：偏。⑥矜：夸。⑦徜徉：恍惚。⑧浮屠：佛教。⑨直：竟。息肩：休息。⑩赅：完备。⑪杜足：止步。履、踣：踏。节文：礼仪。⑫诎：同

“黜”，斥逐。⑬罔：蒙骗。⑭象数：天象地理。指事物及其规律。⑮逮：及。齟齬：牙齿上下对不上。喻不相适应。⑯罔（jiǒng）光：微弱的反光。⑰规（dī）：见。⑱旃（zhān）：“之焉”的合音。⑲矻矻（kū）：忙碌。法象：形状规格。⑳寻行数墨：寻章摘句。㉑夷：虚词。醇疵：优劣。㉒歆：喜欢。㉓恤：忧虑。㉔壹：专一。动气：振奋精神。㉕审虑：慎重思考。却顾：止步回头，犹豫不前。㉖瞻：充足。㉗训诂：注释古书音义。㉘瞑目：闭目养神。据：凭倚。梧：几案。㉙黄冠：道士。透帘幕之光：目光因修炼而透视帘幕。㉚偕：随同。

## 《问 说》

### 题解：

刘开（1784—1824）字明东，号孟涂，清代安徽桐城人，姚鼐的得意门生。

《问说》选自《刘孟涂集》，是一篇关于“问”的论文。作者从教育谋略的角度出发，探讨了“问”在教育中的地位作用，认为问与学同样重要，舍弃了问，学的过程也就无法完成了。文中以古人的观点和言行为依据，强调了问的重要意义。分析了现实情况，提出了流行的耻于问的通病及其成因。《问说》批评了当时教学中的不良现象，驳斥了耻问于人的种种理由和借口，提倡求教、请问的美德，是后世授教者勉励学生的有力的理议依据。

君子之学必好问。问与学，相辅而行者也；非学无以致疑<sup>①</sup>，非问无以广识。好学而不勤问，非真能好学者也。理明矣，而或不达于事；识其大矣，而或不知其细；舍问，其奚决焉<sup>②</sup>？

贤于己者，问焉以破其疑，所谓就有道而正也。不如己者，问焉以求一得，所谓以能问于不能，以多问于寡也。等于己者，问焉以资切磋，所谓交相问难，审问而明辨之也<sup>③</sup>。

《书》不云乎：“好问则裕<sup>④</sup>。”孟子论求放心<sup>⑤</sup>，而并称曰“学问之道”，学即继以问也。子思言尊德性而归于“道问学”<sup>⑥</sup>，问且先于学也。

古之人，虚中乐善<sup>⑦</sup>，不择事而问焉，不择人而问焉，取其有益于身而已。是故狂夫之言，圣人择之；刍荛之微，先民询之<sup>⑧</sup>。舜以天子而询于匹夫，以大知而察及迩言<sup>⑨</sup>，非苟为谦，诚取善之宏也<sup>⑩</sup>。三代而下，有学而无问。朋友之交，至于劝善规过足矣；其以义理相咨访，孜孜焉惟进修是急，未之多见也，况流俗乎？

是己而非人，俗之同病。学有未达，强以为知；理有未安，妄以臆度；如是，则终身几无可问之事。贤于己者，忌之而不愿问焉；不如己者，轻之而不屑问焉；等于己者，狎之而不甘问焉；如是，则天下几无可问之人。人不足服焉，事无可疑矣；此惟师心自用耳<sup>⑪</sup>。夫自用，其小者也。自知其陋而谨护其失，宁使学终不进，不欲虚以下人，此为害于心术者大<sup>⑫</sup>，而蹈之者常十之八九。

不然，则所问非所学焉；询天下之异文鄙事以快言论；甚且心之所已明者，问之人以试其能；事之至难解者，问之人以穷其短。而非是者，虽有切于身心性命之事，可以收取善之益，求一屈己焉而不可得也。嗟乎！学之所以不能几于古者<sup>⑬</sup>，非此之由乎！

且夫不好问者，由心不能虚也；心之不虚，由好学之不诚也。亦非不潜心专力之故，其学非古人之学，其好亦非古人之好也。不能问，宜也<sup>⑭</sup>。

智者千虑，必有一失。圣人所不知，未必不为愚人所知也。愚人之所能，未必非圣人之所不能也。理无专在，而学无止境也。然则问可少耶？《周礼》：“外朝以询万民<sup>⑮</sup>。”国之政事，尚问及庶人；是故贵可以问贱，贤可以问不肖，而老可以问幼，惟道之所成而已矣<sup>⑯</sup>。

孔文子不耻下问，夫子贤之。古人以问

为美德，而并不见其有可耻也。后之君子反争以问为耻。然则古人所深耻者，后世且行之而不以为耻者多矣，悲夫！

#### 注释：

①致：招致、发现。 ②奚：怎么。决：判别。 ③审：深。 ④裕：宽博。 ⑤求：追回，寻得。放心：放逸之心性。 ⑥道：取道。 ⑦中：心。 ⑧刍荛(chúráo)：樵夫。先民：先贤。 ⑨迩：浅近。 ⑩宏：广泛。 ⑪师心：信崇自己。自用：自以为是。 ⑫心术：内心道德。 ⑬几：接近。 ⑭宜：理所当然。 ⑮外朝：到朝外去。 ⑯成：相成，相助。

## 《为学一首示子侄》

#### 题解：

彭端淑字乐斋，四川丹棱人，清雍正十一年(1733)进士，官至吏部郎中、广东肇罗道。后辞官回乡，主讲四川锦江书院，致力于古文写作，名重当时。著作有《白鹤堂诗文集》，编入《国朝文录》。

《为学》一文，指出为学的成败不在天资高低，而在于主观上是否努力。事在人为，聪敏不可恃，昏庸不可限，难可以化为易。文中举例生动，逻辑严密，说服力很强。作者所提出的谋略观点、思想，是授教者如何具体地因材施教的切实可行的方法、手段。

## 为学一首示子侄

天下事有难易乎？为之，则难者亦易矣；不为，则易者亦难矣。人之为学有难易乎<sup>①</sup>？学之，则难者亦易矣；不学，则易者亦难矣。吾资之昏不逮人也<sup>②</sup>，吾材之庸不逮人也；旦旦而学之<sup>③</sup>，久而不怠焉，迄乎成<sup>④</sup>，而亦不知其昏与庸也。吾资之聪倍人也，吾材之敏倍人也；屏弃而不用，其与昏与庸无以异也。圣人之道，卒于鲁也传之<sup>⑤</sup>。然则昏庸聪敏之用，岂有常哉？

蜀之鄙有二僧<sup>⑥</sup>：其一贫，其一富。贫

者语于富者曰：“吾欲之南海，何如？”富者曰：“子何恃而往？”曰：“吾一瓶一钵足矣。”富者曰：“吾数年来欲买舟而下，犹未能也；子何恃而往？”越明年，贫者自南海还，以告富者。富者有惭色。西蜀之去南海，不知几千里也，僧之富者不能至，而贫者至焉。人之立志，顾不如蜀鄙之僧哉<sup>⑦</sup>！

是故聪与敏，可恃而不可恃也；自恃其聪与敏而不学者，自败者也。昏与庸，可限

而不可限也；不自限其昏与庸而力学不倦者，自力者也<sup>⑧</sup>。

**注释：**

①为学：学习，作学问。 ②昏：愚。逮：及。 ③旦旦：天天。 ④迄：至。 ⑤卒于：终于。鲁：迟钝。此处代指孔子弟子曾参。 ⑥鄙：偏远处。 ⑦顾：难道，反而。 ⑧自力：主动勤学。

# 九、用人谋略卷

## 引言

刘恩惠

古往今来，在中华大地上涌现出许许多多的杰出政治家、思想家、军事家、经济学家、科学家、文学家和艺术家。他们为中华民族的发展奉献出自己的智慧，也为人类的文明的进步做出了巨大的贡献。英雄人物辈出的原因是多方面的，我们先人用人谋略的高超就是其中重要因素之一。在漫长的岁月中，经过长期的历史积淀，我们的先人形成了完整的培养人才、选拔人才、任用人才、管理人才的谋略体系，成为人才成长的适宜雨露和土壤。

中国历代有识之士，皆认为贤才是治国之本，君主得贤才，则国无不安，名无不显；失去贤才，则国无不危，名无不辱。唐太宗说：“致治之本，惟在于审。量才授职，多省官员。……若得其善者，虽少亦足矣。其不善者，纵多亦奚为？古人亦以官不得其才，此于画地作饼，不可食也。”王安石说：“夫材之用，国之栋梁也，得之则安以荣，失之则亡以辱。”

对如何选拔人才，古代圣哲也提出了许多精湛的谋略。选拔人才必须有个标准，这个标准是什么呢？根据历代兴亡的经验教训，他们认为“德才兼备”是人才的标准。魏征认为“今欲求人，必须审访其行。若知其善，然后用之。设令此人不能济事，只是才力不及，不为大害。误用恶人，假令强干，

为害极多。但乱世惟求其方，不顾其行。太平之时，必须才行俱兼，始可任用。”这里讲了人才的标准，也论说了用人的辩证关系。曹操正是根据三国时期的战乱环境，提出“唯才是举”的方针，“不仁不孝有治国用兵之术，其各举所知。”

如何考察是否德才兼备，是否有治国用兵之才，政治家们提出了各种考察谋略。鬼谷子从心理学的角度介绍了“平”、“正”、“喜”、“怒”、“名”、“行”、“廉”、“信”、“利”、“卑”等十种揣摩人的方法。赵蕤以行为心理为依据，提出“观诚”、“听气”、“察色”、“考志”、“测隐”、“揆德”等考核人才的具体方法。魏征则提出“贵则观其所举，富则观其所养，居则观其所好，习则观其所言，穷则观其所不受，贱则观其所不为”的考察方法。白居易提出对官员要进行实际的考察。

古代谋略家们还提出，在人才选拔过程中应采用不论门第资历、不以新旧异情，“虽仇不弃”，“不求全责备”，“取其所长，弃其所短”，“各审其类族，使推荐”等谋略。如王充认为，门第不能决定人的贤惠，富贵贫贱不能作为操行的标准，真正有贤才的人，常“集于俗士之间”，“闾巷之间”。这是非常可贵的思想。

在具体的选拔方法方面，有汉代的“举

孝廉”，魏晋的“九品中正制”，隋唐开始的科举制度。此外还有武则天首创的“自举”，历代都有的张榜招贤。尤其是后两种方法更为可贵，因为人间伯乐必然是少数，贤能之士很难遇上伯乐，加上其它的一些因素，人才往往容易被埋没。自荐之法虽古已有之，而武则天把它正式作为一种选人制度，疏通了选拔人才的渠道，使一些贤能之士有表现发挥自己才华的机会。这确实是一个大胆的成功谋略。

人才的鉴别、选拔，最终目的是为了使用。所以历代的谋略家对如何使用人才的问题研究的最多，对使用人才的原则、方法、态度等方面提出许多宝贵的有借鉴价值的谋略，

任其所长，弃其所短，“使人如器”，“量才授职”，是历代谋略家反复论述的一个用人原则。赵蕤说：“自非圣人，谁能兼兹百行，备贯众理乎？故舜合众司，随才授位；汉述功臣，三杰异称。”白居易说：“官有小大繁简之殊，才有短长能否之异；称其任，则政立；枉其能，则事乖。故先王立庶官而后求人，使乎各司其局也；辨众才而后人任，使乎各尽其能也。如此，则官虽省，才虽半，可得而理矣。”唐甄认为任人要用其所长“专典一职，终身不易。”因为人的专长有不同，能力有大小，职务有轻重。只有任其所长，弃其所短，量才授职，才能做到人尽其才，才尽其用，这样天下才会没有弃才，而且能发挥人才的互补作用。魏征还提出任君子，退不肖的任人原则。他认为“君子小人，貌同心异。君子掩人之恶，扬人之善，临难无苟免，杀身以成仁。小人不耻不仁，不畏不义，唯利之所在，危人自安。”固君子和小人势不两立，小人当道，君子必受其害。

为了更好地发挥人才的作用，谋略家们强调君主要有爱才之心，礼贤下士的态度。陈子昂说：“贤既任须信，既信须终，既终须赏。夫任而不信，其才无由展。信而不终，其业无由成。终而不赏，其功无由别。”陈亮

认为君主用人要做到“开心见诚”，“用则勿疑”，“与其位，勿夺其职；任以事，勿间其言”。唐甄提出君主用人要做到“虚”，即不骄不侈，虚心采纳他们的意见；“亲”，即尽量接近他，做到亲密无间；“敬”，即“待以师宾之礼”。总之他们认为“君能尽礼，臣得竭忠，必在于内外无私，上下相信。上不信，则无以使下，下不信，则无以事上，信之为道大矣。”君主只有礼贤下士，尊敬人才，信任人才，贤能之士才能充分发挥他们的才智。

历代谋略家为了更好地发挥人才的作用，强调君主要充分运用赏罚二柄，做到赏罚分明，所谓“劳臣不赏，不可劝功；死士不赏，不可励勇。”“善用人者，必循天顺人而明赏罚。循天则用力寡而功立，顺人则刑罚省而令行，明赏罚则伯夷、盗跖不乱。如此，则白黑分矣。”

但是，在奴隶主阶级、封建地主阶级内部，不可能有真正的诚信。因此，为了控制臣下也常用些长短之术。如“疑诏诡使”、“挟知而问”、“倒言反事”等，尤其是鬼谷子提出七种制人的秘诀：即“见形为容，象体为貌；闻声和音；解仇斗邻；缀去；却语；摄心；守义。”虽然这些手段并不光明磊落，但也不失为一种谋略思想。

我们的先人，为了发挥人才的作用，极重视对人才的保护，因此在人才管理上也提出许多充满着人类智慧的谋略。韩愈在《马说》中说：“马之千里者，一食或一石。食马者，不知其能千里而食也。是马也，虽有千里之能，食不饱，力不足，才美不外见，且欲与常马等不可得，安求其能千里也。”这借千里马来说明人才也需要必要的物资保证，如果起码的生活条件都不具备，整天为生活而奔波，也就和常人一样，无所谓什么人才了。只有给予充分的物质保证，才能发挥他们的才智，保持廉洁的情操。

从周朝以来，考课成一项重要的人才管理制度。谋略家们对此有许多论述。诸葛亮认为“考黜之政，谓迁善黜恶。明主在上，

心昭于天，察知善恶，广及四海，不敢遗小国之臣，下及庶人，进用贤良，退去贪懦，明良上下，企及国理，众贤雨集，此所以劝善黜恶，陈之休咎。”他还根据人之所恶，订出五条考核标准。“凡此五事，民之五害。有如此者，不可不黜；无此五者，不可不迁。”白居易总结历史和现实的经验教训，认为以三年较恰当，所谓“三载考绩，三考黜陟幽明”。尤其是州、县的长官，他们的善恶优劣对社会的影响极大，因此要加强对地方的考课。通过考课制度，把不称职的官吏及时淘汰，把一些有才能、政绩突出的官吏提拔到相应的岗位，有利于官僚机器的新陈代谢、保持一定的效率。对此，一些谋略家抨击了循资格的作法，主张不拘一格用人才。

为了表示尊重人才，致仕一直是古代一项重要的人才管理制度，让体弱年老的人及时退职，使他们老有所养。唐甄还主张不但要给予抚慰，老而有禄，还应思及子孙。以此表示对人才的爱护和尊重。

总之，我国用人的谋略既丰富又系统，既科学又实用，需要我们深入地进行研究和发掘。

## 《墨子》

### 题解：

战国时期墨翟（公元前468—前376）撰。他为保证“兼相爱、交相利”原则的贯彻，提出“尚贤”的主张。强调重用贤才是为政的根本，反对任人唯亲。他认为要“尚贤”，就必须做到“不党父兄，不偏富贵，不嬖颜色。贤者举而上之，以为长官；不肖者抑而废之，贫而贱之，以为徒役”。只要是贤者，“虽在农与工肆之人，有能则举之，高予以爵，重予以禄”。如果不贤，即使是贵族也必须“抑而废之”。以此达到“官无常贵而民无终贱”的理想。

## 尚贤上

子墨子言曰：今者王公大人为政於国家者，皆欲国家之富，人民之众，刑政之治。然而不得富而得贫，不得众而得寡，不得治而得乱。则是本失其所欲，得其所恶。是其故何也？子墨子言曰：是在王公大人为政於国家者，不能以尚贤事能为政也<sup>①</sup>。是故国有贤良之士众，则国家之治厚；贤良之士寡，则国家之治薄。故王公大人之务，将在於众贤而已。然则众贤之术将奈何哉？子墨子言曰：譬若欲众其国之善射御之士者<sup>②</sup>，必将富之、贵之、敬之、誉之，然后国之善射御之士将可得而众也。况又有贤良之士，厚乎德行、辩乎言谈、博乎道术者乎，此固国家之珍而社稷之佐也。亦必且富之、贵之、敬之、誉之，然后国之良士亦将可得而众也。是故古者圣王之为政也，言曰：不义不富，不义不贵，不义不亲，不义不近。是以国之富贵人闻之，皆退而谋曰：“始我所恃者富贵也。今上举义不辟贫贱<sup>③</sup>，然则我不可不为义。”亲者闻之，亦退而谋曰：“始我所恃者亲也。今上举义不辟疏，然则我不可不为义。”近者闻之，亦退而谋曰：“始我所恃者近也。今上举义不辟远，然则我不可不为义。”远者闻之，亦退而谋曰：“我始以远为无恃。今上举义不辟远，然则我不可不为义。”逮至远鄙郊外之臣、门庭庶子、国中之众、四鄙之萌人<sup>④</sup>，闻之皆竞为义。是其故何也？曰：上之所以使下者，一物也；下之所以事上者，一术也。譬之富者有高墙深宫，墙立既谨，上为凿一门，有盗人入，阖其自入而求之，盗其无自出。是其故何也？则上得要也。故古者圣王之为政，列德而尚贤，虽在农与工肆之人，有能则举之，高予以爵，重予以禄，任之以事，断予之令。曰：爵位不高，则民弗敬；蓄禄不厚，则民不信；政令不断，则民不畏。举三者授之贤者，非为贤赐也，欲其事之成。故当是时，以德就



列<sup>⑤</sup>，以官服事，以劳殿赏<sup>⑥</sup>，量功而分禄。故官无常贵而民无终贱，有能则举之，无能则下之，举公义，辟私怨<sup>⑦</sup>，此若言之谓也。

## 尚贤中

何以知尚贤之为政本也？曰：自贵且智者为政乎愚且贱者则治，自愚且贱者为政乎贵且智者则乱，是以知尚贤之为政本也。故古者圣王，甚尊尚贤而任使能，不党父兄，不偏贵富，不嬖颜色<sup>⑧</sup>。贤者举而上之，富而贵之，以为官长；不肖者抑而废之，贫而贱之，以为徒役。是以民皆劝其赏，畏其罚，相率而为贤者。……贤者之治国也，蚤朝晏退<sup>⑨</sup>，听狱治政，是以国家治而刑法正。

## 尚贤下

先王之治天下也，必选择贤者，以为其群属辅佐。曰：今也天下之士君子，皆欲富贵而恶贫贱。曰：然，女何为而得富贵而辟贫贱？莫若为贤。为贤之道将奈何？曰：有力者疾以助人，有财者勉以分人，有道者劝以教人。若此则饥者得食，寒者得衣，乱者得治。若饥则得食，寒则得衣，乱则得治，此安生生<sup>⑩</sup>。今王公大人，其所富，其所贵，皆王公大人骨肉之亲，无故富贵、面目美好者也。今王公大人骨肉之亲、无故富贵、面目美好者，焉故必知哉？若不知使其治其国家，则其国家之乱，可得而知也。……王公大人骨肉之亲无故富贵面目美好者，此非可学而能者也。……是故以赏不当贤、罚不当暴。其所赏者，已无故矣，其所罚者，亦无罪。是以使百姓皆攸心解体<sup>⑪</sup>，沮以为善，垂其股肱之力，而不相劳来也<sup>⑫</sup>。腐臭馥财而不相分资也，隐匿良道而不相教诲也。若此，则饥者不得食，寒者不得衣，乱者不得治。

### 注释：

- ①事：同“使”。 ②射御：射箭，驾驶车马。  
③辟：同“避”。 ④萌人：人民。 ⑤列：官位。  
⑥殿：定。 ⑦辟：除。 ⑧嬖：宠幸。 ⑨蚤：早。晏：晚。 ⑩生生：人口增多、物力丰盛。  
⑪攸：同“悠”。 ⑫劳来：劝勉。

## 《鬼谷子》

### 题解：

战国时期鬼谷子著。旧传鬼谷子为楚国人，为纵横家之祖，苏秦、张仪之师。该书阐发智谋心术之道，其中《飞箝》、《揣篇》、《摩篇》、《谋篇》、《中经》等篇章，侧重论述如何制人。他强调“事资制人，而不贵见制于人。”提出用飞箝之术，套引他人的真实情况，然后决定取舍，是否重用。又从心理学的角度，教人们如何去揣摩别人的心理状态，然后再筹划对策。他还介绍了平、正、喜、怒、名、行、廉、信、利、卑等具体的揣摩人情事理的方法，论述生动，富有哲理，令人玩味无穷。为了能制服人，而不被别人所制，他从“中经”之道出发，提出七种制服人的方法：见形为容，象体为貌；闻闻声知音；解仇斗郄；缀去；郤语；摄心；守义。这里面有很多谋略智慧和谋略方法，当然也有不太光明磊落的诡计心术。但总的来看，该书实为古代政治心理学开山之作。

## 飞箝第五

凡度权量能，所以征远来近<sup>①</sup>。立势而制事<sup>②</sup>，必先察同异，别是非之语；见内外之辞，知有无之数；决安危之计，定亲疏之事，然后乃权量之<sup>③</sup>。其有隐括<sup>④</sup>，乃可征，乃可求，乃可用。

引钩箝之辞<sup>⑤</sup>，飞而箝之。钩箝之语，其说辞也，乍同乍异。其不可善者，或先征之而后重累<sup>⑥</sup>，或先重以累而后毁之；或以重累为毁，或以毁为重累<sup>⑦</sup>。其用或称财货

琦玮，珠玉璧白，采色以事之；或量能立势以钩之；或伺候见峒而箝之。其事用抵峒<sup>⑧</sup>，将欲用之天下，必度权量能，见天时之盛衰，制地形之广狭，岨嶮之难易，人民财货之多少，诸侯之交孰亲孰疏、孰爱孰憎。

心意之虑怀，审其意知其所好恶。乃就说其所重，以飞箝之辞钩其所好，以箝求之。用之于人则量智能、权材力、料气势，为之枢机<sup>⑨</sup>。以迎之，随之，以箝和之，以意宜之，此飞箝之缀也<sup>⑩</sup>。用于人则空往而实来。缀而不失，以究其辞，可箝而从，可箝而横，可引而东，可引而西，可引而南，可引而北，可引而反，可引而覆。虽覆能复，不失其度。

## 揣篇第七

古之善用天下者，必量天下之权，而揣诸侯之情<sup>⑪</sup>。量权不审<sup>⑫</sup>，不知强弱轻重之称。揣情不审，不知隐匿变化之动静。何谓量权，曰：“度于大小，谋于众寡，称货财之有无；料人民多少、饶乏，有余不足几何；辨地形之险易，孰利孰害；谋虑，孰长孰短；君臣之亲疏，孰贤孰不肖；与宾客之知睿，孰少孰多；观天时之祸福，孰吉孰凶；诸侯之亲，孰用孰不用；百姓之心，去就变化，孰安孰危，孰好孰憎，反侧孰便。能知如此者，是谓权量。”

揣情者，必以其甚喜之时，往，而极其欲也。其有欲也，不能隐其情。必以其甚惧之时，往，而极其恶也。其有恶也，不能隐其情。情欲必失其变。感动而不知其变者，乃且错其人，勿与语，而更问所亲，知其所安。夫情变于内者，形见于外。故常必以其见者，而知其隐者，此所以谓测深揣情。故计国事者，则当审权量；说人主，则当审揣情。谋虑情欲，必出于此。乃可贵，乃可贱；乃可重，乃可轻；乃可利，乃可害；乃可成，乃可败，其数一也<sup>⑬</sup>。故虽有先王之道，圣

智之谋，非揣情，隐匿无所索之。此谋之大本，而说之法也。常有事于人，人莫先事而至，此最难为。故曰，揣情最难守司，言必时其谋虑。故观蜎飞蠕动，无不有利害，可以生事美。生事者，几之势也。此揣情饰言，成文章而后论之。

## 摩篇第八

摩之<sup>⑭</sup>，符也；内符者<sup>⑮</sup>，揣之主也<sup>⑯</sup>。用之有道，其道必隐微。摩之以其所欲，测而探之，内符必应。其应也，必有为之。故微而去之，是谓塞窞匿端<sup>⑰</sup>，隐貌逃情，而人不知，故成事而无患。摩之在此，符之在彼。从而应之，事无不可。古之善摩者，如操钓而临深渊，饵而投之，必得鱼焉。故曰，主事日成，而人不知；主兵日胜，而人不畏也。圣人谋之于阴<sup>⑱</sup>，故曰神，成之于阳<sup>⑲</sup>，故曰明。所谓主事日成者，积德也，而民安之，不知其所以利；积善也，而民道之，不知其所以然，而天下比之神明也。主兵日胜者，常战于不争、不费，而民不知所以服，不知所以畏，而天下比之神明。

其摩者，有以平，有以正，有以喜，有以怒，有以名，有以行，有以廉，有以信，有以利，有以卑。平者，静也；正者，直也；喜也，悦也；怒者，动也；名者，发也；行者，成也；廉者，洁也；信者，明也；利者，求也；卑者，谄也。故圣人所独用者，众人皆有之，然无成功者，其用之非也。故谋莫难于周密，说莫难于悉听，事莫难于必成。此三者，摩然后能之。故谋必欲周密，必择其所与通者说也<sup>⑳</sup>。故曰，或结而无隙也<sup>㉑</sup>。夫事成必合于数<sup>㉒</sup>，故曰道数与时相偶者也。说者听，必合于情。故曰情合者听。故物归类，抱薪趋火，燥者先燃。平地注水，湿者先濡<sup>㉓</sup>。此物类相应<sup>㉔</sup>，于势譬犹是也。此言内符之应外摩也如是<sup>㉕</sup>。故曰，摩之以其类，焉有不相应者，乃摩之以其欲，焉有不听者。故曰，独行之道。夫几

者不晚，成而不抱<sup>②</sup>，久而化成。

## 谋篇第十

为人凡谋有道，必得其所因，以求其情。审得其情<sup>①</sup>，乃立三仪，三仪者，曰上、曰中、曰下。参以立焉，以生奇，奇不知其所拥，始于古之所从。故郑人取玉也，载司南之车<sup>②</sup>，为其不惑也。夫度材量能揣情者，亦事之司南也。故同情而相亲者，其俱成也。同欲而相疏者，其偏害者也。同恶而相亲者，其俱害者也，同恶而相疏者，偏害者也。故相益则亲，相损者则疏，其数行也。此所以察同异之分，类一也。故墙坏于其隙，木毁于其节，斯盖其分也。

故变生于事，事生谋，谋生计，计生议，议生说，说生进，进生退，退生制，因以制于事。故百事一道，而百度一数也。夫仁人轻货，不可诱以利，可使出费。勇士轻难，不可惧以患，可使据危。智者达于数，明于理，不可欺以诚，可示以道理，可使立功，是三才也。故愚者易蔽也，不肖者易惧也，贪者易诱也，是因事而裁之。

故为强者，积于弱也。有余者，积于不足也。此其道术行也。故外亲而内疏者，说内；内亲而外疏者，说外。故因其疑以变之，因其见以然之。因其说以要之，因其势以成之。因其恶以权之<sup>③</sup>，因其患以斥之。摩而恐之，高而动之<sup>④</sup>，微而正之<sup>⑤</sup>，符而应之<sup>⑥</sup>，拥而塞之<sup>⑦</sup>，乱而惑之。是谓计谋。

计谋之用，公不如私<sup>⑧</sup>，私不如结<sup>⑨</sup>，结而无隙者也。正不如奇，奇流而不止者也。故说人主者，必与之言奇。说人臣者，必与之言私。其身内，其言外者，疏；其身外，其言深者，危。无以人之近所不欲，而强之于人，无以人之所不知而教之于人。人之有好也，学而顺之；有恶也，避而讳之。故道阴而阳取也。故去之者，纵之，纵之者，乘之<sup>⑩</sup>。貌者不美又不恶，故至情托焉。可知者，可用也；不可知者，谋者所不用也。

故曰，事贵制人，而不贵见制于人。制人者，握权也，见制于人者，制命也。

故圣人之道阴<sup>⑪</sup>，愚人之道阳<sup>⑫</sup>。智者事易，而不智者事难。以此观之，亡不可以为存，而危不可以为安。然而无为而贵智矣。智用于众人之所不能知，而能用于众人之所不能见。既用，见可否，择事而为之，所以自为也。见不可，择事而为之，所以为人也。故先王之道阴。言有之曰：天地之化，在高与深；圣人之制道，在隐与匿。非独忠、信、仁、义也，中正而已也。道理达于此义者，则可与言。由能得此，则可与谷远近之义<sup>⑬</sup>。

## 符言第十二

安徐正静<sup>⑭</sup>，其被节无不肉<sup>⑮</sup>，善与而不静，虚心平意以待倾损。有主位<sup>⑯</sup>。

目贵明；耳贵聪；心贵智。以天下之目视者，则无不见；以天下之耳听者，则无不闻；以天下之心虑者，则无不知。辐凑并进，则明不可塞。有主明。

德之术曰<sup>⑰</sup>，勿坚而拒之。许之，则防守；拒之，则闭塞。高山仰之，可极；深渊度之，可测。神明之位术正静，其莫之极欤。有主德。

用赏贵信；用刑贵正。赏赐贵信，必验耳目之所见闻。其所不见闻者，莫有闻化矣<sup>⑱</sup>。诚畅于天下神明，而况奸者干君。有主赏。

一曰天之，二曰地之，三曰人之。四方上下，左右前后，荧惑之处安在。有主问。

心为九窍之治，君为五官之长。为善者，君与之赏。为非者，君与之罚。君因其政之所以求，因与之，则不劳。圣人用之，故能赏之。因之循理，固能久长。有主因。

人主不可不周，人主不周，则群臣生乱。家于其无常也，内外不通，安知所开。开闭不善，不见原也。有主周。

一曰长目，二曰飞耳，三曰树明<sup>⑲</sup>。千

里之外，隐微之中，是谓洞天下奸，莫不闻变更。有主恭<sup>④⑥</sup>。

循名而为实，安而完。名实相生，反相为情。故曰，名当则生于实，实生于理，理生于名实之德，德生于和<sup>④⑦</sup>和生于当<sup>④⑧</sup>。有主名。

## 中 经

中经<sup>④⑨</sup>，谓振穷趋急，施之能言、厚德之人。救物执，穷者不忘恩也。能言者，俾善博惠<sup>⑤⑩</sup>；施德者，依道而救拘执者、养使小人。盖士当世异时，或当因免圜坑，或当伐害能言，或当破德为雄，或当抑拘成罪<sup>⑤⑪</sup>，或当戚戚自善，或当败败自立。故道贵制人，不贵制于人也。制人者握权，制于人者失命。

是以见形为容，象体为貌；闻声和音；解仇斗郅；缀去；却语；摄心；守义。

本經紀事者，紀道數，其變要在《持樞》、《中經》。

见形为容，象体为貌者，谓义为之主也。可以影响<sup>⑥⑫</sup>、形容、相貌而得之也。有守之人<sup>⑥⑬</sup>目不视非，耳不听邪，言必《诗》、《书》，行不僻淫<sup>⑥⑭</sup>，以道为形，以听为容<sup>⑥⑮</sup>，貌庄色温，不可象貌而得也，如是隐情塞郅而去之<sup>⑥⑯</sup>。

闻声和音<sup>⑥⑰</sup>，谓声气不同，则恩爱不接。故商角不二合，徵羽不相配。能为四声主者，其唯宫乎！故音不和则不悲<sup>⑥⑱</sup>，是以声散、伤、丑、害者，言必逆于耳也。虽有美行盛誉，不可比目合翼相须也，此乃气不合音不调者也。

解仇斗郅<sup>⑥⑲</sup>，谓解羸微之仇。斗郅者，斗强也。强郅既斗，称胜者高其功，盛其势。弱者哀其负，伤其卑，污其名，耻其宗。故胜者斗其功势，苟进而不知退。弱者闻哀其负，见其伤，则强大力倍死而是也。郅无极大，御无极大，则皆可胁而并。

缀去者<sup>⑥⑳</sup>，谓缀已之系言，使有余思也。

故接贞信者<sup>⑥㉑</sup>，称其行，厉其志，言可为可复会之期，喜。以他人之庶引验<sup>⑥㉒</sup>，以结往，明疑疑而去之<sup>⑥㉓</sup>。

卻语者<sup>⑥㉔</sup>，察伺短也。故多必有数短之处，识其短验之。动以忌讳<sup>⑥㉕</sup>，示以时禁，然后结以安其心，收语盖藏而却之。无见己之所不能于多方之人。

摄心者<sup>⑥㉖</sup>，谓逢好学伎术者，则为之称远。方验之，惊以奇怪，人系其心于己。效之于验，验去乱其前，吾归诚于己。

遭淫色酒者，为之术、音乐。动之以为必死，生日少之忧。喜以自所不见之事，终可以观漫淫之命，使有后会。

守义者，谓守以人义，探心在内，以合也。探心，深得其主也<sup>⑥㉗</sup>。以外制内，事有系，由而随也。故小人比人，则左道而用之<sup>⑥㉘</sup>，至能败家夺国。非贤者不能守家以义，不能守国以道。圣人所贵道微妙者，诚以其可以转危为安，救亡使存也。

### 注释：

- ①征远来近：召有远近有才能的人。 ②立势：立赏罚制度。制事：管理。 ③权量：权衡。 ④隐括：矫正木材曲直的工具。 ⑤钩箱：套引出真实情况而挟持。 ⑥先征之而后重累：先引用，然后将所谈的话排比起来。 ⑦以毁为重累：将谈话的短处排比起来，其长处则自现。 ⑧抵牾：堵塞漏洞。 ⑨枢机：事物的关键。 ⑩缀：连结。 ⑪揣：估计，揣摩。 ⑫量权：度量权衡。 ⑬数：道理。 ⑭摩：研究，揣摩。 ⑮内符：内心的欲望。表现在形色之中，通过外在的符验能观察到内心的欲望。 ⑯主：根本。 ⑰塞郅匿端：隐藏真情。 ⑱谋之于阴：悄无声息地谋划。 ⑲成之于阳：事情成功，便豁然明白。 ⑳必择其所：选择必要的地方。 ㉑结而无隙：周密详细，无隙可乘。 ㉒数：方法。 ㉓濡：湿润。 ㉔物类相应：物以类聚，相同的事物会有相应的反映。 ㉕外摩：从外部观察揣摩内心的欲望。 ㉖成而不抱：功成而不居为己有。 ㉗情：实情。 ㉘司南：用磁石制造的指南仪器。 ㉙权：权衡。 ㉚动：感动。 ㉛正：通“证”，验证。 ㉜符：应

验。③拥：拥蔽。④公不如私：公开不如私下。⑤结：结文。⑥乘：利用。⑦圣人之道阴：圣人谋划隐而不露。⑧愚人之道阳：愚笨者谋划张扬外露。⑨谷远近：养育远近之人。⑩安徐：安详从容。⑪肉：柔和。⑫有主位：“有”当为“右”，此篇分为九节，本节题目为“右主位”。⑬德：当为“听”。⑭阍化：疾速变化。⑮树明：明察事物的能力。⑯恭：当为“参”。⑰和：当为“智”。⑱当：恰当。⑲中经：心经。⑳俦：同“类”。㉑抑：冤屈。㉒影响：身影声音。㉓守：节操。㉔僻淫：“淫”是“淫”的讹字。僻淫：邪恶不正。㉕听：“德”字的误写。㉖塞郤：堵塞透露情况的渠道。㉗和：当为“知”。㉘故音不和则不悲：按嘉庆江都秦氏刻本无后一个“不”字。㉙郤：同“郤”，引申为仇恨。㉚缀去：交结离去的人。㉛贞信：诚信。㉜庶：欣幸。㉝疑疑：当为“款款”，即诚恳。㉞郤语：察伺别人言辞之失，加以威胁控制。㉟动：惊吓。㊱摄心：收拢人心。㊲深得其主：深得其人内心的根本。㊳左道：邪门旁道。

## 《荀子》

### 题解：

战国时期荀况(公元前313—前238)撰。荀况在《王制》、《君道》、《强国》、《成相》等篇中，阐发了自己的用人谋略思想。强调任贤是治国的根本，君主无贤臣辅佐，如盲人走路无人帮；君主忌贤能，祸灾就要临头。指出君主在用人上的最大问题：是让贤能的人去做，而同不贤能的人去谋划；让有才智的人去考虑，而与愚蠢的人去议论；让品德高尚的人去施行，而同品德恶劣的人去疑惑。这样想建立功业是不可能的。因此君主应做到“尚贤使能”、“赏有功，罚有罪”，使“为善者”更加尽力，“为不善者”不敢妄为。选人要有原则，任人要有章法。选拔人才要用礼做检验的标准，任用人才要用具体成果来考核。看他们是否安于职守，忠于事业。並提出判断和任用三种人的方法：谨慎诚

实，“计数纤啬而无敢遗丧”者，是一般官吏的人才。品德端正，严守法令，忠于职守，是作士大夫、官长的人才。知道崇尚礼义是为尊重君主，爱护贤士是为了国家声誉，爱护百姓是为了国家安宁，这是做卿相辅佐的人才。君主必须正确判断和任用这三种人，认真遵守这个用人原则。

## 王制

请问为政？

曰：贤能不待次而举<sup>①</sup>，罢不能不待顷而废<sup>②</sup>，元恶不待教而诛<sup>③</sup>，中庸民不待政而化<sup>④</sup>。分未定也则有昭缪<sup>⑤</sup>，虽王公士大夫之子孙也，不能属于礼义，则归之庶人；虽庶人之子孙也，积文学、正身行，能属于礼义，则归之卿相士大夫。故奸言、奸说、奸事、奸能、遁逃反侧之民<sup>⑥</sup>，职而教之，须而待之，勉之以庆赏，惩之以刑罚，安职则畜<sup>⑦</sup>，不安职则弃。五疾<sup>⑧</sup>，上收而养之，材而事之，官施而衣食之，兼覆无遗<sup>⑨</sup>。才行反时者死无赦。夫是之谓天德<sup>⑩</sup>，是王者之政也。

听政之大分<sup>⑪</sup>，以善至者待之以礼，以不善至者待之以刑。两者分别，则贤不肖不杂，是非不乱。贤不肖不杂，则英杰至，是非不乱，则国家治。若是，名声白<sup>⑫</sup>，天下愿<sup>⑬</sup>，令行禁止，王者之事毕矣。凡听<sup>⑭</sup>：威严猛厉，而不好假道人<sup>⑮</sup>，则下畏恐而不亲，周闭而不竭<sup>⑯</sup>；若是，则大事殆乎弛<sup>⑰</sup>，小事殆乎遂。和解调通<sup>⑱</sup>，好假道人，而无所凝止之，则奸言并至，尝试之说锋起；若是，则听大事烦，是又伤之也。故法而不议，则法之所不至者必废；职而不通，则职之所不及者必队<sup>⑲</sup>。故法而议，职而通，无隐谋，无遗善，而百事无过，非君子莫能。故公平者，听之衡也，中和者<sup>⑳</sup>，听之绳也。其有法者以法行，无法者以类举，听之尽也。偏党而无经<sup>㉑</sup>，听之辟也<sup>㉒</sup>。故有良法而乱者，有之矣；有君子而乱者，自古及今未尝闻

也。传曰：“治生乎君子，乱生乎小人。”此之谓也。

## 君 道

有乱君，无乱国；有治人，无治法。羿之法非亡也<sup>②③</sup>，而羿不世中；禹之法犹存，而夏不世王<sup>②④</sup>。故法不能独立，类不能自行<sup>②⑤</sup>，得其人则存，失其人则亡。法者，治之端也；君子者，法之原也。故有君子，则法虽省，足以遍矣；无君子，则法虽具<sup>②⑥</sup>，失先后之施，不能应事之变，足以乱矣。不知法之义而正法之数者，虽博，临事必乱。故明主急得其人，而暗主急得其势。急得其人，则身佚而国治<sup>②⑦</sup>，功大而名美，上可以王，下可以霸；不急得其人，而急得其势，则身劳而国乱，功废而名辱，社稷必危。故君人者，劳于索之，而休于使之。《书》曰：“惟文王敬忌<sup>②⑧</sup>，一人以择。”<sup>②⑨</sup>此之谓也。

合符节<sup>②⑩</sup>，别契券者，所以为信也；上好权谋，则臣下百吏诞诈之人乘是而后欺。探筹投钩者<sup>②⑪</sup>，所以为公也；上好曲私，则臣下百吏乘是而后偏。衡石称县者<sup>②⑫</sup>，所以为平也；上好倾覆，则臣下百吏乘是而后险。斗斛敦桢者<sup>②⑬</sup>，所以为喷也<sup>②⑭</sup>，上好贪利，则臣下百吏乘是而后丰取刻与以无度取于民。故械数者，治之流也，非治之原也；君子者，治之原也。官人守数，君子养原。原清则流清，原浊则流浊。故上好礼义，尚贤使能，无贪利之心，则下亦将慕辞让<sup>②⑮</sup>、致忠信，而谨于臣子矣。如是则虽在小民，不待合符节、别契券而信，不待探筹投钩而公，不待衡石称县而平，不待斗斛敦桢而喷。故赏不用而民劝，罚不用而民服，有司不劳而事治，政令不烦而俗美；百姓莫敢不顺上之法，象上之志<sup>②⑯</sup>，而劝上之事，而安乐之矣。故藉敛忘费<sup>②⑰</sup>，事业忘劳，寇难忘死，城郭不待饰而固，兵刃不待陵而劲<sup>②⑱</sup>。敌国不待服而诎<sup>②⑲</sup>，四海之民不待令而一。夫是之谓至平<sup>②⑳</sup>。《诗》曰：“王犹允塞<sup>②㉑</sup>，徐方既来。”<sup>②㉒</sup>

此之谓也。

今人主有六患<sup>③①</sup>：使贤者为之，则与不肖者规之；使知者虑之，则与愚者论之；使修士行之<sup>③②</sup>，则与污邪之人疑之。虽欲成功得严哉！譬之是犹立直木而恐其影之枉也，惑莫大焉。语曰：好女之色，恶者之孽也；公正之士，众人之痤也<sup>③③</sup>，循道之人，污邪之贼也。今使污邪之人论其怨贼而求其无偏，得乎哉！譬之是犹立枉木而求其影之直也，乱莫大焉。故古之人之为之不然。其取人有道，其用人有法。取人之道，参之以礼<sup>③④</sup>；用人之法，禁之以等。行义动静<sup>③⑤</sup>，度之以礼；知虑取舍，稽之以成<sup>③⑥</sup>；日月积久，校之以功。故卑不得以临尊，轻不得以县重，愚不得以谋知，是以万举不过也。故校之以礼，而观其能安敬也；与之举错迁移<sup>③⑦</sup>，而观其能应变也；与之安燕<sup>③⑧</sup>而观其能无流惰也<sup>③⑨</sup>；接之以声色、权利、忿怒、患险，而观其能无离守也。彼诚有之者与诚无之者若白黑然，可诎邪哉！故伯乐不可欺以马，而君子不可欺以人，此明王之道也。

人主欲得善射，射远中微者，县贵爵重赏以招致之<sup>③⑩</sup>。内不可以阿子弟<sup>③⑪</sup>，外不可以隐远人，能中是者取之，是岂不必得之道也哉！虽圣人不能易也。欲得善驭速致远者，一日而千里，县贵爵重赏以招致之。内不可以阿子弟，外不可以隐远人，能致是者取之，是岂不必得之道也哉！虽圣人不能易也。欲治国驭民，调壹上下<sup>③⑫</sup>，将内以固城，外以拒难。治则制人，人不能制也；乱则危辱灭亡可立而待也。然而求卿相辅佐则独不若是其公也，案唯便嬖亲比己者之用也<sup>③⑬</sup>，岂不过甚矣哉！故有社稷者莫不欲强，俄则弱矣；莫不欲安，俄则危矣；莫不欲存，俄则亡矣。古有万国，今有十数焉，是无它故，莫不失之是也。故明主有私人以金石珠玉，无私人以官职事业，是何也？曰：本不利于所私也。彼不能而主使之，则是主暗也；臣不能而诬能<sup>③⑭</sup>，则是臣诈也。主暗于上，臣诈于下，灭亡无日，俱害之道也。夫

文王非无贵戚也，非无子弟也，非无便嬖也，偶然乃举太公于州人而用之<sup>⑤</sup>，岂私之也哉！以为亲邪？则周姬姓也，而彼姜姓也。以为故邪？则未尝相识也。以为好丽邪？则夫人行年七十有二，髡然而齿堕矣<sup>⑥</sup>。然而用之者，夫文王欲立贵道，欲白贵名，以惠天下，而不可以独也，非于是子莫足以举之，故举是子而用之。于是乎贵道果立，贵名果白，兼制天下，立七十一国，姬姓独居五十三人，周之子孙，苟不狂惑者，莫不为天下之显诸侯<sup>⑦</sup>，如是者能爱人也。故举天下之大道，立天下之大功，然后隐其所怜所爱，其下犹足以以为天下之显诸侯。故曰：唯明主为能爱其所爱，暗主则必危其所爱。此之谓也。

材人<sup>⑧</sup>：愿恣拘录<sup>⑨</sup>，计数纤啬而无敢遗丧，是官人使吏之材也。修饰端正，尊法敬分而无倾侧之心<sup>⑩</sup>，守职修业<sup>⑪</sup>，不敢损益，可传世也，而不可使侵夺，是士大夫官师之材也。知隆礼义之为尊君也，知好士之为美名也，知爱民之为安国也，知有常法之为一俗也<sup>⑫</sup>，知尚贤使能之为长功也<sup>⑬</sup>，知务本禁末之为多材也，知无与下争小利之为便于事也，知明制度、权物称用之为不泥也<sup>⑭</sup>，是卿相辅佐之材也。未及君道也。能论官此三材者而无失其次<sup>⑮</sup>，是谓人主之道也。若是则身佚而国治，功大而名美，上可以王，下可以霸，是人主之要守也。人主不能论此三材者，不知道此道，安值将卑势出劳<sup>⑯</sup>，并耳目之乐，而亲自贯日而治详<sup>⑰</sup>，一日而曲辨之，虑与臣下争个察而綦偏能，自古及今，未有如此而不乱者也。是所谓视乎不可见，听乎不可闻，为乎不可成，此之谓也。

## 强 国

公孙子曰：“子发将而伐蔡，克蔡，获蔡侯，归致命曰：‘蔡侯奉其社稷而归之楚，舍属二三子而治其地。既<sup>⑱</sup>，楚发其赏，子发

辞曰，‘发诚布令而敌退，是主威也；徙举相攻而敌退，是将威也；合战用力而敌退，是众威也。臣舍不宜以众威受赏。’”讥之曰：“子发之致命也恭，其辞赏也固<sup>⑲</sup>。夫尚贤使能，赏有功，罚有罪，非独一人为之也，彼先王之道也，一人之本也，善善、恶恶之应也<sup>⑳</sup>，治必由之，古今一也。古者明王之举大事、立大功也，大事已博，大功已立，则君享其成，群臣享其功，士大夫益爵<sup>㉑</sup>，官人益秩，庶人益禄；是以为善者劝，为不善者沮<sup>㉒</sup>，上下一心，三军同力，是以百事成而功名大也。今子发独不然：反先王之道，乱楚国之法，堕兴功之臣<sup>㉓</sup>，耻受赏之属，无侈乎族党<sup>㉔</sup>，而抑卑其后世<sup>㉕</sup>，案独以为私廉，岂不过甚矣哉？故曰：子发之致命也恭，其辞赏也固。”

## 成 相

论臣过，反其施<sup>㉖</sup>，尊主安国尚贤义，拒谏饰非，愚而上同国必祸<sup>㉗</sup>。

曷谓罢<sup>㉘</sup>？国多私，比周还主党与施<sup>㉙</sup>。远贤近谗，患臣蔽塞主势移。

曷谓贤？明君臣，上能尊主下爱民。主诚听之，天下为一海内宾<sup>㉚</sup>。

主之孽<sup>㉛</sup>，谗人达，贤能遁逃国乃蹶<sup>㉜</sup>。愚以重愚，暗以重暗成为桀。

世之灾，妒贤能，飞廉知政任恶来。卑其志意，大其园囿高其台<sup>㉝</sup>。

注释：

①次：官职的等级次序。②罢不能：疲沓无用的人。③元恶：首恶分子。④中庸民：平常的人。⑤昭繆：古代帝王宗庙的排列次序。这里指等级地位。⑥反侧：不安分守己。⑦蓄：同“蓄”，收留。⑧五疾：哑、聋、癩、断手、侏儒。⑨兼覆：全部收留。⑩天德：大德。⑪大分：要领。⑫白：显著。⑬愿：仰慕。⑭听：听政。⑮假：宽容。道：同“导”，诱导。⑯周闭：封闭。⑰殆：危险。⑱调通：调和通达。⑲队：同“坠”。⑳中和：适中调和。

②①经：经常之法。 ②②辟：邪僻。 ②③羿：后羿。  
 ②④世王：世代都有这样的王。 ②⑤类：事类，贯例。 ②⑥具：完备。 ②⑦佚：同“逸”。 ②⑧敬忌：谨慎。 ②⑨符节：古代使节所持凭证的信物。  
 ③⑩探筹：抽签。投钩：抓阄。 ③⑪县：同“悬”，秤锤。 ③⑫斛、敦：皆是量器。槩：同“概”，平斗斛的工具。 ③⑬喷：平齐。 ③⑭綦：通“极”。  
 ③⑮象：效法。 ③⑯藉敛：征税。 ③⑰陵：磨炼。  
 ③⑱拙：同“屈”。 ③⑲至平：太平盛世。 ④①王犹允塞：王道行于天下。 ④②徐方既来：徐方的百姓全来归顺。 ④③六：疑作“大”。 ④④修士：品德高尚者。 ④⑤座：疮疖。 ④⑥参：检验。 ④⑦行义：仪表，风度。 ④⑧稽：考查。 ④⑨举错迁移：指动荡不安。 ④⑩安燕：安乐。 ⑤①流愒：放荡无羁。  
 ⑤②县：同“悬”。 ⑤③阿：袒护。 ⑤④调查：协调统一。 ⑤⑤便嬖：靠近的人。亲比己者：亲信。 ⑤⑥诬能：自以为能。 ⑤⑦倏然：突然。 ⑤⑧齟然：无牙的样子。 ⑤⑨显：显耀。 ⑤⑩材人：量材用人。  
 ⑥①愿忤：谨慎。拘录：勤劳。 ⑥②敬分：谨守职。 ⑥③修业：做好本职工作。 ⑥④一俗：统一社会风气。 ⑥⑤长功：长远事业。 ⑥⑥泥：拘泥。 ⑥⑦论官：评论。 ⑥⑧值将：一定要。卑势：降低身份。  
 ⑥⑨贯日：整天。 ⑥⑩既：过后。 ⑦①固：见识短浅。 ⑦②善善、恶恶：赏善罚恶。 ⑦③益：增加。  
 ⑦④沮：阻止。 ⑦⑤堕：毁坏。 ⑦⑥无侮：侮辱。 ⑦⑦抑卑：压下去。 ⑦⑧反其施：违背要求。 ⑦⑨上同：盲从在上位的人。 ⑦⑩曷：怎么。罢：不贤。  
 ⑧①比周：结党营私。 ⑧②一：统一。宾：服从。 ⑧③孽：灾祸。 ⑧④覆：颠覆。 ⑧⑤飞廉、恶来：商纣王的大臣。恶来是飞廉的儿子。 ⑧⑥卑：使低下。 ⑧⑦园囿：君主游猎的场所。

## 《吕氏春秋》

### 题解：

战国时期吕不韦(?—公元前235年)撰。吕不韦原为阳翟(今河南禹县)大贾，因助秦公子子楚即位为庄襄王，而受任为相，封文信侯。《吕氏春秋》中的《察贤》、《期贤》、《求人》、《赞能》等篇，论述了如何使用人才

的谋略。作者认为任用贤才是治国的关键，“得贤人，国无不安，名无不荣。”为招得贤才，君主应加强自身的修养，君主只要德行明盛，贤士就会象蝉投奔明火那样来归附。同时，君主还要对贤者以诚相见，以礼相待。为此，君主应该做到“极卑极贱，极远极劳”，尊重贤才，唯贤是举，不避遥远劳苦，求贤要孜孜不息。

## 察 贤

二曰：

今有良医于此，治十人而起九人<sup>①</sup>。所以求之万也。故贤者之致功名也，比乎良医，而君人者不知疾求，岂不过哉！今夫塞者<sup>②</sup>，勇力时日卜筮祷祠无事焉，善者必胜。立功名亦然，要在得贤。魏文侯师卜子夏，友田子方，礼段干木，国治身逸。天下之贤主，岂必苦形愁虑哉<sup>③</sup>！执其要而已矣。雪霜雨露时<sup>④</sup>，则万物育矣，人民修矣，疾病妖厉去矣<sup>⑤</sup>。故曰尧之容若委衣裳<sup>⑥</sup>，以言少事也。

宓子贱治单父<sup>⑦</sup>，弹鸣琴，身不下堂，而单父治。巫马期以星出<sup>⑧</sup>，以星入，日夜不居<sup>⑨</sup>，以身亲之，而单父亦治。巫马期问其故于宓子，宓子曰：“我之谓任人，子之谓任力；任力者故劳，任人者故逸。”宓子则君子矣。逸四肢，全耳目，平心气，而百官以治，义矣，任其数而已矣<sup>⑩</sup>。巫马期则不然，弊生事精，劳手足，烦教诏，虽治犹未至也。

## 期 贤

三曰：

今夫爚蝉者<sup>⑪</sup>，务在乎明其火、振其树而已。火不明，虽振其树，何益？明火不独在乎火，在于暗。当今之时，世暗甚矣，人主有能明其德者，天下之士，其归之也，若蝉之走明火也。凡国不徒安<sup>⑫</sup>，名不徒显，



必得贤士。

赵简子昼居<sup>⑬</sup>，喟然太息曰：“异哉！吾欲伐卫十年矣，而卫不伐。”侍者曰：“以赵之大而伐卫之细<sup>⑭</sup>，君若不欲则可也；君若欲之，请令伐之。”简子曰：“不如而言也。卫有士十人于吾所，吾乃且伐之，十人者其言不义也，而我伐之，是我为不义也。”故简子之时，卫以十人者按赵之兵，殁简子之身<sup>⑮</sup>。卫可谓知用人矣，游十士而国家得安。简子可谓好从谏矣，听十士而无侵小夺弱之名。

魏文侯过段干木之闾而轼之<sup>⑯</sup>，其仆曰：“君胡为轼？”曰：“此非段干木之闾欤？段干木盖贤者也，吾安敢不轼？且吾闻段干木未尝肯以己易寡人也，吾安敢骄之？段干木光乎德<sup>⑰</sup>，寡人光乎地；段干木富乎义，寡人富乎财。”其仆曰：“然则君何不相之？”于是君请相之，段干木不肯受。则君乃致禄百万，而时往馆之<sup>⑱</sup>。于是国人皆喜，相与诵之曰：“吾君好正，段干木之敬；吾君好忠，段干木之隆。”君无几何，秦兴兵欲攻魏，司马唐谏秦君曰：“段干木贤者也，而魏礼之，天下莫不闻，无乃不可加兵乎？”秦君以为然，乃按兵，辍不敢攻之。魏文侯可谓善用兵矣。尝闻君子之用兵，莫见其形，其功已成，其此之谓也。野人之用兵也，鼓声则似雷，号呼则动地，尘气充天，流矢如雨，扶伤与死，履肠涉血，无罪之民，其死者量于泽矣<sup>⑲</sup>，而国之存亡、主之死生犹不可知也。其离仁义亦远矣！

## 求人

五曰：

身定、国安、天下治，必贤人。古之有天下也者七十一圣，观于《春秋》，自鲁隐公以至哀公十有二世，其所以得之，所以失之，其术一也：得贤人，国无不安，名无不荣；失贤人，国无不危，名无不辱。

先王之索贤人，无不以也<sup>⑳</sup>。极卑极贱，

极远极劳。虞用宫之奇，吴用伍子胥之言，此二国者，虽至于今存可也。则是国可寿也。有能益人之寿者，则人莫不愿之；今寿国有道，而君人者而不求，过矣。

尧传天下于舜，礼之诸侯，妻以二女，臣以十子，身请北面朝之；至卑也。伊尹，庖厨之臣也<sup>㉑</sup>；傅说，殷之胥靡也<sup>㉒</sup>，皆上相天子；至贱也。禹东至博木之地<sup>㉓</sup>，日出九津<sup>㉔</sup>，青羌之野<sup>㉕</sup>攢树之所，搢天之山<sup>㉖</sup>，鸟谷、青丘之乡，黑齿之国；南至交趾、孙朴续構之国，丹栗漆树沸水漂漂九阳之山<sup>㉗</sup>，羽人、裸民之处，不死之乡；西至三危之国，巫山之下，饮露吸气之民，积金之山，其肱、一臂、三面之乡；北至人正之国，夏海之穷，衡山之上，犬戎之国，夸父之野<sup>㉘</sup>，禹强之所<sup>㉙</sup>，积水、积石之山。不有懈堕，忧其黔首，颜色黎黑，穹藏不通，步不相过，以求贤人，欲尽地利；至劳也。得陶、化益、真窥、横革、之交五人佐禹，故功绩铭乎金石，著于盘盂。

昔者尧朝许由于沛泽之中，曰：“十日出而焦火不息<sup>㉚</sup>，不亦劳乎？夫子为天子，而天下已治矣，请属天下于夫子。”许由辞曰：“为天下之不治与？而既已治矣。自为与？啁噍巢于林，不过一枝；偃鼠饮于河，不过满腹。归已，君乎！恶用天下？”遂之箕山之下，颍水之阳，耕而食，终身无经天下之色。故贤主之于贤者也，物莫之妨，戚爱习故不以害之，故贤者聚焉。贤者所聚，天地不坏，鬼神不害，人事不谋，此五常之本事也<sup>㉛</sup>。

皋子<sup>㉜</sup>，众疑取国，召南宫虔、孔伯产而众口止。

晋人欲攻郑，令叔向聘焉，视其有人与无人。子产为之诗曰：“子惠思我，褰裳涉洧；子不我思，岂无他士！”叔向归曰：“郑有人，子产在焉，不可攻也。秦、荆近，其诗有异心，不可攻也。”晋人乃辍攻郑。孔子曰：“《诗》云：‘无竞惟人。’子产一称而郑国免。”

## 赞能

二曰：

贤者善人以人，中人以事，不肖者以财。得十良马，不若得一伯乐；得十利剑，不若得一欧冶<sup>③</sup>；得地千里，不若得一圣人。舜得皋陶而舜授之，汤得伊尹而有夏民，文王得吕望而服殷商。夫得圣人，岂有里数哉？

管子束縛在魯，桓公欲相鮑叔。鮑叔曰：“吾君欲霸王，則管夷吾在彼。臣弗若也。”桓公曰：“夷吾，寡人之賊也，射我者也，不可。”鮑叔曰：“夷吾，為其君射人者也。君若得而臣之，則彼亦將為君射人。”桓公不聽，強相鮑叔。固辭讓，而相桓公果聽之。于是乎使人告魯曰：“管夷吾，寡人之讎也，愿得之而親加手焉。”魯君許諾，乃使吏鞶其拳<sup>④</sup>，膠其目，盛之以鷗夷<sup>⑤</sup>，置之車中。至齊境，桓公使人以朝車迎之，祓以燿火<sup>⑥</sup>，衅以牺豭焉，生与之如國。命有司除廟筵几，而荐之曰：“自孤之聞夷吾之言也，目益明，耳益聰。孤弗敢專，敢以告于先君。”因顧而命管子曰：“夷吾佐予！”管仲還走，再拜稽首，受令而出。管子治齊國，舉事有功，桓公必先賞鮑叔，曰：“使齊國得管子者，鮑叔也。”桓公可謂知行賞矣。凡行賞欲其車也，本則過無由生矣。

孫叔敖、沈尹筮相與友。叔敖游于郢三年，聲聞不知，修行不聞。沈尹筮謂孫叔敖曰：“說義以听，方術信行，能令人主上至于王，下至于霸，我不若子也。耦世接俗，說義調均，以适主心，予不如我也。子何以不歸耕乎？吾將為子游。”沈尹筮游于郢五年，荆王欲以為令尹，沈尹筮辭曰：“期思之鄙人有孫叔敖者，聖人也。王必用之，臣不若也。”荆王于是使人以王輿迎叔敖<sup>⑦</sup>，以為令尹，十二年而庄王霸。此沈尹筮之力也。功无大乎进贤。

### 注释：

- ①起：治愈。②塞：一种棋类游戏。  
③愁：聚。④时：及时。⑤厉：灾害。⑥委衣裳：喻无为而治。⑦宓子贱：鲁国人，孔子的弟子。⑧巫马期：孔子的弟子。⑨居：休息。  
⑩数：方法。⑪燿：用火照。⑫徒：无缘无故。⑬居：闲坐。⑭细：小。⑮歿：终。  
⑯轼：车前横木。⑰光：明亮，比喻显耀。⑱馆：到住处探望。⑲量：满。⑳以：用。  
㉑臣：奴隶。㉒胥靡：刑徒。㉓搏木：传说中的地名，即扶桑，太阳升起的地方。㉔九津：传说中的山名，日出之处。㉕青羌之野：东方的原野。㉖搢天之山：耸入云天的高山。㉗丹粟：丹砂。㉘夸父：神话中的勇士。㉙禺强：北海之神。㉚焦：火炬。㉛五常：父义、母慈、兄友、弟恭、子孝。㉜皋子：人名。㉝欧冶：春秋时冶工。㉞鞶：皮革。㉟鷗夷：大的皮口袋。㊱祓：举行仪式去灾祈福。燿火：祭祀时的火炬。㊲王輿：君主乘的车。

## 《韩非子》

### 题解：

战国时期韩非（公元前280？—前233）撰。在《韩非子》一书中，《南面》、《用人》等篇论述用人的谋略方法。他认为“人主使人臣虽有智能不得背法而专制，虽有贤行不得逾功而先劳，虽有忠信不得释法而不禁。”强调“善用人者，必循天顺人而明赏罚。循天则用力寡而功立，顺人则刑罚省而令行，明赏罚则伯夷、盗跖不乱。如此，则白黑分矣。”君主必须紧紧掌握赏罚大权，这样才能控制群臣，使群臣畏其威。不许以私人之利，而夺取刑罚之权。

## 南面

人主之过，在己任在臣矣，又必反与其所不任者备之，此其说必与其所任者为仇，而主反制于其所不任者。今所与备人者，且

曩之所备也。人主不能明法而以制大臣之威<sup>①</sup>，无道得小人之信矣。人主释法而以臣备臣，则相爱者比周而相誉，相憎者朋党而相非，非誉交争，则主惑乱矣。人臣者，非名誉请谒无以进取，非背法专制无以为威，非假于忠信无以不禁，三者，惑主坏法之资也<sup>②</sup>。人主使人臣虽有智能不得背法而专制，虽有贤行不得逾功而先劳，虽有忠信不得释法而不禁，此之谓明法。

人主有诱于事者，有壅于言者<sup>③</sup>，二者不可不察也。人臣易言事者，少索资，以事诬主，主诱而不察，因而多之<sup>④</sup>，则是臣反以事制主也，如是者谓之诱，诱于事者困于患。其进言少，其退费多，虽有功其进言不信，不信者有罪，事有功者必赏，则群臣莫敢饰言以惑主。主道者<sup>⑤</sup>，使人臣前言不复于后，后言不复于前，事虽有功，必伏其罪，谓之任下。人臣为主设事而恐其非也，则先出说设言曰：“议是事者，妒事者也。”人主藏是言不更听群臣，群臣畏是言不敢议事，二势者用<sup>⑥</sup>，则忠臣不听而誉臣独任，如是者谓之壅于言，壅于言者制于臣矣。主道者，使人臣必有言之责，又有不言之责。言无端末<sup>⑦</sup>、辩无所验者，此言之责也。以不言避责、持重位者，此不言之责也。人主使人臣言者必知其端以责其实，不言者必问其取舍以为之责，则人臣莫敢妄言矣，又不敢默然矣，言默则皆有责也。人主欲为事，不通其端末，而以明其欲，有为之者，其为不得利，必以害反，知此者，任理去欲。举事有道，计其人多，其出少者，可为也。惑主不然，计其人不计其出，出虽倍其人，不知其害，则是名得而实亡，如是者功小而害大矣。凡功者，其人多、其出少乃可谓功。今大费无罪而少得为功，则人臣出大费而成小功，小功成而主亦有害。

不知治者，必曰：“无变古，毋易常。”变与不变，圣人不听，正治而已。然则古之无变，常之毋易，在常古之可与不可。伊尹毋变殷，太公毋问周，则汤、武不王矣。管仲

勿易齐，郭偃毋更晋，则桓、文不霸矣。凡人难变古者，惮易民之安也。夫不变古者，袭乱之迹；适民心者，恣奸之行也。民愚而不知乱，上懦而不能更，是治之失也。人主者，明能知治，严必行之，故虽拂于民心立其治。说在商君之内而铁受，重盾而豫戒也。故郭偃之始治也，文公有官卒；管仲始治也，桓公有武车；戒民之备也。是以愚赖窳惰之民，苦小费而忘大利也，故夤虎受阿谀。而辄小变而失长便，故邹贾非载旅。狎习于乱而容于治，故郑人不能归。

## 用人

闻古之善用人者，必循天顺人而明赏罚。循天则用力寡而功立，顺人则刑罚省而令行，明赏罚则伯夷、盗跖不乱。如此，则白黑分矣。治国之臣，效功于国以履位，见能于官以受职，尽力于权衡以任事。人臣皆宜其能，胜其官，轻其任，而莫怀余力于心，莫负兼官之责于君。故内无伏怨之乱，外无马服之患<sup>⑧</sup>。明君使事不相干，故莫讼；使士不兼官，故技长，使人不同功，故莫争。争讼止，技长立，则疆弱不殽力<sup>⑨</sup>，冰炭不合形，天下莫得相伤，治之至也。

释法术而心治，尧不能正一国。去规矩而妄意度，奚仲不能成一轮<sup>⑩</sup>。废尺寸而差短长，王尔不能半中<sup>⑪</sup>。使中主守法术，拙匠守规矩尺寸，则万不失矣。君人者，能去贤巧之所不能，守中拙之所万不失，则人力尽而功名立。

明主立可为之赏，设可避之罚。故贤者劝赏而不见子胥之祸，不肖者少罪而不见伍剖背<sup>⑫</sup>，盲者处平而不遇深溪，愚者守静而不陷险危。如此，则上下之恩结矣。古之人曰：“其心难知，喜怒难中也。”故以表示目，以鼓语耳，以法教心。君人者释三易之数而行一难知之心，如此，则怒积于上，而怨积于下，以积怒而御积怨则两危矣。明主之表易见，故纳立；其教易知，故言用；其法易

为，故令行。三者立而上无私心，则下得循法而治，望表而动，随绳而斲<sup>③</sup>。因撝而缝。如此，则上无私威之毒，而下无愚拙之诛。故上君明而少怒，下尽忠而少罪。

闻之曰：“举事无患者，尧不得也。”而世未尝无事也。君人者不轻爵禄，不易富贵，不可与救危国。故明主厉廉耻，招仁义。昔者介子推无爵禄而义随文公，不忍口腹而仁割其肌，故人主结其德，书图著其名。人主乐乎使人以公尽力，而苦乎以私夺威<sup>④</sup>。人臣安乎以能受职，而苦乎以一负二。故明主除人臣之所苦，而立人主之所乐，上下之利，莫长于此。不察私门之内，轻虑重事，厚诛薄罪，久怨细过<sup>⑤</sup>，长侮偷快<sup>⑥</sup>，数以德追祸，是断手而续以玉也，故世有易身之患。

人主立难为而罪不及，则私怨生；人臣失所长而奉难给，则伏怨结。劳苦不抚循，忧悲不哀怜。喜则誉小人，贤不肖俱赏；怒则毁君子，使伯夷与盗跖俱辱；故臣有叛主。

使燕王内憎其民而外爱鲁人，则燕不用而鲁不附。民见憎，不能尽力而务功；鲁见说，而不能离死命而亲他主。如此，则人臣为隙穴<sup>⑦</sup>，而人主独立。以隙穴之臣而事独立之主，此之谓危殆。

释仪的而妄发，虽中小不巧；释法制而妄怒，虽杀戮而奸人不恐。罪生甲，祸归乙，伏怨乃结。故至治之国，有赏罚，而无喜怒，故圣人极；有刑法而死，无螫毒，故奸人服。发矢中的，赏罚当符，故尧复生，羿复立。如此，则上无殷、夏之患，下无比干之祸，君高枕而臣乐业，道蔽天地，德极万世矣。夫人主不塞隙穴，而劳力于赅堊<sup>⑧</sup>，暴雨疾风必坏。不去眉睫之祸，而慕赅、育之死；不谨萧墙之患，而固金城于远境；不用近贤之谋，而外结万乘之交于千里。飘风一旦起，则赅、育不及救，而外交不及至，祸莫大于此。当今之世，为人主忠计者，必无使燕王说鲁人，无使近世慕贤于古，无思越人以救中国溺者，如此，则上下亲，内功立，

外名成。

#### 注释：

①以：用。②愍：悯。③壅：阻塞。④多：夸奖。⑤主道者：为主之道。⑥二势：君主拒谏，臣缄默，两者有必然之势。⑦言无端末：所言无头无尾，略陈数言以塞其责。⑧马服之患：战国时期，秦与赵两军战于长平。赵王中秦计，以马服君赵奢之子赵括为将代替廉颇，后赵军战败。⑨角力：角力。⑩奚仲：夏禹时的车正。⑪王尔：古代的巧工。⑫偃剖背：刑罚之名。⑬斲：砍削。⑭威：刑罚之权。⑮久怨：宿怨。⑯长侮偷快：偷取一时之乐。⑰隙穴：挟篡盗之心。⑱赅：赤土。堊：白土。

## 《论衡》

#### 题解：

东汉王充(27—97)撰，共30卷，85篇，其中《招致》仅存篇目，实存84篇。他通过《程材》和《定贤》等篇，阐发了“尊贤”、“定贤”的谋略，抨击了“阅阅取士”的政策。揭露了官僚集团“无篇章之诵，不闻仁义之语，长大成吏，舞文巧法，徇私为己，勉赴权利。考事则受赂，临民则采渔，处右则弄权，幸上则卖将”的劣迹。认为门第不能决定人的贤愚，富贵贫贱不能作为操行的标准。真正有贤才的人，常“集于俗士之间”，“闾巷之间”。贤明的君主应当善于任用有贤才的人。

### 程材

论者以儒生不晓簿书，置之于下第。法令比例，吏决断也。文吏治事，必问法家。县官事务，莫大法令。必以吏职程高，是则法令之家宜最为上。或曰：“固然。法令，汉家之经，吏议决焉。事定于法，诚为明矣。”曰：夫五经亦汉家之所立，儒生善政大义，皆出其中。董仲舒表《春秋》之义，稽合于律<sup>①</sup>，无乘异者。然则《春秋》，汉之经，孔子制作，垂遗于汉。论者徒尊法家，不高《春

秋》，是暗蔽也。《春秋》、五经，义相关穿<sup>②</sup>，既是《春秋》，不大五经<sup>③</sup>，是不通也。五经以道为务，事不知道，道行事立，无道不成。然则儒生所学者，道也；文吏所学者，事也。假使材同，当以道学。如比于文吏，洗滌泥者以水<sup>④</sup>，燔腥生者用火，水火，道也，用之者，事也，事末于道。儒生治本，文吏理末，道本与事末比，定尊卑之高下，可得程矣<sup>⑤</sup>。

尧以俊德，致黎民雍<sup>⑥</sup>。孔子曰：“孝悌之至，通于神明。”张释之曰：“秦用刀笔小吏，陵迟至于二世，天下土崩。”张汤、赵禹，汉之惠吏<sup>⑦</sup>，太史公序累<sup>⑧</sup>，置于酷部，而致土崩。孰与通于神明令人填膺也！将相知经学至道，而不尊经学之生，徒见经学之生能不及治事之吏也。

牛刀可以割鸡，鸡刀难以屠牛。刺绣之师，能缝帷裳；纳缕之工<sup>⑨</sup>，不能织锦。儒生能为文吏之事，文吏不能立儒生之学。文吏之能，诚劣不及；儒生之不习，实优而不为。禹决江河，不秉钁钺<sup>⑩</sup>；周公筑雒，不把筑杖。夫笔墨簿书，钁钺筑杖之类也，而欲令志大道者躬亲为之，是使将军战而大匠斲也<sup>⑪</sup>。

说一经之生，治一曹之事，旬月能之；典一曹之吏，学一经之业，一岁不能立也。何则？吏事易知，而经学难见也。儒生撷经<sup>⑫</sup>，穷竟圣意；文吏摇笔，考迹民事。夫能知大圣之意，晓细民之情，孰者为难？以立难之材，含怀章句，十万以上，行有余力。博学览古今，计胸中之颖，出溢十万<sup>⑬</sup>。文吏所知，不过辨析簿书。富累千金，孰与资直百十也<sup>⑭</sup>？京廩如丘，孰与委积如坻也<sup>⑮</sup>？世名材为名器，器大者盈物多。然则儒生所怀，可谓多矣。

蓬生麻间，不扶自直；白纱人缁<sup>⑯</sup>，不染自黑。此言所习善恶，变易质性也。儒生之性，非能皆善也，被服圣教，日夜讽咏，得圣人之操矣。文吏幼则笔墨，手习而行，无篇章之诵，不闻仁义之语。长大成吏，舞

文巧法，徇私为己，勉赴权利<sup>⑰</sup>。考事则受赂，临民则采渔，处右则弄权，幸上则卖将。一旦在位，鲜冠利剑；一岁典职，田宅并兼。性非皆恶，所习为者违圣教也。故习善儒路，归化慕义，志操则励变从高，明将见之，显用儒生。

## 定 贤

以朝廷选举皆归善为贤乎？则夫著见而人所知者举多，幽隐人所不识者荐少，虞舜是也。尧求，则咨于鲧、共工，则岳已不得<sup>⑱</sup>。由此言之，选举多少，未可以知实。或德高而举之少，或才下而荐之多。明君求善察恶于多少之间，时得善恶之实矣。且广交多徒，求索众心者，人爱而称之；清直不容乡党，志洁不交非徒<sup>⑲</sup>，失众心者，人憎而毁之。故名多生于知谢，毁多失于众意。

以举义千里，师将朋友无废礼为贤乎？则夫家富财饶，筋力劲强者能堪之。匮乏无以举礼，羸弱不能奔远，不能任也。是故百金之家，境外无绝交；千乘之国，同盟无废赠，财多故也。使谷食如水火，虽贪吝之人，越境而布施矣。故财少则正礼不能举一，有余则妄施能于千，家贫无斗筲之储者，难责以交施矣。举担千里之人，杖策越疆之士，手足胼胝<sup>⑳</sup>，面目黧黑<sup>㉑</sup>，无伤感不任之疾，筋力皮革必有与人异者矣。推此以况为君要证之吏，身被疾痛而口无一辞者，亦肌肉骨节坚强之故也。坚强则能隐事而立义，软弱则诬时而毁节<sup>㉒</sup>。豫让自贼，妻不能识；贯高被箠，身无完肉。实体有不与人同者，则其节行有不与人钧者矣。

夫如是，何以知实贤？知贤竟何用？世人之检，苟见才高能茂，有成功见效，则谓之贤。若此甚易，知贤何难？《书》曰：“知人则哲，惟帝难之”。据才高卓异者则谓之贤耳，何难之有？然而难之，独有难者之故也。夫虞舜不易知人，而世人自谓能知贤，误也。

然则贤者竟不可知乎？曰：易知也。而称

难者，不见所以知之，则虽圣人不易知也，及见所以知之，中才而察之。譬犹工匠之作器也，晓之则无难，不晓则无易。贤者易知于作器。世无别，故真贤集于俗士之间。俗士以辩惠之能，据官爵之尊，望显盛之宠，遂专为贤之名。贤者还在闾巷之间，贫贱终老，被无验之谤<sup>②③</sup>。

若此，何时可知乎？然则必欲知之。观善心也。夫贤者，才能未必高也而心明，智力未必多也而举是。何以观心？必以言。有善心，则有善言。以言而察行，有善言则有善行矣。言行无非，治家亲戚有伦，治国则尊卑有序。无善心者，白黑不分，善恶同伦<sup>④</sup>，政治错乱，法度失平。故心善，无不善也；心不善，无能善。心善则能辩然否。然否之义定，心善之效明，虽贫贱困穷，功不成而效不立，犹为贤矣。

#### 注释：

①稽合：符合。 ②关穿：贯穿。 ③大：重视。 ④淆：同“污”。 ⑤程：衡量。 ⑥雍：和睦。 ⑦惠吏：精明能干的官吏。 ⑧序累：排列次序。 ⑨纳缕：缝破衣服。 ⑩耨耨：挖土的工具。 ⑪斲(zhuó)：砍。 ⑫擢：发挥。 ⑬出溢：远远超过。 ⑭直：同“值”。 ⑮坻：水中小洲。 ⑯缁：黑色。 ⑰勉赴：追求。 ⑱岳：四岳。 ⑲非徒：志向不同的人。 ⑳胼胝：手足上的老茧。 ㉑黧：黑色。 ㉒时：同“是”。 ㉓无验：无功效。 ㉔伦：类。

## 《“唯才是举”令》

#### 题解：

三国时期曹操(155—220)撰。曹操是著名的政治家、军事家和谋略家，他为选拔人才，打破东汉时期以封建“德行”和门第的选官标准，三次发布“唯才是举”令。在《论吏士行能令》中，提出“不官无功之臣，不赏不战之士”的选官标准。在《求贤令》中，明确提出要选拔那些出身低贱的人做官，“明扬仄陋，唯才是举。”在《举贤勿拘品行令》中，

列举出大量的出身低贱而有所作为的历史人物，并提出“负污辱之名，见笑之行，或不仁不孝而有治国用兵之术，其各举所知，勿有所遗。”在此方针下，有一大批有才能的人被曹操选拔重用。

## 论吏士行能令

议者或以军吏虽有功能，德行不足堪任郡国之选，所谓“可与适道，未可与权”者也。管仲曰：“使贤者食于能则上尊，斗士食于功则卒轻于死，二者设于国则天下治。”未闻无能之人，不斗之士，并受禄赏，而可以立功兴国者也。故明君不官无功之臣，不赏不战之士；治平尚德行，有事赏功能。论者之言，一似管窥虎欤<sup>①</sup>！

## 求贤令

自古受命及中兴之君，曷尝不得贤人君子与之共治天下者乎！及其得贤也，曾不出闾巷，岂幸相遇哉？上之人求取之耳。今天下尚未定，此特求贤之急时也。“孟公绰为赵、魏老则优，不可以为滕、薛大夫。”若必廉士而后可用，则齐桓其何以霸世！今天下得无有被褐怀玉而钓于渭滨者乎<sup>②</sup>？又得无有盗嫂受金而未遇无知者乎？二三子其佐我明扬仄陋<sup>③</sup>，唯才是举，吾得而用之。

## 举贤勿拘品行令

昔伊挚、傅说出于贱人，管仲，桓公贼也，皆用之以兴。萧何、曹参，县吏也，韩信、陈平负污辱之名，有见笑之耻，卒能成就王业，声著千载。吴起贪将，杀妻自信，散金求官，母死不归，然在魏，秦人不敢东向，在楚，则三晋不敢南谋。今天下得无有至德之人放在民间，及果勇不顾，临敌力战；若文俗之吏，高才异质，或堪为将守<sup>④</sup>，负污辱之名，见笑之行，或不仁不孝而有治国

用兵之术：其各举所知，勿有所遗。

注释：

①管窥虎：从细管里看虎，所见者小。

②被褐怀王：怀才不遇。钓于渭滨者：相传吕尚钓鱼于渭河边。

③仄陋：住在偏僻地方，比喻出身寒微。

④堪：胜任。

## 《便宜十六策》

题解：

三国时期诸葛亮(181—234)撰，阐发了他的政治主张。其中，《治人》、《举措》、《考黜》等论述了用人之道。他提出“制之以财，用之以礼，丰年不奢，凶年不俭，素有蓄积，以储其后”的治人谋略。他还提出“为人择官者乱，为官择人者治”的命题，主张从下层、从民间选拔贤才。为了整顿吏治，提出以五事做为考核官吏的标准，“迁善黜恶”，进用贤良，退去贪吏。

### 治 人

治人之道，谓道之风化，陈示所以也。故经云：“陈之以德义而民与行，示之以好恶而民知禁<sup>①</sup>”。日月之明，众下仰之，乾坤之广，万物顺之。是以尧、舜之君，远夷贡献，桀、纣之君，诸夏背叛，非天移动其人，是乃上化使然也。故治人犹如养苗，先去其秽。故国之将兴，而伐于国，国之将衰，而伐于山。明君之治，务知人之所患皂服之吏<sup>②</sup>，小国之臣。故曰，皂服无所不克<sup>③</sup>，莫知其极，克食于民，而人有饥乏之变，则生乱逆。唯劝农业，无夺其时，唯薄赋敛，无尽民财。如此，富国安家，不亦宜乎？夫有国有家者，不患贫而患不安。故唐、虞之政，利人相逢，用天之时，分地之利，以豫凶年，秋有余粮，以给不足，天下通财，路不拾遗，民无去就。故五霸之世，不足者奉于有余。故今诸侯好利，利兴民争，灾害并起，强弱相侵，躬耕者少，末作者多，民如

浮云，手足不安。经云：“不贵难得之货，使民不为盗；不贵无用之物，使民心不乱。”各理其职，是以圣人之政治也。古者齐景公之时，病民下奢侈，不遂礼制。周、秦之宜，去文就质，而劝民之有利也。夫作无用之器，聚无益之货，金银璧玉，珠玕翡翠，奇珍异宝，远方所出，此非庶人之所用也。锦绣纂组，绮罗绫縠，玄黄衣帛，此非庶人之所服也。雕文刻镂，伎作之巧，难成之功，妨害农事，辘辘出入<sup>④</sup>，袍裘索祿，此非庶人之所饰也。重门画兽，萧墙数仞<sup>⑤</sup>，冢墓过度，竭财高尚，此非庶人之所居也。经云：“庶人之所好者，唯躬耕勤苦，谨身节用，以养父母。”制之以财，用之以礼，丰年不奢，凶年不俭，素有蓄积，以储其后，此治人之道，不亦合于四时之气乎？

### 举 措

举措之政，谓举直措诸枉也。夫治国犹于治身，治身之道，务在养神，治国之道，务在举贤，是以养神求生，举贤求安。故国之有辅，如屋之有柱，柱不可细，辅不可弱，柱细则害，辅弱则倾。故治国之道，举直措诸枉，其国乃安。夫柱以直木为坚，辅以直士为贤，直木出于幽林，直士出于众下。故人君选举，必求隐处，或有怀宝迷邦，匹夫同位；或有高才卓绝，不见招求；或有忠贤孝弟，乡里不举；或有隐居以求其志，行义以达其道；或有忠质于君，明党相谗。尧举逸人，汤招有莘，周公采贱，皆得其人，以致太平。故人君县赏以待功，设位以待士，不旷庶官，辟四门以兴治务，玄纁以聘幽隐，天下归心，而不仁者远矣。夫所用者非所养，所养者非所用，贫陋为下，财色为上，谗邪得志，忠直远放，玄纁不行，焉得贤辅哉？若夫国危不治，民不安居，此失贤之过也。夫失贤而不危，得贤而不安，未之有也。为人择官者乱，为官择人者治，是以聘贤求士，犹嫁娶之道也，未有自嫁之女，出财为妇。

故女慕财聘而达其贞，士慕玄纁而达其名<sup>⑥</sup>，以礼聘士，而其国乃宁矣。

## 考黜

考黜之政<sup>⑦</sup>，谓迁善黜恶。明主在上，心昭于天，察知善恶，广及四海，不敢遗小国之臣，下及庶人，进用贤良，退去贪懦，明良上下，企及国理，众贤雨集，此所以劝善黜恶，陈之休咎。故考黜之政，务知人之所苦。其苦有五：或有小吏因公为私，乘权作奸，左手执戈，右手治生，内侵于官，外采于民，此所苦一也；或有过重罚轻，法令不均，无罪被辜，以至灭身，或有重罪得宽，扶强抑弱，加以严刑，枉责其情，此所苦二也；或有纵罪恶之吏，害告诉之人，断绝语辞，蔽藏其情，掠劫亡命，其枉不常，此所苦三也；或有长吏数易守宰，兼佐为政，阿私所亲，枉克所恨，逼切为行，偏颇不承法制，更因赋敛，傍课采利，送故待新，夤缘征发，诈伪储备，以成家产，此所苦四也；或有县官慕功，赏罚之际，利人之事，买卖之费，多所裁量，专其价数，民失其职，此所苦五也。凡此五事，民之五害，有如此者，不可不黜；无此五者，不可不迁。故书云：“三载考绩，黜陟幽明。”

### 注释：

①禁：禁令。②皂：黑色。③皂服：指穿黑色官服的小吏。④輜辂：古代贵族妇女所乘有帷幕的车。⑤仞：古代以八尺或七尺为一仞。⑥玄纁：玄为黑色，纁为浅红色，古代用此两种染料来染制祭服。故玄纁也引申为祭服。⑦黜：罢免。

## 《人物志》

### 题解：

三国时期刘劭撰，3卷、12篇。分为九征、体别、流业、材理、材能、利害、接识、英雄、八观、七缪、效难、释争，阐述

了多种用人谋略。他强调应注重材和能的差异，认为能出于材，材不同量，材能既殊，任政也异。他还从心理学的角度，提出用八观来考察人才。所谓“一曰观其夺救，以明间杂；二曰观其感变，以审常度；三曰观其志质，以知其名；四曰观其所由，以辨依似；五曰观其爱敬，以知通塞；六曰观其情机，以辨怨惑；七曰观其所短，以知所长；八曰观其聪明，以知所达。”全书实为一部人才谋略学专著。

## 材能

或曰，人材有能大而不能小，犹函牛之鼎不可以烹鸡。愚以为此非名也，夫能之为言已定之称，岂有能大而不能小乎。凡所谓能大而不能小，其语出于性有宽急。性有宽急，故宜有大小。宽弘之人宜为郡国，使下得施其功，而总成其事。急小之人宜理百里<sup>①</sup>，使事办于已。然则郡与县异体之大小者也。以实理宽，急论辨之，则当言大小异宜不当，言能大不能小也。若夫鸡之与牛亦异体之小大也。故鼎亦宜有大小，若以烹犊则岂不能烹鸡乎！故能治大郡，则亦能治小郡矣。推此论之、人材各有所宜，非独大小之谓也。夫人材不同，能各有异。有自任之能，有立法使人从之之能，有消息辨护之能，有德教师人之能，有行事使人谴让之能，有司察纠摘之能，有奇权之能，有威猛之能。夫能出于材，材不同量，材能既殊，任政也异。是故自任之能，清节之材也，故在朝也则冢宰之任<sup>②</sup>，为国则矫直之政。立法之能，治家之材也，故在朝也则司寇之任<sup>③</sup>，为国则公正之政。计策之能，术家之材也，故在朝也则三孤之任<sup>④</sup>，为国则变化之政。人事之能，智意之材也，故在朝也则冢宰之佐，为国则谐合之政。行事之能，谴让之材也，故在朝也则司寇之任，为国则督责之政。权奇之能，伎俩之材也，故在朝也则司空之任<sup>⑤</sup>，为国则共事之政。司察之能，臧否之材，故在朝也



则师氏之佐，为国则刻削之政。威猛之能豪杰之材，故在朝也则将帅之任，为国严厉之政。凡偏材之人，皆一味之美。故长于办一官，而短于为一国。何者？夫一官之任，以一味协五味。一国之政，以无味和五味。又国有俗，化民有剧易。而人材不同，故政有得失。是以王化之政，宜于统大，以之治小则迂。辨护之政，宜于治烦，以之治易则无易。策术之政，宜于治难，以之治平则无奇。矫抚之政，宜于治侈，以之治弊则残。谐和之政，宜于治新，以之治旧则虚。公刻之政，宜于纠奸，以之治边则失众。威猛之政，宜于讨乱，以之治善则暴。伎俩之政，宜于治富，以之治贫则劳而下困。故量能授官，不可不审也。凡此之能，皆偏材之人也，故或能言而不能行，或能行而不能言。至于国体之人，能言能行，故为众材之隽也。人君之能异于此。故臣以自任为能，君以用人为能；臣以能言为能，君以能听为能；臣以能行为能，君以能赏罚为能。所能不同，故能君众材也。

## 利 害

盖人业之流，各有利害。夫节清之业，著于仪容，发于德行，未用而章具道<sup>⑥</sup>，顺而有化，故其未达也为众人之所进，既达也为上下之所敬，其功足以激浊扬清。师范僚友其为业也，无弊而常显，故为世之所责。法家之业，本于制度，待乎成功而效，其道前苦而后治，严而为众，故其未达也为众人之所忌，已试也为上下之所惮，其功足以立法成治，其弊也为群枉之所讎，其为业也有敝而不常用，故功大而不终。术家之业，出于聪思，待于谋得而章，其道先微而后著，精而且玄，其未达也为众人之所不识，其用也为明君所珍<sup>⑦</sup>，其功足以运筹通变，其退也藏于隐微，其为业也奇而希用，故或沈微而不章。智意之业，本于原度，其道顺而不忤，故其未达也为众人之所容矣，已达也为

宠受之所嘉，其功足以赞明计虑，其敝也知进而不退，或离正以自全，其为业也谄而难持，故先利而后害。臧否之业，本乎是非，其道廉而且砭<sup>⑧</sup>，故其未达也为众人之所识，已达也为众人之所称，其功足以变察是非，其敝也为诋诃之所怨，其业也峭而不裕，故或先得而后离众。伎俩之业，本于事能，其道辨而且速，其未达也为众人之所异，已达也为官司之所任，其功足以理烦纠邪，其敝也民劳而下困，其为业也细而不泰，故为治之末也。

## 八 观

八观者：一曰观其夺救，以明间杂；二曰观其感变，以审常度；三曰观其志质，以知其名；四曰观其所由，以辨依似；五曰观其爱敬，以知通塞；六曰观其情机，以辨疑惑；七曰观其所短，以知所长；八曰观其聪明，以知所达。何谓观其夺救，以明间杂？夫质有至有违，若至胜违则恶情夺正若然而不然。故仁出于慈，有慈而不仁者。仁必有恤，有仁而不恤者。厉必有刚，有厉而不刚者。若见可怜则流涕，将分与则吝嗇，是慈而不仁者。觐危急则惻隐，将拯救则畏患，是仁而不恤者。处虚义则色厉，顾利欲则内荏，是厉而不刚者。然则慈而不仁者，则吝夺之也。仁而不恤者，则惧夺之也。厉而不刚者，则欲夺之也。故曰，慈不能胜吝，无必其能仁也。仁不能胜惧，无必其能恤也。厉不能欲，无必其能刚也。是故不仁之质胜，则伎力为害器。贪悖之性胜，则彊猛为祸梯。亦有善情救恶不至为害，爱惠分笃虽傲狎不离，助善著明虽疾恶无害也，救济过厚虽取人不贪也。是故观其夺救，而明间杂之情可得知也。

何谓观其感变，以审常度？夫人厚貌深情将欲求之，必观其辞旨，察其应赞<sup>⑨</sup>。夫观其辞旨，犹听音之善丑，察其应赞，犹视智之能否也。故观辞察应足以互相别识。然

则论显扬正白也，不善言应玄也，经纬玄白通也，移易无正杂也，先识未然圣也，追思玄事叡也<sup>⑩</sup>，见事过人明也，以明为晦智也，微忽必识妙也，美妙不昧疎也<sup>⑪</sup>，测之益深实也，假合炫耀虚也，自见其美不足也，不伐其能有余也。故曰凡事不度，必有其故。忧患之色，乏而且荒。疾疢之色，乱而垢杂。喜色愉然以怿<sup>⑫</sup>。愠色厉然以扬。妬惑之色<sup>⑬</sup>，冒昧无常。及其动作，盖并言。是故其言甚怪，而精色不从者，中有违也。其言有违，而精色可信者，辞不敏也。言未发，而怒色先见者，意愤溢也。言将发，而怒气送之者，彊所不然也。凡此之类，征见于外不可奄违，虽欲违之精色不从，感愕以明虽变可知。是故观其感变，而常度之情可知。

何谓观其至质，以知其名？凡偏才之性二至以上则至质相发，而令名生矣。是故骨直气清则休名生焉，气清力劲则烈名生焉，劲智精理则能名生焉，智能彊慤则任名生焉<sup>⑭</sup>，集于端质则令德济焉，加之学则文理灼然。是故观其所至之多少，而异名之所生可知也。

何谓观其所由，以辨依似？夫纯评性违不能公正<sup>⑮</sup>，依评似直以评评善；纯宕似流不能通道，依宕似通行傲过节。故曰，直者亦评，评者亦评，其评则同，其所以为评则异；通者亦宕，宕者亦宕，其宕则同，其所以为宕则异。然则何以别之？直而能温者德也，直而好评者偏也，评而不直者依也；道而能节者通也，通而时过者偏也，宕而不节者依也。偏之与依志同质违，所谓似是而非也。是故轻似烈而寡信，多易似能而无效，进锐似精而去速，诤者似察而事烦，评施似惠而无成，面从似忠而退违，此似是而非者也。亦有似非而是者；大权似奸而有功，大智似愚而内明，博爱似虚而实厚，正言似评而情忠。夫察似明非御情之反，有似理讼其实难别也，非天下之至精其孰能得其实。故听言信貌或失其真，诡情御反或失其贤，贤否之察实在所依。是故观其所依，而似类之

质可知。

何谓观其爱敬，以知通塞？盖人道之极莫过爱敬。是故《孝经》以爱为至德，以敬为要道。《易》以感为德，以谦为道。《老子》以无为德，以虚为道。《礼》以敬为本，乐以爱为主。然则人情之质有爱敬之诚。则与道德同体，动获人心，而道无不通也。然爱不可少于敬，少于敬则廉节者归之，而众人不与。爱多于敬，则虽廉节者不悦，而爱接者死之。何则敬之为道也，严而相离其势难久。爱之为道也，情亲意厚深而感物。是故观其爱敬之诚，而通塞之理可得而知也。

何谓观其情机，以辨怨惑？夫人之情有六机：抒其所欲则喜，不抒其所能则怨，以自伐历之则恶，以谦损下之则悦，犯其所乏则嫫，以恶犯嫫则妬，此人性之六机也。夫人情莫不欲遂其志，故烈士乐奋力之功，善士乐督政之训，能士乐治乱之事，术士乐计策之谋，辨士乐陵讯之辞，贪者乐货财之积，幸者乐权势之尤。苟赞其志则莫不欣然，是所谓抒其所欲则喜也。若不抒其所能则不获其志，不获其志则戚。是故功力不建则烈士奋，德行不训则正人哀哀，政乱不治则能者叹叹，敌未能弭则术人思思，货财不积则贪者忧忧，权势不尤则幸者悲，是所谓不抒其能则怨也。人情莫不欲处前，故恶人之自伐。自伐皆欲胜之类也，是故自伐其善则莫不恶也，是所谓自伐历之则恶也。人情皆欲求胜，故悦人之谦，谦所以下之，下有推与之意，是故人无贤愚，接之以谦，则无不色怿，是所谓以谦下之则悦也。人情皆欲掩其所短，见其所长。是故人驳其短，似若物冒之<sup>⑯</sup>。是所谓驳其所乏则嫫也。人情陵上者也，陵犯其所恶，虽见憎未害也。若以长驳短，是所谓以恶犯嫫，则妬恶生矣。凡此六机其归，皆欲处上。是以君子接物犯而不校，不校则无不敬下，所以避其害也。小人则不然，既不见机，而欲人之顺己，以佯爱敬为见异，以偶邀会为轻，苟犯其机则深以为怨。是故观其情机，而贤鄙之志可得而知也。

何谓观其所短，以知所长？夫偏材之人皆有所短，故直之失也讦，刚之失也厉，和之失也懦<sup>⑥</sup>，介之失也拘。夫直者不讦无以成其直，悦其直不可非其讦，讦也者直之征也。刚者不厉无以济其刚，悦其刚不可非其厉，厉也刚之征也。和者不懦无以保其和，既悦其和不可非其懦，懦者和之征也。介者不拘无以守其介，既悦其介不可非其拘，拘也者介之征也。然有短者未必能长也，有长者必以短为征。是故观其征之所短，而其材之所长可知也。

何谓观其聪明，以知其所达？夫仁者德之基也，义者德之节也，礼者德之文也，信者德之固也，智者德之帅也。夫智出于明，明之于人犹昼之待白日，夜之待烛也。其明益盛者所见及远，及远之明难。是故守业勤学未必及材，材艺精巧未必及理，理义辨给未必及智，智能经事未必及道，道恩玄远然后乃周。是谓学不及材，材不及理，理不及智，智不及道，道也者回复变通。是故别而论主，各自独行则仁为胜，合而俱用则明为将。故以明将仁则无不怀，以明将义则无不胜，以明将理则无不通。然则苟无聪明无以能遂。故好声而实不克则恢，好辨而理不至则烦，好法而思不深则刻，好术而计不足则伪。是故钩材而好学明者为师，比力而争智者为雄，等德而齐达者称圣，圣者之为称，明智之极明也。是以观其聪明，而所达之材可知也。

#### 注释：

- ①百里：指县。 ②冢宰：辅佐君主之官。  
③司寇：官名，掌刑狱、纠察之事。 ④三孤：少师、少傅、少保合称三孤。 ⑤司空：官名，掌管工程。 ⑥章：同“彰”。 ⑦珎：“珍”的异体字。  
⑧砭：以针治病。 ⑨赞：同“赞”。 ⑩𩇑：“睿”的异体字。 ⑪疎：“疏”的异体字。 ⑫恡：喜悦。 ⑬妬：妒。 ⑭慤：同“慤”。 ⑮讦：攻击别人短处。 ⑯冒：同“冒”。 ⑰懦：怯懦。

## 《贞观政要》

#### 题解：

唐吴兢(670—749)撰，其中的《择官》、《诚信》等卷，记述了唐太宗君臣的用人谋略思想。他们认为“致安之本，惟在得人”，“用得正人，为善者皆劝；误用恶人，不善者竞进”。为了审其德才，不误用恶人，知其善而用之。魏征提出考察人才要做到六观：“贵则观其所举，富则观其所养，居则观其所好，习则观其所言，穷则观其所不受，贱则观其所不为。”在用人上要做到“使人如器”，用其所长舍其所短，量才授职。为更好地发挥人才的作用，君主要以诚信对待贤才，所谓“君能尽礼，臣得竭忠，必在于内外无私，上下相信。上不信，则无以使下，下不信，则无以事上，信之为道大矣。”而重用贤才就必须疏远小人。君子和小人势不两立。“君子掩人之恶，扬人之善，临难无苟免，杀身以成仁。小人不耻不仁，不畏不义，唯利之所在，危人自安。”所以君主必须“怀之以德，待之以信，厉之以信，节之以”，赏罚严明，则可使“君子自强不息”。

### 择 官

贞观元年，太宗谓房玄龄等曰：“致治之本，惟在于审。量才授职，务省官员。故《书》称：‘任官惟贤才。’又云：‘官不必备，惟其人。’若得其善者，虽少亦足矣。其不善者，纵多亦奚为？古人亦以官不得其才，此于画地作饼，不可食也。《诗》曰：‘谋夫孔多，是用不就。’又孔子曰：‘官事不摄，焉得俭？’且‘千羊之皮，不如一狐之腋。’此皆载在经典，不能具道。当须更并省官员，使得各当所任，则无为而治矣。卿宜详思此理，量定庶官员位。”玄龄等由是所置文武总六百四十员。太宗从之，因谓玄龄曰：“自此倘有乐工杂类，假使术逾侪辈者<sup>①</sup>，只可特赐钱帛以赏其能，

必不可超授官爵，与夫朝贤君子比肩而立，同坐而食，遣诸衣冠以为耻累。”

贞观二年，太宗谓房玄龄、杜如晦曰：“公为仆射<sup>②</sup>，当助朕忧劳，广开耳目，求访贤哲。比闻公等听受辞讼，日有数百。此则读符牒不暇，安能助朕求贤哉？”因敕尚书省，细碎务皆付左右丞，惟冤滞大事合闻奏者，关于仆射。

贞观二年，太宗谓侍臣曰：“朕每夜恒思百姓间事，或至夜半不寐。惟恐都督、刺史堪养百姓以否。故于屏风上录其姓名，坐卧恒看，在官如有善事，亦具列于名下。朕居深宫之中，视听不能及远，所委者惟都督、刺史，此辈实治乱所系，尤须得人。”

贞观二年，太宗谓右仆射封德彝曰：“致安之本，惟在得人。比来命卿举贤，未尝有所推荐。天下事重，卿宜分朕忧劳，卿既不言，朕将安寄？”对曰：“臣愚岂敢不尽情，但今未见有奇才异能。”太宗曰：“前代明王使人如器，皆取士于当时，不借才于异代。岂得待梦傅说，逢吕尚，然后为政乎？且何代无贤，但患遗而不知耳！”德彝惭赧而退<sup>③</sup>。

贞观三年，太宗谓吏部尚书杜如晦曰：“比见吏部择人，惟取其言词刀笔，不悉其景行。数年之后，恶迹始彰，虽加刑戮，而百姓已受其弊。如何可获善人？”如晦对曰：“两汉取人，皆行着乡闾，州郡贡之，然后入用，故当时号为多士。今每年选集，向数千人，厚貌饰词，不可知悉，选司但配其阶品而已。铨简之理<sup>④</sup>，实所未精，所以不能得才。”太宗乃将依汉时法令，本州辟召，会功臣等将行世封事，遂止。

贞观六年，太宗谓魏征曰：“古人云，王者须为官择人，不可造次即用。朕今行一事，则为天下所观；出一言，则为天下所听。用得正人，为善者皆劝；误用恶人，不善者竞进。赏当其劳，无功者自退；罚当其罪，为恶者戒惧。故知赏罚不可轻行，用人弥须慎择。”征对曰：“知人之事，自古为难，故考绩黜陟<sup>⑤</sup>察其善恶。今欲求人，必须审访其

行。若知其善，然后用之。设令此人不能济事，只是才力不及，不为大害。误用恶人，假令强干，为害极多。但乱世惟求其才，不顾其行。太平之时，必须才行俱兼，始可任用。”

贞观十一年，侍御史马周上疏曰：“治天下者以人为本。欲令百姓安乐，惟在刺史、县令。县令既众，不可皆贤，若每州得良刺史，则合境苏息。天下刺史悉称圣意，则陛下可端拱岩廊之上，百姓不虑不安。自古郡守、县令，皆妙选贤德，欲有迁擢为将相，必先试以临人，或从二千石人为丞相及司徒、太尉者。朝廷必不可独重内臣，外刺史、县令，遂轻其选。所以百姓未安，殆由于此。”太宗因谓侍臣曰：“刺史朕当自简择；县令诏京官五品已上，各举一人。”

贞观十一年，治书侍御史刘洎以为左右丞宜特加精简，上疏曰：“臣闻上书万机，实为政本，伏寻此选，授任诚难。是以八座比于文昌<sup>⑥</sup>，二丞方于管辖<sup>⑦</sup>，爰至曹郎，上应列宿，苟非称职，窃位兴讥。伏见比来尚书省诏敕稽停，文案壅滞，臣诚庸劣，请述其源。贞观之初，未有令、仆，于时省务繁杂，倍多于今。而左丞戴胄，右丞魏征，并晓达吏方，质性平直，事应弹举，无所回避；陛下又假以恩慈，自然肃物。百司匪懈，抑此之由。及杜正伦续任右丞，颇亦厉下。比者纲维不举，并为动亲在位，器非其任，功势相倾。凡在官寮，未循公道，虽欲自强，先惧嚣谤<sup>⑧</sup>。所以郎中予夺，惟事咨禀；尚书依违，不能断决。或纠弹闻奏，故事稽延，案虽理穷，仍更盘下。去无程限，来不责迟，一经出手，便涉年载。或希旨失情，或避嫌抑理。勾司以案成为事了，不究事非；尚书用便僻为奉公，莫论当否。互相姑息，惟事弥缝。且选众授能，非才莫举，天工人代，焉可妄加？至于懿戚元动，但宜优其礼秩，或年高及耄<sup>⑨</sup>，或积病智昏，既无益于时宜，当置之以闲逸。久妨贤路，殊为不可。将救兹弊，且宜精简尚书左右丞及左右郎中。如

并得人，自然纲维备兴，亦当矮正趋竞，岂惟息其稽滞哉！”疏奏。寻以洎为尚书左丞。

贞观十三年，太宗谓侍臣曰：“朕闻太平后必有大乱，大乱后必有太平。大乱之后，即是太平之运也。能安天下者，惟在用得贤才。公等既不知贤，朕又不可偏识。日复一日，无得人之理。今欲令人自举，于事何如？”魏征对曰：“知人者智，自知者明。知人既以为难，自知诚亦不易。且愚暗之人，皆矜能伐善，恐长浇竞之风，不可令其自举。”

贞观十四年，特进魏征上疏曰：

臣闻知臣莫若君，知子莫若父。父不能知其子，则无以睦一家；君不能知其臣，则无以齐万国。万国咸宁，一人有庆，必藉忠良作弼，俊义在官，则庶绩其凝，无为而化矣。故尧、舜、文、武见称前载，咸以知人则哲，多士盈朝，元、凯翼巍巍之功，周、召光焕乎之美。然则四岳、九官、五官、十乱<sup>⑩</sup>，岂惟生之于曩代，而独无于当今者哉？在乎求与不求，好与不好耳！何之言之？夫美玉明珠，孔翠犀象，大宛之马，西旅之獒，或无足也，或无情也，生于八荒之表，涂遥万里之外，重译入贡，道路不绝者，何哉？盖由乎中国之所好也。况从仕者怀君之荣，食君之禄，率之以义，将何往而不至哉？臣以为与之为孝，则可使同乎曾参、子骞矣。与之为忠，则可使同乎龙逢、比干矣<sup>⑪</sup>。与之为信，则可使同乎尾生、展禽矣。与之为廉，则可使同乎伯夷、叔齐矣<sup>⑫</sup>。

然而今之群臣，罕能贞白卓异者，盖求之不切，励之未精故也。若勸之以公忠，期之以远大，各有职分，得行其道。贵则观其所举，富则观其所养，居则观其所好，习则观其所言，穷则观其所不受，贱则观其所不为。因其材以取之，审其能以任之，用其所长，掩其所短。进之以六正，戒之以六邪，则不严而自励，不劝而自勉矣。故《说苑》曰：

“人臣之行，有六正六邪。行六正则荣，犯六邪则辱。何谓六正？一曰，萌芽未动，形兆未见，昭然独见存亡之机，得失之要，预禁乎未然之前，使主超然立乎显荣之处，如此者，圣臣也。二曰，虚心尽意，日进善道，勉主以礼义，谕主以长策，将顺其美，匡救其恶，如此者，良臣也。三曰，夙兴夜寐，进贤不懈，数称往古之行，以厉主意，如此者，忠臣也。四曰，明察成败，早防而救之，塞其间，绝其源，转祸以为福，使君终以无忧，如此者，智臣也。五曰，守文奉法，任官职事，不受赠遗，辞禄让赐，饮食节俭，如此者，贞臣也。六曰，家国昏乱，所为不谏，敢扼主之严颜，面言主之过失，如此者，直臣也。是谓六正。何谓六邪？一曰，安官贪禄，不务公事，与世浮沉，左右观望，如此者，具臣也。二曰，主所言皆曰善，主所为皆曰可，隐而求主之所好而进之，以快主之耳目，偷合苟容，与主为乐，不顾其后害，如此者，谀臣也。三曰，内实险诋，外貌小谨，巧言令色，妒善嫉贤，所欲进，则明其美、隐其恶，所欲退，则明其过、匿其美，使主赏罚不当，号令不行，如此者，奸臣也。四曰，智足以饰非，辩足以行说，内离骨肉之亲，外构朝廷之乱，如此者，谗臣也。五曰，专权擅势，以轻为重，私门成党，以富其家，擅矫主命，以自贵显，如此者，贼臣也。六曰，谄主以佞邪，陷主于不义，朋党比周，以蔽主明，使白黑无别，是非无间，使主恶布于境内，闻于四邻，如此者，亡国之臣也。是谓六邪。贤臣处六正之道，不行六邪之术，故上安而下治。生则见乐，死则见思，此人臣之术也。”《礼记》曰：“权衡诚悬，不可欺以轻重。绳墨诚陈，不可欺以曲直。规矩诚设，不可欺以方圆。君子审礼，不可诬以奸诈。”然则臣之情伪，知

之不难矣。又设礼以待之，执法以御之，为善者蒙赏，为恶者受罚，安敢不企及乎？安敢不尽力乎？

国家思欲进忠良，退不肖，十有余载矣，徒闻其语，不见其人，何哉？盖言之是也，行之非也。言之是，则出乎公道，行之非，则涉乎邪径。是非相乱，好恶相攻。所爱虽有罪，不及于刑。所恶虽无辜，不免于罚。此所欲爱之欲其生，恶之欲其死者也。或以小恶弃大善，或以小过忘大功。此所谓君之赏不可以无功求，君之罚不可以有罪免者也。赏不以劝善，罚不以惩恶，而望邪正不惑，其可得乎？若赏不遗疏远，罚不阿亲贵，以公平为规矩，以仁义为准绳，考事以正其名，循名以求其实，则邪正莫隐，善恶自分。然后取其实，不尚其华，处其厚，不居其薄，则不言而化，期月而可知矣！若徒爱美锦，而不为民择官。有至公之言，无至公之实，爱而不知其恶，憎而遂忘其善。徇私情以近邪佞，背公道而远忠良，则虽夙夜不息，劳神苦思，将求至理，不可得也。

书奏，甚嘉纳之。

贞观二十一年，太宗在翠微宫，授司农卿李纬户部尚书。房玄龄是时留守京城。会有自京师来者，太宗问曰：“玄龄闻李纬拜尚书，如何？”对曰：“但云‘李纬大好髭须，’更无他语。”由是改授洛州刺史。

## 诚 信

贞观初，有上书请去佞臣者，太宗谓曰：“朕之所任，皆以为贤，卿知佞者谁邪？”对曰：“臣居草泽，不的知佞者，请陛下佯怒以试群臣，若能不畏雷霆，直言进谏，则是正人，顺情阿旨，则是佞人。”太宗谓封德彝曰：“流水清浊，在其源也。君者政源，人庶犹水，君自为诈，欲臣下行直，是犹源浊而望水清，理不可得。朕常以魏武帝多诡诈，深鄙其为

人，如此，岂可堪为教令？”谓上书人曰：“朕欲使大信行于天下，不欲以诈道训俗，卿言虽善，朕所不取也。”

贞观十年，魏征上疏曰：

臣闻为国之基，必资于德礼，君之所保，惟在于诚信。诚信立则下无二心，德礼形则远人斯格。然则德礼诚信，国之大纲，在于君臣父子，不可斯须而废也。故孔子曰：“君使臣以礼，臣事君以忠。”又曰：“自古皆有死，民无信不立。”文子曰：“同言而信，信在言前；同令而行，诚在令外。”然则言而不信，言无信也；令而不从，令无诚也。不信之言，无诚之令，为上则败德，为下则危身，虽在颠沛之中，君子之所不为也。

自王道休明，十有余载，威加海外，万国来庭，仓廩日积，土地日广。然而道德未益厚，仁义未益博者，何哉？由乎待下之情，未尽于诚信，虽有善始之勤，未睹克终之美故也。昔贞观之始，乃闻善惊叹，暨八九年间，犹悦以从谏，自兹厥后，渐恶直言，虽或勉强有所容，非复曩时之豁如。谗谀之辈<sup>⑬</sup>，稍避龙鳞；佞倖之徒，肆其巧辩。谓同心者为擅权，谓忠谏者为诽谤。谓之朋党，虽忠信而可疑；谓之至公，虽矫伪而无咎。强直者畏擅权之议，忠谏者虑诽谤之尤。正臣不得尽其言，大臣莫能与之争。荧惑视听，郁于大道，妨政损德，其在此乎？故孔子曰：恶利口之覆邦家者”，盖为此也。

且君子小人，貌同心异，君子掩人之恶，扬人之善，临难无苟免，杀身以成仁。小人不耻不仁，不畏不义，唯利之所在，危人自安。夫苟在危人，则何所不至？今欲将求致治，必委之于君子；事有得失，或访之于小人。其待君子也则敬而疏，遇小人也必轻而狎。狎则言无不尽，疏则情不上通。是则毁誉在于小人，刑罚加于君子，实兴丧之所在，

可不慎哉！此乃孙卿所谓：“使智者谋之，与愚者论之，使脩洁之士行之，与污鄙之人疑之。欲其成功，可得乎哉？”夫中智之人，岂无小惠，然才非经国，虑不及远，虽竭力尽诚，犹未免于倾败；况内怀奸利，承颜顺旨，其为祸患，不亦深乎？夫立直木而疑影之不直，虽竭精神，劳思虑，其不得，亦已明矣。

夫君能尽礼，臣得竭忠，必在于内外无私，上下相信。上不信，则无以使下，下不信，则无以事上，信之为道大矣。昔齐桓公问子管仲曰：“吾欲使酒腐于爵，肉腐于俎，得无害霸乎？”管仲曰：“此极非其善者，然亦无害于霸也。”桓公曰：“如何而害霸乎？”管仲曰：“不能知人，害霸也；知而不能任，害霸也；任而不能信，害霸也；既信而又使小人参之，害霸也。”晋中行穆伯攻鼓，经年而弗能下，馈间伦曰：“鼓之啬夫，间伦知之。请无疲士大夫，而鼓可得。”穆伯不应，左右曰：“不折一戟，不伤一卒，而鼓可得，君奚为不取？”穆伯曰：“间伦之为人也，佞而不仁，若使间伦下之，吾可以不赏之乎？若赏之，是赏佞人也。佞人得志，是使晋国之士舍仁而为佞。虽得鼓，将何用之？”夫穆伯，列国之大夫，管仲，霸者之良佐，犹能慎于信任，远避佞人也如此，况乎为四海之大君，应千龄之上圣，而可使巍巍至德之盛，将有所间乎？

若欲令君子小人是非不杂，必怀之以德，待之以信，厉之以义，节之以礼，然后善善而恶恶，审罚而明赏。则小人绝其私佞，君子自强不息，无为之治，何远之有？善善而不能进，恶恶而不能去，罚不及于有罪，赏不加于有功，则危亡之期，或未可保，永锡祚胤，将何望哉！

太宗览疏叹曰：“若不遇公，何由得闻此语？”

太宗尝谓长孙无忌等曰：“朕即位之初，

有上书者非一，或言人主必须威权独任，不得委任群下；或欲耀兵振武，慑服四夷。惟有魏征劝朕‘偃革兴文，布德施惠，中国既安，远人自服。’朕从此语，天下大宁，绝域君长，皆来朝贡，九夷重译，相望于道。凡此等事，皆魏征之力也。朕任用，岂不得人？”征拜谢曰：“陛下圣德自天，留心政术。实以庸短，承受不暇，岂有益于圣明？”

贞观十七年，太宗谓侍臣曰：“传称‘去食存言，’孔子曰：‘民无信不立。’昔项羽既入咸阳，已制天下，向能力行仁信，谁夺耶？”房玄龄对曰：“仁、义、礼、智、信，谓之五常，废一不可。能勤行之，甚有裨益。殷纣狎侮五常，武王夺之，项氏以无信为汉高祖所夺，诚如圣旨。”

#### 注释：

- ①倂：同类的人们。 ②仆射：尚书省长官。 ③赧：因羞惭而脸红。 ④铨：选拔官吏。 ⑤考绩：考核官吏的政绩。 ⑥八座：左右仆射及六部。 ⑦二丞：左右丞。 ⑧嚣：喧哗，放肆。 ⑨耄：八十岁以上的老人。 ⑩四岳：唐虞官名，掌管四岳诸侯之事。九官：舜命禹作司空，稷播百谷，契为司徒，皋陶作士，垂为共工，益掌山泽，伯夷为秩宗，夔典乐，龙作纳言，是为九官。五臣：舜时臣五人，即禹、稷、契、皋陶、伯益。十乱：乱，治也；十人谓、周公旦、召公奭、太公望、毕公、荣公、大颠、閎夭、散宜生、南宫适、文母。 ⑪龙逢、比干：古代直谏之臣。 ⑫伯夷、叔齐：古代孤竹国君的二子。 ⑬謇谀：正直的话。

## 《答制问事》

#### 题解：

唐陈子昂(661—702)撰，收入《陈子昂集》。陈子昂，字伯玉，梓州射洪(今属四川)人。进士及第，曾任右拾遗。《答制问事》共八条，是他给武则天的上书。其中《重任贤科》、《明必得贤科》等条，论述了用人之道。他强调用人的重要，“天下之政，非贤不理；天下之业，非贤不成”。如何用人？



他提出“任”、“信”、“终”、“赏”、“不疑”，五者缺一不可。对人才的任用，只有做到“既任须信，既信须终，既终须赏”，用人不疑，才能广招人才，充分发挥他们的才干。

## 重任贤科

臣伏惟刑措之政，在能官人。官人惟贤，政所以理。此故神皇深知倦问<sup>①</sup>，不假臣一二烦说。今臣所重更说者，实以天下之政，非贤不理。天下之业，非贤不成。固愿神皇务在任贤，诚得贤而任之，则天下之务自化理也。则贤既任须信，既信须终，既终须赏。夫任而不信，其才无由展。信而不终，其业无由成。终而不赏，其功无由别。必神皇如此任贤，则天下之贤云集矣。何以知其然？君子小人，各尚其类者也。若神皇徒务好贤，而不能任能。任而不能信，能信而不能终，能终而不能赏，虽有贤人，终不可用矣。神皇降问小臣当今政理之要者，臣窃以此为政要之至极。何以言之？神皇大业已成，天下已平，尊名已显，大礼已备，所未足者在于忠贤。若得忠贤，相与而守之，太平之功，可以于此而就。斯实天地神灵赞助神皇而致此时也。当此时不成千岁之业，立万代之规，小臣诚愚，窃为神皇所惜。

## 明必得贤科

臣伏惟刑措之道，政在任贤。议者皆云，贤不可知，人不可识。臣独以为贤固可易知，人固可易识，但是议者不精思之耳。夫尚德行者，必恶凶险之类。务公正者，必无邪佞之朋。保廉节者，必憎贪冒之党。有信义者，必疾苟且之徒。智者不为愚者谋，勇者不为怯者死，犹枭鸾不接翼<sup>②</sup>，薰莸不同气<sup>③</sup>，此天地之性，物类之情，其理自然，不可改易。何者？以德事凶，两不相入；以正接佞，两不相利；以信质伪，两不相从；以廉说贪，两不相和。智者尚谋，愚者不听；勇者徇死，

怯者贪生。皆事业不同，趋向各异。贤人之道，固可预知，诚能尚贤，贤可至矣。然则贤人之业，须贤人达之；贤人之才，须贤人用之。公正廉节，信义勇谋，皆待其人，然后获展。苟非其类，道不虚行。凡贤人君子，未尝不思效用。但无其类获进，所以烟没于时。今神皇诚能信任贤良，旌纳忠正，知左右之臣灼然有贤行者，赐之尊爵厚禄以荣宠之，使其以类相举，责成其政，合度者进，失度者贬。神皇但垂拱明堂，保神和志。天下之事，臣必见日就无为，不言而治也。今神皇忧恤万机，日不暇给，昧旦丕显<sup>④</sup>，中夜以思，诚是群臣未称圣任。伏愿神皇审察贤能，垂恩信任。夫忠贤事君，必谏君失。奸佞事主，必顺主情。直道曲事，惟圣鉴所察。

## 贤不可疑科

臣伏惟神皇圣明，具知得贤须任，既任须信，既信须终，既终须赏，悉备知也。然今未多信任者，应以经信任无效。如裴炎、刘祎之、蹇味道、周思茂，固蒙神皇多信任者，然竟背德辜恩，神皇以此有疑于信任贤也。以臣愚诚，则谓不然。何者！圣必藉贤以明，国必待贤以昌，人必待贤以理，物必待贤以宁。若神皇疑于信贤，欲以圣谋自断。臣恐勤劳圣躬，而天下不可独理。况圣躬不可劳弊，神心不可细用，此最须任贤者也。臣闻鄙人云，有人以食噎而得病者，欲绝食以去病，乃不知食绝而身毙。此言近小，可以喻远。臣窃谓贤人于国，亦犹食之在人，固不为一噎而绝糗粮<sup>⑤</sup>，亦不可以谬贤而远正士。此实神皇圣鉴可明知也，不待愚臣一二言之。伏愿任贤无疑，求士不倦，以此为务，天下诚不足理也。若外有信贤之名，而内实有疑贤之心，臣窃神皇虽日得百贤，终是无益，适足以损贤伤政也。伏惟熟察可信者信之。



## 劝赏科

臣闻劳臣不赏，不可劝功；死士不赏，不可励勇。当今或有功劳之臣，死虽之卒，策功命赏，未蒙优异。臣伏惟人臣徇节，在爵与名。死节勤公，名爵不及；偷荣尸禄，宠秩或加。故不可以进贤显能，旌功励行。伏愿神皇广求此色，劝励百寮<sup>⑤</sup>，以及将士，此最当今圣政之所宜先也。古人云，赏一人而千万人悦者，盖言其功当也。夫赏而不知，贤者不务也。伏愿神皇陛下将垂省察。

注释：

①神皇：武则天。②梟：凶猛的鸟。鸞：旧传凤凰一类的鸟。③薰：一种香草。莠：一种有臭味的草。④糗：干粮。⑤百寮：百官。

## 《马说》

题解：

唐韩愈(768—824)撰，收入《韩昌黎文集》，全文只有115字，是一篇千古绝唱。作者以说马为名，实际上是讲人才谋略问题。他在纵观历史和自身感受的基础上，深刻地阐述了人才学上的两个重要问题。一是作者用“千里马常有”之句，引申说明任何时代都有人才，但要有伯乐去发现他，否则就会被埋没，“虽有名马，祇辱于奴隶之手，骈死于槽枥之间，不以千里称也。”对世间被埋没的人才发出了惜才的感叹。二是用“马之千里者，一食或尽粟一石”，如果“食不饱，力不足”，也就不能日行千里，来说明人才也需要有一定的物质保证，才能使他发挥出自己的聪明才智。

世有伯乐<sup>①</sup>，然后才有千里马。千里马常有，而伯乐不常有。故虽有名马，祇辱于奴隶人之手，骈死于槽枥之间，不以千里马称也。马之千里者，一食或一石。食马者<sup>②</sup>，不知其能千里而食也。是马也，虽有千里之

能，食不饱，力不足，才美不外见，且欲与常马等不可得，安求其能千里也。策之不以其道，食之不能尽其材，鸣之而不能通其意。执策而临之曰：“天下无马。”呜呼！其真无马邪！其真不知马也。

注释：

①伯乐：《列子·说符》上记载，伯乐善于善相马，他向秦穆公推荐九方皋做相马人。②食马者：喂马的人。

## 《六逆论》

题解：

唐代柳宗元(773—819)撰，收入《柳河东集》。他通过批判石腊的“六逆”理论，提出了“贵不足尚”、“亲不足与”、“旧不足恃”等用人谋略。他认为只要有治国才能，不论是“远”者或“新”者，都应优先于“亲”者和“故旧”。如果“贵”、“亲”、“旧”三种人是蠢人，而“贱”、“远”、“新”等三种人是贤明的人。应该重用有才能的“贱”者、“远”者、“新”者，这是使国家得到治理的保证。他还通过历史上正反两方面的事实，论证了重用“远而新”有道德有才能的人，国家则兴旺发达的用人谋略。

《春秋》左氏言卫州吁之事，因载六逆之说曰，贱妨贵<sup>①</sup>，少陵长<sup>②</sup>，远间亲<sup>③</sup>，新闻旧，小加大，淫破义，六者，乱之本也。余谓少陵长，小加大，淫破义，是三者，固诚为乱矣。然其所谓贱妨贵，远间亲，新闻旧，虽为理之本可也，何必曰乱？夫所谓贱妨贵者，盖斥言择嗣之道子以母贵者也。若贵而愚，贱而圣且贤，以是而妨之，其为理本大矣，而可舍之以从斯言乎！此其不可固也。夫所谓远间亲，新闻旧，盖言任用之道也。使亲而旧者愚，远而新者圣且贤，以是而间之，其为理本亦大矣，又可舍之以从斯言乎！必从斯言而乱天下，谓之师古训可乎，此又不可者也。呜呼！是三者，择君置臣之

道，天下理乱之大本也。为书者，执斯言，著一定之论，以遗后代。上智之人固不惑于是矣，自中人而降，守是为大，据而以致败乱者，固不乏焉。晋厉死而悼公入<sup>①</sup>，乃理，贵不足尚也。秦用张禄而黜穰侯<sup>②</sup>，乃安；魏相成璜而疏吴起<sup>③</sup>，乃危；亲不足与也。苻氏进王猛而杀樊世<sup>④</sup>，乃举；胡亥任赵高而族李斯，乃灭；旧不足恃也，顾所信何如耳，然则斯言殆可以废矣。噫，古之言理者罕能尽其说，建一言，立一辞，则觚觚而不安<sup>⑤</sup>，谓之是可也，谓之非亦可也，混然而已。教于后世莫知其所以去就，明者慨然将定其是非，则拘儒瞽生相与群而咻之<sup>⑥</sup>，以为狂为怪。而欲世之多有知者可乎！夫人可知及化者，天下为不少矣。然而罕有知圣人之道，则固为书者之罪也。

#### 注释：

①妨：妨害，阻碍。 ②间：离间。 ③陵：同“凌”，欺凌。 ④晋厉：晋厉公。 ⑤张禄：范雎得罪于魏，更姓名为张禄，入秦，拜为相国。 ⑥成：魏成，文侯之弟。璜：翟璜。 ⑦苻：苻坚。王猛：苻坚任王猛为中书侍郎。 ⑧觚：破瓦壶。觚：动摇不安。 ⑨瞽：瞎眼。咻：喧扰。

## 《长短经》

#### 题解：

唐代赵蕤著。其中的《任长》、《品目》、《知人》等篇，论述了用人之术。他认为君主用什么样的人做辅佐，关系到国家的兴亡。为选拔人才，他提出“智”、“贤”、“人中之俊”、“人中之豪”、“人中之杰”的衡量标准。并从人们心理的角度，提出“观诚”、“听气”、“察色”、“考志”、“测隐”、“揆德”等考核人才的具体方法。强调要根据人的不同才能，以及能力的大小，量才授职。其中有许多卓见，发展了我国古代的人才心理学。

## 任 长

臣闻料才覈能，治世之要。自非圣人，谁能兼兹百行，备贯众理乎？故舜合众司<sup>①</sup>，随才授位；汉述功臣，三杰异称。况非此俦<sup>②</sup>，而可备责耶？

昔伊尹之兴土工也，强脊者使之负土<sup>③</sup>，眇者使之推<sup>④</sup>，伛者使之涂<sup>⑤</sup>，各有所宜而人性齐矣。管仲曰：“升降揖让，进退闲习，臣不如隰明，请立为大行<sup>⑥</sup>；辟土聚粟，尽地之利，臣不如甯戚，请立以为司田<sup>⑦</sup>；平原广牧，车不结辙，士不旋踵，鼓之而三军之士视死如归，臣不如王子城父，请立以为大司马<sup>⑧</sup>；决狱折中，不杀不辜，不诬不罪，臣不如宾胥无，请立以为大理<sup>⑨</sup>；犯君颜色，进谏必忠，不避死亡，不挠富贵，臣不如东郭牙，请立以为大谏<sup>⑩</sup>。君若欲治国强兵，则五子者存焉。若欲霸王，则夷吾在此。”黄石公曰：“使智、使勇、使贪、使愚。智者乐立其功，勇者好行其志，贪者决取其利，愚者不爱其死。因其至情而用之。此军之微权也<sup>⑪</sup>。”《淮南子》曰：“天下之物，莫凶于溪毒。然而良医棄而藏之，有其用也。麋之上山也<sup>⑫</sup>，大章不能跂<sup>⑬</sup>，及其下也，牧豎能追之<sup>⑭</sup>，才有脩短也。胡人便于马，越人便于舟。异形殊类，易事则悖<sup>⑮</sup>。”魏武诏曰：“进取之士，未必有行<sup>⑯</sup>；有行之士，未必能进取。陈平岂笃行，苏秦岂守信耶。而陈平定汉业，苏秦济弱燕者，任其长也。由此观之，使韩信下韩，仲舒当戎<sup>⑰</sup>，陆贾听讼，必无曩时之勋<sup>⑱</sup>，而显今日之名也。故任长之道，不可不察。

## 品 目

夫天下重器<sup>⑲</sup>，王者大统，莫不劳聪明于品材，获安逸于任使。故孔子曰：“人有五仪<sup>⑳</sup>：有庸人、有士人、有君子、有圣、有贤，审此五者，则治道毕矣。”

所谓庸人者：心不存慎终之规，口不吐训格之言，不择贤以托身，不力行以自定，见小闻大而不知所务<sup>②</sup>，从物如流而不知所执。此则庸人也。

所谓士人者：心有所定，计有所守，虽不能尽道术之本，必有率也；虽不能遍百善之美，必有处也。是故智不务多，务审其所知；言不务多，务审其所谓；行不务多，务审其所由。智既知之，言既得之，行既由之，则若性命形骸之不可易也。富贵不足以益<sup>③</sup>，贫贱不足以损。此则士人也。

所谓君子者：言必忠信而心不忌，仁义在身而色不伐，思虑通明而辞不专，笃行信道，自强不息。油然若将可越，而终不及者。此君子也。

所谓贤者：德不逾闲<sup>④</sup>，行中规绳，言足法于天下而不伤其身，道足化于百姓而不伤于本。富则天下无苑财<sup>⑤</sup>，施则天下不病贫。此则贤者也。

所谓圣者：德合天地，变通无方，穷万事之始终，协庶品之自然<sup>⑥</sup>。敷其大道，而遂成情性，明竝日月，化行若神，下民不知其德，覩者不识其邻。此圣者也。

《铃经》曰：“德足以怀远，信足以一异，识足以鉴古，才足以冠世，此则人之英也。法足以成教，行足以修义，仁足以得众，明足以照下，此则人之俊也。身足以为仪表，智足以决嫌疑，操足以厉贪鄙，信足以怀殊俗，此则人之豪也。守节而无挠，处义而不怒，见嫌不苟免，见利不苟得，此则人之杰也。”

《家语》曰：“昔者明王必尽知天下良士之名，既知其名，又知其实，然后用天下之爵以尊之，则天下理也，此之谓矣。”

## 量 才

夫人才参差大小不同，犹升不可以盛斛，满则弃矣。非其人而使人，安得不殆乎？

故伊尹曰：“智通于大道，应变而不穷，

辩于万物之情，其言足以调阴阳，正四时，节风雨，如是者举以为三公。三公之事常在于道，不失四时，通于地理，能通不通，能利不利，如是者举以为九卿。故九卿之事常在于德。通于人事，行犹举绳，通于关梁，实于府库，如是者举以为大夫。故大夫之事常在于仁。忠正强谏，而无有奸诈，去私立公，而言有法度，如是者举以为列士。故士之事常在于义也。故道德仁义定而天下正。

太公曰：“多言多语，恶口恶舌，终日言恶，寝卧不绝，为众所憎，为人所疾，此可以使要遮闾巷，察奸伺祸，权数好事，夜卧早起，虽剧不悔，此妻子之将也；先语察事，劝而与食，实长希言，财物平均，此十人之将也；切切截截<sup>⑦</sup>，垂意肃肃，不用谏言，数行刑戮，刑必见血，不避亲戚，此百人之将也；讼辩好胜，嫉贼侵凌，斥人以刑，欲整一众，此千人之将也；外兑作作<sup>⑧</sup>，言语时出，知人饥饱，习人剧易，此万人之将也。战战慄慄，日慎一日，近贤进谋，使人知节，言语不慢，忠心诚毕，此十万人之将也；温良实长，用心无两，见贤进之，行法不枉，此百万人之将也。勋勋纷纷，邻国皆闻，出入豪居，百姓所亲，诚信缓大，明于领世，能效成事，又能救败，上知天文，下知地理，四海之内，皆如妻子，此英雄之率，乃天下之主也。”

《经》曰：“智如源泉，行可以为表仪者，人师也；智可砥砺，行可以为辅警者<sup>⑨</sup>，人之友也；；据法守职而不敢为非者，人吏也；当前快意，一呼再诺者，人隶也。故上主以师为佐，中主以友为佐，下主以吏为佐，危亡之主以隶为佐。欲观其亡，必由其下。故同明者相见，同听者相闻，同志者相从，非贤者莫能用贤。故辅佐左右所欲任使者，存亡之机，得失之要。”孙武曰：“主孰有道，将孰有能，吾以此知胜之谓矣。”

## 知 人

臣闻主将之法，务览英雄之心。然人未易知，知人未易。汉光武聪听之主也，谬于庞明；曹孟德知人之哲也，弊于张邈<sup>②</sup>。何则？夫物类者，世之所惑乱也。故曰：狙者类智而非智也<sup>③</sup>，愚者类君子而非君子也，憨者类勇而非勇也。亡国之主似智，亡国之臣似忠。幽莠之幼似禾，驢牛之黄似虎。白骨疑象，砒砒类玉<sup>④</sup>。此皆似是而非也。

孔子曰：“凡人心险于山川，难知于天。天犹有春秋冬夏旦暮之期，人者厚貌深情。故有貌愿而益，有长若不肖，有顺怀而达，有坚而缢，有缓而钎<sup>⑤</sup>。”

太公曰：“士有严而不肖者，有温良而为盗者。有外貌恭敬，中心欺慢者。有精精而无情者，有威威而无成者，有如敢断而不能断者，有恍恍惚惚而反忠实者，有倏倏佻佻而有效者<sup>⑥</sup>，有貌勇很而内怯者，有梦梦而反易人者。无使不至，无使不遂，天下所贱，圣人所贵，凡人莫知，惟有大明，乃见其际。”

此士之外貌而不与中情相应者。知此士者而有术焉。

微察问之，以观其辞，穷之以辞，以观其变；与之间谋，以观其诚；明白显问，以观其德；远使以财，以观其廉；试之以色，以观其贞；告之以难，以观其勇；醉之以酒，以观其态。庄子曰：“远使之而观其忠，近使之而观其敬，烦使之而观其能。卒然问焉而观其智，急与之期而观其信，杂之以处而观其色。”《吕氏春秋》曰：“通则观其所礼，贵则观其所进，富则观其所养，听则观其所行，近则观其所好，习则观其所言，穷则观其所不受，贱则观其所不为。喜之以验其守，乐之以验其僻，怒之以验其节，哀之以验其仁，若之以验其志。”《经》曰：“任宠之人，观其不骄奢；疏废之人<sup>⑦</sup>，观其不背越<sup>⑧</sup>；荣显之人，观其不矜夸；隐约之人，观其不慑惧，少者观其恭敬好学而悌，壮者观其廉洁务行

而胜其私，老者观其思慎，强其所不足而不逾。父子之间，观其慈孝；兄弟之间，观其和友；乡党之间，观其信义；君臣之间，观其忠惠。此之谓观诚。

《人物志》曰：“骨植而柔立者，谓之宏毅。宏毅也者，仁之质也。气清而朗者，谓之文理，文理也者，礼之本也。体端而实者，谓之贞固，贞固也者，信之基也。筋劲而精者，谓之勇敢，勇敢也者，义之决也。色平而畅者，谓之通微，通微也者，智之原也。五质恒性，故谓之五常。故曰，直而不刚则，劲而不精则力，固而不端则愚，气而不清则越<sup>⑨</sup>，畅而不平则荡。然则平坡之质在于神，明暗之实在于精，勇怯之势在于筋，强弱之植在于骨，躁静之决在于气，惨怛之情在于色，衰正之形在于仪，态度之动在于容，缓急之状在于言。若质素平淡，中睿外朗，筋劲植固，声清色怿，仪崇容直，则纯粹之德也。夫人有气，气也者，谓诚在其中，必见诸外。故心气麤讼者<sup>⑩</sup>，其声沈散；心气详慎者，其声和节；心气鄙戾者，其声麤犷<sup>⑪</sup>；心气宽柔者，其声温润；信气中易，义气时舒，和气简略，勇气壮立。”此之谓听气。

又有察色。察色谓心气内蓄，皆可以色取之。夫诚智必有难尽之色，诚仁必有可尊之色，诚勇必有难慑之色，诚忠必有可观之色，诚繁必有难汗之色，诚贞必有可信之色。质色浩然固以安，伪色曼然乱以烦。此之谓察色。

又有考志。考志者，谓方与之言以察其志。其气宽以柔，其色检而不谄，其礼先人，其言后人，每自见其所不足者，是益人也；若好临人以色，高人以气，胜人以言，防其所不足，而废其所不能者，是损人也；其貌直而不侮，其言正人而不私，不饰其美，不隐其恶，不防其过者，是质人也；若其貌曲媚，其言谀巧，饰其见物，务其小证，以故自说者，是无质人也；喜怒以物而色不作，烦乱以事而志不惑，深导以利而心不移，临慑以威而气不卑者，是平心固守人也；若喜

怒以物心变易，乱之以事而志不治，示之以利而心迁动，慑之以威而气恒惧者，是鄙心而假气人也；设之以物而数决，惊之以卒而屡应，不文而慧者，是有智思之人。若难设以物，难说以言，守一而不知变，固执而不知改，是愚恨人也<sup>⑨</sup>；若屏言而勿顾，自私而不护，非是而强之，是诬嫉人也。此之谓考志。

又有测隐。测隐者，若小施而好得，小让而大争，言愿以为质，伪爱以为忠，尊其行以收其名，此隐于仁贤；若问则不对，详而不穷，貌示有余，假道自从，困之以物，穷则托深，此隐于艺文也。若高言以为廉，矫厉以为勇，内恐外夸，亟而称说，以诈气临人，此隐于廉勇也。若自事君亲而好以告人，饰其见物而不诚于内，发名以君亲，因名以私身，此隐于忠孝也。此谓测隐矣。

夫人言行不类<sup>⑩</sup>，终始相悖<sup>⑪</sup>，外内不合，而立假节以威视听，曰毁志者也；若饮食以亲，货赂以交，损利以合，得其权誉而隐于物者，曰贪鄙者也；若小知而不大解，小能而不大成，规小物而不知大伦，曰华诞者也。

又有揆德。揆德者，其有言忠行夷，秉志无私，施不求反，情忠而察，貌拙而安者，曰仁心者也；有事变而能治效，穷而能达，措身立功而能遂，曰有知者也；有富贵恭俭，而能威严有礼而不骄，曰有德者也；有隐约而不慑，安乐而不奢，勋劳而不变，喜怒而有度，曰有守者也；有恭敬以事君，恩爱以事亲，情乖而不叛，力竭而无违，曰忠孝者。此之谓揆德。

夫圣贤之所美，莫美乎聪明，莫贵乎知人，知人识智，则众材得其序，而庶之业兴矣。是故仲尼训六蔽，以戒偏材之失。思狂狷以通拘抚之材<sup>⑫</sup>，疾恹恹而无信，以明为似之难保，察其所安，观其所由，以知居止之行，率此道也。人焉廋哉，人焉廋哉。

## 察 相

《左传》曰：“周内史叔服如鲁，公孙敖闻其能相人也，见其二子焉。叔服曰：‘谷也食子，难也收子。谷也丰下<sup>⑬</sup>，必有后于鲁国。’”《汉书》曰：“高祖立潁为吴王。已拜，上相之曰：‘汝面状有反相，汉后五十年，东南有乱，岂非汝耶？天下一家，慎无反。’”由此观之，以相察士，其末尚矣。故曰：“富贵在于骨法，忧喜在于容色，成败在于决断。以此参之，万不失一。”

夫命之与相，犹声之与响也。声动乎几，响穷乎应，必然理矣。虽云以言信行，失之宰予；以貌度性，失之子羽<sup>⑭</sup>；然《传》称：“无忧而戚忧必及之，无庆而欢乐必还之。”此心有先动，而神有先知。则色有先见。故扁鹊见桓公，知其将亡。申叔见巫臣，知其窃妻。或跃马腾珍，或飞而食肉，或早隶晚侯，或初刑未王。铜声无以饱生，玉饕终乎饿死。则彼度表扞骨<sup>⑮</sup>，指色摘理，不可诬也，故列云尔。

## 论 士

臣闻黄石公曰：“昔太平之时，诸侯二师<sup>⑯</sup>，方伯三师，天子六师。世乱则叛逆生，王泽竭则盟誓相罚。德同无以相加，乃揽英雄之心。故曰：‘得人则兴，失士则崩。’”何以明之。昔齐公见小臣稷，一日三往而不得见。从者止之。桓公曰：“士之傲爵禄者，固轻其主。其主傲霸王者，亦轻其士。纵夫子傲爵禄，吾庸敢霸王乎？”五往而后得见。

书曰：“能自得师者王。”何以明之？齐宣王见颜触曰：“触前！”触亦曰：“王前！”议曰：“夫前为慕势，王前为趋士。与使触为慕势，不若使王为趋士。”宣王作色曰：“王者贵乎，士者贵乎？”对曰：“昔秦攻齐，令曰：‘有敢去柳下季垄五百步而樵采者<sup>⑰</sup>，罪死不赦。’令曰：‘有能得齐王头者，封万户侯，赐金千镒。’

由是言之，生王之头，曾不如死士之垄。”宣王竟师之。

谚曰：“浴不必江海，要之去垢。马不必骐骥，要之善走。士不必贤也，要之知道。女不必贵种，要之贞好。何以明之。淳于髡谓齐王曰：“古者好马，王亦好马。古者好味，王亦好味。古者好色，王亦好色。古者好士，王独不好。”王曰：“国无士耳，有则寡人亦悦之。”髡曰：“古有骅骝騊駼<sup>⑧</sup>，今之无有，王选于众，王好马矣。古有豹象之胎，今无有之，王选于众，朔味矣。古有毛嫱、西施，今之无有，王选于众，王好色矣。王必待尧、舜、禹、汤之士，而后好之，则尧、舜、禹、汤之士，亦不好王矣。

语曰：“琼艘瑶檝，无涉川之用；金弧玉弦，无激矢之能。是以介冑而无政事者，非拨乱之器；儒雅而乏治理者，非翼亮之士。何以明之？魏无知见陈平于汉王，汉王用之。绛灌等谗平曰：“平盗嫂受金。”汉王让魏无知。无知曰：“臣之所言者，能也。陛下所闻者，行也。今有尾生孝之行，而无益于胜负之数。陛下假用之乎，今楚汉相距，臣进奇谋之士，顾其计诚足以利国家耳。盗嫂受金，又安足疑哉！”汉王曰：“善！”

黄石公曰：“有清白之士者，不可以爵禄得；守节之士，不可以威刑胁。致清白之士，修其礼；致守节之士，修其道。”何以明之？郭隗说燕昭王曰：“帝者与师处，王者与友处，霸者与臣处，亡国者与厮役处，诎指其事之。北面受学<sup>⑨</sup>，则百己者至；先趋而后息，先问而后默，则什己者至；人趋己趋，则若己者至；凭几据杖，眄视指使，则厮役之人至；恣睢奋击，响藉叱咄，则徒隶之人至矣。”此及古之服道致士者也。

黄石公曰：“礼者，士之所归；赏者，士之所死。招其所归，示其所死，则所求者至矣。”何以明之？魏文侯太子击礼田子方，而子方不为礼，太子不悦。谓子方曰：“不识贫贱者骄人乎？富贵者骄人乎？”子方曰：“贫贱者骄人耳，富贵者安敢骄人！人主骄人而亡

其国，大夫骄人而亡其家。贫贱者若不得意，纳履而去，往而不得贫贱乎？”宋燕相齐，见逐罢归，谓诸大夫曰：“有能与我赴诸侯乎？”皆执仗排班，默而不对。燕曰：“悲乎！何士大夫易得而难用也。”陈饶曰：“举士大夫易得而难用，君不能用也。君不能用，则有不平之心。是失之于己而责诸人也。”燕曰：“其说云何？”对曰：“三升之稷，不足于士。而君雁鹜有余粟<sup>⑩</sup>，是君之过一也；果园梨栗，后宫妇女以相提掇，而士曾不得尝，是君之过二也。绡纨绮縠，美丽于堂，从风而弊<sup>⑪</sup>，士曾不得以为缘，是君之过三也。夫财者，君之所轻；死者，士之所重。君不能行君之所轻，而欲使士致其所重。譬犹铅刀畜之，干将用之<sup>⑫</sup>，不亦难乎！”宋燕曰：“是燕之过也。”

语曰：“夫人同明者相见，同听者相闻，德合则未见而相亲，声同则处异而相应。《韩子》曰：“趣舍同则相是，趣舍异则相非。”何以明之？楚威王问宋玉曰：“先生其有遗行欤？何士人众庶不誉之甚？”宋玉曰：“夫鸟有凤而鱼有鲸。凤凰上击九万里，翱翔乎穹冥之上，夫蕃蕃之蒿，岂能与料天地之高哉？鲸鱼朝发于昆仑之墟，暮宿于孟津，夫尺泽之鲋，岂能与量江海之大哉！故非独鸟有凤而鱼有鲸，士亦有之。夫圣人瑰琦意行，超然独处，夫世俗之民，又安知臣之所为哉。”

语曰：“知人未易，人未易知。”何以明之？汗明说春申君，春申君悦之。汗明欲谈，春申君曰：“仆已知先生意矣。”汗明曰：“未审君之圣孰于尧。”春申君曰：“臣何足以当尧。”汗明曰：“然则君料臣孰与尧？”春申君曰：“先生即尧也。”汗明曰：“不然，臣请为君终言之。君之贤不如尧，臣之能不及舜。夫以贤舜事圣尧，三年而后相知也。今君一时而知臣，是君圣于尧而臣贤于舜也。”

《记》曰：“夫骥唯伯乐独知之，若时无伯乐之知，即不容为良马也。士亦然矣。”何以明之？孔子危于陈蔡，颜回曰：“夫子之德至大，天下莫能容。然夫子推而行之，世不我

用，有国者之丑也，夫子何病焉。”《谷梁传》曰：“子既生，不免于水火，母之罪也。鞶冠成童，不就师傅，父之罪也。就师学问无方，心志不通，身之罪也。心志既通，而名誉不闻，友之罪也。名誉既闻，有司不举，有司之罪也。有司举之，王者不用，王者之过也。”论曰：“行远道者，假于车马<sup>⑬</sup>。济江海者，因于舟楫。故贤士之立功成名，因于资而假于物者。”何以明之？公输子能因人主之材木，以构宫室台榭，而不能为专屋狭庐，材不足也。欧冶能因国君之铜铁<sup>⑭</sup>，以为金炉大钟，而不能为壶鼎盘盂，无其用也。君子能因人主之政朝，以和百姓，润众庶，而不能自饶其家，势不便也。故舜耕于历山，恩不及州里。太公屠牛于朝歌，利不及于妻子，及其用也。恩流八荒，德溢四海。故舜假之尧，太公因之周文<sup>⑮</sup>。君子能修身以假道，不能枉道而假财。

语曰：“夫有国之主，不可谓举国无深谋之臣；阖朝无智策之士。在听察所考精与不精，审与不审耳。”何以明之？在昔汉祖也，纳陈恢之谋，则下南阳<sup>⑯</sup>。不用蒯敬之计，则困平城<sup>⑰</sup>。广武君者，策谋之士也。韩信纳其计，则燕齐举<sup>⑱</sup>。陈余不用其谋，则泑水败<sup>⑲</sup>。由此观之，不可谓事济者有计策之士，覆败者无深谋之臣。虞公不用宫之奇之谋，灭于晋。仇由不听赤章之言，仁于智氏。蹇叔之哭，不能济崤崤之覆。赵括之母，不能救长平之败。此皆人主之所，不精不审耳。天下之国，莫不有忠臣谋士也。

黄石公曰：“罗其英雄，则敌国穷。夫英雄者，国家之干。士民者，国家之半。后其干，收其半，则政行而无怨，知人则哲，唯帝难之，慎哉。”

#### 注释：

①众司：下属。②俦：同伴。③强脊：强壮。④眇者：瞎子。⑤伛者：驼背者。⑥大行：司礼官。⑦司田：管理土地的官。⑧大司马：最高军事长官。⑨大理：最高司法长官。⑩大谏：谏官。⑪微权：精妙权变。⑫麋：麋

鹿。⑬大章：古代传说善走的人。⑭牧豎：牧童。⑮悖：不便。⑯行：德行。⑰仲舒：董仲舒。⑱曩：从前。⑲重器：社稷。⑳五仪：五类。㉑闇：暗。㉒益：移。㉓闲：法。㉔菴：草木植物。㉕庶品：万物。㉖切切截截：巧辩。㉗兕：貌。㉘辅警：辅佐、警钟。㉙弊：蒙蔽。㉚狙：狡诈。㉛赧赧：赤地白彩的石头。㉜钎：焊。㉝倭倭佗佗：拖拖拉拉。㉞疏废：疏远贬斥。㉟背越：背离越轨。㊱越：越发。㊲麤：粗。㊳麤犷：粗犷。㊴愚很：愚鲁固执。㊵不类：不一。㊶悖：违背。㊷狂狷：急躁。㊸丰下：下巴宽大。㊹子羽：孔子的弟子，丑而有德。㊺扞：按、摸。㊻师：古代军制一师二千五百人。㊼塋：墓。㊽骅骝骐驎：千里马名。㊾北面：面北而拜。㊿雁鹜：指鸭鹅。㉑从风而弊：被风吹坏。㉒干将：古代宝剑名。㉓假：借。㉔欧冶：古代善于冶炼的人。㉕太公：姜太公。周文：周文王。㉖下南阳：攻下南阳。㉗困平城：被围困在平城。㉘燕齐举：一举攻下燕齐。㉙泑水败：兵败于泑水。

## 《策林》

### 题解：

唐白居易(772—846)撰，收入《白居易集》。其中的《尊贤》、《审官》等篇提出如何选拔人才，使用人才、管理人才等一系列谋略。他认为“水流湿，火就燥”，同类相聚，此为“天地常伦，人物常理”。因而选贤的方法，是“各审其族类，使之推荐”，即让贤才来荐举人才。同时，君主应对贤才施以厚礼，表明真正尊重人才，这样人才方能云集。对各种人才要做到量才授职，因“官有小大繁简之殊”而“才有短长能否之异”。所以要先“辨众才”而再授职，使“各尽其能”。他认为朝中的大臣是经过逐级的实际考验后，才提拔为重臣。因此，对低级官吏的选拔要特别慎重，要打破门第和资历的偏见，以才能为选官的标准。对人才的管理方面，他特别强

调考课制度，通过对官吏政绩的考核，来决定官吏的升迁罢免。到底考核的时间以几年为限？他总结了历史和现实的经验教训，认为三年较恰当，所谓“三载考绩，三考黜陟幽明”。尤其是州、县的长官，他们的善恶优劣对社会的影响极大。所谓“邦之赋役，由之而后均；王之风教，由之而后行；人之性命系焉，国之安危属焉”。因此，更要加强对牧宰的考绩，“其法张，则变曲为直”，“其法弛，则变香为臭”。白居易的人才谋略是很可贵的。

### 请以族类求贤

问：自古以来，君者无不思求其贤，贤者罔不思效其用。然两不相遇，其故何哉？今欲求之、〔辨之〕，其术安在？

臣闻：人君者无不思求其贤，人臣者无不思效其用。然而君求贤而不得，臣效用而无由者，岂不以贵贱相悬，朝野相隔，堂远于千里，门深于九重<sup>①</sup>；虽臣有悽悽之诚<sup>②</sup>，何由上达？虽君有孜孜之念，无因下知。上下茫然，两不相遇。如此，则岂唯贤者不用，矧又用者不贤。所以从古已来，乱多而理少者，职此之由也。臣以为求贤有术，辨贤有方；方术者，各审其族类，使之推荐而已。近取诸喻，其犹线与矢也：线因针而入，矢待弦而发。虽有线矢，苟无针弦，求自至焉，不可得也。夫必以族类者，盖贤愚有贯，善恶有伦，若以类求，必以类至。此也由水流湿，火就燥，自然之理也。何则？夫以德义立身者，必交于德义，不交于险僻；以正直克己者，必朋以正直，不朋于颇邪；以贪冒为意者，必比于贪冒<sup>③</sup>，不比于贞廉；以悖慢肆心者<sup>④</sup>，必狎于悖慢，不狎于恭谨。何者？事相害而不相利，性相戾而不相从；此乃天地常伦，人物常理，必然之势也。则贤与不肖，以此知之。伏惟陛下：欲求而致之也，则思因针待弦之势；欲辨而别之也，则察流湿就燥之徒。得其势，必汇征而自来；

审其徒，必群分而自见。求人之术，辨人之方，于是乎在此矣。

### 尊贤（请厚礼以致大贤也）

问：国家岁贡俊造<sup>⑤</sup>，日求贤良；何则所得者率寻常之才，所来者非师友之佐？岂时无大贤乎？将求之不得其道乎？

臣闻：致理之先，先于行道，行道之本，本于得贤；得贤之由，由乎审礼。若位礼之厚薄定于此，则贤之优劣应于彼。放黜后而朝，西面而事；则师之才至矣。先之以身，下之以色；则友之才至矣。展皮弊之礼<sup>⑥</sup>，尽揖让之仪；则大臣之才至矣。南面而坐，使者先焉；则左右之才至矣<sup>⑦</sup>。凭几据杖，以令召焉；则厮役之才至矣。是以得师者帝，得友者王，得大臣者霸，得左右者弱，得厮役者乱。然则求师而得友，求友而得臣者，有矣；未有求臣而得友，求友而得师者也。是故图帝而成王，图王而成霸者，有矣；未有图霸而成王，图王而成帝者也。夫以夷吾之贤<sup>⑧</sup>，为不可召之臣，桓公所以霸齐也。孔明之才，为非屈致之士，刘氏所以图蜀也。夫欲霸一国，图一方，犹审其礼，行其道焉。况开帝王之业，垂无疆之体；苟无尊贤之风，师友之佐，则安能弘其理，恢其化乎？国家有天下二百年，政无不施，德无不备；唯尊贤之礼，未与三代同风<sup>⑨</sup>。陛下诚能行之，则尽美尽善之事毕矣！

### 请行赏罚、以劝举贤

问：顷者累下诏旨，令举所知。献其状，莫匪贤能；授以官，罕闻政绩。将人不易知耶？将容易其举耶？

臣状见者德宗皇帝颁下诏旨，令举所知。自是内外百寮，岁有闻荐。有司各详其状，咸命以官。语其数，诚得多士之名；考其才，或非尽善之实。何则？得贤、由举择慎审，慎审、由赏罚必行。自十年以来，未



闻有司以得所举赏一人，以失所举罪一人。则内外之荐，恐未专精；出处之贤，或有违滥。斯所以令陛下尚有未得贤之叹也！伏惟申命所举，深诏有司，量其短长之材，授以大小之职。然后明察臧否，精考殿最；得人者，行进贤之赏；谬举者，坐不当之罪。自然上下精详，远近惩劝；谨关梁以相保，责轹轮以相求。俾夫草靡风行，达于天下。天下之耳，尽为陛下听；天下之目，尽为陛下视。明其视，则举不失德；广其听，则野无遗贤。而后官得其才，事得其序。如此，则陛下但凝神端拱，而天下理矣。

### 审官(量才授职、财政成事举)

问：官既备而事未举，才既用而政未成；将欲正之，其失安在？

臣闻：夫官既备而事未举，才既用而政未成者：由官与才不相得也。且官有小大繁简之殊，才有短长能否之异；称其任，则政立；枉其能，则事乖。故先王立庶官而后求人，使乎各司其局也；辨众才而后人仕，使乎各尽其能也。如此，则官虽省，才虽半，可得而理矣。若以短任长，以大授小；委其不可而望其可，强其不能而责其能：如此，则官虽能，才虽倍，无益于理矣。故曰：任小能于大事者，犹狸搏虎而刀伐木也。屈长于短用者，犹驥捕鼠而斧剪毛也<sup>⑩</sup>。所不相及，岂不宜哉！王者诚能量众才之短长，审庶官之小大；俾操凿柄者无圆方之谬，备轮轹者适曲直之宜。自然人尽其能，职修其要，彝伦日叙，庶绩日凝，又何患乎事不举而政未成哉？

### 大官乏人(由不慎选小官也)

问：国家台省之材<sup>⑪</sup>，台省之器<sup>⑫</sup>，胡然近日稍乏其人。将欲救之，其故安在？

臣伏见国家公卿将相之具，选于丞郎给舍<sup>⑬</sup>；丞郎给舍之材，选于御史遗补郎

官<sup>⑭</sup>；御史遗补郎官之器，选于秘著校正畿赤簿尉<sup>⑮</sup>；虽未尽是，十常六七焉。然则畿赤之吏，不独以府县之用求之；秘著之官，不独以校勘之用取之。其所责望者，乃丞郎之椎轮，公卿之濫觴也。则选用之际，宜得其人。臣窃见近日秘著校正，或以门地授，畿赤簿尉，唯以资序求。未商较其器能，不研覈其才行。至使顷军已来，台官空，不知所取；省郎阙，不知所求。岂直乏贤，诚亦废事！且以资序得者，仅能参于簿领；以门地进者，或未任于铅黄。臣恐台省之才，台省之具，十军已后，稍乏其人。又顷者，有司惩趋竞之流，塞傲倖之路；俾进士非科第者，不授校正；校正欠资考者，不署畿官。立而为文，权以救弊。盖以一时之制，非可久之术。今者有司难于抡材。易于注拟，因循勿改，守以为常；至使两畿之中，数县之外，虽资序皆当其任，而名实莫得而闻。故每台省缺员，曾莫拟议。则守文之弊，一至于斯。伏愿思以后艰，革其前失，广丞郎椎轮之本，疏公卿濫觴之源。如此，则良能之材，必足用矣；要剧之职，不乏人矣。

### 议庶官迁次之迟速

问：先王建官，升降有制，迁次有常，此经久之道也。或云：赏善罚恶者，不逾时月<sup>⑯</sup>。又曰：为官吏者，可长子孙。岂今古之制殊乎？不然，何迟速之异如此也？今欲速迁而劝善，恐诱躁求之心；将令久次而望功，虑兴滞用之叹。疾除之制，何以为中？

臣闻：孔子曰：“苟有用我者，三年而有成。”《舜典》曰：“三载考绩，三考黜陟幽明。”虽圣贤为政，未及三年，不能成也。虽善恶难知，不过九载，必自著也。由此而论，为官吏者，不可速迁也，不可久次也。若未三年而迁，则政未立，绩未成；且躁求之心生，而训致之化废矣。若过九载而不转，则明不陟，幽不黜；而劝善之法缺，惩恶之典隳矣<sup>⑰</sup>。太凡内外之官，其略如此。然则最与

天子共理者，莫先于二千石乎？臣窃见近来诸州刺史，有未两考而迁者。岂为善成政之速，速于圣贤耶？将有司考察之不精耶？不然，何迁之速也？又有踰一纪而不转者。〔岂〕善恶未著，莫得而知耶？将有司遗忘而不举耶？不然，何转之迟也？臣伏见顺宗皇帝诏曰：“凡内外之职，四考递迁。”斯实革今之弊，行古之道也。然臣犹以为吏能有闻者，既以四考迁之；政术无取者，亦宜四考黜之。将欲循其名，辨其实，则在陛下奖纠察之吏，督考课之官，使别其否臧，明知黑白。仍命曰：虽久次者，不得逾于四载；虽速迁者，亦待及于三年。此先王较能之大方，致理之要道也。伏惟陛下试垂意而察焉！

### 牧宰考课(议殿最未精，又政不由己)

问：今者勤恤黎元之隐，精求牧宰之材，亦既得人，使之为政；何则抚字之方，尚未副我精求之旨；疲困之俗，尚未知我勤恤之心？岂才未称官？将人不求理？备陈其故，以革其非。

臣闻：王者之设庶官，无非其理者也。然则庶官之理同归，而牧宰之用为急。盖以邦之赋役，由之而后均；王之风教，由之而后行；人之性命系焉，国之安危属焉。故与夫庶官之寄，轻重不可齐致也。臣伏见陛下勤恤黎元之心至矣，慎择牧宰之旨深矣。然而黎元之理<sup>①</sup>，尚未副陛下勤恤之心；牧宰之政，尚未称陛下慎择之旨。非人不求理，非才不称官；以臣所窥，粗知其由矣。臣闻：贤者为善，不待劝矣。何哉？性不忍为恶耳。愚者为不善，虽勤而不迁也。何哉？性不能为善耳。贤愚之间，谓之中人。中人心，可上可下；劝之则迁于善，舍之则陷于恶。故曰：惩劝之废也，推中人而坠于小人之域；惩劝之行也，引中人而纳诸君子之途。是知劝沮之道，不可一日无也。况天下牧宰，中人者多；去恶迁善，皆待劝沮。伏

以方今殿最之法甚备，黜陟之令甚明。然则就备之中，察之者未甚精也；就能识也；虽有齐竽之滥，何由知之？如此，则岂独利淫，亦将失善。善苟未劝，淫或未惩；欲望副陛下勤恤之心，称陛下慎择之旨，或恐难矣！臣又请以古事验之。臣闻：唐虞之际也，敷求俊乂，而四凶见用。及三考黜陟，而四罪乃彰。则知虽至明也，尚或迷真伪之徒；虽至圣也，不能去考察之法。故其法张，则变曲为直，如蓬生于麻也；其法弛，则变香为臭，使兰化为艾也。且圣人之为理，岂尽得贤而用之乎？岂尽知不肖而去之乎？将在夫秉其枢，操其要，划邪为正，削觚为圆；能使善之必迁，不谓善之尽有；能使恶之必改，不为恶之尽无。成此功者无他，惩劝之所致也。则考课之法，其可轻乎？臣又见：当今牧宰之内，甚有良能；委之理人，亦足成政；所未至者，又有其由。臣闻：牧宰古者五等之国也。于人有父母之道焉，于吏有君臣之道焉。所宜弛张举措由其心，威福赏罚悬于手；然后能镇其俗，移其风也。今县宰之权，受制于州牧；州牧之政，取则于使司；迭相专达；虽有政术，何由施行？况又力役之限，赋敛之期；以用之费省为求，不以人之贫富为度；以上之缓急为节，不以下之劳逸为程。县畏于州，州畏于使；虽有仁惠，何由抚绥？此犹束舟楫而望济川，绊骐驎而求致远，臣恐龚黄卓鲁复生于今日，亦不能为理矣！

#### 注释：

①九重：皇宫。②悛悛：勤恳。③比：朋比为奸。④悖慢：违背轻忽。⑤俊造：贤能的人。⑥皮弊之礼：隆重的礼仪。⑦左右：近侍。⑧夷吾：即春秋时期的管仲。⑨三代：指夏、商、周。⑩骥：千里马。⑪台：古代高级官员的尊称。⑫台省：唐朝三省六部和御史台的简称。⑬丞、郎、给舍：即左右丞、郎中、给事中、中书舍人，皆为中央官员。⑭遗、补：左右拾遗、左右补阙，皆为官名。⑮秘、著、校、正：即秘书郎、著作郎、校书郎、正字，皆官名。

①⑥踰：“逾”的异体字。 ①⑦隳：毁坏。 ①⑧黎元：百姓。

## 《择官》

题解：

宋代包拯(999—1062)撰，收入《包拯集》。包拯，庐州合肥(今属安徽)人，字希仁，官至龙图阁直学士、枢密副使。他认为选拔官吏，知人善任，是治乱之本。特别是掌管地方财政和司法大权的转运使、提点刑狱等职，如选人不当，则一路受害。因此他主张选官要先考核实际表现，听取公众的议论；不论资历深浅，以“公直廉明”做为选官的标准；对贪官赃吏，要依法判刑，纵遇大赦，也不再录用。所犯过失较轻者，只能授予副职。达到使“廉吏知所劝，贪夫知所惧”的目的。

### 请选用提转长吏官

臣闻王者之总治天下也，内则宰臣，百执事，外则按察之官、刺史、县令而已。若中外各得其人，协心以济，则陛下垂拱仰成<sup>①</sup>，无为无事矣<sup>②</sup>。夫转运使，提点刑狱，在乎察官吏之能否，辨狱讼之冤滥，以至生民利病，财赋出入，莫不莅焉。事权至重，责任尤剧，设非其人，则一路受蔽。如州县之职不举，按察之吏又不以闻，则朝廷无由而知，是一方之民有终无告者矣。昔汉宣帝曰：“与我共理天下者，其惟良二千石乎！”盖刺史、县令，耳目接于民事，政令所出，惨舒攸系。今朝廷既已轻授，又数数更易，其才者虽有育民济治之具，亦焉所施設哉<sup>③</sup>，又况庸庸者乎<sup>④</sup>！今粗举一二，条陈如左：窃见近日除授转运使，但理资序<sup>⑤</sup>，不甚选择，如江西路刘纬、利州路李熙辅，皆知识庸昧，众所共知；其提点刑狱，亦未甚得人，若广西潘师旦，江东令狐挺、京西张士安、河东席平，皆素非干敏之才，又无廉洁之誉，

猥当是选<sup>⑥</sup>，宜乎不任其职。虽近例并委两制奏举，然所举之人，或才有合格，以微文不用，故不才者往往进焉，乃是诃其细而忽其大<sup>⑦</sup>，恐非任才之意也。欲乞今后应除转运使，先望实而后资考，则所得精矣。凡举提刑，若保荐之人不协公议，即乞责其谬举，别委他官。如此，则可绝徇私之请矣。刺史、县令，前后条约，非不丁宁，其中滥进者亦众：如曹琰自通判便授润州大郡，果非理决人致死；又闻韩松知鼎州，缘本州控接蛮界，居常屯治军马，旧系武臣知州，后乞选差文资，况韩松累任以不治闻，岂可当此边任乎！欲乞今后应差知州，并令有司精覈治状，审验人才，以州郡繁简要僻，差而授之，庶几不至败事。所有奏举县令，即令流内铨选注繁剧不治之邑，是则民瘼少苏，而和气可召矣。伏望圣慈申命宰府，举而行之，则天下幸甚。

### 再请选转运提刑

臣伏见诸路转运使并提点刑狱，自来朝廷凡有差除，皆以资序叙迁<sup>⑧</sup>，或用臣僚荐举，闲容滥进，未甚得人，致一方之民必受其害。如李熙辅、张经等，居按察之任，当一路之重，不能遵守诏敕，振举职业，而挟私逞憾，无所畏惮，妄构刑狱，恣行追摄<sup>⑨</sup>，虽已冲替，未足惩戒，各乞重行黜降，以警将来。所有宣州廖询，秀州边瑀不公事迹，中外传闻，昨因安抚奏劾，方此彰露，而本路提、转殊失按举，居职不称，合正朝典。臣欲望圣慈应今后差转运使、提点刑狱臣僚，并请选择素有才能公直廉明之人充职，不以资序深浅为限，则逐路得人，而官吏有所凛畏矣。

### 乞不用赃吏

臣闻廉者，民之表也；贪者，民之贼也。今天下郡县至广，官吏至众，而赃污擿发<sup>⑩</sup>，

无日无之。洎具案来上<sup>①</sup>。或横贷以全其生<sup>②</sup>。或推恩以除其衅，虽有重律，仅同空文，贪猥之徒，殊无畏惮。昔两汉以赃私致罪者，皆禁锢子孙，矧自犯之乎！太宗朝尝有臣僚数人犯罪，并配少府监隶役，及该赦宥，谓近臣曰：“此辈既犯赃滥，只可放令逐便，不可复以官爵。”其责贪残，慎名器如此<sup>③</sup>。皆先朝令典，固可遵行。欲乞今后应臣僚犯赃抵罪，不从轻贷，并依条施行，纵遇大赦，更不录用，或所犯若轻者，只得授副使上佐。如此，则廉吏知所劝，贪夫知所惧矣。

#### 注释：

①垂拱仰成：垂衣拱手。 ②无为无事：无为而治则可以太平无事。 ③施設：筹划实施。  
④庸庸：平庸。 ⑤但理资序：只看资历。  
⑥猥：苟且。 ⑦诃：呵斥。 ⑧以资序叙迁：以其资历升迁。 ⑨追摄：追捕。 ⑩擿发：揭发。  
⑪洎：到。 ⑫横贷：强行宽免。 ⑬名器：官职。

## 《杂 著》

#### 题解：

北宋王安石(1021—1086)撰，收入《王文公文集》。其中《材论》、《取才》、《兴贤》等篇，论述了用人谋略。他认为，用贤是治国的根本，“国以任贤使能而兴，弃贤专己而衰”。“有贤而用，国之福也，有之而不用，犹无有也。”有才不用的症结在于君主的三蔽：一为“敢蔽”，以为自己“位可以去辱绝，终身无天下之患”，而不重用人才；二为君主“以谓吾之爵禄贵福足以诱天下之士”，故“坐骄天下之士”。三为不懂“养育取用”人才之道，以为天下无才。他认为，人的才能不一样，应该“取其长不问其短”；“信其忠则不疑其伪”。“使大者、小者、长者、短者、强者、弱者无不适其任者焉。”这样便可人尽其才，才尽其用。为此要广开才路，做到“博询众庶”，“不有忌讳”，“不迹小人”，“不

拘文牵俗”，“不责人以细过”。

## 材 论

天下之患，不患材之不众，患上之人不欲其众；不患士之不欲为，患上之人不使其为也。失材之用，国之栋梁也，得之则安以荣，失之则亡以辱。然上之人不欲其众、不使其为者，何也？是有三蔽焉。其敢蔽者，以为吾之位可以去辱绝危，终身无天下之患，材之失无补于治辞之数，故偃然肆吾之志<sup>①</sup>，而卒入败乱危辱，此一蔽也。又或以谓吾之爵禄贵富足以诱天下之士，荣辱忧戚在我，是吾可以坐骄天下之士，而其将无不趋我者，则亦卒入于败乱危辱而已，此亦一蔽也。又或不求所以养育取用之道，而惛惛然以为天下实无材于古<sup>②</sup>，则亦卒入于败乱危而已，此亦一蔽也。此三蔽者，其为患则同。然而用心善而犹可以论其失者，独以天下为无材者耳。盖其心非不欲用天下之材，特未知其故也。

且人之有材能者，其形何以异于人哉？惟其遇事而事治，画策而利害得，治国而国安利，此其所以异于人者也。故上之人苟不能精察之，审用之，则虽抱皋、夔、稷、契之智，且不能自异于众，况其下者乎？世之蔽者方曰：“人之有异能于其身，由锥之在囊，其末立现，故未有有其实而不可见者也。”此彼有见于锥之在囊，而固未睹夫马之在厩也。弩骥杂处<sup>③</sup>，其所以饮水食刍，嘶鸣啼啞，求其所以异者盖寡。及其引重车，取夷路，不屡策，不烦御，一顿其辔而千里已至矣。当是之时，使弩马并驱方驾，则虽倾轮绝勒，败筋伤骨，不舍昼夜而追之，辽乎其不可追及也，夫然后骐驎骥与弩骥别矣<sup>④</sup>。古之人君，知其如此，故不认为天下无材，尽其道以求而试之耳，试之之道，在当其所能而已。

夫南越之脩铉<sup>⑤</sup>，以百炼之精金，羽以秋鹞之劲翮，加强弩之上而引之千步之外，

虽有犀兕之捍，无不立穿而死者，此天下之利器，而决胜觊武之所宝也。然而不知其所宜用，而以敲扑，则无以异于朽槁之挺也。是知虽得天下之瑰材桀智，而用之不得其方，亦若此矣。古之人君，知其如此，于是铨量其能而审处之，使大者小者长者短者强者弱者无不适其任者焉。其如是则士之愚蒙鄙陋者，皆能奋其所知以效小事，况其贤能智力卓犖者乎？呜呼！后之在位者，盖未尝求其说而试之以实也，而坐曰天下果无材，亦未之思而已矣。

盖闻古之人于材有以教育成就之，而子独言其求而用之者何也？曰：“因天下法度未立之后，必先索天下之材而用之，如能用天下之材，则所以能复先王之法度。能复先王之法度，则天下之小事无不如先王时矣，况教育成就人材之大者乎？此吾所以独言求而用之之道者。”

噫！今天下盖尝患无材可用者。吾闻之，六国合从而辩说之材出，刘、项并世而筹划战斗之徒起，唐太宗欲治而谏谏谏诤之佐来。此数辈者，方此数君未出之时，盖未尝有也，人君苟欲之，斯至矣，今亦患上之不求之、不用之耳。天下之广，人物之众，而日果无材者，吾不信也。

## 取材

夫工人之为业也，必先淬砺其器用<sup>⑥</sup>抡度其材干，然后致力寡而用功得矣。圣人之于国也，必先遴选其贤能，练覈其名实，然后任使逸而事以济矣。故取人之道，世之急务也，自古守文之君，孰不有意于是哉？然其间得人者有之，失士者不能无焉，称职者有之，谬举者不能无焉。必欲得人称职，不失士，不谬举，宜如汉左雄所议诸生试家法、文吏课笺奏为得矣。

所谓文吏者，不徒苟尚文辞而已，必也通古今，习礼法，天文之事，政教更张，然后施之职事，则以详平政体，有大议论使以

古今参之是也。所谓诸生者，不独取训习白读而已，必也习典礼，明制度，臣主威仪，时政沿袭，然后施之职事，则以缘饰治道，有大议论则以经术断之是也。

以今准古，今之进士，古之文吏也；今之经学，古之儒生也。然其策进士，则但以章句声病，苟尚文辞，类皆小能者为之；策经学者，徒以记问为能，不责大义，类皆蒙鄙者能之。使通才之人或见赘于时，高世之士或见排于俗。故属文者至相戒曰：“涉猎可为也，诬艳可尚也，于政事何为哉？”守经者曰：“传写可为也，诵习可勤也，于义理何取哉？”故其父兄勸其子弟<sup>⑦</sup>，师长勸其文人，相为浮艳之作，以追时好而取世资也。何哉？其取舍好尚如此，所习不得不然也。若此之类，而当擢之职位，历之仕涂，一旦国家有大议论，立辟雍明堂，损益礼制，更著律令，决讞疑狱，彼恶能以详平政体，缘饰治道，以古今参之，以经术断之哉？是必唯唯而已。

文中子曰：“文乎文乎，苟作云乎哉？必也贯乎道。学乎学乎，博诵云乎哉？必也济乎义。”故才之不可苟取也久矣，必若差别类能，宜少依汉之笺奏家法之义。策进士者，若曰邦家之大计何先，治人之要务何急，政教之利害何大，安边之计策何出，使之以时务之所宜言之，不直以章句声病累其心。策经学者，宜曰礼乐之损益何宜，天地之变化何如，礼器之制度何尚，各傅经义以对，不独以记问传写为能。然后署之甲乙以升黜之，庶其取舍之鉴灼于目前，是岂恶有用而事无用，辞逸而就劳哉？故学者不习无用之言，则专业而修矣，一心治道，则习贯而入矣，若此之类，施之朝廷，用之牧民，何向而不利哉？其他限年之议，亦无取矣。

## 兴贤

国以任贤使能而兴，弃贤专己而衰。此二者必然之势，古今之通义，流俗所共知耳。

何治安之世有之而能兴，昏乱之世虽有之亦不能兴，盖用之与不用之谓矣。有贤而用，国之福也，有之而不用，犹无有也。商之兴也有仲虺、伊尹，其衰也亦有三仁。周之兴也有同心者十人，其衰也亦有祭公谋父、内史过。两汉之兴也有萧、曹、寇、邓之徒，其衰也亦有王嘉、傅喜、陈蕃、李固之众。魏、晋而下，至于李唐，不可遍举；然其间兴衰之世，亦皆同也。由此观之，有贤能用之者，国之福也，有之而不用，犹无有也，可不慎欤？

今犹古也，今之天下亦古之天下，今之士民亦古之士民。古虽扰攘之际，犹有贤能若是之众，况今太宁，岂曰无之，在君上用之而已。博询众庶，则才能者进矣；不有忌讳，则谏直之路开矣；不迓小人，则谗谀者自远矣；不拘文牵俗，则守职者辨治矣；不责人以细过，则能吏之志得以尽其效矣。苟行此道，则何虑不跨两汉轶三代，然后践五帝、三皇之涂哉？

## 委 任

人主以委任为难，人臣以塞责为重，任之重而责之重可也，任之轻而责之重不可也。愚无他识，请以汉之事明之。高祖之任人也，可以任则任，可以止则止。至于一人之身，才有长短，取其长则不问其短；情有忠伪，信其忠则不疑其伪。其意曰：“我以其人长于某事而任之，在它事虽短何害焉？我以其人忠于我心而任之，在它人虽伪何害焉？”故萧何刀笔之吏也，委之关中，无复西顾之忧。陈平亡命之虏也，出捐四万余金，不问出入。韩信轻猾之徒也，与之百万之众而不疑。是三子者，岂素著忠名哉？盖高祖推已久之心而置于其心，则它人不能离间而事以济矣。

后世循高祖则鲜有败事，不循则失。故孝文虽爱邓通，犹逞申屠之志；孝武不疑金、霍，终定天下大策。当是时，守文之盛

者，二君而已。元、成之后则不然，虽有何武、王嘉、师丹之贤，而胁于外戚竖宦之宠，牵于帑廩近习之制<sup>⑧</sup>，是以王道寢微，而不免负谤于天下也。中兴之后，唯世祖能驱大臣，以寇、邓、耿、贾之徒为任职，所以威名不减于高祖。至于为子孙虑则不然，反以元、成之后，三公之任多胁于外戚、竖宦、帑廩近习之人而致败，由是置三公之任，而事归台阁，以虚尊加之而已。然而台阁之臣，位卑事冗，无所统一，而夺于众多之口，此其为胁外戚、竖宦、帑廩近习者愈矣。至于治有不进，水旱不时，灾异或起，则曰三公不能燮理阴阳而策免之，甚者至于诛死，岂不痛哉！冲、质之后，桓、灵之间，因循以为故事。虽有李固、陈蕃之贤，皆挫于阉寺之手<sup>⑨</sup>，其余则希世用事全躯而已，何政治之能立哉？此所谓任轻责重之弊也。

噫！常人之性，有能有不能，有忠有不忠，知其能则任之重可也，谓其忠则委其诚可也。委之诚者亦输其诚，任之重者人亦荷其重，使上下之诚相照，恩结于心，是岂禽息鸟视而不知荷恩尽力哉？故曰：“不疑于物，物亦诚焉。”且苏秦不信天下，为燕尾生，此一苏秦倾侧数国之间，于秦独以然者，诚燕君厚之之谓也。故人主以狗彘畜其行，以国士待人者，人亦国士自奋。故曰：常人之性，有能有不能，有忠有不忠，顾人君待之之意何如耳。

## 知 人

贪人廉，淫人洁，佞人直，非终然也，规有济焉尔。王莽拜侯，让印不受，假僭皇命，得玺而喜，以廉济贪者也。晋王广求为冢嗣，管弦遏密，尘埃被之，陪扈未几，而声色丧邦，以洁济淫者也。郑注开陈治道，激昂颜辞，君民翕然，倚以致平，卒用奸败，以直济佞者也。於戏！知人则哲，惟帝其难之，古今一也。

注释:

①偃: 偃卧。②惴惴: 恐惧貌。③驽: 劣马。驥: 千里马。④骠: 骏马名。⑤箴: 小竹, 可做箭杆。⑥淬砺: 磨炼兵刃, 引申为刻苦修炼。⑦勗: 勉励。⑧廌: 同“墙”。⑨闾: 宦官。

## 《中兴论》

题解:

宋代陈亮(1143—1194)撰。陈亮字同甫, 原名汝龙, 学者称龙川先生, 浙江永康人。自少时就热心于国事, 但一生怀才不遇。《中兴论》是他针对南宋王朝内忧外患的严重局面, 提出的治国主张。其中《论开诚之道》、《论执要之道》, 主要是讲君主如何任用人才。他认为“何世不生才, 何才不资世!”关键是看君主的态度, 如果君主能够虚心待士, 推诚以用, 虽然不用高官厚禄, 贤才也可以为之效死。君主用人要做到“开心见诚”, “用则勿疑”, “与其位, 勿夺其职; 任以事, 勿间其言”。

### 论开诚之道

臣尝观自古大有为之君, 慷慨果敢而示之以必为之意, 明白洞达而开之以无隐之诚; 故天下雄伟英豪之士, 声从响应, 云蒸雾集<sup>①</sup>, 争以其所长自效而不敢萌欺罔之心, 截然各职其职而不敢生不满之念。故所欲而获, 所为而成, 而卓乎其不可及也。仰惟陛下英睿神武, 出于天纵, 嗣承大统<sup>②</sup>, 于今八年, 天下咸知其为真英主矣。而所欲未获, 所为未成, 虽臣亦为陛下疑之也。夫慷慨果敢, 陛下固示之以必为之意矣。而天下之气索然而不吾应, 或者明白洞达, 开之以无隐之诚者, 容有未至乎!

夫任人之道, 非必每事疑之, 而后非无隐之诚也。心知其不足任, 而姑使之以充吾位; 使之既久, 而姑迁之以慰其心。身尊位

大, 而大责或不任; 职亲地密, 而密议或不得闻。听其言, 与之以位而不责其实; 责其实, 迫之以目前而不待其成。陛下自度任人之际, 颇亦有近于此者乎? 如或近之, 则非所谓明白洞达, 开之以无隐之诚也。故天下懦弱委琐之人, 得以自容而无嫌; 而狂斐妄诞之流, 得以肆言而无忌。中实无能而外为欺罔, 位实非称而意辄不满。平居则何官不可为, 缓急则何人不退缩! 是宜陛下当宁而叹天下人才无一之可用, 而谓书生诚不足以有为, 则非陛下之过也。天下之士, 有以致之耳。虽然, 何世不生才, 何才不资世! 天下雄伟英豪之士, 未尝不延颈待用, 而每视人主之心为如何。使人主虚心以待之, 推诚以用之, 虽不必高爵厚禄而可使之死, 况子其中之计谋乎! 人主而有矜天下之心, 则虽高爵厚禄日陈于前, 而雄伟英豪之士有穷饿而死尔, 又有所不屑于此也。夫天下之可以爵禄诱者, 皆非所谓雄伟英豪之士也。陛下勿以其可以爵禄诱, 奴使而婢呼之。天下固有雄伟英豪之士, 惧陛下诚心之不至而未来也。

臣愿陛下虚怀易虑<sup>③</sup>开心见诚, 疑则勿用, 用则勿疑。与其位, 勿夺其职; 任以事, 勿间以言。大臣必使之当大责, 迹臣必使之与密议<sup>④</sup>。才不堪比, 不以其易制而姑留; 才止于此, 不以其久次而姑迁。言必责其实, 实必要其成。君臣之间, 相与如一体, 明白洞达, 豁然无隐, 而犹不得雄伟英豪之士以共济大业, 则陛下可以斥天下之士而不与之共斯世矣。不然, 臣恐孤陛下必为之心, 沮天下愿为之志, 两相求而不相值也。以陛下英睿神武之资, 视古之贤主, 无所不及而有过之者, 而其效乃尔。此臣所以区区爱君之心不能自己, 而辄献其愚忠, 惟陛下裁幸!

### 论励臣之道

臣闻上下同心, 君臣戮力者, 事无不济; 上下相蒙, 君臣异志者, 功无不隳。春秋之

时，晋伐楚，三(合)[舍]不止。大夫请击之，庄王曰：“先君之时，晋不伐楚。及孤之身而晋伐楚，是寡人之过也。如何其辱诸大夫也！”大夫曰：“先君之时，晋不伐楚。及臣之身而晋伐楚，是臣之罪也。请击之。”庄王俛泣而起拜。晋师闻而夜还。越王求成于吴而归，抱柱而哭，承之以嚆。群臣闻之曰：“君王何愁之心甚也！夫复仇谋敌，非君王之独忧，乃臣下之急务也。”其后越父兄请报耻，越王曰：“昔者我辱也，非二三子之罪也。寡人何敢劳国人以塞吾仇！”父兄曰：“四封之内，尽吾君子；子报父仇，谁敢不力！”越王卒用以灭吴。区区楚越有臣如此，而谓堂堂大国反无君忧臣辱、君辱臣死之义乎！

今陛下慨念国家之耻，励复仇之志，夙夜为谋，相时伺隙。而群臣邈焉不知所急，毛举细事以乱大谋；甚者侥幸苟且，习以成风。陛下数降诏以切责之，厉无威以临之，而养安如故，无趋事赴功之念，复仇报耻之心。岂群臣乐于负陛下哉！特玩故习常，势流于此而不自知也。

臣愿陛下慨然兴怀，不御正殿，减膳彻乐，夕惕若厉，立群臣而语之曰：“朕承太上皇帝付托之重，念国家之深耻，志在复仇，八年于兹，若涉渊水，未知攸济。而群臣玩故养安，无肯戮力。是朕不明不德，不足以承大宝，图大业，其何颜以临于王公士民之上！况敢既安，以自取辱！”群臣震惧，顿首请罪，然后徐谕之曰：“朕固未敢即安，群臣犹以朕可与有为，其名共厥职，勉趋厥事。上率其下，下勉其上，自度其力之不逮者，无尸厥官，朕将明赏罚以厉其后。繇今以往，群臣咸为朕思所以畏天爱民，求贤发政，富国强兵，复仇谋敌之道。无以小事塞责，无以小谋乱大，相与熟讲惟新之政，使内外有序，则朕即安之日。”陛下惕然侧席，图济大业，而群臣不能惕然承意，竭力以报其上，是人而禽兽者也，诛之杀之，何所不可！诚使上下同心，君臣戮力，则何事之不

济乎！

注释：

①云蒸雾集：指人才云集。②嗣承大统：继承皇位。③虚怀：虚心。④近臣：近臣。

## 《日知录》

题解：

明末清初顾炎武(1613—1682)撰。他在《铨选之害》、《停军格》、《人材》等篇中，猛烈地抨击了当时的选人制度和“资格论”，认为这种制度毁坏人材，造成官吏无廉耻，成为贪官暴吏，因此同焚书坑儒没有什么区别。他还抨击了封建法律对人材的摧残，造成“人之智虑，自不能出于绳约之内，故人材亦以不振”。使豪杰之士也成了平庸之辈。在这些批判中，顾炎武也论述了如何用人 的谋略。

### 铨选之害

宋叶适论铨选之害曰：“夫甄别有序<sup>①</sup>，黜陟不失者，朝廷之要务也。故自一命以上，皆欲用天下之所贤者，而不以便其不肖者之人。窃怪人主之立法，常为不肖者之地，而消磨其贤才<sup>②</sup>，以俱入于不肖而已。而其官最要，其害最甚者，铨选也。吏部者，朝廷喉舌之处也。尚书侍郎者，天子贵近之臣也。处之以其地，任之以其官，与之以甄别黜陟天下士大夫之柄，而乃立法以付之曰，‘吾一毫不信汝也，汝一毫不自信也’，其人之贤否，其事之罪功，其地之远近，其资之先后，其禄之厚薄、其阙之多少，则曰‘是一切有法矣’。天下法度之至详，曲折诘难之至多<sup>③</sup>，士大夫不能一举措手足者，顾无甚于铨选之法也。”呜呼！与人以官，赋人以禄，生民之命，致治之本，由此而出矣。奈何举天下之大柄，而自束缚蔽蒙之，乃为天下大弊之源乎？虽然，是几百年于是矣，其相承者，非一人之故。学士大夫勤身苦力



诵说孔孟，传道先王，未尝不知所谓治道者，非若今日之法度也。及其一旦之为是官，噤舌拱手<sup>④</sup>，四顾吏胥，以问其所当知之法令。吏胥上下其手以视之，其人亦抗然自辩曰，吾有司也，固当守此法而已。嗟夫！岂其人之本若是陋哉？陛下有是名器，为鼓舞群动之具，与夺进退，以叙天下，何忍袭数百年之弊端，汨没于区区坏烂之法<sup>⑤</sup>，以消磨天下之人才，而甘心以便其不肖？如此，则治道安从出，而治功安从见哉！吏自唐中世以前，吏部用人之意，犹有可考。今之所循者，乃其衰乱之余弊耳。百王之常道，不容于陛下而不复也。

淳熙元年，参知政事龚茂良言，法者，公天下而为之者也。例者因人而立，以坏天下之公者也。晋之患在于用例破法，今之患在于因例立法。自例行而法废矣，故谚称吏部为“例部”，是则铨政之害在宋时即已患之，而今日尤甚。所以言者，法可知而例不可知；吏胥得操其两可之柄，以市于下，世世相传，而虽以朝廷之力，不能拨而去之。甚哉例之为害也，又岂独吏部然哉！

## 停年格

今之言停年格者<sup>⑥</sup>皆言起于后魏崔亮。今读亮本传，而知其亦有不得已也。

宋孙洙《资格论》曰：三代以下，选举之法，其始终一切皆失者，其国家资格之制乎，今贤材之伏于下者，资格阂之也；职业之废于官者，资格牵之也；士之寡廉鲜耻者，争于资格也。民之困于虐政暴力，资格之人众也；万事之所以抗弊<sup>⑦</sup>，百吏之所以废弛，法制之所以颓烂决溃而不之救者，皆资格之失也。惟天之生大贤大德生，非以私厚其人，将使为辅生民之治者也。惟人之有大材大智者，非以独乐其身，将以振生民之穷者也。今小人累日而取贵仕；君子侧身而困卑位，贤者戴不肖于上，而愚者役智于下，爵不考德，禄不授能，故曰贤材之伏于下者，皆资

格阂之也。……夫资格之法，起于后魏崔亮，而复行之于唐之裴光庭，是二子者，其当世固已罪之，不待后人之饥矣。然而行之前世，不过数十年者也，后得称职者，矫而更之，故其患不大。今资格之弊，流漫根结<sup>⑧</sup>，踵为常法<sup>⑨</sup>，方且世世而遵行之矣；往者不知非，来者不知矫，故曰万事抗弊，百吏废弛，法制颓烂决溃而不之救也。虽然，不无小利也，小便也。利之者，蠢遇而废滞也；便之者，耄老而庸昏者也。而于天下国家焉，则大失，大害也。

## 人材

宋叶适言，法令日繁，治具日密，禁防束缚，至不可动。而人之智虑，自不能出于绳约之内，故人材亦以不振。今与人稍谈及度外之事<sup>⑩</sup>，辄摇手而不敢为。夫以汉之能尽人材，陈汤犹能扼腕于文墨吏，而况于今日乎？宜乎豪杰之士，无以自备，而同归于庸懦也。

使枚乘、相如而习今日之经义，则必不能发之文章。使管仲、孙武而读今日之科条，则必不能运其权略。故法令者，败坏人材之具；以防奸宄，而得之者什三；以沮豪杰，而失之者什七矣。

自万历以上，法令繁而辅之以教化，故其治犹为小康。万历以后，法令存而教化亡，于是机变日增<sup>⑪</sup>，而材能日减。其君子工于绝纆，而不能获敌之首；其小人善于盗马，而不肯救君子之患。诚如《墨子》所云：“使治官府则盗窃，守城则倍畔；使断狱则不中，分财则不均。”《吕氏春秋》所云：“处官则荒乱，临财则贪得，列近则持谗，将众则罢怯。”

注释：

①甄别：考核鉴定。②消磨：消磨。③曲折诘难：不公正的查究问难。④噤舌：闭口不言。⑤汨：埋没。⑥停年格：始于北魏的选官制度，以年资深浅为标准，而不问才能的高下。⑦抗：消耗。⑧流漫：放纵。⑨踵：追逐，引

申为因袭，继承。⑩度：法度。⑪机变：谋诈。

## 《潜 书》

### 题解：

清代唐甄(1630—1704)撰，费时30年而成。他猛烈地抨击封建专制主义制度，主张革新政治。在《任相》、《善任》、《用贤》、《主进》等篇中，他强调用贤是关系国家治乱兴亡的大事。认为“为政亦多务矣，唯苟贤为国之大事”。尤其要让贤者担任宰相。选贤要谨慎，要尊重贤才，“隆师保之礼”。任人要用其所长，“专典一职，终身不易”。要采纳他们的建议，尽量亲近他，做到亲密无间。对他们的功劳要给予奖赏，尤其对劳久功大者，要给予抚慰，应老而有禄，还应恩及子孙。其中有些认识是很可贵的。

### 任 相

亡国之道有十焉：有法而无实，国亡；赏罚不中，国亡；用舍不明，国亡；左右誉之而褒显，民安之而贬黜，国亡；百姓困穷，司牧不知，知而不为之所，国亡；百官好利而无耻，国亡；将帅不得人，士卒不用命，国亡；御将不得尽其能，国亡；不奴使宦寺，使与国政而号为内臣，国亡；金粟殫竭<sup>①</sup>，不足以厚禄食，养战士，国亡。此十亡者，明君或蹈之，不必暴乱如桀纣者也。

君者，利之源也，奸之的地。人皆的之，皆欲中之。以一深宫不尝事之人<sup>②</sup>，而环而伺之者百千辈，虽有智者亦有所不及矣。于是佞以忠进，诈以诚进。其耳目达于宫庭之隐，其推引藉于左右之口，其摇惑假于优人之谀言。使人君入其术者，且自以为聪明过人，无微不见也。于是虐民者以良荐，覆军者以捷闻。功罪倒置，诛赏骇世。忠臣义士肝脑涂地，徒杀其身。而权臣贼奄窃旦夕之富贵，不知皮尽而毛无所附，且安然而自以

为得计也。

庄烈皇帝，亦刚毅有为之君也。以藩王继统，即位之初，孤立无助，除滔天之大逆，朝廷晏然，不惊不变。忧勤十七年，无酒色之荒，晏游之乐，终于身死社稷，故老言之，至今流涕。是岂亡国之君哉！而卒至于亡者，何也？不知用人之方故也。

当是之时，非无贤才也。袁崇焕以间诛<sup>③</sup>，孙传庭以迫败，卢象升以嫉丧其功。此三人者，皆良将，国之宝也，不得尽其才而枉陷于死。使当日者有一张居正为之相，则间必不行，师出有时，嫉无所施，各尽其才，而明之天下犹可不至于亡。然而迹庄烈之所为，虽有居正，不能用也。庄烈居高自是，举事不当，委咎于人<sup>④</sup>。无择相之明，执国政者，皆朋党之主，数举数罢，易于敝帚。百职之任，何由得人乎！是以援私植党，充于朝廷；倾人夺位，险于仪、秦；将卒无忌，诛焚劫略，毒于盗贼；百姓畏兵如虎狼，望贼如汤武。迨乎季年，主虑督乱<sup>⑤</sup>，无所适从；诛戮亟行，四方解体，而明遂不可为矣。

相者，君之贰也，宗庙所凭，社稷所赖，不可以轻为进退者也。譬之构屋，户牖可以改作，丹堊可以数新，至于栋梁，则一成而不可易。古之为国者，得一贤相，必隆师保之礼，重宰衡之权。自宫中至于外朝，惟其所裁；自邦国至于边陲，惟其所措。谗者诛之，毁者罪之。盖大权不在，不可以有为也。国有贤相，法度不患不修，赏罚不患不中，用舍不患不明，毁誉不患至前，田赋不患不治，吏必尚廉，将必能逞，士必能死，府库充盈，奴仆慑伏。彼十亡者，皆可无虞也。

然知人之识，自古为难，在叔世为尤难。叔世之人，矫情饰貌，矩行法言，欢兜可以为皋、夔，盗跖可以为夷、惠<sup>⑥</sup>，猝难辨也。然则中才之主，乌能任相乎？人不易知，功则不可掩。譬之饮药，一饮之而良，再饮之而效，三饮之而疾去者，必良医也。一饮之而不良，再饮之而无效，三饮之而疾不去者，

必庸医也。人虽至愚，岂以疾去者为庸医，以疾不去者为良医哉！任相之道亦然。

张居正之为相也，拜命之日，百官凛凛，各率其职，纪纲就理，朝廷肃然，其效固旦夕立见者也。为政十年，海内安宁，国富兵强。尤长于用人，筹边料敌，如在目前。用曾省吾、刘显平都蛮之乱，用凌云翼平罗旁之乱，并拓地数百里；用李成梁、戚继光，委以北边，辽左屡捷，攘地千里；用潘季驯治水而河淮无患。居正之功如是，虽有威权震主之嫌，较之严嵩，判若黑白矣。主虽至愚，未有以乱政为良相，以安社稷为奸相者也。然则任相之道，岂难能哉！

显帝之任居正也，畏之如严师，信之如箴龟，无言不从，无规不改，虽太甲、成王有所不及。是以居正得以尽忠竭才，为所欲为，无不如意，可谓盛矣。《诗》曰：“靡不有初，鲜克有终。”能用居正而不能保其终者，何也？居尊自高，耻于下人故也。显帝当幼弱之时，童心尚存，血气未刚，故惮于师傅，不敢为非。及其稍长，念先帝付托之重，又加之以贤母之训，而元辅才大功高，倚为股肱，尚不敢失师保之礼。然以万乘之尊，不得自专，而授挫于其臣，内怀忿悁，固之久矣。及居正死，念功之心，不胜其含怒之心，于是削其官爵，暴其罪愆，流其族属，致欲斫棺戮尸。始有明良之美<sup>⑦</sup>，而终为桀纣之暴，君臣之际，及覆如是，可不为寒心乎！使当日者，居正尚存，勋劳日高，显帝之齿渐长，四方无事，志气骄盈，谗间得人，则居正覆巢之祸，不在身死之后矣。曷亦念手挈十岁之童子，坐之南面之上，奸乱不作，海内服从，泽洽中土，威畅四裔，使高帝之天下，安于泰山，此谁之功与！是则据辽宫之罪小，安天下之功大，虽割江陵一县以为封国，伐荆楚之良材以营宫室，未为过也。奈何身死之后，憾及骸骨，曾不得比于狗马，此良臣谋士所为望国门而却步者也！

迨乎庄烈之世，天下倾危，将相无人，

乃追思昔功，官居正之子孙。人亦有言：“往事则明，当事则昏。”使居正当庄烈之世，举以为相，朝受命而夕被诛矣，尚安望其有为哉！是故人君之患，莫大于自尊，自尊则无臣，无臣则无民，无民则为独夫。《乾》之上九曰：“亢龙有悔”。<sup>⑧</sup>龙德既亢，必有宇宙玄黄之战<sup>⑨</sup>，而开草昧之运矣。可不惧哉，可不戒哉！

## 善任

六卿既得人，任之又有其道。有道，则能尽其才以告成功；失道，则虽笃于用贤，终于才绌而政废<sup>⑩</sup>。天下治乱，社稷安危，皆由于此。其道有四：

一曰专。天子有六卿，犹身之有耳目手足，耳惟聪，目惟明，手惟执，足惟履，不相为用，各专其职。唐虞之臣，惟禹为无善不备，故终陟元后<sup>⑪</sup>。若弃为后稷，契作司徒，皋陶作士，垂共工，益作虞，伯夷作秩宗，夔典乐，龙作纳言，专典一职，终身不易。使八臣互易其位，岂不可以为理<sup>⑫</sup>？终不若取其尤长，各用其极。是以唐虞之治，巍巍如天，非后世所能及。当法此以任官，既有成绩，终身不迁。老而避位，必举贤以自代。历年既久，守官既专，其虑益熟，其学益精，其事易成。

二曰虚。天子有六卿，如匠之有绳墨斧斤，引之既直，斫之无爽，宫室乃成，虽垂班之巧<sup>⑬</sup>亦不能废。人君长于宫中，天下之事不能周知。而且居高易骄，处富易侈，败度败礼<sup>⑭</sup>，常不自觉，尚赖诸元老格其非心<sup>⑮</sup>，讲道论德，以补阙裁过。毋作聪明以自用，毋作好恶以尊法，毋拒忠言以闻过，则受益为多。

三曰亲。天子有六卿，当如鱼之得深渊，鸟之得深林，以游以处，不欲久闲。古者谓异姓之臣曰甥舅，势亢分疏<sup>⑯</sup>，亢欲其下<sup>⑰</sup>，疏欲其亲<sup>⑱</sup>，故下之若舅，亲之若甥。咨访时见，敷奏时见，暇豫时见，燕饮时见。嬖

妾媚寺<sup>⑮</sup>，辞臣谐优<sup>⑯</sup>，皆屏而远之，以专于有道。如江河之浸，膏泽之润，久则与化。

四曰敬。六卿有过，如月之蚀，何损于月；如山陨石，何损于山！大明不同于炬火，崇冈不等于土垣，岂为小灾所伤！当视此以礼上卿。上卿非大过不退，不录其小失，不加以小罚。凡罚，月夺其禄，岁夺其禄，累降其阶，此罚但可行于卿貳群牧以下<sup>⑰</sup>，而绝于六卿。待以师宾之礼，不敢烦责，是谓能敬。若常班定分，不可以言敬。

如是，任之专，受之虚，待之亲，礼之敬。君臣同心，上下一德，无嫌疑，无猜忌，不间于谗慝之口。君无不测之恩威，臣无不虞之祸福，中道不变，始终不易。乐哉斯时！君卿和于上，小臣和于下，庶民和于野，休风所被<sup>⑱</sup>，天下大治。

吾闻君子之道，无德不酬，无施不报。为人臣者，终其身以死守官，佐君为圣以致太平，朝廷百姓并受其福，而荣不加于本职，泽不及其子孙，仁人深所不忍。是故劳久者，报之以富贵；功大者，报之以封爵。夫尊为上卿，祭祀燕饮，其礼必备；亲族宾朋，仰望必多，故九命食禄九千石而杀以下。三公至贵，难得其人，故为兼官。若内貳外抚，皆得以兼，武臣总兵，亦蒙师保之名，其褒已甚。故惟六卿得兼公孤而绝于下。老而请归，则营其宅，仍其禄，官其嫡子，食其庶子，时赉其后孙。

古者列爵惟五，所以崇德报功。后世以争战夺天下，剿叛乱，专尚武勇，欲人致死，于是乃创为制，非军功不侯。此衰世之制，岂可为法！凡六卿，能进贤，富民，靖乱，变俗，是有大勋劳于天下。宜因其功之大小，封为侯伯，或止于身，或一二世，或数世，或世世不绝，斯报功之典无缺。如是，则忠上惠下，各尽其礼，君臣之道乃全。

## 用 贤

《书》曰：“恭作肃，从作乂，明作哲，聪

作谋，睿作圣”。《诗》曰：“国虽靡止，或圣，或否；民虽靡盬，或哲，或谋，或肃，或艾。”此五者，人之恒德<sup>⑲</sup>，生而各具。谓非然者，其必天无水、火、木、金、土，人无言、视、听、思、恭。五者唯圣人乃全，其次或兼四三德，其次或兼二三德，其下亦具一德。必有圣者，何患国论之无定；亦有哲、谋、肃、乂之一长者，何患才猷之无济<sup>⑳</sup>。吾不谓凡民皆然。愚夫愚妇，具五者之体而愚不及；士具五者之体而才或不达，学或不充。四海之大，凡百多士，必有能学达才者，用之将不胜用。

然盛世常见多才，衰世常患无才，其故维何？《易》之《泰》曰：“小往大来。”是时肃、乂、哲、谋、圣在位，狂、僭、豫、急、蒙在野，故见为多才。《否》曰：“大往小来。”是时狂、僭、豫、急、蒙在位<sup>㉑</sup>，肃、乂、哲、谋、圣在野，故常患无才。夫泰否，非天为之，实人为之；大小往来，非时之泰否为之，实君之明昏为之。

纣有臣亿万，惟亿万心，周师至郊，无一人能御者，遂一战破纣之国。此亿万臣中，有陈《洪范》之箕子，若纣能早用之，则彝伦叙于有商，肃、乂、哲、谋、圣并为之用，武王之圣亦终为商之良臣，而有商岂至于灭亡！

幽王无道，尹氏、皇父乱政，小人盈朝，犬戎至郊，无一人能御者，遂弑幽王于骊山之下。当其时，有赋《小旻》之贤大夫，若幽王能早用之，则彝伦叙于西周，肃、乂、哲、谋、圣并为之用，犬戎虽强暴，亦终为周之外臣，而西周岂至于灭亡！

纣有此贤父师，幽王有此贤大夫，二贤近在左右，人皆不知，其处于下位，沦于岩野者，又孰从而知之！然则纣、幽之世，其才奚不若汤、文之世！使以好色之心好德，以宠佞之心宠贤，则伊、傅、周、召比肩于朝<sup>㉒</sup>。博而求之，如燧火源泉，不可胜用。

有难之者，谓：“知人之明，自古为难。友不知友，父不知子，兄不知弟，亦且不能

自知。君虽哲，臣虽明，恐亦有所难知。”吾谓：“友不知友者，无所试其友；父不知子者，无所试其子；兄不知弟者，无所试其弟；不自知者，无所自试。盖今学校实亡，无以教士，无以取士，唯凭于既试<sup>②</sup>。今以非文之文教士取士，贤愚杂进，孰能为辨！譬如不耘之田，谷稗并生；纳稼于场，谷稗并积；北碾南捶，谷稗并下；簸筛既施，藉稗乃去，嘉谷乃得。士窃三试而进<sup>③</sup>，如在碾捶之前，迨授官考绩，犹簸筛既施，稗士乃去，谷士乃得。盖才可伪，功不可伪，临民听政，长短贤不肖立见。才虽混于始进，而不能掩于既试。又广之以内外大臣所荐，并用而试之，岂不可以得人，而何患人之难知！”

又有难之者，谓：“天子一人，庶官有万，虽至明有所不及，虽至察有所不周。于是以私以贿，上下相援，以虐为能，以贪为良。其于贤者，恶其异己，以小过受降革之罪。京朝之官，陷人夺位，援党助己，倾害之术，巧于仪、秦。结近侍，通宫掖<sup>④</sup>，以惑天子之耳目，能使黑白变行，功罪异状，将何以救之？”吾谓：“水流湿，火就燥，不闻皋陶用欢兜之徒，欢兜用皋陶之徒。唯元凶秉政本，霸天下，故群奸附势引朋，以朝廷为巢窟。若天子用冢宰得人，冢宰总五卿得人，以共摄群牧，皆得其人。如网在纲，无一纶之不就理，则百职无所容其奸。虽有奸者，亦化为良，而何患贤者不用，不肖者不去！是故君何以昏？自用则昏，君何以明？用人则明。恭己虚衷，不敢自是，师冢宰而友五卿，举社稷以从，是谓以众明为一明，以众聪为一聪，不劳而天下大治。”

## 主 进

为政亦多务矣，唯用贤为国之大事。治乱必于斯，兴亡必于斯，他更无所于由也，一于斯而已矣。然贤者难知也。天子欲用贤，何以知其贤而用之也？必也大臣荐于天

子，内外群有司荐于大臣也。贤者难知也。有司欲进贤焉，何以知其贤而进之也？必也访之于乡人，访之于乡士大夫也。天子求贤于大臣，未可也；大臣求贤于有司，未可也；有司求贤于其乡，未可也。夫是皆进贤之人也，有司不求于其乡，将焉求！大臣不求于有司，将焉求！天子不求于大臣，将焉求！岂舍是而别有进贤之路哉！然则以为未可者，是何说也？是皆可以进贤，而不必其无私；即有无私者，不必其能知人，故以为皆未可也。

且古之人多直，今之人多诈。古者听其言为君子之言，观其行为君子之行，其人诚君子矣。今也听其言为君子之言，观其行为君子之行，而其人则小人也。世尚道学，则为儒者；世尚文辞，则为名士；世尚气节，则为直士；世尚功业，则为才士。惟其所为，言貌皆真；营营往来<sup>⑤</sup>，籍籍聚会<sup>⑥</sup>，以图进取，孰能辨之！以利达之徒入于多私者之门<sup>⑦</sup>，则以合进；以矫饰之徒入于不知人者之门<sup>⑧</sup>，则以罔进。于是有举皆其阶，有位皆其窟矣。

且彼进贤之人，其先进也，皆以是物也，岂鸟媒而致凤哉！是故求贤之道，勿问孰为贤，孰为不肖，当先观进贤之人。盖贤不肖各有其类。吾尝见夫鸟矣。彼鸟也，集于乔木之上，其群飞而从之者，皆鸟也，无异鸟也。又尝见夫鱼矣，彼鲫也，游于浅水之间，其群游而从之者，皆鲫也，无异鱼也。惟人亦然。从伯夷游者，必伯夷之所与也，无盗跖之徒也；从盗跖游者，必盗跖之所与也，无伯夷之徒也。若使盗跖主进，而望其所进之人有若伯夷者，岂可得哉！是故明君察于群臣之中，得其大贤，处以上卿之位，惟其言之是听，而不惑于谗慝之口，则列于朝廷者皆其类矣。列于朝廷者皆其类，则列于邦国之职者亦皆其类。各以类进，则贤才不可胜用矣。

然诸卿虽贤，若并责之以进贤，则又不可。吾欲余乎，必使善余者转贩于衡湘之

间；左右虽多良贾，别有任使，不使之余也。吾欲买马乎，必使善相马者求于秦陇之间；左右虽多良工，别有任使，不使之买马也。何也？舍其所短，用其所长也。古之大臣，于政事无所不达，于社稷之长计无所不周，而独于知人或有所不及，此亦贤者之常也。放齐荐胤子<sup>⑭</sup>，金荐鲧<sup>⑮</sup>；唐虞之臣且有不知人若是者，况其下乎！帝之试鲧者，当时洪水方急，未知有禹，惟鲧才有可用，姑且使之，非信金之举鲧为知人也。人各有其类，才各有所长。惟贤者乃能进贤，得贤者为进贤之人，使各举所知，所以引其类也。惟知贤者乃能用贤，得知贤者为用贤之人，使择决众之所举，所以用其长也。具斯二者，用贤之道无遗矣。

岂惟臣有其类也，君亦有类焉；岂惟臣各有长也，君亦必善用其长焉。惟贤君，然后能用贤臣；惟君能知人，然后能用知人之臣。《书》曰：“在受德馭，惟羞刑暴德之人，同于厥邦；惟庶习逸德之人，同于厥政。”言纣德之不克类进者，皆其类也。《书》曰：“文王武王，克知三有宅心，灼见三有俊心，乃克立兹常事，司牧人，以克俊有德。”言文、武知人，故能用贤以及天下之贤也。由是观之，惟君先正其身以为天下表，卿士百职，罔非正人，天下不得其径而缘之<sup>⑯</sup>。又于诸大臣之中得知人者，委以推贤进能之任，非天下之良士，孰得而幸至哉！《诗》曰：“嗟我怀人，置彼周行。”向之所怀而不可得者，今皆置之周行，讲论道德，兴造功业，无不如意。诚如《秦誓》所思惟在一臣，则能用众才，其利无穷，不其然乎！

#### 注释：

①殫竭：耗尽。②不尝事之人：未尝经过世事的人。③间：反间计。④委咎于人：把错误推给他人。⑤瞽：昏乱。⑥夷：伯夷。惠：柳下惠。⑦明良：明君良臣。⑧亢龙有悔：见《易·乾·上九》，意为君主不警戒，就会有败亡之灾。⑨玄黄：战争激烈。⑩絀：不足。⑪元后：天子。⑫理：治。⑬班：古代巧匠公输

班。⑭度：法规。⑮格：纠正。⑯势亢分疏：君主地位高，与臣的身分相差悬殊，则关系疏远。⑰亢欲其下：位高要屈己。⑱疏欲其亲：疏远要亲近。⑲寺：宦官。⑳谐伏：滑稽戏人。㉑群牧：地方官吏。㉒休风：美好的风气。㉓恒德：常有的品德。㉔才猷：才能谋略。㉕狂：狂妄。僭：越过本分。豫：安适。蒙：欺骗。㉖伊：伊尹。傅：傅说。周：周公。召：召公。㉗试：科举考试。㉘三试：科举中的乡试，会试，殿试。㉙通官掖：勾结妃嫔。㉚营营往来：看风使舵者互相往来。㉛籍籍聚会：聚在一起互相吹捧。㉜利达之徒：贪图富贵的人。㉝矫饰之徒：装模作样的人。㉞放齐荐胤子：尧臣放齐推荐尧子丹朱。㉟金：众人。㊱缘：钻营。

## 《默觚》

#### 题解：

清代魏源(1794—1857)撰，收入《魏源集》。他主张“经世致用”，比较重视社会问题。在用人方面，他主张任人唯贤，认为巩固统治的关键在于“人材”，如果“得一后夔，天下无难正之五音；得一伯乐，天下无难驭之良马；得一颜、牧，天下无难御之外侮”。他抨击了三代用人的弊端，为“世族之弊，贵以袭贵，贱以袭贱”。认为召得人才的关键是君主要谦卑，使“人人得而亲近”。并提出：“用人者，取人之长，辟人之短；教人者，成人之长，去人之短也。”只有知自己的长短，才能对别人取长去短。

## 治篇七

不知人之短，不知人之长，不知人长中之短，不知人短中之长，则不可用人，不可以教人，用人者，取人之长，辟人之短；教人者，成人之长，去人之短也。惟尽知己之所短而后能去人之短，惟不恃己之所长而后能收人之长；不然，但取己所明而已，但取

己所近而已。语有之，夜行者前其手，然后桥足也。开明于东而万有皆烛，其不在穷理乎？《诗》曰：“他人有心，予（揣）（忖）度之。”知己知人之谓耶！

度内之事，中人可能；度外之功，非豪杰不能；世俗所谓度外，君子所谓性分内也。天下大事，或利于千万世者，不必利于一时；或利于千万人者，不必利于一夫；或利于千万事者，不必利于一二端；故非任事之难，而排庸俗众议之难。《诗》大小二《雅》，言“大猷”者二<sup>①</sup>，言“远猷”者二，言“壮猷”者一。何谓“大猷”？批郤导窾<sup>②</sup>迎刃而解，棋局一著胜人千百者是也。何谓“远猷”，事机出耳目之表，利害及百十年之后者是也。何谓“壮猷”？非常之策，陈汤不奏于公卿，破格之功，班超不谋于从事；出奇冒险，不拘文法，不顾利害者是也。器不弘者不能胜大猷，识不裕者不能烛远猷，识远器大而无雄气胆决者不能具壮猷。壮猷天授，不可学，器识可学而扩焉。彼安常习故之流，所安者目前，所知者陈例，所辟者嫌疑，得不震而疑，同声而挠格者乎<sup>③</sup>？《诗》曰“匪先民是程，匪大猷是经”，叹大猷之难成也；“出话不然，为犹不远”，叹远猷之多阻也。

有才臣，有能臣，世人动以能为才，非也。小事不糊涂之谓能，大事不糊涂之谓才。才臣疏节阔目，往往不可小知；能臣又近烛有余，远猷不足，可以佐承平，不可以胜大变。夫惟用才臣于庙堂，而能臣供其臂指，斯两得之乎！临大事，决大计，识足以应变，量足以镇猝，气足以摄众，若张良、霍光、庞士元、谢安、陆贽、寇准、韩琦、李纲，其才臣与！理繁剔剧，万夫之慕，一目十行，五官并用，无留牍，无遁情，若赵广汉、张敞、陶侃、刘晏，其能臣欤！至若兼才能而有之，若管仲、子产、萧何、诸葛亮，龙古今不数人也；姚崇、张咏，抑其次也。欲求救时之相，非才臣不可。《诗》曰：“讷谏定命，远猷展告。”

## 治篇八

国家之赖贤才也，功莫大于成君德，而立政次之，故有内匡，有外匡。与离娄同楫罔不济，与师冕同辙罔不蹶。成王与周公同居，故成王化而为周公，管、蔡与禄父同居，故管、蔡化而为禄父；此内匡之益也。得一夔，天下无难正之五音；得一伯乐，天下无难驭之良马；得一夔、牧，天下无难御之外侮，此外匡之益也。国以一人兴，以一人亡。亡国之主，莫不忠其所亲而贤其所任，夫孰知其穷安极哉！《诗》曰：“尹氏大师，维周之氏<sup>④</sup>。四方是维，天子是毗。”

星非能自高也，引而高之者天也；物非能自浮也，载而浮之者水也；臣非能自遇也，引而进之者君也。天下奇士不常有，而天下之明君不世出。故天之降才也，千夫而一人；才之遇主也，千载而一君。然微扬侧陋之尧，则雷泽之渔父耳；微梦良弼之高宗，则筑岩之胥靡耳。世非无囊桐之患而患无蔡邕，世非无牛铎之患而患无张华。自古及今，遗逸之贤，十倍于遇主之贤，则奇才之难得，又不如明君之难得也。故与其臣求君，不如君求臣。箕子、胶鬲盈朝，而不能使商辛为高宗；家父、凡伯盈朝，而不能使幽王为周宣。《诗》曰：“念彼其人，涕零如雨。”

孤举者难起，众行者易趋；倾厦非一木之支也，决河非捧土之障也。一萧何而助之者良、平、信、越，一邓禹而助之者二十七将，一玄龄而助之者十七学士，马曳轮也；羽、飞死，法正、庞士元死，而孔明自将以出祁山，自曳轮也。哀哉！《诗》曰：“终其永怀，又窘阴雨。其车既载，乃弃尔辅<sup>⑤</sup>。载输尔载，将伯助予。”

## 治篇九

国家之有人材，犹山川之有草木，蔚然羽仪，而非山麓高大深厚之气不能生也。夫

惟人君不以高危自处，而以谦卑育物为心，人人得而亲近之，亦人人得而取给之。地山之《谦》，卑不可逾，岂弟如此<sup>⑥</sup>，而何匱竭散亡险衰之有？“天地变化，草木蕃；天地闭，贤人隐”；故人材者，求之则愈出，置之则愈匱。唐陆贄言：“天后以宽得人，德宗以苛失士。”宋庆历中培养之人材，数世用之不尽，而况乎侧席贤人之主乎？……

后世之事，胜于三代者三大端：文帝废肉刑，三代酷而后世仁也；柳子非封建，三代私而后代公也；世族变为贡举，与封建之变为郡县何异？三代用人，世族之弊，贵以袭贵，贱以袭贱，与封建并起于上古，皆不公之大者。虽古人教育有道，其公卿胄子多通六艺，岂能世世皆贤于草野之人？古圣王未必不灼知其弊，而封建不变，则世族亦不能变，莘野、傅岩、渭滨之举，闲世一出，不数见也。以展季之圣，孔子之圣，通国皆知之，而士师、司寇不安其位；使二圣人生于三桓之族，何患不大行其道乎？春秋诸卿，有公族，有世族，其执政之卿，谋国之大夫，无非此二族者。公族有鲁之三桓，宋之七穆，郑之六卿，世族则晋之栾、郤、智、范、韩、赵、魏，齐之高、鲍、陈、田、卫之孙、宁，皆世执国柄，单寒之子无焉也。秦人崛起，乃广求异国之人而用之，由余、蹇叔、百里奚、丕豹、公孙枝、卫鞅之属，无非疏远。由是六国效之，游士大起，乐毅、苏、张、范雎、李斯、蔡泽、虞卿，皆徒步而取相印；气运自此将变，不独井田、封建之将为郡县、阡陌百已。孔子得位行道，必蚤有以大变其法，举四科以代豪宗<sup>⑦</sup>，故深赞公叔文子之举僎，而《春秋》书尹氏卒以著世卿之戒。秦、汉以后，公族虽更而世族尚不全革，九品中正之弊，至于上品无寒门，下品无世族，以魏孝文之贤而不能用李彪、李冲之议。自唐以后，乃仿佛立贤无方之谊，至宋、明而始尽变其辙焉，虽所以教之未尽其道，而其用人之制，则三代私而后世公也。《诗》曰：“殊异乎公路！”“殊异乎公族！”

注释：

- ①猷：计谋。 ②郤：通“隙”。罅：空穴。  
③桡格：阻挠。 ④氏：根本。 ⑤辅：车轮旁的直木。 ⑥岂弟：同“恺悌”。 ⑦四科：德行、语言、文学、政律。

## 《论科举》

题解：

梁启超(1873—1929)撰。他在本文中论述了我国古代选拔人才制度的变化，分析了历代科举制度的得失。强调“兴学校，养人才，以强中国，惟变科举为第一义”，并提出上、中、下三策。上策为“远法三代，近采泰西，合科举于学校。”中策为“用汉唐之法，多设诸科，与今日帖括一科并行。”下策为对“今日取士之法”略加变更。“由上策者强，由中策者安，由下策者存。”

科举蔽政乎？科举，法之最善者也。古者世卿，《春秋》讥之；讥世卿，所以立科举也。世卿之弊，世家之子，不必读书，不必知学，虽驽愚淫佚，亦循例入政，则求读书求知学者必少，如是，故上无材。齐民之裔，虽复读书，虽复知学，而格于品第，未从得官，则求读书求知学者亦少，如是，故下无材。上下无材，国之大患也。科举立，斯二弊革矣。故世卿为据乱世之政，科举为升平世之政。

古者科举，皆出学校。学校制废而科举始蔽矣。古者学有塾，党有庠，术有序，国有学，州长、党正、遂师、乡大夫，皆其地之教师也（见于《周礼》者皆言掌其地之教令）。《王制》所记，有秀士、选士、俊士、进士之号。当其为秀士也，家、党、术、乡教之。（《国语》齐桓公内正之法<sup>①</sup>：正月之朔，乡长复事，君亲问焉。曰：“于子之乡，有居处好学，慈孝于其父母，聪慧贤仁，发闻于乡里者，有则以告；有而不以告，谓之蔽明其罪。”五有司已于事而竣，公又问焉。



曰：“于子之乡，有奉养股肱之力秀出于众者，有则以告；有而不以告，是谓蔽贤其罪。”五役官及五属大夫复事，公问之如初。五属大夫退而修教于其属，属退而修县，县退而修乡，乡退而修卒，卒退而修邑，邑退而修家，是故匹夫有善可得而举也。启超案：属、县、乡、卒、邑、家，以《周礼》、《管子》证之，皆使教于其地者也。当其为选士也，司徒教之<sup>②</sup>；当其为俊士也，大乐正教之<sup>③</sup>。故升秀士于司徒者，乡大夫也；升选士于学者，司徒也；升俊士于司马而告于王者<sup>④</sup>，大乐正也。居处相迹，耳目相习，为之师者，当平居之时，于群士之德行道艺，孰高孰下，孰贤孰不肖，固已熟察之而夙知之<sup>⑤</sup>；及大比之日<sup>⑥</sup>，书其贤者与其能者，盖教之有素，非漫然决优劣于一二日之间而已。汉后。得天下者，皆于马上，庠序之事未遑；京师大学，犹且议数十年不能定；郡国之间，尤无闻焉。故虽有乡举里选之名，而于古人良法美意，殆稍稍渐灭矣。是以天子不能教士。而惟立一荣途，为之标准，以诱励之，天下之士趋焉。班孟坚所谓禄利之路然矣<sup>⑦</sup>。于其时也，或有硕儒巨子，出乎其间，代司徒、乐正之权，行学校之事，缀学小生，群焉萃焉，禀而受之；至其人才盛衰，则恒视国家所立之标准，或善或不善以为差。虽然，取士之与教士，既分其途，则虽其所立标准，极尽善美，而于得人，抑已难矣。故西汉辟举之法，其流弊乃至变为九品中正。盖学校不立，有司未尝有人才之责；一旦以考校宾兴之事<sup>⑧</sup>，而受成于渺不相属之刺史、守相，其安从知之？而安从举之？是以不考实行，专采虚望，末流所届，乃至寒门贵族，划若鸿沟，乡举里选之弊，极于时矣！隋、唐以后，制科代兴，虑郡国之不实，乃悉贡京师以一其权；虑牧之徇私，乃专出侍臣以承其乏。夫郡国之疏逖<sup>⑨</sup>，已逊于塾、序，而京师又加甚焉；牧守之阂隔，已异于学官，而内臣又加甚焉。举一切耳目，而寄之于虚空无薄之区，于孔子“举尔所知”之义，其悖谬

为何如矣！其疏逖而阂隔，既已如是，则非惟实行无可见，即虚望亦无可闻，于是其所立以为标准者，不得不在雕虫之技，兔园之业<sup>⑩</sup>，狗曲之学<sup>⑪</sup>，蛙鸣之文。上以鼓下，下以应上，父诏兄勉，友习师传。虽有道艺，非由此进不为荣；虽有豪杰，非由此道不能进。尽数十寒暑，疲精敝神以从事于此间，而得与不得，尚在不可知之数。故三代之盛，天下之士，无一人不能自成其才，而国家不可胜用；两汉之间，士民之失教而自弃者，盖有之矣，苟其才学可备世用，则无不可以自达；降及后世，岂惟不教，又从而锢蔽之，岂惟不用，又从而摧残之。呜呼，其所余能几何哉！故科举合于学校，则人才盛；科举离于学校，则人才衰；有科举，无学校，则人才亡。

科举学校，既已分矣，则其所立标准，出于多途者，其才稍盛，出于一途者，其才益衰。此亦古今得失之林也。故汉代以孝廉为常科，而其余有所谓贤良方正者，直意极谏者（多不具征），明当世之务、习先圣之术者（元光五年），学文高第者，有行义者，茂才异伦者（多不具征），可充博士位者（阳朔二年），勇猛知兵法者（元延元年），能直言通政事延于侧陋可亲民者（建平元年），明兵法有大虑者（建平四年），治狱平者（元始二年），通天文、历算、钟律<sup>⑫</sup>、方术、本草者（元始五年）。而丞相辟掾，亦有四科（一曰德行高妙、志节清白；二曰学通、行修、经中博士；三曰明习法令、足以决疑、能按章覆问、文中御史；四曰刚毅多略、遭事不惑、明足决断、材任三辅县令）；光禄茂才，亦有四行（淳厚、质朴、谦逊、节俭）；刺史移名，亦有三等（一明经、二明律、三能治剧）。其取之也，或特诏征，或特科试，或三府辟<sup>⑬</sup>，或公车召<sup>⑭</sup>，或公卿郡国举，或遣持节察上，或上书待诏，或博士弟子射策，或以技艺为郎（《汉书·卫绾传》），或仕郡为曹、掾、从事。其科目与出身之多如此，故天下之士，皆能因其性之所近，而各成其学。

学苟成矣，则征辟察举交至，未有不能自见者也。故天下人人皆有用之器，而国家不至以乏才为患。唐因隋制，设六科：一曰秀才，二曰明经，三曰进士，四曰明法，五曰明字，六曰明算；又有史科、开元礼道、举童子、学究等科；其制科之名，则多至百数（见于《困学纪闻》者八十有六），虽不免猥滥，而一时贤俊，如姚崇之下笔成章，张九龄之道侔伊吕者，往往出焉。宋初继轨，亦有九经、五经、三史、三礼、三传、通礼（初沿唐制试开元礼，至开宝六年，《开宝通礼》成，乃改科。是岁以新书试问）、学究、明经、明法、明医（《宋史》医学初隶太常寺。元丰间，始置提举判局以教之，曰：方脉科、鍼科、疡科。试题有六：一墨义，二脉义，三大义，四论方，五假令，六运气）等科。夫明经有科，则士知守其教矣；行义有科，则人笃于行矣；治剧有科，则有司知尽心于民事矣；明律、治狱有科，则政刑平矣；兵法有科，则多折冲之才矣；开元礼、通礼有科，则士习于本朝掌故矣；学究有科，则可以为人师矣；技艺、明算有科，则制器前民矣；明医有科，则人寿矣。此诸科者，今西方之国，莫不有之；若骤以语守旧之徒，则将吐而弃之曰“彝也，彝也”，而不知皆吾中国所尝行之者也。惜乎徒悬其名，未广其用；其所偏重，乃专在进士一科。遂令天下学子，虽有绝学高志，不能不降心附首，以肆力于诗、赋、帖括之业；而通人硕儒蹉跎不第，若韩愈、刘蕡者，犹不可数计。驯至廉耻道丧，请谒若固，关节还往，温卷求知等名<sup>⑮</sup>，习焉不以为怪。荣途之狭，人才之少，风俗之坏，盖自千数百年以来矣！

宋熙宁间，议建学校，变贡举，罢诗赋，问大义。此三代以下一大举动也。惜荆公以无<sup>⑯</sup>，助而败，后人废其学校之议，而沿其经义之偏制，谬种流传，遗毒遂日甚一日。阅数百载，历元涉明，荼靡疲敝<sup>⑰</sup>，迄于今世。揣摩腔调，言类俳优；点名对簿，若待囚虏；担簦累累<sup>⑱</sup>，状等乞丐；搜索挟书，

视同穿窬<sup>⑲</sup>；糊名摸索，乃似赌博；归本重书，若选钞胥<sup>⑳</sup>。夫国家之取士，取其才也，取其学也，取其行也，今以俳优、钞胥畜之，以囚虏、乞丐、穿窬、赌博视之，欲士之自爱，欲国家之能受其用，何可得也！王介甫曰：“古者取士也宽，其用之也严；今取士也严，其用之也宽。”吾请为一说曰：古者试士之具严，其为途也宽；今试士之具宽，其为途也严。今之所以进退天下者，八股之文，八韵之诗，虽使伊、吕、管、乐<sup>㉑</sup>，操觚为之<sup>㉒</sup>，必无以远过于金、陈、章、罗<sup>㉓</sup>；而曲士陋儒，剽窃模仿，亦未尝不可能之而有余也。故不必论其立法之善否，但使能如其法，中其程式者，而后取之，就其所取之人，以为比例，则举人之可以及第，诸生之可以得解者，皆当数千人矣；而进士之额，每科不过数百；举人之额，每省不过数十；则其余数千人之见摈黜者，安知无伊、吕、管、乐之才！而所取数百数十，安得无曲士陋儒，以滥竽于其间也！昔人论科举之弊不一，而以探筹之喻为最当<sup>㉔</sup>。所谓非科举之能得人才，而奇才异能之人之能得科举，斯固然矣。然奇才异能者，固能得之；闾冗污下者，亦能得之，则将何择也？今天挟千金以求力士，号于众曰，“有能举千钧者致千金”，则强有力之人立见矣；号于众曰，“有能胜匹雏者致百金”，则所怀之金，顷刻而尽，而贵获之才，未必能致也。今之为说者，每以科第猥滥，欲裁中额，以清其途；不知由今之道，无变今之法，虽进士之额，裁至数十，举人之额，裁至数人，而猥滥如故也。徒使怀才之徒，嵌奇抑郁<sup>㉕</sup>，不能自达，駸駸白首，才气销磨。此所谓不揣其本而齐其末也。吾盖见夫缀学之子，当其少年气盛，未尝不欲博通古今，经营天下。其意若曰：“吾姑降心于帖括之学，俟得一第，可以娱父母，畜妻子，然后从事于吾之所欲学而已。”当其应童子试也，县试数场，经月始毕；又逾月而试之府，府试数场，经月始毕；又逾月而试之院。三试竣事，一年去其半矣。既以半年人力，废

学以就试，一经黜落，则穷愁感叹，不能读书，而颓然以自放者，又复数月。感叹既已，而县试又至矣。试不一试，年不一年，即幸而入学，而诸生得解之难，其情形犹是也；举子得第之难，其情形犹是也；词馆得差之难，其情形亦犹是也。试事无穷已之日，即学子无休暇之时。“日月逝于上，体貌衰于下”，而向之所谓博通古今，经营四方者，终未尝获一从事也。若夫瑰玮之士，志气不衰，冲决罗网，自成其志者，千百之中，岂无一二人哉！然其中材以下，汨没比间而不能救者，何可胜道！况此一二人者，苟非为科举所困，而移其冲决罗网之力量，以从事于他端，则其成就，义当如何也！故学校之盛，中人亦进为上材；科举之衰，有志亦成为无用。其差数之相去，如此其远也。

今内之有同文、方言之馆舍，外之有出洋学习之生徒，行之数十年，而国家不获人才之用，盖有由也。昔俄主大彼得，躬游列国，择国中俊秀子弟，使受业葡、法之都，归而贵显之，布在朝邑，俄遂以强。日本维新之始，选高才生就学欧洲，学成反国，因才委任。今之伊藤、榎本之徒，皆昔日之学生也。而中国所谓洋务学生者，竭其精力，废其生业，离井去邑，逾幼涉壮，以从事于西学，幸薄有成就，谓可致身通显，光宠族游；及贸贸然归，乃置散投闲，瓠落不用<sup>⑤</sup>，往往栖迟十载，未获一官，上不足以尽所学，下不足以救饥寒。千金屠龙，成亦无益。呜呼，人亦何乐而为此劳劳哉！夫国家之教之，将为用也；教而不用，则其教之之意何取也？生徒之学之，将效用也；学而不见用，则其学之之意何在也？此真吾之所不能解也。或谓此辈之中，求所谓奇才异能可以大用者，盖亦寡焉。斯固然矣。不知国家所重，既不在是，举国上才之人，悉已为功令所束缚，帖括所驱役，鬻身灭顶，不能自拔，孰肯弃其稽古之荣，以俯焉而从事也？故当其就学之始，其与斯选者，大半仅中人之才耳，而自束发以后，又未尝一教以中国义理之学，

徒混身洋场，饱染习气，及至学成，亦且视为杂流，不与士齿，其不自爱固所宜也。坐是之故，而瑰玮特绝之徒，益惩羹吹齏，羞与哂伍<sup>⑥</sup>，是以此中人才，日就寂寥也。然二十年间，其在西国学堂中考试前列，领有学成凭据者，往往有人；而西人之达者，亦每复嗟叹，谓震旦人才，不下彼国。然则出洋学生中之未尝无才，昭昭然矣。顾乃束之高阁，听其自穷自达，不一过问。于是有美国学生，糊口无术，投入某洋行为买办者；有制造局匠师，月俸四十金，而为西国某厂以二百金聘去者。豪杰之士，安得不短气？有志之徒，安得不裹足？既无细腰高髻之倡，重以弃鼎宝瓠之失；不怀顾犬补牢之义，徒效渊鱼丛爵之愚<sup>⑦</sup>，犹复顿足搓手，日日叹息曰，“无人才，无人才”，无下之人，岂任受之！

故欲兴学校，养人才，以强中国，惟变科举为第一义。大变则大效，小变则小效。综而论之，有三策焉。

何谓上策？远法三代，近采泰西，合科举于学校。自京师以迄州县，以次立大学、小学，聚天下之才，教而后用之。入小学者比诸生，入大学者比举人，大学学成比进士，选其尤异者，出洋学习比庶吉士，其余归内、外、户、刑、工、商各部任用比部曹。庶吉士出洋三年，学成而归者，授职比编、检<sup>⑧</sup>。学生业有定课，考有定格，在学四年而大试之，以教习为试官，不限额、不糊名。凡自明以来，取士之具，取士之法，千年积弊，一旦廓清而辞辟之，则天下之士，靡然向风，八年之后，人才盈廷矣。

何谓中策？若积习既久，未即遽除，取士之具，未能尽变，科举学校，未能遂合，则莫如用汉唐之法，多设诸科，与今日帖括一科并行。昔圣祖、高宗，两开博学鸿词，网罗俊良，激励后进，故国朝人才，以康乾两世为最盛。此即吾向者多途胜于一途之说也。今请杂取前代之制，立明经一科，以畅达教旨，阐发大义，能以今日新政，证合古

经者为及格；明算一科，以通中外算术，引申其理，神明其法者为及格；明字一科，以通中外语言文字，能互译者为及格；明法一科，以能通中外刑律，斟酌适用者为及格；使绝域一科，以能通各国公法，各国条约章程，才辩开敏者为及格；通礼一科，以能读皇朝三通、《大清会典》、《大清通礼》，谙习掌故者为及格；技艺一科，以能明格致、制造之理，自著新书，制新器者为及格；学究一科，以能通教学童之法者为及格；明医一科，以能通全体学，识万国药方，知中西医名、证治者为及格；兵法一科，以能谙操练法程，识天下险要，通船械制法者为及格。至其取之之法，或如康乾鸿博故事，特诏举试，或如近世算学举人，按省附考；而要之必予以出身，示以荣途，给以翰林、进士、举人之名，准以一体乡、会、朝、殿之实。著书可以入翰林，上策可以蒙召见。告之以用意之所重，导之以利禄之所存，则岩穴之间，乡邑之内，与夫西学诸馆，及出洋学习之学生，皆可因此以自达；其未有成就者，亦可以益厉于实学，以为天下用，则其事甚顺，而其效亦甚捷。

何谓下策？一仍今日取士之法，而略变其取士之具。童子试非取录经古者，不得入学；而经古一场，必试以中外政治得失，时务要事，算法、格致等艺学。乡会试必三场并重：第一场试四书文、王经文、试帖各一首；第二场试中外史学三首，专问历代五洲治乱存亡之故；第三场试天、算、地、舆、声、光、化、电、农、矿、商、兵等专门，听人自择一门，分题试之，各三首。殿试一依汉策贤良故事，专问当世之务，对策者不拘格式，不论楷法。考试学差、试差，亦试以时务，艺学各一篇，破徐成格，一如殿试。如是，则向之攻八股、哦八韵者，必将稍稍捐其故业，以从事于实学，而得才必盛于向日。

上策者，三代之制也；中策者，汉唐之法也；下策者，宋元之遗也。由上策者强，

由中策者安，由下策者存。若夫守晚明之弊制，弃历朝之鸿矩<sup>①</sup>，徂百载之积习<sup>②</sup>，俾千夫之目议，违作人之公理，踵愚黔之故智，则虽铁舰阂海，谁与为战？枪炮如林，谁与为用？数万里地，谁与为守？数百兆人，谁与为理？《传》曰：“子有美锦，不使人学制焉。”言不学之人，不可以共政事也。今其用之也在彼，而取之也在此，是扰蒸沙而欲其成饭，适燕而南其辕也，岂不慎哉！岂不慎哉！昔同治初叶，恭亲王等，曾请选编、检、庶常，并五品以下由进士出身之京外各官，及举人、恩、拔、副、岁、优贡等<sup>③</sup>，入同文馆学习西艺，给以廪俸，予以升途，得旨依议。其时正当日本初次遣人出洋学习之时耳。此议若行，中学与西学，不至划为两途，而正途出身之士大夫，莫不掣心此间以待用<sup>④</sup>，至今三十年，向之所谓编、检及五品以下官，皆位卿、孤矣。用以更新百度，力图富强，西方大国，犹将畏之，而况乎区区之日本乎！乃彼时倭文端方以理学名臣主持清议<sup>⑤</sup>，一时不及平心详究，遂以用彝变夏之说，抗疏力争，遽尼成议<sup>⑥</sup>。子曰：“君子一言以为智，一言以为不智。”文端之言，其误人家国，岂有涯耶！抑天心之未厌乱也？今夫非常之原，黎民惧焉<sup>⑦</sup>；千数百岁之痼疾，一旦欲举而去之，吾知其难矣。然不由此道，则终无自强之一日。虽事事模仿西式，究其成就，则如邯郸之学步，新武未习，而故迹已沦。我三十年来，学西法之成效，已可睹矣。后之视今，犹今之视昔。悔前事之无及，思继起之有功。呜呼，其毋使后人而复哀后人也！

#### 注释：

- ①内正：纳正。选纳贤才。 ②司徒：西周的官职、掌管土地和百姓。 ③大乐正：周代掌音乐教育的官员。 ④司马：西周掌军政的官员。 ⑤饬：所闻者甚多。 ⑥大比：西周时三年对乡官考核一次，选拔贤才，称大比。后世称选拔举人的乡试为大比。 ⑦班孟坚：班固。 ⑧宾兴：以宾客礼接待被辟举的人。 ⑨疏逖：疏远。 ⑩兔园：唐代《兔园册》一书。 ⑪狗曲之学：钻营不顾

廉耻的本领。 ⑫钟律：音乐。 ⑬三司辟：由三司选拔州郡一级的官吏。 ⑭公车召：以官车征召人才。 ⑮温卷：唐宋时士人为求官，伺主试官通报姓名，投交自己的作品，以求入选。 ⑯荆公：王安石。 ⑰荼靡：萎靡。 ⑱担簦：背着伞。 ⑲穿窬：逾墙。 ⑳钞胥：抄写朱卷的人员。 ㉑伊：伊尹。吕：吕尚。管：管仲。乐：乐毅。 ㉒操觚：手执木简。后来谓作文。 ㉓金：金声。陈：陈际泰。章：章世纯。罗：罗万藻。皆为明末八股文名家。 ㉔探筹：抽签。 ㉕嵌奇抑郁：怀

才不遇，心情不好。 ㉖瓢落：空廓，此处喻闲置。 ㉗吟：西汉樊吟。 ㉘渊鱼丛爵：把鱼赶到河，把鸟赶到密林。比喻为政不良，人才外流。 ㉙编：编修。检：检讨。皆为翰林院的官职。 ㉚鸿矩：大规矩。。 ㉛狙：因袭。。 ㉜恩：恩负。拔：拔贡。副：副贡。岁：岁贡。清代科举制度选拔生员升入京师国子监读书的不同名目。 ㉝覃：同“研”。 ㉞倭文端：即倭仁，清朝文渊阁大学士，以封建卫道者自居，反对学习西方科学知识。 ㉟尼：阻止。 ㊱黎民：百姓。

# 十、处世谋略卷

## 引言

张新海

处世谋略是中国古代哲人最为致力探讨的课题之一。人处在社会中，生于斯，长于斯，人与整个世界，有着鱼水般的依存关系，一切理想、目标、愿望，都要通过处理与解决这一关系才能实现。境遇有顺逆，命运有穷达，顺逆穷达都是人生。既不能有“人生失意无南北”的绝望想法，也不可有“人生得意须尽欢”的颓唐念头。“穷则独善其身，达则兼善天下”，是中国古代志士仁人的处世原则。

君子安贫，达人知命。君子与达人并非命运的佣奴。“少年心事当拿云，谁念幽寒坐鸣厄？”条件尚未成熟，时机尚未到来，洞明有常的天道，坚持美好的节操，充分完善与发展自己，静静地等待天命的降临，这是古代君子达人的处世哲学。

体察变化的事物，领悟人生；顺应事物的变化，把握机遇。“世事洞明皆学问，人情练达即文章。”这就是古人处世的真谛。

老子一部《道德经》，道尽了关于人生与处世的辩证法，强调顺其自然地对待生活，就象种庄稼一样，依循事物变化生长的原则，不勉强助长。进而提出了自然无为的天道观。孔子以“仁”为中心，主张博爱，要人们尊奉自古以来的行为准则，以合和调顺为处世前提，以礼义为做人依据，从处世的角度直接了当地谈论处世。在当时及后世，有许

多学派都曾阐述过关于处世谋略的观点与学说，但一般没有超出儒、道的境域。孟子、荀子以及后世的儒家学者，对孔子的学说加以继承、发展，使儒家的处世谋略更为系统、明确。庄子及后世的道家学派，将老子的理论发扬光大，造成了极为深远的影响。宋明以后，程子、朱子等理学家揉儒、释、道为一，创立理学，主张“存天理灭人欲”，被后世视为不足法。由于政治主张不同，儒道对处世的表达各异。而两家的经典学说，则始终是中国古代世人处世权谋的决策依据。

“孔曰成仁，孟曰取义。”儒家以仁义为根本，主张处世先须修身。《大学》中阐述说：“身修而后家齐，家齐而后国治，国治而后天下平。”“欲修其身者，先正其心。欲正其心者，先诚其意。欲诚其意者，先致其知。致知在格物。”“自天子以至于庶人，一是皆以修身为本。”拥有美德，以厚意待人，人不会报以薄情。失去美德，以薄情待人，人不会报以厚意。

心意要坦诚，要慎于独处。做人不自欺，就象讨厌恶味、爱慕美色一样，率直纯真，自自然然，心安理得，有修养的君子，独处时尤为慎重。“小人闲居为不善”，没有修养的人，暗地里无所不为，在正人居子面前闪闪避避，穿起良善的外衣，以掩藏不良之念。

“十目所视，十手所指”，别人看他，犹如透视五脏六腑。徒劳地掩饰，只能枉费心机。

处世须有平正之心。有些事，足以让人发怒，怒火攻心，做事就会偏激。有些事，足以让人恐惧，心惊胆战，做事势必失周全。有些事，足以令人忧愁烦闷，忧愁烦闷的时候，做事就会失去主见和耐心。人总要接触事物，外物对内心必然有所干扰。修身正心的功夫，就是舍弃惊、怒、忧、乐之心。不利于身心的事物无着落处，心气自然就平和端正了。财富只能装饰宅第，德行却可以美化身心。内心坦荡平和的人，身体也舒适安泰。

世人处世往往有一种通病：对所亲爱的人有偏心，对所敬畏的人有偏心，对所怜悯的人有偏心，对所怠慢的人有偏心。不能平心论事，不能一视同人。喜欢一个人，还要知道他的缺点。厌恶一个人，还应知道他的长处。古谚说：“人莫知其子之恶，莫知其苗之硕。”这种常情，最为处世谋略所忌。

孔孟一派的学者认为，倘若一个人的德行，不足以影响他的家庭，也就无法教化别人。从政的人，具备了君子的美德，不出家门，便可以达到感化国民的目的。孝顺父母的道理，可以用来服侍君主；慈爱儿女的道理，可以用来统治民众；敬畏兄长的道理，可以用来对待官长。一家施行仁德，可以在全国形成仁德的风尚。一家施行礼让，可以在全国形成礼让的风尚。一人贪婪残暴，可以在全国引起暴乱。一句话可以坏事，一个人有时足以决定国家的安危。尧舜在天下作仁德的表率，万民便向他学习。桀纣在天下作残暴的表率，民众也向他学习。桀纣的政令不是不好，只是与他们自身的喜好相反而已。所以民众不理睬他们的政令。作为一个君子，凡事要先自己做到，然后再去要求别人。自己能够克制，然后再去禁止别人。内心不藏有推己及人的美德，便无法让人遵从。厌恶在上位者做的事，不要用来对待在下位的人。厌恶在下位的人做的事，不要用

来对待在上位的人。厌恶原先的人做的事，不要用来对付后来的人。厌恶后来的人做的事，不要用来对付先前的人。厌恶右边的人做的事，不要用来与左边的人交往。厌恶左边的人做的事，不要用来与右边的人交往。“己所不欲，勿施于人”，这就是君子所奉行的处世谋略中的法度。喜好众人所厌恶的事物，厌恶众人所喜好的事物，这就叫违背人心。违背人心，必有灾祸加身。处世有道，诚挚信实就能得到它，骄横傲慢必将失去它。

道家的老子、庄子以“无为”为津梁，强调处世应以“养生”为急务。庄子说：“我的生命是有限的，人的智慧的发展是无限的。用有限的生命去追求无限的智慧，这个世界也就越来越难处了。已经在追求智慧的人，只能在难处的境地处世了。不过还是有处世之道的：做别人喜欢的事，切勿追逐名利。做别人反对的事，切勿触及刑罚。避开名利与刑罚，可以保全身体，可以存养生机，可以蓄蕴精气，可以尽其天年。”道家主张，人应该看破功名利禄，解脱它们对精神的束缚，使精神活动达到逍遥悠闲的境界。划定自我与外物的分界，明确荣辱之间的区别，不因举世赞誉而勉强，不因举世诋毁而沮丧。精神的自由，须要生命的畅达，须要追求人的天性。修养身心以达到天性自然的境地，人的生命才可以健全、充足。健全充足的生命与自然合为一体，便可以使精神达到高度的凝聚，“用志不分，乃凝于神。”精神的高度凝聚，可以发挥人的潜在智能。

“忘足，屣之适也；忘腰，带之适也。”善于潜泳的人，不用学就会驾船，因为他忘记了对水的恐惧。以黄金作赌注的人，不如用瓦片作赌注时巧智百出，因为前者受到了外物的牵累。“外重者内拙”，心轻外物，灵性自生。

养虎的人，不敢用活物喂它，为的是怕虎在搏杀时激起残杀的天性。不敢拿完整的食物喂它，为的是怕它在撕咬时激起残杀的

天性。一定要使它饥饱有时，野性才能驯服。虎与人虽是异类，但能使虎取悦主人，是因为顺应了它的天性。爱马的人，用精致的竹筐接马粪，用珍贵的容器盛马尿，可算是爱到极点了。而当蚊虻叮在马唇上，主人出其不意地拍打时，它便咬断口勒，挣开笼头胸络，受惊而逃。本来出于诚意，结果却适得其反。虎性虽暴，顺之可以媚人。马虽驯服，逆之可以暴怒。庄子认为，只有用内在精神体会万物之性，不为名利所动，可则行，不可则止，不苟取也不坚拒，以一种不得已的超然态度待人接物，才可以做到随物变化，接近处世的妙道了。“知其无可奈何而安之若命，德之至也。”

对于变化的事物，一定要觉察并把握它的萌生阶段。凭借智巧斗力争胜的人，开始都是光明正大的，到后来往往使用阴谋手段，再过份一点就会诈计百出了。依礼饮酒的人，开始都是秩序分明的，到后来往往放肆起来，再过份一点儿便狂荡无度了。凡事都是这样，开始时彼此容让，后来便不讲姿态了。许多事开始时很容易解决，到后来就变得艰巨了。

由于外物的困扰，人的言行往往产生偏差。语言这东西就象风波一样，传递中必有增减。风波般地不定，难以捉摸，再加以增减，必危及传言者。所以忿怒的产生没有别的原因，都是因为言语的失当。困兽临危嗥叫，勃然发怒，于是产生了害人之意。凡事逼迫得太过份，别人就会心生恶念报复他，而他自己并不知道是什么缘故。这些过度的做法，就象水注得太满一样，总会溢出去。庄子认为解决这些偏差有一个原则，就是“乘物以游心，托不得已以养中。”顺着事物的自然而悠然自适，保持不得已的无为心境，涵养内在精神以保存自我，便可以无不为了。

古人在命运通达时，往往以儒家的处世谋略修身治国。在际遇窘困时，往往以道家的处世方法息志保身。一进一退，象是两种截然相反的处世态度。其实，真正做到生命

健全、精神凝聚的人，同样可以百折不挠。真正能够躬行仁恕的人，同样讲求调合万物。善于处世的人，即使智堪中庸，也足以进退皆宜，逍遥一世。不善处世的人，纵然德配圣贤，也难免动辄得咎，寂寞终生。

在古代关于处世谋略的重要著作、篇章中，有一些已成定论的法则，经历代的阐发、验证，代代流传，被人们奉为人生信条。

自知者智，知人者明。处世即是处人。处人不知人，犹如盲人瞎马，必定自陷危境。《庄子》中说：“鲁国贤士颜阖应邀做卫灵公太子的老师，他去请教蘧伯玉，问道：‘有这样一个，他天性残暴。如果放纵他，就会危害我们的国家；如果用礼义法度约束他，就会危及自身。他的智慧仅足以知道别人的过错，却不知道过错的因由。象这种情况，我该如何对待他？’蘧伯玉说：‘问得好！小心，谨慎，先安稳你自己吧。外貌不妨表现出亲近之态，内心不妨存着诱导之意。即使这样做，这两点仍有累害。亲附他不要太过份，诱导他不可太显露。外貌过于亲密，就会败德亡身。内心诱导太露骨，让人猜疑你窃取名声，会引来小人招致灾祸。你要探察他的性情，他若象婴儿般烂漫单纯，你也和他一起烂漫单纯。他若没有规矩，你也和他一样没有规矩。他若放荡不羁，你也和他一样放荡不羁。然后和他一起回到无过错的正途上来。你没看见那螳螂吗？奋起它的前臂挡在车辙上，并不知道无法承受。这是它把自己的本领看得太高的缘故。小心谨慎！经常夸耀自己的才能去触犯他，也就和那只螳螂差不多了。’”孔子说：“不患人之不己知，患不知人也。”“视其所以，观其所由，察其所安。人焉廋哉！”看他的所做所为，看他做这件事的前因后果，看他自始至终是否心甘情愿，人的是非善恶，又怎能隐藏呢？

有子说：“礼的应用，以和为贵。古代君主的治国方法，好就好的在这里。但小事大事一味调和，有时就行不通。为调和而调和，不以礼节制它，也是行不通的。”《庄子》中说，



卫国有一个相貌奇丑的人，名叫哀骀它。男子与他相处，总是思慕他而不肯离去。妇人看见他，请求父母说：“与其做别人的妻，不如做哀先生的妾。”而且反复央求不肯罢休。没听说他主动倡导过什么，只有常常随和别人而已。没有君临万民的权势可以决定人的生死，也没有屯聚的粮食可以使人饱腹，而且因面目丑恶使天下人惊骇，随和而不倡导，智慧也未能超乎天地之间，但却能让男男女女聚集在他面前。鲁哀公听说此事，认为此人必有异乎寻常之处，便将哀骀它召来，一看果然相貌丑恶，惊世骇俗。鲁哀公和他相处，不到一个月，便对他的为人产生了倾慕之意。不到一年，便对他极为信服。国内没有宰相，就把宰相之位授予他。哀骀它对此毫不热切，虽然答应了，那淡然的态度就象是有回绝之心。鲁哀公自感羞愧，但还是鼓足勇气，让他屈居臣下。没有多久，哀骀它离鲁哀公而去，鲁哀公怅然若失，象是再无人与他共享国家之乐了。哀骀它没有开口就取得了人们的信任，没有功业却赢得人们的亲敬，使得别人要把国政委托给他，还怕他不肯接受。他的内心象止水一样保持静寂的状态，死、生、得、失、穷、达、贫、富、贤与不肖、毁、誉、饥、渴、寒、暑等自然的转换更替不入于心，有内涵而不外扬。德，是完满纯和的修养。“德不孤，必有邻”，德不著形迹，外物自然亲附而不肯离去。

人有不为也，然后可以有为。人的能力无论大小，都有潜在的成份。因为种种阻碍和制约，使人的潜能无法发挥出来。《庄子》中说：任国公子做了一个大钓钩，以粗大的黑绳为钓线，用五十头犍牛做饵，蹲在会稽山上，投竿于东海，天天在那里钓，整年都没有钓到大鱼。忽而大鱼吞饵，牵动大钩沉下水去，翻腾着身体，拍击着鳍翅，白波涌起如山，海水震荡，声如鬼神咆哮，惊骇千里。任国公子钓到这条鱼后，剖开腊干，从浙江以东，苍梧以北，没有不因此而饱胀的。后世那些小聪明的传说之徒，纷纷惊走相

告。如果举着小竿绳，到小水沟里守候小鱼，那么想钓到大鱼就很难了。粉饰浅识小语以求高名，和明达大智的距离就很远了，没有听闻过任氏风格的人，他与经理世事之才的距离，相去也是很远的了。因此庄子说：要想免除外物的脱累，不如舍弃非份的事物。一旦舍弃非份的事物，内心就不再受到困扰了。一旦内心不受困扰，就会变得心气平正了。平正的内心与自然一起变化更新，这样便接近于“道”了。

人是不应该甘受命运安排的，但是与命运的抗争必须依循正道。若不依循正道而自取灭亡，则不如随遇而安。《庄子》中说：有一个名叫子舆的有道之士，对人生看得很透彻。他得了病，朋友去看他，问他厌恶疾病吗？子舆说：“不，我为什么要厌恶呢？假使把我的左臂变作鸡，我就让它来报晓；假使把我的右臂变作弹丸，我就用它打斑鸠烤了吃；假使把我的大腿变作车轮，把我的精神化为马，我就乘着它走，不去想另外的车马。一切的得，都是适时；一切的失，都是顺应。能够安心适时而顺应变化的人，哀乐就不会入于心了。这就是古来所说的解除束缚。那些不能自求解脱的人，是被外物束缚住的。人力不能胜过自然由来已久，我又有什么厌恶的呢？”孔子说：“富贵如果可求的话，即使为人执鞭驾车，我也肯去做。如果不可求，就做我自己爱好的事。”“饮清水，吃粗米饭，弯着胳膊枕着睡一觉，快乐便在其中了。由不义而得到富贵，对我来说轻如浮云。”

能有所忍，然后可以就大事。韩信曾受过胯下之辱，但人们都不认为这是他的耻辱。他忍世人所不可忍之事，反见出大英雄的本色。汉代另一名士贾谊，是历史上有名的政论家，在中国文学史上也享有极高的地位。他的许多施政观点和主张，都很切合时局，往往被皇帝采纳。但由于他只顾直行激进，引起了周勃灌婴等前朝老臣的不满，略进谤言，便将他贬出京城。在郁郁不得志的境遇下，三十几岁就离开了人世。凡是读过

《汉书》以及他的策论的人，无不为其英年早逝而惋惜。苏轼评论说，贾谊确有真才实学，也得到了文帝的赏识，以他的年龄而论，他做事显得太过急切了。治理国家并非一朝一夕的事，眼光总应放远一点。说他坏话的人，若是大奸大佞也就认了，而周勃等人，在匡扶汉室时立过奇功，本是耿耿忠心的老臣，他们又何尝不想要汉朝强盛呢？假如贾谊不过于急切，不急于求成，先与周勃等重臣结成莫逆之交，那么他的主张自然会得到支持，而且这是一股不可多得的巨大力量。贾谊的悲剧，就在于不能忍耐。唐朝时有一位百岁老人，儿孙繁多，百口之家，相安无事。唐玄宗曾看望过这位老人，并询问家门和顺的妙道。老人取来纸笔，在一张纸上连写了一百多个“忍”字。唐玄宗看得连连点头。调和百口之家，若无“百忍”的气量，如何能够相安无事？张良是汉初主要谋臣，刘邦赞他“运筹帷幄，决胜千里，吾不如子房。”张良年轻时果敢有为，足智多谋，但修养上缺少一点忍耐精神。他为了替齐国报仇，买通刺客，在博浪沙伏击秦始皇，一击不中，远遁他乡。这件事当时被视为壮举，文弱的张良因此也博得了豪侠的美名。就他在后来的楚汉战争中所起的作用而言，当初的做法实在太冒险了。苏轼说：“依照人的血性，有许多事是不能忍的。鲁莽的汉子遭受侮辱，能做出的反应，便是拔剑而起挺身而斗。这并不足以称为勇敢。天下有一种大勇：猝然临之而不惊，无故加之而不怒。这是因为他的抱负很大，志向很远，不肯无谓地捐弃生命。”张良有盖世之才，却效法莽夫行径，圯上老人因此为他惋惜。所以用极傲慢极不礼貌的方式对待他，折辱他，看他忍耐的程度，看他能否成就灭秦的大事。因此老人说他“孺子可教也。”能做到受辱不怪，秦王与项羽也就不足以使他惊惧动怒了。这就叫“忍小忿，就大谋。”千古英雄，沉浮成败，多在能忍与不能忍之间。

颜回说：“殷纣王的无道，不象传说的那

么严重。因此君子最恨处于下游，那样天下的坏事都有可能加在你的身上。”处世之道，不可不慎。处世需要方法，运用方法需要谋略，方法与谋略必须以德为根基。“言悖而出者，亦悖而入。货悖而入者，亦悖而出。”以违背道义的方式处世，终将自食恶果。“良农不为水旱而不耕，良贾不为折阅而不市，士君子不为贫穷息乎道。”世事的成败，如兵家的胜负，不能因胜负的多少动摇人的心志。“大匠与人规矩，不能使人巧。”有了法度，明白了它的变化，做事未必唯必胜必成是求，能够临机不惧也就够了。处世和下棋的道理是一样的，以平常心处之，每负一局，则想想我失手之处，每胜一局，则想想他人失手之处，以此做为来日的前车之鉴。浑人下棋，漫然着子，不计胜负，声称“我不以得失动心”。若做人如此，便永居下游，难有出头之日了。

“君子之处世，贵能有益于物。”若以生存为权力，必须以奉献其存在价值为义务。生有益于人，死不害于人。明哲保身，并非消极避世，用古人的话说，即“将以有为也”。为崇高理想、为民众利益而忍辱负重、委屈求全者，古来多见。损人利己、心术不正的人，机关算尽，反被聪明所误，失道者寡助，屡见不鲜。两三千年的中华灿烂文化中，有许多成功的处世经验、理论，也有许多处世不利的教训。古人对处世谋略的阐述，即以儒道思想为基础，以其重要典籍与学说为依据。这些典籍与学说，在当时是极有影响的思想理论，尤其在中国两千余年的封建史中占着统治地位，起着主导作用。对于今天而言，这些历史的积淀，有精华也有糟粕。涉猎古代的处世谋略，必须加以批判地吸收。“尽信书则不如无书”，一味地泥古不化，便偏离了谋略的主旨。

## 《老子》

## 道 经<sup>①</sup>

题解:

又名《道德经》，相传为老子所著。老子（约公元前580—前500），姓李名耳，号老聃，楚国人，春秋时期的哲学家。

《道德经》分“道经”、“德经”两部分，阐述了认识宇宙万物的途径——“道”，主张以“自然无为”为处世谋略。万事万物中所包含的“道”是不断变化的，变化着的“道”是可以认识的。顺应“道”的变化而不违背它，这就是“德”，无为则得之，有为则失之。怎样做才能“有德”，怎样做才能“无为”，这便是老子《道德经》中论说的处世谋略。万事有高下、美丑、难易、有无等相互对立的两个方面，一般人在取舍时往往产生偏差，有得必有失。事物对立的双方在相互变易，利与害在相互转化，人们必须承认它，而且还要静静地等待他，时机成熟时还要积极地促成它，机缘不合时要勇于放弃他，害处萌生时要及早地避开它。

领悟了“道”，具备了“德”，处世时便一通百通，无所谓顺，无所谓逆；无所谓难，无所谓易；无所谓成，无所谓败。无道之人可以千虑一得，有道之人只会千虑一失。以“至柔”顺应道而自守，以“无争”与争者相抗，结果则是柔能克刚，无争而无敌于天下。“至柔”与“无争”，并不是消极逃避，而是趋利避害，把握时机。

《道德经》对后世影响很大。道教将书中的“自然无为”、“长生久视”、“营魄抱一”、“专气至柔”视为练气修心的教义，因而奉老子为教主，尊为“道德天尊”。军事家们将“欲取先予”、“欲擒故纵”等词句发展为辩屈的军事理论，作为克敌致胜的攻守谋略。作为一种处世谋略，《道德经》的影响更为深远。在两千余年的中国古代思想史上，其影响与地位，能够与孔子相抗衡的，唯有老子一人而已。

道，可道也？非恒道也<sup>②</sup>？名，可名也？非恒名也？

无名，万物之始也。有名，万物之母也。故恒无欲也，以观其眇<sup>③</sup>，恒有欲也，以观其噉。两者同出，异名同谓。玄之又玄，众眇之门。

天下皆知美之为美，恶已。皆知善，斯不善矣。

有、无之相生也，难、易之相成也，长、短之相形也，高、下之相盈也，音、声之相和也，先、后之相随，恒也。

是以圣人居无为之事，行不言之教。

万物作而弗始也，为而弗恃也，成功而弗居也。夫唯弗居，是以弗去。

不上贤，使民不争。不贵难得之货，使民不为盗。不见可欲，使民不乱。

是以圣人之治也，虚其心，实其腹，弱其志，强其骨。恒使民无知无欲也。使夫知不敢弗为而已。则无不治也。

道冲，而用之有弗盈也。渊兮<sup>④</sup>，似万物之宗。挫其锐，解其纷，和其光，同其尘。湛兮似或存<sup>⑤</sup>。吾不知其谁之子也，象帝之先。

天地不仁，以万物为刍狗<sup>⑥</sup>。圣人不仁，以百姓为刍狗。

天地之间，其犹，橐籥欤<sup>⑦</sup>，虚而不屈，动而愈出。

多闻数穷，不若守于中。

谷神不死，是谓玄牝<sup>⑧</sup>。玄牝之门，是谓天地之根。绵绵兮若存，用之不勤<sup>⑨</sup>。

天长地久。天地之所以能长且久者，以其不自生也，故能长生。

是以圣人退其身而身先，外其身而身存。不以其无私欤？故能成其私。

上善如水。水善利万物而有静。居众人之所恶，故几于道矣。

居善地，心善渊，予善天，言善信，政

善治，事善能，动善时。

夫唯不争，故无尤。

擅而盈之，不若其已<sup>⑩</sup>。揣而税之，不可长葆也<sup>⑪</sup>。金玉盈室，莫之能守也。富贵而骄，自遗咎也。功遂身退，天之道也。

戴营魄抱一<sup>⑫</sup>，能毋离乎？专气至柔，能婴儿乎？修除玄鉴，能毋疵乎？爱民活国，能毋以为乎？天门启阖，能为雌乎？明白四达，能毋以知乎？

生之，畜之。生而弗有，长而弗宰也，是谓玄德。

三十辐同一毂，当其无，有车之用也。埴埴而为器<sup>⑬</sup>，当其无，有埴器之用也。凿户牖以为室，当其无，有室之用也。故有之以利，无之以用。

五色使人目盲，驰骋田猎使人心发狂，难得之货使人之行妨<sup>⑭</sup>，五味使人之口爽，五音使人之耳聋。——是以圣人之治也，为腹而不为目，故去彼而取此。

宠辱若惊，遗大患若身。何谓宠辱若惊？宠之为下也，得之若惊，失之若惊。是谓宠辱若惊。何谓遗大患若身？吾所以有大患者，为吾有身也。及吾无身，有何患？

故遗为身于为天下，若可以托天下矣！爱以身为天下，女可以寄天下矣！

视之而弗见，名之曰微。听之而弗闻，名之曰希。搏之而弗得，名之曰夷。三者不可致诘<sup>⑮</sup>，故圜而为一。一者，其上不僣，其下不忽，寻寻兮，不可名也！复归于无物。——是谓无状之状，无物之象。是谓惚恍。

随而不见其后，迎而不见其首。

执今之道，以御今之有。以知古始，是谓道纪。

古之善为道者，微眇玄达，深不可识。

夫唯不可识，故强为之容。曰：与兮其若冬涉水，犹兮其若畏四邻，俨兮其若客，涣兮其若凌释，沌兮其若朴，淅兮其若浊，漑兮其若谷<sup>⑯</sup>。浊而静之，徐清。安以动之，徐生。葆此道。不欲盈。夫唯不欲盈，是以能敝而不成。

致虚，极也。守静，督也。万物旁作，吾以观其复也。天物芸芸，各复归于其根，曰静。静谓复命。复命，常也。知常，明也。不知常，妄。妄作凶。知常，容。容乃公。公乃王。王乃天。天乃道。道乃久。没身不殆。

太上，下知有之。

其次亲誉之。

其次畏之。

其下侮之。

信不足，焉有不信？悠兮其贵言也。

成功遂事，而百姓谓我自然。

故大道废，安有仁义。智慧出，安有大伪。六亲不和，安有孝慈。国家昏乱，安有贞臣。

绝圣弃智，而民利百倍。绝仁弃义，而民复孝慈。绝巧弃利，盗贼无有。——此三言也，以为文未足，故命之有所属：见素抱朴，少私而寡欲。

绝学无忧。

唯与诃，其相去几何<sup>⑰</sup>？美与恶，其相去何若？

人之所畏，亦不可以不畏。

恍兮，其未央哉<sup>⑱</sup>！

众人熙熙<sup>⑲</sup>，若享于太牢<sup>⑳</sup>，而春登台。我泊焉未兆<sup>㉑</sup>，若婴儿未咳<sup>㉒</sup>。累兮似无所归！众人皆有余，我独遗。我愚人之心也；漑漑兮！俗人昭昭，我独若昏兮！俗人察察，我独闷闷兮！忽兮其若晦。恍兮其若无所止。众人皆有以，我独顽似鄙。吾欲独异于人，而贵食母。

孔德之容，唯道是从。

道之为物，唯恍唯惚。惚兮恍兮，中有象兮！恍兮惚兮，中有物兮！窈兮冥兮，其中有精兮！其精甚真，其中有信。

自今及古，其名不去，以顺众父<sup>㉓</sup>。

吾何以知众父之然也？以此。

炊者不立。

自视者不章，自见者不明，自伐者无功，自矜者不长。其在道也，曰余食、赘行。物

或恶之。故有道者弗处也。

曲则全，枉则正；洼则盈，敝则新；少则得，多则惑。是以圣人抱一以为天下牧<sup>②4</sup>。不自视，故章；不自见，故明；不自伐，故有功；弗矜，故能长。夫唯不争，故莫能与之争。

古之所谓曲全者，岂语哉？——诚全归之。

希，言自然。飘风不终朝，暴雨不终日。孰为此？天地。而弗能久，又况于人乎？

故从事而道者，同于道；得者<sup>②5</sup>，同于得；失者，同于失。

同于得者，道亦得之；同于失者，道亦失之。

有物昆成<sup>②6</sup>，先天地生。萧兮寥兮，独立而不改，可以为天地母。吾未知其名，字之曰道。吾强为之名曰大。

大曰逝，逝曰远，远曰反。

道大，天大，地大，王亦大。国中有四大，而王居一焉。

人法地，地法天，天法道，道法自然。

重为轻根，静为躁君<sup>②7</sup>。是以君子终日行不离其辎重<sup>②8</sup>。虽有环宫，燕处则昭若<sup>②9</sup>。奈何万乘之王而以身轻于天下？轻则失本，躁则失君。

善行者不轍迹，善言者无瑕适<sup>③0</sup>，善数者不用筹策，善闭者无关籥而不可启也，善结者无纆约而不可解也。

是以圣人恒善救人，而无圣人，物无弃财，是谓袭明。

故善人，善人之师，不善人，善人之资也<sup>③1</sup>。不贵其师，不爱其资。难知乎，大迷。是谓眇要。

知其雄，守其雌，为天下溪<sup>③2</sup>。为天下溪，恒德不离，复归于婴儿。知其白，守其辱，为天下谷。为天下谷，恒德乃足，复归于朴。知其白，守其黑，为天下式<sup>③3</sup>。为天下式，恒德不忒<sup>③4</sup>，恒德不忒，复归于无极。

朴散则为器，圣人用之则为官长<sup>③5</sup>。

夫大制无割<sup>③6</sup>。

将欲取天下而为之<sup>③7</sup>，吾见其弗得已。

夫天下，神器也，非可为者也。为之者败之，执之者失之。

故物或行或随，或热或吹，或强或挫，或培或堕。

是以圣人去甚，去大，去奢。

以道佐人主，不以兵强于天下。其事好还<sup>③8</sup>。师之所居，荆棘生之。善者果而已矣，毋以取强焉。果而毋骄，果而勿矜，果而弗伐<sup>③9</sup>，果而毋得已居，是谓果而不强。

物壮而老，是谓之不道。不道早已。

夫兵者，不祥之器也。物或恶之。故有欲者弗居。君子居则贵左，用兵则贵右。故兵者，非君子之器也。兵者，不祥之器也。不得已而用之，恬淡为上，勿美也<sup>④0</sup>。若美之，是乐杀人也。夫乐杀人，不可以得志于天下矣。

是以吉事上左，丧事上右。是以偏将军居左，而上将军居右，言以丧礼居之也。杀人众，以悲哀莅之<sup>④1</sup>。战胜而以丧礼处之。

道恒，无名，朴<sup>④2</sup>，虽小，而天下弗敢臣。侯王若能守之，万物将自宾<sup>④3</sup>。天地相合，以俞甘露，民莫之令而自均焉。始制有名。名亦既有，夫亦将知止。知止所以不殆。

譬道之在天下也，犹川谷之与江海也。

知人者，智也。自知者，明也。胜人者，有力也。自胜者，强也。知足者，富也。强行者，有志也。不失其所者，久也。死而不忘者，寿也。

道，泛泛兮其可左右也。成功遂事而弗名有也。万物归焉而弗为主，则恒无欲也，可名于小。万物归焉而弗为主，可名于大。是以圣人之能成大也，以其不为大也，故能成大。

执大象<sup>④4</sup>，天下往。往而不害，安平大。乐与饵<sup>④5</sup>，过格止。

故道之出言也，曰：淡兮其无味也。视之不足见也，听之不足闻也，用之不可既也。

将欲翕之<sup>④6</sup>，必固张之<sup>④7</sup>。将欲弱之，

必固强之。将欲去之，必固与之。将欲夺之，必固予之。是谓微明。

柔弱胜强。鱼不可脱于渊<sup>④</sup>，邦利器不可以示人。

道恒、无名。侯王若能守之，万物将自化。化而欲作，吾将镇之以无名之朴。镇之以无名之朴，夫将不辱。不辱以静，天地将自正。

## 德 经

上德不德，是以有德。下德不失德，是以无德。上德无为而无以为也。上仁为之而无以为也。上义为之而有以为也。上礼为之而莫之应也，则攘臂而扔之<sup>④</sup>。故失道。失道矣，而后德，失德而后仁，失仁而后义，失义而后礼。夫礼者，忠信之薄也，而乱之首也。前识者，道之华也，而愚之首也。是以大丈夫居其厚不居其薄，居其实不居其华。故去彼取此。

昔之得一者：天得一以清，地得一以宁，神得一以灵，谷得一以盈，侯王得一以为天下正<sup>⑤</sup>。其致之也，谓天母已清，将恐裂；地母已宁，将恐发<sup>⑥</sup>；神母已宁，将恐歇<sup>⑦</sup>；谷母已宁，将恐竭，侯王母已贵以高，将恐蹶<sup>⑧</sup>。故必贵而以贱为本；必高矣，而以下为基夫！是以侯王自谓孤、寡、不谷<sup>⑨</sup>，此其贱之本欤？非也？

故致数与无与。

是故不欲琬琰<sup>⑩</sup>若玉，珞珞若石<sup>⑪</sup>。

上士闻道，勤能行之。中士闻道，若存若亡。下士闻道，大笑之。弗笑，不足以为道。是以建言有之曰<sup>⑫</sup>：明道如费，进道如退，夷道如类<sup>⑬</sup>，上德如谷，大白如辱<sup>⑭</sup>，广德如不足。建德如偷，质真如渝，大方无隅<sup>⑮</sup>，大器晚成，大音希声，大象无形，道褒无名。夫唯道，善始且善成。

反也者，道之动也。弱也者，道之用也。

天下之物生于有，有生于无。

道生一，一生二，二生三，三生万物。

万物负阴而抱阳，中气以为和。人之所恶，唯孤、寡、不谷，而王公以自名也。物或损之而益，益之而损。故人之所教，亦议而教人。强梁者不得其死，吾将以为学父。

天下之至柔，驰骋乎天下之至坚。无有人于无间，吾是以知无为之有益也。不言之教，无为之益，天下希能及之矣。

名与身孰亲，身与货孰多<sup>⑯</sup>，得与亡孰病<sup>⑰</sup>？是故甚爱必大费，多藏必厚亡。故知足不辱，知止不殆，可以长久。

大成若缺，其用不敝。大盈若冲，其用不寤。大直如屈，大巧如拙，大赢如绌。躁胜寒，静胜热。清静可以为天下正。

天下有道，却走马以粪<sup>⑱</sup>。天下无道，戎马生于郊<sup>⑲</sup>。

罪莫大于可欲。祸莫大于不知足。咎莫僭于欲得。故知足之足，恒足矣。

不出于户，可以知天下；不窥于牖，可以知天道。其出也弥远<sup>⑳</sup>，其知弥少。是以圣人不行而知，不见而名，弗为而成。

为学者日益，闻道者日损。损之又损之，以至于无为；无为而无不为矣。

将欲取天下也<sup>㉑</sup>，恒无事。及其有事也，又不足以取天下矣。

圣人恒无心，以百姓之心为心。善者善之，不善者亦善之，德善也。信者信之，不信者亦信之，德信也。圣人之在天下也，歛歛焉<sup>㉒</sup>。为天下，浑浑焉。百姓皆注其耳目焉，圣人皆咳之。

出生，入死。生之徒十有三，死之徒十有三。而民生生，动皆之死地之十有三<sup>㉓</sup>。夫何故也？以其生生也。

盖闻善摄生者<sup>㉔</sup>，陵行不辟兕虎<sup>㉕</sup>，人军不被甲兵。兕无所揣其角，虎无所措其爪，兵无所容其刃。夫何故也？以其无死地焉。

道生之，德畜之，物形之而器成之。是以万物尊道而贵德。道之尊，德之贵也，夫莫之爵而恒自然也。

道生之，畜之，长之，育之，成之，熟之，养之，覆之。生而弗有，为而弗恃，长

而弗宰，是谓玄德。

天下有始，以为天下母。既得其母，以知其子。既知其子，复守其母，没身不殆。

塞其兑<sup>⑦</sup>，闭其门，终身不勤。启其兑，济其事，终身不棘。

见小曰明。守柔曰强。

用其光，复归其明，毋遗身殃，是谓袭常。

使我挈然有知，行于大道，唯它是畏。大道甚夷，民甚好径。朝甚除<sup>⑧</sup>，田甚芜，仓甚虚，服文采，带利剑，厌食而资财有余，是谓盗乎！非道也哉！

善建者不拔，善抱者不脱，子孙以祭祀不绝。修之身，其德乃真。修之家，其德有余。修之乡，其德乃长。修之邦，其德乃丰。修之天下，其德乃溥。以身观身，以家观家，以邦观邦，以天下观天下。吾何以知天下之然哉？以此。

含德之厚者，比于赤子。蜂虿虺蛇弗螫，攫鸟猛兽弗搏，骨弱筋柔而握固，未知牝牡之会而媵怒<sup>⑨</sup>，精之至也。终日号而不<sup>⑩</sup>，和之至也。

知和曰常。知常曰明。益生曰祥。心使气曰强。

物壮则老。谓之不道，不道早已。

知者弗言，言者弗知。塞其兑，闭其门，和其光，同其尘，挫其锐，解其纷，是谓玄同。故不可得而亲，亦不可得而疏；不可得而利，亦不可得而害；不可得而贵，亦不可得而贱，故为天下贵。

以正治邦，以奇用兵，以无事取天下。吾何以知其然也哉？

夫天下多忌讳，而民弥贫；民多利器，而邦家滋昏；民多智能，而奇物滋起；法令滋彰，而盗贼多有。

是以圣人之言曰：我无为而民自化，我好静而民自正，我无事而民自富，我欲不欲而民自朴。

其政闷闷<sup>⑪</sup>，其民淳淳；其政察察，其邦缺缺。祸兮，福之所倚；福兮，祸之所伏。

孰知其极？其无正也？正复为奇，善复为妖。人之迷也，其日固久矣。是以圣人方而不割，廉而不刿，直而不肆，光而不耀。

治人事天，莫若嗇<sup>⑫</sup>。夫唯嗇，是以早服<sup>⑬</sup>，早服是谓重积德。重积德则无不克，无不克则莫知其极。莫知其极，可以有国。有国之母，可以长久。是谓深根固抵长生久视之道也。

治大国若烹小鲜。以道立天下，其鬼不神。非其鬼不神也，其神不伤人也。非其神不伤人也，圣人亦弗伤也。夫两不相伤，故德交归焉。

大邦者，下流也。天下之牝。天下之交也，牝恒以静胜牡<sup>⑭</sup>。为其静也，故宜为下。大邦以下小邦，则取小邦。小邦以下大邦，则取于大邦。故或下以取，或下而取。故大邦者不过欲兼畜人，小邦者不过欲入事人。夫皆得其欲，则大者宜为下。

道者，万物之注也。善、人之宝也，不善、人之所保也。

美言可以市尊，善行可以加人。人之不善也，何弃之有？故立天子，置三卿，虽有拱璧以先四马，不若坐而进此。古之所以贵此者何也？不谓求以得，有罪以免欤！故为天下贵。

为无为，事无事，味无味。大小多少，报怨以德。

图难于其易也，为大于其细也。天下之难作于易，天下之大作于细。

是以圣人终不为大，故能成其大。

夫轻诺者必寡信，多易必多难，是以圣人犹难之，故终于无难。

其安也，易持；其未兆也，易谋；其脆也，易判；其微也，易散。为之于未有，治之于未闻。

合抱之木，生于毫末。九成之台，作于累土。百仞之高，始于足下。

为者败之，执者失之。

是以圣人无为也，故无败；无执也，故无失。

民之从事也，恒于其成而败之。故曰：慎终若始，则无败事矣。

是以圣人欲不欲，而不贵难得之货。学不学，而复众人之所过。能辅万物之自然而弗敢为。

古之为道者，非以明民也，将以愚之。民之难治也，以其知也。故以知知邦，邦之贼也；以不知知邦，邦之德也。恒知此两者，亦稽式也。恒知稽式，是谓玄德。

玄德深矣，远矣，与物反矣，乃至大顺。

江海之所以能为百谷王者，以其善下之，是以能为百谷王。

是以圣人之欲上民也，必以其言下之。其欲先民也，必以其身后之。故居上而民弗重也，居前而民弗害也，天下皆乐推而弗厌也。不以其无争欤！故天下莫能与争。

小邦寡民，使有十百人器而勿用，使民重死而远徙。有舟车无所乘之，有甲兵无所陈之，使民复结绳而用之。甘其食，美其服，乐其俗，安其居。邻邦相望，鸡犬之声相闻，民至老死不相往来。

信言不美，美言不信。知者不博，博者不知。善者不侈，侈者不善。

圣人无积。既以为人，己愈有；既以予人，己愈多。

故天之道，利而不害；人之道，为而弗争。

天下皆谓我大，大而不肖。夫唯不肖，故能大。若肖，久矣其细也夫！

我恒有三宝，持而保之：

一曰慈，

二曰俭，

三曰不敢为天下先。

夫慈，故能勇。俭，故能广。不敢为天下先，故能为成器长。

今舍其慈，且勇；舍其俭，且广；舍其后，且先；死矣。

夫慈，以战则胜，以守则固。

天将建之，女以慈垣之！

善为士者不武，善战者不怒，善胜敌者

弗与，善用人者为之下。是谓不争之德，是谓用人之力，是谓配天，古之极也。

用兵有言曰：“吾不敢为主而为客，不敢进寸而退尺”。是谓行无行，攘无臂，执无兵<sup>⑦</sup>，扔无敌。——祸莫大于无敌，无敌近亡吾宝矣。故抗兵相若，而哀者胜矣。

吾言甚易知也，甚易行也，而天下莫之能知也，莫之能行也。夫言有宗，事有主。夫唯无知也，是以不我知。知我者希；则我贵矣<sup>⑧</sup>。——是以圣人被褐而怀玉<sup>⑨</sup>。

知不知，尚矣。不知知，病矣。是以圣人之不病也，以其病病也，是以不病。

民之不畏畏，则大畏将至矣。毋狎其所居，毋厌其所生<sup>⑩</sup>。夫唯弗厌<sup>⑪</sup>，是以不厌。是以圣人自知而不自见也，自爱而不自贵也。故去彼而取此。

勇于敢者则杀，勇于不敢者则活。此两者，或利或害。天之所恶，孰知其故？

天之道，不战而善胜，不言而善应，不召而自来，繇然而善谋。

天网恢恢，疏而不失。

若民恒且不畏死，奈何以杀惧之也？若民恒且畏死而为畸者，吾将得而杀之，夫孰敢矣！若民恒且必畏死，则恒有司杀者。夫代司杀者杀，是代大匠斫也<sup>⑫</sup>。夫代大匠斫者，则希不伤其手矣。

人之饥也，以其取食税之多也，是以饥。百姓之不治也，以其上之有以为也，是以不治。民之轻死，以其求生之厚也，是以轻死。夫唯无以生为者，是贤于贵生。

人之生也柔弱，其死也恒仞坚强。万物草木之生也柔脆，其死也枯槁。故曰：坚强者，死之徒也。柔弱微细，生之徒也。是以兵强则不胜，木强则兢。故强大居下，柔弱居上。

天之道，其犹张弓欤！高者抑之，下者举之，有余者损之，不足者补之。故天之道，损有余而益不足。人之道则不然，损不足以奉有余。孰能有余而又以取奉于天者乎？唯有道者。



是以圣人为而弗有，成功而弗居也，若此。其不欲见贤也！

天下莫柔弱于水，而攻坚强者莫之能先也，以其无以易之也。柔之胜刚也，弱之胜强也，天下莫弗知，而莫之能行也。

是故圣人之言云，曰“受邦之诟，是谓社稷之主；受邦之不祥，是谓天下之王”。

正言若反。

和大怨，必有余怨，焉可以为善？

是以圣人执右契而不以责于人。故有德司契，无德司彻<sup>⑤</sup>。

夫天道无亲，恒与善人。

注释：

①道：老子的道有时指精神本体，有时指万物变化发展的规律。多指后者。②恒：永恒。③眇：边的意思，引申为终极。④冲：虚、无。⑤湛：无，无形。⑥刍狗：古代祭祀时用草扎成的狗。⑦橐(tuó)籥：古代风箱。⑧牝(pìn)：一切母性动物的生殖器官。⑨绵绵：指调息导引。⑩植：即持。⑪葆：即保，保持。⑫戴：即载。⑬埴埴：埴击粘土。⑭行妨：损害他人利益的行为。⑮诘：追究。⑯湛：通行本作“广”。⑰唯：答应声音。⑱央：完结，结束。⑲熙：快乐。⑳太牢：古代帝王祭祀时摆的筵席。㉑泊：淡。㉒咳(hái)：婴儿笑声。㉓众父：万物。㉔牧：古代占卜的工具。㉕得：同德。㉖昆：同“混”，丰沛。㉗躁：动。㉘輶重：行军带的粮食、装备等用品。㉙环官：通行本作“荣观”，贵族游玩的地方。燕处：贵族日常生活享受。㉚瑕适：缺点，毛病。㉛资：凭借，借鉴。㉜溪：沟溪。㉝式：占卜用具。㉞忒(tè特)：差错。㉟官：管理。㊱制：管，宰制。㊲取：治理。㊳还：报应，回答。㊴伐：自夸巧绩。㊵美：自得。㊶莅：到，到场。㊷朴：即“道”。㊸宾：服从。㊹大象：即“道”。㊺餌：食物。㊻翕：收敛、收缩。㊼固：暂且。㊽脱：离开。㊾攘：揎袖出臂。扔：强力牵拽。㊿正：首领。①发：震动，波动。②歇：停止，绝灭。③蹶：跌倒，挫折。④谷(gū)：善。⑤珣：美玉。⑥珉：坚石。⑦建言：古代已有的谚语或歌谣。

⑧夷：平坦。⑨類：不平坦。⑩辱：污垢，暗昧。⑪隅：角落。⑫多：即重，尊重。⑬病：有害。⑭粪：种田。⑮郊：这里指战场。⑯弥：更加。⑰取：治理。⑱歆(xī)：和顺。⑲动：往往。⑳摄：保养。㉑兕(sì四)：犀牛。㉒兑：穴。㉓朝：市朝，公所。除：清扫。㉔脰：通“峻”(zuì)，生殖器。㉕嗟(shà)：啼极无声为嗟。㉖闷闷：宽大。㉗嵩：吝嗇。㉘服：准备。㉙牝(pìn)：雌性。牡：雄性。㉚攘：举起。扔：对抗。㉛则：效法。㉜褐：粗布衣服。㉝厌：阻塞。㉞厌：同“压”，压迫。㉟斫(zhuó)：用斧子砍木头。㊱司契、司彻：古代贵族的管账人。司契凭票据收付，较从容。司彻是收租，斤斤计较。

## 《论 语》

题解：

《论语》是孔子及其弟子的言行录。

孔子(公元前551—前479)、名丘，字仲尼，春秋末期鲁国人，中国古代的思想家、教育家，是儒家学派的创始人。

《论语》中处处体现了孔子的仁厚的用心，反映了孔子的非凡的品德和过人的智慧。从节选出来的这些有关处世的章节中，看到的不是勾心斗角出奇致胜的机谋，人们所能领略的完全是坦坦荡荡立于不败之地的处世方略。古人有以“半部《论语》得天下”，以“半部《论语》治天下”的说法，认为《论语》这一儒家经典具有很重要的谋略价值。

《论语》是一部重要的儒学典籍，由于儒家文化对古代中国悠久而强烈的影响，使它成为《四书》、“五经”中的必读书目，它既是封建社会科举取仕的教材，也是那个时代所公行的是非尺度，是几乎全部世人所尊奉的信条。其中的某些格言、成语，至今仍然是脍炙人口的处世名言警句。

## 为政篇

子曰：“视其所从，观其所由，察其所安。人焉廋哉<sup>①</sup>？人焉廋哉？”

子曰：“君子不器<sup>②</sup>。”

子贡问君子。子曰：“先行其言而后从之。”

子曰：“君子周而不比<sup>③</sup>，小人比而不周。”

子曰：“攻乎异端，斯害也已。”

子张学干禄<sup>④</sup>。子曰：“多闻阙疑<sup>⑤</sup>，慎言有余，则寡尤<sup>⑥</sup>；多见阙殆<sup>⑦</sup>，慎行有余，则寡悔。言寡尤，行寡悔，禄在其中矣。”

子曰：“人而无信，不知其可也。大车无輗，小车无轨<sup>⑧</sup>，其何以行之哉？”

子曰：“非其鬼而祭之，谄也。见义不为，无勇也。”

## 里仁篇

子曰：“里仁为美<sup>⑨</sup>，择不处仁<sup>⑩</sup>，焉得知<sup>⑪</sup>？”

子曰：“不仁者不可以久处约<sup>⑫</sup>，不可以长处乐。仁者安仁，知者利仁。”

子曰：“富与贵，是人之所欲也，不以其道得之，不处也。贫与贱，是人之所恶也，不以其道得之，不去也。君子去仁，恶乎成名<sup>⑬</sup>？君子无终食之间违仁，造次必于是，颠沛必于是。”

子曰：“人之过也，各于其党。观过，斯知仁矣。”

子曰：“君子之与天下也，无适也，无莫也，义之与比<sup>⑭</sup>。”

子曰：“放于利而行<sup>⑮</sup>，多怨。”

子曰：“不患无位，患所以立。不患莫己知，求为可知也。”

子曰：“参乎<sup>⑯</sup>！吾道一以贯之。”曾子曰：“唯。”子出，门人问曰：“何谓也？”曾子曰：“夫子之道，忠恕而已矣。”

子曰：“父母在，不远游，游必有方。”

子曰：“古者言之不出，耻躬之不逮也<sup>⑰</sup>。”

子曰：“以约失之者鲜矣。”

子曰：“君子欲讷于言而敏于行<sup>⑱</sup>。”

子曰：“德不孤，必有邻。”

子游曰：“事君数<sup>⑲</sup>，斯辱矣；朋友数，斯疏矣。”

## 公冶长篇

子谓南容：“邦有道，不废；邦无道，免于刑戮。”以其兄之子妻之<sup>⑳</sup>。

子谓子产：“有君子之道四焉：其行己也恭，其事上也敬，其养民也惠，其行民也义。”

子曰：“晏平仲善与人交，久而敬之。”

子曰：“孰谓微生高直？或乞醯焉<sup>㉑</sup>，乞诸其邻而与之。”

子曰：“巧言、令色、足恭，左丘明耻之，丘亦耻之。匿怨而友其人，左丘明耻之，丘亦耻之。”

## 雍也篇

仲弓问子桑伯子。子曰：“可也，简<sup>㉒</sup>。”仲弓曰：“居敬而行简，以临其民，不亦可乎？居简而行简，无乃大简乎<sup>㉓</sup>？”子曰：“雍之言然。”

子华使于齐，冉子为其母请粟<sup>㉔</sup>。子曰：“与之釜<sup>㉕</sup>。”请益<sup>㉖</sup>。曰：“与之庾<sup>㉗</sup>。”冉子与之粟五秉<sup>㉘</sup>。子曰：“赤之适齐也，乘肥马，衣轻裘。吾闻之也；君子周急不继富。”

子游为武城宰。子曰：“女得人焉尔乎？”曰：“有澹台灭明者，行不由径<sup>㉙</sup>，非公事，未尝至于偃之室也<sup>㉚</sup>。”

子曰：“孟之反不伐，奔而殿<sup>㉛</sup>，将入门，策其马曰：‘非敢后也，马不进也。’”

子曰：“不有祝蛇之佞<sup>㉜</sup>，而有宋朝之美，难乎免于今之世矣。”

子曰：“谁能出不由户？何莫由斯道也？”

子曰：“人之生也直<sup>③</sup>，罔之生也幸而免<sup>④</sup>。”

宰我问曰：“仁者，虽告之曰‘井有仁焉’，其从之也？”子曰：“何谓其然也？君子可逝也，不可陷也<sup>⑤</sup>；可欺也，不可罔也<sup>⑥</sup>。”

子曰：“君子博学于文，约之以礼，亦可以弗畔矣夫<sup>⑦</sup>！”

子贡曰：“如有博施于民而能济众，何如？可谓仁乎？”子曰：“何事于仁<sup>⑧</sup>！必也圣乎！尧舜其犹病诸<sup>⑨</sup>！夫仁者，己欲立而立人，己欲达而达人。能近取譬，可谓仁之方也已。”

## 述而篇

子曰：“志于道，据于德，依于仁，游于艺。”

子谓颜渊曰：“用之则行，舍之则藏，惟我与尔有是夫！”子路曰：“子行三军，则谁与？”子曰：“暴虎馮河<sup>⑩</sup>，死而无悔者，吾不与也。必也临事而惧，好谋而成者也。”

子曰：“富而可求也，虽执鞭之士，吾亦为之。如不可求，从吾所好。”

冉有曰：“夫子为卫君乎<sup>⑪</sup>？”子贡曰：“诺，吾将问之。”入，曰：“伯夷、叔齐何人也？”曰：“古人贤人也。”曰：“怨乎？”曰：“求仁而得人，又何怨？”出，曰：“夫子不为也。”

子曰：“饭疏食饮水，曲肱而枕之，乐亦在其中矣。不义而富且贵，于我如浮云。”

子不语怪、力、乱、神。

子曰：“盖有不知而作之者<sup>⑫</sup>，我无是也。多闻，择其善者而从之；多见而识之，知之次也。”

互乡难与言<sup>⑬</sup>，童子见，门人惑。子曰：“与其进也<sup>⑭</sup>，不与其退也，唯何甚？人洁己以进，与其洁也，不保其往也。”

子曰：“奢则不孙<sup>⑮</sup>，俭则固<sup>⑯</sup>。与其不孙也，宁固。”

子曰：“君子坦荡荡，小人长戚戚。”

## 泰伯篇

曾子有疾，孟敬子问之。曾子言曰：“鸟之将死，其鸣也哀；人之将死，其言也善。君子所贵乎道者三：动容貌，斯远暴慢矣<sup>⑰</sup>；正颜色，斯近信矣；出辞气，斯远鄙倍矣<sup>⑱</sup>。笾豆之事，则有司存<sup>⑲</sup>。”

曾子曰：“以能问于不能，以多问于寡；有若无，实若虚，犯而不校<sup>⑳</sup>。昔者吾友尝从事于斯矣。”

曾子曰：“可以托六七之孤，可以寄百里之命<sup>㉑</sup>，临大节而不可夺也。君子人与？君子人也。”

曾子曰：“士不可以不弘毅，任重而道远。仁以为己任，不亦重乎？死而后已，不亦远乎？”

子曰：“好勇疾贫，乱也。人而不仁，疾之已甚，乱也。”

子曰：“如有周公之才之美，使骄且吝，其余不足观也已。”

子曰：“不在其位，不谋其政。”

子曰：“狂而不直，侗而不愿<sup>㉒</sup>，忼忼而不信<sup>㉓</sup>，吾不知之矣。”

## 子罕篇

子贡曰：“有美玉于斯，韞椟而藏诸<sup>㉔</sup>？求善贾而沽诸<sup>㉕</sup>？”子曰：“沽之哉！沽之哉！我待贾者也。”

子曰：“出则事公卿，入则事父兄，丧事不敢不勉，不为酒困，何有于我哉<sup>㉖</sup>！”

子曰：“岁寒，然后知松柏之后彫也<sup>㉗</sup>。”

子曰：“知者不惑，仁者不忧，勇者不惧。”

## 先进篇

子曰：“先进于礼乐，野人也<sup>㉘</sup>；后进于礼乐，君子也。如用之，则吾从先进。”

闵子侍侧，阒阒如也<sup>㉙</sup>；子路，行行如

也<sup>⑥②</sup>；冉有，子贡，侃侃如也<sup>⑥①</sup>。子乐。“若由也，不得其死然。”

子贡问：“师与商也孰贤？”子曰：“师也过，商也不及。”曰：“然则师愈与<sup>⑥②</sup>？”子曰：“过犹不及。”

子张问善人之道。子曰：“不践迹，亦不入于室<sup>⑥③</sup>。”

子曰：“论笃是与，君子者乎？色庄者乎<sup>⑥④</sup>？”

## 颜渊篇

颜渊问仁。子曰：“克己复礼为仁<sup>⑥⑤</sup>。一日克己复礼，天下归仁焉。为仁由己，而由人乎哉？”颜渊曰：“请问其目<sup>⑥⑥</sup>。”子曰：“非礼勿视，非礼勿听，非礼勿言，非礼勿动。”颜渊曰：“回虽不敏，请事斯语矣<sup>⑥⑦</sup>。”

仲弓问仁。子曰：“出门如见大宾，使民如承大祭。己所不欲，勿施于人。在邦无怨<sup>⑥⑧</sup>，在家无怨。”仲弓曰：“雍虽不敏，请事斯语矣。”

司马牛问仁。子曰：“仁者，其言也讱<sup>⑥⑨</sup>。”曰：“其言也讱，斯谓之仁已乎？”子曰：“为之难，言之得无讱乎？”

司马牛问君子。子曰：“君子不忧不惧。”曰：“不忧不惧，斯谓之君子已乎？”子曰：“内省不疚，夫何忧何惧？”

司马牛忧曰：“人皆有兄弟，我独亡<sup>⑦①</sup>。”子夏曰：“商闻之矣<sup>⑦②</sup>：生死有命，富贵在天。君子敬而无失，与人敬而有礼，四海之内，皆兄弟也。君子何患乎无兄弟也？”

子张问明。子曰：“浸润之谮，肤受之愬<sup>⑦③</sup>，不行焉，可谓明也已矣。浸润之谮，肤受之谮，不行焉，可谓远也已矣。”

子张问崇德、辨惑。子曰：“主忠信，徙义<sup>⑦④</sup>，崇德也。爱之欲其生，恶之欲其死，既欲其生，又欲其死，是惑也。‘诚不以富，亦祇以异<sup>⑦⑤</sup>’。”

子曰：“片言可以折狱者<sup>⑦⑥</sup>，其由也与？”子路无宿诺<sup>⑦⑦</sup>。

子曰：“君子成人之美，不成人之恶。小人反是。”

子张问：“士何如斯可谓之达矣？”子曰：“何哉，尔所谓达者？”子张对曰：“在邦必闻，在家必闻。”子曰：“是闻也，非达也。夫达也者，质直而好义，察言而观色，虑以下人<sup>⑦⑧</sup>。在邦必达，在家必达。夫闻也者，色取仁而行违，居之不疑。在邦必闻，在家必闻。”

樊迟从游于舞雩之下<sup>⑦⑨</sup>，曰：“敢问崇德，修慝<sup>⑦⑩</sup>，辨惑。”子曰：“善哉问！先事后得，非崇德与？攻其恶，无攻人之恶，非修慝与？一朝之忿，忘其身，以及其亲，非惑与？”

樊迟问仁。子曰：“爱人。”问知。子曰：“知人。”樊迟未达。子曰：“举直错诸枉<sup>⑦⑪</sup>，能使枉者直。”樊迟退，见子夏曰：“乡也吾见于夫子而问知<sup>⑦⑫</sup>，子曰‘举直错诸枉，能使枉者直’，何谓也？”子夏曰：“富哉言乎！舜有天下，选于众，举皋陶，不仁者远矣<sup>⑦⑬</sup>。汤有天下，选于众，举伊尹，不仁者远矣。”

子贡问友。子曰：“忠告而善道之<sup>⑦⑭</sup>，不可则止，毋自辱焉。”

曾子曰：“君子以文会友，以友辅仁。”

## 子路篇

仲弓为季氏宰，问政。子曰：“先有司，赦小过，举贤才。”曰：“焉知贤才而举之？”曰：“举尔所知。尔所不知，人其舍诸？”

子曰：“诵《诗》三百，授之以政，不达；使于四方，不能专对<sup>⑦⑮</sup>。虽多，亦奚以为？”

叶公问政。子曰：“近者悦，远者来。”

樊迟问仁。子曰：“居处恭，执事敬，与人忠。虽之夷狄<sup>⑦⑯</sup>，不可弃也。”

子贡问曰：“何如斯可谓之士矣？”子曰：“行己有耻，使于四方，不辱君命，可谓士矣。”曰：“敢问其次。”曰：“宗族称孝焉，乡党称弟焉。”曰：“敢问其次。”曰：“言必信，行必果，硁硁然小人哉<sup>⑦⑰</sup>！抑亦可以为次矣。”曰：“今之从政者何如？”子曰：“斗筭之人<sup>⑦⑱</sup>，何足算也。”

子曰：“不得中行而与之，必也狂狷乎<sup>⑧</sup>！狂者进取，狷者有所不为也。”

子曰：“南人有言：‘人而无恒，不可以作巫医。’善夫！‘不恒其德，或承之羞<sup>⑨</sup>。’”子曰：“不占而已矣<sup>⑩</sup>。”

子曰：“君子和而不同<sup>⑪</sup>，小人同而不和。”

子贡问曰：“乡人皆好之，何如？”子曰：“未可也。”“乡人皆恶之，何如？”子曰：“未可也。不如乡人之善者好之，其不善者恶之。”

子曰：“君子易事而难说也<sup>⑫</sup>。说之不以道，不说也；及其使人也，器之<sup>⑬</sup>。小人难事而易说也。说之不以道，说也；及其使人也，求备焉。”

子曰：“君子泰而不骄<sup>⑭</sup>，小人骄而不泰。”

子曰：“刚、毅、木、讷，近仁。”

子路问曰：“何如斯可谓之士矣？”子曰：“切切偲偲，怡怡如也<sup>⑮</sup>，可谓士矣。朋友切切偲偲，兄弟怡怡。”

## 宪问篇

宪问耻。子曰：“邦有道，谷<sup>⑯</sup>，邦无道，谷，耻也。”“克、伐、怨，欲不行焉，可以为仁矣？”子曰：“可以为难矣，仁则吾不知也。”

子曰：“士而怀居<sup>⑰</sup>，不足为士矣。”

子曰：“邦有道，危言危行<sup>⑱</sup>；邦无道，危行言孙<sup>⑲</sup>。”

子曰：“有德者必有言<sup>⑳</sup>，有言者不必有德<sup>㉑</sup>。仁者必有勇，勇者不必有仁。”

子曰：“贫而无怨难，富而无骄易。”

子路问成人。子曰：“若臧武仲之知，公绰之不欲，卞庄子之勇，冉求文艺，文之以礼乐<sup>㉒</sup>，亦可以为成人矣。”曰：“今之成人者何必然？见利思义，见危授命，久要不忘生平之言，亦可以为成人矣。”

子问公叔文子于公明贾曰：“信乎，夫子不言，不笑，不取乎？”公明贾对曰：“以告者

过也<sup>㉓</sup>。夫子时然后言<sup>㉔</sup>，人不厌其言；乐然后笑，人不厌其笑<sup>㉕</sup>。义然后取，人不厌其取。”子曰：“其然？岂其然乎？”

子路曰：“桓公杀公子纠，召忽死之，管仲不死。”曰：“未仁乎？”子曰：“桓公九合诸侯，不以兵车，管仲之力也。如其仁<sup>㉖</sup>，如其仁。”

子贡曰：“管仲非仁者与？桓公杀公子纠，不能死，又相之。”子曰：“管仲相桓公，霸诸侯，一匡天下，民到于今受其赐。微管仲<sup>㉗</sup>，吾其被发左衽矣<sup>㉘</sup>。岂若匹夫匹妇之为谅也<sup>㉙</sup>，自经于沟渎而莫之知也<sup>㉚</sup>？”

子曰：“其言之不怍<sup>㉛</sup>，则为之也难。”

子曰：“君子上达，小人下达<sup>㉜</sup>。”

子曰：“古之学者为己，今之学者为人。”

子曰：“君子耻其言而过其行<sup>㉝</sup>。”

子曰：“君子道者三，我无能焉：仁者不忧，知者不惑，勇者不惧。”子贡曰：“夫子自道也<sup>㉞</sup>。”

子贡方人<sup>㉟</sup>。子曰：“赐也，贤乎哉<sup>㊱</sup>？夫我则不暇<sup>㊲</sup>。”

子曰：“不患人之不己知，患其不能也。”

子曰：“不逆诈<sup>㊳</sup>，不亿不信<sup>㊴</sup>，抑亦先觉者<sup>㊵</sup>，是贤乎！”

或曰：“以德报怨，何如？”子曰：“何以报德？”以直报怨，以德报德。”

子曰：“贤者辟世，其次辟地，其次辟色，其次辟言。”子曰：“作者七人矣<sup>㊶</sup>。”

原壤夷俟<sup>㊷</sup>。子曰：“幼而不孙弟<sup>㊸</sup>，长而无述焉<sup>㊹</sup>，老而不死，是为贼<sup>㊺</sup>。”以杖叩其胫。

阙党童子将命<sup>㊻</sup>。或问之曰：“益者与<sup>㊼</sup>？”子曰：“吾见其居于位也，见其与先生并行也<sup>㊽</sup>。非求益者也，欲速成者也。”

## 卫灵公篇

在陈绝粮，从者病，莫能兴<sup>㊾</sup>。子路愠见曰：“君子亦有穷乎？”子曰：“君子固穷<sup>㊿</sup>，小人斯滥矣<sup>㋀</sup>。”

子曰：“赐也，女以予多学而识之者与？”  
对曰：“然，非与？”曰：“非也，予一以贯之。”

子张问行。子曰：“言忠信，行笃敬，虽蛮貊之邦<sup>⑬</sup>，行矣。言不忠信，行不笃敬，虽州里，行乎哉？立则见其参于前也<sup>⑭</sup>，在舆则见其倚于衡也<sup>⑮</sup>，夫然后行。”子张书诸绅<sup>⑯</sup>。

子曰：“可与言而不与之言，失人；不可与言而与之言，失言。知者不失人，亦不失言。”

子曰：“志士仁人，无求生以害仁，有杀身以成仁。”

子贡问仁。子曰：“工欲善其事<sup>⑰</sup>，必先利其器。居是邦也，事其大夫之贤者，友其士之仁者。”

子曰：“人无远虑，必有近忧。”

子曰：“躬自厚而薄责与人<sup>⑱</sup>，则远怨矣。”

子曰：“不曰‘如之何<sup>⑲</sup>，如之何’者，吾未如之何也已矣。”

子曰：“群居终日<sup>⑳</sup>，言不及义，好行小慧，难矣哉！”

子曰：“君子义以为质，礼以行之，孙以出之，信以成之。君子哉！”

子曰：“君子病无能焉，不病人之不已知也。”

子曰：“君子疾没世而名不称焉<sup>㉑</sup>。”

子曰：“君子求诸己，小人求诸人。”

子曰：“君子矜而不争，群而不党<sup>㉒</sup>。”

子曰：“君子不以言举人，不以人废言。”

子贡问曰：“有一言可以终身行之者乎？”  
子曰：“其恕乎，己所不欲，勿施于人。”

子曰：“吾之于人也，谁毁谁誉？如有所誉者，其有所试矣<sup>㉓</sup>。斯民也，三代之所以直道而行也。”

子曰：“巧言乱德。小不忍，则乱大谋。”

子曰：“众恶之，必察焉；众好之，必察焉。”

子曰：“人能弘道，非道弘人。”

子曰：“过而不改，是谓过矣。”

子曰：“君子谋道不谋食。耕也，馁在其中矣<sup>㉔</sup>；学也，禄在其中矣。君子忧道不忧贫。”

子曰：“知及之<sup>㉕</sup>，仁不能守之，虽得之，心失之。知及之，仁能守之，不庄以莅之<sup>㉖</sup>，则民不敬。知及之，仁能守之，庄以莅之，动之不以礼，未善也。”

子曰：“君子不可小知而可大受也<sup>㉗</sup>，小人不可大受而可小知也。”

子曰：“君子贞而不谅。”

子曰：“事君，敬其事而后其食。”

子曰：“道不同，不相为谋。”

子曰：“辞，达而已矣。”

## 季氏篇

孔子曰：“益者三友，损者三友<sup>㉘</sup>。友直，友谅，友多闻，益矣。友便辟，友善柔，友便佞<sup>㉙</sup>，损矣。”

孔子曰：“益者三乐，损者三乐。乐节礼乐，乐道人之善，乐多贤友，益矣。乐骄乐，乐佚游<sup>㉚</sup>，乐宴乐，损矣。”

孔子曰：“侍于君子有三愆<sup>㉛</sup>：言未及之而言谓之躁，言及之而不言谓之隐，未见颜色而言谓之瞽<sup>㉜</sup>。”

孔子曰：“君子有三戒：少之时，气血未定，戒之在色；及其壮也，血气方刚，戒之在斗；及其老也，血气既衰，戒之得德<sup>㉝</sup>。”

子曰：“君子有三畏：畏天命，畏大人<sup>㉞</sup>，畏圣人之言。小人不知天命而不畏也。狎大人侮圣人之言。”

孔子曰：“君子有九思：视思明，听思聪，色思温，貌思恭，言思忠，事思敬，疑思问，忿思难，见得思义。”

## 阳货篇

子张问仁于孔子。孔子曰：“能行五者于天下，为仁矣。”请问之。曰：“恭、宽、信、敏、惠。恭则不侮，宽则得众，信则人任焉，

敏则有功，惠则足以使人。”

子曰：“色厉而内荏<sup>⑮</sup>，譬诸小人，其犹穿窬之盗也与<sup>⑯</sup>！”

子曰：“道听而涂说<sup>⑰</sup>，德之弃也。”

子曰：“鄙夫可与事君也哉？其得之也，患得之；既得之，患失之。苟患失之，无所不至矣。”

子路曰：“君子尚勇乎？”子曰：“君子义以为上。君子有勇而无义为乱，小人有勇而无义为盗。”

子贡曰：“君子亦有恶乎？”子曰：“有恶。恶称人之恶者，恶居下流而訾上者<sup>⑱</sup>，恶勇而无礼者，恶果敢而窒者<sup>⑲</sup>。”曰：“赐也亦有恶乎？”恶徼以为知者<sup>⑳</sup>，恶不孙以为勇者，恶讦以为直者<sup>㉑</sup>。”

子曰：“唯女子与小人为难养也<sup>㉒</sup>，近之则不孙，远之则怨。”

子曰：“年四十而见恶焉，其终也已<sup>㉓</sup>。”

## 微子篇

逸民：伯夷、叔齐、虞仲、夷逸、朱张、柳下惠、少连。子曰：“不降其志，不辱其身，伯夷、叔齐与！”谓：“柳下惠、少连，降志辱身矣，言中伦，行中虑，其斯而已矣。”谓：“虞仲、夷逸，隐居放言，身中清，废中权。我则异于是，无可无不可。”

## 子张篇

子张曰：“士见危致命<sup>㉔</sup>，见得思义，祭思敬，丧思哀，其可已矣。”

子张曰：“执德不弘，信道不笃，焉能为有？焉能为亡<sup>㉕</sup>？”

子夏之门人问交于子张<sup>㉖</sup>。子张曰：“子夏云何？”对曰：“子夏曰：‘可者与之，其不可者拒之’。”子张曰：“异乎吾所闻：君子尊贤而容众，嘉善而矜不能<sup>㉗</sup>。我之大贤与，于人何所不容？我之不贤与，人将拒我，如之何其拒人也？”

子夏曰：“虽小道，必有可观者焉，致远恐泥<sup>㉘</sup>，是以君子不为也。”

子夏曰：“小人之过也必文<sup>㉙</sup>。”

子夏曰：“君子有三变：望之俨然<sup>㉚</sup>，即之也温<sup>㉛</sup>，听其言也厉<sup>㉜</sup>。”

子夏曰：“大德不逾闲<sup>㉝</sup>，小德出入可也。”

子贡曰：“君子之过也，如日月之食焉<sup>㉞</sup>。过也，人皆见之；更也，人皆仰之。”

## 尧曰篇

孔子曰：“不知命，无以为君子也；不知礼，无以立也；不知言，无以知人也。”

注释：

①廋：隐瞒。②器：器具，喻只具备某一种功用。③周：遍，合群。比：结党。④干禄：求官。⑤阙：同“缺”，留有余地。⑥尤：过错。⑦殆：危。⑧輗(ní)、軏(yuè)：固定车轅与轅端横木的楔子。⑨里：居住。⑩择处：择居。⑪知：同“智”。⑫约：简，贫困。⑬恶：同“乌”，叹词，表疑问语气。⑭适：投合。莫：冷淡。比：切近。⑮放：同“仿”，求。⑯参：曾参。⑰躬：实践，做。逮：及。⑱讷：言语迟钝。⑲数：列举过错。⑳子：女儿。㉑醯(xī西)：米醋。㉒简：简要。㉓大：同“太”。㉔请：要求给予。粟：谷子。㉕釜：六斗四升为一釜。㉖益：增加。㉗庾：十六斗为一庾。㉘秉：一百六十斗为一秉。㉙径：就近的小路。㉚偃：言偃，字子游。㉛奔：逃。殿：殿后掩护。㉜祝鮀(tuó)：卫大夫，善言辩。㉝生：生存，活在世上。㉞罔：同“枉”，不正直。幸而免：不死是因为侥幸免于灾祸。㉟逝：往，去。陷：落入。㊱欺：蒙骗，当面说假话。罔：蒙蔽，相信假话。㊲畔：同“叛”。㊳何事于仁：就“仁”而言，还能包括什么事呢？㊴病：毛病，欠缺。㊵暴虎：徒手搏虎。冯(píng凭)河：孤身涉河。㊶为：佐助。㊷作：创作，著述。㊸互乡：地名。㊹与：赞许。进：前进。㊺孙：通“逊”。㊻固：刻板。㊼暴：暴躁。慢：怠慢。

④鄙：粗俗。倍：同“背”，悖理。④筵(biān)、豆：古祭器。有司：司职官署。存：过问。⑤犯：侵犯。校：计较。⑤六尺之孤：未成年的幼主。百里之命：国家命运。百里：代指诸侯国。⑥侗：幼稚无知。愿：谨慎。⑥怵怵：面似诚恳。⑥楹：收藏。楹(dū)：柜子。⑥善贾(gū)：识货的商人。沽：卖。⑥何有于我：即于我何有。对我来说又算什么？⑥彰：同“凋”。⑥野人：在野之人，隐逸的贵族。下文的君子，指在位掌权者。⑥阊闾(yàn)：和颜悦色。⑥行行：刚强。⑥侃侃：理直气壮。⑥愈：强，好。⑥践迹：按礼的规则行事。入室：修养到家。⑥论：谈到，说及。笃：诚恳的人。是与：便要称赞。色庄：外表庄重。⑥克己：克制自己自私欲。复礼：恢复周礼。⑥目：细节。⑥事：当作要事去做。⑥怨：别人的不满、责备。⑥诤：难以启齿。⑥亡：通“无”。⑥商：卜商，字子夏。⑥浸润：渗透。谗：谗言。肤受：触及肌肤，喻刺痛。愬：诬告，诽谤。⑥徙义：徙于义，向义靠近。⑥诚不以富，亦祇以异：若不因嫌贫爱富，也只因见异思迁。意谓好恶之间，终须有明确选择，唯有崇德，方能不惑，唯有不惑，方能徙于义。⑥片：半。片言：一面之辞。折狱：断案。⑥宿诺：久不兑现的诺言。⑥下人：谦逊待人。⑥舞云(yú)：祈雨的祭坛。⑥慝(tè)：枉想，邪念。修慝，犹改正坏思想。⑥举：拿。错：通“措”，放置。枉：不正的。⑥乡：方才。⑥远：远远地离开。⑥道：通“导”。⑥专对：独自担负使命与别国交涉。⑥之：去，到。⑥砮砮：击磬声，与音乐的变化调和相对而言，喻单调刻板。⑥斗、筥(shào)：都是日用容器，与瑚琏等名贵祭器相比，显然庸贱。孔子曾谓子贡为瑚琏。⑥狂：狂妄。狷：拘谨。⑥或：总要。承：遭受。⑥占：占卜。不占而已矣：不用算命，就可断定他完蛋了。⑥和：赞同别人的见解，并与其一道阐发。同：同化，顺随别人而失去自己的主张。⑥事：同“侍”。说：同“悦”，取悦。⑥器：如使用器具一样各取所长。⑥泰：安静坦然。⑥切切偲偲：互想劝勉。怡怡：和乐亲善。⑥谷：谷米，喻食禄。⑥怀

居：留恋居处的安逸。⑥危：高直。⑥孙：同“逊”，和顺。⑥言：著述，学说观点。⑥不必：不一定。⑥文：饰。⑥过：错。⑥时：适时。⑥乐：喜悦。⑥如其仁：象这些便是他的仁德。⑥微：没有。⑥被(pi)发左衽(rèn)：山野之人的装束。左衽：衣襟向左开。⑥谅：诚朴守信。⑥自经：自尽。⑥作：惭。⑥上、下：相对于义、利而言。达：求取以至有成。⑥耻、过：针对言有余行不足而言。⑥道：说，表述。⑥方：同“谤”。⑥贤乎哉：你就那么好吗？⑥不暇：没有闲功夫。⑥逆诈：预测别人是否欺诈。⑥亿不信：猜想别人是否不守信。亿：同“臆”。⑥抑亦：却也能。⑥作者：这样做起的。七人：指伯夷、叔齐等七人。⑥原壤：孔子旧友。夷：岔开腿蹲着，有怠慢不拘礼的意味。俟：等候。⑥孙弟：逊悌。⑥述：可称道的品行。⑥贱：祸害。⑥阙党：地名。将命：受命传话。⑥益者：要求上进的人。⑥居于位：站在位次中间。礼：长幼有序，童子不应居于位。先生：年长的人。并行：不分前后地并肩走。⑥兴：起身。⑥固：安守。⑥滥：不可约束，无所不为。⑥蛮貊(mò)：南北方的少数民族。⑥参：列，耸立。⑥衡：车辕前的横木。⑥书：写。绅：衣带。⑥工：工匠。善：做好。⑥厚：厚责。⑥如之何：怎么办。⑥居：聚在一处。⑥疾：痛恨。没世：一辈子到头。称：被人称扬。⑥矜：庄重。群：联络人，合群。党：结党。⑥试：验证。⑥馁：饿。⑥知：同“智”。及：得到，取得。⑥莅(lì)：临，指治理。⑥小知：主管小事。大受：担负重要使命。⑥益：有益。损：有害。⑥便辟：行为不正。善柔：惯于逢迎。便佞：以花言巧语取悦于人。⑥佚：同“逸”，放纵。⑥愆(qiān)：过错，过失。⑥瞽：有目不能视，瞎。⑥得：欲得之心，难舍物欲，贪。⑥畏：因敬重而小心对待。大人：居于高位的人。⑥厉：严厉。荏(rěn)：虚弱。⑥穿窬：挖墙。窬：洞。⑥涂：通“途”。⑥汕：谤。⑥室：顽劣不可理喻。⑥微：窃取。知：同“智”。⑥讪(jiē)：揭人之短。⑥养：教养，教育。⑥见恶：遭人厌恶。见：被。终：一生。已：完结。⑥致命：献身。⑥有、亡：有他不多，无他不少。亡：通“无”。⑥交：交友之道。⑥矜：悯。⑥泥：沉溺。



①④文：掩饰。①⑤俨然：庄严，令人生畏。①⑥温然：和霭可亲。①⑦厉：严正。①⑧闲：木栏，指界限。①⑨食蚀。

## 《庄子》

### 题解：

庄子撰。庄子(约公元前369—前286)名周，宋国蒙(今安徽蒙城)人，战国时期哲学家。曾做过漆园小吏，不肯接受楚王的聘请，为了求得精神上的自由自在，隐居终身。

庄子的处世谋略。可以用“无为”来概括，然而“无为”并非庄子的最终目的。其最终目的在于“达生”，使生命达到一个充分健全的境界。用充分健全了的生命，可以去“为”，而且能够“无不为”。

“无为”的关键在于“忘我”，在于舍弃那些“我”的主观中固有的偏激、有害于生命健全的成分，做到与万物“同化”，顺应着自然的规律，与它一起更新。

懂得怎样“忘我”，怎样顺应自然，就是明哲。明哲然后可以保身，保身然后可以有所为。因此可以说，庄子的处世哲学，是保身的策略，是如何保养以致用的法门。

《庄子》一书，被道教奉为真言，名之为《南华真经》，将它当作养生练气的要言妙道。在中国文学史上，《庄子》因其文论宏大，语言汪洋恣肆，喻理精譬透彻，开一代散文之风，地位尤为卓著。《庄子》中的《逍遥游》、《养生主》等篇，谈处世，论人生，历来被推为处世谋略的经典之作。

### 逍遥游<sup>①</sup>

北冥有鱼<sup>②</sup>，其名为鲲。鲲之大，不知其几千里也。化而为鸟，其名为鹏。鹏之背，不知其几千里也。怒而飞<sup>③</sup>，其翼若垂天之云。是鸟也<sup>④</sup>，海运则将徙于南冥<sup>⑤</sup>。南冥者，天池也<sup>⑥</sup>。

《齐谐》者，志怪者也。《谐》之言曰：“鹏

之徙于南冥也，水击三千里<sup>⑦</sup>，抟扶摇而上者九万里<sup>⑧</sup>，去以六月息者也<sup>⑨</sup>。”野马也<sup>⑩</sup>，尘埃也，生物之以息相吹也。天之苍苍<sup>⑪</sup>，其正色邪？其远而无所至极邪？其视下也<sup>⑫</sup>，亦若是则已矣。

且夫水之积也不厚，则其负大舟也无力。覆杯水于坳堂之上<sup>⑬</sup>，则芥为之舟<sup>⑭</sup>。置杯焉则胶<sup>⑮</sup>，水浅而舟大也。风之积也不厚，则其负大翼也无力。故九万里则风斯在下矣<sup>⑯</sup>，而后乃今培风；背负青天而莫之夭阏者，而后乃今将图南。

蜩与学鸠笑之曰<sup>⑰</sup>：“我决起而飞<sup>⑱</sup>，抢榆枋<sup>⑲</sup>，时则不至而控于地而已矣<sup>⑳</sup>，奚以之九万里而南为<sup>㉑</sup>？”适莽苍者<sup>㉒</sup>，三飡而反<sup>㉓</sup>，腹犹果然<sup>㉔</sup>；适百里者，宿舂粮<sup>㉕</sup>；适千里者，三月聚粮<sup>㉖</sup>。之二虫又何知<sup>㉗</sup>！

小知不及大知<sup>㉘</sup>，小年不及大年<sup>㉙</sup>。奚以知其然也？朝菌不知晦朔<sup>㉚</sup>，蟪蛄不知春秋<sup>㉛</sup>，此小年也。楚之南有冥灵者<sup>㉜</sup>，以五百岁为春，五百岁为秋；上古有大椿者<sup>㉝</sup>，以八千岁为春，八千岁为秋。而彭祖乃今以久特闻<sup>㉞</sup>，众人匹之<sup>㉟</sup>，不亦悲乎！

汤之问棘也是已<sup>㊱</sup>：穷发之北<sup>㊲</sup>，有冥海者，天池也。有鱼焉，其广数千里，未有知其修者<sup>㊳</sup>，其名为鲲。有鸟焉，其名为鹏，背若太山，翼若垂天之云，抟扶摇羊角而上者九万里<sup>㊴</sup>，绝云气<sup>㊵</sup>，负青天，然后图南，且适南冥也。

斥鴳笑之曰<sup>㊶</sup>：“彼且奚适也？我腾跃而上，不过数仞而下，翱翔蓬蒿之间，此亦飞之至也，而彼且奚适也？”此小大之辩也。

故夫知效一官<sup>㊷</sup>，行比一乡，德合一君，而征一国者，其自视也<sup>㊸</sup>，亦若此矣。而宋荣子犹然笑之<sup>㊹</sup>。且举世而誉之而不加劝<sup>㊺</sup>，举世而非之而不加沮<sup>㊻</sup>，定乎内外之分，辩乎荣辱之境，斯已矣。彼其于世，未数数然也<sup>㊼</sup>。虽然，犹有未树也<sup>㊽</sup>。

夫列子御风而行，泠然善也<sup>㊾</sup>，旬有五日而后反。彼于致福者，未数数然也。此虽免乎行，犹有所待者也。

若夫乘天地之正，而御六气之辩，以游无穷者，彼且恶乎待哉！故曰：至人无己<sup>⑤</sup>，神人无功，圣人无名。

尧让天下于许由，曰：“日月出矣，而燭火不息<sup>⑥</sup>，其于光也，不亦难乎！时雨降矣，而犹浸灌，其于泽也，不亦劳乎！夫子立而天下治，而我犹尸之<sup>⑦</sup>，吾自视缺然<sup>⑧</sup>。请致天下<sup>⑨</sup>。”许由曰：“子治天下，天下既已治也，而我犹代子，吾将为名乎？名者，实之宾也，吾将为宾乎？鹪鹩巢于深林<sup>⑩</sup>，不过一枝；偃鼠饮河<sup>⑪</sup>，不过满腹。归休乎君<sup>⑫</sup>，予无所用天下为！庖人虽不治庖<sup>⑬</sup>，尸祝不越樽俎而代之矣<sup>⑭</sup>。”

肩吾问于连叔曰：“吾闻言于接舆<sup>⑮</sup>，大而无当，往而不返。吾惊怖其言犹河汉而无极也，大有径庭，不近人情焉。”连叔曰：“其言谓何哉？”曰“藐姑射之山，有神人居焉。肌肤若冰雪，淖约若处子；不食五谷，吸风饮露；乘云气，御飞龙，而游乎四海之外；其神凝，使物不疵疠而年谷熟。”吾以是狂而不信也。”连叔曰：“然，瞽者无以与乎文章之观，聋者无以与乎钟鼓之声。岂唯形骸有聋盲哉？夫知亦有之<sup>⑯</sup>。是其言也，犹时女也。之人也，之德也，将旁礴万物以为一，世蕲乎乱，孰弊弊焉以天下为事！之人也，物莫之伤，大浸稽天而不溺<sup>⑰</sup>，大旱金石流、土山焦而不热。是其尘垢粃糠<sup>⑱</sup>，将犹陶铸尧舜者也，孰肯以物为事！”

宋人资章甫而适诸越<sup>⑲</sup>，越人断发文身，无所用之。

尧治天下之民，平海内之政。往见四子藐姑射之山，汾水之阳，窅然丧其天下焉<sup>⑳</sup>。

惠子谓庄子曰：“魏王贻我大瓠之种<sup>㉑</sup>，我树之成而实五石<sup>㉒</sup>。以盛水浆，其坚不能自举也。剖之以为瓢，则瓠落无所容<sup>㉓</sup>。非不呬然大也<sup>㉔</sup>，吾为其无用而掊之<sup>㉕</sup>。”庄子曰：“夫子固拙于用大矣。宋人有善为不龟手之药者<sup>㉖</sup>，世世以洴澼絖为事<sup>㉗</sup>。客闻之，请买其方百金。聚族而谋曰：‘我世世为洴澼絖，不过数金。今一朝而鬻技百金，请与之。’

客得之，以说吴王。越有难，吴王使之将。冬，与越人水战，大败越人，裂地而封之。能不龟手一也，或以封，或不免于洴澼絖，则所用之异也。今子有五石之瓠，何不虑以为大樽而浮乎江湖，而忧其瓠落无所容？则夫子犹有蓬之心也夫<sup>㉘</sup>！”

惠子谓庄子曰：“吾有大树，人谓之樗<sup>㉙</sup>。其大本臃肿而不中绳墨<sup>㉚</sup>，其小枝卷曲而不中规矩。立之涂<sup>㉛</sup>，匠者不顾。今子之言，大而无用，众所同去也。”庄子曰：“子独不见狸狌乎<sup>㉜</sup>？卑身而伏，以候敖者；东西跳梁，不避高下；中于机辟<sup>㉝</sup>，死于罔罟<sup>㉞</sup>。今夫斄牛<sup>㉟</sup>，其大若垂天之云。此能为大矣，而不能执鼠。今子有大树，患其无用，何不树之于无何有之乡<sup>㊱</sup>，广莫之野，彷徨乎无为其侧，逍遥乎寝卧其下。不夭斤斧，物无害者，无所可用，安所困苦哉！”

## 齐物论<sup>㊲</sup>

南郭子綦隐机而坐<sup>㊳</sup>，仰天而嘘<sup>㊴</sup>，答焉似丧其耦<sup>㊵</sup>。颜成子游立侍乎前，曰：“何居乎？形固可使如槁木，而心固可使如死灰乎？今之隐机者，非昔之隐机者也？”子綦曰：“偃，不亦善乎而问之也！今者吾丧我，汝知之乎？女闻人籁而未闻地籁<sup>㊶</sup>，女闻地籁而未闻天籁夫！”

子游曰：“敢问其方。”子綦曰：“夫大块噫气<sup>㊷</sup>，其名为风。是唯无作，作则万窍怒呬。而独不闻之蓁蓁乎<sup>㊸</sup>？山林之畏佳<sup>㊹</sup>，大木百围之窍穴，似鼻，似口，似耳，似枅，似圈，似臼，似洼者，似污者。激者、謠者、叱者、吸者、叫者、譟者、实者、咬者<sup>㊺</sup>，前者唱于而随者唱喁<sup>㊻</sup>，泠风则小和，飘风则大和，厉风济则众窍为虚<sup>㊼</sup>。而独不见之调调之刀刀乎<sup>㊽</sup>？”

子游曰：“地籁则众窍是已，人籁则比竹是已<sup>㊾</sup>，敢问天籁。”子綦曰：“夫吹万不同<sup>㊿</sup>，而使其自己也。咸其自取，怒者其谁邪？”

大知闲闲<sup>㊽</sup>，小知间间<sup>㊾</sup>。大言炎炎<sup>㊿</sup>，

小言詹詹<sup>①</sup>。其寐也魂交<sup>②</sup>，其觉也形开<sup>③</sup>。与接为拘<sup>④</sup>，日以心斗。缦者、窖者、密者<sup>⑤</sup>。小恐惴惴<sup>⑥</sup>，大恐缦缦<sup>⑦</sup>。其发若机括<sup>⑧</sup>，其司是非之谓也<sup>⑨</sup>；其留如诅盟<sup>⑩</sup>，其守胜之谓也；其杀若秋冬，以言其日消也；其溺之所为之，不可使复之也；其厌也如絺，以言其老洩也<sup>⑪</sup>；近死之心，莫使复阳也。喜怒哀乐，虑叹变热<sup>⑫</sup>，姚佚启态<sup>⑬</sup>——乐出虚<sup>⑭</sup>，蒸成菌。日夜相代乎前而莫知其所萌。已乎，已乎！旦暮得此，其所由以生乎！

非彼无我，非我无所取。是亦近矣，而不知其所为使。若有真宰，而特不得其朕<sup>⑮</sup>。可行己信，而不见其形，有情而无形。百骸、九窍、六藏，赅而存焉，吾谁与为亲？汝皆说之乎<sup>⑯</sup>？其有私焉？如是皆有为臣妾乎？其臣妾不足以相治乎？其递相为君臣乎？其有真君存焉！如求得其情与不得，无益损乎其真。一受其成形，不亡以待尽。与物相刃相靡<sup>⑰</sup>，其行尽如驰而莫之能止，不亦悲乎！终身役役而不见其成功<sup>⑱</sup>，怱然疲役而不知其所归<sup>⑲</sup>，可不哀邪？人谓之不死，奚益！其形化<sup>⑳</sup>，其心与之然，可不谓大哀乎？人之生也，固若是芒乎<sup>㉑</sup>？其我独芒，而人亦有不芒者乎？

夫随其成心而师之，谁独且无师乎？奚必知代而心自取者有之？愚者与有焉！未成乎心而有是非，是今日适越而昔至也。是以无有为有。无有为有，虽有神禹且不能知，吾独且奈何哉！

夫言非吹也，言者有言。其所言者特未定也。果有言邪？其未尝有言邪？其以为异于轂音<sup>㉒</sup>，亦有辩乎？其无辩乎？道恶乎隐而有真伪？言恶乎隐而有是非？道恶乎往而不存？言恶乎存而不可？道隐于小成，言隐于荣华。故有儒墨之是非，以是其所非而非其所是。欲是其所非而非其所是，则莫若以明。

物无非彼，物无非是。自彼则不见，自知则知之。故曰：彼出于是，是亦因彼。彼

是方生之说也。虽然，方生方死，方死方生；方可方不可，方不可方可；因是因非，因非因是。是以圣人不由而照之于天，亦因是也。是亦彼也，彼亦是也。彼亦一是非，此亦一是非，果且有彼是乎哉？果且无彼是乎哉？彼是莫得其偶，谓之道枢<sup>㉓</sup>。枢始得其环中，以应无穷。是亦一无穷，非亦一无穷也。故曰：莫若以明。

以指喻指之非指，不若以非指喻指之非指也；以马喻马之非马，不若以非马喻马之非马也；天地一指也，万物一马也。

可乎可，不可乎不可。道行之而成，物谓之而然。恶乎然？然于然。恶乎不然？不然于不然。物固有所然，物固有所可。无物不然，无物不可。故为是举莛与楹<sup>㉔</sup>，厉与西施<sup>㉕</sup>，恢恠憭怪，道通为一。

其分也，成也；其成也，毁也。凡物无成与毁，复通为一。唯达者知通为一，为是不用而寓诸庸。庸也者，用也；用也者，通也；通也者，得也。适得而几矣。因是已，已而不知其然谓之道。劳神明为一而不知其同也，谓之“朝三”。何谓“朝三”？狙公赋茅<sup>㉖</sup>，曰：“朝三而暮四。”众狙皆怒。曰：“然则朝四而暮三。”众狙皆悦。名实未亏而喜怒为用，亦因是也。是以圣人和之以是非而休乎天钧<sup>㉗</sup>，是之谓两行<sup>㉘</sup>。

古之人，其知有所至矣。恶乎至？有以为未始有物者，至矣，尽矣，不可以加矣！其次以为有物矣，而未始有封也<sup>㉙</sup>。其次以为有封焉，而未始有是非也。是非之彰也，道之所以亏也。道之所以亏，爱之所以成。果且有成与亏乎哉？果且无成与亏乎哉？有成与亏，故昭氏之鼓琴也；无成与亏，故昭氏之不鼓琴也。昭文之鼓琴也，师旷之枝策也<sup>㉚</sup>，惠子之据梧也<sup>㉛</sup>，三子之知几乎皆其盛者也，故载之末年<sup>㉜</sup>。唯其好之也以异于彼，其好之也欲以明之。彼非所明而明之，故以坚白之味终。而其子又以文之纶终<sup>㉝</sup>，终身无成。若是而可谓成乎，虽我亦成也；若是而不可谓成乎，物与我无成也。是故滑

疑之耀<sup>⑩</sup>，圣人之所图也。为是不用而寓诸庸，此之谓“以明”。

今且有言于此，不知其与是类乎？其与是不类乎？类与不类，相与为类，则与彼无以异矣。虽然，请尝言之：有始也者，有未始有始也者，有未始有夫未始有始也者；有有也者，有无也者，有未始有无也者，有未始有夫未始有无也者。俄而有无矣，而未知有无之果孰有孰无也。今我则已有谓矣，而未知吾所谓之其果有谓乎？其果无谓乎？

天下莫大于秋豪之末<sup>⑪</sup>，而大山为小；莫寿于殇子<sup>⑫</sup>，而彭祖为天。天地与我并生，而万物与我为一。既已为一矣，且得有言乎？既已谓之一矣，且得无言乎？一与言为二，二与一为三。自此以往，巧历不能得<sup>⑬</sup>，而况其凡乎！故自无适有，以至于三，而况自有适有乎！无适焉，因是已！

夫道未始有封，言未始有常，为是而有矜也<sup>⑭</sup>。请言其矜：有左有右，有伦有义，有分有辩，有竞有争，此之谓八德。六合之外，圣人存而不论；六合之内，圣人论而不议<sup>⑮</sup>；春秋经世先王之志，圣人议而不辩<sup>⑯</sup>。

故分也者，有不分也；辩也者，有不辩也。曰：“何也？”“圣人怀之<sup>⑰</sup>，众人辩之以相示也。故曰：辩也者，有不见也。”夫大道不称，大辩不言，大仁不仁，大廉不矜<sup>⑱</sup>，大勇不伎<sup>⑲</sup>。道昭而不道，言辩而不及，仁常而不成，廉清而不信，勇伎而不成。五者圆而几向方矣！故知止其所不知，至矣。孰知不言之辩，不道之道？若有能知，此之谓天府。注焉而不满，酌焉而不竭，而不知其所由来，此之谓葆光<sup>⑳</sup>。

故昔者尧问于舜曰：“我欲伐宗脰、胥、敖<sup>㉑</sup>，南面而不释然。其故何也？”舜曰：“夫三子者，犹存乎蓬艾之间。若不释然何哉！昔者十日并出，万物皆照，而况德之进乎日者乎！”

啮缺问乎王倪曰：“子知物之所同是乎？”曰：“吾恶乎知之！”“子知子之所不知邪？”曰：

“吾恶乎知之！”“然则物无知邪？”曰：“吾恶乎知之！虽然，尝试言之：庸詎知吾所谓知之非不知邪<sup>㉒</sup>？庸詎知吾所谓不知之非知邪？且吾尝试问乎女：民湿寝则腰疾偏死<sup>㉓</sup>，鳧然乎哉？木处则惴栗恟惧，猿猴然乎哉？三者孰知正处？民食刍豢<sup>㉔</sup>，麋鹿食荇<sup>㉕</sup>，螂蛆甘带<sup>㉖</sup>，鸱鸦膏鼠，四者孰知正味？猿狙狙以为雌<sup>㉗</sup>，麋与鹿交，鳅与鱼游。毛嫱丽姬，人之所美也；鱼见之深入，鸟见之高飞，麋鹿见之决骤<sup>㉘</sup>，四者孰知天下之正色哉？自我观之，仁义之端，是非之涂，樊然淆乱，吾恶能知其辩！”啮缺曰：“子不知利害，则至人固不知利害乎？”王倪曰：“至人神矣！大泽焚而不能热，河汉沍而不能寒<sup>㉙</sup>，疾雷破山、飘风振海而不能惊。若然者，乘云气，骑日月，而游乎四海之外，死生无变于己，而况利害之端乎！”

瞿鹊子问乎长梧子曰：“吾闻诸夫子：圣人不从事于务，不就利，不违害，不喜求，不缘道，无谓有谓，有谓无谓，而游乎尘垢之外。夫子以为孟浪之言，而我以为妙道之行也。吾子以为奚若？”

长梧子曰：“是黄帝之所听荧也<sup>㉚</sup>，而丘也何足以知之！且女亦大早计，见卵而求时夜，见弹而求鸇炙。予尝为女妄言之，女以妄听之。奚旁日月，挟宇宙，为其吻合，置其滑滑<sup>㉛</sup>以隶相尊<sup>㉜</sup>？众人役役，圣人愚菴<sup>㉝</sup>，参万岁而一成纯<sup>㉞</sup>。万物尽然，而以是相蕴。予恶乎知说生之非惑邪！予恶乎知恶死之非弱丧而不知归者邪！

丽之姬，艾封人之子也。晋国之始得之也，涕洟泣沾。及其至于王所，与王同筐床<sup>㉟</sup>，食刍豢，而后悔其泣也。予恶乎知夫死者不悔其始之蘄生乎<sup>㊱</sup>？梦饮酒者，旦而哭泣；梦哭泣者，旦而田猎。方其梦也，不知其梦也。梦之中又占其梦焉，觉而后知其梦也。且有大觉而后知此其大梦也，而愚者自以为觉，窃窃然知之。“君乎！牧乎！”固哉！丘也与女皆梦也，予谓女梦亦梦也。是其言也，其名为吊诡<sup>㊲</sup>。万世之后而一遇大

圣知其解者，是旦暮遇之也。

既使我与若辩矣，若胜我，我不若胜，若果是也？我果非也邪？我胜若，若不吾胜，我果是也？而果非也邪？其或是也？其或非也邪？其俱是也？其俱非也邪？我与若不能相知也。则人固受其黜闇<sup>⑤</sup>，吾谁使正之？使同乎若者正之，既与若同矣，恶能正之？使同乎我者正之，既同乎我矣，恶能正之？使异乎我与若者正之，既异乎我与若矣，恶能正之？使同乎我与若者正之，既同乎我与若矣，恶能正之？然则我与若与人俱不能相知也，而待彼也邪？”

“何谓和之以天倪<sup>⑥</sup>？”曰：“是不是，然不然。是若果是也，则是之异乎不是也亦无辩；然若果然也，则然之异乎不然也亦无辩。化声之相待<sup>⑦</sup>，若其不相待。和之以天倪，因之以曼衍<sup>⑧</sup>，所以穷年也。忘年忘义，振于无竟<sup>⑨</sup>，故寓诸无竟。”

罔两问景曰<sup>⑩</sup>：“曩子行<sup>⑪</sup>，今子止；曩子坐，今子起。何其无特操与<sup>⑫</sup>？”景曰：“吾有待而然者邪？吾所待又有待而然者邪？吾待蛇蚺蜺翼邪？恶识所以然？恶识所以不然？”

昔者庄周梦为胡蝶，栩栩然胡蝶也。自喻适志与！不知周也。俄然觉，则蓬蓬然周也<sup>⑬</sup>。不知周之梦为胡蝶与？胡蝶之梦为周与？周与胡蝶则必有分矣。此之谓物化<sup>⑭</sup>。

## 养生主<sup>⑮</sup>

吾生也有涯，而知也无涯。以有涯随无涯，殆已！已而为知者<sup>⑯</sup>，殆而已矣！为善无近名，为恶无近刑，缘督以为经<sup>⑰</sup>，可以保身，可以全生，可以养亲，可以尽年。

庖丁为文惠君解牛<sup>⑱</sup>，手之所触，肩之所倚，足之所履，膝之所踣<sup>⑲</sup>，砉然响然<sup>⑳</sup>，奏刀騞然<sup>㉑</sup>，莫不中音，合于桑林之舞，乃中经首之会。

文惠君曰：“嘻，善哉！技盖至此乎？”庖丁释刀对曰：“臣之所好者道也，进乎技矣。始臣之解牛之时，所见无非全牛者；三年之

后，未尝见全牛也；方今之时，臣以神遇而不以目视，官知止而神欲行。依乎天理；批大郤<sup>㉒</sup>，导大窾<sup>㉓</sup>，因其固然。技经肯綮之未尝<sup>㉔</sup>，而况大辄乎<sup>㉕</sup>！良庖岁更刀，割也；族庖月更刀<sup>㉖</sup>，折也；今臣之刀十九年矣，所解数千牛矣，而刀刃若新发于硎<sup>㉗</sup>。彼节者有间而刀刃者无厚，以无厚入有间，恢恢乎其于游刃必有余地矣。是以十九年而刀刃若新发于硎。虽然，每至于族<sup>㉘</sup>，吾见其难为，怵然为戒，视为止，行为迟，动刀甚微，謦然已解<sup>㉙</sup>，如土委地。提刀而立，为之四顾，为之踌躇满志，善刀而藏之。”文惠君曰：“善哉！吾闻庖丁之言，得养生焉。”

公文轩见右师而惊曰：“是何人也？恶乎介也<sup>㉚</sup>？天与？其人与？”曰：“天也，非人也。天之生是使独也，人之貌有与也。以是知其天也，非人也。”

泽雉十步一啄，百步一饮，不蕲畜乎樊中。神虽王<sup>㉛</sup>，不善也。

老聃死，秦失吊之，三号而出。弟子曰：“非夫子之友邪？”曰：“然。”“然则吊焉若此可乎？”曰：“然。始也吾以为其人也，而今非也。向吾人而吊焉，有老者哭之，如哭其子；少者哭之，如哭其母。彼其所以会之，必有不蕲言而言，不蕲哭而哭者，是遁天倍情<sup>㉜</sup>，忘其所受，古者谓之遁天之刑<sup>㉝</sup>。适来，夫子时也；适去，夫子顺也。安时而处顺，哀乐不能入也，古者谓是帝之县解<sup>㉞</sup>。”

指穷于为薪<sup>㉟</sup>，火传也，不知其尽也。

## 人间世<sup>㊱</sup>

颜回见仲尼，请行。曰：“奚之？”曰：“将之卫。”曰：“奚为焉？”曰：“回闻卫君，其年壮，其行独。轻用其国而不见其过。轻用民死，死者以国量<sup>㊲</sup>，乎泽若蕉<sup>㊳</sup>，民其无如矣<sup>㊴</sup>？回尝闻之夫子曰：‘治国去之，乱国就之。医门多疾。’愿以所闻思其则，庶几其国有瘳乎<sup>㊵</sup>！”

仲尼曰：“嘻，若殆往而刑耳<sup>㊶</sup>！夫道不

欲杂，杂则多，多则扰，扰则忧，忧而不救。古之至人，先存诸己而后存诸人。所存于己者未定，何暇至于暴人之所行！且若亦知夫德之所荡而知之所为出乎哉？德荡乎名，知出乎争。名也者，相轧也；知也者，争之器也。二者凶器，非所以尽行也<sup>①</sup>。

且德厚信<sup>②</sup>，未达人气<sup>③</sup>，名闻不争，未达人心。而强以仁义绳墨之言术暴人之前者<sup>④</sup>，是以人恶有其美也<sup>⑤</sup>，命之曰菑人<sup>⑥</sup>。菑人者，人必反菑之。若殆为人菑夫。

且苟为悦贤而恶不肖，恶用而求有以异？若唯无谄，王公必将乘人而斗其捷。而目将荧之<sup>⑦</sup>，而色将平之<sup>⑧</sup>，口将营之<sup>⑨</sup>，容将形之<sup>⑩</sup>，心且成之<sup>⑪</sup>。是以火救火，以水救水，名之曰益多。顺始无穷<sup>⑫</sup>，若殆以不信厚言<sup>⑬</sup>，必死于暴人之前矣！

且昔者桀杀关龙逢，纣杀王子比干，是皆修其身以下伛拊人之民<sup>⑭</sup>，以下拂其上者也，故其君因其修以挤之。是好名者也。

昔者尧攻丛枝、胥、敖，禹攻有扈。国为虚厉<sup>⑮</sup>，身为刑戮。其用兵不止，其求实无已，是皆求名实者也，而独不闻之乎？名实者，圣人之所不能胜也，而况若乎！虽然，若必有以也，尝以语我来<sup>⑯</sup>。”

颜回曰：“端而虚，勉而一，则可乎？”曰：“恶！恶可！夫以阳为充孔扬<sup>⑰</sup>，采色不定<sup>⑱</sup>，常人之所不违，因案人之所感<sup>⑲</sup>，以求容与其心，名之曰日渐之德不成，而况大德乎！将执而不化<sup>⑳</sup>，外合而内不訾<sup>㉑</sup>，其庸詎可乎！”

“然则我内直而外曲<sup>㉒</sup>，成而上比<sup>㉓</sup>。内直者，与天为徒。与天为徒者，知天子之与己<sup>㉔</sup>，皆天之所子，而独以己言薪乎而人善之，薪乎而人不善之邪？若然者，人谓之童子，是之谓与天为徒。外曲者，与人之为徒也。擎跽曲拳<sup>㉕</sup>，人臣之礼也。人皆为之，吾敢不为邪？为人之所为者，人亦无疵焉，是之谓与人为徒。成而上比者，与古为徒。其言虽教谏之实也<sup>㉖</sup>，古之有也，非吾有也。若然者，虽直而不病，是之谓与古为徒。若

是则可乎？”仲尼曰：“恶！恶可！大多政法而不谍<sup>㉗</sup>。虽固<sup>㉘</sup>，亦无罪。虽然，止是耳矣，夫胡可以及化！犹师心者也。”

颜回曰：“吾无以进矣，敢问其方。”仲尼曰：“斋<sup>㉙</sup>，吾将语若。有心而为之，其易邪？易之者，皤天不宜<sup>㉚</sup>。”颜回曰：“回之家贫，唯不饮酒茹荤者数月矣。如此则可以为斋乎？”曰：“是祭祀之斋，非心斋也。”

回曰：“敢问心斋。”仲尼曰：“若一志，无听之以耳而听之以心；无听之以心而听之以气。听止于耳，心止于符<sup>㉛</sup>。气也者，虚而待物者也。唯道集虚。虚者，心斋也。”

颜回曰：“回之未始得使<sup>㉜</sup>，实自回也；得使之也，未始有回也，可谓虚乎？”夫子曰：“尽矣！吾语若：若能人游其樊而无感其名<sup>㉝</sup>，入则鸣<sup>㉞</sup>，不入则止。无门无毒<sup>㉟</sup>，一宅而寓于不得已则几矣<sup>㊱</sup>。绝迹易，无行地难。为人使易以伪<sup>㊲</sup>，为天使难以伪。闻以有翼飞者矣，未闻以无翼飞者矣；闻以有知知者矣，未闻以无知知者也。瞻彼阕者<sup>㊳</sup>，虚室生白，吉祥止止<sup>㊴</sup>。夫且不止，是之谓坐驰<sup>㊵</sup>。夫徇耳目内通而外于心知，鬼神将来舍，而况人乎！是万物之化也，禹、舜之所纽也<sup>㊶</sup>，伏戏、几蘧之所行终<sup>㊷</sup>，而况散焉者乎！”

叶公子高将使于齐，问于仲尼曰：“王使诸梁也甚重<sup>㊸</sup>。齐之待使者，盖将甚敬而不急<sup>㊹</sup>。匹夫犹未可动，而况诸侯乎！吾甚栗之。子常语诸梁也曰：‘凡事若小若大，寡不道以欢成<sup>㊺</sup>。事若不成，则必有人道之患；事若成，则必有阴阳之患。若成若不成而后无患者，唯有德者能之。’吾食也执粗而不臧<sup>㊻</sup>，囊无欲清之人。今吾朝受命而夕饮冰，我其内热与！吾未至乎事之情而既有阴阳之患矣！事若不成，必有人道之患，是两也<sup>㊼</sup>。为人臣者不足以任之，子其有以语我来！”

仲尼曰：“天下有大戒二：其一命也，其一义也。子之爱亲，命也，不可解于心；臣之事君，义也，无适而非君也，无所逃于天地之间。是之谓大戒。是以夫事其亲者，不

择地而安之，孝之至也；夫事其君者，不择事而安之，忠之盛也；自事其心者，哀乐不易施乎前，知其不可奈何而安之若命，德之至也。为人臣子者，固有所不得已。行事之情而忘其身，何暇至于悦生而恶死！夫子其行可矣！

丘请复以所闻：凡交近则必相靡以信，远则必忠之以言。言必或传之。夫传两喜两怒之言<sup>①</sup>，天下之难者也。夫两喜必多溢美之言，两怒必多溢恶之言。凡溢之类妄，妄则其信之也莫<sup>②</sup>，莫则传言者殃。故法言曰：‘传其常情，无传其溢言，则几乎全。’

且以巧斗力者<sup>③</sup>，始乎阳<sup>④</sup>，常卒乎阴<sup>⑤</sup>，泰至则多奇巧<sup>⑥</sup>；以礼饮酒者，始乎治<sup>⑦</sup>，常卒乎乱，泰至则多奇乐。凡事亦然，始乎谅，常卒乎鄙<sup>⑧</sup>；其作始也简，其将毕也必巨<sup>⑨</sup>。言者，风波也<sup>⑩</sup>；行者，实丧也<sup>⑪</sup>。夫风波易以动，实丧易以危。故忿设无由<sup>⑫</sup>，巧言偏辞。兽死不择音，气息斐然<sup>⑬</sup>，于是并生心厉<sup>⑭</sup>。剋核太至<sup>⑮</sup>，则必有不肖之心应之而不知其然也。苟为不知其然也，孰知其所终！故法言曰：‘无迁令<sup>⑯</sup>，无劝成<sup>⑰</sup>。过度益也<sup>⑱</sup>。’迁令劝成殆事。美成在久<sup>⑲</sup>，恶成不及改，可不慎与！且夫乘物以游心，托不得已以养中<sup>⑳</sup>，至矣。何作为报也<sup>㉑</sup>！莫若为致命<sup>㉒</sup>，此其难者？”

颜阖将傅卫灵公太子<sup>㉓</sup>，而问于蘧伯玉曰：“有人于此，其德天杀<sup>㉔</sup>。与之为无方则危吾国<sup>㉕</sup>，与之为有方则危吾身。其知适足以知人之过，而不知其所以过。若然者，吾奈之何？”蘧伯玉曰：“善哉问乎！戒之，慎之，正女身也哉！形莫若就<sup>㉖</sup>，心莫若和。虽然，之二者有患。就不欲入，和不欲出。形就而入，且为颠为灭，为崩为蹶；心和而出，且为声为名，为妖为孽。彼且为婴儿，亦与之无婴儿；彼且为无町畦，亦与之无町畦；彼且为无崖，亦与之无崖；达之，入于无疵。

汝不知夫螳螂乎？怒其臂以当车辙<sup>㉗</sup>，不知其不胜任也，是其才之美者也。戒之，

慎之，积伐而美者以犯之<sup>㉘</sup>，几矣！

汝不知夫养虎者乎？不敢以生物与之，为其杀之之怒也；不敢以全物与之，为其决之之怒也。时其饥饱，达其怒心。虎之与人异类，而媚养己者，顺也；故其杀者，逆也。

夫爱马者，以筐盛矢<sup>㉙</sup>，以蜾蠃盛溺<sup>㉚</sup>。适有蚊虻仆缘<sup>㉛</sup>，而拊之不时<sup>㉜</sup>，则缺衔毁首碎胸<sup>㉝</sup>。意有所至而爱有所亡，可不慎邪！”

匠石之齐，至于曲辕，见栎社树<sup>㉞</sup>。其大蔽数千牛，絜之百围<sup>㉟</sup>，其高临山十仞而后有枝，其可以为舟者旁十数。观者如市，匠伯不顾，遂行不辍。弟子厌观之<sup>㊱</sup>，走及匠石，曰：“自吾执斧斤以随夫子，未尝见材如此其美也。先生不肯视，行不辍，何邪？”曰：“已矣，勿言之矣！散木也。以为舟则沉，以为棺槨则速腐，以为器则速毁，以为门户则液樗<sup>㊲</sup>，以为柱则蠹，是不材之木也。无所可用，故能若是之寿。”

匠石归，栎社见梦曰：“女将恶乎比予哉？若将比予于文木邪？夫狙梨橘柚果蓏之属<sup>㊳</sup>，实熟则剥<sup>㊴</sup>，剥则辱。大枝折，小枝泄<sup>㊵</sup>。此以其能苦其生者也。故不终其天年而中道夭，自培击于世俗者也。物莫不若是。且予求无所可用久矣！几死，乃今得之，为予大用。使予也而有用，且得有此大也邪？且也若与予也皆物也，奈何哉其相物也？而几死之散人，又恶知散木！”匠石觉而诊其梦<sup>㊶</sup>。弟子曰：“趣取无用，则为社何邪？”曰：“密！若无言！彼亦直寄焉<sup>㊷</sup>！以为不知己者诟厉也。不为社者，且几有翦乎<sup>㊸</sup>！且也彼其所保与众异，而以义喻之，不亦远乎！”

南伯子綦游乎商之丘，见大木焉，有异：结驷千乘，隐，将芘其所藪<sup>㊹</sup>。子綦曰：“此何木也哉！此必有异材夫！”仰而视其细枝，则拳曲而不可以为栋梁；俯而视其大根，则轴解而不可以为棺槨；咕其叶<sup>㊺</sup>，则口烂而为伤；嗅之，则使人狂醒三日而不已<sup>㊻</sup>。子綦曰：“此果不材之木也，以至于此其大也。嗟乎，神人以此不材。”

宋有荆氏者，宜楸柏桑<sup>⑨</sup>。其拱把而上者<sup>⑩</sup>，求狙猴之杙者斫之<sup>⑪</sup>；三围四围，求高名之丽者斫之<sup>⑫</sup>；七围八围，贵人富商之家求榱桷者斫之<sup>⑬</sup>。故未终其天年而中道之夭于斧斤，此材之患也。故解之以牛之白颡者<sup>⑭</sup>，与豚之亢鼻者，与人有痔病者，不可以适河。此皆巫祝以知之矣，所以为不祥也。此乃神人之所以为大祥也。

支离疏者，颐隐于脐，肩高于顶，会撮指天<sup>⑮</sup>，五管在上<sup>⑯</sup>，两髀为肋<sup>⑰</sup>。挫针治繆<sup>⑱</sup>，足以饷口；鼓箠播精<sup>⑲</sup>，足以食十人。上征武士，则支离攘臂而游于其间，上有大役，则支离以有常疾不受功；上与病者粟，则受三钟与十束薪。夫支离其形者，犹足以养其身，终其天年，又况支离其德者乎！

孔子适楚，楚狂接舆游其门曰：“凤兮凤兮，何如德之衰也。来世不可待，往世不可追也。天下有道，圣人成焉；天下无道，圣人生焉。方今之时，仅免刑焉！福轻乎羽，莫之知载；祸重乎地，莫之知避。已乎，已乎！临人以德。殆乎！殆乎！画地而趋。迷阳迷阳<sup>⑳</sup>，无伤吾行。吾行郢曲<sup>㉑</sup>，无伤吾足。”

山木，自寇也<sup>㉒</sup>；膏火，自煎也。桂可食，故伐之；漆可用，故割之。人皆知有用之用，而莫知无用之用也。

## 德充符<sup>㉓</sup>

鲁有兀者王骀<sup>㉔</sup>，从之游者与仲尼相若。常季问于仲尼曰：“王骀，兀者也，从之游者与夫子中分鲁。立不教，坐不议。虚而往，实而归。固有不言之教，无形而心成者邪？是何人也？”仲尼曰：“夫子，圣人也，丘也直后而未往耳！丘将以为师，而况不若丘者乎！奚假鲁国，丘将引天下而与从之。”

常季曰：“彼兀者也，而王先生<sup>㉕</sup>，其与庸亦远矣<sup>㉖</sup>。若然者，其用心也，独若之何？”仲尼曰：“死生亦大矣，而不得与之变；虽天地覆坠，亦将不与之遗；审乎无假而不与物

迁，命物之化而守其宗也。”

常季曰：“何谓也？”仲尼曰：“自其异者视之，肝胆楚越也；自其同者视之，万物皆一也。夫若然者，且不知耳目之所宜，而游心乎德之和。物视其所一而不见其所丧，视丧其足犹遗土也。

常季曰：“彼为己，以其知得其心，以其心得其常心。物何为最之哉<sup>㉗</sup>？”仲尼曰：“人莫鉴于流水而鉴于止水。唯止能止众止。受命于地，唯松柏独也正，在冬夏青青；受命于天，唯尧、舜独也正，在万物之首。幸能正生，以正众生。夫保始之微，不惧之实，勇士一人，雄入于九军。将求名而能自要者而犹若是，而况官天地、府万物、直寓六骸、象耳目、一知之所知而心未尝死者乎！彼且择日而登假，人则从是也。彼且何可以物为事乎<sup>㉘</sup>！”

申徒嘉，兀者也，而与郑子产同师于伯昏无人。子产谓申徒嘉曰：“我先出则子止<sup>㉙</sup>，子先出则我止。”其明日，又与合堂同席而坐。子产谓申徒嘉曰：“我先出则子止，子先出则我止。今我将出，子可以止乎？其未邪？且子见执政而不违，子齐执政乎<sup>㉚</sup>？”申徒嘉曰：“先生之门固有执政焉如此哉？子而说子之执政而后人者也<sup>㉛</sup>。闻之曰：‘鉴明则尘垢不止，止则不明也。久与贤人处则无过。’今子之所取大者，先生也，而犹出言若是，不亦过乎！”

子产曰：“子既若是矣，犹与尧争善。计子之德，不足以自反邪？”申徒嘉曰：“自状其过以不当亡者众<sup>㉜</sup>；不状其过以不当存者寡。知不可奈何而安之若命，唯有德者能之。游于羿之毂中<sup>㉝</sup>，中央者，中地也<sup>㉞</sup>；然而不中者，命也。人以其全足笑吾不全足者多矣，我怫然而怒，而适先生之所，则废然而反。不知先生之洗我以善邪？吾之自牖邪？吾与夫子游十九年矣，而未尝知吾兀者也。今子与我游于形骸之内，而子索我于形骸之外，不亦过乎！”子产蹴然改容更貌曰：“子无乃称<sup>㉟</sup>！”



魯有兀者叔山无趾，踵见仲尼<sup>⑬</sup>。仲尼曰：“子不谨，前既犯患若是矣。虽今来，何及矣！”无趾曰：“吾唯不知务而轻用吾身，吾是以亡足。今吾来也，犹有尊足者存，吾是以务全之也。夫天无不覆，地无不载，吾以夫子为天地，安知夫子之犹若是也！”孔子曰：“丘则陋矣！夫子胡不入乎！请讲以所闻。”无趾出。孔子曰：“弟子勉之！夫无趾，兀者也，犹务学以复补前行之恶，而况全德之人乎！”

无趾语老聃曰：“孔丘之于至人，其未邪？彼何冥冥以学子为？彼且薪以诳诡幻怪之名闻<sup>⑭</sup>，不知至人之以是为己桎梏邪？”老聃曰：“胡不直使彼以死生为一条，以可不可为一贯者，解其桎梏，其可乎？”无趾曰：“天刑之，安可解！”

魯哀公问于仲尼曰：“卫有恶人焉<sup>⑮</sup>，曰哀骀它<sup>⑯</sup>。丈夫与之处者，思而不能去也；妇人见之，请于父母曰‘与为人妻，宁为夫子妾’者，十数而未止也。未尝有闻其唱者也<sup>⑰</sup>，常和人而已矣。无君子之位以济乎人之死，无聚禄以望人之腹，又以恶骇天下，和而不唱，知不出乎四域，且而雌雄合乎前，是必有异乎人者也。寡人召而观之，果以恶骇天下。与寡人处，不至以月数，而寡人有意乎其为人也；不至乎期年，而寡人信之。国无宰，寡人传国焉。闷然而后应<sup>⑱</sup>，汜若辞<sup>⑲</sup>。寡人丑乎<sup>⑳</sup>，卒授之国。无几何也，去寡人而行。寡人恤焉若有亡也，若无与乐是国也。是何人者也！”

仲尼曰：“丘也尝使于楚矣，适见豚子食于其死母者<sup>㉑</sup>。少焉眴若<sup>㉒</sup>，皆弃之而走。不见己焉尔，不得类焉尔。所爱其母者，非爱其形也，爱使其形者也。战而死者，其人之葬也不以鬻资<sup>㉓</sup>；刑者之屣，无为爱之。皆无其本矣。为天子之诸侯：不爪翦，不穿耳；取妻者止于外<sup>㉔</sup>，不得复使。形全犹足以为尔，而况全德之人乎！今哀骀它未言而信，无功而亲，使人授己国，唯恐其不受也，是必才全而德不形者也。”

哀公曰：“何谓才全？”仲尼曰：“死生、存亡、穷达、贫富、贤与不肖、毁誉、饥渴、寒暑，是事之变、命之行也。日夜相代乎前，而知不能规乎其始者也。故不足以滑和<sup>㉕</sup>，不可入于灵府<sup>㉖</sup>。使之和豫<sup>㉗</sup>，通而不失于兑<sup>㉘</sup>。使日夜无郤<sup>㉙</sup>，而与物为春<sup>㉚</sup>，是接而生时于心者也<sup>㉛</sup>。是之谓才全。”“何谓德不形？”曰：“平者，水停之盛也<sup>㉜</sup>。其可以为法也，内保之而外不荡也。德者，成和之脩也<sup>㉝</sup>。德不形者，物不能离也。”

哀公异日以告闵子曰：“始也吾以南面而君天下，执民之纪而忧其死，吾自以为至通矣。今吾闻至人之言，恐吾无其实，轻用吾身而亡其国。吾与孔丘非君臣也，德友而已矣！”

闾跖支离无脰说卫灵公<sup>㉞</sup>，灵公说之<sup>㉟</sup>，而视全人：其脰肩肩<sup>㊱</sup>。瓮盎大癭说齐桓公<sup>㊲</sup>，桓公说之，而视全人：其脰肩肩。故德有所长而形有所忘。人不忘其所忘而忘其所不忘，此谓诚忘。

故圣人有所游，而知因孽<sup>㊳</sup>，约为胶，德为接<sup>㊴</sup>，工为商<sup>㊵</sup>。圣人不谋，恶用知？不斲<sup>㊶</sup>，恶用胶？无丧，恶用德？不货，恶用商？四者，天鬻也<sup>㊷</sup>。天鬻也，天食也。即受食于天，又恶用人<sup>㊸</sup>！

有人之形，无人之情。有人之形，故群于人；无人之情，故是非不得于身。眇乎小哉<sup>㊹</sup>，所以属于人也；警乎大哉<sup>㊺</sup>，独成其天<sup>㊻</sup>。

惠子谓庄子曰：“人故无情乎？”庄子曰：“然。”惠子曰：“人而无情，何以谓之人？”庄子曰：“道与之貌，天与之形，恶得不谓之人？”惠子曰：“既谓之人，恶得无情？”庄子曰：“是非吾所谓情也。吾所谓无情者，言人之不以好恶内伤其身，常因自然而不益生也<sup>㊼</sup>。”惠子曰：“不益生，何以有其身？”庄子曰：“道与之貌，天与之形，无以好恶内伤其身。今子外乎子之神，劳乎子之精，倚树而吟，据槁梧而瞑。天选子之形，子以坚白鸣。”

## 大宗师<sup>⑤</sup>

知天之所为，知人之所为者，至矣！知天之所为者，天而生也；知人之所为者，以其知之所知以养其知之所不知，终其天年而不中道夭者，是知之盛也。虽然，有患：夫知有所待而后当，其所待者特未定也。庸詎知吾所谓天之非人乎<sup>⑥</sup>？所谓人之非天乎？且有真人而后有真知。

何谓真人？古之真人，不逆寡<sup>⑦</sup>，不雄成<sup>⑧</sup>，不漠士<sup>⑨</sup>。若然者，过而弗悔，当而不自得也。若然者，登高不栗<sup>⑩</sup>，入水不濡<sup>⑪</sup>，入火不热，是知之能登假于道者也若此。

古之真人，其寝不梦，其觉无忧，其食不甘，其息深深。真人之息以踵，众人之息以喉。屈服者，其嗟言若哇<sup>⑫</sup>。其耆欲深者，其天机浅。

古之真人，不知说生<sup>⑬</sup>，不知恶死。其出不诟<sup>⑭</sup>，其入不距<sup>⑮</sup>。翛然而往<sup>⑯</sup>，翛然而来而已矣。不忘其所始，不求其所终。受而喜之<sup>⑰</sup>，忘而复之<sup>⑱</sup>。是之谓不以心捐道<sup>⑲</sup>，不以人助天，是之谓真人。若然者，其心志，其容寂，其颡颥<sup>⑳</sup>。凄然似秋，暖然似春，喜怒通四时，与物有宜而莫知其极。故圣人之用兵也，亡国而不失人心。利泽施乎万世，不为爱人。故乐通物，非圣人也；有亲，非仁也；天时，非贤也；利害不通，非君子也；行名失己，非士也；亡身不真，非役人也。若狐不偕、务光、伯夷、叔齐、箕子、胥余、纪他、申徒狄，是役人之役，适人之适，而不自适其适者也。

古之真人，其状义而不朋<sup>㉑</sup>，若不足而不承<sup>㉒</sup>，与乎其觚而不坚也<sup>㉓</sup>，张乎其虚而不华也<sup>㉔</sup>，邴邴乎其似喜也<sup>㉕</sup>，崔崔乎其不得已也<sup>㉖</sup>，濔濔乎进我色也<sup>㉗</sup>，与乎止我德也<sup>㉘</sup>，广乎其似世也<sup>㉙</sup>，瞿乎其未可制也<sup>㉚</sup>，连乎其似好闭也<sup>㉛</sup>，怵乎其忘其言也<sup>㉜</sup>。以刑为体，以礼为翼，以知为时，以德为循。以刑为体者，绰乎其杀也<sup>㉝</sup>；以礼为翼者，所以行于

世也；以知为时者，不得已于事也；以德为循者，言其与有足者至于丘也，而人真以为勤行者也。故其好之也一，其弗好之也一。其一也一，其不一也一。其一与天为徒，其不一与人为徒，天与人不相胜也，是之谓真人。

死生，命也，其有夜旦之常，天也。人之有所不得与，皆物之情也。彼特以天为父，而身犹爱之，而况其卓乎<sup>㉞</sup>！人特以有君为愈乎己<sup>㉟</sup>，而身犹死之，而况其真乎！。

泉涸，鱼相与处于陆，相呴以湿<sup>㊱</sup>，相濡以沫，不如相忘于江湖。与其誉尧而非桀也，不如两忘而化其道<sup>㊲</sup>。

夫大块载我以形，劳我以生，佚我以老<sup>㊳</sup>，息我以死。故善吾生者，乃所以善吾死也。夫藏舟于壑，藏山于泽，谓之固矣！然而夜半有力者负之而走，昧者不知也。藏小大有宜，犹有所遁<sup>㊴</sup>。若夫藏天下于天下而不得所遁，是恒物之大情也。特犯人之形而犹喜之<sup>㊵</sup>。若人之形者，万化而未始有极也，其为乐可胜计邪？故圣人将游于物之所得遁而皆存。善妖善老<sup>㊶</sup>，善始善终，人犹效之，又况万物之所系而一化之所待乎！

夫道有情有信，无为无形；可传而不可受，可得而不可见；自本自根，未有天地，自古以固存；神鬼神帝，生天生地；在太极之先而不为高，在六极之下而不为深，先天地生而不为久，长于上古而不为老。舜韦氏得之<sup>㊷</sup>，以挈天地；伏戏氏得之<sup>㊸</sup>，以袭气母；维斗得之，终古不忒；日月得之，终古不息；堪坏得之，以袭昆仑；冯夷得之，以游大川；肩吾得之，以处大山；黄帝得之，以登云天；颡顓得之<sup>㊹</sup>，以处玄宫；禺强得之，立乎北极；西王母得之，坐乎少广，莫知其始，莫知其终；彭祖得之，上及有虞，下及五伯；傅说得之，以相武丁，奄有天下，乘东维、骑箕尾而比于列星。

南伯子葵问乎女偶曰<sup>㊺</sup>：“子之年长矣，而色若孺子，何也？”曰：“吾闻道矣。”南伯子葵曰：“道可得学邪？”曰：“恶！恶可！子非其

人也。夫卜梁倚有圣人之才而无圣人之道，我有圣人之道而无圣人之才。吾欲以教之，庶几其果为圣人乎？不然，以圣人之道告圣人之才，亦易矣。吾犹守而告之，参日而后能外天下；已外天下矣，吾又守之，七日而后能外物；已外物矣，吾又守之，九日而后能外生；已外生矣，而后能朝彻<sup>㉔</sup>；朝彻而后能见独<sup>㉕</sup>；见独而后能无古今；无古今而后能入于不死不生。杀生者不死，生生者不生。其为物无不将也，无不迎也，无不毁也，无不成也。其名为撝宁<sup>㉖</sup>。撝宁也者，撝而后成者也。”

南伯子葵曰：“子独恶乎闻之？”曰：“闻诸副墨之子，副墨之子闻诸洛诵之孙，洛诵之孙闻之瞻明，瞻明闻之聂许，聂许闻之需役，需役闻之于讴，于讴闻之玄冥，玄冥闻之参寥，参寥闻之疑始。”

子祀、子舆、子犁、子来四人相与语曰：“孰能以无为首，以生为脊，以死为尻；孰知死生存亡之一体者，吾与之友矣！”四人相视而笑，莫逆于心，遂相与为友。俄而子舆有病，子祀往问之。曰：“伟哉，夫造物者将以予为此拘拘也<sup>㉗</sup>。”曲偻发背<sup>㉘</sup>，上有五管，颐隐于齐，肩高于顶，句赘指天<sup>㉙</sup>，阴阳之气有沴<sup>㉚</sup>，其心闲而无事，跼蹐而鉴于井<sup>㉛</sup>，曰：“嗟乎！夫造物者又将以予为此拘拘也。”

子祀曰：“女恶之乎？”曰：“亡，予何恶！浸假而化予之左臂以为鸡<sup>㉜</sup>，予因以求时夜；浸假而化予之右臂以为弹，予因以求鸢炙；浸假而化予之尻以为轮，以神为马，予因以乘之，岂更驾哉！且夫得者，时也；失者，顺也。安时而处顺，哀乐不能入也，此古之所谓县解也，而不能自解者，物有结之。且夫物不胜天久矣，吾也何恶焉！”

俄而子来有病，喘喘然将死。其妻子环而泣之。子犁往问之，曰：“叱！避！无怛化<sup>㉝</sup>！倚其户与之语曰：“伟哉造化！又将奚以汝为？将奚以汝适？以汝为鼠肝乎？以汝为虫臂乎？”子来曰：“父母于子，东西南北，

唯命之从。阴阳于人，不翅于父母<sup>㉞</sup>。彼近吾死而我不听，我则悍矣<sup>㉟</sup>，彼何罪焉？夫大块载我以形，劳我以生，佚我以老，息我以死。故善吾生者，乃所以善吾死也。今大冶铸金，金踊跃曰：‘我且必为镆铍<sup>㊱</sup>！’大冶必以为不祥之金。今一犯人之形而曰：‘人耳！人耳！’夫造化者必以为不祥之人。今一以天地为大炉，以造化为大冶，恶乎往而不可哉！”成然寐<sup>㊲</sup>，遽然觉<sup>㊳</sup>。

子桑户、孟子反、子琴张三人相与友，曰：“孰能相与于无相与，相与于无相为？孰能登天游雾，挠挑无极，相忘以生，无所终穷？”三人相视而笑，莫逆于心。遂相与为友。

莫然有间，而子桑户死，未葬。孔子闻之，使子贡往侍事焉。或编曲，或鼓琴，相和而歌曰：“嗟来桑户乎！嗟来桑户乎！而已反其真，而我犹为人猗<sup>㊴</sup>！”子贡趋而进曰：“敢问临尸而歌，礼乎？”二人相视而笑曰：“是恶知礼意！”子贡反，以告孔子曰：“彼何人者邪？修行无有而外其形骸，临尸而歌，颜色不变，无以命之。彼何人者邪？”孔子曰：“彼游方之外者也，而丘游方之内者也。外内不相及，而丘使女往吊之，丘则陋矣！彼方且与造物者为人，而游乎天地之一气。彼以生为附赘县疣<sup>㊵</sup>，以死为决疣溃痈<sup>㊶</sup>。夫若然者，又恶知死生先后之所在！假于异物，托于同体；忘其肝胆，遗其耳目；反复终始，不知端倪；芒然彷徨乎尘垢之外，逍遥乎无为之业。彼又恶能愤愤然为世俗之礼，以观众人之耳目哉！”

子贡曰：“然则夫子何方之依？”孔子曰：“丘，天之戮民也<sup>㊷</sup>。虽然，吾与汝共之。”子贡曰：“敢问其方？”孔子曰：“鱼相造乎水，人相造乎道。相造乎水者，穿池而养给；相造乎道者，无事而生定。故曰：‘鱼相忘乎江湖，人相忘乎道术。’”子贡曰：“敢问畸人<sup>㊸</sup>。”曰：“畸人者，畸于人而侔于天<sup>㊹</sup>。故曰：天之小人，人之君子；人之君子，天之小人也。”

颜回问仲尼曰：“孟孙才，其母死，哭泣

无涕，中心不戚，居丧不哀。无是三者，以善处丧盖鲁国，固有无其实而得其名者乎？回壹怪之。”仲尼曰：“夫孟孙氏尽之矣，进于知矣，唯简之而不得，夫已有所简矣。孟孙氏不知所以生，不知所以死。不知就先，不知就后。若化为物，以待其所不知之化已乎。且方将化，恶知不化哉？方将不化，恶知已化哉？吾特与汝，其梦未始觉者邪！且彼有骇形而无损心<sup>⑩</sup>，有旦宅而无情死<sup>⑪</sup>。孟孙氏特觉，人哭亦哭，是自其所以乃。且也相与‘吾之’耳矣，庸詎知吾所谓‘吾之’乎？且汝梦为鸟而厉乎天<sup>⑫</sup>，梦为鱼而没于渊。不识今之言者，其觉者乎？其梦者乎？造适不及笑，献笑不及排，安排而去化，乃入于寥天一<sup>⑬</sup>。”

意而子见许由，许由曰：“尧何以资汝？”意而子曰：“尧谓我：汝必躬服仁义而明言是非。”许由曰：“而奚来为轶<sup>⑭</sup>？夫尧既已黥汝以仁义<sup>⑮</sup>，而剕汝以是非矣。汝将何以游夫遥荡恣睢转徙之涂乎<sup>⑯</sup>？”

意而子曰：“虽然，吾愿游于其藩<sup>⑰</sup>。”许由曰：“不然。夫盲者无以与乎眉目颜色之好，瞽者无以与乎青黄黼黻之观<sup>⑱</sup>。”意而子曰：“夫无庄之失其美<sup>⑲</sup>，据梁之失其力<sup>⑳</sup>，黄帝之亡其知，皆在炉捶之间耳。庸詎知夫造物者之不息我黥而补我剕，使我乘成以随先生邪<sup>㉑</sup>？”许由曰：“噫！夫可知也。我为汝言其大略：吾师乎<sup>㉒</sup>！吾师乎！矦万物而不为义，泽及万世而不为仁，长于上古而不为老，覆载天地、刻雕众形而不为巧。此所游已！”

颜回曰：“回益矣<sup>㉓</sup>。”仲尼曰：“何谓也？”曰：“回忘仁义矣。”曰：“可矣，犹未也。”他日复见，曰：“回益矣。”曰：“何谓也？”曰：“回忘礼乐矣！”曰：“可矣，犹未也。”他日复见，曰：“回益矣！”曰：“何谓也？”曰：“回坐忘矣。”仲尼蹴然曰：“何谓坐忘？”颜回曰：“堕肢体，黜聪明，离形去知，同于大通，此谓坐忘。”仲尼曰：“同则无好也，化则无常也。而果其贤乎！丘也请从而后也。”

子舆与子桑友。而霖雨十日，子舆曰：“子桑殆病矣！”裹饭而往食之。至子桑之门，则若歌若哭，鼓琴曰：“父邪！母邪！天乎！人乎！”有不任其声而趋举其诗焉。子舆入，曰：“子之歌诗，何故若是？”曰：“吾思夫使我至此极者而弗得也。父母岂欲吾贫哉？天无私覆，地无私载，天地岂私贫我哉？求其为之者而不得也！然而至此极者，命也夫！”

## 骈拇<sup>㉔</sup>

骈拇枝指出乎性哉<sup>㉕</sup>，而侈于德<sup>㉖</sup>；附赘县疣出乎形哉，而侈于性；多方乎仁义而用之者<sup>㉗</sup>，列于五藏哉<sup>㉘</sup>，而非道德之正也。是故骈于足者，连无用之肉也；枝于手者，树无用之指也；多方骈枝于五藏之情者，淫僻于仁义之行<sup>㉙</sup>，而多方于聪明之用也。

是故骈于明者，乱五色，淫文章，青黄黼黻之煌煌非乎？而离朱是已！多于聪者，乱五声，淫六律，金石丝竹黄钟大吕之声非乎？而师旷是已！枝于仁者，擢德塞性以收名声，使天下簧鼓以奉不及之法非乎？而曾、史是已<sup>㉚</sup>！骈于辩者，累瓦结绳窜句，游心于坚白同异之间，而敝跬誉无用之言非乎？而杨、墨是已<sup>㉛</sup>！故此皆多骈旁枝之道，非天下之至正也。

彼正正者<sup>㉜</sup>，不失其性命之情。故合者不为骈，而枝者不为跂；长者不为有余，短者不为不足。是故凫胫虽短<sup>㉝</sup>，续之则忧；鹤胫虽长，断之则悲。故性长非所断，性短非所续，无所去忧也。

意仁义其非人情乎！彼仁人何其多忧也。且夫骈于拇者，决之则泣；枝于手者，斲之则啼。二者或有余于数，或不足于数，其于忧一也。今世之仁人，蒿目而忧世之患<sup>㉞</sup>，不仁之人，决性命之情而饕贵富<sup>㉟</sup>。故意仁义其非人情乎！自三代以下者，天下何其嚣嚣也。

且夫待钩绳规矩而正者，是削其性者也；待绳约胶漆而固者，是侵其德者也；屈

折礼乐，响俞仁义<sup>⑩</sup>，以慰天下之心者，此失其常然也。天下有常然。常然者，曲者不以钩，直者不以绳，圆者不以规，方者不以矩，附离不以胶漆，约束不以纆索<sup>⑪</sup>。故天下诱然皆生<sup>⑫</sup>，而不知其所以生；同焉皆得，而不知其所以得。故古今不二，不可亏也。则仁义又奚连连如胶漆纆索而游乎道德之间为哉！使天下惑也！

夫小惑易方<sup>⑬</sup>，大惑易性。何以知其然邪？自虞氏招仁义以挠天下也，天下莫不奔命于仁义。是非以仁义易其性与？

故尝试论之：自三代以下者，天下莫不以物易其性矣！小人则以身殉利；士则以身殉名；大夫则以身殉家；圣人则以身殉天下。故此数子者，事业不同，名声异号，其于伤性以身为殉，一也。

臧与谷，二人相与牧羊而俱亡其羊。问臧奚事，则挟策读书；问谷奚事，则博塞以游。二人者，事业不同，其于亡羊均也。

伯夷死名于首阳之下，盗跖死利于东陵之上。二人者，所死不同，其于残生伤性均也。奚必伯夷之是而盗跖之非乎？

天下尽殉也：彼其所殉仁义也，则俗谓之君子；其所殉货财也，则俗谓之小人。其殉一也，则有君子焉，有小人焉。若其残生损性，则盗跖亦伯夷已，又恶取君子小人于其间哉！

且夫属其性乎仁义者，虽通如曾、史，非吾所谓臧也<sup>⑭</sup>；属其性于五味，虽通如俞儿，非吾所谓臧也；属其性乎五声，虽通如师旷，非吾所谓臧也；属其性乎五色，虽通如离朱，非吾所谓明也。吾所谓臧者，非仁义之谓也，臧于其德而已矣；吾所谓臧者，非所谓仁义之谓也，任其性命之情而已矣；吾所谓聪者，非谓其闻彼也，自闻而已矣；吾所谓明者，非谓其见彼也，自见而已矣。夫不自见而见彼，不自得而得彼者，是得人之得而不自得其得者也，适人之适而不自适其适者也。夫适人之适而不自适其适，虽盗跖与伯夷，是同为淫僻也。余愧乎道德，是

以上不敢为仁义之操，而下不敢为淫僻之行也。

## 胠箠<sup>⑮</sup>

将为胠箠探囊发匮之盗而为守备，则必摄缄縢<sup>⑯</sup>，固扃鐍<sup>⑰</sup>，此世俗之所谓知也。然而巨盗至，则负匮揭箠担囊而趋，唯恐缄縢扃鐍之不固也。然则乡之所谓知者，不乃为大盗积者也？

故尝试论之：世俗之所谓知者，有不为大盗积者乎？所谓圣者，有不为大盗守者乎？何以知其然邪？昔者齐国邻邑相望，鸡狗之音相闻，罔罟之所布，耒耨之所刺，方二千里。阖四竟之内，所以立宗庙社稷，治邑屋州闾乡曲者，曷尝不法圣人哉？然而田成子一旦杀齐君而盗其国，所盗者岂独其国邪？并与其圣知之法而盗之，故田成子有乎盗贼之名，而身处尧舜之安。小国不敢非，大国不敢诛，十二世有齐国，则是不乃窃齐国并与其圣知之法以守其盗贼之身乎？

尝试论之：世俗之所谓至知者，有不为大盗积者乎？所谓至圣者，有不为大盗守者乎？何以知其然邪？昔者龙逢斩，比干剖，苋弘脔<sup>⑱</sup>，子胥靡<sup>⑲</sup>。故四子之贤而身不免乎戮。故跖之徒问于跖曰：“盗亦有道乎？”跖曰：“何适而无有道邪？夫妄意室中之藏<sup>⑳</sup>，圣也；入先，勇也；出后，义也；知可否，知也；分均，仁也。五者不备而能成大盗者，天下未之有也。”由是观之，善人不得圣人之道不立，跖不得圣人之道不行。天下之善人少而不善人多，则圣人之利天下也少而害天下也多。故曰：唇竭则齿寒，鲁酒薄而邯郸围<sup>㉑</sup>，圣人生而大盗起。掊击圣人<sup>㉒</sup>，纵舍盗贼，而天下始治矣。

夫川竭而谷虚，丘夷而渊实。圣人已死，则大盗不起，天下平而无故矣！圣人不死，大盗不止。虽重圣人而治天下，则是重利盗跖也。为之斗斛以量之<sup>㉓</sup>，则并与斗斛而窃之；为之权衡以称之，则并与权衡而窃之；

为之符玺以信之，则并与符玺而窃之；为之仁义以矫之，则并与仁义而窃之。何以知其然邪？彼窃钩者诛，窃国者为诸侯，诸侯之门而仁义存焉，则是非窃仁义圣知邪？故逐于大盗<sup>⑤</sup>，揭诸侯<sup>⑥</sup>，窃仁义并斗斛权衡符玺之利者，虽有轩冕之赏弗能劝，斧钺之威弗能禁。此重利盗跖而使不可楚者，是乃圣人之过也。

故曰：“鱼不可脱于渊，国之利器不可以示人。”彼圣人者，天下之利器也，非所以明天下也。故绝圣弃知，大盗乃止；擿玉毁珠<sup>⑦</sup>，小盗不起；焚符破玺，而民朴鄙；掊斗折衡，而民不争；殫残天下之圣法，而民始可与论议；擢乱六律<sup>⑧</sup>，铄绝竽瑟<sup>⑨</sup>，塞瞽旷之耳，而天下始人含其聪矣；灭文章，散五采，胶离朱之目，而天下始人含其明矣；毁绝钩绳而弃规矩，搯工倕之指<sup>⑩</sup>，而天下始人有其巧矣。故曰：大巧若拙。削曾、史之行<sup>⑪</sup>，钳杨、墨之口，攘弃仁义，而天下之德始玄同矣。彼人含其明，则天下不铄矣；人含其聪，则天下不累矣；人含其知，则天下不惑矣；人含其德，则天下不僻矣。彼曾、史、杨、墨、师旷、工倕、离朱，皆外立其德而以燿乱天下者也<sup>⑫</sup>，法之所无用也。

子独不知至德之世乎？昔者容成氏、大庭氏、伯皇氏、中央氏、栗陆氏、骊畜氏、轩辕氏、赫胥氏、尊卢氏、祝融氏、伏牺氏、神农氏，当是时也，民结绳而用之。甘其食，美其服，乐其俗，安其居，邻国相望，鸡狗之音相闻，民至老死而不相往来。若此之时，则至治已。今遂至使民延颈举踵，曰“某所有贤者”，赢粮而趣之，则内弃其亲而外去其主之事，足迹接乎诸侯之境，车轨结乎千里之外。则是上好知之过也！

上诚好知而无道，则天下大乱矣！何以知其然邪？夫弓弩毕弋机变之知多<sup>⑬</sup>，则鸟乱于上矣；钩饵罔罟罾筴之知多<sup>⑭</sup>，则鱼乱于水矣；削格罗落置罟之知多<sup>⑮</sup>，则兽乱于泽矣；知诈渐毒、颀滑坚白、解垢同异之变

多<sup>⑯</sup>，则俗惑于辩矣。故天下每每大乱，罪在于好知。故天下皆知求其所不知而莫知求其所已知者，皆知非其所不善而莫知非其所已善者，是以大乱。故上悖日月之明<sup>⑰</sup>，下烁山川之精<sup>⑱</sup>，中堕四时之施<sup>⑲</sup>，惴栗之虫<sup>⑳</sup>，肖翘之物<sup>㉑</sup>，莫不失其性。甚矣，夫好知之乱天下也！自三代以下者是已！舍夫种种之民而悦夫役役之佞；释夫恬淡无为而悦夫嗷嗷之意<sup>㉒</sup>，嗷嗷已乱天下矣！

## 刻意<sup>㉓</sup>

刻意尚行，离世异俗，高论怨诽，为亢而已矣<sup>㉔</sup>。此山谷之士，非世之人，枯槁赴渊者之所好也。语仁义忠信，恭俭推让，为修而已矣。此平世之士，教诲之人，游居学者之所好也。语大功，立大名，礼君臣，正上下，为治而已矣。此朝廷之士，尊主强国之人，致功并兼者之所好也。就藪泽<sup>㉕</sup>，处闲旷，钓鱼闲处，无为而矣。此江海之士，避世之人，闲暇者之所好也。吹呴呼吸<sup>㉖</sup>，吐故纳新，熊经鸟申<sup>㉗</sup>，为寿而已矣。此道引之士<sup>㉘</sup>，养形之人，彭祖寿考者之所好也。若夫不刻意而高，无仁义而修，无功名而治，无江海而闲，不道引而寿，无不忘也<sup>㉙</sup>，无不有也。淡然无极而众美从之。此天地之道，圣人之德也。

故曰：夫恬惔寂寞<sup>㉚</sup>，虚无无为，此天地之平而道德之质也<sup>㉛</sup>。故曰：圣人休休焉则平易矣<sup>㉜</sup>。平易则恬惔矣。平易恬惔，则忧患不能入，邪气不能袭，故其德全而神不亏。故曰：圣人之生也天行<sup>㉝</sup>，其死也物化<sup>㉞</sup>。静而与阴同德<sup>㉟</sup>，动而与阳同波<sup>㊱</sup>。不为福先<sup>㊲</sup>，不为祸始。感而后应，迫而后动，不得已而后起。去知与故<sup>㊳</sup>，循天之理。故无天灾，无物累，无人非，无鬼责。其生若浮，其死若休。不思虑，不豫谋。光矣而不耀，信矣而不期。其寝不梦，其觉无忧。其神纯粹，其魂不罢。虚无恬惔，乃合天德。故曰：悲乐者，德之邪也；喜怒者，道之过

也；好恶者，德之失也。故心不忧乐，德之至也；一而不变，静之至也；无所于忤，虚之至也；不与物交，佚之至也；无所于逆，粹之至也。故曰：形劳而不休则弊，精用而不已则劳，劳则竭。水之性，不杂则清，莫动则平；郁闭而不流，亦不能清；天德之象也。故曰：纯粹而不杂，静一而不变，佚而无为，动而以天行，此养神之道也。

夫有干越之剑者，柙而藏之<sup>⑤</sup>，不敢用也，宝之至也。精神四达并流，无所不极，上际于天，下蟠于地<sup>⑥</sup>，化育万物，不可为象，其名为同帝<sup>⑦</sup>。纯素之道，唯神是守。守而勿失，与神为一。一之精通，合于天伦。野语有之曰：“众人重利，廉士重名，贤士尚志，圣人贵精。”故素也者，谓其无所与杂世；纯也者，谓其不亏其神也。能体纯素；谓之真人。

## 缮性<sup>⑧</sup>

缮性于俗学，以求复其初；滑欲于俗思<sup>⑨</sup>，以求致其明<sup>⑩</sup>，谓之蔽蒙之民<sup>⑪</sup>。

古之治道者，以恬养知。生而无以知为也，谓之以知养恬。知与恬交相养，而和理出其性<sup>⑫</sup>。夫德，和也；道，理也。德无不容，仁也；道无不理，义也；义明而物亲，忠也；中纯实而反乎情，乐也；信行容体而顺乎文，礼也。礼乐遍行，则天下乱矣。彼正而蒙己德，德则不冒<sup>⑬</sup>。冒则物必失其性也。古之人，在混芒之中<sup>⑭</sup>，与一世而得淡漠焉。当是时也，阴阳和静，鬼神不扰，四时得节，万物不伤，群生不夭，人虽有知，无所用之，此之谓至一。当是时也，莫之为而常自然。

逮德下衰<sup>⑮</sup>，及燧人、伏羲始为天下，是故顺而常一。德又下衰，及神农、黄帝始为天下，是故安而不顺。德又下衰，及唐、虞始为天下，兴治化之流，澡淳散朴<sup>⑯</sup>，离道以善，险德以行，然后去性而从于心。心与心识知<sup>⑰</sup>，而不足以定天下，然后附之以

文，益之以博。文灭质，博溺心，然后民始惑乱，无以反其性情而复其初。由是观之，世丧道矣，道丧世矣，世与道交相丧也。道之人何由兴乎世，世亦何由兴乎道哉！道无以兴乎世，世无以兴乎道，虽圣人不在山林之中，其德隐矣。隐故不自隐。古之所谓隐士者，非伏其身而弗见也，非闭其言而不出也，非藏其知而不发也，时命大谬也。当时命而大行乎天下，则反一无迹；不当时命而大穷乎天下，则深根宁极而待；此存身之道也。古之存身者，不以辩饰知，不以知穷天下，不以知穷德，危然处其所而反其性，已又何为哉！道固不小行，德固不小识。小识伤德，小行伤道。故曰：正己而已矣。乐全之谓得志。

古之所谓得志者，非轩冕之谓也，谓其无以益其乐而已矣。今之所谓得志者，轩冕之谓也。轩冕在身，非性命也，物之傥来<sup>⑱</sup>，寄者也。寄之，其来不可围<sup>⑲</sup>，其去不可止。故不为轩冕肆志，不为穷约趋俗，其乐彼与此同，故无忧而已矣！今寄去则不乐。由是观之，虽乐，未尝不荒也<sup>⑳</sup>。故曰：丧己于物，失性于俗者，谓之倒置之民<sup>㉑</sup>。

## 秋水<sup>㉒</sup>

秋水时至，百川灌河。泾流之大，两涘渚崖之间<sup>㉓</sup>，不辩牛马。于是焉河伯欣然自喜，以天下之美为尽在己。顺流而东行，至于北海，东面而视，不见水端。于是焉河伯始旋其面目，望洋向若而叹曰<sup>㉔</sup>：“野语有之曰：‘闻道百，以为莫己若者。’我之谓也。且夫我尝闻少仲尼之闻而轻伯夷之义者，始吾弗信。今我睹子之难穷也，吾非至于子之门则殆矣，吾长见笑于大方之家。”北海若曰：“井蛙不可以语于海者，拘于虚也；夏虫不可以语于冰者，笃于时也；曲士不可以语于道者，束于教也。今尔出于崖涘，观于大海，乃知尔丑，尔将可与语大理矣。天下之水，莫大于海：万川归之，不知何时止而不盈；



尾闾泄之<sup>②</sup>，不知何时已而不虚；春秋不变，水旱不知。此其过江河之流，不可为量数。而吾未尝以此自多者，自以比形于天地，而受气于阴阳，吾在于天地之间，犹小石小木之在大山也。方存乎见小，又奚以自多！计四海之在天地之间也，不似壘空之在大泽乎<sup>③</sup>？计中国之在海内，不似稊米之在大仓乎<sup>④</sup>？号物之数谓之万，人处一焉；人卒九州<sup>⑤</sup>，谷食之所生，舟车之所通。此其比万物也，不似豪末之在于马体乎<sup>⑥</sup>？五帝之所连，三王之所争，仁人之所忧，任士之所劳，尽此矣！伯夷辞之以为名，仲尼语之以为博。此其自多也，不似尔向之自多于水乎？”

河伯曰：“然则吾大天地而小毫末，可乎？”北海若曰：“否。夫物，量无穷，时无止，分无常，终始无故。是故大知观于远近，故小而不寡，大而不多；知量无穷。证向今故<sup>⑦</sup>，故遥而不闷<sup>⑧</sup>，掇而不跂<sup>⑨</sup>；知时无止。察乎盈虚，故得而不喜，失而不忧；知分之无常也。明乎坦涂<sup>⑩</sup>，故生而不说<sup>⑪</sup>，死而不祸；知终始之不可故也。计人之所知，不若其所不知；其生之时，不若未生之时；以其至小，求穷其至大之域，是故迷乱而不能自得也。由此观之，又何以知毫末之足以定至细之倪<sup>⑫</sup>，又何以知天地之足以穷至大之域！”

河伯曰：“世之议者皆曰：‘至精无形<sup>⑬</sup>，至大不可围<sup>⑭</sup>。’是信情乎？”北海若曰：“夫自细视大者不尽，自大视细者不明<sup>⑮</sup>。夫精，小之微也；埤<sup>⑯</sup>，大之殷也；故异便<sup>⑰</sup>。此势之有也。夫精粗者，期于有形者也；无形者，数之所不能分也；不可围者，数之所不能穷也。可以言论者，物之粗也；可以意致者，物之精也；言之所不能论，意之所不能察致者，不期精粗焉。是故大人之行：不出乎害人<sup>⑱</sup>，不多仁恩；动不为利，不贱门隶；货财弗争，不多辞让；事焉不借人，不多食乎力，不贱贪污；行殊乎俗，不多辟异<sup>⑲</sup>；为在从众，不贱佞谄；世之爵禄不足以为劝，戮耻不足以为辱；知是非之不可为分，细大

之不可为倪。闻曰：‘道人不闻，至德不得，大人无己<sup>⑳</sup>。’约分之至也。”

河伯曰：“若物之外，若物之内，恶至而倪贵贱<sup>㉑</sup>？恶至而倪小大？”北海若曰：“以道观之，物无贵贱；以物观之，自贵而相贱；以俗观之，贵贱不在己。以差观之，因其所大而大之，则万物莫不大；因其所小而小之，则万物莫不小。知天地之为稊米也，知毫末之为丘山也，则差数睹矣。以功观之，因其所有而有之，则万物莫不有；因其所无而无之，则万物莫不无。知东西之相反而不可以相无，则功分定矣。以趣观之<sup>㉒</sup>，因其所然而然之，则万物莫不然；因其所非而非之，则万物莫不非。知尧、桀之自然而相非！则趣操睹矣。昔者尧、舜让而帝，之、咎让而绝<sup>㉓</sup>；汤、武争而王，白公争而灭。由此观之，争让之礼，尧、桀之行，贵贱有时，未可以为常也。梁丽可以冲城而不可以窒穴<sup>㉔</sup>，言殊器也；骐驎骅骝一日而驰千里，捕鼠不如狸狌，言殊技也；鸱鸢夜撮蚤<sup>㉕</sup>，察毫末，昼出瞋目而不见丘山，言殊性也。故曰：盖师是而无非，师治而无乱乎？是未明天地之理，万物之情者也。是犹师天而无地，师阴而无阳，其不可行明矣！然且语而不舍，非愚则诬也！帝王殊禅，三代殊继。差其时，逆其俗者，谓之篡夫；当其时，顺其俗者，谓之义之徒。默默乎河伯<sup>㉖</sup>，女恶知贵贱之门，小大之家！”

河伯曰：“然则我何为乎？何不为乎？吾辞受趣舍，吾终奈何？”北海若曰：“以道观之，何贵何贱，是谓反衍<sup>㉗</sup>；无拘而志<sup>㉘</sup>，与道大蹇<sup>㉙</sup>。何少何多，是谓谢施<sup>㉚</sup>；无一而行<sup>㉛</sup>，与道参差。严乎若国之有君，其无私德；繇繇乎若祭之有社<sup>㉜</sup>，其无私福；泛泛乎其若四方之无穷，其无所畛域<sup>㉝</sup>。兼怀万物，其孰承翼？是谓无方。万物一齐，孰短孰长？道无终始，物有死生，不恃其成。一虚一满，不位乎其形。年不可举，时不可止。消息盈虚，终则有始。是所以语大义之方，论万物之理也。物之生也，若骤若驰。无动



而不变，无时而不移。何为乎，何不为乎？夫固将自化。”

河伯曰：“然则何贵于道邪？”北海若曰：“知道者必达于理，达于理者必明于权，明于权者不以物害己。至德者，火弗能热，水弗能溺，寒暑弗能害，禽兽弗能贼。非谓其薄之也，言察乎安危，宁于祸福，谨于去就，莫之能害也。故曰：‘天在内，人在外，德在乎天。’知天人之行，本乎天，位乎得，踔躅而屈伸<sup>④</sup>，反要而语极。”曰：“何谓天？何谓人？”北海若曰：“牛马四足，是谓天；落马首<sup>⑤</sup>，穿牛鼻，是谓人。故曰：‘无以人灭天，无以故灭命，无以得殉名。谨守而勿失，是谓反其真。’”

夔怜蚺<sup>⑥</sup>，蚺怜蛇，蛇怜风，风怜目，目怜心。夔谓蚺曰：“吾以一足踔踔而行<sup>⑦</sup>，予无如矣<sup>⑧</sup>。今子之使万足，独奈何？”蚺曰：“不然。子不见夫唾者乎？喷则大者如珠，小者如雾，杂而下者不可胜数也。今予动吾天机，而不知其所以然。”蚺谓蛇曰：“吾以众足行，而不及子之无足，何也？”蛇曰：“夫天机之所动，何可易邪？吾安用足哉！”蛇谓风曰：“予动吾脊胁而行，则有似也<sup>⑨</sup>。今子蓬蓬然起于北海，蓬蓬然入于南海，而似无有，何也？”风曰：“然，予蓬蓬然起于北海而入于南海也，然而指我则胜我，鲇我亦胜我<sup>⑩</sup>。虽然，夫折大木，蜚大屋者<sup>⑪</sup>，唯我能也。”故以众小不胜为大胜也。为大胜者，唯圣人能之。

孔子游于匡，宋人围之数匝，而弦歌不辍。子路人见，曰：“何夫子之娱也？”孔子曰：“来，吾语女。我讳穷久矣，而不免，命也；求通久矣，而不得，时也。当尧、舜而天下无穷人，非知得也；当桀、纣而天下无通人，非知失也；时势适然。夫水行不避蛟龙者，渔父之勇也；陆行不避兕虎者，猎夫之勇也；白刃交于前，视死若生者，烈士之勇也；知穷之有命，知通之有时，临大难而不惧者，圣人之勇也。由，处矣<sup>⑫</sup>！吾命有所制矣！”无几何，将甲者进<sup>⑬</sup>，辞曰：“以为阳虎也<sup>⑭</sup>，

故围之；今非也，请辞而退。”

公孙龙问于魏牟曰：“龙少学先王之道，长而明仁义之行；合同异，离坚白；然不然，可不可；困百家之知，穷众口之辩；吾自以为至达已。今吾闻庄子之言，汙然异之<sup>⑮</sup>。不知论之不及与？知之弗若与？今吾无所开吾喙，敢问其方。”公子牟隐机大息<sup>⑯</sup>，仰天而笑曰：“子独不闻夫埳井有蛙乎？谓东海之鳖曰：‘吾乐与！出跳梁乎井干之上<sup>⑰</sup>，入休乎缺甃之崖<sup>⑱</sup>。赴水则接腋持颐，蹶泥则没足灭跗<sup>⑲</sup>。还虬蟹与科斗<sup>⑳</sup>，莫吾能若也。且夫擅一壑之水，而跨埳埳之乐，此亦至矣。夫子奚不时来入观乎？’东海之鳖左足未入，而右膝已繁矣。于是逡巡而却，告之海曰：‘夫千里之远，不足以举其大；千仞之高，不足以极其深。禹之时，十年九潦<sup>㉑</sup>，而水弗为加益；汤之时，八年七旱，而崖不为加损<sup>㉒</sup>。夫不为顷久推移，不以多少进退者，此亦东海之大乐也。’于是埳井之蛙闻之，适适然惊<sup>㉓</sup>，规规然自失也<sup>㉔</sup>。且夫知不知是非之竟，而犹欲观于庄子之言，是犹使蚊负山，商蚺驰河也<sup>㉕</sup>，必不胜任矣。且夫知不知论极妙之言，而自适一时之利者，是非埳井之蛙与？且彼方趾黄泉而登大皇<sup>㉖</sup>，无南无北，夷然四解<sup>㉗</sup>，沦于不测；无东无西，始于玄冥，反于大通。子乃规规然而求之以察，索之以辩，是直用管窥天，用锥指地也，不亦小乎？子往矣！且子独不闻夫寿陵余子之学行于邯郸与？未得国能，又失其故行矣，直匍匐而归耳。今子不去，将忘子之故，失子之业。”公孙龙口呿而不合<sup>㉘</sup>，舌举而不下，乃逸而走。

庄子钓于濮水。楚王使大夫二人往先焉，曰：“愿以境内累矣！”庄子持竿不顾，曰：“吾闻楚有神龟，死已三千岁矣。王巾笥而藏之庙堂之上<sup>㉙</sup>。此龟者，宁其死为留骨而贵乎？宁其生而曳尾于涂中乎<sup>㉚</sup>？”二大夫曰：“宁生而曳尾涂中。”庄子曰：“往矣！吾将曳尾于涂中。”

惠子相梁，庄子往见之。或谓惠子曰：

“庄子来，欲代子相。”于是惠子恐，搜于国中三日三夜。庄子往见之，曰：“南方有鸟，其名为鹓鶵<sup>⑥</sup>，子知之乎？夫鹓鶵发于南海而飞于北海，非梧桐不止，非练实不食<sup>⑦</sup>，非醴泉不饮<sup>⑧</sup>。于是鸱得腐鼠<sup>⑨</sup>，鹓鶵过之，仰而视之曰‘吓<sup>⑩</sup>！’今子欲以子之梁国而吓我邪？”

庄子与惠子游于濠梁之上。庄子曰：“儻鱼出游从容<sup>⑪</sup>，是鱼之乐也。”惠子曰：“子非鱼，安知鱼之乐？”庄子曰：“子非我，安知我不知鱼之乐？”惠子曰：“我非子，固不知子矣；子固非鱼也，子之不知鱼之乐，全矣！”庄子曰：“请循其本。子曰‘汝安知鱼乐’云者，既已知吾知之而问我。我知之濠上也。”

## 至乐<sup>⑫</sup>

天下有至乐无有哉？有可以活身者无有哉？今奚为奚据<sup>⑬</sup>？奚避奚处？奚就奚去？奚乐奚恶？夫天下之所尊者，富贵寿善也；所乐者，身安厚味美服好色音声也；所下者，贫贱夭恶也；所苦者，身不得安逸，口不得厚味，形不得美服，目不得好色，耳不得音声。若不得者，则大忧以惧，其为形也亦愚哉！夫富者，苦身疾作，多积财而不得尽用，其为形也亦外矣！夫贵者，夜以继日，思虑善否，其为形也亦疏矣！人之生也，与忧俱生。寿者惛惛，久忧不死，何苦也！其为形也亦远矣！烈士为天下见善矣，未足以活身。吾未知善之诚善邪？诚不善邪？若以为善矣，不足活身；以为不善矣，足以活人。故曰：“忠谏不听<sup>⑭</sup>，蹲循勿争<sup>⑮</sup>。”故夫子胥争之<sup>⑯</sup>，以残其形；不争，名亦不成。诚有善无有哉？今俗之所为与其所乐，吾又未知乐之果乐邪？果不乐邪？吾观夫俗之所乐，举群趣者，径径然如将不得已<sup>⑰</sup>，而皆曰乐者，吾未之乐也，亦未之不乐也。果有乐无有哉？吾以无为诚乐矣，又俗之所大苦也。故曰：“至乐无乐，至誉无誉。”天下是非果未可定也。虽然，无为可以定是非。至乐活身，唯

无为几存。请尝试言之：天无为以之清，地无为以之宁。故两无为相合，万物皆化生。芒乎芴乎<sup>⑱</sup>，而无从出乎！芴乎芒乎，而无有象乎！万物职职<sup>⑲</sup>，皆从无为殖<sup>⑳</sup>。故曰：“天地无为也而无不为也。”人也孰能得无为哉！

庄子妻死，惠子吊之，庄子则方箕踞鼓盆而歌<sup>㉑</sup>。惠子曰：“与人居，长子、老、身死，不哭亦足矣，又鼓盆而歌，不亦甚乎！”庄子曰：“不然。是其始死也，我独何能无概<sup>㉒</sup>！然察其始而本无生；非徒无生也，而本无形；非徒无形也，而本无气。杂乎芒芴之间，变而有气，气变而有形，形变而有生。今又变而之死。是相与为春夏秋冬四时行也。人且偃然寝于巨室，而我嗷嗷然随而哭之<sup>㉓</sup>，自以为不通乎命，故止也。”

支离叔与滑介叔观于冥伯之丘，昆仑之虚，黄帝之所休。俄而柳生其左肘，其意蹉蹉然恶之<sup>㉔</sup>。支离叔曰：“子恶之乎？”滑介叔曰：“亡，予何恶！生者，假借也。假之而生生者，尘垢也。死生为昼夜。且吾与子观化而化及我，我又何恶焉！”

庄子之楚，见空髑髅，髐然有形<sup>㉕</sup>。撒以马捶<sup>㉖</sup>，因而问之，曰：“夫子贪生失理而为此乎？将子有亡国之事、斧钺之诛而为此乎？将子有不善之行，愧遗父母妻子之丑而为此乎？将子有冻饿之患而为此乎？将子之春秋故及此乎？”于是语卒，援髑髅，枕而卧。夜半，髑髅见梦曰：“向子之谈者似辩士，视子所言，皆生人之累也，死则无此矣。子欲闻死之说乎？”庄子曰：“然。”髑髅曰：“死，无君于上，无臣于下，亦无四时之事，从然以天地为春秋，虽南面王乐，不能过也。”庄子不信，曰：“吾使司命复生子形，为子骨肉肌肤，反于父母、妻子、闾里、知识<sup>㉗</sup>，子欲之乎？”髑髅深瞑蹙额曰<sup>㉘</sup>：“吾安能弃南面王乐而复为人间之劳乎！”

颜渊东之齐，孔子有忧色。子贡下席而问曰：“小子敢问：回东之齐，夫子有忧色，何邪？”孔子曰：“善哉汝问。昔者管子有言，

丘甚善之，曰：‘褚小者不可以怀大<sup>⑤</sup>，绠短者不可以汲深。’夫若是者，以为命有所成而形有所适也，夫不可损益。吾恐回与齐侯言尧、舜、黄帝之道，而重以燧人、神农之言。彼将内求于己而不得，不得则惑，人惑则死。且女独不闻邪？昔者海鸟止于鲁郊，鲁侯御而觴之于庙，奏九韶以为乐，具太牢以为膳。鸟乃眩视忧悲，不敢食一禽，不敢饮一杯，三日而死。此以己养养鸟也，非以鸟养养鸟也。夫以鸟养养鸟者，宜栖之深林，游之坛陆，浮之江湖，食之鳅鲋<sup>⑥</sup>，随行列而止，委蛇而处<sup>⑦</sup>。彼唯人言之恶闻，奚以夫尧尧为乎<sup>⑧</sup>！咸池九韶之乐，张之洞庭之野，鸟闻之而飞，兽闻之而走，鱼闻之而下人，人卒闻之，相与还而观之。鱼处水而生，人处水而死。彼必相与异，其好恶故异也。故先圣不一其能，不同其事。名止于实，义设于适，是之谓条达而福持<sup>⑨</sup>。

列子行，食于道，从见百岁髑髅，撻蓬而指之曰<sup>⑩</sup>：“唯予与汝知而未尝死、未尝生也。若果养乎？予果欢乎？”种有几<sup>⑪</sup>，得水则为鼃<sup>⑫</sup>，得水土之际则为蛙蟾之衣<sup>⑬</sup>，生于陵屯则为陵舄<sup>⑭</sup>，陵舄得郁栖则为乌足<sup>⑮</sup>，乌足之根为蛭蟺<sup>⑯</sup>，其叶为胡蝶<sup>⑰</sup>，胡蝶胥也化而为虫<sup>⑱</sup>，生于灶下，其状若脱，其名为鵽掇<sup>⑲</sup>。鵽掇千日为鸟，其名为干余骨<sup>⑳</sup>。干余骨之沫为斯弥<sup>㉑</sup>，斯弥为食醢<sup>㉒</sup>。颐辂生乎食醢<sup>㉓</sup>，黄輶生乎九猷<sup>㉔</sup>，瞽芮生乎腐蠹<sup>㉕</sup>，羊奚比乎不箰<sup>㉖</sup>，久竹生青宁<sup>㉗</sup>，青宁生程<sup>㉘</sup>，程生马，马生人，人又反入于机<sup>㉙</sup>。万物皆出于机，皆入于机。

## 达 生<sup>⑥⑨</sup>

达生之情者，不务生之所无以为；达命之情者，不务知之所无奈何。养形必先之以物，物有余而形不养者有之矣。有生必先无离形，形不离而生亡者有之矣。生之来不能却，其去不能止。悲夫！世之人以为养形足以存生，而养形果不足以存生，则世奚足为

哉！虽不足为而不可不为者，其为不免矣！夫欲免为形者，莫如弃世。弃世则无累，无累则正平，正平则与彼更生，更生则几矣<sup>⑩</sup>！事奚足弃而生奚足遗<sup>⑪</sup>？弃事则形不劳，遗生则精不亏。夫形全精复，与天为一。天地者，万物之父母也。合则成体，散则成始。形精不亏，是谓能移。精而又精，反以相天。

子列子问关尹曰：“至人潜行不窒，蹈火不热，行乎万物之上而不栗。请问何以至于此？”关尹曰：“是纯气之守也，非知巧果敢之列。居，予语女。凡有貌象声色者，皆物也，物与物何以相远！夫奚足以至乎先！是色而已。则物之造乎不形，而止乎无所化。夫得是而穷之者，物焉得而止焉！彼将处乎不淫之度，而藏乎无端之纪，游乎万物之所终始。壹其性，养其气，合其德，以通乎物之所造。夫若是者，其天守全，其神无郤<sup>⑫</sup>，物奚自入焉！夫醉者之坠车，虽疾不死。骨节与人同而损害与人异，其神全也。乘亦不知也，坠亦不知也，死生惊惧不入乎其胸中，是故遇物而不懼<sup>⑬</sup>。彼得全于酒而犹若是，而况得全于天乎？圣人藏于天，故莫之能伤也。复仇者，不折镆干<sup>⑭</sup>；虽有忮心者<sup>⑮</sup>，不怨飘瓦<sup>⑯</sup>，是以天下平均。故无攻战之乱，无杀戮之刑者，由此道也。不开人之天<sup>⑰</sup>，而开天之天。开天者德生，开人者贼生。不厌其天，不忽于人，民几乎以其事。”

仲尼适楚，出于林中，见痾偻者承蜩<sup>⑱</sup>，犹掇之也。仲尼曰：“子巧乎，有道邪？”曰：“我有道也。五六月累丸二而不坠，则失者锱铢<sup>⑲</sup>；累三而不坠，则失者十一；累五而不坠，犹掇之也。吾处身也，若厥株拘<sup>⑳</sup>；吾执臂也，若槁木之枝。虽天地之大，万物之多，而唯蜩翼之知。吾不反不测，不以万物易蜩之翼，何为而不得！”孔子顾谓弟子曰：“用志不分，乃凝于神。其痾偻丈人之谓乎！”

颜渊问仲尼曰：“吾尝济乎觴深之渊，津人操舟若神。吾问焉曰：‘操舟可学邪？’曰：‘可。善游者数能<sup>㉑</sup>。若乃夫没人<sup>㉒</sup>，则未尝见舟而便操之也。’吾问焉而不吾告，敢问

何谓也？”仲尼曰：“善游者数能，忘水也；若乃夫没人之未尝见舟而便操之也，彼视渊若陵，视舟之覆，犹其车却也。覆却万方陈乎前而不得入其舍<sup>②</sup>，恶往而不暇！以瓦注者巧<sup>③</sup>，以钩注者悻，以黄金注者殒<sup>④</sup>。其巧一也，而有所矜，则重外也。凡外重者内拙。”

田开之见周威公，威公曰：“吾闻祝肾学生<sup>⑤</sup>，吾子与祝肾游，亦何闻焉？”田开之曰：“开之操拔簪以侍门庭<sup>⑥</sup>，亦何闻于夫子！”威公曰：“田子无让，寡人愿闻之。”开之曰：“闻之夫子曰：‘善养生者，若牧羊然，视其后者而鞭之。’”威公曰：“何谓也？”田开之曰：“鲁有单豹者<sup>⑦</sup>，岩居而水饮，不与民共利，行年七十而犹有婴儿之色，不幸遇饿虎，饿虎杀而食之。有张毅者，高门县薄<sup>⑧</sup>，无不走也，行年四十而有内热之病以死。豹养其内而虎食其外，毅养其外而病攻其内。此二子者，皆不鞭其后者也。”仲尼曰：“无人而藏<sup>⑨</sup>，无出而阳<sup>⑩</sup>，柴立其中央<sup>⑪</sup>。三者若得，其名必极。夫畏涂者<sup>⑫</sup>，十杀一人，则父子兄弟相戒也，必盛卒徒而后敢出焉，不亦知乎！人之所取畏者，衽席之上，饮食之间，而不知为之戒者，过也！”

祝宗人玄端以临牢筴说彘<sup>⑬</sup>，曰：“汝奚恶死！吾将三月祿汝<sup>⑭</sup>，十日戒，三日齐<sup>⑮</sup>，藉白茅<sup>⑯</sup>，加汝肩尻乎雕俎之上<sup>⑰</sup>，则汝为之乎？”为彘谋曰：“不如食以糠糟而错之牢筴之中<sup>⑱</sup>。”自为谋，则苟生有轩冕之尊，死得于膝楯之上、聚俎之中则为之<sup>⑲</sup>。为彘谋则去之，自为谋则取之，所异彘者何也！

桓公田于泽<sup>⑳</sup>，管仲御，见鬼焉。公抚管仲之手曰：“仲父何见？”对曰：“臣无所见。”公反，诒诒为病<sup>㉑</sup>，数日不出。齐士有皇子告敖者，曰：“公则自伤，鬼恶能伤公！夫忿滯之气<sup>㉒</sup>，散而不反，则为不足；上而不下，则使人善怒；下而不上，则使人善忘；不上不下，中身当心，则为病。”桓公曰：“然则有鬼乎？”曰：“有。沈有履<sup>㉓</sup>。灶有髻<sup>㉔</sup>。户内之烦壤<sup>㉕</sup>，雷霆处之<sup>㉖</sup>；东北方之下者倍阿<sup>㉗</sup>，鲑蜚跃之<sup>㉘</sup>；西北方之下者，则泆阳

处之<sup>㉙</sup>。水有罔象，丘有峿，山有夔，野有彷徨，泽有委蛇<sup>㉚</sup>。”公曰：“请问委蛇之状何如？”皇子曰：“委蛇，其大如毂，其长如辕，紫衣而朱冠。其为物也恶，闻雷车之声则捧其首而立。见之者殆乎霸<sup>㉛</sup>。”桓公赧然而笑曰<sup>㉜</sup>：“此寡人之所见者也。”于是正衣冠与之坐，不终日而不知病之去也。

纪渚子为王养斗鸡<sup>㉝</sup>。十日而问：“鸡已乎？”曰：“未也，方虚憍而恃气<sup>㉞</sup>。”十日又问，曰：“未也，犹应向景<sup>㉟</sup>。”十日又问，曰：“未也，犹疾视而盛气。”十日又问，曰：“几矣，鸡虽有鸣者，已无变矣<sup>㊱</sup>，望之似木鸡矣，其德全矣。异鸡无敢应者，反走矣。”

孔子观于吕梁，县水三十仞<sup>㊲</sup>，流沫四十里，鼋鼍鱼鳖之所不能游也。见一丈夫游之，以为有苦而欲死也。使弟子并流而拯之。数百步而出，被发行歌而游于塘下。孔子从而问焉，曰：“吾以子为鬼，察子则人也。请问：蹈水有道乎？”曰：“亡，吾无道。吾始乎故<sup>㊳</sup>，长乎性，成乎命。与齐俱入<sup>㊴</sup>，与汨偕出<sup>㊵</sup>，从水之道而不为私焉<sup>㊶</sup>。此吾所以蹈之也。”孔子曰：“何谓始乎故，长乎性，成乎命？”曰：“吾生于陵而安于陵，故也；长于水而安于水，性也；不知吾所以然而然，命也。”

梓庆削木为鐻<sup>㊷</sup>，鐻成，见者惊犹鬼神。鲁侯见而问焉，曰：“子何术以为焉？”对曰：“臣，工人，何术之有！虽然，有一焉，臣将为鐻，未尝敢以耗气也<sup>㊸</sup>，必齐以静心<sup>㊹</sup>。齐三日，而不敢怀庆赏爵禄；齐五日，不敢怀非誉巧拙；齐七日，辄然忘吾有四肢形体也。当是时也，无公朝。其巧专而外骨消，然后入山林，观天性形躯，至矣，然后成见鐻，然后加手焉，不然则。则以天合天，器之所以疑神者，其是与！”

东野稷以御见庄公<sup>㊺</sup>，进退中绳，左右旋中规。庄公以为文弗过也。使之钩百而反。颜阖遇之，人见曰：“稷之马将败。”公密而不应。少焉，果败而反。公曰：“子何以知之？”曰：“其马力竭矣而犹求焉，故曰败。”

工倕旋而盖规矩<sup>⑤</sup>，指与物化而不以心稽<sup>⑥</sup>，故其灵台一而不桎<sup>⑦</sup>。忘足，履之适也；忘要<sup>⑧</sup>，带之适也；知忘是非，心之适也；不内变，不外从，事会之适也；始乎适而未尝不适者，忘适之适也。

有孙休者，踵门而诧子扁庆子曰<sup>⑨</sup>：“休居乡不见谓不修，临难不见谓不勇。然而田原不遇岁<sup>⑩</sup>，事君不遇世，宾于乡里，逐于州部，则胡罪乎天哉？休恶遇此命也？”扁子曰：“子独不闻夫至人之自行邪？忘其肝胆，遗其耳目，芒然彷徨乎尘垢之外<sup>⑪</sup>，逍遥乎无事之业，是谓为而不恃，长而不宰。今汝饰知以惊愚，修身以明汙，昭昭乎若揭日月而行也。汝得全而形躯，具而九窍，无中道夭于聋盲跛蹇而比于人数亦幸矣，又何暇乎天之怨哉！子往矣！”孙子出，扁子入。坐有间，仰天而叹。弟子问曰：“先生何为叹乎？”扁子曰：“向者休来，吾告之以至人之德，吾恐其惊而遂至于惑也。”弟子曰：“不然。孙子之所言是邪，先生之所言非邪，非固不能惑是；孙子所言非邪，先生所言是邪，彼固惑而来矣，又奚罪焉！”扁子曰：“不然。昔者有鸟止于鲁郊，鲁君说之<sup>⑫</sup>，为具太牢以飧之，奏九韶以乐之。鸟乃始忧悲眩视，不敢饮食。此之谓以己养养鸟也。若夫以鸟养养鸟者，宜栖之深林，浮之江湖，食之以委蛇，则安平陆而已矣。今休，款启寡闻之民也<sup>⑬</sup>，吾告以至人之德，譬之若载驪以车马<sup>⑭</sup>，乐鸩以钟鼓也<sup>⑮</sup>，彼又恶能无惊乎哉！”

## 山 木<sup>⑯</sup>

庄子行于山中，见大木，枝叶盛茂。伐木者止其旁而不取也。问其故，曰：“无所可用。”庄子曰：“此木以不材得终其天年。”夫子出于山，舍于故人之家。故人喜，命竖子杀雁而烹之。竖子请曰：“其一能鸣，其一不能鸣，请奚杀？”主人曰：“杀不能鸣者。”明日，弟子问于庄子曰：“昨日山中之木，以不材得终其天年；今主人之雁，以不材死。先生将

何处？”庄子笑曰：“周将处乎材与不材之间<sup>⑰</sup>。材与不材之间，似之而非也，故未免乎累。若夫乘道德而浮游则不然，无誉无訾，一龙一蛇，与时俱化，而无肯专为。一上一下，以和为量，浮游乎万物之祖<sup>⑱</sup>。物物而不物于物，则胡可得而累邪！此神农、黄帝之法也。若夫万物之情，人伦之传则不然，合则离，成则毁，廉则挫，尊则议，有为则亏，贤则谋，不肖则欺。胡可得而必乎哉！悲夫，弟子志之<sup>⑲</sup>，其唯道德之乡乎<sup>⑳</sup>！”

市南宜僚见鲁侯，鲁侯有忧色。市南子曰：“君有忧色，何也？”鲁侯曰：“吾学先王之道，修先君之业；吾敬鬼尊贤，亲而行之，无须臾离居。然不免于患，吾是以忧。”市南子曰：“君之除患之术浅矣！夫丰狐文豹<sup>㉑</sup>，栖于山林，伏于岩穴，静也；夜行昼居，戒也；虽饥渴隐约，犹且胥疏于江湖之上而求食焉<sup>㉒</sup>，定也。然且不免于罔罗机辟之患，是何罪之有哉？其皮为之灾也。今鲁国独非君之皮邪？吾愿君剖形去皮，洒心去欲，而游于无人之野。南越有邑焉，名为建德之国。其民愚而朴，少私而寡欲；知作而不知藏，与而不求其报；不知义之所适，不知礼之所将。猖狂妄行，乃蹈乎大方。其生可乐，其死可葬。吾愿君去国捐俗，与道相辅而行。”君曰：“彼其道远而险，又有江山，我无舟车，奈何？”市南子曰：“君无形倨<sup>㉓</sup>，无留居，以为君车。”君曰：“彼其道幽远而无人，吾谁与为邻？吾无粮，我无食，安得而至焉？”市南子曰：“少君之费，寡君之欲，虽无粮而乃足。君其涉于江而浮于海，望之而不见其崖，愈往而不知其所穷。送君者皆自崖而反。君自此远矣！故有人者累，见有于人者忧。故尧非有人，非见有于人也。吾愿去君之累，除君之忧，而独与道游于大莫之国<sup>㉔</sup>。方舟而济于河，有虚船来触舟，虽有偏心之人不怒。有一人在其上，则呼张歛之<sup>㉕</sup>，一呼而不闻，再呼而不闻，于是三呼邪，则必以恶声随之。向也不怒而今也怒，向也虚而今也实。人能虚己以游世，其孰能害之！”

北宫奢为卫灵公赋斂以为钟，为坛乎郭门之外。三月而成上下之县<sup>⑨</sup>。王子庆忌见而问焉，曰：“子何术之设？”奢曰：“一之间无敢设也<sup>⑩</sup>。奢闻之：‘既雕既琢，复归于朴。’侗乎其无识<sup>⑪</sup>，恍乎其怠疑<sup>⑫</sup>。萃乎芒乎<sup>⑬</sup>，其送往而迎来。来者勿禁，往者勿止。从其强梁<sup>⑭</sup>，随其曲傅<sup>⑮</sup>，因其自穷<sup>⑯</sup>。故朝夕赋斂而毫毛不挫<sup>⑰</sup>，而况有大涂者乎<sup>⑱</sup>！”

孔子围于陈蔡之间，七日不火食。大公任往吊之，曰：“子几死乎？”曰：“然。”“子恶死乎？”曰：“然。”任曰：“予尝言不死之道。东海有鸟焉，其名曰意怠。其为鸟也。跔跔<sup>①</sup>，而似无能；引援而飞，迫胁而栖<sup>②</sup>；进不敢为前，退不敢为后；食不敢先尝，必取其绪<sup>③</sup>。是故其行列不斥，而外人卒不得害，是以免于患。直木先伐，甘井先竭。子其意者饰知以惊愚，修身以明汙，昭昭乎如揭日月而行，故不免也。昔吾闻之大成之人曰：‘自伐者无功<sup>④</sup>，功成者堕，名成者亏。’孰能去功与名而还与众人！道流而不明居<sup>⑤</sup>，得行而不名处；纯纯常常<sup>⑥</sup>，乃比于狂；削迹捐势，不为功名。是故无责于人，人亦无责焉。至人不闻，子何喜哉！”孔子曰：“善哉！”辞其交游，去其弟子，逃于大泽，衣赭褐，食杼粟<sup>⑦</sup>，人兽不乱群<sup>⑧</sup>，人鸟不乱行。鸟兽不恶，而况人乎！”

孔子问子桑雎曰<sup>①</sup>：“吾再逐于鲁，伐树于宋，削迹于卫，穷于商周，围于陈蔡之间。吾犯此数患，亲交益疏，徒友益散，何与？”子桑雎曰：“子独不闻假人之亡与<sup>②</sup>？林回弃千金之璧，负赤子而趋。或曰：‘为其布与<sup>③</sup>？’赤子之布寡矣；为其累与？赤子之累多矣。弃千金之璧，负赤子而趋，何也？”林回曰：“彼以利合，此以天属也。”夫以利合者，迫穷祸患害相弃也；以天属者，迫穷祸患害相收也<sup>④</sup>。夫相收之与相弃亦远矣，且君子之交淡若水，小人之交甘若醴。君子淡以亲<sup>⑤</sup>，小人甘以绝，彼无故以合者，则无故以离。”孔子曰：“敬闻命矣！”徐行翔佯而归<sup>⑥</sup>，绝学捐书，弟子无挹于前<sup>⑦</sup>，其爱益加进。异日，

桑雎又曰：“舜之将死，真泠禹曰<sup>⑧</sup>：‘汝戒之哉！形莫若缘<sup>⑨</sup>，情莫若率<sup>⑩</sup>。’缘则不离，率则不劳。不离不劳，则不求文以待形。不求文以待形，固不待物。”

庄子衣大布而补之，正縻系履而过魏王<sup>①</sup>。魏王曰：“何先生之急邪<sup>②</sup>？”庄子曰：“贫也，非急也。士有道德不能行，急也；衣弊履穿，贫也，非急也，此所谓非遭时也。王独不见夫腾猿乎？其得柝梓豫章也<sup>③</sup>，揽蔓其枝而王长其间<sup>④</sup>，虽羿、蓬蒙不能睨睨也<sup>⑤</sup>。及其得柘棘枳枸之间也<sup>⑥</sup>，危行侧视，振动悼栗，此筋骨非有加急而不柔也<sup>⑦</sup>，处势不便，未足以逞其能也。今处昏上乱相之间而欲无急，奚可得邪？此比干之见剖心，徵也夫！”

孔子穷于陈蔡之间，七日不火食。左据槁木，右击槁枝，而歌姦氏之风<sup>①</sup>，有其具而无其数<sup>②</sup>，有其声而无宫角<sup>③</sup>。木声与人声，犁然有当于人心<sup>④</sup>。颜回端拱还目而窥之。仲尼恐其广己而造大也<sup>⑤</sup>，爱己而造哀也，曰：“回，无受天损易，无受人益难。无始而非卒也，人与天一也。夫今之歌者其谁乎！”回曰：“敢问无受天损易。”仲尼曰：“饥渴寒暑，穷桎不行<sup>⑥</sup>，天地之行也，运物之泄也<sup>⑦</sup>，言与之偕逝之谓也。为人臣者，不敢去之。执臣之道犹若是，而况乎所以待天乎？”“何谓无受人益难？”仲尼曰：“始用四达，爵禄并至而不穷。物之所利，乃非己也，吾命其在外者也。君子不为盗，贤人不为窃，吾若取之何哉？故曰：鸟莫知于鹪鹩<sup>⑧</sup>，目之所不宜处不给视，虽落其实，弃之而走。其畏人也而袭诸人间<sup>⑨</sup>。社稷存焉尔！”“何谓无始而非卒？”仲尼曰：“化其万物而不知其禅之者，焉知其所终？焉知其所始？正而待之而已耳。”“何谓人与天一邪？”仲尼曰：“有人<sup>⑩</sup>，天也；有天，亦天也。人之不能有天，性也。圣人晏然体逝而终矣！”

庄周游于雕陵之樊<sup>①</sup>，睹一异鹊自南方来者。翼广七尺，目大运寸，感周之颡<sup>②</sup>，而集于栗林。庄周曰：“此何鸟哉！翼殷不

逝<sup>①</sup>，目大不睹。”蹇裳履步<sup>②</sup>，执弹而留之。睹一蝉方得美荫而忘其身。螳螂执翳而搏之<sup>③</sup>，见得而忘其形。异鹊从而利之，见利而忘其真。庄周怵然曰：“噫！物固相累，二类相召也。”捐弹而反走，虞人逐而诎之<sup>④</sup>。庄周反人，三日不庭<sup>⑤</sup>。藺且从而问之<sup>⑥</sup>：“夫子何为顷间甚不庭乎？”庄周曰：“吾守形而忘身，观于浊水而迷于清渊。且吾闻诸夫子曰：‘入其俗，从其令。’今吾游于雕陵而忘吾身，异鹊感吾颡，游于栗林而忘真。栗林虞人以吾为戮<sup>⑦</sup>，吾所以不庭也。”

阳子之宋，宿于逆旅。逆旅人有妾二人，其一人美，其一人恶。恶者贵而美者贱。阳子问其故，逆旅小子对曰：“其美者自美，吾不知其美也；其恶者自恶，吾不知其恶也。”阳子曰：“弟子记之：行贤而去自贤之行，安往而不爱哉！”

#### 注释：

①逍遥：自由自在，无拘无束。游：交游，交往。悠闲自得、畅行无阻，是庄子为人处事的理想境界。②北冥：北海。冥：同“溟”。③怒：奋扬。④是：这个。⑤海运：海水季节性流动。此时必有大风。⑥天池：自然形成的大湖。⑦击：因受到拍击而涌激。⑧转(tuán)：围绕。扶摇：旋风。⑨以六月息：以六个月后为歇息时间。⑩野马：喻地表蒸腾的水气。⑪苍苍：深蓝。⑫视下：向下看。⑬坳堂：大厅。⑭芥为之舟：小小的芥籽是它上面的舟船。芥：芥菜籽，喻极小。⑮胶：粘住。指无法浮动。⑯斯：乃，就。培：凭借。天阨(è)：阻拦。⑰蜩：蝉。学鸠：斑鸠。学：即鸢。⑱决(xuè)：起：迅速飞起。⑲枪：冲起。枋：檀树。⑳控：着落。㉑奚以：为何。之：往，到。㉒莽苍：郊野。㉓三餐：三餐，指一日。㉔果：饱满。㉕宿舂粮：前夜准备干粮。㉖聚：积蓄。㉗之：此。二虫：指蝉与斑鸠。㉘知：通“智”。㉙年：寿命。㉚朝菌：蕈类植物，朝生暮死，暮生朝死。晦朔：早晚。㉛螳螂：蝉的一种，仅能成活一夏。㉜冥灵：树名。㉝椿：香椿树。㉞久：寿长。闻：著名。

㉟匹：比配。㊱是已：就是这样的。㊲穷发：不毛之地。㊳修：长。㊴羊角：旋转的旋风如羊角状。㊵绝：超越。㊶斥鴳：沼泽中的小雀。㊷知：通“智”。效：授予。比：亲近。征：验证。㊸自视：看待自己。㊹宋荣子：人名。犹然：笑貌。㊺劝：努力，勉力。㊻沮：沮丧，消极。㊼数数(shuò)：恒常。㊽树：立。㊾冷：轻快。㊿至：高。尤：舍弃，不求。①燭(jué)火：小火把。②尸：主治。③缺然：不够充分。④致：送交。⑤鹪鹩：鸟名。⑥偃鼠：一种形体较大的鼠。⑦归休乎：回去吧。⑧庖人：厨师。治庖：下厨做事。⑨尸祝：祭礼中执行祷祝的人。樽、俎：礼器。⑩接舆：孔子时的狂士。⑪知：通“智”。⑫浸：水淹。稽：至。⑬枇糠：糟粕。⑭资：购求。章甫：冠。⑮官(yāo)：通“杳”。丧：遗忘。⑯瓠(hù)：葫芦。⑰实：容纳。⑱瓠：借作“廓”。⑲呬(xiāo)：大而空。⑳掊(pòu)：击破。㉑龟：通“皸”，皸裂。㉒泔泔：漂洗。统：通“纆”，棉絮。㉓蓬：蓬草蔽塞。㉔樗：臭椿。㉕大本：主干；樗：通“櫟”。㉖涂：通“途”。㉗狸：野猫。狴：黄鼠狼。㉘中：触。机辟：捕禽兽的夹子。㉙罔：通“网”。罟：鱼网。㉚犛(lí)离牛：牦牛。㉛无何有：虚无。莫：通“漠”。㉜齐：齐同。物论：人们对事物的评论。㉝蓁(zhēn)：隐：倚，靠。机：即“几”。㉞嘘：缓缓吐气。㉟苔焉：形体死寂的样子。耦：通“偶”。㊱女：通“汝”。籁：箫管。㊲大块：大自然。噫气：吐气。㊳寥寥(liú)：喻风声悠长。㊴畏佳：通“岷崔”，高大参差。㊵激：湍急的水声。㊶謦(xiào)：飞箭声。叱：发怒出气声。吸：吸气声。叫：喊叫声。谯：号泣声。突(yāo)：沉吟声。咬(jiào)：哀叹声。㊷于：喁：声音象对话一样相互应和。㊸厉：烈。济：停止。为虚：归于静寂。㊹调调、刀刀：形容植物因风摇动。㊺比竹：竹管并在一起。㊻万不同：千万个孔穴发出不同的声音。㊼闲闲：自以为是，不肯接受意见。㊽间间：在枝节小事上计较。㊾炎炎：盛气凌人。㊿詹詹：罗罗嗦嗦。①魂交：杂念纷至。②形开：形体懒散。③接：指接触的人。



构：斗，周旋。⑩纡：舒缓。窖：深沉。密：谨慎周全。⑪惴惴：心神不安。⑫纍纍：丧气恢心。⑬机括(kuè)：弓弩上的装置。⑭司：通“伺”，洞察。⑮诅盟：誓约。⑯老洫(xù)：贯于自守。⑰热：通“蛰”。⑱姚：轻浮。伏：放纵。启：放荡。态：作态。⑲乐出虚：乐声来自空穴。⑳朕(zhèn)：借作“朕”，迹象。㉑说：通“悦”。㉒相刃：相互残杀。相靡：相互倾轧。㉓役役：为外物役使而劳碌。㉔荼(niè)：疲倦，不振作。所归：目的地。㉕形化：形体变化。㉖芒：愚。㉗穀(kòu)：幼鸟。㉘道枢：道的关键。㉙莛：草茎。榱：房柱。㉚厉：丑女。㉛狙：猕猴。狙公：养猕猴的老者。赋：分发。茅：橡子。㉜天钧：自然的协和。㉝两行：对立两方面自行发展。㉞封：界限。㉟枝：柱。策：打鼓棒。㊱据：凭依。㊲载之末年：见载于后世的书中。㊳纶：琴。㊴滑(gǔ)疑：通“滑稽”，诙谐。喻狡辩。㊵豪：通“毫”。㊶殇子：夭折的小孩。㊷巧历：巧手计算的人。㊸眡(zhèn)：界限。㊹论：论述。议：评议。㊺辩：争辩。㊻怀之：囊括万物于胸中。㊼噤：通“谦”。㊽伎(zhì)：嫉害。㊾葆：藏，保存。㊿倪：音泥。㉑庸诘：何以。㉒偏死：半身麻痹。㉓刍豢：禽畜。㉔荐：肥草。㉕蜉蝣：蜈蚣。带：蛇。㉖獼狙：猕猴的一种。雌：雌雄。㉗决骤：突然狂奔。㉘沍：冻结。㉙荧：惑乱。㉚滑昏：昏乱。㉛隶：奴仆。尊：尊贵。㉜苞：通“钝”。㉝一：合一。纯：浑浑沌沌。㉞筐床：君主的睡床。㉟薪(qí)：求。㊱吊诡：荒诞。㊲黠闇：不明貌。㊳天倪：自然之始。㊴造化而出的言论。待：对立。㊵曼衍：变化。㊶振：奋起，无阻。竟：通“境”，界。㊷罔两：影子的影子。景：同“影”。㊸曩(náng)：从前。㊹特：独特。操：操行。㊺遽遽：惊疑。㊻物化：化为物。㊼养生主：主宰、支配养生的大道。㊽为知：求知。㊾督：中。经：正道。㊿解：宰割。㉑踰：通“倚”，抵住。㉒聿(huā)：皮骨迅速相离声。㉓聿(huō)：刀裂物声。㉔批：击。郤：(筋骨间的)空隙。㉕窾：窍穴。㉖技：同“枝”。枝经：经

络相连处。背：附骨之肉。纂(qīng)：筋骨连接处。尝：试。㉗辄：脾骨。㉘族：普通的。㉙硎：磨刀石。㉚族：通“簇”，骨头聚集处。㉛噪：骨肉分离声。㉜介：特，单足。㉝王：通“旺”。㉞通：失。倍：背。㉟遁天之刑：背离天理。刑：规则。㊱帝：天。县：通“悬”，束服。㊲指：借作“脂”，脂油。穷：尽。㊳世：社会。㊴量：度，计算。㊵乎：借作“墟”，坼裂。蕉：通“焦”。㊶如：去路。㊷瘳(chōu)：病愈。㊸若：你。殆：大概。刑：遭受刑罚。㊹尽行：完善品行。㊺矜(qiāng)：诚实。㊻人：他人。气：性情。㊼绳墨：法规。术：借作“述”。㊽有：使……有，取得。㊾菑：灾。㊿荧：惑乱。㉑平：平静。㉒营：错乱。㉓形：表现。㉔成：认可。㉕始：起初。㉖信，取信。厚：多。㉗伛偻(yǔfū)：通“呕啍”，喻怜爱。㉘虚：通“墟”。厉：鬼，无后而死者。㉙尝：试。语：说给……听。㉚阳：刚阳气盛。充：增补。孔：大。扬：显露，张扬。㉛采：神情。色：脸色。㉜案：抑。㉝执：固守。㉞訾(zhǐ)：毁弃。㉟外曲：外表柔和顺从。㊱成：稳妥。上：上代。比：对比效法。㊲与：和。㊳擎蹠：执笏长跪。曲拳：躬身拱手。㊴教谏：劝谏。实：实质，内容。㊵课：通“渫”，通达。㊶固：鄙陋。㊷斋：斋戒。㊸噪：明亮。宜：以为宜，容许。㊹符：交合。㊺得使：按着做。㊻樊：篱。喻国境。名：名声，名份。㊼入：入耳，被接受。鸣：发表言论。㊽门：门面。毒：药剂。应“医门多疾”。㊿一：一切。宅：安居。㉑伪：人为。㉒阙：空，虚无。㉓止止：来临了。㉔坐驰：形静而神驰。㉕组：关键。㉖行终：终身而行。㉗重：庄重。㉘急：紧张。喻积极配合。㉙寡：极少。道：由。欢：愉快。成：达成。㉚臧：善。㉛两：双重。㉜两：双方。传：转达。㉝莫：通“漠”，漠然。㉞巧：智慧技巧。斗力：角斗。㉟阳：公开。㊱卒：终结。阴：隐密。㊲泰：极。㊳治：有秩序。㊴鄙：险恶。㊵简：少。巨：大。㊶风波：喻不易把握。㊷实丧：得而复失。㊸设：作，形成。



⑤⑤蒹(bó): 通“勃”, 气息急促的样子。⑤⑥心历: 恶念。⑤⑦剋核: 制约批评。⑤⑧迁: 移, 变更。⑤⑨劝成: 促使结果出现。⑥①过度: 超过限度。益: 古“溢”字。⑥②美成在久: 好事多磨。⑥③中: 心, 心性。⑥④作: 着意。报: 应有的礼节往来。⑥⑤为: 替, 给。致命: 转递使命。⑥⑥傅: 做老师。太子: 即太子。⑥⑦德: 性。天杀: 天生凶残。杀: 肃杀, 酷虐。⑥⑧无方: 放弃礼义之后的虚无境界。⑥⑨就: 接近。⑥⑩努: 奋扬。⑥⑪积: 越来越多地。伐: 夸耀。而: 你。⑥⑫矢: 借作“屎”。⑥⑬蜃: 蜃, 大蛤之壳。溺: 尿。⑥⑭仆: 附。缘: 围绕不去。⑥⑮拊: 拍打。不时: 不是时候。⑥⑯缺衔: 咬断口勒。首: 笼头。胸: 肚带。⑥⑰栎(lì): 树名。社树: 植在土地神庙坛前, 受祭拜的树。⑥⑱絮: 围量。⑥⑲厌: 饱。⑥⑳液橘: 树脂流出如橘树。㉑祖(zhā): 通“楂”。藟(luǒ): 无核的果实。㉒剥: 摘取。㉓泄: 通“拙(yè)”, 牵拉。㉔诊: 占。㉕直: 特意。寄: 寄托心意。㉖翦: 砍伐。㉗苙: 通“庇”。藟: 荫。㉘喙(shì): 同舐, 舔。㉙醒: 醉。㉚檉: 落叶乔木, 高大而纹理细密。㉛拱: 合握。把: 一手能握住的。㉜杙: 小木桩, 一般用来固定绳索。㉝高名: 门面荣显。丽: 居室。㉞棹傍: 单板棺材。㉟颡: 额。适河: 参与祭祀河神。㊱颡: 面颊。隐: 藏, 掩。会撮: 向后梳的发髻。㊲五管: 与五脏对应的穴位, 位于背部, 称为五腧。㊳髀: 大腿。㊴挫: 促拿。治繻: 缝补衣服。㊵鼓笑: 占卦。播精: 求卦者将精米交给占卦者, 以供求神之用, 也当是一种酬劳。㊶迷阳: 一种多刺的草。㊷郤曲: 刺榆。㊸自寇: 自招砍伐。㊹充: 完美。符: 标志, 象征。㊺兀者: 遭受刑罚而砍断脚的人。㊻王先生: 做先生的师长。王(wàng): 长。㊼庸: 普通人。㊽物: 人物。最: 聚。㊾冎: 即“肯”字。㊿止: 留下。㉑齐: 平起平坐。执政: 子产自称。㉒说: 通“悦”。后人: 看不起人。㉓状: 描述。亡: 指断足。㉔羿: 后羿, 上古神箭手。彀中: 射程之内。㉕中地: 必中之地。㉖乃: 这样。称: 述说。㉗踵: 用踵走。㉘淑(chù): 诡异。㉙恶人: 容貌丑恶的人。

㉚哀骀它(tuó): 假设人名。㉛唱: 倡, 倡导立说。㉜闷然: 无心的样子。喻未加思考。㉝汜: 漠不关心。辞: 拒绝。㉞丑: 官职的类别。丑乎: 在官职中掂量。㉟纯: 通“豚”, 猪。食: 就乳。㊱眙若: 惊慌而目动的样子。㊲簪(shà): 棺材的饰物。资: 资助, 抚恤。㊳取: 通“娶”。止于外: 男性侍从婚后不得留。在宫内。㊴滑: 乱。㊵灵府: 心。㊶和豫: 和顺逸乐。㊷兑: 道穴, 口、耳、目等。㊸郤: 同“隙”。㊹与: 随。为: 变更。春: 象春天般有生气, 即“活泼泼地”。㊺接: 交接。生时: 产生四时变化。㊻盛: 最。㊼脩: 即“修”。成和之修: 和的修养达到了极至。成: 疑与上文“盛”意同。㊽闾(yān): 伛背。跂: 踮足。脉: 通“唇”。㊾说: 通“悦”。㊿脰: 颈项。肩肩: 用肩膀肩负。㉑瓮瓮(àng)大瘰(yīng): 象瓮那样大的肿瘤生在脖子上。㉒孽: 罪恶之根。㉓约: 结合。为: 因。㉔工: 巧。商: 货易牟利。㉕斲(zhuó): 砍削。㉖天鬻: 受自然的养育。㉗人: 人为。㉘眇: 细小。㉙警: 高大。㉚成: 修成。天: 天人合一的境界。㉛益: 增补。生: 生命。㉜大宗师: 即天道为万物之宗, 万众之师。㉝庸讒: 何以。㉞寡: 败。㉟雄: 力求。㊱谟: 谋。士: 借作“事”。㊲栗: 战慄。㊳濡: 沾湿。㊴噬: 噎。哇: 呕。㊵说: 通“悦”。㊶沂: 同“欣”。㊷距: 通“拒”。㊸脩: 自由自在。㊹受: 得到。㊺复: 回归。㊻捐: 损。㊼颡(qiú): 质朴而不装饰。㊽义: 合。朋: 朋党。㊾承: 接受。㊿觚: 称举。㉑张: 广大貌。㉒邈邈: 焕发貌。㉓崔崔: 运动貌。㉔濡: 颜色柔润。㉕止: 安服。㉖世: 通“太”, 广阔。㉗制: 限。㉘连: 流连。㉙愧: 无心貌。㉚绰: 宽广。杀: 肃杀。㉛卓: 卓越。㉜愈: 过。㉝响: 吐气。㉞两: 对立的两面。㉟佚: 安逸。㊱遐: 通“遁”。㊲犯: 借作“范”, 铸造。㊳妖: 通“夭”。㊴猗, 音 xī。㊵伏戏: 即伏羲。㊽颡顓, (zhuānxū)。㊿偶, (yǔ雨)。㉑朝彻: 一朝彻悟。㉒独: 独特的境界。㉓摠: 触犯。宁: 平静。㉔拘拘: 拘挛难伸。㉕发: 上突。㉖句赘(gōu zhuì): 颈椎。

③⑨ 沴(lì): 错乱。 ④⑩ 跼蹐: 踟蹰。 ④⑪ 浸假: 逐渐。 ④⑫ 怛(dá): 惊惧。 ④⑬ 翊: 音。 ④⑭ 悍: 凶顽不驯。 ④⑮ 镆铘: 宝剑名。 ④⑯ 成: 熟。 ④⑰ 遽然: 自得。 ④⑱ 猗: 虚词。 ④⑲ 县: 通“悬”。 ④⑳ 疢(huàn): 毒疮。 ㉑ 戮: 受刑罚。 ㉒ 畸: 异。 ㉓ 侔: 齐。 ㉔ 骇形: 形体受震惊。损伤。 ㉕ 旦宅: 旦怵, 惊惧。死: 毁损。 ㉖ 厉: 奋飞。 ㉗ 一: 同一, 合一。 ㉘ 轶: 通“只”, 虚词。 ㉙ 黥: 面颊刺字, 古代的一种刑罚。 ㉚ 涂: 通“途”。 ㉛ 藩: 境。 ㉜ 黼黻(fǔfú): 古礼服上的刺绣。观: 美观。 ㉝ 无庄: 古代美人。失: 自失, 遗忘。 ㉞ 据梁: 古代力士。 ㉟ 成: 全形。 ㊱ 吾师: 指天道。 ㊲ 糅(ji): 细切拌匀。喻调和万物。 ㊳ 益: 长进。 ㊴ 骈: 并。拇: 手或脚的拇指。骈拇: 大指与第二指并联而生。 ㊵ 枝指: 拇指上旁生的小指。性: 天生。 ㊶ 侈: 过多。德: 事物间适宜的原则。 ㊷ 方: 旁, 枝节。 ㊸ 列: 配。正: 纯正。 ㊹ 行: 路途。 ㊺ 曾、史: 曾参、史鳅。二人以仁孝著称。 ㊻ 杨、墨: 杨朱、墨翟。 ㊼ 正正: 当为“至正”。 ㊽ 鳧: 野鸭。胫: 小腿。 ㊾ 蒿目: 目光中含着忧愁。 ㊿ 饕(tāo): 贪。 ① 吮俞: 吹嘘。 ② 纆(mò): 三股绳。 ③ 诱: 油。 ④ 易: 变换。方: 方向。 ⑤ 臧: 善。 ⑥ 肱(qū): 撬开。篋: 小的箱子。 ⑦ 赆: 绑紧。絙、縆(téng): 绑物用的绳索。 ⑧ 肩鐻(jué): 箱子上用以加锁的部件。 ⑨ 脍(chī): 车裂。 ⑩ 靡: 通“糜”, 糜烂。 ⑪ 妄意: 猜测。 ⑫ 薄: 淡。 ⑬ 掊: 打。 ⑭ 斛: 量器, 容十斗。 ⑮ 逐: 追随。 ⑯ 揭: 举。 ⑰ 擿(zhì): 同“擿”。 ⑱ 擿: 拔。 ⑲ 铄: 销熔。 ⑳ 擿: 折断。 ㉑ 削: 删除。 ㉒ 爚(yuè): 炫耀。 ㉓ 毕: 小而长柄的网。弋: 带绳的箭。 ㉔ 罾(zēng): 四边有支架的鱼网。筍(gǒu): 竹制鱼须笼。 ㉕ 削格、罗落、置(jié)、罟(fú): 捕兽工具。 ㉖ 颉(jiè): 借作“黠”。 ㉗ 悖: 乱。 ㉘ 烁: 熔毁。 ㉙ 施: 运行。 ㉚ 蠕蠕(zhuìruǎn): 虫的蠕动。 ㉛ 肖翘: 轻微。 ㉜ 谆谆: 通“谆谆”, 教诲人的口气。 ㉝ 刻意: 在意念上严格要求自己。 ㉞ 亢: 高。 ㉟ 藪泽: 湖泊。 ㊱ 吹、吮: 出气。二者有快慢之分。 ㊲ 经: 悬

吊。申: 伸。 ㊳ 道: 通“导”。 ㊴ 忘: 忘情。 ㊵ 悵: 通“淡”。 ㊶ 平: 准则。质: 本质。 ㊷ 休休: 宽容。 ㊸ 天行: 天道运行。 ㊹ 物化: 随物变更。 ㊺ 德: 行。 ㊻ 波: 流。 ㊼ 福先、祸始: 指善、恶。 ㊽ 故: 习惯。 ㊾ 桀: 通“匪”。 ㊿ 蟠: 遍及。 ① 同帝: 如同天帝。 ② 缮性: 修心养性。 ③ 滑: 治。欲: 情。 ④ 明: 明智。 ⑤ 蔽蒙: 蒙蔽。民: 人。 ⑥ 和理: 道德。 ⑦ 冒: 加盖。 ⑧ 混芒: 混混沌沌。 ⑨ 逮: 待到。 ⑩ 染: 扰乱。 ⑪ 识知: 探索。 ⑫ 倪: 偶然。 ⑬ 圉(yū): 阻留。 ⑭ 荒: 通“慌”, 迷乱。 ⑮ 倒置: 本末倒置。 ⑯ 秋水: 秋汛。 ⑰ 涘(sì): 水滨。渚(zhǔ): 水中沙丘或高地。 ⑱ 若: 海若, 海神。 ⑲ 尾闾: 排泄海水处。 ⑳ 叠(lěi): 石块。空: 孔。 ㉑ 稊(tí)米: 小如稗籽的米。太仓: 太仓。 ㉒ 人卒: 人众。 ㉓ 豪: 通“毫”。 ㉔ 证: 求证。向: 从前。故: 事。 ㉕ 闷: 昧。 ㉖ 掇: 拾取。跼: 踮起脚望, 企盼。 ㉗ 涂: 通“途”。 ㉘ 说: 通“悦”。 ㉙ 倪: 端, 边际。 ㉚ 精: 精微。 ㉛ 围: 量其广度。 ㉜ 尽: 穷。明: 看清。 ㉝ 埤: 同“郭”。外城。殷: 充裕, 盛大。 ㉞ 异便: 分别。 ㉟ 出: 指动机。 ㊱ 辟异: 行为偏激不合群。 ㊲ 无己: 自忘。 ㊳ 恶至: 何以。倪: 划分……端际。 ㊴ 趣: 倾向, 趋向。 ㊵ 之、吟: 国相子之和燕王吟。二人因让国被杀。 ㊶ 梁丽: 屋梁。冲城: 撞开城墙。室穴: 塞住小孔。 ㊷ 鸱鸢: 猫头鹰。撮蚤: 捉跳蚤。瞋: 瞪。 ㊸ 默: 静。 ㊹ 衍: 发展。 ㊺ 无: 不。拘: 固守。而: 你。 ㊻ 蹇: 不顺利。 ㊼ 谢施: 代谢转化。 ㊽ 无一: 不拘于一格。 ㊾ 繇繇: 悠悠。 ㊿ 泛泛: 无边无际。 ① 踟蹰(zhíchú): 进退犹疑。 ② 落: 络。 ③ 夔(kuí): 传说中的独脚怪兽。怜: 美。 ④ 虺(xián): 百足之虫。 ⑤ 踟(chēn)蹰: 跳着走。予: 我。 ⑥ 无如: 无可奈何。 ⑦ 有似: 应为似有。 ⑧ 蹠(qiū): 通“踏”, 踏。 ⑨ 蜚: 飞, 括起。 ⑩ 处: 安居。 ⑪ 将: 率。甲: 甲士。 ⑫ 阳虎: 鲁国季孙氏家臣, 曾带兵攻打过匡地。 ⑬ 茫: 通“茫”。 ⑭ 大: 通“太”。 ⑮ 干: 岸。 ⑯ 甃(zhòu 咒): 砌井壁用的砖。崖: 可解作棱。 ⑰ 跗: 脚背。

⑤还：顾视。𧈧蟹：子子。科斗：蝌蚪。⑤濂：涉。⑤崖：通“涯”，水边。⑤适适(tì)：惊惧。⑤规规：局促。⑤商矩：马炫。⑤蚘：踩。大皇：天至高处。⑤爽(shì)：借作释。⑤呿(qū)：喻张口。⑤巾笥(sì)：装入竹箱，用巾包好。⑤曳：拖。涂：途。⑤鹑鹑：鸟，形如凤凰。⑤练实：竹米。⑤醴泉：甘泉。⑤鸱：鸱鸺。⑤吓：表示因惊怕而发出的声音。⑤𩚑：苍条鱼。⑤至乐：最大的乐趣。⑤据：定，止。⑤忠谏不听：忠谏而不被接受。⑤蹲循：逡巡，迟疑退却。⑤子胥：伍子胥。⑤径径：争先恐后。⑤芒：恍。𦵏：惚。⑤职职：繁多。⑤殖：繁生。⑤箕踞：两腿伸直岔开坐。⑤慨：借作“嘅”，感叹。⑤嗷嗷(jiào)：喻哭声。⑤蹶蹶(guì)：惊动貌。⑤髡(xiào)：枯骨。⑤檄(qiào)：敲打。⑤知识：相识的人。⑤蹙：皱眉。颡：额。⑤褚：衣袋。⑤𩚑：脰。⑤委蛇：通“逶迤”。从容自得。⑤说说：喻闹嚷声。⑤条达：条理通达。福持：得福。⑤撻(jiǎn)：拔。⑤种有几：物种之间有玄机。机：枢纽。⑤𦵏：继，水棉。⑤蜃(bīn)：蚌类。⑤陵屯：土堆。陵𦵏(xì)：车前、泽泻等草本植物。⑤乌足：车前草等类的变种。⑤蛭蟪(qíáo 齐曹)：金龟子的幼虫。⑤：其叶：胡蝶蛹虫寄生在乌足叶上。⑤胥也：不久。⑤鸬撮(qúduō)：干余骨的幼虫。⑤干余骨：似是一种硬甲虫。⑤沫：吐出的粘液。斯弥：虫名。⑤食醯(xī)：食醋。⑤颐格：螻蛄。⑤黄𦵏(kuàng)：虫名。九猷：陈酒。九：通“久”。猷：通“酋”，酒。⑤𦵏芮(màorui)：小蚊虫。蠃(quán)：通“羶”。⑤羊奚：朽竹上生出的竹菰。比：连。不𦵏(sǔn)：不生𦵏的竹子。⑤久竹：陈腐的竹子。青宁：竹根虫。⑤程：豹。⑤马：疑是“为”字。为：母猴。⑤达生：了悟生命。⑤几：近。⑤事：世事。遗：忘。⑤郤：通“隙”，漏洞。⑤𦵏(è)：同“𦵏”，遇，撞到。𦵏(shè)：恐惧。⑤模干：模翎、干将，古剑名。⑤伎(zhì)：忌恨。⑤飘瓦：指被飘落的瓦片打伤。⑤开：导至。天：事物的发展趋势。⑤痾倮：驼背。承：通“拯”，接取。蜎：

蝉。⑤锱铢：喻极少。古制六铢为一锱，四锱为一两。⑤厥：那，那个。株：露在地面上的树根。拘：卷曲。⑤数能：几次就行。⑤没人：善于潜水的人。⑤方：状。舍：心。⑤注：做赌注。巧：轻巧，轻松。⑤殢：喻心绪紊乱。⑤祝肾：人名。学生：学养生。⑤拔：把。簪：扫帚。操拔簪，喻做学徒。⑤单豹：人名。⑤县薄：通“悬簿”，竹帘做的门。喻贫寒人家。走：有钻营之意。⑤无：毋。人：收进来。⑤阳：外露。⑤柴立：象枯木一样静立而不动心。⑤畏涂：险路。涂：途。⑤祝宗人：祝人、宗人，掌祭祀的官。玄端：祭祀时的斋服，黑色，款式端正。牢笑(cè)：猪圈。⑤𦵏：豢养。𦵏(zhì)：猪。⑤齐：通“斋”。⑤藉：铺垫。⑤尻(kao)：臀。俎：祭器。⑤错：通“措”，置。⑤膝楯(zhuànshūn)：借作“𦵏(quán)”、“𦵏(chūn)”，载柩车。聚：积，喻多。倮，通“菱”，棺饰。⑤田：猎。⑤诒诒(xíyí)：呻吟声。⑤瀹(xù)：急。⑤沈：污水积聚处。履：鬼名。⑤髻：灶神。⑤烦壤：尘土积聚处。⑤雷霆：鬼名。⑤倍阿：土堆。倍：“培”。⑤蛙蜍：神名。⑤洸(yì)阳：神名。⑤罔象、𦵏(shēn)、夔、彷徨、委蛇(yí)：山泽中的精怪。⑤殆：近。⑤𦵏(zhēn)：喻大笑。⑤𦵏(shèng)。⑤𦵏：通“骄”。⑤向景：通“响影”。⑤变：心因外物触动而变化。⑤县：通“悬”。⑤故：故习，习惯。⑤齐：通“脐”。⑤汨(gǔ)：上涌的水流。⑤私：个性。⑤梓庆：木工监管者，名庆。镛：乐器架子，上刻有纹图。⑤耗气：损耗神气。⑤齐：斋。⑤御：驾车。⑤工倮：尧时工匠。旋：画圈。盖：合。⑤稽：核正。⑤怪：羁绊，阻碍。⑤要：腰。⑤踵门：不经引前而拜访。诎：惊问。扁庆子：人名。⑤田原：田地耕作。岁：好年景。⑤芒：茫。⑤说：悦。⑤款启：浅见。款：小孔。民：人。⑤𦵏：小鼠。⑤𦵏：同“𦵏”，小雀。⑤此篇取首句中二字命名。⑤周：庄子名周。⑤万物之祖：万物之始，即虚无。⑤志：记。⑤乡：家乡。⑤丰：毛皮厚。文：纹。⑤胥疏：徘徊。⑤形倮：言行倮傲。⑤大莫：广漠。

⑨张歙(xi): 开闭, 开合。谓伸出或收回船桨。  
 ⑩县: 悬。 ⑪一: 纯一之道。间: 外。设: 构想。 ⑫侗: 幼稚无知。 ⑬悦: 通“悦”, 思虑迟钝。怠疑: 通“怠疑”, 呆笨。 ⑭萃: 丛, 群。芒: 闇昧。 ⑮强梁强横, 不驯服。 ⑯曲傅: 曲从依附。 ⑰穷: 尽其心力。 ⑱挫: 损害。 ⑲大涂: 大道。 ⑳粉粉跌跌: 慢而低地飞。 ㉑迫胁: 肋与肋紧靠着。喻依偎。 ㉒绪: 残余。 ㉓大成之人: 道德极高的人。伐: 夸耀。 ㉔流: 运行。明居: 处于显露境地。 ㉕纯纯常常: 很纯朴很平常地。 ㉖杆: 橡树籽。 ㉗乱: 扰乱。 ㉘季: (hù)。 ㉙假人: 假国人。亡: 逃亡。 ㉚布: 钱币。 ㉛收: 关照。 ㉜以: 而。 ㉝翔佯: 徘徊。 ㉞挹: 通“揖”。 ㉟真冷: 应作“其命”。 ㊱缘: 顺。 ㊲率: 真挚。 ㊳廋(xié): 腰带。 ㊴惫: 困乏。 ㊵柎(nán)、梓、豫章: 大树名。 ㊶揽: 捉。蔓: 攀。王长: 称王称长。 ㊷眄睨: 顾视。 ㊸柘(zhè)、棘、枳、枸: 都是多刺的小树。 ㊹急: 紧张。 ㊺秦(yàn)氏之风: 炎帝时的民歌。秦: 通“焱”, 今作“炎”。 ㊻具: 打拍子的器具。数: 拍节。 ㊼宫、角: 都是五音之一。 ㊽犁然: 栗然。喻心神惊悸。 ㊾广: 扩大。造: 导至。己: 指孔子自己面临的困境。大: 过度。 ㊿穷: 极。桎: 通“窒”, 塞。 ㊽泄: 畅行。 ㊾知: 通“智”。鸛鹖: 燕子。 ㊿袭: 传衍。 ㊽有: 统治。 ㊾樊: 通“藩”, 境内。 ㊿感: 触。颡: 额。 ㊽殷: 大。逝: 飞去。 ㊿蹇: 拉。蹶(jué)步: 步子较大, 脚却轻起轻落。 ㊽翳(yì): 举臂。 ㊿淬(suì): 责骂。 ㊽不庭: 不出门。 ㊿蒯且(lín jù): 庄子弟子。 ㊽戮: 有罪的。以吾为戮: 认定我是罪人(虞人怀疑庄子偷粟子)。

## 《荀子》

### 题解:

荀子著。荀子(公元前313—前238)名况, 又称荀卿或孙卿, 赵国人, 战国后期的思想家、教育家。

这里所选的, 是《荀子》中针对世人立身

处世的利弊而阐发的谋略, 有《不苟》、《荣辱》等8篇。

荀子以“仁义”为立身之本, 认为人不可为图名利去做“难能可贵”的事, 在“仁义”面前, 宁遭世俗非议, 也不可退让。

“诚”是实现“仁义”的要领。是“养心”的门径。以诚心“守仁”“行义”, 修行可达“神化”之境。明智若神, 随物变化, 便具备了“天德”, “天不言而人推高焉”。

正确对待“荣辱”之心, 可以避免言行的偏差。“先义而后利者荣, 先利而后义者辱; 荣者常通, 辱者常穷; 通者常制人, 穷者常制于人。”这是荣辱之间的最大区别。

不可以貌取人, 也不可凭面相体相论断自己的命运。有些人德行美好, 相貌却很丑恶; 有些人面目俊美, 品行却很恶劣。从人身上确实可以看出不祥的征兆, 但它不是生相, 而是不良的德行。

有了崇高的信仰, 对人恭敬, 言行忠信, 做事谨慎, 内心端正, 安贫乐道, 不怨天不尤人, 这样就可以“常无不顺”。这就是足以横行天下的法术。

荀子的处世谋略, 基本上是对孔子思想的引发。只是因二人所处时代明显不同, 荀子的学说显得更加具体, 更加切合时宜。

荀子在世时, “百家争鸣”的局面已近尾声, 这使他对各家学说有机会进行容纳吸收。荀子的立论依据是儒学, 对道家“天”“人”的思想也有所接受。他的学生韩非、李斯都是法家著名的代表人物, 可见荀子的学说中有很成份是法家的“刑名”思想。《荀子》一书对后世影响较大。唐代韩愈称《荀子》为“大论”, 而且将荀子与孟子并称为“大儒”。

### 不 苟<sup>①</sup>

君子行不贵苟难, 说不贵苟察, 名不贵苟传, 唯其当之为贵。故怀负石而赴河, 是行之难为者也, 而申徒狄能之; 然而君子不

贵者，非礼义之中也。山渊平，天地比，齐、秦袭<sup>②</sup>，入乎耳，出乎口，钩有须<sup>③</sup>，卵有毛，是说之难持者也，而惠施、邓析能之；然而君子不贵者，非礼义之中也。盗跖吟口，名声若日月，与舜、禹俱传而不息；然而君子不贵者，非礼义之中也。故曰：君子行不贵苟难，说不贵苟察，名不贵苟传，唯其当之为贵。《诗》曰：“物其有矣，唯其时矣。”此之谓也。

君子易知而难狎，易惧而难胁，畏患而不避义死，欲利而不为所非，交亲而不比<sup>④</sup>，言辩而不辞，荡荡乎，其有以殊于世也。

君子能亦好，不能亦好；小人能亦丑，不能亦丑。君子能则宽容易直以开道<sup>⑤</sup>人，不能则恭敬缙绌以畏事人<sup>⑥</sup>；小人能则倨傲僻违以骄溢<sup>⑦</sup>人，不能则妬嫉怨诽以倾覆人。故曰：君子能则人荣学焉，不能则人乐告之；小人能则人贱学焉，不能则人羞告之。是君子、小人之分也。

君子宽而不慢<sup>⑧</sup>，廉而不刿<sup>⑨</sup>，辩而不争，察而不激，直立而不胜，坚强而不暴，柔从而不流，恭敬谨慎而容；夫是之谓至文。《诗》曰：“温温恭人，惟德之基。”此之谓矣。

君子崇人之德，扬人之美，非谄谀也；正义直指，举人之过，非毁疵也<sup>⑩</sup>；言己之光美，拟于舜、禹，参于天地，非夸诞也；与时屈伸，柔从若蒲苇，非慑怯也；刚强猛毅，靡所不信，非骄暴也。以义变应，知当曲直故也。《诗》曰：“左之左之，君子宜之；右之右之，君子有之。”此言君子能以义屈信变应故也。

君子，小人之反也。君子大心则敬天而道，小心则畏义而节；知则明通而类，愚则端悖而法；见由则恭而止，见闭则敬而齐；喜则和而治<sup>⑪</sup>，忧则静而理；通则文而明，穷则约而详。小人则不然，大心则慢而暴，小心则淫而倾；知则攫盗而渐<sup>⑫</sup>，愚则毒贼而乱；见由则兑而倨，见闭则怨而险；喜则轻而黷<sup>⑬</sup>，忧则挫而慑；通则骄而偏，穷则弃而僂<sup>⑭</sup>。传曰：“君子两进，小人两废。”此

之谓也。

君子治治，非治乱也。曷谓邪？曰：礼义之谓治，非礼义之谓乱也。故君子者，治礼义者也，非治非礼义者也。然则国乱将弗治与？曰：国乱而治之者，非案乱而治之之谓也，去乱而被之以治。人污而修之者，非案污而修之之谓也，去污而易之以修。故去乱而非治乱也，去污而非修污也。治之为名，犹曰君子为治而不为乱，为修而不为污也。

君子絜其身而同焉者合矣<sup>⑮</sup>，善其言而类焉者应矣。故马鸣而马应之，牛鸣而牛应之，非知也，其势然也<sup>⑯</sup>。故新浴者振其衣，新沐者弹其冠，人之情也。其谁能以己之漙漙受人之掇掇者哉<sup>⑰</sup>。

君子养心莫善于诚，致诚则无它事矣，唯仁之为守，唯义之为行。诚心守仁则形，形则神，神则能化矣<sup>⑱</sup>；诚心行义则理，理则明，明则能变矣。变化代兴，谓之天德。天不言而人推高焉，地不言而人推厚焉，四时不言而百姓期焉：夫此有常，以至其诚者也。君子至德，嘿然而喻<sup>⑲</sup>，未施而亲，不怒而威；夫此顺命，以慎其独者也。善之为道者，不诚则不独，不独则不形，不形则虽作于心，见于色，出于言，民犹若未从也，虽从必疑。天地为大矣，不诚则不能化万物；圣人为知矣，不诚则不能化万民；父子为亲矣，不诚则疏；君上为尊矣，不诚则卑。夫诚者，君子之所守也，而政事之本也。唯所居以其类至，操之则得之，舍之则失之。操而得之则轻，轻则独行，独行而不舍则济<sup>⑳</sup>矣。济而材尽<sup>㉑</sup>，长迁而不反其初，则化矣。

君子位尊而志恭，心小而道大，所听视者近，而所闻见者远。是何邪？则操术然也。故千人万人之情，一人之情是也；天地始者，今日是也；百王之道，后王是也。君子审后王之道，而论于百王之前，若端拜而议。推礼义之统，分是非之分，总天下之要，治海内之众，若使一人。故操弥约<sup>㉒</sup>而事弥大。五寸之矩，尽天下之方也。故君子不下室堂

而海内之情举积此者，则操术然也。

有通士者，有公士者，有直士者，有恣士者，有小人者。上则能尊君，下则能爱民，物至而应，事起而辨，若是则可谓通士矣。不下比以阖上<sup>②</sup>，不上同以疾下，分争于中，不以私害之，若是则可谓公士矣。身之所长，上虽不知，不以悖君；身之所短，上虽不知，不以取赏；长短不饰，以情自竭，若是则可谓直士矣。庸言必信之<sup>③</sup>，庸行必慎之，畏法流俗，而不敢以其所独甚，若是则可谓恣士矣。言无常信，行为常贞，唯利所在，无所不倾，若是则可谓小人矣。

公生明，偏生闇，端恣生通，诈伪生塞，诚信生神，夸诞生惑：此六生者，君子慎之，而禹、桀所以分也。

欲恶取舍之权：见其可欲也，则必前后虑其可恶也者；见其可利也，则必前后虑其可害也者；而兼权之，孰计之，然后定其欲恶取舍，如是则常不失陷矣。凡人之患，偏伤之也。见其可欲也，则不虑其可恶也者；见其可利也，则不顾其可害也者，是以动则必陷，为则必辱，是偏伤之患也。

人之所恶者，吾亦恶之。夫富贵者则类傲之<sup>④</sup>，夫贫贱者则求柔之：是非仁人之情也，是奸人将以盗名于晦世者也<sup>⑤</sup>，险莫大焉。故曰：盗名不如盗货。田仲、史鰌不如盗也。

## 荣 辱<sup>⑥</sup>

骄泄者<sup>⑦</sup>，人之殃也；恭俭者，倂五兵也，虽有戈矛之刺，不如恭俭之利也。故与人善言，暖于布帛；伤人以言，深于矛戟。故薄薄<sup>⑧</sup>之地，不得履之，非地不安也，危足无所履者，凡在言也。巨涂则让，小涂则殆，虽欲不谨，若云不使。

快快而亡者，怒也<sup>⑨</sup>；察察而残者，伎也；博而穷者，訾也<sup>⑩</sup>，清之而俞浊者，口也；黔之而俞瘠者，交也<sup>⑪</sup>；辩而不说者，争也；直立而不见知者，胜也；廉而不见贵

者，判也；勇而不见惮者，贪也；信而不见敬者，好割行也<sup>⑫</sup>。此小人之所务，而君子之所不为也。

斗者，忘其身者也，忘其亲者也，忘其君者也。行其少顷之怒，而丧终身之躯，然且为之，是忘其身也；室家立残，亲戚不免乎刑戮，然且为之，是忘其亲也，君上之所恶也，刑法之所大禁也，然且为之，是忘其君也。忧忘其身，内忘其亲，上忘其君，是刑法之所不舍也，圣王之所不畜也<sup>⑬</sup>。乳彘触虎<sup>⑭</sup>，乳狗不远游<sup>⑮</sup>，不忘其亲也。人也，忧忘其身，内忘其亲，上忘其君，则是人也而曾狗彘之不若也。

凡斗者，必自以为是而以人为非也。己诚是也，人诚非也，则是己君子而人小人也。以君子与小人相贼害也，忧以忘其身，内以忘其亲，上以忘其君，岂不过甚矣哉！是人也，所谓以狐父之戈犇牛矢也<sup>⑯</sup>。将以为智邪？则愚莫大焉。将以为利邪？则害莫大焉。将以为荣邪？则辱莫大焉。将以为安邪？则危莫大焉。人之有斗，何哉？我欲属之狂惑疾病邪，则不可，圣王又诛之。我欲属之鸟鼠禽兽邪，则不可，其形体又人，而好恶多同。人之有斗，何哉？我甚丑之。

有狗彘之勇者，有贾盗之勇者，有小人之勇者，有士君子之勇者。争饮食，无廉耻，不知是非，不辟死伤，不畏众强，恇恇然唯利饮食之见，是狗彘之勇也。为事、利，争货财，无辞让，果敢而振，猛贪而戾<sup>⑰</sup>，恇恇然唯利之见，是贾盗之勇也。轻死而暴，是小人之勇也。义之所在，不倾于权，不顾其利，举国而与之不为改视，重死、持义而不挠<sup>⑱</sup>，是士君子之勇也。

脍、鲋者<sup>⑲</sup>，浮阳之鱼也<sup>⑳</sup>；舐于沙<sup>㉑</sup>而思水，则无逮矣<sup>㉒</sup>。挂于患而欲谨，则无益矣。自知者不怨人，知命者不怨天；怨人者穷，怨天者无志。失之己，反之人，岂不迂乎哉！

荣辱之大分、安危利害之常体：先义而后利者荣，先利而后义者辱；荣者常通，辱

者常穷；通者常制人，穷者常制于人，是荣辱之大分也。材慝者常安利<sup>①</sup>，荡悍者常危害；安利者常乐易，危害者常忧险；乐易者常寿长，忧险者常夭折，是安危利害之常体也。

夫天生蒸民<sup>②</sup>，有所以取之。志意致修，德行致厚，智虑致明，是天子之所以取天下也。政令法，举措时，听断公，上则能顺天子之命，下则能保百姓，是诸侯之所以取国家也。志行修，临官治，上则能顺上，下则能保其职，是士大夫之所以取田邑也。循法则、度量、刑辟、图籍，不知其义，谨守其数，慎不敢损益也，父子相传，以持王公，是故三代虽亡，治法犹存，是官人百吏之所以取禄秩也。孝弟原慝，拘录疾力<sup>③</sup>，以敦比其事业<sup>④</sup>，而不敢怠傲，是庶人之所以取暖衣饱食、长生久视以免于刑戮也<sup>⑤</sup>。饰邪说，文奸言，为倚事<sup>⑥</sup>，陶诞突盗<sup>⑦</sup>。恂悍骄暴<sup>⑧</sup>，以偷生反侧于乱世之间，是奸人之所以取危辱死刑也。其虑之不深，其择之不谨，其定取舍楮慢<sup>⑨</sup>，是其所以危也。

材性知能，君子、小人一也。好荣恶辱，好利恶害，是君子、小人之所同也，若其所以求之之道则异矣。小人也者，疾为诞而欲人之信己也<sup>⑩</sup>，疾为诈而欲人之亲己也，禽兽之行而欲人之善己也。虑之难知也，行之难安也，持之难立也，成则必不得其所好，必遇其所恶焉。故君子者，信矣，而亦欲人之信己也；忠矣，而亦欲人之亲己也；修正治辨矣，而亦欲人之善己也。虑之易知也，行之易安也，持之易立也，成则必得其所好，必不遇其所恶焉，是故穷则不隐，通则大明，身死而名弥白<sup>⑪</sup>。小人莫不延颈举踵而愿曰：“知虑材性，固有以贤人矣！”夫不知其与己无以异也，则君子注错之当，而小人注错之过也。故熟察小人之知能，足以知其有余可以为君子之所为也。譬之越人安越，楚人安楚，君子安雅，是非知能材性然也，是注错习俗之节异也。

仁义德行，常安之术也，然而未必不危

也；污慢突盗<sup>⑫</sup>，常危之术也，然而未必不安也。故君子道其常<sup>⑬</sup>，而小人道其怪。

凡人有所一同：饥而欲食，寒而欲暖，劳而欲息，好利而恶害，是人之所生而有也，是无待而然者也，是禹、桀之所同也；目辨白黑美恶，耳辨音声清浊，口辨酸咸甘苦，鼻辨芬芳腥臊，骨体肤理辨寒暑疾养<sup>⑭</sup>是又人之所常生而有也，是无待而然者也，是禹、桀之所同也。可以为尧、禹，可以为桀、跖，可以为工匠，可以为农贾，在孰注错习俗之所积耳，是又人之所生而有也，是无待而然者也，是禹、桀之所同也。为尧、禹则常安荣，为桀、跖则常危辱；为尧、禹则常愉快，为工匠、农贾则常烦劳。然而人力为此而寡为彼，何也？曰：陋也。尧、禹者，非生而具者也，夫起于变故，成乎修修之为，待尽而后备者也。人之生固小人，无师、无法，则唯利之见耳。人之生固小人，又以遇乱世、得乱俗，是以小重小也，以乱得乱也。君子非得孰以临之，则无由得开内焉<sup>⑮</sup>。今是人之口腹，安知礼义？安知辞让？安知廉耻、隅积<sup>⑯</sup>？亦啍啍而噍<sup>⑰</sup>，乡乡而饱已矣。人无师、无法，则其心正其口腹也。今使人生而未尝睹刍豢稻粱也，惟菽藿糟糠之为睹，则以至足为在此也，俄而粲然有秉刍豢稻粱而至者<sup>⑱</sup>，则矐然视之曰<sup>⑲</sup>：“此何怪也！”彼臭之而无嫌于鼻<sup>⑳</sup>，尝之而甘于口，食之而安于体，则莫不弃此而取彼矣。今以夫先王之道，仁义之统，以相群居，以相持养，以相藩饰<sup>㉑</sup>，以相安固耶？以夫桀、跖之道，是其为相县也，几直<sup>㉒</sup>夫刍豢稻粱之县糟糠尔哉！然而人力为此而寡为彼，何也？曰：陋也。陋也者，天下之公患也，人之大殃大害也。故曰：仁者好告示人。告之示之，靡之儆之<sup>㉓</sup>，松之重之<sup>㉔</sup>，则夫塞者俄且通也，陋者俄且伺<sup>㉕</sup>也，愚者俄且知也。是若不行，则汤、武在上曷益？桀、纣在上曷损？汤、武存，则天下从而治；桀、纣存，则天下从而乱。如是者，岂非人之情固可与如此可与如彼也哉？

## 非 相<sup>⑧</sup>

人之情，食欲有刍豢，衣欲有文绣，行欲有舆马，又欲夫余财蓄积之富也，然而穷年累世不知不足，是人之情也。今人之生也，方知畜鸡狗猪彘，又畜牛羊，然而食不敢有酒肉；余刀布<sup>⑨</sup>，有困窳<sup>⑩</sup>，然而衣不敢有丝帛；约者有筐篋之藏，然而行不敢有舆马。是何也？非不欲也，几不长虑顾后而恐无以继之故也。于是又节用御欲<sup>⑪</sup>、收敛蓄藏以继之也，是于己长虑顾后，几不甚善矣哉！今夫偷生浅知之属，曾此而不知也，粮食大侈，不顾其后，俄则屈安穷矣<sup>⑫</sup>，是其所以不免于冻饿，操瓢囊为沟壑中瘠<sup>⑬</sup>者也，况夫先王之道，仁义之统，《诗》、《书》、《礼》、《乐》之分乎！彼固天下之大虑也，将为天下生民之属长虑顾后而保万世也，其怀长矣<sup>⑭</sup>，其温厚矣<sup>⑮</sup>，其功盛姚远矣<sup>⑯</sup>，非顺孰修为之君子<sup>⑰</sup>，莫之能知也。故曰：短绠不可以汲深井之泉，知不几者不可与及圣人之言<sup>⑱</sup>。夫《诗》、《书》、《礼》、《乐》之分，固非庸人之所知也。故曰：一之而可再也，有之而可久也，广之而可通也，虑之而可安也，反松察之而俞可好也<sup>⑲</sup>，以治情则利，以为名则荣，以群则和，以独则足乐，意者<sup>⑳</sup>其是邪？

夫贵为天子，富有天下，是人情之所同欲也，然则从人之欲，则孰不能容，物不能赡也。故先王案为之制礼义以分之，使有贵贱之等，长幼之差，知愚、能不能之分，皆使人载其事而各得其宜，然后使恣禄多少厚薄之称<sup>㉑</sup>，是夫群居和一之道也。

故仁人在上，则农以力尽田，贾以察尽财，百工以巧尽械器，士大夫以上至于公侯莫不以仁厚知能尽官职，夫是之谓至平。故或禄天下而不自以为多，或监门、御旅、抱关、击柝<sup>㉒</sup>，而不自以为寡。故曰：“斩而齐<sup>㉓</sup>，枉而顺，不同而一。”夫是之谓人伦。《诗》曰：“受小共大共，为下国骏蒙<sup>㉔</sup>。”此之谓也。

相人，古之人无有也，学者不道也。

古者有姑布子卿，今之世，梁有唐举，相人之形状颜色而知其吉凶、妖祥，世俗称之。古之人无有也，学者不道也。

故相形不如论心，论心不如择术。形不胜心，心不胜术。术正而心顺之，则形相虽恶而心术善，无害为君子也；形相虽善而心术恶，无害为小人也。君子之谓吉，小人之谓凶。故长短、小大、善恶形相，非吉凶也。古之人无有也，学者不道也。

盖帝尧长，帝舜短；文王长；周公短；仲尼长，子弓短。昔者，卫灵公有臣曰公孙吕，身長七尺，面长三尺，焉广三寸<sup>㉕</sup>，鼻、目、耳具，而名动天下。楚之孙叔敖，期思之鄙人也，突秃长左<sup>㉖</sup>，轩较之下，而以楚霸。叶公子高，微小短瘠，行若将不胜其衣然。白公之乱也，令尹子西、司马子期皆死焉。叶公子高人据楚，诛白公，定楚国，如反手尔，仁义功名善于后世。故事不揣长，不揆大，不权轻重，亦将志乎尔，长短、大小、美恶形相，岂论也哉？

且徐偃王之状，目可瞻焉；仲尼之状，面如蒙俱；周公之状，身如断菑<sup>㉗</sup>；皋陶之状，色如削瓜；閼夭之状，面无见肤；傅说之状，身如植鳍<sup>㉘</sup>，伊尹之状，面无须糜<sup>㉙</sup>。禹跳，汤偏，尧、舜参牟子。从者将论志意、比类文学邪？直将差长短，辨美恶，而相欺傲邪？

古者，桀、纣长巨姣美，天下之杰也；筋力越劲，百人之敌也。然而身死国亡，为天下大僂<sup>㉚</sup>，后世言恶，则必稽焉。是非容貌之患也，闻见之不众，论议之卑尔！

今世俗之乱君，乡曲之僇子<sup>㉛</sup>，莫不美丽、姚冶，奇衣、妇饰，血气、态度拟于女子；妇人莫不愿得以为夫，处女莫不愿得以为士，弃其亲家而欲奔之者，比肩并起。然而中君羞以为臣，中父羞以为子，中兄羞以



以为弟，中人羞以为友，俄则束乎有司而戮乎大市，莫不呼天啼哭，苦伤其今而后悔其始。是非容貌之患也，闻见之不众，论议之卑尔！然则从者将孰可也？

人有三不祥：幼而不肯事长，贱而不肯事贵，不肖而不肯事贤，是人三不祥也。人有三必穷：为上则不能爱下，为下则好非其上，是人之一必穷也；乡则不若，偕则谩<sup>⑨</sup>之，是人之二必穷也；知行浅薄，曲直有以相县矣，然而仁人不能推，知士不能明，是人之三必穷也。人有此三数行者，以为上则必危，为下则必灭。诗曰：“雨雪瀼瀼，宴然聿消。莫肯下隧，式居屡骄<sup>⑩</sup>此之谓也。

人之所以为人者，何已也？曰：以其有辨也。饥而欲食，寒而欲暖，劳而欲息，好利而恶害，是人之所生而有也，是无待而然者也，是禹、桀之所同也。然则人之所以为人者，非特以二足而无毛也，以其有辨也。今夫狴狴形笑亦二足而毛也，然而君子啖其羹，食其馘<sup>⑪</sup>。故人之所以为人者，非特以其二足而无毛也，以其有辨也。夫禽兽有父子而无父子之亲，有牝牡而无男女之别。故人道莫不有辨。

辨莫大于分，分莫大于礼，礼莫大于圣王。圣王有百，吾孰法焉？故曰：文久而息，节族久而绝，守法数之有司极礼而褻<sup>⑫</sup>。故曰：欲观圣王之迹，则于其粲然<sup>⑬</sup>者矣，后王是也。彼后王者，天下之君也。舍后王而道上古，譬之是犹舍己之君而事人之君也。故曰：欲观千岁，则数今日；欲知亿万，则审一二；欲知上世，则审周道；欲知周道，则审其人，所贵君子。故曰：以近知远，以一知万，以微知明。此之谓也。

夫妄人曰：“古今异情，其所以治乱者异道。”而众人惑焉。彼众人者，愚而无说，陋而无度者也。其所见焉，犹可欺也，而况于千世之传也！妄人者，门庭之间，犹诬欺也，而况于千世之上乎！

圣人何以不可欺？曰：圣人者，以己度者也。故以人度人，以情度情，以类度类，以

说度功，以道观尽，古今一也。类不悖，虽久同理，故乡乎邪曲而不迷，观乎杂物而不惑，以此度之。五帝之外无传人，非无贤人也，久故也；五帝之中无传政，非无善政也，久故也；禹、汤有传政而不若周之察也，非无善政也，久故也。传者久则论略，近则论详。略则举大，详则举小。愚者闻其略而不知其详，闻其细而不知其大也。是以文久而灭，节族久而绝。

凡言不合先王，不顺礼义，谓之奸言，虽辩，君子不听。法先王，顺礼义，党学者，然而不好言，不乐言，则必非诚士也。故君子之于言也，志好之，行安之，乐言之。故君子必辩。凡人莫不好言其所善，而君子为甚。故赠人以言，重于金石、珠玉；观人以言，美于黼黻文章<sup>⑭</sup>；听人以言，乐于钟鼓、琴瑟。故君子之于言无厌。鄙夫反是，好其实不恤其文，是以终身不免埤污、佣俗。故《易》曰：“括囊，无咎无誉。”腐儒之谓也。

凡说之难：以至高遇至卑，以至治接至乱。未可直至也，远举则病繆，近世则病佣。善者于是间也，亦必远举而不繆，近世而不佣，与时迁徙，与世偃仰，缓急、羸绌，府然若渠匱、槩括之于己也<sup>⑮</sup>，曲得所谓焉，然而不折伤。

故君子之度己则以绳，接人则用拙<sup>⑯</sup>。度己以绳，故足以为天下法则矣；接人用拙，故能宽容，因求以成天下之大事矣。故君子贤而能容罢，知而能容愚，博而能容浅，粹而能容杂，夫是之谓兼术。《诗》曰：“徐方既同，天子之功。”此之谓也。

谈说之术：矜庄以莅之，端诚以处之，坚强以持之，譬称以喻之，分别以明之，欣驩、芬苴以送之，宝之，珍之，贵之，神之，如是则说常无不受。虽不说人，人莫不贵，夫是之谓为能贵其所贵。传曰：“唯君子为能贵其所贵。”此之谓也。

君子必辩。凡人莫不好言其所善，而君子为甚焉。是以小人辩言险，而君子辩言仁也。言而非仁之中也<sup>⑰</sup>，则其言不若其默也，

其辩不若其呐也；言而仁之中也，则好言者上矣，不好言者下也。故仁言大矣。起于上所以道于下，政令是也；起于下所以忠于上，谋救是也；故君子之行仁也无厌。志好之，行安之，乐言之，故言君子必辩。小辩不如见端，见端不如见本分。小辩而察，见端而明，本分而理。圣人、士君子之分具矣。

有小人之辩者，有士君子之辩者，有圣人之辩者。不先虑，不早谋，发之而当，成文而类，居错<sup>⑩</sup>、迁徙，应变不穷，是圣人之辩者也；先虑之，早谋之，斯须之言而足听，文而致实，博而党正<sup>⑪</sup>，是士君子之辩者也。听其言则辞辩而无统，用其身则多诈而无功，上不足以顺明王，下不足以和齐百姓；然而口舌之均，瞻唯则节，足以为奇伟、偃郤之属：夫是之谓奸人之雄。圣王起，所以先诛也，然后盗贼次之。盗贼得变，此不得变也。

## 非十二子<sup>⑫</sup>

假今之世，饰邪说，文奸言，以乱天下<sup>⑬</sup>，鬻宇嵬琐<sup>⑭</sup>，使天下混然不知是非治乱之所存者有人矣。

纵情性，安恣睢<sup>⑮</sup>，禽兽行，不足以合文通治；然而其持之有故，其言之成理，足以欺惑愚众。是它嚣、魏牟也。

忍情性，纂谿利跂<sup>⑯</sup>，苟以分异人为高，不足以合大众，明大分；然而其持之有故，其言之成理，足以欺惑愚众。是陈仲、史鳢也。

不知壹天下、建国家之权称，上功用，大俭约而慢差等，曾不足以容辨异、县君臣；然而其持之有故，其言之成理，足以欺惑愚众。是墨翟、宋钘也<sup>⑰</sup>。

尚法而无法，下修而好作，上则取听于上，下则取从于俗，终日言成文典，反训察之<sup>⑱</sup>，则偶然无所归宿，不可以经国定分；然而其持之有故，其言之成理，足以欺惑愚众。是慎到、田骈也。

不法先王，不是礼义，而好治怪说，玩琦辞，甚察而不惠<sup>⑲</sup>，辩而无用，多事而寡功，不可以为治纲纪；然而其持之有故，其言之成理，足以欺惑愚众。是惠施、邓析也。

略法先王而不知其统，犹然而材剧志大，闻见杂博。案往旧造说<sup>⑳</sup>，谓之五行，甚僻违而无类，幽隐而无说，闭约而无解。案饰其辞而祇敬之曰：此真先君子之言也。子思唱之，孟轲和之，世俗之沟犹瞽儒嚅嚅然不知其所非也<sup>㉑</sup>，遂受而传之，以为仲尼、子游为兹厚于后世。是则子思、孟轲之罪也。

若夫总方略，齐言行，壹统类，而群天下之英杰而告之以大古<sup>㉒</sup>，教之以至顺；奥窔之间<sup>㉓</sup>，簟席之上，敛然圣王之文章具焉，佛然平世之俗起焉；六说者不能入也，十二子者不能亲也；无置锥之地，而王公不能与之争名；在一大位之位，则一君不能独畜，一国不能独容；成名况乎诸侯，莫不愿以为臣。是圣人之不得执者也，仲尼、子弓是也。

一天下，财万物，长养人民，兼利天下，通达之属，莫不从服，六说者立息，十二子者迁化，则圣人之得执者，舜、禹是也。

今夫仁人也，将何务哉？上则法舜、禹之制，下则法仲尼、子弓之义，以务息十二子之说，如是则天下之害除，仁人之事毕，圣王之迹著矣。

信信，信也；疑疑，亦信也。贵贤，仁也；贱不肖，亦仁也。言而当，知也；默而当，亦知也。故知默犹知言也。故多言而类，圣人也；少言而法，君子也；多言无法而流湎然，虽辩，小人也。故劳力而不当民务，谓之奸事；劳知而不律先王，谓之奸心；辩说譬喻，齐给便利，而不顺礼义，谓之奸说。此三奸者，圣王之所禁也。知而险，贼而神，为诈而巧，言无用而辩，辩不惠而察，治之大殃也。行辟而坚，饰非而好，玩奸而泽，言辩而逆，古之大禁也。知而无法，勇而无惮，察辩而操僻，淫太而用之，好奸而与众，

利足而迷，负石而坠，是天下之所弃也。

兼服天下之心：高上尊贵不以骄人，聪明圣智不以穷人，齐给速通不争先人<sup>⑩</sup>，刚毅勇敢不以伤人。不知则问，不能则学，虽能必让，然后为德。遇君则修臣下之义，遇则修长幼之义<sup>⑪</sup>，遇长则修子弟之义，遇友则修礼节辞让之义，遇贱而少者则修告导宽容之义。无不爱也，无不敬也，无与人争也，恢然如天地之苞万物。如是则贤者贵之，不肖者亲之。如是而不服者，则可谓沃怪狡猾之人矣，虽则子弟之中，刑及之而宜。诗云：“匪上帝不时，殷不用旧。虽无老成人，尚有典刑。曾是莫听，大命以倾。”此之谓也。

古之所谓处者，厚敦者也，合群者也，乐富贵者也<sup>⑫</sup>，乐分施者也，远罪过者也，务事理者也，羞独富者也。今之所谓士仕者，污漫者也，贼乱者也，恣睢者也，贪利者也，触抵者也<sup>⑬</sup>，无礼义而唯权执之嗜者也。

古之所谓处士者，德盛者也，能静者也<sup>⑭</sup>，修正者也，知命者也，箸是者也<sup>⑮</sup>。今之所谓处士者，无能而云能者也，无知而云知者也，利心无足而佯无欲者也，行伪险秽而强高言谨恣者也，以不俗为俗，离纵而跂訾者也<sup>⑯</sup>。

士君子之所能不能为：君子能为可贵，不能使人必贵己；能为可信，不能使人必信己；能为可用，不能使人必用己。故君子耻不修，不耻见污；耻不信，不耻不见信；耻不能，不耻不见用。是以不诱于誉，不恐于诽，率道而行，端然正己，不为物倾侧，夫是之谓诚君子。诗云：“温温恭人，维德之基。”此之谓也。

士君子之容：其冠进<sup>⑰</sup>，其衣逢，其容良；俨然，壮然，祺然，蕤然<sup>⑱</sup>，恢恢然，广广然，昭昭然，荡荡然，是父兄之容也。其冠进，其衣逢，其容恣<sup>⑲</sup>；俭然，悛然<sup>⑳</sup>，辅然，端然，訾然，洞然，缀缀然，矍矍然，是子弟之容也。

吾语汝学者之嵬容：其冠纒<sup>㉑</sup>，其纓禁缓，其容简连；填填然，狄狄然<sup>㉒</sup>，莫莫然，

矍矍然，瞿瞿然，尽尽然，盱盱然。酒食声色之中则瞢瞢然、瞑瞑然，礼节之中则疾疾然、訾訾然，劳苦事业之中则傺傺然、离离然<sup>㉓</sup>，偷儒而罔，无廉耻而忍樊诤<sup>㉔</sup>。是学者之嵬也。

弟佗其冠，冲谭其辞，禹行而舜趋，是子张氏之贱儒也。正其衣冠，齐其颜色，矜然<sup>㉕</sup>而终日不言，是子夏氏之贱儒也。偷儒惮事，无廉耻而耆饮食，必曰君子固不用力，是子游氏之贱儒也。

彼君子则不然。佚而不惰，劳而不慢，宗原应变，曲得其宜，如是然后圣人也。

## 仲 尼<sup>㉖</sup>

仲尼之门，五尺之竖子，言羞称乎五伯。是何也？曰：然，彼诚可羞称也。齐桓，五伯之盛者也，前事则杀兄而争国；内行则姑、姊、妹之不嫁者七人，闺门之内，般乐、奢汰<sup>㉗</sup>，以齐之分奉之而不足；外事则诈邾袭莒，并国三十五；其事行也若是其险污、淫汰也，彼固曷足称乎大君子之门哉！

若是而不亡，乃霸，何也？曰：於乎！夫齐桓公有天下之大节焉，夫孰能亡之？倏然<sup>㉘</sup>见管仲之能足以托国也，是天下之大知也。安忘其怒，出忘其讐，遂立以为仲父，是天下之大决也。立以为仲父，而贵戚莫之敢妬也；与之高、国之位，而本朝之臣莫之敢恶也；与之书社三百，而富人莫之敢距也。贵贱长少，秩秩焉，莫不从桓公而贵敬之，是天下之大节也。诸侯有一节如是，则莫之能亡也；桓公兼此数节者而尽有之，夫又何可亡也？其霸也，宜哉！非幸也，数也。

然而仲尼之门，五尺之竖子，言羞称乎五伯。是何也？曰：然，彼非本政教也，非致隆高也，非綦文理也，非服人之心也。乡方略，审劳佚，畜积、修斗而能颠倒其敌者也。诈心以胜矣，彼以让饰争，依乎仁而蹈利者也，小人之杰也，彼固曷足称乎大君子之门哉！

彼王者则不然：致贤而能以救不肖，致强而能以宽弱，战必能殆之而羞与之斗，委然成文以示之天下，而暴国安自化矣，有灾繆<sup>⑬</sup>者然后诛之。故圣王之诛也，綦省矣。文王诛四，武王诛二，周公卒业，至于成王则安无诛矣。故道岂不行矣哉！文王载，百里地而天下一；桀纣舍之，厚于有天下之孰而不得以匹夫老。故善用之，则百里之国足以独立矣；不善用之，则楚六千里而为讐人役<sup>⑭</sup>。故人主不务得道而广有其孰，是其所以危也。

持宠、处位、终身不厌之术：主尊贵之，则恭敬而傅<sup>⑮</sup>，主信爱之，则谨慎而谦<sup>⑯</sup>；主专任之，则拘守而详；主安近之，则慎比而不邪；主疏远之，则全一而不倍；主损绌之，则恐惧而不怨。贵而不为夸；信而不处谦；任重而不敢专；财利至则善而不及也，必将尽辞让之义然后受；福事至则和而理，祸事至则静而理，富则施广，贫则用节；可贵、可贱也，可富、可贫也，可杀而不可使为奸也；是持宠、处位、终身不厌之术也。虽在贫穷徒处之孰，亦取象于是矣，夫是之谓吉人。诗曰：“媚兹一人，应侯顺德。永言孝思，昭哉嗣服。”此之谓也。

求善处大重、理任大事、擅宠于万乘之国、必无后患之术，莫若好同之，援贤博施，除怨而无妨害。能耐任之，则慎行此道也；能而不耐任，且恐失宠，则莫若早同之，推贤让能，而安随其后。如是，有宠则必荣，失宠则必无罪，是事君者之宝而必无后患之术也。故知者之举事也，满则虑谦<sup>⑰</sup>，平则虑险，安则虑危，曲重其豫，犹恐及其既<sup>⑱</sup>，是以百举而不陷也。孔子曰：“巧而好度，必节；勇而好同，必胜<sup>⑲</sup>；知而好谦，必贤。”此之谓也。愚者反是：处重擅权，则好专事而妬贤能，抑有功而挤有罪，志骄盈而轻旧怨；以吝啬而不行施道乎上，为重招权于下以妨害人；虽欲无危，得乎哉？是以位尊则必危，任重则必废，擅宠则必辱，可立而待也，可炊而僇<sup>⑳</sup>也。是何也？则堕之者众而

持之者寡矣。

天下之行术，以事君则必通，以为仁则必圣，立隆而勿贰也。然后恭敬以先之，忠信以统之，慎谨以行之，端悫<sup>㉑</sup>以守之，顿穷则疾力以申重之。君虽不知，无怨疾之心；功虽甚大，无伐德之色；省求多功，爱敬不勌；如是则常无不顺矣。以事君则必通，以为仁则必圣，夫是之谓天下之行术。

少事长，贱事贵，不肖事贤，是天下之通义也。有人也，孰不在人上，而羞为人下，是奸人之心也。志不免乎奸心，行不免乎奸道，而求有君子、圣人之名，辟之是犹伏而咥天，救经而引其足也<sup>㉒</sup>，说必不行矣，俞务而俞远。故君子时诎则诎、时伸则伸也。

## 致 士<sup>㉓</sup>

衡听、显幽、重明、退奸、进良之术<sup>㉔</sup>：朋党比周之誉，君子不听；残贼加累之谮，君子不用；隐忌雍蔽<sup>㉕</sup>之人，君子不近；货财禽犊之请，君子不许。凡流言、流说、流事、流谋、流誉、流愬，不官而衡至者<sup>㉖</sup>，君子慎之。闻听而明誉之<sup>㉗</sup>，定其当而当，然后士其刑赏而还与之。如是，则奸言、奸说、奸事、奸谋、奸誉、奸愬莫之试也。忠言、忠说、忠事、忠谋、忠誉、忠愬莫不明通，方起以尚尽矣<sup>㉘</sup>。夫是之谓衡听、显幽、重明、退奸、进良之术。

川渊深而鱼鳖归之，山林茂而禽兽归之，刑政平而百姓归之，礼义备而君子归之。故礼及身而行修，义及国而政明，能以礼挟而贵名白，天下愿，令行禁止，王者之事毕矣。诗曰：“惠此中国，以绥四方。”此之谓也。川渊者，龙鱼之居也；山林者，鸟兽之居也；国家者，士民之居也。川渊枯则龙鱼去之，山林险<sup>㉙</sup>则鸟兽去之，国家失政则士民去之。

无土则人不安居，无人则土不守，无道法则人不至，无君子则道不举。故土之与人也，道之与法也者，国家之本作也；君子也

者，道法之总要也，不可少顷旷<sup>⑧</sup>也。得之则治，失之则乱；得之则安，失之则危；得之则存，失之则亡。故有良法而乱者有之矣，有君子而乱者，自古及今，未尝闻也。传曰：“治生乎君子，乱生乎小人。”此之谓也。

得众动天。美意延年。诚信如神。夸诞逐魂。

人主之患，不在乎不言用贤，而在乎不诚必用贤。夫言用贤者，口也；却贤者，行也；口行相反，而欲贤者之至、不肖者之退也，不亦难乎！夫耀蝉者务在明其火、振其树而已，火不明，虽振其树，无益也。今人主有能明其德者，则天下归之若蝉之归明火也。

临事接民而以义，变应宽裕而多容，恭敬以先之，政之始也；然后中和察断以辅之，政之隆也；然后进退诛赏之，政之终也。故一年与之始，三年与之终。用其终为始，则政令不行而上下怨疾，乱所以自作也。书曰：“义刑义杀，勿庸以即，女惟曰：未有顺事。”言先教也。

程者，物之准也；礼者，节之准也。程以立数，礼以定伦；德以叙位，能以授官。凡节奏欲陵，而生民欲宽；节奏陵而文，生民宽而安。上文下安，功名之极也，不可以加矣。

君者，国之隆也；父者，家之隆也。隆一而治，二而乱；自古及今，未有二隆争重而能长久者。

师术有四，而博习不与焉。尊严而惮，可以为师；耆艾<sup>⑨</sup>而信，可以为师；诵说而不陵不犯，可以为师；知微而论<sup>⑩</sup>，可以为师。故师术有四，而博习不与焉。水深而回，树落则粪本，弟子通利则思师。诗曰：“无言不讐<sup>⑪</sup>，无德不报。”此之谓也。

赏不欲僭<sup>⑫</sup>，刑不欲滥。赏僭则利及小人，刑滥则害及君子。若不幸而过，宁僭无滥；与其害善，不若利淫<sup>⑬</sup>。

## 子 道<sup>⑭</sup>

人孝出弟<sup>⑮</sup>，人之小行也。上顺下笃，人之中行也。从道不从君，从义不从父，人之大行也。若夫志以礼安，言以类使，则儒道毕矣；虽舜不能加毫末于是矣。

孝子所以不从命有三：从命则亲危，不从命则亲安，孝子不从命乃衷；从命则亲辱，不从命则亲荣，孝子不从命乃义；从命则禽兽，不从命则脩饰，孝子不从命乃敬。故可以从而不从，是不子也；未可以从而从，是不衷也；明于从不从之义，而能致恭敬、忠信、端悫以慎行之，则可谓大孝矣。传曰：“从道不从君，从义不从父。”此之谓也。故劳苦彫萃而能无失其敬，灾祸患难而能无失其义，则不幸不顺见恶，而能无失其爱，非仁人莫能行。诗曰：“孝子不匮。”此之谓也。

鲁哀公问于孔子曰：“子从父命，孝乎？臣从君命，贞乎？”三问，孔子不对。孔子趋出，以语子贡曰：“乡者，君问丘也，曰：‘子从父命，孝乎？臣从君命，贞乎？’三问而丘不对，赐以为何如？”子贡曰：“子从父命，孝矣；臣从君命，贞矣，夫子有奚对焉。”孔子曰：“小人哉，赐不识也！昔万乘之国有争<sup>⑯</sup>臣四人，则封疆不削；千乘之国有争臣三人，则社稷不危；百乘之家有争臣二人，则宗庙不毁。父有争子，不行无礼；士有争友，不为不义。故子从父，奚子孝？臣从君，奚臣贞？审其所以从之之谓孝、之谓贞也。”

子路问于孔子曰：“有人于此，夙兴夜寐，耕耘树艺，手足胼胝<sup>⑰</sup>以养其亲，然而无孝之名，何也？”孔子曰：“意者身不敬与？辞不逊与？色不顺与？古之人有言曰：‘衣与缪与不女卿。’今夙兴夜寐，耕耘树艺，手足胼胝以养其亲，无此三者，则何为而无孝之名也，意者所友非仁人邪？”孔子曰：“由志之，吾语女，虽有国土之力不能自举其身，非无力也，势不可也，故人而行不脩，身之罪也；出而

名不章，友之过也。故君子人则笃行，出则友贤，何为而无孝之名也。”

子路问于孔子曰：“鲁大夫练而床，礼邪？”孔子曰：“吾不知也。”子路出，谓子贡曰：“吾以夫子为无所不知，夫子徒有所不知。”子贡曰：“女何问哉？”子路曰：“由问鲁大夫练而床，礼邪？夫子曰：吾不知也。”子贡曰：“吾将为女问之。”子贡问曰：“练而床，礼邪？”孔子曰：“非礼也。”子贡出，谓子路曰：“女谓夫子为有所不知乎？夫子徒无所不知；女问非也。礼，居是邑不非其大夫。”

子路盛服见孔子，孔子曰：“由，是裾裾<sup>①</sup>何也？昔者江出于嶧山，其始出也，其源可以滥觞<sup>②</sup>，及其至江之津也，不放舟，不避风，则不可涉也，非维<sup>③</sup>下流水多邪？今女衣服既盛，颜色充盈，天下且孰肯谏女矣！”子路趋而出，改服而入，盖犹若也。孔子曰：“由志之，吾语女，慎于言者不华，慎于行者不伐<sup>④</sup>，色知而有能者，小人也。故君子知之曰知之，不知曰不知，言之要也；能之曰能之，不能曰不能，行之至也。言要则知，行至则仁。既知且仁，夫恶有不足矣哉！”

子路人。子曰：“由，知者若何？仁者若何？”子路对曰：“知者使人知己，仁者使人爱己。”子曰：“可谓士矣。”子贡入。子曰：“赐，知者若何？仁者若何？”子贡对曰：“知者知人，仁者爱人。”子曰：“可谓士君子矣。”颜渊入。子曰：“回，知者若何？仁者若何？”颜渊对曰：“知者自知，仁者自爱。”子曰：“可谓明君子矣。”

子路问于孔子曰：“君子亦有忧乎！”孔子曰：“君子，其未得也则乐其意；既已得之，又乐其治。是以有终身之乐，无一日之忧。小人者，其未得也，则忧不得；既已得之，又恐失之。是以有终身之忧，无一日之乐也。”

## 法 行<sup>⑤</sup>

公输不能加于绳墨，圣人莫能加于礼。礼者，众人法而不知，圣人法而知之。

曾子曰：“无内人之疏而外人之亲，无身不善而怨人，无刑已至而呼天。内人之疏而外人之亲，不亦反乎！身不善而怨人，不亦远乎！刑已至而呼天，不亦晚乎！诗曰：‘涓涓源水，不澌<sup>⑥</sup>不塞。穀<sup>⑦</sup>已破碎，乃大其辐<sup>⑧</sup>。事已败矣，乃重大息<sup>⑨</sup>。其云益乎！’”

曾子病，曾元持足。曾子曰：“元，志之！吾语汝。夫鱼鳖鼃鼃犹以渊为浅而蛄其中，鹰鸢犹以山为卑而增巢其上，及其得也必以饵。故君子苟能无以利害义，则耻辱亦无由至矣。”

子贡问于孔子曰：“君子之所以贵玉而贱珉<sup>⑩</sup>者，何也？为夫玉之少而珉之多邪？”孔子曰：“恶！赐！是何言也！夫君子岂多而贱之、少而贵之哉？夫玉者，君子比德焉。温润而泽，仁也。栗而理，知也。坚刚而不屈，义也。廉而不刿，行也。折而不挠，勇也。瑕适并见，情也。扣之，其声清扬而远闻，其止辍然，辞也。故虽有珉之雕雕，不若玉之章章。诗曰：‘言念君子，温其如玉。’此之谓也。”

曾子曰：“同游而不见爱者，吾必不仁也；交而不见敬者，吾必不长<sup>⑪</sup>也；临财而不见信者，吾必不信也。三者在身曷<sup>⑫</sup>怨人！怨人者穷，怨天者无识。失之已而反<sup>⑬</sup>诸人，岂不亦迂哉？”

南郭惠子问于子贡曰：“夫子之门何其杂也？”子贡曰：“君子正身以俟，欲来者不距，欲去者不止。且夫良医之门多病人，骀<sup>⑭</sup>之侧多枉木，是以杂也。”

孔子曰：“君子有三恕：有君不能事，有臣而求其使，非恕也；有亲不能报，有子而求其孝，非恕也；有兄不能敬，有弟而求其听令，非恕也。士明于此三恕，则可以端身矣！”

孔子曰：“君子有三思，而不可不思也；少而不学，长无能也；老而不教，死无思也，有而不施<sup>⑫</sup>，穷无与也。是故君子少思长，则学；老思死，则教；有思穷，则施也。”

### 注释：

①苟：不合理。②袭：合。③钩：疑为“姁”，即“姬”。④比：相互勾结。⑤道：同“导”。⑥缁纡：谦虚退让。⑦溢：欺侮。⑧慢：同“慢”，懈怠。⑨廉：有棱角。刳，锋利伤人。⑩毁疵：毁谤和挑剔。⑪原作“理”，不违理。⑫渐：欺诈。⑬黜：同“僇”：轻侮。⑭弃：自暴自弃；僇：通“隳”：志趣卑下。⑮絜：同“洁”，修整。身：原作“辩”。⑯执：同“势”。⑰漈漈：形容洁白；赳赳：形容污黑。⑱化：使人受教化。⑲嘿：同“默”，不说话。⑳济：成功。㉑材尽：谓材能性格得到了完全的发挥。㉒弥：更加。约：少。㉓闾上：蒙蔽上级。㉔庸：平常。㉕类傲：一律傲视。㉖晦：同“暗”。㉗荣辱：光荣和耻辱。㉘桥泄：倨傲。桥：同“骄”。泄：同“蝶”：傲慢。㉙薄薄：形容广大。㉚快快：逞其快意。㉛营：好毁谤。㉜蒙：喂养。㉝刳：同“专”。㉞畜：客留。㉟乳豕：哺乳的母猪。㊱猗：即狗。㊲犷：斫。牛矢：牛屎。㊳戾：乖张、暴戾。㊴桡：同“挠”屈从。㊵脩鲐：鱼名。㊶浮阳：浮在水面上以就阳光。㊷肱：当作“陆”，遮拦。㊸无逮：来不及。㊹材忒：淳朴谨慎。㊺蒸民：万民。㊻钩录：“劬劳”的异文。疾：积极。㊼敦比：治理。比通“庀”：治。㊽久视：长寿。㊾倚事：怪诞的事。㊿陶诞：虚谎夸诞。陶：读作“谣”。突盗：凶暴而倔强。①扬：放荡。②桡：粗疏。③疾：竭力。④弥白：更显耀。⑤污慢：诡诈。⑥道：遵循。⑦理：肌肉。养：同“痒”。⑧开内：启发其心志而纳于正道。⑨隅积：正道的局部和整体。⑩咄咄：形容咀嚼。⑪粲然：形容精洁。秉：持、拿。⑫瞠(xuè)然：形容惊奇地看着。⑬嫌：不满足。⑭藩饰：遮掩、文饰。⑮几直：岂但。⑯靡、僇：均为积习的意思。⑰讼：同“沿”，抚循。⑱侧：宽阔。⑲刀布：

均为古代钱币。⑳斛：圆形谷仓。窳(jiào)：地窖。㉑御欲：节欲。㉒屈安穷：消费尽而陷于贫困。安：作连词，“而”。㉓瓢囊：讨饭的东西。㉔汜：即“流”字。㉕温：假借为“蕴”，藏蓄。㉖姚远：同“遥远”。㉗顺：读作“慎”。孰：同“熟”。㉘不几：不明了。㉙俞：同“愈”，更加。㉚意者：表示不肯定。㉛恣禄：俸禄。㉜御(yà)旅：旅客的职工。㉝斩(chán)：不齐。㉞骏蒙：庇覆。㉟非相：反对相术。㊱焉：借作“颜”，额。㊲突秃：发短而秃顶。长左：左手长。㊳菑：同“樵”，木直立而死。㊴植鳍：鱼背上的鳍直立起来。㊵须糜：须眉。㊶僇：通“戮”。㊷僇(xuān)子：轻薄、巧慧的人。㊸借：同“背”。漫：欺毁。㊹漻漻(biāo)：形容大雪。隧：同“坠”。㊺戢(zì)：大块肉。㊻褫(chí)：废弛。㊼粲然：明白。㊽黼黻文章：古代礼服上绘绣的文彩。㊾橧括：矫正曲木的工具。㊿拙：通“桡”。短桡。①中：读作“仲”，合。②居错：动定。居：通“举”。③党：借作“说”，直言。④非：批判。⑤梟乱：扰乱。梟：借为“挠”，扰。⑥裔宇：犹“谲诡”，怪异而变化无常。裔：同“谲”。宇：同“汙”。嵬琐：犹“委琐”，邪僻琐细。⑦恣睢：放荡乖张。⑧綦谿：过于深峭。綦：极。利跂：离世独立。⑨宋鉏(jiān)：战国时宋国人。⑩反驯：反复研究。驯：同“循”。⑪惠：顺，顺理。⑫案：于是。⑬囋囋(huān)：喧嚣的样子。⑭大古：大道。⑮奥窔(yǎo)：屋西南角为奥、东南角为“窔”。⑯齐：疾。给：急。便利：敏捷。⑰遇乡：在乡党云中。⑱富：当作“可”。可贵，指道德。⑲触抵：抵触刑网，犯罪。⑳能静：能图谋。㉑箸是：当作“著定”，定守而不随俗。㉒离纵：离俗放纵。跂眚：踮脚而行，形容自高自大。㉓进：读为“峻”，高。㉔薛：宽舒。㉕恣：诚实谨慎。㉖侈(chǐ)： “侈”的借字。㉗挽：通“挽”，低俯向前。㉘狄(tì)：跳。㉙僇(lǔ)：不耐烦。㉚樊诤：辱骂。樊同“谿”，诤同“诟”。㉛噤然：嘴里含着东西的样子。㉜仲尼：即孔子。㉝般：玩乐。汰：奢侈。㉞佚(shàn)然：一见之下。㉟缪：通

“谬”，谬戾。③讐：即“仇”。讐人：指秦国。  
 ④僂：通“搏”，谦退。⑤嗛：通“谦”。⑥嗛：不足。⑦既：同“祸”。⑧胜：胜任。⑨僦：同“竟”，终尽。⑩恧(què)：诚。⑪聒：同“舐”，以舌舔物。经：上吊。⑫致士：招致贤良之士。⑬衡听：兼听。⑭雍：通“壅”，阻塞。⑮不官：不公开或用不正当途径传播。⑯闻：“闻”的误字，暗。誉：“举”的误字。⑰尚：同“上”。尽：借作“进”。⑱险：借作“俭”，木林不生。⑲眚：废缺。⑳耆：六十岁。艾：五十岁。㉑论：通“伦”，中理。㉒讐：应答。㉓僭：逾越法度。㉔利溥：于小人有利。㉕子道：做儿子的道理。㉖弟(tì)：即“悌”。㉗争：通“诤”。谏诤。下同。㉘胼胝：手脚上的茧。㉙裾裾：衣冠严整。㉚溢：水溢出。觥：酒器。㉛维：同“唯”。㉜慎：均作“奋”。不：脱。华：即“诤”，伐、自夸。㉝法行：行为的法度。㉞雌：同“壅”，阻。㉟轂(gǔ)：车轮中心的圆木。㊱辐：辐条。㊲大息：太息，叹息。㊳珉：似玉的石。㊴长：良善。㊵曷：何。㊶反：求、责。㊷有：富有。

## 《大 学》

### 题解：

《大学》是儒家重要经典之一，原是《礼记》中的一篇，成书时间约在战国后期至秦统一以前。作者不详。

大学是古代的一种教育制度，又称太学。周代贵族子弟八岁入小学，接受启蒙教育，学习文化、礼仪等基础知识。十五岁入大学，学习治理政事，掌握政治、哲学理论，内容与小学相比，高深而且广博，属于成年阶段的教育。

《大学》由朱熹重新分编为经(一章)、传(十章)两部分，用经来解释传的观点。《大学》以孔子的“仁恕”为理论基础，说明“齐家”、“治国”、“平天下”的次序与关系，提出了三项基本原则和八个步骤。三项原则中以“明明德”为要务，八个步骤中以“修身”为

根本。

“明明德”是儒家的政治理想，“治国”“平天下”是实现这一理想的途径。而顺利完成这个途径的过程，也就是自身完善的过程。这种自身的完善，在个人行为、家庭生活、国家政务中都有所体现，而且它们相互之间存在着条件因果关系，并非在某一处可以放弃。无论在什么情形下，都必须遵循一种正确的立身的法则。因此《大学》中的“大学之道”，也就是先一步教给受教者的立身处世的良谋善策。

宋儒将《大学》一篇从《礼记》中选出，与《论语》、《孟子》、《中庸》合成《四书》。《大学》中的格物、致知、诚意、正心、修身、齐家、治国、平天下等条目，成为南宋以后的理学家讲论伦理、政治、哲学所尊奉的基本纲领。其中有关修身、处世的谋略，至今仍有借鉴意义。

大学之道<sup>①</sup>，在明明德<sup>②</sup>，在亲民<sup>③</sup>，在止于至善。

知止而后有定<sup>④</sup>，定而后能静，静而后能安，安而后能虑，虑而后能得<sup>⑤</sup>。

物有本末、事有终始。知所先后，则近道矣。

古之欲明明德于天下者，先治其国。欲治其国者，先齐其家<sup>⑥</sup>。欲齐其家者，先修其身<sup>⑦</sup>。欲修其身者，先正其心。欲正其心者，先诚其意。欲诚其意者，先致其知<sup>⑧</sup>。致知在格物<sup>⑨</sup>。

物格而后知至，知至而后意诚。意诚而后心正。心正而后身修。身修而后家齐。家齐而后国治。国治而后天下平。

自天子以至于庶人<sup>⑩</sup>，壹是皆以修身为本<sup>⑪</sup>。其本乱而末治者否矣<sup>⑫</sup>。其所厚者薄，而其所薄者厚<sup>⑬</sup>，未之有也！

《康诰》曰，“克明德。”<sup>⑭</sup>《大甲》曰，“顾諟天之明命。”<sup>⑮</sup>《帝典》曰，“克明峻德。”<sup>⑯</sup>皆自明也。

汤之《盘铭》曰：“苟日新，日日新，又日



新。”《康诰》曰：“作新民。”《诗》曰：“周虽旧邦，其命维新。”是故君子无所不用其极。

《诗》云：“邦畿千里，惟民所止。”《诗》云：“缙蛮黄鸟，止于丘隅。”⑩子曰：“于止，知其所止，可以人而不如鸟乎！”

《诗》云：“穆穆文王，于缉熙敬止！”⑪为人君，止于仁；为人臣，止于敬；为人子，止于孝；为人父，止于慈；与国人交，止于信。

《诗》云：“瞻波淇澳，绿竹猗猗。有斐君子，如切如磋，如琢如磨。瑟兮侗兮，赫兮喧兮。有斐君子，终不可谖兮！”⑫如切如磋者，道学也；如琢如磨者，自修也；瑟兮侗兮者，恂栗也⑬；赫兮喧兮者，威仪也；有斐君子，终不可谖兮者，道盛德至善，民之不能忘也。

《诗》云：“于戏！⑭前王不忘。”君子贤其贤而亲其亲，小人乐其乐而利其利，此以没世不忘也。

子曰：“听讼，吾犹人也。必也使无讼乎！”无情⑮者，不得尽其辞。大畏民志⑯。此谓知本。此谓知之至也。

所谓诚其意者，毋自欺也。如恶恶臭，如好好色，此之谓自谦，故君子必慎其独也。

小人闲居为不善，无所不至，见君子而后厌然⑰，揜其不善⑱，而著其善⑲。人之视己，如见其肺肝然，则何益矣！此谓诚于中，形于外，故君子必慎其独也。

曾子曰：“十目所视，十手所指，其严乎！”

富润屋，德润身，心广体胖，故君子必诚其意。

所谓修身在正其心者，身有所忿懣⑳，则不得其正；有所恐惧，则不得其正；有所好乐，则不得其正；有所忧患，则不得其正。

心不在焉，视而不见，听而不闻，食而不知其味。此谓修身在正其心。

所谓齐其家，在修其身者，人之其所亲爱而辟焉㉑，之其所贱恶而辟焉，之其所畏敬而辟焉，之其所哀矜而辟焉，之其所敖惰

而辟焉㉒。故好而知其恶，恶而知其美者，天下鲜矣。故谚有之曰：“人莫知其子之恶，莫知其苗之硕。”此谓身不修不可以修其家。

所谓治国必先齐其家者，其家不可教，而能教人者无之。故君子不出家而教于国。孝者，所以事君也。弟者㉓，所以事长也。慈者，所以使众也。

《康诰》曰：“如保赤子。”心诚求之，虽不中，不远矣。未有学养子而后嫁者也。

一家仁，一国兴仁；一家让，一国兴让；一人贪戾，一国作乱。其机如此。此谓一言僨事㉔，一人定国。

尧舜帅天下以仁，而民从之。桀纣帅天下以暴，而民从之。其所令，反其所好，而民不从。是故君子有诸己而后求诸人，无诸己而后非诸人。所藏乎身不恕㉕，而能喻诸人者，未之有也。故治国在其家。

《诗》云：“桃之夭夭，其叶蓁蓁。之子于归，宜其家人。”㉖宜其家人，而后可以教国人。《诗》云：“宜兄宜弟。”宜兄宜弟，而后可以教国人。《诗》云：“其仪不忒，正是四国。”㉗其为父子兄弟足法，而后民法之也。此谓治国在齐其家。

所谓平天下，在治其国者；上老老，而民兴孝；上长长，而民兴弟；上恤孤，而民不倍㉘。是以君子有絜矩之道也㉙。

所恶于上，毋以使下；所恶于下，毋以事上；所恶于前，毋以先后；所恶于后，毋以从前；所恶于右，毋以交于左；所恶于左，毋以交于右。此之谓絜矩之道。

《诗》云：“乐只君子，民之父母。”㉚民之所好，好之；民之所恶，恶之。此之谓民之父母。《诗》云：“节彼南山，维石岿岿。赫赫师尹，民具尔瞻。”㉛有国者不可以不慎。辟，则为天下僂矣㉜。《诗》云：“殷之未丧师，克配上帝。仪监于殷，峻命不易。”㉝道得众则得国，失众则失国。

是故君子先慎乎德。有德此有人㉞，有人此有土，有土此有财，有财此有用㉟。德

者，本也；财者，末也。外本内末，争民施夺<sup>⑬</sup>。是故财聚则民散，财散则民聚。是故言悖而出者，亦悖而入。货悖而入者，亦悖而出。

《康诰》曰：“惟命不于常<sup>⑭</sup>。”道善则得之，不善则失之矣。《楚书》曰：“楚国无以为宝，惟善以为宝。”舅犯曰：“亡人无以为宝，仁亲以为宝。”<sup>⑮</sup>

《秦誓》曰：“若有一个臣，断断兮，无他技，其心休休焉<sup>⑯</sup>。其如有容焉<sup>⑰</sup>。人之有技，若己有之。人之彦圣<sup>⑱</sup>，其心好之。不啻若自其口出。实能容之。以能保我子孙黎民，尚亦有利哉。人之有技，嫫疾以恶之<sup>⑲</sup>，人之彦圣，而违之俾不通<sup>⑳</sup>，实不能容，以不能保我子孙黎民，亦曰殆哉。”唯仁人放流之<sup>㉑</sup>，进诸四夷<sup>㉒</sup>，不与同中国。此谓唯仁人为能爱人，能恶人。见贤而不能举，举而不能先，命也<sup>㉓</sup>。见不善而不能退，退而不能远，过也。好人之所恶，恶人之所好，是谓拂人之性<sup>㉔</sup>，灾必逮夫身。是故君子有大道，必忠信以得之，骄泰以失之<sup>㉕</sup>。

生财有大道。生之者众，食之者寡，为之者疾<sup>㉖</sup>，用之者舒，则财恒足矣。仁者以财发身<sup>㉗</sup>，不仁者以身发财。未有上好仁，而下不好义者也。未有好义，其事不终者也。未有府库财<sup>㉘</sup>，非其财者也。孟献子曰：“畜马乘<sup>㉙</sup>，不察於鸡豚<sup>㉚</sup>。伐冰之家<sup>㉛</sup>，不畜牛羊。百乘之家，不畜聚斂之臣<sup>㉜</sup>。与其有聚斂之臣，宁有盗臣。此谓国不以利为利，以义为利也。长国家而务财用者<sup>㉝</sup>，必自小人矣。彼为善之<sup>㉞</sup>，小人之使为国家，灾害并至。虽有善者，亦无如之何矣！此谓国不以利为利，以义为利也。”

#### 注释：

①大学：以为政为内容的高级学校。又称“太学”。②明明德：显扬正大光明的德性。③亲：应作“新”，革新，变易。④止：所止，即至善之地。⑤得：有所收获。⑥齐：用一种原则治理。⑦修：修养品德。身：自身。⑧致知：使认识水平达到最高度。⑨格物：穷究物

理。⑩庶人：平民。⑪壹：全部，都。⑫末：指国政。否：没有。⑬厚：重视。薄：轻视。⑭《康诰》：与下文《大甲》、《帝典》皆为《尚书》篇名。克：能够。⑮顾：顾念。谡：古“是”字。⑯峻：崇高，大。⑰缙(mián)蚩：鸟鸣声。⑱穆穆：仪态美好、庄敬。缉：继。熙：光明。止：助词。⑲淇：淇水，在今河南北部。澳(yù)：水边。猗猗：植物鲜盛貌。斐：文彩。瑟：庄重。倜(xuān)：心胸开阔。喧：通“煊”，盛大。遑：遗忘。⑳恂栗：恐惧。㉑于戏：叹词。㉒情：真实情况。㉓民志：民心。㉔厌：闪避。㉕揜(yǎn)：掩藏。㉖著：显露。㉗慍(zhì)：怒。㉘之：对于。辟：偏。㉙敖情：傲慢。㉚弟：同“悌”，敬长。㉛僨(fèn)：败，坏。㉜恕：推己及人的美德。㉝夭夭：鲜丽。萋萋(zhèn)：茂盛。之：此，这个。子：女儿。于归：出嫁。宜：原意为烹调，此指调和，和顺。㉞忒(tè)：差错。㉟倍：通“背”。㊱絜矩：法度。絜矩之道：喻言行的模范作用。㊲乐：以礼乐相娱。只：助词。㊳节：高大。维：虚词。岌岌：岩岩，险峻貌。师尹：姓尹氏的大师。㊴僂：通“戮”。㊵仪：宜。监：鉴。竣：大。㊶此：那么就。㊷用：国家支配。㊸争民：与民争利。施夺：采取劫夺手段。㊹命：国家，王权。常：久恒。㊺亡：流亡。㊻一个：一人。断断：守诚不移。休休：喻心向善。㊼容：容人之量。㊽彦圣：德才兼美的人。㊾嫫：忌妒。㊿违：阻逆。俾：使。㉑放流：流放。㉒进：逐。㉓命：应作“慢”，轻慢。㉔拂：违背。㉕骄泰：逸奢。㉖疾：速。㉗发：发展。身：心性。㉘府库：喻收藏，积蓄。㉙畜：养。乘：驷乘，大夫的待遇。㉚察：关注。鸡豚：喻小财小利。㉛伐冰：丧葬时能用冰保存尸体。指卿大夫。㉜百乘：指有封地的诸侯。聚斂：搜括财富。㉝长：做君王。务：专心。㉞彼：代指君王。为：以为。之：代指小人。

## 《答客难》

### 题解:

东方朔著。东方朔(约公元前161—前93)字曼倩,平原厌次(今山东陵县)人。汉武帝初年,他上书自荐,得到武帝赏识,初召入朝,先后任常侍郎、太中大夫等职。东方朔学识渊博,为人滑稽多智,往往以诙谐的方式向武帝进谏,为人所不敢为之事。他的事迹见载于《史记·滑稽列传》、《汉书·东方朔传》。

《答客难》是一篇散文赋,以主客问答的形式,阐述了时事变易的主旨,论证了自己的处世谋略,指出了才德兼备的人不遇于世的原因。东方朔作此文的用意,包含了排解苦闷、发泄不满,但《答客难》一文的意义,则在于劝告世人,应从历史的角度看清自身的位置,根据时代的更替、世事的变异,以变通的权谋处世。

《答客难》对后世影响极大,汉代的杨雄、班固、张衡等人都曾模仿过它。

客难东方朔曰<sup>①</sup>:“苏秦、张仪壹当万乘之主<sup>②</sup>,而身都卿相之位,泽及后世。今子大夫修先王之术,慕圣人之义;讽诵《诗》《书》百家之言,不可胜记;著于竹帛,唇腐齿落,服膺而不可释<sup>③</sup>。好学乐道之效<sup>④</sup>,明白甚矣。自以为智能海内无双,则可谓博闻辩智矣。然悉力尽忠,以事圣帝,旷日持久,积数十年,官不过侍郎,位不过执戟。意者尚有遗行邪<sup>⑤</sup>?同胞之徒,无所容居<sup>⑥</sup>,其故何也?”

东方先生喟然长息,仰而应之,曰:是故非子之所能备<sup>⑦</sup>。彼一时也,此一时也,岂可同哉?夫苏秦、张仪之时,周室大坏,诸侯不朝,力政争权,相擒以兵<sup>⑧</sup>,并为十二国,未有雌雄<sup>⑨</sup>,得士者强,失士者亡,故说得行焉<sup>⑩</sup>。身处尊位,珍宝充内,外有仓廩<sup>⑪</sup>,泽及后世,子孙长享。今则不然。圣帝德流,天下震懼<sup>⑫</sup>,诸侯宾服,连四海之外以为带<sup>⑬</sup>,安于覆盂<sup>⑭</sup>。天下平均,合为一家。动发举事,犹运之掌。贤与不肖,

何以异哉?遵天之道,顺地之理,物无不得其所。故绥之则安,动之则苦<sup>⑮</sup>;尊之则为将,卑之则为虏<sup>⑯</sup>;抗之则在青云之上,抑之则在深渊之下;用之则为虎,不用则为鼠。虽欲尽节效情,安知前后<sup>⑰</sup>?夫天地之大,士民之众,竭精驰说,并进辐凑者不可胜数<sup>⑱</sup>。悉力慕之,困于衣食,或失门户<sup>⑲</sup>。使苏秦、张仪与仆并生于今之世,曾不得掌故<sup>⑳</sup>,安敢望侍郎乎?传曰:“天下无害,虽有圣人,无所施才;上下和同,虽有贤者,无所立功。”故曰:“时异事异。”

虽然,安可以不务修身乎哉?《诗》曰:“鼓钟于宫,声闻于外。”鹤鸣九皋,声闻于天。”苟能修身,何患不荣?太公体行仁义,七十有二,乃设用于文武,得信厥说<sup>㉑</sup>,封于齐,七百岁而不绝。此士所以日夜孳孳<sup>㉒</sup>,修学敏行而不敢怠也。譬若鹤鹑<sup>㉓</sup>,飞且鸣矣。传曰:“天不为人之恶寒而辍其冬,地不为人之恶险而辍其广,君子不为小人之匈匈而易其行。天有常度,地有常形,君子有常行。君子道其常,小人计其功。《诗》云:‘礼义之不愆,何恤人之言<sup>㉔</sup>?’”“水至清则无鱼,人至察则无徒。冕而前旒,所以蔽明;黈纆充耳,所以塞聪<sup>㉕</sup>。”明有所不见,聪有所不闻。举大德,赦小过,无求备于一人之义也。“枉而直之,使自得之;优而柔之,使自求之;揆而度之,使自索之<sup>㉖</sup>。”盖圣人之教化如此,欲其自得之。自得之,则敏且广矣<sup>㉗</sup>。

今世之处士,时虽不用,块然无徒,廓然独居,上观许由,下察接舆,计同范蠡,忠合子胥,天下和平,与义相扶<sup>㉘</sup>。寡偶少徒,固其宜也。子何疑于予哉?若夫燕之用乐毅,秦之任李斯,酈食其之下齐<sup>㉙</sup>,说行如流,曲从如环<sup>㉚</sup>;所欲必得,功若丘山,海内定,国家安;是遇其时者也。子又何怪之邪?

语曰:以管窥天,以蠡测海,以筵撞钟<sup>㉛</sup>。岂能通其条贯,考其文理,发其音声哉?犹是观之,譬由黼黻之袭狗,孤豚之咋

虎，至则靡耳<sup>⑩</sup>，何功之有？今以下愚而非处士，虽欲勿困，固不得已<sup>⑪</sup>。此适足以明其不知权变而终惑于大道也。

#### 注释：

①难：责问、非难。 ②壹：一起，一并。当：遇。 ③服膺：存于胸中。释：舍弃。 ④效：效验。 ⑤遗行：该遗弃的恶行。 ⑥容居：关顾。 ⑦备：详察，尽知。 ⑧擒：并吞。 ⑨雌雄：胜负。 ⑩说：以谋策说服君主。 ⑪廉：仓库。 ⑫震懼(zhè)：震恐。 ⑬带：衣带。 ⑭覆盂：大口在下小底在上放着的孟，不摇不倾。 ⑮绥：安抚。动：劳乏。 ⑯卑：轻视。虏：奴仆。 ⑰前后：该进该退。 ⑱辐：车条。辐凑：聚集。 ⑲门户：指道路，前途。 ⑳掌故：管理图书资料的小官吏。 ㉑信：伸。厥：他的。 ㉒孳孳：即“孜孜”。 ㉓鹳鹑：鸟名。此鸟飞则必鸣。 ㉔愆：差错。恤：顾虑。 ㉕旒：冕前垂挂的珠串。黼纁：冕两则悬挂的黄色丝棉。 ㉖枉：歪曲的。直：纠正。揆：揣度。索：寻得。 ㉗敏：修德勤勉。广：学识广博。 ㉘扶：辅。 ㉙下：说服。 ㉚曲从：倾心听信。环：转环，无阻滞。 ㉛蠡：瓢。筵：打拍子用的细竹棒。 ㉜鼯鼠：地鼠。咋：咬。 ㉝下愚：下等愚人。处士：东方朔自称。非：非议，非难。固：定然。

## 《诫兄子严敦书》

#### 题解：

东汉马援著。马援(公元前14—49)字文渊，东汉名将，茂陵(今陕西兴平县)人，东汉军事家。官至伏波将军，封新息侯。

汉光武十八年(42)，马援奉命前征。他的两个侄子马严、马敦，平常喜欢讥笑非议别人，抵毁国家政令，并与一些粗狂任侠的人相交往。马援很为他们担忧，于是就在军旅中写了这封告诫的书信。信中对如何待人接物，如何修养自己的品德提出了具体的谋略，指给他们该效法的榜样，与不可学习的典型。这封书信历来受人推崇，往往被当作训诫子弟的诫条。

吾欲汝曹闻人过失<sup>①</sup>，如闻父母之名，耳可得闻，口不可得言也。好议论入长短，妄是非正法<sup>②</sup>，此吾所大恶也。宁死不愿闻子孙有此行也。汝曹知吾恶之甚矣，所以复言者，施衿结褵<sup>③</sup>，申父母之戒，欲使汝曹不忘之耳。

龙伯高敦厚周慎，口无择言<sup>④</sup>，谦约节俭，廉公有威。吾爱之重之，愿汝曹效之。杜季良豪侠好义，忧人之忧，乐人之乐，清浊无所失，父丧致客，数郡毕至。吾爱之重之，不愿汝曹效也。效伯高不得，犹为谨敕之士<sup>⑤</sup>，所谓刻鹄不成尚类鹜者也<sup>⑥</sup>；效季良不得，陷为天下轻薄子，所谓画虎不成反类狗者也。

迄今季良尚未可知<sup>⑦</sup>，郡将下车辄切齿<sup>⑧</sup>，州郡以为言<sup>⑨</sup>，吾常为寒心<sup>⑩</sup>，是以不愿子孙效也。

#### 注释：

①汝曹：你们。 ②妄：无端地，随便地。是非：称许、非议。正法：公行的律令。 ③施、结：扎系。衿、褵：衣带佩巾。 ④择：挑剔。 ⑤敕：要求约束自己。 ⑥鹄：天鹅。鹜：野鸭。 ⑦迄：止，至。 ⑧下车：就任。 ⑨言：议论焦点。 ⑩寒心：胆寒。

## 《涉 务》

#### 题解：

本篇选自颜之推的《颜氏家训》。颜之推(531—591)字介，琅琊临沂(今属山东)人，南北朝时著名学者。

《涉务》即接触社会实际，此文的主旨在于训导子弟注重实际事务，不可效法魏晋以来崇门第、尚清淡的风习，要致力于培养自己的实际才干。主张士君子应以有益于社会为处世原则，为自己取得一个“无愧”的立足之地。他以自己亲眼所见、亲耳所闻的事件为例，说明“不知有耕稼之苦”、“不知有劳役之勤”的人难以“应世经务”，一旦丧失优

越地位与环境，结果必然是“坐死仓猝”，根本无法适应变化了的生存条件。就此叮嘱子弟们要象古人懂得稼穡的艰难一样，要知道“贵谷、务本”。不懂得这些涉世的谋略，便不会精通治国、理家的道理。

夫君子之处世，贵能有益于物耳<sup>①</sup>，不徒高谈虚论，左琴右书，以费人君禄位也。

国之用材，大较不过六事：一则朝廷之臣，取其鉴达治体，经纶博雅；二则文史之臣，取其著述宪章，不忘前古；三则军旅之臣，取其断决有谋，强干习事；四则藩屏之臣，取其明练风俗，清白爱民；五则使命之臣，取其识变从宜，不辱君命；六则兴造之臣，取其程功节费，开略有术。此则皆勤学守行者所能办也。人性有长短<sup>②</sup>，岂责其美于六涂哉<sup>③</sup>！但当皆晓指趣<sup>④</sup>，能守一职，便无愧耳。

吾见世中文学之士，品藻古今，若指诸掌，及有试用，多无所堪。居承平之世，不知有丧乱之祸；处庙堂之下，不知有战阵之急；保俸禄之资，不知有耕稼之苦；肆吏民之上<sup>⑤</sup>，不知有劳役之勤；故难可以应世经务也。

晋朝南渡，优借士族<sup>⑥</sup>，故江南冠带有才干者，擢为令、仆以下，尚书郎、中书舍人已上，典掌机要。其余文义之士，多迁诞浮华，不涉世务，纤微过失，又惜行捶楚<sup>⑦</sup>，所以处于清名，盖护其短也。至于台阁令史、主书，监帅诸王签省<sup>⑧</sup>，并晓习吏用，济办时须。纵有小人之态，皆可鞭杖肃督，故多见委使，盖用其长也。人每不自量，举世怨梁武帝父子爱小人而疏士大夫，此亦眼不能见其睫耳。

梁世士大夫皆尚褒衣博带<sup>⑨</sup>，大冠高履，出则车舆，入则扶侍。郊郭之内，无乘马者。周弘正为宣城王所爱，给一果下马<sup>⑩</sup>，常服御之<sup>⑪</sup>，举朝以为放达。至乃尚书郎乘马，则纠劾之。及侯景之乱，肤脆骨柔，不堪行步，体羸气弱，不耐寒暑，坐死仓猝者，往

往而然。

古人欲知稼穡之艰难，斯盖贵谷务本之道也。夫食为民天，民非食不生矣。三日不粒，父子不能相存<sup>⑫</sup>。耕种之，莠耨之<sup>⑬</sup>，刈获之<sup>⑭</sup>，载积之，打拂之，簸扬之，凡几涉手而入仓廩，安可轻农事而贵末业哉！江南朝士因晋中兴而渡江，本为羁旅，至今八九世，未有力田，悉资俸禄而食耳。假令有者，皆信僮仆为之<sup>⑮</sup>，未尝目观起一垆土<sup>⑯</sup>，耘一株苗，不知几月当下，几月当收，安识世间余务乎？故治官则不了，营家则不办，皆优闲之过也。

#### 注释：

- ①物：“我”以外的事物。 ②性：资质。  
③涂：通“途”。 ④指趣：犹“旨趣”。 ⑤肆：列。 ⑥借：通“籍”，待。 ⑦捶楚：杖责。  
⑧监帅诸王签省：南朝时各藩王处设置的典签帅，监督诸侯王。 ⑨褒：宽大。 ⑩果下马：辽东产的小马。 ⑪服御：指骑乘。 ⑫相存：维持关系。 ⑬莠(hào)：除草。 ⑭刈(yì)：割。  
⑮信：任由。 ⑯垆(bō)：犹“垄”。

## 《留侯论》

#### 题解：

苏轼著。苏轼(1037—1101)字子瞻，号东坡居士，北宋眉山，(今四川眉山县)人。与父亲苏洵、弟苏辙合称“三苏”，而他的才华、成就最为突出。

苏轼一生仕途曲折，很不得志。他于宋仁宗嘉祐二年(1057)参加进试科试，以其《刑赏忠厚之圣论》受到主考官欧阳修、梅尧臣两位大古文家的赞赏。而后又以《进策》二十五篇显露才华。他在“百年无事”的“盛世”中居安思危，见微知著，看到了四伏的危机，提出了改革朝政的革新主张。革新派执政时，他嫌王安石的做法太激进。守旧派上台后，他怨司马光行事太过火。他不投机，不借势，不改变自己的操守，结果左右得罪，处处遭异己排斥。

苏轼的思想是很复杂的，儒家治世思想是他进取的支柱，而释、道思想则是他斥退以后的息心之地。

《留侯论》是一篇著名的史论。苏轼据黄石公赐兵法给张良的故事，对史实与人的心理进行了独到的分析，阐述了“有大志者须忍小忿而就大谋”的非凡见解，以实例说明“匹夫之勇”与“大勇”的区别，指出了“不忍”的弊端与“能忍”的利处。这篇史论极受后世推崇，其中“卒（猝）然临之而不惊，无故加之而不怒”等名言，历来被视为涵养德性、处世立足的经典谋略。

古之所谓豪杰之士者。必有过人之节<sup>①</sup>。人情有所不能忍者<sup>②</sup>，匹夫见辱<sup>③</sup>，拔剑而起，挺身而斗，此不足为勇也。天下有大勇者，卒然临之而不惊<sup>④</sup>，无故加之而不怒，此其所挟持者甚大<sup>⑤</sup>，而其志甚远也。

夫子房受书于圯上之老人也<sup>⑥</sup>，其事甚怪。然亦安知其非秦之世有隐君子者出而试之。观其所以微见其意者<sup>⑦</sup>，皆圣贤相与警戒之义。世人不察，以为鬼物，亦已过矣。且其意不在书。当韩之亡，秦之方盛也，以刀锯鼎镬待天下之士<sup>⑧</sup>，其平居无罪夷灭者，不可胜数，虽有贲、育<sup>⑨</sup>，无所复施<sup>⑩</sup>。夫持法太急者，其锋不可犯，而其势未可乘。子房不忍忿忿之心，以匹夫之力，而逞于一击之间。当此之时，子房之不死者，其间不能容发，盖亦已危矣！千金之子，不死于盗贼。何者？其身之可爱，而盗贼之不足以死也。子房以盖世之才，不为伊尹、太公之谋，而特出于荆轲、聂政之计，以侥幸于不死，此圯上老人之所以深惜者也。是故倨傲鲜腆而深折之<sup>⑪</sup>，彼其能有所忍也，然后可以就大事。故曰：“孺子可教也。”

楚庄王伐郑，郑伯肉袒牵羊以逆<sup>⑫</sup>，庄王曰：“其君能下人，必能信用其民矣。”遂舍之。勾践之困于会稽，而归臣妾于吴者，三年而不倦。且夫有报人之志<sup>⑬</sup>，而不能下人者，是匹夫之刚也。夫老人者，以为子房

才有余，而忧其度量之不足，故深折其少年刚锐之气，使之忍小忿而就大谋。何则？非有生平之素，卒然相遇于草野之间，而命以仆妾之役，油然而不怪者，此固秦皇之所不能惊，而项籍之所不能怒也。

观夫高祖之所以胜，而项籍之所以败者，在能忍与不能忍之间而已矣。项籍惟不能忍，是以百战百胜，而轻用其锋。高祖忍之，养其全锋，以待其毙，此子房教之也。当淮阴破齐而欲自王，高祖发怒，见于词色，由此观之，忧有刚强不忍之气，非子房其谁全之。

太史公疑子房以为魁梧奇伟，而其状貌乃如妇人女子，不称其志气<sup>⑭</sup>。呜呼！此其所以为子房欤<sup>⑮</sup>！

#### 注释：

①节：气节操守。 ②人情：人的心性、血气。 ③见辱：被侮辱。 ④卒然：猝然。 ⑤挟持：抱负。 ⑥圯上：桥上。 ⑦微见：称称显露。 ⑧镬：大锅。 ⑨贲育：孟贲、夏育，古代勇士。 ⑩施：施展。 ⑪鲜腆：无礼的样子。折：屈辱。 ⑫逆：迎。 ⑬报人：向人报仇。 ⑭称：相配。 ⑮欤：语气助词。

## 《古微堂内集》

#### 题解：

清末魏源著。魏源（1794—1857）字默深，湖南邵阳人，中国近代著名爱国主义者，进步思想家，资产阶级改良主义的先驱。

《古微堂内集》分为学、治两篇，是魏源的读书笔记。魏源研究中国古代学术的同时，联系当时的社会实际，在著述中阐发自己对哲学、政治、教育、历史等方面的见解，提出了许多有益于社会的、有进步意义的主张。他对古人的言论加以评议、引申和发挥，提出了自己对人与社会、对自然界以及三者之间关系的看法，指出人不应迷信和依赖天命，认为“人定胜天”，“造化自我”。魏源以历史事件和经籍中的观点为论据，指

出人世间的治、安、乐、乱、患、忧、治之间的依存，强调了事物中相反的、对抗着的关系，提出了“相反相成”、“有对之中必一主一辅”的观点，进而提出了正确对待事物内部所蕴含的对立面的方法。魏源是在借平常的处世原则以阐述治国策略，因此他的关于处世的谋略及其利弊得失的论点，生动可信而且透彻入微。这等于是将古人处世的做法、观点用现实的事例、浅近的语言加以解析评断，很适合从处世谋略的角度加以借鉴。

命贫贱夭而欲其富贵寿，难矣哉！命富贵寿而欲其贫贱夭，奚难矣<sup>①</sup>！命所不能拘者三。有君子焉，有小人焉。忿山欲壑<sup>②</sup>，立乎岩墙<sup>③</sup>。“下民之孽，匪降自天”<sup>④</sup>。此恃命之小人，非命所拘者乎？诚知足，天不能贫；诚无求，天不能贱；诚外形骸<sup>⑤</sup>，天不能病；诚身任天下万世，天不能绝。匪直是也<sup>⑥</sup>，命当富而一介不取<sup>⑦</sup>，命当贵而三公不易<sup>⑧</sup>，命当寿而“杀身成仁”、“舍生取义”。匹夫确然其志<sup>⑨</sup>，天子不能与之富，上帝不能使之寿，此立命之君子，岂命所拘者乎？人定胜天，既可转富贵寿为贫贱夭，则贫贱夭亦可转为富贵寿。《诗》三百篇，福禄寿考<sup>⑩</sup>，子孙昌炽<sup>⑪</sup>，颂祷嘏祝而不疑<sup>⑫</sup>。祈天永命，造化自我，此造命之君子，岂天所拘者乎？乌乎！“圣人”之教，详戒祸，略求福。及其求之也，惟修天爵<sup>⑬</sup>，迓天庥<sup>⑭</sup>，俟天命，抑亦异乎人之求之矣！《诗》曰：“岂弟君子，求福不回。”<sup>⑮</sup>

君子读二《雅》，至厉、宣、幽、平之际<sup>⑯</sup>，读《国风》，至二《南》、《豳》之诗<sup>⑰</sup>，喟然曰：六经其皆圣人忧患之书乎？“天下之生久矣，一治一乱”；治久习安，安生乐，乐生乱；乱久习患，患生忧，忧生治。《洪范》贵不列于五福<sup>⑱</sup>，崇高者忧劳之地，非安享之地也。康庄之仁我也<sup>⑲</sup>，不如太行。故“真”人之养生，“圣人”之养性，帝王之祈天永命：皆忧惧以为本焉。“真人”逆精以反

气，“圣人”逆情以复性，帝王逆气运以拨乱反治。逆则生，顺则夭矣；逆则圣，顺则狂矣。草木不霜雪，则生意不固<sup>⑳</sup>；人不忧患，则智慧不成。大哉，《易》之为逆数乎<sup>㉑</sup>！五行不顺生，相克乃相成乎！鱼逆水，则鳞不赮<sup>㉒</sup>；禽逆风，则毛不横。《诗》曰：“譬彼舟流，不知所届。心之忧矣，不遑假寐。”<sup>㉓</sup>顺流之可畏也，如是夫！

暑极不生暑而生寒，寒极不生寒而生暑。屈之甚者信必烈<sup>㉔</sup>，伏之久者飞必决<sup>㉕</sup>。故不如意之事，如意之所伏也；快意之事，忤意之所乘也<sup>㉖</sup>。众所福，君子不福，不福其祸中之福也；众所利，君子不利，不利其害中之利也。消与长聚门，祸与福同根。岂惟世事物理有然哉？学问之道，其得之不难者，失之必易；惟艰难以得之者，斯能兢业以守之。《诗》曰：“战战兢兢，如临深渊，如履薄冰。”

不乱离不知太平之难，不疾痛不知无病之福。故君子于安思危，于治忧乱。望华腴<sup>㉗</sup>，斯享有余若不足，念冻馁，斯享不足若有余。故世人处富如贫，君子处贫如富。与人之取，则天下无竞人<sup>㉘</sup>；取人之舍，斯天下无困境。故君子避丰如避患<sup>㉙</sup>，得歉如得福<sup>㉚</sup>。《诗》曰：“温温恭人，如集于木，惴惴小心，如临于谷。”

天下物无独必有对。而又谓两高不可重，两大不可容，两贵不可双，两势不可同<sup>㉛</sup>，重、容、双、同必争其功，何耶？有对之中，必一主一辅，则对而不失为独。乾尊坤卑，天地定位，万物则而象之<sup>㉜</sup>，此尊无二上之谊焉。是以君令臣必共<sup>㉝</sup>，父命子必宗<sup>㉞</sup>，夫唱妇必从。天包地外，月受日光。虽相反如阴阳、寒暑、昼夜，而春非冬不生，四夷非中国莫统，小人非君子莫为幘幘<sup>㉟</sup>，相反适以相成也。手足之左不如右强，“目不两视而明，耳不并听而聪”，鼻息不同时而妨：形虽两而体则一也。是以君子之学，先立其大，而小者从令，致专于一，则殊途同归。“道以多歧亡羊，学以多方丧生”。其为治也

亦然。《书》曰：“一人有庆，兆民赖之。”<sup>③⑥</sup>  
《诗》曰：“其仪不忒，正是四国。”<sup>③⑦</sup>

山居难与论舟行之险，泽居难与论梯陡之艰，处富不可与论贫，处暇不可与虑猝，处亨不可与言困，处平世不可与论患难。况立乎后世以指往古，所闻异词，所传闻又异词，曾不设身以处地，不平心以衡其轻重，而徒以事后之成败讞局中之当否<sup>③⑧</sup>，古人其如汝何哉？郅都、宁成，古之酷吏也！胡寅父子，世之酷儒也！《诗》曰：“他人有心，予揣度之。”又曰：“伐柯伐柯，其则不远。”<sup>③⑨</sup>《诗》之忠恕也如是夫！

山林之人欲济物<sup>④①</sup>，必分己之财。乡间之子欲去弊，必资官之势。不必己财而可以惠物，不借人势而可以祛蠹者<sup>④②</sup>，其惟在位君子乎？操刀而不割，拥楫而不度<sup>④③</sup>，世无此蠢愚之人。故君子用世，随大随小，皆全力赴之。为其事而无其功者，未之有也。彼穡而我殳之<sup>④④</sup>，彼织而我温之，彼狩而我狙之<sup>④⑤</sup>，彼馭而我轩之<sup>④⑥</sup>，彼匠构而我帡之<sup>④⑦</sup>，彼赋税、商贾而我便之<sup>④⑧</sup>，彼干盾扞卫而我安之<sup>④⑨</sup>。彼于我何酬，我于彼何功<sup>⑤①</sup>？天于彼何啬，于我何丰？思及此而犹泄泄于民上者<sup>⑤②</sup>，非人心也！《诗》曰：“彼君子兮，不素食兮！”<sup>⑤③</sup>

度内之事<sup>⑤④</sup>，中人可能；度外之功，非豪杰不能。世俗所谓度外，君子所谓性分内也。天下大事，或利于千万世者，不必利于一时；或利于千万人者，不必利于一夫；或利于千万事者，不必利于一二端。故非任事之难，而排庸俗众议之难。《诗》大、小二《雅》，言“大猷”者二<sup>⑤⑤</sup>，言“远猷”者二，言“壮猷”者一。何谓“大猷”？批郤导窾<sup>⑤⑥</sup>，迎刃而解，棋局一著胜人千百者是也。何谓“远猷”？事机出耳目之表，利害及百十年之后者是也。何谓“壮猷”？非常之策，陈汤不奏于公卿<sup>⑤⑦</sup>，破格之功，班超不谋于从事<sup>⑤⑧</sup>。出奇冒险，不拘文法，不顾利害者是也。器不弘者不能胜“大猷”，识不裕者不能烛“远猷”<sup>⑤⑨</sup>，识远、器大而无雄气胆决者，不能

具“壮猷”。“壮猷”天授不可学，器识可学而扩焉。彼安常习故之流，所安者目前，所知者陈例，所辟者嫌疑，得不震而疑，同声而挠格者乎<sup>⑥①</sup>？《诗》曰：“匪先民是程<sup>⑥②</sup>，匪大猷是经。”叹“大猷”之难成也！“出话不然，为猷不远。”叹“远猷”之多阻也！

工骚墨之士<sup>⑥③</sup>，以农桑为俗务，而不知俗学之病人更甚于俗吏。托玄虚之理，以政事为粗才，而不知腐儒之无用亦同于异端。彼钱谷簿书，不可言学问矣，浮藻逗钉<sup>⑥④</sup>，可为圣学乎？释、老不可治天下国家矣，心性迂谈可治天下乎？《诗》曰：“民之质矣，日用饮食。”<sup>⑥⑤</sup>

有以兼听而得，有以兼听而失。有以独断而成，有以独断而败。晋武平吴，晋明平王敦，唐宪宗讨淮、蔡，周世宗征泽、潞，皆以独断而成。昭烈伐吴，苻坚伐晋，皆以独断而败。汉祖、唐宗，以兼听君子而兴；汉元、唐代，以兼听小人而乱。然则如之何而可？曰：知己知彼，百战百胜。彼骄兵、愤兵、贪兵，可谓“知彼知己”乎？“为政在人，取人以身”，彼贤奸杂用者，非其心之公私糺淆乎<sup>⑥⑥</sup>？《诗》曰：“谁秉国成？不自为政！”<sup>⑥⑦</sup>言当以执两为兼听，而不以狐疑为兼听也！“国虽靡止，或圣或否；民虽靡盬，或哲或谋，或肃或乂。”<sup>⑥⑧</sup>言当以达聪为独断，而不以臆决为独断也。

受光于隙见一床，受光于牖见室央，受光于庭户见一堂，受光于天下照四方。君子受言以达聪明也亦然。或为一隅之偏听，或为一室之迹听<sup>⑥⑨</sup>，或为一堂之公听，或为旌木、鼓铎、瞽瞍、刍蕘之遍听<sup>⑦①</sup>。所受愈小，则所炤愈狭<sup>⑦②</sup>；所受弥旷，则所炤弥博。《诗》曰：“不明尔德，时无背无侧；尔德不明，以无陪无卿。”<sup>⑦③</sup>

孤举者难起，众行者易趋<sup>⑦④</sup>。倾厦非一木之支也，决河非捧土之障也。一萧何而助之者良、平、信、越，一邓禹而助之者二十七将，一元龄而助之者十七学士。马曳轮也。羽、飞死，法正、庞士元死，而孔明自



将以出祁山；身曳轮也。哀哉！《诗》曰：“终其永怀，又窘阴雨。其车既载，乃弃尔辅。载输尔载，将伯助予。”①

#### 注释：

①奚：古疑问词，什么。②壑：坑谷，深沟。③岩墙：有倒塌危险的墙。④孽：灾殃。⑤诚：果然。⑥直：仅仅。⑦介：通“芥”，指微小的东西。⑧易：换。⑨确：坚固的意思。⑩福禄寿考：指福气、俸禄和长寿。⑪炽：盛。⑫嘏祝：祝福。⑬天爵：德高而受人尊重。⑭迓：迎接。庥：保佑。⑮岂弟：平易近人。回：违背。⑯厉、宣、幽：周厉王、周宣王、周幽王。⑰豳：指《国风》中的《豳风》。⑱贵不列于五福：贵不在寿、福、康宁、攸好德、考终命五福之内。⑲康庄：平坦的大道。仁我：有益于我。⑳生意：生机。㉑逆数：倒数。㉒赭：红色，鱼病。㉓届：到，至。不遑：不暇。㉔信：伸。㉕决：迅猛。㉖忤：逆。乘：依附。㉗华：华服。眈：鱼肉。㉘竞：相争。㉙丰：富足。㉚歉：俭。㉛重：重复。容：容纳。双：并存。同：等同。㉜则：取法。象：模仿。㉝共：通“恭”。㉞宗：通“崇”。㉟幘：幘：幘，喻翼护。㊱兆民：天下百姓。

㊲式：异，别。㊳臧(yàn)：审定。㊴柯：斧柄。则：样板。㊵济物：有助于世。㊶祛：除去。蠹：蛀虫。㊷穢：浆。度：过河。㊸飧：餐。㊹狙：獾。此指享用猎物。㊺轩：指乘车。㊻幘：遮蔽。此指居住条件。㊼商贾：经商。㊽干盾：革制防御器械，此指守御边防。㊾功：功用。㊿泄泄：舒缓闲适。①素食：白吃饭。②度：推测。③猷：计谋。④郤：通“隙”。窾：空穴。⑤陈汤：西汉元帝时人，出兵西域，先斩后奏，以奇谋克敌致胜。⑥班超：东汉明帝、章帝时，出使西域，先发制人，自作主张，粉碎了敌国的阴谋。⑦烛：照。喻明达。⑧挠格：阻挠。⑨程：效法。⑩工：善于。骚墨：诗赋、书法。⑪浮藻：浮华的词藻。餗：堆积的果品。喻堆砌的文字。⑫质：朴实无伪。⑬霭(měng)：昏暗。⑭秉：执掌。⑮肃：整顿。乂：治理。⑯还：近。⑰旌、木：鼓、铎：求谏的设置。瞽瞍：盲人，指宫中的乐师。刍荛：打草的人。⑱炤：照耀。⑲明：透彻，完善。背：背后，私下。侧：侧面，左右。陪：近臣。⑳趋：快走。㉑辅：车轮旁直木，可增强载重力。输：掉下。将：请。伯：长者。

# 十一、历代谋略实例选萃卷

## 引言

顾铭新 刘瑞石

人之所以称为人，就因为人具有一个为其他生物所无法比拟的头脑。人凭借其智慧，去征服自然，改造社会，推动人类历史前进。翻开瑰丽的历史画卷，我们将看到，每一次惊心动魄的战斗，每一次生死存亡的较量，每一次此消彼长的对抗，无不闪耀着作为万物之灵——人的智慧的光彩。这之中，作为人的智慧的结晶——谋略，更具有惊人的魅力。

在人生的大舞台上，单凭勇力，赌狠斗勇而能够站稳脚跟，战胜对手的事例，在历史上实为寥寥，也很难得到人们的称道。相反，身居绝境而不馁，面临危险而不惊，凭借奇谋异计，闯关夺隘，出奇制胜的人和事则深受人们的推崇和喜爱。因为只有在这些事例中才更能表现人的特性，才更能展示人的价值。明代学者冯梦龙在《智囊》一书里曾经说过这样一段很有思想的话，他说：“人有智，犹地有水。地无水为焦土，人无智为行尸。智用于人，犹水行于地，地势坳则水满之，人事坳则智满之。”他认为“宇宙一活局耳”，聪明人不能只知“执方引经”，“胶一实以御百虚，知形而不知情，知理而不知数，知用而不知机”，而致“成败得失，介在呼吸，弗能转也。”至于人应该怎样做才适合，他没有说。笔者以为，他所推重的是那些善于运筹谋划、因时设计、宜地便法、见机行事、

灵活多变、趋利避害的多谋善断之士。

历史是个大舞台，也是个大角斗场，竞技场。优胜劣汰，适者生存。纵观历史，强而有力者胜，弱而低能者败；机智多谋者胜，愚蠢莽撞者败。我们所说的优者，绝非仅指身体健壮、膂力过人的勇猛大汉，而更多地是指那些根据所处的环境，根据自身的力量而能灵活地采取最佳的斗争策略者；所谓劣者，也可能在某些方面表现出强的特征，但由于他们不能根据形势，适时地采取恰当的斗争策略，结果还是处于劣势，惨遭失败。无数历史事实告诉我们：谁若恃强恃勇，不注意战略和战术上谋略的运用，谁就可能“强”而不优，反遭败绩。谁若头脑冷静，临变不惊，善于运用谋略，谁就能转弱为强，化险为夷，成为最终的胜利者。这几乎成了历史上人生竞技场上的一条定则。严峻残酷的历史事实告诉人们，谁也不能无视谋略在斗争中所起的作用。

在人生竞技的大舞台上，有谁不想成为胜利者？有谁不想在政治斗争中，任凭风云变幻，风吹浪打，“胜似闲庭信步”，应付裕如，立于不败之地？有谁不想在军事对抗中，任凭敌方千军万马，强弩劲弓、兵精粮足，在“黑云压城城欲摧”的形势下而运筹帷幄，决胜千里之外？谁不想在商品竞争中，出奇制胜，财运亨通？谁又不想在体育竞技场上，

技压群芳，独占鳌头？……这之中，谋略所起的作用是十分重要的。一条奇策，可以化险为夷，官场得意；一条妙计，可以出其不意，转败为胜；一个良方，可把经营搞活，创下利润的最新纪录；一个高招，可以起死回生，全盘皆活。离开高人一筹的谋略，谁也不能保证在人生的竞技场上长胜不衰。本卷所展示的谋略事例，可以使读者从中受到启迪，益智醒脑，增长才干，顺利地走过人生的崎岖之路，踏上成功的坦途。

我国是一个具有悠久文化传统的国家，中华民族不仅以刻苦耐劳著称于世，而且更以其聪明才智享誉世界。在中华民族悠久灿烂的文化宝库中，军事典籍和军事谋略遗产占有重要地位，宛如一颗颗璀璨耀眼的明珠。两千多年前的《孙子兵法》至今仍被一些发达国家奉为兵学圣典，就是最有说服力的例证。在本卷中，我国历代大小战争运用谋略的战例占有较大比重。其中既有关于战争全局的谋略——战略，如范雎的“远交近攻”，张仪、苏秦的“合纵”“连衡”之策，勾践的忍辱负重之计；也有关于战争局部的谋略——战术，如春秋时期鲁国曹刿的“一鼓作气”；三国时期诸葛亮的“空城计”；唐代李朔攻蔡州；明代戚继光平倭寇；清代刘铭传力战法军守台湾等等。有进攻性的谋略，也有防御性的谋略；有施用一计而获胜的，也有几谋并用而获胜的。其种类既为人们所熟知的“反间”、“激将”、“美女”、“苦肉”、“攻心”等谋略运用成功的战例，也有人们较为鲜知的“弭兵”、“韬晦”、“畴骑”、“疑兵”等奇谋妙计巧妙运用的战例。

在本卷中，我们也十分注意选取政治斗争中巧施谋略的事例。其中既为人们津津乐道的“二桃杀三士”、“冯谖为孟尝君买义”、“李斯谏始皇逊客”、“宋太祖杯酒释兵权”等著名事例，也有鲜为人知的“明太祖谋杀诸功臣”、“清代雍正争宠夺帝”的内幕，等等。这些事例曲折生动、紧张激烈、扣人心弦。无论是帝王将相之间的你死我活明争

暗斗，还是士人百姓之间妙趣横生的斗智斗计，无不显示着谋略的价值，无不振聋发聩、警醒后人。

为了强化本卷的现实意义，我们特别注意编选了一些商品竞争的事例。如明代三宝太监的远航西洋、清代曾国藩、李鸿章办洋务等等。这些事例中的利弊得失，都系于一谋一计的成功与失败，一再告诫人们商场如战场，虽无刀光剑影，但处处藏有杀机，有勇无谋是无法在这场较量中取胜的。

此外，在外交、用人、文学、处世、治家、教育等方面也相应地蒐集、编选了一些谋略事例。外交方面的有“烛之武退秦师”，“墨子说楚王”等事例；用人方面的有“齐桓公重用管仲”、“祁奚荐贤”等事例；文学方面的有脍炙人口的“苏小妹三难新郎”、“王安石三难苏学士”等事例；处世方面的有，战国时的“吴起杀妻求将”，汉代的“强项令董宣”，宋代的“处继迁母”等事例；治家方面的“孟母择邻”，“石崇与王恺争富”等事例；教育方面的有“孟子杀豕教子”，“乐羊子妻”等事例。凡此种种，其事真实可信，其人有史可证，其谋略之高超机变，令人叹为观止。

历史即将进入21世纪，可以断言，未来的世界将是科学技术突飞猛进的世界，将是经济大发展的世界。一个国家，一个民族，欲在世界之林站稳脚跟，发扬光大，就必须首先发展作为第一生产力的科技及教育，归根结底，就是以智慧、以谋略取胜。谋略，这一人类独有的智慧的结晶，必将在未来的世界里大放异彩。

## 先秦谋略实例

### 成汤修政纳贤设间灭桀

公元前十六世纪初，商到成汤时，虽然还附属于夏王朝，但已是东方最强大的诸侯部落了。成汤王相貌出众，处事很有心计。

当他看到夏王朝的君主桀残暴淫奢，无力管理国家时，便决心取桀而代之。

成汤为了日后西进的方便，把城都迁往亳地（今河南郑州附近）。迁都后，他内修国政，广纳贤才，受到臣民的称赞。

在成汤妃子的陪嫁奴仆中，有个叫伊尹的奴隶，后来因功成为商的大臣“尹”，后人称他为伊尹。伊尹通晓尧舜之道，又善于运筹策划，有心扶助成汤。成汤也不论卑尊，把他找来谈论天下形势。

成汤听伊尹分析透彻，方略精到，与自己心中所想的伐夏之举不谋而合而大喜，便与之商议灭夏之策。伊尹说：“要灭夏须先知夏，在下愿意入夏都察看夏政，侦查中原地形。”成汤立即派他前往，为使夏王不疑，伊尹出发时，成汤又施小计。

第二天，有士兵报告成汤，说是伊尹逃出城投奔夏了。成汤故作大惊道：“快快追捕。”待成汤率人追出城外，伊尹已逃远了。士兵忙搭箭欲射，成汤阻止说：“让我亲手来射死他！”接着成汤慌射一箭，不中，也就作罢。

伊尹到了夏都斟鄩（今河南偃师南），夏桀见他办事能干、谈吐不凡，又是一个被成汤追杀的人，就很信任他，让他做了官。这样，伊尹便有机会了解到夏桀残暴与荒淫；百姓生活悲惨，苦不堪言；无度的赋税，使国民饿死大半等情况。同时，伊尹还同因夏桀新征琬、琰二妃，整日与其寻欢作乐，而遭冷落的妃姬妹喜结交，并取得了她的信任。

三年后，伊尹对夏朝内部情况了如指掌，于是回到商都，成汤大喜，遂封他为右相，策划灭夏大计。成汤问伊尹：“国内粮食不足，该怎么办呢？”伊尹说：“桀不忧天下，钟鼓乐女就有三万，而且都穿着彩绣衣裳。我们亳都中有很多女子擅长刺绣，可组织起来搞刺绣拿到夏桀去换粟。”成汤依计办理，很快换得粮食满仓，并还把多余的粮食分给一些诸侯国，换得“仁慈”美称。

夏桀看到商汤强大，便传召成汤至夏都，并把他囚禁起来。成汤被囚，引起各诸侯国君主的愤愤不平，伊尹考虑了一个解救之计。他带了大量的珠宝和数十名美女，亲自送到夏都。夏桀见了这么多的美女和财宝，气也消了一半，加上妹喜在一旁说情，桀王便传令赦免成汤。

成汤与伊尹归国后，首先找些借口，灭了夏在商都附近的盟国葛，然后，大举进兵伐夏。商军先后剪灭夏羽韦、顾、昆吾等国，最后直捣夏都斟鄩，夏桀兵败逃跑，后客死于山中。

成汤灭夏后，建立了商王朝。他也开创了运用智谋设间以破敌的先河。

（顾铭新）

## 郑庄公假命伐宋

春秋时期，州吁篡夺了卫国国君之后，为“立威”邻国，便联合宋、鲁、陈、蔡四国联合攻郑。郑庄公认为宋是主谋，于是一心一意想报复宋国。但因为宋国爵尊国大，并且有其他四国支援，不首先把宋国孤立起来是很难取胜的。为此，郑庄公巧妙地离间了宋、陈的关系，使陈国倒向了郑国，接着，郑庄公便想出个假托王命的计策，借以分化宋与陈、蔡的联盟关系，以达到伐宋之目的。

按照预先的谋划，郑庄公带着谋臣祭足并厚礼，声势张扬地去朝见周王，以便给诸侯国造成周天子信任郑国的印象。

然而事实上周王并不喜欢郑庄公，对于郑国曾借口灾荒而侵夺过周王的麦禾之事，一直耿耿于怀。周桓王一见郑庄公便没好气地有意问郑国今年收成怎么样，郑庄公回话说今年没有受灾，周桓王便挖苦说：“万幸万幸，你们丰收了，湿地之麦、成周之禾，我就可以留下自己吃了，不会再被你们抢走了。”

周桓王对郑庄公十分冷淡，也不设宴招待他，只是派人给郑庄公送来十车黍米，说

是让郑庄公备荒用，通过此举羞辱他过去的抢粮行为。

郑庄公受到如此冷遇，后悔自己不该来见周天子，也不愿意接受这十车黍米。懊恼之时，祭足对他说：“如果我们不接受这些黍米，那么诸侯国马上就会知道我们与周天子间有了隔阂，那还怎么能假托王命呢？依臣之见，我们可以在这十车黍米上作文章。”郑庄公问计，祭足接着说：“我们将这十车黍米用锦袱覆盖，乔装成十车财宝，离开都城那天，宣称这都是周王所赐。还在车上放好彤弓弧矢，假称‘宋国久不朝贡，郑国奉周天子之命，准备伐宋’。这样，我们假托王命的计划准会成功。”郑庄公大喜，此后，他们招摇过市，一路传扬，诸侯竟都信以为真。

消息很快传到了宋国，宋殇公感到不妙，于是，主动想和郑国讲和，但郑庄公置之不理。同时，他以周天子的名义，矫命齐、鲁等国协助郑国一同伐宋。结果齐、鲁都派出了各自的军队。郑庄公亲自统帅诸侯联军征讨宋国，队前一面大旗上赫然写着“奉天讨罪”四个大字。攻入宋境后，连取郕、防二城，势如破竹。不久宋国了解了事实真相后，为时已晚，宋国失败已成定局。

(顾铭新)

## 楚文王鹬蚌取利智夺蔡、息

东周初期，楚国日渐强盛，到楚文王执政之时，汉水以东的小国纷纷臣服，唯有蔡国倚仗和齐国是姻亲，所以不肯屈服于楚，为此，楚文王耿耿于怀，时刻想着夺取蔡国，但表面上，仍假装着跟蔡国友好。

当楚文王听说蔡侯与息侯之间，出现了摩擦之后，便感到灭蔡的机会来了。原来，蔡侯和息侯娶的都是陈国女人。一次，息侯夫人息妫路过蔡国时，蔡侯不但未用上宾之礼相待，反而语多轻侮，息侯对此非常恼恨。楚文王有次与息侯相谈时，涉及到此事，楚文王乘机说：“用我怎样惩戒蔡国呢？”此言正中息侯之意，原来息侯也想借用楚国之力，

息侯把自己的想法对楚王说了：即先请楚王假意伐息，然后自己再向蔡国求救；那蔡侯元谋，必定发兵；到那时息、楚合兵攻蔡，则蔡国必败。

楚文王立刻按息侯之计，发兵攻息。蔡侯果然中计，亲率援军向息国杀来。不想，在途中，被楚军打了个措手不及，蔡军不是楚军对手，慌忙向息城撤退。结果，息侯却闭门不纳，蔡侯无奈，急忙逃归，但楚军紧追不舍，追到莘野，俘虏了蔡侯。此时，蔡侯才知道这是楚、息做下的圈套，为此，更加憎恨息侯。发誓有朝一日定报此仇。

楚文王知道蔡、息联盟彻底瓦解，蔡侯再也不会援息之后，就放了蔡侯。蔡侯知道楚文王好色，临行时，便有意向楚文王备述息侯夫人貌美绝世，意在让楚王攻息。不久，楚文王假借狩猎之名到了息国，息侯亲自迎接，殷勤招待。哪知楚文王的心思都在息妫身上，竟然提出让息妫出来敬酒的非礼要求。息侯叫苦不迭，只好忍气吞声地唤出息夫人。楚文王见息妫的确艳丽动人，决心据为己有。

第二天，楚文王假意设宴答谢，席间令兵士将息侯绑架，进而灭了息国，车载息妫而归。不久，楚文王又出兵吞并了大伤元气而在幸灾乐祸中的蔡国，大大地扩展了自己的地盘。

楚文王利用蔡、息之间的矛盾，巧施计谋，达到了一石二鸟的目的。

(顾铭新)

## 曹刿避锐击惰智退齐军

公元前684年，齐国攻打鲁国。当时，齐国十分强大，而鲁国非常弱小。为此，鲁庄公甚是着急，很耽心这场战争的结局。

恰在这时，有一位姓曹名刿的人请求进见鲁庄公，鲁庄公召见了。曹刿开门见山，问鲁庄公靠什么去和齐军作战？

鲁庄公说：“衣食所安，弗敢专也，必以分人。”意思是说衣食一类用以安身之物，不

敢自己独自享用，一定分给百姓共享，即，臣民们会为他去打仗。接着鲁庄公又说：“祭祀用的牛羊玉帛，我从来都严格按照礼仪规定办理，一直是很诚心的。”这句话的言外之意，是说神灵会被他虔诚的态度所感动，保佑他打胜仗。

曹刿听罢，认为单凭这两点还不能应战。

最后，齐庄公说还有一点，即，“国内大小案件，我虽然不能一一亲察，但在处理时，我是很认真的。”以此说明他力求避免冤假错案，注意维护民众利益。

曹刿说有这一手就好办了。因为要打赢一场战争，只靠得到小便宜的少数人不行，依靠神灵保佑也不行，取胜的根本条件是取信于民。

不久，齐鲁两军战于长勺。

鲁庄公和曹刿同坐在一辆战车上，指挥作战。当双方在战场上摆下阵势时，鲁庄公想先下手为强，便准备下令击鼓进攻。曹刿制止说：“不行，暂时不能击鼓。”同时，命令鲁军严阵以待。

强大的齐军向鲁军发动了进攻。鲁庄公又想马上发起反击，曹刿阻止说：“不可。”齐军第一次冲锋没能奏效，只好退回原地。不久，齐军第二次击鼓冲锋，鲁军仍照曹刿的命令巍然不动。等齐军击鼓发起第三次冲锋时，曹刿说：“现在到了反击的时候！”于是，一阵鼓响，鲁军全线向齐军压了过去。已经劳累不堪的齐军抵挡不住，顿时阵势大乱，大败而逃。看到齐军溃退，鲁庄公想马上追击。曹刿说：“且慢！”待曹刿下车观察了一阵齐军留下的辙印，又上车遥望了一阵齐军败退的情况后，才发话说，“可以追击！”结果，鲁军在追杀齐军的过程中，把齐军杀得落花流水，鲁国大胜齐国。

得胜之后，鲁庄公问曹刿取胜的原因。曹刿说：“打仗，靠的是勇气。第一次击鼓，能振作士气；第二次击鼓，士气就减弱了；敲第三次战鼓，士气就泄尽了。敌军击鼓三

次，士兵的勇气已尽。此时，我军第一次击鼓，士兵勇气正旺，所以战胜了对方。同时，象齐国这样的大国用兵一向是难以预测的，应提防敌人有伏兵截击，假装失败。当我下车看见他们的车迹混乱，上车远望他们的旗帜也倒下了，因此断定是真的失败了，所以才令兵士放心追击他们。”

鲁庄公听罢十分敬佩。

(顾铭新)

## 管仲示以欲伐不战而胜

管仲是春秋时期的一位名臣，在他的辅佐下，才能平庸的齐恒公一下子成为中原一霸，当时齐国的大小事恒公都会先请教管仲，称之为“仲父之谋，万无一失。”

公元前664年，齐恒公很想吃掉纪国附近的郕国。郕国曾是纪国的附庸，早在公元前693年，齐国便将纪国吞并，然而二十多年过去后，郕国仍然独立存在，并没有主动降属齐国的迹象，恒公不愿意无限期地保持这种局面。

一天，齐恒公向管仲询问并郕之策说：“郕为纪附，至今未服，寡人欲并吞之，你看怎么办？”

恒公的心情管仲当然明白，不过，在管仲看来，恒公新得诸侯，霸权初建，为了能进一步巩固霸主地位，进一步树立威信，赢得民心，此时不宜“以兵威得志”，而应当积“存亡兴灭之德”。于是，管仲巧妙地对齐恒公说：“郕国虽然作为一个独立的国家而存在，不过其先祖乃是太公的子孙，与我们齐国是同姓。如果我们大举兴兵去消灭同姓，这在人们看来是不义之举。”

齐恒公听到这里，觉得有些奇怪了，管仲为什么要替郕国说情呢，难道他当真反对我灭掉郕国？管仲从恒公的表情上已经觉察出他的狐疑，他说：“我不是反对大王的意见，也赞成灭掉郕国，只不过不赞成直接用兵戎相见。”管仲接下来，向恒公说明了自己灭郕的计法。他说：“君王灭郕必行，我是赞同

的。这样吧，你可叫王子成父率领大队齐军巡视纪城，做出大兵压韩，要讨伐韩国的架势。这示以欲伐之状，势必导致韩国的国君主动来降，因为他害怕国弱民衰，抵挡不住强齐的进攻。这样做，可以两全其美，一无灭亲之恶名，二有无伤又得地之实惠。”

一向对管仲言听计从的齐桓公，此时才真正明白了管仲的意思，欣然同意了这个灭韩之巧计。于是，依计命令成父率领大军直奔纪城而去。颇有一口吞掉韩国之势。

韩国国君见齐军大兵压境，随时都有越境伐韩的可能，畏惧之中主动向齐国求降，隐藏在桓公心中的韩国之患，就这样解决了。依管仲之策，齐国不战而胜的目的达到了。

(顾铭新)

### 荀息施戏垒卵阻君造台

春秋时，晋国的晋灵公喜好奢华，他为了自己的享乐，下令动用大批百姓，耗用大量钱财，建造一个极其豪华的高层楼台。他怕臣子们劝说阻止，就下令说：“谁敢劝阻，格杀勿论！”这样一来，尽管许多臣属担心此举劳民伤财，与国不利，但是没有人敢来进言。

晋国有个大臣叫荀息，他足智善谋，为人称道。荀息也很为国家担忧，但考虑到灵公有令为先，不好直谏，便决定巧施小计。于是，他找个机会求见晋灵公。

晋灵公也知道荀息是来劝阻他的，于是，便找来了弓箭，准备只要荀息开口规劝，便把他射死。

荀息拜见晋灵公后，只字未提建楼之事，而是轻松愉快地对晋灵公说：“大王，此番前来是为您表演一个小技艺，让您开开心心的。”

晋灵公见此，便放下手中的弓箭，问：“什么小技艺？”

荀息说：“我能够把十二个棋子堆立起来，而且上面再加上几个鸡蛋。”

晋灵公见荀息满脸认真，也来了劲，说：

“哎，这玩艺儿还真有趣！”接着，命侍从拿出棋子和鸡蛋，让荀息表演。

荀息认真地先把十二个棋子堆了起来，然后又把鸡蛋一个一个地加上去。旁边观看的人，担心鸡蛋会掉下来，都紧张得屏住呼吸，瞪圆眼睛。晋灵公也是惊慌急促地直喊：“小心，危险！危险！”

荀息见众人都被这小游戏吸引住了，便慢条斯理地说：“这没什么了不起的，还有比这更危险的呢！”

晋灵公听荀息这么一说，立即让荀息放下此戏，说：“还有精采、危险的，何不做来让寡人见识见识。”

荀息见时机已经成熟，就不再继续表演下去了，立起身子，无限沉痛地对灵公说：“启禀大王，请让我进言几句，臣即使死了也不后悔！为了建成高层楼台，三年不能成功，国内人力皆用于此，已经没有男人耕地、女人织布了；再说，国家的库存已经匮乏空虚，邻近的国家若要前来侵犯我们，我们无以兵力而对。这样下去，国家总有一天要灭亡的。建造高台，就象这叠鸡蛋一样危险，请尊敬的大王三思而行！”说着，荀息泪滴衣襟。

晋灵公见荀息说得合情合理，态度婉转诚恳，这才明白建造高台对国家有如此大的危害，叹了口气说：“我的过失竟然严重到这种地步了！”于是，就下令停止建造高台。荀息施计叠卵，拯救了国家。

(顾铭新)

### 秦穆公不咎既往重用亡臣

公元前659年，秦穆公即得王位后，从政治、经济到文化都进行了整治，使秦国很快成为春秋时期的霸主之一。秦穆公用五张羊皮，换回虞国亡臣百里奚，并任为相国之举，实为千古美谈。

百里奚原为虞国大夫，晋国灭掉了虞国之后，百里奚成了晋国的俘虏。此前，百里奚曾力谏虞君应看透晋国的亡虞阴谋。此时

被俘后，当然不愿为晋国服务。对于这样一个人，晋献公无奈，只得把他作为自己女儿的陪嫁奴仆，送往秦国。在赴秦的路上，百里奚乘人不备，偷偷地逃往楚国宛县。结果，楚人把他当作别国诸侯派来的奸细抓了起来，后来看他上了岁数，又挺老实，便去让他放牛、放马。

秦穆公娶来晋献公的女儿后，在翻看陪嫁奴仆的名单时，发现少了一个叫百里奚的人，于是，便问了起来。经别人谈吐，秦穆公才了解到百里奚是个很有才能的谋士，只可惜虞君昏庸，英雄无用武之地，才落到今天这个地步。秦穆公十分惋惜，立即派人四下打听百里奚的下落，很快，他知道了百里奚此刻正在楚国放马，便想用重金去楚国把百里奚赎回来。

有人劝谏秦穆公说：“楚人让百里奚放马，是因为不知道他是个有本事的人。要是您重金去赎，还不是告诉楚王百里奚是个能人吗？那他还会放百里奚回来吗？”秦穆公一听有理，便按照当时普通奴隶的身价，派人拿上五张公羊皮，去楚王那儿说：“敝国有个奴隶叫百里奚，逃到了贵国，请让我们赎回他，治他的罪。”楚王痛痛快快地答应放百里奚回秦。

这时，百里奚已是七十多岁的老翁了。归秦后，秦穆公亲自为他解开绳索，请入宫中，待为上宾，并向他请教治国之道。百里奚百般推辞，说：“我是个亡国之臣，怎配与国君谈论国家大事！”秦穆公却诚恳地说：“虞君不重用你，所以亡国，这不是你的过错。”经秦穆公再三诚请，百里奚深为感动，倾其所知，和秦穆公谈了三天。秦穆公大喜，见其果然贤能，遂任命百里奚为相国，授之以大权。举国尽知，他是国君用五张羊皮换回来的，称之为“五羖大夫”。

百里奚深受知遇之恩，见秦穆公如此看重贤才，便又热情地向穆公推荐了他的好友蹇叔。这蹇叔也是治国的贤才。此后，百里奚和蹇叔一起辅佐秦穆公，提出不少治国兴

邦的谋略，为秦国的兴旺发展出了不少力，使秦国逐渐强大起来。

(顾铭新)

## 弦高随机应变假犒秦师

公元前628年，秦穆公准备向中原扩展势力，谋图霸业。正巧，上次秦、晋两国合兵攻打郑国时，留下驻守在郑国北门的秦将杞子派人报信，说郑文公死了，太子兰做了国君。他只知道投靠晋国，不愿搭理我们秦国。最近，晋侯重耳也死了，晋国顾不上郑国了。这是一次好机会，况且我已掌管起郑国北门的钥匙，如果大王速派兵来偷袭郑国，我再做内应，一定能够成功。

秦穆公闻信，便召集群臣商议此事，老臣蹇叔和百里奚都坚决反对，认为趁人之危，于理不合。再说郑国距秦一千多里，劳师袭远，郑国一定会知道而有所准备，这便很难取胜。秦穆公坚持要出兵，这样，当下便派孟明视为大将，率领三百辆战车前去攻郑。

秦国远征军经过了三个月的秘密行军，来到了与郑国相邻的滑国地界。此时，郑国对秦国来伐的确一无所知。

一天早晨，秦军刚刚启程，忽闻先锋兵士前来向孟明视报告：“将军，郑国的使者求见！”孟明视一听，大吃一惊，心想：郑国如何已知我军到此？连忙招见郑使。

原来求见者姓弦名高，不是什么使者，乃是郑国的一个贩牛商人。这一天，弦高去洛阳贩牛来到此地，听别人说秦国大军前来攻打郑国，他很是着急，急中生智，他一面派小伙计速回郑国报讯，一面采取个大胆的行动，假充郑国使者设法阻止秦军。弦高在他的牛群选上十二头肥牛，又拿上四张牛皮，以慰劳秦军的样子，迎秦师而来。

弦高见到孟明视后说：“我叫弦高，我们国君听说大将军要从我国经过，特派我带上小小的礼物献上，算不得犒劳，请将军笑纳。敝国国君说，敝国蒙贵国军队保护北门，心中十分感激。敝国虽小，也不富裕，但我们



愿意供给你们一天的给养，并负责保护你们行军的安全。”

孟明视听弦高这么一说，也忙说：“我们不是到贵国去的，而是来讨伐滑国的。”弦高交上礼物，拜别了孟明视，回郑国去了。

弦高走后，孟明视下令攻打滑国，他的两个副将不知其由，孟明视说：“我们千里远征是去偷袭郑国的，可现在郑国派人前来犒师，显然已经早有了准备，这种情况下去攻打郑国，我们的兵力、粮草远远不够，难以取胜。倒不如趁滑国没有准备，灭了它，带些财物回去也有个交代。”于是，秦军攻滑并灭之。

弦高巧计冒充使者犒劳秦师，挽救了他的祖国。

(顾铭新)

### 程婴施计换孩赵氏存孤

春秋时，晋国有个谀臣叫屠岸贾，本是晋灵公宠臣，灵公被赵家的人刺杀后，景公即位，升屠岸贾为太司寇，这样，他要为灵公报仇，杀掉了赵朔、赵同等人，夷灭了赵氏一族。然而，赵朔的妻子，即晋景公的姑姑，怀着身孕而避祸宫中。赵朔的朋友程婴许诺说：“赵夫人若生男孩，我将其抚养成人。”不久，赵夫人生下一男孩。

屠岸贾闻知此事后，立即率兵进宫搜查，赵夫人着慌，把孩子藏在裤子里，默默祷告：“姓赵的该绝，你就哭吧；如不该绝，你就不出声！”果然，那孩子竟一声也没响。屠岸贾搜不出什么，认为孩子已运出宫外，便到处悬赏缉拿。

屠岸贾走后，程婴对赵朔以前的门客公孙杵臼说：“这次搜查未果，日后必会再查的，此事如何是好？”公孙杵臼说：“抚育孤儿和一死从义哪个更难？”程婴说：“当然从死容易，抚育孤儿很难。”公孙杵臼说：“赵氏以往对您厚待，您就勉为其难抚育孤儿吧，我去做那件容易的事。”程婴又问：“此话怎讲，有何计策？”公孙杵臼说：“只要找一个婴儿冒称赵氏

孤儿，由我抱往首阳山中躲起来，你便去告密，屠贼搜到了假的，就不会再寻真的了。”程婴被公孙杵臼这种义举感动了，然而又无其他良策，只好含泪依此办理。

那屠岸贾得到程婴的密报后，甚喜，立即赏程婴金子，亲率三千甲兵，由程婴带路，直奔首阳山公孙杵臼怀抱假婴住处。到达后，公孙杵臼出迎，一见情形回身便走。此时程婴高声喝道：“不要跑，屠大人已知道了一切，并亲自前来，你快把孤儿献出来吧！”公孙杵臼听罢转身骂道：“程婴，你这小人，赵氏待你不薄，赵氏被夷族时你不能从死就义，本和我同谋藏匿赵氏孤儿，可今日你却出卖了我，而贪图千金之赏。”骂过，又抱起假孤儿说：“苍天啊苍天！赵氏孤儿有什么罪过？请诸位放过他吧，只把我杀了吧！”众人哪里肯依，于是不由分说冲上前去，将二人全都杀了。屠岸贾觉得绝了赵氏的后，便得意洋洋的收队回京。

此后，程婴便抱着真的赵氏孤儿躲藏在深山中，慢慢地将他抚养长大。十五年后，晋景公患了病，命人占卜，得到解释说是因赵氏后人未得振发而作祟。晋景公便问大臣韩厥，作为当年存孤的知情人，他趁机将实情告诉了景公，景公便与韩厥暗中将赵氏孤儿——赵武接进了宫中，并特许赵武雪冤。

这天，众将前来探视景公病情，景公与韩厥预先藏下伏兵，此时便胁迫众将去见赵武。众将觉得不妙，皆将罪过说到屠岸贾身上，于是，赵武、程婴便与众将约定，一同将屠岸贾一族全部夷灭。赵武重新得到了赵氏祖上的封地。

(顾铭新)

### 江乙深谋远虑为宠献策

春秋时的楚国，有一位受楚王宠爱的王妃名叫安姬陵，她天生丽质、容貌绝世。由于受宠，安姬每每都是喜不自胜。

一天，安姬遇到一位叫江乙的谋士，见他眉宇间流露着一种悲哀之情，安姬颇觉诧异。

异，便问江乙说：“先生为何悲伤？”江乙没有正面回答，却反问安姬说：“你的祖先为大王立过大功吗？”安姬摇摇头。江乙又问：“你自己为大王有过贡献吗？”安姬不解地再次摇摇头。江乙又追问下去说：“那么你奢华的生活和显贵的地位因何而来呢？”安姬心中暗想：这还用问吗，是因为我天姿秀丽，所以大王宠我。

江乙见安姬没有回话，便单刀直入地对她说：“我曾听说，用钱奉人，一旦钱尽；人们跟他的交情就会疏远；以色悦人，一旦色衰，她所受到的宠幸就会减少。人的美色如花一样，今朝开得正艳，明日就会枯萎，你想没想过，怎样才能让大王永远宠你，永不嫌弃你呢？”话到此时，安姬方知江乙一番问话的用意，她忙站起身施礼后说：“我乃弱女子，年少无知，请先生替我出个主意吧。”

江乙成竹在胸地对安姬说：“你只要能让大王知道，你愿意永远陪伴他，保准永能得宠。”安姬点头称是说：“一定听从先生的吩咐。”

一年后，安姬又遇到江乙。江乙问她：“我去年对你的那番交待，你对大王讲过了吗？”安姬说：“我还没遇上适当的机会。”江乙听罢没再说什么，摇着头离去了。

又过了一年，当江乙问安姬对大王讲过那些话没有时，安姬同样以没有机会作答。这下，江乙生气了，他面带愠色地对安姬说：“你整日与王同车、同坐，两年过去，竟无谈话机会，我明白了，你是对我的主意有看法，这样吧，不说也就算了。”这下安姬感到非说不可了。

一次，楚王行猎，他命令随从在森林四周点火围猎，一时间，野火熊熊，虎啸狼嚎。突然，一只发了狂的犀牛向楚王等扑来，幸亏楚王手快，一箭射去，疯狂的犀牛当即毙命。经过这场虚惊后，楚王回头突然问安姬道：“我将来逝去，你会同谁来享受快乐呢？”安姬立刻想到江乙的嘱托，只片刻就泪流满面，一下子抱住楚王失声痛哭，哽咽着说：“大

王将来登天之后，小妾愿与大王同葬，小妾何谈与别人同乐呢？”

安姬的表演及话语，令楚王深深地感动。当即封给安姬一块领地，并对她说：“朕将来万岁后，你就在这块领地生活，谁也不许去打扰你。”

从此之后，楚王对安姬更是百倍宠爱，纵有年轻、美貌的女子，楚王也是情不他移，独钟安姬。后人言：“江乙善谋，安姬知时”这里概括了江乙的智谋高超，也叹服安姬的把握时机。

(顾铭新)

### 楚庄王谜语不迷一鸣惊人

春秋时，楚穆王死后，楚庄王即位。楚庄王即位后，整天吃喝玩乐，什么国家大事，根本就不放在心上，就这样整整胡闹了三年。国人们都认为这回遇着了个昏君。

其实，楚庄王别有一番心思。原来，他早就认为楚国的令尹权力过大，而自己刚刚即位，还没有足够的实力对付令尹。另外，也不知道大臣中谁有本事，有胆量，可以倚重。所以，他故意做出昏君的样子，一来可以使令尹对自己不加戒备，二来可以观察大臣们的反映。

这期间，虽然有过一些人劝谏过他，可说得都是空空洞洞，不着边际，为此，楚庄王十分失望，索性又下一道命令，以激贤士。命令是：“以后谁若多嘴，谁有死罪！”大臣们看后，更不敢去劝谏了。

这一天，大夫申无畏拜见庄王。庄王问他：“你来干什么？是喝酒还是听音乐？”申无畏笑答：“有人让臣猜谜，臣猜不着，特来请教于大王。”庄王说：“这倒很有意思，那么说出谜面吧。”申无畏说：“楚国山上，有只大鸟，身披五彩，器宇华耀。一停三年，不飞不叫；国人不知，此为何鸟？”楚庄王听罢，脑子一转，已心领神会，然而却不动声色地说：“这可不是一只普通的鸟。三年不飞，一飞冲天；三年不鸣，一鸣惊人。”申无畏也清

楚了庄王的谜底所指，心里十分高兴。但又一想大王何时才飞呢？楚庄王看出了申无畏的脸色在喜悦中带着疑惑，就意味深长地说：“你们别急呀。”申无畏了解了楚庄王的决心后，便叩头拜谢道：“大王到底英明！”然后愉快地告辞了。

不久，楚庄王便开始治理国家。他首先选中了象申无畏这样敢为的人才，加以重用，罢免了一些无能之辈。另外，一面着手改革政治，从令尹手中夺回了国家的权力；一面训练军队，厉马秣兵。在得力的大臣们的辅佐下，很快使国家兴盛起来。

公元前606年，庄王率兵近逼周朝首都洛邑，问周鼎之轻重，使天下震惊。接着又攻郑降晋，其间，还曾灭掉庸、舒等小国。由于当时楚国在列国中最为强大，楚庄王便成为诸侯的一代盟主，成为著名的“春秋五霸之一”。

（顾铭新）

### 晏婴相机使巧二桃杀三士

春秋时，齐景公手下有田开疆、古冶子、公孙接三名勇士。这三人名勇武有功，素来傲慢无礼，甚至在齐景公面前也敢胡作非为，无所忌惮。此外，他们还与专门靠拍马升官的，齐景公的宠臣梁丘打得火热，这些人在一起，不会有好事的。

当时齐国的相国晏婴深感这种恶势力日益扩大，必成后患，便请齐景公除掉他们。景公虽也有此意，但却无良策，只好说：“这三人名勇武有力，逮恐不可，刺则不能，很难对付。”

公元前517年，鲁昭公带着大臣孙叔伋来访，晏婴灵机一动，想出了一个杀三士的妙计。当下，齐景公设宴招待来客，相国晏婴司礼，文武百官列席，田开疆等三士也全副武装地奉陪席上，以壮威仪。酒过三巡，晏婴上前向景公奏请说：“目下御园中金桃正熟，欣逢盛会，何不摘来宴客？”齐景公允诺。晏婴命人仅摘回六颗，用盘子托了献上。接

着，晏婴示意说：“二位君主各请一颗受用。”然后，与来宾相对，相国晏婴及齐国大臣叔孙佑也一人一颗。这样一来，盘中就剩下两颗桃了。晏婴把盘中所余二桃请示景公后，传谕席间文武百官，各自申言功绩，功劳卓著者得食此桃。

晏婴完毕，文武百官自觉谦让，不愿表功争桃，唯公孙接等三人抢着表功。公孙接首先说：“我曾随主公桐山猎得猛虎，这打虎救驾，功劳无比。”晏婴说：“此功非凡，应当吃桃。”于是，公孙接领得一桃。这时田开疆又说：“我曾攻伐徐国，杀敌迫降，威镇邻邦，这功谁比？”晏婴听罢，说：“这也功大，请吃桃。”这样，田开疆又得一桃。最后古冶子说：“我曾随主公渡河，惊涛骇浪之中，我逆行百步，顺浮九里，擒斩一只咬住主公所乘车左马的大鼉，这功谁比？”晏婴听罢惋惜地说：“论功你大，可迟了一步，盘中无桃可赏。”

古冶子一听此言，感触极大，大声叫道：“我功大无桃，他们功小却先，我还有何脸面受辱在世！”说罢，拔剑自刎倒地。

公孙接、田开疆二人见此，羞愧地说：“我们的勇敢、功劳均不如古冶子，自己却取桃不让，很是贪婪，甚是耻辱。我们三人义同生死，现今如果不死，是无勇也！”说罢，两人双双拔剑自刎而死。

晏婴见三士被杀目的达到，站起来说：“齐国大事还得靠在坐的文武百官；这三人名不过是一勇之夫，死不足惜。为争桃而自刎，太无知了。”在座的众人听罢，明白了晏婴二桃杀三士的计谋，都点头赞许。

（顾铭新）

### 楚庄王灭烛绝纓不辱下臣

公元前606年，楚庄王一次灭了叛党，回到郢都后，开了个庆功会，大宴群臣。

君臣兴致颇高，直喝到日落西沉仍未尽兴。楚庄王见大家都在兴头上，于是索性唤来兵丁，点起灯烛，又搬来好酒，让众人喝个够。席间，楚庄王还让自己的宠妃许姬出

来为众将敬酒。这许姬乃是一位绝色佳人，体态风流，丰姿绰约，轻盈得如燕子一般，忽东忽西。群臣个个为之倾倒。

突然，一阵风扑到大厅上，一下子把灯烛全部吹灭，宫中立时一片黑暗。恰在此时，一个喝得半醉的将军，趁许姬为他斟酒之机，拉住许姬的袖子，去捏她的手。这许姬倒也沉着，她顺手牵羊地把那人帽子上的帽缨揪了下来，然后快步来到楚庄王面前，轻轻地告了状，并要庄王快命人点烛，看看谁敢调戏她这王君的宠妃。

调戏君王的宠姬，无疑有对君王不忠的意思，也是对君王的羞辱，这真是大逆不道。况且现在那人的帽缨证据在许姬的手里，明灯之时，很容易查到。但庄王沉思片刻后，却高声喊道：“切莫点烛！寡人今日要与诸卿开怀畅饮，众人不必打扮得衣冠齐整的了，现在我命大家都把盔缨拔掉，不拔盔缨不算尽兴。”

当莫名其妙的文武百官都把帽缨摘下来后，楚庄王才叫点烛，这样，许姬徒得帽缨证据，她也无法知道拉她的人是谁了。

散席后，许姬责怪起庄王来。

楚庄王笑着对她说：“今天，是我请文武百官来喝庆功酒的，大家很高兴，喝得多些时，酒醉出现狂态，这不足为怪。我可以不费力地把你说的那个人查出来，这样以显示你的贞节，显示我的威严。然而却让群臣不欢而散，人们还会说我胸怀和度量太小，那以后谁人还会为我拼命效劳呢？”

许姬听了，十分佩服。

三年以后，楚晋大战。交战中前部主帅的副将唐狡自告奋勇率百余人充当先锋，为大军开路。他攻无不克，战无不胜，使楚军进展顺利。庄王见有这样的部属，很是激动，于是，把那位副将召至跟前，要厚厚地奖赏。

但是，那副将却红着脸说：“大王切莫厚赏，只要不治我的罪，末将便感恩不尽了。”

庄王不解地问道：“这是为什么呢？”

唐狡磕头答道：“三年前那次庆功会上，

去拉美姬的手，被折断盔缨的人就是我。蒙大王昔日不杀之恩，末将今日才舍命相报啊！”

楚庄王大喜，还是重赏了他。

(顾铭新)

## 勾践深谋计远卧薪尝胆

春秋时，江南吴越两国世代相仇，争战不休。公元前494年，越王勾践被吴王夫差所败，退守在会稽山上，最后，勾践要求和吴国讲和，吴国的条件是要勾践夫妇到吴国给夫差当仆役，勾践答应了这个要求。于是，勾践把国事托付给大臣文种，带上妻子和近臣范蠡去吴国受辱。

勾践到了吴国之后，蓬首垢面栖身于石室之中，尽量地装出非常驯服的样子，成天干着喂马、扫粪等脏活。夫差每次坐车出门，勾践都亲自为他牵马引路，有人指骂羞辱他时，他也不在乎，只是低着头，这样的忍辱负重地侍候了夫差三年。当然，这其中夫差看到勾践被自己羞辱取乐的目地已经达到，便放松了对勾践的敌视。

一次，夫差得了病，勾践在背地里让范蠡预测一下，知道此病不久就会好后，便请求探望。到了夫差那里后，夫差正要大便，勾践赶紧过去服侍夫差，并亲口尝了尝夫差的粪便，然后向夫差道贺，说他的病很快就会好的。夫差问其由，勾践就胡编说：“我曾经跟名医学过医道，医家说，粪便味道逆时气者死，顺时气者生。你的粪便味酸而苦，正是顺春夏之气，所以大王不必担心，病很快就会好的。”果然不几天，夫差的病就好了，夫差认为勾践比自己的儿子还孝顺，深受感动，就把勾践夫妇及范蠡放回越国去。

勾践回到越国后，决心不忘国耻，励精图治，振兴越国，以复大仇。他让范蠡训练军队，文种管理政治，为了锤炼自己的顽强意志，他处处苦身劳心：夜里睡卧在柴草上（卧薪），把苦胆悬挂在门上，随时尝一尝（尝胆）。为了激励百姓愤发图强，带头勤俭，把

美食倒入江中不独吃，靠妻子亲手织的布做衣穿，与百姓同甘共苦。他还经常到民间走访，赈贫吊死，礼贤下士。在他这种自励精神的鼓舞下，举国上下，万众一心，同仇敌忾。经过十多年努力，越国终于国富民强，兵精马壮。

此时，吴王夫差却沉缅与勾践送给他的美女西施的欢乐之中，又中了越国的离间计，杀掉了忠臣伍子胥，吴国已非昔日之强盛了。

勾践见时机已到，发兵讨吴复仇。结果大败吴军。九年后，越王勾践率领大军再次攻吴，吴军连连溃退，吴王夫差被迫自杀。勾践终于灭掉了吴国，报了自己的奇耻大辱。勾践不馁其志，忍辱而谋远，可谓智者。

(顾铭新)

### 子贡巧使诸国一箭五雕

鲁国是孔子祖宗坟墓所在之地，孔子听说齐国大夫田常要出兵讨伐鲁国，为救鲁国，孔子让学生子贡前往齐国，说服田常。

子贡来到齐国，劝其不要伐鲁，田常问其原因，子贡说：“鲁国地贫人穷，国君愚蠢，百姓厌战，难以攻取；而吴国地广肥沃，君主贤明，兵强马壮，易被攻克。”田常一听，脸色大变，说：“你认为易取的，正是常人认为难攻的；而你认为难攻的，则常人都认为易取的。这是为何？”子贡答道：“我听人说，如果忧患在国内，首先进攻强敌；忧患在国外，要先攻击弱敌。现在您的忧患在国内，我听说您三次讨封三次都不成功，这时国内有些大臣对您不服气。现在你若攻弱鲁则必胜，这样，就会成为国君骄傲的资本，带兵的大臣会受到尊敬，不仅您的功劳显不出，而且会疏远您和君主及下僚之间的关系。攻打强吴即使不胜，兵马都死在国外，国内大臣空虚，这对您来说，上面没有带兵的强臣与您争权，下面没人指责您的过错，您就可以主宰齐国了。”田常说：“好！但是我的兵已派往鲁国了，如何攻打吴国，而不被大臣们

怀疑呢？”子贡说：“先来个缓兵之计，我去让吴国来救鲁国，到时，您便有理由与吴作战了。”

子贡立即去南方吴国，见到吴王后说：“我听说称雄于天下的霸主，是不允许有强敌来和他抗衡的。如今拥有万乘之众的齐国，要私自夺取有车马千乘的鲁国，与吴国争强，我为大王担忧啊！依我看救弱鲁，会显名于天下，讨强齐，不仅可以安抚四方，也可以威服强晋，聪明的人都会这样干的，请大王三思。”吴王听罢说：“言之有理，不过可得等我先灭了越国，再行此事。”子贡忙说：“越国的力量和鲁国差不多，吴国的强盛和齐国相等。现在若把齐国放在一旁去攻越国，那么鲁国便会被齐国征服。进攻小越而惧怕大齐，这不能算是勇气。真正勇敢的人不怕困难，聪明的人不放时机，如果能立即按我所说的去做，大王的霸业就成功了。大王若对越国实在放心不下的话，请允许我去见越王，说服他出兵随您讨伐齐国，这样既控制越国，又可与齐国争强。”吴王听了非常高兴，马上派子贡到越国去。

越王修治道路到郊外迎接子贡，子贡对越王勾践说：“我劝说吴王救鲁伐齐，但他害怕越国，声称‘灭越后再行事’，如果这样，看来越国很危险了。再说，没有报复别人之心，而让人产生怀疑，这是笨人；有报复别人之心，而让对方知道，这很危险；事情没办，而走漏了消息，就会毁于一旦。这三种情况是办大事的祸患啊。”越王听后说：“我日夜都想与吴王拼个死活，这就是我的志向啊！”子贡说：“吴王为人勇猛残暴，众臣不堪忍受，兵士无法忍耐，这混乱的局面，正是您报仇之机。现在你随他攻齐，表示顺从；献上宝物，以取欢心；用辞谦卑，以示奉承。这样，他对越国就放心了。攻齐若败，与你无害，若胜，他必乘胜攻晋，到那时，我再去见晋君，说服他与你同伐吴国，这样，吴国就会灭亡，这就是圣人所说的以屈求伸的道理。”越王听了非常高兴，同意子贡的建

议。子贡立即回到吴国，报告他说服越国的经过。

五天之后，越王派大夫文种率兵三千去见吴王，还送些礼物。于是吴越联军同伐齐国。

此时，子贡又到了晋国，对晋君说：“现在吴、齐开战，如果吴败，越国必然从中作乱；如果吴胜，必然向晋国进攻。”晋君听后很害怕，子贡让其做好打仗的准备。

子贡回到鲁国。这时，吴、齐两国大战起来，齐国惨遭失败。不出所料，吴军接着兵临晋国，结果吴军被晋军打败。越王勾践乘机从背后袭击了吴国，吴王又急忙回师与越作战，结果四处树敌，连战连败，吴王被杀。

由于子贡所施计谋，一箭五雕，改变了五个国家的命运：保存了鲁国，搞乱了齐国，灭掉了吴国，增强了晋国，又使越国成为霸主。

(顾铭新)

### 范雎远交近攻

公元前270年，秦国丞相穰侯要派兵攻打齐国。这时，从魏国逃到秦国的范雎求见秦昭襄王。范雎在魏国受到大夫须贾的迫害，靠朋友的帮助来到秦国后，总想找机会表现其才智，此前，范雎曾向秦昭襄王陈述了秦国太后，丞相穰侯把握大权的弊端，点到了昭襄王的心病，昭襄王便常请范雎为其出谋划策。范雎也向他分析过秦国的地理优势和强大的兵力实力，认统一中国，非秦莫属。可这么多年来，秦国却没什么成就，究其原因，根本在于没有一个一定的政策。范雎此时求见昭襄王，就是谈秦国伐齐与秦国的整体利益关系等政策。

范雎见到昭襄王之后，便提出“远交近攻”的主张，他对昭襄王说：“秦国伐齐国，这是好事，然而不知大王思虑过没有，齐国距离秦国甚远，中间又隔着韩国和魏国。出兵少则不能破齐，出兵多则国内空虚。就算

是打败了齐国，秦国也没法儿很好地管理，弄不好还会让别的国家占去便宜。现在，从秦国的利益出发，臣为大王所计是，应该远交近攻，即与远处的齐国、楚国交好；向韩国和魏国进攻。远交以离人之欢，远处的国家既然和我们有了交情，就不会来干预他们不相干的事。近攻以于我之地，把近邻攻克下来，一寸一寸地积累秦地与秦有利。试想，等我们把韩国和魏国兼并了，齐国和楚国还站得住脚吗？这就如同蚕吃桑叶，由近及远一样，那时天下何不为秦！”

秦昭襄王听后，顿开茅塞，乐得抚掌称善，当下即拜范雎为客卿，几年后又晋升为丞相。后来，秦昭襄王依靠范雎的智谋，夺回了太后和穰侯手中的大权，逐步实行起范雎的“远交近攻”计策。经过多年的努力，又经李斯等人的发展和完善，遂成为秦国一贯奉行的行之有效的一个重要国策。到了秦王政时，秦国终于相继击灭六国，统一天下，建立了秦朝。

(顾铭新)

### 西门豹擒贼擒王惩恶治邺

战国时，魏文侯派西门豹任邺都(今河南临漳县西)太守。

西门豹到任后，见这里非常萧条，人口也很稀少。于是，便召集当地的父老询问缘由。父老们异口同声地说，皆因“河伯娶妇”所至。西门豹不解其缘，父老们对他讲起了这桩事情。他们说：“这里有条大河叫漳河，漳河里的水神叫河伯。本地巫婆说：此神爱好美女，每年要奉献一个夫人给他，这样才可以力保雨水调匀、年丰岁稔，不然的话，河神一怒，必致河水泛滥，漂溺人家。”

西门豹继续问：“那么每年地方政府都为河伯娶妇吗？”父老们答道：“正是，地方官吏和乡绅们每年都要向百姓征收赋税，所得的钱有数百万之多，他们只用二三十万为河伯娶亲，剩下的便和巫师平分了。”

“百姓任其瓜分，难道一句话也不说吗？”

西门豹接着问。众人答道：“试问在公势与私势的夹迫之下，谁敢说半个不字！何况他们打着为百姓服务的官腔。每当初春下种之时，那班主事神巫及乡绅人等，就出来挨家挨户查看，见到稍有姿色的女子，便不容分说，硬为神伯之妻。到了河伯娶妻那一天，把新娘放入建造的斋宫之内，连同斋宫推下水去，不久，自行沉下去做河伯夫人。因此，有年轻姑娘的人家大多带了女儿逃到远方去了。”

西门豹终于弄清了这里萧条的原因，此恶首就是巫婆、三老及廷椽、豪长等人，便决心整治这项陋习。他说：“既然河伯如此之灵，到娶亲的那天，我要去观礼！”

本年度河伯娶妻之日终于到来，这天，西门豹特别穿起官袍礼服，命令全城官绅民众均来参加，真可谓盛况空前。主持仪式的大巫婆，年纪已有七十，后面跟着十几个女弟子。

西门豹对大巫婆说：“把河伯的新娘子叫来，看她长得怎么样？”待新娘被领到跟前后，西门豹说：“这个女孩并不漂亮，河伯恐怕不会满意。现请大巫师先去报告河伯，说要另选美女改天送到。”说罢，立即命令卫士抓起大巫，不由分说地扔进河里。过了一会儿，西门豹又说：“这老妇做事迟缓，再派一个能干的弟子去催催她。”卫兵们便一连扔进河里三个小巫婆，当然仍是杳无回音。不久，西门豹又说：“女巫办事不利，再请三老走一遭吧！”又令卫士把平日做恶多端的三老及几个乡绅扔进水里。这时，西门豹仍装做恭敬的样子等待着。过了好久，西门豹回过头，对廷椽、豪长说：“这些人都不回来，怎么办？”这些平日靠河神娶妻而发了财的恶人们，只吓得面如土色，趴在地上磕破头面求得饶命。西门豹这才严厉地喝道：“河水滔滔，去而不返，河伯安在？你们借河伯娶妇之由，害死多少女子，搜刮多少民财，现在凶首已惩，今后，谁再提为河伯娶妻之事，我即令其做媒，往河伯处报讯。”

此后，西门豹组织百姓兴修水利，重建家园，邺地大治，五谷丰登，百姓安居乐业。

(顾铭新)

## 商鞅立木取信变法改革

战国时，秦孝公用商鞅变法，经常与他共商国家大事。商鞅也为了早日实现富国强兵的计划，积极实行变法改革。

秦国的贵族都不赞同变法改革，这些保守势力纷纷发难。商鞅对秦孝公说：“对于下层人，不能和他们商议开创的计划，只能和他们分享成功的利益。讲论至高道德的人，与凡夫俗子没有共同语言，要建成大业也不能去与众人商议。所以圣贤之人只要能够强国，就不必拘泥于旧传统。”大夫甘龙闻听此言反驳说：“按照旧章来治理，才能使官员熟悉规矩而百姓安定不乱。”商鞅又言：“普通人只知道安于旧习，学者往往陷于所知范围不能自拔。这两种人，让他们做官守法可以，但不能和他们商讨旧章之外开创大业的事。聪明的人制定法规政策，愚笨的人只会受制于人；贤德的人因时而变，无能的人才死守成法。”这样，商鞅力排众议，执意变法强秦。

在制定好新法之后，商鞅怕国中百姓不信，百姓如有疑心，推行新法则难上加难。便想出个在百姓中树立一个有令必行的形象之策略。他命人在秦都咸阳南门立起一个三丈直木，派官员看守，并下令说：“能把此木柱搬到北门去者，就赏金十两。”此令一出，咸阳百姓都觉奇怪，数日之内竟无人前来搬木。

商鞅得到回报后，又传令说：“若谁能动搬走木，重赏五十两金。”百姓们闻之，更是惊讶不已，不久，还真有个壮汉半信半疑地前来搬木，他扛起木头，横穿都市，走向北门。当然，这其中有众多百姓纷纷前往看个究竟。

壮汉把木移至北门后，立即得商鞅赏金五十两。于是，消息不胫而走，百姓纷纷传言左庶长官商鞅出言有信，不欺百姓，对商



鞅的信任感大增。

商鞅了解到了百姓的心理变化，认为达到了立木取信的预期目的。于是，下令公开颁布新法。变法令一经公布，国中上下一片肃严，所及之处，都得到了贯彻执行。

变法法令颁布一年后，秦国许多人前往国都，诉说新法有的地方给人带来不便，这时太子也触犯了法令，商鞅说：“新法不能顺利实行，就在于上层人士有带头违法之举。”太子是国君的继承人，不能给他施以刑罚，商鞅便将他的老师公子虔处刑，将另一个老师公孙贾脸上刺字，以示惩戒。通过这件事，秦国人都知道了商鞅变法的决心，便坚决地遵从法令，再也不去议论法令的是非了。

商鞅才智不凡。有令必行，取信于民的谋略，收到了强制推行新法的效果，为人称赞。

(顾铭新)

### 邹忌比美喻王

战国时候，齐国有个人名叫邹忌，他曾是齐威王跟前的相，后被封为成侯。此人不仅很有才能，而且仪表堂堂。他长得身材修长，容貌漂亮，自己很得意。后来听说城北有一个叫徐公的人是位出名的美男子，内心不免有些嫉妒。

有天早上，邹忌穿戴好后，照照镜子，然后问妻子说：“我和城北的徐公相比，哪个更美？”他的妻子答道：“您漂亮极啦，徐公哪能比得上您呢？”

邹忌听罢仍有些不满足，又去问他的妾说：“我和徐公哪个更美？”妾忙答道：“徐公哪能比得上您美！”

一天，家里来了位客人，邹忌在谈话过程中又不失时机地问客人说：“我和城北的徐公谁长得漂亮呀？”客人也回答说：“城北的徐公无法与您相比。”

过了几天，徐公真的来到了邹忌的家里。邹忌把他仔细地打量一番，觉得徐公的美貌果真名不虚传，自己比人家差得太远了，

这使他感触很深。

又过了几天，邹忌入朝拜见齐威王。他对齐威王说：“我确实知道自己不如城北的徐公漂亮。但是我的妻子、我的妾和客人都说我比徐公漂亮，这是为什么呢？现在想来，我已有了答案，那就是我的妻子说我漂亮，是因为他偏爱我；我的妾说我漂亮，是因为她惧怕我；我的客人说我漂亮，是因为他对我有所求。”

接着，邹忌引申一步对齐威王说：“如今齐国的国土纵横千里，有一百二十座城池，大王的左右仆从和宫中的后妃没有一个不偏爱大王的；满朝的文武百官也没有一个不惧怕大王的；全国的老百姓也没有一个不想求助于大王您的！这样看来，上下都会对您进行奉迎，因此，您受的蒙蔽也就是实在太深了！”

齐威王听了邹忌这番循循劝说后，觉得非常有道理，忙说：“你说得对！”然后，便下令说：“群臣、小吏和平民，凡是能当着面指责我的过失的，可以得上等奖赏；能递书面文字批评我的，给他中等奖赏；能在公众场合批评我，而又能传到我耳中的，给他下等奖赏。”

此令一出，臣子们纷纷进言规劝，几个月之后，只是断断续续有些人来说了。一年以后，有些人虽然想说，也没什么可指摘的了。

邹忌以事实作喻体，由此及彼，由小见大，将“比美”与“劝谏”相结合，使齐威王接受了劝告，这比正面劝说更具有了说服力。

(顾铭新)

### 孙臆围魏救赵

公元前353年，魏国的魏惠王想收回当时被赵国占领的中山国，便派庞涓率军八万去攻打赵国。精通兵法的庞涓率军一直打到赵国的都城邯郸（今河北邯郸），并包围了该城。赵国将有亡国的危险，于是，赵王成侯便派使者向齐国求救，表示情愿把中山作为



送给齐国的礼物，请齐威王出兵解围。

齐威王派田忌为将，孙臏为军师，发兵救赵。当大队人马开到齐国国境线上时，二人讨论起进军的方向来。

田忌准备挥师直趋邯郸，与魏军主力决战。孙臏则另有主张，他说：“凡是要解开杂乱打结的绳索，切不可心急地去使劲扯，而要冷静地找出它的结头，然后慢慢地去解；假如去排解互相凶狠地斗殴，万不可卷进去打成一团，而要避开双方的拳脚，伺机劝阻，改变殴斗的局面。解救赵国的危难，死打硬拼并不合算，应象解绳、劝殴一样。现在魏军的主力都在围攻邯郸，我料其国内必相当空虚，如果我们乘机去直捣魏都大梁（今河南开封西北），魏军必然会从赵国撤兵，以国军自救。这样，我们便解了邯郸之围。接着，趁魏军回师疲惫之时，我军又可以占据交通要道，以逸待劳，伏设击之，魏军必败无疑。如此，我们既可解邯郸之围，又能狠狠地打击魏军，不是要比赶到邯郸去厮杀要便利得多吗？”

田忌听罢，觉得十分有理，于是，便采纳了孙臏“围魏救赵”的计谋，率军向大梁奔杀过去。

正当邯郸敌不过庞涓的猛攻，欲罢战投降之时，庞涓突然闻报齐国派田忌已去攻打大梁，庞涓大惊，慌忙丢下垂手可得的邯郸，急率全军回救大梁。

孙臏探知庞涓果然回师，便伏兵桂陵（今河南长垣西北）。当连日行军，已疲惫不堪的魏军赶到这里时，埋伏在这里的齐军全线冲杀出来。突遭伏击，魏军立刻惊慌失措，交手不久，便四散逃命，庞涓本人在乱军之中勉强解围逃脱。

这一仗，庞涓损失了两万多人马，庞涓自己，也险些当了孙臏的俘虏。相反，齐军在大获全胜之时，也解救了赵国的危难。孙臏“围魏救赵”谋略的成功，一是选择了正确的作战方向，攻敌所必救；二是抓住敌军精疲力竭的有利时机，使敌被动挨打。此计，

为历代军事家所赞赏。

（顾铭新）

## 张仪击中两面愚弄楚王

战国时，张仪到楚国作“连横”游说。楚怀王是个昏君，曾驱逐了忠贞的屈原。他又十分好色，当时特别宠爱南后和郑袖两个美人。同其他策士一样，张仪此行受到楚怀王的冷遇，张仪只得暂住下来，寻机游说。日子一久，张仪变得很困难了，他的随从请求归去，张仪说：“且慢，我已找到了游说的出路了。”

这天，张仪胸有成竹地谒见楚怀王。见面之后张仪提出：“我在这里呆了一段日子，一直没什么成就，因此我想到晋国去看看，不知大王有何事需我效力。”楚怀王说：“你尽管去吧。”张仪说：“大王，晋国的物品你什么也不想要？”怀王说：“在我的国家里，黄金、宝石、犀角、象牙，这些稀奇的宝贝样样都有，我还需要他晋国什么呢？”张仪接着单刀直入地说：“听说晋国出美女，郑、周之地的女人非常漂亮，简直就象天仙下凡一样。”这下正中楚怀王的下怀，他说：“我楚地理位置的确偏僻，这里的女人无法与中原的美女相提并论。既然如此，如有出色的佳人，你就帮我选一个吧！”经过一番交谈，张仪取得了怀王的信任，并得到了高价珠宝以及去晋国的费用。

张仪回舍后，巧妙地把他要到晋国为楚怀王带回美女的消息传播出去。南后和郑袖听说后，都很紧张，怕张仪真的带回佳丽，国王便会冷落她们。于是，她们便把张仪找了去，对他说：“听说你要到晋国去，我们这里有点钱，送与你，以供车马之资。”于是，南后送金千两，郑袖也送金五百两，张仪全收了，当然，对她俩的送金目的也很清楚。

张仪向怀王辞行时，故意对怀王说：“今日一别不知何时再见，请大王赐给我一席离别之酒吧。”楚怀王笑而答应，当下设了酒宴。席间，张仪又说：“这里没有外人，能否

请大王将您最喜爱的妃子召来增加一点酒趣？”楚怀王又答允了，就叫南后及郑袖前来相陪。

张仪仔细打量了她们之后，故作惊状地对楚怀王说：“在下在您面前，有一过错。”怀王不解地问：“是何过错？”张仪答道：“我足迹遍及天下，至今尚未见到过象南后、郑袖这般美女，此前，我还自不量力地要去为大王您到晋国去找美女，真是愧对大王的厚爱。”楚怀王一听张仪这样说，非但不生气，反而得意洋洋地对张仪说：“你不必介意，我不怪你，我早就知道世上所有的美女，都比不上她们两个人啊！”

张仪不费吹灰之力，便愚弄了楚怀王，得到了怀王、南后和郑袖的信任。当然他们都不会要回黄金珠宝，因为还得感谢张仪呢。

(顾铭新)

### 田单火牛陷阵收复失地

公元前284年，燕昭王拜乐毅为上将军，大举进攻齐国，接连拿下了七十多座城池，并包围了齐国的莒城和即墨。为了获得民心，乐毅并没有强攻两城，围了三年始终没打。

此后，燕昭王去世，太子即位，这就是燕惠王。他听信了燕国的大夫骑劫的谗言，同时，齐国又派出大量的间谍到燕国，到处散布谣言，说：“乐毅只所以没有最后攻克齐国的莒城和即墨，是想以伐齐为名，拥兵自重，南面称王。”于是，燕惠王改派骑劫去代替乐毅。乐毅无奈，便回老家赵国去了。骑劫得到了兵权后，便趾高气扬地要马上拼命攻下即墨。

即墨守将田单是个很有心计的人，他知道乐毅很有本事，便避免与之交战，坚持守城，并派人去燕国散布谣言离间燕王与乐毅的关系，燕国换走乐毅后，田单决定与骑劫决一死战。

田单先诱使骑劫诬辱齐国的俘虏，挖了

城外齐人的祖坟，这样一来，即墨守军群情激愤，发誓报仇，士气高涨。然后，他命令城中居民每餐都要把供品摆在院子里祭祀祖先，结果引来许多飞鸟。田单乘机散布说：“天老爷给我派来了‘神师’，教我用兵。”有个小卒对田单说：“我可以当‘神师’吗？”田单果然让他当了“神师”，对他恭恭敬敬，每次下令操练，都要打着“神师”的旗号。这样，使部下个个佩服田单。田单还让老兵和妇女上城值勤，替下壮丁，以养精蓄锐。

田单见反击的时机已经成熟，便暗自里挑选了五千精兵，又准备下一千头牛。五千精兵个个脸上涂成五颜六色，拿上轻武器，一千头牛个个都披上画得图案怪异的衣服，犄角上绑上两把尖刀，尾巴上系上浸了油的麻和苇子。一切布置好后，田单派人去燕营，说城中粮食已尽，不出三天就来投降。早已厌战的燕国士卒闻此消息后，个个欢呼雀跃，只等齐军投降。

这天半夜，齐军赶着牛群，从事先在城墙上挖开的几十个洞中杀出，直奔燕军营地。到达战场后，齐军兵士点燃了牛尾巴上的燃物，瞬时，一千头牛发了疯般地向燕军阵营冲出。五千名精兵跟在后面冲杀过去。

当燕军士兵们迷迷糊糊地睁开眼时，马上被眼前的情景吓坏了，以为是妖魔鬼怪杀来了。立时抱头鼠窜。这样，被牛撞伤捅死、被齐精兵杀掉、自相践踏而亡者不计其数，骑劫也被田单杀死了，燕军大败。

田单乘胜追击，几个月时间，七十多座城池便全部收复回来，田单将太子找来，请他继承了国位，这便是齐襄王。

(顾铭新)

### 蔺相如叱咤秦王完璧归赵

战国时，赵惠文王得到了闻名天下的宝玉“和氏璧”。秦昭王听到这件事后，便想以强欺弱，占有这块宝玉。

秦昭王先假意派使者到赵国，告诉赵王说：“秦王愿意拿出十五座城池来换那块‘和

氏璧’，希望赵王能答应。”赵王感到为难，便召集群臣商量对策。大家觉得，如果答应了秦王的要求，可能会失去宝玉又得不到城池，如果不答应，恐怕又会得罪秦国，为今后带来麻烦。因此讨论了半天，也拿不出一个好主意。

这时，宦者令缪贤出来向赵王推荐自己的门客蔺相如，说此人有勇有谋，一定会有办法处理好这件事。于是，赵王便立召蔺相如来见。

赵王问蔺相如此事应如何办时，蔺相如回答说：“秦强赵弱，赵国不能不答应此事。”赵王又说怕将璧送去后，秦国不给城池时，蔺相如说：“秦王用十五座城池来换一块玉璧，代价可谓很高，赵国不答应，错在赵国。如果赵国送去了宝玉，而秦国不交出城池，那错便在秦国。我以为应为秦错，不应赵错。”

赵王见蔺相如说得有理，便决定让他出使秦国。蔺相如当即表示，一定不辱使命。如果秦国不交出城池，那么他将一定把完完整整的宝玉带回赵国。赵王立拜蔺相如为大夫，带上和氏璧出使秦国。

蔺相如来到秦都咸阳，秦王高高兴兴地接见了，蔺相如献上和氏璧，秦王大喜，接过宝玉反复观看，并又传给身边的人看，传来传去，宫廷里一片赞叹声。相反，蔺相如却被冷落在一边。见秦王绝口不提给赵国城池的事，便知其中有诈。于是，他想出一计，上前对秦王说：“大王，这块玉虽然很美，可是却有点儿小毛病，请让我指给你看。”秦王不知是计，便把宝玉交给了蔺相如。蔺相如待接玉在手后，脸色立刻变得严厉了，说：“大王曾许下诺言，要用十五座城池来交换它。当初赵国的大臣们都说大王您是在骗人，可我却反对说：‘大国的君王怎会不讲信义呢？’赵王这才斋戒了五天，派我来献璧。谁想到大王却随随便便地把它传给宫人看，根本没有把它看得和十五座城池一样重要。可见，大王并没有交换的诚意。现在，璧在

我手，若大王逼我，我宁可与璧同撞柱而碎！”秦王一听连忙道歉，并让大臣们拿出地图把十五座城池指给他看。蔺相如内心仍不相信，所以借口为表示诚意，秦王也答应斋戒五天，举行仪式，方可受璧，秦王无奈只好答应了。

蔺相如回到宾馆后，实在觉得秦王靠不住，便命手下人先带着和氏璧潜行出城回赵，自己留下继续同秦王周旋。

五天过去了，秦王召集大臣们举行受璧仪式。秦王见蔺相如两手空空地前来，便问是怎么回事，蔺相如答道：“秦国自穆公以来二十几位君主，没有一位讲信义，世人皆知，我怕受骗，已先自遣人把和氏璧送回赵国。天下诸侯都知道秦强赵弱，如果大王真的拿出十五座城池来交换宝玉，赵国不敢不给璧玉。现在，各国的使节都在这儿，各位都知道是我得罪了大王，不是大王欺负弱国的使者。我讲完了，请大王治罪吧。”

秦王听了蔺相如的话，心里非常生气。可他知道现在治他罪也无用，便客客气气地说：“先生既然已经这样做了，我又怎么能为了一块玉石而伤两国的和气呢。”然后设宴招待了蔺相如，送他回国。这样，蔺相如巧计既做到了“完璧归赵”，又保住了赵国的尊严。

(顾铭新)

## 廉颇负荆请罪将相得和

战国时期，赵国大将廉颇，在赵惠文王五十六年，率兵伐齐，大获全胜，夺得了晋阳之地，一时声震诸侯，威名赫赫，为此，被赵王拜为上卿。在当时七国争雄，弱赵能够长期与强秦抗衡，或许也因为廉颇能征善战，使得众国不敢轻视。

蔺相如为赵国文臣。当年秦王想得赵国的“和氏璧”，同时也是想寻找借口攻打赵国之时，是蔺相如出使秦国，在秦庭之上怒叱秦王，巧计脱身，完璧归赵。此后，在渑池会上，秦昭王羞辱赵王，又是蔺相如以五步

流血相遇，迫使秦王不得不为赵王击缶，使赵国尊严得以保全。通过这两次交锋，蔺相如表现了超人的才智和果敢，为此，赵惠文王又拜他为上卿，位在廉颇之前。

廉颇觉得自己出生入死，立下了汗马功劳，而蔺相如不过就凭两片嘴，却超过了自己，心里极为不服，发誓说：“我要是见到蔺相如，一定要当面羞辱他。”蔺相如闻知后，便尽量避免和廉颇见面，每当上朝时便推说有病。出门时，蔺相如也总是转车别行，给廉颇让路。

总是这样，蔺相如的侍从们不高兴了，纷纷向蔺相如发牢骚说：“廉颇这样羞辱你，您却如此软弱，我们都替您害臊。”蔺相如闻言一笑，说：“诸位看是廉颇厉害，还是秦王厉害？”大伙说：“当然是秦王厉害了。”蔺相如说：“既然如此，那叱咤风云的秦王我都敢当众喝斥，难道我反倒怕廉将军不成？我不过是觉得：势力强悍的秦国之所以不敢侵犯赵国，就是因为有我们两人的存在。如果我们两虎相斗，必然两败俱伤，那就给秦国以可乘之机。我怎能因个人的私怨而使国家的安危受到影响呢？”

蔺相如的话，很快便传到廉颇的耳中，廉颇知道了是怎么一回事后，感到十分惭愧，一种敬佩之感油然而生。他想：蔺相如以国为重，的确，国无安宁，这官争起来还有什么意思？廉颇悔悟后，立即带领宾客，身背荆杖，来到蔺相如府上。廉颇一到便脱掉上衣，背上荆条，向蔺相如请罪。蔺相如一见此情，也慌忙跪倒，感动地说：“老将军能体谅相如，我已十分感激，将军快快请起。”良久，两人相视而笑，互诉衷情，当下结成刎颈之交。

将相和，赵国兴，很长时间，秦国不敢动兵欺赵。

(顾铭新)

## 钟离春纳言宣王自荐为后

战国时，齐宣王依靠孙臧打败了魏国后，便骄傲起来，成天饮酒作乐，一班阿谀之徒投其所好，而一些忠臣谏士却遭排斥。

有一天，齐宣王在专门供他玩乐的雪宫里举行宴会，命一群宫女起舞助兴。忽报有一个长得丑陋的女子要见大王，声言还要入后宫侍候齐王。齐宣王命令传将进来，待一见，果然丑得出奇，在场的大臣宫女无不发笑。

齐宣王也觉得可笑，于是便问道：“我宫中嫔妃美女如云，你长得这样丑，连乡下人都看不起，却想到国君身边来争宠，莫非你有什么过人的本事么？”

丑女人回答说：“我没有什么出奇的本领，只不过会点隐语之术。”

齐宣王说：“那好，你试试看，如果说谎，立即杀头。”

于是，那女人便举目咧齿，手挥四下，然后拍着膝盖高声喊道：“危险啊！危险啊！”

齐宣王给闹糊涂了，他不明白她这些动作表示什么意思，问左右大臣，谁都无法解释。齐宣王只好对丑女人说：“请你靠前来，给我说个明白。”

那女人上前几步，说：“我举目的意思，是替大王观察烽火的变化；咧齿的意思，是替大王惩罚不听劝谏的口；挥手的意思，是为大王赶走阿谀进谗之徒；拍腿的意思，是要拆除大王专供游乐的雪宫。”

齐宣王一听大怒：“我怎么会犯有四大错误？你这个乡下女人胡说八道！”立刻命令武士将她推出斩首。

那女人不慌不忙地说：“请让我把话说完，再杀也不迟。我听说西边秦国用商鞅变法，国富民强，不久要出兵进攻齐国，而大王内无良将，边境防御又差，这是我替大王举目看到的；我又听说‘君有谗臣，不亡其国，文有谗子，不亡其家’。而今大王成天沉湎酒色，忠谏之臣的话一概不听，我才咧齿

为大王接受规劝；大王已被一群吹牛拍马的小人所包围，这是要误国的，因此我挥手将他们驱逐；大王造这样豪华的玩宫，耗费大量财力物力，弄得国库空虚，民不聊生，我才要拍腿为大王拆掉。你有这四大过失，国家已危如累卵。我冒杀头的危险来劝告您，如蒙采纳，我死也瞑目。”

这一番剖析，使齐宣王如梦方醒，大为感动。然后说：“若无此言，我怎知自己的过失。”接着马上撤宴，带上丑女回宫，真的立为皇后。并采纳了她的意见，招贤纳士，疏远小人，勤于政事，齐国于是大治。

后来人们才知道，这个丑女叫钟离春，她的善辩智慧，在当时看来真可谓是超群的。

(顾铭新)

### 墨子引申归谬止楚攻宋

战国时期，巧匠公输般替楚国监造云梯，并准备用它来进攻宋国。

主张兼爱的墨子听到这个消息，立即从鲁国动身，走了十天十夜的路，到了楚国都城郢，见到了公输般。

公输般问：“先生有何指教？”

墨子说：“北方有人欺侮我，希望借你的力量去杀掉他。”公输般一听就不高兴了。墨子又说：“请允许我献千金给你作酬谢。”

公输般不等墨子说完，便怒声说道：“我历来就信守作人准则的要义，不能随便杀人。”

墨子听到这里，认为时机已到，于是，站起身来，向公输般再行一礼，接着话题说：“那就让我就你说的‘义’来说明一下吧。我在北方就听说你建造云梯，准备用来进攻宋国。宋国何罪之有呢？楚国多的是土地，缺少的是人民，靠着发动战争去葬送掉自己本来就不足的人民，而去争夺本来自己已经有剩余的土地，不能说是明智的；宋国没有罪过，而却要去攻打它，这又不能算是仁爱的；懂得了这个道理，却不去以理争辩，不能算

是忠诚；虽争辩了要是不能阻止，更不能说是个强而有力的人。你说自己因为‘义’而不能去杀少数人，然而，却参加攻战，去杀众多的人，这能算会类推道理吗？”

公输般被说得无言以对，且心服口服，点头称是。但他又提出决定权不在自己，而责任在楚王。于是，两人去见楚王。

墨子见到楚王后，说：“现在有这样一个人，不坐自己华丽的车子，而想偷邻居的破烂车子；不穿自己的锦绣衣裳，而想偷邻居的粗布短袄；不吃自己的精美膳食，而想偷邻居的糖饼。这算是个什么样的人呢？”

楚王说：“那他一定害了偷窃病了。”

墨子进一步说：“楚国方圆五千里，宋国仅有五百里，这就象华丽的车同破车相比；楚国有云梦这样的好地方，盛产犀、兕、麋、鹿之类珍禽异兽，长江、汉水的鱼、鳖、鼃、鼉一类水产，丰富无比。宋国连雉、兔、鲫鱼都不产，这就象精致的饭菜同糖饼相比；楚国的森林面积广阔，有长松、文梓、楸、楠、豫樟等名贵木材。宋国却没有什麼大树，这就象锦绣衣裳同粗布短袄相比。我以为大王要去攻打宋国，跟那个犯‘偷窃病’的人没什么两样。”

楚王听了墨子这番用通俗的比喻，将道理表达得十分清楚的话语后，觉得自己没有什么理由再进攻宋国了，遂取消了攻宋的念头。

(顾铭新)

### 冯谖为君买义狡兔三窟

战国时，齐国的相国孟尝君手下养了不少门客。有个叫冯谖的人前来投奔，孟尝君便收留了他。可冯谖住下后总是敲剑吟歌，提出种种待遇上的要求，孟尝君也没生气，都一一满足了他的要求。

有一次，孟尝君想找个门客到自己的封地薛城(今山东滕县南)去收债，冯谖便自告奋勇的答应下来。在辞行前，冯谖问孟尝君：“讨完债、用它买些什么东西带回来

呢？”孟尝君便说：“你看我家缺少什么就买什么吧！”

冯谖驱车来到薛城，召集了欠债的百姓准备收债。由于这年薛城的收成不好，贷款的人多数人还不起。于是，冯谖当即假托孟尝君的命令，等到他一一核对了大家的债券后，然后向大家宣布说：“这些债孟尝君不要你们还了。”接着，命人把债券全部烧了，百姓们都高兴得流泪，心中十分感激孟尝君。

冯谖回到了齐都，孟尝君心里奇怪，不明白冯谖为何这么快就回来了，立即召见冯谖。孟尝君问冯谖说：“债全都收完了吗？”冯谖答道：“全都收齐了。”孟尝君又问：“买了什么东西回来？”冯谖说：“行前，您让我买回你家里所需，我私下核计，您库府里堆积很多珍珠宝贝，外面马棚里骏马拥挤，美女住满后宫，我看您家什么都不缺，唯独缺少‘义’，我就给您把‘义’买了回来。孟尝君听罢，不解地问道：“何为买‘义’？”冯谖说：“如今您仅有薛城这么一块封地了，可您却不把那里的百姓象自己的子女一样爱护，反而还要逼他们还债，从他们身上牟取暴利。此行，我假托您的命令，把该还的债都赏给了百姓，当场把债券烧毁了。百姓们感激您的恩德，都呼喊您的名字，我就是用这种办法给您买回‘义’来啊！”孟尝君听了觉得又好气又好笑，无可奈何地说：“就算了吧。”

一年以后，孟尝君与齐王产生隔阂，被罢免了相国之职，赶回了他自己的封地。当孟尝君的车马距薛地尚有百里之遥时，百姓便扶老携幼，争先恐后地赶来迎接。孟尝君看到如此情景，才明白了冯谖当初的用意，感激地对冯谖说：“先生替我买的‘义’，如今我看到了！”冯谖却不满足，他对孟尝君说：“俗语说，狡兔三窟（机灵的兔子有三个窝），您现在还不能高枕无忧，请让我为您去谋另两个窝吧。”

此后，冯谖去秦国游说，使秦国接纳了孟尝君。经他努力说服，齐王又恢复了孟尝

君的地位。待孟尝君的宗庙在薛城建好后，冯谖对主人说：“三洞穴都已凿好，您可以高枕无忧了。”

孟尝君此后做了几十年的相国，所以没发生过丝毫的祸患，都是由于冯谖的全身自保的计谋所至。

（顾铭新）

## 信陵君窃符救赵瞒天过海

公元前258年，秦昭王派兵围困了赵都邯郸。因为赵王的弟弟平原君，是魏国公子信陵君的姐夫。因此，赵王几次送信给魏王和信陵君，请求魏国出兵援救，魏王终于派将军晋鄙统兵十万前去救援。

秦王听说了这个消息之后，马上派人前往魏国威胁魏王，魏王害怕了，忙派人叫晋鄙先驻兵邲下，暂不进兵。这样，平原君只好直书信陵君，让他想想解救的办法。

信陵君心里很难过，便屡次去请求魏王，又使别人去劝说，但魏王仍不答应。信陵君一气之下，欲与自己的一千多门客一起，去和秦军拼命。当他向自己的老朋友侯生辞行时，不想侯生只是敷衍了几句，就拱手送别了。信陵君一边走一边琢磨，总觉得侯生今天的举动很怪，好象有话没说，于是，让下人等着，自己返回来去找侯生。

这时候，侯生已站在门外，一见信陵君回来便笑着说：“我料定公子会回来的。”信陵君便问侯生自己该怎么办好。侯生说：“您带着门客去杀敌，仅等于把羊群赶到狼堆里。我有这样一个主意。听说魏王最宠爱的美人就是如姬了，当初如姬的父亲被人杀害，还是你手下的门客帮她报了仇，杀了那个凶手，为此，如姬十分感激公子。我又听说大将晋鄙的兵符就在魏王的卧室里，若让如姬把兵符盗出来，公子拿上它去晋鄙那里夺来兵权，再去救赵，岂不比这样送死的要强百倍吗？”信陵君听后大喜，马上依计而行，果然通过如姬得到了兵符。

信陵君拿着兵符，行前又到侯生那儿告

别，侯生说：“万一晋鄙验符后仍不交出兵权，公子怎么办？这样吧，我把我的朋友朱亥介绍给你，朱亥是位盖世无双的勇士，万一晋鄙不答应，就让朱亥杀掉他！”

信陵君率队到了邺城，假传魏王命令，要接替晋鄙的军权。晋鄙验过兵符后，但仍存疑心，不肯交出兵权，说等请示一下魏王之后再说。此时，朱亥在旁已忍受不住，拿出暗藏在袖筒里的铁椎，把晋鄙砸死了。

信陵君接过晋鄙的兵权后，检阅了人马，并把部队整编到精兵八万人。又使人通知赵王，约期前后夹攻秦军。

到进军的这一天，信陵君身先士卒，如出柙的猛虎一样，率精兵直闯秦营。秦军措手不及，仓促应战，这时，城中的平原君也乘机倾城出击，前后夹攻，直杀得秦军血流成河，仓惶逃窜。就这样，邯郸之围解除了，赵国转危为安，秦军也不敢放肆了。

(顾铭新)

## 李牧李代桃僵以怯诱敌

战国时，赵国的大将李牧驻守雁门郡(今山西北部)，防范匈奴，赵孝成王允许他根据情况，便宜设置官吏，市场的税收全部归李牧所辖部队使用。李牧熟读兵书，深谙兵法，训练有方。他每日让士卒练好兵刃骑马、射箭等武艺，随时准备敌人来犯。他也每日杀牛犒赏将士，给他们以很高的待遇，但同时与他们约定：“如果匈奴兵进犯，汝等只许退城中守卫，有谁敢捕虏匈奴者，斩！”

这样过了几年，匈奴经常骚扰，李牧只是坚守关隘，从不与匈奴交手，匈奴因而认为李牧胆怯，就是李牧手下的将士们也认为李牧是个胆小鬼。赵孝成王听说李牧如此胆小怯懦，便派人前来责备李牧，可李牧听后依然如故。赵王很生气，便把李牧从边境召回朝廷，另外派一员大将顶替他。那位新去的大将与李牧不同，只要一见匈奴来犯，就与之交手，结果赵军因屡屡出师不利，伤亡很大，边疆的百姓也更加遭殃，不得耕田放

牧，安居乐业。

赵王见此情景，后悔不该撤换李牧，只好又请李牧重返边关。李牧推托自己有病在身，不堪如此重任。赵王心急如焚，最后强逼他赴任。李牧于是提出条件说：“如果大王一定要用臣去守边，臣仍然和以前一样，如果您不答应，那臣便不能从命。”赵王无奈，就答应了他。

李牧重返雁门关后，又象从前一样行事，匈奴一来就紧闭城门，总也不让匈奴占一点儿便宜。匈奴人仍认为李牧惧怕他们，守边的士兵因得到丰厚的待遇，却无仗可打，也都跃跃欲试。

李牧看时机已经成熟，便挑选出一千三百辆优质战车，一万三千匹精良战马，五万名勇猛善战的战士，十万名神箭手，集中操练，习演战术。一切准备停当之后，有一天，李牧命令士卒大开关门，让老百姓自由出入，并漫山遍野地去放牧。匈奴见状，便来骚扰，李牧命令一部分士卒应战，但许败不许胜。结果，匈奴首领单于非常得意，竟亲率大军杀来。

李牧早已布下奇阵，左右夹攻，大破匈奴，斩杀匈奴有十万多人，使匈奴主力部队全部崩溃，单于只带几十名残兵败将狼狈逃回本土，从此再也不敢来犯，竟达十年之久！

李牧以怯诱敌，大破匈奴军，使得赵国的疆土得保，敌人闻风丧胆。

(顾铭新)

## 秦始皇闻过则改广纳贤才

战国七雄角逐，到秦始皇时独能翦灭六国而一统天下，实得力于李斯变法之功。而李斯当初，却险些被秦始皇赶出国门。

战国末期，秦国的势力日益强大，各国前途危在旦夕。当时，韩国为对抗强秦，便派一个名叫郑国的人到秦国去施行“疲秦计”，此计就是鼓动秦王嬴政修建水渠，用以疲惫其人力物力，以缓解外战的锐力。“郑国渠”的确耗费了秦国的实力，延缓了秦国



攻伐韩国的步骤和速度。十年后，秦宗室大臣又旧事重提，说：“从各国来报效秦国的人，不是来游说，就是作间谍，尽出坏主意，应该把他们一律驱出国门。”秦始皇也深感“说客”之坏处，于是，颁发《逐客令》，驱赶所有在秦国的“客卿”。

曾劝秦王统一天下的李斯，原为楚国人，这下也算是“客卿”，当然在被逐之列。无他法，李斯只好在离秦的时候，把一腔怒气凝于笔端，疾书一文《谏逐客书》留给秦王。李斯在文中说：“泰山不拒勾土才能成其高，沧海不择细流才能成其广，王者不却庶众才能成其德。当初秦穆公称霸，从西方的戎狄得到由余，从东边宛地得百里奚，迎来了宋国的蹇叔，从晋国得公孙叔和不豹。卫人商鞅在秦国助秦孝公变法，使秦强大，惠王用魏人张仪破六国合纵，昭王用魏人范雎获得远交近攻的计谋。这四个国君都是靠客卿才得以成功。”李斯在文中还诘问秦王：“为什么不问是非曲直，就驱逐所有不是秦国的客卿？”最后，文中还指出“逐客”的弊端，说：“现在驱逐这些能人，使天下之士望秦却步，无异于借兵予寇，送粮与盗，是资敌国使之强盛，而削秦国使之衰弱。”

秦王嬴政读了这篇《谏逐客书》之后，深感有理，反思之后，认为自己“逐客”之举实属唐突，于是，立刻派人追赶李斯，把他请回朝廷，恢复官职，并且当众宣布废除“逐客”之令。

秦始皇能虚心接受正确的意见，闻过则改，不失为政者应有的风范，而其他六国正是连自己国家的人才也使用不好，才导致亡国。

(顾铭新)

### 优旃顺其所好指谏所要

秦始皇与秦二世两代时，生活着一位乐人，此人名叫优旃，很幽默，也很滑稽诙谐。

秦二世是一个挥金如土、蛮横暴虐的皇帝，他天天过着花天酒地、荒淫无度的生活，

把个好端端的国家，弄得乌烟瘴气。为了使京城咸阳更美观，显示出皇帝的威严，他竟下令把城墙全部油漆一遍。全国上下闻之此令，都知道这是荒唐透顶的举动，然而，人们畏于秦二世的淫威，谁也不敢前去劝谏，因为弄不好，反倒自找苦吃。

事情又不能不做下去，于是，大家便力主仍由一个人去进谏，想来想去，终于想到一个人，这就是优旃，因为他善于用说笑讲明道理。当人们向优旃说明此事非他不可时，他愉快地答应了去见秦二世。

优旃入朝，见到了秦二世，他开门见山地说：“听说陛下下了一道命令，要油漆城墙？”二世说：“是的，我想让咸阳变得更漂亮迷人。”

优旃赞成地说：“妙极了，这真是个很好的主意。实际上即使陛下不下这样的圣旨，我也要向您提出这样的建议的。”秦二世听了优旃的这番话，甚是欢喜，乐得手舞足蹈起来。

优旃接下来，对秦二世说：“漆城墙利多于弊的，虽然此举会给国人百姓增添了徭役、赋税和经济负担，然而，城墙经过一番油漆，全城则会变得油光可鉴，光彩照人，好处可多了，我现在最为着急的，便是尽快地看到把城墙油好。”说毕，优旃还一边击掌一边歌唱起来：“城墙漆得溜溜光，

敌寇来了不能上；

城墙漆得油荡荡，

敌人一爬准粘上！”

听到这里，秦二世更高兴了，他原以为油漆城墙仅仅是美化环境，现如今听优旃一番吟唱，又知道了油漆城墙还能御敌，这下，他油漆城墙的决心更大了。

正当秦二世高兴的时候，优旃却把话锋一转，又提出了一个新的问题，他面带难色地说：“只是漆过的东西，不能曝晒，要阴干，这样，才不致于脱落。那么上哪去找一所大屋子，把城墙罩起来呢？”秦二世无言以对。

优旃看着二世不言，关心地谏劝道：“陛



下，还是先造一座能把整个咸阳罩起来的大屋子，而后再油漆城墙吧！”

到这里，二世才真正明白了优旃此言的用意，但他又没有更好的办法解决优旃所提出的问题，于是仅说了一句：“那就算了吧，不漆城墙了。”

优旃先是顺其所好，再指其所要，终于说服了秦二世。

(顾铭新)

## 陈胜鱼狐兴兵

公元前209年7月，陈胜、吴广等九百多名壮丁被秦朝官兵押着，发配前往渔阳(今北京市密云县西南)戍守。当队伍行进到太泽乡(今安徽宿县东南)时，天降大雨。因此地靠近淮河的支流浍河，地势低洼，暴雨连降几天，把道路淹没了。队伍只好扎驻下来，耽误了预定到达渔阳的日期。按照秦朝的法律，耽误戍边的日期就要处以斩首的极刑。

这天夜里，阳城(今河南登封县东南)人陈胜和阳夏(今河南太康县)人吴广等人，在帐篷里嘀嘀咕咕地商量着怎样死里逃生。陈胜说：“既然误了期，到那儿必死，现在逃走被捉住了也是死，莫不如干脆拼死造反算了！”吴广说：“朝廷那么强大，我们怎么造反呢？”陈胜说：“天下人受秦始皇暴政的苦已经很久了。听说二世皇帝是秦始皇的小儿子，按理不该由他来继承皇位，应当做皇帝的是他的大哥公子扶苏，因扶苏常常劝他老子不要多杀人，就被秦始皇派去守长城了。如今又听说二世为了篡位，害死了扶苏，百姓都知道扶苏开明。还有楚国的大将项燕，曾经立下赫赫战功，对部下十分爱护，很得人心。可有人说他死了，也有人说他在楚国灭亡时逃走了，总之，咱们楚国人很怀念他。要是我们现在假借公子扶苏和楚将项燕的名义，号召天下百姓起来反对秦二世，响应的人一定会很多的。”吴广觉得此话有理，便同意和陈胜一起造反。

在古时候，人们都很迷信鬼神，陈胜和

吴广决定利用这一点，借助鬼神向戍卒们施加影响。他俩找来一块绸布，在上面用朱砂写上“陈胜王”(意即陈胜称王)三个大字，然后把这块布偷偷地塞进了渔人捕获的鱼的肚子里。当戍卒们买鱼烹食，一剖开鱼腹，发现了布条上的字后，心中非常惊讶，这事一下子在壮丁中传开了。

此后，在食鱼的那天晚上，陈胜又叫吴广钻到戍卒们宿营地附近的荒庙里，在一个竹笼里点上烛火，然后把它放在草木丛中，远远望去，就象忽明忽暗的“鬼火”一般在闪耀。吴广便在这时模仿着狐狸的叫声喊道：“大楚兴，陈胜王”(意即大楚要兴起，陈胜要称王，后来陈胜起义军即自称大楚)。戍卒们半夜听到此声，内心惊奇。第二天早上，对陈胜立现惊异和敬畏之情，认定陈胜是个“真命天子”。

后来有一天，吴广趁两个秦军官喝醉时，故意要军官放他们回家，以刺激他们。这两个军官不知是计，当众侮辱吴广。这时，陈胜见群情激愤，时机已到，立即冲上前去，把军官杀死。接着，陈胜、吴广号召大家跟他们起来造反，九百个壮丁一齐响应，这样，便发生了中国历史上第一次伟大的农民大起义。

(顾铭新)

## 项羽破釜沉舟钜鹿败章邯

秦末，各地人民纷纷起来反对秦王朝。项羽同叔父项梁也起兵反秦。因项家世代为楚将，故楚地的起义将领都来归附他们，由此，项羽的势力很快壮大起来。几年之后，项羽的队伍已经可以和强大的秦朝军队抗衡了。

秦二世三年(公元前207年)，秦朝有名的大将章邯，在几次击败楚军之后，又气势汹汹地北渡黄河，率重兵围攻赵国。当时，赵国的赵歇为王，陈余为将，张耳为相，赵国见秦兵如此之多之强，便退兵入钜鹿(今河北平乡西南)拒守。

## 两汉谋略实例

### 韩信明修栈道暗渡陈仓

楚汉相争时，汉王刘邦慑于项羽的威势，不得不暂时领兵退出咸阳（今陕西咸阳市东北），远走南郑（今陕西汉中县）。途中，刘邦接受了张良的计策，命人将关中与汉中交界地区的几百里栈道（在险峻的悬崖上用木材架设的通道）全部烧毁，此举一是为了便于防御，二是为了迷惑项羽，似乎他刘邦决心死心踏地地呆在汉中，再也无意问鼎中原了，以松懈项羽对自己的戒备。

刘邦到了南郑后，便拜萧何推荐的韩信为大将，请他策划向东发展，进而夺取天下的军事部署。

韩信以为，欲求东进成霸，必先平定三秦，这样既是建立了兴汉灭楚的根据地，又打开了东征的大门。三秦者，乃是项羽封的秦朝的三个降将，即章邯为雍王，地在咸阳以西；司马欣为塞王，地在咸阳以东；董翳为翟王，地在上郡。三秦王被封于此，象似一堵墙，阻塞了刘邦向东发展的出路。

韩信平定三秦的计策，得到了刘邦的认可。于是，韩信便命樊哙、周勃等将率领众人先修栈道，并限期三个月完工，如误期就要军法严办。修复栈道谈何容易，樊哙深知栈道连接云、凤州、清风阁等处，连绵三百多里，而且地势险要，施工非常困难。于是，他们请求韩信延期。结果未准，韩信只对他们说了一句：“出其不意，攻其不备”的话。

雍王章邯也了解到了韩信命兵士修复栈道，兴兵东进的消息，他暗自觉得韩信愚蠢，讥笑韩信说：“当初烧了栈道，结果自己断绝了出路。现在又派人修复，何年何月才能完成！”至此，章邯仅遣少量部队，去封挡东边的栈道口，其余部队散闲在各驻地。

忽然有一天，传给章邯急报说：汉军已经攻入关中，陈仓（今陕西宝鸡县东）被占，

这时，楚怀王见秦赵相战，有机可乘，便派宋义为上将军，项羽为次将，率领楚军前去救赵击秦。当楚军行进到安阳（今山东曹县东南）时，宋义便传令全军将士停止前进，按兵不动达四十六天之久。时值严冬，朔风凛冽，冰雪交加，士卒忍冻挨饿，甚是艰苦，所以怨气很大。而宋义却每天饮酒吃肉，逍遥自在。为此，全军将士后来达到气愤已极的程度了。这时，项羽再也忍耐不下去了，有一天，他闯入大帐，手起刀落，杀死了宋义。然后通报全军，军士上下皆举手拥护。不久，楚王便封项羽为上将军，统帅这支部队继续前进，以解钜鹿之围。

行进中，项羽先派大将黥布率领两万士卒渡河，随后他又亲自统帅本部渡河北上，解救了危在旦夕的赵国。渡河之战，充分地显示了项羽勇往直前的战斗精神。在大军渡过漳河之后，项羽就命令士卒将渡船全部凿沉，将造饭家什全部砸碎，每人只带三天粮食，开拔时，又将岸边的营帐全部烧毁。他激励将士们说：“我们这次救赵是同强敌章邯作战，敌虽强悍，但我们只许前进，不准后退，因为我们已经没有了后退之路了！大家必须勇往直前。”

战时，楚兵士卒果然个个义愤填膺，有如猛虎冲入敌阵，拼命地砍杀秦兵。擂鼓声，喊杀声惊天动地。由于楚军士气高昂，以一当十，来势凶猛，所以秦兵很快就招架不住，节节败退。最后，楚军杀死了秦将苏角、生擒王离，涉间自杀。后来章邯率领二十余万秦兵在殷虚（河南安阳西北）投降，至此，项羽取得了致秦朝于死命的钜鹿之战的决定性胜利。

此前，各路诸侯军也曾前来与章邯会战，但都因为秦军势大，莫敢纵兵。当楚军胜利后，他们都无地自容、自愧不如，从心里佩服项羽的用兵之法——破釜沉舟。从此，四方诸侯纷纷推举项羽为首，使得他有了强大的力量同刘邦对抗。

（顾铭新）

章邯闻罢大惊，汉军何从天降？原来韩信根本就没有打算从栈道进攻关中，在他命令士兵修栈道的同时，他自己则率领大军从小路绕到陈仓。一举破之。

事后萧何向韩信问计，韩信说道：“我限定时限抢修栈道，只是为使三秦诸王不加准备，以利于我军暗渡陈仓，从侧翼打击敌人，一举胜之。”众人这才明白韩信的“明修栈道，暗渡陈仓”之计的奥妙。

那章邯率部仓促应战，可是为时已晚，几战下来便溃不成军。章邯走投无路，被迫自杀，没多久，董翰和司马欣先后投降。不到三个月时间，关中就变成了汉王刘邦的地盘。

(顾铭新)

## 陈平设计反间智除范增

楚霸王项羽率兵十万，围攻荥阳，汉王刘邦急召张良、陈平等谋士商议。刘邦说：“项羽乘我兵力分散，城内空虚，率兵围攻，有什么办法拒敌？”陈平建议说：“项羽能够取胜，除了他人多势众外，主要是有范增、钟离昧、龙沮、周殷等一批骨干之臣给他出力。但是，项羽的强大是暂时的，因为他有勇无谋，猜忌心很强。如果我们能够离间他们君臣，使项羽起疑心，就可以除掉项羽身边的忠诚能干之臣，涣散了项羽的核心组织，何愁项羽不败，楚军不灭呢？”刘邦听后，连称妙计，马上命人取来四万斤金，交与陈平去作反间活动费用。

陈平得令后，派人混入楚营，散布谣言，说是范增等因功不得赏，想与刘邦同谋，灭楚分地称王。项羽听到传言，顿时疑心四起，遂不与范增等议事。范增是邻鄆(今安徽桐城南)人，足智多谋，是项羽的头号“智囊”，项羽用兵的谋略主要是他提出的。他在楚军中的作用举足轻重，连项羽都尊其为“亚父”。由于难得计谋，项羽尽管把荥阳围得水泄不通，但无法破城，因此内心十分躁急。

公元前204年4月，刘邦与项羽在荥阳和

谈，陈平利用这个机会，把他的离间计推向高潮。当项羽的使臣虞子期来到汉营时，陈平派人用接待诸侯的礼仪隆重地迎接他，吃饭的时候，又送上许多美味佳肴，款待备至。虞子期真感到受宠若惊，便怡然自得起来。

一天，陈平殷勤地把来使中的一员邀进一间公馆里，好酒好肉地招待，顺便向那人打探起范增的起居近况，并大赞范增，还附耳问道：“范亚父有什么吩咐？”那人忙说：“我是项王的差使。不是亚父差来的。”陈平听后，假作吃惊的说：“我们以为你们身有亚父的密差呢！”说完便出去了。不多时，一官吏进屋撤下盛宴，换上粗食淡饭。那人一看，火冒三丈，愤愤地离去。

那人把这个情况回报给虞子期，虞子期顿时疑心大起。这时，传令刘邦求见，虞子期乃整衣前去。到时，却因刘邦尚未梳洗完毕，由侍者随何暂陪他在一间密室等候。随何陪他一会，便托身起辞。虞子期转身看看书桌，见有许多秘密文件，便走过去翻阅，见有一封首尾不具名的信，内文所言，足可辨出此书乃范增写给刘邦的密信。虞子期大惊，明白了亚父正与刘邦私通，遂将该信藏在身边，准备回去亲呈项王邀功。

不久，和谈未果，虞子期回到楚营。他把在刘邦那里所看到的一切添油加醋地向项羽报告了一番，并附上范增的密信。这下，项羽大怒，认定范增与敌私通无疑。范增知道后，虽经力辩，但仍无法改变与项羽的关系，只得离开项羽。在回乡途中，由于年迈体弱，郁积成疾，最后病死在归途中。

范增一死，使项羽失去了一位最重要的谋士。从此，楚军不仅人心涣散，而且在谋略上也着着失算，终于铸成了败局。

(顾铭新)

## 刘邦随势俯仰冒险鸿门

秦末时，天下大乱，义军蜂起。

当时，项羽和刘邦两股势力共同拥立楚怀王以抗秦。公元208年，楚怀王派项羽和

刘邦分兵两路，攻击秦军。临出发时，项羽和刘邦二人约定，谁先打入关中，谁就做关中王。但楚怀王的手下人，都了解项羽的残暴，不希望看见他先取胜，于是，纷纷建议怀王，派刘邦西进函谷关，先自入关中，而派项羽北上增援被秦兵围困的赵国，这样，入关中的机会便不等同了。楚怀王认为这样做与己与国都有好处，于是，按此建议行事。

分兵以后，刘邦一路势如破竹，收编陈胜余部，连拔秦朝城池，不久便兵临秦朝都城咸阳附近的灞上，威慑咸阳。此时，秦朝宫廷见大势已去，无奈，秦王子婴被迫素衣白马向刘邦投降，刘邦挥师入咸阳。刘邦的谋士萧何一人咸阳，便先取了秦朝的图籍文书，封了秦朝重宝财物的府库后，随刘邦还军灞上。刘邦还与诸县父老约法三章，尽废了秦朝酷刑，与百姓秋毫无犯。刘邦此举，立刻得到了百姓的拥护，都发自内心地想让他当关中王。刘邦更是谨慎，又兵守函谷关，欲占关中。

此时，另一路兵马项羽，经过一番血战后，终于消灭掉秦军主力章邯所部，势力经过实战考验，比先前更加强大了。项羽也想尽快地占领关中，于是，两支队伍便对立起来，为了个人的利益而剑拔弩张。项羽见函谷关乃战略要地，便驱兵前来攻打，刘邦兵弱，很快便节节败退。当时，楚汉两军实力悬殊，楚兵号称百万，而刘邦兵将不足十万，刘邦只好暂时向项羽屈从。但项羽并不罢休，在谋臣范增的谋划下，在鸿门设宴，准备乘机除掉刘邦。

刘邦明知此宴决非好宴，但力不如人，只好前往。刘邦到鸿门一见项羽，便装出非常恐惧的样子，说：“我之所以封秦财库，屯兵函谷，都是为了等待大王您的到来。”一番话直说得项羽非常得意。席间，范增派项庄舞剑，欲乘机刺杀刘邦于座上。刘邦的谋士张良和武将樊哙，见再往下的味道不对，便先保护刘邦而不让对方得手，然后假借入厕乘机逃离楚营。

刘邦离开后，张良又送了项羽和范增极贵重的礼物，表示刘邦无意与项羽争雄。对刘邦的臣服，项羽深信不疑，于是便弃之刘邦而不打，挥军西进，火烧阿房宫三百余里，所到之处皆一片瓦砾。

刘邦经历了鸿门遇险之后，潜心积蓄力量，终于强大起来，最终使项羽落得个兵败自刎的下场。

(顾铭新)

## 刘邦四面楚歌乌江败项羽

历史上暴虐的秦王朝终于在各路反秦武装的围攻下灭亡了。但反秦的各路军队为争夺权势，又互相争斗起来。这其中以西楚霸王项羽和汉王刘邦两路人马的军事力量为最强，所以，他们之间为取得天下，竟进行了五年的对抗战，双方都疲惫不堪，兵士厌战，尤以项羽一方为甚。本来，当战争打到第四年秋天的时候，双方经过协商，决定停战，彼此约定以鸿沟为界限，鸿沟以东归项羽；鸿沟以西归刘邦，各自退兵，再不侵犯。

约定后，项羽把拘押在本营中的刘邦亲属全部送还刘邦，并老实地按着协约规定率部向东撤退。刘邦也准备把大军撤回关中地区，然而，他的谋臣张良却向他建议说：“现在楚军已兵疲粮绝，与我军形成鲜明的对照，再者，各路诸侯都归附我们，这有利于我方的形势，决不可退兵，要趁势全歼楚军，以免后患！”刘邦早就有独霸天下的野心，见下僚与他不谋而和，便决定背信弃义，追击项羽。

起初，刘邦手下的战将韩信和彭越见战事又起，热情不高劲头不大。张良见此情形，向刘邦献计说：“要想调动两将军的战斗激情，必须予之好处，何不告知他们：若打败楚军，将平分楚地，韩、彭各半。”刘邦依计行事。果然，韩、彭两人得此消息，精神倍增，立即大举进兵，直逼项羽于垓下（今安徽灵璧县东南），并将其团团围住。

刘邦等人素知项羽勇猛过人，而且从江

东带来的八千子弟兵与他情同手足，要想速胜，谈何容易！最后，刘邦与臣僚们商量出一个计谋：瓦解军心，涣散斗志，离间项羽与其部下的关系。于是，在汉军营中教唱兵士楚地的歌曲，在战场上高唱。一时间，楚军四面楚歌，此休彼起。项羽军队中的士卒听到家乡民歌，倍感亲切，自然引起了他们的思乡之情，有的随之唱和，有的潸然泪下，哪还有人有心思打仗。

项羽面对如此情况，真是无可奈何，他估计到败局已定，想到自己曾是威振四方的人物，不禁慷慨悲歌：“力拔山兮气盖世，时不利兮雅不逝！雅不逝兮可奈何，虞兮虞兮奈若何！”他的宠妃虞姬舞剑后，曾鼓励项羽赶快杀出重围，东山再起，说罢自刎身亡。项羽悲愤到了极点，这时汉军杀来，尽管项羽力战至乌江边上，且有渡江逃命的机会，但他仍觉得无脸面再回江东，于是拔剑自尽。至此，楚汉之争以刘邦获胜而告终。

刘邦施计“四面楚歌”，很见成效，这种攻心战术，使得对方军心迅速涣散，战而胜之，真可谓聪明至极。

(顾铭新)

### 萧何三策免危

汉朝初年，汉王刘邦与西楚霸王项羽，在河南蒙阳附近交战，汉王几次派遣使者回到长安去慰问萧何。有个叫鲍生的人向萧何建议说：“汉王目前在前方作战，冒着风险，但是不断派人来慰问你，这是有原因的。”萧何听罢，觉得有理，经过思虑，决定派遣自己的兄弟子孙等亲信服役，到前方去参战。萧何一这样做，不仅使刘邦大为喜悦，更减少了对萧何的疑虑。

此后过了八年，刘邦已做了皇帝，他拜萧何为丞相。此时，陈豨在河南举兵反叛，刘邦决定亲自率领军队前往征讨作战。战事尚未结束，京城便发生了淮阴侯韩信暗中想在关中谋反事件。吕后得萧何的计策，诱杀了韩信。高祖知道了这个消息之后，甚是高

兴，派人回到长安传旨，升萧何为相国（较丞相位高），加封五千户食邑，并专派了一都尉率士卒五百为萧相国担任守卫。城中很多人都来向萧何庆贺，唯有一个在长安城东种瓜的叫召平的人，反而前来相吊。萧何觉得事出有因，便将此人约进堂内，询问其缘。召平对萧何说道：“相国应对此事三思，弄不好灾祸就从现在开始。”萧何觉得此为实言，又独自深思起来。他想：皇帝此时正率军在前线苦战，留在后方的人，不仅不用担心生命的危险，而且还如此地升官加爵，得重兵保卫，这是由于淮阴侯韩信之事刚刚平息，大家都来庆贺，过些时候，恐怕才会表现出不是真心的重用自己啊。于是，萧何决定辞掉新的封地，并且把家中的资财拿出一部分，贡献给战事。萧何这样一做，皇帝很是高兴，臣僚也很敬佩。

又过了一年，九江王英布反叛，刘邦又亲自率兵东下讨伐。此间，萧何在后方尽力抚恤百姓，并且捐献大批财物，补助军需，由此，贤明的名声很快四传，人人都称赞他。这时，刘邦几次派人回京，寻问萧何的所做所为。萧何预感到皇上的疑心加重，他想：我已官至相国，就是再有什么天大的功劳，又能得到什么官位呢？初来关中很得民心，这是好事，然而皇上总是询问，恐怕怀疑自己有别的意图，弄不好官位难保，还有夷灭家族的危险。于是，萧何便到处賂帐，乱置土地，故意做出几件不名誉的事来，使臣属对他有些怨言。这样，功过并传，皇上闻之放心多了。

汉高祖生性猜忌，他的功臣多半都没有好结果，只有萧何三次施计，才化险为夷。

(顾铭新)

### 叔孙通献治国之计

叔孙通是西汉初年的政治家，也是汉朝礼仪朝制的制定者。

刘邦打天下时，把秦朝实行的苛刻法令、繁琐礼仪全都废除了。当他做了皇帝

后，仍不懂实行礼仪礼治的重要性，皇帝如此，他手下的大臣也多出身微寒，读书不多，知礼不多。时间长了，刘邦自己也意识到这样不好，应该制订出一套朝廷仪礼来规范众人，以树立起皇帝的权威，治理好天下。叔孙通见皇帝有建立礼制的意思，便主动进谏，他说：“据臣所知，从前的三皇、五帝、夏、商、周都有自己的礼仪制度，只不过是因时不同，有些改变而已。我打算参考前代礼节，制定出适合我朝的礼仪规矩来，只要陛下有决心，勤加演习，是不难实行的。”刘邦满意地应允。

于是，叔孙通找来三十个儒生，加上自己那百余名门生一起编排演练礼仪，他们对行走、站立、跪拜、发言、举杯等事，都有专门的要求，这样排练了一个多月，便让刘邦前来观看。刘邦对这些举动备感新鲜，直看得眼花缭乱，连声叫好，当下下令从自身做起，要满朝文武大臣限期学会，准备在第二年十月召开朝会，正式实行。

汉高祖七年（公元前200年），长乐宫修成。刘邦择日召开朝会，这一天，文武百官都在预定的位置上规规矩矩地站好，刘邦的车驾来到时，司仪高喊一声，乐队奏起乐来，刘邦慢慢下车，入殿，就座，众文武按着官职品级整齐排列，依次进殿参拜，再也没有以往乱哄哄的现象。有几个人因为不习惯，伸了懒腰，打了哈欠，马上被执法官罚出朝外。刘邦见依礼朝见，君君臣臣，上下尊卑，井然有序，开心极了，情不自禁地说：“我到今天才知道当皇帝是如何高贵了！”于是立拜叔孙通为太常（掌管礼仪祭祀的官），赏金五百斤。会后，叔孙通把赏金分与自己的弟子，并告诉他们皇上答应给他们官做，弟子们十分高兴，都说：“先生是真正的圣人，最懂着治天下的道理。”

叔孙通制定的朝制礼仪，很快在全国推行开来，得到认真的贯彻执行，这对于西汉王朝政治制度的确立和完善，起到积极的作用。

叔孙通认识到在马上可以打江山，但是在马上并不能够坐天下，坐天下必推行文治才行。他能够把握时机，让皇帝明白实行礼制的重要性，并亲自制定出一套礼仪制度，在实际中推行，说明他在治国方面的谋略，的确比那些战功赫赫的武夫高出一筹。

（顾铭新）

## 陈平施贿解高祖白登之围

西汉初年，匈奴的冒顿单于带领四十多万人马南下进攻，直打到晋阳（今山西太原）。汉高祖刘邦得讯后，亲率大军迎敌，赶赴前线后，刘邦听说前队兵马节节胜利，便产生大举进攻，彻底解决北疆之患的念头。

刘邦派去侦察的人回来说：“匈奴的冒顿部下，大多是老弱残兵，他们的马也很瘦。”一些人听此消息，力谏刘邦进兵。于是，刘邦一面率军出发，一面又派奉春君刘敬去进一步察看敌情。不久，刘敬急匆匆地回来，劝刘邦停止进兵，他说：“我看到的匈奴兵马确实不堪一击，但是，我想这里面一定大有文章。陛下您想，两军对阵，向来都以实力显示军威，借以震慑敌人。如果匈奴的实力真的如此薄弱的话，怎敢大举进犯中原呢？我认为这一定是匈奴人施的‘示弱之计’，引诱我们去追击，好把我们装进他们的包围圈里，请陛下三思而行。”刘邦想，既然敌军老弱残兵是真实情况，还怕什么呢？于是，十分生气地怒斥刘敬胆小如鼠，同时，以扰乱军心为由，将刘敬关进了监狱。

刘邦恐怕行动慢了会放跑冒顿单于，就急忙带了一队骑兵，先追上去。当他们刚到平城（今山西大同），突然匈奴伏兵四起，他们兵强马壮，精神抖擞。刘邦这才感到的确中了匈奴的“示弱之计”，于是，慌忙杀开一条血路，退到平城东面的白登山上。此地山势险要，匈奴人虽然一时没能攻上山来，但他们仍将刘邦等人围个水泄不通，七天七夜大兵不退，使刘邦等人缺粮断水，陷入绝境。

这天，刘邦和陈平向山下瞭望，忽见山下有女骑兵在奔驰，一打听，原来是冒顿单于的王后，陈平立刻想出一条妙计。当下，陈平派了个使者去见匈奴王后，献上一大堆金碧辉煌的珠宝后，又呈上一幅美女图，说：“中原皇帝恐怕匈奴大王不肯退兵，就准备把中原最漂亮的女子献给匈奴大王，就是这个人。”匈奴王后见使者如此一说，心里顿时一惊，若单于得到中原美女，自然会把我冷落。于是，连这美女图看也不看一眼，忙对使者说：“这个就不用了，我请单于退兵就是了。”当晚，王后软缠硬磨力劝冒顿单于退兵，冒顿单于不忍心冷落王后，同时又见汉军送来如此多的礼物，便答应了下来。刘邦得知匈奴人撤开包围圈一角的消息后，迅即乘着早晨的大雾冲了出去。

刘邦脱险回到家后，首先把刘敬放出监狱，还加封他为建信侯，接着，把那些劝他立即追击的人，都砍了脑袋。

(顾铭新)

## 刘邦封赏释嫌

楚汉相争，项亡刘胜，西汉政权就此建立。统一了中国后，刘邦大封功臣，最初，得到封赏的只有张良、萧何、曹参等二十多人。此时，刘邦志得意满，却不能看到他的那些“猛士”们正在日夜争功，各怀心腹事，已经没有心思为他安守四方而效力了。

一天，刘邦与张良到洛阳南宫去，途中发现许多将领三五成群地坐在路旁的沙滩上窃窃私语。刘邦疑惑地问张良：“这些人在谈什么？”张良早已得知，由于封赏之事已在众将中激起不满之情，见刘邦问他，便乘机指出这一潜在的危机，说：“陛下有所不知，这些人是在谋反！”刘邦大吃一惊，忙说：“天下已经安定，他们为什么还要谋反？”张良说：“陛下，您出身布衣，依靠的是这些将领东征西战，才取得了天下。如今，被您加封的功臣仅有萧何、曹参等一班故人；而所诛杀的，都是您平生切齿痛恨的人。眼下这些将

领既怕得不到封赏，又怕将来被您杀掉，所以聚在一起谋划造反。”

刘邦闻言十分忧虑，只好向张良问计说：“你看此事如何处理为妥？”张良想了想，反问刘邦道：“陛下平素最憎恶，而且为群臣皆知的人是谁呢？”刘邦不加思索地脱口而出，说：“雍齿！此人一向对我不满，多次在大庭广众面前羞辱我，我早就想把他杀掉；但也考虑到他在军中的影响，及他作战勇敢，功劳很大，我才留他几日。”张良笑道：“好！陛下赶快宣布，先封雍齿。”然后，进一步解释说：“群臣见雍齿尚能封侯，人心自会安定。”刘邦恍然大悟，立即依计而行。

第二天，刘邦大摆酒宴，将全体将领请来喝酒。酒过三巡之后，刘邦郑重宣布封赏众人。当刘邦宣布第一个被封侯的人竟是雍齿时，一下在群臣中引起了很大震动，不但出乎雍齿意料之外，也出乎众将意料之外。接着，刘邦依次论功行赏。“雍齿是皇上最不满意的人，他还被封了侯，我们还不满什么呢？”众将十分高兴，情绪一下都安定了下来。至此以后，全国局面稳定，西汉政权因此而得到了巩固。

张良设计，封赏仇人，使众人之疑、不满自消，从而稳定了大局，在当时情势下，确不失为上策。

(顾铭新)

## 张良谋助太子促君就范

汉高祖刘邦想废掉他早已立下的太子，即后来的汉惠帝刘盈，设立他最宠爱的妃姬戚夫人的儿子赵王如意为太子。朝臣们闻讯都深为不安，纷纷劝谏。然而，刘邦心意已决，只等有机会便要降旨。

太子的生母，即刘邦的原配夫人吕雉听说刘盈的太子地位随时可能被赵王如意代替，心里非常焦急，正苦于没有办法之时，有人向她献计说：“当世善谋者莫过于张良。张良又深受皇上的信任，只要张良肯为你出谋划策，一定可以扭转乾坤。于是，吕后便



让其弟建成侯吕泽到张良家去问计。

张良起初感到易立太子之事乃皇帝的家事，大臣不好过分干预，便以君臣之礼借口推托。无奈，经不起吕泽的再三恳求，便出谋献计说：“易立太子之事，光用口舌去争辩是不顶用的。我倒想起了秦末时的四位老人，他们以为皇上轻慢无理，逃匿山中，誓不为汉臣。皇上却对此四人最为敬重，曾多次派人召请而未如愿，此四人者人称‘商山四皓’。现如今如果太子能亲自写信，派人多带金玉璧帛，卑辞安车请他们下山辅佐。同时，在他们入宫后，时时随太子入朝，让皇上看见他们，这样，皇上知道有这四位老人辅佐太子，就不会再易立太子了。”吕后得计后，忙令吕泽卑辞厚礼，把“四皓”迎到长安。

一天，刘邦在未央宫前殿举行家宴，太子陪坐。酒宴之间，刘邦忽见刘盈身后坐着四位须发斑白的老人，心中十分疑惑，便发问报上姓名。当刘邦听了“商山四皓”的名字后，十分吃惊，好半天才说：“朕几番请你们，你们不至，今日为何服侍太子身旁？”四人回禀道：“陛下轻慢辱人，我们不想做官，便躲藏起来，做个隐士。今听说太子仁孝谦恭，天下人都愿意为太子效命，所以我们愿意来服侍太子。”

刘邦听了他们的回答后，叹了口气，此刻，他已感到太子刘盈的羽翼已丰，便吩咐道：“你们要好好地爱护太子。”说罢便离席回寝宫去了。尽管戚夫人也为未能易立如意为太子感到难过，但她见刘邦已无意改嗣，她还能说些什么呢。

吕雉暗自庆幸自己保卫太子地位的成功的同时，深感张良的谋划的英明。的确，张良请出四皓，并宣称天下之士皆欲效命太子，是想在刘邦心中引起震动，使其让既成事实就范，此计不同寻常。

(顾铭新)

## 田子春计弄吕雉

汉高祖刘邦生前，深以异姓封王为虑，便把自己的儿子都分封为王。不想，待他驾崩后，大权尽归皇后吕雉之手，于是，吕后便想杀尽遗臣及各王，变汉朝为吕家天下。这样，刘氏各王逐渐被她杀害了，未遭毒手的也都削了兵权，惶恐待罪过活。

有齐王刘泽，眼见各兄弟被吕姓迫害到这般地步，私下不觉暗自伤心落泪。一天，刘泽正在院子里仰面痛哭，忽听背后有人说：“大王！有什么事值得这般悲伤？”刘泽回头一看，见是很工心计的部属田子春，便对他说：“为何不伤心！我虽封王，却一点权力都没有，当时父王给我的二十万兵，又被吕后追回去了，变成一只无爪螃蟹。”田子春笑着说：“这有什么难？只要你相信，我有办法去京城长安把兵权讨回来！”刘泽很是高兴，忙问他有何要求，田子春说给他一笔活动费和黑白两匹马就行。刘泽马上答应了他。

田子春带上七岁大的儿子奉郎来到长安，他打听到吕后最信赖的人是六宫大使张石庆，便在他身上打了主意。田子春在张石庆每天上朝必经之路旁，故意把白马拴在那，张石庆见之，称赞为良马。第二天，田子春又换黑马，张石庆见了，也是欣羡不已。于是，张石庆便有意买下这两匹马，田子春慷慨大方，把马送给了张石庆。张石庆见此人可交，便把他邀进府内，两人常常深谈至深夜。

一日，在闲谈间，张石庆谈起吕后的事，田子春乘机说：“如果你能向太后奏请封吕氏三人为王的话，她一定会高兴更提拔你。”次日，张石庆奏请封三吕为王，太后果然大喜，提拔了张石庆，并且赏帛金三万。

张石庆喜不自胜地回来，告诉了田子春，田子春故作吃惊地说：“我真不该提议让你奏请，这样一来倒坏了吕家权势了。”张石庆不解，田子春解释说：“因刘氏还有三王在外，无兵无权的，今见一天之内封了三个吕姓为



王，疑心一起，恐怕要起来造反。”张石庆忙问怎么办，田子春说：“现在唯有想办法也给姓刘的一点好处，具体的，你应如此办理……”

即晚，张石庆入宫见太后，奏说：“外间已传开了，说关外三刘姓王听说封三吕为王，心中不服，想造反了。”太后问：“用什么办法制止他们呢？”张石庆说：“惟有给他们点甜头，暂息怨怒。”吕后点头称是。于是召陈平入宫，商议此事。

陈平一听此事，心中为刘氏暗喜，忙提出最稳妥的甜头是给予一些兵权。太后问：“刘氏三王谁无兵权？”陈平答：“山东刘泽久困在闲，无职无兵印。”于是，太后派使者传刘泽入宫，殿上，太后说：“我儿镇守边庭，久困穷苦，我把兵印军权交给你，务要谨慎从事。”刘泽拜谢皇恩后，率领了二十五万大军回到封地去了。

后来，刘泽在山东谋反，吕后很后悔当初轻易授军权于他，现在后患无穷，只好把张石庆削职查办，方解一丝怨气。

(顾铭新)

## 陈平智除诸吕

汉高祖刘邦死后，朝廷大权落在吕后手中，她不仅排斥、陷害刘姓，而且还想分封诸吕。右丞相王陵出面反对说：“高祖留下遗言：不是刘家的人想封王，天下共击之！”吕后封吕决心已定，听不得反对意见，便找茬罢免了王陵。左丞相陈平则很有心计，他知道公开反对不会有好结果，所以当吕后问他意见时，他即刻表示支持，为此，吕后对陈平则另眼相待。

王陵知道后，找到陈平，责备他说：“你我都是高祖手下的老臣，同意封诸吕为王，这不是违背高祖的遗愿吗？”陈平实际上早已看出吕氏集团篡权的野心，但鉴于吕氏此时正盛，反对他们的时机尚未成熟，可用缓兵之计。然而，此时陈平并未把心中所想全盘托出，只是意味深长地对王陵说：“在朝廷上

当面反驳抗争，我比不上您；安定天下，保全刘家的江山，您不一定比得上我。”王陵听后，不解其意，只好告辞离去。

陈平表面上与吕氏集团往来交结，暗地里却谋划着如何除掉诸吕，他想到必须兵权在握，于是，便着意谋取太尉周勃，这个在军队中威望最高的老臣的支持。其实周勃也早已看不惯诸吕的行为，经谋士陆贾的穿针引线，两人达到了共识，同时，许多朝廷大臣也站在陈平一边。

公元前180年(汉高后八年)，吕后病死，相国吕产、上将军吕禄加快了篡权的步伐。他们统领南军、北军，控制着宫廷和京城。此时，朱虚侯刘章与哥哥齐王刘襄相约起兵，于是，刘章在京城，刘襄在山东里应外合，发布讨吕檄文。吕产忙派颍阴侯灌婴率军去山东迎战。不料灌婴到了荥阳，却反戈一击，加入了反吕的行列。

在京城内气氛更是紧张，周勃虽在军界有影响，然而却没有实际兵权，调动一兵一卒要由吕禄来决定。经与陈平密谋，劫持了与吕禄关系甚密的酈寄的父亲酈商，要挟酈寄向吕禄游说。吕禄听酈寄说刘氏谋反，仅因为没得到好处，另外吕氏被封，却没去封地，而留在京城，便信了他的话，交出了军权，准备到自己的封地去当王。

周勃掌握了兵权后，集合起南军和北军，对兵将说：“愿意帮助刘氏的举手。”大家因对吕氏兄弟平日的所为厌恶透了，纷纷举手，表示拥刘反吕。于是，周勃下令，对吕氏家族采取军事行动，很快吕家势力土崩瓦解，吕氏家族被夷灭。

消灭了吕氏集团后，陈平等人废掉了吕后定的皇帝，迎立代王刘恒为皇帝，这就是历史上著名的汉文帝。陈平、周勃等老臣，用自己的智慧和胆识，战胜了诸吕，使汉室江山再次稳定下来。

(顾铭新)

## 汉文帝以柔克刚

南越王赵佗本是中原真定(即河北)人,他作为秦朝的一位官吏被皇帝派去南方,治理南越(即今广东、广西等地)诸族。秦朝灭亡后,赵佗无所归属,便自立为王,号称南越武王。

汉高祖平定天下后,刘邦不想再兴战事,所以,对赵佗采取安抚政策。刘邦派遣使者去南越,赐给赵佗割符,并且请赵佗代为皇上统治南越诸国。本来偷安于南越远地的赵佗,见得到高祖如此宠幸,自然喜出望外,说实话,若高祖真的对他兴兵动武,他自知是难以招架的。于是,赵佗尽心尽力地为汉朝效力,将汉朝这南疆地区治理得井然有序,人民安居乐业,社会长治久安。

到了吕后执政的时候,长沙王吴芮等人,频频在吕后耳边进谗赵佗,致使吕后将南越诸国视为蛮族,朝廷对赵佗的待遇下降,甚至与朝廷边境上所进行的铁器交易也被禁止。为此,赵佗十分气愤,与其坐以待毙,还不如先下手为强。于是,赵佗便又自称南越武帝,与朝廷进行起大规模的军事对抗。赵佗首先率军攻陷了长沙王的大本营临湘(今湖南长沙县),并乘胜向北推进,连破数城。见此情形,汉朝廷派重兵前去征讨南越,可是,当汉军越过南岭后,由于兵士们不适应南方酷热潮湿的气候,一时军中瘟疫流行,无法作战,只得退回。这下赵佗更为得势,在几年之内将周边各国一一降服,以天子自居,他一方面制定法令治理国家,一方面加紧练兵,摆出一副还要北上灭汉的架势。

吕后死后,汉文帝即位。文帝为了平定天下,安抚人心,对四周蛮族皆施以恩德,考虑到南越王赵佗势大,尤其施以厚恩。文帝不仅明令将赵佗双亲墓地所在地真定赐给他做领地,而且还派人按时祭祀,同时,任命赵佗的亲属担任高官,给予许多赏赐。

赵佗知道了汉文帝为他所做的这些事之后,激动不已,发自内心地上表文帝请罪道:

“以往我意气用事,见吕后逼我,我便针锋相对,自暴自弃。现自称南越武帝,是自我欺骗、自我陶醉罢了。请皇上谅我一时糊涂,不明事理,恩准我以番属臣民的身份,入京进贡”。与此同时,赵佗又在他的辖区之内宣布:“两贤不能并世,两雄不能并立,汉文帝是一位贤明的天子,此后,南越帝制废除,我等为文帝臣民。”

从此以后,直到汉景帝,南越诸国都太平无事。汉文帝以柔克刚,不费一兵一卒,便使南越王俯首称臣,本来剑拔弩张的紧张对峙形势,得以缓解。

(顾铭新)

## 汉文帝不忍逆言重用张廷尉

张廷尉,名释之,字季,堵阳人。汉文帝时,任骑郎微职,十余年未得升迁也没做出显扬名声的事,便请求辞职归乡。中郎将表盎素知他有才能,就上书请文帝改调他作谒者的职务。文帝召见他,见他谈起秦灭汉兴的原因,很有见解,就任命以谒者仆射之职。

一次,太子与梁王乘车进宫,到司马门还不下车,直驱而入。张释之见状,忙拦住车,不准进入殿门,同时又弹劾他们不下公门是对皇上大不敬。薄太后听说太子这种行为后,也很生气,汉文帝只好摘掉帽子到太后面前谢罪道:“我教子不严。”薄太后这才派使臣捧着太后的诏书赦免太子、梁王,张释之见诏后,才放他们进宫。为此,汉文帝更加看重释之,升任他为中大夫。

又一次,汉文帝出行经过中渭桥,有一个人从桥下跑了出来,吓惊了文帝的车马,文帝派人捉住了那个人,交由张释之处理。当张释之了解到那个人回避桥下很久,以为皇上车马已过,方才出来正碰上皇上坐的马车的情况之后,便作了“一人闯道,按律应罚款”的判决。文帝听罢大怒,道:“这人惊了我的马,如此大罪,张释之只给罚款处分,这怎么行呢?”张释之奏道:“法令,是天子与

百姓共同遵守的。如不按法令妄加重处，那这项法令就会在老百姓中失去威信。廷尉，是公平审理案件的官吏，如果用法不公平，老百姓该怎么办呢？”文帝沉吟良久，说道：“廷尉的判决是对的。”

后来，有人偷窃高祖神庙里神位坐前的玉环，而被执获。文帝威怒，交给张释之治罪。张释之根据法律条款：凡偷窃宗庙内各种物品的人，应当斩首于市，判斩首。文帝生气地说：“我交给你处理，是要灭其家族，而你的制裁，不合我奉祀宗庙的诚意。”张释之摘下帽子叩头请罪说：“如此惩罚他已足够了，罪犯要分等级，还要根据态度好坏，情节轻重加以区别。如今，盗窃宗庙器物就灭全族，假如有人盗取先帝陵园的一捧土，陛下又用什么法律来处罚他呢？”文帝觉得此话在理。从此，张廷尉出众的才干和公正的品质受到世人的赞扬。

(顾铭新)

## 李广智勇相生以患为利

汉景帝在位时(公元前156年—前143年)，匈奴大举入侵上郡(今陕西北部及内蒙古部分地区)，汉景帝派一名宦官协助李广防御匈奴。

这李广是汉景帝时代的一位名将，骑马、射箭、使刀枪样样精湛。他还常常使用奇战胜敌。

一天，随军的一位宦官带领几十名骑兵在草原上放马飞奔，不意遇到三个匈奴兵，双方打了起来。这三个敌兵很善箭道，不仅射伤了那个宦官，而且几乎将他带去的骑兵全部射杀，那宦官带着伤狼狈地逃回军营向李广报告。

李广听罢便说：“你们遇到的一定是匈奴的射雕能手。”于是，就带领一百多骑兵，飞也似地去追赶那三个匈奴人。

那三个匈奴兵没有骑马，走不几十里路，便被追上。李广熟练地取出弓箭，与他们射起来。只两箭，两名匈奴兵便被射死。剩

下的一个，也被活捉。李广喝令把俘虏绑在马上，准备回营。

突然，远远望见一队匈奴骑兵追了上来，看那阵势黑压压的一片，足足有好几千人。李广手下的士兵被这突如其来的情况惊呆了，都紧张地看着李广，希望他能想出好办法来对付强敌。只见李广异常地镇静，他对部下说：“我们已经离开大营几十里，如果往回跑，敌人一定会追上来，把我们这一百来人消灭。现在大家只有保持镇静，迎上前去，匈奴人一定会认为我们是大部队派来的诱兵，必定不敢进攻我们。”

士兵们对李广一向很敬佩，相信他的胆略和智慧，心里都象有了底。于是，李广让大家向敌阵前进，直到离匈奴阵地约二里远的地方才停下来。接着又发出命令，让部下下马卸鞍。

有个骑兵说：“敌人数十倍于我们，又离得这么近，敌人若一个冲锋便会冲到我们眼前，这可太危险了。”李广却说：“不用担心，这样做敌人就更相信我们是来引诱他们的了。”部下也都提心吊胆地卸下马鞍，躺在地面上休息。匈奴果然未敢上前攻击他们。

过了一会儿，匈奴命部队摆开阵势，守住阵脚的同时，派出一个骑白马的军官出阵，前来探视虚实。李广见状，命儿子李敢率十几个骑兵飞奔过去射死了他，然后从容不迫地返回原地，下马休息。匈奴将领把这一切看得清清楚楚，更相信了自己的猜测的正确性。

这样僵持到天黑，匈奴人心里疑惑，始终未敢进攻。半夜里，匈奴人生怕汉军会发动偷袭，就悄悄地撤走了。

就这样，李广凭借着自己在长期战斗生涯中形成的智慧和胆略，与数倍于己的敌人对峙了整整一天一夜，最后安全地返回了营地。

(顾铭新)

## 东方朔戏语退方士

汉武帝是中国历史上较有作为的帝王之一，他即位后，在全国征请有才干的人才，东方朔得到选拔录用，官任侍中。东方朔此人颇善辞令，语言幽默滑稽，时常寓微言大义于诙谐之中，很得皇帝的亲近。

后来，汉武帝由于感到人生无常，便转而亲近方术之士。东方朔此时明知汉武帝用方士寻求长生不老之药，事属荒唐，但见皇帝迷恋已深，不好生硬劝阻。

一天，东方朔乘汉武帝心绪欢悦之际，便从容地谏言说：“方士们找来最好的也不过是自然之药，人世间的药怎能让人长生不老？只有天上的药才能使圣上长寿。”武帝听东方朔如此一说，来了兴致，便问：“怎样才能上天取药？”东方朔答：“唯我上天去取。”武帝见东方朔态度十分认真，甚是相信，便命他即刻上天取药。于是，东方朔便请求武帝派遣一位方士与他同行，以做见证。武帝应允，并对他限期三十天。

东方朔离朝后回到府上，并不忙于上天，每天只是到各王侯家轮流饮酒，一个月快要过去了，他仍没有去取药的意思，随行方士一再提醒催促后，东方朔才笑着说：“神仙鬼怪的事妙不可言，难以预料，到时定会有神仙来接我。”那方士见东方朔如此自信，也就不再过问了。最后，那方士渐渐倦怠，甚至白天里，也长睡不起。

一天，那方士睡得正香，东方朔突然走来把他推醒，对他说：“我喊你半天你也不醒，我这是刚从天上下来，药没取来。”那方士大吃一惊，立刻回报汉武帝，汉武帝大怒，立即传命把东方朔召来，待问清缘由后治罪。

东方朔面见汉武帝之后，顿时哭泣着说：“没想到我在顷刻之间就要死两次。”武帝很奇怪，就让他说个明白。东方朔解释说：“我上天后，玉皇大帝问我，人间靠什么做衣裳？我说，靠虫子。玉皇大帝又问，虫子象什么？我说，虫子嘴巴象马，颜色象虎。玉皇大帝

就大发雷霆，认为我骗他，就派人到人间查问，了解到这种虫子的名字叫作蚕后，才饶恕了我。现在您不相信我说的话，可派人到天上去查问一下，若不真实，治我的罪也不迟。”

武帝听罢大悟，他感到上天取药乃属荒唐，于是，吃惊地说：“齐地之人多诈，果然不假。不过我明白了你之诈行，是想让我摒弃方士，杜绝幻想得之长生不老的药啊！”

从此，武帝罢黜方士，不再重用，政治上也清明起来。东方朔机智地以谎制谎，点醒了汉武帝，寓规劝于戏笑之中。

(顾铭新)

## 昭帝临朝辨忠奸

汉武帝临死前，立八岁的弗陵为皇太子，并嘱托霍光、金日磾、上官桀三个大臣辅佐执政。武帝死后，弗陵即位，这就是汉昭帝。

在三个辅佐大臣中，金日磾早逝，剩下的霍光、上官桀两人意见常不一致，矛盾很深。霍光在武帝时代与匈奴多次作战，屡建奇功，因而升为大将军，他为国忠心耿耿，并一心一意辅佐昭帝。上官桀则因为与昭帝的哥哥刘旦关系很好，而被重用。私下里，上官桀总是与刘旦一起商量，时机一旦成熟，就推翻昭帝，立刘旦为帝。正因为这样，他们把霍光当成阴谋篡权的最大障碍，处心积虑地打击他。

一次，霍光外出检阅御林军，事后又把一个校尉调到大将军府里来。上官桀在这件事上做开了文章，他让自己的亲信摹仿燕王刘旦的口气和笔迹，给皇上写了一封信。十四岁的昭帝见信上写着：“据闻大将军霍光外出检阅御林军，居然坐着和皇上一样的车子，又自作主张，擅调校尉，可见他心有异志。我担心他对皇上不利，愿奉还燕王的玉玺，到京城保卫皇上。”昭帝读罢，把信放在一边。

第二天早朝，霍光听说燕王上书告发他，心里惊怕，躲在偏殿的画室里等待发落。昭

帝见霍光不朝，很是疑惑，上官桀乘机说：“霍光大概是因为被燕王告发，而不敢入朝吧。”昭帝派人召来霍光，霍光见到昭帝，赶紧伏地请罪。上官桀又添油加醋地责备起来。只见昭帝和颜悦色地说：“大将军请起，朕知道有人在陷害你。”昭帝此言一出，霍光及上官桀等人皆大吃一惊。昭帝解释说：“大将军检阅御林军的地点离京城不远，调用校尉也是最近的事，一共不到十天工夫。燕王远在千里之外，怎会这么快就知道消息？即使知道了，马上派人来上书，也来不及赶到这里。再者，如果大将军真要谋反，也用不着调一个校尉。我看写这封假信的人才是别有用心。”霍光和众臣听罢，都很佩服这位少年皇帝的聪明伶俐。

昭帝接着严厉地下令捉拿制造和进呈假信的人。上官桀虽然作了防范，但仍多次出面阻挠。然而昭帝不但没听，反而对他的忠诚产生了怀疑。后来，昭帝果然发现了上官桀和燕王刘旦的政变阴谋，派霍光把他们一网杀尽。上官桀父子及同谋大臣被处死，燕王刘旦等自裁，国家避免了一次内乱。

汉昭帝在位的时间不长，但他能够明辨忠奸，任用贤良，当政中天下很太平，“百姓充实，四夷宾服”，很了不起。

(顾铭新)

### 龚遂巧治渤海郡

汉宣帝时，渤海郡及周围各郡连年饥荒，盗贼蜂起，郡守对此无能为力。朝廷准备挑选一个精明能干，能够安抚百姓的人出任太守。于是，经丞相、御史等人的举荐，皇上任命龚遂出任渤海新郡守。

当时，龚遂已七十岁高龄了，当他被宣帝召至朝廷，宣帝大吃一惊。他对龚遂的偌大年龄及五短身材，外表平平的相貌大失所望，与传闻相去甚远。于是，皇上带着几分不悦及轻视地态度，问道：“如果你为渤海太守后，你准备用什么办法去平息盗贼？”龚遂认真地回答说：“渤海郡濒临大海，地界辽阔，

远离京城，那里的人可以说还没有濡染圣人教化。那里的百姓度日艰难，饥寒交迫，官吏不体恤。臣以为，他们不过是一时为盗，就象小儿私窃兵器，戏弄于池塘之畔而已，并不是什么大罪，并不要把那里的人的问题看得过坏、过重。臣斗胆一问，陛下此番派我出任，是想让我去战而胜之呢，还是去安抚他们？”

宣帝一听龚遂最后的一句话后，脸上立即变了颜色，说：“朕乃一国之主，理应爱护百姓，之所以选择贤良的官吏出任，本来就是安抚百姓的。”龚遂听了皇帝这样说，心中有了数，便胸有成竹地说：“我听说治理乱民，犹如清理乱绳，不可操之过急。我希望丞相、御史暂且不要用什么法律规则来拘束我，这算是我请求的一点特权。让我到任后，有相机处理一切事务的权力，不知圣上是否同意。”

宣帝一听倒也来了兴趣，心想看看这个平常的老头究竟能做出什么惊人的举动来，于是，十分爽快地答应了他的请求。同时，派遣使者到渤海地界去发布公告。

渤海郡里听说朝廷派来了新太守，很是重视，龚遂到任的这一天，郡里派兵出来很远迎接，龚遂把他们全部打发回去。龚遂到任的第一件事，就是传书下令所属各县，罢免负责捕捉盗贼的专门人员，再声明告之：凡是手拿锄头、镰刀等农具的人，都是良民。凡是手拿兵器的人，都是盗贼。前者官府不得过问，后者需全民讨伐之。

郡里的百姓听到龚遂的此令后，立即解散原有的乌合之众，丢掉了刀枪弓弩，拿起了镰刀锄头，因为他们的本意也不愿做盗贼。很快，郡里的乱民之患得以平息。此后，龚遂考察这里的灾情，与民众一起群策群力，改变了生活困苦的现状。经过两年多的治理，渤海郡出现了安居乐业的新局面。

(顾铭新)

## 司马相如夫妇“诈”财

西汉时期著名的大辞赋家司马相如，祖籍蜀郡成都(今四川)，他原本是梁王刘武的门客，刘武死后，他回归了家乡。

在路经临邛(今四川邛崃)时，到临邛富人卓王孙家中作客。卓王孙的女儿卓文君当时刚好守寡在家，卓文君爱好抚琴，才貌俱佳，司马相如在席间便抚奏了一曲《凤求凰》，向卓文君表示了自己的爱慕之意。卓文君也爱慕司马相如俊美的相貌和横溢的才华，听出司马相如向自己求爱，便夜奔司马相如住处，以身相许。经过商量，两人一起逃回成都。卓王孙知道后，气得暴跳如雷，又是骂司马相如衣冠禽兽，又是骂女儿不守礼教，发誓不资助他们，也不准她们返回家门。

卓文君随司马相如回到成都后才知道，她的夫君虽然名声赫赫，但家中却十分贫寒，家徒四壁。万般无奈之时，她们只好返回临邛，硬着头皮托人向卓王孙请求一些资助，以作生活费用。不料，卓王孙破口大骂道：“我不治死这个没出息的丫头就算便宜她了，她自找个穷酸书生私奔，还想要我接济，一个子儿也不给！”

司马夫妇听说父亲的态度如此坚决，心都凉了半截儿，可眼下身无分文，日子怎么过呢？最后，相如和卓文君经过一番谋划和商议，很快想出了一个“诈”父资助的“绝招”。

第二天，相如把自己仅有的车、马、琴、剑及卓文君的首饰卖了一笔钱，在距卓府不远的地方租了一间屋子，开了一个小酒馆。卓文君粗布衣裙当垆卖酒，相如则穿上伙计的衣服，象酒保一样劳作。酒店一开张，就吸引了许多人来，这主要是人们前来目睹这两位远近闻名的落难夫妇。司马相如夫妇一点也不感到难堪，内心倒是高兴。很快临邛城里人人都在议论这件事，有的责备卓王孙刻薄，有的则对这对夫妇表示同情。

卓王孙毕竟是一位有身份、有脸面的人

物，十分顾忌流行一时的风言风语，他深以为耻，居然一连几天都没出门。有几个朋友劝卓王孙说：“令爱既然愿意嫁给相如，就随她去吧。再说司马相如毕竟当过官，还是县令的朋友，尽管现在贫寒，但凭他的才华，将来准有出头之日，你不应刻薄他们。”

卓王孙迫不得已，终于答应周济女儿女婿，分给了她们仆人百名，钱财百万，又把女儿第一次出嫁时的财物都送了过去。这下，司马相如夫妇成了富人，他们谢过了父亲，关闭了酒店，双双回到成都。

此后，汉武帝赏识司马相如的才华，召他进宫做官。司马相如果然没有辜负卓文君一片苦心，又飞黄腾达了。

(顾铭新)

## 刘秀借刀除李轶

汉朝的刘秀平定河北后，被刘玄封为萧王，但不久刘秀就与刘玄决裂。刘秀派大将邓禹率精兵两万，驻扎在长安附近。刘玄得知后，立刻派朱鲋、李轶驻兵洛阳，以阻挡刘秀大军西进。刘秀也了解了刘玄的意图，立刻派寇恂守河南(今河南武陟县)，冯异守孟津(今河南孟津县西)，抵制朱鲋、李轶从洛阳方面来的威胁。

驻守洛阳的李轶，最早曾和刘秀一起同谋反抗王莽，但是后来背叛了刘秀，并参与了谋害刘秀的哥哥刘縯的活动，所以总怕刘秀寻机报复。同时又觉得刘玄平庸无能，跟随他将来也不会有好结果。为此，内心深感忧虑。

孟津驻守冯异对李轶此种心情很清楚，于是写信劝其及早归顺刘秀。李轶见信中的言词委婉动听，真诚感人，经过再三考虑，回复冯异一信，除表示感谢之外，并暗示：“今天你我都在镇守军事要地，举足轻重。如果我们二人能同心同德，那我还有什么顾虑！请将我的意思转达给萧王，我愿意为他尽微薄之力，目前来看，若贵军攻打刘玄，我绝不予以援救。”

冯异看过信后，明白了李轶是叫自己保证他归顺后的生命安全和高官厚禄，于是，一方面给李轶回信表示安慰，另一方面放大胆子出兵攻下了天井关（今山西晋城县南）和上党（今山西长子县西），接着又南攻，攻下十三座城池。李轶果然袖手旁观，按兵不动。

冯异见李轶很守信用，遂派人报告刘秀其中详情。刘秀十分了解李轶的为人，知道他反复无常，不能重用，但是如果拒之门外，对战局、对自己一报杀兄之仇都无利，经过反复考虑，他终于想出一条借刀杀人的妙计，即离间对方，为夺取洛阳准备条件。

刘秀在给冯异的回信中，避而不谈是否接受李轶的归顺，只是提醒他说：“李轶这人诡计多端，一般人很难看出他的心思，还是要坚守自己的阵地，多加小心为好。”同时，刘秀在一次公开场合，拿出李轶写来的密信说：“大家看看李轶此信的含义是什么。”说过后，吩咐传令官把信交给各地守将传阅。众将士对刘秀的这种做法议论纷纷，感到如此重要的军事机密，怎能这样泄露呢？真是不很理解。

刘秀传阅李轶写给冯异信之事，果然被朱鲔知晓，他感叹自己非常信任的助手，竟心怀二意、私通刘秀，气得咬牙切齿，遂派人把李轶杀掉。

李轶被杀后，洛阳驻军失去了主将，军心大乱，许多同情李轶的兵士皆偷偷逃出洛阳，投奔到刘秀一边。刘秀借刘玄之手杀掉李轶的计谋成功了，这即除去了自己的心头之患，又不用承担杀降将的坏名声，真可谓“一箭双雕”。

（顾铭新）

### 刘秀昆阳败莽军

王莽地皇四年（公元23年）二月，绿林军建立政权后，分兵北伐，先后攻克昆阳（今河南叶县）、鄆城（今属河南）、定陵（今河南舞阳东北）等地，义军所到之处，城池皆下。

为了扼制起义军进攻的势头，王莽派司徒王寻、大司空王邑征发各郡兵力四十二万，号称“百万”大军，向宛城（今河南南阳）进发。经过征战，五月，莽军兵逼已被义军占领的昆阳。王邑扬言：“先屠此城，蹀血而进，前歌后舞，顾不快邪！（想想那是多么快乐的事啊）”真可谓狂妄至极。这样，几十万莽军将昆阳城紧围数十重，城外列营百余座。

当时，绿林军的主力部队正在围攻战略要地宛城，昆阳守军只有王凤、王常及刘秀率领下的八九千人，但斗志却很旺盛。毕竟敌人众多，破敌解围须深思熟虑，巧用计谋。王凤接受刘秀的建议，必须先坚守昆阳，阻滞敌人的主力部队于此，以掩护绿林军主力攻击宛城。待主力部队腾出手来，然后内外夹击，歼灭敌人。当下分工为王凤等人坚守孤城，刘秀寻机突出城外，调集援军。

战斗开始后，义军冒着强弩矢雨，奋力抵御着敌人楼车地道的强攻，战斗异常激烈，好在城池固若金汤。不日，刘秀乘隙率十三骑突围出城成功，飞马鄆城、定陵等地调发义军前来增援昆阳。

六月，刘秀率征集到的万余人部队，赶回昆阳。刘秀先率步骑千余人作为前锋，在距莽军四五里处列阵。王寻、王邑见绿林军增援部队仅千余人，便也只派几千人迎战。开战后，刘秀身先士卒奋勇冲击，杀伤数十敌兵，再加上绿林战士个个勇猛，很快莽军退却，绿林军乘胜追击，斩敌千余人。

绿林军首战告捷，士气大振。可刘秀想到全歼莽军，并非易事，于是巧施计谋。刘秀为了鼓舞昆阳城内守军士气，动摇莽军军心，便编造了绿林军已攻克宛城的战报，用箭射入城中，又故意丢失一些让莽军拾去。果然此招很灵，消息传开后，城中守军斗志更旺，城外莽军军心沮丧。

刘秀乘机精选勇士三千人，迂回到城西，趁夜出其不意地涉过了昆水，突然冲击莽军的大本营。王寻、王邑等人被这突如其来的打击搞得晕头转向，仓促应战。尽管敌军营



中有万人之众,但由于搞不清绿林军的底细,加上绿林军士兵士气旺盛,无不以一当百,很快,莽军阵势大乱,王邑在混战中被杀。此时,守城义军也趁势杀出,内外夹击,杀声震天,莽军全军人马溃散逃命。当时正值暴雨袭击,滎川(今河南叶县境内沙河)水涨,被击溃的莽军渡河时,溺死者不计其数。王寻仅率数千人逃还洛阳。这就是历史上著名的“昆阳之战”。

(顾铭新)

### 耿弇一计得二城

汉光帝刘秀即位称帝后,出兵削平各地的割据势力。建威大将军耿弇奉命率兵去平定盘据在齐地一带的割据势力张步。为了抵抗汉军,张步命令弟弟张蓝率精兵两万驻守西安县(今山东淄博境内),派诸郡太守合兵万人驻守临淄(今山东淄博东北),这两座城池相距四十里,互成犄角之势。

耿弇进兵这里之后,他发现,西安县城虽小但却十分坚固,守城兵将甚是精锐;临淄城虽大却并不难攻打,守军也比较弱。了解到这些情况后,耿弇心中便有了主意,他命令全军立即进行攻打西安的准备,五天后开战。西安守将张蓝闻信后,赶紧让守军加固城墙工事,昼夜警备。

五天后的半夜,耿弇集合起部队,先命众人吃足饱饭,到了早上,突然宣布攻打临淄的命令。全军将士虽有不解,但军令如山,疾行直通临淄。由于此时临淄的守军仍认定汉军首先攻打的是西安,所以,缺乏临战的准备。直到耿弇的部队开到城下,才如梦方醒,仓促迎战,结果根本抵挡不住汉军猛烈的攻势,不到半天工夫,耿弇就攻占了临淄。张蓝听说临淄失陷后,心里十分害怕,待汉军挥师西安时,张蓝已弃城逃走,这样,汉军刀不血刃,又得一城,西安、临淄两城耿弇于一日之间得取。

战后,耿弇的手下众将纷纷请教耿弇用兵之道,说:“将军下令攻打西安城,可却先

去攻打临淄,这其中的道理是怎么一回事呢?”耿弇解释道:“西安守军听说我军要去攻打,必定会严加防守,另外他自顾不暇,根本谈不上想出兵救别人。而临淄守军却想不到我军能突然而至,出其不意使其猝不及防,当然被我军攻破。攻下临淄,西安势孤力单,隔断了与张步的联系,张蓝不弃城逃走才怪呢!这就是所谓一举两得,击一而得二。倘若我军按事先说的那样先攻打有了准备的西安,委兵于坚固的城防之下,死伤必定会很多。即使我们攻下西安,张蓝会率兵退至临淄,与临淄守敌会合,就不容易对付了。我军深入敌军腹地,战线拉得很长,运输很不方便,不宜长期作战。别说是打上很长时间,倘若战斗拖上十天半月,我军就会陷入缺乏粮草的困境。”

众将听罢,恍然大悟,全都为其精到的谋略所叹服。

(顾铭新)

### 虞诩增灶示强

东汉时,虞诩平定朝歌的叛乱以后,名声大振,皇帝就任命他为武都郡(今甘肃成县西)太守。当时正赶上武都郡的羌人反叛,形势很险恶。虞诩没有迟疑,立即走马上任。

赴任途中,羌人得知了消息,便聚集数千人马在陈仓(今陕西宝鸡东)、嵕谷(今陕西宝鸡西南)狙击,企图劫持他。虞诩自知兵单力薄,难以迎敌,便停车不进,就地安营,并对外张扬说:“已上书朝廷,等发来救兵后再往前行。”羌人信以为真,便分兵到附近各县抄掠抢劫,不问虞诩。虞诩见羌兵军力分散,便抄小路日夜兼程几百里,继续奔向武都。

羌人听说虞诩已经走了,赶紧派兵追赶,面对来敌,虞诩沉着地想出个“增灶法”来迷惑敌人。他命令手下人每人各造两个灶坑,次日加倍,再次日又加倍,而且都用烟火熏黑,就象真做过饭似的。另外,每日赶路至



少要走二百里，这也打破了常规，因为按照兵法的要求，军队行军每日不得超过三十里，以防不测。

羌人见到虞诩增灶，弄不清虚实，果然不敢继续尾追了。当大家不解其缘，问虞诩时，虞诩说：“我们听说过当年孙臆用减灶之法诱杀了庞涓之事，今日增灶是同样道理。羌人见我每天都有灶坑增加，必然以为附近郡县的兵马来支援我们。因而不敢贸然追赶。当年孙臆减灶示弱，我今是增灶示强啊，目的都是迷惑敌人。另外敌多我寡，行军慢了就被敌人追上而发现其中奥秘，走得快，就是让敌人摸不清咱们的动向和意图。”

虞诩利用“增灶计”吓退了羌敌，到达了住所。可是虞诩手下可供调遣的部队只有不到三千人，羌兵拥一万余众将虞诩围困在赤亭（今甘肃成县西北）达几十天。虞诩又使用了虚虚实实的战略与敌周旋。

他命手下军士暂时先将射程较远的强弩收起，而用射程较近的小弩射击敌人。敌人果然中计，以为虞诩部众的弩矢都没什么力量，杀伤力很弱，于是放开胆子，增加兵力强攻。这时，虞诩又命兵士取出强弩，集中兵力，每二十支弩集中共射一个目标。于是矢无虚发，一下子就将敌兵射死一大片，羌兵吓了一跳，疾忙引兵撤退，虞诩趁势挥兵出城冲杀，又杀死了不少羌兵。

第二天，虞诩又出新着，他命人马排好队列，从东门出城，绕到北门进城，然后再更换衣服重新出城。如此周而复始，循环往复。羌兵一见，不知城中到底有多少人马，不敢妄动。虞诩估计羌兵不攻便会自退，便暗中派出五百军士，埋伏在羌兵撤退时的必经之路上。羌兵果然大举退兵，虞诩的伏兵半路杀出，又将敌人打得落荒而逃。这样，虞诩善计谋，安定了边寨。

（顾铭新）

## 度尚焚营激军心

汉桓帝时，长沙零陵等地盗贼蜂起，虽大股之众渐被平息，却有余贼卜阳、潘鸿等逃入深山潜伏，避实就虚的四出劫掠，蹂躏居民。

荆州刺史度尚，颇有胆略，招募本地的蛮夷少数民族悍夫，悬赏进讨，很有效果。但卜、潘二贼，仍逃进深山之中，据险固守。

度尚见此情况，便另寻良策，结果，终于想出一个好办法。度尚在公开的场合扬言说：“卜阳和潘鸿二贼，为多年的顽匪，能战能守，现退据险地，仍逍遥于山中。我等军士虽经几番激烈的战斗，未将其驱除，现已相当疲劳。另外，和贼匪深山较量，还是显得兵力不足。为此，我正征调各地兵马前来援助，以达到并力围击之势，方可成功。在此待援之时，各军将士可以多多休息，但不可松懈，还要随时习劳，勤练武功，等到各地兵马聚齐后，才会大举进剿，这所谓一劳永逸之举！”

各军将士听度尚如此传令，无不喜悦，此后，便成群结队四出游猎休息，每日还可以饱食捕获禽兽。

实际上，度尚一刻也没放松自己计谋的实施工作。一天，度尚见兵士倾营而出，四处弋射而营内无人，便密派亲兵潜至各营内，放火烧帐，顷刻间，全营付之一炬。

黄昏时，众军士猎罢回营，无不惊心怵目，叫苦连天，几座营盘化为灰烬，各人平日获得的金银细软都被烧得一干二净。这时，有的人忍不住痛哭起来。正当大家自悔自恨之时，度尚亲自前来慰问，他故意顿足说道：“贼人真是可恶，竟敢乘此营虚而烧帐，本官真是一时疏忽而酿此祸呀。然而，血债要用血来偿，此次损失，定向贼匪算帐。”当他见大家的情绪激昂起来后，又说：“卜、潘两贼所劫获的财物，足当数世，其金银珠宝堆积如山，只要我们奋力一战，便可以全部缴获来。此次损失还是区区之数，不足介意，

这样吧，明天我们出发进剿，保证马到成功，亦保证各人有更大的收获，大家的意见怎样？”各人听罢，皆大声应道：“谨听遵命！”

度尚立即秣马厉兵，天刚刚发亮就全军出发，飞驰抵达贼据守之地。那众贼兵已闻官军放假休息，所以防备松懈。突然间，官军冲杀上来，他们毫无抵抗反击之力。不久，便被杀得四散，卜、潘两个贼首，也被乱刀杀死。因此，荆州之匪乱，迅即平息。

(顾铭新)

### 杨修破字谜

东汉时，上虞女子曹娥从小最尽孝道，在她十四岁那年，其父不幸溺水，曹娥过了十数天后投江寻父自尽。县太令感其壮举，便为其立方石碑，由颖川人士邛郾淳追题了颂辞刻在碑上，人人称此颂为好文章。后来文才冠绝一时的蔡邕路过此碑前，因为黑夜无灯，他只能摸文欣赏，最后深受感动，在碑后写下“黄娟幼妇外孙韭臼”八字后，乘车离去。

有一天曹操与他的文官杨修出行，看到这碑后八字后，曹操问杨修是否明白其中含义，杨修答道：“明白。”曹操因自己未弄明白，便先自阻止杨修不说，于是两人继续前行。这样，默默地前行了三十里路，曹操突然顿悟，对杨修说：“我已得出答案，不过我先写在纸上，等你讲来后再对照。”等曹操写完后，杨修讲道：“前两字‘黄娟’指的是有‘色’的‘丝’，即‘绝’字；‘幼妇’两个字指的是‘少女’，即‘妙’字；‘外孙’是由女儿生出的儿子，所以合并即成‘好’字；‘韭臼’就是‘受卒’（也就是捣碎椒、葱等用的容器），‘受卒’合起来便是‘？’，‘？’与‘辞’古文相通，这答案便是‘绝妙好辞’。”待曹操拿来自己写的“绝妙好辞”相对后，不禁敬佩不已，叹息道：“我和杨修的才智比起来，整差三十里。”

曹操修造相国府，还未竣工，就去观看。曹操临走时，叫人在门上写个“活”字，人们对此猜来猜去，不解其意。杨修来此，看罢

字后，即令木工把门改小。大家问其缘故，杨修说：“门上有‘活’字，即‘门’字加‘活’字，合起来不是‘阔’字吗？这是丞相嫌门太阔啦。”此话传给曹操，曹操捻须大笑。

一天，有客人送给曹操一盒酥糖，曹操吃了几口，见杨修走了进来，就拿起笔在装潢得很漂亮的盒盖上写了“一合酥”三个字，让大家传看。杨修见状，打开糖盒抓起酥糖就吃了一口，并让大家来尝尝。除曹操外，大家个个目瞪口呆：小主簿杨修在大丞相面前竟敢如此放肆，杨修笑着说：“把‘合’字拆开，此三字应读作‘一人一口酥’。”曹操点头称是。

不久，曹操与刘备争夺汉中之地，可一连数月，没能取胜，这天，曹操正在吃鸡胸脯两边的骨头，一位将军前来问今日的口令是什么？曹操顺口说：“鸡肋！”将军虽觉奇怪，但只能照令去传。可杨修便马上动手打起行李来，同时说：“大家赶快准备，丞相马上就会下令撤兵啦。”众人不解，杨修解释道：“鸡胸脯两边的骨头称作‘鸡肋’，啃它没肉，丢之可惜。曹公用‘鸡肋’比作汉中之地不是很合适吗？既然汉中之地啃了这么久没什么收获，只有撤兵了。”

一会儿，传令兵果然传达曹操的撤兵之令。

(顾铭新)

### 班超深入虎穴智勇结鄯善

东汉末年，北方的一个少数民族匈奴，与中原对峙，经常骚扰。为了达到孤立对方的目的，汉明帝一面派大将军窦固率领大军攻打匈奴，一面派班超做汉使，前往西域诸国，去完成朝廷和好西域的重要使命。

班超少年有志，投笔从戎为朝廷屡建奇功，所以，朝廷对他很信任。班超一行三十六人，历经千辛万苦，首先来到鄯善国。开始几天，鄯善王对他们态度很友好，但不久，就变得冷淡起来了。

班超猜想，一定是匈奴也派来人了，对

其施加了压力，迫使鄯善王不敢亲近汉朝。这西域诸国国力虽都弱小，但他们是汉室和匈奴的必争之地，只要他们依附其一，都可使其增加实力。所以，班超决心凭借自己的智慧击败匈奴来使。

一天，鄯善王的侍者来访，班超故作已知地诈问道：“匈奴使者来了几天，现在住在哪里？”这件事本来是瞒着班超等人的，不想班超如此一问，使那侍者毫无准备，惊慌失措，只好把匈奴使者的住址及出使情况说了出来，他说：“他们已经到了三天，驻地离这有三十里。”

班超了解到实情后，立即把那个侍者扣留起来，接着召集部下那三十六个随从商议对策，他说：“我们来到西域，无非是想立功报国。现在匈奴使者才到几天，鄯善王的态度就变了，如果他把我们抓起来送给匈奴人，那我们的尸骨也不能回乡了，你们看怎么办？”大家听罢都说：“如今到了紧急关头，我们都听从您的指挥！”班超听罢，坚定地说：“好！不入虎穴，焉得虎子。当今之计，只能是趁着黑夜去火攻匈奴人，使他们摸不清咱们是多少人，他们一乱，我们就把他们全部收拾掉，这样，鄯善王才会对汉朝友好。”随员中的从事官郭恂，见是动武，忙说：“此事还应从长计议。”班超大怒，说：“成败只在今夜，不然若让匈奴人抢了先手，我们不但不能建功立业，还得白白送死。”此时，大家统一了意见。

是夜，狂风大作，飞沙走石。班超率领众人偷袭了匈奴使者的营地。他让十个人擂鼓呐喊，制造声势，其余人先放火烧帐，然后仗刀赤膊杀了进去。一时间，匈奴营帐大火熊熊，鼓声、喊杀声响成一片。匈奴人从梦中惊醒，到处乱窜，而班超等壮士箭射刀劈，尽意砍杀，不多时，这匈奴百余人马尽被班超等烧杀而死。

天明，鄯善王闻报而前来，当他见到的都是些匈奴使者的首级后，被吓得面如土色，慌忙叩头谢罪。班超乘机劝其与汉朝建立友

善关系，鄯善王连连点头称是。为了表示诚意，还把他的儿子送到洛阳去做人质。

班超声震西域，于是被升为军司马，西域都护。此后数十年，西域安无战事。

(顾铭新)

## 三国谋略实例

### 王司徒巧使连环诛董卓

董卓在长安把持朝政，残害大臣，任人唯亲，又筑起郿坞以为别墅，屯积粮草、财宝，狂妄自大肆意恣行，祸乱朝纲。众人一时敢怒而不敢言，皆屈服于董卓的淫威之下。

司徒王允忍受不了董卓的暴虐，想要除掉董卓，却一时不知如何下手。一天晚上，王允欲睡无眠，便趁着夜深月明来到后花园中，忽听有人在牡丹亭畔长吁短叹，走近一看，原来是他视若亲生女儿一般的家中歌伎貂蝉。王允询问她叹息的缘由，原来是貂蝉看到王允近来愁锁双眉，知道他心中正为国家大事担忧，可恨自己身为女子，不敢过问国家大事，只能替王允着急，因此，长吁短叹。听了貂蝉的解释，王允心思一动，思考已久的除董卓之计当下便有了。他忙将貂蝉请入书房，叩头便拜说：“百姓有倒悬之危，君臣有累卵之急，唯你方能解救。奸臣董卓想要篡位自立，依仗其义子吕布的骁勇，肆意妄为。朝中文武大臣慑于淫威，无计可施。我看董卓与吕布都是好色之徒，因此想用连环计离间他父子。办法是先把您许配给吕布，然后送与董卓，您从中取便，挑拨他父子反目，让吕布杀死董卓。这是国家大事，拯救汉室天下就只能倚仗您了，不知您是否愿意？”貂蝉当即答应，说：“宁死于万刃之下，也要报效国家大义。”

第二天，王允将家中所藏的数颗明珠镶入一顶金冠之中，派人送与吕布。吕布大喜，前来致谢。王允盛办美酒佳肴款待吕布，并

称赞吕布是天下英雄，无与伦比。吕布心中更是得意洋洋。酒至半酣，貂蝉浓妆艳抹，款款而入。王允命貂蝉给吕布斟酒，貂蝉一边斟酒，一边暗送秋波，挑逗吕布。王允就势说：“这是我女儿貂蝉。我想把她送给将军为妾，不知您是否愿意接纳？”吕布早已为貂蝉的美色所动，便离席拜谢说：“如果这样，吕布甘愿为司徒效犬马之劳。”王允说：“既如此，过几天选一个良辰吉日送到您的府上去。”吕布欣喜无限，再三拜谢而去。吕布这一环扣上了，接下来便是以另一环扣董卓了。几天以后，王允又请来董卓，旧戏重演，只是当即将貂蝉送到董卓府上。

王允返回时，正遇上吕布乘马执戟而来。吕布质问王允：“你既已把貂蝉许配与我，为何又送给了太师？”王允说：“是太师知我将女儿许配与你，特意接貂蝉过去给你们完婚。”吕布信以为真。第二天早晨，吕布找董卓打听婚事，正遇上董卓与貂蝉起床。貂蝉见吕布，以手指心，又以手指董卓，挥泪涟涟，意谓董卓强占了她。吕布心如刀绞。

王允巧使连环计，董卓、吕布二人都被蒙在鼓里。吕布以为董卓夺己之妻，董卓以为吕布勾引爱妾，两心愤恨日增。一次董卓上朝，貂蝉故意引诱吕布到凤仪亭私会。董卓发现后大怒，投戟刺吕布，吕布仓惶逃跑。貂蝉则向董卓哭诉吕布如何调戏她。董、吕二人遂成仇敌。

不久，董卓回郿坞，王允佯装不知吕布婚事之变，出言询问，引起吕布冲天怒气，拍案大叫：“誓杀董卓老贼！”王允见他心意已决，便劝他诛杀董卓，立功天下。吕布慨然允诺。公元192年4月，王允与吕布等人密计，以皇上有病为名召董卓回长安，趁董卓上朝之机，伏兵杀死了董卓。一代奸雄，死于司徒王允的连环计下。

（王子屹）

## 吕布辕门射戟息争斗

吕布是三国时期以骁勇著称的战将，但他曾辕门射戟调停了刘备和袁术的争斗，为世人留下了一则善用智谋的事例。

吕布与刘备本有矛盾，当刘备驻守下邳城时，收留了败于曹操的吕布。但刘备对吕布内怀疑惧之心，因而不允许他在下邳停留，而让他在下邳城外的小沛驻扎。后来，刘备同关羽从曹操东击袁术，让张飞和下邳相曹豹镇守下邳。张飞平时就爱狂饮，常常烂醉如泥。曹豹是陶谦旧部，认为得不到信任，和张飞自然离心离德。吕布遂乘机袭取了下邳。刘备回来后，吕布感念刘备当初收留他，无论如何总是有恩，因而没有赶尽杀绝，他打发刘备驻守小沛，双方换了一个位置，那种表面的盟友关系总算没有撕破。

袁术为了报复刘备，派大将纪灵等人领兵三万进攻刘备的小沛。刘备兵微将寡，只好求救于吕布。吕布的部将都说：“将军您这次可借袁术之手杀刘备，以遂人愿了。”吕布却说：“不能这样做。因为袁术如果攻破了小沛，我们便在整个形势上落入袁术的包围圈中。到那时，我军亦必败无疑。”吕布深懂唇齿相依，唇亡齿寒的道理。他知道，自己和刘备的兵力都太少了，在强敌环伺的情况下，如果不能并对方之力于己，就只能互相依持，互相援助，绝不能让外人吞并对方的兵力城池，否则，自己的劣势就会更加明显。因此，吕布趁纪灵与刘备尚未交兵之机，派出了一千步兵、二百骑兵以作声援，使纪灵不敢轻举妄动。

另一方面，吕布与袁术亦曾有过交情。吕布袭取下邳，便是在袁术的怂恿下干的，袁术以二十万斛军粮、五百匹战马作为吕布袭取下邳的交换条件。在这种情况下，吕布既要援助刘备，又不想与袁术闹翻，就成为一个难题。但是，处于这种两难境地的吕布却想出一个能够完成意愿的高明计策。他前往纪灵兵营，在宴席上趁机对纪灵说：“刘备

是我的兄弟，他被你们包围，所以我赶来相救。但是我一向不愿意争斗，只喜欢替人调解争斗。我想为你们两家调解，让双方息兵。”然后，吕布同时邀来纪灵和刘备，御守兵营大门的军士在辕门举起一只戟，吕布笑着对他们说：“我劝你们两家讲和，又怕你们不信服，那就让我们都相信天意吧。如果天意让你们息兵，谁也不要违抗。那戟距离这儿大概有一百几十步吧，你们看着，我要箭射戟的小枝。如果一箭射中，我希望两位撤兵而去；如果射不中，两位就准备决战，我就不再干预了。”刘备、纪灵表示同意。话毕，吕布举弓射戟，正中小枝，一场迫在眉睫的大战遂告停止。

吕布以天意为名，平息了袁术和刘备之间爆发在即的一场争斗。实际上吕布深知自己的箭术，他的辕门射戟是一种既能救助刘备，又不伤袁术的高妙之计。

(王子屹)

### 荀彧献计奉迎天子

公元196年，颠沛流离中的汉献帝北渡黄河，东临洛阳，希望今后生活安宁，别再四处流浪，就改年号为建安，定居洛阳。这一年即建安元年。

曹操与诸将商议奉迎献帝至许都一事。多数人不同意迎接献帝，理由是山东之地尚未平定，韩暹、杨奉等人又刚把献帝护送到洛阳，献帝身边的一些武将也不好挟制。唯独荀彧对曹操说：“春秋时期，晋文公迎奉周襄王，天下诸侯便如翼般地影从他；奉朝末年，汉高祖为义帝发丧佩孝，而天下之人皆归心于他。近年来董卓作乱，皇上蒙难，是将军您首先起义兵，只是因为山东之地一直战乱频仍，所以您才未来得及远赴关右，赴天子之难。可是您仍然派使者冲破重重阻碍，冒险与天子音信相通。这说明，您虽然身在京城以外，而心却无时不在王室之中，这是您长期以来匡扶天下的大志。现在天子已转回到了洛阳，洛阳却已荒芜不堪，这正

是您取义于天下，辅佐皇帝，使百姓感念的大好时机。这时您如奉迎皇帝至许都，一可以顺从民望，使百姓服从您，二可以借辅佐皇帝之机，使天下雄杰顺服；三可以取义于天下，使英杰才能之士前来投效。如此，即使有人斗胆冒犯您，也没有什么了不起。至于说韩暹、杨奉等人，他又怎么敢与您作对呢？如果您现在不趁机定大计，失去了这个机会，以后即使再想奉迎，恐怕也来不及了，因为他人也必定有意于此。”曹操听后，依从了荀彧之言，率兵至洛阳，将献帝迎至许都。

其实，在此之前，当献帝还在安邑时，袁绍的谋士沮授就曾向袁绍进言：“把皇帝迎来，也把首都定在邺城，可以挟持天子以号令诸侯，征讨不服从命令的州郡。迎来天子，既名正言顺，又可成大业。请袁将军千万别错过这个大好时机。”袁绍另外的两个部属郭图、淳于琼却极力反对说：“汉朝的气数已尽，四方豪杰并起，强者就可以称帝。迎来皇帝，事事向他请示。听皇帝的就没了自己的主权；不听皇帝的就要遭到别人的诽谤。”袁绍是一个在关键时刻缺乏决断的人。正在此时，东郡太守臧红背叛了他，袁绍就决定先讨伐臧红；打败臧红后，又派兵去打公孙瓒。这样就把迎接献帝的事耽误了。袁绍哪里想到，这是他的不可挽回的战略失误。

曹操不同于袁绍，他雄才大略。当初毛玠给曹操提出的战略方策是“奉天子以令不臣，修耕植以蓄军资”。荀彧献计，曹操当机立断，奉迎天子，实现了他战略方策的第一步。奉迎天子，给曹操未来的政治军事生涯带来了巨大的好处，使他可以挟天子以令诸侯，处处以国家正统的身份出现。

(王子屹)

### 郭嘉“十胜十败”论曹、袁

公元196年，曹操奉迎献帝到许昌，势力壮大，当时能和曹操抗衡的只有河北袁绍和江淮袁术。相比之下，曹操最担心的是北边的袁绍。袁绍不仅自己盘踞冀州，而且封

长子袁谭为青州刺史，次子袁熙为幽州刺史，外甥高干为并州刺史，他控制着冀、青、幽、并四州，兵精粮足。而曹操虽然挟天子以令诸侯，但毕竟只占据着兖州、豫州，地狭兵弱，虽早有讨伐之心，终不敢轻易进攻。

公元197年，袁绍欲攻曹操，寄书曹营，语多傲慢，曹军上下极为恐慌。这时，谋士郭嘉向曹操献策。郭嘉对比了曹、袁两家十个方面的优劣形势，指出曹操必胜，袁绍必败。

郭嘉说：“古往今来，谁胜谁负并不全取决于兵力的多少，还要看他们是智是愚。汉高祖和楚霸王谁强谁弱？结果是谁存谁亡？这您是清楚的。据我看，曹公有十胜，袁绍则有十败：袁绍繁礼多仪，而公体任自然，此其一；袁绍割据逆行，而公挟天子令诸侯，此其二；袁绍过于宽柔，而公刚柔相济，此其三；袁绍用人多疑，专用私党，而公选贤任能，唯才是举，此其四；袁绍多谋少断，屡失良机，而公随机应变，处事果断，此其五；袁绍高谈阔论，沽名钓誉，而公待人至诚，以实求实，此其六；袁绍专注眼前，忽略长远，而公不计眼前一时一事，于大事考虑周详，此其七；袁绍大臣争权，互相攻讦，而公以真理驾御臣下，上下团结，此其八；袁绍不辨是非，赏罚不公，而公洞察优劣，升降得当，此其九；袁绍纸上谈兵，枉自尊大，而公用兵如神，以少克多，此其十。曹公，这十强十弱，已经决定了未来的胜负。”

曹操听了郭嘉如此透彻的分析疑虑顿消，重负立释，他说：“按照你的分析，袁绍失败，我们胜利是必然的。只是你对我过誉了。”郭嘉说：“现在袁绍正在同公孙瓒决战，我们应该乘机把东边的吕布除掉。否则，将来我们北伐袁绍时，吕布再次袭击我们的后方，则为害不浅。”曹操依郭嘉之言，东征徐州消灭了吕布。后来曹袁鏖兵，在官渡之战中，曹操果然以少胜多，大败袁绍。胜负结局，果如郭嘉所料。

郭嘉，字奉孝，颍川阳翟人。最初，他

投到袁绍手下任职，发现袁绍难成大业后，毅然离开袁绍，回到颍川。荀彧便向曹操推荐了郭嘉。郭嘉向曹操进献“十胜十败”策，曹操相见恨晚，竟慨然叹道：“使我成大业者，一定是郭嘉！”曹操上表举荐郭嘉任司空军祭酒之职，并一直把他留在身边为自己出谋划策。以后，郭嘉又在曹操的关键时刻，多出奇谋。公元207年，即建安十二年，郭嘉随曹操北伐，在班师途中因不服水土而患病，到达易城后病逝，年仅三十八岁。郭嘉死后，曹操曾多次为之痛哭，最重的一次，是在赤壁大战之后。曹操从华容道侥幸脱险回到南郡，大将曹仁为他置酒压惊，众谋士俱在座前，曹操突然仰天大哭，众人不解，曹操边哭边说：“我哭郭奉孝啊！若是奉孝还在，绝不至于使我遭此大难！”说罢，又捶胸大哭，连呼三声：“哀哉，奉孝！痛哉，奉孝！惜哉，奉孝！”

郭嘉的“十胜十败”之议，为三国时期著名对策之一，几与诸葛亮之“隆中对”齐名。后人有诗赞郭嘉：“天生郭奉孝，豪杰冠群英，腹内藏经史，胸中隐甲兵。运谋如范蠡，决策似陈平。可惜身先丧，中原梁栋倾。”

（王子屹）

## 荀攸谋划猛进急攻擒吕布

建安三年（公元198年）秋，曹操决定东征吕布。吕布，原本是并州刺史丁原的部将，后卖主求荣，杀丁原投靠董卓，又杀董卓依附王允。再后先是依靠刘备，不久又与袁术勾结，赶走刘备，占据徐州。至此，吕布与袁术沆瀣一气，相互勾结，对抗曹操。

对于东征吕布，曹军内部有不同意见，认为刘表、张绣在后，远征吕布，恐怕危险。荀攸不同意这样的看法，他说：“刘表、张绣刚受打击，势必不敢再动。吕布骁猛，又仗恃袁术相助，如果任他纵横于淮水、泗水之间，一些豪杰必响应。现在乘他刚刚反叛，众心不一之时，前去攻打，一定能够成功。”曹操认为荀攸的分析极是，连连称赞，便于

这年的秋天亲率大军东讨。十月，攻下彭城，吕布退保下邳。

此时，吕布的谋臣陈宫认为：曹军远来，势不能久，一俟曹军粮尽，我们可以出城攻击。于是，吕布率将士死守下邳。任曹军猛攻，两月将近，下邳坚固无摧。曹操见下邳久攻不克顿生烦恼，加之将士疲惫，粮草短缺，就准备班师回许都，再作打算。

荀攸作为军师随军出征，日夜筹划军机，今见下邳易守难攻也很焦急。在听说曹操要在这个关键时刻撤兵时，忙劝曹操说：“吕布有勇无谋，现在连吃败仗，锐气早已衰竭。三军以将为主，主将气衰则军队无奋斗之志。陈宫虽有智谋，但划策迟缓。至此，吕布气衰未复，陈宫谋划未定之际，我军若一鼓作气，猛进急攻，则下邳城可拔、吕布可擒，退兵不是上策。”曹操听之，遂率军继续围城猛攻。随后，荀攸察看了地形，又谋一计：水攻。即挖决泗水、沂水，淹灌下邳城。曹操攻城难克得此妙计，喜出望外。立即引沂、泗河水，滚滚冲向下邳城，下邳城无法阻挡水浪的冲击，顿时被泡在数尺深的大水中。城中军民见已无生路，遂无心守城，各自逃命。此时，吕布的大将侯成等为死里逃生，发动兵变，缚陈宫等投降曹操。吕布见大势已去，只好在下邳城的白门楼束手就擒。

曹操在白门楼上召集文武官员处置吕布。尽管吕布此次又表示愿降，哀求饶他一命。但曹操想起他反复无常，十分可憎，下令把他绞死。陈宫等主将亦被枭首。

吕布败死后，曹操便控制了黄河以南的大片地区，成为与黄河以北的袁绍相抗衡的重要力量。曹操取得围攻下邳城的胜利，正是荀攸谋划的结果。

(王子屹)

## 二荀官渡之战献良策

公元200年春，兵多将广，实力雄厚的袁绍亲率十余万冀州精兵，进抵黎阳。他遣

大将郭图、淳于琼、颜良渡黄河，围攻黎阳隔河对峙的白马城。

曹操得知白马城被困的消息，就想率军北上，欲解白马之围。但兵围白马本为袁绍布军的一着妙棋，欲以吸引曹军主力，然后以黎阳大军发起进攻，毕其功于一役。当时，曹操兵少粮缺，自知不足以迎战，一时难作决策。这时，谋士荀攸献计说：“敌众我寡，直接北上救援于我们不利。我军兵少，不可力战，只能设法分开袁军的兵势。您可引兵到延津，作出要渡河袭击敌军背后的样子，袁绍必引兵去对付。这时您却以轻兵袭白马，出其不意，攻其不备，必能获胜。”曹操采用荀攸之计。袁绍果然上当，主力沿黄河北岸西移，围攻白马的袁军孤悬于黄河之南。曹操立即以最快的速度挥师白马，颜良大惊，仓促应战，被曹军所杀，袁军溃败，白马之围遂解。

然而，形势依然对曹操不利，死守白马无异于坐以待毙。曹操审时度势，乃放弃白马，转移军民沿黄河西上。袁绍命令全军渡河，西追曹操。在延津南面，曹操又用计大破袁军，斩袁绍大将文丑。

两战胜利后，曹操进军官渡，袁绍进军阳武，在东西数十里的战场上连营相抗。几次交战下来，曹操的兵力太少处于劣势，就撤兵回营，避而不战了。袁绍势盛，进临官渡，摆出一副决战的架势。他看到曹军缩进营寨，就命令军士们在曹营外堆置土山，山上建高台，令军士登高箭射曹操大营，矢如雨下，曹军往来兵将皆需盾牌掩护，曹兵大惧。曹操死守官渡，袁绍围攻官渡，两军相峙于官渡。时间已近秋末冬初，曹操自知兵少粮缺，将士们东征西讨，南攻北战，都很困乏，深怕和袁绍相峙太久会失败，曹操意欲撤兵回许都，乃致书留守许都的荀彧问以对策。荀彧回书说：“袁绍兵力全部汇集官渡，要与您一决雌雄，这是事关天下安危的紧急关头，如果您不战胜袁绍而自动撤军，袁绍的大军必然乘机追袭。以袁绍兵力之



众，到那时恐怕无人能拦住袁绍的南下了。现在您军粮虽少，但危险之程度还比不上项羽、刘邦在荥阳、成皋的争战。当时，刘邦和项羽在那么危急的情况下都不肯首先退兵，为什么呢？先退兵者，在气势上便输给了对方。现在，您以敌人五分之一的兵力，占据官渡而守，扼住了敌人进兵的咽喉要道，相峙已有半年之久。从情势上看，敌人已经疲惫不堪，不久必将有变。这正是出奇制胜的绝好机会，不可丧失。”曹操听取了荀彧的意见，坚持下来，袁绍军中果然生变，袁绍的谋臣许攸投降曹操并劝曹操兵袭袁绍的护粮将官淳于琼等人以动袁军之根本，曹操终于大败袁绍。袁绍、袁谭弃军渡河而去，袁绍大军于是崩溃。自此以后，曹操与袁绍的对抗强弱易势，曹军终于成了中原一带势力最强的力量。

(王子屹)

### 徐庶试主

徐庶，字元直。是东汉末年以才智闻名的奇士。在汉灵帝的时候，徐庶因为一个朋友报仇而杀了人，杀人之后，涂面披发而走，虽然被官府捉住，但因为他形容已变，所以无法弄清他的真实身份，不得定罪。后来，同伴们将他设法救了出来。从这时起，徐庶潜心学习，遍求名师，学业大有长进，与南阳司马徽、庞士元、诸葛亮等人齐名。

当刘备到了新野之后，徐庶听说他贤明，便前去辅佐。徐庶在街头长歌，刘备偶听歌声，便感到不俗，于是，便约徐庶于府内，以礼相待。此举正中徐庶之意，为了了解刘备究竟是不是礼贤下士之人，徐庶见到刘备之后，先是隐瞒了自己的姓名，再寻机试探刘备。

一次，徐庶对刘备说：“我想为明公看一下坐骑。”刘备听罢，随即命人把他所骑的骏马牵了过来。见后，徐庶故作惊讶地说：“这不是的卢马吗？此虽然是一匹骏马，但是却妨主人，不能骑它。”刘备笑道：“死生乃是命

里注定，这与马没什么大关系。如果它真的妨主的话，那么前些时候我在檀溪遇险的时候，它就应该妨我了，然而，事实上我却凭它脱了险，这又作何解释呢？”徐庶听刘备这样一说，转过话头道：“这是救主，并不是妨生。不过我说的意思是，这匹马终究要妨一个人，或许是您，然而，我可以为您想一个办法来避开它。”刘备感觉到徐庶要说什么，忙问：“你有什么办法？”徐庶回答说：“您如果有平生痛恨的人的话，可以把这匹马送给他骑，等到妨过他之后，您再索回骑它，就没有事了。”刘备一听这话，很不满意地说：“先生刚刚来此不久，我很希望先生能够告诉我世间的道理，而你现在却教我如何害人，我着实不敢奉教。”话到此时，使徐庶心中托了底，他试探刘备的目的已经达到后，连忙笑着说：“过去我常听人们传说使君明仁，但我一直未敢相信，今用坐骑妨人之事试之，您果然名实相符，请受我一拜。”接着，徐庶向刘备道出了自己的真名实姓，刘备大喜，忙交拜，视上宾，畅谈国事。

此后，徐庶与刘备每每交谈时，他总是在精细地分析过时局之后，为刘备谋划出了很多良策，刘备见徐庶足智多谋，很有才干，便拜他为军师。后来，曹操以捉拿了徐庶的母亲相要挟，逼迫徐庶离开刘备。不得已，徐庶只好离开刘备，在临行时，向刘备推荐了隐居隆中的诸葛亮。

(王子屹)

### 曹操假手刘表除弥衡

弥衡，字正平，三国名士。孔融向曹操推荐弥衡，说他“品质高尚，英明有才，见善如友，嫉恶如仇，象一只羽毛美丽而又勇猛的鱼鹰。”曹操听孔融如此称赞弥衡，就使人召来弥衡。

曹操本来一向礼待文士，而这次召见弥衡却有些轻慢。弥衡来到，曹操并没有起身让坐，弥衡遂仰面感叹：“天地虽阔，何无一人也！”曹操说：“我这许都城里，贤才云集，



我手下有数十人，皆当世英雄，何谓无人？”当曹操列举他手下的荀彧、荀攸、郭嘉、程昱等十余名人物后，弥衡却大笑说：“此等人物，吾尽识之。荀彧可使吊丧问疾，荀攸可使看坟守墓，程昱可使关门闭户，郭嘉可使白词念赋，张辽可使击鼓鸣金，许诸可使牧牛放马，乐进可使取状读诏，李典可使传书送檄……其余皆是衣架、饭囊、酒桶、肉袋耳！”弥衡的讥讽挖苦，气得荀彧、张辽等文官武将咬牙切齿。曹操更是怒火中烧，可是他却不露声色地说：“我正少一鼓吏，可使弥衡充任此职。”

第二天，曹操大宴宾客，便令弥衡击鼓。弥衡不穿鼓吏服装，穿一身旧衣上堂，拿起鼓槌便击。原先的鼓吏告诉他击鼓要换新衣，弥衡索性当众脱下衣裤，裸体赤膊而立，弄得满室宾客掩面回避。曹操说：“庙堂之上，何太无礼！”弥衡却说：“欺君罔上乃谓无礼。吾露父母之形，以显清白之体耳！”接着，弥衡乘机大骂曹操不识贤愚，心怀篡逆等等，大闹了一场，使曹操丢尽了面子。

曹操尽管心中愤怒，但却考虑到，弥衡毕竟是当今名士，如今他当众触忤了自己，如果就此把他杀掉，举国尽知我不能容人，反而成全了弥衡杰傲直言的美誉。于是，曹操委以使命，让弥衡出使荆州，说：“你能说得刘表归顺，就封你公卿之位。”其实，曹操明知，刘表昏庸无能，弥衡更不会把他放在眼里。弥衡此去，成则有益于己，败则自取其咎。

弥衡到了荆州后，果然，对刘表也居傲不恭，语多讥讽。刘表手下的人也愤愤然要杀掉弥衡，但刘表却说：“弥衡多次羞辱曹操，曹操不杀他，就是害怕承担嫉才害贤之名。所以想借我的手杀掉他！让我蒙此恶名。”于是，刘表又学曹操的做法，派弥衡作为自己的使者去见江夏太守黄祖。弥衡秉性难改，到了江夏，仍旧轻慢黄祖。黄祖乃一勇之夫，又性情暴躁，盛怒之下，挥剑杀了弥衡。弥衡死时，年仅二十六岁。

弥衡恃才傲物，故为乱世所难容。曹操对弥衡虽恨而不杀，智虑堪称奸狡；刘表一向昏弱无能，于此事却能识破机关而不上当。曹操本欲假手刘表除弥衡，结果愚夫黄祖却充当了“借刀杀人”奸计中的屠夫。

（王子屹）

## 刘备三顾茅庐请诸葛

诸葛亮，字孔明，原为琅琊郡阳都人。父母早逝，他随叔父诸葛玄躲避战乱来到荆州。叔父去世以后，长兄诸葛瑾被孙权请去做官，他和三弟诸葛均均在襄阳城西二十里外的隆中隐居。他平素喜欢吟诵《梁父吟》诗，借以鸣志。他身高八尺，胸怀治国韬略，常常把自己比作春秋战国时期的著名将相管仲、乐毅。一般人都都不相信他真有那样才能，只有博陵人崔州平、颍川人徐元直与他交往颇深，认为他确有管仲、乐毅之奇才。

当时刘备已被曹操赶得走投无路，公元207年，刘备依附荆州刘表，屯兵于新野小县。这时，徐庶向他推荐了诸葛亮。刘备让徐庶去召请诸葛亮前来相见，徐庶说：“此人只能前往拜见，不可委曲他前来。”劝刘备应当屈尊前往拜见。

刘备听从徐庶的劝告，备下礼物，与关羽、张飞等兄弟三人同往隆中拜访诸葛亮。

第一次去，只见到守门童子，刘备自报身份、名号，说：“汉左将军宣城亭侯领豫州牧皇叔刘备特来拜见先生。”而童子却说，诸葛先生清早便已外出，他踪迹不定，不知去往何处，什么时候归来也说不定。刘备只好失望而归。

第二次前往拜访，是在数日之后。刘备使人探查，回报说诸葛亮确已回家。刘备便叫备马立即前往，当时张飞却不太耐烦，说：“量一村夫，何必哥哥自去，使人唤来便是了。”刘备呵叱他说：“孔明乃当世大贤，岂可召乎！”执意亲身前往。时值隆冬，北风呼啸，大雪飘飘。刘备一行人顶风冒雪来到隆中卧龙岗，哪知在家的确是诸葛亮之弟诸葛均，

又未得见。无奈，刘备便要来纸笔，亲手写下一信，说：“刘备久慕先生高名，两次前来拜见，都未遇而空回，无限惆怅失望。”信中恳切陈述了自己忧国忧民和仰望诸葛亮大才之心，表达了再来求见的愿望。

第三次拜访，是在转年春季。拜访前，刘备选择吉期，斋戒两日薰沐更衣，并用古代齐桓公及周文王敬贤之事开导关羽、张飞。刘备此次前往，诸葛亮在家，但守门童子却说先生在草堂上昼寝未醒。刘备不忍打扰，不让通报，拱立阶下耐心等待。一个时辰之后，诸葛亮终于起身下堂，接待了刘备。

刘备三顾茅庐，终于感动了二十七岁的诸葛亮。就在茅舍之中，诸葛亮审时度势，高瞻远瞩，向刘备陈述了自己对天下形势的看法，并为刘备谋划了南取荆州，西据巴蜀，联吴抗曹，三分天下，进而一统天下的决策。刘备闻言，顿首拜谢不已，并诚心恳请诸葛亮出山相助，以致泪沾袍袖，衣襟尽湿。诸葛亮感其至诚，同意出山。

诸葛亮当即与刘备同归新野，刘备待诸葛亮如师，食则同桌，寝则同榻，朝夕请教，并委以重任，拜为军师。诸葛亮也未负刘备三顾茅庐礼待之恩，终于辅佐刘备，先取荆州，后夺西蜀，建成王业。刘备对诸葛亮的至诚礼遇，诸葛亮永志不忘。直到二十一年后，刘备已死，诸葛亮在给刘禅上书要求北伐的《前出师表》中还言及此事说：“先帝不以臣卑鄙，猥自枉屈，三顾于草庐之中，谄臣以当世之事，由是感激，遂许先帝以驰驱。”到诸葛亮病逝五丈原前三年，又在其《后出师表》中写下那句感人名言：“鞠躬尽瘁，死而后已”。可见诸葛亮对刘备三顾茅庐的知遇之恩，感怀何深。

(王子屹)

## 曹操明退暗进北定乌桓

三国时，乘天下大乱，北方以游牧射箭为生的少数民族乌桓破幽州，掠其汉民十余万户。公元207年，曹操为了统一北方，决

定发兵攻打乌桓。

五月，兵至无终。正值夏季雨多水大，沿海的道路无法通行，乌桓又派兵马扼守了其他的路径，军队难以前进，为此，曹操忧虑重重。田畴献计说：“此路，夏秋常有水患，我们莫不如先撤离无终，给乌桓人以我军受阻而退的假象。待他们放松戒备之时，我们再东出庐龙口，越过白檀之险，入敌兵空虚之地，路近而便利，趁其不备而袭击，他们必败无疑。”

曹操依计行事。并命人沿途在树木上刻字：“如今大暑，道路不通，待到秋冬，我军复来。”乌桓的骑兵见此，果然对曹军退去深信不疑。然而曹操却令田畴的乡众为向导，率军上徐无山，劈山填谷五百余里；大军经白檀，过平冈，穿鲜卑庭，直逼柳城。

最终，乌桓人还是发现了曹军的企图，于是，蹋顿和袁尚兄弟，以及辽西单于楼班、右北平单于乌延等，率领数万骑兵猛扑过来。在白狼山附近，两军对峙。由于乌桓兵马来势迅猛，士气很盛。而曹操的辎重在后，所率兵士多是轻装，且与敌军在数量上不成比例。因此，伴随曹操的臣将不免有些畏惧。

曹操虽知形势危急，但镇定自若。他登高远眺，见敌阵不整，料知缺乏统一指挥，各部之间难于协调作战，不禁心中大喜。遂果断下令，张辽为前锋，率众兵猛击敌军。敌军各部果然自顾不及，皆溃不成军，大败而逃。此仗，乌桓单于蹋顿被斩，乌桓及汉卒降者二十余万众。

战败了的辽东单于速仆丸凡和袁尚兄弟投奔了辽东太守公孙康，曹操的部将都主张立即发兵攻击，定能擒住袁氏兄弟。曹操说：“何需动用兵马？我要让公孙康将袁氏兄弟的首级送来。”此后，曹操不但没有进军，反倒退还柳城。不久，又率兵返回。果然，公孙康送来了袁氏兄弟的首级。

众将对此事都疑惑不解，便向曹操问其原委。曹操说：“公孙康向来畏惧袁氏兄弟，

我如果当时急于动兵，他们就会合力抵抗，我如果按兵不动，他们就会彼此相图；势在必然啊！”

至此，曹操平定了多年引发局部战争的北部乌桓，且又消灭了袁绍的部分残余势力，基本上统一了北方。

(王子屹)

### 诸葛亮茅庐谈大计

刘备自从起兵以后，处处寄人篱下，先后投靠过公孙瓒、曹操等，一直在别人的刀尖剑影中求生存，长期未能形成强有力的割据势力。公元207年，刘备又到荆州依附刘表，屯兵于新野小县。徐庶有感于刘备的深情厚意，向他推荐了当时隐居于襄阳城西二十里外的隆中山里的诸葛亮，说他是人中之龙，劝刘备亲自屈驾迎请。刘备三顾茅庐，终于感动了二十七岁的诸葛亮。就在茅舍之中，诸葛亮审时度势，高瞻远瞩，向刘备陈述了自己对天下形势的看法，并为刘备谋划了三分天下的策略。

诸葛亮说：“自董卓作乱以来，群雄并起，争夺天下，占据几州几郡的人不可胜数。曹操与袁绍相比，名望和实力都不如袁绍，但曹操还是战胜了袁绍，这不只是因为曹操得了天时，也是他充分谋划的结果。现在情况已渐趋明朗。当今曹操已拥有百万之师，挟天子以令诸侯，虎视天下，确实难以与他争锋。孙权占据着江东，已经历了三代，地势险要，民心归附，根基稳固，又能举贤用能，只能与之联合，不可与之为敌。荆州一带，北边直达汉水、沔水；南边一直到南海，丰富的资源都可以利用；东边连着吴郡、会稽；西边通向巴郡、蜀郡。这是一个英雄用武之地，但是，它的主人刘表却不能自守，这大概是皇天赐奉给您的厚礼吧！您对荆州是否有意呢？还有益州，地势险要，易守难攻，又拥有千里沃野，号称天府之国。汉高祖凭借它终成帝业。但是，现在占据益州的刘璋却昏庸懦弱，北面又有张鲁的威胁，虽然民

殷国富，可他却不知存养抚恤，那里的有智之士皆想得一位明君。将军是汉室宗亲，信义布于海内，如能占荆州，据天府，凭借险阻，友好地对待西方的戎人，抚恤南方的蛮夷，让他们安定下来，对外结交孙权，对内治理好行政。待形势一变，即出荆州之兵，直向宛城和洛阳，发益州之军，北出秦川。如此，则霸业可成，汉室可兴。”

接着，诸葛亮又指着一幅自己绘制的地图说：“将军，您如果想建立霸业，就应当先取荆州为根据地，再占益州建立霸业，和北方的曹操、东方的孙权，形成三足鼎立的局面，然后再伺机出兵，夺取中原，一统天下。”

诸葛亮的一番精辟宏论，令刘备茅塞顿开。刘备请诸葛亮出山辅佐他。从此，诸葛亮成为刘备的股肱之臣。刘备说：“我之得孔明，犹鱼之得水。”

诸葛亮的宏图远略，被称为“隆中对”。这是一场留传史册，人们千古传颂的谈话。

正如诸葛亮在隆中所言，此后，刘备联合孙权，火烧赤壁，占据了荆州，又西占陇蜀，后来天下果然三分，最后诸葛亮又数次北伐中原，只可惜出师未捷身先死。

诸葛亮的“隆中对”，是三国时期最著名的对策。

(王子屹)

### 诸葛亮激将说孙权

公元208年，即建安十三年，曹操征服荆州，刘备仓惶逃奔夏口。在夏口从鲁肃那里得知，东吴孙权曾有意与刘备联合抗曹。这正合诸葛亮隆中对策的主意和时下的形势。当即议定：诸葛亮代表刘备，同鲁肃一同去面见孙权，劝说孙权，孙刘两家联合抗曹。

当时，孙权兵聚柴桑，对曹操的进兵是战是降一直犹豫不决，想观望曹刘的胜败之后再作决定。诸葛亮见到孙权，说：“现正值天下大乱之际，将军您起兵据有江东，我主刘备募兵江南，与曹操共争天下，逐鹿中原。

现在，曹操已基本平复北方之乱，遂而南下破了荆州，威震四海，致使刘备英雄无用武之地，逃遁奔命。将军您当此紧急关头应该慎重从事，量力而行。如果您认为吴越之众足以与曹操抗衡，则应及早与曹操决裂，布兵相拒；如果您认为不能与曹操相抗，则应尽快弃甲罢兵，归降曹操。现在，您外表上服从曹操，内心中又犹豫不定，在危急关头作不出决断，大祸恐怕就要临头了。”孙权说：“按你的说法，刘豫州为何不归降曹操呢？”诸葛亮知道孙权本不想投降，却又怕战而不胜失去江东，便以激将法对孙权说：“田横是齐国的壮士，他都能够守义而不降受辱，更何况我主刘备是乃堂堂皇室后裔。刘备英才盖世，众人仰慕，贤人智士归依他，犹如百川入海。即使他得不到成功，那也是天意使然，他怎么能够归降曹操呢？”激将法果然奏效，孙权愤然说：“我暂不能以东吴之地，十万之众受制于人。与曹操相战，我已经决定了。”虽然如此，孙权心中仍存疑虑，他说：“刘备新败之后，能否渡过此次大难呢？”诸葛亮见孙权大计已定，就认真地分析说：“刘备虽然新遭长坂之败，但战士归还者及关羽所率的水军仍不下万人，刘琦在江夏的兵马也不下万人。而曹操的士兵远来疲惫，听说追刘备时，一昼夜行军三百余里，这就是所谓的强弩之末势不能穿鲁缟，是兵法上的大忌，而且北方士兵不习惯于水战。荆州百姓附于曹操，只是迫于军威，并未心服。所以，将军如果选派猛将领兵数万与刘备协同作战，击败曹操是必然之事。曹操失败必然北还，如此则荆州与东吴的势力就会强大起来，那时，天下鼎足三分的格局便形成了。成败之机，在于今日。”诸葛亮明确透彻的分析安慰了孙权，他听后大为高兴。因为战胜曹操，自己的东吴便可保全。他立即派遣周瑜、程普、鲁肃率兵三万，与刘备联合而战曹军，果然大败曹军于赤壁。

刘备新败之后狼狈不堪，只好求救于孙权，以解危难。孙权当时正在狐疑，如按常

规去求救，迫于曹军的气势，孙权未必敢作出出兵的决定。而诸葛亮以激将法游说孙权，激起孙权的英雄豪气和胆略，促使他作出决策。诸葛亮巧妙地使用激将法，完全达到了他此行联合东吴，共同破曹的目的。赤壁之战，联举大胜，刘备得以突围走出困境。

（王子屹）

## 周瑜巧用反间除隐患

公元208年，曹操轻取荆州，又在长坂坡大破刘备，然后挥戈南下，统雄兵百万直逼江南吴地。曹操命蔡瑁、张允等荆州降将为前锋，自领大军来到长江北岸的三江口，与东吴军队隔江对峙。南方之地，江河纵横，曹军多为来自青、徐二州的北方人，不谙水战。但蔡、张二人久居荆州，深知水战奥妙。曹操便任命蔡瑁、张允二人为水军正、副都督，操练水军。只待训练完毕，强渡过江，进攻孙权。二人果然不负曹操厚望，把水军操练得井然有序。此二人成了东吴的心腹之患。吴军主帅周瑜深知，要想击败曹操，必须要首先除去蔡、张二人。为此，周瑜寝食不安，日思夜想，却拿不出好的对策。

恰在此时，曹操派幕僚蒋干过江，企图以三寸不烂之舌劝降周瑜。蒋干字子翼，自幼便是周瑜的同窗好友。一经禀报，周瑜立解其意，他心中一动，除掉蔡、张二人的计策就此形成，他暗中做好布署。

蒋干到了江东，同周瑜一见面，周瑜便说：“子翼不辞辛苦远道而来为曹操做说客，可真不容易啊！”当头一句，问得蒋干十分尴尬。蒋干说：“你我二人相别以久，我此次前来，意在叙旧。既然你如此怀疑老朋友，我只好告退了。”周瑜急忙上前拉住蒋干，笑着说：“我怕你是曹操的说客，所以才这样说。”接着，周瑜便召集文武百官，使与蒋干相见，设宴为蒋干接风，并郑重宣布，同窗好友到此，绝非为曹操做说客，大家不要疑虑，还下令今日宴会，只叙旧谊，有谈战事者斩。蒋干本想借机劝降，闻言心中叫苦，心想这

次说客是做不成了。只好皱着眉头应付酒宴。周瑜说：“我自带兵以来，滴酒不沾。今日得见老友，当一醉方休。”当下，便推杯换盏，与蒋干等人痛饮起来。周瑜喝到兴处，拔剑高歌：“丈夫处世兮立功名，立功名兮慰平生，慰平生兮吾将醉，吾将醉兮发狂吟。”唱罢再饮，直至酩酊大醉，蒋干也终于不胜酒力。宴席散后，周瑜又邀蒋干与他同榻而眠。回到营帐，周瑜呕吐狼藉，一头卧倒，鼾声大震。蒋干心中有事，苦于无功而返，无法向曹操交代，难以成眠。

到了二更时分，蒋干实在睡不着，便起身下床。借着残灯的光亮，他看到周瑜的案桌上堆着一些书信，便前去探看。走到案前，却见其中有一封信，上写“蔡瑁、张允谨封”。蒋干取出一看，信中写道：“某等降曹，非图仕禄，实迫于形势。一有机会，即将曹贼之头，献于麾下……”蒋干大惊，把信藏于怀中。等到五更，蒋干蒙混出营，返回江北。

蒋干回到江北，立刻将信交与曹操。盛怒之下，曹操下令斩了蔡、张二将。待人将二人之头献于帐下，曹操方才猛醒，连呼中计，却悔之已晚。

蒋干到江东后的一切，都是周瑜的巧妙安排。周瑜利用蒋干，巧施反间计，让曹操杀死了蔡瑁、张允二将，除去了东吴的心腹之患。

(王子屹)

## 庞统巧授连环计

赤壁交战在即，周瑜派鲁肃去问庞统：“当以何策破曹操？”庞统回答说：“欲破曹兵，当行火攻。只是大江之上，一船着火，其余的船必然四处散开，难以奏效。除非献连环计给曹操，让他把所有的船连在一起。然后，方可火攻。”周瑜赞同庞统的看法，便想请庞统往见曹操献计，又恐引起曹操怀疑。正在沉吟未决之际，接到报告，说蒋干再次来访。周瑜一听，心想大计可成。他立即向庞统面授机宜，然后坐于帐中，派人请蒋干来见。

蒋干见周瑜没来迎接，心中惶恐，他走进帐内，周瑜说：“蒋兄为何如此欺我？你上次前来，我请你痛饮，留你共榻，待你可谓不薄。你却偷我私信，不辞而别，回报曹操，使他杀了蔡瑁、张允二人，致使我大事未成。这次无故又来，若不看在旧日的情份上，必要杀你。我近日便要破曹，不能放你回去泄露我的军情，等我破了曹操，再放你过江。”蒋干被安排在西山背后的小庵之中住下。

这天晚上，蒋干一时难以入睡，便出庵散步。来到山崖之边，但见前面有几间草房，从草房那边不时传来读书声，蒋干走近，只见一人在读《孙子兵法》。一问姓名，却原来是大名鼎鼎的凤雏先生庞统。蒋干大喜，问道：“久闻阁下大名，不期在此相遇。你何故居此偏僻之地？”庞统说：“周瑜自恃其才，不相容纳，所以，我只好隐居于此。”二人于是进房畅谈。蒋干心想：庞统才高于世，名气不在诸葛亮之下，若能劝他离开东吴归顺曹操，也不虚此行。庞统果然接受了蒋干的劝说，二人随即找船过江。

庞统前来，曹操大喜，设宴款待。酒至半酣，庞统问道：“丞相军中是否有良医？水兵容易生病，应有良医才是。”曹操近日正为兵士不服水土，多有病死者而焦急。见庞统如此相问，知他必有主意，曹操便向他请教。庞统回答说：“大江之上，潮生潮落，风浪不息。北方之人不习惯于风浪颠簸，便会生病。丞相你操练水兵井然有序，如果再把大小各船搭配起来，以三十或五十为一排，首尾用铁环连在一起，上面铺上宽木板，不仅可以走人，还可过马，这样行驶江中，稳如陆地。”曹操一听，果然有理，他连连拜谢庞统。然后，就命令连夜打造铁环，锁起船只，兵士们也为摆脱了风浪颠簸之苦而高兴。

庞统见曹操中计，便说：“我看江东之士怨恨周瑜者众多，我想回去游说，劝说他们归顺丞相。”曹操见庞统愿为自己出力，更是高兴，忙送庞统启程。

后来，东吴黄盖诈降前来放火，魏军船

只因为铁环相连，无法分开，无法逃避，被烧得一干二净，魏军几乎全军覆没。

(王子屹)

## 鲁肃欢好抚之巩固联盟

公元210年，周瑜准备西取益州时，突然发病而死。临终前，他向孙权推荐鲁肃接替自己。于是，孙权令鲁肃为奋武校尉，统领周瑜的部队镇守江陵及陆口。此时，刘备的大将关羽镇守荆州，与鲁肃之兵相邻。关羽数次制造磨擦，企图挤走鲁肃，但鲁肃则“常以欢好抚之”，使双方的矛盾不再扩大，维护了孙、刘联盟。

公元215年，孙权向刘备索要荆州，刘备不肯，为此孙权大怒，扬言要用武力去夺。此后，东吴大将吕蒙率军占领长沙等三郡；刘备也命关羽率军三万进兵益阳，并亲自率军五万屯驻公安。孙权见势也亲临陆口，并派鲁肃率军一万进驻益阳。孙、刘双方，剑拔弩张，一场恶战一触即发。

在这紧急关头，鲁肃为了避免相互残杀，决定去面见关羽，想通过谈判解决争端。鲁肃把此想法向部将们提出后，大家都担心会发生意外，劝他不可前往。但鲁肃从维护联盟的大益出发，毅然说服大家，冒着风险前去会见关羽。

鲁肃和关羽见面后，果然气氛相当紧张，双方将士全副武装隔百步相峙，只鲁肃与关羽走到中间。鲁肃先发制人，他责问关羽为何不还荆州三郡。关羽答道：“赤壁一战，我刘备将军亲身作战，戮力破敌，怎能徒劳一场？”鲁肃说：“不要这样讲，昔日刘将军在长坂坡兵力单薄，智穷力竭，最后被迫想要远走他乡。我家主公却念其身无处所，便借荆州之地以助其度过难关，可谓难中解救。如今刘将军已夺取益州，现又欲兼吞荆州之土，这种贪而忘义之举，恐凡夫俗子都耻之，何况身为一班人马之主的刘大将军呢！”关羽听鲁肃所言句句在理，便无言以对，于是回去禀报了刘备，刘备的决心立即发生了动摇。

恰在此时，传来了曹操率军攻打汉中的消息，这下使犹豫不决的刘备下了决心。他担心益州的安全不保，更担心孙权再乘机兵夺荆州，使他陷入腹背受敌的窘境。于是，刘备派使者去东吴讲和。孙权见此情景，也命部将诸葛瑾去见刘备，同意和睦，重结盟好。最后，双方经过谅解商定，以湘水为界，把荆州地区一分为二，长沙等三郡以东归属孙权，南郡以西归属刘备。

由于鲁肃认清联刘抗曹是以存自身的唯一出路，便坚决贯彻这一基本政策，冒险谈判，不但避免了互斗，而且也达到了他取得一定利益，维护与刘备的联盟关系的目的。

(王子屹)

## 张飞假痴巧取瓦口隘

公元214年，即建安十九年，刘备进了成都，自封为益州牧。不久，刘备派张飞领兵进驻巴西，准备进军曹操的汉中。曹操的大将张郃即领兵三万，前来防御。张郃安置三座大寨，一名宕渠寨，一名蒙头寨，一名荡石寨，全都占据险要，且置滚木雷石，坚守不出。张飞进兵，距宕渠十里安营扎寨，随即引兵前往挑战。张郃却只在山上擂鼓吹号，饮酒作乐，就是不肯下山交战。张飞又不敢上山强攻，只好回营。第二天，张飞的部将雷铜前来叫阵，张郃还是不出。雷铜一气之下，上山强攻，被一阵滚木雷石打了下来，又遭荡石、蒙头两寨曹兵袭击，大败而回。第三天，张飞又去挑战，叫士兵破口大骂，以引张郃出战。可是张郃却不上当，只传令士兵在山上回骂。

张飞与张郃在巴西相持三十余日，尽管张飞每日至山前挑战，可张郃就是不出兵，急得张飞暴跳如雷，于是，张飞就在山前扎起大寨，天天饮酒，大醉后坐在山前辱骂。有人报于刘备，刘备大惊，孔明却说：“张将军既然想喝，就让他喝好了。军前恐无好酒，成都佳酿极多，可将五十瓮分成三车装，送至军前，让张将军痛饮。”刘备不解地问：“张

飞一向饮酒误事，军师为何还送酒给他？”孔明笑道：“此非贪杯，乃是张飞战胜张郃的计策。”孔明令魏延送酒赴军前，车上均插黄旗，上书“军前公用美酒。”

魏延押运酒车，一路畅通无阻地来到两军阵前，拜见张飞，并一一述说主公赐酒的经过，张飞拜谢收讫，便命令魏延与雷铜各领一军，作左右两翼，一旦看到军中红旗升起，便可进兵。然后，张飞叫人摆酒于帐前，令军士摇旗击鼓，痛饮起来。张郃得知，亲往山顶观望，果然看见张飞正坐于帐下饮酒，还令两个小卒在面前摔跤，用以取乐。张郃气愤地说：“张飞欺我太甚！”随即传令今夜下山劫寨。张郃分派完毕，等到夜晚，乘月色微明，从山侧而下，迳奔到张飞帐前，只见张飞仍坐在帐下饮酒。张郃直杀入中军，见张飞仍端坐不动，便一枪刺去，原来却是个草人。张郃心知中计，急忙回马，猛听帐后号炮连天，一员大将一马当先挡住去路，环眼睜圆，声如巨雷，正是张飞。当即二将便战在一起，约有三五十回合，不分胜负。张郃此时只盼蒙头、荡石两寨救兵，却哪里知道这两寨的救兵已被魏延、雷铜杀退。张郃正焦急之际，猛见宕渠山上火光通明，始知三寨俱已失守，他拨马回枪，仓惶奔瓦口关西去。张飞一战连夺三寨，大获全胜。张飞使人回成都报告刘备，刘备大喜，始信张飞喝酒是计，意在诱敌深入。

张飞假痴狂饮，故作昏庸，借以迷惑敌人，使之放松警惕，进而作出错误的判断，采取错误的行动，令敌人惨败到不可收拾的地步。

(王子屹)

### 吕蒙白衣渡江智胜关羽

公元217年，孙权命吕蒙就任汉上太守，驻守陆口。这样，吕蒙便与西蜀驻守荆州的关羽形成了对峙的局面。

吕蒙早就看出关羽是骁勇之将，并有吞吴之心，迟早会发兵进攻东吴。便表面上与

关羽修好，背地里却积极练兵备战。

公元219年，关羽率军攻打曹军的樊城，吕蒙认为消灭关羽的时机已到，急忙向孙权上疏：“关羽进攻樊城，留守部队却很多，显然是担心我抄其后路。我常常有病，请以治病为名把我召回建业，关羽听说我离开汉上，一定会把南郡、公安的军队调往樊城前线。那时，我军就可沿江昼夜急进，偷袭其空虚之后方，则南郡可得，关羽可擒矣。”于是，吕蒙扬言自己病重，孙权派人把他召回了建业。为了稳妥起见，吕蒙推荐了很有才能但名气不很大的陆逊代替了自己。

陆逊到了汉上之后，依吕蒙之意，派人给关羽送去了一封信，在信中极力称赞关羽的才能。关羽接到信后，觉得替换吕蒙的陆逊是个没有经验的青年将领，也就认为大可不必疑虑重重了，这样，便把驻守在南郡的军队调出一部分到樊城前线。

关羽水淹了曹操派来救援的七军，大败于禁之后，粮食出现了危机，他为应急而抢夺了东吴储存在湘关的粮食，这下，就给孙权进攻关羽制造了口实。于是，吕蒙率军进攻关羽。

吕蒙率精锐部队沿江而上，昼夜兼程。进到浔阳后，便把所有的战船都伪装成商船，使士卒一律换上商人穿的白色服装，船甲上不见几人，而在船舱中埋下精兵。关羽的守兵见是白衣商人，就允许他们把船停在江边。这样，吕蒙军每到一处，便把守候烽火台的荆州士兵全部缚住，以至于吕蒙来到了公安、江陵之地，关羽毫无所知。

驻守江陵、公安的关羽部将糜芳、傅士仁，平素与关羽有隙，吕蒙利用这个矛盾令故骑都尉麋翻给傅士仁写信，向其讲明成败利害。傅即投降，糜芳随后亦降。吕蒙占据江陵后，对于关羽及其将士家属，全都给以抚慰，并且命令全军，不得惊扰百姓，以此来笼络民心。

关羽得知南郡失守后，数次派人来打探吕蒙动向。吕蒙又厚待来使，并且让使者在



城中周游，访问关羽及其将士的家属，同时让家属给亲人写信。当使者回到关羽军中时，将士们得知自己家中平安无事，受待遇还胜过以往，故尔无心再与东吴打仗，有些人甚至偷偷地逃回江陵。由于军心瓦解，最后关羽在与孙权交战时，败走麦城，吴军擒获关羽，斩首。

大败关羽，关键在于吕蒙伪称有病而使其不备，白衣渡江而使其无防，进城安民而使其军心涣散。在计谋上，每一步都显示出吕蒙棋高关羽一招！

(王子屹)

### 陆逊骄敌取荆州

公元219年7月，刘备当上汉中王，分封关羽为前将军。关羽接受了前将军的印绶，就统帅荆州大军，北上攻打襄、樊，以便打开“直下宛、洛”的通道。关羽水淹七军，降于禁，杀庞德，兵围樊城，进攻曹操。

在关羽发动襄、樊之战以前，东吴孙权已经作了夺取荆州，全据长江的准备。这时，关羽远征，孙权见有机可乘，便想袭取荆州。

吕蒙领命到陆口准备进兵，他派人一打听，心里大惊。原来关羽对东吴早有提防，虽然率军远出，却于高处设置了烽火台，每隔二十里或三十里便修一座，一有紧急军情，便点焰火，报知关羽。而他留下来守卫荆州的兵马也非常整齐强壮，难以战胜。吕蒙见情况如此，心中无计可施，便托病不出。

孙权听说吕蒙病了，心里非常懊丧。这时，陆逊前来对他说：“吕蒙只是诈病，决不是真的病了。”孙权一听，立即派陆逊前去探问。陆逊来到陆口拜见吕蒙，一看吕蒙红光满面，哪有什么病色，便说：“吴侯把这么重要的任务交给你，你却怎么没有行动呢？”吕蒙看着陆逊，好久无话可说。陆逊说：“我有一个药方，保证能治你的病，不知能否使用？”吕蒙立即让左右离开，说：“你既有药方，快告诉我。”陆逊说：“你的病只不过是因为荆州兵马整齐，沿江有烽火台防备而已，我有一

计，可使关羽的烽火台点不成火，荆州之兵束手投降。”吕蒙一听大惊，赶紧请教是何妙计。陆逊说：“关羽自恃天下无敌，除你之外，东吴诸将关羽皆不放到眼里。你如趁此机会托病辞职，把镇守陆口的任务交给别人，让他以好话赞美关羽，以骄其心。关羽必然会撤走荆州之兵开赴樊城。到那时，荆州没了防备，率支部队以奇计偷袭，夺取荆州可说是易如翻掌。”吕蒙一听果然是妙计，便托病不起，上书辞职。孙权把吕蒙召回邨业，弄清情况后，便任命陆逊为偏将军，代替吕蒙守卫陆口。

陆逊刚到陆口上任，便写了一封信派人送交关羽，并送关羽名马、美酒等重礼。关羽接到信一看，满心喜悦，原来信中全是夸美赞誉自己的话，语气毕恭毕敬，便收了礼物，打发陆逊的使者回去了。使者回报陆逊说：“关羽非常高兴，不再有忧虑东吴之意了。”陆逊非常欣喜，立即派人去探查关羽的动静。关羽见接替吕蒙守陆口的是个无名书生，且陆逊又对自己极其恭敬，确信南线可保安全，就下令后方军队北调，支援襄、樊战场。奸细回来报告，说关羽果然把荆州兵马的大半调到樊城去了。陆逊立即派人报告孙权，孙权于是拜吕蒙为大都督，设计袭取荆州。

吕蒙领命，带领三万人马，乘坐八十余艘快船，选会水者扮作商人，皆穿白衣，于船上驾驶，却将精兵暗伏船中，尽夜进发，直向荆州开去。到了长江北岸蜀兵设防之地时，烽火台上的守军见有人突然来到，急忙上前盘问。吴兵回答说：“我们都是商人，因被大风所阻，所以到此暂时躲避，风停便行。”说罢，便将财物送与守烽火台的军兵。军兵信以为真，不以为意，遂允许他们随便于江边停泊。大约到了二更时分，守烽火台的军兵正在沉睡之际，东吴暗伏于船中的精兵一起杀出，将烽火台上的军兵全部抓获。于是长驱直入，径奔荆州。到了半夜，东吴兵马来到了荆州城外，吕蒙让被俘的蜀兵上前叫



门，门吏一看是自己人，便打开城门，东吴兵马随即杀人，轻而易举地袭取了荆州。而这时，关羽还正在樊城与曹兵拼杀，对此间的事一无所知。后来，当他得知吕蒙白衣渡江，占领荆州时，他痛心疾首，发誓报仇，但他却孤军在外，力不从心。

关羽水淹七军，降于禁，杀庞德，威震华夏。但战争风云却变幻无穷，陆逊骄敌轻取荆州，致使关羽后来败走麦城。

(王子屹)

### 周鲂割发取信

三国时，周鲂是东吴鄱阳太守。

一次，东吴密谋让周鲂向曹魏诈降，以寻得打击曹魏的战机。周鲂得命后，立即按照陆逊的安排，向魏将扬州牧曹休写了一封信。信中尽表周鲂叛东吴投曹魏之意向，还约定作为降礼，他将把鄱阳全郡献给曹魏，最后，还站在曹魏的立场上，陈述了伐吴七策。

曹休得到此信后，立即转送于魏王。魏王及司马懿等大都信以为真，大喜。此时，谋士贾逵力排众议，提出了“不可轻信”的看法。然而，贾逵却身单力薄，他的意见没人去重视。司马懿对魏王说：“这件事虽然看上去难以相信，但必竟有事而发，我看是个时机应该抓住，因为机不可失、失不再来。”魏王与群臣终于统一了意见。

魏王命司马懿、贾逵带步骑十万前往扬州，以帮助曹休伐吴。此时，曹休对此事仍有些放心不下，便密约周鲂到扬州，对他说：“人们都说您足智多谋，我知道他们说的都是确实，在你降曹魏此举上，我知道你一定不会骗我的。”周鲂听了曹休的这番话后，明白了他的言外之意，恐怕其中有诈，于是，立即心生一计，以加强曹休对自己的信任。周鲂对曹休并未分辩，而是捶胸大哭起来，哭到最伤心之处时，便拔出剑来对曹休说：“我所献的伐吴七策，都是我的披肝沥胆之言，现如今反而被别人怀疑我的诚意，使我

成为一个谎诈的小人，这也许是天意吧。与其耻而生之，不若死了的好。”说罢，作出自刎的样子。曹休见状，急忙止住他，并对他说：“足下的人品我乃所知，我只不过是开句玩笑，足下何必当真呢？”周鲂见曹休确信了他后，接着说：“我以真诚待公，而公却与我开起了玩笑，险些使我含怨九泉。”说着，周鲂用剑割下自己的头发一束扔在地上，又说：“我割下父母遗体来表明我的真心。”曹休更是深信之。

待周鲂走后不久，曹休立即进兵伐吴，他因为认为有周鲂为内应，所以有恃无恐地前进。到了石亭，吴将陆逊接到周鲂的密报，早已以精兵迎候在这里。陆逊命令左都督朱恒、右都督全琮与自己三道进进，冲击曹休在两翼的伏兵，一直把魏军赶到夹石，斩首万余级。幸好贾逵在小路上设了许多疑兵，才止住了吴军的追击，不然后果不堪设想。

这一战，吴军大获全胜，歼灭了曹魏的一些有生力量。为此，从征将士赏赉有差，周鲂诈降诱敌功为最大，被封为关内侯。

(王子屹)

### 刘备白帝城托孤

刘备的结义兄弟关羽、张飞先后惨死，刘备痛不欲生，决心与东吴以死相拚。公元222年，刘备亲率蜀军伐吴，夷陵之战，被东吴陆逊用计火烧连营七百里，蜀军主力几乎全军覆没。刘备一路溃逃，进入蜀境白帝城，这时又传来孙夫人以为丈夫刘备战死而跳江自尽的消息，兵败、将亡、家难使刘备忧郁成疾，一病不起。他自知不久于人世，便派人到成都请丞相诸葛亮、尚书令李平到白帝城听受遗命。诸葛亮等与刘备的次子刘永、刘理一同来见，留太子刘禅镇守成都。

成都距离白帝城路途遥远，诸葛亮赶到时已是夷陵之败第二年的二月了。诸葛亮等前往永宁宫拜见刘备时，刘备拉着诸葛亮的手说：“我真后悔没有听从丞相的话。我近来总是想起与丞相隆中见面，想起您的决策。

可是，打了这次败仗，又得了病，恐怕不久于人世，不能与丞相共事了。”诸葛亮只能是好言劝慰。四月下旬的一天，刘备已经是奄奄一息，他请诸葛亮坐于病榻之侧，手抚其背说：“朕自得丞相，幸成帝业；何期知识浅陋，不纳丞相之言，自取其败。悔恨成疾，死在旦夕。嗣子孱弱，不得不以大事相托。”当即取纸写下遗诏，亲手递与诸葛亮说：“烦丞相将诏书付与太子刘禅，令勿以为常言。凡事更望丞相教之。”诸葛亮等泣拜于地下说：“愿陛下将息龙体！臣等尽施犬马之劳，以报陛下知遇之恩也。”刘备令内侍扶起诸葛亮，一手掩泪，一手执其手，说：“朕今死矣，有心腹之言相告！”便一边流泪，一边说出他托孤之际最关紧要的一段话，他说：“您的才能比曹丕高出十倍，必能安邦宝国，成就大事业。如果刘禅可以辅佐的话，您就辅佐他；如果他不成材，您就当成都之主吧！”诸葛亮听到这里，汗流遍体，手足无措，泣拜于地说：“臣怎么敢不尽心尽力地去辅佐太子呢。我一定尽忠贞之节，一直到死。”说完，叩头流血。之后，刘备又命两个儿子跪拜诸葛亮，对他们说：“我死以后，你们兄弟要把丞相当作父亲一样对待，不可怠慢。”并对在场的众臣说：“我已托孤于丞相，让我的儿子们要象对待我一样对待丞相，你们等人也都不可怠慢。”最后又对心腹爱将赵云说：“我与你于患难之中，相从到今，不想于此地分别。你可念我与你的交情，照顾好太子，勿负我对你的厚爱。”刘备慢慢地合上双眼，眼角上还有泪珠。刘备死时六十三岁。

刘备死后，诸葛亮等将刘备灵柩运回成都，当众开读遗诏。诏书中除了教诲刘禅兄弟避恶向善，以德服人等话外，又嘱咐“与丞相从事，事之如父，勿怠！勿怠！卿兄弟更求闻达。至嘱！至嘱！”

刘备托孤时的字字句句，充分显示了刘备的智慧。后来，一切果如刘备所托，刘禅继位为蜀主，事诸葛亮如父礼，政策都由诸葛亮决断。诸葛亮也信守“尽忠贞之节，一

直到死”的诺言，竭尽全力辅佐后主刘禅：五月渡泸，南征孟获；六出祁山，北伐曹魏；鞠躬尽瘁，死而后已。

（王子屹）

## 庞士元献策夺益州

公元221年，益州牧刘璋邀请在荆州的刘备入川攻伐汉中张鲁，正中刘备下怀。刘璋的使者法正劝刘备借机杀掉刘璋，夺取益州。但刘备又怕别人说他不够仁义。正在举棋不定之际，庞统进言：“荆州之地，经过多年大战已经荒芜，人口资源短缺，而且东有孙权，北有曹操，靠荆州难以形成曹、刘、孙三足鼎立之局。而益州地富民丰，有一百万户人口，资源完全可以自给，不用依靠外地，是成大业的好地方。”刘备却说：“我以仁爱、忠厚为本。因为眼前的小利而对天下人失去信义的事，我怎么能去干呢？”庞统看出刘备不是不想占益州，而是怕失去仁义之名。庞统针对刘备的心理，说：“在形势变化之时，不能墨守成规。商汤灭夏桀，周武王灭商纣，用的就是‘逆取顺守’的办法。所谓‘逆取’，就是用违反传统道理的武力去夺取；所谓‘顺守’，就是夺取以后，要报之以恩义，用顺从民心的办法来治理。主公就应该学习商汤和周武王。这怎么能算是失去信义呢？”庞统的一席话，使刘备豁然开朗，坚定了他入蜀的决心。

刘备入川后，刘璋让他北上葭萌关征讨张鲁。这时，孙权以孙、刘联盟的名义，请刘备回军荆州，共同破曹。在刘备左右为难之际，庞统又献计：“孙权意在不让我们夺取益州。我们已经到达此地，就不能空手而回。我有上、中、下三计，请主公选择。上计：暗选精兵，昼夜前进，直袭成都，可以一举成功。中计：白水关的杨怀、高沛，是刘璋手下的名将，各据强兵，拥险而守，听说他们几次上书刘璋，劝谏刘璋让您回荆州，您可派人去告诉他们荆州有急，要回兵相救，作出要回荆州的样子，这两人对您的离

去必然高兴，定会前来送行，届时就可以捕杀他们，收降他们的军队，进军成都。下计：退回荆州，再等待时机，重新向益州发展势力。时间紧迫，容不得再作迟疑，请主公在三计中择其一。”刘备选择了不急不缓中计，赚杀杨怀、高沛，并其兵力杀向成都，所过皆克，遂得以占据西蜀。

庞统，字士元，襄阳人。他少年有志，博学多识。二十岁时，见到颖川名士司马徽，他坐在桑树下畅谈天下大事，竟直谈了一天一夜。由此名声大振，人称“凤雏”，与号称“卧龙先生”的诸葛亮齐名。因为二人皆精通兵书战略，所以世人传言：“卧龙凤雏，得一人可安天下。”周瑜夺取江陵时，推荐庞统任南郡太守。不久周瑜病死，庞统护送周瑜的灵柩到东吴，可是孙权见他面目丑陋，又打发他回南郡去。后来，鲁肃、诸葛亮分别向刘备举荐庞统。庞统去见刘备，但并没有出示荐书，刘备不识其才，让他去当了一个小小的耒阳县令。庞统到任三月之间，终日饮酒，不理政事。刘备得知此情，便派张飞去巡查。张飞惊见其才，回报刘备。时值诸葛亮也从南郡回来，问刘备是否见到凤雏先生。刘备恍然大悟：庞士元正是凤雏先生。于是，刘备封他为治中从事。后来刘备与诸葛亮分兵入蜀，又封他为军师中郎将。庞统辅佐刘备入川，屡出奇谋，从而使刘备夺取了西蜀，形成魏、蜀、吴三国鼎立的局面。

(王子屹)

### 司马懿取印拜曹真

三国中期，曹魏名将司马懿与曹真共佐魏明帝曹睿，抗蜀拒吴。蜀相诸葛亮欲一统中原，数出祁山，均遭魏军抵抗，无功而还。司马懿老谋深算，在抗蜀中多立战功。但曹真毕竟是曹魏宗亲，一直亲领大都督职衔，佩帅印，实权在握，司马懿只处于辅助地位。

诸葛亮第一次出兵祁山于街亭失守后，撤兵回汉中，休养生息。公元229年，即魏明帝太和三年、蜀建兴七年，陆逊在石亭打

破曹休。诸葛亮乘机进行第二次北伐，亲率三十万精兵杀奔中原。尽管曹真已经作了防备，诸葛亮未能打下陈仓，但在交战中，重将王双却被蜀军所杀。为此，曹真感伤不已，忧患成疾，便令诸将把守长安通道，自己回洛阳养病。曹真一走，魏军无主，撤回汉中刚一个月的诸葛亮又乘机第三次北伐，奔袭陈仓，夺取散关，又联合东吴出兵呼应。一时之间，魏国面临两面夹攻的险境。

军情紧急，魏明帝曹睿十分忧虑，大都督曹真又在病中，他便召司马懿计议。司马懿奏道：“以臣愚见，东吴必不敢兴兵。诸葛亮一直想要报东吴火烧连营之仇，他并非不想吞并东吴，只是怕中原乘机进攻他，所以暂时与东吴结盟。东吴也知此意，假意兴兵，实则是坐观成败。陛下不须防吴，只须抗蜀。”曹睿见司马懿临危不乱，所言有理，当即就封他做了大都督，总领陇西诸路军马，又命人到曹真处去取帅印，交与司马懿。司马懿立刻说：“臣自去取来便可。”

司马懿来到曹真府上，先问病情，然后才说：“现在西蜀和东吴联合兴兵进犯，诸葛亮已袭取陈仓，明公知道吗？”曹真闻讯大惊，说：“家人知道我在病中，没有告诉我。现在国家危急，为什么不拜仲达您为都督，以退蜀兵呢？”司马懿连忙说：“我才疏学浅，不称其职。”曹真一听此言，二话不说，当即命令：“取来帅印交给仲达！”司马懿见状，又急忙推辞说：“都督少虑。我愿助您一臂之力，只是不敢授此帅印。”曹真当即从病榻上一跃而起，说：“如果仲达不领此印，魏国就危险了。我当抱病去向皇帝保举您。”到这时，司马懿才说出实情：“天子已有恩命，只是我不敢领受罢了。”曹真一听，高兴地说：“有您仲达领此帅印，蜀兵可退了！”于是，司马懿又辞谢再三，才接受了帅印。

司马懿早就想取得这颗帅印，曹睿又已拜他为都督，统领三军，为取印之事，何又如此推委？其实，司马懿深知，若非曹真抱病，军情又十分危急，曹睿绝不会轻易授此重

任；如今他也只是为曹真代庖而已，战事结束，仍需归权于曹真。故而他要亲自到曹真府上拜见，故作姿态再三辞谢，这既表明自己的谦恭，又免去了曹真的疑心。司马懿欲取故辞，显示出他的多谋远虑。

(王子屹)

## 满宠巧移城

三国魏文帝青龙元年(公元233年)，满宠任征东将军，负责扬州一带的军事，坐镇合肥。当时，合肥城南临大江，北与寿春相距又远，东吴看到合肥城这一弱点，所以，经常出动水军骚扰此城。而当曹魏派兵救援时，吴军已占得了便宜，从水路撤走了。这样，吴军扰困合肥，魏军疲于奔命。

这一年，满宠为了根本解决肥城问题，经过深思熟虑，向文帝上书，建议把合肥城西移三十里。因为那里有险可守，而且离江较远，一旦吴人前来攻扰时，必须弃船陆战，这样吴军便失去了水军优势，这利于魏军与敌作战。

书信送至朝廷后，护军将军蒋济极力反对，他认为“迁城”是“示天下以弱”，同时也是自己放弃防守的畏敌策略。魏文帝见此话有些道理，一时不知孰是，于是，便把满宠的请求搁置起来。后来，满宠又一次上书说辩此事，朝廷此时也无良策来平息合肥战事，便同意了满宠的请求。

魏人兴师迁动合肥城，东吴自孙权以下都议论纷纷，多数人认为满宠因恐惧而迁城，应趁其新城立足而未稳急攻之。孙权认为是，便即率大军渡江，准备攻打合肥新城。临上船时，孙权得意地对臣下说：“不出数日，一定可以占据合肥。”

当孙权得意洋洋地抵达新城时，不禁大吃一惊，原来这座新城座落在距江边很远的地方，而且依险而筑，即使没有援兵，孤城也可以支持数载。当下，孙权下令所有部队返回船上，并把战船泊在江中，再另商议。结果，孙权真是骑虎难下，有心攻城，但城

距岸边太远，一旦曹军出奇兵断后路，后果不堪设想；如若回军，这一无所获的进军与自己行前所言不符，脸上何能过去。

此时，满宠把孙权的行动看在眼里，已分析出他游疑不定的心理。他想，孙权不会贸然攻城，陷入持久之战；也不会悄然撤军，有违其脸面。孙权极有可能派军队到岸边炫耀，为自己找得下台阶的借口。于是，满宠便布置了六千骑兵埋伏在城后，准备一旦吴兵上岸，便突然发起冲锋，打敌人于措手不及。

过了几天，果然有几千吴军将士从船上下来，爬上江岸，在岸边一片开阔地带往来驰骤。正当这些吴兵忘乎所以的时候，满宠下令伏兵出击。霎时间鼓角齐鸣，城后六千骑兵从天而降，直扑到毫无准备的吴兵面前，似猛虎驱羊一般地砍杀起来。吴兵顿时大乱，毫无斗志，转瞬间吴兵横尸遍地，有些跑不及的竟然跳入江中，这下，被水淹死的又是无数。孙权眼见岸上吴军的败象，无可奈何，最后，只好拉起败师而归。

(王子屹)

## 司马懿装病避曹爽

公元239年，即曹魏景初三年，魏明帝曹睿病逝。他临终之前诏太尉司马懿入宫，握着司马懿的手说：“我病重将死，以后的事就托付与你了。希望你和曹爽共同辅佐幼主曹芳。”

开始时，大将军曹爽待司马懿若父辈，遇事常常同他商量，从不独断专行。司马懿也故作谦卑。但曹爽的朋友何晏、丁谧、邓飏、李胜、毕轨等人几次劝说曹爽不要把大权交与他人，受人操纵。曹爽听从了他们的意见，便加封何晏、邓飏、丁谧为尚书，李胜为河南尹，毕轨为司隶校尉，开始扩大自己的势力，同司马懿争权夺利。曹爽将司马懿调任太傅，剥夺了他的兵权，削弱了他的权力，使他有名无实。

司马懿心里明白，但看到曹爽一时势盛，

自己无法与之抗衡，便诈称有病，不理政事，一切都交与曹爽。这样，曹爽得以专权，他有些得意忘形，终日吃喝玩乐，一如帝王。但他仍然不敢对司马懿掉以轻心。公元249年，李胜出京任荆州刺史，去司马懿家中辞别，实际上是替曹爽去打探司马懿的底细。司马懿装出一副病人膏肓的样子，双手颤抖，流着口水，并宣称自己危在旦夕。李胜信以为真，回报曹爽说司马懿将不久于人世。曹爽等人便无所顾虑。其实司马懿却在韬光养晦，策划于密室，暗中准备，伺机复出。公元250年正月，皇帝曹芳去高平陵祭祀父亲，曹爽等人都跟从而去。司马懿见时机成熟，开始行动。他先派兵占据了武器库，又去永宁宫奏请对曹爽不满的郭太后下诏处置曹爽等人。获准后，引兵出京城至洛水，守住浮桥，截断曹爽的归路，然后致书皇帝说：“昔日先帝拉着我的手把后事托付于我。至今，大将军曹爽不顾先皇遗命，败坏朝纲，对内僭越，模仿皇帝起居制度；对外专横，独揽天下朝政大权。破坏军事，把持禁军；官衙要职，唯亲是用；宫中旧人皆被驱出，招用新人以树私恩；互相勾结，骄横日甚。又用张当为都临，互相阴谋，觊觎皇后；挑拨离间，使后宫相争，骨肉相残；又架空皇帝，使陛下如同虚设。这决不是先帝诏陛下和我的本怀。我虽老了，但先帝之言不敢忘怀。因而奏请永宁宫，皇太后命我按所奏之言行事。我便暂请主朝政的大臣和黄门侍郎罢免曹爽及其兄弟曹义、曹训，降其为侯。命令他们不可滞留陛下，否则便将军法从事。现在，我已陈兵洛水浮桥，曹爽等人如敢妄动，我定要兴兵讨伐。”

曹爽在高平得知司马懿上奏皇帝，惊慌失措，不知如何是好。这时，大司农桓范知道司马懿起兵后，矫太后诏书从平昌门斩关而出，去见曹爽，劝说曹爽挟持皇帝去许昌，招引京外之兵，与司马懿一决雌雄。司马懿得知，说：“桓范所献之计，曹爽肯定不会采用。”果然，曹爽兄弟不听桓范之计，而是回

到京城，向司马懿请罪。

结果，司马懿不但杀了曹爽及其三族，还杀了桓范等人。从此，魏国的军政大权牢牢控制在司马氏手中。

（王子屹）

## 司马昭兵困诸葛诞

公元257年5月，魏国的征东大将军诸葛诞攻杀扬州刺史乐綝，聚集淮南淮北各郡县官兵十余万人及扬州兵四、五万人，备足一年之粮，于寿春闭城自守，反叛魏国。在守城的同时，他还派人向东吴求援，东吴派遣文钦、全怱、唐咨、孙琳等人领兵三万前往支援诸葛诞。

魏国朝野震惊，急忙派司马昭进兵围剿。谋臣将领们多认为，应该对寿春城发起急攻，早平叛乱，安定朝野。但司马昭说：“寿春城池坚固，易守难攻，叛军又有十几万之众，如果急攻，必遭大败，不但无益于平叛，反使朝野愈发震惊。而且，如果寿春急攻不下，东吴之兵再自后掩袭，我们便会陷于险境。而现在叛军据守寿春，三个重要的叛将皆在其中，他们之间或许发生火并。所以，我们不要急攻，而应缓。如果急攻，叛军便会团结一心，坚守城池；如果围而不攻，便可给他们充分的时间，使之矛盾激化，相互杀戮。因此，缓攻才是万全之策。”

司马昭所说三个重要叛将是指文钦、唐咨和诸葛诞。唐咨于此年间反叛于利城郡，失败后逃至东吴。文钦于两年前与母丘俭一起反叛于淮南，失败后也逃至东吴。这次诸葛诞反叛，东吴派他们前来支持，使三人得以汇聚寿春城中。其中，诸葛诞与文钦素来不睦。司马昭的缓图大计定妥后，便派镇南将军王基、安东等人率兵分内外两层包围寿春，挖筑壕堑，严密看守，而使敌人逃出。又派临军石苞、兖州刺史州泰率精锐兵士，防备东吴大军前来救援叛军。

后来，文钦等人多次率众突围，皆为魏兵击退城中。东吴大将朱异两次率大军解

围，都被州泰等人领兵杀退。寿春城中粮食渐少，人心慌动。诸葛诞的部将蒋班、焦彝主张迅速出击，而东吴的文钦却不同意，双方发生争执，诸葛诞想要杀蒋、焦二将。蒋、焦二将原是诸葛诞的心腹将领，见此光景，甚是伤心，于是二人便逃出寿春城，投降了司马昭。后来，东吴全恂的侄子因在家中争讼，一气之下渡江投奔了司马昭，司马昭利用这个机会，让他写信给全恂，说东吴孙权恨他不能取胜寿春，欲杀尽其在建业的家属，结果诱使全恂率领本部人马出城而降。翌年三月，诸葛诞、文钦、唐咨等准备好进攻器械，连续五、六天攻击南面的魏军阵地，想要突围而出，魏军居高临下，毁掉叛军的进攻器械，叛军突围不成，死伤惨重，退回城中。而寿春城中的粮食眼看就要用尽，文钦便想放出北方之兵以节省粮食，诸葛诞不从，二人矛盾激化，进行火并，结果文钦被杀。文钦的儿子文鸯、文虎见父被杀，出城而降。司马昭便命他们领数百骑兵绕城呼喊：“你们已草尽粮绝，赶快投降吧！司马昭连文钦的儿子都不杀，你们还怕什么呢？”城内士兵听后，出降者达几万人。

这时，司马昭认为时机已到，指挥大军，分兵四路攻城，城内兵士竟然不加防守，魏兵占领城池。诸葛诞被魏兵所杀，一场叛乱，被顺利地平定。

(顾铭新)

## 邓艾乘虚而入灭蜀国

公元263年秋，魏国兴兵征伐西蜀。魏国分兵两路，邓艾率军牵制在边境的蜀军统帅姜维，使其不能回救；镇西将军钟会率领魏主力取道斜谷、骆谷，夺取剑阁，进攻成都。姜维得知钟会率军进入蜀国，巧计骗过了拦阻回路的魏雍州刺史诸葛绪，引兵向东，把钟会的大军拦在剑阁之外。姜维扼守剑阁，钟会多日攻打不下。

形势发生了变化，钟会的大军已不能完成主攻的任务。邓艾面对这种形势，认为应

该调整布署，改用钟会牵制姜维，自己率军突袭蜀国。他上疏说：“现请由我率兵出阴平，走百里无人之野地，经汉德阳亭进军涪陵。涪陵在剑阁以西百里，距成都仅三百余里，是敌国的腹地中心。我以奇兵袭击涪陵，姜维必然回兵相救。这样，钟会便可乘虚取剑阁，与我两路同时进兵。假使姜维不回兵，则涪陵的防御便减弱，敌国的中心便空虚。如此，我以奇兵出其不意，攻其不备，破灭西蜀便是自然之事。”

十月，邓艾率领精锐士卒一万人自阴平出兵，行于悬崖峻谷之中，逢山开路，遇水搭桥，二十余日行程七百余里，皆是无人之地。在摩天岭，邓艾以毡裹身滚下去，有的将士效仿邓艾之法，照样滚下去，有的将士以绳索束腰，攀木挂树，鱼贯而进。邓艾的军队在荒无人烟的野岭连续行军七百余里，竟然没有遇上一个蜀兵。邓艾如天兵降临江油城，蜀军由城守将马邈投降。从江油再往前就是通往成都的大路，只有涪陵、绵竹两个关口了。涪陵由诸葛亮的儿子蜀卫将军诸葛瞻引兵据守。双方交战，蜀兵败退，诸葛瞻聚兵绵竹防御。邓艾乘势进逼绵竹，并写信劝诸葛瞻投降。诸葛瞻怒斩来使，领兵再战。这一仗，是蜀汉军队进行的最后一场悲壮的抵抗。诸葛瞻和他的儿子诸葛尚都战死于沙场。邓艾终于打下了绵竹，大军直指成都。绵竹失守，成都以外已无重防可凭，蜀帝刘禅惊慌失措，纳奉皇帝印绶，至邓艾军中投降。雄据西蜀四十余年之久的刘代政权，在邓艾的奇兵突袭之下，宣告崩溃。而在剑阁抵御钟会的姜维，当他得知邓艾越过七百里大山，攻下江油、涪陵、绵竹的消息，就顾不上钟会，马上和廖化、张翼南下救援成都，正迎上太仆蒋显，蒋显奉上后主命他投降钟会的诏书。

邓艾在形势发生变化，于己不利的情况下，随机应变，以患为利，以迂为直，虽然是历尽艰辛万苦，但却避开了姜维的主力部队，出奇兵攻下江油、涪陵、绵竹，迫使刘

惮投降。

(顾铭新)

## 孙亮破屎知伪

孙亮是三国时吴大帝孙权的小儿子，孙权死后，十几岁的孙亮继承父位，做了国君。

有一年，园丁向国君献上一筐青梅，孙亮刚想吃，又想到用蜂蜜腌了吃更好。于是，便派身边的一位宦官到宫内仓库去取蜂蜜。谁知那太监此前曾经向掌管内库的官吏讨蜜被拒，一直气在心上，这次，他便想报复一下。他把蜂蜜领出内库后，在蜂蜜里放了十几颗老鼠屎。

太监把混有鼠屎的蜂蜜献给孙亮。很快，孙亮就发现鼠屎，即刻大怒，下令把主管仓库的官吏押来，质问道：“你专职管理仓库，却竟让老鼠屎混入蜂蜜里，知道这是什么罪吗？”那小吏吓得浑身发抖，他知道这是渎职，轻则丢官，重则坐牢。但他想来自己一直小心翼翼，在放蜂蜜时先检查完毕后，才装进干净的坛子里密封起来，绝对不会有鼠屎在里面。于是，那吏在连连叩头之时，反复申诉，高喊冤枉。

孙亮觉得此人一向小心谨慎，从未出过差错，今事必有另因。他沉思了一会后，问道：“此前有人向你索过蜜吗？”那吏答道：“方才取蜜宦官私下曾向我讨过多次，但臣未得您的旨意，始终没有给他。”孙亮又质问那宦官，那宦官却坚持说他从来没有私自向守库吏要过蜜。由于两人各执一词，孙亮身边的大臣们提议说：“他们的供词不一样，此事可交给监察司审问。”孙亮说：“不用，这事很容易弄清楚。”当下，孙亮命令太监把鼠屎从蜂蜜中捞出，并让他把鼠屎剖开。孙亮逐个检查了剖开成两半的老鼠屎后，笑着对身边的众人们说：“你们看，如果老鼠屎早就放在蜜中，那么，经过长时间的浸泡，应该里外都是潮湿的。但是，现在这些鼠屎，都只是湿了点外表，里面却仍是干燥的，这说明是刚放进蜜中不久。很明显是太监领出蜂蜜后，

放进去的，此乃宦官所为无疑。”

孙亮说完这话后，只见那太监“扑通”一声跪倒在地，连连叩头承认自己所犯陷害罪，请求宽恕。与此同时，在场的众人对年纪很小的国君判别是非这样准确，感到震惊和臣服。

(顾铭新)

## 姜维用诈破敌

三国后期，司马氏控制了曹魏政权。特别是在高贵乡公曹髦即位以后，司马昭图谋篡魏的企图愈益明显。

由于曹髦不堪忍受司马昭的强横，便与王经等人合谋，打算除掉司马昭，以解心头之患。然而，由于事机不密，被司马昭预先得到了消息，司马昭抢先下手，派人杀死了曹髦，并夷灭了王经的三族。

当时，姜维正在兴兵讨伐中原，交兵之际，司马昭便命令一个名叫王瑾的人，诈称是王经的侄子，前来蜀军投降。姜维对于王瑾并没有多问，便收留了他，并把王瑾所带来的五千人马分出两千来应用，其余的三千仍然归由王瑾统领，以示对其的信任。

不久，姜维委派王瑾到川口运粮，部将夏侯霸知道了这件事后，忙赶来对姜维说：“王瑾此次来降，这其中可能有诈，主公为什么深信不疑呢？”姜维同夏侯霸很知心，所以对他说：“你所不知，我已知其中有诈，只不过是计就计罢了。”夏侯霸见姜维如此说，便探问道：“何为将计就计，请公详细地说一说。”姜维说道：“司马昭奸雄，这一点可以和曹操相比，他既然杀了王经，并灭其九族，然而，怎么能够留下他的亲侄在关外领兵呢。”接着，姜维便把今后要怎样防范王瑾的办法详细地说了一遍，夏侯霸听后，抚掌称妙。

又过了不久，姜维派去负责监视王瑾动向的人，果然捉到了一个奸细，那人身上带着王瑾写给魏将邓艾的信，在信中王瑾告知邓艾他某日运粮到坛山谷，让邓艾前往接应，



然后就载粮归魏。此后，姜维杀了那个使者，又把书信中所约定的日期作了改动，然后，派得力的亲信送到了邓艾那里。

到了姜维改约的那一天，邓艾率领军队按时来到了坛谷口。远处望去，果然见到粮车成列。邓艾顿时欣喜欲狂，不待细辨，率兵直向谷里奔来。当邓艾走近粮车以后，突然粮车上燃起了大火。邓艾大吃一惊，待定睛细看时，方才辨出这些车上装载的都不是粮食，而是芦苇易燃之物，未等邓艾下令让将士们做好战斗准备的慌乱之际，姜维、傅金已率伏兵从四面冲杀出来，交战不久，魏军便死伤殆尽。邓艾见无力抵抗下去，便弃马步行，经奋力拼杀，才混杂于四散的步卒之中得以脱身。

姜维巧用诈计，取得了胜利。

(顾铭新)

### 张举焚猪验尸

三国时，吴国人张举任句章县县令。他秉公断案，深得百姓们的拥戴。

一天，有人来报一桩“谋杀亲夫”案。被告是个三十多岁的妇人，她身着素衣，一到大堂就号啕大哭，张举忙升堂讯问。

原告申诉说：“我是她丈夫的哥哥，昨天，此女人回娘家，正巧半夜我弟弟家就突然起火，那房子四周没有邻户，待我们赶到时，房屋已经烧塌，我弟弟死于床下。平日，这女人行为一向不端，我弟身亡，定是她同奸夫事先商量好，她先回娘家，半夜又伙同奸夫谋杀了我弟，再焚火烧屋，以借口‘火烧夫死’，请大人为我弟作主，明断！”

那妇人听罢原告陈述后，发疯了似地跳了起来，叫道：“你说我有奸夫，奸夫是谁？你说我是谋杀亲夫，又有何证据？”那大伯张了张口，什么也没有说出来。此时，妇人更是气愤，又凄惨地大叫道：“我的命好苦哇！年轻轻地守了寡，而且还要背个黑锅，叫我还怎么有脸见人，真不如死了的好！”叫罢，她猛地向旁边的厅柱上撞了过去。差役们见

此情形，慌忙拦住了她。于是，那妇人哭得更伤心了，音量之大，音调之悲，简直能锯碎人的心。

张县令并没有被眼前的情景所左右，他冷眼观察了这些之后，决定为寻证据，先去验尸再说。县令一班人等来到死者的家，只见房屋的确倒塌，灰烬在风中飞旋。验尸结果，并无可疑之处。最后，县令掰开死者的嘴又看了看，想了一会，挥挥手说：“办丧事吧。”说着，向那妇人瞥了一眼。但见她的眉宇间竟有一丝宽慰之色，象突然了却了一桩心事一般。这时，她大伯已急躁起来，张县令并不理会，又说：“办丧事要宰两头猪吧？”妇人忙说：“要的，要的。”

张县令叫死者的哥哥捆了两头猪来，又叫人在家门口点起两堆火，众人虽不明白这是什么意思，但仍按着县令的“把一头猪宰了，架在火上烧；另一头活生生地烧！”的命令行事。一会儿，火柴烧光了，张县令叫人掰开死猪的嘴，这时才发现一只猪的嘴里有灰，而另一只猪的嘴里没有灰。只听张县令说：“你们看，死者的嘴里也没有灰，说明他和那先宰而后烧的猪一样，是先被人杀害后而被焚尸的。”他说完，转身问那妇人说：“这就是你丈夫被害后而焚尸的证据，与你所说你夫是烧死的不符，这下你还有什么话可讲！”

那妇人见无法抵赖下去，只好招供出与奸夫串通一气，谋杀亲夫的罪行。这样，张县令巧用智谋得到证据，破了此案。

(顾铭新)

## 魏晋南北朝谋略实例

### 用计谋司马炎取王位

晋司马昭与王肃之女生有五子，其中三个在小的时候就夭折了，只剩下了长子司马炎和其弟司马攸。司马攸自幼孝敬父母，尊敬兄长，性情温和而且多才多艺。于是名声



就逐渐超过了司马炎，而且深得晋公的喜爱。为此，晋公司马昭常对人说：“这天下是景王（指司马师）打下来的，我自己只不过是摄居相位罢了。一旦我百年之后，这江山大业还要归司马攸的！”

身为长子的司马炎眼看司马攸日渐得宠，王位大有旁落的危险，自然不能甘心，他终日思虑此事。一天，闲谈之中他故意问尚书仆射裴秀：“人果真有帝王之相吗？你看我如何？”裴秀一听，自然心领神会，看了看他长发垂地，两手过膝的样子，连忙夸司马炎有帝王的异相。从此裴秀便死心蹋地跟着司马炎。当时，还有一个名叫羊琇的人，和司马炎关系很好。他看到司马昭有意立司马攸为嗣，就在暗地里常给司马炎出谋划策，并纠正他的过失。为了帮助司马炎，羊琇平时仔细观察司马昭处理政务的利弊得失，分析司马昭可能会就什么问题向别人征求意见，并且把这一切都详细告诉司马炎，让他心中有数，作好应答准备。果然，当司马昭和司马炎讨论起国家要事及处理办法时，司马炎都回答得十分得体，很合司马昭的心意。这样，司马昭立嗣的目标便渐渐有了改变。有一次，司马昭和一位近臣讨论起立世子的事来。相国左长史山涛说：“废长子立少子，这样违礼的事将来怕要留祸根的。”中护军贾充说：“中抚军（指司马炎）有南面君人之德，怎么能随便改变呢？”尚书仆射裴秀更是竭力拥戴司马炎，他说：“中抚军聪明神武，有超世的才干，而且相貌不凡，声名卓著，实非人臣之相呵！”几位近臣的话，更加促使司马昭下定决心立长子为嗣。最后，终于把司马炎立为世子。司马炎果然不负众望，轻易地赶走了曹奂（即魏元帝）取得了天下，当上了晋朝的第一代皇帝（即晋武帝）。

（李岩）

### 攀皇亲贾充避远征

晋武帝时，有个大臣名叫贾充，他虽然才略平庸，却深得晋武帝司马炎的信任，官

居尚书令、车骑将军和侍中。他与中书监荀勖、越骑校尉冯吴、太傅荀勖互相勾结，气焰十分嚣张，引起很多人的不满。

当时，鲜卑族的一支秃发氏在首领树机能的率领下起兵造反，屡败晋军。为此，司马炎深感忧虑，不知道派谁挂帅征讨为好。有一次，他就此事询问侍中任颢，任颢说：“自然应当派一位有声望、有谋略的朝廷重臣前往镇抚才行。”司马炎问：“你认为谁合适呢？”任颢由于对贾充的所作所早已不满，正想趁此机会调他远离朝廷，一旦出兵失利，便可以陷罪于他。于是，任颢竭力推荐贾充前往，司马炎考虑再三，终于降旨贾充都督秦、凉二州军事，挂帅出征。

贾充得知此事后，明知自己对付不了树机能，却又不能违旨，急得团团转，无计可施。只好求救荀勖尽快想个办法，使自己能留在京师。荀勖说：“你一个堂堂的宰相，如今竟被他人所制，实在是丢人。但是这次出征，你又不能明面拒绝，那只有一个办法。现在太子的婚事还没有定下来，如果能把你的女儿许配给太子，那你就成了皇上的亲家，自然就能留在京师了。”贾充一听，大为高兴，忙问：“谁可以出面相助呢？”荀勖说：“不妨让我去试试吧！”于是，荀勖找到冯统，对他说：“如果贾公真的走了，我们的靠山就没了。现在只能设法让他和皇上结亲，事情才有挽回的可能。我们得助一臂之力呵！”冯统点头答应。

为了与皇帝结亲，贾充赶紧指使自己的妻子郭槐贿赂杨皇后左右的人，怂恿杨皇后劝说司马炎改变想纳卫瓘女儿为太子妃的主张，另纳贾充的女儿贾南风为妃。晋武帝开始时并未同意，可是经不住杨皇后一再劝说，再加上荀勖、荀勖，冯统等人又大赞贾充的女儿如何才貌超群。于是，司马炎就同意将才貌平平的贾南风许配给了皇太子（即后来的晋惠帝）。这样，贾充自然就可以留在京师不必远征了。

贾充为了达到不远征的目的，采取了与

皇家联姻的手段，既避免了抗旨的罪名，又为以后谋取势力打下了基础，实为两全其美。

(李岩)

## 马隆巧用定身法破敌

公元279年，晋武帝司马炎正筹划发兵大举伐吴的时候，突然凉州(今甘肃武威)送来战报，说凉州的鲜卑族首领树机能带兵攻打凉州，顿时武帝有了西顾之忧。

武帝决定兴兵西讨，将军马隆请缨出战，被武帝任命为武威太守。于是，马隆立即设定赏格，招募了三千五百名骁勇善战的敢死壮士，带足了三年的粮草军资，星夜出城，西渡温水(今南盘江，在云南东部)，很快进入了凉州地界。

树机能手中统有几万兵马，也是骁勇能战。自闻晋武帝发兵凉州后，树机能早就分派重兵占据了险要位置和有利地形，全体兵将身着铁制铠甲，在晋军的必经之路扎好口袋；并预算好晋军可能撤退的路线，同时，埋设伏兵截断后路，只等晋军前来了。

这天，马隆率部到达鲜卑兵伏设的山口，他让部队停下休息，这时前卫哨兵来报，前方山谷道路狭窄，两旁山上看似埋有伏兵。马隆了解敌情后，当下察看地形山貌。当他发现战地附近有一种吸铁磁石时，立即计上心来。

马隆命手下将士先脱掉铁甲，换上犀甲，然后让兵士推着装满磁石的偏箱车继续挺进。突然，树机能的伏兵在两旁山坡上使用弓箭和石块发起了进攻。可是，马隆军因为有偏箱车遮挡飞箭流石，不仅安然无恙，而且还能边还击边前进。当部队到达一个较有利的地势处后，马隆传令士兵把运来的磁石，在敌兵前来攻杀的必经之道的两侧，垒上两条夹路磁墙。

一会儿，树机能果然率军冲杀过来，鲜卑族兵将倒也勇猛，他们见晋军就在不远处，所以蜂拥着冲杀过来。可是当他们进入那条

窄路后，一个个敌兵身上的铁甲被路两旁的磁石吸住，动弹不得。在鲜卑人吃惊地大叫：“汉人有定身法的妖术”之时，马隆率全军将士冲杀过去，只见晋军进退自如，畅行无阻。在晋方尽情地砍杀的大战中，很快，几千名鲜卑兵倒在了血泊之中，就连骄横跋扈的树机能也被马隆所杀，晋军大胜。

不久，马隆收复了凉州。

(李岩)

## 贾皇后设计废太子

晋惠帝时，皇后贾南风嫉妒成性，阴险狠毒，因自己没生儿子，便视太子司马遹为眼中钉。这太子本是惠帝司马衷登基前与宫中一个才人谢玖所生。他自小聪颖过人，讨人喜欢，后立为太子。贾后为了保住自己的地位，便把妹夫韩寿的儿子抱进宫中，谎称是自己生的，然后又盘算如何将太子废掉。

一天，司马遹正在为病重的儿子祈祷神明保佑，贾后突然亲临太子住处，对他说：皇上身体不适，召他人宫有要事。太子进宫后，被引到一个侧室，可贾后却突然不见了。过一会儿，一个名叫陈舞的宫女端着三升酒和一大盘枣走了进来，说这是皇上赐给的，让太子就着枣把酒都喝完。太子说：“陛下的赏赐，我不敢推辞，只是我不胜酒量，平时就喝不了三升酒，现在空腹更是喝不了这么多了。”陈舞又传皇后的话说：“你这是不孝！皇上赐酒给你却不喝，难道还怕其中有毒不成？”太子无奈，只好喝了二升，剩下一升请求带回东宫去喝。可是陈舞一个劲地逼他，太子只好把剩的全喝下去了。这时他已经醉得不成样子。片刻，一个宫女拿着一份文稿，说：“皇上有令，让你把这抄写一遍。”并在一旁看着。由于大醉，太子已难辨真伪，糊里糊涂地抄了，而且丢三拉四。抄完回到东宫倒头就睡，根本不知自己干了什么。

第二天，惠帝登殿，那篇文稿送了上来，只见上面写着：“陛下应当自己了结，你自己不了结，我就要入宫把你了结。皇后也应当

自己了结……。”贾后的死党黄门令董猛拿着文稿给大家看，并恶狠狠地说：“写出这样的诏来，就应当立即处死。”王公大臣们无人言语。尚书仆射裴頠认为应当核对一下太子的笔迹，贾后便拿出十几张太子平时写的奏章来，众人左看右看，谁也不敢吭声。贾后又让董猛伪造长广公主（晋武帝的女儿）的话说：“此事应当速断速决。”

事情议来议去，直到太阳偏西也没个结果。贾后怕夜长梦多，便提议废太子为庶人，免其一死。惠帝听了，点头答应。这样太子便被送到金墉城幽禁起来。不久，太子的生母被杀。

事实上，太子并无犯上作乱之心。那篇文稿是贾后找人事先起草好，等太子醉了以后又逼他抄写的，而且中间漏掉的字，又让人模仿太子笔迹补上。这样，太子就有口难言，再加上大臣们唯恐多事生非，所以贾后就一手遮天了。

（语实）

### 李雄火光诱敌擒隗伯

西晋末年，皇室司马家族八个亲王为了争夺中央政权反目成仇，自相残杀，这就是中国历史上的“八王之乱”。这场战乱，把个中国大地搞得乱七八糟，天灾兵患，使老百姓陷于水深火热的灾难之中。统治阶级的残暴无道，激起了全国各地人民的纷纷起义，起义烽火燃遍大江南北。晋惠帝永宁元年（公元301年），四川绵竹巴氏豪酋李特率领从外地流亡到这里的穷苦百姓举行起义。这支起义队伍攻县城，烧官府，杀恶霸，得到当地人民的热烈响应。他们的起义，大大地震动了西晋统治者，益州刺史罗尚连忙调兵遣将，妄图一举将义军剿灭。大安二年（303年）二月，李特义军不幸被叛徒出卖，遭到罗尚所率官军的埋伏，经过两天两夜的英勇搏斗，李特负伤被俘，英勇就义。李特的同胞兄弟李流带领二百多人冲出敌围，坚持斗争。不幸，同年九月李流病死，起义士卒又

推举李特长子李雄为大都督、大将军兼益州牧，领导义军继续斗争。李雄发誓要先父及死难义军将士报仇，不亲手杀掉抓住先父的刽子手——隗伯死不瞑目。

益州刺史罗尚是个很不好对付的家伙，他残忍狡猾，握有重兵，据守益州不轻易出动。为了拔掉这颗钉子，李雄苦思冥想，终于想出一条妙计。一天，他找来将军朴泰，和他共同商量破敌计划，商量了很久，不知怎的，两人争吵起来，甚至动了手。朴泰从李雄那里出来，一边走一边骂：“我与你老子、你叔父是结拜兄弟，你算什么，乳臭未干的小儿，竟敢教训起老爷来了。我不吃你这一套，凭老爷的本事，刺史大人也得敬我三分。”李雄追了出来一声大喝：“给我把这个老不死的拿下！”李雄手下亲兵得令后，七手八脚地拥上前来，把朴泰捆个结结实实。朴泰嘴里仍大骂不止。李雄又高声叫道：“给我打他五十军棍，让他清醒清醒。”李雄亲兵再上来把朴泰按倒，接着就是一顿狠打。直打得朴泰皮开肉绽，鲜血直流，众将看不过，都来替朴泰求情，李雄执意不允。打完后，叫人把他抬走。这事过了一个月，朴泰叫手下人带给罗尚一封信，信中说：“我本想劝李雄归降，李雄大怒，反将我打伤。为报此仇，我决意率部投降。”后来，朴泰真的带着几百人逃跑，归顺了罗尚。罗尚起初犯疑，后来见他身上累累伤痕，又与手下探马侦查得到的情报相吻合，于是罗尚就完全相信了他。朴泰与罗尚商定，当罗尚攻城时，朴泰让手下人为内应，点火为号。

这一天，罗尚派偏将隗伯率精兵进攻起义军大本营所在地郫城。李雄得知消息，知朴泰诈降已成，派大将李骧伏兵官军进军路上。不久，晋官兵抵达郫城下，有人从城上顺下长梯，并且点起火把。隗伯深信不疑，急令士兵登梯上城。跟随晋军一起来的朴泰率先爬上城头，待晋军爬上城头，朴泰反带士兵将晋兵一个个杀掉。隗伯发现事有不妙，想抹转马头就跑，这时李骧率领伏兵杀

来,把晋军杀得大败。在混战中,生擒隗伯。李雄见仇人已经捉到,亲自砍了隗伯祭灵。然后又假扮晋军,诈称已攻下郾城,骗开成都城门。到这时罗尚才发觉上当,但已为时甚晚,守城晋兵乱作一团,罗尚见城难得,只带几百个残兵逃了出去。

(语实)

## 石勒智守襄国城

晋怀帝永嘉六年(公元312年),鲜卑族首领段疾陆眷率领三万骁勇骑兵攻打石勒占据的襄国城(今河北邢台西南)。石勒几次派将领出城迎战,都被打败了。鲜卑军兵临城下。段疾陆眷派人四处锯树劈木,制造战车和攻城器具,其势非要拿下襄国城不可。

石勒面临强敌,召集手下部将计议退敌之策。石勒对大家说:“如今襄国的城防还很不坚固,城里的粮食也不多了,敌众我寡,我军远征的部队又不能马上回来援助,我打算集中全城兵力冲杀出去与敌军拼个你死我活,大家以为如何?”将领们由于前几天接连吃了败仗,都对鲜卑军心怀畏惧,不敢再出去交战。大家你看我,我看你,一时没人吱声。后来一个将领鼓足勇气说:“还是坚持守城为好,等到敌军疲乏了,再去攻打他们也不迟。”这时,谋士张宾和大将孔苌说:“在鲜卑族里面,段氏鲜卑最为勇猛强悍,而在段疾陆眷诸将之中,要数段末杯最为厉害,精锐士兵都在他手下。鲜卑人大军远地而来,前几天又接连打了几次胜仗,如今已经狂妄轻敌,一定以为我军软弱可欺,不敢出战。我们何不将计就计,故意作出怯战的样子,暂时坚守不出,待他们麻痹轻敌之时,再设计打败他们。”

石勒觉得他们二人说得有理,就采纳了他们的意见。他探听到段疾陆眷马上要进攻北门,就命人在北边城墙上每隔百步左右的地方,打一个骑兵可以通行的大洞。但大洞不能打穿,外墙要留出五六寸的地方,这样在城外一点也看不出来。当时人们管这样的

大洞叫做“突门”,一共打了二十多个。

不久,段疾陆眷果然率兵前来进攻北门。石勒命孔苌率领全部精锐骑兵等候在突门外,待命攻敌。鲜卑军接连打了几次胜仗,狂傲已极,根本未把城内的将士放在眼里,有的士卒甚至放下刀枪,坐在地上休息。石勒登城望见,知道时机已到,便下达了突袭敌军的命令。将士们立即打通了突门外层五六寸的城墙,二十几路骑兵就象射出的利箭一样直向鲜卑军冲杀过去。襄国城上的老弱士兵摇旗、擂鼓呐喊,为孔苌助威。鲜卑军多数人在这迅雷不及掩耳的冲击下,措手不及,只好狼狈逃窜。唯有段末杯的队伍训练有素,虽然首当其冲,却仍然沉着应战。孔苌率兵几次冲击,都未能冲垮。

孔苌见状,急忙撤军,骑兵们从城门和二十几个突门跑回城里。段末杯率军紧追不舍,眼见段末杯和几个侍卫冲进了城里,早已埋伏在城门内的士兵,飞速地关闭了城门。城上乱箭齐发,犹如飞蝗,射退了隔在城外的鲜卑军。段末杯终因寡不敌众,被生擒活捉。

石勒捉到段末杯,把他押上城楼示众,鲜卑人正重新聚集起来准备攻城,见段末杯被俘,顿时吓得转头就逃。石勒下令士兵乘胜追击,杀得鲜卑军丢盔卸甲、尸横遍野,并缴获了大量的战马和武器,段疾陆眷只好收拾残兵败将撤走。

(语实)

## 石勒伪降表智取王浚

晋愍帝建兴元年(公元313年)11月,石勒想要攻打盘据幽州(今北京西南)地区的王浚。可王浚是东晋一员大将,握有重兵在手,一直想推翻晋王朝,建立自己家天下。只是他担心人们不拥护他,一旦举事,又无力控制局面,所以迟迟未能下手。石勒曾同王浚交过手,不仅未能占到便宜,反而损名折将。石勒手下有一叫张宾的谋士很不简单,足智多谋,给石勒出过许多好点子。这次石勒把

张宾请来，请他帮助出主意。张宾知道石勒野心很大，一直想割地为王，但由于王浚的兵力很强，一直未能如愿。张宾对石勒说：“王浚图谋废掉晋愍帝，自立为帝已久，苦于四海之内无人支持。我们何不假意迎合，表示愿意拥护他，使他对我们疏于防范，乘机再攻打他，定能成功。”石勒听了张宾的计策，认为不错，决定依计行事。

不久，石勒便派手下能言善辩之士王子春和董肇两人带了很多珍宝去拜见王浚，并呈上降表。降表上说：“我石勒本是个胡人（羯族），生逢乱世，流离失所，不得已起兵自保。如今晋王朝腐败无能，群雄蜂起，晋王朝已无法挽救灭亡的命运。中原一旦无主，唯您名扬四海，功德无量，众心归服，取代晋室为帝，希望您应天时顺民意，早日登基称帝。我和您是同乡，我之所以东征西讨，不是为别的，而是一心为您扫除障碍啊！希望您能深切体察我的一片心意，把我看作自己的儿子一样。”石勒知道王浚女婿枣嵩深得欢心，握有很大权力，就另外送给他很多财宝，请他在王浚面前美言几句。

王浚见石勒投诚，又惊又喜。高兴的是，自己所为日益遭晋室旧臣猜忌、不满，日子越来越不好过，这时来了石勒，他势力很强，有他相助，称帝就有了把握。但他对石勒有些不放心的，他对王子春说：“石公是当世豪杰，占有大片土地。现在却向我称臣，这能让人相信吗？”王子春回答说：“石将军确实英武有才，如同您所说的那样。但自古以来，胡人有成为辅佐名臣的，却从来没有做帝王的。称帝做王，那是有气数的，非人力可为。项羽虽然强大，但终为刘邦所灭。石将军和您相比，就如同月亮和太阳的关系一样，只有跟随您才有前途。石将军深明大义，对于项羽那前车之鉴，早已铭记在心。石将军如今自愿归附您，听从您的指挥，这就是石将军的聪明过人之处啊！希望您不要错怪他的好意。”

王浚被王子春一席话，捧得晕头转向，

信以为真。他封王子春和董肇为列侯，又派使者回赠给石勒许多财宝。后来又发生王浚手下背叛他，想要私下归附石勒的事，石勒将那人抓住杀了，砍了首级送给王浚。由此，王浚对石勒的忠诚更不怀疑，有许多事都同石勒商量。

第二年正月，王子春陪同王浚的使者到石勒驻地襄国视察。为了迷惑使者，石勒把自己的精兵和武器都隐藏起来，只把那些老弱的士卒和空荡荡的仓库给他看。以前王浚送给石勒一把麈尾，石勒一直不用，而将它高高挂在墙上，每日早晚都要跪拜，他对使者说：“我一日不见主公，就心里惦记，我见到主公的赐物，如同见到主公本人一样。”石勒对使臣也是毕恭毕敬，表现得十分驯顺，很讨使者的欢心。

王浚的使者回到幽州，见了王浚说了石勒很多好话。石勒知王浚派使者视察，表明他对自己仍放心不下。石勒为让王浚完全相信他，写表给王浚，尊他为帝，同时让枣嵩代他劝说王浚封自己为并州牧、广平公。至此，石勒完全取得了王浚的信任。王浚对石勒也就不再小心提防了。

一个月以后，石勒便调集军队袭击幽州。三月抵达易水，王浚的督护孙纬飞马急报，提出要率军阻拦石勒大军南进，王浚不听。石勒挥兵急进，警报不断传到幽州，将领们纷纷劝说王浚迎敌，王浚不仅不听劝告，反而大怒，下令说：“谁若胆敢说石将军坏话，定斩不饶。”王浚以为石勒亲自前来，是尊奉自己为天子，高兴得杀猪宰羊，大摆筵席，准备款待石勒。

三月三日清晨，石勒率兵来到蓟城，他怕城里设有伏兵，就把沿途掠夺的牛羊驱赶进城，诡称“这是送来劳军的”，实际上是堵住大街小巷。到这时王浚才感到情况有异，但当将领们提出要与石勒交战时，王浚还是将信将疑，直到石勒大摇大摆地坐在中军大堂上，王浚才出来。一下子被石勒士兵抓住。不久，押回襄国，斩首示众。石勒就这

样，不费吹灰之力消灭了最强劲的政治对手。

(语实)

### 温峤智醉脱身

晋明帝时，温峤被拜为侍中，参预国家机密大事，后来升任中书令。大将军王敦图谋篡位，对温峤十分忌恨，总想找时机将他除去。温峤为人一向非常机智，早就洞悉王敦如此所为，便假装十分殷勤恭敬，综理王敦的府事，时常上前对王敦贡献一些密谋，藉此迎合王敦，渐渐地取得了王敦的信任。

温峤结交了王敦的唯一亲信钱凤，使钱凤在王敦面前主动称赞自己，所以他便时常假装对钱凤说：“钱世仪(凤号世仪)先生的才华、机智、能力过人，更是经纶满腹，盖世无双。”钱凤受到温峤的夸奖，自然高兴，两人关系甚密。这样，由于这种关系，王敦也逐渐引温峤为亲信。

不久，丹阳尹辞官出了缺，温峤主动向王敦提议，让钱凤出任。然而，钱凤过意不去，便推让温峤赴任。实际上这正是温峤内心期待的结果，表面上温峤仍是假意推辞。王敦见温峤如此谦逊，就荐派温峤上任为丹阳尹，并且嘱其就近暗中探听朝廷中的一切变化，随时密报。

温峤很怕钱凤在自己启程之后向王敦进谗，再被召回，就藉着王敦为自己饯别的酒宴，找机会挑拨王敦与钱凤的关系。席间，温峤起身向在座的每一个人敬酒，轮到钱凤时，温峤装作已经喝醉，故意以笏(即俗称朝王板)击敲钱凤束发的巾坠，并装出不高兴的神态说：“钱凤算什么东西，我温峤好意敬酒，谁敢不喝！”钱凤为此很不高兴。由于温峤表演得十分逼真，王敦以为温峤真的醉了，便过来从中劝解。温峤临走时，还跪到王敦面前叩别，涕泗纵横，出了王敦的住所后，又假意回去了三次，好似十分依恋。

第二天，钱凤对王敦说：“温峤与朝廷素来关系密切，尤为皇上所宠信，不可对他过

于信任。”王敦一听，认为这是恶意中伤，很不高兴地说：“温峤昨天喝醉了，对你才有所失礼，对于这些小地方，你怎么能来我这进谗报复呢？”温峤深谋远虑，早就准备好了应付钱凤的这一着，使得钱凤讨个没趣退了出去。

温峤平安抵达建康之后，将王敦心存叛逆的事情尽数告知了明帝。又和大臣庾亮一起，计划如何征讨王敦。这消息传到了王敦处后，王敦尽管气得暴跳如雷，可是发怒又有何用，无法挽救失败的命运了。温峤料事如神，并发挥得合时宜地，王敦、钱凤远不如他，当然要屈于下风了。

(语实)

### 温峤激陶侃协力平叛贼

晋成帝时，镇守历阳的大将苏峻依仗自己兵精粮足，不服朝廷调遣。后来与祖约合谋，攻破晋都，挟天子以令群臣，自封尚书，总领朝政，祖约为太尉。这样，晋的所有权力都掌握在他俩的手中。这就是历史上所说的“苏祖之乱”。大将温峤决心平乱复国，于是发兵举起讨逆的大旗。可是温峤所辖军队不足一万，远远不能和苏、祖的军队相比，便想联合陶侃，合兵一处攻打苏、祖。温峤因政见不合与陶侃有很深的隔阂，温峤虽几次派人去请陶侃，都被陶侃拒绝。陶侃对来说：“我乃一介书生，不懂得带兵打仗，请你们温将军另想办法吧。”温峤见陶侃不肯相助，便写了封信给他：“今大晋遭难，苏峻、祖约逞凶，一切忠君爱国之士都不能袖手不管。陶公握有重兵，享有国家俸禄，岂能坐视不管！”陶侃阅后，也感到难以拒绝，但又不愿意与温峤合作，就派部将龚登只带一少部分人马去温峤那里。温峤明知陶侃积怨不肯全力协助，长叹一声登上战船。谁料，正待出发之际，突然接到陶侃一道命令，叫龚登立刻返回守城。温峤面对这种情况，迫于无奈只好再次派人携带亲笔书信面见陶侃，说服他协助平叛。执行这个任务的是部将王

衍期。他到了陶侃那里，将温峤的信交给陶侃，陶侃心想，看看这次温峤又要说些什么。展开书信见温峤这样写道：“苏峻、祖约无道，人人痛恨，今天去征伐他，犹如以石击卵。如果把龚登在这时召回去，是在将要成功的时候制造失败，那将有人说公缓于讨贼，声名难追。望公仔细想一想。”陶侃阅罢，沉吟不语。王衍期乘机说：“苏峻是豺狼，如果他得逞，公还有容身之地吗？”陶侃至此，才明白过来，立即披挂战袍，率领手下全部人马登上战船，日夜兼程而进，与温峤齐心协力攻打苏、祖。

温、陶的军队与苏峻相持，久战不决。这时，温峤军队的粮食用尽了，温峤便向陶侃借粮。陶侃很不高兴，说：“我不是来供应粮食的。”说完，就要撤军西归。温峤见陶侃这样斤斤计较，就对他说：“现在天子被挟持，社稷倾危，这正是为臣的肝脑涂地的时候。我与公共受国恩，如果大事成功，主臣都可以安宁，如果不成功，我们应该效死于先帝。现在之势，没有回旋余地，如同骑虎，身在虎背，怎么可以跳下来呢？公如若违背人心回兵，大事必败。那时，义旗所指恐怕就是你了。”竟陵太守李阳也劝陶侃：“军政有进无退，可以派我带军队去劫断敌军粮道，如果不能见效，公再回兵也不迟。”陶侃此时被大家说得脸一阵红一阵白，最后分出五万石米给温峤，又派毛宝劫烧了苏峻的运粮路线，这才扭转了战争的局面。后来，在庾亮等人的配合下，终于取得了平定苏、祖之乱的胜利。

(顾铭新)

### 陶侃厉行节约变废为宝

东晋的陶侃，博学多才，为人诚实，待人忠恳，勤政为民，治政有方，政绩卓然，是当时一个很有名的清官。由于他的政绩突出，很快由一名小县吏升任为武昌太守。

当时的长江流域，经常有强盗出没，拦阻抢劫商船，奸淫妇女，深为当地人民痛恨。

陶侃上任不久，就亲自过问此事，组织一批精干队伍，化装成普通百姓，隐匿于商船客旅之中，当强盗上船抢劫时，这支缉盗队士兵突然腾起，将强盗包围擒获，由此那些抢劫过往商船的强盗被一网打尽。然后将这些强盗斩首示众，从此这一带水域，再也没发生强盗抢劫商船的事。

陶太守克尽职守，办事十分认真求实，不论大事小事，事必躬亲。平时他十分注意关心老百姓和手下人的疾苦，经常深入下层私察暗访，调处纠纷，平息民讼，经过好几年的治理，这里的民风大改，官风大变。平时，由于陶侃能平易与人相处，和蔼可亲，老百姓都愿意与他交谈，向他反映一些事情。陶侃对下属虽然平等待人，但对他们要求很严，不准他们利用职权徇私舞弊，如若谁有这类事情，一经被他查出，都不留情面地进行惩处。他在生活上也严以自律，每天清晨搬砖来往于院内外，用此锻炼自己的体魄。平时穿着简朴，不喜大吃大喝。对其子女，也要求甚严，不准他们搞特殊化，要他们从小养成勤俭节约的好习惯。

陶侃不仅注意节俭，而且理财有方。有一次，陶侃奉上级命令，负责监督制造一艘大船。在监造期间，不管刮风下雨，他都一定亲自到造船现场。他要求造船的工匠，注意合理使用材料，要他们把每一次锯下来的木屑和零星竹头，全都收起来，装入袋子里，叫人将这些木屑竹头存放到仓库里去。手下人和工匠们对他的做法很不理解，私下里交头接耳窃窃私语说：“这些木屑竹头有什么用啊，丢了算了，陶太守太小气了！”陶侃听了也装作没有听见，照样去做。

转眼间元宵佳节来到了，府衙内要举行庆典。每个官员都要参加。可是天公不作美，连日来下起雪来，厅堂里泥泞不堪，走路来十分不方便。陶太守看到这种情况，就对手下人说：“快去把仓库里的木屑拿出来垫在路上。”木屑铺在路上，又松软又清洁，走在上面很是舒心。到这时，府吏们才省悟，



都称赞陶太守的先见之明。

又过了些日子，朝廷要赶造作战用的江船，船板都锯好了，可是没有竹钉，陶太守又说：“快把仓库里的竹头拿出来，把它们加工成竹钉不是很好吗？”于是，造船工把这些竹头削成一颗颗竹钉，满足了造船的急需，很快这批战船就造好了。由此，大家都十分佩服陶太守的勤俭办事作风。

(顾铭新)

## 江鹵出鸡制胜

公元353年(东晋穆帝永和九年)，驻在芍陂(今安徽寿县南)的东晋守将殷浩的帅府内，殷浩正在召集诸将议事。

自羌族首领姚襄起兵反叛朝廷以来，仗着手中兵多士众，欺负殷浩的兵少，不断地对殷军出击挑衅。这天，姚襄竟狂妄得违反军事常规，把营寨扎到离芍陂只有十里的地方。

经过议事，殷浩及众将决定抓住有利时机，出击战敌。于是，殷浩下令由江鹵为先锋荡灭羌贼。这江鹵是殷浩手下最为得力的将领，他以足智多谋、英勇善战而著称，曾在许多重大的战斗中屡建奇功。

敌人尽管狂妄，然而，敌我之间的兵力毕竟太悬殊，而且敌人的寨栅又十分紧密坚固。得令后的江鹵想，若破寨灭敌，只能靠智取，不可硬攻。那么如何智取呢？整个一晚上，江鹵都在苦苦思索着破敌的妙计。

一个个计策在他的脑海中出现，因为有诸多不合时宜，又被他一个个否定。他翻开了《三国志》一书，企盼着能从中得到启发。

在书中众多的战将领兵以少胜多的战例中，他发现诸葛亮每到敌我双方力量对比悬殊之时，总是善于借助自然的力量，其中用得最多的便是火攻。如今，破姚襄之营，是否也来他个火攻呢。最后，江鹵决定采用火攻，来个火烧十里连营。他为自己的决策而兴奋着，当想到这把火用什么办法烧起时，他又陷入了沉思，许久，想不出更好的办法

来。

“喔喔喔！”雄鸡报晓，天已亮了。随着第一声鸡啼，跟着，远近响起了一片雄鸡鸣叫的声音。江鹵听着听着，不禁心头一亮，计上心来。

江鹵立召兵士来帐领命，兵士们得令后，便四下捉来几百只活鸡，又在每只鸡的尾巴上系上火种，同时又把它们连结在一起，听候安排。另外，全体将士做好战前准备。

入夜，江鹵率领兵士悄悄地出发了。他们来到敌人的寨外，先是把做好准备的活鸡取了出来，把鸡尾上的火种点燃，朝敌人的营寨投放过去。鸡尾巴上的火种燃烧起来后，众鸡便扑腾着翅膀拼命地飞跑起来。因为鸡与鸡都连结在一起，所以，没有哪只鸡能飞得更远，只能在营寨里打转，传播火种。不一会儿，姚襄的营寨全部被点燃了。惊恐万状的羌族士兵从被窝里钻了出来，乱作一团。这时，江鹵趁势指挥精兵掩杀过去，一举歼灭了敌军。

(顾铭新)

## 谢石激敌自退

东晋时，北方的前秦逐渐强大起来。公元383年，前秦王苻坚，率兵九十万，浩浩荡荡地杀奔东晋，要与司马氏一争天下。

在苻坚南征誓师时，他曾扬言说九十万秦军“投鞭于江”，江水也会被阻断不流的，可见人多势众，不可一世。

苻坚屯兵项城(今属河南)后，派苻融先自攻破寿阳(今安徽寿县)，又派慕容垂攻下了郢城(今湖北郢县)，为此，秦军士气大振，斗志更旺。相反，晋将胡彬只能退保硖石(今安徽寿县西北)，苻融立即挥师挺进。

此时，东晋派都督谢石、名将谢玄率兵八万西进，试图与苻融部将梁成率领的五万秦兵，在洛涧(今安徽淮南东淮河支流洛河)一线交手。两方来此后，秦将梁成立设木栅阻断淮河交通，以堵截晋军。谢石、谢玄得知此情，只得在距洛涧二十五里处扎营，与



梁成军相待。

不久，驻守在碭石的胡彬断粮，便写信向谢石求救，但因沿路已被秦军占领，所以此信并未送至谢石手中，而在中途被苻融截获，苻融立即把此信传给苻坚。苻坚认为这是一个好机会，于是，将大军留在项城，亲率八千轻骑赶到寿阳，他要趁东晋军缺粮之时，攻而破之。

苻坚并未急于进攻，他先派东晋降将朱序前往谢石处劝降。哪知此时的朱序仍然心向东晋，到了谢石这里后，他便把秦军的内部情况全盘地告知了谢石，并建议趁秦军主力远在项城，迅速攻占敌营。谢石也考虑此刻苻融兵不过二十万，苻坚也仅带来八千骑兵，若破之，势必对整个战局有很大的影响，他决定出兵。

谢石先派刘牢之率五万精兵攻打洛涧。果然，秦将梁成大败，梁成也被杀。接着，晋军全部渡过洛涧，一部沿淮河急上，一部从陆路进发，直趋淝水一线。

晋军在谢玄的训练下，军容整齐，兼之打了胜仗，个个士气高昂。苻坚在寿阳城上看到晋军军伍严整，训练有素，遥见淝水对岸的八公山(安徽凤台东南)上草木摇曳，以为全是晋兵，心中顿生恐惧。

晋秦两军隔水布阵对峙后，晋将谢琰建议，苻坚骄横恣肆，目空一切，我军可写信激他出战，让秦军后退腾出一块地方以便晋军渡过淝水，两军决战。谢石认为此计可行，便修书一封送与苻坚，言秦军如不出战，是害怕晋军。苻坚果然大怒，决定让出一箭之地，等晋军半渡之时再杀个回马枪。当苻坚令军后撤退让地时，哪想士兵厌战，撤则一发不可收，秦军顿时一片混乱。后面的部队见前军退来，以为吃了败仗，降将朱序乘机高喊：“晋军渡河了，我军被打败了！”秦军更为惊慌，全军将士纷纷后退。晋军见势，迅速抢渡淝水，掩杀过来，将一片混乱正在退却的秦兵打得大败。

晋兵乘胜追击，秦军则一路溃逃，自相

践踏和冻饿而死者无数。苻融在乱军中被杀，苻坚也中箭负伤，狼狈而逃。晋军收复寿阳，并进而乘胜攻占了洛阳(今属河南)、彭城(今江苏徐州)等地。

(顾铭新)

## 李崇以假破假洗冤案

南北朝北魏时，李崇任扬州刺史，曾处理过一起妄认死尸案。有姓解的两兄弟从定州被发配到扬州。弟弟解思安受不了服刑之苦，又思念故乡，有一天趁看守不备私自逃回家乡，哥哥解庆宾见弟弟一夜未归，知他逃走了，害怕官府追查自己责任，就想出一个假认无主死尸案，想借此瞒过官府，将弟弟户籍注销，永绝后患。事有凑巧，第二天一大清早扬州城外真的出现了一具男尸，官府贴出告示，让死者亲属认尸。解庆宾就把这具无主死尸认称其弟解思安，拉回住所草草安葬。这具死尸相貌和解思安十分相像，人们都对此事深信不疑。解庆宾假称弟弟被人谋杀，哭得死去活来，官府也未能细勘，就匆忙了结此案，将解思安从户籍上注销。解庆宾暗自为自己的急智得意，一颗悬起来的心安稳下来。

哪曾想，一波未平一波又起。解庆宾犹自感到这桩假死尸剧演得不逼真，又勾结附近一个姓杨的女巫，捏造了一番鬼话，说其弟思安死得如何惨痛，变作孤魂野鬼如何可怜等等。解庆宾口口声声怀疑一同服役的士兵苏显甫、李盖杀了思安。解庆宾无中生有状告州府，要求州府大人作主，替他弟弟思安伸冤。州府大人也是个糊涂虫，听信解庆宾的诬告，严刑逼供苏、李二人。苏、李两人经受不住严刑逼供，各自在供状上认罪画押。眼看这桩案子就要审理完了，报到李崇那里复审时，李崇感到这桩案子疑点尚多，不宜结案，就把案子压下了，没有立即判决。他私下秘密派两个扬州城内无人认识的人，假称刚从外地来扬州，拜访解庆宾。他俩同解庆宾一起吃饭饮酒时，对解说：“我们两人

家住本州，距此地三百里，一天有一人路过本州我家借宿，夜里闲谈时，发现他的来历有问题，经过盘问，知道了他的身世。据那人讲，是某地发配的兵丁，私行潜逃，姓解名思安。当时我们想扭送他到官府，他苦苦哀求，并说有哥哥解庆宾，住在扬州城里，嫂嫂姓徐。你们若可怜我，请到我哥嫂那里去报个信，说清我的遭遇。我哥哥听到后，一定会重重报答二位。我留在这里暂作人质，你们若得不到酬谢，再把我交送官府不迟。我们信了他的话，因此来找你。你若肯给了好处，我们就放了你弟弟，你若不信，可以跟我们到家中看看。”解庆宾听完，吓得脸无人色，请求二人稍等几天，以便备足财物。二人回去报告了李崇，李崇抓来解庆宾，审讯问明，解庆宾不敢隐瞒，将如何因其弟逃跑，害怕连累、冒认无主死尸，诬告苏、李二人的全盘供述了出来。苏、李二人冤案得雪，不久又将解思安捕获归案。李崇又将协同诬告苏、李的女巫召来，痛责一百皮鞭。

(顾铭新)

### 周访巧设疑兵退敌军

东晋末年，司马氏政权腐败，士族之间争权夺利，欺压人民，老百姓苦不堪言。各地人民纷纷举行起义，其中在豫章一带爆发的农民起义最为强大。起义军领袖叫张彦，他率领起义军抢官府、劫牢狱、赈灾民，当地人民纷纷响应。晋王朝不断得到告急文书，闹得朝官人心惶惶，不得安宁。

为了保住晋王朝的统治，晋王廷急忙派大将周访率领三万大军前往征剿。周访到了豫章之后，遇到了起义军的顽强抵抗，虽然也取得一些胜利，但始终未能将这支起义队伍剿灭。后来，周访得到情报，起义军要攻打某县城，便率领官军赶赴这座县城，与张彦领导的起义军展开了一场异常激烈的战斗。从早晨一直打到晚上，战斗也没间歇过。在战斗中，起义军首领张彦被乱箭射死，

周访自己的两颗门牙也被义军的弓箭射掉了，大腿也中箭，流血不止。这个周访是条硬汉子，他咬紧牙关，不顾伤痛，坚持指挥作战。

到了晚上，战斗才暂时停了下来，双方埋锅造饭。此时，周访得到探马来报，起义军又来了一支增援部队，领头的是张彦的弟弟张文。周访心想，本来和原来这支义军打仗就已经十分困难，如今义军又增添了生力军，真要打起来非得全军覆没不可。这时官军有人也听到了这消息，一传十，十传百，一会工夫传遍整个军营。周访心想，如果马上撤退，义军一定要追杀，我军伤亡这样严重，士气这般低落，逃是逃不掉的。于是他想出一条疑兵之计。

他把手下一名偏将叫到跟前，对他交待说：“你迅速组织一些人，改扮成山里樵夫的模样，混出去，绕到义军身后，擂鼓大呼：‘官军来了’。”又叫士兵多设火堆，让对方怀疑官军人多势众，不敢贸然进攻。他布置完毕，悄悄地率领大队人马在夜幕的掩护下开始向后撤退，只留下十几个兵卒燃火制造假象。周访率兵刚刚渡河，起义军就从后面追杀过来，他命令将士返身杀敌，不得退后。打退追击的义军后，他下令追击，追了一程他又下命返回，加速行军，就这样，周访依靠这疑兵之计，得以撤出军队。等到天明时，起义军再来追击已经来不及了。

(语实)

### 孝文帝迁都有术

平城地处塞外，虽经拓跋氏几代经营已初具规模，但交通闭塞，气候寒冷，风沙太大，北魏孝文帝拓跋宏对此城早已心存不满，意想迁都，只是因北方贵族大臣们都不愿意背井离乡，虽然同他们商量了几次，都未能说服他们。于是，他暂时把迁都计划搁置起来，不再提起这事。

拓跋宏知道强迫命令难以行得通，于是，他经过深思熟虑想出一条妙计。他开始放风

说，我们不能总是困守北方这一小块地方，我们也要入主中原，发展我们的势力。他颁下旨令，召集群臣集议，共商南下攻齐之大计。在这次集议中，他先命太常卿王湛占卜预测这次进攻齐国的吉凶。占卜的结果是“革”象，孝文帝拓跋宏借题发挥说：“从前成汤和周武革命，顺应天命人心，这是大吉大利的征兆。”任城王拓跋澄认为北魏兵力不足，欲进攻齐国，征途遥远，劳民伤财，再加上北方人不服南方水土，很不赞同南进。他不便明讲，就借这一占卜婉转地表达自己的见解说：“陛下累世发达，拥有中原之地，现在将要出师而卜得革命之家，不见得是全吉呀！”孝文帝听了厉声斥责道：“国家是我的国家，由我说了算。你任城王难道想要阻挡众人心愿吗？”任城王拓跋澄争辩道：“国家虽然是陛下的，可是我作为国家大臣，怎能知道有危险而不说出来呢？”底下群臣大都赞同拓跋澄的意见，但是看到孝文帝怒气冲冲的样子，都没敢再说什么。

魏主拓跋宏回到宫中召见拓跋澄，把左右人员屏退，悄声对他说：“我并不是真想攻打齐国，只是考虑到平城是用武之地，难以长治久安，移风易俗。我想用攻齐这个办法让群臣们避其难而造其易，借此迁都洛阳，你认为如何？”任城王回答说：“陛下想迁都中原为家，以便经营天下，古时周、汉两朝就是这样做才昌盛起来的，我完全赞同。”魏主又说：“北方人的特点好留恋故土，安土重迁，若迁都必遭他们反对，我这样做不知行得通不。”拓跋澄说：“迁都乃国家大事，非同小可，非常人所能料想得到，人们有些议论也是正常的，陛下圣明，应当早做决断，这样，别人也就无可奈何了。”魏王听了，感慨地说：“任城王真是我的张良啊！”

计划已定，便开始声言伐齐。拓跋宏亲率大军出征。九月初到达洛阳，正赶上阴雨连绵季节，大雨一直下个不停。魏主下令各路大军不能再等待下去，继续风雨兼程。魏主身披战袍，手执马鞭，乘马而行。众大臣

不愿意南进，受这份苦，都纷纷跪在他的马头之前，劝阻魏主。他们说：“如今大举伐齐，天下老百姓都不愿意，天怒人怨，才降下大雨拦阻我军。不知道陛下为什么要独断专行呢？我们情愿冒死相谏。”魏主见状，认为正是施行迁都之计的好时候，便晓喻群臣道：“现在兴师动众，已经惊天动地，如果事情不能成功，用什么昭示后人呢？假如不向南讨伐齐国，也应当找个借口平息他人谤言，就应当迁都到这里。”南安王拓跋桢最不乐意南进伐齐，连忙说道：“成大事業者，不与众人谋划。现在陛下如果停止南伐，迁都洛阳，这正是我们的愿望，众百姓的幸福。”群臣皆呼万岁。虽然有些贵族大臣不愿意内迁，但又害怕南伐之苦，也就不敢再说什么了。于是孝文帝冲破北方贵族、大臣们的重重阻挠，迁都到洛阳。

（语实）

## 宗慤假狮克真象

南北朝时宋文帝刘义隆封宗慤为“振武将军”，命他带领五千人马，前去征伐林邑国。

这林邑国本是汉朝的日南郡象林县，东汉末年，天下大乱时，林邑县的功曹杀了县令，便自立为王。到魏晋时，朝廷只顾内战，一直没顾得上征讨。所以至宗慤受命征伐它时，林邑国已有二百年的历史，国力也较为强盛了。

宗慤率领部队日夜兼程，终于来到了林邑国。起初，宗慤以官军自居，没太把林邑兵马放在眼里，来此后立即投入战事，准备硬攻破之。

这天，宗慤所部来到林邑城下，刚要指挥军队准备进攻，忽闻林邑城内鼓声敲响，城中众将士摇旗呐喊。随后城门大开，一千多只经过训练的大象，似发疯一般地从城中向宋军阵地猛冲过来。它们左撞右踏，势不可挡，如入无人之境。宋军将士哪里见过这样的阵势，顿时队形大乱，虽然也用刀枪拼

杀，但大象皮厚力大，收效甚微，不多时，宗慤的部队死伤众多，溃不成军。宗慤被象群所败，只好收集残兵败将退回大本营，挂出“免战牌”不再出战，同时召集谋士商议对策。

一个谋士说：“世间的东西总是一物克一物的，据我所知，只有狮子能克大象，可眼下去哪搞来那么多的狮子呢？”

另一个谋士说：“就算是有了几百头狮子，但如果不经过一番驯化训练，它们便不会不认敌友，或许先自把我们吃了呢！”

宗慤听着谋士们的议论，忽然眼睛一亮，对大家说：“我有办法破敌象阵了！”几天之后，初战得胜的林邑国王又派人前来挑战，宗慤即刻派人送去了应战书，双方约定在城外一片开阔地带较量。

林邑国王亲自出马，神气十足地命令驱赶出象群，排在阵前。一阵擂鼓之后，林邑国的大象又威风凛凛地撒腿向前冲锋。可是刚冲了一段，忽见宋军阵地立刻扑过来数百头张牙舞爪的花皮大雄狮。大象们见了，顿时吓得威风扫地，转身回逃，向自己的主人们横冲直撞而去。林邑国军毫无思想准备，在大象的乱踩乱踏面前乱了阵脚。宗慤抓住战机，命令自己的部队全线出击，这下，把个林邑国的军队直杀得屁滚尿流，落荒而逃。宋军乘胜追击，林邑国王只好投降，归顺宋朝。

要问宗慤从哪里那么快便得来那些训练有素的花皮大雄狮的，原来是在三天之内，召来画师、工匠画出了五百只狮像，做出了五百只狮子模型。造好假狮后，令士兵罩戴在胸前，用假狮战真象，一举成功。

（语实）

## 拓跋焘引蛇出洞歼劲敌

北魏拓跋焘听说大夏王赫连勃勃新近病死，太子赫连昌继位，认为这是天赐良机，亲自率领五万大军进攻大夏的国都统万城。可是任凭拓跋焘怎样攻战，都未能攻破统万

这座坚固城池，损兵折将，不获而归。拓跋焘起兵以来还从未遭受这样大的挫折，心中十分气恼。但也因此而更加坚定了他攻下统万城，消灭大夏国的决心。

公元427年，经过认真准备的拓跋焘率领轻骑三万，日夜兼程，拉开了第二次攻打大夏的战争序幕。大臣们见拓跋焘不带步兵辎重，只带这点人马，都很担心，向他进谏说：“统万城城高墙厚，易守难攻，不是十天八天就可以攻下来的。上次我们用兵五万，攻城战具一应俱全，尚且未能攻取。这次只带骑兵，又无攻城器械，怎么能成功呢？万一攻城不下，撤退时连一点凭借和支援都没有，势必处于危险境地。莫如多带兵马，多准备攻城器具为好。”拓跋焘说：“用兵之策，攻城乃为下策，只是万不得已时才用。敌凭险可守可阻可击，我军上次就是吃的这个亏。如果带重兵，携辎重，声势过大，就会吓住敌兵。他们一定要据坚守险，闭门不出，我们即使多带两倍的兵力，也很难攻破。这样久攻不下，粮草匮乏，士气下降，军心不稳，我们只有挨打的份了，这决非上策，我不能用。我们现以轻骑进取，直驱城下，大夏人看见我们只有骑兵，而无步兵，一定会轻视我们而放松戒备。到那时，我再派一支老弱不堪之旅引诱他们出城，如果他们真象我料想的那样，出城接战，我军必胜无疑。我之所以采用这个计划，是考虑到士兵离乡背井，长途跋涉，中间有黄河险阻，退路已断，这就是兵书上说的‘置之死地而后生’。用这样一支军队，速战速决可以，攻城就不行了。”大臣们听了，都心悦诚服。

拓跋焘带兵来到统万城下后，其时赫连昌手下一员大将狄子玉因不满对汉族将领的排挤，投降了拓跋焘。拓跋焘从他口中得到了一个重要情报：赫连昌听说魏军第二次进攻大夏，十分害怕，已派人到长安向其弟赫连定求援，赫连定已回信要其兄务必坚守统万城，等他将身边事料理妥当后，马上出兵来援，到那时，来个内外夹攻，不愁打不败

北魏进犯之敌。拓跋焘得知这一情报十分忧虑，担心赫连昌坚守城池拒不出战，自己的作战计划有落空的危险。他决计将城下的军队全部撤到城北，派一支由老弱士兵组成的队伍前去挑战。拓跋焘这时所带粮草已不多，他下令士兵节省粮草，每天只开两顿饭。手下士兵对此渐生怨言，其中有几个违反军令，偷食自饱，被拓跋焘严加惩罚。这几个士兵怀恨在心，竟投降了赫连昌。赫连昌从他们口中得知，北魏大军粮草用光，士兵怨声载道，又听说北魏这次只率骑兵前来，没有步兵，以为这是向北魏军进攻的绝好时机，当即决定，不再坚守不出，主动出击。赫连昌亲自率领三万骑兵冲出城来，拓跋焘见大夏兵出城来战，心中大喜，装出不敢迎战的架式，带兵边打边撤。赫连昌见北魏军如此不堪一击，愈发鼓足勇气穷追猛打。

北魏士兵也的确很疲惫，有几次险些被大夏骑兵包围。正当此时，赫连昌兵分两路，欲从两翼包抄北魏大军，拓跋焘走上台阶向全军将士动员说：“我军已山穷水尽，离家尚远，援兵不可能近日赶到。如果不奋起追敌，就将葬身于此，永无回家之日。我们只有与敌决一死战，获胜才有生还的希望。”北魏士兵听了个个重新振作起来，兵分两路与大夏骑兵展开了一场空前激烈的白刃战。拓跋焘身中流矢，仍身先士卒冲杀在前，指挥作战，北魏士兵见了深受鼓舞，全力拼杀，终于将大夏敌军击溃。拓跋焘率军乘胜追击，一举攻下了统万城。

(语实)

### 檀道济唱筹量沙巧撤军

南北朝时期，宋武帝刘裕底下一员大将能征惯战，足智多谋，为开创南朝大宋江山立下汗马功劳，他就是一代名将檀道济。宋文帝继位后，檀道济被晋封为武陵郡公，官拜征南大将军、掌管全国军事大权，负责保卫边疆，平定战乱等事务。元嘉元年，宋朝北部少数民族逐渐强盛起来，其中以拓跋焘

最为强大，经几代发展，建立北魏政权。他们不满足已得利益，不断兴兵南下，给南朝宋王室造成极大威胁。元嘉八年(431年)，檀道济奉宋文帝之命率领十万大军征讨北魏。檀道济渡江北上，与北魏展开激烈战斗，经过大小几十次战役，他连战皆捷，叠克城池，一直攻打到北魏腹地历城一带。这时候，檀道济被胜利冲昏了头脑，骄傲起来，他不顾手下将士的劝阻，孤军深入，又不象以前那样对军队约束很严，军队上下弥漫着松懈厌战的情绪。北魏毕竟是一个建立多年的北方大国，虽然连吃败仗，但国力还很强。北魏人见宋军孤军深入，连日作战，日渐疲惫，当得知宋军防卫松懈，便突派轻骑袭击了宋军的粮草库，将宋军的大批粮草、军备物资烧得一干二净；另外魏人派兵卡断宋军的军需物资补给线，使得宋军粮草断绝，无法坚持作战。

檀道济得知后方粮草被烧毁，眼见营中所备粮草无多，如不尽早撤军，势必陷入困境。他当机立断决定马上撤军回朝。叛投北魏的士兵已把宋军粮草匮乏准备撤退的消息报告给了魏军，并建议趁这一有利时机追击，不给宋军以喘息的机会。北魏慑于宋军的强大，不敢轻举妄动，便派探子前往侦察。檀道济明白，如果北魏得知宋营无粮的确切消息，一定会疯狂反扑，到那时内无粮草，外无援兵，宋军要想返回去就十分困难了。他面对困难十分沉着冷静，想出了一条安定军心，麻痹敌军之计。到了夜晚，他叫手下亲兵到粮库清点库存粮米，叫他们用量米的斗称量沙土，一边称量一边高声报数。只听宋军粮库前，宋军士兵一声高一声低地唱道：一斗、二斗，……五石，十石。这声音在夜深人静之时传出很远，很远。宋军士兵不安的情绪随着后面传出的数字逐渐安定下来，前来探听情报的魏兵，跑回去向主将汇报了这一情况。北魏将领闻知大惊，叫人把前来报信的宋国士兵斩首，心里暗暗庆幸：如不是谨慎行事，几乎中了檀道济的奸计。

第二天早晨，檀道济命令全军将士披盔戴甲，整装出发，檀道济自己却身着便装，率领宋军有条不紊地向宋国边境退去，大军粮队车上装满了盛着沙土的粮袋。北魏见宋军撤退时这样从容不迫，心怀疑惧，远远地跟了两天后，怕宋军设有伏兵包围他们，就悄悄地离去了。檀道济率领宋军人马沿着大路，十分顺利地撤回到本国。

(语实)

## 臧质激敌与战

宋文帝元嘉二十七年(公元450年)，北魏太武帝拓跋焘率领三十万大军向南朝宋王朝发起进攻。北魏大军长驱直入，一直打到彭城(今江苏徐州)。宋文帝派臧质挂辅国将军之职，率宋军一万火速增援彭城守军。臧质率军刚刚进入盱眙地界，这时北魏大军已渡过淮河，截住宋军展开激战。宋军一路鞍马劳顿，还未得到休息，突然遭到敌军攻击，未战多时就被北魏军打得大败，辎重粮草军械损失殆尽，臧质只率所剩下的七百余残兵败将退守盱眙。

盱眙太守沈璞是当时一名十分干练的大臣，他虽然是名书生，但很具有战略眼光。在他任职期间，十分注重城池的建设，他认为，盱眙虽小，但地处交通要道，自古以来就是兵家必争之地。他动员市民加高加固城墙，多积粮草，修造守城器具，防备不测时好据城固守。臧质带兵逃进盱眙城，见城池坚固，储备充足，还有三千守城军队，心中大喜。于是，臧质决心协助沈璞坚守盱眙，共同御敌。

北魏拓跋焘率军南下时，没带多少粮草，军队所需粮草全靠一路抢掠。当北魏大军渡过淮河后，中原老百姓闻风而逃，将所存粮食都带走了，北魏军来到这里后，没有抢掠到多少粮食。拓跋焘也清楚这一点，只能速战速决，不能滞留一地。所以，他只留下数千人马攻城，待攻下后抢掠城中丰足的粮草补充军队所需，自己率领主力大军继续南

下。臧质和沈璞见此情形心中大喜，抓紧这短暂有利时机，带领全城军民日以继夜，修城挖河，修造战具，加固城防。北魏这几千人马力量单薄，虽攻了几次城，均以失败告终。最后只好据守城外，安营扎寨，牵制盱眙守军。

第二年二月，北魏大军虽然打了几次胜仗，但因需牢固根据地，只好返回。这时的北魏军早已兵断粮、马断草、士兵思归心切，军心不稳。拓跋焘为解决全军粮草所需，决心拿下盱眙城。拓跋焘骄狂自大，根本没把这座小城放在眼里，射箭传信叫臧质和沈璞开城迎接，备好酒肉犒劳北魏大军。臧质知道拓跋焘脾气暴躁、急于返回本土，决心与他周旋，就叫人用酒坛装满人尿给拓跋焘送去，故意激怒他。果然拓跋焘一看送来的人尿后，十分震怒，指挥全军一夜之间就把盱眙城围个水泄不通，并断绝了水陆交通，扬言要在三天之内拿下盱眙。

臧质因为准备充分，对拓跋焘的威胁一点也不害怕，故意写信羞辱他：“你没听到有首童谣这样唱吗？‘虏马饮江水，佛狸(拓跋焘小名)死卯年。’这是天意呀！天命不可违，我受命北伐，本想将你击毙在你的老家，没想到你却亲自送上门来，我不能不接受呵！你如果幸运的话，应当死在乱军之中；如果不幸的话，则可能被我生擒活捉，到时用一头毛驴解送我大宋都城受辱。”拓跋焘见信气得暴跳如雷，咬牙切齿地大骂不止。叫人制了一张铁床，在上面放置铁锥，扬言生擒臧质，就叫他尝尝这铁床的滋味。于是下令加紧攻城。

北魏用带钩梯的兵车攻城，臧质就命人用粗绳把钩梯系住，用几百人拉住，叫兵车欲进不能，欲退不可。到了夜晚，臧质用水桶盛人，坠到城下，砍断钩梯，拉入城内。拓跋焘见兵车被劫，更是气得不得了，他又派人用冲车攻城，但城墙全都是用巨石垒的墙基，异常坚固，冲车撞到墙上，不仅撞不坏城墙，反将冲车撞得散了架。拓跋焘无计

可施，强令士兵树梯爬城与宋军展开肉搏战。盱眙军民在臧质和沈璞的率领下，同仇敌忾，与北魏军展开殊死搏斗。北魏军轮番攻城，被盱眙军民杀得死伤无数，几乎死尸堆起来快有城墙高了。但是，打了一个多月，北魏军死伤过半，宋军援兵陆续赶来增援，拓跋焘没有办法，不得不解围而去。

(顾铭新)

## 垣崇祖借水阻敌军

公元480年春，北魏兴兵攻打齐国，二十万大军长驱南下，直指寿春。

寿春位于淮水南岸，是南北交通要冲，也是淮南军事重镇。齐高帝萧道成派大将垣崇祖镇守寿春城。当时形势是这样的：北魏兵强马壮，而寿春守军不足三万。

垣崇祖召集部下商议退敌之策。根据肥水从西北流入寿春城，又向北折流出寿春城东这一特殊的地形特点，垣崇祖提出了一个“治外城，堰肥水”的决策。他说：“如今敌众我寡，我们只能出奇制胜。一方面加固外城，以为防守之用。但城修大了，没有水就难以发挥作用。所以另一方面，就要修筑高堰将肥水三面挡住，蓄积水势，以助我军守城。”对这样一个守城计划，有很多人理解。他们说三十年前北魏太武帝拓跋焘率大军南下时，宋南平王刘铄守城的兵力要强大得多，还是认为外城太大，难以固守而退保内城。而且从古至今，没有一个人人为肥水筑堰，就是因为地形不便，即便积蓄了水也无多大用处，如今要这样做实在不是一条良策。垣崇祖反驳说：“你们一叶障目，只知其一，不知其二。如果我们放弃外城而被敌军占领，他们必定要加修各种工事实行合围，到那时，我们无屏障可依，表里受制于敌，只能坐以待毙。”垣崇祖力排众议，下令在城西北筑堰堵住肥水，又在堰北筑起一座小城，周围挖了壕沟以吸引北魏的兵力。他对手下长史封延伯说：“北魏的将领急功近利，一定会倾全力攻打小城，他们看到沟又窄，城又小，认

为一战可胜，势必要集中兵力，搞大规模的集团作战，到那时，我们决堰放水，可不战而胜。”魏军攻到寿春城下时，果然集中了大批人马主攻南面，又分出一支人马从东路进攻小城。垣崇祖见敌军正如所料布置攻城兵力，便放下心来，坐着小轿，从容指挥守城士兵抵抗。待日头偏西时，只听一阵阵震耳欲聋的水声传来，冲出堰口的洪水如同千军万马直冲魏军。不一会儿，北魏的兵士就被卷进波涛汹涌的洪水之中，淹死北魏士兵有数千人之多。北魏军损失惨重，只好撤军而返。

(顾铭新)

## 高欢智逃虎穴

高欢接受尔朱兆的委派，用计笼络六镇起义人马，建立起一支强大军队，但羽翼未丰，还需要进一步扩充军队。

高欢要想创立一番事业，就必须摆脱尔朱兆的控制，否则一切无从谈起。他派人向尔朱兆请求说：“这些年并州、肆州连年干旱，那些投降的人，拖家带口，连顿饱饭也吃不上，只能靠挖地里田鼠充饥，一个个饿得面黄饥瘦，这样下去随时都可能再次暴发起义，不如让我率他们移居山东富庶之地去谋生，待解决温饱后再作安排。”尔朱兆认为来人说的有道理，就想答应。这时长史慕容绍宗听说这件事赶到这里，劝阻尔朱兆说：“这件事万万不可答应。如今四海动荡，人怀异志。我看高欢绝非等闲之辈，是个怀有大志的人，如今又有兵力在手。如果让他去了山东，等于放蛟龙入了大海，放猛虎进深山，恐怕将来难以制服了。”尔朱兆说：“我和他是烧过香火的结盟兄弟，他对我忠心耿耿，不必顾虑重重。”慕容绍宗说：“有时亲兄弟尚且难以信任，结盟兄弟又算得了什么？”尔朱兆左右的人因为接受了高欢的贿赂，都替高欢说话。他们说：“慕容绍宗所以阻止高欢去山东，是因为他与高欢有仇，借机报复。”尔朱兆原本对高欢就很信任，一听这话，便因



禁了慕容绍宗，回复高欢说：“你的想法很不错，抓紧时间出发吧。”

高欢见尔朱兆接受了他的建议，怕他生变，第二天就率领六镇义军出发了。一出滏口(太行山隘口名)，正遇见尔朱兆的妻子从洛阳到晋阳去，还带了三百匹好马。心中大喜，就叫手下人将这些马匹抢夺过来。尔朱兆的妻子到了晋阳把这件事告知了尔朱兆。尔朱兆到这时，才觉得高欢此去事有蹊跷，带上人马就去追赶。高欢也怕尔朱兆反悔，下令军队急速行军。不料，尔朱兆追到襄垣这个地方，漳河暴涨，桥也冲毁了，高欢已渡过了漳河。高欢见尔朱兆率军前来，就假惺惺地隔着河水向尔朱兆下拜说：“我借嫂夫人的马，没有别的原因，只是为了对付山东的那些盗匪。大王听了嫂夫人的话来追我，我过河去受死在所不辞，只怕这些士兵不好收拾。”尔朱兆连说不是这回事，只是想送兄弟一程。尔朱兆单人独骑过了河，同高欢一起坐在帐下。高欢抽出宝剑交给尔朱兆说：“大哥要是不相信我所说的话，就用这把剑砍下我的头。”尔朱兆一看高欢那么真诚激动的样子，把剑扔在地上，又叫人杀一匹白马，同高欢再次歃血盟誓。高欢留尔朱兆住了一宿，第二天才依依作别。高欢望着逐渐远去的尔朱兆，心里这块石头落了地，长长地出了一口气，庆幸自己终于逃出了虎穴，从此可以远走高飞了。

(顾铭新)

## 高欢善用虚实

南北朝时，偌大中国四分五裂，大地主大军阀分疆裂土，自立为王。为争夺天下，他们征战不已，演出了一幕幕弱肉强食的闹剧。这里讲的是高欢与尔朱兆之间的争夺战。

公元532年，驻扎在山西的两支军阀进行一场你死我活的火并。一支是驻扎在秀容(今山西朔县西北)的尔朱兆，另一支是驻扎在晋阳(今山西太原)的高欢。高欢善用兵，

极尽诡诈之能事，为时人誉为“小诸葛”。高欢欲独霸一方，容不得他人染指，遂决心除掉尔朱兆这一强劲对手。晋阳一战，高欢将尔朱兆击败，于是占据了晋阳城，将尔朱兆驱逐到秀容一带。尔朱兆新败，害怕高欢再次攻打，日夜加固城防、构筑工事，严阵以待。高欢知道尔朱兆虽败，但兵力还很强大，如果直进猛攻，尔朱兆必定凭借有利的地形和有准备的防务，即便攻下来，打胜了，也不能将尔朱兆彻底打垮，而自己也会损失不小。于是高欢采取了虚张声势、真真假假的作战方针。

高欢先放出风声说：“近日攻打秀容，各路将领务必作好战斗准备。”尔朱兆新败，军心不稳，听说高欢要率大军前来攻打，不日可至，吓得赶紧调兵遣将，做好作战准备。可是张罗了好几天，也不见高欢大军前来，派兵侦察，得知高欢只不过作了一次军事演习，根本没有进攻意向，闹得虚惊一场。过了几天，又传出高欢出兵的消息，尔朱兆哪敢松懈，又赶紧部署部队准备迎战，谁知几天过去，又不见高欢有何动静，又是一场虚惊。没过几天，探马又报，高欢正调集兵马即日起兵，尔朱兆又赶忙部署军队做好作战准备，可是过了几天，还是未见高欢出兵，把尔朱兆气得暴跳如雷，底下兵将也是怨言沸腾。又过了几天，刚刚定下心神的尔朱兆又得到消息，说高欢大军正向这里进发，尔朱兆心想：事不过三，这次可能是真来了，又忙下令军队做好战斗准备，过了几日，高欢还是没有打来。经过这几次折腾，尔朱兆断定，高欢是虚张声势，未必要来进攻，于是也就放松了警惕，不肯轻易相信外边传言了。又过几日，又传出高欢出兵的消息，尔朱兆草草安排一下，没有认真对待。过了几日，也真的和前几次一样，太平无事，尔朱兆心想，高欢你再也骗不了我了。

高欢得知尔朱兆放松了戒备，知道自己计谋已获成功，于是马上召集部将，部署作战计划。立刻传令出兵。这天正是除夕之



夜，高欢派遣都督窦泰率精锐骑兵急速前进，一日一夜行军三百里，正月初一兵临秀容城下。这时尔朱兆正与众将饮酒作乐，突闻探马来报，高欢大军已兵临城下。他还不相信，将前来报告的人狠狠训斥一顿。还没等前来报告的人退下，就听城楼警报大作，才知道高欢大军真的杀来了。毫无准备的尔朱兆大军，突遭袭击，顿时一片混乱，哪经得住高欢精锐之师的猛烈进攻，被打得仓皇逃窜，溃不成军。尔朱兆在众将的保护下，左冲右突，总算冲出重围，保住一条活命。回头一看，手下将兵才十几个人，他又痛又悔，一剑杀死战马，自缢而死。高欢乘势挥军杀来，消灭了尔朱兆的残余部队，成了山西一带的一统之主。

(顾铭新)

### 高洋的韬光养晦之计

东魏大丞相高欢有两个儿子，长子叫高澄，次子叫高洋。高澄性格刚烈，处事果断、专断独行、机谋而勇武颇象高欢。高洋长得象个文弱书生，性格内向，不擅交往。就是这个表面上看起来软弱无能、文质彬彬的高洋，在他哥哥死后，机谋善断，逼使东魏国主元善禅位，成为北齐开国皇帝。

东魏开国元勋高欢死后，长子高澄继任为大丞相，统领全国兵马，坐镇晋阳(今山西太原)；次子高洋则被封为京畿大都督，在邺都辅佐朝政。

高澄脾气暴躁，狂傲不羁，处理事务独断专行，总揽朝政大权，不可一世。高洋因长兄掌权，对自己所管事务不闻不问，有时国家有大事时才找他商量，于是，他不是闭口不言，装聋作哑，就是借故推托，这使得满朝文武大臣几乎都瞧不起他。高洋对文武大臣对自己的态度，也仿佛漠然处之，毫不在意。对长兄高澄百依百顺，唯命是从，从不争长论短。

有一回，高洋给夫人买了一套华美服饰，高澄看了很喜欢，就给要去了，高洋也没有

流露出一点不满意的样子，反而劝说夫人不要为这点小事生气。他有一个美妾，多次被高澄调戏，他明明知晓，也佯装不知。尽管这样，高澄对他却很不满意，认为他不象高家子孙，一点出息没有，经常为一些小事训斥他，他也从不反驳，只是低头不语。高洋每次退朝回家，常常闭门静坐，对家里人也很很少讲一句话。有时他赤着脚，光着脊梁沿着院墙跑个不停，由于坚持长期锻炼，身体很结实。

高澄早就有废帝自立的野心，经常会同心腹在家密谋此事，不料此事泄露出去，被家奴兰京聚众刺杀身亡。高洋得到哥哥高澄遇刺身亡恶讯，声色不动，偷偷地调集人马赶往哥哥家中，将兰京等凶手捕杀。对外则说大丞相只是由于家奴造反受点轻伤，并向皇帝元善请求护送高澄回晋阳养伤。元善信以为真，当即准予了他的请求。元善闻听高澄受伤，心中暗喜，认为只剩高洋一个人难以成大气候，国家大权可以重新回归皇室了。高洋回晋阳后，立即召集群臣发号施令，推行新法，革除弊政。不到一年时间，把个晋阳治理得井井有条，欣欣向荣。诸大臣这才对高洋刮目相看。高洋见内外安定，这才宣布高澄去世，为其兄大举丧葬。元善认为他没有政治野心，容易相处，就封他为大丞相，统领全国兵马，袭封齐王。

数月后，高洋率兵抵达京都，逼迫东魏元善皇帝禅位。元善到这时才醒悟，高洋从前那一切全是伪装的，但为时已晚，只好乖乖地交出玉玺。高洋遂登台称帝，改国号为齐。

(顾铭新)

### 杨侃献策扼险破敌

西魏时，萧宝寅造反而率众进攻华州，长孙稚领兵讨伐，经过几次战役都没有成果。

杨侃对长孙稚献了一个计策，说：“想要取胜，必须攻取北面的蒲坂，从西面扼住敌

人的险要地区，敌人恐怕不能退归老巢，必然会回去解救，那么华州之围，不必费力便可解除了。用兵之道，若是想以弱胜强，只有进袭而占据险要的地势，当年曹操在潼关碰上马超，论马超的骁勇和手下西凉兵的强悍，应可以一鼓作气而把曹操打败的，可是曹操仅受到一点挫败，仍然能够跟马超对抗，主要是扼住了险要的地势！”长孙稚听后，皱皱眉头说：“这计不错，不过，各地响应萧宝寅那厮的为数不少，处处都有敌人的小头目驻守着，我们的兵士怎能够开出一条路去袭取险要呢？”杨侃回答说：“这自不必担心。围攻河东的是薛修义，他的部下兵众来自旧村，他们的父母妻子都留在那里，只要佯称要攻旧村，那薛修义的部下必定会顾虑父母妻子。这样，我们转而正面进攻薛军，薛军便不会有什么斗志了。另外，驻守在虞坂的是珍孙，他本是出身行伍的武夫，靠着人情攀附为将领，部下对他毫不敬重，当然不会为他卖命。”长孙稚听杨侃如此精透地分析，会心地一笑，道：“你既能够知己知彼，我便相信可以一战了。”

于是，长孙稚召集将领，授命杨侃带领骑兵前去进袭。杨侃自恒农渡江到北岸，驻守在右锥壁一带。他先探望了民情的顺逆之后，再命令士卒向沿途村民传达令谕说：“明天有大军路过这里，你们这些村民，各家各户都必须点燃火把，三日三夜不灭，用以助长官军的威势。如若不点火把者，便表示他是贼党，官军将格杀勿论。”令谕下达后，一时居民互相转告，争相点燃火把。由于有贼党之嫌，所以，有些依附贼党的村民，也怕暴露其身，或悔或恐跟着也点燃火把，这样，通天的火光在夜色中遍布数十里。

那薛修义的部下看了这般景象，都害怕起来，一个个无心恋战，而暗自想着退路，甚至大批的兵士开始逃跑，不久，薛修义所部便落得个溃不成军了。薛修义组织不起有生力量去与官军作战，无奈只能乞请投降，以保活命。

杨侃威慑敌人成功，因而没费力便取得了河东之地。扼险后，长孙稚大军开到，转而一举攻克了潼关。

（语实）

## 贺若敦训马断降路

公元560年（南北朝北周明帝武成二年）的一天，在湖州（今湖南长沙）城里，北周军司马（官职名）贺若敦的帅府内，有个军官向贺若敦报告说：“启禀将军，今天又有二十三名士兵偷渡降敌。”坐在太师椅上的贺若敦听罢，挥了挥手，让那军官退下，独自又思考起来。

原来，贺若敦所部守军，被南陈太尉侯瑒围困在城内已好几个月了，城内粮草也即将用尽。为此，士气低落，军心动摇，更为可怕的是，最近经常有士兵偷偷地出城投降陈军。起初一天只有三五个，后来发展到一天十多个。为了制止出逃降敌之风，贺若敦已经下令杀了几个逃兵。可是，许多受不了饥饿之苦的士兵仍冒死出逃。为此，贺若敦十分伤神。

能想出一个什么办法从根本上禁止士兵投敌呢？湖州城四面环水，投敌的士兵都是由敌方派人用船到此岸把他们接走的，能不能在船上做些文章呢？终于，贺若敦想出个万全之策。

第二天，贺若敦吩咐士兵们按他的指令去办。一会儿，士兵们纷纷牵着战马出城来到河边，岸边是等候着的众多船只。接着士兵们开始牵马上船，当马蹄即将踏上船板时，他们便拿起早已准备好的皮鞭，使劲地抽打马匹。那些战马一受到鞭打，疼痛难忍，便纷纷掉头往岸上跑。这些士兵拉住马后，再次把马匹拉上船，又是使劲地鞭打，马匹又逃。这样反复训练，一连几日，使马匹产生了条件反射，即看到船只，就恐惧起来。最后，任你怎样打，怎样拉，它们也绝不肯上船了。

又一天，贺若敦命令二三十名精干的士

兵，骑上那些受过恐船训练的马匹，来到水边向陈军假投降。这些北周士兵大着嗓子，向南岸喊着：“喂，南陈的军爷，我们是来投降的，请放船过来接应我们吧。”

南陈的官兵一见今日降者较往日多了，便立刻把船划了过来。船一停靠，南陈的官兵便都下船上岸，帮助北周的降兵把战马牵上船去。可是，不想这些马匹一见到船后，说什么也不肯上去，用脚死死地刨住地面。

就在侯瑒的官兵跟那些马匹在船边拉扯的时候，早已受命埋伏在岸边的北周伏兵乘机杀起。很快，他们和那些假降做诱饵的士兵一起，把过河来接应的侯瑒的士兵全数歼灭，并缴获了所有的船只。从此，即便真有骑兵出城投降，任他们在岸边怎么喊，侯瑒的官兵也不敢过河来接应了。贺若敦巧施计谋，训马断了降路。

(语实)

### 高潜按图索骥

南北朝北齐天统年间，任城王高潜担任并州(今山西太原西南)刺史。

有一次，州城有一位妇女到汾水边上去洗衣服，因为穿了双新靴子，洗衣时，她便将靴子放到岸上，光着脚下到水里。这时，从城里出来一个骑马的人。那人飞驰来到河边，见河岸上放着一双新靴子，便勒缰下马，趁那妇女低头洗衣时，脱下自己的旧靴子，换上了那双新靴子。然后，纵身上马，策马而去。等到那妇女发现时，只看见了那骑快马人的背影和之后的一串烟尘，别的什么也不知道了。

第二天，那妇女拿着那骑马人扔下的旧靴子，哭哭啼啼地来到州衙告状。高潜先是安慰了她一番后，接着问话，可问了半天，那女人除去手中的那双旧靴子外，别的什么都说不上来。

高潜是北齐文宣帝高洋的弟弟，他和那个淫乱残暴的昏君哥哥完全不同，高潜为人宽厚、聪明而多谋。他问完话后思索了一

会，当堂命令那个女子和衙役们保守秘密。然后命人将那双旧靴子拿去找城内各家妇女观看，并对他们说：“昨天有个骑马的人在路上被强盗劫杀了，遗下了这双靴子，不知是谁家的亲属，请大家认认看，我们州衙也好立案。”

一时间，众妇人争相辨认，极为认真。很快，一位老太婆看罢靴子后，拍着胸脯大声地痛哭起来，道：“这是我儿子的靴子呀！昨天他正是穿着这双靴子出城的，到乡下他岳母家去的呀，不料竟遭到杀身之祸，这真是祸从天降啊！”

差役把此情回报后，高潜立即派人将偷靴人从其岳母家抓获。于是，一桩难案，高潜用他的智谋给解破了。

(语实)

### 尉迟运用火守门

公元574年(南北朝北周武帝建德三年)的一天，北周都城长安皇宫内，武帝宇文邕正在对儿子卫王宇文直和大臣长孙览作临行前的交待，他说：“皇儿、长孙爱卿，朕此番出巡云阳宫，维护京师治安的重任，就全靠你们了。你们要事事站在皇太子一边，处处维护太子的威信，维护京师的安全。”两人跪伏在地上，唯唯喏喏地应着：“谨遵圣谕，请皇上放心。”

可是，当武帝一离开京城后，长安城内就发生了一场蓄谋已久的政变。原来，皇子宇文直因为没被立为太子，一直心怀不满，早就有了篡权的野心，趁这次父亲出巡，他终于发难。

这天上午，宇文直带领亲兵部队，突然袭击了长安肃章门，妄图以此为突破口，冲入宫中。大臣长孙览一见到这般情景，早吓得惊慌失措，一面大叫着：“你们不可向我攻击，你们不可向我攻击。”一面抱着脑袋，惊恐地逃向皇帝的内宫，再也不敢现身了。

由于肃章门牢固，宇文直的人马一时难以冲开。在这危急关头，肃章门的值班卫官

尉迟运挺身而出，他迅速组织一班卫士准备与政变军队抗击。随着叛逆的军士们的撞击，肃章门终于被打开了一条缝，尉迟运立即与之发生了激烈的夺门战。还好，尽管尉迟运的手指被外兵用刀砍伤了，但他不顾伤痛，拼命又把城门关上，仍将宇文直他们阻止在门外，片刻，叛逆的军士又向大门进行新一轮冲击，但任凭怎样冲撞，也没撞开宫门。

宇文直见硬冲不行，便下令放火烧门。尉迟运一见外面改用火攻，起初很是着急，突然，他心生一计：何不用火对攻。他心想：你们放火我也放火烧，今天，我就摆个火阵来阻挡你们！于是，尉迟运命令兵士迅速从宫里搬来了许多木材、床板等一切可燃物体，堆积在门洞内，同时，在堆上倒满了油。

大门终于被外面的大火烧坏了，随后倒塌下去，待宇文直欲指挥兵士冲进来时，突然，门里的木材堆被点燃，火势很大，宇文直的人马一下子被阻挡在门外，无法冲进来。大火一直烧了很长时间，宇文直见无法进去，只得快快地带着人马后退了。尉迟运见叛逆军士锐气大减，趁势带领卫队士兵冲杀出来，直把宇文直等人打得大败，宇文直无奈，只身逃往荆州。

武帝出巡回京后，重赏了尉迟运。同时派重兵前往荆州，活捉了宇文直，治了他死罪。

(语实)

### 韦孝宽巧脱追骑

南北朝末年，陈静帝临朝亲政。受皇上赐封为蜀公的尉迟迥是个一心求利、贪图功名的人。其时，朝中另一大将韦孝宽，正奉命南征，尉迟迥深怕他立功回朝，皇上对他会褒奖赏赐，而使自己失宠，就在暗中计划如何剪除这根肉中刺、眼中钉。

不久，韦孝宽带军由山西入陕西回来，半途休息，军队在朝歌附近扎营。于是，尉

迟迥便利用这大好机会，突施他的阴谋诡计。尉迟迥一面派自己的心腹、大都督贺兰贵，带着一封自己亲笔所写的慰问函件，交予韦孝宽；一面利用韦孝宽患有宿疾，须沿途求医的机会，派人在相州布置许多密医，等韦孝宽路过求医时，寻得机会将他害死。尉迟迥仍怕没把握，另外又派一个心腹，即魏守郡将军韦艺，利用韦艺为韦孝宽宗侄的亲缘关系，在迎接韦孝宽入城时，寻机将其擒拿，真可谓机关算尽。

韦孝宽颇有心计，反应迅速，且机谋善断。见识超人一等，为当时有名的大将军。当他收到贺兰贵带来的尉迟迥的亲笔致候信时，对尉迟迥邀他回朝廷叙谈一事，当即心头犯疑，觉得尉迟迥此举有些反常。于是，他便暗中有所提防。他本不想回去，但考虑到必须回朝廷朝见陈静帝，所以，回贺兰贵话时，借口身染重病，必须慢慢行走，到城日期难以确定。

韦孝宽途经相州时，并未找当地医生看病，所以，使尉迟迥的密医加害计划落空。最后，只有走韦艺擒拿这条道了。当韦艺前来迎接时，韦孝宽有意问起有关尉迟迥的事情。对于这突发的奇问，韦艺回答得吞吞吐吐，现出故意为其掩饰之状。韦孝宽一下子明白了韦艺定有什么难言之隐，心中的疑虑更深一层，于是，便恐吓韦艺，说要将其斩杀处死。韦艺看其叔父似已掌握了一些情况，便十分害怕，于是将尉迟迥的种种阴谋全盘说出。

韦孝宽知道了这情形之后，细细思量一番，他知道自己所带的亲骑人数不多，且正处于尉迟迥的势力范围之内，必须采取比较特殊的措施，叫尉迟迥意想不到的计策，方能安全走脱。于是，他带上韦艺和部属向西面绕道逃奔，每次经过一个驿站时，总是对那些驿站的负责官说：“蜀公尉迟迥马上就要到了，赶快准备美酒佳肴恭候大驾吧！”

尉迟迥见韦艺多日不归，料到其中有变，既然杀死韦孝宽的决心已定，就决不能让其

在自己的手掌里逃走，最后，尉迟迥孤注一掷，派遣仪同大将军梁子康，率领数百位军中好手，快马加鞭地追捕韦孝宽。

梁子康顺韦孝宽逃迹而追，不想，每到一个驿站就被接待入席，这自然耽误了许多时刻，再加上酒醉饭饱，锐气大减，行动迟缓。终于由急追变缓追，距离越拉越大。韦孝宽终于凭自己的智谋，平安地脱离了险境。

(语实)

## 隋唐五代谋略实例

### 高颀献计先缓后速攻其不备

高颀字昭玄，渤海人。隋文帝时，被任命为尚书左仆射，封为渤海郡公，官位显赫，朝廷的大臣无一个能与之相比。

高颀幼年时期，就聪明灵慧，足智多谋，他非常喜欢读经书，尤其擅长辞令，他家门前有棵柳树，一百多丈高，亭亭如盖，村中的一位占卜师指着门前的柳树说：“这一家肯定会出贵人啊！”果不其然，被其所言中，出了个著名的谋略家。

公元582年，长孙览、无景山等攻打陈国，各路兵马统由高颀来节度控制。此时正好赶上陈国的宣帝驾崩，高颀对众将说：“‘礼不伐丧’，本来陈国的一国之主已经死了，大祸已降临陈国，我们这时再攻打它，就算不讲礼义了。”于是，他奏请文帝率军班师回朝。隋文帝对他的举动大惑不解，高颀向隋文帝说明了他的灭掉陈国的计策。高颀说：“江南土地温热，水田稻谷早熟。我们在他们收获的时候，征集一些兵马，故意扬言要出奇不意袭击他们，他们必然屯兵防御，这样就可以使他们荒废农时。等到他们聚集起部队来时，我们又解散部队。如此反复再三，他们以为我们只有这一招，以后再聚集部队时，他们必然不相信；那么，趁他们麻痹松懈之时，我们忽然组织起部队，出其不意出

兵，一定会打败敌人。此外，江南土层薄，房屋大多是竹子和茅草盖的。所有储备和积蓄都藏在屋里，而不是在地窖中。我们可以秘密派遣一些人，顺着风势放火，将他们的房屋财产烧掉。不出几年，自然可以使他们的财产和人力都困乏不堪。”隋文帝听后恍然大悟，非常高兴，决定依计而行。公元589年，晋王广大举进攻陈国时，任命高颀为三军的统帅，一切听从他的指挥，最终消灭了陈国。

晋王灭掉陈国后，听说陈主宠姬张丽华天生妖艳，姿色过人，便想纳之为妾，高颀劝谏道：“周武王灭掉商殷之后很明智，把美女妲己杀了，怕美女误国，现在灭掉了陈国，把张丽华也应该杀了”，晋王很是不悦，过后思之，甚觉高颀的话很有道理，也就依了他的话，把张丽华斩首。高颀被晋王加授官职为上柱国，进爵为齐国公。

(丁晓明)

### 李渊募兵假写诏书

隋朝末年，天下大乱。定阳王刘武周勾结突厥，自封为可汗，出兵占领了隋炀帝的汾阳离宫。隋朝大将李渊此时正留守太原，他的儿子李世民早看到隋帝横征暴敛，荒淫无度，百姓忍饥挨饿，战乱不断，隋朝实以病入膏肓，无可救药，于是产生了取而代之的念头。如今听说定阳王占据了汾阳离宫，恐怕天下被他夺去，非常着急，于是，赶紧去见父亲李渊。

李世民见到父亲，就说：“大人任职太原留守，而竟被刘武周占据了天子的离宫，罪不小啊！大人如果不早建大计，大祸恐怕马上就要临头了。”李渊问道：“即便这样，我们又怎么样呢？”李世民说：“平贼保宫，是每一个官员的责任。为什么我们不召集众将，问计募兵，那么便可以名正言顺了。”李渊听了儿子的话，立刻召集众将领，对他们说：“刘武周勾结突厥，自称可汗，占据汾阳离宫，我们没能制止，罪当灭族，你们说我们该怎么办？”众将士原本就敬佩李渊，于是一起请

求李渊定计。李渊见大家如此，就说：“众将士既然如此信任我，我就独揽大权了。眼下突厥没有退却，又来了盗贼，我们只好首先招兵买马。”即刻派李世民、刘文静等人分头去各地募兵。

李渊为了能使自己征到足够的兵源，使百姓积极的参加自己的军队，巧施一计。他密令刘文静，假造一份隋炀帝的诏书，说如今又要东征，朝廷专门要征发太原、西河、雁门几郡的百姓；凡是年满二十岁以上，五十岁以下的一律都要在当年年底以前集中到涿郡。刘文静按照李渊的密令草拟完毕，很快，整个太原城里到处都贴出了朝廷下诏东征的告示。老百姓看了告示，群情激愤，骂声、哭声混为一片。

原来，隋炀帝统治时期，对人民实行暴政，几次东征高丽，连年战乱不断，使老百姓妻离子散，家破人亡。因此，人们非常痛恨战争。如今，又看到隋炀帝下的征兵诏书，当然激起了百姓的愤怒。有胆大的说：“东征东征，百姓死清，横竖是死，不如和他们拚了！”紧接着有人说：“干脆攻打西京，反了吧。”

正当百姓们群情激昂的时候，晋阳乡长刘世龙走了过来，他对大家说：“县令刘文静大人、唐二公子，都在募兵呢，他们征兵是去打突厥保西京，而不是去打高丽，大伙不应征？”刘世龙的话说得正是时候。刚才大家正由于看了隋炀帝的“诏书”而愤怒，一听到刘世龙说的话，真象是黑暗里见到了一丝光明，于是百姓们毫不犹豫，纷纷前去报名应征入伍。就这样，前后不到十天，远近百姓应征入伍的就达一万余人，李渊的队伍壮大了。

李渊巧用计谋，假写诏书，利用老百姓痛恨东征的心理，达到了自己扩兵的目的，为以后的晋阳起兵做好了兵力上的准备。

(丁晓明)

## 李靖放船请敌自降

公元621年(唐高祖武德四年)，高祖李渊在太原起兵后，已经攻占了隋都长安，展开了征讨四方、剿灭群雄、统一中国的战争。这时，梁室帝肖察的曾孙肖铣还占据着江陵(今湖北江陵县)，自称皇帝，唐高祖派遣大将李靖率领大军去攻打肖铣。

李靖很有军事才能，他于这年八月统军准备向湖北进发。这时，有一些将领对李靖说：“眼下长江正涨，行军作战很是不便，是否等水退后，再水陆齐驱并进？”李靖笑答：“我军刚刚集中，那肖铣尚不知我军动向，应趁洪水涨舟之机，突发奇兵，直捣江陵。”言罢，李靖号令水军一齐拔锚起航，直向江陵进发。

肖铣靠着祖上打下的基业统兵四十多万，占据着汉水流域。他虽然也知道李渊正在北方东征西讨，剿灭群雄。然而他仗着人多将广，对此毫不在意，把部队分散在外地，首都江陵只有几千人守卫。

李靖率军突然出现在江陵城下，使肖铣大吃一惊，尽管慌忙调集援军抗拒，但城下一战，梁军仍死伤万人，四百多条战船都被唐军缴获。李靖下令又将江陵城团团围住。

当属下问李靖如何处理那四百多条战船时，李靖略为思索后，便下了命令：“把这些战船全部抛弃到江中，任它随水漂流。”众将不解，李靖解释道：“水上交锋，需要战船，但是，我们现在是孤军深入敌境，必须速战速决。肖铣有四十万部队，分散在各地，如果赶来增援，我们就会陷入敌人的反包围。因此，我们只有把船弃掉。”

众将听了，依旧感到茫然不解，继续问道：“丢船与敌人的援兵又有什么关系呢？”李靖说：“这很简单，我将四百条敌船随水漂流，让船去向敌人的救兵报信：梁军打了大败仗，江陵已经失守了。这样，敌人的救兵就不敢来了。”众将这才恍然大悟。

果然不出李靖所料，驻扎在长江下游的

梁军正连夜赶往江陵。半路上到了巴陵(今湖南岳阳)后,发现江面上梁军战船散散乱乱地从上游漂来,以为江陵已经失守,便停止了行军,先派人去打探。肖铣在江陵城中忍奈没多久,迟迟不见援兵只得开城向唐军投降了。

停在巴陵的救兵,打探到肖铣已开城投降,也就无心再战,向李靖投降。李靖运用漂船之计,完成了对肖铣的讨伐。

(丁晓明)

### 狄仁杰举贤兴国不为私利

狄仁杰,字怀英,唐朝时期太原人。狄仁杰自唐高宗时入朝为官,历经高宗、中宗、睿宗三朝,曾担任过大理寺丞、河南巡抚、豫州刺史等官。到武则天掌管朝政时,又任“鸾台侍郎同平章事”之职,也就是宰相。武则天对狄仁杰侦破审理案宗,特别是处理要案、积案的才能非常赏识,因此,武后母子自身的一些疑难事件,也都请狄仁杰来亲自办理。

娄师德也曾做过唐朝宰相,他和狄仁杰同朝为官时,经常由于意见不一致,而产生分歧和矛盾,长期以来,狄仁杰一直对娄师德不满。有一天,武则天与狄仁杰谈话,忽然问道:“我如此重用你,你知道是什么原因吗?”狄仁杰回答:“我靠文章和道德取得官位,不是那种碌碌无为,依赖他人进身的平庸之辈。”武则天说:“起初,我并不了解你,你之所以受到重用,全靠娄师德的推荐。”随后,武则天叫人将装文件的筐篋拿来,从中找出十几篇娄师德的保荐书,交给了狄仁杰。狄仁杰看后,深感惭愧,十分内疚。武则天也没有责备他。狄仁杰离开宫室,深有感触地说:“想不到娄公竟有如此宽宏大量的涵养,他施恩于人,却从未表现出自得自夸的神色!”此事,深深地感染了狄仁杰,不仅消除了他对娄师德的成见,而且也拓宽了他的心胸,促使他在今后的工作中,更多地去注重人的长处。

又一次,武则天问狄仁杰:“我急欲得到一个贤才派个用场,你看谁行?”狄仁杰问:“不知陛下用来做什么?”武则天说:“用为将相。”狄仁杰答:“若论文学造诣很深,为人又有涵养的,苏味道、李峤二人都可选用;如果一定要选取超绝常人的奇才,则有荆州长史张柬之,此人年龄虽然稍高些,但却为宰相之才。”之后,武则天任张柬之为洛州司马,过不久,武则天又让狄仁杰举荐贤才,狄仁杰说:“前次推荐了张柬之,还没有任用呢。”武则天说:“已经提为洛州司马。”狄仁杰说:“臣所推荐的是可任宰相之才,不是司马之才。”武则天便又改任其为秋官侍郎,最后终于任他为宰相。狄仁杰举贤兴国,不为私利,先后为朝廷举荐了姚元崇、桓彦范等数十人,这些人后来大多成为朝中的名臣。

狄仁杰“举贤为国,非为私也”的思想实为可贵。通常情况下,举荐了他人,都想让其知恩图报。而如娄师德举才不避仇,其品德之高深,十分难能可贵!武则天能用事实化解狄仁杰和娄师德的矛盾,促使狄仁杰自我反思,而不用一句谴责之辞,御人艺术之高明,实在令人叹为观止!正因如此,促成了狄仁杰的“举贤兴国,非为私也”的思想。

(丁晓明)

### 李世民赏罚唯功不避亲疏

“一人得道,鸡犬升天”,这是人们对于统治者利用手中权势偏私和重用亲朋好友行为的讥讽之言。如此做法,既令天下贤士寒心,也往往酿出些姑息养奸、依势横行之害。一代明君李世民力戒偏袒,不私亲旧,论功赏罚,不以亲疏,为实行清明吏治,开创“贞观之治”的盛世奠定了基础。

唐高祖武德九年,太宗李世民初登帝位,遍赏天下功臣,有功之臣房玄龄、杜如晦等人受到了重用,被视为股肱之臣。其叔父淮安王因未受赏很不服气,也前来争功。他说:“我起兵关西,最先拥戴高祖。如今,连房玄龄、杜如晦这样的人都位居我上,我是



李氏家族的长辈，这让我怎么能够服气？”他的话引起了没有得到升迁的秦王府旧人的共鸣，他们也纷纷抱怨起来。此时，李世民说：“叔父是我的至亲，我非常尊重您。但您虽首倡义军，却无功于国家。起兵是为了避患，您先在山东全军覆没，后在刘黑闥作战时望风而逃。如果没有房玄龄等的辅佐，我早就被敌人打败了。我不能因为您是我的叔父，就把您和开国元勋同功论赏。”一席话说得淮安王闭口无言。

又一次，河南濮州刺史庞相寿因贪污被解除官职。当年李世民为秦王时，庞相寿曾在秦王府干事。他便去见唐太宗，让太宗念其过去为皇上出过力的旧情，保留其官职。太宗顿起怜悯之心，打算让他官复原职。这时，魏征进谏说：“朝廷内外有不少过去在秦王身边干过事的人，假若这些老部下人人都想凭借皇上的恩宠偏爱而获得特殊关照，那么善良正直而又与皇上昔日没有旧情关系的人，便会感到寒心。”唐太宗接受了魏征的劝告，他对庞相寿说：“过去我当秦王时，只是一府之主，现在当皇帝，却是四海之主，怎能偏袒亲朋故旧呢？大臣魏征按制度办事，所言在理，我怎敢违犯呢？”于是，太宗命人赐给相寿一些绸缎，打发他回老家去了。

唐太宗曾告诫原秦王府没有升迁的人说：“你们不该有怨言，为王者大公无私，才能让天下人信服。我与你们的衣食，都来自百姓，不应看成官贵民贱。当择贤才而用之，不该以新旧亲疏来区分谁该重用！”

为政者，用人太忌，在于偏私。私则不能正，使忠良难以尽心尽力报效国家。所以，用人要不避亲疏，重德重才，论功赏罚，则事业才能兴旺发达。

(丁晓明)

### 唐太宗信任贤才疑人不用

唐太宗李世民不仅十分重用人才，而且用人不疑，非常信任贤才。因为他自幼随父从政，置身于那充满勾心、嫉贤妒能的宦海

漩涡之中，深切感到执政者稍有不慎，就可能受人蒙蔽冤屈属下。因而，他特别注意观察了解部下，一旦信用，就绝不因谗言诬语而轻易动摇。

唐朝初建时期，李世民还是个血气方刚的青年。当时国内的局势尚未稳定，一些原来降唐的人，有的又相继叛唐。李世民部下诸将怀疑尉迟敬德也要叛变，便把他囚禁了起来。尉迟敬德是隋末义军宋金刚手下的一员猛将，于高祖武德三年率部归降唐朝。有人向李世民进言说：“尉迟敬德骁勇绝伦，现在已经囚禁，无论冤枉与否，他都会心怀怨恨。留之恐为后患，不如索性杀掉。”李世民不同意他们的看法，他说：“尉迟敬德若有叛心，早已叛离，何至于等到今天。”于是下令立刻释放，并将其召入自己的卧室，诚恳地说：“大丈夫意气相期，勿以小嫌介意，我不会信谗言以塞忠良。”尉迟敬德甚为感动。当日，李世民亲率五百轻骑巡逻，被王世充万余骑偷袭包围，形势十分危险，尉迟敬德率先横枪跃马向敌人冲去，斩敌大将于马下，保护李世民杀出重围。随后又率兵杀入敌阵，左冲右突，斩敌千余，俘敌数千。战后，李世民感激地说：“公何相报之速也！”

贞观十九年，唐太宗李世民亲率大军出征辽东。留房玄龄驻守京城，并授其全权，“房玄龄得以便宜从事，不复奏请。”李世民走后，便有人诬告房玄龄谋反。房玄龄将此事查获，因涉及自己，遂不敢擅自处理，将此人押至李世民行军驻地。当李世民得知此人是告发房玄龄的，问也不问，当即喝令推出斩首。随后，李世民亲笔书信给房玄龄，责备他不该如此缺乏自信，并明确地告诉房玄龄，再有此类事情，由你直接处置就可以了。正是由于对房玄龄的充分信任，杜绝了谗言，使京城更加稳定，李世民无后顾之忧，专心攻辽。

唐太宗曾说：“人主唯有一心，而攻之者甚众，或以勇力，或以辩口，或以谄谀，或以奸诈，或以嗜欲，辐凑攻之，各求其售，



以取宠禄。人主少懈，而受其一，则危亡随之。此所以难也。”由此可见，“用人不疑”说起来容易做起来难。唐太宗不愧为治世明主，他对用人不疑难处的深刻理解，使其始终都能警戒自己，而不被迷蒙屈待属下。正因如此，唐太宗身边聚集了如魏征、房玄龄、杜如晦、尉迟恭等许多忠耿效命之文武重臣，使其成就贞观之治。

(丁晓明)

## 唐太宗对症下药药到病除

唐太宗李世民当政时候，经常好引用这样一个故事，来提醒朝廷的各位大臣，告诉他们不可因贪图贿赂，而触犯国法，败坏操行。

据说上古时期，有一个西域商人，他在海上仙山中采到了一颗硕大的珍珠。在乘船回家的海上，由于珍珠放射的宝光，被海底蛟龙发现，便前来抢夺。一时间，乌云翻滚，大浪滔天，蛟龙的首尾鳞爪时隐时现。驾船的人说：“一定是蛟龙发现了珍宝，如果此时把珍宝抛入海里，大家便可安然无恙。”商人不忍舍去珠宝，将大腿肉深深割开，把珠宝藏进去，外面紧紧包扎，蛟龙再也看不见珠宝发出的光芒，只好沉入海底去了。商人支撑着回到家，因创伤过重，不久便死了。后来人们就用这个故事教育那些爱惜财宝而不爱惜自己身体和名节的人。

太宗的一个将军长孙顺德，私自接受了别人馈赠的绢，被揭发。因当时朝廷廉政风盛，官吏受贿，一经查出，要受到严罚。长孙顺德自知罪不可赦，整天提心吊胆地躲在家里，等待皇上对他的处罚。

一天，唐太宗召见长孙顺德，并没有责问他，而且还赐给了他几十匹绢。周围大臣都莫名其妙。事后，大理寺少卿胡演劝谏说：“因为长孙顺德贪脏枉法，所以大家商议对他的处罚，可是陛下却赏赐他，这不是助长他的贪心吗？”唐太宗说：“我并非想助长他的贪心，如果他是个知道廉耻的人，得到我赏

给他的绢，那么他心中的耻辱比受刑还难受。如果他是个不知羞耻的人，与禽兽没什么分别，杀了他又有什么用呢？”

长孙顺德拿着太宗赐给的绢回到家里，他左看右看，突然良心发现，自己羞愧得无地自容，从此以后，再也不敢接受别人的馈赠了。

人的贪心如果滋长到一定程度，就象西域商人一样，会忘掉自己的疼痛和生死。有人看到枉法的尚书被处极刑时，开玩笑地说：“如果一天杀一个，这尚书便没人敢做了。如果一个月杀一个，这尚书还是要做一回的。”由此可以看出，唐太宗对长孙顺德的处理，正是想到了这一点。你既然贪财，我就再给你一些。因为唐太宗对长孙顺德了解，知道他是个有廉耻的人，所以对症下药，一针见血，深深地刺痛了长孙顺德已麻木了的良知。

(丁晓明)

## 窦公妙算

唐朝时，有位名叫窦公的人，他非常擅长理财，只是因为家中财力有限，一时无法施展。

一天，窦公发现京城内有一小块空地，紧挨着一位极有权势的宦官宅第，窦公便打开了这片空地的主意。他想：那宦官人家若显示其高贵，势必要扩大宅院，不如自己先拥有了这片空地，然后以此讨好那宦官，势必得以回报。于是，窦公先打探到宦官府果然想扩建的意向后，自己出资用很低的价格把那片空地买了下来，寻找个借口，便送给了那位宦官。

宦官非常高兴，连连称赞窦公很重情义。窦公见时机已到，便托言自己有事要去江淮一带，请这位宦官给那一带的地方大员们写上几封书信，以求得旅途的安全。那宦官认为此乃小事一桩，满口应承，当即就为窦公写好了信，并告之到那后可以言是宦官之好友。

窦公带上这几封信后到了江淮，果然事事顺利，同时凭借着他的神机妙算，谈妥了几大笔生意，赚得了比买空地高出几倍的大钱。

窦公有了资金，便回京城中做买卖。京城东市也有一块空地，然而，这里低洼不平，布满了垃圾和污水。窦公看见这里表面上很不起眼，但却是理想的商号位置，便又用很便宜的价格将其买下。

窦公买地后，并不急于平整，而是让家人做了很多蒸饼，然后在洼地里各处树了不少标靶，召来市井不少小孩子观看。别人尚不明白窦公的用意时，只见窦公告知那些孩子们说：“如果谁能用砖瓦石块击中标靶，谁就可以得到一个蒸饼的奖励。小孩子们听说有这样的好事，便争相举石投掷靶子，击中者真的得以蒸饼。于是，孩子们纷纷奔走相告，远近儿童前来投靶日愈增多，没过多久，就将这块洼地填得差不多了。之后，窦公稍加平整，便可使用了。

窦公在这片地上造起一座旅店，专门用来招待西域来的商人。由于窦公的旅店地理位置好，价钱适中，且服务周到，因此生意十分兴隆，每天都能赚得很多的钱。远近乡邻都称赞窦公才智超群，经商有道。

(顾铭新)

## 张巡无中生有奇智应机

唐玄宗天宝年间，安禄山、史思明反叛朝廷，酿成涂炭万民的“安史之乱”，真源县（今河南鹿邑）令张巡率兵勤王，召集各地兵马，抗击安禄山，阻止叛军西进。

雍丘（今河南杞县）县令令狐潮叛降安禄山，被张巡等人攻破雍丘，张巡率不足三千人马占据雍丘。不久，令狐潮又纠合四万人马，反围雍丘。张巡几次出兵，虽将令狐潮的人马击败，但他手中的箭矢却消耗将尽。为此，张巡十分焦急。当年诸葛亮“草船借箭”的故事启发了他，于是，他立即下令搜集城中稻草，扎成一千多个草人，穿上

黑衣。到了晚上，张巡命士兵用绳子将草人拴住吊下城去。令狐潮发现后，以为张巡率兵出城夜袭，但又不敢贸然进攻，慌忙下令射箭，同时调遣部队准备迎敌。叛军得令，争相发箭，一时间箭如雨下。后来，令狐潮见张巡的部队爬上吊下十分忙碌，心生疑虑，仔细观察，方才觉得上了大当，急令停止射箭，而这时张巡那里却已经收得了几十万支箭了。

第二天晚上，张巡又命士卒继续吊放下草人，城外叛军见了哈哈大笑，并不戒备。于是张巡挑选出五百壮士，仍旧穿上黑衣吊下城来，叛军以为张巡故技重演，毫不理会。哪想五百壮士下得城来，真袭令狐潮大营，立时杀声震天。张巡见状又大开城门，挥兵冲出，只杀得令狐潮全军溃逃，唐军一直追杀了十余里方才凯旋。

此后，安庆绪派尹子奇为汴州刺史、河南节度使，率十三万精锐叛军进兵睢阳（今河南商丘南）。睢阳守将许远急忙求救于张巡，张巡立即引兵进入睢阳，与许远合兵一处，同守睢阳。尹子奇督军猛攻睢阳城，张巡率兵固守，靠他的应机而变的智谋多次挫败叛军的攻势。

尹子奇命部下建造云梯，形状就象半个彩虹，上边可装载二百名精猛悍勇之卒，准备一举破城。张巡早就探得了叛军的情况，命人在城墙上暗中凿了三个大洞，待到叛军云梯推到时，从洞中伸出一根装有铁钩的大木头，将云梯钩住，使它不能后退；再从另一洞中伸出一根大木头顶住云梯，使之不能前行；再从最后一个洞中伸出一根前端装有铁笼的大木头，铁笼里点着火，一下将云梯点燃。上边的叛兵不是跳下摔死，便是被火烧死。

尹子奇一计不成，又生一计，命部下运送土袋、木柴堆积在城墙下，企图垒成台阶，用以登城。张巡命手下悄悄往叛军堆积的土袋、木柴旁扔下松明、干蒿等易燃之物，等到叛军的登城台阶忙活了十几天，将

要完成时，命人顺风将其点燃，一时间火光冲天，不大一会儿功夫便将它烧毁了。睢阳城终不可破。

(丁晓明)

## 李世民先不为战计败宗罗喉

公元618年，唐朝李世民和号称两秦霸王的薛举作战。李世民率领数万精兵到达高塘(今陕西长武县以北)城下，当即，李世民命令军队安营扎寨，以观薛举有什么反应。薛举的儿子薛仁杲立即遣派大将宗罗喉前去迎战，自己则率兵在后面悄悄地埋伏起来，想等到两军交战的时候，自己率军突然杀出，一举打败李世民。其实李世民已经识破了薛仁杲的计谋，于是命令军队将壕沟挖得深深的，用来防御宗罗喉的进攻，但不许与他们交战。一连数天，宗罗喉率军在阵前叫骂挑战，李世民犹如没有听见一样，安然处之。时间一长，手下的将官们再也忍耐不下去了，纷纷前来向李世民请战，誓把薛将宗罗喉捉来，让他知道大唐军队的厉害。李世民认为时机还不成熟，他对众将士说：“我们刚打过败仗，士气不高，敌人因为打过胜仗，很骄傲，有轻视我军的心理，所以应该坚守工事。敌人骄傲，我们奋勉，一战就可击败敌人。”将士们听了李世民的一番话，恍然大悟，都不再提请战的要求了。就这样，唐军任凭宗罗喉再怎样阵前挑战，就是按兵不动。

那宗罗喉是个勇猛有余而谋略不足的匹夫，他见李世民不和自己交战，气得只顾在阵前大声叫骂，却不知动脑想想唐军为什么不出来应战。这样，两军相持六十多天，薛军的粮食吃完了，士兵们开始在半饥饿的状态下勉强度日，整个薛军士气大减。又过几天，有些将士终于忍受不住，偷着跑过来向唐军乞降。李世民了解到敌人将士离心，知道时机已经成熟，于是派他的行军总管梁实率领五千兵马，带着许多空的载粮筐斗，前往泾水源(今陕西长武县东北)布阵诱敌。宗罗喉由于粮食用尽，正愁无法解决，得知唐

军带着大批的筐斗来，非常高兴，立刻调集军中的精锐，集中全力向梁实攻击。梁实依据李世民的计策，据险而守，不与宗罗喉交战。宗罗喉求胜心切，命令军队夜以继日的轮番强攻，并且把梁实军营的水源切断。几千名将士和战马连续几天几夜喝不上水，士气大减，迫不得已，派人突围向李世民求援。李世民对来将说：“梁实与将士们同甘共苦，他带的兵勇猛善战，估计还能再坚持一天。而贼兵连续几天艰苦进攻，已相当疲劳，但还没有十分疲劳，因此还应让他们继续的消耗。”

宗罗喉急于打败梁实，得到粮食，命令所有的士兵都去围攻梁实军营。经过数昼夜的强攻，薛军士兵休息不足，个个都很疲惫。李世民见敌已疲惫，遂命令武侯大将军庞玉率领一万余骑兵到泾水源南援救梁实，自己则率兵从源北接应。唐军经过多时的养精蓄锐，个个精神抖擞，斗志昂扬。他们内外夹击，把宗罗喉几万疲惫之军打得四处溃逃，唐军获得了胜利。

(丁晓明)

## 张守圭空城诱敌不战退兵

公元727年(唐玄宗开元十五年)，大将军王君焕任河西陇右节度使，把守瓜州(今甘肃安西县)。当时西北少数民族吐蕃、回纥等常常前来侵扰，战争持续不断，西北游牧民族都是骑兵，飘忽不定，来去如风，战争也很难预料。

这年九月，王君焕阵亡，唐玄宗就任命很有智谋的张守圭继任。张守圭赶到瓜城后，只见城墙残破不堪，便组织群众抢修城墙。

一日，众人正在修墙之时，忽有探马来报，说是吐蕃兵又杀来了！张守圭和众人一听，这一惊非同小可，他想：城内兵不多，打不起又跑不了，这怎么办呢？张守圭沉思了一会儿，命令部下说：“将城门四门大开，并在城楼上摆酒，将城内乐工召到城楼上奏

乐，我要与诸位在城楼上痛饮一场，就权当你们替我接风吧。”尽管部下惶惑不解，但还是按此令执行了。

吐蕃军队来到城下，却见城门四开，唐军众人在城楼上大排筵席，十分狐疑，不多时，吐蕃头目觉得其中有诈，便放弃攻城，命令部队后撤。兵士们对此有想法，认为仗还没打怎么撤退了？头目解释说：“你们也不想想，咱们刚打了大胜仗，杀了他们的大将军，抓了他们的瓜州刺史，唐人岂有不报复之理，他们这是想把咱们骗到城里去好一网打尽。”众蕃兵连连点头称是。

接着，蕃兵的将领来到城墙根，用马鞭朝城楼上一指，说：“张守圭呀张守圭！你喝你的酒吧，咱青稞酒有的是，才不上你的当呢！”说完，鞭子一挥，率众蕃兵退去。

唐将众人在城楼上望见吐蕃兵不战而退，一个个十分惊异，问道：“张刺史，吐蕃兵人数众多，军容很盛，到了城下不战而退，这是什么缘故呢？”张守圭笑道：“吐蕃兵杀了我们的王大将军，怀疑我们用计埋伏报复他们，所以不敢进城，这就叫做空城计。”

这时，只听城外喊杀连天，原来张守圭在表演“空城计”的同时，暗自派出两支队伍在城外守候，待到吐蕃兵退下来的时候，他们突然冲杀了出去。吐蕃兵本来没打仗就退兵，人人惊疑不定，突被冲杀，以为遇到了唐军的强大队伍，顿时军心大乱，争先逃命，自相践踏，死伤无数。

张守圭因功被升为辅国大将军。此后张守圭又带领百姓兴修水利，发展生产，将边防瓜州治理得十分坚固。

(顾铭新)

### 长孙皇后含蓄讽喻

贞观年间，一次魏征向太宗进谏，二人在廷上辩驳起来，魏征刚直不阿，言辞十分激烈，驳得太宗哑口无言，忿忿退朝。回到后宫时，太宗还满脸怒气，狠狠地说：“岂有此理！等我找个机会，非杀死这个庄稼佬不

可，省得他一天到晚总来揭我的短，找我的麻烦！”长孙皇后听了，吃了一惊，忙问：“是哪个大臣触怒了陛下，惹您发那么大的火？”太宗气愤地讲述了刚才在朝廷上发生的事。长孙皇后又进一步问：“老臣魏征忠言耿直，你经常在我面前夸他，今天为什么反倒要杀他呢？”太宗火气未消的说：“魏征这老儿，每次进谏，我都洗耳恭听，无所不纳。可是他越来越不象话，竟然对我耳提面命起来，连一点面子都不给我留。他这样当众羞辱我，搞得我下不来台，不杀他，难解心头之恨。”

长孙皇后知书达理，深明大义、为了国家大计，她往往在太宗任性使性不愿接受为臣的正确纳谏时，进行规劝，从而起到了一定的调节作用。她也早就发现皇上近两年陶醉于歌舞升平，有点讨厌批评了。如果直谈一些虚心纳谏的大道理，正在发怒的皇上不仅听不进去，可能还会火上浇油。怎么办呢？长孙皇后思考了一会，想出了一个解决办法。

她暂别皇上，回到自己的寝宫，就像准备参加盛典一样，整整齐齐穿上朝服，回到太宗身边，向太宗请安。太宗看到长孙皇后这身打扮，很觉奇怪，不知何故，问道：“你今天这是怎么了，干嘛要穿朝服见我？”长孙皇后满脸堆笑，高兴地说：“我给陛下贺喜来了。”太宗更加茫然，又问：“喜从何来。”长孙皇后一本正经地说：“我听说‘主明臣直’，皇上英明了，大臣就会尽职尽责，敢于直言诤谏；如果皇帝昏聩了，周围就只会有阿谀奉承之徒。如今陛下英明，所以大臣魏征等敢于直言无隐，敢于当着您的面批评您的缺点。我荣幸地在后宫服侍您，看到您身边有魏征这样一些忠臣保驾，为朝廷尽心竭力，使大唐的江山万年长久，我怎能不来祝贺呢！”太宗这才恍然大悟，虽已感觉皇后在为魏征说情，并且还委婉地批评自己不虚心纳谏，但是他知道皇后这样做，于国于己都有利，因此转怒为喜，要杀魏征的念头也就烟消云散了。同时，他对皇后也更加敬服，对

魏征及大臣们的进谏也更能虚心听取了。

(丁晓明)

### 蒋恒引蛇出洞巧拿凶手

唐贞观年间，发生了这样一个案子。一天，有卫三等三人来衡州(今湖南衡阳)板桥客店投宿，正赶上店主张迪的妻子回娘家了，他们投住一宿后，第二天就匆匆上路了。就在这天夜里，有人取出卫三的刀，把店主杀了，然后又将刀插回刀鞘中。

当店里人发现店主被杀，都以为是卫三他们干的，迅速前去追赶，发现卫三的刀上留有血迹，就把他们送进了官府。卫三开始拒不承认杀人，可动了大刑他就受不了了，只好委屈地认罪，但仍喊冤枉。

唐皇听到此案，甚觉奇怪，他们和店主既无怨也无仇，怎么会杀他呢？于是派御史蒋恒复查此案。蒋恒一到，就下令把客店凡十五岁以上的人，都叫到官府，可不久，又将他们放了回去，只留下一个年旬八十的老婆婆，直到很晚才把她放回。蒋恒事先布置一个狱卒秘密跟踪她，他对狱卒说：“当老婆婆出去后，会有一个人和她说话，你要记住他的相貌。”

果然不出所料，有一个人问老婆婆：“长官是怎么审问的？”一连三天，都是这个人来问，蒋恒下令将此人抓来审问，这人终于交待了实情：他和店主张迪的妻子通奸，他俩共同谋杀了店主张迪。

蒋恒在审理此案中，运用“引蛇出洞”的计谋，故意将老婆婆留到很晚，刺激凶手，使凶手整天处于心神不安，他必然要去打探老婆婆的情况，蒋恒派人盯梢，最终抓住了真凶。

案件查清后，唐皇李世民嘉奖蒋恒，赐给丝绸二百段，晋升他为侍御史。

(丁晓明)

### 萧翼得之先予赚法帖

唐太宗时期，为纪念唐三藏西天取经、追荐文德太后冥福，特建造一座慈恩寺雁塔。命太子李治作记，自制序文，想用王羲之字体、剪集成序，刻在雁塔之上，于是下令各地州郡收集王羲之、王献之法帖，集中交到宫里，已收集到一千三百多帖，只是缺少一卷王羲之的“兰亭集序”，始终也没有下落。

太宗有位御使，名叫萧翼，知道兰亭集序的下落，便告之太宗。此兰亭集序藏本，为王家的传家宝，现已传至辨才和尚，藏于湖南永欣寺的方丈梁上，从来不肯示人，若皇上需要，小臣会想办法把它弄来。唐太宗一听大喜，对萧翼说：“卿能如此，朕不惜万金之贵，但千万不要强抢豪夺。”

萧翼向太宗索取手敕，带上两本王羲之、王献之的杂帖，作为对辨才和尚的引见之用，然后乔装打扮，变成了一个落拓书生，乘坐一只小船直抵湘潭。萧翼就居住在船上，每天都去永欣寺观赏壁画，每当走过辨才方丈的门口时，都要休息小坐，而且很有礼貌地向老方丈鞠一躬，日子一久，逐渐地辨才方丈对他产生了好感，由刚开始的互相只打招呼，进而请他入寺内闲谈。萧翼多才多艺，谈吐诙谐，不管做什么事他都能投其所好，渐渐地两个人成了要好的朋友。

一天，两个人酒足饭饱后，闲扯了一会做人的道理，又谈了一会作文的法则，最后谈到了书法艺术，萧翼对方丈说：“先氏家传有几件二王法帖，不知真伪，要请上人法鉴”，说完就拿出了随身带来的二王法帖，辨才方丈接过法帖，看了好一会，方说：“确是真的，但不是二王的得意之作，贫僧倒有一真迹。”说完就拿出了王羲之的“兰亭集序”，正如萧翼所了解的，“兰亭集序”果然放在方丈的屋梁上，而且还里里外外包了许多层。

萧翼翻看完后，略沉思片刻，然后对方丈说：“离乱一百多年了，怕不是真迹吧！”辨

才方丈道：“这是我的家传真宝，已经传了七代了，先师智永临终时亲授给我的，绝对不会有假。”萧翼听说完，又仔细认真地察看着，然后以他精深的书法知识指出了这本“兰亭集序”的很多瑕疵之处，对辨才方丈说：“这恐怕不是真的吧？”辨才方丈为了对证“兰亭集序”的真假，就没有再把它放回梁上，萧翼记住了方丈所放“兰亭集序”的地方。

有一天，萧翼正和辨才方丈一起品茶，两个人谈得正浓，外面传话有人找方丈，趁方丈出去的时候，萧翼赶紧拿出“兰亭集序”，把它放在自己的内衣里，大模大样地走出了永欣寺，因他是这里的常客，进进出出也就无人过问。萧翼走出寺院，象飞似地赶到马谷亭，把“兰亭集序”交给了来人，快马加鞭带回了长安。

唐太宗见到“兰亭集序”的真迹非常高兴，为了嘉奖萧翼的智谋与功劳，把他升为员外郎，并赏赐给他很多绸缎财宝。考虑到辨才方丈保留真迹有功，也赏赐辨才财帛，加建三级宝塔。

(丁晓明)

## 桥上杀马和善突厥

公元628年，唐朝玄武门之变后，突厥颉利可汗以为唐朝刚刚发生内乱，李世民初登皇位，内部矛盾尚未解决，统治秩序亦未恢复，所以一面假意遣使去唐朝议和，一面又集结二十万精锐大军向唐袭来。

颉利可汗亲率军队迅速逼进唐都长安，到达距长安四十里的渭水便桥北岸后，可汗遣派心腹执失思力作为使者入见唐皇李世民，以观察唐朝的虚实。来到大唐的突厥使者非常傲慢无礼，气焰十分嚣张地说：“颉利与突利二位可汗率大军一百万，马上就要来了。”以此来吓唬李世民。李世民大怒，为了表示唐朝的强大和不软弱，下令将突厥使者关押起来，然后，立刻调兵遣将，安排布置军队，准备和侵犯者交战。

李世民将一切安排就绪后，亲自带领高

士廉、房玄龄等六骑飞奔渭水河边。颉利可汗正在隔水遥望，看见李世民亲自前来，而且只带几个人，不觉大吃一惊。此时，李世民向他大声喊道：“颉利可汗，上次在幽州相遇，我与你订立盟约，互不侵犯。不料今日可汗又大举来犯我朝，不知可汗还知不知道信义二字？”颉利可汗被问的哑口无言。李世民又指着天说：“我是天子，对不起我，也就是对不起天，颉利可汗，你知道对不起天的后果吗？”颉利不敢回答。突厥的将士们原本就信鬼信神，看见唐皇威风凛凛，又自称为天子，遂都急忙下马、隔水遥拜。

这时，唐朝的大军赶到，旌旗蔽野，矛戟林立。众将士斗志昂扬，战马仰空嘶鸣。颉利可汗原以为李世民刚即位，国内局势混乱，来不及作好抵御的准备，自己可以乘机大捞一把，没料到，自己的使者一去不返，唐军又严阵以待，因此心生惧意，不敢贸然率军渡河作战。此时，唐军将士纷纷要求出战。李世民则命令军队后撤，自己仍和高士廉等六人隔水与颉利可汗对话。宰相肖瑀以为皇上这样做非常危险，所以跪在马前苦苦相劝。唐皇胸有成竹地对他说：“我是考虑过才这样做的，制服颉利，在此一举，你们放心看着吧！”

唐军后撤后，李世民又对颉利说：“我军阵容，刚才可汗已看见了，足以同可汗决一胜负。况且可汗背弃和约，侵扰我土，曲在可汗，又大军深入，困难重重，但我们仍然认为应以和为贵。战端一开，我国固然难以安宁，可汗那里也休想太平。而如果息兵讲和，对我们双方都有利。可汗既可不死伤人马，又可望获得我朝的赠礼，何乐而不为呢？则才我军暂且后撤，就是要给可汗一个再考虑的机会。何去何从，请可汗选择！”颉利听了李世民的话，看到唐军已有准备，加之贪财嗜利，同意讲和。第二天，在渭水桥上杀了一匹白马，双方订立盟约，互不侵犯。

肖瑀对唐皇没费一兵一卒，退去二十万突厥兵，甚是不解，遂问道：“突厥不战自退，

陛下用的什么妙计？”李世民道：“我观察突厥之兵，虽势众但并不齐整，君臣上下，唯财是图。如果与之交战，我们是可以获胜的。但我所以不战求和，是因为即位之初，国家还不十分安定，一旦开战，必有死伤，徒增百姓怨艾。而且即使一战得利，也未必能镇压突厥，相反使他们结怨于我，日思报复，再想消灭它就不容易了。所以我力争讲和，投其所好，用金银财物去满足他。突厥达到目的，便得意忘形，放松备战。我们则养精蓄锐，暗中准备，一旦时机成熟，就可一举消灭突厥。这就是所谓‘将欲取之，必先与之’的道理！”众将士都佩服唐皇的英明。

（丁晓明）

### 魏征择机纳谏

唐太宗晚年，举国到处歌舞升平，一派繁荣景象，于是，他渐生骄傲情绪，有点听不进批评的意见，为此，谏议大夫魏征想寻找时机指出这一点。

公元638年的一天，时逢皇孙诞生，太宗宴请群臣。席间，太宗高兴地说：“贞观之前，随我夺取天下，是房玄龄的功劳；贞观以来，帮我纠正各种谬误，是魏征的功劳。”遂赐二把佩刀予二人，房玄龄愉快地接受，魏征则显得心事重重地说：“臣受之有愧！”太宗很奇怪，问道：“此话怎讲？”魏征问道：“近些年来，政事已大不如贞观之初，说明我并没有尽到纠正各种谬误之责，所以臣受之有愧！”太宗更觉诧异，又问：“难道我的政事不如过去吗？”魏征说：“陛下权威所到过的地方，比贞观初年是远多了，但人心悦服则不如过去。”太宗问：“何以见得？”魏征答：“陛下过去总担心国家出问题，所以政绩越来越好；现在则以为治理好了，不再求进取，所以说不如过去。”太宗说：“我现在做的还是过去那些，你怎么说不同了？”魏征答：“贞观初年，陛下惟恐群臣不提意见，常鼓励大家，并主动地引导人们进谏；过几年，遇有人进谏，还能愉快地接受；这一、二年来，虽勉

强接受，可心总觉不舒服。”太宗有点吃惊，忙问：“你有何根据？”魏征答：“陛下刚即位，判元律师死罪。大臣孙伏伽进谏，按法律不应判以死刑，陛下接受了意见，并把价值百万的兰陵公主的园子赏给他。有人说赏得太厚了，您说，‘即位以来，还没有人向我提过意见，孙伏伽是第一个，所以得厚厚地奖他。’这是您主动引导人们进谏。后来司户柳雄隐瞒出身，伪造资历，骗取高官，将判死罪，大理寺少卿戴胄说只应判流放，他再三申述，您终于同意赦免了柳雄死罪，当时您还说：‘只要都象戴胄那样坚持守法，我还有什么可担忧的呢！’这是您能愉快地接受意见。”讲到这，魏征看见太宗听得非常认真，接着又说：“前不久皇甫德参上书，说修洛阳宫是劳民伤财，收地租是严重地剥削百姓，妇女流行高髻是宫中传出的。陛下狠狠地说：‘这人是想要国家不役使一个人，不收取一文钱，宫女都没有头发，才心满意足呢！’并想治他以诽谤罪，只是因为当时臣苦苦相劝，才没有治罪，这就是勉强接受意见了。”

太宗因为喜得皇孙，非常高兴，不但没有恼怒，还拍掌大笑，说：“不错，确实有这些事情，还有吗？”魏征见皇上心情这么好，就又说道：“近几年，陛下颇随便动用民力，还说：‘老百姓没事干就会骄逸懒惰，难以管教，而经常让他们服劳役就容易管理和使用’。自古以来，还没有因为百姓安逸而败亡、劳役繁重而安定的。这恐怕不是兴邦强国的真理之言。”太宗叹息道：“人真是难有自知之明啊！我要把你刚才所说的抄录在屋中的屏障上，早晚阅读，提醒自己，并要史官写入历史中。”

（丁晓明）

### 武则天巧说是非告人以戒

唐朝中宗时期，武则天亲理朝政。一年，江淮一代发生了严重的旱灾，朝廷有官进奏武则天，说灾异的发生是人们对天不敬而导致的。于是，武则天下令禁止国内宰杀牲



畜、捕鱼和采集，以求天神赐雨于人间。这样一来，本来就是水乡泽国的淮河两岸，祖祖辈辈都靠捕鱼捞虾的穷苦百姓，饿死的人就更多了。

朝中大臣张德家里喜得一个男孩，好事临门，不能不庆贺一番，于是，张德暗地里偷偷杀了一只羊，来宴请同僚好友与之同喜。虽然，朝廷禁止杀生的法令极严，但仍有些人私下里偷偷地作弊。应邀前来参加喜宴的人中，有一位补阙官吏，名叫杜肃，此人竟以怨报德，也许是想借此机会为自己捞个正式的官职。其他的同僚好友，都没把张德杀羊违犯朝廷禁令当作一回事，反倒为朋友高兴，乐得沾光，还一享口福时。杜肃却先自己吃饱喝足，然后，趁大家都不注意他的时候，迅速拿起一块羊肉揣进自己的衣袖里，来到朝上，告发张德违犯禁令。

第二天，武则天召见张德、杜肃来殿前对证，武则天对张德说：“听说你得了一个儿子，恭喜你啊。”张德还不知道有人告了他，听武则天这么一说，受宠若惊，连连拜谢。武则天接着又问道：“庆宴上的肉是哪里弄来的？”张德一听，连忙叩头伏罪，承认自己违犯禁令，杀羊庆贺。武则天说：“朕下令禁止宰杀，对喜事和丧事并没有禁止。从今以后，你请人吃饭也要有所选择。”说完将杜肃的奏表，拿出让张德认看。站在一旁的杜肃羞愧地恨不能找个地缝钻进去，满朝文武都想往他的脸上吐唾沫。

“居必择乡，游必就士”，这是前人对后世的恳切劝谕。倘若把以往的处世经验和教训加以总结，就是交友要慎重。看武则天对此事的处理，确实让人感觉快意，从中使人得到启迪。象张德这样交往不慎的人，懂得今后应该怎样小心识别人；象杜肃这类既吃人家、又陷害人家，妄想脚踩别人往上爬的人，再想使坏，恐怕在坚持正义的人面前，必须三思而行了。

(顾铭新)

## 李白外文写诏一石三鸟

唐玄宗时，全国招考尚书省官员，主考官是太师杨国忠，监考官是太尉高力士，两人都非常贪财，没有金钱贿赂，你就是有天大的学问，恐难以考上。贺知章为举荐李白，向二人各修书一封，请二位关照一下，李白不好拒绝贺的好意，便答允参加应试。

杨国忠和高力士看了贺知章的信，冷笑道：“贺知章接受了李白的金银，却只给我们写封信自讨人情。那日只要见李白名字的卷子，不管好坏，马上批文落榜。”果然考试时，虽然李白答的很好，但杨国忠一见李白的名字，连看都不看，便批道：“这样的书生只好替我磨墨。”高力士也批道：“磨墨都不要，只配替我穿袜脱靴。”并把李白赶走了。李白受此侮辱，非常愤怒，发誓说：“有朝一日得志，一定要叫杨国忠为我磨墨，高力士为我脱靴。”

一年，某国使者给朝廷送来照会。满朝文武大臣竟无一人读懂这种文字，皇上大怒，斥骂百官：“白白养了你们，竟没有一人为我分忧。。这岂不遭海内外耻笑！不能回复来使，动起武来怎么办？”并且限令，三日内无人读懂，一概停俸；六日内，一概停职；九日内，一概问罪，另选他人。满朝文武无一人敢奏。

贺知章深知李白的才学，便将此事告于他。李白果然认得这种文字。贺知章奏请皇上请李白来，皇上准奏，便派人带了诏书宣李白进殿。李白对来说：“我是个平民百姓，既无才能，又无学识，当朝有许多官员都是饱学的大儒，何必来找我。我不敢去，去了怕得罪朝中的大官。”来人回复皇上，皇上问贺知章，李白为什么不愿奉召，贺知章回答：“李白文章盖世，学问惊人，因去年考场中被考官屈批了卷子，还被赶出了门。如今让他无官无职的朝见皇上，他心里不好受。”并建议皇上赐于恩典，派一大臣亲自去请。皇上马上赐李白进士及第，可以穿官服，



戴官帽，命贺知章去请。

李白叩见皇上，皇上说：“现在外国使者送来照会，没有人能懂，特意召你来为我分忧。”李白说：“我因为才学浅薄，被太师批卷不能中官，高太尉把我赶出了考场的门。这使者带的照会怎么不叫考官来回答，以致让来使耽阁在这里。我不能称考官之意，怎么能称皇上之意？”皇上说：“我已知道你心思了，就不要再推辞了。”李白翻译了照会，照会要求唐让出属国土地，否则就要动武。皇上听后，问文武百官有何对策，竟没一人回答，皇上犯了难。李白奏说：“这事皇上不要忧虑，来日召见使者的时候，我当面答复。”皇上非常高兴，赐李白为翰林学士，并设宴金銮殿。

第二天，皇上升殿，传使者入见，李白大声宣读了照会，竟一字不差，震惊了使者。李白说：“贵国这样无礼，大唐国皇上气量大，不计较了，有诏批答，你等着好好听！”皇上命人御座前摆好书案，备好笔墨纸砚，让李白靠近皇上的榻前，坐上锦墩草拟诏书。李白说他的靴不干净，怕弄脏了地毯，请皇上恕他随便一点、脱靴结袜后再过去。皇上奏准，让一小内侍给李白脱靴。李白复又奏请皇上，准他即使失言亦不治罪。李白说：“我春试时被大师批落，被太尉赶逐。现在见他二人押班，我的神气不旺。我要让皇上吩咐杨国忠为我捧砚磨墨，高力士为我脱靴结袜，我才有豪气，举笔草诏，口代天诏，方可不辱君命。”皇上只好依准了他。李白一气书就诏书，呈于皇上。皇上一看，全是外文，一字不识，甚觉惊讶。李白用汉语向皇上读了一遍，皇上非常高兴，使命李白向来使宣读。宣读时铿锵有力，使者一声不敢吭，面如土色，山呼万岁，有礼地辞朝回国。回国后，告之国王，天朝有神仙赞助，怎么也敌不过，遂写了降表，年年朝贡。

(顾铭新)

## 苏无名缓治得贼

唐朝武则天当政时，曾经赐给女儿太平公主两食盒精致的宝器，价值黄金百镒。

这年底，太平公主想从库房里取出宝器赏玩，却发现那宝贝不见了。公主忙把此事告知了武则天，武则天大怒，立即召来太平公主居住地东都洛州(今河南洛阳)的长史，限期三日拿回贼盗及宝器，不然当斩。

那长史十分害怕，便将手下的几位负责治安捉盗的官吏叫来，限他们两日内拿下贼盗，不然休想活命！这几个官吏又慌忙布置自己的手下，说是若一天内不将贼盗擒获，就先宰了他们。

茫茫人海，日时短瞬，何易轻取贼盗？这些再无下派的吏使们，虽惶惧无措，可又想不出什么高计来，只有垂头丧气，似坐以待毙。忽然，其中有人想起湖州(今浙江吴兴)别驾苏无名，早听说苏无名才智过人，何不前去求他指点呢？于是，几个人前去拜访苏无名，请他帮助办案。

苏无名听罢来龙去脉后说：“请诸位让我当面向天后(指武则天)陈说，到时我自有妙计。”于是，众人设法让苏无名与武则天见了面。武则天问他：“卿有何妙计擒得盗贼？”苏无名回答说：“陛下如让臣办理此案，请不拘时日，放宽追捕，然后将洛州负责治安的一切官吏交臣指挥，臣不出数日便可结案。”武则天见苏无名如此自信，便答应了他。

苏无名接案后，先自让手下放松追索盘查。过了几天到了清明节，城中的各家各户纷纷准备出城去祭扫先人的坟墓。这天，苏无名召集下人，命令说：“你们十人五人一伙，在城东门和北门候着，如果看到有胡人和十几个同伙披麻戴孝前往城外，便尾随跟踪，看他们做些什么，回来报我。”手下人去不多时，便有人回报说：“那帮胡人到一处新坟祭扫，但只干哭，毫无悲状。”苏无名一听大喜：“就是他们！”立即派人把这些人全部拿下，然后挖开新坟，打开棺材，里面果然全是太

平公主丢失的宝物。

事后，武则天问其如何以此计施之时，苏无名道：“臣并无他策，只是能识破盗贼而已。臣刚至东都那天，看见这帮胡人出葬觉得其中有假，定是一伙为非之徒。当得知公主宝物丢失，便判定他们所为，只是没有证据。时逢清明节，大家都要去扫墓，臣料他们听得风声已过，会去埋赃之地——假墓查看，因此，尾随探查，一举破之。另外，倘若当初陛下穷追猛治，他们会狗急跳墙，外移脏物。”

武则天听后对他大加赞赏，赏赐给他许多财宝，还为他加官晋级。

(顾铭新)

### 李光弼一箭双雕智降二将

唐肃宗时期，叛将史思明率军谋反，唐派司空李光弼前去攻敌，两军对垒于河阳(今河南孟县西)，攻守都无什么进展。叛将史思明此时想采取截断李光弼粮道的办法，使其军中饥荒，不战自溃，便移师河清县。李光弼识破史思明的计谋，亲自率军到野水渡去驻扎，筑垒抗敌，以粉碎叛军的阴谋。李光弼只在此驻守了一天，就率军回到河阳，派部将雍希颢率一千兵士驻守，并指示他说：“史思明有两名勇将高庭晖和李日越，今晚必派一名来劫营，你只可固守，不可与战，如果来将投降，你就带来见我。”雍希颢听到这指示，感到莫名其妙，不可理解，只好依令行事。

叛将史思明果不出李光弼所料，决定派李日越前去劫营。他对李说：“李光弼长于守城，怯于野战，今移兵原野已陷入圈套，必为我们所擒。你今夜劫营，务必要把他擒来。擒不到李光弼的话，你不必来见我了。”李日越率领五百精锐骑兵前去劫营。

天将蒙蒙亮时，李日越率军来到营前，雍希颢正严阵以待，果见敌军来劫，他对将士们说：“来了，且看他们怎样？”雍希颢命裹甲息兵，吟笑相视，毫无敌对情绪，李日越

甚觉奇怪，骂问道：“司空在哪里？叫他出来答话。”雍希颢答：“他昨晚已回河阳城去了。”李日越又问道：“他留下多少兵？统将是谁？”雍希颢答道：“只留下一千兵，统率正是我本人。”李日越不再言语，雍希颢马上问：“你是姓李还是姓高？”“姓李。”雍希颢笑着说：“想必是李日越将军了，司空有令，知道将军素抱忠心，只不过是环境所逼迫，今特命我在此迎候大将军您的到来。”李日越沉默不语，踌躇起来，想到史思明来时所说“捉不到李光弼就不要来见我”的话，回头对他的部下说：“如今李光弼到河阳城去了，大家捉不到李光弼都难免一死，等死就不如趁早投降算了。”没有一个士兵反对，李日越遂率部投降。

李光弼待李日越非常好，把他当成自己的心腹，李日越很受感动，要代为修书一封，劝他的好友高庭晖来降，李光弼说：“不必了，他自然会来投降的。”果然，没过几日，高庭晖也率部来降，李光弼对他们很优待，并为他们奏请官阶。

当时，李光弼的部下问他，收降敌军两员猛将，怎的这么容易？李光弼回答：“这就是知己知彼，史思明认为我只能守城，不能野战，我转移阵地野水渡，他以为我投进了圈套，必遣勇将李日越等前来攻击我，但我离开了，李日越找不到我，自然不敢回去缴令，除了投诚就全无别路可走，高庭晖才勇都超过李日越，见李日越在我们这儿受宠，必然也来投诚谋占一席之地，他俩人当时所以附逆是环境所迫的，并非真心。”

(顾铭新)

### 窦女杀贼图报宿愿

唐德宗时，淮宁(治所在蔡州，即今河南汝南)节度使李希烈奉命前去讨伐割据淄青(治所在今山东益都)的李纳，然而，李希烈却与李纳通谋，并与叛乱的河北藩镇朱滔、田悦等人勾结，自称天下都元帅、建兴王，并于建中四年(公元784年)攻入汴州(今

河南开封)。

入汴后，李希烈强行迎娶了一名叫窦桂娘的女子。桂娘的父母为此十分哀痛，可窦桂娘却对家人说：“你们不用悲伤，我早晚要杀掉这个逆贼的！”后来，她便毫无怨色地进了李希烈府中。

进府后，桂娘表面上装得十分依顺，然而暗地里却处处留心。她听说李希烈手下部将陈仙奇很忠勇，便劝李希烈提拔陈仙奇，这李希烈倒也应允了。

陈仙奇的妻子也姓窦，在征得李希烈的允诺后，窦桂娘便和陈妻作通家来往，以本家之名来增进他们之间的感情联络。

李希烈攻入汴州之后不久，便自称楚帝。不想，时日不长，他又在外兵败，汴州呆不下去，只得逃回了蔡州。陈仙奇一家也随同逃往。

一次，李希烈患病，桂娘乘机对陈仙奇的妻子说：“李希烈虽然声势强大，但他多行不义，终究会被官军所败，如不早些打算，到那时恐怕悔之晚矣！”陈妻听了此言后，感到李希烈的妻子都有如此想法，我夫也应有所准备。于是，她将这番话语告诉了陈仙奇。陈仙奇听了此言，也认为这是自己的最好退路，觉得有理，终于下定了决心，买通给李希烈治病的医生，投药中下毒，毒死了李希烈。

李希烈死后，他的儿子认为其中有鬼，便不肯发丧，准备先将手下众将旧臣先自杀掉，然后自己独立。正巧这时有人送来了鲜桃，桂娘向李希烈的儿子建议说，应当将这些桃子分赠给众将，以示府内安然无事，从而稳定众将之心。李希烈的儿子觉得有理，便同意了此事，让下人办理。

窦桂娘见机会来了，便亲自过问赠桃之事。她又用绢帛包上棉絮，做成一个假桃子，藏上写有内情的信件，派人送出了李府。

陈仙奇的妻子在剥桃食用时，发现其内密信，得知了府中发生的事变，立即告诉了丈夫。陈仙奇得到情报后，即率兵士攻进李

府，将叛贼李希烈之子及全家杀掉，献给了朝廷。

朝廷见陈仙奇有功，便颁诏赏赐，任命陈仙奇为淮西节度使。这样，窦桂娘凭借自己的机智多谋，实现了宿愿，为自己报了仇。

(丁晓明)

## 西藏使者解题显智为主得妻

唐朝是我国封建社会发展的鼎盛时期，无论政治、经济、文化等各方面都繁荣兴旺，各国间的经济文化交流也日益广泛，很多国家都想和唐朝结秦晋之好。

当时，唐朝有个文成公主，既聪明又漂亮，很多人都想娶公主为妻。印度、波斯等国的国王听说公主的美名，都派使者前来提亲。西藏的首领松赞干布也派自己最得力的使臣前来求亲。唐皇想到这些国家都和唐朝是友好邻邦，弄不好就会影响睦邻友好关系。唐皇冥思苦想，终于想出了一个解决办法，就是让各国使者比赛智慧，唐皇说：“哪个使臣最聪明，就把公主嫁到他们那里去。”

第一项比赛，就是让使臣辨认马驹和它的母马。唐皇命令牵来一百匹马驹，一百匹母马，让使臣辨认。几位使臣都是从马的毛色上辨认，以为白色的马驹定是白马生的，黑色的马驹就是黑马生的，结果都错了。松赞干布的使臣东赞却没有这样辨认，他先把马驹和母马分开，隔一夜，再将它们放在一起，马驹见到了自己的妈妈，都迅速地跑过去抢着吃奶，他用这种方法准确地将马驹和母马辨认出来。

第二项，唐皇给使臣们出了一道难题：他命人拿来两头削得一样大小，一样光滑的木棍，就问来使，哪一头是根，哪一头是梢？使臣们看着两头同样光滑的木棍，你瞧瞧我，我瞧瞧你，谁也回答不上来。这时东赞走了过去，将木棍中间拴上一根绳子，然后把它放入喷水池中，他指着下沉的一头说：“那下沉的一头是根，这浮着的一头是梢。”唐皇点头称赞。

最后一项，唐皇命人抬出一块很大的玉石，摆放在使臣的面前，他让使臣们将玉石上面的洞眼用线穿起来。这个洞眼很小，而且从这头到那头，要经过一条曲曲弯弯又细又长的孔道，使臣们试着去穿，结果费了很大劲，也没有能穿过去。东赞看时也觉得很难。忽然他看见一只蚂蚁在爬，于是心生一计。将线拴在蚂蚁腰上，把蚂蚁放在孔眼上，他在这头慢慢吹气，又在那一头放些蜜糖，那只蚂蚁就慢慢蠕动，就这样将线穿了过去。

唐皇见三道题都没难住东赞，暗暗佩服他的智慧，心想一个使臣都有这样的聪明才智，更何况他的首领。于是决定把文成公主嫁给松赞干布。

(丁晓明)

### 李白倒骑毛驴巧怒贪官

李白自从辞官回乡，时常将自己打扮成秀才模样，身藏御赐金牌，四处游荡。

不一日，李白来到华阴县，听说该县知县是个贪财害民的昏官，李白便想了个整治他的办法。李白倒骑着毛驴在县衙门前来回走了三趟，打的毛驴直叫。知县看到此情景，很是气恼，连声骂道：“可恶！可恶！竟敢调戏起父母官来！”立即派了几个县衙役将李白抓到前厅质问。李白假装着喝醉酒的样子，任凭县官怎么问就是不回答。知县一气之下，命令狱卒把李白关进牢里，等他酒醒后写出供状，改日再审判他。李白被带到狱中，他看见了狱官后，掀髯长笑。狱官见状，思忖着自言自语地说：“看起来这个人有些疯癫？”李白回道：“既不疯，也不癫。”狱官对他说：“不疯癫就好好写供词，你是什么人，为什么到这个地方骑驴侮辱一县之主？”李白让狱官取来笔墨，在纸上写道：“供状锦州人，姓李单名白。弱冠广文章，挥毫神鬼泣。长安列八仙，竹溪称六逸，曾草吓蛮书，声名播绝域。玉辇每趋陪，金銮为寝室。啜羹御手调，流涎御袍拭。高太尉脱靴，杨太师磨墨，

天子殿前尚容乘马行，华阴县里不许我骑驴人？请验金牌，便知来历。”狱官看了供状，吓得赶紧低头下拜，恳请李白海涵赦罪。李白对狱官说：“这怪不得你，只要你去对知县说，我奉金牌而来，犯了什么罪，把我关在这里？”狱官迅速将供状送呈知县。知县一看吓得如遭晴天霹雳，马上随同狱官亲自到狱中去拜见李白。见到李白便叩头哀求：“小官有眼不识泰山，一时冒犯，请大人千万恕罪。”华阴的官员听说后，都前来拜求李白，并请李白到厅上正面坐下。众官参拜完毕，李白将金牌拿出展示给他们看。金牌上面写着：“学士所到，文武官员军民等有不敬者以违诏论。”众官员赶紧又下拜，苦苦哀求。李白说：“你们受了国家的爵禄，为什么要去贪财害民？如果你们能痛改前非，就免了你们的罪。”众官员都拱手表示一定照办，今后再不敢贪财害民了。从此以后，知县接受教训，洗心革面，勤廉为政。

(丁晓明)

### 郭子仪门庭大敞平居止谗

唐代大将郭子仪因平定安史之乱等事，立了大功，被朝廷升官并封汾阳王，位至极品。郭子仪平日为人洒脱豪爽，家住亲仁里，平时家门总是大开广敞，任人随意出入，很少盘问。

有一天，郭子仪麾下有个将军要离京赴职，便前来郭子仪府上告辞。他很容易地就走到了郭子仪家的内院，隔窗而望，正遇郭夫人和爱女梳妆。他看到郭子仪被夫人及女儿唤着去拿毛巾，端洗脸水，就象使唤仆人一样后，替郭子仪感到脸面无光，便没有打招呼，悄无声息地退了回来。

此事一经传开后，郭子仪的子弟们受不了舆论的压力，便回到家里一齐来劝谏父亲。不想郭子仪听罢并不在意，这使得孩子们很是着急，他们哭泣着对父亲说道：“父王大人为本朝立下了赫赫战功，但却不尊重，平日里，不论贫贱都可以随意出入我家的内

它，作晚辈的认为，即使是象古代的伊尹、霍光这样德高望重的大臣们也不会这样的。”

郭子仪听到这里，才严肃起来，对孩子们郑重地说：“你们根本就不理解我的用意，世间有些事情都是人们难以意料的。我郭子仪现已官至极品，既不能再升擢了，也不会得到允许去隐退。宅中由公家负责供给食用的马匹就达五百，我的郭属、仆人吃官饭的有上千人。往前，我没什么可追求的；往后，我也没什么可仗恃的。如果高墙大院，门户森严，不与外界相沟通，一旦有人挟怨相报，诬陷于我，再有贪功害能之徒促成其事，那我家就难逃夷灭了，到时后悔也来不及了。现在我坦荡无邪，四门洞开，无所隐藏，上下之间，和睦相处，这样即使有人想诋毁我，也找不到借口的。”

几个孩子听后，都拜倒在地，十分佩服郭子仪的深谋远虑。

(顾铭新)

## 李愬雪夜袭城

安史之乱以后，唐朝中央权力日益削弱。有些藩镇割据一方，与朝廷分庭抗礼，淮西节度使吴元济就是其中之一。元和十一年(816年)底，唐宪宗派名将李晟之子李愬为大将，率军讨伐盘据在蔡州(今河南汝南)的吴元济。

转年二三月间，李愬率军打了几个胜仗，先后招降了一些淮西军的名将，使唐军士气振作起来。当研究如何攻打蔡州城时，西淮军降将李祐献计说：“吴元济把精兵强将都布置在外围边境上，守卫蔡州的都是些老弱残兵。我们可以从他们防备空虚的地方进兵，迅速攻克蔡州城。这样，等到淮西精兵回援时，吴元济早已被我生擒了。”李愬决定采纳这个计谋。

十月，李愬命所部整军出发，当时，军中将士都不知道所去何处。待向东走了六十里路，攻破了张柴村后，李愬才宣布此去夺取蔡州。诸将听罢皆大惊失色。因为当时漫

天大雪，朔风怒号，军旗都被撕裂，真是罕见的坏天气。再加上此去蔡州之路坎坷艰险，都是官军从来没有走过的。然而，众军士见主帅决心已下，还是壮起胆子上路前行。

李愬派一部分兵士断绝了朗山道，又拆了通向洄曲的一座桥后，艰难地向东行军。这样走了七十里路，半夜时分，到了蔡州境内。城边池里养了许多鹅鸭，李愬命士兵拿棍子去赶鹅鸭，鹅鸭受惊大叫，这样巧妙地掩盖和混淆了人马的声音，部队乘机兵扑城下。

吴元济几代割据，官军不至蔡州城已三十多年，所以，蔡州城不作防备。李愬指挥兵士开始登城，官军登上城墙后，守军却无一人知晓。黑暗中，守城的卫兵多数被杀死，很快，官军控制了城中的形势。

官军继续向城内纵深发展，此时，天已大亮，待城里的人们打开门户，望见街巷中站满了官兵时，才知道城已被攻下。有吏使慌忙跑入吴元济的内宅报告说，官军已到。吴元济尚未起床，他怀疑地说：“昨天天气大雪奇寒，官军若真的前来，人马在风雪中赶路不冻死才怪哩。我看这是小股强盗前来骚扰，去把他们杀退就是了。”又有人告诉他说，街巷里有许多兵士时，他又以为是洄曲的部队因寒冷而回来索要棉衣。直到听到唐军传达命令的声音之后，这才慌了手脚，待要登上牙城抵抗时，已大势已去，只好束手被擒。

李愬攻取蔡州后，将吴元济送回京师去处刑，同时致函招降淮西军勇将董重质，劝他不必害怕，告知他的一家老小已被保护起来。董重质受了感动，随即率部投降。从此，蔡州回复了平静。

(丁晓明)

## 钱传瓘巧用沙豆大败骄师

公元919年(五代后梁贞明五年)。在狼山(今江苏南通南)以南的长江水面上，这天，旌旗飘扬，战鼓声急，一千几百艘战船分东

西两大阵营，即将展开一场鏖战。

阵西，是后梁吴越王钱鏐之子大将军钱传瓘统率的五百只战舰。他是奉父王之命攻打吴国的，今天正与吴军彭彦章部会战在狼山江面。

这吴军统帅彭彦章一向以骁勇骄横著称，他根本就没把钱传瓘这个“小娃娃”放在眼里，况且在这场会战之前，他已先占了“天时”、“人和”两利。“天时”上，今天老天爷刮的是强劲的东南风，吴军整个船队占着顺风之利，其攻击力无形中陡增十倍。“人和”上，彭彦章率领的战船有一千二百多只，远超对手近三倍。有了这两大优势，打这一仗，彭彦章不仅没感到什么畏惧，而且还夸下海口，必胜无疑。此刻，见钱传瓘所部已列江面，便下令出击，顷刻，吴军舰队乘风破浪，向对手船驶去。

有兵来报：“启禀主帅，我军战船开进途中，未遇任何阻拦，敌船见我先头部队，便望风而逃了。”

“好！全速开进！”彭彦章高兴得眉飞色舞。

可是，过了不多久，他又听到士兵的报告：“主帅，敌船现在开始尾随我船了。”

彭彦章忙攀上瞭望楼一看，真的，刚才到江边躲避的梁军船队，待吴军战舰驶过后，已转到了吴军的屁股后面，形势马上发生了转化。“不好，我们可能中了敌人的计策了。”彭彦章命令战船调头与梁军交战。

可是，为时已晚，梁军战船已在江面上摆好了阵势。那彭彦章毕竟有些实力，此刻仍如困兽一般，疯狂地向梁军扑了过来。正待交手之时，突然，江面上空灰尘迷漫，尘埃顺风向吴船袭来。吴兵将士皆被灰土充斥了双眼，这下几乎丧失了战斗力。

原来，这是钱传瓘在上风口故意摆的“灰土阵”。彭彦章见此，急忙下令：“命令各船，靠近敌船进攻。”可是，等敌我双方战船船舷接触后，只见梁军士兵一边与吴兵交战拼杀，一边从船舱里取出一袋袋东西，他们分为两

档人马，一批专门给自己船上撒沙子，一批人专门向吴船上撒豆子。顿时，只见吴兵在甲板上踩上豆子如履滑冰，纷纷摔倒。而梁军战船上撒了沙子后，兵士即使踏在流淌的血浆上也稳当不滑，战斗力倍增。

就在吴兵东倒西歪、站立不稳、战船拥挤在一起的时候，梁军士兵又开始采用火攻了。火借风势，在长江江面上，吴军一千多艘战船片刻间被笼罩在一片火海之中。吴军大败。

正是这个“娃娃”钱传瓘施计以少胜多，使梁军大胜而归。而彭彦章狂妄愚蠢，战败后投水自尽。

（丁晓明）

## 才智超群 少年辨鼎

五代十国时期，后梁著名的经学家张策，少年时就才智超群、学识渊博。

有一次，他住家所在的洛阳敦化里，在疏挖一口甜水井时，起出了一只古鼎。那锈蚀斑驳的铜鼎上铭刻着一行篆字：“魏黄初元年春二月，匠吉千。”那做工又十分精细考究。左邻右舍无不认为这是稀世的文物。大家高兴极了，好像已得到了一笔意外之财。

张策也前来观看，当他仔细看过铭文后，苦笑着说：“你们不要高兴得太早，这只‘古鼎’乃后人所造，绝不是曹魏时代的珍品。”

大家听了小张策一番扫兴的话，很是吃惊。有个老学究见他是个孩子，便很不服气，也冷笑着，说道：“唉！你这小孩子不过十二三岁，怎晓得几百年前一个古物的真伪呢？”

张策的父亲张同也有同感，怒声责问道：“你可要谦虚一些呀！”

张策很理解别人对他的不信任，因为他的确在年龄上与别人有差异。他并不气恼，只是轻声慢语地说：“老先生，晚辈斗胆说一下根据，请您指教可否？”

老学究笑了笑，话里仍含着刺地说：“愿听高见。”

于是，张策便侃侃而谈：“建安二十五年，

曹操去世后，东汉的年号就改为延康了。这年十月，曹操之子曹丕接受了汉献帝刘协的禅让，做起了皇帝，建立了魏国，改年号为黄初。这就是黄初元年，请问，鼎上铭文的‘魏黄初元年春二月’从何而来呢？可见，这绝不是什么笔误，而是太荒谬了。”

老学究、张同及众人听了后，互相对望着，因为他们没有什么理由来驳张策的这番论证，一时沉闷起来。

过了一会儿，众人才七嘴八舌地说：“看上去小张策言之有理，那么张同先生，您何不取来史料查对一下呢。”

老学究及张同这才恍然大悟，张同让众人稍等片刻，不久，便把《三国志》取来了，当翻开其中的《魏书》一看时，果然，书中记载的同张策的说法完全一样。

这下众人们信服了，老学究更是面色腾地飞红，连忙向大家说：“后生可畏，小策真是个博古通今的奇才啊！自惭不如，自惭不如。”

（顾铭新）

## 北宋、南宋谋略实例

### 宋太祖杯酒释兵权

北周末年，赵匡胤在部将的怂恿之下，演出了一场“陈桥兵变”的政变丑剧，黄袍加身，成了宋太祖皇帝。他当上皇帝以后，原来部将多是他过去的旧友，手握兵权，对他极不尊重，为此事他一直忧心如焚。

有一天，赵匡胤召来心腹赵普问计：“自唐末至今，一连换了十几个皇帝，征战不息，其原因何在？”赵普答道：“臣以为都因藩镇势力过于强大所致。正如干细枝大，其树易折。”赵匡胤听了表示同意。赵普见状，知道太祖的心思，进一步说：“当今天下已定，但石守信、王审琦等握有重兵，实堪忧虑，应当马上削减他们的权力，才能保住社稷不变。”赵匡胤听后不置可否，实际上他已暗下

决心解除石守信等人的兵权，以解心头之患。

过了几天，时逢中秋佳节，太祖赵匡胤召请石守信等老部下进宫饮酒赏月。君臣交杯换盏喝得好不痛快，正喝到酒酣脸热之时，赵匡胤命左右侍臣全部退下，宴席上只剩下他和石守信等大臣。赵匡胤说：“我没有你们的辅佐，决没有今日，可是自从当上皇帝以后，感到还不如当个节度使那样自在。如今我寝食难安，时常睡梦中惊醒。”石守信等人疑惑不解，忙问其中情由。赵匡胤说：“身居皇帝高位的人，有谁不想将他干掉取而代之呢？”石守信等听他这样讲，吓得一个个跪倒在地不住叩头哭泣着说：“我们虽愚蠢至极，但决不会干出这种事来，只求皇帝指出一条明路。”赵匡胤见石守信入了圈套，感叹一声说道：“人生一世，如白驹过隙，转眼百年。要成功立业，名垂史册，你们都已实现了。何不放弃兵权，选择些好田产买下来，留给子孙，求得富贵一生，享乐一世呢？这样，我们君臣之间，也免去猜忌，永远象今天这样和睦相处，这岂不是件大好事吗？”石守信等人知道皇上要削去他们手中兵权，哪个还敢不答应，连忙叩头谢恩。

第二天，石守信等人称病不上朝，要求卸去兵权。太祖赵匡胤立即答应了他们的请求，并赏赐给他们许多金银财宝。就这样，太祖赵匡胤不动一兵一卒，十分顺利地剥夺了石守信等人的兵权，把军权牢牢掌握在自己手中。可以说，宋太祖借饮酒解除众将兵权的手段是十分高明的。

（语实）

### 宋仁宗苦心育良才

宋朝仁宗年间，四川成都有一秀才，姓赵，名伯升，很有才华。他出生在一个诗书世家，加上他自幼聪明颖异，少年时便能出口成章，下笔成文。这一年逢全国大考，赵伯升辞别双亲，进京赶考。三场考试，赵伯升出手不凡，一路顺风得意，便自以为今朝



定能金榜题名，好衣锦还乡。

第二天仁宗早朝升殿，询问这次大考情况，主考官将入选的前三名考卷送上，请仁宗皇帝御览。仁宗看完第一份试卷，圣心大悦，对主考官说：“这份试卷，文理顺长，实在难得。这位考生姓什么，叫什么？家居何地？”主考官回奏道：“此人姓赵名伯升，四川成都人氏，正在状元坊客栈等旨廷试。”仁宗传旨马上召见赵伯升。

赵伯升应召进宫，见了仁宗皇帝赶紧跪倒磕头。仁宗让他站起来近前回话。仁宗见他少年俊爽，一表人材，文如其人，心里甚是满意。向他问了古今大事，四书五经，赵伯升对答如流。仁宗见赵伯升年纪轻轻，竟有如此出众文才，颇为欣赏。但转念一想，他初出茅庐就一举成名，没经过历练，很难担保以后不会遇到挫折，到那时就要经不起打击而一蹶不振。若不及时锤炼，终难承担重任。想到这里，便想法发难，仁宗发现试卷中有一个“唯”字，赵伯升将“口”字旁写作“亠”旁，虽心知这是可以通用的，但是他决定从这个字上借题发挥，挫一挫这个新科状元的骄气。于是问道：“你可知卷内有一字写错了吗？”赵伯升见问，连忙回想，不知何字写错，即叩首问道：“不知何字写错，请万岁指点。”仁宗说：“是个‘唯’字，本应是‘口’旁，你为何却写成‘亠’旁呢？”赵伯升回奏道：“这是可以通用的。”仁宗取过纸笔，写下八个字，递给赵伯升，说道：“你仔细想想，这些字是怎么个通用法儿，给朕解释清楚。”赵伯升接过一看，见纸上写着“允兄、去吉、台吕、吴矣”，赵伯升看过半天也想不出怎样应对，急得顿时冒出汗来，忙说：“臣子不才，无可回奏。”仁宗说：“你暂且回去，好好读书吧。”就这样，赵伯升由独占鳌头，反变成名落孙山。

赵伯升乘兴而来，败兴而归，觉得无颜回家见父母二老。决心发愤读书，再考。他旅费花尽，只好每天为人代写家书、卖些字画换得些钱来糊口。有时几天卖不到一文

钱，而遭人冷眼，历尽人间世态炎凉。经过一年多的磨励，他一改过去盛气凌人的态度，变得谦虚、谨慎、深沉了。

宋仁宗并没有忘记这桩心事。一年以后，仁宗带着随从，出宫私访，在一家客栈里发现了穷困潦倒的赵伯升。赵伯升虽在金殿上受到仁宗接见，对仁宗毫无印象，又哪曾猜到皇帝会到这么简陋的地方来，仁宗有意问他：“秀才是成都人，为什么落此境地？”赵伯升象对老友那样，诉说了落第的经过。仁宗试探着问他：“你不认为仁宗皇帝处理不公吗？”赵伯升说：“当今皇帝极为圣明，怪只怪我学问不精，咎由自取，绝不是皇帝的过错。”

宋仁宗见他对落榜之事毫无怨言，人也变得虚心诚恳，学识和德品又有很大进步，便决定委以重任。仁宗对他说：“我认识贵乡制置使王大人，论起来他还是我的外甥呢，我写封信给他，你可以到他那里讨份差使。”赵伯升千恩万谢。第二天，仁宗派随从把书信和路费送到客栈，赵伯升便带着推荐信起程回乡了。到了西川，求见王大人，说明原委，置制使王大人心中极为纳闷，左思右想也想不起自己有这么个舅舅。他接过赵伯升交给的书信，拆开一看，这是当今皇帝一封亲笔诏书，上面交待他安排赵伯升接替自己职务和自己升迁事宜！到这时，赵伯升才明白仁宗皇帝爱护和培养自己的一番苦心。

（丁晓明）

## 包拯灰圈断真伪

包拯任定远知县不久，就接到一件棘手的案子。一天有两个妇女到县衙告状，她俩都是县里南乡一个乡绅的家室：一个是乡绅的妻子，王氏；另一个是乡绅的小妾，李氏。乡绅中年不幸暴病身亡，留下万贯家产和一个不满三岁的小儿子。王氏和李氏都声称这个孩子是自己所生，自己是孩子合法监护人。依照法律，谁争到了这个孩子的生育权，谁就争到了这万贯家产的继承权和支配权。



所以两个妇女你争我吵谁也不肯相让。孩子的真正生母只能有一个，她们其中必有一个是真，一个是假。然而事情决不象人们所想的那样容易判断，问小孩谁是亲娘，他还不太懂事，无法说清楚。调查乡邻亲友，有说孩子是王氏生的，也有说孩子是李氏生的，各执一辞。传间接生婆到堂，她一口咬定是王氏所生。包拯一时想不出好办法，于是对大家说：“本官现已调查完结，尚有疑点需要核查，待查实后再判。你们先回家去吧。”

这天晚上，包拯回想白天所审的争子案，想了半天毫无头绪，就走出书房到门外散步。路上行人熙来攘往，很是热闹。这时见两个小孩争吵起来，不久，又见两个孩子的母亲赶来，都护着自己的孩子而指责对方的不是。包拯看了一会儿忽然有了主意，自言自语说：“有办法了，有办法了！”

第二天包拯派衙役去传王氏与李氏及证人等到堂听审。只听他说道：“这个孩子你俩都说是自己所生，本县不好断定。现在暂且想出一个办法，在地上画一个灰圈，将孩子放到圈内，你二人同时拉住孩子胳膊，谁将孩子拉过去，孩子就判给谁。”

衙役当即在大堂中央用石灰画了个圆圈，并把孩子放到圈中站好，让王氏和李氏各拽小孩一只胳膊，只听包拯喊了一声：“拉！”王氏和李氏拼命往自己这边拉。小孩被拽得痛哭不已。李氏一听孩子哭叫，手就软了，王氏趁机一把将孩子拉过自己这一边。王氏得意地说：“老爷，我胜了，孩子判给我吧。”包拯微微一笑说：“不错，你胜了一次，但一次不能定论，还得再拉一次。”第二次又拉，又叫王氏拽了过去。王氏以为县太爷可以把孩子判给自己了，说：“请大人判给我吧。”包公只淡淡一笑，说道：“本县命你们拉第三次。这次谁能把孩子拉过去，本县就判给谁。一次定案。”

王氏听了，马上就拉起小孩的胳膊，也不管小孩哭叫。李氏见小孩胳膊被拽得又红又肿，含着眼泪去拉孩子的手，刚一用劲小

孩就痛得大声哭叫起来。李氏一听孩子哭，连忙放下孩子，跪倒在地说：“民妇不愿再拉了，请老爷判给王氏好了。”王氏站在一边得意地说：“请老爷判决吧！”

包拯这时哈哈大笑，笑完黑脸一沉说：“王氏，你虽然两次都把孩子拉出圈外，恰恰证明你不是孩子生母。天下哪个母亲不疼爱自己的孩子，你拉时不管孩子痛得怎样哭喊，你也不放手，怎能说你疼爱孩子，怎能说你是孩子生母！李氏见孩子一哭，就心疼的放了手，这正说明她是孩子的生母。”于是郑重判决，孩子归李氏所有。王氏冒名顶替，课以重罚。

(丁晓明)

### 向敏中智擒真凶洗冤情

向敏中，北宋人，《宋史》有传。他是当时很有名的审案高手，许多错综复杂的案件，一经他手，总会被他条分缕析审个明白，时人称他为“神判”。他在西京时任府尹时，曾遇过一桩很复杂的案子。

有一天，慈恩寺的和尚晋真沿途化缘，看着天色已晚，就到村子里向一个中等农家请求留宿一夜。这家主人见夜静更深，不肯答允。普真四下一看，四周灯火已熄，人生地不熟，再找个人家也不容易，就再三请求这家主人行个方便。最后好说歹说，主人答应他暂在他家车上过夜。普真一路上晓行夜宿，又累又乏，刚要眯上眼睛睡着，忽听有翻墙落地的动静，他睁开眼睛看了看，并无人影，又想再睡，就听见这家窗棂一响，他起身看时，只见一个男子正扶这家女人翻墙而过，手里还拿着一大包东西。普真心想：“我一个出家之人，睡在这家门外车上，他家丢了女人和财物，明天天一亮就会发现，必然会怀疑我，到时有口难辩，弄得声名狼藉，太不上算了。我不如趁这家主人还不知道这件事，马上离开这是非之地。”想到这里，普真急忙起身，连夜离开了这家。普真不敢走大路，捡村上羊肠小道走，他不熟悉路，

加上天黑，一不小心两脚踩了个空，掉进一口枯井之中。普真掉进井后，觉得脚下有什么东西，用手一摸，摸到了女人的头，且人是刚死，吓得他拼命呼喊起来。枯井离村有一里多地，任他怎样大声喊叫，也无人听得见。他想爬出去，井又很深很陡，费了半天劲也未能如愿，只好坐待天明时再喊人来救。

第二天早晨，那家的房主发现家里房门大开，女人也不见了，还丢失好多值钱的东西，慌忙找来乡邻帮助寻找。那家主人后来发现女人和昨晚借宿的和尚都在这只枯井里，待把他们吊上来，女人已被杀害，于是，就断定是和尚所为。这家主人和乡邻七手八脚地把普真捆了起来，押送县府衙门。县令对普真严刑逼供，普真耐不住刑罚，又辩解不清，只好含冤招供画押。承认他引诱那家女人，想带她一起逃往外地，后来又怕被别人发现，就把女人杀死扔在井里，自己也不小心掉了下去，至于偷的东西，他说放在井边，不知让什么人拿走了。

县官对普真的供词确信不疑，于是结案报送府衙。知府上下接此案复查时也觉得证据确凿，事实清楚，没有任何疑点。向敏中任府里推事，他却觉得此案尚有疑点可查，不能草率结论。第一，拿去赃物的是什么人，尚未查清；第二，拿去赃物的人为什么半夜三更到枯井边游逛。向敏中坚持要审个清楚，以免错判冤枉好人，于是他又提审普真。开始，普真觉得事已至此，纵有百口也辩解不清，还要多挨刑处，不愿多辩，表示服罪。向敏中见和尚似有苦衷，又不愿改口，就耐心地说：“只要你有冤情，我定会为你作主。”这样，普真才一五一十地讲述了他所看到的一切。向敏中想，看这和尚年纪不小，人也老实，所述不象有假。他于是决定请求府衙大人宽限几日再定案，容他再查。向敏中对外放风说：“这个案子已经了结，只待秋后问斩了。”这样一来，当地人都以为这件事完结了，谈说一些日子后，也就无人再提起了。

过了几天，向敏中派手下一个精明捕吏去出事的村子作秘密调查。这个捕吏到了这个村子一家小店住下，店房女主人听他口音，知他是府衙那里来的，就向他打听：“那个和尚的案子怎样了？”捕吏骗她说：“那个和尚昨天已经被处死了。”女主人听后，叹了一口气说：“啥时也有屈死的鬼呀，就是抓着真正的凶犯也没用了。”捕吏一听，感到她话里有话，就故意激她说：“这个和尚奸人妇女，抢人财物，又杀人灭口，还有什么冤枉不成？”那个女人附他耳朵小声说：“我就知道那女人不是和尚杀的，而是王小二杀的。”捕吏假装不信，那个女人指了指远处一座房子，说：“不信去查一查。”捕吏得知这情报，立即回城向向敏中作了报告。向敏中派人突然搜查了王小二的家，果然在其家中搜出所丢失的财物。一审，王小二在事实面前不得不交待了自己如何与那女人勾搭成奸，如何盗取财物，如何杀人灭口等犯罪事实。和尚普真这场冤案得以大白。

(顾铭新)

## 狄青掷钱 智励军心

兵书上说：“兵不在多，而在勇，”又说“两军相逢，勇者胜。”这都说的是带兵打仗靠的是军心、斗志。谁善于鼓舞士气，稳定军心，谁就能赢得战斗的胜利。北宋的狄青带兵打仗就特别注意这一点，下面讲的就是他这方面的故事。

仁宗时，广西首领侬智高起兵反宋，自立为王。他这支义兵十分强悍，攻占了许多州县，一度打到南方边境重镇广州。宋朝廷上大为震动，多次派兵前往征剿，但都被侬智高打得大败，所以军营中传出这样一句话：“宁可边疆老，不打侬智高。”

1053年，狄青领命带兵征讨侬智高。他底下部和士兵对此议论纷纷，对这次打仗没有信心。狄青装作不知，择日出征。军队行至桂林附近，已离侬智高活动地区十分接近，军中不安的气氛更加强烈了。一天宋军

路过一座神庙，庙内香火不断，当地人都说，求神问卜很是灵验。狄青下令大军休息，召集各支部队将领说有重要军机商议。诸将到齐后，狄青对他们说：“这次征剿侬智高，我心里也没底，让我们求求神仙问问卜，看看是吉是凶？”说完，他就带众将走进庙中，虔诚地祷告一番说：“如果此战能胜，我撒出的钱，个个面朝上。”说完从怀里抓出一把铜钱，扬手一扔，只听叮当一阵乱响，铜钱纷纷落在地上。诸将上前一看，竟然全部铜钱个个面朝上。惊喜若狂，以为真有神灵庇护他们取胜。众将回营把这个消息告诉兵士，兵士奔走相告，整个军营顿时人腾马跃，士气大振。狄青叫兵士把铜钱钉在地上，说：“等我们剿灭寇贼，再来这里取钱谢神！”

勇气倍增的宋军将士，在狄青的正确指挥下，屡出奇兵，神出鬼没，打得凶悍的侬智高一败涂地。没过多久，就把侬智高这股顽匪剿灭了。南疆从此太平。

狄青班师回朝，路过那座神庙，叫士兵把铜钱取来拿给众将看，原来这些铜钱正反两面都是一样的。他们对狄青智用铜钱鼓舞士气，稳定军心的作法，无不由衷叹服。

(语实)

### 程颢两断假冒案

程朱理学的创始人之一程颢，是北宋著名的思想家，也是当时出色的理案能手。这里讲的是他审理的两件作假冒案。

程颢任金华县县令时，曾审理过这样一桩案子。有一书生为了找个清静的地方读书，租借一处老宅。一次偶然机会，他发现屋子地下藏有一千多贯铜钱，很是高兴。不料这事后来被房主知道了，硬说这钱是他埋下的。书生不服，与房主争论起来，越争越厉害，最后两人一同到县衙去打官司。程颢升堂问案，先问房主：“你既然说这些铜钱是你埋下的，那么本县问你，你埋了多少年了？”房主答道：“有好长时间了，是建房时埋下的。”程颢又问书生：“你租用这间房子多久

了？”书生答道：“三年。”程颢当时没有再说什么，只派县吏去取十几贯铜钱来，仔细看了看，见每枚铜钱都铸有几十年前的年号，心里便有了数。便对书生说：“现在官府铸钱，用不了几年就遍行天下，你才住了三年，而这些钱都是几十年前铸的，这是为什么？”书生自知理亏，无言以对，乖乖地把铜钱交给了房主。

过了几年，程颢被调到晋城当县令，又遇见一桩假冒案。当地有一张姓大富户，不久前家里老人刚刚病死。谁知一天早晨，忽然外面闯进家来一个老头儿，自称是这家的旧主，是主人的失散多年的爸爸。这姓张的大户不承认，这个老头儿竟破口大骂他忤逆不孝，连亲生父亲都不肯相认。弄得张家上下不知所以，只好带着这个老头儿到县衙，请县令验明。程颢听完诉请之后，就问那个老头儿：“你自称是张乡绅的亲生父亲，那么我来问你，有什么凭证能证明你的身份？”老头儿听县令问他，便不慌不忙地答道：“小老儿本是一个医生，早年在外行医，拖儿带子不太方便，就叫妻子把刚生不久的儿子送给张家抚养。”说着，从怀里掏出一张发黄的纸，交给程颢，边说：“烦请县太爷看过证具。”程颢展开这张纸细看，只见上面写道：“某年某月某日，抱儿与张三翁家。”程颢反复看了几遍，也没发现有何疑点。把纸放在一边，接着又问：“您老高寿？”老头儿答道：“再有三年就到古稀之年了。”程颢又问：“当年张三多大年纪？”老头儿低头想了想：“有四十多岁吧。”程颢又把那张纸看过一遍，突然把惊堂木一拍：“大胆刁民，你竟敢冒充人父，欺骗本官，该当何罪？”老头儿连忙跪倒，仍坚持说：“事实如此，小老儿不敢胡言。”程颢扬了扬手中的纸，问道：“张三当时只有四十来岁，怎么会称他为翁？”老头儿顿时汗如雨下，连连磕头认罪。

(语实)

## 狄青易帜变号败敌军

狄青少年时家境贫寒，但知道用功学习。每天学完功课，还帮助父母干活，晚上习武练艺。这样，至长大成人后，已是文武双全了。当时正值北宋仁宗初年，西北党项军队屡犯边疆，宋朝边疆守军多次被其打败。年青的狄青当国家用之人之际，便投笔从戎，报名参军。他作战勇敢机敏，屡次打败敌军，很快被提拔起来担任军官。

狄青做延州指挥使时，当地守军自称“万胜军”，大部分士兵都是当地人。实际上这支军队，缺乏作战经验，又无良好的训练，没有什么战斗力，经常被党项人打败，党项人很看不起这支军队，私下里叫它是“常败军。”狄青了解这一情况后，决定利用党项人轻敌的思想，狠狠教训他一下。有一次出战，狄青让他所属的精锐之师“虎翼军”换上“万胜军”的旗帜与党项军交战。党项人一看来军是“万胜军”，根本没放在眼里，以为一下子就可以冲垮他们，因此队伍也没精心组织，就与之接战。可是一经交战，党项人便发觉来敌训练有素，锐不可当，与往日的“万胜军”大不一样。结果这一战，党项人被打得大败。从此，每当看到“万胜军”就心有余悸，再也不敢小觑了。真的“万胜军”从此以后，在狄青的指挥下，勤学苦练，队伍军事素质也有了极大提高，作战能力有很大增强。

狄青十分讲究作战艺术，从不死打硬拼。又有一次，党项军队向泾原路发起进攻，这一次他们纠集了三万多人马，声势很大。狄青所率军队不过一万人，双方兵力很悬殊。狄青想敌兵势众气盛，而党项人善于打山地战，我兵人员少，大多来自中原，不善于打山地战，如果一味照老战法打，难以取胜。于是他想了一个改变作战号令的办法，诱使敌军上当。以往两军对垒，击鼓为进军号令，鸣金为收兵信号，狄青告诉全军将士这次改变指挥信号，第一次击鼓为停止进军，再击鼓为暂撤退，待鼓声停止鸣金后为冲锋

信号。与党项军相遇后，宋军擂响了战鼓，敲了半天，也不见宋军发动进攻，党项人不明真情所以也不敢冒进；过了一会儿，宋军又擂响了第二通战鼓，随着鼓声一响，宋军不但不向前冲杀，反而慢慢地向后撤退。党项人见此，哈哈大笑，以为宋军害怕对阵给吓退了呢。正当他们笑声不止，妄自尊大自鸣得意之时，鼓声一停，鸣金一响，宋军象潮水般冲杀过来。毫无戒备的党项人顿时阵形大乱，没等他们清醒过来时，宋军已冲杀到了阵前。党项来不及组织交战，于是，自相践踏，被宋军杀死击伤无数，狼狈败下阵来。狄青趁势挥军乘胜追击，大获全胜。

(语实)

## 钟世衡巧施美人计

北宋年间，北部少数民族胡人日益强盛起来。这个民族骑兵善射，精于击技，经常侵犯宋朝北部边境，北部边民饱受其害。宋王朝多次派兵征剿，都未能征服，最后不得不改变策略，变战为和，改征剿为安抚。执行这一艰巨任务的是北宋名将钟世衡。

钟世衡来到北部边境，十分注意与胡人的关系，为联络感情，密切关系，他不象以前那些汉族大官们的做法，轻视胡人，乱打乱抓，而是经常带着宋朝内地出产的日用针织品或者茶糖深入胡人各个部落，拜访他们的酋长。钟世衡的这种做法，终于收到了成效，感动了讲义气重友情的胡人，愿意与他交朋友，听从他的指挥。事情有时也有不遂的情况，由于过去双方互相杀伐，积怨甚多，时常发生侵掠、袭扰边境居民的事。钟世衡有时也不得不动用武力镇压。这里虽说都是胡人，却有很多部落，各部落之间也经常闹矛盾，钟世衡经过反复思考，想出一个以夷制夷的办法。

当时这里最强大的部落是苏慕恩的部落，钟世衡就想方设法同他接近，时常邀请他到自己家中作客，在他离去时总要送给他一些小礼物。一来二去，两人成了莫逆之交，

苏慕恩对钟世衡十分信赖和尊重，在一些事情上经常站在钟世衡的立场上说话。钟世衡想，苏慕恩这个人大可以利用，眼下他虽然对自己不错，但还没有达到完全听从自己指挥调度的地步。如若把他控制在自己的手里，听命于指挥，那么对于治理北部全境将大有益处。通过交往，钟世衡发现苏慕恩对自己的爱妾玉珠很有垂涎之意，于是他决定施用美人计，叫苏慕恩完全听命于他。

一天晚上，钟世衡又邀请苏慕恩到家中饮酒。叫厨子炒了十几道好菜，搬出中原名酒，并叫来爱妾玉珠在一旁斟酒劝饮。两人喝得美酒，吃着美味佳肴，又有佳人在一旁劝酒，喝得十分痛快。渐渐地两人都有些醉意，钟世衡中间起身说是小解，就走了出去。喝得醉意醺醺的苏慕恩见钟世衡不在，趁着酒意动手动脚调戏玉珠。谁知苏慕恩并没有走开，而是躲在门外静听房中动静。正当苏慕恩搬过玉珠的脸欲强行亲吻时，苏慕恩走了进来。一见此情，装出十分生气的样子，苏慕恩又羞又愧，趴在地上一个劲地向钟世衡赔礼道歉。过了一会儿，钟世衡怒气已消，转怒为笑，拉起苏慕恩说：“我们兄弟二人怎能为一个女人而伤感情呢？你既然喜欢她，我就送你作妻子好了。”第二天，钟世衡用花轿、拉上许多珠宝玉器，丝绸锦缎作为赔嫁，把玉珠送到苏慕恩那里。从此以后，苏慕恩对钟世衡忠心耿耿、言听计从，为钟世衡安抚平定北方胡人起了重要作用。

（语实）

## 钟世衡借刀杀人

北宋时期，西北党项族首领元昊建立了党项族的国家夏国，就是历史上的西夏。元昊手下有两员猛将一个叫野利刚浪陵，另一个叫野利遇乞，这两个人勇猛善战，他们经常带领骑兵侵掠北宋西北边境，宋朝西北人民饱受其苦。

宋朝派大将钟世衡驻守西北边疆，以防西夏侵犯。钟世衡到任后，一边加强防务，

一边筹划破敌之策。这时正好西夏野利刚浪陵派遣浪埋、赏乞、媚娘三人前来宋营诈降。钟世衡识破这三人的诈降诡计之后，不动声色，好言好语安抚。他决定将计就计，利用他们除掉野利刚浪陵。于是他装出热情的样子接待前来诈降的三人，并委以要职，以表示对他们的器重，暗地里却派人密切监视，防止他们破坏。

他冥思苦想利用这三个人实行反间计，但一时找不出合适人选执行这个计划。猛然间，他想起一个人来，认为他可以胜任。

这个人就是钟世衡的好友王嵩。王嵩少年出家，在寺院习武修文，学到一身好本领。钟世衡慕名求教，果然对于兵书战策了如指掌，为人忠厚讲究义气。他经多次请求，才请得王嵩下山协助。在几次战斗中，王嵩机谋善断，英勇果敢，屡立战功。自此两人的友谊日渐加深。钟世衡为他请功封赏，还为他购置田产，娶了亲，为此王嵩对他十分感激。钟世衡为了考验他，一次故意找个借口把王嵩关押起来，并施以重刑，但他一直没有怨言。钟世衡知道王嵩对自己很忠诚，堪当重任。

这天，钟世衡将王嵩请来，对他说：“贤弟，为兄有一件大事想拜托你去完成，不知贤弟肯不肯帮忙？”王嵩听了连忙说：“兄长尽管放心，即便是上刀山下火海，我也在所不辞！”钟世衡感动地说：“我想派你去西夏，到元昊那里实行反间之策，元昊足智多谋，欲想骗得他的信任，一定要吃不少苦头。”王嵩毅然地说：“生我父母，知我者兄长。我一定不负所托完成这个任务！”钟世衡于是给野利刚浪陵写了一封信，信中说：“刚浪大王，你派来的浪埋、赏乞、媚娘三人，我已委以重任，并向朝廷奏本为你请功。朝廷知你诚心归宋，已任命你为夏州节度使，月俸一缗，旌节大印业已送至我处。你须抓紧时间，尽快举事。”并画了一幅乌龟与枣同席的画，让王嵩转交野利刚浪陵。王嵩来到野利刚浪陵大营，将书信与图一并呈上，野利刚浪陵看

过大怒，但又不明白图上画的是什么意思，就问王嵩。王嵩说：“这幅图是早早归来之意。”野利刚浪陵不知是计，为表示自己对元昊的忠心，将王嵩及书画一并交与元昊处理。狡猾的元昊怎肯轻信，对王嵩严刑逼问，王嵩一口咬定确有此事。元昊将信将疑，暂且将王嵩押起来，派人到宋营试探虚实。钟世衡了解到来人是元昊手下亲信之后，假意相信他们是野利刚浪陵派来的，设宴款待，并约定野利刚浪陵投诚时间，送给他们许多贵重礼品。这些人回营向元昊报告了这一切，元昊十分震怒，就把野利刚浪陵和王嵩杀了。

钟世衡见一计得逞，又设下一计除掉遇乞。钟世衡命令部下在西夏边境设立祭坛，在木板上刻上祭文，上刻写野利刚浪陵、遇乞二将有意归附大宋，不想大事未成，野利刚浪陵反遭杀害，在此设坛悼念云云。西夏人来了，叫人点燃烧掉。西夏兵拿着这些东西向元昊报告，元昊又把遇乞杀了。就这样，钟世衡将计就计，巧施反间计，借用敌手除掉了心腹大患。

(语实)

### 吕夷简深谋远虑安社稷

北宋年间，一代名相吕夷简为政期间，政绩卓然，朝廷上下无不交口称赞。这里讲的是他如何正确处理发生在宫中的一件大案。

宋真宗也和历代皇帝一样，拥有三宫六院七十二嫔妃。可是天公不作美，这些皇后嫔妃只生公主不生太子，这下子可愁坏了宋真宗。要知道，在封建社会，只有男子才有继承权，没有儿子继承皇位，岂不是大权就要旁落，这怎能叫宋真宗不着急。宋真宗这时已近晚年，眼看生儿子的希望就要落空。有一次宋真宗和皇后谈及此事，皇后对他说：“陛下何不遍地撒种碰碰运气，兴许会得个儿子呢！”宋真宗一想，觉得皇后说得很有道理，决定碰碰运气。宋真宗从那以后遍试宫

中宫娥彩女。也该他后继有人，后来一个李姓宫女真的给他生了个胖小子。宋真宗晚年得子自然高兴万分，谁知却由此而发生一连串的事端。先是皇后倚势欺人，将李妃生下的儿子抢了过来。据为己有，且下令下面人等不准走漏半点风声。那个李妃，并没有因生下贵子而显宠，相反地却倍遭冷遇。李妃因儿子被抢，母子不能相见，终日悲悲戚戚，不幸身染重病，尽管多方调治也不见好转。

宋真宗驾崩，太子年幼，太后垂帘听政。这期间，李妃病死。太后想按一般妃子薄葬了事。宰相吕夷简闻知此事，匆匆忙忙闯进宫来，要求晋见太后，说有急事禀奏。太后不知何事，急忙召见。吕夷简奏道：“李娘娘仙逝，不知太后以何礼安葬？”太后一听，原来是为这件事，就没好气地说：“一个妃子还能怎样？”吕夷简奏道：“谚语说，‘人无远虑，必有近忧’。依为臣之见，应从厚安葬为好。”太后听了十分不高兴，大声斥责道：“好个吕夷简，你的手伸得也太长了，我们宫廷之事你也要插手？”吕夷简平心静气地说：“我身为宰相，总揽国家大事，宫内宫外，都应知而言，错而谏。”太后说：“你这样做岂不是在挑拨我们母子关系，为害朝廷吗？”吕夷简说：“为臣正是为了维护太后与圣上的关系，顾念社稷的安危才说这番话的。您若真顾念朝廷，维护您今后的权威，就应当捐弃前嫌，替李妃隆重安葬。”太后经他这样一说，觉得很有道理，于是让他领旨料理李妃安葬事宜。

吕夷简按照皇太后所应享受的礼节，给李妃穿上皇太后的服饰，又用水银充实棺槨，大张旗鼓地为李妃安了葬。朝廷上下都以为是太后安排的，都交口称赞太后的贤德。

太后死后，宋仁宗继位，才得知自己生母的真相。这时宫中有人传言，说圣上的生母李后是被太后派人下毒害死的。仁宗闻知大怒，命人打开棺槨，查看是不是为毒所害，并要追查凶手为生母报仇。朝廷上下见了无不提心吊胆，唯恐灾祸降临到自己头上。谁

知待打开李后棺槨一看，见李后身加皇太后衣冠，面色新鲜如活着一样，没有半点中毒迹象。宋仁宗见了，才知误信谗言，几乎错怪了太后的一片好心，不禁羞愧不语。仁宗感叹道：“人言如虎，人言可畏，如不是老宰相吕夷简下棺时用水银封裹，母后玉体腐朽，后果不堪设想。”仁宗下旨，不准对太后垂帘之事说三道四，谁要再重提旧事，加重处罚。由于吕夷简的深谋远虑，周到处理，这场危及朝廷的大祸避免了，太后的名誉保住了。

（语实）

### 张齐贤因势利导巧分财

宋朝真宗年间，皇亲国戚依仗真宗的庇护，争名逐利，谁也不甘人后。俗话说：人心不足，蛇吞象。他们越是有钱，越是私心不足。演出了一幕幕争财夺产的闹剧。其中有两家本是同胞兄弟，在他们的父亲病逝后因分家析财而争讼不已。他们是皇帝的亲戚，对他们的官司官府们都不敢承办。后来他们越打越厉害，闹得京城满城风雨，宋真宗没有办法，宣旨把宰相张齐贤找来商议处理办法。张齐贤对这两个皇亲为争夺家产的丑闻早有耳闻，见皇帝问他，他便说：“他们两家的官司非御史台、开封府所能承办，这件事交给为臣好了，保管处理得让他们两家心服口服。陛下等好消息罢。”宋真宗听他说得这么有把握，就顺水推舟地对他说：“好吧，这件事就交给你去办，办好了，朕自有重赏。”

张齐贤并没有象许多官员那样，事先派人到当事人那里详细调查了解，而是回到丞相府之后马上下令，传这两家兄弟到丞相府听候处理。衙役们不敢怠慢，不大一会儿就把他们请到丞相府。张齐贤请二人落座之后，问他们：“两位大人你们是不是都认为对方分的财产比自己分的多，故此才引起争执的？”这两个人都说：“是这样。”张齐贤听了笑道：“那就好办了。”这两个人听他这样说，脸上都露出不屑的神气，仿佛说：“连皇帝都感到为难，你又有多大本事，若是分割不公，

非让你下不来台不可。”张齐贤好象对他们的表情没看见一样，平心静气地说：“二位兄台，请你们把各自分得的财产开列一份清单，并烦请在上面签字画押，表示可信。”张齐贤待他们将财产清单写好画完押，就对他们说：“你们的案子审完了，本官完全遵照二位兄台的意见办。现在就请你们两人马上各自回家，准备搬家。如果不按本官规定时间搬完家，本官就要追究你们无理搅闹公堂的责任！”这两位皇亲一时还不明白，忙问：“往哪搬家呀？”张齐贤平静地说：“你们不是说对方比自己分得的财产多吗？你们各自把家搬到对方去，不动任何财产，岂不是解决了吗？”到这时，这两位皇亲一时无话可说，向张齐贤赔礼认错，说什么也不肯搬家。张齐贤脸色一沉，对他们说：“你们都家财万贯，一生享用不尽。本是同胞兄弟竟为了根本不存在的不公而争执不休，真让天下人耻笑。”这两位皇亲面红耳赤，一个劲地向张齐贤赔不是。张齐贤见事已解决，又训斥了他们一顿，才让他们离去。

第二天，张齐贤把这件事的处理情况和结果向宋真宗作了汇报。宋真宗听了大加赞赏。

（语实）

### 杨延昭设奇谋两败契丹军

宋真宗咸平二年（公元999年），契丹二十万大军在萧太后的统领下向宋王朝发起进攻。九月渡过易水，攻破狼山，势破如竹，一直攻到遂城。当时驻守遂城的主将是杨家将名将杨延昭。他见敌兵人多势众，来势凶猛，遂城城小兵少，恐怕难以抵挡，连忙派人赶赴朝廷请求派兵增援。宋真宗得报派河北大帅傅潜带兵增援，谁知傅潜带兵来到遂城附近，见契丹兵多将广，不敢上前迎敌解围，于是遂城被契军团团围困。遂城是个不大的山城，地形险要，易守难攻，但守城的宋军只有三千人，若以这样薄弱的力量抗击契丹二十万大军的进攻决不是件容易的事。



萧太后亲临前线督军攻城，大有非攻下此城决不罢休的架式。面对如此众多的契丹兵，守城将士开始时都很惊惶，连城里百姓也人心浮动，惶惶不安。杨延昭不愧为杨家后裔，面对危险从容镇定。他把城里的青壮男子都组织起来，发给武器，又组织城里老弱男子和妇女修补战具，运输物品、烧水作饭；一切进行得井井有条。杨延昭和魏能、杨嗣等亲自上城指挥迎敌。全城上下团结一心，士气日益高涨。契丹军虽然在萧太后的督战下，拼死攻城，但都被宋军打退下来。这场攻防战一直打了一个多月，契丹兵也未能攻破城池。这时北方天气寒冷起来，一般情况下，十月天气虽冷还不至于下雪结冰。谁知此时从北方吹来一股寒风，一夜之间遍地皆白，气温下降到零下20多度，滴水结冰。杨延昭见此心中大喜，马上组织全城军民担水浇城，水从城上沿城墙冲下，随浇随冻，一夜之间，遂城成了一座晶莹剔透的冰城。契丹军不要说爬上城来，就是走近城边也不容易。萧太后无计可施，只得下令退兵。杨延昭乘势开城追击，夺得契丹军丢弃的大批军用物资得胜而归。

转眼到了第二年，萧太后为雪遂城之耻，又派出数千人的精锐骑兵突袭宋军，欲拿下遂城西北的羊山，伺机攻城。

杨延昭知道契丹此次进军的目的是为报去年兵败遂城之仇，来兵都是契丹的精锐之师，又锐气正盛，不可与之正面交锋。他经过深思熟虑，决定采用诱敌深入，合围聚歼的作战计划。他先在羊山西面设下伏兵，然后亲自率领一支骑兵，从北面向敌兵挑战。契丹主将见来人是杨延昭，所带人马不多，恨不得一下子将他活捉，便一齐扑了过来。杨延昭且战且退，佯装不敌，契丹军求胜心切，哪知是计，穷追猛打，一直追到宋军设伏圈内。杨延昭见敌兵已全部进入包围圈内，急勒马头，转身令旗一挥，埋伏在四周的伏兵一跃而起。这里山高路险，不便骑兵作战，结果把契丹兵打个落花流水，全军覆

没。萧太后见骑兵被歼，又恨又怕，这次出兵又空手而归。

当地居民为纪念这一胜利，把羊山改为杨山。

(语实)

## 元昊示弱骄敌

1039年，西夏元昊年青有为，雄才大略，对宋怀有垂涎之意。经精心准备，发兵进攻宋朝边境重镇延州。但是，延州北面的金明寨驻守着宋朝勇将李士彬的将近十万人马。李士彬勇猛刚强，人称“铁壁相公”，有他挡道，进攻延州的计划难以实现。元昊为了除掉这个大敌，先后用了反间计和诱降计都被识破而未能得逞。

元昊连施二计落空，仍不灰心，苦思冥想又生一计。元昊知道李士彬原来是当地党项族首领，就派了些与他有关系的部族士兵前去诈降，李士彬见是本族兄弟，也没细查底细都收留下来，并赏赐许多金钱。后来前来投诚的人一天比一天多，李士彬不仅不怀疑，反而感到高兴。

为了骄纵李士彬轻敌，元昊在诈降的同时，暗地里下令叫西夏军队凡与李士彬相遇只准败，不许胜，并且到处散布“西夏人怕‘铁面相公’，不敢与他交战”的言论，李士彬听到这些传言自鸣得意起来，自以为了不起，听不进部下半点意见，致使上下不和，积怨甚多。那些前来诈降的士兵乘机制造矛盾，并在下面招降纳叛，许多士兵已暗中归附西夏。

元昊经过前一阶段活动，见目的已经顺利实现。抓住时机兴兵大举向宋进犯。大军进入宋朝边境后，派人大造舆论：要攻打金明寨。李士彬得知这一消息也不敢怠慢，马上调集军队，严阵以待。可是从早上一直等半夜也不见西夏半个兵丁。李士彬手下的士兵又累又饿，纷纷埋怨。骄横的李士彬本来因白守大半天就有火，抓来埋怨的士兵就是一顿毒打，并把他们禁闭起来不给饭吃。李



士彬经过这番折腾也累乏了，进帐倒头便睡。谁知刚刚睡下，又听警声四起，李士彬又赶紧爬起来组织人马，排好阵形后等到下半夜还是不见西夏人来攻，只好解散队伍休息。李士彬以为西夏兵只是虚张声势，根本不敢与他对敌，于是这次放心地进帐睡起觉来。这时天色将晓，寒气袭人，宋兵一个个睡得正香。突然四周又响起报警锣声，说时迟那时快，西夏兵不知什么时候已冲进金明寨。李士彬在睡梦中惊醒，连战袍也来不及穿就冲出大帐，只听喊杀声一片，自己手下兵丁乱作一团。他忙叫随从牵过战马，下人竟给他牵来一匹瘦马，他也顾不得训斥随从，拍马迎敌。无论他怎样弹压，手下士兵也不听指挥，不是见敌就跑，就是弃兵器投降，把李士彬气得暴跳如雷。正当他大发雷霆的时候，元昊率领一支精兵冲杀过来，经过激战，李士彬由于战马体力不支，被元昊打下马来。西夏兵蜂拥而上，将李士彬生擒活捉。过了一会儿，西夏士兵又将李士彬的儿子抓来。宋军无了主帅，更是大乱，很快被西夏兵打败。金明寨失陷，李士彬所属部队被元昊收编，宋朝的西北边境已成了西夏的囊中之物。

(语实)

### 孟珙连施奇策破敌兵

南宋时期，国力衰微，虽凭长江天险暂时保住了半壁江山，但强悍的金国虎视眈眈，对宋王朝构成严重威胁。1233年，北方蒙古强盛起来，他们发兵进攻金国，很快就攻陷了开封城，金主完颜守绪逃往蔡州。宋朝见金国势败，决定乘机铲除直接威胁宋朝的金国大将武仙这支劲旅，担任征讨重任的主将就是南宋名将孟珙。

孟珙文武兼备，足智多谋，是一个不可多得的大将。在攻打武仙之前，他先派人多次到武仙驻兵周围作侦查，摸清了那里的兵员分布情况，据此制定了一套周密的作战计划。

第一步，他采用诱降之计，用重金收买了武仙手下一员大将刘仪。根据刘仪的报告，他进一步搞清了金兵的内部情况。武仙根据这里山高林密的特有地理形势，将部队结成了九个营寨，大寨设在石穴山，山前设有三个小寨，小寨附近又有离金寨和王子山寨。据刘仪讲，要夺取大寨，就要先消灭那三个小寨，而要消灭这三个小寨，就先要拔掉离金寨和王子山寨。这两个山寨与那三个小寨和大寨互相配合，遥相呼应，构成连环之势，只要先拔掉这两个山寨，就等于砍掉了这座联营的左右两翼，拔取大寨也就指日可待了。孟珙采纳了刘仪的计策，先扫清了外围的金军，准备夺取两寨。

第二步，孟珙运用了偷袭之法。他分遣两支精兵，一支装扮成金兵的样子，趁黑混入离金寨，分据要道隘口，放火烧营，虚张声势，很快就夺取了这座营寨；另一支于此同时摸进王子山寨，先将敌将斩首，接着大兵掩杀，也很顺利地拿下了王子山寨。

第三步，集中优势兵力各个击破。夺取了离金寨和王子山寨以后，金军那三个小寨陷入孤立之中。失去了屏障的三寨金军，见宋兵压境而一片混乱。孟珙调集大批人马，一鼓作气又拿下了它们。

第四步，又施劝降计。孟珙见大寨金兵还很强大，所据地势又高又险，为了以尽可能少的伤亡夺取大寨，他没有急于发动进攻。孟珙先派与金将有交情的人前往金营说降，又挑选了三百名妇女伪装逃归金营，每个怀里都揣着劝降书。这一着又见成效，不久，又有金将晋德、王显带领五千人马来降。

第五步，抢占制高点，控制局势。孟珙估计武仙已乱了方寸，一定要抢占这里最高峰牯岭，以便窥伺动向，利于指挥调度。他便派得力战将樊文彬抢占牯岭，并于前路设伏，后断归路。武仙果然带兵来到牯岭，刚爬到半山腰，樊文彬挥旗发令，伏兵四起，武仙毫无准备，仓猝迎战，一场激战之后，

金兵死伤过半，武仙在众人的保护下，才冲出重围。这一仗虽然没有活捉武仙，但已严重地挫折了他的锐气，金兵士气大减。

第六步，乘其不备，突袭成功。第二天，天降大雨，孟珙召集众将部署夺取大寨的计划。有几个将领对这个决定心有疑虑，孟珙说：“你们可记得唐朝名将李朔雪夜入蔡州的战例吗？兵书上说：攻敌于不备。今天是天赐良机，我们此次突袭定获成功。”众将听他这样一说，都表示赞同。于是向武仙的最后攻击打响了。宋兵个个踊跃，冲杀向前，在宋军的突然打击下，准备不足的金兵不战自溃。武仙驻守在大寨的七万金兵都临阵投降，武仙只带着七八个亲兵逃了出去，这支威胁宋朝的金兵劲旅就这样被彻底打垮了。

（语实）

### 临危承重任 智勇破金兵

1160年秋，金主完颜亮亲率四十万大军进犯中原。金军在淮河上筑起浮桥，兵马络绎不绝地从浮桥上通过，毡帐相望数十里，太有一举消灭宋王朝之势。南宋君臣见此十分惊慌，不得不重新启用老将刘锜为江淮西制署使，到前线领兵御敌。不料想担任淮西守备的王权是个怕死鬼，听说金兵将至，放弃庐州逃跑，刘锜只好退兵到扬州，致使西淮大片地区沦落金人之手。金兵长驱直入，逼近长江沿线。

宋朝廷为挽救局势，阻遏金兵南下，撤换前线主帅，并派遣知枢密院事叶义问坐镇扬州。1161年11月，金主完颜亮亲统大军抵达和州，欲从采石矶渡江入浙，直逼宋王朝腹地。叶义问命参谋军事虞允文前往芜湖，督促那里的主将交接工作。

虞允文一行来到采石矶时，战事已迫在眉睫，敌军遥遥在望，而宋军三五成群，松松垮垮，没有一点要打仗的样子。这些士兵原来皆属于王权部队，王权吃了败仗已离开部队，新任主将李显忠尚未到任，所以人心涣散，无人出头来组织指挥。虞允文见此情

景，心急如焚，当即决定临危承命担当起临时指挥的重任。他召集众将开了个紧急会议，会上他严肃地指出，象现在这样坐等主帅，必定贻误战机，一旦战事到来，怎能抵御强大之敌。若国破家亡，我们将因此而让国人耻骂。他拿出犒军资费，说：“我奉旨前来，有权决定，谁有功，谁受赏，我将为你们中英勇杀敌的人请功封赏，对那些临阵脱逃的人也将严惩不贷！”大家都被虞允文鼓舞起来，决心听从虞允文的调遣指挥，保卫大宋江山。

在虞允文的带动下，南宋将士群情振奋，整顿好队伍后，来到长江边上。对岸的金兵已在前一天祭天盟誓，准备第二天早上渡江。当时，金兵有四十万，而南宋军还不到两万人。面对这样的情势，虞允文从容不迫，令诸将列阵不动，派出五方船队迎敌，其中两方船队分别东西而出，两方船队匿藏港汊之中，一方船队位于中央，暗藏精兵待机而动。

部署刚刚就绪，金军已呼喊着重开船乘风破浪而来。金主完颜亮亲自挥舞红旗指挥，数百只战船一字排开，其势异常凶猛。转眼间，已有两只金兵战船抵靠江岸，金兵象潮水般冲了过来。宋军士兵抵挡不住，渐渐后退。虞允文站在高处，看到这种情况十分焦急，就拍着在自己身边的统制时俊的肩膀说：“你的胆略名闻四方，怎么临阵却象小儿女一般？”时俊受其激励，挥舞双刀，率领士兵冲了上去，与金兵展开殊死搏斗。此时，布置在中央的主力船队，用快艇坚兵冲撞金兵船队，金兵船只被撞沉大半。但顽强的金兵仍然不后退，拼死冲杀。

这场战斗打得异常激烈，从早晨直打到黄昏。这时有一些从光州溃逃到这里的宋兵也来参战，虞允文把他们召集在一块，授予军旗、战鼓，让他们从山后绕过去，虚张声势。正在鏖战中的金兵忽见山后鼓声大作，宋军战旗无数，以为宋朝的援军赶到，顿时斗志减退，转身逃跑。虞允文下令以劲弩强

弓追射，金兵丢弃四千余具尸体，狼狈逃回。

虞允文待金兵退去，马上令诸将整顿人马，补充营养，告诉他们：“我估计金兵不会善罢甘休，一定会乘夜攻打我们。”他把宋军重新作了部署，严阵以待。果然，半夜时分金兵又向宋军发起进攻，由于有备，宋军前后夹击敌人，又获全胜，火烧敌船三百余只。经过这场大战，金兵损失惨重，金主完颜亮再也不敢渡江南下了。

(王子屹)

## 陈埧施计除恶霸

南宋理宗年间，有一个出名的清官，他叫陈埧，任浙西提点刑狱史。这一带社会秩序很乱，一些不法之徒，依权仗势，欺压百姓，鱼肉乡里，老百姓怨声载道。

陈埧上任后，对那里的情况进行了一番明察暗访，通过调查得知：浙西地区的俞垓和戴福是当地两个罪大恶极的恶霸。这两个家伙后台都很硬，他们自以为朝中有人为他们撑腰，根本不把官府放在眼里。陈埧决心严惩这两个恶霸，为民除害。他派人暗地查访，掌握了俞垓和戴福两人犯罪的大量事实，调取了可靠证据。擒贼先擒王。俞垓是安吉州一霸，比起戴福来更加猖狂霸道。陈埧决定先拿俞垓开刀。一天夜里，他得知俞垓在家未出，星夜赶奔安吉州，将俞垓抓获。亲自在当地开堂审判，判了重刑，游街示众后，就地斩决。然后将俞垓全部案卷材料上报刑府大衙。俞垓的亲朋好友想拉关系说情也来不及了。

戴福听说俞垓被判罪处斩，知道自己倒霉的日子也快到了，躲在外面不敢回家，后来跑到京城，躲进后台当朝宰相李宗勉府内。陈埧不好带人到宰相府里抓人，一时也很为此事为难。戴福虽无人命，但作恶多端，如果放过他，老百姓会对此议论纷纷，有负民意。他终于想出一条计策，连夜给宰相李宗勉写了一封措辞委婉的长信，信中说：“我到浙西负责刑狱，是宰相大人对我的信任。

临行前，宰相嘱咐我秉公办案，不徇私情。我谨记宰相的教诲，不敢松懈。现在外面传说卑职所要缉拿的逃犯躲在贵府中，我决不相信会有此事，定是那些用心不良的人放的谣言。宰相大人乃本朝贤臣，朝廷上下都很敬重，决不会徇情枉法，庇护这个罪犯的。”李宗勉看过陈埧写来的长信，自知理亏，又恐被陈埧抓住把柄，弹劾自己，只好把戴福逐出府门。戴福失去了宰相这个保护伞，插翅难飞，很快就被陈埧手下的捕役擒拿归案。陈埧请来当地官员，在当地召开公审大会，历数了戴福的种种罪行，在他脸上刺了囚犯标记，带到闹市游街示众。这样一下子震慑了浙西一带平时有劣迹的人，他们见陈埧连宰相的亲戚也毫不留情面，哪个还敢违犯法律。从此，浙西一带犯罪现象大大减少，出现了民顺人和的大好局面。

陈埧不畏权势，敢于同有宰相做后台的恶霸斗争，其精神十分可贵。然而如果他在具体办案的过程中，不讲策略，不利用宰相李宗勉心理虚弱的弱点，旁敲侧击，也是难以顺利逮捕罪犯归案的。

(王子屹)

## 毕再遇智解楚州围

1206年，南宋兴师北伐失利，金军转守为攻，以战船五百艘顺淮河南下，将楚州城团团围困，楚州城守将向南宋朝廷告急。南宋王朝深知楚州战略地位十分重要，如若失守，南宋整个国家也难以自保。得知消息后，马上选派一名大将带兵驰援。担任这次解围重任的就是南宋著名大将毕再遇。

毕再遇日夜兼程，赶到离楚州不到十里的地方停了下来。因为他从探马的报告中得知，围困楚州的金兵有七万之众；另有三千人马驻防淮阴护卫粮草，如果直打硬冲，敌我双方兵力悬殊，一定难以取胜。他对部下说：“敌兵数倍于我，难以力胜，若想破敌只可智取。”他经过察看地形，一条妙计被他想出。他派统领许俊带领一支精干部队以最

快的速度赶到淮阴，乔装改扮混入金营，乘机放火焚烧金军粮草。许俊得令后，带领二百人组成的轻骑，携带点火用具连夜赶到淮阴。淮阴金兵作梦也想不到宋军袭击他们，守卫不很严。许俊乘机潜入金营，他让士兵四处放火，齐声呐喊。大火烧起来后，烈焰熊熊，直冲云霄。金兵被吓得四散溃逃，哪还顾得上抵抗救火。这一仗不仅将金兵的粮草烧得一干二净，而且擒获金兵数十人。

初战告捷，毕再遇又对部下说：“楚州金兵虽多，现在粮草已被我们烧掉，他们用不了多长时间就会不战自退，我们可以不用管了。我担心的是，淮西战局，六合城比楚州还重要，我们一定要与金兵争夺此地！”部将们说：“没有朝廷命令，擅自放弃楚州不管，这可要承担责任的啊！”毕再遇说：“一切由我承担，决不连累你们。”于是，毕再遇率兵直奔六合。这时金兵已离六合只有二十五里路了，情况十分紧急。毕再遇登上城楼，下令偃旗息鼓，列伏兵于城门，并让弓弩手在城上一字排开。敌兵刚刚逼进城壕，一声鼓响，城上高举战旗，万弩齐发，金兵被射倒一大片。金兵促不及防，被守军这突然袭击，打得大乱，慌忙溃逃，埋伏的宋军乘胜掩杀过去，金兵损失惨重。

不久，驻扎在成家桥、马鞍山的十万金兵增援而来，把六合城围个水泄不通。金兵发起数次进攻，都被毕再遇所率宋军英勇打退。可是宋军的箭矢快用光了，城里又一时无法补充。毕再遇想起了诸葛亮的“草船借箭”之法，待月黑之夜，令人打着将帅的青罗伞盖在城楼上来回摇动，金兵一看以为主将在那里，一齐开弓放箭。不一会儿，青罗伞盖上扎满了箭矢，城头用草扎的士兵身上也满是箭头，收集在一起竟有二十万余支。

宋军有了这些箭，士气大振，任凭金兵怎样进攻，也未能攻取。金兵久攻不下，欲作久围之计，于是，环城结营，连绵数十里。毕再遇也摆出持久战的架式，每天让将士们在城门上奏乐唱歌，以示消闲，夜晚又不时

派兵出城袭击金营，使围城金兵日夜不得安宁，没有办法，金人只好放弃围城计划，另择一地安营扎寨。毕再遇见金兵如此行动，于是带兵出城夺取城东新野桥，绕军敌后。金军害怕腹背受敌，不得已撤退远遁。楚州的情况也正如毕再遇所说，金军粮草断绝之后，无法继续坚持围城，不几天后，就撤了军。楚州、六合之围遂解。

（语实）

### 十三郎机智脱身

南宋神宗年间，这一年的元宵之夜，京城街市中灯火辉煌，于是城中的人们都出来赏灯游玩。大臣王韶幼子王南陔，排行十三，家里人都管他叫十三郎。十三郎那年才五岁，但聪明过人。十三郎见外面人来人往好不热闹，便央求父母准许他到街上观灯。王韶一想这可以让他开开眼界，就派家丁背着他去观灯见识。十三郎头戴珠缀成的丝绒小帽，身穿锦绣花衣，很是惹人注意。家丁们簇拥着他随着人流拥来挤去，看得很是开心。未料道，他这身打扮已经引起贼人注意，拥挤中被贼人换背背上，转身就走。过了一会儿，家丁们才发现小主人十三郎不见了，问谁谁也不知，一时慌了手脚，分头寻找。他们找遍了全城也未能找到，只好回府将十三郎失踪一事报告给王韶。十三郎的母亲听了急得眼泪汪汪，可是王韶却很镇定，他安慰妻子和家人道：“别的小孩也许会走失，咱们的十三郎一定会自己回来。”尽管他这样讲，全家老少还是惊慌不安。

转眼几天过去了，十三郎的消息还是一无所获，连王韶也沉不住气了。正当全家人愁眉不展之际，忽然门外来了一辆宫车，一位太监从车上下来，让全家人接旨。原来是宫廷派人送十三郎回家来了。全家人见十三郎回来了，都喜出望外，争先恐后地询问他这些日子到哪里去了。十三郎一五一十地对家人讲述了事情的经过。

原来，当他离开宣德门后，低头一看带

自己来的家丁不见了，再一看背着自己的人十分陌生，他知道是让歹徒给骗来了。他不哭也不闹，只是把那顶喜爱的小帽摘下来藏在怀里。来到东华门外，正巧有几辆宫车从身旁路过，十三郎看准机会，顺手抓住车顶的垂幔高声呼救。歹徒猝不及防，撒下十三郎就逃。坐在车里的内侍将他抱住，见他小小年纪竟这样机灵，模样又长得惹人喜欢，很是疼爱，就把他带入皇宫。第二天，内侍抱着十三郎上殿面君，奏称这件事是皇帝得子的吉兆。神宗满心欢喜，问十三郎是谁家的孩子，十三郎禀奏道：“小儿乃是王韶幼子。”接着又诉说了入宫的经过。神宗见他应答如流，毫不惊慌，感叹道：“王韶竟有这样的儿子，真是他的福气！”就让十三郎留在宫中玩耍几天，同时下密诏捕获劫持十三郎的一伙歹徒。这伙歹徒，没过多久就全部被捉拿归案。十三郎在宫中这几天，宫里上上下下无不喜欢他，他也不感到寂寞。待神宗让内侍送十三郎回家那天，宫里很多人都舍不得，送给他许多好东西，连神宗也赐给他一些宝物。家里人听十三郎讲完这一切，又不住地向皇帝叩头谢恩。

（语实）

## 石抹也先诈取东京城

公元1213—1214年间，北方蒙古强盛起来，成吉思汗又指挥蒙军挥师南下，大军所至，势如破竹。当时的全国陷入极度恐慌之中，迫于蒙军的强大，全国不得不向蒙军委曲求和。蒙军大获全胜后，用车马载着大批掠夺的财物和奴隶班师回国。蒙古元首成吉思汗见这次南下竟然如此顺利，不免洋洋得意起来。途中休息时，他大办筵席，犒赏三军将士。席间，只见有一位将领站了起来，手捧一碗酒向成吉思汗席前走过来。只见他高擎酒碗大声赞道：“我主英明，苍天佑我，能获如此众多金银财宝，一生花用不尽，可喜可贺，末将祝我主身体康健，全家幸福。”成吉思汗是何等聪明，听他话中有话，把脸

色一沉，厉声说：“我起事以来，出生入死，全为了我们蒙古人的大发展，眼下这几个臭钱岂是我一心想得到的吗？”然后问他，“你叫什么名字？”来将不慌不忙，朗声说道：“末将石抹也先，知我主雄才大略，志向远大，绝不满足于此次所得故此一说。依末将之见，此乃天赐良机，只可惜我主没有抓住它，悔之晚矣！”成吉思汗冷静下来，平心静气地问他：“依你之见，如何做才好？”石抹也先侃侃而谈，他以独到的见解，精辟地分析了金国的整个局势及辽东的形势后，最后说：“我军士气正盛，金国新败，军心已乱，我军如乘势力攻，一鼓作气拿下金国辽东重镇，那么入主中原就指日可待了！”成吉思汗听完，大喜过望，连呼：“好计，好计！”当即决定派他和太师木华黎领兵向东夺取东京。

蒙军很快渡过了临潢，攻占了高州。东京遥遥在望。太师木华黎准备让石抹也先率五千名骑兵，直捣东京。石抹也先说：“杀鸡焉用牛刀。我不用带这么多人马。”木华黎说：“东京乃金国重镇，里面驻军甚多，我怕五千骑兵还不够用呢。”石抹也先说：“兵贵神速出奇制胜，此乃用兵之道。我带五千骑兵声势过大，早就被敌军探知了消息，预先有了准备。莫若率领小股精锐骑兵，轻装疾进，可打敌军一个冷不防。我已派人探得，目前东京无主，金国新任东京留守正在途中，正可以为我所利用。”木华黎答应了他，嘱他小心行事。

石抹也先率领几十名骑兵出发了，他并没有向东京进发，而是埋伏在金都通往东京的路上，等候东京留守的到来。果然如探马所报，不久金国东京新任留守带着十几个随从从路过，石抹也先乘其不备，将来人全部截杀，抢下了他们所带物品。石抹也先从中搜到金王给这个留守的委任状，穿上留守的服装，也把手下兵丁换上金国的服装，大摇大摆直奔东京而来。石抹也先一行人来到城下，见金兵严阵以待。便对守城的金兵喝道：“我乃新任东京留守，这里有皇帝的诏命为

证，快些打开城门来迎接。”金国守城的士兵验过，真以为是新任留守大人来了，赶紧大开城门迎接。石抹也先一行人进城后立即升堂议事。他向堂下金国的官吏问道：“我自京城远道而来，你们不但不去迎接，反而重兵留城把守，将我拒之于城外，是何居心？”堂下金国见新任留守发怒，一个个面面相觑。隔了一会儿，有一个人站出来说道：“大人有所不知，如今蒙古大军已开进高州，形势异常危机，我等不得不小心提防，万望大人勿怪。”石抹也先假装满意的样子说：“那么错怪你们了。不过你们也太谨小慎微了，我自京城来此，一路上未见半个蒙古兵，你们不要庸人自扰。这样反而动摇军心，蒙古军尚未打来，先自乱了阵脚。”于是他下令撤下城上留兵，又把防务人员重新做了调换，使得官兵互不相识。又过了两天，蒙古太师木华黎堂而皇之地进了东京城，到这时，目瞪口呆的金国官兵才知中了假留守的计。就这样，兵不血刃，蒙古大军顺利地占领了东京城。

（语实）

### 魏胜善用兵 守城若金汤

在金兵大举南下，南宋大片领土失陷，烽火连天，生民涂炭，国家生死存亡之际，涌现了许多可歌可泣的英雄壮士，这里讲的是，南宋孝宗时魏胜英勇抗击金兵，坚守海州城的故事。

海州城将领魏胜率领五千兵士守卫这里，当闻知金兵大举南下之时，魏胜知道海州城乃军事要地，金兵必然要拼命攻占这座城池。他激励将士保家为国，誓与城池共存亡，号召全城市民援助军队，同舟共济，守住海州城。他深知金兵兵多势众，与之交战不能进击，只能固守。所以事前他仔细地检查了全城各处，加固城墙，备足守城战具。

过了几天，金兵果然来了，黑压压一片，连绵十几里。一天，金兵乘大雾从四面向海州城发起攻击。魏胜身先士卒，率领士兵奋力抵抗，他们在城上投石放箭，将金兵第一

次进攻打退了。当金兵又发起进攻时，他叫人熔化铁水，从城上浇下，金兵被烫死烫伤无数，这次进攻又被击退。金兵见硬攻不成，就改为围困，他们在海州城四周建造城墙，将海州城团团包围起来，企图困死海州军民。但是，没过多久，金主完颜亮死了，金兵不得不撤围而去。

魏胜总结这次作战经验，知道金兵决不肯善罢甘休，趁敌兵退去的机会，筹集了大批粮草、弓箭、滚木雷石等御敌物资。准备与金兵长期抗战。

过了不久，金兵又卷土重来。正巧有宋将带兵从这里经过，魏胜便于他们密切配合，前后夹击金兵，将来犯金兵打得大败，缴获了大批作战物资，充实了城里的装备。

不甘心失败的金兵又派五斤太师征发二十万人马攻城。金兵想要切断海州城运粮通道，先派一支人马向城西进发。魏胜料到敌兵会有这一着，先派人埋伏于金兵必经之路的两旁，待这支金兵到达这里时，突发奇兵，把这支金兵杀得大败。

魏胜与金兵交战虚虚实实，常常出奇不意打击金兵，致使金兵主帅十分头疼。经过一阶段交手，金兵损失惨重，不敢轻易攻城。隔了些日子，金兵主帅看城头寥无人声，宛如一座空城，便想乘夜黑之时偷袭。当晚，金兵偷偷地树起云梯，攀城而上，当攀到一大半时，也不见城上动静，于是就放开胆子往上爬。谁知刚爬到城头，只听一阵鼓响，满城旗帜树起，箭石俱下，接着又是滚烫的铁水泼下，金兵惊恐万状，纷纷转身就逃。魏胜这时大开城门，放出火牛追赶，只把金兵冲得七零八落，狼狈不堪。金兵见连续攻打了一个多月，也未能占到半点便宜，只好暂时休战，构筑工事，断绝河道，欲困死海州城军民。

到这时，魏胜一改固守不出的战术，不断在夜里出兵袭击金兵，弄得金兵疲惫不堪，叫苦不迭。就这样双方一直相持了半年之久，待宋将李宝率军来援，内外夹击，把金

兵这次进攻又打退了。

魏胜在海州坚守两年多，不知打退了多少次金兵的进攻，在他的率领下，海州军民同仇敌忾，城池固若金汤，成为宋朝抗击金兵的一座坚强堡垒。

(顾铭新)

## 岳飞出奇制胜败金兵

金军统帅金兀术率兵入侵中原，所向披靡，尚未遇到南宋有力的抵抗。没料想，突然冒出来个岳飞，竟使金兵连吃败仗，节节失利。金兀术大发雷霆，亲率劲旅“拐子马”一直向岳飞所率领的岳家军总部郾城杀来。

金军这支“拐子马军”，三骑为一组，用皮绳相连，骑兵和战马皆身裹铁衣重甲，枪箭不易穿透，而进退自如，互相配合作战，犹如现代坦克车。金兀术每遇强敌，都依靠这支部队扭转战局，从来没有失败过。

岳飞听说金兀术率领一万五千骑“拐子马”向郾城杀来，就已经研究好对策，作了充分准备。他组织一支身披重甲，一手握大盾，另一手执麻扎刀的特殊队伍。下令待敌骑来时，不要抬头仰视，只管看准马脚猛砍，又命令儿子岳云率领一支精锐骑兵配合出击，只准胜，不准败。

不久，金兀术率领的“拐子马”骑兵杀到郾城。宋军那支训练有素的特种部队，低头舍生忘死向“拐子马”马脚猛砍。“拐子马”只因有皮绳相联，一马被砍倒，余下两马也无法跑动。就这样，“拐子马”被岳家军这支特种部队几乎砍个全队瘫痪。就在这时，猛听进军战鼓震天介响了起来，岳云身先士卒，挥舞两柄闪亮的银锤，率领一支骑兵冲杀过来。把金军的“拐子马”冲个七零八落。一场激战，金军“拐子马”几乎全军覆没，吓得金兀术只带上所剩无几的残兵败将逃走了。

岳飞大败金军“拐子马”铁骑后，预料金军决不会善罢甘休，一定会找宋军寻仇雪耻。他派人侦查到，金军不日率兵攻打颍

昌。岳飞当机立断，决定在敌军之前赶赴颍昌城，增援颍昌守军。

果然第三天，金兀术率领三万金兵杀到。颍昌城号炮一响，从城里呼啦啦冲出一支人马，旗帜鲜明，盔甲闪亮，一个个精神抖擞。金兀术抬头一看，大吃一惊，来军不是别人，正是前不久打败他“拐子马”铁骑的岳家军。还未交战，先自胆怯起来。岳飞骑在马上，把令旗一挥，岳家军如同潮水般冲杀过来。这一仗打得特别激烈，从上午一直战到红日西坠，金军起初凭借人多势众，尚可坚持，但到最后，连金兀术的女婿夏金吾也被岳飞枪挑与马下，渐渐落败。后来守卫颍昌城的宋军又赶来增援，金兵大败。这一仗，金军损失惨重，战亡五千余名，被俘二千多名，其中军官就有七八十人。金兀术哀叹：“自我起兵以来，从未遭受过这样大的挫折！”从此，岳飞和岳家军的声名大振。

(顾铭新)

## 刘锜骄兵胜金师

南宋名将刘锜同岳飞、韩世忠一样，是一名英勇善战、足智多谋的爱国将领，他屡败金兵，创下了许多以少胜多，以弱胜强的成功战例，其中他在顺昌运用骄兵之计大败金兵之战最享有盛名。

刘锜坚守顺昌时，金兵几次攻打都未能夺下，反而损失惨重。金兵主将金兀术十分气恼，亲统十万大军南下，扬言“不拿下顺昌，誓不收兵。”

刘锜探知金兀术出动前来夺城的战报后，立即召集众将计议退敌之策。有人说：“我们已取得了不小的胜利，不如乘此势回师，全军退后，也可保存实力。”刘锜熟思之后，毅然说道：“朝廷养兵多年，正为应急之用，我们不能在关键时刻弃城退走。况且我们仍有一万之众，而敌军的锐气已大伤。虽敌众我寡，但也只能是有进无退。如果我军一动，敌军随后抄袭，则前功尽弃了。”于是，刘锜派两个人假作探马，故意被金兵抓获。



金兀术问他们刘锜是怎样人物，两人按预先准备好的话回答：“他是太平岁月的将领，喜声妓，贪逸乐，朝廷为两国修好，才派他去东京的。”金兀术信以为真。说道：“此城易破。”连攻城的车炮都未携带，便率军向顺昌进发。

金兀术见顺昌城异常简陋，更不以为然，说：“我用靴尖就能把它踢倒。”这时，刘锜却派耿训送来约战书。并称“我们统率说了，太子（金兀术为金朝四太子）必不敢渡河，特献浮桥五座，请贵军过河会战。”金兀术恼怒万分，待耿训走后，立即传令：明日到城中府治会餐。

第二天早上，刘锜果然在颍河上架起了五座浮桥。金兀术指挥部队陆续渡过河去，摆开阵势，要与宋军决战。

哪料到，刘锜已派人在颍河上流及草中撒下了毒药。并告诫全军不得饮用河水。此时两军对阵，宋军将士以逸代劳，轮番出战。时值酷暑盛夏，金兵远道奔来，人不解甲，马不卸鞍，经过整天拼杀，早已是人困马乏，饥渴难耐，争相到颍河饮水。结果纷纷中毒倒下，手脚无力。这时，刘锜派遣几百名士兵，突然从西门杀出。敌将忙调动遣兵前去对付，喘息未定，又有数千宋兵从南北涌出，皆手持利斧，一声不响，见金兵就砍。这下在宋朝将士顽强的反击下，金兵死伤惨重，或中毒，或中箭，或葬身于河水之中，或毙命于刀斧之下，金兀术调遣精锐“铁浮图”、“拐子马”，也尽被宋军的大斧杀伤。金兀术暂收残兵，他见攻城不下，士卒又多中毒病倒，只得移营城西，掘壕列阵，以作休整。刘锜抓住机会遣兵夜袭，又消灭金兵一万多人。顺昌保卫战终以宋军获得全胜而告终。

（顾铭新）

## 刘锜退兵有术

1140年5月，金兵统领葛王完颜褒同龙虎大王突合速率领五万人马直扑顺昌城。刘锜接到命令，让他守卫顺昌，于是，连夜率

兵疾速抵达顺昌城。他见顺昌城高，城墙坚固，决定固守。他将城外数千居民迁入城中，然后叫士兵放火把城外房屋烧个一干二净，使城池四周成为一片旷野。

金兵来到顺昌城下，刘锜命士兵大开四门。金兵主帅完颜褒害怕宋军有诈，迟迟不敢向前，只站在远处向城上放箭。刘锜事先叫人把城墙遮蔽好，金兵的箭全都射到遮蔽物上，宋军没有丝毫损伤。待金兵临近城墙时，刘锜命士兵开弓放箭，金兵由于完全暴露在旷野之中，无处躲藏，突然遭到密如雨点般的箭射，死伤无数，只好撤退，正当金兵后撤之时，刘锜又突然出兵追击，金兵被杀得大败，践踏、溺河而死者不可胜数。宋军追了一程后就返回城池坚守不出。金兵无奈，只好在距城二十里的东村安营扎寨。

晚上，狂风大作，乌云翻滚，一场大雨就要来临。刘锜决计利用雨夜敌兵困扰之机，出奇兵袭击金营。他选派勇将阎充，带领五百名精壮士兵，迅速插向敌营。阎充身先士卒，率兵猛打猛冲，金兵正在睡梦之中，突遭打击，个个晕头转向，也不知宋兵来了多少，也辨不清方向，象无头苍蝇乱窜。宋军个个骁勇，见到金兵就杀，转眼间一千多金兵成了刀下之鬼。金兵主将完颜褒和龙虎大王无心恋战，又败退十几里才安营下寨。

第二天，大雨仍然下个不停。刘锜预料金兵没有防备，决定再次突袭敌营。他只选派一百名士兵，携带短刃，竹哨前往。这些士兵趁夜混入敌营，借电闪雷光跃起杀敌，闪电过后，立即潜伏不动。他们间或吹起竹哨联络、协调，神出鬼没，搞得金兵疑神疑鬼，互相杀斗起来。宋军见目的已达，顺利撤出，金兵营里仍砍杀不停。直到天色渐明之时，才发觉中了宋军的奸计，停止互斗。

金兵主将完颜褒，龙虎大王见没损伤宋军一兵一卒，自己的队伍就死伤过半，又气又恼，灰溜溜地带兵退走了。

（语实）



## 韩世忠智平内乱

韩世忠和岳飞、刘锜一样是南宋著名爱国将领之一。他率兵英勇抗击金兵的事迹广为传诵。这里讲的不是他率兵抗金的战例，而是发生在1129年3月，他智平内乱的故事。

南宋面临金兵强大攻势，疲于应敌抗战，大多数军队都与金兵在前线进行殊死战斗，京城临安由此而十分空虚。京城扈卫大将苗傅与刘正彦欲独揽朝政，罢黜宋高宗，遂举兵叛乱。他们逼迫宋高宗让位，扶植年幼的太子钦宗当上了皇帝。皇帝年幼不能执政，就让隆祐太后垂帘听政。他们这样做，完全是做给别人看的，名义上是钦宗登基，太后听政，实际上朝廷大权旁落，完全控制在他们一伙手中。知枢密院事张浚虽不满苗、刘二人专权，但孤掌难鸣，只好写信求助于握有重兵的韩世忠。韩世忠阅信后，痛哭失声，表示“与逆贼不共戴天”。他率兵赶赴平江，见到张浚，对他说：“今日国家存亡之际，我愿与卿共同承担。”韩世忠感到自己兵力不足，就向张浚借兵两千，然后率领大军，水陆并进向临安进发。

据守临安的苗傅、刘正彦等听说韩世忠率军向这里开进，非常担心，他们知道韩世忠能征善战，兵力很强。急忙调动手下精兵“赤心队”进驻临平镇设防，又以新皇帝名义命韩世忠北上江阴抗击金兵。他们为了控制住韩世忠，将居住在临安的韩世忠的妻子梁红玉和儿子韩亮软禁起来。

韩世忠见太子钦宗、太后和自己的眷属掌握在贼手，投鼠忌器，没有冒然进攻。当大军进至秀州时，他给苗傅和刘正彦写了一封信，信中说：“我这次南下，不是前来与你们作对，而是因部队几经恶战，伤残太多，队伍不整，急需休整，另一方面也可帮助你们护卫銮驾。”苗、刘见信中说得合情合理，情辞恳切，又得知他兵疲势弱，还愿意协助护卫新立的皇帝，便不把他放在心上了。传令允许他率军护驾，并矫传圣旨，授予他节

度使一职。韩世忠为了取得苗、刘两人进一步的信任，对来人表示感谢，但称自己无能无德，没有接受新职。

韩世忠趁苗、刘二人对自己深信不疑之际，抓紧时间，争分夺秒，偷偷地赶造攻城器具，又写信密约其他将领一同兴师平叛。韩世忠假称有病，暂不能进京护驾。苗傅、刘正彦等人信以为真，竟同意大臣朱胜非的建议，让梁红玉和韩亮前往秀州慰问。梁红玉临行前入宫晋见隆祐太后，太后亲执其手密嘱：“国家艰难至此，盼韩将军速来救驾。”

韩世忠从妻子口中了解了京都所有情况，知道苗、刘二人对他深信不疑，城里防务很是松懈。立刻调集各路人马浩浩荡荡向杭州进发。途中接到苗、刘派人传达新皇帝旨意，韩世忠脸色一沉：“我只知有建炎（高宗年号），不知有什么新皇上！”说罢，叫人把来使推出去斩了。

苗傅、刘正彦到这时大梦方醒，知道自己不抵，只好请高宗复位，让高宗下诏令韩世忠等人退兵。韩世忠继续挥军进发，苗、刘连忙部署部队据险抵抗。讨贼大军直抵临安城下后，苗傅、刘正彦见大势已去，慌忙率两千精兵弃城逃命。韩世忠请旨追剿叛军，一直追到福建将苗傅、刘正彦追上。经过激烈交战，活捉了刘正彦，苗傅乔装脱逃。后来在搜捕中，又将躲在老百姓家里的苗傅抓获。至此这场内乱才算结束。

（语实）

## 吴革明察秋毫平冤案

南宋高宗年间，赣州雩都县黎子伦家一天夜里遭一伙强盗洗劫。黎子伦夜里看不清强盗面目，想到同族中黎千三兄弟与自己因田产争执积下怨仇，便怀疑是他们所为，于是第二天一早到县衙指名控告。县府派县尉成某问案捉拿凶犯。黎子伦欲借此把黎千三兄弟置于死地，用金钱收买县尉成某，县尉收受贿赂，不分青红皂白就把黎千三、黎千五、黎千六以及亲属十五人抓了起来，押入

监狱。黎子伦又领人把黎千三的妻子儿女赶出家门，烧毁了他的房屋。县尉用尽酷刑逼黎千三认罪，黎千三是个刚强汉子，至死不招。黎子伦见缺少赃证，便用钱买通刘十四做证人，又偷偷把兵器放到黎家院子里，领人搜出来交给官府验看。黎千三不得已只好招供。

时隔不久，负责巡逻、搜捕的巡司衙门抓到了作案的真正凶犯丁官等十六名强盗。黎子伦怕黎千三兄弟出来找自己算帐，一不作二不休，继续行贿，结果还是将黎千三兄弟定为要犯，而将丁官等强盗定为从犯，定案后报送州府。黎子伦又向州府行贿，买通负责审案的知县赵某，对原审不加质疑，又以毫无异议上报。案件报到提刑司，提刑司长官吴革提出了疑问：县尉录取黎千三的第一次口供时，供词里根本没有丁官等人一同作案的供词，巡司初次取到的丁官等人的供词，也未提到黎千三的名字。分别审问时，黎千三称冤而丁官等人却甘心认罪。吴革感到其中必有内情，遂对下属官吏作了一次调动，将知县赵某派到赣县任职，而将东县县尉成某调到州府，接替赵某之职。然后送人犯回州府复审。这次复审的结果，与前任赵某所作的结论大相径庭，彻底查清了丁官等人抢劫杀人的实际情况，统统依法惩治，黎千三的冤案得以平反。

吴革处理完黎千三一案后，马上查究酿成冤案的责任，严厉查处了成某、赵某，黎子伦因诬告行贿也受到杖责，发配边疆，因他家遭劫遇难，暂免远行之苦。令他拿出三十五石谷米替黎千三重建房屋。此案处理得彻底、公正，受到当地人民的称赞。

(语实)

## 神偷施惠脱身

南宋时，国都临安(今杭州)有窃贼，身手不凡，盗财之术出神入化，有神偷之誉。皆因他每次作案都要在墙上大书“我来也”三字，故人们都管他叫“我来也”，对于他真实

姓名却不知晓。“我来也”作案都是大案，每次无不得手，所以临安有钱官宦人家都很忌惮他，害怕他偷到自己头上。官府张贴告示，悬赏捉拿，但也没能抓获。

有一次他作案失手被擒。问他姓氏名谁，他闭口不谈。因一时找不着人证物证，无法定他罪行。官府只好将他暂时收监，慢慢侦察。

“我来也”被押期间，也十分担心自己过去罪行被发现，终日寝食不安。后来，他见官府还未能掌握自己的罪证，心里暗喜。一天，“我来也”对狱卒说：“我不是什么‘我来也’，只是一时穷困才作案，如今官府怀疑我是大盗‘我来也’，看来会把我终身监禁，出狱是没指望了。只可惜我藏在外面的金钱无法使用。这些日子多蒙您好心照料，我少吃了不少苦头，我知恩必报。我那些金银就藏在保俶塔的塔顶上，你去取来花好了。”狱卒听他一说，半信半疑，夜里按照“我来也”说的地方一找，果然藏有一包金银，他兴高采烈地拿回家。从那以后，他对“我来也”更加照顾。

又过了些日子，“我来也”又对狱卒说：“我还有一坛金银，放在侍郎桥下。你可叫你妻子到那里洗衣裳，取出来后，放到篮子里带回家。”狱卒听了喜出望外，第二天他妻子果然从侍郎桥下带回来一坛金银。狱卒对“我来也”千恩万谢，更加殷勤招待。

狱卒受了“我来也”两次恩惠，觉得他很讲信用，两人处得很融洽。一天晚上，“我来也”对狱卒说：“我进狱这么些天了，家里有些事我得回去料理一下，我也不给大哥你添麻烦，只求你行个方便，我去去就回来，决不能连累你。”狱卒不好意思推脱，就答应了。给他卸掉刑具，偷偷地放他出了狱。狱卒放“我来也”出去后也很担心，害怕他一溜了之，自己要吃官司。他提心吊胆地等到四更天，“我来也”果真按时回来了，狱卒这才把那颗悬着心放下，照先前一样给他戴好刑具。

第二天早晨，城里有一巨富到府上报案，诉称昨晚三更天被盗去黄金千余两，此贼在墙上留了“我来也”三个大字。知府大人闻报马上派人去调查追捕，心想：“原来抓到的那个人并不是‘我来也’”，还是放了算了。于是下令提审“我来也”，判为违犯宵禁罪，略施惩戒就放他走了。

“我来也”出狱不几天，一天夜里有人敲门，狱卒开门看时不见人影，再低头一看是一包东西，提了进屋就灯光一看，是白花花的银子。狱卒到这时心里已完全明白谁是“我来也”了。

(语实)

### 铁木真巧施烟幕败王汗

1203年铁木真兵败合兰真沙陀，之后卧薪尝胆，砺兵秣马，准备卷土重来，欲与克烈部王汗一决雌雄。当时的铁木真在实力上无法与王汗相较，决定先施计麻痹王汗，然后寻找机会突袭他。铁木真的弟弟合撒儿的妻子、儿子被王汗所虏。为了麻痹王汗，铁木真与合撒儿演出了一场兄弟相煎的苦肉计，并四出放风，扩大影响。铁木真与弟弟不和连铁木真手下的人也信以为真，自然也骗过了王汗。合撒儿一天偷偷派了能言善辩的合里兀答儿、察兀儿罕两个人作自己的特使前往王汗大营游说，谎称合撒儿因妻小蒙受王汗优待心怀感激，如何不堪铁木真的欺侮，很想投奔王汗。王汗见他俩说的和自己所掌握的情报完全吻合，心里十分高兴，双方约定内外夹击攻打铁木真。王汗送走合撒儿的两名使者以后，自以为天赐良机，有合撒儿相助，打败铁木真已成定局，因而放松了戒备。一连几天，王汗和部将每天都大摆筵席，个个喝得酩酊大醉。手下的士兵见头领这样，也照例仿效，每天寻欢作乐，对防卫十分放松。铁木真得知王汗中了合撒儿的诈降之计后，马上召集众将商讨破敌之计。合里兀答儿建议：趁王汗连日来酗酒作乐，放松警戒，应立即组织精兵强将偷袭敌营，

打他个措手不及。铁木真采纳了他的建议，当即部署兵力，连夜开拔直捣王汗大营。发动进攻之前，铁木真为了防止意外，一边派出探马打探敌营动静，一边亲自察看地形，制定了周密的作战计划。趁月色，悄悄接近敌营，一声号令后，铁木真亲自率领铁骑冲向王汗军营。这时的王汗与众将正喝得晕天昏地，猛听到铁木真大军杀来，吓得瞠目结舌，不知如何是好，整个军营失去了指挥，一片大乱。王汗这时才知中了铁木真的诈降之计，但已悔之晚矣。铁木真士兵个个骁勇善战，直把王汗几十万大军冲得七零八落，四散逃命。经过三天三夜的激烈战斗，王汗全军覆没。只有王汗和他的儿子桑昆侥幸逃脱。但是，王汗这时已只剩下寥寥无几的兵将，再也无力同铁木真相抗衡了。这一仗不久，王汗就被乃蛮部将捉住砍掉了脑袋。从此，铁木真在蒙古各部落中成了最强大的首领，为统一蒙古奠定了基础。

(语实)

### 铁木真激将稳军心

铁木真和克烈部王汗失和以后，一次，他只带领手下几百人与王汗之子桑昆统领的大队人马遭遇。躲避已经来不及了，只能背水一战。他紧急召集部下十几个主要战将商议应敌对策。众将听说敌军大军压境，双方兵力又是如此悬殊，个个惴惴不安，不知如何是好。铁木真见此心里十分焦急，但一时又拿不出什么好的主意来。正在这沉默冷场之中，忽然有一员将领从人群中挺身而出，奋然说道：“兵不在多而在精，将不在勇而在谋，末将认为，如分出一支人马从山后绕出山前，扼敌背后，再由主子截他前面，造成前后夹击之势，乘敌军摸不清我军虚实情况下，打他个措手不及，不怕不胜。”铁木真一看，是跟随自己多年的勇将畏答儿，感到他说的很合自己心意。立即下令命术撒台为先锋，从前面攻敌。术撒台听说让自己正面迎敌，心里很害怕，故意装作没有听见的样子

在下面用马鞭擦马的鬃毛，没有响应。畏答儿在一旁瞧见术撒台胆小气馁的样子十分生气，再次挺身而出上前请命：“我愿率兵前往，万一阵亡，家中有三个黄口小儿，求主子格外顾念。”铁木真心里清楚，由于敌军强大，自己部将大多畏惧，如不消除他们的怯阵心里，难免还要吃败仗。于是他连声夸奖畏答儿忠勇可嘉。在他夸奖畏答儿的时候，又有一个人站了起来，这个人是铁木真的老部下折里麦。折里麦激昂地表示，愿意同畏答儿并肩作战，担当攻打头阵重任。铁木真当着众将的面，把他们俩拉到自己身旁，与他们热烈拥抱，高声赞许他们的忠诚勇敢，称他俩是可以共患难的兄弟。

这时，坐在下面的众将再也坐不住了。他们纷纷站起来，走到铁木真跟前请命出战。术撒台自然也受到激励，走到铁木真面前表示接受重任，绝不辱我军的英名。铁木真见大家的情绪高昂，脸上露出满意的笑容，即命术撒台仍率前队，自己统后队，与桑昆决战。

畏答儿、折里麦在这场战斗中表现得特别英勇。他俩带着几十个人率先冲入敌阵，横冲直撞，奋勇搏杀，一时间把桑昆的大部队冲乱了阵脚。正当畏答儿被敌军冷箭射中，十分危险之时，术撒台率领的前队人马及时赶到，救下畏答儿，杀退敌军。战斗进行得异常激烈，铁木真的部下个个以一当十，奋勇向前。但是桑昆的人马众多，又压了过来，形势很是危急。铁木真带领后队从后面杀了过来，又重新控制住局势。时间一长，终因兵力悬殊，铁木真部队不支，危急之时，只见那个术撒台大吼一声，骑马直向桑昆冲过去。交战中，术撒台射中桑昆的面门，桑昆负痛撤下阵来。兵士们见主帅中箭，个个无心恋战，只好退去。铁木真才得以死里逃生，整顿人马回归大营。

（语实）

## 元明清谋略实例

### 王著瞒天过海除佞臣

元灭掉南宋，统一全国以后，元世祖忽必烈逐渐疏远了在元朝创建过程中起过重要作用的汉族官僚，而对色目人特别加以重用。中原初平，回回阿合马得到元世祖的宠信，主管中央财政。他巧立名目，大肆搜刮，权势日重。阿合马得势后，排除异己，打击开国老臣。尤其恶毒的是，他只要发现有谁不服从他的旨意，必伺机构陷报复。许多忠臣良将，特别是汉族官僚都遭到阿合马的陷害。

阿合马的骄恣横暴激起了朝野上下的强烈不满，特别是汉族人的愤恨。1282年3月，元世祖依照惯例前往上都开平府，皇太子真金也陪同前往。行前，元世祖诏谕阿合马留守大都。

盖都千户王著和高和尚是莫逆之交，情同手足，两人多次私下交谈朝中之事，都对阿合马恨之人骨，苦于阿合马权大势重，耳目众多，一直找不到机会翦除这仇敌。他俩认为这次世祖远行，是除掉阿合马的一次绝好机会。17日，王著、高和尚在大都城集合手下亲信，分派一部分前往居庸关，控制住进京的要隘，另一部分则由王著、高和尚亲自指挥调遣。他们搞来东宫太子的仪仗，假借太子还都作佛事的名义，诳使阿合马迎接，伺机干掉。他们簇拥着皇太子仪仗，浩浩荡荡向健德门进发。事先他们派遣了二僧人前往中书省，传令备办斋品供物。担任皇太子宫中警卫的高麟、张九思两人虽对此事颇有疑惑，又对王著、高和尚二人没有印象，命来人暂停仔细盘问。但最终高、张二人还是害怕弄不好会得罪太子，所以没敢多问，就把他们放了进来。将近中午时分，王著又派人假传皇太子旨谕，命枢密副使张易发兵，于当夜在东宫集结。最后王著本人去见阿合

马，通知他皇太子将回京，命他召集中书省官员到东宫前等候。阿合马接此命令后将信将疑，当即派中书右司郎中脱欢察儿领数十骑出健德门，探问究竟。脱欢察儿一行出城十余里，正与拥仪仗乘轿而来的假皇太子的大队人马相遇，当即尽被处死。王著怕再生枝节，即命大队加快前进。这时，高觿、张九思已调集卫兵在东宫前等候，不大会儿张易也率领右卫指挥使颜义也领兵前来。高觿见此情景，心中很纳闷，就问张易：“这是怎么回事？”张易附耳轻声说：“皇太子要采诛阿合马。”

这时天已入夜，在人马喧嚣、烛光旗影中，假皇太子的仪仗队来到东宫西门外。高觿、张九思暗想：皇太子殿下回宫，总是派空泽、赛羊两人为先导，这次怎么见不到他俩呢？于是挡住大门不让进宫。王著见赚门受阻，急令转行南门。来到南门外，阿合马和中书省众官正在宫外迎候。假皇太子当即呼唤省官前去，当着众官的面，假皇太子厉声责问了阿合马几句。阿合马一时给弄得真假难辨、迷惑不解，这时立在一旁的王著将其拉将过去，说时迟做时快，只见王著长袖一挽，露出铜锤，一锤砸了过去，当场将阿合马砸得脑浆迸溅，一头栽倒在地。众官员被眼前突然发生的事变吓呆了，一个个不知如何是好。这时，高觿、张九思发现事情不妙，也带兵赶到南门，见此情景，大呼有诈。众卫兵一拥而上把王著捆绑起来，高和尚趁混乱之机溜走了。

元世祖接到京都的报告后，大为震怒，立即驰返京都。次日，元世祖下令将王著、高和尚、张易处死，王著临刑前神情自若，大呼：“王著为天除害，今死矣！异日必为我书其事者。”后来，元世祖终于了解了阿合马的罪恶，后悔错杀了王著。

（语实）

## 买奴先发制人除奸

1323年，元英宗从上都返回京师途中，被铁失等人密谋杀害了。不久，铁失等人迎立晋王也孙铁木儿为帝，这就是泰定帝。新帝即位后，将谋杀英宗的也先铁木儿、铁失、完者、锁南、秃满等人加封晋爵。当时有一位名买奴的王爷跟随英宗回京，英宗被害，他虽然十分悲愤，但是孤掌难鸣，只好连夜投奔晋王也先铁木儿。他见也先铁木儿等逆贼受宠得势，日益骄横无忌，十分愤懑。他想要除掉这群逆贼，必须说动泰定帝，趁也先铁木儿之流不备，先发制人方能得手。

一日，买奴入宫觐见泰定帝，泰定帝慰劳已毕，买奴请求屏去左右，说有密事禀奏。泰定帝不知他要禀奏什么事，立即命左右侍从退出。买奴环顾侍从全都退出，遂上前奏道：“陛下嗣位，是应天意顺民心的大事，为什么让也先铁木儿作丞相呢？”泰定帝答道：“他奉玺有功，理当如此。”买奴见皇帝执迷不悟，马上跪在地上一边痛哭，一边奏道：“陛下受他欺骗了，他是迫于情势不得已才这样做的。他如若能自立为帝，说什么也不会迎立陛下的。他与奸贼铁失等人，狼狈为奸，野心勃勃，对帝位早就怀有野心。他们合谋杀害英宗，这是大逆不道的罪行，如果不对他们马上下手，说不定以后哪一天陛下也会象英宗那样遭他们暗算。为臣请求陛下当机决断，将这些逆贼正法！”买奴这一番话深深打动了犹豫不决的泰定帝，许久默然不语。买奴见泰定帝已被说动，进一步奏道：“当今天下表面上服从陛下，实际上已掌握在也先铁木儿一伙手中，臣下之所以秘密入宫陈奏也是为了躲避他们的耳目。陛下应尽早决断，如果这事泄露出去，不仅为臣性命不保，恐怕陛下也会遭到不测。”泰定帝觉得买奴说得很对，但又对如何除掉也先铁木儿一时拿不定主意。买奴心里十分焦急，又奏道：“现在朝中前后左右，都是逆贼党羽，陛下即决意讨逆，事不宜迟，请今晚下手，免生祸患！”

当下，买奴请泰定帝亲笔书诏，并遣原晋王府卫队，归自己统领，前往捉拿也先铁木儿等人。

买奴率领卫队，急驰至也先铁木儿家。也先铁木儿正在妻妾的簇拥下饮酒作乐，突然看到买奴闯入，不知何事，忙起身相邀。买奴先是微笑打趣道：“丞相如此雅兴，真让人羡慕。”接着脸色一变，厉声喝道：“我奉旨前来拿你这个逆贼！”也先铁木儿猝不及防，慌乱不堪，结结巴巴地说：“我保主有功，怎么说是逆贼呢！待我与你进宫辩理。”买奴冷笑一声，大声说道：“我不与你这个逆贼论理。”即令卫士将其捆绑起来，接着将其全家老少，家丁家奴一并擒获。买奴马不停蹄，连夜又将也先铁木儿同党完者、锁南、秃满等人一并拿获，设英宗灵位，将这些人全部斩首。

事毕，买奴回报泰定帝。又请泰定帝下诏派旭迈杰等心腹大臣率兵连夜去京师捉拿铁失。由于封锁消息，铁失对事变毫无所知。很顺利地把铁失捉拿起来，至此，一夜之间也先铁木儿的重要党羽全部被翦除掉了。

(语实)

## 朱元璋攻心服敌

朱元璋跟郭子兴起义后，起初力量很是薄弱，由于他善于笼络人心，军队很快壮大起来。这里说的就是朱元璋收服陈野先的故事。

朱元璋占据太平以后，方山寨义兵元帅陈野先感到对自己压力很大，想要趁朱元璋立足未稳击败他。陈野先先派兵把守新塘、高望、鸡龙山等交通要道，企图切断朱元璋大军的粮草补给线；自己和康茂才两人率兵两万，分水、陆两路进逼太平。朱元璋得到消息后，亲自率领众将迎敌，同时，暗中派大将徐达带领另一支精兵绕到陈野先的背后，准备前后夹击他。战斗打响后，陈野先被朱元璋军队团团包围，尽管陈野先勇猛善

战，但是他左冲右突始终没能冲破包围圈。最后，精疲力尽的陈野先被朱元璋士兵捉住，捆绑起来送交朱元璋。朱元璋喜爱陈野先的勇敢，没有杀他，而是亲自为他松绑，并好言抚慰。陈野先不服，说：“要杀就杀，要剐便剐，饶我不死也没什么用！”朱元璋见陈野先是条硬汉子，心里更是喜爱，听了陈野先一番话没有生气，相反面带笑容加以劝解道：“当今天下大乱，豪杰四起，争夺天下，胜者为王，败者为寇，作为有志气的男儿，理应顺应形势，选择自己的道路，创一番事业，现天下未定，你就这样早早地死了多不值得。”陈野先沉吟了好一会儿，才同意投降，并答应写信招降部下。

原来，陈野先并不是真心投降，而是欲借朱元璋不杀之机，假意投降，以求东山再起。朱元璋的部将发觉了陈野先的企图，多次劝说朱元璋把他杀掉，免生后患。朱元璋却心平气和地说：“人各有志，他追随别人，还是追随我，由他自己决定吧。”而后就把陈野先放走了。

不久，朱元璋挥师攻打集庆，陈野先与元帅福寿合兵一处，在秦淮河一带阻截朱元璋部队郭天叙、张天佑两人所带队伍。结果郭、张二人英勇战死，所率领的军队被打得大败。陈野先后来也被葛仙乡民兵杀死了。

陈野先死后，他的儿子陈兆先纠集先父旧部屯驻方山，与元军蛮子海牙成犄角之势，成为朱元璋的劲敌。过了一年，朱元璋挥师攻打集庆，在战斗中，陈野先的儿子陈兆先又被活捉了。朱元璋不记前仇，说降了陈兆先并委以重任。这时，朱元璋手下众将都对陈兆先及其降将降兵不信任，建议为防生变应及早处置。陈兆先和降兵内心也惶惶不安，担心朱军忌恨前仇杀了他们。朱元璋发现这种情况后，就从降兵中间挑选了五百名精壮勇士，做自己的贴身护卫。入夜，除朱元璋只让部将冯国用一人留待帐中，而叫这些卫士们环榻卧眠。睡觉时，朱元璋独自上床，解下铠甲，脱去战袍，一觉睡到天明。

降兵见朱元璋这样信任他们，从此一颗颗忐忑不安的心踏实了，后来成了朱元璋的亲信。

(语实)

## 佯狂避祸 伺机而动

明太祖朱元璋死后，因为皇太子朱标夭亡，就由长孙朱允炆继位，这就是建文帝。朱元璋的儿子很多，有十四个，朱元璋为加强宗族势力，将他们都加封为王。这些王爷都对皇帝宝座怀有野心，这就对年轻的建文帝构成了严重威胁。建文帝心狠手辣，当上皇帝不久就对各王进行杀伐。十来个王先后被除掉，最后只剩下燕王和宁王两个。

燕王朱棣是朱元璋的第四子，为人骁勇善战。他见到诸王兄弟被一个个除掉，也颇感自身难保。他不甘心束手就擒，决意要与建文帝斗个你死我活，无奈苦于自己力量不足，只得忍耐，积蓄力量，伺机而起。建文帝忌惮朱棣拥有重兵，又勇悍多谋，也不敢轻易下手。

建文帝对燕王很不放心，化重金收买了燕王的亲信葛诚，令他不离燕王左右，发现什么重要情况，随时密报。葛诚为表示对建文帝的忠心，心生一计，劝说燕王进京拜见建文帝以释前嫌，让建文帝乘机下手除掉。燕王经过反复斟酌，决心不顾手下众人的强烈反对，将计就计前往京城。他到了京城后，处处谨言慎行，表现出一副恭顺乖贴的样子。建文帝没能抓住任何把柄，一个月后，只得放燕王返回燕京。

在京城的那些日子里，燕王经过调查证实了建文帝欲剪除自己的企图，愈益深感危机逼人。于是他为了麻痹建文帝，回到燕京不久，就诈称途染风寒得病，接着又传言病重难医。建文帝虽然得到葛诚的情报证实，但还是放心不下，又调动燕王几支劲旅离开燕京，并借口杀了几员大将。燕王一看情势不妙，于是装疯卖傻起来，只见他破衣烂衫，光着脚披头散发在大街上狂呼乱叫，夜里露

宿街头，整个燕京没有人不知道燕王疯了。建文帝哪里肯信，派亲信前往了解。燕王在建文帝来人面前装得更象，大夏天穿着皮袄围着火炉烤火，还不住喊“太冷了，太冷了”，浑身抖个不停。建文帝的使臣也真的被燕王骗过了，私下，燕王却密嘱军师道衍加紧军备。无论燕王装得怎么象，也很难骗过经常和燕王打交道的葛诚。葛诚写信密报建文帝，说燕王诈病，密谋反叛，劝建文帝赶快下手剪除。

建文帝听信了葛诚的报告，密令燕京守城副将张信捉拿燕王。张信一向与燕王交谊不薄，接到建文帝密旨后拿给燕王看，并力劝燕王赶快下决心采取对策。燕王这才不再伪装，召来军师道衍计议举事大计。他先下手将建文帝安插和收买的心腹及内奸设计擒拿杀掉。他长叹一声，说：“我哪有什么病，全是叫建文帝逼的，如今我再不反抗，就象我的亲兄弟一样被人家杀掉。”于是起兵讨伐建文帝，经过四年的血战，终于战胜建文帝，当上了皇帝。这就是明成祖。

(顾铭新)

## 朱元璋将计就计智取湖州

元顺帝二十三年，靠贩盐起家的张士诚乘朱元璋西征陈友谅后方空虚之机，亲自率领大军南下，把南至绍兴、北至淮安，濠泗，东北到济宁大片地区占为己有，并自称吴王。

朱元璋鄱阳湖一役消灭了最主要的对手陈友谅之后，张士诚强大的势力便成了他的心腹之患。为了消灭这一最后的强劲对手，朱元璋整顿兵马，调兵遣将，回师东进。他派徐达、常遇春两员大将先拔下淮东、淮安、泰州、高邮等地，把张士诚的势力范围压缩到江南浙西一带。开始连战连捷，到了后来张士诚集结精兵强将与之对抗，双方一时间互有胜负，处于僵持阶段。

朱元璋看到这种局势，心里十分焦急，便召集诸将商议下一步的破敌战略。会上，



徐达道：“张士诚骄横残暴，奢侈腐败，灭亡之时指日可待。他所重用的武将李伯升、吕珍之流都是些卑鄙的小人，只知道升官发财；他所依靠的文臣黄敬业、叶德新、蔡彦文等人乃是些迂腐之极的儒生，根本不懂谋天下之道。我们只要有十万精锐之师，完全可以打败张士诚。”朱元璋听完徐达这番话甚为欢喜，于是命徐达为大将军、常遇春为副将军率二十万大军讨伐张士诚。临行前，朱元璋复召徐达、常遇春商量具体作战方案。常遇春力主直捣张士诚老巢，认为只要占领其老巢平江，其余诸郡不攻自破。朱元璋不同意常遇春的主张，他认为：张士诚、张天麒、潘原明等皆为亡命之徒。若率军攻打平江，张士诚危急难保，湖州、杭州的守军必然会分兵援救，那样一来，我军势必受阻。不如先攻打湖州，剪除其羽翼之后，再移师攻打平江，才能取胜。他接着附徐达耳边，说出了自己谋划已久的计策：“前几天张部将熊天瑞前来诈降，我们正好将计就计，只说挥军直捣平江，让他随军出发，给他机会让他逃跑，回去报告，使张士诚中计。”徐达、常遇春依计而行。途中，熊天瑞果然寻机逃跑，徐达也假装追捕未获而归。随后徐达派三路人马水陆并进，将湖州城围个水泄不通。张士麒分三路进行抵抗，其中一路黄宝被常遇春擒获，其余两路人马吓得龟缩到城内坚守待援。张士诚得湖州急报，便派吕珍、朱暹等率兵六万驰援湖州。结果被徐达堵截在半路上，无法靠近。张士诚见吕珍等无法靠近湖州，随即又派徐志坚率水师救援，早已被守候在姑嫂桥的常遇春候个正着，打个措手不及，兵败被擒。后来张士诚又多次派兵救援，都被打败。湖州在孤立无援的情况下，张士麒、李伯升等见大势已去，不得已献城投降。这样，张士诚最重要的军事要地落入朱元璋手中，从此，张士诚一蹶不振。

（顾铭新）

## 朱元璋假斩徐达整军纪

徐达是朱元璋所率领的红巾军中最有才干的一员大将，他跟随朱元璋南征北战，抢关夺隘，身经百战，立下赫赫战功。但他为人宽厚，对部下约束不严，他部下的士兵时常仗势欺人、酗酒打架，甚至干出调戏侮辱民女的勾当。朱元璋带兵，十分注意军队纪律。他在打下和州（今安徽和县）后，订立了有名的“和州立约”，申明军纪，强调买卖公平，不许调戏妇女。所以，朱元璋率领的红巾军军纪严明，所到之处秋毫无犯，受到沿途黎民百姓的热烈拥护。由于起义军不断打胜仗，队伍日益壮大起来。随之而来的是，义军成员十分复杂，将兵中骄傲的情绪日益滋长。朱元璋耳闻目睹这一现象，心里十分焦虑。他深知没有严明的军纪就不能夺取最后的胜利，经过再三思考他决定杀一儆百，演一出假杀徐达的苦肉计。

元至正十六年（公元1356年）朱元璋打下了集庆（今江苏南京）后，正准备攻打镇江的那天早上，部队集结待命，朱元璋亲自下了一道手令，将当时身为作战总指挥的徐达大将军绑缚刑场。这一消息不啻一声炸雷，迅速地传遍全军。众将士个个丈二金刚摸不着头脑，不知道朱元璋为什么要斩徐大将军。正当众将士议论纷纷的时候，只见平时威风凛凛的徐大将军已被两名武士反绑双手押了过来，紧随其后是两个手握钢刀杀气腾腾的刽子手。徐达被押到教场后，执法官用洪亮的声音宣布道：

“奉元帅命令：徐达身为统兵大将军，但不知管束部队将士，致使军纪松弛，军中屡次发生欺压百姓、调戏妇女的事情，坏我红巾军名声，而徐达既不禀报又不严肃处理，负有严重的渎职罪行。我义军替天行道，除暴安良，如此败坏纪律，实属军法难容，应予斩首示众！”

下面的众将士听完宣布，一个个吓得心惊肉跳，一时间整个教场一片肃然。大家有



心想营救，但见朱元璋脸色铁青，双目如刀，又都给吓了回来。正当要行刑的时候，只见帅府都事李善长连喊：“刀下留人！”抢步上前跪倒替徐达申辩道：“徐大将军品行端正，作战英勇，屡建奇功，当下用人之际，望元帅宽恕！”

众将这时也都跟着跪倒在地，一齐替徐达求请。他们说：“军中发生欺压百姓，调戏妇女等事，不能怪徐大将军，都怪我等督查不力，约束不严。万望元帅饶恕他吧！”

朱元璋端坐帅椅之上，双眉紧皱，脸色铁青，一言不发。

这时在场的士兵见状，呼啦啦一齐全都跪了下来请求元帅开恩，饶恕徐大将军死罪。朱元璋见全体将士都跪下来替徐达求情，才慢慢地站起身来，长长地叹了口气，向全场将士大声发问：“我们起兵是为了什么？”

众将士齐声答道：“代天行讨，除暴安良。”

“是这样，”朱元璋点点头，“我们起兵推翻元朝统治，正是因为元朝官府上下欺压百姓，百姓痛恨；如果我们除掉元朝，反过来自己又来欺压百姓，百姓还有什么指望？我们与元朝官府又有什么不同？到头来，我们岂不又成了别人代天行讨的罪人吗！”朱元璋这一番话震撼着全场每个人的心，全场鸦雀无声，许多人禁不住羞愧得哭出声来。

李善长见元帅面色有些缓和，又趁机替徐达求情，他说：“徐大将军跟着元帅，身先士卒，出生入死，屡建战功，功劳最大，看在这一点上，恳请元帅开恩。”

朱元璋听了李善长这番话，很是生气，大声斥责道：“在场的众将士哪个没有功劳，若都居功自傲，败坏军纪，我们还象一支除暴安良的军队吗？”

李善长不顾朱元璋的斥责，硬着头皮继续陈述道：“元帅三思，临阵易将乃兵家之大忌，现在全军整命出征，斩杀总指挥，于军不利，莫如让徐大将军戴罪立功如何？”

朱元璋这时，故意沉吟不语，最后作出勉强的样子，转过脸对徐达大声喝道：“看在众将士的份上，这次饶你不死，如若打下镇江后，再有违犯军纪、欺压百姓的事，定斩不饶！”说罢，朱元璋拂袖而去。

死里逃生的徐达，又恢复了总指挥的职位。他不敢怠慢，连夜命人起草军纪守则，严令如有违犯军纪者，杀无赦。经过这场事变，全军上下哪个还敢胡作非为，义军很快打下了镇江，进城后，军纪严明，秋毫无犯，得到镇压老百姓的热烈拥护。

朱元璋到镇江看到如此情景，十分高兴，便把徐达叫来，一把握住他的手说：“贤弟，教场那幕真苦了你了！”徐达略一正色道：“军纪不能当作儿戏，我以后自当严格约束。”朱元璋听他这样说，连连点头。

（语实）

## 李文忠以逸待劳败元军

洪武二年（1369年）的春天，因征虜副将军因身染恶疾不幸身亡，朱元璋闻报很是痛惜。为抵御元军，改派李文忠代行其职，赶赴前线协助大将军徐达，拿下庆阳。

李文忠领兵来到太原，闻前边来报：元将脱列伯围攻大同，大同危在旦夕。由于情势急迫，李文忠对左丞相赵惟庸等诸将说：“将在外，军命有所不受，只要对国家有利，自作主张也无甚妨碍。目前大同被元军围困，应当赶快前去救援，如果只照旨意行事，岂不坐失良机？还要我们这些将领何用？”左丞相和众将对他这番话也很赞同，于是率军前往救援。行至马邑，与元军刘帖木率领的一支骑兵相遇，李文忠马上组织好队伍迎战元军，激战中活捉了刘帖木。进军至白杨门，择地安营扎寨。这天夜里，天降雨雪，满山皆白。李文忠丝毫不敢放松警惕，带领十几个亲兵上山巡察，巡察中发现雪地似有行人踪迹，当即决定返回大营，把已经安顿下来的人马集合起来，一直赶了五里多路，直到认为安全可靠时，才安营扎寨。有人对李文

忠的作法很不理解，李文忠对他们说：“我经过察看地形，发现前营地是元军伏兵出没的地方，很危险。才下令移营至此，如今这里虽然比那里安全些，但一定要严加防范，没有号令不得擅自行动。”果然不出李文忠所料，那天半夜时分，元军前来劫营。李文忠下令紧闭寨门，坚守不动。元军一连冲了几次，都被李文忠的队伍用弓箭射退。第二天早晨，李文忠调集两支骑兵去敌营挑战，再三叮嘱他们一定要拖住敌军，不叫敌人休息。元军脱列伯营中，正准备引火作饭，见明军大队人马杀了过来，只好集合军队迎战。元军昨夜偷袭不成，早晨还没来得及吃饭就又投入战斗，人困马乏，毫无斗志。李文忠派去的两支骑兵与元军打打停停，直到天色已晚元军也没能得到休整。这中间，有人劝说李文忠发兵增援，李文忠就是按兵不动。待元军士气大落，无心恋战之时，李文忠突然率领全军，兵分两路包抄过来。这时的元军个个饥肠辘辘，又困又乏，怎能抵挡明军的猛烈进攻，结果一触即溃。元军主将脱列伯怎么样也指挥不动军队，结果被明军生擒活捉。元军无首，更是乱作一团，纷纷下马乞降。李文忠大获全胜。

(语实)

### 袁凯装疯得活命

明太祖朱元璋晚年脾气暴躁，疑心很重，总担心大明江山被人篡夺。他一方面建立了专门用来调查下面动静的特务组织——锦衣卫；一方面加紧对太子的培养训练。

太子朱标性格比较温和，对父亲的武断专行和暴虐不很赞同。父子二人常因政见不同而争执，弄得文武百官左右为难。

一天，朱元璋叫袁凯把一些案卷送交太子复看，并叫袁凯待太子看后火速带回。袁凯接过案卷，不敢怠慢，急步奔向太子朱标住处。朱标接过案卷，见父皇又要问斩许多人，很是难过，又不能反对，叹了口气在案卷上写道：“父皇陛下，依儿臣之见，以仁德

结民心，以重刑失民心。望父皇三思。”

朱元璋看后，很是生气，把脸一沉，突然问袁凯：“朕要杀人，太子要从宽，你说谁对？”袁凯见皇帝问自己，急得冷汗直冒。一时不知如何回答。袁凯是朝中有名的才子，机敏善辩，沉吟半晌才小声答道：“微臣愚见，陛下要杀，乃是执法；太子要赦，乃是慈心。都有道理。”没想到朱元璋不买这个帐，勃然大怒，指着袁凯骂道：“你这老滑头，竟敢在朕面前两面讨好。我先斩了你，看谁还敢在朕面前花言巧语！”说着就下旨要把袁凯拉出去问斩。

袁凯一听吓得当时就瘫倒在地，一个劲地叩头谢罪。众百官也替袁凯求情。朱元璋看到这么多大臣替他求情，也就没有坚持。袁凯从朝上回到家中，连连唉声叹气。妻子见他这般模样，忙问发生了什么事。袁凯将朝廷上发生的事对妻子说了。妻子听了也十分着急，害怕明天皇帝再找茬杀害丈夫。袁凯和妻子经过仔细商量，决心装疯辞官返回故乡。

第二天早朝，朱元璋又要找袁凯的岔子，一上朝就下旨传袁凯。谁知连喊几声，不见袁凯。朱元璋大怒，派人到袁凯家去查问原因。前去查问的人回宫禀报说：“袁御史疯了。”朱元璋满脸狐疑，追问袁凯是如何得疯病的。去查问的人说：“袁凯的确疯了，我们见他一会儿哭，一会儿笑，砸锅摔碗，又打人又骂人。”

朱元璋还是不相信，传旨派人把袁凯绑来见上。袁凯被绑上朝廷，只见他目光呆滞，满脸黑灰，衣服破烂，还粘了许多粪便。朱元璋为了试验袁凯是不是真疯，叫人用木钻钻袁凯手心，把袁凯一双手硬是钻了好几个窟窿，鲜血顺着手指不住流淌，袁凯就好象浑然不觉，象木头人一样。

朱元璋到这时才有点相信袁凯是真疯了。叫人把袁凯送回家，暗地里监视动静。袁凯到家以后，学狗爬行，汪汪直叫，看到一堆粪便，拿起就吃，家里人怎么拦也拦不

住，急得流泪不止。来人回禀朱元璋所看到的一切，朱元璋才真的以为袁凯疯了。袁凯从此一直躲在家里，不敢出门一步。后来袁凯亲属上书请求回乡养病，朱元璋马上批复，准许袁凯回乡养病。袁凯就这样靠装疯瞒过朱元璋的耳目，得以保住一条老命。

(语实)

### 铁铉诈降保济南

白沟河一战，朱棣大败南军，李景隆败走德州城。山东参政铁铉奉命押运粮饷到德州，正遇上兵败退至济南的李景隆，于是赶紧督运粮饷进城。铁铉与李景隆交谊甚厚，见李因兵败情绪低落，忙好言抚慰，极力鼓励他不要泄气。过了几天，朱棣率领大军攻到济南城下，朱棣见城池牢固，一时强攻不下，就命人决开城外各条溪河的水坝，放水灌城。城内水势越来越高，城内兵民惶恐不安。铁铉对大家说：“大家不要惊惶，我自有妙计破敌。”人们听他一说，又见他一副胸有成竹的样子，军心才逐渐安定下来。

第二天，铁铉吩咐众将依计而行，佯装撤去守城战具，作出不战欲降的架势。又派得力心腹带领数百老人到燕王军营中谢罪慰问。这些老人一到燕王面前，都跪倒在地痛哭流涕，诉说：“奸臣不忠，劳大王栉风沐雨，长途跋涉来到我城，替天行命，挽社稷于危亡。我等是高皇帝的百姓，怎敢违抗您的命令呢？我们一向谨守法纪，没看到过打仗，突然看见大军压境，不知道大王为国为民的苦心，还以为是要来杀我们的呢。大王如若真心为国为民，请退兵十里，单骑进城，我们要盛备佳肴欢迎您。”朱棣见这些老人言辞恳切，信以为真，下令退兵十里。他一人骑着马，只带十几个精兵跨过吊桥，直抵城下。但见城门大开，城内无数军民列队两旁叩迎，山呼万岁。朱棣洋洋得意，催马徐行入城。忽然，铁铉一声令下，悬在城门上的千斤铁闸急速落下，不偏不倚，正中朱棣坐骑头部，朱棣跌下马来，才发觉中计，慌乱中夺骑而

逃。铁铉下令军士拉起吊桥，无奈桥体太重一时难以拉起，才让朱棣得以脱身。

朱棣逃回大营，马上调集人马攻城，一时间炮矢大作，眼看济南城就要被攻陷。铁铉又生一计，亲自书写“太祖高皇帝之灵”的牌位，将其悬于城楼之上。燕王大军见此，只得停止炮击。铁铉一边加固城池，一边派几百名精兵绕到燕王军营背后偷袭，朱棣看到城坚一时难以攻破，担心时间一长，军心涣散，只好撤兵返回北平。济南之围遂解。

(语实)

### 朱棣父子巧破离间计

朱棣为夺帝位率领几十万大军向京城进发。为了避开南军的阻截，朱棣命都指挥使李远率轻骑六千余人，乔装扮成南军模样，打着南军旗号混进南军里去，乘南军不备，将其大批粮草、辎重连同运输的船只放火烧个干净。驻守德州的南军粮草渐绝，日见艰难，京城建文帝得知这一消息，又惊又急。

方孝孺是建文帝十分得力的大臣，他向文帝献计说：“历来兵家善用离间计，燕王父子可离而间之。如若他们父子反目成仇，我们可坐收渔人之利。具体计划是：请陛下下诏书允许世子称燕王，世子若接受封号，必定引起燕王的猜忌，这样燕王不敢在外停留，必然班师回北方老家，燕王一走，运粮水路畅通无阻，德州之围可以解矣。”建文帝听后连称妙计，当即令方孝孺起草诏书，命锦衣卫张安携书去北平将诏书呈燕王世子高炽。

原来朱棣二子高煦三子高燧对世子高炽多有不恭，高燧和高煦二人共同把守北平，平时两人时有摩擦，积怨很深。高煦也对高炽心有成见，经常在朱棣面前拨弄是非。方孝孺对他们父子兄弟之间的矛盾很了解，所以才定此计激化他们之间的矛盾。可是当诏书下到北平，机警过人的世子高炽将诏书原封不动地派人跟随张安一起交送朱棣。燕王中官黄俨是个阴谋小人，平时一向讨好高燧，

与高炽素怨恨。听说张安到北平的来意后，立即派人速报朱棣说：“世子高炽有通敌之嫌，这次接受诏封，恐怕要造反了。”朱棣听后心中也有些怀疑，便转身问高煦如何看这件事。高煦没有当上世子，本来就对高炽耿耿于怀，到这时正是进谗言的绝好机会，怎肯错过，就说道：“世子本来就与皇帝的长孙关系密切。”正在这时，世子高炽派来的人和张安一起到了。朱棣打开诏书一看，一切都明白了，连说“好险，好险！险些错怪了儿子。”于是命人把张安囚禁起来，并亲自写信赞誉世子处事果断，仍命他固守北平。

(语实)

### 解学士急智补错漏

明朝的解缙博闻强记、琴棋书画无一不通，官拜翰林学士，兼右春坊大学士。因为赞立太子一事，遂结怨汉王高煦。高煦屡陷，终因没抓住什么大的把柄，未能得逞。

有一天，外国进贡给永乐皇帝一把折扇。其扇制作精美，扇面上绘有大漠风光，十分壮观，很得皇上钟爱。美中不足的是，扇面有画无诗。如能在扇面上题写符合画意的诗词，那就再好也没有了。永乐帝下诏令解缙题写。解缙领受圣旨，便决定题写唐人王之涣那首脍炙人口的《凉州词》。原诗是：“黄河远上白云间，一片孤城万仞山。羌笛何须怨杨柳，春风不度玉门关。”解缙以他最拿手的草书题写，笔走龙蛇，一气呵成。谁知他一时大意，竟将首句中的“间”字漏掉了。当时解缙和皇上两人都没有发现。

第二天早朝，皇上在群臣面前盛赞此扇的精美和解缙书法的高妙，交群臣传观。众人看过都附和称好，唯有汉王高煦看罢，嘿然冷笑。皇上不解其意，问其原因。高煦以为这下子可抓到了解缙的把柄，趁机奏道：“陛下为人所欺，还不知道吗？”皇上一惊，忙问道：“朕为何人所欺？”高煦道：“解缙所书乃王之涣的《凉州词》，此诗谁都知晓。解缙竟敢恃才故意漏书‘间’字，以戏皇上，岂不

罪该万死！请陛细看，便知臣所言不虚。”皇上接过扇子再看，果然少写了个“间”字，勃然大怒，急宣解缙上殿领罪。

解缙不知何事上殿领旨，只见皇上把那把扇子掷到面前，斥道：“解缙你胆敢戏耍为朕，漏书诗文，可知罪？”解缙打开扇面阅后，不免吓出一身冷汗，但很快又镇定下来，想到书写未有标点，诗名又叫《凉州词》，心生一计，只见他不慌不忙奏道：“万岁英明盖世，文才武略，世无能匹。臣仰知弥高，钻之弥深，不胜仰慕之至，怎敢戏君罔上。”皇上被解缙的恭维之辞说得和缓下来，接着又问道：“为何少写个‘间’字？”解缙辩道：“这不是王之涣的那首诗，而是为臣新作《凉州》词。听为臣念给圣上听来。”说完，朗声诵道：“黄河远上/白云一片/孤城万仞山/羌笛何须怨/杨柳春风/不度玉门关。”

皇帝听了，马上转怒为喜，知道他才思敏捷，临变不惊，巧言辩之，但为平息汉王高煦之讼，夸奖道：“爱卿果然奇才，卿之词与王之涣的《凉州词》有异曲同工之妙啊！”一场风波就这样被解缙平息下来，后人无不称赞他才思敏捷，巧言善辩，反而对他的疏漏只字不提了。

(语实)

### 沈希仪设计除岑猛

1525年，广西田州土官岑猛反叛朝廷，消息传到京城，明世宗十分震怒，马上下诏令巡抚盛应期等调集大军前去征讨。广西山高林密，天气炎热，盛应期打了好几个月也未能剿平叛匪。后又派都御史姚夔接任征剿。姚夔到了广西以后，会同总兵朱麟、传檄都指挥沈希仪、张经等集结八万多人马杀奔田州。岑猛得知这一消息，自知抵挡不住，偷偷带领一队人马投奔顺州知州岑璋。

岑璋的女儿嫁与岑猛为妻，岑璋是岑猛的岳父。长时间以来，岑猛夫妇不和，岑璋对岑猛十分疏远。姚夔闻知岑猛投靠顺州，想悬赏捉拿岑猛，又担心岑璋出于私情偏袒

岑猛，逼急了反而激怒岑璋，因此举棋不定，就召集朱麟、沈希仪等共商擒贼办法。沈希仪听了姚模的介绍，胸有成竹地说道：“岑猛与岑璋虽然是翁婿关系，但两人感情长期不合，未将已想好一计可除岑猛，主帅不必担心。”姚模听沈希仪一说，心中大喜，即令他加紧去办。沈希仪回到自己营中，命人召千户赵臣来见。原来赵臣与岑璋是故交，当他听沈希仪让他去说服岑璋，伺机除掉岑猛，当即表示同意。

赵臣来到顺州城后，马上拜见岑璋。岑璋见到他十分高兴，命人摆下酒宴款待他。席间，赵臣装成一副满腹心事的样子，岑璋见了一再追问其情。赵臣装作不得已的样子开口说道：“今督抚悬赏捉拿岑猛，得知他如今躲在你处，特令我往邻境传送命令，教那里官员出兵袭击顺州。”岑璋闻言大吃一惊，忙向赵臣顿首谢道：“请你放心，岑猛虽然是我女婿，但彼此素无来往，视若仇敌，我正想杀他以解心头之恨，怎么会帮助他呢？但无奈他兵多势众，只是不敢轻易下手。此次，如果能得到朝廷大军的援助，我不日内定可将他除掉。现在岑猛的儿子邦彦把守隘口，我先派些人马前去说是帮助守隘，实为内应，君可即驰报大营，发兵进剿，内外夹击，定可打败邦彦。邦彦一除，再杀岑猛就易如反掌了。”赵臣听了岑璋这番话，点头称是，立即起身，回报沈希仪。第二天，沈希仪率兵攻打隘口，里应外合，很快夺下隘口。岑猛听到爱子被杀的消息，又伤心又惊恐，一连几天吃不下睡不安。岑璋前来假意相劝，又另设一馆，供岑猛居住，每日以美酒美女侍候。岑猛借酒浇愁，渐渐放松了警惕。岑璋暗中把岑猛亲兵支使开，一天岑璋拿姚模捉拿岑猛的檄文给他看，对他说：“朝廷大军压境，我也难以自保，没有办法，请你自裁吧。”说完，命人端来准备好的毒酒递给岑猛。到这时，岑猛才醒悟自己上当受骗，但为时已晚。他接过毒酒，大骂不止，然后饮酒身亡。岑璋割下他的首级连同印绶，往姚模大营报

捷。田州叛乱遂告平息。

（语实）

## 冯保无中生有排政敌

1573年元宵节过后的第二天早朝，明神宗正出乾清宫，突见一男子，神色仓惶，从甬道闯入。侍卫见来人可疑，即上前盘问，并从他的衣袖中搜出利刃一把。神宗下诏命东厂严刑审问。审问结果，该犯叫王大臣，是个富家子弟，平日喜弄枪使棒，那天是喝多了酒，在京闲游，误闯入宫。

司礼监冯保与高拱平日素有积怨，听到这个消息，心生一计，便想借王大臣这件事诬陷高拱。他叫来心腹家丁辛儒，让他携带酒食到监狱去看望王大臣。辛儒在狱中对王大臣好言安慰，又摆酒殷勤款待，二人逐渐谈得投机起来，直待喝得酒酣耳热，辛儒趁机劝王大臣作伪供说是受高拱的指使入宫行刺皇上的。开始，王大臣心怀疑惧不肯答应。辛儒便软硬兼施，对王大臣说：“如果你招供说受高拱指使行刺的，不仅可以免受处罚，还可以邀功受赏呢。如若不答允，只能是死路一条。”王大臣经不住辛儒的威逼利诱，就答应照他说的去做。辛儒见王大臣答应合作，便回去向冯保报告。

冯保见事已办成，心中大喜，第二天就提出要复审王大臣一案。在堂上，王大臣一口咬定是受高拱指使来行刺的，冯保不待细问，写好供状，就王大臣按了指印，把他押回狱中。暗地里令辛儒给王大臣送去蟒裤一条，宝剑两把，告诉他以后再审讯时，就说这些东西都是高拱送给他的。冯保把这些办理妥当后，就将审讯结果报告神宗，神宗阅后十分震怒，命冯保带上锦衣卫逮捕高拱和家仆数人，进行严刑逼供。当时的宰相张居正也不问详情，主张处死高拱。

吏部尚书杨博、左都御史葛守礼和高拱交往甚密，知道高拱是为冯保所害，蒙受冤枉。他俩多次上疏替高拱申辩，最后神宗才下旨派人重新审查此案。冯保见事不妙，派

人到狱中给王大臣下了药，致使王大臣变成哑巴，最后治死，才使得此案查无实据，不了了之。

(语实)

### 釜底抽薪除奸雄

严嵩老贼罢归故里不久，其子严世藩也从流放途中偷偷跑回家中。父子二人恶习不改，回到乡里后仍作威作福，横行乡里，那里人们敢怒不敢言。有一个名叫郭谏臣的袁州推官因公务路过严嵩家乡，见严府仍是豪华奢靡，尚有上千工匠正在给严府建造园亭，想上前看个究竟。没想到没等他靠近，就被严家监工训斥一顿。郭谏臣羞怒异常，心想严嵩父子实在嚣张，不想办法除掉早晚是个祸害，于是写了一篇措辞犀利的奏章，上疏明世宗，弹劾严氏父子。世宗看后大怒，当即命法司立案查办。

严世藩入狱后，毫不惊惶，每天照吃照睡，就好象没事人一样。他的一些亲信见了很是纳闷，向其打听究竟。严世藩笑道：“他们状告我们父子，还不是先前所列罪行，业已判过；其中牵涉到私通倭寇之事，乃与杨继盛、沈炼两亲相连，都是皇上亲自批办的，他们还能拿皇帝试问不成？我料想过不了多久，他们就得乖乖地把我释放出来。”那些亲信听了喜不自胜，四处散布游说，扬言如果仍按杨继盛、沈炼两案弹劾严家父子，才可将其置于死地。刑部尚书黄光升、左都御史张永明、大理寺卿张守直等大臣都被严氏一伙蒙蔽住了，也准备将杨、沈两案归罪严氏父子，按此内容写好了一份奏章，拿给老臣徐阶看，请他提出意见。徐阶听了接过奏折细读了一遍，淡淡一笑，不置可否，只管让众人进内厅品茶。徐阶待大家落座后，屏退左右，才开口问道：“诸君以为严公子当死还是当生呢？”黄光升等齐声说：“严世藩死尚不足以赎罪，怎能让他活命？”徐阶听后笑道：“既然要让他死，为何还要牵连杨、沈两案呢？”张永明愤愤地说道：“所以致此，正是要

用他去偿命。”徐阶打断他的话，冷静地分析道：“杨、沈两人冤死，人人不平，但杨、沈两案都是由皇上颁旨处置的，当今皇上英明，岂肯认错？如若按你们所写申奏上去，皇帝一定会怀疑法司借严氏归罪于他，一旦皇上震怒，你们都可能因此获罪，严世藩不仅不会被处死，还会被皇上恩准释放呢。”黄光升等人听了徐阶这番话，不住点头称谢，忙问徐阶有何办法。徐阶慢慢说道：“严氏奸党在京耳目众多，稍有疏忽，就可能泄露机谋，导致失败。现在应当以这份稿子为主，把严氏父子聚众为逆之事尽情阐发，并参入旁证，这样写一定能打动皇上。”众人听了齐声赞同，公推徐阶去完成。这时，徐阶微笑着从袖筒中抽出一卷纸，对众人说：“我已草拟了一份，请诸公过目，不知是否可用？”众人传阅后，见稿中所列严氏父子罪行条条俱在，人证物证具体确凿，分析人情入理，都表示赞同。

第二天，黄光升将徐阶的奏疏呈上，世宗看罢果然大怒，即命都察院、大理寺、锦衣卫严加审讯。徐阶见严世藩招供认了罪，连忙返回家中，赶写了一份奏疏，里面写道：“严世藩交通倭寇、密谋叛逆等罪行已勘实，并有确凿证据，为平公愤，宜正典刑。”马上送往宫中，世宗阅后，即下令将严世藩及同伙罗龙文处斩。没过几天，这两人就被处决了。

(语实)

### 海瑞智惩胡衙内

明朝嘉靖年间，奸相严嵩弄权，广植党羽，将其党羽安插到全国各个要害部门。其亲信胡宗宪被派到浙江当总督。胡宗宪之子依仗他父亲的权势，为非作歹，抢男霸女，成为当地一霸。

一天，这个胡衙内带着几个随从离开杭州，沿富春江而上游山玩水。一路上作威作福，凡经过的府县，各地官员都远接高迎，殷勤招待，又是宴请，又是送礼，好不得意。

可是到了淳安县时，却是另一番景象：胡衙内下船时不见县衙来人迎接，住进驿馆一连几天也不见县衙来人看望，更不用说宴请送礼了。胡衙内不由心头大怒，找个借口就将驿吏捆绑起来，倒吊在树上，提着马鞭抽打，打一下骂一句：“小爷我从杭州出来，一路上知府县衙哪个不巴结我，你们这小小的淳安县竟敢对小爷不敬，今天就让你知道本少爷的厉害。”

驿站的人见胡衙内行凶打人，就赶紧到县衙报告知县大人。这个知县就是有名的清官海瑞。海瑞听完禀报，不禁拍案大怒，想立即下令派人去抓。他转念一想，这个胡衙内有恃无恐，横行霸道，依仗老子撑腰。我若是公开与之作对，自然要吃亏。他思索了一下，便想出一条妙计来。

主意已定，海瑞便带领三班衙役，直奔驿站。一进门，见胡衙内打累了，正坐在椅子上骂人。海瑞一声喝令：“快给把这个恶棍拿下！”三班衙役一齐动手将胡衙内五花大绑，捆了起来。胡衙内哪里吃过这个亏，气急败坏地大叫：“我是堂堂浙江总督公子，我叫你们吃不了兜着走！”海瑞冷笑道：“你是何方无赖，胆敢冒充胡总督的公子？胡总督是国家一品大臣，处处体恤民情，他的公子定是个知书达理，谨守法纪的人，怎会象你一样刁蛮撒泼、胡作非为？分明是冒充的。先给我掌嘴！”衙役们早就对这个家伙气愤填膺，抄起皮带使劲抽打他的嘴巴。直打得这个胡衙内脸上又青又紫，顺嘴直流血。海瑞喝道：“你若还敢冒称胡公子，叫你吃更大苦头。”胡衙内哪里经受过这样的苦头，早就吓得浑身发软，哪还敢说自己是胡公子。

海瑞又下令搜查，衙役们从他的行李中又搜出好几千两银子和许多珍玩细软。海瑞手指胡衙内鼻子斥问：“胡公子受总督教育，一向好读书、知礼节，怎么有这么多的金银财宝，分明是你冒充胡公子欺骗得来，本县岂能让你蒙混过关！”说完又叫衙役打他四十大板，直打得这个胡衙内哭爹喊娘，不敢再

称自己是胡公子了。

海瑞叫人把胡衙内和他的几个随从押进监牢，连夜写了一封书信给胡总督，信中写道：“属县近来查获一名冒充总督公子的诈骗犯。该犯假冒胡公子，在外招摇撞骗、敲诈勒索。骗得数千两银子和甚多财宝。属县知老大人教子甚严，府上公子书房苦读，怎会有闲出游。如若出游，也无非瞻仰名胜古迹，以广见识。怎会诈骗金银宝物？故被卑职识破。所诈赃物，依律没收充公。特因该犯四处败坏老大人名声，实属可恶，特押送府上，请老大人严惩！”

胡宗宪看完信，又看看已被打得遍体鳞伤的儿子，气得说不出话来。但海瑞说的句句在理，又找不出破绽，只好忍气吞声教训儿子一顿，不了了之。

(语实)

## 海瑞智斗鄢懋卿

海瑞在淳安知县任上，一向对京城来的大员们不曲意逢迎，而是同那些贪官进行巧妙的斗争。权相严嵩的干儿子鄢懋卿以副御史的身份到东南诸省征收盐税，由于他有严嵩撑腰，他每到一地都极尽搜刮之能事，巧取豪夺，把所经之地的官员们弄得团团转。仅在扬州一地就搜刮白银二三百万两，被他搜刮的其他财宝无计其数。尽管这个人贪婪无比，但表面上仍是硬作出一副清正廉洁的样子。

鄢懋卿进入包括淳安县在内的严州府地界之前，他牌示各县，佯称“素性简朴，不喜欢承迎，所过之处，凡饮食供帐，俱以简朴为尚，毋得过为华侈，靡费里甲。”海瑞对他的贪鄙早有所闻，根本不相信他那套冠冕堂皇的虚伪言辞。海瑞事先派人作了调查，得知他一路上穷奢极欲、大肆搜刮钱财，有谁得罪于他，立刻就给谁颜色看。

淳安县是个山城，很是贫困，海瑞为官一向清正廉洁根本拿不出多少钱财来接待这个大蠹虫。海瑞左思右想，终于想出一个好



主意。他派人给鄢懋卿上了一个禀帖，上面这样写道：“据我们派人调查的结果，所了解的情况和您的正式通知恰恰相反，事实上你所到之处无不是花天酒地的。这就使下属为难了，若照正式通知办事，深怕获简慢之罪；而大肆招待，又怕违背了你体恤平民百姓的好意。”禀帖最后请示鄢懋卿究竟应该如何办？鄢懋卿见了海瑞的禀帖，知道海瑞是个铁面无私的知县，弄不好自己将很难下台。心想犯不上到淳安这样的穷县去砸海瑞这颗钉子，于是下令绕道他往，没有进入严州府地界。

严州知府听说鄢懋卿被海瑞一封禀帖逼走，吓得连饭也吃不下，连夜召海瑞来府商议如何应对可能产生的后果。海瑞见了知府，细述前边所做的经过，神情自若，没有一点惊惶的样子。知府很是敬佩，对海瑞说：“淳安的老百姓总算逃过了这场灾难，本官也亏你躲过鄢大人的盘剥，真是应该好好的谢谢你才是。”海瑞说：“古言邪不压正，我所作的只不过是以其人之道还治其人之身罢了。”从那以后，海瑞刚正不阿的声明传得远了。

(语实)

### 戚继光智平倭寇

明朝时，东南沿海经常受倭寇骚扰，明朝政府虽派兵多次征剿，但由于倭寇习于水性，出没无常，好长时间没能剿灭。后来派大将戚继光担此重任，他不负众望，多次机智破敌，终于使倭寇不敢再来骚扰。

其中他指挥的牛田一战就是个很生动的战例。戚家军在取得横屿战斗的胜利之后，稍事休整，就挥师倭寇经常出没的福清县。戚继光作战之前，早已多次派人作了调查，对倭寇据点和活动规律有了清楚的了解，这次把进剿的主要目标定为牛田。牛田距福清县城东南三十里，靠近大海，是倭寇在福建的最大巢穴。平时，倭寇经常四处骚扰，杀人放火，抢掠财物，奸淫妇女，无恶不作，

福清县人民深受其害，都盼望官军早日把倭寇肃清。

戚继光知道这支倭寇凶顽无比，只有将士们齐心协力，才能打胜这一仗。战前，他亲自召集各支部队的主要将领进行了作战动员，激励他们与敌寇血战到底的决心，并与他们歃血盟誓，誓词说：“凡不同心戮力，恃势争级、取财，与观望、妒忌者，有如此血。”誓师后，他对作战作了严密部署，将部队分成三路：两路从不同方向进剿敌巢，其中一路由他亲自指挥；另一路又分成两部，一队设伏于大部队进击后的要道上，以防敌人抄袭；另一队扼断倭寇退路。戚继光为了麻痹敌人，故意散布戚军远道而来，需要养精蓄锐，等待上边命令后再行动，最近不会有什么举动的传言。倭寇侦知这个消息后，正如戚继光所料，放松了警惕。

第二天夜里二更时分，戚家军在夜幕的掩护下，悄无声息，轻装疾进，先将敌寇设下的十几个哨兵解决掉，然后迅速将牛田外围杞店倭集团团包围。倭寇以为戚家军远道而来，尚需休整，绝不会短期内来进攻，因此一点防备也没有，一个个烂睡正酣。戚家军从围墙爬入里面，将寨门打开，兵士们一齐冲入，顿时喊杀声四起。倭寇从睡梦中惊醒，吓得连衣服都穿不上就四散逃窜。戚家军又在四面放起火来，倭寇在这突如其来的打击下，毫无斗志，不是被杀死，就是被烧死，剩下的被生擒活捉。杞店的全部倭寇无一漏网。

这场战斗结束后，戚继光为防止倭寇侵袭，率领大军迅速离开杞店，开到离福清县城十里的锦屏山，安营休整。正在这时，接到一个报告，说倭寇要偷袭锦屏山，以图报复。戚继光接到报告后，马上召集诸将对此作了严密部署。决定将计就计，将来犯之敌一网打尽。命部将赵记、孙廷贤等带数百名弓箭手，火器手，在山前埋伏。将大军暗移别处，大营仍高挑灯火，设数十人看守，给敌寇造成毫无戒备的样子。五更时分，倭寇



七百多人前来偷袭，当他们走进埋伏圈后，伏兵突起，火炮、火箭齐发，倭寇被打个措手不及，进又进不得，退又无退路，人马践踏，死伤大半，只有少数倭寇得以逃脱。

戚家军赢得了这两次作战胜利，军心大振，为肃清牛田倭巢奠定了基础。不久，就把牛田这股倭寇剿平了。

(语实)

## 阿丑演戏谏宪宗

明宪宗时，太监汪直得宠。宪宗任他为西厂总管，日夜刺探官民动向，随便抓人，屡兴大狱，搞得朝廷诸臣，人人自危，敢怒不敢言。同时，加上左都御史王越、辽东巡抚陈钺，为人尖刻刁滑，一心想巴结汪直，不择手段陷害排挤忠良，至此，三人勾结在一起，狼狈为奸，无恶不作，搞得朝政纷乱。昏庸的宪宗反觉得这三个人忠心耿耿，对他们信赖、重用。尽管忠臣直士多次向宪宗进谏，却都受到宪宗的斥责。

这时宫中有一个名叫阿丑的小太监，常为宪宗演戏解闷，此人极善诙谐，聪明伶俐，巧于心计。他对汪直等人的专横跋扈，十分看不惯，总想参奏他们，但是一直找不到机会。他知道宪宗喜欢看戏，便想借演戏来达到劝谏宪宗的目的。

一天，宪宗又前来看戏。在戏台上，阿丑扮作酗酒者醉后的样子，胡乱骂个不停，这时，另有一个小太监扮作行人路过此地，即上前道：“某官到了。”阿丑装醉置之不理，仍旧叫骂个不停。行人又道：“御驾到了。”醉者仍然不理。行人再道：“汪太监到了。”醉者故作惊慌状，起身就跑。旁边又一行人问道：“皇帝你尚且不怕，难道却怕那个汪太监不成？”醉者连忙摇手制止说：“休要多嘴！我只晓得汪太监不可得罪，得罪了他只有死路一条。”宪宗看到这里心里受到很大触动，深深陷入沉思之中。第二天，宪宗又看戏。戏台上，阿丑扮作汪太监的样子，手持两把大斧，趾高气扬不可一世。有人问他：“手拿这两把

斧子作甚？”阿丑故作惊讶道：“这是钺，不是斧。”那人又问持钺何故，阿丑洋洋得意地说道：“这两钺非同小可，我自将兵以来，全仗这两钺呢。”那人再问这两钺何名，阿丑笑道：“你真是个呆鸟，连王越、陈钺竟然不知。”看到这里，宪宗微微冷笑，一句话没说就走了。自此以后，宪宗对汪直逐渐冷淡下来，借大臣弹劾汪直等人之机，把汪直、王越和陈钺削官为民，贬谪外疆。阿丑就这样借演戏劝谏宪宗，为民除了大害。

(语实)

## 杨廷和蜜语惑江彬

明武宗生前宠信奸佞之徒，整天沉缅于酒色之中，朝中大权旁落于兵马提督江彬手中。太后对此十分生气，但也无良策。明武宗暴病身亡之时，恰逢江彬不在京都。太后委任大学士杨廷和主持丧葬，并对弊政进行了一番大刀阔斧的改革。杨廷和在太后的支持下，托称遗诏，罢威武团练诸营；所有人卫京师的边兵，发重资遣返原地；罢黜教坊、快马游船；停止楼堂工程；收缴流散宫中的珠宝玉器入库；撤销京城内外皇店。杨廷和这些措施沉重地打击了武宗旧臣的势力。

这期间，身为兵马提督的江彬，由于忙于改组团营无暇进京，对于武宗的暴亡全然不晓。突然接到罢团营遣散边兵的遗诏，才大吃一惊。他急忙找来心腹商议对策。都督李琮进言道：“宫中发生如此大事我等竟全然不晓，分明是对我们不信任，有意封锁消息。如今皇上归天，我们的地位十分危险，莫如速图大事，有幸成功，富贵无比，万一不成，也可北走塞外独霸一方。”江彬听了李琮这番话，犹豫不决，感到事关重大不能仓猝行事，立即请来安边伯许泰共同商议。许泰对宫中所为也心怀疑虑，他对江彬说：“杨廷和敢罢团营，遣边卒，想必是已有了充分准备，我们还是慎重行事为好。”江彬左思右想，还是拿不定主意，便请许泰进宫探听一下消息，

再作进一步打算。

许泰进宫正巧遇上杨廷和，寒暄过后，杨廷和知道了许泰的来意，便面带微笑，热情地对许泰说：“许大人来了甚好，我等因处理皇上晏驾大事忙昏了头，本想请诸公前来协助，偏是遗诏上写明罢团营、遣边兵，这些事情都要仰仗江提督妥为解决，所以一时没能奉请，还请见谅。”许泰见杨廷和态度缓和，所讲的确也有道理，于是解除疑虑。临别时，杨廷和对许泰说：“现在国务倥偬，办起来没有经验，请许大人回报江提督，如有空的话，一同前来商议机宜，我同内阁诸臣翘首以待。”许泰见杨廷和这样说，满心欢喜，欣然允诺，告别而去。

许泰一走，杨廷和立即找来司礼监魏彬及张永等人进密室议事。众人一致同意但等江彬等人进宫，伺机捕拿。杨廷和让魏彬密禀太后，太后当即允诺。

许泰见到江彬，将宫中与杨廷和谈话情况讲了一遍，江彬听了，才放下心来。过了一日，江彬带着卫士数人前往宫廷。魏彬已先在门外迎候，见江彬一行到来，即上前道：“坤宁宫正届落成，今安置屋脊兽吻，昨奉太后懿旨，众大臣要前来致祭，江公来的正是时候。”魏彬请出太后懿旨，令江彬及工部尚书李镗，前往恭行祭典。江彬满心欢喜，忙换了衣服，入宫致祭。祭毕出来又遇上张永，热情邀请江彬宴饮。江彬不好推辞，便与他一起入席。正喝到高兴时，忽然听见有人喊：“太后懿旨到，请接旨。”江彬和张永赶忙跪下接旨，只听太监念道：“江彬图谋不轨，应即拿下，听候发落。”江彬一听吓傻了眼，想召所带卫士，一个个又都不在，才知中计。转身就逃，没逃多远就被前来追捕的武士抓住，捆绑起来。接着许泰和李琮等人也相继被捕。当李琮见到江彬时，不禁叱骂道：“你这小子，早听我言，岂能被他人宰割。”江彬又悔又恨，知道这下子完了。

（语实）

## 顺藤摸瓜捕窃贼

明朝成化年间，辰州府有一个靠给人搬运货物为生的穷苦人。有一天他挑一担纸送给货主，走累了，靠在路旁一棵树休息，不知不觉就睡着了。等他一觉醒来，大惊失色，不知什么时候他挑的那担纸不翼而飞。他四处打听毫无结果。这么大的损失，他哪有能力赔偿。没有办法，他只好到知府报案，请官府帮助破案，当时的知府大人是易贵，他为政很有功绩，对断案很有些办法。

易贵听了脚夫的诉说，想了想，就派人到这个人丢东西的地方抬一块石头回府，说石头既然在场，一定知道偷纸的人是谁。衙役把石头抬到大堂上，易贵煞有介事地开始了对这块石头的审讯。自然无法审出结果来，易贵把惊堂木一拍，大喝道：“你这石头知情不举，给我用刑！”衙役不敢违令，强忍住笑抡起刑棍就打，乒乒乓乓一顿乱打，打完又问，不招又打，经过这么一折腾，招来许多看热闹的人。众人见知府故弄玄虚，必定无法收场，人群中于是发出阵阵哄笑。易贵听见笑声，不禁勃然大怒，立即传令紧闭四门，然后对众人说：“本府升堂问案，你们竟敢在公堂起哄，分明是藐视本官，蔑视法律，本府决不能轻饶。你们是认打还是认罚？”众人谁也不愿意挨打，便纷纷认罚。易贵根据每个人的贫富程度罚了他们的款，然后把罚来的钱交给那个失主，让他拿去赔偿货主。看热闹的人虽然损失了一点钱财，但心里却很佩服知府的办事手段。等众人散去后，易贵又问那个脚夫：“你运的纸有什么标记吗？”脚夫说：“路上歇息时曾经看过，确有与别的纸不一样的地方。”易贵便让脚夫在外面找个临时住处等些日子。过了几天，州府发出公文，大批收购商人手中的纸。手头有纸的商人们正为销路不畅发愁，于是十分踊跃地将纸送到州府。易贵对商人们说：“暂时很难付现款，你们把你们的名字报上来，本府到时一定会付给你们。”商人们写好自己

的名字和数量纷纷离去，易贵根据脚夫的指引，终于发现了所丢失的纸。按其货主姓名果然查出了偷纸的人。经审问，偷纸的人如实招了供，就这样一件看起来不易侦破的失纸案就这样顺利地结案了。

(语实)

## 李自成诱敌深入胜强敌

1643年中，明陕西总督孙传庭，调集大批人马，分兵三路进军河南，妄图一举剿灭李自成起义军。

李自成得到明军出关的消息后，忙召集各部头领商量迎敌之策。会上，李自成分析了河南境内由于水旱兵灾，千里荒芜，不利于大部队粮草问题解决的情况，决定进行战略上的转移。采取诱敌深入的方针，诱使明军轻敌冒进，在适当时机，利用有利地形打击明军。会上各个头领都觉得李自成分析的很有道理，拥护他的作战方针。会后，李自成率领起义军主力长途跋涉，在郑南一带集结，只派小股部队与明军周旋。

八月上旬，孙传庭的部队几乎没费多大力气就占领了洛阳，他自认为起义军是乌合之众，不堪一击，便得意忘形起来。他的几个谋士都劝他不要轻敌，万勿冒进，要稳扎稳打。他哪里还听得进去，再加上朝廷几次三番下旨催促他尽早进军剿寇，孙传庭没来得及好好休整，就率军进发了。

李自成见孙传庭军队来势凶猛，便故意示弱，沿途只派小股部队进行阻击袭扰，明军很快就打到了宝丰县。这意外的顺利并没有使孙传庭冷静下来，相反更加大求胜心切。他的部队在进军途中滥杀百姓，他也以此向朝廷报捷邀功。

孙传庭孤军深入，后方的补给线便时断时续，加上天降大雨，道路泥泞，粮草的补给更加困难。此时，明军将士又饥又乏，怨声载道，士气一落千丈。

李自成见孙传庭部队已深入绝地，一方面动员当地群众坚壁清野，使明军无法筹到

粮草，一面派大将刘宗敏率一万多名骑兵由小道迅速迂回包抄，切断明军的运粮道。孙传庭闻讯大吃一惊，消息传开，明军人心惶惶。这时李自成认为时机已到，写下战书与孙传庭约定日期决战。孙传庭面对这样的情势也感到不妙，想撤军自保。他命陈永福率领一部拒敌，自己却率领主力后撤。陈永福部下将士见孙只顾自己，都很气愤，拒绝服从命令，也跟着孙传庭大队人马纷纷后撤。李自成得到这一情报后，立即调兵遣将向明军发起总攻击。明军本已乱了阵脚，见起义军如洪水般从山上冲了下来，吓得掉头就逃，无论孙传庭怎样弹压也控制不住。起义军个个英勇，一往无前。孙传庭的五万多人马，此一仗就被歼灭四万多，孙传庭和总兵高杰收集剩下的几千残兵，北渡黄河，逃命去了。

(语实)

## 李、罗设伏败明军

1641年，李自成与罗汝才联合后，由河南经唐县进入湖广枣阳、随州地区，准备攻取承天。陕西三边总督傅宗龙闻讯，唯恐承天有失，立即率兵赶往承天设防。李自成与罗汝才得知明军在承天防守甚严，而后面陕西明军又紧追不舍，当即决定改变计划，取道应山返回河南。傅宗龙见起义军不战而走，认为李、罗二人胆怯不敢迎战，便气壮起来，率领大军进行追击。九月，傅宗龙率所部两万人追至河南新蔡，在这里与保定总督杨文岳的军队会合，他们一致决定配合行动，开赴项城，准备围歼李、罗联军。李自成和罗汝才得到这一情报后，感到形势紧急，如不能采取果断措施，后果将不堪设想。他们经过仔细研究，决定利用明军轻敌冒进，诱敌深入，设伏重创敌人。他们分头行动，先派一支队伍公开西渡颍河，制造移师汝宁的假象，迷惑敌人，暗地里却将精锐大部队埋伏在松树里。

傅宗龙、杨文岳等果然中计，他们以为起义军主力已经渡过颍河，向汝宁方向转移，

就命令部队在孟家庄结营休息。准备休整几日，渡河追击。明军纪律松弛，根本没有想到起义军就在附近。就在这时，松树林埋伏下的起义军乘机发起突然进攻。明军见起义军突然杀来，以为天上神兵降下，吓得六神无主，惊慌失措。而傅宗龙、杨文岳等也在饮酒作乐，听说起义军杀来，起初还不相信，等到听到外面喊杀声，再想组织人马反击已经来不及了。尽管他们左冲右突，无奈明军大多已无斗志，除了一小部分明军得以突围外，傅宗龙等完全被包围在包围圈里。傅宗龙见突围不成，准备死守，等待外面援兵救援，他命士兵环营挖濠掘坎，妄图与起义军打一场持久战。傅宗龙又派亲信手持手书潜出包围圈，送往逃出去的贺人龙、李国奇处，请求他们回援。贺人龙等才从包围圈里逃出来，惊魂未定，不敢轻信，深怕又中起义军的圈套。傅宗龙在包围圈里苦苦挣扎，几天过后，粮食断绝，连马匹都杀光吃了，还是不见援兵。后来战马也没得吃，只好拉来死尸充饥。又过了几天，箭射殆尽，枪之不锐，真到了弹尽粮绝的境地。傅宗龙见救援无望，只得冒死夜里突围。这些残兵败将那禁得住义军的冲杀，大部分被义军消灭。傅宗龙只带着少数亲兵逃了出去。但逃到距项城八里处，被追赶的起义军追上俘获，斩于项城城下。

(语实)

### 祖大弼乔装充敌袭清军

明朝末年，清兵大举南侵，边关频频告急。一天夜里，清军一支骑兵占据了锦州，在城里烧杀抢掠三天，焚烧皇陵后离去。明皇帝闻报召集诸大臣商议对敌之计，任命梁廷栋为主帅率兵御敌。八月，又有清军骑兵进犯陵城，梁廷栋派祖大寿和副总兵何可纲坚守。丘嘉禾率监军张春、总兵宋伟、吴襄计两万余人马前往救援。丘嘉禾是个怕死鬼，见敌军强盛迟迟不敢与敌军交战，陵城告急。后有宋伟、吴襄与敌兵交战不利，张

春被敌兵抓获，于是大败而归。

这时有锦州人高应元、韩二、韩五从吴襄的部队跑出来，投奔祖大弼。祖大弼是祖大寿的弟弟，长得身高体壮，且有一身好武艺。他平时好结交各地豪杰，由于他性情豪爽，英勇善战，士兵都愿意跟随他。有一次在锦州城外与清军四王子大队人马对阵，四王子依仗清军人多势众，自恃武艺高强，连作战的盔甲也不戴，一个人上前掠阵。祖大弼看不惯四王子那个骄狂样，不顾哥哥的劝阻，提着大刀一个人骑马冲了上去。四王子正自夸口，看见明军中突然骑马闯出个黑大个，不禁一怔，慌忙迎战。祖大弼恨不能一刀把四王子砍下马来，上前就是一顿猛砍，有好几次险些砍中四王子的马头，幸亏清兵冲上来援救，四王子才没被祖大弼砍死。从此，祖大弼的英勇善战就在清军中传开了。都管他叫“祖二疯子”。高、陈、韩三人作战都十分勇敢，他们都很佩服祖大弼。祖大弼也很喜欢这三个人，于是他们结为兄弟。

祖大弼知道高应元很有计谋，有一天就向他请问破敌之计。高应元说：“小弟早已想好一计，不知大哥肯采纳否？”祖大弼说：“别卖关子了，说出来给我听听。”高应元这才说道：“我们几个都会说清人语，并且侦查得四王子大营正驻扎在白云山。我们再找些会说清人话作战勇敢的年轻人，组成一支敢死队，夜里混入敌营，突然发起冲击，保管能得胜。”祖大弼听了，频频点头叫好。马上就把这个计策报告了祖大寿，祖大寿也认为此计甚好，叫祖大弼亲自带队去执行。

祖大弼在军中挑选了一百二十名精壮战士，组成了一支突击队。一天夜里，高应元等三人在前面带队，祖大弼率队紧随其后。由于他们都换上了清兵衣服，又用清语混过哨卡，混入清军大营。高应元等三人知道四王子营房住处，带领这支突击队直奔四王子营房。当他们靠近营房时，被清兵发觉。祖大弼忙下令士兵施放火焰弹，在烟雾的掩护下，一声呐喊带人冲了进去。清兵半夜里听

见明军杀来，也弄不清来敌多少，也分不清东南西北，被祖大弼一伙冲得七零八落，整个大营一片混乱。被明军砍死的、自己人践踏死的无计其数。四王子如不是跑得快，也成了明军的刀下之鬼。

祖大弼一伙从半夜一直杀到第二天拂晓，怕清军认出不好脱身，才在高应元的引导下撤出来。这一仗，清军死伤数千人，锐气大伤，陵城之围也得以缓解。

(语实)

## 康熙计除权奸

康熙登基年仅八岁，不能料理国事，当时由鳌拜、索尼、苏克萨哈和遏必隆四位大臣辅政，其中鳌拜独擅其权。他见皇帝年幼，极力培植自己的势力，排挤打击那些与自己意见不合的忠臣良将。鳌拜在朝廷经营多年，朝廷内外党羽遍布，他越发骄横起来，根本不把康熙这个小皇帝放在眼里。

康熙这个人很简单，虽因年幼无力掌管朝政，朝中一切事务由那四位大臣去办，但他用心学习，暗中查记。对于鳌拜的专横他假装不知，表面上仍装出与他十分亲近的样子，鳌拜见此误认为康熙性格软弱，由此更加嚣张起来。朝廷上下怨声载道，但由于鳌拜势力太大，谁也不敢参奏他。

1667年，康熙亲政。他决不容许大权旁落，马上下令取消了辅政大臣的辅政权，将权力收归己有。这样一来，康熙与鳌拜之间的矛盾便激化起来。鳌拜见皇帝年轻，哪里把他放在眼里，经常顶撞康熙，甚至要挟康熙。开始康熙感到时机还不成熟，对鳌拜的欺君罔上行为一忍再忍。后来他加紧笼络群臣，把亲信提拔重用。渐渐地忠实于朝廷的一派强大起来，形成了与鳌拜可以相抗衡的力量。尽管除掉鳌拜的时机已经成熟了，但是康熙仍没有急于动手。相反地他对鳌拜更加表示尊重，又是加官进爵又是封赏，以此打消鳌拜的疑虑和戒心。与此同时，一个擒拿鳌拜的计划酝酿成熟了。

不久，康熙从各王公显贵府中挑选了一百余名身强力壮的贵族子弟，以陪伴皇帝习武消遣为名，入宫担任侍卫。他们入宫后，天天陪着康熙练习武艺、摔跤，逐渐与皇帝混得厮熟，打闹起来也不讲究个君臣礼节。鳌拜开始有些怀疑，经过多日观察，他认为康熙只图享受，喜好玩乐，没有什么大志，从此更加放心了。

经过这一阶段演习武艺，这一百多名侍卫个个武艺高强，身手不凡，康熙也学到一身好武艺。一天，康熙将这些侍卫召集在一起，对他们说：“你们常在我的身边，好象我的手足一样，你们是听从我的命令，还是听鳌拜的命令？”这些少年侍卫平日就对鳌拜的专横跋扈看不惯，又朝夕与皇帝相处，早已成为效忠康熙的心腹，齐声高呼：“愿为皇帝效劳！”然后，康熙对他们详细布置了捉拿鳌拜的计划。这天正值鳌拜入朝，康熙传旨要单独召见他。鳌拜不疑，欣然前往。等鳌拜走进宫廷，康熙一声令下，这些少年侍卫如同猛虎下山一齐动手上前擒拿鳌拜。鳌拜虽然身强力壮，武艺高强，毕竟难敌这些经过锻炼的少年侍卫，终于被缚就擒。

紧接着康熙又下令将鳌拜党羽及亲属一网打尽。当时的康熙还不满十七岁。

(语实)

## 私访得民情 乔装察真相

清朝康熙年间，被百姓誉为“中州三贤”的宋牧仲调往江苏做巡抚。到任以后，发现原任许多弊政，老百姓私下里对此颇有怨言。令他感到奇怪的是，真要向人们征求对官府的意见时，被问到的人都满口颂赞之辞，听不到一句不满之言。他想这里面定有内情，只靠表面工作，是弄不清真相的。他决定乔装改扮，微服私访。

一天，他身穿长衫，把自己扮成穷酸秀才模样出府私访。当他来到某县地界，正碰上当地县令乘着大轿，在众多的衙役簇拥下，呼喝着向自己这边而来。他看到老百姓纷纷

躲避让道，就好象见了老虎一样惊慌，那些腿脚不好来不及躲闪的，不是被衙役踢到一边，就是用棍棒赶开。他想这哪象父母官的样子，就故意佯装不知，一直向这伙人走去。衙役们把他训斥了一顿，带到县令轿前听候处理。县令掀起轿帘一看，是新到任的巡抚大人，吓得连忙下轿，拜倒在地赔罪。宋牧仲却一点也不生气，满脸含笑抚起他，并约他一起微服出巡。县令哪敢不答应。

宋牧仲和县令走出县城很远，来到一个偏僻的小镇，见前面有家茶馆，就到里面喝点茶，歇歇脚。喝茶中间，宋牧仲便向店主询问当地政事。店主不认得他们两人，以为是外乡人，就对他俩诉起苦来，边说边骂县太爷贪赃枉法，不关心百姓疾苦。坐在旁边的县令听了如坐针毡，脸上一阵红一阵白，但又不好阻止。回城途中，县令一再向宋牧仲赔罪，请求宽恕，并矢口否认自己的错误。宋牧仲见他这样，只是笑了笑，说：“山野村夫，信口胡言也是有的，我怎能以此作为定论。”

到了县城，宋牧仲同县令分了手，没有回府，却返身奔回茶馆，请求店主借宿一晚。店主先是不肯，经不住宋牧仲的好言求助，勉强答应他留宿。宋牧仲穿了店家的衣服和衣躺下。半夜时，忽听外面呼喊叫骂，紧接着几个县府差役破门而入，见宋牧仲不由分说绑起就走，一直押进县衙。县令正坐在大堂上，见抓得人来，便喝骂道：“你这混蛋，竟敢在光天化日之下辱骂本官，非得好好教训你不可。”吩咐左右动用大刑侍候。这时，伏在阶下的宋牧仲突然站起来，慢条斯理地说：“你看我是何人？”县令定睛一看，顿时吓呆了，连忙跪地求饶。

宋牧仲说：“白天店家骂你，我并未深信，现在我亲眼见到，你竟如此作威作福，欺压百姓，老百姓所受的苦一定不少。”宋牧仲当场罢了县令的官，下狱查办。当地老百姓听到这个消息，无不拍手称快。

（语实）

## 林则徐巧施求雨计

林则徐于道光十八年被任命湖广总督。他到任时，正逢大旱之际，粮价不断上涨，众多普通百姓无钱买米，只得靠扒树皮、挖野菜活命。林则徐目睹这一切，心忧如焚。他慷慨解囊带头捐款救助，并号召所属各府官员都出资响应，以筹钱款到外地买粮赈民。可是那些官员，从上到下，响应者寥寥无几，都推说无钱可捐。林则徐心里十分生气，但也不好硬摊硬派。

夜里，林则徐翻来覆去睡不着，眼前不断浮现出灾民面黄肌瘦的情状，耳畔不时响起婴儿喊饿的哭叫声。他披衣坐起，苦思救民之策。突然，他眼前一亮，一条妙计被他想出来了。

一天，林则徐派人挂出告示牌，宣布三日后设坛祈雨，各府官吏在这三日内必须沐浴、吃素，诚心祈雨。

三日之后，林则徐带领大小官员登上祈雨台。林则徐一脸庄重虔诚先自跪在台上，焚香祷告，待大家祷告完毕，就和大家一道在铺有芦席的地上坐待天降甘霖。这时，正值中午，烈日当空，天气十分炎热。众官坐在烈日之下无遮无拦，感到特别难熬。但见林则徐端坐在那里，一动也不动，这里官位又数他最高，其他官员也只得强忍怨气陪坐在那里。一会儿，众官都已口干舌燥，挥汗如雨。林则徐眉头紧锁，吩咐左右亲随拿浓茶来，每人送给一碗。这些官员正渴得难受，纷纷一饮而尽。过了不大一会儿，这些官员都呕吐起来，林则徐也不例外。不知怎的，都吐得很厉害，把胃里的食物都吐了出来。待大家吐完了，林则徐吩咐手下检验大家所吐的食物，一一登记备查。他说：“我要看看大家都是什么心肠。”检查结果，大官吐的是山珍海味，小官吐的是鸡鸭鱼肉，只有林则徐吐的是蔬菜杂粮。

待手下人将结果报完，只见林则徐把脸一沉，说道：“前几天我劝你们资助买米，赈

济灾民，你们都推说无钱可捐，可今天吐在地上的却是山珍海味，鸡鸭鱼肉，我已明令告之，为祈得苍天降雨，大家须诚心沐浴吃素，如今看来谁也没有做到。你们视百姓性命如同儿戏，还配当官享受国家俸禄吗？今天祈雨不至，完全是由于你们的不诚造成的。我要将今日祈雨情形如实向圣上奏明，请圣上查办。”

这些官员见林则徐面沉似水，说得又是如此严厉，一个个都吓坏了，生怕丢了乌纱帽，一齐向林则徐赔罪求情。他们到这时不得不忍痛拿出钱来买米救灾。就这样，林则徐解决了赈济灾民的大问题。

(顾铭新)

### 左宗棠殚精竭虑定新疆

1875年5月，年过花甲的左宗棠为了收复失地，驱虏平疆，不顾百病缠身，接受了督办新疆军务的钦差之职。

新疆地处西北边陲，政治上阿古柏自立为王，盘踞多年，加之英、俄的支持，要想赶走他十分艰巨。经济上，这里少数民族杂居，地僻田荒，人民生活困苦不堪，筹集军饷困难重重，如若从内地运输，又关山重重，困难也不小。兵员上，士兵多为江南人，不服水土，离乡背井，军心不稳。面对这些困难，左宗棠老骥伏枥，“引边荒艰巨为己任”，开始远谋策划，扎扎实实地进行了一系列工作。

首先，他从整顿军纪，调整部队将领着手。他认为与敌军决战于沙场，统兵之将能否齐心协力，效命杀敌，是克敌制胜的首要条件。他先后把那些虽身负要职，却不思复土，擅威作福，畏敌如虎的将领如成禄、穆图善、景廉等一一调换或罢免。而把那些精忠报国、英勇善战的人提拔重用。接着裁减冗员，精干队伍。这样既节省了大量费用，又有助于强化训练、提高作战能力。

其次，他亲自筹集粮饷，运筹运输。出师边塞，须兵精粮足，方可壮军威而鼓士气。

他为筹措军饷多次上书请求，并与李鸿章等通融协调，经过千辛万苦的努力，凑足一千万两之数。为了保证军火供应，左宗棠还创办了兰州机器局，为西征大军生产枪炮弹药。当时清朝府库空虚，拿不出更多的钱财来。左宗棠为了保证军需，处处精打细算，只要自己能解决的，多以自筹为主，比如粮食，他就命张曜所辖部队垦荒屯田，且耕且战。在转运上，他亲自踏查实地，制定了一套严密可行的规划，经过两年的购运，至战前已储粮两千万斤有余。

再次，左宗棠正确分析敌情，制定正确的作战方针。经过勘测，他了解到新疆地势北高而南低，控北即可制南。据此他提出先北后南的战略决策。新疆地广人稀，交通十分不便，军需供给线长，周转期也长。他要求部下作战时要打速决战，这就是有名的“缓进急战”的作战方针。

经过这些大量的准备工作，西征军兵精将勇，士饱马腾。1876年4月，按左宗棠制定的作战方略，刘锦棠率主力挺进新疆。兵锋所向，锐不可挡，克黄田，下古牧场，直捣乌鲁木齐。白彦虎等残匪遁逃南疆。

当西征军攻克乌鲁木齐，正欲挥师南进荡平伊犁之敌时，英国侵略者插手干涉。想利用阿古柏肢解新疆。左宗棠对英公使威妥玛严辞驳斥，正告他：“帕夏为我必讨之贼，战阵之事，权在立兵之人，非他人可参与，亦无须英人代虑。”挫败了英人的阴谋后，左率军连克喀喇沙尔、库本、阿克苏、乌什东四城。最后收复喀什噶尔、英吉沙尔、叶尔羌和阆西四城，全歼阿古柏匪帮。除伊犁外，新疆全境重归中国。

(语实)

### 刘铭传扬长避短战法军

台湾宝岛，不仅物产丰富，而且战略地位十分重要。1884年7月，法国海军远东舰队司令孤拔率舰队开往中国福建台湾一带进行侵略，台湾守将向清政府频频告急。



当时告病在家的刘铭传，经曾国荃推荐，被清廷诏命为一等男爵、赏给巡抚衔，督办台湾事务，全台镇道以下各官均归其节制。刘铭传临危受命，出京后迅速赶赴台湾，部署战守事宜，率领台湾军民守土抗战。

当时台湾防务十分薄弱，驻守台湾防军共四十营，不足两万，却要守卫长达两千公里长的海疆，而且装备极差，正象他在写给朝廷一份奏疏中所说的那样：“陆营兵单，水师无船，机械未齐，海口未塞。加上兵卒久未训练，大多数是老弱病残。兵力布置上重南轻北，很不均衡，漏洞颇多。”面对上述情况，刘铭传不灰心，积极投身于保卫台湾的军事事务之中。他穿梭于台北、沪尾，布置防务，积极组织民众，消除军内派系纷争，争取大陆援助。

8月5日，法军向基隆发起猛攻。刘铭传亲临前线指挥抵抗，法军用猛烈炮火击毁清军炮台，如若坚守前沿阵地，势必伤亡惨重。刘铭传见此，当机立断暂时放弃阵地后撤，采取诱敌深入，扬我军之长，与法军进行陆战。他布置埋伏，派少数人诱敌，法军以为清军溃败，几百名兵将扑上岸来追击，这时清军三面伏兵突起，法军措手不及，大败而逃。

法军不甘心失败，多次进攻未能得逞，于是改变进攻路线，分两路炮击基隆和沪尾。基隆在台北的东北，有良港和煤矿，距台北五十公里，沪尾在台北西偏北，距台北仅三十余里，并且有淡水河相通，是台北的门户。敌军攻基隆意在占领良港和煤矿，攻沪尾意在夺取台北。清军两处受敌，处境十分险恶，而法军乘马尾一役得胜士气正盛，来势汹汹。刘铭传于是分兵两处与法军展开了艰苦的攻守战。法军进攻基隆受到守军的顽强抵抗，未能攻破，于是改变主攻方向，向沪尾发动猛烈攻击。沪尾守军少，又作战数日，在法军的强大攻势面前，十分吃紧，于是连连飞书基隆告急。在这种情势下，刘铭传审时度势，认为，若沪尾失守，则台北

不能保，而且基隆也势必不能保。他当机立断，下令放弃基隆，撤出战斗，炸毁煤矿，转移机器，全力援助沪尾。这样，法军虽然占领了基隆，但一无所获。

基隆失守，刘铭传受到朝野内外的攻击，但他仍然坚持自己的作战思想，集中优势兵力取得了沪尾保卫战的胜利。法军虽然占据了基隆，却背上了包袱，日夜被清军袭扰，一天也没安稳过。后来局势的发展，证明刘铭传的决策是十分正确的。

(语实)

## 曾国藩的驭人之术

清朝末年，曾国藩是一个很要人物。他之所以能网罗众多人才为他效力，是与他出色的驭人之术分不开的。

创立湘军之初，曾国藩十分注意发现培植人才。如湘军的重要创始人江忠源、罗泽南、王鑫都是知识分子，后来湘军的重要统帅也大多出于知识分子，如李鸿章是进士，左宗棠是举人，李续宾、李续宜、杨昌濬等是秀才。他选将的标准有四条：一是才堪治民，二是不畏死，三是不急名利，四是吃苦耐劳。用他的话说，要选拔“智深勇沈之士，文经武纬之才”委以重任。在他的号召下，一大批优秀的知识分子集结到湘军的旗帜之下。

曾国藩治军是很有些办法的，夜里组织士兵学习四书五经，进行精神和习惯上的改造；白天操练阵法击技。他这套以礼治军的措施在当时是十分奏效的，那些朴实的农民渐渐地被训练成纪律严明、勇敢善战的士兵。为了赢得官兵的信任，他特别重视对将官的教训并且很讲究方法：一是多与他们交谈，不厌其详；二是多与他们接触，每天早晚都要将官与士兵在一吃饭，通过多接触，联络感情；三是多写信，上自将军下至士兵都可以直接写信交流情况。

曾国藩对下属的使用主张恩威并举，刚柔并济，很懂得驭人之术。他认为志节之轩



昂，輿情之纏綿，二者不可偏廢。他主張治理軍隊應該做到文法宜簡，事宜專權，情意宜洽。有幾件事很能說明這一點。

一是他將繁復的軍紀要則改編成簡單易記的歌詞，教士兵傳唱而牢記之。二是祁門之戰，湘軍幾被太平軍打垮，在人心浮動之時，他反而下令有不願打仗想返回故鄉的，一律發放給三個月的軍餉，准許放行。士兵們听了都很受感動，那些原來想脫離軍營的人都慚愧自責，決心留下來。第三件事是對李鴻章的使用。李鴻章剛進湘軍的時候，自以為是進士出身，加上少年得志，心高氣傲，不把他放在眼里。曾國藩為了磨勵他，先挫折一下他的傲氣。到軍營一個多月也沒安排職務。李鴻章是安徽人，與湖南人習慣不同，吃飯的時間比較晚。一天，他推說頭疼沒開飯就溜回營房。沒過多久，差弁一個接一個過來相請，最後當天的值日軍官親自招呼他，

說：“大家都等您呢，一定要您到齊後才吃。”李鴻章听了很是不安，連忙起來跟着值日軍官跑到飯廳。在吃飯整個過程中，曾國藩始終一言不發，待咽下最後一口飯，才放下筷子嚴肅地对李鴻章說：“少荃（李鴻章字），你既然投奔我成為我的幕僚，我有一言相告，我所提倡的就是一個‘誠’字。”說完轉身就走了。從那以後，李鴻章驕傲的情緒才得以收斂，為人處事開始謹慎起來。曾國藩這時才任他為首席參議。後來，因李元慶失守徽州，曾國藩上書要懲罰他，李鴻章率領眾人替李元慶講情，並以辭職相挾。曾國藩則答以“听君之便”四字。於是李鴻章離開幕府閑居一年。直到湘軍攻下安慶，李鴻章寫信祝賀，曾國藩才回信勸他重返幕府工作，而且待他比以前更厚。後來又委任擔當淮軍總指揮這一重任。

（語實）

## 十二、历代谋略人物卷

### 引 言

石 翔

谋略是人类高级的思维活动，它经历了一个自发到自觉的漫长过程，反映了人类几千年来的思想精华，体现了一个民族智慧的升华和思想的进化。中华民族在政治、军事、经济、外交等一切社会活动中都积累了极其丰满和深邃的用谋经验。可以说，《二十四史》就是一部帝王将相竞相用谋的历史，一部国家用谋的最高典范。

中国谋略不但是东方谋略的代表，而且也是世界谋略的精华。这是因为，中国是世界文明发达最早的国家之一，曾经创造了举世无双的物质文明和精神文明。在漫长的历史长河中，中华民族以其辉煌的业绩，为人类的进步做出了卓越的贡献，充分体现了中华儿女艰苦卓绝的战斗精神和深邃的聪明才智。在炎黄子孙一代接一代的事业里，涌现了无数叱咤风云、举世闻名的英雄贤达；在华夏先人们博大精深的无穷智慧之中，孕育和培养了一个非常特殊的人才群体。

他们可能是赫赫有名开国创业的帝王，可能是治国安邦的良辅谋臣，可能是驰骋沙场、计谋泉涌的武将，可能是某一政治力量的“智囊团”，可能是某一重要人物的策士，可能是纵横捭阖的外交家，可能是农民起义的“智多星”，可能是断案决讼的“清官”，可能是经营有方的经济家，也可能是名不见经传的布衣百姓。他们在各自所处的历史舞台

上，面对波诡云谲、危机四伏而又瞬息万变的复杂形势，能够扭危局、胜险恶，沉着应变，机敏而动。治国则能从崎岖而致坦途，作战则能克敌而致胜，理财则能兴国而福民，出使则能谈笑间策定乾坤，处世则能高屋建瓴而从容自若。他们令人击节赞叹的成功，他们事业和人生的重要建树，所体现的是智慧和能力的巨大力量。这些特殊的人才，我们可以称之为谋略家。

中国历史上的“谋略家”源远流长，博大精深，从先秦至晚清人物众多，在中国历史乃至人类文明史上都卓有建树、影响深广。就其构成来说，大体可以从两个方面进行探讨。

中国历史上下五千年，历代王朝交相更迭，政治关系不断变化，政治家和军事家必须随时而且迅速地作出反应和判断，否则必将贻误时机而使形势发生逆转。中国古代历史长时期处于封建社会之中，封建皇权高度集中，最高统治者的个人意志决定着一切。由于上述情况，使中国历史上的不少谋略家同时就是皇帝、国王之类的决策者。春秋战国时期的吴越两国，吴国国王阖庐原来仅仅是个“公子”，他胸藏大志却隐忍以求，积蓄力量，广罗人才，时机成熟之后一举设谋发动政变，登上国王宝座之后迅速地翦除隐患，发展生产，打败了强楚，称雄于一时，被称

为“富国强兵”的政治家。阖庐的对手、越国国王勾践则是另外一种类型的政治家。他在处于绝对劣势的时候不灰心、不气馁，发愤图强、广用能人，礼贤下士，终于使国家强大起来，打败了吴国，留下了“卧薪尝胆”的历史佳话。阖庐和勾践虽然各有胜负，亦各有千秋，但却都是了不起的政治家、军事家，同时也是卓越的谋略家。身为决策者的谋略家在中国历史上灿若巨星，秦始皇、曹操、刘邦、刘秀、李世民、赵匡胤、朱元璋、康熙等等开国创兴的帝王，以及许多中兴国家的帝王，都以其令人惊叹的业绩和超群的才干以及雄韬伟略，在历史上发挥了巨大的作用，谱写了富有魅力的篇章。

中国历史上谋略家的另一种类型是大量职业谋略家的涌现。这些人的智慧、筹谋和韬略都非常惊人，而且在复杂多变的斗争中不断得到锻炼和提高，他们“眉头一皱、计上心来”的谋略能量不但为当世决策者所倚重，而且为世代所传诵。西汉的刘邦之所以能从一个小小的“亭长”而成为推翻秦王朝、打败强大项羽的创业帝王，其中的奥秘之一就在于他“好谋能听”。“好谋”是说他本身就是一个谋略家，“能听”是说他非常重视“谋士”们的意见。萧何、韩信、张良、陈平等等都是不可多得的人物。他们为汉朝的建立和巩固谋划了很多英明的策略，产生了巨大的效应。汉后的三国纷争，曹操一直是最强大的，这与荀攸、荀彧和郭嘉等一大批职业谋略家的辅佐是分不开的。我国古代的谋士成分很复杂，有一些虽非妙计泉涌的“智多星”式的“全才”，但在某一方面有独到之处，有时也能被见用。战国时期著名的“四公子”，门下“门客”都不下三千人，这些“门客”大都也是职业谋略家，为孟尝君“市义”的冯谖的智谋不用说了，就是信陵君门客中的“鸡鸣狗盗之徒”，在关键时刻不也是使他度过了险关，帮了他的大忙吗？

我国古代谋略家行列中有许多人既是“谋士”，同时也是“决策者”。他们在更高的

权力者面前是“谋士”，在独挡一面时本身又成了“决策者”。三国时的诸葛亮，具有惊人的智慧，绝世的才能。他在隐居隆中时，对天下大势已了如指掌，初见刘备就提出了据蜀、联吴、抗魏的长远战略思想，博望坡出奇制胜奠定了他在刘备集团内部的威信。这时他是一个“谋士”。在他辅佐刘备包括“后主”的一生中，虽然官至丞相，虽然刘备对他“言听计从”，但他仍然是个“谋士”，最后的决策权仍在刘备及“后主”手中。然而在某一个特定的时间、环境和局部，他又是个决策者。赤壁之战，他孤身到吴国，不仅在身临危境中舌战群儒，和东吴上下各方进行了复杂曲折的斗争，争取了强有力的同盟，成功地贯彻了联吴抗曹的战略，而且在战役部署的各个关键环节上表现了超过曹操和周瑜的见识和才能。这时的诸葛亮本身就是一个决策者。

当然，我们不应该简单地来看待中国谋略家的构成。有些伟大的思想家本身也是谋略家，例如被称为“政略的百艺之师”的孔子，以及“统御不朽之术”的老子等，作为一代宗师，思想巨擘，无论是其学术成就和人格力量都已处于历史上相当高的地位。有些农民起义英雄例如李自成，既是杰出的政治家、军事家，同时也是卓越的谋略家，他们作为封建王朝掘墓人大智大勇的英雄形象，永远为后人所崇敬。

计谋韬略对于国家和民族，对于社会各个领域发挥着巨大的作用，吸引着无数胸怀雄韬大略的仁人志士为之一展奇才、纵横驰骋，甚至为此献身。成功的谋略家在当时都具有重要的社会地位，在历史上也享有殊荣并且产生着久远的影响。

历代谋略家在平定天下、治国安邦等方面都产生了重要作用，“一计安邦、一言亡国”虽然未免有些夸张，然而谋略家水平的高低关系到国家的兴衰、政权的存亡确是事实。刘邦在取得天下后的一次宴会上说过一段著名的话：“夫运筹帷幄之中，决胜于千里

之外，吾不如子房(张良)；镇国家，抚百姓，给饷餉，不绝粮道，吾不如萧何；战必胜，攻必取，吾不如韩信。此三者皆人杰也，吾能用之，此吾所以取天下也。项羽有一范增而不能用，此其所以为我擒也。”谋士的进退与事业成败的关系，谋略家的历史作用，通过这位君王之口说得再清楚不过了。

中国的谋略家大都是德才兼备的贤者。热爱祖国、体恤百姓，胸怀大志，注重个人修养，是构成谋略家素质的首要条件。对一名谋略家来说要求是较高的，素质也是多方面的。

自古以来，有作为的谋略家都是有识之士。识多智高，智高谋深，多识是多谋的基础。中国谋略的开山鼻祖吕尚，不但是一位出色的军事家、政治家，而且在天文、地理、术数等诸方面都有较深的造诣，成为他那个时代学识最渊博的智者。春秋战国时的范蠡在治国治军等方面的成就一直为世代所推崇，在他激流勇退之后，经营务商，很快富甲天下，被称为陶朱公，他在经营方面的韬略和学识，至今仍被看作我国古代最重要的经济谋略思想之一。被举世奉为“兵学圣典”的《孙子》，几乎涉及了社会生活的方方面面，从政治、经济到军事、外交，从天文、地理、历算到人情、鸟兽，从兵器、装具到阵法应变，足见孙武学识的渊博。随着社会的进步和发展，知识以指数的速度以爆炸的方式日新月异，这就需要谋略汇集多种知识，需要有识之士积极合作，用众人之智，发挥群体效益，做出正确的谋略决策，以期事半功倍。

如果一个人仅仅是学贯古今、谋略满腹，而缺乏勇于决断的气质，在问题和困难面前瞻前顾后、缩手缩脚，那么再好的谋略也是难以发挥作用。“谋”与“断”从来都是须臾不可分的，只有相得益彰、互为因果，才能达到预期的目的。三国时期，北方强大的集团袁绍声势浩大地率兵渡河南下，在敌强我弱的情势下，曹操也未免心生惊悸，“祁

不欲战”。这时策士郭嘉勇敢地呈上“十策”，精辟地分析了形势，指出了我方必胜的依据，增强了曹操的信心，使决策者曹操当即拍板，结果取得了巨大的胜利，创造了战争史上的奇迹。如果曹操当断不断，必然失去这一转瞬即逝的重大战略机缘，其后果将是十分不利的。患得患失，谋而不断，从而坐失良机，这样的历史教训简直是举不胜举。范增一直建议项羽尽早除去刘邦，鸿门宴上更是精心策划，然而项羽却迟疑不决，结果终为刘邦所败，落得个乌江自刎的下场。由此可见，提高谋略水平，加强果敢决断的气质修养，对于一个谋略家来说，是至为重要的。

谋略决断的正确与否，在很大程度上取决于谋略主体是否具有良好的观察力。观察力是指人仔细察看客观事物或现象的能力。一个有作为的谋略家的观察应该是全面的，善于发现别人不易看到的事物特征和形态上的变化，而且从不遗漏细节。他的观察同时也是迅速的、准确的，即在较短的时间内捕捉到事物的主要特征及与其它事物的微小差别。观察力的获得离不开积极的思维，动于后而谋于先，才能做到趋利避害，每战必胜。

谋略家在施谋过程中切忌墨守陈规、因循守旧，战国时的赵括、三国时的马谡都是因此而或身亡或兵败。随机应变，是复杂的谋略活动对主体的创造素质提出的一个最起码的要求，也是确保谋略活动获得圆满成功的一个先决条件。应变力，是一种创新的思维活动，也是一个谋略家胆略、勇气和智慧、才能的体现。

本卷所收的100多位谋略家，是中国历史上的佼佼者，有的本身就是中国智慧的化身。然而，这并不是说，我们对他们就不要进行具体分析，因为说到底，他们毕竟是封建社会的奇士能人，必然要打上那个时代的印记。我们的愿望是，聪明的读者结合实际，从中国古代谋略家智慧的宝藏中吸取有益的营养，从而善于筹画，长于韬略，增长才干，去建功立业。

# 先秦谋略人物

## 姬 发

周武王姬发(约公元前12—11世纪)，西周王朝的开国之君，中国古代历史上的著名君王。

周是活动在我国西北黄土高原一带的一个古老的部落。商朝末年，武王父文王姬昌励精图治，惨淡经营，“三分天下有其二”，使周由商的臣属变成了能与殷商相抗衡的力量，为最终推翻商朝的统治奠定了坚实的基础。

文王去世后，武王即位，继续进行灭商的准备。武王九年，武王将周都城由丰迁至镐(今陕西西安西南部)。在祭扫文王墓之后，他将文王的木主载于车中，自称太子发，以文王的威望号召诸侯。他亲自率领大队人马，观兵于孟津(今河南孟县南部)，向敌人进行武力示威，给对方造成心理上的压力，同时会盟与天下诸侯。据说，当时主动参加孟津会盟的各路诸侯有800之多，可见周在政治上和军事上都取得了对商的优势。然而，武王深知，伐商一战事关全局，不战则已，战则必胜，否则将死无葬身之地。因此，他审时度势，考虑再三，拒绝了其他诸侯立即伐商的主张，决定暂时班师，静观待变，寻找更为有利的伐商时机。

在其后两年的时间里，商朝的末代统治者纣王更加昏庸暴虐。其手下贤臣非死即逃，纣王成了名副其实的孤家寡人。此时武王认为时机已经成熟，果断决定发兵伐纣。他不顾自己年事已高，亲率戎车300乘，勇猛的武士3000人，甲士45000人，会同各路诸侯军旅，从孟津渡过黄河，挥师东进，于武王十一年正月甲子日(公元1057年3月7日)清晨进至商都朝歌郊外70里处的牧野(今河南汲县南部)，布下阵势，准备与商朝军队进行最后的决战。

在周朝大军兵临城下之际，商纣王方如大梦初醒，慌忙组织抵抗。但纣王军队刚从征伐东夷的前线撤回，尚未进行休整。纣王穷极无奈，只好将能上战场的奴隶等临时拼凑起来，组成75万大军，开赴牧野前线摆出决战的架势。

决战开始之前，武王左手持黄钺，右手握白旄，向全军将士历数纣王罪状，鼓吹替天行道，勉励他们义无反顾，奋勇杀敌，极大地鼓舞了早已高涨的周军士气。战斗开始后，武王先命姜子牙率勇力之士冲入敌阵，以示必战之志，随后指挥千军万马向商军阵地掩杀过去。商军中那些被迫从军的奴隶，本不愿为纣王卖命，一见周兵冲至阵前，便掉转戈头杀了回马枪。纣王见大势已去，便转身逃回王宫，登上鹿台，投火自焚而死。商朝遂宣告灭亡。

周武王虽然推翻商朝统治，达到了改朝换代的目的，但能否使天下之人接受新生的周政权的统治，仍是摆在他面前的一个问题。武王为证实自己取商而代之，乃是奉承天意，在灭商之后，立即举行了一次隆重而又热烈的仪式。以“九流云罕”大旗为先导，其兄弟手执兵器作护卫，前往祭祀之所。卜官宣读祝文之后，他再拜稽首，当众宣布周革殷命，政权更迭，乃是按照上天的旨意所为。这个仪式为周政权大造了革命的舆论，在人们的心理上起到了不可低估的作用。

周革殷命，是小国对大国的胜利。如何在所占领的广大地区实行直接有效的统治，是周武王面临的一个棘手难题。他几经考虑，在和周公商讨之后，决定采纳较早降周的商朝遗老提出的“复盘庚之政”的意见，用以殷治殷，分而治之的办法，把原商王畿内地划分为三个区域，北面的叫做邶，东面的叫做鄘，西面的叫做卫。武王将邶封给商纣王的儿子武庚，让他祭祀殷的祖先，保证香火不断，同时派自己的弟弟管叔治鄘，蔡叔治卫，令他二人监视武庚。武王此举绝非史书上所言的什么仁慈之心，而是一个不得已

而求其次的办法，只是一种权宜之计。由武庚出面治殷比周人直接行使统治权更容易被人所接受，可以较快地实现政治局面的安定，这正是周武王在政治上的高明之处。虽然武王死后不久，武庚曾联合管叔、蔡叔等起兵叛乱，周公旦用了三年时间才将其平定，但这不过是后话而已。而在当时的历史条件下，则没有比这更好的办法了。

在封纣王之子武庚的同时，周武王又释放囚犯，赈济贫民，以仁政诏示天下，求得百姓的支持。据《史记》记载，武王命召公去监狱释放纣王的异母兄长箕子（一说是纣王叔父），命毕公释放关押在牢房里的百姓，到商朝贤臣商容的故宅进行表彰，命令南宫括散放鹿台存放的财物和钺桥存放的粮食，救济贫困之民。武王采取的这些措施，确实使长期在纣王暴政统治之下的殷人得到了某种程度的解放和好处，很自然地受到了他们的欢迎。

为巩固新生的政权，周武王还对在灭商大业中做出贡献的姬姓亲族和有功之臣论功行赏，分封诸侯，以换取他们对政权的支持。此外，武王还曾设想营建东都洛邑（今河南洛阳市内）。当时，洛邑位于周朝统治版图之中心，建都于洛邑，无疑是为了便于对所占领的东部广大地区实行有效的统治。但武王尚未来得及将此设想付诸实施，便因病死去了，这一愿望后来由周公旦平息武庚叛乱后方得以实现。

武王在东征取胜，并初步巩固了自己的胜利之后，便罢兵西归，回到故都。他纵马于华山之阳，放牛于桃林之虚，削减武备，减少军队，以示天下太平，万民和睦。然而他一时一刻也没有忘却自己的责任。他带领手下重臣，登高远望殷商故地，心中挂念着普天之下的王土；他忧虑未定天下之保安，时时夜不能寐；他经常与臣下探讨殷亡之教训，作为自己施政之借鉴。在灭商两年以后，戎马一生的周武王，因积劳成疾，病逝于镐京。

周武王作为一位继往开来的历史人物，在西周的历史上具有特殊的地位。他继承了文王的事业和遗志，采取正确的政策和策略，稳扎稳打，终于完成了灭商的大业，开创了有周一代500余年的江山。在西周创立之际，他审时度势，采取了为大多数人所能接受的策略，迅速稳定了战后混乱的局面，为周王朝的统治开创了一个良好的开端。无论是在激烈的战争环境之中，还是在复杂的治国难题面前，周武王都显示出卓越的政治、军事才能，超人的胆识和谋略，以及严谨、稳重的风格。因此，他作为中国历史上有数的名王之一，被后人所推崇。他对中国历史的发展所做出的贡献，也理所应当受到后人的尊敬和纪念。

（攸 笛）

## 姬 旦

周公姬旦（约公元前12—11世纪），西周初年卓越的政治家、军事家。

周公旦是周文王第四子，周武王同母弟。文王在世时，他和武王一起辅助文王成为西方的共主，为灭亡商朝奠定了基础。文王去世后，他作为武王最得力的助手，又和姜子牙等人一起辅佐武王灭亡了商朝。

武王灭商以后，首先遇到的是如何处置殷商残余贵族的问题。武王首先征询姜太公的意见，姜太公主张要将殷人统统杀掉。武王又征询召公的意见，召公主张有罪的杀掉，无罪的留下。武王又找来周公，周公主张：“让殷人在他们原来的住处安居，耕种原来的土地，争取殷人当中有影响有仁德的人。”周公这种给以生路，就地安置，分化瓦解的政策，显然高出姜子牙和召公的主张一筹，武王欣然采纳之。由于武王采纳了周公的和缓政策，表明了自己反殷纣暴政之道而行之的意向，取得了大部分殷商遗民的支持，使得刚刚取商代之的周朝政权得到了初步的巩固。

武王灭商后第二年，因年事已高，身染

重病而病故。武王临终以前，提出要把王位传给周公，周公涕而不受。武王死后，成王继位。然而成王不过是一个孩子，根本没有能力来应付周朝初建立时的复杂形势，必须要有一个德高望重又具备治国才干的人来支撑这一局面，这一重担便历史地落在了周公肩上。周公经过反复思考之后，决定称王摄政，挑起安邦治国的重任。

周公称王摄政，引起了其兄弟管叔和蔡叔的不满。他们散布流言，说：“周公将不利于孺子（指成王）。”企图引起统治集团内部的不和。随后，他们又勾结居殷旧都，治理商朝遗民的商纣王之子武庚发动叛乱，一些原来同商朝关系密切的大小方国也群起响应，这给刚刚灭商不久的周王朝造成了极为严重的统治危机。在这种困难的局面面前，周公显得胸有成竹，十分镇定。他首先向姜太公、召公等重臣说明真情，取得他们的支持，保持了最高统治集团内部的团结，然后发兵征讨叛军。经过3年的战争，周公杀掉了管叔和武庚，放逐了蔡叔，灭掉了参与叛乱的各方国，最终解决了代商之后所出现的第一次重大危机。

周公东征平叛之后，面临着如何统治被征服地区的重大难题。早在武王伐纣之后，武王曾在周公的协助下，分封功臣谋士、亲族，以及商朝亡臣，企图以此屏护成周。然而此次叛乱的事实表明，分封建卫固然可取，但重要的地区决不能再用旧的氏族首领，必须分封给周族中最可信赖的成员。于是周公在平叛之后再次分封，封弟康叔于以朝歌（今河南淇县）为中心的原商王统治地区，建卫国；封成王弟于晋（今山西翼县）；封同姓召公于燕（今北京一带）；封子伯禽于奄（今山东曲阜），建鲁国；同时扩大齐侯姜子牙的封地，给其专征专伐的特权。周公还命没有参加叛乱的商纣王的庶兄微子代表殷人的后代，奉祀殷的先公先王，立国于宋（今河南商丘）。除上述国家外，周公还封了大量的同姓国和异姓国。据史书记载：周公“立七

十一国，姬姓独居五十三人。”进而巩固了周王朝的统治。

随着周从西岐向东方的拓展，其统治中心也不断东移。早在武王克商之后，武王就曾与周公商讨过营建东都，以利于统治新征服地区的问题，但事未竟成，武王即故去了。周公东征平叛后，为了巩固周王朝对普天之下统治，便开始将他与武王当初的设想付诸实施。他在洛水之滨勘定新都城址，将在战争中俘获的殷商贵族集中于此，作为建城的主要劳动力。周公这样做还有另一个目的，即可以使殷商贵族脱离原来居住的地区，失去社会影响，并由于集中在成周，也便于监管，可谓是一举两得。新都建成后，史称“洛邑”（今河南洛阳）。由于新都为国王所居，因而又称为“王城”。在王城以东30里处，另筑一新城，殷商遗族均居于此，名为“成周”。周公派8师之兵（每师2500人）驻守成周，以监督殷商贵族。

周公在扫平叛乱，营建东都之后，又致力于使周王朝长治久安的谋划。他“制礼作乐”，即制定各种典章制度，以调整统治阶级内部关系。在周公所处的时代，所谓“制礼”，其中心问题是完善宗法制度，而完善宗法制度的核心又是解决继承制的问题。周公总结前朝先人的经验和自己实践的经验，确立了嫡长子继承制。从法律上规定了嫡长子的继承权，这就避免了在王位继承上王室内部的纷争，从而起到了稳定和巩固统治阶级内部秩序的作用。同时，以嫡长子继承制为核心的宗法制度，以血缘关系为纽带，形成了以周天子为顶端的宝塔形政权结构。周天子是天下大宗；姬姓诸侯对周天子来说是小宗，而在自己封国内又是大宗，同姓卿大夫则是小宗。这种以血缘关系为纽带的统治系统，对于统治阶级来说，显然优于殷商时期以各部落之间联盟为形式的统治方式。这种宗法制度的出现，又导致了父尊子卑，兄尊弟卑，天子尊诸侯卑等等级森严的礼法的产生，这些礼法反过来又起到了维护和巩固

宗法制度的作用。

待成王长大成人后，周公把王位交给了他。在退位以后，周公考虑的仍然是周王朝的统治能否千秋万代的传下去。他曾作《无逸》篇，告诫成王要深入基层，关心民间疾苦；要深省自察，不许含怒；不许放纵享乐，贪图安逸；不许乱杀无辜，乱罚无罪。这实际上也是他自己从政经验的总结。

周公一生事文王、武王、成王三朝，忠心耿耿，始终不渝。他帮文王以建基业，助武王以灭商纣，辅成王以安天下，在建立、巩固和发展周王朝的统治上起了关键性的作用。不仅如此，周公的政治思想、治国谋略，对于整个中国历史的发展也产生了深远的影响。周公在西周乃至整个中国历史的发展进程中，都占有相当重要的地位。

(筱 笛)

## 吕 尚

吕尚，姜姓，吕氏，名望，一说字子牙，也称姜尚，俗称姜太公。商朝末年生，约卒于周成王时期。吕尚的详尽生平，由于史料不足，尚无法确实考证。但仅据现存资料，便可看出他志大抱负，才智超人，功业炫目，不愧为上古时期最为著名的政治家和军事家，是中国谋略的开山鼻祖。

商朝末年，社会黑暗，政治腐败，奴隶与奴隶主贵族之间、统治阶级内部之间的矛盾日趋尖锐，奴隶逃亡，平民造反层出不穷。商纣王每日里只知恣意淫乐，他耗费巨资，在国都朝歌附近修造了豪华的“鹿台”，在沙丘一带开了几个苑囿，还建了倾宫、琼室，广选美女置之其中。他还效仿当年夏桀，在宫院中造了“酒池”和“肉林”，命许多男女赤身裸体在池中追逐嬉闹。

商纣王日夜宴饮，荒淫无度，广大奴隶和平民苦不堪言。为了镇压那些铤而走险的奴隶和平民，也为了制裁那些敢于直谏的忠臣烈士，他除了沿用过去的黜、劓、剕、宫、辟等五刑外，还新设了更为残酷的“肉

醢”、“炮烙”等，梅伯等骨鲠大臣就是亲遭此等酷刑而丧命的。

周国是商王朝最大的诸侯国之一，自西伯姬昌当国以来，笃行仁让，敬老慈少，罗致人才，实行勤俭立国和裕民政治，国力渐渐强盛，四方归心。商纣王感到了周国的威胁，就将姬昌骗到朝歌，软禁起来，并命他亲食子肉，以试忠心。姬昌强压愤怒，后终于逃出魔窟。

吕尚就是生活在这样的社会之中。据说，他的先世曾为贵族，至吕尚一代，家道中落。年轻时，吕尚家居朝歌，以屠牛为业；后又在孟津（今河南孟津县东北）做卖酒生意。他生逢乱世，但勤苦好学，有经天纬地之才。因他饱尝民间疾苦，对世事洞若观火，立志救民报国。怎奈生不逢时，报国无门，因而潦倒半生。他听说西伯昌被囚朝歌时曾食子肉而无怨言，知其必怀大志，自己年事已高，何不追随西伯昌，以展平生所学。就在纣王放走西伯昌不久，他悄悄逃出朝歌，隐居到了周都附近的磻溪。

西伯昌回到周国后立志在有生之年，振业周国，除掉纣王。他的身边虽然不乏忠臣良将，但却缺少一位深谋远虑、文武双全的人来做他的辅佐。

当西伯昌求贤若渴的时候，吕尚正在渭水之滨的兹泉垂钓钓鱼。这个地方虽然风光秀丽，吕尚却并非要老死林下，而是在此静观世变，待机而行。

这一天，吕尚又在兹泉垂钓，恰值西伯昌到此行围打猎。为了引起西伯昌的注意，吕尚故意把鱼钩提离水面三尺以上，钩上也不放鱼饵。西伯昌果然觉得奇怪，就上前搭话。

吕尚见西伯昌对人态度谦和，果然是非凡人物，便进一步试探道：“休道钩离奇，自有负命者。世人皆知纣王无道，可是西伯长子却甘愿上钩。纣王自认为智足以拒谏，言足以饰非，却放跑了有取而代之之心的西伯昌。”



西伯昌闻言，大吃一惊。心想，这位老人身居深山，何以能知天下大事？更为不解的是，他怎能把我西伯昌的心迹看得这么透彻？定然不是凡人，于是连忙躬身施礼，交谈之后，西伯昌以为是奇人，紧拉着吕尚的手，亲自扶上车辇，一起回宫。

一路之上，俩人谈得更为投机。西伯昌请教治国之道，吕尚提出“三常”之说：一是君以举贤为常，二是官以任贤为常，三是士以敬贤为常。其实质就是重视、发掘并使用人才。这在以血缘关系为纽带的奴隶社会里，敢于用尊贤来代替亲戚，表明了他的远见卓识，也显示了他的政治胆略。

当西伯昌问何时可以进军朝歌时，吕尚纵论天下大势，见解深刻。他说，纣王虽然无道，但目前国力尚未全尽，人才尚未全去，诸侯尚未尽叛。而周国虽如日初升，然国力终究有限，此时东进，前有崇国之隔，后有戎人之患，再遇商君，胜负难卜。不如继续普施德政，惜臣爱民，敬武重文，教民习兵演武，耕耘充实仓廩。同时还要届时朝拜纣王，消除其疑虑。借白旌、黄钺之威，进军西戎，攻灭崇国，以建立巩固基地。往朝歌派遣工匠，再兴土木；贡献美女，再充宫室；并促其君臣离心。往东夷暗派使臣，鼓动夷人反叛，怂恿商军东进，形成后方空虚。此时进军朝歌，方可一举成功。

吕尚一席话，说得西伯昌激动不已，相见恨晚。回宫之后，即拜吕尚为太师，成为周国的辅弼重臣。

西伯昌依吕尚之计，一方面充实国力、演兵习武，一方面阴助纣之虐政，使其人心更加离散，国力更加衰微。

当吕尚探知商纣后方空虚、四面楚歌之时，他便奏请西伯昌对商用兵。西伯昌便派吕尚率周军，先征服了西北方的西戎、混夷（今陕西岐山、邠县一带）和泾水上游的密湏、阮（今甘肃泾川东南）、共（今甘肃泾川北）等国，然后挥兵东进。

按照吕尚的计划，首先攻打黎国。黎国

是商的门户，西伯昌以为危险，吕尚说：“攻打黎国，是虚中有实，实中有虚。若商来救，我即收兵，此谓攻商为虚；若商坐视，我即回兵伐崇，断商之咽喉，此谓攻商为实。”

果如吕尚所料，黎国投降周国，并未引起纣王的重视。于是，周军又灭了邰国（今河南沁阳一带）。然后，吕尚率兵来至崇国城下，指挥兵士日夜攻城。崇国国君崇侯虎是纣王的亲信，他站在城头望见周军营寨连绵，把城围得水泄不通，不由暗暗叫苦。吕尚指挥周军攻城，并齐声呐喊：“崇侯虎罪恶昭著，与众军士无关，只要将崇侯虎献出，定有重赏！”话音刚落，早有数十名军士向崇侯虎扑来，城头顿时大乱，城门大开，周军涌入，活捉了崇侯虎，西伯昌命人将其斩首，人心大快。

至此，吕尚灭了崇国，为周文王西伯昌进军朝歌扫清了道路。在军事上取得顺利进展的同时，西伯昌与吕尚商议，在崇城新修祖庙，扩建王宫，改名为丰京（今陕西长安西北）。这对周的势力东达江淮，南及江汉，西南入巴蜀，三分天下，已有其二。在周文王推翻殷商的事业中，吕尚的功绩是首屈一指的。

周文王西伯昌迁都后，因积劳成疾，不久便死去了。他的次子姬发继位，是为周武王。武王继续拜吕尚为太师，尊为师尚父。

一次武王向吕尚问计道：“我欲轻罚而重威，少行赏而劝善多，简其令而能教化民众，何道可行？”吕尚回答说：“杀一人而千人惧，杀二人而万人惧，杀三人而三军振者，杀之。赏一人而千人喜，赏二人而万人喜，赏三人而三军喜者，赏之。令一人而千人得者，令之；禁二人而万人止者，禁之；教三人而三军正者，教之。杀一以惩万，赏一而劝众，此明君之威福。”武王心领神会，把个周朝治理得越来越富强。

武王九年（大约公元前1059年）夏天，周军东进，到达黄河南岸的孟津。太师吕尚亲率三军驾船沿黄河顺流而下。他命令三军冲

向对岸，落后者斩无赦！霎时间，千舟竞渡，浪花飞溅。前来助战的各路诸侯以为真要过河击商，谁知周军刚渡到对岸，又马上返了回来。原来这是一次军事演习，是历史上有名的“孟津观兵”。这次“观兵”的目的，是要实测一下诸侯的动向。结果，又有许多诸侯听命于周。诸侯们都主张立即伐商，但吕尚认为时机还不成熟，断然班师回朝。

此时，纣王更加无道，政局更加黑暗，民不聊生，怨声载道，并不断有名士弃商投周。

武王和吕尚认为灭商的机会来了，于是率兵并会同各路诸侯浩浩荡荡向朝歌杀来，十二月到达黄河岸边，次年二月到达朝歌附近的牧野。

纣王在费仲等奸臣佞子的建议下，匆忙组成了一支包括奴隶、囚徒在内的大军，计75万人，连夜开往牧野。两军遭遇后，周军士气高昂，战斗力强。商军士气衰落，奴隶、囚徒等在开战不久便倒戈，结果商军大乱，土崩瓦解，周军长驱直入，大获全胜。

商纣王在鹿台自焚，在中国历史上存在了500年的奴隶制国家至此灭之。同年四月，周王朝正式建立。

周武王统一全国后，因吕尚功劳最大，首得封赏，被封王营丘（今山东临淄），称齐国。

吕尚到封地后，教育手下的官吏，尊重当地的风俗，简化礼仪，向齐人传授中原先进的耕作技术，鼓励人们开发渔盐之利，从事工商，互通有无。齐国的社会秩序很快便得到稳定，经济繁荣，成了东方的一个大国。到了春秋的中期，周王室衰微，齐国最先崛起，成为五霸之首，战国时亦跻身于七雄之列。后世所谓“太公之盛，建国本；桓公之盛，修善政”。意思是说，齐国之所以发达，首先应归功于齐国的始祖吕尚。

司马迁说吕尚“其事多兵权与奇计，故后世之言兵及周之阴权，皆宗太公为本谋”。这就十分清楚地指出，吕尚一生足智多谋，

长于用兵，工于奇计，历代兵家和谋略家，皆尊吕尚为鼻祖。

（石翔）

## 管仲

管仲（公元前725？—前645），原名为管夷吾，字仲，颍上人（今安徽省颍上县）。是春秋时期著名的政治家、军事家和经济思想家。

管仲侍齐时，齐釐公有三个儿子，即公子诸儿、纠和小白。齐釐公死后，公子诸儿即位，是为齐襄公。齐襄公与其妹文姜（鲁桓公夫人）私通，醉杀鲁桓公，有政治远见的管仲和鲍叔牙都预见到齐国将会发生大乱。齐襄公的两个弟弟怕祸及己身，皆去国离乡，出外避难，管仲和召忽奉公子纠出奔鲁国，鲍叔牙奉小白出奔莒国。公元前686年，齐国发生内乱，齐襄公被人杀死。鲁庄公得知齐国无君在位的消息，立即起兵亲自护送公子纠入齐。管仲这时提醒鲁庄公，公子小白在莒国，距齐国较近，倘若小白先入齐，则主客身份已分出，形势将不利于公子纠。他自请先行，去截击公子小白。管仲引兵昼夜奔驰，过即墨30余里，正遇见护送小白还齐的莒国兵士。管仲上前拜见小白说：“公子纠居长，理应主持葬礼，公子您最好就在这儿停下来，勿自劳苦。”小白不肯。管仲见莒兵有争斗之意，诚恐众寡不敌，佯装退走，突然弯弓搭箭，瞄准小白射去，小白大叫一声，口吐鲜血，倒在车上。鲍叔牙忙上前抢救。管仲亲见小白吐血倒下，急忙率兵飞驰而去。于是随同公子纠放心落意，缓缓而行。不料这一箭，只射中小白的带钩，小白佯装中箭，咬破舌尖，喷血倒下，连鲍叔牙都瞒过了。经过这场变故，公子小白改变装束，从小路疾驰，入齐先立为君，他就是历史上有名的齐桓公。齐桓公在乾时大败鲁庄公，然后遣书于鲁庄公，声称要统三军之众，压兵鲁境，请杀公子纠，结果公子纠被斩。管仲怀抱着富国家强社稷的理想被装

上槛车，随使臣回齐。他预料到鲁庄公必然反悔，将派兵追赶，而自己若为鲁国所擒必死无疑。于是心生一计，编制了一曲悠扬激昂的黄鹄之词，教役人们学唱这首歌，役人且歌且走，乐而忘倦，车驰马奔。居然一日行得两日路程，一行人飞速离了鲁境。鲁庄公果然追悔，但为时已晚。管仲出境后仰天长叹：“我今日乃再生也！”

回齐国后，鲍叔牙向齐桓公极力推荐管仲之才，齐桓公赦免了管仲射钩之罪，拜他为相。管仲任相后，首先致力于经济的发展，提出治国“必先富民”的政策。他提倡“仓廩实而知礼节，衣食足而知荣辱”，认为国家财力充足，远方之人会自动归附齐国，所以要积极开发荒地，种植庄稼。其次他在政治上，能根据当时的社会形势，从大处着眼，提出“尊周亲邻，攘夷扶弱”的战略方针。管仲采取的一系列措施，使齐国由一个分封在海滨的百里小国，成为春秋时期举足轻重的大国，展示了管仲治国安邦的雄才大略。

春秋时期，中国北方的少数民族山戎发展起来了，屡次南犯，成为中原各国的严重威胁。公元前664年，山戎统兵万骑，攻打燕国，想阻止燕国通齐。燕庄公抵敌不住，告急于齐。管仲认为出兵扫除山戎这一祸患是盟主义不容辞的责任，于是齐桓公率兵救燕。山戎闻齐师大至，掳掠大量财物解围而去。齐军和燕军北出蓟门关追击，先锋在山林中遭到山戎伏击，幸亏后续部队赶到将戎军杀散，避免了更大损失。管仲根据实际情况，及时改变策略，在伏龙山安营扎寨，用战车联结成车城，士卒居于其中，戎兵轮番进攻，都无法突破。山戎攻坚不力，就故伎重演，他们在齐军营寨前留下部分军队，士卒下马卧地，口中谩骂，目的是挑动齐军出战，引至山林，伏而击之。管仲识破其用心，将计就计，兵分三路出击，中路迎击阵前敌兵，左右两路相互接应，专门对付伏兵。山戎见齐军中路杀来，以为齐军中计，故意弃马而逃，但齐军却不追赶，鸣金归营。山戎

原来部署被打乱，伏兵只好出谷追击，这时齐军左右两路夹击伏兵，杀得山戎大败而逃。

齐军兼程西进，在追击中被敌诱兵之计，大军误入沙漠。此时天色将晚，但见白茫茫一片平沙，寒气逼人，狂风卷地，齐军前后两队相互失去联系。管仲让随行军士敲锣打鼓，使各队闻声来集，屯扎一处，挨到天晓。这荒漠一望无际，无法辨别方向，白日又天气炎热，没有饮水，全军将士焦急万分。管仲建议道：“我听说老马识途，燕马多从漠北而来，可能熟悉此地，挑选数匹马放行，大概可以寻见出路。”齐桓公依其言，取数匹老马，放之先行，军队紧随其后，果然走出险地。管仲从简单的常识中，悟出了排忧解难的奇谋良策，充分体现了他惊人的智慧。

齐军脱离险境后，直奔孤竹国，孤竹国国君以为齐军在沙漠中被消灭了，就领兵回到无棣城（今河北西北），躲避在山谷中的百姓也随着回城，一路上百姓熙熙攘攘，扶老携幼。管仲见此情景，顿生破敌之计，使将士数人假扮成百姓，随着人流混入城内，半夜举火为应。又分兵三路攻打东南西各门，只留北门让敌军逃跑，叫部分齐兵埋伏在北门之外。是夜，城中四四处火起，齐军内应砍开城门，放军马进城。孤竹国国君知事不济，便觅路逃跑，闻北门无兵，就从北门冲出。谁知被伏兵截住厮杀，孤竹国国君被斩。齐桓公灭了令支、孤竹，辟地500里，都赠于燕庄公。诸侯莫不畏齐之威，感其之德。在远征山戎的过程中，尽管山戎狡计频出，管仲却能以其人之道还治其人之身，总是比山戎计高一筹，取得了全面的胜利。

自周平王东迁以后，周朝王室虽然还保持着“天下宗主”的名义，但实际上地小贡少，十分贫弱，对各诸侯国的统治力量更加衰弱。而各诸侯国的势力却逐渐发展强大起来，并且发生了频繁的兼并战争。齐桓公也想成就霸业，管仲针对当时形势，为其制订了战略方针：“当今诸侯，强于齐者甚众，南

有荆楚，西有秦晋，然而他们自逞其雄，不知尊勤周王，所以不能称霸。周王室虽已衰微，但仍是天下的主人，东迁以来，诸侯不去朝拜，不知君父。大王可遣使朝周，请天子旨意，大会诸侯，奉天子以会诸侯，内尊王室，外攘四夷。对于诸侯各国，扶持衰弱小国，压制强横之国，昏乱不听从号令者，统率诸侯讨伐它。海内诸侯，都知道我们的无私，必共同朝于齐国。这样不动兵车，霸业就可成了。”

公元前684年，桓公遂以周王之命布告诸国，约定三月一日，共会于北杏（今山东阿县境）。管仲献策：“此番赴会，君奉王命，以临诸侯，根本不必用兵车。”到期，宋、陈、邾、蔡四国国君到会，见齐国未用兵车，相顾叹道：“齐桓公诚挚待人以致于此！”各自将本国兵车退驻20里之外。五国诸侯相见礼毕，订立盟约，济弱扶倾，以匡周室，推齐侯为盟主。管仲提出：“鲁、卫、郑、曹，故意违背王命，不来赴会，不可不讨。”齐桓公亲率王师伐鲁。管仲献计道：“鲁国的附庸遂国，国小而弱，若用重兵攻打，一朝可下。鲁国听说必然害怕，我们派一介之使至鲁，责备鲁君不来赴会。同时和鲁夫人通信，鲁夫人（文姜）自然想使儿子与娘家关系亲密，定会极力怂恿。鲁侯内迫母命，外惧兵威，必求会盟。”齐桓公发兵至遂国，一鼓而下，然后驻兵济水，鲁庄公畏惧，鲁夫人令其子约请会盟，鲁庄公只好向齐国修和请盟。齐桓公以汶水为界，把侵占的土地归还鲁国。诸侯听说两国会盟之事，都称赞齐桓公的信义。卫、曹、郑三国也谢罪请盟。至此，齐桓公威望布于天下，德名远播诸侯之中。公元前679年春，齐桓公听从管仲之计，大合宋、鲁、陈、卫、郑、许等国，在鄆地（今山东鄆城北），歃血为盟，始定盟主之号，天下莫不归心于齐。周天子赐齐侯为方伯、修姜太公之职，得以专事征伐。这标志着齐桓公在事实上已成为诸侯之长。

齐桓公霸名传至荆襄，楚成王也有志图

霸，屡屡派兵伐郑，欲图中原。管仲向齐桓公进言道：“我们伐楚必然要大域合诸侯，楚必有备。昔日蔡国得罪国君，您早想讨伐它了。楚国、蔡国接壤，我们可以讨蔡，乘机袭楚。兵法所云‘出其不意，攻其不备’。”公元前656年春，管仲率军讨蔡，蔡侯逃奔楚国。齐桓公率八国之师，望南而进，直达楚界。最后齐楚在召陵结盟。

经过近30年的苦心经营，管仲辅佐齐桓公“九合诸侯，一匡天下”。他在任齐相期间，在政治、经济、军事等诸多领域，都实行了大胆的改革，以达到富国强兵的目的。在处理对外交往中，根据当时社会的实际情况，提出“尊王攘夷”的外交政策，使齐国成为春秋时代第一个霸主之国。管仲的一系列改革在一定程度上顺应了社会历史发展的趋势，加速了封建制的形成，对中国古代社会的发展有一定促进作用。管仲以天下为己任的远大抱负、坚韧不拔的性格，权衡利弊、审时度势的风范，卓越的组织才能，被后世政治家奉为楷模；特别是相齐后奇策泉涌，智谋纵横，流传至今。

（韦 蔚）

## 孙 武

孙武，春秋末期著名军事家，约与孔子同时。字长卿，出身于名门望族的军事世家。后去齐归吴，淡泊功名，专事兵法研究。后被举荐，曾以《兵法》13篇见吴王阖庐，被任以为将，曾与伍子胥一道助吴攻楚，创造了不少以少胜多的战例，使吴国名显诸侯。他所著的《孙子兵法》是我国现存的最早最系统的兵书，而且也是世界上最早最系统的军事专著，对中国和世界的军事、文化都产生了广泛而深远的影响。

孙武原是齐国田氏家族的后裔。田氏是闻名天下的望族。孙武的祖父最初是一名大夫，在出兵征讨莒国（今山东莒梁一带）时立了大功，乃由齐景公封于乐安（今山东丘县之北），并赐孙姓，从此与田氏分开，成为独

立的一家。田氏家庭与陈氏、鲍氏家庭因争权夺势而发生武斗，虽然田氏家族获得了胜利，但孙武对本家的作法很不满意，同时对这种不光彩的“胜利”感到很惭愧，因而离开齐国而来到了吴国。

当时的吴国在今江苏北部到浙江南部一带，虽被称为蛮夷之邦，却物宝天华，生活富足。孙武在吴都以西、罗浮山以东一大片荒芜潮湿之地安家立业。孙武在山麓上兴建村落，开凿圳渠，改善排水系统，几年之间便使荒芜之地变成了渠水纵横的肥沃良田，村落也成了颇有名气的孙家村。

吴国人对孙武的贤者风范大为赞赏，他们向国王推荐，国王也觉得不能将能人弃之于草莽，便想委以高官，然而却都被孙武谢绝了。

孙武的志趣在于对战争史的研究。每当他遇见一位老一辈的人，总要打听昔日的战争情形，如果遇到曾经实地参加过战斗的人，一定请他讲一些实战的经验。他对历次战争胜利和失败的原因都细加揣摩，认真进行研究。

他常常把研究的心得写在笔记簿上，在大张的帛布上绘制交战地图，注明军队或军舰的配置及移动情况，标出战争的原因、经过和结果，有时还要加上自己的评语。经过长时间的搜集资料，脑子里有了初步概念之后，他又前往战场实地进行调查，印证已经获得的理性认识。他潜心地研究战争的战略和战术，渐渐形成了他的独特的军事思想。

——吴国与楚国关系一直比较紧张，曾多次发生或大或小的战争或摩擦，有一年吴王僚派公子光率兵在吴楚边境的巢地与楚军交锋，结果吴军大败。战争结束后，孙武曾向参战的人们查询了详细情形，他认为公子光为了激励士气，自告奋勇率先冲入敌阵，这是为将者宝贵的气质。然而他没有重视情报的作用，己不知彼，彼却知己，这就是失败的关键，知己知彼方能百战不殆。

第二年的春末，楚国纠集了顿、胡、

沈、蔡、陈、许等六个附庸国，组成了庞大的军力，意欲侵犯吴国。吴王僚仍派公子光为主帅与敌军对阵。公子光因上次吃了败仗，不免惴惴不安。这时，他的至交伍子胥来到孙家村拜访了他久已闻名的孙武，请他出山，但被孙武拒绝了。伍子胥再三坚请，孙武并不为所动，然而谈了他对战争的看法与预见。

孙武说：“这次吴、楚之战，从表面上看，楚国的优势大一些，七国联军，人多势大么。但是，人数越多，弱点也就越多。跟楚国联军的六国并非自愿的，而是慑于楚国的淫威，因而只能算是乌合之众，貌合神离，不会拼命的。而且，楚国这次任命的统帅薳越只是个庸碌的下大夫，不足畏惧。只要吴军在战术上取得优势，便有取胜的把握。这一点战前一定要全体官兵知晓，以长自己的军威。开战后，吴国的军队可以分出三支精锐的部队，先从敌军中选出最薄弱的三个军团，分别予以击破。这三个军团被击溃后，其它三个军团就会发生动摇，这样一来，被逼迫而参战的六国军队就会溃不成军，楚军也会变成惊弓之鸟。这时，吴军大举进攻，直捣楚军大本营，对方必将溃败无疑。”

孙武思索了一下，接着说道：“还有两点也是应该注意的。其一，为了麻痹对方，吴军的前锋部队不妨装得脆弱些，混乱些，而中卫以后的部队必须排得紧密，诱使对方产生轻敌心理，然后出其不意而歼之。其二，现在打仗都习惯于车战，在中原，因土质坚实、平坦，当然是可以的；在南方，步卒则可更为灵活些。战术要因地因时而异。”

伍子胥连连点头称是。

下个月在州来附近打起来了。公子光完全采用了孙武的战略和战术，结果把七国联军打得大败。公子光和伍子胥感慨地说：“真是运筹帷幄，决胜千里啊。”

周敬王六年，公子光发动政变，登上王位，改称阖庐，实行富国强兵的国策，吴国很快昌盛起来了。

伍子胥矢志灭楚，一直建议阖庐任用孙武，以成大事。阖庐命人重金礼聘孙武，孙武来到王宫后，仍不愿仕，后被阖庐用语言所激，孙武当场训练妇人女子操戈习战。阖庐当即将后宫美女180人交与孙武，自己与群臣饶有兴味地在观云台上观看。

孙武将阖庐的两个宠姬左姬和右姬充作队长，然后宣布军纪，命两队女兵戎装持剑拿盾，按命令行事。

孙武升帐后，下令说：“听到敲第一遍鼓时，两队要一齐前进；听到二遍鼓时，左队要右转，右队要左转，听到三遍鼓时，所有将士都要挺剑持盾作出争战之势，听到锣声，可以回复原地。”美女们觉得新鲜好玩，掩口而笑。

鸣一遍鼓时，宫女们有的站了起来，有的仍然坐着，嬉嬉哈哈。

鸣二遍鼓时，宫女们东倒西歪，嬉笑如故。

孙武亲自击鼓，再申军纪，宫女们更加笑不可支。

孙武根据军纪，宣布说：士兵不服从命令，两名队长应当斩首。

阖庐在观云台上见状，大吃一惊，派人飞跑到校场，要求刀下留人。孙武冷冷回答说，军中无戏言，然后将二姬斩首示众。

孙武另选二位宫女担任队长，鸣鼓继续操练，美女们个个凛服，全场肃穆异常。

阖庐虽然失去了两个宠姬有些不悦，但对孙武的本事却是颇为佩服。伍子胥又向吴王推荐了孙武的《兵法》13篇，阖庐更加钦敬。

孙武终于出仕于吴，阖庐给他的身分是“客卿”，职位是将军。

孙武竭尽忠诚地工作，一面加紧训练常备军；一面清查全国户口，选择精壮的勇士，作为后备军加以训练。

孙武审时度势，知己知彼，决不打无把握之仗。当条件尚未成熟之际，阖庐与伍子胥等人坚持要攻打楚国，孙武力陈利害，有

效地阻止了吴国的军事盲动。

阖庐即位第十年的冬天，吴国已经相当强大而楚国却内乱不已，这时孙武为阖庐拟订了一套伐楚的计划。

两国交锋后，吴军先锋与楚军激战，获得了胜利，吴军上下一片欢腾，孙武却十分冷静，他料定楚军虽初败，却未伤根本，今夜一定偷袭吴军大营。然后将大营布置成“空城计”，重兵却在要害处埋伏待机而动。事情发展果如孙武所料，结果楚军大败，元气亦大伤。其后，在吴军逼进楚都郢时，孙武又计淹纪南城，使郢失去倚角之势，不久即为吴军所破。

伐楚成功后，阖庐大会群臣，论破楚之功，首推孙武，并要加官进爵，光采门第。孙武坚辞不就，在其一再要求之下，退居乡里。

阖庐为了酬答孙武在奠定吴国基础和伐楚争霸天下大业中所建立的殊勋，把邻近越国的一个叫做福春的地方赠送给他，做为 he 世居的领地。

后来阖庐在对越国作战中，死于沙场。他的儿子夫差即位，夫差养精蓄锐，矢志复仇。大举伐越前，伍子胥曾到福春去向孙武讨教，孙武纵论两国形势和吴国应取的策略与步骤。后来的战争进程，果如孙武所料，吴军大胜，越王勾践夫妇到吴为奴。只是由于吴将伯嚭受越人贿赂，没有对越“穷追不舍”，说服夫差保住了越国，以致于数年后，吴反被越所灭。

孙武以其卓越的才智、深刻的洞察力与超人的远见和谋略，在中国古代战争史上写下了光彩夺目的一页。他的伟大军事名著《孙子兵法》则被海内外普遍称誉为“宏阔深远”，“诡谲奥深”，是“最早最优秀的军事著作”。

(石翔)

## 重耳

重耳(公元前697—前628),姬姓,名重耳,即晋文公,是春秋时期由流亡而终成霸业的名君。

晋献公晚年,听信宠爱的妃子骊姬的谗言,逼死公子申生。为了让亲生子奚齐继承君位,又陷害公子重耳和夷吾。逼得重耳和夷吾不得不躲避到自己的封地蒲城和屈城。献公又派宦臣寺人披追杀重耳。重耳在舅舅狐偃及谋臣赵衰、颠颉、魏武子、司空季子等人的陪同下,逃离蒲城,开始了流亡生活。

在重耳流亡狄国的第五年,晋献公死。重耳本欲乘机回国夺取君位,但因条件不成熟,不便行动。秦穆公为探测重耳的动向,派公子子显赴重耳住处吊唁。子显向重耳转述穆公的话说:“寡人听到过这样的话:‘丧失国家,常在此时;取得国家,也常在此时。’虽然您庄重地处在服丧之中,可是在外流亡也不宜过久,争取君位的时机不可失掉。您还是考虑考虑吧!”重耳为了掩饰自己的心思,摆出仁爱思亲的面孔对子显说:“我感激贵国君主以仁慈之心吊唁了亡命之臣重耳。我流亡在外,父亲死了不能参与葬礼,用哭泣表示哀痛,使得贵国君主为我忧虑。死了父亲,我若怀有别的想法,就会辜负贵国君主对我的情义。”说罢就地上叩头,但不拜谢子显。哭着站起来也不同子显交谈。子显回国向秦穆公报告了情况,秦穆公赞扬说:“公子重耳真是个仁义之人啊!叩头不拜谢宾客,就是表示不愿成为君主的继承人;哭着站起来,就是表示哀悼父亲;不和客人谈话,就表示他抛弃了个人私利。”

在狄国寄居了12年,重耳要去东方的齐国,途经卫国,卫文公不加礼遇。从五鹿经过,饥渴难忍,只好向乡下人讨饭,乡下人给他一个泥土块。

重耳到达齐国,齐桓公以礼接待,给他娶妻,赠送80匹马。到曹、宋、郑等国都不礼遇他。

到楚国,楚成王设宴招待他。在宴席上,成王问重耳:“公子回到晋国,用什么来酬谢我呢?”重耳回答:“男女奴仆,宝玉丝绸,君王已经有了;鸟羽皮毛,象牙犀革都是贵国的出产。晋国所有的,都是君王享用的剩余,我能以什么来报答你呢?”成王说:“尽管如此。总得拿点什么酬谢我吧?”重耳说:“若托君王的福,回到晋国,一旦晋楚两国演习军事,在中原相遇,我将后退90里。若还得不到君王的宽大,我将左手提鞭执弓,右边挂着弓套箭袋,跟你应酬应酬。”这不卑不亢的话激怒了大夫子玉,他劝成王杀掉重耳。楚成王从大局考虑,还是把重耳送到秦国去了。

到了秦国,穆公热情接待他,甚至把5个女儿嫁给他。公元前636年,重耳在秦国大军的护送下,回国即位。当走到黄河边时,狐偃以为重耳回国为君,大功已成,担心鸟尽弓藏,兔死狗烹,就请求抽身退隐。重耳看出舅舅的心思,就说:“如果我和舅舅不一心,任凭河神惩罚!”他的誓言,使跟随他流亡19年的老臣消除了顾虑,一心为他图谋霸业,竭忠尽力。

重耳即位的第二天,立即派人刺死了逃亡高粱(今山西临汾)的晋怀公,以绝后患。

修政教民,是治国之本。文公即位后,将很大精力放在教育民众上。首先,有美味酒肉,与宫内人共同享受,就连杀一头牛都要遍赐都城的人,一年织成的布帛都分给士兵做服装。放宽城关管制、集市税收及刑罚;民众丢失财产,官府派人追查;布施市民,救济饥荒,使百姓安居乐业。不论亲贵,有功必赏,有罪必罚。有一次文公下令在圃陆围猎,约定以日中为集合的期限,迟到者按军法处置。曾跟随文公流亡的近臣颠颉,恰恰迟到了,文公流着泪下令斩了颠颉,示众明法。之后,百姓都害怕地说:“君主对颠颉爱重那么深,都按法治罪,何况我们,有什么值得留情的呢?”文公为进一步取信于民,决定攻打原国。他令军队带三天的粮食,



约定三天之内打下原国。打了三天，没有攻下，文公即令退兵。间谍从城里出来报告说：“原国准备投降了。”军吏们规劝文公说：“原国城内已经粮食枯竭，力量耗尽，还是暂且等一等吧。”文公说：“信用是国家之宝，百姓靠它庇护。我同将士们约定三天期限，若不开原国，将失掉我的信用。得到原国而失掉信用，用什么庇护百姓呢？我不能这样做。”于是退兵30里。原国人听到之后，说：“象这样守信誉的君主，怎能不归顺他呢？”于是原国人投降了晋国。

晋文公即位的第二年，周王室发生内乱。周襄王被异母弟王子带勾结狄人赶跑，逃到郑国避难。这时的周王室虽已衰微，但名义上还是“天下宗主”，各诸侯国不得不尊崇他。谁得到了“尊王”的大旗，谁就可以取得号令诸侯的威权。晋国得到周王的告急信，狐偃就对文公说：“继续祖先文侯的事业，在诸侯中宣扬我们的威信，现在就可以行动了。”文公即刻发兵直攻阳樊。这时秦穆公也已率大军到了黄河边，准备送周天子回国。文公得知，马上派人去见穆公，说晋国已经发兵护送周天子，请秦国退兵。秦军退回，文公用右翼部队包围温国，在温邑抓获王子带，在隰城杀死，左翼部队迎接周天子，护送回到王都。周王赐给晋国阳樊、温原、欒茅的田地，从此晋国在太行山南也有了疆土。

公元前633年冬，楚成王会合几个诸侯国围攻宋国。宋国派公孙固到晋求救。晋大夫先轸向文公建议说：“报答流亡时宋国对我们的施舍，解救危难，取得威望，成就霸业，就在此一举了。”狐偃献策说：“楚国刚刚得到曹国，又新近在卫国娶妻。我们若攻打曹、卫，楚定会派兵援助，那么齐国和宋国就可免受威胁了。”文公于是发兵进攻曹、卫，迫楚北上。鲁僖公二十八年（公元前632年）冬，晋军攻占了卫的五鹿和曹的都城，捉获了曹共公。这时宋再次派人向晋求援。文公与大臣商量说：“宋来求援，丢下不管会断绝两国

交往；请楚撤兵，楚又不答应；秦、齐两国不同意我们与楚交锋，怎么办呢？”大臣们出谋献策，各抒己见，最后决定让宋去贿赂秦、齐，让他们出面劝楚退兵。晋扣留曹共公，将曹、卫的土地分给宋国一部分，楚不忍失去两个友邦，一定不会接受齐、秦的劝说，致使齐、秦恼怒楚国。齐、秦两国也出兵参战了。晋文公率大军向包围宋的楚军逼进。楚成王见晋军来势凶猛，告诫前线统帅子玉不要逼近晋军。然而子玉执意要与晋军决战，他派大夫宛春到晋军说：“如果晋恢复卫君的君位，让曹国从新建立国家，子玉就解除对宋的包围。”文公采纳先轸的建议，拘禁使臣宛春，以激怒子玉，暗地答应恢复曹、卫，以拆散楚与曹、卫的关系。曹、卫果然宣布与楚绝交。楚军统帅又气又恼，率领楚、陈、蔡、申等诸侯国联军，自宋都城商丘向曹都城陶丘猛扑，企图一举消灭晋军。

文公见楚军来势汹汹，齐、秦两国盟军尚未到达，决定后退，以待时机。有些将士对文公的作法很生气，认为国君躲避臣子，是耻辱的行动。况且楚军长年在外国征战，士气已经衰落。狐偃解释说：“军队为正义而战就理直气壮，为不义而战就理屈气衰，岂在出兵时间的长短？若无当年楚国的恩德，就不会有今天。退避三舍，就是为了报答恩德。我们忘恩负义取消诺言，以此来保护楚的敌人，那么就是我们不义而楚却正义了。如果我军后退之后，楚军撤回，这样我们的目的已达到，还能要求什么呢？若楚国不肯撤军，做国君的后退，做臣子的还要进犯，那么正义就不在楚军了。”于是晋军后退90里，一直到城濮。子玉率军追到城濮。

城濮之战，楚军大败。周天子赐给晋文公一辆大礼车，一辆大战车和配套的服饰仪仗，彤弓一把，彤矢百支，玄弓一把，玄矢千支，美酒一坛，勇士300，任命文公为诸侯首领，命他安抚四方诸侯，督察和惩治危害周王的人。从此晋文公继齐桓公之后成为诸侯霸主。



骊姬之乱后，重耳漫长而坎坷的流亡生涯，使他从一个养尊处优、贪图安逸、缺少阅历的贵族公子，磨练成为一个成熟的政治家。城濮之战，他采取“后发制人”的策略，从政治上争取主动地位，从军事上避开锋芒，诱敌深入，保存实力，待时机有利，三军一鼓作气，大败楚军，充分显示了他的非凡的政治和军事才能，一跃成为中原霸主。

(张在义)

## 晏 婴

晏子名婴，字平仲，今山东高密县人。生年不详，卒于公元前500年(齐景公四十八年)。晏子处于风云变幻的春秋时代，做过齐国的相国(相当于后代的宰相)，历事齐灵公、齐庄公和齐景公，是继管仲之后齐国的名相，也是我国古代杰出的政治家、外交家和谋略家。

齐国曾是春秋时的强国，一度称霸，然而到了齐庄公时国势已经逐渐式微。

齐庄公拒不纳谏，恣意寻欢淫乐，重用奸佞而疏远骨鲠之臣，晏子一再劝导，齐庄公不但不听，反而渐生嫌烦之意。晏子无奈，将家中贵重物品上充国库，其余尽散周围百姓，携带妻儿老小到东海之滨的一个小村，靠打鱼和耕田为生，过着清苦而平静的生活。

几年后，昏聩而无能的齐庄公终于被他手下大臣崔杼所杀。对于晏子洞察深远的远见卓识和廉洁无私的风范，齐人都很敬重，也颇为怀念。

晏子听说齐庄公被弑，不顾个人安危，风尘仆仆地前往齐都去吊唁齐庄公。

崔杼策划立景公为国君，自己为右相。为了巩固权势、树立威风，他把满朝文武大臣驱赶到太公庙，逼迫大家宣誓忠于并服从他。文武百官慑于他的淫威，都乖乖地解下兵器，歃血而盟，个别不服者当场即被杀掉。

轮到晏子了。大家屏住呼吸，都想看看这位无畏的有识之士在枪林剑戟的威逼下，

在生死攸关的时刻说些什么，做些什么。不少善良的人为他捏着一把汗。晏子从容地端起一碗血杯，义愤填膺地对天悲叹道：“可恨！崔杼弑君无道！凡为虎作伥、助纣为虐者均不得好死！”说罢，便将一杯盟血喝了下去，怒目而向崔杼等人。

晏子的这一壮举把百官吓得面无人色，把崔杼气得怒火中烧，还是他的一个心腹陈述利害，崔杼才暂息杀死晏子之念。

晏子离开太公庙乘车而走。他的随从们担心崔杼变卦，快马加鞭地急着逃命，晏子却镇静地笑着说：“不必慌张。快，不一定生；慢，不一定死。鹿虽然生活在山野，跑得飞快，可是它的肉却到了厨房。是吗？”

晏子是位具有爱民思想的政治家。他认为，应该体察穷苦百姓的温饱疾苦，反对国君和贵族的穷奢极欲以及官府对百姓的残酷压榨。他经常极其巧妙、因势利导地讽劝齐景公关心百姓，发展生产，不用或少用苛捐与酷刑，有时虽然也能使景公有所收敛，然而时间一长，加上谄媚之徒的迷惑，景公追求享受、吃喝玩乐的思想便又抬头。他不顾大荒之年百姓无法糊口的残酷现实，也不听晏子应打开国库发粮救灾的建议，却要大兴土木，为自己修造楼台亭阁，以资淫乐玩赏。

令人奇怪的是，一向反对此等事的晏子却主动请求要负责修建工程。景公虽然疑疑惑惑，还是答应了晏子的要求。

于是晏子下令增加修造工程民工的工钱，故意放慢工程的进度，定期更换民工，用这种办法使民工多得工钱，借以维持生活。历经3年，亭台楼阁修成了，齐景公很高兴，老百姓也度过了灾年。这是晏子巧妙安排、善于变通的结果。人们都感激地说：“晏子真是一位有智谋的高明的相国啊！”

齐景公派晏子出使楚国。楚灵王以楚国强大，小国来朝，又听说晏子身材瘦弱矮小却闻名于诸侯各国，便想拿他开个玩笑，羞辱一番，借以显示楚国的威风。

晏子来到郢都东门，见城门不开，使命

驾车人叫门。早已安排好的守门侍者出来，指着刚刚凿开的小侧门说：“相国出入此门，宽绰有余，为什么还要开大门呢？”晏子一看心里便明白了，他站着不动，提高了嗓门说道：“这是狗门，不是人所出人之门！出使到狗国，才从狗门进；出使到人国，应从人门而入！”

晏子进宫后，楚灵王见他其貌不扬，便用嘲弄的口气说：“嘻嘻，我看你们齐国是没人了吧？”

晏子见楚灵王如此傲慢无礼，本想痛斥他几句，但一想自己身为堂堂使臣，处处要讲究礼仪，于是不慌不忙地扫视了楚王和众人一眼，正颜厉色地说：“我国地广人多，国都临淄城内的人呵气即可成云，挥汗即可为雨，人们走在路上肩擦肩、脚挨脚，您怎么能说我们齐国没人呢？”

楚灵王哈哈大笑，说：“既然人材济济，为啥把你派到我这里来呀？哈哈……”群臣也跟着一齐嬉笑。

晏子沉着冷静，有板有眼地说：“我们齐国有个规矩，派往礼仪之邦去朝见德高望重的君王，要挑选体面能干的人为使；派往粗野无礼之国去拜见昏庸无能的君王，则挑选丑陋无才的人为使。我在齐国无德无能，人又矮小，所以只配充当出访楚国的使臣！”

楚王的面孔胀得紫红，尴尬地命人摆上酒席，招待晏子。俩人正待举杯对饮，突然差役押着一个被捆绑的男子从殿下经过。楚王怒斥几句后又假装漫不经心地问道：“他犯了什么罪？”

差役慌忙回答：“他犯了偷窃罪。”

楚王放下酒杯，又问道：“他是哪国人？”

“他是齐国人。”差役故意把“齐国”二字喊得很响。

“你们齐国人都善于偷盗吗？”楚王用眼睛斜睨着晏子，得意地问道。

晏子早已看出了这场戏的破绽，知道这又是楚王侮辱齐国的诡计，便反唇相讥道：“大王，我听说桔子树生长在淮南，它就结

出桔子；如果移栽到淮北，它就结出枳子。它们虽然叶子相似，果实的味道却大不相同。如今，齐国人生长在齐国不做盗贼，来到楚国后却做起盗贼来，难道楚国的水土使人做盗贼吗？”

楚王瞠目结舌，十分尴尬。他命人重新斟酒，讪讪地说：“先生无异于圣人，和圣人是不能开玩笑的，我是自讨没趣……”

晏子在强大的楚国的宫廷，受到侮辱，能够从容不迫，用巧妙的辞令，给楚王以有力的反击，维护了国家的尊严，其勇气和机智，是值得赞佩的，显示了我国古代外交家的风采。

晏子虽然思贤若渴，十分尊重并爱惜人才，随时把贤人能士推荐给景公，为国家出力，然而对于那些虎狼之辈却决不心慈手软，遇有机会便设计翦除，“二桃杀三士”便是其中著名的故事。

古冶子、田开疆和公孙接三人是景公手下武将，力大无穷，勇猛过人，号称“齐邦三杰”。三人臭味相投，自恃有功势大，在朝傲视百官，在下欺压百姓，无恶不作。晏子多次登门相劝，他们却蛮不讲理，丝毫不为所动。晏子深以为忧，然而事关重大，只好隐忍，等待时机。

一次，鲁昭公由鲁国大夫叔孙婁陪同访问齐国。齐景公设宴款待，晏子、“齐邦三杰”以及齐国重要官吏陪坐。“三杰”旁若无人，傲慢无礼，晏子内心焦急，同时也想出了一条妙计，决定今天就除去这三个国家的灾星。

齐鲁两国君酒至半酣时，晏子派人到园中摘来6个金桃。桃子个大，颜色火红，香气袭人。景公和鲁昭公各吃了一个，鲁国的大夫叔孙婁和晏子也各吃了一个。晏子这时指着剩下的两个桃子，向景公建议说：“盘子还有2个桃子，大王可传令群臣，谁的功劳大，谁就吃桃，好不好？”

景公允奏。公孙接首先站出来，历数自己功劳，景公让他吃了一个桃子。接着古冶

子也站了出来，陈述自己功高盖天，晏子赶忙替景公为他赐酒赏桃，他眉飞色舞地站在一旁。“齐邦三杰”中的田开疆一看桃子吃光，大叫大嚷，大讲了一通自己的功劳后，说，“我南征北伐，血战成功，反而吃不到桃子，在两位国君面前受辱，遭人耻笑，我还有什么面目站在朝廷之上？”说罢自刎身亡。接着公孙接和古冶子也因与田开疆曾结为生死弟兄而先后自尽。

铲除齐国的三个凶顽后，晏子为景公推荐了一位文武双全的大将，为齐国的江山大业立下了汗马功劳，威震于一时，他就是田穰苴。

晏子的一生时时处处都闪耀着智慧谋略的光采，成为我国古代文化的宝贵遗产。司马迁在《管晏列传》中感慨地说：“……假令晏子而在，余虽为之执鞭，所祈慕焉。”敬佩仰慕之情，溢于言表。

(石翔)

## 阖庐

阖庐(?—公元前496)，又作阖闾。吴国国王(公元前514—公元前496年在位)。姬姓，名光，又称公子光。他重用孙武、伍子胥等人改革军政，使国力一度强盛。曾灭徐国(今安徽泗县)，攻破楚郢都(今湖北江陵西北)。破郢后，由于秦国发兵救楚及其弟夫概反叛而大受挫折。后在醉李(今浙江嘉兴西南)被越王勾践击败，受伤身亡。阖庐苦心谋划并当机立断地发动宫廷政变后，能够知人善任、励精图治，讲究斗争策略和艺术，使吴国在诸侯中称霸一时，尽管有其残暴、诡谲的一面，却仍不失为一个有作为的政治谋略家。

春秋时的吴国，位于长江以南，即今江苏浙江一带。吴国国王诸樊在位23年，临死时没有把王位传给儿子公子光，却传给了自己的大兄弟余祭。余祭在位仅仅5年便死了，他将王位也传给了自己的兄弟余昧。余昧在位10年而卒，他的儿子僚继承了王位，成了

吴王僚。

公子光眼睁睁地看着本应属于自己的王位，竟一而再、再而三地为他人所得，心如油烹，十分痛苦。然而一位有谋略的政治家，审时度势是其重要的素质。公子光深知自己羽翼未丰，朝廷里缺少忠耿之士，手下也没有多少能人，在条件不成熟的时候，只能把不平 and 痛苦埋在心底，一切隐忍而行。

公子光在准备条件、创造条件。他秘密地网罗了不少人才，如伍子胥、孙武、专诸等等，他们经常策划于密室，时刻准备举事。

条件终于成熟了。公子光说服了吴王僚发兵攻打楚国，而且又说服了吴王僚将他的儿子掩余、烛庸派到前线去与楚兵厮杀，将他的长子庆忌派到郑、卫两国去说服他们一起伐楚，这样调虎离山的结果是吴都空虚了，一切都可以按计划实施了。

公子光热情地邀请吴王僚来府上赴宴，宴会上不但有美酒美女，而且还有吴王僚最爱吃的太湖蒸鱼。正当吴王僚酒至半酣时，一位侍者恭恭敬敬地端上来一个大银盘，里面盛着的也正是香味扑鼻的太湖蒸鱼，还没等吴王僚品尝这美妙的菜肴，侍者突然从鱼腹中取出一把匕首，吴王僚惨叫一声便一命呜呼了。

政变成功了。公子光一下子变成了吴王阖庐。为他在政变中而粉身碎骨的义士专诸(就是那位进鱼的“侍者”)的儿子专毅被任命为上卿，几年来一直殚心竭虑为他出谋划策的伍子胥被任命为“行人”，参赞内政、外交等国家大事。阖庐提出了“富国强兵”的政治主张，散财发粟，赈济穷苦百姓，使刚刚经过一场政变动乱的国家很快便安定下来了。

为了进一步巩固统治地位，耀武扬威于天下，阖庐决定建造新都。他派伍子胥为总监，在姑苏山东北30里处，建造了一座周围47里的大城，设有东(娄门、匠门)、南(盘门、蛇门)、西(阊门、胥门)、北(齐门、平门)八个城门。国都从梅里迁来此地(即今江苏省苏州市)，城中宫阙巍峨，前朝后市，左

有祖宗庙宇，右有祭祀场所，大小仓库俱有，储备殷厚。阖庐还特意下令要辟有教习之处，专事教人操习战阵，练习射箭及防御的本事。一时间国运昌盛，不少小国为之侧目。

虽然如此，阖庐仍感食不甘味，寝不安席，原来他的心腹大患未除，始终让他心神不安。僚的三个儿子中，掩余、烛庸不足为患，庆忌却有万夫不当之勇，而且性情刚烈，据说正在国外操练兵马，发誓要灭吴并枭其仇人的首级。后来，伍子胥向阖庐推荐了一个人，并一起研究、制定了一个谋刺庆忌的方案。

伍子胥所荐之人是义士要离。几天后，要离来到吴王宫廷，故意与阖庐顶撞，被阖庐命人砍去一条胳膊，并将要离之妻逮捕入狱。不几天又将她斩首于市曹，吴人皆知。

要离一路风尘，奔出吴境，逢人诉冤，得知庆忌在卫国，于是前去投奔。庆忌疑心有诈，要离以独臂示之，密探亦向庆忌报告说要离之妻被斩，庆忌始信。要离说，伍子胥立志灭楚，但吴王阖庐不出兵，两人之间遂生矛盾，应趁此良机攻吴，以报仇雪恨。

庆忌于是尽出其兵，顺江伐吴。庆忌坐在船头，要离执矛侍立。等到后船离得稍远时，忽然江中刮起一阵怪风，要离转身立于上风，借助风势以矛刺庆忌，透入心窝，穿出背外。庆忌忍痛倒提要离，本欲溺死，后又放下，并嘱咐手下人说：“这是天下的勇士，不能一日而死两位勇士，你们不要加害于他。”说完拔矛，血流如注而死。庆忌临死之时要成就要离之名，要离却说：“我杀妻以求事奉吴王是不仁；为新王而杀旧王之子是不义；欲成人之事而自残毁家是不智，有这三条恶德，我还有什么面目苟活在世上呢？”说罢断足割喉投江而死。

阖庐的心腹大患已除，国内安定，经济富足，这样，在阖庐即王位的第九年，他纠合唐、蔡两个小国的部队，任命孙武为军师，伍子胥、伯嚭为将军，倾其全国的军队，大

规模地伐楚，并于当年冬天攻破郢都，楚昭王仓皇逃走。阖庐进入楚王之宫殿，百官拜贺完毕之后，大开酒宴，歌舞助兴，喜不自胜。当晚阖庐就住在楚王宫，奸淫了楚王的夫人。伍子胥、伯嚭等也分别占据了楚国官员的府邸，掠其财宝，淫其妻女。唐、蔡两国国王更是将楚国的金银财宝恣意运取，狼藉道路。

楚昭王亡命于云梦泽。楚大夫申包胥到北方大国秦搬来救兵，往救楚国，吴兵只好与秦军交锋，苦战数月，不见分晓。

这时，阖庐的弟弟夫概心想，吴国这一次是倾巢而出，国内空虚，何不乘此机会，杀回吴都，自己称王呢？反正吴国也有传王位于兄弟的传统，于是他率兵返国，占了吴都，宣布为王。

阖庐只得从楚国撤兵，回国扑灭叛乱之火。

然而事情远非那么简单。原来，吴都从阖庐即位起便大兴土木，花费了很多财力和人力，宫殿城郭不但十分壮丽而且十分坚固。城内储备也相当殷实，对于防守者来讲，占据着很大优势。短期内如果攻打不下来，楚国、越国就可能趁吴乱而发兵报复，其它邻国也会有动作，凶多吉少。为今之计，最重要的是把夫概引出来，在吴都之外消灭他，这才是上上之策。

阖庐接受了孙武的建议，他们首先派人在太湖弄一些船只，每天夜晚时分便在船上燃着盆火，有一种向吴都进击的气势。成百上千的盆火在黑暗中晃来荡去，看起来既神秘又恐怖。吴都的居民和士兵为此不安而且恐慌，于是各种谣言蜂起，夫概有点沉不住气了。更为可怕的是太湖上的怪异现象夜夜如此，弄得人心惶惶不可终日，夫概恨得咬牙切齿，几乎要按捺不住了。

不久，有情报传来，说阖庐要取道地埭来攻吴都。所谓地埭实际上是太湖的一条长堤。夫概心想，阖庐号称十万大军，无法在地埭施展，这正是我以少胜多的天赐良机。

于是他安排了一支精锐部队，扼住地块东边入口，企图狠狠地打击一下阖庐。

不料，阖庐搞了一个车战的战术。成排的战车隆隆前进，士兵躲在车上盾牌后面，把骤雨般的利箭射向敌人。夫概士兵没有准备，死伤无数，只好撤兵杀回都城。可是在太湖上昼息夜出的阖庐士兵在太子波率领下，这时已占领了吴都。夫概见状，狼狈逃走。阖庐进入吴都，取得了扫除叛逆的巨大胜利。

阖庐败楚平叛，声震中原，国威大振。于是他又开始穷兵黩武，连续对越作战，后在醉李受伤，气绝身亡。

(石翔)

## 伍子胥

伍子胥(?—公元前484)，名员，字子胥，楚大夫伍奢次子，后为吴国大夫。伍子胥一生良谋迭出，妙计泉涌，是历史上罕见的智勇兼备的名将。

伍子胥的父亲伍奢出身于楚国的名门望族，是位敢于谏诤的忠义之臣。因被奸臣费无忌谗陷，楚平王在京城将其下了大狱。费无忌为了斩草除根，又怂恿楚平王必须将伍奢的两个儿子置于死地。楚平王于是从狱中提出伍奢，备好纸笔，逼迫伍奢写信骗他的两个儿子赴京，伍奢无奈，只好从命。

伍胥的两个儿子伍尚和伍员当时都在边境小城城父。他们已经听说父亲被诬下狱的事，正当凄惶之际，楚王的使者来了，他一见到伍尚便连连贺喜，说道：“国王听信人言，将令父囚禁，群臣保举，伍家又是三世忠臣，国王惭愧莫及，要封令尊大人为相国，同时改封你为鸿都侯，你弟弟为盖侯。令尊大人思子心切，特地写了信，要你们赶紧进京，既可父子团圆，又可封官进爵，快走吧！”

伍尚看了父亲的亲笔信，大喜过望。弟弟伍员却长思不语，然后果断地对哥哥说：“父亲如果能免一死，已是万幸，我俩没什么功劳，国王为什么还要封侯？这一定是诱

”他看着我们如果进京，必死无疑。”他看着伍尚狐疑的神情后，慢慢然而却是坚定地说：“楚王害怕我们兄弟在外，必不敢轻易杀害父亲，如果我们自投罗网，那就是在加速父亲的死亡！”

伍尚不相信弟弟的判断，和使者进了京城。伍员却一身素服，背上弓箭，连夜离家出逃，开始了奔波于江湖的亡命生涯。

伍子胥离家不到半日，楚兵已将他家围住，搜查不得，便向东疾驶而去。

在楚之都城郢，伍奢和他的长子伍尚在市曹被斩首。

楚平王复派三千壮士继续追杀伍子胥。伍子胥奔至长江边，将自己所穿的素衣挂在江边的柳树上，把足下的官靴弃于江边。追兵茫然不知所往，有的认为他已投江而死，只好将他的衣靴带回完命。

楚平王和费无忌还是不放心的，向全国出榜命令：捕获伍子胥者赏赐五万石粮食并加官上大夫，窝藏或知情不报，全家处斩。一时间全国各地特别是关隘要道，风声十分紧急。

伍子胥昼伏夜行，历尽艰辛，终于来到了楚吴交界的昭关。这里有重兵把守，盘查得甚为严细。伍子胥无计过关，焦虑愁苦，据说一夜间头发全白了。幸得一位长者相助，找了一个和他相貌酷似的人去关隘招摇吸引官兵的注意力，伍子胥则面涂微黑色易容易服，于混乱中巧过昭关。

伍子胥千辛万苦，终于辗转来到吴国都城。然而茫茫人海，举目无亲，形象狼狈，命运凄惨。想来想去，伍子胥干脆把自己打扮成了一个行乞之人，然而他这个乞丐与众不同，他会吹箫，而且音色婉转，凄楚哀伤，颇为动人。他一边吹箫，一边还引吭高歌，备述自己的遭遇。他达到了目的：引起了人们的注意。

注意起吹箫行乞的人是吴市吏被离。被离是吴王僚堂兄公子光安插到市场的密使，因其善于相面，专门秘密地为公子光收罗奇

才豪杰，以为己用。

公子光是仅次于吴王的人物，他早就蓄有弑王反叛之心，只因条件不成熟，隐忍至今。当被离将伍子胥推荐给他时，他很高兴。伍子胥也深深地了解公子光的内心隐秘，决定投靠他，利用吴国王族之间的矛盾，发挥自己经天纬地的奇才，实现复仇雪恨的大计。

两人谈得非常投机，伍子胥最后说：“我想为公子效力的最好途径是为公子网罗一些人才，我准备从明天起就到各地去明察暗访，使天下的壮士贤达皆为公子所用，聊表我对公子知遇之恩的区区微忱。”公子光激动地握住了伍子胥的双手，说：“先生助我，万事可矣！”

从此，伍子胥夜以继日地在外奔波，大城小邑，几乎都留下了他的足迹。名闻天下的刀匠干将、欧冶子，壮士专诸等等都成了伍子胥的至交。最重要的是，伍子胥经过许许多多的曲折，终于将孙武这位归隐田居的杰出的军事家请了出来，在灭楚强吴的事业中，发挥了巨大的作用。

伍子胥在吴国内外遍访名士贤达和勇夫壮汉，不但得到了公子光的信赖为其日后的大业奠定了雄厚的人才基础，而且使自己在吴国也站稳了脚跟，打开了局面，立于不败之地。

经过长时间的、周密的策划，伍子胥终于帮助公子光发动了一场血腥的宫廷政变，政变成功后，做了吴王的公子光改名为阖庐，在大赏有功之臣之际，因伍子胥是楚人，为待之以客礼，封之为“行人”之职，主持内政、外交、军事等一切军国大事。市吏被离当初在市场上发现并举荐伍子胥有功，封为大夫之职。

阖庐即位第十年的冬天，在伍子胥多次说劝的情况下，吴军浩浩荡荡地大举进攻楚国。一路上斩将夺隘，势如破竹，时间不长，就兵逼楚都。吴王阖庐聚集诸将，讨略攻郢方略。伍子胥说：“楚国虽然屡屡失败，但是

郢都却是坚固的，而且三城联络，互为倚角，强攻未必能下。西边有鲁洑江，是人郢必经之路，必有重兵把守，我们可以让开。臣意是从北面进军，分军为三：一军攻打麦城，一军攻打纪南城，大王率大军直捣郢都，楚人顾此失彼，二城若破，郢都则指日可待了。”孙武听罢，说：“子胥妙计，取胜之道。”阖庐于是派伍子胥和公子山引兵一万去攻麦城，孙武和夫概攻纪南城，阖庐和伯嚭引大军攻打郢都。

伍子胥率军到了麦城附近，仔细观察后，他将部队分为两队，分别在麦城东西以石土草束等物筑起两座小城，以当营垒。东城狭长、样子象驴，称为“驴城”，西城呈圆型，样子象磨，名曰“磨城”。公子山等将领不解其意，伍子胥笑道：“东驴西磨，何患‘麦’之不下耶？”

麦城守将斗巢听说吴兵东西筑城，急率楚兵来争，谁知二城已立，坚固得如同堡垒。斗巢回师麦城，正遇伍子胥引兵攻城，两军交锋不几回合，伍子胥佯败溃逃，斗巢领兵入城，混乱中混进了数十个装扮成楚兵的吴兵。这些吴兵半夜时分放下吊桥，齐声呐喊，早已等在城外的吴兵潮水般涌进麦城，遂占领了麦城。

吴兵攻入郢都后，阖庐大宴群臣众将，论功行赏，恣意享乐，伍子胥却大哭不已，他的仇人楚平王早已作古，如今尸骸亦不见了，阖庐派兵帮他寻找，终于在寥台湖下发现了楚平王的尸体。伍子胥睚眦俱裂，怒发冲冠，手持九节铜鞭，痛打300余下，肉烂骨折，余怒仍未消，直到割下楚平王的脑袋，撕毁衣帽，捣毁棺木，一齐弃之于原野。

周敬王二十四年，听说越王允常去世，其子勾践即位，阖庐准备趁此机会攻打越国。伍子胥劝阻说：“越国正在大丧期间，不应趁人之危出兵伐之。”阖庐不听，留子胥和太子夫差守国，亲自披挂，率兵伐越，吴越两军相遇在醉李，结果吴兵大败，阖庐脚部受伤，死于路上。

周敬王二十六年二月，即阖庐死后三年，吴王夫差矢志为父报仇，兴兵十万，大举伐越，越兵大败。越大臣贿赂吴大臣请降，伍子胥力主灭越，以绝后患，夫差不听，伍子胥说：“越人十年生聚，十年教训，不过二十年，吴国宫殿将成为一片废墟！”

越王勾践在吴期间，伍子胥多次谏劝夫差千万不要被假象蒙蔽，夫差此时也被奸佞之臣所包围，竟一度将伍子胥撵出吴宫。周敬王三十六年春，夫差伐齐，子胥力谏，认为吴之大敌是越国，夫差益发不快。夫差伐齐大胜而归，百官朝贺，独子胥一言不发，夫差质问他，他沉痛地说：“胜齐不过小喜也，臣恐越人灭吴之大忧即将到了！”夫差大怒，赐剑命其自裁。伍子胥仰天长叹，嘱其家人：“等我死后，把我的眼睛挖出来，挂在京城的东门，我要亲眼看到越军消灭吴国的情形！”说罢，自刎其喉而死。

子胥死后9年，越灭吴，夫差在姑苏台自杀。

伍子胥的父兄均被奸计所陷，伍子胥却能在复杂的情况下，识破楚平王和费无忌的阴谋，断然出走，确有真知灼见。到吴后，吹箫行乞，为公子光搜罗人才，设谋将他扶上王位，反映了他深谋远虑的政治智慧。伐楚时的战略见解和智取麦城，反映了他卓越的军事才能。力谏夫差灭越而不要养虎为患，说明了他对形势的深刻认识和高超的政治远见。伍子胥矢志复仇，形成了一生的终极目的，最后将楚平王掘墓鞭尸，则反映了他心胸狭窄和残忍的一面。

(石翔)

## 勾 践

勾践(?—前465)，春秋末期越国国君，春秋五霸主之一。

勾践的先祖相传是夏帝少康之庶子，因奉受禹祀而受封于越。越传国20余世，至勾践之父允常时，才开始强大，国土西与楚邻，北与吴接。这时，吴国正值阖庐当权，阖庐

重用楚人伍子胥为行人，伯嚭为大夫，实行伍子胥安君理民之策，“立城郭，设守备，实仓廩，治兵库”，使国力大为增强。周敬王十四年(前506年)，吴王率军向楚进攻，五战五胜，攻占了楚国都郢(今湖北江陵)。越国王允常乘机发兵偷袭，侵入了吴境，吴王阖庐决计报复，吴越自此结下世仇。

周敬王二十四年(公元前496年)，越王允常死，勾践继位。吴乘丧兴兵伐越。勾践出兵抵御，双方在携李(今浙江嘉兴)摆开了阵势。勾践看到吴军阵营严整，不易突破，就挑选了一批士兵组成敢死队猛冲，企图扰乱吴军阵线，接连两次都未能成功。第三次，勾践又采用了一种奇特的战术，他派出三行罪囚，架剑于颈上，走到吴军阵前，齐声喊道：“两国交战，我们触犯了军令，不配做军人，如今不敢逃避刑罚，愿在国君面前自杀伏罪。”说着，便一个个自杀而死，吴国的士兵看得目瞪口呆，在这刹那间，勾践乘机率军冲杀，把吴军打得大败，阖庐脚上也吃了一戈，退到离携李7里路的地方就死去了。临死前，他叮嘱儿子夫差：“千万不可忘记越国杀父之仇。”

夫差继承王位后，日夜练兵，立志替父报仇。他为督促自己，派人轮流站在宫廷前面，每遇自己出入，就高叫：“你忘了越王杀了你父亲吗？”周敬王二十六年(公元前494年)，夫差任命伍子胥为大将，伯嚭为副将，准备率军攻越。勾践得到消息后，准备先发制人，兴师伐吴。大夫文种和范蠡认为吴军来势凶猛，不如求和暂避锋芒。但勾践认为，两年前就打败过吴国，因而有些轻敌，不肯接受劝告，执意兴师伐吴。越军进到夫椒山时(今苏州西南的太湖中)，遇到吴国军队的迎击。吴军今非昔比，经过两年的严格训练，威武勇猛，夫差更是报仇心切，抱着有进无退的决心，奋勇督战，结果越军伤亡惨重，节节败退。勾践看抵挡不住，带5000残兵，退到会稽山据险死守。吴军乘胜追击，包围了会稽山。勾践被困，束手无策，在越国垂



危之际，他采纳了范蠡的建议，决定不惜付出任何代价，哪怕自己忍受屈辱和艰难困苦，派遣文种前往吴军驻地“卑词厚礼”求和。在遭到伍子胥的反对，被吴王拒绝后，他又派文种携带美女宝器，贿赂太宰伯嚭，再次向夫差表示：如吴准许议和，越国愿“尽入其宝器”，否则“勾践将杀其妻子，毁其宝器，悉5000人触战。”这种软硬兼施，加之伯嚭的帮腔，夫差又志在北上争霸，于是接受了议和，赦越罢兵而归。勾践夫妇和范蠡等人到吴国作人质，临行前叹息到：“我难道就如此下去吗？”文种、范蠡劝慰说：“不尽然，当初成汤曾被困在夏台；文王曾被囚于羑里；重耳曾逃往狄国，小白曾出奔莒国，但他们最后都成就大业。由此观之，倒霉之时未必非福也。只要我们同心同德，发愤图强，就一定能复仇雪耻，重整河山。”其余各人也都向勾践表示了同样的信心和复兴越国的决心。勾践本来是个意志坚强的人，严重的失败和面临的难堪命运虽然使他一时悲观，可是当他看到大家对复兴越国满怀信心时，不禁心中升起了希望。

勾践到吴国拜见了夫差，他装出一副卑躬屈膝的样子，自称东海贱臣，向吴王服罪，并向夫差和吴国众臣赠送了宝器，博得了吴国君臣的好感。夫差也不顾伍子胥的反对，派他在宫里养马。白天，他在马圈里勤勤恳恳，埋头做活；夜里，他们夫妇睡在阖庐墓旁一间幽暗的石室里。有时夫差乘车出宫，他还要在车前引马，沿路虽然受到吴国百姓的嘲弄，但是勾践的脸上从来没有露出丝毫怨恨，将兴越灭吴的复仇心理深深地埋藏下来。夫差不时派人暗中刺探，每次见到勾践总是衣衫褴褛，粗茶淡饭，安分守己，毫无怨言，夫差也渐渐地放下心来。3年后的一天，勾践听说夫差病了，就每天带着范蠡进宫殷勤服侍，显出十分关心的样子，他还对夫差的大便观色品味，似乎全然不知脏和臭，使得夫差深受感动。勾践就是这样忍垢受辱，韬光晦迹，赢得了夫差的信任。病好之

后，夫差不顾伍子胥再次提出的“放虎归山，后患无穷”的警告，把他认为已经治服的勾践放回了越国。

勾践在吴3年当中，经受了艰苦环境的考验，把自己锻炼得格外坚强，同时他也看清了敌人的虚实及其内部的种种弱点。回国后，勾践为了不忘会稽之耻，立即下令迁都会稽，并且对自己做出规定：每餐只食一盘荤菜；衣服只穿一种颜色，睡在柴草上面。屋子中间挂着一只苦胆，起身、睡觉、饭前都要尝一口，并且高声自问：“勾践，你忘了会稽之耻吗？”这就是流传至今，脍炙人口的“卧薪尝胆”的故事。为了表示与“百姓同其劳”，他亲自荷锄耕种，夫人纺纱织布，还下令10年不收国税，予民休养生息；他还常常巡视全国，周济贫苦，访求贤才，凡是有才能的人都委以重用，厚遇宾客，使名士能“洁其居，美其服，饱其食”，与之共商富国强兵之策。勾践的作法使越国人民逐渐改变了对他的态度，乐于接受他的号令，国人中还出现了“父勉其子、兄勉其弟、妇勉其夫”，愿与勾践洗雪会稽之耻的情绪。勾践一方面用种种方法充实国力，激励士气，一方面又采取了麻痹敌人的策略，以争取时间，积蓄力量。为了使夫差相信他的忠诚，他年年进贡不断，还从苕罗山觅到美女西施把她和另一个佳人郑旦一起送给夫差；为了消耗吴国的财力，他听说夫差要建姑苏台，就送去了又长又粗的上等木料。夫差见之大喜，按料建宫，耗时8年才告完成。还有一次，勾践借口灾情严重，向吴借贷1万石粮食，次年又选了1万石颗粒饱满的粮食煮熟晒干后还给吴国，吴国将其作为种籽，结果年终欠收，民怨沸腾。勾践还利用吴国内部矛盾，使夫差听从伯嚭谗言，赐死伍子胥。在外交上他派人到齐、晋、楚国进行活动，以孤立吴国。经过10年生聚，10年教训，勾践终于在周元王三年（公元前473年），打败了吴国，将夫差围困在阳山上（今江苏吴县西北）。夫差也准备仿照当年勾践的做法，卑词厚礼，



乞越存吴。范蠡建议勾践传言夫差：“会稽之时，是老天把越赐于吴，而吴不受天命，现天赐吴于越，越怎可违逆天命呢？”并提出议和条件，将夫差“置之甬东（今浙江舟山岛），君百家”。夫差懊悔不已、万般无奈，掩面自杀而死。

勾践战胜吴国后，便统率大军北渡淮河，在徐州（今山东滕县东南），与齐、晋等国盟中原诸侯，向周天子进贡，周天子也派使者赠予勾践祭肉，封其为伯，承认了他在东方的地位。从此，越军横行江淮一带，勾践也成为春秋时代末期的霸主。但是，越国在连年的征战中，“豪士死、锐卒尽、大甲伤”，消耗惨重。加之勾践生性猜忌，逼走范蠡、赐死文种，使越国便逐渐衰落下来。

勾践是春秋时代一位杰出的人物。他既是一位坚忍卓绝、负有大志的政治家，也是一位英明果断、刻苦发愤的国君。这种坚毅奋发的精神，作为中华民族的优秀品格曾被世代所传颂。但正象史书所评价的：“只可与其同患难，不可与其共享乐。”在困难的时候，勾践可以任用贤臣良将，卧薪尝胆，与百姓同甘苦。可是一旦大权在握、称霸天下，便诛杀功臣，涂炭生灵，给百姓带来无尽的灾难。在勾践的身上，一个新兴的封建时期统治君王的进取性和局限性都有充分体现。

（林 澍）

## 范 蠡

范蠡是先秦时期既能治国用兵，又能齐家保身的智士能臣，其大智大勇给后世留下了难以磨灭的印象。

范蠡字少伯，春秋末年楚国宛城（今河南南阳）人。年轻时就学富五车，满腹经纶，而且头脑聪敏，胸藏韬略，有圣人之贤，然而不为世人所识。于是他愤世嫉俗，装疯卖傻，佯狂颠痴，浪迹江湖。越国大夫文种曾到宛城访求名士，听到他的情况后颇为惊诧，亲自前去拜访。俩人竟一见如故，纵论天下风云，高谈阔论富国强兵之道，十分投机，

终日而语。文种认为他是个奇才，便郑重地推荐给了越王勾践。越王勾践也很器重他，封他为大夫。

春秋时期的吴国位于今江苏一带，越国位于今浙江一带，两国都想吞并对方，然后问鼎中原，称霸于世，因而势同水火，时有战争发生。勾践即位那年，吴王阖庐曾趁越王允常死去之机，发兵征讨越国，双方交战于醉李，结果吴军大败，阖庐亦战死沙场。阖庐的儿子夫差即位后，念念不忘国耻父仇，秣马厉兵，紧锣密鼓地准备发兵越国。

面对这种严峻的形势，越王勾践心想，与其坐等吴人来打，莫如先发制人去攻吴。群臣也认为如果趁吴人准备得还不充分之机，胜负之数也许未定，因而也主张立即北上攻吴。

范蠡却不同意草率出兵，他分析敌我双方的形势说：“吴王夫差因有国恨和家仇，三年来矢志复仇，其志愤，其力齐，兵精将勇，实力雄厚。。面对面地硬拼，我们难以抵挡。当然，这场战争是不可避免的。明智的选择只能是以逸待劳，坚固城防，以上为上。”

然而勾践不听，调动全国兵马，与吴人战与夫椒，结果大败，陷于绝境。勾践痛楚难抑，亡国之心萦绕于怀，他无奈地对范蠡说：“我很后悔没有听先生的话，以致酿此大祸，怎么办呢？”范蠡是一位卓有远见的政治家，对一时的成败看得并不那么绝对，他以“持满而不溢，则与天同道，地能生万物，应该节用”等道理劝说勾践，并建议处此危难之机，只能卑词厚礼地贿赂吴国君臣，甚至屈身以事吴王，以待徐图转机。

勾践于是派文种去吴营请和，被夫差拒绝，勾践心如火焚，痛不欲生，准备杀妻毁室，拼死为止。范蠡指出，匹夫之勇，虽死无益，当今最重要的是设法保存越国。于是与文种商议，决定采用离间的办法再次去吴营请和。突破口选在吴国权臣伯嚭身上。伯嚭贪财好色，忌功妒能，果然说服夫差准许勾践投降，同时卑劣地打击了吴国坚持灭越

的骨鲠之臣伍子胥。

在国家处于危难关头，范蠡审时度势，清醒而冷静，一计存越国，充分显示了政治家的谋略才华。

勾践去吴为奴前准备将国事交给范蠡，范蠡提议说：“四海之内，百姓之事，我不如文种大夫；与人周旋，临机应变，文种大夫不如我。因此，请留文种大夫主持国政，我与君王前往吴国。”勾践依议，自己与夫人并范蠡往吴为奴。

夫差命勾践等人换上罪人衣裙，使其蓬头垢面，专事养马这样的贱役。范蠡朝夕与之相伴，寸步不离左右，并随时开导，出谋划策。几年来，曾多次面临险情，范蠡都机智而沉着地帮助勾践应付过去了。其间夫差曾诱劝范蠡弃越归吴，享受荣华富贵，范蠡以“亡国之臣不敢语政，败军之将不敢言勇”为名婉拒，保持了作为越国大臣的高风亮节和可贵的操守。

后来，范蠡巧妙地利用了吴王生病的机会。他建议勾践亲尝夫差的粪便以换取吴王的好感，事情的发展果如范蠡所料，夫差不顾伍子胥等人的坚决反对，于勾践七年（公元前491年）释放勾践等人回国。

勾践向范蠡请教振兴越国之道，范蠡做了极其精辟的论述，闪烁着朴素辩证法的光芒。他认为，天时、人事都是不断变化的，因而制定方针、政策也要因时和事而定，凡事都不可勉强，而应顺乎自然，等待时机、利用时机。

范蠡强调要调动、保护人民的积极性，大力发展生产、积蓄力量，富国强兵。他建议勾践本人也拿出时间与百姓做同样的工作，越王夫人也从事一些纺织等具体劳动。不要使百姓旷时废业，而应让他们勤于稼穡，生活日益富足，国家的物资和食粮尽快地充实起来。

范蠡主张，对吴国表面仍然要极尽奴颜之事，他还亲自到民间选得西施、郑旦，派专人教习歌舞，遣香车送吴。同时引诱吴王

大兴土木，建造楼堂馆所，使其终日沉湎于酒色之中，近佞臣而远忠臣，国运渐衰。另一方面，越国还暗中亲楚、结齐、附晋，最大限度地孤立吴国。

经过数年的努力，越国已经相当强大，府库充实，人民乐为所用。范蠡训练的军队装备精良，技艺超群，更兼南林处女下山传授剑术，逃亡于越的楚人陈变教习射术，战斗力大为提高。

越王勾践十九年（公元前478年），勾践得知吴王夫差沉于酒色，不理朝政，国内又连年受灾，民心愁怨。而越国人力、物力则愈加强盛，于是大起兵马，北进伐吴。吴军慌忙应战，结果惨败于笠泽。越军继续挥师，将吴都姑苏团团围住，依据双方的形势，勾践采纳了范蠡的意见，高筑营垒，围而不歼，竟达三年之久。

据《越语》记载，其间吴人曾多次求战，有时一天之中竟五次挑战，勾践忍不住愤怒，打算与吴人交战，范蠡力劝，方才作罢。范蠡主张坚守阵地，在敌人还没有灯油耗尽之时不与其正面作战，以尽量减少损失，确保全面胜利，无疑是我国古代军事思想宝库中的重要财富。

至勾践二十四年（公元前473年），夫差势穷力尽，不战而自败，派人前往越人请和，勾践不忍灭吴，有意准降。范蠡力陈利害，坚决反对准降，勾践于是拒绝吴人请求。不久，越军攻入姑苏，吴国宣布灭亡。夫差自刎身亡。勾践下令诛杀了伯嚭等奸臣。

越人用范蠡十年生聚、十年教训的策略，富国强兵，终于在时机成熟的时候举兵伐吴，由于采用了正确的战略战术，坚决果断地一举灭吴，报仇雪恨。

越王勾践班师回越后，君臣设宴庆功。乐师作《伐吴》之曲。曲中有词赞文种、范蠡之功，群臣大悦而笑，勾践却面无喜色。范蠡注意到了这一细微末节，并且引起了深深的思索：勾践为了灭吴兴越，不惜忍辱负重，卧薪尝胆。如今功垂名就，大业已成，他便

不想归功于臣下，猜疑嫉妒之心已见端倪。大名之下，难以久居。如不及早激流勇退，日后恐无葬身之地。

次日，范蠡请求辞官，勾践盛情挽留。

当晚，范蠡不辞而别，携带着家眷和轻宝珠玉，乘着一叶扁舟，涉三江，入五湖，辗转来到齐国。

范蠡行前曾致书文种，“狡兔死，走狗烹，敌国破，谋臣亡。越王可与共患难，不可与共安乐。先生如不及早离开，灾祸在所难免啊！”文种认为范蠡过虑，仍然留在朝廷。不久越王勾践赐剑令其自杀。

后人评论说：“文种善图始，范蠡能虑终。”又单赞范蠡说：“始有灾变，蠡专其明，可谓贤焉。”从文、范二人的不同结局看，可见范蠡见一叶而知秋的远见卓识，确非一般智士可比。

范蠡到齐国后，更名为鸱夷子皮。他与儿子们耕作于海边，苦身勠力，治理产业，由于经营有方，没多久家产竟达数十万。齐国人听说了他的奇能异才，叫他出任宰相。他交还相印，离开齐都而到了陶（今山东陶县）。

他认为陶居天下中心，四通八达，便于交易，便以经商为业，每日买贱卖贵，取百分之十的利润，没过多久，又积聚资财巨万，成了天下首富，号称陶朱公。从而名播天下，垂于后世。

范蠡是一位杰出的政治家和军事家。他爱国恤民，忠心耿耿，勇于忍辱负重。他不但设奇谋使越王勾践返国，而且用良策使勾践兴国。他努力按事物的客观规律办事，尽人事，修政教，收地利，审时度势，掌握时机，绝不轻举妄动；时机成熟时又能紧紧抓住，绝不养患纵祸，钩取虚名。尤为难能可贵的是，他功成身隐，激流勇退，由小见大，以大律小，对万事万物之理，均能体察得十分深透，所以每遇事皆能稳操胜券。同时，范蠡也是一位杰出的经济学家，后人将他的经商思想和商业道德总结为“陶朱公理财十

六则”，可见影响之深远。

（石翔）

## 司马穰苴

司马穰苴，原名田穰苴，春秋末年齐国人。生卒年尚无详考，主要活动在齐景公时代，即大约公元前548—公元前489年。司马穰苴是田完的后裔，田完曾任陈国大夫，后因避陈乱奔齐，得到齐桓公的收留和任用。他家境寒微，本人也只是名小军官。后因治军有方，被尊为大司马，所以后人亦称其为司马穰苴。司马穰苴深通谋略，长于兵法，为齐国收复失地作出了卓越的贡献，是春秋战国时期的著名谋将。

齐景公时内乱屡起，公室衰微，国力日蹙，邻国也乘机兴兵进犯，晋国和燕国分别从西面和北面大举侵入，齐军连吃败仗，形势十分危急。齐景公原来手下的三员悍将公孙接、古冶子和田开疆这时已被晏婴用“二桃杀三士”之计除掉。齐景公坐立不安，急得如同热锅上的蚂蚁。

当此社稷危亡之时，晏婴向齐景公推荐了田穰苴，并且指出，田穰苴是田氏的“庶孽”（侧室所生），虽然出身低微，而且至今名不见经传，但挽救齐国累卵之危者必此人。

齐景公正在用人之际，于是下令召见田穰苴，试着与他谈论军事问题。田穰苴对答如流，滔滔不绝，果然是位智勇双全的统帅之才。

田穰苴满腹韬略，深谙治国平天下之道。他指出，治国应重礼仪，态度温和谦虚，体恤黎民百姓，严己宽人，含蓄忍让。治军则需专权果断，为了国家的根本利益，君王之命亦可不受，对士兵却应爱惜，长官不能仗势欺人。要振奋士气，充分发挥每个士兵的积极性，以道义去激励他们，以智慧和勇敢去率领他们，这样才能克敌制胜。正确地实行赏罚是至关重要的。赏罚都要有据并且及时，使人立刻就能得到为善之利和看到做坏事的后果。但惩罚不能乱用。按军法，犯

小罪的处以以矢贯耳之刑，中罪砍脚，大罪才杀头。如果不加区别，随意而为，那就非出乱子不可。

田穰苴特别指出了作战的六要素，一要顺应天时，二要因其地利，三要备足物资，四要上下一心，五要讲究兵器的配合使用，六要掌握敌人之情况。

齐景公听完田穰苴的治军方略，大喜过望，立即拜他为大将军，率军去抗击晋、燕两国的人侵之敌。

田穰苴领命拜谢之后说道：“我出身卑贱，职位低微，如今得到大王破格擢用，位于大夫之上，怕是难以服众啊。希望大王派一位您所宠信的、地位尊贵的大臣做为监军。”

齐景公满口答应，决定派自己的宠信重臣庄贾充任监军。田穰苴退出王宫时，郑重地与庄贾相约：明天中午在军营门口相会。

第二天一早，田穰苴先赶到军营，命令士兵立木表来观测日影，摆设水漏计算时辰，等待庄贾来到之后，便整军出征。

可是，庄贾凭恃国君的恩宠，素来骄纵，和送行的亲友不断地喝酒，早把按约定的时间赶赴军营的大事忘在脑后了。

一直到下午夕时，暮色将至，喝得醉醺醺的庄贾才到来。田穰苴责问后，他满不在乎地回答，无非是多喝了点酒，迟了一点时辰。

田穰苴严肃地说道：“身为将领，在受命出征之日，就应该忘掉家庭；到了军中、接受命令，就应该忘掉亲友；出击的鼓声一响，就应该将生死置之度外。如今，敌军深入我国境内，百姓惊恐不安，士兵们正在前线殊死抵抗，君王心急如焚，你身为监军，怎么能因为有人送行就迟到呢？”

田穰苴依照军法，宣布将庄贾斩首。

庄贾听后吓得魂不附体，一面求饶，一面派人飞驰皇宫向景公求救，可是还没等报信的人返回，田穰苴已经将庄贾斩首于三军之前了。

全军将士见这位新任统帅竟敢把骄横一世的国君宠臣杀了，无不颤栗、畏服。田穰苴召集部队，点好兵马，宣布军队纪律，下令出征。

在行军途中，田穰苴亲自过问士兵的吃住，如掘水井、设炊灶这样的琐事也要关照安排妥当。他对部下问寒问暖，还为患病的士兵请医送药，甚至把分配给主将的钱粮也全部拿出来，与将士们分享，而自己却领取与体弱的士兵同量的粮食。

齐军士气无比高涨，就连生病的士兵也不甘示弱，纷纷要求参战。晋国军队见田穰苴统帅的齐军军容严整，斗志昂扬，知道难以取胜，便匆忙撤军了。燕军闻讯，也引兵渡过黄河回国了。

田穰苴乘机挥师追击，颇有所获，并将失陷的国土全部收复。《孙子兵法》认为“不战而屈人兵”的将领才是最了不起的。田穰苴不愧为一位文韬武略的名将。

齐景公见边境安宁，便又高枕无忧地打猎、饮酒、寻欢作乐起来了。一天，他与姬妾们饮酒，一直玩到深夜，意犹未尽，他便带领一班侍从，抬着酒菜，挑着灯笼，前呼后拥地要找晏婴和田穰苴饮酒作乐。

齐景公在晏子的相府碰了一个钉子，便向司马穰苴的府中而去。先有侍从前去报知，司马穰苴冠缨披甲，手握战戟，站立大门外迎候。等景公车驾来到，他忙上前鞠躬礼拜，并开口问道：“有诸侯发兵攻打我们吗？还是大臣中有人叛乱？”

景公回答说，没有什么大事，只是想与将军一同饮酒享乐。

司马穰苴严肃地说道：“抵御敌寇、平息叛乱，是臣之义不容辞的职责。我身为国家大将，重任在肩，怎能陪伴大王饮酒作乐呢？”

司马穰苴义正辞严，拒绝了景公进入府邸。次日早朝时，他与晏子一同谏劝景公要以国家大事为重，同时也要注意君臣的身份。

司马穰苴成为齐国掌管军事的大司马，

田氏一族也因此而更加显赫。这样一来，便招致了齐国鲍氏、国氏和高氏等贵族势力的妒恨，他们屡屡向景公进谗言。而景公对田氏家族的崛起也深感不安，于是解除了司马穰苴的职务。司马穰苴被迫退居家中，钻研古代兵法理论，结合自己的军事实践，撰写了许多军事著作。

到了战国时期，即公元前378年前后，齐威王命人整理前人兵法，把司马穰苴遗留的军事论述编在一起，命名为《司马穰苴兵法》，后世称为《司马法》。著名史学家司马迁感叹道：“我读过《司马穰苴兵法》，真是宏大深远，夏、商、周三代圣王用兵的韬略都没能超过它。”

《司马法》总结了夏、商、周三代的军事制度和战争经验，论述了古代战争准备、战争指导、战场指挥、兵种部署、兵器配备、天时地利的选择、间谍的使用、军人心理以及治军等问题，大体反映了春秋时期的军事思想和作战特点。

《司马法》受到了历代军事家们的重视，并得到了广泛的流传。到了宋代，它与《孙子》、《吴子》等其它六部兵书并列，号称“武经七书”。《司马法》成为培养军事人才的武学教材之一，规定将校必读。

《司马法》不仅在我国军事学术发展史上有其重要地位和影响，而且漂洋过海传到了日本。1772年被译成法文，在巴黎出版发行。

司马穰苴从一个下级军吏一跃而为齐军统帅，他善于审时度势，遇事冷静善谋，为齐国立下了赫赫战功。他的晚年虽不得志，而且最后郁郁而死，但他恪守职责，洁身自好，留下了博大精深的军事名著《司马法》，成为我国古代宝贵的文化遗产。

（于海鹰）

## 吴 起

吴起（约公元前440—公元前381）是战国时期第一流名将。卫国左氏（今山东鲁县北）

人。吴起年少时曾经投在曾申（孔子的学生曾子的孙子）门下求学，后又苦读兵书，精于兵法。经鲁国相国公仪休的推荐，被鲁穆公任用为鲁国大夫。

不久，齐国出兵攻打鲁国。齐军来势凶猛，锐不可挡。鲁穆公知道吴起善于用兵，便想任用他做主将，领兵驱逐齐军。有人对鲁穆公说：“吴起的妻子是齐国人，如果吴起临战不坚，或者泄漏军机，岂不误了鲁国大事！”鲁穆公犹豫不决。吴起急于建功立业，心一横，亲手杀了妻子，以示对鲁王的真诚。鲁穆公果然排除了怀疑，立即用他做将军，命他率兵抗齐。吴起清楚，凭实力，鲁国无法战胜齐国，硬拼不行，只能智胜。未及双方交战，吴起就装出一副软弱畏惧的样子，首先提议愿意和齐军谈判讲和。然后，把老弱残兵放在本该是主力阵容的中军，而将精锐部队隐蔽在两翼。齐军以为吴起已闻风丧胆，所率兵马也不堪一击，于是，更加骄横狂妄，麻痹大意。吴起见反攻的时机已经成熟，乘其不备，命令两翼精锐部队突然发起猛攻。齐军仓促迎战，一触即溃，鲁军大获全胜。吴起战功卓著，按理说，应该受到鲁人的尊重，鲁王的器重。然而，恰恰相反，鲁国的大臣们见吴起一举名扬天下，忌妒得都发了疯，便群起而攻之，在鲁王面前竭力诽谤吴起。于是，鲁穆公不但没有重用吴起，反倒解除了吴起的兵权。吴起看出，他在鲁国只能受排挤，而不能有所作为；又听说魏国的国君魏文侯是个礼贤下士的开明君主，便毅然决定投奔魏国。

魏国在战国初期是七国中最强的一个。魏文侯有意图强争霸，所以非常爱惜人才，而且善于用人。他听说吴起是个难得的人才，便大胆地任用吴起为将军。不久，吴起便奉命率军攻打秦国。他指挥魏军势如破竹般进击，连拔五城，大获全胜。魏文侯无比欣喜，更加器重吴起，任命他为西河太守。吴起虽然身为将军，但吃穿住行，却与普通士兵没什么两样。行军时，就连自己的粮食

也要亲身携带。一次，有个士兵生了恶性毒疮，吴起便亲自为他吮吸脓汁。士兵的母亲听说后，竟哭得死去活来。人们问其故，那位母亲说：“我儿子的父亲，当年也曾由吴将军吮吸过脓汁，不久出战，想对将军的恩情有所报答，便奋力抗敌，有进无退，终于战死。如今吴将军又给我儿子吮吸脓汁，说不定我儿子会战死在哪里呢？！我是为我儿子哭泣呀！”

吴起待兵如子，但对士兵的要求却相当严格，重视信赏明罚，要求令行禁止。吴起镇守西河之初，秦国有一个烽火台靠近魏国边界。吴起很想拔掉它，但又觉得不值得调兵遣将，兴师动众。于是，吴起把一个车辕放在北门外，下令说：“谁要能把它搬到南门外，就赏其上等田宅。”起初无人相信，后来有人试探着搬了，果然得到了吴起赏赐的上等田宅。继而，吴起又把一担豆子放在东门外，下令说：“谁要能把它挑到西门外，同样赏其好田宅。”这次信者居多，争先恐后地去挑，吴起又当场按令行赏。不几日，吴起下令说：“明天进攻秦国的烽火亭。谁首先登上烽火亭，不仅赏给他上等田宅，还给他官职。”翌日，士兵们奋不顾身地向前冲去，仅一个早晨就攻下了烽火亭。吴起那么信赏明罚，士兵焉能不令行禁止？吴起镇守西河20余年，先后领兵和各诸侯国打仗76次，其中64次是大获全胜，其余的12次胜负未分，从未损兵折将地打过败仗，为魏国巩固边防、扩大疆土，做出了巨大贡献。

魏文侯死后，魏武侯继位。魏武侯仍如先王般重用吴起。后来，魏武侯任用公叔担任相国。公叔是魏武侯的女婿。公叔对吴起既十分忌妒，又十分畏惧。他利用相国兼女婿的双重身份和便利条件，经常在魏武侯面前说吴起的坏话。然而，魏武侯始终不肯相信。公叔为此大伤脑筋。有一个仆人知晓了主子的心事，为了讨好主子，也颇费了一番心机，终于想出了一个计策，对公叔说：“您若想撵走吴起，那还不容易吗？”公叔叹道：“大

王对他那般宠爱，我毫无办法啊！”仆人说：“吴起为人高傲而又重视名誉，这就是撵走他的有利条件。”然后，仆人道出了他的计策。公叔连连称妙。公叔拜见魏武侯，说：“吴起是个很有才干的人。可是，我们魏国是个小国，又和强大的秦国接界，我担心吴起没有长期留在魏国的意思啊！”魏武侯问他该怎么办。公叔说：“我看可以用嫁公主的话来试探他。如果他想长期留在魏国，必定答应娶公主；如果他无意久留魏国，必定要千方百计推辞。”魏武侯默默地点点头。然而，未等魏武侯与吴起面谈此事，公叔却抢先一步，请吴起到他家饮酒。公叔的妻子也是公主。她按照公叔的安排，在吴起面前故意显得十分骄横，对公叔亦轻视至极。吴起在心里忿忿不平：公主不过是魏王女儿而已，以公主之贵欺相国之尊，太不象话！没两天，魏武侯跟吴起谈起娶公主一事，吴起大为惊讶，想起公叔之妻的骄横，不想受那份窝囊气，便婉言谢绝了。从此，魏武侯对吴起产生了疑虑，并且撤了他的西河太守之职。吴起担心自己会进一步受迫害，只好含泪离开了魏国，投奔楚国。

楚悼王知人善任，一听说吴起到了楚国，马上召他入宫，让他担任楚国的相国。楚国虽然在当时是土地最广大的一个诸侯国，但政治腐败，经济贫困，军事上也相当薄弱。吴起被委以相国之印，实现了平生夙望，雄心勃勃。治军，吴起精于兵法。施政，吴起亦颇具才能。基于楚国的现状，他从明确法规入手，采取了一系列政治改革的措施：裁减无关紧要的官员；废除世袭分封，取消那些旧王族贵戚的官位和供给，将其归入军队，用以整军备武；斥退那些周游的说客，推行强兵政策。当然，障碍重重。那些旧王族贵戚公开反对吴起，反对改革。但是，吴起毫不畏惧退却。在一心图强的楚悼王的坚决支持下，吴起义无反顾地推行变法革新、富国强兵之策。没用多久，楚国就强盛起来。国强兵壮，为吴起一展军事才能创造了有利条

(易行)

## 商鞅

商鞅(约公元前390—前338)，卫国人。他少时便有建功立业的雄心壮志，崇拜和认真学习那些叱咤风云的政治家、军事家的学说。他听说秦国正在招贤的消息，便带着李悝编著的《法经》，动身前往秦国。

大约在公元前361至362年间，商鞅来到秦国。通过秦孝公的宠臣景监的推荐见到秦孝公。因为是初次与孝公见面，还不掌握他的思想脉搏，所以就没有直接亮出自己的政治主张。在通过两次试探性的谈话后，商鞅摸清了秦孝公的内心想法，便针对孝公不法古人，注重实际，急于建立功业的心态，激励他采纳鼓励耕战，以法治国，重奖重罚的治国之策，从而赢得了孝公对他的赏识。秦孝公同他一连谈了三个昼夜，最后，完全信服了他变更法制，修治刑法的主张。

商鞅把李悝编著的《法经》，也就是李悝曾在魏国颁布过、并实施有效的法律，搬到秦国推行，这部法律的主要内容，是如何惩办“盗”“贼”和怎样加以“囚”“捕”的条文。从表面上看，是基本属于刑法的范畴，而实质上包涵着深刻的政治内容。当时秦国是一个奴隶制国家，不仅沦为奴隶的农民没有人身自由，绝大多数自由人的命运也掌握在奴隶主贵族手中。商鞅是代表着地主阶级利益的政治谋略家，他不会轻易暴露自己意图，所以，他在开始变法时，只是把前人已经使用过的法律拿过来稍加修改后实行，既能表示这种做法不是他自己创造的，还能表现出他的公正。古今中外的政治谋略家都使用过这种招数，而商鞅则应是他们的开山祖师。

商鞅还制定了一套兴农抑商的措施。他规定：凡努力从事耕田和纺织，生产粟帛多的，可以“复其身”(免除本身的徭役)；凡从事经商，图谋末利和因怠惰而贫穷的，要连同妻子儿女一同没入官府为奴婢；凡弃灰于道路上的，按怠惰论处。这些法律措施，主

件。他运筹帷幄，屡出奇兵，南面平定百越，北面吞并陈、蔡两国，击退了魏、赵、韩三国的进犯。在这样历经征战的情况下，他竟然还有余力在西北面攻伐秦国。吴起为楚国的强盛呕心沥血，而楚国那些旧的王族贵戚却对他恨之入骨，时刻都想谋害他。只因吴起受到楚悼王的百般信任，他们没缝插针，无法下手。

公元前381年，楚悼王病死。悼王的尸骨未寒，那帮旧王族贵戚就一刻也不能忍耐了，他们联络了一些朝中重臣，起而作乱，冲入宫中，要杀吴起。吴起本可抵挡一番，至少能斩杀几个叛将。但他没有那样做。他知道厮杀一番也难免一死，而那样死去很可能会使策动叛乱之人安全无恙。吴起不想放过叛贼，灵机一动，在被叛军追得四处躲藏之时，急忙跑到楚悼王的尸体旁，抱着楚悼王的尸体伏下。欲杀吴起的那些人，趁机放箭射杀。利箭如雨，吴起当场毙命。楚悼王的尸体上，也一并被射中了数支利箭。那些作乱之人，以为大功告成，互相庆贺。不料，太子继位后，马上清查主使起事之人，以“射箭并中王尸”的罪名，让令尹(宰相)尽诛“射吴起并中王尸者”。牵连到这个案件被诛其一族的，多达七十余家。死于非命的吴起，终于实现了他的复仇奇迹。那些智谋远远不及吴起的叛乱者，当然看不出将死的吴起抱住王尸的真正用意。他们还以为吴起是企求保住性命。其实，吴起料定他们的利箭必然会射中王尸的。事后，太子登基，决不会忍受王尸惨遭箭射的千古耻辱，定然要斩杀那些叛乱之人。生前多智，死后复仇，吴起真乃奇才也！

吴起根据作战经验，写下的传世之作《吴子兵法》，在历史上公认可与《孙子兵法》媲美，并称“孙吴”。战国末期的《韩非子》一书说，天下谈论兵法之人，家中无不藏有“孙吴”之兵书。司马迁作《史记》，将吴起与孙子并列，称为《孙子吴起列传》。梁启超说，吴起不愧是战国时期“我国第一流名将”。



要体现了鼓励耕战的主张。

商鞅的这种恩威并举的变法，使秦国面貌为之一新，经济实力、军事实力迅速增长。在公元前352年，商鞅亲自率大军进攻魏国，横扫黄河以西地区，这是秦国在变法之后取得的第二个大胜利。第二年，商鞅又率兵围攻魏国的重镇固阳，也取得了胜利。秦军三战三捷，军威大振，商鞅也显露出超群的军事才能。由于他的政绩显著，善于用兵，秦孝公将他提升为大良造，即相当于相国的职务。

公元前350年，秦孝公和魏惠王在彤（今陕西省华县）相会修好。商鞅则积极准备第二次变法。商鞅深知这次变法非同小可。因为这时秦国的主要矛盾，全部归结在政治制度 and 经济制度上，如果不从根本上铲除奴隶制的政治和经济制度，秦国是没有出路的，初次进行的变法也会前功尽弃。因此他决定采取避实就虚的方法，将国都迁离现在奴隶主贵族集中的雍州，到200里外的咸阳重新建都。

商鞅将准备推行的新法同秦孝公商定后，并没急于公布。他知道，如果得不到人民的信任，法律是难以施行的。为了取信于民，他采用了这样的办法：一天，正是咸阳城赶大集的日子。一队侍卫军将木杆竖立在地下，并高声对众人说：“大良造有令，谁能将此木搬到北门，赏给黄金10两。”众人听了都以为是开心取乐，是不可能的事，所以没有人肯上前去试一试。城楼上，商鞅不动声色地注视着下面发生的这一切，他转身又对旁边的侍从吩咐了几句，侍从马上给官吏传达了商鞅的命令。于是，官吏向众人喊道：“大良造有令，谁能将此木搬至北门，赏黄金50两！”众人哗然，更加认为这不会是真的。这时一个中年汉子走出人群对官吏一拱手，扛起木杆向北门走，围观的人群也跟着他来到北门。他放下木杆后被官吏带到商鞅面前。商鞅拿出50两黄金，在手上掂了掂，说：“拿去。”消息迅速从咸阳传向四面八方，

国人纷纷传颂商鞅言出必行的美德。商鞅见时机已成熟，便立即推出新法。

如果说商鞅的第一次变法只是对李悝《法经》的借用，用以削弱奴隶主贵族势力的话，那么，这次变法则是对他们致命的一击。这次变法的基本内容，一是在全国建立县制，二是拓开“阡陌”和“封疆”。措施一颁布，立即震动了全国，引起非常激烈的反响。农民眉开眼笑，立即着手开垦荒地。国家的耕地面积迅速扩大。

公元前344年，商鞅规定了度量衡的进位制度，颁布了标准的度量衡器，建立了秦国统一的度量衡制。这对于建立统一的赋税制度和俸禄制度，防止官吏舞弊，加强国内的经济联系，巩固集权政治是非常重要的。商鞅这次变法，使秦国彻底摆脱了奴隶制的枷锁，完成了历史性的变革，解放了生产力，国家的经济实力和军事实力飞速增长。仅用10年时间，就使秦国民富国强，乡邑大治。

秦、魏两国原来实力相当，秦经济的迅速发展，政治军事力量的增强，使魏国大为不安。公元前344年，魏国计划以朝见周天子为名，与其他国家联合起来攻打秦国。秦孝公得知后，立刻调兵遣将，准备迎战。而商鞅却冷静地分析形势说：“我们是没有办法抵抗的，我愿意去面见魏王，设法让他放弃这次进攻秦国的计划。”秦孝公答应了他的请求。商鞅见到魏惠王，劝说道：“有您这样功业的君主，是应该令行天下的。但是，您现在所能号令的诸侯，尽是宋、卫、邹、鲁这样的小国，这些小国原是您用鞭子就可以驱使的。只能驱使这些小国，并不足以在天下建立王业。”魏惠王点头称是，问道：“依你看，寡人应该怎么办呢？”商鞅说：“在大国之中，燕国的力量最弱，如果能使燕国顺从，就能征服齐国。有了燕国、齐国，楚国和秦国哪敢不服从您呢？您不如为此召集诸侯来会盟，先自行称王，然后再名正言顺地用兵。”魏惠王很高兴地接受了商鞅的建议，约诸侯来逢泽（今河南开封东北）集会。就在这次会议上，



魏惠王自称为王。秦国派出军队为他助威，魏惠王很是得意，进攻秦国的事也就不再提了。就这样，商鞅依靠他的才智，避免了一场战争，为秦国赢得了宝贵的6年时间。

公元前340年，秦孝公派商鞅统率大军再次东进。这时，魏惠王派公子卯率领5万兵马迎战也到了吴城。吴城地势险要，依靠强攻是很难破城的。商鞅得知公子卯在城内，便给他写了封信。信中说：“昔日我与公子情同手足，如今却各事其主，我怎么忍心和你刀兵相见呢？我想去兵解甲，与公子相会于玉泉山，重叙友情，饮酒结盟，以免两国无辜肝脑涂地。”公子卯看过商鞅的信后，欣然应允。在约会这天，他轻车简从，带着酒肉、乐队，如期前往玉泉山。商鞅已经先到一步，在山下等候多时了。两人一见，亲热无比，携手入席，共同举杯。突然一声号响，秦军的伏兵四起，将公子卯一行团团包围。公子卯愤怒地说：“想不到你竟是这种无义之徒！”商鞅微微笑道：“兵以诈立。大丈夫效命疆场，岂能以私情误国。”商鞅遂令秦兵装扮成公子卯的随从，骗开了吴城的大门，魏军大败。

商鞅在秦国推行的变法措施，剥夺了奴隶主贵族世袭的政治特权和经济特权。他们对他的仇恨，大大超过了国恨家仇，因而商鞅最后被他们残酷地“车裂”了，他全家也惨遭杀害。

商鞅是我国历史进程中起着重要作用的杰出人物。他一生致力于变法图强，以法治国。他制定的律令长期为秦国所奉行，这是秦国最后能够统一全中国，建立中央集权制国家的主要原因。后来秦始皇推行的一系列政策，也都是商鞅法令的实施和扩展。而他的法制思想直至今日仍为海内外学者所重视。商鞅在我们多民族国家的历史上，是位有深远影响的政治谋略家。

(李 军 刘 畅)

## 苏 秦

苏秦(生卒年不详)是战国时期的说客之冠。起初，苏秦曾经拜在鬼谷子门下学习游说之术。随后，他四方游说了几年，不料处处遭到冷遇，最后连路费都没有了，困难重重之下只好还家。依凭什么样的知识，才能出人头地？苏秦昼思夜想，终于悟出：只有得到君王的赏识，才能受到重用；要想得到君王的赏识，就得学会揣摩君王的心意。可惜的是，能够授人以这种知识的书，实在少得可怜。终于，苏秦找到了兵家名书《周书阴符》。他看出，弄懂此书之日，便是出头之时。于是，他便埋头攻读此书。读书困了，仍想读，便用锥子刺一下大腿，以解困意。这就是千百年来流传的刺股佳话。苏秦将《周书阴符》反反复复地读了一年，从中学到了许多揣摩君王心意的诀窍。他充满信心地说：“凭着这点本事，就足以游说当代的国君了。”

苏秦曾想得到秦王的重用，一再争取，秦惠文王始终对他不理不睬。一气之下，苏秦到了燕国，从此举起了合纵抗秦的大旗。苏秦拜见燕国国君燕文侯，说：“大王明白为什么燕国没有受到秦国的侵略吗？这是因为中间有个赵国作屏障，挡住了秦国。秦国不会越过赵国来打燕国，但赵国要打燕国那就容易了。我希望大王能和赵国亲善，然后再联络中原诸侯共同抗秦，燕国就没什么可担忧的了。”燕文侯自知燕国弱小，合纵联盟对其尤为有利，所以供给苏秦车马和金银布帛，请他去跟赵国联络。赵国国君赵肃侯亲自到郊外迎接苏秦，谦恭地向其请求。苏秦当即指出，赵国不应服事秦国，向秦国称臣。赵肃侯叹息秦国强大，赵国无力与之为敌。苏秦说：“仅靠赵国之力，当然无法战胜秦国。我仔细研究过，中原列国的土地比秦国大五倍，军队比秦国多十倍，众国若能结成一个整体，合力攻打秦国，秦国一定会被打败的。”赵肃侯完全赞同苏秦合纵抗秦的主张，给苏

秦一百辆车马，一千斤黄金，一百双玉璧，一千匹绸缎，请他去联络各国诸侯。苏秦先去了韩国，对韩宣王说：“韩国北面有巩邑、成皋这样坚固的城池，南面有宜阳、商阪这样的要塞，土地纵横九百余里，拥有军队好几十万。凭着韩国兵力的强大和大王的贤明，却侍奉秦国，拱手屈服，使国家蒙受耻辱以致被天下人耻笑，实在不应该啊！”苏秦见韩宣王面露羞愧之色，有意激怒他：“大王的土地有穷尽，而秦国的贪求却没有止境；有限的土地怎能满足无止境的要求？有道是：宁做鸡头，不做牛尾，现在，大王拱手屈服，这跟做牛尾有什么不同？我真替大王感到羞愧呀！”韩宣王一下子脸色大变，按住宝剑，发誓道：“我尽管没出息，但从此决不再向秦国屈服！我愿意诚恳地听从您的安排。”苏秦辞别了韩宣王，又先后拜见了魏襄王、齐宣王、楚威王，详细说明了向秦国割地求和的危害和联合抗秦的益处，使这三个诸侯也赞同了他的意见。至此，苏秦完成了他合纵联盟的游说。

公元前333年，六国诸侯按照苏秦的安排，云集在赵国的洹水开会，正式订立了合纵抗秦的盟约，并且公推苏秦为“纵约长”，把六国的相印都交给了他。苏秦北归，途经洛阳，就连周天子都派出人马替他清扫道路，苏秦自然感到十分骄傲。回到赵国，赵肃侯封他为武安君。秦国总想寻找机会瓦解联盟。施用欺骗手段，终于挑唆起齐国和魏国联合起来攻打赵国。赵王恼怒万分，在责骂齐国和魏国背信弃义的同时，对苏秦也极为不满，认为事情全坏在了苏秦身上。赵王训斥苏秦说：“看看吧，这就是你所主张的合纵抗秦的好处。抗秦没抗成，结盟反倒成了冤家。”苏秦害怕了，耽心战事恶化，赵王在情急性恼之下会杀了他，便请求出使燕国，说他一定会设法报复秦国。赵王对苏秦已毫无兴趣，便由他去了。合纵联盟也就彻底瓦解了。

这年，燕文侯去世，太子继位，即燕易

王。燕易王是秦王的姑爷。燕易王刚刚登位，齐国趁燕国大丧之机，向燕国发动了进攻，连续夺取了十座城池。易王见齐军夺关取城，大兵压境，希望苏秦能有退兵之策。苏秦说：“请大王放心，我会替您把失地收回来。”于是，苏秦奉命赴齐。苏秦见了齐宣王，拜了两拜，先俯首表示祝贺，继而抬头表示慰问。庆贺是恭喜，慰问自然是对忧伤的同情。齐王觉得很奇怪，问其故。苏秦说：“我听说饥饿的人所以忍饥挨饿而不食乌头，是因为用乌头填饱饥肠与挨饿同样有害。现在燕国虽然弱小，但燕王是秦王的小女婿，秦王能置之不理吗？大王贪图燕王的十城，却和强大的秦国结下了仇冤。如果让弱小的燕国做前锋，强大的秦国做后盾，招来天下精兵攻击您，您现在的做法不就如同吃乌头充饥一般吗？”齐宣王一听，吓得脸色都变了，忙问他现在该怎么办。苏秦说：“我听说古时候善于控制事态发展的人，能够变祸患为幸福，利用失败的机会取得成功。大王如果能听从我的意见，就应该归还燕国的十座城池。燕国必然十分高兴。秦王知道您是由于他的缘故才归还燕国城池，也会十分高兴。舍弃十城，换来的却是和燕王、秦王的友情。这样一来，大王对天下发号施令，也就无人敢不从命。这是霸主的事业啊，请大王三思。”齐宣王斟酌再三，认为有理，当即下令退兵，并将十城奉还燕国。燕易王欣喜万分，想要重用苏秦，然而，不少宠臣都很忌妒苏秦，纷纷诋毁他，燕易王不但没重用他，反倒剥去了他原来的官职。苏秦知道是有小人暗中作祟，决心要夺回燕易王的宠爱。苏秦求见燕易王，直言不讳地点破有人暗中中伤他，说他不诚实，并说古论今，旁征博引，说明诚实与忠信的区别，并说明他正是由于忠信于燕易王才被中伤的。终于，苏秦说服了燕易王。燕易王不仅重新启用了他，而且还对其倍加宠爱。苏秦在燕国成了声威显赫之人。然而，苏秦并未得意忘形，忧虑之情也日益加深。妒忌他的那些人总想搞垮他，

他耽心有一天燕易王会听信谗言而置他于死地。于是,他便想及早离开燕国。去哪里呢?思来想去,苏秦决定:去齐国!他之所以做出这样的决定,关键在于他想报复齐国。因为齐国破坏合纵盟约,先攻赵,后攻燕,弄得他狼狈不堪。乍一听苏秦要去齐国,燕易王十分惊愕。苏秦说:“我继续留在燕国,不会给燕国带来更大的利益。如果我去齐国,会对燕国更有利的。”苏秦扼要地说明了他的计谋。燕易王答应了苏秦的请求。

苏秦假装得罪了燕易王而投奔齐国。齐宣王深信不疑,将其委以客卿。宣王去世,湣王登位。齐湣王对苏秦仍象先王那般宠爱,甚至有过之而无不及。苏秦劝说湣王应该隆重地安葬先王:一是修造天下无与伦比的墓地,出葬人墓要声势浩大,以此证明湣王的孝道;二是加高现在的宫室,修饰一新,多辟园林,以示先王去世后,湣王有着远大志向,使人感到湣王是众望所归的君王。齐湣王下令照此办理。如此一来,齐国不知消耗了多少人力、财力、物力。群臣暗叹,民怨沸腾。一遇时机,苏秦决不放过,明则替齐国出谋划策、实则促进齐国的衰落,不战自败。不少大臣都仇视苏秦,但始终未能动摇他的地位。有人便买下刺客刺杀苏秦。苏秦虽未当场身亡,但伤已致命。齐湣王大怒,派人四处捉拿凶手。然而,朝廷上下愤恨苏秦的人相互勾结,彼此照应,凶手和主谋岂能捉到?苏秦料定他死后就更捉不到凶手了。终于,他想出了复仇之策。他对齐王说:“大王只有按我说的去做,才能捉到凶手。派人在街上将我五马分尸,就说我为了燕国要在齐国作乱,才受此惩罚。这样,凶手就会自动露面,大王也就可以替我报仇了。”齐王无论如何不肯,在苏秦再三说服和请求下,最后无奈,只好按照苏秦的话去做。凶手果然主动露面了,他满以为刺杀外国间谍是有功之举,肯定会得到封赏。岂不知是自投罗网,齐王当场就让人杀了他。苏秦死后,他暗中破坏齐国的大量事实才被揭露出来。然

而,齐王已悔之晚矣!

苏秦由一普通的平民,成为名扬天下、长于权谋机变的说客,终于游说六国合纵联盟,身挂六国相印,说明他有着非凡的才智。称他为战国时期的说客之冠,决非溢美之词。

(易 行)

## 张 仪

张仪(?—公元前309)是战国时期的策士之雄。张仪和苏秦曾一起侍奉过纵横家鬼谷子,学习游说之术。然而,苏秦已在赵国当上了相国,张仪尚在家中穷困潦倒。在苏秦的巧妙帮助下,张仪当上了秦国的客卿。知恩图报,张仪决计要帮助苏秦,帮助赵国,当然丝毫也不能损伤秦国的利益。

对于六国联盟抗秦所造成的威胁,秦惠文王愈来愈不安,决心拆散联盟。有人建议,联盟是赵国开头的,应该首先攻打赵国。朝臣全部赞同,只要秦惠文王一点头,赵国马上就会战火连天。张仪急忙站出反对,力排众议:“六国刚订立联盟不久,彼此无隙,硬拆焉能拆散?如若我们攻打赵国,其他五国联合出兵攻我,敌众我寡,后果不堪设想。”尔后,他提出硬拆不如软拆:魏国最近,不妨将夺取的几座城邑退还,魏国自然感激;燕国最远,大王将女儿许配给燕国太子,彼此即成亲戚。这样,秦国不再孤立,六国也会彼此猜忌,联盟势必瓦解。秦惠文王依计而行,果然奏效,魏国和燕国贪图眼前利益,和秦国交好了。魏国脱离了联盟,孤立无援,张仪便诱迫其献出上郡和少梁,以谢秦王。魏国因小失大,秦国获利颇丰。张仪既帮助了赵国,又拆散了联盟,使秦国从中渔利。

秦惠文王十年,张仪当上了秦国的相国。他雄心勃勃地欲帮秦王一统天下。当时,除秦国外,齐、楚亦是两个大国,并且缔结了抗秦盟约。秦王想要拆散这个同盟,对众臣的计策一概不念,唯独张仪的计策让他喜笑颜开。于是,张仪出使楚国。他知道

靳尚最受楚怀王恩宠，便以重金厚礼相送。靳尚自然愿为效劳，全力向楚王推荐张仪，极尽溢美之词。张仪见到楚王后，不胜惋惜地说：“秦王派我来和贵国交好，可惜我来迟了，大王竟和齐王结成了同盟。”楚王对秦国本来望而生畏，万没想到秦王竟主动派使交好，忙解释说：“这样做，无非是为了防范被人攻打而已。”张仪说：“齐楚联盟是想两国共同对付秦国。秦王本想与天下诸侯交好，可一旦有人故意要与秦王为敌，秦王恐怕不会等闲视之。”威胁了楚王一番后，张仪又放出诱饵：“大王若能废除齐楚盟约，而和秦国交好，那我就请求秦王把商於一带的六百里土地献给贵国。”楚王一听，不禁欣喜万分。废除齐楚盟约，既可与秦国友善，又可得到六百里土地，实在是事半功倍的事。楚王叮问一句：“真的？”张仪斩钉截铁：“决非戏言！”楚王唯恐张仪改变主意，错过良机，于是给了张仪丰厚的馈赠，还把楚国的相印授给了张仪。并且当即宣布，废除齐楚盟约。然后，派使臣跟随张仪去秦国接收土地。

张仪回到秦国以后，假装摔伤，居家而不能上朝。日复一日，月复一月，楚国接收土地一事始终不能实施。楚王认为：张仪之所以如此，肯定是心存疑虑，耽心楚国和齐国断交不坚决。于是，楚王挑选了一位强悍的勇士，手持楚国符节，匆匆赶赴齐国。这位勇士的唯一任务就是：骂！当面大骂齐王，越凶越好。齐宣王见楚怀王如此背信弃义，决心报复楚国。但他知道光凭自己的实力不足以战胜楚国，于是便决定和秦国交好，并且立即派出了使臣。如此结果，早在张仪预料之中。张仪装病居家，就是等着齐国派使前来。这样，秦国既可摆布齐国，亦可要挟楚国。一夜之间，张仪突然康复上朝了。楚国使者急忙求见，然而，张仪否认六百里土地一事，说：“那肯定是楚王听错了。我说的是我的封地六里。秦王的土地，别说六百里，就是六十里，我也没有权力馈赠他人啊！”楚王这才如梦方醒，恼恨万分，派出精兵10

万，选出大将屈匄，向秦国发起进攻。秦国早已严阵以待。齐国更是虎视眈眈。楚国与秦国刚一交战，齐国便从侧翼向楚国进攻。楚国腹背受敌，结果是主将屈匄被杀，10万大军仅剩两三万。秦国还乘机夺取了丹阳、汉中等地。楚国无力再战，只好以割让两个城邑为妥协条件，与秦国讲和。这样，更助长了秦国征服天下的决心。

秦王对楚国的黔中地区早就垂涎三尺，张仪认为不用动兵则垂手可得。他对秦王说：“大王还记得楚国曾经想要咱们商於六百里土地吧？咱们不妨旧话重提，说可以给他，但楚国必须将黔中献给秦王。现在的形势下，楚王决不敢要商於，也不敢不给黔中。”楚怀王果然既不敢要商於，又不敢不给黔中，楚王知道这又是张仪的主意，灵机一动，来了主意。楚王给秦王回复，如果秦王一定要黔中地区，不必以地易地，只要能派张仪来楚国助他一臂之力，他就把黔中奉献秦王。秦王非常为难。张仪却要求赴楚，说：“大王不必替我耽心。楚国害怕秦国，楚王害怕秦王，我奉大王之命前往，谅他也不敢杀我。”秦王说：“如果楚王胆敢对你非礼，我不惜千军万马也要保你平安回国。”张仪知道，对于孤身入虎穴的他来说，强大的秦国只是一个远水解不了近渴的保障，一旦楚王盛怒之下杀了他，秦国杀来千军万马也无济于事了。他还另有护身之策。一到楚国，他先秘密拜访了靳尚。他知道，楚王最宠爱贵妃郑夫人，而郑夫人对靳尚的话一向信赖。他让靳尚通过郑夫人保全自己。楚怀王一见张仪，就将其囚禁，决心杀掉。靳尚按张仪所嘱，急忙拜见宠妃郑夫人，劝其救张仪，说：“夫人，您知道，秦王极为宠爱张仪。据说，秦王为救张仪，打算奉送上庸六县，并把秦国最出色的美女嫁给我们楚王，大王重视土地，尊重秦国，秦国的美女在大王的眼里一定尊贵，那帮秦国美女一定整天缠得大王神魂颠倒，日久天长，难免要倍受大王的宠爱。到那时，夫人您……”郑夫人不想再听下去：“别说

了!”作为一国之君的夫人，最怕的莫过于此。于是，郑夫人千方百计地规劝楚王，楚王始终无动于衷。迫于无奈，郑夫人只好以离君出走相要挟。楚王权衡利弊，觉得，贪图一时痛快而导致秦楚大战，实在得不偿失，于是赦免了张仪。

秦惠文王死后，太子武王继位。朝中许多大臣都忌妒张仪，武王也不喜欢他。张仪知道凶多吉少，性命难保。左思右想，陡生一计：既要离秦投奔他邦，还要当个冠冕堂皇的秦国使臣。翌日拜见秦武王，张仪说：“只有各国兵戎相见，秦国才能割得更多土地。齐王最恨我，只是畏惧秦国，才不敢来取我人头。如果大王派我去魏国，齐国必然伐魏。那时，大王就可攻韩国，入三川，逼进周京，挟持天子以令诸侯，成其帝王之业。”秦武王不胜欢喜，出动三十辆兵车，隆重地送张仪去魏国。魏国不敢得罪秦国，自然也就不敢得罪张仪。至此，张仪按照他的万全之策，完成了离秦赴魏的计划，而且还在魏国担任了相国。齐王听说张仪到了魏国，果然出兵伐魏。魏王知道自己无端受害，便想劝张仪离魏归秦。不料，张仪主动拜见，说：“我能让齐国停止用兵。”魏王忙问：“莫非您想回秦国搬兵？”张仪淡然一笑：“无需秦王动用一兵一卒。”张仪之所以胸有成竹，因为他已有安排。张仪早已派出家臣冯喜先赴楚国。待齐国伐魏时，冯喜以楚国使臣的身分出现在了齐王面前。冯喜对齐王说：“大王因为张仪在魏国就伐魏，这恐怕反倒救了张仪呀。”齐王问其故。冯喜说：“大王，恐怕您知道张仪是在秦国待不下去了，才到魏国来的吧？其实，未必呀！谁不知，张仪离秦出使魏国，秦兵派30辆兵车护送，这作何解释？”齐王沉思不语。冯喜说：“据我们所知，张仪离开秦国前，曾和秦王有秘约。”齐王急问：“什么秘约？”冯喜说：“张仪离开秦国前，对秦王说：‘只有各国兵戎相见，秦国才能割得更多土地。齐王最恨我，只是畏惧秦国，才不敢来取我人头。如果大王派我去魏国，齐

国必然伐魏。那时，大王就可以攻韩国，入三川，逼进周京，挟天子以令诸侯，成其帝王之业。’秦王这才遣张仪赴魏。如果大王攻打魏国，既内耗国力外攻盟邦，又使张仪得到了秦王的信任，这岂不是伤了自己而又救了张仪？”齐王暗叹险些中了张仪的奸计。于是，急令撤兵。魏王忽闻齐国自行撤兵，当然是不胜惊讶和欣喜。对张仪，自然是宠信百倍。然而，张仪在魏国担任相国的时间并不长，仅一年，便死于魏国。策士如云的战国时期，张仪被称为策士之雄，是当之无愧的。

(易行)

## 冯驩

冯驩(生卒年不详)，战国时齐国的一个布衣。因生活贫苦，难以自存，于周赧王十三年(公元前302年)，穿着破衣草鞋，投靠齐国贵族孟尝君做食客。虽然冯驩以无“好”亦无“能”回答问题，但孟尝君还是接受了他。把他安置在下等“传舍”。

冯驩投奔于权门之下，本来胸有奇才，却并不自夸自诩。居数日，三次弹剑高歌，要求改善待遇，惹得孟尝君左右由耻笑而愤怒。冯驩之所以出此怪举，正是他计谋深远之表现。他这样做，其实是在考验孟尝君的胸怀，以便决定自己是否可以在这里一展其惊世之才。

一天，孟尝君拿出帐簿，对门下的食客们说：“哪一位先生善于会计之术，可以代我到薛地讨债？”冯驩说：“我可以去。”冯驩带着车马，很快便到了薛地。他深入民间，实地调查，凡是有能力偿付债务的，或者立即收取，或者限期缴纳，很快便收到了利息上万钱。但有一些人确实贫困，无力偿还债款，冯驩一一查明后，不但没有强行逼债，反而将债户召集到一起，置酒款待，然后将自己带来的债券和债户的债券相合，验明后立即以火焚之，众人非常激动，高呼孟尝君万岁，并且一拜再拜。

冯驩理事完毕，乘车急速回到齐国，一大早便去求见孟尝君。孟尝君问道：“债款都收完了吗？怎么这么快呢？”冯驩回答得很简单：“债款全都收完了。”孟尝君很高兴地问道：“先生用债款为我买了什么呀？”冯驩从容自若地说道：“我心里想，公子家中金银珠宝、猎狗、骏马和美人都不缺，如果说缺什么的话，我以为您缺少的只是仁义罢了。”孟尝君疑疑惑惑地问道：“缺少仁义又怎么样呢？”冯驩振振有词地说道：“公子的采邑薛地并不算很大，您本应该把那里的百姓做为自己的子女，好好地抚爱他们，只有这样，民才能为公子所用。然而，您却只知在他们身上取利。对于富足的，当然应要他们如期还债；但对于贫困者，虽责罚他也无力偿还，时间越久，拖欠的债利会越多，这样就越发难以偿还了。一旦逼紧了，他们还可能弃家出逃，甚至谋反作乱。这样，不但你毫无所得，而且后果不堪设想。因此，为了使公子能够获得一个仁爱之士的好名声，我假传公子之命，当场焚烧了无用的债券，民称您万岁。我使公子捐弃的是一点点虚利，却为公子赢得了薛地民众的敬仰与信赖。”孟尝君听了虽然也觉得有道理，但白白地损失了不少钱，心中还是郁郁不乐，便无可奈何地说：“唉，先生算了吧。”

从冯驩处理薛地收债来看，可见他做事的果决和用心的深远。他以政治眼光来看待经济事务，以牺牲眼前利益来谋取长远利益，并且在一定程度上减轻了人民的负担，是颇有见地的。

孟尝君身为宰相，权倾齐国，门下食客、谋夫勇士，藏龙卧虎。加上他礼贤下士和仁爱百姓，因而名声和影响日益扩大，这引起了齐湣王的猜忌。其它诸侯国不愿看到齐国的日益强盛，也便散布流言，挑拨齐国君臣之间的关系。不久，孟尝君就失宠了，被罢免了相位。当初孟尝君得志时，宾客如云，高朋满座，而今失意，门前冷落车马稀少，使他饱尝了世态炎凉。他只好驱车回到他的

封邑薛地。在距离薛地百里的地方，只见道路上黑压压的有许多人在迎接他，男男女女，扶老携幼。孟尝君阴霾覆盖的心里顿时射进一道温暖的阳光，激动得热泪潜下。他知道，这是因为一年多以前冯驩代他焚券弃息才赢得了民心，取得了薛地百姓发自内心的拥戴，使他这个落魄公子今天有了一块安身之地。

冯驩说：“狡兔有三窟，才能幸免于死。如今公子仅有一窟，还不能高枕而卧，请让我为您再营二窟。”孟尝君惊诧而兴奋地注视着他，冯驩平静但胸有成竹地说：“请公子借我高车使用数日，我要让齐王在不远的将来，重新任公子为相。”孟尝君虽然并不明白其用意，但仍然是喜不自胜。冯驩辞别孟尝君，便到魏国国都大梁，去见魏君梁惠王。冯驩对梁惠王说：“近年来齐国之所以日渐强盛，是因为孟尝君当了宰相，然而现在却遭到谗毁和嫉恨，被罢相免官，放逐在外。如果哪一个诸侯国肯迎他为相，不但可以使该国国富兵强，而且齐国的政事、军情及民情亦可尽入该国掌握之中，攻取齐地，还不是易如反掌吗？这可是个千载难逢的机会呀。”梁惠王一听，正中下怀，何况孟尝君的贤名他早已耳闻，于是他把原来的宰相任命为上将军，急派使臣携黄金前往薛地，聘孟尝君到魏国任相。冯驩借机先行一步，赶回薛地，提醒孟尝君说：“梁惠王用百镒黄金礼聘公子为相，我想公子是不会背齐去魏的，但一定要造成一种声势，使齐国君臣朝野为之震动。”孟尝君当然依计而行。魏王使臣往返三次，孟尝君也没有应聘。齐湣王听到了这件事。孟尝君不为重金所诱，坚辞不就魏相，使他很受感动。于是便派“太傅”携带黄金、佩剑和绘有文彩的高车两辆，前往薛地，还亲自修书给孟尝君，请他回朝统帅全国军民。

冯驩对诸侯各国皆欲称霸天下的心理洞若观火，因而他成功地说服了魏国的梁惠王以重金厚礼聘请孟尝君前去为相，这样，就把孟尝君的地位和价值哄抬起来，使齐国朝野感到震惊，拱手恢复了他的相位。事情发

展至此，似已相当圆满，但冯驩又劝阻孟尝君立即返齐为相，他建议孟尝君，请求齐湣王在薛地先建先王之宗庙，安置先王的玉器。这是冯驩替孟尝君策定的安身之计。因为有齐先王的宗庙玉器在薛地，将来不管发生了什么事情，齐王也不能随便攻伐薛地，若有他国来犯，齐王亦不能不救。至此，可称得上神人共助，稳如泰山。齐湣王果按孟尝君所请，在薛立宗庙。庙成后，冯驩对孟尝君说：“三窟已经营就，现公子可以高枕无忧了！”

孟尝君再次为相，富贵空前。他对此感慨万端，同时发誓说：“那些出走的宾客如再回来，我必口唾其面，重重地羞辱他们一番。”冯驩听了却不以为然。他认为，做为一个政治家，襟怀必须宽宏，能容常人所难容人之一切，善于弃人小恶而成己之大德。这样才能众望所归，使天下英雄豪杰皆为自己所用。对于世间冷暖，人情炎凉，也应有个正确的对待。否则，不但徒生烦恼，而且于成就功名大业无益。身处逆境时应该挺直腰杆，声威显赫之时则应豁达谦和，尝得了人生百味。于是他对孟尝君说：“大凡物有必致之道，事有固然之理。有生必有死，这是物之必致之道；富贵多友，贫贱少友，这是事之固然之理。公子没注意到市场上那些芸芸众生吗？他们日出时摩肩接踵挤门而入，日落时又匆匆忙忙地离开。难道是他们喜欢日出而厌恶日落吗？不是的，他们只是为了追逐利益而已。您不能责怪那些困难时离开您的人，因为世态人情本来如此，何必萦萦于怀，而绝用人之路呢？”孟尝君听了这番洞晓世事、练达人情的话，胸中的恶气渐渐平息了。

人世间有富有贫，有贵有贱，趋富贵而轻贫贱，一般人很难超俗。冯驩对于世事人情了解得可谓透彻，并从中揭示了世上万事万物的固有规律，这是难能可贵的。

冯驩生卒年及生平已无法详考。此人虽无赫赫功名，但见识深远，谋事有方，是位

智慧过人的古代谋士。

(邓 林 刘 畅)

## 赵 奢

赵奢(生卒年不详)，是战国时期赵国的理财家、军事家。赵惠文王时，初为田部吏，不久主管全国赋税，后又为将军，因功封为马服君。

赵奢任田部吏时，到位居国相的赵王之弟平原君家收租税。平原君家管事的人仗势不肯交纳租税。赵奢秉公执法，连杀了平原君家9个管事人。平原君闻知大怒，要杀赵奢。赵奢趁辩诉的机会当面劝谏平原君，说：“您在赵国是一位尊贵的公子，今天我若放任您家而不奉行公法，国法的效力就会受到损害；国法效力受到损害，势必减弱国家的力量；国家的力量减弱了，别的国家就会用兵威逼，这样赵国就不存在了。赵国灭亡了，您何能有如此的富贵呢？凭您的显赫名声，尊贵地位，能以国家为重，遵奉国法，那么无论尊者卑者都这样做，这样就可以一切公平合理，上下平等了；上下平等了，国家就富强；国家富强，君位就巩固了。您是赵国最尊贵的亲戚，难道甘心被天下人轻视么？”

赵奢的话义正辞严，句句入理，利害分明，打动了平原君的心，满腔怒气烟消云散，由此发现赵奢是难得的人才，将他荐举给赵王。赵王派赵奢管理全国的赋税。赵惠文王时是赵国经济发展的鼎盛时期。赵奢理财，史书未见详载。司马迁《史记·廉颇蔺相如列传》中写道：“王用之(指赵奢)治国赋，国赋大平，民富而府库实。”由此足可见赵奢理财的政绩。

赵惠文王二十九年(公元前270年)，秦军攻韩，围困了阏与(今山西和顺县西北)，直接威胁赵国。赵惠文王早就想夺取韩国的上党地区，以控制太行山这个天然屏障。此次出兵援救阏与正是机会。但面对强大的秦国，能否取胜，心中无数。赵王同有作战经验的廉颇等将军商量，他们都认为路途艰险，



援救困难。赵王询问赵奢，赵奢认为：“路远而险，就象两只老鼠在洞中打架，地方狭小，没有回旋余地，哪个勇猛，哪个就能取胜。”赵王决定赵奢率军前去援救阨与。

赵奢率领大军只离开都城30里，便停下来安营扎寨，故意弱于秦，并传令军中：“有敢为军事来进言者处死刑。”秦有一支兵力正在赵距邯郸很近的武安（今河北武安西南）西扎寨，以防止赵国出兵援救。秦军击鼓呐喊，在此操练军队，震动了武安城。赵军侦探见此情景，便向赵奢请求急救武安。赵奢立即将这个侦探斩首。赵军坚守筑垒，28天没有前进，以示安兵久驻之意。秦军间谍混入赵营，赵奢用酒食款待，然后遣着回去。间谍回去向秦将军报告了赵军的情况，将军说：“赵军离都城仅30里就不前进，而且还增筑营垒，显然是不敢去阨与救援，阨与一定不属于赵国！”

当赵奢送走秦国间谍后，立即下令兵士，束甲轻装，疾速奔向阨与前线，两天一夜赶到阨与近旁。派善射兵士在离阨与50里处扎营。赵军刚扎营，秦军闻讯便倾巢赶来。这时赵军有个军士名许历，犯令请求允许陈述军情。赵奢应允。许历说：“秦军没有料到这样迅速来到此地，他们闻讯赶上来，士气必然旺盛，须把兵力集中等待他们，不然必败。”他见赵奢听得认真，便又进言：“先能据守阨与北面山头，方可取胜，后来者失去险隘，必遭失败。”赵奢认为可行，立即派1万兵力赶上山头。秦军到来，赵军居高临下，奋力抗击，拒秦军于山下。赵奢指挥全军，向秦军发起猛攻，大败秦军，阨与之围终于解除，赵军凯旋而归。赵军胜利，证明战争不光是力量的竞赛，同时也是智谋的较量。赵奢示弱于敌，骄纵、麻痹敌人，使其松懈防备，然后用奇兵出其不意，乘机歼灭敌人的智谋，确比秦军将领高出一筹。

赵奢解救阨与之围后，齐国大将田单对赵奢作战用兵太多表示不佩服。赵奢对田单说：“看来你对用兵之道知之未深，而且忽略

了时势的变化。这就好比干将莫邪铸造的宝剑，用它割肉，可以断开牛马的肌骨，用它削金，可以截断铜制的器皿。但若挥起它去砍粗大的木柱，必定一折三截；倘用它去剥坚硬的石板，势必寸寸崩碎。而今以3万之众抗击强国之兵，这与用宝剑砍木桩、剥石板有何区别呢？再说这样的宝剑若没有厚厚的剑脊，剑锋也无法刺入物体，没有薄薄的剑刃，也不能斩断任何东西，但即使两者都具备，若没有剑柄、剑头镮、剑绳等便于抓握的部分，只是握着刃，那么没等刺入物体，手就被割得骨断筋折了。这是因为失去了自保的条件。你舍弃一、二十万兵马不用，就等于舍弃了这个条件，仅凭3万兵马攻守征战，已经无法立于不败之地，又怎能取胜呢？”

赵奢认为田单是被他在即墨用少数奇兵战胜燕国大军所拘泥，所以又进一步指出：“古时，四海之内分为万国。城墙再大不过300丈，人口再多不过3000家。在这种情况下，集中3万兵力就可攻守。现在古时的万国已并为七国，仅以3万之兵拒数万之众，则旷日持久，不能退敌，这就是以前齐国败于燕昭王的原因。后来齐国发兵20万攻打楚国，历时5年方罢兵回师。赵国也以20万之众攻打中山国，也用5年时间。如今齐、韩两国势均力敌，倾一国之兵或攻或守，难道有谁能口出狂言，说他能凭3万之兵即可退敌吗？时至今日，千丈之城，万家之邑，比比皆是，若仍以3万之众围千丈之城，连城墙的一角都遮盖不住，又岂能合围？若在旷野作战，更是少得无法使用。你能有什么高明的对策吗？”田单听后，心悦诚服。

赵奢是一位有丰富实战经验的将帅，他的用兵之道是通过亲身作战总结出来的，其中包括失败的教训，胜利的经验，因此不拘泥古法，能根据古今形势的变化而采取不同的作战规模和作战方式。他的这种思想今天仍然闪烁着真理的光芒。

（张在义）



## 王 翦

王翦(生卒年不详),是战国末年人,秦国名将,为秦国兼并六国,统一天下建立了不朽的功勋。

王翦出生在秦国频阳(今陕西富平县东北),青年时投身军旅,虽然是普通士兵,但心怀大志,一有空闲就阅读兵书战策,思索历史上的作战成败得失。由于他作战勇猛,为人聪明机智,由下级士兵逐渐被提拔为将军。公元前253年,王翦被秦王政(即秦始皇)任命为大将,率军进攻赵国,首战告捷,占领了赵国九座城邑。

秦王政十八年(公元前229年),王翦再次率兵攻打赵国。赵国派大将李牧迎战。在李牧的正确指挥下,赵军连连获胜,秦军攻势受阻,双方相持一年之久,秦军依然劳师无功。王翦很想打破这种僵局。如果想打破僵局,一是秦军撤走;一是李牧败退。但这两种情况都是不可能的。秦军的这次大规模进攻,早已下定一举灭赵的决心,王翦自然不能无功而返,更何况两厢相持都在互相寻找破绽,秦军如果撤退,赵军势必乘机追杀,因此秦军根本不能撤走。而在军事谋略上战胜李牧又谈何容易。王翦明白自己处于进退两难的尴尬境地。兵书上有句话“知彼知己,百战不殆”,王翦对这位赵军统帅李牧是再清楚不过了。自从老将廉颇离开赵国后,支撑着赵国军事局面的就是李牧。他是戍守雁门关的良将,修筑赵国北部城防,训练士卒,连败匈奴,使其不敢越境半步;率兵伐燕,攻无不克,战无不胜;秦国前两次进攻赵国,均被李牧击败,致使一些秦军听说赵将是李牧,就被他的赫赫声名吓得不敢再战,撤兵而走。要战胜这样一个强有力的对手,不仅要凭借军事实力,运用奇谋巧计,还要有一个适当的机会。

其实这个机会早就有了,只不过王翦在等待它的成熟。历经一年多的相持,两国的国王对战局倍加关心,而赵王已是有些不耐

烦了。你李牧平时是如何如何地有本事,如今怎么连个王翦也打不过呢?于是王翦便把这当作大好时机牢牢地抓住了。王翦首先派人到李牧那里提出休战讲和的建议,其实真正的目的是要引起赵王对李牧的猜疑:是不是秦国在引诱李牧投降啊?王翦估计赵王急于求证这件事,于是又派间谍潜入赵国,用重金收买赵王的宠臣郭开,借他之口,在赵王面前散布谣言,说李牧要叛国降秦。赵王本是个昏庸愚蠢之人,又生性多疑,本来就不放心李牧,听到谣言,自以为得到证据了,于是撤去了李牧的将军之职,派一个不谙军事的赵葱来替换李牧。李牧不肯受命,被赵王下令斩首。王翦抓住时机,制造假象,巧用反间之计,诱使赵王杀死李牧自毁“长城”,终于在李牧死后的第二年,秦军攻入赵国都城邯郸,赵王被俘,赵国灭亡了。

王翦在军事指挥上不仅善于出奇制胜,而且能审时度势,根据敌情的变化,正确地制定作战方略。他的体察入微,行事审慎的对敌态度,集中而突出地表现在秦始皇二十三年(公元前225年)的灭楚战争中。

战前,秦王发动谋臣战将,共同商讨作战方针策略。秦王就如何进攻楚国,需要动用多少兵力等问题征询重要将领的意见。他问年轻的大将李信:“我要拿下楚国,将军估计一下需要多少兵力?”李信豪壮地回答说:“20万足矣!”秦王又问王翦,王翦回答说:“非60万人不可。”秦王笑着说:“看来王将军确实是老迈年高了,怎么突然胆小起来?”他不听王翦对成败利害的恳切陈述,轻率地采纳李信意见,命李信、蒙恬率军20万冒然伐楚。王翦一看自己在秦王眼里竟是这般老不中用,而且听不进逆耳忠言,心中不痛快,于是向秦王请假,回故乡频阳养起病来了。

难道真是王翦年老胆怯了吗?当然不是。其实,王翦的“非60万不可”的主张,是建立在对秦楚形势周密分析基础上的。从当时情况看,楚是大国,地广人多,兵力雄厚。早在春秋时代,就问鼎中原,称霸一时。战

国中期以后，虽然打了一些败仗，丧失了一部分领土，国力日渐衰落，但百足之虫，死而不僵，况且楚国仍有相当的军事实力，是当时唯一能同秦国较量的国家。秦灭掉燕、代、赵、魏以后，楚国感到形势危在旦夕，决心倾全国之力同秦国决一死战，以挽救危局。更何况，楚国尚有良将项燕，此人不可小视。王翦正是顾及到这一系列不利因素，清楚地意识到这场战争的艰巨性才提出以优势的兵力对楚作战的主张，这不是畏敌，而是胜算。而年轻的将领李信则显得轻敌，甚至包括秦王在内，都多少被刚刚取得的胜利冲昏了头脑。骄兵必败，秦王与李信都犯了这一军事大忌。

秦国20万兵分两路，李信攻平舆，蒙恬攻寝，初战获胜。于是李信又挥军西进，与蒙恬会攻城父。而楚将项燕率领训练有素的生力军一直尾随其后，伺机而动。当秦师聚会在城父，立足未稳之时，楚军经过三天三夜的强行军，出其不意地从背后发起攻击。秦军的两座营垒被攻破，7个都尉被杀死，李信逃回国内。

秦王听到消息，又生气又后悔。他亲自去频阳，向王翦道歉：“我没有听从将军的建议，导致秦军大败，由于李信的轻敌，而使秦军蒙受到耻辱，老将军虽有病在身，但怎么能抛下我不管呢？”王翦仍为秦王说他年老气衰的话心气未平，就说：“我本来就年岁大了，现在又有病在身，不能领兵打仗了。”秦王感到内疚，更加诚恳地说：“算了吧，别为那件事生气了，都是我不好。”王翦这才说：“大王若非用我不可，还是那句话，非60万人不可。”秦王说：“一切按将军的计议行事。”于是王翦统兵60万，大举伐楚。

60万人，几乎是秦国全部的军队，手握重兵的王翦，当然知道秦王为人疑心大，如果有什么风言风语，秦王在国内掣肘，自己就无法按计划与楚国决战。若楚国也使用离间之计，就象自己战败赵军那样，就更是不可不防了。于是他想出了一个办法，要让秦

王对自己深信不疑。当大军起行，秦王在城外相送时，王翦故意请求秦王，赐他大量的良田美宅。秦王不解地问：“将军出征，还怕家里人受穷吗？”王翦说：“作为大王的将领，无论有多大的功劳也不能封侯，我想借此机会请求点田宅，好给子孙留点产业。”秦王对这位忠心为国的老将的“贪心”感到好笑。在大军就要出关时，他又连续派了五个信使，向秦王转达王翦请赐良田的请求。有人对王翦说：“将军如此乞求赏赐，未免太过分了吧？”王翦解释说：“你不明白我的心意啊，大王心性高傲，对人信不过，现在把全国的精兵都交给我，我若不多多地乞求田宅，关照自己的子孙后代，表明自己牵挂家园，决无二心，难道让大王对我产生疑心吗？”由此可看出王翦的细密而又用心良苦。

楚王听说王翦的大军压境，果然倾国中之兵，以项燕为统帅与秦军决战。王翦见楚军来势凶猛，就采取了“坚壁而守”的作战方针，任凭楚军挑战，始终闭门不战，静待战局的变化。他每天只让士兵洗浴休息，吃饱吃好。他还经常深入士兵当中，关心他们的疾苦，“亲与士卒同食”。过了一段时间，他问手下将官：“军队里在做游戏吗？”将官回答说：“士兵们正在进行投掷击石和跳远的比赛。”王翦高兴地说：“我们的战士可以战斗了。”原来，王翦闭门休战，每日让士兵饱食终日却无事可做，将士们都感到无功受禄，个个坐立不安，都觉得对不起老将军，每个人都希望与楚军决战，报效将军与秦国。

而这时的楚军，则因寻不到战机，斗志渐渐松懈，于是向东转移。王翦抓住战机，乘机挥军追杀，大败楚军，到达郢南。楚将项燕战死，秦军顺势向楚国纵深推进。次年，王翦又与秦将军蒙武协同作战，俘虏楚王负刍，将楚地纳入了秦国的版图。

王翦灭掉楚国之后，即胜利地回到都城咸阳，向秦始皇告老，返回故乡，以尽天年。

王翦有大功于秦，在秦统一六国的战争中占有重要地位，从而成为我国历史上的著

名将领。他具有文武兼备的才能和刚柔结合的性格。战机不到，稳如处子，一旦抓住战机，则动如脱兔。在战役指挥中，他坚持“知彼知己，百战不殆”的原则，重视敌情分析，并针对每次战役的具体情况，灵活机动，克敌制胜。因此，王翦在我国古代军事史上具有重大的影响。

(张新海)

## 白 起

白起(?——公元前257) 是战国时期智勇超群的秦国著名将领。郿县人。精通兵法，英勇善战，深受秦王重用。

昭王四十五年(公元前262年)，白起攻取韩的野王郡，堵截了上党通往韩国都城的道路。上党郡守冯亭为保全上党，决定归顺赵国。依靠赵国来对付秦国。昭王四十七年，秦国攻打上党，上党守军抵挡不住逃往赵国。四月，秦军攻赵，赵国大将廉颇在长平与秦军交战。由于秦相范雎进行离间活动，赵王中计，不听劝阻，罢免作战经验非常丰富的老将廉颇，任用没有实战经验、只会纸上谈兵的赵括为将。

秦王得知，便暗派白起为主将，王龁为副将。赵括就职，调换军中将领，改变廉颇以守为攻的策略，出兵攻打秦军。白起率兵假败而逃，助长赵括骄狂心理，诱敌深入，暗中布置左右两股骑兵准备夹击赵军。赵括果然年轻气盛，初战得利，便得意忘形，乘势追击，直捣秦军营垒。秦军坚守壁垒，赵军打不进去。这时秦以2.5万骑兵截断赵军退路，又以5000人切断赵军各营垒之间的联系。这样赵军便被分为两段，并断绝了运粮的道路，陷于势孤粮绝。白起见状派轻骑迅猛攻击。赵军失势，只好重又筑壁垒坚守，以待救兵到来。到九月，赵军断粮已有46天之久，军卒饥饿不堪，竟然残杀相食。面对这种危急状况，赵括无奈，只得把几十万大军分为四部，轮番向秦军营垒发动冲击，企路夺路逃生，但终因秦军壁垒森严而不得成

功。无奈，赵括只得亲率精兵与秦军搏杀，结果死在秦军的乱箭之下。赵括一死，全军立时瓦解，40万士兵全部投降。白起恐赵国士卒反复无常，日后作乱，便用欺诈的手段把投降的士卒活埋了，只留下老弱病残的240人，遣返归赵。赵国人得知战况，个个惊恐万状。昭王四十七年十月，白起乘势攻占了上党周围的大小城邑，设置上党郡。然后又分兵两路：一路向西攻占皮牢；一路向北平定太原。秦军长驱直入所向无敌。韩赵两国无力抵抗，惶恐不安，便请燕国大夫苏代赴秦贿赂范雎，范雎进言请允韩、赵割地求和，秦王应允，命白起撤军。

长平一战，赵国前后损兵45万，秦兵的伤亡也很大。秦国罢兵后，积极致力休养生息，积蓄力量，重整旗鼓，准备再战。秦昭王四十九年(前258年)九月，昭王打算再次进攻赵国都城邯郸。白起便劝谏赵王说：“不能攻赵。”昭王问白起：“上一年国库空虚，百姓挨饿，你不考虑百姓的能力，极力要求增加兵援，调拨军粮，进灭赵国。如今百姓得以休息，战士得以保养，储足了粮食，军队的费用也比以前增加一倍，而你却说‘不能攻赵’，这是什么道理？”白起分析了两国形势的变化，对昭王说：“长平一战，秦军大胜，赵军大败。秦国人欢天喜地，赵国人胆战心惊。秦国厚葬死者，厚养伤者，互相大摆酒宴，耗费了国家资财。赵国死者不得葬，伤者不得疗，只能涕泣哀怜，齐心协力以国难为忧，努力耕田，积极积蓄财富。而今大王派出的军队，虽然比以前增加一倍，我料定赵国的防守力量已增加10倍。长平之战以来，赵国君臣担心忧虑，时刻警惕秦军侵袭，人人忠于职守，勤奋做事，每日早上朝，晚退朝，用谦恭的言词、丰厚的礼物去结交四方的诸侯，已与燕、魏、齐、楚结盟，他们共同处心积虑，把防备秦国作为头等大事。总而言之，如今的赵国财力充足，外交成功，这个时候是不能攻打的。”

昭王不听白起的规劝，执意出兵。他任

命王陵为将，率兵攻打赵国都城邯郸。王陵连连战败，损失了五个军营的兵力。昭王深知白起的军事才能远在王陵等之上，要白起挂帅出征，或可扭转战局，可白起不肯受命，又一次规劝昭王说：“邯郸实在不易攻下来。而且诸侯国的救兵指日可到，那些诸侯早就怨恨秦国。如今秦军虽在长平大败赵军，可秦军也死亡过半，国内兵力空虚，跋山涉水去争夺人家的都城，赵国从内应战，诸侯从外攻击，秦军必被击破，不能再攻赵了。”

昭王无奈，又派范雎前去劝说。范雎一见白起，就责怪起来：楚国方圆有5000里之大，士卒有百万之多。你那次只率领几万大军深入楚国，就攻下了鄢、郢二城，烧毁了楚国的宗庙，直打到楚国东部的竟陵，使楚人闻风丧胆，仓惶东逃而不敢向西一步。那次与韩、魏的联军作战，他们互相接应，兵马众多，你率领的兵马还不到他们的一半，跟他们在伊阙交战，大破两国联军，血流漂卤，杀敌24万。因此，韩、魏至今还自称为秦的东方属国。这都是你的功劳，天下人没有不知道的。如今赵国的兵卒十分之七、八死在长平战场，国力大大削弱，所以君王才大举兴兵，人数也超过赵国的几倍，执意委派你为将军，一定要灭掉赵国。你曾以少抵多，神奇地取得胜利，何况这次攻打赵国是以强抵弱、以多抵少呢？”白起针对范雎的责难，详细地分析了破楚、伊阙、邯郸三战双方主、客观的优劣形势，说道：“那时楚王仗恃国家强大，不关心国政，大臣们互相嫉妒，居功自傲，奸臣当权，忠臣被排斥，百姓心散了，城池年久失修，既无良臣辅佐，又不加强守备。所以我才率兵长驱直入，越过许多城邑，一路上用拆桥烧船的办法激励士兵，在楚国乡村中夺取粮食，来补充给养。那时秦军战士以军队为家，以将帅为父母，不须管束，就能团结友爱，不须谋求，就能彼此信任，一心同建战功，至死不退缩逃跑。而楚国人在自己的国土上作战，免不了眷恋家园，人心离散，没有斗志，因此我才能建战

功。伊阙之战，韩军势单，总想指望魏军，不想先用自己的部队。而魏军依赖韩军的装备精良，总想把韩军推为迎敌的先锋。两国军队各为自己争夺便利而不能同心协力，所以我才有机可乘，设下疑兵，假意防御韩军，暗中使用全部兵力，出其不意的猛攻魏军。打败魏军，韩军就不战自溃了，我就乘胜追击溃逃之兵。我因此又立了战功。这都是因为谋略得当，符合客观情况才取胜的，哪有什么神奇可言呢？”白起心想，当年罢兵就是你范雎的主意，今天你有什么脸来责怪我。于是就把罢兵而造成的后果摆给他听。他接着说：“当初，我军在长平击败了赵军，却不及时趁它脚跟未稳、惊惶失措时灭掉它，反而在这时把它放了，使它有机会从事农耕增加粮食储备，养育孤儿，使年幼的健康成长，补充了兵员；修整了兵器，增强了战斗能力，修补了城墙，疏通了护城河，加固守备。它的国君屈己下人，谦恭侍臣；大臣放下架子，敬奉勇敢不怕死的战士。至于像国相平原君等人，都让自己的妻妾到军营中替战士缝补衣物。他们上下同心协力，就象当年勾践兵败退守会稽时的情形一样呵。在这个时候攻打赵国，它一定坚守不动；向它挑战，也一定不肯出来迎战；围攻它的都城，肯定攻不破；攻打其它城邑，也未必攻下；去乡村掠夺，也未必能有所得。我们出兵无功，诸侯就会产生别的想法，外援也一定要来了。我只看到去攻打赵国的害处，而没有看到它有什么益处。”说完，白起借口有病了，还是拒不受命。范雎没话可说，只得惭愧地离开了。

范雎把白起的话告诉了昭王，昭王十分生气地说：“没有他白起，我就不能灭掉赵国吗？”于是便派王齕代替王陵为将，继续增派军队攻打赵国。秦军包围邯郸八、九个月，损兵折将，死伤惨重，久攻不下。白起虽没有挂帅出征，但我的心始终与攻赵的大军联系着，听到前线传来秦军连连失利的消息，心如火烧，痛心地说：“不听从我的意见，如

今怎么样？”昭王得知，恼羞成怒，亲自去见白起，强令白起起床，说：“你虽然有病，还是勉强为我躺在床上指挥吧。如果你得胜立功，实现了我的愿望，我将更加敬重你。如果你不肯去，我就要恨你了。”白起下地叩拜昭王说：“我知道，我只要肯去，即使不胜，也会免罪，如果我不去，即使无罪，也难免诛罚。但是我诚望大王能体察我的浅见，放弃攻赵，休养民众，等待诸侯情况的变化，去安抚那些恐惧我们的国家，攻伐那些自恃强大，态度傲慢的国家，去消灭那些无道的国家，这样就能驾驭所有的诸侯国而统一天下了，何必一定要灭赵呢？这就叫作对一个臣子屈服而在被天下取胜啊。大王如果不考虑我的浅见，一定要灭赵才称心如意，从而使我获罪，这叫做在一个臣子面前取胜而在天下被人屈服啊。取胜于一个臣子的威严，哪里比得上取胜于天下的威严大呵！我听说过贤明之君爱其国，忠良之臣爱其名。破败的国家难以恢复，死亡的士卒，不能回生。我宁愿承受重罪而死，也不愿做败兵的将军。希望大王明察。”昭王怒不可遏，下令革去白起官职，降为士卒，令他离开都城咸阳，并于远行途中逼他自尽而亡。

白起死后，昭王仍执迷不悟，一意孤行，继续增兵攻打邯郸。战局的发展，果不出白起所料，以秦国损兵失地而告终。

白起久经沙场，戎马一生，为秦国兼并六国，一统天下立下了赫赫战功，奠定了坚实的基础，是一员难得的勇将，更是一位罕见的谋将。由于他毕竟是一位纠纠武夫，对统治阶级上层的倾轧和斗争缺乏警惕，并根据自己对敌我双方的深刻认识而直谏反战，以致于虽然功高盖世，竟惨遭暗算而冤死异乡，酿成了他的人生悲剧。白起在几次战役中屠戮俘虏，长平之战竟然坑杀赵国40万降兵，可见其残酷。然而他在用兵作战方面的超群智谋，仍然不失为我国古代军事史上的宝贵遗产。

(张新海)

## 蔺相如

蔺相如，战国后期赵国人，生卒年不详。他原是赵惠文王的宦官缪贤家的“舍人”，地位甚为低下。然而后来发生的一件事，却使缪贤对他刮目相看了。

身为宦官的缪贤，出入王宫，办事精明，深得赵王宠信。可是一次因过失犯了罪，心中很害怕，就想逃到燕国去避难。这时，蔺相如把他拦住了，问道：“处于这种情况，燕王会收留您吗？”缪贤说燕王私下里对他很好，蔺相如摇了摇头说，“赵国强，燕国弱，您是赵王的宠臣，燕王才巴结您。如今就不一样了，您成了罪犯，谁收留您，谁就会结怨于大王。燕国本来就怕赵国，不但不敢留您，还会把您捆起来交给赵国。”

一席话把缪贤说得上下冰凉，恳求蔺相如为他谋一条生路。蔺相如说，逃跑不是办法，不如主动向赵王请罪，因是偶然初犯，也许会得到赦免。缪贤袒臂伏斧地向赵王请罪，果然未出蔺相如所料，赵王真的赦免了他。

事过之后，缪贤前思后想，觉得蔺相如对问题分析透彻，见解精辟，实在是高出自己一筹。这样有勇有谋的人物，应该举荐给赵王，为国出力，只是苦于没有机会。

赵惠文王五十六年(前283年)，机会终于来了。北方强国秦国早就想吞并赵国，怎奈赵惠文王小心经营，国力还不弱，更有老将廉颇，力大过人，精通战策，一时无懈可击。这一年秦昭王听说赵国得了价值连城的“和氏璧”，便提出用15座城来和赵国交换。秦国别有用心的要求，给赵国君臣出了一个很大的难题，无形中也为蔺相如步入仕途，展示政治才能提供了一个绝好的机会。

赵惠文王召集群臣说：“如果我们把和氏璧给了秦国，秦王无信，不把15座城给我们，岂不是白白地受了骗？若是不给，又给秦国进攻我们制造了一个借口，怎么办呢？”群臣瞠目结舌，谁也拿不出一个好主意。缪贤于

是向赵王推荐了蔺相如。蔺相如见过赵王后回答说：“赵弱秦强，不可不应。”他接着说：“秦用城易璧，赵不答应，赵国理亏。取了璧而不给赵国城，是秦王理亏。两相权衡，宁让秦国理亏。”赵王问道：“先生可以为使吗？”蔺相如回答说：“大王如无他人，臣愿奉璧出使。如秦国给了城，就把璧留下；倘若不给城，臣请完璧归赵。”赵王大喜，当即派遣蔺相如携璧出使秦国。

蔺相如到了秦国后立即晋见了秦襄王，呈上了和氏璧。秦王见璧晶莹剔透，十分高兴，交与身旁美人近侍把玩。蔺相如一眼看穿秦王并无用15座城易璧的诚意，但璧已在秦王手中，想法拿回才好。于是心生一计，上前说道：“这璧上有点微瑕，请让我指于大王看。”

秦王不知是计，将璧给了相如。璧已到手，相如连退几步，背靠柱子，怒道：“和氏璧乃天下至宝。当时大王使人修书赵王，说以15城易璧。赵王召众臣商议，皆言秦国贪婪，骗得宝璧，不会偿还城池，都说不应答应。我以为，平民之交尚不相欺，何况大国之间的交往呢。再说，也不应该因为一块璧的缘故惹秦国不高兴。于是，赵王斋戒五天，遣我奉璧前来。临行时，我主还举行了隆重的送璧仪式。可见我国的态度是非常隆重而且对秦国充满了敬意的。然而大王态度却很不够郑重，礼节傲慢，随便将璧交于卑贱的美人近侍把玩，用来戏弄于我。今见大王毫无诚意，我已将宝璧收回。如大王逼我太甚，我便将头和璧一起撞碎在这根殿柱之上！”言罢，相如斜视殿柱，摆出了随时撞击的架势。

秦王吃了一惊，深怕真的撞碎玉璧，连声道歉，并召来主管大臣，指着地图上的15座城，说是一定交还赵国。

蔺相如利用秦王急于得璧的心理，立刻由被动变为主动，迫使秦王装出割城的姿态，但他清楚秦王用的是缓兵之计，自己何妨也将计就计呢？于是又要求秦王也斋戒五天，并举行受璧仪式，秦王无奈，只得应允。

五天斋戒之后，秦王在朝廷摆好九宾之礼，接见赵国使者蔺相如。相如来到朝廷，见杀了秦王的威风，提高了赵国的地位，十分得意。他昂首对秦王道：“秦自穆公以来，先后有20个国君，办事多不讲信用。当年杞子逢孙欺郑，孟明视欺晋，商鞅欺魏，张仪欺楚，历历在目。如今我也怕受大王欺骗，所以已将璧让人抄小路送回了赵国。秦强赵弱，大王只要派个使臣到赵，先割下15座城给赵国，赵国怎敢把璧留下而欺骗象秦这样的强国呢？我知道我欺骗大王该死，就请把我扔到滚开的锅里受烹吧。”

蔺相如的一席话，大出秦国君臣的意料，一时都没了主意。秦襄王无奈地说，事已至此，不如善待，将蔺相如放回去吧。

蔺相如利用秦王狡诈贪婪的本质，挫败了秦王欺骗利诱的手段，化被动为主动，可谓大智。他不畏强暴，针锋相对，把生死置之度外，可谓大勇。回到赵国后，因不辱使命，被赵王封为上大夫。结果，秦国没有割城给赵，赵也没有把璧送给秦国。

秦昭王二十七年（公元前280年），秦国发动了对楚的战争，为了稳住赵国，秦昭王提出，秦王和赵王在渑池（今河南渑池县西）相会修好。

秦国素不讲信义，且为虎狼之国，赵惠文王又不知秦王的用意，心中难免惧怕，便想推辞不去。

蔺相如认为，国与国之间应该礼尚往来，若是不去，反而会显得赵国软弱畏怯。不如做些相应的准备，准时前往赴会。于是赵王决定，让上大夫蔺相如随驾赴会，老将军廉颇等带精兵屯扎在渑池外，以便遇有不测时随时接应。

渑池宴会上，秦王酒兴正浓的时候，让手下人魏冉捧上瑟来，对赵王说：“听说赵王通晓音律，请演奏一下瑟吧。”秦王的要求分明含有取笑赵王的意思，然而赵王无奈，只得勉强演奏了一曲。秦王十分得意，命御史记入史册：“某年、月、日，秦王与赵王一起

饮酒，命令赵王鼓瑟。”说罢秦国君臣哈哈大笑。

蔺相如见秦王无礼，便拿过一个瓦罐，从容来到秦王面前，说道：“我家大王听说秦王善于击缶，就请让大家娱乐一下吧。”秦王很生气，当然不肯。相如手持瓦罐，站在秦王面前厉声说道：“若是大王不肯击缶，五步之内，我拼上这颗头颅，也要溅你一脸血污！”秦王的侍卫要上前动手，相如瞪大眼睛，欲与秦王拼命，吓得侍卫退了下去。秦王无奈，只得接过瓦罐，勉强地敲了一下。蔺相如回头招呼赵国的御使让他记录道：“某年、月、日，赵王命秦王击缶。”说完，又高声读了一遍。

秦国大臣魏冉不甘示弱，说道：“今日盛会，请赵王割15座城池为秦王祝寿！”蔺相如也说道：“礼尚往来，请用秦的国都咸阳为赵王祝寿！”

秦王知道，有蔺相如在，一时是捞不到什么便宜的，只好和赵签定了和约。

蔺相如无畏无私，英勇机智，当面智斗秦王，对后人产生了深远的影响。渑池之会22年之后，毛遂持剑挟楚王联赵抗秦，53年后的荆轲刺秦始皇，都可以看到蔺相如的影子。

蔺相如建功立业受到封赏后位在老将廉颇之上，廉颇心中很不服气，便想找个机会羞辱蔺相如一番。蔺相如一直忍让，把国家利益放在个人恩怨之上，终于使廉颇受到感动，负荆请罪，二人成为刎颈之交，传下了“将相和”这样的千古佳话。

现存的史书记载蔺相如活动的时间不长，事迹也不多，但仅从“完璧归赵”、“渑池之会”和“将相和”这些事迹，也就完全可以看出蔺相如是我国历史上杰出的政治谋略家。他的善于识别事物本质，机智勇敢，不畏强暴，以国家利益为重，善于团结人的精神，对后世广有影响，乃至对今人仍有补益。

（高粱红）

## 范 睢

范睢(?—公元前255)，一作范且，字叔，战国时魏人，后事秦为相，我国古代不可多得的政治谋略家。

范睢早年家贫，虽欲周行天下，一展满腹经纶，却因无以自资，只好空怀壮志。后来投到魏国中大夫须贾门下，等待时机，再谋出头之日。

不久，魏王派遣须贾出使齐国，范睢以随从舍人的身份一同前往。齐襄王早就听说范睢素有谈天说地之能，安邦定国之志，及至看到范睢从容镇定、不卑不亢的风度和对答如流、口若悬河的说辩才能，便愈加器重。于是派人说于范睢，欲留他在齐，并以客卿相处。范睢义正辞严地加以谢绝，同时将齐王赠赐他个人的财宝悉数交于须贾。不料须贾是个嫉贤妒能之人，他担心范睢日后超过自己，回国后便向魏丞相指控范睢接受贿赂，出卖情报，有辱使命。魏丞相大怒，拘来范睢，严刑拷打，肋折齿落，几次昏死过去。

范睢胸怀大志，未展一二，岂能就这样白白地冤死，便佯装气绝，徐图脱身。又经受一番凌辱后，至天晚，范睢张目偷看，见只有一名看守，好言说通并许以重利，看守便向上报称范睢已死，魏丞相遂命人将范睢尸体弃于郊外。

范睢乘夜返家，让家人将苇席置于野外，以掩人之目，同时通知好友郑安平，帮助他藏匿在民间，后化名为张禄，并嘱家人明日发丧。范睢的估计不错，第二天一早魏丞相即疑心范睢未死，见野外仅存苇席，便派人至其家搜查，恰逢家人发哀带孝，始信范尸为犬豕衔去，从此不疑。

半年后，即周赧王四十四年(公元前271年)，秦昭王遣使王稽出访魏国。郑安平和范睢早就听说秦国素有访求名士的传统，便扮作仆人模样，夜深之后悄然来到公馆，拜见王稽。王稽与范睢畅谈天下大事，范睢指



点江山，如在目前，未待谈完，王稽已认为范雎是个难得的人才，于是决定办完公事后，将范、郑二人带到秦国去。

车至秦国湖关时，远远望见对面尘头起处，一群车骑从西蜂拥而来。范雎是个有心人，见状连忙打听，王稽告诉他可能是秦国当朝丞相魏冉在巡查，范雎虽然身处蓬蒿之间，对各国形势却了若指掌，便说：“我听说穰侯专权弄国，妒贤嫉能，厌恶招纳诸侯宾客。我暂且藏于车厢之中，免生意外。”

王稽依其言而行。果然，魏冉车队到后，即命人检查是否带了魏国的宾客，见没有才率众离去。

一场虚惊过后，王稽正要扬鞭策马，范雎从车厢里出来说：“穰侯这个人性疑而反复无常，我还是再避一下为好。”王稽已被范雎的妙算所折服，听他对穰侯简短而切中要害的分析，也认为穰侯可能复来搜查。范雎和郑安平便从小路步行而去。

不一会儿，王稽忽听背后马铃声响，果见二十余骑飞奔而来，声称奉丞相之命要来复查，见并无外国之人，方才转去。王稽叹曰：“张先生真智士，吾不及也！”

范雎到了咸阳后，虽然多次上书昭王，做了许多努力，可是毫无进展，无奈，只好屈居下等客舍，郁郁而不得志。

范雎并不是一个遇有挫折便萎靡不振的人。他知道时机有时需要等待，而时机一旦成熟，便要紧紧地抓住它。周赧王四十五年（公元前270年），丞相穰侯魏冉欲率兵跨越韩、魏去攻打齐国，占取刚、寿二地。范雎认为，这是天赐良机，完全可以借题发挥，打动秦王，从而跻身秦廷。原来穰侯魏冉是宣太后之弟，秦昭王之舅，把持朝政，专国用事。秦昭王虽然不满，但心畏太后，也只好听之任之，有苦难言。这次穰侯欲攻齐国占领刚、寿二地，也是因为二地紧邻穰侯的封地陶，扩充以为己有，其结果势必进一步增强魏冉的实力，助长枝繁干弱、尾大不掉的弊端。鉴于这些错综复杂的情况和一年来

对昭王内心世界的了解、分析和判断，范雎果敢而大胆地再次上书昭王，阐明大义，直刺时弊而又紧紧抓住昭王的心病。

秦昭王见信后，果然心动，派专车将范雎接入王宫。

范雎进入秦宫后，一个出乎常人意料的惊人之举，已经在胸中形成了。范雎过了离宫，佯装不知地走入宫幄禁地“永巷”，被人怒斥说，“大王来了，还不回避！”范雎并不惧怕，反而反唇相讥地回答说：“秦国只有太后和穰侯，哪里有王？！”说罢继续前行不顾。范雎这一句似乎冒犯的话，恰恰击中了昭王的要害，其弦外之音收到了出奇制胜的效果。昭王非但不怒，反而将他引入密室，屏退左右，待之以上宾之礼，单独交谈。

范雎慷慨陈辞，披肝沥胆，不但以情感染对方，而且将自己置之度外，似乎一切都是从秦的根本利益出发，晓之以大义利害，成功地取信于秦昭王，具备了从政的基本前提，向纷纭复杂的政治舞台迈出了坚实的一步。

不久，范雎再次晋见秦昭王，对秦国的实力恭维一番之后即直切主旨：“臣闻穰侯将越韩、魏而攻齐，其计谬矣。齐离秦国甚远，中间隔着韩、魏两国。秦出兵较少，则不足以败齐；如出兵甚多，则首先使秦国受害。假若伐齐而不胜，为秦之大辱；即使伐齐取胜，也只是使韩、魏两国从中渔利，对秦国有什么益处呢？远交则可离间他国之间关系，近攻则可扩大我国领地。自近而远，如蚕食叶，倘若兼并了韩、魏二国，齐和楚还能存在多久呢？”

在这段奏议里，范雎明确地提出了“远交近攻”这一明确的战略思想。这是范雎对秦国的杰出贡献，也为秦逐个兼并六国最后统一中国奠定了战略基础，而且对后世影响也相当深远，为中国政治、外交思想史增添了重要的一页。

范雎在“远交近攻”这一策略原则指导下，进一步阐述了秦一统天下的总体设想，



同时指出韩国是七国中最弱小的，目前应该以它作为突破口，并具体地为秦昭王谋划了“收韩”之策。

秦昭王很赞赏范雎的战略原则和具体部署，高兴地说：“寡人敬闻命矣。”遂拜范雎为客卿，参与国家大政，主谋兵事。二年后，秦昭王三十九年（公元前268年），昭王用范雎谋，派五大夫绾伐魏，攻克怀（今河南武陟西南），两年后攻克邢丘（今河南温县东）。

秦昭王四十二年（公元前265年）秦发兵对韩采取了一系列攻伐，终于将韩拦腰斩断，致使韩国摇摇欲坠。秦国在战争中获得了巨大补偿，实力更加强盛，诸侯各国为之侧目。

范雎日益受到昭王的亲信，地位也日益得到巩固，于是他在内政方面开始进行变革。周赧王四十九年（公元前266年），他向昭王奏议，指出太后和穰侯擅行国政，私家之富十倍于王，大王拱手而享空名，形势的发展是相当危险的。当年昭王便罢了穰侯的相位，命其回到封邑；安置太后于深宫，不许与闻政事。任命范雎为国相，封以应城（今河南鲁山之东），号应侯。

从此，以秦昭王为首的中央政府的权力更为集中了。这是秦国历史上的重大变革。范雎“固干削枝”的策略从根本上促进了从封建割据走向封建大一统，推动了历史的进步。这是范雎对秦最后兼并六国统一中国大业的杰出贡献。

周赧王五十五年（公元前260年），秦赵两国大军相距长平，秦兵虽然勇武善战，奈何赵军老将廉颇行军持重，坚筑营垒，并不与秦兵决战。秦军上下焦躁万分，却又束手无策。

范雎于是谋划了一个“反间计”。他使心腹门客，潜入赵都，用重金贿赂赵王左右，散布流言说，廉颇老而怯，秦军怕的是年轻将领赵括。赵王不辨真伪，匆忙之间即拜赵括为帅，赶赴长平撤回廉颇。赵括是一个死读兵书之人，骄傲任性，到任后一改廉颇策略，意与秦军决战。范雎探知赵国已经中计，

便与昭王商议，暗派大将白起连夜起兵，秘行其事，以懈赵军警惕，从而出奇制胜。结果两军相交，赵兵大败，秦军坑杀赵兵俘虏40万人。战后的秦国更加强大，雄视天下。

范雎智算长平，用反间之计，使秦国获得了决定性的胜利，再次显示了他杰出的政治、外交和军事才能。然而紧接着他又妒杀了白起，此前又廷辱须贾，给他的形象抹上了不光采的难以洗刷的阴影。

秦昭王五十二年（公元前255年），范雎称病辞去相位，不久死于其封地应。

秦始皇的丞相李斯在《谏逐客书》中曾高度地评价范雎对秦国的建树和贡献：“昭王得范雎，强公室，杜私门，蚕食诸侯，使秦成帝业。”范雎上承商鞅，下开李斯，对秦国一统天下的大业起到了继往开来的巨大作用，不但是秦国历史上不可多得的名相，也是我国古代杰出的政治谋略家。

（石翔）

## 田单

田单（生卒年月不详），是战国时代齐国人，出身于王室远房宗族。齐襄王时任宰相，为收复失地，恢复齐国立下过卓著功勋。

齐湣王在位时，田单正在齐国都城临菑（今山东临淄东北），做着官府中的小吏，这时还默默无闻，不曾被人赏识。

公元前284年，也就是齐国征服燕国以后的第28年，燕国终于向齐国举兵报仇了。燕国利用长期积蓄起来的雄厚力量，任乐毅为上将军，联合赵、楚、魏、韩、秦五个诸侯国，发动了讨伐齐国的战争。半年之内，连克齐城70余座。

燕将乐毅统帅大军长驱直入，逼近临菑的时候，齐国为避其锋芒，决定暂时放弃都城，主动撤退，以保存实力。田单也带着自己的族人撤到安平。虽齐国想在安平阻止住联军进攻，但田单审度战局，断定安平绝难坚守。他指示家族人，把乘坐的马车车轴长出的两端砍掉，用铁皮做成蒸笼盖状的铁笼，

紧固定在车轮中心，以护住车轴裸露出的部分。这东西看上去似扣在车轮上的笼屉盖，田单称它为“铁笼”。起初家族中人不明白田单打的什么主意，不过觉得他平日聪明机智，听他的话准错不了。正如田单所料，安平很快就被攻陷了，城中的难民，纷纷争路出逃。可是由于当时马车车轴两端露出的部分太长，加之路窄车多，亡命中谁也顾不上先后次序，结果轴头断裂、车轮脱落者甚多，这些人都成了燕军的俘虏。只有田单家族诸人因有铁笼保护，绝大部分得以逃脱，向东退到即墨（今山东平度县东南），坚守拒敌。

在燕军攻克临淄时，楚顷襄王为了抢占齐地，以救齐为名，派大将淖齿率兵入齐。淖齿杀死湣王后，自己据守莒城抵抗燕军进攻，双方相持了好几年。乐毅只得亲率燕军东进，先将即墨团团围住。齐湣王死后，齐襄王即位，号令举国民众奋起抗燕。即墨守城将军战死，城里人一致拥举田单为将军，抗击燕军。田单受命后，仔细分析敌强我弱的形势，为扭转战局，采取了一系列措施：

首先，他调整防御部署，激发军民斗志。为增强防御力量，城中不分军民，都承担起相应的守城任务。还把全城的物资，核查清楚，全部集中使用。他以身作则，带头将自己的妻妾编配到守城队伍中，而且拿出个人资财犒赏守军。这样，就树起了将帅威信，争取到全城军民支持，为坚守即墨创造了条件。

第二，设法使乐毅离开齐国。这位燕将军有勇有谋，很具韬略，此次率军攻齐，他严令军队绝禁掠掳，并注意减轻赋税，废除齐湣王的残酷刑罚，笼络齐国权贵人物。所以燕军攻齐，如入无人之地，连连告捷。鉴于此，齐国要想保住即墨，战胜燕军，就必须先除去乐毅。而这又谈何容易！乐毅率得胜之师，凭借军事上的绝对优势，当然不肯无功而返。而要取乐毅首级，更是根本不可能。是时燕国在位的是燕昭王，昭王对乐毅绝对信任，君臣感情极为融洽，据说曾有人

在昭王面前说乐毅有野心，昭王非但不信，还把进谗言的人送到乐毅帐前，交他惩办。

不过，年老的昭王虽视乐毅如手足，但其子却对乐毅的刚直固执早已耿耿于怀。一天，田单得到来自燕国的消息：昭王去世，其子惠王即位。机会终于来了！以后的一些事，都是按照田单千里之外的运筹发生的。先是在燕惠王即位不久，燕国内部就到处传播着一个消息，说乐毅将有不利于新君的举动了。紧接着，就有人在新君的耳边吹风：当初乐毅力主攻齐，其实居心叵测，分明是他想占据齐国自己称王。齐国70余座大小城池，都被他轻而易举地攻下来了，为何莒和即墨，却扼守了这么多年呢？这不是齐军有足够的力量抵抗，而是乐毅故意在那里拖延时间。现在新君即位，乐毅知道自己得罪过新王，更不敢回国。他故意缓攻二城，是在等待齐人心甘情愿归附他。如今齐国人最怕改派别人代替乐毅，如那样即墨就无法保全了。燕惠王觉得这种说法有道理，于是改派一个叫骑劫的将军去代替乐毅。乐毅担心返燕国会遭不测，就回到故乡赵国去了。乐毅一走，不仅田单少了劲敌，也使燕军产生不平，加上骑劫无能，因而军心涣散，战斗力大为减弱。至此，田单的反间计终于收到预期效果。

第三，谎称神人相助，鼓励军民士气。为了坚定即墨军民的抗敌信心，进一步削弱燕军斗志，田单让城中百姓每用饭时，一定要把饭菜放在庭院里一点，说是为了供祭祖先。这样一来，招引了许多飞鸟在城上空盘旋，燕国军队远远望去，觉得非常奇怪。田单则当众宣扬，说是神在教他们打仗；又说不久将有神人军师相助。有一个士兵懂得田单的用意，走上前说：“我能做军师吗？”说完之后，他有点耽心，转身想走开。田单急忙把他拉了回来，请他朝东上坐，拜他为军师。士兵说：“我欺骗了您，我实在没什么本事啊！”田单对他说：“您什么也不必说。”还是请他做了军师。此后每次发出号令，都说这是

神人军师的指点。即墨军民以为真有天神相助，更加斗志昂扬。而燕军听到这个消息，却觉胆战心惊。

第四，扩大骑劫的错误，激起齐军同仇敌忾的情感，骄纵燕军，懈怠其士气。田单故意将“机密”泄漏给对方间谍，声称自己最怕燕国人割掉齐国俘虏的鼻子，把他们赶到队伍前面，来跟我们作战。如果真是这样，即墨城就会人心涣散，恐怕再也守不住了。燕国人知道后，就按照田单说的那样做了。城里人一见被捉住的人都被割掉了鼻子，万分愤怒，大家尽力守城，唯恐给敌人俘虏过去。田单又派间谍去煽动燕国军队说：我们最担心燕军发掘城外的祖坟，侮辱我们的先人，要是你们这样做，我们可就没有心情作战了。燕军果然把城外的坟墓一个个挖开，把尸骨堆起来焚烧。即墨的百姓从城头望见这情景，没有不痛哭流涕的。全城都要求与燕军决一死战，对敌人的仇恨又增加了10倍。田单感到自己的将士已具备了足够的战斗力，于是亲自拿着工具，与人们一起修筑城墙，将食物分发给士兵，让他们吃饱喝足，命令穿铁甲的精兵隐藏起来，叫一些年老体衰的兵卒和妇女在城头守卫。随后派使者向燕军求降，燕军早已被这场无休止的战争拖累得精疲力尽，一听齐军请降，一时乐得忘乎所以了。田单又从城中征集黄金万两，让即墨城的富豪去贿赂燕军将领，故意说：“即墨马上就投降了，希望您不要侵扰我们家族的妻儿老小。”由于田单这番周密的安排，使燕军将领对齐军将降深信不疑。从此，燕国军队的警惕性更加松懈了。田单的这一系列计谋，终于使齐燕两军在军事实力上发生了巨大但又不易察觉的变化，因而为后来的决战奠定了必胜的基础。

田单看到反攻的条件基本成熟，反攻的时机已经到来，一边不断激励将士：“我们已经没有别的出路了，国家安危在此一举，今日只有拼死一战了。战有胜负，不死则降。我们必须作出抉择！”闻听此言，军民勇气倍

增，人人视死如归。田单把城中的牛集中起来，共有1000多头。做了火红色的丝绸外套，披在牛身上。画上五彩斑斓的龙纹图案，在牛角上缚上锋锐的利刃，牛尾巴束上渗透油脂的芦苇。在一个伸手不见五指的黑夜，在城墙下端凿开数十个缺口，点燃牛尾上的芦苇，将火牛放出城外。5000名身披铁甲的精壮士卒紧跟在牛后。牛因尾巴着火，痛不可当，向着燕军阵地横冲直撞。黑夜中措手不及的燕军，吓得魂飞胆落。被牛角触到的，非死即伤，谁还敢阻挡？随着牛后的齐兵，口中衔枚，不出一声，只管用于戈猛击迎面遇到的燕军。城中的其他士兵也击鼓呐喊，跟在5000人后，一时间声震天地，燕军纷纷败逃。燕将骑劫在乱军之中被杀。齐军乘胜追杀，一路所经城邑，又重归齐国。随着田单部下兵力的强大，终于把燕军赶回黄河对岸，收复了过去失去的70多座城池。接着田单将齐襄王从莒城接回都城临菑。齐襄王封田单为“安平君”，任宰相。

受命于齐国危亡之际的田单，运用机智谋略，深思熟虑，奇计迭出，“火牛”突袭尤为神异，为我国军事史增添了以少胜多的光辉战例。

(张在义)

## 孙 臆

孙臆，战国时齐国阿（今山东阳谷东北）人，孙武后代，约于商鞅、孟柯同时。孙臆一生，忍辱不屈，发愤自强，是我国历史上著名的军事大师。

史书上关于孙臆早年生活的记载甚微，据说，少年时的孙臆虽然生活孤苦，但胸怀大志，为了实现为国家和黎民苍生作一番事业的夙愿，他到深山里拜鬼谷子为师，勤奋学习兵书战策。鬼谷子是一位精通数学、星相和兵学的隐士，六韬三略，变化无穷，布阵行兵，鬼神莫测。鬼谷子对孙臆非常器重，将孙武所著《孙子兵法》13篇单独传授给他。孙臆昼夜研习，并能背诵无误，对答如流，

每一篇都有独到的见解和深刻的发挥。

在鬼谷子的学生中，庞涓生性奸诈，嫉贤妒能，然而善于伪装，曾与孙臆结为兄弟。学习三年后，庞涓为了贪图功名和荣华富贵，下山投奔了魏国。被魏惠王任命为元帅兼军师，一时声名大噪。

庞涓在洋洋自得之余，内心深处也颇为不安。他深知，自己的才学韬略均不如孙臆，对自己是个巨大的威胁，必须早日除掉他，才能解除后患，使自己无敌于天下。于是，他想出了一条毒计。

庞涓修书一封，派人送到孙臆处，热情地劝说他下山来魏，以便共图大业。孙臆感念庞涓的举荐之恩，立即下山赴魏。庞涓一面假惺惺地热情款待孙臆，一面在魏惠王面前诋毁孙臆，说其私通齐国。魏惠王深信不疑，下令处置。庞涓派人将孙臆绑住，剔去双膝盖骨，又用针刺面，然后以墨涂之。

刑余之后的孙臆好不凄惨，然而他是个意志非凡的人，他已识破庞涓的奸计，决心依靠自己的智慧战胜他，尽早脱离藩篱，以便有朝一日驰骋纵横，报仇雪恨。

孙臆佯狂装疯，张目乱叫，忽喜忽悲，终日痰涎满面，有时竟侧身于粪秽之中。经过多次考验，庞涓始信，于是放松了对他的监视，白日里孙臆混迹于市井之中，晚间回到猪圈过夜。过了一些时日，齐国有使臣来魏，孙臆乘人不备，会见了齐使，陈述经历与能力，打动了齐使，并设计使孙臆离开魏国到了齐国。

齐国将军田忌很欣赏孙臆的才能，招之为宾客，以上礼待之，并且言听计从。

在齐国的王室贵族之中，当时流行赛马游戏。田忌与齐威王赛马时常常成为输家。孙臆在场观察了几次，于是告诉田忌说：“下次赛马我可以使将军获胜，赌注不妨下得大一些。”田忌甚为高兴，和齐威王赛马“逐射千金”。比赛当天，孙臆给田忌出了个主意，让田忌用上等马对齐威王的中等马，用中等马对齐威王的下等马，用下等马对齐威王的

上等马。比赛结果，田忌两胜一负，赢得了千金的赌注。

这个小小的故事，揭示了军事上一条很重要的规律，就是在战争中要从全局着眼，善于统筹，为了总体的胜利，可以做出某些让步，牺牲局部利益，而最终取得全面的胜利。

田忌正式将孙臆推荐给齐威王，俩人交谈兵书战策，齐威王认为孙臆是个难得的军事天才，立即任命他为军师。从此孙臆跃上了战国群雄角逐的政治大舞台，大显身手，建功立业。

周显王十五年（公元前354年），魏惠王派庞涓统兵八万，战车五百乘大举进攻赵国，很快便包围了赵都城邯郸，企图一举灭赵。赵成侯急使人往齐求救。齐国乃东方大国，齐威王立即任命田忌为将军，孙臆为军师，出兵救赵。孙臆常居辎车之中，出谋划策，不扬其名。

田忌意欲北上邯郸，与魏决一死战，以解赵围。孙臆不赞成这种打法，提出了一个“批亢捣虚”、“围魏救赵”的作战策略。他说，目前的形势犹如丝线夹缠在一起，如要解开，万万不能使劲乱扯。如果避实捣虚，那么形格势禁，自然就会于我有利。如今魏国把整个战斗力全部投入了这次战争，国内只留了一些不堪一击的老弱病残之兵，如果我们趁虚率兵攻向魏都大梁，占据它的交通要道，袭击它的空虚后方，那么魏军主力必然要丢下邯郸而回师自救。这样既可解邯郸之围，又可趁魏长途跋涉疲于奔命之机，给予狠狠地打击，胜利是有把握的，而且一举两得。田忌大喜，依计而行。

事情的发展果如孙臆所料。当庞涓率军匆匆赶回魏国时，魏军渡过黄河，刚刚来到桂陵，就遭到了齐军的伏击，魏军几乎全军覆灭，庞涓仅以身免，这就是历史上著名的“桂陵之战”。

在这次作战中，孙臆运筹帷幄，指挥若定，运用了灵活机动的战略战术，抓住要害，

攻其必救，以逸待劳，声东击西，始终掌握主动，牵着敌人的鼻子，待时机成熟时，给其以重创，充分显示了孙臆卓越的军事才能，同时为齐国争霸中原、战胜强魏奠定了基础。

周显王二十九年(公元前340年)，即桂陵之战后13年，在庞涓等人的怂恿下，魏惠王称霸中原的野心又膨胀起来，派太子申和庞涓率兵进攻韩国，企图一举亡韩。

弱小的韩国，在魏军的强大攻势面前连吃败仗，兵临国都，韩哀侯异常恐慌，遣人星夜告急于齐，求其出兵相救，以存社稷。

齐宣王召集群臣商议对策，有人主张让韩魏相焦，齐国可以不出兵而使两国衰败；有人主张韩亡后只能助长魏威，于齐不利，因而应该从速发兵。

孙臆则认为，魏国自恃其强，伐赵之后又倾国之兵伐韩，其野心须臾也不会忘记伐齐。如果任韩降魏，只能使魏更加强大，从而形成对齐国的巨大威胁，因而弃韩不顾是不明智的。然而，齐国的军队必须为齐国的利益而战，如果过早地出兵救韩，就等于齐国代替韩国作战，韩享其安，我受其危，主客颠倒，那于齐国是十分不利的。那么怎么办呢？从齐国的根本利益出发，应该许韩必救，以安其心。韩知有齐相救，必然尽全力抗魏自卫，魏兵也必然要倾其全力以攻韩。等到魏韩厮杀实力消耗后，再出兵攻击疲惫的魏军，拯救危亡的韩国，用力少而见功多，才会收到事半功倍的效果。

齐宣王大喜，依孙臆之计一一而行。

这一次，孙臆又一次采用了“围魏救赵”的战略，魏惠王鉴于13年前的惨痛教训，急命庞涓挥师回魏。庞涓大惊，即时传令离韩归魏，率兵十万企图与齐军进行一次战略决战。

然而孙臆并没有墨守陈规旧套。他冷静地分析了敌我双方的情况，认为这一次魏军有一定的准备，兵力雄厚，而且是主动迎击齐军，来势猛烈。为了避免与魏军正面冲突，

应该抓住他们兵骄和急于求战的心理，因势利导，以计胜之。孙臆于是命齐军装做惧怕魏军的样子，主动引兵东撤。在退兵途中，第一天造十万人做饭用饭锅，第二天减为五万人的锅灶，第三天减为三万人。

怒气冲冲的庞涓率大军从韩返魏，本欲与齐军决一死战，不料齐兵又撤退逃窜，于是整顿兵马，紧紧追赶。追击开始之时，庞涓恐齐兵有诈，还是比较谨慎的，行军速度并不甚快，各队之间亦照应有致。后来他发现齐兵的锅灶一天比一天减少，这才放下心来，以为齐军果然怯弱，闻魏兵将至竟不战而逃亡过半，士气已经低落到不堪一击的程度，这是雪桂陵之耻的天赐良机。处于亢奋之中的庞涓当下传令，将步兵留后徐行，自己亲率精锐骑兵，马不停蹄，昼夜兼程地沿着齐军撤退的方向猛追不舍。

当孙臆得知魏军已过沙鹿山之时，屈指计程，准确地预计到魏军日暮必至马陵。马陵一条窄道夹在两山中间，地势极为险峻，是设伏的好战场。孙臆命人用树枝等物堵塞道路，并在一株大树上书写了八个大字：“庞涓死于此树之下”。同时精选一万弓弩手埋伏在山道两旁，吩咐他们今夜见有火光，万箭齐发。

果不出孙臆所料，急匆匆的庞涓赶至马陵时天已大黑，士兵在搬除路障时隐约见一大树上有字，庞涓命人以火把照之，这时早已埋伏好的齐军万箭齐发，可怜魏军无处逃跑，尽皆成了冤鬼。齐兵乘胜掩杀，十万魏军全军覆灭，尸横遍野，太子申被俘，庞涓身中数箭后自杀而死。这就是历史上著名的“马陵之战”。从而魏弱而齐强，中原霸主之尊也归于齐国。孙臆“减灶诱敌，设伏聚歼”的军事谋略，使他名扬天下，功垂青史，实现了平生抱负。

马陵之战前后，齐国上层统治集团内部的矛盾和倾轧日益激化，相国邹忌嫉恨田忌和孙臆的赫赫战功，一直想阴谋除之。孙臆敏锐地觉察到了危险，建议田忌在“主”地留

兵以为退路，然后拥重兵入朝，给邹忌以压力而使其不敢轻举妄动。可惜田忌不听，终为邹忌所害，被迫逃亡到了楚国，他的许多亲友遭受株连而被杀。

马陵之战结束班师回朝后，孙臆即请求辞去官职，齐宣王和田忌百般慰留，也未能动摇他激流勇退的决心。齐宣王只好召开盛宴，欢送孙臆出朝离开国都，后来竟不知其所终。一代杰出的军事大师就这样在激烈争斗的战国政治舞台上消失了。

孙臆毅然地摆脱了政治上的纠葛，摆脱了虚华浮贵，归隐田园，显示了超常的先见之明。然而孙臆绝不是一个虚度年华、寄情山水之人，他把晚年的全部精力用于军事理论的研究和著述。由于他师承孙武的兵法，并有独到的颖悟和创见，同时还具有统兵治军、实地作战的实践经验，使我国古代的军事理论更加具体、深刻，不断地得以完善和创新。孙臆的《孙臆兵法》承前启后，流传千古，具有很高的军事学术价值，对后世军事家影响甚大，成为中华民族思想宝库中一颗灿烂溢目的瑰宝。

(石翔)

## 李斯

李斯(?—公元前208)楚上蔡人。布衣出身。为秦吞并六国和秦始皇建立霸业屡出奇谋良策，是春秋战国时期最重要的谋臣之一。

李斯年轻时就善于思考。见到粮仓中的老鼠吃好粮住高厦，茅厕中老鼠饥寒交迫、污秽不堪，深受启发，得出人应“择地而处，择主而仕”的结论。他从师荀卿习帝王之术，学成后，纵观六国，或为王者胸无大志，不足与谋；或国力日衰，难成大业。唯独秦国经历了秦孝公以来的六世，已雄踞七国之首，可望取代周室而一统天下。于是他毅然西行入秦，决心为秦成就帝王大业出谋立功。

公元前247年，李斯到咸阳。作为异国平民，想跻身统治核心决非易事。他运用自

己超群的智慧，审时度势，权衡利弊，做出抉择。吕不韦在秦公子异人危难时曾慷慨相助，又送爱妾赵姬给异人。据说赵姬被送异人前即已怀孕，后生子名政。异人在位三年便逝，年仅13岁的太子政继位。吕不韦因与秦王政及太后赵姬的特殊关系，以秦王的“仲父”自居，任丞相职。李斯看清了大权在吕手中，便以投身吕门下作为仕途的第一阶梯。他勤勉谨慎，殚心竭虑，终于受到吕不韦青睐，被任为郎。从此，涉足政治核心的大门为他敞开了。

韩国为削弱秦国实力，派水工郑国赴秦修渠。秦王政查明郑国是奸细后，对在秦客卿下“逐客令”。李斯亦在被逐之列，他只好步行离开咸阳。但他不甘心就此失去大展宏图的机会，便苦心冥想，于途中写下了《谏逐客书》转呈秦王。书中列举了秦历代君王重用客卿的大量实例，他说：“昔日秦穆公渴求天下贤士，从不问国籍。从西方犬戎之地得到由余，从东方楚国买来百里奚，从宋国迎来蹇叔，从晋国得到丕豹、公孙之。这些人都不都是秦国人，而穆公重用之，吞并了20国，称霸西戎。”秦孝公重用商鞅实行变法，民殷国富；惠王用张仪破六国合纵；昭王用范雎成就帝业，等等。如果君王都将客卿拒之门外，秦国哪能有今日的强大呢？如今逐客，实际是让客卿去振兴诸侯，“充实敌寇之兵，资助盗贼以粮”啊！这种“资敌”、“损民”、“益仇”的做法，国家怎能不危险呢？他引古喻今，翔实雄辩，终于使秦王收回成命，派人追至骊山，召回李斯。重新重用郑国，终于修成了仅次于都江堰的第二大水利工程——郑国渠，使关中4万亩土地成沃野。韩国如以肉投虎，得到“为韩廷数岁之命，为秦建万世之功”的结果。更为重要的是为秦保留和继续罗致天下人才起到了重要作用。

韩非是韩国公子，曾与李斯同窗。他学富五车，将法、术、势三派之长兼收并蓄，取长而用，回韩国后想振兴祖国。但韩王昏

瞋，远贤近佞，沉缅酒色。韩非忧心忡忡，写下了《孤愤》、《五蠹》等50余篇文章流传于世。秦王政读过后拍案叫绝，叹道“寡人得见此人，与之游，死不恨矣！”公元前234年，韩非到秦地，上书秦王，陈明助秦成霸的愿望。李斯深知韩非才学在己之上，怕韩夺走自己擅宠的地位，便设计谋陷韩非。他纠合与韩有怨的姚贾，轮番在秦王面前诽谤韩非，终使秦王渐生疑窦。李斯抓住机会，马上以“不能放虎归山”为借口，建议拘捕韩非，并预先堵住牢狱各个关节，使韩哭诉无门，李斯又立即送去毒药逼韩自杀了。不久，秦王果然后悔，急忙派人去特赦韩非，但为时已晚。李斯害死韩非后，却把这位集法家思想大成者的卓越理论用于自己的政治实践，取得了巨大成功。

自秦穆公商鞅变法后，秦国力渐强；又经数十年征战，到秦王政时，秦已称雄。李斯敏锐地看到了天下大势，又窥察到秦王政的心理，就大胆进谏说：“庸人常常失去时机，而成大业者在于当诸侯有了可攻击的隙隙之时，当机立断去攻取他。……自从秦孝公以来，周室卑微，诸侯相兼并，关东成为六国，秦以自己的胜利役使诸侯已历六世了。现在，以秦国之强大，秦王之贤达，翦灭诸侯，成就帝业，一统天下，犹如扫除灶上灰尘那样容易，这是万载逢一的好时机啊！现在若有怠慢而不急速果断行动，待到诸侯重新复强、相互联合约纵之时，纵然有黄帝之贤能，也无法吞并他们了。”李斯之言正中秦王下怀，当即擢升李斯为长史，并一一采纳其计谋。如暗派谋士游说诸侯，离间各国；重贿各国权臣、名士，使其充当秦国内奸；刺杀各国忠臣，等等。同时以武力相加，战争中遇劲敌难以致胜时，又施阴谋。如公元前229年，秦攻赵受到李牧、司马尚顽强抵抗。秦军久战不胜，遂派人重贿赵王宠臣郭开，造谣李、司马谋反，赵王中计，杀李牧，关司马尚。次年，秦军大破赵军，俘虏了赵王。又如，用重金买通齐国相国吞胜，使其在秦

攻韩、魏、楚、燕、赵时坐视不援，自己也不防秦。公元前221年，秦将王贲灭燕，即南下攻齐，一路没遇到任何抵抗，直取齐都，生擒文王建，使这个仅次于秦的第二大国复灭。至此，从公元前230年到前221年，秦王政终于“奋六世之余烈，振长策而御宇内”，完成了统一六国之大业。

李斯深谙秦王之心，建议秦王合“三皇”“五帝”之尊，改称“始皇帝”。为永久维护自己的统治，秦始皇问李斯安邦治国之策，李斯说：“战乱不息、百姓造反、大户豪夺的原因是‘历朝历代或不能明法，或执法不严’，所以‘必须严执秦律，使天下人都做到令行禁止’”。李斯进一步辅佐始皇酝酿、制定了一系列诏命和法令。如：为防止百姓造反，令民间缴出武器，熔铸成每个24万斤的12个铜人立于咸阳宫门外；为防止富豪大户起事，令各地12万户以上豪门迁居咸阳；为防止六国旧部东山再起，拆毁各城堡、关塞、堤防；提倡“书同文”、“币同制”；统一度量衡；修驰道，走车轨等。

秦始皇召集群臣议定朝政体制，大臣们一致赞成分封，唯李斯力排众议说：“臣观前代史籍，但见西周初年，周文王、武王所封的亲属、子弟甚多，而传到后世，亲属关系渐疏远，相互攻击如仇敌，诸侯兼并战争不断发生，周天子无力制止，最后导致衰亡。……分封之议决不可取！”秦始皇赞同李斯的主张，命李斯规划疆土，定明法制。李斯召集臣属，绘制了大秦帝国疆域图，把全国分为36郡，中央设“三公”、“九卿”，地方设郡县，实行中央集权制。这种制度顺应了历史潮流，显示出强大生命力。

真理跨过一步就是谬误。在分封与集权问题上，李斯认为：五帝不相因，三王不相袭。古来治天下并无常制。夏、商、周的分封制年代久远，不是效法。现在百姓安居乐业，为官勤政执法，只有那些读书人以古非今，造谣惑众，并建议始皇禁止“腐儒”的“非法活动”，烧掉六国史书及民间《诗》、《书》、



《百家语》等。公元前212年，始皇又下令坑杀460多儒生。

公元前210年，秦始皇病殁于出巡途中的沙丘。死前召赵高、李斯拟诏命，传长子扶苏回咸阳守丧、继位。沙丘距咸阳千里之遥，李斯独具匠心，为防止天下大乱，秘不发丧，将遗体安放于辒辌车中，放下车帷，外面人什么也看不见，每天照样送饭菜等，瞒过随行人员。但这也给了赵高以可乘之机。赵高辅佐少子胡亥，他扣住诏书，与胡亥暗定杀扶苏、立胡亥的阴谋，并胁迫李斯相从。在强烈的权利欲和贪恋荣华之心的驱使下，李斯屈于淫威，与赵高伪造了诏书，命扶苏自尽，又杀了重臣蒙毅、蒙恬及胡亥的20多位哥哥，立胡亥为秦二世。公元前208年7月，即二世二年，李斯充当了赵高、胡亥的“替罪羊”，被腰斩于咸阳市。

李斯通古博今，智慧超群，一生奇谋妙计泉涌而出，为秦富国强兵，兼并六国作出了重大贡献。他力主郡县，以法治国，强化中央集权，对历史的发展有进步意义。但极端自私的本性使他谋陷韩非，在焚书坑儒、易诏篡位等重大历史事件上为虎作伥，助纣为虐。可见李斯既是孜孜追名逐利、集昭著功过于一身、个性鲜明的政客，又是积极进取、善识大体、纵横捭阖、运筹帷幄的中国古代著名谋略家。

(辛晓梅)

## 蒯 彻

蒯彻，秦末范阳(今河北省徐水北固城镇)人。因汉武帝名刘彻，讳“彻”字，史家遂改其名为蒯通。

秦二世元年(公元前209年)七月，农民领袖陈胜、吴广在大泽乡起义后，派所属将领武臣(即武倍君)攻取赵地(今山西北部、河北西南部)。武臣接连拿下了十余城，正乘胜前进，不料遇到了固守之敌，因而久攻不下，与敌形成了对峙局面。武臣想快些平定赵地而无由以进，秦朝地方官员想找条后

路即无由以退。

蒯彻心想，在这一方要进，一方要退；进也难、退也难的时候，若能设法周旋其间，走对一步棋，就会做到全盘皆活。他拿定主意后，首先去游说范阳令徐公。见到徐公，开口便说：“我乃范阳一介平民，因心中怜悯徐公将死，故来相吊。虽然您死到临头，却又因遇到我而有了生的希望！”徐公闻听自己“将死”，吓得面如土灰，及听到蒯彻说因为遇到了他而有了生的希望，又转忧为喜，情不自禁地倒身下拜，叩问蒯彻：“先生为什么前来吊我？”蒯彻说：“先生任秦县令十几年了，杀人之子，断人之足，黥人之面，其罪举不胜举。慈父、孝子都想杀了您，报仇雪恨，之所以未敢动手，是因为惧怕严酷的秦法。现今天下大乱，有法不施，有令不行。慈父、孝子都想乘机报仇，从而获得慈、孝之名。这就是我为您担忧、前来吊您的原因。”这话正好说到范阳令徐公的心里去了。自从陈胜、吴广在大泽乡揭竿而起，特别是武臣攻占赵地十余城之后，他反复考虑，也没有拿出应付武臣的良策来。当下徐公忙问道：“为什么我遇到先生就有了生的希望呢？”蒯彻说：“武倍君武臣不嫌我愚钝，派人前来向我询问生死祸福，我已要前去见他。”接着，他把见到武臣后都想说些什么，一口告诉了徐公。徐公听完，一再表示谢意，而且立即备办车马，送蒯彻前去见武臣。

武臣见蒯彻穿戴整齐乘车而来，马上将他当作了上宾接待，并虚心向蒯彻请教如何攻取赵地。蒯彻说：“将军倘必欲战胜而后略地，攻得而后下城，我以为这是危亡之道。如能用我之计，可不战而略地，不攻而下城，传檄而千里定。”武臣忙问：“先生此话何意？”蒯彻回答说：“范阳令徐某本来要整顿士卒，修筑工事，死守城池，但他贪生怕死，迷恋富贵，所以想以范阳城降武臣君。问题是降以后将军怎样待承他。如果先降者得不到优待，那么边地各城必将互相传告，说范阳令先降而身死，于是人人死守其城，每座



城都将变为金城汤池，坚不可摧。为君之计，不如备下华盖朱轮之车，郑重迎接范阳令，使他游于燕赵之郊，让众人都能看到归降后受到的荣耀。边地名城见到先降者身得富贵，必将相率而降，这就是所谓传檄而千里定。”

听了蒯彻的话，武臣大喜。当即备下车辆百乘，骏骑二百，隆重迎接范阳令徐公，并将其封侯。燕赵未降的30余城，闻风奔走相告，先后投降武臣。

蒯彻根据他对当时形势的分析和对人们心理的观察揣摩，审时度势，仅用三寸不烂之舌，便获得了比沙场征伐还要好的预期效果，充分显示了他卓越的洞察力和语言才能。

这时项刘双方在战场上正处于僵持胶着状态。在他们之间，韩信是个有实力的、举足轻重的人物，他若继续留在刘邦手下，则汉兴楚亡；他若弃汉王而投靠项羽，则楚兴汉亡。蒯彻根据这一形势，有意说服韩信，让他背汉自立为王，于是到韩营向韩信说：“早年我曾研习相术，相君之面，最大不过封侯，而且危而不安；若相君之背，却是贵不可言。”

韩信明明知道蒯彻说的“背”，是“背汉自立”的意思，但他却故意问道：“先生此话何意？”蒯彻回答说：“秦末刚发难时，各路英雄豪杰统统建号称王。以我所料，非有天下贤圣，难以平息这场祸乱。在我看来，当今之时，刘项二人均悬命于将军。将军帮汉则汉胜；助楚则楚强。我愿推心置腹，报肝沥胆，效忠将军，只怕将军不肯用我之言。”蒯彻两眼注视着韩信，终于和盘端出了自己思谋已久的想法：“为将军考虑，我以为莫如两利俱收，三分天下，鼎足而立。这样一来，谁也不敢轻举妄动了。依靠将军的贤圣，手中握有的兵甲以及富饶辽阔的齐地，联合燕、赵，乘楚汉后方空虚之际，根据百姓的意愿，制止刘、项之争，天下谁敢不从！将军据齐国领土，收淮、泗等地，以德怀柔诸

侯，以礼相待士民，天下人必争向韩齐。俗话说，‘天子不取，反受其咎；时至不行，反受其殃’。望将军深思！”

蒯彻的建议若能为韩信所接纳，形势对韩信确实是有利的。因为刘、项当时势穷力竭，韩信可坐收渔翁之列。其次，蒯彻的建议，是深得民心的。自战国，特别是秦汉以来，在中华大地上，接连是战争，人民遭受了巨大的苦难，厌战情绪特别强烈。如能制止这场战争，对人民来说自然是求之不得的大好事。可惜，韩信是个率领千军万马、能征善战的军事家，却不是一个非凡的政治家；是个将才，而不具备帝王的素质。听了蒯彻的话，韩信却说：“汉王对我不薄，我怎能见利忘义，背叛于他？”韩信只想到刘邦对他有恩，而且用庸人的眼光来看待“恩”、“义”二字，忘记了刘邦对他一直心存疑忌，对统治者人与人之间的倾轧和政治斗争的残酷也缺乏清醒的认识。

蒯彻见韩信不听他的进谏，怕招来杀身横祸，于是佯装为巫，隐居齐地。

汉十年（公元前197年）阳夏侯陈豨谋反，汉高祖刘邦亲自率军出征。有人告发韩信，说韩信与阳夏侯陈豨通谋。汉十一年（公元前196年），韩信被吕后和萧何诱杀于长安宫钟室。韩信临死前，仰天长叹：“悔不听蒯彻之音，以致今天死于女人之手！”韩信被杀，恰恰说明蒯彻知人之深，料事之准。

汉高祖刘邦平定夏阳侯后，回师长安，听人提起韩信临死前说过的话，急忙下诏到齐地将蒯彻拘来，问蒯彻：“你曾经教韩信谋反吗？”蒯彻当即承认：“是，臣确实教过他。他不用臣之计，所以才有今天，如果他用了臣之计，陛下就杀不了他了！”刘邦大怒，想立即杀掉蒯彻：“蒯彻，朕问你，你为什么教韩信反朕？”蒯彻从容镇定地说：“人各为其主。当时，臣只知齐王韩信，并不了解陛下。那时秦即将灭亡，不少人都象陛下一样，想得到天下。而天下只能落到高材人之手。于今陛下已经得到了天下，难道能将往日的竞

争对手，——都赶尽杀绝吗？”

蒯彻敢这样讲，是因为他知道刘邦不同于吕后。吕后心地狭窄，心狠手辣，容不得人。而刘邦有政治远见，豁达大度，惜才怜士。特别是，当时刘邦已经统一天下，处境与过去大不相同。在过去群雄已在争战的时候，敌方的忠臣智士能招来当然好，招不来就得杀掉他；而今天下已定，对忠臣谋士不仅不能杀，而且要用，所以蒯彻才敢这样大胆地倾吐自己的所想。正如蒯彻所料，汉高祖刘邦听后真的没有杀他。

汉十五年(公元前192年)，在齐王刘肥手下当了九年相国的曹参招蒯彻为幕宾，让他参议政事。

齐国有处士东郭先生和梁石君，早年就被齐王田荣劫持，为齐王田荣做过事。田荣垮台后，东郭先生和梁石君考虑到自己曾为齐王田荣做过事，自觉惭愧，因而一同隐居深山不出。

这时候，有人对蒯彻说：“先生在曹相国门下，素有举荐贤能之名，先生知道东郭先生和梁石君二人贤能，非常人可比，为什么不将二人推荐给相国呢？”蒯彻说：“可以。”

蒯彻寻思好以后，去见曹参，对曹参说：“假如相国要找个媳妇，有两位可以选择。一位是夫死三日后就改嫁的；一位是夫死后立志守寡连大门都不出的。相国选哪一位呢？”曹参说：“当然要选那个终身不嫁的。”蒯彻说：“求贤怕也是这个道理。东郭先生和梁石君，原是齐国的俊杰之士，齐亡后他们隐居不出，从未卑躬屈膝谋求当官，希望相国能用这样的人。”曹参听后爽快地说：“我一定按先生的建议办！”东郭先生和梁石君在蒯彻的举荐下，终于成了曹参的上宾。

蒯彻留给我们的东西并不是很多，他在群雄逐鹿的秦汉之际的政治舞台上也仅仅是时隐时现，然而他能冷眼观察古今成败，把世道人情特别是政治斗争的复杂和残酷看得较为透彻，因而富有远见卓识加上他绝妙的辞令，至今仍令人回味。

(石翔)

## 范增

秦二世元年(公元前209年)七月，陈胜、吴广在大泽乡(今安徽宿县东南)揭竿起义，拉开了反秦斗争的序幕，发动了中国历史上第一次农民起义和农民战争。同年九月，楚人项梁和他的侄子项羽响应陈胜，起兵于吴(今江苏苏州)。

秦二世二年(公元前208年)六月，项梁获悉陈胜遇害，便在薛(今山东滕县南之薛城)召集各地起义将领，共议反秦大计。在反秦斗争的关键时刻，范增赶到薛城，投靠项氏集团。会上，范增献计说：“陈胜败应当。夫秦灭六国，楚最无罪。自怀王入秦不返，楚人怜之至今。故楚南公曰：‘楚虽三户，亡秦必楚也。’今陈胜首事，不立楚后而自立，其势不长。今君起江东，楚蜂午之将，皆争附君者，以君世世楚将，为能复立楚之后也。”这是范增出山投靠项氏集团，为项氏集团制定的基本的政治斗争的路线和策略。主要内容是：

首先，在把握反秦斗争的大方向的同时，必须充分利用楚人强烈的反秦复仇心理和情绪。

在秦、楚相争时，从楚怀王受骗赴约，被秦昭王软禁，最后死于秦国，直至楚国最后被秦灭掉，楚国人对秦的仇恨心理是渊源甚深，根深蒂固的。所以，在庶民中流传：“楚虽三户，亡秦必楚”这样的歌谣。就连农民起义的领袖陈胜、吴广反秦起义时，把自己的国号也定为“张楚”。

其次，要想取得反秦斗争的胜利，必须充分利用楚国人的王权意识。范增指出，现在许多人追求项氏集团，其中重要原因是因为项梁、项羽是楚国将门之后，可以重新恢复楚国的江山社稷。陈胜在起义时，也“诈称公子扶苏、项燕的队伍”。

其三，为了更好地适应并强化楚国人反秦复仇心理和王权意识，就要树立一个楚王

的后代为王，做为反秦的旗帜，从而可以师出有名，号令天下，达到“挟天子以令诸侯”的目的。范增指出陈胜之所以失败的重要原因之一就是“不立楚后而自立，其势不长”。告诫项氏集团要很好地吸取陈胜失败的教训。

项氏集团听取了范增的意见，当即找到了正在民间给人放羊的原楚怀王的孙子熊心，立他为王，号为楚怀王，做为反秦势力的“共主”，以满足当时楚国人的心理需求和政治斗争的需要。从此，在和秦军的斗争中接连取得了重大的胜利。仅巨鹿之战，项羽以少胜多，九战九胜，生擒秦大将王离，又招降秦将章邯率领的数十万秦军主力，为最后推翻秦王朝奠定了坚实的基础。

项羽由于执行了范增为其制定的正确的斗争策略，所以从反秦起事，力挫群雄，到最后称霸诸侯。在秦亡以后，数支军事力量同时并存，而最有实力和影响的是项羽和刘邦两支军队。项羽拥兵40万，驻军于戏；刘邦军10万，屯兵霸上。项、刘虽然强弱悬殊，但构成对峙之势，新的较量如箭之在弦，势所难免。在这错综复杂的形势下，便是实力和智力的竞争了。作为谋略家，范增清醒地认识到与项羽争夺天下的只有、也只能是沛公刘邦。除掉刘邦——这就是范增为项羽在新的形势下所制定的明智的斗争目标。

范增以一个谋略家的敏感，从刘邦的一些生活琐事上看出了刘邦的远大政治抱负和野心。他从“沛公居山东时贪于财货，好美姬。今入关，财物无所取，妇女无所幸，此其志不在小。”于是，范增利用封建迷信的术士的望气之说来说服项羽，诱使他对刘邦采取坚决的行动。他说：“吾令人望其（指刘邦）气，皆为龙虎，成五采，此天子气也。急击勿失！”对于项羽来说，有什么能比除掉敢于和自己争夺“天子”宝座的对手更诱人的呢？所以，项羽很快地就接受了范增的意见，二人共同导演了一幕历史上著名的“鸿门宴”。

在“鸿门宴”这场惊心动魄的政治斗争中，失败者本不应该属于项羽，然而竟然是项羽。其原因很多，主要是项羽虽然接受了范增在新形势下以打击刘邦为主要对象的斗争目标，但对刘邦巨大的潜在威胁缺乏清醒的认识，在行动中优柔寡断，失掉了消灭自己政敌最有利的时机，致使刘邦逃之夭夭，遗恨长天。

然而，做为项羽的谋士范增却充分表现了一个谋略家的正确判断、准确的分析，以及因机制宜、长于应变、智勇双全的谋略家的素质。

在“鸿门宴”前，范增对这场斗争就做出“急击勿失”的安排，在“鸿门宴”开始时，几次给项羽使眼色，并再三举所佩玉块，示意项羽速下决断，擒杀刘邦。当项羽默然不应时，范增又果决地指使项庄以舞剑助兴为名，伺机刺杀刘邦。范增的安排可谓表温而实狠，本可以致刘邦于死命。谁料事情发生了戏剧性的变化，内奸项伯也以助兴为名，暗中保护刘邦，终使范增的计划落空。宴后范增沉痛而又有远见地指出：夺取天下的一定是刘邦，我们这些人，将要成为刘邦的俘虏。以后的形势发展，证实了范增的预见。

鸿门宴后，由于项羽逐渐背离了范增为其制定的正确的策略和目标，由于项羽的骄横自用，“自矜功伐”，接连在政治上、军事上屡犯重大错误，终于最后导致彻底的失败。

首先，项羽不以主要的精力对付刘邦，却把主要力量对付毫无生命力的齐王田荣等腐朽势力，分散了主要的斗争目标。

其二，不能很好地用人，在军事上对投降过来的如彭越、英布等重要军事将领，始终缺乏恰当的政策，致使这些人判服无常，最后投靠了刘邦；自己队伍中的一些卓越人物如韩信、陈平等旷世奇才，虽屡次献策，但不得重用，因而逃离楚军，投归刘邦，损己肥人，致使刘、项双方力量的消长于无形中发生着巨大的变化。

其三，军事斗争屡犯错误。如在汉二年至汉三年（公元前205年—公元前204年）楚、汉激烈的争斗中，汉军久被围困，粮草匮乏。刘邦请求与楚和解，拟割地荥阳以西归汉，以东归楚。项羽准备同意，这时范增及时而正确地指出：汉现在很容易对付。如果再错过这个机会，以后一定悔之莫及。范增再一次表现出他作为一名谋略家的远见卓识。在此关键时刻，刚愎自用的项羽不但不听，反而却中了陈平的离间计，犯了历史性的错误。陈平用重金收买了楚军内奸，使之散布流言，说：“范增、钟离昧等人在楚功劳卓著，却不得封王，因此欲与汉军联合，同灭项氏，分王其地。”项羽听到后果然生疑，派人去荥阳，探察真伪。当楚使者到汉营时，令人先抬上丰美的食品，然后却佯装惊愕，故意说，原以为是范增的使者，原来却是项王的使者，于是撤下美食，换上粗劣的食品。使者回报项羽后，项羽果然怀疑范增与刘邦私通，从此失去对范增的信任。

范增看到大势已去，败局已定。无可奈何地对项羽说：“天下事成败已定，请君王好自为之吧。请让我这把老骨头，归还家乡吧！”范增怀着满腔的忧愤，在回家的路上，背生痼疽，发病而死。

随着范增的离去，项羽也走上了穷途末路。至汉五年（公元前202年）十二月项羽兵败垓下，自刎乌江，一生的悲剧降下了帷幕。

一个谋略家的荣辱经常是和决策者的成败紧密相关的。项羽是一个失败者，但做为项羽主要谋士的范增却表现出一个谋略家的深谋远虑和远见卓识及恪尽职守的品格。在反秦斗争开始时，他能审时度势，充分利用主客观的各种有利条件，为项羽制定出正确的政治路线和行动方略；在形势发生变化时，又及时因势利导，在纷纭错杂的情况下，抓住主要矛盾，明确打击的目标和重点；在方略的运用和实施中，也表现了他随机应变，竭尽心力等谋略家应具有素质。但是范增做为一个谋略家在历史上却没有多大光彩，

成了一个悲剧人物。其主要原因是不能顺应历史的发展潮流，在重大的历史关头，不能做出正确的抉择，而把自己捆绑在项羽失败的战车上，因而注定了范增失败的命运。范增在重大问题处理上表现出的急躁、轻率，有时也欠缜密和周严，也构成了其失败的原因。

（石翔）

## 两汉三国两晋

### 谋略人物

#### 刘 邦

刘邦（公元前256—前195）字季，沛（今江苏沛县）人，多谋善断，知人善任，能屈能伸，临机应变，善于听取不同意见，是中国历史上长于谋略的开国皇帝。

刘邦年轻时为泗水亭长。沛县县令好友吕公来沛县，被尊为上宾。县令规定：贺礼不满千者坐到堂下。刘邦见吕公不凡，很想结交，便略施小计。他一文未贺，却高声对满堂宾客说：“我送一万！”说罢昂首登上大堂。吕公果然独具慧眼，见刘气宇轩昂，待为上宾，并托县令为媒将女儿吕雉嫁给了刘邦。

秦二世元年（前209年）九月，刘邦押一批人去骊山修皇陵，一路不断有人逃走。刘邦自知无法阻止，又担心交不上差，于是苦思良策。他分析了天下大势：两个月前暴发了陈胜吴广起义，应者甚众，自己何不相机举义、一举两得呢？他对剩下的人说：“你们若赶到骊山，即使不被打死、累死，也不知何时能回故乡，我不如放了大家，你们各奔生路吧！”伏役们感谢得涕泪交流，当下就有20多人追随刘邦向芒砀山进发，途中遇大蛇被刘邦斩杀，由此传出“蛇为白帝之子，被赤帝之子所杀”之说。刘邦不失时机，在沛县举行起义仪式时，全用红色旗，以“赤帝

之子”之说召兵聚义，不几日便聚众二、三千人。

刘邦与吴中义军首领项羽同受楚怀王之命，分南北两路进军关中。与项比，刘人单势薄；但他善用计谋，深知得人心、壮大力量的重要性，为此他治军严明，不扰百姓。一路上收了彭越义军和郦食其、张良等谋士。他还特别善于听取别人意见，如听张良之计围攻宛城。南阳郡守的舍人陈恢求见刘邦说：你与项羽有约：先入咸阳者为关中王。现在你滞留在这里围宛，南阳郡连接着数十座县城，官吏和百姓都认为降者必死，因此誓死守城。如果硬攻，即使攻下城也会既有迟到咸阳的危险，又有背受南阳郡军民攻击的祸患。如果您允许宛城投降，封其郡守爵位，带他一部分兵西进，既可西行无阻，又能壮大力量。刘邦明智地采纳了陈的意见，封南阳郡守为殷侯，陈恢为千户。由此，刘邦西进途中所遇的多数秦将都顺利投降了，使刘赢得时间，先入咸阳，为帝王之业奠定了第一块基石。

汉元年（前206年）十月，刘邦入咸阳，屯兵坝上。项羽入咸阳后杀秦降帝子婴和秦皇亲百官四、五千人，火烧阿房宫，大失民心。为杀刘邦，项羽于鸿门宴请刘邦。刘邦按张良的建议，从容赴宴，临惊不变，沉着应对，机智脱险。他深知与项羽的明争暗斗将愈演愈烈，但自己人单力微，不足与项抗衡，只能小心提防，卧薪尝胆。汉元年春，项羽杀义帝，自立为西楚霸王，又封了18位王。刘邦虽名为汉中王，实际仅占有秦地一小部分，且为偏塞之地。刘邦心怀不满。范增建议项羽召见刘邦，说：“刘邦被封为那荒蛮之地的汉中王，他若说愿去，定是图谋不轨，想独霸一隅，日后反扑，应立即杀之。他若不肯去，就是不听你的命令，公然藐视你，也要立刻杀掉他！”项羽依计。刘邦已猜到其用心，明知凶多吉少，却不能不去。他抓住项羽的弱点，装出毕恭毕敬的样子，一上殿就匍伏在地说：“参见霸王千岁！”这一伏

一呼就先使项羽放松了警惕。当项羽问他对封汉中王“意下如何”时，他意识到只要一语有失便会成为刀下之鬼，便从容答道：“我好比霸王您胯下的一匹坐骑，何去何从全由您做主！”项羽被恭维得既感得意，又觉得无懈可击，便让刘邦退下。刘邦退出大殿，飞奔营地，人不解甲，马不停蹄地向巴蜀进发。刘邦既料到项羽会后悔而派兵追杀，又能从全局着眼，以屈待伸，隐忍入蜀。这样既可避杀身之祸，又可养精蓄锐，以待还定三秦，进取天下。为此，他将凡通往巴蜀的栈道，过一栈，烧一栈，360里栈道全部烧光了。刘邦走后，范增气急败坏地说：“这次不杀刘邦，养虎为患，将来非败在他手里不可，快派人去追杀他吧！”但为时已晚了，当季布追到栈道口时，只能望崖兴叹了。烧栈道一箭双雕：不仅阻止了季布，而且使项羽认为刘邦无意东归，放松了警惕。

刘邦入蜀后，广招人才，休兵养士，韩信训军有方，萧何筹措粮草，仅几个月后，就羽翼丰满，开始了东进反攻。刘邦用张良之计，以修复栈道麻痹项羽派守陈仓的大将章邯，自己却带兵绕道经故道县、雍县，暗渡陈仓，使章邯猝不及防，兵败自刎。董翳、司马欣降汉。仅月余，刘邦便占了三秦之地。

为借用诸王力量攻击项羽，刘邦又施计拢络人心。在东进至新城时，刘邦令全军缟素，为义帝举哀三日，刘袒左臂，放声悲哭。又向诸王发送檄文，以讨伐项羽杀义帝为名，把这场争权之战装扮成兴“仁义之师”的“正义战争”。这一着果然赢得诸王支持，很快集得56万人马，转取了项羽的老巢——彭城。项羽当时正在齐地作战，闻讯回击，又大败汉军，并追至荥阳，在这里形成楚汉对峙之势。

刘邦分析到：项羽为人暴虐，好勇少谋。范增足智多谋，钟离昧智勇双全，是项羽的右膀右臂，为除此二人，刘施反间计。派人混入楚营散布流言，说钟、范与汉串

通。又乘项羽派使者入城见汉军之机施阴谋：先列队欢迎使者，摆上酒宴，汉将陈平（原为楚将，降汉）坐陪，问楚使：“范亚夫派你们来有何见教？钟离昧将军好吧？”楚使不解其意，申明是西楚霸王派来的，陈平马上撤掉酒席，换上一碗菜汤，一个馒头，侮慢楚使。楚使回报项羽，项中计，对范、钟渐疏。范气病死于回乡途中。项羽这才知道中计，猛攻荥阳。刘邦招架不住，又施“掉包计”，由纪信假扮汉王，出东门诈称降楚，刘邦乘机逃出荥阳西门，回到关中。金蝉脱壳后，又得以重振旗鼓。

刘邦回汉中后又组织人马粮草，在广武山据险设营，与项羽隔涧相对。这时楚军粮少，求战心切，就把虏为人质的刘邦的父亲捆在切肉案板上，隔涧高喊：“你若不降，就把你父亲做成肉羹！”刘邦心急如火，表面却不动声色，机智答道：“你我举义伐秦，相约为兄弟，我父即你父，如果你一定要杀你父亲，请分我一杯羹！”一席话反攻为守，使项羽哑口无言。为瓦解楚军心，又表示自己不示弱，刘邦于阵前历数项羽“十大罪状”，项羽忍无可忍，令弓箭手放箭，一箭正中刘邦前胸，他剧痛难当，却急中生智，俯身假装摸脚，乘机拔出箭说：“箭射中我脚趾了。”包扎好伤后又忍痛巡营，以示伤之无足轻重。其实他伤得很厉害，巡完营就急忙偷偷回成皋养伤去了，并派使者求和。项羽以为刘邦伤轻，又因自己粮草渐绝，就顺水推舟，答应了刘邦的议和条件：放回刘邦父亲和妻子吕雉；以鸿沟为界，东为楚，西为汉，互不侵犯。刘邦就这样机智地于危难之时保全了自己，又救回了亲人；稳定了军心，再一次赢得养息的时间。

汉王四年（前203年）九月，项羽准备东归彭城。刘邦接受了张良、陈平的建议，单方撕毁和议，从背后攻击楚军，并拉韩信、彭越、英布等率众参战。汉五年十二月，刘邦调集30余万人马将项羽围困在回彭城的路上——垓下，为瓦解楚军派人冲楚营唱楚歌，

涣散军心，大喊：“人心皆背楚，天下已归刘；韩信屯垓下，要斩霸王头！”项羽多次冲杀，终难突围。几日后，粮草断绝，又正值隆冬，将士忍冻挨饿，渐渐军心涣散。项羽身陷绝境，自刎于乌江边。至此，历时四年的楚汉之争结束了。

刘邦建汉朝后，为巩固自己的统治，一方面灭异姓王，另一方面又选贤任能。一次路过沛县，正值县令审理一乡民告店主霸占他20只白鹅一案。他平日听说县令无能，想亲自看县令审案。县令认为乡民诬告店主。刘邦已看出破绽，为选贤人，便问众人：“谁能重审此案？”书生李良应召重审，用鹅屎是草绿色断定鹅是乡民的。刘邦立即撤了县令，让李良治理沛县。

高祖十二年春三月，刘邦病重，嘱咐后事。吕后问：“相国萧何死后谁可为相？”刘邦说：“曹参可代。”吕后又问：“曹参之后呢？”刘邦说：“王陵可用，但王陵稍显愚直，不能独任，须陈平为助。陈平智识有余，厚重不足，最好兼任周勃。周勃少重厚文，但欲安刘氏，非周勃不可，可令为太尉。”刘邦于同年四月去世。后来的实践证明刘邦生前的预料和安排是十分正确的。

作为西汉王朝的开创者，刘邦是一个颇有作为的政治家。他任人唯贤，能听取不同意见，把一大批忠勇将士和智能谋臣团结在自己身边；他善于把握人民大众的情绪，顺应历史潮流，笼络民心，得到人民的支持；他善于指挥军队，联系实际运用战略战术，因而不但和项羽等人一道埋葬了秦王朝，并最终打败了项羽，建立了西汉。建国后，他又屡平叛乱，打击旧贵族和地方割据势力，基本上坚持郡县制，积极地维护国家的集中统一。但刘邦即皇位后诛杀异姓王，为一己之利而用人，又为一己之利而杀人；以“天下同姓一家”为根据，大封同姓王，企图以宗族血缘关系来维护其统治，留下了分裂内乱的隐患。尽管如此，刘邦仍不愧为一个“性明达好谋能听”的开国帝王，可以当之无愧

地跻身于谋略家的行列。

(辛晓梅)

## 萧何

萧何(?—公元前193)是汉初才智超人的大臣,沛县(今属江苏)人。他年轻时,做过沛县功曹,很善于结交朋友。当时他与泗水亭长刘邦,捕役樊哙,书吏曹参,刽子手夏侯婴,还有一个吹鼓手周勃,年龄相仿,性趣相投,不久即成了莫逆之交。

在这些朋友中,萧何对刘邦的感情最不一样。他见刘邦器宇轩昂,风骨不凡,谈吐也有别于众人,是位大贵之相,所以对刘邦格外佩服,并且对其生活非常关心。当时刘邦尚未成家,生活放荡,经常和一些女人来往。萧何觉得长此下去,总不是个办法,于是,在萧何的介绍下,刘邦认识了县里一位富人吕公。吕公设宴招待了刘邦,并请县令作媒,把女儿吕雉嫁与他。刘邦没有想到,经萧何一引见,分文未花,既吃了美酒,又得了娇妻。心中对萧何十分感激。

秦二世元年(公元前209年)九月,刘邦奉命押送一批徒役前往骊山。途中,逃走了不少,使刘邦无法回去交差,他索性把徒役都放掉,自己也准备逃走。徒役们见刘邦如此豪爽大度,情愿相从。他们一起逃到山里潜伏起来,日子不长,就聚起了100多人。

这时候,萧何正在咸阳公干,回县后,见县令抓起了刘邦妻子吕雉,大吃一惊,便与曹参等人秘密与刘邦联系,积极营救吕雉。经过多方设法,萧何终于救出了吕雉,并派人把她们母子送到山上与刘邦团聚。这件事使刘邦夫妇大为感动,萧何在他们眼中的位置更为重要了。萧何很善于结交朋友,并在朋友中择一知己相随,这对他后来的发展奠定了基础。

公元前209年(秦二世元年)七月,陈胜、吴广领导的秦末农民大起义爆发,天下大乱。陈胜军逼近沛县,情况十分危急,沛县令万分恐惧。萧何见时机来临,就向县令建

议,请刘邦回来,才能确保沛县平安无事。县令素知刘邦善于结交天下英雄,只要他肯真心助己,定是一位干城之选,所以满口答应,让樊哙去召刘邦回县。临行前,萧何去和樊哙、曹参等人一起商量,让樊哙劝刘邦趁机起义,他们在沛县城内策应,杀县官,守城池,然后向外发展。结果萧何等人的主张与刘邦不谋而合,很快就夺取了沛县。

刘邦破了沛县县城后,与萧何等人相聚,大家都推刘邦暂任县令,背秦自立。刘邦却再三推辞,萧何苦劝也不成。众人无奈时,萧何忽生一计,采取抓阄的办法来定县令是谁。只见萧何顷刻间摆设完香案,又将10个纸阄放在一只盘内,对众人说道:“刘邦最为乡亲们信仰,拈阄之事,我看就请他来担任,以昭郑重。”众人齐声说好。刘邦只得对天行礼之后,拈出一阄,当众展开一看,上面恰写着自己的姓名,看一眼萧何,又要推辞。萧何走上前去,一下将盘中剩余的纸阄抓起,放入口中嚼碎,然后高声说道:“天意所归,还有何说?”大家听了,欢声雷动。刘邦没有办法,只好应承下来。原来,萧何所写的10个纸阄都是刘邦的姓名,自然一抓就是他了。此事,让刘邦更认识到萧何确实是真心拥戴自己,口中不说,心里却十分感激。

萧何辅佐刘邦,一连攻下几座城池,声威大震,已与项羽齐名。正当他们乘胜前进的时候,刘邦忽得母亲病故的凶信,痛不欲生,急速返家,为母奔丧,一去时日很久。萧何见刘邦一去不回,心里万分焦急,再三致书,劝其火速归队,共图大事。刘邦见到萧何书信后,知道军务紧急,立即赶回军中了。萧何见刘邦归来,便对他说:“将军在家守制,原属孝意,但事有轻重缓急,我们内部之事,已是蛇无头不走;外面呢,项氏大军声势非常浩大,现在英雄四起,谁不想继秦而有天下?此刻正是千钧一发之际,稍纵即逝,一旦真的被谁家捷足者先得,我们岂不白费心思!”刘邦听后,连连点头称是,对萧何更是无比佩服。接着,萧何又建议刘邦



向项氏叔侄靠近，进军薛城。刘邦采纳了他的建议，向薛城进发。一路上人马不断扩充，在不少战场上大败秦军。

公元前206年(汉元年)10月，刘邦率军西进，攻城得地，势如破竹。不久，顺利进至关中，驻军距咸阳不远的坝上。刘邦写信给秦丞相赵高，叫他出降。赵高杀死二世胡亥，另立子婴为帝，设缓兵之计，再作后图。怎奈刘邦军进逼都下，大势已去。秦王子婴设计杀了赵高，仅做46天皇帝，便献出玉玺，向刘邦投降了。

进入咸阳以后，萧何一不贪恋金银财物，二不迷恋美女，径直去到丞相府中，将秦朝有关国家户籍、地形、法令等图书档案一并收藏起来，留待日后查用。全军上下无不佩服，刘邦很有感慨地说：“萧何的确是异才，不枉我重用他一场。”萧何收藏的这些档案，对西汉政权的建立和巩固，起了很大作用。可以从中看出萧何的先见之明。

刘邦占领咸阳后，很快项羽也率军入关。项羽自封为西楚霸王，刘邦被封为汉中王。刘邦见自己的实力不如项羽，只好憋了一肚子气走了，并暗下决心与项羽决一死战。当时项羽只给了刘邦3万人，但是自愿投到刘邦旗下的就有好几万人，多数是项羽的部下。其中有一个怀才不遇的韩信，也从楚营逃跑，投到刘邦帐下。刘邦让他当了一个管理粮草的小官，韩信大失所望。一次偶然机会，韩信结识了丞相萧何。萧何发现他有胆有识，是一个不可多得的将才，多次向刘邦推荐，但起初并没引起刘邦重视。

汉军久驻蜀地，不免有些人思念家乡，不少人纷纷东逃。刘邦正在发愁，忽一天有军吏禀报，说萧何丞相也逃走了。刘邦一听，大惊失色，急忙派人去追赶萧何。结果，追回一问，原来他是去追韩信去了。刘邦被他的行为感动，果然拜韩信为大将军。后来，韩信未令汉王失望，没有辜负萧何的良苦用心。在楚汉战争中，率军渡陈仓，战荥阳，破魏平赵、伐燕收齐，连战连胜，在垓下设

十面埋伏，一举将项羽全军歼灭，为刘邦平定了天下。韩信的成功，乃至汉王刘邦能够夺取天下，从一定程度上说都与萧何善于识别和力举贤能有重大关系，这也体现了萧何知人善任、重视人才的谋略家眼光。

汉六年，刘邦为巩固政权，陆续消灭异姓王。他见韩信功高望重，且握有兵权，几次借故削去韩信权柄，最后降为只有虚名的淮阴侯。此时的萧何，则被封为酈侯。

公元前197年(汉十年)9月，驻守赵、代地区的阳夏侯陈豨谋反，自立为代王。汉帝亲率大军征讨，朝中大权交吕后执掌。当时韩信推说自己有病，没有随同前往。谁知事有不测，韩信的一个门客去求见吕后，告发韩信本是陈豨的至交，这次陈豨谋反，韩信是内应，准备在一天夜里，假传圣旨，把奴隶和犯人释放出来，袭击吕后和太子刘盈。吕后一见事关重大，急秘密召见萧何商量对策。结果萧何略施小计，使韩信随他一起到宫中，被早已埋伏的武士杀死。萧何辅助吕后，谋杀韩信，很符合汉帝“固根基”的战略，是为刘邦除去一块心病。刘邦对萧何更加恩宠，加封五千户。

公元前201年，刘邦迁都咸阳。萧何由于善解君意，说话甚是得体，很受刘邦赏识，位至相国，封邑进爵，圣眷方隆。俗话说，伴君如伴虎。为了释去刘邦对自己的嫌疑，萧何不得不故意做些侵夺民间财物的事。因为他明白，对于一般小官吏，主上并不怕他有野心，所以一有贪赃枉法行为，必遭严惩。而对于自己这样的大臣，主上主要是防止有野心，对于贪赃枉法那些小事，反不足轻重了。果然，不久，有人向汉帝密报他的所作所为，汉帝听了，象没事一样，并没有追查。萧何违心地干了些侵害百姓的事情，心里很不安，一有机会，便想补偿。有一次，他向汉帝建议把御苑部分土地分给无田耕种的百姓，汉帝见到奏章十分恼恨，当即把他打入大狱。后经人劝说，才使汉王息怒，命人赦出了他。萧何经过一场大狱后，身体变软，



手足麻木，连路也走不动了。但是，当他见到刘邦安抚自己时，仍惶恐万分，伏地叩首。汉帝命人扶他出宫，照样重用他。从此以后，萧何益加恭谨，沉默寡言。汉帝也对他相待如初。

公元前195年(汉高祖十二年)3月中旬，汉高祖刘邦辞世。这时，萧何也年事已高，到公元前193年，他也忽患重病，医治无效，很快死去了。

(吕晓春)

## 张 良

张良，(?—公元前186)，字子房，城父(今安徽亳县东南)人。祖父与父亲相继为韩国五世之相。秦灭韩后，他图谋复韩，使刺客刺杀秦始皇未中，逃至下邳时，遇黄石公，得《太公兵法》。秦末战争中，张良与刘邦相遇，两人一见倾心，刘邦遂拜他为厩将(管理军马的将官)。张良数以“太公兵法”进说刘邦，刘邦每每心领神会，多用其策。从此君臣相处，如鱼得水。一个从谏如流，豁然大度；一个天纵智慧，神机妙算。这次不期而遇，张良“转舵”随英主，反映了他在纷纭复杂的形势中，头脑清醒，眼光独到。

秦二世二年末，刘邦奉命入关，他心情急切，欲绕道而行之。张良深感不妥，因为刘邦兵微将寡，直入秦京畿腹地与其劲旅决战，如以卵击石；而宛城系秦军重要据点，如果借取南阳之威，强军攻之，垂手可拔，绕道越之，正犯了兵家大忌；前有强秦阻挡，后有宛城守军追杀，弄不好会全军覆灭。于是，张良精辟地向刘邦分析形势，并谋划攻占宛城之计。刘邦果断地采纳了张良之策，连夜偃旗息鼓，秘密折返，并于黎明前将宛城围之三匝，以攻心之计招抚南阳太守，赦免全城吏民，兵不血刃地轻取了宛城。此举不仅解除了西进的后顾之忧，还获得了大量补给，扩兵两万，接着，乘胜顺利地拿下关中门户武关，浩浩荡荡地进逼秦朝腹地。

此时，项羽正当巨鹿，而秦内部矛盾已

激化。张良再次献策，依次挥军西进，攻克峽关。峽关为古代南阳与关中的交通要隘，易守难攻，扼守着咸阳的东南大门，历来是兵家必争之地。秦在这里派重兵把守。而刘邦只有两万兵马，如不能顺利拿下此地，项羽大军就有可能先行人关。刘邦心急如焚，欲强取之。而张良以为，“秦兵势强，不可轻举妄动”，否则，不仅因决战消耗了实力，而且会拖延入关时间。他经过调查，知峽关守将乃屠夫之子，商人出身，好小利，遂向刘邦提出智取之策，说：“主公暂按兵不动，派人预备5万人的用具，留为总攻；再在峽关四周山上多张旗号以为疑兵，惑乱敌心；同时，派酈食携重金贿赂守关秦将，则必有佳音。”果然，秦军见城周被围，声势浩大，心先恐惧；守将贪恋钱财，情愿倒戈，约义军联合西袭咸阳。

刘邦闻讯大喜，忙谋划联合进兵之事。张良冷静地分析说：“此乃秦将贪利之轻诺，恐怕士卒未必服从，不如借此混乱之机一举消灭之。”刘邦从谏，引兵过峽关，穿贲山、破蓝田，出其不意，攻其不备，连战告捷。

汉高祖元年(公元前206年)十月，秦王子婴出降。刘邦入秦宫，亦贪恋宫室，沉溺美色。对此武将樊哙冒死犯颜强谏，毫无成效。在这关键时刻，又是张良起了决定性作用。他提醒刘邦：“秦之所以灭亡，在于逆行无道。今沛公大业未竟，权位不定，岂能贪图一时安乐？”心平气和，软中有硬，婉转巧妙地为刘邦分析古今成败的经验教训，阐明“倘欲为天下除残去暴，建大功立大业，成帝王之事，理应布衣素食，励精图治”的道理，并劝说刘邦听从樊哙的进谏，“忠言逆耳利于行，良药苦口利于病”。刘邦果然愉快地接受了这卓有远见的规劝，下令封存府库宫宝，整治军队。为了笼络人心，张良还建议，召集当地父老豪杰，约法三章：“杀人者死，伤人及盗抵罪”；并通告四方：立即废除暴秦的一切严刑苛法，保护投降的秦王子婴和诸吏人等；还派人与秦吏一起到处晓谕此意，博

得秦民拥戴，争先恐后用牛羊酒食慰劳汉军，惟恐刘邦不为秦地之王。

鸿门宴，是中国历史上一段脍炙人口的斗智斗勇故事。张良在这次生死攸关的斗争中，以其大智大勇，既巧妙地帮助刘邦安全脱险，又使项羽内部埋下君臣相隙的祸根，充分显示出随机应变、妙计泉涌的策略家智慧。

张良是一个难忘旧情的人，他曾欲返阳翟，再事韩王成。刘邦为此赐予他金百镒、珠2斗。而张良将这些重金全部转给项伯，请他在项羽面前多多美言，再为汉王加封汉中之地。果然，项伯说服了项羽，又把汉中加封给刘邦。汉中，土地肥沃，物产丰富，交通发达，士民众盛，易守难攻。张良此举，对当时军力尚不足以称霸的刘邦来说，退守此地，养精蓄锐，再图大业，具有重要的战略意义。

刘邦入汉中经过4个月的积极休整后，采用大将韩信之谋，避开正面防御，暗渡陈仓故道（今陕西宝鸡），从侧面出其不意地打败了雍王章邯、塞王司马欣、翟王董翳，从而平定三秦，夺取了关中宝地。这“明烧”“暗渡”之计，由张良韩信携手，珠联璧合，成为历史上的一段佳话。

项羽闻报刘邦抢占关中，决定率兵反击。张良再次用计，寄书迷惑项羽：“汉王出兵是为了取得汉中，如实现楚怀王的约定，决不东进。”同时警告项羽说：“齐国欲与赵国联兵灭楚，大敌当前，灭顶之灾，不可不防啊。”项羽看了张良的信后，以为最大的威胁是齐王田荣，而刘邦并没什么危险，因而发兵北攻。张良利用楚军东西受敌，顾此失彼的弱点，把项羽的注意力引向东方，从而放松了对关中的防范，为刘邦赢得了宝贵的休养生息的时间。

汉高祖二年（公元前205年）春，刘邦率军东进伐楚。但这次却犯了一个战略性的错误，即攻占彭城后，忘乎所以——“日置酒高会”。结果遭项羽突然袭击，几乎全军覆

灭。在兵败危亡之际，又是张良深谋远虑，匠心独运，在全面分析总结彭城之战失败的教训后，为刘邦想出一个利用矛盾，联兵破楚的计策，这就是历史上著名的“下邑之谋”。这个计谋的内容分为三个部分：一是争取英布，瓦解项氏集团；二是联络彭越，加强反楚力量；三是委托韩信掌兵，以成大事。这是张良正确分析当时敌我三方形势提出的富有战略意义的谋略。它扭转了楚汉战争的局势，使刘邦由被动转为主动，由战略防御转为战略进攻。当时，谋士郦食也提出了一个对付楚军的办法，就是复立六国。张良分析了这种主张的危害。他看到了古今时移势异，因而得出绝不能照抄照搬“古圣先贤”之法的结论。他指出，以往是天下大势稳定，而今楚汉相争，胜负未决，分封六国只能削弱自己的力量，而被楚军逐个击破。其中，即或有强者出现，也会拥兵自立，绝不会臣服汉王。尤其重要的是，张良认为封土赐爵是一种很有吸引力的奖赏手段，赏给战争中有功之臣，用以鼓励天下将士追随汉王，使分封成为一种维系将士之心的重要措施。如果反其道而行之，还靠什么激励将士从而取得胜利呢？张良的分析，符合历史发展规律，较之先前处心积虑地“复韩”，是思想认识上的飞跃。对他这种政治主张，明人李贽曾赞叹为“快论”。

在刘邦处于危困之时，韩信却在军事上节节胜利，并由此政治野心逐渐膨胀起来。他派人面陈刘邦，要求封自己为假（代理）齐王。刘邦一听，便怒不可遏，当着信使的面斥责道：“我久困于此，日夜盼望韩信前来相助，想不到他竟要自立为王！”当时，张良正坐在刘邦身边，急忙用脚轻轻踢了他一下，附耳说道：“汉正失利，大王有力量阻止韩信称王吗？不如顺水推舟答应他，使其自守，否则将会产生意外之变。”刘邦立即心领神会，反改口骂道：“大丈夫既定诸侯，就要做个真王，何必要做假王！”结果没露出什么破绽。事实证明张良这个主意是正确的，因为

当时形势相当严峻，项羽在荥阳前线围攻刘邦，久战不下，自思无法对付侧翼的韩信，便企图利用故有的关系，派说客武涉前去劝降。而韩信见刘邦回话后，权衡利弊，回绝项羽的诱惑，决定从汉为齐王。刘邦的这一决策，显然具有举足轻重的战略意义。终至汉高祖五年十二月，韩信用“十面埋伏”之计围困楚军；张良用“四面楚歌”之计瓦解敌兵士气，终于打败项羽，楚汉战争以刘邦的胜利而告结束。

汉高祖六年(公元前201年)正月，汉高祖刘邦分封有功之臣20多人。未被分封的人议论纷纷，争功不休。国基初奠，需要安定团结，人心动荡，不是祥兆。刘邦问张良“怎么办？”张良答道：“陛下平时最恨的，且为群臣共知者是谁？”刘邦说：“雍齿与我有旧怨，几次三番困辱过我，我早就想杀他，只是因其功多，不忍下手。”张良赶忙建议说：“请大王速封雍齿，以示群臣，则人人可以自安。”

刘邦果断地采纳了张良建议，果然人心浮动的现象再也看不到了。张良略施小计，不仅纠正了刘邦任人唯亲、徇私行赏的弊端，而且轻而易举地缓和了矛盾，收伏人心，稳定了大局。这种安一仇而坚众心的策略，极受后世政治家们的欣赏。

西汉建立后，张良曾悉心研究军事，整理春秋以来的182种军事著作，编汇成汉初传世的各类兵书，并根据自己的实践“删取要用，定著三十五家”，为我国古代军事科学的弘扬和发展做出了贡献。

汉王朝初年，最高统治阶层的倾轧和争斗是相当复杂而激烈的。如果稍有不慎，处理不当，就有可能被卷进漩涡而遭吞没。张良的过人之处在于，他施行了“巧计不间亲”之策，待汉廷稍为安定后，他即杜门谢客，辞病不朝，明哲保身，至汉惠帝六年(公元前185年)病逝于长安。

张良的一生，特别是他在辅佐刘邦创立西汉王朝的过程中，思谋深远，积极务实，气度宽宏，审时度势，因时制宜，良策迭出，

堪称千古良辅，智慧的化身。就是在建功立业之后，他也能巧妙地斡旋于王戚贵族之间，不只明哲保身，还潜心著书立说，彪炳青史。成为我国古代谋略家行列中的佼佼者，为后世所赞颂。

(王中凡 刘畅)

## 韩 信

韩信(?—公元前196)，淮阴(今江苏靖江西南)人。楚汉相争时重要将领。

韩信少年丧父，家境贫寒，但他人穷志大，认为自己总有一天会发迹起来。他虽衣食无着，但时刻没有停止习练武艺。家无长物，有一柄随身祖传宝剑，天天挂在腰间，一旦无事，踽踽街头。一个无赖少年见韩信带剑，拿他开心，故意侮辱他，让他从他的裤裆下钻过去。韩信虽然很难堪，但又不愿意与无赖纠缠，就趴在地上，从那无赖的胯下钻了过去。在场的人哄然大笑，但韩信却不以为辱，起身而去。

陈胜、吴广在大泽乡起义后，在吴中的项梁和项羽叔侄起来响应，举兵反秦。这时韩信投奔项氏营中，做了一个无名小卒。项梁阵亡后，韩信做了项羽的侍卫。他几次向项羽进策，不见采用，郁郁而不得志。就在项羽从咸阳返回彭城建都时，韩信悄悄弃楚归汉。

韩信到了刘邦军中，满以为会得以重用，可刘邦却让他当了一个管理粮草的小官。不久，他与萧何在西行路上相见，有幸彼此几次交谈。萧何十分佩服他，认为是大将之才，便多次向刘邦推荐，可是数月过去，仍未见刘邦重用。于是，他责怪刘邦不识才，被刘邦定为死罪。临刑前，韩信仰天长叹说：“汉王不是要打天下吗，为何要杀壮士？”刘邦觉得他的话在理，就免其死罪，但仍不重用他。无奈，韩信只好悄悄收拾行李，离开了汉营。可是当萧何发现韩信出走后，便急忙骑上快马，紧追不舍。两天后，萧何终于把韩信劝了回来，把他再次推荐给汉王。

刘邦终于被萧何说服了，他立即要召见韩信。萧何建议不可轻率从事，于是刘邦召集全体群臣，择吉日良辰，举行隆重仪式，亲自登台为韩信授印，拜韩信为大将军。拜将仪式结束后，韩信被让到上座，他再三表示要竭尽全力，以报汉王知遇之恩。刘邦也十分高兴，急不可奈地与韩信谈起平定天下的大略。韩信首先分析了时下形势。他认为，当时刘邦的势力不如项羽；但他又指出，项王虽勇悍，可不会任用良将，只是匹夫之勇，不能成就大业；项王自起兵以来，大肆杀戮，不得民心。最后他建议刘邦，虽然项羽有许多劣弱之处，但毕竟是身经百战的勇将，不可轻视。现在汉军应加强从速操练人马，所谓“将不练不勇，兵不练不精”。这些分析，不是单纯从军事力量的对比着眼，而是把战争的胜负同人心的向背紧密联系起来，表现出了韩信超人的政治远见和卓越的军事才能。韩信还同时提出了东进的具体部署，使刘邦看到了希望。所以，刘邦听后喜出望外，感叹自己对韩信相识恨晚。

韩信指挥汉军将士，日夜操练。没过多久汉军便军容整齐，壁垒一新。汉高祖元年八月，汉军挥师东进。汉王早有张良定计，叫他明修栈道，暗渡陈仓。汉王又问韩信，韩信的计策竟与张良不谋而合，喜得汉王说：“真是英雄所见略同！”韩信命令少量人马修复栈道，借以迷惑敌人，使他们毫无防备。忽一日，韩信率兵已奔袭至城下，直杀得敌兵措手不及，使项羽的兵马节节败退。

汉军势如破竹，很快占领了关中大部分土地。韩信不失时机地派人去攻取咸阳，卡住楚军东逃的去路，然后发兵围攻只有残兵败将守卫的废邱。他察看地图，认为对该城不应强攻，而应智取。他采用水攻的办法，使楚军很快丢失城池，守将章邯拔剑自刎，手下兵士纷纷投降。这样，三秦之地，不到一个月，全归了汉王刘邦。

三秦平定后，赵相张耳不久也西行入关，投顺汉王。项羽闻讯后，率领大军直扑汉军，

在睢水大破汉军，刘邦带领几十人逃出重围。在这种严重时刻，刘邦把破楚的重任交给了韩信。韩信收集兵将，跟刘邦在荥阳会合，屡次打败项羽，使楚军不得西进。

汉高祖二年六月，魏王豹告假回归故里，探望病中的母亲。结果，他一回到平阳，就背叛了汉王，局势十分危险。到了八月，汉王任命韩信为左丞相，率兵攻打魏王豹。魏王豹用重兵把守蒲坂，阻挡汉军渡河。韩信率汉军逼进，见蒲坂地势险要，易守难攻，便利用声东击西的战术，迷惑魏王。他先制造假象，好像要从临晋渡河，结果魏王豹在此集中兵力，严加防守。谁知他却暗中在北边的夏阳埋伏重兵，用树木、木瓮代替船只，出其不意地渡过黄河，迅速占领了魏城安邑。魏王豹这时方知中计，慌忙引兵迎击，结果被韩信杀得大败。不久，韩信俘虏了魏王豹，并平定了魏地，在那里设立了河东郡。

汉王刘邦自从彭城大败后，见楚军势大，采取避实就虚的策略。他自己亲守荥阳，以少数兵力拖住项羽，同时又采纳韩信建议，派韩信率汉军主力北上，进攻赵、代，讨伐燕国，并向东平定齐地，向南切断楚军粮道，继而形成对楚军的合围。韩信大军很快就大败代军，赵军得知后，立即在井陉口屯集20万重兵，严阵以待。可这时，刘邦为了抗拒项羽，把精兵调回荥阳，这样，韩信兵员大减，只有数千之众。而井陉口是太行山的险要关隘之一，山路狭窄，很难攻下。但这时，赵军也没有采纳赵国谋臣李左军断其后路的计策。韩信心下暗喜，趁黑夜率领精兵抄小路，偷偷埋伏到赵军营旁山上。然后又派一队精兵作为前锋，出井陉口，面向赵军阵地摆开了阵势。天一亮，韩信亲率人马，杀出井陉口，与赵军交战。赵军仗着人多势众，一拥而上。韩信见时机已到，便命令抛弃帅旗，扔掉战鼓，往回便退，引得赵军穷追不舍。当韩信退至曼水边，他立下命令：“决一死战，谁后退立斩！”汉军将士见前有河水，后有追兵，只得奋力拼杀。直杀得赵军不得

不原路退回，哪知此时营中已全是汉军旗号。赵军顿时惊慌失措，很快被汉军打败。井陘一战，汉军大获全胜，全军将士无不钦佩，一致称赞韩信善于出奇制胜，战术超人。

公元前204年6月，韩信按照刘邦之命东进，准备攻打齐国。这时齐王先背楚降汉，后又与项羽合军迎战韩信。项羽手下大将龙且率军20万，名为救齐，实则想趁机夺占齐地。于是，楚汉两军在潍河两岸摆开阵势，龙且在河东，韩信在河西，战事一触即发。这天夜里，韩信命令部下准备了1万多条口袋，装满沙子，投进潍河上游，这样下游河水变浅，汉军半数人马乘机涉水过河，去进攻楚军。龙且见状，忙率大军迎战。双方接战不久，韩信佯装战败，慌忙撤回河西。龙且以为汉军无能，心中大喜，急命大军渡河追赶，想一举歼灭之。谁知楚军刚冲到河心，早已埋伏在上游的汉军便突然决开沙袋，河水急冲而下，卷走了大部分楚军。韩信这会儿指挥汉军回头掩杀，龙且当场毙命。岸上的楚军见状落荒而逃；齐王也未来得及逃跑，便被汉军杀死。

韩信占领齐国后，派使者上书刘邦，说齐国一向反复无常，如不此时再立新齐王，很难巩固，因此，请求由自己代理齐王。刘邦接书大怒。后依谋臣张良计，才封韩信为齐王，但借机把韩信统率的部队调走了很多。

汉高祖五年，形势发展对刘邦很有利，于是他命令韩信为总统领，指挥各路大军，围歼项羽。韩信受命后，将30万人马分成10队，布置了十面埋伏阵，日夜操练，声势浩大。同时，让士兵不断刺激项羽应战。由是引得项羽大怒，亲率大军迎击汉军。两军相交，只几个回合，韩信便且战且走，将项羽引入包围圈。接着，汉军伏兵四起，十面埋伏，一起杀出。楚军残败，所剩人马不足两三万人。最后，韩信又让军中士兵吹奏楚之歌，让楚军士兵思念家乡，纷纷逃离项羽。后来，项羽只带千把人突围，自刎在乌江边。

项羽死后，汉军回师定陶，刘邦与张良、陈平密议多时，突然闯入韩信大营，夺了韩信的兵符，封韩信为楚王。韩信知道刘邦已记前嫌，心境十分悲凉。无奈，只得前往封地，回到了楚国。不久有人告韩信谋反，刘邦听从陈平“伪游云梦，实击韩信”之计，把韩信抓到洛阳。这一次，刘邦宽恕了他，只把他降为淮阴侯。从此以后，韩信深知刘邦忌恨他的才能，便托病不出。公元前197年（汉高祖十年）9月，陈豨起义反汉，刘邦率兵亲征，韩信托病没去。转年正月，韩信的门客向吕后告发韩信勾结陈豨谋反，吕后听了，不动声色，与萧何密谋设计，诱杀了韩信。

韩信在辅佐刘邦战胜项羽，建立汉朝的历史过程中，表现出卓越的军事才能，从他所经历的征战，可见出他精于谋略，长于用兵的特点，从而确立了他做为中国古代杰出谋略家的历史地位。

（洪滋 吕晓春）

## 陈 平

陈平，（？—公元前178），阳武（今河南原阳东南）人。少时家贫，与兄同居，酷爱读书，好黄老之术。陈胜、吴广大泽乡起义后，他投魏王咎，为太仆。后又随项羽入关，担任都尉。但陈平见项羽无道乏能，难成大事，很快便就挂印封金，投奔到汉军部将魏无知处。魏无知便带他面见刘邦，两人纵论天下大事，十分投机。当谈到楚用兵的战略时，陈平详陈路径，了如指掌，还进一步说：“目前项王正带兵伐齐，楚地空虚，我军应迅速东进，捣其巢穴，若得入彭城，截断楚军归路，那时楚军心乱，容易溃散，项王虽勇，还有何作为？”一席话正中刘邦下怀。汉王遂拜陈平为都尉，兼掌护军。陈平拜谢而出。不想帐下诸将见陈平得贵官，不禁大哗，纷纷对刘邦说：“陈平初至，心迹未明，如此重用，恐为不妥。”汉王听后，一笑置之。不久又有人见汉王道：“陈平虽美如冠玉，恐怕徒

有其表，未具真才。臣等听说他在家时，与其嫂通奸，今掌护军，又喜受贿金。如此品行，不可不察，主公勿为所惑。”汉王听了，也不免心生疑窦，于是召魏无知苛责。魏无知见状回答说：“我举荐陈平，但重其才能，主公责其品行，实非今日行军要务。今日楚汉相争，全仗奇谋，以资佐助。如陈平果无才能，臣甘愿坐罪。”刘邦于是又召陈平责问：“先生仕魏不终，仕楚又去，如今与我共事，难道不令人疑心你的信义吗？”陈平直言答道：“臣本为楚吏，项王不能用臣，故弃而归汉，封金还印，只剩得孑然一身，来投主公。若不受金，衣履难周，哪还有时出谋划策呢？至于臣的家事，纯属无稽之谈。如肯依臣计，不妨任臣随意行事，或许会有一得之愚以献主公。否则原金具存，乞赐骸骨归乡罢。”汉王听后，微笑着说：“汝能助我以成大业，我亦必会让你衣锦荣归。”说罢，更加厚赐，并且升为护军中尉，监护诸将。

汉高祖三年（公元前204年）四月，正是楚汉战争最激烈的时候。一年前，汉王刘邦听从陈平的计策，趁项羽伐齐之机，率大军50万攻占项羽巢穴彭城。进彭城后，刘邦一味享乐，耽于酒色，结果反被项羽3万精兵杀得大败，逃至荥阳，被围困一年之久。面对这危机的形势，刘邦情绪低沉，对陈平说：“今天下纷纷扰扰，何时可得安宁？”陈平见问，便胸有成竹地说：“主公不必忧虑，眼下形势正在发生变化。只要主公扬长避短，天下顷刻可定。”汉王细问其详，陈平说：“项王手下最得力的人，不外是亚父范增、钟离昧、龙且和周殷等。主公如能舍得几万金，施反间计，离间他们君臣，使上下疑心。项羽本来猜忌信谗，必然引起内讧而互相残杀。到那时，我军乘机反攻，势必破楚。”刘邦深以为然，便付4万金给陈平，任其使用。果然在陈平经心策划下，项羽起了疑心，对钟离昧渐不信任，对范增也日益疏远。范增解甲归田，在回家路上病死。项羽闻范增死讯，方知中计，十分懊悔，但为时已晚，一

个屡立奇功的谋士，竟被陈平略施小计除掉了。其后，楚将周殷在英布引诱下叛楚；钟离昧久遭疑忌，得不到重用。这便是陈平“六出奇计”的第一计。

项羽中了陈平的反间计，气死谋士范增，盛怒之下，督兵猛攻荥阳，要活捉刘邦。守城汉军连日抵抗，已精疲力尽，形势十分危急。这时陈平便向汉王献计，派大将纪信假扮汉王出东门诈降，而汉军从西门突围。果然项羽又中计。

汉高祖四年九月，项羽拔营车归，向彭城而去。刘邦也打算西还汉中。张良、陈平以他们谋略家的敏锐洞察力，一致看到项羽已到捉襟见肘的地步，因同谏汉王道：“纵观天下大势，我们已得了大半河山。四方诸侯，又多归附，而项羽兵疲粮尽，众叛亲离，正是攻灭的大好时机，如果让他归去，岂不养虎遗患吗？”刘邦听他们一说，深以为然，马上改变计划，转向东进。至汉高祖五年十二月，刘邦亲率韩信、彭越等路大军，在垓下合围项羽，采用韩信的“十面埋伏”之计，一举击垮之，结束了持续4年的楚汉战争。

刘邦消灭项羽后，于汉高祖五年二月，正式即帝位，史称汉高祖。为了巩固汉王朝的封建统治，刘邦便筹划消灭异姓王。他首先要打击的目标，是智勇兼备的大将军韩信。这时，有人告发楚王韩信谋反，为刘邦剪除韩信提供了口实。刘邦乃召见陈平，问计于他。陈平道：“这事只好缓图。”汉帝道：“众人都主张发兵征讨。”陈平反问道：“陛下现有的将士，有谁能敌得过韩信？”汉帝回答：“这倒没有。”陈平见时机成熟，便道：“兵不如楚精，将难敌韩信，反而要举兵强取，必然是轻启战端，我很为陛下担忧啊！”刘邦不住点头，但心中又十分着急，一再求问万全之计。陈平踌躇半晌说：“古时天子巡狩，必大会诸侯。臣闻南方有一云梦泽，陛下何妨传旨出游其地，遍召诸侯会集于陈。陈与楚邻，那时韩信自来进谒，只要一二武士，便可将其拿下。”刘邦听了，连称妙计。不久便

将韩信带回京师，降为淮阴侯闲住。

汉高祖七年(公元前200年)冬，汉帝刘邦亲率20万大军征讨匈奴。开始，汉军节节胜利，不久便中了敌人计策，被冒顿死困数日，刘邦君臣均无计可施。直到第六天，陈平才思得一计，面告汉帝。汉帝大喜，急命依计而行。陈平遂备了一幅美人图，还有许多金银珠宝，派一名胆识兼备且能言善辩的使臣，秘密去见冒顿新立的阏氏(皇后)。这位使臣先将金银珠宝献上，然后道：“今汉帝被围困，想与单于议和，知道阏氏很能进言。若能言和，最好不过。若是单于不允，现有一幅图在此，这是中国第一美人，因现不在军中，改日定将她送奉给单于。”

阏氏打开图一看，兀自大吃一惊，暗忖道：“这样美人，如被我家单于看到，一定会娶入宫中，必夺自己的恩爱。”不觉冲口道：“这位美人你们千万不可送来。”汉使见阏氏落入圈套，便说：“汉帝本不忍让美人来此，只因情势所迫。阏氏若能设法解救，汉帝自然不会这样办的。肯定会以更多的金珠孝敬阏氏。”阏氏于是满口答应。果然在汉军被困的第七天，包围撤去，放汉军人马南归了。

汉高祖十二年(公元前195年)二月，燕王卢绾谋反。刘邦命樊哙前去平叛。出师不久，有人就在刘邦面前说樊哙图谋不轨。汉帝采纳陈平的计策，以陈平的名义前往樊哙军中传诏，车中暗载大将周勃。待到军中，宣旨立斩樊哙。但陈平途中对周勃说：“樊哙是主上的故交，且是至戚，一旦杀了他，主上气消，或许后悔。兼有吕后和吕嫪从旁搬弄，难免获罪你我。以我之见，不如拿住樊哙，绑赴朝廷，或杀或免，听凭皇上自己处置。”樊哙被钉入囚车行至中途，汉帝便病故。陈平让囚车照常行进，自己则先策马星夜飞驰长安。果然不出陈平所料，吕后一见陈平来到，急忙怒询樊哙下落。当吕后听到陈平并未斩樊哙时，心中大喜，很是感激。

高后八年(公元前180年)七月，陈平与周勃审时度势，商定了一条翦灭诸吕的计

策：曲周侯酈商之子酈寄是赵王吕禄的好友，而吕禄是诸吕中最有权势的一个。陈平、周勃派心腹劫持酈商，以此要挟其子酈寄去计赚权臣吕禄，劝其将兵权交给太尉周勃。吕禄是有勇无谋的人，他见刘氏诸王和大将灌婴等正欲发兵讨伐诸吕，便轻信酈寄，把北军兵权交与周勃。而陈、周便乘机将吕氏族人诛杀殆尽，拥立刘邦长子刘恒即位，是为汉文帝。陈平被任为相。

汉文帝二年(公元前178年)十月，陈平病故。陈平作为一个思想深邃的谋略家，无论是佐刘邦定天下，还是辅文帝治乱世，在极其复杂激烈的社会矛盾冲突中，以其谋略家的敏锐洞察力，直面人生，锐意进取，巧妙地驾驭各种矛盾，终于建立了丰功伟业，从而确立了他作为中国古代卓越谋略家的历史地位。

(隋洪滋 刘畅)

## 贾 谊

贾谊(公元前200—前168)，河南洛阳人。西汉前期年轻有为的谋臣，杰出的政治家、思想家和文学家。

贾谊少年时期即博览群书。18岁时，因能诵《诗》、《书》和撰著文章而闻名于河南郡，被当时的河南郡守吴公召至门下。公元前180年，吕后死，汉文帝即位，闻河南郡守吴公治下社会安定，政绩卓著，便将其召至中央任命为廷尉(最高司法长官)。吴公乘机向汉文帝推荐贾谊，汉文帝便诏贾谊为博士。从此，贾谊就进入了汉代政治舞台。

博士，是一种备皇帝咨询的官，贾谊担任此职时年方21岁，是当时所有博士中最年轻的。他博学多识，敢想敢说，对文帝提出的各种咨询对答如流，并极有见地，深得文帝喜爱，一年之内就破格被提拔为太中大夫。贾谊从巩固汉王朝统治的目的出发，向文帝提出了一系列改革建议。汉朝初创时，承继秦制，制定朝廷之礼，宗庙之乐，贾谊认为，汉是承袭了秦朝的败俗和废弃了的礼



义，应该移风易俗，使天下回心而向道。他建议改正朔，易服色，定官名，兴礼乐，以更秦法，立汉制。当时虽因文帝刚刚即位，条件尚不成熟，没能马上采纳此项建议，但也可从中看出贾谊的志向和魄力。

汉文帝二年(公元前178年)，贾谊撰奏了著名的《论积贮疏》，指出当时社会上存在着严重的“背本而趋末”(即弃农经商)问题，这对维持汉的统治极为不利。他写道：汉朝建立几近40年，无论是公家还是私人，粮食的存贮都很可怜。天不下雨，百姓心中恐慌；收成不好，富人乃以上缴粮食换取官爵，穷人则无法生活，以至于卖子求生。他进一步指出，积贮粮食，是关系到天下命运的大事。粮食多而财有余，就没有办不成的事。以攻则取，以守则固，以战则胜；对外敌采取怀柔政策，也不愁招而不至。所以，要驱使百姓归而务农，使天下各食其力，则可国富民安，就用不着整日恐慌不安了。汉文帝看到贾谊的上疏后，深受触动。他采纳了贾谊的建议，下令鼓励农业生产，减免当年田租的一半，还带领群臣举行籍田的仪式，以示对发展农业的重视。贾谊提出的这一重农抑商政策，在当时的历史条件下，对恢复和发展农业生产，加强汉朝封建统治的经济基础，推动生产力发展，起了重要作用。

由于贾谊在很短的时间里就展示出很高才能，因而汉文帝准备让他担任更高的公卿职位，但这个想法却遇到了周勃、灌婴和邓通等人的百般阻挠。周勃、灌婴等人自恃功高资深，一方面看不起年轻资浅的贾谊，另一方面又妒忌他出众的才华。他们众口一词地攻击贾谊，说：“这个洛阳人，年纪轻轻，学识浅薄，一心擅权，会搞乱许多国家大事的。”周勃、灌婴系先帝老臣，位高权重，即位不久的文帝难以违背他们的意愿。而此时胸无点墨，只会陪同文帝游玩的佞臣邓通，则与贾谊不和，经常在文帝面前说贾谊的坏话，使得文帝逐渐疏远了贾谊。

文帝四年(公元前176年)，贾谊被贬出京

师，赴离长安数千里之外的长沙，任长沙王的太傅。受谗被贬，远离京师，贾谊心中充满了悲愤和难言的失落感，在南行途中，他写下《吊屈原赋》，借凭吊屈原之意，抒发自己的怨愤之情。尽管如此，他仍以天下事为己任，对事关国家安危的大事仍给予极大关注，遇有机会，便上疏文帝，提出自己的深谋远虑。

大约是汉文帝六年(公元前174年)，贾谊转任梁怀王刘揖的太傅。刘揖是文帝最喜爱的小儿子，贾谊受命担任此职虽算不上升迁，但也可体现出文帝对他的重视。然而贾谊对此似乎不太在意，继续全神贯注地关注全国政治形势。当时，西汉王朝的统治处于相对稳定时期，但在这背后，却隐藏着许多不稳定因素，其中，有两个问题显得越来越突出，一是中央政权与地方诸侯王之间的矛盾，另一个是汉王朝同北方匈奴政权之间的矛盾，这两个矛盾虽未尖锐化，但已露端倪。如济北王刘兴居、淮南王刘长接连叛乱，吴王刘濞企图叛乱的消息也时有所闻；而匈奴也受人挑拨，与汉王朝关系日趋恶化。贾谊透过当时形势表面的安定，看到了其背后潜伏着的深刻危机，忧心如焚，接连上书文帝，揭露时弊，献上治国良策。其中最为著名的是《治安策》，即《陈政事疏》。

在《治安策》中，贾谊批驳了那种认为“天下已安已治”的观点。他认为，说天下“已安已治”的人，不是愚昧无知，就是阿谀奉承，都不真正懂得什么是“治”，什么是“乱”。他形象地说：把火放在柴堆之下而自己睡在柴堆之上，因为火没有烧到自己就说这是平安无事，这与当今形势没什么两样。贾谊认为，当今天下存在着众多危害西汉王朝安定的因素，其中最大的，就是诸侯王的日益强大和他们企图叛乱的阴谋。他指出，文帝即位初年，天下之所以安定，是因为各大诸侯国的国王年纪尚幼，汉王朝中央政府派去的太傅、相等还等掌握实权。数年之后，各诸侯王长大成人，血气方刚，而中央所派去的太



傅、相等多已年老多病以至被罢免，各诸侯国的丞、尉以上官职皆由各诸侯王安插私人亲信担任，正因如此，才出现了淮南王刘长、济北王刘兴居的叛乱。这种形势之下欲使国家长治久安，恐怕连尧、舜也做不到。贾谊进一步分析到，诸侯王的叛乱与否，并不取决于皇帝是疏是亲，而是取决于“形势”。他回顾汉初以来分封诸王和诸王反叛的历史，认为大都是强者先反。汉初分封异姓诸王之中，长沙国只有25000户，实力最小，与皇帝的关系虽不甚亲密，但却能保持到文帝时不反，这并非是长沙王吴芮的性情与他人不同，而是形势所造成。如果让对汉王朝忠贞不贰的樊哙、酈商、周勃、灌婴等人也据数十城而为王，他们也会反叛，最后被消灭的；如果让因反叛而亡命的韩信、彭越等人作为列侯安居，他们也很可能至今仍完好如初。他从中总结出历史的经验：要想使各诸侯王都忠实附属于皇帝，最好是让他们像长沙王那样；要想使臣下不因反叛而亡命，最好是让他们都像樊哙、酈商那样；要想使天下长治久安，最好的方法是“众建诸侯而少其力”。诸侯力少则容易使其遵礼义，国小则可以使其无邪念。这样一来，海内的形势，就会如身体支配手臂、手臂支配手指，使诸侯王归命天子，不敢再有异心。贾谊还提出了所谓“众建诸侯而少其力”的具体作法，这就是将各诸侯王的封地分割为若干块，分封给他的几个儿子。这样一代一代分下去，诸侯越分越多，而他们每个人的土地则越来越少，实力就会越来越弱，最后达到各诸侯王无力反叛，天下太平的目的。这就叫做“割地定制”。贾谊还向文帝指出了当时形势的严重性。他形象地比喻道：现在形势象害了浮肿病，一条小腿腰一样粗，一个指头大腿一样粗，只能平放而不能屈伸，一两个指头疼起来就难以忍受。这病如果现在不及时治疗，必然会发展成顽症，那时纵然有扁鹊那样的名医，恐怕也难以医治了。

除诸侯王的问题外，贾谊在《治安策》中

还论述了其它政治、经济、军事、司法、社会等问题。在关于匈奴的问题上，贾谊对汉初以来实行的和亲政策进行了反思。他认为天子乃天下之首，为上也；蛮夷乃天下之足，为下也。而今匈奴对内地侵掠侮辱，汉王朝却年年交送去大量金银和丝织品，实为头足倒悬。颠倒如此而不能解救，难道诸大一个汉朝竟没有一个明智的人了吗？贾谊主张对匈奴应采取武力征服和怀柔分化并举的政策，他认为单纯依靠和亲并不能制止匈奴对内地的侵扰之患。

汉文帝十一年（公元前169年），梁怀王刘揖入朝，不慎骑马摔死，因其无子，按例其封国应予撤销。但贾谊考虑到，当时各诸侯国过于强盛，汉文帝及太子所能依靠的力量只有他的两个亲生儿子代王刘参和淮阳王刘武，但代国北邻匈奴，只能自保而无力与其他诸侯国对抗，而淮阳王则因其國小如鱼饵，极易为其他诸侯国所吞并。如果撤销梁国还不如以此加强代王和淮阳王的力量。为此，贾谊上疏汉文帝，建议为梁王刘揖立继承人，或者让代王刘参迁到梁国去，扩大梁国和淮阳国的封地。这样一来，如果发生诸侯叛乱，梁国足以抵御齐赵，淮阳国足以控制吴楚，汉室则可高枕无忧了。汉文帝接受了贾谊的建议，迁淮阳王刘武为梁王，扩大其封地达大县40余城；另迁城阳王刘喜为淮南王。后来，在平定吴楚七国之乱中，梁王刘武果然起了重要作用。由此可见贾谊于15年前提出的这一建议，确实是深谋远虑的。

汉文帝十二年（公元前168年），贾谊在忧郁中病逝，终年33岁。纵观贾谊短暂的一生，虽因受谗遭贬未及公卿之位，但他那些切中时弊、居安思危的政论和远见卓识以及充满谋略的建议，却对西汉王朝的长治久安起了极为重要的作用。如景帝初年晁错提出的“削藩”政策，虽与贾谊的“众建诸侯而少其力”的主张不尽相同，但其内含却是完全一致的。而景帝三年（公元前154年）出现的吴楚七国之乱，则完全证明了贾谊对于诸侯王

分析的正确性。到汉武帝时推行“推恩令”，允许诸侯王将其封地分封给自己的子弟，这更是贾谊“众建诸侯而少其力”政策的全面实施。汉武帝时对匈奴的战争并取得胜利，也是贾谊提出的对匈奴政策的继续。贾谊对西汉王朝的发展和长治久安所作出的杰出贡献，是那些身居高位但碌碌无为的公卿们所无法比拟的。正如北宋时期著名改革家王安石赋诗所言：“一时谋议略实行，谁道君王薄贾生？爵位自高言尽废，古来何啻万公卿。”

(攸 笛)

## 晁 错

晁错，颍川(今河南省禹县)人。生于汉高祖七年(公元前200年)。青少年时就习先秦法家申不害、商鞅的理论，后来被朝廷选为太常掌故(太常，汉朝九卿之一，专门掌管礼仪祭祀，太常掌故是太常的下级属官)。

汉文帝时，太常派晁错去学习《尚书》，回来后很得文帝赏识，很快便升他为博士。晁错在任博士期间，上文帝《言太子宜知术数疏》，称赞皇太子才智过人，骑马射箭技艺高超，应教其治理国家的方法，以便将来承继帝业。他论述说：一个君主所以能够建立留传后世的功业，关键就在于通晓“术数”，即治国的方法和策略。他认为君主必须懂得如何统驭臣子，使得群臣“畏服”；懂得怎样听取下面奏报，而不受欺蒙；懂得怎样“安利万民”而使“海内必从”。他建议文帝亲自选择“圣人之术”，让太子学习。汉文帝觉得他的建议很有道理，就拜晁错为“太子家令”，主管太子家的钱、谷，是太子府内一个比较重要的属官。从此以后，晁错便经常接触皇太子刘启，即后来的汉景帝。晁错善分析问题，常提出中肯意见，深得太子的喜爱和信任，被太子誉为“智囊”。这对景帝执政后，他能推行自己的政治主张起到很大作用。

文帝十一年(公元前169年)，匈奴侵扰狄道，陇西军民奋起抗击，打了一个胜仗。晁错抓住这个时机，向文帝上了《言兵事疏》，

就如何抗击匈奴问题向朝廷献策。他明确指出：过去打败仗，这次打胜仗，问题主要不在陇西民众是勇敢还是胆怯，而在于将吏用兵的巧妙或笨拙，故“安边境，立功名，在于良将”，故对将“不可不择”。他还总结说，武器锋利，士兵训练可用，将帅懂得军事，君主能选择良将，这四者在军事上最为重要。不久，他又向文帝上了《守边劝农疏》和《募民实塞疏》，提出用“移民实边”来代替“轮番戍边”。他据匈奴“时至时去”，经常骚扰的特点，分析说：每遇战事，少发戍卒，则兵力不足；多发戍卒，待远县的士兵赶到，而匈奴兵则又去了。而在边地聚集大量部队，消耗军费很大；如遣散戍卒，则匈奴又复入。这样连年下去，国家会疲于奔命，而民众也不得安宁。因此，他提出了“移民实边”的新政策。即招募内地百姓移民到边塞地区；对长守边塞之民要注意解决好他们的住房、土地、农具、衣服、食物以及配偶等问题。如果这些问题解决了，边塞之民就会父子相保，齐心协力抵御匈奴，而远在内地的人就可以不再到边疆服役了，这对子孙后代都是大大有利的事。就在这一年，汉文帝采纳了晁错的建议，迁民于边塞要害之处，实行屯田，既开发了边疆，又防御了匈奴的侵犯。

公元前168年，晁错就当时社会上大小商人贱买贵卖，从中牟取暴利，疯狂兼并土地，造成大批农民流亡的严重局面上书汉文帝，在《论贵粟疏》中，他指出，解决这个问题，当务之急，就是要使农民安心务农，而要达此目的，则在于贵粟，其途径，就是用粮食作为赏罚的手段。汉文帝极为重视并采纳了晁错的建议。

汉文帝十五年(公元前165年)，文帝令大臣们推举贤良、方正、文学之士。晁错是在太子家令任内被推举为贤良的。文帝亲自出题，要被推选的人回答“明于国家大体”等三个问题。当时参加考试的100多人中，数他回答得最好，名列第一，他的《举贤良对策》

也成了西汉一篇著名的政治论文。晁错在回答“明于国家大体”这个问题时，强调了君主亲自执政的重要性。他认为，帝王应该“处于法宫之中，明堂之上”，亲自处理国家政事。他指出，汉文帝执政16年来“民不益富，‘盗贼’不衰，边境未定”，原因之一，就是文帝亲自处理政事不够，而依赖群臣较多。在回答“直言极谏”的策问时，晁错提出了辅佐天子的大臣应该具备的四个条件：一是制定法令要以“兴利除害，尊主安民”为目的，不要“苦民伤众”；二是对伤害国家和民众的法令和行要敢于直言极谏，以补救君主的过失，纠正错误；三是立法要平正，赏罚要分明；四是为人要方正，尽心尽力办事，奉法令不徇私舞弊，遭患难不避死，见贤不居其上，不以无能居尊显之位。在回答因何“吏之不平，政之不宣，民之不宁”问题时，晁错总结了秦王朝兴亡的经验教训，指出秦灭亡的原因，在于：任用坏人，听信谗言；大量兴修皇室宫殿，赋税没有节制，人民困疲，财力耗尽；法令繁多残忍，赏罚随意而行；贪官污吏乘机违法乱纪，造成上下瓦解，各自为政。晁错的《举贤良对策》深得汉文帝嘉许，因此便由太子家令升迁为中大夫。以后晁错针对削弱诸侯王的势力以及更定法令等，继续向文帝献策，就此著书30篇。

公元前157年，汉文帝去世，太子刘启即位，是为汉景帝。第二年晁错由中大夫升为内史，在景帝的支持下，对许多法令进行了修改。公元前155年，晁错敏锐地看到诸侯王势力的膨胀，对中央政权是一个严重威胁，于是，向景帝建议削藩。他在《削藩策》中指出，仅齐、楚、吴三个王的封地就分去了天下的一半。常此下去，后果不堪设想。他建议坚决“削藩”，并主张先拿犯有罪过的诸侯王开刀，削去他们的支郡，只保留一个郡的封地，其余郡县都归朝廷直接管辖。

“削藩”政策的提出，遭到许多大臣和诸侯王的强烈反对。但为了巩固中央集权，他还是继续冒死协助景帝筹划削藩的事。不

久，历史上著名的吴楚七国之乱爆发。汉景帝听信袁盎等人的蛊惑之言，杀害了晁错。晁错虽然被错杀了，但他的政治主张最终得以实现。从此，汉朝地方割据局面逐渐结束，中央政权的权力大大加强了。

晁错是历史上一位争论颇多的人物，但他确实是一位进步的、杰出的政治谋略家。他的一系列政治主张（《言兵事疏》、《守边劝农疏》、《论贵粟疏》、《举贤良对策》等），大都切中当时为政之要害，针对性强，见解深刻而独到，不但在当时起了积极作用，对后事也产生了深远影响。使他当之无愧地跻身于中国古代谋略家行列。

（于海鹰 刘畅）

## 周亚夫

周亚夫（？——公元前143）是汉初大将周勃之子，以治军严整而闻名史册。祖籍沛（今江苏沛县）人。汉文帝时官至车骑将军。汉景帝又晋升为太尉、丞相，曾封为条侯。

汉文帝后元六年（公元前158年）冬，匈奴拒绝与汉和亲，大举入侵边塞，3万骑兵进入上郡（治所在今陕西榆林东南）、云中（治所在今内蒙古托克托东北），杀吏民、掠财物，威胁汉都长安。文帝为防备匈奴向南深入，惊扰都城，便在长安附近三个战略重地上，增兵驻守。任命宗正刘礼为将军，驻军霸上（在今陕西西安市东）；任命祝兹侯徐厉为将，驻军棘门（在今陕西咸阳市东北）；任命河内郡守周亚夫为将军，驻守细柳（在今陕西咸阳市西南渭河北岸）。

有一天，文帝亲自到各地去慰劳军队。在霸上和棘门两处，劳军的车驾进入军营，都毫无阻拦，长驱直入，将士们都下马迎接和欢送。当文帝来到细柳营时，看到的情况迥然不同。军中将士都披甲戴盔，手执利刃，箭上弦，弓拉满，戒备森严，宛如临敌迎战。文帝的仪仗队前导来到营门，还象到霸上、棘门一样，想要长驱直入，然而门前守卫却不准进入。仪仗队的长官高声喝道：“皇上驾

到!”可是营门的守将还是那么倔强，回说：“将军有令：‘军中只听军令，不听皇帝的诏命。’”不一会，文帝的车驾也来到营门前，照样被阻住，不能随即入营。这时文帝派人持节进营去向将军传话：“我要进营劳军。”周亚夫将军这才下令打开营门，放车驾进来。开营门后，守将又郑重地宣布说：“将军有令：军营内部，不许车马奔跑。”于是文帝命车骑慢慢行进。来到营部，只见将军周亚夫披戴盔甲，手执兵器，威风凛凛地站着。他见了武帝一面拱手行礼，一面说：“身着铠甲的将士，恕不下拜；请允许我只行军礼拜见皇上。”文帝听了大为震动，严肃地倾身抚了抚车前横木表示敬重，同时派人上前表示谢意说：“皇帝敬劳将军。”劳军仪式结束后，文帝才离营回宫。

文帝离开军营，随行的群臣都感到惊讶，皇上对周亚夫如此怠慢非但不责怪，反而赞不绝口，说：“这位才是真正的将军啊。前些时候，我看到霸上、棘门两处的军营，简直如同儿戏，如果敌人来偷袭，恐怕主将很容易被俘虏；至于周亚夫，敌人能轻易侵犯他吗？”

一个月后，匈奴兵撤出塞外，边境稍安，文帝依次撤除三支队伍，任命周亚夫为中尉，负责京城治安。

汉文帝后元七年(公元前157年)文帝病重，弥留之际，叮嘱太子刘启说：“一旦国家有急难，可任命周亚夫统帅军队。”文帝死后，太子刘启继承皇位，是为景帝，任命周亚夫为车骑将军。

西汉初年，高祖封功臣为王者7人，即历史上所说的“异姓诸王”。异姓诸王据有关东的广大区域，拥兵自重，专制一方，成了西汉统一的隐患。汉高祖采取了断然的手段，消灭了异姓诸王。同时，又把异姓诸王的旧地分封给自己的子弟为王，就是历史上的“同姓诸王”。但这些诸侯王国自征租赋，自铸钱币，自行纪年，仍然处于半割据状态。到汉文帝时，同姓诸王势力更加发展。汉景

帝时，御史大夫晁错上书《削藩策》，提倡削减同姓诸王的势力。景帝三年(公元前154年)，用晁错之策削减楚王东海郡，赵王常山郡，胶西王6县，以次剥夺，将及吴国。吴王刘濞借各王对中央削减领地大为不满之机，联络六国诸王，发动叛乱。梁国是吴、楚进军汉都长安的必经之路。他们以主力攻梁，企图打通要道，直入长安。

在军情紧时候，景帝任命周亚夫为太尉，统帅36将迎击吴楚叛军；派曲周侯郿寄攻赵，将军栾布攻齐，大将军窦婴屯兵荥阳，监视齐、赵军的动向。周亚夫临行前向景帝请示说：“楚兵剽悍轻捷，难于同他们正面交锋，希望能先让梁国同他们交锋，牵制叛军的主力，另派轻骑迂回敌后，断绝他们的粮道，这样才可以克敌制胜。”景帝同意。周亚夫立即率兵出发，直奔洛阳。军行霸上，遇一人，名赵涉，拦马向周亚夫说：“将军东进诛伐吴楚，胜则宗庙安，不胜则天下危，可否听我一言？”周亚夫闻言，知他必有良策，便下车施礼，问他有何话说。赵涉道：“吴王素富，养了一批敢死之士。此次闻将军出征，必在殽山、渑池之间设下埋伏。用兵贵神速、机密，将军不如绕道右行，走蓝田(今陕西蓝田西南)，出武关(今陕西商南东南)，抵洛阳。虽多用几天时间，但大军直入武库(汉时在荥阳设有武库)，有如从天而降，使诸侯闻风丧胆。”周亚夫如其计，立即改变行军路线，平安抵达洛阳后，派兵搜索殽、渑间要隘，捕获了吴王设下的敢死之士组成的伏兵。

周亚夫会兵荥阳时，吴军正以猛烈之势攻打梁国，梁王派6个将军迎敌，也未及于事，只好向周亚夫请求援救。周亚夫没有答应，却领兵东下昌邑(在今山东金乡西北)，坚壁而守，坐待敌兵。梁王上书景帝，景帝诏令周亚夫援救梁国。周亚夫不受君命，仍然坚壁不出，暗派精骑抄吴楚叛军后路，断绝他们的粮道。梁国见救无望，便派将军韩安国、张羽与吴国叛军拼死战斗，才使叛军稍

有败退。由于梁国城墙守得坚固，叛军不敢向西去，就跑到周亚夫驻军的地方，急欲决战。两军在下邑(今安徽碭山)相遇。敌军多次向周亚夫挑战，周亚夫只是深壁固垒，不出迎战。到夜间，吴军到周亚夫军营的东南面骚扰。周亚夫识破敌军的企图，所以不管怎样鼓噪，他仍在榻上坚卧不起，同时派兵加强防守西北面。吴军果然从西北面进攻营垒，结果大败而逃。周亚夫乘机挥军猛击，那些饥饿的叛军士卒，无力抵抗，俱降汉军。吴王刘濞抛开军队，与手下千名将士狼狈逃窜，渡过长江，到丹徒(今江苏丹徒县)集兵防守。汉军出千斤黄金悬赏捉拿吴王刘濞。一个月后，刘濞被丹徒人杀死，把他的头用传车快速送至京城。

周亚夫平定了七国叛乱，回到京城，朝廷正式任命他为太尉，5年后又任丞相。

周亚夫直言逆上，常与景帝意见不合，便称病引退。景帝后元元年(公元前143年)，朝廷以私买皇家葬品为罪名，将其下狱。周亚夫绝食5日，呕血而死。悲哉！汉室功臣，一代名将，终未免戮。

周亚夫以绝粮制敌、扼守待敌之计，在短短的3个月内平定了吴楚七国叛乱，为巩固汉室集权立下大功。这个胜利是他治军严明的结果。吴子兵法说“以治为胜”，就是这个道理。因此周亚夫的细柳营是治军的典范，一直为后世兵家尊为楷模。

(张在义)

## 刘 彻

汉武帝刘彻(公元前156—前87)，西汉中期杰出的皇帝，中国历史上最具雄才大略的封建政治家之一。

他是汉景帝刘启之子。4岁时被封为胶东王，7岁被立为太子。幼时即聪明好学，对儒学经典、文学、骑射均感兴趣。他的老师卫绾，精通儒学、文学、是一位有多方面才能的学者，使得他幼年时受到良好教育和训练。

公元前141年，汉景帝去世，16岁的刘彻即皇帝位。当时，汉王朝经过60多年的发展，在“文景之治”后，已进入强盛时期：百姓无内外之徭役；城乡粮仓皆满，有的粮食只能堆放在露天里，以至腐烂不能食用；京师之钱积累巨万，穿钱的绳子都烂了，导致散钱无法计算。可谓是天下殷富，人给家足。然而，汉武帝并不满足现状，他锐意进取，决心在文、景两朝的基础上，创出空前盛世。因而在他上台伊始，便试图进行改革，下诏选拔优秀人才，严格法治，缩小王侯权限，减轻百姓负担。但是，他这次初试锋芒的改革，没能够取得成功。主要原因是在这位年轻的皇帝上面，还横有两位掌握实权的人物，一位是他的母亲王太后，另一位是祖母窦太后。在汉武帝的改革中，许多权重势大的皇亲国戚的既得利益受到侵犯，便向窦太后告状，引起窦太后对武帝的不满。加之曾有人上奏章给汉武帝，建议取消窦太后干预朝政的特权，这更加激起了窦太后的愤怒。在窦太后的干预下，武帝的新政皆被废除，协助汉武帝改革的主要大臣，有的被罢官，有的还丧了性命。

汉武帝建元六年(公元前135年)，窦太后病故，汉武帝终于摆脱了束缚，开始一展筹划已久的宏图。他首先从改革用人制度开始，下诏要求各郡国推举“贤良”、“方正”，不拘一格选拔人才。如出身贫寒的主父偃，长期怀才不遇，游历齐、燕、赵、中山等诸侯国，皆不为所用。后来他来到长安，直接向汉武帝上书9条，谈及律令及讨伐匈奴事。武帝见后十分赞赏，随即拜他为郎中。由于主父偃不断给汉武帝出谋划策，武帝连续提拔他，一年之内竟升迁四次。武帝不计品流，大胆用人，使得一大批有真才实学的人才得以进入中央和各地方政府做官，从而帮助自己成就了一代伟业。

西汉王朝建立70余年，各郡国权力虽经历代皇帝不断削弱，但仍有不小的势力，对于西汉中央政权仍构成很大威胁。因此，汉

武帝亲政后，首要任务就是继续打击和削弱各诸侯王的势力，进一步加强中央集权，巩固封建国家的统治。元朔二年(公元前127年)，汉武帝采纳主父偃的意见，颁布“推恩令”，规定诸侯王除以嫡长子继承王位外，还可以推恩将自己的封地再分封给其他子弟，由皇帝制定封号。“推恩令”实施的结果，是使一些大诸侯王国，被分割成一个个由郡来管辖的小侯国，这些侯国只能收租税，不再享有政治上的权限。这样，许多原来有权有势的诸侯王国被大大削弱，诸侯王的势力一落千丈，对中央皇权的威胁被根本解除。元鼎五年(公元前112年)，汉武帝借故列侯所献贡金成色分量不足，一次褫夺列侯爵位106人，以后连侯国也越来越少了。

在削弱诸侯王势力的同时，汉武帝对地方豪强也进行了打击。长期以来，地主豪强勾结诸侯王，结党营私，形成一股很强的势力，危害国家政令的推行和社会的安定。武帝对此毫不手软，派出大量严于执法的官吏前往全国各地，锄诛不法豪强，“大者至族，小者乃死”，没收家产，迁徙各地豪强至长安附近，以便监督。经过严厉打击，各地豪强势力受到遏制，社会治安大有好转。

为促进封建经济的发展，满足国家财经的需要，汉武帝在财政方面制定和推行了许多新的政策。第一，改革币制，把铸钱权收归中央。元鼎四年(公元前113年)，汉武帝下令禁止郡国铸钱，由中央成立专门铸钱机构，铸造全国统一的货币。第二，盐铁官营，把开采生产和销售盐铁大权收归中央。对于私自煮盐、铸铁的不法分子严加惩办。第三，均输平准，由国家统一调剂全国的运输和物价，并由国家组织专人负责租赋财物的运输，经营官营商业。第四，算缗告缗，由国家向富商高利贷者征收财产税。所谓“缗”，指用绳子穿起来的铜钱，一千钱一串称为一缗。武帝时规定，凡商贾每二千钱抽二十钱称为一算，叫作“算缗”。鼓励知情者告发有财产不报或自报不实者，告发者可得

被告者被没收财产之半，叫作“告缗”。

这些新的财经政策在一定程度上打击了诸侯王、地方豪强和富商大贾，增加了国家财政收入，加强了国家的经济实力。仅盐铁官营一项，就使中央财政增加收入达“亿万之费”，满足了汉武帝四方征讨费用之需。

汉武帝在政治、经济方面加强国家统一和中央集权的同时，在思想文化方面也采取了一些重要措施。他接受了汉朝儒家代表人物董仲舒的思想，“罢黜百家，独尊儒术”，追求思想上的统一。他以儒家大一统的思想为依据，论证皇帝与诸侯王之间尊卑之分和强干弱枝的必要，为加强中央集权而大造舆论。他提倡儒家仁政思想，以求缓和阶级矛盾，达到使封建统治长治久安的目的。由此可见，汉武帝在思想文化领域内的政策，与他的政治、经济集权政策完全一致。他开尊儒之先河，使儒家思想成为我国封建社会的正统思想，历经近两千年而不衰，其深远的历史影响是难以估量的。

汉武帝的雄才大略，还体现在他的对外征讨中。他在位的54年里，平定了闽越和南越(今福建、浙江、广东、广西及越南北部部分地区)的叛乱；稳定了对西南夷地区(今甘肃南部、四川西部和南部、贵州北部和西部、云南和西藏部分地区)的统治；开拓了东北和西北边疆，使今天的新疆和甘肃西部开始进入我国版图，东北地区的疆域则从辽东半岛一直扩大到浑江、鸭绿江流域。更为重要的是，汉武帝对骚扰北方的匈奴进行了15次战争，任用名将卫青、霍去病作为主要统帅，取得了战争的胜利，制止了匈奴的野蛮掠夺，保护了汉族地区先进的农业生产。这既符合广大劳动人民的利益，又顺应了历史发展的趋势。

汉武帝的连年用兵，耗费了大量的人力财力物力，也产生了相当严重的消极作用。在汉武帝统治后期，海内虚耗，天下骚动，阶级矛盾激化，统治阶级内部矛盾也日趋尖锐。形势的巨大变化，使汉武帝内心受到很

大震动。他反思自己的失误之处，后悔自己的某些作为。在征和四年(公元前89年)六月，汉武帝就桑弘羊请求派人到轮台修筑堡垒、驻扎军队一事，颁布《罢轮台屯田诏》，对以前的征伐之事表示悔过，宣布今后不再对外用兵，提出要“禁苛暴、止擅赋、力本农”。“轮台之诏”是汉武帝一生政策的一大转折，此后他力主“思富养民”，与民休息，终于使一度紧张的阶级矛盾趋于缓和，西汉社会又走向安定。

武帝后元二年(公元前87年)，汉武帝一病不起。临终前，他托孤于大司马大将军霍光和车骑将军金日磾，要他们辅佐年幼的汉昭帝继续保持他所开创的强盛局面。

汉武帝上承“文景之治”，经过54年的努力，使两汉王朝进入了最强盛的时期，他不愧是一位具有雄才大略、有所作为的封建统治阶级政治家。他加强中央集权的政治制度和经济制度；发展社会生产力；以儒家学说统一人们的思想，在中国形成统一的民族传统观念；巩固和发展统一的、多民族的国家。所有这一切，都对中华民族的历史发展产生了巨大影响。在汉武帝统治的最后些年，他终能认识到自己过去政策中的失误，下诏罪己，以收民心，这也表现了他的远见卓识。在中国历史上，下诏罪己的帝王比比皆是，但像汉武帝那样真正认错忏悔，并以实际行动纠正自己以往失误的，是极为罕见的。

(郑吉萍)

## 桑弘羊

桑弘羊(公元前152—前80)，洛阳(今河南洛阳东)人。西汉武帝时重臣，中国古代著名的理财家。

桑弘羊出生在洛阳的一个商人家庭里。当时的洛阳商业比较发达，童年时代的家庭教养和社会环境给他以很大的影响，13岁时在计算方面便显示出特殊才能，成为一个“以心计，能言利，析秋毫”的人物。也就在这

一年，桑弘羊被刚刚即位的汉武帝召进宫廷，先是“以计算用于侍中”，而后又被逐渐提拔，成为“兴利之臣”。汉武帝即位后不久，便利用汉初70余年积累的大量物资财富，在政治、经济、思想、军事及民族关系等方面采取了许多措施，其中耗费民力最大、影响最深的，就是他对边境少数民族的用兵，特别是连年对匈奴的战争，使汉初70余年的积蓄在20几年的时间里便消耗殆尽，出现了财政危机，导致了国内各种矛盾的激化。为了解除财政危机，巩固西汉政权，加强对匈奴的防御和反攻力量，武帝元鼎二年(前115年)，桑弘羊临难受命，被汉武帝从侍中升任为大农丞(当时主管财政最高长官大农令的助手)。

桑弘羊担任大农丞前后不过5年，他做了三件大事，表现了他在理财方面的才能和魄力：

第一，在全国推行算缗告缗令。算缗是国家对工商业者征收的一种财产税。告缗是鼓励人们告发不如实呈报财产的人，由国家没收其全部财产，并将其一半奖给告发者。这一政策的提出者是御史大夫张汤，但直到桑弘羊担任大农丞时，才得以在全国普遍推行。算缗告缗令的实施，使得西汉中央政府得到了数以亿计的财物，难以统计的土地，国库由此而充实起来，加强了西汉王朝的经济基础，同时也有力地支援了汉武帝的对外战争。

第二，统一货币。汉朝初年，币制混乱，私人盗铸钱币风气盛行，破坏了正常的经济生活。汉武帝为整顿财政，于元鼎四年(公元前113年)采纳了桑弘羊的意见，即：取消郡国铸钱的权力；由中央政府指定部门统一铸币；郡国将所铸旧钱销毁，把铜材送往中央；废除一切旧币，以中央所铸五铢钱为全国唯一通行货币。此次币制改革大获成功。它不仅基本上制止了私铸劣质货币的流通，稳定了市场，还增加了国家的财政收入，对巩固西汉统治起到了重要作用。



第三,假民公田和移民屯垦。假民公田,就是由政府将内地官田租给农民耕种,向农民征收假税,即田租;同时又在西北地区征发戍田士兵60万人,实行了一次大规模的军事屯田。桑弘羊的这一措施,使一部分失去土地的农民重新回到土地上,促进了农业生产的发展,一方面大批流民得到安置,缓和了因土地兼并而引起的阶级矛盾;另一方面使内地许多土地得到垦殖,西北边郡得到开发,不仅巩固了汉朝的边防,而且有利于发展通往西域的交通,促进了中西经济文化的交流。

元封元年(公元前110年),由于桑弘羊在理财方面表现出来的才智,被升任为治粟都尉,并代理大农令,后任大司农,挑起了总管国家财政经济的重担。他从代理大农令到任职大司农,共达13年之久。这个时期,是西汉王朝的鼎盛时期,也是桑弘羊财政工作最有成效的时期,举凡盐铁官营、均输平准及酒类专卖等重要财政政策,都是在这时期制订和推行的。桑弘羊被任命为治粟都尉兼代大农令,总管财政工作后,立即整顿和推行盐铁官营,派出大农部丞数千人分头到各郡,整顿原有的盐铁官,进一步扩大了盐铁官的建置,凡是产盐的各郡都设置了盐官,产铁的各郡都设置了铁官。据《汉书·地理志》记载,在全国27个产盐的郡设立了35处盐官,在40个郡设立了铁官48处。桑弘羊认为,盐铁官营具有充足的人力、雄厚的资金、完备的生产设备、标准的制造规格、统一而低廉的价格,有利于工艺技术进步等优点,比起原来的私家盐铁业主控制下的一家一户小规模的经营当然要好。这是中国历史上第一次出现的规模生产优于小生产的理论观点。司马迁在《史记》中曾多次提到盐铁官营充实了国家的财力,使国用富饶。可见盐铁官营在当时对促进生产力发展和增强国家财力,确实起到了重要作用。早在元鼎二年(前115年)桑弘羊任大农丞时就创立了均输法。所谓均输,是通过国家赋税的形式,对

从民间征用的各类物资实行调剂的一种手段。它的主要内容,是各郡国将上交中央的贡物,按当地市价折合成当地出产的价格低廉的土特产品交与均输官,再由均输官运往缺乏这些产品的地区高价出售。这样,既可免除各郡国输送贡物入京师的繁难,又能随时调剂中央所需的物品。同时,封建官府不费一文就可得到土特产品,在辗转贸易中获得巨大利润。均输法的实行,使“输者即便,而官有利”,既节省人力物力,还由于政府控制了运输的贸易权,排斥了工商业主的中间盘剥,在某种程度上也减轻了人民的负担。桑弘羊在大力推行均输法的同时,又创立了平准法。平准是为了控制商品的买卖,平衡商品价格,在京师设立的一个机构,就是大农诸官以各地输进的物资和工官所制造的各种产品为资本,当京师某种商品涨价时就贱价抛售;反之,当某种商品跌价时即大量收买。它的任务就是稳定京师物价,打击工商业主囤积居奇的投机活动。平准与均输两者如影随形,有着不可分割的关系。平准的意图在于稳定物价,营利是次要的,获取利润主要取决于均输;而平准要实现稳定物价的任务,又必须以均输做为后盾。平准的另一个目的是使“富商大贾无所牟大利”,但又不排斥一般商人的利益。由此可见桑弘羊的理财谋略。据《史记》记载,实行均输平准后,“民不益赋,而天下用饶”。桑弘羊的理财功绩就在于,他能不用增加平民赋税负担,而满足汉武帝对内对外浩繁的开支需求。《盐铁论·轻重篇》中对此也有记载:“大夫君(桑弘羊)以心计,策国用,构诸侯,参以酒榷。”酒榷,即是指官府对酒类的专卖,独其利也。酒榷的政策实行只有17年,时间虽然不长,但却与盐铁、均输并称“三业”,也是当时国家财政收入的重要来源。

汉武帝统治末年,长年的对外战争已将多年的国库积聚消耗殆尽,国内的各种矛盾也开始激化。汉武帝认识到这一形势,下了著名的轮台诏,改变自己的内外政策,对外



变攻为守，对内休养生息，以缓和激化了了的矛盾。然而桑弘羊对此缺乏认识，一味坚持过去的做法，这是他思想落后于形势的表现。汉昭帝元凤元年（前80年），由于政见的分歧和统治集团内部争权夺利的斗争，桑弘羊被掌握实权的顾命大臣霍光处死，终年74岁。

桑弘羊虽晚年思想僵化，在宫廷的权力斗争中落得身分异处的悲惨结局，但他在治理国家财政上所作出的重大贡献，是不可磨灭的。他的理财谋略对后世的封建王朝的财政政策一直产生着重大影响。孙中山先生曾评价他的理财谋略，是“均民用而利国家，卒收国饶民足之效”。桑弘羊不失为我国古代历史上一位杰出的理财家。

（林 澍）

## 霍去病

霍去病（公元前140—前117），西汉武帝时功勋卓著的年轻的军事将领。他是武帝时大将军卫青的外甥，卫青的姐姐卫少儿之子。其父霍仲孺是河东郡平阳县（今山西临汾县西南）的衙役，在平阳公主府里当差役。其母初为平阳公主府侍婢，霍去病就出生在皇亲府里。后来他的姨母卫子夫被汉武帝诏选入宫，立为夫人，后又立为皇后，霍去病就脱离了奴隶身份，成为贵戚，到了武帝身边。他英俊聪颖，精于骑射，深得武帝喜爱，18岁被任为侍从官。后因军功卓著，官至大司马，封为冠军侯。

西汉王朝建立以后，不断地受到北方匈奴的侵扰。匈奴人以游牧为主，逐水草迁徙，当时正处在由氏族社会向奴隶社会过渡阶段。他们为了满足贵族集团的贪欲之心，疯狂地掠夺奴隶和物资，使西汉王朝深受其害。汉武帝时，由于国家的经济得到恢复和发展，军事力量日益强大，便决定改变过去的忍让政策，采取军事行动，于是展开了长期的大规模的抗击匈奴的战争。霍去病就是在这场战争中涌现出来的最年轻的军事将

领。

元朔六年（公元前123年），汉武帝任命霍去病为剽姚校尉，跟随舅舅卫青出兵定襄（今内蒙古和林格尔西北），攻打匈奴。武帝特命卫青大将军挑选800名精锐骑兵，由霍去病指挥。匈奴闻汉军来势凶猛，俱避其锋芒，分散逃遁。汉军不得不采取分兵寻敌进击的战术。右将军苏建战败只身逃回，前将军赵信陷围投敌，唯霍去病率800轻骑，凭一身虎胆，奋勇当先，远离主力几百里追杀匈奴。他运用“兵入敌境，利于速战”的战术，迅猛地突破中坚，以电扫星飞的动作，向匈奴纵深插去。霍去病进军之神速，出乎敌人预料。在敌军毫无准备的情况下，霍去病率兵纵横冲杀，斩虏2000余人，杀死单于的叔祖父籍若侯产，生擒单于叔父罗姑比，以及匈奴的国相、当户，大获全胜，凯旋而归。汉武帝嘉奖霍去病“再一次功冠全军，应当封为冠军侯”。

河西走廊是内地通向西域的交通要道。先秦时期，西域一些游牧民族在这个地区放牧。汉时被匈奴占领，由浑邪王、休屠王分别统治酒泉和武威地区，借此阻断内地与西域各国的联系；南与羌族结成军事联盟，北联单于王庭，构成对汉朝的严重威胁。汉武帝为了解除来自西面匈奴的威胁，打通联络西域各国的通路，彻底解除边患，决定进击河西，包抄匈奴。

元狩二年（公元前121年）春，汉武帝任命霍去病为骠骑将军，率领一万精锐骑兵向河西大举进军。霍去病这次进军，是孤军远征，虽面对强敌，却满怀必胜信心，率部踏上征途。大军经过5个王国，转战6天，越过焉支山（在今甘肃山丹县东南），向前追击了千余里，杀了折兰王，又割下了卢侯王的首级，捉住了浑邪王的儿子及相国、都尉，杀敌8900余众，缴获了休屠王用以祭天的金人。汉武帝加封霍去病食邑2000户。为了扩大战果，进一步打击匈奴，元狩二年夏，武帝又命霍去病和合骑侯公孙敖率几万骑，从

西北方的北地郡(今甘肃庆阳西北)出击匈奴;又派卫尉张骞、郎中令李广从东北方的右北平(今辽宁凌源西南)出发,攻击匈奴左贤王,策应霍去病对河西的攻势。这次出击,为避免敌人溃逃,改变前次正面进攻的作战方法,而采取了侧后袭击的策略,命公孙敖率兵沿焉支山北麓正面进攻浑邪王、休屠王王庭,以吸引敌军注意力,牵制敌军力量,而霍去病则亲自率兵采取迂回战术,向西打过居延海(在今甘肃额济纳旗东),然后由北向南席卷敌军,最后与公孙敖会合于祁连山区,彻底消灭了匈奴军。不料部将李广在行进几百里后,被匈奴左贤王的4万骑兵包围,李广率领士卒冲杀竟日,伤亡过半,终未冲出包围,后部张骞兵至,匈奴兵才撤围而去。李广因无力追敌,只得收军南归。公孙敖在行进中也迷失了道路。失去了策应部队,霍去病并未因此动摇进军的计划,仍以绝人的胆略,孤军深入,绕过居延海,沿弱水(今额济纳河流域)折向东南,经酒泉,到达小月氏(当时部族,居住在祁连山一带),在祁连山与合黎山之间的黑河流域同浑邪王、休屠王的军队展开激战,打败了匈奴各部,杀敌3万余,俘获了单桓王、酋涂王、王子、王母、单于妻妾59人,俘获相国、将军、当户、都尉63人,接受降卒2500人。这次作战,霍去病充分发挥了骑兵能离能合,能散能集,百里为期,千里而赴的特点,抓住战机,以迅雷不及掩耳之势,机动灵活,猛烈攻击敌军。

经过这次出击,匈奴军退出河西走廊,切断了匈奴与羌人的联系,打通了通往西域的道路。

匈奴单于对浑邪王、休屠王连年战守不利十分恼怒,扬言要处二王以死罪。浑邪王、休屠王决定共同降汉。武帝恐其中有诈,派霍去病率一万精兵前往河西受降。休屠王在汉军到达之前突然反悔,被浑邪王刺杀,收编了他的部众。霍去病引军渡过黄河,列阵前进,浑邪王的大军也列队等候,两军

遥遥相望。匈奴军见汉军阵容严整,威风凛凛,心存疑惧,浑邪王的部下见势想要逃散。霍去病当机立断,挺身飞马驰入匈奴营阵之中,控制浑邪王,杀死想要逃散的士卒8000人,迫使4万匈奴军拱手降汉。浑邪王单身乘驿站快车,由汉军护送赴汉都长安见武帝。霍去病也亲统降兵4万,号称10万,渡河东归,回到长安。至此,河西地区庶几无患,西部边陲戍卒减少一半,减轻了天下百姓的负担。

霍去病冒险受降有功,武帝又加封他食邑1700户。

浑邪王归降汉朝以后,单于王廷失去了右翼屏障,但中坚部分仍有较强的军事力量,经常发起攻势,侵扰汉朝西部疆土。元狩四年(公元前119年)夏,汉武帝与众将领商议,说:“翁侯赵信投降匈奴以后,经常为单于谋划,总认为汉军不敢轻易地进入沙漠,更不敢在沙漠中久留。现在如果把大批军队突然开过去,在这种形势下,一定能战胜匈奴。”于是又命霍去病与卫青各领精骑5万,分兵两路进军漠北。霍去病为右翼主将,率领经过严格挑选的战斗力量强、敢于插入敌军腹地作战的士兵,从代郡、右北平郡出兵,横越大沙漠,北进2000余里,俘获单于近臣章渠,诛杀比车耆王,转而攻击左大将双,越过侯离山,渡过弓卢水(今蒙古克鲁伦河),一路斩杀,所向披靡,锐不可当,直抵狼居胥山(今蒙古乌兰巴托东),大败匈奴左贤王军,俘获匈奴屯头王、韩王,将军、相国以下共7万余人,最后与卫青会师于翰海(即北海,今苏联境内的贝加尔湖),登上狼居胥山,筑坛祭天,在姑衍山(在狼居胥山西)上祭了土地山川。

这次霍去病远涉敌境而粮草不匮乏,取得辉煌战果,是因为他依靠熟悉西域地理形势的张骞等人作先导,得以选择隐蔽的行军路线,以出其不意地袭击敌军,并且坚持循水草而行动的原则;再加上大胆依靠留居匈奴之地的汉人及降附汉朝的匈奴人。这就是

《孙子兵法》“因粮于敌”战略原则的灵活运用。

这次战役，霍去病又功冠全军，武帝加封食邑5800户，并封骠骑将军，后又加封为大司马。

元狩六年(公元前117年)，这位功勋卓著的爱国将领不幸病故，年仅24岁。汉武帝失去了重要的将领，十分哀痛，特在茂陵墓地，为他建造了一座形似祁连山的坟墓，以纪念他的战功。

霍去病在短短的军事生涯中，为汉朝开拓疆土、巩固边防立下了巨大的功劳，每战必得加封。当他被封为大司马时，食邑达1.7万多户，可谓身居高官厚禄了。这时，汉武帝意为他建造一座华丽的住宅，他辞谢说：“匈奴不灭，无以家为也。”他这种立志献身军旅，不以家事为念的宏伟抱负，深得武帝的重爱。这种以身许国的宝贵精神，两千年来一直为有志之士所景仰效法。

(张在义)

## 刘 秀

刘秀(公元前6—公元57)，字文叔，南阳蔡阳(今湖北枣阳西南)人。王莽末年农民大起义爆发，他和兄刘缤乘机起兵，加入绿林起义军。

更始元年(公元23年)三月，更始帝刘玄派刘秀等分别率人马攻打昆阳。王莽见事危机，便率百万大军来和汉军决战，而昆阳城内汉军不足百万人，将士急报主帅刘秀，建议放弃昆阳。但刘秀从容自若地对诸将说：“我军固守昆阳，兵少粮缺，突遇强敌，全靠大家并力抵御，方可取胜。如今宛城尚未攻下，援军一时不会到来，如果昆阳失守，敌必逼我而打围宛城之部，那时情势就危机了！”

刘秀又说：“坚守绝非死守，眼下需派出数人，出城请援。”于是刘秀等13人趁王莽军立脚未稳，突然冲入敌阵，左冲右冲，冲出重围。10天后，他带着1000多援军，又杀回

昆阳城下。令一名弓手向城上射书，谁知箭杆折断，一封书信掉落在莽军阵中。那落地的箭书被莽军送到主帅手中，主帅一看，大吃一惊，只见信中写道：“呈国上公王凤麾下：宛城已破，陛下即令大军来解昆阳之围。我引前锋且先冲杀解闷，大军片刻即到。”这消息不胫而走，莽军大乱。刘秀带领1000援军，以一当十，直冲莽军大营。汉军大获全胜。这就是历史上著名的昆阳大捷。这一仗，刘秀凭借其谋略家的勇气和智慧，以少胜多，把莽军的主力几乎全部摧垮了，为东汉的兴起奠定了基础。

然而刘玄最大的特点是嫉贤妒能。宛城攻克不久，他借口“大司徒刘缤久有异心”，下令将立了战功的刘缤谋杀了。刘玄的这种举动，主要是怕刘缤、刘秀兄弟夺取他的皇位。

刘秀在昆阳接得长兄刘缤被杀害的消息，几乎昏厥，但当信使的面，他极力克制自己，说道：“陛下圣明。刘秀建功甚微，受奖有愧；刘缤罪有应得，诛之甚当。请奏陛下，如蒙不弃，刘秀愿尽犬马之劳。”刘秀突然遭此打击，自然难以忍受，他心里清楚，刘玄给自己奖赏是假，杀死兄长是真。此后，刘秀对刘玄十分恭谨，绝口不提自己的战功。刘玄这才放心，同时觉得有些对不起刘秀，便封刘秀为破虏大将军，行大司马事，并令刘秀持节到河北巡视州郡。

刘秀面对复杂的情况，所到之处，尽量避免军事对抗，因而深受当地官吏的欢迎和百姓的支持。

这一天，刘秀带人巡视到邯郸附近，听说王朗诈称汉成帝后代，自立为天子，定都邯郸，并以封10万户的代价悬赏捉拿刘秀，因而他无法进城。可是当时他们一行人均已饥饿难忍，刘秀便自称是邯郸派来的使者，和大家一起若无其事地走进传舍(宾馆)。传吏开始信以为真，备好酒饭，他们便如狼似虎般大吃起来。见此情景，传吏顿起疑心，想出一个办法来考验他们是不是真使者。只

听外面十通鼓响过，一人高喊：“邯郸将军到！”刘秀手下人大惊失色，拔腿就跑。刘秀站起身一想，邯郸将军如真来至门外，怎能跑得出去？复又坐定，泰然对传吏说：“邯郸将军既到，请入见。”传吏无可奈何，一面假意逢迎，一面出去让人关上大门。幸亏门人不肯听从，刘秀等才得以走脱。

刘秀的队伍迅速扩大，在他的指挥下，一战攻克邯郸，杀了王朗，从而平定了河北地区的大部分。

这时，更始皇帝刘玄派人封刘秀为萧王，并要他回兵长安。刘秀一面接受了封号，另一面却以“河北未平，不就征”为由，公开与刘玄决裂了。刘秀这种以屈求伸和以智取胜的策略，在他创建东汉王朝过程中屡加运用，他能“忍小愤而就大谋”，遇事不慌不乱，终能化险为夷。

更始三年（公元25年）六月，刘秀在群臣拥戴下，举行了隆重的登基大典，是为光武帝，建国号“汉”，改年“建武”，史称东汉。刘秀称帝以后，虽然在军事上取得了一些重大胜利，但做为一个头脑清醒的谋略家，并没有过于乐观。因为当时群雄并立，且都有相当的力量，他们公开表示要与刘秀争夺天下。

不过，当刘秀听说刘玄被赤眉军赶出长安的消息，还是心中暗喜，一是杀兄之仇，由赤眉替他报了。二是赤眉与刘玄及绿林余部的厮杀，正好使他们互相削弱，他坐收渔人之利。但他表面上却露出悲戚的神色，并下诏将刘玄封为淮阳王。当年刘玄嫉妒刘秀兄弟，杀害刘縯，而今刘玄倒霉，刘秀反而下令保护他。这就使初登帝位的刘秀与刘玄形成了十分强烈的对比，充分显示出刘秀的政治才能和谋略家风度。

刘秀是在戎马倥偬之中立国的，当时来不及认真考虑整个国体的设计。当他得知前密县县令卓茂在治理国家方面很有才能时，便千方百计将其请来，拜为太傅，可见他对人才的重视。

李通同刘秀一起举事以来，一直跟随刘秀征战四方，功绩卓著。刘秀称帝时，封为大司农，不久又封他为大司空，成为宰相之一。并且下诏书让李通“以时视事”。李通明白皇上并不怎么需要他来视事，便称病在家，不肯上朝。刘秀见李通如此，越发优宠他。刘秀对李通这样一位托病不视事的宰相优宠，和对官阶很低的尚书的重视，充分显露出一个政治谋略家在汲取历史经验上所表现出来的机智。

东汉政权巩固下来之后，刘秀想尽各种办法发展农业生产。他特别注意奴婢问题，禁止主人残害奴婢，还多次下诏释放奴婢，目的当然是为了发展农业生产力。这些措施对发展农业，增加收入，实现中兴，有很大好处，然而一个时期内，朝廷税赋收入却没有明显的增加。

在建武十五年（公元39年）六月，刘秀下诏令各州郡检核垦田顷亩及户口等，结果却适得其反。有些人聚众造反，派兵追讨，兵到则散，兵去则复聚，为害甚盛，郡县难制。刘秀于建武十六年10月，为了平息暴乱，采取制造内部分裂、分化瓦解，同时加强武力镇压的办法，很快安定了局势。

建武三十二年，群臣报告各地祥瑞屡见，刘秀也认为中兴已经实现，便将年号改为中元元年。同时下令修明堂、灵台和辟雍。明堂是帝王宣明政教的地方；灵台是观象台、天文台，后来张衡在灵台观测天象、研究天文仪器，取得了很大成就；辟雍是皇家大学。刘秀的这些做法，促进了中国文化和经济的发展。

中元二年（公元57年）二月，在位34年的光武帝刘秀去世了，终年63岁。

刘秀，这位中兴汉朝的光武皇帝，他一生所建立的功业，应该说是非常辉煌的。作为一代封建帝王，他的作为，当然有一定的历史局限，但刘秀在建立和中兴东汉王朝的艰辛经历中，淋漓尽致地发挥和运用了自己的谋略智慧，以其文治武功，无可辩驳地跻

身于中国古代谋略家的行列。更应该提及的是，刘秀一生不尚空谈，身体力行办实事，始终采取以智取胜、以战为辅的策略，忍小愤而就大谋。这些，都是一个谋略家所应具备的作风和品德。尤其他的晚年，不象许多帝王那样，喜欢吹嘘自己的政绩，而是公开承认“百姓怨气满腹”，说自己“无益于民”。这丝毫没有损伤他所创立的丰功伟业，反而更增加了他作为一个杰出的政治谋略家的光彩。

(隋洪滋 刘畅)

## 赵充国

赵充国(公元前137—前52)是个沉着持重、谋虑深远的军事家。字翁孙，西汉陇西上邽(今甘肃天水西南)人，后迁居令居(今甘肃永登西)。昭帝时，官至后将军兼水卫都尉，宣帝时封营平侯。为国忠心耿耿，勇谋兼备，尤通晓四方民族事务，为汉王朝的强盛和边境安全做出杰出贡献。

赵充国起初是一名骑兵，后因家世清白，善于骑射，被选入皇帝的护卫军中。汉武帝时，曾以代理司马的身份，随二师将军李广利攻打匈奴。一次战役中汉军被匈奴大军包围，众寡悬殊，士兵断粮多日，人马死伤惨重。危急关头，赵充国率领100多名勇士，突破防线，攻入敌阵，往来冲杀，身受20多处创伤，血染战袍，仍然猛不可挡。李广利率主力紧随其后，终于冲出重围。李广利向汉武帝汇报赵充国的功绩，武帝立即在他出行的住所召见赵充国，亲自察看他的伤势，对他的骁勇感叹不已。为了表示嘉奖，就任命他为中郎(宫廷侍卫官)，而后又调升为车骑将军长史(高级属官)。

我国西北地区，包括甘肃兰州以西，南接四川，西北到新疆的大片土地，秦时一直是羌族的活动范围。到了汉代，匈奴的力量日渐强大，成为汉朝的最大边患。在羌族沦为匈奴的附庸后，成了匈奴人力、物力的重要来源。汉武帝为了切断匈奴右臂，派张骞

通西域，占领河西走廊，把匈奴和羌隔绝开来。从此羌人与汉人杂居，关系日益密切。但汉族统治者往往虐待羌人，激起民族矛盾。羌人有时也仇杀官吏，侵扰汉民，战争时有发生。

宣帝时，为了掌握羌族部落的动态，就派光禄大夫义渠安国出使西羌。在羌族的各个分支部落中，被称做先零的这一支人口最多，也最强悍，此外还有罕(hān 罕)、开(jiān 间)等部族。先零羌的首领要求在一定时节渡到湟水北岸，在汉民弃耕的荒地上放牧。义渠安国将此事禀告了汉宣帝，他没能察觉羌人的真正意图。赵充国知道后，立即上书批评义渠安国，认为他“奉使不敬”，对羌人的无理要求不加慎察，非但不严辞拒绝，反而代为转答，有辱使命。赵充国凭着一个政治家、军事家敏锐的洞察力，已看出先零羌名为渡河放牧，实则包藏祸心。他们一旦渡河，占据了湟水北岸，就会便利地与匈奴联合，果真如此，西部将无宁日。

后来事态的发展，并未出乎赵充国的预料。羌人果然根据前次的要求，违反禁令，渡过湟水，当地郡县无法制止。以先零为首的200多个羌族部落，消解前仇，互换人质，立誓结盟，边疆形势日趋危急。

汉宣帝向赵充国询问对策。赵充国精辟地分析了羌人内部的情况，列举历史上的经验教训，估计了边境局势发展的趋势。在正确估计敌情之后，赵充国又提出三项制羌策略：派人巡视边防，让守军做应变准备；视察诸羌，分裂其同盟，以察觉其图谋；趁边区谷米价低，收购200万斛(hú 胡，容器名。1斛为10斗，约今3斗3升余)。

赵充国的三点建议，可说是深谋远虑的万全之策。边塞有了充分准备，先使自己立于不败之地，这就掌握了战争的主动权，使敌人失去了突然发难、出奇制胜的机会。政治上以外交手段瓦解敌人阵营，造成羌汉力量对比的消长，首要之敌势单力孤，无力与汉朝边境守军正面相抗。谷物的大量内流，

使汉军食用有余，敌军供给不足。相持时间一长，叛军便会因失去经济上的依托而不攻自破。这些措施，足以使汉朝在以后的军事行动中处处主动，处处制敌要害。而西羌则因失去了获胜的条件，虽有野心，却不敢妄动。如果依计而行，汉朝完全可以不必兴师动众，就能收到“不战而屈人之兵”的效果。然而遗憾的是，这一有效的致胜方略，却未得到认真贯彻实施。

汉宣帝神爵元年(公元前61年)春天，七旬老将赵充国统兵西征。临行前，宣帝不放心地问他：“将军估计羌人的情况怎样？应该动用多少兵马？”他回答说：“百闻不如一见。军事上的事难以遥测，我准备先赶到金城，把地图和作战计划一并呈上。西羌不自量力，灭亡指日可待。此事交与老臣，陛下不必担忧。”

赵充国来到金城，汇齐1万骑兵，准备渡过黄河北进。在战争中，尤其是两军接近时，大军渡河，很可能被敌军乘机掩杀，历史上有许多这样的战例。赵充国为谨慎起见，当晚派出3支小股部队，在夜色掩护下悄然渡河，上岸后立即安营扎寨，列阵待敌。天明后，一切准备就绪，才让主力部队依次渡河。大军刚安顿下来，就有百余名羌军骑兵前来挑衅，在汉军营垒附近往来出没。将士们请求出击，赵充国说：“我军远道而来，人困马乏，不能和敌人周旋。何况这些都是骁勇的骑兵，很难对付。另外不可不防其诱兵之计。跟敌人作战，要以彻底消灭为目的，小利不足贪。”他嘱咐部下，任其叫骂，不许出战。他又派少量骑兵到前面山谷中瞭望，原来并没有敌兵埋伏。于是连夜率军穿越山谷，向西挺进。事后他对部将们说：“我已经知道羌人不会用兵了。假使他们派几千人扼守山谷，我等焉能顺利通过！”

赵充国为人沉稳庄重，这种性格在战场上体现得最明显。他每次带兵，“行必为战备，止必坚营垒”，行军必经之处，总是要远远地派出侦察兵，仔细地打探敌情，决不让

部队遭受任何意外。在大的战略思想上，他主张“贵谋贱战”。在具体的作战部署中，则严格地遵守“先计而后战”这一原则，决不因自己谋划不周密、行动不谨慎而让士兵去做无谓的牺牲。赵充国带兵到达西部都尉府以后，为了激发部队的士气，天天用酒肉犒劳手下的士兵。士兵们养足了精神，反而因无功受赏深感不安，跃跃欲试，都盼着与敌人开战，好为将军效力。羌军屡次前来挑战，赵充国则按兵不动，命令部下坚守。这样一来，汉军的斗志越来越旺盛。而并没遭受攻击的羌军，反而士气渐渐涣散了，从抓来的俘虏口中得知，叛军中的一些首领已经后悔了，他们互相埋怨说：“叫你不要造反，你偏不听。现在天子果然派赵将军来了，他已经八九十岁了，老谋深算，用兵如神。如今即使我们想豁出一死找他拼命，能做得到的吗？”赵充国之所以养精蓄锐不轻易与敌人交战，是有其深远的战略意图的。因为他对羌族人的联盟太了解了，本来势不两立的仇敌，为了得到共同的利益，才暂时握手言和，如今汉军在一旁虎视眈眈，使他们的奢望化为泡影，本不十分巩固的联盟很快就出现了分裂的趋向。因此赵充国在一开始就采取以守为攻的战术，静观敌变。而朝中文武官员却主张立刻进攻，宣帝也认为赵充国固执己见，坐失战机，命令他整装出击，莫再迟疑。赵充国反复向宣帝申明利害，终于说服宣帝，收回成命。

按照原定计划，赵充国率军进攻先零。敌兵屯聚日久，戒备松懈，一见大军临近，便丢弃辎重，打算渡过湟水逃走。由于道路狭窄，急切之间无法尽数通过。赵充国只让部下士兵“徐行驱之”。有部将建议：何不速速掩杀，走得太慢了。赵充国提醒部下：“此穷寇，不可迫也。缓之则走不顾，急之则还致死(还致死，意即转过身来拼命)”。结果羌兵拥挤中溺水而死者数百，斩杀与俘虏计500余人。汉军缴获马匹牛羊10万余头、战车4000余辆。

大军到了罕羌属地，赵充国约法三章，禁止军队焚烧村落和在田中割草放牧。罕羌的军民听到这个消息，高兴地说：“汉果不击我矣！”其首领靡望派人来请求说：“希望回到家乡来。”赵充国将此事上奏宣帝，诏书一时尚未下达，靡望就一个人先回来了。赵充国设宴款待他，并让他回去对本部族的人讲明情况。许多将领表示反对，劝阻切莫自作主张放他走。赵充国说：“你们只想照章办事，怕担责任，这哪是忠心为主的主意呢？”话还没说完，诏书就到了，准许靡望立功赎罪。由于宣帝听从赵充国的计策，对罕羌表示了宽容的态度，以后果然未费一兵一卒，罕羌这一支就被平定了。

这一年的秋天，赵充国由于过度操劳，病倒军中。这时的先零，虽然被赵充国击败，退到湟水西岸，但主力犹存，一旦喘息过来，仍有兴兵犯境的可能。宣帝见战事经年未决，而赵充国又“年老加疾，一朝之变（病故）不可讳”，深感忧虑，他见赵充国按兵不动，就派破羌将军辛武贤去做他的助手，催促“急因（趁）天时大利，吏士锐气，以（在）12月击先零羌”。在此期间，羌人已有1万多人相继归降，只剩下为数不多的人马在负隅顽抗，原先汇集到这里的五六万汉军，继续留在边境只能徒费粮草，而且此时东方和北方的边防已显空虚，实在没有全部滞留的必要了。赵充国考虑到叛军余部虽不能马上制服，但其土崩瓦解已指日可待，就决定采取“屯田之策”，撤回骑兵，留万余步兵屯田，既可待机破敌，便于持久作战，亦能解决粮草营运困难，压缩军费开支，以减轻国家负担。

屯田之举，始于汉文帝时，武帝、昭帝两朝也采用过除了让边塞戍卒在驻地屯垦、自给自足外，还征召农民，从内地迁徙人口，到边郡开荒种植，充实当地经济，利于战时征调。而赵充国采取的“屯田之策”，是在前代民屯、戍屯基础上，让执行作战任务的野战部队，在战斗间歇时从事农耕，以农养战，以战护农，兼收养兵与讨敌的双重效益。仅

此一策，既可保证对羌作战的最后胜利，又使汉朝边防得以长治久安，这是军事史上前所未有的创举。赵充国对屯田一事早就做了具体的布置和安排。他先使人察明哪些土地可供屯田之用，而后派将士入山伐木，将6万多根原木放在上游河畔备用，可见他是下定决心要彻底实施这一“千古之策”的。在《屯田奏》中，他详谈了自己的计划：“经过测算，可供军队屯垦的土地，包括汉家公田、羌人弃田以及汉民未垦荒地，约2000顷以上。而这一带人烟稀少，又有许多废弃的驿站，条件最为适合。希望能撤回骑兵，留下驰刑犯、征召的士卒及淮阳、汝南步兵与自愿随军的官吏，共计10281人，每月配给谷物27363斛，盐308斛，分别屯驻在要害之处。待来春河开，将原木顺水运下，修缮驿站房屋，疏通渠道，建道桥70座，至鲜水便可畅通无阻。春耕时节一到，每人分配20亩耕地。到4月草生，派郡中骑兵与属国精骑各1000人，每千骑配副马200匹，在水草丰盛处放牧，替耕作的军兵巡逻警戒，到秋将农牧产品充入金城郡，‘益积蓄，省大费’，两全其美。然而宣帝的疑虑还是没有打消，他对这场战争仍然急于求成。在诏书中，再一次责问赵充国：‘你所说的‘虏虽未伏诛，兵决可期月而望’，‘期月而望’者，谓今冬耶？谓何时也？’要求赵充国给予明确答复。随后对敌情提出两点异议：敌人见我休战屯田，必然成帮结伙，攻扰驻军，侵袭百姓，‘将何以止之’？大开、小开对汉朝深存戒心，常恐再发生当初义渠安国不分善恶格杀羌人的事，‘今兵不出，得无变生，与先零为一’？命赵充国仔细斟酌，拿出对策。于是赵充国三次上书，对宣帝的质疑逐一作出解答，进一步说明屯田御敌，万无一失，以坚定宣帝的信念。赵充国以其非凡的谋略思想和无可辩驳的事实依据，终于使宣帝对这项“千古之策”深信不疑。他在诏书中说：“……今听将军，将军计善。……将军强食，慎兵事，自爱！”表达了一个君主对七旬老将的无限信



赖、殷切关怀和最终的理解。

赵充国回京后，上疏宣帝，请求辞去后将军之职，回家休养。直至晚年，“朝廷每有四夷大事，常与参兵谋，问筹策焉”。甘露二年(公元52年)，赵充国病逝，享年86岁。鉴于他一生功高盖世，宣帝赐他谥号为“壮侯”，并把他的形像画在未央宫的麒麟阁上。汉成帝即位后，又命黄门郎杨雄在像傍题颂，表达对前代老臣的追念。

作为一名军事家，赵充国冷静持重、富于作战经验和谋略思想，一旦领兵出征，则能“便宜有守”，不为最高决策者的错误主张所左右。他提出的“留兵屯田”的千古之策，解除了汉朝的边疆危机，减轻了百姓负担，也为后世的军事、政治活动提供了宝贵经验。

(张在义)

## 马 援

马援(公元前14—公元49)，东汉初年智勇兼备的军事家，字文渊，扶风茂陵(今陕西兴平县东南)人。战国时期赵国名将赵奢的后代。赵奢因为破秦军，解阙与之围有功，被赵惠文王封为马服君，后世子孙遂以马氏为姓。马援的曾祖父马通，曾被封为重台侯，因其兄谋反而被治死罪。马援12岁时，父母相继去世，依兄为生。出仕后，官至太中大夫、陇西太守、虎贲中郎将，封为新息侯。

马援成年后，不愿守在家里苦读诗书，作个恂恂然的儒者，便毅然要辞别兄嫂，到边地从事耕牧。其兄马况鼓励他说“汝大才，当晚成”，劝他慎重行事。就在此时，马况猝然病故。马援只得暂留家中，为兄守墓尽哀。一年后马援出仕，先在扶风郡做督邮，代表太守督察乡县，传达政令，兼管诉讼捕捉之事。这使马援有机会体察民情，目睹王莽时期社会的黑暗、腐朽，从此马援立下了济世救民、改天换地的宏伟抱负。有一次，他奉命押送犯人，因生哀怜之心、不平之念，便在中途放走了囚徒，自己也亡命北地郡(治

所在今甘肃庆阳西北)。适逢大赦，遂留北地从事耕牧。他因地制宜，数年之后，竟成豪富。

素有大志的马援，岂甘做个富翁，他曾慷慨地说过：“凡是能积聚财产，贵在济世救人，否则只算是个守财奴而已！”年过30的马援，把家财散给昆弟故旧，离家南行，去寻求施展抱负的机会。

王莽末年，各地义军蜂起，群雄割据，马援避难凉州，观望天下形势。更始元年(公元23年)凉州豪强隗嚣割据凉州，起兵反莽。隗嚣素有名气，避乱者多归附于他。这时马援也慕名投到隗嚣的门下。马援擅于兵策，娴于应对，遂被任命为绥德将军。公元25年，刘秀即帝位，改元建武，是为东汉光武皇帝。建武三年(公元27年)，刘秀大败赤眉军，之后便开始扫除各地割据势力。在割据势力中，占据蜀地的公孙述和占据凉州的隗嚣势力最强。隗嚣想要联合公孙述共同对付光武帝刘秀，便派马援前往蜀地成都观察公孙述情况。马援回来对隗嚣说：“子阳(公孙述)井底蛙耳，而妄自尊大。”认为公孙述这种人，不能与之共事。建武四年(公元28年)冬，隗嚣再派马援东行洛阳，察看刘秀情况。回来后，马援向他极力称赞光武帝的恢宏大度、文韬武略前世无比。隗嚣虽然心存疑虑，但迫于形势，不得不派长子隗恂去洛阳做人质，表面上表示归附东汉王朝。马援也借此机会携带家眷到了洛阳。

马援走后，本来狐疑不定又图谋称王的隗嚣，在部将王元的煽动下，于建武六年(公元30年)不顾马援的再三规劝，铤而走险，公开反汉，发兵于陇上，阻止西进攻击公孙述的汉军。马援早知隗嚣怨恨自己，对这样“自挟奸心，盗憎主人”的小人再劝也无济于事，便上书光武帝，诉说衷曲，剖明心迹，毛遂自荐，表示愿意臣侍陛下，极陈灭隗嚣之术。光武帝见马援心赤意诚，立即召见马援，共议作战方略。光武帝首先赞同马援的离间之策。命马援率5000精锐骑兵，前去说



服隗嚣部将高峻、任禹等人及陇西羌族首领，使他们脱离隗嚣，归附光武帝。建武八年(公元32年)夏，光武帝决定亲征隗嚣。多数朝臣认为这是冒险举动，光禄勋郭宪极谏，光武帝不听，毅然率军西进。当大军远离腹地之前，大臣们还再三劝光武帝不宜远入险阻之地。这时光武帝也犹豫不定，便连夜召来马援，商决行止。马援首先向光武帝分析了隗嚣将土内部土崩瓦解的形势，说明这次进军必能取胜的道理；然后在光武帝面前堆聚米谷，成山川之形，逐一指示各军进军道路。光武帝听了大喜，已觉胜利在握，欣然说道：“虏在吾目中矣！”(敌寇已经在我的眼目之中了)第二天，光武帝指挥大军继续西进，直抵高平第一城(今宁夏固原)，乘势猛攻隗嚣军，果如马援所料，隗嚣军一触即溃。不久隗嚣闷闷而死。

王莽末年，西羌诸部落不断侵扰陇西，抢夺财物，屠杀百姓。太中大夫来歙向光武帝建议：“陇西侵残，非马援莫能定。”来歙深知马援曾久住陇西，既熟识陇西的地理，又悉知西羌的民情，加上他智勇兼备的军事才能，这三个条件无与伦比，因此只有马援才能担起平定西羌的重任。于是光武帝任命马援为陇西太守。

建武十一年(公元35年)夏，马援率3000步骑向势力最大的先零羌发起攻势，在临洮(甘肃岷县)大败羌人，缴获甚多。接着又挥军西进。这时数万羌人聚集浩亶隘口(今青海乐都东)扼守，将家属輜重转移到允吾谷(今兰州西北)。马援熟知此处地理，先避开浩亶之敌，沿小道潜行，赴允吾谷袭敌輜重，羌人又退到唐翼谷。马援尾随而至，命主力向山扎营，准备出击，一面又遣数百骑兵绕至敌后，乘夜放火，擂鼓呐喊，纵兵掩杀，羌兵无备，溃散败逃。这一战马援杀敌千余，缴获颇多，为镇抚西羌，安定陇西奠定了基础。

用军威镇羌人不易，但镇抚以后如何治理更为不易。朝中有些大臣认为，金城破羌

(今青海乐都东)以西，路途遥远，又多羌人出没，难以防守，不如放弃这块土地。马援不同意这种意见，他向皇帝上书说：“破羌以西，城廓大都完好坚固，可以依据它安定西羌；其土地肥美，灌溉便利，如果让羌人占据湟水两岸，则将为害不休，所以此地不可放弃。”光武帝采纳了马援的建议，命令武威太守遣回流亡在武威郡的羌人，又派遣羌人头领杨封劝说塞外羌人与汉人和睦相处。马援还组织民力，修缮城廓，开垦农田，发展畜牧，从此金城、武威一带百姓安居乐业，呈现一派太平景象。

建武20年(公元44年)秋，马援南征交趾凯旋而还，回到京师洛阳，老友亲朋郊迎将军，都向马援恭贺、道喜。其中老友孟冀本是个有见识有智谋的人，今天也跟随大家说些恭维客套话。马援心中不快地说：“我渴望你能说些利于我的话，没想到你也和大家一样恭维我。昔日伏波将军路博德(汉武帝时人)为汉室开拓了七个郡，才封食邑数百户。我只有微薄的功劳，却封赐一个县的食邑。功薄赏厚，怎么能保长久呢？先生应教我以有余补不足的办法。”孟冀顿觉十分羞惭，连忙开脱自己说：“我实在是个愚钝之人，未能从长远考虑。”马援激昂地说：“如今匈奴、乌桓正在骚扰北部边境，我还想请旨出征。。男儿要当死于边野，以马革裹尸还葬，怎能安卧床上，死在妻子儿女手中呢？”孟冀听了，赞叹不已，说：“男子大丈夫应当如此！”

马援回京一月余，又请令出征北疆。同年12月，又出屯襄国县(治所在今河北邢台西南)。建武21年(公元45年)秋，马援率3000骑兵出高柳(治所在今山西阳高县)，巡行雁门、代郡、上谷要塞。乌桓兵见汉军至，立即退避。建武23年(公元47年)，居于五陵山区(今湖南西北山区)的五溪蛮人，举兵叛汉。武威将军刘尚奉命征伐五溪蛮人，结果全军覆没。马援又请令出征。此时马援已是62岁高龄的老将了。光武帝担心他年高，恐不胜其任，没有答应他的请求。马援又请求

说：“臣尚能披甲上马。”光武帝令人牵过战马，让他试试。马援抖擞精神，登鞍上马，左右顾盼，以示不减当年。光武帝笑着说：“好威武啊，你这个老翁！”于是派马援统领中郎将马武、耿舒、刘匡、孙永等将士率12郡征集的兵士及刑徒4万人征伐五溪蛮。临行之夜，马援与诸友诀别，对老友杜愔说：“我受国家厚恩，活在世上的日子不多了，常常担心不能为国而死，今遂我愿，可以放心地瞑目了！”

建武二十五年(公元49年)春，大军至临乡(今湖南桃源县)，正遇蛮军进攻临乡县城，马援率军迎击，蛮军大败，逃进竹林。马援军驻下隳(在今湖南沅陵县东北)。从这里进军五溪可有两路：一是走壶头山(在今沅陵县东)，此路近而水险；一是走充县(治所在今湖南大庸县西)，此路远而地平。耿舒要走充县平道，马援认为走充县会耽搁进军时日而且浪费军粮，不如从壶头山进军，扼住敌人咽喉，可使充县蛮军不攻自溃。二人各持己见，只好上书请旨。光武帝同意马援的决策。

三月，大军进入壶头山，蛮军占据高地，扼守要隘，再加河川水流湍急，兵船无法行进，汉军前进受阻，被困在壶头山。当时已是孟夏，天气酷热，又逢瘟疫流行，兵士们多染疾病，马援也病倒军中，全军只得在河岸凿洞为屋，以避暑气。每有蛮军登高鼓噪，骚扰汉军驻地时，马援就拖着病腿出来察视敌情。战士们看到老将军在这样的困境中还是那样坚强刚毅，无不感动得流下眼泪。马援终因年迈体弱，禁不起时疫的折磨病死在军中。以他英勇的行动实践了“马革裹尸”的誓言。

马援是东汉开国功臣。他戎马一生，为汉室江山的创立和巩固立下了不朽的功勋。他散财济世，度势择主，申策除器，威羌慑蛮，安民治边，无不充分显示一个政治家、谋略家的卓越才能。至于兵困壶头山，与他22年的丰功伟绩相比，只是一个小小的失误，

丝毫不应损害他赫赫英名。

(张在义)

## 邓 禹

邓禹(公元2—58)，南阳新野(今河南新野南)人，东汉光武帝著名谋臣，东汉王朝的开国元勋之一。

邓禹自幼博学，13岁时即能背诵《诗经》，有远见，多谋略。王莽当政时期，邓禹在长安受业，结识了当时也在京师游学的刘秀，二人建立了深厚的交谊。

王莽统治末年，天下纷乱，豪强四起。更始元年(公元23年)，农民起义军拥立西汉宗室刘玄为更始帝，定都洛阳，复扯出汉朝旗号。当时，邓禹居家南阳，当地豪杰久闻他的才气，纷纷推荐他去刘玄手下做事，但邓禹料知刘玄难成大业，不肯轻易出山。是年冬，屈属于更始帝手下的刘秀以大司马之职率军征战河北诸地，废王莽苛政，恢复汉制。邓禹闻讯后，便徒步负粮，杖策北渡，从河南赶到河北鄆城(今河北临漳)，投奔刘秀。刘秀乍见故知，欣喜异常，他问邓禹：“我现在专司封官拜将之权，您远道而来，是想要做官吧？”邓禹答道：“我并不想做官。”邓禹的回答使刘秀感到不解，他进一步问道：“既然是这样，那您想做什么呢？”邓禹朗声说道：“但愿明公感德加于四海，我得以为您报效尺寸之功，能够名垂青史。”邓禹言外之意是劝刘秀好自为之，将山成就帝王之业。刘秀对此心领神会，微笑不语。当晚，刘秀留邓禹同室下榻，促膝密语。邓禹对刘秀讲道：“现在山东尚未安定，赤眉、青犢等义军动辄数万，而更始帝又是平常之才不料理政事，其手下诸将也都是些庸人，志在图财争威，以求一时快活，没有忠良明智，深虑远图，想尊主安民的人。回顾以往圣人之兴起，无非是天时与人事而已。今观天时，更始帝立而灾难方兴；看人事，帝王大业决非此等平凡之辈可以担任；分崩离析的形势已十分明显，明公即使为更始帝建立藩辅之功，也恐

终无成就。何况明公素有威德大功，军政齐肃，赏罚分明，为天下所折服。当今之计，莫如延揽英雄，取悦民心，建立汉高祖之业，拯救万民之命。以明公之德才而图取天下，实不足定。”邓禹此番议论，显示了他超乎常人的政治远见。刘秀闻之大喜，遂令邓禹常随左右，参与谋议；每当任命诸将时，也都征求邓禹的意见，做到了人尽其才。

更始二年(公元24年)春，刘秀进攻受挫，退居广阿(今河北内丘县)。他夜不能寐，披阅天下地图，指图问邓禹：“天下郡国如此之多，至今始得其一。您以前曾说我国取天下实不足定，而今如此，是何道理？”言语之中流露出畏难的消极情绪。邓禹答道：“当今海内混乱，人们思寻明君，犹如赤子慕恋慈母。自古兴王业者，在于德之薄厚，不在一时势力之大小。”邓禹一席话说出了谁得人心，即最后能得天下的道理，打消了刘秀的忧虑，振奋起他的士气。在邓禹等人辅佐下，刘秀经营河北，扩军囤粮，为南下中州，西取关中，进而夺取天下打下坚实基础。

更始二年(公元24年)末，刘秀拜邓禹为前将军，统率精兵两万，授以西讨方略，命之挺进关中。更始三年(公元25年)正月，邓禹率军至箕关(今山西垣曲县境内)，攻战10日，进入河东郡(今山西省西部)；围攻安邑(今山西夏县北)数月，阵斩更始帝大将军樊参，击溃其数万军马。6月，更始军王匡、成丹、刘均等部10余万人，共击邓禹，邓禹处于不利地位。军师韩歆及手下诸将见损兵折将，均劝邓禹乘夜色掩护退兵。邓禹拒不退师，乘第二天乃忌日王匡等不肯出兵之机，重整旗鼓，严阵以待。第三天凌晨，王匡等倾巢出动，向邓禹大营发起猛攻。邓禹命军兵不得妄动，待敌军进至营前，方传令诸将同时杀出，一鼓作气，大败王匡。王匡等仓惶西逃，邓禹追斩刘均及河东太守杨宝，遂定河东地区。

就在邓禹大败王匡，平定河东之时，刘秀于更始三年(公元25年)6月在鄴(今河北高

邑)称帝，改元建武，是为东汉王朝开国皇帝光武帝。此时，刘秀并没有忘记鏖战于前线的邓禹。他遣使持节拜邓禹为大司徒，封之为酈侯，食邑万户，并策书盛赞邓禹：“谋谟帷幄，决胜千里”，“斩将破军，平定山西，功效尤著”。这一年，邓禹年仅24岁。不久，邓禹率师在汾阴西渡黄河，进至夏阳(今陕西韩城)，更始左辅都尉公乘歆率兵10万拒之，亦被邓禹一举击溃。

正当邓禹屡败更始军，步步进逼长安之际，赤眉起义军已攻破长安城，更始帝投降。当时天下大乱，群雄并起，百姓不知所归。已进入关中的邓禹深知欲取天下必先得人心之理，他师行有纪，每到一地，必停车持节慰抚官民，百姓闻之争相迎劳，望风而降者数以千计，为时不久其军众已号称百万，于是邓禹之名声震关西之地。在大好形势下，邓禹手下众将皆劝其直接攻取长安，但他并未被取得的胜利冲昏头脑。他冷静地估计敌我形势后，对诸将说：“今我众虽多，但能战者少，前无可依赖之粮粟，后无可转馈之军资。而赤眉军新拔长安，财谷充实，其势锐不可挡。目前我们不可贸然进攻长安。上定、北地、安定三郡地广人稀，谷饶畜多，我们可以屯兵北道，就地取粮休整军队，静观形势发展，徐图进取长安。”邓禹于是引军北屯枸邑(今陕西旬邑)，所到之处皆开门归附，逐渐形成对长安的包围。

建武二年(公元26年)正月，赤眉军因长安城中粮草已绝，便尽收载珠宝，火烧宫室，恣行杀掠后引兵西去，进入安定、北地二郡。邓禹乘虚率军开入长安，实现了当初不战而胜的战略设想。邓禹入长安后，采取了一项极为引人注目的举措。他在大飨士卒的同时，率领诸将前往汉高祖刘邦庙堂拜谒，并收西汉11帝神主送往东汉都城洛阳；随后，他巡行西汉皇帝陵园，派遣官吏士兵奉守。邓禹此举在正统观念十分浓厚的封建时代，为东汉光武帝刘秀争得了皇统，赢得了民心，无疑具有重大的政治谋略意义。

邓禹进占长安后，坐守危城，粮草匮乏，无力开拓出新的局面。年末，光武帝刘秀下诏召回邓禹，以偏将军冯异代之。邓禹自惭于受重任而无功，意气用事，数次率饥饿之兵与赤眉军激战，结果连连失利。建武三年（公元27年）正月，邓禹不听冯异劝告，与赤眉军大战日余，结果又大败，仅以24骑逃归宜阳（今河南宜阳）。邓禹损兵折将，自觉罪责难免，便上书光武帝请求自贬，并奉还大司徒及梁侯印绶。光武帝保留了他的梁侯封号，迁拜右将军。

建武十三年（公元37年），天下平定，光武帝大封功臣，改封邓禹为高密侯，食邑四县。而邓禹却功高思退，远离名利权势，尽心于家事，孝敬老母，教养子孙，安度晚年。

光武帝中元二年，刘秀崩，汉明帝即位。邓禹因系先帝老臣，被拜为太傅。一年之后，他身染重病，不治而卒，享年57岁。

西汉末年，王莽乱政，天下大乱。刘秀崛起于草莽之中。在他身边文臣武将中，邓禹颇显突出，他能纵论天下，参与谋划左右，能独断专行于外，也能明哲保身于内，算是东汉开国时期的著名谋臣。

（攸 笛）

## 班 超

班超（公元32—102），扶风安陵（今陕西咸阳东北）人。是为巩固东汉王朝在西域的统一做出过卓越贡献的著名历史人物。

班超出身于一个封建官僚家庭中。其父班彪曾做过县令，对历史有特殊爱好，因病免职后则致力于修史。班超的兄长班固继承父业，因修《汉书》而与司马迁齐名。班超论文才虽不及其父兄，但在他们的影响下，也涉猎群书，锻炼出极佳的口才。据说东汉明帝初年，有人诬告班固私改国史，班固被捕入狱，处境十分危险。班超乃驰往京师，诣阙上书，在明帝面前慷慨陈辞，不仅使明帝为之所动，下诏释放了班固，还下令将其召入京师，任兰台令史，专事校勘及管理典籍

图书之职，为其后来撰修《汉书》奠定了基础。

班超随其兄来到洛阳后，曾依赖抄书取酬来补充家用的不足。然而他志不在此。有一次他竟停下手中工作，投笔叹道：“大丈夫倘无别的志趣，即当效法出使西域的傅介子、张骞那样立功于西域，怎能总是在笔砚之中干这些抄抄写写的事情呢？”

东汉明帝永平十六年（公元73年），奉车都尉窦固受命率军北击匈奴，班超以假司马之职随军出征。在这次战争中，班超机智勇敢，初露锋芒，深为窦固所器重。为重建与西域各国之间的政治关系，东汉政府决定派得力官员出使西域。窦固便将这一重任委派给既有能力、又早有此志的班超。

班超以假司马的身份率领30余名随员首先来到鄯善（今新疆塔里木盆地东车尔臣河流域）。开始鄯善王对待他们十分热情，礼敬有加，但后来却变得异常冷淡，松懈怠慢起来。班超见此变化，猜知定是匈奴使者来此，鄯善王举棋不定，不知所从之故。于是他便把鄯善负责接待的人找来，装作早已把握底细似的诈道：“匈奴使臣已来了好几天了，他们现在在哪里？”这些人见班超一语道破机秘，以为他早已掌握实情，便将所知详情合盘托出。班超立即将他们暂时扣押，然后将随从36人召至一处饮酒。酒酣之时，班超鼓动道：“诸位与我一起来到西域，无非是为了建功立业，获取富贵。现在匈奴使臣刚到这里几天，鄯善王便礼敬俱废，如果他把我们尽行捉拿，送与匈奴，我们的骨头就会变成豺狼口中之食，对此我们该怎么办呢？”随从们听此情况，众口一词，对班超说：“现已处于危亡之地，无论死活我们都愿意听从您的指挥！”班超接着对众人说出他早已深思熟虑的计谋。他说道：“不入虎穴，不得虎子。当今之计，只有乘夜火攻匈奴使者，他们不知我们究竟有多少人，必将大为惊慌失措，我们则可趁机将其全歼。全歼匈奴使臣，则可使鄯善君臣心惊胆战，我们则可功成业立

矣!”入夜之后,班超遂率随从奔袭匈奴使团的驻地。恰巧当夜刮起大风,班超令10人持鼓隐蔽于匈奴人驻处之后,约定见到火起则鸣鼓大呼。其余人都手持兵器,埋伏于营门两侧。随后班超顺风纵火,前后鼓噪,匈奴人惊慌,乱成一团。班超带领随从冲入其营帐,亲手格杀3人,手下也击毙匈奴使臣及随从30余人,余下百余人皆被大火烧死。第二天,班超召见鄯善王,向其出示匈奴使臣之首级,鄯善举国震惊。班超又告以东汉王朝之威德,晓喻抚慰,鄯善王决意归附东汉,并遣其子入汉作人质。

班超出使鄯善的成功,显示出他过人的胆识和出众的谋略。窦固得报后大喜过望,立即将班超的功绩上报朝廷,并请求朝廷更换使节再出西域。明帝复诏曰:“像班超这样的官员,有什么理由不派遣他,而更换其他人呢?今命班超为军司马,让他继续进行先前的工作。”窦固遂复任班超为使,命其出使于阗(今新疆和阗),并打算增加其手下兵力。但班超却有自己的看法。他认为于阗国大而且远,如带领数百兵士,作用不大,如遇意外,反成累赘,此行只带领原来的36名随从就可以了。

当时于阗王广德刚刚攻破莎车(今新疆莎车),称雄于南道诸国,又有匈奴使臣监国,因此对班超等人相当冷淡。于阗有信巫之风俗,巫师对广德道:“神已发怒,责问何故欲附向汉?汉使有黑嘴黄马,马上取来供我使用。”广德闻之即派人至班超处求马,班超早已密知详情,当即应允,但要巫师亲自来取马。巫师不知是计,顷刻而至,班超立斩其首,鞭笞广德所派之人,并将巫师之首送给广德,责备其无礼的行为。广德早已听说班超在鄯善诛灭匈奴使臣之事,今见班超故技重演,不禁大为惶恐,连忙杀掉匈奴使者表示归降东汉。班超则重赏广德以下大臣,可谓恩威并施。班超此举,镇服于阗,其它各国亦受震动,纷纷表示臣服。西域与汉断绝了65年的联系,至此修复。

东汉明帝十七年(公元74年)春,班超进入疏勒境内。当时疏勒已被依恃匈奴势力的龟兹人所据。班超首先派遣手下官员田虑前往招抚疏勒王兜题。临行前,班超密示田虑:“兜题本不是疏勒人,疏勒人必然不肯为他用命;他若不肯立即投降,你可相机将他拿下。”田虑进入兜题所居的盘橐城后,见兜题毫无降意,便乘其不备,将其劫缚,并立即派人驰报班超。班超闻报立即入城,悉召疏勒文官武将,历数龟兹无道之状,并立疏勒已故国王的侄子榆勒为王,更名为忠,疏勒举国欢悦。

永平十八年(公元75年),东汉明帝死,章帝即位。匈奴及其仆从势力乘机向汉属西域各国发起进攻。章帝担心班超孤立无援,难以立足,特下诏召其回国。疏勒、于阗等国臣民不知所措,竟拦住马头、抱住马脚,哭留班超。班超见此情景,实不忍离去,便掉转马头,重返疏勒,重新稳定了一度动荡的局势。

章帝建初三年(公元78年),班超上书章帝,恳请派兵西征,平定西域。章帝遂两次派兵1800人前往西域。班超既得增兵,又复召于阗等国兵马,进攻莎车。当时与东汉抗衡的龟兹王派军5万往救莎车。面对几倍与己之敌,班超召集手下将校及于阗王举行会议,宣称:“今我方兵少不敌对方,莫不如各自散去,于阗王由此东行,我也由此西归疏勒,天黑击鼓为号,闻其声即可出发。”然后故意缓解对俘虏的看守,使之得以逃脱传递情报。龟兹王闻讯大喜,亲率万骑驰至西界阻遏班超,同时命其同伙温宿王率8000骑于东界阻遏于阗之兵。班超得知二虏已出,乃密召各部兵马,奔袭对方大营。敌方毫无防备,惊乱之中狂奔而逃,班超指挥手下军兵追斩敌兵5000余人,莎车遂降。龟兹、温宿突袭扑空,无不畏怯班超用兵之神,只好各自退散。班超由此威震西域,西域南道由此畅通。

东汉和帝永元三年(公元91年),班超升

任西域都护。至永元六年(公元94年)为止,班超先后征服了龟兹、姑墨、温宿、焉耆等国。至此,西域50余国均已归顺东汉王朝,西域从此又与内地连为一体,完全摆脱了匈奴的控制。为表彰班超的功绩,和帝于永元七年(公元95年)下诏封其为定远侯。永元十二年(公元100年),年老体弱的班超上书和帝,请求允许他还归故土,得到了批准。班超卸任之际,其后继者任尚向他请教成功之经验,班超坦诚地说道:“塞外的吏士都是因罪过而徙补边屯的,本非孝子顺孙,而蛮夷又生性异俗,难养易败。因此为政方略应该是宽小过,总大纲,如是而已。”永元十四年(公元102年)八月,班超在西域度过了整整31年戎马生涯之后,终于回到洛阳。一个月后,他因病去世,终年71岁。

班超作为东汉一代名将,年轻时代即投笔从戎,奔赴边塞。在西域的30年中,他大智大勇,坚韧不拔,艰苦奋斗,终于帮助西域人民摆脱了匈奴的控制和奴役,恢复了西域与内地的联系,为巩固和发展统一的多民族的国家做出了杰出贡献。班超打通西域和内地的交通,不仅有利于西域和中原地区进行更为密切的经济文化交流,而且也沟通了中国与西亚乃至欧洲国家的联系。和帝永元九年(公元97年),班超曾派甘英出使大秦(罗马),甘英到达了波斯湾沿岸。由于安息国(波斯)出自自身商业利益的需要,极力阻挠甘英西行,使得甘英临海而还。但是,这是中国使节远至波斯湾的最早记载,为不久以后罗马与中国的直接往来创造了条件。它表明班超在西域的活动使通往西亚各国古老的“丝绸之路”重新焕发了青春,对于东西方的经济和文化交流又一次起到了桥梁作用。应当指出的是,班超之所以能够创立这样大的功绩,除其个人的因素外,更重要的是他的行为顺应了历史发展的要求。因而他不但得到了东汉统治者的大力支持,同时也得到了汉民族和西域各族人民的支持,这是历史的趋势使然,所以我们可以毫不夸张地说,

正是班超所处的时代造就了班超这样一位杰出的人物。

(攸 笛)

## 荀彧

荀彧(公元162—212),字文若,东汉颍川郡颍阴(今河南许昌)人。汉延熹六年,出生在一个官僚家庭。祖父荀淑、父亲荀绲、叔父荀爽,都做过地方官。东汉末年荀彧投奔曹操,建功立业,成为三国时期著名的谋略家。

荀彧在少年时代不仅仪表堂堂,气宇轩昂,而且极有才干。他分析形势透彻准确,目光敏锐、犀利,对时局发展常常有惊人的预见。当时南阳的名士何颙十分赏识他,惊异地称赞他有辅佐帝王之才能。

永汉元年(公元189年),27岁的荀彧被举为孝廉,任守宫令,掌管皇帝的笔墨、纸张等用具;后被任命为亢父县令。时逢董卓作乱,他弃官归家,回到颍阴高阳里。初平二年(公元191年),荀彧投奔曹操。两人见面后谈得非常投机。曹操把他比作帮助汉高祖刘邦平定天下的谋臣张良,对他十分器重,委任他为奋武司马,让他帮助管理军府要事,参与军事谋划。时年29岁。

初平三年(公元192年),曹操出任兖州牧,后为镇东将军。荀彧也得任镇东司马,经常跟随曹操左右,谋划于帷幄之中。建安元年(公元196年),汉献帝在杨奉等人的护送下,由长安逃回残破不堪的洛阳,给曹操提供了抢皇帝在手的绝好机会,但他手下也有人以条件不具备为由,反对迎帝。在此关键时刻,荀彧坚决主张迎帝到许昌定都。他力劝曹操道:“现在皇帝东流西徙,人们担心皇室的命运,如能此时迎奉献帝,正合天下愿望。用忠于皇室的行动来镇服各据一方的豪杰,是个很有力的策略。应该当机立断,及早行动。”荀彧透彻精辟的分析,使曹操下定决心,亲到洛阳奉迎天子立都许昌,不失时机地把汉献帝这面大旗抓到了手里。从此曹

操常以朝廷天子的名义发号施令，堂而皇之、名正言顺地征讨异己，在政治上掌握了主动权。

曹操把汉献帝接到许昌后，荀彧因献策有功，被封为侍中，代理尚书令。当时，政归尚书，尚书令是总揽一切政务的首脑。从此荀彧便成了曹操军事集团中处理日常政务的重要官员。曹操经常出征，军国大事便悉由荀彧调度谋划。

荀彧不仅尽力处理军国大事，还不断帮助曹操物色和举荐人才。经过积极而慎审的筹措，荀彧先后举荐了同郡的郭嘉、荀攸、钟繇以及陈群、司马懿、邴虑、华歆、王朗、荀悦、杜袭、辛毗、赵俨等一大批极有计谋和智慧的人才。这些人不只名扬当世，有的还官至卿相，政绩卓著，名垂青史，为曹操开创大业统一中原，做出了很大贡献。

曹操迎奉汉献帝后，在政治上取得优越地位。对此袁绍很不服气，便写了封信给曹操，措辞极其傲慢，丝毫不讲道理。曹操看了，非常恼火，把信送给荀彧看，并说：“袁绍不义，我想出兵讨伐，但实力又恐不敌，如何是好？”当时，荀彧以高人一筹的眼光，既看到了袁绍外在的强大，又清楚地看到了他内在的虚弱；既看到自己一方的不利因素，也看到潜在的优势，他坚信只要发挥主观能动性，己方“虽弱必强”，能使敌方“虽强易弱”。他对曹操分析说：“从古代成功和失败的先例看，真有才能的人，虽然力量暂时弱小，但必会逐渐强大起来；假如这个人缺乏才能，虽然力量一时强大，以后也会衰弱下去，刘邦、项羽两人的存亡，便足以说明这个道理。现在能同主公争夺天下的，只有袁绍。袁绍表面上宽宏大量，实际上心胸狭隘，任人用人而不信；而主公贤明通达，只要是人才，便加以重用，这就在器量上胜过了他。袁绍遇事迟疑犹豫，常常错过时机；而主公处理大事非常果断，善于随机应变，这就在谋算上胜过了他。袁绍带兵松松垮垮，法令不立，士兵虽多，其实难用；而主公法令既

明，赏罚必行，士卒虽少，都能死战，这就在军事上胜过了他。袁绍依仗门第高，沽名钓誉，跟从他的多是一些只务虚名而没有实际本领的人；而主公以仁义和诚心待人，自己严谨俭朴，赏赐有功的人却毫不吝惜，所以天下有才能并讲究实效的人都愿跟随您，这就在德行上又胜过了他。主公有这四方面的优点，再用辅佐天子的名义，仗义征讨，号令天下，谁敢不从？袁绍虽强，又有何用？”曹操听了荀彧精辟而实事求是的分析后，顿开茅塞，恍然大悟。先前的疑虑、胆怯一扫而尽，精神振奋，只待拚搏。

汉建安五年(公元200年)，曹操终于和袁绍进行了著名的官渡之战。曹操在官渡同袁军相持多时，因军粮将尽，士兵疲劳不堪，便想退兵。他写信给荀彧，征求意见。荀彧回信劝曹操坚持下去，说：“现在军粮虽少，但还没有到楚、汉荥阳、成皋相持时那样缺粮。当时刘邦、项羽没有一人肯先退兵。因为先退在大局上定要吃亏。主公的兵力只有袁绍的十分之一，划地而守，扼住他的咽喉，使他不能前进已快有半年了。坚持下去，形势必会发生变化，这正是出奇制胜的良机，千万不可失去。”他向曹操讲明了两军相搏，先退者必败；锲而不舍，定能胜利的道理。曹操听从了荀彧的意见，等待时机，主动出击。不久，情况果然发生了变化。袁绍手下谋士许攸背叛，投奔了曹操，并把袁军在乌巢屯粮的情况报告了曹操。于是曹操亲率精兵5000奇袭乌巢，杀了袁绍的大将淳于琼，并烧毁袁军辎重粮草1万多车。袁军闻讯后不战自乱。曹操乘胜攻击，歼灭袁军主力7万多人，袁绍父子丢下大量辎重、图书、珍宝等，仅率800余骑渡过黄河北逃，曹操取得了官渡之战的辉煌胜利。官渡之战是历史上著名的以少胜多的战例，在世界军事史上也具有重要地位。荀彧以超人的智慧和谋略为曹军的胜利作出了特殊的贡献。

随着曹操手中权势越来越大，曹操的野心也越来越大，觊觎汉室之心已为不少有识



之士看在眼里。建安十七年(公元212年),善于揣摸曹操心意、迎合曹操心意的董昭等人,谋划让曹操进爵为魏国公,加九锡。九锡是古代帝王给大臣的九种赏赐,有车马、衣服、乐器、武士、弓矢等,是对大臣的最高礼遇。荀彧这时也已看出曹操野心膨胀,准备逐步取代汉朝,于是坚决反对董昭等人的主张,认为曹操“本兴义兵以匡朝宁国,秉忠贞之诚,守退让之实,君子爱人以德,不宜如此。”曹操为此对荀彧非常不满,成为曹操擅权道路上的障碍。他与曹操间的矛盾迅速加剧起来,一度使曹操几乎视其为眼中钉、肉中刺。因此,尽管荀彧有过巍巍之功,曹操也将毫不顾惜地要把他除掉。建安十七年(公元212年)十月,曹操南征孙权,叫荀彧到谯县劳军。荀彧到达后,曹操乘机把他扣留军中。大军开赴濡须时,荀彧因病留在寿春,忧虑而死,时年50岁。第二年,曹操就以献帝的名义加封自己为魏国公。

荀彧自投靠曹操后,呕心沥血,为平定北方大业,屡建奇功。曹操赞扬他说:“天下之定,彧之功也。”荀彧有勇有谋,在极其危险而复杂的形势面前,临危不惧、从容镇定。他对政治形势分析透彻、精辟,看问题能从大局着眼,高屋建瓴,主次分明,具有杰出谋略家的战略眼光。“力主迎帝”和“力谏北征”,都是这方面有力的证明。至于他力主坚战官渡,则是基于对敌我双方整体优劣之势的准确掌握分析,事实的发展果与他的预见不差分毫,表现了他高超的预见才能和分析能力。至于欲全汉室,亡身殉节,徒劳无益,则反映了他对历史发展的不可逆转总体趋势尚缺乏清醒的认识。

(丁晓明 周 越)

## 曹 操

曹操(公元155—220)是三国时期的超世之杰。谯(今安徽亳县)人,字孟德,小名阿瞞。曹操年少时就极聪睿,有权术,被人称为是“治世之能臣,乱世之奸雄”。20岁时,

曹操就当上了洛阳北部尉,负责京城北部治安。曹操执法严明,不避强豪权贵,权高势众的禁卫军头领蹇硕的叔叔仗势不法,当时就死于曹操的棒下。由于得罪了权豪们,曹操被挤出京城,下贬为顿丘县令。

黄巾起义时,汉灵帝封曹操为骑都尉。他打败了波才领导的黄巾军,被提升为济南相,后又被任命为东郡太守。曹操见权臣当权,贵戚横行,而他又不肯屈节顺从,唯恐祸殃其家,便告病还乡。董卓之乱后,当上相国的董卓,任命曹操为骁骑校尉。曹操看出倒行逆施的董卓必然覆灭,便更名易姓而逃。回到陈留,广散家财,招兵买马,准备讨伐董卓。在陈留孝廉卫兹的资助下,很快就聚集了五千兵马。翌年,即190年,曹操和各路讨伐董卓的大军十几万人马,汇集在陈留附近的酸枣,组成联军,推举袁绍作盟主。董卓惊恐万分,将洛阳周围二十里烧得鸡犬不留,携迫汉献帝仓惶逃往长安。讨伐联军本应乘机围追,然而,却都互相观望,按兵不动。曹操心急如焚,只好带领自己的人马孤军奋战,终因寡不敌众,兵败于荥阳汴水。曹操离开了徒有虚名的联军,到了扬州,招募人马,准备重振旗鼓。两年后,即192年,曹操打败了攻占兖州的青州黄巾军,迫其投降,得降兵三十余万,将其精锐改编,号称“青州兵”。变降卒为己兵,使本来势力很小的曹操扩大了武装,为其割据一方奠定了军事基础。翌年,曹操因其父被徐州牧陶潜所害,率军攻打陶潜,连拔十余城,既扩大了地盘,又增强了实力。不久,部将张邈叛变,迎接吕布为兖州牧。不击败吕布,曹操就难于立足。曹操选中了兵力薄弱的钜野,作为首攻目标。吕布调集万余兵马来战。曹操的身边不足千人,而且营盘也不坚固,但曹操泰然处之,在树木幽深的西堤设下伏兵,并派轻骑诱敌进入伏击圈,以少胜多,击败了劲敌吕布,从此成为称雄一方的地方割据势力。

这年10月,汉献帝任命曹操为兖州牧。



不久，长安内乱，汉献帝的舅父董承和一批大臣护着汉献帝逃回洛阳。宫室已成废墟，又无粮食充饥。汉献帝派人四处奔走，然而各路豪强谁也不肯送粮。此时，曹操驻兵许城，便想乘机把汉献帝接来。曹操首先拉拢了天子身边兵马最多的杨奉，在杨奉的斡旋下，天子封曹操为镇东将军。不久，董承见大将韩暹愈发居功自傲，怕起内乱，便密召曹操。曹操大喜过望，急忙率军进入洛阳，参奏韩暹，迫使韩暹逃亡。汉献帝封曹操为司隶校尉，并录尚书事。曹操成了朝中要臣，自知为其霸业打开了大门，但又自知洛阳诸将未必服他，便想把京都迁至他的大本营许城。为了防范拥有精兵的杨奉阻拦，曹操先派人给其送去厚礼，然后再告诉他：“京都无粮，欲迁驾鲁阳。”杨奉信以为真。等他醒悟过来，曹操已经顺利地完成了迁都许城的计划，并被封为大将军。从此，曹操开始了挟天子以令诸侯的政治生涯。当时，在诸多豪强中，袁绍的势力尤为强大。不过，在曹操看来，将来与他争雄天下的必是刘备。所以，曹操的势力强大起来以后，便想先灭刘备。200年，曹操亲自率兵攻打刘备。攻破徐州，获其妻子；进而占领下邳，擒住关羽；使本来就势力弱小的刘备元气大伤。

这时，拥有几十万大军的袁绍，才意识到曹操是个强大的敌手，决心进攻许都。二月，袁绍的十万精兵到达黎阳。他先派大将颜良渡过黄河，进攻白马。此时，曹操早已回师官渡。考虑到敌多我少，不能硬拼，曹操采用了声东击西之策：派一支人马西去，佯装在延津一带渡河，把袁军主力吸引过去；然后派出轻骑飞奔白马，打他个措手不及。袁绍果然中计，大将颜良被杀，白马之围迅速被解。尔后，曹操采用诱敌深入之计，在延津南坡又打了个伏击战，袁军的先锋官文丑也成了刀下之鬼。袁绍损兵折将，仍对曹操穷追不舍，一直追到官渡。由于兵力相差悬殊，曹操布好阵势，守营不战。日子一久，曹军的粮食越来越少，而袁军的粮食却

从后方源源运来。袁绍派大将淳于琼率兵万余押运军粮，并把大批军粮囤积在离官渡40里的乌巢。曹操得到这个密报后，留下曹洪守城，亲率步骑兵五千余人，打着袁军的旗帜，连夜向乌巢进发。沿途每遇袁军查问，便说是奉袁绍之命增援乌巢的，对方皆信而无疑。曹军到了乌巢，如同兵从天降，杀死守将淳于琼，围住粮囤，四面放火，把所有的粮草烧得一干二净。驻守官渡的袁军将士一听，无不惊慌失措。两员大将张郃和高览见袁绍大势已去，急忙率部投降。曹操乘势率军猛攻，袁军四下溃逃。袁绍与其子袁潭逃走时，连盔甲都未及穿戴，身边只剩下八百轻骑。官渡之战，袁绍主力被歼，从此便一蹶不振。

乘天下大乱，北部的少数民族乌桓经常侵扰汉境。袁绍病死后，与其交往甚厚的辽西单于蹋顿，多次派兵袭扰汉郡，想让袁绍之子袁尚重振旗鼓，光复旧土。曹操为了统一北方，于207年决定发兵攻打乌桓。五月，兵至无终。正值雨季，沿海的道路无法通行，乌桓又派兵扼守住其它路径，军队难以前进。曹操得知，东出庐龙口，越过白檀之险，便可进入敌兵空虚之地。于是，曹操命令部队后撤，并让人沿途在树木上刻字：“如今大暑，道路不通，待到秋冬，我军复来。”乌桓的骑兵见此，对曹军的退去深信不疑。殊不知，曹操已率军上徐无山，劈山填谷五百余里；经白檀，过平冈，穿鲜卑庭，直逼柳城。乌桓这时才发现，曹军已经大兵压境。蹋顿和袁尚兄弟，以及辽西单于楼班、右北平单于乌延等，急忙率领数万骑兵猛扑上来。敌众我寡，陪伴曹操的臣将不免有些畏惧。曹操虽知形势危机，但他镇定自若，登上白狼山远眺，见敌阵不整，料知缺乏统一指挥，各部之间难于协调作战，遂果断下令，张辽为前锋，率众兵猛击敌军。敌军各部果然自顾不及，皆溃不成军，大败而逃。蹋顿被斩，降者二十余万众。辽东单于速仆丸和袁尚兄弟投奔辽东太守公孙康，所率骑兵尚有数

千。曹操说：“我要让公孙康将袁氏兄弟的首级送来。”不但没有进军，反倒退还柳城。不久，又率兵返回。果然，公孙康送来了袁氏兄弟的首级。众将不解，曹操说：“公孙康向来畏惧袁氏兄弟，我如果当时急于动兵，他们就会合力抵抗；我如果按兵不动，他们就会彼此相图，势在必然啊！”至此，曹操平定了多年引发局部战争的北部乌桓，且又消灭了袁绍的部分残余势力，基本上统一了北方。

208年，曹操为了统一东南地区，发动了历史上有名的赤壁之战，但是他失败了。既然暂时无法统一东南，关中又成了曹操的心腹之患。他早就看出，关中的马超、韩遂等有反叛之意。于是，曹操派兵西进，讨伐钟繇，关中诸将果然生疑，马超、韩遂等立即举兵反叛，集兵十万，拒守潼关。曹操闻讯大喜，他之所以兴兵西进，正是为了逼迫马超速反，以便名正言顺地讨伐。曹操亲自率军征伐马超。兵临潼关后，曹操最为担心的是否能够渡河，一见要津渡口兵力空虚，急令徐晃、朱灵二将率步骑兵四千人渡过蒲阪津，在河西安营扎寨。随后，曹操率兵在潼关北渡河。马超见势不好，只好退守渭口。曹操为了迷惑马超，频繁遣将，四设疑兵，弄得马超不知所措。其实，曹操已派兵乘船秘密入渭，趁夜架起浮桥，在渭南分兵安营。曹操料到马超发觉后，定然攻击渭南之营，命令在营外埋下伏兵。马超果然连夜攻营。曹军的伏兵猝不及防地勇猛杀出，马超大败。这时，马超派人向曹操求和。曹操先是不肯，后来居然满口答应。这不过是使马超放松戒备而已。马超等果然不修营筑垒。议和不久，曹操派兵奇袭马超军营，马超大败，逃奔凉州。至此，关中全部落入曹操之手，曹操统一了大半个中国。

219年，孙权打败关羽后，上书曹操，向曹操称臣，意在劝说曹操废掉汉献帝而自己当皇帝。曹操示其书对左右说：“孙权这小子，是想把我置于炉火上烤啊！”群臣也都劝

他称帝，他说：“若天命如此，那我就当个周文王吧。”其意甚明，他本人不想称帝，但希望其子能做帝王。220年，66岁的曹操死于洛阳军中。曹操是当时伟大的军事家，征战30余年，统一了大半个中国。他还是当时第一流的政治家，抑制豪强之策，屯田增产之举，都显示了他非凡的才能。他还是当时第一流的诗人、艺术家，促进了建安文学的兴起和发展。尽管他有杀人过多等罪过，但他仍不失三国时期的一个伟人！

（易 行）

## 荀 攸

荀攸（公元157—214），字公达，颍川颍阳（今河南许昌）人。三国时期政治家、军事家曹操的著名谋士、军师。他智慧超群，谋略过人，辅佐曹操征张绣、擒吕布、战袁绍、定乌桓，为曹氏集团统一北方、建功立业，做出了重要贡献。

荀攸生在东汉末年的一个屡出达官显贵的士族家庭。祖父荀昱，字元智，官达广陵太守；父亲荀彧和叔伯荀彧也都做过州从事。幼年的荀攸就受到很好的教育，并显示出了胜于常人的聪明才智。据传，荀攸小的时候，不慎被酒醉的叔父荀衢误伤了耳朵，叔父事后十分后悔。他为了不使叔父心中难过，出入玩耍时，总是注意不让叔父看见受伤的耳朵，并从不对外人说起耳伤之事。荀衢知道后，对侄儿善解人意的聪明巧慧惊异不已。少年的荀攸，不但聪明颖悟，而且勤奋好学。不久他学贯古今，满腹经纶，成了家乡杰出的名士。大将军何进当政时，征请海内名士20余人进京，颍川郡就推荐了荀攸，荀攸进京后被任为黄门侍郎之职。

汉中平六年（公元189年）四月，汉灵帝驾崩。14岁的少帝刘辩即位，何太后临朝。何太后的哥哥何进以大将军参录尚书事，控制朝政，并依靠袁绍、袁术兄弟，共同谋诛干预朝政的宦官。因何太后不同意尽除宦官，何进乃接受袁绍的建议，召并州牧董卓

领兵入京。早有野心的董卓进京后，废少帝为弘农王，立刘协为帝（献帝），废杀何太后，自任相国，将朝政控制在手中。董卓掌权后，为所欲为，对民众一味掠夺残杀。种种暴行引起人民的强烈不满和有识之士的激烈反对。当此之时，在京任黄门侍郎的荀攸再也按捺不住心中的义愤，发誓定要除贼报国，解民倒悬。他与好友议郎郑泰、何颙，侍中种辑、越骑校尉伍琼等密谋：“董卓无道，甚于桀纣，天下皆怨之……今直刺之以谢百姓，然后据骹、函，辅王命，以号令天下，此桓文之举也。”于是，他冒着杀身灭族之危险，又具体谋划了暗杀董卓的步骤。在事情即将准备就绪时被发觉，何颙、荀攸被捕入狱，并穷追余党，准备一网打尽。荀攸虽银铛入狱，却仍然言词激昂，饮食自若，横眉冷对，凛然不可犯。

初平三年（公元192年）四月，司徒王允、中郎将吕布等密谋刺杀了董卓，天下人心大快，荀攸这位除奸报国的志士也即刻获释。荀攸出狱后，弃官归家。但不久又被官府召回，迁任城令，后又任蜀郡太守，在赴任途中因道路受阻，不能通过，只得暂住荆州，等待时机。

建安元年（公元196年），曹操接受谋士荀彧的建议，亲自到洛阳迎汉献帝迁都许昌。并用皇帝的名义任命自己为大将军，封武平侯，成了中央政权的实际把持者。为了扩大势力，大展宏图，曹操急需网罗大批人才。荀彧就向曹操推荐了侄子荀攸等一批名士。荀攸到许昌，被曹操任命为汝南太守，后又调任尚书。曹操见到荀攸后，立即向他请教天下大事，认识到他确是一个智谋之士，非常高兴地对荀彧等人说：“公达是个非凡之人，我能有机会同他计议大事，统一天下还有什么困难呢？”于是复又任命荀攸为军师，把谋划军机的重任交付于他。

建安三年（公元198年），曹操率军征讨张绣，军师荀攸随军参划，他分析并建议说：“张绣与荆州的刘表联合，互为依靠，其势

力尚强。但张绣是游军，军需粮草一切依靠刘表。时间一久，刘表担负不起这个沉重供应负担，双方势必乖离，产生矛盾。我们不如缓军以待其变化。变化生则正为我用，即可乘机诱使张绣投降。如若现在发起急攻，刘表害怕势孤，必然援救。两军相会，其势难破。”荀攸指出，对付张绣最好的办法是：暂缓出兵，诱其投降。曹操没有接受荀攸的正确意见。三月，兵至襄城，向张绣发动进攻，张绣果然求救于刘表。刘表害怕势孤，遂出兵救援，直插曹军背后。五月，曹操腹背受敌，只好退兵。在这种前后受敌、十分危急的情势下，荀攸并不惊慌，又为曹操设下奇计。曹军夜间凿开一条地道，把辎重装备全部运了出去，并设下奇兵埋伏。天亮后敌军以为曹操逃跑了，倾巢来追。埋伏下的奇兵从天而降，一举获胜，挽回了不利的战局。

建安三年（公元198年）秋，曹操决定东征吕布。有的将领不同意，认为刘表、张绣在后，远征吕布，恐怕有危险。荀攸不这样认为，他说：“刘表、张绣刚受打击，势必不敢再动。吕布骁猛，又仗恃袁术相助，如果任他纵横于淮水、泗水之间，一些豪杰必然响应。现在乘他刚刚反叛，众心不一之时，前去攻打，一定能够成功。”曹操认为荀攸的分析极是，于是亲自率军征讨。十月，攻下彭城。吕布退守下邳。曹军将下邳团团围住。曹操见久攻下邳不克，顿生烦恼，加之军队连战不休，将士疲惫不堪，粮草给养供应困难，就准备班师回朝。荀攸听说曹操要在这个关键时刻撤兵，忙力劝曹操不可。他和另一位谋士郭嘉一同劝说道：“吕布有勇无谋，现在连吃败仗，锐气早已衰竭。三军以将为主，主将气衰则军队无奋斗之志。陈宫虽有智谋，但划策迟缓。现在乘吕布气衰未复，陈宫谋划未定，我军一鼓作气，猛进急攻，则下邳城可拔，吕布可擒。”曹操听罢，觉言之有理，遂率军继续攻城。荀攸、郭嘉又献一计：用泗水、沂水，淹灌下邳城。顿

时下邳城被泡在数尺深的大水中。城中军民见已无生路，遂无心守城，各自逃命去了，曹操占领了下邳城。

汉建安五年(公元200年)，袁绍出兵10万，矛头直指许昌。曹操所置的东郡太守刘延告急。当时集结在官渡的曹军只有三、四万人，要同对方硬拼是不行的。荀攸说：“我军兵少，面临强敌，正面交锋恐怕不易得手，须分其兵，削其势方可取胜。曹公您领兵可直向延津，不要暴露出救援白马的意图。至延津后则装着强渡黄河的样子，似乎要进兵河北，直捣邺城。袁绍必然分兵西应，阻止我军渡河。然而我们却拨马东向，轻兵突袭白马。出其不意，攻其不备，则颜良可擒，白马之围可解。”曹操赞同这一声东击西的方案，亲自引兵先向延津。袁军果然中计，大将颜良被斩，解了白马之围。袁绍发现中计，又损失了一员大将，十分恼火，便下令过河追击曹军。袁绍追至延津以南，与曹操相距甚近，曹操全无惧色，反而停下来观察敌人的动向。见敌骑兵渐渐追近，反命令骑兵解鞍放马，故意把辎重车辆丢在大路两旁。诸将担心曹操的安全，纷纷劝曹操迅速回军。荀攸笑道：“正好诱敌，何必离去？”曹操望着他会意颌首。袁军大将文丑率兵来到，见曹军物资满地，争相抢夺，乱成一团。曹操遂率领骑兵600，趁势杀出，阵斩文丑，大败袁军。

白马、延津之战后，两军在官渡相峙数月，军粮将尽，应尽快与敌决战。荀攸向曹操献计，用袭击袁绍军粮的办法争取主动。他根据情报掌握了袁军运输军粮的线路和时间，派兵焚烧了袁军几千车粮草。不久，袁绍的谋士许攸来降，又密报袁绍在乌巢屯有1万多车粮食。曹众将怀疑是阴谋，唯有荀攸和贾诩认为是实话，劝曹操去偷袭。曹操亲率精兵连夜偷袭，果然袁军毫无防备，于是，阵斩淳于琼，火焚了乌巢军粮。袁军张、高二将得知乌巢有失，知道大势已去，便向曹军投降。袁军两地失利，顿时大乱，曹军

乘胜追击，一举歼灭了袁军的主力。

官渡之战，曹操以三、四万人马，击败袁绍10万之众，大获全胜，主要是战术的胜利。而荀攸作为曹操的主要军师，正是以弱胜强战例的杰出谋划者，功不可没。

荀攸有着超人的智慧和谋略，不仅表现在政治斗争和军事斗争中，也表现在安身立业、处理人际关系等方面。曹操对此有一段精辟地概括：“公达外愚内智，外怯内勇，外弱内强，不伐善，无施劳，智可及，愚不可及，虽颜子、宁武不能过也。”可见荀攸平时十分注意周围的环境，对内对外，对敌对己，迥然不同，判若两人。参与谋划军机，他智慧过人，连出妙策；迎战敌军，他奋勇当先，不屈不挠。但他对曹操、对同僚，却注意不露锋芒，不争高下，把才能、智慧、功劳尽量掩藏起来，表现得总是很谦卑、文弱、愚顿、怯懦。荀攸大智若愚，随机应变的处世方略，虽有故意装“愚”卖“傻”之嫌，但效果却极佳。他与曹操相处20年，关系融洽，深受宠信，从来不见有人到曹操处进谗言加害于他；也没有在一处得罪过曹操，或使曹操不悦。建安十九年(公元214年)，荀攸在从征孙权的途中善终而死。曹操知道后痛哭流涕，说：“孤与荀公达周游20余年，无毫毛可非者。”对他的品行，更是推崇备至，“荀公达真贤人也，所谓‘温良恭俭让以得之。’孔子称‘晏平仲善与人交，久而敬之，公达即其人也。’”被曹操赞誉为谦虚的君子和完美的贤人。

(丁晓明 周 越)

## 郭 嘉

郭嘉(公元170—207)，字奉孝，颍川阳翟(今河南禹县)人。在曹操麾下众多的智囊谋士中，他最为年轻，而且谋略奇特，很受曹操的器重，誉为自己的“奇佐”。

郭嘉少年即有大志，见识深远，平时注意结交豪杰，以待风云变幻。他长期闭门苦读，终于学得了广博的政治、军事和历史知

识，形成了自己独特的政治见解。为了显示自己的非凡才能和实现胸中的伟大抱负，郭嘉决定走出家门，投向纷纷攘攘的大千世界，寻觅明主，建功立业。

郭嘉投靠了曹操。两人纵论天下大事，曹操发现这个青年具有卓越的见识和才能，高兴地赞叹说：“使孤成大业者，必此人也。”郭嘉也庆幸得遇雄才大略的明主，喜不自胜地说：“曹公真是我想投奔的明主啊！”二人志投意合，相见恨晚。从此，郭嘉就做了曹操帐内的军事参谋，为曹操呕心沥血地谋划军机。

曹操在官渡之战前，一心想伐袁绍，但又担心自己的力量敌不过袁绍。郭嘉劝曹操借鉴刘邦用智，以弱胜强，打败项羽的历史经验，树立以智取胜的信心。他分析了袁曹双方实力的对比情况，判定“绍有十败，公有十胜，虽兵强，无能为也。”这十胜十败是：

其一为“道胜”。“绍繁礼多仪，公体任自然”。曹操安定社会的措施，合乎于自然规律；袁绍扰乱天下，民不聊生。这首先在“道”上取得了胜利。

其二为“义胜”。“绍以逆动，公奉顺以率天下”。袁绍出师无名，曹操可以奉汉献帝之名以令天下，名正而言顺，这就在“义”上胜过了袁绍。

其三为“治胜”。“汉末政失于宽，绍以宽济宽，故不摄。公约之以猛而上下知制”。汉朝末年治国的缺点是为政以宽，放纵豪强大族兼并土地。袁绍不仅没有纠正汉末弊政，反而对豪强大族更宽纵了。曹操则纠之以“猛”，注意抑制豪强，适时地打击其势力，这就在“治”上胜过了袁绍。

其四为“度胜”。“绍外宽内忌，用人而疑之，所任唯亲戚子弟；公外易简而内机明，用人无疑，唯才所宜，不问远近”。袁绍表面上宽宏大量，实际上气度狭小，任用了人又不信任，不放心，而且用人唯亲；而曹操贤明通达，只要是人才，便加以重用，这就在器量上胜了袁绍。

其五为“谋胜”。“绍多谋少决，失在后事；公策得辄行，应变无穷”。袁绍遇事迟疑犹豫，常常错过时机；而曹操处理大事非常果断，善于随机应变，这就在谋略和决策方面胜过了袁绍。

其六为“德胜”。“绍因累世之资，高议揖让以收名誉，士之好言饰外者多归之；公以至心待人，推诚而行，不为虚美，以俭率下，与有功者无所吝，士之忠正远见而有实者皆愿为用”。袁绍依仗门第高，沽名钓誉，跟从他的都是一些只务虚名而没有实际本领的人；而曹操以仁义和诚心待人，自己严谨俭朴，赏赐有功的人却毫不吝惜，所以天下有才能并讲究实效的人都愿辅佐，这就在“德”上胜过了袁绍。

其七为“仁胜”。“绍见人饥寒，恤念之形于颜色，其所不见，虑所不及也，所谓妇人之仁耳。公子目前小事，时有所忽，至于大事，与四海接，思之所加，皆过其望，虽所不见，虑之所周，无不济也”。曹操发展生产，恢复经济，安定社会，惠在下民。而袁绍放纵豪强，贪暴无比，民不堪命，却好在些许小事上假仁假义。曹操的“仁”远胜于袁绍，因而深得民心。

其八为“明胜”。“绍大臣争权，谗言惑乱；公御下以道，浸润不行”。袁绍臣下争权夺利，听信谗言，为谗言所迷惑；曹操用人有方，谗言不行，内部团结，这就在“明”上胜过了袁绍。

其九为“文胜”。“绍是非不可知；公所是进之礼，所不是正之以法”。袁绍是非不分；而曹操善于以礼和法治国，是是而非非是谓“文胜”。

其十为“武胜”。“绍好为虚势，不知兵要；公以少克众，用兵如神，军人恃之，敌人畏之”。袁绍不懂军机，却喜好虚张声势；而曹操善于以少克众，用兵如神，具有杰出的军事才能，令敌人畏惧，这就在军事上胜过袁绍。

建安五年（公元200年），曹操北上官渡

同袁绍决战，用奇兵袭鸟巢，终于击溃袁军主力，取得了官渡之战的历史性胜利。

就在曹军和袁军在官渡相持阶段，后方空虚。孙策选择这个有利时机，定下“阴袭许昌，迎汉帝”的计划。他部署好军队，临江待发。消息传来，曹操集团“众闻皆惧”。因为孙策骁勇善战，又有名谋士周瑜辅佐，对曹操是一个极大的威胁。然而郭嘉认为孙策不足虑也，他料定孙策此举，难以成行。众人大惑不解。郭嘉解释并进而推测说：“孙策刚刚吞并江东，所杀的都是英雄豪杰。这些人手下都有一些敢死之士，会替他们的主人报仇。而孙策为人轻佻，缺少戒备，虽然拥有百万之众，但就象一个人在旷野里走路一样。如果遇到埋伏的刺客，只能一个人抵抗。依我看来，这个人必死于匹夫之手。”

众人听了郭嘉的预言，不禁半信半疑。信的是他分析的很有道理，疑的是孙策能否真的会“必死于匹夫之手”。但不久，这个似乎难以置信的预测，即为事实所证实：“策临江未济，果为许贡客所杀”。大家都为郭嘉料事如神而深为折服，赞叹不已。

建安七年(公元202年)，袁绍因官渡之败后积郁成疾，吐血而死。曹操利用袁尚、袁谭之间的矛盾冲突加剧的机会，渡过黄河北上征讨。曹、袁两军大战于黎阳城下，结果袁军大败，退回邺城。诸将因连战告捷，皆欲乘胜追击，一举攻下邺城。郭嘉此时却提出停攻、撤军，南征刘表的方案，众人大惑不解。郭嘉胸有成竹地解释说：“袁绍生前最喜爱此二子，究竟立谁为嗣，一直没有定下来。袁谭和袁尚势力相当，两人必定会争权夺利。如果我们进攻太急，他们必会团结一致对付我们，如果暂缓进攻，他们就会为争权而火并。所以我们不如掉头向南，假装去荆州讨伐刘表，以观他们的变化。待其内部发生变乱后，我们出兵击之，即可一举平定河北了。”曹操采纳了这个建议，遂于建安八年(公元203年)八月，下令南征刘表。当军队开到西平时，便接到袁谭、袁尚互相攻

伐，袁谭遣使前来求救的消息。曹操见二袁果然火并，心中大喜，立即出兵救援，将邺城包围。袁尚率主力回撤，遭曹军伏击，袁尚逃往幽州，邺城遂破。当曹操围攻邺城时，袁谭乘机占据了河北不少地方。曹操攻占邺城后，挥戈北进，消灭了袁谭。接着曹操率军进攻幽州，袁熙、袁尚逃奔辽西乌桓，曹军占领幽州。至此，郭嘉精心谋画的巧平二袁之计，全部实现。根据郭嘉的功绩，曹操封其为洧阳亭侯。

曹操平定河北后，当务之急便是远征乌桓了。远征乌桓并不是一件简单的事情。当时，刘备正依附荆州的刘表，一直在劝说刘表讨伐曹操，如果刘表在曹军远征乌桓之时，趁机进攻后方空虚的许昌，后果将不堪设想。诸将均不赞同，他们认为“袁氏兄弟，亡命之人，不足虑也。乌桓也不能为其所用。”郭嘉在一片强烈的反对声中，却极力赞同远征乌桓。他对曹操说：“曹公虽然威震天下，但乌桓凭着地处僻远，必然不作准备。乘他无备，来个突然袭击，一定可以取胜。袁绍生前即给过乌桓官民恩惠，同时袁尚、袁熙兄弟还在那里，他们的影响不可低估。现在青、冀、幽，并四州的百姓，只因迫于威力才归附我们，我们还没有给他们什么恩德。如果我们放弃北伐而进行南征，袁尚就会依靠乌桓的支持，召集袁氏的死党，伺机反攻。而乌桓一动，如果有人响应，就会促使蹋顿单于产生入侵的野心。那时恐怕青州、冀州又不是我们所有了。荆州的刘表不过是一个空谈家，他自知才能不如刘备，如重用刘备，恐怕控制不住；如不重用刘备，刘备也不肯真心实意为他出力。他们之间的这种复杂而微妙的关系决定了他们不会有什么大的作为。因此，我们虚国远征，刘表绝不会有大的举动，曹公不必多虑。”

郭嘉对远征乌桓的必要性、可能性、把握性的精妙分析，坚定了曹操的信心。建安十二年(公元207年)二月，曹军开始北征。郭嘉建议：“兵贵神速。现在要到千里以外袭

击敌人，辎重多，行动迟缓，如果他们得知消息，必做防备。不如留下辎重，轻骑兼程前进，乘其无备，发动突袭。”曹操信服，便轻装前进。待乌桓王得知曹军到了的消息，毫无防备，惊慌失措，结果被击得落花流水。曹军大获全胜，胡汉降者20多万人。

建安十二年(公元207年)，郭嘉跟随曹操出征乌桓回来后，因操劳过度而卧病不起。曹操亲临问疾，关怀备至。不料这样一位才华横溢，风华正茂的谋士，竟就此与世长辞，年仅38岁。曹操极为悲痛，深为惋惜：“上为朝廷悼惜良臣，下自毒恨丧失奇佐。”

郭嘉为曹操运筹帷幄11载，为他发展和统一北方的大业做出了重要贡献。他不但是三国时期曹操麾下的重要谋士，而且由于他在军事斗争和政治斗争中的高超艺术，为我国古代的智慧宝库也增添了丰富的内容。

(丁晓明 周越)

## 鲁肃

鲁肃(公元172—217)是三国时期“好为奇计”、“思度宏远”的智囊。字子敬，临淮东城(今安徽定远东南)人。

鲁肃生下来的时候，父亲就故去了，由祖母将他抚养成人。时值汉末大乱，他散财结士，他还变卖田地川赈济穷人，颇受乡亲的喜爱。他努力学习击剑骑射，并聚集青年讲武习兵。198年，作居巢长的周瑜，带领数百人拜访鲁肃，请求接济军粮。鲁肃家中还存有两囤米(一囤为一千斛)。鲁肃当即就指着一囤送给周瑜，留下了“指囤相赠”的千古佳话。

后来，鲁肃携带家乡老幼，带领数百青年勇士，到居巢投奔了周瑜。后又随周瑜渡江，投奔了江东的孙策。孙策遇刺后，其弟孙权统领其军。周瑜向孙权推荐了鲁肃，劝其对鲁肃加以重用，以成千秋功业。孙权当即召见了鲁肃，谈了一会儿，颇为欣喜。待等其他宾客退去，孙权唯独留下鲁肃，并设宴款待。孙权问他：“当今汉室倾危，我想建

立象齐桓公、晋文公那样的事业，不知您有何辅佐之策？”鲁肃说：“昔日汉高祖意欲奉义帝而未能成功，因有项羽从中为害。如今的曹操，犹如当年的项羽，将军怎能做出齐桓公、晋文公那样的事业呢？以我之见，汉室不可能再复兴，曹操亦不可能很快除掉。将军应该采取的对策，唯有立足江东以观天下之变。您现在已拥有如此实力，切勿低估自己。现在，北方的曹操被诸多纷扰所牵扯，无暇顾及江南，将军可以乘机剿灭黄祖，进伐刘表，完全占据长江，然后建号称帝王，以图天下，建立象汉高祖那样的基业。”鲁肃的此番答对，早于著名的诸葛亮《隆中对》七年。若冠以其名《吴中对》和《隆中对》相比，并不逊色几分。

诸葛亮提出占据荆、益二州，安抚西南各族，联合孙权，俟机北伐曹操，以图一统天下。刘备大体据此计划，建立了西蜀政权。鲁肃为孙权献出的立国大计，与《隆中对》的基本精神何其相似？只是各为其主而已。可以说，孙权以后的战略方针，与鲁肃的这个计划基本是吻合的。按照鲁肃的立国大计，荆州势在必夺。所以，鲁肃对荆州的情况，时刻都在关注。208年，占据荆州的刘表病死。鲁肃听说后，马上对孙权说：“荆州与我国相邻，地势险要，沃野千里，若占据此地，乃成帝王之资也。现在刘表刚刚病死，其二子又素来不睦，诸将各怀疑心。刘备又是天下枭雄，与曹操是仇敌，寄寓刘表，刘表妒其才而不重用。如果刘备与刘表的属下协心同力，我们就对其安抚，以结成同盟。如果他们之间矛盾重重，我们就设法夺取荆州，以成大事。我请求奉命去吊丧，并慰劳其军中诸将，同时说服刘备能联合刘表之众，同心协力，共抗曹操，刘备必然喜而从之。今不速去，恐怕会让曹操抢先的。”孙权极为赞同，立刻派他前往荆州。这时，曹操已经大举南下，迅猛异常，声威赫赫，大有一举统一江南之势。

鲁肃刚到夏口，听说曹操已经驱兵奔往



荆州。为了抢在曹操之前，鲁肃昼夜兼程。可惜，他刚到江陵，就传来消息：对曹军闻风丧胆的刘表之子刘琮，已投降曹操。刘备正向南撤退。鲁肃急忙前往迎之，与刘备在当阳县长坂见了面。鲁肃说他是奉孙权之旨，前来向刘备表示慰问之意。然后又问刘备准备去哪儿。刘备说他与苍梧太守吴巨有旧交，想投奔吴巨去。鲁肃说：“我家孙将军聪明仁惠，敬贤礼士，江东英豪，无不投附，现在已拥有六郡，兵精粮多，足能成其大事。依我看，您莫如推心置腹地与东吴结交，以求共图大业。吴巨不过是个凡夫俗子，您怎能以身相托呢？”刘备听后，非常高兴。鲁肃又会见了诸葛亮，因鲁肃与其兄诸葛瑾是知交，俩人也结成好友。

诸葛亮对鲁肃的意见更是赞同至极，因为他在《隆中对》中就提出了“外结好孙权”的基本方针，双方是不谋而合的。不久，刘备便进驻了鄂县的樊口。尔后，鲁肃和诸葛亮到达柴桑，面见孙权，详析天下变幻之势，力陈孙、刘联盟之力。孙权颇为高兴，进一步坚定了联刘抗曹之意。这时，曹操派人给孙权下来战书，对其进行威胁恫吓。孙权召集群臣商议对策，老臣张昭坚决对抗曹，而主张迎降，其他臣将也随声附和。唯独鲁肃一言不发。待等孙权出去更衣，鲁肃急忙尾随其后。孙权看出他有话要说，便问他有什么想法。鲁肃说：“我看这些人的主张，只能给将军带来危害，不足以与他们共商大事。现在，我鲁肃可以迎降曹操，将军您却不可以。为什么这样说呢？我鲁肃投降后，曹操根据我的官品和名声，还可以让我在他手下做官，乘牛车，有侍从，交游名士，时日一久尚可当上州郡之长。将军若降曹操，恐怕就无安全之地可以归依了。诚望您能早定大计，切勿听从众人所议。”孙权叹息道：“众人所议，甚失我望；独您之见，符合我意。”鲁肃又建议，速将前去鄱阳的周瑜调回，以作决策。

周瑜回来后，详细分析了战胜曹军的有

利条件，力主抗曹。孙权坚定了抗曹的决心，命周瑜为都督，鲁肃为参军校尉，率军三万抗击曹操。这便是历史上有名的赤壁大会战，结果是，曹操大败而北还。

鲁肃虽非赤壁之战的主帅，但他是吴国参战的重要决策人之一，是坚决主战派的首领。鲁肃之所以主战，敢战，并有战则必胜的信念，关键在于他力主联刘抗曹之策，并为付诸实施采取了积极的行动。他及时地争取了刘备，在战略上壮大了自己的力量，采取了主动。可以说，鲁肃在赤壁之战中作出了杰出的贡献。两年后，即210年，周瑜准备西取益州时，突然发病而死。临终前，他向孙权推荐鲁肃接替自己。孙权令鲁肃为奋武校尉，统领周瑜的部队。鲁肃先驻兵江陵，后兵驻陆口。鲁肃治军有方，“威恩大行”，部队很快就增加万余人。刘备的大将关羽镇守荆州，与鲁肃之兵相邻。关羽屡次制造磨擦，企图挤走鲁肃。但鲁肃“常以欢好抚之”，使双方矛盾不再扩大，维护了孙、刘联盟。215年，孙权派诸葛瑾向刘备索要荆州。刘备不还，还令关羽驱逐了孙权所派的官吏。孙权大怒，要用武力夺回荆州。东吴大将吕蒙率兵夺取长沙三郡后，刘备命关羽率军三万进驻益阳，并且亲自率军万余屯驻公安。孙权也亲临陆口坐阵，并派鲁肃率军一万进驻益阳。

孙、刘双方，剑拔弩张，随时即可爆发一场恶战。紧急时刻，鲁肃决定面见关羽，以求通过谈判解决争端，避免互相残杀。鲁肃的部将都担心会发生什么意外，劝他不要去。但是，鲁肃为了免除干戈，维护联盟，毅然决定冒着风险去会见关羽。双方将士都各距百步之外，鲁肃和关羽走到中间。鲁肃责问关羽为何不归还荆州三郡。关羽说：“赤壁一战，我家刘将军亲身作战，戮力杀敌，怎么能徒劳一场，连一块土地也得不到呢？”鲁肃说：“不然。昔日刘将军在长坂坡兵力单薄，智穷力竭，士气低落，想要远走他乡。我家主公念其身无处所，便借荆州之地以助



其度过难关。如今刘将军已经夺取益州，现在又想吞并荆州之土，象这种贪而忘义之举，恐怕凡夫俗子都不忍心为之，况且身为一班人马之主的刘将军呢？”关羽无言以对，回去禀报了刘备。刘备犹豫不决。恰在这时，传来了曹操率军攻打汉中的消息，刘备担心益州的安全会受到威胁，更担心那时孙权再趁机夺取荆州，使其陷入腹背受敌的境地，于是，便派使臣去东吴讲和。孙权也命诸葛瑾去见刘备，重结盟好。

在这场斗争中，由于鲁肃贯彻联刘抗曹之基本政策，冒险谈判，才避免了一场一触即发的战争。两年后，鲁肃病故，终年46岁。在《三国演义》和旧戏中，鲁肃的形象是很窝囊的。但仅从前述，就足以证明：鲁肃并非无能之辈，他“体貌魁奇，少年壮节，好为奇计”，他“思度宏远，有过人之明”。如同诸葛亮在蜀国始终贯彻联吴抗曹的方针一样，鲁肃在东吴，一直到死都坚决主张联蜀抗曹。真可谓：英雄所见略同。王夫之在《读通鉴论》中说：“在东汉末年的群雄斗争中，曹操挟天子以令诸侯，成功之因何在？在于群雄的自相诛灭，不能团结……结果，只剩下孙权、刘备两家了。这两家如再自寻干戈，前途很清楚，不是内部崩溃就是被曹操所灭。鲁肃和诸葛亮定计，合力抗曹，是和曹操争自身存亡。在当时情况下，这是唯一的出路。”

（易 行）

## 周 瑜

周瑜（公元175—210）是三国时期颇具“文武筹略”的英才。字公瑾，庐江舒县（今安徽舒城）人。

周瑜与孙策同龄，俩人交情甚厚。孙策之父长沙太守孙坚起兵讨伐董卓时，把家眷放在舒县。周瑜腾出一间朝南的大宅安顿其家，并登堂拜母，待孙策之母如亲母一般。孙策17岁时继承父业后，周瑜便随其左右，转战江东，不久便把丹阳、吴郡、会稽诸郡

拿下，成为独霸一方的割据势力。

周瑜24岁时，就被委以建威中郎将。因其年轻英俊，吴中人皆称其为“周郎”。200年，26岁的孙策遇刺身亡。其弟孙权继承父兄之业。周瑜临危受命，辅佐新主。曹操为了笼络孙权，用汉献帝的名义，封孙权为征虏将军兼会稽太守。次年，即202年，曹操为了控制孙权，令孙权“质子”。若质子，就等于降服曹操，必得唯命是听，否则儿子就有杀身之祸；若不质子，曹操则可借口发兵征伐东吴。孙权召集群臣商议，都犹豫不决。孙权便领周瑜来到吴老夫人面前议定此事。周瑜坚决反对质子，说：“质子一人，那就一举一动都要受到曹操牵制。既然受其所制，若曹操召将军入京都，看来也不得不去。如此受制于人，将军最高不过被封个侯王而已，仆从十余人，车数辆，马数匹，怎能与自在江东称雄相比呢？依我之见，不如不质子，慢慢观其变化。曹操如果想暴乱天下，必自取灭亡，焉能害人。”吴老夫人极为赞同。于是，孙权决定不质子。

周瑜之所以敢于如此劝谏，所依据的是他对当时形势的正确分析。当时，曹操虽击败了袁绍，但北方尚未安定，加之关中尚有马超诸将未平，曹操有后顾之忧，难于大兵南进。真若举兵伐吴，后方必起战火，吴军再与其竭力奋战，曹军势必腹背受敌，实属铤而走险。事果如此，孙权拒不质子，曹操亦未敢动兵。周瑜此举，对于稳固东吴政权起了相当重要的作用。六年后，即208年，曹操发动了意欲统一南方的战争，一路所向披靡，占领江陵后，遣使向孙权下了战书：“我奉汉帝之旨，讨伐罪臣，率军南征。我现带水军八十万，想和将军较量一番。”群臣闻此，莫不大惊失色。孙权急召周瑜。周瑜力挽狂澜，坚决主张抗曹，说：“我愿领精兵数万进驻夏口，保证能击败曹操！”

第二天，孙权命周瑜为都督，率3万水军去抗击曹操。兵至赤壁，便与曹军相遇。刚一交战，曹军就败下阵去，被迫撤到长江

北岸。周瑜率军驻在南岸。两军对峙，隔江而望。如何战胜曹操呢？部将黄盖献计说：“敌众我寡，我军难于与其相峙很久，如今曹军已把战船连在一起，首尾相接。我看，用火烧就能使曹军败逃。”周瑜决定火烧曹营，并且制定了一个周密的诈降计划。黄盖派人给曹操送去秘信，表示要投降曹操。曹操居然毫未生疑。黄盖叫士兵备好十条大船，每条船上都装满了干燥的芦苇和枯柴，并且浇足了油，外表裹好布幕使其不知船装何物，然后插起旌旗。另外还准备了一些快船，系在大船后面。这天，突然刮起东南风。黄盖令十艘大船驶在最前头，后面紧跟着快船。曹军官兵听说东吴大将来降，纷纷挤到船头和岸边观看。不料，离曹军水寨二余里，十条大船突然火起，愈烧愈烈，犹如十条火龙冲入曹军水寨。刹那间，火光冲天，烧了这船延及那船，尔后又蔓延到岸上营寨，曹军兵马当时就被烧死很多。周瑜一见北岸火起，马上带领精兵渡江进攻，杀得曹军四下溃散。曹操急忙带着残兵败将向通往华容县的小道上逃跑。周瑜沿水路乘胜追击，一直追到南郡。曹操的几十万大军死伤大半，只好退还。

赤壁之战时，曹操已经54岁，而周瑜只有34岁，比曹操足足小了20岁。可以说，这一大会战不仅是劣势之军打败了优势之军，被攻之师击溃了进攻之师，哀兵挫败了骄兵，而且是青年战胜了老将，在军事史上写下了光辉的一页。

曹操北还后，留下曹仁驻守南郡。周瑜率军与曹仁兵马隔江对峙。周瑜的部将甘宁，请求带兵先去夺取夷陵。夷陵在南郡西北百余里处，与南郡遥相呼应。周瑜深知，待到进攻南郡时，夷陵势必出兵救援，吴军就将腹背受敌。若拿下夷陵，使南郡成为一座孤城，击败曹仁也就容易些了。于是，他令甘宁出兵。甘宁率军袭击夷陵，很快就破城而入。曹操当然也知道夷陵失守的危害，急忙派出重兵包围了甘宁。甘宁忙向周瑜求

援。众将认为现在兵力有限，若再分兵去救甘宁，恐怕会顾此失彼，江陵大营会被曹军夺取。周瑜却亲自率兵速奔夷陵。曹仁未料到周瑜敢于分兵前来，且又来得如此神速，很快就被周瑜击败，逃回南郡。周瑜获战马三百余匹而归。周瑜数次率军攻打南郡，虽杀伤曹军不少兵马，但始终未能破城。

一次，周瑜亲自跨马出击，不料竟被曹军的流箭射中右肋。伤势很重，只好退还。曹仁闻听周瑜卧床不起，便率兵前来讨阵，意欲乘机夺取江陵。吴军将士见周瑜伤势严重，曹军又要攻城，难免有些惴惴不安。周瑜也确实伤得不轻，但城外的讨战之声入耳，营内的忧虑之色入目，他思谋半晌，强忍着疼痛起身下床，伤已痊愈般行走于军营。吴军将士见周瑜安然无恙，顿时士气大振。曹仁一听，惊骇得急忙退兵守城。周瑜伤愈后，再次率兵猛攻南郡，杀伤曹军甚多。曹仁见南郡朝不保夕，城破在即，慌忙败逃。周瑜终于占领了南郡。

周瑜本可率师凯旋，却接到孙权谕令，加任他为南郡太守，暂时驻守南郡。周瑜安然遵命，率军屯扎下来。曹操闻讯，以为有机可乘，便派人称“无能敌其才辩”的蒋干前来，妄图劝说周瑜归顺曹操。蒋干声称是以私人名义来拜访周瑜的。周瑜猜出了他的来意，但还是迎出门来。不过，周瑜不想给他游说的余地，刚一见面就点破了他的来意。蒋干看出再费唇舌也不济于事，便想及早归还。周瑜以礼相待，设宴挽留，席间讲明了“遇到知己之君”，就应“祸福与共”的道理。蒋干笑而无语，回报曹操说，周瑜乃雅量之人，无法使其移志。大破南郡后，孙权命刘备为荆州牧。然而，周瑜只把荆江南岸的土地分给了刘备。刘备嫌土地少，便直接去见孙权，要求把荆州八郡全部给他。

周瑜闻讯，立即上疏孙权：“刘备具有枭雄之姿，又有关羽、张飞熊虎之将，决然不会久屈人下。依我看来，应该让刘备迁到吴都，为其大建楼阁，并多选美女侍奉，让其

任意玩乐。再把关羽、张飞分派两地。然后，我选择时机将他们分别击破。如果多给刘备土地，那就等于养虎为患。又让刘、关、张三人聚在一起，岂不是使他们如蛟龙得云雨？刘备终究会背弃您的。”孙权未能采纳周瑜的意见。

刘备回去后，听说了此事，叹道：“天下智谋之人，所见略同啊！我当时去见孙权，孔明就劝我不能去，他所忧虑的也就在于此。但因情势紧急，我又不能不去，真是如履薄冰，险些丧于周瑜之手。”周瑜对此更是遗憾万分。但他吞并刘备的主张却一直不改。在他看来，刘备将来必是东吴统一南方的最强敌手。刘备现在居于东吴和西蜀之间，他无力侵占东吴，势必要打西蜀的算盘。西蜀号称天府之国。若让刘备抢先占据，东吴也只能偏安一隅，还能成其什么大业？几经思谋，周瑜亲赴京都，而见孙权，力陈夺取西蜀之利，请求率军西征。孙权赞赏此举。于是，周瑜还江陵，调集兵马，准备船只，筹划进军西蜀。可惜的是，途中忽患急病，西征未能如愿。周瑜临终前给孙权写信说：“我今短命而去，并不足惜。只可恨微志未展，便不能在将军手下尽忠效力了。如今曹操雄踞东吴之北，边疆难于平静；刘备寄寓东吴之旁，如同养只猛虎。天下终将如何，谁也无法断言。现在表面上似乎很平静，却是将军应该忧虑之时。”事情的发展，果然不出周瑜所料。周瑜死后的第二年，即211年，刘备便自领数万兵马进了西蜀益州。

10年后，即221年，刘备在蜀郡称帝，正式建立了蜀汉政权。难怪后人说：“使周瑜不死，先主(刘备)无处所矣！”周瑜的一生是短暂的，却是相当辉煌的。刘备屡受其害，却对其评价甚高，称他“文武筹略，万人之莫”。

(易 行)

## 吕 蒙

吕蒙(公元178——219)是三国时期勇而有谋的名将。字子明，汝南富陂(今安徽阜南东)人。十五、六岁时，就随其姐夫邓当上阵杀敌。邓当是孙策的将领。邓当死后，孙策令其统帅邓当的部属，拜为别部司马。200年，孙策遇刺身亡，孙权统领其军。鉴于当时军中有些将领不仅年轻，而且兵马很少，孙权打算予以整编，将其合并。

吕蒙当时仅22岁，兵马也不多，属于整编之列。吕蒙很不服气，虽然年轻且又兵力不多，但随孙策征杀江东，已历百战。他不想让自己的部属受人轻视，可是，孙权刚做新主，公开反对显然不妥，直言相劝又恐难奏效。左思右想，吕蒙想出了一个巧妙的规劝之策。他暗中借了一笔钱，购置了新的军装和绑腿，并让士兵们把武器擦拭一新。等到部队检阅时，他命令士兵一律换上新军装，扎上新绑腿，手持锃亮无尘的兵器，排着整齐的队伍列阵操练。真可谓士气高涨，军威赫赫。孙权一见，大喜过望，当时就改变了主意，不但不裁并吕蒙之部，反而下令给其扩充兵员。吕蒙将其所部巧妙地保存了下来，并得以扩编。事实证明，吕蒙的部队确实能征善战。后来，他率这支部队征讨丹阳，所向无阻。

208年春，孙权为了夺取军事要塞南荆之地，再次西征江夏太守黄祖。黄祖是员老将，此前两次西征均未告捷。此次，黄祖令都督陈就率水军迎战，孙权命吕蒙为前锋，率军出击。吕蒙勇健无敌，亲手斩杀了陈就。黄祖听说陈就被杀，弃城而逃，亦被擒杀。孙权兴奋地说：“此战能胜，关键在于吕蒙先斩陈就啊！”遂任吕蒙为横野中郎将。212年，曹操又南下进攻孙权。九月，吕蒙得到曹军欲来的消息后，立即向孙权建议，在濡须水口立坞，以抗曹军。“夹水立坞，状如偃月。”即：四面高中间凹的一种水中坞堡，可以停泊船只。许多战将都认为大可不

必。吕蒙说：“兵器有利时亦有钝时，打仗决不会百战百胜。万一两军突然遭遇，敌人步骑逼近，我们来不及赶至江边，怎能上得船去？如若造起水坞，便无此患。”孙权听罢，连声称赞，下令构筑水坞。

十月，曹操领兵向濡须进击，号称步骑40万，很快便攻破了吴军的西营。吕蒙随孙权率7万将士抵御，可谓兵力相差悬殊。吴军固有水上坞堡，西营虽陷，仍可固守。曹军攻之月余，吴军仍战船列阵，军伍整肃。曹操叹道：“生子当如孙仲谋（孙权字仲谋）。”他知道濡须水坞难破，只好退还。若无吕蒙立坞抗曹之计，吴军7万之兵恐难挡住曹军40万之众。

曹操知道皖城是进攻东吴的前线要塞，便派庐江太守朱光驻兵皖城，并令其大开水田，种植水稻。意欲时机成熟时，而兴兵攻吴。吕蒙当即看出此举甚为险恶。这不是在皖城前线就地屯粮吗？粮食增多，便可就地大量扩兵；屯积充足，亦可为曹军犯吴备下军需。吕蒙向孙权建议说：“若待稻田成熟而收之，其必扩充兵马，应该及早将其消灭。”孙权决定攻打皖城。然而，诸将主张修筑土山，多备攻城器具，然后强行攻城。吕蒙坚决反对，说：“筑土山，置器具，势必需要很多时日。待我们准备就绪，皖城守敌已经乘机修固了城防，敌人的援军也能赶到，皖城就难于攻取了。再说，我军乃乘雨季涨水之时驱舟而来，等水位下降，战舸难行，我军势必退路艰难，岂不危险？我看现在的皖城城池并不坚固，以我军之锐气，四面同时发起猛攻，无需多长时间就能将城攻破，可以赶在水位下降之前收兵而归，这才是全胜之道。”孙权当即决定，照此行事。

吕蒙担任进攻部队的主将，他亲自擂击战鼓，鼓舞斗志。吴军士气震奋，个个如龙腾虎跃般英勇杀敌。“侵晨进攻，食时破之。”凌晨发起总攻，到吃早饭时便将城攻克，实在神速。这时，曹军急速赶来的援兵已离皖城不远，闻城已破，只好退却。

吴军大获全胜，孙权对吕蒙愈加器重，任其为庐江太守。215年，荆州又成了孙权与刘备之间的突出矛盾。刘备攻占益州后，孙权向刘备索要荆州，刘备不给，反将孙权所派官吏一概赶走。孙权大怒，派吕蒙率军2万前去攻取长沙等三郡。吕蒙发兵之前，先给三郡的太守写了劝降信。长沙、桂阳二郡的太守望风而降，唯有零陵太守郝普守城不降。刘备闻讯，亲率5万大军赶到公安，并派关羽率3万人马赶往益阳，想要夺回失去的两郡。孙权针锋相对，亲自进驻陆口，命鲁肃率1万人马截击关羽。同时飞书急召吕蒙，令其舍弃零陵，驰援鲁肃。

吕蒙收到此信，思索再三，将信收起，并连夜召集将领开会，布置如何攻打零陵。翌日凌晨，准备攻城之前，吕蒙把郑玄之请来。郑是郝普的故交。吕蒙对郑说：“郝子太（郝普字子太）是想效法世上忠义之人，可惜没有认清形势啊。现在，刘备在汉中已被曹军包围。关羽在南郡，我家主公已亲率兵马来征讨，他也危在旦夕，哪有能力顾及郝子太这里呢？我军今天就要全力攻城，而且当日就能攻破。我估计郝将军现在根本不了解外面的情况，以为尚有援兵可待，所以才固守而不降。请您去见见他，向他陈述利害。”郑玄之见到郝普后，详细转述了吕蒙之意。郝普万没料到外面的情况如此糟糕，非常惊恐，当即决定投降。他请郑玄之先回复吕蒙，切勿攻城，他随后就出城投降。吕蒙一听，命令四员大将各领精兵百名，待郝普一出城，便进城占领四座城门，控制全城。不一会儿，郝普出城投降。当日，吕蒙带着郝普，率军急援鲁肃。吕蒙既未误救援大计，亦忙里偷闲，巧妙地招降了郝普，夺取了零陵。

217年，鲁肃病死，孙权命吕蒙代替其职，驻守陆口。这样，驻守江东的吕蒙和西蜀的关羽形成了对峙之局。吕蒙早就看出关羽有吞吴之心，而且军居东吴上游，迟早会发兵进攻东吴。所以，他向孙权秘密献计说：“关羽君臣甚为狡诈，反复无常，不能以诚相待。

关羽之所以没有进攻我们，那是因为主公您的圣明，加上我们这些老将尚在。我们应该先击败关羽，全面控制长江，既长我声势，又易于防守。”

219年，关羽攻打曹军的樊城。吕蒙认为消灭关羽的时机已到，急向孙权上书：“关羽进攻樊城，留守部队却很多，显然是担心我抄其后路。我经常患病，请让我以养病为名回到建业。关羽听说后，必然把留守部队调赴樊城前线。那时，我军就可沿江昼夜急进，偷袭其空虚之后方，则南郡可破关羽可擒！”于是，吕蒙便伪称有病。孙权公开发布命令将其调回。关羽听说后，果然把一部分守兵调往樊城前线。孙权立即命令吕蒙为大都督，进攻关羽。吕蒙率精锐部队沿江而上，昼夜兼程。进到浔阳，便把所有战船都伪装成商船，选了一批精锐士兵躲在船舱里。船上摇橹的士兵也一律换上商人穿的白衣服扮作商人。这些白衣商船一批一批渡江，到达北岸。关羽的守兵一看都是穿白衣服的商人，就允许他们把船停在江边。

当天夜里，东吴的士兵悄悄地抢占了关羽的沿江哨卡，将其守兵全部俘虏，并严密封锁消息，使关羽毫无所知。驻守江陵的关羽部将麋芳、傅士仁，平素就嫌关羽轻视自己，再加上关羽出兵樊城后，他们供应物资不及时，关羽曾说“回来以后一定惩治”，他们都很恐惧。吕蒙利用这个矛盾，让部下给傅士仁写信，劝其投降。傅士仁、麋芳二将相继投降。吕蒙未战而夺取了江陵。不久，孙权又到了江陵。关羽不敢回夺江陵，只好退保麦城。孙权诱逼关羽投降，关羽一面伪称投降，一面带着十几个士兵逃遁。途中被吴军的伏兵擒获，不降，被斩。大败关羽，关键在于吕蒙装病而使其不备，白衣渡江而使其无防，每一步都棋高关羽一招。不久，吕蒙旧病复发，不愈而逝。孙权评价吕蒙说：“子明年少之时，我只以为他是个做事不怕困难、果敢有胆之人。及年岁大了，讲求学问，军事理论、策略都提高了。可以说仅次

于公瑾（周瑜），只是言谈英发稍差而已。至于计取关羽，又胜于子敬（鲁肃）。”《三国志》的作者赞誉吕蒙：“勇而有谋，断识军机。”“有国士之量，岂徒武将而已乎！”

（易 行）

## 司马懿

司马懿（公元179—251）是三国时期“兵动若神，谋无再计”的大智谋家。字仲达，河内温县（今河南禹县）人。

208年，曹操自任汉室丞相后，任命司马懿为丞相府的文学掾，并让他和其子曹丕游处。他和曹丕相处很好，私交甚厚。曹操极为赏识他，很快就将其转为主簿。渐渐，曹操见其“内忌而外宽，猜忌多权变”，又见其有雄豪之志，不禁深感忧虑。曹操对曹丕说：“司马懿并非甘居臣下之人，将来必然干预我家政权。”并有害其之意。但是，曹丕因与司马懿甚好，每每多加保护，才免其受害。司马懿看出曹操对他有疑虑，于是做出满足现状之态，只是勤于工作，对于权势则漠不关心，以此消除了曹操的怀疑和警惕。

219年，关羽率军攻打曹军的樊城。曹操派7万人马增援。结果是关羽水淹七军，蜀军直逼樊城城下。曹操此时到了洛阳，闻听此讯，颇为惊慌，以至打算迁都。司马懿提出了反对意见：“现在匆忙迁都，既是向敌人示弱，又使淮沔一带的人民骚动不安。刘备与孙权，外亲而内疏。关羽现在如此得意，孙权自然会十分不悦。我们可以派使臣去与孙权联络，请其抄关羽后路，樊城之围自然可解。”果不出司马懿所料，孙权表示同意。结果是关羽败走麦城，被杀身亡。司马懿借助东吴之力，解了樊城之围；利用孙权之手，杀了刘备的主将关羽。可谓一举两得。

220年正月，曹操死于洛阳军中，太子曹丕继位，封司马懿为河津亭侯，转丞相长史。226年，魏文帝曹丕死去，太子曹叡即位，史称魏明帝。封司马懿为舞阳侯，后又迁驃骑将军。227年，魏明帝下诏，令司马懿驻

军皖城，加督荆、豫二州诸军事。司马懿看出，驻兵上庸的孟达预谋反魏降蜀，便决定消灭孟达。为了充分做好准备，他双管齐下：一是设法麻痹孟达，使其犹豫不决，延缓起事；二是调兵遣将，火速征讨。司马懿怕孟达迅速起兵，给孟达写信表示对他的信任和寄以重托。孟达以为司马懿并未怀疑他，因而在起兵上就有些犹豫不决。司马懿赢得了时间，做好准备后，立即兵发上庸。他命令大军偃旗息鼓，昼夜兼程，沿途严密封锁消息，只有八天时间，就兵逼上庸城下。东吴、西蜀急忙派兵援救孟达。司马懿亦分出两支人马，阻击东西两线的援军，使其无法接近大兵围困的上庸一带。孟达万没料到，司马懿居然会率军前来，而且来得如此神速，援军又在途中受阻。他只好凭借地势险要，固守城池。上庸乃三面临水之城，孟达命令士兵在水中埋设栅栏，阻拦魏军。司马懿将全军分成八队，昼夜不停地轮番攻城，士兵泅水破栏，直逼城下。魏军攻势猛烈。孟达军心动摇，部将打开城门投降。孟达兵败被杀。司马懿俘获万余人而归皖。

231年春，诸葛亮第四次北伐曹魏。他率大军进天水围祁山。魏军的形势十分危急。魏明帝急调司马懿率军还击。司马懿断定，蜀军孤军深入，必因粮食供应困难而急于求战。所以，司马懿采取拖延战术，命令全军在险要之地筑好营垒，据险固守，拒不出战，不给诸葛亮以战机。蜀军终于因粮食缺乏而撤兵。司马懿分析道：“诸葛亮再出祁山，不会举兵攻城，而会寻求在野外作战。战场不是在陇东，而是在陇西。诸葛亮几出祁山都未能如愿，皆以粮草供应不足为恨。此次归去必然大量积存谷物。依我看，不足三年他是不会举兵来犯的。”果然，诸葛亮再次出兵是三年后，攻击的目标是陇西，采用的是野外作战。司马懿断定，诸葛亮虽经三年准备，但十万大军的补给仍然十分困难，故尔，诸葛亮还会象上次那样急于决战。所以，司马懿仍采取拖延战术，坚守不战，以

图拖跨蜀军后再大举反攻。诸葛亮对司马懿的意图十分清楚，知道司马懿抓住了自己粮食不足的弱点，于是便决定就地屯田养兵，准备进行长期战争。双方相持数月，诸葛亮屡次挑战，司马懿拒不应战。诸葛亮决定采用激将法，派人给司马懿送去一套妇女的服饰，意在讽刺司马懿：你如此胆小，还做什么将军？莫如回家做个“闺房小姐”！司马懿果然大怒，立即奏请魏明帝，欲与蜀军决战。魏明帝当然不能准许，并派大臣辛毗手持符节为军师，加以压制。此后，每次蜀军挑战，司马懿就要出征，辛毗便手持符节立于军门，不许出战。蜀军大将姜维闻之，对诸葛亮说：“辛毗持符节立于军门，看来，魏军不会出战了。”诸葛亮说：“司马懿本来就无心应战，之所以一再请求出战，不过是向其属下显示威严而已。将在军中，君命有所不受。假如能战胜我们，岂用千里迢迢向魏明帝请战？”诸葛亮无法诱使司马懿出城，而粮食又日益缺乏，难免心中烦闷至极，再加上过度操劳，不久便病死在五丈原。蜀军只好退兵。老谋深算的司马懿，未损兵折将就阻止了蜀军的进攻。

237年，辽东太守公孙渊叛变魏国，自立为燕王。翌年正月，魏明帝令司马懿远征辽东。司马懿预测，公孙渊认为魏军长途跋涉，粮草困难，将不能与其对峙很久，所以，他必然先扼守辽水，尔后死守襄平。公孙渊果然派出步骑数万，依辽水天堑修筑营寨，南北相连六、七十里，企图阻挡魏军前进。司马懿看罢地形，便命令一部分士兵大张旗鼓地猛攻敌军南翼。敌军害怕南部江防被破，急忙出动精锐部队救援。恰恰中了司马懿的声东击西之计。魏军主力乘机在北翼悄悄渡过辽河，逼近敌营，并且傍倚辽水做长围，围而不打。司马懿又令大队人马直奔襄平。敌军害怕襄平失守，急忙出兵来战，恰恰又中了司马懿的调虎离山之计。司马懿命令赴襄平的兵马回师猛击敌军，连续发动三次大规模进攻，三战三捷。公孙渊溃不成军，

退守襄平。企图诈降，被司马懿识破，将其击败而斩首。

239年正月，魏明帝死，其子曹芳继位，即魏少帝。魏少帝年仅8岁，司马懿和大将军曹爽奉命辅佐朝政。曹爽为了独揽朝权，竭力排斥司马懿。魏少帝继位一个月后，曹爽就使魏少帝下诏，提升司马懿为太傅，太傅是皇帝的老师，品位尊贵，但无实权。夺去司马懿的兵权后，曹爽重用朋党，专制朝政。但是，曹爽最为担忧的仍是司马懿，不断派人探查其情况。司马懿失权后，便采取以退为守之策，称病居家，藏形匿迹，表现出不问政事，与世无争。曹爽命亲信李胜借调往荆州之机，以向司马懿辞行为由，前去窥察动静。司马懿知其来意，便做了番逼真表演。李胜到了司马懿卧室，只见司马懿躺在床上，在两个侍女的服侍下喝粥，粥竟洒满了前胸。李胜说：“听说太傅旧病复发，没想到居然病得如此严重。我被委任本州（李胜是荆州人，所以称本州）刺史，特来向太傅告辞。”司马懿故作气喘吁吁状，说：“您去并州，并州靠近胡人，可要好好防范。我年老病重，危在旦夕，恐怕我们今后不能相见了。我的儿子司马师、司马昭，请您多加照顾。”李胜纠正道：“我是回本州，不是去并州。”司马懿问：“您不是去并州吗？”李胜又重复一遍：“我是回本州，回荆州。”司马懿这才装出刚听明白的样子。李胜将其所见所闻详告曹爽后，说：“司马公不过是尚有余气的尸体而已，不必再对他有何顾虑了。”曹爽闻此，更加肆无忌惮了。

249年正月，魏少帝拜谒高平陵，曹爽兄弟及其亲信皆随同前往。司马懿认为时机已到，发动了兵变。他和其子司马师、司马昭率三千武士，假传皇太后之旨，占领城门和武器库，废免了曹爽兄弟。然后，司马懿亲率太尉蒋济兵屯于洛水浮桥，派人去劝曹爽投降，并指洛水为誓，保证对曹爽等人仅是免除官职，决不加以杀害。曹爽信以为真，弃刀投降。然而，时隔不久，司马懿就以大

逆不道、妄图谋反等罪名，将曹爽兄弟及其党羽全部处死，并灭三族。司马懿运用韬晦之计，伪装有病，既保护了自己，又麻痹了对手，终于抓住战机，夺取了朝廷大权。两年后，司马懿病死于洛阳。

264年，司马昭自立为晋王，立其子司马炎为王太子。265年，司马昭死去，司马炎逼迫魏元帝曹奂让位，司马炎正式当了皇帝，称晋武帝，建立了晋军，追谥司马懿为晋宣帝。《晋书》评论司马懿说：“雄略内断，英猷外决，”“兵动若神，谋无再计。”南宋陈亮说：“魏之天下，非司马氏不能安也。”

（易 行）

## 诸葛亮

诸葛亮（公元181—234）字孔明，琅琊阳都人（今山东省沂南县南）。三国时期著名的政治家和军事家。

诸葛亮父母早丧，他少有逸群之才，英霸之器，17岁时就带着弟弟结庐于南阳郡邓县隆中，躬耕垄亩，隐居苦读，静观天下之变。当时，正值东汉末年，朝纲混乱，社会矛盾日益激化；特别是黄巾大起义的爆发，使东汉王室如大厦将倾，各地豪杰并起，拥地称雄，征战连年不已。曹操、刘备、孙权等地方势力也日渐壮大。其中刘备起兵征战已20余载，虽屡遭挫败，然兴汉之志犹未已矣。他听从荆州名士司马徽和谋士徐庶的建议，恭请诸葛亮出山，他三次亲往诸葛亮家拜谒，诸葛亮感其倾心请教，为他精辟地分析了天下形势，制订了立国方略。诸葛亮说：“自董卓以来，豪杰并起，跨州连郡者不可胜数。曹操比于袁绍，则名微而众寡，然操遂能克绍，以弱为强者，非惟天时，抑亦人谋也。今操已拥百万之众，挟天子而令诸侯，此诚不可与争锋，孙权据有江东，已历三世，国险而民附，贤能为之用，此可以为援而不可图也。荆州北据汉、沔，利尽南海，东连吴会，西通巴、蜀，此用武之国，而其主不能守，此殆天所以资将军，将军岂有意乎？”



益州险塞，沃野千里，天府之上，高祖因之以成帝业。刘璋暗弱，张鲁在北，民殷国富而不知存恤，智能之士思得明君。将军既帝室之胄，信义著于四海，总揽英雄，思贤若渴，若跨有荆、益，保其严阻，西和诸戎，南抚夷越，外结好孙权，内修政理；天下有变，则命一上将将荆州之军以向宛、洛，将军身率益州之众出于秦州，百姓孰敢不箪食壶浆以迎将军者乎？诚如是，则霸业可成，汉室可兴矣。”诸葛亮一席弘阔之论，涉及政治、军事、经济、地理、外交诸方面，概括了汉末形势，预示了政局发展的前景。分析精辟，见解独到，后来的历史发展果证实了隆中对策的正确。“隆中对”体现了诸葛亮的远见卓识和超凡的政治韬略，明代思想家李贺称赞说：“草庐数言，皆如左卷。”诸葛亮为刘备的诚挚所感动，遂出山助他创建大业，实现其安国济民之志。

公元208年，曹操统率20万大军，挥师南下，直取荆州。荆州牧刘琮、遣使投降。接着，曹军至宛，大军压境，移驻樊城的刘备方得知消息，他慌忙率众南撤，在当阳长坂坡被曹操追及，刘备仅余数十骑幸免于难，仓惶逃跑，途中先后同关羽的水军，刘琦的部队会合，退至夏口。喘息未定，曹操又将东下，刘备失势众寡，危在旦夕。当此之时，诸葛亮身使东吴，智献奇策，终以回天之术，扭转局势。

曹操领水陆大军沿江东下，气势鼎盛，矛头直指东吴。东吴朝野上下震惊，孙权也举棋不定。诸葛亮与东吴使者鲁肃来到柴桑，求见孙权。诸葛亮深知按常规去劝说孙权抗曹，成功的可能性很小，必须以智激之，方能奏效，于是他坦诚道出当时形势的严峻：“海内大乱，将军起兵据有江东，刘豫州亦收众江南，与曹操并争天下，今操芟夷大难，略已平矣，遂破荆州，威震四海。刘豫州战败失地，目前曹军趁胜直逼江东，愿将军量力而处之。”同时指出：在紧急关头孙权“外托服从之名，而内怀犹豫之计，事急而不断，

祸至无日矣！”

孙权听了诸葛亮的话，觉得话中有音，立即反问道：“苟如君言，刘豫州何不事曹乎？”诸葛亮采用激将法回答说：“田横，齐之壮士耳，犹守义不辱，况刘豫州王室之胄，英才盖世，众人慕仰，若水之归海，若事之不济，此乃天也，安能复为之下乎？”孙权听后勃然大怒，坚决表示不能让整个江东和10万甲兵，受别人管辖控制，决定打这场存亡攸关的大战。但是，孙权对战争前途仍顾虑重重。诸葛亮针对孙权畏敌如虎的心理，冷静地分析了孙、刘、曹三方的军事力量，说明联合抗曹必然取胜的前景。首先，“曹操之众，远来疲弊，连续作战，人困马乏，此所谓‘强弩之末，势不能穿鲁缟者也’，故兵法忌之。其次，曹军系北方之人，不习惯南方水土，容易生病，又不习水战，士兵质量相应下降。其三，刘琮的军队新降收编，来不及整顿，加之荆州之民附曹实及被逼，非心服也。因此军心不齐。而孙权若能派遣猛将，统兵数万，‘与豫州协规同力’，发挥两家之长，攻敌之短，定胜曹军。一旦曹操兵败，势必北还，东吴和刘备就大有施展的余地，三分天下，鼎足而立的局面便可赫然成型。”孙权听了孔明的分析和乐观预测，极受鼓舞，同意建立共拒曹操的“孙刘联盟”。公元208年11月，孙刘联军沿江而上，在赤壁，大破曹军。赤壁大战是我国古代以少胜多，以弱胜强的一次著名战役，这一战役为三国鼎立奠定了基础。赤壁之战胜利的基础是“孙刘联盟”，诸葛亮在成败的关键时刻，出使柴桑，正确分析战前形势和预测战后局势，说服孙权，促成了孙刘联盟的实现，为赤壁大战的获胜立下首功。充分显示了他“运筹帷幄之中，决策千里之外”的非凡智谋。

公元223年4月，刘备病逝，南中诸郡并皆叛乱，诸葛亮因蜀汉新遭大丧和夷陵之败，国力大伤，对南中叛乱暂时采取抚而不讨的策略，致力于“务农殖谷”，让百姓休养生息，发展生产。待时机成熟，于225年，亲率大



军南下，采用了“攻心为上，攻城为下，心战为上，兵战为下”的策略来平定南中之乱。诸葛亮为了使西南少数民族臣服于蜀汉政权，七擒七纵他们的首领孟获，恩威并施，终于使孟获心悦诚服：“公，天威也，南人不复反矣。”通过从心理上折服孟获，赢得了西南少数民族的民心。

取得平叛南夷的胜利后，诸葛亮采用“以夷制夷”的政策，任用当地少数民族首领管理当地百姓，不再派留官吏治理。有人不赞同，诸葛亮对他们解释说：“留人有三不宜。其一若留下汉族官吏，则需留兵，而所需军粮难以解决；其二战争刚刚结束，双方各有死伤，留汉人而无兵者，必成祸患；其三南中常有废杀之举，自嫌衅重，如留汉人，不敢相信。因此用夷人自治，使夷汉各族相安无事。”诸葛亮还选拔少数民族中威望甚高的首领到蜀汉朝廷中任职，增强了民族团结。

据郭冲记载，诸葛亮屯于阳平时，曾派遣魏延诸军领兵东下，而只留万余人守城。这时司马懿率军队20万抵抗蜀军，中途与魏延错道，径直行到距阳平60里的地方，想乘城内兵力空虚取之。诸葛亮也深知司马懿此来兵临城下目的，但若去追赶魏延，为时已晚；弃城而逃，也不能远遁。众人此时皆恐惧失色，不知该怎么办。而诸葛亮却镇定自若，教军中偃旗息鼓，各守城甫，不许妄自出入，不许高声言语；又令大开四门，每一门上用20军士扮作百姓洒扫街道。司马懿到了城下，看见如此模样，心中大疑。他素知诸葛亮生平谨慎，不曾弄险，今大开城门，疑有伏兵，于是引军尽皆退去，遂解阳平之围。

公元234年2月，诸葛亮统兵10万杀出斜谷口（今陕西周至），占据武功，在五丈原扎营。魏明帝派司马懿领兵迎战，双方大军在渭水之滨摆下战场。由于蜀军远道而来，粮草运输困难，司马懿坚壁拒守，以逸待劳。诸葛亮派人给司马懿送去女人服饰加以羞辱，想激怒他应战，但没能奏效。无奈只得

分兵屯田，以供军粮，为久驻之计。两军在渭南相持100多天。8月间，诸葛亮不幸因积劳成疾，一病不起，病逝于五丈原军中。他临死前不仅对国家政事有明确安排，还为蜀兵撤退作了周密部署。杨仪按他的遗嘱密不发表，组织蜀军一营一营缓缓而退。司马懿追赶上来时，蜀军鼓声大震，倒转旗帜，布成阵势，杀向魏军，中军大旗上书一行大字：“汉丞相武乡侯诸葛亮”，旗下数十员大将，拥着一辆四轮车，车上端坐着诸葛亮。司马懿大惊失色，以为又中了诸葛亮之计，忙下令收兵，魏兵竞相逃命，自相践踏，死者无数，司马懿仓皇奔归本寨。及至得知诸葛亮确切的死讯，已追赶不及了，使蜀军得以从容撤入谷中。蜀中人谚曰，这是“死诸葛吓走生仲达（司马懿字仲达）”，足见百姓对诸葛亮韬略和智慧钦佩至极。蜀军从五丈原撤走后，司马懿到诸葛亮驻军之处观看，只见营寨坚实牢固，军垒井然有序，不禁赞叹道：“诸葛亮天下奇才也。”

诸葛亮在其27年的政治生涯中，辅佐刘备、刘禅父子，开国济成。为兴复汉室，成就霸业，他立法施度，选贤任能，务农植谷，发展生产，联吴抗魏，南征和夷，直至54岁病逝于伐魏前线五丈原，一生鞠躬尽瘁，死而后已。他运筹帷幄的风采，宁静澹泊的气度，谦虚务实的作风，矢志不悔的献身精神和折而不挠的意志，体现了中华民族优秀的传统精神和品格。难怪历代皆推诸葛亮是全人，说他是中华民族智慧的化身。

（韦蔚）

## 孙 权

孙权（公元182—252），吴郡富春（今浙江富阳）人，三国时吴国的创建者。

孙权出身于一个军人家庭，其父孙坚、兄孙策都是东汉末年著名将领。在孙权10岁那年，其父孙坚助袁术与刘表争夺荆州，在与刘表部将黄祖作战时中箭身亡。从此，孙权便跟着兄长孙策，长年过军旅生活。孙权

自幼喜好读书，看了许多关于历史和军事方面的著作。他年轻，性格开朗，度量很大，遇事善于决断，常常为孙策出谋划策。孙策对于孙权的多谋感到惊奇，常自叹不如之。每次宴请部下，总是对孙权说：“这里在座的各位，将来都是你的将领。”东汉献帝建安五年（公元200年），孙策遇刺身亡，年仅18岁的孙权继承父兄之业，成为拥有会稽、吴郡、丹阳、豫章、庐陵、庐江等六郡（今江苏、浙江、安徽、江西、福建、上海全部或一部）的江东地区最高统帅。

孙权接手江东伊始，首先是着手安定因孙策去世而出现的动荡局面。孙策生前任命的庐江太守李术，此时不肯接受孙权管辖，杀害东汉朝廷委派的扬州刺史严象，拥兵自重，许多徘徊观望、企图另寻新主的孙策旧将也纷纷投靠于他。为稳定江东局面，孙权决定出兵攻打李术。出兵之前，孙权致函曹操说：“李术肆其无道，宜及早诛灭。现在我出兵讨伐他，他一定会编造借口向您求救。您现在位及重任，海内所瞻，希望您不要听他的一面之辞。”孙权此举，既为自己出兵讨伐李术制造了舆论，又封住了李术向曹操求救的后路。后来，孙权进攻李术时，李术果然向曹操求救。但由于孙权有言在先，曹操拒绝出兵，孙权终于顺利地平定了李术的叛乱，使江东的局面稳定了下来。

作为雄据一方的统治者，孙权极为精通御人之术。他上台之后，一方面注意安抚和团结老臣故将，依靠张昭、周瑜等人出谋划策，处理内外大事；另一方面，则广招贤士，收揽人才，以扩大自己的实力。后来成为东吴主要谋士的鲁肃，于建安三年（公元198年）同周瑜一起来到江东投靠孙策。孙策死后，鲁肃曾一度想要北返，周瑜阻止了他，并把他推荐给孙权。孙权与鲁肃相识后，与之一见如故，二人相坐对饮。酒酣之际，孙权问鲁肃：“今汉室倾危，我想建立齐桓公、晋文公那样的霸业，你打算怎样辅佐呢？”鲁肃答道：“据我所看，汉室不可复兴，曹操也不能

很快被除掉，为将军所想，唯有保守江东以观天下形势的变化。我们可以趁北方多事之机，剿除黄祖、进伐刘表，据长江天险为已有，以图建立帝王之业。”鲁肃的一席话完全说到了孙权心里，他采纳鲁肃的建议，确定了占据江南，坐观成败，相机夺取天下的策略。而鲁肃也愈发受到孙权的重用，成为东吴的重臣。

东吴大将甘宁，原为黄祖手下之将，曾与东吴军作战，射杀孙权部下凌操。后甘宁投奔东吴，周瑜、吕蒙引荐于孙权，孙权不念旧恶，待之同于旧臣。

正是由于孙权善于举贤任能，因而招致了一批有治国强兵之术的人才于自己帐下。孙权对他们委以重任，注意倾听他们的建议，发挥他们的才智，使得自己在江东的统治得以稳固，并开始实行对外扩张。

建安十三年（公元208年），甘宁建议孙权出兵西征江夏（今湖北东部），剿灭黄祖，继而攻占荆州（今湖北、湖南及贵州、河南一部），进取巴蜀。孙权对甘宁的建议深表赞许，但谋臣张昭却担心江东局面尚未稳定，若大军西行，恐生祸乱，因而对甘宁的建议提出疑议。甘宁对张昭说道：“国家把重任托附与你，就像刘邦对待萧何一样。你镇守后方却担心祸乱，这样怎能效法古人呢？”张昭是江东老臣，位于文臣之首，受甘宁如此指责，自然感到尴尬。孙权见状，便举起酒杯对甘宁说：“今年的征讨，就像这杯酒一样，托附给你了，你要勉励自己，筹建方略，打败黄祖，建立功劳，何必去计较张长史的话呢？”孙权此举，既褒奖了甘宁之勇气，又顾全了张昭的脸面，可谓是杯酒释怨，使将相同心为江东效力。就在这年春天，孙权率水陆大军西征黄祖，攻取江夏，进一步扩大了自己的势力范围。

正当孙权积蓄力量准备夺取荆州之际，雄据北方的曹操却抢先南下，兵临荆州。恰在此时，刘表病故，继任荆州牧的刘琮在曹操大军压境的情况下被迫投降。寄居在荆州

境内的刘备为避曹军锋芒，也率兵向江陵（今湖北江陵）撤退。鲁肃闻荆州之变，立即提出与刘备结盟以抗曹操，相机图取荆州的建议。孙权采纳之，并派鲁肃前往刘备处联络。此时刘备已处于危境之中，对鲁肃的到来自然大喜过望，亦派诸葛亮随鲁肃去见孙权。在鲁肃和诸葛亮的串连之下，孙权终于确定了联刘抗曹的战略。然而，在孙权的谋臣中，以张昭为首的一派力量出自于对曹操强大兵力的恐惧，反对联刘抗曹的战略，主张降曹，呼声甚高。在此当断之时，孙权听取周瑜、鲁肃的意见，果断地做出了联刘抗曹的决策。他对周瑜说：“曹贼欲废汉自立已经很久了，只不过是顾忌到袁绍、袁术、吕布、刘表和我罢了。现在其他人都已败亡，只剩下我了，我与曹贼势不两立。”说到这里，孙权拔出佩剑，砍去奏案一角，说道：“诸将吏敢有再言投降者，就同此案一样下场！”是年冬，孙刘联军在赤壁（今湖北蒲圻西北）与曹操会战，大败曹军，从而奠定了三分天下的局面。为巩固与刘备的同盟，利用刘备作为江东的屏障，孙权把荆州的南郡（今湖北西北部）借给刘备，还把自己的妹妹嫁给刘备，双方结成了秦晋之好。

建安十九年（公元214年），刘备进占益州，孙权派诸葛瑾向刘备索要荆州南郡。然而孙刘联盟是强敌压境形势之下双方相互利用的产物，待双方羽翼已成，曹操的威胁稍缓，孙刘便在荆州归还的问题上展开了激烈的斗争。建安二十四年（公元219年），镇守南郡的关羽攻克曹操所占的襄阳和樊城，威震华夏。就在关羽进攻樊城之时，孙权采纳大将吕蒙的建议，以治病为名，将吕蒙调回后方，启用当时名声不大，但颇具谋略的陆逊代之，以麻痹关羽对东吴的警惕。陆逊上任后，针对关羽骄傲自负的弱点，写信极力吹捧其军威，以书生后辈自称。关羽果然中计，将部分留守部队抽去增援襄樊前线，造成了后防的空虚。孙权闻讯，便任命吕蒙为大都督，率兵袭取江陵，继而攻占夷陵（今

湖北宜昌东）、秭归（今湖北秭归），切断关羽退路。是年末，关羽败走麦城，被吴军俘获处死，荆州各郡尽落孙权之手，其势力已扩展至三峡以东，长江以南的全部地区。

汉献帝延康元年（公元220年），曹操死，其子曹丕代汉称帝，建立了曹魏政权。其时孙刘联盟业已破裂，孙权为防止两面受敌，便向魏文帝曹丕上表称臣，接受了吴王的封号。

魏文帝黄初三年（公元222年），刘备为报关羽之仇，起兵伐吴。孙权慧眼识才，力排众议，拜陆逊为都督，率军西上迎敌。陆逊果然不负孙权所望，采取以退为进，后发制人的战略，火烧连营，大败刘备于夷陵。从此蜀汉一蹶不振，无力夺取荆州。孙权的势力较前更强，为称帝打下了基础。

吴黄龙元年（公元229年），孙权称帝，正式建立孙吴政权。三国鼎立之梦终成。吴嘉平四年（公元252年）孙权病故，终年71岁。

纵观孙权的一生，在政治上韬光养晦，时而联合刘备以拒曹操，时而屈居曹丕之下以击刘备，充分显示了一位政治谋略家的智慧。在军事上多谋善断，善用奇兵，创造出不少以少胜多的战例，充分显示了一位军事谋略家的计谋。然而，孙权作为一位谋略家的突出之处，还在于他知人善任，精通用人之道。他以诚待人，推心置腹，使张昭、周瑜等皆“委心而服事”；他“招延俊秀，聘求名士”，使鲁肃、甘宁等望而所归。他善于量才而用，不拘于论资排辈等陈腐观念，使周瑜、陆逊等年轻将领脱颖而出；他善于听取不同意见，然后加以比较，以做出最佳决策。其兄孙策临死之前，曾对孙权说：“举江东之众，决机于两阵之间，与天下争衡，你不如我；举贤任能，各尽其心以保江东，我不如你。”孙策的话恰好点出了孙权的最大优长，历史的发展也证明孙权不愧是一位具有雄韬大略，智勇兼备，而又知人善任的杰出人物。

（林 澍）

## 陆 逊

陆逊(公元183—245),吴郡吴县华亭(今上海松江)人。三国时期吴国著名儒将。

陆逊的家族,世代是江东高门大户。孙权掌管江东军政大权后,为取得江东世家大族的拥戴,就召年仅21岁的陆逊到将军官署当幕僚,后任东西曹令史、屯田都尉、定威校尉等职。孙权见陆逊年轻有为,有胆有识,就把兄长孙策的女儿许配给他,并多次登门与之商讨政务。这时丹阳地区的贼首费栈接受曹操授予的官职,鼓动山越人做曹的内应,陆逊便请缨前往征讨。两军对阵之日,陆逊见敌众我寡,便在山谷中增设军旗,密布战鼓和号角,乘夜进攻,鼓噪而前,以疑兵之计一举击败费栈。经过这次战斗,陆逊名声渐起,开始成为江东的一名重要军事将领。

东汉建安二十四年(公元219年),孙权为了从关羽手中夺回荆州,根据吕蒙的建议,采用了名声不太大的陆逊镇守陆口(今湖北嘉鱼西南)。陆逊到任后,马上给在襄樊前线与曹军作战的关羽写信,称自己是一个才疏智钝的书生,勉强担任要职,实在力不胜任。幸好同将军这样有威德的人为邻,所以乐于向你倾诉自己的想法,虽然未必合乎将军的策略,也算表达了我的心意,“倘明注仰,有以察之”。关羽见信有“谦下自托之意,意大安”,就放松了对陆逊的警惕,把部分留守军队调往前方。陆逊随后向孙权陈其力擒之要。孙权乃潜军而上,以吕蒙和陆逊为前部,很快攻占了荆州,关羽兵败被杀,演出了历史上著名的“走麦城”一幕悲剧。

蜀汉章武元年(公元221年),刘备不顾赵云等人的劝告,决计夺回荆州,为关羽报仇,亲率大军攻关,进驻猇亭。孙权数次求和不成,便力排众议,任命陆逊为大都督,起兵5万前往拒敌。陆逊见蜀军士气正盛,又占据有利地形,就避其锋锐,坚守不出。东吴的将佐,或是三朝老臣,或是王公贵戚,以为陆逊胆小怕事,皆不肯服从陆逊的指

挥。这时,刘备为引诱吴军出战,遣吴班率数千人于平地立营欲以挑战。东吴诸将都要求出击,而陆逊劝阻说:“此必有谲,且观之。”刘备见吴军不肯出来,只好引伏兵撤出山谷。这一来众将都十分钦佩陆逊。吴蜀两军相持半年多,蜀军“兵疲意阻,计不复生”,陆逊乃用火攻,连破蜀军40余座营寨,击败了刘备。战役开始之时,东吴的安东中郎将孙桓在夷道(今湖北宜都西北)被蜀军包围,向陆逊求救。陆逊手下的将领也都要求派兵救援,但陆逊不肯派兵,他对众将说:“孙桓深得军心,夷道城池坚固,粮草充足,不必忧虑。等我的计谋实现后,孙桓自然解围了。”等到陆逊击败刘备后,围城的部队果然奔逃溃散。孙桓后来见到陆逊时说道:“以前我真是埋怨你不肯救援,时至今日,才知道你部署作战自有办法。”这次吴蜀猇亭之战,又称夷陵之战,它和赤壁之战、官渡之战一样,是三国时期以少胜多的著名战例。当时蜀军数量众多,来势凶猛,处于优势,而陆逊采取诱敌深入,后发制人的策略,抓住蜀军士气低落的时机,以逸待劳,大举反攻,终于击败了蜀军,赢得了胜利。陆逊以其卓越的军事才能,高超的指挥艺术,在我国古代战争史上写下了光辉的一页。

夷陵之战后,吴蜀很快讲和,结盟通好,此后双方再没有发生战事。陆逊便率军与魏对峙。吴黄武七年(公元228年),吴鄱阳太守周鲂行诈降计,诳骗魏大司马曹休率军入皖,曹休虽然觉察到自己中了计,深以被骗为耻,但又依仗自己兵强马壮,便与陆逊交战。陆逊亲率中军,命朱桓、全琮为左右翼,三路并进,冲垮了曹休的伏兵,追逐败兵直到夹石(今安徽桐城县北)。此仗毙获曹兵万余人,牛马骡驴车上万辆,军用物资和器械完全缴获,可称之大捷。陆逊回师经过武昌,孙权命令左右侍从“以御盖覆逊”,并将自己用的珍品赐给陆逊,陆逊受到了前所未有的待遇。吴赤乌五年(公元242年),魏国的江夏太守逯式,经常出兵扰袭吴国的边境,然

与出身北方魏国的旧将文聘的儿子文休一向不和。陆逊得悉，行反间计，写了一封回答逵式的假信，说道：“得到来信深为同情，知道你和文休结仇已久，不能共存，想归附我方，我已将来信送呈我主阅察，你当暗中行事，迅速严密，出示具体时间，我好选出部众前往接应。”逵式见信后，惶恐不安，为表忠心，将家属送到洛阳，丧失了属下的信任，不久就被罢免了官职。

陆逊虽然身为外任官员，内心却牵挂着整个国家大事。他多次上书孙权陈述自己的主张。他指出：“实施刑法过于严厉苛细，下面犯法的人就多。维持统治不能单靠严刑峻法，武将文臣的犯罪，虽然由于他们本身不谨慎可以追究，然而天下现在还没有统一，应当谋求进取，对犯有小过失的人惩处宜宽，下面才能安定下来。人才是优先考虑的问题，只要品德还未堕落到不可救药的程度，未犯不能容忍的过失，还是应当重用这些人，让他们施展才能以报效陛下。这就是圣王忘掉臣过只记其功，而能成就王业的原因。”并认为，“夫峻法严刑，非帝王之隆业，有罪无恕，非怀远之宏观也。”同时，他还多次向孙权建议，减轻租赋，让百姓休养生息，指出：“国家以人民为根本，强盛源于民力，财力出自人民。民富国弱、民穷国强，是没有过的。所以建设国家，得民心就会治理好，不得民心就会乱，如果得不到好处，还要求竭力报效国家，也是难办到的。‘百姓各得其所，方得上天福佑’。”

吴赤乌七年(公元244年)，陆逊代顾雍为丞相。当时太子孙登已死，孙权又立孙和为太子。孙和的弟弟孙霸想夺取哥哥的太子之位，两人的势力不相上下。孙霸和支持他的一些大臣，就诬陷中伤孙和。陆逊担心会酿成内乱，上书说：“太子体现一系嫡承的原则，应有巩固的地位，鲁王是藩臣，应享有不同的荣耀和待遇，彼此各得其所，上下都能获得安宁。”他一连上书三四次，认为事关吴国安危，要孙权郑重考虑。孙权宠爱孙霸，

想废掉孙和，不仅不听陆逊的意见，还多次派遣宫中侍从谴责陆逊，还以亲近攀附太子的罪名，把陆逊的外甥顾谭、顾承、姚信冤枉地流放外地。太子太傅吾粲也因与陆逊通信而被办罪，入狱致死。见此陆逊非常悲愤，忧国死去，时年63岁。

陆逊对东吴政权忠心耿耿，工于心计，军事上知兵善谋，政治上思虑深远，立下了显赫的功绩，对于巩固和维持东吴政权起了很大的作用。孙权曾称赞他：“天资聪明，德行显赫，担任高级将领扶国息难，文治武功一身兼任，建立了犹如伊尹使汤兴盛，吕尚辅助周朝的功绩”，给了他极高的评价。

(林 澍)

## 王 导

王导(公元276—339)，晋朝琅玕临沂人。晋代著名的政治家，东晋王朝的实际创始人。

王导出生的琅玕王氏，一直是晋朝的名门望族，其祖父与父亲皆在朝中充任高官。王导素与琅玕王司马睿关系密切。西晋永嘉元年(公元307年)，司马睿被任命为安东将军，出镇建邺(后改建康，今江苏南京)，王导随同前往，任安东司马。西晋灭亡时，王导主动出谋划策，联合南北士族，拥立司马睿为晋元帝，建立了东晋政权。晋元帝历来缺少才能和声望，在晋朝皇室中又属弱支，势单力孤。他之所以能够取得帝位，在很大程度上是依靠王导的支持。因此，晋元帝对王导极为倚重，将之比为自己的“萧何”。王导官居宰辅，总揽国政，其从兄王敦都督江、杨六州军事，拥兵重镇，其他子弟布列显要，以至于当时有“王与马，共天下”之说。

王导做为东晋王朝的实际创始者和主要决策人，为东晋王朝得以在江南立足，偏安一隅殚思竭虑，费尽了心机。他在政治上采取的首要措施是“绥抚新旧”，即调解新来到江南的北方中原士族与旧居南方的江东士族之间的矛盾，使它们能够彼此相安，共辅东

晋皇室。早在东晋王朝建立之前，北方八王混战，匈奴、羯等少数民族起兵反晋，黄河流域已陷入一片混乱。当时有一部分中原士族和民众为避战乱，渡长江而南下，王导曾向司马睿建议选取北方名士百余人为官，使之有个安身之处。但许多名士在南下之初，对东晋的前途深表怀疑。他们见东晋朝廷微弱，势力单薄，便悲观失望，丧失了信心。有一次诸名士在长江岸边的一个亭子里宴会，一位名士感叹道：“风景虽好，可抬眼只见长江，不见黄河。”此言一出，不禁触动了大家的思乡之情，顿时哭声连成一片。王导正色劝导大家说：“此时大家正应为辅佐王室出力，恢复中原，何至于像楚囚一样相对哭泣！”名士们听后自觉惭愧，皆停哭认错，情绪始趋于稳定。事实上王导并无恢复中原的意图。不过他能以这样的话来稳定人心，鼓舞情绪，可见他在谋略方面有超乎他人之处。

王导要在江南建立以北方士族为骨干的东晋朝廷，得到南方士族的支持是其关键所在。由于西晋灭吴之后，南方士族遭受排斥，因而对朝廷一直不满。司马睿初到建康之时，南方士族对之不予理睬，过了好久，仍无人求见。此时恰好王敦来朝，王导顿时心生一计，对王敦说：“琅玕王仁德虽厚，名威尚轻，你的威风已振，应当有所帮助。”数日之后，司马睿出巡，王导安排王敦及其他北方名士和自己一起骑马随从。南方的士族见到司马睿行列威严，仪仗隆重，便以为司马睿定是北方士族推戴的江东之主，心中顿生敬畏之感，于是便相继跪拜于道旁。王导趁机对司马睿说：“古来想成就王霸之业者，莫不礼敬故老，虚心求教，以招揽贤俊，何况如今天下变乱、大业草创，更加急需人才。顾荣和贺循是南方士族的首领，如果将此二人招来，其余则没有不来的。”于是司马睿便派王导亲自去招顾荣、贺循，二人受宠若惊，应命而至。司马睿任命顾荣为军司马，贺循为吴国内史，凡军府政事，皆与之谋议。从

此，南方士族归附，成为东晋政权的一个组成部分。

南方士族虽归附东晋朝廷，但与北方士族之间仍界限分明，矛盾依存，王导为调解南北士族矛盾，不但在政治上两者兼顾，而且在经济上也注意保护两者的利益，以求得二者间的相对平衡。他一方面严格保护南方各级士族，特别是强宗大族，不许北方士族侵犯他们的利益；另一方面又实行“侨寄法”，在一些地广人稀的地区安置北方南逃的士族和民众，创立新的产业，并安排大量士族担任新建侨州、郡、县的各级文武官职，为他们提供了新的出路。“侨寄法”虽然扰乱了行政系统，加重对普通民众的剥削，但对安置流亡士族，缓和南北士族矛盾来说，不失为一条有效的措施。

王导在东晋政权中所起的重要作用，使得他的声望与地位日益显赫。大兴元年（公元318年），晋元帝即位时，竟要王导与之同升御床共坐，接受百官朝贺，王导力辞不就。一个开国之君，请一个大臣同坐受贺，可见司马氏的软弱与王氏势力的强大。

以王导为首的王氏家族势力的强大与发展，必然与司马氏皇权势力产生矛盾。晋元帝登位后，不满王氏的骄横，意欲削弱其势力，便重用善于逢迎的刘隗、酗酒放肆的刁协作为心腹，并暗中作军事部署，以对抗王氏势力，王导也因此而被逐渐疏远。在王氏和司马氏势力既要相互依存，又存在尖锐矛盾的复杂情况下，王导作为一位胸有城府、富于谋略的政治家，极为准确地把握住处理问题的分寸，较为妥善地处理了这一难题。永昌元年（公元322年），本有野心的王敦，利用自己手中掌握的兵权，以反对刘隗、刁协，替王导诉冤为借口，自武昌起兵，攻入建康。王导开始认为倭臣扰乱朝纲，同意王敦来“清君侧”。但当刘隗、刁协等人被杀逐之后，王敦还想进一步篡夺政权时，王导则坚决反对，出面维护帝室。王敦野心无法实现，只好退兵武昌。

永昌元年(公元322年),晋元帝死,晋明帝继位,王导辅政。王敦认为篡权机遇已到,便不顾王导反对,加紧图谋。晋明帝太宁二年(公元324年),王敦病重,便以其兄王含为元帅,以水陆军5万兵临建康城下,列阵于秦淮河南岸,威胁京师。王导在致信怒斥王含的同时,具体部署兵力坚决抵抗。在一日黑风高刮之夜,王导命将军段秀、中军司马曹浑率甲卒千余人偷渡秦淮,趁王含无备,于天明之时杀入其大营,大破王含军。王敦得报后,气急败坏,不久便病重身亡。王敦虽死,但谋反之名未废。而王导却以保卫帝室之功,以司徒进位太保,从弟王彬为度支尚书,以保王氏家族地位不衰。

由于东晋王朝初创时期所面临的特殊历史环境,在其内部存在着南方士族与北方士族的矛盾和王氏与司马氏之间的矛盾,如果不能调解这些矛盾使之相对平衡,东晋王朝的建立和发展都将是十分困难的。王导一生的事业,其主要方面就是调解这些矛盾。他收揽一批北方士族作为骨干,联络南方士族作为辅助;自己作为南北士族的首领,居于万人之上,又甘为忠臣,居于一人之下。他以自己权势和谋略,造成了东晋偏安江左的局面,这正是他一生始终所专注和希冀的目标。而在东晋及其后的南朝统治的300年间,我国南方经济发展,文化的发展更是远远超过北方,这是东晋和南朝在历史上所起的积极作用。就此而言,在创立东晋政权的过程中起主导作用的王导是功不可没的。

(攸 笛)

## 王 猛

王猛(325--375),青州北海郡剧县(今山东寿光东南)人。东晋时期前秦著名政治家和军事家。

王猛出生于我国古代历史上最为动乱的年代,东晋政权偏安江南,北方陷于十六国纷争之中。王猛自幼极富才华,学习十分刻苦,掌握了各方面知识,尤其是军事方面的

知识。但他的才华并不为世人所识,达官贵人无人瞧得起他。王猛对此不屑一顾,他隐居华山,拜师求学,潜心攻读,就像大鹏一样敛翅待立,静观风云变化而后动。

晋永和十一年(公元335年),前秦国主苻健去世,太子苻生继位。苻生残暴酷虐,杀人如麻,丧尽人心,而其弟苻坚素有经世济民之大志,喜结英杰,广招贤才,以图创一番惊天动地之伟业。王猛在他人介绍之下与苻坚相识,二人一见如故,谈及废兴之事,不谋而合。苻坚极为欣赏王猛的才华,便将他留在身边,为自己出谋划策。

晋升平元年(公元357年),苻坚在群臣协助下,一举诛灭苻生及其同党,自立为大秦天王,改元永兴。王猛被任命为中书侍郎,不久又转任始平县令。始平县位于长安(今陕西西安)西北,乃京师重要门户。长期以来豪强横行,劫盗充斥,社会秩序混乱,百姓叫苦连天。王猛到任后明法峻刑,澄善察恶,受到部分豪强恶吏的忌恨。一次,王猛将一奸吏鞭杀,被其狐朋狗党诬告,被收入狱中押解京师。苻坚闻讯后亲理此案。王猛在大堂之上坦然答道:“为臣所说治理安定之国可以用礼,治理混乱之国则必须用法。臣一心一意要为贤明之君翦除凶暴、奸滑之徒,现只杀掉一个奸贼,还有许多坏人尚未伏法,便以‘酷政’之名给我以惩罚,臣实在不敢接受。”苻坚听罢,沉思良久,最后对在场群臣感叹道:“王猛可真是管仲、张良一类的人物啊!”遂将其当场释放。由于王猛精明强干,执法不阿,政绩卓著,苻坚对其信任有加,一年之内,五次升迁,军国内外,事无巨细,莫不归其治之。王猛执政之后,整顿吏治,擢拔贤能;崇尚儒学,劝课农桑;废除胡汉分治之法,确立民族和睦国策。短短数年内,前秦国内百姓丰乐,兵强国富,出现了一派崭新气象。谈论及此,连苻坚也怀着戚淑的心情对王猛说:“你昼夜不懈,忧勤万机,我好象周文王得到了姜太公,可悠哉游哉度时光了。”



前秦立国之后，四面受敌，北有建都平城（今山西大同）的鲜卑族拓跋氏代政权；西有盘据于甘肃地区的汉族张氏前凉政权；东有立都邺城（今河北临漳西南）的鲜卑族慕容氏前燕政权；南有以建康（今江苏南京）为都的东晋司马氏政权。前秦虽四临强敌，但苻坚和王猛却丝毫没有偏安一隅，苟且偷安的想法。王猛的愿望是统一北方，为将来全国的统一打好基础；而苻坚则要“混一六合，以济苍生”，幻想完成统一全国的霸业。在统一北方的大业中，王猛不仅“运筹帷幄之中，决胜千里之外”，而且出将入相，亲自统兵，攻必克，战必胜，表现出卓越的军事才能和大将风范。

前秦建元五年（公元369年）四月，东晋桓温率军北伐前燕，连战皆捷。燕主慕容暉派人求救于前秦，并许以将虎牢（今河南荥阳汜水镇）以西之地割让于秦。苻坚召集群臣商议救燕事宜，群臣皆以昔日桓温伐秦，前燕见死不救为由，反对援救前燕，唯有王猛沉默不语。散朝之后，王猛密见苻坚，陈述利害。他说：“燕国虽强，然而并非是桓温的对手。如果桓温北上山东，进兵洛阳，收容幽、冀二州之兵，以并、豫二州之粮为军粮，陈兵于崤山、澠池，则陛下一统天下大事将成泡影。现在不如与燕国合兵一处以击桓温，桓温兵退，燕国也受重创，我们则可乘机夺取燕国，这不也是一件好事吗？”苻坚采纳王猛之计，出兵两万以救燕国。燕军在秦军配合之下，大败晋军，桓温狼狈而逃，从此一蹶不振。

东晋兵退之后，前燕撕毁割地之约。早存觊觎之心的前秦便以此为借口，在同年12月发兵3万，由王猛指挥讨伐前燕。在王猛指挥之下，秦军连克洛阳（今河南洛阳）、荥阳（今河南荥阳），留兵屯守后大军凯旋西归，前秦伐燕之役初战告捷。前秦建元六年（公元370年）六月，王猛再次受命伐燕。此次伐燕他兵分两路，先后攻克壶关（今山西黎城东北）、晋阳（今山西太原南），所过郡县无

不望风而降。燕军主帅慕容评闻报，丧魂失魄，不敢冒进，乃屯兵于潞水（今山西东流入河北、河南交界的浊漳河）之滨，企图抵抗秦军的进攻。10月，王猛率军进至潞水，与慕容评隔河相对。此时燕军号称30万，而秦军有相当一部分兵马留在新取之地，兵力与燕军相差甚为悬殊。慕容评认为王猛孤军深入，粮草接济困难，因而想以持久战拖垮秦军。而王猛则选择一日黑风高刮之夜，派一支奇兵绕至燕军大营之后，纵火焚烧其辎重，给燕军的后勤补给造成极大的困难。慕容评见持久战略未能得手，便求与王猛决战。决战之日，王猛率军破釜弃粮，大呼而进，在士气上占了上风。战至中午，燕军不敌，溃败而逃。秦军乘胜追击，大获全胜。慕容评竟单人匹马逃回邺城。

王猛击败燕军主力后，长驱而东，包围了邺城。他号令严明，官兵无人侵扰百姓；法简政宽，当地居民安居乐业。是年十一月，苻坚亲率精兵10万，赶赴邺城前线与王猛会师。前燕群臣见大势已去，开门迎接秦兵入城。燕主慕容暉仅率10余骑逃走，后被秦军追捕，前燕宣告灭亡。

前燕灭亡后，王猛与苻坚回首解决西北残余势力。他致信于前凉张天锡，引古论今，透彻地分析了天下大势和前凉的处境，语秦之德，道秦之威。张天锡见信后寝食不宁，最终向秦谢罪称藩。随后前秦又出兵巴蜀及其以南地区，基本上统一了北方，十分天下，秦已居七。

前秦建元十一年（公元375年）夏，王猛患病卧床不起。弥留之际，他用尽全身力气对苻坚说道：“晋朝虽然僻处江南，但为华夏正统，而且上下安和。臣死以后，希望陛下不可以灭晋为已企图。鲜卑、西羌才是我们的仇敌，最终将会成为我们的心腹之患。应该逐渐地消灭他们，以利于国家。”言毕而终。

令人感到震惊的是，仅仅8年之后，王猛临终之时所担忧的事情竟全部发生了。前



秦建元十九年(公元383年),符坚不顾群臣反对,悍然起兵进攻东晋,结果在淝水一战中一败涂地。王猛临终时再三叮嘱要除掉的鲜卑、羌族的上层分子,趁机拥兵自立,使北方割据局面再次重现,造成了历史的倒退。符坚也自食恶果,于建元二十一年(公元385年)被姚萇所杀。又过了9年,前秦终于灭亡。历史证明了王猛的远见卓识。

纵观王猛的一生,他择明主而从,跟随符坚出将入相,倾其文韬武略,使前秦在群雄之中崛起,为中国北方的统一做出了重要贡献。直到他即将告别人世之际,还以寥寥数语预见了历史的未来,足见其确实具有非凡的远见。他不愧是第一流的将相之才,中国古代史上的一代名臣。

(郑吉萍)

## 隋唐两宋谋略人物

### 杨 素

杨素(?—公元606),弘农华阴(今陕西华阴)人。北周与隋两朝名将,隋朝开国元勋。

杨素初露头角,是在北周武帝宇文邕亲政之时。他追随宇文邕灭亡北齐,征讨南陈,立下赫赫战功。北周宣政元年(公元578年)和大象二年(公元580年),周武帝、周宣帝先后病死,8岁的周静帝即位,外戚杨坚和大官僚尉迟迥之间为争夺朝廷大权展开了激烈的斗争。杨素坚决站在杨坚一边,为打败尉迟迥立下汗马功劳。北周大定元年(公元581年),杨坚篡位,改国号为隋,是为隋文帝,杨素以佐命之功,进位上柱国,后又晋升为御史大夫,成为隋文帝的股肱之臣。

隋朝建立后,隋文帝志在统一全国。开皇五年(公元585年),文帝命杨素为信州(今四川奉节)总管,委其以伐陈重任。杨素加紧训练水师,建造可容百人的“黄龙船”和起楼5层,安置6个巨大拍竿,可容士兵800人

的“五牙”大船,经过两年的努力,建立起一支拥有几千艘舰船的强大水师,为渡江伐陈做了充分的准备。

开皇八年(公元588年)十月,隋文帝兵分八路,发动伐陈战争。杨素统率巴蜀水师自信州顺流而下,通过瞿塘峡、巫峡,进抵宜昌以西的狼尾滩。狼尾滩地势险要,陈朝将领戚昕率战船百艘、士卒数千人在此凭险固守,隋军不少将士束手无策,产生畏难情绪。杨素到此,观察形势后对左右说道:“胜负大计,在此一举。若白日进攻,敌人将见我方虚实,加之滩险流急,与我不便,不如以夜色为掩护,打他个出其不意。”当夜,杨素亲率黄龙船数千艘,顺流悄然而下,同时派手下大将率骑甲步卒两岸夹击陈军。陈将戚昕根本没有料到隋军竟在如此险要之处发动夜袭,结果被打得措手不及,狼狈而逃。隋军突破狼尾天险,顺流而下,舟舳覆盖江面,旌旗漫卷,铠甲生辉。杨素端坐大船之上,容貌雄伟,陈军望而大惊失色,皆曰“此公真乃江神也!”

翌年正月,杨素率军进抵岐亭(今湖北宜昌南津关),与陈军40余战,砸烂3条拦江铁锁,闯过西陵峡,直下汉口(今湖北汉口)。此时隋将贺若弼、韩擒虎亦在长江下游渡江,攻入建康(今江苏南京),活捉陈后主,隋朝统一大业始告完成。由于杨素在伐陈战争中战功卓著,因而在凯旋长安时,隋文帝任命他为荆州总管,晋爵为越国公,不久又提升为纳言。开皇十年(公元590年),杨素再迁内史令,一跃而居宰相之位。

隋朝虽一统江南,但人心未顺,民变蜂起,刚刚统一的局面遭到严重破坏。开皇十年(公元590年),隋文帝下诏任命杨素为行军总管,率军南下平乱。是年11月,杨素率大军由广陵(今江苏扬州)出发渡江南下,迅速攻克京口(今江苏镇江)、晋陵(今江苏常州)、无锡(今江苏无锡)等地,挥师直插钱塘江。当时叛乱首领高智慧占据钱塘江东岸百余里之地,拥有战舰千余艘,势力甚为强

劲。杨素采纳部将来护儿的建议，让他率数千精兵，乘数百艘小船，在夜色掩护之下偷渡钱塘江，偷袭高智慧大营，乘风纵火，火焰冲天，叛军见此情形，胆战心惊，兵无斗志，杨素乃指挥大军抢渡钱塘江，奋勇冲杀，叛军大败，高智慧率残部逃入海中。杨素遂派部将史万岁从小路穿山越岭，转战千余里，自己则率主力自余姚（今浙江余姚）浮海南下，转战温州，大败另一叛军首领沈孝彻，然后折向天台（今浙江天台山），追歼残敌，战斗达百余次之多，高智慧被迫逃入闽地（今福建）。

隋文帝见杨素久劳于外，此时江南大局又已基本平定，遂传令他回长安休息。杨素认为残余的叛军尚未彻底肃清，如不及时歼灭，将来恐为后患，于是他再次请缨出征。隋文帝批准了他的请求，杨素则立即赶往会稽（今浙江绍兴）前线。此时泉州叛军首领王国庆死灰复燃，气焰十分嚣张。他认为海路艰险，隋军的北方将士又不善水战，所以未在海路设防。杨素抓住王国庆防线上的这一漏洞，亲率大军渡海登陆，趁对方之不备，发动大规模攻势。王国庆没有料到杨素会从海上进攻，仓惶逃离泉州，其余部纷纷逃往海岛，窜入深山。杨素分兵追剿，大获全胜。王国庆投奔高智慧后，杨素又暗中招降他，要其抓送高智慧，以立功赎罪。王国庆见别无出路，便伺机将高智慧捉拿，捆送杨素大营。杨素斩高智慧于泉州，叛军群龙无首，纷纷投降，江南终于彻底平定，隋朝一统天下的局面得到了巩固。

隋朝南方虽已平定，但北方却仍受到强大的突厥汗国的威胁。开皇十九年（公元599年），杨素奉隋文帝之命，与高颎率军北征突厥，踏上了新的征程。

隋军出塞以后，兵分两路由高颎和杨素率领攻击都蓝可汗和达头可汗。过去隋军与突厥人作战时，为防突厥骑兵的冲击，往往把战车、步兵、骑兵混编使用，组成方阵，外布鹿砦，骑兵居中。杨素认为，这种消极

固守的作战方法是无法制敌取胜的。他一反传统战法，命令诸军组成骑兵阵对敌。这一作法看起来似乎是以己之短，攻敌之长，但却收到了令人意想不到的结果。与杨素对阵的达头可汗闻此消息，不禁大喜过望。在他看来，强壮雄悍的突厥骑兵在骑兵作战中是天下无敌，隋朝的骑兵根本不是他的对手。他下马仰天而拜，自认此乃天赐良机，随后驱使10余万骑兵直冲隋阵。隋军将领周罗睺见突厥骑兵战阵未整，遂上前请战。杨素命其率精锐骑兵迎击敌军，自己亲率大军继而冲击。突厥骑兵没有料到隋骑兵竟会迎头杀来，措手不及，被冲乱了阵形，遭到惨败。达头可汗身受重伤，落荒而逃，其部众伤亡不可胜计，纷纷号哭而去。

开皇二十一年（公元601年），杨素再次担任行军元帅，与投靠隋朝的启民可汗率军再次北征，又打败了南侵的步迦可汗。此后启民可汗在隋朝的支持下取代步迦可汗成为东突厥的大可汗，进而统治了蒙古草原。从此直到隋朝末年，隋朝与突厥人友好往来，双方再未发生战争。

杨素自开皇九年（公元589年）灭陈后登宰相之位，到隋炀帝大业二年（公元606年）死去，居相位长达17年之久。但他在如此漫长的岁月里，为保存自己的地位和荣华，在政治上处处迎合隋文帝，并陷害了一批文臣武将。在隋文帝废立太子的斗争中，他投靠阴险毒辣、昏庸无道的杨广，助纣为虐，最后竟与杨广合谋杀死隋文帝，帮其夺取了帝位。然而隋炀帝杨广即位后，深知杨素为人狡诈阴险，所以对他外示殊礼，内情甚薄，彻底剥夺了他手中的实权。在杨广继位的第二年，杨素便患病身死，结束了他功过分明的一生。

对于杨素的一生，后人曾给予强烈的谴责。武则天甚至说他是“生为不忠之人，死为不义之鬼”。但是，杨素在隋文帝统一全国和维护国家统一，以及抵御突厥南下的战争中，富于谋略，不拘成规，立下了显赫战

功，不愧为一位杰出的军事谋略家。况且他所参与和从事的这些战争，在中国历史发展的长河中，都具有一定的进步意义，其重要作用是不容忽视的。

(攸 笛)

## 高 颀

高颀(?—公元607)，勃海蓆县(今河北省景县)人。隋朝开国元勋，隋文帝统一天下的主要谋臣。

高颀17岁时即在北周朝廷做官，立过战功，受过封赏。当时担任北周丞相的杨坚，见高颀胆识过人，能文能武，便派人去招纳他。高颀对此欣然受之，他对杨坚说：“我愿意听命于你，即使你的事业不能成功，我高颀全家被杀也心甘情愿。”于是杨坚让他在自己府中担任司录，引为心腹。

杨坚身为北周丞相，总揽朝政，遭到北周一部分权贵的反对。当时手握兵权的相州(今河南安阳)总管尉迟迥、益州(今四川成都)总管王谦等人起兵反叛，一时天下骚乱。杨坚为巩固自己手中的权力，派韦孝宽率军平叛。但由于尉迟迥兵多势众，韦孝宽军进至沁水(位于今山西东南部)，即驻步不前，隔河与尉迟迥部相持。杨坚闻韦孝宽进剿不利，心中闷闷不乐。恰在这时，韦孝宽手下长史李询又密报杨坚，说“大将梁士彦、宇文忻、崔弘度接受了尉迟迥的馈金，军中因此骚动，人心大变。”杨坚对此深以为忧，与手下商议，准备派人去前线取代梁士彦等。然朝臣李德林却反对，他认为，所谓受馈之事尚虚实难明，今一旦取而代之，恐使梁士彦等惧罪逃跑；若逮捕问罪，则韦孝宽等又会因此而生疑。况且临敌易将，又是古来兵家大忌。莫不如派一明于事理、富于智谋、又素来为诸将所折服的心腹之人，立即赶赴军中，去观其内情，这样一来，即便有人心怀异意，也必不敢轻举妄动。”杨坚闻之，恍然有悟，便指定与己关系甚密的崔仲方前往监军，不料崔仲方以父亲尚在敌方境内为

由，辞而不就。杨坚又命郑译、刘昉前往，也被巧妙拒绝。正当杨坚一筹莫展时，高颀挺身而出，表示愿意担此重任。杨坚大喜过望，当即同意了他的请求。高颀受命立即出发，连家也未来得及回，只是派人向母亲作了辞行。

高颀到达前方军中，人心为之一振。为改变消极迎敌形势，他立即指挥大军架桥于沁水之上，准备渡河发起进攻。架桥时，他即估计到敌人会在上游流放木筏纵火烧桥，便预先在水中筑土墩以御之，粉碎了敌人的烧桥企图。大军顺利过河之后，他又沿用了古人的破釜沉舟之计，下令将桥烧掉，以绝士卒反顾之心。双方交手，他挥军冲杀，气若长虹，敌军力不能支，全线溃败。随后，又会同宇文忻、崔弘度等与尉迟迥在邺城(今河北临县境内)决战，尉迟迥战败自尽，叛乱被平。

平定尉迟迥等人的叛乱，为杨坚夺取政权扫清了障碍。北周大定元年(公元581年)，杨坚迫使周静帝让位，自立为帝，正式建立了隋朝。由于高颀功勋卓著，杨坚任命他为尚书左仆射兼纳言，司宰相之职。而高颀深避权势，上表逊位，推举苏威接任自己的职务。隋文帝愿成其美，暂时解除了他的仆射职务。然数日之后，又以进贤应受上赏的惯例予以恢复。高颀与苏威同心协力，共辅其主。苏威曾提出减免税赋、改革地方建置等建议，均由于高颀支持得以实施。高颀自己也提出了“输籍法”，凡民间赋税，均记其数于籍帐，使州县长吏不得随意增减，防止了偷漏赋税现象的发生。高颀办事认真勤恳，据说他以盆盛粉，置于卧榻之侧，夜间休息之时想起什么事情，便记在上面，以便天明之后及时办理。可见他为隋朝的巩固和发展的确是殚精竭虑，鞠躬尽瘁。

隋朝建立后，虽政局渐安，经济文化得到发展，但江南陈朝政权的存在，仍是统一全国的主要障碍。开皇元年(公元581年)，在高颀的推荐下，隋文帝派贺若弼为吴州(今

江苏苏州为中心的江南东部地区)总管,坐镇广陵(今江苏扬州);派韩擒虎为庐州(今安徽合肥一带)总管,坐镇庐江(今安徽庐江县西南),要他们筹划平陈之事。是年,隋文帝令以高颀为总指挥,率军向江南发动试探性进攻,但高颀认为时下灭陈的条件并不成熟,恰好翌年初陈宣帝死,高颀便以“礼不发表”为名,停止进攻,班师回朝。后来,隋文帝向高颀询问平陈之策,高颀说:“江北地寒,收获较晚;江南气温高,水田庄稼早熟。当江南收获季节到来之际,我们可悄悄集中兵马,声言出战江南,对方必然屯兵守御,则可以误其农时。而当他们聚集兵力之时,我方便解散军队。如此再三,对方将习以为常,以后我们再聚集兵力,他们也不会信我们真的要出征。就在他们犹豫不决的时候,我们乃乘机渡江,登陆而战,士气必然大增。另外江南土质不好,房舍多为茅草竹子所修,所有的积贮也不在地窖里保藏。我们倘若派人秘密过去乘风纵火,将其烧毁,待他们修复后,再烧毁之,不出数年,其财力自然就丧失殆尽了。”隋文帝采纳了高颀的计策,果然收到理想的效果,陈人的困难一年比一年加重。

开皇八年(公元588年)冬,隋军分三路正式开始伐陈。晋王杨广、秦王杨俊和杨素为各路行军元帅,皆受杨广节度。而高颀为晋王元帅长史,掌握着实际的指挥权,军中诸事均取决于他。隋军50余万人在杨广及高颀等人的统一调度之下,西起巴蜀,东接沧海,数千里长江之上,旌旗招展,舟楫争渡。而南陈军队日久已息,大兵压境则仓促迎战,僧尼道士也尽令执役,作战能力可想而知。加之陈后主性素怯懦,不达军事,优柔寡断,指挥不力。不到4个月时间,隋军便攻下建康(今江苏南京),陈后主成为阶下之囚,亡国之君。当高颀先于晋王杨广进入建康时,杨广曾派高颀的儿子急驰高颀住所,命其将陈后主的宠姬张丽华留下供自己享用。高颀说:“昔日姜太公掩面以杀妲己,今日岂可留

张丽华?”遂抗命斩之。

高颀在平陈战役之中,作为主帅杨广的主要助手,其作用是十分明显的。战后论功行赏时,高颀被加封为上柱国,进爵齐公。《隋书》在评价高颀时,说他“克服东夏,平定南国,参谋帷幄之中,决胜千里之外”,恐非夸张之词。

同一切封建君王一样,隋文帝在自己开创基业之时,可以同手下重臣同舟共济,信任有加,一旦功成业就,便会渐生疑窦,慢慢疏远。在平陈战役结束后,隋文帝曾对高颀说:“有人说你要造反,我已经将此人杀了。我们君臣之间志同道合,决非是谗言所能离间得了。”然而随着时间的推移,由于高颀敢作敢为,又不避嫌疑,不推卸责任,在一些事情上得罪了某些官员和皇后、皇子,甚至是隋文帝自己。在一班人等的谗言下,隋文帝渐渐对他不满,以至生出愤愤不平。开皇十九年(公元599年)八月,高颀终于被免去上柱国、左仆射等职务,仅以齐公之虚衔回家闲居。随后文帝又疑高颀有篡位之心,竟将其逮捕。只是由于害怕招致世人反对,才拒绝杀掉他,而将其除名为民。

仁寿四年(公元604年),隋文帝死,炀帝即位,启用高颀为太常卿。高颀克尽臣道,直言不讳,招致了炀帝的愤恨。大业三年(公元607年),高颀终因诽谤朝廷罪被杀。

高颀虽死,其功犹存。在他执政期间,政刑大小隋文帝无不与之谋议,然后才实行之。在平陈过程中,他深谋远虑,提出长远的战略方针,起到了极为重要的作用。因而在隋文帝取得政权,统一华夏的大业中,高颀作为隋文帝的主要谋臣,也为中国历史的进步做出了自己的贡献。高颀在宦海之中浮沉一生,他虚怀若谷,举荐人才,敢作敢为,不避嫌疑,关心国家兴亡治乱,对个人进退处之泰然,他的这些政治家的优秀品质,在封建时代是不多见的。

(攸 笛)

## 李靖

李靖(公元571—649)字药师,京兆三原(今陕西三原县)人,是唐朝极负盛名的军事家。通晓史书,精于兵法。他生于隋末,青年时代已很有名气,志向远大,才智过人,深得舅父韩擒虎(隋末名将)和宰相杨素的器重。只因隋炀帝荒淫无道,隋王朝已陷入穷途末路,他的才华才一直没有施展的机会。

当太原留守李渊趁突厥犯境之机,集兵万人斩杀监军大将时,李靖当即觉察到李渊父子名为抗击突厥,实则意在叛隋。为了避开关卡盘查,及时向隋炀帝报警,他急中生智,自入囚车,让人把他飞速传送到江都(今扬州)。由于李渊先一步占领长安,李靖被中途截获。李渊要杀他,他面不改色,高声说:“公起兵为天下除暴乱,想成就大事,难道因私怨而杀有识之士吗?”秦王李世民很赞赏李靖的胆略,极力为他说情。李靖得以释罪,被纳为军中幕僚,很快成为唐初军事活动中举足轻重的决策者。

隋末,后梁宣帝的曾孙萧铣自立为帝,据守荆州,建都江陵。唐初,萧铣拥兵40万,控制三峡以东、汉水以南的大部地区,势力强大,意欲与大唐会猎中原。武德二年(公元621年),唐高祖诏令夔州(今四川奉节东)总管赵郡王李孝恭出兵征伐,任李靖为行军副总管,到前线协助李孝恭。通过一段时间的作战,他了解了萧铣国内形势和军事虚实,制定出一套制胜方案,提出“图铣十策”上奏李渊。李渊大加赞许,并将军事指挥权交给李靖。

武德四年(公元621年)八月,李靖提议检阅所属部队。当时夔州一带正值长江秋汛,江水暴涨,浪涛汹涌。萧铣以为李靖无法顺江而下,没有防御准备。唐营诸将也请求,待江汛平息再从容进兵。李靖说:“战场上用兵如神,贵在以速取胜。我军刚刚集结阅兵,萧铣一时无法了解我军动向,若凭借激流,将坚固的战船沿江冲下,造成迅雷不

及掩耳之势,即使敌人在仓猝之间招集部分兵马,也不能抵御我军的猛烈攻势,此次必能擒获萧铣。”九月,李靖与李孝恭率战船两千艘,顺流东下,连克荆门、宜都二镇,直抵夷陵(今宜昌)。萧铣部将文士弘拥兵数万,屯守清江,被李靖一举击溃。李靖乘胜追击,萧铣部将盖彦举归降。消息传至江陵,萧铣大惊,仓猝招集兵马,因主力调往远地屯堡,无法及时赶来,只好动员现有兵力,准备全力决战。李孝恭要纵兵出击,李靖阻止说:“敌军明知必败,决心死战,没有周密组织与计划,气势不能持久。我们暂驻军南岸,缓一日再进攻,他们一定会分散兵力,留一部分阻挡我军,另一部分退回坚守,一旦敌人分兵势弱,我军乘懈出击,无往不胜。现在逼迫过紧,敌人一定要拼力死战。楚地士兵剽悍善战,恐怕难以抵挡。”李孝恭不听,让李靖留下守营,自己率兵出战,结果大败而回。萧铣兵士一战获胜,纷纷抛下战船,抢捞唐兵丢弃的军用物资,每人身上都背着沉重的战利品。李靖见敌兵混乱,乘势纵兵出击,大败萧军,乘胜追杀,直抵江陵,攻入外城,又攻下水城,缴获大批船只。李靖命李孝恭将这些船散入江中,任其漂浮。诸将不明其意。原来李靖以此麻痹驻守外地的敌军,让他们以为江陵已破,不敢轻易进军。待他们明白真相,江陵早已攻取了。萧铣部将丘和、高士廉、杜之松听说萧铣溃败,遂率部降唐,萧铣见外无援军,只好开门出降。

武德六年(公元623年),留守丹阳的辅公祐,夺取杜伏威的兵权,大修铠仗,广蓄粮草,起兵反叛,不久自立为帝,定都丹阳(今安徽当涂东北)。为扑灭叛敌,高祖召李靖入朝定策。任命李孝恭、李靖为东征正副统帅。辅公祐派部将冯慧亮、陈当世率水军3万屯于博望山,陈正通、徐绍宗率步兵3万屯于青林山,与博水军隔江相望,连接铁索横截江面水路,沿江两岸筑城结垒,欲使唐军腹背受敌。唐军诸将提议直取丹阳,攻占老巢,冯、陈等自然会不战而降。李靖料敌

察机，认为直取丹阳，城坚久攻不下，冯、陈随后掩杀，会使我军进不得，退不能，处于腹背受敌的地步。李靖建议诱使冯、陈出城，然后一举破敌。于是派老弱兵卒佯攻敌营，另以精兵结阵待敌。攻城的士兵败退，城中出兵追杀，当敌军追至数里之外，李靖伏兵突然出现，敌军大败。李靖乘胜追杀，转战百余里，长江两岸敌军一败而不可收拾，杀伤和溺水而死者达1万多人。冯、陈逃回丹阳，李靖大军随后而至。辅公祐惊惶失措，率数万兵卒向东逃窜，欲投奔驻守在会稽的老友左游仙。行军总管李勣紧追不舍。辅公祐逃到句容（今杭州东）身边只剩500兵卒。最后被百姓捉住，送至丹阳，枭首示众，江南一带彻底平定。之后，李靖被提升为兵部尚书，出任扬州大都督府长史。

唐太宗即位后，北方突厥仍然是最大的祸患。太宗任命李靖、李勣、柴绍、李道宗、卫孝节、薛万彻六个行军总管，率领10万大军，由李靖统一指挥，分路出击，征讨突厥。贞观四年（公元630年）正月，李靖率3000精锐骑兵出兵雁门关，夜袭定襄（今内蒙和林格尔东北）。颉利可汗没想到李靖大军来得如此迅猛，惊恐地说：“唐朝若不是出动全国兵力，李靖怎敢孤军至此！”突厥人惶惶不安，颉利不敢迎战，遂率兵北逃。李靖又派间谍，离间颉利的心腹，颉利的亲信部将康苏密挟持投奔突厥的隋朝萧皇后及隋炀帝之孙杨政道，投降李靖。颉利可汗逃至铁山（今阴山以北），派使者向唐太宗请罪，答应举国投降，自己入朝作人质。

李靖看出颉利可汗一贯反复无常、背信弃义，这次投降意在拖延时间，想等到草青马肥时，逃入大漠以北。于是不顾太宗命令，抓住战机，督率大军连夜起程，直扑颉利驻地。李勣率本部人马随后接应。颉利见大唐使者，以为计谋得逞。正在得意之时，李靖派大将苏定芳率200骑兵为先锋，趁着大雾，逼近突厥营帐。在距颉利牙帐7里时，才被突厥兵士发现。颉利连忙骑快马夺路逃走。

颉利率近万人企图渡河北窜，事先早已埋伏在这里的李勣，率军阻截，颉利部下见走投无路，纷纷率众投降，颉利在逃跑途中被大同行军总管捉获，献到长安，东突厥就此灭亡。太宗高兴地说：“汉代李陵有5000士卒，却被匈奴俘虏，而青史上还记述了他的功劳。李靖只率3000骑兵，横扫突厥，真是古来未有的奇功啊！”加封李靖为左光禄大夫。

贞观八年（公元634年），唐太宗下令大举讨伐侵扰西部边境的吐谷浑。这时李靖已年过花甲，他曾以年老体弱为由，向太宗“乞骸骨”，辞官归第，颐养天年。但他闻说讨伐吐谷浑，便去求见房玄龄说：“我虽然老了，但仍可以走一遭。”太宗听说，非常高兴。于是任命李靖为西海道行军大总管，指挥诸军。在李靖指挥下，大军连连获胜。吐谷浑可汗伏允烧尽牧草，率轻骑逃入了大漠深处。在商议作战方略时，唐诸将认为，战马得不到水草，会日见消瘦，不甚驱策，所以不宜纵军深入。李靖认为，敌人已成惊弓之鸟，若不乘此机会一举歼灭，将后悔莫及。于是决定深入敌境，穷追不舍。为了确保大军顺利获胜，李靖派人用重金收买当地党项族的牧民作向导，分兵两路向大漠腹地进发。李靖部将薛孤儿在曼头山击败吐谷浑的一支队伍，杀了主帅，缴获大批牛羊，解决了唐军缺粮的困难。随后大军在荒无人烟的地段跋涉两千余里，克服重重险阻，经历数次激战，终于将吐谷浑击溃。可汗伏允见大势已去，便自缢身亡。残余部众归降后，李靖奉诏安置，帮助他们重建吐谷浑国，然后整军回朝。太宗封李靖为卫国公。

李靖跟随李渊父子30余年，南征北战，东挡西杀，屡建奇功，被唐太宗引为生平故人。他为人忠厚正直，不炫耀功劳，不掩饰过错，深得太宗信赖。他的《李卫公问对》一书，记录了他与太宗君臣之间讨论兵法的对话，历述兵家得失与战役成败的关键，为后世所推重。

（张新海）

## 李 密

李密(公元582—618),京兆长安(今陕西西安)人。隋末瓦岗农民起义军领袖。

李密出身于世代高官之家,少有才略,志气雄远,轻财好士。他虽为名臣之后,却无投身仕途之心,自己隐居苦读,欲从史书中寻求治国平天下之术。一次李密骑牛外出,仍读《汉书》于牛背之上,被尚书令、越国公杨素遇见。杨素见奇之,遂将其召至家中,其子杨玄感与李密一见如故,遂结为深交。

隋炀帝大业七年(公元611年),王薄在山东长白山(今山东章丘县境内)发动起义,点燃了隋末农民大起义的燎原之火,动摇了隋朝封建统治的根基。大业九年(公元613年),隋炀帝不顾国内局势动荡,第二次出兵征伐高丽。当时担任礼部尚书,受命于黎阳(今河南浚县)督运粮草的杨玄感对隋素怀二志,此时见隋炀帝内外交困,便乘机举兵反隋,以图实现其代隋之志。

杨玄感举兵时,李密恰应杨之邀赶到黎阳。杨玄感向李密询问破隋之计,李密回答说:“天子出征,远在辽外,地去幽州犹隔千里,南有大海,北有强敌,中间一道,极为艰险。如果您出其不意,长驱入蓟,据山海关之险,扼其咽喉,隋炀帝归路既绝,高丽闻之必抄其后路。不过旬月之间,炀帝粮草必尽,其众不降则溃,可不战而擒之,此乃上计。”杨玄感又问中计,李密答道:“关中四塞,天府之国,今率众西行,经过的城市不予攻击,直取长安,收其豪杰,抚其士民,据险而守。天子虽还,但失其根本,我们则可徐图之。”杨玄感再问下计,李密又答道:“可以率精锐之兵,昼夜行军,袭取东都洛阳,以号令四方。但恐怕东都之兵先已固守,我们如攻之,百日不克,天下之援兵四面而至,后果即不堪设想了。”李密所献三计,充分显示了他超人的学识和谋略。杨玄感虽起事仓促,但李密却洞察一切,早已成竹在胸。遗

憾的是杨玄感虽有代隋之志,却无相应之胆略。他不听李密的规劝,偏偏选取了下计,执意攻取洛阳。战局果然不出李密之所料。坚城不下,各路援军渐集,杨玄感才感到局势的危险,急忙求教于李密。李密建议杨玄感统军西向,取潼关而据关中之地。而杨玄感在西进途中,却又节外生枝地强攻弘农宫(今河南陕县境内),结果贻误了战机,导致兵败身亡。

杨玄感兵败后,李密数次遇险,死里逃生,历经曲折,颠沛流离,最后于大业十二年(公元616年)末投奔了翟让领导的瓦岗寨农民起义军。为取得翟让的信任,李密说服其它小股义军归附瓦岗军,从而壮大了瓦岗军的力量。李密首先认识到粮食对于农民起义军的重要性,他对翟让说:“今天下大乱,不得耕耘,您士众虽多,但无存粮,只靠掠夺,经常供给不足,如旷日持久,加之大敌临头,必然涣散。不如先取荥阳,休兵筹粮,待兵强马壮,然后与他人相争。”翟让听从了李密的意见,率军破金隄关,攻克荥阳诸县。

隋炀帝见瓦岗军兵多势大,只得调猛将张须陁为荥阳(今河南荥阳)通守,率军迎战。张须陁凶狠劲猛,曾击败多支农民起义军,翟让也曾多次败在他的手下。此次翟让又闻张须陁前来,心有余悸,想要退兵以躲其锋。李密见此情形,劝说翟让道:“张须陁有勇无谋,骤然得胜,骄横不可一世,可一战而擒之。您只管列阵以待,我保证为您破之。”翟让不得已,只好准备迎战。李密针对张须陁骄横而轻敌的弱点,合兵千余人在荥阳大海寺以北林中设伏。张须陁历来看不起翟让,列方阵傲然而前。翟让迎战不利,步步后退,张须陁纵兵向北追赶10余里,陷入李密设下的埋伏圈中。李密一声令下,伏兵四起,张须陁连忙退兵,但被李密、翟让,以及徐世勣、王伯当合兵包围,张须陁左冲右突,最后战死军中。

击败张须陁后,瓦岗军资粮充足,军力扩增。李密在此有利形势下,又不失时机地



制定了袭取洛口仓的计划。隋初经济发展，曾建巨大粮仓以窖储陈粮，其中洛口仓位于巩（今河南巩县）东南，仓城周围20里，挖掘大窖3,000座，每座窖可存粮8,000担。李密对翟让说道：“今百姓饥馑，洛口仓多积粮，离东都洛阳百里有余，将军若亲自率军轻行掩袭，敌军远不能救，且先无准备，取之如探囊耳。当敌军闻知后，我们已将其占领，开仓放粮以赈济穷苦百姓，远近岂有不归附者！百万之众，一朝可集，养精蓄锐，以逸待劳，即使敌军前来，我已有充分准备。然后再传檄以号召四方，吸引豪杰而资计策，选择骁勇之士而援之以兵权，废除隋朝的社稷，发布将军您的政令，岂不是天下一大盛事！”听了李密如此大胆的计划，翟让深感自己力不从心。他对李密说：“此乃英雄之谋略，决非我能承担，只有按您的计划，尽力从事而已。请君率兵先行，我为殿后。”

大业十三年（公元617年）二月，李密、翟让率精兵7000人长途奔袭，攻占洛口仓，开仓赈饥，大量饥民蜂拥而至。当时盘据洛阳的越王杨侗闻洛口仓失陷，忙派部将刘长恭等人率步骑兵2.5万人征讨李密。刘长恭等率军到达洛口仓，尚未吃饭，便驱兵渡洛水，列阵于石子河西，南北达10余里。李密、翟让选精兵分为10队，命其中4队埋伏岭下，以6队布阵于石子河东。刘长恭等见瓦岗军少，轻而视之。翟让首先出战，未占优势，李密率麾下之兵冲击隋阵，隋兵饥疲交加，不堪一击，刘长恭等将领脱袍卸甲方得以逃脱。李密、翟让尽收隋军所弃辎重器甲，军威大振。

战争的实践表明，在瓦岗军中，李密的谋略、胆识和才干是出类拔萃的。瓦岗军的早期领袖翟让不计个人名利得失，以反隋大业为重，主动让贤，推举李密为瓦岗军的领袖，尊他为魏公。李密则拜翟让为上柱国、司徒、东郡公，以单雄信、徐世勳为左、右武侯大将军。其余将领也封拜有差。瓦岗军兴，各地义军纷纷率众来附，一时道路之上

投奔瓦岗军者不绝如流，兵力迅速增至数十万。

就在农民起义如火如荼之时，隋朝统治阶级内部也祸起萧墙。大业十四年（公元618年）三月，以宇文化及为首的部分将领发动政变，缢杀隋炀帝于江都（今江苏扬州），然后率军10余万西返长安。

宇文化及西归长安，首先遇到的障碍便是久困东都的李密瓦岗军。大业十四年（公元618年）六月，宇文化及引兵北渡黄河，在黎阳一线与瓦岗军相峙。李密虽占优势，但他并不轻敌，经过深思熟虑后，决定掘沟筑垒，以逸待劳，避敌兵锋；同时周旋于洛阳隋军和宇文化及军之间，一面假降洛阳隋军，以解后顾之忧；一面假联合于宇文化及，答应援赠军粮，使宇文化及恣意耗用军粮，才于七月与宇文化及展开决战。宇文化及军土崩瓦解，仅剩2万人，最后被河北农民起义军窦建德部彻底消灭。

李密以其广博的学识和超人的谋略成为瓦岗军的最高领袖，为众人所倾服。然而他却听信他人离间之言，杀掉了襟怀坦白，让位于他的翟让，结果大失人心，埋下了失败的种子。在战略策略方面，李密也出现了重大失误。早在杨玄感起兵之初，李密曾力劝杨玄感夺取关中，而把顿兵东都洛阳称为下策，可李密成为起义军领袖后，却重蹈覆辙，顿兵于洛阳城下，虽纵横捭阖，多次取胜，但未能趁虚而占关中，丢失了建立创业基地的良机。后在与隋将王世充的作战中，又骄傲轻敌，贸然应战，结果于唐武德元年（公元618年）九月被王世充打败，被迫投降据有关中的唐王李渊。李密投降李渊后，虽受礼遇，但无实权，心怀怨忿，愤愤不平，遂以前往东边收抚旧部为由，离开长安。武德元年末，李密准备兴兵反唐而被杀，时年37岁。

李密在其后期虽有重大失误，但综观其一生，瑕不掩瑜。他作为高官显贵之后，不与残暴荒淫的封建统治者同流合污，反以夺取暴隋天下为己任，在农民起义的队伍里找



到了自己的用武之地。他以自己超人的胆略和农民起义军勇敢的斗争精神相结合，取得了一个又一个辉煌的胜利，在隋末农民大起义的史册上写下了光辉的一页，不愧为一位杰出的、足智多谋的农民起义军领袖。

(攸 笛)

## 李 勣

李勣(公元594—669)，曹州离狐(今山东东明)人。初唐时开国名将。

李勣原名徐世勣，出身于一个颇有社会影响的富豪家庭。大约在他年幼之时，他的家庭迁居至滑州卫南(今河南濮阳西南)。他和父亲乐善好施，仗义疏财，在当地颇受人们的尊敬。隋大业七年(公元611年)底至大业八年(公元612年)初，翟让在李勣家乡附近的瓦岗寨发动了农民起义，李勣大概就在这时候加入了这支反隋武装队伍，并很快受到重用。在瓦岗军中，李勣是一位富于谋略的人物。在加入这支队伍后不久，他便向翟让提出了一个建议，说：“你我都是本乡本土人，不应给家乡人带来危害。我们应转移战线，把作战目标转向宋、郑两郡(今河南荥阳、商丘一带)，那里的运河是隋朝物资转运的枢纽，商旅往还，船运不绝，在那里劫击隋朝官府的船只，足以资助自己的给养。”翟让采纳了李勣的建议，逐渐壮大自己的力量，很快发展成为一支拥有万余人马的义军队伍。

大业十二年(公元616年)，李密在参加杨玄威起兵反隋失败后，几经辗转，也加入了瓦岗军队伍。他多谋善断，才智过人，很快在瓦岗军中树立了自己的威望。大业十三年(公元617年)，李勣从大局出发，和瓦岗军中另一位将领王伯当共同劝说翟让奉李密为义军盟主。翟让同意了他们的意见，共推李密为魏公，李勣也被封为右武侯大将军，成为瓦岗军主要将领之一。

瓦岗军的大魏政权建立后，李勣又屡立战功，其中最重要的是奇袭黎阳仓之役。此

役在大业十三年秋进行，当时河南、山东发生水灾，饿殍满野，民不聊生。李勣对李密说：“天下大乱，根本原因就是饥馑。今若再取得黎阳仓，则大事可成。”李密即派遣李勣率军渡过黄河，会集各家义军袭取黎阳仓，开仓济民，招兵买马，很短的时间内就扩充新兵20余万，极大地加强了瓦岗军的力量。

在瓦岗军发展壮大的同时，翟让与李密之间早已存在的裂痕也越来越深。就在攻占黎阳仓后不久，瓦岗军中终于发生了公开的分裂，李密设计杀害了翟让及其亲信。事变发生之时，在场的李勣亦被杀伤，而李密则令人将其扶到自己帐中，亲自为之包扎伤口，以收其心。李密杀翟让后，颇自骄矜。他不恤士众，赏罚不明，李勣因在一次宴会上讥讽其短，便被派往黎阳(今河南洪县)镇守，名为重用，实被疏远。然而，李勣并未因此而怀恨于李密。唐武德元年(公元618年)，李密为王世充所败，西向长安投奔唐高祖李渊。当时李勣居李密旧境，未有所属，曾与李勣共事的魏征写信给他，劝他早日降唐。李勣虽然同意降唐，但他对部下郭孝恪说道：“这里的民众土地皆为李密所有，我若上表献之于唐，就是邀人之功以求自己的富贵，我实在以此为耻。现在应该把各郡县的户口士马之数报给李密，让他自己献于唐朝。”于是他派遣郭孝恪前往长安处理此事。唐高祖李渊得知李勣的使者到了长安，却又未见李勣的上表，甚感奇怪。后来郭孝恪将李勣的用意如实地报告给唐高祖，高祖乃感叹道：“徐世勣不背德、不邀功，真是一个纯粹的忠臣啊！”于是便任命李勣为黎州总管，封为英国公，使其经略虎牢关以东的州县，并授之以选补官吏之权，同时赐李姓。从此，李勣便改徐世勣之名为李世勣，后因避唐太宗李世民之讳，又改称李勣。不久，李密又密谋叛唐以复旧业，不成反被唐将所杀。唐高祖派人将李密首级送往黎阳向李勣传示，并告知李密叛逃之详情，这无疑是在考验李勣对唐朝是否忠诚。出人意料的是，李勣竟面

北拜伏恸哭哀号，上表请收葬，然后以君臣之礼将这位昔日故主葬于黎阳山南。他的这一作法，不但没有遭到朝廷的非议，反而受到朝野上下一致赞扬。李勣此举固然反映出他对主君的愚忠之心，但从另一个角度看，也确实反映出他在处世为人方面的谋略之深。

唐王朝建立后，隋末农民战争便发展到统一全国的战争阶段。李勣作为唐朝的重要将领，跟随李世民挥军东向，参与了平定王世充、窦建德、刘黑闥的战争，立下了赫赫战功。当李世民率师凯旋长安后，论功行赏，李世民被拜为上将，李勣为下将，皆身披黄金甲，率铁骑万匹，向太庙献俘告捷，足见李勣地位之显赫。

唐武德七年(公元624年)，李勣作为负责陆路的主将，与李靖等人又进行了讨平江南辅公祐的战役。在决战之时，李勣、李靖采用诱兵计吸引敌军出战，然后以大军伏击之，把辅公祐手下大将冯慧亮打得大败。辅公祐闻讯大惊，拥兵数万慌忙逃窜。李勣率军追击，辅公祐数万之兵一时并溃，最后只剩500余人，南遁至武康(今浙江杭州北)时，为追兵所获，至此江南悉平。

平定江南后，李勣又奉命北调，任并州行军总管，北抗突厥。贞观三年(公元629年)，唐军北伐突厥，李勣被任命为通汉道行军总管，节制全军，出云中(今山西大同)，败突厥于白道(今内蒙古武川)。后来突厥首领颉利被迫向唐求和，李勣与李靖共同商量，决定施缓兵之计，先同意派使臣对颉利谈判，然后乘其不备，发动突然袭击，直至其帐前。颉利猝不及防，乘马弃军先逃，李靖率军斩敌逾万，俘虏10余万。李勣则途中设伏，亦俘获5万余人。颉利在逃跑途中为唐将张宝相所俘，其余突厥酋长皆率众投降。这样，猖獗一时的东突厥为唐所征服，唐朝北部边境威胁免除，版图扩大，西起阴山，北至大漠的广袤地带皆成为大唐帝国的疆域。

李勣镇守北部边境达16年之久，直到贞

观十五年(公元641年)才被唐太宗召回任兵部尚书，随后又多次北征。他镇守北疆，开拓疆土，作出了杰出的贡献，唐太宗曾夸赞他说：“隋炀帝不能精选贤良，安抚边境，只会修长城以备突厥。我今委任李勣镇守并州，突厥畏其威，百姓得安宁，岂不胜似远筑长城吗？”

在隋唐时期，中原政权在东北地区同高丽国存在着尖锐的矛盾。当时的高丽，据我国辽东半岛、吉林一部及朝鲜北部部分地区。高丽在朝鲜半岛称霸，阻挠位于朝鲜半岛南部的百济国和新罗国与唐朝的友好往来，同时也危及辽东地区的经济、文化发展。早在隋炀帝时，就曾数次兵伐高丽，但均无功而返。贞观初年，唐太宗也想着手解决东北边疆问题，但当时多数文武大臣害怕重蹈隋炀帝之覆辙，纷纷表示反对。唯有李勣支持唐太宗的主张，认为辽东之战迟早必定发生，早打可早避祸患。显示了他超乎他人的远见。经过长期的准备，到贞观后期，征辽形势已成熟，唐太宗遂于贞观十九年(公元645年)春发兵征辽。在这次征辽战争中，李勣被任命为辽东道行军大总管，统率步骑6万，从陆路直指高丽辽东城(今辽宁辽阳)。在攻打辽东城的战役中，李勣使用了迂回战术，并着重于心理战。他首先虚张声势，造成欲攻怀远镇(今辽宁辽阳西北)的举动，实际暗中经通定(今辽宁辽阳北)直抵玄菟(今辽宁新宾西)城下。高丽始料未及，惊慌失措，所有城邑皆闭门自守，锐气大伤。李勣一连围攻辽东城12昼夜，鼓噪之声震天动地。最后乘风势纵火焚烧其西南城楼，遂趁势登城，高丽军力战不支，辽东城才为唐军所克。随后，唐军又连破白岩城(今辽宁辽阳东)、乌骨城(今辽宁本溪南)，在安市城(今辽宁营口东北)下与高丽倾国之兵会战。在唐太宗亲自指挥下，李勣率中军主力15000布阵，其部下薛仁贵大呼冲锋，所向无敌，高丽军望风披靡，大溃而败。此战之后，李勣又指挥唐军围困安市城达3个月之

久，后因辽东早寒、草枯水冻，士马难以久留，才决定班师回朝。

从贞观二十一年(公元647年)至唐高宗乾封三年(公元668年)的20年间，唐朝又先后发动了4次征辽战争。在最后一次征辽时，李勣已年过7旬，但仍被任命为主帅。他率军连克10余座城池，终于总章元年(公元668年)进占平壤，取得了征伐高丽的最后胜利。

李勣不只在长期东征西讨、南征北战中立下了赫赫战功，而且在辅佐唐太宗、唐高宗治政中也起到了重要作用。他兢兢业业，谨慎从事，深得太宗、高宗的信任。他协助唐太宗平定了太子李承乾和齐王李祐的叛敌阴谋，并受太宗嘱托，成为高宗的辅弼之臣。总章二年(公元669年)，李勣病逝，终年76岁。

纵观李勣一生，其谋略不但体现在政治、军事方面，也体现于处事御人方面。他上下左右逢源，做事留有余地，在王朝更替，新朝乍起之际，先从翟让、李密二主，后事高祖、太宗、高宗三朝，均能倍受重用，善保其身，实属不易。《资治通鉴》称他，为将有谋善断，与人议事从善如流；战胜则归功于下级，所得金银财产全部散之于将士，因而部下皆以死效力，所向无敌；甚至在处理家庭关系方面，也尊敬长姊，严格要求子孙。这确实是对李勣全面而又公正的评价。

(攸 笛)

## 李世民

李世民(公元599—649)，是缔造大唐王朝的军事政治谋略家。祖居陇西成纪(今甘肃通渭县东)。唐高祖李渊次子，少年时就随父灭隋兴唐，决策定谋，东征西讨，战功显赫。

隋大业年间，隋炀帝率军与突厥作战失利，被困雁门关外。炀帝命人将诏书系在木块上，投入汾水，向下游郡县告急，命他们募兵赴援。当时年方16岁的李世民，毅然应募从军，在云定兴帐前任职。李世民了解到

前线敌情后，向云定兴分析形势说：“敌人胆敢围困天子，是因为他们料定我军主力远离边塞，无法及时增援。如今之计应将我部前后分散，拉开数十里队列，白天要让敌军看得见旌旗，夜晚要让他们听得见鼓声，敌军不知虚实，定会以为大批援军迫近，就可不战而退。否则胜败难料。”云定兴听从了他的意见，依计而行。军至中途，突厥的侦探远远望见隋朝大军浩浩荡荡，接连不断，立刻飞报可汗说：“救援大军来了！”突厥可汗果然中计，连忙撤围，兵不血刃，解除了天子的危急，李世民从此获得了极高的声誉。

起兵反隋是惊天动地的大事，李世民知道仅凭自己的号召力和影响力是不够的，若要成其大事，必须策动父亲李渊，说服他以太原留守的便利条件和国公的威望，招降纳叛，号令天下。李世民早知父亲李渊与炀帝之间有隔阂，便设计利用这个矛盾，迫使李渊下定反隋决心。

李世民授意谋士裴寂，让他利用管理炀帝离宫之便，用宫中嫔妃侍奉李渊，使李渊背上大逆不道的罪名。然后借李渊召裴寂饮酒的机会，将谋反之事和盘托出。李渊当即大惊失色。裴寂对李渊说：“如今皇帝离宫中的嫔妃已经做了您的侍妾，此事一旦泄露，其罪当诛。我们这样做，正是为保全您的性命啊。”李世民也进前陈说利害，劝父当机立断。李渊骑虎难下，恰在此时，朝廷因李渊镇压起义军和阻击突厥进犯不利而来问罪，并要将李渊捉至江都(今扬州)。李世民乘机劝父起兵。

当时各地势力已相继打起反隋大旗，独霸一方，李渊父子见时机已到，以讨逆为名，集众举事。李世民被任为右领军大都督、敦煌公，统率大军从太原出发，斩将夺关，直捣长安。大军抵达重镇霍邑(今山西霍县)，遇连日大雨，军中粮草行将耗尽，李渊又萌生了退兵太原的念头。李世民谏阻说：“我们起兵，乃为统一天下，当直入咸阳，占据地利，号令全国。如今退回太原，据守一城，

这和叛贼有何区别呢？”朝廷出兵援助东都洛阳，关中力量薄弱，其他割据势力主要在函谷关以东，占据长安可暂时避开与他们接触，得以养精蓄锐。李渊不听儿子的劝告，执意退兵。李世民便到父亲帐前放声大哭。李渊询问何以如此。李世民说：“一旦回师太原，跟随我们起事的人都会离开我们。我们前脚走，隋军就会随后掩杀，谁也无法逃脱死在眼前的命运。一想这些，我就心中悲伤。”李渊这才翻然悔悟，语重心长地对儿子说：“起事者汝（你）也，成败惟汝。”于是将作战事宜全权交给李世民。霍邑守将宋老生坚守不出。李世民用狂妄傲慢的举动绕城一周，激怒宋老生，逼他出城列阵。李渊父子背水作战，终于攻克霍邑，为西进长安打开通路。隋大业十三年（公元617年），李世民顺利进入长安，进而夺得陇右，控制了渭水流域。大业十四年（公元618年），隋炀帝被部将杀死，李渊废掉恭帝，在长安称帝，建立唐朝。李世民因功被加封为秦王，任尚书令右翊卫大将军。

唐朝刚刚建立，曾被李世民击败的薛举，又兴兵进犯泾州（今甘肃泾川北）。李世民出任西讨元帅、雍州牧，前往迎敌。七月，因李世民生病，初战失利，泾州几乎陷落。八月，李世民病愈，下令屯兵，与敌军相持60余日不交一战。恰遇薛举病死，其子薛仁果督军，屡次求战，李世民仍然按兵不动，下令军中：“有敢于请战者，定斩不赦！”待薛仁果军中粮绝，部将梁胡郎等率部来降。李世民得知薛仁果将士离心离德，便令行军总管梁实到浅水原筑营诱敌。敌将宗罗喉见状大喜，率全部精兵攻打梁实。梁实凭险拒守不出，宗罗喉加紧攻打。李世民见敌军已疲惫乏力，就派右武侯大将军庞玉列阵于浅水原。宗罗喉合并兵力攻击庞玉。李世民则率大军从原北出其不意袭击宗罗喉，又选拔骁勇善战的骑兵数十人，先攻陷敌人营垒。唐军里外夹击，呼喊声震天动地，宗罗喉力不能支，惶恐退逃。李世民率两千骑兵追杀。

薛仁果布阵城下，李世民凭据泾水与薛仁果对阵。这时敌将浑干数人投降唐军，薛仁果见势心中惶恐，引兵入城拒守。天将晚，唐大军相继到达城下，围住城池，至半夜，薛军守城者相继缢城投降。薛仁果无路可走，只好拱手就缚。

唐高祖武德二年（公元619年）十月，刘武周部将宋金刚攻陷涪州，气势凶猛。夏县人吕崇茂乘机作乱，自称魏王，与刘武周相呼应。占据蒲反的隋朝故将王行本，联合刘武周，与唐为敌，关中失去了屏障，朝野震恐。李渊见敌势强盛，难于争锋，下令放弃河东，慎守关西。李世民请父皇拨给他3万精兵，消灭刘武周，收复失地。李渊尽调关中全部兵力，至李世民麾下，让他抵挡刘武周。十一月，李世民率大军出龙门，踏冰过黄河，屯兵柏壁，与宋金刚对垒。三个多月的相持，使敌军因缺粮，士气渐衰。宋金刚不敢再拖延，只得弃城败走，李世民率大军随后追杀，两天当中，他与将士们不饮不食，经历10余次激战，终于将刘武周和宋金刚逼人突厥境内，收复了被占据的全部州县，解除了唐朝的后顾之忧。

对大唐构成威胁的还有王世充、窦建德两股较大的势力。武德三年（公元620年）七月，李世民再度奉诏出征，率大军讨伐王世充。王世充闻讯，急忙在各州县挑选骁勇将卒，齐集洛阳，设置四镇将军，广招兵丁，分守洛阳四城。又调兵遣将，在各处要隘布防固守。李世民率军直逼洛阳，屯兵距洛阳70里的新安城，以观战局。为了应付激战，他在军中选出千名精锐骑兵，一色黑衣黑甲，分为左右两队，策应主力的正面作战，关键时刻突然出击。这支骑兵所向披靡，敌军将士颇为忌惮。李世民将大军推进至洛阳城外，在营垒尚未筑好时，王世充率两万兵卒突出城门，依凭垣墙，临河相拒。诸将惊恐，不知所措。李世民镇定自若，派出精锐骑兵在北邙列阵。他登高瞭望，对左右将士说：“敌人无路可走了，他们倾城出战，企图一

战获胜，现在惩戒他们一下，让他们不敢再出城求战。”于是命猛将屈突通率5000步兵渡河进攻，嘱咐他说：“两军一交锋，马上点火放烟。”浓烟一起，居于下风头的敌军，难以睁眼作战，李世民乘机率精骑从高处冲下，与屈突通合力奋战，敌阵被冲乱，王世充退入城中坚守。李世民围攻洛阳宫城，昼夜不息，仍不能攻克。唐军将士疲惫不堪，总管刘弘基等将领请求班师。李世民说：“洛阳孤立无助，不能持久，为何弃之而去？”于是传令二军：“洛阳未破定不还师，敢言班师者斩！”李世民认为王世充占地虽广，但各处均已自顾不暇，只有洛阳孤城，今若还师，敌军得以喘息休整，重振士气，再联络各地反唐势力，那时就难以对付了。

王世充连连向窦建德救助。武德四年（公元621年）三月，窦建德发兵救洛阳。李世民反对部将退师固守的请求，将部队一分为二，一部围困东都，自率3500人直奔要隘武牢。王世充在城楼上望见唐军频繁调动，神秘莫测，不敢出战。李世民到达武牢，沿途设下埋伏，窦建德援军受阻，经月不能前进，几次交战皆失利，将士有厌战之心。李世民乘机派王君廓率1000骑兵，抄袭窦建德的运粮部队，大获全胜，俘获大将张青特。五月，李世民北过黄河，南临广武观察形势，之后留下千匹战马在黄河边放牧，借以诱敌。第二天窦建德率大军至河边，从板渚出发到牛口列阵前进。

窦建德列阵，自早至午，士卒饥渴疲倦，只得改为坐着，争着喝水。李世民命宇文文化及带300名骑兵经过窦建德阵西，疾驰南上，并告诫他：“敌人若不动，你当带兵回来，如果敌人行动，就引兵向东出击。”宇文文化及到阵前，敌人果然有行动，李世民下令：“可以攻打了！”这时在河边放牧的战马也被召回，李世民亲率轻骑先行进击，大军随后跟上，涉过汜水，直迫敌阵。窦建德没有准备，仓猝迎战。李世民率史大奈、程知节、秦叔宝、宇文歆卷旗而入，出现在敌阵之后，张

开大唐旗帜，敌军回头望见，溃败遁逃，唐军追杀30里，捉获窦建德。李世民用囚车载窦建德、王琬、长孙安世至洛阳城下，向王世充示威。王世充见状大哭失声。李世民派长孙安世进城说明情况，在走投无路的情况下，王世充身着素服，带领太子、群臣等2000余人，到唐军帅营门前请降。

天下统一后，李渊诸子之间开始了皇位继承权之争。李世民隐忍待机，先发制人，粉碎了太子李建成诛杀异己的阴谋，在“玄武门之变”中翦灭了太子势力，被立为太子。武德九年九月，高祖李渊退位，李世民登基为帝，是为太宗。他根治了隋末战乱留下的疮痍，恢复和发展了经济，稳定了社会秩序，经过20余年的励精图治，使唐王朝达到中国封建经济发展的顶峰，史称“贞观之治”。

李世民既是一位杰出的帝王，又是一位英明果敢的军事统帅、骁勇无敌的战将。他既有沉稳持重的将帅素质，又有扶危匡乱的胆略才智，为统一中国立下不朽的功勋。

（张新海）

## 武则天

武则天（公元624—705），名曌。是中国历史上权谋超群的女皇帝。唐代并州文水（今山西文水东）人。14岁被召选入宫，深受太宗喜爱，封为才人，赐号武媚，人称媚娘。

太宗死后，武则天出宫为尼。永徽三年（公元652年）冬，高宗召回武则天侍寝。她在宫中不甘居人之下，一面忍辱侍上，谦恭有礼，一面冷静观察，伺机图进，很快得到高宗更深的宠爱和王皇后的信任，于是晋升为昭仪，位列九嫔之首，仅次于皇后和四妃。永徽四年，武则天生下龙子，从此身价更高。

永徽五年（公元654年），武则天又生下一个女儿。一天，王皇后单独去昭仪宫看武则天，只见小公主睡在床上，没见到武则天就出去了。武则天见王皇后走了，就从内室转出，思忖片刻，用双手掐死了亲生女儿，之后又躲进内室。正好这时高宗来昭仪宫，

见武则天不在，就去看小公主，只见小公主张着嘴双眼骨突，已经断气。高宗大声呼喊，武则天及宫奴们来到育婴室。她也故作惊讶，号陶大哭。高宗逼问宫奴，宫奴说只有王皇后刚才来过这里。于是武则天顺势咬定是王皇后害死了小公主，高宗也不得不信。高宗由此想废王皇后，立武则天，但遭到手握兵权的老臣长孙无忌太尉反对。王皇后由于牵连此事，精神不佳，不思饮食，其母请来一僧人，为她求佛灭灾。那僧人削了一个小木人，身上钉了铁钉，嘱咐皇后每天焚香叩拜，百日之后即可消灾。武则天得知趁机向高宗诬告，说王皇后同其母偷偷地做了一个形似皇上的小木人，身上钉铁钉，每日焚香诅咒，并劝高宗去看看。高宗来到皇后寝宫，见确实有一小木人，王皇后正在焚香叩拜。高宗怒气冲天，皇后有口难辩，只得乞求恕罪。这时高宗废皇后之意已决，力排群臣阻谏，废了王皇后，连同萧妃也贬为庶人，正式册封武则天为皇后。

武则天要独揽朝中大权，面前横着众多的政敌，尤其朝中那班老臣，敢于冒死直谏，更使她棘手。她先请高宗为她的心腹许敬宗、李义府晋职，把持要位；并害死囚在冷宫中的王皇后、萧淑妃；废太子李忠，立亲子李弘为太子；贬重臣韩瑗、来济为州刺史。这样就使长孙无忌失去得力帮手，在朝只剩孑然一身了。

显庆四年(公元659年)，有人告发太子洗马韦季方和监察御史李巢朋比为奸，预谋反叛。武则天亲信许敬宗审理此案，就此大作文章，施用严刑逼迫韦季方牵连长孙无忌。韦季方至死不肯，许敬宗就自编一套谎言，诬称长孙无忌与李巢串通谋反，使高宗真假难辨，不得不贬长孙为扬州都督，安置在黔州(今四川彭水、黔江一带)；同时又剥夺了褚遂良的官爵，还追拿韩瑗、柳奭至京斩首。遂后又逼长孙无忌自缢身亡。从此太宗时的老臣几被清洗殆尽，武则天的心腹得以执掌朝纲。

麟德元年(公元664年)以来，高宗的身体状况越来越不佳，处理朝政困难，想让位给武则天。这个想法，遭到亲近大臣的反对，于是高宗便决定禅位给第五子太子李弘。李弘是武后的亲生子，性情仁慈宽厚，在大臣中威信较高。但李弘继承皇位，还是李家天下，武则天要当女皇的梦就要破产。一天，乘皇上驾幸合璧宫，武后要太子随从。盛宴之后，太子酒醉回宫，武后密令太监将毒药下在醒酒汤中，毒死了亲生长子。高宗又立武则天的第二子李贤为太子。李贤自幼聪敏，喜欢读书，严于律己，高宗对他甚是放心。这时，李贤组织了一批知名之士注释《后汉书》，其中涉及吕后专权，激怒了武则天。她指使人在宫中造谣言，说太子李贤不是武后所生，说他福份浅薄，难继帝王位。接着武则天借宫中道士明崇俨被杀之事，拘捕李贤近侍赵道生。经严刑逼供，赵道生伪称：太子要翦除武后党羽，派人杀害明崇俨，图谋反叛。于是武后派人大搜东宫，得兵甲戎服数百件，以此为太子谋反的罪证。大唐律令，谋反当斩。在高宗的恳求下，将太子废为庶人，流放到巴州(今属四川)。李贤到巴州，有感于母后专权，兄弟遭难，作了一首黄台瓜词：“种瓜黄台下，瓜熟子离离。一摘使瓜好，再摘使瓜稀，三摘犹可为，四摘抱蔓归。”歌词传到京城，激起了武则天的怒火，便派使者去巴州逼令其自尽。此后高宗立李哲为太子。高宗于弘道元年(公元683年)十二月四日驾崩。太子李哲即位。不久，中书令裴炎向武则天禀报，说新皇帝为韦皇后之父韦玄贞连连加官，使之位进宰相，引起朝野非议。于是武则天借此将新皇帝废为庐陵王，立22岁的李旦为帝，是为睿宗。李旦昏庸无能，武则天将他置于别宫，不准干预朝政。此时的唐王朝大权，实际已操纵在武则天手中了。

武则天从徐敬业叛乱中吸取了教训，一是耳目不灵，二是诸王势力的存在是潜在的威胁。为了解决这两个问题，她施用了鼓励

告密和任用酷吏的权宜之计。武则天下令，无论什么人都可以到京城面见皇帝，告发机密；凡是告密之事，任何人不得盘查、阻拦；外地来京告密者，官府供给驿马，沿途享受五品官的待遇，到京后可住官家客馆；告密属实，破格提拔，授予官职，不实者也不予追究。于是各地告密者蜂拥至京，积案如山。武则天从告密者中选拔一批新官，专门处理告密案件。这些人多出身无赖，狡诈残忍，惯于陷害无辜。他们使用异常残酷的手段，帮助武则天镇压异己。

垂拱四年(公元688年)，越王李贞、琅琊王李冲父子打起“匡复李唐王室”的旗号，联络诸王起兵反叛。因诸王各怀心事而没有响应，结果李贞父子兵败身死。武则天借机派酷吏周兴追查余党。周兴罗织罪名，很快就把韩王李元嘉、鲁王李灵夔，以及黄公璞、常乐公主等拘捕至东都，逼令自尽；高宗之孙东莞公李融和霍王之子江都王李绪被斩于市；霍王李元轨因有战功免死流放，在途中死去；太宗第十子纪王李慎，也死在流放途中。永昌元年(公元689年)，又诛杀蒋王李恽、道王李元庆、徐王李元礼、曹王李明等宗室子弟数十人，还杀了他们的亲戚、同党数百家。天授元年(公元690年)九月，武则天终于登上了皇帝的宝座，改国号为周，自立号为圣神皇帝。

告密和酷吏的横行肆虐，造成了小人钻营，世风败坏，人心惶惶，冤狱遍地，怨声载道。武则天认为这个权宜之计的历史使命已经完成，为了安定民心，稳定政局，下令限制告密，并向酷吏开刀。酷吏周兴，以善于制造“谋反”罪而著称，他恶贯满盈，朝野上下恨之入骨。他没想到也有人告发他“谋反”，武则天令酷吏来俊臣审理此案，来俊臣用了“请君入瓮”之计，将周兴置于死地。后来也有人告发来俊臣“谋反”，武则天同样也下令将其斩首于市，并贴出告示，历数来俊臣的罪状，将酷吏造成的社会灾难，统统归于来俊臣，而将自身洗刷得干干净净。

武则天践位称帝后，制定和实施了一系列安邦治国的政略，对大唐各项事业的兴盛和发展起了重要作用。他上承“贞观之治”，一直保持较为兴旺发达的局面，社会安定，经济发展，人口倍增，边疆稳固，国家统一，为“开元盛世”奠定了坚实而雄厚的基础。

神龙元年(公元705年)十二月二十六日，武则天病逝，享年82岁。第二年与高宗合葬在乾陵。在乾陵旁耸立着两座高大的石碑，一座是《述圣记碑》，记述着高宗的文治武功，碑文是武则天写成；另一座是武则天的纪念碑，碑上只字未有。据说立无字碑也是女皇的遗嘱，让后人去评说她的功过。

(张在义)

## 狄仁杰

狄仁杰(公元629—700)，并州太原(今山西太原)人。唐朝著名宰相。

狄仁杰出身于一个普通官僚家庭，少时刻苦攻读，后经科举，进入仕途。他的前半生甚为平淡，直到47岁时，方被任命为一个从六品上的大理丞。大理丞是负责审判的官员。狄仁杰在担任大理丞一年左右时间里，竟然将历年积压下来的1万7千多件未决之案一一审理判决，而且被告及其家庭尽皆服从，无一喊冤叫苦者。这一政绩充分地显示了他的才智与机敏，于是声望渐起，开始受到皇帝的重视。

就在他担任大理丞期间，将军权善才和中郎将范怀文，误砍了唐太宗陵区内的一棵柏树，唐高宗要将他们处以死刑。负责审判事宜的狄仁杰认为，这样做不符合法律，便上奏皇帝，说权善才和范怀文二人罪不当死。高宗十分不悦，说不杀这二人则为不孝。狄仁杰固执己见，仍据理力争。高宗大怒，命狄仁杰退出朝堂。狄仁杰则振振有词，说：“犯颜直谏自古以来就是一件难事，臣以为只有遇着商纣那样的暴君才是难事，而遇到尧舜这样的圣贤之君就很容易了。权、范二人之罪法不至死，而陛下特命杀之，则是



法失信于民。今天如果陛下以一棵柏树而杀两位将军，后代将评论陛下是一位什么样的君主呢？臣之所以不敢接受陛下的旨意，就是担心导致陛下陷于无道啊！”这番话极其委婉地批评了唐高宗的错误，指出其不依法将带来不良后果，使唐高宗无言以对，终于接受了狄仁杰的意见，减轻了对权善才、范怀文的处分。几天以后，狄仁杰被任命为侍御史。侍御史负责纠劾中央各部、司的官员，虽官阶只是从六品下，甚较大理丞为低，但由于积司纠劾，且常在朝堂值班，可有较多机会接触皇帝，所以实际地位要比大理丞重要得多。

在侍御史任上，狄仁杰认真负责，不畏权奸，机敏的辩才发挥了重要作用。当时任左司郎中的王本立是皇帝的幸臣，恃宠用事，朝廷内外皆畏之。狄仁杰上奏其奸，要求将其交由法司审判，而高宗则下旨要赦免王本立，狄仁杰复奏道：“陛下为什么要怜惜罪人以亏王法呢？如果一定要赦免王本立的话，那就请把我充军到不毛之地去吧！”面对狄仁杰的力争和他的忠贞之诚，高宗只好把王本立交法司处理，王本立由此而获罪，在朝廷内外引起极大反响。

弘道元年（公元683年）末，唐高宗去世，武则天以太后身份临朝称制，掌握了朝廷大权。狄仁杰此时被任命为宁州刺史。宁州（今甘肃宁县、正宁一带），是一个各民族杂居地区。狄仁杰对汉族与各少数民族一视同仁，使境内居民和睦相处，安居乐业。垂拱二年（公元686年），御史郭翰出巡陇右，进入宁州时，向他赞扬狄仁杰德政者比比皆是。郭翰回朝后，上表向武则天举荐狄仁杰，狄仁杰则被内调为冬官侍郎，后又出任江南道巡抚使，开始受到武则天的重用。

垂拱四年（公元688年），狄仁杰又被任命为豫州（今河南南部）刺史，狄仁杰出任豫州时，正值原豫州刺史、唐太宗之子越王李贞起兵反对武则天临朝称制而遭镇压之后，李贞起兵时，曾胁迫当地的一批官吏与之一

道叛乱，并授之以官职。这批官吏有六七百家，5000余口。当时率兵进入豫州镇压叛乱的当朝宰相张光辅主张将这些“逆人”悉数从严惩办，而狄仁杰则持反对态度。他为向武则天表明自己的主张，又不至于使其反感，就给武则天上了一封密表，说：“这些所谓的‘逆人’都是些受胁迫而误入迷途者。我如果不如实反映这种情况，则担心没有体现陛下对百姓的仁义怜恤之情；但如果公开进表上奏，又似乎是在为‘逆人’申理。”狄仁杰用这种婉转的措词，暗示了自己从宽处理的主张，使武则天部分地接受了他的意见，把原来被判死刑的人改判流放丰州（今内蒙古河套西北部）。

张光辅平叛之后，滞留豫州，其将士自恃有功，多求索取，受到狄仁杰的拒绝。张光辅闻之大怒，对狄仁杰说：“你这小小的州将竟敢轻视元帅吗？”狄仁杰答道：“本来乱豫州者仅是一个越王李贞，今死了一个李贞，却来了上万个李贞。”张光辅问他这话是什么意思，狄仁杰朗声回答：“你率兵30万来此地，所要诛杀者只是李贞。城中百姓闻官军至，缒城而出投奔官军者成千上万，他们所用的草绳都被踩成了路。现在你放纵将士暴掠，将杀害投降者当成功劳，所流鲜血都染红了土地，你们不是上万个李贞是什么？我恨不能得到尚方宝剑，加在你的颈上！”对于狄仁杰义正词严的回答，张光辅哑口无言。回朝后，他上奏狄仁杰言语不逊，于是狄仁杰乃被下贬为复州（今湖北沔阳西南）刺史。

狄仁杰虽遭下贬，但此事在武则天那里却留下了极为深刻的印象。两年后武则天当了皇帝，不久便任命狄仁杰为宰相。武则天对狄仁杰说道：“你在豫州时甚有善政，但有人谗毁你，你知道他是谁吗？”狄仁杰回答说：“如果陛下认为臣下在豫州的作法是错误的，臣愿改正之；如果陛下认为臣没有错误，那就是臣的幸运了，臣不想也不愿意知道谗毁者的姓名。”狄仁杰这种超然的态度、得体的回答，受到了武则天的赞赏，在武则天的心



目中，狄仁杰的印象更加深刻了。

然而，狄仁杰就任宰相后不久，却因武则天的侄子武承嗣的陷害而锒铛入狱。长寿元年(公元692年)正月，武承嗣指使人诬告狄仁杰等有谋反罪。武则天将此案交给当时著名的酷吏来俊臣办理，并要求弄清真相，但不许动刑。可是来俊臣并没按照武则天的要求去办，他对狄仁杰动用了酷刑，并采用诱供的办法要狄仁杰承认自己犯了谋反罪。狄仁杰答道：“大周代唐，万事更新，我是唐室旧臣，甘受诛戮。反是实。”狄仁杰虽承认谋反是实，然而细观其言，却无半点谋反事实，只不过是承认自己是唐室旧臣而已。这种貌似肯定，实则否定的作法，着实反映出狄仁杰的聪敏过人之处。狄仁杰既已承认自己犯有谋反罪，来俊臣便待报行刑，从而放松了对他的监视。狄仁杰趁此机会将衣衬撕下，把在狱中所受种种虐待书于其上，然后缝于棉衣之中。他对狱吏说：“天气已经渐热，请替我把棉衣交给我的家人，让他们把棉花去掉。”狱吏同意了他的请求，把棉衣送到狄仁杰家里。狄仁杰的儿子得到冤状，将其送至武则天手中，武则天阅后便派人前往狱中调查。来俊臣得知调查一事，便以朝服将狄仁杰所穿囚衣换下，伪造假像，同时以狄仁杰的名义伪造一份“谢死表”，交由调查者带回。后来武则天召见狄仁杰，问他为何承认谋反。狄仁杰答道：“如不承认，我早被来俊臣拷问死了。”武则天又问他为何要作“谢死表”，狄仁杰当即否认。武则天方知此案乃是一起冤案，从而狄仁杰得以免除死刑，下贬为彭泽令。

延载三年(公元696年)，莒州(今辽宁锦州一带)地区的契丹族起兵反抗武则天统治，军至幽州(今北京一带)、冀州(今河北冀州)一带。这时武则天想起了狄仁杰，将他擢升为魏州(今河北大名一带)刺史、幽州都督等职，以抵御契丹入侵。契丹起事平复后，狄仁杰再次被内调为宰相。从此他再也没有离开过武则天左右，而成为武则天最为亲近的

近臣之一。

狄仁杰复相后，积极开展复兴唐室的活动。一次，武则天颇为不安地同近臣们谈起她梦到了一只大而美丽可两只翅膀却全折断的鹦鹉，要他们对此作出解释。狄仁杰答道：“鹦鹉即是陛下，因为陛下姓武。而翼就是陛下的两个儿子(指李显和李旦)。如果陛下起用两个儿子，则两翼振而鹦鹉可飞。”经过各方面的努力，武则天于圣历元年(公元698年)3月迎李显回洛阳，后又被立为太子。为巩固李显储君地位，以期将来顺利登上帝位，复兴唐室。狄仁杰还推荐了张东之等一批既忠于唐室，又富有才能的人才给武则天，为将来扶佐李显进行人事上的准备。

久视元年(公元700年)九月，狄仁杰因病去世，终年71岁。

作为一个杰出的政治家，狄仁杰后半生的活动，在唐朝历史上具有重要意义。他为政正直，嫉恶如仇；待民态度仁厚，体恤民情。在武则天时期唐王朝的发展中起了重要作用。他在晚年图谋复兴唐室，避免政权落在武承嗣等人手中，对历史发展也有着一定的积极意义。狄仁杰在其一生宦海生涯中，机敏过人，富于说辩之才，吐露许多难言之语，成就许多难成之事，在中国古代政治谋略家中显出自己独特的个性。

(攸 笛)

## 李光弼

李光弼(公元708——764)是唐代中期多谋善战的平乱名将。祖居营州柳城(今辽宁朝阳县)，契丹人。其父楷洛，官拜左羽林大将军。封蓟郡公。李光弼自幼受父影响，通晓兵法，善于骑射。初为左卫亲府左郎将，又进为府兵马使；后继承父爵，因功封为云麾将军；安史之乱暴发，得到郭子仪的赏识，保举为河东节度使。

唐天宝十四年(公元755年)二月，李光弼担任“分兵东进，先定河北”的使命，率领马步兵1万和太原弩手3000东出井径，直取

常山郡(治所在今河北正定县)。真定城中3000团练兵士见唐军到来，乘机起义，与李光弼里应外合，杀尽胡兵，捉获叛将安思义，开城出降。李光弼恤民善俘，安定百姓，感化降将。安思义感激不杀之恩，主动献策。李光弼根据他提供的情报，决定移军入城坚守，伺机出战。安思明闻讯，于次日拂晓率两万铁骑直逼真定城下。李光弼只派500步兵从东门出战，叛军阻住城门，奋力抗拒。李光弼命500弩手，登上城楼，乱箭齐发，射退叛军，又命千名弩手分成四组，轮番放箭，矢如雨下，连续不断；叛军只好撤离，在北侧列阵。李光弼见时机已到，派出5000精兵，在南侧结成长枪队，弩手配合，出城激战。叛军死伤过半。返时城外村民报告，说有5000叛军从饶阳方向赶来，一昼夜走了170里，正在距城60里处休息。李光弼闻报，立即派步骑各2000，偃旗息鼓，沿滹沱河谷疾速行进。叛军正在生火造饭，猝不及防，唐军乘机掩杀，无一生还。史思明引军退入九门、蒿城，据垒自保。

至德元年(公元756年)四月，史思明溃败九门，逃入博陵，李光弼引军围城，久攻未下。唐玄宗听信宰相杨国忠谗言，促令潼关守将哥舒翰舍关出战，结果20万官军遭叛军伏击，哥舒翰被俘，都城长安失去屏障，朝野震惊。玄宗仓惶出宫逃往成都。李光弼率兵5000奔赴太原。

太原城中只有团练兵卒不过万人。史思明知太原空虚，集10万大军汹汹而来，企图一举攻取。李光弼亲率士兵和民夫在城外深挖堑壕，作为第一道御敌工事。并令军民就便在壕中取土，制土坯数十万块，以小股兵力在堑壕阻击逆军，城中军民则用土坯修缮加固城墙。李光弼命工匠制作发射巨大石块的“大炮”，每抛掷一次，总有数十人被击毙，叛军死伤十之二三。李光弼在军士中发现有3人过去曾是探矿采铜的工人，擅长挖掘地道，于是，让他指挥兵卒将地道从城中挖到城外，趁敌军骂阵挑战之机，地下伏兵跃出，

将敌兵拖进地道，擒入城中，斩首示众，从此使其不敢轻易靠近城墙。叛军又在城外积土为山，准备用云梯从高处攻城。李光弼命人迎着土山挖成地道，云梯推至城下，便崩陷在地道中。

李光弼派人出城到敌营，假意约降。史思明信以为真。李光弼让人将地道挖至敌营之下，用大木支撑地道顶部。到了约定日期，李光弼在城中守备，派一名偏将带领千人出城，作出投降的样子，叛军将士正向这边张望时，城中兵士拉动机关，地道中的大木倾倒，地面突然塌陷，叛军纷纷跌入地道，死伤千余。李光弼一声令下，城上擂鼓震天，城外诈降的唐兵冲杀过去，城中精锐随之出击，杀伤及俘虏叛军1万多人。正当此时，叛军发生内乱，安庆绪杀死父亲安禄山，命史思明归守范阳，只留下蔡希德等将领围攻太原。李光弼乘史思明撤离之机，率勇将精兵开城出战，大败蔡希德，斩杀敌军7万多人。李光弼以少数兵力，灵活机动的战术，终于粉碎了叛军对太原的围攻。

乾元二年(公元759年)七月，唐肃宗召郭子仪回京，拜李光弼为天下兵马副元帅，接管朔方军务。李光弼率500河东骑兵驰赶东都洛阳。九月史思明亲率数万大军进攻汴州，直取洛阳。李光弼命人将官吏眷属转至潼关以西，动员百姓出城避敌，将油、铁等物资随军运往河阳。史思明随后进入洛阳，发现原是一座空城，不敢在城中停留，急忙率军出城，屯扎在白马寺以南。十月，史思明攻河阳，李光弼坚守不战。史思明有1千多匹良种战马，每天都要到河岸浅滩给战马洗澡，意欲以此威慑李光弼，以瓦解城中守军斗志。李光弼命兵士在军中选出500匹母马，将马驹关在城内，待到史思明战马到了河边，就把500匹母马全赶出城。母马失去马驹，嘶鸣不已。史思明的战马都是公马，听到对岸母马的叫声，纷纷浮水渡河，结果悉被引进河阳城中。史思明弄巧成拙，恼羞成怒，他见河阳城被两股水流分隔，中间有

浮桥连通，便使出一计：将数百只战船列于河中，点燃前面的战船，顺流漂下，以图烧毁浮桥。李光弼见状用事先准备的数百条百尺长杆，根部安装巨木作支柱，杆头装上铁叉，将火船迎头叉住，顶在河心，火船不能前进，一会烧成灰烬。后面的战船也被叉住，不得进退，最后被桥上“大炮”发巨石击沉。

史思明正面攻城已无计可施，便分兵断绝李光弼的粮道。李光弼分兵屯扎在野水渡，晚上留下部将雍希颢率1000兵卒守营棚，自己转回河阳城。行前，对雍希颢说：“叛军中高庭晖、李日越、喻文景都有万夫不当之勇，今夜史思明必派其中一人来劫营，我暂时回避一下，你在这里等候他们。如果叛军来了，切莫与之交战。若是投降，你就带他们来见我。”诸将莫名其妙，只觉可笑。不出李光弼所料，史思明果真对李日越说：“李光弼擅长守城，不善于平原作战，今他屯扎野水渡，要擒他轻而易举。你率铁骑趁夜劫营，为我捉回他，若不成功，就别回来见我。”李日越率500骑兵于黎明时来到野水渡，雍希颢在战壕里浅吟长啸，若无其事地看着李日越，守营士兵也在休息，没有临战的样子。李日越大惑不解，问道：“司空（指李光弼）在吗？”答：“夜里走了。”问：“兵多少？”答：“千人。”问：“谁是主将？”答：“雍希颢。”李日越回头对部下说：“李光弼走脱了，只捉雍希颢回去难以复命，我必死无疑，不如投降。”于是向雍希颢请降，雍希颢领着他一同去见李光弼。李光弼以诚相待，引为心腹。没过几天，高庭晖也率众来降。李光弼明察敌情和敌将心理，利用自己的短处引敌上钩，招降两员敌将，真是千古奇计。

史思明计计落空，只好再一次强行攻城。李光弼看到河阳城的浮桥仍显薄弱，决定亲自率兵驻守。为了争取时间，命部将李抱玉务必死守南城两天。李抱玉以攻为守，牵制攻城叛军主力，为李光弼赢得了时间。李光弼在河中沙洲上筑起城垒，城垒外设置木栅，栅外又挖了深宽各2丈的堑壕，与河

阳城相呼应。工程完后，叛军才发觉李光弼的意图，于是叛将周挚放弃对南城的攻击，合力攻打李光弼的营垒。李光弼分别派出部下猛将攻打敌方坚固的阵角，与叛军展开一场恶战。叛军终于支持不住，连连溃退，唐军随后追杀，杀死叛军1万多人，生俘8000，擒获大将徐瑱玉、李秦。此时史思明正急攻南城，不知此处军情。李光弼将战俘押至河边，向史思明示威。史思明见况，仓惶遁逃。

史思明为挽回败局，决定发挥骑兵优势，诱使唐军进攻洛阳，欲集中兵力消灭李光弼。他派人潜入长安，散布谣言说：“屯守洛阳的安史部众，都是燕北人，久戍思归，上下离心，若趁机进攻，可一举击溃。”大唐观军容使鱼朝恩急功好利，信以为真，屡次上言陈述出兵洛阳的种种理由。于是唐肃宗下诏命李光弼攻取洛阳。李光弼被迫出战，结果唐军大败。李光弼上书请罪。肃宗召他入朝，抚慰如初，不久又任命他为太尉，兵马副元帅，继续指挥大军平定叛乱。

史思明乘胜进军，迅速占据13州，正欲西入潼关，直捣长安。李光弼受命后，匆匆上任，奔赴前敌。他派兵遣将，分路出击，一举收复东都洛阳。史朝义屡战屡败，走投无路，自缢而死。历时8年之久的安史之乱终于结束了。

李光弼治军严整，每次出战，必先深思熟虑，定出计谋，然后才遣将发兵。他善于出奇制胜，往往以少胜多，当时被誉为“中兴第一将”，与郭子仪齐名。死后，代宗赐谥号为“武穆”，以表彰他一生的功绩。

（张海新）

## 张 巡

张巡（公元709—757）是唐代一位机智多谋、英勇善战、气节刚烈的爱国名将。邓州南阳（今河南邓县）人。唐玄宗开元末年进士，历任清河、真源县令。因讨伐安禄山有功，唐肃宗至德二年诏拜为御史中丞，同年殉难。

玄宗天宝十四年(公元755年)冬安禄山叛变,攻占东都洛阳,第二年六月潼关失守,长安大震,玄宗和杨国忠等匆忙逃向蜀中。叛军所到之处,烧杀抢掠,关中一带百姓奋起抗击敌军,处杀安禄山委任的官吏。河南方面,地方官张巡、许远等在人民支持下,坚决地阻遏叛军南下。

张巡所在谯郡太守杨万石投降叛军。张巡带兵离开真源,进入雍丘县(今河南杞县),准备抗击敌军。已经投敌的原雍丘县令令狐潮与叛将李怀山、杨朝宗、谢之同等率兵四万来攻打张巡。城中将士见敌军人多势猛,个个惊恐,失去了固守决心。张巡见此情景,对大家说:“贼兵气势很盛,必然轻视我们。趁其无备,出其不意袭击他们,敌军定然惊惶溃退,一旦敌人士气受挫,我们士气才会高涨,城才能守住。”于是张巡派出千名兵士到城墙上防守,自己带领1000人马,分成数队,开门突然出击。张巡身先士卒,直冲贼阵。贼兵不知所措,果然惊惶溃退。第二天贼兵又来攻城,百门大炮架在城周,轰毁了城楼及女墙。张巡就在城墙上树立木栅,阻挡大炮射出的弹丸。贼兵就象蚂蚁一样攀附木栅登城。张巡命士兵捆束蒿草,灌上油脂,点火投到城下,使贼兵无法登城。张巡时常乘贼不备出城袭敌,有时趁黑夜偷偷把兵士缒下,偷袭贼营。

雍丘被围数月,听不到朝廷的音信,令狐潮写信劝张巡投降。城中有6位开府大员,见形势危急,也劝张巡投敌,以保全性命。张巡知道自己身单势孤,心生一计,表面答应了他们的劝告。第二天张巡在大堂上摆设皇帝的画像,带领诸位将士去朝拜,个个泣不成声。这时张巡将6员大将领至堂前,历数他们企图投敌变节的罪状,并立时处斩,以此激励将士的意志,表示坚守抗敌的决心。

贼兵久围不撤,城中箭矢已用光,张巡命兵卒扎草人千余,穿上黑衣,趁黑夜从城墙上缒下,贼兵辨不清真假,争先恐后万箭齐发射向草人。当贼兵知道上当时,张巡已

收得敌箭数十万支。之后,又趁黑夜将兵士从城墙上缒下,贼兵还以为是草人,皆讥笑张巡用计愚蠢,因而毫无防备,五百名不怕死的兵士冲入贼营,横冲直闯,杀得贼兵纷纷逃命。令狐潮恼羞成怒,又增兵围困。雍丘城中烧柴用尽。张巡骗令狐潮说:“我要领兵逃跑,请你军后退60里,给我让出逃走道路。”令狐潮不知是计,答应了张巡的要求。张巡令兵士倾城四出30里,拆屋伐木而还。令狐潮怒不可遏,又加紧围城。过了数日,张巡又派人对令狐潮说:“你要这座城,必须归还我30匹战马,我得到战马就要逃出此城。”令狐潮信以为真,送还战马30匹。张巡将战马分给骁勇善战的将士,并与他们约定说:“贼将一到,每人必须捉获一将。”第二天,令狐潮指斥张巡不讲信誉。张巡说:“我想逃走,将士们不依从,怎么办?”令狐潮大怒,要与张巡交战。未等贼兵列阵,30名骁勇骑将突然出击,擒获14员贼将,杀敌百余,缴获大批器械、牛马。令狐潮连夜逃到陈留(今开封)。

至德二年(公元757年)正月,睢阳太守许远向张巡告急,张巡立即率部进驻睢阳,与许远拥城固守。当时许远与张巡共有兵1万人。三月叛将尹子奇补充兵员后,第二次攻打睢阳。张巡见敌势凶猛,怕将有恐惧之心,便对大家说:“我受国家的恩惠,应当冒死为国守城。但想到诸位将士为国捐躯,抛尸荒野而得不到加功赏赐,我深感痛心啊!”将士们受到激发,都请求奋起抗敌。张巡乘兴杀牛宰马,犒劳兵士,率全军出战。贼将见张巡兵少,讥笑他是以卵击石,因而并不加防备。张巡乘此机会,亲执帅旗,带领诸将士直冲敌阵,贼兵大败。尹子奇增兵围城,加紧攻击。张巡让将士每夜晚擂鼓呐喊,作出要出城交战的样子。尹子奇不知虚实,只得连夜警备,不敢稍息。天亮鼓声停息,城中一片寂静。尹子奇派人乘“飞楼”侦察,未见动静,便解甲休息。张巡与将军南霁云等10余将领,各带50骑兵,疾速冲出城门,直

闯贼营，杀到尹子奇的指挥大旗之下，贼兵方才知晓，未等披甲戴盔，已做了刀下之鬼。张巡要射杀尹子奇，但不识其面目，他急中生智，削了支蒿杆当箭，射进营中，中箭者一看是蒿杆，以为张巡军箭矢已尽，跑到尹子奇跟前禀报。张巡这才认出，忙令南霁云射杀尹子奇，一箭射瞎了他的左眼，尹子奇在混乱中侥幸逃脱。

秋七月，尹子奇又征兵数万，围攻睢阳。这时睢阳粮食已经断绝，又得不到外援，将士们每天只发给一合米，与茶叶、纸张、树皮掺和着吃。战斗加上饥饿，使城中耗伤甚大，只剩1600多人艰难坚守。贼兵制造六轮云梯，200名精兵立于梯上，向城墙推进，要从梯上跃入城中。张巡便预先在城根挖了3个洞，等云梯一靠近城墙，从一洞中伸出一大木，顶端有大铁钩，钩住云梯，使不能后退；又一个洞中也伸出一大木，顶住使不能前进，另一洞中还伸出一大木，木端安装铁笼，中装燃火烧云梯，火势凶猛，霎时间云梯烧断，梯上兵士坠地烧死。贼兵又推来钩车，企图钩毁城墙上的城楼。钩车所到之处，城楼立时就被毁坏。张巡见状也想出对付的办法：在一根大木顶端安装上铁锁链，锁链末端安装上大铁环，拉住钩车的钩头，用沉重的战车将钩车提上城墙，拽入城内。贼兵不甘罢休，又制造湿牛皮盖顶的木驴攻城，张巡命士兵溶化铁水，待木驴靠近城墙，将铁水注下，烧毁木驴，隐藏在木驴下的贼兵尽皆烧死。贼兵又在城西北角上用木袋木柴堆积磴道，要从此登城。张巡表面上不予理睬，但暗地命士兵将松明、干蒿投入其中。十几天过后，贼兵出城，集兵要从磴道强行攻城。这时张巡下令顺风点火烧磴道，熊熊烈火，贼兵无法扑灭，一直烧了20多天。

贼兵想出种种攻城办法，都被张巡一一破毁。他的随机应变，智巧百出，就连贼兵也佩服不已，因而不敢再攻，便在城外挖三重战壕，树立木栅，以防备其突围。张巡也在城内挖壕拒守。

睢阳城中，只剩600名兵士，形势日趋窘迫。张巡为了阻住叛贼南进，就派大将南霁云率领30名骑兵冒死出城，到临淮（今安徽泗县东南）向节度使贺兰进明求援。不料，贺兰进明嫉贤妒能，借口说：“今日睢阳，不知存亡，救兵去了又有何用？”竟拥兵观望，不肯救援。南霁云气愤地说：“睢阳若失陷，南霁云以死向你请罪。况且睢阳失陷，波及临淮，犹为皮毛相依，岂能不救！”南霁云见贺兰进明没有援救的意思，就转至宁陵，和城使廉坦同领3000步骑，趁夜冲入睢阳城外的贼营，搏杀至城下，死伤惨重，仅剩1000人左右进入城内。城中将士得知没有救兵，都失声痛哭。尹子奇更加紧了对睢阳的围攻。

睢阳城中断粮已有3个月之久，将士们吃尽了茶纸、战马，吃尽了鼠雀，实在无奈，张巡杀了爱妾，部下许远杀了童仆给士兵们吃，最后吃尽城中妇女和老弱男人。将士们明知必死，但未有一个叛敌的。十月上旬城被攻破，张巡壮烈殉难。

张巡坚守睢阳，在国家危亡的关头，把个人生死置之度外，在守军和进犯之敌敌我众寡悬殊，粮尽无援，遭受历史上罕见的艰难困苦的情势下，仍能坚守孤城达10个月之久，前后经历大小战斗400多次，他临敌应变，巧计迭出，以少击多，以弱制强，杀敌12万，使叛敌始终不敢越过睢阳而进入江淮地区，保证了唐军有江淮财赋接济，对削平叛乱，做出了巨大贡献。唐代大文学家韩愈在《张中丞传后叙》中称张巡、许远有“守一城，捍天下”之功，这个评价是不过分的。

（张在义）

## 刘 晏

刘晏（公元716——780）是历史上一位功绩卓著的经济谋略家。字士安，唐代曹州南华（今河南东明县东南）人。生于开元盛世，自幼天资聪敏，勤奋好学，年方8岁，就被任命为太子正字，掌管刊正经、史、子、集

中的错误。天宝年间曾出任县令。为官廉洁公正，为民谋利，深受百姓拥戴。离任时，百姓为他刻石颂功。安史之乱中，刘晏抗击叛军有功，被任命为彭原太守，改官陇、华二州刺史，又调任河南尹。之后升任户部侍郎，兼御史中丞和度支、盐铁、铸钱等使。京城收复后，又调任京兆尹，后遭诬陷，被贬为通州（今四川，治所在达县）刺史。

代宗李豫十分器重刘晏，即位时将他从通州召回，又任命为京兆尹、户部侍郎，统属度支、盐铁、铸钱、租庸使。后因受诛连，被降为太子宾客。不久又晋为御史大夫。

安史之乱给黄河两岸百姓造成巨大灾难，居无尺椽，百业荒废，人烟断绝，千里萧条，唐朝的经济、政治都陷入十分困窘的境地。关中地区，尤其京城长安，急需调运江淮地区粮食接济。可是昔日运河已经破坏，无法通航，就连宫廷中也上顿不接下顿了。统属江淮转运使的刘晏，目睹这种困境，十分焦急，决定亲赴各地考察。他从淮河、泗水至汴河，入黄河，西至底柱山、硖石县、三门峡，又到河阴、洛口，把恢复水运的难与利了解得清清楚楚。他认为，只有解决南北水运，才可尽快缓解关中地区缺粮的燃眉之急，且可减轻这一地区人民的赋税和徭役负担，又可使东都洛阳地区的居民迁回故地，恢复正常农商活动，军储也得以扩充。但要治理南北水运，刘晏清醒地看到面临的困难很多，他怕受人牵制，放不开手脚，便写信给宰相元载，陈说恢复水运的利与难。元载将此事全权交给刘晏。刘晏受权后，雷厉风行，首先疏浚汴河河道，使汴、泗畅通。汴河入黄河，上溯至三门峡一段，水流湍险，过去漕粮经过这里，往往损失十分之二、三。为使漕运安全，刘晏重新组织船只和人力，把10只船编为一纲，使之能经得住急流的冲击，每纲配备篙工50人，纤夫300；又从巴蜀、荆襄调运大批竹、麻，制成结实的纤绳，避免穿越险流时，因绳断而船毁人亡，

从而使漕运得以顺利通过三峡险隘。

同时，他还采取了以下几项措施：

一、付高价，选好船。在扬州建立10个造船厂，选拔廉洁精干的官吏督办，造了两千艘坚固耐用的船只；

二、改直运为分段接运。以前的漕运，每年二月船队集于扬州，入黄河时，正遇夏末秋初黄河水涨，要中秋水落才启船上行，这样耗时太多，况且南方船工不适应河道和北方气候。分段接运，自扬州至清口为一段，自清口至河阴为一段，自河阴至渭口为一段，自渭口至长安为一段。在扬州、河阴、渭口三地设立仓库，储存粮物。多次装卸难免有损，刘晏又把散装改为袋装，这也使装卸更加方便。

三、派官督运，兵甲押护。漕运途中已久无驻军与哨所，盗贼抢劫十分猖獗；即使到了有驻军之地，也常被截留。针对这种情况，刘晏将从前的州县富户督办漕运，改为由国家包办督运，沿途设置护运队，分段由官吏督运，兵甲押护。

经过刘晏的精心处理，南北漕运很快畅通，江南粮物源源不断运到京城，关中即使遇到水旱灾粮价也稳定了。

唐肃宗乾元元年（公元758年），朝廷采纳盐铁使第五琦的建议，在产盐区设置监院，统购“亭户”生产的盐，在州县设盐官专卖，把每斗盐价由10文提高到110文。这样做，虽国家盐税有增加，但盐官遍布州县，层层敲诈勒索，百姓深受其苦。刘晏任盐铁使后，考察了现行盐政，决定改革盐法。他首先撤销原来非产盐区的州县盐官。只在产盐区州县设此职；在产盐区辟置4处盐场，10处盐监，负责管理食盐生产，并收购各地食盐，集中于盐场；13处设巡院，负责盐价管理，缉查走私活动。然后改革专卖制度，变原来官收官销为官收商卖。盐集中到盐场后，加价卖给商人，商人可以自由到各地出售。官府在吴、越、扬、楚等地建置数千盐仓，积存2万余石食盐，以备意外急需。还在边远

偏僻的非产盐区，设“常平”盐，防止商人不到，百姓缺盐，也控制商人借机抬价，牟取暴利。

这种新法的实施，使朝廷通过垄断货源而取得利润；也使官府减轻运销负担，节省人力、财力；又能平衡盐价，保证百姓的需求；同时，也刺激了生产者和销售者的积极性。真是一举多得的良策。

刘晏还自兼常平使，把平稳全国物价，作为治理弊端丛生的国民经济、稳定政局的重要措施：

他首先建立情报系统。在诸道设巡院，各置知院官。巡院官在各地调查生产情况，物价的涨落以及经济上的诸种问题，再由用高薪雇用的通讯人员，通过沿途设立的驿站迅速传递，没几天就到了刘晏手中。

其次，利用常平仓平稳粮价。各地的常平仓，在丰收年月粮价较低时，以略高于市场价格大量收购储存；荒年，又以略低于市场的价格出售，使百姓没有粮价甚高甚低之忧。平常年景，常平仓则少收些粮食，补充储备，以备饥荒。在此之前，各地粮食收购价格和数量，统由官府主管官员确定，先由各地上报，官府批复。刘晏认为这种办法繁琐、误时。他先制定出一个原则，各地不必上报，按原则规定自定购价和数量。这个原则是：他把几十年来粮食收购价格和数量进行综合，然后将价与量分成五个等级。第一等价格为最高，第五等价格为最低；第一等数量为最多，第五等数量为最少。如果粮食价格高时，为第一等，就按第五等数量收购；粮价低时，为第五等，就按第一等数量收购。余皆类推。粮价过低，在第五等以下时，则适当加价收购，以鼓励农民积极性。这样常平仓成了平稳各地粮价的后盾，国家在一买一卖中获得了较大的利润，增加了国库收入。

刘晏理财，以爱民为先。他认为爱民不在于恩赐，而应创造条件，使他们能正常地耕种、纺织，安居乐业，平年不加税，荒年

减免税，尽力减轻他们的负担。他认为民户增多，耕地面积扩大，赋税的来源自然就会多了。因此刘晏任度支使后，首先免除了无名的苛捐杂税，并命各道知院官每旬每月上报当地雨雪丰歉情况，对各地农情了如指掌。每当州县的荒歉现象刚露苗头，他就预先命令下属官吏“免除某税赋，资助某一户”。并向朝廷申奏：某月需若干免除，某月需若干救助。未等地方申报，他的奏章就已被批复，应民之急，未等百姓困窘、逃亡，救济已经到来。这就是他的“救于未困”的主张。刘晏认为善于治病的医生，不使病人达到危险的程度再去治疗；善于救灾的人，不让灾情发展到需要发放赈济物资的程度再去赈济。因为发放的东西少，救活不了多少人；救济的人多，又影响国家的用度；用度不足，又要增加赋税，向百姓身上榨取。这是一害；同时，放赈的方法容易助长人侥幸依赖的心理，下级官吏也往往借机舞弊，致使民户中强者多得，弱者少得，即使用严刑来威吓，也无济于事。这是二害。所以刘晏主张生产自救，他认为受灾地区所缺少的只是粮食罢了，其他的生产品依然存在。国家拿出贱价的粮食，换取灾民其他的生产品，利用百姓的劳动力，把杂货转运到丰收地区出售，或者官府留作自用，那么国家的财政就不会发生困难。这是一利；丰年时，国家多储存一些粮食，遇上灾荒，以平价发放出去，听凭百姓及商人购买转运，粮食就能深入民间，分散到村户。贫苦的农民忙于耕种，无暇入市，这样就可辗转沾润到一些实惠，自然会免去官吏从中梗阻而造成饥饿。这样既方便灾民，又堵塞了弊端。这是二利。利、害相较，刘晏智谋之周密高妙不言自明。

刘晏为国理财，竭精殚智，克己奉公，使唐朝几近崩溃的经济大大好转，国库收入大大增加，人民生活得以安定，农、工生产得到恢复和发展。刘晏可谓唐代后期的救世功臣。



刘晏掌握着全国的钱财，可他为官异常清廉。他住的房子矮小，一点不华丽，饮食很简单，家中没有婢妾。死后，他的政敌杨炎派人登记刘晏家产，结果只有杂书两车，粮食几斛。这在几千年的封建社会高官中是极其罕见的。

(张在义)

## 李 愬

李愬(公元773——821)，唐朝名将。字元直，洮州临潭(今属甘肃甘南藏族自治州中部)人。唐中期名将李晟之子，从20岁起即任坊、晋二州刺史。政绩卓著，屡被升迁。

元和十年(公元815年)，唐宪宗下令讨伐盘踞淮西的吴元济。唐军主帅高霞寓“悍而寡谋”，不善统兵，稍获小胜即轻敌冒进，在文城栅遭遇伏兵，全军覆没，只身侥幸逃脱。元和十一年七月，尚书右丞袁兹取代高霞寓主持军事，对敌人过于仁慈，到任后即撤除警戒，指望与吴元济和睦相处。吴元济进攻，他就卑词请和，致使吴元济的气焰更加嚣张。官居左散骑常侍的李愬，向宪宗上书，毛遂自荐，请缨平吴。宰相李逢吉认为李愬可以胜任，极力保举。宪宗于是委任李愬为隋、唐、邓节度使，担负剿灭吴元济的重任。元和十二年(公元817年)正月，李愬到唐州赴任。部队由于屡次作战失利，将士士气低落，失去胜利信心，唯恐李愬年轻气盛，急于求功，使他们枉送性命。李愬见军中畏战情绪严重，决定先采取宽松安抚之策，稳定军心，以便将不利形势转化为有利形势。吴元济见李愬不练兵，不出战，以为他名位低微，也是无能之辈，便对他不再警惕。

同年二月，李愬见军心已经安稳，敌人已经麻痹，自己的信誉也已经树立起来，便令军队修缮甲冑兵器，作临战准备，同时请求朝廷增兵。宪宗下诏，将昭义、河中、鄜坊三镇马步兵2000调归李愬指挥。因为兵力少，无法与吴元济正面交战，他便采取避实

就虚，各个击破的策略。首先恢复袁兹解除的警戒，派部将马少良率10余名骑兵往来巡逻，侦探敌情。三月，李愬将部队由唐州移至宜阳栅，向蔡州方向推进。随后招降文城栅守将吴秀琳与所率3000兵马。李愬抓住战机，调兵遣将，以迅雷不及掩耳之势，向散在外围的淮西驻军发起猛攻，仅一个多月的时间，连接攻克11处城栅，擒获并收降了敌将柳子野与李祐。至此，蔡州西北、西南、正南的外围要点均被唐军占领，蔡州陷于孤立无援的境地。

擒获李祐后，因为他往日杀唐军太多，将士们极力主张杀掉他。而李愬对李祐却推心置腹，重用不疑。李愬谋划攻打蔡州，这样重大的军事机密，连自己原来的部下都不让参加，只召李祐一起密谈，有时一直商量到半夜。诸将怕李祐不利于主帅的举动，多次向李愬提出忠告，但李愬反而待李祐更亲密，惹得将士们很不高兴。李愬军中的间谍声称李祐是来作内应的，并说得有根有据。李愬担心谣言传到皇帝的耳朵里，自己也无法辩白，于是拉着李祐的手哭着说：“难道是上天不让消灭吴元济吗？为何我俩如此知心，却无法向人表明呢？”他又对众人说：“诸君既然认为李祐可疑，就让他死在天子面前吧！”于是给李祐带上木枷，押往京城。李愬事先写好奏章，详细禀明情况，向宪宗重申：“如果杀了李祐，夺取蔡州便无法成功。”宪宗看过奏章，便下诏释放李祐，将他送回军中。李愬见李祐平安返回，喜不自胜，对李祐说：“你得保全，真是国家的洪福啊！”对李祐更加信任，准许他佩刀巡警，出入军营，有时留在帅账，悄声低语，彻夜不寐。有人从帐外偷听，里面只有李祐感动的哭泣声。当时李愬手下有3000卫兵，全是山南东道的精锐，李愬将这些兵士托付给李祐，任他为兵马使。李愬的极端信任，使李祐等降兵降将竭尽心力，舍生忘死为他效力。

元和十二年(公元817年)九月二十八日，李愬自率精兵攻克吴坊外城，歼敌千余。敌



残部退守子城，不敢出战。李愬引兵诱敌，缓缓撤走。淮西将孙献忠中计，率500精骑随后杀来。唐军见势惊惶欲逃，李愬下马，端坐胡床(交椅)上，传令三军：“敢退者斩！”唐军只好鼓足勇气，与敌死战，结果孙献忠被杀死。有人劝李愬乘势攻击子城，李愬不准。十月十日，李愬命随州刺史史旻留守，命李祐、李忠义率突将3000为先锋，自与监军率3000人为中军，命李进诚率3000人为后援，轻装出发。大军出营后，将士们不知行军目标，李愬告诉大家：“只管向东走！”行军60里，夜至张柴村，消灭守军，毁掉报警烽火，命将士在营栅中就地休息，吃过于粮，检查装束，人衔枚，马摘铃，留下500人守营栅，切断郎山方面的救兵，命丁士良率500人拆毁桥梁栈道，然后大军连夜出发。诸将又问去向，李愬这才实言相告：“入蔡州取吴元济。”诸将大惊失色，监军哭着说：“果然中了李祐的奸计！”

当时天气异常寒冷，风急雪大，大风吹裂旌旗，冻死人马随处可见，天黑路险，将士们以为此去必死无疑，只因惧怕李愬，谁也不敢后退。半夜抵达蔡州城下。城边有一个养鹅鸭的池子，李愬命士兵敲击池岸，惊扰鹅鸭，使之乱叫，借以掩盖人马的脚步声。蔡州城的守军已有30多年未见过官军，对李愬的雪夜偷袭毫无防范。拂晓时，李愬率军来到城下，城内竟然无人察觉。李祐、李忠义命兵士将城墙掘成一道道坎儿，身先士卒，登上城头，三军勇士紧随其后。正在梦中的守军全被杀死，李祐派手下士兵代替更夫，仍象往常一样敲击刁斗，打开城门，放大军入城，一直进到里城，敌人仍未察觉。天刚亮，雪停了，李愬大军已进到吴元济的外衙。吴匆忙率左右军登上内城，准备拒战。当时吴元济部将董重质拥精兵万人驻扎在蔡州城外的洄曲。李愬看出吴元济是在等待董重质来救他，于是赶到董重质家里，殷勤抚慰他的家眷，并派董的儿子到其父那里送信，晓明大义。董重质素闻李愬善待降将，而且家

眷尚在城中，就单人匹马到李愬军中请降。吴元济见大势已去，在城上请罪。李进城竖起云梯，将吴元济捉下，第二天装入囚车，押赴京城。驻守别处的吴元济余部2万余人闻讯来降，淮西藩镇势力一举扫平。

还军文城栅后，诸将问李愬：“当初你败于郎山而不忧，胜于吴房而不取，冒大风雪而不止，孤军深入而不惧，然而却取得最后胜利，我们对此大惑不解，请问这是什么缘故呢？”李愬说：“郎山失利，敌人会因此轻视我而不设防；若攻克吴房，敌余部势必投奔蔡州协力固守，所以留下吴房，分散他的力量；风急雪大，天气阴黑，敌人无法用烽火报信，前敌不知我们到来；孤军深入，只能拼死战斗，别无生路，置之死地而后生。”又说：“看问题总要有所侧重，谋虑深远，不能只顾及眼前的得失，决断大事不应计较小节，如果小胜即骄，小败即馁，自己先乱了方寸，哪还能破敌立功。”

李愬是一位年轻有为的将帅，不但有深刻的军事谋略，而且能严于律己，宽厚待人，知人善任，富于决断，这是他的计谋得顺利实施，以弱胜强，以少胜多的根本原因。

此后，李愬又指挥了多次战役，终被封为上柱国、凉国公。

(张海新)

## 柴 荣

柴荣(公元921——959)是五代时期“应机决策，出人意表”的军事政治谋略家。邢州龙岗(今河北邢台西南)人，为人谦逊忠厚，果敢多谋，被周太祖郭威收为义子，因非太祖亲生，被朝臣排斥在外，任澶州节度使、检校太保，封太原郡侯，为政清肃，深受百姓爱戴。后被召入京，任开封府尹，封晋王，统管天下兵马及禁军。郭威死后，传位给他。

柴荣即位后，内忧外患接踵而来，北汉刘崇乘新君初立，丧乱未息，人心动摇之机，大举进犯。刘崇派人前往契丹，许以重利求

借精兵。契丹王派武定节度使、政事令杨衮，率1万骑兵抵达北汉都城晋阳（今山西太原），刘崇亲自率领3万兵马，以义成节度使白从晖为行军统帅，武宁节度使张元徽为前部总指挥，会合契丹骑兵，自团柏（今山西祁县东南60里）南下，直扑后周边镇潞州（今山西长治）。后周边将李筠闻报，急忙派兵迎战，自率大军撤至梁侯驿东南的太平驿，筑垒固防。张元徽与李筠部将穆令均交战，结果穆令均中计被杀，李筠放弃太平驿，逃到上党，据城自保。

前线失利，消息传到京城，朝野惊慌。柴荣决定亲自出征。太师冯道劝柴荣以自身安稳为念，极力谏阻。柴荣恳切地说：“从前的唐太宗，为了平定天下，每次出兵，无不亲征，终于打下了大唐江山。如今我要继承先皇的遗志，怎敢贪图安逸？”

北汉大军乘胜南下，进逼潞州。大敌当前，柴荣指挥若定，制定三路反击的战略决策。一路从磁州（今河北磁县）固镇（今河北磁县西北）向西北抄到敌后，一路从晋州（今山西临汾）向东北出敌侧面，一路在泽州（今山西晋城）集结，正面迎敌。柴荣同时下令大赦天下，被贬降者官复原职，减免欠交租税，恩赏文武百官，使国内局势空前稳定。显德元年（公元954年）三月十一日，柴荣委任枢密使郑仁海为东京留守，亲自率大军从都城大梁（今河南开封）出发，十六日到达怀州（今河南沁阳）。柴荣考虑到自己兵力不占优势，能否取胜，将士的斗志和战机的把握至关重要，如不能抢占先机，难免造成军心动摇，士气涣散。因此柴荣自从离开都城，一路急行，想趁部队锐气极盛之时与刘崇展开决战。两天后到达泽州东北，就地扎营。刘崇未料到柴荣亲自督战，大意轻敌，不理潞州守将李筠，率众绕城南下，当晚驻军高平（今山西高平）以南。次日后周的前锋部队与北汉军遭遇，北汉军一战即退。柴荣指挥大军紧追不舍，并命泽州刺史彦崇率兵驻守北行要隘，断敌归路。刘崇停住大军，命中

路军在高平西南的巴公原列阵，命部将张元徽率军在东侧，杨衮率契丹骑兵在西侧。阵容十分严整。后周大军由于前部急行追敌，后路军未能及时赶到，两军人数的对比便成悬殊。后周将士有些担心害怕，而柴荣却豪情勃发，信心百倍。他临时调整阵形，命义成节度使白重赞与侍卫马步都虞侯李重进率左路军在西面，樊爱能、何徽率右路军在东面，监军向训、郑州防御使史彦超率精骑在中央，殿前都指挥使张永德率禁卫军护卫。柴荣骑在披着铁甲的战马上于阵前督战。刘崇见后周兵微将少，更加轻敌，甚至后悔向契丹借兵。他对将士们说：“我只用汉军，足以破敌，何必依赖契丹呢？今天不仅要消灭后周，也要让契丹诚心顺服。”诸将也觉有理，只有杨衮清醒，他催马来到阵前，看了后周军阵，回来对刘崇说：“这分明是劲敌，不可轻率进兵。”刘崇不听，命令东侧部队首先出击。张元徽得令率1000骑兵冲击后周右路军。两军刚一交锋，樊爱能、何徽就带领骑兵转身逃跑，右路军即刻崩溃，1000多步兵来不及脱身，弃兵解甲，高喊“汉皇万岁”向北汉军投降。柴荣见军情危急，忙率禁卫军不顾刀锋箭雨，亲自入阵督战。国君的英勇无畏，激发了将士的斗志，皆舍生忘死，奋勇杀敌。

刘崇得知柴荣也在军阵之中，便鼓励张元徽乘胜进兵。张元徽到阵前察看战况，因战马失蹄，跌倒在地，被后周兵士杀死。张元徽是一员猛将，他一死，北汉军顿时气势衰落。这时南风越刮越大，后周兵士顺势反击，北汉军溃不成阵，刘崇亲自举旗指挥，仍无法制止。契丹主帅杨衮见后周军队强悍勇猛，自料没有致胜把握，不敢参战援救，加上窃恨刘崇不听劝告，出言狂妄，于是带领契丹人马撤离高平。

北汉的3万大军，此时只剩1万，刘崇命部队在山涧前面布成阵势，欲背水一战。傍晚后周节度使刘词率后路军赶到，三军会师，乘胜推进，北汉军已成惊弓之鸟，一触即溃，

副枢密使王延嗣战死军中。柴荣指挥大军掩杀，一直追到高平，直杀得北汉军横尸遍野。皇帝刘崇乔装改扮，骑契丹赠的黄骠马，带着100多骑兵狼狈逃窜了。

显德二年十月，柴荣与群臣计议南征。十一月，向南唐发起进攻。柴荣发出讨敌檄诏，历数南唐历代君主抗拒大邦、伪称帝号、勾结契丹等罪名，发布“推轮命将，鸣鼓出师”的开战宣言。向南唐百姓宣布了秋毫不犯、禁止掳掠烧杀的政策。显德三年正月，柴荣为了加快战争的进程，早日取胜，决定亲征南唐，坐镇淮南。前敌总指挥李谷遇南唐军主力，见敌势难挡，便引军后退，固守要隘。柴荣得报，料知南唐援军定会从后追击，急派大将李重进赶到李谷驻地，作激战准备。南唐军大将刘彦贞见后周军后退，以为怯阵，准备乘胜追击，一举获胜。大将刘仁贍劝他说：“你刚来增援，还没交战敌人即退，我们无法预料虚实，还是谨慎为好，不要去追。作为大将，身系军国安危，倘有不测，就一败涂地了。”刘彦贞固执己见，不听劝言。当他追到后周军驻地，李重进先一步到达。刘彦贞军队来不及吃饭，便仓猝列阵。后周军一鼓作气，大败南唐军，杀敌2万，杀死刘彦贞，俘获偏将咸朝朗，缴获大批物资、战马。南唐皇帝李景上表求和，柴荣不受，继续督军进攻。

显德四年二月，柴荣再次亲征南唐。前次亲征淮南，因未备水师，缴获战船也无法使用。此次则组建水师，使得后周军水陆配合作战，更能争取主动。大军所到之处，南唐前线宋将非降即逃，皇帝李景弃都南遁。显德五年，柴荣攻下淮南、江北14座州城。皇帝李景无计可施，只好向柴荣上书服罪，请求“保江南之地，以养宗庙”。奏书陈词恳切，语调凄婉。柴荣答应了他的请求，于是罢兵回师。

平定南唐后，便着手解决北境边患。后周北境，契丹占据着燕云十六州的广大地域，势力极大，时常参与中原战事。显德六年三

月，柴荣为收复燕云十六州，又一次亲征。他督率大军出京师，经沧州，乘舟北上，战船相连数十里。到益津关，河面渐窄，大军弃舟登陆。柴荣率前锋部队兼程急进，所到州县，望风而降。这是有史以来极为罕见的战役，后周军一矢不发，一连收复了瀛、莫等3个州，17个县。这是柴荣一生最为辉煌的时期。正在大举进军收复幽州时，柴荣一病不起，只得起驾回京，于显德六年六月病逝，年仅39岁。

柴荣是五代时有雄才大略的帝王，他效法唐太宗“不爱其身而爱其民”，为扫平战乱而御驾亲征。他治军严明，决策果断，随机应变，胆略过人，功绩卓著，为历代史家所称道。可惜英年早逝，壮志未酬，令人慨叹。

(张海新)

## 赵 普

赵普(公元922—992)，北宋开国元勋，著名政治家。字则平，幽州蓟县(今北京西南)人。自幼性格深沉厚重，寡言少语，工于心计。虽读书不多，然经意于吏事，有济世之才。宋太祖、太宗两朝为相。太宗淳化三年(公元992年)春，拜为太师，封魏国公。同年7月卒，终年71岁。追封为真定王。

后周显德三年(公元956年)，赵普来到赵匡胤军中，任滁州军事判官，成为赵匡胤的部下。赵匡胤十分赏识赵普的才干。赵普为赵匡胤灭周建宋，巩固北宋政权立下了汗马功劳。周显德六年(公元959年)，周世宗柴荣率军北征，途中得一木，长约3尺，其木有字云：“册点检作天子”。世宗惊异。当时，世宗妻弟张永德为殿前都点检，手握指挥禁军大权。世宗疑张永德有图谋之轨、篡夺皇位之心，遂罢其职。改拜赵匡胤为检校太傅、殿前都点检，以代张永德统帅三军。

同年六月，世宗柴荣卒。少妇符皇后佐年仅7岁的柴宗训于先帝柩前即位。新主年幼，不谙人事；皇后新册，不习国政；又无家臣鼎力相助，朝廷军政大权，旁落外臣手

中。

显德七年(公元960年)正月初一,正当后周满朝文武百官庆贺新春之际,忽有镇、定二州飞马驰报,说契丹与北汉合兵南下寇犯,军情紧急。周室孤儿寡母不知所措,宰相范质仓促之间难辨军情真伪,便诏命赵匡胤率军北上迎敌。如此重大军事行动,《五代史·汉书》无记、《辽史》无载,此间是否有契丹与北汉合兵南犯事,镇、定二州据何报奏,此乃千古之谜。

赵匡胤奉命发兵,大军行至京师开封东北40里陈桥驿时,全军将士托故不前,全军屯驻陈桥驿。当时,京师开封一带,有“册点检为天子”之说纷纷谣传。这天傍晚,军中有知星术者苗训同赵匡胤亲信楚昭辅仰观天象,声言西天日下复有一日,天有二日乃世有二主之兆。当时,有无此天象,史无足考,即或有之,也纯系天文自然现象,与人世社会的风云变幻无关,但在天命论统治人们思想的时代,奇异的天文现象,常被政治家所利用。今日赵匡胤的部下苗训、楚昭辅仰观天象之举,与民间所传“册点检为天子”之说,竟如出一辙,遥相呼应,亦非偶然,定有高人谋划,为赵匡胤陈桥举事造舆论。

这天夜里,素为周室竭忠尽力,治军有素,征战有方的赵匡胤,作为三军主帅,竟在寇犯边土、社稷危机之际,醉卧中军大帐。赵匡胤的心腹将领高怀德等人又私下议论,要先立“点检”为天子,然后北征,并把此项动意转告给赵光义与掌书记赵普。赵光义与赵普并没感到震惊,似乎早已知道众将必有此举。于是,当即晓喻众将曰:“异姓兴王,虽说是天命,但事关重大,恐人心浮动。诸将如能严饬军士,勿使掳掠民众,则京师人心定能安定,四方之民也必自安。待大功告成,你等也可共保富贵。”众将当即许诺,在赵光义、赵普的指挥下,分头行动,枕戈待旦,并连夜派人驰告留守京师的亲信石守信、王审琦等知晓。

天至五更,众军士集于驿门,宣言策“点

检”为天子。及天明,赵光义、赵普推门进帐,报告此事。赵匡胤佯装惊愕,慢慢欠身而起。时有众军持械列于庭下,齐曰:“诸军无主,愿策太尉(殿前都点检)为天子。”还没等赵匡胤说话,有人便把事先准备好的黄袍(龙袍)披在他的身上。然后,众人罗列跪拜,口称万岁,山呼不已。随即,众人便拥新主赵匡胤上马,欲南归京师开封,以成大业。此时,赵匡胤在所谓“为六军所迫”之下,俨然以为顺军心而从众命,于是勒马对众将言曰:“你们能听从吗?”众将皆下马,高声应诺:“唯命是听。”赵匡胤接着说道:“周太后、恭帝,我皆尊为旧主,你等不得惊犯宫阙;朝廷命臣,我皆待之以比肩同僚,你等不得凌辱;朝廷府库财物、百姓官吏之家私,你等不得掠夺。听令者有重赏,违令者杀及妻孥。”众将再拜,遂整队向京师进发。

赵匡胤对众将所言与赵光义、赵普的话,多么相似,似出一人之口。前者,赵光义、赵普,把异姓兴王,归于天命;后者,赵匡胤把陈桥举事,归于民心;又皆以“富贵”相许,以收军心。至于对众将提出的要求,及行动布署,也如出一辙,前后可续为一篇。这难道是“不谋而合”吗?

众将三军拥赵匡胤回到京师开封,赵匡胤并未直入大内,而退居公署。令众军士归营,并派心腹将领把宰相范质等朝廷重臣找来相见。赵匡胤在范质等人面前,故作悲态,假意流涕叹曰:“违负天地,今至于此!”还没等范质等人答话,便有列校罗彦瑰按剑厉声对范质等人说:“我辈无主,今日须得天子。”范质等人,见此情景,无计可出,不敢违抗,只好降阶列拜。后又召文武百官,至黄昏时分,众臣排班站定。有翰林院承旨陶谷,从袖中取出周恭帝的禅位制书(自愿让位的诏书),赵匡胤北面拜受已毕。然后,升崇元殿,服衮加冕,即皇帝位。立国号宋,改元建隆。

纵观陈桥兵变的全过程,计划周密,行动迅速,两天之内,便灭周建宋。此举如无

高人谋划决断，不可能如此顺利成功。然谋划者谁？《宋史》不言，《五代史·周书》不记。

赵匡胤，兼有文韬武略，周世宗死后，恭帝幼弱，军政大权为他所握。但他虽有窥周室之心，夺位改元之机，如无知心者明察善断，鼎力相助，他绝不可能下定陈桥举事之决心。

赵匡胤部下诸将，虽然愿意拥赵匡胤为帝，但是，这些人武勇有余，政治谋略不足，绝非陈桥兵变的幕后主要谋划者。

赵普，是赵匡胤的重要参谋，虽然官职不高，但老谋深算，虑事周密，深受赵匡胤信任。明察善断的赵普，既了解赵匡胤的心理，又敢于决断赵匡胤想做而又不便明言的大事。所以，说赵普是兵变陈桥的主要参预谋划者，绝非妄言。

赵普因佐命有功，授右谏议大夫，充任枢密直学士。

赵普虽读书不多，但对历史上武臣持兵权以夺君位的事非常熟悉，自己又参预了宋太祖陈桥兵变的策划。所以，他深知武臣权重，对已经黄袍加身，坐北称孤的宋太祖极为不利。

宋太祖赵匡胤此时也为如何才能巩固自己的统治地位忧心忡忡。特别是“二李”起兵谋反之后，虽然除掉了“二李”，平定了叛乱，但唯恐再有如“二李”者效法自己“陈桥兵变”之举。于是，太祖便召赵普问道：“我欲息天下之兵，使国家长治久安，你有什么可行的妙策没有？”赵普当即提出了“削夺其权，制其钱粮，收其精兵”的方针。

太祖赵匡胤以为赵普所言，不失为良策。遂于建隆二年（公元961年）三月，首先罢免了慕容延钊殿前都点检的职务，调离京师，到外地任节度使。并且，从此以后，此职不再授人。

赵普认为，太祖此举固然必要，但没有彻底解决问题。因为石守信、王审琦等人，虽是拥护太祖为帝的旧属，建宋有功的大将，但他们身居要职，拥兵自重，久后难免不生

反叛之心。所以，赵普又以历史上武臣谋反的教训，提醒太祖对石守信、王审琦等人，也不可不防，建议应当尽快削其兵权，妥善处置。赵普的建议，太祖也曾想过，认为不无道理，暗地称是，但苦于无故削夺功臣兵权，恐众将不服。于是反说：“此辈必不叛我。”赵普见太祖口是心非，似有难言之隐。于是便为太祖提出一个既能削夺石守信等人的兵权，又便于启齿的借口。赵普说：“臣也不忧此辈叛乱。然而，细观数人，皆非统御之才，恐不能制服部属，万一军伍作孽，彼等亦不由自主。”太祖赵匡胤认为，这倒是个令众人无可非议的理由。经过一番精心谋划之后，便于同年七月，演出一段“杯酒释兵权”的故事。

一日晚朝之后，太祖召石守信、王审琦等人饮酒叙旧情。酒过三巡，略带醉意之后，太祖对众将说：“如今我做了天子，也是很艰难的，不如当节度使时快乐。自从登基以来，我未曾高枕而卧过。”众人问其故，太祖说：“道理很简单，世人谁不愿身居此位？”众人听出太祖是耽心有人谋反篡位，才出此言，于是顿首誓表忠心。太祖又说道：“卿等自然不至如此，假如你们的部下，为求富贵而起事，一旦强迫你黄袍加身，尽管你不愿意这样做，难道还能由你自己做主吗？”然后又以钱财富贵相许，以换取他们手中的兵权。太祖说：“人生一世追求富贵，不过是多积金钱，自己吃喝玩乐，使子孙不受贫穷之苦。卿等何不释去兵权，出守蕃镇，多置田宅，为子孙后代建立永久之基业；然后多置歌伎美女，天天饮酒作乐，以终天年。我这个皇帝与你们结为儿女亲家，君臣之间，两无猜疑，上下相安，难道不是更好吗？”众人听罢，方知太祖的用心。第二天，石守信等人，便都上表请求辞职，交出兵权，到外地当节度使去了。

宋太祖顺利地收回兵权，了却了心中的一件大事。赵普因献策有功，于建隆三年（公元962年），迁升为枢密使。

赵普一生，辅佐两朝，为北宋王朝的建立和巩固，竭思尽虑，做出了不可磨灭的贡献。正如宋太宗所说：“赵普能断大事，尽忠于国家，真社稷臣也。”

(寇文魁)

## 赵匡胤

赵匡胤(公元927—976)，宋太祖，北宋王朝的开国皇帝。中国古代著名的政治家、军事家。

赵匡胤出生在五代时期后唐的一个武将家庭。他出生时，威赫数百年的唐王朝已不复存在，中原大地支离破碎，军阀割据，武人称雄。在这样一个特殊的历史背景下，加之家庭的耳濡目染，赵匡胤自幼便喜好舞刀弄枪，练就了一身好武艺。长大成人之后，赵匡胤不甘老守田园，决心自己闯荡江湖，干一番惊天动地的事业。他21岁那年，告别了自己的父母妻子，开始了浪迹天涯的生活。

然而，事情并非皆尽如人意，赵匡胤离家之后，先西行关陇(今陕西、甘肃)，又南下湖北，不仅未遇机缘，反而穷困潦倒，几于市井无赖为伍。后在一和尚指点下，他才投奔当时担任后汉枢密使的郭威帐下为伍，总算有了个安身处。后汉乾佑三年(公元950年)，郭威率军北上抗辽至澶州时，将士哗变，撕裂黄旗披在郭威身上，拥戴其为帝，是为后周太祖。在这一事件中，赵匡胤作为禁军的一员，可能有比较突出的表现，事后被提升为东西班行首，成为禁军军官。两年以后，赵匡胤又被郭威任命为滑州(今河南滑县)副指挥使。而与赵匡胤同在军中的皇子柴荣慧眼识英才，把他留在了自己身边，任命为开封府马直军使，这对于赵匡胤后来的发展起了决定性的作用。

后周显德元年(公元954年)，太祖死，柴荣即位，为周世宗，赵匡胤从此更受到重用。显德三年(公元956年)，后周进攻南唐，在攻打寿州(今安徽寿县)时，周世宗恐驻扎

在淮水下游涂山的唐军增援，便派赵匡胤前去解除这一威胁。赵匡胤观察地形后，在涂山脚下涡河入淮口处设下伏兵，然后派百余骑前往唐营诱敌，将其引入包围圈后大败之。涡口破敌后，周世宗又派赵匡胤远道奔袭滁州(今安徽滁县)，唐军皇甫晖引兵拒之清流关下。赵匡胤避其锋芒，率兵走小路突然出现在山后，皇甫晖大惊，慌忙退回滁州城，欲断桥自守。赵匡胤跃马挥兵涉水，直抵城下。皇甫晖说：“人各为其主，愿从容列阵而战。”赵匡胤笑而许之。皇甫晖率众出城，尚未站稳脚跟，赵匡胤便飞骑突入敌阵，大吼一声：“我只取皇甫晖，其他人非我对手！”声音未落，手中之剑已击中皇甫晖头部，将其生擒。周军趁势一举攻克滁州。赵匡胤在战斗中所表现出来的大智大勇使他赢得了周世宗的信任，他先后被任命为同州节度使、义成军节度使、忠武军节度使等；同时一直担任殿前都指挥使，握有禁军指挥大权。与此同时，赵匡胤还把富于谋略和行政才能的赵普调到自己身边充任幕僚，并以盟誓结义的古老形式，与石守信、王审琦等重要将领结成义社10兄弟，从而形成了以自己为核心的集团。

显德六年(公元959年)，周世宗在亲征契丹时病倒于军中。他于病中想到自己的继承人柴宗训年仅7岁，其姑父张永德任殿前都点检，手握重兵，将来恐跋扈难制，便解除了他的职务，而由自己信任的赵匡胤取而代之。这样，赵匡胤便掌握了禁军的最高指挥权。时隔不久，周世宗病故，7岁的柴宗训继位。后周这种“主少国疑”的局面自然给赵匡胤取后周而代之提供了一个极好的机会。

显德七年(公元960年)初，北方契丹会合北汉入侵北周边境，宰相王溥、范质仓促派赵匡胤统率禁军北征。当大军行至开封东北40里的陈桥驿时，天色已晚，便就地宿营。当晚，赵匡胤的亲信便在军中散布说：“现在周帝幼小，不能亲政，我等冒死为国家抵御

外敌，又有谁知道呢？不如先立“点检”（指赵匡胤）为天子，然后再北征也不晚。”这些话果然煽动起一部分将士的情绪，他们纷纷要求拥立赵匡胤。此时，在幕后策划此事的赵普和赵匡胤的弟弟赵匡义见时机成熟，便派人连夜回京通知殿前都指挥使石守信和殿前都虞侯王审琦，让他们做好策应准备。当一切布置妥当后，东方已现出晨曦。全副武装的将士围住赵匡胤的住处，将其喊出，为他披上了象征皇权的黄袍，高呼万岁。佯作不知的赵匡胤在假意推辞之后，对围着他的将士们说：“你们贪图富贵，立我为天子，如果你们听我的命令，我就干，否则我不能干。”这些士兵拥立赵匡胤已是大逆不道，如赵匡胤拒绝拥戴，他们则性命难保；如拥戴成功，他们又皆成开国功臣。因此，他们对赵匡胤的要求是无所不应。赵匡胤见将士们一致表示愿意听命于己，便接着说：“周少帝和太后为我所侍奉，现朝中公卿大臣也都与我平起平坐，你们不能伤害他们。以前改朝换代，兵入京城皆大肆掠夺，而你们不能这样做，事成之后，听命者重赏，不听命者诛灭九族。”随后，赵匡胤整军回师京城，兵不血刃地完成了朝代的更替，建立了北宋王朝。

“陈桥兵变”绝非是一次仓促的事变，而是经过周密策划的政变。这一政变的每一个环节都经过精心的安排，甚至连兵变时为赵匡胤所披的黄袍和禅代时所用的诏书也都事先准备妥当。如此重要的事件，如此周密的准备，如果说赵匡胤事先一无所知，恐怕难以令人相信。不过，平心而论，赵匡胤能够和平地完成这次政变，在历史上还是有进步意义的。周世宗的去世，使他的改革与统一大业面临着夭折的危险，中原局势又有重新陷入混乱的可能。而在当时能够继承周世宗未竟事业的人，非赵匡胤莫属。赵匡胤陈桥兵变、黄袍加身，虽有篡逆之嫌，但却适应了历史前进的需要。

五代时期是中国古代历史上最为动荡的时期之一。从后梁开平元年（公元907年）到

后周显德六年（公元959年），短短的53年间，中原大地上更换了5个朝代、8姓14个皇帝，其中除后梁外，全都是被统治集团内部的军人集团所推翻。赵匡胤以宋代周也不例外。作为宋太祖的赵匡胤深深懂得，自己握有兵权，是自己得以立国的根本。而其他人握有兵权，则是对自己权力的潜在威胁。如何使大宋王朝长治久安，传世万代，成了宋太祖登基后一直萦绕在脑海中的主要问题。他几经思考，在谋臣赵普的参与谋划下，终于演出了中国历史上著名的“杯酒释兵权”。

宋太祖建隆二年（公元961年）七月的一天晚上，宋太祖召石守信、王审琦等饮酒叙旧。酒过三巡之后，宋太祖说道：“我若没有诸位的鼎力相助，也就没有今天。但身为天子也有为难之处，还不如当一个节度使快乐，我没有一个晚上敢高枕而卧。”石守信等问其故。宋太祖说：“道理很简单，皇帝的宝座谁不想坐呢？”石守信等闻之大惊失色，连忙说道：“陛下何出此言？当今天命已定，谁还敢有异心？”宋太祖又道：“你们自然不至如此。但如果你们的部下贪图富贵，一旦也给你们来个黄袍加身，你们虽不情愿，也只能身不由己了。”石守信等人听罢，忙顿首涕泣求宋太祖指示一条生路。宋太祖见时机已到，便将话挑明。他说：“人生如白驹过隙，转瞬即逝。人生一世追求富贵，不过是多积金钱，吃喝玩乐，使子孙不受贫穷之苦而已。你们何不释去兵权，出守蕃镇，多置田宅，为子孙建立永久之基业；然后多置歌妓美女，天天饮酒作乐，以终天年。我再与你们结为儿女亲家，君臣之间，两无猜疑，上下相安，这不是很好吗？”石守信等人此时方知太祖用意。第二天，便纷纷称病，请罢兵权。太祖则任命他们为各道节度使，离开京师到外地赴任。

宋太祖在解除身边掌握重兵的禁军将领的兵权之后，感到必须进行军事制度的改革，才能从根本上消除对自己的潜在威胁。他大刀阔斧，砍掉了禁军中的高级职务，形成了



由军职较低的殿前都指挥使、侍卫马军都指挥使、侍卫步军都指挥使分别统领禁军的“三衙分立”制度。同时规定三衙只有带兵权，发兵权归枢密院，而枢密院虽可发号施令，却又不直接统兵。这种将权力分散，互相牵制的结果，是将军权集中到了皇帝手里。这样一来，便基本上消除了武将发动兵变的可能性。

宋太祖“杯酒释兵权”，解除内部的威胁，巩固了自己的地位。但他深知，对新生的大宋王朝来说，北有北汉、契丹，西有后蜀，南有南汉、南唐、吴越、荆南等，这些地方割据政权都时刻对自己构成威胁。扫灭群雄，统一天下的责任已经历史地落在了他的肩上。一次，宋太祖对赵匡义谈起了自己的想法，他说：“自五代以来，兵连祸结，帑藏空虚。必先取巴蜀，次及广南、江南，即国家则可富饶。占据河东的北汉与契丹接境，如果取之，则契丹之患需我来担当。暂时保留北汉，可以用来为我抵挡契丹的威胁，待我富足充实之时再平之不难。”很清楚，宋太祖定下的乃是“先南后北”的战略。然而这种战略可行与否，尚需进一步的论证。在一个大雪纷飞之夜，宋太祖约赵匡义一同到赵普家中。赵匡胤集团的这三位核心人物围着堂中红红的炭火而坐，吃着烤肉，饮着美酒，显得极为亲密无间。宋太祖试探着向赵普问道，用何计才能攻下北汉的太原（今山西太原）。赵普回答：“北汉挡西北二面，太原如被攻下，那么这西北二面就要我们独挡。等削平各国之后，则北汉那弹丸之地还能逃到哪里去？”赵普的回答与宋太祖心中所想不谋而合。他会心地笑着，对赵普说：“我也正是这样想的，不过想试探一下你的意思。”雪夜定策以后，宋太祖先后出兵灭了荆南、西蜀、南唐、吴越等割据政权。在他去世之前，中原和南方广大地区已天下一家，除北汉外，基本上实现了全国的统一。

随着时间的推移，宋太祖逐渐完成了由一个军人向政治家的转变。他建立了政务、

财务、军务分立的政治制度，高度集中了中央的财政制度，强而有力的监察制度，完善固定的科举制度，有利于经济发展的赋税制度，从而强化了中央集权的封建专制，使得中国封建社会进入了新的繁荣时期。

开宝九年（公元976年），宋太祖赵匡胤去世，终年50岁。赵匡胤出身行伍，崛起于乱世，他作为一个杰出的军事家开始了自己的事业，而以一个著名的政治家的身份结束了自己的一生。在中国封建社会的史册上，他是屈指可数的杰出的帝王之一。

（攸笛）

## 寇 准

寇准（公元961—1023），宋朝名相。字平仲，华州下邽（今陕西渭南）人。累官中书门下平章事（宰相）、集贤殿大学士。辅佐宋太宗、真宗两朝。为官清正廉明，政绩卓著，名垂青史。生前曾封为“莱国公”，卒后追封中书令，谥号“忠愍”。

寇准在任知县期间，对属下衙役要求严格，不准他们横行乡里，搜刮民财，鱼肉百姓。严格按照朝廷的明文规定征收赋税和徭役。为了防止属下不法之徒巧立名目，额外增收，以饱私囊，他令人把县中应当纳税、服役者的姓名、住址等项写在纸上，张贴在城门口，公布于众。老百姓见寇准执法公正，为政清廉，体察民情，爱民如子，都深受感动。凡是应该缴纳赋税者，无不如数按时送交，从不拖延时日。

由于寇准政绩突出，有利于赵宋王朝政权的巩固，所以连连升迁。经过多次提升，官至殿中丞，任郢州通判（即郢州府的副长官）。

当时，正值太宗下诏，让百官上书直言进谏，讨论国家大事。有一次，众卿都建议朝廷与契丹讲和，而寇准却大胆直言，反对讲和，并据理陈词，力排众议。宋太宗见寇准胆识过人，才干超群，尤为器重，于是拜他为枢密院直学士（枢密院秘书，掌管重要



军事机密文件)。

还有一次，寇准上朝奏事。因为说话不合太宗的心意，太宗大怒而起，欲退朝回宫。此时寇准并没有因太宗皇上发怒而罢谏，相反，他却上前扯住太宗的衣角，让太宗坐下来，继续听他直言陈述，直到太宗同意他的意见，当即决断之后，才肯罢休。

寇准为国计民生之大事，敢于在盛怒之下的皇帝面前不怕丢官，挽衣强谏的精神，与前朝魏征不相上下。所以，当太宗息怒之后，仔细想来，寇准能如此忠直勇谏，实为难得，颇为赞许。于是，对近臣说道：“朕得寇准，犹如唐太宗得魏征一样。”

寇准主张执法公正，断案如鉴，反对徇情枉法，以权谋私。

宋太宗淳化二年(公元991年)春，大旱无雨，又闹蝗灾。由于前一年水、蝗、旱三灾并发，是年又旱、蝗灾情严重，所以引起宋太宗的注意。于是，宋太宗便召集近臣进殿，问他们是否处理朝政有不当之处，因而触怒了上天？大臣们都说这是天意如此，我朝朝政并没有什么错处。然而寇准却回答说：“《尚书·洪范》说，天人之间，互相感应，如影随形，如响随声；现在出现了大旱之灾，证明我朝施用刑罚有不公平的地方。”太宗听后很生气，便起身退入宫中。过了一会，太宗又召见寇准，问他什么事情处理不公平。寇准说：“请召中书省与枢密院二府大臣前来，我就说。”于是太宗下诏，召二府大臣进入内宫。寇准说道：“前不久，祖吉、王淮皆因违法受贿而被治罪。但祖吉贪脏少被杀了，而王淮因为是参知政事王沔的弟弟，虽然侵吞自己主管的国家财物多至千万，反而却只受杖刑，然后仍官复原职，难道这不公平吗？”太宗问王沔，此事是否如寇准所说，王沔无可辩驳，只好叩头谢罪。太宗又狠狠地斥责了王沔。

宋太宗通过这件事，感到寇准是可用之才，便于同年四月，任寇准为左谏议大夫，枢密副使。九月，又改任同知枢密院事，与

张逊、温仲舒同掌北宋军事大权。

宋太宗淳化四年(公元993年)，寇准遭人陷害，被贬为青州(今山东益都)知州。

淳化五年(公元994年)，宋太宗又召寇准回京。寇准奉诏从青州回到京师，立即朝见太宗。

当时，太宗已近暮年，为立太子的事情，使他心神烦躁，焦虑不安。此前有冯拯等人上疏，请求早立太子，太宗发怒，把他们都贬到岭南去了。此后朝廷内外，无人再敢提起立太子这件事。此时太宗的心情，可想而知。又患脚病，疼痛难忍，真是身心交瘁，苦不堪言。在这种情况下，太宗急需一个情投意合的知心者，来与他做伴，并向他倾吐自己的苦衷，以求得心理的平衡。况且立太子的事，尚未确定，也需要有人协助谋划决断。所以，太宗闻报寇准上殿进见，便急忙宣入。待寇准参拜已毕，太宗先让他看看自己的脚病。随后赐坐，并问寇准：“爱卿为什么来的这样迟缓？”只这一句似嗔若怪的问话，足见太宗急切盼望寇准还朝相见的心情。此时寇准也思绪纷纷：尽管无过遭贬青州，太宗有负于他，但见太宗对他一往情深，也就不便多言，只是尊中带讽地说了句：“臣不见您的诏书召还，是不敢擅回京师的。”太宗对寇准的回答，并没介意，只想尽快听到寇准关于确立太子的意见，便马上转换话题，他问寇准道：“爱卿看我这些儿子当中，谁可以继承皇位呢？”寇准此时虽然心中有个人选，但不知太宗心中倾向于哪一个，因此不便直接回答太宗的问题，于是他只给太宗提出一个选立太子的原则。寇准回道：“陛下为天下人选择君主，与妇人、宦官商量，是不行的；与近臣商量，也不行；只要陛下您自己选择能符合天下人所期望的人，就可以了。”太宗听罢，低头思之良久，然后屏退左右，对寇准说：“你看襄王元侃可以吗？”其实寇准心中所想也是襄王元侃，于是连忙说道：“知子莫如父，陛下既然认为可以，愿您当即决定。”立太子的事，君臣二人就这样决定

了。

寇准因协助太宗确立太子的人选，使太宗了却了一件心事，于淳化五年（公元994年）九月，被拜为参知政事（副宰相）。

至道元年（公元995年）八月，宋太宗任襄王元侃为开封尹，改封寿王，立为皇太子。太子到宗庙参拜行礼回来，京城人民都夹道观看，欢呼跳跃，说：“真是个少年天子！”太宗得知后，心中不悦，说道：“人心一下子都归了太子，那将把我摆在什么地位呢？”太宗老皇帝此时有如此心情，真是出人意料。寇准怕太宗出尔反尔，把事情弄糟，便急中生智，立刻再拜并祝贺说：“太子众望所归，是陛下的决策英明，是国家百姓的洪福。”太宗听寇准如此一说，觉得自己在臣民心中的地位，仍属于太子之上，便马上高兴起来。后人后宫，把此事说于皇后、嫔妃知晓，后宫的人又都出来庆祝。太宗乘兴命人摆宴，与寇准共饮，待醉方休。日后，寇准又被加官给事中。

寇准直则直矣，但鉴于以前的教训，这次在确立太子的问题上，则采取巧言顺君，引而不发的策略，劝导太宗立襄王元侃为太子，并巩固了元侃的太子地位。

寇准既直且谋，被后人传为美谈。

咸平六年（公元1003年）六月，寇准迁升为兵部侍郎，任三司使。当时，盐铁、度支、户部刚刚合为一司，即三司。寇准奉真宗命对合并后的三司有关事项，进行安排裁定。因安排合理，有政绩，深受真宗赏识。

景德元年（公元1004年）七月，宰相李沆病故。宋真宗任毕士安为参知政事。过了一个月，宋真宗同时任命毕士安和寇准为中书门下平章事（即宰相）。

同年九月，辽军有小股游骑犯边，虽经常出没于深州（今河北深县）、祁州（今河北安国）一带强掠乡民，但每战稍有不利，就急忙领兵退却，似无大举进兵与宋军交战之意。寇准接到这一军情报告后，认为这是辽国兴兵南下，大举进犯的前兆。于是立刻上

奏真宗说：“辽军此举是想麻痹我们，我们应当加紧训练部队，任命将帅，并且要选派精锐部队占据军事要地，以防辽军大举进犯。”在寇准的建议下，宋军调兵遣将，严阵以待。

果然不出寇准所料，同年11月，辽军大举南下。辽国萧太后、圣宗耶律隆绪御驾亲征，大将萧达揽率军20万直进中原。军情紧急，探马飞报，一个晚上竟有五封军情机密文书送到相府，而寇准并不拆看，仍旧与人饮酒谈笑。第二天，有人将此事奏报真宗。真宗大惊，于是问寇准。寇准说：“陛下要了结这件事，不过5天时间就足够了。”真宗问寇准有何妙策退敌兵。寇准提出要真宗御驾亲赴澶州坐阵，这样必能克敌致胜。朝中群臣见寇准提出要皇帝御驾亲征的方案，如果皇帝应允，少不了他们也要随驾前往，因此个个胆战心惊，纷纷要退朝回家。寇准见群臣有退缩之意，心中十分不悦，便严辞厉声制止，命令他们等候皇帝一同起身。当时真宗皇帝也感到为难，想要回到内宫，然后再议决此事。寇准一看真宗有不愿亲征之意，如让他回宫，事情就难办了。于是就对真宗说：“陛下一进去，群臣就再难见到您，那就要误大事了。请您不要回宫，最好马上出发。”真宗在寇准的强谏之下，万般无奈，只好同意讨论亲征的事。便召见大臣，讨论征讨辽军的办法。

当时，辽军长驱直入，步步南下，已经进犯了贝州（今河北清河）、魏州（今河北大名）等地，又包围了瀛州（今河北河间）。当时朝野上下，十分震惊。在这种情况下，朝廷大臣对御驾亲征一事，有不同意见。寇准、毕士安等人，力谏真宗亲自率师征辽。而参知政事王钦若、大臣陈尧叟等人，则劝君南迁避乱。王钦若是江南人，他主张让真宗皇帝南迁金陵；陈尧叟是四川人，他劝真宗驾幸成都。王、陈二人的意见，对促成御驾亲征之事极为不利。因为真宗本来就犹豫豫豫，勉强同意，今听王、陈二人之言，其亲征北辽的决心难免不发生动摇。寇准见王

钦若、陈尧叟是有意动摇君心，怕真宗一口答应南迁，此事再难重议。因此，他不等真宗表示可否，便对群臣厉声说道：“谁为陛下出此南迁之下策？真是该杀！现在陛下是神圣英武之君，又有文臣武将同心协力，如果陛下亲自率军出征，辽国敌军自然会败走。即使敌人不逃走，我们也可派出奇兵去破他们的阴谋计划，同时坚守城池也可以使敌军精疲力尽，耗费钱粮。这样，我逸敌劳，最后的胜利必然是我们的。为什么要抛弃宗庙社稷到江南、四川那样偏远的地方去呢？如果陛下为避乱而南迁，一路所到之处，百姓必然惊慌失措，人心涣散，倘若敌军乘机而入，大宋江山还能保得住吗？”寇准据理陈辞，批驳了王钦若、陈尧叟的谬论，说服了宋真宗，决定北上迎敌。

同年十二月，真宗亲率大军行至澶州（今河南濮阳）南城，当时辽军气势正盛，众人都请真宗住下，以观察敌我形势，然后再决定进止，而寇准则坚决请求真宗继续前进。他说：“陛下如果不过黄河，则人心更加恐惧不安，不能壮我军威以压住敌人的气焰，乃至取得最后的胜利。况且，现在我军有王超率领精锐部队驻扎中山，扼守咽喉要地；又有李继隆、石保吉，分别领兵于其两侧布成大阵，控制左右要冲；各路方镇前来支援的部队连日到达，在这种情况下，陛下为什么还生疑虑而不前进呢？”寇准陈说利害，力劝真宗过黄河进入澶州北城，但由于众人都有畏敌情绪，所以真宗此时仍然犹豫不决。寇准见自己独劝，难以促驾前行，故退下找殿前都指挥使高琼商量。寇准问高琼说：“太尉深受国恩，今日何以报效国家？”高琼回答说：“我是军人，愿以死殉国。”寇准很高兴，便把自己的想法说给高琼，然后二人一同来见真宗。寇准说：“陛下对我的话不以为然，何不问问武将高琼的意见？”高琼立刻抬头上奏说：“寇准的意见是对的，望陛下采纳。”寇准不等真宗开口，又对高琼说：“机不可失，应催促皇帝马上出发。”高琼使命卫士推进皇帝

坐的车子，真宗只好上车渡过黄河，来到澶州北城。宋军将士见皇帝亲临前线，无不雀跃欢呼，军威大振；辽兵听到宋军的欢呼声，都面面相觑，惊愕不已。

真宗到澶州后，委托寇准全权处理军务大事，寇准治军号令严明，指挥有素，不久便斩杀俘虏敌军大半，扭转了战局。后来，辽军统帅萧达揽亲临战场督战，当时，宋军威虎军头张瑰守用床子弩，一箭射中达揽前额，达揽中箭身亡。辽国损兵折将，无力再战。同年12月，萧太后派使前来澶州，请求罢兵议和。

澶州之战，宋军大胜辽军，首功当归寇准。

寇准一生，以拯时救世之才报效国家，功高日月；以刚毅清正之风垂范后世，名扬千古。

（寇文魁）

## 韩世忠

韩世忠（公元1089—1151），陕西绥德人。南宋初年抗金名将，著名军事家。

韩世忠出身于贫苦农民家庭。17岁时应募从军，参与征讨西夏的战争，以军功升至低级军官。

北宋末年，宋金交恶，战事不断。北宋宣和三年（公元1121年），北宋朝廷准备收复燕山，调集各路兵马与金军作战。韩世忠自报奋勇，与苏格等将率50名骑兵前往滹沱河前线，不料途中正巧与金军2000多名骑兵遭遇。苏格等人不知所措，唯韩世忠镇定自若，将自己所带队伍隐蔽于高岗之上，同时收拢前线溃败之宋军集于舟船之中，约好鼓噪以助声势。金军分两路进占高地，韩世忠跃马冲向敌军，以迅雷不及掩耳之势击杀金军两名执旗官，苏格也率骑兵乘势夹攻，河中宋军鼓噪呐喊，金军不知宋军底细，慌乱而逃。韩世忠率部追杀，大获全胜。此后数年，韩世忠驰骋于河北山东之地，抵御金兵，抚定叛军，战功卓著，被授任为单州（今山东单县）

团练使。

靖康二年(公元1127年),北宋为金所灭,赵构登极,为高宗,建立了南宋王朝。南宋建立后,都城迁至临安(今浙江杭州),韩世忠也由北方转战至江南。建炎三年(公元1129年)九月,金将兀术率兵渡江南侵,宋高宗准备放弃临安逃命。韩世忠对高宗说:“国家已经失去了河北、山东等地,如果再将江淮一带放弃,真不知还有什么地方可以防守。”然而高宗一心想要逃命,根本不听进谏,带领一批官员逃往海上,临行前命韩世忠为浙西制置使,要他防守镇江(今江苏镇江)。

建炎四年(公元1130年)春,兀术在江浙一带烧杀抢掠之后,准备渡江北返,韩世忠得知后连忙将所部8000人开往镇江附近驻扎,准备趁金兵撤退时伏击。韩世忠对镇江周围地势极为熟悉。他对部下将领说:“这里地势以金山的龙王庙为最好,敌军必登此处以观察我方虚实。”于是他把200名士兵分别埋伏在庙内和岸边,并约定以鼓为号,听到鼓声岸边伏兵首先杀人,庙内伏兵随后出击,两面夹攻,捉拿敌人。宋军设伏后,果然有5000金军骑马闯入庙内。庙内埋伏的宋兵惊喜过望,不及鼓响便抢先冲出,结果只活捉住其中两人。在逃跑的金人中,有一名身穿红袍、腰系玉带者,吓得自马背上跌落下来,复又爬上马背,策马狼狈而去。后来询问俘虏,才知此人即是金军统帅兀术。

兀术回营后,遣使至宋营下战表,约定日期在江中会战。宋金两军会战时,韩世忠亲自在一艘大船上指挥,其夫人梁红玉亦在同一艘舰上擂鼓助威。宋军士气高涨,军威大振。金军无法攻破宋军防线,终不得渡江而返。兀术无奈,急忙率领军兵向黄天荡(今江苏江宁县东北80里)退去,企图从这里寻路逃走。可是黄天荡原是江中一条断港,只有进路,没有出路。兀术进去后,退路被韩世忠封锁,欲进不能,欲退不可,不禁叫苦连天。为歼灭敌人,韩世忠命人连夜打制铁

索,并在一头装上大钩,分发给健勇之士。翌日天明时分,敌船鼓噪驶来,韩世忠命士兵把船分为两队,绕至敌船背后,用铁钩将其一只只钩住,拖沉水底。兀术此时无计可施,只得请求韩世忠放其一条生路。韩世忠回答说:“还我被虏去的徽、钦二帝,复我被占去的全部疆土,则可留你一条生路。”兀术无话可答,只得默然而去。后来,兀术得一汉奸献计,以火攻南宋军,韩世忠防救不及,只好撤离镇江,兀术趁机逃出黄天荡。

黄天荡一役,韩世忠以8000孤军抗击金军10万人马,将其困于荡内48天,给其以沉重打击。岳飞得此配合,收复了建康。金兵从此不敢再渡长江。韩世忠在这次战役中的卓越指挥才能和英勇气概,为世人所传颂。

金兵北归以后,韩世忠等抗金将领积极备战,准备北伐,收复中原。但南宋朝廷苟安于临安,不思光复祖业,对金朝仍采取妥协退让政策。南宋绍兴四年(公元1134年),金兵和由金扶持的伪齐政权的军队分兵南下,向淮南追犯。南宋朝廷闻变大惊,一面命韩世忠筹划战守,一面派使者魏良臣去金朝求和。此时韩世忠正驻守镇江,接到高宗亲笔命令后,立即率部渡江进屯扬州(今江苏扬州),计划命部将解元进守承州(今江苏高邮),以阻敌步兵,自己亲率兵进驻大仪以迎击敌人骑兵。恰逢此时,魏良臣使金路过扬州,韩世忠顿生一计,他命令士兵撤去炊灶,诓骗魏良臣说皇帝有诏让退兵守江。待魏良臣去远,韩世忠立即指挥部下北上,进驻大仪,布下5个阵式,并设伏20余处,约定听到鼓声后立刻出击。魏良臣至金营,将所见所闻告知金将。金将聂儿孛堇闻知宋已命各将退兵,不禁喜出望外,立刻率军直奔扬州。行至距大仪5里处,金兵猛将挾孛也率铁甲骑兵过韩世忠所布5阵。韩世忠于是传令鸣鼓,顿时四下伏兵一齐杀出,金军大乱。他又命自己的亲随卫队手持长斧,上砍人胸,下斩马足,身穿铠甲的金朝骑兵纷纷落马,陷于泥潭。韩世忠指挥宋军骑兵四

面围攻，活捉挾孛也以下200余人。随后又亲率大军追歼金兵于淮河岸边，敌军惊溃，自相践踏，淹死于河中者不计其数。大仪一战，大获全胜，阻止了金兵南侵。捷报传来，群臣入朝祝贺。韩世忠获得了“中兴武功第一”的赐赏。

金兵的进犯虽屡遭韩世忠、岳飞等爱国将领的抵抗和反击，可南宋朝廷之中主降派却占了上风。绍兴十一年(公元1141年)，秦桧收韩世忠、张俊、岳飞三人兵权。韩世忠被任命为枢密使，实则明升暗降。韩世忠不顾个人得失，坚决反对与金议和，毫不留情地指斥秦桧等人的误国罪行。当岳飞被陷入狱时，满朝文武皆不敢言，唯韩世忠当面质问秦桧。岳飞死后，韩世忠知道自己已不能再有所作为，便上疏辞职，闭门谢客，时而带领一二小童，骑驴游览西湖风光，以排遣内心的苦闷。绍兴二十一年(公元1151年)，韩世忠在长期忧愤下病故，终年62岁。

韩世忠起自布衣，身经百战，他将自己的谋略纯熟地运用于战争之中，在南宋初年的抗金战争史上写下了光辉的篇章。他不但在战场上运筹帷幄，指挥若定，在平时也很注重部队的训练，带出一支名闻天下的“韩家军”。他还注重武器与装备的研究，发明了克敌弓、连锁甲、狻猊盔(一种头盔)等在当时堪称一流的武器和装备。韩世忠一生鏖战疆场，致力于抗击外族入侵的斗争，虽壮志未酬，回天无力，但这丝毫不会影响他成为中国历史上著名的民族英雄和杰出的军事家。

(攸笛)

## 刘 锜

刘锜(公元1098—1162)，德顺军(今甘肃静宁)人。南宋著名抗金将领。

刘锜出身将门，少年时代即随父寄身军旅，在战争中经受锻炼，练就了一身超群的武艺。长大成人后，刘锜因家世被朝廷录用，先后在岷州(今甘肃岷县)、渭州(今甘肃平

凉)、绵州(今四川绵阳)一带为将。南宋绍兴六年(公元1136年)，宋高宗召刘锜回朝，任他为宿卫亲军的将领，并将王彦统率的前护副军交给他指挥，刘锜由此而成为南宋朝内独立成军的将领之一，官职也不断上升。

刘锜接替王彦所统领的前护副军，其前身是曾在太行山奋勇抗金的“八字军”，当年这支军队为表示自己的抗金决心，将士们在脸上刺了“赤心报国，誓杀金贼”8个大字，因此而名闻天下。刘锜成为这支队伍的新统帅后不久，宋金战争形势发生了重大变化。金朝统治者为了打破战争僵局，废掉由其扶植起来的伪齐政权，把原属伪齐管辖的河南、陕西地区还给南宋，同南宋议和。宋高宗及秦桧等主和派不顾抗战派的反对，同金签订了和议，以求偏安于江南。绍兴十年(公元1140年)四月，刘锜受命前往刚刚从金兵手中接管不久的开封去任“东京副留守”，于是他又率八字军开赴了抗金斗争的最前线。

正当刘锜率军北上快到顺昌府(今安徽阜阳)的时候，金军统帅兀术撕毁了和议，分兵四路大举向南进犯。刘锜闻讯后率部急行军至顺昌，此时金军骑兵已到达距顺昌仅300里的陈州(今河南淮阳)。急报传来，顺昌居民惊恐万分，一些宋军将领也慑于金兵的凶焰，主张撤兵南返。面对此种形势，刘锜镇静异常。他了解了顺昌粮食储备等情况后，对将领们说：“我本是前往东京(即开封)赴任的，今东京虽失，但我们已行军至此，且有城可以防守，为什么反要丢弃呢？我已下定坚守顺昌的决心，有再敢言撤离者，立即斩首。”为坚守顺昌，刘锜亲自督促军民修筑城墙，并在城外又建筑了一道称为羊马垣的小隔城，同时将城外居民迁入城内，拆掉了可供金兵居留和作屏障的所有房舍。经过6天的昼夜抢修，当金兵到达顺昌城下的时候，顺昌的防御已初具规模。

五月底，金兵大队人马将顺昌四面包围。面对强敌，刘锜巧用诸葛亮的空城之计，一面派兵固守羊马垣，一面下令大开城门。

金兵见此情景，反而驻足不前，只是远远地放箭攻击。但金兵射来的箭大多被羊马垣挡住，而刘锜则指挥宋军在城墙和羊马垣的掩护下，以强弓劲弩射击金兵，给没有遮拦的金兵以重大杀伤。金兵劳而无功，不得不暂时退却。刘锜又趁机派步兵出击，歼灭了数千金军骑兵。

金军首次进攻顺昌受挫，便将大营转移至离城20里的李村。刘锜又施夜袭之计，派手下骁将阎充率500名壮勇之士，利用雷雨到来之前的闪电之光夜袭金营。金军猝不及防，被迫拔营后退。刘锜又派出100名勇士，趁金兵退却混乱之机混入金营。金兵大乱竟至互相残杀，遭到严重损失，不得不暂时解除对顺昌的包围，并向驻扎在开封的兀术求援。

兀术接到金军在顺昌城下失利的报告后，立即率10万大军前来增援。面对强敌，宋军内部又有人主张趁金兵刚败、援兵未到之机，立即将全军撤回江南。刘锜断然否决了这一建议。他说：“朝廷养兵15年，就是准备危机时刻来用。况且我军已挫敌军锋芒，士气正旺，虽然敌我双方兵力相差悬殊，但今天我们只能进，不能退。现在敌营距顺昌仅30里，又有兀术援兵，我军一动，一旦被敌人追上，老少先乱，必然狼狈溃散，前功尽弃。如敌军乘势入两淮，震惊江浙，则我等报国之心，将会变成误国之罪，如此还不如背城一战，死中求生。”刘锜虽决心背城一战，但并没有盲然硬拼。他挑选部将曹成等2人，让他们随一小队骑兵行于路上，遇到金兵时假装惊恐，落马就俘，当被押去见金军主帅时，就说：“刘锜是个太平边帅的公子哥，只知寻欢作乐。此次去东京任职，是因为他认为朝廷已同金朝讲和，贪图享乐才来的。”刘锜此计目的在于麻痹兀术。曹成等依计行事，兀术果然得意忘形，认为刘锜不是将才，决非自己对手，因而决定不带原来准备攻城用的鹅车炮具，只率轻兵直扑顺昌城下，并修书一封，让曹成等带回，对刘锜施

加压力。

刘锜见曹成等人已归，知道兀术已经中了自己的骄兵之计，便派部将耿训去向兀术下战书。兀术根本没有把刘锜放在眼里，骄横地说：“以我的兵力破城，用靴子尖就能把城踢倒。”耿训却说：“太尉（刘锜）不但命我来讨战，还说太子（兀术）您一定不敢渡河，因此我们愿无偿献上5座浮桥，等太子过河再会战。”兀术一听，勃然大怒。他不但立即应允第二天同刘锜会战，还下令金军第二天一早就进攻顺昌，待攻下顺昌后在顺昌府衙门口会合开饭。当天夜里，金军大营内烛光通明，鼓声山响，一片紧张备战气氛。而刘锜却以逸待劳，养精蓄锐，准备同金兵会战。

第二天凌晨，刘锜在颍河上架好5座浮桥，同时命令部下在颍河上游及战场周围草丛中施放毒药。兀术自认兵力占优，有恃无恐，一清早便率军跨过刘锜为他们准备好的浮桥进至顺昌城下。刘锜闭城拒守，而兀术由于未带攻城器械，面对刘锜坚固的防守无可奈何。当时正是阴历六月，骄阳升起，天气逐渐炎热。金兵因连日来夜不卸甲，早已人困马乏，加之早饭未进，更是饥渴难忍，于是人马一齐扑向河边，饮水食草，结果皆中毒倒地，失去了战斗力。时近中午，刘锜见金军已兵无斗志，于是便指挥数千精兵，打开南门，直扑兀术中军大营。兀术连忙指挥被称为“铁浮图”的重装骑兵应战，而刘锜的步兵对此早有准备。他们一部分手持长枪专挑金兵头上所戴铁盔，一部分手持长斧专砍金兵头臂，明显地占据了战场上的优势。兀术见形势与己不利，便又指挥著名的“拐子马”轻甲兵掩杀过来。刘锜也早已想好对付的办法，他命迎战将士每人携带一把大刀，一个装满豆子的竹筒。当“拐子马”出现时，便将竹筒抛撒出去，金兵的马匹此时已饿，见到满地的豆子便只顾低头去吃。遍地的竹筒也限制了马匹的行动，宋兵则趁机用大刀专砍马腿，马匹一倒，金兵便丧失了战斗力，只能束手就擒。

这场激烈的战斗进行了整整一天。兀术见损失惨重，又得不鸣金收兵，作长期围困的打算。但刘锜并没有因胜利而放松进攻的势头。他不断袭击金军营地，使兀术在顺昌城外无法驻足，不得不率军撤退。刘锜又率军乘势追击，歼灭金兵逾万。这场历时半月的顺昌之战，终以金兵的失败而告结束。

刘锜在顺昌保卫战中，以5000之兵打败了兀术10几万大军的进攻，使原来骄横不可一世的女真贵族丧魂落魄，产生了“南朝用兵，非昔之比”的印象。刘锜自己 also 从一个名气不大的普通将官，一跃成为一位名震敌胆的著名将领。

由于南宋朝廷被主和派所控制，顺昌保卫战并未改变南宋的不利局面，而只是成了秦桧等人向金朝求和的筹码。刘锜由于坚持抗金的立场，也被罢去兵权，长期不得使用。然而在金人的心目中，刘锜却余威尚存。20年后的绍兴三十一年（公元1161年），金朝再次大举南侵，南宋再次启用已年过花甲的刘锜。金主完颜亮在出师前问帐前金将谁敢抵挡刘锜，竟无一人敢答。

在南宋的抗金战争史上，刘锜的声名虽不及岳飞、韩世忠等人，但他挥指的顺昌保卫战，在南宋抗金史上却留下了光辉的一页。他在战斗中所表现出来的有我无我的英勇气概，临危不乱的大将风度和令对手防不胜防的奇谋妙计，足以表明他是一位足智多谋的良将，是可以与岳飞、韩世忠一起提及的抗金英雄。

（攸笛）

## 岳 飞

岳飞（公元1103—1142），相州汤阴（今河南汤阴）人。南宋初年抗金名将，中国历史上著名的民族英雄。

岳飞出身于家境贫寒的农民家庭，与许多名门之后相比，他似乎并不具备成为一个著名将领的客观条件。但岳飞志向远大，勤奋好学，待他成年之时，不仅各种武艺无所

不精，而且熟读《孙子兵法》等书，完全具备了一个统兵之将的素质。北宋宣和四年（公元1122年），岳飞19岁，由于生活所迫，他应招到真定（今河北正定）宣抚使刘锜的手下当了一名“敢死士”，从而开始了他的军旅生涯。

北宋末年，居住在东北地区的女真族崛起，建立了金朝，并开始觊觎中原。宣和七年（公元1125年），金灭辽，随即挥师南下，向北宋发动了大规模的军事侵犯。腐朽的北宋王朝抵挡不住女真铁骑的进攻，靖康元年（公元1126年）末至靖康二年（公元1127年）初，金兵攻占开封，虏徽、钦二帝北去，北宋灭亡。宋朝的旧臣们拥立康王赵构为帝，是为高宗，建立了南宋王朝。

高宗即位后，在军中担任下级军官的岳飞便上书数千言，力陈抗金，请高宗趁金兵立足未稳，率军亲征以收复中原失地。然而，南宋王朝是北宋王朝的继续，高宗并不以组织兵力，收复失地为己任，而是企图迁都江南，以求偏安之局。因此，岳飞上书不但未被高宗接受，自己反被扣上“越职言事”的罪名，夺官离职。岳飞被夺官职后，羁留于归德（今河南商丘南）河北招讨使张所府中。一次张所与岳飞晤谈，问其能敌几人。岳飞答道：“蛮用不足以恃，用兵首先在于谋略。”张所闻而奇之，继续与岳飞探讨军事形势。岳飞说道：“国家立都汴京（今河南开封），依赖于河北的守护。今如占据要冲，与各重镇成犄角之势，若一城受围，其余诸城则可阻敌或救援。金兵不能窥视河南，则京师之地坚固无虞。如果您能提兵压境，我乃唯命是从。”岳飞的言谈使张所感到这是一个不可多得的军事人才，于是他便收岳飞为将，命其随王彦前往新乡（今河南新乡）迎敌。后来，岳飞由于和王彦意见分歧，便与之分道扬镳，投奔了著名的抗金将领宗泽。

岳飞遇宗泽，如千里马遇伯乐，宗泽十分赞赏岳飞的勇敢和才能。一次宗泽与岳飞讨论阵法，宗泽认为岳飞“好野战而非万全



之计”，因而传授阵图于他。岳飞却认为：“列阵而战乃是兵法的常规，而怎样才能巧妙地运用它，则在于为将者胸中的谋略。”宗泽听后沉思良久，深感岳飞的想法确实高人一筹。事后，宗泽赞颂说：“岳飞的勇智才艺，古代良将也不过如此而已。”

在宗泽帐下，岳飞得到了施展自己政治抱负和军事才能的机会。他刚刚到来之时，宗泽便派他率领500名骑兵去抵抗进犯汜水关（今河南汜水镇西）的敌人。汜水关地势险要，为南侵的西路金军必经之要道。岳飞兵寡粮缺，宜速胜不宜久持。他命300名士卒每人携带两束交叉捆在一起的柴草，埋伏在前山脚下，半夜时将柴草点燃，高高举起，照得满山通明。金军以为是宋朝的大批援军来到，慌忙撤营遁去，岳飞乘机追杀，金军大败。岳飞巧用疑兵之计大获成功，凯旋之后被宗泽任命为统领，继又提为统制。

南宋建炎三年（公元1129年），金兵再次南下侵宋。其时宗泽已死，接替宗泽任开封留守的杜充是一个刚愎苛刻的无能之辈，他无力统率大军抗敌，准备率军逃往建康（今江苏南京）。岳飞苦谏道：“中原之地，寸不可弃。今日一举足，此地便非我所有。他日若再取之，非数十万人马不可。”杜充根本不听岳飞劝告，带兵仓惶退回江南。金军在其统帅兀术的率领下，轻而易举地占领了中原，然后又渡江南下，很快就攻下了杭州（今浙江杭州）、越州（今浙江绍兴）、明州（今浙江宁波）。金兵所到之处，宋军土崩瓦解。宋高宗丧魂落魄，竟逃至明州附近的海上。只有岳飞从建康悄然南下，抄金兵之后路，六战皆捷，给金军以有力打击。建炎四年（公元1130年）春，兀术声称“搜山检海”已毕，率军北撤。宋军数十万人徘徊不前，坐失战机，只有岳飞在金军北移之际，兵出宜兴，给金军以有力打击，并在乡兵配合之下收复了建康。

绍兴三年（公元1133年），南宋朝廷把东起江州（今江西九江），西至荆州（今湖北江

陵）的长江沿岸地区交给岳飞防守，岳飞此时已是南宋一位可以独挡一面的大将了。

岳飞饮马长江，心中念念不忘北伐中原。他见襄阳（今湖北襄樊）处长江中游，越过汉水即可进入河南打击金军，并可以与南宋的守淮部队配合，使金军陷于东西夹击的不利之地，于是便屡次上书，陈述先攻占襄阳，进而恢复中原的战略。绍兴四年（公元1134年），南宋朝廷下达了要岳家军收复襄阳的命令。岳飞率军自鄂州（今湖北武汉）渡江北上，进取襄阳。当岳家军进抵襄阳城下时，金朝炮制的伪齐政权守将李成率军出城列阵迎战。岳飞观李成军阵后笑道：“步兵依据险阻有利，骑兵布于平川有利。李成左列骑兵靠江岸，右列步兵于平地，虽有10万兵马，又能有何作为。”随后他挥鞭指挥部将王贵率手执长枪的步卒迎战骑兵，牛皋率骑兵迎战步卒。两军交战，李成前面的骑兵战马被长枪刺倒，后面的骑兵勒马不住，拥入江中，步兵又不抵岳家军骑兵的砍杀，死者无数。岳飞利用地势，以己之长，克敌之短，终于战胜李成、克服襄阳。

绍兴七年（公元1137年），金朝废掉了伪齐傀儡皇帝刘豫，中原地区政局动荡，人心思宋，此时正是北伐的大好良机。然而，宋高宗赵构却认为此时正是求和的最好机会。他不顾岳飞等人的极力反对，力主和，终于在绍兴九年（公元1139年），达成“绍兴和议”，宋金双方划定以淮水为界，宋每岁向金纳贡银25万两、绢25万匹。不料议和还不到一年，兀术便毁约南侵。南宋朝廷见金军来势凶猛，不得不又派岳家军前去抵抗。绍兴十年（公元1140年）六月，岳飞再次从鄂州出兵北伐，连克颍昌（今河南许昌）、陈州（今河南淮阳）、郑州（今河南郑州）、洛阳（今河南洛阳）等地，主力直抵河南腹心地带。兀术见势大为恐慌，连忙集中大部兵力，与岳家军决战于郾城（今河南郾城）。此仗兀术竭尽全力，集中1万5千名精锐的“拐子马”向岳家军冲击。“拐子马”骑士身披重甲，3匹马联



成一组，冲锋时如排山倒海之势，历次战斗中使用之，宋军皆不能阻挡。岳飞面对女真铁骑毫不惊慌，他命步卒手持麻扎刀入阵，专砍马足，切勿仰视。岳飞的这一战术抓住了“拐子马”3匹一组的特点，砍倒一匹，其余两匹亦不能行，结果化敌人的优势为劣势，终于大破兀术的“拐子马”。兀术连声哀叹：“自海上起兵，皆以此胜，今已矣。”随之夜遁。

鄱城一役，中原大震，但岳飞并没有为胜利冲昏头脑。他冷静地分析了形势，估计兀术会再犯颖昌，便立刻派岳云率军增援。果然不出所料，数日之后兀术又集中大量兵力与岳家军在颖昌展开决战。双方从早晨杀到中午，兀术之婿、金军统军上将夏金吾也被岳家军阵斩，岳家军再获全胜。最后，岳飞进至距汴京仅45里的朱仙镇，再败兀术。兀术准备收集残兵以抗岳飞，但河北竟无一人响应。而岳家军所到之处，父老乡亲均牵牛载粮以馈之，各地忠义民兵也打起岳字大旗为号，纷纷归附岳飞。见此大好形势，岳飞激动万分。他豪迈地对部下将领们说：“直捣黄龙府，与诸君痛饮耳！”

可是就在这胜利在望之时，不思恢复中原，只求偏安江南的宋高宗及奸相秦桧之流，却害怕岳飞威望过高，如打败金朝，迎回钦宗，高宗帝位难保。在颖昌大战正酣之时，竟然下令岳家军班师。岳飞上奏说：“金人锐气沮丧，尽弃輜重，疾走渡河。而我军士气豪迈，士卒用命，时不再来，机难轻失。”请求继续北上。而宋高宗及秦桧等，于一日之内竟连发12道“金牌”，传令班师。岳飞乃宛然泣下，痛心疾首地叹道：“十年之功，毁于一旦！所得州郡，一朝全休！社稷江山，难以中兴！乾坤世界，无由再复！”

岳飞班师后，被剥夺了兵权。但秦桧等仍不甘心，他们接受了兀术提出的杀岳飞以议和的条件，决定用计除掉岳飞。绍兴十一年（公元1142年）十二月二十九日，岳飞终被以“莫须有”的“罪名”，杀害于临安（今浙江

杭州）大理寺的风波亭，终年39岁。他在临刑之前，仰视天空良久，最后落笔写下了：“天日昭昭！天日昭昭！”八个大字。

岳飞坚持抗金，反对投降，代表了广大人民的愿望，表现出极高的爱国主义精神，受到世代人们的敬仰。同时他驰骋疆场，战无不胜，立下了辉煌的业绩，显示出高深的谋略，同样不愧是我国古代著名的军事家。

（攸笛）

## 元明清谋略人物

### 耶律楚材

耶律楚材（公元1190—1243）字晋卿，号湛然居士，是元代著名的政治家，奠基元朝大业的智谋名相。他从政30年，历仕三朝四代，无论是对外用兵，还是对内辅君治国，都极富谋略，使武功极盛的蒙古军事帝国，同时大收“文治”之效。

耶律楚材生于金中都燕京（今北京）的一个世宦人家，其父官至尚书右相。他自幼受到母亲良好的书礼教育，加上他天资聪慧，到青年时，已在天文、地理、律历、术数、儒学、佛道、医卜等方面均有造诣；他还精通汉文，用汉文写作潇洒自如。

耶律楚材成长在动乱年代里，当时，中国正处在元朝大统一前的列国纷争阶段。北有金国，南有南宋政权，立足甘陕的西夏等也怀有称霸中原的野心，除此，金西北部的附庸蒙古也乘机崛起，自铁木真为“汗”（皇帝）后，日益强大，雄心勃勃地不断对金入侵。

公元1206年，耶律楚材入仕。本来，他这个宰相之子享有赐补省掾官职的特权，但他坚持参加正式的进士科考，并独领风骚。

1205至1209年间，铁木真（成吉思汗）对西夏先后讨伐三次，大大削弱了西夏的力量。从1211年起，成吉思汗又大举进兵金国，

蒙古军所至都邑，皆一鼓而下，最后直抵临燕京城下。

金宣宗贞祐二年(公元1214年)，金主完颜永济决定把都城南迁至汴梁(今河南开封)。耶律楚材被任命为左右司马员外郎，协助金国右丞相完颜承晖留守燕京。1215年5月，蒙古军攻克燕京，完颜承晖自尽殉国，耶律楚材则空怀经天纬地之才，无处施展，遂弃俗投佛。

成吉思汗十三年(公元1218年)，成吉思汗既定燕地，听说耶律楚材是个难得的人才，便遣人求之。耶律楚材也一心想伸出双手，去拯救被干戈扰攘、生灵涂炭的神州，所以便抓住这个图谋进取的机会，即刻应召出山。成吉思汗与他略论国策后，见其气度不凡，深感满意。

1219年，成吉思汗西征，攻打中亚大国花刺子模，耶律楚材也随军前往。出师的这一天，虽时值夏6月，却突然积云密布，转瞬间大雪飘飞。成吉思汗不知此为何兆，立召耶律楚材问卜。耶律楚材考虑，此时不能简单地按大自然的规律去解释天象，应巧妙地利用蒙军欲求克敌的心理，把政治内容加到卜算里去，于是说：“隆冬肃杀之气见于盛夏，这正是我主奉天讨讨，克敌致胜的好兆头。”成吉思汗大喜，即刻发兵，并大获全胜。此后，成吉思汗总让耶律楚材留在自己身边，参赞军政大事。耶律楚材也利用这种机会，运用自己的文武韬略，阐发灼见。

成吉思汗一向重武轻文，耶律楚材总是向他灌输欲治国不可藐视文士的思想。当武夫自恃善造弓弩，用以讽刺儒者无用时，耶律楚材就以“制弓须用弓匠，制天下者应用制天下匠”的话回敬他。这也使成吉思汗内心折服，常对自己的儿子窝阔台说：“此人(指耶律)是天赐予我家，尔后军国庶政，当悉委他处置。”

在进军中亚过程中，耶律楚材力主并主持了在塔刺思城的屯田。这对蒙古军从热衷军事活动，转变到恢复发展社会经济，起着

重大作用。1223年夏天，在铁门关，当地人送来一只怪兽，成吉思汗感到奇怪，询问耶律楚材此兽之名。耶律楚材便借题发挥说：“此兽名字意表吉祥，大汗承上天之意，应该回国了。”1224年，成吉思汗取原路线回国。1226年蒙古攻克西夏，破城之蒙军将士无不争掠女子、财物，独耶律楚材取书数部，大黄药材数担。同僚们先是不解，不久，因历夏经冬，风餐露宿，兵士多得疫病，幸好有耶律楚材用大黄配制的药救命。这样，人们便都敬佩耶律楚材慧眼独具，见识深远。

成吉思汗二十二年(公元1227年)，耶律楚材回到了燕京。此前，蒙古军事帝国忙于西线战事，对那些业已归顺蒙古的州郡管理无方，至使一些州郡的官吏，常常是任情取掠，兼并田地，有的竟随意杀人。此外，一些权势子弟，充当凶恶的强徒，肆强暴夺。面对如此混乱的局面，耶律楚材奏请成吉思汗及时下诏颁律。由于法令得体，切合时弊，惩治条文分明，使贪虐之风收敛。他还把那些强徒梟首于市，使社会秩序安定下来。他的治国才干，增强了高层统治集团对他的信任。

就在这一年，成吉思汗病逝。由他的四子拖雷代理国政，是为元睿宗。1229年，监国两年的睿宗，按照成吉思汗的遗命，应该把帝位交给其兄窝阔台，但此时没有任何迹象表明拖雷要移交权力。作为一个有智谋的良辅，耶律楚材意识到帝位虚悬和错置与国与民都不利，于是，他力主召开“库里尔泰会”(诸王族及其各部酋长参加的会议)，决议汗位。在他的努力下，会议通过了窝阔台正式继位，进而使蒙古进入了太宗时代。登基朝仪，耶律楚材是按照朝拜礼节精心安排的，尽管那些粗犷成性、散漫为习的蒙古君臣都不适应，但此举却除掉了蒙古众首领不相统属的陋习，尊卑有制，严肃了皇帝的成仪。这是日后稳定朝政最明智的做法。

太宗即位后，对治理国家力不从心，全靠耶律楚材尽心竭力。他定国策，立制度，

颁法令，进而加速了蒙古帝国的封建化进程。他首先制止滥杀，规定了既往不咎的政策，安定了民心。接着，颁发了包括官吏设置、军民分治、赋役征收、财政管理、刑法执行等18项法令，成为官民遵照执行的准绳。特别是他反对那些人退耕还牧的倒退主张，采摭中原先进制度为国策的做法，可以说是历史性的决策，对后来元代政治制度形成奠定了基础。

窝阔台汗三年(公元1231年)，蒙古帝国经过休养生息，国力强盛，于是，决定南征灭金。耶律楚材了解蒙军以往战时“屠城”的陋习，临战前进谏太宗，此次南征降者应免死，这样既保臣民以利生产，同时也可消除中原民众对蒙军的畏惧和仇视，以利我战。果然，转年蒙军攻打汴京之前，战将速不占便提出尽杀敌众的请求。在太宗犹豫之时，耶律楚材以“汴京能工巧匠、珍奇文物咸集于此，如果屠城，您将一无所获”为由说谏，终使京城140万居民幸保，蒙军屠城之风至此废止。

1234年，蒙古灭金。此后，便与长江以南的南宋形成对峙局面。在如何与南宋交战问题上，蒙古上层统治集团意见分歧。相当一部分人主张凭实力直下南宋。耶律楚材认真分析形势，权衡利弊，提出了集中兵力正面进攻和迂回包抄相结合的战略战术。实践证明，这种三面包围南宋，一举灭宋的方案十分正确。1257年，南宋政权在蒙古军的打击下灭亡。蒙古统一了中国，同时远征欧洲，成为当时世人瞩目的军事大国，其间，耶律楚材的智谋起了决定性的作用。

蒙古帝国，是依仗弓劲马肥来开疆拓土的，然而要治理包括文明程度较高的中原和江淮在内的领域，需要一个行之有效的思想工具才行。耶律楚材选中“儒学”为治国的基本思想。他力倡教化，传授理学，使儒学成为维护蒙古统治的官方哲学。这种改变官员文化结构，由武功转向文治的策略，对完善统一后的元朝国家机制，统一思想意识和蒙

古民族的发展，作用是很大的。

耶律楚材不仅在政治上、军事上富有远见卓识，而且在改革经济，理财富国方面，也处处表现了胜人一筹的谋略思想。他策划的把地方征税的权力收归中央的财政税收办法，既保证了国家的税收，又削弱了地方贵族的势力，使税制纳入了农、牧并重的经济轨道。他还主张轻徭薄赋，减轻百姓的负担，以利于恢复发展生产。此外，他还着手制定了有关手工业、商业和借贷等项制度。在耶律楚材的努力下，蒙古统治者较快地适应了中原地区高度发展的封建制度，恢复战乱创伤，把经济推向正常轨道。

耶律楚材历仕成吉思汗、拖雷和窝阔台三朝，长达30年余，一直是君臣相谐的。他从政治国有句名言：“兴一利不如除一害，生一事不如省一事。”事无巨细，只要与国与民有利，他都或极谏或巧谏，运用自己的智慧和谋略，力争得以实现，即便是涉及到君王个人，也概不例外。相反，也正因为这样，君主每每为他的公心所感动，总是准令施行。窝阔台执政时，史书上讲是：“宽弘之量，忠恕之道，量时度力，举无过事，华夏富庶，牛马成群，旅不赍粮，时称治平。”无可置疑，这与耶律楚材的智慧谋略以及精心辅佐，是分不开的。

窝阔台十三年(公元1241年)冬，太宗逝世，其后乃马真氏临朝称制。她近妖邪而远忠臣，使得朝政紊乱，国事日非。耶律楚材同她进行了坚决斗争。尽管乃马真氏对耶律楚材恨之入骨，但也畏惧他是先朝勋旧、孚望朝野，所以不敢妄动。

乃马真后三年(公元1244年)，耶律楚材因久视朝纲紊乱，国运不振，在万分忧思伤神之中，抱恨长逝。有人诋毁他，说他为官饱私。待乃马真后派人到他府上搜查时，惟见阮琴、书画、金石及遗文千卷而已。众人看罢更是叹服其廉。

耶律楚材一生表现出高超的智谋远虑。他远征西域，用兵金、宋；倡兴儒学、制定

制度、发展生产、繁荣经济、安定人民等，都功垂青史。元文宗至顺元年(公元1330年)，他被朝廷追赠为太师，上柱国，追封广宁王，谥号“文正”。清朝乾隆年间，尊他为“褒贤劝忠”，在北京颐和园，为他建祠塑像。

(顾铭新)

## 刘秉忠

刘秉忠(公元1216—1274)，元邢州(今河北邢台)人。元朝初期兴邦治国的赞画重臣，名垂青史的政治谋略家和军事谋略家。

刘秉忠生于官宦之家，自幼“风骨秀异，志气英爽不羁”。青少年时，不甘作一介刀笔小吏，遂弃职隐居，后遁入空门，剃度为僧。他每日于晨钟暮鼓之暇，潜心治学，博览群书，着意探究尘世变迁之基因，寻求治国安邦之良计。几年过后，他学兼三教，洞察力敏锐，对古今治乱兴衰研究得十分透辟，并具备了异乎寻常的政治胆识。这时身居漠北和林(今蒙古人民共和国哈尔和林)的藩王忽必烈蓄意争夺蒙古汗位，欲于天下大有所为，积极网罗中原文士。刘秉忠审时度势，决计与燕京(今北京)大庆寺高僧海云禅师一道北上，谒见忽必烈，一试胸中才学和平生报负，干一番治国安天下的轰轰烈烈事业。

刘秉忠到和林后，多次受到忽必烈的召见。他纵论天下时事，了然于胸，谳如指掌，深为忽必烈赏识。忽必烈视其为开创基业的得力助手，而刘秉忠为报知遇之恩，也充分发挥了自己的才智，为辅佐忽必烈完成一统帝业竭尽心力。特别是忽必烈受命总治漠南之地后，刘秉忠采撷蒙、汉历史上成功的统治经验，放眼天下，为忽必烈兴邦治国设计了一幅较为完整的政治蓝图。

在政治方面，刘秉忠认为：兴邦治国，“在内莫大乎相”，“在外莫大乎将”，选择贤相良将，内外相济，乃当前迫切需要解决的问题。他根据蒙古统治的实际情况，提出要选择开国功臣的子孙，分别担任京府州郡各

级监守，督责官吏。并建议参照古例，制定百官爵禄仪仗，使之家足身贵；如有犯于民，则设条定罪。百官之中，他认为县宰最为重要，要慎重选择之，“县宰正，民自安矣”。司法方面，他主张明定法令，去其繁苛，严禁私设牢狱，取消鞭背之刑。在经济方面，刘秉忠提出“国不足，取于民，民不足，取于国”，国与民之间的关系是鱼水关系的思想。主张纠正差徭甚大，赋敛繁重之弊，酌情减轻赋役，招回流民。盐铁诸产，货殖诸事，应按以前规定的标准课税，或有所减轻；苛捐杂税则一律免除。在文化方面，刘秉忠主张尊师祭孔，开设学校，进行科举，以选择贤达之才；还提出了兴礼乐，颁新历，修史书的建议。刘秉忠对知识分子非常重视。他提出，国家要出资以养天下名士宿儒中无营运产业者，使之不受贫穷的困扰；对其中有营运产业者，也应在税收方面给予优惠，使之能够得以自养。刘秉忠的各项建议，实际上为忽必烈如何推行“汉法”，承袭中原帝业，治国平天下定下了基调，深得忽必烈的赞许。后来，这些建议大部分都得到了实施。

刘秉忠参与赞画的这些大政方针，首先被用于其家乡邢州的治理上。邢州地当蒙汉交错处之要冲，是蒙古控制漠南汉地的枢纽。早在窝阔台统治时期，曾将邢州1万5千户分赐给两个蒙古贵族的功臣。由于治理无方，征求百出，肆意敲诈勒索，致使民不聊生，大量逃亡。10年之后，仅剩五、六百户。刘秉忠向忽必烈建议“择良吏治理”，并推荐儒士张耕、刘肃二人担当此任。忽必烈慨然应允。张、刘二人到职后，同心协力，扫除积弊，斥禁贪暴，招抚流亡，全州户口很快增加10倍。邢州之举，是蒙古施政方针上的一次重大转折，具有方向性意义。它使忽必烈从实践中领悟到，以“汉法”统治汉地的奥妙，为蒙古立国中原提供了一个成功的样板。也使忽必烈更深刻地认识到，只有重用汉儒，“行中国之道”，方能“得中士之心”。

此后，蒙汉统治者合作，共同尊儒学，修政教，重农桑，成为元朝的重要国策。

元宪宗二年(公元1252年)，忽必烈奉命远征大理国，刘秉忠随军同去，参赞军机。翌年9月，忽必烈自忒列(今四川宜宾)三路分兵，向大理挺进。行军途中，刘秉忠不忘政治攻心为上，常劝谏忽必烈：“天地好生，王者神武而戒杀。”因此，蒙古军克制往昔烧杀之陋习，迅速兵临大理城下。蒙古军围城后，忽必烈派使者入城招降。但大理国主政事大臣高祥拒降，并杀蒙古使者。忽必烈挥军破城后，发现使者尸体，勃然大怒，传命屠城，以示报复。刘秉忠等大臣连忙谏阻：“杀使臣抗拒命令者，只是高祥一人，而非一般百姓之罪，请宽宥大理的百姓。”忽必烈听从谏阻，收回成命，大理百姓的生命财产得以保全。由于忽必烈南征大理采纳了刘秉忠等人神武不杀、攻心为上的政策，在云南赢得了各族人民的支持，建立了较巩固的根据地，对南宋形成了包围之势。

元宪宗九年(公元1259年)，蒙古军分兵大举向南宋发动进攻。刘秉忠再次随忽必烈南征。戎马倥偬之中，刘秉忠引用云南事例，再次劝告忽必烈：“王者正义之师，当力求做到有征无战，南北各地应一视同仁，均不可嗜杀无度。”忽必烈表示：“愿与卿等共守此言。”由于忽必烈采纳和实施了这种有远见的和缓政策，赢得了民心，使之进军顺利。

元宪宗九年(公元1259年)，蒙哥汗死于伐宋军中。次年(公元1260年)三月，通过蒙古诸宗王大将会议，忽必烈登上汗位，即位于开平。他即汗位后，立即向刘秉忠等汉儒求教“治天下之大经，养民之良法”。刘秉忠广泛采集历代封建王朝的典章制度，根据当时实际情况加以选择，编列成章，呈送忽必烈参照实施。

蒙古建国后，从未使用过年号。忽必烈纳刘秉忠之建议，将其即汗位之年是为“中统”元年，后改年号为“至元”。至元八年(公元1271年)，忽必烈据刘秉忠建议，废“蒙古”

国号，取《易经》中“大哉乾元”之意，建国号为“大元”(即“大的开始”之意)。忽必烈还按照刘秉忠及其他汉儒大臣的建议，建立起完备的国家行政体制。中央设立中书省、枢密院、御史台。中书省总理全国政务，长官为中书令，一般由皇太子兼领。中书令下，设右、左丞相，再设平章政事，右、左丞和参知政事为副丞相。中书省下，设吏、户、礼、兵、刑、工六部，每部设尚书、侍郎，分掌各部政务；枢密院专掌军务，枢密院长官为枢密使，亦由皇太子兼领(为虚衔)，下设副使、同知院使、副枢、签院、同签、参议等若干，执掌院务；御史台为全国最高司法机关。其长官为御史大夫，由右丞相兼任，下设御史中丞、侍御史、治书御史等。御史台除执掌司法外，还负有纠察百官善恶，谏言政治得失的职责，下设殿中司和察院，弹劾监督朝廷和地方官吏。在地方管理上，忽必烈根据刘秉忠等人的议奏，设十路宣抚司，作为地方最高行政机构，统归中书省领导。后改称行中书省事，除中央直辖区外，全国设10个行中书省，简称“行省”，这就是沿用至今的我国行省制的起源。行省之下，逐级设路、府、州、县，每级官署以蒙人为正职长官，汉人领副职。其它如“颁章服，举朝仪，定官制”，皆由秉忠发之。由于刘秉忠等人制定的官制，对各级官吏的官阶、员额、俸禄都有具体规定，使官有其职，位有定员，食有常俸，因此各方人才，纷纷而至。经过数年的努力，使元朝的统治机构不断完备，政治日益巩固和强化。奠定“一代成宪”，刘秉忠实为首功。

元朝建国后，在刘秉忠建议下，忽必烈决定定都燕京，改称大都，并委任刘秉忠主持新都城的设计和营建。刘秉忠按照我国最早出现的那种“前朝后市，左祖右社”的理想设计，规划了大都城的宏伟蓝图，并亲自主持了宗庙、宫室的营建。大都城的规划不仅表现出中国泱泱大国的气势，而且充分体现了封建帝王“唯我独尊”这一主题思想，它充

分反映了刘秉忠的极高智慧和才干。

至元十一年(公元1274年)八月,刘秉忠去世。忽必烈对群臣说:“秉忠事朕30余年,小心缜密,不避艰险,言无私情。”对刘秉忠做出了中肯的评价。

刘秉忠以其杰出的见识,将军事手段和政治攻心密切结合起来,使蒙军在大平、破南宋等一系列战事中取得了巨大胜利,可以当之无愧地成为一代军事谋略家;刘秉忠以其兴邦治国的韬略和才干,诱导开明帝王忽必烈采用“汉法”,制定了“一代成宪”,使蒙古得以在中原深根固本,使他不仅成为忽必烈的股肱重臣,而且成为名垂青史的政治谋略家。刘秉忠在看似散淡的政治生涯中,深藏着卓异的智慧,为缔造元朝多民族的封建国家做出了伟大贡献。

(郑吉萍)

## 刘 基

刘基(公元1311—1375),字伯温,浙江青田县人。元末明初著名文学家,明朝开国元勋,明开国皇帝朱元璋的得力谋臣。

刘基出身于名门望族,他的曾祖父刘濠曾在宋朝做过翰林掌书。和许多书香世家的子弟一样,刘基自幼深受儒家思想影响,饱读诗书,并精研古人论及天文、地理、用兵打仗的书籍,为走上仕途做准备。经过不懈努力,加上天资聪颖,元至顺四年(公元1333年),年仅23岁的刘基以其优异的文才金榜题名,及第进士,做了高安县丞。

抱着所有封建社会知识分子忠君报国的共同念头,少年得志的刘基颇想施展自己的才华,尽忠元朝,做一番轰轰烈烈的事业。可惜当时元朝已是穷途末路,大厦将倾,朝廷上下吏治贪乱,举国百姓挣扎于水火之中,刘基纵有旷世之才,也无回天之力。何况他生性偏急,嫉恶如仇,更与官场格格不入,哪里能容他施展才华?上任不久,即遭排挤,转徙他处,又不久,因上书弹劾监察御史失职遭上级嫉恨、报复,不得已弃官回家隐居,

一闲就是10多年。后来,黄岩人方国珍造反,朝廷无力降服,连浙江行省左丞李帖木儿都被其活捉。朝廷几次招降,方国珍却屡降屡叛,闹得人心惶惶。浙江行省终于想到刘基,启用他为元帅府都事。方国珍早闻刘基韬略,又听说他力主严剿,已定下计策,忙派人行贿,刘基不受。方国珍又派人贿赂京中权贵,非但得免,且被加官。刘基却以“擅作威福”之名撤免官职,被羁管在绍兴。刘基忧愤之下,一夜头白,再度辞官,回乡隐居。

两次官场失意对刘基的打击十分沉重,也使他对元朝的腐败有所认识。对国家前途的担忧,官场失意的打击,使他寄情山水,吟诗作赋,感时忧世,抒发怀才不遇、报国无门的抑郁心情。这一段隐居生活中,他写了不少诗文,成为元末明初著名的文学家。

就在刘基为没落的元朝唱着挽歌的同时,元末农民起义的烽火已经四处燃起,形成燎原之势。小明王韩林儿、朱元璋、张士诚、陈友谅等各路义军互相照应,元朝统治岌岌可危。不久,朱元璋领导的一支红巾军先后占领诸暨、衢州和处州,接着又次第拔除东南一带元军的据点,占据了浙东大部分地区。随后,广求各地贤才和知名人士,希望他们出来支持义军的事业。在浙东早已颇负盛名的刘基自然被列入了邀请名单。刘基虽不情愿,但迫于身家性命之危,只能从命,抱着一试的心理,依附了朱元璋。

朱元璋是一个重贤礼士的义军领袖。为笼络文人贤士,专修礼贤馆一所,对他们提出的要求极力满足,对他们的意见虚心听取,认真采纳。这种态度不久就感动了刘基,刘基也因其才能受到朱元璋的器重。刘基那颗久受冷遇的心再次萌发了希望的种子,他决心利用自己的才能,为朱元璋建立起强大的军事力量。

当时天下形势,元朝已经灭亡在即,各路义军已从原先的合作演变成争夺胜利果实。朱元璋军夹在张士诚、陈友谅两军之

间，他的地盘常受两军侵扰，这使他把大部分精力用于防备两人的掠夺上，十分担忧。对此，刘基建议朱元璋转守为攻，对二人采取分而制之的措施。他说，张士诚齷齪，胸无大志，只求自保，不求进取，不必担心。陈友谅野心大，且拥精兵数十万，巨舰几百艘，处我上游，颇具威胁，因此必先灭陈友谅，次取张士诚，稳定后方，然后才可以北灭元朝，建立一统江山。朱元璋认为此言有理，遂采纳了他的建议。不久，陈友谅进攻朱元璋守地，占领太平路，自称皇帝，建国号“汉”，约张士诚同攻应天，张士诚未允。陈友谅便自集舟师，从江州直指应天，舳舻千里，旌旗蔽空，气焰十分嚣张，欲一举灭朱元璋。朱元璋召众人计议，有的主张逃跑，有的主张投降，唯刘基主战。他向朱元璋陈明利害，坚其斗志，并为朱元璋献计说：古兵法云，日奔三百里，必蹶上将军，又云骄兵必败。陈友谅如此蔑视我们，倾巢而出，一定以为我们非降即逃，后援不会充足。今我军应先放弃几个地方，装成逃跑的样子，再派人诈降，诱其全速奔袭，却中路设伏，截其后路，叫他首尾难顾。这样，疲兵无以战，后援不继，军心必乱；设伏围攻，乱其部署，以逸待劳，一举必克。然后我们乘胜追击，陈友谅必然奔逃，我们不仅能收复失地，还可以占领他的属地。朱元璋依计，果重创陈友谅，取得决定性胜利。

陈友谅退至江州后，不甘失败，不久又兴兵东下，占领了朱元璋属地重镇安庆。朱元璋依刘基建议，亲征安庆，可是陈友谅属将张定边骁勇善战，广于谋略，加上安庆城坚固易守，激战一天未能取得任何进展。刘基见此，急谏朱元璋说：我大军远道而来，激战未果，将士将生怠惰。安庆城固，非一日可破。陈友谅知我在此，必派人决战。那时我军前后受敌，必败无疑。如今不如避实击虚，直捣陈友谅老巢江州，令其无所归，成为流寇。这样，主客易势，陈友谅灭亡之日就快到了。朱元璋依计而行。陈友谅果然

倾巢出动，待回援，江州已告失守，这样便被迫放弃安庆、南昌等多处城池西逃。

元至正二十三年(公元1363年)春，刘基为母服丧一年后回到应天，正值朱元璋接到小明王韩林儿被张士诚围困而求援的消息。刘基认为，不该救韩林儿，因为早晚要与之绝裂，而且陈友谅尚有实力，出兵易受攻击。朱元璋则一意孤行，留刘基守应天，引兵而去。陈友谅果然出兵，但因惧刘基，未直攻应天，而是围困洪都(今江西南昌)。不料洪都守军十分顽强，竟连攻80余日毫无所成。这时，朱元璋才闻讯回救，与陈友谅军在鄱阳湖展开决战。

陈友谅在水上斗军自有他的道理。他战舰多，士兵多习水性，占据优势。故朱元璋与之鏖战，十多天都惨败而归，只好又命手下大将徐达去应天唤来刘基谋划。刘基到来，观察地势天象，定火攻之法，虽使陈友谅等受到打击，但仍未能克敌制胜。这时，刘基又想出一条妙计，趁陈友谅孤军深入的局势，派兵阻住湖口，以主力抗敌，分兵阻击援军，断其粮草，并派奸细到陈军中散布谣言，说陈友谅只把粮分给某部不给某部，给官不给兵，如此等等，使敌被困，内部又乱，没有斗志。朱元璋依计，陈友谅军不战自乱，被朱元璋击败。陈友谅被流矢射死。从此，陈友谅的势力灭亡了，朱元璋在登基坐殿的路途上迈进了关键的一步。刘基终于以其才智佐助朱元璋壮大了军事实力，成为功名赫赫的人物。

陈友谅灭亡后，朱元璋势力日大，元至正二十四年，在一片劝进声中即位吴王；至正二十八年称帝，正式建立大明朝，刘基被任命为御史中丞兼太史令——一个领导监察御史纠劾各级官吏非法行为的官职外兼修编历史的官职。在这两个官位上，刘基忠心耿耿，但因嫉恶如仇，又得罪了不少权贵。最后被谗言所害，丢官不算，连养老俸禄都被革除，因而忧愤成疾，郁郁死去。直到洪武十三年(公元1380年)，奸相胡惟庸以擅权枉



法之罪被处死，刘基受诬之情才得以大白，朱元璋追念他的功绩，予以复职复禄，加谥文成，并善待其后人，以彰刘基功德。

刘基的一生可谓坎坷多难。幼即学富五车，却无报国门路；后随朱元璋，尽心竭力，力挽狂澜，极尽为人臣者之能事，得展平生才华，却不料老来仍难免为人所害。人谓其能如张良、诸葛再世，但对奸人佞臣之谗却一筹莫展。实乃可惜可叹！

刘基一生著述较多。诗歌雄浑，散文奔放，有《诚意伯文集》。寓言集《郁离子》针贬时弊，犀利多讽，含义深刻，是我国古代宝贵文学遗产。

(孟令宝)

## 李善长

李善长(公元1314—1390)，凤阳定远(今安徽定远)人。明代开国丞相。

李善长少年时期受过一些教育，粗通文墨，工于心计。他虽然没有得过功名，但知书达礼，在地方上颇有名气。曾被推为祭酒，在民间飨宴时负责酹酒祭神之事务，是一个较为典型的乡村知识分子。

元朝末年，群雄四起，农民起义的风暴席卷江淮平原。在众多的起义队伍中，有一支数量不大，但却引人注目的队伍，它的领导者就是后来明王朝的开国之君朱元璋。朱元璋以自己的同乡好友为核心，吸收外来的文人墨客为幕僚，建立了一支拥有数万经过严格训练的士兵组成的部队。这支部队勇敢善战，攻城夺地，屡战屡胜，因而在方圆几百里内造成了很大的影响。早已怀有雄心大志的李善长对朱元璋的所作所为早有耳闻，他觉得朱元璋绝非平凡之辈，将来必成大业，于是便在元至正十四年(公元1354年)，朱元璋进军滁州(今安徽滁县)经过定远时，他告别妻子姐弟，风尘仆仆地投往朱元璋帐下。

此时的朱元璋正在扩充发展自己的队伍，急需良臣谋士为自己服务，因此对李善长的到来感到十分高兴。朱元璋急迫地问李

善长，四方兵事何时才能平定？对此早已深思熟虑的李善长从容答道：“秦末大乱时，汉高祖作为一个平民起兵，他豁达大度，知人善任，懂得如何收拾人心，因此5年就平定了天下，成了帝业。如今元朝纲纪紊乱，人心不和，已达土崩瓦解之境。汉高祖的家乡沛地与您的家乡相去不远，您如果能学习这位同乡的长处，担当起这种责任，天下太平也就不远了。”李善长的这一席话使朱元璋顿开茅塞，久久冥思苦想不得其解的难题突然被解开了，他从此有了自己明确的奋斗目标。李善长这一席话也使他赢得了朱元璋的信任，朱元璋马上让他充任了自己幕府的掌书记，即幕僚长，并对他说：“如今群雄并争，要打好仗，最要紧的是要有好的幕僚。而有些管文书与作谋士的幕僚，总爱说左右将士的坏话，从而导致文武之间的不和，使将士难以施展自己的才能，这样非失败不可。将士垮了，好比鸟儿失去羽翼，主帅势孤立单，也必然要灭亡，这是一个教训。你应该为我做一桥梁，将文臣武将联结在一起，千万不要学其他那些幕僚的坏样子。”李善长顿首受命。从此他兢兢业业，悉心辅佐，成了朱元璋最为信任的心腹。他考察举荐优秀人才，处置不称职的将吏，消除将相之间的隔阂，沟通上下之间的关系，对于朱元璋军中的统一起了相当重要的作用。

在朱元璋的身边，从未接触过军事的李善长在军事方面也闪射出耀眼的火花。元至正十五年(公元1355年)，朱元璋镇守和州(今安徽和县)，经常遭到元军的袭击。一次他亲自率军反击元军的进攻，命李善长带少量兵力留守和州，指示他如敌人进犯，只坚守城池就可以了。元军得知和州兵力弱小，发动了突然袭击。可李善长早有准备，在城外布下伏兵，待元军一到，伏兵四起，打得元军落花流水。李善长作为一个文人幕僚，在敌强己弱的情况下能巧施谋略，出奇制胜，出乎朱元璋的意料。朱元璋不禁对李善长称赞道：“怎么能说你仅仅是一个策谋画计的文



人呢，你今天取得的胜利就是执戈的武将也不得不佩服啊！”

朱元璋镇守和州，多次击退元军的进攻，但又发生了粮荒。为解决粮食问题，朱元璋在至正十五年（公元1355年）六月，率军渡过长江，占领芜湖（今安徽芜湖），继而进逼太平（今安徽当涂）。李善长熟知本军习性，估计到此次获胜进城，恐会因长期遭受粮荒威胁，将发生任意抢掠的事件。作为一位谋臣，他深知军纪严明方能博得民众的支持。于是便向朱元璋建议及早采取措施，防范抢杀事件的发生。朱元璋立即命李善长写好“不许虏掠，违令必按军法处置”的禁约，进城后四处张贴，并派人沿街巡察，有违犯禁约者，当场正法，毫不留情。太平城内百姓见此情形，顿时安定。此后朱元璋名声日振，四方百姓纷纷来归。朱元璋乘势顺流沿江而下，于至正十六年（公元1356年）三月攻占集庆（今江苏南京），改称应天府，成为其统一东南，进而一统天下的牢固根据地。

攻占应天之后，朱元璋率军继续东征西讨，李善长则遵命居守经营以应天府为中心的根据地。应天府一带虽为江南富庶之地，但由于长年遭受战火兵焚，生产遭到严重破坏，经济上极为困难。为了保证前方军需供给之需要，李善长首先努力恢复和发展农业生产。他按照朱元璋制订的屯田垦荒措施，在所占领的地域内普遍推行屯田制度，兴修水利，鼓励耕种，帮助农民发展生产；同时对手工业和商业加以控制，广开财源。李善长在斟酌元制、改革弊政的基础上，提出了立盐茶税、制钱法、开铁冶、定鱼税等一系列措施，使“国用益饶，而民不困”，同时也成为后来明代经济典制的先声。

元至正二十七年（公元1367年），朱元璋东灭张士诚，北伐取山东，南降方国珍，又进军福建一带，可谓是势如破竹，节节胜利。在此形势下，朱元璋用吴纪年，更换百官制度，为自己登极换代作准备。在百官的任命中，李善长官拜左相国，封宣国公，位居文

臣之首。

至正二十八年（公元1368年）正月，朱元璋在一片凯歌声中登上帝位，取国号大明，建元洪武。在制定各种律令、礼仪的过程中，李善长仍起着重要作用，担任总裁官。大明王朝建立后，朱元璋更把除军事外的一切朝廷事务，如建置地方各级职官、规定朝臣大小服色、俸赐，制定各种礼仪，以及封藩建国、功臣爵赏、民间诉讼等等，事无巨细，统交李善长掌管。

明洪武四年（公元1371年），李善长因病致仕，回家颐养天年。不料在他晚年之时，竟被卷入丞相胡惟庸擅权枉法一案，遭朱元璋疑恨，被迫自缢而死，终年77岁。

李善长未得善终，是他的一大悲剧，但这并不能抹杀他在创立明朝基业过程中所做出的特殊贡献。朱元璋曾说他：“参与东征西讨，每日不得闲暇；继而独守后方，转运粮储，供给器械，也未曾缺乏过；删革、整治繁琐和过于苛刻的法律规章，使军民能够团结一心，平息各种怨声谣言。昔日汉有萧何为良相，与李善长相比，也未必能超过他。”朱元璋如此盛赞李善长，并非完全出自于偏爱；将其比之于萧何，恐怕也不算夸张。李善长与朱元璋刚刚相遇之时，便以汉高祖刘邦立汉之事来暗指朱元璋，使朱元璋学有榜样。历史的发展完全证明了李善长的远见。而朱元璋把李善长比喻成自己的萧何，则是对李善长的谋略和成就的恰当评价，这也是完全符合历史事实的。

（攸筭）

## 徐 达

徐达（公元1332—1385），濠州（今安徽凤阳）人。明初著名将领，明朝开国功臣。

徐达出身于一个世代种田的农民家庭，儿时曾与朱元璋在一起放过牛。元朝末年，各地义军蜂起。元至正十三年（公元1353年）六月，当时在郭子兴军中担任亲兵的朱元璋回家乡募兵，22岁的徐达闻讯前往。二人相

见后谈得十分投契，朱元璋便将其留在身旁视为亲信，徐达就此开始了他的戎马生涯。

元至正十四年(公元1354年)，朱元璋以军功升任总管。他带领徐达等24名亲信南攻定远(今安徽定远)，收编了当地地方武装，并依靠这支力量，迅速攻占了滁州(今安徽滁县)、和州(今安徽和县)等地，打开了一个崭新的局面。在朱元璋南攻定远时所带的24人中，徐达的智虑和才略均在众人之上，显露出了杰出的军事才能，因而受到朱元璋的器重和信任。

元至正十五年(公元1355年)三月，郭子兴死，朱元璋掌握了这支起义军的领导权。他带领徐达等人于第二年3月攻克集庆(今江苏南京)，将其更名为应天府，准备以此为中心，建立和发展江南根据地。当时朱元璋东有张士诚，西有陈有谅，他们地广粮丰，兵多将足，根本不把朱元璋放在眼里，时刻都想兼并他的地盘。因此，建立巩固的东、西防线，在夹缝中以求生存，便成为朱元璋施展其宏图大略的当务之急。在这场争夺生存空间的斗争中，徐达承担重任，又一次表现出他的军事天才。

当时，张士诚占有常州，派兵进攻镇江。镇江乃应天之门戶，保卫镇江乃保卫应天之关键所在。担负防卫镇江的徐达首先击败敌人的水军，张士诚连忙派兵增援。徐达见敌来势凶猛，不宜力战，便设伏兵于城外，自己亲自督军迎敌。敌军受阻，暂时后撤，不料正中埋伏，损兵折将。徐达则乘胜进兵，连克常州、宁国、常熟、宜兴等城，太湖以西尽入朱元璋的版图，一条北起江阴，南到长兴，沿太湖西岸而设的东部防线便形成了。

东部防线巩固之后，徐达又奉命来到西部战场。元至正二十年(公元1360年)四月，陈友谅率军进犯，徐达和常遇春等在九华山设伏以待，给陈友谅以沉重打击。五月，陈友谅乘虚进占太平(今安徽当涂)，自称皇帝，立国号汉，进而引兵东下，企图进犯应天。

朱元璋调集重兵，设伏于应天城内外各险要地点。徐达率一支精兵埋伏在南门外，待陈友谅军在渡口龙湾登陆后，即冲杀出来，与其它各路内外合击，将陈友谅军击溃。

元至正二十三年(公元1363年)七月，朱元璋与陈友谅在鄱阳湖上决战。徐达身先诸将，一举击败陈军前锋部队，使军威大振。在其他将士支援之下，徐达终于将敌军击溃，大获全胜，陈友谅死于乱军之中。击败陈友谅后，朱元璋势力大增，乃于第二年正月在应天称吴王。军功卓著的徐达被任命为中书左相国，与中书右相国李善长同居百官之首，成为朱元璋政权的最高行政长官之一。

朱元璋击败陈友谅后，消灭张士诚则成为他的下一个目标，而完成这一战略目标的重任，则非徐达莫属。当时张士诚所占地域南起绍兴，北至济宁，南北达2000余里，物产富饶，人口众多，防守亦较为坚固。李善长等人见此形势，主张暂时按兵不动，以待有利时机。而徐达的意见恰恰与其相反。他说：“张士诚骄傲残暴，奢侈腐化，现在灭亡之时已到，此乃天意。他所重用的骄将都是齷齪小人之辈，只知依靠手下将士追求升官发财。而执掌政务之臣又都是迂腐书生，根本不懂取天下之计。臣如能率精锐之师出征讨伐，浙西之地指日即可平定。”徐达对张士诚政权的分析可谓是人木三分。朱元璋听后说：“其他人的看法都局限于个人所见，唯有你的主张符合我的心意。照此去办，大事必成！”于是便命徐达为大将军，常遇春为副将军，统率20万大军，出师讨伐张士诚。

大计既定，徐达便率军出发，一路势如破竹，连克湖州(今浙江吴兴)、绍兴、嘉兴，直抵张士诚的巢穴平江(今江苏苏州)城下。在此之前，曾有人献“销城法”，即在平江城外构筑长围，四面立营，屯田固守，使张士诚坐困空城，不战自溃。作为军事谋略家的徐达立即采纳此计，在平江四周筑起长围，又架筑三层水塔，置弓弩火炮于其上，向平江城内射击。不久，无锡守敌莫天祐派部将

杨茂潜入平江城中，与张士诚联络，被徐达的巡卒捕获。徐达释而用之，让他继续为两地传递消息，而暗中将所得信息送往徐达。徐达因而尽知张士诚、莫天祐之虚实，使围攻平江的计划愈加完备。

元至正二十七年(公元1367年)九月，平江城中粮草匮乏，木石俱尽，张士诚已陷入绝境。徐达见时机成熟，便下令攻城。张士诚手下众将无力抵抗，纷纷败降，张士诚也力尽被俘，被送往应天。徐达作为中军主帅，出色地完成消灭张士诚的任务后凯旋回朝，朱元璋亲御戟门，论功行赏，封其为信国公。

朱元璋灭陈友谅、张士诚后，独占全国经济最为发达的江浙地区，具备了北伐中原、灭亡元朝的实力。元至正二十七年(公元1367年)十月，徐达被封为征虏大将军，和常遇春率25万大军自淮河流域进入黄河流域，开始了北伐的征途。他们按照朱元璋的战略部署，先取山东，撤除大都(今北京)的屏障；再回师河南，断大都的羽翼；然后夺取潼关，占据大都之门槛；最终于明洪武元年(公元1368年)八月，进取元大都，完成了改朝换代的历史任务。

攻克元大都后，徐达马不停蹄，又率军西向，开始了平定秦晋的战争。当徐达率军越过太行山进入山西时，元太原守将扩廓帖木儿率兵出雁门关，准备经居庸关偷袭北平。徐达闻讯对诸将说：“扩廓帖木儿带兵远出，太原城内必然空虚。我们如乘其不备，直捣太原，毁其巢穴，使之进不得我，退无所守，这就是兵书上所说的批亢捣虚之计。如果扩廓帖木儿回师营救太原，则已为我所牵制，进退失利，必将为我活捉。”战争势态的发展果然不出徐达所料。扩廓帖木儿闻听明军进攻太原后，匆匆率军赶回，在太原城下布阵，准备与明军决一雌雄，徐达采纳部将郭英之计，夜间偷袭元军大营，元军大乱，自相践踏。扩廓帖木儿不知所以，慌乱之中只穿着一只靴子，骑上一匹未备鞍的劣马，在18名骑兵的护卫下逃循而去。洪武三年

(公元1370年)，徐达在平定陕西后，率军出潼关直捣定西(今甘肃定西)，最终歼灭扩廓帖木儿部，擒获元宗室、官吏1865人，将校士卒8万4千5百余人，缴获军马1万5千2百匹，取得了决定性的胜利。元军受此打击后，一蹶不振，明朝北部边界由此得以太平。

定西大捷后，徐达班师回京。朱元璋下诏大封功臣，徐达被改封为魏国公。此后10几年间，徐达一直驻守北平(今北京)，元朝残余势力畏徐达之威名，不敢再犯边界，明朝北方形势日趋稳定。

徐达自担任将帅以来，统兵百万，南征北战，立下了赫赫战功。但他从不居功自傲，出征还朝之后，立即交还将印。他身为朱元璋的功臣权贵，与朱元璋有布衣兄弟之交，但却对之愈加恭慎，不敢失礼毫发。他功高盖天，位居至尊，但却过着极为俭朴的生活，“妇女无所爱，财宝无所取”，生平无声酒伎媵之好。洪武十八年(公元1385年)二月，徐达病逝于南京，终年54岁。朱元璋追封他为中山王，把他的肖像陈列于功臣庙里排列在第一位，称之为“开国功臣之一”。

徐达一生驰骋疆场，长于谋略。在军事上他预见深远，颇具战略眼光；在战术上亦筹划有方，显露出惊人的军事才干。在政治上，他谦虚明达，洞悉世情，在残酷倾轧的统治阶级内部得以独善其身，可见其智慧谋略非同一般。后人曾有诗赞扬他“指挥皆上将，谈论半儒生”，实为其一生戎马生涯的真实写照。

(郑吉萍)

## 姚广孝

姚广孝(公元1334—1418)，长洲人。和尚，法名道衍，字斯道。以计助朱棣废明建文帝朱允炆，称永乐帝而留名。

姚广孝原系医家弟子，幼年值元末动乱，父母尽丧，只身无依，四处流荡，幸被一好心和尚引进山门，剃度为僧。因其聪敏好学，精通阴阳术数之学，并兼善诗文，明洪武年

间朝廷下诏选拔精通儒术的僧人为官时，他一举名列前茅。但因担心没有靠山会被排挤，竟拒官不受，只领僧服之赐，回归故寺，等待时机。

明洪武十五年(公元1382年)八月，朱皇后马氏死去，明太祖朱元璋命选有道高僧侍奉诸王，为诸王诵经荐福。姚广孝也在被举荐之列。由于这次是一步就可直接迈入明王朝的最高统治阶层，姚广孝没有拒绝。当他被安排侍奉燕王朱棣时，更是心中欢喜。

洪武三年(公元1370年)，朱棣被封为燕王，十三年(公元1380年)就藩北平，拥有重兵。朱棣“貌奇伟美髯髯，智勇有大略”，姚广孝认为他有天子相。两人相见，如鱼得水，相识恨晚。从此广孝“出入府中迹甚密，时时屏人语”。

洪武三十一年(公元1398年)，明太祖朱元璋病逝，京城城门紧闭，不允许任何人去吊唁。这样尚在皇宫里的皇太孙朱允炆便顺理成章地被指定为继承人。此举引起各地诸王——朱元璋儿子们的不满，但事已至此，无可奈何，只能暗中觊觎。朱允炆继位后，深谙诸王拥有重兵，多行不法，对己不利，于是想出一条对策，欲以次削除诸王。周王朱橚势力最弱，最先被削除。燕王朱棣兵力强大，建文帝只好先置之不理。但朱棣知道，自己被削除也只是迟早之事。

建文帝朱允炆的削藩之举愈演愈烈，湘王、代王、齐王、岷王均被依次废除，燕王朱棣已感大祸临头，整天“佯狂称疾”，心中焦虑。欲反，又恐力不能及；欲弃王位，心又不忍，正是进退维谷。姚广孝深谙燕王心思，但他恐靠自己劝说不成，于是心生一计，决定利用相人鼓动朱棣起兵反叛。他找来人称“北平神卜”的金忠，授意他给朱棣占卜。朱棣拈了一课，竟是“铸印乘轩之兆”。然后姚广孝又推出当年与他相交甚密的相人袁珙给朱棣看相，说朱棣“龙行虎步，目角插天，必为太平天子。年四十，须过脐，即可登大宝”。朱棣为考察袁珙相术，曾找9个和自己

相貌相似的人，操弓矢同饮于酒肆，袁珙早被告知，当然一目了然，当即跪拜。朱棣怎知其中勾当，对袁珙相术当然信服，奉为神旨，于是决定起兵，并要姚广孝为之谋划。

明建文帝即位时，社会矛盾正趋于缓和。元末农民战争后，朱元璋苦心经营30多年，社会经济已有明显好转，朝廷统治也十分稳固，加上建文帝施行德政，深得民心，大举削藩，反抗势力减弱，因此要想起兵谋反，殊为不易。何况朱棣毕竟是一路诸侯，无力纠集很多兵马。但姚广孝并不耽心这些，他知道兵士并不难找，难的是如何为未来起兵做好准备。于是征得朱棣同意，在燕王府邸后苑组织训练亲兵，并在屋下开凿地穴，开设秘密而庞大的兵器制造场所。为了掩盖练兵声和制造兵器的声响，姚广孝命人大量蓄养鸭鹅，等到鸭鹅成群时，一听到练兵和铸器声的骚扰，立即长嘶哑鸣，反将这些声音全都湮没了。朱棣知道这事以后，也佩服姚广孝计谋多端。

不过，朱棣秘密谋反的消息还是传了出去。建文帝闻报大惊，但因无真凭实据，只好下诏切责，同时派人把守燕王府第，不许他人出入。但这些人没有注意身着袈裟的姚广孝，而任其出入。这样，朱姚便密谋，计引守府主管入内，将他杀掉，乘机冲出燕王府，借势控制了北平。然后，指斥建文帝身边大臣齐泰、黄子澄等为奸臣，引祖训说朝无正臣，奸恶当道，则亲王可以养兵，于是广招兵士，向建文帝示威。建文帝当然要出兵讨伐，这样燕王终于找到借口，称自己的军队为靖难之师，开始与朝廷对抗。短短3年中，交战达数十次。

在这3年中，双方进行的战役以朱棣军取胜居多，而每次战斗胜利，大多是姚广孝的计谋。尤其是北平守城战，姚广孝表现出高超的智慧。当时，朱棣正率军去攻大宁，建文帝手下大将李景隆深悉兵法，放过朱棣，挥师北上，直捣北平。北平守兵极少，被李景隆大军围得铁桶一般。如北平失守，将使

朱棣失去根据地。可是城中的姚广孝面对敌人浑然不惧，沉着指挥，倚仗高墙厚垒一次次击退敌人进攻，并乘一寒夜命兵士浇水结冰，令敌军再难做登城之想；接着，乘敌军疲惫，不胜北方之寒，派人出城偷袭，弄得李景隆军狼狈不堪。待朱棣回军救助，内外夹击，大败李景隆，直追至济南。当然三年战争中，朱棣也没讨得什么大便宜。朝廷军有广大的后方，充足的兵力，朱棣军则形同流寇，“所克城邑，兵去旋复为朝廷守。仅据有北平、保定、永平三府而已”。这样的拉锯战，形势对朱棣是十分不利的，因此朱棣越打越是心焦。姚广孝对此当然也不是浑而不觉，他苦苦思索，终于想出一个绝妙的主意，那就是“毋下城邑，直趋京师”。这个主意，看似冒险，实则击中朝廷布防要害。原来，3年征战，朝廷为剿朱棣，已把大部分军队调往和朱棣军队接触的边境地带。而且由于朱棣军常声东击西，令朝廷军队忙于防守，调动频繁，这样，后方必然空虚，情报不准。姚广孝建议朱棣派少数军队多头出击，分散敌注意力，然后率主力大军直插应天。朱棣依计而行，率军南下，假掠州县，一击即去，令朝廷军错愕不已，只守自己领地，所以一路上并没遇有什么抵抗。从建文帝三年(公元1401年)十二月出师，第二年正月由馆陶渡黄河逼徐州，三月设伏濉河大败平安军，五月攻下泗州，迅速到达长江北岸。朝廷此时才明白过来，但为时已晚。建文帝想割地求和，拖延时间，朱棣不允。六月，挥师自瓜州渡江，败盛庸水军，直落应天。建文帝逃走，齐泰、黄子澄、方孝儒被杀，诛夷九族。朱棣终于坐上了皇帝宝座。

朱棣登基后，改号永乐。论功行赏，姚广孝功推第一。《明史》对姚广孝的评价是：“帝在藩邸，所接皆武人。独道衍定策起兵。及帝转战山东河北，在军三年，或旋或否，战守机事皆决于道衍。道衍未曾临战阵，然帝用兵有天下，道衍力为多”。这个评价是实事求是的。成祖朱棣即位，立授道衍僧录

左善世，旋拜资善大夫太子少师，复其姓，赐名广孝。成祖与语，称少师而不呼其名以示尊宠。不过，姚广孝终没有答应成祖而蓄发还俗，只是居于僧寺之中，每每冠带上朝，退朝就穿上袈裟。而且他广散钱财，不营妻室，仍以僧人自乐。唯一致力于文化事业，曾监修太祖实录，还与解缙等纂修了闻名于世的《永乐大典》。一直到明永乐十六年(公元1418年)三月病逝，享年84岁。死后，被追赠诚辅国协谋宣力文臣，特晋荣禄大夫、上柱国、荣国公，谥号恭靖。

姚广孝的一生留下一个谜团：身为和尚，本该一心诵经，但他却偏要放下经卷，横来招是搬非，谋划了一场争夺江山的历史活剧。不是和尚，却又佛号喧天，功高拒禄，至死方休。不过，令人钦服的，是他那挥指千军、颠倒胜败、扭转乾坤的韬略，纵令张良再世，孔明犹存，亦不过如此而已。

(孟令宝)

## 俞大猷

俞大猷(公元1504?—1580)，字志辅，号虚江。福建晋江人。曾中武举人，官至都督同知。明朝著名抗倭将领，中国著名爱国英雄。

俞大猷出身于泉州一百户长之家，父亲为人淡泊谦和，从不谋私，家贫如洗。大猷年少时，除读书学习，就是去市集卖掉母亲编织的发网维持家计，人呼“卖网小儿”。但大猷对此安之若素，把精力放在发愤学习上。20岁时，父亲病逝，大猷继承百户长之职，开始习剑术和骑射。他的老师剑术名家李良钦称赞他“剑术天下无敌”。嘉靖十四年(公元1535年)，俞大猷参加武举会试，列榜第5名，升任正千户，被派往金门任职。

当时东南沿海正受倭寇侵扰，明王朝对此视而不见，只是地方官派部分军兵消极防御。俞大猷却以长远的眼光审度形势，认为必须彻底铲除倭寇，否则遗害无穷，因此毅然上书金门监司，陈明厉害。不料监司昏庸

猥琐，竟大骂“小校安得上书”，对俞大猷施以杖责，还剥夺了他的职务。此后俞大猷多处奔走，试图报效国家，但都未能如愿。直到他39岁时，受兵部尚书毛伯温力荐，才得任汀漳守备。

倭寇侵扰果如俞大猷所料，愈演愈烈。规模日大，次数渐多，烧杀抢掠，无恶不作。明嘉靖三十一年(公元1552年)，竟大举进犯浙东，视明军如无物，十分猖獗。地方官想瞒也瞒不住了，只好上报朝廷。朝廷闻知，下令清剿。这时已升任指挥僉事、僉书广东都司的俞大猷受兵部举荐，再任宁(波)台(州)参将，前往浙江御倭。从此，俞大猷真正开始了他平倭荡寇的戎马生涯。

俞大猷到达宁、台前线，立即派出小部队侦察，探明敌情。他发现倭寇的流动性非常大，今天在此地，明天又窜到别处，其主要方式是战舰随行，每到一处就下舰登陆，抢掠之后登舰而去。浙东一带地形复杂，水道纵横，自然难于追剿。作为一个有谋略的军事家，俞大猷认为明军的主要战术必须改变，从尾随追袭变为清理河道上的敌舰，灭其逃走的依恃，倭寇在陆地上无立足之处，必定奋死回救。这样就可使被动的追击变为主动的调动敌人，然后以重兵逐其下海，布舟师于海上，内外夹击，定会一歼而胜。他的意见得到上方的支持，果然奏效，倭寇被尽数赶出大陆，斩杀无数。明朝取得了抗倭史上第一次大规模的胜利。

嘉靖三十三年(公元1554年)，失败的倭寇再次聚集2万名武士，潜入松江柘林，欲报上次失利之仇，发动大规模侵扰活动。朝廷闻报，急派张经为右都御史兼兵部右侍郎，专办讨贼事宜；并任命大猷为苏松副总兵，替代汤克宽指挥明军剿寇。俞大猷率邹继芳、汤克宽军火速赶到柘林附近，观察敌情，向张经建议：以明军现有兵力，如果强攻，必不能胜，即使侥幸得胜，也是惊走倭寇，无力杀伤。因此应据住倭寇入侵必经之地，令其无法深入；再密令军队插入敌后，断其

水路，然后急速调兵增援，待大兵一到，全面进攻，围而歼之，寇必败矣。张经听完，深以为然，便命俞大猷、邹继芳、汤克宽分三路屯守金山卫、闵港、乍浦等处，按兵不动，再调永顺、保靖两地军队联合会剿。最后，明军聚齐，疾速出击，会战于汪江泾。敌水陆受敌，全线崩溃，焚溺死者无数，被斩杀者就达1900余人。明军大胜，史称“战功第一”。但作为指挥这次战役的功臣张经和俞大猷却因严嵩死党赵文华谗害，非但没有升赏，张经竟还被捕入狱。原来赵文华参与剿倭督战，只求速胜，而张经、俞大猷计按兵待援，则获“养寇失机”之罪，成为一起冤案。

但这场冤案还未结束，3个月后，柘林败寇又聚集散兵游勇再次入侵。俞大猷率军猛袭倭寇，重创敌人，使其只剩300人逃至周浦永定寺过夜。屡战屡败的赵文华此时正守在这里，自以为得了便宜，便一面调集大量兵力围歼，一面先奏捷报。哪知败寇已知消息，纠集海上众寇飞救永定寺，战船越聚越多，令赵文华不敢动作。恼羞成怒的赵文华为掩己责，鼓动巡抚曹邦辅上书弹劾俞大猷纵贼，嘉靖帝不问青红皂白，剥夺了俞大猷的世荫，责取其死罪。若不是将士们以死相救和赵文华深恐内情败露因而上书保俞大猷，后果可想而知。不过，大猷出狱后毫不计较个人得失，又率领军兵奔赴抗倭第一线，灭永定寺贼众，平定海贼徐海，不久肃清浙江全境倭乱。在朝大臣争言其才，大猷被封为都督同知，得到他生平最高官职。

时隔两年，即嘉靖三十六年(公元1557年)，总督胡宗宪听信副总兵卢镗的建议，不顾俞大猷反对，派人诱劝通倭海寇汪直前来通市，然后杀之以平海寇骚乱，结果引起贼众不满，大举报复。胡宗宪、俞大猷尽力围战，竟无寸功。直到嘉靖三十七年(公元1558年)七月，贼寇造好船只撤走闽广为止。胡宗宪计穷，为保自己地盘，暗纵其离去。俞大猷追袭，也只击沉一艘大舰。后来，御

史知道了胡宗宪所为，上术弹劾；胡宗宪畏罪，反诬大猷“不听节制”，纵敌逃遁。嘉靖帝又发龙威，下诏拘大猷至京问罪，俞大猷又一次下狱，面临被处死的危险。还是和他有交情的人行贿严嵩代为通融，才于三个月后改判为“立功塞上”赎罪，被派至大西北，勉强逃过一死。而俞大猷在塞上发挥聪明才智，制造了兵车，创建了兵车营，还以兵车和马步军配合重创进犯之敌，不久又颇具声威。

嘉靖四十一年(公元1562年)，倭寇集中兵力大举侵扰广东、福建。朝廷派军围剿不利，只好再调俞大猷为福建总兵，戚继光为副职，会同刘显所率部队围剿。俞大猷千里趋驰，马不停蹄，直至刘显军中，并立即与刘显研究制敌方案。当时倭寇正据守地势显要的平海卫，拼死抵抗，明军进攻屡受挫折。俞大猷认为，明军新集必疲，不如集中优势兵力于要路，使倭寇难出，于其它地方凿沟布井，虚设兵士应敌；待戚家军至，平海卫弹丸之地势在必得。总兵谭纶深以为然，力排众议，按大猷所言布置。戚继光军一至，大举进攻，倭寇自虚处奔逃，又多为沟井所陷，明军大获全胜，计斩首2200，解救倭寇掳掠的百姓3000人。捷报至京师，嘉靖大悦，举行庆典，表彰功臣。戚继光居首，晋官都督同知，代俞大猷福建总兵，谭纶为副都御史；而俞大猷仅得赏银50两。不过此后，连倭寇也都惧怕俞大猷，但听俞家军至，无不望风而逃。

俞大猷在多年的抗倭斗争中总结出了丰富的经验。他认真思索倭寇横行的原因，深刻领悟到，外倭作乱，必有内患为应。而内患所起，又多与暴政有关。因此要想永绝倭患，就必须灭其陆上接应，捣毁其海上老巢。要想做到这一点，对内必须恩威并用，安抚人心，对外穷追猛打，毫不留情。嘉靖四十三年(公元1564年)，流窜广东的倭寇与海盗吴平相互呼应，又在惠州、潮州作乱。俞大猷被调任广东镇民平倭，就用了先服内乱断

倭内应，再捣倭巢绝其滋生的办法，折服了农民起义首领伍端、蓝松三、叶丹楼，并使其中一些人为抗倭出力，逼迫吴平断绝与倭寇往来，然后一夜连克倭寇陆上3穴，追击海上，尽毁附近海岛上倭寇据点。倭寇至此元气尽伤，虽后来又出动几次，但已无力构成威胁，最后被俞大猷等尽悉剿灭。至隆庆二年(公元1568年)，倭寇全部荡平，明王朝千里海防得以巩固，沿海人民安居乐业，社会经济得以发展。俞大猷也成为家喻户晓的抗倭英雄。

但俞大猷并未因此摆脱坎坷命运，他一生都充满悲剧色彩：杀寇平乱，战功屡立，但升赏极少，总是代人受过，被谗遭贬；寇起而用，寇去而废，冤狱叠现，从不安宁。明万历元年秋(公元1573年)，海寇突起，老迈的俞大猷战御失利，被朝廷再度夺职，其年已71岁。万历四年，为御外强，又命他为都督佥事，领车营训练，因年迈体衰，三次上书乞免都未获批准，终于万历八年(公元1580年)秋，在凄风寒雨中，病死任上。

作为一个颇具韬略的军事家，俞大猷主张“先计后战、不贪近功”，充分掌握敌人的活动规律，抓住其致命要害，在无数次战斗中都体现出了出色的用兵才干和杰出的谋略智慧。作为一个封建王朝的名将，俞大猷虽然也曾为效忠朝廷而镇压过农民起义，但他那从不计较个人得失，以国家利益为重，身虽百死而不忘忧国报国的豁达的胸襟气度和精神风范，绝不会被时代的局限所抹煞；而他那极富悲剧色彩的一生，则正好为封建社会的朽腐没落作了最好的注脚。

(孟令宝)

## 海 瑞

海瑞(公元1514—1587)，琼山(今海南琼山)人。明中叶大臣，中国历史上著名的清官。

海瑞出身于一个官僚家庭，青少年时代是在家乡海南岛度过的。海南岛是多民族聚



居的地方。海瑞从小亲眼看到广大黎族人民遭受封建统治者的剥削和压迫，无法正常地从事生产活动，人口流亡，土地荒芜，开始认识到这些现象的出现主要是政府对黎民的政策有问题，由此思想出一套解决黎民问题的办法。嘉靖二十八年至二十九年（公元1549—1550年），海瑞先后参加了乡试和会试，他以《治黎策》和《平黎策》为题，两次提出了对黎族不能使用武力镇压，只能采取文治的主张，建议朝廷在黎民居住地区设置郡县，发展交通，取消黎汉贸易禁令，奖励开垦，轻刑法，薄赋税，加以“心教”，使黎民归化，进而平定海南。他还建议朝廷选派得力大员负责治黎事宜，并毛遂自荐，愿意担此重任。但会试结果，海瑞落第，他那呕心沥血的《平黎策》也石沉大海，毫无反响。尽管如此，海瑞的一系列治黎政策，还是第一次显示出了他的理政才能和政治谋略。

嘉靖三十二年（公元1553年），已经40岁的海瑞在地方乡绅、亲朋故旧的鼓励和催促下，再次赴京会试，但仍名落孙山。按照明朝科举选士的习惯，中了举人后，便可担任执掌教育和文庙祭祀事宜的教谕一职，如有人举荐，也可被任命为知县。已过不惑之年的海瑞在这一年被任命为福建省延平府南平县的教谕，开始了他的宦宦生涯。

海瑞到南平任职后，便着手制定《教约》，整饬县学风纪，自己也带头力行，作出表率。由于海瑞刚正清廉，治学有方，且很有办事能力，结果引起上司的注意，纷纷呈报举廉。嘉靖三十七年（公元1558年），海瑞被升迁为浙江省严州府淳安县知县。

海瑞在淳安任职期间政绩昭著。其中最为人所赞颂者，就是他重视刑狱，断案精细。有一次村民胡胜荣状告其兄胡胜祖被同村邵时重打死，经县丞查验属实。但海瑞放心不下，亲自微服私访，并亲自检验死尸，发现了存在的种种疑点。随后他亲自问讯，不到一个时辰便真相大白。原来是胡家兄弟因与邵时重争夺山地，积下旧怨，趁兄长胡祖胜

病死，乃伪造假相，诬告邵时重，企图将其致于死地，夺得那块山地。海瑞于是宣布邵时重无罪释放，胡家兄弟以诬告罪收监，依法惩处。这一人命案公布后，在淳安引起极大震动，对海瑞的称颂和赞扬不脛而走。海瑞断案如神的清官形象，于是便广泛流传于民间。

海瑞所在的淳安县属山区，地瘠民穷。但由于地处交通要道，朝廷使臣、官僚过客往来不断，接待所需费用均需由百姓赔垫，更有马匹夫役支应，百姓苦不堪言。一次浙江总督胡宗宪的儿子路过淳安，依靠自己是总督之子，作威作福，嫌驿站的接待不够周到，竟大发淫威，喝令奴仆将驿吏捆绑，倒挂树上。海瑞闻讯后极为气愤，决心惩处一下这个恶少。他带领衙役来到驿站，一眼看见胡公子所带的大小几十个箱子上都贴着总督府的封条。于是，海瑞眉头一皱，计上心来，他立刻沉下脸，命人把箱子打开。箱子打开后，只见里面装的都是沉甸甸的白银。海瑞喝道：“这棍徒真是可恶，竟敢冒充总督家里人，败坏总督官声！上次总督来巡查时再三布告，叫地方不要铺张，不要浪费，这棍徒带有这么多的银子，怎么会是胡总督的儿子，一定是假冒的，要严加惩办！”于是便命令差役们将胡公子抓起来痛打，并将其银两全部没收充公。事过之后，海瑞修书一封，连同胡公子一齐送交胡宗宪，说此人冒名胡公子败坏大人名声，违犯了大人关于驿费从简、体恤百姓的规定。胡宗宪见信后哭笑不得，气急败坏，但又自己理屈，怕海瑞真的把事情闹大，只好忍气吞声，不敢声张。海瑞拿办总督公子的新闻轰动淳安，传遍东南，黎民百姓为之拍手称快，贵族官僚子弟个个头疼不已，暗中咒骂海瑞不识时务。

嘉靖四十三年（公元1564年），海瑞被调至京城，在户部担任云南司主事。由于在京城任职，他对于政治腐败的现象知道得更多了，经过两年多的走访调查，他掌握了大量关于朝廷腐败的材料。特别是嘉靖皇帝20余



年不上朝理政，而拜道士为师，求长生不老之术，置国家兴衰全然不顾的情形，尤使他感到震惊。他为使明王朝能够得以长治久安，遂于嘉靖四十五年（公元1566年）二月，冒死上疏，尖锐地指出，由于皇帝不理朝政，只讲修道，贤愚不分，奖罚不明，法纪松弛；竭尽民脂民膏，滥兴土木，营造宫殿，结果造成“天下吏贪将弱，民不聊生，水旱靡时，盗贼滋炽”的严重局面。嘉靖皇帝看了海瑞的奏疏后，骤然大怒，下诏将海瑞逮捕入狱，并追查主使之入。只是由于这一年冬天嘉靖皇帝病故，海瑞才幸免一死，被释放出狱，官复原职。

隆庆三年（公元1569年）五月，海瑞升任右佥都御史，以钦差大臣总督粮道，巡抚应天。应天巡抚辖地是全国最富庶的地区，但由于连年受灾，加之贪官污吏盘剥，百姓赋役沉重，生活于水深火热之中。海瑞上任后，一方面决心革黜贪官污吏，打击豪强；另一方面则组织力量兴修水利，治理水患。为根除水害，海瑞提出了“以工代赈”的办法，既可兴修水利，又可达到赈济灾民的目的。海瑞的设想，取得了预期的效果。一方面，疏通河道的所有费用“不取之民，不损之官”，只用本来就应用作救济的仓储之粮就可解决；另一方面，因为“兴工之中，兼行赈济，千万饥民，稍安戢矣”，饥民的情绪得到了稳定；更为重要的是，在一定时期内三吴地区的水患得到了有效控制。海瑞担任应天巡抚不足一年，却创下了万世之功。

海瑞任应天巡抚之后，发现百姓告状极多，其中多数是告乡官夺田之产，而其中最严重的是华亭乡官、前任内阁首辅徐阶和他的弟弟徐陟，徐阶之子更是横行乡里，无恶不作。然而徐阶有大恩于海瑞。当年海瑞上疏身陷囹圄，是徐阶从中调解，使之方免一死。后来海瑞官复原职，步步高升，乃至应天巡抚，与徐阶也不无关系。但海瑞毕竟是个刚直不阿的人臣，他不为个人恩怨所掣肘，在经过周密调查之后，下令徐阶退田，

遣散徐府家奴，将徐陟依法制裁，把徐阶之子判罪从军，革职为民。

海瑞的所作所为虽深得民心，但却引起了豪绅地主、朝野官员的极大恐慌与愤恨。他们上下串联，沆瀣一气，上告海瑞“不达政体”、“鱼肉缙绅”、“沽名乱政”，结果海瑞被罢去巡抚职权，无奈告病还乡。直到15年后方被重新起用。万历十五年（公元1587年）十月，海瑞病逝，其家产仅余俸银10余两。

海瑞的一生，为官清廉，力主节俭，实事求是，敢说真话，出污泥而不染，在封建统治阶级中实属罕见。他在反对贪官污吏、豪强地主的斗争中，所表现出来的不屈不挠、大智大勇和善于谋略的精神气概，也给后人留下了难以磨灭的印象。他作为封建统治阶级的一员，其主观愿望自然是为了巩固封建王朝的统治，但作为历史人物，他所受到的历史的和阶级的局限，却不影响人们对他作出应有的历史评价。

（郑吉萍）

## 张居正

张居正（公元1525—1582），湖广江陵（今湖北江陵）人，明朝万历初年内阁首辅，明代著名改革家。

张居正少年时期才华出众，12岁时即成为名震荆州的小秀才。嘉靖二十六年（公元1547年），张居正参加科举考试，中二甲进士，被授予翰林院庶吉士（见习官员），开始踏上仕途。

张居正走上政治舞台之时，正值明代著名奸相严嵩掌握朝政，皇帝昏庸，奸佞当道，政治极为黑暗。嘉靖二十八年（公元1549年），张居正曾上《论时政疏》，系统地阐述了他革新政治的主张，但没有引起明世宗及当时任首辅的严嵩的重视。张居正目睹政治的腐败，深感自己的抱负难以实现，便在嘉靖三十三年（公元1554年），请假养病，离开京师，回到自己的家乡江陵闲居了3年。在这段时间里，张居正深入实际，对社会生活

的各个方面有了更为深刻的了解，对于时弊的认识更加明确，改革的决心也更加坚定。嘉靖三十六年(公元1557年)，张居正从江陵回到北京，再次投入了政治斗争的激流。

嘉靖四十一年(公元1562年)，严嵩在各种势力的攻击下终于倒台，其政治上的对手徐阶继任内阁首辅。徐阶是张居正入翰林院时的掌院学士，在名份上是张居正的老师。同时徐阶非常了解张居正的抱负和才华，视其为国家的栋梁之材。因此，张居正的官职不断升迁，终于在明神宗隆庆元年(公元1567年)二月晋升为吏部左侍郎兼东阁大学士，入阁参与机要政务。隆庆二年(公元1568年)八月，张居正上《陈六事疏》，系统地提出了他的改革主张，即：省议论，振纲纪，重诏令，核名实，固邦本，饬武备。其中前四条是要整顿吏治，加强中央集权；后两条是要富国强兵，这是张居正其后改革的纲领。隆庆六年(公元1572年)六月，张居正继高拱之后出任内阁首辅。他慨然以天下为己任，将自己的改革计划全面付诸实施。

张居正的改革事业是从整饬边防开始的。当时明朝北部边防经常受到蒙古俺答汗的袭扰，有时俺答兵竟深入内地，甚至进至北京城下。因而如何整饬北部边防和妥善处理与蒙古的关系问题，就是一直困扰明朝统治者的一个主要问题。早在张居正入阁参与机务之初，他就成为北方边务的实际主持者。他重用戚继光、李成梁、王崇古等一批智勇双全的将领，镇守蓟州、辽东、大同，修筑边墙，广开屯田，加紧练兵，大大增强了防御力量，有效地扼制了蒙古的进犯。在加强防御力量的同时，张居正还积极谋求改善蒙汉关系。他积极主张对投奔汉族地区的蒙古人采取接纳安置的政策，一律以礼相待。隆庆四年(公元1570年)，俺答汗的孙子把汉那吉由于种种原因，也来投奔，朝廷之中就是否接纳出现了严重的分歧。张居正力排众议，坚持接纳的主张。后又按俺答汗的请求，将把汉那吉礼送回蒙古。俺答汗见明

廷对己待之以礼，欢喜若狂，立即表示今后永不犯边。明朝与蒙古的关系自此开始得到明显改善。在此基础上，张居正又积极主张对蒙古实行“封贡通市”的政策，封俺答汗以一定的官爵，定期朝贡、互市，进一步改善了蒙汉关系，促进了两族社会经济的发展和多民族统一国家的形成。

张居正出任内阁首辅后，针对空议盛行、不务实事的风气，于万历元年(公元1573年)十一月，上疏请行考成法。考成法的内容主要是：第一，六部和都察院把所属官员应办之事，依据里程远近、事情缓急来规定完成期限，记在3个帐簿上。一本留部、院留府，一本送负责监察六部的六科，一本呈送内阁。第二，六部和都察院按帐簿登记，对所属官员承办的事情，逐月进行检查，没完成者须如实申报，否则以违制罪论处；六科则根据帐簿登记，稽查六部执行情况，每半年上报一次，并对违限事例进行议处；内阁同样依据帐簿登记，对六科的稽查工作进行检查。如此这般层层监督检查，最后由内阁总其成，内阁则成为名副其实的政治中枢。

张居正以考成法为中心，信赏必罚，刷新吏治，使明代中叶腐败的吏治出现一种清新的景象。通过立限考成，每个官员都有了明确的职守。那些只吃皇粮不理政事的庸官，被尽行裁减；那些政绩卓著、拥护改革的官员，被提拔重用。在用人问题上，张居正主张“论其才，考其素”，既重视才能，又注重品德，打破论资排辈的世俗观念，不拘一格地选拔人才。他的这些作法，为其它方面的改革奠定了坚实的人事基础，保证了其它方面改革的顺利进行。

张居正的改革起于军事，继而政治，然后又发展到经济领域。明中叶以来，土地兼并盛行，吏治严重腐败，豪强地主与衙门吏胥勾结，隐瞒土地、逃避税粮之事大量出现。在此种形势下，清丈田亩、均平税粮成为理财安民的迫切需要。

万历六年(公元1578年),明政府下令清丈天下田亩。张居正知难而进,运用考成法督责各级官员认真清丈,对阻挠清丈的贵族、豪强、官僚严加惩治。万历九年(公元1581年),张居正在清丈土地的基础上下令在全国推行一条鞭法。一条鞭法将各省、府、州、县的田赋和徭役的总量以及土贡、方物的征派,归之一总,统一计算,统一征收,因而称为一条鞭法。按此法规定,所有的徭役全部折合成银两交纳,称为户丁银。此项银两要程度不同地摊入地亩,每亩征收。这样便取消了扰民极大的役差征派,同时户丁银的一部分摊入地亩征收,也减轻了少地或无地农民的直接负担。一条鞭法还规定,田赋的征派,除漕粮缴纳实物外,其余部分一律征银。规定所必须缴纳实物的漕粮,也由官府负责经收和押运转送。

一条鞭法是张居正改革的核心内容。他实施、推行一条鞭法的目的是为了整顿赋役,克服财政危机,稳定明朝的统治,一条鞭法在当时也确实在一定程度上起到了这样的作用。万历初年,由于一条鞭法的实施,社会矛盾有所缓和,濒于崩溃的明王朝获得了短暂的复苏和繁荣。而一条鞭法在历史上所起到的更为积极的重要作用,则是张居正没有也不可能预料到的,这就是一条鞭法使国家放松了对劳动力的直接控制,为工商业的发展提供了方便条件。再加上户丁银的一部分按地亩征收,而一般工商业者并不占有或很少占有土地,从而也摆脱了繁重的征派。一条鞭法关于赋役折银缴纳的规定,是对商品经济发展的反映,同时也进一步促进了生产力的发展。所有这一切,对于明中叶资本主义萌芽的出现和初步发展,都起到了推动作用。

万历十年(公元1582年)二月,就在张居正的改革方兴未艾之际,他却身患重病,卧床不起,是年6月,与世长辞,终年58岁。张居正死后,反对改革的官僚、贵族、宦官纷纷起来攻击张居正的改革事业,明神宗的

态度也发生了变化。张居正死后不到一年,明神宗便剥夺了张居正的封号和赐谥,查抄了张家的财产,张居正的改革措施也部分被废止。然而,张居正的改革是符合历史发展需要,顺应历史潮流的,所以他所制定的政策和建树的业绩并没有因此而消失。如“封贡通市”、“一条鞭法”等制度,在张居正死后一直向前发展,并没有被废止。40年后,天启二年(公元1622年),明熹宗下诏为张居正平反昭雪,这表明张居正的改革业绩是不可磨灭的。他在治国安邦方面所显露的谋略和才华,永远闪耀着光辉,他作为有明一代最杰出的政治家、改革家,将永留史册。

(攸笛)

## 范文程

范文程(公元1597—1666),字宪斗,号辉岳,出仕前家居沈阳。宋朝大学士范仲淹17世孙。青少年时期,就聪颖机敏,读书十分用功,志向远大。18岁时,考中了沈阳县学的秀才。满族的兴起和生气勃勃的努尔哈赤后金政权,给了年轻的范文程以耳目一新之感,他以一个谋略家的敏锐眼光,清楚地看到明朝灭亡只是一个时间问题,他便毅然与其兄一起,投奔努尔哈赤,归顺了后金政权。

范文程作为一个汉人知识分子,对明朝以及辽东的政治、军事形势洞若观火。这在当时文化落后的边陲辽东,可谓凤毛麟角。努尔哈赤很希望范文程成为后金政权的股肱之臣,便选为亲随,参谋军机,一直跟随努尔哈赤南征北战。他先后参加了攻击辽阳、西平(今盘山县古城子)和广宁(今北镇)等战斗,“所在行营,必参帷幄。”在统一东北、平定蒙古各部,以及对明军作战中,他发挥出了聪明才智。

努尔哈赤病死,皇太极继承汗位,范文程同样受到重用,是皇太极的亲信谋臣。

天聪三年(公元1629年)十月。皇太极率兵10万,从喜峰口进入关内,由龙井关、洪

山口“入薊门，克遵化”，直逼北京。范文程奉命率兵800守遵化，以防被明军截断退路。明军进行反扑，范文程挥剑上阵，奋勇作战，杀败了明军。不久，他又带小股部队攻城略地，凭借智谋，兵不血刃，说降了潘家峪、马兰峪、三屯营、马栏关和大安口五城明军。当明援军包围大安口时，范文程从容指挥，用火炮解围。在这次军事行动中，范文程能攻能守，文武双全，立下军功，被皇太极授予世职游击之职，并得了三等爵位。

皇太极与袁崇焕激战北京城下，双方互有伤亡。这时，明朝各地援军也已杀到。皇太极见突袭不成，便召范文程商议对策。范文程深知要对付袁崇焕这样的著名将领，只能智取、不能力敌。于是献了一条反间计，意借明朝皇帝崇祯之手，杀掉袁崇焕。范文程为皇太极设下的反间计，轻而易举地除去了可以抗击清兵的劲敌袁崇焕，赢得了以千万军马从战场上也不能得到的便宜。

范文程作为皇太极的主要谋臣，在辅佐皇太极处置与明朝关系问题上，屡屡使出“议和”手段，以议和为诱饵，麻痹明朝君臣，欺骗舆论，制造入侵的借口。在处理各项军国大政中，范文程最重视延揽人才。在用人上，他曾建议皇太极通过办学校和进行考试选拔人才。他所在的文馆就招收学生，每年举行考试，在很短时间里，就培养出了数量可观的有才能的人。这些知识分子忠于清朝，成了各级衙门的骨干，也是后来统一全国的重要力量。范文程尤重视网罗汉族人才。身为汉人的范文程，深知单以区区满族之人口、地域，想成就中国之主是困难的，必须“选用招降，以汉攻汉”。因此，他在诱劝明将降清方面，起了重大作用。

皇太极要成为“中原有德之主”，当然必须加快封建化的速度，进行统治机构改革。而具体实施这项改革的人物中，范文程是发挥作用最大的一个。他支持了皇太极削弱王权、加强君权的斗争，他认为这个斗争关系到后金政权的存亡和发展。天聪九年(公元

1635年)冬，皇太极召范文程商议能否上尊号称帝的事，范文程回答说：“今汗顺天意，合人心，受尊号，定国政适当。”极力主张皇太极称帝。次年春，皇太极正式登基称帝，建立清朝，这标志着政治机构改革进入质变的新阶段。崇德元年(公元1636年)，范文程上疏清太宗皇太极，建议仿照中国历代朝廷官制，“请置言官”。皇太极接受了他的意见，设立了都察院。这是一项强有力的改革，把皇权与王权斗争的主动权操在了皇帝手中。崇德三年(公元1638年)，范文程又奏请每衙门只宜设满洲承政一员，以下酌量左右参政、理事、副理事、主管等官。皇太极批准了这个建议。不久，范文程把皇太极设立的蒙古衙门，扩充为“理藩院”，由处理单一的蒙古族事务，扩大为包括其它少数民族事务。这对后来推进与蒙古、回、藏等民族的合作，都起了积极作用。

崇德八年(公元1643年)，皇太极病死。因为皇位继承问题事先没有安排，满族贵族之间爆发了残酷的斗争，一时间杀人流血，势不两立。在这场斗争中，范文程始终持谋略家的清醒头脑，没有卷进去。

范文程从投奔努尔哈赤起，到追随皇太极立清灭明，以其雄才大略，帮助制定了进攻中原、夺取全国政权的战略方针，并在处理错综复杂的矛盾中，始终坚持这一方针不变，直至最后使之实现。恰到好处地在历史的大转变时期，把握住了机遇。

顺治元年，李自成攻占了北京，崇祯皇帝自缢身死，明王朝在农民起义的烈火中灭亡。范文程敏锐地注视着形势变化。为此，他曾上书皇太极，对形势作了清醒分析，他说，中原的百姓，饱受丧乱之苦，处于水深火热之中，盼望有一个英明的皇帝，以求得安居乐业。因此我们应当严明纪律，秋毫无犯，宣谕我们进取中原的政策，那就是：作官的仍然担任原职，民众百姓仍操旧业，录用贤能人才，抚恤有困难的人。这样，黄河以北，就可以传檄而定了。在这里，足可以

看出范文程目光的远大。他建议放弃历次伐明“唯金帛子女是图”的无大志作法，提出夺取中原，推翻明朝的战略方针。当多尔衮得知明朝灭亡的确切消息后，便急召在盖州温泉养病的范文程速来商议对策。范文程抱病往见多尔衮，建议立即入关，进攻李自成的大顺政权。在这之前，无论是皇太极，还是多尔衮，在与明朝作最后斗争中，都想联合李自成农民起义军，共同夺取明朝政权。唯有范文程抓住了明朝新亡，李自成农民军立足未稳这稍纵即逝的机会，当机立断，果敢地提出了清兵入关，进而夺取全国政权的意见。

清军占领北京后，面临着一个非常复杂的政治局面。作为摄政王的多尔衮忙于军务，很难应付改朝换代的繁杂政事，这些政事自然需交由范文程处理了。范文程首先建议，入京的清兵，千万“勿杀无辜，勿掠财物，勿焚庐舍”，籍以稳定民心。为了争取大批汉族官吏和百姓的信任，化敌为友，在宣传施“仁政”、“爱百姓”的同时，他也现身说法，说自己是“大明骨，大清肉”，号召大家都效法他的样子归顺清朝。为了把满汉民族矛盾掩盖起来，他还说大清江山“乃得之于闯贼，非取之于明国也”。为了证明这一点，他亲自为被推翻的明朝皇帝发丧，给了明朝官吏及其拥护者以极大的安慰，表现了他高超的谋略思想。他极力安定天下民心，使农民休养生息，实行轻徭薄赋的政策。为了进一步争取广大知识分子对清朝的支持，范文程又提倡恢复开科取士，并亲任主考官。这样做的结果，争取了汉人知识分子对满清新政权的支持。范文程所实行的这些有效的政策和措施，为清朝政权的巩固，打下了有力的基础。

范文程在朝廷内部斗争中，也显得颇有计，善于履险，化夷。清立北平不久，多尔衮命亲信大学士刚林和祁充格同范文程一起删改太祖实录。这是一件关系重大的事情，一旦政局变化，将会招来杀身之祸，但

如违命不从，亦将获罪。范文程为了保全自己，凭借自己的机智和谨慎，以养病为由，闭门不出，使自己没有更深地陷入进去。结果真不出范文程所料，多尔衮死后两个月，刚林和祁充格便因此被杀害，而范文程则安全地躲过了这场灾难。顺治十一年(公元1654年)，他不恋高位，多次上疏称病，请求休养，最后终于太太平平地度过了晚年。于康熙五年(公元1666年)逝世，终年69岁。

范文程一生提倡民族合作，民族谅解，轻徭薄赋，发展生产，安抚百姓，举贤任能，为发展统一的多民族国家作出了贡献。他为官清正，不恋高位，有自知之明，在整个清初三朝四代历史上，建立了不朽的业绩，是清初杰出的政治谋略家。

(隋洪滋)

## 李自成

李自成(公元1606—1645)本名李鸿基，陕西米脂县双堡李继迁寨人。明末农民起义领袖，率义军推翻了明朝统治。

李自成自幼出身清苦。幼年时期，在本乡为地主放羊。酷爱武术，常练不辍。后当过佣工、铁匠等，还曾为银川驿卒。因此，他深知农民阶级疾苦，也埋下了对地主、贪官污吏仇恨的种子。

当时正值明朝末年，社会矛盾空前激化。贪官横行，民不聊生，广大农民挣扎在死亡线上，起义战火遍燃全国。其时，府谷王嘉胤，汝南王大梁，安塞高迎祥，陕西王左封、神一元、不沾泥、点灯子，延庆张献忠为主要义军，史称“八大王。”1629年，李自成率兵起义后加入高迎祥部。因作战勇猛，足智多谋，成为高迎祥手下一员闯将。

面对如火如荼的农民起义，明朝廷纠集了大量官兵进行血腥镇压，起义军面临的形势十分险恶。1635年，崇祯命洪承畴出陕西，朱尔典出山东两面夹攻起义军，气焰十分嚣张，大有一举歼灭之势。为了迎接明军进攻，农民军13家72营首领在荥阳集会，商讨对敌

作战方略。老回回主张北上，杀向明朝老巢北京；张献忠则对老回回提出的建议嗤之以鼻，主张西进陕西。李自成高屋建瓴，透彻地分析形势认为：起义军过去各自独立作战，易被敌人击破。因此，此次必须联合作战。同时，在战略战术上，要分兵进击，避敌主力，打击虚弱，互相呼应，亦即“分兵定所向”。对实力很强，作战经验丰富的洪承畴部应只作战略牵制；起义军可佯称主力北上，突击东部明军实力薄弱地区，且在南、北、西三面牵制敌人，保证东部出击的成功。诸路义军依此而战，结果大获全胜，攻克明中都凤阳，瓦解了明军士气，打击了明朝廷，李自成的声望也日渐提高。

荥阳大会是明末农民起义发展过程中的大事。这次大会制定的“协同作战”思想，是中国农民战争史上的一个创举。荥阳大会既是明末农民起义的一个转折点，也是李自成一一生中最重要转折时期，为其日后成为领袖奠定了基础。1636年，高迎祥被俘牺牲，李自成被拥为“闯王”。

1637年，朝廷增兵对起义军加紧围剿。张献忠为保实力投降。8月，李自成败于南郑。10月，罗汝才也投降朝廷。李自成孤军奋战，惨遭失败，只得潜入商洛山中，休养生息。这一年中，他一方面总结失利的教训；一方面加紧练兵，壮大队伍，并且时刻关注着形势发展。他认识到：起义要想成功，必须制定一个纲领或口号，号召天下人团结起来，共同努力。这种认识标志他在政治上的成熟。

1639年5月，张献忠、罗汝才再度起义。李自成认为时机成熟，便毅然出山。8月，他见河南防务空虚，加上民怨沸腾，决定转战河南。起义军所到之处，饥民纷纷归附，力量日益壮大。1640年，李自成针对当时土地高度集中和赋税奇重的情况，提出“均田免粮”口号，大快人心，应者云集，投奔者增多，终于在1641年，占领洛阳。为了扩大战果，动摇明朝统治，李自成与已突进襄阳

城的张献忠在永宁聚会，共商出兵大计，决定张献忠攻打郢阳，李自成攻打开封。攻打开封，是李自成军事上的一次战略性决战。当时，李自成已占领洛阳，明军布置重兵准备全力夺回。他决定采取“围城打援”和“攻其必救”的策略，分兵围攻开封，令明军仓惶回救。在新蔡利用“声东击西”战术，大败前来救援的杨文岳军。取得了转战河南首歼明军主力的胜利，军心大振，并乘胜攻下南阳等14座城市。12月，李自成率军第二次围攻开封，战斗异常艰苦。起义军以“放进法”攻城没有奏效。此时，明将左良玉又率军从荆襄北上占领起义军老营临颖，李自成撤开封之围，转佯攻左良玉。明急命汪乔年进襄城援河南。李自成充分利用其矛盾随机应变，舍左良玉而改打汪乔年部，既牵制了明军，又集中优势兵力重创了敌人。结果左良玉为保存实力，坐视不救，起义军攻克襄城，杀死汪乔年。1642年5月，义军第三次攻打开封。明朝廷派丁启睿急援开封，双方在朱仙镇决战，明军大败。9月，明军在朱家寨掘开黄河，致使开封城内数十万人淹死。李自成见创敌目的达到，遂撤离开封，转攻襄阳，1643年将襄阳攻克。接着在河南勇挫明军主力，使敌我力量发生了根本性变化。1643年，李自成在襄阳称新顺王，统一官制，分派官吏，建立了政权；并在河南西部襄城一带与明军进行了一次大会战，基本上摧毁明军主力。从此，“山海关以内无坚城”“而明亡矣”。

李自成在襄阳建立政权以后，召集了一次重要军事会议，商讨进军京城路线。他总结多年经验，痛感建立一个巩固后方基地的重要，他采纳顾君恩先取关中，“建立基业”，尔后“攻取山西”，再向京师的意见，决定开辟关中根据地。这时，崇祯命陕西总督孙传庭南下河南攻李自成，李自成率兵在南阳、汝川一带将其击溃，迫使孙传庭逃入潼关，李自成趁机率部追击，10月攻破潼关，杀死孙传庭；再挥师西进，很快攻占了西安。接

着分兵夺取三边，控制了河南大部、湖北西部和西北数省，有了广阔安定的后方，已具备彻底摧毁明统治的条件。1644年正月初一，李自成在西安正式建立大顺政权，年号永昌。

1643年12月李自成在西北的军事行动结束后，派遣先头部队渡黄河，为东征作准备。1644年正月，他由西安出发，渡黄河，直指太原，沿途严格执行“三军不征，一民不杀”的政策，受到经过之地人民热烈欢迎。2月，攻占太原，3月17日，抵京城下，经过两天战斗，于19日攻克，推翻了明王朝270多年的统治。

为了巩固和发展胜利果实，大顺政权采取了一系列措施。首先，严明军纪。在京城遍贴安民榜，严惩“前门店铺案”凶手，安定人心。店铺很快开业，恢复正常社会生活，使社会秩序很快安定下来。其次，狠狠打击贵族官僚，充实新兴政权的财力；驱宦官出城，废特务机构，追赃贪污财款，充作军饷。最后，是改革科举制度，取消八股文，采用现实需要的“策论”，打击了封建主义。李自成是头戴毡帽，身穿青布衣，骑着乌骓马进入北京城的，他对人民的生活十分关心，在英武殿两次召见父老，访问民间疾苦，并将乾清宫“敬天法祖”的匾额改为“敬天爱民”。这些措施，都表现了农民革命的勃勃生机，以及其和封建地主阶级政权的本质不同。

革命虽然胜利了，可境内还有许多劲敌没有消灭，但李自成对此没有认真对待。他和他的部下们过早地被胜利冲昏了头脑，骄傲自满，滋长了太平麻痹思想，醉心于筹备“登极大典”。4月初，握有重兵的吴三桂投降了满清贵族，向大顺开火。由于李自成对满汉勾结力量估计不足，盲目轻敌，山海关一役损失惨重，4月28日在英武殿举行“登极大典”之后慌忙撤离北京，退入关中。接着潼关失守，便退出陕西，向河南、湖北转移，清兵穷追不舍。1645年5月，行至湖北九宫山下，遭地主武装突然袭击，李自成壮烈牺

牲，时年39岁。

李自成的一生是战斗的一生。无论是在政治斗争还是在军事斗争中，他都表现出杰出的智谋，成为中国历史上一位出色的谋略家，他的革命业绩，将永垂青史。当然他在胜利后骄傲自满，没有巩固住胜利果实，也表现出农民革命领袖的历史局限性，教训是惨痛的。

(张燕)

## 博尔济吉特氏

博尔济吉特氏，(公元1611—1687)是一位有政治头脑，贤良而具卓识的女性。她姓博尔济吉特，是蒙古科尔沁部部主博尔济吉特寨桑贝勒之女。

公元1625年，年仅14岁的博尔济吉特氏，由她哥哥吴克善护送，由遥远的蒙古科尔沁草原来到盛京，嫁给四贝勒皇太极。她给皇太极生下一男三女。1636年，皇太极称帝时，她被封为永福宫庄妃。

清初的满蒙联姻，是一项既定国策，带有浓厚的政治色彩。因此，在入宫的头几年中，博尔济吉特氏的地位并不十分显赫。或许正因如此，才促使她积极努力，用聪明才智去改变自己的命运。

进入清宫后，博尔济吉特氏经常留心国家大事，参与清廷的政治活动。1642年3月，皇太极率清军伐明，大败明军，生俘明军主帅、蓟辽总督洪承畴。由于洪承畴是明朝很有影响的封疆大臣，收服此人对于收揽汉族知识分子，瓦解明朝统治意义重大。但是，洪承畴被俘后立志做明朝忠臣，不肯投降。范文程等清朝大臣，甚至皇太极都亲自出面劝说，皆未使之动心。博尔济吉特氏见皇太极束手无策，便在人夜时分到洪承畴榻前，以她的温柔体贴，使洪承畴萌发了求生欲望；以人情入理的话语，打动了洪承畴的心，终于归顺了大清，做了清朝的大学士。后来，他果然忠心耿耿地帮助清朝统一了中国。

博尔济吉特氏，以她的聪明才智说服了



洪承畴，解决了皇太极和群臣都束手无策的难题。不仅提高了她在皇太极心目中的地位，就连诸王贝勒和文武大臣，从此对他也刮目相看。

1643年8月，皇太极突发暴病，死于清宁宫。由于生前未能预定后事，在皇位继承问题上，满清贵族之间开展了激烈的角逐。当时，博尔济吉特氏皇后年仅32岁，正是发挥才智的年华。而此时的客观环境又为她提供了条件，这就使她在这次皇位争夺中大显身手，并取得了胜利。

清朝入关以前，继嗣不是由皇帝生前在皇子中指定，而是由贵族诸王议立。皇太极死后，对继承皇位最具竞争力的有两个人，一是皇太极的长子、34岁的肃亲王豪格，一是皇太极的九弟、32岁的睿亲王多尔衮。两方资历和实力相当，都有一批贵族支持。皇太极死后的第五天，争位斗争由暗中进行转为双方严重的公开对抗。这一天，在崇政殿召开诸王大会，议立嗣君，气氛紧张到了极点。双方皆怒目而视，剑拔弩张，到了你死我活地步。眼看清庭贵族的公开分裂和混战就要发生，这时睿亲王多尔衮提出了一个折中方案，那就是“立帝之第三(九?)子”福临。由于福临“年岁幼稚”，多尔衮和济尔哈朗“左右辅政”。这个方案终于被对峙双方接受。

多尔衮早就觊觎皇位，为什么关键时刻会主动放弃？并不是他缺乏与豪格抗衡的力量，而是因为他不愿看到发生内乱，应顾全大局。除此之外，还有一个重要因素，那就是孝庄文皇后博尔济吉特氏的幕后活动。作为清廷贵族的一员，孝庄文皇后无疑清楚内乱会造成怎样的危害，而要缓解双方的对立，只有异中求同，使双方的要求都得到部分满足。她既要满足豪格派立皇子的要求，以保持“两黄旗”天子亲兵地位，又要使多尔衮的权力不致落空。唯一的办法，当然是扶立幼主。当时，年纪幼小的皇子有4个，福临取得皇位的机会很小。可是，博尔济吉特氏以她特有的谋略和胆识，先争取了年高辈尊的

礼亲王代善，使他拥戴福临。然后，又笼络兵权在握的多尔衮，使他放弃对皇位的争夺。这样，豪格就很容易被说服了。结果，在博尔济吉特氏的努力下，她的6岁的小儿子福临便被扶上御座，改元顺治。

多尔衮辅政以后，权力欲越来越大。为了削灭政敌，扩大权力，他幽毙了豪格，罢免了济尔哈朗；对幼帝的教育，他也置之不理，并且有意让福临荒废学业，做一个傻皇帝，致使福临14岁亲政时，还不认识字，诸臣奏章也茫然不解。博尔济吉特氏在多尔衮的步步进逼下，采取了隐忍、退让、委曲求全的态度。为了不使多尔衮废帝自立，她不断给多尔衮戴高帽，加封号。她首先加封多尔衮为叔父摄政王，不久又加封为皇叔父摄政王，随后，又停止多尔衮御前跪拜。顺治五年(公元1648年)，她干脆以太后的身份下嫁多尔衮，福临称多尔衮为皇父，诸臣上书称皇父摄政王。遇庆贺大典，多尔衮与皇帝一起接受百官跪拜。

1650年12月，多尔衮突然早逝。没过两个月，济尔哈朗取而代之，有重新形成一个新的权力中心的危险。博尔济吉特氏敏锐地发现了这一苗头，为防微杜渐，她让福临发布上谕，宣布今后一切奏章都由皇帝亲览，不必交给济尔哈朗，从而消除了可能产生的隐患。14岁的顺治皇帝在太后的辅佐下理政、读书，如饥似渴地吸收汉文化，在大胆使用汉官、整顿吏治等方面，开创了新局面。

1625年，孝庄文皇太后为缓和满汉民族矛盾，破除清廷“后妃之选，例不得及汉人”的旧制，开始在汉人中选妃。这一年年底，汉人佟盛年之女被选入宫中，为顺治之妃。不久佟氏怀孕，孝庄皇太后对她更是喜爱。顺治十一年(公元1654年)三月，佟氏生下一子取名玄烨，这就是后来的康熙皇帝。

1660年8月，顺治皇帝患痘症而逝。孝庄皇太后此时已47岁，孙子尚幼，在她人生的道路上又出现了一次新的考验。福临死前曾留下遗嘱，指定8岁的皇三子玄烨为皇太



子。这时，安徽有位叫周南的秀才千里迢迢赶到北京，求见孝庄皇太后，希望她能按照宋代太后临朝称制的先例，垂帘听政。孝庄皇太后当时虽然有足够的声望和资历临朝，但清初曾规定后妃不得临朝干政，若此例一开，将遗患后代。所以，她一心辅佐皇孙，断然拒绝了由她亲自临朝的请求。

顺治皇帝临终时，原意立二皇子福全。孝庄皇太后看中了玄烨，她通过皇帝信赖的传教士汤若望说服皇上，才改立玄烨。顺治帝崩翌年正月初九，孝庄皇太后亲自主持玄烨即位，改元康熙。她为了避免摄政王专权的悲剧重演，有意避开皇帝亲王，让四位忠于皇帝的老臣索尼、遏必隆、苏克萨哈和鳌拜辅政。孝庄皇太后让皇孙登上皇位，实际上并没有减轻自己的担子。她一方面倾力调教小孙子，培养他治国安邦的才能，以便使他亲政后能担当起统御庞大帝国的重任；另一方面又开始掌管起重大朝政。顺治帝遗诏是经她过目发布的，四大臣辅政体制也经她同意确立，她还可以直接发布谕旨指导政务。

虽然有孝庄皇太后全力辅佐，但康熙亲政前的一段并不一帆风顺，四大臣中的鳌拜辅政不久，便暴露出专横暴戾的本性，妄想独揽朝政，俨然是摄政王再出。尤其是康熙六年（公元1667年），玄烨14岁，按例得亲政了，但鳌拜不但没有收敛，反而变本加厉。年轻的康熙对鳌拜的倒行逆施十分痛恨，但又苦于一时无计可施，只好求教于祖母。孝庄皇太后对这种问题已有了相当的经验，她暗中告诫性急的孙子要隐忍一切，同时让他见机行事。果然，不久康熙即用计生擒了鳌拜，并除掉鳌拜集团，夺回了权力。

孝庄太皇太后对孙子用计除奸的做法，十分满意，便放手让玄烨理政，让他在实践中得到锻炼。康熙能够成为中国封建社会一位有作为并受后人称道的皇帝，和祖母的教导和辅佐有重要干系。清王朝在康熙时进入盛世，也包含了孝庄太皇太后的心血，有她

智慧和胆识的结晶。

康熙二十六年（公元1687年）12月25日，博尔济吉特氏，终于走完了她不平凡的人生旅程。按她的遗愿，灵柩没有送回沈阳与皇太极合葬，而是暂寝在京东的清东陵。

博尔济吉特氏的一生，经历了三朝四代，既没有驰骋沙场的赫赫军功，也没有决策千里的浩浩伟业，但她在清初的历史作用，却不容忽略。她用自己的智慧和心血，全力辅佐丈夫、儿子和孙子，特别是辅佐了两个年幼的皇帝，表现出贤良聪明、为大局而忍辱负重的可贵品格，不失为清初杰出的女谋略家。

（隋洪滋）

## 多尔衮

多尔衮（公元1612—1651），爱新觉罗氏。是清太祖努尔哈赤的第14子。他青少年时代便随其兄皇太极四方征战，英勇无比，军事、政治上日趋成熟。由于他聪慧多智和过人谋略，深得皇太极赏识，几乎每战必派其出征，这样，多尔衮便逐渐成为后金军中的主要统帅之一。是清初一位卓有实绩的政治谋略家。他身为摄政王，却是当时清朝的实际统治者。他在位期间，表现出了卓越的见识和超人的胆略。

1633年，年仅22岁的多尔衮，被皇太极任为吏部事，全面参与军政大计。这年6月，皇太极和大臣们商讨兴国大计，当问及是先征明还是先攻朝鲜时，多尔衮以谋略家的敏锐洞察力，纵观全局，力主征明为先，主张清军应深入明朝内地，消耗明国力，然后再与之决战。皇太极听后，大为赞赏，决定依计而行。结果使明朝“国力耗竭，事不可为矣”。

为了解除征明决战的后顾之忧，多尔衮在对朝鲜问题上，采取了“慑之以兵，怀之以德”的策略。他下令对投降的朝鲜王室成员不杀、不辱，待之以礼，终于促使朝鲜国

王臣服于清，并且念念不忘多尔衮的仁德，在以后给清朝进贡时，总要同时给多尔衮也送上一份厚礼。

可以说，多尔衮在年轻时，就战功显赫，谋略倍出，被朝廷委以重任。尤其是皇太极病重期间，年轻的多尔衮更受命与郑亲王济尔哈朗共理朝政。

1642年8月9日，皇太极暴死于清宁宫。由于对皇位的继承问题没留下遗嘱，在繁琐的丧仪背后，一场激烈的权力角逐展开了。皇太极未死之前，在继嗣问题上就形成两派：一派拥立多尔衮，一派拥立皇太极的长子豪格。双方各不相让，形势极为紧张。皇太极死后的第五天，多尔衮采取了主动，在崇政殿召集诸王大会，对峙的双方终于摊牌。多尔衮当时虽然觊觎皇位，但他毕竟是一位经验丰富的政治谋略家，他清楚地看到，在这场皇位之争中，与豪格相比，自己并不占优，如果强自为帝，必将引火烧身。于是，他在会上提出，自己与右真王济尔哈朗共同进行辅政。他这样做，完全是从大局出发，打破僵局，使对方妥协，进而使自己成为当时最高权力的执行人。后来，多尔衮又用计谋巧妙地将济尔哈朗排挤出去，集大权于一身，成为有权有势的摄政王。

1644年3月，李自成攻占北京，明朝灭亡。4月初，多尔衮在权力争夺中获胜以后，征调大军，准备伐明。此时，他还不知道农民军已占领北京。恰在此时，明朝山海关总兵吴三桂向清军乞援，想以清军力量击败李自成的农民军。面对突变的形势，多尔衮马上改变策略，当机立断，接受了大学士范文程的建议，将出兵的目的由伐明改为征讨李自成农民军。多尔衮抓住战机，迅速完成了政治上和军事上的战略转变，显示了一个谋略家惊人的应变能力。4月下旬，多尔衮率军抵达山海关，会合吴三桂，与李自成的大顺军正式接战。多尔衮为给明朝降将树立样板，封吴三桂为平西王，并令其率所部降军迎战李自成部队，而他的军队则蓄锐不发。

经过一场激战后，见吴三桂部不支，农民军也已十分疲乏，才令军队猛扑大顺军，致使农民军惨败，而清军损失极少。

清军入关后，多尔衮严令全军，“勿杀无辜，勿掠财物，勿焚庐舍。不如约者罪之。”一改过去烧杀抢掠的野蛮做法，结果，一路上未遇到任何抵抗，就直逼京城北京。5月2日，明朝的许多遗老遗少纷纷赶往朝阳门外，以帝王之礼迎接多尔衮入城。进入北京以后，多尔衮断然拒绝阿济格“乘此兵威，大肆屠戮”的野蛮建议，不失时机地采取了一系列笼络明朝朝野人士和安抚民心的措施，这对巩固胜利，稳定民心，以至以后统一全国，起了重大作用。充分显示了多尔衮在瞬息万变的情势下，善于把握全局的非凡才能和灵活机智的本领。

清军入关后，在应否迁都北京，进而统一中国问题上，多尔衮以一个政治谋略家的远见卓识，当即立断。6月间，他毅然决定将清朝首都迁往北京；并在10月迎顺治皇帝福临在北京登基。多尔衮被封为“叔父摄政王”，并赐予“建碑纪绩”。清王朝把统治中心从偏远的沈阳迁至北京，为统一中国铺平了道路。

1644年，清迁都北京后，多尔衮便着手部署以武力统一全国。但他并没有很快采取行动，因为他看到农民军的余部尚有40余万人，南明政权汇集江淮以南各镇的兵力，亦不下50万，而这时清军的满、蒙、汉八旗军，不过20万人；况且初入中原，人心不稳，仓猝举进，很可能顾此失彼，陷入腹背受敌的窘境。面对这种情况，多尔衮审时度势，灵活地采取了先怀柔南明政权，集中力量攻击农民军的先抚后攻策略。他采取一系列措施，给南明弘光政权造成南北分治，只打农民军，不准备进攻江南的错觉。从而使南明政权放松警惕，避免了两面作战，便于清军各个击破敌人，在政治上、军事上取得了主动权。

顺治元年(公元1644年)七月，多尔衮见

(隋洪滋)

## 爱新觉罗·玄烨

爱新觉罗·玄烨(公元1654—1722),是顺治皇帝的第三子。玄烨8岁时,顺治皇帝病逝,他继承了皇位,即康熙皇帝。是清朝定都北京后的第二个皇帝,是我国封建社会后期一位具有雄才大略和远见卓识的政治家和谋略家。

在辅政大臣之中,鳌拜野心勃勃,他欺康熙皇帝年幼无知,广植党羽,排斥异己,把揽朝政,肆无忌惮地贪污受贿,扩张自己的权力。少年皇帝康熙在与祖母密商之后,发挥自己的聪明智慧,不露痕迹地为铲除鳌拜集团做准备。他对权奸鳌拜先是采用“欲擒故纵”的麻痹战术。给鳌拜父子封号,使他位极人臣。一次,鳌拜称病在家,玄烨前去探视。御前侍卫和托发现鳌拜神色反常,便迅速走到鳌拜床前,揭开席子发现一把匕首。鳌拜惊慌失措,玄烨却毫不在意地说:“刀不离身是满人的故俗,不足为怪。”当场稳住了鳌拜。但康熙也进一步看清了鳌拜心怀不轨的丑恶面目,便加紧了除掉他的进程。于是,他特选忠实可靠一批少年入宫,以“练布库戏”(满语:摔跤)为名,组成一支可靠的卫队——善扑营。这些少年都是贵族子弟,每天和少年皇帝在一起练摔跤,并未引起人注意。到此为止,康熙认为,翦除鳌拜的时机已经成熟了。他先将鳌拜的党羽以各种名义先后派出京城,以削其势。然后亲自向善扑营做动员部署,宣布了鳌拜罪状,召鳌拜进宫,“立命擒之”。玄烨未动一刀一枪,就除掉权奸,震动了朝野。后人对年轻的康熙皇帝如此机智果断,由衷赞赏,评价说:“声色不动而除巨慝,信难能也。”

康熙亲政后,三藩的权势成为危害国家统一的症结。其中吴三桂的势力最大。康熙认真研究经史典籍,以其谋略家的敏锐洞察力,看出三藩的危害和铲除的必要。

康熙十二年(公元1673年)三月,三藩之

先安后取的策略,已收到明显实效:对农民军的进攻取得很大胜利,后方也得到稳固,最后消灭南明政权的时机已经到来,于是就致书南明,令福王“削号归藩”。并派大军直逼南京。清军大举南下,节节胜利,很快就占领南京,俘获福王,南明政权的大批文武官员纷纷向清军投降。至此,清王朝的统治很快扩展到长江中下游的广大地区。

统一南方后,多尔衮为了安抚江南民心,采取了以汉治汉的策略。他将南方人民最为痛恨的多铎召回北京,改派汉人大学士洪承畴“招抚”,在关键时刻收到了实效。到1648年,清王朝除东南和西南局部地区外,基本上完成了对全国的统治。

多尔衮作为清朝贵族的代表,当然把满族贵族集团作为维护清统治的基本力量。为此,在清王朝建立不久,就明确规定了王公贵族的各种特权,但他毕竟是一个有远大政治眼光的谋略家,并不只依靠这些王公贵族去治理国家。早在入关之前,多尔衮就取消了诸王、贝勒并管部院事务的职权。在南方基本统一以后,各路出征的王公、贝勒陆续回京,他为了防止他们恃功争权,使用种种借口削弱他们的势力。1649年,他明令贵族不得干涉国政和限制汉人官吏行使职权。相反,他给汉官以更多的参政机会,把更多的权力赋予了多由汉人担任大学士的内院。

多尔衮在削弱王权的过程中,也注意调整统治阶级内部满汉关系,并且比较开明公正。他主张“满汉一家”,提倡满汉人通婚,较之清朝其他统治者确实高出一筹。

1650年11月,多尔衮出猎古北口,坠马受伤,一病不起。12月,死于喀喇城,年仅39岁。

多尔衮的一生虽然短暂,但他在清初历史上的地位却十分突出。尽管他为了维护满族贵族的特权,推行过一些落后、残酷的民族压迫政策,但他完成清朝统一中国,主张“满汉一家”的思想,在当时是无人可以匹及的。

一的平南王尚可喜上疏朝廷,请求告老还乡,让其子尚之信袭爵,继续镇守广东,19岁的康熙皇帝认为这是撤藩的大好机会,便立即批准了尚可喜之请,但拒绝了其子袭爵。吴三桂和福建的耿精忠得知后,怀着忐忑不安的心情,先后上疏,假意请求撤藩,试探朝廷的态度。朝廷一连几天对撤藩展开了激烈的讨论,意见始终不能统一。康熙皇帝挺身而出,作了坚决撤藩的果断裁决。他指出,三藩久握重兵,已经形成尾大不掉之势。何况吴三桂蓄谋已久,撤亦反,不撤亦反,与其养痍成患,不如及早切除这个毒瘤。他毅然下令批准吴三桂和耿精忠自请撤藩的上疏,并派员分赴三地传达朝廷旨意,督促实行。康熙的判断果然正确,吴三桂接到撤藩的旨意后,便于当年十一月发动叛乱,广西、四川的地方官员也闻讯响应,一时间硝烟滚滚,战火熊熊。这就是有名的“三藩之乱”。

当时只有20岁的康熙皇帝,并没有被这来势汹汹的叛乱所吓倒,而是用自己的智慧和谋略,直接出色地指挥了这场大规模的平叛斗争。在长达8年的激烈战争中,他果断、沉着、机智,深得用兵之道,指挥非常得法。他指示领兵诸将,战争中最要紧的是得民心,所以一定要“严禁军士侵扰百姓”。他执行了“罚先行于亲贵”的作法,对那些敢于玩忽职守、贻误军机、畏惧不前的败军之将,即使是皇亲国戚,也绝不宽贷。就这样,一场席卷10省、长达8年的三藩叛乱,在康熙的正确指挥下,于康熙二十年(公元1681年)被平息了下去。

康熙皇帝在平定三藩之后,下决心解决台湾问题。康熙二十二年(公元1683年)八月,施琅率清军进入台湾。29岁的康熙得知统一台湾的喜讯后,兴奋无比,统一国家的愿望终于实现了。

抗击沙俄的武装侵略,维护国家领土完整,是康熙皇帝辉煌政绩的重要组成部分。在康熙二十一年(公元1682年)四月,康熙皇帝借到盛京祭陵之机,再一次巡察东北边

疆。回到北京后,他派人以捕鹿为名,到斡尔、索伦等地侦察敌情。在掌握了大量情况后,便决定对俄国的野蛮入侵采取军事与屯戍相结合,内政与外交相结合,以组织东北边疆各族人民加强边疆建设为核心的战略方针,从内政、外交、军事、政治、经济等方面,做了总体布署。

康熙二十八年(公元1689年),中俄双方经过反复谈判,签定了《尼布楚条约》。条约规定,以格尔必齐河和额尔古纳河为两国国界。再由格尔必齐河源顺外兴安岭往东至海,岭南属中国。这就从法律上肯定了黑龙江和乌苏里江流域的辽阔地区是中国的领土。

《尼布楚条约》的签订,缓和了中俄两国之间的紧张局势,暂时制止了沙俄的军事侵略。但是,康熙并未因此而放松对沙俄的警惕。他决定在墨尔根等地继续驻军设防,并在外兴安岭、额尔古纳河,格尔必齐河等边界设立卡伦,派军队巡防驻守,以防沙俄势力的侵扰。

康熙对沙俄侵略者的斗争,取得了具有重大历史意义的开创性胜利。他的英明表现在:不轻易用兵,而是先作好调查研究,作好军事的、物质的准备;不穷兵黩武,在取得抗击侵略战争的胜利后及时恢复和平,从不关闭和平谈判的大门。这些,都体现了他作为一个政治家处理问题有力、有利、有理的谋略。

康熙九年(公元1670年),准噶尔部内讧,噶尔丹上台。噶尔丹是一个野心勃勃,掠夺成性的人物,他上台后频繁地对邻近各部发动掠夺战争。康熙曾致书噶尔丹,要求他“罢兵休战”,不要对四邻各部肆行掠夺。噶尔丹虽然表面上臣服,但实际上却继续掠夺。在康熙三十一年(公元1692年),噶尔丹又派人到北京,向康熙皇帝“请安进贡”,表面上看“词调恭顺”,实际上是想麻痹康熙。康熙一眼就看穿了噶尔丹的阴谋,指出:噶尔丹不可信任,如果不加防备,万一有事就要悔。

所以加强了防备。

康熙三十一年(公元1692年)至康熙三十六年(公元1697年),康熙皇帝亲自率军出征,平定噶尔丹叛乱的斗争以胜利告终。康熙在以武力平定叛乱的同时,还用各种手段,对蒙古及西北、西南少数民族上层分子进行笼络。他对蒙古王公用封爵、联姻、组织打猎等方法加以团结,在承德按照各民族的特点建筑一些庙宇,以表示他对各民族风俗信仰的尊重,并以此来表明清朝是一个多民族的国家。他的这些作法,对维护国家的统一起了积极的作用。

康熙在中国历史上是一个很有作为的皇帝,他谋略超群,政绩辉煌,很有传奇色彩。他之所以是一个传奇式的人物,不仅因为他智擒鳌拜,平定三藩,统一了台湾,抗击了沙俄的侵略,镇压了噶尔丹叛乱,而且还由于他进行了一些有效的社会改革和发展封建文化、科学技术。他提倡经学、史学和文学,优容文人、学者,对不同学术观点和流派兼收并蓄,不轻定是非。他命人修纂了《全唐诗》、《佩文韵府》、《历代赋汇》、《康熙字典》、《广群芳谱》、《律历渊源》、《古今图书集成》等许多大部头书籍。当西方传教士带来先进的科学技术时,他开阔了眼界,并不固守成见,主张吸收、推广西方科学技术,推动了中国的科学文化向繁荣的方向迈进。

康熙六十一年(公元1722年)十一月十三日,康熙皇帝因病结束了他轰轰烈烈的一生,终年69岁。

(刘畅)

## 岳钟琪

岳钟琪(公元1686—1754),四川成都人。清代著名军事将领。

岳钟琪出身将门,自幼习文弄武,尤好孙吴兵法。投身官场以后,他弃文就武,先后被授予中军游击、参将、副将等职,开始投身于平定西北、西南少数民族分裂势力的斗争。

清代边疆少数民族分裂势力的兴起,始于新疆伊犁地区准噶尔部的噶尔丹叛乱。康熙二十九年(公元1690年)至三十六年(公元1697年),康熙帝三次亲征,噶尔丹战败自杀,叛乱始获平定。康熙五十五年(公元1716年),继承噶尔丹为准噶尔部首领的策妄阿拉布坦为扩大自己的割据势力,派兵进入西藏,与西藏的分裂势力里应外合,再次掀起了叛乱。康熙五十七年(公元1718年),康熙帝命皇十四子胤禵为大将军,噶尔弼为副将军,率军前往征讨。当时刚刚被提拔为永宁协副将的岳钟琪奉命为先锋,率600精兵出打箭炉(今四川康定),首战打败叛军3000余人,一举擒获达哇、蓝占巴等叛军头目。驻守里塘(今四川里塘)、巴塘(今四川巴塘)的叛军闻风丧胆,纷纷请降,察木多(今西藏昌都)等地叛军也先后被抚定。岳钟琪初战告捷,在西南战场上崭露头角。次年,清军副将军噶尔弼率师到达里塘,命岳钟琪领兵4000人先行进驻察木多,等候大军到齐后进取西藏。岳钟琪在进军途中,得知叛军正在洛笼宗(今西藏洛隆)一带集结军队,企图扼守三巴桥,阻挡清军进藏。他深知,三巴桥为进藏第一险要之处。叛军若断桥据险而守,清军将势难飞越。当时,清军大将军离岳钟琪尚有千里之遥,已无从请示。而准噶尔叛军的援兵也在千里之外,并非旬日可及。岳钟琪抓住这一有利战机,当机立断,决定采取智取的策略,马上攻占三巴桥。他挑选了30名会藏语的士兵,穿上藏人服装,昼夜兼程赶到洛笼宗,乘夜黑之际潜入敌营,活捉了准噶尔部派来的5名使者。当地藏族各部落的首领闻听此讯,以为神兵从天而降,极为惊恐,纷纷前来投降。岳钟琪轻而易举地占领了三巴桥,为进藏平叛扫清了障碍。

进藏道路虽已打通,但由于清廷所调遣的青海蒙古兵尚未到达,因而大将军胤禵下令各部在所到之处屯兵待命,不许轻举妄动。而岳钟琪认为,如果等青海蒙古兵到再进军入藏,必将坐失良机。他向此时已到达

军中的副将军噶尔弼提出：“我军仅带了两个月的粮食，从察木多到此已经40多天。如果再等大军来到，我们的粮食就要吃光了。听说西藏有个公布部落最为强大，不愿依附与叛军，我们可以招抚此部落，以其为先驱，进藏平叛，无须等待蒙古军的到来。”噶尔弼几经考虑，最终同意了岳钟琪的意见，用其计策，首先招抚了公布，然后进军西藏。在进藏平叛的战斗中，岳钟琪捷足先登，直扑拉萨。经过激战，大破叛军巢穴，活捉叛军400余人。叛军头领见势不妙，慌忙狼狈逃窜。康熙五十九年(公元1720年)八月，西藏叛乱被平定。翌年2月，清军班师回朝，岳钟琪因战功卓著，官授左都督，晋升为四川提督。

西藏叛乱刚刚平定，青海叛乱又起。雍正元年(公元1723年)，青海和硕特部首领罗卜藏丹津妄图割据一方，煽动远近牧民和喇嘛20余万人扯起了武装反叛的旗帜。是年十月，清廷任命川陕总督年羹尧为抚远大将军，进驻西宁，岳钟琪为奋威将军，参赞军务。不久，罗卜藏丹津兵犯西宁，岳钟琪受命率军自松潘(今四川松潘)出发，前往增援西宁守军。岳钟琪千里迢迢，沿途剿抚兼施，大军所至之处，烽烟肃清，青海叛匪为之夺气。

岳钟琪与年羹尧会师西宁后，奉命进军西宁东北的格尔弄寺。格尔弄寺为一古刹，地处交通要道，地势险峻，山下有5个碉堡环立。寺内喇嘛聚众万余，追随罗卜藏丹津发起叛乱，以格尔弄寺为根据地企图寻机夺回西宁。当岳钟琪率领3,000军马抵达格尔弄寺时，山中寂静无声。他估计到里面必有伏兵，便分兵千人先行，其余列阵山前，待机进攻。片刻之后，伏兵果然四起，岳钟琪便按预先安排，兵分三路，攻夺山梁。叛匪不敌，纷纷败走，岳钟琪指挥清军紧追不舍。当追至一座山下时，叛军躲藏在山上的楼房里，突发矢石，使清军难以靠近。岳钟琪观察周围地形后，命令20名士兵手持皮盾牌，携带引火之物秘密从侧面迂回逼近，自己则

亲率大队士兵正面攻击。战斗激烈之时，只见楼上火起，浓烟冲天，叛军士卒被烧得焦头烂额，纷纷从楼上堕落。清军趁机发起总攻，将叛军歼灭无遗。

格尔弄寺战役之后，年羹尧计划请调两万兵马，向位于柴达木的罗卜藏丹津的大本营发起进攻。然而岳钟琪认为，青海地势辽阔，叛军尚存十数万有余。如叛军得知清军大队将至，将队伍分散各地，清军将会顾此失彼，陷入四面包围的困境。他主张调拨5000精兵和1万匹战马，攻其不备，兼程急进，直捣叛军巢穴。雍正皇帝极为赞赏岳钟琪的建议，如数调拨人马，并命他承担此任。岳钟琪得令后，按期出塞，披星戴月，连夜驰至罗卜藏丹津的驻地。叛军于梦中忽听战马嘶鸣，惊恐万分，不知所为，纷纷抱头鼠窜。岳钟琪生擒罗卜藏丹津的母亲和妹妹，罗卜藏丹津则衣着女装方趁乱逃走。此役清军彻底摧毁叛军巢穴，歼敌8万余人，俘虏男女数万口，缴获军械、驼马无数。青海叛乱至此基本平定。岳钟琪因战功又先后被升为甘肃巡抚、川陕总督，并加封为太子少傅。

岳钟琪身为汉将，受到清廷如此重用，官至封疆大吏，自然引起满族达官显贵们的不满，雍正皇帝对他也是疑虑重重。由于奸臣的嫉妒和诬陷，以及雍正帝的偏见，岳钟琪终于雍正十年(公元1732年)十月，被革职削爵，身陷囹圄。雍正帝只是由于岳钟琪功劳卓著，威震海内，害怕处理不当会引起朝野舆论的反对，才没有将他立即处斩。

乾隆皇帝即位后，下令释放岳钟琪。岳钟琪回到四川成都老家闲住，教子读书，吟诗自适，垂询农桑，似乎要以此安度晚年。

乾隆十二年(公元1747年)，四川西北部大渡河上游支流大金川的藏族土司莎罗奔发动叛乱。清廷走马换将，征讨一年有余，也未能将叛乱镇压下去。此时，乾隆皇帝想起了几乎已经被人们忘记了的岳钟琪，下诏重新起用他为四川提督，让他统领清军进行平叛。岳钟琪接此任命，热泪盈眶，决心竭尽

全力，以报皇恩。他经过周密的考虑，提出兵分两路，前后夹击的进攻方略，并亲率其中一支队伍，直捣敌巢。早年岳钟琪为川陕总督时，在处理藏族土司之间的地界纠纷时，办事公平，在藏族人民当中有着相当高的威信。莎罗奔在岳钟琪平定西藏叛乱时，还曾以土司头目的身份从军。岳钟琪考虑到这些历史的因素，经请示后，只带13名骑兵徒手前往叛军营寨，向叛军首领昭示天子威德，宣布如若投降，则从宽处理，决不处死。莎罗奔等人听后，表示愿听约束，第二天便随岳钟琪乘坐皮船来到清军军营投降。至此，持续两年之久的大金川叛乱终被敕平。

金川告捷以后，岳钟琪受到了有清一代任何一个汉族武将都无可比拟的优宠和荣誉。乾隆皇帝加封他为太子少保、赐号“威信公”，并授以兵部尚书衔，甚至还亲自赋诗赐与他。这是许多满族贵族也可望而不可及的待遇。乾隆十九年(公元1754年)，岳钟琪死，终年69岁。

岳钟琪一生历事康熙、雍正、乾隆三朝，将自己毕生的精力用于捍卫和开发祖国边疆的事业。他在反对分裂、维护国家统一的战争中所建立的丰功伟绩，使得他的威望著于海内，被后人誉为“三朝武臣巨擘”；而他在战争中所显示出来的大智大勇，则使他成为一个当之无愧的军事谋略家。

(攸笛)

## 石达开

石达开(公元1831—1861)，广西贵县客家人。他10岁时爆发了中英鸦片战争。他耳闻目睹英国人大量向中国倾销鸦片，掠夺白银，甚至武装入侵，而清政府则丧权辱国，激起强烈不满。后洪秀全、冯云山等人创建拜上帝会，旨在扫除清妖。他便于道光二十九年(公元1849年)参加了拜上帝会，率领会众2000人，到金田投奔了洪秀全。

太平天国起义后最初两年间，力量迅速扩大，本应乘胜发展大好形势，占据全国。

年轻深谙谋略的石达开当时很清楚这一点，所以他直陈继续北伐。他的意见得到了林凤祥等人的支持，却遭到杨秀清、洪仁发等人激烈反对。天王洪秀全虽认为石达开等人的意见有道理，却由于历史的局限，而采取了折衷的态度。

咸丰五年(公元1855年)，洪秀全和杨秀清派石达开前去主持西线战事，解湘军之围，并让罗大纲作他的副手。石达开率军抵江西湖口。湖口地势险要，扼长江与鄱阳湖咽喉，是兵家必争之地。石达开和罗大纲登上一座小山，见江面布满湘军大小船只，阵容整齐，进出有序。罗大纲对湘军了解较多，对石达开说：“翼王，听说曾国藩把他的水军战船宽的叫快蟹，长的叫长龙，今日一见，果如所言。”石达开点头说：“湘军把快蟹和长龙摆在阵中，居中指挥调度，而轻便舢板穿插其间，进可攻，退可守，用心良苦呵。”石达开又笑笑说：“确实与众不同，我等只可计取，不可强攻。他快蟹长龙，再配小型快船，是其长处，也是其短处，这犹如长矛可刺，而短针可缝。”他于是命令驻扎在湖口的太平军按兵不动，若敌人来攻，只准防守，不准出击。湘军几次挑战，他都坚壁高垒，不肯应战。转眼临近年关，石达开传令三军：准备休战，回天京过年。曾国藩得知密探报信，以为石达开想逃走，就命令水军急速入鄱阳湖，以防石达开率军逃走。几百艘湘军大小战船齐向湖中进发，100多只轻便小船争先冲在前面，首先进入湖口。长龙快蟹速度慢，渐渐落在后边。正在这时，一声炮响，湖口两侧的太平军万炮齐轰，把湘军船队截为两段。湖口内，太平军船队以逸待劳，飞速冲击湘军舢板。湘军小船没有遮拦，又缺乏统一指挥，乱作一团，纷纷被炮火击中，很快便尽皆覆没。湖口外的长龙快蟹，没有了小船配合，行动迟缓，也中炮起火。石达开率太平军越战越勇，乘机将湘军击溃。

接着，石达开挥师西进，不久便夺回武昌。继而进攻江西。几个月内，便把曾国藩



围困在南昌。正当石达开准备进兵南昌，彻底消灭湘军的时候，洪秀全下诏，调西征军回师天京，抗击清兵江南大营。石达开十分痛惜，长叹道：“穷寇不追，放虎归山，后患无穷啊！”

根据洪秀全命令，他率军赶到孝陵卫，迅速作好攻击清军江南大营准备。他探知清军总兵张国梁正在九华山与太平军交战，江南大营只留向荣防守，十分空虚，便命令太平军悄悄接近孝陵卫，埋伏下来。天黑以后，突然一齐点火，举着火把冲入清营。呐喊声震天动地，不一会儿清兵江南大营便变成一片火海。石达开指挥太平军摧垮了清军的江南大营，打破了清军对天京的包围，从而使太平天国达到了军事上的全盛时期。

可就在这时，太平天国领导集团内部发生了内讧，为争权夺利而自相残杀。东王杨秀清被北王韦昌辉杀死，2万多精锐兵将也倒在血泊之中。“天京事变”发生时，石达开正在武昌洪山军营。消息传来，他十分震惊，便日夜兼程赶回天京，试图解决内部矛盾，以避免更多地杀人。他责问韦昌辉，杀死东王也就够了，为什么还要杀死那么多兄弟姐妹？他们多年征战，没有死在清妖手里，却

死在你的刀下！韦昌辉被石达开问得理屈词穷，便怀恨在心，派人侦察他的行踪，策划将其杀死。石达开感到处境危险，作为智勇双全的军事家，他毅然连夜缒城逃出天京。当天晚上，韦昌辉包围了翼王府，将其妻子儿女和部下全部杀害了。石达开逃到安庆，集合自己部下4万余人，决心回军天京，讨伐韦昌辉，为天国无辜受难者报仇。

洪秀全看出韦昌辉的危险，便下令抓获了他及其党羽。石达开奉命回到天京，洪秀全加封他为“电师通军主义王”，负责总理朝政。太平天国官兵见石达开返回天京，无不欢欣鼓舞。大家公认石达开英雄侠义，勇敢无畏，正直耿介。过去，他是太平军中举足轻重的军事统帅，现在，是活着的首领中唯一能使天国转危为安的人。

同治二年（公元1863年），石达开被清军俘获，于五月十三日处死，时年32岁。

石达开短暂的一生，曲折坎坷，慷慨悲烈。他投身太平天国伟业，忠心耿耿，立下赫赫战功，充分表现了他超群的谋略。是农民起义军中一位颇有建树的谋略家。

（刘畅）



[ General Information]

□□=□□□□□□

□□=

□□=1037

SS□=10324968

□□□□=

□ □  
□ □  
□ □  
□ □  
□ □  
□ □